

Holy Bible

Aionian Edition®

大正改訳「新約聖書」

Japanese Bungo-yaku 1950

AionianBible.org

翻訳されていない世界初の聖書
複写や印刷は **100% 無料**
として知られている “紫の聖書”

Holy Bible Aionian Edition ®

大正改訳「新約聖書」

Japanese Bungo-yaku 1950

CC Attribution NoDerivatives 4.0, 2018-2024

Source text: Crosswire.org

Source version: 8/26/2022

Source copyright: Public Domain

Classical Japanese Bible published 1917, reprinted 1950, 1917, 1950

Formatted by Speedata Publisher 4.19.2 (Pro) on 5/11/2024

100% Free to Copy and Print

TOR Anonymously

<https://AionianBible.org>

Published by Nainoia Inc

<https://Nainoia-Inc.signedon.net>

We pray for a modern public domain translation in every language

Report content and format concerns to Nainoia Inc

Volunteer help is welcome and appreciated!

Celebrate Jesus Christ's victory of grace!

序文

日本語 at AionianBible.org/Preface

The *Holy Bible Aionian Edition* ® is the world's first Bible *un-translation*! What is an *un-translation*? Bibles are translated into each of our languages from the original Hebrew, Aramaic, and Koine Greek. Occasionally, the best word translation cannot be found and these words are transliterated letter by letter. Four well known transliterations are *Christ*, *baptism*, *angel*, and *apostle*. The meaning is then preserved more accurately through context and a dictionary. The Aionian Bible un-translates and instead transliterates eleven additional Aionian Glossary words to help us better understand God's love for individuals and all mankind, and the nature of afterlife destinies.

The first three words are *aiōn*, *aiōnios*, and *aīdios*, typically translated as *eternal* and also *world* or *eon*. The Aionian Bible is named after an alternative spelling of *aiōnios*. Consider that researchers question if *aiōn* and *aiōnios* actually mean *eternal*. Translating *aiōn* as *eternal* in Matthew 28:20 makes no sense, as all agree. The Greek word for *eternal* is *aīdios*, used in Romans 1:20 about God and in Jude 6 about demon imprisonment. Yet what about *aiōnios* in John 3:16? Certainly we do not question whether salvation is eternal! However, *aiōnios* means something much more wonderful than infinite time! Ancient Greeks used *aiōn* to mean *eon* or *age*. They also used the adjective *aiōnios* to mean *entirety*, such as *complete* or even *consummate*, but never infinite time. Read Dr. Heleen Keizer and Ramelli and Konstan for proofs. So *aiōnios* is the perfect description of God's Word which has *everything* we need for life and godliness! And the *aiōnios* life promised in John 3:16 is not simply a ticket to eternal life in the future, but the invitation through faith to the *consummate* life beginning now!

The next seven words are *Sheol*, *Hadēs*, *Geenna*, *Tartaroō*, *Abyssos*, and *Limnē Pyr*. These words are often translated as *Hell*, the place of eternal punishment. However, *Hell* is ill-defined when compared with the Hebrew and Greek. For example, *Sheol* is the abode of deceased believers and unbelievers and should never be translated as *Hell*. *Hadēs* is a temporary place of punishment, Revelation 20:13-14. *Geenna* is the Valley of Hinnom, Jerusalem's refuse dump, a temporal judgment for sin. *Tartaroō* is a prison for demons, mentioned once in 2 Peter 2:4. *Abyssos* is a temporary prison for the Beast and Satan. Translators are also inconsistent because *Hell* is used by the King James Version 54 times, the New International Version 14 times, and the World English Bible zero times. Finally, *Limnē Pyr* is the Lake of Fire, yet Matthew 25:41 explains that these fires are prepared for the Devil and his angels. So there is reason to review our conclusions about the destinies of redeemed mankind and fallen angels.

The eleventh word, *eleēsē*, reveals the grand conclusion of grace in Romans 11:32. Take the time to understand these eleven words. The original translation is unaltered and a note is added to 64 Old Testament and 200 New Testament verses. To help parallel study and Strong's Concordance use, apocryphal text is removed and most variant verse numbering is mapped to the English standard. We thank our sources at eBible.org, Crosswire.org, unbound.Biola.edu, Bible4u.net, and NHEB.net. The Aionian Bible is copyrighted with creativecommons.org/licenses/by-nd/4.0, allowing 100% freedom to copy and print, if respecting source copyrights. Check the Reader's Guide and read online at AionianBible.org, with Android, and TOR network. Why purple? King Jesus' Word is royal... and purple is the color of royalty!

目次

旧約聖書

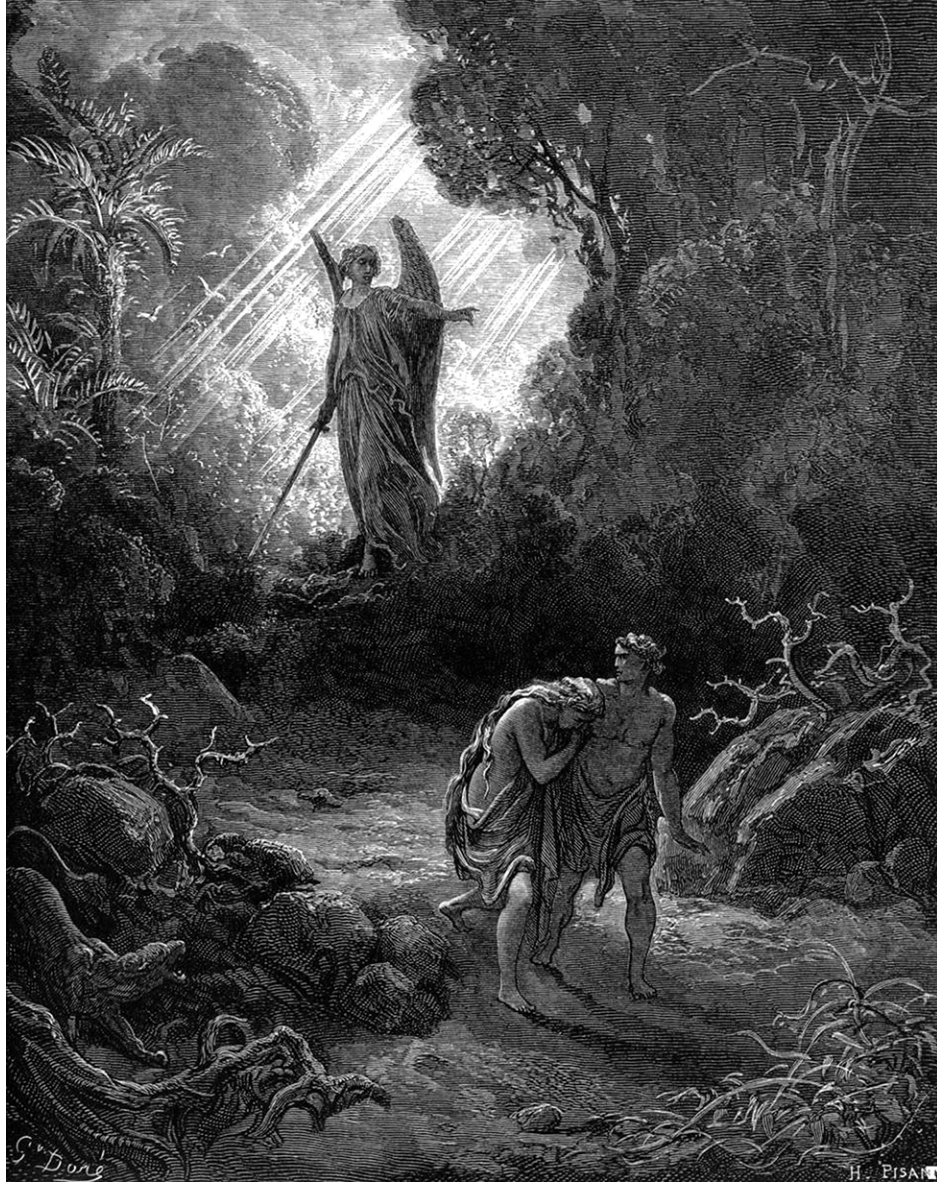
創世記	11
出エジプト記	111
レビ記	195
民数記	257
申命記	347
ヨシュア記	423
士師記	476
ルツ記	530
サムエル記Ⅰ	537
サムエル記Ⅱ	606
列王記Ⅰ	662
列王記Ⅱ	724
歴代誌Ⅰ	789
歴代誌Ⅱ	851
エズラ記	922
ネヘミヤ記	943
エステル記	973
ヨブ記	990
詩篇	1042
箴言 知恵の泉	1188
伝道者の書	1230
雅歌	1246
イザヤ書	1255
エレミヤ書	1363
哀歌	1472
エゼキエル書	1483
ダニエル書	1577
ホセア書	1609
ヨエル書	1625
アモス書	1631
オバデヤ書	1643
ヨナ書	1645
ミカ書	1649
ナホム書	1658
ハバクク書	1662
ゼパニヤ書	1667
ハガイ書	1672
ゼカリヤ書	1675
マラキ書	1691

新約聖書

マタイの福音書	1699
マルコの福音書	1765
ルカの福音書	1807
ヨハネの福音書	1878
使徒の働き	1935
ローマ人への手紙	2005
コリント人への手紙第一	2034
コリント人への手紙第二	2063
ガラテヤ人への手紙	2082
エペソ人への手紙	2093
ピリピ人への手紙	2103
コロサイ人への手紙	2111
テサロニケ人への手紙第一	2118
テサロニケ人への手紙第二	2124
テモテへの手紙第一	2128
テモテへの手紙第二	2136
テトスへの手紙	2142
ピレモンへの手紙	2146
ヘブル人への手紙	2148
ヤコブの手紙	2169
ペテロの手紙第一	2177
ペテロの手紙第二	2185
ヨハネの手紙第一	2190
ヨハネの手紙第二	2198
ヨハネの手紙第三	2199
ユダの手紙	2200
ヨハネの黙示録	2203

付録	
読者ガイド	
用語集	
地図	
運命	
イラスト, Doré	

旧約聖書



斯神其人を逐出しエデンの園の東にケルビムと自から旋轉る焰の劍を置て生命の樹の
途を保守りたまふ
創世記 3:24

創世記

1元始に神天地を創造たまへり **2**地は定形なく曠空くして黑暗淵の面にあり神の靈水の面を覆たりき **3**神光あれと言たまひければ光ありき **4**神光を善と觀たまへり神光と暗を分ちたまへり **5**神光を晝と名け暗を夜と名けたまへり夕あり朝ありき是首の日なり **6**神言たまひけるは水の中に穹蒼ありて水と水とを分つべし **7**神穹蒼を作りて穹蒼の下の水と穹蒼の上の水とを判ちたまへり即ち斯なりぬ **8**神穹蒼を天と名けたまへり夕あり朝ありき是二日なり **9**神言たまひけるは天の下の水は一處に集りて乾ける土顯べしと即ち斯なりぬ **10**神乾ける土を地と名け水の集合るを海と名けたまへり神之を善と觀たまへり **11**神言たまひけるは地は青草と實蕨を生ずる草蔬と其類に従ひ果を結びみづから核をもつ所の果を結ぶ樹を地に發出すべしと即ち斯なりぬ **12**地青草と其類に従ひ實蕨を生ずる草蔬と其類に従ひ果を結てみづから核をもつ所の樹を發出せり神これを善と觀たまへり **13**夕あり朝ありき是三日なり **14**神言たまひけるは天の穹蒼に光明ありて晝と夜とを分ち又天象のため時節のため日のため年のために成べし **15**又天の穹蒼にありて地を照す光となるべしと即ち斯なりぬ **16**神二の巨なる光を造り大なる光に晝を司どらしめ小き光に夜を司どらしめたまふまた星を造りたまへり **17**神これを天の穹蒼に置いて地を照さしめ **18**晝と夜を司どらしめ光と暗を分たしめたまふ神これを善と觀たまへり **19**夕あり朝ありき是四日なり **20**神云たまひけるは水には生物饒に生じ鳥は天の穹蒼の面に地の上に飛べしと **21**神巨なる魚と水に饒に生じて動く諸の生物を其

類に従ひて創造り又羽翼ある諸の鳥を其類に従ひて
創造りたまへり神之を善と觀たまへり 22 神之を祝し
て曰く生よ繁息よ海の水に充物よ又禽鳥は地に蕃息
よと 23 夕あり朝ありき是五日なり 24 神言給ひける
は地は生物を其類に従て出し家畜と昆蟲と地の獸を
其類に従て出すべしと即ち斯なりぬ 25 神地の獸を其
類に従て造り家畜を其類に従て造り地の諸の昆蟲を
其類に従て造り給へり神之を善と觀給へり 26 神言給
けるは我儕に象りて我儕の像の如くに我儕人を造り
之に海の魚と天空の鳥と家畜と全地と地に匍ふ所の
諸の昆蟲を治めんと 27 神其像の如くに人を創造たま
へり即ち神の像の如くに之を創造之を男と女に創造
たまへり 28 神彼等を祝し神彼等に言たまひけるは生
よ繁殖よ地に満盈よ之を服従せよ又海の魚と天空の
鳥と地に動く所の諸の生物を治めよ 29 神言たまひけ
るは視よ我全地の面にある實蕨のなる諸の草蔬と核
ある木果の結る諸の樹とを汝等に與ふこれは汝らの
糧となるべし 30 又地の諸の獸と天空の諸の鳥および
地に匍ふ諸の物等凡そ生命ある者には我食物として
諸の青き草を與ふと即ち斯なりぬ 31 神其造りたる諸
の物を視たまひけるに甚だ善りき夕あり朝ありき是
六日なり

2 斯天地および其衆群悉く成ぬ 2 第七日に神其造り
たる工を竣たまへり即ち其造りたる工を竣て七日に
安息たまへり 3 神七日を祝して之を神聖めたまへり
其は神其創造爲たまへる工を盡く竣て是日に安息み
たまひたればなり 4 エホバ神地と天を造りたまへる
日に天地の創造られたる其由來は是なり 5 野の諸の
灌木は未だ地にあらず野の諸の草蔬は未生ぜざりき

其はエホバ神雨を地に降せたまはず亦土地を耕す人
なかりければなり 6 霧地より上りて土地の面を遍く
潤したり 7 エホバ神土の塵を以て人を造り生氣を其
鼻に嘘入たまへり人即ち生靈となりぬ 8 エホバ神エ
デンの東の方に園を設て其造りし人を其處に置たま
へり 9 エホバ神觀に美しく食ふに善き各種の樹を土
地より生ぜしめ又園の中に生命の樹および善惡を知
の樹を生ぜしめ給へり 10 河エデンより出て園を潤し
彼處より分れて四の源となれり 11 其第一の名はピソ
ンといふ是は金あるハビラの全地を繞る者なり 12 其
地の金は善し又ブドラクと碧玉彼處にあり 13 第二の
河の名はギホンといふ是はクシの全地を繞る者なり
14 第三の河の名はヒデケルといふ是はアッスリヤの
東に流るるものなり第四の河はユフラテなり 15 エホ
バ神其人を挈て彼をエデンの園に置き之を埋め之を
守らしめ給へり 16 エホバ神其人に命じて言たまひけ
るは園の各種の樹の果は汝意のままに食ふことを得
17 然ど善惡を知の樹は汝その果を食ふべからず汝之
を食ふ日には必ず死べければなり 18 エホバ神言たま
ひけるは人獨なるは善らず我彼に適ふ助者を彼のた
めに造らんと 19 エホバ神土を以て野の諸の獸と天空
の諸の鳥を造りたまひてアダムの之を何と名るかを
見んとて之を彼の所に率ゐいたりたまへりアダムが
生物に名けたる所は皆其名となりぬ 20 アダム諸の家
畜と天空の鳥と野の諸の獸に名を與へたり然どアダ
ムには之に適ふ助者みえざりき 21 是に於てエホバ神
アダムを熟く睡らしめ睡りし時其肋骨の一を取り肉
をもて其處を填塞たまへり 22 エホバ神アダムより取
たる肋骨を以て女を成り之をアダムの所に携きたり

たまへり 23 アダム言けるは此こそわが骨の骨わが肉の肉なれ此は男より取たる者なれば之を女と名くべしと 24 是故に人は其父母を離れて其妻に好合ひ二人一體となるべし 25 アダムと其妻は二人俱に裸體にして愧ざりき

3 エホバ神の造りたまひし野の生物の中に蛇最も狡猾し蛇婦に言ひけるは神眞に汝等園の諸の樹の果は食ふべからずと言たまひしや 2 婦蛇に言けるは我等園の樹の果を食ふことを得 3 然ど園の中央に在樹の果實をば神汝等之を食ふべからず又之に捫るべからず恐は汝等死んと言給へり 4 蛇婦に言けるは汝等必らず死る事あらじ 5 神汝等が之を食ふ日には汝等の目開け汝等神の如くなりて善惡を知に至るを知りたまふなりと 6 婦樹を見れば食に善く目に美しく且智慧からんが爲に慕はしき樹なるによりて遂に其果實を取て食ひ亦之を己と偕なる夫に與へければ彼食へり 7 是において彼等の目俱に開て彼等其裸體なるを知り乃ち無花果樹の葉を綴て裳を作れり 8 彼等園の中に日の清涼き時分歩みたまふエホバ神の聲を聞しかばアダムと其妻即ちエホバ神の面を避て園の樹の間に身を匿せり 9 エホバ神アダムを召て之に言たまひけるは汝は何處にをるや 10 彼いひけるは我園の中に汝の聲を聞き裸體なるにより懼れて身を匿せりと 11 エホバ言たまひけるは誰が汝の裸なるを汝に告しや汝は我が汝に食ふなかれと命じたる樹の果を食ひたりしや 12 アダム言けるは汝が與て我と偕ならしめたまひし婦彼其樹の果實を我にあたへたれば我食へりと 13 エホバ神婦に言たまひけるは汝がなしたる此事は何ぞや婦言けるは蛇我を誘惑して我食へりと 14

エホバ神蛇に言たまひけるは汝是を爲たるに因て汝は諸の家畜と野の諸の獸よりも勝りて詛はる汝は腹行て一生の間塵を食ふべし 15 又我汝と婦の間および汝の苗裔と婦の苗裔の間に怨恨を置ん彼は汝の頭を碎き汝は彼の踵を碎かん 16 又婦に言たまひけるは我大に汝の懷妊の劬勞を増すべし汝は苦みて子を産ん又汝は夫をしたひ彼は汝を治めん 17 又アダムに言たまひけるは汝その妻の言を聽て我が汝に命じて食ふべからずと言たる樹の果を食ひしに縁て土は汝のために詛はる汝は一生のあひだ勞苦て其より食を得ん 18 土は荆棘と薊とを汝のために生ずべしまた汝は野の草蔬を食ふべし 19 汝は面に汗して食物を食ひ終に土に歸らん其は其中より汝は取れたればなり汝は塵なれば塵に販るべきなりと 20 アダム其妻の名をエバと名けたり其は彼は群の生物の母なればなり 21 エホバ神アダムと其妻のために皮衣を作りて彼等に衣せたまへり 22 エホバ神曰たまひけるは視よ夫人我等の一の如くなりて善惡を知る然ば恐くは彼其手を舒べ生命の樹の果實をも取りて食ひ限無生んと 23 エホバ神彼をエデンの園よりいだし其取て造られたるところの土を耕さしめたまへり 24 斯神其人を逐出しエデンの園の東にケルビムと自から旋轉る焰の劍を置て生命の樹の途を保守りたまふ

4 アダム其妻エバを知る彼孕みてカインを生みて言けるは我エホバによりて一個の人を得たりと 2 彼また其弟アベルを生りアベルは羊を牧ふ者カインは土を耕す者なりき 3 日を経て後カイン土より出る果を携來りてエホバに供物となせり 4 アベルもまた其羊の初生と其肥たる者を携來れりエホバ、アベルと其

供物を眷顧みたまひしかども 5 カインと其供物をば
眷み給はざりしかばカイン甚だ怒り且其面をふせたり
6 エホバ、カインに言たまひけるは汝何ぞ怒るや
何ぞ面をふするや 7 汝若善を行はば擧ることをえざ
らんや若善を行はずば罪門戸に伏す彼は汝を慕ひ汝
は彼を治めん 8 カイン其弟アベルに語りぬ彼等野に
をりける時カイン其弟アベルに起かかりて之を殺せ
り 9 エホバ、カインに言たまひけるは汝の弟アベル
は何處にをるや彼言ふ我しらず我あに我弟の守者な
らんやと 10 エホバ言たまひけるは汝何をなしたるや
汝の弟の血の聲地より我に叫べり 11 されば汝は詛れ
て此地を離るべし此地其口を啓きて汝の弟の血を汝
の手より受たればなり 12 汝地を耕すとも地は再其力
を汝に效さじ汝は地に吟行ふ流離子となるべしと 13
カイン、エホバに言けるは我が罪は大にして負ふこ
と能はず 14 視よ汝今日斯地の面より我を逐出したま
ふ我汝の面を觀ることなきにいたらん我地に吟行ふ
流離子とならん凡そ我に遇ふ者我を殺さん 15 エホバ
彼に言たまひけるは然らず凡そカインを殺す者は七
倍の罰を受んとエホバ、カインに遇ふ者の彼を撃ざ
るため印誌を彼に與へたまへり 16 カイン、エホバの
前を離て出でエデンの東なるノドの地に住り 17 カイ
ン其妻を知る彼孕みエノクを生りカイン邑を建て其
邑の名を其子の名に循ひてエノクと名けたり 18 エノ
クにイラデ生れたりイラデ、メホヤエルを生みメホ
ヤエル、メトサエルを生みメトサエル、レメクを生
り 19 レメク二人の妻を娶れり一の名はアダと曰ひ一
の名はチラと曰り 20 アダ、ヤバルを生めり彼は天幕
に住て家畜を牧ふ所の者の先祖なり 21 其弟の名はユ

バルと云ふ彼は琴と笛とをとる凡ての者の先祖なり
22 又チラ、トバルカインを生り彼は銅と鐵の諸の刃物を鍛ふ者なりトバルカインの妹をナアマといふ 23
レメク其妻等に言けるはアダとチラよ我聲を聽けレメクの妻等よわが言を容よ我わが創傷のために人を殺すわが瘻のために少年を殺す 24 カインのために七倍の罰あればレメクのためには七十七倍の罰あらん
25 アダム復其妻を知て彼男子を生み其名をセツと名けたり其は彼神我にカインの殺したるアベルのかはりに他の子を與へたまへりといひたればなり 26 セツにもまた男子生れたりかれ其名をエノスと名けたり
此時人々エホバの名を呼ことをはじめたり

5 アダムの傳の書は是なり神人を創造りたまひし日に神に象りて之を造りたまひ 2 彼等を男女に造りたまへり彼等の創造られし日に神彼等を祝してかれらの名をアダムと名けたまへり 3 アダム百三十歳に及びて其像に循ひ己に象りて子を生み其名をセツと名けたり 4 アダムのセツを生し後の齡は八百歳にして男子女子を生り 5 アダムの生存へたる齡は都合九百三十歳なりき而して死り 6 セツ百五歳に及びてエノスを生り 7 セツ、エノスを生し後八百七年生存へて男子女子を生り 8 セツの齡は都合九百十二歳なりき而して死り 9 エノス九十歳におよびてカイナンを生り 10 エノス、カイナンを生し後八百十五年生存へて男子女子を生り 11 エノスの齡は都合九百五歳なりき而して死り 12 カイナン七十歳におよびてマハラレルを生り 13 カイナン、マハラレルを生し後八百四十年生存へて男子女子を生り 14 カイナンの齡は都合九百十歳なりきしかして死り 15 マハラレル六十五歳に及

びてヤレドを生り 16 マハラレル、ヤレドを生し後八百三十年生存へて男子女子を生り 17 マハラレルの齡は都合八百九十五歳なりき而して死り 18 ヤレド百六十二歳に及びてエノクを生り 19 ヤレド、エノクを生し後八百年生存へて男子女子を生り 20 ヤレドの齡は都合九百六十二歳なりき而して死り 21 エノク六十五歳に及びてメトセラを生り 22 エノク、メトセラを生し後三百年神とともに歩み男子女子を生り 23 エノクの齡は都合三百六十五歳なりき 24 エノク神と偕に歩みしが神かれを取りたまひければをらずなりき 25 メトセラ百八十七歳に及びてレメクを生り 26 メトセラ、レメクを生しのち七百八十二年生存へて男子女子を生り 27 メトセラの齡は都合九百六十九歳なりき而して死り 28 レメク百八十二歳に及びて男子を生み 29 其名をノアと名けて言けるは此子はエホバの誼ひたまひし地に由れる我操作と我勞苦とに就て我らを慰めん 30 レメク、ノアを生し後五百九十五年生存へて男子女子を生り 31 レメクの齡は都合七百七十七歳なりき而して死り 32 ノア五百歳なりきノア、セム、ハム、ヤペテを生り

6 人地の面に繁衍はじまりて女子之に生るるに及べる時 2 神の子等人の女子の美しきを見て其好む所の者を取て妻となせり 3 エホバいひたまひけるは我靈永く人と争はじ其は彼も肉なればなり然ど彼の日は百二十年なるべし 4 當時地にネピリムありき亦其後神の子輩人の女の所に入りて子女を生しめたりしが其等も勇士にして古昔の名聲ある人なりき 5 エホバ人の惡の地に大なると其心の思念の都て圖維る所の恒に惟惡きのみなるを見たまへり 6 是に於てエホバ

地の上に人を造りしことを悔いて心に憂へたまへり
7 エホバ言たまひけるは我が創造りし人を我地の面より拭去ん人より獸昆蟲天空の鳥にいたるまでほろぼさん其は我之を造りしことを悔ればなりと 8 されどノアはエホバの目のまへに恩を得たり 9 ノアの傳は是なりノアは義人にして其世の完全き者なりきノア神と偕に歩めり 10 ノアはセム、ハム、ヤペテの三人の子を生り 11 時に世神のまへに亂れて暴虐世に満盈ちたりき 12 神世を視たまひけるに視よ亂れたり其は世の人皆其道をみだしたればなり 13 神ノアに言たまひけるは諸の人の末期わが前に近づけり其は彼等のために暴虐世にみつればなり視よ我彼等を世とともに剪滅さん 14 汝松木をもて汝のために方舟を造り方舟の中に房を作り瀝青をもて其内外を塗るべし 15 汝かく之を作るべし即ち其方舟の長は三百キュビト其濶は五十キュビト其高は三十キュビト 16 又方舟に導光牖を作り上一キュビトに之を作り終べし又方舟の戸は其傍に設くべし下牀と二階と三階とに之を作るべし 17 視よ我洪水を地に起して凡て生命の氣息ある肉なる者を天下より剪滅し絶ん地にをる者は皆死ぬべし 18 然ど汝とは我わが契約をたてん汝は汝の子等と汝の妻および汝の子等の妻とともに其方舟に入るべし 19 又諸の生物總て肉なる者をば汝各其二を方舟に撃へいりて汝とともに其生命を保たしむべし其等は牝牡なるべし 20 鳥其類に従ひ獸其類に従ひ地の諸の昆蟲其類に従ひて各二汝の所に至りて其生命を保つべし 21 汝食はるる諸の食品を汝の許に取て之を汝の所に集むべし是即ち汝と是等の物の食品となるべ

し 22 ノア是爲し都て神の己に命じたまひしごとく然爲せり

7 エホバ、ノアに言たまひけるは汝と汝の家皆方舟に入べし我汝がこの世の人の中にてわが前に義を視たればなり **2** 諸の潔き獸を牝牡七宛汝の許に取り潔らぬ獸を牝牡二 **3** 亦天空の鳥を雌雄七宛取て種を全地の面に生のこらしむべし **4** 今七日ありて我四十日四十夜地に雨ふらしめ我造りたる萬有を地の面より拭去ん **5** ノア、エホバの凡て己に命じたまひし如くなせり **6** 地に洪水ありける時にノア六百歳なりき **7** ノア其子等と其妻および其子等の妻と俱に洪水を避て方舟にいりぬ **8** 潔き獸と潔らざる獸と鳥および地に匍ふ諸の物 **9** 牝牡二宛ノアに來りて方舟にいりぬ神のノアに命じたまへるが如し **10** かくて七日の後洪水地に臨めり **11** ノアの齡の六百歳の二月即ち其月の十七日に當り此日に大淵の源皆潰れ天の戸開けて **12** 雨四十日四十夜地に注げり **13** 此日にノアとノアの子セム、ハム、ヤベテおよびノアの妻と其子等の三人の妻諸俱に方舟にいりぬ **14** 彼等および諸の獸其類に従ひ諸の家畜其類に従ひ都て地に匍ふ昆蟲其類に従ひ諸の禽即ち各様の類の鳥皆其類に従ひて入りぬ **15** 即ち生命の氣息ある諸の肉なる者二宛ノアに來りて方舟にいりぬ **16** 入たる者は諸の肉なる者の牝牡にして皆いりぬ神の彼に命じたまへるが如しエホバ乃ち彼を閉置たまへり **17** 洪水四十日地にありき是において水増し方舟を浮めて方舟地の上に高くあがれり **18** 而して水瀾漫りて大に地に増しぬ方舟は水の面に漂へり **19** 水甚大に地に瀾漫りければ天下の高山皆おほはれたり **20** 水はびこりて十五キュビトに上りければ

山々おほはれたり **21** 凡そ地に動く肉なる者鳥家畜獸地に匍ふ諸の昆蟲および人皆死り **22** 即ち凡そ其鼻に生命の氣息のかよふ者都て乾土にある者は死り **23** 斯地の表面にある萬有を人より家畜昆蟲天空の鳥にいたるまで盡く拭去たまへり是等は地より拭去れたり唯ノアおよび彼とともに方舟にありし者のみ存れり **24** 水百五十日のあひだ地にはびこりぬ

8 神ノアおよび彼とともに方舟にある諸の生物と諸の家畜を眷念ひたまひて神乃ち風を地の上に吹しめたまひければ水減りたり **2** 亦淵の源と天の戸閉塞りて天よりの雨止ぬ **3** 是に於て水次第に地より退き百五十日を経てのち水減り **4** 方舟は七月に至り其月の十七日にアララテの山に止りぬ **5** 水次第に減て十月に至りしが十月の月朔に山々の嶺現れたり **6** 四十日を経てのちノア其方舟に作りし窓を啓て **7** 鴉を放出ちけるが水の地に涸るまで往來しをれり **8** 彼地の面より水の減少しかを見んとて亦鴿を放出いだしけるが **9** 鴿其足の跖を止べき處を得ずして彼に還りて方舟に至れり其は水全地の面にありたればなり彼乃ち其手を舒て之を執へ方舟の中におのれの所に接入たり **10** 尚又七日待て再び鴿を方舟より放出ちけるが **11** 鴿暮におよびて彼に還れり視よ其口に橄欖の新葉ありき是に於てノア地より水の減少しをしれり **12** 尚又七日まちて鴿を放出ちけるが再び彼の所に歸らざりき **13** 六百一年の一月の月朔に水地に涸たりノア乃ち方舟の蓋を撤きて視しに視よ土の面は燥てありぬ **14** 二月の二十七日に至りて地乾きたり **15** 爰に神ノアに語りて言給はく **16** 汝および汝の妻と汝の子等と汝の子等の妻とともに方舟を出べし **17** 汝とともにある諸の

肉なる諸の生物諸の肉なる者即ち鳥家畜および地に
匍ふ諸の昆蟲を率いでよ此等は地に饒く生育地の上
に生且殖増すべし 18 ノアと其子等と其妻および其子
等の妻ともに出たり 19 諸の獸諸の昆蟲および諸の鳥
等凡そ地に動く者種類に従ひて方舟より出たり 20 ノ
ア、エホバのために壇を築き諸の潔き獸と諸の潔き
鳥を取て燔祭を壇の上に献げたり 21 エホバ其馨き香
を聞ぎたまひてエホバ其意に謂たまひけるは我再び
人の故に因て地を詛ふことをせじ其は人の心の圖維
るところ其幼少時よりして悪かればなり又我曾て爲
たる如く再び諸の生る物を撃ち滅さじ 22 地のあらん
限りは播種時、收穫時、寒熱夏冬および日と夜息こ
とあらし

9 神ノアと其子等を祝して之に曰たまひけるは生よ
増殖よ地に満よ 2 地の諸の獸畜天空の諸の鳥地に匍
ふ諸の物海の諸の魚汝等を畏れ汝等に懼かん是等は
汝等の手に與へらる 3 凡そ生る動物は汝等の食とな
るべし菜蔬のごとく我之を皆汝等に與ふ 4 然ど肉を
其生命なる其血のままに食ふべからず 5 汝等の生命
の血を流すをば我必ず討さん獸之をなすも人をこれ
を爲すも我討さん凡そ人の兄弟人の生命を取ば我討
すべし 6 凡そ人の血を流す者は人其血を流さん其は
神の像のごとくに人を造りたまひたればなり 7 汝等
生よ増殖よ地に饒くなりて其中に増殖よ 8 神ノアお
よび彼と偕にある其子等に告て言たまひけるは 9 見
よ我汝等と汝等の後の子孫 10 および汝等と偕なる諸
の生物即ち汝等とともなる鳥家畜および地の諸の獸
と契約を立ん都て方舟より出たる者より地の諸の獸
にまで至らん 11 我汝等と契約を立ん總て肉なる者は

再び洪水に絶るる事あらじ又地を滅す洪水再びあら
ざるべし 12 神言たまひけるは我が我と汝等および汝
等と偕なる諸の生物の間に世々限りなく爲す所の契
約の徴は是なり 13 我わが虹を雲の中に起さん是我と
世との間の契約の徴なるべし 14 即ち我雲を地の上に
起す時虹雲の中に現るべし 15 我乃ち我と汝等および
總て肉なる諸の生物の間のわが契約を記念はん水再
び諸の肉なる者を滅す洪水とならじ 16 虹雲の中にあ
らん我之を觀て神と地にある都て肉なる諸の生物と
の間なる永遠の契約を記念えん 17 神ノアに言たまひ
けるは是は我が我と地にある諸の肉なる者との間に
立たる契約の徴なり 18 ノアの子等の方舟より出たる
者はセム、ハム、ヤペテなりきハムはカナンの父な
り 19 是等はノアの三人の子なり全地の民は是等より
出て蔓延れり 20 爰にノアの農夫となりて葡萄園を植
ることを始しが 21 葡萄酒を飲て酔天幕の中にありて
裸になれり 22 カナンの父ハム其父のかくし所を見て
外にありし二人の兄弟に告たり 23 セムとヤペテ乃ち
衣を取て俱に其肩に負け後向に歩みゆきて其父の裸
體を覆へり彼等面を背にして其父の裸體を見ざりき
24 ノア酒さめて其若き子の己に爲たる事を知れり 25
是に於て彼言けるはカナン詛はれよ彼は僕輩の僕と
なりて其兄弟に事へん 26 又いひけるはセムの神エホ
バは讚べきかなカナン彼の僕となるべし 27 神ヤペテ
を大ならしめたまはん彼はセムの天幕に居住はんカ
ナン其僕となるべし 28 ノア洪水の後三百五十年生存
へたり 29 ノアの齡は都て九百五十年なりき而して死
り

10 ノアの子セム、ハム、ヤペテの傳は是なり洪水の後彼等に子等生れたり **2** ヤペテの子はゴメル、マゴグ、マデア、ヤワン、トバル、メセク、テラスなり **3** ゴメルの子はアシケナズ、リパテ、トガルマなり **4** ヤワンの子はエリシヤ、タルシシ、キツテムおよびドダニムなり **5** 是等より諸國の洲島の民は派分れ出て各其方言と其宗族と其邦國とに循ひて其地に住り **6** ハムの子はクシ、ミツライム、フテおよびカナンなり **7** クシの子はセバ、ハビラ、サブタ、ラアマ、サブテカなりラアマの子はシバおよびデダンなり **8** クシ、ニムロデを生り彼始めて世の權力ある者となれり **9** 彼はエホバの前にありて權力ある獵夫なりき是故にエホバの前にある夫權力ある獵夫ニムロデの如しといふ諺あり **10** 彼の國の起初はシナルの地のバベル、エレク、アツカデ、及びカルネなりき **11** 其地より彼アッスリヤに出でニネベ、レホポテイリ、カラ **12** およびニネベとカラの間なるレセンを建たり是は大なる城邑なり **13** ミツライム、ルデ族アナミ族レハビ族ナフト族 **14** バテロス族カスル族およびカフトリ族を生りカスル族よりペリシテ族出たり **15** カナン其冢子シドンおよびヘテ **16** エブス族アモリ族ギルガシ族 **17** ヒビ族アルキ族セニ族 **18** アルワデ族ゼマリ族ハマテ族を生り後に至りてカナン人の宗族蔓延りぬ **19** カナン人の境はシドンよりゲラルを経てガザに至りソドム、ゴモラ、アダマ、ゼボイムに沿てレシヤにまで及べり **20** 是等はハムの子孫にして其宗族と其方言と其土地と其邦國に隨ひて居りぬ **21** セムはエベルの全の子孫の先祖にしてヤペテの兄なり彼にも子女生れたり **22** セムの子はエラム、アシユル、

アルパクサデルデ、アラムなり 23 アラムの子はウヅ、ホル、ゲテル、マシなり 24 アルパクサデ、シラを生みシラ、エベルを生り 25 エベルに二人の子生れたり一人の名をペレグ(分れ)といふ其は彼の代に邦國分れたればなり其弟の名をヨクタンと曰ふ 26 ヨクタン、アルモダデ、シヤレフ、ハザルマウテ、エラ 27 ハドラム、ウザル、デクラ 28 オバル、アビマエル、シバ 29 オフル、ハピラおよびヨバブを生り是等は皆ヨクタンの子なり 30 彼等の居住地はメシヤよりして東方の山セバルにまで至れり 31 是等はセムの子孫にして其宗族と其方言と其土地と其邦國とに隨ひて居りぬ 32 是等はノアの子の宗族にして其血統と其邦國に隨ひて居りぬ洪水の後是等より地の邦國の民は派分け出たり

11 全地は一の言語一の音のみなりき 2 茲に人衆東に移りてシナルの地に平野を得て其處に居住り 3 彼等互に言けるは去來甌石を作り之を善く蕪んと遂に石の代に甌石を獲灰沙の代に石漆を獲たり 4 又曰けるは去來邑と塔とを建て其塔の頂を天にいたらしめん斯して我等名を揚て全地の表面に散ることを免れんと 5 エホバ降臨りて彼人衆の建る邑と塔とを觀たまへり 6 エホバ言たまひけるは視よ民は一にして皆一の言語を用ふ今既に此を爲し始めたり然ば凡て其爲んと圖維る事は禁止め得られざるべし 7 去來我等降り彼處にて彼等の言語を淆し互に言語を通ずることを得ざらしめんと 8 エホバ遂に彼等を彼處より全地の表面に散したまひければ彼等邑を建ることを罷たり 9 是故に其名はバベル(淆亂)と呼ばる是はエホバ彼處に全地の言語を淆したまひしに由てなり彼處

よりエホバ彼等を全地の表に散したまへり **10** セムの傳は是なりセム百歳にして洪水の後の二年にアルパクサデを生り **11** セム、アルパクサデを生し後五百年生存へて男子女子を生り **12** アルパクサデ三十五歳に及びてシラを生り **13** アルパクサデ、シラを生し後四百三年生存へて男子女子を生り **14** シラ三十歳におよびてエベルを生り **15** シラ、エベルを生し後四百三年生存へて男子女子を生り **16** エベル三十四歳におよびてペレグを生り **17** エベル、ペレグを生し後四百三十年生存へて男子女子を生り **18** ペレグ三十歳におよびてリウを生り **19** ペレグ、リウを生し後二百九年生存へて男子女子を生り **20** リウ三十二歳におよびてセルグを生り **21** リウ、セルグを生し後二百七年生存へて男子女子を生り **22** セルグ三十年におよびてナホルを生り **23** セルグ、ナホルを生しのち二百年生存へて男子女子を生り **24** ナホル二十九歳に及びてテラを生り **25** ナホル、テラを生し後百十九年生存へて男子女子を生り **26** テラ七十歳に及びてアブラム、ナホルおよびハランを生り **27** テラの傳は是なりテラ、アブラム、ナホルおよびハランを生ハラン、ロトを生り **28** ハランは其父テラに先ちて其生處なるカルデアのウルにて死たり **29** アブラムとナホルと妻を娶れりアブラムの妻の名をサライと云ナホルの妻の名をミルカと云てハランの女なりハランはミルカの父にして亦イスカの父なりき **30** サライは石女にして子なかりき **31** テラ、カナンの地に往とて其子アブラムとハランの子なる其孫ロト及其子アブラムの妻なる其媳サライをひき挈て俱にカルデアのウルを出たりしがハラン

に至て其處に住り 32 テラの齡は二百五歳なりきテラ
はハランにて死り

12 爰にエホバ、アブラムに言たまひけるは汝の國
を出で汝の親族に別れ汝の父の家を離れて我が汝に
示さん其地に至れ 2 我汝を大なる國民と成し汝を祝
み汝の名を大ならしめん汝は祉福の基となるべし 3
我は汝を祝する者を祝し汝を詛ふ者を詛はん天下の
諸の宗族汝によりて福禔を獲と 4 アブラム乃ちエホ
バの自己に言たまひし言に従て出たりロト彼と共に
行りアブラムはハランを出たる時七十五歳なりき 5
アブラム其妻サライと其弟の子ロトおよび其集めたる
總の所有とハランにて獲たる人衆を携へてカナン
の地に往んとて出で遂にカナン of 地に至れり 6 アブ
ラム其地を經過てシケムの處に及びモレの橡樹に至
れり其時にカナン人其地に住り 7 茲にエホバ、アブ
ラムに顯現れて我汝の苗裔に此地に與へんといひた
まへり彼處にて彼己に顯現れたまひしエホバに壇を
築けり 8 彼其處よりベテルの東の山に移りて其天幕
を張り西にベテル東にアイありき彼處にて彼エホバ
に壇を築きエホバの名を顛り 9 アブラム尚進て南に
遷れり 10 茲に饑饉其地にありければアブラム、エジ
プトに寄寓らんとて彼處に下れり其は饑饉其地に甚
しかりければなり 11 彼近く來りてエジプトに入んと
する時其妻サライに言けるは視よ我汝を觀て美麗き
婦人なるを知る 12 是故にエジプト人汝を見る時是は
彼の妻なりと言て我を殺さん然ど汝をば生存かん 13
請ふ汝わが妹なりと言へ然ば我汝の故によりて安に
してわが命汝のために生存ん 14 アブラム、エジプト
に至りし時エジプト人此婦を見て甚だ美麗となせり

15 またパロの大臣等彼を視て彼をパロの前に譽めければ婦遂にパロの家に召入れられたり 16 是に於てパロ彼のために厚くアブラムを待ひてアブラム遂に羊牛僕婢牝牡の驢馬および駱駝を多く獲るに至れり 17 時にエホバ、アブラムの妻サライの故によりて大なる災を以てパロと其家を惱したまへり 18 パロ、アブラムを召て言けるは汝が我になしたる此事は何ぞや汝何故に彼が汝の妻なるを我に告ざりしや 19 汝何故に彼はわが妹なりといひしや我幾彼をわが妻にめとらんとせり然ば汝の妻は此にあり撃去るべしと 20 パロ即ち彼の事を人々に命じければ彼と其妻および其有る諸の物を送りさらしめたり

13 アブラム其妻および其有る諸の物と偕にエジプトを出て南の地に上れりロト彼と共にありき 2 アブラム甚家畜と金銀に富り 3 彼南の地より其旅路に進てベテルに至りベテルとアイの間なる其以前に天幕を張たる處に至れり 4 即ち彼が初に其處に築きたる壇のある處なり彼處にアブラム、エホバの名を籲り 5 アブラムと偕に行しロトも羊牛および天幕を有り 6 其地は彼等を載て俱に居しむること能はざりき彼等は其所有多かりしに縁て俱に居ることを得ざりしなり 7 斯有かばアブラムの家畜の牧者とロトの家畜の牧者の間に競争ありきカナン人とペリジ人此時其地に居住り 8 アブラム、ロトに言けるは我等は兄弟の人なれば請ふ我と汝の間およびわが牧者と汝の牧者の間に競争あらしむる勿れ 9 地は皆爾の前にあるにあらずや請ふ我を離れよ爾若左にゆかば我右にゆかん又爾右にゆかば我左にゆかんと 10 是に於てロト目を擧てヨルダンの凡ての低地を瞻望みけるにエホバ

、ソドムとゴモラとを滅し給はざりし前なりければ
ゾアルに至るまであまねく善く潤澤ひてエホバの園
の如くエジプトの地の如くなりき **11** ロト乃ちヨルダ
ンの低地を盡く撰とりて東に徙れり斯彼等彼此に別
たり **12** アブラムはカナンの地に住り又ロトは低地の
諸邑に住み其天幕を遷してソドムに至れり **13** ソドム
の人は悪くしてエホバの前に大なる罪人なりき **14** ロ
トのアブラムに別れし後エホバ、アブラムに言たま
ひけるは爾の目を擧て爾の居る處より西東北南を瞻
望め **15** 凡そ汝が觀る所の地は我之を永く爾と爾の裔
に與べし **16** 我爾の後裔を地の塵沙の如くなさん若人
地の塵沙を數ふることを得ば爾の後裔も數へらるべ
し **17** 爾起て縦横に其地を行き巡るべし我之を爾に與
へんと **18** アブラム遂に天幕を遷して來りヘブロン
のmamreの橡林に住み彼處にてエホバに壇を築けり

14 當時シナルの王アマラペル、エラサル
の王アリオク、エラムの王ケダラオメルおよび
ゴイムの王テダル等 **2** ソドムの王ベラ、
ゴモルの王ビルシア、アダマの王シナブ、
ゼボイムの王セメベルおよびベラ(即ち
今のゾアル)の王と戦ひをなせり **3** 是等
の五人の王皆結合てシデムの谷に至れり
其處は今の鹽海なり **4** 彼等は十二年
ケダラオメルに事へ第十三年に叛けり
5 第十四年にケダラオメルおよび彼と
偕なる王等來りてアシタロテカルナイ
ムのレパイム人、ハムのズジ人、シャ
ベキリアタイムのエミ人 **6** および
セイル山のホリ人を撃て曠野の傍なる
エルパランに至り **7** 彼等歸りてエン
ミシパテ(即ち今のカデシ)に至りアマ
レク人の國を盡く撃又ハザゾンタルに
住るアモリ人を撃り **8** 爰にソドム
の王ゴモラの王アダマ

の王ゼボイムの王およびベラ(即ち今のゾアル)の王
出てシデムの谷にて彼等と戦ひを接たり **9** 即ち彼五
人の王等エラムの王ケダラオメル、ゴイムの王テダ
ル、シナルの王アマラペル、エラサルの王アリオク
の四人と戦へり **10** シデムの谷には地瀝青の坑多かり
しがソドムとゴモラの王等遁て其處に陥りぬ其餘の
者は山に遁逃たり **11** 是に於て彼等ソドムとゴモラの
諸の物と其諸の食料を取て去れり **12** 彼等アブラムの
姪ロトと其物を取て去り其は彼ソドムに住たればな
り **13** 茲に遁逃者來りてヘブル人アブラムに之を告た
り時にアブラムはアモリ人マムレの橡林に住りマム
レはエシコルの兄弟又アネルの兄弟なり是等はアブ
ラムと契約を結べる者なりき **14** アブラム其兄弟の擄
にせられしを聞しかば其熟練したる家の子三百十八
人を率ゐてダンまで追いたり **15** 其家臣を分ちて夜に
乗じて彼等を攻め彼等を撃破りてダマスコの左なる
ホバまで彼等を追ゆけり **16** アブラム斯諸の物を奪回
し亦其兄弟ロトと其物および婦人と人民を取回せり
17 アブラム、ケダラオメルおよび彼と偕なる王等を
撃破りて歸れる時ソドムの王シヤベの谷(即ち今の王
の谷)にて彼を迎へたり **18** 時にサレムの王メルキゼ
デク、パンと酒を携出せり彼は至高き神の祭司なり
き **19** 彼アブラムを祝して言けるは願くは天地の主な
る至高神アブラムを祝福みたまへ **20** 願くは汝の敵を
汝の手に付したまひし至高神に稱譽あれとアブラム
乃ち彼に其諸の物の什分の一を饋れり **21** 茲にソドム
の王アブラムに言けるは人を我に與へ物を汝に取れ
と **22** アブラム、ソドムの王に言けるは我天地の主な
る至高き神エホバを指て言ふ **23** 一本の絲にても鞋帶

にても凡て汝の所屬は我取ざるべし恐くは汝我アブラムを富しめたりと言ん 24 但少者の既に食ひたる物および我と偕に行し人アネル、エシコルおよびマムレの分を除くべし彼等には彼等の分を取しめよ

15 是等の事の後エホバの言異象の中にアブラムに臨て曰くアブラムよ懼るなかれ我は汝の干櫓なり汝の賚は甚大なるべし 2 アブラム言けるは主エホバよ何を我に與んとしたまふや我は子なくして居り此ダマスコのエリエゼル我が家の相續人なり 3 アブラム又言けるは視よ爾子を我にたまはず我の家の子わが嗣子とならんとすと 4 エホバの言彼にのぞみて曰く此者は爾の嗣子となるべからず汝の身より出る者爾の嗣子となるべしと 5 斯てエホバ彼を外に携へ出して言たまひけるは天を望みて星を數へ得るかを見よと又彼に言たまひけるは汝の子孫は是のごとくなるべしと 6 アブラム、エホバを信ずエホバこれを彼の義となしたまへり 7 又彼に言たまひけるは我は此地を汝に與へて之を有たしめんとて汝をカルデアのウルより導き出せるエホバなり 8 彼言けるは主エホバよ我いかにして我之を有つことを知るべきや 9 エホバ彼に言たまひけるは三歳の牝牛と三歳の牝山羊と三歳の牡羊と山鳩および雛き鴿を我ために取れと 10 彼乃ち是等を皆取て之の中より剖き其剖たる者を各相對はしめて置り但鳥は剖ざりき 11 鷲鳥其死體の上に下る時はアブラム之を驅はらへり 12 斯て日の没る頃アブラム酣く睡りしが其大に暗きを覺えて懼れたり 13 時にエホバ、アブラムに言たまひけるは爾確に知るべし爾の子孫他人の國に旅人となりて其人々に服事へん彼等四百年のあひだ之を惱さん 14 又其服事

たる國民は我之を鞫かん其後彼等は大なる財貨を携へて出ん 15 爾は安然に爾の父祖の所にゆかん爾は遐齡に達りて葬らるべし 16 四代に及びて彼等此に返りきたらん其はアモリ人の惡未だ貫盈ざれば也と 17 斯て日の没て黑暗となりし時烟と火焰の出る爐其切割たる物の中を通過り 18 是日にエホバ、アブラムと契約をなして言たまひけるは我此地をエジプトの河より彼大河即ちユフラテ河まで爾の子孫に與ふ 19 即ちケニ人ケナズ人カデモニ人 20 ヘテ人ペリジ人レパيلم人 21 アモリ人カナン人ギルガシ人エブス人の地是なり

16 アブラムの妻サライ子女を生ざりき彼に一人の侍女ありしがエジプト人にして其名をハガルと曰り 2 サライ、アブラムに言けるは視よエホバわが子を生むことを禁めたまひければ請ふ我が侍女の所に入れ我彼よりして子女を得ることあらんとアブラム、サライの言を聽いれたり 3 アブラムの妻サライ其侍女なるエジプト人ハガルを取て之を其夫アブラムに與へて妻となさしめたり是はアブラムがカナンの地に十年住みたる後なりき 4 是においてアブラム、ハガルの所に入るハガル遂に孕みければ己の孕めるを見て其女主を藐視たり 5 サライ、アブラムに言けるはわが蒙れる害は汝に歸すべし我わが侍女を汝の懷に與へたるに彼己の孕るを見て我を藐視ぐ願はエホバ我と汝の間の事を鞫きたまへ 6 アブラム、サライに言けるは視よ汝の侍女は汝の手の中にあり汝の目に善と見ゆる所を彼に爲すべしサライ乃ち彼を苦めければ彼サライの面を避て逃たり 7 エホバの使者曠野の泉の旁即ちシユルの路にある泉の旁にて彼に遭ひ

て 8 言けるはサライの侍女ハガルよ汝何處より來れるや又何處に往や彼言けるは我は女主サライの面をさけて逃るなり 9 エホバの使者彼に言けるは汝の女主の許に返り身を其手に任すべし 10 エホバの使者又彼に言ひけるは我大に汝の子孫を増し其數を衆多して數ふることあたはざらしめん 11 エホバの使者又彼に言けるは汝孕めり男子を生まん其名をイシマエル(神聽知)と名くべしエホバ汝の艱難を聽知したまへばなり 12 彼は野驢馬の如き人とならん其手は諸の人に敵し諸の人の手はこれに敵すべし彼は其諸の兄弟の東に住んと 13 ハガル己に諭したまへるエホバの名をアタエルロイ(汝は見たまふ神なり)とよべり彼いふ我視たる後尚生るやと 14 是をもて其井はベエルラハイロイ(我を見る活る者の井)と呼ぶる是はカデシとベレデの間にあり 15 ハガル、アブラムの男子を生めりアブラム、ハガルの生める其子の名をイシマエルと名づけたり 16 ハガル、イシマエルをアブラムに生める時アブラムは八十六歳なりき

17 アブラム九十九歳の時エホバ、アブラムに顯れて之に言たまひけるは我は全能の神なり汝我前に行みて完全かれよ 2 我わが契約を我と汝の間に立て大に汝の子孫を増ん 3 アブラム乃ち俯伏たり神又彼に告て言たまひけるは 4 我汝とわが契約を立つ汝は衆多の國民の父となるべし 5 汝の名を此後アブラムと呼ぶべからず汝の名をアブラハム(衆多の人の父)とよぶべし其は我汝を衆多の國民の父と爲ばなり 6 我汝をして衆多の子孫を得せしめ國々の民を汝より起さん王等汝より出べし 7 我わが契約を我と汝および汝の後の世々の子孫との間に立て永久の契約となし

汝および汝の後の子孫の神となるべし 8 我汝と汝の後の子孫に此汝が寄寓る地即ちカナンカナンの全地を與へて永久の産業となさん而して我彼等の神となるべし 9 神またアブラハムに言たまひけるは然ば汝と汝の後の世々の子孫わが契約を守るべし 10 汝等の中の男子は咸割禮を受べし是は我と汝等および汝の後の子孫の間の我が契約にして汝等の守るべき者なり 11 汝等其陽の皮を割べし是は我と汝等の間の契約の徴なり 12 汝等の代々の男子は家に生れたる者も異邦人より金にて買たる汝の子孫ならざる者も皆生れて八日に至らば割禮を受べし 13 汝の家に生れたる者も汝の金にて買たる者も割禮を受ざるべからず斯我契約汝等の身にありて永久の契約となるべし 14 割禮を受ざる男兒即ち其陽の皮を割ざる者は我契約を破るによりて其人其民の中より絶るべし 15 神又アブラハムの言たまひけるは汝の妻サラサラは其名をサラサライと稱ぶべからず其名をサラと爲べし 16 我彼を祝み彼よりして亦汝に一人の男子を授けん我彼を祝み彼をして諸邦の民の母とならしむべし諸の民の王等彼より出べし 17 アブラハム俯伏て晒晒ひ其心に謂けるは百歳の人に豈で子の生るることあらんや又サラは九十歳なれば豈で産ことをなさんやと 18 アブラハム遂に神にむかひて願くはイシマエルの汝のまへに生存へんことをと曰ふ 19 神言たまひけるは汝の妻サラ必ず子を生ん汝其名をイサクと名くべし我彼および其後の子孫と契約を立て永久の契約となさん 20 又イシマエルの事に關ては我汝の願を聽たり視よ我彼を祝みて多衆の子孫を得さしめ大に彼の子孫を増すべし彼十二の君王を生ん我彼を大なる國民となすべし 21 然どわが契約

は我翌年の今頃サラが汝に生ん所のイサクと之を立
べし 22 神アブラハムと言ことを竟へ彼を離れて昇り
給へり 23 是に於てアブラハム神の己に言たまへる如
く此日其子イシマエルと凡て其家に生れたる者およ
び凡て其金にて買たる者即ちアブラハムの家の人の
中なる諸の男を將きたりて其陽の皮を割たり 24 アブ
ラハムは其陽の皮を割れたる時九十九歳 25 其子イシ
マエルは其陽の皮を割れたる時十三歳なりき 26 是日
アブラハムと其子イシマエル割禮を受たり 27 又其家
の人家に生れたる者も金にて異邦人より買たる者も
皆彼とともに割禮を受たり

18 エホバ、マムレの橡林にてアブラハムに顯現た
まへり彼は日の熱き時刻天幕の入口に坐しゐたりし
が 2 目を擧て見たるに視よ三人の人其前に立り彼見
て天幕の入口より趨り行て之を迎へ 3 身を地に鞠め
て言けるは我が主よ我若汝の目のまへに恩を得たる
ならば請ふ僕を通り過すなかれ 4 請ふ少許の水を取
きたらしめ汝等の足を濯ひて樹の下に休憩たまへ 5
我一口のパンを取來らん汝等心を慰めて然る後過ゆ
くべし汝等僕の所に來ればなり彼等言ふ汝が言るご
とく爲せ 6 是においてアブラハム天幕に急ぎいりて
サラの許に至りて言けるは速に細麵三セヤを取り捏
てパンを作るべしと 7 而してアブラハム牛の群に趨
ゆき犢の柔にして善き者を取りきたりて少者に付し
ければ急ぎて之を調理ふ 8 かくてアブラハム牛酪と
牛乳および其調理へたる犢を取て彼等のまへに供へ
樹の下にて其側に立り彼等乃ち食へり 9 彼等アブラ
ハムに言けるは爾の妻サラは何處にあるや彼言ふ天
幕にあり 10 其一人言ふ明年の今頃我必ず爾に返るべ

し爾の妻サラに男子あらんサラ其後なる天幕の入口
にありて聞るたり **11** 抑アブラハムとサラは年邁み老
いたる者にしてサラには婦人の常の經已に息たり **12**
是故にサラ心に哂ひて言けるは我は老衰へ吾が主も
亦老たる後なれば我に樂あるべけんや **13** エホバ、ア
ブラハムに言たまひけるは何故にサラは哂ひて我老
たれば果して子を生ことあらんと言ふや **14** エホバに
豈爲し難き事あらんや時至らば我定めたる期に爾に
歸るべしサラに男子あらんと **15** サラ懼れたれば承ず
して我哂はずと言へりエホバ言たまひけるは否汝哂
へるなり **16** 斯て其人々彼處より起てソドムの方を望
みければアブラハム彼等を送らんとて俱に行り **17** エ
ホバ言ひ給けるは我爲んとする事をアブラハムに隠
すべけんや **18** アブラハムは必ず大なる強き國民とな
りて天下の民皆彼に由て福を獲に至るべきに在らずや
19 其は我彼をして其後の兒孫と家族とに命じエホバ
の道を守りて公儀と公道を行しめん爲に彼をしれり
是エホバ、アブラハムに其曾て彼に就て言し事を行
はん爲なり **20** エホバ又言給ふソドムとゴモラの號呼
大なるに因り又其罪甚だ重に因て **21** 我今下りて其號
呼の我に達れる如くかれら全く行ひたりしやを見ん
とす若しからずば我知るに至らんと **22** 其人々其處よ
り身を旋してソドムに赴むけりアブラハムは尚ほエ
ホバのまへに立り **23** アブラハム近よりて言けるは爾
は義者をも悪者と俱に滅ぼしたまふや **24** 若邑の中に
五十人の義者あるも汝尚ほ其處を滅ぼし其中の五十
人の義者のためにこれを恕したまはざるや **25** なんぢ
斯の如く爲て義者と悪者と俱に殺すが如きは是ある
まじき事なり又義者と悪者を均等するが如きもある

まじき事なり天下を鞫く者は公儀を行ふ可にあらざ
や 26 エホバ言たまひけるは我若ソドムに於て邑の中
に五十人の義者を看ば其人々のために其處を盡く恕
さん 27 アブラハム應へていひけるは我は塵と灰なれ
ども敢て我主に言上す 28 若五十人の義者の中五人缺
たらんに爾五人の缺たるために邑を盡く滅ぼしたま
ふやエホバ言たまひけるは我若彼處に四十五人を看
ば滅さざるべし 29 アブラハム又重ねてエホバに言上
して曰けるは若彼處に四十人見えなば如何エホバ言
たまふ我四十人のために之をなさじ 30 アブラハム曰
ひけるは請ふわが主よ怒らずして言しめたまへ若彼
處に三十人見えなば如何エホバいひたまふ我三十人
を彼處に看ば之を爲じ 31 アブラハム言ふ我あへてわ
が主に言上す若彼處に二十人見えなば如何エホバ言
たまふ我二十人のためにほろぼさじ 32 アブラハム言
ふ請ふわが主怒らずして今一度言しめたまへ若かし
こに十人見えなば如何エホバ言たまふ我十人のため
にほろぼさじ 33 エホバ、アブラハムと言ふことを終
てゆきたまへりアブラハムおのれの所にかへりぬ

19 其二個の天使黄昏にソドムに至るロト時にソド
ムの門に坐し居たりしがこれを視起て迎へ首を地に
さげて 2 言けるは我主よ請ふ僕の家を臨み足を濯ひ
て宿りつとに起て途に遡征たまへ彼等言ふ否我等は
街衢に宿らんと 3 然ど固く強ければ遂に彼の所に臨
みて其家に入るロト乃ち彼等のために筵を設け酔い
れぬパンを炊て食はしめたり 4 斯て未だ寝ざる前に
邑の人々即ちソドムの人老たるも若きも諸共に四方
八方より來たれる民皆其家を環み 5 ロトを呼て之に
言けるは今夕爾に就たる人は何處にをるや彼等を我

等の所に携へ出せ我等之を知らん 6 ロト入口に出て
其後の戸を閉ぢ彼等の所に至りて 7 言けるは請ふ兄
弟よ悪き事を爲すなかれ 8 我に未だ男知ぬ二人の女
あり請ふ我之を携へ出ん爾等の目に善と見ゆる如く
之になせよ唯此人等は既に我家の蔭に入たれば何を
も之になすなかれ 9 彼等曰ふ爾退け又言けるは此人
は來り寓れる身なるに恒に士師とならんとす然ば我
等彼等に加ふるよりも多くの害を爾に加へんと遂に
彼等酷しく其人ロトに逼り前よりて其戸を破んとせ
しに 10 彼二人其手を舒しロトを家の内に援いれて其
戸を閉ぢ 11 家の入口にをる人衆をして大なるも小も
俱に目を眩しめければ彼等遂に入口を索ぬるに困憊
たり 12 斯て二人ロトに言けるは外に爾に屬する者あ
りや汝の婿子女および凡て邑にをりて爾に屬する者
を此所より携へ出べし 13 此處の號呼エホバの前に大
になりたるに因て我等之を滅さんとすエホバ我等を
遣はして之を滅さしめたまふ 14 ロト出て其女を娶る
婿等に告て言けるはエホバが邑を滅したまふべけれ
ば爾等起て此處を出よと然ど婿等は之を戲言と視爲
り 15 曉に及て天使ロトを促して言けるは起て此なる
爾の妻と二人の女を携へよ恐くは爾邑の惡とともに
滅されん 16 然るに彼遅延ひしかば二人其手と其妻の
手と其二人の女の手を執て之を導き出し邑の外に置
りエホバ斯彼に仁慈を加へたまふ 17 既に之を導き出
して其一人曰けるは逃遁て汝の生命を救へ後を回顧
るなかれ低地の中に止るなかれ山に遁れよ否ずば爾
滅されん 18 ロト彼等に言けるはわが主よ請ふ斯した
まふなかれ 19 視よ僕爾の目のまへに恩を得たり爾大
なる仁慈を吾に施してわが生命を救たまふ吾山に遁

る能はず恐くは災害身に及びて死るにいたらん 20 視よ此邑は遁ゆくに近くして且小し我をして彼處に遁れしめよしからば吾生命全からん是は小き邑なるにあらずや 21 天使之にいひけるは視よ我此事に關ても亦爾の願を容たれば爾が言ふところの邑を滅さじ 22 急ぎて彼處に遁れよ爾が彼處に至るまでは我何事も爲を得ずとはに因て其邑の名はゾアル(小し)と稱る 23 ロト、ゾアルに至れる時日地の上に昇れり 24 エホバ硫黄と火をエホバの所より即ち天よりソドムとゴモラに雨しめ 25 其邑と低地と其邑の居民および地に生るところの物を盡く滅したまへり 26 ロトの妻は後を回顧たれば鹽の柱となりぬ 27 アブラハム其朝夙に起て其嘗てエホバの前に立たる處に至り 28 ソドム、ゴモラおよび低地の全面を望み見るに其地の烟燄窟の烟のごとくに騰上れり 29 神低地の邑を滅したまふ時即ちロトの住る邑を滅したまふ時に當り神アブラハムを眷念て斯其滅亡の中よりロトを出したまへり 30 斯てロト、ゾアルに居ることを懼れたれば其二人の女と偕にゾアルを出て上りて山に居り其二人の女子とともに巖穴に住り 31 茲に長女季女にいひけるは我等の父は老いたり又此地には我等に偶て世の道を成す人あらず 32 然ば我等父に酒を飲せて與に寝ね父に由て子を得んと 33 遂に其夜父に酒を飲せ長女入て其父と與に寝たり然るにロトは女の起臥を知ざりき 34 翌日長女季女に言けるは我昨夜わが父と寝たり我等此夜又父に酒をのません爾入て與に寝よわれらの父に由て子を得ることをえんと 35 乃ち其夜も亦父に酒をのませ季女起て父と與に寝たりロトまた女の起臥を知ざりき 36 斯ロトの二人の女其父によりて

孕みたり 37 長女子を生み其名をモアブと名く即ち今のモアブ人の先祖なり 38 季女も亦子を生み其名をベニアンミと名く即ち今のアンモニ人の先祖なり

20 アブラハム彼處より徒りて南の地に至りカデシとシユルの間に居りゲラルに寄留り 2 アブラハム其妻サラを我妹なりと言しかばゲラルの王アビメレク人を遣してサラを召入たり 3 然るに神夜の夢にアビメレクに臨みて之に言たまひけるは汝は其召入たる婦人のために死るなるべし彼は夫ある者なればなり 4 アビメレク未だ彼に近づかざりしかば言ふ主よ汝は義き民をも殺したまふや 5 彼は我に是はわが妹なりと言しにあらずや又婦も自彼はわが兄なりと言たり我全き心と潔き手をもて此をなせり 6 神又夢に之に言たまひけるは然り我汝が全き心をもて之をなせるを知りたれば我も汝を阻めて罪を我に犯さしめざりき彼に觸るを容ざりしは是がためなり 7 然ば彼の妻を歸せ彼は預言者なれば汝のために祈り汝をして生命を保しめん汝若歸ずば汝と汝に屬する者皆必死るべきを知るべし 8 是に於てアビメレク其朝夙に起て臣僕を悉く召し此事を皆語り聞せければ人々甚く懼れたり 9 斯てアビメレク、アブラハムを召て之に言けるは爾我等に何を爲すや我何の惡き事を爾になしたれば爾大なる罪を我とわが國に蒙らしめんとせしか爾爲べからざる所爲を我に爲したり 10 アビメレク又アブラハムに言けるは爾何を見て此事を爲たるや 11 アブラハム言けるは我此處はかならず神を畏れざるべければ吾妻のために人我を殺さんと思ひたるなり 12 又我は誠にわが妹なり彼はわが父の子にしてわが母の子にあらざるが遂に我妻となりたるなり 13 神

我をして吾父の家を離れて周遊しめたまへる時に當りて我彼に爾我等が至る處にて我を爾の兄なりと言へ是は爾が我に施す恩なりと言たり 14 アビメレク乃ち羊牛僕婢を將てアブラハムに與へ其妻サラ之に歸せり 15 而してアビメレク言けるは視よ我地は爾のまへにあり爾の好むところに住め 16 又サラに言けるは視よ我爾の兄に銀千枚を與へたり是は爾および諸の人にありし事等につきて爾の目を蔽ふ者なり斯爾償贖を得たり 17 是に於てアブラハム神に祈りければ神アビメレクと其妻および婢を醫したまひて彼等子を産むにいたる 18 エホバさきにはアブラハムの妻サラの故をもてアビメレクの家の子の胎をことごとく閉たまへり

21 エホバ其言し如くサラを眷顧みたまふ即ちエホバ其語しごとくサラに行ひたまひしかば 2 サラ遂に孕み神のアブラハムに語たまひし期日に及びて年老たるアブラハムに男子を生り 3 アブラハム其生れたる子即ちサラが己に生る子の名をイサクと名けたり 4 アブラハム神の命じたまひし如く八日に其子イサクに割禮を行へり 5 アブラハムは其子イサクの生れたる時百歳なりき 6 サラ言けるは神我を笑はしめたまふ聞く者皆我とともに笑はん 7 又曰けるは誰かアブラハムにサラ子女に乳を飲しむるにいたらんと言しものあらん然に彼が年老るに及びて男子を生たりと 8 儲其子長育ちて遂に乳を離るイサクの乳を離るる日にアブラハム大なる饗宴を設けたり 9 時にサラ、エジプト人ハガルがアブラハムに生たる子の笑ふを見て 10 アブラハムに言けるは此婢と其子を遂出せ此婢の子は吾子イサクと共に嗣子となるべからざるなり

と **11** アブラハム其子のために甚く此事を憂たり **12** 神アブラハムに言たまひけるは童兒のため又汝の婢のために之を憂るなかれサラが汝に言ところの言は悉く之を聽け其はイサクより出る者汝の裔と稱らるべければなり **13** 又婢の子も汝の胤なれば我之を一の國となさん **14** アブラハム朝夙に起てパンと水の革囊とを取りハガルに與へて之を其肩に負せ其子を携へて去しめければ彼往てベエルシバの曠野に躑躅しが **15** 革囊の水遂に罄たれば子を灌木の下に置き **16** 我子の死るを見るに忍ずといひて遙かに行き箭達を隔てて之に對ひ坐しぬ斯相嚮ひて坐し聲をあげて泣く **17** 神其童兒の聲を聞たまふ神の使即ち天よりハガルを呼て之に言けるはハガルよ何事ぞや懼るるなかれ神彼處にをる童兒の聲を聞たまへり **18** 起て童兒を起し之を汝の手に抱くべし我之を大なる國となさんと **19** 神ハガルの目を開きたまひければ水の井あるを見ゆきて革囊に水を充し童兒に飲しめたり **20** 神童兒と偕に在す彼遂に成長り曠野に居りて射者となり **21** パランの曠野に住り其母彼のためにエジプトの國より妻を迎へたり **22** 當時アビメレクと其軍勢の長ピコル、アブラハムに語て言けるは汝何事を爲にも神汝とともに在す **23** 然ば汝が我とわが子とわが孫に僞をなさざらんことを今此に神をさして我に誓へ我が厚情をもて汝をあつかふごとく汝我と此汝が寄留る地とに爲べし **24** アブラハム言ふ我誓はん **25** アブラハム、アビメレクの臣僕等が水の井を奪ひたる事につきてアビメレクを責ければ **26** アビメレク言ふ我誰が此事を爲しを知らず汝我に告しこと無く又我今日まで聞しことなし **27** アブラハム乃ち羊と牛を取て之をアビメ

レクに與ふ斯て二人契約を結べり 28 アブラハム牝の羔七を分ち置ければ 29 アビメレク、アブラハムに言ふ汝此七の牝の羔を分ちおくは何のためなるや 30 アブラハム言けるは汝わが手より此七の牝の羔を取りて我が此井を掘たる證據とならしめよと彼等二人彼處に誓ひしによりて 31 其處をベエルシバ(盟約の井)と名けたり 32 斯彼等ベエルシバにて契約を結びアビメレクと其軍勢の長ピコルは起てペリシテ人の國に歸りぬ 33 アブラハム、ベエルシバに柳を植ゑ永遠に在す神エホバの名を彼處に顛り 34 斯してアブラハム久くペリシテ人の地に留寄りぬ

22 是等の事の後神アブラハムを試みんとて之をアブラハムよと呼たまふ彼言ふ我此にあり 2 エホバ言給ひけるは爾の子爾の愛する獨子即ちイサクを携てモリアの地に到りわが爾に示さんとする彼所の山に於て彼を燔祭として獻ぐべし 3 アブラハム朝夙に起て其驢馬に鞍おき二人の少者と其子イサクを携へ且燔祭の柴薪を劈りて起て神の己に示したまへる處におもむきけるが 4 三日におよびてアブラハム目を擧て遙に其處を見たり 5 是に於てアブラハム其少者に言けるは爾等は驢馬とともに此に止れ我と童子は彼處にゆきて崇拜を爲し復爾等に歸ん 6 アブラハム乃ち燔祭の柴薪を取て其子イサクに負せ手に火と刀を執て二人ともに往り 7 イサク父アブラハムに語て父よと曰ふ彼答て子よ我此にありといひければイサク即ち言ふ火と柴薪は有り然ど燔祭の羔は何處にあるや 8 アブラハム言けるは子よ神自ら燔祭の羔を備へたまはんと二人偕に進みゆきて 9 遂に神の彼に示したまへる處に到れり是においてアブラハム彼處に壇

を築き柴薪を臚列べ其子イサクを縛りて之を壇の柴薪の上に置せたり 10 斯してアブラハム手を舒べ刀を執りて其子を宰んとす 11 時にエホバの使者天より彼を呼てアブラハムよアブラハムよと言へり彼言ふ我此にあり 12 使者言けるは汝の手を童子に按るなかれ亦何をも彼に爲べからず汝の子即ち汝の獨子をも我ために惜まざれば我今汝が神を畏るを知ると 13 茲にアブラハム目を擧て視れば後に牡綿羊ありて其角林叢に繋りたりアブラハム即ち往て其牡綿羊を執へ之を其子の代に燔祭として獻げたり 14 アブラハム其處をエホバエレ(エホバ預備たまはん)と名く是に縁て今日もなほ人々山にエホバ預備たまはんといふ 15 エホバの使者再天よりアブラハムを呼て 16 言けるはエホバ諭したまふ我己を指て誓ふ汝是事を爲し汝の子即ち汝の獨子を惜まざりしに因て 17 我大に汝を祝み又大に汝の子孫を増して天の星の如く濱の沙の如くならしむべし汝の子孫は其敵の門を獲ん 18 又汝の子孫によりて天下の民皆福祉を得べし汝わが言に遵ひたるによりてなりと 19 斯てアブラハム其少者の所に歸り皆たちて偕にベエルシバにいたれりアブラハムはベエルシバに住り 20 是等の事の後アブラハムに告る者ありて言ふミルカ亦汝の兄弟ナホルにしたがひて子を生子 21 長子はウヅ其弟はブヅ其次はケムエル是はアラムの父なり 22 其次はケセデ、ハヅ、ピルダシ、エデラフ、ベトエル 23 ベトエルはりベカを生り是八人はミルカがアブラハムの兄弟ナホルに生たる者なり 24 ナホルの妾名はルマといふ者も亦テバ、ガハム、タハシおよびマアカを生り

23 サラ百二十七歳なりき是即ちサラの齡の年なり **2**
サラ、キリアテアルバにて死り是はカナンの地のヘ
ブロンなりアブラハム至りてサラのために哀み且哭
り **3** 斯てアブラハム死人の前より起ち出てヘテの子
孫に語りて言けるは **4** 我は汝等の中の賓旅なり寄居
者なり請ふ汝等の中にて我は墓地を與へて吾が所有
となし我をして吾が死人を出し葬ることを得せしめ
よ **5** ヘテの子孫アブラハムに應て之に言ふ **6** 我主よ
我等に聽たまへ我等の中にありて汝は神の如き君な
り我等の墓地の住者を擇みて汝の死人を葬れ我等の
中一人も其墓地を汝にをしみて汝をしてその死人を
葬らしめざる者なかるべし **7** 是に於てアブラハム起
ち其地の民ヘテの子孫に對て躬を鞠む **8** 而して彼等
と語ひて言けるは若我をしてわが死人を出し葬るを
得せしむる事汝等の意ならば請ふ我に聽て吾ために
ゾハルの子エフロンに求め **9** 彼をして其野の極端に
有るマクペラの洞穴を我に與へしめよ彼其十分の値
を取て之を我に與へ汝等の中にてわが所有なる墓地
となさば善し **10** 時にエフロン、ヘテの子孫の中に坐
しゐたりヘテ人エフロン、ヘテの子孫即ち凡て其邑
の門に入る者の聽る前にてアブラハムに應へて言け
るは **11** 吾主よ我に聽たまへ其野は我汝に與ふ又其中
の洞穴も我之を汝に與ふ我吾民なる衆人の前にて之
を汝にあたふ汝の死人を葬れ **12** 是に於てアブラハム
其地の民の前に躬を鞠たり **13** 而して彼其地の民に聽
る前にてエフロンに語りて言けるは汝若之を肯はば
請ふ吾に聽け我其野の値を汝に償はん汝之を吾より
取れ我わが死人を彼處に葬らん **14** エフロン、アブラ
ハムに答て曰けるは **15** わが主よ我に聽たまへ彼地は

銀四百シケルに當る是は我と汝の間に豈道に足んや
然ば汝の死人を葬れ 16 アブラハム、エフロンの言に
従ひエフロンがヘテの子孫の聽る前にて言たる所の
銀を秤り商買の中の通用銀四百シケルを之に與へたり
17 マムレの前なるマクペラに在るエフロンの野は
野も其中の洞穴も野の中と其四周の塚にある樹も皆
18 ヘテの子孫の前即ち凡て其邑に入る者の前にてア
ブラハムの所有と定めぬ 19 厥後アブラハム其妻サラ
をマムレの前なるマクペラの野の洞穴に葬れり是即
ちカナンの地のヘブロンなり 20 斯く其野と其中の洞
穴はヘテの子孫之をアブラハムの所有なる墓地と定
めたり

24 アブラハム年邁て老たりエホバ萬の事に於てア
ブラハムを祝みたまへり 2 茲にアブラハム其凡の所
有を宰る其家の年邁なる僕に言けるは請ふ爾の手を
吾髀の下に置よ 3 我爾をして天の神地の神エホバを
指て誓はしめん即ち汝わが偕に居むカナン人の女
の中より吾子に妻を娶るなかれ 4 汝わが故國に往き吾
親族に到りて吾子イサクのために妻を娶れ 5 僕彼に
言けるは倘女我に従ひて此地に来ることを好まざる
事あらん時は我爾の子を彼汝が出来りし地に導き歸
るべきか 6 アブラハム彼に曰けるは汝慎みて吾子を
彼處に携かへるなかれ 7 天の神エホバ我を導きて吾
父の家とわが親族の地を離れしめ我に語り我に誓ひ
て汝の子孫に此地を與へんと言たまひし者其使を遣
して汝に先たしめたまはん汝彼處より我子に妻を娶
るべし 8 若女汝に従ひ來る事を好ざる時は汝吾此誓
を解るべし唯我子を彼處に携かへるなかれ 9 是に
於て僕手を其主人アブラハムの髀の下に置いて此事に

ついて彼に誓へり 10 斯て僕其主人の駱駝の中より十頭の駱駝を取りて出たり即ち其主人の諸の佳物を手にとりて起てメソポタミアに往きナホルの邑に至り 11 其駱駝を邑の外にて井の傍に跪伏しめたり其時は黄昏にて婦女等の水汲にいつる時なりき 12 斯して彼言けるは吾主人アブラハムの神エホバよ願くは今日我にその者を逢しめわが主人アブラハムに恩恵を施し給へ 13 我この水井の傍に立ち邑の人の女等水を汲に出づ 14 我童女に向ひて請ふ汝の瓶をかたむけて我に飲しめよと言んに彼答へて飲め我また汝の駱駝にも飲しめんと言ば彼は汝が僕イサクの爲に定め給ひし者なるべし然れば我汝の吾主人に恩恵を施し給ふを知らん 15 彼語ふことを終るまへに視よりベカ瓶を肩にのせて出きたる彼はアブラハムの兄弟ナホルの妻ミルカの子ベトエルに生れたる者なり 16 其童女は觀に甚だ美しく且處女にして未だ人に適しことあらず彼井に下り其瓶に水を盈て上りしかば 17 僕はせゆきて之にあひ請ふ我をして汝の瓶より少許の水を飲しめよといひけるに 18 彼主よ飲たまへといひて乃ち急ぎ其瓶を手におろして之にのましめたりしが 19 飲せをはりて言ふ汝の駱駝のためにも其飲をはるまで水を汲て飽しめん 20 急ぎて其瓶を水鉢にあけ又汲んとて井にはせゆき其諸の駱駝のために汲みたり 21 其人之を見つめエホバが其途に幸福をくだしたまふや否やをしらんとして黙し居たり 22 茲に駱駝飲をはりしかば其人重半シケルの金の鼻環一箇と重十シケルの金の手釧二箇をとりて 23 言けるは汝は誰の女なるや請ふ我に告よ汝の父の家に我等が宿る隙地ありや 24 女彼に曰けるは我はミルカがナホルに生みたる

子ベトエルの女なり 25 又彼にいひけるは家には藁も飼草も多くあり且宿る隙地もあり 26 是に於て其人伏てエホバを拜み 27 言けるは吾主人アブラハムの神エホバは讚美べきかなわが主人に慈恵と眞實とを缺きたまはず我途にありしにエホバ我を吾主人の兄弟の家にみちびきたまへり 28 茲に童女走行て其母の家に此等の事を告たり 29 リベカに一人の兄あり其名をラバンといふラバンはせいで井にゆきて其人の許につく 30 すなはち彼鼻環および其妹の手の手釧を見又其妹リベカが其人斯我に語りといふを聞て其人の所に到り見るに井の側らにて駱駝の傍にたちゐれば 31 之に言けるは汝エホバに祝るる者よ請ふ入れ奚ぞ外にたつや我家を備へ且駱駝のために所をそなへたり 32 是に於て其人家にいりぬラバン乃ち其駱駝の負を釋き藁と飼草を駱駝にあたへ又水をあたへて其人の足と其從者の足をあらはしめ 33 斯して彼の前に食をそなへたるに彼言ふ我はわが事をのぶるまでは食はじとラバン語れといひければ 34 彼言ふわれはアブラハムの僕なり 35 エホバ大にわが主人をめぐみたまひて大なる者とならしめ又羊牛金銀奴婢駱駝驢馬をこれにたまへり 36 わが主人の妻サラ年老てのちわが主人に男子をうみければ主人其所有を悉く之に與ふ 37 わが主人我を誓せて言ふ吾すめるカナン地の人の女子の中よりわが子に妻を娶るなかれ 38 汝わが父の家にゆきわが親族にいたりわが子のために妻をめとれと 39 我わが主人にいひけるは倘女我にしたがひて來ずば如何 40 彼我にいひけるは吾事ふところのエホバ其使者を汝とともに遣はして汝の途に幸福を降したまはん爾わが親族わが父の家より吾子に妻をめ

とるべし 41 汝わが親族に至れる時はわが誓を解さるべし若彼等汝にあたへずば汝はわが誓をゆるさるべしと 42 我今日井に至りて謂けらくわが主人アブラハムの神エホバねがはくはわがゆく途に幸福を降したまへ 43 我はこの井水の傍に立つ水を汲にいつる處女あらん時我彼にむかひて請ふ汝の瓶より少許の水を我にのましめよと言んに 44 若我に答へて汝飲め我亦汝の駱駝のためにも汲んと言ば是エホバがわが主人の子のために定たまひし女なるべし 45 我心の中に語ふことを終るまへにリベカ其瓶を肩にのせて出來り井にくだりて水を汲みたるにより我彼に請ふ我にのましめよと言ければ 46 彼急ぎ其瓶を肩よりおろしていひけるは飲めまた汝の駱駝にもものましめんと是に於て我飲しが彼また駱駝にもものましめたり 47 我彼に問て汝は誰の女なるやといひければミルカがナホルに生たる子ペトエルの女なりといふ是に於て我其鼻に環をつけ其手に手釧をつけたり 48 而して我伏てエホバを拜み吾主人アブラハムの神エホバを頌美たりエホバ我を正き途に導きてわが主人の兄弟の女を其子のために娶しめんとしたまへばなり 49 されば汝等若わが主人にむかひて慈恵と眞誠をもて事をなさんと思はば我に告よ然ざるも亦我に告よ然ば我右か左におもむくをえん 50 ラバンとペトエル答て言けるは此事はエホバより出づ我等汝に善惡を言ふあたはず 51 視よりベカ汝の前にをる携へてゆき彼をしてエホバの言たまひし如く汝の主人の子の妻とならしめよ 52 アブラハムの僕彼等の言を聞て地に伏てエホバを拜めり 53 是に於て僕銀の飾品金の飾品および衣服をとりいだしてリベカに與へ亦其兄と母に寶物をあた

へたり 54 是に於て彼および其從者等食飲して宿りしが朝起たる時彼言我をして吾主人に還らしめよ 55 リベカの兄と母言けるは童女を數日の間少くも十日我等と偕にをらしめよしかるのち彼ゆくべし 56 彼人之に言エホバ吾途に福祉をくだしたまひたるなれば我を阻むるなかれ我を歸してわが主人に往しめよ 57 彼等いひけるは童女をよびて其言を問んと 58 即ちリベカを呼て之に言けるは汝此人と共に往や彼言ふ往ん 59 是に於て彼等妹リベカと其乳媪およびアブラハムの僕と其從者を遣り去しめたり 60 即ち彼等リベカを祝して之にいひけるはわれらの妹よ汝千萬の人の母となれ汝の子孫をして其仇の門を獲しめよ 61 是に於てリベカ起て其童女等とともに駱駝にのりて其人にしたがひ往く僕乃ちリベカを導きてさりぬ 62 茲にイサク、ラハイロイの井の路より來れり南の國に住居たればなり 63 しかしてイサク黄昏に野に出て黙想をなしたりしが目を擧て見しに駱駝の來るあり 64 リベカ目をあげてイサクを見駱駝をおりて 65 僕にいひけるは野をあゆみて我等にむかひ來る者は何人なるぞ僕わが主人なりといひければリベカ覆衣をとりて身をおほへり 66 茲に僕其凡てなしたる事をイサクに告ぐ 67 イサク、リベカを其母サラの天幕に携至りリベカを娶りて其妻となしてこれを愛したりイサクは母にわかれて後茲に慰籍を得たり

25 アブラハム再妻を娶る其名をケトラといふ 2 彼ジムラン、ヨクシヤン、メダン、ミデアン、イシバク、シユワを生り 3 ヨクシヤン、シバとデダンを生むデダンの子はアッシユリ族レトシ族リウミ族なり 4 ミデアンの子はエパ、エベル、ヘノク、アビダ、エ

ルダアなり是等は皆ケトラの子孫なり 5 アブラハム
其所有を盡くイサクに與へたり 6 アブラハムの妾等
の子にはアブラハム其生る間の物をあたへて之をし
て其子イサクを離れて東にさりて東の國に至らしむ
7 アブラハムの生存へたる齡の日は即ち百七十五年な
りき 8 アブラハム遐齡に及び老人となり年滿て氣た
え死て其民に加る 9 其子イサクとイシマエル之をへ
テ人ゾハルの子エフロンの野なるマクペラの洞穴に
葬れり是はマムレの前にあり 10 即ちアブラハムがへ
テの子孫より買たる野なり彼處にアブラハムと其妻
サラ葬らる 11 アブラハムの死たる後神其子イサクを
祝みたまふイサクはベエルラハイロイの邊に住り 12
サラの侍婢なるエジプト人ハガルがアブラハムに生
たる子イシマエルの傳は左のごとし 13 イシマエルの
子の名は其名氏と其世代に循ひて言ば是のごとしイ
シマエルの長子はネバヨテなり其次はケダル、アデ
ビエル、ミブサム 14 ミシマ、ドマ、マツサ 15 ハダ
デ、テマ、エトル、ネフシ、ケデマ 16 是等はイシマ
エルの子なり是等は其郷黨を其營にしたがひて言る
者にして其國に循ひていへば十二の牧伯なり 17 イシ
マエルの齡は百三十七歳なりき彼いきたえ死て其民
にくははる 18 イシマエルの子等はハビラよりエジプ
トの前なるシウルまでの間に居住てアッスリヤまで
におよべりイシマエルは其すべての兄弟等のまへに
すめり 19 アブラハムの子イサクの傳は左のごとしア
ブラハム、イサクを生り 20 イサク四十歳にしてリベ
カを妻に娶れりリベカはパダンアラムのスリア人ベ
トエルの女にしてスリア人ラバンの妹なり 21 イサク
其妻の子なきに因て之がためにエホバに祈願をたて

ければエホバ其ねがひを聽たまへり遂に其妻リベカ
孕みしが 22 其子胎の内に争そひければ然らば我いか
で斯であるべきと云て往てエホバに問に 23 エホバ彼
に言たまひけるは二の國民汝の胎にあり二の民汝の
腹より出て別れん一の民は一の民よりも強かるべし
大は小に事へんと 24 かくて臨月みちて見しに胎には
孳ありき 25 先に出たる者は赤くして躰中裘の如し其
名をエサウと名けたり 26 其後に弟出たるが其手にエ
サウの踵を持ち其名をヤコブとなづけたりリベカが
彼等を生し時イサクは六十歳なりき 27 茲に童子人と
なりしがエサウは巧なる獵人にして野の人となりヤ
コブは質樸なる人にして天幕に居ものとなれり 28 イ
サクは麩を嗜によりてエサウを愛したりしがリベカ
はヤコブを愛したり 29 茲にヤコブ羹を煮たり時にエ
サウ野より來りて憊れ居り 30 エサウ、ヤコブにむか
ひ我憊れたれば請ふ其紅羹其處にある紅羹を我にの
ませよといふ是をもて彼の名はエドム(紅)と稱らる
31 ヤコブ言けるは今日汝の家督の權を我に鬻れ 32 エ
サウいふ我は死んとして居る此家督の權我に何の益
をなさんや 33 ヤコブまた言けるは今日我に誓へと彼
すなはち誓て其家督の權をヤコブに鬻ぬ 34 是に於て
ヤコブ、パンと扁豆の羹とをエサウに與へければ食
且飲て起て去り斯エサウ家督の權を藐視じたり

26 アブラハムの時にありし最初の饑饉の外に又其
國に饑饉ありければイサク、ゲラルに往てペリシテ
人の王アピメレクの許にいたれり 2 時にエホバ彼に
あらはれて言たまひけるはエジプトに下るなかれ吾
汝に示すところの地にをれ 3 汝此地にとどまれ我汝
と共にありて汝を祝まん我是等の國を盡く汝および

汝の子孫に與へ汝の父アブラハムに誓ひたる誓言を行ふべし 4 われ汝の子孫を増て天の星のごとくなし汝の子孫に凡て是等の國を與へん汝の子孫によりて天下の國民皆福祉を獲べし 5 是はアブラハムわが言に順ひわが職守とわが誠命とわが憲法とわが律法を守りしに因てなり 6 イサク乃ちゲラルに居しが 7 處の人其妻の事をとへば我妹なりと言ふリベカは觀に美麗かりければ其處の人リベカの故をもて我を殺さんと謂て彼をわが妻と言をおそれたるなり 8 イサク久しく彼處にをりし後一日ペリシテ人の王アビメレク、牖より望みてイサクが其妻リベカと嬉戯るを見たり 9 是に於てアビメレク、イサクを召て言けるは彼は必ず汝の妻なり汝なんぞ吾妹といひしやイサク彼に言けるは恐くは我彼のために死るならんと思たればなり 10 アビメレクいひけるは汝なんぞ此事を我等になすや民の一人もし輕々しく汝の妻と寝ることあらんその時は汝罪を我等に蒙らしめんと 11 アビメレク乃ちすべて民に皆命じて此人と其妻にさはるものは必ず死すべしと語り 12 イサク彼地に種播て其年に百倍を獲たりエホバ彼を祝みたまふ 13 其人大になりゆきて進て盛になり遂に甚だ大なる者となれり 14 即ち羊と牛と僕従を多く有しかばペリシテ人彼を嫉みたり 15 其父アブラハムの世に其父の僕従が掘たる諸の井はペリシテ人之をふさぎて土を之にみてたり 16 茲にアビメレク、イサクに言けるは汝は大に我等よりも強大ければ我等をはなれて去れと 17 イサク乃ち彼處をさりてゲラルの谷に天幕を張て其處に住り 18 其父アブラハムの世に掘たる水井をイサク茲に復び鑿り其はアブラハムの死たる後ペリシテ人之を塞ぎ

たればなり斯してイサク其父が之に名けたる名をもて其名となせり 19 イサクの僕谷に掘て其處に泉の湧出る井を得たり 20 ゲラルの牧者此水は我儕の所屬なりといひてイサクの僕と争ひければイサク其井の名をエセク(競争)と名けたり彼等が己と之を競争たるによりてなり 21 是に於て又他の井を鑿しが彼等是をも争ひければ其名をシテナ(敵)となづけたり 22 イサク乃ち彼處より遷りて他の井を鑿けるが彼等之をあらそはざりければ其名をレホボテ(廣場)と名けて言けるは今エホバ我等の處所を廣くしたまへり我等此地を繁衍ん 23 斯て彼其處よりベエルシバにのぼりしが 24 其夜エホバ彼にあらはれて言たまひけるは我は汝の父アブラハムの神なり懼るるなかれ我汝と偕にありて汝を祝み我僕アブラハムのために汝の子孫を増んと 25 是に於て彼處に壇を築きてエホバの名を顧び天幕を彼處に張り彼處にてイサクの僕井を鑿り 26 茲にアビメレク其友アホザテ及び其軍勢の長ピコルと共にゲラルよりイサクの許に來りければ 27 イサク彼等に言ふ汝等は我を惡み我をして汝等をはなれて去らしめたるなるに何ぞ我許に來るや 28 彼等いひけるは我等確然にエホバが汝と偕にあるを見れば我等の間即ち我等と汝の間に誓詞を立て汝と契約を結ばんと謂へり 29 汝我等に惡事をなすなかれ其は我等は汝を害せず只善事のみを汝になし且汝を安然に去しめたればなり汝はエホバの祝みたまふ者なり 30 イサク乃ち彼等のために酒宴を設けたれば彼等食ひ且飲り 31 斯て朝夙に起て互に相誓へり而してイサク彼等を去しめたれば彼等イサクをはなれて安然にかへりぬ 32 其日イサクの僕來りて其ほりたる井につきて

之に告て我等水を得たりといへり 33 即ち之をシバとなづく此故に其邑の名は今日までベエルシバ(誓詞の井)といふ 34 エサウ四十歳の時へテ人の女ユデテとへテ人エロンの女バスマテを妻に娶り 35 彼等はイサクとリベカの心の愁煩となれり

27 イサク老て目くもりて見るあたはざるに及びて其長子エサウを召て之に吾子よといひければ答へて我此にありといふ 2 イサクいひけるは視よ我は今老て何時死るやを知らず 3 然ば請ふ汝の器汝の弓矢を執て野に出でわがために麋を獵て 4 わが好む美味を作り我にもちきたりて食はしめよ我死るまへに心に汝を祝せん 5 イサクが其子エサウに語る時にリベカ聞るたりエサウは麋を獵て携きたらんとて野に往り 6 是に於てリベカ其子ヤコブに語りていひけるは我聞るたるに汝の父汝の兄エサウに語りて言けらく 7 吾ために麋をとりきたり美味を製りて我にくはせよ死るまへに我エホバの前にて汝を祝せんと 8 然ば吾子よ吾言にしたがひわが汝に命ずるごとくせよ 9 汝群畜の所にゆきて彼處より山羊の二箇の善き羔を我にとりきたれ我之をもて汝の父のために其好む美味を製らん 10 汝之を父にもちゆきて食しめ其死る前に汝を祝せしめよ 11 ヤコブ其母リベカに言けるは兄エサウは毛深き人にして我は滑澤なる人なり 12 恐くは父我に捫ることあらん然らば我は欺く者と父に見えんされば祝をえずして返て呪詛をまねかん 13 其母彼にいひけるは我子よ汝の詛はるる所は我に歸せん只わが言にしたがひ往て取來れと 14 是において彼往て取り母の所にもちきたりければ母すなはち父の好むところの美味を製れり 15 而してリベカ家の中に己の所

にある長子エサウの美服をとりて之を季子ヤコブに衣せ 16 又山羊の羔の皮をもて其手と其頸の滑澤なる處とを掩ひ 17 其製りたる美味とパンを子ヤコブの手にわたせり 18 彼乃ち父の許にいたりて我父よといひければ我此にありわが子よ汝は誰なると曰ふ 19 ヤコブ父にいひけるは我は汝の長子エサウなり我汝が我に命じたるごとくなせり請ふ起て坐しわが麩の肉をくらひて汝の心に我を祝せよ 20 イサク其子に言けるは吾子よ汝いかにして斯速に獲たるや彼言ふ汝の神エホバ之を我にあはせたまひしが故なり 21 イサク、ヤコブにいひけるはわが子よ請ふ近くよれ我汝に捫て汝がまことに吾子エサウなるや否やをしらん 22 ヤコブ父イサクに近よりければイサク之にきはりていひけるは聲はヤコブの聲なれども手はエサウの手なりと 23 彼の手其兄エサウの手のごとく毛深かりしに因て之を辨別へずして遂に之を祝したり 24 即ちイサクいひけるは汝はまことに吾子エサウなるや彼然るといひければ 25 イサクいひけるは我に持きたれ吾子の麩を食ひてわが心に汝を祝せんと是に於てヤコブ彼の許にもちきたりければ食へり又酒をもちきたりければ飲り 26 かくて父イサク彼にいひけるは吾子よ近くよりて我に接吻せよと 27 彼すなはち近よりて之に接吻しければ其衣の馨香をかぎて彼を祝していひけるは嗚呼吾子の香はエホバの祝たまへる野の馨香のごとし 28 ねがはくは神天の露と地の腴および饒多の穀と酒を汝にたまへ 29 諸の民汝につかへ諸の邦汝に躬を鞠ん汝兄弟等の主となり汝の母の子等汝に身をかがめん汝を詛ふ者はのろはれ汝を祝す者は祝せらるべし 30 イサク、ヤコブを祝することを終てヤコ

ブ父イサクの前より出さりし時にあたりて兄エサウ
獵より歸り來り 31 己も亦美味をつくりて之を其父の
許にもちゆき父にいひけるは父よ起て其子の麩を食
ひて心に我を祝せよ 32 父イサク彼にいひけるは汝は
誰なるや彼いふ我は汝の子汝の長子エサウなり 33 イ
サク甚大に戦競ていひけるは然ば彼麩を獵て之を我
にもちきたりし者は誰ぞや我汝がきたるまへに諸の
物を食ひて彼を祝したれば彼まことに祝福をうべし
34 エサウ父の言を聞て大に哭き痛く泣て父にいひけ
るは父よ我を祝せよ我をも祝せよ 35 イサク言けるは
汝の弟偽りて來り汝の祝を奪ひたり 36 エサウいひけ
るは彼をヤコブ(推除者)となづくるは宜ならずや彼
が我をおしのくる事此にて二次なり昔にはわが家督
の權を奪ひ今はわが祝を奪ひたり又言ふ汝は祝をわ
がために殘しおかざりしや 37 イサク對てエサウにい
ひけるは我彼を汝の主となし其兄弟を悉く僕として
彼にあたへたり又穀と酒とを彼に授けたり然ば吾子
よ我何を汝になすをえん 38 エサウ父に言けるは父よ
父の祝唯一ならんや父よ我を祝せよ我をも祝せよと
聲をあげて哭ぬ 39 父イサク答て彼にいひけるは汝の
住所は地の膏腴にはなれ上よりの天の露にはなるべ
し 40 汝は劍をもて世をわたり汝の弟に事ん然ど汝繫
を離る時は其軛を汝の頸より振ひおとすを得ん 41
エサウ父のヤコブを祝したる其祝の爲にヤコブを惡
めり即ちエサウ心に謂けるは父の喪の日近ければ其
時我弟ヤコブを殺さんと 42 長子エサウの此言リベカ
に聞えければ季子ヤコブを呼よせて之に言けるは汝
の兄エサウ汝を殺さんとおもひて自ら慰む 43 されば
吾子よ我言にしたがひ起てハラんにゆきわが兄ラバ

ンの許にのがれ 44 汝の兄の怒の釋るまで暫く彼とともに居れ 45 汝の兄の鬱憤釋て汝をはなれ汝彼になしたる事を忘るるにいたらば我人をやりて汝を彼處よりむかへん我何ぞ一日のうちに汝等二人を喪ふべけんや 46 リベカ、イサクに言けるは我はヘテの女等のために世を厭ふにいたるヤコブ若此地の彼女等の如きヘテの女の中より妻を娶らば我身生るも何の利益あらんや

28 イサク、ヤコブを呼て之を祝し之に命じて言けるは汝カナンの中より妻を娶るなかれ 2 起てパダンアラムに往き汝の母の父ベトエルの家に行たり彼處にて汝の母の兄ラバンの女の中より妻を娶れ 3 願くは全能の神汝を祝み汝をして子女を多く得せしめ且汝の子孫を増て汝をして多衆の民とならしめ 4 又アブラハムに賜んと約束せし祝を汝および汝と共に汝の子孫に賜ひ汝をして神がアブラハムにあたへ給ひし此汝が寄寓る地を持たしめたまはんことをと 5 斯てイサク、ヤコブを遣しければパダンアラムにゆきてラバンの所にいたれりラバンはスリア人ベトエルの子にしてヤコブとエサウの母なるリベカの兄なり 6 エサウはイサクがヤコブを祝して之をパダンアラムにつかはし彼處より妻を娶しめんとしたるを見又之を祝し汝はカナンの中より妻をめとるなかれといひて之に命じたることを見 7 又ヤコブが其父母の言に順ひてパダンアラムに往しを見たり 8 エサウまたカナンの中より其父イサクの心になはぬを見たり 9 是においてエサウ、イシマエルの所にゆきて其有る妻の外に又アブラハムの子イシマエルの女ネバヨテの妹マハラテを妻にめとれり 10 茲にヤコブ、

ベエルシバより出たちてハランの方におもむきけるが **11** 一處にいたれる時日暮たれば即ち其處に宿り其處の石をとり枕となして其處に臥て寝たり **12** 時に彼夢て梯の地にたちゐて其巔の天に達れるを見又神の使者の其にのぼりくだりするを見たり **13** エホバ其上に立て言たまはく我は汝の祖父アブラハムの神イサクの神エホバなり汝が偃臥ところの地は我之を汝と汝の子孫に與へん **14** 汝の子孫は地の塵沙のごとくなりて西東北南に蔓るべし又天下の諸の族汝と汝の子孫によりて福祉をえん **15** また我汝とともにありて凡て汝が往ところにて汝をまもり汝を此地に率返るべし我はわが汝にかたりし事を行ふまで汝をはなれざるなり **16** ヤコブ目をさまして言けるは誠にエホバ此處にいますに我しらざりきと **17** 乃ち惶懼ていひけるは畏るべき哉此處是即ち神の殿の外ならず是天の門なり **18** かくてヤコブ朝夙に起き其枕となしたる石を取り之を立て柱となし膏を其上に沃ぎ **19** 其處を名をベテル(神殿)と名けたり其邑の名は初はルズといへり **20** ヤコブ乃ち誓をたてていひけるは若神我とともにいまし此わがゆく途にて我をまもり食ふパンと衣る衣を我にあたへ **21** 我をしてわが父の家に安然に歸ることを得せしめたまはばエホバをわが神となさん **22** 又わが柱にたてたる此石を神の家となさん又汝がわれにたまふ者は皆必ず其十分の一を汝にささげん

29 斯てヤコブ其途にすすみて東の民の地にいたりて **2** 見るに野に井ありて羊の群三其傍に臥るたり此井より群に飲へばなり大なる石井の口にあり **3** 羊の群皆其處に集る時に井の口より石をまろばして羊に水飼ひ復故のごとく井の口に石をのせおくなり **4** ヤ

コブ人々に言けるは兄弟よ奚よりきたれるや彼等い
ふ我等はハランより來る 5 ヤコブ彼等にいひけるは
汝等ナホルの子ラバンをしろや彼等識といふ 6 ヤコ
ブ又かれらにいひけるは彼は安きや彼等いふ安し視
よ彼の女ラケル羊と偕に來ると 7 ヤコブ言ふ視よ日
尚高し家畜を聚むべき時にあらず羊に飲ひて往て牧
せよ 8 彼等いふ我等しかする能はず群の皆聚るに及
て井の口より石をまろばして羊に飲ふべきなり 9 ヤ
コブ尚彼等と語れる時にラケル父の羊とともに來る
其は之を牧居たればなり 10 ヤコブ其母の兄ラバンの
女ラケルおよび其母の兄ラバンの羊を見しかばヤコ
ブ進みよりて井の口より石をまろばし母の兄ラバン
の羊に飲ひたり 11 而してヤコブ、ラケルに接吻して
聲をあげて啼哭ぬ 12 即ちヤコブ、ラケルに己はその
父の兄弟にしてリベカの子なることを告げれば彼は
しりゆきて父に告たり 13 ラバン其妹の子ヤコブの事
を聞しかば趨ゆきて之を迎へ之を抱きて接吻し之を
家に導きいたれりヤコブすなはち此等の事を悉くラ
バンに述たり 14 ラバン彼にいひけるは汝は誠にわが
骨肉なりとヤコブ一月の間彼とともに居る 15 茲にラ
バン、ヤコブにいひけるは汝はわが兄弟なればとて
空く我に役事べけんや何の報酬を望むや我に告よ 16
ラバン二人の女子を有り姉の名はレアといひ妹の名
はラケルといふ 17 レアは目弱かりしがラケルは美く
して妹し 18 ヤコブ、ラケルを愛したれば言ふ我汝の
季女ラケルのために七年汝に事ん 19 ラバンいひける
は彼を他の人にあたふるよりも汝にあたふるは善し
我と偕に居れ 20 ヤコブ七年の間ラケルのために勤た
りしが彼を愛するが爲に此を數日の如く見做り 21 茲

にヤコブ、ラバンに言けるはわが期満たればわが妻
をあたへて我をしてかれの處にいることを得せしめ
よ 22 是に於てラバン處の人を盡く集めて酒宴を設け
たりしが 23 晩に及びて其女レアを携へて此をヤコブ
につれ來れりヤコブ即ち彼の處にいりぬ 24 ラバンま
た其侍婢ジルパを娘レアに與へて侍婢となさしめたり
25 朝にいたりて見るにレアなりしかばヤコブ、ラ
バンに言けるは汝なんぞ此事を我になしたるや我ラ
ケルのために汝に役事しにあらずや汝なんぞ我を欺
くや 26 ラバンいひけるは姉より先に妹を嫁しむる事
は我國にて爲ざるところなり 27 其七日を過せ我等是
をも汝に與へん然ば汝是がために尚七年我に事へて
勤むべし 28 ヤコブ即ち斯なして其七日をすごせしか
ばラバン其女ラケルをも之にあたへて妻となさしむ
29 またラバン其侍婢ビルハを女ラケルにあたへて侍
婢となさしむ 30 ヤコブまたラケルの所にいりぬ彼レ
アよりもラケルを愛し尚七年ラバンに事たり 31 エホ
バ、レアの嫌るるを見て其胎をひらきたまへり然ど
ラケルは妊なきものなりき 32 レア孕みて子を生子其
名をルベんと名けていひけるはエホバ誠にわが艱苦
を顧みたまへりされば今夫我を愛せんと 33 彼ふたた
び孕みて子を産みエホバわが嫌るるを聞たまひしに
よりにて我に是をもたまへりと言て其名をシメオンと
名けたり 34 彼また孕みて子を生子我三人の子を生た
れば夫今より我に膠漆んといへり是によりて其名を
レビと名けたり 35 彼復妊みて子を生子我今エホバを
讚美んといへり是によりて其名をユダと名けたり是
にいたりて産ことやみぬ

30 ラケル己がヤコブに子を生ざるを見て其姉を夢
みヤコブに言けるは我に子を與へよ然らずば我死ん
と **2** ヤコブ、ラケルにむかひて怒を發して言ふ汝の
胎に子をやどらしめざる者は神なり我神に代るをえ
んや **3** ラケルいふ吾婢ビルハを視よ彼の處に入れ彼
子を生てわが膝に置ん然ば我もまた彼によりて子を
うるにいたらんと **4** 其仕女ビルハを彼にあたへて妻
となさしめたりヤコブ即ち彼の處にいる **5** ビルハ遂
にはらみてヤコブに子を生ければ **6** ラケルいひける
は神我を監み亦わが聲を聽いれて吾に子をたまへり
と是によりて其名をダンと名けたり **7** ラケルの仕女
ビルハ再び姙みて次の子をヤコブに生ければ **8** ラケ
ル我神の争をもて姉と争ひて勝ぬといひて其名をナ
フタリと名けたり **9** 茲にレア産ことの止たるを見し
かば其仕女ジルパをとりて之をヤコブにあたへて妻
となさしむ **10** レアの仕女ジルパ、ヤコブに子を産け
れば **11** レア福來れりといひて其名をガドと名けたり
12 レアの仕女ジルパ次子をヤコブに生ければ **13** レア
いふ我は幸なり女等我を幸なる者となさんと其名を
アセルとなづけたり **14** 茲に麥苳の日にルベン出ゆき
て野にて戀茄を獲これを母レアの許にもちきたりけ
ればラケル、レアにいひけるは請ふ我に汝の子の戀
茄をあたへよ **15** レア彼にいひけるは汝のわが夫を奪
しは微き事ならんや然るに汝またわが子の戀茄をも
奪んとするやラケルいふ然ば汝の子の戀茄のために
夫是夜汝と寝べし **16** 晩におよびてヤコブ野より來り
ければレア之をいでむかへて言けるは我誠にわが子
の戀茄をもて汝を雇ひたれば汝我の所にいらざるべ
からずヤコブ即ち其夜彼といねたり **17** 神レアに聽た

まひければ彼妊みて第五の子をヤコブに生り 18 レア
いひけるは我わが仕女を夫に與へたれば神我に其値
をたまへりと其名をイツサカルと名けたり 19 レア復
妊みて第六の子をヤコブに生り 20 レアいひけるは神
我に嘉賚を賜ふ我六人の男子を生たれば夫今より我
と偕にすまんと其名をゼブルンとなづけたり 21 其後
彼女子を生み其名をデナと名けたり 22 茲に神ラケル
を念ひ神彼に聽て其胎を開きたまひければ 23 彼妊み
て男子を生て曰ふ神わが恥辱を洒ぎたまへりと 24 乃
ち其名をヨセフと名けて言ふエホバ又他の子を我に
加へたまはん 25 茲にラケルのヨセフを生むに及びて
ヤコブ、ラバンに言けるは我を歸して故郷に我國に
往しめよ 26 わが汝に事て得たる所の妻子を我に與へ
て我を去しめよわが汝になしたる役事は汝之を知る
なり 27 ラバン彼にいひけるは若なんぢの意にかなは
ばねがはくは留れ我エホバが汝のために我を祝みし
をトひ得たり 28 又言ふ汝の望む値をのべよ我之を與
ふべし 29 ヤコブ彼にいひけるは汝は如何にわが汝に
事しか如何に汝の家畜を牧しかを知る 30 わが來れる
前に汝の有たる者は鮮少なりしが増て遂に群をなす
に至る吾來りてよりエホバ汝を祝みたまへり然ども
我は何時吾家を成にいたらんや 31 彼言ふ我何を汝に
與へんかヤコブいひけるは汝何者をも我に與ふるに
及ばず汝若此事を我になさば我復汝の群を牧守らん
32 即ち我今日徧く汝の群をゆきめぐりて其中より凡
て斑なる者點なる者を移し綿羊の中の凡て黒き者を
移し山羊の中の點なる者と斑なる者を移さん是わが
値なるべし 33 後に汝來りてわが備値をしらぶる時わ
が義我にかはりて應をなすべし若わが所に山羊の斑

ならざる者點ならざる者あり綿羊の黒からざる者あらば皆盜る者となすべし 34 ラバンいふ汝の言の如くなさんことを願ふ 35 是に於て彼其日牡山羊の斑入なる者斑點なる者移し凡て牝山羊の斑駁なる者斑點なる者都て身に白色ある者移し又綿羊の中の凡て黒き者移して其子等の手に付せり 36 而して彼己とヤコブの間に三日程の隔をたてたりヤコブはラバンの餘の群を牧ふ 37 茲にヤコブ楊柳と楓と桑の青枝を執り皮を剥て白紋理を成り枝の白き所をあらはし 38 其皮をはぎたる枝を群の來りて飲むところの水槽と水鉢に立て群に向はしめ群をして水のみ來る時に孕ましむ 39 群すなはち枝の前に孕みて斑入の者斑駁なる者斑點なる者を産しかば 40 ヤコブ其羔羊を區分ちラバンの群の面を其群の斑入なる者と黒き者に對はしめたりしが己の群をば一所に置てラバンの群の中にいれざりき 41 又家畜の壯健き者孕みたる時はヤコブ水槽の中にて其家畜の目の前に彼枝を置き枝の傍において孕ましむ 42 然ど家畜の羸弱かる時は之を置ず是に因て羸弱者はラバンのとなり壯健者はヤコブのとなれり 43 是に於て其人大に富饒になりて多の家畜と婢僕および駱駝驢馬を有にいたれり

31 茲にヤコブ、ラバンの子等がヤコブわが父の所有を盡く奪ひ吾父の所有によりて此凡の榮光を獲たりといふを聞り 2 亦ヤコブ、ラバンの面を見るに己に對すること疇昔の如くならず 3 時にエホバ、ヤコブに言たまへるは汝の父の國にかへり汝の親族に至れ我汝と偕にをらんと 4 是に於てヤコブ人をやりてラケルとレアを野に招きて群の所に至らしめ 5 之にいひけるは我汝等の父の面を見るに其我に對するこ

と疇昔の如くならず然どわが父の神は我と偕にいますなり 6 汝等がしるごとく我力を竭して汝らの父に事へたるに 7 汝等の父我を欺きて十次もわが値を易たり然ども神彼の我を害するを容したまはず 8 彼斑駁なる者は汝の備値なるべしといへば群の生ところ皆斑駁なり斑入の者は汝の値なるべしといへば群の生ところ皆斑入なり 9 斯神汝らの父の家畜を奪て我に與へたまへり 10 群の孕む時に當りて我夢に目をあげて見しに群の上に乗る牡羊は皆斑入の者斑駁なる者白點なる者なりき 11 時に神の使者夢の中に我に言ふヤコブよと我此にありと對へければ 12 乃ち言ふ汝の目をあげて見よ群の上に乗る牡羊は皆斑入の者斑駁なる者白點なる者なり我ラバンが凡て汝に爲すところを鑒みる 13 我はペテルの神なり汝彼處にて柱に膏を沃ぎ彼處にて我に誓を立たり今起て斯地を出て汝の親族の國に歸れと 14 ラケルとレア對て彼にいひけるは我等の父の家に尚われらの分あらんや我等の産業あらんや 15 我等は父に他人のごとくせらるるにあらずや其は父我等を賣り亦我等の金を蝕減したればなり 16 神がわが父より取たまひし財寶は我等とわれらの子女の所屬なり然ば都て神の汝に言たまひし事を爲せ 17 是に於てヤコブ起て子等と妻等を駱駝に乗せ 18 其獲たる凡の家畜と凡の所有即ちパダンアラムにてみづから獲たるところの家畜を携へ去てカナンの地に居所の其父イサクの所におもむけり 19 時にラバンは羊の毛を剪んとて往てありラケル其父のテラピムを竊めり 20 ヤコブは其去ことをスリア人ラバンに告ずして潛に忍びいでたり 21 即ち彼その凡の所有を挈へて逃去り起て河を渡りギレアデの山にむか

ふ 22 ヤコブの逃去しこと三日におよびてラバンに聞えければ 23 彼兄弟を率てその後を追ひしが七日路をへてギレアデの山にて之に追及ぬ 24 神夜の夢にスリア人ラバンに臨みて汝慎みて善も悪もヤコブに道なかれと之に告たまへり 25 ラバン遂にヤコブに追及しがヤコブは山に天幕を張るたればラバンもその兄弟と共にギレアデの山に天幕をはれり 26 而してラバン、ヤコブに言けるは汝我に知しめずして忍びいで吾女等を劍をもて執たる者のごとくにひき往り何ぞかかる事をなすや 27 何故に汝潛に逃さり我をはなれて忍いで我につげざりしや我歡喜と歌謠と譏と琴をもて汝を送りしならんを 28 何ぞ我をしてわが孫と女に接吻するを得ざらしめしや汝愚妄なる事をなせり 29 汝等に害をくはふるの能わが手にあり然ど汝等の父の神昨夜我に告て汝つつしみて善も悪もヤコブに語べからずといへり 30 汝今父の家を甚く戀て歸んと願ふは善れども何ぞわが神を竊みたるや 31 ヤコブ答へてラバンにいひけるは恐くは汝強て女を我より奪ならんと思ひて懼れたればなり 32 汝の神を持つ者を見れば之を生しおくなかれ我等の兄弟等の前にて汝の何物我の許にあるかをみわけて之を汝に取れと其はヤコブ、ラケルが之を竊しを知らざればなり 33 是に於てラバン、ヤコブの天幕に入りレアの天幕に入りまた二人の婢の天幕にいりしが視いださざればレアの天幕を出てラケルの天幕にいる 34 ラケル已にテラピムを執て之を駱駝の鞍の下に入れて其上に坐しければラバン遍く天幕の中をさぐりたれども見いださざりき 35 時にラケル父にいひけるは婦女の經の習例の事わが身にあれば父の前に起あたはず願くは主之を怒

り給ふなかれと是をもて彼さがしたれども遂にテラ
ピムを見いださざりき 36 是に於てヤコブ怒てラバン
を謫即ちヤコブ應てラバンに言けるは我何の愆あり
何の罪ありてか汝火急く我をおふや 37 汝わが物を盡
く索たるが汝の家の何物を見いだしたるや此にわが
兄弟と汝の兄弟の前に其を置て我等二人の間をさば
かしめよ 38 我この二十年汝とともにありしが汝の牝
綿羊と牝山羊其胎を殞ねしことなし又汝の群の牡綿
羊は我食はざりき 39 又噛裂れたる者は我これを汝の
所に持きたらずして自ら之を補へり又晝竊るるも夜
竊るるも汝わが手より之を要めたり 40 我は是ありつ
晝は暑に夜は寒に犯されて目も寐るの違なく 41 此二
十年汝の家にありたり汝の二人の女の爲に十四年汝
の群のために六年汝に事たり然に汝は十次もわが値
を易たり 42 若わが父の神アブラハムの神イサクのの
畏む者我とともにいますにあらざれば汝今必ず我を
空手にて去しめしならん神わが苦難とわが手の勞苦
をかへりみて昨夜汝を責たまへるなり 43 ラバン應て
ヤコブに言けるは女等はわが女子等はわが子群はわ
が群汝が見る者は皆わが所屬なり我今日此わが女等
とその生たる子等に何をなすをえんや 44 然ば來れ我
と汝二人契約をむすび之を我と汝の間の證憑となす
べし 45 是に於てヤコブ石を執りこれを建て柱となせ
り 46 ヤコブ又その兄弟等に石をあつめよといひけれ
ば即ち石をとりて埴を成れり斯て彼等彼處にて埴の
上に食す 47 ラバン之をエガルサハドタ(證憑の埴)と
名けヤコブ之をギレアデ(證憑の埴)と名けたり 48 ラ
バン此埴今日われとなんぢの間の證憑たりといひし
によりて其名はギレアデとと稱らる 49 又ミツパ(觀

望樓)と稱らる其は彼我等が互にわかるるに及べる時
ねがはくはエホバ我と汝の間を監みたまへといひた
ればなり 50 彼又いふ汝もしわが女をなやまし或はわ
が女のほかに妻をめとらば人の我らと偕なる者なき
も神と汝のあひだにいまして證をなしたまふ 51 ラバ
ン又ヤコブにいふ我われとなんぢの間にたてたる此
埵を視よ柱をみよ 52 此埵證とならん柱證とならん我
この埵を越て汝を害せじ汝この埵この柱を越て我を
害せざれ 53 アブラハムの神ナホルの神彼等の父の神
われらの間を鞫きたまへとヤコブ乃ちその父イサク
の畏む者をさして誓へり 54 斯てヤコブ山にて犠牲を
ささげその兄弟を招きてパンを食しむ彼等パンを食
ひて山に宿れり 55 ラバン朝蚤に起き其孫と女に接吻
して之を祝せりしかしてラバンゆきて其所にかへり
ぬ

32 茲にヤコブその途に進みしが神の使者これにあ
ふ 2 ヤコブこれを見て是は神の陣營なりといひてそ
の處の名をマハナイム(二營)となづけたり 3 かくて
ヤコブ己より前に使者をつかはしてセイルの地エド
ムの野にをる其兄エサウの所にいたらしむ 4 即ち之
に命じて言ふ汝等かくわが主エサウにいふべし汝の
僕ヤコブ斯いふ我ラバンの所に寄寓て今までとどま
れり 5 我牛驢馬羊僕婢あり人をつかはしてわが主に
告ぐ汝の前に恩をえんことを願ふなりと 6 使者ヤコ
ブにかへりて言けるは我等汝の兄エサウの許に至れ
り彼四百人をしたがへて汝をむかへんとて來ると 7
是によりヤコブ大におそれ且くるしみ己とともにあ
る人衆および羊と牛と駱駝を二隊にわかちて 8 言け
るはエサウもし一の隊に來りて之をうたば遣れると

ころの一隊逃るべし 9 ヤコブまた言けるはわが父アブラハムの神わが父イサクの神エホバよ汝嘗て我につげて汝の國にかへり汝の親族に到れ我なんぢを善せんといひたまへり 10 我はなんぢが僕にほどこしたまひし恩恵と眞實を一も受るにたらざるなり我わが杖のみを持てこのヨルダンを濟りしが今は二隊とも成にいたれり 11 願くはわが兄の手よりエサウの手より我をすくひいだしたまへ我彼をおそる恐くは彼きたりて我をうち母と子とに及ばん 12 汝は嘗て我かならず汝を恵み汝の子孫を濱の沙の多して數ふべからざるが如くなさんといひたまへりと 13 彼その夜彼處に宿りその手にいりし物の中より兄エサウへの禮物をえらべり 14 即ち牝山羊二百牡山羊二十牝羊二百牡羊二十 15 乳駱駝と其子三十牝牛四十牡牛十牝の驢馬二十驢馬の子十 16 而して其群と群とをわかつて之を僕の手授し僕にいひけるは吾に先ちて進み群と群との間を隔ておくべし 17 又その前者に命じて言けるはわが兄エサウ汝にあひ汝に問て汝は誰の人にして何處にゆくや是汝のまへなる者は誰の所有なるやといはば 18 汝の僕ヤコブの所有にしてわが主エサウにたてまつる禮物なり視よ彼もわれらの後にをるといふべしと 19 彼かく第二の者第三の者および凡て群々にしたがひゆく者に命じていふ汝等エサウにあふ時はかくの如く之にいふべし 20 且汝等いへ視よなんぢの僕ヤコブわれらの後にをるとヤコブおもへらく我わが前におくる禮物をもて彼を和めて然るのち其面を觀ん然ば彼われを接遇ることあらんと 21 是によりて禮物かれに先ちて行く彼は其夜陣營の中に宿りしが 22 其夜おきいでて二人の妻と二人の仕女および十

一人の子を導きてヤボクの渡をわたれり 23 即ち彼等をみちびきて川を渉らしめ又その有る物を渡せり 24 而してヤコブ一人遣りしが人ありて夜の明るまで之と角力す 25 其人己のヤコブに勝ざるを見てヤコブの髀の樞骨に觸しかばヤコブの髀の樞骨其人と角力する時挫離たり 26 其人夜明んとすれば我をさらしめよといひければヤコブいふ汝われを祝せずばさらしめずと 27 是に於て其人かれにいふ汝の名は何なるや彼いふヤコブなり 28 其人いひけるは汝の名は重てヤコブととなふべからずイスラエルとなふべし其は汝神と人とに力をあらそひて勝たればなりと 29 ヤコブ問て請ふ汝の名を告よといひければ其人何故にわが名をとふやといひて乃ち其處にて之を祝せり 30 是を以てヤコブその處の名をベニエル(神の面)となづけて曰ふ我面と面をあはせて神とあひ見てわが生命なほ存るなりと 31 斯て彼日のいづる時にベニエルを過たりしが其髀のために歩行はかどらざりき 32 是故にイスラエルの子孫は今日にいたるまで髀の樞の巨筋を食はず是彼人がヤコブの髀の巨筋に觸たるによりてなり

33 爰にヤコブ目をあげて視にエサウ四百人をひきゐて來しかば即ち子等を分ちてレアとラケルと二人の仕女とに付し 2 仕女とその子等を前におきレアとその子等を次におきラケルとヨセフを後におきて 3 自彼等の前に進み七度身を地にかがめて遂に兄に近づきけるに 4 エサウ趨てこれを迎へ抱きてその頸をかかへて之に接吻すしかして二人ともに啼泣り 5 エサウ目をあげて婦人と子等を見ていひけるは是等の汝とともなる者は誰なるやヤコブいひけるは神が僕

に授たまひし子なりと 6時に仕女等その子とともに
近よりて拜し 7レアも亦その子とともに近よりて拜
す其後にヨセフとラケルちかよりて拜す 8エサウ又
いひけるは我あへる此諸の群は何のためなるやヤコ
ブいふ主の目の前に恩を獲んがためなり 9エサウい
ひけるは弟よわが有ところの者は足り汝の所有は汝
自ら之を有てよ 10ヤコブいひけるは否我もし汝の目
の前に恩をえたらんには請ふわが手よりこの禮物を
受よ我汝の面をみるに神の面をみるがごとくなり汝
また我をよろこぶ 11神我をめぐみたまひて我が有と
ころの者足りされば請ふわが汝にたてまつる禮物を
受よと彼に強ければ終に受たり 12エサウいひけるは
我等いでたちてゆかん我汝にさきだつべし 13ヤコブ
彼にいひけるは主のしりたまふごとく子等は幼弱し
又子を持つ羊と牛と我にしたがふ若一日これを驅す
ごさば群みな死ん 14請ふわが主僕にさきだちて進み
たまへ我はわが前にゆくところの家畜と子女に足に
まかせて徐に導きすすみセイルにてわが主に詣らん
15エサウいひけるは然ば我わがひきゐる人数人を汝
の所にのこさんヤコブいひけるは何ぞ此を須んや我
をして主の目の前に恩を得せしめよ 16是に於てエサ
ウは此日その途にしたがひてセイルに還りぬ 17斯て
ヤコブ、スコテに進みて己のために家を建て又家畜
のために廬を作れり是によりて其處の名をスコテ(廬
)といふ 18ヤコブ、パダンアラムより來りて恙なく
カナンの地にあるシケムの邑に至り邑の前にその天
幕を張り 19遂にその天幕をはりしところの野をシケ
ムの父ハモルの子等の手により金百枚にて購とり 20

彼處に壇をきづきて之をエル、エロヘ、イスラエル
(イスラエルの神なる神)となづけたり

34レアのヤコブに生たる女デナその國の婦女を見
んとていでゆきしが **2**その國の君主なるヒビ人ハモ
ルの子シケムこれを見て之をひきいれこれと寝てこ
れを辱しむ **3**而してその心ふかくヤコブの女デナを
戀ひて彼此女を愛しこの女の心をいひなだむ **4**斯て
シケムその父ハモルに語り此少き女をわが妻に獲よ
といへり **5**ヤコブ彼がその女子デナを汚したるこ
とを聞しかどもその子等家畜を牧て野にをりしにより
て其かへるまでヤコブ黙しむたり **6**シケムの父ハモ
ル、ヤコブの許にいできたりて之と語らふ **7**茲にヤ
コブの子等野より來りしが之を聞しかば其人々憂へ
かつ甚く怒れり是はシケムがヤコブの女と寝てイス
ラエルに愚なる事をなしたるに因り是のごとき事は
なすべからざる者なればなり **8**ハモル彼等に語りて
いひけるはわが子シケム心になんぢの女を戀ふねが
はくは彼をシケムにあたへて妻となさしめよ **9**汝ら
我らと婚姻をなし汝らの女を我らにあたへ我らの女
汝らに娶れ **10**かくして汝等われらとともに居るべし
地は汝等の前にあり此に住て貿易をなし此にて産業
を獲よ **11**シケム又デナの父と兄弟等にいひけるは我
をして汝等の目のまへに恩を獲せしめよ汝らが我に
いふところの者は我あたへん **12**いかに大なる聘物と
禮物を要るも汝らがわれに言ふごとくあたへん唯こ
の女を我にあたへて妻となさしめよ **13**ヤコブの子等
シケムとその父ハモルに詭りて答へたり即ちシケム
がその妹デナを汚したるによりて **14**彼等これに語り
ていひけるは我等この事を爲あたはず割禮をうけざ

る者にわれらの妹をあたふるあたはず是われらの恥辱なればなり 15 然ど斯せば我等汝らに允さん若し汝らの中の男子みな割禮をうけてわれらの如くならば 16 我等の女子を汝等にあたへ汝らの女子をわれらに娶り汝らと偕にをりて一の民とならん 17 汝等もし我等に聽ずして割禮をうけずば我等女子をとりて去べしと 18 彼等の言ハモルとハモルの子シケムの心にかなへり 19 此若き人ヤコブの女を愛するによりて其事をなすを遅せざりき彼はその父の家の中にて最貴れたる者なり 20 ハモルとその子シケム乃ちその邑の門にいたり邑の人々に語りていひけるは 21 是人々は我等と睦し彼等をして此地に住て此に貿易をなさしめよ地は廣くして彼らを容るにたるなり我ら彼らの女を妻にめとり我らの女をかれらに與へん 22 若唯われらの中の男子みな彼らが割禮をうくるごとく割禮を受なば此人々われらに聽て我等と偕にをり一の民となるべし 23 然ばかれらの家畜と財産と其諸の畜は我等が所有となるにあらずや只かれらに聽んしからば彼らわれらとともにをるべしと 24 邑の門に出入する者みなハモルとその子シケムに聽したがひ邑の門に出入する男子皆割禮を受たり 25 斯て三日におよび彼等その痛をおぼゆる時ヤコブの子二人即ちデナの兄弟なるシメオンとレビ各劍をとり往て思よらざる時に邑を襲ひ男子を悉く殺し 26 利刃をもてハモルとその子シケムをころしシケムの家よりデナを携へいでたり 27 而してヤコブの子等ゆきて其殺されし者を剥ぎ其邑をかすめたり是彼等がその妹を汚したるによりてなり 28 またその羊と牛と驢馬およびその邑にある者と野にある者 29 並にその諸の貨財を奪ひその子

女と妻等を悉く擄にし家の中なる物を悉く掠めたり
30 ヤコブ、シメオンとレビに言けるは汝等我を累は
し我をして此國の人即ちカナン人とベリジ人の中に
避嫌れしむ我は數すくなければ彼ら集りて我をせめ
我をころさん然ば我とわが家滅さるべし 31 彼らいふ
彼豈われらの妹を娼妓のごとくしてよからんや

35 茲に神ヤコブに言たまひけるは起てベテルにの
ぼりて彼處に居り汝が昔に兄エサウの面をさけて逃
る時に汝にあらはれし神に彼處にて壇をきづけと 2
ヤコブ乃ちその家人および凡て己とともにある者に
いふ汝等の中にある異神を棄て身を清めて衣服を易よ
3 我等起てベテルにのぼらん彼處にて我わが苦患の日
に我に應へわが往ところの途にて我とともに在せし
神に壇をきづくべし 4 是に於て彼等その手にある異
神およびその耳にある耳環を盡くヤコブに與へしか
ばヤコブこれをシケムの邊なる橡樹の下に埋たり 5
斯て彼等いでたちしが神其四周の邑々をして懼れし
めたまひければヤコブの子の後を追ふ者なかりき 6
ヤコブ及び之と共なる諸の人遂にカナンの地にある
ルズに至る是即ちベテルなり 7 彼かしこに壇をきづ
き其處をエルベテルと名けたり是は兄の面をさけて
逃る時に神此にて己にあらはれ給しによりてなり 8
時にリベカの乳媪デボラ死たれば之をベテルの下に
て橡樹の下に葬れり是によりてその樹の名をアロン
バクテ(哀哭の橡)といふ 9 ヤコブ、パダンアラムよ
り歸りし時神復これにあらはれて之を祝したまふ 10
神かれに言たまはく汝の名はヤコブといふ汝の名は
重てヤコブとよぶべからずイスラエルを汝の名とな
すべしとその名をイスラエルと稱たまふ 11 神また彼

にいひたまふ我は全能の神なり生よ殖よ國民および
多の國民汝よりいで又王等なんぢの腰よりいでん **12**
わがアブラハムおよびイサクに與し地は我これを汝
にあたへん我なんぢの後の子孫にその地をあたふべ
しと **13**神かれと言たまひし處より彼をはなれて昇り
たまふ **14**是に於てヤコブ神の己と言ひたまひし處
に柱すなはち石の柱を立て其上に酒を灌ぎまた其上
に膏を沃げり **15**而してヤコブ神の己にもものいひたま
ひし處の名をベテルとなづけたり **16**かくてヤコブ等
ベテルよりいでたちしがエフラタに至るまでは尚路
の隔ある處にてラケル産にのぞみその産おもかりき
17彼難産にのぞめる時産婆之にいひけるは懼るなか
れ汝また此男の子を得たり **18**彼死にのぞみてその魂
さらんとする時その子の名をベノニ(吾苦痛の子)と
呼たり然ど其父これをベニヤミン(右手の子)となづ
けたり **19**ラケル死てエフラタの途に葬らる是即ちベ
テレヘムなり **20**ヤコブその墓に柱を立たり是はラケ
ルの墓の柱といひて今日まで在り **21**イスラエル復い
でたちてエダルの塔の外にその天幕を張り **22**イスラ
エルかの地に住る時にルベン往て父の妾ビルハと寝
たりイスラエルこれを聞く夫ヤコブの子は十二人な
り **23**即ちレアの子はヤコブの長子ルベンおよびシメ
オン、レビ、ユダ、イッサカル、ゼブルンなり **24**ラ
ケルの子はヨセフとベニヤミンなり **25**ラケルの仕女
ビルハの子はダンとナフタリなり **26**レアの仕女ジル
パの子はガドとアセルなり是等はヤコブの子にして
パダンアラムにて彼に生れたる者なり **27**ヤコブ、キ
リアテアルバのママレにゆきてその父イサクに至れ
り是すなはちヘブロンなり彼處はアブラハムとイサ

クの寄寓しところなり 28 イサクの齡は百八十歳なり
き 29 イサク老て年滿ち氣息たえ死にて其民にくはは
れりその子エサウとヤコブ之をほうむる

36 エサウの傳はかくのごとしエサウはすなはちエ
ドムなり 2 エサウ、カナンの中より妻をめとれ
り即ちヘテ人エロンの女アダおよびヒビ人ヂベオン
の女なるアナの女アホリバマ是なり 3 又イシマエル
の女ネバヨテの妹バスマテをめとれり 4 アダはエリ
パズをエサウに生みバスマテはリウエルを生み 5 ア
ホリバマはエウシ、ヤラムおよびコラを生り是等は
エサウの子にしてカナンに於て彼に生れたる者
なり 6 エサウその妻と子女およびその家の諸の人並
に家畜と諸の畜類およびそのカナンに於て獲たる
諸の物を撃へて弟ヤコブをはなれて他の地にゆけり
7 其は二人の富有多くして俱にをるあたはざればなり
彼らが寄寓しところの地はかれらの家畜のためにか
れらを容るをえざりき 8 是に於てエサウ、セイル山
に住りエサウはすなはちエドムなり 9 セイル山にを
りしエドミ人の先祖エサウの傳はかくのごとし 10 エ
サウの子の名は左のごとしエサウの妻アダの子はエ
リパズ、エサウの妻バスマテの子はリウエル 11 エリ
パズの子はテムナ、オマル、ゼポ、ガタムおよびケ
ナズなり 12 テムナはエサウの子エリパズの妾にして
アマレクをエリパズに生り是等はエサウの妻アダの
子なり 13 リウエルの子は左の如しナハテ、ゼラ、シ
ヤンマおよびミザ是等はエサウの妻バスマテの子な
り 14 ギベオンの女なるアナの女にしてエサウの妻な
るアホリバマの子は左のごとし彼エウシ、ヤラムお
よびコラをエサウに生り 15 エサウの子孫の侯たる者

は左のごとしエサウの冢子エリパスの子にはテマン
侯オマル侯ゼボ侯ケナズ侯 **16** コラ侯ガタム侯アマレ
ク侯是等はエリパズよりいでたる侯にしてエドムの
地にありき是等はアダの子なり **17** エサウの子リウエ
ルの子は左のごとしナハテ侯ゼラ侯シヤンマ侯ミザ
侯是等はリウエルよりいでたる侯にしてエドムの地
にありき是等はエサウの妻バスマテの子なり **18** エサ
ウの妻アホリバマの子は左のごとしエウシ侯ヤラム
侯コラ侯是等はアナの女にしてエサウの妻なるアホ
リバマよりいでたる侯なり **19** 是等はエサウすなはち
エドムの子孫にしてその侯たる者なり **20** 素より此地
に住しホリ人セイルの子は左のごとしロタン、シヨ
バル、ヂベオン、アナ **21** デシヨン、エゼル、デシ
ヤン是等はセイルの子ホリ人の中の侯にしてエドム
の地にあり **22** ロタンの子はホリ、ヘマムなりロタン
の妹はテムナ **23** シヨバルの子は左のごとしアルワン
、マナハテ、エバル、シボ、オナム **24** ゼベオンの子
は左のごとし即ちアヤとアナ此アナその父ヂベオン
の驢馬を牧をりし時曠野にて温泉を發見り **25** アナの
子は左のごとしデシヨンおよびアホリバマ、アホリ
バマはアナの女なり **26** デシヨンの子は左のごとしヘ
ムダン、エシバン、イテラン、ケラン **27** エゼルの子
は左のごとしビルハン、ザワン、ヤカン **28** デシヤン
の子は左のごとしウヅ、アラン **29** ホリ人の侯たる者
は左のごとしロタン侯シヨバル侯ヂベオン侯アナ侯
30 デシヨン侯エゼル侯デシヤン侯是等はホリ人の侯
にしてその所領にしたがひてセイルの地にあり **31** イ
スラエルの子孫を治むる王いまだあらざる前にエド
ムの地を治めたる王は左のごとし **32** ベオルの子ベラ

、エドムに王たりその都の名はデナバといふ **33** ベラ
薨てボヅラのゼラの子ヨバブ之にかはりて王となる
34 ヨバブ薨てteman人の地のホシヤムこれにかはり
て王となる **35** ホシヤム薨てペダデの子ハダデの子ハ
ダこれに代て王となる彼モアブの野にてミデアン人
を撃しことあり其邑の名はアピテといふ **36** ハダデ薨
てマスレカのサムラこれにかはりて王となる **37** サラ
ム薨て河の旁なるレホボテのサウル之にかはりて王
となる **38** サウル薨てアクボルの子バアルハナンこれ
に代りて王となる **39** アクボルの子バアルハナン薨て
ハダル之にかはりて王となる其都の名はパウといふ
その妻の名はメヘタベルといひてマテレデの女なり
マテレデはメザハブの女なり **40** エサウよりいでたる
侯の名はその宗族と居處と名に循ひていへば左のご
としテムナ侯アルワ侯エテテ侯 **41** アホリバマ侯エラ
侯ピノン侯 **42** ケナズ侯teman侯ミブザル侯 **43** マグ
デエル侯イラム侯是等はエドムの侯にして其領地の
居處によりて言る者なりエドミ人の先祖はエサウ是
なり

37 ヤコブはカナンの地に住り即ちその父が寄寓し
地なり **2** ヤコブの傳は左のごとしヨセフ十七歳にし
てその兄弟と偕に羊を牧ふヨセフは童子にしてその
父の妻ビルハの子およびジルパの子と侶たりしが彼
等の悪き事を父につぐ **3** ヨセフは老年子なるが故に
イスラエルその諸の兄弟よりも深くこれを愛しこれ
がために綵る衣を製れり **4** その兄弟等父がその諸の
兄弟よりも深く彼を愛するを見て彼を惡み穩和に彼
にもものいふことを得せざりき **5** 茲にヨセフ夢をみて
その兄弟に告げれば彼等愈これを惡めり **6** ヨセフ彼

等にいひけるは請ふわが夢たる此夢を聽け 7 我等田
の中に禾束をむすび居たるにわが禾束おき且立ち而
して汝等の禾束環りたちてわが禾束を拜せり 8 その
兄弟等之にいひけるは汝眞にわれらの君となるや眞
に我等ををさむるにいたるやとその夢とその言のた
めに益これを悪めり 9 ヨセフ又一の夢をみて之をそ
の兄弟に述ていひけるは我また夢をみたるに日と月
と十一の星われを拜せりと 10 則ちこれをその父と兄
弟に述べれば父かれを戒めて彼にいふ汝が夢しこの
夢は何ぞや我と汝の母となんぢの兄弟と實にゆきて
地に鞠て汝を拜するにいたらんやと 11 斯しかばその
兄弟かれを嫉めり然どその父はこの言をおぼえたり
12 茲にその兄弟等シケムにゆきて父の羊を牧るたり
しかば 13 イスラエル、ヨセフにいひけるは汝の兄弟
はシケムにて羊を牧をるにあらずや來れ汝を彼等
につかはさんヨセフ父にいふ我ここにあり 14 父かれに
いひけるは請ふ往て汝の兄弟と群の恙なきや否を見
てかへりて我につげよと彼をヘブロン谷より遣は
しければ遂にシケムに至る。 15 或人かれに遇ふに彼
野にさまよひをりしかば其人かれに問て汝何をたづ
ぬるやといひければ 16 彼いふ我はわが兄弟等をたづ
ぬ請ふかれらが羊をかひをる所をわれに告よ 17 その
人いひけるは彼等は此をされり我かれらがドタンに
ゆかんといふを聞たりと是に於てヨセフその兄弟の
後をおひゆきドタンにて之に遇ふ 18 ヨセフの彼等に
近かざる前に彼ら之を遙に見てこれを殺さんと謀り
19 互にいひけるは視よ作夢者きたる 20 去來彼をころ
して阱に投いれ或悪き獸これを食たりと言ん而して
彼の夢の如何になるかを觀るべし 21 ルベン聞てヨセ

フを彼等の手より拯ひださんとして言けるは我等これを殺すべからず **22** ルベンまた彼らにいひけるは血をながすなかれ之を曠野の此阱に投いれて手をこれにつくるなかれと是は之を彼等の手よりすくひだして父に歸んとてなりき **23** 茲にヨセフ兄弟の許に到りければ彼等ヨセフの衣即ちその着たる綵る衣を褫ぎ **24** 彼を執て阱に投いれたり阱は空にしてその中に水あらざりき **25** 斯して彼等坐てパンを食ひ目をあげて見しに一群のイシマエル人駱駝に香物と乳香と没薬をおはせてエジプトにくだりゆかんとてギレアデより來る **26** ユダその兄弟にいひけるは我儕弟をころしてその血を匿すも何の益かあらん **27** 去來彼をイシマエル人に賣ん彼は我等の兄弟われらの肉なればわれらの手をかれにつくべからずと兄弟等これを善とす **28** 時にミデアンの商旅經過ければヨセフを阱よりひきあげ銀二十枚にてヨセフをイシマエル人に賣り彼等すなはちヨセフをエジプトにたづさへゆきぬ **29** 茲にルベンかへりて阱にいたり見しにヨセフ阱にをらざりしかばその衣を裂き **30** 兄弟の許にかへりて言ふ童子はをらず嗚呼我何處にゆくべきや **31** 斯て彼等ヨセフの衣をとり牡山羊の羔をころしてその衣を血に濡し **32** その綵る衣を父におくり遣していひけるは我等これを得たりなんぢの子の衣なるや否を知れと **33** 父これを知りていふわが子の衣なり惡き獸彼をくらへりヨセフはかならずさかれしならんと **34** ヤコブその衣を裂き麻布を腰にまとひ久くその子のためになげけり **35** その子女みな起てかれを慰むれどもその慰謝をうけずして我は哀きつつ陰府にくだりて我子のもとにゆかんといふ斯その父かれのために哭ぬ (Sheol

h7585) 36 諸ミデアン人はエジプトにてパロの侍衛の長
ポテパルにヨセフを賣り

38 當時ユダ兄弟をはなれて下りアドラム人名はヒ
ラといふ者の近邊に天幕をはりしが 2 ユダかしこに
てカナン人名はシュアといふ者の女子を見これを娶
りてその所にいる 3 彼はらみて男子を生みければユ
ダその名をエルとなづく 4 彼ふたたび孕みて男子を
生みその名をオナンとなづけ 5 またかさねて孕みて
男子を生みてその名をシラとなづく此子をうみける
時ユダはクジブにありき 6 ユダその長子エルのため
に妻をむかふその名をタマルといふ 7 ユダの長子エ
ル、エホバの前に悪をなしたればエホバこれを死し
めたまふ 8 茲にユダ、オナンにいひけるは汝の兄の
妻の所にいりて之をめとり汝の兄をして子をえせし
めよ 9 オナンその子の己のものとならざるを知られ
ば兄の妻の所にいりし時兄に子をえせしめざらんた
めに地に洩したり 10 斯なせし事エホバの目に悪かり
ければエホバ彼をも死しめたまふ 11 ユダその媳タマ
ルにいひけるは嫠婦となりて汝の父の家ををりわが
子シラの人となるを待てと恐らくはシラも亦その兄
弟のごとく死るならんとおもひたればなりタマルす
なはち往てその父の家ををる 12 日かきなりて後シュ
アの女ユダの妻死たりユダ慰をいれてその友アドラ
ム人ヒラとともにテムナにのぼりその羊毛を剪る者
の所にいたる 13 茲にタマルにつげて視よなんぢの舅
はその羊の毛を剪んとてテムナにのぼるといふ者あ
りしかば 14 彼その嫠の服を脱すて被衣をもて身をお
ほひつつみテムナの途の側にあるエナイムの入口に
坐す其はシラ人となりたれども己これが妻にせられ

ざるを見ればなり 15 彼その面を蔽ひゐたりしかば
ユダこれを見て娼妓ならんとおもひ 16 途の側にて彼
に就き請ふ來りて我をして汝の所にいらしめよとい
ふ其はその子の妻なるをしらざればなり彼いひける
は汝何を我にあたへてわが所にいらんとするや 17 ユ
ダいひけるは我群より山羊の羔をおくらん彼いふ汝
其をおくるまで質をあたへんか 18 ユダ何の質をなん
ぢに與ふべきやといふに彼汝の印と綬と汝の手の杖
をといひければ即ちこれを與へて彼の所にいりぬ彼
ユダに由て妊めり 19 彼起て去りその被衣をぬぎすて
嫠婦の服をまとふ 20 かくてユダ婦の手より質をとら
んとてその友アドラム人の手に托して山羊の羔をお
くりけるが彼婦を見ざれば 21 その處の人に問て途の
側なるエナイムの娼妓は何處にをるやといふに此に
は娼妓なしといひければ 22 ユダの許にかへりていふ
我彼を見いださず亦その處の人此には娼妓なしとい
へりと 23 ユダいひけるは彼にとらせおけ恐くはわれ
ら笑柄とならん我この山羊の羔をおくりたるに汝か
れを見ざるなりと 24 三月ばかりありて後ユダに告る
者ありていふ汝の媳タマル姦淫をなせり亦その姦淫
によりて妊めりユダいひけるは彼を曳いだして焚べ
し 25 彼ひきいだされし時その舅にいひつかはしける
は是をもてる人によりて我は妊りと彼すなはち請ふ
この印と綬と杖は誰の所屬なるかを辨別よといふ 26
ユダこれを見識ていひけるは彼は我よりも正しわれ
彼をわが子わがシラにあたへざりしによりてなりと
再びこれを知らざりき 27 かくて産の時にいたりて見
るにその胎に孳あり 28 その産時手出しかば産婆是首
にいつといひて絳き線をとりてその手にしばりしが

29手を引こむるにあたりて兄弟いでたれば汝なんぞ
圻いづるやその圻汝に歸せんといへり故にその名は
ペレヅ(圻)と稱る 30 その兄弟手に絳線のある者後に
いづその名はゼラとよばる

39 ヨセフ撃へられてエジプトにくだりしがエジプ
ト人ポテパル、パロの臣侍衛の長なる者彼を其處に
たづさへくだれるイシマエル人の手よりこれを買ふ
2 エホバ、ヨセフとともに在す彼享通者となりてその
主人なるエジプト人の家にをる 3 その主人エホバの
彼とともにいますを見またエホバがかれの手の凡て
なすところを享通しめたまふを見たり 4 是によりて
ヨセフ彼の心になひて其近侍となる彼ヨセフにそ
の家を宰どらしめその所有を盡くその手に委たり 5
彼ヨセフにその家とその有る凡の物をつかさどらせ
し時よりしてエホバ、ヨセフのために其エジプト人
の家を祝みたまふ即ちエホバの祝福かれが家と田に
有る凡の物におよぶ 6 彼その有る物をことごとくヨ
セフの手にゆだねその食ふパンの外は何もかへりみ
ざりき夫ヨセフは容貌麗しくして顔美しかりき 7 こ
れらの事の後その主人の妻ヨセフに目をつけて我と
寢よといふ 8 ヨセフ拒みて主人の妻にいひけるは視
よわが主人の家の中の物をかへりみずその有るもの
ことごとくわが手に委ぬ 9 この家には我より大なる
ものなし又主人何をも我に禁ぜず只汝を除くのみ汝
はその妻なればなり然ば我いかで此おほいなる悪を
なして神に罪ををかすをえんや 10 彼日々にヨセフに
言よりたれどもヨセフきかずして之といねず亦與に
をらざりき 11 當時ヨセフその職をなさんとて家にい
りしが家の人一箇もその内にをらざりき 12 時に彼婦

その衣を執て我といねよといひければヨセフ衣を彼の手に棄おきて外に遁いでたり 13 彼ヨセフがその衣を己の手に棄おきて遁いでしを見て 14 その家の人々を呼てこれにいふ視よへブル人を我等の所につれ來て我等にたはむれしむ彼我といねんとて我の所にいり來しかば我大聲によばはれり 15 彼わが聲をあげて呼はるを聞しかばその衣をわが許にすておきて外に遁いでたりと 16 其衣を傍に置て主人の家に歸るを待つ 17 かくて彼是言のごとく主人につげていふ汝が我らに携へきたりしへブルの僕われにたはむれんとて我許にいりきたりしが 18 我聲をあげてよばはりしかばその衣を我許にすておきて遁いでたり 19 主人その妻が己につげて汝の僕斯のごとく我になせりといふ言を聞て怒を發せり 20 是に於てヨセフの主人彼を執へて獄にいる其獄は王の囚徒を繋ぐ所なりヨセフ彼處にて獄にをりしが 21 エホバ、ヨセフとともに在して之に仁慈を加へ典獄の恩顧をこれにえさせたまひければ 22 典獄獄にある囚人をことごとくヨセフの手に付せたり其處になす所の事は皆ヨセフこれをなすなり 23 典獄そのまかせたる所の事は何をもかへりみざりき其はエホバ、ヨセフとともにいませばなりエホバかれのなすところをさかえしめたまふ

40 これらの事の後エジプト王の酒人と膳夫その主エジプト王に罪ををかす 2 パロその二人の臣すなはち酒人の長と膳夫の長を怒りて 3 之を侍衛の長の家の中なる獄に幽囚ふヨセフが繋れをる所なり 4 侍衛の長ヨセフをして彼等の側に侍しめたればヨセフ之につかふ彼等幽囚れて日を経たり 5 茲に獄に繋れたるエジプト王の酒人と膳夫の二人ともに一夜の中に

各夢を見たりその夢はおのおんおのその解明にかなふ 6 ヨセフ朝に及びて彼等の所に入て視るに彼等物憂に見ゆ 7 是に於てヨセフその主人の家に己とともに幽囚をるパロの臣に問て汝等なにゆゑに今日は顔色あやしきやといふに 8 彼等これにいふ我等夢を見たれど之を解く者なしとヨセフ彼等にいひけるは解く事は神によるにあらずや請ふ我に述よ 9 酒人の長その夢をヨセフに述て之にいふ我夢の中に見しにわが前に一の葡萄樹あり 10 その樹に三の枝あり芽いで花ひらきて葡萄なり球をなして熟たるがごとくなりき 11 時にパロの爵わが手にあり我葡萄を摘てこれをパロの爵に搾りその爵をパロの手に奉たり 12 ヨセフ彼にいひけるはその解明は是のごとし三の枝は三日なり 13 今より三日の中にパロなんぢの首を擧げ汝を故の所にかへさん汝は曩に酒人たりし時になせし如くパロの爵をその手に奉ぐるにいたらん 14 然ば請ふ汝善ならん時に我をおもひて我に恩恵をほどこし吾事をパロにのべてこの家よりわれを出せ 15 我はまことにヘブル人の地より掠れ來しものなればなりまた此にても我は牢にいれらるるがごとき事はなきざりしなり 16 茲に膳夫の長その解明の善りしを見てヨセフにいふ我も夢を得て見たるに白きパン三筐わが首にありて 17 その上の筐には膳夫がパロのために作りたる各種の饌ありしが鳥わが首の筐の中より之をくらへり 18 ヨセフこたへていひけるはその解明はかくのごとし三の筐は三日なり 19 今より三日の中にパロ汝の首を擧はなして汝を木に懸んしかして鳥汝の肉をくらひとるべしと 20 第三日はパロの誕辰なればパロその諸の臣僕に筵席をなし酒人の長と膳夫の長を

して首をその臣僕の中に擧しむ **21** 即ちパロ酒人の長をその職にかへしければ彼爵をパロの手に奉たり **22** されど膳夫の長は木に懸らるヨセフの彼等に解明せるがごとし **23** 然るに酒人の長ヨセフをおぼえずして之を忘れたり

41 二年の後パロ夢ることあり即ち河の濱にたちて **2** 視るに七の美しき肥たる牝牛河よりのぼりて葦を食ふ **3** その後また七の醜き瘦たる牛河よりのぼり河の畔にて彼牛の側にたちしが **4** その醜き瘦たる牛かの美しき肥たる七の牛を食ひつくせりパロ是にいたりて寤む **5** 彼また寝て再び夢るに一の莖に七の肥たる佳き穂いできたる **6** 其のちに又しなびて東風に焼たる七の穂いできたりしが **7** その七のしなびたる穂かの七の肥實りたる穂を呑盡せりパロ寤て見に夢なりき **8** パロ朝におよびてその心安からず人をつかはしてエジプトの法術士とその博士を皆ことごとく召し之にその夢を述たり然ど之をパロに解うる者なかりき **9** 時に酒人の長パロに告ていふ我今日わが過をおもひいづ **10** 嘗てパロその僕を怒て我と膳夫の長を侍衛の長の家に幽囚へたまひし時 **11** 我と彼ともに一夜のうちに夢み各その解明にかなふ夢をみたりしが **12** 彼處に侍衛の長の僕なる若きヘブル人我らと偕にあり我等これにのべたれば彼われらの夢を解その夢にしたがひて各人に解明をなせり **13** しかして其事かれが解たるごとくなりて我はわが職にかへり彼は木に懸らる **14** 是に於てパロ人をやりてヨセフを召しければ急ぎてこれを獄より出せりヨセフすなはち髭を薙り衣をかへてパロの許にiri来る **15** パロ、ヨセフにいひけるは我夢をみたれど之をとく者なし聞に汝は

夢をききて之を解くことをうると云ふ 16 ヨセフ、パロにこたへていひけるは我によるにあらず神パロの平安を告たまはん 17 パロ、ヨセフにいふ我夢に河の岸にたちて見るに 18 河より七の肥たる美しき牝牛のぼりて藁を食ふ 19 後また弱く甚だ醜き瘠たる七の牝牛のぼりきたる其悪き事エジプト全国にわが未だ見ざるほどなり 20 その瘠たる醜き牛初の七の肥たる牛を食ひつくしたりしが 21 已に腹にいりても其腹にいりし事しれず尚前のごとく醜かりき我是にいたりて寤めたり 22 我また夢に見るに七の實たる佳き穂一の莖にいできたる 23 その後またいぢけ萎びて東風にやけたる七の穂生じたりしが 24 そのしなびたる穂かの七の佳穂を吞つくせり我これを法術士に告たれどもわれにこれをしめすものなし 25 ヨセフ、パロにいひけるはパロの夢は一なり神その爲んとする所をパロに示したまへるなり 26 七の美牝牛は七年七の佳穂も七年にして夢は一なり 27 其後にのぼりし七の瘠たる醜き牛は七年にしてその東風にやけたる七の空穂は七年の饑饉なり 28 是はわがパロに申すところなり神そのなさんとするところをパロにしめしたまふ 29 エジプトの全地に七年の大なる豊年あるべし 30 その後七の凶年おこらん而してエジプトの地にありし豊作を皆忘るにいたるべし饑饉國を滅さん 31 後にいたるその饑饉はなはだはげしきにより前の豊作國の中に知れざるにいたらん 32 パロのふたたび夢をかさね見たまひしは神がこの事をさだめて速に之をなさんとしたまふなり 33 さればパロ慧く賢き人をえらみて之にエジプトの國を治めしめたまふべし 34 パロこれをなし國中に官吏を置てその七年の豊年の中に

エジプトの國の五分之一を取たまふべし 35 而して其官吏をして來らんとするその善き年の諸の糧食を斂めてその穀物をパロの手に蓄へしめ糧食を邑々にかこはしめたまふべし 36 その糧食を國のために畜藏へおきてエジプトの國にのぞむ七年の饑饉に備へ國をして饑饉のために滅ざらしむべし 37 パロとその諸の臣僕此事を善とす 38 是に於てパロその臣僕にいふ我等神の靈のやどれる是のごとき人を看いだすをえんやと 39 しかしてパロ、ヨセフにいひけるは神是を盡く汝にしめしたまひたれば汝のごとく慧く賢き者なかるべし 40 汝わが家を幸るべしわが民みな汝の口にしたがはん唯位においてのみ我は汝より大なるべし 41 パロ、ヨセフにいひけるは視よ我汝をエジプト全國の冢宰となすと 42 パロすなはち指環をその手より脱して之をヨセフの手にはめ之を白布を衣せ金の索をその項にかけ 43 之をして己のもてる次の輅に乘しめ下にゐよと其前に呼しむ是彼をエジプト全國の冢宰となせり 44 パロ、ヨセフにいひけるは我はパロなりエジプト全國に汝の允准をえずして手足をあぐる者なかるべしと 45 パロ、ヨセフの名をザフナテパネアと名けまたオンの祭司ポテパルの女アセナテを之にあたへて妻となさしむヨセフいでてエジプトの地をめぐる 46 ヨセフはエジプトの王パロのまへに立し時三十歳なりきヨセフ、パロのまへを出て遍くエジプトの地を巡れり 47 七年の豊年の中に地山なして物を生ず 48 ヨセフすなはちエジプトの地にありしその七年の糧食を斂めてその糧食を邑々に藏む即ち邑の周圍の田圃の糧食を其邑の中に藏む 49 ヨセフ海隅の沙のごとく甚だ多く穀物を儲へ遂に數ふることをや

むるに至る其は數かぎり無ればなり 50 饑饉の歳のいたらざる前にヨセフに二人の子うまる是はオンの祭司ポテパルの女アセナテの生たる者なり 51 ヨセフその冢子の名をマナセ(忘)となづけて言ふ神我をしてわが諸の苦難とわが父の家の凡の事をわすれしめたまふと 52 又次の子の名をエフライム(多く生る)となづけていふ神われをしてわが艱難の地にて多くの子をえせしめたまふと 53 爰にエジプトの國の七年の豊年をはり 54 ヨセフの言しごとく七年の凶年きたりはじむその饑饉は諸の國にあり然どエジプト全國には食物ありき 55 エジプト全國饑し時民さけびてパロに食物を乞ふパロ、エジプトの諸の人にいひけるはヨセフに往け彼が汝等にいふところをなせと 56 饑饉全地の面にありヨセフすなはち諸の倉廩をひらきてエジプト人に賣わたせり饑饉ますますエジプトの國にはげしくなる 57 饑饉諸の國にはげしくなりしかば諸國の人エジプトにきたりヨセフにいたりて穀物を買ふ

42 ヤコブ、エジプトに穀物あるを見しかばその子等にいひけるは汝等なんぞたがひに面を見あはするや 2 ヤコブまたいふ我エジプトに穀物ありと聞り彼處にくだりて彼處より我等のために買きたれ然らばわれら生るを得て死をまぬかれんと 3 ヨセフの十人の兄弟エジプトにて穀物をかはんとて下りゆけり 4 されどヨセフの弟ベニヤミンはヤコブこれをその兄弟とともに遣さざりきおそらくは災難かれの身にのぞむことあらんと思たればなり 5 イスラエルの子等穀物を買んとて來る者とともに來る其はカナンの地に饑饉ありたればなり 6 時にヨセフは國の總督にし

て國の凡の人に賣ことをなせりヨセフの兄弟等來りてその前に地に伏て拜す 7 ヨセフその兄弟を見てこれを知たれども知ざる者のごとくして荒々しく之にものいふ即ち彼等に汝等は何處より來れるやといへば彼等いふ糧食を買んためにカナンの地より來れりと 8 ヨセフはその兄弟をしりたれども彼等はヨセフをしらざりき 9 ヨセフその昔に彼等の事を夢たる夢をを憶いだし彼等に言けるは汝等は間者にして此國の隙を窺んとて來れるなり 10 彼等之にいひけるはわが主よ然らず唯糧食をかはんとて僕等は來れるなり 11 我等はみな一箇の人の子にして篤實なる者なり僕等は間者にあらず 12 ヨセフ彼等にいひけるは否汝等は此地の隙を窺んとて來れるなり 13 彼等いひけるは僕等は十二人の兄弟にしてカナンの地の一箇の人の子なり季子は今日父とともにをる又一人はをらずなりぬ 14 ヨセフかれらにいひけるはわが汝等につげて汝等は間者なりといひしはこの事なり 15 汝等斯してその眞實をあかすべしパロの生命をさして誓ふ汝等の末弟ここに來るにあらざれば汝等は此をいづるをえじ 16 汝等の一人をやりて汝等の弟をつれきたらしめよ汝等をば繋ぎおきて汝等の言をためし汝らの中に眞實あるや否をみんパロの生命をさして誓ふ汝等はいかならず間者なりと 17 彼等を皆ともに三日のあひだ幽囚おけり 18 三日におよびてヨセフ彼等にいひけるは我神を畏る汝等是なして生命をえよ 19 汝等もし篤實なる者ならば汝らの兄弟の一人をしてこの獄に繋れしめ汝等は穀物をたづさへゆきてなんぢらの家々の饑をすくへ 20 但し汝らの末弟を我につれきたるべしきすればなんぢらの言の眞實あらはれて汝等死

をまぬかるべし彼等すなはち斯なせり **21** 茲に彼らたがひに言けるは我等は弟の事によりて信に罪あり彼等は彼が我らに只管にねがひし時にその心の苦を見ながら之を聴ざりき故にこの苦われらにのぞめるなり **22** ルベンかれらに對ていひけるは我なんぢらにいひて童子に罪ををかすなかれといひしにあらずや然るに汝等きかざりき是故に視よ亦彼の血をながせし罪をたださると **23** 彼等はヨセフが之を解するをしらざりき其は互に通辨をもちひたればなり **24** ヨセフ彼等を離れゆきて哭き復かれらにかへりて之とかたり遂にシメオンを彼らの中より取りその目のまへにて之を縛れり **25** 而してヨセフ命じてその器に穀物をみたしめ其人々の金を囊に返さしめ又途の食を之にあたへしむヨセフ斯かれらになせり **26** 彼等すなはち穀物を驢馬におはせて其處をさりしが **27** 其一人旅邸にて驢馬に糧を與んとて囊をひらき其金を見たり其は囊の口にありければなり **28** 彼その兄弟にいひけるは吾金は返してあり視よ囊の中にありと是において彼等膽を消し懼れてたがひに神の我らになしたまふ此事は何ぞやといへり **29** かくて彼等カナン之地にかへりて父ヤコブの所にいたり其身にありし事等を悉く之につげていひけるは **30** 彼國の主荒々しく我等にもいひ我らをもて國を偵ふ者となせり **31** 我ら彼にいふ我等は篤實なる者なり問者にあらず **32** 我らは十二人の兄弟にして同じ父の子なり一人はをらずなり季のは今日父とともにカナン之地にありと **33** 國の主なるその人われらにいひけるは我かくして汝等の篤實なるをしらん汝等の兄弟の一人を吾もとにのこし糧食をたづさへゆきて汝らの家々の饑をすくへ **34** しか

して汝らの季の弟をわが許につれきたれ然れば我なんぢらが間者にあらずして篤實なる者たるをしらん我なんぢらの兄弟を汝等に返し汝等をしてこの國にて交易をなさしむべしと 35 茲に彼等その囊を傾たるに視よ各人の金包その囊のなかにあり彼等とその父金包を見ておそれたり 36 その父ヤコブ彼等にいひけるは汝等は我をして子を喪はしむヨセフはをらずなりシメオンもをらずなりたるにまたベニヤミンを取んとす是みなわが身にかかるなり 37 ルベン父に告ていふ我もし彼を汝につれかへらずば吾ふたりの子を殺せ彼をわが手にわたせ我之をなんぢにつれかへらん 38 ヤコブいひけるはわが子はなんぢらとともに下るべからず彼の兄は死て彼ひとり遺たればなり若なんぢらが行ところの途にて災難かれの身におよばば汝等はわが白髪をして悲みて墓にくだらしむるにいたらん (Sheol h7585)

43 饑饉その地にはげしかりき 2 茲に彼等エジプトよりもちきたりし穀物を食つくせし時父かられらに再びゆきて少許の糧食を買きたれといひければ 3 ユダ父にかたりていひけるは彼人かたく我等をいましめていふ汝らの弟汝らとともにあるにあらざれば汝らはわが面をみるべからずと 4 汝もし弟をわれらとともに遣さば我等下て汝のために糧食を買ふべし 5 されど汝もし彼をつかはさずば我等くだらざるべし其はかの人われらにむかひ汝等の弟なんぢらとともにあるにあらざれば汝ら吾面をみるべからずといひたればなりと 6 イスラエルいひけるは汝等なにゆゑに汝等に尚弟のあることを彼人につげて我を悪くならずや 7 彼等いふ其人われらの模様とわれらの親族を

問ただして汝らの父は尚生存へをるや汝等は弟をもつやといひしにより其言の條々にしたがひて彼につげたるなり我等いかでか彼が汝等の弟をつれくたれといふならんとしるをえん 8 ユダ父イスラエルにいひけるは童子をわれとともに遣はせ我等たちて往ん然らば我儕と汝およびわれらの子女生ることを得て死をまぬかるべし 9 我彼の身を保はん汝わが手にかれを問へ我もし彼を汝につれかへりて汝のまへに置ずば我永遠に罪をおはん 10 我儕もし濡滞ことなかりしならば必ずすでにゆきて再びかへりしならん 11 父イスラエル彼等にいひけるは然ば斯なせ汝等國の名物を器にいれ携へくだりて彼人に禮物とせよ乳香少許、蜜少許、香物、没薬、胡桃および巴旦杏 12 又手に一倍の金を取りゆけ汝等の囊の口に返してありし彼金を再び手にたづきへ行べし恐くは差謬にてありしならん 13 且また汝らの弟を撃へ起てふたたび其人の所にゆけ 14 ねがはくは全能の神その人のまへにて汝等を矜恤みその人をして汝等の他の兄弟とベニヤミンを放ちかへさしめたまはんことを若われ子に別るべくあらば別れんと 15 是に於てかの人々その禮物を執り一倍の金を手に執りベニヤミンを携へて起てエジプトにくだりヨセフの前に立つ 16 ヨセフ、ベニヤミンの彼らと偕なるを見てその家宰にいひけるはこの人々を家に導き畜を屠て備へよこの人々卓午に我とともに食をなすべければなり 17 其人ヨセフのいひしごとくなし其人この人々をヨセフの家に導けり 18 人々ヨセフの家に導かれたるによりて懼れいひけるは初めにわれらの囊にかへりてありし金の事のため我等はひきいれらる是われらを抑留へて我等

にせまり執へて奴隸となし且われらの驢馬を取んとするなりと 19 彼等すなはちヨセフの家宰に進みよりて家の入口にて之にかたりて 20 いひけるは主よ我等實に最初くだりて糧食を買たり 21 しかるに我等旅邸に至りて囊を啓き見るに各人の金その囊の口にありて其金の量全かりし然ば我等これを手にもちかへれり 22 又糧食を買ふ他の金をも手にもちくたる我等の金を囊にいれたる者は誰なるかわれらは知ざるなり 23 彼いひけるは汝ら安ぜよ懼るなかれ汝らの神汝らの父の神財寶を汝等の囊におきて汝らに賜ひしなり汝らの金は我にとどけりと遂にシメオンを彼等の所にたづさへいだせり 24 かくて其人この人々をヨセフの家に導き水をあたへてその足を濯はしめ又その驢馬に飼草をあたふ 25 彼等其處にて食をなすなりと聞しかば禮物を調へてヨセフの日午に来るをまつ 26 茲にヨセフ家にかへりしかば彼等その手の禮物を家にもちきたりてヨセフの許にいたり地に伏てこれを拜す 27 ヨセフかれらの安否をとふていふ汝等の父汝らが初にかたりしその老人は悪なきや尚いきながらへをるや 28 彼等こたへてわれらの父汝の僕は悪なくしてなほ生ながらへをるといひ身をかがめ禮をなす 29 ヨセフ目をあげてその母の子なる己の弟ベニヤミンを見ていひけるは是は汝らが初に我にかたりし汝らの若き兄弟なるや又いふわが子よ願はくは神汝をめぐみたまはんことをと 30 ヨセフその弟のために心焚るがごとくなりしかば急ぎてその泣べきところを尋ね室にいりて其處に泣り 31 而して面をあらひて出で自から抑へて食をそなへよといふ 32 すなはちヨセフはヨセフ彼等は彼等陪食するエジプト人はエジプト

人と別々に之を供ふ是はエジプト人へブル人と共に食することをえざるによる其事エジプト人の穢はしとすところなればなり 33 かくて彼等ヨセフの前に坐るに長子をばその長たるにしたがひて坐らせ若き者をばその幼少にしたがひてすわらせければその人々駭きあへり 34 ヨセフ己のまへより皿を彼等に供ふベニヤミンの皿は他の人のよりも五倍おほかりきかれら飲てヨセフとともに樂めり

44 茲にヨセフその家宰に命じていふこの人々の囊にその負うるほど糧食を充せ各人の金をその囊の口に置れ 2 またわが杯すなはち銀の杯を彼の少き者の囊の口に置てその穀物の金子とともにあらしめよと彼がヨセフがいひし言のごとくなせり 3 かくて夜のあくるにおよびてその人々と驢馬をかへしけるが 4 かれら城邑をいでてなほ程とほからぬにヨセフ家宰にいひけるは起てかの人々の後を追ひおひつきし時之にいふべし汝らなんぞ惡をもて善にむくゆるや 5 其はわが主がもちひて飲み又用ひて常にトふ者にあらずや汝らかくなすは惡しと 6 是に於て家宰かれらにおひつきてこの言をかれらにいひければ 7 かれら之にいふ主にゆゑに是事をいひたまふや僕等きはめてこの事をなさず 8 視よ我らの囊の口にありし金はカナンの地より汝の所にもちかへれり然ば我等いかで汝の主の家より金銀をぬすまんや 9 僕等の中誰の手に見あたるも其者は死べし我等またわが主の奴隸となるべし 10 彼いひけるはさらば汝らの言のごとくせん其の見あたりし者はわが奴隸となるべし汝等は咎なしと 11 是において彼等急ぎて各その囊を地におろし各その囊をひらきしかば 12 彼すなはち索し長

者よりはじめて少者にをはるに杯はベニヤミンの囊
にありき 13 斯有しかば彼等その衣を裂きおのおのそ
の驢馬に荷を負せて邑にかへる 14 しかしてユダとそ
の兄弟等ヨセフの家にとるにヨセフなほ其處にを
りしかばその前に地に伏す 15 ヨセフかれらにいひけ
るは汝等がなしたるこの事は何ぞや我のごとき人は
善くトひうる者なるをしらざるや 16 ユダいひけるは
我等主に何をいはんや何をのべんや如何にしてわれ
らの正直をあらはさんや神僕等の罪を摘發したまへ
り然ば我等およびこの杯の見あたりし者俱に主の奴
隸となるべし 17 ヨセフいひけるはきはめて然せし杯
の手に見あたりし人はわが奴隸となるべし汝等は安
然に父にかへりのぼるべし 18 時にユダかれに近より
ていひけるはわが主よ請ふ僕をして主の耳に一言い
ふをえせしめよ僕にむかひて怒を發したまふなかれ
汝はパロのごとくにいますなり 19 昔にわが主僕等に
問て汝等は父あるや弟あるやといひたまひしかば 20
我等主にいへり我等にわが父あり老人なり又その老
年子なる少者ありその兄は死てその母の遺せるは只
是のみ故に父これを愛すと 21 汝また僕等にいひたま
はく彼を我許につれくだり我をして之に目をつくる
ことをえせしめよと 22 われら主にいへり童子父を離
るをえず若父をはなるるならば父死べしと 23 汝また
僕等にいひたまはく汝らの季の弟汝等とともに下る
にあらざれば汝等ふたたびわが面を見るべからず
と 24 我等すなはちなんぢの僕わが父の所にかへりの
ぼりて主の言をこれに告たり 25 我らの父再びゆきて
少許の糧食を買きたれといひければ 26 我らいふ我ら
くだりゆくことをえずわれらの季の弟われらと共に

あらば下りゆくべし其は季の弟われらと共にあるに
あらざれば彼人の面をみるをえざればなりと 27 なん
ぢの僕わが父われらにいふ汝らのしるごとく吾妻わ
れに二人を生しが 28 その一人出てわれをはなれたれ
ば必ず裂ころされしならんと思へり我今にいたるま
で彼を見ず 29 なんぢら是をも我側より取ゆかんに若
災害是の身におよぶあらば遂にわが白髪をして悲み
て墓にくだらしむるにいたらんと (Sheol h7585) 30 抑父
の生命と童子の生命とは相結びてあれば我なんぢの
僕わが父に歸りいたらん時に童子もしわれらと共に
在らずば如何ぞや 31 父童子の在ざるを見ば死るにいた
らん然れば僕等なんぢの僕われらの父の白髪をして
悲みて墓にくだらしむるなり (Sheol h7585) 32 僕わが父
に童子の事を保ひて我もし是を汝につれかへらずば
永久に罪を父に負んといへり 33 されば請ふ僕をして
童子にかはりをりて主の奴隸とならしめ童子をして
その兄弟とともに歸りのぼらしめたまへ 34 我いかで
か童子を伴はずして父の許に上りゆくべけん恐くは
災害の父におよぶを見ん

45 茲にヨセフその側にたてる人々のまへに自ら禁
ぶあたはざるに至りければ人皆われを離ていでよと
呼はれり是をもてヨセフが己を兄弟にあかしたる時
一人も之とともにたつものなかりき 2 ヨセフ聲をあ
げて泣りエジプト人これを聞きパロの家またこれを
聞く 3 ヨセフすなはちその兄弟にいひけるは我はヨ
セフなりわが父はなほ生ながらへをるやと兄弟等そ
の前に愕き懼れて之にこたふるをえざりき 4 ヨセフ
兄弟にいひけるは請ふ我にちかよれとかれらすなは
ち近よりければ言ふ我はなんぢらの弟ヨセフなんぢ

らがエジプトにうりたる者なり 5 されど汝等我をここに賣しをもて憂ふるなかれ身を恨るなかれ神生命をすくはしめんとて我を汝等の前につかはしたまへるなり 6 この二年のあひだ饑饉國の中にありしが尚五年の間耕すことも穫こともなかるべし 7 神汝等の後を地につたへんため又大なる救をもて汝らの生命を救はんために我を汝等の前に遣したまへり 8 然ば我を此につかはしたる者は汝等にはあらず神なり神われをもてパロの父となしその全家の主となしエジプト全國の宰となしたまへり 9 汝等いそぎ父の許にのぼりゆきて之にいへ汝の子ヨセフかく言ふ神われをエジプト全國の主となしたまへりわが所にくだれ遲疑なかれ 10 汝ゴセンの地に住べし斯汝と汝の子と汝の子の子およびなんぢの羊と牛並に汝のすべて有ところの者われの近方にあるべし 11 なほ五年の饑饉あるにより我其處にてなんぢを養はん恐くは汝となんぢの家族およびなんぢの凡て有ところの者匱乏ならん 12 汝等の目とわが弟ベニヤミンの目の視るごとく汝等にこれをいふ者はわが口なり 13 汝等わがエジプトにて亨る顯榮となんぢらが見たる所とを皆悉く父につげよ汝ら急ぎて父を此にみちびき下るべし 14 而してヨセフその弟ベニヤミンの頸を抱へて哭にベニヤミンもヨセフの頸をかかへて哭く 15 ヨセフ亦その諸の兄弟に接吻し之をいだきて哭く是のち兄弟等ヨセフと言ふ 16 茲にヨセフの兄弟等きたれりといふ聲パロの家にきこえければパロとその臣僕これを悦ぶ 17 パロすなはちヨセフにいひけるは汝の兄弟に言べし汝等かく爲せ汝等の畜に物を負せ往てカナンの地に至り 18 なんぢらの父となんぢらの家族を携へて

我にきたれ我なんぢらにエジプトの地の嘉物をあたへん汝等國の膏腴を食ふことをうべしと 19 今汝命をうく汝等かく爲せ汝等エジプトの地より車を取ゆきてなんぢらの子女と妻等を載せ汝等の父を導きて來れ 20 また汝等の器を惜み視るなかれエジプト全國の嘉物は汝らの所屬なればなり 21 イスラエルの子等すなはち斯なせりヨセフ、パロの命にしたがひて彼等に車をあたへかつ途の餼糧をかれらにあたへたり 22 又かれらに皆おのおの衣一襲を與へたりしがベニヤミンには銀三百と衣五襲をあたへたり 23 彼また斯のごとく父に餽れり即ち驢馬十疋にエジプトの嘉物をおはせ牝の驢馬十疋に父の途の用に供ふる穀物と糧と肉をおはせて餽れり 24 斯して兄弟をかへして去しめ之にいふ汝等途にて相あらそふなかれと 25 かれらエジプトより上りてカナンの地にゆきその父ヤコブにいたり 26 之につげてヨセフは尚いきてをりエジプト全國の宰となりをるといふしかるにヤコブの心なほ寒冷なりき其はこれを信ぜざればなり 27 彼等またヨセフの己にいひたる言をことごとく之につげたりその父ヤコブ、ヨセフがおのれを載んとておくりし車をみるにおよびて其氣おのれにかへれり 28 イスラエルすなはちいふ足りわが子ヨセフなほ生をるわれ死ざるまへに往て之を視ん

46 イスラエルその己につける諸の者とともに出たちベエルシバにいたりてその父イサクの神に犠牲をささぐ 2 神夜の異象にイスラエルにかたりてヤコブよヤコブよといひたまふ 3 ヤコブわれ此にありといひければ神いひたまふ我は神なり汝の父の神なりエジプトにくだることを懼るなかれわれ彼處にて汝を

大なる國民となさん 4 我汝と共にエジプトに下るべし亦かならず汝を導のぼるべしヨセフ手をなんぢの目の上におかんと 5 かくてヤコブ、ベエルシバをたちいでたりイスラエルの子等すなはちパロの載んとておくりたる車に父ヤコブと己の子女と妻等を載せ 6 その家畜とカナンの地にてえたる貨財をたづさへ斯してヤコブとその子孫皆ともにエジプトにいたれり 7 ヤコブかくその子と子の子およびその女と子の女すなはちその子孫を皆ともなひてエジプトににつれゆけり 8 イスラエルの子のエジプトにくだれる者の名は左のごとしヤコブとその子等ヤコブの長子はルベン 9 ルベンの子はヘノク、パル、ヘヅロン、カルミ 10 シメオンの子はエムエル、ヤミン、オハデ、ヤキン、ゾハルおよびカナンの婦のうめる子シヤウル 11 レビの子はゲルシヨン、コハテ、メラリ 12 ユダの子エル、オナン、シラ、ペレヅ、ゼラ但しエルとオナンはカナンの地に死たりペレヅの子はヘヅロンおよびハムルなり 13 イツサカルの子はトラ、プワ、ヨブ、シムロン 14 ゼブルンの子はセレデ、エロン、ヤリエルなり 15 是等および女子デナはレアがパダンアラムにてヤコブにうみたる者なりその男子女子あはせて三十三人なりき 16 ガドの子はゼボン、ハギ、シユニ、エヅポン、エリ、アロデ、アレリ 17 アセルの子はエムナ、イシワ、イスイ、ペリアおよびその妹サラ並にペリアの子ヘベルとマルキエルなり 18 是等はラバンがその女レアにあたへたるジルパの子なり彼是等をヤコブにうめり都合十六人 19 ヤコブの妻ラケルの子はヨセフとベニヤミンなり 20 エジプトの國にてヨセフにマナセとエフライムうまれたり是はオン

の祭司ポテパルの女アセナテが生たる者なり 21 ベニヤミンの子はペラ、ベケル、アシベル、ゲラ、ナアマン、エヒ、ロシ、ムツピム、ホパム、アルデ 22 是等はラケルの子にしてヤコブにうまれたる者なり都合十四人 23 ダンの子はホシム 24 ナフタリの子はヤジエル、グニ、エゼル、シレム 25 是等はラバンがその女ラケルにあたへたるビルハの子なり彼これらをヤコブにうめり都合七人 26 ヤコブとともにエジプトにいたりし者はヤコブの子の妻をのぞきて六十六人なりき是皆ヤコブの身よりいでたる者なり 27 エジプトにてヨセフにうまれたる子二人ありヤコブの家の人のエジプトにいたりし者はあはせて七十人なりき 28 ヤコブ預じめユダをヨセフにつかはしおのれをゴセンにみちびかしむ而して皆ゴセンの地にいたる 29 ヨセフその車を整へゴセンにのぼりて父イスラエルを迓へ之にまみえてその頸を抱き頸をかかへて久く啼く 30 イスラエル、ヨセフにいふ汝なほ生てをり我汝の面を見ることをえたれば今は死るも可しと 31 ヨセフその兄弟等と父の家族とにいひけるは我のぼりてパロにつげて之にいふべしわが兄弟等とわが父の家族カナンの地にをりし者我のところに来れり 32 その人々は牧者にして牧畜の人なり彼等その羊と牛およびその有る諸の物をたづきへ來れりと 33 パロもし汝等を召て汝等の業は何なるやと問ことあらば 34 僕等は幼少より今に至るまで牧畜の人なり我儕も先祖等もともにしかりといへしからばなんぢらゴセンの地にすむことをえん牧者は皆エジプト人の穢はしとするものなればなり

47 茲にヨセフゆきてパロにつげていひけるはわが父と兄弟およびその羊と牛と諸の所有物カナンの地よりいたれり彼らはゴセンの地にをると **2** その兄弟の中より五人をとりてこれをパロにまみえしむ **3** パロ、ヨセフの兄弟等にいひけるは汝らの業は何なるか彼等パロにいふ僕等は牧者なりわれらも先祖等もともにしかりと **4** かれら又パロにいひけるは此國に寓らんとて我等はきたる其はカナンの地に饑饉はげしくして僕等の群をやしなふ牧場なければなりされば請ふ僕等をしてゴセンの地にすましめたまへ **5** パロ、ヨセフにかたりていふ汝の父と兄弟汝の所にきたれり **6** エジプトの地はなんぢの前にあり地の善き處に汝の父と兄弟をすましめよすなはちゴセンの地にかれらをすましめよ汝もし彼等の中に才能ある者あるをしらば其人々をしてわが家畜をつかさどらしめよ **7** ヨセフまた父ヤコブを引ていりパロの前にたたしむヤコブ、パロを祝す **8** パロ、ヤコブにいふ汝の齡の日は幾何なるか **9** ヤコブ、パロにいひけるはわが旅路の年月は百三十年にいたる我が齡の日は僅少にして且悪かり未だわが先祖等の齡の日と旅路の日にはおよばざるなり **10** ヤコブ、パロを祝しパロのまへよりいでさりぬ **11** ヨセフ、パロの命ぜしごとくその父と兄弟に居所を與へエジプトの國の中の善き地即ちラメセスの地をかれらにあたへて所有となさしむ **12** ヨセフその父と兄弟と父の全家にその子の數にしたがひて食物をあたへて養へり **13** 却説饑饉ははなはだはげしくして全國に食物なくエジプトの國とカナンの國饑饉のために弱れり **14** ヨセフ穀物を賣あたへてエジプトの地とカナンの地にありし金をこと

ごとく斂む而してヨセフその金をパロの家にもちきたる 15 エジプトの國とカナンの國に金つきたればエジプト人みなヨセフにいたりていふ我等に食物をあたへよ如何ぞなんぢの前に死べけんや金すでにたえたり 16 ヨセフいひけるは汝等の家畜をいだせ金もしたえたらば我なんぢらの家畜にかへて與ふべしと 17 かれら乃ちその家畜をヨセフにひききたりければヨセフその馬と羊の群と牛の群および驢馬にかへて食物をかれらにあたへそのすべての家畜のために其年のあひだ食物をあたへてこれをやしなふ 18 かくてその年暮けるが明年にいたりて人衆またヨセフにきたりて之にいふ我等主に隠すところなしわれらの金は竭たりまたわれらの畜の群は主に販す主のまへにいだすべき者は何ものこりをらず唯われらの身體と田地あるのみ 19 われらいかんぞわれらの田地とともに汝の目のまへに死亡おべけんや我等とわれらの田地を食物に易て買とれ我等田地とともにパロの僕とならんまた我等に種をあたへよ然ばわれら生るをえて死るにいたらず田地も荒蕪にいたらじ 20 是に於てヨセフ、エジプトの田地をことごとく購とりてパロに納る其はエジプト人饑饉にせまりて各人その田圃を賣たればなり是によりて地はパロの所有となれり 21 また民はエジプトのこの境の極よりかの境の極の者までヨセフこれを邑々にうつせり 22 但祭司の田地は購とらざりき祭司はパロより祿をたまはりをればパロの與る祿を食たるによりてその田地を賣ざればなり 23 茲にヨセフ民にいひけるは視よ我今日汝等となんぢらの田地をかひてパロに納る視よこの種子を汝らに與ふ地に播べし 24 しかして收穫の五分の一をパ

口に輸し四分をなんぢらに取て田圃の種としなんぢらの食としなんぢらの家族と子女の食とせよ 25 人衆いひけるは汝われらの生命を拯ひたまへりわれら主のまへに恩をえんことをねがふ我等パロの僕となるべしと 26 ヨセフ、エジプトの田地に法をたてその五分の一をパロにをさめしむその事今日にいたる唯祭司の田地のみパロの有とならざりき 27 イスラエル、エジプトの國に於てゴセンの地にすみ彼處に産業を獲その數増て大に殖たり 28 ヤコブ、エジプトの國に十七年いきながらへたりヤコブの年齒の日は合て百四十七年なりき 29 イスラエル死る日ちかよりければその子ヨセフをよびて之にいひけるは我もし汝のまへに恩を得るならば請ふなんぢの手をわが髀の下にいれ懇に眞實をもて我をあつかへ我をエジプトに葬るなかれ 30 我は先祖等とともに偃んことをねがふ汝われをエジプトよ昇いだして先祖等の墓場にはうむれヨセフいふ我なんぢが言のごとくなすべしと 31 ヤコブまた我に誓へといひければすなはち誓へりイスラエル床の頭にて拜をなせり

48 是等の事の後汝の父病にかかるとヨセフに告る者ありければヨセフ二人の子マナセとエフライムをともなひて至る 2 人ヤコブに告て汝の子ヨセフなんぢの許にきたるといひければイスラエル強て床に坐す 3 しかしてヤコブ、ヨセフにいひけるは昔に全能の神カナンの地のルズにて我にあらはれて我を祝し 4 我にいひたまひけらく我なんぢをして多く子をえせしめ汝をふやし汝を衆多の民となさん我この地を汝の後の子孫にあたへて永久の所有となさしめんと 5 わがエジプトにきたりて汝に就まへにエジプトにて

汝に生れたる二人の子エフライムとマナセ是等はわが子となるベシルペンとシメオンのごとく是等はわが子とならん 6 是等の後になんぢが得たる子は汝のものとするべし又その産業はその兄弟の名をもて稱らるべし 7 我事をいはんに我昔パダンより來れる時ラケル我にしたがひをりて途にてカナンの地に死り其處はエフラタまで尚途の隔あるところなりわれ彼處にて彼をエフラタの途にはうむれり(エフラタはすなはちベテレヘムなり) 8 斯てイスラエル、ヨセフの子等を見て是等は誰なるやといひければ 9 ヨセフ父にいふ是は神の此にて我にたまひし子等なりと父すなはちいふ請ふ彼らを我所につれきたれ我これを祝せんと 10 イスラエルの目は年壽のために眯て見るをえざりしがヨセフかれらをその許につれきたりければ之に接吻してこれを抱けり 11 しかしてイスラエル、ヨセフにいひけるは我なんぢの面を見るあらんとは思はざりしに視よ神なんぢの子をもわれにしめしたまふと 12 ヨセフかれらをその膝の間よりいだし地に俯て拜せり 13 しかしてヨセフ、エフライムを右の手に執てヤコブに左の手にむかはしめマナセを左の手に執てヤコブの右の手にむかはしめ二人をみちびきてかれに就ければ 14 イスラエル右の手をのべて季子エフライムの頭に按き左の手をのべてマナセの頭におけりマナセは長子なれども故にかくその手をおけるなり 15 斯してヨセフを祝していふわが父アブラハム、イサクの事へし神わが生れてより今日まで我をやしなひたまひし神 16 我をして諸の災禍を贖はしめたまひし天使ねがはくは是童子等を祝たまへねがはくは是等の者わが名とわが父アブラハム、イサクの

名をもて稱られんことをねがはくは是等地の中に繁殖がるにいたれ 17 ヨセフ父が右の手をエフライムの頭に按るを見てよろこばず父の手をあげて之をエフライムの頭よりマナセの頭にうつさんとす 18 ヨセフすなはち父にいひけるは然にあらず父よ是長子なれば右の手をその頭に按たまへ 19 父こぼみていひけるは我知るわが子よわれしる彼も一の民となり彼も大なる者とならん然れどもその弟は彼よりも大なる者となりてその子孫は多衆の國民となるべしと 20 此日彼等を祝していふイスラエル汝を指て人を祝し願くは神汝をしてエフライムのごとくマナセのごとくならしめたまへといふにいたらんとすなはちエフライムをマナセの先にたてたり 21 イスラエルまたヨセフにいひけるは視よわれは死んされど神なんぢらとともにいまして汝等を先祖等の國にみちびきかへりたまふべし 22 且われ一の分をなんぢの兄弟よりもおほく汝にあたふ是わが刀と弓を以てアモリ人の手より取たる者なり

49 ヤコブその子等呼ていひけるは汝らあつまれ我後の日に汝らが遇んところの事を汝等につげん 2 汝等つどひて聽けヤコブの子等よ汝らの父イスラエルに聽け 3 ルベン汝はわが冢子わが勢わが力の始威光の卓越たる者權威の卓越たる者なり 4 汝は水の沸あがるがごとき者なれば卓越を得ざるべし汝父の床にのぼりて浼したればなり嗚呼彼はわが寢牀にのぼれり 5 シメオン、レビは兄弟なりその劍は暴逆の器なり 6 我魂よかれらの席にのぞむなかれ我賣よかれらの集會につらなるなかれ其は彼等その怒にまかせて人をころしその意にまかせて牛を筋截たればなり

7 その怒は烈しかれば詛ふべしその憤は暴あれば詛ふべし我彼らをヤコブの中に分ちイスラエルの中に散さん 8 ユダよ汝は兄弟の讚る者なり汝の手はなんぢの敵の頸を抑へんなんぢの父の子等なんぢの前に鞠ん 9 ユダは獅子の子の如しわが子よ汝は所掠物をさきてかへりのぼる彼は牡獅子のごとく伏し牝獅子のごとく蹲まる誰か之をおこすことをせん 10 杖ユダを離れず法を立る者その足の間をはなることなくしてシロの來る時にまでおよばん彼に諸の民したがふべし 11 彼その驢馬を葡萄の樹に繋ぎその牝驢馬の子を葡萄の蔓に繋がん又その衣を酒にあらひ其服を葡萄の汁にあらふべし 12 その目は酒によりて紅くその齒は乳によりて白し 13 ゼブルンは海邊にすみ舟の泊る海邊に住はんその界はシドンにおよぶべし 14 イッサカルは羊の牢の間に伏す健き驢馬の如し 15 彼みて安泰を善としその國を樂とし肩をさげて負ひ租税をいだして僕となるべし 16 ダンはイスラエルの他の支派の如く其民を鞠かん 17 ダンは路の傍の蛇のごとく途邊にある蝮のごとし馬の踵を噛てその騎者をして後に落しむ 18 エホバよわれ汝の拯救を待ち 19 ガドは軍勢これにせまらんされど彼返てその後にはせまらん 20 アセルよりいづる食物は美るべし彼王の食ふ美味をいださん 21 ナフタリは釋れたる麴のごとし彼美言をいだすなり 22 ヨセフは實を結ぶ樹の芽のごとし即ち泉の傍にある實をむすぶ樹の芽のごとしその枝つひに垣を踰ゆ 23 射者彼をなやまし彼を射かれを惡めり 24 然どかれの弓はなほ勁くあり彼の手の臂は力あり是ヤコブの全能者の手によりてなり其よりイスラエルの譬なる牧者いづ 25 汝の父の神による彼なんぢ

を助けん全能者による彼なんぢを祝まん上なる天の
福、下によこたはる淵の福、乳哺の福、胎の福、汝
にきたるべし **26** 父の汝を祝することはわが父祖の祝
したる所に勝て恒久の山の限極にまでおよばん是等
の祝福はヨセフの首に歸しその兄弟と別になりたる
者の頭頂に歸すべし **27** ベニヤミンは物を噛む狼なり
朝にその所掠物を啖ひ夕にその所攫物をわかたん **28**
是等はイスラエルの十二の支派なり斯その父彼らに
語り彼等を祝せりすなはちその祝すべき所にしたが
ひて彼等諸人を祝せり **29** ヤコブまた彼等に命じて之
にいひけるは我はわが民にくははらんとすヘテ人エ
フロン¹の田にある洞穴にわが先祖等とともに我をは
うむれ **30** その洞穴はカナンの地にてマムレ²のまへな
るマクペラ³の田にあり是はアブラハムがヘテ人エフ
ロンより田とともに購て所有の墓所となせし者なり
31 アブラハムとその妻サラ⁴彼處にはうむられイサク
とその妻リベカ⁵彼處に葬られたり我またかしこにレ
ア⁶を葬れり **32** 彼田とその中の洞穴はヘテの子孫より
購たる者なり **33** ヤコブその子に命ずることを終し時
足を床に斂めて氣たえてその民にくははる

50 ヨセフ父の面に俯し之をいだきて哭き之に接吻
す **2** 而してヨセフその僕なる醫者に命じてその父に
覺らしむ醫者イスラエルに覺れり **3** すなはち之がた
めに四十日を用ふ其は尸に覺るにはこの日數を用ふ
べければなりエジプト人七十日の間之がために哭け
り **4** 哀哭の日すぎし時ヨセフ、パロの家にかたりて
いひけるは我もし汝等の前に恩恵を得るならば請ふ
パロの耳にまうして言へ **5** わが父我死ばカナンの地
にわが掘おきたる墓に我をはうむれといひて我を誓

はしめたり然ば請ふわれをして上りて父を葬らしめ
たまへまた歸りきたらんと 6 パロいひけるは汝の父
汝をちかはせしごとくのぼりて之を葬るべし 7 是に
於てヨセフ父を葬らんとて上るパロの諸の臣パロの
家の長老等エジプトの地の長老等 8 およびヨセフの
全家とその兄弟等およびその父の家之とともに上る
只その子女と羊と牛はゴセンの地にのこせり 9 また
車と騎兵ヨセフにしたがひてのぼり其隊ははなはだ
大なりき 10 彼等つひにヨルダンの外なるアタデの禾
場に到り彼にて大に泣き痛く哀しむヨセフすなはち
七日父のために哭きぬ 11 その國の居人なるカナン人
等アタデの禾場の哀哭を見て是はエジプト人の痛く
なげくなりといへり是によりて其處の名をアベルミ
ツライム(エジプト人の哀哭)と稱ふヨルダンの外に
あり 12 ヤコブの子等その命ぜられたるごとく之にな
せり 13 すなはちヤコブの子等彼をカナンの地に昇ゆ
きて之をマクペラの田の洞穴にはうむれり是はアブ
ラハムがヘテ人エフロンより田とともに購とりて所
有の墓所となせし者にてマムレの前にあり 14 ヨセフ
父を葬りてのち其兄弟および凡て己とともにのぼり
て父をはうむれる者とともにエジプトにかへりぬ 15
ヨセフの兄弟等その父の死たるを見ていひけるはヨ
セフあるいはわれらを恨むることあらん又かならず
われらが彼になしたる諸の惡にむくゆるならんと 16
すなはちヨセフにいひおくりけるはなんぢの父死る
まへに命じて言けらく 17 汝ら斯ヨセフにいふべし汝
の兄弟汝に惡をなしたれども冀はくはその罪咎をゆる
せと然ば請ふ汝の父の神の僕等の咎をゆるせとヨ
セフその言を聞て啼泣り 18 兄弟等もまた自らきたり

ヨセフの面の前に俯し我儕は汝の僕とならんといふ
19 ヨセフかれらに曰けるは懼るなかれ我あに神にか
はらんや 20 汝等は我を害せんとおもひたれども神は
それを善にかはらせ今日のごとく多の民の生命を救
ふにいたらしめんとおもひたまへり 21 故に汝らおそ
るなかれ我なんぢらと汝らの子女をやしなはんと
彼等をなぐさめ懇に之にかたれり 22 ヨセフ父の家族
とともにエジプトにすめりヨセフは百十歳いきなが
らへたり 23 ヨセフ、エフライムの三世の子女をみる
にいたれりマナセの子マキルの子女もうまれてヨセ
フの膝にありき 24 ヨセフその兄弟等にいひけるは我
死ん神かならず汝等を眷顧みなんぢらを此地よりい
だしてそのアブラハム、イサク、ヤコブに誓ひし地
にいたらしめたまはんと 25 ヨセフ神かならず汝等を
かへりみたまはん汝らわが骨をここよりたづさへの
ぼるべしといひてイスラエルの子孫を誓はしむ 26 ヨ
セフ百十歳にして死たれば之に甞りて櫃にをさめて
エジプトにおけり

出エジプト記

1 イスラエルの子等のエジプトに至りし者の名は左のごとし衆人各その家族をたづさへてヤコブとともに至れり **2** すなはちルベン、シメオン、レビ、ユダ、 **3** イツサカル、ゼブルン、ベニヤミン、 **4** ダン、ナフタリ、ガド、アセルなり **5** ヤコブの腰より出たる者は都合七十人ヨセフはすでにエジプトにありき **6** ヨセフとその諸の兄弟および當世の人みな死たり **7** イスラエルの子孫饒く子を生子彌増殖え甚だしく大に強くなりて國に満るにいたれり **8** 茲にヨセフの事をしらざる新き王エジプトに起りしが **9** 彼その民にいひけるは視よ此民イスラエルの子孫われらよりも多く且強し **10** 來れわれら機巧く彼等に事をなさん恐くは彼等多ならん又戦争の起ることある時は彼等敵にくみして我等と戦ひ遂に國よりいでざらんと **11** すなはち督者をかれらの上に立て彼らに重荷をおはせて之を苦む彼等パロのために府庫の邑ピトムとラメセスを建たり **12** 然るにイスラエルの子孫は苦むるに隨ひて増殖たれば皆これを懼れたり **13** エジプト人イスラエルの子孫を嚴く動作かしめ **14** 辛き力役をもて彼等をして苦みて生を度らしむ即ち和泥、作甃および田圃の諸の工にはたらかしめけるが其働かしめし工作は皆嚴かりき **15** エジプトの王又ヘブルの産婆シフラと名くる者とプワと名くる者の二人に諭して **16** いひけるは汝等ヘブルの婦女のために收生をなす時は床の上を見てその子若男子ならばこれを殺せ女子ならば生しおくべしと **17** 然に産婆神を畏れエジプト王の命ぜしごとく爲ずして男子をも生しおけり **18** エジプト王産婆を召て之にいひけるは汝等なんぞ此

事をなし男子を生しおくや 19 産婆パロに言けるはへブルの婦はエジプトの婦のごとくならず彼等は健して産婆のかれらに至らぬ前に産をはるなりと 20 是によりて神その産婆等に恩をほどこしたまへり是において民増ゆきて甚だ強くなりぬ 21 産婆神を畏れたるによりて神かれらのために家を成たまへり 22 斯有しかばパロその凡の民に命じていふ男子の生るあらば汝等これを悉く河に投いれよ女子は皆生しおくべし

2 爰にレビの家の一箇の人往てレビの女を娶れり 2 女妊みて男子を生みその美きを見て三月のあひだこれを匿せしが 3 すでにこれを匿すあたはざるにいたりければ萑の箱舟を之がために取て之に瀝青と樹脂を塗り子をその中に納てこれを河邊の葦の中に置り 4 その姉遙に立てその如何になるかを窺ふ 5 茲にパロの女身を洗んとて河にくだりその婢等河の傍にあゆむ彼葦の中に箱舟あるを見て使女をつかはしてこれを取きたらしめ 6 これを啓きてその子のをるを見る嬰兒すなはち啼く彼これを憐みていひけるは是はへブル人の子なりと 7 時にその姉パロの女にいひけるは我ゆきてへブルの女の中より此子をなんぢのために養ふべき乳母を呼きたらんか 8 パロの女往よと之にいひければ女子すなはち往てその子の母を呼きたる 9 パロの女かれにいひけるは此子をつれゆきて我ために之を養へ我その値をなんぢにとらせんと婦すなはちその子を取てこれを養ふ 10 斯てその子の長ずるにおよびて之をパロの女の所にたづさへゆきければすなはちこれが子となる彼その名をモーセ(援出)と名けて言ふ我これを水より援いだせしに因ると 11 茲にモーセ生長におよびて一時いでてその兄弟等

の所にいたりその重荷を負ふを見しが會一箇のエジプト人が一箇のイスラエル人即ちおのれの兄弟を撃つを見たれば **12** 右左を視まはして人のをらざるを見てそのエジプト人を撃ころし之を沙の中に埋め匿せり **13** 次の日また出て二人のヘブル人の相争ふを見たらばその曲き者にむかひ汝なんぞ汝の隣人を撃つやといふに **14** 彼いひけるは誰が汝を立てわれらの君とし判官としたるや汝かのエジプト人をころせしごとく我をも殺さんとするやと是においてモーセ懼れてその事かならず知れたるならんとおもへり **15** パロ此事を聞てモーセを殺さんともとめければモーセすなはちパロの面をさけて逃げのびミデアンの地に住り彼井の傍に坐せり **16** ミデアンの祭司に七人の女子ありしが彼等來りて水を汲み水鉢に盈て父の羊群に飲はんとしけるに **17** 牧羊者等きたりて彼らを逐はらひければモーセ起あがりて彼等をたすけその羊群に飲ふ **18** 彼等その父リウエルに至れる時父言けるは今日はなんぢら何ぞかく速にかへりしや **19** かれらいひけるは一箇のエジプト人我らを牧羊者等の手より救いだし亦われらのために水を多く汲て羊群に飲しめたり **20** 父女等にいひけるは彼は何處にをるや汝等なんぞその人を遣てきたりしや彼をよびて物を食しめよと **21** モーセこの人とともに居ることを好めり彼すなはちその女子チツポラをモーセに與ふ **22** 彼男子を生みければモーセその名をゲルシヨム(客)と名けて言ふ我異邦に客となりをればなりと **23** 斯て時をふる程にジプトの王死りイスラエルの子孫その勞役の故によりて歎き號ぶにその勞役の故によりて號ぶところの聲神に達りければ **24** 神その長呻を聞き神そのアブ

ラハム、イサク、ヤコブになしたる契約を憶え 25 神
イスラエルの子孫を眷み神知しめしたまへり

3 モーセその妻の父なるミデアンの祭司エテロの群
を牧ひをりしがその群を曠野の奥にみちびきて神の
山ホレブに至るに 2 エホバの使者棘の裏の火燄の中
にて彼にあらはる彼見るに棘火に燃れどもその棘燬
ず 3 モーセイひけるは我ゆきてこの大なる觀を見 何
故に棘の燃たえざるかを見ん 4 エホバ彼がきたり觀
んとするを見たまふ即ち神棘の中よりモーセよモー
セよと彼をよびたまひければ我ここにありといふに
5 神いひたまひけるは此に近よるなかれ汝の足より履
を脱ぐべし汝が立つ處は聖き地なればなり 6 又いひ
たまひけるは我はなんぢの父の神アブラハムの神イ
サクの神ヤコブの神なりとモーセ神を見ることを畏
れてその面を蔽せり 7 エホバ言たまひけるは我まこ
とにエジプトにをるわが民の苦患を觀また彼等がそ
の驅使者の故をもて號ぶところの聲を聞き我かれら
の憂苦を知るなり 8 われ降りてかれらをエジプト人
の手より救ひいだし之を彼地より導きのぼりて善き
廣き地乳と蜜との流るる地すなはちカナン人ヘテ人
アモリ人ベリジ人ヒビ人エブス人のをる處に至らし
めんとす 9 今イスラエルの子孫の號呼われに達る我
またエジプト人が彼らを苦むるその暴虐を見たり 10
然ば來れ我なんぢをパロにつかはし汝をしてわが民
イスラエルの子孫をエジプトより導きいだしめん
11 モーセ神にいひけるは我は如何なる者ぞや我豈パ
ロの許に往きイスラエルの子孫をエジプトより導き
いだしべき者ならんや 12 神いひたまひけるは我かな
らず汝とともにあるべし是はわが汝をつかはせる證

據なり汝民をエジプトより導きいだしたる時汝等この山にて神に事へん **13** モーセ神にいひけるは我イスラエルの子孫の所にゆきて汝らの先祖等の神我を汝らに遣はしたまふと言んに彼等もし其名は何と我に言ば何とかれらに言べきや **14** 神モーセにいひたまひけるは我は有て在る者なり又いひたまひけるは汝かくイスラエルの子孫にいふべし我有といふ者我を汝らに遣したまふと **15** 神またモーセにいひたまひけるは汝かくイスラエルの子孫にいふべし汝らの先祖等の神アブラハムの神イサクの神ヤコブの神エホバわれを汝らにつかはしたまふと是は永遠にわが名となり世々にわが誌となるべし **16** 汝往てイスラエルの長老等をあつめて之にいふべし汝らの先祖等の神アブラハム、イサク、ヤコブの神エホバ我にあらはれて言たまひけらく我誠になんぢらを眷み汝らがエジプトにて蒙るところの事を見たり **17** 我すなはち言り我汝らをエジプトの苦患の中より導き出してカナン人ヘテ人アモリ人ペリジ人ヒビ人エブス人の地すなはち乳と蜜の流るる地にのぼり至らしめんと **18** 彼等なんぢの言に聴したがふべし汝とイスラエルの長老等エジプトの王の許にいたりて之に言へヘブル人の神エホバ我らに臨めり然ば請ふわれらをして三日程ほど曠野に入しめわれらの神エホバに犠牲をささぐることを得せしめよと **19** 我しるエジプトの王は假令能力ある手をくはふるも汝等の往をゆるさざるべし **20** 我すなはちわが手を舒べエジプトの中に諸の奇跡を行ひてエジプトを撃ん其後かれ汝等を去しむべし **21** 我エジプト人をして此民をめぐましめん汝ら去る時手を空うして去るべからず **22** 婦女皆その隣人とおの

れの家に入る者にと金の飾品銀の飾品および衣服を
乞べし而して汝らこれを汝らの子女に穿戴せよ汝等
かくエジプト人の物を取べし

4 モーセ對へていひけるは然ながら彼等我を信ぜず
又わが言に聽したがはずして言んエホバ汝にあらは
れたまはずと **2** エホバかれにいひたまひけるは汝の
手にある者は何なるや彼いふ杖なり **3** エホバいひた
まひけるは其を地に擲よとすなはち之を地になぐる
に蛇となりければモーセその前を避たり **4** エホバ、
モーセにいひたまひけるは汝の手をのべて其尾を執
れとすなはち手をのべて之を執ば手にいりて杖とな
る **5** エホバいひたまふ是は彼らの先祖等の神アブラ
ハムの神イサクの神ヤコブの神エホバの汝にあらは
れたることを彼らに信ぜしめんためなり **6** エホバま
たかれに言たまひけるは汝の手を懷に納よとすなは
ち手を懷にいれて之を出し見るにその手癩病を生じ
て雪のごとくなれり **7** エホバまた言たまひけるは汝
の手をふたたび懷にいれよと彼すなはちふたたび其
手を懷にいれて之を懷より出し見るに變りて他處の
肌膚のごとくなる **8** エホバいひたまふ彼等もし汝
を信ぜずまたその最初の徴の聲に聽從はざるならば
後の徴の聲を信ぜん **9** 彼らもし是ふたつの徴をも信
ぜずして汝の言に聽從はざるならば汝河の水をとり
て之を陸地にそそげ汝が河より取たる水陸地にて血
となるべし **10** モーセ、エホバにいひけるはわが主よ
我は素言辭に敏き人にあらず汝が僕に語りたまへる
に及びても猶しかり我は口重く舌重き者なり **11** エホ
バかれにいひたまひけるは人の口を造る者は誰なる
や啞者聾者目明者瞽者などを造る者は誰なるや我エ

ホバなるにあらずや 12 然ば往けよ我なんぢの口にありて汝の言ふべきことを教へん 13 モーセイひけるはわが主よ願くは遣すべき者をつかはしたまへ 14 是においてエホバ、モーセにむかひ怒を發していひたまひけるはレビ人アロンは汝の兄弟なるにあらずや我かれが言を善するを知るまた彼なんぢに遇んとていで來る彼汝を見る時心に喜ばん 15 汝かれに語りて言をその口に授くべし我なんぢの口と彼の口にありて汝らの爲べき事を教へん 16 彼なんぢに代て民に語らん彼は汝の口に代らん汝は彼のために神に代るべし 17 なんぢこの杖を手に執り之をもて奇蹟をおこなふべし 18 是においてモーセゆきてその妻の父エテロの許にかへりて之にいふ請ふ我をして往てわがエジプトにある兄弟等の所にかへらしめ彼等のなほ生ながらへをるや否を見さしめよエテロ、モーセに安然に往くべしといふ 19 爰にエホバ、ミデアンにてモーセにいひたまひけるは往てエジプトにかへれ汝の生命をもとめし人は皆死たりと 20 モーセすなはちその妻と子等をとり之を驢馬に乗てエジプトの地にかへるモーセは神の杖を手に執り 21 エホバ、モーセにいひたまひけるは汝エジプトにかへりゆける時はかならず我がなんぢの手に授けたるところの奇跡を悉くパロのまへにおこなふべし但し我かれの心を剛愎にすれば彼民を去しめざるべし 22 汝パロに言べしエホバかく言ふイスラエルはわが子わが冢子なり 23 我なんぢにいふ我が子を去らしめて我に事ふることをえせしめよ汝もし彼をさらしむることを拒ば我なんぢの子なんぢの冢子を殺すべしと 24 モーセ途にある時エホバかれの宿所にて彼に遇てころさんとしたまひけ

れば 25 チツポラ利き石をとりてその男子の陽の皮を
割りモーセの足下になげうちて言ふ汝はまことにわ
がためには血の夫なりと 26 是においてエホバ、モー
セをゆるしたまふ此時チツポラが血の夫といひしは
割禮の故によりてなり 27 爰にエホバ、アロンにいひ
たまひけるに曠野にゆきてモーセを迎へよと彼すな
はちゆきて神の山にてモーセに遇ひ之に接吻す 28 モ
ーセ、エホバがおのれに言ふくめて遣したまへる諸
の言とエホバのおのれに命じたまひし諸の奇跡とを
アロンにつげたり 29 斯てモーセとアロン往てイスラ
エルの子孫の長老を盡く集む 30 而してアロン、エホ
バのモーセにかたりたまひし言を盡くつぐ又彼民の
目のまへにて奇蹟をなしければ 31 民すなはち信ず彼
等エホバがイスラエルの民をかへりみその苦患をお
もひたまふを聞て身をかがめて拝をなせり

5 その後モーセとアロン入てパロにいふイスラエルの
神エホバ斯いひたまふ我民を去しめ彼等をして曠
野に於て我を祭ることをえせしめよと 2 パロいひけ
るはエホバは誰なればか我その聲にしたがひてイス
ラエルを去しむべき我エホバを識ず亦イスラエルを
去しめじ 3 彼ら言けるはヘブル人の神我らに顯れた
まへり請ふ我等をして三日程ほど曠野にいりてわれ
らの神エホバに犠牲をささぐることをえせしめよ恐
くはエホバ疫病か又は刀兵をもて我らをなやました
まはん 4 エジプト王かれらに言けるは汝等モーセ、
アロンなんぞ民の操作を妨ぐるや往てなんぢらの荷
を負へ 5 パロまたいふ土民今は多かり然るに汝等か
れらをして荷をおふことを止しめんとす 6 パロ此日
民が驅使ふ者等および民の有司等に命じていふ 7 汝

等再び前のごとく民に磚瓦を造る禾稈を與ふべから
ず彼等をして往てみづから禾稈をあつめしめよ 8 又
た彼等が前に造りし磚瓦の數のごとくに仍かれらに
之をつくらしめよ其を減すなかれ彼等は懶惰が故に
我儕をして往てわれらの神に犠牲をささげしめよと
呼はり言ふなり 9 人々の工作を重くして之に勞かし
めよ然ば偽の言を聽ことあらじと 10 民を驅使ふ者等
およびその有司等出ゆきて民にいひけるはパロかく
言たまふ我なんぢらに禾稈をあたへじ 11 汝等往て禾
稈のある處にて之をとれ但しなんぢらの工作は分毫
も減さざるべしと 12 是において民遍くエジプトの地
に散て草藁をあつめて禾稈となす 13 驅使者かれらを
促たてて言ふ禾稈のありし時のごとく汝らの工作汝
らの日々業をなしをふべしと 14 パロの驅使者等が
イスラエルの子孫の上に立たるところの有司等撻れ
なんぢら何ぞ昨日も今日も磚瓦を作るところの汝ら
の業を前のごとくに爲しをへざるやと言ふ 15 是に於
てイスラエルの子孫の有司等來りてパロに呼はりて
言ふ汝なんぞ斯僕等になすや 16 僕等に禾稈を與へず
してわれらに磚瓦を作れといふ視よ僕等は撻る是な
んぢの民の過なりと 17 然るにパロいふ汝等は懶惰し
懶惰し故に汝らは我らをして往てエホバに犠牲をさ
さげしめよと言ふなり 18 然ば汝ら往て操作けよ禾稈
はなんぢらに與ふることなかるべけれどなんぢら尚
數のごとくに磚瓦を交納むべしと 19 イスラエルの子
孫の有司等汝等その日々につくる磚瓦を減すべから
ずと言ふを聞て災害の身におよぶを知り 20 彼らパロ
をはなれて出たる時モーセとアロンの對面にたてる
を見れば 21 之にいひけるは願くはエホバ汝等を鑿

みて鞆きたまへ汝等はわれらの臭をパロの目と彼の僕
の目に忌嫌はれしめ刀を彼等の手にわたして我等を殺さしめんとするなりと **22** モーセ、エホバに返りて言ふわが主よ何て此民をあしくしたまふや何のために我をつかはしたまひしや **23** わがパロの許に來りて汝の名をもて語りしよりして彼この民をあしくす汝また絶てなんぢの民をすくひたまはざるなり

6 エホバ、モーセに言たまひけるは今汝わがパロに爲るところの事を見るべし能ある手の加はるによりてパロ彼らをさらしめん能ある手の加はるによりてパロ彼らを其國より逐いだすべし **2** 神モーセに語りて之にいひたまひけるは我はエホバなり **3** 我全能の神といひてアブラハム、イサク、ヤコブに顯れたり然ど我名のエホバの事は彼等しらざりき **4** 我また彼らとわが契約を立て彼等が旅して寄居たる國カナン
の地をかれらに與ふ **5** 我またエジプト人が奴隸となせるイスラエルの子孫の呻吟た聞き且我が契約を憶ひ出づ **6** 故にイスラエルの子孫に言へ我はエホバなり我汝らをエジプト人の重負の下より携出し其使役をまぬかれしめ又腕をのべ大なる罰をほどこして汝等を贖はん **7** 我汝等を取て吾民となし汝等の神となるべし汝等はわがエジプト人の重擔の下より汝らを携出したるなんぢらの神エホバなることを知ん **8** 我わが手をあげてアブラハム、イサク、ヤコブに與へんと誓ひし地に汝等を導きいたり之を汝等に與へて産業となさしめん我はエホバなり **9** モーセかくイスラエルの子孫に語けれども彼等は心の傷ると役事の苦きとの爲にモーセに聽ざりき **10** エホバ、モーセに告ていひたまひけるは **11** 入てエジプトの王パロに語

りイスラエルの子孫をその國より去しめよ **12** モーセ、エホバの前に申していふイスラエルの子孫既に我に聽ず我は口に割禮をうけざる者なればパロいかで我にきかんや **13** エホバ、モーセとアロンに語り彼等に命じてイスラエルの子孫とエジプトの王パロの所に往しめイスラエルの子孫をエジプトの地より導きいだしめたまふ **14** かれらの父の家々の長は左のごとしイスラエルの冢子ルベンの子ヘノク、バル、ヘヅロン、カルミ是等はルベンの家族なり **15** シメオンの子エムエル、ヤミン、オハデ、ヤキン、ゾハルおよびカナンの女の生しシヤウル是らはシメオンの家族なり **16** レビの子の名はその世代にしたがひて言ば左のごとしゲルシヨン、コハテ、メラリ是なりレビの齡の年は百三十七年なりき **17** ゲルシヨンの子はその家族にしたがひて言ばリブニおよびシメイなり **18** コハテの子はアムラム、イツハル、ヘブロン、ウジエルなりコハテの齡の年は百三十三年なりき **19** メラリの子はマヘリおよびムシなり是等はレビの家族にしてその世代にしたがひて言るものなり **20** アムラム其伯母ヨケペデを妻にめとれり彼アロンとモーセを生むアムラムの齡の年は百三十七年なりき **21** イツハルの子はコラ、ネベグ、ジクリなり **22** ウジエルの子はミサエル、エルザパン、シテリなり **23** アロン、ナシヨンの姉アミナダブの女エリセバを妻にめとれり彼ナダブ、アビウ、エレアザル、イタマルを生む **24** コラの子はアツシル、エルカナ、アビアサフ是等はコラ人の族なり **25** アロンの子エレアザル、ブテエルの女の中より妻をめとれり彼ピネハスを生む是等はレビ人の父の家々の長にしてその家族に循ひて言る

者なり 26 エホバがイスラエルの子孫を其軍隊にした
がひてエジプトの地より導きいだせよといひたまひ
しは此アロンとモーセなり 27 彼等はイスラエルの子
孫をエジプトより導きいださんとしてエジプトの王
パロに語りし者にして即ち此モーセとアロンなり 28
エホバ、エジプトの地にてモーセに語りたまへる日
に 29 エホバ、モーセに語りて言たまひけるは我はエ
ホバなり汝わが汝にいふ所を悉皆くエジプトの王パ
ロに語るべし 30 モーセ、エホバの前に言けるは我は
口に割禮を受ざる者なればパロいかで我に聽んや

7 エホバ、モーセに言たまひけるは視よ我汝をして
パロにおけること神のごとくならしむ汝の兄弟アロ
ンは汝の預言者となるべし 2 汝はわが汝に命ずる所
を盡く宣べし汝の兄弟アロンはパロに告ることを爲
べし彼イスラエルの子孫をその國より出すに至らん
3 我パロの心を剛愎にして吾徴と奇跡をエジプトの國
に多くせん 4 然どパロ汝に聽ざるべし我すなはち吾
手をエジプトに加へ大なる罰をほどこして吾軍隊わ
が民イスラエルの子孫をエジプトの國より出さん 5
我わが手をエジプトの上に伸てイスラエルの子孫を
エジプト人の中より出す時には彼等我のエホバなる
を知ん 6 モーセとアロン斯おこなひエホバの命じた
まへる如くに然なしぬ 7 そのパロと談論ける時モー
セは八十歳アロンは八十三歳なりき 8 エホバ、モー
セとアロンに告て言たまひけるは 9 パロ汝等に語り
て汝ら自ら奇蹟を行へと言時には汝アロンに言べし
汝の杖をとりてパロの前に擲てよと其は蛇とならん
10 是に於てモーセとアロンはパロの許にいたりエホ
バの命じたまひしごとくに行へり即ちアロンその杖

をパロとその臣下の前に擲しに蛇となりぬ 11 斯在しかばパロもまた博士と魔術士を召よせたるにエジプトの法術士等もその秘術をもてかくおこなへり 12 即ち彼ら各人その杖を投たれば蛇となりけるがアロンの杖かれらの杖を呑つくせり 13 然るにパロの心剛愎になりて彼らに聽ことをせざりきエホバの言たまひし如し 14 エホバ、モーセに言たまひけるはパロは心頑にして民を去しむることを拒むなり 15 朝におよびて汝パロの許にいたれ視よ彼は水に臨む汝河の邊にたちて彼を逆ふべし汝かの蛇に化し杖を手にとりて居り 16 彼に言ふべしヘブル人の神エホバ我を汝につかはして言しむ吾民を去しめて曠野にて我に事ふることを得せしめよ視よ今まで汝は聽入ざりしなり 17 エホバかく言ふ汝これによりて我がエホバなるを知らん視よ我わが手の杖をもて河の水を撃ん是血に變ずべし 18 而して河の魚は死に河は臭くならんエジプト人は河の水を飲ことを厭ふにいたるべし 19 エホバまたモーセに言たまはく汝アロンに言へ汝の杖をとりて汝の手をエジプトの上に伸べ流水の上河々の上池塘の上一切の湖水の上に伸て血とならしめよエジプト全國に於て木石の器の中に凡て血あるにいたらん 20 モーセ、アロンすなはちエホバの命じたまへるごとくに爲り即ち彼パロとその臣下の前にて杖をあげて河の水を撃しに河の水みな血に變じたり 21 是において河の魚死て河臭くなりエジプト人河の水を飲ことを得ざりき斯エジプト全國に血ありき 22 エジプトの法術士等もその秘術をもて斯のごとく行へりパロは心頑固にして彼等に聽ことをせざりきエホバの言たまひし如し 23 パロすなはち身をめぐらしてその家

に入り此事にも心をとめざりき 24 エジプト人河の水を飲ことを得ざりしかば皆飲水を得んとて河のまほりを掘たりエホバ河を撃たまひてより後七日たちぬ

8 エホバ、モーセに言たまひけるは汝パロに詣りて彼に言へエホバかく言たまふ吾民を去しめて我に事ふることを得せしめよ 2 汝もし去しむることを拒まば我蛙をもて汝の四方の境を惱さん 3 河に蛙むらがり上りきたりて汝の家にいり汝の寢室にいり汝の牀にのぼり汝の臣下の家にいり汝の民の所にいたり汝の竈におよび汝の搓鉢にいらん 4 蛙なんぢの身にのぼり汝の民と汝の臣下の上へのぼるべし 5 エホバ、モーセに言たまはく汝アロンに言へ汝杖をとりて手を流水の上に伸べ河々の上と池塘の上に伸て蛙をエジプトの地に上らしめよ 6 アロン手をエジプトの水のうへに伸たれば蛙のぼりきたりてエジプトの地を蔽ふ 7 法術士等もその秘術をもて斯おこなひ蛙をエジプトの地に上らしめたり 8 パロ、モーセとアロンを召て言けるはエホバに願ひてこの蛙を我とわが民の所より取さらしめよ我この民を去しめてエホバに犠牲をささぐることを得せしめん 9 モーセ、パロに言けるは我なんぢと汝の臣下と汝の民のために願ひて何時此蛙を汝と汝の家より絶さりて河にのみ止らしむべきや我に示せと 10 彼明日といひければモーセ言ふ汝の言のごとくに爲し汝をして我らの神エホバのごとき者なきことを知しめん 11 蛙汝と汝の家を離れ汝の臣下と汝の民を離れて河にのみ止るべしと 12 モーセとアロンすなはちパロを離れて出でモーセそのパロに至らしめたまひし蛙のためにエホバに呼はりしに 13 エホバ、モーセの言のごとくなしたまひて

蛙家より村より田野より死亡たり 14 茲にこれを攢むるに山をなし地臭くなりぬ 15 然るにパロは嘘氣時あるを見てその心を頑固にして彼等に聽ことをせざりきエホバの言たまひし如し 16 エホバ、モーセに言たまひけるは汝アロンに言へ汝の杖を伸べ地の塵を打てエジプト全國に蚤とならしめよと 17 彼等斯なせり即ちアロン杖をとりて手を伸べ地の塵を撃けるに蚤となりて人と畜につけりエジプト全國において地の塵みな蚤となりぬ 18 法術士等その秘術をもて斯おこなひて蚤を出さんとしたりしが能はざりき蚤は人と畜に著く 19 是において法術士等パロに言ふ是は神の指なりと然るにパロは心剛愎にして彼等に聽ざりきエホバの言たまひし如し 20 エホバ、モーセに言たまはく汝朝早く起てパロの前に立て視よ彼は水に臨む汝彼に言へエホバかく言たまふわが民を去しめて我に事ふることを得せしめよ 21 汝もしわが民を去しめずば視よ我汝と汝の臣下と汝の民と汝の家とに蚋をおくらんエジプト人の家々には蚋充べし彼らの居るところの地も然らん 22 その日に我わが民の居るゴセンの地を區別おきて其處に蚋あらしめじ是地の中にありて我のエホバなることを汝が知んためなり 23 我わが民と汝の民の間に區別をたてん明日この徴あるべし 24 エホバかく爲たまひたれば蚋おびただしく出來りてパロの家にいりその臣下の家にいりエジプト全國にたり蚋のために地害はる 25 是においてパロ、モーセとアロンを召ていひけるは汝等往て國の中にて汝らの神に犠牲を獻げよ 26 モーセ言ふ然するは宜からず我等はエジプト人の崇拜む者を犠牲としてわれらの神エホバに獻ぐべければなり我等もしエジブ

ト人の崇拜む者をその目の前にて犠牲に献げなば彼等石にて我等を撃ざらんや 27 我等は三日路ほど曠野にいりて我らの神エホバに犠牲を献げその命じたまひしごとくせんとす 28 パロ言けるは我汝らを去しめて汝らの神エホバに曠野にて犠牲を献ぐることを得せしめん但餘に遠くは行べからず我ために祈れよ 29 モーセ言けるは視よ我汝をはなれて出づ我エホバに祈ん明日蚘パロとその臣下とその民を離れん第パロ再び偽をおこなひ民を去しめてエホバに犠牲をささぐるを得せしめざるが如きことを爲ざれ 30 かくてモーセ、パロをはなれて出でエホバに祈りたれば 31 エホバ、モーセの言のごとく爲したまへり即ちその蚘をパロとその臣下とその民よりはなれしめたまふ一ものこらざりき 32 然るにパロ此時にもまたその心を頑固にして民を去しめざりき

9 爰にエホバ、モーセにいひたまひけるはパロの所にいりてかれに告よへブル人の神エホバ斯いひたまふ吾民を去しめて我につかふることをえせしめよ 2 汝もし彼等をさらしむることを拒みて尚かれらを拘留へなば 3 エホバの手野にをる汝の家畜馬驢馬駱駝牛および羊に加はらん即ち甚だ悪き疾あるべし 4 エホバ、イスラエルの家畜とエジプトの家畜とを別ちたまはんイスラエルの子孫に屬する者は死る者あらざるべしと 5 エホバまた期をさだめて言たまふ明日エホバこの事を國になさんと 6 明日エホバこの事をなしたまひければエジプトの家畜みな死り然どイスラエルの子孫の家畜は一も死ざりき 7 パロ人をつかはして見さしめたるにイスラエルの家畜は一頭だにも死ざりき然どもパロは心剛愎にして民をさらしめ

ざりき 8 またエホバ、モーセとアロンにいひたまひけるは汝等竈爐の灰を一握とれ而してモーセ、パロの目の前にて天にむかひて之をまきちらすべし 9 其灰エジプト全國に塵となりてエジプト全國の人と畜獸につき膿をもちて脹るる腫物とならんと 10 彼等すなはち竈爐の灰をとりてパロの前に立ちモーセ天にむかひて之をまきちらしければ人と獸畜につき膿をもちて脹るる腫物となれり 11 法術士等はその腫物のためにモーセの前に立つことを得ざりき腫物は法術士等よりして諸のエジプト人にまで生じたり 12 然どエホバ、パロの心を剛愎にしたまひたれば彼らに聽ざりきエホバのモーセに言給ひし如し 13 爰にエホバ、モーセにいひたまひけるは朝早くおきてパロの前にたちて彼に言へヘブル人の神エホバ斯いひたまふ吾民を去しめて我に事ふるをえせしめよ 14 我此度わが諸の災害を汝の心となんぢの臣下およびなんぢの民に降し全地に我ごとき者なきことを汝に知しめん 15 我もしわが手を伸べ疫病をもて汝となんぢの民を撃たれば汝は地より絶れしならん 16 抑わが汝をたてたるは即ちなんぢをしてわが權能を見さしめわが名を全地に傳へんためなり 17 汝なほ吾民の前に立ふさがりて之を去しめざるや 18 視よ明日の今頃我はなはだ大なる雹を降すべし是はエジプトの開國より今までに嘗てあらざりし者なり 19 然ば人をやりて汝の家畜および凡て汝が野に有る物を集めよ人も獸畜も凡て野にありて家に歸らざる者は雹その上にふりくだりて死るにたらん 20 パロの臣下の中エホバの言を畏る者はその僕と家畜を家に逃いらしめしが 21 エホバの言を意にとめざる者はその僕と家畜を野に置り 22

エホバ、モーセにいひたまひけるは汝の手を天に舒てエジプト全國に雹あらしめエジプトの國中の人と獸畜と田圃の諸の蔬にふりくだらしめよと 23 モーセ天にむかひて杖を舒たればエホバ雷と雹を遣りたまふ又火いでて地に馳すエホバ雹をエジプトの地に降せたまふ 24 斯雹ふり又火の塊雹に雜りて降る甚だ勵しエジプト全國には其國を成てよりこのかた未だ斯る者あらざりしなり 25 雹エジプト全國に於て人と獸畜とをいはず凡て田圃にをる者を撃り雹また田圃の諸の蔬を撃ち野の諸の樹を折り 26 唯イスラエルの子孫のをるゴセンの地には雹あらざりき 27 是に於てパロ人をつかはしてモーセとアロンを召てこれに言けるは我此度罪ををかしたりエホバは義く我とわが民は悪し 28 エホバに願ひてこの神鳴と雹を最早これにて足しめよ我なんぢらを去しめん汝等今は留るにおよばず 29 モーセかれに曰けるは我邑より出て我手をエホバに舒ひろげん然ば雷やみて雹かさねてあらざるべし斯して地はエホバの所屬なるを汝にしらしめん 30 然ど我しる汝となんぢの臣下等はなほエホバ神を畏れざるならんと 31 楮麻と大麥は撃れたり大麥は穂いで麻は花さきみればなり 32 然ど小麥と裸麥は未だ長ざりしによりて撃れざりき 33 モーセ、パロをはなれて邑より出でエホバにむかひて手をのべひろげれば雷と雹やみて雨地にふらずなりぬ 34 然るにパロ雨と雹と雷鳴のやみたるを見て復も罪を犯し其心を剛硬にす彼もその臣下も然り 35 即ちパロは心剛愎にしてイスラエルの子孫を去しめざりきエホバのモーセによりて言たまひしごとし

10 爰にエホバ、モーセにいひたまひけるはパロの所に入れ我かれの心とその臣下の心を剛硬にせり是はわが此等の徴を彼等の中に示さんため **2** 又なんぢをして吾がエジプトにて行ひし事等すなはち吾がエジプトの中にてなしたる徴をなんぢの子となんぢの子の子の耳に語りしめんためなり斯して汝等わがエホバなるを知べし **3** モーセとアロン、パロの所にいりて彼にいひけるはヘブル人の神エホバかく言たまふ何時まで汝は我に降ることを拒むや我民をさらしめて我に事ふることをえせしめよ **4** 汝もしわが民を去しむることを拒まば明日我蝗をなんぢの境に入しめん **5** 蝗地の面を蔽て人地を見るあたはざるべし蝗かの免かれてなんぢに遺れる者すなはち雹に打のこされたる者を食ひ野に汝らのために生る諸の樹をくらはん **6** 又なんぢの家となんぢの臣下の家々および凡のエジプト人の家に満べし是はなんぢの父となんぢの父の父が世にいでしより今日にいたるまで未だ嘗て見ざるものなりと斯て彼身をめぐらしてパロの所よりいでたり **7** 時にパロの臣下パロにいひけるは何時まで此人われらの羈となるや人々を去しめてその神エホバに事ふることをえせしめよ汝なほエジプトの滅ぶるを知ざるやと **8** 是をもてモーセとアロンふたび召れてパロの許にいたるにパロかれらにいふ往てなんぢらの神エホバに事よ但し往く者は誰と誰なるや **9** モーセいひけるは我等は幼者をも老者をも子息をも息女をも撃へて行き羊をも牛をもたづさへて往くべし其は我らエホバの祭禮をなさんとすればなり **10** パロかれらにいひけるは我汝等となんぢらの子等を去しむる時はエホバなんぢらと偕に在れ慎

めよ悪き事なんぢらの面のまへにあり **11** そは宜から
ず汝ら男子のみ往てエホバに事よ是なんぢらが求む
るところなりと彼等つひにパロの前より逐いださる
12 爰にエホバ、モーセにいひたまひけるは汝の手を
エジプトの地のうへに舒て蝗をエジプトの國にのぞ
ませて彼の雹が打殘したる地の諸の蔬を悉く食しめ
よ **13** モーセすなはちエジプトの地の上に其杖をのべ
ければエホバ東風をおこしてその一日一夜地にふか
しめたまひしが東風朝におよびて蝗を吹きたりて **14**
蝗エジプト全國にのぞみエジプトの四方の境に居て
害をなすこと太甚し是より先には斯のごとき蝗なか
りし是より後にもあらざるべし **15** 蝗全國の上を蔽ひ
ければ國暗くなりぬ而して蝗地の諸の蔬および雹の
打殘せし樹の菓を食ひたればエジプト全國に於て樹
にも田圃の蔬にも青き者とはのこらざりき **16** 是を
もてパロ急ぎモーセとアロンを召て言ふ 我なんぢら
の神エホバと汝等とにむかひて罪ををかせり **17** 然ば
請ふ今一次のみ吾罪を宥してなんぢらの神エホバに
願ひ唯此死を我より取はなさしめよと **18** 彼すなはち
パロの所より出てエホバにねがひければ **19** エホバは
なはだ強き西風を吹めぐらせて蝗を吹はらはしめ之
を紅海に驅いれたまひてエジプトの四方の境に蝗ひ
とつも遺らざるにいたれり **20** 然れどもエホバ、パロ
の心を剛愎にしたまひたればイスラエルの子孫をさ
らしめざりき **21** エホバまたモーセにいひたまひける
は天にむかひて汝の手を舒べエジプトの國に黑暗を
起すべし其黑暗は摸るべきなりと **22** モーセすなはち
天にむかひて手を舒ければ稠密黑暗三日のあひだエ
ジプト全國にありて **23** 三日の間は人々たがひに相見

るあははず又おのれの處より起ものなかりき然どイスラエルの子孫の居處には皆光ありき 24 是に於てパロ、モーセを呼ていひけるは汝等ゆきてエホバに事よ唯なんぢらの羊と牛を留めおくべし汝らの子女も亦なんぢらとともに往べし 25 モーセイひけるは汝また我等の神エホバに献ぐべき犠牲と燔祭の物をも我儕に與ふべきなり 26 われらの家畜もわれらとともに往べし一蹄も後にのこすべからず其は我等その中を取てわれらの神エホバに事べきが故なりまたわれら彼處にいたるまでは何をもてエホバに事ふべきかを知ざればなりと 27 然れどもエホバ、パロの心を剛愎にしたまひたればパロかれらをさらしむることを肯ぜざりき 28 すなはちパロ、モーセに言ふ我をはなれて去よ自ら慎め重てわが面を見るなかれ汝わが面を見る日には死べし 29 モーセイひけるは汝の言ふところは善し我重て復なんぢの面を見ざるべし

11 エホバ、モーセにいひたまひけるは我今一箇の災をパロおよびエジプトに降さん然後かれ汝等を此處より去しむべし彼なんぢらを全く去しむるには必ず汝らを此より逐はらはん 2 然ば汝民の耳にかたり男女をしておのおのその隣々に銀の飾品金の飾具を乞しめよと 3 エホバつひに民をしてエジプト人の恩を蒙らしめたまふ又その人モーセはエジプトの國にてパロの臣下の目と民の目に甚だ大なる者と見えたり 4 モーセイひけるはエホバかく言たまふ夜半頃われ出てエジプトの中に至らん 5 エジプトの國の中の長子たる者は位に坐するパロの長子より磨の後にをる婢の長子まで悉く死べし又獣畜の首出もしかり 6 而してエジプト全國に大なる號哭あるべし是までは

のごとき事はあらずまた再び斯ること有ざるべし 7
然どイスラエルの子孫にむかひては犬もその舌をう
ごかさじ人にむかひても獣畜にむかひても然り汝等
これによりてエホバがエジプト人とイスラエルのあ
ひだに區別をなしたまふを知べし 8 汝の此臣等みな
わが許に下り來てわれを拜し汝となんぢに從がふ民
みな出よと言ん然る後われ出べしと烈しく怒りてパ
ロの所より出たり 9 エホバ、モーセにいひたまひけ
るはパロ汝に聽ざるべし是をもて吾がエジプトの國
に奇蹟をおこなふこと増べし 10 モーセとアロンこの
諸の奇蹟をことごとくパロの前に行ひたれどもエホ
バ、パロの心を剛愎にしたまひければ彼イスラエル
の子孫をその國より去しめざりき

12 エホバ、エジプトの國にてモーセとアロンに告
ていひたまひけるは 2 此月を汝らの月の首となせ汝
ら是を年の正月となすべし 3 汝等イスラエルの全會
衆に告て言べし此月の十日に家の父たる者おのおの
羔羊を取べし即ち家ごとに一箇の羔羊を取べし 4 も
し家族少くして其羔羊を盡すことあたはずばその家
の隣なる人とともに人の數にしたがひて之を取べし
各人の食ふ所にしたがひて汝等羔羊を計るべし 5 汝
らの羔羊は疵なき當歳の牡なるべし汝等綿羊あるひ
は山羊の中よりこれを取べし 6 而して此月の十四日
まで之を守りおきイスラエルの會衆みな薄暮に之を
屠り 7 その血をとりて其之を食ふ家の門口の兩旁の
標と鴨居に塗べし 8 而して此夜その肉を火に炙て食
ひ又酔いぬパンに苦菜をそへて食ふべし 9 其を生
にても水に煮ても食ふなかれ火に炙べし其頭と脛と
臟腑とを皆くらへ 10 其を明朝まで残しおくなかれ其

明朝まで残れる者は火にて焼つくすべし **11** なんぢら
斯之を食ふべし即ち腰をひきからげ足に鞋を穿き手
に杖をとりて急て之を食ふべし是エホバの逾越節な
り **12** 是夜われエジプトの國を巡りて人と畜とを論ず
エジプトの國の中の長子たる者を盡く撃殺し又エジ
プトの諸の神に罰をかうむらせん我はエホバなり **13**
その血なんぢらが居るところの家にありて汝等のた
めに記號とならん我血を見る時なんぢらを逾越すべ
し又わがエジプトの國を撃つ時災なんぢらに降りて
滅ぼすことなかるべし **14** 汝ら是日を記念えてエホバ
の節期となし世々これを祝ふべし汝等之を常例とな
して祝ふべし **15** 七日の間酵いれぬパンを食ふべしそ
の首の日にパン酵を汝等の家より除け凡て首の日よ
り七日までに酵入たるパンを食ふ人はイスラエルよ
り絶るべきなり **16** 且首の日に聖會をひらくべし又第
七日に聖會を汝らの中に開け是ふたつの日には何の
業をもなすべからず只各人の食ふ者のみ汝等作ること
を得べし **17** 汝ら酵いれぬパンの節期を守るべし其
は此日に我なんぢらの軍隊をエジプトの國より導き
いだせばなり故に汝ら常例となして世々是日をまも
るべし **18** 正月に於てその月の十四日の晩より同月の
二十一日の晩まで汝ら酵いれぬパンを食へ **19** 七日の
間なんぢらの家にパン酵をおくべからず凡て酵いれ
たる物を食ふ人は其異邦人たると本國に生れし者た
るとを問はず皆イスラエルの聖會より絶るべし **20** 汝ら
酵いれたる物は何をも食ふべからず凡て汝らの居處
に於ては酵いれぬパンを食ふべし **21** 是に於てモーセ
、イスラエルの長老を盡くまねきて之にいふ汝等そ
の家族に循ひて一頭の羔羊を撿み取り之を屠りて逾

越節のために備へよ 22 又牛膝草一束を取て盃の血に濡し盃の血を門口の鴨居および二旁の柱にそそぐべし明朝にいたるまで汝等一人も家の戸をいづるなかれ 23 其はエホバ、エジプトを撃に巡りたまふ時鴨居と兩旁の柱に血のあるを見ばエキバ其門を逾越し殺滅者をして汝等の家に入て撃ざらしめたまふべければなり 24 汝ら是事を例となして汝となんぢの子孫永くこれを守るべし 25 汝等エホバがその言たまひし如くになんぢらに與へたまはんところの地に至る時はこの禮式をまもるべし 26 若なんぢらの子女この禮式は何の意なるやと汝らに問ば 27 汝ら言ふべし是はエホバの逾越節の祭祀なりエホバ、エジプト人を撃たまひし時エジプトにをるイスラエルの子孫の家を逾越てわれらの家を救ひたまへりと民すなはち鞠て拝せり 28 イスラエルの子孫去てエホバのモーセとアロンに命じたまひしごとくなし斯おこなへり 29 爰にエホバ夜半にエジプトの國の中の長子たる者を位に坐するパロの長子より牢獄にある俘虜の長子まで盡く撃たまふ亦家畜の首生もしかり 30 期有しかばパロとその諸の臣下およびエジプト人みな夜の中に起あがりエジプトに大なる號哭ありき死人あらざる家なかりければなり 31 パロすなはち夜の中にモーセとアロンを召ていひけるは汝らとイスラエルの子孫起てわが民の中より出さり汝らがいへる如くに往てエホバに事へよ 32 亦なんぢらが言のごとく汝らの羊と牛をひきて去れ汝らまた我を祝せよと 33 是においてエジプト人我等みな死ると言て民を催逼て速かに國を去しめんとせしかば 34 民捏粉の未だ酔いれざるを執り捏盤を衣服に包みて肩に負ふ 35 而してイスラエルの

子孫モーセの言のごとく爲しエジプト人に銀の飾物、金の飾物および衣服を乞たるに 36 エホバ、エジプト人をして民をめぐましめ彼等にこれを與へしめたまふ斯かれらエジプト人の物を取り 37 斯てイスラエルの子孫ラメセスよりスコテに進みしが子女の外に徒にて歩める男六十萬人ありき 38 又衆多の寄集人および羊牛等はなほだ多の家畜彼等とともに上れり 39 爰に彼等エジプトより携へいでたる捏粉をもて酔いれぬパンを烘り未だ酔をいれざりければなり是かれらエジプトより逐いだされて濡滞るを得ざりしに由り又何の食糧をも備へざりしに因る 40 偕イスラエルの子孫のエジプトに住居しその住居の間は四百三十年なりき 41 四百三十年の終にいたり即ち其日にエホバの軍隊みなエジプトの國より出たり 42 是はエホバが彼等をエジプトの國より導きいだしたまひし事のためにエホバの前に守るべき夜なり是はエホバの夜にしてイスラエルの子孫が皆世々まもるべき者なり 43 エホバ、モーセとアロンに言たまひけるは逾越節の例は是のごとし異邦人はこれを食べべからず 44 但し各人の金にて買たる僕は割禮を施して然る後是を食しむべし 45 外國の客および傭人は之を食べべからず 46 一の家にてこれを食べべしその肉を少も家の外に持つるなかれ又其骨を折べからず 47 イスラエルの會衆みな之を守るべし 48 異邦人なんぢとともに寄居てエホバの逾越節を守らんとせば其男悉く割禮を受て然る後に近りて守るべし即ち彼は國に生れたる者のごとくなるべし割禮をうけざる人はこれを食べべからざるなり 49 國に生れたる者にもまた汝らの中に寄居る異邦人にも此法は同一なり 50 イスラエルの

子孫みな斯おこなひエホバのモーセとアロンに命じ
たまひしごとく爲たり 51 その同じ日にエホバ、イス
ラエルの子孫をその軍隊にしたがひてエジプトの國
より導きいだしたまへり

13 爰にエホバ、モーセに告ていひたまひけるは 2
人と畜とを論ず凡てイスラエルの子孫の中の始て生
れたる首生をば皆聖別て我に歸せしむべし是わが所
屬なればなり 3 モーセ民にいひけるは汝等エジプト
を出で奴隸たる家を出るこの日を誌えよエホバ能あ
る手をもて汝等を此より導きいだしたまへばなり酔
いれたるパンを食ふべからず 4 アビブの月の此日な
んぢら出づ 5 エホバ汝を導きてカナン人へテ人アモ
リ人ヒビ人エブス人の地すなはちその汝にあたへん
と汝の先祖たちに誓ひたまひし彼乳と蜜の流るる地
に至らしめたまはん時なんぢ此月に是禮式を守るべ
し 6 七日の間なんぢ酔いれぬパンを食ひ第七日にエ
ホバの節筵をなすべし 7 酔いれぬパンを七日くらふ
べし酔いれたるパンを汝の所におくなかれ又汝の境
の中にて汝の許にパン酔をおくなかれ 8 汝その日に
汝の子に示して言べし是は吾がエジプトより出る時
にエホバの我に爲したまひし事のためなりと 9 斯是
をなんぢの手におきて記號となし汝の目の間におき
て記號となしてエホバの法律を汝の口に在しむべし
其はエホバ能ある手をもて汝をエジプトより導きい
だしたまへばなり 10 是故に年々その期にいたりてこ
の例をまもるべし 11 エホバ汝となんぢの先祖等に誓
ひたまひしごとく汝をカナン人の地にみちびきて之
を汝に與へたまはん時 12 汝凡て始て生れたる者及び
汝の有る畜の初生を悉く分ちてエホバに歸せしむべ

し男牡はエホバの所屬なるべし 13 又驢馬の初子は皆羔羊をもて贖ふべしもし贖はずばその頸を折るべし汝の子等の中の長子なる人はみな贖ふべし 14 後に汝の子汝に問て是は何なると言ばこれに言べしエホバ能ある手をもて我等をエジプトより出し奴隸たりし家より出したまへり 15 當時パロ剛愎にして我等を去しめざりしかばエホバ、エジプトの國の中の長子たる者を人の長子より畜の初生まで盡く殺したまへり是故に始めて生れし牡を盡くエホバに犠牲に献ぐ但しわが子等の中の長子は之を贖ふなり 16 是をなんぢの手におきて號となし汝の目のおきて誌となすべしエホバ能ある手をもて我等をエジプトより導きいだしたまひたればなりと 17 儲パロ民をさらしめし時ペリシテ人の地は近かりけれども神彼等をみちびきて其地を通りたまはざりき其は民戦争を見ば悔てエジプトに歸るならんと神おもひたまひたればなり 18 神紅海の曠野の道より民を導きたまふイスラエルの子孫行伍をたててエジプトの國より出づ 19 其時モーセはヨセフの骨を携ふ是はヨセフ神かならず汝らを眷みたまふべければ汝らわが骨を此より携へ出づべしといひてイスラエルの子孫を固く誓せたればなり 20 斯てかれらスコテより進みて曠野の端なるエタム比幕張す 21 エホバかれらの前に往たまひ晝は雲の柱をもてかれらを導き夜は火の柱をもて彼らを照して晝夜往すすましめたまふ 22 民の前に晝は雲の柱を除きたまはず夜は火の柱をのぞきたまはず

14 茲にエホバ、モーセに告ていひ給ひけるは 2 イスラエルの子孫に言て轉回てミグドルと海の間なるピハヒロテの前にあたりてバアルゼポンの前に幕を

張しめよ其にむかひて海の傍に幕を張るべし 3 パロ、イスラエルの子孫の事をかたりて彼等はその地に迷ひをりて曠野に閉こめられたるならんといふべければなり 4 我パロの心を剛愎にすべければパロ彼等の後を追はん我パロとその凡の軍勢に由て譽を得エジプト人をして吾エホバなるを知しめんと彼等すなはち斯なせり 5 茲に民の逃さりたることエジプト王に聞えければパロとその臣下等民の事につきて心を變じて言ふ我等何て斯イスラエルを去しめて我に事ざらしむるがごとき事をなしたるやと 6 パロすなはちその車を備へ民を將て己にしたがはしめ 7 撰抜の戦車六百兩にエジプトの諸の戦車および其の諸の軍長等を率ゐたり 8 エホバ、エジプト王パロの心を剛愎にしたまひたれば彼イスラエルの子孫の後を追ふイスラエルの子孫は高らかなる手によりて出しなり 9 エジプト人等パロの馬、車およびその騎兵と軍勢彼等の後を追てそのバアルゼポンの前なるピハヒロテの邊にて海の傍に幕を張るに追つけり 10 パロの近よりし時イスラエルの子孫目をあげて視しにエジプト人己の後に進み來りしかば痛く懼れたり是に於てイスラエルの子孫エホバに呼號り 11 且モーセに言けるはエジプトに墓のあらざるがために汝われらをたづさへいだして曠野に死しむるや何故に汝われらをエジプトより導き出して斯我らに爲や 12 我等がエジプトにて汝に告て我儕を棄おき我らをしてエジプト人に事しめよと言し言は是ならずや其は曠野にて死るよりもエジプト人に事るは善ればなり 13 モーセ民にいひけるは汝ら懼るるなかれ立てエホバが今日汝等のために爲たまはんところの救を見よ汝らが今日見

たるエジプト人をば汝らかさねて復これを見ること
絶てなかるべきなり 14 エホバ汝等のために戦ひたま
はん汝等は靜りて居るべし 15 時にエホバ、モーセに
いひたまひけるは汝なんぞ我に呼はるやイスラエル
の子孫に言て進みゆかしめよ 16 汝杖を擧げ手を海の上
に伸て之を分ちイスラエルの子孫をして海の中の
乾ける所を往しめよ 17 我エジプト人の心を剛愎にす
べければ彼等その後にしたがひて入るべし我かくし
てパロとその諸の軍勢およびそ戦車と騎兵に囚て榮
譽を得ん 18 我がパロとその戦車と騎兵とによりて榮
譽をえん時エジプト人は我のエホバなるを知ん 19 爰
にイスラエルの陣營の前に行る神の使者移りてその
後に行けり即ち雲の柱その前面をはなれて後に立ち
20 エジプト人の陣營とイスラエル人の陣營の間に至
りけるが彼がためには雲となり暗となり是がために
は夜を照せり是をもて彼と是と夜の中に相近づかざ
りき 21 モーセ手を海の上に伸ければエホバ終夜強き
東風をもて海を退かしめ海を陸地となしたまひて水
遂に分れたり 22 イスラエルの子孫海の中の乾ける所
を行くに水は彼等の右左に墻となれり 23 エジプト人
等パロの馬車、騎兵みなその後にしたがひて海の中
に入る 24 暁にエホバ火と雲との柱の中よりエジプト
人の軍勢を望みエジプト人の軍勢を惱まし 25 其車の
輪を脱して行に重くならしめたまひければエジプト
人言ふ我儕イスラエルを離れて逃ん其はエホバかれ
らのためにエジプト人と戦へばなりと 26 時にエホバ
、モーセに言たまひける汝の手を海の上に伸て水を
エジプト人とその戦車と騎兵の上に流れ反らしめよ
と 27 モーセすなはち手を海の上に伸けるに夜明にお

よびて海本の勢力にかへりたればエジプト人之に逆
ひて逃たりしがエホバ、エジプト人を海の中に擲ち
たまへり 28 即ち水流反りて戦車と騎兵を覆ひイスラ
エルの後にしたがひて海にいりしパロの軍勢を悉く
覆へり一人も遺れる者あらざりき 29 然どイスラエルの
子孫は海の中の乾ける所を歩みしが水はその右左
に墻となれり 30 斯エホバこの日イスラエルをエジプ
ト人の手より救ひたまへりイスラエルはエジプト人
が海邊に死をるを見たり 31 イスラエルまたエホバが
エジプト人に爲たまひし大なる事を見たり是に於て
民エホバを畏れエホバとその僕モーセを信じたり

15 是に於てモーセおよびイスラエルの子孫この歌
をエホバに謡ふ云く我エホバを歌ひ頌ん彼は高らか
に高くいますなり彼は馬とその乗者を海になげうち
たまへり 2 わが力がわが歌はエホバなり彼はわが救拯
となりたまへり彼はわが神なり我これを頌美ん彼は
わが父の神なり我これを崇めん 3 エホバは軍人にし
て其名はエホバなり 4 彼パロの戦車とその軍勢を海
に投すてたまふパロの勝れたる軍長等は紅海に沈め
り 5 大水かれらを掩ひて彼等石のごとくに淵の底に
下る 6 エホバよ汝の右の手は力をもて榮光をあらは
すエホバよ汝の右の手は敵を碎く 7 汝の大なる榮光
をもて汝は汝にたち逆ふ者を滅したまふ汝怒を發す
れば彼等は藁のごとくに焚つくさる 8 汝の鼻の息に
よりにて水積かさなり浪堅く立て岸のごとくに成り大
水海の中に凝る 9 敵は言ふ我追て追つき掠取物を分
たん我かれらに因てわが心を飽しめん我劍を抜んわ
が手かれらを亡さんと 10 汝氣を吹たまへば海かれら
を覆ひて彼等は猛烈き水に鉛のごとくに沈めり 11 エ

ホバよ神の中に誰か汝に如ものあらん誰か汝のごとく聖して榮あり讚べくして威ありて奇事を行なふ者あらんや **12** 汝その右の手を伸たまへば地かれらを呑む **13** 汝はその贖ひし民を恩恵をもて導き汝の力をもて彼等を汝の聖き居所に引たまふ **14** 國々の民聞て慄へペリシテに住む者畏懼を懐く **15** エドムの君等駭きモアブの剛者戦慄くカナンに住る者みな消うせん **16** 畏懼と戦慄かれらに及ぶ汝の腕の大なるがために彼らは石のごとくに黙然たりエホバよ汝の民の通り過るまで汝の買たまひし民の通り過るまで然るべし **17** 汝民を導きてこれを汝の産業の山に植たまはんエホバよ是すなはち汝の居所とせんとして汝の設けたまひし者なり主よ是汝の手の建たる聖所なり **18** エホバは世々限なく王たるべし **19** 斯巴ロの馬その車および騎兵とともに海にいりしにエホバ海の水を彼等の上に流れ還らしめたまひしがイスラエルの子孫は海の中にありて旱地を通れり **20** 時にアロンの姉なる預言者ミリアム譟を手にとるに婦等みな彼にしたがひて出で譟をとり且踊る **21** ミリアムすなはち彼等に和へて言ふ汝等エホバを歌ひ頌よ彼は高らかに高くいますなり彼は馬とその乗者を海に擲ちたまへりと **22** 斯てモーセ紅海よりイスラエルを導きてシユルの曠野にいり曠野に三日歩みたりしが水を得ざりき **23** 彼ら遂にメラにいたりしがメラの水苦くして飲ことを得ざりき是をもて其名はメラ(苦)と呼ぶ **24** 是に於て民モーセにむかひて眩き我儕何を飲んかと言ければ **25** モーセ、エホバに呼はりしにエホバこれに一本の木を示したまひたれば即ちこれを水に投いれしに水甘くなれり彼處にてエホバ民のために法度と法律をたて

たまひ彼處にてこれを試みて 26 言たまはく汝もし善く汝の神エホバの聲に聽したがひエホバの口に善と見ることを爲しその誠命に耳を傾けその諸の法度を守ば我わがエジプト人に加へしところのその疾病を一も汝に加へざるべし其は我はエホバにして汝を醫す者なればなりと 27 斯て彼等エリムに至れり其處に水の井十二棕櫚七十本あり彼處にて彼等水の傍に幕張す

16 斯てエリムを出たちてイスラエルの子孫の會衆そのエジプトの地を出しより二箇月の十五日に皆エリムとシナイの間なるシンの曠野にいたりけるが 2 其曠野においてイスラエルの全會衆モーセとアロンに向ひて眩けり 3 即ちイスラエルの子孫かれらに言けるは我儕エジプトの地に於て肉の鍋の側に坐り飽までにパンを食ひし時にエホバの手によりて死たれば善りし者を汝等はこの曠野に我等を導きいだしてこの全會を饑に死しめんとするなり 4 時にエホバ、モーセに言たまひけるは視よ我パンを汝らのために天より降さん民いでて日用の分を毎日斂むべし斯して我かれらが吾の法律にしたがふや否を試みん 5 第六日には彼等その取いれたる者を調理ふべし其は日々に斂る者の二倍なるべし 6 モーセとアロン、イスラエルの全の子孫に言けるは夕にいたらば汝等はエホバが汝らをエジプトの地より導きいだしたまひしなるを知にいたらん 7 又朝にいたらば汝等エホバの榮光を見ん其はエホバなんぢらがエホバに向ひて眩くを聞たまへばなり我等を誰となして汝等は我儕に向ひて眩くや 8 モーセまた言けるはエホバ夕には汝等に肉を與へて食はしめ朝にはパンをあたへて飽し

めたまはん其はエホバ己にむかひて汝等が咄くところの怨言を聞給へばなり我儕を誰と爲や汝等の怨言は我等にむかひてするに非ずエホバにむかひてするなり 9 モーセ、アロンに言けるはイスラエルの子孫の全會衆に言へ汝等エホバの前に近よれエホバなんぢらの怨言を聞給へりと 10 アロンすなはちイスラエルの子孫の全會衆に語しかば彼等曠野を望むにエホバの榮光雲の中に顯はる 11 エホバ、モーセに告て言たまひけるは 12 我イスラエルの子孫の怨言を聞き彼等に告て言へ汝等夕には肉を食ひ朝にはパンに飽べし而して我のエホバにして汝等の神なることを知にいたらんと 13 即ち夕におよびて鶉きたりて營を覆ふ又朝におよびて露營の四圍におきしが 14 そのおける露乾くにあたりて曠野の表に霜のごとき小き圓き者地にあり 15 イスラエルの子孫これを見て此は何ぞやと互に言ふ其はその何たるを知ざればなりモーセかれらに言けるは是はエホバが汝等の食にあたへたまふパンなり 16 エホバの命じたまふところの事は是なり即ち各その食ふところに循ひて之を斂め汝等の人數にしたがひて一人に一オメルを取れ各人その天幕にをる者等のためにこれを取べし 17 イスラエルの子孫かくなせしに其斂るところに多きと少きとありしが 18 オメルをもてこれむ量るに多く斂めし者にも餘るところ無く少く斂めし者にも足ぬところ無りき皆その食ふところに循ひてこれを斂めたり 19 モーセ彼等に誰も朝までこれを残しおく可らずと語り 20 然るに彼等モーセに聽したがはずして或者はこれを朝まで残したりしが蟲たかりて臭なりぬモーセこれを怒る 21 人々各その食ふところに循ひて朝毎に之を斂め

しが日熱なれば消ゆ 22 第六日にいたりて人々二倍のパンを斂めたり即ち一人に二オメルを斂むるに會衆の長皆きたりて之をモーセに告ぐモーセ 23 かれらに言ふエホバの言たまふところ是のごとし明日はエホバの聖安息日にして休息なり今日汝等烤んとする者を焼き煮んとする者を煮よ其残れる者は皆明朝まで蔵めおくべし 24 彼等モーセの命ぜしごとくに翌朝まで蔵めおきしが臭なること無く又蟲もその中に生ぜざりき 25 モーセ言ふ汝等今日其を食へ今日はエホバの安息日なれば今日は汝等これを野に獲ざるべし 26 六日の間汝等これを斂むべし第七日は安息日なればその日には有ざるべし 27 然るに民の中に七日に出て斂めんとせし者ありしが得ところ無りき 28 是に於てエホバ、モーセに言たまひけるは何時まで汝等は吾が誠命とわが律法をまもることをせざるや 29 汝等視よエホバなんぢらに安息日を賜へり故に第六日に二日の食物を汝等にあたへたまふなり汝等おのおのその處に休みをれ第七日にはその處より出る者あるべからず 30 是民第七日に休息り 31 イスラエルの家その物の名をマナと稱り是は莞の實のごとくにして白く其味は蜜をいれたる菓子のごとし 32 モーセ言ふエホバの命じたまふところ是のごとし是を一オメル盛て汝等の代々の子孫のためにたくはへおくべし是はわが汝等をエジプトの地より導きいだせし時に曠野にて汝等を養ひしところのパンを之に見さしめんためなり 33 而してモーセ、アロンに言けるは壺を取てその中にマナーオメルを盛てこれをエホバの前におき汝等の代々の子孫のためにたくはふべし 34 エホバのモーセに命じたまひし如くにアロンこれを律法の

前におきてたくはふ 35 イスラエルの子孫は人の住る地に至るまで四十年が間マナを食へり即ちカナンの地の境にいたるまでマナを食へり 36 オメルはエパの十分の一なり

17 イスラエルの子孫の會衆エホバの命にしたがひて皆シンの曠野を立出で旅路をかさねてレピデムに幕張せしが民の飲む水あらざりき 2 是をもて民モーセと争ひて言ふ我儕に水をあたへて飲しめよモーセかれらに言けるは汝ら何ぞ我とあらそふや何ぞエホバを試むるや 3 彼處にて民水に渴き民モーセにむかひて呟き言ふ汝などて我等をエジプトより導きいだし我等とわれらの子女とわれらの家畜を渴に死しめんとするや 4 是に於てモーセ、エホバに呼はりて言ふ我この民に何をなすべきや彼等は殆ど我を石にて撃んとするなり 5 エホバ、モーセに言たまひけるは汝民の前に進み民の中の或長老等を伴ひかの汝が河を撃し杖を手執て往よ 6 視よ我そこにて汝の前にあたりてホレブの磐の上に立ん汝磐を撃べし然せば其より水出ん民これを飲べしモーセすなはちイスラエルの長老等の前にて斯おこなへり 7 かくて彼その處の名をマツサと呼び又メリバと呼り是はイスラエルの子孫の争ひしに由り又そのエホバはわれらの中に在すや否と云てエホバを試みしに由なり 8 時にアマレクきたりてイスラエルとレピデムに戦ふ 9 モーセ、ヨシユアに言けるは我等のために人を擇み出てアマレクと戦へ明日我神の杖を手にとりて岡の嶺に立ん 10 ヨシユアすなはちモーセの己に言しごとくに爲しアマレクと戦ふモーセ、アロンおよびホルは岡の嶺に登りしが 11 モーセ手を擧をればイスラエル

勝ち手を垂ればアマレク勝り 12 然るにモーセの手重くなりたればアロンとホル石をとりてモーセの下におきてその上に坐せしめ一人は此方一人は彼方にありてモーセの手を支へたりしかばその手日の没まで垂下ざりき 13 是においてヨシユア刃をもてアマレクとその民を敗れり 14 エホバ、モーセに言たまひけるは之を書に筆して記念となしヨシユアの耳にこれをいれよ我必ずアマレクの名を塗抹て天下にこれを誌ゆること无らしめんと 15 斯てモーセ一座の壇を築きその名をエホバニシ(エホバ吾旗)と稱ふ 16 モーセ云けらくエホバの寶位にむかひて手を擧ることありエホバ世々アマレクと戦ひたまはん

18 茲にモーセの外舅なるミデアンの祭司エテロ神が凡てモーセのため又その民イスラエルのために爲したまひし事エホバがイスラエルをエジプトより導き出したまひし事を聞き 2 是に於てモーセの外舅エテロかの遣り還されてありしモーセの妻チッポラとその二人の子を挈へ來る 3 その子の一人の名はゲルシヨムと云ふ是はモーセ我他國に客となりをると言たればなり 4 今一人の名はエリエゼルと曰ふ是はかれ吾父の神われを助け我を救ひてパロの劍を免かれしめたまふと言たればなり 5 斯モーセの外舅エテロ、モーセの子等と妻をつれて曠野に來りモーセが神の山に陣を張る處にいたる 6 彼すなはちモーセに言けるは汝の外舅なる我エテロ汝の妻および之と供なるその二人の子をたづさへて汝に詣ると 7 モーセ出てその外舅を迎へ禮をなして之に接吻し互に其安否を問て共に天幕に入る 8 而してモーセ、エホバがイスラエルのためにパロとエジプト人とに爲たまひし

諸の事と途にて遇し諸の艱難およびエホバの己等を
拯ひたまひし事をその外舅に語りければ 9 エテロ、
エホバがイスラエルをエジプト人の手より救ひい
だして之に諸の恩典をたまひし事を喜び 10 エテロす
なはち言けるはエホバは頌べき哉汝等をエジプト人
の手とパロの手より救ひいだし民をエジプト人の手
の下より拯ひいだせり 11 今我知るエホバは諸の神よ
りも大なり彼等傲慢を逞しうして事をなせしがエホ
バかれらに勝りと 12 而してモーセの外舅エテロ燔祭
と犠牲をエホバに持きたれりアロンおよびイスラエ
ルの長老等皆きたりてモーセの外舅とともに神の前
に食をなす 13 次の日にいたりてモーセ坐して民を審
判きしが民は朝より夕までモーセの傍に立り 14 モー
セの外舅モーセの凡て民に爲ところを見て言けるは
汝が民になす此事は何なるや何故に汝は一人坐しを
りて民朝より夕まで汝の傍にたつや 15 モーセその外
舅に言けるは民神に問んとて我に来るなり 16 彼等事
ある時は我に来れば我此と彼とを審判きて神の法度
と律法を知しむ 17 モーセの外舅これに言けるは汝の
なすところ善らず 18 汝かならず氣力おとろへん汝も
汝とともになる民も然らん此事汝には重に過ぐ汝一人
にては之を爲ことあたはざるべし 19 今吾言を聽け我
なんぢに策を授けん願くは神なんぢとともに在せ汝
民のために神の前に居り訴訟を神に陳よ 20 汝かれら
に法度と律法を教へ彼等の歩むべき道と爲べき事と
を彼等に示せ 21 又汝全體の民の中より賢して神を畏
れ眞實を重んじ利を惡むところの人を選び之を民の
上に立て千人の司となし百人の司となし五十人の司
となし十人の司となすべし 22 而して彼等をして常に

民を鞫かしめ大事は凡てこれを汝に陳しめ小事は凡て彼等みづからこれを判かしむべし斯汝の身の煩瑣を省き彼らをして汝とその任を共にせしめよ 23 汝もし此事を爲し神また斯汝に命じなば汝はこれに勝ん此民もまた安然にその所に到ることを得べし 24 モーセその外舅の言にしたがひてその凡て言しごとく成り 25 モーセすなはちイスラエルの中より遍く賢き人を選みてこれを民の長となし千人の司となし百人の司となし五十人の司となし十人の司となせり 26 彼等常に民を鞫き難事はこれをモーセに陳べ小事は凡て自らこれを判けり 27 斯てモーセその外舅を還したればその國に往ぬ

19 イスラエルの子孫エジプトの地を出て後第三月にいたりて其日にシナイの曠野に至る 2 即ちかれらレピデムを出たちてシナイの曠野にいたり曠野に幕を張り彼處にてイスラエルは山の前に營を設けたり 3 爰にモーセ登て神に詣るにエホバ山より彼を呼て言たまはく汝かくヤコブの家に言ひイスラエルの子孫に告べし 4 汝らはエジプト人に我がなしたるところの事を見我が驚の翼をのべて汝らを負て我にいたらしめしを見たり 5 然ば汝等もし善く我が言を聽きわが契約を守らば汝等は諸の民に愈りてわが寶となるべし全地はわが所有なればなり 6 汝等は我に對して祭司の國となり聖き民となるべし是等の言語を汝イスラエルの子孫に告べし 7 是に於てモーセ來りて民の長老等と呼びエホバの己に命じたまひし言を盡くその前に陳たれば 8 民皆等く應へて言けるはエホバの言たまひし所は皆われら之を爲べしとモーセすなはち民の言をエホバに告ぐ 9 エホバ、モーセに言た

まひけるは觀よ我密雲の中にをりて汝に臨む是民をして我が汝と語るを聞しめて汝を永く信ぜしめんがためなりとモーセ民の言をエホバに告たり 10 エホバ、モーセに言たまひけるは汝民の所に往て今日明日これを聖め之にその衣服を澣せ 11 準備をなして三日を待て其は第三日にエホバ全體の民の目の前にてシナイ山に降ればなり 12 汝民のために四周に境界を設けて言べし汝等慎んで山に登るなかれその境界に捫るべからず山に捫る者はかならず殺さるべし 13 手を之に觸べからず其者はかならず石にて撃ころされ或は射ころさるべし獸と人とを言ず生ることを得じ喇叭を長く吹鳴さば人々山に上るべしと 14 モーセすなはち山を下り民にいたりて民を聖め民その衣服を濯ふ 15 モーセ民に言けるは準備をなして三日を待て婦人に近づくべからず 16 かくて三日の朝にいたりて雷と電および密雲山の上にある民みな震ふ 17 モーセ營より民を引いでて神に會しむ民山の麓に立に 18 シナイ山都て煙を出せりエホバ火の中にありてその上に下りたまへばなりその煙竈の煙のごとく立のぼり山すべて震ふ 19 喇叭の聲彌高くなりゆきてばげしくなりける時モーセ言を出すに神聲をもて應へたまふ 20 エホバ、シナイ山に下りその山の頂上にいまし而してエホバ山の頂上にモーセを召たまひければモーセ上れり 21 エホバ、モーセに言たまひけるは下りて民を警めよ恐らくは民推破りてエホバに來りて見んとし多の者死るにいたらん 22 又エホバに近くところの祭司等にその身を潔めしめよ恐らくはエホバかれらを撃ん 23 モーセ、エホバに言けるは民はシナイ山に得のぼらじ其は

汝われらを警めて山の四周に境界をたて山を聖めよ
と言たまひたればなり 24 エホバかれに言たまひける
は往け下れ而して汝とアロンともに上り來るべし但
祭司等と民には推破りてにのぼりきたらしめざれ恐
らくは我かれらを撃ん 25 モーセ民にくだりゆきてこ
れに告たり

20 神この一切の言を宣て言たまはく 2 我は汝の神
エホバ汝をエジプトの地その奴隸たる家より導き出
せし者なり 3 汝我面の前に我の外何物をも神とすべ
からず 4 汝自己のために何の偶像をも彫むべからず
又上は天にある者下は地にある者ならびに地の下の
水の中にある者の何の形状をも作るべからず 5 之を
拝むべからずこれに事ふべからず我エホバ汝の神は
嫉む神なれば我を惡む者にむかひては父の罪を子に
むくいて三四代におよぼし 6 我を愛しわが誠命を守
る者には恩恵をほどこして千代にいたるなり 7 汝の
神エホバの名を妄に口にあぐべからずエホバはおの
れの名を妄に口にあぐる者を罰せではおかざるべし
8 安息日を憶えてこれを聖潔すべし 9 六日の間勞きて
汝の一切の業を爲べし 10 七日は汝の神エホバの安息
なれば何の業務をも爲べからず汝も汝の息子息女も
汝の僕婢も汝の家畜も汝の門の中にをる他國の人も
然り 11 其はエホバ六日の中に天と地と海と其等の中
の一切の物を作りて第七日に息みたればなり是をも
てエホバ安息日を祝ひて聖日としたまふ 12 汝の父母
を敬へ是は汝の神エホバの汝にたまふ所の地に汝の
生命の長からんためなり 13 汝殺すなかれ 14 汝姦淫
するなかれ 15 汝盜むなかれ 16 汝その隣人に對して
虚妄の證據をたつるなかれ 17 汝その隣人の家を貧る

なかれ又汝の鄰人の妻およびその僕婢牛驢馬ならびに凡て汝の隣人の所有を貧るなかれ 18 民みな雷と電と喇叭の音と山の煙るとを見たり民これを見て懼れをののきて遠く立ち 19 モーセにいひけるは汝われらに語れ我等聽ん唯神の我らに語りたまふことあらざらしめよ恐くは我等死ん 20 モーセ民に言けるは畏るなかれ神汝らを試みんため又その畏怖を汝らの面の前におきて汝らに罪を犯さざらしめんために臨みたまへるなり 21 是において民は遠くに立ちしがモーセは神の在すところの濃雲に進みいたる 22 エホバ、モーセに言たまひけるは汝イスラエルの子孫に斯いふべし汝等は天よりわが汝等に語ふを見たり 23 汝等何をも我にならべて造るべからず銀の神をも金の神をも汝等のために造るべからず 24 汝土の壇を我に築きてその上に汝の燔祭と酬恩祭汝の羊と牛をそなふべし我は凡てわが名を憶えしむる處にて汝に臨みて汝を祝まん 25 汝もし石の壇を我につくるならば琢石をもてこれを築くべからず其は汝もし鑿をこれに當なば之を汚すべければなり 26 汝階よりわが壇に升るべからず是汝の恥る處のその上に露ることなからんためなり

21 是は汝が民の前に立べき律例なり 2 汝ヘブルの僕を買ふ時は六年の間之に職業を爲しめ第七年には贖を索ずしてこれを釋つべし 3 彼もし獨身にて來らば獨身にて去べし若妻あらばその妻これとともに去べし 4 もしその主人これに妻をあたへて男子又は女子これに生れたらば妻とその子等は主人に屬すべし彼は獨身にて去べし 5 僕もし我わが主人と我が妻子を愛す我釋たるるを好まずと明白に言ば 6 その主人

これを士師の所に携ゆき又戸あるひは戸柱の所につ
れゆくべし而して主人錐をもてかれの耳を刺とほす
べし彼は何時までもこれに事ふべきなり 7人若その
娘を賣て婢となす時は僕のごとくに去べからず 8彼
もしその約せし主人の心に適ざる時はその主人これ
を贖はしむることを得べし然ど之に眞實ならずして
亦これを異邦人に賣ことをなすを得べからず 9又も
し之を己の子に與へんと約しなばこれを女子のごと
くに待ふべし 10父もしその子のために別に娶ること
あるとも彼に食物と衣服を與ふる事とその交接の道
とはこれを間斷しむべからず 11其人かれに此三を行
はずば彼は金をつくのはずして出さることを得べし
12人を撃て死しめたる妻は必ず殺さるべし 13若人み
づから畫策ことなきに神人をその手にかからしめた
まふことある時は我汝のために一箇の處を設くれば
その人其處に逃るべし 14人もし故にその隣人を謀り
て殺す時は汝これをわが壇よりも執へゆきて殺すべ
し 15その父あるひは母を撃ものは必ず殺さるべし 16
人を拐帶したる者は之を賣たるも尚その手にあるも
必ず殺さるべし 17その父あるひは母を罵る者は殺さ
るべし 18人相争ふ時に一人石または拳をもてその對
手を撃ちしに死にいたらずして床につくことあらん
に 19若起あがりて杖によりて歩むにいたらば之を撃
たる者は赦さるべし但しその業を休める賠償をなし
て之を全く愈しむべきなり 20人もし杖をもてその僕
あるひは婢を撃んにその手の下に死ば必ず罰せらる
べし 21然ど彼もし一日二日生のびなば其人は罰せら
れざるべし彼はその人の金子なればなり 22人もし相
争ひて妊める婦を撃ちその子を墮させんに別に害な

き時は必ずその婦人の夫の要むる所にしたがひて刑
られ法官の定むる所を爲べし 23 若害ある時は生命に
て生命を償ひ 24 目にて目を償ひ歯にて歯を償ひ手に
て手を償ひ足にて足を償ひ 25 烙にて烙を償ひ傷にて
傷を償ひ打傷にて打傷を償ふべし 26 人もしその僕
の一の目あるひは婢の一の目を撃てこれを喪さばその
目のために之を釋つべし 27 又もしその僕の一箇の歯
か婢の一箇の歯を打落ばその歯のために之を釋つべ
し 28 牛もし男あるひは女を衝て死しめなばその牛を
ば必ず石にて撃殺すべしその肉は食べからず但しそ
の牛の主は罪なし 29 然ど牛もし素より衝くことをな
す者にしてその主これがために忠告をうけし事ある
に之を守りおかずして遂に男あるひは女を殺すに至
らしめなばその牛は石にて撃れその主もまた殺さる
べし 30 若彼贖罪金を命ぜられなば凡てその命ぜられ
し者を生命の償に出すべし 31 男子を衝も女子を衝も
この例にしたがひてなすべし 32 牛もし僕あるひは婢
を衝ばその主人に銀三十シケルを與ふべし又その牛
は石にて撃ころすべし 33 人もし坑を啓くか又は人も
し穴を掘くことをなしこれを覆はずして牛あるひは驢
馬これに陥ば 34 穴の主これを償ひ金をその所有主に
與ふべし但しその死たる畜は己の有となるべし 35 此
人の牛もし彼人のを衝殺さば二人その生る牛を賣て
その價を分つべし又その死たるものをも分つべし 36
然どその牛素より衝くことをなす者なること知をるに
その主これを守りおかざりしならばその人かならず
牛をもて牛を償ふべし但しその死たる者は己の有と
なるべし

22 人もし牛あるひは羊を竊みてこれを殺し又は賣
る時は五の牛をもて一の牛を賠ひ四の羊をもて一の
羊を賠ふべし **2** もし盜賊の壞り入るを見てこれを撃
て死しむる時はこれがために血をながすに及ばず **3**
然ど若日いでてよりならば之がために血をながすべ
し盜賊は全く償をなすべし若物あらざる時は身をう
りてその竊める物を償ふべし **4** 若その竊める物眞に
生てその手にあらばその牛驢馬羊たるにかかはらず
倍してこれを償ふべし **5** 人もし田圃あるひは葡萄園
の物を食はせその家畜をはなちて人の田圃の物を食
ふにいたらしむる時は自己の田圃の嘉物と自己の葡
萄園の嘉物をもてその償をなすべし **6** 火もし逸て荆
棘にうつりその積あげたる穀物あるひは未だ刈ざる
穀物あるひは田野を燬ばその火を焚たる者かならず
これを償ふべし **7** 人もし金あるひは物を人に預るに
その人の家より竊みとられたる時はその盜者あらは
れなばこれを倍して償はしむべし **8** 盜者もしあらは
れずば家の主人を法官につれゆきて彼がその人の物
に手をかけたるや否を見るべし **9** 何の過愆を論ず牛
にもあれ驢馬にもあれ羊にもあれ衣服にもあれ又は
何の失物にもあれ凡て人の見て是其なりと言ふ者あ
る時は法官その兩造の言を聽べし而して法官の罪あ
りとする者これを倍してその對手に償ふべし **10** 人も
し驢馬か牛か羊か又はその他の家畜をその隣人にあ
づけんに死か傷けらるるか又は搶ひさらることあ
りて誰もこれを見し者なき時は **11** 二人の間にその隣
人の物に手をかけずとエホバを指て誓ふことあるべ
し然る時はその持主これを承諾べし彼人は償をなす
に及ばず **12** 然ど若自己の許より竊まれたる時はその

所有主にこれを償ふべし 13 若またその裂ころされし時は其を證據のために持きたるべしその裂ころされし者は償ふにおよばず 14 人もしその隣人より借たる者あらんにその物傷けられ又は死ることありてその所有主それとともにをらざる時は必ずこれを償ふべし 15 その所有主それと共にをらばこれを償ふにむよばず雇し者なる時もしかり其は雇れて來りしなればなり 16 人もし聘定あらざる處女を誘ひてこれと寝たらば必ずこれに聘禮して妻となすべし 17 その父もしこれをその人に與ふることを固く拒まば處女にする聘禮にてらして金をはらふべし 18 魔術をつかふ女を生しおくべからず 19 凡て畜を犯す者をば必ず殺すべし 20 エホバをおきて別の神に犠牲を献る者をば殺すべし 21 汝他國の人を惱すべからず又これを虐ぐべからず汝らもエジプトの國にをる時は他國の人たりしなり 22 汝凡て寡婦あるひは孤子を惱すべからず 23 汝もし彼等を悩まして彼等われに呼らば我かならずその號呼を聽べし 24 わが怒烈しくなり我劍をもて汝らを殺さん汝らの妻は寡婦となり汝らの子女は孤子とならん 25 汝もし汝とともにあるわが民の貧き者に金を貸す時は金貸のごとくなすべからず又これより利足をとるべからず 26 汝もし人の衣服を質にとらば日のいる時までこれを歸すべし 27 其はその身を蔽ふ者は是のみにして是はその膚の衣なればなり彼何の中に寝んや彼われに顧はらば我きかん我は慈悲ある者なればなり 28 汝神を罵るべからず民の主長を詛ふべからず 29 汝の豊滿なる物と汝の搾りたる物とを献ぐることを怠るなかれ汝の長子を我に與ふべし 30 汝また汝の牛と羊をも斯なすべし即ち七日母とともに

にをらしめて八日にこれを我に與ふべし 31 汝等は我の聖民となるべし汝らは野にて獸に裂れし者の肉を食ふべからず汝らこれを犬に投與ふべし

23 汝虚妄の風説を言ふらすべからず惡き人と手をあはせて人を誣る證人となるべからず 2 汝衆の人にしたがひて惡をなすべからず訴訟において答をなすに方りて衆の人にしたがひて道を曲べからず 3 汝また貧き人の訴訟を曲て庇くべからず 4 汝もし汝の敵の牛あるひは驢馬の迷ひ去に遭ばかならずこれを牽てその人に歸すべし 5 汝もし汝を惡む者の驢馬のその負の下に仆れ臥すを見ば慎みてこれを遺さるべからず必ずこれを助けてその負を釋べし 6 汝貧き者の訴訟ある時にその判決を曲べからず 7 虚假の事に遠かれ無辜者と義者とはこれを殺すなかれ我は惡き者を義とすることあらざるなり 8 汝賄賂を受べからず賄賂は人の目を暗まし義者の言を曲しむるなり 9 他國の人を虐ぐべからず汝等はエジプトの國にをる時は他國の人にてありたれば他國の人の心を知なり 10 汝六年の間汝の地に種播きその實を穫いるべし 11 但し第七年にはこれを息ませて耕さずにおくべし而して汝の民の貧き者に食ふことを得せしめよ其餘れる者は野の獸これを食はん汝の葡萄園も橄欖園も斯のごとくなすべし 12 汝六日の間汝の業をなし七日に息むべし斯汝の牛および驢馬を息ませ汝の婢の子および他國の人をして息をつかしめよ 13 わが汝に言し事に凡て心を用ひよ他の神々の名を稱ふべからずまた之を汝の口より聞えしめざれ 14 汝年に三度わがために節筵を守るべし 15 汝無酔パンの節禮をまもるべし即ちわが汝に命ぜしごとくアビブの月の定の時にお

いて七日の間酔いれぬパンを食ふべし其はその月に
汝エジプトより出たればなり徒手にてわが前に出る
者あるべからず 16 また穡時の節筵を守るべし是すな
はち汝が勞苦て田野に播る者の初の實を祝ふなり又
収蔵の節筵を守るべし是すなはち汝の勞苦によりて
成る者を年の終に田野より収蔵る者なり 17 汝の男た
る者は皆年に三次主エホバの前に出べし 18 汝わが犧
牲の血を酔いれしパンとともに獻ぐべからず又わが
節筵の脂を翌朝まで残しておくべからず 19 汝の地に初
に結べる實の初を汝の神エホバの室に持きたるべし
汝山羊羔をその母の乳にて煮べからず 20 視よ我天の
使をかはして汝に先たせ途にて汝を守らせ汝をわが
備へし處に導かしめん 21 汝等その前に愼みをりその
言にしたがへ之を怒らすなかれ彼なんぢらの咎を
赦さざるべしわが名かれの中にあればなり 22 汝もし
彼が言にしたがひ凡てわが言ところを爲ば我なんぢ
の敵の敵となり汝の仇の仇となるべし 23 わが使汝に
さきだちゆきて汝をアモリ人ヘテ人ペリジ人カナン
人ヒビ人およびエブス人に導きたらん我かれらを絶
べし 24 汝かれらの神を拜むべからずこれに奉事べか
らず彼らの作にならふなかれ汝其等を悉く毀ちその
偶像を打摧くべし 25 汝等の神エホバに事へよ然ばエ
ホバ汝らのパンと水を祝し汝らの中より疾病を除き
たまはん 26 汝の國の中には流産する者なく妊ざる者
なかるべし我汝の日の數を盈さん 27 我わが畏懼をな
んぢの前に遣し汝が至るところの民をことごとく敗
り汝の諸の敵をして汝に後を見せしめん 28 吾黄蜂を
汝の先につかはさん是ヒビ人カナン人およびヘテ人
を汝の前より逐はらふべし 29 我かれらを一年の中に

は汝の前より逐はらはじ恐くは土地荒れ野の獣増て
汝を害せん 30 我漸々にかれらを汝の前より逐はらは
ん汝らは遂に増てその地を獲にいたらん 31 我なんぢ
の境をさだめて紅海よりペリシテ人の海にいたらせ
曠野より河にいたらしめん我この地に住る者を汝の
手に付さん汝かれらを汝の前より逐はらふべし 32 汝
かれらおよび彼らの神と何の契約をもなすべからず
33 彼らは汝の國に住べきにあらず恐くは彼ら汝をし
て我に罪を犯さしめん汝もし彼等の神に事なばその
事かならず汝の機檻となるべきなり

24 又モーセに言たまひけるは汝アロン、ナダブ、
アビウおよびイスラエルの七十人の長老とともにエ
ホバの許に上りきたれ而して汝等遙にたちて拝むべ
し 2 モーセ一人エホバに近づくべし彼等は近るべか
らず又民もかれとともに上るべからず 3 モーセ來り
てエホバの諸の言およびその諸の典例を民に告しに
民みな同音に應て云ふエホバの宣ひし言は皆われら
これを爲べし 4 モーセ、エホバの言をことごとく書
記し朝夙に興いでて山の麓に壇を築きイスラエルの
十二の支派にしたがひて十二の柱を建て 5 而してイ
スラエルの子孫の中の少き人等を遣はしてエホバに
燔祭を獻げしめ牛をもて酬恩祭を供へしむ 6 モーセ
時にその血の半をとりて鉢に盛れ又その血の半を壇
の上に灌げり 7 而して契約の書を取りて民に誦きか
せたるに彼ら應へて言ふエホバの宣ふ所は皆われら
これを爲て遵ふべしと 8 モーセすなはちその血をと
りて民に灌ぎて言ふ是すなはちエホバが此諸の言に
つきて汝と結たまへる契約の血なり 9 斯てモーセ、
アロン、ナダブ、アビウおよびイスラエルの七十人

の長老のぼりゆきて **10** イスラエルの神を見るにその足の下には透明れる青玉をもて作れるごとき物ありて耀ける天空にさも似たり **11** 神はイスラエルの此頭人等にその手をかけたまはざりき彼等は神を見又食飲をなせり **12** 茲にエホバ、モーセに言たまひけるは山に上りて我に來り其處にをれ我わが彼等を教へんために書しるせる法律と誠命を載るところの石の板を汝に與へん **13** モーセその從者ヨシユアとともに起あがりモーセのぼりて神の山に至る **14** 時に彼長老等に言けるは我等の汝等に歸るまで汝等は此に待ちをれ視よアロンとホル汝等とともに在り凡て事ある者は彼等にいたるべし **15** 而してモーセ山にのぼりしが雲山を蔽ひをる **16** すなはちエホバの榮光シナイ山の上に駐りて雲山を蔽ふこと六日なりしが七日にいたりてエホバ雲の中よりモーセを呼たまふ **17** エホバの榮光山の嶺に燃る火のごとくにイスラエルの子孫の目に見えたり **18** モーセ雲の中に入り山に登りモーセ四十日四十夜山に居る

25 エホバ、モーセに告て言たまひけるは **2** イスラエルの子孫に告て我に獻物を持きたれと言へ凡てその心に好んで出す者よりは汝等その我に獻ぐところの物を取べし **3** 汝等がかれらより取べきその獻物は是なり即ち金銀銅 **4** 青紫紅の線麻山羊毛 **5** 赤染の牡羊の皮 獾の皮 合歡木 **6** 燈油塗膏と馨しき香を調ふところの香料 **7** 葱珩およびエポデと胸牌に嵌る玉 **8** 彼等わがために聖所を作るべし我かれらの中に住ん **9** 凡てわが汝らに示すところに循ひ幕屋の様およびその器具の様にしたがひてこれを作るべし **10** 彼等合歡木をもて櫃を作るべしその長は二キュビト半そ

の潤は一キュビト半その高は一キュビト半なるべし
11 汝純金をもて之を蔽ふべし即ち内外ともにこれを
蔽ひその上の周圍に金の縁を造るべし 12 汝金の環四
箇を鑄てその四の足につくべし即ち此旁に二箇の輪
彼旁に二箇の輪をつくべし 13 汝また合歡木をもて杠
を作りてこれに金を著すべし 14 而してその杠を櫃の
邊旁の環にさし入れてこれをもて櫃を昇べし 15 杠は
櫃の環に差いれおくべし其より脱はなすべからず 16
汝わが汝に與ふる律法をその櫃に蔵むべし 17 汝純金
をもて贖罪所を造るべしその長は二キュビト半その
潤は一キュビト半なるべし 18 汝金をもて二箇のケル
ビムを作るべし即ち槌にて打てこれを作り贖罪所の
兩旁に置べし 19 一のケルブを此旁に一のケルブを彼
旁に造れ即ちケルビムを贖罪所の兩旁に造るべし 20
ケルビムは翼を高く展べその翼をもて贖罪所を掩ひ
その面を互に相向くべしすなはちケルビムの面は贖
罪所に向ふべし 21 汝贖罪所を櫃の上に置ゑまた我が
汝に與ふる律法を櫃の中に蔵むべし 22 其處にて我な
んぢに會ひ贖罪所の上より律法の櫃の上なる二箇の
ケルビムの間よりして我イスラエルの子孫のために
わが汝に命ぜんとする諸の事を汝に語ん 23 汝また合
歡木をもて案を作るべしその長は二キュビトその潤
は一キュビトその高は一キュビト半なるべし 24 而し
て汝純金をこれに著せその周圍に金の縁をつくるべ
し 25 汝その四圍に掌寬の邊をつくりその邊の周圍に
金の小縁を作るべし 26 またそれがために金の環四箇
を作りその足の四隅にその環をつくべし 27 環は邊の
側に附べし是は案を昇ところの杠をいるる處なり 28
また合歡木をもてその杠をつくりてこれに金を著す

べし案はこれに因て昇るべきなり 29 汝また其に用ふる皿匙杓および酒を灌ぐところの罍を作るべし即ち純金をもてこれを造るべし 30 汝案の上に供前のパンを置て常にわが前にあらしむべし 31 汝純金をもて一箇の燈臺を造るべし燈臺は槌をもてうちて之を作るべしその臺座軸 萼 節 花は其に聯らしむべし 32 又六の枝をその旁より出しむべし即ち燈臺の三の枝は此旁より出で燈臺の三の枝は彼旁より出しむべし 33 巴旦杏の花の形せる三の萼節および花とともに此枝にあり又巴旦杏の花の形せる三の萼節および花とともに彼枝にあるべし燈臺より出る六の枝を皆斯のごとくにすべし 34 巴旦杏の花の形せる四の萼その節および花とともに燈臺にあるべし 35 兩箇の枝の下に一箇の節あらしめ又その兩箇の枝の下に一箇の節あらしめ又その兩箇の枝の下に一箇の節あらしむべし燈臺より出る六の枝みな是のごとくなるべし 36 その節と枝とは其に連ならしめ皆槌にて打て純金をもて造るべし 37 又それがために七箇の燈盞を造りその燈盞を上を置てその對向を照さしむべし 38 その燈鉗と剪燈盤をも純金ならしむべし 39 燈臺と此の諸の器具を造るには純金一タラントを用ふべし 40 汝山にて示されし式様にしたがひて之を作ること心に用ひよ

26 汝また幕屋のために十の幕を造るべしその幕は即ち麻の撚絲青紫および紅の絲をもて之を造り精巧にケルビムをその上に織出すべし 2 一の幕の長は二十八キュビト一の幕の濶は四キュビトなるべし幕は皆その寸尺を同うすべし 3 その幕五箇を互に連ねあはせ又その他の幕五箇をも互に連ねあはすべし 4 而してその一聯の幕の邊においてその聯絡處の端に青

色の襟を付べし又他の一聯の幕の聯絡處の邊にも斯
なすべし 5 汝一聯の幕に襟五十をつけ又他の一聯の
幕の聯絡處の邊にも襟五十をつけ斯その襟をして彼
と此と相對せしむべし 6 而して金の環五十を造りそ
の環をもて幕を連ねあはせて一の幕屋となすべし 7
汝また山羊の毛をもて幕をつくりて幕屋の上の蓋と
なすべし即ち幕十一をつくるべし 8 その一箇の幕の
長は三十キュビトその一箇の幕の濶は四キュビトな
るべし即ちその十一の幕は寸尺を一にすべし 9 而し
てその幕五を一に聯ねまたその幕六を一に聯ねその
第六の幕を幕屋の前に摺むべし 10 又その一聯の幕の
邊すなはちその聯絡處の端に襟五十を付け又他の一
聯の幕の聯絡處にも襟五十を付べし 11 而して銅の環
五十を作りその環を襟にかけてその幕を聯ねあはせ
て一となすべし 12 その天幕の幕の餘れる遺餘すなは
ちその餘れる半幕をば幕屋の後に垂しむべし 13 天幕
の幕の餘れる者は此旁に一キュビト彼旁に一キュビ
トあり之を幕屋の兩旁此方彼方に垂てこれを蓋ふべ
し 14 汝赤く染たる牡山羊の皮をもて幕屋の蓋をつく
りその上に獾の皮の蓋をほどこすべし 15 汝合歡木を
もて幕屋のために豎板を造るべし 16 一枚の板の長は
十キュビト一枚の板の濶は一キュビト半なるべし 17
板ごとに二の樺をつくりて彼と此と交指しめよ幕屋
の板には皆斯のごとく爲べし 18 汝幕屋のために板を
造るべし即ち南向の方のために板二十枚を作るべし
19 而してその二十枚の板の下に銀の座四十を造るべ
し即ち此板の下にもその二の樺のために二の座あら
しめ彼板の下にもその二の樺のために二の座あらし
むべし 20 幕屋の他の方すなはちその北の方のために

も板二十枚を作るべし 21 而してこれに銀の座四十を作り此板の下にも二の座彼板の下にも二の座あらしむべし 22 幕屋の後すなはちその西の方のために板六枚を造るべし 23 又幕屋の後の兩の隅のために板二枚を造るべし 24 その二枚は下にて相合せしめその頂まで一に連ならしむべし一箇の環に於て然りその二枚ともに是の如くなるべし其等は二の隅のために設くる者なり 25 その板は合て八枚その銀の座は十六座此板にも二の座彼板にも二の座あらしむべし 26 汝合歡木をもて横木を作り幕屋の此方の板のために五本を設くべし 27 また幕屋の彼方の板のために横木五本を設け幕屋の後すなはちその西の方の板のために横木五本を設くべし 28 板の眞中にある中間の横木をば端より端まで通らしむべし 29 而してその板に金を着せ金をもて之がために環を作りて横木をこれに貫き又その横木に金を着すべし 30 汝山にて示されしところのその模範にしたがひて幕屋を建べし 31 汝また青紫紅の線および麻の撚絲をもて幕を作り巧にケルビムをその上に織いだすべし 32 而して金を着たる四本の合歡木の柱の上に之を掛べしその鈎は金にしその柱は四の銀の座の上に置べし 33 汝その幕を環の下に掛け其處にその幕の中に律法の櫃を蔵むべしその幕すなはち汝らのために聖所と至聖所を分たん 34 汝至聖所にある律法の櫃の上に贖罪所を置べし 35 而してその幕の外に案を置ゑ幕屋の南の方に燈臺を置て案に對はしむべし案は北の方に置べし 36 又青紫紅の線および麻の撚絲をもて幔を織なして幕屋の入口に掛べし 37 又その幔のために合歡木をもて柱五本を造りて

これに金を着せその鈎を金にすべし又その柱のために銅をもて五箇の座を鑄べし

27 汝合歡木をもて長五キュビト濶五キュビトの壇を作るべしその壇は四角その高は三キュビトなるべし **2** その四隅の上に其の角を作りてその角を其より出しめその壇には銅を着すべし **3** 又灰を受る壺と火鏟と鉢と肉叉と火鼎を作るべし壇の器は皆銅をもて之を作るべし **4** 汝壇のために銅をもて金網を作りその網の上にその四隅に銅の鑲を四箇作るべし **5** 而してその網を壇の中程の邊の下に置て之を壇の半に達せしむべし **6** 又壇のために杠を作るべし即ち合歡木をもて杠を造り銅をこれに着すべし **7** その杠を鑲に貫きその杠を壇の兩旁にあらしめて之を昇べし **8** 壇は汝板をもて之を空に造り汝が山にて示されしごとくにこれを造るべし **9** 汝また幕屋の庭をつくるべし南に向ひては庭のために南の方に長百キュビトの細布の幕を設けてその一方に當べし **10** その二十の柱およびその二十の座は銅にし其柱の鈎およびその桁は銀にすべし **11** 又北の方にあたりて長百キュビトの幕をその縦に設くべしその二十の柱とその柱の二十の座は銅にし柱の鈎とその桁は銀にすべし **12** 庭の横すなはちその西の方には五十キュビトの幕を設くべしその柱は十その座も十 **13** また東に向ひては庭の東の方の濶は五十キュビトにすべし **14** 而して此一旁に十五キュビトの幕を設くべしその柱は三その座も三 **15** 又彼一旁にも十五キュビトの幕を設くべしその柱は三その座も三 **16** 庭の門のために青紫紅の線および麻の撚絲をもて織なしたる二十キュビトの幔を設くべしその柱は四その座も四 **17** 庭の四周の柱は皆銀の桁

をもて続けその鉤を銀にしその座を銅にすべし 18 庭の樅は百キュビトその横は五十キュビト宛その高は五キュビト麻の撚糸をもてつくりなしその座を銅にすべし 19 凡て幕屋に用ふるところの諸の器具並にその釘および庭の釘は銅をもて作るべし 20 汝又イスラエルの子孫に命じ橄欖を搗て取たる清き油を燈火のために汝に持きたらしめて絶ず燈火をともしすべし 21 集會の幕屋に於て律法の前なる幕の外にアロンとその子等晩より朝までエホバの前にその燈火を整ふべし是はイスラエの子孫が世々たえず守るべき定例なり

28 汝イスラエルの子孫の中より汝の兄弟アロンとその子等すなはちアロンとその子ナダブ、アビウ、エレアザル、イタマルを汝に至らしめて彼をして我にむかひて祭司の職をなさしむべし 2 汝また汝の兄弟アロンのために聖衣を製りて彼の身に顯榮と榮光あらしむべし 3 汝凡て心に智慧ある者すなはち我が智慧の靈を充しおきたる者等に語りてアロンの衣服を製しめ之を用てアロンを聖別て我に祭司の職をなさしむべし 4 彼等が製るべき衣服は是なり即ち胸牌エポデ明衣間格の裏衣頭帽および帶彼等汝の兄弟アロンとその子等のために聖衣をつくりて彼をして祭司の職を我にむかひてなすことをえせしむべし 5 即ち彼等金青紫紅の糸および麻糸をとりて用ふべし 6 又金青紫紅の線および麻の撚糸をもて巧にエポデを織なすべし 7 エポデには二の肩帶をほどこしその兩の端を連ねて之を合すべし 8 エポデの上においてこれを束ぬるところの帶はその物同うしてエポデの製のごとくにすべし即ち金青紫紅の糸および麻の撚糸

をもてこれを作るべし 9 汝二箇の葱珩をとりてその上にイスラエルの子等の名を鑄つくべし 10 即ち彼等の誕生にしたがひてその名六を一の玉に鑄りその遺餘の名六を外の玉に鑄べし 11 玉に雕刻する人の印を刻が如くに汝イスラエルの子等の名をその二の玉に鑄つけその玉を金の槽に嵌べし 12 この二の玉をエポデの肩帯の上につけてイスラエルの子等の記念の玉とならしむべし即ちアロン、エホバの前において彼等の名をその兩の肩に負て記念とならしむべし 13 汝金の槽を作るべし 14 而して純金を組て紐の如き二箇の鏈を作りその組る鏈をかの槽につくべし 15 汝また審判の胸牌を巧に織なしエポデの製のごとくに之をつくるべし即ち金青紫紅の線および麻の撚糸をもてこれを製るべし 16 是は四角にして二重なるべく其長は半キュビトその濶も半キュビトなるべし 17 汝またその中に玉を嵌て玉を四行にすべし即ち赤玉黄玉瑪瑙の一行を第一行とすべし 18 第二行は紅玉青玉金剛石 19 第三行は深紅玉 白瑪瑙 紫玉 20 第四行は黄緑玉 葱珩 碧玉 凡て金の槽の中にこれを嵌べし 21 その玉はイスラエルの子等の名に循ひその名のごとくにこれを十二にすべし而してその十二の支派の各々の名は印を刻ごとくにこれを鑄つくべし 22 汝純金を紐のごとくに組たる鏈を胸牌の上につくべし 23 また胸牌の上に金の環二箇を作り胸牌の兩の端にその二箇の環をつけ 24 かの金の紐二條を胸牌の端の二箇の環につくべし 25 而してその二條の紐の兩の端を二箇の槽に結びエポデの肩帯の上につけてその前にあらしむべし 26 又二箇の金の環をつくりて之を胸牌の兩の端につくべし即ちそのエポデに對ふところの内の邊に

之をつくべし 27 汝また金の環二箇を造りてこれをエポデの兩旁の下の方につけその前の方にてその聯接する處に對ひてエポデの帶の上にあらしむべし 28 胸牌は青紐をもてその環によりて之をエポデの環に結びつけエポデの帶の上にあらしむべし然せば胸牌エポデを離ること無るべし 29 アロン聖所に入る時はその胸にある審判の胸牌にイスラエルの子等の名を帶てこれをその心の上に置きエホバの前に恒に記念とならしむべし 30 汝審判の胸牌にウリムとトンミムをいれアロンをしてそのエホバの前に入る時にこれをその心の上に置しむべしアロンはエホバの前に常にイスラエルの子孫の審判を帶てその心の上に置べし 31 エポデに屬する明衣は凡てこれを青く作るべし 32 頭をいるる孔はその眞中に設くべし又その孔の周圍には織物の縁をつけて鎧の領盤のごとくになして之を綻びざらしむべし 33 その裾には青紫紅の糸をもて石榴をつくりてその裾の周圍につけ又四周に金の鈴をその間々につくべし 34 即ち明衣の裾には金の鈴に石榴又金の鈴に石榴とその周圍につくべし 35 アロン奉事をなす時にこれを著べし彼が聖所にいりてエホバの前に至る時また出きたる時にはその鈴の音聞ゆべし斯せば彼死ることあらじ 36 汝純金をもて一枚の前板を作り印を刻がごとくにその上にエホバに聖と鑄つけ 37 之を青紐につけて頭帽の上にあらしむべし即ち頭帽の前の方にこれをつくべし 38 是はアロンの額にあるべしアロンはイスラエルの子孫が献ぐるところの聖物すなはちその献ぐる諸の聖き供物の上にあるところの罪を負べしこの板をば常にアロンの額にあらしむべし是エホバの前に其等の受納られんた

めなり 39 汝麻糸をもて裏衣を間格に織り麻糸をもて頭帽を製りまた帯を繡工に織なすべし 40 汝またアロンの子等のために裏衣を製り彼らのために帯を製り彼らのために頭巾を製りてその身に顯榮と榮光あらしむべし 41 而して汝これを汝の兄弟アロンおよび彼とともにその子等に着せ膏を彼等に灌ぎこれを立てこれを聖別てこれをして祭司の職を我になさしむべし 42 又かれらのためにその陰所を蔽ふ麻の禪を製り腰より髀に達らしむべし 43 アロンとその子等は集會の幕屋に入る時又は祭壇に近づきて聖所に職事をなす時はこれを著べし斯せば愆をかうむりて死ることなからん是は彼および彼の後の子孫の永く守るべき例なり

29 汝かれらを聖別て彼らをして我にむかひて祭司の職をなさしむるには斯これに爲べし即ち若き牡牛と二の全き牡山羊を取り 2 無酵パン油を和たる無酵菓子および油を塗たる無酵煎餅を取べし是等は麥粉をもて製るべし 3 而してこれを一箇の筐にいれ牡牛および二の牡山羊とともにこれをその筐のままに持きたるべし 4 汝またアロンとその子等を集會の幕屋の口に携きたりて水をもてかれらを洗ひ清め 5 衣服をとりて裏衣エポデに屬する明衣エポデおよび胸牌をアロンに着せエポデの帯を之に帶しむべし 6 而してかれの首に頭帽をかむらせその頭帽の上にかの聖金板を戴しめ 7 灌油を取てこれを彼の首に傾け灌ぐべし 8 又かれの子等を携來りて之に裏衣を着せ 9 之に帯を帶しめ頭巾をこれにかむらすべし即ちアロンとその子等に斯なすべし祭司の職はかれらに歸す永くこれを例となすべし汝斯アロンとその子等を立べ

し 10 汝集會の幕屋の前に牡牛をひき來らしむべし而してアロンとその子等その牡牛の頭に手を按べし 11 かくして汝集會の幕屋の口にてエホバの前にその牡牛を宰すべし 12 汝その牡牛の血をとり汝の指をもてこれを壇の角に塗りその血をばことごとく壇の下に灌ぐべし 13 汝またその臓腑を裏むところの諸の脂肝の上の網膜および二の腎とその上の脂を取てこれを壇の上に燔べし 14 但しその牡牛の肉とその皮および糞は營の外にて火に焼べし是は罪祭なり 15 汝かの牡山羊一頭を取るべし而してアロンとその子等その牡山羊の上に手を按べし 16 汝その牡山羊を宰しその血をとりてこれを壇の上の周圍に灌ぐべし 17 汝その牡山羊を切割きその臓腑とその足を洗ひて之をその肉の塊とその頭の上におくべし 18 汝その牡山羊を壇の上に悉く焼べし是エホバにたてまつる燔祭なり是は馨しき香にしてエホバにたてまつる火祭なり 19 汝また今一の牡山羊をとるべし而してアロンとその子等その牡山羊の頭の上に手を按べし 20 汝すなはちその牡山羊を殺しその血をとりてこれをアロンの右の耳の端およびその子等の右の耳の端につけ又その右の手の大指と右の足の拇指につけその血を壇の周圍に灌ぐべし 21 又壇の上の血をとり灌油をとりて之をアロンとその衣服およびその子等とその子等の衣服に灌ぐべし斯彼とその衣服およびその子等とその子等の衣服清淨なるべし 22 汝その牡山羊の脂と脂の尾および其臓腑を裏る脂肝の上の網膜二箇の腎と其上の脂および右の腿を取べし是は任職の牡山羊なり 23 汝またエホバの前にある無酵パンの筐の中よりパン一個と油ぬりたる菓子一箇と煎餅一個を取べし 24 汝こ

れらを悉くアロンの手と其子等の手に授けこれを揺
てエホバに揺祭となすべし 25 而して汝これらを彼等
の手より取て壇の上にて燔祭にくはへて焼くべし是
エホバの前に馨しき香となるべし是すなはちエホバ
にたてまつる火祭なり 26 汝またアロンの任職の牡山
羊の胸を取てこれをエホバの前に揺て揺祭となすべ
し是汝の受るところの分なり 27 汝その揺ところの揺
祭の物の胸およびその擧るところの擧祭の物の腿す
なはちアロンとその子等の任職の牡山羊の胸と腿を
聖別つべし 28 是はアロンとその子等に歸すべしイス
ラエルの子孫永くこの例を守るべきなり是はイスラ
エルの子孫が酬恩祭の犠牲の中よりとるところの擧
祭にしてエホバになすところの擧祭なり 29 アロンの
聖衣は其後の子孫に歸すべし子孫これを着て膏をそ
そがれ職に任ぜらるべきなり 30 アロンの子孫の中彼
にかはりて祭司となり集會の幕屋にいりて聖所に職
をなす者は先七日の間これを着べし 31 汝任職の牡山
羊を取り聖所にてその肉を煮べし 32 アロンとその子
等は集會の幕屋の戸口においてその牡山羊の肉と筐
の中のパンを食ふべし 33 罪を贖ふ物すなはち彼らを
立て彼らを聖別るに用るところの物を彼らは食ふべ
し餘の人は食ふべからず其は聖物なればなり 34 もし
任職の肉あるひはパン且まで遺りをらばその遺者は
火をもてこれを焼べし是は聖ければ食ふべからず 35
汝わが凡て汝に命ずるごとくにアロンとその子等に
斯なすべし即ちかれらのために七日のあひだ任職の
禮をおこなふべし 36 汝日々に罪祭の牡牛一頭をささ
げて贖をなすべし又壇のために贖罪をなしてこれを
清めこれに膏を灌ぎこれを聖別べし 37 汝七日のあひ

だ壇のために贖をなして之を聖別め至聖き壇とならしむべし凡て壇に捫る者は聖なるべし 38 汝が壇の上にささぐべき者は是なり即ち一歳の羔二を日々絶ず献ぐべし 39 一の羔は朝にこれを献げ一の羔は夕にこれを献べし 40 一の羔に麥粉十分の一に搗たる油一ヒンの四分の一を和たるを添へ又灌祭として酒一ヒンの四分の一を添べし 41 今一の羔羊は夕にこれを献げ朝とおなじき素祭と灌祭をこれと共にささげ馨しき香とならしめエホバに火祭たらしむべし 42 是すなはち汝らが代々絶ず集會の幕屋の門口にてエホバの前に献ぐべき燔祭なり我其處にて汝等に會ひ汝と語ふべし 43 其處にて我イスラエルの子孫に會ん幕屋はわが榮光によりて聖なるべし 44 我集會の幕屋と祭壇を聖めん亦アロンとその子等を聖めて我に祭司の職をなさしむべし 45 我イスラエルの子孫の中に居て彼らの神とならん 46 彼等は我が彼らの神エホバにして彼等の中に住んとて彼等をエジプトの地より導き出せし者なることを知ん我はかれらの神エホバなり

30 汝香を焚く壇を造るべし即ち合歡木をもてこれを造るべし 2 その長は一キュビトその寛も一キュビトにして四角ならしめ其高は三キュビトにし其角は其より出しむべし 3 而してその上その四傍その角ともに純金を着せその周圍に金の縁を作るべし 4 汝またその両面に金の縁の下に金の環二箇を之がために作るべし即ちその兩傍にこれを作るべし是すなはちこれを昇ところの杠を貫く所なり 5 その杠は合歡木をもてこれを作りて之に金を着すべし 6 汝これを律法の櫃の傍なる幕の前に置て律法の上なる贖罪所に對はしむべし其處はわが汝に會ふ處なり 7 アロン朝

ごとにその上に馨しき香を焚べし彼燈火を整ふる時はその上に香を焚べきなり 8 アロン夕に燈火を燃す時はその上に香を焚べし是香はエホバの前に汝等が代々絶すべからざる者なり 9 汝等その上に異なる香を焚べからず燔祭をも素祭をも獻ぐべからず又その上に灌祭の酒を灌ぐべからず 10 アロン年に一回贖罪の罪祭の血をもてその壇の角のために贖をなすべし汝等代々年に一度是がために贖をなすべし是はエホバに最も聖き者たるなり 11 エホバ、モーセに告て言たまはく 12 汝がイスラエルの子孫の數を數へしらぶるにあたりて彼等は各人その數へらるる時にその生命の贖をエホバにたてまつるべし是はその數ふる時にあたりて彼等の中に災害のあらざらんためなり 13 凡て數へらるる者の中に入る者は聖所のシケルに遵ひて半シケルを出すべし一シケルは二十ゲラなり即ち半シケルをエホバにたてまつるべし 14 凡て數へらるる者の中に入る者即ち二十歳以上の者はエホバに獻納物をなすべし 15 汝らの生命を贖ふためにエホバに獻納物をなすにあたりては富者も半シケルより多く出すべからず貧者も其より少く出すべからず 16 汝イスラエルの子孫より贖の金を取てこれを幕屋の用に供ふべし是はエホバの前にイスラエルの子孫の記念となりて汝ら生命を贖ふべし 17 エホバ、モーセに告て言たまはく 18 汝また銅をもて洗盤をつぐりその臺をも銅になして洗ふことのために供へ之を集會の幕屋と壇との間に置いてその中に水をいれおくべし 19 アロンとその子等はそれに就て手と足を洗ふべし 20 彼等は集會の幕屋に入る時に水をもて洗ふことを爲て死をまぬかるべし亦壇にちかづきてその職をなし火

祭をエホバの前に焚く時も然すべし 21 即ち斯その手足を洗ひて死を免かるべし是は彼とその子孫の代々常に守るべき例なり 22 エホバまたモーセに言たまひけるは 23 汝また重立たる香物を取れ即ち淨没薬五百シケル香しき肉桂その半二百五十シケル香しき菖蒲二百五十シケル 24 桂枝五百シケルを聖所のシケルに遵ひて取り又橄欖の油ヒンを取べし 25 汝これをもて聖灌膏を製るべしすなはち薫物を製る法にしたがひて香膏を製るべし是は聖灌膏たるなり 26 汝これを集會の幕屋と律法の櫃に塗り 27 案とそのもろもろの器具燈臺とそのもろもろの器具および香壇 28 並に燔祭の壇とそのもろもろの器具および洗盤とその臺とに塗べし 29 汝是等を聖めて至聖らしむべし凡てこれに捫る者は聖くならん 30 汝アロンとその子等に膏をそそぎて之を立て彼らをして我に祭司の職をなさしむべし 31 汝イスラエルの子孫に告ていふべし是は汝らが代々私の爲に用ふべき聖灌膏なり 32 是は人の身に灌ぐべからず汝等また此量をもて是に等き物を製るべからず是は聖し汝等これを聖物となすべし 33 凡て之に等き物を製る者凡てこれを餘人につくる者はその民の中より絶るべし 34 エホバ、モーセに言たまはく汝ナタフ、シケレテ、ヘルペナの香物を取りその香物を淨き乳香に和あはすべしその量は各等からしむべきなり 35 汝これを以て香を製るべし即ち薫物を製る法にしたがひてこれをもて薫物を製り鹽をこれにくはへ潔く且聖らしむべし 36 汝またその幾分を細に搗て我が汝に會ふところなる集會の幕屋の中にある律法の前にこれを供ふべし是は汝等において最も聖き者なり 37 汝が製るところの香は汝等その量をも

てこれを自己のために製るべからず是は汝において
エホバのために聖き者たるなり 38 凡て是に均き者を
製りてこれを嗅ぐ者はその民の中より絶るべし

31 エホバ、モーセに告て言たまひけるは 2 我ユダ
の支派のホルの子なるウリの子ベザレルを名指て召
し 3 神の霊をこれに充して智慧と了知と智識と諸の
類の工に長しめ 4 奇巧を盡して金銀及び銅の作をな
すことを得せしめ 5 玉を切り嵌め木に彫刻みて諸の
類の工をなすことを得せしむ 6 視よ我またダンの支
派のアヒサマクの子アホリアブを與へて彼とともに
らしむ凡て心に智ある者に我智慧を授け彼等をして
我が汝に命ずる所の事を盡くなさしむべし 7 即ち集
會の幕屋律法の櫃その上の贖罪所幕屋の諸の器具 8
案ならびにその器具純金の燈臺とその諸の器具およ
び香壇 9 燔祭の壇とその諸の器具洗盤とその臺 10 供
職の衣服祭司の職をなす時に用ふるアロンの聖衣お
よびその子等の衣服 11 および灌膏ならびに聖所の馨
しき香是等を我が凡て汝に命ぜしごとくに彼等製造
べきなり 12 エホバ、モーセに告て言たまひけるは 13
汝イスラエルの子孫に告て言べし汝等かならず吾安
息日を守るべし是は我と汝等の間代々の徴にして
汝等に我の汝等を聖からしむるエホバなるを知しむ
る爲の者なればなり 14 即ち汝等安息日を守るべし是
は汝等に聖日なればなり凡て之を瀆す者は必ず殺さ
るべし凡てその日に働作をなす人はその民の中より
絶るべし 15 六日の間業をなすべし第七日は大安息に
してエホバに聖なり凡て安息日に働作をなす者は必
ず殺さるべし 16 斯イスラエルの子孫は安息日を守り
代々安息日を祝ふべし是永遠の契約なり 17 是は永久

に我とイスラエルの子孫の間の徴たるなり其はエホバ六日の中に天地をつくりて七日に休みて安息に入たまひたればなり 18 エホバ、シナイ山にてモーセに語ることを終たまひし時律法の板二枚をモーセに賜ふ是は石の板にして神が手をもて書したまひし者なり

32 茲に民モーセが山を下ることの遅きを見民集りてアロンの許に至り之に言けるは起よ汝われらを導く神を我儕のために作れ其は我らをエジプトの國より導き上りし彼モーセ其人は如何になりしか知ざればなり 2 アロンかれらに言けるは汝等の妻と息子息女等の耳にある金の環をとりはづして我に持きたれと 3 是において民みなその耳にある金の環をとりはづしてアロンの許に持來りければ 4 アロンこれを彼等の手より取り鎚鑿をもて之が形を造りて犢を鑄なしたるに人々言ふイスラエルよ是は汝をエジプトの國より導きのぼりし汝の神なりと 5 アロンこれを見てその前に壇を築き而してアロン宣告て明日はエホバの祭禮なりと言ふ 6 是において人衆明朝早く起いでて燔祭を献げ酬恩祭を供ふ民坐して飲食し起て戯る 7 エホバ、モーセに言たまひけるは汝往て下れよ汝がエジプトの地より導き出せし汝の民は惡き事を行ふなり 8 彼等は早くも我が彼等に命ぜし道を離れ己のために犢を鑄なしてそれを拝み其に犠牲を献げて言ふイスラエルよ是は汝をエジプトの地より導きのぼりし汝の神なりと 9 エホバまたモーセに言たまひけるは我この民を觀たり視よ是は項の強き民なり 10 然ば我を阻るなかれ我かれらに向ひて怒を發して彼等を滅し盡さん而して汝をして大なる國をなさし

むべし **11** モーセその神エホバの面を和めて言けるは
エホバよ汝などて彼の大きな権能と強き手をもてエ
ジプトの國より導きいだしたまひし汝の民にむかひ
て怒を發したまふや **12** 何ぞエジプト人をして斯言し
むべけんや曰く彼は禍をくだして彼等を山に殺し地
の面より滅し盡さんとて彼等を導き出せしなりと然
ば汝の烈き怒を息め汝の民にこの禍を下さんとせし
を思ひ直したまへ **13** 汝の僕アブラハム、イサク、イ
スラエルを憶ひたまへ汝は自己さして彼等に誓ひて
我天の星のごとくに汝等の子孫を増し又わが言とこ
ろの比地をことごとく汝等の子孫にあたへて永くこ
れを有たしめんと彼等に言たまへりと **14** エホバ是に
おいてその民に禍を降んとせしを思ひ直したまへり
15 モーセすなはち身を轉して山より下れりかの律法
の二枚の板その手にあり此板はその両面に文字あり
即ち此面にも彼面にも文字あり **16** 此板は神の作なり
また文字は神の書にして板に彫つけてあり **17** ヨシユ
ア民の呼はる聲を聞てモーセにむかひ營中に戦争の
聲すと言ければ **18** モーセ言ふ是は勝鬨の聲にあらず
又敗北の號呼聲にもあらず我が聞ところのものは歌
唱ふ聲なりと **19** 斯てモーセ營に近づくに及びて犢と
舞跳を見たれば怒を發してその手よりかの板を擲ち
これを山の下に碎けり **20** 而して彼等が作りし犢をと
りてこれを火に焼き碎きて粉となしてこれを水に撒
きイスラエルの子孫に之をのましむ **21** モーセ、アロ
ンに言けるは此民汝に何をなしてか汝かれらに大な
る罪を犯させしや **22** アロン言けるは吾主よ怒を發し
たまふ勿れ此民の悪なるは汝の知ところなり **23** 彼等
われに言けらく我らを導く神をわれらのために作れ

其は我らをエジプトの國より導き上りし彼モーセ其人は如何になりしか知ざればなりと 24 是において我凡て金をもつ者はそれをとりはづせと彼等に言ければ則ちそれを我に與へたり我これを火に投たれば此犢出きたれりと 25 モーセ民を視るに縦肆に事をなすアロン彼等をして縦肆に事をなさしめたれば彼等は其の敵の中に嘲笑となれるなり 26 茲にモーセ營の門に立ち凡てエホバに歸する者は我に來れと言ければレビの子孫みな集りてかれに至る 27 モーセすなはち彼等に言けるはイスラエルの神エホバ言たまふ汝等おのおの劍を横たへて門より門と營の中を彼處此處に行めぐりて各人その兄弟を殺し各人その伴侶を殺し各人その隣人を殺すべしと 28 レビの子孫すなはちモーセの言のごとくに爲たればその日民凡三千人殺されたり 29 是に於てモーセ言ふ汝等おのおのその子をもその兄弟をも顧ずして今日エホバに身を獻げ而して今日福祉を得よ 30 明日モーセ民に言けるは汝等は大なる罪を犯せり今我エホバの許に上りゆかんとす我なんちらの罪を贖ふを得ることもあらん 31 モーセすなはちエホバに歸りて言けるは嗚呼この民の罪は大なる罪なり彼等は自己のために金の神を作れり 32 然どかなはば彼等の罪を赦したまへ然ずば願くは汝の書しるしたまへる書の中より吾名を抹さりたまへ 33 エホバ、モーセに言たまひけるは凡てわれに罪を犯す者をば我これをわが書より抹さらん 34 然ば今往て民を我が汝につげたる所に導けよ吾使者汝に先だちて往ん但しわが罰をなこなふ日には我かれらの罪を罰せん 35 エホバすなはち民を撃たまへり是は

かれら犢を造りたるに因る即ちアロンこれを造りしなり

33 茲にエホバ、モーセに言たまひけるは汝と汝がエジプトの國より導き上りし民此を起いでて我がアブラハム、イサク、ヤコブに誓ひて之を汝の子孫に與へんと言しその地に上るべし **2** 我一の使を遣して汝に先だたしめん我カナン人アモリ人ヘテ人ペリジ人ヒビ人エブス人を逐はらひ **3** なんぢらをして乳と蜜の流るる地にいたらしむべし我は汝の中にをりては共に上らじ汝は項の強き民なれば恐くは我途にて汝を滅すにいたらん **4** 民この惡き告を聞て憂へ一人もその妝飾を身につくる者なし **5** エホバ、モーセに言たまひけるはイスラエルの子孫に言へ汝等は項の強き民なり我もし一刻も汝の中にありて往ば汝を滅すにいたらん然ば今汝らの妝飾を身より取すてよ然せば我汝に爲べきことを知んと **6** 是をもてイスラエルの子孫ホレフ山より以來はその妝飾を取すてて居ぬ **7** モーセ幕屋をとりてこれを營の外に張て營と遙に離れしめ之を集會の幕屋と名けたり凡てエホバに求むることのある者は出ゆきて營の外なるその集會の幕屋にいたる **8** モーセの出て幕屋にいたる時には民みな起あがりてモーセが幕屋にいるまで各々その天幕の門口に立てかれを見る **9** モーセ幕屋にいれば雲の柱くだりて幕屋の門口に立つ而してエホバ、モーセとものいひたまふ **10** 民みな幕屋の門口に雲の柱の立つを見れば民みな起て各人その天幕の門口にて拝をなす **11** 人がその友に言談ごとくにエホバ、モーセと面をあはせてものいひたまふモーセはその天幕に歸りしがその僕なる少者ヌンの子ヨシユアは幕屋

を離れざりき 12 茲にモーセ、エホバに言けるは視たまへ汝はこの民を導き上れと我に言たまひながら誰を我とともに遣したまふかを我にしらしめたまはず汝かつて言たまひけらく我名をもて汝を知る汝はまた我前に恩を得たりと 13 然ば我もし誠に汝の目の前に恩を得たらば願くは汝の道を我に示して我に汝を知しめ我をして汝の目の前に恩を得せしめたまへ又汝この民の汝の有なるを念たまへ 14 エホバ言たまひけるは我親汝と共にゆくべし我汝をして安泰にならしめん 15 モーセ、エホバに言けるは汝もしみづから行たまはずは我等を此より上らしめたまふ勿れ 16 我と汝の民とが汝の目の前に恩を得ることは如何にして知るべきや是汝が我等とともに往たまひて我と汝の民とが地の諸の民に異る者となるによるにあらずや 17 エホバ、モーセに言たまひけるは汝が言この事をも我爲ん汝はわが目の前に恩を得たればなり我名をもて汝を知なり 18 モーセ願くは汝の榮光を我に示したまへと言ければ 19 エホバ言たまはく我わが諸の善を汝の前に通らしめエホバの名を汝の前に宣ん我は恵んとする者を恵み憐まんとする者を憐むなり 20 又言たまはく汝はわが面を見ることあたはず我を見て生る人あらざればなり 21 而してエホバ言たまひけるは視よ我が傍に一の處あり汝磐の上に立べし 22 吾榮光其處を過る時に我なんぢを磐の穴にいれ我が過る時にわが手をもて汝を蔽はん 23 而してわが手を除る時に汝わが背後を見るべし吾面は見るべきにあらず

34 茲にエホバ、モーセに言たまひけるは汝石の板二枚を前のごとくに斫て作れ汝が碎きし彼の前の板

にありし言を我その板に書さん 2 詰朝までに準備をなし朝の中にシナイ山に上り山の嶺に於て吾前に立て 3 誰も汝とともに上るべからず又誰も山の中に居べからず又その山の前にて羊や牛を牧ふべからず 4 モーセすなはち石の板二枚を前のごとくに斫て造り朝早く起て手に二枚石の板をとりエホバの命じたまひしごとくにシナイ山にのぼりゆけり 5 エホバ雲の中にありて降り彼とともに其處に立ちてエホバの名を宣たまふ 6 エホバすなはち彼の前を過て宣たまはくエホバ、エホバ憐憫あり恩恵あり怒ることの遅く恩恵と眞實の大なる神 7 恩恵を千代までも施し悪と過と罪とを赦す者又罰すべき者をば必ず赦すことをせず父の罪を子に報い子の子に報いて三四代におよぼす者 8 モーセ急ぎ地に躬を鞠めて拝し 9 言けるはエホバよ我もし汝の目の前に恩を得たらば願くは主我等の中にいまして行たまへ是は項の強き民なればなり我等の悪と罪を赦し我等を汝の所有となしたまへ 10 エホバ言たまふ視よ我契約をなす我未だ全地に行はれし事あらず何の國民の中にも行はれし事あざるところの奇跡を汝の總躰の民の前に行ふべし汝が住ところの國の民みなエホバの所行を見ん我が汝をもて爲ところの事は怖るべき者なればなり 11 汝わが今日汝に命ずるところの事を守れ視よ我アモリ人カナン人ヘテ人ペリジ人ヒビ人エブス人を汝の前より逐はらふ 12 汝みづから慎め汝が往ところの國の居民と契約をむすぶべからず恐くは汝の中において機檻となることあらん 13 汝らかへつて彼等の祭壇を崩しその偶像を毀ちそのアシラ像を斫たふすべし 14 汝は他の神を拝むべからず其はエホバはその名を嫉妒

と言て嫉妒神たればたり 15 然ば汝その地の居民と契約を結ぶべからず恐くは彼等がその神々を慕ひて其と姦淫をおこなひその神々に犠牲をささぐる時に汝を招きてその犠牲に就て食はしむる者あらん 16 又恐くは汝かれらの女子等を汝の息子等に妻すことありて彼等の女子等その神々を慕ひて姦淫を行ひ汝の息子等をして彼等の神々を慕て姦淫をおこなはしむるにいたらん 17 汝おのれのために神々を誑なすべからず 18 汝無酵パンの節筵を守るべし即ち我が汝に命ぜしごとくアビブの月のその期におよびて七日の間無酵パンを食ふべし其は汝アビブの月にエジプトより出たればなり 19 首出たる者は皆吾の所有なり亦汝の家畜の首出の牡たる者も牛羊ともに皆しかり 20 但し驢馬の首出は羔羊をもて贖ふべし若し贖はずばその頸を折べし汝の息子の中の初子は皆贖ふべし我前に空手にて出るものあるべからず 21 六日の間汝働作をなし第七日に休むべし耕耘時にも収穫時にも休むべし 22 汝七週の節筵すなはち麥秋の初穂の節筵を爲し又年の終に収穫の節筵をなすべし 23 年に三回汝の男子みな主エホバ、イスラエルの神の前に出べし 24 我國々の民を汝の前より逐はらひて汝の境を廣くせん汝が年に三回のぼりて汝の神エホバのまへに出る時には誰も汝の國を取んとする者あらじ 25 汝わが犠牲の血を有酵パンとともに供ふべからず又逾越の節の犠牲は明朝まで存しおくべからざるなり 26 汝の土地の初穂の初を汝の神エホバの家に携ふべし汝山羊羔をその母の乳にて煮べからず 27 斯てエホバ、モーセに言たまひけるは汝是等の言語を書しるせ我是等の言語をもて汝およびイスラエルと契約をむすべばな

り 28 彼はエホバとともに四十日四十夜其處に居しが食物をも食ず水をも飲ざりきエホバその契約の詞なる十誡をか板の上に書したまへり 29 モーセその律法の板二枚を己の手に執てシナイ山より下りしがその山より下りし時にモーセはその面の己がエホバと言ひしによりて光を發つを知ざりき 30 アロンおよびイスラエルの子孫モーセを見てその面の皮の光を發つを視怖れて彼に近づかざりしかば 31 モーセかれらと呼りアロンおよび會衆の長等すなはちモーセの所に歸りたればモーセ彼等と言ふ 32 斯ありて後イスラエルの子孫みな近よりければモーセ、エホバがシナイ山にて己に告たまひし事等を盡くこれに諭せり 33 モーセかれらと語ふことを終て覆面帕をその面にあてたり 34 但しモーセはエホバの前にいりてともに語ることある時はその出るまで覆面帕を除きてをりまた出きたりてその命ぜられし事をイスラエルの子孫に告ぐ 35 イスラエルの子孫モーセの面を見るにモーセの面の皮光を發つモーセは入てエホバと言ふまでまたその覆面帕を面にあてをる

35 モーセ、イスラエルの子孫の會衆を盡く集てこれに言ふ是はエホバが爲せと命じたまへる言なり 2 即ち六日の間は働作を爲べし第七日は汝等の聖日エホバの大安息日なり凡てこの日に働作をなす者は殺さるべし 3 安息日には汝等の一切の住處に火をたく可らず 4 モーセ、イスラエルの子孫の會衆に徧く告て言ふ是はエホバの命じたまへるところの事なり 5 曰く汝等有る物の中より汝等エホバに獻ぐる者を取べし凡て心より願ふ者に其を携へきたりてエホバに獻ぐべし即ち金銀銅 6 青紫紅の線 麻糸 山羊の毛

7 赤染の牡羊の皮 籐の皮 合歡木 8 燈油 灌膏と馨しき香をつくる香物 9 葱珩 エポデと胸牌に嵌る玉 10 凡て汝等の中の心に智慧ある者來りてエホバの命じたまひし者を悉く造るべし 11 即ち幕屋その天幕その頂蓋その鉤その版その横木その柱その座 12 かの櫃とその杠 贖罪所 障蔽の幕 13 案子とその杠およびその諸の器具 供前のパン 14 燈明の臺その器具とその蓋および燈火の油 15 香壇とその杠 灌膏 馨しき香 幕屋の入口の幔 16 燔祭の壇およびその銅の網その杠その諸の器具 洗盤とその臺 17 庭の幕その柱その座 庭の口の幔 18 幕屋の釘 庭の釘およびその紐 19 聖所にて職をなすところの供職の衣 即ち祭司の職をなす時に用ふる者なる祭司アロンの聖衣および其子等の衣服 20 斯てイスラエルの子孫の會衆みなモーセの前を離れて去しが 21 凡て心に感じたる者 凡て心より願ふ者は來りてエホバへの献納物を携へいたり 集會の幕屋とその諸の用に供へ又聖衣のために供へたり 22 即ち凡て心より願ふ者は男女ともに環釦 耳環 指環 頸玉 諸の金の物を携へいたれり 又凡て金の献納物をエホバに爲す者も然せり 23 凡て青 紫 紅の線および麻絲 山羊の毛 赤染の牡羊の皮 籐の皮ある者は是を携へいたり 24 凡て銀および銅の献納物をなす者はこれを携へきたりてエホバに献げ 又物を造るに用ふべき合歡木ある者は其を携へいたれり 25 また凡て心に智慧ある婦女等はその手をもて紡ぐことをなし その紡ぎたる者なる青 紫 紅の線および麻絲を携へきたり 26 凡て智慧ありて心に感じたる婦人は山羊の毛を紡げり 27 又長たる者どもは葱珩およびエポデと胸牌に嵌べき玉を携へいたり 28 燈火と灌膏と馨しき香とに用ふる香物

と油を携へいたれり **29** 斯イスラエルの子孫悦んでエホバに獻納物をなせり即ちエホバがモーセに藉て爲せと命じたまひし諸の工事をなさしむるために物を携へきたらんと心より願ふところの男女は皆是のごとくになしたり **30** モーセ、イスラエルの子孫に言ふ視よエホバ、ユダの支派のホルの子なるウリの子ベザレルを名指て召たまひ **31** 神の靈をこれに充して智慧と了知と知識と諸の類の工事に長しめ **32** 奇巧を盡して金銀および銅の作をなすことを得せしめ **33** 玉を切り嵌め木に彫刻みて諸の類の工をなすことを得せしめ **34** 彼の心を明かにして教ふことを得せしめたまふ彼とダンの支派のアヒサマクの子アホリアブ俱に然り **35** 斯智慧の心を彼等に充して諸の類の工事をなすことを得せしめたまふ即ち彫刻文織および青紫紅の絲と麻絲の刺繡並に機織等凡て諸の類の工をなすことを得せしめ奇巧をこれに盡さしめたまふなり

36 諸ベザレルとアホリアブおよび凡て心の穎敏き人即ちエホバが智慧と了知をあたへて聖所の用に供ふるところの諸の工をなすことを知得せしめたまへる者等はエホバの凡て命じたまひし如くに事をなすべかりし **2** モーセすなはちベザレルとアホリアブおよび凡て心の穎敏き人すなはちその心にエホバが智慧をさづけたまひし者凡そ來りてその工をなさんと心に望ところの者を召よせたり **3** 彼等は聖所の用にそなふるところの工事をなさしむるためにイスラエルの子孫が携へきたりし諸の獻納物をモーセの手より受とりしが民は尚また朝ごとに自意の獻納物をモーセに持きたる **4** 是に於て聖所の諸の工をなすところの智き人等みな各々その爲ところの工をやめて來

り 5 モーセに告て言けるは民餘りに多く持きたれば
エホバが爲せと命じたまひし工事をなすに用ふるに
餘ありと 6 モーセすなはち命を傳へて營中に宣布し
めて云く男女ともに今よりは聖所に獻納物をなすに
及ばずと是をもて民は携へきたることを止たり 7 其
はその有ところの物すでに一切の工をなすに足て且
餘あればなり 8 儲彼等の中心に智慧ありてその工を
爲るところの者十の幕をもて幕屋を造れりその幕は
麻の撚糸と青紫紅の絲をもて巧にケルビムを織なし
て作れる者なり 9 その幕は各々長二十八キュビトそ
の幕は各寛四キュビトその幕はみな寸尺一なり 10 而
してその幕五箇を互に連ねあはせ又その幕五箇をた
がひに連ねあはせ 11 一聯の幕の邊においてその連絡
處の端に青色の襟を造り又他の一聯の幕の邊におい
てその連絡處にこれを造れり 12 一聯の幕に襟五十を
つくりまた他の一聯の幕の連絡處の邊にも襟五十を
つくれりその襟は彼と此と相對す 13 而して金の鈎五
十をつくりその鈎をもてその幕を彼と此と相連ねた
れば一箇の幕屋となる 14 又山羊の毛をもて幕をつ
くりて幕屋の上の天幕となせりその造れる幕は十一
なり 15 その幕は各々長三十キュビトその幕はおのお
の寛四キュビトにして十一の幕は寸尺同一なり 16 そ
の幕五を一幅に連ねまたその幕六を一幅に連ね 17 そ
の幕の邊において連絡處に襟五十をつくり又次の一連
の幕の邊にも襟五十をつくれり 18 又銅の鈎五十をつ
くりてその天幕をつらねあはせて一とならしめ 19 赤
染の牡羊の皮をもてその天幕の頂蓋をつくりてその
上に獾の皮の蓋を設けたり 20 又合欵木をもて幕屋の
豎板をつくれり 21 板の長は十キュビト板の寛は一キ

ユピト半 22 一の板に二の樺ありて彼と此と交指ふ幕屋の板には皆かくのごとく造りなせり 23 又幕屋のために板を作れり即ち南に於て南の方に板二十枚 24 その二十枚の板の下に銀の座四十をつくれり即ち此板の下にも二の座ありてその二の樺を承け彼板の下にも二の座ありてその二の樺を承く 25 幕屋の他の方すなはちその北の方のためにも板二十枚を作り 26 又その銀の座四十をつくれり即ち此板の下にも二の座あり彼板の下にも二の座あり 27 又幕屋の後面すなはちその西のために板六枚をつくり 28 幕屋の後の兩隅のために板二枚宛をつくれり 29 その二枚は下にて相合しその頂まで一に連なれり一箇の環に於て然りその二枚ともに是のごとし是等は二隅のために設けたる者なり 30 その板は八枚ありその座は銀の座十六座あり各々の板の下に二の座あり 31 又合歡木をもて横木を作れり即ち幕屋の此方の板のために五本を設け 32 幕屋の彼方の板のために横木五本を設け幕屋の後すなはちその西の板のために横木五本を設けたり 33 又中間の横木をつくりて板の眞中において端より端まで通らしめ 34 而してその板に金を着せ金をもて之がために鑲をつくりて横木をこれに貫き又その横木に金を着たり 35 又青紫紅の絲および麻の撚絲をもて幕をつくり巧にケルピムをその上に織いだし 36 それがために合歡木をもて四本の柱をつくりてこれに金を着せたりその鉤は金なり又銀をもてこれがために座四を鑄たり 37 又青紫紅の絲および麻の撚絲をもて幕屋の入口に掛る幔を織なし 38 その五本の柱とその鉤とを造りその柱の頭と桁に金を着せたり但しその五の座は銅なりき

37 ベザレル合歡木をもて櫃をつくれりその長は二キュビト半その寛は一キュビト半、その高は一キュビト半 **2** 而して純金をもてその内外を蔽ひてその上の周圍に金の縁を造れり **3** 又金の環四箇を鑄てその四の足につけたり即ち此旁に二箇の輪彼旁に二箇の輪を付く **4** 又合歡木をもて杠を作りてこれに金を着せ **5** その杠を櫃の傍の環にさしいれて之をもて櫃をかくべからしむ **6** 又純金をもて贖罪所を造れりその長は二キュビト半その寛は一キュビト半なり **7** 又金をもて二箇のケルビムを作り即ち槌にて打て之を贖罪所の兩傍に作り **8** 一箇のケルブを此方の末に一箇のケルブを彼方の末に置り即ち贖罪所の兩傍にケルビムを作り **9** ケルビムは翼を高く展べ其翼をもて贖罪所を掩ひ其面をたがひに相向く即ちケルビムの面は贖罪所に向ふ **10** 又合歡木をもて案を作り其長は二キュビト其寛は二キュビト其高は一キュビト半 **11** 而て純金を之に着せ其周圍に金の縁をつけ **12** 又其四圍に掌寛の邊を作り其邊の周圍に金の小縁を作り **13** 而て之が爲に金の環四箇を鑄其足の四隅に其環を付たり **14** 即ち環は邊の側に在て案を昇く杠に入る處なり **15** 而て合歡木をもて案を昇く杠を作りて之に金を着せたり **16** 又案の上の器具即ち皿匙杓及び酒を灌ぐ罍を純金にて作り **17** 又純金をもて一箇の燈臺を造れり即ち槌をもて打て其燈臺を作り其臺座軸萼節及び花は其に連る **18** 六の枝その旁より出づ即ち燈臺の三の枝は此旁より出で燈臺の三の枝は彼傍より出づ **19** 巴旦杏の花の形せる三の萼節および花とともに此枝にあり又巴旦杏の花の形せる三の萼節および花とともに彼枝にあり燈臺より出る六の枝み

な斯のごとし 20 巴旦杏の花の形せる四の萼その節および花とともに燈臺にあり 21 兩箇の枝の下に一箇の節あり又兩箇の枝の下に一箇の節あり又兩箇の枝の下に一箇の節あり燈臺より出る六の枝みな是のごとし 22 その節と枝とは其に連れり皆槌にて打て純金をもて造れり 23 又純金をもて七箇の燈蓋と燈鉗と剪燈盤を造れり 24 燈臺とその諸の器具は純金一タラントをもて作れり 25 又合歡木をもて香壇を造れり其長一キュピトその寛二キュピトにして四角なりその高は二キュピトにしてその角は其より出づ 26 その上その四旁その角ともに純金を着せその周圍に金の縁を作れり 27 又その兩面に金の縁の下に金の環二箇をこれがために作れり即ちその兩旁にこれを作る是すなはち之を昇ところの杠を貫くところなり 28 又合歡木をもてその杠をつくりて之に金を着せたり 29 又薫物をつくる法にしたがひて聖灌膏と香物の清き香とを製れり

38 又合歡木をもて燔祭の壇を築けりその長は五キュピト其寛は五キュピトにして四角その高は三キュピト 2 而してその四隅の上に其の角を作りてその角を其より出しめその壇には銅を着せたり 3 又その壇の諸の器具すなはち壺と火鏟と鉢と肉叉と火鼎を作れり壇の器はみな銅にて造る 4 又壇のために銅の網をつくりこれを壇の中程の邊の下に置ゑて壇の半に達せしめ 5 その銅の網の四隅に四箇の環を鑄て杠を貫く處となし 6 合歡木をもてその杠をつくりて之に銅を着せ 7 壇の兩旁の環にその杠をつらぬきて之を昇べからしむその壇は板をもてこれを空につくれり 8 また銅をもて洗盤をつくりその臺をも銅にす即ち集

會の幕屋の門にて役事をなすところの婦人等鏡をもて之を作り 9 又庭を作り南に於ては庭の南の方に百キュビトの細布の幕を設く 10 その柱は二十その座は二十にして共に銅なりその柱の鈎および桁は銀なり 11 北の方には百キュビトの幕を設くその柱は二十その座は二十にして共に銅なりその柱の鈎と桁は銀なり 12 西の方には五十キュビトの幕を設くその柱は十その座は十その柱の鈎と桁は銀なり 13 東においては東の方に五十キュビトの幕を設く 14 而してこの一傍に十五キュビトの幕を設くその柱は三その座も三 15 又かの一傍にも十五キュビトの幕を設くその柱は三その座も三即ち庭の門の此旁彼旁ともに然り 16 庭の周圍の幕はみな細布なり 17 柱の座は銅柱の鈎と桁は銀柱の頭の包は銀なり庭の柱はみな銀の桁にて連る 18 庭の門の幔は青紫紅の絲および麻の撚絲をもて織なしたる者なりその長は二十キュビトその寛における高は五キュビトにして庭の幕と等し 19 その柱は四その座は四にして共に銅その鈎は銀その頭の包と桁は銀なり 20 幕屋およびその周圍の庭の釘はみな銅なり 21 幕屋につける物すなはち律法の幕屋につける物を量るに左のごとし祭司アロンの子イタマル、モーセの命にしたがひてレビ人を率ゐ用ひてこれを量れるなり 22 ユダの支派のホルの子なるウリの子ベザレル凡てエホバのモーセに命じたまひし事等をなせり 23 ダンの支派のアヒサマクの子アホリアブ彼とともにありて雕刻織文をなし青紫紅の絲および麻絲をもて文繡をなせり 24 聖所の諸の工作をなすに用たる金は聖所のシケルにしたがひて言ば都合二十九タラント七百三十シケルなり是すなはち献納たるとこ

ろの金なり 25 會衆の中の核數られし者の獻げし銀は聖所のシケルにしたがひて言ば百タラント千七百七十五シケルなり 26 凡て數らるる者の中に入し者即ち二十歳以上の者六十萬三千五百五十人ありたれば聖所のシケルにしたがひて言ば一人に一ベカとなる是すなはち半シケルなり 27 百タラントの銀をもて聖所の座と幕の座を鑄たり百タラントをもて百座をつくれれば一座すなはち一タラントなり 28 又千七百七十五シケルをもて柱の鈎をつくり柱の頭を包み又柱を連ねあはせたり 29 又獻納たるところの銅は七十タラント二千四百シケルなり 30 是をもちひて集會の幕屋の門の座をつくり銅の壇とその銅の網および壇の諸の器具をつくり 31 庭の周圍の座と庭の門の座および幕屋の諸の釘と庭の周圍の諸の釘を作れり

39 青紫紅の絲をもて聖所にて職をなすところの供職の衣服を製り亦アロンのために聖衣を製りエホバのモーセに命じたまひしごとくせり 2 又金青紫紅の絲および麻の撚絲をもてエポデを製り 3 金を薄片に打展べ剪て縷となしこれを青紫紅の絲および麻絲に和てこれを織なし 4 又これがために肩帶をつくりて之を連ねその兩の端において之を連ぬ 5 エポデの上において之を束ぬるところの帶はその物同じうして其の製のごとし即ち金青紫紅の絲および麻の撚絲をもて製る者なりエホバのモーセに命じたまひしごとくなり 6 又葱珩を琢て金の槽に嵌め印を刻がごとくにイスラエルの子等の名をこれに鑄つけ 7 これをエポデの肩帶の上につけてイスラエルの子孫の記念の玉とならしむエホバのモーセに命じたまひしごとし 8 また胸牌を巧に織なしエポデの製のごとくに金青紫

紅の絲および麻の撚絲をもてこれを製れり 9 胸牌は四角にして之を二重につくりたれば二重にしてその長半キュビトその濶半キュビトなり 10 その中に玉四行を嵌む即ち赤玉黄玉瑪瑙の一行を第一行とす 11 第二行は紅玉 青玉 金剛石 12 第三行は深紅玉 白瑪瑙 紫玉 13 第四行は黄緑玉 葱珩 碧玉 凡て金の槽の中にこれを嵌たり 14 その玉はイスラエルの子等の名にしたがひ其名のごとくに之を十二になし而して印を刻がごとくにその十二の支派の各の名をこれに鑄つけたり 15 又純金を紐のごとくに組たる鏈を胸牌の上につけたり 16 又金をもて二箇の槽をつくり二の金の環をつくりその二の環を胸牌の兩の端につけ 17 かの金の紐二條を胸牌の端の二箇の環につけたり 18 而してその二條の紐の兩の端を二箇の槽に結びエポデの肩帶の上につけてその前にあらしむ 19 又二箇の金の環をつくりて之を胸牌の兩の端につけたり即ちそのエポデに對ふところの内の邊にこれを付く 20 また金の環二箇を造りてこれをエポデの兩傍の下の方につけてその前の方にてその联接る處に對てエポデの帶の上にあらしむ 21 胸牌は青紐をもてその環によりて之をエポデの環に結つけエポデの帶の上にあらしめ胸牌をしてエポデを離るることなからしむエホバのモーセに命じたまひしごとし 22 又エポデに屬する明衣は凡てこれを青く織なせり 23 上衣の孔はその眞中にありて鎧の領盤のごとしその孔の周圍に縁ありて綻びざらしむ 24 而して明衣の裾に青紫紅の撚絲をもて石榴を作りつけ 25 又純金をもて鈴をつくりその鈴を明衣の裾の石榴の間につけ周圍において石榴の間々にこれをつけたり 26 即ち鈴に石榴鈴に石榴と供職の明

衣の裾の周圍につけたりエホバのモーセに命じたまひしごとし 27 又アロンとその子等のために織布をもて裏衣を製り 28 細布をもて頭帽を製り細布をもて美しき頭巾をつくり麻の撚絲をもて禪をつくり 29 麻の撚絲および青紫紅の絲をもて帯を織なせりエホバのモーセに命じたまひしごとし 30 又純金をもて聖冠の前板をつくり印を刻がごとくにその上にエホバに聖といふ文字を書つけ 31 之に青紐をつけて之を頭帽の上に結つれたりエホバのモーセに命じたまひし如し 32 斯集合の天幕なる幕屋の諸の工事成ぬイスラエルの子孫エホバの凡てモーセに命じたまひしごとくに爲て斯おこなへり 33 人衆幕屋と天幕とその諸の器具をモーセの許に携へいたる即ちその鈎その板その横木その柱その座 34 赤染の牡羊の皮の蓋籩の皮の蓋障蔽の幕 35 律法の櫃とその杠贖罪所 36 案とその諸の器具供前のパン 37 純金の燈臺とその蓋すなはち陳列る燈盞とその諸の器具ならびにその燈火の油 38 金の壇灌膏香幕屋の門の幔子 39 銅の壇その銅の網とその杠およびその諸の器具洗盤とその臺 40 庭の幕その柱とその座庭の門の幔子その紐とその釘ならびに幕屋に用ふる諸の器具集會の天幕のために用ふる者 41 聖所にて職をなすところの供職の衣服即ち祭司の職をなす時に用ふる者なる祭司アロンの聖衣およびその子等の衣服 42 斯エホバの凡てモーセに命じたまひしごとくにイスラエルの子孫その諸の工事をなせり 43 モーセその一切の工作を見るにエホバの命じたまひしごとくに造りてあり即ち是のごとくに作りてあればモーセ人衆を祝せり

40 茲にエホバ、モーセに告て言たまひけるは **2** 正月の元日に汝集會の天幕の幕屋を建べし **3** 而して汝その中に律法の櫃を置ゑ幕をもてその櫃を障蔽し **4** 又案を携へいり陳設の物を陳設け且燈臺を携へいりてその燈蓋を置うべし **5** 汝また金の香壇を律法の櫃の前に置ゑ幔子を幕屋の門に掛け **6** 燔祭の壇を集會の天幕の幕屋の門の前に置ゑ **7** 洗盤を集會の天幕とその壇の間に置ゑて之に水をいれ **8** 庭の周圍に藩籬をたて庭の門に幔子を垂れ **9** 而して灌膏をとりて幕屋とその中の一切の物に灌ぎて其とその諸の器具を聖別べし是聖物とならん **10** 汝また燔祭の壇とその一切の器具に膏をそそぎてその壇を聖別べし壇は至聖物とならん **11** 又洗盤とその臺に膏をそそぎて之を聖別め **12** アロンとその子等を集會の幕屋の門につれきたりて水をもて彼等を洗ひ **13** アロンに聖衣を着せ彼に膏をそそぎてこれを聖別め彼をして祭司の職を我になさしむべし **14** 又かれの子等をつれきたりて之に明衣を着せ **15** その父になせるごとくに之に膏を灌ぎて祭司の職を我になさしむべし彼等の膏そそがれて祭司たることは代々變らざるべきなり **16** モーセかく行へり即ちエホバの己に命じたまひし如くに爲たり **17** 第二年の正月にいたりてその月の元日に幕屋建ぬ **18** 乃ちモーセ幕屋を建てその座を置ゑその板をたてその横木をさしこみその柱を立て **19** 幕屋の上に天幕を張り天幕の蓋をその上にほどこせりエホバのモーセに命じ給ひし如し **20** 而してかれ律法をとりて櫃に蔵め杠を櫃につけ贖罪所を櫃の上に置ゑ **21** 櫃を幕屋に携へいり障蔽の幕を垂て律法の櫃を隠せりエホバのモーセに命じたまひしごとし **22** 彼また集會の幕屋

において幕屋の北の方にてかの幕の外に案を置る 23
供前のパンをその上にエホバの前に陳設たりエホバ
のモーセに命じたまひし如し 24 又集會の幕屋におい
て幕屋の南の方に燈臺をおきて案にむかはしめ 25 燈
臺をエホバの前にかかげたりエホバのモーセに命じ
たまひしごとし 26 又集會の幕屋においてかの幕の前
に金の壇を居る 27 その上に馨しき香を焚りエホバの
モーセに命じたまひしごとし 28 又幕屋の門に幔子を
垂れ 29 集會の天幕の幕屋の門に燔祭の壇を置るその
上に燔祭と素祭をささげたりエホバのモーセに命じ
たまひし如し 30 又集會の天幕とその壇の間に洗盤を
おき其に水をいれて洗ふことの爲にす 31 モーセ、ア
ロンおよびその子等其につきて手足を洗ふ 32 即ち集
會の幕屋に入る時または壇に近づく時に洗ふことを
せりエホバのモーセに命じたまひしごとし 33 また幕屋
と壇の周圍の庭に藩籬をたて庭の門に幔子を垂ぬ是
モーセその工事を竣たり 34 斯て雲集會の天幕を蓋て
エホバの榮光幕屋に充たり 35 モーセは集會の幕屋に
いることを得ざりき是雲その上に止り且エホバの榮
光幕屋に盈たればなり 36 雲幕屋の上より昇る時には
イスラエルの子孫途に進めり其途々凡て然り 37 然ど
雲の昇らざる時にはその昇る日まで途に進むことを
せざりき 38 即ち晝は幕屋の上にエホバの雲あり夜は
その中に火ありイスラエルの家の者皆これを見るそ
の途々すべて然り

レビ記

1 エホバ集會の幕屋よりモーセを呼びこれに告て言たまはく **2** イスラエルの子孫に告てこれに言へ汝等の中の人もし家畜の禮物をエホバに供んとせば牛あるひは羊をとりてその禮物となすべし **3** もし牛の燔祭をもてその禮物になさんとせば全き牡牛を供ふべしすなはち集會の幕屋の門にてこれをエホバの前にその受納たまふやうに供ふべし **4** 彼その燔祭とする者の首に手を按べし然ば受納られて彼のために贖罪とならん **5** 彼エホバの前にその犢を宰るべし又アロンの子等なる祭司等はその血を携へきたりて集會の幕屋の門なる壇の四圍にその血を灑ぐべし **6** 彼またその燔祭の牲の皮を剥ぎこれを切わかつべし **7** 祭司アロンの子等壇の上に火を置きその火の上に薪柴を陳べ **8** 而してアロンの子等なる祭司等その切わかてる者その首およびその脂を壇の上なる火の上にある薪の上に陳ぶべし **9** その臟腑と足はこれを水に洗ふべし斯て祭司は一切を壇の上に焼て燔祭となすべし是すなはち火祭にしてエホバに馨しき香たるなり **10** またその禮物もし群の羊あるひは山羊の燔祭たらば全き牡を供ふべし **11** 彼壇の北の方においてエホバの前にこれを宰るべしアロンの子等なる祭司等はその血を壇の四圍に灑ぐべし **12** 彼また之を切わかちその首とその脂を截とるべし而して祭司これを皆壇の上なる火の上にある薪柴の上に陳ぶべし **13** またその臟腑と足はこれを水に洗ひ祭司一切を携へきたりて壇の上に焼べし是を燔祭となす是即ち火祭にしてエホバに馨しき香たるなり **14** 若また禽を燔祭となしてエホバに献るならば鳴鳩または雛き鴿を携へ來りて禮

物となすべし 15 祭司はこれを壇にたづさへゆきてその首を切やぶりこれを壇の上に焼べしまたその血はこれをしぼりいだして壇の一方にぬるべし 16 またその穀袋とその内の物はこれを除きて壇の東の方なる灰棄處にこれを棄べし 17 またその翼は切はなすこと无にこれを割べし而して祭司これを壇の上にて火の上なる薪柴の上に焼べし是を燔祭となす是すなはち火祭にしてエホバに馨しき香たるなり

2 人素祭の禮物をエホバに供ふる時は麥粉をもてその禮物となしその上に油をそそぎ又その上に乳香を加へ 2 これをアロンの子等なる祭司等の許に携へゆくべし斯てまた祭司はその麥粉と油一握をその一切の乳香とともに取り之を記念の分となして壇の上に焼べし是すなはち火祭にしてエホバに馨しき香たるなり 3 素祭の餘はアロンとその子等に歸すべし是はエホバに獻る火祭の一にして至聖物たるなり 4 汝もし爐に焼たる物をもて素祭の禮物となさんとせば麥粉に油を和て作れる無酵菓子および油を抹たる無酵煎餅を用ふべし 5 汝の素祭とする禮物もし鍋に焼たる物ならば麥粉に油を和て酵いれずに作れる者を用ふべし 6 汝これを細に割てその上に油をそそぐべし是を素祭となす 7 汝の素祭とする禮物もし釜に煮たる物ならば麥粉と油をもて作れる者を用ふべし 8 汝これ等の物をもて作れる素祭の物をエホバに携へいたるべし是を祭司に授さば祭司はこれを壇にたづさへ往き 9 その素祭の中より記念の分をとりて壇の上に焚べし是すなはち火祭にしてエホバに馨しき香たるなり 10 素祭の餘はアロンとその子等に販すべし是はエホバにささぐる火祭の一にして至聖物たるなり

11 凡そ汝等がエホバにたづさへいたる素祭は都て酔
いれて作るべからず汝等はエホバに献る火祭の中に
酔または蜜を入れて焚べからず 12 但し初熟の禮物をそ
なふる時には汝等これをエホバにそなふべし然ど馨
しき香のためにこれを壇にそなふる事はなすべから
ず 13 汝素祭を献るには凡て鹽をもて之に味くべし汝
の神の契約の鹽を汝の素祭に缺こと勿れ汝禮物をな
すには都て鹽をそなふべし 14 汝初穂の素祭をエホバ
にそなへんとせば穂を火にやきて殻をさりたる者
をもて汝の初穂の禮物にそなふべし 15 汝また油をその
上にほどこし乳香をその上加ふべし是を素祭とな
す 16 祭司はその殻を去たる穀物の中および油の中よ
りその記念の分を取りその一切の乳香とともにこれ
を焚べし是すなはちエホバにささぐる火祭なり

3 人もし酬恩祭の犠牲を献るに當りて牛をとりて之
を献るならば牝牡にかかはらずその全き者をエホバ
の前に供ふべし 2 すなはちその禮物の首に手を按き
集會の幕屋の門にこれを宰るべし而してアロンの子
等なる祭司等その血を壇の周圍に灌ぐべし 3 彼はま
たその酬恩祭の犠牲の中よりして火祭をエホバに献
べし即ち臟腑を裹むところの脂と臟腑の上の一切の
脂 4 および二箇の腎とその上の脂の腰の兩傍にある
者ならびに肝の上の網膜の腎の上に達る者を取べし
5 而してアロンの子等壇の上において火の上なる薪の
上の燔祭の上にこれを焚べし是すなはち火祭にして
エホバに馨しき香たるなり 6 もしまたエホバに酬恩
祭の犠牲を献るにあたりて羊をその禮物となすなら
ば牝牡にかかはらず其全き者を供ふべし 7 若また羔
羊をその禮物となすならば之をエホバの前に牽來り

8 その禮物の首に手を按きこれを集會の幕屋の前に宰るべし而してアロンの子等その血を壇の四圍にそそぐべし 9 彼その酬恩祭の犠牲の中よりして火祭をエホバに献べし即ちその脂をとりその尾を脊骨より全く斷きりまた臟腑を裏ところの脂と臟腑の上の一切の脂 10 および兩箇の腎とその上の脂の腰の兩傍にある者ならびに肝の上の網膜の腎の上に達る者をとるべし 11 祭司はこれを壇の上に焚べし是は火祭にしてエホバにたてまつる食物なり 12 もし山羊を禮物となすならばこれをエホバの前に牽來り 13 其の首に手を按きこれを集會の幕屋の前に宰るべし而してアロンの子等その血を壇の四圍に灌ぐべし 14 彼またその中よりして禮物をとりエホバに火祭をささぐべしすなはち臟腑を裏むところの脂と臟腑の上のすべての脂 15 および兩箇の腎とその上の脂と腰の兩傍にある者ならびに肝の上の網膜の腎の上に達る者をとるべし 16 祭司はこれを壇の上に焚べし是は火祭として奉つる食物にして馨しき香たるなり脂はみなエホバに歸すべし 17 汝等は脂と血を食ふべからず是は汝らがその一切の住處において代々永く守るべき例なり

4 エホバまたモーセに告て言たまはく 2 イスラエルの子孫に告ていふべし人もし誤りてエホバの誠命に違ひて罪を犯しその爲べからざる事の一を行ふことあり 3 また若膏そそがれし祭司罪を犯して民を罪に陥いるるとき事あらばその犯せし罪のために全き犢の若き者を罪祭としてエホバに献べし 4 即ちその牡犢を集會の幕屋の門に牽きたりてエホバの前にいたりその牡犢の首に手を按きその牡犢をエホバの前に宰るべし 5 かくて膏そそがれし祭司その牡犢の血

をとりてこれを集會の幕屋にたづきへ入り 6 而して祭司指をその血にひたしてエホバの前聖所の障蔽の幕の前にその血を七次そそぐべし 7 祭司またその血をとりてエホバの前にて集會の幕屋にある馨香の壇の角にこれを塗べしその牡犢の血は凡てこれを集會の幕屋の門にある燔祭の壇の底下に灌べし 8 またその牡犢の脂をことごとく取て罪祭に用ふべし即ち臟腑を裏むところの油と臟腑の上の一切の脂 9 および兩箇の腎と其上の脂の腰の兩傍にある者ならびに肝の上の網膜の腎の上に達る者を取べし 10 之を取には酬恩祭の犠牲の牛より取が如くすべし而して祭司これを燔祭の壇の上に焚べし 11 その牡犢の皮とその一切の肉およびその首と脛と臟腑と糞等 12 凡てその牡犢はこれを營の外に携へいだして灰を棄る場なる清淨處にいたり火をもてこれを薪柴の上に焚べし即ち是は灰棄處に焚べきなり 13 またイスラエルの全會衆過失をなしたるにその事會衆の目にあらはれずして彼等つひにエホバの誠命の爲べからざる者を爲し罪を獲ることあらんに 14 もし其犯せし罪あらはれなば會衆の者若き犢を罪祭に献べし即ちこれを集會の幕屋の前に牽いたり 15 會衆の長老等エホバの前にてその牡犢の首に手を按きその一人牡犢をエホバの前に宰るべし 16 而して膏そそがれし祭司その牡犢の血を集會の幕屋に携へいり 17 祭司指をその血にひたしてエホバの前障蔽の幕の前にこれを七次そそぐべし 18 祭司またその血をとりエホバの前にて集會の幕屋にある壇の角にこれを塗べし其血は凡てこれを集會の幕屋の門にある燔祭の壇の底下に灌べし 19 また其脂をことごとく取て壇の上に焚べし 20 すなはち罪祭の

牡犢になしたるごとくにこの牡犢にもなし祭司これをもて彼等のために贖罪をなすべし然せば彼等赦されん 21 かくして彼その牡犢を營の外にたづきへ出し初次の牡犢を焚しごとくにこれを焚べし是すなはち會衆の罪祭なり 22 また牧伯たる者罪を犯しその神エホバの誠命の爲べからざる者を誤り爲て罪を獲ことあらんに 23 若その罪を犯せしことを覺らば牡山羊の全き者を禮物に持きたり 24 その山羊の首に手を按き燔祭の牲を宰る場にてエホバの前にこれを宰るべし是すなはち罪祭なり 25 祭司は指をもてその罪祭の牲の血をとり燔祭の壇の角にこれを抹り燔祭の壇の底下にその血を灌ぎ 26 酬恩祭の犠牲の脂のごとくにその脂を壇の上に焚べし斯祭司かれの罪のために贖事をなすべし然せば彼は赦されん 27 また國の民の中に誤りて罪を犯しエホバの誠命の爲べからざる者の一を爲て罪を獲る者あらんに 28 若その罪を犯せしことを覺らば牡山羊の全き者を牽きたりその犯せし罪のためにこれを禮物になすべし 29 即ちその罪祭の牲の首に手を按き燔祭の牲の場にてその罪祭の牲を宰るべし 30 而して祭司は指をもてその血を取り燔祭の壇の角にこれを抹りその血をことごとくその壇の底下に灌べし 31 祭司また酬恩祭の牲より脂をとるごとくにその脂をことごとく取りこれを壇の上に焚てエホバに馨しき香をたてまつるべし斯祭司かれのために贖罪をなすべし然せば彼は赦されん 32 彼もし羔羊を罪祭の禮物に持きたらんとせば牝の全き者を携へきたり 33 その罪祭の牲の首に手を按き燔祭の牲を宰る場にてこれを宰りて罪祭となすべし 34 かくて祭司指をもてその罪祭の牲の血を取り燔祭の壇の角にこれ

を抹りその血をことごとくその壇の底下に灌ぎ 35 羔羊の脂を酬恩祭の犠牲より取ることごとくにその脂をことごとく取べし而して祭司はエホバに献ぐる火祭のごとくにこれを壇の上に焚べし斯祭司彼の犯せる罪のために贖をなすべし然せば彼は赦されん

5 人もし証人として出たる時に諭誓の聲を聴ながらその見たる事またはその知る事を陳ずして罪を犯せば己の咎は己の身に歸すべし **2** 人もし汚穢たる獣の死體汚穢たる家畜の死體汚穢たる昆蟲の死體など凡て汚穢たる物に捫ることあらばその事に心づかざるもその身は汚れて辜あり **3** もし又心づかずして人の汚穢にふるる事あらばその人の汚穢は如何なる汚穢にもあれその之を知るにいたる時は辜あり **4** 人もし心づかずして誓を發し妄に口をもて惡をなさんと言ひ善をなさんと言ばその人の誓を發して妄に言ふところは如何なる事にもあれそのこれを知るにいたる時は此等の一において辜あり **5** 若これらの一において辜ある時は某の事において罪を犯せりと言あらはし **6** その愆のためその犯せし罪のために羊の牝なる者すなはち羔羊あるひは牝山羊をエホバにたづさへ來りて罪祭となすべし斯て祭司は彼の罪のために贖罪をなすべし **7** もし羔羊にまで手のとどかざる時は鴈鳩二羽か雛鳩二羽をその犯せし愆のためにエホバに持きたり一を罪祭にもちひ一を燔祭に用ふべし **8** 即ちこれを祭司にたづさへ往べし祭司はその罪祭の者を先にささぐべし即ちその首を頸の根より切やぶるべし但しこれを切はなすべからず **9** 而してその罪祭の者の血を壇の一方にそそぎその餘の血をば壇の底下にしぼり出すべし是を罪祭となす **10** またその次

のは慣例のごとくに燔祭にささぐべし斯祭司彼が犯せし罪のために贖をなすべし然せば彼は赦されん **11** もし二羽の鳩鳩か二羽の雛き鳩までに手のとどかざる時はその罪ある者麥粉一エパの十分一を禮物にもちきたりてこれを罪祭となすべしその上に膏をかくべからず又その上に乳香を加ふべからず是は罪祭なればなり **12** 彼祭司の許にこれを携へゆくべし祭司はこれを一握とりて記念の分となし壇の上にてエホバの火祭の上にこれを焚べし是を罪祭となす **13** 斯祭司は彼が是等の一を犯して獲たる罪のために贖をなすべし然せば彼は赦されんその殘餘は素祭とひとしく祭司に歸すべし **14** エホバ、モーセに告て言たまはく **15** 人もし過失を爲し知らずしてエホバの聖物を于して罪を獲ことあらば汝の估價に依り聖所のシケルにしたがひて數シケルの銀にあたる全き牡羊を群の中よりとりその愆のためにこれをエホバに携へきたりて愆祭となすべし **16** 而してその聖物を于して獲たる罪のために償をなしまた之に五分の一をくはへて祭司に付すべし祭司はその愆祭の牡羊をもて彼のために贖罪をなすべし然せば彼は赦されん **17** 人もし罪を犯しエホバの誠命の爲べからざる者の一を爲すことあらば假令これを知ざるも尚罪ありその罪を任べきなり **18** 即ち汝の估價にしたがひて群の中より全き牡羊をとり愆祭となしてこれを祭司にたづさへいたるべし祭司は彼が知らずして誤りし過誤のために贖罪をなすべし然せば彼は赦されん **19** 是を愆祭となすその人は誠にエホバに罪を獲たり

6 エホバまたモーセに告て言たまはく **2** 人もしエホバにむかひて不信をなして罪を獲ことあり即ち人の

物をあづかり又は質にとり又は奪ひおきて然る事あ
らずと言ひ或は人を虐る事を爲し 3 或は人の落せし
物を拾ひおきて然る事なしと言ひ偽りて誓ふことを
爲す等凡て人の爲て罪を獲るところの事を一にても
行はば 4 是罪を犯して身に罪ある者なればその奪し
物その虐げて取たる物その預りし物その拾ひとりし
物 5 および凡てその偽り誓し物を還すべし即ちその
原物を還しその上に五分の一をこれに加へその愆祭
をささぐる日にこれをその本主に付すべし 6 彼その
愆祭をエホバに携へきたるべし即ち汝の估價にした
がひその愆のために群の中より全き牡羊をとりて祭
司にいたるべし 7 祭司はエホバの前において彼のた
めに贖罪をなすべし然せば彼はその中のいづれを行
ひて愆を獲るもゆるさるべし 8 エホバまたモーセに
告て言たまはく 9 アロンとその子等に命じて言へ燔
祭の例は是のごとし此燔祭は壇の上なる爐の上に旦
まで終夜あらしむべし即ち壇の火をしてこれと共に
燃つつあらしむべきなり 10 祭司は麻の衣服を着て麻
の禪をその肉に纏ひ壇の上にて火にやけたる燔祭の
灰を取て壇の旁に置き 11 而してその衣服を脱ぎ他の
衣服をつけてその灰を營の外に携へいだし清淨地に
もちゆくべし 12 壇の上の火をばたえず燃しむべし熄
しむべからず祭司は朝ごとに薪柴をその上に燃し燔
祭の物をその上に陳べまた酬恩祭の脂をその上に焚
べし 13 火はつねに壇の上にたえず燃しむべし熄しむ
べからず 14 素祭の例は是のごとしアロンの子等これ
をエホバの前すなはち壇の前にささぐべし 15 即ち素
祭の麥粉とその膏を一握とりまた素祭の上の乳香を
ことごとく取て之を壇の上に焚き馨しき香となし記

念の分となしてエホバにたてまつるべし 16 その遺餘はアロンとその子等これを食ふべし即ち酵をいれずして之を聖所に食ふべし集會の幕屋の庭にて之を食ふべきなり 17 之を酵いれて焼べからずわが火祭の中より我これを彼等にあたへてその分となさしか是は罪祭と愆祭のごとくに至聖し 18 アロンの子等の男たる者はみな之を食ふことを得べし是はエホバにたてまつる火祭の例にして汝等が代々永くまもるべき者なり凡てこれに觸る者は聖なるべし 19 エホバ、モーセに告て言たまはく 20 アロンとその子等が膏そそがる日にエホバにささぐべき禮物は是のごとし麥粉一エパの十分の一を素祭となして恒に献ぐべし即ちその半を朝にその半を夕にささぐべし 21 是は鍋の内に油をもて作りその焼たる時に汝これを携へきたるべし即ちこれを幾個にも劈て素祭となしエホバに献げて馨しき香とならしむべし 22 アロンの子等の中膏をそそがれて彼に繼で祭司となる者はこれを献ぐべし斯はエホバに對して永く守るべき例なり是は全く焚つくすべし 23 凡て祭司の素祭はみな全く焚つくすべし食ふべからざるなり 24 エホバまたモーセに告て言たまはく 25 アロンとその子等に告ていふべし罪祭の例は是のごとし燔祭の牲を宰る場にて罪祭の牲をエホバの前に宰るべし是は至聖物なり 26 罪のために之をささぐるところの祭司これを食ふべし即ち集會の幕屋の庭において聖所に之を食ふべし 27 凡てその肉に觸る者は聖なるべしその血もし衣服に灑ぎかかることあらばその灑ぎかかれる者を聖所に洗ふべし 28 またこれを煮たる土瓦の器皿は碎くべし若これを煮たる者銅の鍋ならば水をもてこれを磨き洗ふべし

29 祭司等の中の男たる者は皆これを食ふことを得べし是は至聖し 30 然どその血を集會の幕屋にたづさへいりて聖所にて贖罪をなしたる罪祭はこれを食ふべからず火をもてこれを焚べし

7 また愆祭の例は是のごとし是は至聖者なり 2 燔祭を宰る場にて愆祭を宰るべし而して祭司その血を壇の四周にそそぎ 3 その脂をことごとく献ぐべし即ちその脂の尾その臓腑を裏むところの諸の脂 4 兩個の腎とその上の脂の腰の兩傍にある者および肝の上の網膜の腎の上におよべる者を取り 5 祭司これを壇の上に焚てエホバに火祭とすべし之を愆祭となす 6 祭司等の中の男たる者はみな之を食ふことを得是は聖所に食ふべし至聖者なり 7 罪祭も愆祭もその例は一にして異らずこれは贖罪をなすところの祭司に歸すべし 8 人の燔祭をささぐるところの祭司その祭司はその献ぐる燔祭の物の皮を自己に得べし 9 凡て爐に焼たる素祭の物および凡て釜と鍋にて製へたる者はこれを献ぐるところの祭司に歸すべし 10 凡そ素祭は油を和たる者も乾たる者もみなアロンの諸の子等に均く歸すべし 11 エホバに献ぐべき酬恩祭の犠牲の例は是のごとし 12 若これを感謝のために献ぐるならば油を和たる無酵菓子と油をぬりたる無酵煎餅および麥粉に油をませて焼たる菓子をその感謝の犠牲にあはせて献ぐべし 13 その菓子の外にまた有酵パンを酬恩祭なる感謝の犠牲にあはせてその禮物に供ふべし 14 即ちこの全體の禮物の中より一箇宛を取りエホバにささげて擧祭となすべし是は酬恩祭の血を灑ぐところの祭司に歸すべきなり 15 感謝のために献ぐる酬恩祭の犠牲の肉はこれを献げしその日の中に食ふべ

し少にても翌朝まで存しおくまじきなり **16** その犠牲の禮物もし願還かまたは自意の禮物ならばその犠牲をささげし日にこれを食ふべしその殘餘はまた明日これを食ふことを得るなり **17** 但しその犠牲の肉の殘餘は第三日にいたらば火に焚べし **18** 若その酬恩祭の犠牲の肉を第三日に少にても食ふことをなさば其は受納られずまた禮物と算らるることなくして反て憎むべき者とならん是を食ふ者その罪を任べし **19** その肉もし汚穢たる物にふるる事あらば食ふべからず火に焚べしその肉は淨き者みなこれを食ふことを得るなり **20** 若その身に汚穢ある人エホバに屬する酬恩祭の犠牲の肉を食はばその人はその民の中より絶るべし **21** また人もし人の汚穢あるひは汚たる獸畜あるひは忌しき汚たる物等都て汚穢に觸ることありながらエホバに屬する酬恩祭の犠牲の肉を食はばその人はその民の中より絶るべし **22** エホバまたモーセに告て言たまはく **23** イスラエルの子孫に告て言べし牛羊山羊の脂は都て汝等これを食ふべからず **24** 自ら死たる獸畜の脂および裂ころされし獸畜の脂は諸般の事に用ふるを得れどもこれを食ふことは絶てなすべからず **25** 人のエホバに火祭として献ぐるところの牲畜の脂は誰もこれを食ふべからず之を食ふ人はその民の中より絶るべし **26** また汝等はその一切の住處において鳥獸の血を決して食ふべからず **27** 何の血によらずこれを食ふ人あればその人は皆民の中より絶るべし **28** エホバ、モーセに告て言たまはく **29** イスラエルの子孫に告て言べし酬恩祭の犠牲をエホバに献ぐる者はその酬恩祭の犠牲の中よりその禮物を取てエホバにたづきへ來るべし **30** エホバの火祭はその人手づか

らこれを携へきたるべし即ちその脂と胸とをたづさへ來りその胸をエホバの前に揺て揺祭となすべし 31 而して祭司その脂を壇の上に焚べしその胸はアロンとその子等に歸すべし 32 汝等はその酬恩祭の犠牲の右の腿を擧祭となして祭司に與ふべし 33 アロンの子等の中酬恩祭の血と脂とを献ぐる者その右の腿を得て自己の分となすべし 34 我イスラエルの子孫の酬恩祭の犠牲の中よりその揺る胸と擧たる腿をとりてこれを祭司アロンとその子等に與ふ是はイスラエルの子孫の中に永く行はるべき例典なり 35 是はエホバの火祭の中よりアロンに歸する分またその子等に歸する分なり彼等を立てエホバに祭司の職をなさしむる日に斯定めらる 36 すなはち是は彼等に膏をそそぐ日にエホバが命をくだしてイスラエルの子孫の中より彼等に歸せしめたまふ者にて代々永くまもるべき例典たるなり 37 是すなはち燔祭素祭罪祭愆祭任職祭酬恩祭の犠牲の法なり 38 エホバ、シナイの野においてイスラエルの子孫にその禮物をエホバに供ふることを命じたまひし日に是をシナイ山にてモーセに命じたまひしなり

8 エホバ、モーセに告て言たまはく 2 汝アロンとその子等およびその衣服と灌膏と罪祭の牡牛と二頭の牡羊と無酵パン一筐を携へきたり 3 また會衆をことごとく集會の幕屋の門に集めよ 4 モーセすなはちエホバの己に命じたまひし如くなしたれば會衆は集會の幕屋の門に集りぬ 5 モーセ會衆にむかひて言ふエホバの爲せと命じたまへる事は斯のごとしと 6 而してモーセ、アロンとその子等を携きたり水をもて彼等を洗ひ清め 7 アロンに裏衣を著せ帶を帶しめ明衣

を纏はせエポデを着しめエポデの帯を之に帶しめこれをもてエポデを其身に結つけ 8 また胸牌をこれに着させその胸牌にウリムとトンミムをつけ 9 その首に頭帽をかむらしめその頭帽の上すなはちその額に金の板の聖前板をつけたりエホバのモーセに命じたまひし如し 10 モーセまた灌膏をとり幕屋とその中の一切の物に灌ぎてこれを聖別め 11 且これを七度壇にそそぎ壇とその諸の器具および洗盤とその臺に膏そそぎてこれを聖別め 12 また灌膏をアロンの首にそそぎ之に膏そそぎて聖別たり 13 モーセまたアロンの子等をつれきたりて裏衣をこれに着せ帯をこれに帶しめ頭巾をこれに蒙らせたりエホバのモーセに命じたまひし如くなり 14 また罪祭の牡牛を牽きたりてアロンとその子等その罪祭の牡牛の頭に手を按り 15 斯てこれを殺してモーセその血をとり指をもてその血を壇の四周の角につけて壇を潔淨しまた壇の底下にその血を灌ぎて之を聖別め之がために贖をなせり 16 モーセまたその臓腑の上の一切の脂肝の上の網膜および兩箇の腎とその脂をとりて之を壇の上に焚り 17 但しその牡牛その皮その肉およびその糞は營の外にて火に焚りエホバのモーセに命じたまひし如し 18 また燔祭の牡羊を牽きたりてアロンとその子等その牡羊の頭に手を按たり 19 斯てこれを宰してモーセその血を壇の周圍に灑げり 20 而してモーセその牡羊を切さきその頭と肉塊と脂とを焚り 21 また水をもてその臓腑と脛を洗ひてモーセその牡羊をことごとく壇の上に焚り是は馨しき香のためにささぐる燔祭にしてエホバにたてまつる火祭たるなりエホバのモーセに命じたまひし如し 22 また他の牡羊すなはち任職の牡羊

を牽きたりてアロンとその子等その牡羊の頭に手を
按り 23 斯てこれを殺してモーセその血をとり之をア
ロンの右の耳の端とその右の手の大指と右の足の拇
指につけ 24 またアロンの子等をつれきたりてその右
の耳の端と右の手の大指と右の足の拇指にその血を
つけたり而してモーセその血を壇の周圍に灑げり 25
彼またその脂と脂の尾および臟腑の上の一切の脂と
肝の上の網膜ならびに兩箇の腎とその脂とその右の
腿とを取り 26 またエホバの前なる無酵パンの筐の中
より無酵菓子一箇と油ぬりたるパンの菓子一箇と煎
餅一箇を取り是等をその脂の上とその右の腿の上に
載せ 27 是を凡てアロンの手とその子等の手に授け之
をエホバの前に揺て揺祭となさしめたり 28 而してモ
ーセまた之を彼等の手より取り壇の上にて燔祭の上
にこれを焚り是は馨しき香のためにたてまつる任職
祭にしてエホバにささぐる火祭なり 29 斯てモーセそ
の胸をとりエホバの前にこれを揺て揺祭となせり任
職の牡羊の中是はモーセの分に歸する者なりエホバ
のモーセに命じたまひし如し 30 而してモーセ灌膏と
壇の上の血とをとりて之をアロンとその衣服に灑ぎ
またその子等とその子等の衣服にそそぎアロンとそ
の衣服およびその子等とその子等の衣服を聖別たり
31 斯てモーセまたアロンとその子等に言けるは集會
の幕屋の門にて汝等その肉を煮よ而して任職祭の筐
の内なるパンと偕にこれを其處に食へ是はアロンと
その子等これを食ふべしと我に命ありしにしたがふ
なり 32 その肉とパンの餘れる者は汝等これを火に焚
べし 33 汝等はその任職祭の竟る日まで七日が間は集
會の幕屋の門口より出べからず其は汝等の任職は七

日にわたればなり 34 今日行ひて汝等のために罪をあがなふが如くにエホバ斯せよと命じたまふなり 35 汝等は集會の幕屋の門口に七日の間日夜居てエホバの命令を守れ然せば汝等死る事なからん我かく命ぜられたるなり 36 すなはちアロンとその子等はエホバのモーセによりて命じたまひし事等を盡く爲り

9 斯て第八日にいたりてモーセ、アロンとその子等およびイスラエルの長老等と呼 2 而してアロンに言けるは汝若き牡犢の全き者を罪祭のために取りまた牡羊の全き者を燔祭のために取りてこれをエホバの前に献ぐべし 3 汝イスラエルの子孫に告て言べし汝等牡山羊を罪祭のために取りまた犢牛と羔羊の當歳にして全き者を燔祭のために取きたれ 4 また酬恩祭のためにエホバの前に供ふる牡牛と牡羊を取り且油を和たる素祭をとりきたるべしエホバ今日汝等に顯れたまふべければなり 5 是に於てモーセの命ぜし物を集會の幕屋の前に携へ來り會衆みな進よりてエホバの前に立ければ 6 モーセ言ふエホバの汝等に爲と命じたまへる者はすなはち是なり斯せばエホバの榮光汝等にあらはれん 7 モーセすなはちアロンに言けるは汝壇に往き汝の罪祭と汝の燔祭を献げて己のためと民のために贖罪を爲しまた民の禮物を献げて之がために贖罪をなし凡てエホバの命じたまひし如くせよ 8 是に於てアロン壇に往き自己のためにする罪祭の犢を宰れり 9 しかしてアロンの子等その血をアロンの許にたづさへ來りければアロン指をその血にひたして之を壇の角につけその血を壇の底下に灌ぎ 10 また罪祭の牲の脂と腎と肝の上の網膜を壇の上に焼り凡てエホバのモーセに命じたまひし如し 11 また

その肉と皮は營の外にて火に焚り 12 アロンまた燔祭の牲を宰りしがその子等これが血を自己の許に携へきたりければ之を壇の周圍に灌げり 13 彼等また燔祭の牲すなはちその肉塊と頭をかれに持きたりければ彼壇の上にこれを焚き 14 またその臟腑と脛を洗ひ壇の上にて之を燔祭の上に焚り 15 彼また民の禮物を携へきたれり即ち民のためにする罪祭の山羊を取て之を宰り前のごとくに之を獻げて罪祭となし 16 また燔祭の牲を牽きたりて定例のごとくに之をささげたり 17 また素祭を携へきたりてその中より一握をとり朝の燔祭にくはへてこれを壇の上に焚り 18 アロンまた民のためにする酬恩祭の犠牲なる牡牛と牡羊を宰りしがその子等これが血を己にもちきたりければ之を壇の周圍に灑げり 19 彼等またその牡牛と牡羊の脂およびその脂の尾と臟腑を裹む者と腎と肝の上の網膜とを携へきたれり 20 即ち彼等その脂をその胸の上に載きたりけるにアロンその脂を壇の上に焚り 21 その胸と右の腿はアロンこれをエホバの前に揺て揺祭となせり凡てモーセの命じたる如し 22 アロン民にむかひて手を擧てこれを祝し罪祭燔祭酬恩祭を獻ぐることを畢て下れり 23 モーセとアロン集會の幕屋にいり出きたりて民を祝せり斯てエホバの榮光總體の民に顯れ 24 火エホバの前より出て壇の上の燔祭と脂を燬つくせり民これを見て聲をあげ俯伏ぬ

10 茲にアロンの子等なるナダブとアビウともにその火盤をとりて火をこれにいれ香をその上に盛て異火をエホバの前に獻げたり是はエホバの命じたまひし者にあらざりしかば 2 火エホバより出て彼等を燬ほろぼせりすなはち彼等はエホバの前に死うせぬ 3

モーセ、アロンに言けるはエホバの宣ふところは是のごとし云く我は我に近づく者等の中に我の聖ことを顯はし又全體の民の前に榮光を示さんアロンは默然たりき 4 モーセかくてアロンの叔父ウジエルの子等なるミサエルとエルザパンを呼び汝等進みよりて聖所の前より汝等の兄弟等を營の外に携へ出せと之にいひければ 5 すなはち進みよりて彼等をその裏衣のままに營の外に携へ出しモーセの言のごとくせり 6 モーセまたアロンおよびその子エレアザルとイタマルにいひけるは汝らの頭を露すなかれまた汝らの衣を裂なかれ恐くは汝等死んまた震怒全體の民におよぶあらん但汝等の兄弟たるイスラエルの全家エホバのかく火をもて燬ほろぼしたまひし事を哀くべし 7 汝等はまた集會の幕屋の門より出べからず恐くは汝等死ん其はエホバの灌膏汝らの上にあればなりと彼等モーセの言のごとくに爲り 8 茲にエホバ、アロンに告て言たまはく 9 汝も汝の子等も集會の幕屋にいる時には葡萄酒と濃酒を飲なかれ恐くは汝等死ん是は汝らが代々永く守るべき例たるべし 10 斯するは汝等が物の聖と世間なるとを分ち汚たると潔淨とを分つことを得んため 11 又エホバのモーセによりて告たまひし一切の法度をイスラエルの子孫に教ふることを得んがためなり 12 モーセまたアロンおよびその遣れる子エレアザルとイタマルに言けるは汝等エホバの火祭の中より素祭の遺餘を取り酔をいれずして之を壇の側に食へ是は至聖物なり 13 是はエホバの火祭の中より汝に歸する者また汝の子等に歸する者なれば汝等これを聖所にて食ふべし我かく命ぜられたるなり 14 また揺る胸と擧たる腿は汝および汝の男子と

女子これを淨處にて食ふべし是はイスラエルの子孫の酬恩祭の中より汝の分と汝の子等の分に與へらるる者なればなり 15 彼等その擧るところの腿と揺ところの胸を火祭の脂とともに持きたりこれをエホバの前に揺て揺祭となすべし其は汝と汝の子等に歸すべし是は永く守るべき例にしてエホバの命じたまふ者なり 16 斯てモーセ罪祭の山羊を尋ね索めけるに既にこれを燬たりしかばアロンの遺れる子等エレアザルとイタマルにむかひてモーセ怒を發し言けるは 17 罪祭の牲は至聖かるに汝等なんぞ之を聖所にて食ざりしや是は汝等をして會衆の罪を任て彼等のためにエホバのまへに贖をなさしめんとて汝等に賜ふ者たるなり 18 視よその血はまだこれを聖所に携へいることをせざりきかの物は我が命ぜしごとくに汝等これを聖所にて食ふべかりしなり 19 アロン、モーセに言けるは今日彼等その罪祭と燔祭をエホバの前に獻げしが斯る事我身に臨めり今日もし我罪祭の牲を食はばエホバこれを善と觀たまふや 20 モーセこれを聽て善とせり

11 エホバ、モーセとアロンに告てこれに言給はく 2 イスラエルの子孫に告て言へ地の諸の獸畜の中汝らが食ふべき四足は是なり 3 凡て獸畜の中蹄の分たる者すなはち蹄の全く分たる反芻者は汝等これを食ふべし 4 但し反芻者と蹄の分たる者の中汝等の食ふべからざる者は是なり即ち駱駝是は反芻ども蹄わかれざれば汝等には汚たる者なり 5 山鼠是は反芻ども蹄わかれざれば汝等には汚たる者なり 6 兎是は反芻ども蹄わかれざれば汝等には汚たる者なり 7 猪是は蹄あひ分れ蹄まったく分るれども反芻ことをせざれば

汝等には汚たる者なり 8 汝等是等の者の肉を食ふべからずまたその死體にさはるべからず是等は汝等には汚たる者なり 9 水にある諸の族の中汝等の食ふべき者は是なり凡て水の中にをり海河に居る者にして翅と鱗のある者は汝等これを食ふべし 10 凡て水に動く者凡て水に生る者即ち凡て海河にある者にして翅と鱗なき者は是汝等には忌はしき者なり 11 是等は汝等には忌はしき者なり汝等その肉を食ふべからずまたその死體をば忌はしき者となすべし 12 凡て水にありて翅も鱗もなき者は汝等には忌はしき者たるべし 13 鳥の中に汝等が忌はしとすべき者は是なり是をば食ふべからず是は忌はしき者なり即ち鷗黄鷹鳶 14 鷗鷹の類 15 諸の鴉の類 16 駝鳥梟鷗雀鷹の類 17 鶴鵝鷺 18 白鳥鷄鷓大鷹 19 鶴鷓鷓の類鷓および蝙蝠 20 また凡て羽翼のありて四爬にあるところの昆蟲は汝等には忌はしき者なり 21 但し羽翼のありて四爬にあるく諸の昆蟲の中その足に飛腿のありて地に飛ぶものは汝等これを食ふことを得べし 22 即ちその中蝗蟲の類大蝻の類小蝻の類蟻蚶の類を汝等食ふことを得べし 23 凡て羽翼ありて四爬にあるところの昆蟲はみな汝等には忌はしき者たるなり 24 これ等はなんぢらを汚すなり凡て是等の者の死體に捫る者は晩まで汚るべし 25 凡てその死體を身に携ふる者はその衣服を洗ふべしその身は晩まで汚るるなり 26 凡そ蹄の分れたる獸畜の中その蹄の全く分れざる者あるひは反芻ことをせざる者の死體は汝等には汚穢たるべし凡てこれに捫る者は汚るべし 27 四足にてあるく諸の獸畜の中その掌底にて歩む者は皆汝等には汚穢たるべしその死骸に捫る者は晩まで汚るべし 28 その死體を身

に携ふる者はその衣服を洗ふべしその身は晩まで汚るるなり是等は汝等には汚たる者なり 29 地に匍ところの匍行者の中汝等に汚穢となる者は是なり即ち鼯鼠鼯鼠大蜥蜴の類 30 蛤蚧龍子守宮蛇醫蝮蛇 31 諸の匍者の中是等は汝等には汚穢たるなり凡てその死たるに捫る者は晩まで汚るべし 32 是等の者の死て上に墜たる物は何にもあれ汚るべし木の器具にもあれ衣服にもあれ皮革にもあれ囊袋にもあれ凡そ事に用ふる器は皆これを水に在るべし是は晩まで汚穢ん斯せば是は清まるべし 33 また是等の中の者瓦の器におつればその内にある者みな汚るべし汝らその器を毀つべきなり 34 また水の入たる食ふべき食物も是等によりて汚るべく諸般の器にある飲べき飲物も是等に由て汚るべし 35 是等の者の死體物の上に墮ればその物都て汚るべし爐にもあれ土鍋にもあれ之を毀つべきなり是は汚れて汝等には汚れたる者となればなり 36 然ど泉水あるひは塘池水の溜は汚るること無し唯その死體に觸る者汚るべし 37 是等の者の死體は播べき種の上に墮るも其は汚るることなし 38 然ど種の上に水のかかれる時にその死體上に墮なば其は汝等には汚たるべし 39 汝等が食ふところの獸畜の死たる時はその死體に捫る者は晩まで汚るべし 40 その死體を食ふ者はその衣服を濯ふべし其身は晩まで汚るるなりその死體を携ふる者もその衣服を洗ふべしその身は晩まで汚るるなり 41 地の上に匍ところの諸の匍行物は忌べき者なり食ふべからず 42 即ち地に匍ところの諸の匍行物の中凡て腹ばひ行く者四足にて歩く者ならびに多の足を有つ者は是等をば汝等食ふべからず是等は忌べき者たるなり 43 汝等は匍ところの匍行物の

ためにその身を忌はしき者にするなかれ是等をもて
その身を汚すなかれ又是等に汚さるるなかれ 44 我は
汝等の神エホバなれば汝等その身を聖潔せよ然ば汝
等聖者とならん我聖ければなり汝等は必ず地に匍と
ころの匍行者をもてその身を汚すことをせざれ 45 我
は汝等の神とならんとて汝等をエジプトの國より導
きいだせしエホバなり我聖ければ汝等聖潔なるべし
46 是すなはち獣畜と鳥と水に動く諸の生物と地に匍
ふ諸の匍行物にかかはるところの例にして 47 汚たる
者と潔き者とを分ち食るる生物と食はれざる生物と
を分つ者なり

12 エホバまたモーセに告て曰たまはく 2 イスラエ
ルの子孫に告て言へ婦女もし種をやどして男子を生
ば七日汚るべし即ちその月の穢の日數ほど汚るるな
り 3 また第八日に至らばその嬰の前の皮を割べし 4
その婦女は尚その成潔の血に三十三日を歴べしその
成潔の日の満るまでは聖物にさはるべからず聖所に
いるべからず 5 若女子を生ば二七日汚るべし月の穢
におけるがごとしまたその成潔の血に六十六日を経
べきなり 6 而してその男子あるひは女子につきての
成潔の日満なば燔祭の爲に當歳の羔羊を取り罪祭の
ために雛き鴿あるひは鴟鴞を取てこれを集會の幕屋
の門に携へきたり祭司にいたるべし 7 祭司は之をエ
ホバの前にささげてその婦女のために贖罪をなすべ
し然せばその出血の穢潔まるべし是すなはち男子ま
たは女子を生る婦女にかかはるところの例なり 8 そ
の婦女もし羔羊にまで手の届かざる時は鴟鴞二羽か
又は雛き鴿二羽を携へきたるべし是一は燔祭のため

一は罪祭のためなり祭司これがために贖罪をなすべし然せば婦女は潔まるべし

13 エホバ、モーセとアロンに告て言たまはく **2** 人その身の皮に腫あるひは癩あるひは光る處あらんにもし之がその身の皮にあること癩病の患處のごとくならばその人を祭司アロンまたは祭司たるアロンの子等に携へいたるべし **3** また祭司は肉の皮のその患處を觀べしその患處の毛もし白くなり且その患處身の皮よりも深く見えなば是癩病の患處なり祭司かれを見て汚たる者となすべし **4** もし又その身の皮の光る處白くありて皮よりも深く見えずまたその毛も白くならずば祭司その患處ある人を七日の間禁鎖おき **5** 第七日にまた祭司之を觀べし若その患處變るところ無くまたその患處皮に蔓延ること無ば祭司またその人を七日の間禁鎖おき **6** 第七日にいたりて祭司ふたびその人を觀べしその患處もし薄らぎまたその患處皮に蔓延らざば祭司これを潔者となすべし是は癩なりその人は衣服を洗ふべし然せば潔くならん **7** 然どその人祭司に觀られて潔き者となりたる後にいたりてその癩皮に廣く蔓延らば再び祭司にその身を見すべし **8** 祭司これを觀てその癩皮に蔓延るを見ば祭司その人を汚たる者となすべし是は癩病なり **9** 人もしその身に癩病の患處あらば祭司にこれを携ゆくべし **10** 祭司これを觀にその皮の腫白くしてその毛も白くなり且その腫に爛肉の見ゆるあらば **11** 是舊き癩病のその身の皮にあるなれば祭司これを汚たる者となすべしその人は汚たる者なればこれを禁鎖るにおよばず **12** 若また癩病大にその皮に發しその患處ある者の皮に遍く滿て首より足まで凡て祭司の見るところ

におよばば 13 祭司これを視若その身に遍く癩病の満たるを見ばその患處ある者を潔き者となすべし其人は全く白くなりたれば潔きなり 14 然どもし爛肉その人に顯れなば汚たる者なり 15 祭司爛肉を視ばその人を汚たる者となすべし爛肉は汚たる者なり是すなはち癩病たり 16 若またその爛肉變て白くならばその人は祭司に詣るべし 17 祭司これを視るにその患處もし白くなりをらば祭司その患處ある者を潔き者となすべしその人は潔きなり 18 また肉の皮に瘍瘡ありしに癒て 19 その瘍瘡の地方に白き腫おこり又は白くして微紅き光る處おこるありて之を祭司に見することあらんに 20 祭司これを視るに皮よりも卑く見てその毛白くなりをらば祭司その人を汚たる者となすべし其は瘍瘡より起りし癩病の患處たるなり 21 然ど祭司これを觀に其處に白き毛あらずまた皮よりも卑からずして却て薄らぎをらば祭司その人を七日の間禁鎖おくべし 22 而してもし大に皮に蔓延ば祭司その人を汚たる者となすべし是はその患處なり 23 然どその光る處もしその所に止りて蔓延ずば是は瘍瘡の痕跡なり祭司その人を潔き者となすべし 24 また肉の皮に火傷あらんにその火傷の跡もし微紅くして白く又は只白くして光る處とならば 25 祭司これを視べし若その光る處の毛白くなりてその處皮よりも深く見なば是火傷より起りし癩病なれば祭司その人を汚たる者となすべし是は癩病の患處たるなり 26 然ど祭司これを視にその光る處に白き毛あらずまたその處皮よりも卑からずして却て薄らぎをらば祭司その人を七日の間禁鎖おき 27 第七日に祭司これを視べしもし大に皮に蔓延りをらば祭司その人を汚たる者となすべし是は癩

病の患處なり 28 もしその光る處その所に止り皮に蔓延らずして却て薄らぎをらば是火傷の腫なり祭司其人を潔き者となすべし其は是火傷の痕迹なればなり 29 男あるひは女もし頭または鬚に患處あらば 30 祭司その患處を觀べし若皮よりも深く見えまた其處に黄なる細き毛あらば祭司その人を汚れたる者となすべし其は瘡にして頭または鬚にある癩病なり 31 若また祭司その瘡の患處を視に皮よりも深からずしてまた其處に黒き毛あること無ば祭司その瘡の患處ある者を七日の間禁鎖おき 32 第七日に祭司その患處を視べしその瘡もし蔓延ずまた其處に黄なる毛あらずして皮よりもその瘡深く見ずば 33 その人は剃ことをなすべし但しその瘡の上は剃べからず祭司其瘡ある者を尚また七日の間禁鎖おき 34 第七日に祭司またその瘡を視べし若その瘡皮に蔓延ずまた皮よりも深く見ずば祭司その人を潔き者となすべしその人はまたその衣服をあらふべし然せば潔くならん 35 若その潔き者となりし後にいたりてその瘡大に皮に蔓延りなば 36 祭司その人を觀べし若その瘡皮に蔓延らば祭司は黄なる毛を尋るにおよばずその人は汚たる者なり 37 然ど若その瘡止たるごとくに見えて黒き毛の其處に生ずるあらばその瘡瘥たる者にてその人は潔し祭司その人を潔き者となすべし 38 また男あるひは女その身の皮に光る處すなはち白き光る處あらば 39 祭司これを視べし若その身の皮の光る處薄白からば是白斑のその皮に生じたるなればその人は潔し 40 人もしその髪の毛頭より脱おつるあるも禿なれば潔し 41 人もしその面に近き處の頭の毛脱おつるあるも額の禿たるなれば潔し 42 然ども若その禿頭または禿額に白く微紅

き患處あらば是その禿頭または禿額に癩病の發したるなり 43 祭司これを觀べし若その禿頭あるひは禿額の患處の腫白くして微紅くあり身の肉に癩病のあらはるごとくならば 44 是癩病人にして汚たる者なり祭司その人をもて全く汚たる者となすべしその患處その頭にあるなり 45 癩病の患處ある者はその衣服を裂きその頭を露しその口に蓋をあてて居り汚たる者汚たる者とみづから稱ふべし 46 その患處の身にある日の間は恒に汚たる者たるべしその人は汚たる者なれば人に離れて居るべし即ち營の外に住居をなすべきなり 47 若また衣服に癩病の患處起るあらん時は毛の衣にもあれ麻の衣にもあれ 48 又麻あるひは毛の經線にあるにもせよ緯線にあるにもせよ皮革にあるにもあれ又凡て皮革にて造れる物にあるにもあれ 49 若その衣服あるひは皮革あるひは經線あるひは緯線あるひは凡て皮革にて造れる物に有ところの患處青くあるか又は赤くあらば是癩病の患處なり之を祭司に見べし 50 祭司はその患處を視その患處ある物を七日の間禁鎖おき 51 第七日にその患處を視べし若その衣服あるひは經線あるひは緯線あるひは毛あるひは皮革あるひは凡て皮革にて造れる物にあるところの患處蔓延をらばこれ惡き癩病にしてその物は汚たる者なり 52 彼その患處あるところの衣服毛または麻の經線緯線あるひは凡て皮革にて造れる物を燬べし是は惡き癩病なりその物を火に燒べし 53 然ど祭司これを視に患處もしその衣服あるひは經線あるひは緯線あるひは凡て皮革にて造れる物に蔓延ずば 54 祭司命じてその患處ある物を濯はせ尚七日の間之を禁鎖おき 55 而して祭司その濯ひし患處を觀べし患處もし色の

變ることなくば患處の蔓延ことあらざるも是は汚たる者なり汝これを火に燬べし是は表面にあるも裏面にあるも共に腐蝕の陥なり 56 然ど濯たる後に祭司これを觀るにその患處薄らぎたらばその衣服あるひは皮革あるひは經線あるひは緯線より患處を切とるべし 57 然るに尚またその衣服あるひは經線あるひは緯線あるひは凡て皮革にて造れる物に患處のあらはるるあらば是再發なり汝その患處ある物を火に燒べし 58 また汝が濯ふところの衣服あるひは經線あるひは緯線あるひは凡て皮革にて造れる物よりして若その患處脱さらば再びこれを濯ふべし然せば潔し 59 是すなはち毛または麻の衣服および經線緯線ならびに凡て皮革にて造りたる物に起れる癩病の患處をしらべて潔と汚たるとを定むるところの條例なり

14 エホバ、モーセに告て言たまはく 2 癩病人の潔めらるる日の定例は是のごとし即ちその人を祭司の許に携へゆくべし 3 先祭司營より出ゆきて觀祭司もし癩病人の身にありし癩病の患處の痊たるを見ば 4 祭司その潔めらるる者のために命じて生る潔き鳥二羽に香柏と紅の線と牛膝草を取きたらしめ 5 祭司また命じてその鳥一羽を瓦の器の内にて活水の上に殺さしめ 6 而してその生る鳥を取り香柏と紅の線と牛膝草をも取て之を夫活水の上に殺したる鳥の血の中にその生る鳥とともに濡し 7 癩病より潔められんとする者にこれを七回灑ぎてこれを潔き者となしその生る鳥をば野に放つべし 8 潔めらるる者はその衣服を濯ひその毛髪をことごとく剃おとし水に身を滌ぎて潔くなり然る後に營に入きたるべし但し七日が間は自己の天幕の外に居るべし 9 而して第七日にその

身の毛髪をことごとく剃べし即ちその頭の髪と鬚と眉とをことごとく剃りまたその衣服を濯ひ且その身を水に滌ぎて潔くなるべし 10 第八日にいたりてその人二匹の全き羔羊の牡と當歳なる一匹の全き羔羊の牝を取りまた麥粉十分の三に油を和たる素祭と油一ログを取べし 11 潔禮をなす所の祭司その潔めらるべき人と是等の物とを集會の幕屋の門にてエホバの前に置き 12 而して祭司かの羔羊の牡一匹を取り一ログの油とともに之を愆祭に獻げまた之をエホバの前に揺て揺祭となすべし 13 この羔羊の牡は罪祭燔祭の牲を宰る處すなはち聖所にてこれを宰るべし罪祭の物の祭司に歸するごとく愆祭の物も然るなり是は至聖物たり 14 而して祭司その愆祭の牲の血を取りその潔めらるべき者の右の耳の端と右の手の大指と右の足の拇指に祭司これをつくべし 15 祭司またその一ログの油をとりて之を自身の左の手の掌に傾ぎ 16 而して祭司その右の指を左の手の油にひたしその指をもて之を七回エホバの前に灑ぐべし 17 その手の殘餘の油は祭司その潔らるべき者の右の耳の端と右の手の大指と右の足の拇指においてその愆祭の牲の血の上に之をつくべし 18 而して尚その手に残れる油は祭司これをその潔めらるべき者の首につけエホバの前にて祭司その人のために贖罪をなすべし 19 斯してまた祭司罪祭を獻げその汚穢を潔めらるべき者のために贖罪を爲て然る後に燔祭の牲を宰るべし 20 而して祭司燔祭と素祭を壇の上に獻げその人のために祭司贖罪を爲べし然せばその人は潔くならん 21 その人もし貧くして之にまで手の届かざる時は揺て自己の贖罪をなさしむべき愆祭のために羔羊の牡一匹をとり又素

祭のために麥粉十分の一に油を和たるを取りまた油一ログを取り 22 且その手のとどくところに循ひて鴉鳩二羽かまたは雛き鴿二羽を取べし其一は罪祭のための者一は燔祭のための者なり 23 而してその潔禮の第八日に之を祭司に携へ集會の幕屋の門にきたりてエホバの前にいたるべし 24 かくて祭司はその愆祭の牡羊と一ログの油を取り祭司これをエホバの前に揺て揺祭となすべし 25 而して愆祭の羔羊を宰りて祭司その愆祭の牲の血を取りこれをその潔めらるべき者の右の耳の端と右の手の大指と右の足の拇指につけ 26 また祭司その油の中を己の左の手の掌に傾ぎ 27 而して祭司その右の指をもて左の手の油を七回エホバの前に灑ぎ 28 亦祭司その潔めらるべき者の右の耳と右の手の大指と右の足の拇指において愆祭の牲の血をつけし處にその手の油をつくべし 29 またその手に残れる油をば祭司その潔めらるべき者の首に之をつけエホバの前にてその人のために贖罪をなすべし 30 その人はその手のおよぶところの鴉鳩または雛き鴿一羽を献ぐべし 31 即ちその手のおよぶところの者一を罪祭に一を燔祭に爲べし祭司はその潔めらるべき者のためにエホバの前に贖罪をなすべし 32 癩病の患處ありし人にてその潔禮に用ふべき物に手の届ざる者は之をその條例とすべし 33 エホバ、モーセとアロンに告て言たまはく 34 我が汝らの産業に與ふるカナンの地に汝等の至らん時に我汝らの産業の地の或家に癩病の患處を生ぜしむること有ば 35 その家の主來り祭司に告て患處のごとき者家に現はると言べし 36 然る時は祭司命じて祭司のその患處を視に行く前にその家を空しむべし是は家にある物の凡て汚れざら

んためなり而して後に祭司いりてその家を觀べし 37
その患處を觀にもしその家の壁に青くまたは赤き瘡
の患處ありて壁よりも卑く見えなば 38 祭司その家
を出て家の門にいたり七日の間家を閉おき 39 祭司第七
日にまた來りて視るべしその患處もし家の壁に蔓延
をらば 40 祭司命じてその患處ある石を取のぞきて邑
の外の汚穢所にこれを棄しめ 41 またその家の内の四
周を刮らしむべしその刮りし灰沙は之を邑の外の汚
穢所に傾け 42 他の石を取てその石の所に入かふべし
而して彼他の灰沙をとりて家を塗べきなり 43 斯石を
取のぞき家を刮りてこれを塗かへし後にその患處も
し再びおこりて家に發しなば 44 祭司また來りて視べ
し患處もし家に蔓延たらば是家にある惡き癩病なれ
ば其は汚るるなり 45 彼その家を毀ちその石その木お
よびその家の灰沙をことごとく邑の外の汚穢所に搬
びいだすべし 46 その家を閉おける日の間にこれに入
る者は晩まで汚るべし 47 その家に臥す者はその衣服
を洗ふべしその家に食する者もその衣服を洗ふべし
48 然ど祭司いりて視にその患處家を塗かへし後に家
に蔓延ずば是患處の痊たる者なれば祭司その家を潔
き者となすべし 49 彼すなはちその家を潔むるために
鳥二羽に香柏と紅の線と牛膝草を取り 50 その鳥一羽
を瓦の器の内にて活る水の上に殺し 51 香柏と牛膝草
と紅の線と生鳥を取てこれをその殺せし鳥の血なる
活る水に浸し七回家に灑ぐべし 52 斯祭司鳥の血と活
る水と生る鳥と香柏と牛膝草と紅の線をもて家を潔
め 53 その生る鳥を邑の外の野に縦ちその家のために
贖罪をなすべし然せば其は潔くならん 54 是すなはち
癩病の諸患處瘡 55 および衣服と家屋の癩病 56 なら

びに腫と癬と光る處とに關る條例にして 57 何の日潔きか何の日汚たるかを教ふる者なり癩病の條例は是のごとし

15 エホバ、モーセとアロンに告て言たまはく **2** イスラエルの子孫に告て言へ凡そ人その肉に流出あらばその流出のために汚るべし **3** その流出に由て汚ること是のごとし即ちその肉の流出したたるもその肉の流出滞ほるも共にその汚穢となるなり **4** 流出ある者の臥たる床は凡て汚るまたその人の坐したる物は凡て汚るべし **5** その床に觸る人は衣服をあらひ水に身を滌ぐべしその身は晩まで汚るるなり **6** 流出ある人の坐したる物の上に坐する人は衣服を洗ひ水に身をそそぐべしその身は晩まで汚るるなり **7** 流出ある者の身に觸る人は衣服を洗ひ水に身を滌ぐべしその身は晩まで汚るるなり **8** もし流出ある者の唾潔き者にかからばその人衣服を洗ひ水に身を滌ぐべしその身は晩まで汚るるなり **9** 流出ある者の乗たる物は凡て汚るべし **10** またその下になりし物に觸る人は皆晩まで汚るまた其等の物を携ふる者は衣服を洗ひ水に身をそそぐべしその身は晩まで汚るるなり **11** 流出ある者手を水に洗はずして人にきはらばその人は衣服を洗ひ水に身を滌ぐべしその身は晩まで汚るるなり **12** 流出ある者の捫りし瓦の器は凡て碎くべし木の器は凡て水に洗ふべし **13** 流出ある者その流出やみて潔くなれば己の成潔のために七日を數へその衣服を洗ひ活る水にその體を滌ぐべし然せば潔くなるべし **14** 而して第八日に鴟鵂二羽または雛き鴿二羽を自己のために取り集會の幕屋の門にきたりてエホバの前にゆき之を祭司に付すべし **15** 祭司はその一を罪祭に

一を燔祭に献げ而して祭司その人の流出のためにエホバの前に贖罪をなすべし 16 人もし精の洩ることあらばその全身を水にあらふべしその身は晩まで汚るるなり 17 凡て精の粘着たる衣服皮革などは皆水に洗ふべし是は晩まで汚るるなり 18 男もし女と寝て精を洩さば二人ともに水に身を滌ぐべしその身は晩まで汚るるなり 19 また婦女流出あらんにその肉の流出もし血ならば七日の間不潔なり凡て彼に捫る者は晩まで汚るべし 20 その不潔の間に彼が臥たるところの物は凡て汚るべし又彼がその上に坐れる物も皆汚れん 21 その床に捫る者は皆衣服を洗ひ水に身を滌ぐべしその身は晩まで汚るるなり 22 彼が凡て坐りし物に捫る者は皆衣服を洗ひ水に身を滌ぐべしその身は晩まで汚るるなり 23 彼の床の上またはその凡て坐りし物の上にある血に捫らばその人は晩まで汚るるなり 24 人もし婦女と寝てその不潔を身に得ば七日汚るべしその人の臥たる床は凡て汚れん 25 婦女もしその血の流出不潔の期の外にありて多くの日に渉ることあり又その流出する事不潔の期に逾るあらばその汚穢の流出する日の間は凡てその不潔の時の如くにしてその身汚る 26 凡てその流出ある日の間彼が臥ところの床は彼におけること不潔の床のごとし凡そ彼が坐れる物はその汚るること不潔の汚穢のごとし 27 是等の物に捫る人は凡て汚るその衣服を洗ひ水に身を滌ぐべしその身は晩まで汚るるなり 28 彼もしその流出やみて淨まらば七日を算ふべし而して後潔くならん 29 彼第八日に鳩二羽または雛き鳩二羽を自己のために取りこれを祭司に携へ來り集會の幕屋の門にいたるべし 30 祭司その一を罪祭に一を燔祭に献げ而して

祭司かれが汚穢の流出のためにエホバの前に贖を爲べし 31 斯汝等イスラエルの子孫をその汚穢に離れしむべし是は彼等その中間にある吾が幕屋を汚してその汚穢に死ることなからん爲なり 32 是すなはち流出ある者その精を洩してこれに身を汚せし者 33 その不潔を患ふ婦女或は男あるひは女の流出ある者汚たる婦女と寝たる者等に關るところの條例なり

16 アロンの子等二人がエホバの前に献ぐることを爲て死たる後にエホバ、モーセに斯告たまへり 2 即ちエホバ、モーセに言たまひけるは汝の兄弟アロンに告よ時をわかたずして障蔽の幕の内なる聖所にいり櫃の上なる贖罪所の前にいたるべからず是死ることなからんためなり其は我雲のうちにありて贖罪所の上にあらはるべければなり 3 アロン聖所にいるには斯すべしすなはち犢の牡を罪祭のために取り牡羊を燔祭のために取り 4 聖き麻の裏衣を着麻の禪をその肉にまとひ麻の帯をもて身に帶し麻の頭帽を冠るべし是は聖衣なりその身を水にあらひてこれを着べし 5 またイスラエルの子孫の會衆の中より牡山羊二匹を罪祭のために取り牡羊一匹を燔祭のために取べし 6 アロンは自己のためなるその罪祭の牡牛を牽きたりて自己とその家族のために贖罪をなすべし 7 アロンまたその兩隻の山羊を取り集會の幕屋の門にてエホバの前にこれを置き 8 その兩隻の山羊のために籤を掣べし即ち一の籤をエホバのためにし一の籤をアザゼルのためにすべし 9 而してアロンそのエホバの籤にあたりし山羊を献げて罪祭となすべし 10 又アザゼルの籤にあたりし山羊はこれをエホバの前に生しおきこれをもて贖罪をなしこれを野におくりてア

ザゼルにいたらすべし **11** 即ちアロン己のためなるその罪祭の牡牛を牽きたりて自己とその家族のために贖罪をなし自己のためなる其罪祭の牡牛を宰り **12** 而して火鼎をとりエホバの前の壇よりして熱れる火を之に盈てまた両手に細末の馨しき香を盈て之を障蔽の幕の中に携へいり **13** エホバの前に於て香をその火に放べ香の煙の雲をして律法の上なる贖罪所を蓋はしむべし然せば彼死ることあらじ **14** 彼またその牡牛の血をとり指をもて之を贖罪所の東面に灑ぎまた指をもてその血を贖罪所の前に七回灑ぐべし **15** 斯してまた民のためなるその罪祭の山羊を宰りその血を障蔽の幕の内に携へいりかの牡牛の血をもて爲しごとくその血をもて爲しこれを贖罪所の上と贖罪所の前に灑ぎ **16** イスラエルの子孫の汚穢とその諸の悖れる罪とに縁て聖所のために贖罪を爲べし即ち彼等の汚穢の間にある集會の幕屋のために斯なすべきなり **17** 彼が聖所において贖罪をなさんとて入たる時はその自己と己の家族とイスラエルの全會衆のために贖罪をなして出るまでは何人も集會の幕屋の内に居べからず **18** 斯て彼エホバの前の壇に出きたり之がために贖罪をなすべし即ちその牡牛の血と山羊の血を取て壇の四周の角につけ **19** また指をもて七回その血を其の上に灑ぎイスラエルの子孫の汚穢をのぞきて其を潔ようし且聖別べし **20** 斯かれ聖所と集會の幕屋と壇のために贖罪をなしてかの生る山羊を牽きたるべし **21** 然る時アロンその生る山羊の頭に両手を按きイスラエルの子孫の諸の惡事とその諸の悖反る罪をことごとくその上に承認はしてこれを山羊の頭に載せ選びおける人の手をもてこれを野に遣るべし **22** その

山羊彼等の諸悪を人なき地に任ゆくべきなり即ちその山羊を野に遣るべし 23 斯してアロン集會の幕屋にいりその聖所にいりし時に穿たる麻の衣を脱て其處に置き 24 聖所においてその身を水にそそぎ衣服をつけて出で自己の燔祭と民の燔祭とを献げて自己と民とのために贖罪をなすべし 25 また罪祭の牲の脂を壇の上に焚べきなり 26 かの山羊をアザゼルに遣りし者は衣服を濯ひ水に身を滌ぎて然る後營にいるべし 27 聖所において贖罪をなさんために其血を携へ入たる罪祭の牡牛と罪祭の山羊とは之を營の外に携へいだしその皮と肉と糞を火に焼べし 28 之を焼たる者は衣服を濯ひ水に身を滌ぎて然る後營にいるべし 29 汝等永く此例を守るべし即ち七月にいたらばその月の十日に汝等その身をなやまし何の工をも爲べからず自己の國の人もまた汝等の中に寄寓る外國の人も共に然すべし 30 其はこの日に祭司汝らのために贖罪をなして汝らを淨むればなり是汝らがエホバの前にその諸の罪を清められんためになす者なり 31 是は汝らの大安息日なり汝ら身をなやますべし是永く守るべき例なり 32 膏をそそがれて任ぜられその父に代りて祭司の職をなすところの祭司贖罪をなすべし彼は麻の衣すなはち聖衣を衣べし 33 彼すなはち至聖所のために贖罪をなしたまた集會の幕屋のためと壇のために贖罪をなしたまた祭司等のためと民の會衆のために贖罪をなすべし 34 是汝等が永く守るべき例にしてイスラエルの子孫の諸の罪のために年に一度贖罪をなす者なり彼すなはちエホバのモーセに命じたまひしごとく爲ぬ

17 エホバ、モーセに告て言たまはく **2** アロンとその子等およびイスラエルの總の子孫に告てこれに言べしエホバの命ずるところ斯のごとし云く **3** 凡そイスラエルの家の人の中牛羊または山羊を營の内に宰りあるひは營の外に宰ることを爲し **4** 之を集會の幕屋の門に牽きたりて宰りエホバの幕屋の前において之をエホバに禮物として献ぐることを爲ざる者は血を流せる者と算らるべし彼は血を流したるなればその民の中より絶るべきなり **5** 是はイスラエルの子孫をしてその野の表に犠牲とするところの犠牲をエホバに牽きたらしめんがためなり即ち彼等は之を牽きたり集會の幕屋の門にいたりて祭司に就きこれを酬恩祭としてエホバに献ぐべきなり **6** 然る時は祭司その血を集會の幕屋の門なるエホバの壇にそそぎまたその脂を馨しき香のために焚てエホバに奉つるべし **7** 彼等はその慕ひて淫せし魑魅に重て犠牲をささぐ可らず是は彼等が代々永くまもるべき例なり **8** 汝また彼等に言べし凡そイスラエルの家の人または汝らの中に寄寓他國の人燔祭あるひは犠牲を献ぐることをせんに **9** 之を集會の幕屋の門に携へきたりてエホバにこれを献ぐるにあらざばその人はその民の中より絶るべし **10** 凡そイスラエルの家の人または汝らの中に寄寓他國の人の中何の血によらず血を食ふ者あれば我その血を食ふ人にわが面をむけて攻めその民の中より之を斷さるべし **11** 其は肉の生命は血にあればなり我汝等がこれを以て汝等の靈魂のために壇の上にて贖罪をなさんために是を汝等に與ふ血はその中に生命のある故によりて贖罪をなす者なればなり **12** 是をもて我イスラエルの子孫にいへり汝らの中

何人も血をくらふべからずまた汝らの中に寄寓る他國の人も血を食ふべからずと **13** 凡そイスラエルの子孫の中または汝らの中に寄寓る他國の人の中もし食はるべき獣あるひは鳥を獵獲たる者あらばその血を灑ぎいだし土にて之を掩ふべし **14** 凡の肉の生命はその血にして是はすなはちその魂たるなり故に我イスラエルの子孫にいへりなんぢらは何の肉の血をもくらふべからず其は一切の肉の生命はその血なればなり凡て血をくらふものは絶るべし **15** およそ自ら死たる物または裂ころされし物をくらふ人はなんぢらの國の者にもあれ他國の者にもあれその衣服をあらひ水に身をそそぐべしその身は晩までけがるなりその後には潔し **16** その人もし洗ふことをせずまたその身を水に滌がずばその罪を任べし

18 エホバまたモーセに告て言たまはく **2** イスラエルの子孫に告て之に言へ我は汝らの神エホバなり **3** 汝らその住をりしエジプトの國に行はるる所の事等を倣ひ行ふべからずまた我が汝等を導きいたるカナンの國におこなはるる所の事等を倣ひおこなふべからずまたその例に歩行べからず **4** 汝等は我が法を行ひ我が例をまもりてその中にあゆむべし我は汝等の神エホバなり **5** 汝等わが例とわが法をまもるべし人もし是を行はば之によりて生べし我はエホバなり **6** 汝等凡てその骨肉の親に近づきて之と淫するなかれ我はエホバなり **7** 汝の母と淫するなかれ是汝の父を辱しむるなればなり彼は汝の母なれば汝これと淫するなかれ **8** 汝の父の妻と淫するなかれ是汝の父を辱しむるなればなり **9** 汝の姉妹すなはち汝の父の女子と汝の母の女子は家に生れたると家外に生れたると

によらず凡てこれと淫するなかれ 10 汝の男子の女子
または汝の女子の女子と淫する事なかれ是自己を辱
しむるなればなり 11 汝の父の妻が汝の父によりて産
たる女子は汝の姉妹なれば之と淫する勿れ 12 汝の父
の姉妹と淫するなかれ是は汝の父の骨肉の親なれば
なり 13 また汝の母の姉妹と淫する勿れ是は汝の母の
骨肉の親なり 14 汝の父の兄弟の妻に親づきて之と淫
する勿れ是は汝の叔伯母なり 15 汝の媳と淫するなか
れ是は汝の息子の妻なれば汝これと淫する勿れ 16 汝
の兄弟の妻と淫する勿れ是汝の兄弟を辱しむるなれ
ばなり 17 汝婦人とその婦の女子とに淫する勿れまた
その婦人の子息の女子またはその女子の女子を取て
之に淫する勿れ是等は汝の骨肉の親なれば然するは
悪し 18 汝妻の尚生る間に彼の姉妹を取て彼とおなじ
く妻となして之に淫する勿れ 19 婦のその行經の汚穢
にある間はこれに近づきて淫するなかれ 20 汝の隣の
妻と交合して彼によりて己が身を汚すなかれ 21 汝そ
の子女に火の中を通らしめてこれをモロクにささぐ
ることを絶て爲ざれ亦汝の神エホバの名を汚すこと
なかれ我はエホバなり 22 汝女と寝るごとくに男と寝
るなかれ是は憎むべき事なり 23 汝獣畜と交合して之
によりて己が身を汚すこと勿れまた女たる者は獣畜
の前に立て之と接ること勿れ是憎むべき事なり 24 汝
等はこの諸の事をもて身を汚すなかれ我が汝等の前
に逐はらふ國々の人はこの諸の事によりて汚れ 25 そ
の地もまた汚る是をもて我その悪のために之を罰す
その地も亦自らそこに住る民を吐いだすなり 26 然ば
汝等はわが例と法を守りこの諸の憎むべき事を一も
爲べからず汝らの國の人も汝らの中間に寄寓る他國

の人も然るべし 27 汝等の先にありし此地の人々はこの諸の憎むべき事を行へりその地もまた汚る 28 汝等は是のごとくするなかれ恐くはこの地汝らの先にありし國人を吐いだす如くに汝らをも吐いださん 29 凡そこの憎むべき事等を一にても行ふ者あれば之を行ふ人はその民の中より絶るべし 30 然ば汝等はわが例規を守り汝等の先におこなはれし是等の憎むべき習俗を一も行ふなかれまた之によりて汝等身を汚す勿れ我は汝等の神エホバなり

19 エホバまたモーセに告て言たまはく 2 汝イスラエルの子孫の全會衆に告てこれに言へ汝等宜く聖あるべし其は我エホバ汝らの神聖あればなり 3 汝等おのおのその母とその父を畏れまた吾が安息日を守るべし我は汝らの神エホバなり 4 汝等虚き物を恃むなかれまた汝らのために神々を鑄造ることなかれ我は汝らの神エホバなり 5 汝等酬恩祭の犠牲をエホバにささぐる時はその受納らるるやうに献ぐべし 6 之を食ふことは之を献ぐる日とその翌日に於てすべし若残りて三日にいたらばこれを火に焼べし 7 もし第三日に少にても之を食ふことあらば是は憎むべき物となりて受納られざるべし 8 之を食ふ者はエホバの聖物を汚すによりてその罰を蒙むるべし即ちその人は民の中より絶さられん 9 汝その地の穀物を穫ときには汝等その田野の隅々までを盡く穫可らず亦汝の穀物の遺穂を拾ふべからず 10 また汝の菓樹園の菓を取つくすべからずまた汝の菓樹園に落たる菓を斂むべからず貧者と旅客のためにこれを遺しおくべし我は汝らの神エホバなり 11 汝等竊むべからず偽べからず互に欺くべからず 12 汝等わが名を指て偽り誓ふべか

らずまた汝の神の名を汚すべからず我はエホバなり
13 汝の鄰人を虐ぐべからずまたその物を奪ふべから
ず傭人の値を明朝まで汝の許に留めおくべからず 14
汝聾者を詛ふべからずまた瞽者の前に礙物をおくべ
からず汝の神を畏るべし我はエホバなり 15 汝審判を
なすに方りて不義を行なふべからず貧窮者を偏り護
べからず權ある者を曲て庇くべからず但公義をもて
汝の鄰を審判べし 16 汝の民の間に往めぐりて人を謗
るべからず汝の鄰人の血をながすべからず我はエホ
バなり 17 汝心に汝の兄弟を惡むべからず必ず汝の鄰
人を勸戒むべし彼の故によりて罪を身にうくる勿れ
18 汝仇をかへすべからず汝の民の子孫に對ひて怨を
懷くべからず己のごとく汝の鄰を愛すべし我はエホ
バなり 19 汝らわが條例を守るべし汝の家畜をして異
類と交らしむべからず異類の種をまぜて汝の田野に
播べからず麻と毛をまじへたる衣服を身につくべか
らず 20 凡そ未だ贖ひ出されず未だ解放れざる奴隸の
女にして夫に適く約束をなせし者あらんに人もしこ
れと交合しなばその二人を鎗責むべし然ど之を殺す
に及ばず是はその婦いまだ解放れざるが故なり 21 その
男は愆祭をエホバに携へきたるべし即ち愆祭の牡羊
を集會の幕屋の門に牽きたるべきなり 22 而して祭司
その人の犯せる罪のためにその愆祭の牡羊をもてエ
ホバの前にこれがために贖罪をなすべし斯せばその
人の犯せし罪赦されん 23 汝等かの地にいたりて諸の
果實の樹を植ん時はその果實をもて未だ割禮を受ざ
る者と見做べし即ち三年の間汝等これをもて割禮を
受ざる者となすべし是は食はれざるなり 24 第四年
には汝らそのもろもろの果實を聖物となしこれをもて

エホバに感謝の祭を爲べし 25 第五年に汝等その果實を食ふべし然せば汝らのために多く實を結ばん我は汝らの神エホバなり 26 汝等何をも血のままに食ふべからずまた魔術を行ふべからずト筮をなすべからず 27 汝等頭の鬢を圓く剪べからず汝鬚の兩方を損ずべからず 28 汝等死る人のために己が身に傷くべからずまたその身に刺文をなすべからず我はエホバなり 29 汝の女子を汚して娼妓の業をなさしむべからず恐くは淫事國におこなはれ罪惡國に滿ん 30 汝等わが安息日を守りわが聖所を敬ふべし我はエホバなり 31 汝等憑鬼者を恃むなかれト筮師に問ことを爲て之に身を汚さるるなかれ我は汝らの神エホバなり 32 白髮の人の前には起あがるべしまた老人の身を敬ひ汝の神を畏るべし我はエホバなり 33 他國の人汝らの國に寄留て汝とともに在ばこれを虐ぐるなかれ 34 汝等とともに居る他國の人をば汝らの中間に生れたる者のごとく己のごとくに之を愛すべし汝等もエジプトの國に客たりし事あり我は汝らの神エホバなり 35 汝等審判に於ても尺度に於ても秤子に於ても升斗に於ても不義を爲べからず 36 汝等公平き秤公平き錘公平きエパ公平きヒンをもちふべし我は汝らの神エホバ汝らをエジプトの國より導き出せし者なり 37 汝等わが一切の條例とわが一切の律法を守りてこれを行ふべし我はエホバなり

20 エホバまたモーセに告て言たまはく 2 汝イスラエルの子孫に言べし凡そイスラエルの子孫の中またはイスラエルに寄寓る他國の人の中その子をモロクに獻ぐる者は必ず誅さるべし國の民石をもて之を撃べし 3 我またわが面をその人にむけて之を攻めこれ

をその民の中より絶ん其は彼その子をモロクに献げて吾が聖所を汚しまたわが聖名を褻せばなり 4 その人がモロクにその子を献ぐる時に國の民もし目を掩ひて見ざるがごとくし之を殺すことをせずば 5 我わが面をその人とその家族にむけ彼および凡て彼に倣ひてモロクと淫をおこなふところの者等をその民の中より絶ん 6 憑鬼者または卜筮師を恃みこれに従がふ人あらば我わが面をその人にむけ之をその民の中に絶べし 7 然ば汝等宜く自ら聖潔して聖あるべし我は汝らの神エホバたるなり 8 汝等わが條例を守りこれを行ふべし我は汝らを聖別するエホバなり 9 凡てその父またはその母を詛ふ者はかならず誅さるべし彼その父またはその母を詛ひたればその血は自身に歸すべきなり 10 人の妻と姦淫する人すなはちその鄰の妻と姦淫する者あればその姦夫淫婦ともにならず誅さるべし 11 その父の妻と寝る人は父を辱しむるなり兩人ともにならず誅さるべしその血は自己に歸せん 12 人もしその子の妻と寝る時は二人ともにならず誅さるべし是憎むべき事を行へばなりその血は自己に歸せん 13 人もし婦人と寝るごとく男子と寝ることをせば是の二人憎むべき事をおこなふなり二人ともにならず誅さるべしその血は自己に歸せん 14 人妻を娶る時にその母をともに娶らば是悪き事なり彼も彼等もともに火に焼るべし是汝らの中に悪き事の無らんためなり 15 男子もし獣畜と交合しなばかならず誅さるべし汝らまたその獣畜を殺すべし 16 婦人もし獣畜に近づきこれと交らばその婦人と獣畜を殺すべし是等はともに必ず誅さるべしその血は自己に歸せん 17 人もしその姉妹すなはちその父の女子

あるひは母の女子を取りて此は彼の陰所を見彼は此の陰所を見なば是恥べき事をなすなりその民の子孫の前にてその二人を絶べし彼その姉妹と淫したればその罪を任べきなり 18 人もし經水ある婦人と寝て彼の陰所を露すことあり即ち男子その婦人の源を露し婦人また己の血の源を露すあらば二人ともにその民の中より絶るべし 19 汝の母の姉妹または汝の父の姉妹の陰所を露すべからず斯する皆にその骨肉の親たる者の陰所をあらはすなれば二人ともにその罪を任べきなり 20 人もしその伯叔の妻と寝る時は是の伯叔の陰所を露すなれば二人ともにその罪を任ひ子なくして死ん 21 人もしその兄弟の妻を取ば是汚はしき事なり彼その兄弟の陰所を露したるなればその二人は子なかるべし 22 汝等は我が一切の條例と一切の律法を守りて之を行ふべし然せば我が汝らを住せんとて導き行ところの地汝らを吐いだすことを爲じ 23 汝らの前より我が逐はらふところの國人の例に汝ら歩行べからず彼等はこの諸の事をなしたれば我かれらを悪むなり 24 我さきに汝等に言へり汝等その地を獲ん我これを汝らに與へて獲さすべし是は乳と蜜の流るる地なり我は汝らの神エホバにして汝らを他の民より區別てり 25 汝等は獸畜の潔と汚たると禽の潔と汚たるとを區別べし汝等は我が汚たる者として汝らのために區別たる獸畜または禽または地に匍ふ諸の物をもて汝らの身を汚すべからず 26 汝等は我の聖者となるべし其は我エホバ聖ければなり我また汝等をして我の所有とならしめんがために汝らを他の民より區別たるなり 27 男または女の憑鬼者をなし或はト

箠をなす者はかならず誅さるべし即ち石をもてこれを撃べし彼等の血は彼らに歸せん

21 エホバ、モーセに告て言たまはくアロンの子等なる祭司等に告てこれに言へ民の中の死人のために身を汚す者あるべからず **2** 但しその骨肉の親のためすなはちその母のため父のため男子のため女子のため兄弟のため **3** またその姉妹の處女にして未だ夫あらざる者のためには身を汚すも宜し **4** 祭司はその民の中の長者なれば身を汚して褻たる者となるべからず **5** 彼等は髪をそりて頭に毛なき所をつくるべからずその鬚の兩傍を損ずべからずまたその身に傷つくべからず **6** その神に對て聖あるべくまたその神の名をけがすべからず彼等はエホバの火祭すなはち其神の食物を献ぐる者なれば聖あるべきなり **7** 彼等は妓女または汚れたる女を妻に娶るべからずまた夫に出されたる女を娶るべからず其はその身エホバにむかひて聖ければなり **8** 汝かれをもて聖者とすべし彼は汝の神エホバの食物を献ぐる者なればなり汝すなはちこれをもて聖者となすべし其は我エホバ汝らを聖別る者聖ければなり **9** 祭司の女たる者淫行をなしてその身を汚さば是その父を汚すなり火をもてこれを燒べし **10** その兄弟の中灌膏を首にそそがれ職に任ぜられて祭司の長となれる者はその頭をあらはすべからずまたその衣服を裂べからず **11** 死人の所に往べからずまたその父のためにも母のためにも身を汚すべからず **12** また聖所より出べからずその神の聖所を褻すべからず其はその神の任職の灌膏首にあればなり我はエホバなり **13** 彼妻には處女を娶るべし **14** 寡婦休れたる婦または汚れたる婦妓女等は娶るべからず

惟自己の民の中の處女を妻にめとるべし 15 その民の中に自己の子孫を汚すべからずエホバこれを聖別ればなり 16 エホバ、モーセに告て言たまはく 17 アロンに告て言へ凡そ汝の歴代の子孫の中身に疵ある者は進みよりてその神エホバの食物を献ぐる事を爲べからず 18 凡て疵ある人は進みよるべからずすなはち瞽者跛者および鼻の缺たる者成餘るところ身にある者 19 脚の折たる者手の折たる者 20 偃僂者侏儒目に雲膜ある者疥ある者癬ある者外腎の壞れたる者等は進みよるべからず 21 凡そ祭司アロンの子孫の中身に疵ある者は進みよりてエホバの火祭を献ぐべからず彼は身に疵あるなれば進みよりてエホバの食物を献ぐべからざるなり 22 神の食物の至聖者も聖者も彼は食ふことを得 23 然ど障蔽の幕に至べからずまた祭壇に近よるべからず其は身に疵あればなり斯かれわが聖所を汚すべからず其は我エホバこれを聖別ればなり 24 モーセすなはちアロンとその子等およびイスラエルの一切の子孫にこれを告たり

22 エホバ、モーセに告て言たまはく 2 汝アロンとその子等に告て彼等をしてイスラエルの子孫の聖物をみだりに享用ざらしめまたその聖別て我にささげたる物についてわが名を汚すこと無らしむべし我はエホバなり 3 彼等に言へ凡そ汝等の歴代の子孫の中都てイスラエルの子孫の聖別て我にささげし聖物に汚たる身をもて近く者あればその人はわが前より絶るべし我はエホバなり 4 アロンの子孫の中癩病ある者または流出ある者は凡てその潔くなるまで聖物を食ふべからずまた死躰に汚れたる物に捫れる者または精をもらせる者 5 または凡て人を汚すところの匍

行物に捫れる者または何の汚穢を論はず人をして汚れしむるところの人に捫れる者 6 此のごとき物に捫る者は晩まで汚るべしまたその身を水にて洗ふにあらざれば聖物を食ふべからず 7 日の入たる時は潔くなるべければその後聖物を食ふべし是その食物なればなり 8 自ら死たる物または裂ころされし者を食ひて之をもて身を汚すべからず我はエホバなり 9 彼等これを褻してこれが爲に罪を獲て死るにいたらざるやう我が例規をまもるべし我エホバ是等を聖せり 10 外國の人は聖物を食ふ可らず祭司の客あるひは傭人は聖物を食ふべからざるなり 11 然ど祭司金をもて人を買たる時はその者はこれを食ふことを得またその家に生れし者も然り彼等は祭司の食物を食ふことを得べし 12 祭司の女子もし外國の人に嫁ぎなば禮物なる聖物を食ふべからず 13 祭司の女子寡婦となるありまたは出さるるありて子なくしてその父の家にかへり幼時のごとくにてあらばその父の食物を食ふことを得べし但し外國の人はこれを食ふべからず 14 人もし誤りて聖物を食はばその聖物にこれが五分一を加へて祭司に付すべし 15 イスラエルの子孫がエホバに献ぐるところの聖物を彼等褻すべからず 16 その聖物を食ふ者にはその愆の罰をかうむらしむべし其は我エホバこれを聖すればなり 17 エホバまたモーセに告て言たまはく 18 アロンとその子等およびイスラエルの一切の子孫に告てこれに言へ凡そイスラエルにをる外國の人の中願還の禮物または自意の禮物をエホバに献げて燔祭となさんとする者は 19 その受納らるるやうに牛羊あるひは山羊の牡の全き者を献ぐべし 20 凡て疵ある者は汝ら献ぐべからず是はその物な

んぢらのために受納られざるべければなり **21** 凡て願
を還さんとしまは自意の禮物をなさんとして牛あ
るひは羊をもて酬恩祭の犠牲を献上る者はその受納
らるるやうに全き者を取べし其物には何の疵もあら
しむべからざるなり **22** 即ち盲なる者折たる所ある者
切斷たる處ある者腫物ある者疥ある者癬ある者は是の
如き者は汝等これをエホバに献ぐべからずまた壇の
上に火祭となしてエホバにたてまつるべからず **23** 牛
あるひは羊の成餘れる所または成足ざる所ある者は
汝らこれを自意の禮物には用ふるも宜し然ど願還に
おいては是は受納らることなかるべし **24** 汝等外腎
を打壞りまたは壓つぶしまたは割きまたは斬りたる
者をエホバに献ぐべからずまた汝らの國の中に斯る
事を行ふべからず **25** 汝らまた異邦人の手よりも是等
の物を受て神の食に供ふることを爲べからず其は是
等は缺あり疵ある者なるに因て汝らのために受納ら
ることあらざればなり **26** エホバ、モーセに告て言
たまはく **27** 牛羊または山羊生れなば之を七日その母
につけ置べし八日より後は是はエホバに火祭とすれ
ば受納らるべし **28** 牝牛にもあれ牝羊にもあれ汝らそ
の母と子とを同日に殺すべからず **29** 汝ら感謝の犠牲
をエホバに献ぐる時は汝らの受納らるるやうに献ぐ
べし **30** 是はその日の内に食つくすべし明日まで遺し
おくべからず我はエホバなり **31** 汝らわが誠命を守り
且これを行ふべし我はエホバなり **32** 汝等わが名を瀆
すべからず我はかへつてイスラエルの子孫の中に聖
者とあらはるべきなり我はエホバにして汝らを聖く
する者 **33** 汝らの神とならんとて汝らをエジプトの國
より導きいだせし者なり我はエホバなり

23 エホバ、モーセに告て言たまはく **2** イスラエルの子孫につげて之に言へ汝らが宣告て聖會となすべきエホバの節期は是のごとし我が節期はすなはち是なり **3** 六日の間業務をなすべし第七日は休むべき安息日にして聖會なり汝ら何の業をもなすべからず是は汝らその一切の住所において守るべきエホバの安息日なり **4** その期々に汝らが宣告べきエホバの節期たる聖會は是なり **5** すなはち正月の十四日の晩はエホバの逾越節なり **6** またその月の十五日はエホバの酵いれぬパンの節なり七日の間汝等酵いれぬパンを食ふべし **7** その首の日には汝ら聖會をなすべし何の職業をも爲すべからず **8** 汝ら七日のあひだエホバに火祭を献ぐべし第七日にはまた聖會をなし何の職業をもなすべからず **9** エホバまたモーセにつげて言たまはく **10** イスラエルの子孫につげて之に言へ汝らわが汝らにたまふところの地に至るにおよびて汝らの穀物を穫ときは先なんぢらの穀物の初穂一束を祭司にもちきたるべし **11** 彼その束の受いれらるるやうに之をエホバの前に揺べし即ちその安息日の翌日に祭司これを揺べし **12** また汝らその束を揺る日に當歳の牡羔の全き者を燔祭となしてエホバに献ぐべし **13** その素祭には油を和たる麥粉十分の二をもちひ之をエホバに献げて火祭となし馨しき香たらしむべしまたその灌祭には酒一ヒンの四分の一をもちふべし **14** 汝らはその神エホバに禮物をたづきへ來るその日まではパンをも烘麥をも青穂をも食ふべからず是は汝らその一切の住居において代々永く守るべき例なり **15** 汝ら安息日の翌日より即ち汝らが揺祭の束を携へきたりし日より數へて安息日七をもてその數を盈

すべし **16** すなはち第七の安息日の翌日までに日數五十を數へをはり新素祭をエホバに獻ぐべし **17** また汝らの居所より十分の二をもてつくりたるパン二箇を携へきたりて搖べし是は麥粉にてつくり酵をいれて焼べし是初穂をエホバにささぐる者なり **18** 汝らまた當歳の全き羔羊七匹と少き牡牛一匹と牡山羊二匹を其パンとともに獻ぐべしすなはち是等をその素祭およびその灌祭とともにエホバにたてまつりて燔祭となすべし是は火祭にしてエホバに馨しき香となる者なり **19** 斯てまた牡山羊一匹を罪祭にささげ當歳の羔羊二匹を酬恩祭の犠牲にささぐべし **20** 而して祭司その初穂のパンとともにこの二匹の羔羊をエホバの前に搖て搖祭となすべし是等はエホバにたてまつる聖物にして祭司に歸すべし **21** 汝らその日に汝らの中に聖會を宣告いだすべし何の職業をも爲べからず是は汝らその一切の住所において永く守るべき條例なり **22** 汝らの地の穀物を穫ときは汝その穫るにのぞみて汝の田野の隅々までをことごとく穫つくすべからず又汝の穀物の遺穂を拾ふべからずこれを貧き者と客旅とに遺しおくべし我は汝らの神エホバなり **23** エホバまたモーセに告て言たまはく **24** イスラエルの子孫に告て言へ七月においては汝らその月の一日をもて安息の日となすべし是は喇叭を吹て記念するの日にして即ち聖會たり **25** 汝ら何の職業をもなすべからず惟エホバに火祭を獻ぐべし **26** エホバまたモーセに告て言たまはく **27** 殊にまたその七月の十日は贖罪の日にして汝らにおいて聖會たり汝等身をなやました火祭をエホバに獻ぐべし **28** その日には汝ら何の工をもなすべからず其は汝らのために汝らの神エホバ

の前に贖罪をなすべき贖罪の日なればなり 29 凡てその日に身をなやますことをせざる者はその民の中より絶れん 30 またその日に何の工にても爲ものあれば我その人をその民の中より滅しさらん 31 汝等何の工をもなすべからず是は汝らがその一切の住所において代々永く守るべき條例なり 32 是は汝らの休むべき安息日なり汝らその身をなやますべしまたその月の九日の晩すなはちその晩より翌晩まで汝等その安息をまもるべし 33 エホバまたモーセに告て言たまはく 34 イスラエルの子孫に告て言へその七月の十五日は結茅節なり七日のあひだエホバの前にこれを守るべし 35 首の日には聖會を開くべし何の職業をもなすべからず 36 汝等また七日のあひだ火祭をエホバに献ぐべし而して第八日に汝等の中に聖會を開きまた火祭をエホバに献ぐべし是は會の終結なり汝ら何の職業をもなすべからず 37 諸是等はエホバの節期にして汝らが宣告て聖會となし火祭をエホバに献ぐべき者なり即ち燔祭素祭犠牲および灌祭等をその献ぐべき日にしたがひて献ぐべし 38 この外にエホバの諸安息日ありまた外に汝らの献物ありまた外に汝らの諸の願還の禮物ありまた外に汝らの自意の禮物あり是みな汝らがエホバに献る者なり 39 汝らその地の作物を斂めし時は七月の十五日よりして七日の間エホバの節筵をまもるべし即ち初の日にも安息をなし第八日にも安息をなすべし 40 その首の日には汝等佳樹の枝を取べしすなはち棕櫚の枝と茂れる樹の條と水楊の枝とを取りて七日の間汝らの神エホバの前に樂むべし 41 汝ら歳に七日エホバに此節筵をまもるべし汝ら代々ながくこの條例を守り七月にこれを祝ふべし 42 汝

ら七日のあひだ茅廬に居りイスラエルに生れたる人はみな茅廬に居べし 43 斯するは我がイスラエルの子孫をエジプトの地より導き出せし時にこれを茅廬に住しめし事を汝らの代々の子孫に知しめんためなり我は汝らの神エホバなり 44 モーセすなはちエホバの節期をイスラエルの子孫に告たり

24 エホバまたモーセに告て言たまはく 2 イスラエルの子孫に命じ橄欖を搗て取たる清き油を燈火のために汝に持きたらしめて絶ず燈火をともしべし 3 またアロンは集會の幕屋において律法の前なる幕の外にて絶ずエホバの前にその燈火を整ふべし是は汝らが代々ながく守るべき定例なり 4 彼すなはちエホバの前にて純精の燈臺の上にその燈火を絶ず整ふべきなり 5 汝麥粉を取りとれをもて菓子十二を焼べし菓子一箇には其の十分の二をもちふべし 6 而してこれをエホバの前なる純精の案の上に二累に積み一累に六宛あらしむべし 7 汝また淨き乳香をその累の上に置きこれをしてそのパンの上において記念とならしめエホバにたてまつりて火祭となすべし 8 安息日ごとに絶ずこれをエホバの前に供ふべし是はイスラエルの子孫の献ぐべき者にして永遠の契約たるなり 9 これはアロンとその子等に歸す彼等これを聖所に食ふべし是はエホバの火祭の一にして彼に歸する者にて至聖し是をもて永遠の條例となすべし 10 茲にその父はエジプト人母はイスラエル人なる者ありてイスラエルの子孫の中にいで來れることありしがそのイスラエルの婦の生たる者イスラエルの人と營の中に爭論をなせり 11 時にそのイスラエルの婦の生たる者エホバの名を瀆して詛ふことをなしければ人々これ

をモーセの許にひき來れり(その母はダンの支派のデブリの女子にして名をシロミテと曰ふ) 12 人々かれを閉こめおきてエホバの示諭をかうむるを俟り 13 時にエホバ、モーセにつげて言たまはく 14 かの詛ふことをなせし者を營の外に曳いだし之を聞たる者に皆その手を彼の首に按しめ全會衆をして彼を石にて撃しめよ 15 汝またイスラエルの子孫に告て言べし凡てその神を詛ふ者はその罰を蒙るべし 16 エホバの名を瀆す者はかならず誅されん全會衆かならず石をもて之を撃べし外國の人にてても自己の國の人にててもエホバの名を瀆すにおいては誅さるべし 17 人を殺す者はかならず誅さるべし 18 獸畜を殺す者はまた獸畜をもて獸畜を償ふべし 19 人もしその鄰人に傷損をつけなばそのなせし如く自己もせらるべし 20 即ち挫は挫目は目齒は齒をもて償ふべし人に傷損をつけしごとく自己も然せらるべきなり 21 獸畜を殺す者は是を償ふべく人を殺す者は誅さるべきなり 22 外國の人にも自己の國の人にもこの法は同一なり我は汝らの神エホバなり 23 モーセすなはちイスラエルの子孫にむかひかの營の外にて詛ふことをなせし者を曳いだして石にて撃てと言ければイスラエルの子孫エホバのモーセに命じたまひしごとく爲ぬ

25 エホバ、シナイ山にてモーセに告て言たまはく 2 イスラエルの子孫につげて之に言ふべし我が汝らに與ふる地に汝ら至らん時はその地にもエホバにむかひて安息を守らしむべし 3 六年のあひだ汝その田野に種播きまた六年のあひだ汝その菓園の物を剪伐てその果を斂むべし 4 然ど第七年には地に安息をなさしむべし是エホバにむかひてする安息なり汝その田

野に種播べからずまたその菓園の物を剪伐べからず
5 汝の穀物の自然生たる者は穫べからずまた汝の葡萄
樹の修理なしに結べる葡萄は斂むべからず是地の安
息の年なればなり 6 安息の年の産物は汝らの食とな
るべしすなはち汝と汝の僕と汝の婢と汝の傭人と汝
の所に寄寓る他國の人 7 ならびに汝の家畜と汝の國
の中の獣みなその産物をもて食となすべし 8 汝安息
の年を七次かぞふべし是すなはち七年を七回かぞふ
るなり安息の年七次の間はすなはち四十九年なり 9
七月の十日になんぢ喇叭の聲を鳴わたらしむべし即
ち贖罪の日になんぢら國の中にあまねく喇叭を吹な
らさしめ 10 かくしてその第五十年を聖め國中の一切
の人民に自由を宣しめすべしこの年はなんぢらには
ヨベルの年なりなんぢらおのおのその産業に歸りお
のおのその家にかへるべし 11 その五十年はなんぢら
にはヨベルなりなんぢら種播べからずまた自然生た
る物を穫べからず修理なしになりたる葡萄を斂むべ
からず 12 この年はヨベルにしてなんぢらに聖ければ
なりなんぢらは田野の産物をくらふべし 13 このヨベ
ルの年にはなんぢらおのおのその産業にかへるべし
14 なんぢの鄰に物を賣りまたは汝の鄰の手より物を
買ふ時はなんぢらたがひに相欺むくべからず 15 ヨベ
ルの後の年の數にしたがひてなんぢその鄰より買こ
とをなすべし彼もまたその果を得べき年の數にした
がひてなんぢに賣ことをなすべきなり 16 年の數多と
きはなんぢその値を増し年の數少なきときはなんぢ
その値を減すべし即ち彼その果の多少にしたがひて
これを汝に賣るべきなり 17 汝らたがひに相欺むくべ
からず汝の神を畏るべし我は汝らの神エホバなり 18

汝等わが法度を行ひまたわが律法を守りてこれを行ふべし然せば汝ら安泰にその地に住ことを得ん 19 地はその産物を出さん汝等は飽までに食ひて安泰に其處に住ことを得べし 20 汝等は我等もし第七年に種をまかずまたその産物を斂めずば何を食はんやと言か 21 我命じて第六年に恩澤を汝等に降し三年だけの果を結ばしむべし 22 汝等第八年には種を播ん然ど第九年までその舊き果を食ふことを得んすなはちその果のいできたるまで汝ら舊き者を食ふことを得べし 23 地を賣には限りなく賣べからず地は我の有なればなり汝らは客旅また寄寓者にして我とともに在るなり 24 汝らの産業の地に於ては凡てその地を贖ふことを許すべし 25 汝の兄弟もし零落てその産業を賣しことあらばその贖業人たる親戚きたりてその兄弟の賣たる者を贖ふべし 26 若また人の之を贖ふ者あらずして己みづから之を贖ふことを得にいたらば 27 その賣てよりの年を數へて之が餘の分をその買主に償ふべし然せばその産業にかへることを得ん 28 然ど若これをその人に償ふことを得ずばその賣たる者は買主の手にヨベルの年まで在てヨベルに及びてもどきるべし彼すなはちその産業にかへることを得ん 29 人石垣ある城邑の内の住宅を賣ことあらんに賣てより全一年の間はこれを贖ふことを得べし即ち期定の日の内にその贖をなすべきなり 30 もし全一年の内に贖ふことなくばその石垣ある城邑の内の家は買主の者に確定りて代々ながくこれに屬しヨベルにももどされざるべし 31 然ど周圍に石垣あらざる村落の家はその國の田畝の附屬物と見做べし是は贖はるべくまたヨベルにいたりてもどきるべきなり 32 レビ人の邑々すなは

ちレビ人の産業の邑々の家はレビ人何時にでも贖ふことを得べし 33 人もしレビ人の産業の邑においてレビ人より家を買ことあらば彼の賣たる家はヨベルにおよびて返さるべし其はレビ人の邑々の家はイスラエルの子孫の中に是がもてる産業なればなり 34 但しその邑々の郊地の田畝は賣べからず是その永久の産業なればなり 35 汝の兄弟零落かつ手慄ひて汝の傍にあらば之を扶助け之をして客旅または寄寓者のごとくに汝とともにありて生命を保たしむべし 36 汝の兄弟より利をも息をも取べからず神を畏るべしまた汝の兄弟をして汝とともにありて生命を保たしむべし 37 汝かれに利をとりて金を貸べからずまた益を得んとて食物を貸べからず 38 我は汝等の神エホバにしてカナン之地を汝らに與へ且なんぢらの神とならんとて汝らをエジプトの國より導きいだせし者なり 39 汝の兄弟零落て汝に身を賣ことあらば汝これを奴隸のごとくに使役べからず 40 彼をして傭人または寄寓者のごとくにして汝とともに在しめヨベルの年まで汝に仕へしむべし 41 其時には彼その子女とともに汝の所より出去りその一族にかへりその父祖等の産業に歸るべし 42 彼らはエジプトの國より我が導き出せし我の僕なれば身を賣て奴隸となる可らず 43 汝嚴く彼を使ふべからず汝の神を畏るべし 44 汝の有つ奴隸は男女ともに汝の四周の異邦人の中より取べし男女の奴隸は是る者の中より買べきなり 45 また汝らの中に寄寓る異邦人の子女の中よりも汝ら買ことを得また彼等の中汝らの國に生れて汝らと偕に居る人々の家よりも然り彼等は汝らの所有となるべし 46 汝ら彼らを獲て汝らの後の子孫の所有に遺し之に彼等を有ち

てその所有となさしむることを得べし彼等は永く汝らの奴隷とならん然ど汝らの兄弟なるイスラエルの子孫をば汝等たがひに厳しく相使ふべからす 47 汝の中なる客旅又は寄寓者にして富を致しその傍に住る汝の兄弟零落て汝の中なるその客旅あるひは寄寓者あるひは客旅の家の分支などに身を賣ることあらば 48 その身を賣たる後に贖はるることを得その兄弟の一人これを贖ふべし 49 その伯叔または伯叔の子これを贖ふべくその家の骨肉の親たる者これを贖ふべしまた若能せば自ら贖ふべし 50 然る時は彼己が身を賣たる年よりヨベルの年までをその買主とともに數へその年の數にしたがひてその身の代の金を定むべしまたその人に仕へし日は人を備ひし日のごとくに數ふべきなり 51 若なほ遺れる年多からばその數にしたがひまたその買れし金に照して贖の金をその人に償ふべし 52 若またヨベルの年までに遺れる年少からばその人とともに計算をなしその年數にてらして贖の金を之に償ふべし 53 彼のその人に仕ふる事は歳雇の傭人のごとくなるべし汝の目の前において彼を厳く使はしむべからす 54 彼もし斯く贖はれずばヨベルの年にいたりてその子女とともに出べし 55 是イスラエルの子孫は我の僕なるに因る彼等はわが僕にして我がエジプトの地より導き出せし者なり我は汝らの神エホバなり

26 汝ら己のために偶像を作り木像を雕刻べからず柱の像を堅べからずまた汝らの地に石像を立て之を拝むべからず其は我は汝らの神エホバなればなり 2 汝等わが安息日を守りわが聖所を敬ふべし我はエホバなり 3 汝等もしわが法令にあゆみ吾が誠命を守り

てこれを行はば 4 我その時候に雨を汝らに與ふべし
地はその産物を出し田野の樹木はその實を結ばん 5
是をもて汝らの麥打は葡萄を斂る時にまで及び汝ら
が葡萄を斂る事は種播時にまでおよばん汝等は飽ま
でに食物を食ひ汝らの地に安泰に住ことを得べし 6
我平和を國に賜ふべければ汝等は安じて寝ることを
得ん汝等を懼れしむる者なかるべし我また猛き獸を
國の中より除き去ん劍なんぢらの國を行めぐること
も有じ 7 汝等はその敵を逐ん彼等は汝等の前に劍に
殞るべし 8 汝らの五人は百人を逐ひ汝らの百人は萬
人を逐あらん汝らの敵は皆汝らの前に劍に殞れん 9
我なんぢらを眷み汝らに子を生こと多からしめて汝
等を増汝らとむすびしわが契約を堅うせん 10 汝等は
舊き穀物を食ふ間にまた新しき者を穫てその舊き者
を出すに至らん 11 我わが幕屋を汝らの中に立ん我心
汝らを忌きはじ 12 我なんぢらの中に歩みまた汝ら
の神とならん汝らはまたわが民となるべし 13 我は汝
らの神エホバ汝らをエジプトの國より導き出してそ
の奴隸たることを免れしめし者なり我は汝らの軛の
横木を碎き汝らをして眞直に立て歩く事を得せしめ
たり 14 然ど汝等もし我に聽したがふ事をなさずこの
諸の誠命を守らず 15 わが法度を蔑如にしまた心にわ
が律法を忌きらひて吾が諸の誠命をおこなはず却て
わが契約を破ることをなさば 16 我もかく汝らになさ
んすなはち我なんぢらに驚恐を蒙らしむべし癆瘵と
熱病ありて目を壞し靈魂を憊果しめん汝らの種播こ
とは徒然なり汝らの敵これを食はん 17 我わが面をな
んぢらに向て攻ん汝らはその敵に殺されんまた汝ら
の惡む者汝らを治めん汝らはまた追ものなきに逃ん

18 汝ら若かくのごとくなるも猶我に聽したがはずば
我汝らの罪を罰する事を七倍重すべし 19 我なんぢら
が勢力として誇るころの者をほろぼし汝らの天を
鐵のごとくに爲し汝らの地を銅のごとくに爲ん 20 汝
等が力を用ふる事は徒然なるべし即ち地はその産物
を出さず國の中の樹はその實を結ばざらん 21 汝らも
し我に敵して事をなし我に聽したがふことをせずば
我なんぢらの罪にしたがひて七倍の災を汝らに降さん
22 我また野獸を汝らの中に遣るべし是等の者汝ら
の子女を攫くらひ汝ちの家畜を噬ころしまた汝らの
數を寡くせん汝らの大路は通る人なきに至らん 23 我
これらの事をもて懲すも汝ら改めずなほ我に敵して
事をなさば 24 我も汝らに敵して事をなし汝らの罪を
罰することをまた七倍おもくすべし 25 我劍を汝らの
上にもちきたりて汝らの背約の怨を報さんまた汝ら
がその邑々に集る時は汝らの中に我疫病を遣らん汝
らはその敵の手に付されん 26 我なんぢらが杖とする
パンを打くだかん時婦人十人一箇の爐にて汝らのパ
ンを焼き之を稱りて汝らに付さん汝等は食ふも飽ざ
るべし 27 汝らもし是のごとくなるも猶我に聽したが
ふことをせず我に敵して事をなさば 28 我も汝らに敵
し怒りて事をなすべし我すなはち汝らの罪をいまし
むることを七倍おもくせん 29 汝らはその男子の肉を
食ひまたその女子の肉を食ふにいたらん 30 我なんぢ
らの崇邱を毀ち汝らの柱の像を斫たふし汝らの偶像
の尸の上に汝らの死體を投すて吾心に汝らを忌きは
ん 31 またなんぢらの邑々を滅し汝らの聖所を荒さん
また汝らの祭物の馨しき香を聞じ 32 我その地を荒
すべければ汝らの敵の其處に住る者これを奇しまん

33 我なんぢらを國々に散し劍をぬきて汝らの後を追
ん汝らの地は荒れ汝らの邑々は亡びん 34 斯その地荒
はてて汝らが敵の國に居んその間地は安息を樂まん
即ち斯る時はその地やすみて安息を樂むべし 35 是は
その荒てをる日の間息まん汝らが其處に住たる間は
汝らの安息に此休息を得ざりしなり 36 また汝らの中
の遺れる者にはその敵の地において我これに恐懼を
懐かしめん彼等は木葉の搖く聲にもおどろきて逃げ
その逃る事は劍をさけて逃るがごとくまた追ものも
なきに顛沛ばん 37 彼等は追ものも無に劍の前にある
が如くたがひに相つまづきて倒れん汝等はその敵の
前に立ことを得じ 38 なんぢ等はもろもろの國の中に
ありて滅うせんなんぢらの敵の地なんぢらを呑つく
すべし 39 なんぢらの中の遺れる者はなんぢらの敵の
地においてその罪の中に瘦衰へまた己の身につける
その先祖等の罪の中に瘦衰へん 40 かくて後彼らその
罪とその先祖等の罪および己が我に悖りし咎と我に
敵して事をなせし事を懺悔せん 41 我も彼等に敵して
事をなし彼らをその敵の地に曳いたりしが彼らの割
禮を受ざる心をれて卑くなり甘んじてその罪の罰を
受るに至るべければ 42 我またヤコブとむすびし吾が
契約およびイサクとむすびし吾が契約を追憶しまた
アブラハムとむすびしわが契約を追憶し且その地を
眷顧ん 43 彼等その地を離るべければ地は彼等の之に
居る者なくして荒てをる間その安息をたのしまん彼
等はまた甘んじてその罪の罰を受ん是は彼等わが律法
を蔑如にしその心にわが法度を忌きらひたればなり
44 かれ等斯のごとくに至るもなほ我彼らが敵の國に
をる時にこれを棄ずまたこれを忌きはじ斯我かれ

らを滅ぼし盡してわがかれらと結びし契約をやぶることを爲ざるべし我は彼らの神エホバなり 45 我かれらの先祖等とむすびし契約をかれらのために追憶さん彼らは前に我がその神とならんとて國々の人の目の前にてエジプトの地より導き出せし者なり我はエホバなり 46 是等はすなはちエホバがシナイ山において己とイスラエルの子孫の間にモーセによりて立たまひし法度と條規と律法なり

27 エホバ、モーセに告て言たまはく **2** イスラエルの子孫につげてこれに言へ人もし誓願をかけなばなんぢの估價にしたがひてエホバに献納物をなすべし **3** なんぢの估價はかくすべしすなはち二十歳より六十歳までは男には其價を聖所のシケルに循ひて五十シケルに估り **4** 女にはその價を三十シケルに估るべし **5** また五歳より二十歳までは男にはその價を二十シケルに估り女には十シケルに估るべし **6** また一箇月より五歳までは男にはその價を銀五シケルに估り女にはその價を銀三シケルに估るべし **7** また六十歳より上は男にはその價を十五シケルに估り女には十シケルに估るべし **8** その人もし貧くして汝の估價に勝ざる時は祭司の前にいたり祭司の估價をうくべきなり祭司はその誓願者の力にしたがひて估價をなすべし **9** 人もしそのエホバに禮物として献ることを爲すところの牲畜の中を取り誓願の物となしてエホバに献る時は其物は都て聖し **10** 之を更むべからずまた佳を惡に惡を佳に易べからず若し牲畜をもて牲畜に易ることをせば其と其に易たる者ともに聖なるべし **11** もし人のエホバに禮物として献ることを爲ざるところの汚たる畜の中ならばその畜を祭司の前に牽いたるべ

し **12** 祭司はまたその佳惡にしたがひてこれが估價を
なすべし即ちその價は祭司の估るところによりて定
むべきなり **13** その人若これを贖はんとせばその估る
價にまた之が五分の一を加ふべし **14** また人もしその
家をエホバに聖別ささげたる時は祭司その佳惡にし
たがひて之が估價を爲べし即ちその價は祭司の估る
ところによりて定むべきなり **15** その人もし家を贖は
んとせばその估價の金にまた之が五分の一を加ふべ
し然せば是は自分の有とならん **16** 人もしその遺業の
田野の中をエホバに獻る時は其處に撒る種の多少
にしたがひてこれが估價をなすべし即ち大麥の種一
ホメルを五十シケルに算べきなり **17** もしその田野を
ヨベルの年より獻たる時はその價は汝の估れる所
によりて定むべし **18** もし又その田野をヨベルの後に獻
たる時は祭司そのヨベルの年までに遺れる年の數に
したがひてその金を算へこれに準じてその估價を減
すべし **19** その田野を獻たる者若これを贖はんとせば
その估價の金の五分の一をこれに加ふべし然せば是
はその人に歸せん **20** 然ど若その田野を贖ふことをせ
ず又はこれを他の人に賣ことをなさば再び贖ふこと
を得じ **21** その田野はヨベルにおよびて出きたる時は
永く奉納たる田野のごとくエホバに歸して聖き者
となり祭司の産業とならん **22** 若また自己が買たる田野
にしてその遺業にあらざる者をエホバに獻たる時は
23 祭司その人のために估價してヨベルの年までの金
を推算べし彼は汝の估れる金高をその日エホバにた
てまつりて聖物となすべし **24** ヨベルの年にいたれば
その田野は賣主なるその本來の所有主に歸るべし **25**
汝の估價はみな聖所のシケルにしたがひて爲べし二

十ゲラを一シケルとなす 26 但し牲畜の初子はエホバに歸すべき初子なれば何人もこれを献べからず牛にもあれ羊にもあれ是はエホバの所屬なり 27 若し汚たる畜ならば汝の估價にしたがひこれにその五分之一を加へてその人これを贖ふべし若これを贖ふことをせずば汝の估價にしたがひて之を賣べし 28 但し人がその凡て有る物の中より取て永くエホバに納めたる奉納物は人にもあれ畜にもあれその遺業の田野にもあれ一切賣べからずまた贖ふべからず奉納物はみなエホバに至聖物たるなり 29 また人の中永く奉納られて奉納物となれる者も贖ふべからず必ず殺すべし 30 地の十分の一は地の産物にもあれ樹の果にもあれ皆エホバの所屬にしてエホバに聖きなり 31 人もしその献る十分の一を贖はんとせば之にまたその五分之一を加ふべし 32 牛または羊の十分の一については凡て杖の下を通る者の第十番にあたる者はエホバに聖き者なるべし 33 その佳惡をたづぬべからずまた之を易べからず若これを易る時は其とその易たる者ともに聖き者となるべしこれを贖ふことを得ず 34 是等はエホバがシナイ山においてイスラエルの子孫のためにモーセに命じたまひし誠命なり

民数記

1 エジプトの國を出たる次の年の二月の一日にエホバ、シナイの野に於て集會の幕屋の中にてモーセに告て言たまはく **2** 汝等イスラエルの子孫の全會衆の惣數をその宗族に依り其父祖の家に循ひて核べその諸の男丁の名の數と頭數とを得よ **3** すなはちイスラエルの中凡て二十歳以上にして戰爭にいつるに勝る者を汝とアロンその軍旅にしたがひて數ふべし **4** また諸の支派おのおのその父祖の家の長たる者一人を出して汝等とともにならしむべし **5** 汝らとともに立べき人々の名は是なり即ちルベンよりはシデウルの子エリヅル **6** シメオンよりはツリシャダイの子シルミエル **7** ユダよりはアミナダブの子ナシヨン **8** イツサカルよりはツアルの子ネタニエル **9** ゼブルンよりはヘロンの子エリアブ **10** ヨセフの子等の中にてはエフラムよりはアミホデの子エリシヤマ、マナセよりはバダヅルの子ガマリエル **11** ベニヤミンよりはギデオニの子アピダン **12** ダンよりはアミシヤダイの子アヒエゼル **13** アセルよりはオクランの子バギエル **14** ガドよりはデウエルの子エリアサフ **15** ナフタリよりはエナンの子アヒラ **16** 是等は會衆の中より選み出されし者にてその父祖の支派の牧伯またイスラエルの千人の長なり **17** かくてモーセとアロンここに名を擧たる人々を率領て **18** 二月の一日に會衆をことごとく集めければ彼等その宗族に循ひその父祖の家にしたがひその名の數にしたがひて自分の出生を述たりかく二十歳以上の者ことごとく核へらる **19** エホバの命じたまひしごとくモーセ、シナイの野にて彼等を核數たり **20** すなはちイスラエルの長子ルベンの子等よ

り生れたる者をその宗族によりその父祖の家にしたがひて核ベ二十歳以上にして戦争にいつるに勝る男丁を數へたるに其名の數に依りその頭數によれば **21** ルベンの支派の中にその核數られし者四萬六千五百人ありき **22** またシメオンの子等より生れたる者等をその宗族によりその父祖の家にしたがひて核ベ二十歳以上にして戦争にいつるに勝る男丁を數へたるにその名の數に依りその頭數に依ば **23** シメオンの支派の中にその核數られし者五萬九千三百人ありき **24** またガドの子等より生れたる者をその宗族に依りその父祖の家にしたがひて核ベ二十歳以上にして戦争に出るに勝る男丁を數へたるにその名の數に依れば **25** ガドの支派の中にその核數られし者四萬五千六百五十人ありき **26** ユダの子等より生れたる者をその宗族に依りその父祖の家に循ひて核ベ二十歳以上にして戦争にいつるに勝る男丁を數へたるにその名の數に依れば **27** ユダの支派の中にその核數られし者七萬四千六百人ありき **28** イツサカルの子等より生れたる者をその宗族に依りその父祖の家にしたがひて核ベ二十歳以上にして戦争に出るに勝る男丁を數へたるにその名の數に依ば **29** イツサカルの支派の中にその核數られし者五萬四千四百人ありき **30** ゼブルンの子等より生れたる者をその宗族によりその父祖の家にしたがひて核ベ二十歳以上にして戦争にいつるに勝る男丁を數へたるにその名の數によれば **31** ゼブルンの支派の中に其核數られし者五萬七千四百人ありき **32** ヨセフの子等の中エフライムの子等より生れたる者をその宗族によりその父祖の家にしたがひて核ベ二十歳以上にして戦争にいつるに勝る男丁を數へたる

にその名の數に依ば **33** エフライムの支派の中にその核數られし者四萬五百人ありき **34** 又マナセの子等より生れたる者をその宗族に依りその父祖の家に循ひて核ベ二十歳以上にして戰爭にいつるに勝る男丁を數へたるにその名の數に依ば **35** マナセの支派の中にその核數られし者三萬二千二百人ありき **36** ベニヤミンの子等より生れたる者をその宗族によりその父祖の家にしたがひて核ベ二十歳以上にして戰爭にいつるに勝る男丁を數へたるにその名の數によれば **37** ベニヤミンの支派の中にその數へられし者三萬五千四百人ありき **38** ダンの子等より生れたる者をその宗族によりその父祖の家にしたがひて核ベ二十歳以上にして戰爭にいつるに勝る男丁を數へたるにその名の數によれば **39** ダンの支派の中にその核數られし者六萬二千七百人ありき **40** アセルの子等より生れたる者をその宗族によりその父祖の家にしたがひて核ベ二十歳以上にして戰爭にいつるに勝る男丁を數へたるにその名の數によれば **41** アセルの支派の中にその核數られし者四萬一千五百人ありき **42** ナフタリの子等より生れたる者をその宗族によりその父祖の家にしたがひて核ベ二十歳以上にして戰爭にいつるに勝る男丁を數へたるにその名の數によれば **43** ナフタリの支派の中にその數へられし者五萬三千四百人ありき **44** 是すなはちその核數られし者にしてモーセとアロンとイスラエルの牧伯等の數ふる所是のごとしその牧伯等は十二人にして各々その父祖の家のために出たるなり **45** 斯イスラエルの子孫をその父祖の家にしたがひて核ベ二十歳以上にして戰爭にいつるに勝る男丁をイスラルの中に數へたるに **46** 其核數られし者

都合六十萬三千五百五十人ありき 47 但しレビの支派の人はその父祖にしたがひて核數らること無りき 48 即ちエホバ、モーセに告て言たまひけらく 49 惟レビの支派のみは汝これを核數べからずまたその總數をイスラエルの子孫とともに計ふべからざるなり 50 なんぢレビ人をして律法の幕屋とその諸の器具と其に屬する諸の物を管理らしむべし彼等はその幕屋とその諸の器具を運搬ぶことを爲しまたこれが役事を爲し幕屋の四圍にその營を張べし 51 幕屋を移す時はレビ人これを拆卸し幕屋を立てる時はレビ人これを組たつべし外人のこれに近く者は殺さるべし 52 イスラエルの子孫はその軍旅に循ひて各々自己の營にその天幕を張り各人その隊の纛の下に天幕を張べし 53 然レビ人は律法の幕屋の四圍に營を張べし是イスラエルの子孫の全會衆の上に震怒のおよぶことなからん爲なりレビ人は律法の幕屋をあづかり守るべし 54 是においてイスラエルの子孫エホバのモーセに命じたまひしごとくに凡て爲し斯おこなへり

2 エホバ、モーセとアロンに告て言たまはく **2** イスラエルの子孫は各々その隊の纛の下に營を張てその父祖の旗號の下に居るべくまた集會の幕屋の四圍において之にむかひて營を張べし **3** 即ち日の出る方東に於てはユダの營の纛の下につく者その軍旅にしたがひて營を張りアミナダブの子ナシヨン、ユダの子孫の牧伯となるべし **4** その軍旅すなはちその核數られし者は七萬四千六百人 **5** その傍に營を張る者はイツサカルの支派なるべし而してツアルの子ネタニエル、イツサカルの子孫の牧伯となるべし **6** その軍旅すなはちその核數られし者は五萬四千四百人 **7** また

ゼブルンの支派これと偕にありてヘロンの子エリアブ、ゼブルンの子孫の牧伯となるべし 8 その軍旅すなはちその核數られし者は五萬七千四百人 9 ユダの營の軍旅すなはち核數られし者は都合十八萬六千四百人是等の者首先に進むべし 10 また南の方に於てはルベンの營の纛の下につく者その軍旅にしたがひて居りシデウルの子エリヅル、ルベンの子孫の牧伯となるべし 11 その軍旅すなはちその核數られし者は四萬六千五百人 12 その傍に營を張る者はシメオンの支派なるべし而してツリシヤダイの子シルミエル、シメオンの子孫の牧伯となるべし 13 その軍旅すなはちその核數られし者は五萬九千三百人 14 ガドの支派これに次ぎデウエルの子エリアサフ、ガドの子孫の牧伯となるべし 15 その軍旅すなはちその核數られし者は四萬五千六百五十人 16 ルベンの營の軍旅すなはちその核數られし者は都合十五萬一千四百五十人是等の者第二番に進むべし 17 その次に律法の幕屋レビ人の營とともに諸營の眞中にありて進むべし彼等はその營を張がごとくに各々その隊にしたがひその纛にしたがひて進むべきなり 18 また西の方においてはエフライムの營の纛の下につく者その軍旅にしたがひて居りアミホデの子エリシヤマ、エフライムの子孫の牧伯となるべし 19 その軍旅すなはちその核數られし者は四萬五百人 20 マナセの支派その傍にありてバダヅルの子ガマリエル、マナセの子孫の牧伯となるべし 21 その軍旅すなはちその核數られし者は三萬二千二百人 22 ベニヤミンの支派これに次ぎギデオンの子アビダン、ベニヤミンの子孫の牧伯となるべし 23 その軍旅すなはちその數へられし者は三萬五千四百

人 24 エフライムの營の軍旅すなはちその核數られし者は都合十萬八千一百人是等の者第三番に進むべし 25 また北の方に於てはダンの營の纛の下につく者その軍旅に循ひて居りアミシヤダイの子アヒエゼル、ダンの子孫の牧伯となるべし 26 その軍旅すなはちその核數られし者は六萬二千七百人 27 その傍に營を張る者はアセルの支派なるべし而してオクランの子パギエル、アセルの子孫の牧伯となるべし 28 その軍旅すなはちその核數られし者は四萬一千五百人 29 ナフタリの支派これに次ぎエナンの子アヒラ、ナフタリの子孫の牧伯となるべし 30 その軍旅すなはちその核數られし者は五萬三千四百人 31 ダンの營の核數られし者は都合十五萬七千六百人是等の者その旗號にしたがひて最後に進むべし 32 イスラエルの子孫のその父祖の家にしたがひて核數られし者は是のごとし諸營の軍旅すなはちその核數られし者は都合六十萬三千五百五十人なりき 33 但しレビ人はイスラエルの子孫とともに計へらるること無りきすなはちエホバのモーセに命じたまへる如し 34 是においてイスラエルの子孫エホバの凡てモーセに命じたまひしごとくに行ひ各々その宗族に依りその父祖の家に依りその隊の纛にしたがひて營を張りまた進むことを爲せり

3 エホバ、シナイ山に於てモーセと語ひたまへる日にはアロンとモーセの一族左のごとくにてありき 2 アロンの子孫は是のごとし長子はナダブ次はアビウ、エレアザル、イタマル 3 是すなはちアロンの子等の名なり彼等は皆膏そそがれ祭司の職に任ぜられて祭司となれり 4 ナダブとアビウはシナイの野にて異火をエホバの前に献たる時にエホバの前に死り子な

しエレアザルとイタマルはその父アロンの目の前にて祭司の職を爲り 5 エホバまたモーセに告て言たまはく 6 レビの支派を召よせ祭司アロンの前に侍りてこれに事へしめよ 7 彼らは集會の幕屋の前にありてアロンの職と全會衆の職に替り幕屋の役事をなすべきなり 8 すなはち彼等は集會の幕屋の諸の器具を看守イスラエルの子孫の職に替りて幕屋の役事をなすべし 9 汝レビ人をアロンとその子等に與ふべしイスラエルの子孫の中より彼等は全くアロンに與へられたる者なり 10 汝アロンとその子等を立て祭司の職を行はしむべし外人の近づく者は殺されん 11 エホバすなはちモーセに告て言たまはく 12 視よ我イスラエルの子孫の中なる始に生れたる者すなはち首出の代にレビ人をイスラエルの子孫の中より取り 13 首出はすべて吾が有なり我エジプトの國の中の首出をことごとく撃ころせる時イスラエルの首出を人も畜もことごとく聖別て我に歸せしめたり是はわが有となるべし我はエホバなり 14 エホバ、シナイの野にてモーセに告ていひたまはく 15 汝レビの子孫をその父祖の家に依りその宗族にしたがひて核數よ即ちその一箇月以上の男子を核數べし 16 是においてモーセ、エホバの言に循ひてその命ぜられしごとくに之を核數たり 17 レビの子等の名は左のごとしゲルシヨン、コハテ、メラリ 18 ゲルシヨンの子等の名はその宗族によれば左の如しリブニ、シメイ 19 コハテの子等の名はその宗族に依ば左のごとしアムラム、イヅハル、ヘブロン、ウジエル 20 メラリの子等の名はその宗族によればマヘリ、ムシなりレビ人の宗族はその父祖の家に依ば是のごとくなり 21 ゲルシヨンよりリブニ人の

族とシメイ人の族出たり是すなはちゲルシヨン人の族なり 22 その核數られし者の數すなはち一箇月以上の男子の數は都合七千五百人 23 ゲルシヨン人の族は凡て幕屋の後すなはち西の方に營を張べし 24 而してラエルの子エリアサフ、ゲルシヨン人の牧伯となるべし 25 集會の幕屋におけるゲルシヨンの子孫の職守は幕屋と天幕とその頂蓋および集會の幕屋の入口の幔と 26 庭の幕および幕屋と壇の周圍なる庭の入口の幔ならびにその繩等凡て之に用ふる物を守るべき事なり 27 またコハテよりアムラミ人の族イツハリ人の族へブロン人の族ウジェリ人の族出たり是すなはちコハテ人の族なり 28 一箇月以上の男子の數は都合八千六百人是みな聖所の職守を守るべき者なり 29 コハテの子孫の族は凡て幕屋の南の方に營を張べし 30 而してウジェルの子エリザパン、コハテ人の族の牧伯となるべし 31 彼等の職守は律法の櫃案燈臺諸壇および聖所の役事に用ふる器具ならびに幔等凡て其處に用ふる物を守るべき事なり 32 祭司アロンの子エレアザル、レビ人の牧伯の長となり且聖所の職を守る者を統轄るべし 33 又メラリよりマヘリ人の族とムシ人の族出たり是すなはちメラリの族なり 34 その核數られし者すなはち一箇月以上の男子の數は六千二百人 35 アビハイルの子ツリエル、メラリの族の牧伯となり此族幕屋の北の方に營を張べし 36 メラリの子孫の管理るべき者職守とすべき者は幕屋の板とその横木その柱その座その諸の器具および其に用ふる一切の物 37 ならびに庭の周圍の柱とその座その釘およびその繩なり 38 また幕屋の前その東の方すなはち集會の幕屋の東の方にはモーセとアロンおよびアロンの子

等營を張りイスラエルの子孫の職守に代て聖所の職守を守るべし外人の近づく者は殺されん 39 モーセとアロン、エホバの言に依りレビ人を悉く核數たるに一箇月以上の男子の數二萬二千ありき 40 エホバまたモーセに言たまはく汝イスラエルの子孫の中の首出たる男子の一箇月以上なる者を盡く數へてその名の數を計れ 41 我はエホバなり我ために汝レビ人を取りてイスラエルの子孫の中なる諸の首出子に代へまたレビ人の家畜を取てイスラエルの子孫の家畜の中なる諸の首出に代べし 42 モーセすなはちエホバの己に命じたまへるごとくにイスラエルの子孫の中なる首出子を盡く數へたり 43 その數へられし首出なる男子の一箇月以上なる者はその名の數に依ば都合二萬二千二百七十三人なりき 44 すなはちエホバ、モーセに告て言たまはく 45 汝レビ人を取てイスラエルの子孫の中なる諸の首出子に代へまたレビ人の家畜を取て彼等の家畜に代よレビ人はわが所有とならん我はエホバなり 46 またイスラエルの子孫の首出子はレビ人より多きこと二百七十三人なれば是等をば贖ふべき者となし 47 その頭數に依て一人ごとに五シケルを取べし即ち聖所のシケルに循ひて之を取べきなり一シケルは二十ゲラなり 48 汝その餘れる者の贖の金をアロンとその子等に付すべし 49 是においてモーセ、レビ人をもて贖ひ餘せるところの者の贖の金を取り 50 即ちモーセ、イスラエルの子孫の首出子の中より聖所のシケルにしたがひて金千三百六十五シケルを取り 51 その贖はるる者の金をエホバの言にしたがひてアロンとその子等に付せりエホバのモーセに命じたまひし如し

4 エホバまたモーセとアロンに告て言たまはく **2** レビの子孫の中よりコハテの子孫の總數をその宗族に依りその父祖の家にしたがひて計べ **3** 三十歳以上五十歳までにして能く軍団に入り集會の幕屋に働作をなすことを得る者をことごとく數へよ **4** コハテの子孫が集會の幕屋においてなすべき勤務は至聖物に關する者にして是のごとし **5** 即ち營を進むる時はアロンとその子等まづ往て障蔽の幕を取おろし之をもて律法の櫃を覆ひ **6** その上に獾の皮の蓋をほどこしまたその上に總青の布を打かけその杠を差いるべし **7** また供前のパンの案の上には青き布を打かけその上に皿匙杓および酒を灌ぐ罎を置きまた常供のパンをその上にあらしめ **8** 紅の布をその上に打かけ獾の皮の蓋をもてこれを覆ひ而してその杠を差いるべし **9** また青き布を取て燈臺とその蓋その燈鉗その剪燈盤および其に用ふる諸の油の器を覆ひ **10** 獾の皮の蓋の内に燈臺とその諸の器をいれてこれを棹にかくべし **11** また金の壇の上に青き布を打かけ獾の皮の蓋をもて之を蓋ひその杠を差いるべし **12** また聖所の役事に用ふる役事の器をことごとく取青き布に裏み獾の皮の蓋をもてこれを蓋ひて棹にかくべし **13** また壇の灰を取さりて紫の布をその壇に打かけ **14** その上に役事をなすに用ふる諸の器具すなはち火鼎肉叉火鏟鉢および壇の一切の器具をこれに載せ獾の皮の蓋をその上に打かけ而してその杠を差とほすべし **15** 營を進むるにあたりてアロンとその子等聖所と聖所の一切の器具を蓋ふことを畢りたらば即ちコハテの子孫いり來りてこれを昇べし然ながら彼等は聖物に捫るべからず恐くは死ん集會の幕屋の中なる是等の物はコハテ

の子孫の擔ふべき者なり 16 祭司アロンの子エレアザルは燈火の油馨しき香常供の素祭および灌膏を司どりまた幕屋の全體とその中なる一切の聖物および其處の諸の器具を司どるべし 17 エホバまたモーセとアロンに告て言たまはく 18 汝等コハテ人の宗族の者をしてレビ人の中より絶るるに至らしむる勿れ 19 彼等が至聖物に近く時に生命を保ちて死ることなからん爲に汝等かく之に爲べし即ちアロンとその子等まづ入り彼等をして各箇その役事に就しめその擔ふべき物を取しむべし 20 彼等は入て須臾も聖物を觀るべからず恐らくは死ん 21 エホバまたモーセに告て言たまはく 22 汝ゲルシヨンの子孫の總數をその父祖の家に依りその宗族に循ひてしらべ 23 三十歳以上五十歳までにして能く軍團に入り集會の幕屋に動作をなすことを得る者をことごとく數へよ 24 ゲルシヨン人の働く事と擔ふ物は是のごとし 25 即ち彼等は幕屋の幕と集會の天幕およびその頂蓋とその上なる籬の皮の蓋ならびに集會の天幕の入口の幔を擔ひ 26 庭の幕および幕屋と壇の周圍なる庭の門の入口の幔とその繩ならびにそれに用ふる諸の器具と其がために造る一切の物を擔ふべし斯動作べきなり 27 ゲルシヨンの子孫の一切の役事すなはちその擔ふところと働くところはアロンとその子等の命に循ふべきなり汝等は彼等にその擔ふべき物を割交してこれを守らしむべし 28 ゲルシヨンの子孫の宗族が集會の幕屋において爲べき動作は是のごとし彼等の守る所は祭司アロンの子イタマルこれを監督るべし 29 メラリの子孫もまた汝これをその宗族に依りその父祖の家に循ひて計べ 30 三十歳以上五十歳までにして能く軍團に入り集會の

幕屋において勤務をなすことを得る者を盡く數へよ
31 彼等が集會の幕屋において爲べき一切の役事すな
はちその擔ひ守るべき物は是のごとし幕屋の板その
横木その柱その座 32 庭の四周の柱その座その釘その
繩およびこれがために用ふる一切の器具なり彼等が
擔ひ守るべき器具は汝等その名を按べて之を數ふべ
し 33 是すなはちメラリの子孫の族がなすべき役事に
して彼等は祭司アロンの子イタルの監督をうけて
集會の幕屋において此すべての役事を爲べきなり 34
是においてモーセとアロンおよび會衆の牧伯等コハ
テの子孫をその宗族に依りその父祖の家にしたがひ
てしらべ 35 三十歳以上五十歳までにして能く軍團に
入り集會の幕屋において勤務をなすことを得る者を
盡く數へたるに 36 その宗族にしたがひて數へられし
者二千七百五十人ありき 37 是すなはちコハテ人の族
の數へられし者にして皆集會の幕屋に於て役事をな
すことを得る者なりモーセとアロン、エホバがモー
セによりて命じたまひし所にしたがひて之を數へた
り 38 またゲルシヨンの子孫をその宗族に依りその父
祖の家に循ひて計べ 39 三十歳以上五十歳までにして
能く軍團に入り集會の幕屋において勤務をなすこと
を得る者を數へたるに 40 その宗族に依りその父祖の
家に循ひて數へられし者二千六百三十人ありき 41 是
すなはちゲルシヨンの子孫の族の數へられし者にし
て皆集會の幕屋において勤務をなすことを得る者な
りモーセとアロン、エホバの命にしたがひて之を數
へたり 42 またメラリの子孫の族をその宗族に依りそ
の父祖の家に循ひて計べ 43 三十歳以上五十歳まで
にして能く軍團に入り集會の幕屋において勤務をなす

ことを得る者を數へたるに **44** その宗族にしたがひて數へられし者三千二百人ありき **45** 是すなはちメラリの子孫の族の數へられし者なりモーセとアロン、エホバのモーセによりて命じたまひし所にしたがひて之を數へたり **46** モーセとアロンおよびイスラエルの牧伯等レビ人をその宗族に依りその父祖の家にしたがひてしらべ **47** 三十歳以上五十歳までにして能く來りて集會の幕屋の役事を爲し且これを擔ふ業を爲す者を數へたるに **48** その數へられしもの數都合八千五百八十人なりき **49** エホバの命にしたがひてモーセかれらを數へ彼等をして各人その役事に就しめかつその擔ふ所をうけもたしめたりエホバの命にしたがひて數へたるところ是のごとし

5 エホバ、モーセに告て言たまはく **2** イスラエルの子孫に命じて癩病人と流出ある者と死骸に汚されたる者とを盡く營の外に出さしめよ **3** 男女をわかたず汝等これを出して營の外に居しめ彼等をしてその營を汚さしむべからず我その諸營の中に住なり **4** イスラエルの子孫かく爲して之を營の外に出せりすなはちエホバのモーセに告たまひし如くにイスラエルの子孫然なしぬ **5** エホバまたモーセに告て言たまはく **6** イスラエルの子孫に告よ男または女もし人の犯す罪を犯してエホバに悖りその身罪ある者とならば **7** その犯せし罪を言あらはしその物の代價にその五分の一を加へてこれを己が罪を犯せる者に付してその償を爲べし **8** 然ど若その罪の償を受べき親戚その人にあらざる時はその罪の償をエホバになして之を祭司に歸せしむべしまた彼のために用ひて贖をなすところの贖罪の牡羊も祭司に歸す **9** イスラエルの子孫の

擧祭となして祭司に携へ來る所の聖物は皆祭司に歸す 10 諸の人の聖別て獻る物は祭司に歸し凡て人の祭司に付す物は祭司に歸するなり 11 エホバ、モーセに告て言たまはく 12 イスラエルの子孫に告てこれに言へ人の妻道ならぬ事を爲てその夫に罪を犯すあり 13 人かれと交合したるにその事夫の目にかくれて露顯ず彼その身を汚したれどこれが證人となる者なく彼またその時に執へられもせざるあり 14 すなはち妻その身を汚したる事ありて夫猜疑の心を起してその妻を疑ふことあり又は妻その身を汚したる事なきに夫猜疑の心を起してその妻を疑ふことある時は 15 夫その妻を祭司の許に携へきたり大麥の粉一エパの十分の一をこれがために禮物として持きたるべしその上に油を灌べからずまた乳香を加ふべからず是は猜疑の禮物記念の禮物にして罪を誌えしむる者なればなり 16 祭司はまたその婦人を近く進ませてエホバの前に立しめ 17 瓦の器に聖水を入れ幕屋の下の地の土を取てその水に放ち 18 其婦人をエホバの前に立せ婦人にその頭を露さしめて記念の禮物すなはち猜疑の禮物をその手に持すべし而して祭司は詛を來らするところの苦き水を手に執り 19 婦を誓せてこれに言べし人もし汝と寝たる事あらず汝また汝の夫を措て道ならぬ事を爲て汚穢に染しこと無ば詛を來する此苦水より害を受ること有ざれ 20 然ど汝もし汝の夫を措き道ならぬ事を爲てその身を汚し汝の夫ならざる人と寝たる事あらば 21 (祭司その婦人をして詛を來らする誓をなさしめて祭司その婦人に言べし)エホバ汝の腿を瘦しめ汝の腹を脹れしめ汝をして汝の民の指て詛ふ者指て誓ふ者とならしめたまへ 22 また詛を來ら

するこの水汝の腸にいりて汝の腹を脹れさせ汝の腿を瘦させんとその時婦人はアーメン、アーメンと言べし 23 而して祭司この詛を書に筆記しその苦水にて之を洗おとし 24 婦人をしてその詛を來らす水を飲しむべしその詛を來らす水かれの中にいりて苦ならん 25 祭司まづその婦人の手より猜疑の禮物を取りその禮物をエホバの前に揺てこれを壇に持來り 26 而して祭司其禮物の中より記念の分一握をとりて之を壇の上に焚き然る後婦人にその水を飲しむべし 27 その水を之に飲しめたる時はもしかれその身を汚し夫に罪を犯したる事あるに於てはその詛を來らす水かれの中に入れて苦くなりその腹脹れその腿瘦て自己はその民の指て詛ふ者とならん 28 然ど彼もしその身を汚しし事あらずして潔からば害を受ずして能く子を生ん 29 是すなはち猜疑の律法なり妻たる者その夫を措き道ならぬ事を爲て身を汚しし時 30 また夫たる者猜疑の心を起してその妻を疑ふ時はその婦人をエホバの前におきて祭司その律法のごとく之に行ふべきなり 31 斯せば夫は罪なく妻はその罪を任ん

6 エホバ、モーセに告て言たまはく 2 イスラエルの子孫に告て之に言へ男または女俗を離れてナザレ人の誓願を立て俗を離れてその身をエホバに歸せしむる時は 3 葡萄酒と濃酒を斷ち葡萄酒の醋となれる者と濃酒の醋となれる者を飲ずまた葡萄の汁を飲ず葡萄の鮮なる者をも乾たる者をも食はざるべし 4 その俗を離れをる日の間は都て葡萄の樹より取たる者はその核より皮まで一切食ふべからざるなり 5 その誓願を立て俗を離れをる日の間は都て薙刀をその頭にあつべからずその俗を離れて身をエホバに歸せしめ

たる日の満るまで彼は聖ければその頭髪を長しおくべし 6 その俗を離れて身をエホバに歸せしむる日の間は凡て死骸に近づくべからず 7 其父母兄弟姉妹の死たる時にもこれがために身を汚すべからず其はその俗を離れて神に歸したる記號その首にあればなり 8 彼はその俗を離れをる日の間は凡てエホバの聖者なり 9 もし人計ずも彼の傍に死てそのナザレの頭を汚すことあらばその身を潔る日に頭を剃べしすなはち第七日にこれを剃べきなり 10 而して第八日に鳩鴿二羽かまたは雛き鳩二羽を祭司に携へきたり集會の幕屋の門にいたるべし 11 斯て祭司はその一を罪祭に一を燔祭に獻げ彼が屍に由て獲たる罪を贖ひまたその日にかれの首を聖潔すべし 12 彼またその俗を離れてエホバに歸するの日を新にし當歳の羔羊を携へきたりて愆祭となすべし彼その俗を離れをる時に身を汚したれば是より前の日はその中に算ふべからざるなり 13 ナザレ人の律法は是のごとしその俗を離るるの日満たる時はその人を集會の幕屋の門に携へいたるべし 14 斯てその人は禮物をエホバにささぐべし即ち當歳の羔羊の牝の全き者一匹を燔祭となし當歳の羔羊の牝の全き者一匹を罪祭となし牡羊の全き者一匹を酬恩祭となし 15 また無酵パン一筐麥粉に油を和て作れる菓子油を塗たる酵いれぬ煎餅およびその素祭と灌祭の物を持きたるべし 16 斯て祭司これをエホバの前に携へきたりその罪祭と酬恩祭を獻げ 17 またその牡羊を筐の中なる酵いれぬパンとあはせこれを酬恩祭の犠牲としエホバに獻ぐべし祭司またその素祭と灌祭をも獻ぐべきなり 18 ナザレ人は集會の幕屋の門に於てそのナザレの頭を剃りそのナザレの頭の髪

を取てこれを酬恩祭の犠牲の下の火に放つべし 19 祭司その牡羊の煮たる肩と筐の中の酔いれぬ菓子一箇と酔いれぬ煎餅一箇をとりてこれをナザレ人がそのナザレの頭を剃におよびてこれをその手に授け 20 而して祭司エホバの前にて之を揺て揺祭となすべし是は聖物にしてその揺る胸と擧たる腿とともに祭司に歸すべし斯て後ナザレ人は酒を飲ことを得 21 是すなはち誓願を立たるナザレ人がその俗を離れ居し事によりてエホバに禮物を献ぐるの律法なり此外にまたその能力の及ぶところの物を献ぐることを得べし即ちその立たる誓願のごとくその俗を離るるの律法にしたがひて爲べきなり 22 エホバまたモーセに告て言たまはく 23 アロンとその子等に告て言へ汝等斯のごとくイスラエルの子孫を祝して言べし 24 願くはエホバ汝を恵み汝を守りたまへ 25 願くはエホバその面をもて汝を照し汝を憐みたまへ 26 願くはエホバその面を擧て汝を眷み汝に平安を賜へと 27 かくして彼等吾名をイスラエルの子孫に蒙らすべし然ば我かれらを恵まん

7 モーセ幕屋を建をはり之に膏を灌ぎてこれを聖別めまたその一切の器具およびその壇とその一切の器具に膏を灌ぎて之を聖別たる日に 2 イスラエルの牧伯等すなはちその諸宗族の長諸支派の牧伯にしてその核數られし者を監督る者等献物を爲り 3 彼等その禮物をエホバに持きたるに蓋ある車六輛と牛十二匹あり牧伯二人に車一輛一人に牛一匹なり即ちこれか幕屋の前にひき至れり 4 時にエホバ、モーセに告て言たまはく 5 汝これを彼等より取て集會の幕屋の用に供へレビ人にその職分職分にしたがひて之を授す

べし 6 是においてモーセその車と牛を取て之をレビ人に授せり 7 即ちゲルシヨンの子孫にはその職分を按へて車二輛と牛四匹を授し 8 メラリの子孫にはその職分を按へて車四輛と牛八匹を授し祭司アロンの子イタマルをしてこれを監督らしめたり 9 然どコハテの子孫には何をも授さざりき是は彼等が聖所になすべき職分はその肩をもて擔ふの事なるが故なり 10 壇に膏を灌ぐ日に牧伯等壇奉納の禮物を携へ來り牧伯等その禮物を壇の上に献げたり 11 エホバ先にモーセに言たまひけるは牧伯等は一日に一人宛その壇奉納の禮物を献ぐべし 12 第一日に禮物を献げし者はユダの支派のアミナダブの子ナシヨンなり 13 その禮物は銀の皿一箇その重は百三十シケル銀の鉢一箇是は七十シケル皆聖所のシケルに循ふ此二者には麥粉に油を和たる素祭の品を充す 14 また金の匙の十シケルなる者一箇是には香を充す 15 また燔祭に用ふる若き牡牛一匹牡羊一匹當歳の羔羊一匹 16 罪祭に用ふる牡山羊一匹 17 酬恩祭の犠牲に用ふる牛二匹牡羊五匹牡山羊五匹當歳の羔羊五匹アミナダブの子サシヨンの禮物は是の如し 18 第二日にはイッサカルの牧伯ツアルの子ネタニエル献納を爲り 19 その献げし禮物は銀の皿一箇その重は百三十シケル銀の鉢一箇是は七十シケル皆聖所のシケルに循ふ此二者には麥粉に油を和たる素祭の品を充す 20 また金の匙の十シケルなる者一箇是には香を充す 21 また燔祭に用ふる若き牡牛一匹牡羊一匹當歳の羔羊一匹 22 罪祭に用ふる牡山羊一匹 23 酬恩祭の犠牲に用ふる牛二匹牡羊五匹牡山羊五匹當歳の羔羊五匹ツアルの子ネタニエルの禮物は是のごとし 24 第三日にはゼブルンの子孫の牧伯ヘロ

ンの子エリアブ献納を爲り 25 その禮物は銀の皿一箇
その重は百三十シケル銀の鉢一箇是は七十シケル皆
聖所のシケルに循ふ此二者には麥粉に油を和たる素
祭の品を充す 26 また金の匙の十シケルなる者一箇是
には香を充す 27 また燔祭に用ふる若き牡牛一匹牡羊
一匹當歳の羔羊一匹 28 罪祭に用ふる牡山羊一匹 29
酬恩祭の犠牲に用ふる牛二匹牡羊五匹牡山羊五匹當
歳の羔羊五匹ヘロンの子エリアブの禮物は是のごと
し 30 第四日にはルベンの子孫の牧伯シデウルの子エ
リヅル献納を爲り 31 その禮物は銀の皿一箇その重は
百三十シケル銀の鉢一箇是は七十シケル皆聖所のシ
ケルに循ふ此二者には麥粉に油を和たる素祭の品を
充す 32 また金の匙の十シケルなる者一箇是には香を
充す 33 また燔祭に用ふる若き牡牛一匹牡羊一匹當歳
の羔羊一匹 34 罪祭に用ふる牡山羊一匹 35 酬恩祭の
犠牲に用ふる牛二匹牡羊五匹牡山羊五匹當歳の羔羊
五匹シデウルの子エリヅルの禮物は是のごとし 36 第
五日にはシメオンの子孫の牧伯ツリシヤダイの子シ
ルミエル献物を爲り 37 その禮物は銀の皿一箇その重
は百三十シケル銀の鉢一箇是は七十シケル皆聖所の
シケルに循ふ此二者には麥粉に油を和たる素祭の品
を充す 38 また金の匙の十シケルなる者一箇是には香
を充す 39 また燔祭に用ふる若き牡牛一匹牡羊一匹當
歳の羔羊一匹 40 罪祭に用ふる牡山羊一匹 41 酬恩祭
の犠牲に用ふる牛二匹牡羊五匹牡山羊五匹當歳の羔
羊五匹ツリシヤダイの子シルミエルの禮物は是のご
とし 42 第六日にはガドの子孫の牧伯デウエルの子エ
リアサフ献納をなせり 43 その禮物は銀の皿一箇その
重は百三十シケル銀の鉢一箇是は七十シケル皆聖所

のシケルに循ふこの二者には麥粉に油を和たる素祭の品を充す 44 また金の匙の十シケルなる者一箇是には香を充す 45 また燔祭に用ふる若き牡牛一匹牡羊一匹當歳の羔羊一匹 46 罪祭に用ふる牡山羊一匹 47 酬恩祭の犠牲に用ふる牛二匹牡羊五匹牡山羊五匹當歳の羔羊五匹デウエルの子エリアサフの禮物はかくのごとし 48 第七日にはエフライムの子孫の牧伯アミホデの子エリシヤマ献納をなせり 49 その禮物は銀の皿一箇その重は百三十シケル銀の鉢一箇是は七十シケル皆聖所のシケルに循ふ此二者には麥粉に油を和たる素祭の品を充す 50 また金の匙の十シケルなる者一箇是には香を充す 51 また燔祭に用ふる若き牡牛一匹牡羊一匹當歳の羔羊一匹 52 罪祭に用ふる牡山羊一匹 53 酬恩祭の犠牲に用ふる牛二匹牡羊五匹牡山羊五匹當歳の羔羊五匹アミホデの子エリシヤマの禮物は是のごとし 54 第八日にはマナセの子孫の牧伯パダヅルの子ガマリエル献納をなせり 55 その禮物は銀の皿一箇その重は百三十シケル銀の鉢一箇是は七十シケルみな聖所のシケルに循ふこの二者には麥粉に油を和たる素祭の品を充す 56 また金の匙の十シケルなる者一箇是には香を充す 57 また燔祭に用ふる若き牡牛一匹牡羊一匹當歳の羔羊一匹 58 罪祭に用ふる牡山羊一匹 59 酬恩祭の犠牲に用ふる牛二匹牡羊五匹牡山羊五匹當歳の羔羊五匹パダヅルの子ガマリエルの禮物は是のごとし 60 第九日にはベニヤミンの子孫の牧伯ギデオニの子アピダン献納をなせり 61 その禮物は銀の皿一箇その重は百三十シケル銀の鉢一箇是は七十シケルみな聖所のシケルに循ふこの二者には麥粉に油を和たる素祭の品を充す 62 また金の匙の十シケルな

る者一箇是には香を充す 63 また燔祭に用ふる若き牡牛一匹牡羊一匹當歳の羔羊一匹 64 罪祭に用ふる牡山羊一匹 65 酬恩祭の犠牲に用ふる牛二匹牡羊五匹牡山羊五匹當歳の羔羊五匹ギデオニの子アビダンの禮物は是のごとし 66 第十日にはダンの子孫の牧伯アミシヤダイの子アヒエゼル献納をなせり 67 その禮物は銀の皿一箇その重は百三十シケル銀の鉢一箇是は七十シケル皆聖所のシケルに循ふこの二者には麥粉に油を和たる素祭の品を充す 68 また金の匙の十シケルなる者一箇是には香を充す 69 また燔祭に用ふる若き牡牛一匹牡羊一匹當歳の羔羊一匹 70 罪祭に用ふる牡山羊一匹 71 酬恩祭の犠牲に用ふる牛二匹牡羊五匹牡山羊五匹當歳の羔羊五匹アミシヤダイの子アヒエゼルの禮物は是のごとし 72 第十一日にはアセルの子孫の牧伯オクランの子パギエル献納を爲せり 73 その禮物は銀の皿一箇その重は百三十シケル銀の鉢一箇是は七十シケルみな聖所のシケルに循ふこの二者には麥粉に油を和たる素祭の品を充す 74 亦金の匙の十シケルなる者一箇是には香を充す 75 亦燔祭に用ふる若き牡牛一匹牡羊一匹當歳の羔羊一匹 76 罪祭に用ふる牡山羊一匹 77 酬恩祭の犠牲に用ふる牛二匹牡羊五匹牡山羊五匹當歳の羔羊五匹オクランの子パギエルの禮物は是のごとし 78 第十二日にはナフタリの子孫の牧伯エナンの子アヒラ献物をなせり 79 其禮物は銀の皿一箇その重は百三十シケル銀の鉢一箇是は七十シケルみな聖所のシケルに循ふこの二者には麥粉に油を和たる素祭の品を充す 80 また金の匙の十シケルなる者一箇是には香を充す 81 また燔祭に用ふる若き牡牛一匹牡羊一匹當歳の羔羊一匹 82 罪祭に用ふる牡山羊

一匹 **83** 酬恩祭の犠牲に用ふる牛二匹牡羊五匹牡山羊五匹當歳の羔羊五匹エナンの子アヒラの禮物は是のごとし **84** 是すなはち壇に油を灌げる日にイスラエルの牧伯等が献げたる壇奉納の禮物なり即ち銀の皿十二銀の鉢十二金の匙十二 **85** 銀の皿は各々百三十シケル鉢は各々七十シケル聖所のシケルに依ばこの諸の銀の器はその重都合二千四百シケルなりき **86** また香を充せる金の匙十二ありその重は聖所のシケルに依ば各々十シケルその匙の金は都合百二十シケルなりき **87** また燔祭に用ふる者は牡牛十二牡羊十二當歳の羔羊十二ありき之にその素祭の物を加ふまた罪祭の牡山羊十二あり **88** また酬恩祭の犠牲に用ふる者は牡牛二十四牡羊六十牡山羊六十當歳の羔羊六十あり壇に膏を灌ぎて後に献たる壇奉納の禮物は是のごとし **89** 斯てモーセはエホバと語はんとて集會の幕屋に入れるに律法の櫃の上なる贖罪所の上兩箇のケルビムの間より聲いでて己に語ふを聽り即ち彼と語へり

8 エホバまたモーセに告て言たまはく **2** アロンに告て之に言へ汝燈火を燃す時は七の燈盞をして均く燈臺の前を照さしむべし **3** アロンすなはち然なし燈火を燈臺の前の方にむけて燃せりエホバのモーセに命じたまへる如し **4** 燈臺の作法は是のごとし是は槌にて椎て作れる者即ちその臺座よりその花まで槌にて椎て作れる者なりモーセ、エホバの己に示したまへる式様にてらしてこの燈臺を作れり **5** エホバ、モーセに告て言たまはく **6** レビ人をイスラエルの子孫の中より取てこれを潔めよ **7** 汝かく彼らに爲て之を潔むべし即ち罪を潔むる水を彼等に灑ぎかけ彼等にその身をことごとく剃しめその衣服を洗はしめて之を

潔め 8 而して彼等に若き牡牛一匹と麥粉に油を和たる者を取しめよ汝また別に若き牡牛を罪祭のために取べし 9 斯て汝レビ人を集會の幕屋の前に携きたりてイスラエルの子孫の全會を集め 10 而してレビ人をエホバの前に進ましめてイスラエルの子孫に其手をレビ人の上に按しむべし 11 而してイスラエルの子孫の爲にレビ人を搖祭となしてエホバの前に獻ぐべし是彼らをしてエホバの勤務を爲しめんためなり 12 斯て汝レビ人にその手をかの牛の頭に按しめその一を燔祭となしてエホバに獻げ之をもてレビ人のために贖罪をなすべし 13 即ちレビ人をアロンとその子等の前に立しめ之を搖祭となしてエホバに獻ぐべし 14 汝レビ人をイスラエルの子孫の中より區分ちレビ人をしてわが所屬とならしむべし 15 斯て後レビ人は入て集會の幕屋の役事をなすべし汝かれらを潔め之を獻げて搖祭となすべし 16 彼らはイスラエルの子孫の中よりして我に獻げらるる者なりイスラエルの子孫の中なる始に生れたる者すなはちその首出子の代に我かれらを取なり 17 イスラエルの子孫の中の首出子是人たるも獸たるも凡てわが所屬となるべし其は我エジプトの地において首出子を盡く撃ころしたる時に彼等を聖者となして我に屬せしめたればなり 18 是をもて我イスラエルの子孫の中の一切の首出子の代にレビ人を取なり 19 我イスラエルの子孫の中よりレビ人を取て之をアロンとその子等に與へ之をして集合の幕屋においてイスラエルの子孫に代てその役事を爲しめまたイスラエルの子孫のために贖罪をなさしめん是イスラエルの子孫が聖所に近く時にイスラエルの子孫の中に災害の起ざらんためなり 20 モーセと

アロンおよびイスラエルの子孫の全會衆エホバがレビ人の事につきてモーセに命じたまへる所に悉くしたがりてレビ人におこなへり即ちイスラエルの子孫かくの如く彼等に行ひたり **21**レビ人は是に於てその身を潔め衣服を洗ひたればアロンかれらをエホバの前に献て搖祭となしアロンまた彼らのために贖罪をなして之を潔めたり **22**斯て後レビ人は集會の幕屋に入れてアロンとその子等の前にてその役事を爲り彼等はレビ人の事につきてエホバのモーセに命じたまへる所に循ひて斯のごとく之を行ひたり **23**エホバまたモーセに告て言たまはく **24**レビ人は斯なすべし即ち二十五歳以上の者は軍団に入て集會の幕屋の役事をなすべし **25**然ど五十歳よりは軍団を退きて休み重て役事をなすべからず **26**唯集會の幕屋においてその兄弟等をつかさどり且伺ひ守ることを勤むべし役事を爲すべからず汝レビ人をしてその職務をなさしむるには斯のごとくなすべし

9エジプトの國を出たる次の年の正月エホバ、シナイの野にてモーセに告ていひたまはく **2**イスラエルの子孫をして逾越節をその期におよびて行はしめよ **3**其期即ち此月の十四日の晩にいたりて汝等これを行ふべし汝等これをおこなふにはその諸の條例とその諸の式法に循ふべきなり **4**是においてモーセ、イスラエルの子孫に逾越節を行ふべき事を告たれば **5**彼等正月の十四日の晩にシナイの野にて逾越節を行へり即ちイスラエルの子孫はエホバのモーセに命じたまへる所に盡く循ひてこれを爲ぬ **6**時に人の死骸に身を汚して逾越節を行ふこと能ざる人々ありてその日にモーセとアロンの前にいたれり **7**その人々すな

はち彼に言ふ我等は人の死骸に身を汚したり然ば我
らはその期におよびてイスラエルの子孫と偕にエホ
バに禮物を献ることを得ざるべき乎 8 モーセかれら
に言けるは姑く待てエホバ汝らの事を如何に宣ふか
を聽ん 9 エホバ、モーセに告て言たまはく 10 イスラ
エルの子孫に告て言へ汝等または汝等の子孫の中死
屍に身を汚したる人も遠き途にある人も皆逾越節を
エホバにむかひて行ふべきなり 11 即ち二月の十四日
の晩に之をおこなひ酔いれぬパンと苦菜をそへて之
を食ふべし 12 朝までこれを少許も遺しおくべからず
又その骨を一本も折べからず逾越節の諸の條例にし
たがひて之を行ふべし 13 然ど人その身潔くありまた
征途にもあらずして逾越節を行ふことをせざる時は
その人民の中より斷れん斯る人はその期におよびて
エホバの禮物を持きたらざるが故にその罪を任べき
なり 14 他國の人もし汝らの中に寄寓をりて逾越節を
エホバにおこなはんとせば逾越節の條例に依りその
法式にしたがひて之をおこなふべし他國の人にも自
國の人にもその條例は同一なるべし 15 幕屋を建たる
日に雲幕屋を蔽へり是すなはち律法の幕屋なり而し
て夕にいたれば幕屋の上に火のごとき者あらはれて
朝におよべり 16 即ち常に是のごとくにして晝は雲こ
れを蔽ひ夜は火のごとき者ありき 17 雲幕屋を離れて
上る時はイスラエルの子孫直に途に進みまた雲の止
まる所にイスラエルの子孫營を張り 18 即ちイスラエ
ルの子孫はエホバの命によりて途に進みまたエホバ
の命によりて營を張り幕屋の上に雲の止まれる間は
營を張をれり 19 幕屋の上に雲の止ること日久しき時
はイスラエルの子孫エホバの職守をまもりて途に進

まざりき 20 また幕屋の上に雲の止まる事日少き時も然り彼等は只エホバの命にしたがひて營を張りエホバの命にしたがひて途に進めり 21 また雲夕より朝まで止り朝におよびてその雲昇る時は彼等途に進めり夜にもあれ晝にもあれ雲の昇る時は即ち途に進めり 22 二日にもあれ一月にもあれまたは其よりも多くの日にもあれ幕屋の上に雲の止り居る間はイスラエルの子孫營を張居て途に進まずその昇るにおよびて途に進めり 23 即ち彼等はエホバの命にしたがひて營を張りエホバの命にしたがひて途に進み且モーセによりて傳はりしエホバの命にしたがひてエホバの職守を守れり

10 エホバ、モーセに告て言たまはく 2 汝銀の喇叭二本を製れ即ち槌にて椎て之を製り之を用ひて人を呼集めまた營を進ますべし 3 この二者を吹ときは全會衆集會の幕屋の門に集りて汝に就べし 4 もし只その一を吹く時はイスラエルの千人の長たるその牧伯等集りて汝に就べし 5 汝等これを吹鳴す時は東の方に營を張る者途に進むべし 6 また二次これを吹ならす時は南の方に營を張る者途に進むべし凡て途に進まんとする時は音長く喇叭を吹ならすべし 7 また會衆を集むる時にも喇叭をふくべし但し音長くこれを吹ならすべからず 8 アロンの子等の祭司たる者どもその喇叭を吹べし是すなはち汝らが代々ながく守るべき例たるなり 9 また汝らの國において汝等その己を攻るところの敵と戦はんとて出る時は喇叭を吹ならすべし然せば汝等の神エホバ汝らを記憶て汝らをその敵の手より救ひたまはん 10 また汝らの喜樂の日汝らの節期および月々の朔日には燔祭の上と酬恩祭

の犠牲の上に喇叭を吹ならすべし然せば汝らの神これに由て汝らを記憶たまはん我は汝らの神エホバ也
11 斯て第二年の二月の二十日に雲律法の幕屋を離れて昇りければ **12** イスラエルの子孫シナイの野より出でて途に進みたりしがパランの野にいたりて雲止れり **13** 斯かれらはエホバのモーセによりて命じたまへるところに遵ひて途に進むことを始めたり **14** 首先にはユダの子孫の營の蘂の下につく者その軍旅にしたがひて進めりユダの軍旅の長はアミナダブの子ナシヨン **15** イッサカルの子孫の支派の軍旅の長はツアルの子ネタニエル **16** ゼブルンの子孫の支派の軍旅の長はヘロンの子エリアブなりき **17** 乃ち幕屋を取くづしゲルシヨンの子孫およびメラリの子孫幕屋を擔ひて進めり **18** 次にルベンの營の蘂の下につく者その軍旅にしたがひて進めりルベンの軍旅の長はシデウルの子エリヅル **19** シメオンの子孫の支派の軍旅の長はツリシャダイの子シルミエル **20** ガドの子孫の支派の軍旅の長はデウエルの子エリアサフなりき **21** コハテ人聖所を擔ひて進めり是に至るまでに彼その幕屋を建をはる **22** 次にエフライムの子孫の營の蘂の下につく者その軍旅にしたがひて進めりエフライムの軍旅の長はアミホデの子エリシヤマ **23** マナセの子孫の支派の軍旅の長はパダヅルの子ガマリエル **24** ベニヤミンの子孫の支派の軍旅の長はギデオニの子アビダンなりき **25** 次にダンの子孫の營の蘂の下につく者その軍旅にしたがひて進めりこの軍旅は諸營の後驅なりきダンの軍旅の長はアミシャダイの子アヒエゼル **26** アセルの子孫の支派の軍旅の長はオクランの子バギエル **27** ナフタリの子孫の支派の軍旅の長はエナンの子

アヒラなりき **28** イスラエルの子孫はその途に進む時は是のごとくその軍旅にしたがひて進みたり **29** 茲にモーセその外舅なるミデアン人リウエルの子ホバブに言けるは我等はエホバが嘗て我これを汝等に與へんと言たまひし處に進み行なり汝も我等とともに來れ我等汝をして幸福ならしめん其はエホバ、イスラエルに福祉を降さんと言たまひたればなり **30** 彼モーセに言ふ我は往じ我はわが國に還りわが親族に至らん **31** モーセまた言けるは請ふ我等を棄去なかれ汝は我儕が曠野に營を張るを知らば願くは我儕の目となれ **32** 汝もし我儕とともに往ばエホバの我儕に降したまふところの福祉を我儕また汝にもおよぼさん **33** 斯て彼等エホバの山をたち出て三日路ほど進み行りエホバの契約の櫃その三日路の間かれらに先だち行て彼等の休息所を尋ね覓めたり **34** 彼等營を出て途に進むに當りて晝はエホバの雲かれらの上によりき **35** 契約の櫃の進まんとする時にはモーセ言りエホバよ起あがりたまへ然ば汝の敵は打散され汝を惡む者等は汝の前より逃さざらん **36** またその止まる時は言りエホバよ千萬のイスラエル人に歸りたまへ

11 茲に民災難に罹れる者のごとくにエホバの耳に眩きぬエホバその怨言を聞て震怒を發したまひければエホバの火かれらに向ひて燃いでその營の極端を燒り **2** 是に於て民モーセに呼はりしがモーセ、エホバに祈ければその火鎮りぬ **3** エホバの火かれらに向ひて燃出たるに因てその處の名をタベラ(燃)と稱ぶ **4** 茲に彼等の中なる衆多の寄集人等慾心を起すイスラエルの子孫もまた再び哭て言ふ誰か我らに肉を與へて食しめんか **5** 憶ひ出るに我等エジプトにありし時

は魚黄瓜水瓜菹葱青蒜等を心のままに食へり 6 然るに今は我儕の精神枯衰ふ我らの目の前にはこのマナの外何も有ざるなりと 7 マナは芫荽の實のごとくにしてその色はブドラクの色のごとし 8 民行巡りてこれを斂め石磨にひき或は臼に搗てこれを釜の中に煮て餅となせりその味は油菓子味の味のごとし 9 夜にいたりて露營に降る時にマナその上に降りり 10 モーセ聞に民の家々の者おのおのその天幕の門口に哭く是におひてエホバ烈しく怒を發したまふこの事またモーセの目にも悪く見ゆ 11 モーセすなはちエホバに言けるは汝なんぞ僕を悪くしたまふ乎いかなれば我汝の前に恩を獲ずして汝かく此すべての民をわが任となして我に負せたまふや 12 この總體の民は我が姪みし者ならんや我が生し者ならんや然るに汝なんぞ我に慈父が乳哺子を抱くがごとくに彼らを懷に抱きて汝が昔日かれらの先祖等に誓ひたまひし地に至れと言たまふや 13 我何處より肉を得てこの總體の民に與へんや彼等は我にむかひて哭き我等に肉を與へて食しめよと言なり 14 我は一人にてはこの總體の民をわが任として負ことあたはず是は我には重きに過ればなり 15 我もし汝の前に恩を獲ば請ふ斯我を爲んよりは寧ろ直に我を殺したまへ我をしてわが困苦を見せしめたまふ勿れ 16 是においてエホバ、モーセに言たまはくイスラエルの老人の中民の長老たり有司たるを汝が知るところの者七十人を我前に集め集會の幕屋に携きたりて其處に汝とともに立しめよ 17 我降りて其處にて汝と言はん又われ汝の上にあるところの靈を彼等にも分ち與へん彼等汝とともに民の任を負ひ汝をして只一人にて之を負ふこと無らしむべし 18 汝

また民に告て言へ汝等身を潔めて明日を待て必ず肉を食ふことを得ん汝等エホバの耳に哭て誰か我等に肉を與へて食しめん我らエジプトにありし時は却て善りしと言たればエホバなんぢらに肉を與へて食しめたまふべし **19** 汝等がこれを食ふは一日や二日や五日や十日や二十日にはあらずして **20** 一月におよび遂に汝らの鼻より出るにいたらん汝等これに饜はつべし是なんぢら己等の中にいますエホバを輕んじてその前に哭き我等何とてエジプトより出しやと言たればなり **21** モーセ言けるは我が偕にをる民は歩卒のみにても六十萬あり然るに汝は我かれらに肉を與へて一月の間食しめんと言たまふ **22** 羊と牛の群を宰るとも彼等を飽しむることを得んや海の魚をことごとく集むるとも彼等を飽しむることを得んや **23** エホバ、モーセに言たまはくエホバの手短からんや吾言の成と然らざるとは汝今これを見るあらん **24** 是に於てモーセ出きたりてエホバの言を民に告げ民の長老七十人を集めて幕屋の四圍に立しめけるに **25** エホバ雲の中にありて降りモーセと言ひモーセのうへにある靈をもてその長老七十人にも分ち與へたまひしがその靈かれらの上をやどりしかば彼等預言せり但し此後はおかきねて爲ざりき **26** 時に彼等の中なる二人の者營に止まり居るその一人の名はエルダデといひ一人の名はメダデと曰ふ靈またかれらの上にもやどれり彼らは其名を録されたる者なりしが幕屋に往ざりければ營の中にて預言をなせり **27** 時に一人の少者奔りきたりモーセに告てエルダデとメダデ營の中にて預言すと言ければ **28** その少時よりしてモーセの從者たりしヌンの子ヨシユアこたへて曰けるは吾主モーセこ

れを禁めたまへ 29 モーセこれに言けるは汝わがために媚嫉を起すやエホバの民の皆預言者とならんことまたエホバのその霊を之に降したまはんことこそ願しけれ 30 斯てモーセ、イスラエルの長老等とともに營に返れり 31 茲にエホバの許より風おこり出て海の方より鶉を吹きたりこれをして營の周圍に墮しめたりその墮ひろがれること營の四周此旁も大約一日路彼旁も大約一日路地の表より高さこと大約二キュビトなりき 32 民すなはち起あがりてその日終日その夜終夜またその次の日終日鶉を拾ひ斂めけるが拾ひ斂むることの至て寡き者も十ホメルほど拾ひ斂めたり皆これを營の周圍に陳べおけり 33 肉なほ齒のあひだにありていまだ食つくさざるにエホバ民にむかひて怒を發しこれを撃ておほいに滅ぼしたまへり 34 是をもてその處の名をキプロテハッタワ(慾心の墓)とよべり其は慾心をおこせる人々を其處に埋たればなり 35 斯て民キプロテハッタワよりハゼロテに進みゆきてハゼロテに居ぬ

12 モーセはエテオピアの女を娶りたりしがそのエテオピアの女を娶りしをもてミリアムとアロン、モーセを謗れり 2 彼等すなはち言けるはエホバただモーセによりてのみ語りたまはんやまた我等によりても語り給ふにあらずやとエホバこれを聞たまへり 3 (モーセはその人と爲溫柔なること世の中の諸の人に勝れり) 4 是に於てエホバ遽にモーセ、アロン及びミリアムに言たまはく汝等三人集會の幕屋に出きたれと三人すなはち出きたりければ 5 エホバ雲の柱の中にありて降り幕屋の門に立てアロンとミリアムを呼たまひしがかれら二人進みたれば 6 之に言たまはく

汝等わが言を聽け汝らの中にもし預言者あらば我エホバ異象において我をこれに知しめまた夢において之と語らん 7 わが僕モーセに於ては然らず彼はわが家に忠義なる者なり 8 彼とは我口をもて相語り明かに言ひて隱語を用ひず彼はまたエホバの形を見るなり然るを汝等なんぞわが僕モーセを謗ることを畏れざるやと 9 エホバかれらに向ひ忿怒を發して去たまへり 10 雲すなはち幕屋をはなれて去ぬその時ミリアムに癩病生じてその身雪のごとく爲りアロン、ミリアムを見かへるに既に癩病生じをる 11 アロン是においてモーセに言けるは嗟わが主よ我等愚なる事をなして罪を犯したれど願くは其罪を我等に蒙らしむる勿れ 12 彼をして母の胎より肉半分腐れて死て生れいづる者のごとくならしむる勿れ 13 モーセすなはちエホバに呼はりて言ふ嗚呼神よ願くは彼を醫したまへ 14 エホバ、モーセに言たまひけるは彼の父その面に唾する事ありてすら彼は七日の間羞をるべきに非ずや然ば七日の間かれを營の外に禁鎖おきて然る後に歸り入しむべしと 15 ミリアムはすなはち七日の間營の外に禁鎖られぬ民はミリアムの歸り入るまで途に進まざりき 16 その後民ハゼロテより進みてバランの曠野に營を張り

13 茲にエホバ、モーセに告て言たまはく 2 汝人を遣して我がイスラエルの子孫に與ふるカナンの地を窺はしめよ即ち支派ごとに一人を取て之を遣すべし其人々は皆かれらの中の牧伯たる者なるべし 3 モーセすなはちエホバの命にしたがひてバランの曠野よりこれを遣せりその人等は皆イスラエルの子孫の領袖たる者なり 4 その名は是のごとしルベンの支派に

てはザックルの子シヤンマ 5 シメオンの支派にては
ホリの子シヤパテ 6 ユダの支派にてはエフンネの子
カルブ 7 イッサカルの支派にてはヨセフの子イガル
8 エフライムの支派にてはヌンの子ホセア 9 ペニヤミ
ンの支派にてはラフの子パルテ 10 ゼブルンの支派に
てはソデの子ガデエル 11 ヨセフの支派すなはちマナ
セの支派にてはスシの子ガデ 12 ダンの支派にではゲ
マリの子アンミエル 13 アセルの支派にてはミカエル
の子セトル 14 ナフタリの支派にてはワフシの子ナヘ
ビ 15 ガドの支派にてはマキの子ギウエル 16 是すな
はちモーセがその地を窺はしめんとて遣したる人々
の名なり時にモーセ、ヌンの子ホセアをヨシユアと
名けたり 17 モーセかれらを遣はしてカナンの地を窺
はしめんとして之に言けるは汝等その南の方に赴き
て山に登り 18 その地の如何と其處に住む民の強か弱
か多か寡かを觀 19 またその住ところの地は善か悪か
其住ところの邑々は如何なるものなるか彼等は天幕
に住をるか城の邑に住をるかを觀 20 またその地は腴
なるか瘦たるか其中に樹あるや否を觀よ汝等勇しか
れその地の果物を携へきたれよとこの時は葡萄の熟
し始むる時なりき 21 是において彼等上りゆきてその
地を窺ひチンの曠野よりレホブにおよべり是はハマ
テに近し 22 彼等すなはち南の方に上りゆきてヘブロ
ンにいたれり此にはアナクの子アヒマン、セシヤイ
およびタルマイあり(ヘブロンはエジプトのゾアンよ
りも七年前に建たる者なり) 23 彼らつひにエシコル
の谷にいたり其處より一球の葡萄のなれる枝を砍と
りてこれを杠に貫き二人してこれを擔へりまた石榴
と無花果を取り 24 イスラエルの子孫其處より葡萄一

球を砍とりしが故にその處をエシコル(一球の葡萄)の谷と稱ふ 25 彼ら四十日を経その地を窺ふことを竟て歸り 26 パランの曠野なるカデシに至りてモーセとアロンおよびイスラエルの子孫の全會衆に就きかれらと全會衆にその復命を申しその地の果物をこれに見せり 27 彼等すなはちモーセに語りて言ふ我等は汝が遣しし地にいたれり誠に其處は乳と蜜とながるはその果物なり 28 然ながらその地に住む民は猛くその邑々は堅固にして甚だ大なり我等またアナクの子孫の其處にをるを見たり 29 またアマレキ人その南の地に住みヘテ人エブス人およびアモリ人その山々に住みカナン人その海邊とヨルダンの邊に住をると 30 時にカルブ、モーセの前に民を靜めて言けるは我等直に上りゆきて之を攻取ん我等は必ずこれに勝ことを得ん 31 然ど彼とともに往たる人々は言ふ我等はかの民の所に攻上ることを得ず彼らは我らよりも強ければなりと 32 彼等すなはちその窺ひたりし地の事をイスラエルの子孫の中に悪く言ふらして云く我等が行巡りて窺ひたる地は其中に住む者を呑ほろぼす地なり且またその中に我等が見し民はみな身幹たかき人なりし 33 我等またアナクの子ネピリムを彼處に見たり是ネピリムより出たる者なり我儕は自ら見るに蝗のごとくまた彼らにも然見なされたり

14 是において會衆みな聲をあげて叫び民その夜哭あかせり 2 すなはちイスラエルの子孫みなモーセとアロンに對ひて眩き全會衆かれらに言けるは嗚呼我等はエジプトの國に死たれば善りしものを又はこの曠野に死ば善らんものを 3 何とてエホバ我等をこの地に導きいりて劍に斃れしめんとし我らの妻子をし

て掠められしめんとするやエジプトに歸ること反て好らずやと 4 互に相語り我等一人の長を立てエジプトに歸らんと云り 5 是をもてモーセとアロンはイスラエルの子孫の全會衆の前において俯伏たり 6 時にかの地を窺ひたりし者の中なるヌンの子ヨシユアとエフンネの子カルブその衣服を裂き 7 イスラエルの子孫の全會衆に語りて言ふ我等が行巡りて窺ひたりし地は甚だ善き地なり 8 エホバもし我等を悦びたまはば我らをその地に導きいりて之を我等に賜はん是は乳と蜜との流るる地なるぞかし 9 唯エホバに逆ふ勿れまたその地の民を懼るるなかれ彼等は我等の食物とならん彼等の影となる者は既に去りかつエホバわれらと共にいますなり彼等を懼るる勿れ 10 然るに會衆みな石をもて之を撃んとせり時にエホバの榮光集會の幕屋の中よりイスラエルの全體の子孫に顯れたり 11 エホバすなはちモーセに言たまはく此民は何時まで我を藐視るや我諸の休徴をかれらの中間に行ひたるに彼等何時まで我を頼むことを爲ざるや 12 我疫病をもてかれらを撃ち滅し汝をして彼等よりも大なる強き民とならしめん 13 モーセ、エホバに言けるは汝がその權能をもてこの民をエジプトより導き出したまひし事はエジプト人唯これを聞し而已ならず 14 また之をこの地に住る民に告たりまた彼等は汝エホバがこの民の中に在し汝エホバが明かにこれに顯れたまふことを聞きまたその上に汝の雲をりて汝が晝は雲の柱の中にあり夜は火の柱の中にありて之が前に行たまふを聞き 15 然ば汝もしこの民を一人のごとくに殺したまはば汝の名聲を聞る國人等言ん 16 エホバこの民を導きてその之に誓ひたりし地に至るこ

と能はざるが故に之を曠野に殺せりと 17 吾主ねがはくは今汝の權能を大ならしめて汝の言たまへる如し
たまへ 18 汝曾言たまひけらくエホバは怒ること遅く
恩惠深く惡と過とを赦す者また罰すべき者をば必ず
赦すことをせず父の罪を子に報いて三四代に及ぼす
者と 19 願くは汝の大なる恩惠をもち汝がエジプトよ
り今にいたるまでこの民を赦しし如くにこの民の惡
を赦したまへ 20 エホバ言たまはく我汝の言にしたが
ひて之を赦す 21 然ながら我の活るごとくまたエホバ
の榮光の全世界に充わたらん如く 22 かのわが榮光お
よび我がエジプトと曠野において行ひし休徴を見な
がら斯十度も我を試みて我聲に聽したがはざる人々
は 23 皆かならず我がその先祖等に誓ひし地を見ざる
べしまた我を藐視する人々も之を見ざるべし 24 但しわ
が僕カルブはその心異にして我に全く従ひたれば彼
の往たりし地に我かれを導きいらんその子孫これを
有つに至るべし 25 アマレキ人とカナン人谷にをれば
明日汝等身を轉して紅海の路より曠野に退くべし 26
エホバ、モーセとアロンに告て言たまはく 27 我この
我にむかひて眩くところの惡き會衆を何時まで赦し
おかんや我イスラエルの子孫が我にむかひて眩くと
ころの怨言を聞き 28 彼等に言へエホバ曰ふ我は活く
汝等が我耳に言しごとく我汝等になすべし 29 汝らの
屍はこの曠野に横はらん即ち汝ら核數られたる二十
歳以上の者の中我に對ひて眩ける者は皆ことごとく
此に斃るべし 30 エフンネの子カルブとヌンの子ヨシ
ュアを除くの外汝等は我が汝らを住しめんと手をあ
げて誓ひたりし地に至ることを得ず 31 汝等が掠めら
れんと言たりし汝等の子女等を我導きて入ん彼等は

汝らが顧みざるところの地を知に至るべし 32 汝らの屍はかならずこの曠野に横はらん 33 汝らの子女等は汝らが屍となりて曠野に朽るまで四十年の間曠野に流蕩て汝らの悖逆の罪にあたらん 34 汝らはかの地を窺ふに日數四十日を経たれば其一日を一年として汝等四十年の間その罪を任ひ我が汝らを離たるを知べし 35 我エホバこれを言ひ必ずこれをかの集りて我に敵する悪き會衆に盡く行なふべし彼らはこの曠野に朽ち此に死うせん 36 モーセに遣されてかの地を窺ひに往き還り來りてその地を謗り全會衆をしてモーセに對ひて咄かしめたる人々 37 即ちその地を悪く言なしたるかの人々は罰をうけてエホバの前に死り 38 但しその地を窺ひに往きたる人々の中ヌンの子ヨシユアとエフネの子カルブとは生のこれり 39 モーセこれらの事をイスラエルの子孫に告げれば民痛く哀み 40 朝蚤く起いでて山の嶺に登りて言ふ視よ我儕此にあり率エホバの約束したまひし地に上りゆかん我等罪を犯したればなり 41 モーセ言けるは汝等なんぞ斯エホバの命に背くやこの事成就せざるべし 42 汝ら上り行く勿れエホバ汝らの中にいまさざれば恐くは汝らその敵の前に撃破られん 43 アマレキ人とカナン人其處に汝らの前にあれば汝等は劍に斃るるならん汝らエホバに遵はざりし故にエホバ汝等と偕に在さざるべしと 44 然るに彼等自擅に山の嶺に登れり但しエホバの契約の櫃およびモーセは營を出ざりき 45 斯りしかばその山に住るアマレキ人とカナン人下り來てこれを打敗りホルマまで追いたれり

15 茲にエホバ、モーセに告て言たまはく 2 イスラエルの子孫に告て之に言へ我が汝等に與へて住しむ

る地に汝等到り 3 エホバに火祭を献る時すなはち願
を還す時期又は自意の禮物を爲の時期または汝らの
節期にあたりて牛あるひは羊をもて燔祭または犠牲
を献げてエホバに馨しき香を奉つる時は 4 その禮物
をエホバに献る者もし羔羊をもて燔祭あるひは犠牲
となすならば麥粉十分の一に油一ヒンの四分の一を
混和たるをその素祭として供へ酒一ヒンの四分の一
をその灌祭として供ふべし 5 その禮物をエホバに献
る者もし羔羊をもて燔祭あるひは犠牲となすならば
麥粉十分の一に油一ヒンの四分の一を混和たるをそ
の素祭として供へ酒一ヒンの四分の一をその灌祭と
して供ふべし 6 若また牡羊を之に用ふるならば麥粉
十分の二に油一ヒンの三分の一を混和たるをその素
祭として供へ 7 また酒一ヒンの三分の一をその灌祭
として献げエホバに馨しき香をたてまつるべし 8 汝
また願還あるひは酬恩祭をエホバになすに當りて牡
牛をもて燔祭あるひは犠牲となすならば 9 麥粉十分
の三に油一ヒンの半を混和たるを素祭となしてその
牡牛とともに献げ 10 また酒一ヒンの半をその灌祭と
して献ぐべし是すなはち火祭にしてエホバに馨しき
香をたてまつる者なり 11 牡牛あるひは牡羊あるひは
羔羊あるひは羔山羊は一匹ごとに斯爲べきなり 12 即
ち汝らが献ぐるところの數にてらしその數にしたが
ひて一匹ごとに斯なすべし 13 本國に生れたる者火祭
を献げてエホバに馨しき香をたてまつる時には凡て
斯のごとく是等の事を行ふべし 14 また汝らの中に寄
寓る他國の人あるひは汝らの中に代々住ふところの
人火祭をささげてエホバに馨しき香をたてまつらん
とする時は汝らの爲がごとくにその人もなすべきな

り 15 汝ら會衆および汝らの中に寄寓る他國の人は同一の例にしたがふべし是は汝らが代々永く守るべき例なり他國の人のエホバの前に侍ることは汝等と異るところ無るべきなり 16 汝らと汝らの中に宿寓る他國の人とは同一の法同一の禮式にしたがふべし 17 エホバまたモーセに告て言たまはく 18 イスラエルの子孫に告てこれに言へ我が汝等を導き往ところの地に汝等いたらん時は 19 その地の食物を食ふにあたりて汝ら擧祭をエホバにささぐべし 20 即ち汝らはその麥粉の初をもてパンを作りてこれを擧祭にそなふべし是は禾場より擧祭をそなふるが如くに擧てそなふべきなり 21 汝ら代々その麥粉の初をもて擧祭をエホバにたてまつるべし 22 汝等もし誤りてエホバのモーセに告たまへるこの諸の命令を行はず 23 エホバがモーセをもて命じたまひし事等並にその命ずることを始めたまひし日より以來汝らの代々にも命じたまはんところの事等を行はざる事有ん時 24 すなはち會衆誤りて犯す所ありて之を知ざることあらん時は全會衆少き牡牛一匹を燔祭にささげてエホバに馨しき香とならしめ之にその素祭と灌祭を禮式のごとくに加へまた牡山羊一匹を罪祭にささぐべし 25 而して祭司イスラエルの子孫の全會衆のために贖罪を爲べし斯せば是は赦されん是は過誤なればなり彼等はその禮物として火祭をエホバにささげまたその過誤のために罪祭をエホバの前にささぐべし 26 然せばイスラエルの子孫の會衆みな赦されんまた彼等の中に寄寓る他國の人も然るべし其は民みな誤り犯せるなればなり 27 人もし誤りて罪を犯さば當歳の牡山羊一匹を罪祭に獻ぐべし 28 祭司はまたその誤りて罪を犯せる人が

誤りてエホバの前に罪を獲たるが爲に贖罪をなして
その罪を贖ふべし然せば是は赦されん 29 イスラエルの
子孫の國の者にもあれまた其中に寄寓る他國の人
にもあれ凡そ誤りて罪を犯す者には汝らその法を同
じからしむべし 30 本國の人にもあれ他國の人にもあ
れ凡そ擅横に罪を犯す者は是エホバを瀆すなればそ
の人はその民の中より絶るべし 31 斯る人はエホバの
言を軽んじその誠命を破るなるが故に必ず絶れその
罪を身に承ん 32 イスラエルの子孫曠野に居る時安息
日に一箇の人の柴を拾ひあつむるを見たり 33 是にお
いてその柴を拾ひあつむるを見たる者等これをモー
セとアロンおよび會衆の許に曳きたりけるが 34 之を
如何に爲べきか未だ示諭を蒙らざるが故に之を禁錮
おけり 35 時にエホバ、モーセに言たまひけるはその
人はかならず殺さるべきなり全會衆營の外にて石を
もて之を撃べしと 36 全會衆すなはち之を營の外に曳
いだし石をもてこれを撃ころしエホバのモーセに命
じたまへるごとくせり 37 エホバ亦モーセに告て言た
まはく 38 汝イスラエルの子孫に告げ代々その衣服の
裾に襜をつけその裾の襜の上に青き紐をほどこすべ
しと之に命ぜよ 39 此襜は汝らに之を見てエホバの諸
の誠命を記憶して其をおこなはしめ汝らをしてその
放縱にする自己の心と目の欲に従がふこと無らしむ
るための者なり 40 斯して汝等吾もろもろの誠命を記
憶して之を行ひ汝らの神の前に聖あるべし 41 我は汝
らの神エホバにして汝らの神とならんとて汝らをエ
ジプトの地より導きいだせし者なり我は汝らの神エ
ホバなるぞかし

16 茲にレビの子コハテの子イヅハルの子なるコラ
およびルベンの子等なるエリアブの子ダタンとアピ
ラム並にペレテの子オン等相結び **2** イスラエルの子
孫の會衆の中にも選まれて牧伯となれるところの名あ
る人々二百五十人とともに起てモーセに逆らふ **3** す
なはち彼等集りてモーセとアロンに逆ひ之に言ける
は汝らはその分を超ゆ會衆みな盡く聖者となりてエ
ホバその中に在すなるに汝ら尚エホバの會衆の上に
立つや **4** モーセこれを聞て俯伏たりしが **5** やがてコ
ラとその一切の黨類に言けるは明日エホバ己の所屬
は誰聖者は誰なるかを示して其者を己に近かせたま
はん即ちその選びたまへる者を己に近かせたまふべ
し **6** 汝等かく爲よコラとその黨類よ汝等みな火盤を
取り **7** その中に火をいれその中に香を盛て明日エホ
バの前に至れその時エホバの選みたまふ人は聖者た
るべしレビの人々よ汝等はその分を超えるなり **8** モー
セまたコラに言けるは汝等レビの子等よ請ふ聽け **9**
イスラエルの神汝らをイスラエルの會衆の中より分
ち己に近かせてエホバの幕屋の役事を爲しめ會衆の
前に立て之にかはりて勤務をなさしめたまふ是あに
汝らにとりて小き事ならんや **10** 神すでに汝と汝の兄
弟なるレビの兒孫等を己に近かせたまふに汝らまた
祭司とならんことをも求むるや **11** 汝と汝の黨類は皆
これがために集りてエホバに敵するなりアロンを如
何なる者として汝等これに對ひて眩くや **12** かくてモ
ーセ、エリアブの子ダタンとアピラムを呼に遣はし
けるに彼等いひけるは我等は上り往じ **13** 汝は乳と蜜
との流るる地より我らを導き出して曠野に我らを殺
さんとす是あに小き事ならんや然るに汝また我等の

上に君たらんとす 14 且また汝は我らを乳と蜜との流るる地にも導きゆかずまた田畝をも葡萄園をも我らに與へて有たしめず汝この人々の目を抉りとらんとするや我等は上りゆかじ 15 是においてモーセおほいに怒りエホバに申しけるは汝かれらの禮物を顧みたまふ勿れ我はかれらより驢馬一匹をも取しことなくまた彼等を一人も害せしこと無し 16 斯てモーセ、コラに言けるは汝と汝の黨類みなアロンと偕に明日エホバの前に至れ 17 即ち汝らおのおの火盤を執てその中に香を盛り各人その火盤をエホバの前に携へいたれその火祭は都合二百五十汝とアロンも各々その火盤を携へいたるべしと 18 彼等すなはち各々火盤を執り火をその中にいれて香をその上に盛りモーセおよびアロンとともに集會の幕屋の門に立り 19 コラ會衆をことごとく集會の幕屋の門に集めおきてかれら二人に敵せしめんとせしにエホバの榮光全會衆に顯れ 20 エホバ、モーセとアロンに告て言たまひけるは 21 汝等この會衆を離れよ我これを直に滅さんとすと 22 是においてかれら二人俯伏て言ふ神よ一切の血肉ある者の生命の神よこの一人の者罪を犯したればとて汝全會衆にむかひて怒を發したまふや 23 エホバ、モーセに告て言たまはく 24 汝會衆にむかひてコラとダタンとアビラムの居所の周圍を去れと言へと 25 モーセすなはち起あがりてダタンとアビラムの所に往けるがイスラエルの長老等これに従がひいたれり 26 而してモーセ會衆に告て言けるは汝らこの惡き人々の天幕を離れて去れ彼等の物には何にも捫る勿れ恐くは彼らの諸の罪のために汝らも滅ぼされん 27 是において人々はコラとダタンとアビラムの居所を離れて

四方に去ゆけりまたダタンとアビラムはその妻子ならびに幼児とともに出てその天幕の門に立り 28 モーセやがて言けるは汝等エホバがこの諸の事をなさせんとて我を遣したまへる事また我がこれを自分の心にしたがひて行ふにあらざる事を是によりて知べし 29 すなはちこの人々もし一般の人の死のごとくに死に一般の人の罰せらるる如くに罰せられなばエホバわれを遣したまはざるなり 30 然どエホバもし新しき事を爲たまひ地その口を開きてこの人々と之に屬する者を呑つくして生ながら陰府に下らしめなばこの人々はエホバを瀆ししなりと汝ら知るべし (Sheol h7585) 31 モーセこの一切の言をのべ終れる時かれらの下なる土裂け 32 地その口を開きてかれらとその家族の者ならびにコラに屬する一切の男等と一切の所有品を呑つくせり 33 すなはち彼等とかれらに屬する者はみな生ながら陰府に下りて地その上に閉ふさがりぬ彼等かく會衆の中より滅ぼされたりしが (Sheol h7585) 34 その周圍に居たるイスラエル人は皆かれらの叫喊を聞て逃はしり恐くは地われらをも呑つくさんと言り 35 且またエホバの許より火いでてかの香をそなへたる者二百五十人を焼つくせり 36 時にエホバ、モーセに告て言たまはく 37 汝祭司アロンの子エレアザルに告てその燃る火の中より彼の火盤を取いださしめその中の火を遠方に傾すてよその火盤は聖なりたればなり 38 而してその罪を犯して生命を喪へる者等の火盤は之を濡き展版となして祭壇を包むに用ひよ彼等エホバの前にそなへしに因て是は聖なりたればなり 斯是はイスラエルの子孫に徴と爲べし 39 是において祭司エンアザル彼の焼死されし者等が用ひてそなへ

たる銅の火盤を取いだしければ之を濶く打展し之をもて祭壇を包み 40 之をイスラエルの子孫の記念の物と爲り是はアロンの子孫たらざる外人が近りてエホバの前に香を焚こと無らんため亦かかる人ありてコラとその黨類のごとくにならざらん爲なり是みなエホバがモーセをもて彼にのたまひし所に依るなり 41 その翌日イスラエルの子孫の會衆みなモーセとアロンにむかひて眩き汝等はエホバの民を殺せりと言り 42 會衆集りてモーセとアロンに敵する時集會の幕屋を望み觀に雲ありてこれを覆ひエホバの榮光顯れをる 43 時にモーセとアロン集會の幕屋の前にいたりけるに 44 エホバ、モーセに言たまひけるは 45 汝らこの會衆をはなれて去れ我直にこれをほろぼさんとすと是において彼等二人は俯伏ぬ 46 斯てモーセ、アロンに言けるは汝火盤を執り壇の火を之にいれ香をその上に盛て速かにこれを會衆の中に持ゆき之がために贖罪を爲せ其はエホバ震怒を發したまひて疫病すでに始りたればなりと 47 アロンすなはちモーセの命ぜしごとくに之を執て會衆の中に奔ゆきけるに疫病すでに民の中に始まり居たれば香を焚て民のために贖罪を爲し 48 既に死る者と尚生る者との間に立ければ疫病止まれり 49 コラの事によりて死たる者の外この疫病に死たる者は一萬四千七百人なりき 50 而してアロンはモーセの許にかへり集會の幕屋の門にいたれり疫病は斯やみぬ

17 エホバ、モーセに告て言給はく 2 汝イスラエルの子孫に語り之が中よりその各箇の父祖の家にしたがひて杖一本づつを取れ即ちその一切の牧伯等よりその父祖の家に循ひて杖都合十二本を取りその人等

の名を各々その杖に書せ 3 レビの杖には汝アロンの名を書せ其はその父祖の家の長たる者各箇杖一本を出すべければなり 4 而して集會の幕屋の中我が汝等に會ふ處なる律法の櫃の前に汝之を置べし 5 我が選める人の杖は芽さん我かくイスラエルの子孫が汝等にむかひて眩くところの怨言をわが前に止むべし 6 モーセかくイスラエルの子孫に語りければその牧伯等おのおの杖一本づつを之に付せり即ち牧伯等おのおのその父祖の家にしたがひて一本づつを出したればその杖あはせて十二本アロンの杖もその杖の中にあり 7 モーセその杖を皆律法の幕屋の中にてエホバの前に置り 8 斯てその翌日モーセ律法の幕屋にいりて視るにレビの家のために出せるアロンの杖芽をふき蕾をなし花咲て巴旦杏の果を結べり 9 モーセその杖をことごとくエホバの前よりイスラエルの子孫の所に取りだしければ彼ら見ておのおの自分の杖を取り 10 時にエホバまたモーセに言たまはく汝アロンの杖を律法の櫃の前に携へかへり其處にたくはへ置てこの背反者等のために徴とならしめよ斯して汝かれらの怨言を全く取のぞきかれらをして死ざらしむべし 11 モーセすなはち然なしエホバの己に命じたまへる如くせり 12 イスラエルの子孫モーセに語りて曰ふ嗚呼我等は死ん我等は滅びん我等はみな滅びん 13 凡そエホバの幕屋に徴にても近く者はみな死るなり我等はみな死斷べき歟

18 斯てエホバ、アロンに告て言たまはく汝と汝の子等および汝の父祖の家の者は聖所に關れる罪をその身に擔當べしまた汝と汝の子等は汝らとその祭司の職について獲ところの罪をその身に擔當べし 2 汝

また汝の兄弟たるレビの支派の者すなはち汝の父祖の支派の者等をも率て汝に合せしめ汝に事しむべし但し汝と汝の子等は律法の幕屋の前に侍るべきなり

3 彼らは汝の職守と聖所の職守とを守るべし只聖所の器具と壇とに近くべからず恐くは彼等も汝等も死るならん

4 彼等は汝に合して集合の幕屋の職守を守り幕屋の諸の役事をなすべきなり外人は汝らに近づく可らず

5 斯なんぢらは聖所の職守と祭壇の職守を守るべし然せばエホバの震怒かさねてイスラエルの子孫に及ぶこと有じ

6 視よ我なんぢらの兄弟たるレビ人をイスラエルの子孫の中より取りエホバのために之を賜物として汝らに賜ふて集會の幕屋の役事を爲しむ

7 汝と汝の子等は祭司の職を守りて祭壇の上と障蔽の幕の内は一切の事を執おこなひ斯ともに勤むべし我祭司の職の勤務と賜物として汝らに賜ふ外人の近く者は殺されん

8 エホバ又アロンに言たまはく我イスラエルの子孫の諸の聖禮物の中我に擧祭とするところの者をもて汝に賜ひて得さす即ち我これを汝と汝の子等にあたへてその分となさしめ是を永く例となす

9 斯のごとく至聖禮物の中火にて焼ざる者は汝に歸すべし即ちその我に献る諸の禮物素祭罪祭愆祭等みな至聖くして汝と汝らの子等に歸すべし

10 至聖所にて汝これを食ふべし男子等はみなこれを食ふことを得是は汝に歸すべき聖物たるなり

11 汝に歸すべき物は是なり即ちイスラエルの子孫の献る擧祭と搖祭の物我これを汝と汝の男子と女子に與へ是を永く例となす汝の家の者の中潔き者はみな之を食ふことを得るなり

12 油の嘉者酒の嘉者穀物の嘉者など凡てエホバに献るその初の物を我なんぢに與ふ

13 最

初に成る國の産物の中エホバに携へたる者は皆なんぢに歸すべし汝の家の者の中潔き者はみな之を食ふことを得るなり **14** イスラエルの人の献納る物は皆汝に歸すべし **15** 凡そ血肉ある者の首出子にしてエホバに献らるる者は人にもあれ畜にもあれ皆なんぢに歸すべし但し人の首出子は必ず贖ふべくまた汚れたる畜獸の首出子も贖ふべきなり **16** 之を贖ふにはその人の生れて一箇月に至れる後に汝その估價に依り聖所のシケルに循ひて銀五シケルに之を贖ふべし一シケルはすなはち二十ゲラなり **17** 然ど牛の首出子羊の首出子山羊の首出子は贖ふべからず是等は聖しその血を壇の上に灑ぎまたその脂を焚て火祭となしてエホバに馨しき香をたてまつるべし **18** その肉は汝に歸すべし揺る胸と右の腿とおなじく是は汝に歸するなり **19** イスラエルの子孫がエホバに献て擧祭とする所の聖物はみな我これを汝と汝の男子女子に與へこれを永く例となす是はエホバの前において汝と汝の子孫に對する鹽の契約にして變らざる者なり **20** エホバまたアロンに告たまはく汝はイスラエルの子孫の地の中に産業を有べからずまた彼等の中に何の分をも有べからず彼らの中において我は汝の分汝の産業たるなり **21** またレビの子孫たる者には我イスラエルの中において物の十分の一を與へて之が産業となし其なすところの役事すなはち集會の幕屋の役事に報ゆ **22** イスラエルの子孫はかさねて集會の幕屋に近づくべからず恐くは罪を負て死ん **23** 第レビ人集會の幕屋の役事をなすべしまた彼らはその罪な自己の身に負べし彼等はイスラエルの子孫の中に産業の地を有ざる事をもてその例となして汝らの世代の子孫の中に永

く之を守るべきなり 24 イスラエルの子孫が十に一を
取り擧祭としてエホバに献るところの物を我レビ人
に與へてその産業となさしむるが故に我かれらにつ
きて言ひ彼等はイスラエルの子孫の中に産業の地を
得べからずと 25 エホバ、モーセに告て言たまはく 26
汝かくレビ人に告て之に言べし我がイスラエルの子
孫より取て汝等に與へて産業となさしむるその什一
の物を汝ら之より受る時はその什一の物の十分の一
を献てエホバの擧祭となすべし 27 汝等の擧祭の物品
は禾場よりたてまつる穀物の如く酒酔の内よりたて
まつる酒のごとくに見做れん 28 此のごとく汝等もま
たイスラエルの子孫より受る一切の什一の物の中よ
りエホバに擧祭を献げそのエホバの擧祭を祭司アロ
ンに與ふべし 29 汝らの受る一切の禮物の中より汝ら
はその嘉ところ即ちその聖き分を取てエホバの擧祭
を献べし 30 汝かく彼等に言べし汝らその中より嘉と
ころを取て献るに於てはその殘餘の物は汝等レビ人
におけること禾場より取る物のごとく酒酔より取る
物のごとくならん 31 汝等と汝らの眷屬何處にても之
を食ふことを得べし是は汝らが集會の幕屋に於て爲
す役事の報酬たればなり 32 汝らその嘉ところを献る
に於ては之がために罪を負こと有じ汝らはイスラエ
ルの子孫の聖別て献る物を汚すべからず恐くは汝ら
死ん

19 エホバ、モーセとアロンに告て言たまはく 2 エ
ホバが命ずるところの律の例は是のごとし云くイス
ラエルの子孫に告て赤牝牛の全くして疵なく未だ軛
を負しこと有ざる者を汝の許に牽きたらしめ 3 汝ら
之を祭司エレアザルに交すべし彼はまたこれを營の

外に牽いだして自己の眼の前にこれを宰らしむべし
4 而して祭司エレアザルこれが血を其指につけ集會の幕屋の表にむかひてその血を七次灑ぎ 5 やがてその牝牛を自己の眼の前に焼しむべしその皮その肉その血およびその糞をみな焼べし 6 その時祭司香柏と牛膝草と紅の絲をとりて之をその焼る牝牛の中に投いるべし 7 かくて祭司はその衣服を浣ひ水にてその身を滌ぎて然る後營に入れし祭司の身は晩まで汚るるなり 8 また之を焼たる者も水にその衣服を浣ひ水にその身を滌ぐべし彼も晩まで汚るるなり 9 斯て身の潔き人一人その牝牛の灰をかき斂めてこれを營の外の清淨處に蓄へ置べし是イスラエルの子孫の會衆のために備へおきて汚穢を潔る水を作るべき者にして罪を潔むる物に當るなり 10 その牝牛の灰をかき斂めたる者はその衣服を浣ふべしその身は晩まで汚るるなりイスラエルの子孫とその中に寄寓る他國の人とは永くこれを例とすべきなり 11 人の死屍に捫る者は七日の間汚る 12 第三日と第七日にこの灰水を以て身を潔むべし然せば潔くならん然ど若し第三日と第七日に身を潔むることを爲ざれば潔くならじ 13 凡そ死人の屍に捫りて身を潔むることを爲ざる者はエホバの幕屋を汚すなればイスラエルより斷るべし汚穢を潔むる水をその身に灑ざるによりて潔くならずその汚穢なほ身にあるなり 14 天幕に人の死ることある時に應用ふる律は是なり即ち凡てその天幕に入る者凡てその天幕にある物は七日の間汚るべし 15 凡そ蓋を取はなして蓋はざりし所の器皿はみな汚る 16 凡そ刀劍にて殺されたる者または死屍または人の骨または墓等に野の表にて捫る者はみな七日の間汚るべし 17

汚れたる者ある時はかの罪を潔むる者たる焼る牝牛の灰をとりて器に入れ活水を之に加ふべし 18 而して身の潔き人一人牛膝草を執てその水にひたし之をその天幕と諸の器皿および其處に居あはせたる人々に灑ぐべくまたは骨あるひは殺されし者あるひは死たる者あるひは墓などに捫れる者に灑ぐべし 19 即ち身の潔き人第三日と第七日にその汚れたる者に之を灑ぐべし而して第七日にはその人みづから身を潔むることを爲しその衣服をあらひ水に身を滌ぐべし然せば晩におよびて潔くなるべし 20 然ど汚れて身を潔むることを爲ざる人はエホバの聖所を汚すが故にその身は會衆の中より絶るべし汚穢を潔むる水を身に灑がざるによりてその人は潔くならざるなり 21 彼等また永くこれを例とすべし即ち汚穢を潔むる水を人に灑げる者はその衣服を浣ふべしまた汚穢を潔むる水に捫れる者も晩まで汚るべし 22 凡て汚れたる人の捫れる者は汚るべしまた之に捫る人も晩まで汚るべし

20 斯てイスラエルの子孫の全會衆正月におよびてチンの曠野にいたれり而して民みなカデシに止りけるがミリアム其處にて死たれば之を其處に葬りぬ 2 當時會衆水を得ざるによりて相集りてモーセとアロンに迫れり 3 すなはち民モーセと争ひ言けるは嚮に我らの兄弟等がエホバの前に死たる時に我等も死たらば善りしものを 4 汝等何とてエホバの會衆をこの曠野に導き上りて我等とわれらの家畜を此に死しめんとするや 5 汝らなんぞ我らをエジプトより上らしめてこの惡き處に導きいりしや此には種を播べき處なく無花果もなく葡萄もなく石榴も無くまた飲べき水も無し 6 是においてモーセとアロンは會衆の前を

去り集會の幕屋の門にいたりて俯伏けるにエホバの榮光かれらに顯れ 7 エホバ、モーセに告て言たまはく 8 汝杖を執り汝の兄弟アロンとともに會衆を集めその眼の前にて汝ら磐に命ぜよ磐その中より水を出さん汝かく磐より水を出して會衆とその獸畜に飲しむべしと 9 モーセすなはちその命ぜられしごとくエホバの前より杖を取り 10 アロンとともに會衆を磐の前に集めて之に言けるは汝ら背反者等よ聽け我等水をしてこの磐より汝らのために出しめん歟と 11 モーセその手を擧げ杖をもて磐を二度撃けるに水多く湧出たれば會衆とその獸畜ともに飲り 12 時にエホバ、モーセとアロンに言たまひけるは汝等は我を信ぜずしてイスラエルの子孫の目の前に我の聖を顯さざりしによりてこの會衆をわが之に與へし地に導きいることを得じと 13 是をメリバ(爭論)の水とよべりイスラエルの子孫是がためにエホバにむかひて争ひたりしかばエホバつひにその聖ことを顯したまへり 14 茲にモーセ、カデシより使者をエドムの王に遣して言けるは汝の兄弟イスラエルかく言ふ汝はわれらが遭し諸の艱難を知る 15 そもそも我らの先祖等エジプトに下りゆきて我ら年ひさしくエジプトに住をりしがエジプト人われらと我らの先祖等をなやましたれば 16 我らエホバに顛はりけるにエホバわれらの聲を聽たまひ一箇の天の使を遣して我らをエジプトより導きいだしたまへり視よ我ら今は汝の邊境の邊端にあるカデシの邑に居るなり 17 願くは我らをして汝の國を通過しめよ我等は田畝をも葡萄園をも通過じまた井の水をも飲じ我らは第王の路を通過り汝の境をいづるまでは右にも左にもまがらじ 18 エドム、モーセ

に言けるは汝我の中を通過べからず恐くは我いでて
劍をもて汝にむかはん 19 イスラエルの子孫エドムに
言ふ我らは大道を通過ん若われらと我らの獣畜なん
ぢの水を飲ことあらばその値を償ふべし我は徒行に
て通過のみなれば何事にもあらざるなりと 20 然るに
エドムは汝通過べからずといひて許多の群衆を率ゐ
て出で大なる力をもて之にむかへり 21 エドムかくイ
スラエルにその境の中を通過ことを容さざりければ
イスラエルは他にむかひて去り 22 かくてイスラエル
の子孫の會衆みなカデシより進みてホル山にいたれ
り 23 エホバ、エドムの國の境なるホル山にてモーセ
とアロンに告て言たまはく 24 アロンはその死たる民
に列らんイスラエルの子孫に我が與へし地に彼は入
ことを得ざるべし是メリバの水のある處にて汝等わ
が言に背きたればなり 25 汝アロンとその子エレアザ
ルをひきつれてホル山に登り 26 アロンにその衣服を
脱せてこれをその子エレアザルに衣せよアロンは其
處に死てその民に列るべしと 27 モーセすなはちエホ
バの命じたまへるごとく爲し相つれだちて全會衆の
目の前にてホル山に登り 28 而してモーセはアロンに
その衣服をぬがせて之をその子エレアデルに衣せたり
アロンは其處にて山の嶺に死り斯てモーセとエレ
アザル山よりくだりけるが 29 會衆みなアロンの死た
るを見て三十日のあひだ哀哭をなせりイスラエルの
家みな然せり

21 茲に南の方に住るカナン人アラデ王といふ者イ
スラエルが間者の道よりして來るといふを聞きイス
ラエルを攻うちてその中の數人を擄にせり 2 是にお
いてイスラエル誓願をエホバに立て言ふ汝もしこの

民をわが手に付したまはば我その城邑を盡く滅さんと 3 エホバすなはちイスラエルの言を聽いれてカナン人を付したまひければ之とその城邑をことごとく滅せり是をもてその處の名をホルマ(殲滅)と呼なしたり 4 民はホル山より進みゆき紅海の途よりしてエドムを繞り通らんとせしがその途のために民心を苦めたり 5 すなはち民神とモーセにむかいて眩きけるは汝等なんぞ我らをエジプトより導きのぼりて曠野に死しめんとするや此には食物も無くまた水も無し我等はこの粗き食物を心に厭ふなりと 6 是をもてエバホ火の蛇を民の中に遣して民を咬しめたまひければイスラエルの民の中死る者多かりき 7 是によりて民モーセにいたりて言けるは我らエホバと汝にむかひて眩きて罪を獲たり請ふ汝エホバに祈りて蛇を我等より取はなさしめよとモーセすなはち民のために祈ければ 8 エホバ、モーセに言たまひけるは汝蛇を作りてこれを杆の上に載おくべし凡て咬れたる者は之を仰ぎ觀なば生べし 9 モーセすなはち銅をもて一條の蛇をつくり之を杆の上に載おけり凡て蛇に咬れたる者その銅の蛇を仰ぎ觀ば生たり 10 イスラエルの子孫途に進みてオボテに營を張り 11 またオボテより進み行きモアブの東の方に亘るところの曠野においてイエアバリムに營を張り 12 また其處より進みゆきてゼレデの谷に營を張り 13 其處より進みゆきてアルノンの彼旁に營を張りアルノンはアモリの境より出て曠野に流るる者にてモアブとアモリの間にありてモアブの界をなすなり 14 故にエホバの戦争の記に言るあり云くスパのワヘブ、アルノンの河 15 河の流即ちアルの邑に落下りモアブの界に倚る者と 16 かれら

其處よりベエル(井)にいたれりエホバがモーセにむかひて汝民を集めよ我これに水を與へんと言たまひしはこの井なりき 17時にイスラエルこの歌を歌へり云く井の水よ湧あがれ汝等これがために歌へよ 18此井は笏と杖とをもて牧伯等これを掘り民の君長等之を掘りと斯て曠野よりマツタナにいたり 19マツタナよりナハリエルにいたりナハリエルよりバモテにいたり 20バモテよりモアブの野にある谷に往き曠野に對するピスガの嶺にいたれり 21かくてイスラエル使者をアモリ人の王シホンに遣して言しめけるは 22我をして汝の國を通過しめよ我等は田畝にも葡萄園にも入じまた井の水をも飲じ我らは汝の境を出るまでは唯王の道を通りて行んのみと 23然るにシホンはイスラエルに自己の境の中を通る事を容さざりき而してシホンその民をことごとく集め曠野にいでてイスラエルを攻んとしヤハヅに來りてイスラエルと戦ひけるが 24イスラエル刃をもて之を撃やぶりその地をアルノンよりヤボクまで奪ひ取りアンモンの子孫にまで至れりアンモンの子孫の境界は堅固なりき 25イスラエルかくその城邑を盡く取り而してイスラエルはアモリ人の諸の城邑に住みヘシボンとそれに附る諸の村々に居る 26ヘシボンはアモリ人の王シホンの都城なりシホンは曾てモアブの前の王と戦ひてかれの地をアルノンまで盡くその手より奪ひ取しなり 27故に歌をもて云るあり曰く汝らヘシボンに來れシホンの城邑を築き建よ 28ヘシボンより火出でシホンの都城より焔いでてモアブのアルを焚つくしアルノンの邊の高處を占る君王等を滅ぼせり 29モアブよ汝は禍なる哉ケモシの民よ汝は滅ぼさるその男子は逃奔

りその女子はアモリ人の王シホンに擄らるるなり 30
我等は彼らを撃たふしヘシボンを滅ぼしてデボンに
及び之を荒してまたノパに及びメデバにいたる 31 斯
イスラエルの子孫はアモリ人の地に住たりしが 32 モ
ーセまた人を遣はしてヤゼルを窺はしめ遂にその村
々を取て其處にをりシアモリ人を逐出し 33 轉てバシ
ヤンの路に上り行きけるにバシヤンの王オグその民
を盡く率ゐて出で之を迎へてエデレイに戦はんとす
34 エホバ、モーセに言たまひけるは彼を懼るる勿れ
我かれとその民とその地を盡く汝の手に付す汝ヘシ
ボンに住をりシアモリ人の王シホンに爲たるごとく
に彼にも爲べしと 35 是において彼とその子とその民
をことごとく撃ころし一人も生存る者なきに至らし
めて之が地を奪ひたり

22 かくてイスラエルの子孫また途に進みてモアブ
の平野に營を張り此はヨルダンの此旁にしてエリコ
に對ふ 2 チッポルの子バラクはイスラエルが凡てア
モリ人に爲たる所を見たり 3 是においてモアブ人大
いにイスラエルの民を懼る是その數多きに因てなり
モアブ人かくイスラエルの子孫のために心をなやま
したれば 4 すなはちミデアンの長老等に言ふこの群
衆は牛が野の草を飴食ふごとくに我等の四圍の物を
ことごとく飴食はんとすとこの時にはチッポルの子
バラク、モアブ人の王たり 5 彼すなはち使者をペト
ルに遣してベオルの子バラムを招かしめんとすペト
ルはバラムの本國にありて河の邊に立りその之を招
かしむる言に云く茲にエジプトより出來し民あり地
の面を蓋ふて我の前にをる 6 然ば請ふ汝今來りて我
ためにこの民を誼へ彼等は我よりも強ければなり然

せば我これを撃やぶりて我國よりこれを逐はらふを得ることもあらん其は汝が祝する者は福德を得汝が詛ふ者は禍を受くと我しればなりと 7 モアブの長老等とミデアンの長老等すなはち占トの禮物を手にとりて出たちバラムにいたりてバラクの言をこれに告たれば 8 バラムかれらに言ふ今晚は此に宿れエホバの我に告るところに循ひて汝らに返答をなすべしと是をもてモアブの牧伯等バラムの許に居る 9 時に神バラムに臨みて言たまはく汝の許にをる此人々は何者なるや 10 バラム神に言けるはモアブの王チッポルの子バラク我に言つかはしけらく 11 茲にエジプトより出きたりし民ありて地の面を蓋ふ請ふ今來りてわがために之を詛へ然せば我これに戦ひ勝てこれを逐はらふを得ることもあらんと 12 神バラムに言たまひけるは汝かれらとともに往べからず亦この民を詛ふべからず是は祝福る者たるなり 13 是においてバラム朝起てバラクの牧伯等に言けるは汝ら國に歸れよエホバ我が汝らとともに往く事をゆるさざるなりと 14 モアブの牧伯たちすなはち起あがりてバラクの許にいたりバラムは我らとともに來ることを肯ぜずと告たれば 15 バラクまた前の者よりも尊き牧伯等を前よりも多く遣せり 16 彼らバラムに詣りて之に言けるはチッポルの子バラクかく言ふ願くは汝何の障碍をも顧みずして我に來れ 17 我汝をして甚だ大なる尊榮を得させん汝が我に言ところは凡て我これを爲べし然ば願くは來りて我ためにこの民を詛へ 18 バラム答へてバラクの臣僕等に言けるは假令バラクその家に盈るほどの金銀を我に與ふるとも我は事の大小を諭ずわが神エホバの言を踰ては何をも爲ことを得ず 19

然ば請ふ汝らも今晚此に宿り我をしてエホバの再び
我に何と言たまふかを知しめよと 20 夜にいりて神バ
ラムにのぞみて之に言たまひけるはこの人々汝を招
きに来りたれば起あがりて之とともに往け但し汝は
我が汝につぐる言のみを行ふべし 21 バラム翌朝起あ
がりてその驢馬に鞍おきてモアブの牧伯等とともに
往り 22 然るにエホバかれの往たるに縁て怒を發した
まひければエホバの使者かれに敵せんとて途に立り
彼は驢馬に乗その僕二人はこれとともに在しが 23 驢
馬エホバの使者が劍を手に抜持て途に立るを見驢馬
途より身を轉して田圃に入ればバラム驢馬を打て
途にかへさんとせしに 24 エホバの使者また葡萄園の
途に立り其處には此旁にも石垣あり彼旁にも石垣あ
り 25 驢馬エホバの使者を見石垣に貼依てバラムの足
を石垣に貼依たればバラムまた之を打り 26 然るにエ
ホバの使者また進みよりて狭き處に立けるが其處に
は右にも左にもまがる道あらざりしかば 27 驢馬エホ
バの使者を見てバラムの下に臥たり是においてバラ
ム怒を發し杖をもて驢馬を打けるに 28 エホバ驢馬の
口を啓きたまひたれば驢馬バラムにむかひて言ふ我
なんぢに何を爲せばぞ汝かく三次我を打や 29 バラム
驢馬に言ふ汝われを侮るが故なり我手に劍あらば今
汝を殺さんものを 30 驢馬またバラムに言けるは我は
汝の所有となりてより今日にいたるまで汝が常に乗
ところの驢馬ならずや我つねに斯のごとく汝になし
たるやとバラムこたへて否と言ふ 31 時にエホバ、バ
ラムの目を啓きたまひければ彼エホバの使者の途に
立て劍を手に抜持るを見身を鞠めて俯伏たるに 32 エ
ホバの使者これに言ふ汝なにとて斯三度なんぢの驢

馬を打や我汝の道の直に滅亡にいたる者なるを見て
汝に敵せんとて出きたれり 33 驢馬はわれを見て斯み
たび身を轉して我を避たるなり是もし身を轉らして
我を避ずば我すでに汝を殺して是を生しおきしなら
ん 34 バラム、エホバの使者に言けるは我罪を獲たり
我は汝が我に敵せんとて途に立るを知ざりしなり汝
もし之を惡しとせば我は歸るべし 35 エホバの使者バ
ラムに言けるはこの人々とともに往け但し汝は我が
汝に告る言詞のみを宣べしとバラムすなはちバラク
の牧伯等とともに往り 36 さてまたバラクはバラムの
來るを聞てモアブの境の極處に流るアルノンの旁
の邑まで出ゆきて之を迎ふ 37 バラクすなはちバラム
に言けるは我ことさらに人を遣はして汝を招きしに
あらずや汝なにゆゑ我許に來らざりしや我あに汝に
尊榮を得さすることを得ざらんや 38 バラム、バラク
に言けるは視よ我つひに汝の許に來れり然ど今は我
何事をも自ら言を得んや我はただ神の我口に授る言
語を宣のみと 39 斯てバラムはバラクとともに往て
キリアテホヰテに至りしが 40 バラク牛と羊を宰りて
バラムおよび之と偕なる牧伯等に饒れり 41 而してそ
の翌朝にいたりバラクはバラムを伴ひこれを携へて
バアルの崇邱に登イスラエルの民の極端を望ましむ

23 バラム、バラクに言けるは我ために此に七個の
壇を築き此に七匹の牡牛と七匹の牡羊を備へよと 2
バラクすなはちバラムの言のごとく爲しバラクとバ
ラムその壇ごとに牡牛一匹と牡羊一匹を獻げたり 3
而してバラムはバラクにむかひ汝は燔祭の傍に立を
れ我は往んとすエホバあるひは我に來りのぞみたま
はんその我に示したまふところの事は凡てこれを汝

に告んと言て一の高處に登たるに 4 神バラムに臨み
たまひければバラムこれに言けるは我は七箇の壇を
設けその壇ごとに牡牛一匹と牡羊一匹を献げたりと
5 エホバ、バラムの口に言を授けて言たまはく汝バラ
クの許に歸りて斯いふべしと 6 彼すなはちバラクの
許に至るにバラクはモアブの諸の牧伯等とともに燔
祭の傍に立をる 7 バラムすなはちこの歌をのべて云
くモアブの王バラク、スリアより我を招き寄せ東の
邦の山より我を招き寄て云ふ來りて我ためにヤコブ
を詛へ來りてわがためにイスラエルを呪れと 8 神の
詛はざる者を我いかで詛ふことを得んやエホバの呪
らざる者を我いかで呪ることを得んや 9 磬の頂より
我これを觀岡の上より我これを望むこの民は獨り離
れて居ん萬の民の中に列ぶことなからん 10 誰かヤコ
ブの塵を計へ得んやイスラエルの四分一を數ふるこ
とを能せんや願くは義人のごとくに我死ん願くはわ
が終これが終にひとしかれ 11 是においてバラク、バ
ラムに言けるは汝我に何を爲や我はわが敵を詛はし
めんとて汝を携きたりしなるに汝はかへつて全くこ
れを祝せり 12 バラムこたへて言けるは我は慎みてエ
ホバの我口に授る事のみを宣べきにあらずや 13 バラ
クこれに言けるは請ふ汝われとともに他の處に來り
て其處より彼らを觀よ汝ただ彼らの極端のみを觀ん
彼らを全くは觀ことを得ざるべし請ふ其處にて我た
めに彼らを詛へと 14 やがて之を導きてピスガの嶺な
る斥候の原に至り七箇の壇を築きて壇ごとに牡牛一
匹と牡羊一匹を献たり 15 時にバラム、バラクに言け
るは汝此にて燔祭の傍に立をれ我またも往て會見ゆ
ることをせんと 16 エホバまたバラムに臨みて言をそ

の口に授け汝バラクの許に歸りてかく言へとのたまひければ 17 彼バラクの許にかへりけるにバラクは燔祭の傍に立をりモアブの牧伯等これとともに居りしがバラクすなはちバラムにむかひエホバ何と言しやと問ければ 18 バラムまたこの歌を宣たり云くバラクよ起て聽けチッポルの子よ我に耳を傾けよ 19 神は人のごとく誑ること無しまた人の子のごとく悔ること有ずその言ところは之を行はざらんやその語るところは之を成就ざらんや 20 我はこれがために福祉をいのれとの命令を受く既に之に福祉をたまへば我これを變るあたはざるなり 21 エホバ、ヤコブの中に惡き事あるを見ずイスラエルの中に憂患あるを見ずその神エホバこれとともに在し王を喜びて呼はる聲その中にあり 22 神かれらをエジプトより導き出したまふイスラエルは強きこと呪のごとし 23 ヤコブには魔術なしイスラエルには占トあらず神はその爲ところをその時にヤコブに告げイスラエルにしめしたまふなり 24 觀よこの民は牝獅子のごとくに起あがり牡獅子のごとくに身を興さん是はその攫得たる物を食ひその殺しし物の血を飲では臥ことを爲じ 25 是においてバラクはバラムに向ひ汝かれらを誑ふことをも祝することをも爲なかれと言けるに 26 バラムこたへてバラクに言ふ我はエホバの宣まふ事は凡てこれを爲ざるを得ずと汝に告おきしにあらずやと 27 バラクまたバラムに言けるは請ふ來れ我なんぢを他の處に導き往ん神あるひは汝が其處より彼らを我ために誑ふことを善とせんと 28 バラクすなはちバラムを導きて曠野に對するペオルの嶺に至るに 29 バラム、バラクに言けるは我ために七箇の壇を此に築き牡牛七匹牡羊

七匹を此に備へよと 30 バラクすなはちバラムの言るごとく爲しその壇ごとに牡牛一匹と牡羊一匹を献たり

24 バラムはイスラエルを祝することのエホバの心に適ふを視たれば此度は前の時のごとくに往て法術を求むる事を爲すその面を曠野に向て居り 2 バラム目を擧てイスラエルのその支派にしたがひて居るを觀たり時に神の靈かれに臨みければ 3 彼すなはちこの歌をのべて云くベオルの子バラム言ふ目の啓きたる人言ふ 4 神の言詞を聞き者能はざる無き者をまぼろしに觀し者倒れ臥て其目の啓けたる者言ふ 5 ヤコブよ汝の天幕は美しき哉イスラエルよ汝の住所は美しき哉 6 是は谷々のごとくに布列ね河邊の園のごとくエホバの栽し沈香樹のごとく水の邊の香柏のごとし 7 その桶よりは水溢れんその種は水の邊に發育んその王はアガグよりも高くなりその國は振ひ興らん 8 神これをエジプトより導き出せり是は強きこと咒のごとくその敵なる國々の民を呑つくしその骨を摧き矢をもて之を衝とほさん 9 是は牡獅子のごとくに身をかがめ牝獅子のごとくに臥す誰か敢てこれを起さんやなんぢを祝するものは福祉を得なんぢをのろふものは災禍をかうむるべし 10 ここにおいてバラクはバラムにむかひて怒を發しその手を拍ならせり而してバラク、バラムにいひけるは我はなんぢをしてわが敵を誑はしめんとてなんぢを招きたるに汝は却て斯三度までも彼らを大に祝したり 11 然ば汝今汝の處に奔り往け我は汝に大なる尊榮を得させんと思ひたれどエホバ汝を阻めて尊榮を得るに至らざらしむ 12 バラム、バラクに言けるは我は汝が我に遣しし使者

等に告て言ざりしや **13** 假令バラクその家に盈るほどの金銀を我に與ふるとも我はエホバの言を踰て自己の心のままに善も悪きも爲ことを得ず我はエホバの宣まふ事のみを言べしと **14** 今われは吾民にかへる然ば來れ我この民が後の日に汝の民に爲んところの事を汝に告しらせんと **15** すなはちこの歌をのべて云くベオルの子バラム言ふ目の啓きたる人言ふ **16** 神の言を聞るあり至高者を知の知識あり能はざる無き者をまぼろしに觀倒れ臥て其目の啓けたる者言ふ **17** 我これを見ん然ど今にあらず我これを望まん然ど近くはあらずヤコブより一箇の星いでんイスラエルより一條の杖おこりモアブを此旁より彼旁に至まで撃破りまた鼓譟者どもを盡く滅すべし **18** 其敵なるエドムは是が産業となりセイルは之が産業とならんイスラエルは盛になるべし **19** 權を乗る者ヤコブより出で遺れる者等を城より滅し絶ん **20** バラム又アマレクを望みこの歌をのべて云くアマレクは國々の中の最初なる者なり其終には滅び絶るに至らん **21** 亦ケニ人を望みこの歌をのべて云く汝の住所は堅固なり汝は磐に巢をつくる **22** 然どカインは亡て終にアッスリアの爲に擄へ移されん **23** 彼亦この歌をのべて云く嗟神これを爲たまはん時は誰か生ることを得ん **24** キッテムの方より船來てアッスリアを攻なやましエベルを攻なやますべし而して是もまた終に亡失ん **25** 斯てバラムは起あがりて自己の處に歸り行きぬバラクも亦去ゆけり

25 イスラエルはシッテムに止まり居けるがその民モアブの婦女等と姪をおこなふことを始めたり **2** その婦女等其神々に犠牲を献る時に民を招けば民は往

て食ふことを爲しかつその神々を拝めり **3** イスラエルかくバアルベオルに附ければイスラエルにむかひてエホバ怒を發したまへり **4** エホバすなはちモーセに告て言たまはく民の首をことごとく携きたりエホバのためにかの者等を日に曝せ然せばエホバの烈しき怒イスラエルを離るるあらんと **5** 是においてモーセ、イスラエルの士師等にむかひ汝らおのおのその配下の人々のバアルベオルに附る者を殺せと言ひ **6** モーセとイスラエルの子孫の全會衆集合の幕屋の門にて哭をる時一箇のイスラエル人ミデアンの婦人一箇を携きたり彼らの目の前にてその兄弟等の中に至れり **7** 祭司アロンの子なるエレアザルの子ピネハスこれを見會衆の中より起あがりて槍を手に執り **8** そのイスラエルの人の後を追て之が寢室に入りイスラエルの人を衝きまたその婦女の腹を衝とほして二人を殺せり是において疫病のイスラエルの子孫におよぶこと止れり **9** その疫病にて死たる者は二萬四千人なりき **10** エホバ、モーセに告て言たまはく **11** 祭司アロンの子なるエレアザルの子ピネハスはわが熱心をイスラエルの子孫の中にあらはして吾怒をその中より取去り我として熱心をもてイスラエルの子孫を滅し盡すにいたらざらしめたり **12** 故に汝言へ我これに平和のわが契約をさづく **13** 即ち彼とその後の子孫永く祭司の職を得べし是は彼その神のために熱心にしてイスラエルの子孫のために贖をなしたればなり **14** その殺されしイスラエル人すなはちミデアンの婦人とともに殺されし者はその名をジムリと言てサルの子にしてシメオン人の宗族の牧伯の一人なり **15** またその殺されしミデアンの婦人は名をコズビと曰て

ツルの女子なりツルはミデアンの民の宗族の首なり
16 エホバ、モーセに告て言たまはく 17 ミデアン人に
逼りてこれを撃て 18 其は彼ら謀計をもて汝に逼りペ
オルの事とその姉妹なるミデアンの牧伯の女すなは
ちペオルのために疫病の起れる日に殺されしコズビ
の事において汝らを感じたればなり

26 疫病の後エホバ、モーセと祭司アロンの子エレ
アザルに告て言たまはく 2 イスラエルの全會衆の總
數をその父祖の家にしたがひて核ベイスラエルの中
凡そ二十歳以上にして戦争に出るに勝る者を數へよ
と 3 モーセ及び祭司エレアザルすなはちエリコに對
してヨルダンの邊にあるモアブの平野に於てかれら
に告て言けるは 4 エジプトの地より出きたれるモー
セとイスラエルの子孫にエホバの命じ給へる如く汝
ら其中の二十歳以上の者を計へよ 5 イスラエルの長
子はルベン、ルベンの子孫はヘノクよりヘノク人の
族出でパルよりパル人の族出で 6 ヘヅロンよりヘヅ
ロン人の族出でカルミよりカルミ人の族出づ 7 ルベ
ンの宗族は是のごとくにしてその核數られし者は四
萬三千七百三千人 8 またパルの子はエリアブ 9 エリ
アブの子はネムエル、ダタン、アピラムこのダタン
とアピラムは會衆の中に名ある者にてコラの黨類と
ともにモーセとアロンに逆ひてエホバに悖りし事あ
りしが 10 地その口を開きて彼らとコラとを呑みその
黨類二百五十人は火に焼れて死うせ人の鑑戒となれ
り 11 但しコラの子等は死ざりき 12 シメオンの子孫
はその宗族に依ば左のごとしネムエルよりはネムエ
ル人の族出でヤミンよりはヤミン人の族出でヤキン
よりはヤキン人の族出で 13 ゼラよりはゼラ人の族出

でシャウルよりはシャウル人の族出づ **14** シメオン人の宗族は是の如くにして其數られし者は二萬二千二百人 **15** ガドの子孫は其宗族に依ば左の如しゼポンよりはゼポン人の族出でハギよりはハギ人の族出でシユニよりはシユニ人の族出で **16** オズニよりはオズニ人の族出でエリよりはエリ人の族出で **17** アロドよりはアロド人の族出でアレリよりはアレリ人の族出づ **18** ガドの宗族は是のごとくにしてその核數られし者は四萬五百人 **19** ユダの子等はエルとオナン、エルとオナンはカナンに死たり **20** ユダの子孫はその宗族によれば左のごとしシラよりはシラ人の族出でペレヅよりはペレヅ人の族出でゼラよりはゼラ人の族出づ **21** ペレヅの子孫は左のごとしヘヅロンよりはヘヅロン人の族出でハムルよりハムル人の族出づ **22** ユダの宗族は是のごとくにしてその核數られし者は七萬六千五百人 **23** イッサカルの子孫はその宗族によれば左のごとしトラよりはトラ人の族出でプワよりはプワ人の族出で **24** ヤシユブよりはヤシユブ人の族出でシムロンよりはシムロン人の族出づ **25** イッサカルの宗族は是のごとくにしてその數へられし者は六萬四千三百人 **26** ゼブルンの子孫はその宗族によれば左の如しセレデよりはセレデ人の族出でエロンよりはエロン人の族出でヤリエルよりはヤリエル人の族出づ **27** ゼブルン人の宗族は是のごとくにしてその核數られし者は六萬五百人 **28** ヨセフの子等は其宗族に依ばマナセとエフライム **29** マナセの子等の中マキルよりマキル人の族出づマキル、ギレアデを生りギレアデよりギレアデ人の族出づ **30** ギレアデの子孫は左のごとしイエゼルよりはイエゼル人の族出でヘレ

クよりはヘレク人の族出で **31** アスリエルよりはアスリエル人の族出でシケムよりはシケム人の族出で **32** セミダよりはセミダ人の族出でヘペルよりはヘペル人の族出づ **33** ヘペルの子ゼロペハデには男子なく惟女子ありしのみその名はマアラ、ノア、ホグラ、ミルカ、テルザと曰ふ **34** マナセの宗族は是のごとくにしてその核數られし者は五萬二千七百人 **35** エフライムの子孫はその宗族によれば左のごとしシュテラよりはシュテラ人の宗族出でベケルよりはベケル人の族出でタハンよりはタハン人の族出づ **36** シユテラの子孫は左のごとシエランよりエラン人の族出づ **37** エフライムの子孫の宗族は是のごとくにしてその核數られし者は三萬二千五百人ヨセフの子孫はその宗族に依ば是のごとし **38** ベニヤミンの子孫はその宗族によれば左のごとしベラよりはベラ人の族出でアシベルよりはアシベル人の族出でアヒラムよりはアヒラム人の族出で **39** シユパムよりはシユパム人の族出でホパムよりはホパム人の族出づ **40** ベラの子等はアルデとナアマン、アルデよりはアルデ人の族出でナアマンよりはナアマン人の族出づ **41** ベニヤミンの子孫はその宗族に依ば是のごとくにしてその核數られし者は四萬五千六百人 **42** ダンの子孫はその宗族に依ば左のごとしシユハムよりシユハム人の族出づダンの宗族はその宗族によれば是の如し **43** シユハム人の諸の族の中核數られし者は六萬四千四百人 **44** アセルの子孫はその宗族によれば左のごとしエムナよりはエムナ人の族出でエスイよりはエスイ人の族出でベリアよりはベリア人の族出づ **45** ベリアの子孫の中ヘペルよりはヘペル人の族出でマルキエルよりはマルキ

エル人の族出づ 46 アセルの女子の名はサラと曰ふ 47
アセルの子孫の宗族は是のごとくにしてその核數ら
れし者五萬三千四百人 48 ナフタリの子孫はその宗族
によれば左のごとしヤジエルよりヤジエル人の族出
でグニよりグニ人の族出で 49 エゼルよりエゼル人の
族出でシレムよりシレム人の族出づ 50 ナフタリの宗
族はその宗族によればかくのごとくにしてその核數
られしものは四萬五千四百人 51 すなはちイスラエルの
子孫の核數られし者は六十萬一千七百三十人なり
き 52 エホバ、モーセに告て言たまはく 53 この人々
にその名の數にしたがひて地を分ち與へてこれが産
業となさしむべし 54 人衆には汝多くの産業を與へ人
寡には少の産業を與ふべし即ちその核數られし數に
したがひておのおの産業を受べきなり 55 但しその地
は鬮をもて之を分ちその父祖の支派の名にしたがひ
て之を獲べし 56 即ち鬮をもてその産業を人衆き者と
寡き者に分つべきなり 57 レビ人のその宗族にした
がひて數へられし者は左のごとしゲルシオンよりは
ゲルシオン人の族出でコハテよりはコハテ人の族出
でメラリよりはメラリ人の族出づ 58 レビの族は左の
ごとしリブニ人の族へブロン人の族マヘリ人の族ム
シ人の族コラ人の族コハテ、アムラムを生り 59 アム
ラムの妻の名はヨケベデといひてレビの女子なり是
はエジプトにてレビに生れし者なりしがアムラムに
そひてアロンとモーセおよびその姉妹ミリアムを生
り 60 アロンにはナダブ、アビウ、エレアザルおよび
イタマル生る 61 ナダブとアビウは異火をエホバの前
にささげし時死り 62 その核數られし一箇月以上の男
子は都合二萬三千人レビ人はイスラエルの子孫の中

に産業を與へられざるが故にイスラエルの子孫の中に核數られざるなり 63 是すなはちモーセと祭司エレアザルがヨルダンの邊なるエリコに對するモアブの平野にて數へたるイスラエルの子孫の數なり 64 但しその中にはモーセとアロンがシナイの曠野においてイスラエルの子孫をかぞへし時に數へたる者は一人もあらざりき 65 其はエホバ曾て彼らの事を宣て是はかならず曠野に死んといひたまひたればなり是をもてエフネの子カルブとヌンの子ヨシュアの外は一人も遺れる者あらざりき

27 茲にヨセフの子マナセの族の中なるへベルの子ゼロペハデの女子等きたれりへベルはギレアデの子ギレアデはマキルの子マキルはマナセの子なりその女子等の名はマアラ、ノア、ホグラ、ミルカ、テルザといふ 2 彼ら集會の幕屋の門にてモーセと祭司エレアザルと牧伯等と全會衆の前に立ち言けるは 3 我等の父は曠野に死り彼はかのコラに與して集りてエホバに逆ひし者等の中に加はらず自己の罪に死り然るに男子なし 4 我らの父の名なんぞその男子あらざるがためにその族の中より削らるることある可んや我らの父の兄弟の中において我らにも産業を與へよと 5 モーセすなはちその事をエホバの前に陳けるに 6 エホバ、モーセに告て言たまはく 7 ゼロペハデの女子等の言ところは道理なり汝かならず彼らの父の兄弟の中において彼らに産業を與へて獲さすべし即ちその父の産業をこれに歸せしむべし 8 汝イスラエルの子孫に告て言べし人もし男子なくして死ばその産業をこれが女子に歸せしむべし 9 もしまた女子もあらざる時はその産業をその兄弟に與ふべし 10 もし兄

弟あらざる時はその産業をその父の兄弟に與ふべし
11 もしまたその父に兄弟あらざる時はその親戚の最も近き者にその産業を與へて獲さすべしエホバのモーセに命ぜしごとくイスラエルの子孫は永く之をもて律法の例とすべし **12** 茲にエホバ、モーセに言たまはく汝このアバリム山にのぼり我イスラエルの子孫に與へし地を觀よ **13** 汝これを觀なばアロンの既に加はりしごとく汝もその民に加はるべし **14** 是チンの曠野において會衆の爭論をなせる砌に汝らわが命に悸りかの水の側にて我の聖き事をかれらの目のまへに顯すことを爲ざりしが故なり是すなはちチンの曠野のカデシにあるメリバの水なり **15** モーセ、エホバに申して言けるは **16** エホバ一切の血肉ある者の生命の神よ願くはこの會衆の上に一人を立て **17** 之をして彼等の前に出かれらの前に入り彼らを導き出し彼らを導き入る者とならしめエホバの會衆をして牧者なき羊のごとくならざらしめたまへ **18** エホバ、モーセに言たまはくヌンの子ヨシユアといふ靈のやどれる人を取り汝の手をその上に按き **19** これを祭司エレアザルと全會衆の前に立せて彼らの前にて之に命ずる事をなすべし **20** 汝これに自己の尊榮を分ち與へイスラエルの子孫の全會衆をしてこれに順がはしむべし **21** 彼は祭司エレアザルの前に立べしエレアザルはウリムをもて彼のためにエホバの前に問ことを爲べしヨシユアとイスラエルの子孫すなはちその全會衆はエレアザルの言にしたがひて出でエレアザルの言にしたがひて入べし **22** 是においてモーセはエホバの己に命じたまへるごとく爲しヨシユアを取て之を祭司エレアザルと全會衆の前に立せ **23** その手をこれが上に

按き之に命ずることを爲しエホバのモーセをもて命じたまへる如くなせり

28 エホバ、モーセに告て言たまはく **2** イスラエルの子孫に命じて之に言へわが禮物わが食物なる火祭わが馨香の物は汝らこれをその期にいたりて我に献ぐることを怠るべからず **3** 汝かれらに言べし汝らがエホバに献ぐる火祭は是なり即ち當歳の全たき羔羊二匹を日々に献げて常燔祭となすべし **4** 即ち一匹の羔羊を朝に献げ一匹の羔羊を夕に献ぐべし **5** また麥粉一エパの十分の一に搗て取たる油一ヒンの四分の一を混和て素祭となすべし **6** 是すなはちシナイ山において定めたる常燔祭にしてエホバに馨しき香としてたてまつる火祭なり **7** またその灌祭は羔羊一匹に一ヒンの四分の一を用ふべし即ち聖所において濃酒をエホバのために灌ぎて灌祭となすべし **8** 夕にはまた今一の羔羊を献ぐべしその素祭と灌祭とは朝のごとくになし之を献げて火祭となしてエホバに馨しき香をたてまつるべし **9** また安息日には當歳の羔羊の全き者二匹と麥粉十分の二に油をまじへたるその素祭とその灌祭を献ぐべし **10** 是すなはち安息日ごとの燔祭にして常燔祭とその灌祭の外なる者なり **11** また汝ら月々の朔日には燔祭をエホバに献ぐべし即ち少き牡牛二匹牡羊一匹當歳の羔羊の全き者七匹を献げ **12** 牡牛一匹には麥粉十分の三に油を和たるをもてその素祭となし牡羊一匹には麥粉十分の二に油をまじへたるをもてその素祭となし **13** 羔羊一匹には麥粉十分の一に油を混和たるをもてその素祭となし之を馨しき香の燔祭としてエホバに火祭をたてまつるべし **14** またその灌祭は牡牛一匹に酒一ヒンの半牡羊一匹

に一ヒンの三分の一羔羊一匹に一ヒンの四分の一を用ふべし是すなはち年の月々の中月ごとに献ぐべき燔祭なり 15 また常燔祭とその灌祭の外に牡山羊一匹を罪祭としてエホバに献ぐべし 16 正月の十四日はエホバの逾越節なり 17 またその月の十五日は節日なり七日の間酵いれぬパンを食ふべし 18 その首の日には聖會をひらくべし汝等何の職業をも爲べからず 19 汝ら火祭を献げてエホバに燔祭たらしむるには少き牡牛二匹牡羊一匹當歳の羔羊七匹をもてすべし是等は皆全き者なるべし 20 その素祭には麥粉に油を和たるを用べし即ち牡牛一匹には麥粉十分の三を献げ牡羊一匹には十分の二を献げ 21 また羔羊は七匹ともその羔羊一匹ごとに十分の一を献ぐべし 22 また牡山羊一匹を罪祭に献げて汝らのために贖罪をなすべし 23 朝に献ぐる常燔祭なる燔祭の外に汝ら是らを献ぐべし 24 是のごとく汝ら七日の間日ごとに火祭の食物を献げてエホバに馨しき香をたてまつるべし是は常燔祭とその灌祭の外に献ぐべき者なり 25 而して第七日には汝ら聖會を開くべし何の職業をち爲べからず 26 七七日の後すなはち汝らが新しき素祭をエホバに携へきたる初穂の日にも汝ら聖會を開くべし何の職業をも爲べからず 27 汝ら燔祭を献げてエホバに馨しき香をたてまつるべし即ち少き牡牛二匹牡羊一匹當歳の羔羊七匹を献ぐべし 28 その素祭には麥粉に油を混和たるを用ふべし即ち牡牛一匹に十分の三牡羊一匹に十分の二を用ひ 29 また羔羊には七匹ともに羔羊一匹に十分の一を用ふべし 30 また牡山羊一匹をささげて汝らのために贖罪をなすべし 31 汝ら常燔祭とその素

祭とその灌祭の外に是等を献ぐべし是みな全き者なるべし

29 七月にいたりその月の朔日に汝ら聖會を開くべし何の職業をも爲べからず是は汝らが喇叭を吹べき日なり **2** 汝ら燔祭をささげてエホバに馨しき香をたてまつるべし即ち少き牡牛一匹牡羊一匹當歳の羔羊の全き者七匹を献ぐべし **3** その素祭には麥粉に油を混和たるを用ふべし即ち牡牛一匹に十分の三牡羊一匹に十分の二をもちひ **4** また羔羊には七匹とも羔羊一匹に十分の一を用ふべし **5** また牡山羊一匹を罪祭に献げて汝らのために贖罪をなすべし **6** 是は月々の朔日の燔祭とその素祭および日々の燔祭とその素祭と灌祭の外なる者なり是らの物の例にしたがひて之をエホバにたてまつりて馨しき香の火祭となすべし **7** またその七月の十日に汝ら聖會を開きかつ汝らの身をなやますべし何の職業をも爲べからず **8** 汝らエホバに燔祭を献げて馨しき香をたてまつるべし即ち少き牡牛一匹牡羊一匹當歳の羔羊七匹是みな全き者なるべし **9** その素祭には麥粉に油を混和たるを用ふべし即ち牡牛一匹に十分の三牡羊一匹に十分の二を用ひ **10** また羔羊には七匹とも羔羊一匹に十分の一を用ふべし **11** また牡山羊一匹を罪祭に献ぐべし是等は贖罪の罪祭と常燔祭とその素祭と灌祭の外なる者なり **12** 七月の十五日に汝ら聖會を開くべし何の職業をも爲べからず汝ら七日の間エホバに向て節筵を守るべし **13** 汝ら燔祭を献げてエホバに馨しき香の火祭をたてまつるべし即ち少き牡牛十三牡羊二匹當歳の羔羊十四是みな全き者なるべし **14** その素祭には麥粉に油を混和たるを用ふべし即ちその十三の牡牛には各箇

十分の三その二匹の牡羊には各箇十分の二を用ひ 15
その十四の羔羊には各箇十分の一を用ふべし 16 また
牡山羊一匹を罪祭に献ぐべし是等は常燔祭およびそ
の素祭と灌祭の外なり 17 第二日には少き牡牛十二牡
羊二匹當歳の羔羊の全き者十四を献ぐべし 18 その牡
牛と牡羊と羔羊のために用ふる素祭と灌祭はその數
に循ひて例のごとくすべし 19 また牡山羊一匹を罪祭
に献ぐべし是らは常燔祭およびその素祭と灌祭の外
なり 20 第三日には少き牡牛十一牡羊二匹當歳の羔羊
の全き者十四を献ぐべし 21 その牡牛と牡羊と羔羊の
ために用ふる素祭と灌祭はその數に循ひて例のごと
くすべし 22 また牡山羊一匹を罪祭に献ぐべし是らは
常燔祭およびその素祭と灌祭の外なり 23 第四日には
少き牡牛十匹牡羊二匹當歳の羔羊の全き者十四を献
ぐべし 24 その牡牛と牡羊と羔羊のために用ふる素祭
と灌祭はその數に循ひて例のごとくすべし 25 また牡
山羊一匹を罪祭に献ぐべし是等は常燔祭およびその
素祭と灌祭の外なり 26 第五日には少き牡牛九匹牡羊
二匹當歳の羔羊の全き者十四を献ぐべし 27 その牡牛
と牡羊と羔羊のために用ふる素祭と灌祭はその數に
したがひて例のごとくすべし 28 また牡山羊一匹を罪
祭に献ぐべし是らは常燔祭およびその素祭と灌祭の
外なり 29 第六日には少き牡牛八匹牡羊二匹當歳の羔
羊の全き者十四を献ぐべし 30 その牡牛と牡羊と羔羊
のために用ふる素祭と灌祭はその數にしたがひて例
のごとくすべし 31 また牡山羊一匹を罪祭に献ぐべし
是等は常燔祭およびその素祭と灌祭の外なり 32 第七
日には少き牡牛七匹牡羊二匹當歳の羔羊の全き者十
四を献ぐべし 33 その牡牛と牡羊と羔羊のために用ふ

る素祭と灌祭はその數にしたがひて例のごとくすべし 34 また牡山羊一匹を罪祭に献ぐべし是等は常燔祭およびその素祭と灌祭の外なり 35 第八日にはまた汝ら會をひらくべし何の職業をも爲べからず 36 燔祭を献げてエホバに馨しき香の火祭をたてまつるべし即ち牡牛一匹牡羊一匹當歳の羔羊の全き者七匹を献ぐべし 37 その牡牛と牡羊と羔羊のために用ふる素祭と灌祭はその數にしたがひて例のごとくすべし 38 また牡山羊一匹を罪祭に献ぐべし是らは常燔祭およびその素祭と灌祭の外なり 39 汝らその節期にはエホバに斯なすべし是らは皆汝らが願還のために献げまたは自意の禮物として献ぐる所の燔祭素祭灌祭および酬恩祭の外なり 40 モーセはエホバのモーセに命じたまへる事をことごとくイスラエルの子孫に告たり

30 モーセ、イスラエルの子孫の支派の長等に告て云ふエホバの命じたまふ事は是のごとし 2 人もしエホバに誓願をかけ又はその身に斷物をなさんと誓ひなばその言詞を破るべからずその口より出ししごとく凡て爲べし 3 また女もし若くしてその父の家に居る時エホバに誓願をかけ又はその身斷物を爲ことあらんに 4 その父これが誓願またはその身に斷し斷物を聞て之にむかひて言ふこと無ば其かけたる誓願を行ひまたその身に斷し斷物を守るべし 5 然どその父これを聞る日に之を允さざるあらばその誓願およびその身に斷し斷物を凡て止ることを得べしその父の允さざるなればエホバこれを赦したまふなり 6 もしまた夫に適く身にして自ら誓願をかけまたはその身に斷物せんと軽々しく口より言いだすことあらんに 7 その夫これを聞もそのこれを聞る日にこれに向ひて

言ふこと無ばその誓願を行ひその身に斷し斷物を守るべし 8されど夫もし之を聞く日にこれを允さざるならば之がかけし誓願または之がその身に斷物せんと軽々しく口に出ししところの事を空うするを得べしエホバはその女を赦したまふなり 9また寡婦あるひは去れたる婦人の誓願など凡てその身になしし斷物はこれを守るべし 10婦女もしその夫の家において誓願をかけ又はその身に斷物せんと誓ふことあらんに 11夫これを聞てこれに對ひて言ふことなく之を允さざること無ばその誓願は凡てこれを行ふべくその身に斷し斷物は凡てこれを守るべし 12然どその夫もしこれを聞く日に全くこれを空うせばその誓願またはその斷物につき口より出しし事は凡て守るに及ばずその夫これを空くなしたるなればエホバその婦女を赦したまふなり 13凡の誓願および凡てその身をなやますところの誓約は夫これを堅うすることを得夫これを空うすることを得べし 14その夫もし之にむかひて言ふことなくして日をおくらば之が誓願またはこれが斷物を凡て堅うするなり彼これを聞く日に妻にむかひて言ふことを爲ざるに因て之を堅うせるなり 15然どその夫もしこれを聞たる後にいたりてこれを空うする事あらばその妻の罪を任べし 16是すなはちエホバがモーセに命じたまへる法令にして夫と妻および父とその女子の少くして父の家にある者とかかはる者なり

31 茲にエホバ、モーセに告て言たまはく 2汝イスラエルの子孫の仇をミデアン人に報ゆべし其後汝はその民に加はらん 3モーセすなはち民に告て言けるは汝らの中より人を選びて戰爭にいつる準備をなさ

しめ之をしてミデアン人に攻ゆかしめてエホバの仇をミデアン人に報ゆべし 4 即ちイスラエルの諸の支派につきて各々の支派より千人づつを取りこれを戦争につかはすべしと 5 是において各々の支派より千人づつを選びイスラエルの衆軍の中より一萬二千人を得て戦争にいつる準備をなさしむ 6 モーセすなはち各々の支派より千人宛を戦争に遣した祭司エレアザルの子ピネハスに聖器と吹鳴す喇叭を執しめて之とともに戦争に遣せり 7 彼らエホバのモーセに命じたまへることくミデアン人を攻撃し遂にその中の男子をことごとく殺せり 8 その殺しし者の外にまたミデアンの王五人を殺せりそのミデアンの王等はエビ、レケム、ツル、ホル、レバといふまたベオルの子バラムをも劍にかけて殺せり 9 イスラエルの子孫すなはちミデアンの婦女等とその子女を生擒りその家畜と羊の群とその貨財をことごとく奪ひ取り 10 その住居の邑々とその村々とを盡く火にて焼り 11 かくて彼等はその奪ひし物と掠めし物を人と畜ともに取り 12 エリコに對するヨルダンの邊なるモアブの平野の營にその生擒し者と掠めし物と奪ひし物とを携へきたりてモーセと祭司エレアザルとイスラエルの子孫の會衆に詣れり 13 時にモーセと祭司エレアザルおよび會衆の牧伯等みな營の外に出て之を迎へたりしが 14 モーセはその軍勢の領袖等すなはち戦争より歸りきたれる千人の長等と百人の長等のなせる所を怒れり 15 モーセすなはち彼等に言けるは汝らは婦女等をことごとく生し存しや 16 視よ是等の者はバラムの謀計によりイスラエルの子孫をしてペオルの事においてエホバに罪を犯さしめ遂にエホバの會衆の中に

疫病おこるにいたらしめたり 17 然ばこの子等の中の男の子を盡く殺しまた男と寝て男しれる婦人を盡く殺せ 18 但し未だ男と寝て男しれる事あらざる女の子はこれを汝らのために生し存べし 19 而して汝らは七日の間營の外に居れ汝らの中凡そ人を殺せし者または殺されし者に捫りたる者は第三日と第七日にその身を潔め且その俘囚を潔むべし 20 また一切の衣服と一切の皮の器具および凡て山羊の毛にて作れる物と凡て木にて造れる物を潔むべしと 21 祭司エレアザル戦にいでし軍人等に言けるはエホバのモーセに命じたまへる律法の例は是のごとし 22 金銀銅鐵錫鉛など 23 凡て火に勝る物は火の中を通すべし然せば潔くならん然ながら尚また潔淨の水をもてこれを潔むべしまた凡て火に勝ざる者は水の中を通すべし 24 汝等は第七日にその衣服を洗ひて潔くなり然る後營にいるべし 25 その時エホバ、モーセに告て言たまはく 26 汝と祭司エレアザルおよび會衆の族長等この取獲たる人と畜の總數をしらべ 27 その獲物を二分に分てその一を戦争にいでて戦ひし者に予へその一を全會衆に予へよ 28 而して戦ひに出し軍人をして人または牛または驢馬または羊おのおの五百ごとに一をとりてエホバに貢として奉つらしめよ 29 即ち彼らの一半より之をとりエホバの擧祭として祭司エレアザルに與へよ 30 またイスラエルの子孫の一半よりは其の獲たる人または牛または驢馬または羊または種々の獸畜五十ごとに一を取りエホバの幕屋の職守を守るところのレビ人にこれを與へよと 31 モーセと祭司エレアザルすなはちエホバのモーセに命じたまへるごとく爲り 32 その掠取物すなはち軍人等が奪ひ獲たる物の

殘餘は羊六十七萬五千 33 牛七萬二千 34 驢馬六萬一千 35 人三萬二千是みな未だ男と寝て男しれる事あらざる女なり 36 その一半すなはち戰爭にいでし者の分は羊三十三萬七千五百 37 エホバに貢として奉つれる羊は六百七十五 38 牛三萬六千その中よりエホバに貢とせし者は七十二 39 驢馬三萬五百その中よりエホバに貢とせし者は六十一 40 人一萬六千その中よりエホバに貢とせし者は三十二人 41 モーセその貢すなはちエホバの擧祭なる者を祭司エレアザルに與へたりエホバのモーセに命じたまへる如し 42 モーセが戰爭に出しものより分ちとりてイスラエルの子孫に予へし一半 43 すなはち會衆に屬する一半は羊三十三萬七千五百 44 牛三萬六千 45 驢馬三萬五百 46 人一萬六千 47 すなはちイスラエルの子孫のその一半よりモーセ人と畜ともに各箇五十ごとに一を取りエホバの幕屋の職守をまもるレビ人に之を與へたりエホバのモーセに命じたまへるごとし 48 時に其軍勢の帥士たりし者等すなはち千人の長百人の長等モーセにきたり 49 モーセに言けるは僕等我らの手に屬する軍人を數へたるにわれらの中一人も缺たる者なし 50 是をもて我ら各人その獲たる金の飾品すなはち鏈子釧指環耳環頸玉等をエホバに携へきたりて禮物となし之をもて我らの生命のためにエホバの前に贖罪をなさんとすと 51 モーセと祭司エレアザルスなはち彼らよりその金を受たり是みな製り成る飾品なりき 52 千人の長と百人の長たちがエホバに獻げて擧祭となせしその金は都合一萬六千七百五十シケル 53 軍人は各箇その掠取物をもて自分の有となせり 54 モーセと祭司エレアザルは千人の長と百人の長等よりその金を受て集會の

幕屋に携へいりエホバの前におきてイスラエルの子孫の記念とならしむ

32 ルベンの子孫とガドの子孫は甚だ多くの家畜の群を有り彼等ヤゼルの地とギレアデの地を觀るにその處は家畜に適き所なりければ **2** ガドの子孫とルベンの子孫來りてモーセと祭司エレアザルと會衆の牧伯等に言けるは **3** アタロテ、デボン、ヤゼル、ニムラ、ヘシボン、エレアレ、シバム、ネボ、ベオン **4** 即ちエホバがイスラエルの會衆の前に撃ほろぼしたまひし國は家畜に適き所なるが我らは家畜あり **5** また曰ふ然ば我らもし汝の目の前に恩を獲たらば請ふこの地を僕等に與へて産業となさしめ我らをしてヨルダンを濟ること無らしめよと斯いへり **6** モーセ、ガドの子孫とルベンの子孫に言けるは汝らの兄弟たちは戦ひに往に汝らは此に坐しをらんとするや **7** 汝ら何ぞイスラエルの子孫の心を挫きてエホバのこれに賜ひし地に濟ることを得ざらしめんとするや **8** 汝らの先祖等も我がカデシバルネアより其地を觀に遣せし時に然なせり **9** 即ち彼らエシコルの谷に至りて其地を觀し時イスラエルの子孫の心を挫きて之をしてエホバの賜ひし地に往ことを得ざらしめたり **10** その時エホバ怒を發し誓ひて言たまひけらく **11** エジプトより出きたれる人々の二十歳以上なる者は一人も我がアブラハム、イサク、ヤコブに誓ひたる地を見ざるべし其はかれら我に全くは従はざればなり **12** 第ケナズ人エフンネの子カルブとヌンの子ヨシユアとを除く此二人はエホバに全く従ひたればなり **13** エホバかくイスラエルにむかひて怒を發し之をして四十年のあひだ曠野にさまよはしめたまひければエホバ

の前に悪をなししその代の人みな終に亡ぶるに至れり 14 抑汝らはその父に代りて起れる者即ち罪人の種にしてエホバのイスラエルにむかひて懐たまふ烈しき怒を更に増んとするなり 15 汝ら若反きてエホバに従はずばエホバまたこの民を曠野に遺おきたまはん然せば汝等すなはちこの民を滅ぼすにいたるべし 16 彼らモーセの側に進みよりて言けるは我らは此に我らの群のために羊の圏を建我らの少者のために邑を建んとす 17 然ど我らはイスラエルの子孫をその處に導きゆくまでは身をよろひて之が前に奮ひ進まん第われらの少者はこの國に住る者等のために堅固なる邑に居ざるを得ず 18 我らはイスラエルの子孫が皆おのおのその産業を獲までは我らの家に歸らじ 19 我らはヨルダンの彼旁において彼らと偕に産業を獲ことを爲じ我らはヨルダンの此旁すなはち東の方に産業を獲ればなり 20 モーセかれらに言けるは汝らもしこの事を爲し汝らみな身をよろひてエホバの前に往て戦ひ 21 汝ら皆身をよろひエホバの前にゆきてヨルダンを濟りエホバのその敵を己の前より逐はらひたまひて 22 この國のエホバに服ふにおよびて後汝ら歸ばエホバの前にもイスラエルの前にも汝ら罪なかるべし然せばこの地はエホバの前において汝らの産業とならん 23 然ど汝らもし然せずば是エホバにむかひて罪を犯すなれば必ずその罪汝らの身におよぶと知べし 24 汝らその少者のために邑を建てその羊のために圏を建よ而して汝らの口より出せるところを爲せ 25 ガドの子孫とルベンの子孫モーセにこたへて言けるはわが主の命じたまふごとく僕等行ふべし 26 我らの少者と妻と羊と諸の家畜は此にギレアデの邑々に居

べし 27 然ど僕等はおのおの戦争のために身をよろひてわが主の言たまふ如くエホバの前に涉りゆきて戦ふべし 28 是においてモーセかれらの爲に祭司エレアザルとヌンの子ヨシユアとイスラエルの支派の族長等に命ずる事ありき 29 すなはちモーセかれらに言けるはガドの子孫とルベンの子孫もし汝らとともにヨルダンを濟りゆき各箇身をよろひてエホバの前に戦ひてこの地汝らに服ふにいたらば汝らギレアデの地をかれらに與へて産業となさしむべし 30 然ど彼らもし汝らとともに身をよろひて濟りゆかずば彼らはカナンの地に於て汝らの中に産業を獲ざる可らず 31 ガドの子孫とルベンの子孫こたへて言ふエホバが僕等に言たまふごとく我ら爲べし 32 我らは身をよろひてエホバの前にカナンの地に濟りゆきヨルダンの此旁なる我らの産業を保つことを爲べし 33 是においてモーセはアモリ人の王シホンの國とバシヤンの王オグの國をもてガドの子孫とルベンの子孫とヨセフの子マナセの支派の半とに與へたり即ちその國およびその境の内の邑々とその邑々の周圍の地とを之に與ふ 34 ガドの子孫はデボン、アタロテ、アロエル 35 アテロテ、シヨバン、ヤゼル、ヨグベハ 36 ベテニムラ、ペテハラシなどの堅固なる邑を建て羊のために圈を建たり 37 またルベンの子孫はヘシボン、エレアレ、キリヤタイム 38 ネボ、バアルメオン等の邑を建てその名を更めまたシブマの邑を建たりその建たる邑々には新しき名をつけたり 39 またマナセの子マキルの子孫はギレアデに至りてこれを取り其處にをりシアモリ人を逐はらひければ 40 モーセ、ギレアデをマナセの子マキルに與へて其處に住しむ 41 またマナセの

子ヤイルは往てその村々を取りこれをハラテヤイル(ヤイル村)と名けたり 42 またノバは往てケナテとその村々を取り自己の名にしたがひて之をノバと名けたり

33 イスラエルの子孫がモーセとアロンに導かれ其軍旅にしたがひてエジプトの國より出きたりて經たる旅路は左のごとし 2 モーセ、エホバの命に依りその旅路にしたがひてこれが發程を記せりその發程によればその旅路は左のごとくなり 3 彼らは正月の十五日にラメセスより出立り即ち逾越の翌日にイスラエルの子孫は一切のエジプト人の目の前にて高らかなる手によりて出たり 4 時にエジプト人はエホバに撃ころされし其長子を葬りて居りエホバはまた彼らの神々にも罰をかうむらせたまへり 5 イスラエルの子孫ラメセスより出立てスコテに營を張り 6 スコテより出立て曠野の極端なるエタムに營を張り 7 エタムより出立てバアルゼポンの前なるピハヒロテに轉りゆきてミグドルに營を張り 8 ピハヒロテの前より出立ち海の中を通りて曠野にいりエタムの曠野に三日路ほど入てメラに營を張り 9 メラより出立てエリムに至れりエリムには泉十二棕櫚七十本あり乃ち此に營を張り 10 かくてエリムより出たちて紅海の邊に營を張り 11 紅海より出たちてシンの曠野に營を張り 12 シンの曠野より出たちてドフカに營を張り 13 ドフカより出たちてアルシに營を張り 14 アルシより出たちてレピデムに營を張り此には民の飲む水あらざりき 15 かくてレピデムより出たちてシナイの曠野に營を張り 16 シナイの曠野より出たちてキプロテハッタワに營を張り 17 キプロテハッタワより出たちてハゼ

ロテに營を張り 18 ハゼロテより出たちてリテマに營を張り 19 リテマより出たちてリンモンパレツに營を張り 20 リンモンパレツより出たちてリブナに營を張り 21 リブナより出たちてリッサに營を張り 22 リッサより出たちてケヘラタに營を張り 23 ケヘラタより出たちてシヤペル山に營を張り 24 シヤペル山より出たちてハラダに營を張り 25 ハラダより出たちてマケロテに營を張り 26 マケロテより出たちてタハテに營を張り 27 タハテより出たちてテラに營を張り 28 テラより出たちてミテカに營を張り 29 ミテカより出たちてハシモナに營を張り 30 ハシモナより出たちてモセラに營を張り 31 モセラより出たちてベネヤカンに營を張り 32 ベネヤカンより出たちてホルハギデガデに營を張り 33 ホルハギデガデより出たちてヨテバタに營を張り 34 ヨテバタより出たちてアプロナに營を張り 35 アプロナより出たちてエジオングベルに營を張り 36 エジオングベルより出たちてカデシのチンの曠野に營を張り 37 カデシより出たちてエドムの國の界なるホル山に營を張り 38 イスラエルの子孫がエジプトの國を出てより四十年の五月の朔日に祭司アロンはエホバの命によりてホル山に登て其處に死り 39 アロンはホル山に死たる時は百二十三歳なりき 40 カナンの地の南に住るカナン人アラデ王といふ者イスラエルの子孫の來るを聞き 41 かくてホル山より出たちてザルモナに營を張り 42 ザルモナより出立てプノンに營を張り 43 プノンより出たちてオボテに營を張り 44 オボテより出たちてモアブの界なるイエアバリムに營を張り 45 イキムより出たちてデボンガドに營を張り 46 デボンガドより出たちてアルモンデブラタ

イムに營を張り 47 アルモンデブラタイムより出たち
てネボの前なるアバリムの山々に營を張り 48 アバリ
ムの山々より出たちてエリコに對するヨルダンの邊
なるモアブの平野に營を張り 49 すなはちモアブの平
野においてヨルダンの邊に營を張りベテエシモテよ
りアベルシッテムにいたる 50 エリコに對するヨルダ
ンの邊なるモアブの平野においてエホバ、モーセに
告て言たまはく 51 イスラエルの子孫に告てこれに言
へ汝らヨルダンを濟りてカナンの地に入る時は 52 そ
の地に住る民をことごとく汝らの前より逐はらひそ
の石の像をことごとく毀ちその鑄たる像を毀ちその
崇邱をことごとく毀ちつくすべし 53 汝らその地の民
を逐はらひて其處に住べし其は我その地を汝らの産
業として汝らに與へたればなり 54 汝らの族にしたが
ひ鬪をもてその地を分ちて産業となし人多きには多
くの産業を與へ人少きには少しの産業を與ふべし各
人の分はその鬪にあたる處にあるべきなり汝らそ
の先祖の支派にしたがひて之を獲べし 55 然ど汝らも
しその地に住る民を汝らの前より逐はらはずば汝ら
が存しおとところの者汝らの目に刺となり汝の脇に
棘となり汝らの住む國において汝らを惱さん 56 且ま
た我は彼らに爲んと思ひし事を汝らに爲ん

34 エホバ、モーセに告て言たまはく 2 イスラエ
ルの子孫に告てこれに言へ汝らがカナンの地にいる時
に汝らに歸して産業となる地は是なり即ち是カナ
ンの地その境に循へる者 3 汝らの南の方はエドムに接
するチンの曠野より起り南の界は鹽海の極端より東
の方にいたるべし 4 また汝らの界は南より繞りてア
クラビムの坂にいたりてチンに赴き南よりカデシバ

ルネアに亘りハザルアダルに進みアズモンに赴くべし 5 その界はまたアズモンより繞りてエジプトの河にいたり海におよびて盡べし 6 西の界においては大海をもてその界とすべし是を汝らの西の界とす 7 汝らの北の界は是のごとし即ち大海よりホル山までを畫り 8 ホル山よりハマテの入口までを畫りその界をしてゼダデまで亘らしむべし 9 またその界はジフロンに進みハザルエノンにいたりて盡べし是を汝らの北の界とす 10 汝らの東の界はハザルエノンよりシバムまでを畫るべし 11 またその界はアインの東の方においてシバムよりリブラに下りゆくべし斯その界は下りてキンネレテの海の東の傍に抵り 12 その界ヨルダンに下りゆきて鹽海におよびて盡べし汝らの國はその周圍の界に依ば是のごとくなるべし 13 モーセ、イスラエルの子孫に命じて言けるは是すなはち汝らが鬪をもて獲べき地なりエホバこれを九の支派と半支派とに與へよと命じたまふ 14 そはルベンの子孫の支派とガドの子孫の支派はともにその宗族にしたがひてその産業を受けまたマナセの半支派もその産業を受たればなり 15 この二の支派と半支派とはエリコに對するヨルダンの彼旁すなはちその東日の出る方においてその産業を受たり 16 エホバまたモーセに告て言たまはく 17 汝らに地を分つ人々の名は是なり即ち祭司エレアザルとヌンの子ヨシユア 18 汝らまた各箇の支派より牧伯一人づつを簡びて地を分つことを爲しむべし 19 その人々の名は是のごとしユダの支派にてはエフンネの子カルブ 20 シメオンの子孫の支派にてはアミホデの子サムエル 21 ベニヤミンの支派にてはキスロンの子エリダデ 22 ダンの子孫の支派の牧

伯はヨグリの子ブッキ **23** ヨセフの子孫すなはちマナセの子孫の支派の牧伯はエポデの子ハニエル **24** エフライムの子孫の支派の牧伯はシフタンの子ケムエル **25** ゼブルンの子孫の支派の牧伯はパルナクの子エリザバン **26** イッサカルの子孫の支派の牧伯はアザンの子パルテエル **27** アセルの子孫の支派の牧伯はシロミの子アヒウデ **28** ナフタリの子孫の支派の牧伯はアミホデの子パダヘル **29** カナンの地においてイスラエルの子孫に産業を分つことをエホバの命じたまへる人は是のごとし

35 エリコに對するヨルダンの邊なるモアブの平野においてエホバ、モーセに告て言たまはく **2** イスラエルの子孫に命じてその獲たる産業の中よりレビ人に住べき邑々を與へしめよ汝らまたその邑々の周圍に郊地をつけてレビ人に與ふべし **3** その邑々は彼らの住べき所その郊地は彼らの家畜貨財および諸の獸をおくところたるべし **4** 汝らがレビ人に與ふる邑々の郊地は邑の石垣より外四周一千キュビトなるべし **5** すなはち邑の外に於て東の方に二千キュビト南の方に二千キュビト西の方に二千キュビト北の方に二千キュビトを量り邑をその中にあらしむべし彼らの邑の郊地は是のごとくなるべし **6** 汝らがレビ人に與ふる邑々は是のごとくなるべし即ち逃遁邑六を與ふべし是は人を殺せる者の其處に逃るべきための者なり此外にまた邑四十二を與ふべし **7** 汝らがレビ人に與ふる邑は都合四十八邑これを其郊地とともに與ふべし **8** 汝らイスラエルの子孫の産業の中よりレビ人に邑を與ふるには多く有る者は多く與へ少く有る者は少く與へ各人その獲たる産業にしたがひてその邑々

を之に與ふべし 9 エホバまたモーセに告て言たまはく 10 イスラエルの子孫に告てこれに言へ汝らヨルダンを濟りてカナンの地に入ば 11 汝らのために邑を設けて逃遁邑と爲し誤りて人を殺せる者をして其處に逃るべからしむべし 12 其は汝らが仇打する者を避て逃るべき邑なり是あるは人を殺せる者が未だ會衆の前にたちて審判をうけざる先に殺さること無らんためなり 13 汝らが予ふる邑々の中六をもて逃遁邑とすべし 14 すなはち汝らヨルダンの此旁において三の邑を予へカーナンの地において三の邑を予へて逃遁邑となすべし 15 この六の邑はイスラエルの子孫と他國人およびその中に寄寓る者の逃遁場たるべし凡て誤りて人を殺せる者は其處に逃るることを得べし 16 もし鐵の器をもて人を撃て死しめなば是故殺なり故殺人はかならず殺さるべし 17 もし人を殺すほどの石を執て人を撃て死しめなば是故殺なり故殺人はかならず殺さるべし 18 また人を殺すほどの木の器をとりて人を撃て死しめなば是故殺なり故殺人はかならず殺さるべし 19 仇を打つ者その故殺人を殺すことを得すなはち之に遭ふところにて之を殺すことを得るなり 20 もしまた怨恨のために人を推しまたは意ありて人に物を投うちて死しめ 21 または敵の心を挾さみ手をもて人を撃て死しめなばその人を撃たる者は必ず殺さるべし是故殺なればなり仇を打つ者これに遭ふところにて之を殺すことを得べし 22 然どもし敵の心なくして思はず人を推しまたは意なくして人に物を擲ち 23 または人あるを見ずして人を殺すほどの石を之に投つけて死しむること有んにその人これが敵にもあらずまた之を害せんとせしにもあらざる時は 24

會衆この律法によりてその人を殺せる者と仇打する者にとりて審判を言わたすべし 25 即ち會衆はその人を殺せる者を仇打する者の手より救ひ出してこれをその逃れゆきたる逃遁邑に還すべしその者は聖膏を灌れたる祭司の長の死るまで其處に居べし 26 然ど人を殺しし者その逃れし逃遁邑の境を出でたらんに 27 仇打する者その逃遁邑の境の外にてこれに遭ことありて仇打する者すなはちその人を殺しし者を殺すことあるとも血をながせる罪あらじ 28 其は彼は祭司の長の死るまでその逃遁邑に居べき者なればなり祭司の長の死たる後はその人を殺せし者おのれの産業の地にかへることを得べし 29 汝ら代々その住所において之を審判の法度とすべし 30 凡て人を殺せる者すなはち故殺人は證人の口にしたがひて殺さるべし然ど只一人の證人の言にしたがひて人を殺すことを爲べからず 31 汝ら死に當る故殺人の生命を贖はしむべからず必ずこれを殺すべし 32 また逃遁邑に逃れたる者の贖を容て祭司の死ざる前にこれを自己の地に歸り住しむる勿れ 33 汝らその居ところの地を汚すべからず血は地を汚すなり地の上に流せる血は之を流せる者の血をもてするに非れば贖ふことを得ざるなり 34 汝らその住ところの地すなはち我が居ところの地を汚すなかれ其は我エホバ、イスラエルの子孫の中に居ばなり

36 ヨセフの子等の族の中マナセの子マキルの子なるギレアデの子等の族の族長等進みよりてモーセの前とイスラエルの子孫の族長たる牧伯等の前に語り 2 言けるはイスラエルの子孫にその産業の地を鬪によりて與ふることをエホバわが主に命じたまへり吾主

またわれらの兄弟ゼロペハデの産業をその女子等に
與ふべしとエホバに命ぜられたまふ 3 彼らもしイス
ラエルの子孫の中他の支派の人々に嫁ぎなば彼らの
産業はわれらの父祖の産業の中より除去れてその適
る支派の産業に加はるべし 斯是は我らの産業の分の
中より除去れん 4 而して彼らの産業はイスラエルの
子孫のヨベルに至りてその適る支派の産業に加はる
べし 斯かれらの産業は我らの父祖の支派の産業の中
より除去れん 5 モーセ、エホバの言にしたがひてイ
スラエルの子孫に命じて言ふヨセフの子等の支派の
言ところは善し 6 ゼロペハデの女子等の事につきて
エホバの命じたまふところは是のごとし云く彼らは
その心に適ふ者に嫁ぐべけれど惟その父祖の支派の
家にのみ嫁ぐべし 7 然せばイスラエルの子孫の産業
この支派よりかの支派に移ることあらずイスラエル
の子孫はみな各箇その父祖の支派の産業に止まるべ
きなり 8 イスラエルの子孫の支派の中凡そ産業を有
る女は皆おのれの父の支派の家に嫁ぐべし 然せばイ
スラエルの子孫おのおのその父祖の産業を保つこと
を得ん 9 産業をしてこの支派よりかの支派に移らし
むべからずイスラエルの子孫の支派の者は皆おのお
の自己の産業にとどまるべし 10 是においてゼロペハ
デの女子等はエホバのモーセに命じたまへる如くせ
り 11 即ちゼロペハデの女子等マアラ、テルザ、ホグ
ラ、ミルカおよびノアはその父の兄弟の子等に嫁げ
り 12 彼らはヨセフの子マナセの子等の家に嫁ぎたれ
ばその産業はその父の族の支派に止まれり 13 是等は
エリコに對するヨルダンの邊なるモアテの平野にお

いてエホバがモーセによりてイスラエルの子孫に命
じたまひし命令と律法なり

申命記

1 是はモーセがヨルダンの此傍の曠野紅海に對する平野に在てバラン、トベル、ラバン、ハゼロテ、デザハブの間にてイスラエルの一切の人に告たる言語なり **2** ホレブよりセイル山の路を経てカデシバルネアに至るには十一日路あり **3** 第四十年の十一月にいたりその月の一日にモーセはイスラエルの子孫にむかひてエホバが彼等のために自己に授けたまひし命令を悉く告たり **4** 是はモーセがヘシボンに住るアモリ人の王シホン及びエデレイのアシタロテに住るバシヤンの王オグを殺したる後なりき **5** 即ちモーセ、ヨルダンの此傍なるモアブの地においてこの律法を解明すことを爲し始めたり曰く **6** 我らの神エホバ、ホレブにて我らに告て言たまへり汝らはこの山に居こと日すでに久し **7** 汝ら身を轉らして途に進みアモリ人の山に往き其に鄰れる處々に往き平野山地窪地南の地海邊カナン人の地レバノンおよび大河ユフラテ河に至れ **8** 我この地を汝らの前に置り入てこの地を獲よ是はエホバが汝らの先祖アブラハム、イサク、ヤコブに誓ひて之を彼らとその後の子孫に與へんと言たまひし者なりと **9** 彼時我なんぢらに語りて言り我は一人にては汝らをわが任として負ことあたはず **10** 汝らの神エホバ汝らを衆多ならしめたまひたれば汝ら今日は天空の星のごとくに衆し **11** 願くは汝らの先祖の神エホバ汝らをして今あるよりは千倍も多くならしめ又なんぢらに約束せしごとく汝らを祝福たまはんことを **12** 我一人にては争で汝らを吾任となしまた汝らの重負と汝らの争競に當ることを得んや **13** 汝らの支派の中より智慧あり知識ありて人に識れ

たる人々を簡べ我これを汝らの首長となさんと 14 時に汝ら答へて言ひ汝が言ところの事を爲は善しと 15 是をもて我汝らの支派の首長なる智慧ありて人に知れたる者等を取て汝らの首長となせり即ち之をもて千人の長百人の長五十人の長十人の長となしまた汝らの支派の中の官吏となせり 16 また彼時に我汝らの士師等に命じて言ひ汝らその兄弟の中の訴訟を聞き此人と彼人の間を正く審判くべし他國の人においても然り 17 汝ら人を視て審判すべからず小き者にも大なる者にも聽べし人の面を懼るべからず審判は神の事なればなり汝らにおいて斷定がたき事は我に持ちたれ我これを聽ん 18 我かの時に汝らの爲べき事をことごとく汝らに命じたりき 19 我等の神エホバの我等に命じたまひしごとくに我等はホレブより出たち汝らが見知るかの大なる畏しき曠野を通りアモリ人の山を指てガデシバルネアに至れり 20 時に我なんぢらに言ひ汝らは我らの神エホバの我らに與へたまへるアモリ人の山に至れり 21 視よ汝の神エホバこの地を汝の前に置たまふ汝の先祖の神エホバの汝に言たまふごとく上り往てこれを獲よ懼るるなかれ猶豫なかれと 22 汝らみな我に近りて言ひ我等人を我らの先に遣してその地を伺察しめ彼らをして返て何の途より上るべきか何の邑々に入べきかを我らに告しめんと 23 この言わが目に善と見ければ我汝らの中より十二人の者を取り即ち一の支派より一人宛なりき 24 彼等前みゆきて山に登りエシコルの谷にいたり之を伺ひ 25 その地の菓物を手に取てわれらの許に持くだり我らに復命して言ひ我等の神エホバの我等に與へたまへる地は善地なりと 26 然るに汝等は上り往ことを好

まずして汝らの神エホバの命令に背けり 27 すなはち
汝らその天幕にて眩きて言りエホバわれらを惡むが
故に我らをアモリ人の手に付して滅ぼさんとてエジ
プトの國より我らを導き出せり 28 我等は何方に往べ
きや我らの兄弟等は言ふその民は我らよりも大にし
て身長たかく邑々は大にしてその石垣は天に達る我
らまたアナクの子孫を其處に見たりと斯いひて我ら
の氣を挫けりと 29 時に我なんぢらに言り怖る勿れ懼
るなかれ 30 汝らに先ち行たまふ汝らの神エホバ、
エジプトにおいて汝らの爲に汝らの目の前にて諸の
事をなしたまひし如く今また汝らのために戦ひたま
はん 31 曠野においては汝また汝の神エホバが人のそ
の子を抱くが如くに汝を抱きたまひしを見たり汝ら
が此處にいたるまでその路すがら常に然ありしなり
と 32 この言をなせども汝らはなほその神エホバを信
ぜざりき 33 エホバは途にありては汝らに先ちゆきて
汝らが營を張べき處を尋ね夜は火の中にあり晝は雲
の中にありて汝らの行べき途を示したまへる者なり
34 エホバ汝らの言語の聲を聞て怒り誓て言たまひけ
らく 35 この惡き代の人々の中には我が汝らの先祖等
に與へんと誓ひしかの善地を見る者一人も有ざるべ
し 36 只エフソネの子カルブのみ之を見ることを得ん
彼が踐たりし地をもて我かれとかれの子孫に與ふべ
し其は彼まったくエホバに従ひたればなり 37 エホバ
また汝らの故をもて我をも怒て言たまへり汝もまた
彼處に入ことを得ず 38 汝の前に侍るヌンの子ヨシユ
アかしこに入べし彼に力をつけよ彼イスラエルをし
て之を獲しむべし 39 また汝等が掠められんと言たり
しその汝らの子女および當日になほ善惡を辨へざり

し汝らの幼児等彼ら即ちかしこに入べし我これを彼らに與へて獲さすべし 40 汝らは身をめぐらし紅海の途より曠野に進みいるべしと 41 然るに汝ら對て我にいへり我等はエホバにむかひて罪を犯せり然ばわれらの神エホバの凡て我らに命じたまへるがごとく我ら上りゆきて戦はんと汝らおのおの武器を身に帶て軽々しく山に登らんとせり 42 時にエホバわれに言たまひけるは汝かれらに言へ汝ら上りゆくなかれ又戦ふなかれ我なんぢらの中間に居ざればなり汝ら恐らくはその敵に打敗られんと 43 われかく汝らに告たるに汝ら聽ずしてエホバの命令に背き自檀に山に登りたりしが 44 その山に住るアモリ人汝等にむかひて出きたり蜂の驅がごとくに汝らを驅ちらしなんぢらをセイルに打敗りてホルマにおよべり 45 斯りしかばなんぢら還りきたりてエホバの前に哭きたりしがエホバなんぢらの聲を聽たまはず汝らに耳を傾むけたまはざりき 46 是をもてなんぢらは日久しくカデシに居りなんぢらが其處に居たる日數のごとし

2 斯て我らは身を轉らしエホバの我に命じたまへる如く紅海の途より曠野に進みいりて日久しくセイル山を行めぐりたりしが 2 エホバつひに我に告て言たまはく 3 汝等はこの山を行めぐること既に久し今よりは北に轉りて進め 4 汝また民に命じて言へ汝らはセイルに住るエサウの子孫なる汝らの兄弟の境界を通らんとす彼らはなんぢらを懼れん汝ら深く自ら謹むべし 5 彼らを攻る勿れ彼らの地は足の跣に踐ほどをも汝らに與へじ其は我セイル山をエサウにあたへて産業となさしめたればなり 6 汝ら金をもて彼らより食物を買て食ひまた金をもて彼らより水をもとめ

て飲め 7 汝の神エホバ汝が手に作ところの諸の事において汝をめぐみ汝がこの大なる曠野を通るを看そなはしたまへり汝の神エホバこの四十年のあひだ汝とともに在したれば汝は乏しき所あらざりしなり 8 我らつひにセイル山に住るエサウの子孫なる我らの兄弟を離れてアラバの路を通りエラテとエジオンゲベルを経て／轉りてモアブの曠野の路に進みいれり 9 時にエホバわれに言たまひけるはモアブ人をなやますなかれまた之を攻て戦ふなかれ彼らの地をば我なんぢらの産業に與へじ其は我ロトの子孫にアルをあたへて産業となさしめたればなりと 10 (昔エミ人ここに住り是民は大にして數多くアナク人のごとくに身長高かり 11 アナク人とおなじくレバイムと呼なされたりしがモアブ人はこれをエミ人とよべり 12 ホリ人もまた昔セイルに住をりしがエサウの子孫これを逐滅し之にかはりて其處に住りイスラエルがエホバに賜はりしその産業の地になせるが如し) 13 茲に汝等今たちあがりゼレデ川を渉れとありければ我らすなはちゼレデ川を渉れり 14 カデシバルネアを出てよりゼレデ川を渉るまでの間の日は三十八年にしてその代の軍人はみな亡果て營中にあらずなりぬエホバのかれらに誓ひたまひし如し 15 誠にエホバ手をもて之を攻めこれを營中より滅ぼしたまひければ終にみな亡はてたり 16 かく軍人みなその民の中より死亡たる時にあたりて 17 エホバ我に告て言たまひけらく 18 汝は今日モアブの境なるアルを通らんとす 19 汝アンモンの子孫に近く時に之をなやます勿れ之を攻るなかれアンモンの子孫の地は我これを汝らの産業に與へじ其は我これをロトの子孫にあたへて産業となさ

しめたればなり 20 (是もまたレバイムの國とよびなされたり昔レバイムここに住るたればなりアンモン人はかれらをザムズミ人とよべり 21 この民は大にして數多くアナク人のごとくに身長たかかりしがエホバ、アンモン人の前に之を滅ぼしたまひたればアンモン人これを逐はらひて之にかはりて住り 22 その事はセイルに住るエサウの子孫の前にホリ人を滅ぼしたまひしが如し彼らはホリ人を逐はらひ之にかはりて今日まで其處に住るなり 23 カフトルより出たるカフトリ人はまたかの村々に住ひてガザにまで到るととのアビ人を滅ぼし之にかはりて其處に居る) 24 汝ら起あがり進みてアルノン河を渉れ我へシボンの王アモリ人シホンとこれが國を汝らの手に付す進んで之を獲よ彼を攻て戦へ 25 今日我一天下の國人に汝を畏ぢ汝を懼れしめん彼らは汝の名聲を聞て慄ひ汝の爲に心を苦めんと 26 茲に我ケデモテの曠野よりヘシボンの王シホンに使者をおくり和好の言を述しめたり云く 27 我に汝の國を通らしめよ我は大路を通りて行ん右にも左にも轉らじ 28 汝金をとりて食物を我に賣て食はせ金をとりて水を我にあたへて飲せよ我はただ徒歩にて通らんのみ 29 セイルに住るエサウの子孫とアルに住るモアブ人とが我になしたる如くせよ然せば我はヨルダンを濟りて我らの神エホバの我らに賜ひし地にいたらんと 30 然るにヘシボンの王シホンは我らの通ることを容さざりき是は汝の神エホバ彼を汝の手に付さんとてその氣を頑梗しその心を剛愎にしたまひたればなり今日見るが如し 31 時にエホバ我に言たまひけるは視よ我いまシホンとこれが地を汝に與へんとす進んでその地を獲て汝の産業

とせよと 32 茲にシホンその民をことごとく率ゐて出
きたりヤハヅに於て戦ひけるが 33 我らの神エホバ彼
をわれらに付したまひたれば我らかれとその子等と
その一切の民を撃殺せり 34 その時に我らは彼の邑々
を盡く取りその一切の邑の男女および兒童を滅して
一人をも遺さざりき 35 只その家畜および邑々より取
たる掠取物は我らこれを獲て自分の物となせり 36 ア
ルノンの河邊のアロエルおよび河の傍なる邑よりギ
レアデにいたるまで我らの攻取がたき邑とては一も
あらざりき我らの神エホバこれを盡くわれらに付し
たまへり 37 第アンモンの子孫の地ヤボク川の全岸山
地の邑々など凡てわれらの神エホバが我らの往を禁
じたまへる處には汝いたらざりき

3 斯てわれら身をめぐらしてバシヤンの路に上り行
けるにバシヤンの王オグその民をことごとく率ゐ出
てエデレイに戦はんとせり 2 時にエホバわれに言た
まひけらく彼を懼るるなかれ我かれとその一切の民
とその地とを汝の手に付さん汝かのヘシボンに住た
るアモリ人の王シホンになせし如く彼に爲べしと 3
我らの神エホバすなはちバシヤンの王オグとその一
切の民を我らの手に付したまひしかば我ら之を撃こ
ろして一人をも遺さざりき 4 その時に我らこれが邑
々をことごとく取り取ざる邑は一も有ざりきその取
る邑は六十是すなはちアルゴブの地にしてバシヤン
におけるオグの國なり 5 この邑々はみな高き石垣あ
り門あり關ありて堅固なりき外にまた石垣あらざる
邑甚だ多くありき 6 我らはヘシボンの王シホンにな
せし如く之を滅しその一切の邑の男女および兒童を
ことごとく滅せり 7 惟その一切の家畜とその邑々よ

りの掠取物とはこれを獲てわれらの物となせり 8 その時我らヨルダンの此傍の地をアルノン河よりヘルモン山までアモリ人の王二人の手より取り 9 (ヘルモンはシドン人これをシリオンと呼びアモリ人これをセニルと呼ぶ) 10 すなはち平野の一切の邑ギレアデの全地バシヤンの全地サルカおよびエデレイなどバシヤンに於るオグの國をことごとく取り 11 彼レバイムの遺れる者はバシヤンの王オグ只一人なりき彼の寝臺は鐵の寝臺なりき是は今なほアンモンの子孫のラバにあるに非ずや人の肘によれば是はその長九キュビトその寛四キュビトあり 12 その時に我らこの地を獲たりしがアルノン河の邊なるアロエルよりの地とギレアデの山地の半とその中の邑々とは我これをルベン人とガド人に與へたり 13 またオグの國なりしギレアデの殘餘の地とバシヤンの全地とは我これをマナセの半支派に與へたりアルゴブの全地すなはちバシヤンの全體はレバイムの國と稱へらる 14 マナセの子ヤイルはアルゴブの全地を取てゲシユルの境界とマアカの境界にまで至り自分の名にしたがひてバシヤンをハラテヤイルと名けたりその名今日にいたる 15 またマキルには我ギレアデを與へ 16 ルベン人とガド人にはギレアデよりアルノン河までを與へその河の眞中をもて界となしまたアンモンの子孫の地の界なるヤボク河にまで至り 17 またアラバおよびヨルダンとその邊の地をキンネレテよりアラバの海すなはち鹽海まで之にあたへて東の方ピスガの麓にいたる 18 その時我なんぢらに命じて言ひ汝らの神エホバこの地を汝らに與へて産業となさしめたまへば汝ら軍人に身をよるひて汝らの兄弟なるイスラエルの

子孫に先だちて渉りゆくべし 19 但し汝らの妻と子女と家畜は我が汝らに與へし邑に止るべし我なんぢらが衆多の家畜を有を知なり 20 エホバなんぢらに賜ひしごとく汝らの兄弟にも安息を賜ひて彼らもまたヨルダンの彼旁にて汝らの神エホバにたまはるところの地を獲て産業となすに至らば汝らおのおの我なんぢらに與へし産業に歸るべし 21 かの時に我ヨシユアに命じて言ひ汝はこの二人の王に汝らの神エホバのおこなひたまふ所の事を目に視たりエホバまた汝が往ところの諸の國にも斯のごとく行ひたまはん 22 汝これを懼る勿れ汝らの神エホバ汝らのために戦ひたまはんと 23 當時われエホバに求めて言ひ 24 主エホバよ汝は汝の大なる事と汝の強き手を僕に見すことを始めたまへり天にても地にても何の神か能なんぢの如き事業を爲し汝のごとき能力を有んや 25 願くは我をして渉りゆかしめヨルダンの彼旁なる美地美山およびレバノンを見ことを得させたまへと 26 然るにエホバなんぢらの故をもて我を怒り我に聽ことを爲たまはずエホバすなはち我に言たまひけるは既に足りこの事を重て我に言なかれ 27 汝ビスガの嶺にのぼり目を擧て西北南東を望み汝の目をもて其地を觀よ汝はヨルダンを濟ることを得ざるべければなり 28 汝ヨシユアに命じ之に力をつけ之を堅うせよ其はこの民を率ゐて渉りゆき之に汝が見るところの地を獲さする者は彼なればなりと 29 かくて我らはベテベオルに對する谷に居る

4 今イスラエルよ我が汝らに教ふる法度と律法を聽てこれを行へ然せば汝らは生ることを得汝らの先祖の神エホバの汝らに賜ふ地にいりて之を産業となす

を得べし 2 我が汝らに命ずる言は汝らこれを増しま
たは減すべからず我が汝らに命ずる汝らの神エホバ
の命令を守るべし 3 汝らはエホバがバアルペオルの
事によりて行ひたまひし所を目に觀たり即ちバアル
ペオルに従ひたる人々は汝の神エホバことごとく之
を汝らの中間より滅し去たまひしが 4 汝らの神エホ
バに附て離れざりし汝等はみな今日までも生ながら
へ居るなり 5 我はわが神エホバの我に命じたまひし
如くに法度と律法を汝らに教へ汝らをしてその往て
獲ところの地において之を行はしめんとせり 6 然ば
汝ら之を守り行ふべし然する事は國々の民の目の前
において汝らの智慧たり汝らの知識たるなり彼らこ
の諸の法度を聞て言んこの大なる國人は必ず智慧あ
り知識ある民なりと 7 われらの神エホバは我らがこ
れに顧もとむるに常に我らに近く在すなり何の國人
か斯のごとく大にして神これに近く在すぞ 8 また何
の國人か斯のごとく大にして今日我が汝らの前に立
るこの一切の律法の如き正しき法度と律法とを有る
ぞ 9 汝深く自ら慎み汝の心を善く守れ恐くは汝その
目に觀たる事を忘れん恐くは汝らの生存らふる日の
中に其等の事汝の心を離れん汝それらの事を汝の子
汝の孫に教へよ 10 汝がホレブにおいて汝の神エホバ
の前に立る日にエホバわれに言たまひけらく我ため
に民を集めよ我これに吾言を聽しめ之をしてその世
に存らふる日の間我を畏るることを學ばせまたその
子女を教ふることを爲しめんとすと 11 是において汝
らは前みよりて山の麓に立ちけるが山は火にて焼て
その燄は中天に沖り暗くして雲あり黒雲深かりき 12
時にエホバ火の中より汝らに言ひたまひしが汝らは

言詞の聲を聞る而已にて聲の外は何の像をも見ざりし 13 エホバすなはち其契約を汝らに述て汝らに之を守れと命じたまへり是すなはち十誡にしてエホバこれを二枚の石の板に書したまふ 14 かの時にエホバ我に命じて汝らに法度と律法を教へしめたまへり是汝らにその往て獲ところの地にて之を爲しめんとてなりき 15 ホレブにおいてエホバ火の中より汝らに言ひたまひし日には汝ら何の像をも見ざりしなり然ば汝ら深く自ら慎み 16 道をあやまりて自己のために偶像を刻む勿れ物の像は男の形にもあれ女の形にもあれ凡て造るなかれ 17 即ち地の上にをる諸の獣の像空に飛ぶ諸の鳥の像 18 地に匍ふもろもろの物の像地の下の水の中に居る諸の魚の像など凡て造る勿れ 19 汝目をあげて天を望み日月星辰など凡て天の衆群を觀誘はれてこれを拝み之に事ふる勿れ是は汝の神エホバが一天下の萬國の人々に分ちたまひし者なり 20 エホバ汝らを取り汝らを鐵の爐の中すなはちエジプトより導きいだして自己の産業の民となしたまへること今日のごとし 21 然るにエホバなんぢらの故によりて我を怒り我はヨルダンを濟りゆくことを得ずまた汝の神エホバが汝の産業に賜ひしその美地に入ことを得ずと誓ひたまへり 22 我はこの地に死ざるを得ず我はヨルダンを濟りゆくことあたはずなんぢらは濟りゆきて之を獲て産業となすことを得ん 23 汝ら自ら慎み汝らの神エホバが汝らに立たまひし契約を忘れて汝の神エホバの禁じたまふ偶像など凡て物の像を刻むことを爲なかれ 24 汝の神エホバは燬盡す火嫉妬神なり 25 汝ら子を擧げ孫を得てその地に長く居におよびて若し道をあやまりて偶像など凡て物の像を刻み

汝の神エホバの悪と觀たまふ事をなしてその震怒を惹おこすことあらば 26 我今日天と地を呼て證となす汝らはかならずそのヨルダンを濟りゆきて獲たる地より速かに滅亡うせん汝らはその上に汝らの日を永うする能はず必ず滅びうせん 27 エホバなんぢらを國々に散したまべしエホバの汝らを逐やりたまふ國々の中に汝らの遺る者はその數寡なからん 28 其處にて汝らは人の手の作なる見ことも聞ことも食ふことも嗅こともなき木や石の神々に事へん 29 但しまた其處にて汝その神エホバを求むるあらんに若し心をつくし精神を盡してこれを求めなば之に遇ん 30 後の日にいたりて汝艱難にあひて此もろもろの事の汝に臨まん時に汝もしその神エホバにたち歸りてその言にしたがはば 31 汝の神エホバは慈悲ある神なれば汝を棄ず汝を滅さずまた汝の先祖に誓ひたりし契約を忘れたまはざるべし 32 試に問へ汝の前に過さりし日神が地の上に人を造りたまひし日より已來天の此極より彼極までに曾て斯のごとき大なる事ありしや是のごとき事の聞えたる事ありしや 33 曾て人神が火の中より言ふ聲を汝らが聞るごとくに聞て尚生る者ありしや 34 汝らの神エホバがエジプトにおいて汝らの目の前にて汝らの爲に諸の事を爲たまひし如く曾て試探と徴證と奇蹟と戰爭と強き手と伸たる腕と大なる恐嚇をもて來りこの民をかの民の中より領いださんとせし神ありしや 35 汝にこの事を示ししはエホバはすなはち神にしてその外には有ことなしと汝に知しめんがためなりき 36 汝を教へんためにエホバ天より汝に聲を聞しめ地に於てはまたその大なる火を汝に示したまへり即ち汝はその言の火の中より出るを聞き

37 エホバ汝の先祖等を愛したまひしが故にその後の子孫を選び大なる能力をもて親ら汝をエジプトより導き出したまひ 38 汝よりも大にして強き國々の民を汝の前より逐はらひ汝をその地に導きいりて之を汝の産業に與へんとしたまふこと今日のごとくなり 39 然ば汝今日知て心に思念べし上は天下は地においてエホバは神にいましその外には神有こと無し 40 今日わが汝に命ずるエホバの法度と命令を守るべし然せば汝と汝の後の子孫祥を得汝の神エホバの汝にたまふ地において汝その日を永うすることを得て疆なからん 41 斯てモーセ、ヨルダンの此旁日の出る方において邑三を別てり 42 是素より怨なきに誤りて人を殺せる者をして其處に逃れしむる爲なり其邑の一に逃る時はその人生命を全うするを得べし 43 即ち一は曠野の内の平野にあるベゼル是はルベン人のためなり一はギレアデのラモテ是はガド人のためなり一はバシヤンのゴラン是はマナセ人のためなり 44 モーセがイスラエルの子孫の前に示しし律法は是なり 45 イスラエルの子孫のエジプトより出たる後モーセこの誠命と法度と律法を之に述たり 46 即ちヨルダンの此旁なるアモリ人の王シホンの地にありベテペオルに對する谷に於て之を述たりシホンはヘシボンに住をりしがモーセとイスラエルの子孫エジプトより出きたりし後これを撃ほろぼして 47 之が地を獲またバシヤンの王オグの地を獲たり彼ら二人はアモリ人の王にしてヨルダンの此旁日の出る方に居り 48 その獲たる地はアルノン河の邊なるアロエルよりヘルモンといふシオン山にいたり 49 ヨルダンの此旁すなはちそ

の東の方なるアラバの全部を括てアラバの鹽海に達しピスガの麓におよべり

5 茲にモーセ、イスラエルをことごとく召て之に言ふイスラエルよ今日我がなんぢらの耳に語るころの法度と律法とを聴きこれを學びこれを守りて行へよ **2** 我らの神エホバ、ホレブに於て我らと契約を結びたまへり **3** この契約はエホバわれらの先祖等とは結ばずして我ら今日此に生存へをる者と結びたまへり **4** エホバ山において火の中より汝らと面をあはせて言ひたまひしが **5** その時我はエホバと汝らの間にたちてエホバの言を汝らに傳へたり汝ら火に懼れて山にのぼり得ざりければなり **6** エホバすなはち言たまひけらく我は汝の神エホバ汝をエジプトの地その奴隸たる家より導き出せし者なり **7** 汝わが面の前に我の外何物をも神とすべからず **8** 汝自己のために何の偶像をも彫むべからず又上は天にある者下は地にある者ならびに地の下の水の中にある者の何の形状をも作るべからず **9** 之を拝むべからず之に事ふべからず我エホバ汝の神は嫉む神なれば我を惡む者にむかひては父の罪を子に報いて三四代におよぼし **10** 我を愛しわが誠命を守る者には恩恵を施して千代にいたるなり **11** 汝の神エホバの名を妄に口にあぐべからずエホバは己の名を妄に口にあぐる者を罰せではおかざるべし **12** 安息日を守りて之を聖潔すること汝の神エホバの汝に命ぜしごとくすべし **13** 六日のあひだ勞きて汝の一切の業を爲べし **14** 七日は汝の神エホバの安息なれば何の業務をも爲べからず汝も汝の男子女子も汝の僕婢も汝の牛驢馬も汝の諸の家畜も汝の門の中にをる他國の人も然り斯なんぢ僕婢をして汝

とおなじく息ましむべし **15** 汝誌ゆべし汝かつてエジプトの地に奴隸たりしに汝の神エホバ強き手と伸べたる腕とをもて其處より汝を導き出したまへり是をもて汝の神エホバなんぢに安息日を守れと命じたまふなり **16** 汝の神エホバの汝に命じたまふごとく汝の父母を敬へ是汝の神エホバの汝に賜ふ地において汝の日の長からんため汝に祥のあらんためなり **17** 汝殺す勿れ **18** 汝姦淫する勿れ **19** 汝盗むなかれ **20** 汝その隣に對して虚妄の證據をたつる勿れ **21** 汝その隣人の妻を貧るなかれまた隣人の家 田野 僕 婢 牛 驢 馬 ならびに凡て汝の隣人の所有を貧るなかれ **22** 是等の言をエホバ山において火の中雲の中黒雲の中より大なる聲をもて汝らの全會衆に告たまひしが此外には言ことを爲ず之を二枚の石の版に書して我に授けたまへり **23** 時にその山は火にて焼をりしが汝ら黑暗の中よりその聲の出るを聞におよびて汝らの支派の長および長老等我に進みよりて **24** 言けるは視よ我らの神エホバその榮光とその大なる事を我らに示したまひて我らその聲の火の中より出るを聞き我ら今日エホバ人と言ひたまふてその人の尚生るを見る **25** 我らなんぞ死にいたるべけんや此大なる火われらを焼ほろぼさんとするなり我らもし此上になほ我らの神エホバの聲を聞ば死べし **26** 凡そ肉身の者の中誰か能く活神の火の中より言ひたまふ聲を我らのごとくに聞てなほ生る者あらんや **27** 請ふ汝進みゆきて我らの神エホバの言たまふところを都て聽き我らの神エホバの汝に告給ふところを都て我らに告よ我ら聽て行はんと **28** エホバなんぢらが我に語れる言の聲を聞てエホバ我に言たまひけるは我この民が汝に語れる言の聲を

聞き彼らの言ところは皆善し 29 只願しきは彼等が斯
のごとき心を懐いて恒に我を畏れ吾が誠命を守りて
その身もその子孫も永く福祉を得にいたらん事なり
30 汝ゆきて彼らに言へ汝らおのおのその天幕にかへ
るべしと 31 然ど汝は此にて我傍に立て我なんぢに諸
の誠命と法度と律法とを告しめさん汝これを彼らに
教へ我が彼らに與へて産業となさしむる地において
彼らにこれを行はしむべしと 32 然ば汝らの神エホバ
の汝等に命じたまふごとくに汝ら謹みて行ふべし右
にも左にも曲るべからず 33 汝らの神エホバの汝らに
命じたまふ一切の道に歩め然せば汝らは生ることを
得かつ福祉を得て汝らの産業とする地に汝らの日を
長うすることを得ん

6 是すなはち汝らの神エホバが汝らに教へよと命じ
たまふところの誠命と法度と律法とにして汝らがそ
の濟りゆきて獲ところの地にて行ふべき者なり 2 是
は汝と汝の子および汝の孫をしてその生命ながらふ
日の間つねに汝の神エホバを畏れしめて我が汝ら
に命ずるその諸の法度と誠命とを守らしめんため又
なんぢの日を永からしめんための者なり 3 然ばイス
ラエルよ聽て謹んでこれを行へ然せば汝は福祉を獲
汝の先祖の神エホバの汝に言たまひしごとく乳と蜜
の流るる國にて汝の數おほいに増ん 4 イスラエルよ
聽け我らの神エホバは惟一のエホバなり 5 汝心を盡
し精神を盡し力を盡して汝の神エホバを愛すべし 6
今日わが汝に命ずる是らの言は汝これをその心にあ
らしめ 7 勤て汝の子等に教へ家に坐する時も路を歩
む時も寝る時も興る時もこれを語るべし 8 汝またこ
れを汝の手に結びて號となし汝の目の間におきて誌

となし 9 また汝の家の柱と汝の門に書記すべし 10 汝の神エホバその汝の先祖アブラハム、イサク、ヤコブにむかひて汝に與んと誓ひたりし地に汝を入しめん時は汝をして汝が建たる者にあらざる大なる美しき邑々を得させ 11 汝が盈せるに非る諸の佳物を盈せる家を得させ汝が堀たる者にあらざる堀井を得させたまふべし汝は食ひて飽ん 12 然る時は汝慎め汝をエジプトの地奴隷たる家より導き出ししエホバを忘るる勿れ 13 汝の神エホバを畏れてこれに事へその名を指て誓ふことをすべし 14 汝ら他の神々すなはち汝の四周なる民の神々に従ふべからず 15 汝らの中にいます汝の神エホバは嫉妬神なれば恐くは汝の神エホバ汝にむかひて怒を發し汝を地の面より滅し去たまはん 16 汝マツサにおいて試みしごとく汝の神エホバを試むるなかれ 17 汝らの神エホバの汝らに命じたまへる誠命と律法と法度とを汝ら謹みて守るべし 18 汝エホバの義と視善と視たまふ事を行ふべし然せば汝福祉を獲かつエホバの汝の先祖に誓ひたまひしかの美地に入てこれを産業となすことを得ん 19 エホバまたその言たまひし如く汝の敵をことごとく汝の前より逐はらひたまはん 20 後の日に至りて汝の子なんぢに問てこの汝らの神エホバが汝らに命じたまひし誠命と法度と律法とは何のためなるやと言ば 21 汝その子に告て言べし我らは昔エジプトにありてパロの奴隷たりしがエホバ強き手をもて我らをエジプトより導き出したまへり 22 即ちエホバわれらの目の前において大なる畏るべき徴と奇蹟をエジプトとパロとその全家とに示したまひ 23 我らを其處より導き出して其曾て我等の先祖に誓ひし地に我らを入れて之を我ら

に與へたまへり 24 而してエホバ我らにこの諸の法度を守れと命じたまふ是われらをして我らの神エホバを畏れて常に幸ならしめんため又エホバ今日のごとく我らを守りて生命を保たしめんとてなりき 25 我らもしその命ぜられたるごとく此一切の誠命を我らの神エホバの前に謹んで守らば是われらの義となるべしと

7 汝の神エホバ汝が往て獲べきところの地に汝を導きいり多の國々の民へテ人ギルガシ人アモリ人カナン人ペリジ人ヒビ人エブス人など汝よりも數多くして力ある七の民を汝の前より逐はらひたまはん時 2 すなはち汝の神エホバかれらを汝に付して汝にこれを撃せたまはん時は汝かれらをことごとく滅すべし彼らと何の契約をもなすべからず彼らを憫むべからず 3 また彼らと婚姻をなすべからず汝の女子を彼の男子に與ふべからず彼の女子を汝の男子に娶るべからず 4 其は彼ら汝の男子を惑はして我を離れしめ之をして他の神々に事へしむるありてエホバこれがために汝らにむかひて怒を發し俄然に汝を滅したまふにいたるべければなり 5 汝らは反て斯かれらに行ふべし即ちかれらの壇を毀ちその偶像を打擻きそのアシラ像を斫たふし火をもてその雕像を焚べし 6 其は汝は汝の神エホバの聖民なればなり汝の神エホバは地の面の諸の民の中より汝を擇びて己の寶の民となしたまへり 7 エホバの汝らを愛し汝らを擇びたまひしは汝らが萬の民よりも數多かりしに因にあらず汝らは萬の民の中にて最も小き者なればなり 8 但エホバ汝らを愛するに因りまた汝らの先祖等に誓し誓を保たんとするに因てエホバ強き手をもて汝らを導き

いだし汝らを其奴隷たりし家よりエジプトの王パロの手より贖ひいだしたまへるなり 9 汝知べし汝の神エホバは神にましまし眞實の神にましまして之を愛しその誠命を守る者には契約を保ち恩恵をほどこして千代にいたり 10 また之を惡む者には靦面にその報をなしてこれを滅ぼしたまふエホバは己を惡む者には緩ならず靦面にこれに報いたまふなり 11 然ば汝わが今日汝に命ずるところの誠命と法度と律法とを守りてこれを行ふべし 12 汝らもし是らの律法を聽きこれを守り行はば汝の神エホバ汝の先祖等に誓ひし契約を保ちて汝に恩恵をほどこしたまはん 13 即ち汝を愛し汝を恵み汝の數を増したまひその昔なんぢに與へんと汝らの先祖等に誓たりし地において汝の兒女をめぐみ汝の地の産物穀物酒油等を殖し汝の牛の産汝の羊の産を増たまふべし 14 汝は恵まるること萬の民に愈らん汝らの中および汝らの家畜の中には男も女も子なき者は無るべし 15 エホバまた諸の疾病を汝の身より除きたまひ汝らが知る彼のエジプトの惡き病を汝の身に臨ましめず但汝を惡む者に之を臨ませたまふべし 16 汝は汝の神エホバの汝に付したまはんとおのころの民をことごとく滅しつくすべし彼らを憫み見べからずまた彼らの神に事ふべからずその事汝の罾となればなり 17 汝是らの民は我よりも衆ければ我いかでか之を逐はらふことを得んと心に謂ふか 18 汝かれらを懼るるなかれ汝の神エホバがパロとエジプトに爲たまひしところの事を善く憶えよ 19 即ち汝が眼に見たる大なる試煉と徴證と奇蹟と強き手と伸たる腕とを憶えよ汝の神エホバこれをもて汝を導き出したまへり是のごとく汝の神エホバまた汝が懼るる

一切の民に爲たまふべし 20 即ち汝の神エホバ黄蜂を彼らの中に遣りて終に彼らの遺れる者と汝の面を避て匿れたる者とを滅したまはん 21 汝かれらを懼る勿れ其は汝の神エホバ能力ある畏るべき神汝らの中にいませばなり 22 汝の神エホバ是等の國人を漸々に汝の前より逐はらひたまはん汝は急速に彼らを滅しつくす可らず恐くは野の獸殖て汝に逼らん 23 汝の神エホバかれらを汝に付し大にこれを惶れ慄かして終にこれを滅し盡し 24 彼らの王等を汝の手に付したまはん汝かれらの名を天が下より削るべし汝には當ることを得る者なくして汝つひに之を滅ぼし盡すに至らん 25 汝かれらの神の雕像を火にて焚べし之に著せたる銀あるひは金を貧るべからず之を己に取べからず恐くは汝これに因て罣にかからん是は汝の神エホバの憎みたまふ者なれば也 26 憎むべき物を汝の家に携へいるべからず恐くは汝も其ごとくに詛はるる者とならん汝これを大に忌み痛く嫌ふべし是は詛ふべき者なればなり

8 我が今日なんぢに命ずるところの諸の誠命を汝ら謹んで行ふべし然せば汝ら生ることを得かつ殖増しエホバの汝の先祖等に誓たまひし地に入てこれを産業となすことを得ん 2 汝記念べし汝の神エホバこの四十年の間汝をして曠野の路に歩ましめたまへり是汝を苦しめて汝を試験み汝の心の如何なるか汝がその誠命を守るや否やを知んためなりき 3 即ち汝を苦しめ汝を饑しめまた汝も知ず汝の先祖等も知ざるところのマナを汝らに食はせたまへり是人はパン而已にて生る者にあらず人はエホバの口より出る言によりて生る者なりと汝に知しめんが爲なり 4 この四十

年のあひだ汝の衣服は古びて朽ず汝の足は腫ざりし
5 汝また心に念ふべし人のその子を懲戒ごとく汝の神
エホバも汝を懲戒たまふなり 6 汝の神エホバの誠命
を守りその道にあゆみてこれを畏るべし 7 汝の神エ
ホバ汝をして美地に到らしめたまふ是は谷にも山に
も水の流あり泉あり瀦水ある地 8 小麦 大麥 葡萄 無
花果および石榴ある地油 橄欖および蜜のある地 9 汝
の食ふ食物に缺るところなく汝に何も乏しきところ
あらざる地なりその地の石はすなはち鐵その山より
は銅を掘とるべし 10 汝は食ひて飽き汝の神エホバに
その美地を己にたまひし事を謝すべし 11 汝わが今日
なんぢに命ずるエホバの誠命と律法と法度とを守ら
ずして汝の神エホバを忘るるにいたらざるやう慎め
よ 12 汝食ひて飽き美しき家を建て住ふに至り 13 ま
た汝の牛羊殖増し汝の金銀殖増し汝の所有みな殖増
にいたらん時に 14 恐くは汝心に驕りて汝の神エホバ
を忘れんエホバは汝をエジプトの地奴隸たる家より
導き出し 15 汝をみちびきて彼の大にして畏るべき曠
野すなはち蛇火の蛇蠍などありて水あらざる乾ける
地を通り汝らのために堅き磐の中より水を出し 16 汝
の先祖等の知ざるマナを曠野にて汝に食せたまへり
是みな汝を苦しめ汝を試みて終に福祉を汝にたまは
んとてなりき 17 汝我力とわが手の動作によりて我こ
の資財を得たりと心に謂なかれ 18 汝の神エホバを憶
えよ其はエホバ汝に資財を得の力をたまふなればな
り斯したまふは汝の先祖等に誓し契約を今日の如く
行はんとてなり 19 汝もし汝の神エホバを忘れ果て他
の神々に従がひ之に事へこれを拝むことを爲ば我今
日汝らに證をなす汝らはかならず滅亡ん 20 エホバの

汝らの前に滅ぼしたまひし國々の民のごとく汝らも滅亡べし是なんぢらの神エホバの聲に汝らしたがはずればなり

9 イスラエルよ聽け汝は今日ヨルダンを濟りゆき汝よりも大にして強き國々に入てこれを取んとすその邑々は大きにして石垣は天に達り **2** その民は汝が知ところのアナクの子孫にして大きくかつ身長たかし汝また人の言を聞き云く誰かアナクの子孫の前に立ことを得んと **3** 汝今日知る汝の神エホバは燬つくす火にましまして汝の前に進みたまふとエホバかならず彼らを滅ぼし彼らを汝の前に攻伏たまはんエホバの汝に言たまひし如く汝かれらを逐はらひ速かに彼らを滅ぼすべし **4** 汝の神エホバ汝の前より彼らを逐はらひたまはん後に汝心に言なかれ云く我の義がためにエホバ我をこの地に導きいりてこれを獲させたまへりとそはこの國々の民の悪きがためにエホバ之を汝の前より逐はらひたまふなり **5** 汝の往てその地を獲は汝の義きによるにあらず又なんぢの心の直によるに非ずこの國々の民悪きが故に汝の神エホバこれを汝の前より逐はらひたまふなりエホバの斯したまふはまた汝の先祖アブラハム、イサク、ヤコブに誓たりし言を行はんとてなり **6** 汝知る汝の神エホバの汝に此美地を與へて獲させたまふは汝の義きによるに非ず汝は項の強き民なればなり **7** 汝曠野に於て汝の神エホバを怒せし事を憶えて忘るる勿れ汝らはエジプトの地を出し日より此處にいたる日まで常にエホバに悖れり **8** ホレブにおいて汝らエホバを怒せたらばエホバ汝らを怒りて汝らを滅ぼさんとしたまへり **9** かの時われ石の板すなはちエホバの汝らに立た

まへる契約を載る石の板を受んとて山に上り四十日
四十夜山に居りパンも食ず水も飲ざりき **10** エホバ我
に神の指をもて書ししたる文字ある石の板二枚を
授けたまへりその上には集會の日にエホバが山にお
いて火の中より汝らに告たまひし言をことごとく載
す **11** すなはち四十日四十夜過し時エホバ我にその契
約を載る板なる石の板二枚を授け **12** 而してエホバ我
に言たまひけるは汝起あがりて速かに此より下れ汝
がエジプトより導き出しし民は悪き事を行ふなり彼
らは早くもわが彼らに命ぜし道を離れて自己のため
に偶像を鑄造れりと **13** エホバまた我に言たまひける
は我この民を觀たり視よ是は項の強き民なり **14** 我を
阻むるなかれ我かれらを滅ぼしその名を天が下より
抹さり汝をして彼らよりも強くまた大なる民となら
しむべし **15** 是に於て我身をめぐらして山を下りける
が山は火にて焼る又その契約の板二枚はわが兩の
手にあり **16** 斯て我觀しに汝らはその神エホバにむか
ひて罪を犯し自己のために犢を鑄造りて早くもエホ
バの汝らに命じたまひし道を離れたりしかば **17** 我そ
の二枚の板をとりてわが兩の手よりこれを擲ち汝ら
の目の前にこれを碎けり **18** 而して我は前のごとく四
十日四十夜エホバの前に伏て居りパンも食ず水も飲
ざりき是は汝らエホバの目の前に悪き事をおこなひ
之を怒せて大に罪を獲たればなり **19** エホバ忿怒を發
し憤恨をおこし汝らを怒りて滅ぼさんとしたまひし
かば我懼れたりしが此度もまたエホバ我に聽たまへ
り **20** エホバまた痛くアロンを怒りてこれを滅ぼさん
としたまひしかば我その時またアロンのために祈れ
り **21** 斯て我なんぢらが作りて罪を犯しし犢を取り火

をもて之を焼きこれを搗きこれを善く打碎きて細き塵となしその塵を山より流れ下るところの溪流に投棄たり **22** 汝らはタベラ、マツサおよびキプロテハツタワにおいてもまたエホバを怒らせたり **23** またエホバ、カデシバルネアより汝らを遣さんとせし時言たまひけるは汝ら上りゆきて我がなんぢらに與ふる地を獲て産業とせよと然るに汝らはその神エホバの命に悖り之を信ぜずまたその言を聽ざりき **24** 我が汝らを識し日より以來汝らは常にエホバに悖りしなり **25** かの時エホバ汝らを滅さんと言たまひしに因て我最初に伏たる如く四十日四十夜エホバの前に伏し **26** エホバに祈りて言けるは主エホバよ汝その大なる權能をもて贖ひ強き手をもてエジプトより導き出しし汝の民汝の産業を滅したまふ勿れ **27** 汝の僕アブラハム、イサク、ヤコブを念たまへ此民の剛愎と惡と罪とを鑑みたまふ勿れ **28** 恐くは汝が我らを導き出したたまひし國の人言んエホバその約せし地にかれらを導きいること能はざるに因りまた彼らを惡むに因て彼らを導き出して曠野に殺せりと **29** 抑かれらは汝の民汝の産業にして汝が強き能力をもて腕を伸て導き出したまひし者なり

10 かの時エホバ我に言たまひけるは汝石の板二枚を前のごとくに斫て作りまた木の櫃一箇を作りて山に登り來れ **2** 汝が碎きしかの前の板に載たる言を我その板に書さん汝これをその櫃に蔵むべし **3** 我すなはち合歡木をもて櫃一箇を作りまた石の板二枚を前のごとくに斫て作りその板二枚を手に執て山に登りしかば **4** エホバかの集會の日に山において火の中より汝らに告たるその十誡を前に書したるごとくその

板に書し而してエホバこれを我に授けたまへり 5 是に於て我身を轉らして山より下りその板を我が造りしかの櫃に蔵めたり今なほその中にありエホバの我に命じたまへる如し 6 斯てイスラエルの子孫はヤカン人の井より出たちてモセラにいたれりアロン其處に死て其處に葬られその子エレアザルこれに代りて祭司となれり 7 又其處より出たちてグデゴダにいたりグデゴダより出たちてヨテバにいたれりこの地には水の流多かりき 8 かの時エホバ、レビの支派を區分てエホバの契約の櫃を昇しめエホバの前に立てこれに事へしめ又エホバの名をもて祝することを爲せたまへり其事今日にいたる 9 是をもてレビはその兄弟等の中に分なくまた産業なし惟エホバその産業たり汝の神エホバの彼に言たまへる如し 10 我は前の日數のごとく四十日四十夜山に居しがエホバその時にもまた我に聽たまへりエホバ汝を滅すことを好みたまはざりき 11 斯てエホバ我に言たまひけるは汝起あがり民に先だちて進み行き彼らをして我が之に與へんとその先祖に誓ひたる地に入てこれを獲せしめよ 12 イスラエルよ今汝の神エホバの汝に要めたまふ事は何ぞや惟是のみ即ち汝がその神エホバを畏れその一切の道に歩み之を愛し心を盡し精神を盡して汝の神エホバに事へ 13 又我が今日汝らに命ずるエホバの誠命と法度とを守りて身に福祉を得るの事のみ 14 夫天と諸天の天および地とそこにある者は皆汝の神エホバに屬す 15 然るにエホバただ汝の先祖等を悦びて之を愛しその後の子孫たる汝らを萬の民の中より選びたまへり今日のごとし 16 然ば汝ら心に割禮を行へ重て項を強くする勿れ 17 汝の神エホバは神の神

主の主大にしてかつ權能ある畏るべき神にましまし人を偏り視ずまた賄賂を受ず 18 孤兒と寡婦のために審判を行ひまた旅客を愛してこれに食物と衣服を與へたまふ 19 汝ら旅客を愛すべし其は汝らもエジプトの國に旅客たりし事あればなり 20 汝の神エホバを畏れ之に事へこれに附從がひその名を指て誓ふことをすべし 21 彼は汝の讚べき者また汝の神にして汝が目に見たる此等の大なる畏るべき事業をなしたまへり 22 汝の先祖等は僅か七十人にてエジプトに下りたりしに今汝の神エホバ汝をして天空の星のごとくに多くならしめたまへり

11 然ば汝の神エホバを愛し常にその職守と法度と律法と誠命とを守るべし 2 汝らの子女は知ずまた見ざれば我これに言ず惟汝らに言ふ汝らは今日すでに汝らの神エホバの懲戒とその大なる事とその強き手とその伸たる腕とを知り 3 またそのエジプトの中においてエジプト王パロとその全國にむかひておこなひたまひし徴證と行爲とを知り 4 またエホバがエジプトの軍勢とその馬とその車とに爲たまひし事すなはち彼らが汝らの後を追きたれる時に紅海の水を彼らの上に覆ひかからしめ之を滅ぼして今日までその跡方なからしめし事を知り 5 また此處にいたるまで曠野に於て汝らに爲たまひし事等を知り 6 またそのルベンの子孫なるエリアブの子等ダタンとアビラムに爲たまひし事すなはちイスラエルの全家の眞中において地その口を啓きて彼らとその家族とその天幕とその足下に立つ者とを呑つくしし事を知なり 7 即ち汝らはエホバの行ひたまひし此諸の大なる作爲を目に觀たり 8 然ば汝ら我今日汝らに命ずる誠命を盡

く守るべし然せば汝らは強くなり汝らが濟りゆきて獲んとする地にいりて之を獲ことを得 9 またエホバが汝らと汝らの後の子孫にあたへんと汝らの先祖等に誓たまひし地乳と蜜との流るる國において汝らの日を長うすることを得ん 10 汝らが進みいりて獲んとする地は汝らが出來りしエジプトの地のごとくならず彼處にては汝ら種を播き足をもて之に灌漑げりその状蔬菜園におけるが如し 11 然ど汝らが濟りゆきて獲ところの地は山と谷の多き地にして天よりの雨水を吸ふなり 12 その地は汝の神エホバの顧みたまふ者にして年の始より年の終まで汝の神エホバの日常にその上に在り 13 汝らもし我今日なんぢらに命ずる吾命令を善守りて汝らの神エホバを愛し心を盡し精神を盡して之に事へなば 14 我なんぢらの地の雨を秋の雨春の雨ともに時に隨ひて降し汝らをしてその穀物を收入しめ且酒と油を獲せしめ 15 また汝の家畜のために野に草を生ぜしむべし汝は食ひて飽ん 16 汝ら自ら慎むべし心迷ひ翻へりて他の神々に事へこれを拝む勿れ 17 恐くはエホバ汝らにむかひて怒を發して天を閉たまひ雨ふらず地物を生ぜずなりて汝らそのエホバに賜れる美地より速かに滅亡るに至らん 18 汝ら是等の我言を汝らの心と魂との中に蔵めまた之を汝らの手に結びて徴となし汝らの目の間におきて誌となし 19 之をなんぢらの子等に教へ家に坐する時も路を歩む時も寝る時も興る時もこれを語り 20 また汝の家の柱となんぢの門に之を書記べし 21 然せばエホバが汝らの先祖等に與へんと誓ひたまひし地に汝らのをる日および汝らの子等のをる日は數多くして天の地を覆ふ日の久きが如くならん 22 汝らもし我が汝ら

に命ずる此一切の誠命を善く守りてこれを行ひ汝等の神エホバを愛しその一切の道に歩み之に附従がはば 23 エホバこの國々の民をことごとく汝らの前より逐はらひたまはん而して汝らは己よりも大にして能力ある國々を獲にいたるべし 24 凡そ汝らが足の跡にて踏む處は皆汝らの有とならん即ち汝らの境界は曠野よりレバノンに亘りまたユフラテ河といふ河より西の海に亘るべし 25 汝らの前に立ことを得る人あらし汝らの神エホバ汝らが踏いるところの地の人々をして汝らを怖ぢ汝らを畏れしめたまふこと其嘗て汝らに言たまひし如くならん 26 視よ我今日汝らの前に祝福と呪詛とを置く 27 汝らもし我が今日なんぢらに命ずる汝らの神エホバの誠命に遵はば祝福を得ん 28 汝らもし汝らの神エホバの誠命に遵はず翻へりて我が今日なんぢらに命ずる道を離れ素知ざりし他の神々に従がひなば呪詛を蒙らん 29 汝の神エホバ汝が往て獲んとする地に汝を導きいりたまふ時は汝ゲリジム山に祝福を置きエバル山に呪詛をおくべし 30 この二山はヨルダンの彼旁アラバに住るカナン人の地において日の出る方の道の後にありギルガルに對ひてモレの橡樹と相去こと遠らざるにあらずや 31 汝らはヨルダンを濟り汝らの神エホバの汝らに賜ふ地に進みいりて之を獲んとす必ずこれを獲て其處に住ことを得ん 32 然ば我が今日なんぢらに授くところの法度と律法を汝らことごとく守りて行ふべし

12 是は汝の先祖等の神エホバの汝に與へて獲させたまふところの地において汝らが世に生存ふる日の間常に守り行ふべき法度と律法となり 2 汝らが逐はらふ國々の民がその神々に事へし處は山にある者も

岡にある者も青樹の下にある者もみな之を盡く毀ち
3 その壇を毀ちその柱を碎きそのアシラ像を火にて焼
きましたその神々の雕像を斫倒して之が名をその處よ
り絶去べし 4 但し汝らの神エホバには汝ら是のごと
く爲べからず 5 汝らの神エホバがその名を置んとて
汝らの支派の中より擇びたまふ處なるエホバの住居
を汝ら尋ね求めて其處にいたり 6 汝らの燔祭と犠牲
汝らの什一と汝らの手の擧祭汝らの願還と自意の禮
物および汝らの牛羊の首出等を汝ら其處に携へ詣り
7 其處にて汝らの神エホバの前に食をなし又汝らと汝
らの家族皆その手を勞して獲たる物をもて快樂を取
べし是なんぢの神エホバの祝福によりて獲たるもの
なればなり 8 汝ら彼處にては我らが今日此に爲ごと
く各々その目に善と見ところを爲べからず 9 汝らは
尚いまだ汝らの神エホバの賜ふ安息と産業にいたら
ざるなり 10 然ど汝らヨルダンを渡り汝らの神エホバ
の汝らに與へて獲させたまふ地に住にいたらん時
またエホバ汝らの周圍の敵を除き汝らに安息を賜ひて
汝等安泰に住ふにいたらん時は 11 汝らの神エホバそ
の名を置んために一の處を擇びたまはん汝ら其處に
我が命ずる物を都て携へゆくべし即ち汝らの燔祭と
犠牲と汝らの什一と汝らの手の擧祭および汝らがエ
ホバに誓願をたてて献んと誓ひし一切の佳物とを携
へいたるべし 12 汝らは汝らの男子女子僕婢とともに
汝らの神エホバの前に樂むべしまた汝らの門の内に
をるレビ人とも然すべし其は是は汝らの中間に分な
く産業なき者なればなり 13 汝慎め凡て汝が自ら擇ぶ
處にて燔祭を献ることをする勿れ 14 唯汝らの支派の
一の中にエホバの選びたまはんその處に於て汝燔祭

を献げまた我が汝に命ずる一切の事を爲べし 15 彼處にては汝の神エホバの汝にたまふ祝福に循ひて汝その心に好む獣畜を汝の門の内に殺してその肉を食ふことを得即ち汚れたる人も潔き人もこれを食ふを得ること羚羊と牡鹿に於けるが如し 16 但しその血は食ふべからず水の如くにこれを地に灌ぐべし 17 汝の穀物と酒と油の什一および汝の牛羊の首出ならびに汝が立し誓願を還すための禮物と汝の自意の禮物および汝の手の擧祭の品は汝これを汝の門の内に食ふべからず 18 汝の神エホバの選びたまふ處において汝の神エホバの前に汝これを食ふべし即ち汝の男子女子僕婢および汝の門の内にをるレビ人とともに之を食ひ汝の手を勞して獲たる一切の物をもて汝の神エホバの前に快樂を取べし 19 汝慎め汝が世に生存ふる日の間レビ人を棄る勿れ 20 汝の神エホバ汝に言しごとくに汝の境界を廣くしたまふに及び汝心に肉を食ふことを欲して言ん我肉を食はんと然る時は汝すべてその心に好む肉を食ふことを得べし 21 もし汝の神エホバのその名を置んとて擇びたまへる處汝と離ること遠からば我が汝に命ぜし如く汝そのエホバに賜はれる牛羊を宰り汝の門の内にて凡てその心に好む者を食ふべし 22 牡鹿と羚羊を食ふがごとく汝これを食ふことを得汚れたる者も潔き者も均くこれを食ふことを得るなり 23 唯堅く慎みてその血を食はざれ血はこれが生命なればなり汝その生命を肉とともに食ふべからず 24 汝これを食ふ勿れ水のごとくにこれを地に灌ぐべし 25 汝血を食はざれ汝もし斯エホバの善と觀たをふ事を爲ば汝の身と汝の後の子孫とに福祉あらん 26 唯汝の献げたる聖物と誓願の物とはこれを

エホバの擇びたまふ處に携へゆくべし 27 汝燔祭を獻
る時はその肉と血を汝の神エホバの壇に供ふべくま
た犠牲を獻る時はその血を汝の神エホバの壇の上に
灌ぎその肉を食ふべし 28 わが汝に命ずる是等の言を
汝聽て守れ汝かく汝の神エホバの善と觀正と觀たま
ふ事を爲ば汝と汝の後の子孫に永く福祉あらん 29 汝
の神エホバ汝が往て逐はらはんとする國々の民を汝
の前より絶去たまひて汝つひにその國々を獲てその
地に住にいたらん時は 30 汝みづから慎め彼らが汝の
前に亡びたる後汝かれらに倣ひて罣にかかる勿れま
た彼らの神を尋求めこの國々の民は如何なる様にて
その神々に事へたるか我もその如くにせんと言こと
なかれ 31 汝の神エホバに向ひては汝然す可らず彼ら
はエホバの忌かつ憎みたまふ諸の事をその神にむか
ひて爲しその男子女子をさへ火にて焚てその神々に
獻げたり 32 我が汝らに命ずるこの一切の言をなんぢ
ら守りて行ふべし汝これを増なかれまた之を減すな
かれ

13 汝らの中に預言者あるひは夢者興りて徴證と奇
蹟を汝に見し 2 汝に告て我らは今より汝と我とが是
まで識ざりし他の神々に従ひて之に事へんと言こと
あらんにその徴證または奇蹟これが言ごとく成とも
3 汝その預言者または夢者の言に聽したがふ勿れ其は
汝等の神エホバ汝らが心を盡し精神を盡して汝らの
神エホバを愛するや否やを知んとて斯なんぢらを試
みたまふなればなり 4 汝らは汝らの神エホバに従ひ
て歩み之を畏れその誠命を守りその言に遵ひ之に事
へこれに附従ふべし 5 その預言者または夢者をば殺
すべし是は彼汝らをして汝らをエジプトの國より導

き出し奴隸の家より贖ひ取たる汝らの神エホバに背
かせんとし汝の神エホバの汝に歩めと命ぜし道より
汝を誘ひ出さんとして語るに因てなり汝斯して汝の
中より悪を除き去べし 6 汝の母の生る汝の兄弟また
は汝の男子女子または汝の懐の妻または汝と身命を
共にする汝の友潜に汝を誘ひて言あらん汝も汝の先
祖等も識ざりし他の神々に我ら往て事へん 7 即ち汝
の周圍にある國々の神の或は汝に近く或は汝に遠く
して地の此極より地の彼極までに鎮り坐る者に我ら
事へんと斯言ことあるとも 8 汝これに従ふ勿れ之に
聽なかれ之を惜み視る勿れ之を憐むなかれ之を庇ひ
匿す勿れ 9 汝かならず之を殺すべし之を殺すには汝
まづ之に手を下し然る後に民みな手を下すべし 10 彼
はエジプトの國奴隸の家より汝を導き出したまひし
汝の神エホバより汝を誘ひ離さんと求めたれば汝石
をもて之を撃殺すべし 11 然せばイスラエルみな聞て
懼れ重ねて斯る悪き事を汝らの中に行はざらん 12 汝
聞に汝の神エホバの汝に與へて住しめたまへる汝の
邑の一に 13 邪僻なる人々興り我らは今まで識ざりし
他の神々に往て事へんと言てその邑に住む人を誘ひ
惑はしたりと言あらば 14 汝これを尋ね探り善問べし
若その事眞にその言確にして斯る憎むべき事汝ら
の中に行はれたらば 15 汝かならずその邑に住む者を刃
にかけて撃ころしその邑とその中に居る一切の者お
よびその家畜を刃にかけて盡く撃ころすべし 16 また
その中より獲たる掠取物は凡てこれをその衢に集め
火をもてその邑とその一切の掠取物をことごとく焚
て汝の神エホバに供ふべし是は永く荒邱となりて再
び建なほさるること無るべきなり 17 斯汝この詛はれ

し物を少許も汝の手に附おく勿れ然せばエホバその
烈しき怒を静め汝に慈悲を加へて汝を憐れみ汝の先
祖等に誓ひしごとく汝の数を衆くしたまはん 18 汝も
し汝の神エホバの言を聴き我が今日なんぢに命ずる
その一切の誠命を守り汝の神エホバの善と觀たまふ
事を行はば是のごとくなるべし

14 汝らは汝等の神エホバの子等なり汝ら死者の
ために己が身に傷くべからずまた己が目の間にあた
る頂の髪を剃べからず 2 其は汝は汝の神エホバの聖
民なればなりエホバは地の面の諸の民の中より汝を
擇びて己の寶の民となし給へり 3 汝穢はしき物は何
をも食ふ勿れ 4 汝らが食ふべき獣畜は是なり即ち牛
羊山羊 5 牡鹿 羚羊 小鹿 麋 麂 麝 麝など 6 凡て獣畜
の中蹄の分れ割て二つの蹄を成る反芻獣は汝ら之を
食ふべし 7 但し反芻者と蹄の分れたる者の中汝らの
食ふべからざる者は是なり即ち駱駝 兔および山鼠是
らは反芻ども蹄わかれざれば汝らには汚れたる者な
り 8 また豚是は蹄わかるれども反芻ことをせざれば
汝らには汚たる者なり汝ら是等の物の肉を食ふべか
らずまたその死體に捫るべからず 9 水にをる諸の物
の中是のごとき者を汝ら食ふべし即ち凡て翅と鱗の
ある者は皆汝ら之を食ふべし 10 凡て翅と鱗のあらざ
る者は汝らこれを食ふべからず是は汝らには汚たる
者なり 11 また凡て潔き鳥は皆汝らこれを食ふべし 12
但し是等は食ふべからず即ち鷓鴣 鷓鴣 鷓鴣 鷓鴣
の類 14 各種の鴉の類 15 駝鳥 梟 鷂 雀 鷹の類 16 鸛 鷺
白鳥 17 鷓鴣 大鷹 鷓 18 鷓 鷓鴣の類 鷓鴣および蝙蝠 19
また凡て羽翼ありて匍ところの者は汝らには汚たる
者なり汝らこれを食ふべからず 20 凡て羽翼をもて飛

ところの潔き物は汝らこれを食ふべし 21 凡そ自ら死
たる者は汝ら食ふべからず汝の門の内にをる他國の
人に之を與へて食しかべし又これを異邦人に賣も可
し汝は汝の神エホバの聖民なればなり汝山羊羔をそ
の母の乳にて煮べからず 22 汝かならず年々に田畝に
種蒔て獲ところの産物の什一を取べし 23 而して汝の
神エホバの前すなはちエホバのその名を置んとて擇
びたまはん處において汝の穀物と酒と油の什一を食
ひまた汝の牛羊の首出を食ひ斯して汝の神エホバを
常に畏ることを學ぶべし 24 但しその路行に勝がた
くして之を携へいたること能はざる時または汝の神
エホバのその名を置んとて擇びたまへる處汝を離る
ること餘りに遠き時は汝もし汝の神エホバの恩恵に
潤ふ身ならば 25 その物を金に易へその金を包みて手
に執り汝の神エホバの擇びたまへる處に往き 26 凡て
汝の心の好む物をその金に易べし即ち牛羊葡萄酒濃
酒など凡て汝が心に欲する物をもとめ其處にて汝の
神エホバの前にこれを食ひ汝と汝の家族ともに樂む
べし 27 汝の門の内にをるレビ人を棄る勿れ是は汝の
中間に分なく産業なき者なればなり 28 三年の末に到
る毎にその年の産物の十分の一を盡く持出してこれ
を汝の門の内に儲蓄ふべし 29 然る時は汝の中間に分
なく産業なきレビ人および汝の門の内にをる他國の
人と孤子と寡婦など來りてこれを食ひて飽ん斯せば
汝の神エホバ汝が手をもて爲ところの諸の事におい
て汝に福祉を賜ふべし

15 七年の終に至るごとに汝放釋を行ふべし 2 その
放釋の例は是のごとし凡てその鄰に貸ことを爲しそ
の債主は之を放釋べしその鄰またはその兄弟にこれ

を督促べからず是はエホバの放釋と稱へらるればなり 3 異國の人には汝これを督促ことを得されど汝の兄弟に貸たる物は汝の手よりこれを放釋べし 4 斯せば汝らの中間に貧者なからん其は汝の神エホバその汝に與へて産業となさしめたまふ地において大に汝を祝福たまふべければなり 5 只汝もし謹みて汝の神エホバの言に聽したがひ我が今日なんぢに命ずるこの誠命を盡く守り行ふに於ては是のごとくなるべし 6 汝の神エホバ汝に言しごとく汝を祝福たまふべければ汝は衆多の國人に貸ことを得べし然ど借こと有じまた汝は衆多の國人を治めん然ど彼らは汝を治むることあらじ 7 汝の神エホバの汝に賜ふ地において若汝の兄弟の貧き人汝の門の中にをらばその貧しき兄弟にむかひて汝の心を剛愎にする勿れまた汝の手を閉る勿れ 8 かならず汝の手をこれに開き必ずその要むる物をこれに貸あたへてこれが乏しきを補ふべし 9 汝慎め心に惡き念を起し第七年放釋の年近づけりと言て汝の貧き兄弟に目をかけざる勿れ汝もし斯之に何をも與へずしてその人これがために汝をエホバに訴へなば汝罪を獲ん 10 汝かならず之に與ふることを爲べしまた之に與ふる時は心に惜むこと勿れ其は此事のために汝の神エホバ汝の諸の事業と汝の手の諸の働作とに於て汝を祝福たまふべければなり 11 貧き者は何時までも國にたゆること無るべければ我汝に命じて言ふ汝かならず汝の國の中なる汝の兄弟の困難者と貧乏者とに汝の手を開くべし 12 汝の兄弟たるヘブルの男またはヘブルの女汝の許に賣れたらんに若六年なんぢに事へたらば第七年に汝これを放ちて去しむべし 13 汝これを放ちて去しむる時は空手にて

去しむべからず **14** 汝の群と禾場と搾場の中より贈物
を取て之が肩に負すべし即ち汝の神エホバの汝を祝
福て賜ふところの物をこれに與ふべし **15** 汝記憶べし
汝はエジプトの國に奴隸たりしが汝の神エホバ汝を
贖ひ出したまへり是故に我今日この事を汝に命ず **16**
その人もし汝と汝の家を愛し汝と偕にをるを善とし
て汝にむかひ我汝を離れて去を好まずと言ば **17** 汝錐
を取て彼の耳を戸に刺とほすべし然せば彼は永く汝
の僕たるべし汝の婢にもまた是のごとくすべし **18** 汝
これを放ちて去しむるを難き事と見るべからず其は
彼が六年汝に事へて働きしは工價を取る傭人の二倍
に當ればなり汝斯なさば汝の神エホバ汝が凡て爲と
ころの事に於て汝をめぐみたまふべし **19** 汝の牛羊の
産る初子は皆これを聖別て汝の神エホバに歸せしむ
べし汝の牛の初子をもちゐて何の工作をも爲べから
ず又汝の羊の初子の毛を剪べからず **20** 汝の神エホバ
の選びたまへる處にてエホバの前に汝と汝の家族年
々にこれを食ふべし **21** 然どその畜もし疵ある者すな
はち跛足盲目なるなど凡て悪き疵ある者なる時は汝
の神エホバにこれを宰りて獻ぐべからず **22** 汝の門の
内にこれを食ふべし汚れたる者も潔き者も均くこれ
を食ふを得ること牡鹿と羚羊のごとし **23** 但しその血
はこれを食ふべからず水のごとくにこれを地に灌ぐ
べし

16 汝アビブの月を守り汝の神エホバに對ひて逾越
節を行なへ其はアビブの月に於て汝の神エホバ夜の
間に汝をエジプトより導き出したまひたればなり **2**
汝すなはちエホバのその名を置んとて擇びたまふ處
にて羊および牛を宰り汝の神エホバの前に逾越節を

なすべし 3 酔いれたるパンを之とともに食ふべから
ず七日の間酔いれぬパン即ち憂患のパンを之ととも
に食ふべし其は汝エジプトの國より出る時は急ぎて
出たればなり斯おこなひて汝その世に生存ふる日の
間恒に汝がエジプトの國より出来し日を誌ゆべし 4
その七日の間は汝の四方の境の内にパン酔の見るこ
と有しむべからず又なんぢが初の日の薄暮に宰りた
る者の肉を翌朝まで存しおくべからず 5 汝の神エホ
バの汝に賜ふ汝の門の内にて逾越の牲畜を宰るこ
とを爲べからず 6 惟汝の神エホバのその名を置んとて
選びたまふ處にて汝薄暮の日の入る頃汝がエジプト
より出たる時刻に逾越の牲畜を宰るべし 7 而して汝
の神エホバの選びたまふ處にて汝これを燐て食ひ朝
におよびて汝の天幕に歸り往くべし 8 汝六日の間酔
いれぬパンを食ひ第七日に汝の神エホバの前に會を
開くべし何の職業をも爲べからず 9 汝また七七日を
計ふべし即ち穀物に鎌をいれ初る時よりしてその七
七日を計へ始むべきなり 10 而して汝の神エホバの前
に七週の節筵を行なひ汝の神エホバの汝を祝福たま
ふ所にしたがひ汝の力に應じてその心に願ふ禮物を
献ぐべし 11 斯して汝と汝の男子女子奴婢および汝の
門の内に居るレビ人ならびに汝らの中間にをる賓旅
と孤子と寡婦みなともに汝の神エホバのその名を置
んとて選びたまふ處にて汝の神エホバの前に樂むべ
し 12 汝その昔エジプトに奴隸たりしことを誌え是等
の法度を守り行ふべし 13 汝禾場と搾場の物を収蔵た
る時七日の間結茅節をおこなふべし 14 節筵をなす時
には汝と汝の男子女子奴婢および汝の門の内なるレ
ビ人賓旅孤子寡婦など皆ともに樂むべし 15 エホバの

選びたまふ處にて汝七日の間なんぢの神エホバの前に節筵をなすべし汝の神エホバ汝の諸の産物と汝が手の諸の工事とについて汝を祝福たまふべければ汝かならず樂むことを爲べし 16 汝の中間の男は皆なんぢの神エホバの擇びたまふ處にて一年に三次即ち酔いれぬパンの節と七週の節と結茅の節とに於てエホバの前に出べし但し空手にてエホバの前に出べからず 17 各人汝の神エホバに賜はる恩恵にしたがひて其力におよぶ程の物を献ぐべし 18 汝の神エホバの汝に賜ふ一切の邑々に汝の支派に循がひて士師と官人を立べし彼らはまだ義き審判をもて民を審判べし 19 汝裁判を枉べからず人を偏視るべからずまた賄賂を取べからず賄賂は智者の目を暗まし義者の言を枉ればなり 20 汝ただ公義を而已求むべし然せば汝生存へて汝の神エホバの汝に賜ふ地を獲にいたらん 21 汝の神エホバのために築くところの壇の傍にアシラの木像を立べからず 22 また汝の神エホバの惡みたまふ偶像を己のために造るべからず

17 凡て疵あり惡き處ある牛羊は汝これを汝の神エホバに献ぐべからず斯る者は汝の神エホバの忌嫌ひたまふ者なればなり 2 汝の神エホバの汝に賜ふ邑々の中にて汝らの中間に若し或男または女汝の神エホバの目の前に惡事を行ひてその契約に悖り 3 往て他の神々に事へてこれを拝み我が命ぜざる日や月や天の衆群などを拝むあらんに 4 その事を汝に告る者ありて汝これを聞き細かにこれを調べ見るにその事眞にその言確にしてイスラエルの中に斯る憎むべき事行はれ居たらば 5 汝その惡き事を行へる男または女を汝の門に曳いだし石をもてその男または女を擊殺

すべし 6 殺すべき者は二人の証人または三人の証人の口に依てこれを殺すべし惟一人の証人の口のみをもて之を殺すことは爲べからず 7 斯る者を殺すには証人まづその手を之に加へ然る後に民みなその手を加ふべし汝かく悪事を汝らの中より除くべし 8 汝の門の内に訟へ争ふ事おこるに當りその事件もし血を相流す事または権理を相争ふ事または互に相撃たる事などにして汝に裁判かぬる者ならば汝起あがりて汝の神エホバの選びたまふ處に上り行き 9 祭司なるレビ人と當時の士師とに詣りて問べし彼ら裁判の言詞を汝に示さん 10 エホバの選びたまふ處にて彼らが汝に示す命令の言のごとくに汝行ひ凡て彼らが汝に教ふるごとくに慎みて爲べし 11 即ち故らが汝に教ふる律法の命令に循がひ彼らが汝に告る裁判に依て行ふべし彼らが汝に示す言に違ふて右にも左にも偏るべからず 12 人もし自ら壇斷にしその汝の神エホバの前に立て事ふる祭司またはその士師に聽したがはざる有ばその人を殺しイスラエルの中より惡を除くべし 13 然せば民みな聞て畏れ重て壇斷に事をなさざらん 14 汝の神エホバの汝に賜ふ地に汝いたり之を獲て其處に住におよべる時汝もし我周圍の一切の國人のごとくに我も王をわが上に立んと言あらば 15 只なんぢの神エホバの選びたまふ人を汝の上にてたてて王となすべしまた汝の上にて王を立てるには汝の兄弟の中の人をもてすべし汝の兄弟ならざる他國の人を汝の上に立べからず 16 但し王となれる者は馬を多く得んとすべからず又馬を多く得んために民を率てエジプトに還るべからず其はエホバなんぢらに向ひて汝らはこの後かきねて此路に歸るべからずと宣ひたればな

り 17 また妻を多くその身に有て心を迷すべからずまた金銀を己のために多く蓄積べからず 18 彼その國の位に坐するにいたらば祭司なるレビ人の前にある書よりしてこの律法を一の書に書寫さしめ 19 世に生存ふる日の間つねにこれを己の許に置いて誦み斯してその神エホバを畏るることを學びこの律法の一切の言と是等の法度を守りて行ふべし 20 然せば彼の心その兄弟の上に高ぶること無くまたその誠命を離れて右にも左にもまがること無してその子女とともにその國においてイスラエルの中にその日を永うすることを得ん

18 祭司たるレビ人およびレビの支派は都てイスラエルの中に分なく産業なし彼らはエホバの火祭の品とその産業の物を食ふべし 2 彼らはその兄弟の中間に産業を有じエホバこれが産業たるたり即ちその曾て之に言たまひしが如し 3 祭司が民より受べき分は是なり即ち凡て犠牲を献ぐる者は牛にもあれ羊にもあれその肩と兩方の頬と胃とを祭司に與ふべし 4 また汝の穀物と酒と油の初および羊の毛の初をも之にあたふべし 5 其は汝の神エホバ汝の諸の支派の中より彼を選び出し彼とその子孫をして永くエホバの名をもて立て奉事をなさしめたまへばなり 6 レビ人はイスラエルの全地の中何の處に居る者にもあれその寄寓たる汝の邑を出てエホバの選びたま處に到るあらば 7 その人はエホバの前に侍るその諸兄弟のレビ人とおなじくその神エホバの名をもて奉事をなすことを得べし 8 その人の得て食ふ分は彼らと同じ但しその父の遺業を賣て獲たる物はこの外に彼に屬す 9 汝の神エホバの汝に賜ふ池にいたるに及びて汝その

國々の民の憎むべき行爲を倣ひ行ふなかれ 10 汝らの
中間にその男子女子をして火の中を通らしむる者あ
るべからずまた卜筮する者邪法を行なふ者禁厭する
者魔術を使ふ者 11 法印を結ぶ者憑鬼する者巫覡の業
をなす者死人に詢ことをする者あるべからず 12 凡て
是等の事を爲す者はエホバこれを憎たまふ汝の神エ
ホバが彼らを汝の前より逐はらひたまひしも是等の
憎むべき事のありしに因てなり 13 汝の神エホバの前
に汝完き者たれ 14 汝が逐はらふ故の國々の民は邪法
師卜筮師などに聽ことをなせり然ど汝には汝の神エ
ホバ然する事を許したまはず 15 汝の神エホバ汝の中
汝の兄弟の中より我のごとき一箇の預言者を汝のた
めに興したまはん汝ら之に聽ことをすべし 16 是まっ
たく汝が集會の日にホレブにおいて汝の神エホバに
求めたる所なり即ち汝言けらく我をして重てこの我
神エホバの聲を聞しむる勿れまた重てこの大なる火
を見さする勿れ恐くは我死んと 17 是においてエホバ
我に言たまひけるは彼らの言る所は善し 18 我かれら
兄弟の中より汝のごとき一箇の預言者を彼らのため
に興し我言をその口に授けん我が彼に命ずる言を彼
ことごとく彼らに告べし 19 凡て彼が吾名をもて語る
ところの吾言に聽したがはざる者は我これを罰せん
20 但し預言者もし我が語れと命ぜざる言を吾名をも
て縦肆に語りまたは他の神々の名をもて語ることを
爲すならばその預言者は殺さるべし 21 汝あるひは心
に謂ん我ら如何にしてその言のエホバの言たまふ者
にあらざるを知んと 22 然ば若し預言者ありてエホバ
の名をもて語ることをなすにその言就ずまた效あら
ざる時は是エホバの語りたまふ言にあらずしてその

預言者が縦肆に語るころなり汝その預言者を畏るに及ばず

19 汝の神エホバこの國々の民を滅し絶ち汝の神エホバこれが地を汝に賜ふて汝つひにこれを獲その邑々とその家々に住にいたる時は **2** 汝の神エホバの汝に與へて産業となさしめたまふ地の中に三の邑を汝のために區別べし **3** 而して汝これに道路を開きまた汝の神エホバの汝に與へて産業となさしめたまふ地の全體を三の區に分ち凡て人を殺せる者をして其處に逃れしむべし **4** 人を殺せる者の彼處に逃れて生命を全うすべきその事は是のごとし即ち凡て素より惡むことも無く知ずしてその鄰人を殺せる者 **5** 例ば人木を伐んとてその鄰人とともに林に入り手に斧を執て木を斫んと撃おろす時にその頭の鐵柯より脱てその鄰人にあたりて之を死しめたるが如き是なり斯る人は是等の邑の一に逃れて生命を全うすべし **6** 恐くは復仇する者心熱してその殺人者を追かけ道路長きにおいては遂に追しきて之を殺さん然るにその人は素より之を惡みたる者にあらざれば殺さるべき理あらざるなり **7** 是をもて我なんぢに命じて三の邑を汝のために區別べしと言ひ **8** 汝の神エホバ汝の先祖等に誓ひしごとく汝の境界を廣め汝の先祖等に與へんと言ひ地を盡く汝に賜ふにいたらん時 **9** 即ち汝我が今日なんぢに命ずるこの一切の誠命を守りてこれを行なひ汝の神エホバを愛し恒にその道に歩まん時はこの三の外にまた三の邑を増加ふべし **10** 是汝の神エホバの汝に與へて産業となさしめたまふ地に辜なき者の血を流すこと無らんためなり斯せずばその血汝に歸せん **11** 然どもし人その隣人を惡みて之を附覘ひ

起かかり撃てその生命を傷ひて之を死しめ而してこの邑の一に逃れたる事あらば **12** その邑の長老等人を遣て之を其處より曳きたらしめ復仇者の手にこれを付して殺さしむべし **13** 汝かれを憫み視るべからず辜なき者の血を流せる咎をイスラエルより除くべし然せば汝に福祉あらん **14** 汝の神エホバの汝に與へて獲させたまふ地の中において汝が嗣ぐところの産業に汝の先人の定めたる汝の鄰の地界を侵すべからず **15** 何の悪にもあれ凡てその犯すところの罪は只一人の證人によりて定むべからず二人の證人の口によりまたは三人の證人の口によりてその事を定むべし **16** もし偽妄の證人起りて某の人は悪事をなせりと言たつること有ば **17** その相争ふ二人の者エホバの前に至り當時の祭司と士師の前に立べし **18** 然る時士師詳細にこれを查べ視るにその證人もし偽妄の證人にしてその兄弟にむかひて虚妄の證をなしたる者なる時は **19** 汝兄弟に彼が蒙らさんと謀れる所を彼に蒙らし斯して汝らの中より悪事を除くべし **20** 然せばその遣れる者等聞て畏れその後かさねて斯る悪き事を汝らの中におこなはじ **21** 汝憫み視ることをすべからず生命は生命眼は眼齒は齒手は手足は足をもて償はしむべし

20 汝その敵と戦はんとて出るに當り馬と車を見また汝よりも數多き民を見るもこれに懼るる勿れ其は汝をエジプトの國より導き上りし汝の神エホバなんぢとともに在せばなり **2** 汝ら戦闘に臨む時は祭司進みいで民に告て **3** 之に言べしイスラエルよ聽け汝らは今日なんぢらの敵と戦はんとて進み來れり心に臆する勿れ懼るるなかれ倉皇なかれ彼らに怖るなかれ **4** 其は汝らの神エホバ汝らとともに行き汝らのために

汝らの敵と戦ひて汝らを救ひたまふべければなりと
5 斯てまた有司等民に告て言べし誰か新しき家を建て
之に移らざる者あるかその人は家に歸りゆくべし恐
くは自己戦闘に死て他の人これに移らん 6 誰か菓物
園を作りてその果を食はざる者あるかその人は家に
歸りゆくべし恐くは自己戦闘に死て他の人これを食
はん 7 誰か女と契りて之を娶らざる者あるかその人
は家に歸りゆくべし恐くは自己戦闘に死て他の人こ
れを娶らんと 8 有司等なほまた民に告て言べし誰か
懼れて心に臆する者あるかその人は家に歸りゆくべ
し恐くはその兄弟たちの心これが心のごとく挫けん
と 9 有司等かく民に告ることを終たらば軍勢の長等
を立て民を率しむべし 10 汝ある邑に進みゆきて之を
攻んとする時は先これに平穩に降ることを勸むべし
11 その邑もし平穩に降らんと答へてその門を汝に開
かば其處なる民をして都て汝に貢を納しめ汝に事へ
しむべし 12 其もし平穩に汝に降ることを肯んぜずし
て汝と戦かはんとせば汝これを攻べし 13 而して汝の
神エホバこれを汝の手に付したまふに至らば刃をも
てその中の男を盡く擊殺すべし 14 惟その婦女嬰孩家
畜および凡てその邑の中にて汝が奪ひ獲たる物は盡
く己に取べし抑汝がその敵より奪ひ獲たる物は汝の
神エホバの汝に賜ふ者なれば汝これをもて樂むべし
15 汝を離るることの遠き邑々すなはち是等の國々に
屬せざるところの邑々には凡てかくのごとく行なふ
べし 16 但し汝の神エホバの汝に與へて産業となさし
めたまふこの國々の邑々においては呼吸する者を一
人も生し存べからず 17 即ちヘテ人 アモリ人 カナン
人 ペリジ人 ヒビ人 エブス人などは汝かならずこれ

を滅ぼし盡して汝の神エホバの汝に命じたまへる如くすべし 18 斯するは彼らとその神々にむかひて行ふところの憎むべき事を汝らに教へて之を倣ひおこなはしめ汝らをして汝らの神エホバに罪を獲せしむる事のなからんためなり 19 汝久しく邑を圍みて之を攻取んとする時においても斧を振ふて其處の樹を砍枯すべからず是は汝の食となるべき者なり且その城攻において田野の樹あに人のごとく汝の前に立ふさがらんや 20 但し果を結ばざる樹と知る樹はこれを砍り枯し汝と戦ふ邑にむかひて之をもて雲梯を築きその降るまで之を攻るも宜し

21 汝の神エホバの汝に與へて獲させたまふ地において若し人殺されて野に仆れをるあらんに之を殺せる者の誰なるかを知ざる時は 2 汝の長老等と士師等出きたりその人の殺されをる處よりその四周の邑々までを度るべし 3 而してその人の殺されをる處に最も近き邑すなはちその邑の長老等は未だ使はず未だ軛を負せて牽ざるところの少き牝牛を取り 4 邑の長老等その牝牛を耕すことも種蒔こともせざる流つきせぬ谷に牽ゆきその谷において牝牛の頸を折べし 5 その時は祭司たるレビの子孫等其處に進み來るべし彼らは汝の神エホバが選びて己に事へしめまたエホバの名をもて祝することを爲しめたまふ者にて一切の訴訟と一切の争競は彼らの口によりて決定るべきが故なり 6 而してその人の殺されをりし處に最も近き邑の長老等その谷にて頸を折たる牝牛の上において手を洗ひ 7 答へて言べし我らの手はこの血を流さず我らの目はこれを見ざりしなり 8 エホバよ汝が贖ひし汝の民イスラエルを赦したまへこの辜なき者の

血を流せる罰を汝の民イスラエルの中に降したまふ
勿れと斯せば彼らその血の罪を赦されん 9 汝かくエ
ホバの善と觀たまふ事をおこなひその辜なき者の血
を流せる咎を汝らの中より除くべし 10 汝出て汝の敵
と戦ふにあたり汝の神エホバこれを汝の手に付した
まひて汝これを俘虜となしたる時 11 汝もしその俘虜
の中に貌美しき女あるを見てこれを悦び取て妻とな
さんとせば 12 汝の家の中にこれを携へゆくべし而し
て彼はその髪を剃り爪を截り 13 まだ俘虜の衣服を脱
すてて汝の家に居りその父母のために一月のあひだ
哀哭べし然る後なんぢ故の處に入りてこれが夫とな
りこれを汝の妻とすべし 14 その後汝もし彼を好まず
なりなば彼の心のままに去ゆかしむべし決して金の
ためにこれを賣べからず汝すでにこれを犯したれば
之を嚴く待遇べからざるなり 15 人二人の妻ありてそ
の一人は愛する者一人は惡む者ならんにその愛する
者と惡む者の二人ともに男の子を生ありてその長子
もし惡む婦の産る者なる時は 16 その子等に己の所有
を嗣しむる日にその惡む婦の産る長子を措てその愛
する婦の産る子を長子となすべからず 17 必ずその惡
む者の産る子を長子となし己の所有を分つ時にこれ
には二倍を與ふべし是は己の力の始にして長子の權
これに屬すればなり 18 人にもし放肆にして背悖る子
ありその父の言にも母の言にも順はず父母これを責
るも聽ことをせざる時は 19 その父母これを執へてそ
の處の門にいたり邑の長老等に就き 20 邑の長老たち
に言べし我らの此子は放肆にして背悖る者我らの言
にしたがはざる者放蕩にして酒に耽る者なりと 21 然
る時は邑の人みな石をもて之を擊殺すべし汝かく汝

らの中より悪事を除き去べし然せばイスラエルみな
聞て懼れん 22 人もし死にあたる罪を犯して死刑に遇
ことありて汝これを木に懸て曝す時は 23 翌朝までそ
の體を木の上に留おくべからず必ずこれをその日の
中に埋むべし其は木に懸らるる者はエホバに詛はる
る者なればなり斯するは汝の神エホバの汝に賜ふて
産業となさしめたまふ地の汚れざらんためなり

22 汝の兄弟の牛または羊の迷ひをるを見てこれを見
すて置べからず必ずこれを汝の兄弟に牽ゆきて歸
すべし 2 汝の兄弟もし汝に近からざるか又は汝かれ
を知ざる時はこれを汝の家に牽ゆきて汝の許におき
汝の兄弟の尋ねきたるに及びて之を彼に還すべし 3
汝の兄弟の驢馬におけるも是のごとく爲しまたその
衣服におけるも斯なすべし凡て汝の兄弟の失ひたる
遺失物を得たる時も汝かく爲べし之を見すておくべ
からず 4 また汝の兄弟の驢馬または牛の途に踏れを
るを見て見すておくべからず必ずこれを助け起すべ
し 5 女は男の衣服を纏ふべからずまた男は女の衣裳
を著べからず凡て斯する者は汝の神エホバこれを憎
みたまふなり 6 汝鳥の巢の路の頭または樹の上または
土の上にあるを見んに雛または卵その中にありて
母鳥その雛または卵の上に伏をらばその母鳥を雛と
ともに取べからず 7 かならずその母鳥を去しめ唯そ
の雛のみをとるべし然せば汝福祉を獲かつ汝の日を
永うすることを得ん 8 汝新しき家を建る時はその屋
蓋の周圍に欄杆を設くべし是は人その上より墮てこ
れが血の汝の家に歸すること無らんためなり 9 汝菓
物園に異類の種を混て播べからず然せば汝が播たる
種より産する物および汝の菓物園より出る菓物みな

聖物とならん 10 汝牛と驢馬とを耦せて耕すことを爲べからず 11 汝毛と麻とをまじへたる衣服を著べからず 12 汝が上に纏ふ衣服の裾の四方に縫をつくべし 13 人もし妻を娶り之とともに寝て後これを嫌ひ 14 我この婦人を娶りしが之と寝たる時にその處女なるを見ざりしと言て誹謗の辭柄を設けこれに惡き名を負せなば 15 その女の父と母その女の處女なる證跡を取り門にをる邑の長老等にこれを差出し 16 而してその女の父長老等に言べし我この人にわが女子を與へて妻となさしめしにこの人これを嫌ひ 17 誹謗の辭柄を設けて言ふ我なんぢの女子の處女なるを見ざりしと然るに吾女子の處女なりし證跡は此にありと斯いひてその父母かの布を邑の長老等の前に展べし 18 然る時は邑の長老等その人を執へてこれを鞭ち 19 又これに銀百シケルを罰してその女の父に償はしむべし其はイスラエルの處女に惡き名を負せられたればなり斯てその人はこれを妻とすべし一生これを去ことを得ず 20 然どこの事もし眞にしてその女の處女なる證跡あらざる時は 21 その女をこれが父の家の門に曳いだしその邑の人々石をもてこれを撃ころすべし其は彼その父の家にて淫なる事をなしてイスラエルの中に惡をおこなひたればなり汝かく惡事を汝らの中より除くべし 22 もし夫に適し婦と寝る男あるを見ばその婦と寝たる男と其婦とをともに殺し斯して惡事をイスラエルの中より除くべし 23 處女なる婦人すでに夫に適の約をなせる後ある男これに邑の内に遇てこれを犯さば 24 汝らその二人を邑の門に曳いだし石をもてこれを撃ころすべし是その女は邑の内にありながら叫ぶことをせざるに因りまたその男はその鄰の妻を辱

しめたるに困てなり汝かく悪事を汝らの中より除くべし 25 然ど男もし人に適の約をなしし女に野にて遇ひこれを強て犯すあらば之を犯しし男のみを殺すべし 26 その女には何をも爲べからず女には死にあたる罪なし人その鄰人に起むかひてこれを殺せるとその事おなじ 27 其は男野にてこれに遇たるが故にその人に適の約をなしし女叫びたれども拯ふ者なかりしなり 28 男もし未だ人に適の約をなさざる處女なる婦に遇ひこれを執へて犯すありてその二人見あらはされなば 29 これを犯せる男その女の父に銀五十シケルを與へて之を己の妻とすべし彼その女を辱しめたれば一生これを去るべからざるなり 30 人その父の妻を娶るべからずその父の被を掀開べからず

23 外賢を傷なひたる者または玉莖を切りたる者はエホバの會に入べからず 2 私子はエホバの會にいるべからず是は十代までもエホバの會にいるべからざるなり 3 アンモン人およびモアブ人はエホバの會にいる可らず故らは十代までも何時までもエホバの會にいるべからざるなり 4 是汝らがエジプトより出きたりし時に彼らはパンと水とをもて汝らを途に迎へずメソポタミアのペトル人ベオルの子バラムを傭ひて汝を誑はせんと爲たればなり 5 然れども汝の神エホバ、バラムに聽ことを爲給はずして汝の神エホバその呪詛を變て汝のために祝福となしたまへり是汝の神エホバ汝を愛したまふが故なり 6 汝一生いつまでも彼らのために平安をもまた福祿をも求むべからず 7 汝エドム人を惡べからず是は汝の兄弟なればなりまたエジプト人を惡むべからず汝もこれが國に客たりしこと有ばなり 8 彼等の生たる子等は三代にお

よばばエホバの會にいることを得べし 9 汝軍旅を出して汝の敵を攻る時は諸の悪き事を自ら謹むべし 10 汝らの中間にもし夜中計ずも汚穢にふれて身の潔からざる人あらば陣營の外にいづべし陣營の内に入べからず 11 而して薄暮に水をもて身を洗ひ日の入て後陣營に入べし 12 汝陣營の外に一箇の處を設けおき便する時は其處に往べし 13 また器具の中に小鍬を備へおき外に出て便する時はこれをもて土を掘り身を返してその汝より出たる物を蓋ふべし 14 其は汝の神エホバ汝を救ひ汝の敵を汝に付さんとて汝の陣營の中を歩きたまへばなり是をもて汝の陣營を聖潔すべし然せば汝の中に汚穢物あるを見て汝を離れたまふこと有ざるべし 15 その主人を避て汝の許に逃きたる僕をその主人に交すべからず 16 その者をして汝らの中に汝とともに居しめ汝の一の邑の中にて之が善と見て擇ぶ處に住しむべし之を虐遇べからず 17 イスラエルの女子の中に娼妓あるべからずイスラエルの男子の中に男娼あるべからず 18 娼妓の得たる價および狗の價を汝の神エホバの家に携へいりて何の誓願にも用ゐるべからず是等はともに汝の神エホバの憎みたまふ者なればなり 19 汝の兄弟より利息を取べからず即ち金の利息食物の利息など凡て利息を生ずべき物の利息を取べからず 20 他國の人よりは汝利息を取も宜し惟汝の兄弟よりは利息を取べからず然ば汝が往て獲ところの地において汝の神エホバ凡て汝が手に爲ところの事に福祥をくだしたまふべし 21 汝の神エホバに誓願をかけなば之か還すことを怠るべからず汝の神エホバかならずこれを汝に要めたまふべし怠る時は汝罪あり 22 汝誓願をかけざるも罪を獲ること

有じ 23 汝が口より出しし事は守りて行ふべし凡て自意の禮物は汝の神エホバに汝が誓願し口をもて約せしごとくに行ふべし 24 汝の鄰の葡萄園に至る時汝意にまかせてその葡萄を飽まで食ふも宜し然ど器の中に取りるべからず 25 また汝の鄰の麥圃にいたる時汝手にてその穂を摘食ふも宜し然ど汝の鄰の麥圃に鎌をいるべからず

24 人妻を取てこれを娶れる後恥べき所のこれにあるを見てこれを好まずなりたらば離縁状を書いてこれが手に交しこれをその家より出すべし 2 その婦これが家より出たる後往て他の人に嫁ぐことをせんに 3 後の夫もこれを嫌ひ離縁状を書いてその手にわたして之を家より出し又はこれを妻にめとれるその後の夫死るあるも 4 是は已に身を汚玷したるに因て之を出したるその先の夫ふたたびこれを妻にめとるべからず是エホバの憎みたまふ事なればなり汝の神エホバの汝に與へて産業となさしめたまふ地に汝罪を負すなかれ 5 人あらたに妻を娶りたる時は之を軍に出すべからずまた何の職務をもこれに任すべからずその人は一年家に間居してその娶れる妻を慰むべし 6 人その磨礮を質におくべからず是その生命をつなぐ物を質におくなればなり 7 イスラエルの子孫の中なるその兄弟を拐帶してこれを使ひまたはこれを賣る人あるを見ばその拐帶者を殺し然して汝らの中より惡を除くべし 8 汝癩病を慎み凡て祭司たるレビ人が汝らに教ふる所を善く守りて行ふべし即ち我が彼らに命ぜしごとくに汝ら守りて行ふべし 9 汝らがエジプトより出きたれる路にて汝の神エホバがミリアムに爲たまひしところの事を誌えよ 10 凡て汝の鄰に物を

貸あたふる時は汝みづからこれが家にいりてその質物を取べからず 11 汝は外に立をり汝が貸たる人その質物を外に持いだして汝に付すべし 12 その人もし困苦者ならば之が質物を留おきて睡眠に就べからず 13 かならず日の入る頃その質物を之に還すべし然せばその人おのれの上衣をまとふて睡眠につくことを得て汝を祝せん是汝の神エホバの前において汝の義となるべし 14 困苦る貧き傭人は汝の兄弟にもあれ又は汝の地にてなんぢの門の内に寄寓る他國の人にもあれ之を虐ぐべからず 15 當日にこれが値をはらふべし日の入るまで延すべからず其は貧き者にてその心にこれを慕へばなり恐らくは彼エホバに汝を訴ふるありて汝罪を獲ん 16 父はその子等の故によりて殺さるべからず子等はその父の故によりて殺さるべからず各人おのれの罪によりて殺さるべきなり 17 汝他國の人または孤子の審判を曲べからずまた寡婦の衣服を質に取べからず 18 汝誌ゆべし汝はエジプトに奴隸たりしが汝の神エホバ汝を其處より贖ひいだしたまへり是をもて我この事をなせと汝に命ずるなり 19 汝田野にて穀物を刈る時もしその一束を田野に忘れおきたらば返りてこれを取べからず他國の人と孤子と寡婦とにこれを取すべし然せば汝の神エホバ凡て汝が手に作ところの事に祝福を降したまはん 20 汝橄欖を打落す時は再びその枝をさがすべからずその遺れる者を他國の人と孤子と寡婦とに取すべし 21 また葡萄園の葡萄を摘む時はその遺れる者を再びさがすべからず他國の人と孤子と寡婦とにこれを取すべし 22 汝誌ゆべし汝はエジプトの國に奴隸たりしなり是をもて我この事を爲せと汝に命ず

25 人と人との間に争辩ありて來りて審判を求むる時は士師これを鞠きその義き者を義とし惡き者を惡とすべし **2** その惡き者もし鞭つべき者ならば士師これを伏せその罪にしたがひて數のごとく自己の前にてこれを扑すべし **3** これを扑ことは四十を逾べからず若これを逾て是よりも多く扑ときは汝その汝の兄弟を賤め視にいたらん **4** 穀物を碾す牛に口籠をかく可らず **5** 兄弟ともに居んにその中の一人死て子を遺さざる時はその死たる者の妻いでて他人に嫁ぐべからず其夫の兄弟これの所に入りこれを娶りて妻となし斯してその夫の兄弟たる道をこれに盡し **6** 而してその婦の生ところの初子をもてその死たる兄弟の後を嗣しめその名をイスラエルの中に絶ざらしむべし **7** 然どその人もしその兄弟の妻をめとることを肯ぜずばその兄弟の妻門にいたりて長老等に言べし吾夫の兄弟はその兄弟の名をイスラエルの中に興ることを肯ぜず吾夫の兄弟たる道を盡すことをせずと **8** 然る時はその邑の長老等かれを呼よせて諭すべし然るも彼堅く執て我はこれを娶ることを好まずと言ば **9** その兄弟の妻長老等の前にて彼の側にいたりこれが鞋をその足より脱せその面に唾して答て言べしその兄弟の家を興ることを肯ぜざる者には斯のごとくすべきなりと **10** またその人の名は鞋を脱たる者の家とイスラエルの中に稱へらるべし **11** 人二人あひ争そふ時に一人の者の妻その夫を撃つ者の手より夫を救はんとて進みより手を伸てその人の陰所を執ふるあらば **12** 汝その婦の手を切おとすべし之を憫れみ視るべからず **13** 汝の囊の中に一箇は大きく一箇は小き二種の權衡石をいれおくべからず **14** 汝の家に一箇は大きく一箇

は小き二種の升斗をおくべからず **15** 唯十分なる公正き權衡を有べくまた十分なる公正き升斗を有べし然せば汝の神エホバの汝にたまふ地に汝の日永からん **16** 凡て斯る事をなす者凡て正しからざる事をなす者は汝の神エホバこれを憎みたまふなり **17** 汝らがエジプトより出きたりし時その路においてアマレクが汝に爲たりし事を記憶よ **18** 即ち彼らは汝を途に迎へ汝の疲れ倦たるに乗じて汝の後なる弱き者等を攻撃り斯かれらは神を畏れざりき **19** 然ば汝の神エホバの汝に與へて産業となさしめたまふ地において汝の神エホバ汝にその周圍の敵を盡く攻ふせて安泰ならしめたまふに至らば汝アマレクの名を天が下より塗抹て之をおぼゆる者なからしむべし

26 汝その神エホバの汝に與へて産業となさしめたまふ地にいりこれを獲てそこに住にいたらば **2** 汝の神エホバの汝に與へたまへる地の諸の土産の初を取て筐にいれ汝の神エホバのその名を置んとて選びたまふ處にこれを携へゆくべし **3** 而して汝當時の祭司に詣り之にいふべし我は今日なんぢの神エホバに申さん我はエホバが我らに與へんと我らの先祖等に誓ひたまひし地に至れりと **4** 然る時は祭司汝の手よりその筐をとりて汝の神エホバの壇のまへに之を置べし **5** 汝また汝の神エホバの前に陳て言べし我先祖は憫然なる一人のスリア人なりしが僅少の人を將てエジプトに下りゆきて其處に寄寓をりそこにて終に大にして強く人口おほき民となれり **6** 然るにエジプト人我らに害を加へ我らを惱まし辛き力役を我らに負せたりしに因て **7** 我等先祖等の神エホバに向ひて呼はりければエホバわれらの聲を聽き我らの艱難と勞

苦と虐待を顧みたまひ 8 而してエホバ強き手を出し腕を伸べ大なる威嚇と徴證と奇跡とをもてエジプトより我らを導きいだし 9 この處に我らを携へいりてこの地すなはち乳と蜜との流るる地を我らに賜へり 10 エホバよ今我なんぢが我に賜ひし地の産物の初を持きたれりと斯いひて汝その筐を汝の神エホバの前にそなへ汝の神エホバの前に禮拜をなすべし 11 而して汝は汝の神エホバの汝と汝の家に降したまへる諸の善事のためにレビ人および汝の中間なる旅客とともに樂むべし 12 第三年すなはち十に一を取の年に汝その諸の産物の什一を取りレビ人と客旅と孤子と寡婦とにこれを與へて汝の門の内に食ひ飽しめたる時は 13 汝の神エホバの前に言べし我は聖物を家より執いだしまたレビ人と客旅と孤子と寡婦とにこれを與へ全く汝が我に命じたまひし命令のごとくせり我は汝の命令に背かずまたこれを忘れざるなり 14 我はこの聖物を喪の中に食ひし事なくをた汚穢たる身をもて之を携へ出しし事なくまた死人のためにこれを贈りし事なきなり我はわが神エホバの言に聽したがひて凡て汝が我に命じたまへるごとく行へり 15 願くは汝の聖住所なる天より臨み觀汝の民イスラエルと汝の我らに與へし地とに福祉をくだしたまへ是は我がわれらの先祖等に誓ひたまひし乳と蜜との流るる地なり 16 今日汝の神エホバこれらの法度と律法とを行ふことを汝に命じたまふ然ば汝心を盡し精心を盡してこれを守りおこなふべし 17 今日なんぢエホバを認めて汝の神となし且その道に歩みその法度と誠法と律法とを守りその聲に聽したがはんと語り 18 今日エホバまたその言しごとく汝を認めてその寶の民とな

し且汝にその諸の誠命を守れと言たまへり 19 エホバ
汝の名譽と聲聞と榮耀とをしてその造れる諸の國の
人にまさらしめたまはん汝はその神エホバの聖民と
なることその言たまひしごとくならん

27 モーセ、イスラエルの長老等とともにありて民
に命じて曰ふ我が今日なんぢらに命ずるこの誠命を
汝ら全く守るべし 2 汝らヨルダンを濟り汝の神エホ
バが汝に與へたまふ地にいる時は大なる石數箇を立て
石灰をその上に塗り 3 既に濟りて後この律法の諸
の言語をその上に書すべし然すれば汝の神エホバの
汝にたまふ地なる乳と蜜の流るる國に汝いるを得る
こと汝の先祖等の神エホバの汝に言たまひしごとく
ならん 4 即ち汝らヨルダンを濟るにおよばば我が今
日なんぢらに命ずるその石をエバル山に立て石灰を
その上に塗べし 5 また其處に汝の神エホバのために
石の壇一座を築くべし但し之を築くには鐵の器を用
ゐるべからず 6 汝新石をもて汝の神エホバのその壇
を築きその上にて汝の神エホバに燔祭を獻ぐべし 7
汝また彼處にて酬恩祭を獻げその物を食ひて汝の神
エホバの前に樂むべし 8 汝この律法の諸の言語をそ
の石の上に明白に書すべし 9 モーセまた祭司たるレ
ビ人とともにイスラエルの全家に告て曰ふイスラエ
ルよ謹みて聽け汝は今日汝の神エホバの民となれり
10 然ば汝の神エホバの聲に聽從ひ我が今日汝に命ず
る之が誠命と法度をおこなふべし 11 その日にモーセ
また民に命じて言ふ 12 汝らがヨルダンを渡りし後
是らの者ゲリジム山にたちて民を祝すべし即ちシメオ
ン、レビ、ユダ、イツサカル、ヨセフおよびベニヤ
ミン 13 また是らの者はエバル山にたちて呪詛ことを

すべし即ちルベン、ガド、アセル、ゼブルン、ダン
およびナフタリ 14 レビ人大聲にてイスラエルの人々に
告て言べし 15 偶像は工人の手の作にしてエホバの
憎みたまふ者なれば凡てこれを刻みまたは鑄造りて
密に安置く人は詛はるべしと民みな對へてアーメン
といふべし 16 その父母を軽んずる者は詛はるべし民
みな對てアーメンといふべし 17 その隣の地界を侵す
者は詛はるべし民みな對へてアーメンといふべし 18
盲者をして路に迷はしむる者は詛はるべし民みな對
へてアーメンといふべし 19 客旅孤子および寡婦の審
判を枉る者は詛はるべし民みな對へてアーメンとい
ふべし 20 その父の妻と寝る者はその父を辱しむるな
れば詛はるべし民みな對へてアーメンといふべし 21
凡て獣畜と交る者は詛はるべし民みな對へてアーメ
ンといふべし 22 その父の女子またはその母の女子た
る己の姉妹と寝る者は詛はるべし民みな對へてアー
メンといふべし 23 その妻の母と寝る者は詛はるべし民
みな對へてアーメンといふべし 24 暗の中にその隣を
撃つ者は詛はるべし民みな對へてアーメンといふべ
し 25 報酬をうけて無辜者を殺してその血を流す者は
詛はるべし民みな對へてアーメンといふべし 26 この
律法の言を守りて行はざる者は詛はるべし民みな對
へてアーメンといふべし

28 汝もし善く汝の神エホバの言に聽したがひ我が
今日なんぢに命ずるその一切の誠命を守りて行はば
汝の神エホバ汝をして地の諸の國人の上に立しめた
まふべし 2 汝もし汝の神エホバの言に聽したがふ時
はこの諸の福祉汝に臨み汝におよばん 3 汝は邑の内
にても福祉を得田野にても福祉を得ん 4 また汝の胎

の産汝の地の産汝の家畜の産汝の牛の産汝の羊の産
に福祉あらん 5 また汝の飯籃と汝の捏盤に福祉あら
ん 6 汝は入にも福祉を得出るにも福祉を得べし 7 汝
の敵起て汝を攻るあればエホバ汝をして之を打敗ら
しめたまふべし彼らは一條の路より攻きたり汝の前
にて七條の路より逃はしらん 8 エホバ命じて福祉を
汝の倉庫に降しまた汝が手にて爲ところの事に降し
汝の神エホバの汝に與ふる地においてエホバ汝を祝
福たまふべし 9 汝もし汝の神エホバの誠命を守りて
その道に歩まばエホバ汝に誓ひしごとく汝を立て己
の聖民となしたまふべし 10 然る時は地の民みな汝が
エホバの名をもて稱へらるるを視て汝を畏れん 11 エ
ホバが汝に與へんと汝の先祖等に誓ひたまひし地に
おいてエホバ汝の佳物すなはち汝の身の産と汝の家
畜の産と汝の地の産とを饒にしたまふべし 12 エホバ
その寶の蔵なる天を啓き雨をその時にしたがびて汝
の地に降し汝の手の諸の行爲に祝福をたまはん汝は
許多の國々の民に貸ことをなすに至らん借ことなか
るべし 13 エホバ汝をして首とならしめたまはん尾と
はならしめたまはじ汝は只上におらん下には居じ汝
もし我が今日汝に命ずる汝の神エホバの誠命に聽し
たがひてこれを守りおこなはばかならず斯のごとく
なるべし 14 汝わが今日汝に命ずるこの言語を離れ右
または左にまがりて他の神々にしたがひ事ふること
をすべからず 15 汝もし汝の神エホバの言に聽したが
はず我が今日なんぢに命ずるその一切の誠命と法度
とを守りおこなはずば此もろもろの呪詛汝に臨み汝
におよぶべし 16 汝は邑の内にても詛はれ田野にても
詛はれん 17 また汝の飯籃も汝の捏盤も詛はれん 18

汝の胎の産汝の地の産汝の牛の産汝の羊の産も誼は
れん 19 汝は入にも誼はれ出るにも誼はれん 20 エホ
バ汝をしてその凡て手をもて爲ところにおいて呪詛
と恐懼と鎗責を蒙らしめたまふべければ汝は滅びて
速かに亡はてん是は汝悪き事をおこなひて我を棄る
によりてなり 21 エホバ疫病を汝の身に着せて遂に汝
をその往て得ところの地より滅ぼし絶たまはん 22
エホバまた癆瘵と熱病と傷寒と瘧疾と刀劍と枯死と
汚腐とをもて汝を撃なやましたまふべし是らの物汝
を追ひ汝をして滅びうせしめん 23 汝の頭の上なる天
は銅のごとくなり汝の下なる地は鐵のごとくにな
るべし 24 エホバまた雨のかはりに沙と灰とを汝の地
に降せたまはん是らの物天より汝の上に下りて遂に
汝を滅ぼさん 25 エホバまた汝をして汝の敵に打敗ら
れしめたまふべし汝は彼らにむかひて一條の路より
進み彼らの前にて七條の路より逃はしらん而して汝
はまた地の諸の國にて虐遇にあはん 26 汝の死屍は空
の諸の鳥と地の獣の食とならん然るもこれを逐はら
ふ者あらず 27 エホバまたエジプトの瘍瘡と痔と癰と
癢とをもて汝を撃たまはん汝はこれより愈ることあ
らず 28 エホバまた汝を撃ち汝をして狂ひ且目くらみ
て心に驚き慄れしめたまはん 29 汝は瞽者が暗にたど
るごとく眞晝においても尚たどらん汝その途により
て福祉を得ることあらず汝は只つねに虐げられ掠め
られんのみ汝を救ふ者なかるべし 30 汝妻を娶る時は
他の人これと寝ん汝家を建るもその中に住ことを得
ず葡萄園を作るもその葡萄を摘とることを得じ 31 汝
の牛汝の目の前に宰らるるも汝は之を食ふことを得
ず汝の驢馬は汝の目の前にて奪ひさられん再び汝に

かへることあらじ又なんぢの羊は汝の敵の有とならん然ど汝にはこれを救ふ道あらじ 32 汝の男子と汝の女子は他邦の民の有とならん汝は終日これを慕ひ望みて目を喪ふに至らん汝の手には何の力もあらじ 33 汝の地の産物および汝の努苦て得たる物は汝の識ざる民これを食はん汝は只つねに虐げられ窘められん而已 34 汝はその目に見るところの事によりて心狂ふに至らん 35 エホバ汝の膝と脛とに悪くして愈ざる瘍瘡を生ぜしめて終に足の蹠より頭の頂にまでおよぼしたまはん 36 エホバ汝と汝が立たる王とを携へて汝も汝の先祖等も知ざりし國々に移し給はん汝は其處にて木または石なる他の神々に事ふるあらん 37 汝はエホバの汝を遣はしたまふ國々にて人の詫異む者となり諺語となり諷刺とならん 38 汝は多分の種を田野に携へ出すもその刈とるところは少かるべし蝗これを食ふべければなり 39 汝葡萄園を作りてこれに培ふもその酒を飲ことを得ずまたその果を斂むことを得じ蟲これを食ふべければなり 40 汝の國には遍く橄欖の樹あらん然ど汝はその油を身に膏ことを得じ其果みな墮べければなり 41 汝男子女子を擧ぐるもこれを汝の有とすることを得じ皆擄へゆかるべければなり 42 汝の諸の樹および汝の地の産物はみな蝗これを取て食ふべし 43 汝の中間にある他國の人はますます高くなりゆきて汝の上に出で汝はますます卑くなりゆかん 44 彼は汝に貸ことをせん汝は彼に貸ことを得じ彼は首となり汝は尾とならん 45 この諸の災禍汝に臨み汝を追ひ汝に及びてつひに汝を滅ぼさん是は汝その神エホバの言に聽したがはず其なんぢに命じたまへる誠命と法度とを守らざるによるなり 46 是等の

事は恒になんぢと汝の子孫の上において徴證となり人を驚かす者となるべし 47 なんぢ萬の物の豊饒なる中にて心に歎び樂みて汝の神エホバに事へざるに因り 48 饑ゑ渴きかつ裸になり萬の物に乏しくしてエホバの汝に攻きたらせたまふところの敵に事ふるに至らん彼鐵の軛をなんぢの頸につけて遂に汝をほろぼさん 49 即ちエホバ遠方より地の極所より一の民を鷗の飛がごとくに汝に攻きたらしめたまはん是は汝がその言語を知ざる民 50 その面の猛惡なる民にして老たる者の身を顧みず幼稚者を憐まず 51 汝の家畜の産と汝の地の産を食ひて汝をほろぼし穀物をも酒をも油をも牛の産をも羊の産をも汝のために遺さずして終に全く汝を滅さん 52 その民は汝の全國において汝の一切の邑々を攻圍み遂にその汝が頼む堅固なる高き石垣をことごとく打圮し汝の神エホバの汝にたまへる國の中なる一切の邑々をことごとく攻圍むべし 53 汝は敵に圍まれ烈しく攻なやまさるるによりて終にその汝の神エホバに賜はれる汝の胎の産なる男子女子の肉を食ふにいたらん 54 汝らの中の柔生育にして軟弱なる男すらもその兄弟とその懷の妻とその遺れる子女とを疾視 55 自己の食ふその子等の肉をこの中の誰にも與ふることを好まざらん是は汝の敵汝の一切の邑々を圍み烈しく汝を攻なやまして何物をも其人に遺さざればなり 56 又汝らの中の柔生育にして纖弱なる婦女すなはちその柔生育にして纖弱なるがために足の蹠を土につくことをも敢てせざる者すらもその懷の夫とその男子とその女子とを疾視 57 己の足の間より出る胞衣と己の産ところの子を取て密にこれを食はん是は汝の敵なんぢの邑々を圍み烈し

くこれを攻なやますによりて何物をも得ざればなり
58 汝もしこの書に記したるこの律法の一切の言を守りて行はず汝の神エホバと云榮ある畏るべき名を畏れずば 59 エホバ汝の災禍と汝の子孫の災禍を烈しくしたまはん其災禍は大にして久しくその疾病は重くして久しかるべし 60 エホバまた汝が懼れし疾病なるエジプトの諸の疾病を持きたりて汝の身に纏ひ附しめたまはん 61 また此律法の書に載ざる諸の疾病と諸の災害を汝の滅ぶるまでエホバ汝に降したまはん 62 汝らは空の星のごとくに衆多かりしも汝の神エホバの言に聽したがはざるによりて残り寡に打なさるべし 63 エホバさきに汝らを善して汝等を衆くすることを喜びしごとく今はエホバ汝らを滅ぼし絶すことを喜びたまはん汝らは其往て獲ところの地より拔さるべし 64 エホバ地のこの極よりかの極までの國々の中に汝を散したまはん汝は其處にて汝も汝の先祖等も知ざりし木または石なる他の神々に事へん 65 その國々の中にありて汝は安寧を得ずまた汝の足の跣を休むる所を得じ其處にてエホバ汝をして心慄き目昏み精神亂れしめたまはん 66 汝の生命は細き糸に懸るが如く汝に見ゆ汝は夜晝となく恐怖をいだき汝の生命おぼつかなしと思はん 67 汝心に懼るる所によりまた目に見る所によりて朝においては言ん嗚呼夕ならば善らんとまた夕においては言ん嗚呼朝ならば善らんと 68 エホバなんぢを舟にのせ彼の昔わが汝に告て汝は再びこれを見ることあらじと言たるその路より汝をエジプトに曳ゆきたまはん彼處にて人汝らを賣て汝らの敵の奴婢となさん汝らを買ふ人もあらじ

29 エホバ、モーセに命じモアブの地にてイスラエルの子孫と契約を結ばしめたまふその言は斯のごとし是はホレブにてかれらと結びし契約の外なる者なり **2** モーセ、イスラエルの全家を呼あつめて之に言けるは汝らはエホバがエジプトの地において汝らの目の前にてパロとその臣下とその全地とに爲たまひし一切の事を觀たり **3** 即ち其大なる試煉と徴證と大なる奇跡とを汝目に觀たるなり **4** 然るにエホバ今日にいたるまで汝らの心をして悟ることなく目をして見ることなく耳をして聞ことなからしめたまへり **5** 四十年の間われ汝らを導きて曠野を通りしが汝らの身の衣服は古びず汝の足の鞋は古びざりき **6** 汝らはまたパンをも食はず葡萄酒をも濃酒をも飲ざりき斯ありて汝らは我が汝らの神エホバなることを知り **7** 汝らこの處に來りし時ヘシボンの王シホンおよびバシヤンの王オグ我らを迎へて戦ひしが我らこれを打敗りて **8** その地を取りこれをルベン人とガド人とマナセの半支派とに與へて産業となさしめたり **9** 然ば汝らこの契約の言を守りてこれを行ふべし然れば汝らの凡て爲ところに祥あらん **10** 汝らみな今日なんぢらの神エホバの前に立つ即ち汝らの首領等なんぢらの支派なんぢらの長老等および汝らの牧司等などイスラエルの一切の人 **11** 汝らの小き者等汝らの妻ならびに汝らの營の中にをる客旅など凡て汝のために薪を割る者より水を汲む者にいたるまで皆エホバの前に立て **12** 汝の神エホバの契約に入んとし又汝の神エホバの汝にむかひて今日なしたまふところの誓に入んとす **13** 然ばエホバさきに汝に言しごとくまた汝の先祖アブラハム、イサク、ヤコブに誓ひしごとく今

日なんぢを立て己の民となし己みづから汝の神となりたまはん **14** 我はただ汝らと而已此契約と誓とを結ぶにあらず **15** 今日此にてわれらの神エホバの前に我らとともにたちをる者ならびに今日われらとともに此にたち居ざる者ともこれを結ぶなり **16** 我らは如何にエジプトの地に住をりしか如何に國々を通り來りしか汝らこれを知り **17** 汝らはまた木石金銀にて造れる憎むべき物および偶像のその國々にあるを見たり **18** 然ば汝らの中に今日その心に我らの神エホバを離れて其等の國々の神に往て事ふる男女宗族支派などあるべからず又なんぢらの中に葶藶または茵陳を生ずる根あるべからず **19** 斯る人はこの呪詛の言を聞もその心に自ら幸福なりと思ひて言ん我はわが心を剛愎にして事をなすも尚平安なり終には酔飽る者をもて渴ける者を除くにいたらんと **20** 是のごとき人はエホバかならず之を赦したまはじ還てエホバの忿怒と嫉妬の火これが上に燃えまたこの書にしるしたる災禍みなその身に加はらんエホバつひにその人の名を天が下より抹きりたまふべし **21** エホバすなはちイスラエルの諸の支派の中よりその人を分ちてこれに災禍を下しこの律法の書にしるしたる契約中の諸の呪詛のごとくしたまはん **22** 汝等の後に起る汝らの子孫の代の人および遠き國より來る客旅この地の災禍を見またエホバがこの地に流行せたまふ疾病を見て言ところあらん **23** 即ち彼ら見るにその全地は硫黄となり鹽となり且焼土となりて種も蒔れず産する所もなく何の草もその上に生せずして彼の昔エホバがその震怒と忿恨とをもて毀ちたましソドム、ゴモラ、アデマ、ゼポイムの毀たれたると同じかるべければ **24**

彼らも國々の人もみな言んエホバ何とて斯この地になしたるやこの烈しき大なる震怒は何事ぞやと 25 その時人應へて曰ん彼らはその先祖たちの神エホバがエジプトの地より彼らを導きいだして彼らと結びたるその契約を棄て 26 往て己の識ずまた授らざる他の神々に事へてこれを拝みたるが故なり 27 是をもてエホバこの地にむかひて震怒を發しこの書にしるしたる諸の災禍をこれに下し 28 而してエホバ震怒と忿恨と大なる憤怒をもて彼らをこの地より抜とりてこれを他の國に投やれりその状今日のごとし 29 隱微たる事は我らの神エホバに屬する者なりまた顯露されたる事は我らと我らの子孫に屬し我らをしてこの律法の諸の言を行はしむる者なり

30 我が汝らの前に陳たるこの諸の祝福と呪詛の事すでに汝に臨み汝その神エホバに逐やられたる諸の國々において此事を心に考ふるにいたり 2 汝と汝の子等ともに汝の神エホバに起かへり我が今日なんぢに命ずる所に全たく循がひて心をつくし精神をつくしてエホバの言に聽したがはば 3 汝の神エホバ汝の俘擄を解て汝を憐れみ汝の神エホバ汝を顧みその汝を散しし國々より汝を集めたまはん 4 汝たとひ天涯に逐やらるるとも汝の神エホバ其處より汝を集め其處より汝を携へかへりたまはん 5 汝の神エホバ汝をしてその先祖の有ちし地に歸らしめたまふて汝またこれを有つにいたらんエホバまた汝を善し汝を増て汝の先祖よりも衆からしめたまはん 6 而して汝の神エホバ汝の心と汝の子等の心に割禮を施こし汝をして心を盡し精神をつくして汝の神エホバを愛せしめ斯して汝に生命を得させたまふべし 7 汝の神エホバ

また汝の敵と汝を惡み攻る者にとこの諸の災禍をか
うむらせたまはん 8 然ど汝は再びエホバの言に聽し
たがひ我が今日なんぢに命ずるその一切の誠命を行
ふにいたらん 9 然る時は汝の神エホバ汝をして汝が
手をかくる諸の物と汝の胎の産と汝の家畜の産と汝
の地の産に富しめて汝を善したまはん即ちエホバ汝
の先祖たちを悦びしごとく再び汝を悦びて汝を
善したまはん 10 是は汝その神エホバの言に聽したが
ひ此律法の書にしるされたる誠命と法度を守り心をつ
くし精神を盡して汝の神エホバに歸するによりて
なり 11 我が今日なんぢに命ずる誠命は汝が理會がた
き者にあらずまた汝に遠き者にあらず 12 是は天に在
らねば汝は誰か我らのために天にのぼりてこれを
我らに持くだり我らにこれを聞せて行はせんかと曰
ふにおよばず 13 また是は海の外にあるならねば汝は
誰か我らのために海をわたりゆきてこれを我らに持
きたり我らにこれを聞せて行はせんかと曰ふにおよば
ず 14 是言は甚だ汝に近くして汝の口にあり汝の心に
あれば汝これを行ふことを得べし 15 視よ我今日生命
と福德および死と災禍を汝の前に置り 16 即ち我今日
汝にむかひて汝の神エホバを愛しその道に歩みその
誠命と法度と律法とを守ることを命ずるなり然なさ
ば汝生ながらへてその數衆くならんまた汝の神エホ
バ汝が往て獲るところの地にて汝を祝福たまふべし
17 然ど汝もし心をひるがへして聽從がはず誘はれて
他の神々を拝みまたこれに事へなば 18 我今日汝らに
告ぐ汝らは必ず滅びん汝らはヨルダンを渡りゆきて
獲るところの地にて汝らの日を永うすることを得ざ
らん 19 我今日天と地を呼て證となす我は生命と死お

よび祝福と呪詛を汝らの前に置き汝生命をえらぶべし然せば汝と汝の子孫生存らふることを得ん 20 即ち汝の神エホバを愛してその言を聴き且これに附従がふべし斯する時は汝生命を得かつその日を永うすることを得エホバが汝の先祖アブラハム、イサク、ヤコブに與へんと誓ひたまひし地に住ことを得ん

31 茲にモーセ往てイスラエルの一切の人にこの言をのべたり 2 即ちこれに言けるは我は今日すでに百二十歳なれば最早出入をすること能はず且またエホバ我にむかひて汝はこのヨルダンを濟ることを得ずと宣へり 3 汝の神エホバみづから汝に先だちて渡りゆき汝の前よりこの國々の人を滅ぼしさりて汝にこれを獲させたまふべしまたエホバのかつて宣まひしごとくヨシユア汝を率ゐて濟るべし 4 エホバさきにアモリ人の王シホンとオグおよび之が地になしたる如くまた彼らにも爲てこれを滅ぼしたまはん 5 エホバかれらを汝らの前に付したまふべければ汝らは我が汝らに命ぜし一切の命令のごとくこれに爲べし 6 汝ら心を強くしかつ勇め彼らを懼るる勿れ彼らの前に慄くなかれ其は汝の神エホバみづから汝とともに往きたまへばなり必ず汝を離れず汝を棄たまはじ 7 斯てモーセ、ヨシユアを呼びイスラエルの一切の人の目の前にてこれに言ふ汝はこの民とともに往き在昔エホバがかれらの先祖たちに與へんと誓ひたまひし地に入るべきが故に心を強くしかつ勇め汝彼らにこれを獲さすることを得べし 8 エホバみづから汝に先だちて往きたまはんまた汝とともに居り汝を離れず汝を棄たまはじ懼るる勿れ驚くなかれ 9 モーセこの律法を書きエホバの契約の櫃を昇ところのレビの

子孫たる祭司およびイスラエルの諸の長老等に授けたり 10 而してモーセ彼らに命じて言けるは七年の末年すなはち放釋の年の節期にいたり結茅の節において 11 イスラエルの人皆なんぢの神エホバの前に出んとてエホバの選びたまふ處に來らんその時に汝イスラエルの一切の人の前にこの律法を誦てこれに聞すべし 12 即ち男女子等および汝の門の内なる他國の人など一切の民を集め彼らをしてこれを聽かつ學ばしむべし然すれば彼等汝らの神エホバを畏れてこの律法の言を守り行はん 13 また彼らの子等のこれを知ざる者も之を聞て汝らの神エホバを畏るることを學ばん汝らそのヨルダンを濟りゆきて獲ところの地に存ふる日の間つねに斯すべし 14 エホバまたモーセに言たまひけるは視よ汝の死る日近しヨシユアを召てともに集會の幕屋に立て我かれに命ずるところあらんとモーセとヨシユアすなはち往て集會の幕屋に立けるに 15 エホバ幕屋において雲の柱の中に現はれたまへりその雲の柱は幕屋の門口の上に駐まれり 16 エホバ、モーセに言たまひけるは汝は先祖たちとともに寢らん此民は起あがりその往ところの他國の神々を慕ひて之と姦淫を行ひかつ我を棄て我が彼らとむすびし契約を破らん 17 その日には我かれらにむかひて怒を發し彼らを棄て吾面をかれらに隱すべければ彼らは呑ほろぼされ許多の災害と艱難かれらに臨まん是をもてその日に彼ら言ん是等の災禍の我らにのぞむは我らの神エホバわれらとともに在さざるによるならずやと 18 然るも彼ら諸の惡をおこなひて他の神々に歸するによりて我その日にはかならず吾面をかれらに隱さん 19 然ば汝ら今この歌を書きイスラエル

の子孫にこれを教へてその口に念ぜしめ此歌をして
イスラエルの子孫にむかひて我の證とならしめよ 20
我かれらの先祖たちに誓ひし乳と蜜の流るる地にか
れらを導きいらんに彼らは食ひて飽き肥太るにおよ
ばば翻へりて他の神々に歸してこれに事へ我を軽ん
じ吾契約を破らん 21 而して許多の災禍と艱難彼らに
臨むにいたる時はこの歌かれらに對ひて證をなす者
とならん其はこの歌かれらの口にありて忘るること
なかるべければなり我いまだわが誓ひし地に彼らを
導きいらざるに彼らは早く已に思ひ量る所あり我こ
れを知ると 22 モーセすなはちその日にこの歌を書て
これをイスラエルの子孫に教へたり 23 エホバまたヌ
ンの子ヨシユアに命じて曰たまはく汝はイスラエル
の子孫を我が其に誓ひし地に導きいるべきが故に心
を強くしかつ勇め我なんぢとともに在べしと 24 モー
セこの律法の言をことごとく書に書しるすことを終
たる時 25 モーセ、エホバの契約の櫃を昇ところのレ
ビ人に命じて言けるは 26 この律法の書をとりにて汝ら
の神エホバの契約の櫃の傍にこれを置き之をして汝
にむかひて證をなす者たらしめよ 27 我なんぢの悖る
事と頑梗なるとを知る見よ今日わが生存へて汝らと
ともにある間すら汝らはエホバに悖れり況てわが死
たる後においてをや 28 汝らの諸支派の長老等および
牧伯たちを吾許に集めよ我これらの言をかれらに語
り聞せ天と地とを呼てかれらに證をなさしめん 29 我
しる我が死たる後には汝ら必らず惡き事を行ひ我が
汝らに命ぜし道を離れん而して後の日に災害なんぢ
らに臨まん是なんぢらエホバの惡と觀たまふ事をお
こなひ汝らの手の行爲をもてエホバを怒らするによ

りてなり 30 かくてモーセ、イスラエルの全會衆にこの歌の言をことごとく語り聞せたり

32 天よ耳を傾むけよ我語らん地よ吾口の言を聽け 2 わが教は雨の降るがごとし吾言は露のおくがごとく露の若艸の上にふるごとく細雨の青艸の上にくだるが如し 3 我はエホバの御名を頌揚ん我らの神に汝ら榮光を歸せよ 4 エホバは磐にましましてその御行爲は完くその道はみな正しまた眞實ある神にましまして悪きところ無し只正くして直くいます 5 彼らはエホバにむかひて悪き事をおこなふ者にてその子にはあらず只これが玷となるのみ其人と爲は邪僻にして曲れり 6 愚にして智慧なき民よ汝らがエホバに報ゆること是のごとくなるかエホバは汝の父にして汝を贖ひまた汝を造り汝を建たまはずや 7 昔の日を憶え過にし世代の年を念へよ汝の父に問べし彼汝に示さん汝の中の年老に問べし彼ら汝に語らん 8 至高者人の子を四方に散して萬の民にその産業を分ちイスラエルの子孫の數に照して諸の民の境界を定めたまへり 9 エホバの分はその民にしてヤユブはその産業たり 10 エホバこれを荒野の地に見これに獸の吼る曠野に遇ひ環りかこみて之をいたはり眼の珠のごとくにこれを護りたまへり 11 鷗のその巢雛を喚起しその子の上に翱翔ごとくエホバその羽を展て彼らを載せその翼をもてこれを負たまへり 12 エホバは只独にてかれを導きたまへり別神はこれとともにならざりき 13 エホバかれに地の高處を乗とほらせ田園の産物を食はせ石の中より蜜を吸しめ磐の中より油を吸しめ 14 牛の乳羊の乳羔羊の脂バシヤンより出る牡羊牡山羊および小麥の最も佳き者をこれに食はせたまひき汝

はまた葡萄の汁の紅き酒を飲り 15 然るにエシユルン
は肥て踢ことを爲す汝は肥太りて大きくなり己を造
りし神を棄て己が救拯の磐を軽んず 16 彼らは別神を
もて之が嫉妬をおこし憎むべき者をもて之が震怒を
惹く 17 彼らが犠牲をささぐる者は鬼にして神にあら
ず彼らが識ざりし鬼神近頃新に出たる者汝らの遠つ
親の畏まざりし者なり 18 汝を生し磐をば汝これを棄
て汝を造りし神をば汝これを忘る 19 エホバこれを見
その男子女子を怒りてこれを棄たまふ 20 すなはち曰
たまはく我わが面をかれらに隠さん我かれらの終を
觀ん彼らはみな背き悖る類の者眞實あらざる子等な
り 21 彼らは神ならぬ者をもて我に嫉妬を起させ虚き
者をもて我を怒らせたれば我も民ならぬ者をもて彼
らに嫉妬を起させ愚なる民をもて彼らを怒らせん 22
即ちわが震怒によりて火燃いで深き陰府に燃いたり
また地とその産物とを焼つくし山々の基をもやさん
(Sheol h7585) 23 我禍災をかれらの上に積かさね吾矢を
かれらにむかひて射つくさん 24 彼らは饑て瘦おとろ
へ熱の病患と悪き疫とによりて滅びん我またかれら
をして獣の齒にかからしめ地に匍ふ者の毒にあたら
しめん 25 外には劔内には恐惶ありて少き男をも少き
女をも幼兒をも白髪の人をも滅ぼさん 26 我は曰ふ我
彼等を吹掃ひ彼らの事をして世の中に記憶らるるこ
と無らしめんと 27 然れども我は敵人の怒を恐る即ち
敵人どれを見あやまりて言ん我らの手能くこれを爲
り是はすべてエホバの爲るにあらずと 28 彼らはまつ
たく智慧なき民なりその中には知識ある者なし 29 嗚
呼彼らもし智慧あらば之を了りてその身の終を思慮
らんものを 30 彼らの磐これを賣ずエホバこれを付き

ずば争か一人にて千人を逐ひ二人にて萬人を敗ることを得ん 31 彼らの磐は我らの磐にしかず我らの敵たる者等も然認めたり 32 彼らの葡萄の樹はソドムの葡萄の樹またゴモラの野より出たる者その葡萄は毒葡萄その球は苦し 33 その葡萄酒は蛇の毒のごとく蝮の悪き毒のごとし 34 是は私の許に蓄へあり私の庫に封じこめ有にあらざるや 35 彼らの足の躑かんに時に我仇をかへし應報をなさんその災禍の日は近く其がために備へられたる事は迅速にいたる 36 エホバつひにその民を鞠きまたその僕に憐憫をくはへたまはん其は彼らの力のすでに去うせて繋がれたる者も繋がれざる者もあらずなれるを見たまへばなり 37 エホバ言たまはん彼らの神々は何處にをるや彼らが頼める磐は何處ぞや 38 即ちその犠牲の膏油を食ひその灌祭の酒を飲たる者は何處にをるや其等をして起て汝らを助けしめ汝らを護しめよ 39 汝ら今觀よ我こそは彼なり私の外には神なし殺すこと活すこと撃つこと愈すことは凡て我是を爲す我手より救ひ出すことを得る者あらず 40 我天にむかひて手をあげて言ふ我は永遠に活く 41 我わが閃爍く刃を磨ぎ審判をわが手に握る時はかならず仇をわが敵にかへし我を惡む者に返報をなさん 42 我わが箭をして血に酔しめ吾劍をして肉を食しめん即ち殺るる者と擄らるる者の血を之に飲せ敵の髪おほき首の肉をこれに食はせん 43 國々の民よ汝らエホバの民のために歡悦をなせ其はエホバその僕の血のために返報をなしその敵に仇をかへしその地とその民の汚穢をのぞきたまへばなり 44 モーセ、ヌンの子ヨシユアとともに到りてこの歌の言をことごとく民に誦きかせたり 45 モーセこの言語をことごとく

イスラエルの一切の人に告をはりて **46** これに言けるは我が今日なんぢらに對ひて證するこの一切の言語を汝ら心に蔵め汝らの子等にこの律法は一切の言語を守りおこなふことを命ずべし **47** 抑この言は汝らには虚しき言にあらず是は汝らの生命なりこの言によりて汝らはそのヨルダンを濟りゆきて獲ところの地にて汝らの生命を永うすることを得るなり **48** この日にエホバ、モーセに告て言たまはく **49** 汝エリコに對するモアブの地のアバリム山に登りてネボ山にいたり我がイスラエルの子孫にあたへて産業となさしむるカナンを觀わたせよ **50** 汝はその登れる山に死て汝の民に列ならん是汝の兄弟アロンがホル山に死てその民に列りしごとくなるべし **51** 是は汝らチンの曠野なるカデシのメリバの水の邊においてイスラエルの子孫の中間にて我に悖りイスラエルの子孫の中に我の聖きことを顯さざりしが故なり **52** 然ども汝は我がイスラエルの子孫に與ふる地を汝の前に觀わたすことを得ん但しその地には汝いることを得じ

33 神の人モーセその死る前にイスラエルの子孫を祝せりその祝せし言は是のごとし云く **2** エホバ、シナイより來りセイルより彼らにむかひて昇りバランの山より光明を發ちて出で千萬の聖者の中間よりして格りたまへりその右の手には輝やける火ありき **3** エホバは民を愛したまふ其聖者は皆その手にあり皆その足下に坐りその言によりて起あがる **4** モーセわれらに律法を命ぜり是はヤコブの會衆の産業たり **5** 民の首領等イスラエルの諸の支派あひ集れる時に彼はエシユルンの中に王たりき **6** ルベンは生ん死はせじ然どその人數は寡少ならん **7** ユダにつきては斯い

ふエホバよユダの聲を聴きこれをその民に引かへし
たまへ彼はその手をもて己のために戦はん願くは汝
これを助けてその敵にあたらしめたまへ 8 レビにつ
いては言ふ汝のトンミムとウリムは汝の聖人に歸す
汝かつてマツサにて彼を試みメリバの水の邊にてか
れと争へり 9 彼はその父またはその母につきて言ひ
我はこれを見ずと又彼は自己の兄弟を認ずまた自己
の子等を顧みざりき是はなんぢの言に遵がひ汝の契
約を守りてなり 10 彼らは汝の式例をヤコブに教へ汝
の律法をイスラエルに教へ又香を汝の鼻の前にそな
へ燔祭を汝の壇の上にささぐ 11 エホバよ彼の所有を
祝し彼が手の作爲を悦びて納れたまへ又起てこれ
に逆らふ者とこれを惡む者との腰を摧きて復起あが
ることあたはざらしめたまへ 12 ベニヤミンについて
は言ふエホバの愛する者安然にエホバとともにあり
日々はその庇護をかうむりてその肩の間に居ん 13 ヨ
セフについては言ふ願くはその地エホバの祝福をか
うむらんことを即ち天の寶物なる露淵の底なる水 14
日によりて産する寶物月によりて生ずる寶物 15 古山
の嶺の寶物老嶽の寶物 16 地の寶物地の中の産物およ
び柴の中に居たまひし者の恩恵などヨセフの首に臨
みその兄弟と別になりたる者の頂に降らん 17 彼の牛
の首出はその身に榮光ありてその角は兕の角のごと
く之をもて國々の民を衝たふして直に地の四方の極
にまで至る是はエフライムの萬々是はマナセの千々
なり 18 ゼブルンについては言ふゼブルンよ汝は外に
出て快樂を得よイツサカルよ汝は家に居て快樂を得
よ 19 彼らは國々の民を山に招き其處にて義の犠牲を
獻げん又海の中に盈る物を得て食ひ沙の中に蔵れた

る物を得て食はん 20 ガドについては言ふガドをして
大ならしむる者は讚べき哉ガドは獅子のごとくに伏
し腕と首の頂とを搔裂ん 21 彼は初穂の地を自己のた
めに選べり其處には大將の分もこもれり彼は民の首
領等とともに至りイスラエルとともにエホバの公義
と審判とをなこなへり 22 ダンについては言ふダンは
小獅子のごとくバシヤンより跳り出づ 23 ナフタリに
ついては言ふナフタリよ汝は大に福祉をかうむりエ
ホバの恩恵にうるほふて西と南の部を獲ん 24 アセル
については言ふアセルは他の子等よりも幸福なりま
た其兄弟等にこえて恵まれその足を膏の中に浸さん
25 汝の門門は鐵のごとく銅のごとし汝の能力は汝が
日々に需むるところに循はん 26 エシユルンよ全能の
神のごとき者は外に無し是は天に乗て汝を助け雲に
駕てその威光をあらはしたまふ 27 永久に在す神は住
所なり下には永遠の腕あり敵人を汝の前より驅はら
ひて言たまふ滅ぼせよと 28 イスラエルは安然に住を
りヤコブの泉は穀と酒との多き地に獨り在らんその
天はまた露をこれに降すべし 29 イスラエルよ汝は幸
福なり誰か汝のごとくエホバに救はれし民たらんエ
ホバは汝を護る楯汝の榮光の劍なり汝の敵は汝に諂
ひ服せん汝はかれらの高處を踐ん

34 斯てモーセ、モアブの平野よりネボ山にのぼり
エリコに對するピスガの嶺にいたりければエホバ之
にギレアデの全地をダンまで見し 2 ナフタリの全部
エフライムとマナセの地およびユダの全地を西の海
まで見し 3 南の地と棕櫚の邑なるエリコの谷の原を
ゾアルまで見したまへり 4 而してエホバかれに言た
まひけるは我がアブラハム、イサク、ヤコブにむか

ひ之を汝の子孫にあたへんと言て誓ひたりし地は是なり我なんぢをして之を汝の目に觀ことを得せしむ然ど汝は彼處に濟りゆくことを得ずと 5 斯の如くエホバの僕モーセはエホバの言の如くモアブの地に死り 6 エホバ、ベテペオルに對するモアブの地の谷にこれを葬り給へり今日までその墓を知る人なし 7 モーセはその死たる時百二十歳なりしがその目は矇まらずその氣力は衰へざりき 8 イスラエルの子孫モアブの地において三十日のあひだモーセのために哭泣をなしけるがモーセのために哭き哀しむ日つひに満り 9 ヌンの子ヨシユアは心に智慧の充る者なりモーセその手をこれが上に按たるによりて然るなりイスラエルの子孫は之に聽したがひエホバのモーセに命じたまひし如くおこなへり 10 イスラエルの中にはこの後モーセのごとき預言者おこらざりきモーセはエホバが面を對せて知たまへる者なりき 11 即ちエホバ、エジプトの地においてかれをパロとその臣下とその全地とにつかはして諸々の徴證と奇蹟を行はせたまへり 12 またイスラエルの一切の人の目の前にてモーセその大なる能力をあらはし大なる畏るべき事を行へり

ヨシユア記

1 エホバの僕モーセの死し後エホバ、モーセの従者ヌンの子ヨシユアに語りて言たまはく **2** わが僕モーセは已に死り然ば汝いま此すべての民とともに起てこのヨルダンを濟り我がイスラエルの子孫に與ふる地にゆけ **3** 凡そ汝らが足の蹠にて踏む所は我これを盡く汝らに與ふ我が前にモーセに語し如し **4** 汝らの疆界は荒野および此レバノンより大河ユフラテ河に至りてヘテ人の全地を包ね日の没る方の大海に及ぶべし **5** 汝が生ながらふる日の間なんぢに當る事を得る人なかるべし我モーセと偕に在しごとく汝と偕にあらん我なんぢを離れず汝を棄じ **6** 心を強くしかつ勇め汝はこの民をして我が之に與ふることをその先祖等に誓ひたりし地を獲しむべき者なり **7** 惟心を強くし勇み勵んで我僕モーセが汝に命ぜし律法をことごとく守りて行へ之を離れて右にも左にも曲るなかれ然ば汝いづくに往ても利を得べし **8** この律法の書を汝の口より離すべからず夜も晝もこれを念ひて其中に録したる所をことごとく守りて行へ然ば汝の途福利を得汝かならず勝利を得べし **9** 我なんぢに命ぜしにあらずや心を強くしかつ勇め汝の凡て往く處にて汝の神エホバ偕に在せば懼るる勿れ戰慄なかれ **10** 茲にヨシユア民の有司等に命じて言ふ **11** 陣營の中を行めぐり民に命じて言へ汝等糧食を備へよ三日の内に汝らは此ヨルダンを濟り汝らの神エホバが汝らに與へて獲させんとしたまふ地を獲んために進みゆくべければなりと **12** ヨシユアまたルベン人ガド人およびマナセの支派の半に告て言ふ **13** エホバの僕モーセ前に汝らに命じて言り汝らの神エホバ今なんぢらに

安息を賜へり亦この地を汝らに與へたまふべしと汝らこの言詞を記念よ **14** 汝らの妻子および家畜はモーセが汝らに與へしヨルダンの此傍の地に止まるべし然ど汝ら勇者は皆身をよろひて兄弟等の先にたち進濟りて之を助けよ **15** 而してエホバが汝らに賜ひし如くなんぢらの兄弟等にも安息を賜ふにおよばば又かれらもなんぢらの神エホバの與へたまふ地を獲るにおよばば汝らエホバの僕モーセより與へられしヨルダンの此傍日の出る方なる己が所有の地に還りてこれを保つべしと **16** 彼らヨシユアに應て言ふ汝が我等に命ぜし所は我等盡く爲べし凡て汝が我らを遣す處には我ら往べし **17** 我らは一切の事モーセに聽したがひし如く亦なんぢに聽したがはん唯ねがはくは汝の神エホバ、モーセと偕にいましごとく汝と偕に在さんことを **18** 誰にもあれ汝が命令に背き凡て汝が命ぜるところの言に聽したがはざる者あらば之を殺すべし唯なんぢ心を強くしかつ勇め

2 茲にヌンの子ヨシユア、シツテムより潜かに二人の間者を發し之にいひけるは往てかの地およびエリコを窺ひ探れ乃ち彼ら往て妓婦ラハブと名づくる者の家に入て其處に寝けるが **2** 或人エリコの王に告て觀よイスラエルの子孫の者この地を探らんとて今宵ここに入きたれりといふ **3** 是に於てエリコの王ラハブに言つかはしけるは汝にきたりて汝の家に入し人を曳いだせ彼らは此全國を探らんとて來れるなり **4** 婦人かのふたりの人を將て之を匿し而して言ふ實にその人々はわが許に來れり然れども我その何處よりか知ざりしが **5** 黄昏どき門を閉るころに出されり我その人々の何處へ往しかを知らず急ぎその後を追へ然

ば之に追及んと 6 その實は婦すでにかれらを領て屋蓋に升起屋蓋の上に列べおきたる麻のなかに之をかくししなり 7 かくてその人々彼らの後を追ひヨルダンの路をゆきて渡場に赴むけり、かれらの後を追ふ者出るや直に門を閉しぬ 8 二人のもの未だ寝ずラハブ屋背に上りて彼らのもとに來り 9 これに言けるはエホバこの地を汝らに賜へり我らは甚く汝らを懼る此地の民盡く汝らの前に消亡ん我この事を知る 10 其は汝らがエジプトより出來し時エホバなんぢらの前にて紅海の水を乾たまひし事および汝らがヨルダンの彼旁にありしアモリ人の二箇の王シホンとオグとになししこと即ちことごとく之を滅ぼしたりし事を我ら聞たればなり 11 我ら之を聞や心怯げなんぢらの故によりて人の魂きえうせたり汝らの神エホバは上の天にも下の地にも神たるなり 12 然ば請ふ我すでに汝らに恩を施したれば汝らも今エホバを指て我父の家に恩をほどこさんことを誓ひて我に眞實の記號を與へよ 13 又わが父母兄弟姉妹および凡て彼らに屬る者をながらへしめ我らの生命を拯ひて死を免かれしめんことを誓へよ 14 二人のものこれに言けるは汝ら若しわれらの此事を洩すことなくば我らの生命汝らに代りて死ん又エホバわれらに此地を與へたまふ時には我らなんぢに恩を施し眞實を盡さん 15 是においてラハブ繩をもて彼らを窓より縋おろせり是は其家邑の石垣の上にてかれ石垣の上に住しによる 16 ラハブかれらに言けるは恐らくは追者なんぢに遇ん汝ら山に往て三日が間そこに隠れをり追者の還るを待て後去ゆくべし 17 二人のものかれに言けるは汝が我らに誓しし此誓につきては我ら罪を獲じ 18 我らが

此地に打いらん時は汝我らを縋おろしたりし窓に此
一條の赤き紐を結つけ且つ汝の父母兄弟および汝の
父の家の眷族を悉く汝の家に聚むべし 19 凡て汝の家
の門を出て街衢に来る者はその血自身の首に歸すべ
し我らは罪なし然どもし汝とともに家にをる者に手
をくはふることをせばその血は我らの首に歸すべし
20 將た汝もし我らのこの事を洩さば汝が我らに誓せ
たる誓に我らあづかることなし 21 ラハブいひけるは
なんぢらの言のごとくすべしと斯てかれらを出し去
しめて赤き紐を窓に結べり 22 かれら往て山にいり追
來るものかへるを待て三日が間そこに居れりおひ
來れるもの徧ねく彼らを途に尋ねしかども終に獲ざ
りき 23 而してかの二箇の人は山を下り河を濟りて歸
りヌンの子ヨシユアに詣りて其有し事等をつぶさに
陳ぶ 24 またヨシユアにいふ誠にエホバこの國をこと
ごとく我らの手に付したまへりこの國の民は皆我ら
の前に消うせんと

3 ヨシユア朝はやく起いでてイスラエルの人々と
ともにシツテムを打發てヨルダンにゆき之を濟らずし
て其處に宿りぬ 2 斯て三日の後有司ら陣營の中をめぐり 3 民に命じて曰ふ汝ら祭司等レビ人がなんぢら
の神エホバの契約の櫃を舁出すを見ば其處を發出て
その後に従がへ 4 されど汝らとその櫃との間には量
りて凡そ二千キュビト許の隔離あるべし之に近づく
勿れなんぢらその行べき途を知んためなり汝らは未
だこの途を経しことなかりき 5 ヨシユアまた民に言
ふ汝ら身を潔めよエホバ明日なんぢらの中に妙なる
事を行ひたまふべしと 6 ヨシユア祭司等に告ていふ
契約の櫃を舁き民に先だちて濟れと則ち契約の櫃を

舁き民に先だちて進めり 7 エホバ、ヨシユアに言たまひけるは今日よりして我イスラエルの衆の目の前に汝を尊くし我がモーセと偕にありし如く汝と偕にあることを之に知せん 8 なんぢ契約の櫃を舁ところの祭司等に命じて言へ汝らヨルダンの水際にゆかばヨルダンにいりて立べしと 9 ヨシユアでイスラエルの人々にむかひて汝ら此に近づき汝らの神エホバの言を聴けと 10 而してヨシユア語りけらく活神なんぢらの中に在してカナン人ヘテ人ヒビ人ペリジ人ギルガジ人アモリ人エブス人を汝らの前より必ず逐はらひたまふべきを左の事によりてなんぢら知るべし 11 視よ全地の主の契約の櫃なんぢらに先だちてヨルダンにすすみ入る 12 然ば今イスラエルの支派の中より支派ごとに一人ずつ合せて十二人を擧よ 13 全地の主エホバの櫃を舁ところの祭司等の足の蹠ヨルダンの水の中に踏とどまらばヨルダンの水上より流れくだる水きれとどまり立てうづだかくならん 14 かくて民はヨルダンを濟らんとてその幕屋を立出祭司等は契約の櫃を舁て之に先だちゆく 15 抑々ヨルダンは収穫の頃には絶ずその岸にことごとく溢るるなれど櫃を舁く者等ヨルダンに到り櫃を舁ける祭司等の足水際に浸ると齊しく 16 上より流れくだる水止まりて遙に遠き處まで涸れザレタンに近きアダム邑の邊にて積り起て堆かくなりアラバの海すなはち鹽海の方に流れくだる水まつたく截止りたれば民エリコにむかひて直に濟れり 17 即ちエホバの契約の櫃を舁る祭司等ヨルダンの中の乾ける地に堅く立をりてイスラエル人みな乾ける地を涉りゆき遂に民ことごとくヨルダンを濟りつくせり

4民ことごとくヨルダンを濟りつくしたる時エホバ、ヨシユアに語りて言たまはく **2**汝ら民の中より支派ごとに一人ずつ合せて十二人を擧げ **3**これに命じて言へ汝らヨルダンの中祭司等の足を踏とめしその處より石十二を取あげてこれを負ひ濟り此夜なんぢらが宿る宿場に居ゑよと **4**ヨシユアすなはちイスラエルの人々の中より支派ごとに預て一人ずつを取て備へおきぬその十二人の者を召よせ **5**而してヨシユアこれに言けるは汝らの神エホバの契約の櫃の前に當りて汝らヨルダンの中にすすみ入りイスラエルの人々の支派の數に循ひて各々石ひとつを取あげて肩に負きたれ **6**是は汝らの中に徴となるべし後の日にいたりて汝らの子輩是等の石は何のころなりやと問て言ば **7**之にいへ往昔ヨルダンの水エホバの契約の櫃の前にて裁斷りたる事を表はすなり即ちそのヨルダンを濟れる時にヨルダンの水きれ止まれりこの故にこれらの石を永くイスラエルの人々の記念となすべしと **8**イスラエルのひとびとヨシユアの命ぜしごとく然なしエホバのヨシユアに告げたまひし如くイスラエルの人々の支派の數にしたがひてヨルダンの中より石十二を取あげ之を負わたりてその宿る處にいたり之を其處にすゑたり **9**ヨシユアまたヨルダンの中において契約の櫃を昇る祭司等の足を踏立し處に石十二を立たりしが今日までも尚ほ彼處にあり **10**櫃を昇る祭司等はエホバのヨシユアに命じて民に告しめたまひし事の悉く成るまでヨルダンの中に立をれり凡てモーセのヨシユアに命ぜし所に適へり民は急ぎて濟りぬ **11**民の悉く濟りつくせるときエホバの櫃および祭司等は民の觀る前にて濟りたり **12**ルベ

ンの子孫ガドの子孫およびマナセの支派の半モーセの之に言たりし如く身をよろひてイスラエルの人々に先だちて濟りゆき **13** 凡そ四萬人ばかりの者軍の装に身を堅め攻戦はんとてエホバに先だち濟りてエリコの平野に至れり **14** エホバこの日イスラエルの衆人の目の前にてヨシユアを尊くしたまひければ皆モーセを畏れしごとくに彼を畏る其一生の間常に然り **15** エホバ、ヨシユアに語りて言たまひけるは **16** なんぢ證詞の櫃を昇る祭司等にヨルダンを出きたれと命ぜよ **17** ヨシユアすなはち祭司等に命じヨルダンを出きたれと言ければ **18** エホバの契約の櫃を昇る祭司等ヨルダンの中より出きたる祭司等足の蹠を陸地に擧ると齊くヨルダンの水故の處に流れかへりて初のごとくその岸にことごとく溢れぬ **19** 正月の十日に民ヨルダンを出きたりエリコの東の境界なるギルガルに營を張り **20** 時にヨシユアそのヨルダンより取きたらせし十二の石をギルガルにたて **21** イスラエルの人々に語りて言ふ後の日にいたりて汝らの子輩その父に問て是らの石は何の意なりやと言ば **22** その子輩に告しらせて言へ在昔イスラエルこのヨルダンを陸地となして濟りすぎし事あり **23** 即ち汝らの神エホバ、ヨルダンの水を汝らの前に乾涸して汝らを濟らせたまへり其事は汝らの神エホバの我らの前に紅海を乾涸して我らを渡らせたまひし状況の如くなりき **24** 斯なしたまひしは地の諸の民をしてエホバの手の力あるを知しめ汝らの神エホバを恒に畏れしめんためなり

5 ヨルダンの彼旁に居るアモリ人の諸の王および海邊に居るカナン人の諸の王はエホバ、ヨルダンの水をイスラエルの人々の前に乾涸して我らを濟らせた

まひしと聞きイスラエルの人々の事によりて神魂消え心も心ならざりき **2** その時エホバ、ヨシユアに言たまひけるは汝石の小刀を作り重て復イスラエルの人々に割禮を行なへと **3** ヨシユアすなはち石の小刀を作り陽皮山にてイスラエルの人々に割禮を行へり **4** ヨシユアが割禮を行ひし所以は是なりエジプトより出きたりし民の中の一切の男すなはち軍人は皆エジプトを出し後途にて荒野に死たりしが **5** その出来し民はみな割禮を受たる者なりき然どエジプトを出し後途にて荒野に生れし民には皆割禮を施さざりき **6** そもそもイスラエルの人々は四十年の間荒野を歩みをりて終にそのエジプトより出来し民すなはち軍人等ことごとく亡はてたり是エホバの聲に聽したがはざりしに因てなり是をもてエホバかれらの先祖等に誓ひて我等に與へんと宣まひし地なる乳と蜜との流るる地を之に見せじと誓たまへり **7** かれらに繼て興らしめたまひしその子輩にはヨシユア割禮を行へりかれらは途にて割禮を施さざりしによりて割禮なきものなりければなり **8** 一切の民に割禮を行ふこと畢りぬれば民は陣營に其儘居てその痊るを待ち **9** 時にエホバ、ヨシユアにむかひて我今日エジプトの羞辱を汝らの上より轉ばし去りと宣まへり是をもてその處の名を今日までギルガル(轉)と稱ふ **10** イスラエルの人々ギルガルに營を張りその月の十四日の晩エリコの平野にて逾越節を行へり **11** 而して逾越節の翌日その地の穀物酔いれぬパンおよび烘麥をその日に食ひけるが **12** その地の穀物を食ひし翌日よりしてマナの降ることを止みてイスラエルの人々かさねてマナを獲ざりき其年はカナンの地の産物を食へり **13** ヨシ

ユア、エリコの邊にあひける時目を擧て觀しに一箇
の人劍を手を抜持て己にむかひて立ゐければヨシユ
アすなはちその許にゆきて之に言ふ汝は我等を助く
るか將われらの敵を助くるか 14 かれいひけるは否わ
れはエホバの軍旅の將として今來れるなりとヨシユ
ア地に俯伏て拜し我主なにを僕に告んとしたまふや
と之に言ひ 15 エホバの軍旅の將ヨシユアに言けるは
汝の履を足より脱され汝が立をる處は聖きなりとヨ
シユア然なしぬ

6 (イスラエルの人々の故によりてエリコは堅く閉し
て出入する者なし) 2 エホバ、ヨシユアに言ひたまひ
けるは觀よわれエリコおよびその王と大勇士とを汝
の手に付さん 3 汝ら軍人みな邑を繞りて邑の周圍を
一次まはるべし汝六日が間かく爲よ 4 祭司等七人お
のおのヨベルの喇叭をたづさへて櫃に先だつべし而
して第七日には汝ら七次邑をめぐり祭司等喇叭を吹
ならずべし 5 然して祭司等ヨベルの角を音ながくふ
きならして喇叭の聲なんぢらに聞ゆる時は民みな大
に呼はり喊ぶべし然せばその邑の石垣崩れおちん民
みな直に進て攻のぼるべしと 6 ヌンの子ヨシユアや
がて祭司等を召て之に言ふ汝ら契約の櫃を舁き祭司
等七人ヨベルの喇叭七をたづさへてエホバの櫃に先
だつべしと 7 而して民に言ふ汝ら進みゆきて邑を繞
れ甲冑のものどもエホバの櫃に先だちて進むべしと
8 ヨシユアかく民に語りしかば七人の祭司等おのおの
ヨベルの喇叭をたづさへエホバに先だちすきみて喇
叭を吹きエホバの契約の櫃これにしたがふ 9 即ち甲
冑のものどもは喇叭を吹くところの祭司等にさきだ
ちて行き後軍は櫃の後に行く祭司たちは喇叭を吹き

つつすすめり 10 ヨシユア民に命じて言ふ汝ら呼はる勿れ汝らの聲を聞えしむるなかれまた汝らの口より言を出すなかれわが汝らに呼はれと命ずる日におよびて呼はるべしと 11 而してエホバの櫃をもち邑を繞りて一周し陣營に來りて營中に宿れり 12 又あくる朝ヨシユアはやく興いで祭司等エホバの櫃を舁き 13 七人の祭司等おのおのヨベルの喇叭をたづきへエホバの櫃に先だちて行き喇叭を吹きつつすすみ甲冑の者等これに先だちて行き後軍はエホバの櫃の後に行く祭司等喇叭をふきつつ進めり 14 その次の日にも一次邑を繞りて陣營に歸り六日が間然なせり 15 第七日には夜明に早く興いで前のごとくして七次邑を繞れり唯この日のみ七次邑を繞りたり 16 七次目にいたりて祭司等喇叭を吹くときにヨシユア民に言ふ汝ら呼はれエホバこの邑を汝らに賜へり 17 この邑およびその中の一切の物をば誼はれしものとしてエホバに献ぐべし唯妓婦ラハブおよび凡て彼とともに家に在るものは生し存べしわれらが遣しし使者を匿したればなり 18 唯汝ら誼はれし物を慎め恐らくは汝ら其を誼はれしものとして献ぐるに方りその誼はれし物を自ら取りてイスラエルの陣營をも誼はるるものとならしめ之をして惱ましむるに至らん 19 但し銀金銅器鐵器などは凡てエホバに聖別て奉まつべきものなればエホバの府庫にこれを携へいるべしと 20 是において民よばはり祭司喇叭を吹ならしけるが民喇叭の聲をきくと齊しくみな大聲を擧て呼はりしかば石垣崩れおちぬ斯りしかば民おのおの直に邑に上りいりて邑を攻取り 21 邑にある者は男女少きもの老たるものの區別なく盡くこれを刃にかけて滅ぼし且つ牛羊驢馬

にまで及ぼせり 22時にヨシユアこの地を窺ひたりし二箇の人にむかひ汝らかの妓婦の家に入りかの婦人およびかれに屬る一切のものを携へいだしかれに誓ひし如くせよと言ければ 23間者たりし少き人等すなはち入てラハブおよびその父母兄弟ならびに彼につけるすべてのものを携へ出しまたその親戚をも携へ出しイスラエルの陣營の外にかれらを置り 24斯て火をもて邑とその中の一切のものを焚ぬ但し銀金銅器鐵器などはエホバの室の府庫に納めたり 25妓婦ラハブおよびその父の家の一族と彼に屬る一切の者とはヨシユアこれを生し存ければラハブは今日までイスラエルの中に住をる是はヨシユアがエリコを窺はせんとして遣はしし使者を匿したるに因てなり 26ヨシユアその時人衆に誓ひて命じ言けるは凡そ起てこのエリコの邑を建る者はエホバの前に詛はるべし其石礎をすゑなば長子を失ひその門を建なば季子を失はんと 27エホバ、ヨシユアとともに在してヨシユアの名あまねく此地に聞ゆ

7時にイスラエルの人々その詛はれし物につきて罪を犯せり即ちユダの支派の中なるゼラの子ザブデの子なるカルミの子アカン詛はれし物を取り是をもてエホバ、イスラエルの人々にむかひて震怒を發ちたまへり 2ヨシユア、エリコより人を遣はしベテルの東に當りてベテアベンの邊にあるアイに到らしめんとし之に語りて言ふ汝ら上りゆきてかの地を窺へとその人々上りゆきてアイを窺ひけるが 3ヨシユアの許に歸て之に言ふ民を盡くは上り往しめざれ唯二三千人を上らせてアイを撃しめよかれらは寡ければ一切の民を彼處に遣て勞せしむるなかれと 4是におい

て民およそ三千人ばかり彼處に上りゆきけるが遂に
アイの人の前より遁はしれり 5 アイの人彼らを門の
前より追てシバリムにいたり下坂にてその三十六人
ばかりを撃り民は魂神消て水のごとくになりぬ 6 斯
りしかばヨシユア衣を裂きイスラエルの長老等とと
もにエホバの櫃の前にて暮まで地に俯伏をり首に塵
を蒙れり 7 ヨシユア言けらく嗟主エホバよ何とて此
民を導きてヨルダンを濟らせ我らをアモリ人の手に
付して滅亡させんとしたまふや我等ヨルダンの彼旁
に安んじ居しならば善りしものを 8 嗟主よイスラエ
ルすでに敵に背を見せれば我また何をか言ん 9 カ
ナン人およびこの地の一切の民これを聞きわれらを
攻かこみてわれらの名をこの世より絶ん然らば汝の
大なる御名を如何にせんや 10 エホバ、ヨシユアに言
たまひけるは立よなんぢ何とて斯は俯伏すや 11 イス
ラエルすでに罪を犯しわが彼らに命じおける契約を
破れり即ち彼らは詛はれし物を取り窃みかつ詐りて
これを己の所有物の中にいれたり 12 是をもてイスラ
エルの人々は敵に當ること能はず敵に背を見ず是は
彼らも詛はるる者となりたればなり汝ら其詛はれし
物を汝らの中より絶にあらざれば我ふたたび汝らと
偕にをらじ 13 たてよ民を潔めて言へ汝ら身を潔めて
明日を待てイスラエルの神エホバかく言たまふイス
ラエルよ汝の中に詛はれしものあり汝その詛はれし
物を汝らの中より除き去るまでは汝の敵に當ること
能はず 14 然ば翌朝汝らその支派にしたがひて進みい
づべし而してエホバの掣たまふ支派はその宗族にし
たがひて進み出でエホバの掣たまふ宗族はその家に
したがひて進み出でエホバの掣たまふ家は男ひとり

びとりに従がひて進みいづべし 15 凡そ掣れて誼はれし物を有りて定まる者は其一切の所有物とともに火に焚るべし是はエホバの契約を破りイスラエルの中に愚なる事を行ひたるが故なりと 16 ヨシユア是において朝はやく興いでてイスラエルをその支派にしたがひて進出しめけるにユダの支派掣れたれば 17 ユダのもろもろの宗族を進み出でしめけるにゼラの宗族掣れゼラの宗族の人々を進み出しめけるにザブデ掣れ 18 ザブデの家の人々を進み出しめけるにアカン掣れぬ彼はユダの支派なるゼラの子ザブデの子なるカルミの子なり 19 ヨシユア、アカンに言けるは我子よ請ふイスラエルの神エホバに稱讚を歸し之にむかひて懺悔し汝の爲たる事を我に告よ其事を我に隠すなかれ 20 アカン、ヨシユアに答へて言けるは實にわれはイスラエルの神エホバに對ひて罪ををかし如此々々行へり 21 即ちわれ掠取物の中にバビロンの美しき衣服一枚に銀二百シケルと重量五十シケルの金の棒あるを見欲く思ひて其を取れりそれはわが天幕の中に地に埋め匿してあり銀も下にありと 22 爰にヨシユア使者を遣はしければ即ち彼の天幕に奔りゆきて視しに其は彼の天幕の中に匿しありて銀も下にありき 23 彼ら其を天幕の中より取出してヨシユアとイスラエルの一切の人々の所に携へきたりければ則ちそれをエホバの前に置り 24 ヨシユアやがてイスラエルの一切の人とともにゼラの子アカンを執へかの銀と衣服と金の棒およびその男子女子牛驢馬羊天幕など凡て彼の有る物をことごとく取てアコルの谷にこれを曳ゆけり 25 而してヨシユア言けらく汝なんぞ我らを悩まししやエホバ今日汝を悩ましたまふべしと頓て

イスラエル人みな石をもて彼を撃ころし又その家族等をも石にて撃ころし火をもて之を焚けり 26 而してアカンの上に大なる石堆を積揚たりしが今日まで存るかくてエホバその烈しき忿怒を息たまへり是によりてその處の名を今日までアコル(惱)の谷と呼ぶ

8 茲にエホバ、ヨシユアに言たまひけるは懼るる勿れ戦慄なかれ軍人をことごとく率ゐ起てアイに攻めよ視よ我アイの王およびその民その邑その地を都て汝の手に授く 2 汝さきにエリコとその王とに爲し如くアイとその王とに爲べし今回は其貨財およびその家畜を奪ひて自ら取べし汝まづ邑の後に伏兵を設くべしと 3 ヨシユアすなはち起あがり軍人をことごとく將てアイに攻めよとしまづ大勇士三萬人を選びて夜の中にこれを遣はせり 4 ヨシユアこれに命じて言く汝らは邑に對ひて邑の後に伏すべし邑に遠く離れをる勿れ皆準備をなして待をれ 5 我と我に従がふ民みな共に邑に攻めよせん而して彼らが初のごとく我らにむかひて打出んとき我らは彼らの前より逃はしらん 6 然せば彼ら我らを追て出來べければ我等つひに之を邑より誘き出すことを得ん其は彼等いはんこの人衆は初めのごとくまた我等の前より逃ぐと斯てわれらその前より逃はしらん 7 汝らその伏をる處より起りて邑を取べし汝らの神エホバ之を汝らの手に付したまふべし 8 汝ら邑を乗取たらば邑に火を放ちエホバの言詞の如く爲べし我これを汝らに命ず努よやと 9 かくてヨシユアかれらを遣はしければ即ち往てアイの西の方にてベテルとアイとの間に身を伏せたりヨシユアはその夜民の中に宿れり 10 ヨシユア朝はやく興いでて民をあつめイスラエルの長老

等とともに民に先だちてアイにのぼりゆけり **11** 彼に従がふ軍人ことごとく上りゆきて攻寄せ邑の前に至りてアイの北に陣をとれり彼とアイの間には一の谷ありき **12** ヨシユア五千人許を擧て邑の西の方にてベテルとアイとの間にこれを伏せおけり **13** かく民の全軍を邑の北に置きその伏兵を邑の西に置いてヨシユアその夜谷の中にいりぬ **14** アイの王これを視しかばその邑の人々みな急ぎて蚤に起き進み出てイスラエルと戦ひけるが預て謀しあはせ置る頃には王とその一切の民アラバの前に進み來れり王は邑の後に伏兵ありて已を伺ふを知らざりき **15** 時にヨシユア、イスラエルの一切の人とともに彼らに打負し状して荒野の路を指て逃はしりしかば **16** その邑の民みな之を追撃んとて呼はり集まりヨシユアの後を追て邑を出離れ **17** アイにもベテルにもイスラエルを追ゆかずして遣りける者は一人もなく皆邑を開き放してイスラエルの後を追り **18** 時にエホバ、ヨシユアに言たまはく汝の手にある矛をアイの方に指伸よ我これを汝の手に授くべしとヨシユアすなはち己の手にある矛をアイの方に指伸るに **19** 伏兵たちまち其處より起りヨシユアが手を伸ると齊しく奔きたりて邑に打いり之を取りて直に邑に火をかけたり **20** 茲にアイの人々背をふりかへりて觀しに邑の焚る煙天に立騰りゐたれば此へも彼へも逃るに術なかりき斯る機しも荒野に逃ゆける民も身をかへして其追きたる者等に逼れり **21** ヨシユアおよび一切のイスラエル人伏兵の邑を取て邑の焚る煙の立騰るを見身を還してアイの人々を殺しけるが **22** かの兵また邑より出きたりて彼らに向ひければ彼方にも此方にもイスラエル人ありて彼らはそ

の中間に挟まれぬイスラエル人かくして彼らを攻撃
て一人をも餘さず逃さず 23 つひにアイの王を生擒て
ヨシユアの許に曳きたれり 24 イスラエル人己を荒野
に追きたりしアイの民をことごとく野に殺し刃をも
てこれを仆し盡すにおよびて皆アイに歸り刃をもて
これを撃ほろぼせり 25 その日アイの人々ことごとく
斃れたりその數男女あはせて一萬二千人 26 ヨシユア
、アイの民をことごとく滅ぼし絶まではその矛を指
伸たる手を垂ざりき 27 但しその邑の家畜および貨財
はイスラエル人これを奪ひて自ら取り是はエホバの
ヨシユアに命じたまひし言に依なり 28 ヨシユア、ア
イを燬て永くこれを墟塚とならしむ是は今日まで荒
地となりをる 29 ヨシユアまたアイの王を薄暮まで木
に掛てさらし日の没におよびて命じてその死骸を木
より取おろさしめ邑の門の入口にこれを投すて其上
に石の大塚を積おこせり其は今日まで存る 30 かくて
ヨシユア、エバル山にてイスラエルの神エホバに一
の壇を築けり 31 是はエホバの僕モーセがイスラエル
の子孫に命ぜしことに本づきモーセの律法の書に記
されたる所に循がひて新石をもて作れる壇にて何人
も鐵器をその上に振あげず人衆その上にてエホバに
燔祭を献げ酬恩祭を供ふ 32 彼處にてヨシユア、モー
セの書しるしし律法をイスラエルの子孫の前にて石
に書うつせり 33 かくてイスラエルの一切の人および
その長老官吏裁判人など他國の者も本國の者も打ま
じりてエホバの契約の櫃を昇る祭司等レビ人の前に
あたりて櫃の此旁と彼旁に分れ半はゲリジム山の前
に半はエバル山の前に立り是エホバの僕モーセの命
ぜし所にしたがひて最初に先イスラエルの民を祝せ

んとてなり 34 然る後ヨシユア律法の書に凡てしるされたる所に循ひて祝福と呪詛とにかかはる律法の言をことごとく誦り 35 モーセの命じたる一切の言の中にヨシユアがイスラエルの全會衆および婦人子等ならびにイスラエルの中にをる他國の人の前にて誦ざるは無りき

9 茲にヨルダンの彼旁において山地平地レバノンに對へる大海の濱邊に居る諸の王すなはちヘテ人アモリ人カナン人ペリジ人ヒビ人エブス人たる者どもこれな聞て 2 心を同うし相集まりてヨシユアおよびイスラエルと戦はんとす 3 然るにギベオンの民ヨシユアがエリコとアイとに爲たりし事を聞しかば 4 己も詭計をめぐらして使者の状にいでたち古き袋および古び破れたるを結びとめたる酒の革囊を驢馬に負せ 5 補ひたる古履を足にはき古衣を身にまとひ來れり其糧のパンは凡て乾きかつ黴てありき 6 彼等ギルガルの陣營に來りてヨシユアの許にいたり彼とイスラエルの人々に言ふ我らは遠き國より來れり然ば今われらと契約を結べと 7 イスラエルの人々ヒビ人に言けるは汝らは我等の中に住をるならんも計られねば我ら争か汝らと契約を結ぶことを得んと 8 彼ら又ヨシユアにむかひて我らは汝の僕なりと言ければヨシユアかれらに汝らは何人にして何處より來りしやと問しに 9 彼らヨシユアに言けるは僕等は汝の神エホバの名の故によりて遙に遠き國より來れり其は我ら彼の聲譽および彼がエジプトにて行ひたりし一切の事を聞き 10 また彼がヨルダンの彼旁にをりしアモリ人の二箇の王すなはちヘシボンの王シホンおよびアシタロテにをりしバシヤンの王オグに爲たりし一切の

事を聞たればなり **11** 是をもて我らの長老および我らの國に住をるものみなわれらに告て言り汝ら旅路の糧を手に携さへ往てかれらを迎へて彼らに言へ我らは汝らの僕なり請ふ我らと契約を結べと **12** 我らの此パンは汝らの所に來らんとて出たちし日に我ら家々より其なほ温煖なるをとり備へしなるが視よ今は已に乾きて黴たり **13** また酒をみたせるこれらの革囊も新しかりしが破るるに至り我らのこの衣服も履も旅路の甚だ長きによりて古びぬと **14** 然るに人々は彼らの糧を取りエホバの口を問ことをせざりき **15** ヨシユアすなはち彼らと好を爲し彼らを生しおかんといふ契約を結び會中の長等かれらに誓ひたりしが **16** その彼らと契約を結びてより三日を経て後かれらは己に近き人にして己の中に住をる者なりと聞り **17** イスラエルの子孫やがて進みて第三日に彼らの邑々に至れり其邑はギベオン、ケピラ、ペエロテおよびキリアテヤリムなり **18** 然れども會中の長等イスラエルの神エホバを指て彼らに誓ひたりしをもてイスラエルの子孫これを攻撃ざりき是をもて會衆みな長等にむかひて眩けり **19** 然ど長等は凡て全會衆に言ふ我らイスラエルの神エホバを指て彼らに誓へり然ば今彼らに觸べからず **20** 我ら斯かれらに爲て彼らを生しおかん然すれば彼らに誓ひし誓によりて震怒の我らに及ぶことあらじと **21** 長等また人衆にむかひて彼らを生しおくべしと言ければ彼らは遂に全會衆のために薪を斬り水を汲ことをする者となれり長等の彼等に言たるが如し **22** ヨシユアすなはち彼らを召よせて彼らに語りて言けるは汝らは我らの中に住をりながら何とて我らは汝らに甚だ遠しと言て我らを誑かししや **23**

然ば汝らは詛はる汝らは永く奴隸となり皆わが神の室のために薪を斬り水を汲ことをする者となるべしと 24 彼らヨシユアに應へて言けるは僕等はなんぢの神エホバその僕モーセに此地をことごとく汝らに與へ此地の民をことごとく汝らの前より滅ぼし去ことを命ぜしと明白に傳へ聞たれば汝らのために生命の危からんことを太く懼れて斯は爲けるなり 25 視よ我らは今汝の手の中にあり汝の我らに爲を善とし正當とする所を爲たまへと 26 ヨシユアすなはち其ごとく彼らに爲し彼らをイスラエルの子孫の手より救ひて殺さしめざりき 27 ヨシユアその日かれらをして會衆のためおよびエホバの壇の爲に其えらびたまふ處において薪を斬り水を汲ことをする者とならしめたりしが今日まで然り

10 茲にエルサレムの王アドニゼデクはヨシユアがアイを攻取てこれを全く滅ぼし嚮にエリコとその王とに爲しごとくにアイとその王とにも爲たる事およびギベオンの民がイスラエルと好を爲て之が中にをる事を聞て 2 大に懼る是ギベオンは大なる邑にして都府に等しきに因りまたアイよりも大きくしてその内の人々凡て強きに困てなり 3 エルサレムの王アドニゼデク是においてヘブロン王ホハム、ヤルムテ王ピラム、ラキシ王ヤピアおよびエグロン王デビルに人を遣はして云ふ 4 我の處に上りきたりて我を助けよ我らギベオンを攻撃ん其はヨシユアおよびイスラエルの子孫と好を結びたればなりと 5 而してこのアモリ人の王五人すなはちエルサレムの王ヘブロン王ヤルムテ王ラキシ王およびエグロン王あひ集まりそり諸軍勢を率て上りきたりギベオ

ンに對ひて陣を取り之を攻て戦ふ 6 ギベオンの人々
ギルガルの陣營に人を遣はしヨシユアに言しめける
は僕等を助くることを緩うする勿れ迅速に我らの所
に上り來りて我らを救ひ助けよ山地に住をるアモリ
人の王みな相集りて我らを攻るなりと 7 ヨシユアす
なはち一切の軍人および一切の大勇士を率ゐてギル
ガルより進みのぼれり 8 時にエホバ、ヨシユアに言
たまひけるは彼らを懼るるなかれ我かれらを汝の手
に付す彼らの中には汝に當ることを得る者一人もあ
らじと 9 この故にヨシユア、ギルガルより終夜進み
のぼりて猝然にかれらに攻よせしに 10 エホバかれら
をイスラエルの前に敗りたまひければヨシユア、ギ
ベオンにおいて彼らを夥多く擊殺しベテホロンの昇
阪の路よりしてアゼカおよびマツケダまで彼らを追
撃り 11 彼らイスラエルの前より逃はしりてベテホロ
ンの降阪にありける時エホバ天より大石を降しその
アゼカに到るまで然したまひければ多く死りイスラ
エルの子孫が劍をもて殺しし者よりも雹石にて死し
者の方衆かりき 12 エホバ、イスラエルの子孫の前に
アモリ人を付したまひし日にヨシユア、エホバにむ
かひて申せしことあり即ちイスラエルの目の前にて
言けらく日よギベオンの上に止まれ月よアヤロンの
谷にやすらへ 13 民その敵を撃やぶるまで日は止まり
月はやすらひぬ是はヤシャルの書に記さるるにあら
ずや即ち日空の中にやすらひて急ぎ沒ざりしこと凡
そ一日なりき 14 是より先にも後にもエホバ是のごと
く人の言を聽いれたまひし日は有ず是時にはエホバ
、イスラエルのために戦ひたまへり 15 かくてヨシユ
ア一切のイスラエル人とともにギルガルの陣營に歸

りぬ **16** かの五人の王は逃ゆきてマツケダの洞穴に隠れたりしが **17** 五人の王はマツケダの洞穴に隠れをるとヨシユアに告て言ふ者ありければ **18** ヨシユアいひけるは汝ら洞穴の口に大石を轉ばしその傍に人を置てこれを守らせよ **19** 但し汝らは止る勿れ汝らの敵の後を追てその殿軍を撃て彼らをその邑々に入しむる勿れ汝らの神エホバかれらを汝らの手に付したまへるぞかしと **20** ヨシユアおよびイスラエルの子孫おびたたく彼らを撃殺して遂に殺し盡しその撃もらされて遣れる者等城々に逃いるにおよびて **21** 民みな安然にマツケダの陣營にかへりてヨシユアの許にいたりけるがイスラエルの子孫にむかひて舌を鳴すもの一人もなかりき **22** 時にヨシユア言ふ洞穴の口を開きて洞穴よりかの五人の王を我前に曳いだせと **23** やがて然なしてかの五人の王すなはちエルサレムの王ヘブロン王ヤルムテ王ラキシ王およびエグロンの王を洞穴より彼の前に曳いだせり **24** かの王等をヨシユアの前に曳いだしし時ヨシユア、イスラエルの一切の人々を呼よせ己とともに往し軍人の長等に言けるは汝ら近よりて此王等の頸に足をかけよと乃はち近よりてその王等の頸に足をかけければ **25** ヨシユアこれに言ふ汝ら懼るる勿れ慄く勿れ心を強くしかつ勇めよ汝らが攻て戦ふ諸の敵にはエホバすべて斯のごとく爲たまふべしと **26** かくて後ヨシユア彼らを撃て死しめ五個の木にかけて晩暮まで木の上にこれを曝しおきしが **27** 日の没る時におよびてヨシユア命を下しければ之を木より取おろしその隠れたりし洞穴に投いれて洞穴の口に大石を置り是は今日が日までも存す **28** ヨシユアかの日マツケダを取り刃をもて

之とその王とを撃ち之との中たる一切の人をことごとく滅して一人をも遺さずエリコの王になしたるごとくにマツケダの王にも爲しぬ **29** かくてヨシユア一切のイスラエル人を率ゐてマツケダよりリブナに進みてリブナを攻て戦ひけるに **30** エホバまた之とその王をもイスラエルの手につしたまひしかば刃をもて之との中なる一切の人を撃ほろぼし一人をもその中に遺さずエリコの王に爲たるごとくにその王にも爲ぬ **31** ヨシユアまた一切のイスラエル人を率ゐてリブナよりラキシに進み之にむかひて陣をとり之を攻めて戦ひけるに **32** エホバでラキシをイスラエルの手に付したまひければ第二日にこれを取り刃をもて之との中なる一切の人々を撃ちほろぼせり凡てリブナに爲たるがごとし **33** 時にゲゼルの王ホルム、ラキシを援けんとして上りきたりければヨシユアかれとその民とを撃ころして終に一人をも遺さざりき **34** 斯てヨシユア一切のイスラエル人を率ゐてラキシよりエグロンに進み之に對ひて陣を取りこれを攻て戦ひ **35** その日にこれを取り刃をもて之を撃その中なる一切の人をことごとくその日に滅ぼせり凡てラキシに爲たるが如し **36** ヨシユアまた一切のイスラエル人をひきゐてエグロンよりヘブロンに進みのぼり之を攻て戦ひ **37** やがてこれを取り之とその王およびその一切の邑々とその中なる一切の人を刃にかけて撃ころして一人をも遺さざりき凡てエグロンに爲たるが如し即ち之との中なる一切の人をことごとく滅ぼせり **38** かくてヨシユア一切のイスラエル人を率ゐりてデビルに至り之を攻て戦ひ **39** 之とその王およびその一切の邑を取り刃をもて之を撃てその中なる一切

の人をことごとく滅ぼし一人をも遺さざりき其デビルと其王に爲たる所はヘブロンに爲たるが如く又リブナとその王に爲たるがごとくなりき 40 ヨシユアかく此全地すなはち山地南の地平地および山腹の地ならびに其すべての王等を撃ほろぼして人一箇をも遺さず凡て氣息する者は盡くこれを滅ぼせりイスラエルの神エホバの命じたまひしごとし 41 ヨシユア、カデシバルネアよりガザまでの國々およびゴセンの全地を撃ほろぼしてギベオンにまで及ぼせり 42 イスラエルの神エホバ、イスラエルのために戦ひたまひしに因てヨシユアこれらの諸王およびその地を一時に取り 43 かくてヨシユア一切のイスラエル人を率ゐてギルガルの陣營にかへりぬ

11 ハズルの王ヤビン之を聞およびマドンの王ヨバブ、シムロンの王アクサフの王 2 および北の地山地キンネロテの南のアラバ平地西の方なるドルの高處などに居る王等 3 すなはち東西のカナン人アモリ人ヘテ人ペリジ人山地のエブス人ミヅバの地なるヘルモンの麓のヒビ人などに人を遣はせり 4 爰に彼らその諸軍勢を率ゐて出きたれり其民の衆多ことは濱の砂の多きがごとくにして馬と車もまた甚だ多かりき 5 これらの王たち皆あひ會して進みきたり共にメロムの水の邊に陣をとりてイスラエルと戦はんとす 6 時にエホバ、ヨシユアに言たまひけるは彼らの故によりて懼るる勿れ明日の今頃われ彼らをイスラエルの前に付して盡く殺さしめん汝かれらの馬の足の筋を截り火をもて彼らの車を焚べしと 7 ヨシユアすなはち一切の軍人を率ゐて俄然にメロムの水の邊に押寄て之を襲ひけるに 8 エホバこれをイスラエルの手に

付したまひしかば則ち之を撃やぶりにて大シドンおよびミスレポテマムまで之を追ゆき東の方にては又ミツバの谷までこれを追ゆき遂に一人をも遺さず撃とれり 9 ヨシユアすなはちエホバの己に命じたまひしことにしたがひて彼らに馬の足の筋を截り火をもてその車を焚り 10 その時ヨシユア歸りきたりてハズルを取り刃をもてその王を撃り在昔ハズルは是らの諸國の盟主たりき 11 即ち刃をもてその中なる一切の人を撃てことごとく之を滅ぼし氣息する者は一人だに遺さざりき又火をもてハズルを焚り 12 ヨシユアこれらの王の一切の邑々およびその諸王を取り刃をもてこれを撃て盡く滅ぼせり、エホバの僕モーセの命じたるがごとし 13 但しその岡の上にたちたる邑々はイスラエルこれを焚ず唯ハズルのみをヨシユア焚り 14 是らの邑の諸の貨財及び家畜はイスラエルの人々奪ひて自ら之を取り人はみな刃をもて撃て滅ぼし盡し氣息する者は一人だに遺さざりき 15 エホバその僕モーセに命じたまひし所をモーセまたヨシユアに命じ置たりしがヨシユアその如くに行へり凡てエホバのモーセに命じたまひし所はヨシユア一だに爲で置し事なし 16 ヨシユア斯その全地すなはち山地南の全地ゴセンの全地平地アラバ、イスラエルの山地およびその平地を取り 17 セイルに上りゆくでハラク山よりヘルモン山の麓なるレバノン谷のバアルガデまでを獲その王等をことごとく執へて之を撃て死しめたり 18 ヨシユア此すべての王等と戦争をなすこと日ひさし 19 ギベオンの民ヒビ人を除くの外はイスラエルの子孫と好をなしし邑なかりき皆戦争をなしてこれを攻とりしなり 20 そもそも彼らが心を剛愎にしてイ

スラエルに攻よせしはエホバの然らしめたまひし者なり彼らは誼はれし者となり憐憫を乞ふこととせず滅ぼされんがためなりき是全くエホバのモーセに命じたまひしが如し **21** その時ヨシユアまた往て山地へブロン、デビル、アナブ、ユダの一切の山地イスラエルの一切の山地などよりしてアナク人を絶ち而してヨシユア彼らの邑々をも與に滅ぼせり **22** 然からにイスラエルの子孫の地の内にはアナク人一人も遺りをらず只ガザ、ガテ、アシドドに少く遺りをる而已 **23** ヨシユアかく此地を盡く取り全くエホバのモーセに告たまひし如し而してヨシユア、イスラエルの支派の區別にしたがひ之を與へて産業となさしめたり遂に此地に戦争やみぬ

12 諸ヨルダンの彼旁日の出る方に於てアルノンの谷よりヘルモン山および東アラバの全土までの間にてイスラエルの子孫が撃ほろぼして地を取たりし其國の王等は左のごとし **2** 先アモリ人の王シホン彼はヘシボンに住をれり其治めたる地はアルノンの谷の端なるアロエルより谷の中の邑およびギレアデの半を括てアンモンの子孫の境界なるヤボク河にいたり **3** アラバをキンネレテの海の東まで括またアラバの海すなはち鹽海の東におよびてベテエシモテの路にいたり南の方ビスガの山腹にまで達す **4** 次にレバイムの殘餘なりしバシヤンの王オグの國境を言んに彼はアシタロテとエデレイに住をり **5** ヘルモン山サレカおよびバシヤンの全土よりしてゲシユリ人マアカ人およびギレアデの半を治めてヘシボンの王シホンと境を接ふ **6** エホバの僕モーセ、イスラエルの子孫とともに彼らを撃ほろぼせり而してエホバの僕モーセ

之が地をルベン人ガド人およびマナセの支派の半に
與へて産業となさしむ 7 またヨルダンの此旁西の方
においてレバノンの谷のバアルガデよりセイル山の
上途なるハラク山までの間にてヨシユアとイスラエ
ルの子孫が撃ほろぼしたりし其國の王等は左のごと
しヨシユア、イスラエルの支派の區別にしたがひそ
の地をあたへて産業となさしむ 8 是は山地平地アラ
バ山腹荒野南の地などにしてヘテ人アモリ人カナ
ン人ペリジ人ヒビ人エブス人等が有ちたりし者なり 9
エリコの王一人ベテルの邊なるアイの王一人 10 エル
サレムの王一人ヘブロン of 王一人 11 ヤルムテの王一
人ラキシの王一人 12 エグロンの王一人ゲゼルの王一
人 13 デビルの王一人ゲデルの王一人 14 ホルマの王
一人アラデの王一人 15 リブナの王一人アドラムの王
一人 16 マツケダの王一人ベテルの王一人 17 タップ
アの王一人ヘペルの王一人 18 アペクの王一人ラシヤ
ロンの王一人 19 マドンの王一人ハズルの王一人 20
シムロンメロンの王一人アクサフの王一人 21 タアナ
クの王一人メギドンの王一人 22 ケデシの王一人カル
メル of ヨクネアムの王一人 23 ドルの高處なるドルの
王一人ギルガ of ゴイイムの王一人 24 テルザの王一人
合せて三十一王

13 ヨシユアすでに年邁みて老たりしがエホバかれ
に言たまひけらく汝は年邁みて老たるが尚取るべき
地の残れる者甚だおほし 2 その尚のこれる地は是な
りペリシテ人の全州ゲシユル人の全土 3 エジプトの
前なるシホルより北の方カナン人に屬すると人のい
ふエクロンの境界までの部ペリシテ人の五人の主の
地すなはちガザ人アシドド人アシケロン人ガテ人エ

クロン人の地 **4** 南のアビ人カナン人の全地シドン人に屬するメアウおよびアモリ人の境界なるアベクまでの部 **5** またヘルモン山の麓なるバアルガデよりハマテの入口までに亘るゲバル人の地およびレバノンの東の全土 **6** レバノンよりミスレポテマイムまでの山地の一切の民すなはちシドン人の全土我かれらをイスラエルの子孫の前より逐はらふべし汝は我が命じたりしごとくその地をイスラエルに分ち與へて産業となさしめよ **7** 即ちその地を九の支派とマナセの支派の半とに分ちて産業となさしむべし **8** マナセとともにルベン人およびガド人はヨルダンの彼旁東の方にてその産業をモーセより賜はり獲たりエホバの僕モーセの彼らに與へし者は即ち是のごとし **9** アルノンの谷の端にあるアロエルより此方の地谷の中にある邑デボンまでに亘るメデバの一切の平地 **10** ヘシボンにて世を治めしアモリ人の王シホンの一切の邑々よりしてアンモンの子孫の境界までの地 **11** ギレアデ、ゲシユル人及びマアカ人の境界に沿る地ヘルモン山の全土サルカまでバシヤン一圓 **12** アシタロテおよびエデレイにて世を治めしバシヤンの王オグの全國オグはレバイムの餘民の遺れる者なりモーセこれらを撃て逐はらへり **13** 但しゲシユル人およびマアカ人はイスラエルの子孫これを逐はらはざりきゲシユル人とマアカ人は今日までイスラエルの中に住をる **14** 唯レビの支派にはヨシユア何の産業をも與へざりき是イスラエルの神エホバの火祭これが産業たればなり其かれに言たまひしが如し **15** モーセ、ルベンの子孫の支派にその宗族にしたがひて與ふる所ありしが **16** その境界の内はアルノンの谷の端なるアロエル

よりこなたの地谷の中なる邑メデバの邊の一切の平地 17 ヘシボンおよびその平地の一切の邑々 デボン、バモテバアル、ベテバアルメオン 18 ヤハズ、ケデモテ、メバアテ 19 キリアタイム、シブマ、谷中の山のゼレテシヤル 20 ベテベオル、ピスガの山腹ベテエシモテ 21 平地の一切の邑々 ヘシボンにて世を治めシアモリ人の王シホンの全國 モーセ、シホンをミデアンの貴族エビ、レケム、ツル、ホルおよびレバとあはせて撃ころせり是みなシホンの大臣にしてその地に住をりし者なり 22 イスラエルの子孫またベオルの子ト筮師バラムをも刃にかけてその外に殺せし者等とともに殺せり 23 ルベンの子孫はヨルダンおよびその河岸をもて己の境界とせり ルベンの子孫がその宗族に循がひて獲たる産業は是のごとくにして邑も村もこれに准らふ 24 モーセまたガドの子孫たるガドの支派にもその宗族にしたがひて與ふる所ありしが 25 その境界の内はヤゼル、ギレアデの一切の邑々アンモンの子孫の地の半ラバの前なるアロエルまでの地 26 ヘシボンよりラマテミツバまでの地およびベトニム、マナハイムよりデピルの境界までの地 27 谷においてはベテハラム、ベテニムラ、スコテ、ザボンなどヘシボンの王シホンの國の残れる部分 ヨルダンおよびその河岸よりしてヨルダンの東の方キンネレテの海の岸までの地 28 ガドの子孫がその宗族にしたがひて獲たる産業は是のごとくにして邑も村も之に准らふ 29 モーセまたマナセの支派の半にも與ふる所ありき是すなはちマナセの支派の半にその宗族にしたがひて與へしなり 30 その境界の内はマナハイムより此方の地 バシヤンの全土 バシヤンの王オグの全國

バシヤンにあるヤイルの一切の邑すなはち其六十の邑 **31** ギレアデの半バシヤンにおけるオグの國の邑々アシタロテおよびエデレイ是等はマナセの子マキルの子孫に歸せり即ちマキルの子孫の半その宗族にしたがひて之を獲たり **32** ヨルダンの東の方に於てエリコに對ひをるモアブの野にてモーセが分ち與へし産業は是のごとし **33** 但しレビの支派にはモーセ何の産業をも與へざりきイスラエルの神エホバこれが産業たればなり其かれらに言たまひし如し

14 イスラエルの子孫がカナンの地にて取しその産業の地は左のごとし即ち祭司エレアザル、ヌンの子ヨシユアおよびイスラエルの子孫の支派の族長等これを彼らに分ち **2** エホバがモーセによりて命じたまひしごとく産業の籤によりて之を九の支派および半の支派に與ふ **3** 其はヨルダンの彼旁にてモーセ已にかの二の支派と半の支派とに産業を與へたればなり但しレビ人には之が中に産業を與へざりき **4** 是はヨセフの子孫マナセ、エフライムの二の支派と成たるに因て然りレビ人には此地において何の分をも與へず唯その住べき邑々およびその家畜と貨財を置べき郊地を與へしのみ **5** イスラエルの子孫エホバのモーセに命じたまひしごとく行ひてその地を分てり **6** 茲にユダの子孫ギルガルにてヨシユアの許に至りケニズ人エフンネの子カレブ、ヨシユアに言けるはエホバ、カデシバルネアにて我と汝との事につきて神の人モーセに告たまひし事あり汝これを知る **7** エホバの僕モーセが此地を窺はせんとて我をカデシバルネアより遣はしし時に我は四十歳なりき其時我は心に思ふまにまに彼に復命したり **8** 我とともに上り往し

わが兄弟等は民の心を挫くことを爲たりしが我は全く我神エホバに従へり 9 その日モーセ誓ひて言けらく汝の足の踐たる地は必ず永く汝と汝の子孫の産業となるべし汝まったく我神エホバに従がひたればなりと 10 エホバこの言をモーセに語りたまひし時より已來イスラエルが荒野に歩みたる此四十五年の間かく其のたまひし如く我を生存らへさせたまへり視よ我は今日すでに八十五歳なるが 11 今日もなほモーセの我を遣はしたりし日のごとく健剛なり我が今の力はこの時の力のごとくにして出入し戦闘をなすに堪ふ 12 然ば彼日エホバの語りたまひし此山を我に與へよ汝も彼日聞たる如く彼處にはアナキ人をりその邑々は大にして堅固なり然ながらエホバわれとともに在して我つひにエホバの宣ひしごとく彼らを逐はらふことを得んと 13 ヨシユア、エフンネの子カレブを祝しヘブロンをこれに與へて産業となさしむ 14 是をもてヘブロンは今日までケニズ人エフンネの子カレブの産業となりる是は彼まったくイスラエルの神エホバに従がひたればなり 15 ヘブロンの名は元はキリアテアルバと曰ふアルバはアナキ人の中の最も大なる人なりき茲にいたりてその地に戦争やみぬ

15 ユダの子孫の支派がその宗族にしたがひて籤にて獲たる地はエドムの境界に達し南の方ヂンの荒野にわたり南の極端に及ぶ 2 その南の境界は鹽海の極端なる南に向へる入海より起り 3 アクラビムの坂の南にわたりてヂンに進みカデシバルネアの南より上りてヘブロンに沿て進みアダルに上りゆきてカルカに環り 4 アズモンに進みてエジプトの河にまで達しその境界海にいたりて盡く汝らの南の境界は是の如

くなるべし 5 その東の境界は鹽海にしてヨルダンの河口に達す北の方の境界はヨルダンの河口なる入海より起り 6 上りてベテホグラにいたりベテアラバの北をすぎ上りてルベン人ボハンの石に達し 7 またアコルの谷よりデビルに上りて北におもむき河の南にあるアドミムの坂に對するギルガルに向ひすすみてエンシメシの水に達しエンロゲルにいたりて盡く 8 又その境界はベニヒンノムの谷に沿てエブス人の地すなはちエルサレムの南の脇に上りゆきヒンノムの谷の西面に横はる山の嶺に上る是はレバイムの谷の北の極處にあり 9 而してその境界この山の嶺より延てネフトアの水の泉源にいたりエフロン山の邑々にわたりその境昇延てバアラにいたる是すなはちキリアテヤリムなり 10 その境界バアラより西の方セイル山に環りヤリム山(すなはちケサロン)の北の脇をへてベテシメシに下りテムナに沿て進み 11 エクロンの北の脇にわたり延てシツケロンに至りバアラ山に進みヤブネルに達し海にいたりて盡く 12 また西の境界は大海にいたりその濱をもて限とすユダの子孫がその宗族にしたがひて獲たる地の四方の境界は是のごとし 13 ヨシユアそのエホバに命ぜられしごとくエフンネの子カレブにユダの子孫の中にてキリアテアルバすなはちヘブロンを與へてその分となさしむ 14 アルバはアナクの父なりカレブかしこよりアナクの子三人を逐はらへり是すなはちアナクより出たるセシヤイ、アヒマンおよびタルマイなり 15 而して彼かしこよりデビルの民の所に攻上れりデビルの名は元はキリアテセペルといふ 16 カレブ言けらくキリアテセペルを撃てこれを取る者には我女子アクサを妻に與

へんと 17 ケナズの子にしてカレブの弟なるオテニエルといふ者これを取ればカレブその女子アタサを之が妻に與へたり 18 アクサ適く時田野をその父に求むべきことをオテニエルに勧め遂にみづから驢馬より下れりカレブこれに何を望むやと言ければ 19 答へて言ふ我に粧奩を與へよ汝われを南の地に遣なれば水泉をも我に與へよと乃ち上の泉と下の泉とをこれに與ふ 20 ユダの子孫の支派がその宗族にしたがひて獲たる産業は是のごとし 21 ユダの子孫の支派が南においてエドムの境界の方に有るその遠き邑々は左のごとしカフジエル、エデル、ヤグル 22 キナ、デモナ、アダダ、 23 ケデシ、ハゾル、イテナン、 24 ジフ、テレム、ベアロテ 25 ハゾルハダツタ、ケリオテヘヅロンすなはちハゾル 26 アマム、シマ、モラダ 27 ハザルガダ、ヘシモン、ベテパレテ 28 ハザルシユアル、ベエルシバ、ピジヨテヤ 29 バアラ、イキム、エゼム 30 エルトラデ、ケシル、ホルマ 31 チクラグ、マデマンナ、サンサンナ 32 レバオテ、シルヒム、アイン、リンモン、その邑あはせて二十九ならびに之に屬る村々なり 33 平野にてはエシタオル、ゾラ、アシナ 34 ザノア、エンガンニム、タツプア、エナム 35 ヤルムテ、アドラム、シヨコ、アゼカ 36 シヤアライム、アダタイム、ゲデラ、ゲデロタイム合せて十四邑ならびに之に屬る村々なり 37 セナン、ハダシヤ、ミグダルガデ 38 デラン、ミツバ、ヨクテル 39 ラキシ、ボヅカテ、エグロン 40 カボン、ラマム、キリテシ 41 ゲデロテ、ベテダゴン、ナアマ、マツケダ合せて十六邑ならびに之に屬る村々なり 42 またリブナ、エテル、アシヤン 43 イフタ、アシナ、ネジブ 44 ケ

イラ、アクジブ、マレシア合せて九邑ならびに之に
屬ける村々なり 45 エクロンならびにその郷里および
村々なり 46 エクロンより海まで凡てアシドドの邊に
ある處々ならびに之につける村々なり 47 アシドドな
らびにその郷里および村々 ガザならびにその郷里お
よび村々 エジプトの河および大海の濱にいたるまで
の處々なり 48 山地にてはシヤミル、ヤツテル、シヨ
コ 49 ダンナ、キリアテサンナすなはちデビル 50 ア
ナブ、エシテモ、アニム 51 ゴセン、ホロン、ギロ、
合せて十一邑ならびに之に屬る村々なり 52 アラブ、
ドマ、エシヤン 53 ヤニム、ベテタツプア、アペカ 54
ホムタ、キリアテアルバすなはちヘブロン、デオル
あはせて九邑ならびに之につける村々なり 55 マオン
、カルメル、ジフ、ユダ 56 エズレル、ヨグテアム、
ザノア 57 カイン、ギベア、テムナあはせて十邑なら
びに之に屬る村々なり 58 ハルホル、ベテズル、ゲド
ル 59 マアラテ、ベテアノテ、エルテコンあはせて六
邑ならびに之に屬る村々なり 60 キリアテバルすな
はちキリアテヤリムおよびラバあはせて二邑ならび
に之につける村々なり 61 荒野にてはベテアラバ、ミ
デン、セカカ 62 ニブシヤン鹽邑エングデあはせて六
邑ならびに之につける村々なり 63 エルサレムの民エ
ブス人はユダの子孫これを逐はらふことを得ざりき
是をもてエブス人は今日までユダの子孫とともにエ
ルサレムに住ぬ

16 ヨセフの子孫が籤によりて獲たる地の境界はエ
リコの邊なるヨルダンすなはちエリコの東の水の邊
より起りてエリコにかかり更に上りて山地を過ぎベ
テルにいたりて荒野に沿ひ行き 2 ベテルよりルズに

おもむきアルキ人の境界なるアタロテに進み 3 また西の方ヤフレテ人の境界に下り下ベテホロンの境界に及びゲゼルにまで達し海にいたりて盡く 4 かくヨセフの子孫マナセ及びエフライムその産業を受たり 5 エフライムの子孫がその宗族にしたがひて獲たる地の境界は是のごとしその産業の境界東はアタロテアダルにて上はベテホロンに達し 6 ミクメタの北より西におもむき東にをれてタアナテシロにいたり之に沿てヤノアの東を過ぎ 7 ヤノアより下りてアタロテおよびナアラにいたりエリコに達しヨルダンにいたりて盡き 8 タツプアよりして西に進みカナの河にまで達し海にいたりて盡くエフライムの子孫の支派がその宗族にしたがひて獲たる産業は是のごとし 9 この外にマナセの子孫の産業の中にてエフライムの子孫に別ち與へし邑々ありエフライムの一切の邑およびその村々を得たり 10 但しゲゼルに住るカナン人をば逐はらはざりき是をもてカナン人は今日までエフライムの中に住み僕となりて之に使役せらる

17 マナセの支派が籤によりて獲たる地は左のごとしマナセはヨセフの長子なりきマナセの長子にしてギレアデの父なるマキルは軍人なるが故にギレアデとバシヤンを獲たり 2 此餘のマナセの子等即ちアビエゼルの子孫ヘレクの子孫アスリエルの子孫シケムの子孫ヘペルの子孫セミダの子孫などもその宗族にしたがひて獲る所ありき是等はヨセフの子マナセが男の子にしてその宗族に循ひて言るなり 3 マナセの子マキルその子ギレアデその子ヘペルその子なるゼロペハデといふ者は女の子のみありて男の子あらざりきその女の子の名はマヘラ、ノア、ホグラ、ミル

カ、テルザといふ 4 彼等祭司エレアザル、ヌンの子
ヨシユアおよび長等の前に進み出て言けらく我らの
兄弟の中にて我らにも産業を與へよとエホバ、モー
セに命じおきたまへりヨシユアすなはちエホバの命
にしたがひて彼らの父の兄弟の中にて彼らにも産業
を與ふ 5 マナセはヨルダンの彼旁にてギレアデおよ
びバシヤンの地の外になほ十部の地を獲たり 6 是は
マナセの女の子等もその男の子等の中にて産業を獲
たればなりギレアデの地はマナセのその餘の子等に
屬す 7 マナセの境界はアセルよりシケムの前なるミ
クメタテに及び右におもむきてエンタツプアの民に
達す 8 タツプアの地はマナセに屬す但しマナセの境
界にあるタツプアはエフライムの子孫に屬す 9 また
その境界カナの河に下りてその河の南に至る是等の
邑はマナセの邑々の中にありてエフライムに屬すマ
ナセの境界はその河の北にあり海にいたりて盡く 10
その南の方はエフライムに屬し北の方はマナセに屬
し海これらの境界を成すマナセは北はアセルに達し
東はイツサカルに達す 11 イツサカルおよびアセルの
中にてマナセはベテシヤンとその郷里イブレアムと
その郷里ドルの民とその郷里およびエンドルの民と
その郷里タアナクの民とその郷里メギドンの民とそ
の郷里など合せて三の高處を有り 12 但しマナセの子
孫は是らの邑の民を逐はらふことを得ざりければカ
ナン人この地に固く住ひをりしが 13 イスラエルの子
孫強くなるに及びてカナン人を使役し之を盡く逐こ
とはせざりき 14 茲にヨセフの子孫ヨシユアに語りて
言けるはエホバ今まで我を祝福たまひて我は大なる
民となりけるに汝わが産業にとて只一の籤一の分の

みを我に與へしは何ぞや 15 ヨシユアかれらに言けるは汝もし大なる民となりしならば林に上りゆきて彼處なるペリジ人およびレバ임人の地を自ら斬ひらくべしエフライムの山地は汝には狭しと言ばなり 16 ヨセフの子孫言けるは山地は我らには足ずかつ又谷の地にをるカナン人はベテシヤンとその郷里にをる者もエズレルの谷にをる者も凡て鐵の戰車を有り 17 ヨシユアかさねてヨセフの家すなはちエフライムとマナセに語りて言ふ汝は大なる民にして大なる力あり然れば只一籤のみを取てをる可らず 18 山地をも汝の有とすべし是は林なれども汝これを斬ひらきてその極處を獲べしカナン人は鐵の戰車を有をりかつ強くあれども汝これを逐はらふことを得ん

18 かくてイスラエルの子孫の會衆ことごとくシロに集り集會の幕屋をかしこに立つその地は已に彼らに歸服ぬ 2 この時なほイスラエルの子孫の中に未だその産業を分ち取ざる支派七のこりゐければ 3 ヨシユア、イスラエルの子孫に言けるは汝らは汝らの先祖の神エホバの汝らに與へたまひし地を取に往くことを何時まで怠りをるや 4 汝ら支派ごとに三人づつを擧よ我これを遣さん彼らは起てその地を歩きめぐりその産業にしたがひて之を描き寫して我に歸るべし 5 彼らその地を分ちて七分となすべしユダは南にてその境界の内にをりヨセフの家は北にてその境界の内にをるべし 6 汝らその地を描き寫して七分となし此にわが許に持きたれ我ここにて我等の神エホバの前になんぢらの爲に籤を掣ん 7 レビ人は汝らの中に何の分をも有ずエホバの祭司となることをもて其産業とす又ガド、ルベンおよびマナセの支派の半は

ヨルダンの彼旁東の方にて已にその産業を受たり是
エホバの僕モーセの之に與へし者なりと 8 その人々
すなはち起て往り其地を描き寫さんとて出ゆける此
者等にヨシユア命じて云ふ汝等ゆきてその地を歩き
めぐり之を描き寫して我に歸りきたれ我シロにて此
にエホバの前にて汝らのために籤を掣んと 9 その人
々ゆきてその地を經めぐり邑にしたがひて之を七分
となして書に描き寫しシロの營に歸りてヨシユアに
詣りければ 10 ヨシユア、シロにて彼らのためにエホ
バの前に籤を掣り而してヨシユア彼所にてイスラエ
ルの子孫の區分にしたがひて其地を分ち與へたり 11
まづベニヤミンの子孫の支派のためにその宗族にし
たがひて籤を掣りその籤によりて獲たる地の境界は
ユダの子孫とヨセフの子孫の間にわたる 12 即ちその
北の方の境界はヨルダンよりしてエリコの北の脇に
上り西の山地を逾てまた上りベテアペンの荒野にい
たりて盡く 13 彼處よりその境界ルズに進みルズの南
の脇にいたるルズはベテルなり而して其境界下ベテ
ホロンの南に横たはる山に沿てアタロテアダルに下
り 14 延て西の方にて南に曲りベテホロンの南面に横
はるところの山より進みユダの子孫の邑キリアテバ
アル即ちキリアテヤリムにいたりて盡くその西の境
界は是のごとし 15 またその南の方はキリアテヤリム
の極處よりして西におもむきてネフトアの水の源に
いたり 16 レバイムの谷の中の北の方にてベニヒンノ
ムの谷の前に横たはる所の山の極處に下り其處より
してヒンノムの谷に下りてエブス人の南の脇にいた
りエンロゲルに下り 17 北に延てエンシメシにおもむ
きアドミムの阪に對へるグリロテにおもむきルベン

人、ボハンの石まで下り **18** 北の方にてアラバに對する處にわたりてアラバに下り **19** ペテホグラの北の脇にわたりヨルダンの南の極にて鹽海の北の入海にいたりて盡くその南の境界は是のごとし **20** 東の方にてはヨルダンその境界となる是すなはちベニヤミンの子孫がその宗族にしたがひて獲たる産業の周圍の境界なり **21** ベニヤミンの子孫の支派がその宗族にしたがひて獲たる邑々はエリコ、ペテホグラ、エメクケジツ **22** ペテアラバ、ゼマライム、ペテル **23** アピム、パラ、オフラ **24** ケパルアンモン、オフニ、ケバの十二邑ならびに之に屬る村々なり **25** ギベオン、ラマ、ペエロテ **26** ミヅパ、ケピラ、モザ **27** レケム、イルピエル、タララ、 **28** ゼラ、エレフ、エブスすなはちエルサレム、ギベア、キリアテの十四邑ならびに之につける村々はなり ベニヤミンの子孫がその宗族にしたがひて獲たる産業は是のごとし

19 次にシメオンのため即ちシメオン子孫の支派のためにその宗族にしたがひて籤を掣りその産業はユダの子孫の産業の中にあり **2** その有る産業はベエルシバ即ちシバ、モラダ **3** ハザルシユアル、バラ、エゼム **4** エルトラデ、ベトル、ホルマ **5** チクラグ、ベテマルカボテ、ハザルスサ **6** ペテレバオテ、シャルヘンの十三邑並びに之につける村々 **7** およびアイン、リンモン、エテル、アシヤンの四邑ならびに之につける村々 **8** および此邑々の周圍にありてバアラテベエルすなはち南のラマまでに至るところの一切の村々等なりシメオンの子孫の支派がその宗族にしたがひて獲たる産業は是のごとし **9** シメオンの子孫の産業はユダの子孫の分の中より出づ是ユダの子孫の

分自分のためには多かりしに因てシメオンの子孫のおのれの産業を彼らの産業の中に獲たるなり **10** 第三にゼブルンの子孫のために其宗族にしたがひて籤を掣り其産業の境界はサリデに及び **11** また西に上りてマララに至りダバセテに達しヨグネアムの前なる河に達し **12** サリデよりして東の方日のいづる方にまがりてキスロテタボルの境界にいたりタベラに出でヤピアに上り **13** 彼處より東の方ガテヘベルにわたりてイッタカジンにいたりネアまで廣がるところのリンモンに至りて盡き **14** また北にまはりてハンナトンにいたりイフタエルの谷にいたりて盡く **15** カツタテ、ナハラル、シムロン、イダラ、ペテレヘムなどの十二邑ならびに之につける村々あり **16** ゼブルンの子孫がその宗族にしたがひて獲たる産業およびその邑と村とは是のごとし **17** 第四にイツサカルすなはちイツサカルの子孫のためにその宗族にしたがひて籤を掣り **18** その境界の包括る處はエズレル、ケスロテ、シユネム **19** ハパライム、シオン、アナハラテ **20** ラビテ、キシシ、エベツ **21** レメテ、エンガンニム、エンハダ、ペテパツゼズなどなり **22** その境界タボル、シヤハヂマおよびベテシメシに達しその境界ヨルダンにいたりて盡く其邑あはせて十六また之につける村々あり **23** イツサカルの子孫の支派が其宗族にしたがひて獲たる産業および其邑々村々は是の如し **24** 第五にアセルの子孫の支派のために其宗族にしたがひて籤を掣り **25** 其境界の内はヘルカテ、ハリ、ペテン、アクサフ **26** アランメレク、アマデ、ミシヤルなり其境界西の方カルメルに達しまたシホルリブナテに達し **27** 日の出る方に折てベテダゴンにいたりゼブルン

に達し北の方イフタエルの谷のベテエメク及びネイエ
エルに達し左してカブルに出で **28** エプロン、レホブ
、ハンモン、カナにわたりて大シドンにまでいたり
29 ラマに旋りツロの城に及びまたホサに旋りアクジ
ブの邊にて海にいたりて盡く **30** またウンマ、アベク
およびレホブありその邑あはせて二十二また之につ
ける村々あり **31** アセルの子孫の支派がその宗族にし
たがひて獲たる産業およびその邑々村々は是のごと
し **32** 第六にナフタリの子孫のためにナフタリの子孫
の宗族にしたがひて籤を掣り **33** その境界はヘレフよ
り即ちザアナムの檜の樹より起りアダミネケブお
よびヤブニエルを経てラクムにいたりヨルダンにい
たりて盡く **34** 而して其境界西に旋りてアズノテタボ
ルにいたり彼處よりホツコクに出で南はゼブルンに
達し西はアセルに達し日の出る方はヨルダンの邊に
てユダに達す **35** その堅固たる邑々はヂデム、ゼル、
ハンマテ、ラツカテ、キンネレテ **36** アダマ、ラマ、
ハゾル **37** ケデシ、エデレイ、エンハゾル **38** イロン
、ミグダルエル、ホレム、ベテアナテ、ベテシメシ
など合せて十九邑亦これにつける村々あり **39** ナフタ
リの子孫の支派がその宗族にしたがひて獲たる産業
およびその邑々村々は是のごとし **40** 第七にダンの子
孫の支派のためにその宗族にしたがひて籤を掣り **41**
その産業の境界の内はゾラ、エシタオル、イルシメ
シ **42** シヤラビム、アヤロン、イテラ **43** エロン、テ
ムナ、エクロン **44** エルテケ、ギベトン、バアラテ **45**
エホデ、ベネベラク、ガテリンモン **46** メヤルコン、
ラツコン、ヨツパと相對ふ地などなり **47** 但しダンの
子孫の境界は初よりは廣くなれり其はダンの子孫上

りゆきてライシを攻取り刃をもちてこれを撃ほろぼし之を獲て其處に住たればなり而してその先祖ダンの名にしたがひてライシをダンと名けたり 48 ダンの子孫の支派がその宗族にしたがひて獲たる産業およびその邑々村々は是のごとし 49 かく境界を畫りて産業の地を與ふることを終ぬ而してイスラエルの子孫おのれの中にてヌンの子ヨシユアに産業を與へたり 50 すなはちエホバの命にしたがひて彼にその求むる邑を與ふエフライムの山地なるテムナテセウ是なり彼その邑を建なほして其處に住む 51 祭司エレアザル、ヌンの子ヨシユアおよびイスラエルの子孫の支派の族長等がシロにおいて集會の幕屋の門にてエホバの前に籤をもて分與へし産業は是のごとし斯地を分つことを終たり

20 茲にエホバ、ヨシユアに告て言たまひけるは 2 汝イスラエルの子孫に告て言へ汝等モーセによりて我が汝らに語りおきし逃遁の邑を擇び定め 3 誤りて知ずに人を殺せる者を其處に逃れしめよ是は汝らが仇打する者を避て逃るべき處なり 4 斯る者は是等の邑の一に逃れゆき邑の門の入口に立てその邑の長老等の耳にその事情を述べし然る時は彼ら之をその邑に受いれ處を與へて己の中に住しむべし 5 假令仇打する者追ゆくとも彼らその人を殺せる者を之が手に交すべからず其は彼知ずして人を殺せるにて素より之を惡みをりしに非ればなり 6 その人は會衆の前に立て審判を受るまで其時の祭司の長の死る迄その邑に住をるべし然る後その人を殺せる者己の邑に歸り往てその家にいたり己が逃いでし邑に住むべし 7 爰にナフタリの山地なるガリラヤのケデシ、エフライ

ムの山地なるシケムおよびユダの山地なるキリアテアルバ(すなはちヘブロン)を之がために分ち 8 またヨルダンの彼旁エリコの東の方にてはルベンの支派の中より平地なる荒野のベゼルを擇び定めガドの支派の中よりギレアデのラモテを擇び定めマナセの支派の中よりバシヤンのゴランを擇び定めたり 9 是すなはちイスラエルの一切の子孫および之の中に寄寓をる他國人のために設けたる邑々にして凡て人を誤まり殺せる者を此に逃れしめ其會衆の前に立ざる中に仇打の手に死るがごときことなからしめんためなり

21 茲にレビの族長等來りて祭司エレアザル、ヌンの子ヨシユアおよびイスラエルの子孫の支派の族長等の許にいたり 2 カナンの地シロにおいて之に語りて言ふエホバかつて我らに住べき邑々を與ふることおよびその郊地を我らの家畜のために與ふる事をモーセによりて命じおきたまへりと 3 イスラエルの子孫すなはちエホバの命にしたがひて自己の産業の中より左の邑々とその郊地とをレビ人に與ふ 4 先コハテ人の宗族のために籤を掣り祭司アロンの子孫たるレビ人籤によりてユダの支派の中シメオンの支派の中およびベニヤミンの支派の中より十三の邑を獲 5 その餘のコハテの子孫は籤によりてエフライムの支派の宗族の中ダンの支派の中マナセの支派の半の中より十の邑を獲たり 6 またゲシヨンの子孫は籤によりてイツサカルの支派の宗族の中アセルの支派の中ナフタリの支派の中およびバシヤンにあるマナセの支派の半の中より十三の邑を獲たり 7 またメラリの子孫は其宗族にしたがひてルベンの支派の中ガドの

支派の中およびゼブルンの支派の中より十二の邑を獲たり 8 イスラエルの子孫エホバのモーセによりて命じたまひし所にしたがひて此の邑々とその郊地とを籤によりてレビ人に與ふ 9 即ち先ユダの子孫の支派の中およびシメオンの子孫の支派の中より左に名を擧たる邑々を與ふ 10 是はレビの子孫コハテ人の宗族なるアロンの子孫に歸す其は彼ら第一の籤にあたりたればなり 11 即ちユダの山地なるキリアテアルバ即ちヘブロンおよびその周圍の郊地をこれに與ふ此アルバはアナクの父なりき 12 その邑の田野およびその村々はこれをエフンネの子カレブに與へて所有となさしむ 13 祭司アロンの子孫に與へし者は即ち人を殺し者の逃るべき邑なるヘブロンとその郊地リブナとその郊地 14 ヤツテルとその郊地エシテモアとその郊地 15 ホロンとその郊地デビルとその郊地 16 アイとその郊地ユッタとその郊地ベテシメシとその郊地此九の邑は此ふたつの支派の中より分ちしものなり 17 またベニヤミンの支派の中よりギベオンとその郊地ゲバとその郊地 18 アナトテとその郊地アルモンとその郊地など四の邑をあたへたり 19 アロンの子孫たる祭司等の邑は合せて十三邑又之につける郊地あり 20 この他のコハテの子孫なるレビ人の宗族籤によりてエフライムの支派の中より邑を獲たり 21 即ち之に與へしは人を殺せる者の逃るべき邑なるエフライムの山地のシケムとその郊地およびゲゼルとその郊地 22 キブザイムとその郊地ベテホロンとその郊地など四の邑なり 23 又ダンの支派の中より分ちて與へし者はエルテケとその郊地ギベトンとその郊地 24 アヤロンとその郊地ガテリンモンとその郊地など四の邑

なり **25** 又マナセの支派の半の中より分ちて與へし者は
タアナクとその郊地ガテリンモンとその郊地など
二の邑なり **26** 外のコハテの子孫の宗族の邑は合せて
十また之につける郊地あり **27** ゲルシヨンの子孫たる
レビ人の宗族に與へし者はマナセの支派の半の中よ
りは人を殺せる者の逃るべき邑なるバシヤンのゴラ
ンとその郊地およびベエシテラとその郊地など二の
邑なり **28** イツサカルの子孫の中よりはキシオンとそ
の郊地ダベラとその郊地 **29** ヤルムテとその郊地エン
ガンニムとその郊地など四の邑なり **30** アセルの支派
の中よりはミシャルとその郊地アブドンとその郊地
31 ヘルカテとその郊地レホブとその郊地など四の邑
なり **32** ナフタリの支派の中よりは人を殺せる者の逃
るべき邑なるガリラヤのケデシとその郊地およびハ
ンモテドルとその郊地カルタンとその郊地など三の
邑なり **33** ゲルシヨン人がその宗族にしたがひて獲た
る邑は合せて十三邑にして又これに屬る郊地あり **34**
この餘のレビ人なるメラリの子孫の宗族に與へし者
はゼブルンの支派の中よりはヨクネアムと其郊地カ
ルタとその郊地 **35** デムナとその郊地ナハラルとその
郊地など四の邑なり **36** ルベンの支派の中よりはベゼ
ルとその郊地ヤハヅとその郊地 **37** ケデモテとその郊
地メバアテとその郊地など四の邑なり **38** ガドの支派
の中よりは人を殺せる者の逃るべき邑なるギレアデ
のラモテとその郊地およびマハナイムとその郊地 **39**
ヘシボンとその郊地ヤゼルとその郊地など合せて四
の邑 **40** 是みな外のレビ人なるメラリの子孫がその宗
族にしたがひて獲たる邑々なり其籤によりて獲たる
邑は合せて十二 **41** イスラエルの子孫の所有の中にレ

び人が有る邑々は合せて四十八邑又之につける郊地あり 42 この邑々は各々その周圍に郊地あり此邑々みな然り 43 かくエホバ、イスラエルに與へんとその先祖等に誓ひたまひし地をことごとく與へたまひければ彼ら之を獲て其處に住り 44 エホバ凡てその先祖等に誓ひたまひし如く四方におて彼らに安息を賜へり其すべての敵の中に一人も之に當ることを得る者なかりきエホバかれらの敵をことごとくその手に付したまへり 45 エホバがイスラエルの家に語りたまひし善事は一だに缺ずして悉くみな來りぬ

22 茲にヨシユア、ルベン人ガド人およびマナセの支派の半を召て 2 これに言けるは汝らはエホバの僕モーセが汝らに命ぜし所をことごとく守り又わが汝らに命ぜし一切の事において我言に聽したがへり 3 汝らは今日まで日ひさしく汝らの兄弟を離れずして汝らの神エホバの命令の言を守り來り 4 今は已に汝らの神エホバなんぢらの兄弟に向に宣まひし如く安息を賜ふに至れり然ば汝ら身を轉らしエホバの僕モーセが汝らに與へしヨルダンの彼方なる汝等の産業の地に歸りて自己の天幕にゆけ 5 只エホバの僕モーセが汝らに命じおきし誠命と律法とを善く謹しみて行ひ汝らの神エホバを愛しその一切の途に歩みその命令を守りて之に附したがひ心を盡し精神を盡して之に事ふべしと 6 かくてヨシユア彼らを祝して去しめければ彼らはその天幕に往り 7 マナセの支派の半にはモーセ、バシヤンにて産業を與へおけりその他の半にはヨシユア、ヨルダンの此旁西の方にてその兄弟等の中に産業を與ふヨシユア彼らをその天幕に歸し遣るに當りて之を祝し 8 之に告て言けるは汝ら

衆多の貨財夥多しき家畜金銀銅鐵および夥多しき衣服をもちて汝らの天幕に歸り汝らの敵より獲たるその物を汝らの兄弟の中に分つべしと 9 爰にルベンの子孫ガドの子孫およびマナセの支派の半はエホバのモーセによりて命じ給ひし所に循ひて己の所有の地すなはち已に獲たるギレアデの地に往んとてカナンの地のシロよりしてイスラエルの子孫に別れて歸りけるが 10 ルベンの子孫ガドの子孫およびマナセの支派の半カナンの地のヨルダンの岸邊にいたるにおよびて彼處にてヨルダンの傍に一の壇を築けりその壇は大にして遙に見えわたる 11 イスラエルの子孫はルベンの子孫ガドの子孫およびマナセの支派の半カナンの地の前の部にてヨルダンの岸邊イスラエルの子孫に屬する方にて一の壇を築けりと言を聞き 12 イスラエルの子孫これを聞と齊しくイスラエルの子孫の會衆ことごとくシロに集まりて彼らの所に攻のぼらんとす 13 イスラエルの子孫すなはち祭司エレアザルの子ピハネスをギレアデの地に遣はしてルベンの子孫ガドの子孫およびマナセの支派の半の所に至らしめ 14 イスラエル各々の支派の中より父祖の家の牧伯一人づつを擧て合せて十人の牧伯を之に伴なはしむ是みなイスラエルの家族の中にて父祖の家の長たる者なりき 15 彼らギレアデの地に往きルベンの子孫ガドの子孫およびマナセの支派の半にいたりて之に語りて言けらく 16 エホバの全會衆かく言ふ汝らイスラエルの神にむかひて愆を犯し今日すでに翻へりてエホバに従がはざらんとし即ち己のために一の壇を築きて今日エホバに叛かんとするは何事ぞや 17 ペオルの罪われらに足ざらんや之がためにエホバの會衆

に災禍くだりたりしかども我ら今日までも尚身を潔めてその罪を棄ざるなり **18** 然るに汝らは今日ひるがへりてエホバに従がはざらんとするや汝ら今日エホバに叛けば明日はエホバ、イスラエルの全會衆を怒りたまふべし **19** 然ながら汝らの所有の地もし潔からずばエホバの幕屋のたてるエホバの産業の地に濟り來て我らの中にて所有を獲よ惟われらの神エホバの壇の外に壇を築きてエホバに叛く勿れまた我らに悖るなかれ **20** ゼラの子アカン詛はれし物につきて愆を犯しつひにイスラエルの全會衆に震怒臨みしにあらざりや且また其罪にて滅亡し者は彼人ひとりにはあらざりき **21** ルベンの子孫ガドの子孫およびマナセの支派の半答へてイスラエルの宗族の長等に言けるは **22** 諸の神の神エホバ諸の神の神エホバ知しめすイスラエルも亦知んもし叛く事あるひはエホバに罪を犯す事ならば汝今日我らを救ふなかれ **23** 我らが壇を築きし事もし翻がへりてエホバに従がはざらんが爲なるか又は其上に燔祭素祭を獻げんが爲なるか又はその上に酬恩祭の犠牲を獻げんがためならばエホバみづからその罪を問討したまへ **24** 我等は遠き慮をもて故に斯なしたるなり即ち思ひけらく後の日にいたりて汝らの子孫われらの子孫に語りて言ならん汝らはイスラエルの神エホバと何の関係あらんや **25** ルベンの子孫およびガドの子孫よエホバ我らと汝らの間にヨルダンを界となしたまへり汝らはエホバの中に分なしと斯いひてなんぢらの子孫われらの子孫としてエホバを畏るることを息しめんと **26** 是故に我ら言けらく我らいま一の壇を我らのために築かんと是燔祭のために非ずまた犠牲のために非ず **27** 惟し之をして我

らと汝らの間および我らの後の子孫の間に證とならしめて我ら燔祭犠牲および酬恩祭をもてエホバの前にその職務をなさんがためなり然せば汝らの子孫後の日いたりて我らの子孫に汝らはエホバの中に分なしと言こと無らん **28** 是をもて我ら言り彼らが我らまたは後の日に我らの子孫に然いはばその時我ら言ん我らの父祖の築きたりしエホバの壇の模形を見よ是は燔祭のためにも非ずまた犠牲のためにもあらず我らと汝らとの間の證なり **29** エホバに叛き翻へりて今日エホバに従がふことを息め我らの神エホバの幕屋の前にあるその祭壇の外に燔祭素祭犠牲などのために壇を築くことは我らの絶て爲ざる所なり **30** 祭司ピネハスおよび會衆の長等即ち彼とともにイスラエルの宗族の首等はルベンの子孫ガドの子孫およびマナセの子孫が述たる言を聞て善とせり **31** 祭司エレアザルの子ピネハスすなはちルベンの子孫ガドの子孫およびマナセの子孫に言けるは我ら今日エホバの我らの中に在すを知る其は汝らエホバにむかひて此愆を犯さざればなり今なんぢらはイスラエルの子孫をエホバの手より救ひいだせりと **32** 祭司エレアザルの子ピネハスおよび牧伯等すなはちルベンの子孫およびガドの子孫に別れてギレアデの地よりカナンの地に歸りイスラエルの子孫にいたりて復命しけるに **33** イスラエルの子孫これを善とせり而してイスラエルの子孫神を讃めルベンの子孫およびガドの子孫の住る國を滅ぼしに攻上らんと重ねて言ざりき **34** ルベンの子孫およびガドの子孫その壇をエド(證)と名けて云ふ是は我らの間にありてエホバは神にいますとの證をなす者なりと

23 エホバ、イスラエルの四方の敵をことごとく除きて安息をイスラエルに賜ひてより久しき後すなはちヨシユア年邁みて老たる後 **2** ヨシユア一切のイスラエル人すなはち其長老首領裁判人官吏などを招きよせて之に言けるは **3** 我は年すすみて老ゆ汝らは已に汝らの神エホバが汝らのために此もろもろの國人に行ひたまひし事を盡く見たり即ち汝らの神エホバみづから汝らのために戦ひたまへり **4** 視よ我ヨルダンより日の入る方大海までの此もろもろの漏のこれる國々および已に滅ぼしたる一切の國々を籤にて汝らに分ちて汝らの支派の産業となさしめたり **5** 汝らの神エホバみづから汝らの前よりその國民を打攘ひ汝らの目の前よりこれを逐はらひたまはん而して汝らは汝らの神エホバの汝らに宣まひしごとく之が地を獲にいたるべし **6** 然ば汝ら勵みてモーセの律法の書に記されたる所を盡く守り行なへ之を離れて右にも左にも曲るなかれ **7** 汝らの中間に遺りをる是等の國人の中に往なかれ彼らの神の名を唱ふるなかれ之を指て誓はしむる勿れ又これに事へこれを拝むなかれ **8** 惟今日まで爲たるごとく汝らの神エホバに附したがへ **9** それエホバは大にして且強き國民を汝らの前より逐はらひたまへり汝らには今日まで當ることを得る人一箇もあらざりき **10** 汝らの一人は千人を逐ことを得ん其は汝らの神エホバ汝らに宣まひしごとく自ら汝らのために戦ひたまへばなり **11** 然ば汝ら自ら善く慎しみて汝らの神エホバを愛せよ **12** 然らずして汝ら若後もどりしつつ是等の國人の漏のこりて汝らの中間に止まる者等と親しくなり之と婚姻をなして互に相往來しなば **13** 汝ら確く知れ汝らの神エホバ

かさねて是等の國人を汝らの目の前より逐はらひたまはじ彼ら反て汝らの羈となり罾となり汝らの脇に鞭となり汝らの目に荊となりて汝ら遂に汝らの神エホバの汝らに賜ひしこの美地より亡び絶ん **14** 視よ今日われは世人の皆ゆく途を行んとす汝ら一心一念に善く知るならん汝らの神エホバの汝らにつきて宣まひし諸の善事は一も缺る所なかりき皆なんぢらに臨みてその中一も缺たる者なきなり **15** 汝らの神エホバの汝らに宣まひし諸の善事の汝らに臨みしごとくエホバまた諸の悪き事を汝らに降して汝らの神エホバの汝らに與へしこの美地より終に汝らを滅ぼし絶たまはん **16** 汝ら若なんぢらの神エホバの汝らに命じたまひしその契約を犯し往て他神に事へてこれに身を鞠むるに於てはエホバの震怒なんぢらに向ひて燃いでてなんぢらエホバに與へられし善地より迅速に亡びうせん

24 茲にヨシユア、イスラエルの一切の支派をシケムに集めイスラエルの長老首領裁判人官吏などを招きよせて諸共に神の前に進みいで **2** 而してヨシユアすべての民に言けるはイスラエルの神エホバかく言たまふ汝らの遠祖すなはちアブラハムの父たりナホルの父たりシテラのごときは在昔河の彼旁に住て皆他神に事へたりしが **3** 我なんぢらの先祖アブラハムを河の彼旁より携へ出してカナンの全地を導きてすぎその子孫を増んとして之にイサクを與へたり **4** 而してイサクにヤコブとエサウを與へエサウにセイル山を與へて獲させたりまたヤコブとその子等はエジプトに下れり **5** 我モーセおよびアロンを遣はしたまひ災禍をエジプトに降せり我がその中に爲たる所の事

のごとし而して後われ汝らを導びき出せり 6 我なんぢらの父をエジプト入り導き出し汝ら海に至りしにエジプト人戦車と騎兵とをもて汝らの後を追て紅海に來りけるが 7 汝らの父等エホバに呼はりければエホバ黑暗を汝らとエジプト人との間に置き海を彼らの上に傾むけて彼らを淹へり汝らは我がエジプトにて爲たる事を目に觀たり斯て汝らは日ひさしく曠野に住をれり 8 我またヨルダンの彼旁にすめるアモリ人の地に汝らを携へいれたり彼ら汝らと戦ひければ我かれらを汝らの手に付しかれらの地をなんぢらに獲しめ彼らを汝らの前より滅ぼし去り 9 時にモアブの王チツポルの子バラク起てイスラエルに敵し人を遣はしてペオルの子バラムを招きて汝らを詛はせんとしたりしが 10 我バラムに聽ことを爲ざりければ彼かへつて汝らを祝せり斯われ汝らを彼の手より拯出せり 11 而して汝らヨルダンを濟りてエリコに至りしにエリコの人々すなはちアモリ人ペリジ人カナン人ヘテ人ギルガシ人ヒビ人エブス人等なんぢらに敵したりしが我かれらを汝らの手に付せり 12 われ黄蜂を汝らの前に遣はして彼のアモリ人の王二人を汝らの前より逐はらへり汝らの劍または汝らの弓を用ひて斯せしに非ず 13 而して我なんぢらが勞せしに非ざる地を汝らに與へ汝らが建たるに非ざる邑を汝らに與へたり汝らは今その中に住をる汝らは亦己が作りたるに非ざる葡萄園と橄欖園とにつきて食ふ 14 然ば汝らエホバを畏れ赤心と眞實とをもて之に事へ汝らの先祖が河の彼邊およびエジプトにて事へたる神を除きてエホバに事へよ 15 汝ら若エホバに事ふることを惡とせば汝らの先祖が河の彼邊にて事へし神々にも

あれ又は汝らが今をる地のアモリ人の神々にもあれ
汝らの事ふべき者を今日選べ但し我と我家とは共に
エホバに事へん 16 民こたへて言けるはエホバを棄て
他神に事ふることは我等きはめて爲じ 17 其は我らの
神エホバみづから我等と我らの先祖とをエジプトの
地奴隸の家より導き上りかつ我らの目の前にかの大
なる徴を行ひ我らが往し一切の路にて我らを守りま
た我らが其中間を通りし一切の民の中にて我らを守
りたまひければなり 18 而してエホバ此地に住をりし
アモリ人などいふ一切の民を我らの前より逐はらひ
たまへり然ば我らもエホバに事へん彼は我らの神な
ればなり 19 ヨシユア民に言けるは汝らはエホバに事
ふること能はざらん其は彼は聖神また妬みたまふ神
にして汝らの罪愆を赦したまはざればなり 20 汝ら若
エホバを棄て他神に事へなば汝らに福祉を降したま
へる後にも亦ひるがへりて汝らに災禍を降して汝ら
を滅ぼしたまはん 21 民ヨシユアに言けるは否我ら必
らずエホバに事ふべしと 22 ヨシユア民に向ひて汝ら
はエホバを選びて之に事へんといへりなんぢら自ら
その證人たりと言ければ皆我らは證人なりと答ふ 23
ヨシユアまた言り然ば汝らの中にある異なる神を除
きてイスラエルの神エホバに汝らの心を傾むけよ 24
民ヨシユアに言けるは我らの神エホバに我らは事へ
其聲に我らは聽したがふべしと 25 ヨシユアすなはち
其日民と契約を結びシケムにおいて法度と定規とを
彼らのために設けたり 26 ヨシユアこれらの言を神の
律法の書に書し大なる石をとり彼處にてエホバ
の聖所の傍なる櫨の樹の下に之を立て 27 而してヨシ
ユア一切の民に言けるは視よ此石われらの證となる

べし是はエホバの我らに語りたまひし言をことごとく聞たればなり然ば汝らが己の神を棄ること無らんために此石なんぢらの證となるべしと 28 かくてヨシユア民を各々その産業に歸しさらしめたりき 29 是らの事の後エホバの僕ヌンの子ヨシユア百十歳にして死り 30 人衆これをその産業の地の内にてテムナテセラに葬むれりテムナテセラはエフライムの山地にてガアシ山の北にあり 31 イスラエルはヨシユアの世にある日の間またエホバがイスラエルのために行ひたまひし諸の事を識みてヨシユアの後に生存れる長老等の世にある日の間つねにエホバに事へたり 32 イスラエルの子孫のエジプトより携さへ上りしヨセフの骨を昔ヤコブが銀百枚をもてシケムの父ハモルの子等より買たりしシケムの中なる一の地に葬れり是はヨセフの子孫の産業となりぬ 33 アロンの子エレアザルもまた死り人衆これを其子ピネハスがエフライムの山地にて受たりし岡に葬れり

士師記

1 ヨシユアの死にたるのちイスラエルの子孫エホバに問ひていひけるはわれらの中孰か先に攻め登りてカナン人と戦ふべきや **2** エホバいひたまひけるはユダ上るべし視よ我此國を其の手に付すと **3** ユダその兄弟シメオンに言けるは我と共にわが領地にのぼりてカナン人と戦へわれもまた偕に汝の領地に往べしとここにおいてシメオンかれとともにゆけり **4** ユダすなはち上りゆきけるにエホバその手にカナン人とペリジ人とを付したまひたればベゼクにて彼ら一萬人を殺し **5** またベゼクにおいてアドニベゼクにゆき逢ひこれと戦ひてカナン人とペリジ人を殺せり **6** しかるにアドニベゼク逃れ去りしかばそのあとを追ひてこれを執へその手足の巨擘を斫りはなちたれば **7** アドニベゼくいひけるは七十人の王たちかつてその手足の巨擘を斫られて我が食几のしたに屑を拾へり神わが曾て行ひしところをもてわれに報いたまへるなりと衆之を曳てエルサレムに至りしが其處にしねり **8** ユダの子孫エルサレムを攻めてこれを取り刃をもてこれを撃ち邑に火をかけたり **9** かくてのちユダの子孫山と南方の方および平地に住めるカナン人と戦はんとて下りしが **10** ユダまづヘブロンに住るカナン人を攻めてセシヤイ、アヒマンおよびタルマイを殺せり〔ヘブロンの舊の名はキリアテアルバなり〕 **11** またそこより進みてデビルに住るものを攻む〔デビルの舊の名はキリアテセペルなり〕 **12** 時にカレブいひけるはキリアテセペルをうちてこれを取るものにはわが女アクサをあたへて妻となさんと **13** カレブの舎弟ケナズの子オテニエルこれを取ればすなは

ちその女アクサをこれが妻にあたふ 14 アクサ往くと
きおのれの父に田圃を求めんことを夫にすすめたり
しがつひにアクサ驢馬より下りければカレブこれは
何事ぞやといふに 15 答へけるはわれに恵賜をあたへ
よなんぢ南の地をわれにあたへたればねがはくは源
泉をもわれにあたへよとここにおいてカレブ上の源
泉と下の源泉とをこれにあたふ 16 モーセの外舅ケニ
の子孫ユダの子孫と偕に棕櫚の邑よりアラドの南な
るユダの野にのぼり來りて民のうちに住居せり 17 茲
にユダその兄弟シメオンとともに往きてゼバテに住
るカナン人を撃ちて盡くこれを滅ぼせり是をもてそ
の邑の名をホルマと呼ぶ 18 ユダまたガザと其の境ア
シケロンとその境およびエクロンとその境を取り 19
エホバ、ユダとともに在したればかれつひに山地を
手に入れたりしが谷に住る民は鐵の戰車をもちたる
が故にこれを逐出すこと能はざりき 20 衆モーセのか
つていひし如くヘブロンをカレブに與ふカレブその
ところよりアナクの三人の子をおひ出せり 21 ベニヤ
ミンの子孫はエルサレムに住るエブス人を追出さざ
りしりかばエブス人は今日に至るまでベニヤミンの
子孫とともにエルサレムに住ふ 22 茲にヨセフの族ま
たベテルをさして攻め上るエホバこれと偕に在しき
23 ヨセフの族すなはちベテルを窺察しむ〔此邑の舊
の名はルズなり〕 24 その間者邑より人の出來るを見
てこれにいひけるは請ふわれらに邑の入口を示せさ
らば汝に恩慈を施さんと 25 彼邑の入口を示したれば
すなはち刃をもて邑を撃てり然ど彼の人と其家族を
ばみな縦ち遣りぬ 26 その人へテ人の地にゆき邑を建
てルズと名けたり今日にいたるまでこれを其名とな

す 27 マナセはベテシヤンとその村里の民タアナクとその村里の民ドルとその村里の民イプレムとその村里の民メギドンとその村里の民を逐ひ出さざりきカナン人はなほその地に住ひ居る 28 イスラエルはその強なりしときカナン人をして貢を納れしめたりしが之を全く追ひいだすことは爲ざりき 29 エフライムはゲゼルに住るカナン人を逐ひいださざりきカナン人はゲゼルにおいてかれらのうちに住み居たり 30 ゼブルンはまたキテロンの民およびナハラルの民を逐ひいださざりきカナン人かれらのうちに住みて貢ををさむるものとなりぬ 31 アセルはアツコの民およびシドン、アヘラブ、アクジブ、ヘルバ、アピク、レホブの民を逐ひ出さざりき 32 アセル人は其地の民なるカナン人のうちに住み居たりそはこれを逐ひ出さざりしゆゑなり 33 ナフタリはベテシメシの民およびベテアナテの民を逐ひ出さずその地の民なるカナン人のうちに住み居たりベテシメシとベテアナテの民はつひにかれらに貢を納むるものとなりぬ 34 アモリ人ダンの子孫を山におひこみ谷に下ることを得させざりき 35 アモリ人はなほヘレス山アヤロン、シヤラビムに住ひ居りしがヨセフの家の手力勝りたれば終に貢を納むるものとなりぬ 36 アモリ人の界はアクラビムの阪よりセラを経て上に至れり

2 エホバの使者ギルガルよりボキムに上りていひけるは我汝等をエジプトより上らしめわが汝らの先祖に誓ひたる地に携へ來れりまた我いひけらくわれ汝らと締べる契約を絶てやぶることあらじ 2 汝らはこの國の民と契約を締ぶべからずかれらの祭壇を毀つべしとしかるに汝らはわが聲に従はざりき汝ら如何

なれば斯ることをなせしや 3 我またいひけらくわれ
汝らの前より彼らを追ふべからずかれら反て汝等の
肋を刺す荆棘とならんまた彼らの神々は汝等の咎と
なるべし 4 エホバの使これらの言をイスラエルのす
べての子孫に語しかば民聲をあげて哭ぬ 5 故に其所
の名をボキム（哭者）と呼ぶかれら彼所にてエホバ
に祭物を獻げたり 6 ヨシユア民を去しめたればイス
ラエルの子孫おのおのその領地におもむきて地を獲
たり 7 ヨシユアの世にありし間またヨシユアより後
に生きのこりたる長老等の世にありしあひだ民はエ
ホバに事へたりこの長老等はエホバのかつてイスラ
エルのために成したまひし諸の大なる行爲を見しも
のなり 8 エホバの僕ヌンの子ヨシユア百十歳にて死
り 9 衆人エフライムの山のテムナテヘレスにあるか
れらの産業の地においてガアシ山の北にこれを葬れ
り 10 かくてまたその時代のものごとくその先祖
のもとにあつめられその後に至りて他の時代おこり
しが是はエホバを識ずまたそのイスラエルのために
爲したまひし行爲をも識ざりき 11 イスラエルの子孫
エホバのまへに悪きことを作してバアリムにつかへ
12 かつてエジプトの地よりかれらを出したまひしそ
の先祖の神エホバを棄てて他の神すなはちその四周
なる國民の神にしたがひ之に跪づきてエホバの怒を
惹起せり 13 即ちかれらエホバをすててバアルとアシ
タロテに事へたれば 14 エホバはげしくイスラエルを
怒りたまひ掠むるもの手にわたして之を掠めしめ
かつ四周なるもろもろの敵の手にこれを賣たまひし
かばかれらふたたびその敵の前に立つことを得ざり
き 15 かれらいつこに往くもエホバの手これに災をな

しぬ是はエホバのいひたまひしごとくエホバのこれに誓ひたまひしごとしここにおいてかれら悩むこと甚だしかりしが 16 エホバ士師を立てたまひたればかれらこれを掠むるものの手よりすくひ出したり 17 然るにかれらその士師にもしたがはず反りて他の神を慕て之と淫をおこなひ之に跪き先祖がエホバの命令に従がひて歩みたることろの道を頓に離れ去りてその如くには行はざりき 18 かれらのためにエホバ士師を立てたまひし時に方りてはエホバつねにその士師とともに在しその士師の世に在る間はエホバかれらを敵の手よりすくひ出したまへり此はかれらおのれを虐げくるしむるものありしを呻きかなしめるによりてエホバ之を哀れみたまひたればなり 19 されどその士師の死しのちまた戻きて先祖よりも甚だしく邪曲を行ひ他の神にしたがひてこれに事へ之に跪きておのれの行爲を息めずその頑固なる路を離れざりき 20 是をもてエホバはげしくイスラエルをいかりていひたまはく此民はわがかつてその列祖に命じたる契約を犯し吾聲に従がはざるがゆゑに 21 我もまたいまよりはヨシユアがその死しときに存しおけるいづれの國民をもかれらのまへより逐ひはらはざるべし 22 此は我イスラエルがその先祖の守りしごとくエホバの道を守りてこれに歩むやいなやを試みんがためなりと 23 エホバはこれらの國民を逐はらふことを速にせずして之を遺しおきてヨシユアの手に付したまはざりしなり

3 エホバが凡てカナンの諸の戦争を知ざるイスラエルの者どもをこころみんとて遺しおきたまへる國民は左のごとし 2 {こはただイスラエルの代々の子孫

特にいまだ戦争を知ざるものにこれををしへ知らしめんがためなり〕 3 即ちペリシテ人の五人の伯すべてのカナン人シドン人およびレバノン山に住みてバアルヘルモンの山よりハマテに入るところまでを占めたるヒビ人はなり 4 これらをもてイスラエルをこころみかれらがエホバのモーセによりてその先祖に命じたまひし命令に遵ふや否を可知りしなり 5 イスラエルの子孫はカナン人ヘテ人アモリ人 6 ペリジ人ヒビ人エブス人のうちに住みかれらの女を妻に娶りまたおのれの女をかれらの子に與へかつかれらの神に事へたり 7 斯くイスラエルの子孫エホバのまへに悪をおこなひ己れの神なるエホバをわすれてバアリムおよびアシラに事へたり 8 是においてエホバはげしくイスラエルを怒りてこれをメソポタミヤの王クシャンリシヤタイムの手に賣り付したまひしかばイスラエルの子孫はおよそ八年のあひだクシャンリシヤタイムにつかへたり 9 茲にイスラエルの子孫エホバによばはりしかばエホバはイスラエルの子孫の爲にひとりの救者を起して之を救はしめ給ふすなはちカレブの舎弟ケナズの子オテニエル是なり 10 エホバの靈オテニエルにのぞみたれば彼イスラエルを治め戦ひに出づエホバ、メソポタミヤの王クシャンリシヤタイムをその手に付したまひたればオテニエルの手クシャンリシヤタイムに勝ことを得たり 11 かくて國は四十年のあひだ太平なりきケナズの子オテニエルつひに死り 12 イスラエルの子孫復エホバの眼のまへに悪をおこなふエホバかれらがエホバのまへに悪をおこなふによりてモアブの王エグロンをつよくなしてイスラエルに敵せしめたまへり 13 エグロンすな

はちアンモンおよびアマレクの子孫を招き聚め往きてイスラエルを撃ち梭欄の邑を取り 14 ここにおいてイスラエルの子孫は十八年のあひだモアブの王エグロンに事へたりしが 15 イスラエルの子孫エホバに呼はりけるときエホバかれらの爲に一個の救者を起したまふすなはちベニヤミン人ゲラの子なる左手利捷のエホデ是なりイスラエルの子孫かれを以てモアブの王エグロンに餽物せり 16 エホデ長一キユビットなる兩刃の劍を作らせこれを衣のしたに右の股のあたりにおび 17 餽物を齎してモアブの王エグロンのもとに詣るエグロンは甚だ肥たる人なりき 18 さて餽物を獻ぐることをはりしかば彼餽物を負ひ來りしものをかへし去らしめ 19 自らはギルガルの傍なる石像の在る所より引き回していひけるは王よ我爾に告ぐべき密事ありと王人拂を命じたればその旁に立つものみな出で去りぬ 20 エホデすなはち王のところに入來れり時に王はひとり上なる涼殿に坐し居たりしがエホデ我神の命に由りて爾に傳ふべきことありといひければ王すなはち座より起に 21 エホデ左の手を出し右の股より劍を取りてその腹を刺せり 22 柄もまた刃とともに入りたりしが脂肉刃を塞ぎて之を腹より抜き出すことあたはずその鋒銛うしろに出づ 23 エホデすなはち廊をとほりてその後を樓の戸を閉てこれを鎖せり 24 その出でしのち王の僕來りて樓の戸の鎖したるを見いひけるは王はかならず涼殿の間に足を蔽ひ居るならんと 25 僕ども耻るまでに俟居たれど王樓の戸をひらかざれば鑰をとりて之を開き見るにその君は地に仆れて死をる 26 エホデは彼等の猶豫ふ間に逃れて石像の在るところを過りセイラテに遁げゆけり 27

かれ既に至りエフライムの山に籟を吹きければイスラエルの子孫これとともに山より下るエホデこれを導けり 28 かれ人衆にいひけるは我に續て來れエホバ汝等の敵モアブ人を汝等の手に付したまふなりここにおいてかれらエホデにしたがひて下りモアブにおもむくところのヨルダンの津を取りて一人も渡ることを允さざりき 29 そのとき彼らモアブ人およそ一萬人を殺せり是皆肥太たる勇士なりそのうち一人も脱れたるものなし 30 モアブはその日イスラエルの手に服せり而して國は八十年の間太平なりき 31 エホデの後にアナテの子シヤムガルといふものあり牛の策を以てペリシテ人六百人を殺せり此人もまたイスラエルを救へり

4 エホデの死たるのちイスラエルの子孫復エホバの目前に悪を行しかば 2 エホバ、ハヅルにて世を治むるカナンの王ヤビンの手に之を賣たまふヤビンの軍勢の長はシセラといふ彼異邦人のハロセテに住居り 3 鐵の戦車九百輛を有居て二十年の間イスラエルの子孫を甚だしく虐げしかばイスラエルの子孫エホバに呼はれり 4 當時ラピドテの妻なる預言者デボラ、イスラエルの士師なりき 5 彼エフライムの山のラマとベテルの間に在るデボラの棕櫚の樹の下に坐せりイスラエルの子孫はその許に上りて審判を受く 6 デボラ人をつかはしてケデシ、ナフタリよりアピノアムの子バラクを招きこれにいひけるはイスラエルの神エホバ汝に斯く命じたまふにあらずやいはく汝ナフタリの子孫とゼブルンの子孫とを一萬人ひきゐゆきてタボル山におもむけ 7 我ヤビンの軍勢の長シセラおよびその戦車とその群衆とをキシオン河に引き寄

せて汝のもとに至らせ之を汝の手に付すべし 8 バラク之にいひけるは汝もし我とともにゆかば我往べし然ど汝もし我とともに行ずば我行ざるべし 9 デボラいひけるは我かならず汝とともに往くべし然ど汝は今往くところの途にては榮譽を得ることなからんエホバ婦人の手にシセラを賣りたまふべければなりとデボラすなはち起ちてバラクと共にケデシに往けり 10 バラク、ゼブルンとナフタリをケデシに招き一萬人を従へて上るデボラもまた之とともに上れり 11 ここにケニ人ヘベルといふ者あり彼はモーセの外舅ホバブの裔なるがケニを離れてケデシの邊なるザアナイムの橡の樹のかたはらにその天幕を張り居たり 12 衆アビノアムの子バラクがタボル山に上れるよしをシセラに告げたりければ 13 シセラそのすべての戦車すなはち鐵の戦車九百輛およびおのれとともに在るすべての民を異邦人のハロセテよりキシオン河に招き集へたり 14 デボラ、バラクにいひけるは起よ是エホバがシセラを汝の手に付したまふ日なりエホバ汝に先き立ちて出でたまひしにあらずやとバラクすなはち一萬人をしたがへてタボル山より下る 15 エホバ刃をもてシセラとその諸の戦車およびその全軍をバラクの前に打敗りたまひたればシセラ戦車より飛び下り徒歩になりて遁れ走れり 16 バラク戦車と軍勢とを追ひ撃て異邦人のハロセテに至れりシセラの軍勢は悉く刃にたふれて残れるもの一人もなかりしが 17 シセラは徒歩にて奔りケニ人ヘベルの妻ヤエルの天幕に來れり是はハゾルの王ヤビンとケニ人ヘベルの家とは互ひに睦じかりしゆゑなり 18 ヤエル出來りてシセラを迎へ之にいひけるは來れわが主よ入り來れ

怖るるなかれとシセラその天幕に入たればヤエル被
をもてこれを覆へり 19 シセラ之にいひけるはねがは
くは少しの水をわれに飲ませよ我渴けりとヤエルす
なはち乳囊を啓きて之に飲ませまた之を覆へり 20 シ
セラまた之にいひけるは天幕の門邊に立て居れもし
人來り汝にとふて誰かここに居るやといはば否と答
ふべしと 21 彼疲れて熟睡せしかばヘベルの妻ヤエル
天幕の釘子を取り手に鎚を携へてそのかたはらに忍
び寄り鬢のあたりに釘子をうちこみて地に刺し通し
たればシセラすなはち死たり 22 バラク、シセラを追
ひ來りしときヤエル之を出むかへていひけるは來れ
我汝の索るところの人を示さんとかれそのところ
に入て見にシセラ鬢のあたりに釘子うたれて死たふれ
をる 23 その日に神カナンの王ヤピンをイスラエルの
子孫のまへに打敗りたまへり 24 かくてイスラエルの
子孫の手ますます強くなりてカナンの王ヤピンに勝
ちつひにカナンの王ヤピンを亡ぼすに至れり

5 その日デボラとアピノアムの子バラク謳ひていは
く 2 イスラエルの首長みちびきをなし民また好んで
出でたればエホバを頌美よ 3 もろもろの王よ聽けも
ろもろの伯よ耳をかたぶけよ我はそのエホバに謳は
ん我はイスラエルの神エホバを讃へん 4 ああエホバ
よ汝セイルより出でエドムの野より進みたまひしと
き地震ひ天また滴りて雲水を滴らせたり 5 もろもろ
の山はエホバのまへに撼動ぎ彼のシナイもイスラエ
ルの神エホバのまへに撼動げり 6 アナテの子シヤム
ガルのときまたヤエルの時には大路は通行る者なく
途行く人は徑を歩み 7 イスラエルの村莊には住者な
く住む者あらずなりけるがつひに我デボラ起れり我

起りてイスラエルに母となる 8 人々新しき神を選び
ければ戦闘門におよべりイスラエルの四萬人のう
ちに盾或は鎗の見しことあらんや 9 吾が心は民のう
ちに好んでいでたるイスラエルの有司等に傾けり汝ら
エホバを頌美よ 10 しろき驢馬に乗るもの毛氈に坐す
るものおよび路歩む人よ汝ら謳ふべし 11 矢叫の聲に
遠かり水汲むところにおいてエホバの義しき所爲を
となへそのイスラエルを治理めたまふ義しき所爲を
唱へよその時エホバの民は門に下れり 12 興よ起よデ
ボラ興よ起よ歌を謳ふべし起てよバラク汝の俘虜を
擄きたれアビノムの子よ 13 其時民の首長等の殘餘
者くだり來るエホバ勇士の中にいまして我にくだり
たまふ 14 エフライムより出る者ありその根アマレク
にありベニヤミン汝のあとにつきて汝の民の中にあ
りマキルよりは牧伯下りゼブルンよりは采配を執る
ものいたる 15 イッサカルの伯たちはデボラとともに
居るイッサカルはバラクとおなじく足の進みて平地
に至るルベンの河邊にて大に心にはかる事あり 16 何
故に汝は圏のうちに止まりて羊の群に笛吹くを聽く
やルベンの河邊にて大に心に考ふることあり 17 ギレ
アデはヨルダンの彼方に臥し居る何故にダンは舟の
かたはらに止まりしやアセルは濱邊に坐してその港
に臥し居る 18 ゼブルンは生命を捐て死を冒せる民な
り野の高きところに居るナフタリまた是の如し 19 も
ろもろの王來りて戦へる時にカナンのもろもろの王
メギドンの水の邊においてタアナクに戦へり彼ら一
片の貨幣をも獲ざりき 20 天よりこれを攻るものあり
もろもろの星其の道を離れてシセラを攻む 21 キシオ
ンの河之を押し流しぬ是彼の古への河キシオンの河

なりわが靈魂よ汝ますます勇みて進め 22 その時馬の蹄は強きもの馳に馳るに由りて地を踏鳴せり 23 エホバの使いひけるはメロズを詛ふべし汝ら重ね重ねその民を詛ふべきなり彼等來りてエホバを助けずエホバを助けて猛者を攻めざればなり 24 ケニ人へベルの妻ヤエルは婦女のうちの最も頌むべき者なり彼は天幕に居る婦女のうち最も頌むべきものなり 25 シセラ水を乞ふにヤエル乳を與ふ即ち貴き盤に乳の油を盛てささぐ 26 ヤエル釘子に手をかけ右の手に重き椎をとりてシセラを打ちその頭を碎きその鬢のあたりをうちて貫ぬく 27 シセラ、ヤエルの足の中に屈みて仆れ偃しその足のあはひに屈みて仆れその屈みたる所にて仆れ亡ぬ 28 シセラの母窓より望み格子のうちより叫びて言ふ彼が車のきたること何て遅きや彼が馬の歩何てはかどらざるやと 29 その賢き侍女こたへをなす（母また獨語して斯いへり） 30 かれら獲ものしてこれを分たざらんや人ごとに一人二人の女子を獲んシセラの獲るものは彩る衣ならんその獲る者は彩る衣にして文繡を施せる者ならん即ち彩りて両面に文繡をほどこせる衣をえてその頸にまとはんと 31 エホバよ汝の敵みな是のごとくに亡びよかしまたエホバを愛するものは日の眞盛に昇るが如くなれよかしとかくて後國は四十年のあひだ太平なりき

6 イスラエルの子孫またエホバの目のまへに惡を行ひたればエホバ七年の間之をミデアン人の手に付したまふ 2 ミデアン人の手イスラエルにかてりイスラエルの子孫はミデアン人の故をもて山にある窟と洞穴と要害とをおのれのために造れり 3 イスラエル人蒔種してありける時しもミデアン人アマレキ人及び

東方の民上り來りて押寄せ 4 イスラエル人に向ひて陣を取り地の産物を荒してガザにまで至りイスラエルのうちに生命を維ぐべき物を遺さず羊も牛も驢馬も遺ざりき 5 夫この衆人は家畜と天幕を携へ上り蝗蟲の如くに數多く來れりその人と駱駝は數ふるに勝ず彼ら國を荒さんとて入きたる 6 かかりしかばイスラエルはミデアン人のために大いに衰へイスラエルの子孫エホバに呼れり 7 イスラエルの子孫ミデアン人の故をもてエホバに呼はりしかば 8 エホバひとりの預言者をイスラエルの子孫に遣りて言しめたまひけるはイスラエルの神エホバ斯くいひたまふ我かつて汝らをエジプトより上らせ汝らを奴隸たるの家より出し 9 エジプト人の手およびすべて汝らを虐ぐるものの手より汝らを拯ひいだし汝らの前より彼らを追ひはらひてその邦土を汝らに與へたり 10 我また汝らに言り我は汝らの神エホバなり汝らが住ひ居るアモリ人の國の神を懼るるなかれとしかるに汝らは我が聲に従はざりき 11 茲にエホバの使者來りてアビエゼル人ヨアシの所有なるオフラの橡の樹のしたに坐す時にヨアシの子ギデオン、ミデアン人に奪はれざらんために酒榨のなかに麥を打ち居たりしが 12 エホバの使之に現れて剛勇丈夫よエホバ汝とともに在すといひたれば 13 ギデオン之にいひけるはああ吾が主よエホバ我らと偕にいまさばなどてこれらのことわれらの上に及びたるやわれらの先祖がエホバは我らをエジプトより上らしめたまひしにあらずやといひて我らに告たりしその諸の不思議なる行爲は何處にあるや今はエホバわれらを棄てミデアン人の手に付したまへり 14 エホバ之を顧みていひたまひけるは汝

此汝の力をもて行きミデアン人の手よりイスラエルを拯ひいだすべし我汝を遣すにあらずや 15 ギデオン之にいひけるはああ主よ我何をもてかイスラエルを拯ふべき視よわが家はマナセのうちの最も弱きもの我はまた父の家の最も卑賤きものなり 16 エホバ之にいひたまひけるは我かならず汝とともに在ん汝は一人を撃がごとくにミデアン人を撃つことを得ん 17 ギデオン之にいひけるは我もし汝のまへに恩を蒙るならば請ふ我と語る者の汝なる證據を見せたまへ 18 ねがはくは我復び汝に來りわが祭物をたづさへて之を汝のまへに供ふるまでここを去たまふなかれ彼いひたまひけるは我汝の還るまで待つべし 19 ギデオンすなはち往て山羊の羔を調べ粉一エバをもて無酵パンをつくり肉を筐にいれ羹を壺に盛り橡樹の下にもち出て之を供へたれば 20 神の使之にいひたまひけるは肉と無酵パンをとりて此巖のうへに置き之に羹を斟げとすなはちそのごとくに行ふ 21 エホバの使手にもてる杖の末端を出して肉と無酵パンに觸れたりしかば巖より火燃えあがり肉と無酵パンを焼き盡せりかくてエホバの使去てその目に見ずなりぬ 22 ギデオン是において彼がエホバの使者なりしを覺りギデオンいひけるはああ神エホバよ我面を合せてエホバの使者を見たれば將如何せん 23 エホバ之にいひたまひけるは心安かれ怖るる勿れ汝死ぬることあらじ 24 ここにおいてギデオン彼所にエホバのために祭壇を築き之をエホバシヤロムと名けたり是は今日に至るまでアビエゼル人のオフラに存る 25 其夜エホバ、ギデオンにいひ給ひけるは汝の父の少き牡牛および七歳なる第二の牛を取り汝の父のもてるバアルの祭壇を毀

ち其上なるアシラの像を斫り仆し 26 汝の神エホバのためにこの堡砦の頂において次序をたたくし祭壇を築き第二の牛を取りて汝が斫り倒せるアシラの木をもて燔祭を供ぐべし 27 ギデオンすなはちその僕十人を携へてエホバのいひたまひしごとく行へりされど父の家のものでもおよび邑の人を怖れたれば晝之をなすことを得ず夜に入りて之を爲り 28 邑の衆朝興出て視にバアルの祭壇は摧け其上なるアシラの像は斫り仆されて居り新に築る祭壇に第二の牛の供へてありしかば 29 たがひに此は誰が所爲ぞやと言ひつつ尋ね問ひけるに此はヨアシの子ギデオンの所爲なりといふものありたれば 30 邑の人々ヨアシにむかひ汝の子を曳き出して死なしめよそは彼バアルの祭壇を摧き其上に在しアシラの像を斫り仆したればなりといふ 31 ヨアシおのれの周圍に立るすべてのものにいひけるは汝らはバアルの爲に争論ふや汝らは之を救んとするや之が爲に争論ふ者は朝の中に死べしバアルもし神ならば人其祭壇を摧きたれば自ら争論ふ可なりと 32 是をもて人衆ギデオンその祭壇を摧きたればバアル自ら之といひあらそはんといひて此日かれをエルバアル(バアルいひあらそはん)と呼なせり 33 茲にミデアン人アマレク人および東方の民相集まりて河を濟りエズレルの谷に陣を取しが 34 エホバの靈ギデオンに臨みてギデオン箠を吹たればアビエゼル人集りて之に従ふ 35 ギデオン徧くマナセに使者を遣りしかばマナセ人また集りて之に従ふ彼またアセル、ゼブルン及びナフタリに使者を遣りしにその人々も上りて之を迎ふ 36 ギデオン神にいひけるは汝かつていひたまひしごとくわが手をもてイスラエルを救は

んとしたまはば 37 視よ我一箇の羊の毛を禾場におか
ん露もし羊毛にのみおきて地はすべて燥きをらば我
之れによりて汝がかつて言たまひし如く吾が手をも
てイスラエルを救ひたまふを知んと 38 すなはち斯あ
りぬ彼明る朝早く興きいで羊毛をかき寄てその毛よ
り露を搾りしに鉢に満つるほどの水いできたる 39 ギ
デオン神にいひけるは我にむかひて怒を發したまふ
なかれ我をしていま一回いはしめたまへねがはくは
我をして羊の毛をもていま一回試さしめたまへねが
はくは羊毛のみを燥して地には悉く露あらしめたま
へと 40 その夜神かくの如くに爲したまふすなはち羊
毛のみ燥きて地には凡て露ありき

7 斯てエルバアルと呼るるギデオンおよび之ととも
にあるすべての民朝夙に興きいでてハロデの井のほ
とりに陣を取るミデアン人の陣はかれらの北の方に
あたりモレの山に沿ひ谷のうちにありき 2 エホバ、
ギデオンにいひたまひけるは汝とともに在る民は餘
りに多ければ我その手にミデアン人を付さじおそら
くはイスラエル我に向ひ自ら誇りていはん我わが手
をもて己を救へりと 3 されば民の耳に告示していふ
べし誰にても懼れ慄くものはギレアデ山より歸り去
るべしとここにおいて民のかへりしもの二萬二千人
あり殘しものは一萬人なりき 4 エホバまたギデオン
にいひたまひけるは民なほ多し之を導きて水際に下
れ我かしこにて汝のために彼らを試みんおほよそ我
が汝に告て此人は汝とともに行くべしといはんもの
はすなはち汝とともに行くべしまたおほよそ我汝に
告て此人は汝とともに行くべからずといはんものは
すなはち行くべからざるなり 5 ギデオン民をみちび

きて水際に下りしにエホバ之にいひたまひけるはおほよそ犬の舐るがごとくその舌をもて水を舐るものは汝之を別けおくべしまたおほよそ其の膝を折り屈みて水を飲むものをも然すべしと 6 手を口にあてて水を舐しものの数は三百人なり餘の民は盡くその膝を折り屈みて水を飲み 7 エホバ、ギデオンにいひたまひけるは我水を舐たる三百人の者をもて汝らを救ひミデアン人を汝の手に付さん餘の民はおのおの其所に歸るべしと 8 ここにおいて彼ら民の兵糧とその箠を手にうけとれりギデオンすなはちすべてのイスラエル人を各自その天幕に歸らせ彼の三百人を留めおけり時にミデアン人の陣はその下の谷のなかにありき 9 その夜エホバ、ギデオンにいひたまはく起よ下りて敵陣に入るべし我之を汝の手に付すなり 10 されど汝もし下ることを恐れなば汝の僕フラを伴ひ陣所に下りて 11 彼らのいふ所を聞べし然せば汝の手強くなりて汝敵陣にくだることを得んとギデオンすなはち僕フラとともに下りて陣中にある隊伍のほとりに至るに 12 ミデアン人アマレク人およびすべて東方の民は蝗蟲のごとくに數衆く谷のうちに堰しをりその駱駝は濱の砂の多きがごとくにして數ふるに勝ず 13 ギデオン其處に至りしに或人その伴侶に夢を語りて居りすなはちいふ我夢を見たりしが夢に大麥のパンひとつミデアンの陣中に轉びいりて天幕に至り之をうち仆し覆したれば天幕倒れ臥り 14 其の伴侶答へていふ是イスラエルの人ヨアシの子ギデオンの劍に外ならず神ミデアンとすべての陣營を之が手に付したまふなりと 15 ギデオン夢の説話とその解釋を聞きかば拜をなしてイスラエルの陣所にかへりいひける

は起よエホバ汝らの手にミデアンの陣をわたしたまふと **16** かくて三百人を三隊にわかち手に手に箠および空瓶を取せその瓶のなかに燈火をおかしめ **17** これにいひけるは我を視てわが爲すところにならへ我が敵陣の邊に至らんときに爲すごとく汝らも爲すべし **18** 我およびわれとともに在るものすべて箠を吹ば汝らもまたすべて陣營の四方にて箠を吹き此エホバのためなりギデオンのためなりといへと **19** 而してギデオンおよび之とともになる百人中更の初に陣營の邊に至るにをりしも番兵を更代たるときなりければ箠を吹き手に携へたる瓶をうちくだけり **20** 即ち三隊の兵隊箠を吹き瓶をうちくだき左の手には燈火を執り右の手には箠をもちて之を吹きエホバの劍ギデオンの劍なるぞと叫べり **21** かくておのおのその持場に立ち陣營を取り圍みたれば敵軍みな走り叫びてにげゆけり **22** 三百人のもの箠を吹くにあたりエホバ敵軍をしてみなたがひに同士撃せしめたまひければ敵軍にげはしりてゼレラのペテシツダ、アベルメホラの境およびタバテに至る **23** イスラエルの人々すなはちナフタリ、アセルおよびマナセ中より集ひ來りてミデアン人を追撃り **24** ギデオン使者をあまねくエフライムの山に遣していはせけるは下りてミデアン人を攻めベタバラにいたる渡口およびヨルダンを遮斷るべしと是においてエフライムの人盡く集ひ來りてベタバラにいたる渡口およびヨルダンを取り **25** ミデアン人の君主オレブとゼエブの二人を俘へてオレブをばオレブ砦の上に殺しゼエブをばゼエブの酒搾のほとりに殺したミデアン人を追撃ちオレブとゼエブの首を携へてヨルダンの彼方よりギデオンの許にいたる

8 エフライムの人々ギデオンにむかひ汝ミデアン人と戦はんとて往る時われらを召ざりしが斯ることを我らになすは何故ぞといひていたく之を詰りたり **2** ギデオン之にいひけるは今吾が成るところは汝らのなせる所に比ぶべけんやエフライムの拾ひ得し遺餘の葡萄はアビエゼルの收穫し葡萄にも勝れるならずや **3** 神はミデアンの群伯オレブとゼエブを汝等の手に付したまへりわが成えたところは汝らの成る所に比ぶべけんやとギデオン此の語をのべしかば彼らの憤解たり **4** ギデオン自己に従がへる三百人とともにヨルダンに至りて之を濟り疲れながらも仍追撃しけるが **5** 遂にスコテの人々に言けるは願くは我にしたがへる民に食を與へよ彼等疲れをるに我ミデアンの王ゼバとザルムンナを追行なりと **6** スコテの群伯等いひけるはゼバとザルムンナの手すでに汝の手のうちに在るや我らなんぞ汝の軍勢に食を與ふべけんや **7** ギデオンいひけるは然らばエホバの吾が手にゼバをザルムンナを付したまふときに我野の荊と棘とをもて汝の肉を打つべしと **8** かくて其所よりペヌエルにのぼりおなじことを彼らにのべたるにペヌエルの人もスコテの人の答へしごとくに答へしかば **9** またペヌエルの人につげていひけるは我平康に歸るときに此の城樓を毀つべしと **10** 儲ゼバとザルムンナはその軍勢おほよそ一萬五千人をひきゐてカルコルに居る是皆東方の人の全軍の中の生残れるものなり戦死せし者は劍を抜ところのもの十二萬人ありき **11** ギデオンすなはちノバとヨグベバの東にて天幕にすめるものの路より上りて敵軍の慮りなく居るを撃り **12** ここにおいてゼバとザルムンナにげ走りたればギデ

オン之を追撃ちミデアンの二人の王ゼバとザルムンナを生捕て悉くその軍勢を敗れり 13 斯てヨアシの子ギデオン、ヘレシの阪よりして戦陣よりかへり 14 スコテの人の少壯者一人を執へて之に尋ねたれば即ちスコテの群伯およびその長老等七十七人をこれがために書き録せり 15 ギデオン、スコテの人の所に詣りていひけるは汝らが曾て我を罵りゼバとザルムンナの手すでに汝の手のうちにあるや我ら何ぞ汝の疲れたる人に食をあたふべけんやと言たりしそのゼバとザルムンナを見よと 16 すなはちその邑の長老等を執へ野の荊と棘を取り之をもちてスコテの人を懲し 17 またペヌヘル之城樓を毀ちて邑の人を殺せり 18 かくてギデオン、ゼバとザルムンナにいひけるは汝らがタボルにて殺せしものは如何なるものなりしや答へていふ彼らは汝に似てみな王子の如くに見えたり 19 ギデオンいひけるは彼らは我が兄弟我が母の子なりエホバは活く汝らもし彼らを生し置たらば我汝らを殺すまじきをと 20 すなはちその長子エテルに起て彼らを殺せといひたりしが彼の少者は年尚わかかりしかば懼れて劍を拔ざりき 21 ここにおいてゼバとザルムンナにいひけるは汝みづから起て我らを撃よ人の如何によりてその力量異なる者なりとギデオンすなはち起てゼバとザルムンナを殺しその駱駝の頸にかけたる半月の飾を取り 22 茲にイスラエルの衆ギデオンにいひけるは汝ミデアンの手より我らを救ひたれば汝と汝の子及び汝の孫我らを治めよ 23 ギデオン之にいひけるは我汝らを治むることをせじまた我が子も汝らを治むべからずエホバ汝らを治めたまふべし 24 ギデオンまた之にいひけるは我汝らにひとつの願ふべ

きことあり汝らおのおの掠取の環を我にあたへよと
是は彼らイシマエル人なるをもて金の環を着けたる
に由る 25 衆答へけるは我ら悦んで之を與へんとて衣
を布きおのおの掠取の環を其うちに投げいれたり 26
ギデオンが求め得たる金の環の重量は金一千七百シ
ケルなり外に半月の飾および耳環とミデアンの王た
ちの着たる紫のころもおよび駱駝の頸にかけたる鏈
などもありき 27 ギデオン之をもて一箇のエポデを造
り之をおのれの郷里オフラに藏むイスラエルみなこ
れを慕ひてこれと淫をおこなふこの物ギデオンと其
家を陥る罟となりぬ 28 ミデアン人は是の如くイス
ラエルの子孫に攻ふせられてふたたびその頭を擡る
ことを得ざりきかくて國はギデオンの世にある中四
十年の間平穩にてありき 29 ヨアシの子エルバアル往
ておのれの家に住り 30 ギデオンは妻を多く有ちたれ
ば其身より出たる子七十人ありき 31 シケムに居しそ
の妾またひとりの子を産たれば之をアビメレクと名
けたり 32 ヨアシの子ギデオン妙齡に邁みて死にアビ
エゼル人のオフラに在るその父ヨアシの墓に葬られ
たり 33 ギデオンの死るに及びてイスラエルの子孫復
ひるがへりてバアルを慕ひて之と淫をおこなひバア
ルペリテをおのれの神と爲り 34 イスラエルの子孫そ
の四周のもろもろの敵の手よりおのれを救ひ出した
まひし神エホバを記憶えず 35 またエルバアルといふ
ギデオンがイスラエルになせし諸の善行にしたがひ
て彼の家を厚く待ふことをせざりき

9 エルバアルの子アビメレク、シケムに往きその母
の兄弟のもとに至りて彼らおよびすべて其母の父の
家の一族に語りて云ひけるは 2 ねがはくはシケムの

すべての民の耳に斯く告よエルバアルのすべての子七十人して汝らを治むると一人して汝らを治むると孰れか汝らのためによきやまた我は汝らの骨肉なるを記えよと 3 その母の兄弟アビメレクのことにつきて此等の言をことごとくシケムの人々の耳に語りしに是はわれらの兄弟なりといひて心をアビメレクに傾むけ 4 バアルベリテの社より銀七十をとりて之に與ふアビメレクこれをもて遊蕩にして輕躁なる者等を備ひておのれに従はせ 5 オフラに在る父の家に往きてエルバアルの子なるその兄弟七十人を一つの石の上に殺せり但しエルバアルの季の子ヨタムは身を潜めしに由て遺されたり 6 ここにおいてシケムのすべての民およびミロの諸の人集り往てシケムの碑の旁なる橡樹の邊にてアビメレクを立て王となしけるが 7 ヨタムにかくと告るものありければ往てゲリジム山の巔に立ち聲を揚て號びかれらにいひけるはシケムの民よ我に聽よ神また汝らに聽たまはん 8 樹木出ておのれのうへに王を立んとし橄欖の樹に汝われらの王となれよといひけるに 9 橄欖の樹之にいふ我いかで人の我に取て神と人とを崇むるところのそのわが油を棄て往て樹木の上に戦ぐべけんやと 10 樹木また無花果樹に汝來りて我らの王となれといひけるに 11 無花果樹之にいひけらく我いかでわが甜美とわが善き果を棄て往きて樹木の上に戦ぐべけんやと 12 樹木また葡萄の樹に汝來りて我らの王となれよといふに 13 葡萄の樹之にいひけるは我いかで神と人を悦こばしむるわが葡萄酒を棄て往て樹木の上に戦ぐべけんやと 14 ここにおいてすべての樹木荊に汝來りて我らの王となれよといひければ 15 荊樹木にいふ汝ら

まことに我を立て汝らの王と爲さば來りて我が庇蔭に托れ然せずば荊より火出てレバノンの香柏を焼き殫すべしと 16 抑汝らがアビメレクを立て王となせしは眞實と誠意をもて爲しことなるや汝等はエルバアルと其家を善く待ひかれの手のなせし所に循ひて之にむくいしや 17 夫わが父は汝らのため戦ひ生命を惜まずして汝らをミデアンの手より救ひ出したるに 18 汝ら今日おこりてわが父の家を攻めその子七十人を一つの石の上に殺しその侍妾の子アビメレクは汝らの兄弟なるをもて之を立てシケムの民の王となせり 19 汝らが今日エルバアルとその家になせしこと眞實と誠意をもてなせし者ならば汝らアビメレクのために悦べ彼も汝らのために悦ぶべし 20 若し然らずばアビメレクより火いでてシケムの民とミロの家を燬つくさんまたシケムの民とミロの家よりも火いでてアビメレクを燬つくすべしと 21 かくてヨタム走り遁れてベエルに往きその兄弟アビメレクの面を避て彼所に住めり 22 アビメレク三年の間イスラエルを治めたりしが 23 神アビメレクとシケムの民のあひだに悪鬼をおくりたまひたればシケムの民アビメレクを欺くにいたる 24 是エルバアルの七十人の子が受たる殘忍と彼らの血のこれを殺せしその兄弟アビメレクおよび彼の手を力そへてその兄弟を殺さしめたるシケムの人々に報い來るなり 25 シケムの人伏兵を山の巔に置て彼を窺はしめ其途を経て傍を過る者を凡て褫しめたり或人之をアビメレクに告ぐ 26 ここにエベデの子ガアル其の兄弟とともにシケムに越ゆきたりしかばシケムの民かれを恃めり 27 民田野に出て葡萄を收穫れこれを踐み絞りて祭禮をなしその神の社に入

り食ひかつ飲みてアビメレクを詛ふ 28 エベデの子ガアルいひけるはアビメレクは如何なるものシケムは如何なるものなればか我ら彼に従ふべき彼はエルバアルの子に非ずやゼブルその輔佐なるにあらずやむしろシケムの父ハモルの一族に事ふべし我らなんぞ彼に事ふべけんや 29 嗚呼此の民を吾が手に屬しむるものもがなれば我アビメレクを除かんと而してガアル、アビメレクに汝の軍勢を益て出きたれよと言り 30 邑の宰ゼブル、エベデの子ガアルの言をききて怒を發し 31 私かに使者をアビメレクに遣りていひけるはエベデの子ガアル及びその兄弟シケムに來り邑をさわがして汝に敵せしめんとす 32 然ば汝及び汝と共なる民夜の中に興て野に身を伏よ 33 而て朝に至り日の昇る時汝夙く興出て邑に攻かかれガアル及び之とともに民出て汝に當らん汝機を見てこれに事をなすべし 34 アビメレクおよび之とともに民すべての民夜の中に興出て四隊に分れ身を伏てシケムを伺ふ 35 エベデの子ガアル出て邑の門の口に立るにアビメレク及び之とともに民その伏たるところより起りしかば 36 ガアル民を見てゼブルにいひけるは視よ民山の峰々より下るとゼブル之に答へて汝山の影を見て人と倣すのみといふ 37 ガアルふたたび語りていひけるは視よ民地の高處より下りまた一隊は法術士の橡樹の途より來ると 38 ゼブル之にいひけるは汝がかつてアビメレクは何者なればか我ら之に事ふべきといひしその汝の口今いつこに在るや是汝が侮りたる民にあらずや今乞ふ出て之と戦へよと 39 ここにおいてガアル、シケム人を率ゑ往てアビメレクと戦ひしが 40 アビメレク之を追くづしたればガアル其まへより

逃走れりかくて殺されて斃るるもの多くして邑の門の口までに及ぶ 41 かくてアビメレクはアルマに居しがゼブルはガアルおよびその兄弟等を逐いだしてシケムに居ることを得ざらしむ 42 あくる日民田畑に出しに人之をアビメレクに告げしかば 43 アビメレクおのれの民を率ゐてこれを三隊に分ち野に埋伏して伺ふに民邑より出来りたればすなはち起りて之を撃り 44 アビメレクおよび之とともに在る隊の者は襲ひゆきて邑の門の入口に立ち餘の二隊は野に在るすべてのものをおそふて之を殺せり 45 アビメレク其日終日邑を攻めつひに邑を取りてそのうちの民を殺し邑を破却ちて鹽を撒布ぬ 46 シケムの櫓の人みな之を聞てベリテ神の廟の塔に入たりしが 47 シケムの櫓の人のことごとく集れるよしアビメレクに聞えければ 48 アビメレク己とともに民をことごとく率ゐてザルモン山に上りアビメレク手に斧を取り木の枝を斫落し之をおのれの肩に載せ偕に居る民にむかひて汝ら吾が爲ところを見る急ぎてわがごとく爲せよといひしかば 49 民もまた皆おのおのその枝を斫りおとしアビメレクに従ひて枝を塔に倚せかけ塔に火をかけて彼等を攻むここにおいてシケムの櫓の人もまた悉く死り男女およそ一千人なりき 50 茲にアビメレク、テベツに赴きテベツに對て陣を張て之を取しが 51 邑のなかに一の堅固なる櫓ありてすべての男女および邑の民みな其所に遁れ行き後を鎖して櫓の頂に上りたれば 52 アビメレクすなはち櫓のもとに押寄て之を攻め櫓の口に近きて火をもて之を焚んとせしに 53 一人の婦アビメレクの頭に磨石の上層石を投げてその脳骨を碎けり 54 アビメレクおのれの武器を執る少者を急

ぎ召て之にいひけるは汝の劍を抜て我を殺せおそらくは人吾をさして婦に殺されたりといはんと其少者之を刺し通したればすなはち死り 55 イスラエルの人人々はアビメレクの死たるを見ておのおのおのれの處に歸り去りぬ 56 神はアビメレクがその七十人の兄弟を殺しておのれの父になしたる惡に斯く報いたまへり 57 またシケムの民のすべての惡き事をも神は彼等の頭に報いたまへりすなはちエルパアルの子ヨタムの詛彼らの上に及べるなり

10 アビメレクの後イッサカルの人にてドドの子なるプワの子トラ起りてイスラエルを救ふ彼エフライムの山のシャミルに住み 2 二十三年の間イスラエルを審判しがつひに死てシャミルに葬らる 3 彼の後にギレアデ人ヤイル起りて二十二年の間イスラエルを審判たり 4 彼に子三十人ありて三十の驢馬に乗る彼等三十の邑を有りギレアデの地において今日までヤイルの村ととなふるものすなはち是なり 5 ヤイル死てカモンに葬らる 6 イスラエルの子孫ふたたびエホバの目のまへに惡を爲しバアルとアシタロテ及びスリヤの神シドンの神モアブの神アンモンの子孫の神ペリシテ人の神に事へエホバを棄て之に事へざりき 7 エホバ烈しくイスラエルを怒りて之をペリシテ人及びアンモンの子孫の手に賣付したまへり 8 其年に彼らイスラエルの子孫を虐げ難せりヨルダンの彼方においてギレアデにあるところのアモリ人の地に居るイスラエルの子孫十八年の間斯せられたりき 9 アンモンの子孫またユダとベニヤミンとエフライムの族とを攻んとてヨルダンを渡りしかばイスラエル太く苦めり 10 ここにおいてイスラエルの子孫エホバに呼

りていひけるは我らおのれの神を棄てバアルに事へて汝に罪を犯したりと **11** エホバ、イスラエルの子孫にいひたまひけるは我かつてエジプト人アモリ人アンモンの子孫ペリシテ人より汝らを救ひ出せしにあらずや **12** 又シドン人アマレク人及びマオン人の汝らを困しめしとき汝ら我に呼びしかば我汝らを彼らの手より救ひ出せり **13** 然るに汝ら我を棄て他の神に事ふれば我かさねて汝らを救はざるべし **14** 汝らが擇める神々に往て呼れ汝らの艱難のときに之をして汝らを救はしめよ **15** イスラエルの子孫エホバに言けるは我ら罪を犯せりすべて汝の目に善と見るところを我らになしたまへねがはくは唯今日我らを救ひたまへと **16** 而して民おのれの中より異なる神々を取除きてエホバに事へたりエホバの心イスラエルの艱難を見るに忍びずなりぬ **17** 茲にアンモンの子孫集てギレアデに陣を取りしがイスラエルの子孫は聚りてミヅパに陣を取り **18** 時に民ギレアデの群伯たがひにいひけるは誰かアンモンの子孫に打ちむかひて戦を始むべき人ぞ其人をギレアデのすべての民の首となすべしと

11 ギレアデ人エフタはたけき勇士にして妓婦の子なりギレアデ、エフタをうましめしなり **2** ギレアデの妻子等をうみしが妻の子等成長におよびてエフタをおひいだしてこれにいひけるは汝は他の婦の子なればわれらが父の家を嗣べきにあらずと **3** エフタ其の兄弟の許より逃さりてトブの地に住けるに遊蕩者エフタのもとに集ひ來りて之とともに出ることをなせり **4** 程経てのちアンモンの子孫イスラエルとたたかふに至りしが **5** アンモンの子孫のイスラエルとた

たかへるときにギレアデの長老等ゆきてエフタをト
ブの地より携來らんとし 6 エフタにいひけるは汝來
りて吾らの大將となれ我らアンモンの子孫とたたか
はん 7 エフタ、ギレアデの長老等にいひけるは汝ら
は我を惡みてわが父の家より逐いだしたるにあら
ずやしかるに今汝らが艱める時に至りて何ぞ我に來
るや 8 ギレアデの長老等エフタにこたへけるは其が
ために我ら今汝にかへる汝われらとともにゆきて
アンモンの子孫とたたかはばすべて我等ギレア
デにすめるもの首領となすべしと 9 エフタ、ギ
レアデの長老等にいひけるは汝らもし我をたづ
きへかへりてアンモンの子孫とたたかはしめ
んにエホバ之を我に付したまはば我は汝らの
首となるべし 10 ギレアデの長老等エフタ
にいひけるはエホバ汝と我との間の證者
たり我ら誓つて汝の言のごとくになすべし 11
是に於てエフタ、ギレアデの長老等とともに
往くに民之を立ておのれの首領となし大將と
なせりエフタ即ちミヅパにおいてエホバのま
へにこの言をことごとく陳たり 12 かくて
エフタ、アンモンの子孫の王に使者をつかは
していひけるは汝と我の間に何事ありてか
汝われに攻めきたりてわが地に戦はんとす
る 13 アンモンの子孫の王エフタの使者に
答へけるはむかしイスラエル、エジプトより
上りきたりし時にアルノンよりヤボクにいた
りヨルダンに至るまで吾が土地を奪ひしが
故なり然ば今穩便に之を復すべし 14 エフ
タまた使者をアンモンの子孫の王に遣りて
之にいはせけるは 15 エフタ斯いへりイス
ラエルはモアブの地を取らずまたアンモン
の子孫の地をも取ざりしなり 16 夫イス
ラエルはエジプトより上りきたれる時に曠
野を經

て紅海に到りカデシに來れり 17 而してイスラエル使者をエドムの王に遣して言けるはねがはくは我をして汝の土地を經過しめよと然るにエドムの王之をうけがはずまたおなじく人をモアブの王に遣したれども是もうべなはざりしかばイスラエルはカデシに留まりしが 18 遂にイスラエル曠野を経てエドムの地およびモアブの地を繞りモアブの地の東の方に出てアルノンの彼方に陣を取り然どモアブの界には入らざりきアルノンはモアブの界なればなり 19 かくてイスラエル、ヘシボンに王たりシアモリ人の王シホンに使者を遣せりすなはちイスラエル之にいひけらくねがはくは我らをして汝の土地を經過てわがところにといたらしめよと 20 然るにシホン、イスラエルを信ぜずしてその界をとほらしめずかへつてそのすべての民を集めてヤハツに陣しイスラエルとたたかひしが 21 イスラエルの神エホバ、シホンとそのすべての民をイスラエルの手に付したまひたればイスラエル之を擊敗りてその土地にすめるアモリ人の地を悉く手に入れ 22 アルノンよりヤボクに至るまでまた曠野よりヨルダンに至るまですべてアモリ人の土地を手に入たり 23 斯のごとくイスラエルの神エホバは其の民イスラエルのまへよりアモリ人を逐しりぞけたまひしに汝なほ之を取んとする乎 24 汝は汝の神ケモシが汝に取しむるものを取ざらんやわれらは我らの神エホバが我らに取しむる物を取ん 25 汝は誠にモアブの王チツポルの子バラクにまされる處ありとするかバラク曾てイスラエルとあらそひしことありや曾て之とたたかひしことありや 26 イスラエルがヘシボンとその村里アロエルとその村里およびアルノンの岸に

沿ひたるすべての邑々に住ること三百年なりしに汝
などてかその間に之を回復さざりしや 27 我は汝に罪
を犯せしことなきに汝はわれとたたかひて我に害を
くはへんとす願くは審判をなしたまふエホバ今日イ
スラエルの子孫とアンモンの子孫との間を鞫きたま
へと 28 しかれどもアンモンの子孫の王はエフタのい
ひつかはせる言を聴いれざりき 29 ここにエホバの靈
エフタに臨みしかばエフタすなはちギレアデおよび
マナセを經過りギレアデのミヅパにいたりギレアデ
のミヅパよりすすみてアンモンの子孫に向ふ 30 エフ
タ、エホバに誓願を立ていひけるは汝誠にアンモン
の子孫をわが手に付したまはば 31 我がアンモンの子
孫の所より安然かに歸らんときに我家の戸より出き
たりて我を迎ふるもの必ずエホバの所有となるべし
我之を燔祭となしてささげんと 32 エフタすなはちア
ンモンの子孫の所に進みゆきて之と戦ひしにエホバ
かれらをその手に付したまひしかば 33 アロエルより
ミニテにまで至りこれが二十の邑を打敗りてアベ
ルケラミムにいたり甚だ多の人をころせりかくアン
モンの子孫はイスラエルの子孫に攻伏られたり 34 か
くてエフタ、ミヅパに來りておのが家にいたるに其
女鼓を執り舞ひ踊りて之を出で迎ふ是彼が獨子にて
其のほかには男子もなくまた女子も有ざりき 35 エフ
タ之を視てその衣を裂ていひけるはああ吾が女よ汝
實に我を傷しむ汝は我を惱すものなり其は我エホバ
にむかひて口を開きしによりて改むることあたはざ
ればなり 36 女之にいひけるはわが父よ汝エホバにむ
かひて口をひらきたれば汝の口より言出せしごとく
我になせよ其はエホバ汝のために汝の敵なるアンモ

ンの子孫に仇を復したまひたればなり 37 女またその父にいひけるはねがはくは此事をわれに允せずなはち二月の間我をゆるし我をしてわが友等とともに往て山にくだりてわが處女たることを歎かしめよと 38 エフタすなはち往けといひて之を二月のあひだ出し遣ぬ女その友等とともに往き山の上にておのれの處女たるを歎きしが 39 二月満てその父に歸り來りたれば父その誓ひし誓願のごとくに之に行へり女は終に男を知ことなかりき 40 是よりして年々にイスラエルの女子等往て年に四日ほどギレアデ人エフタの女のために哀哭ことをなす是イスラエルの規矩となれり

12 エフライムの人々つどひて北にゆきエフタにいひけるは汝何故に往きてアンモンの子孫と戦ひながらわれらをまねきて汝とともに行せざりしや我ら火をもて汝の家を汝とともに焚くべしと 2 エフタ之にいひけるは我とわが民の曾てアンモンの子孫と大に争ひしときに我汝らをよびしに汝らかれらの手より我を救ふことをせざりき 3 我汝らが我を救はざるを見たればわが命をかけてアンモンの子孫の所に攻ゆきしにエホバかれらを我が手に付したまへり然ば汝らなんぞ今日我が許に上り來りて我とたたかはんとするやと 4 エフタここにおいてギレアデの人をことごとくつどへてエフライムとたたかひしがギレアデの人々エフライムを撃破れり是はエフライム汝らギレアデ人はエフライムの逃亡者にしてエフライムとマナセの中のをるなりと言しに由る 5 而してギレアデ人エフライムにおもむくところのヨルダンの津をとりきりしがエフライム人の逃れ來る者ありて我を渡らせよといへばギレアデの人之に汝はエフライム

人なるかと問ひ彼もし然らずと言ときは 6 また之に請ふシボレテといへといふに彼その音を正しくいひ得ずしてセボレテと言ばすなはち之を引捕へてヨルダンの津に屠せりその時にエフライム人のたふれし者四萬二千人なりき 7 エフタ六年のあひだイスラエルを審きたりギレアデ人エフタつひに死てギレアデのある邑に葬むらる 8 彼の後にベテレヘムのイブザン、イスラエルを審きたり 9 彼に三十人の男子ありまた三十人の女子ありしがこれをば外に嫁がしめてその子息等のために三十人の女を外より娶れり彼七年のあひだイスラエルを審きたり 10 イブザンつひに死てベテレヘムに葬むらる 11 彼の後にゼブルン人エロン、イスラエルを審きたりゼブルン人エロン十年のあひだイスラエルを審きたり 12 ゼブルン人エロンつひに死てゼブルンの地のアヤロンに葬むらる 13 彼の後にピラトン人ヒレルの子アブドン、イスラエルを審きたり 14 彼に四十人の男子および三十人の孫ありて七十の驢馬に乗る彼八年のあひだイスラエルを審けり 15 ピラトン人ヒレルの子アブドンつひに死てエフライムの地のピラトンに葬むらる是はアマレク人の山にあり

13 イスラエルの子孫またエホバのまへにて悪を行ひしかばエホバこれを四十年の間ペリシテ人の手にわたしたまへり 2 ここにダン人の族にて名をマノアとよべるゾラ人あり其の妻は石婦にして子を生みしことなし 3 エホバの使その女に現れて之にいひけるは汝は石婦にして子を生しことあらず然ど汝孕みて子をうまん 4 されば汝つつしみて葡萄酒および濃き酒を飲むことなかれまたすべて穢たるものを食ふな

かれ 5 視よ汝孕みて子を産ん其の頭には剃刀をあつ
べからずその兒は胎を出るよりして神のナザレ人〔
神に身を獻げし者〕たるべし彼ペリシテ人の手より
イスラエルを拯ひ始めんと 6 その婦人來りて夫に告
て曰けるは神の人我にのぞめりその容貌は神の使の
容貌のごとくにして甚おそろしかりしが我其のいづ
れより來れるやを問はず彼また其の名を我に告ざりき
7 彼我にいひけるは視よ汝孕みて子を産まん然ば葡萄
酒および濃き酒を飲むなかれまたすべてけがれたる
ものを食ふなかれその兒は胎を出るより其の死る日
まで神のナザレ人たるべしと 8 マノア、エホバにこ
ひ求めていひけるはああわが主よ汝がさきに遣はし
たまひし神の人をふたたび我らにのぞませ之をして
我らはその産る兒になすべき事を教へしめたまへ
9 神マノアの聲をききいれたまひて神の使者婦人の田
野に坐しをる時に復之にのぞめり時に夫マノアは共
にをらざりき 10 是において婦いそぎ走りて夫に告て
之にいひけるは先頃我にのぞみし人また我に現はれ
たりと 11 マノアすなはち起て妻のあとに付て行き其
人のもとに至りて之に汝はかつて此婦に語言し人な
るかといふに然りところたふ 12 マノアいひけるは汝の
言のごとく成ん時は其兒の養育方および之になすべ
き事は如何 13 エホバの使者マノアにいひけるはわが
さきに婦に言しところのことどもは婦之をつつしむ
べきなり 14 すなはち葡萄樹よりいづる者は凡て食ふ
べからず葡萄酒と濃き酒を飲ずまたすべて穢たるも
のを食ふべからずすべてわが彼に命じたることども
を彼守るべきなり 15 マノア、エホバの使者にいひけ
るは請我らをして汝を款留しめ汝のまへに山羊羔を

備へしめよ **16** エホバの使者マノアにいひける汝我を
款留るも我は汝の食物をくらはじまた汝燔祭をそな
へんとならばエホバにこれをそなふべしとマノアは
彼がエホバの使者なるを知ざりしなり **17** マノア、エ
ホバの使者にいひけるは汝の名はなにぞ汝の言の効
験あらんときは我ら汝を崇ん **18** エホバの使者之にい
ひけるは我が名は不思議なり汝何故に之をたづぬる
やと **19** マノア山羊羔と素祭物とをとり磐のうへにて
之をエホバにささぐ使者すなはち不思議なる事をな
せりマノアとその妻之を視る **20** すなはち火燄壇より
天にあがれるときエホバの使者壇の火燄のうちにあ
りて昇れりマノアと其の妻これを視をりて地にひれ
ふせり **21** エホバの使者そののち重ねてマノアと其の
妻に現はれざりきマノアつひに彼がエホバの使者た
りしを曉れり **22** 茲にマノアその妻にむかひ我ら神を
視たれば必ず死ぬるならんといふに **23** 其の妻之にい
ひけるはエホバもし我らを殺さんとおもひたまはば
われらの手より燔祭及び素祭をうけたまはざりしな
らんまたこれらの諸のことを我らに示すことをなし
こたびのごとく我らに斯ることを告たまはざりしな
るべしと **24** かくて婦子を産てその名をサムソンと呼
べりその子育ち行くエホバこれを恵みたまふ **25** エホ
バの靈ゾラとエシタオルのあひだなるマハネダンに
て始て感動す

14 サムソン、テムナテに下り、ペリシテ人の女に
てテムナテに住る一人の婦を見 **2** 歸り上りておのが
父母に語ていひけるは我ペリシテ人の女にてテムナ
テに住るひとりの婦を見たりされば今之をめとりて
わが妻とせよと **3** その父母之にいひけるは汝ゆきて

割禮を受けざるペリシテ人のうちより妻を迎んとするは汝が兄弟等の女のうちもしくはわがすべての民のうちには婦女無が故なるかとしかるにサムソン父にむかひ彼婦わがここに適へば之をわがために娶れと言ひ 4 その父母はこの事のエホバより出しなるを知ざりきサムソンはペリシテ人を攻んと鬨をうかがひしなりそは其のころペリシテ人イスラエルを轄め居たればなり 5 サムソン父母とともにテムナテに下りてテムナテの葡萄園にいたるに稚き獅子咆哮りて彼に向ひしが 6 エホバの靈彼にのぞみたれば山羊羔を裂がごとくに之を裂たりしが手には何の武器も持ざりきされどサムソンはその爲せしことを父にも母にも告ずしてありぬ 7 サムソンつひに下りて婦とうちかたらひしが婦その心になへり 8 かくて日を経て後サムソンかれを娶らんとて立かへりしが身を轉して彼の獅子の屍を見るに獅子の體に蜂の群と蜜とありければ 9 すなはちその蜜を手にとりて歩みつつ食ひ父母の許にいたりて之を與へけるに彼ら之を食へりされど獅子の體よりその蜜を取來れることをば彼らにかたらざりき 10 斯て其の父下りて婦のもとに至りしかばサムソン少年の習例にしたがひてそこに饗宴をまうけたるに 11 サムソンを見て三十人の者をつれ來りて之が伴侶とならしむ 12 サムソンかれらにいひけるは我汝らにひとつの隱語をかけん汝ら七日の筵宴の内に之を解てあきらかに之を我に告なば我汝らに裏衣三十と衣三十襲をあたふべし 13 然どもし之をわれに告得ずば汝ら我に裏衣三十と衣三十襲を與ふべしと彼等之にいひけるは汝の隱語をかけて我らに聽しめよ 14 サムソン之にいひけるは食ふ者より

食物出で強き者より甘き物出でたりと彼ら三日の中に之を解ことあたはざりしかば 15 第七日にいたりてサムソンの妻にいひけるは汝の夫を説すすめて隠語を我らに明さしめよ然せずば火をもて汝と汝の父の家を焚ん汝らはわれらの物をとらんとてわれらを招けるなるか然るにあらずやと 16 是においてサムソンの妻サムソンのまへに泣ていひけるは汝はわれを悪む而巳われを愛せざるなり汝わが民の子孫に隠語をかけて之をわれに説あかさずとサムソン之にいふ我これをわが父や母にも説あかさざればいかで汝に説あかさべけんやと 17 婦七日の筵宴のあひだ彼のまへに泣き居りしが第七日に至りてサムソンつひに之を彼に説あかせり其は太く強たればなり婦すなはち隠語をおのが民の子孫に明せり 18 是において第七日に及びて日の没るまへに邑の人々サムソンにいひけるは何ものか蜜よりあまからん何ものか獅子より強からんとサムソン之にいひけるは汝らわが牝犢をもて耕さざりしならばわが隠語を解得ざるなりと 19 茲にエホバの靈サムソンに臨みしかばサムソン、アシケロンに下りてかしこの者三十人を殺しその物を奪ひ彼の隠語を解し者等にその衣服を與へはげしく怒りて其父の家にかへり上れり 20 サムソンの妻はサムソンの友となり居たるその伴侶の妻となりぬ

15 日を経てのち麥秋の時にサムソン山羊羔をたづさへて妻のもとを訪ていひけるは我室に入てわが妻に會んと然るに妻の父其の入ことをゆるさず 2 其父すなはちいひけるはわれまことに汝は彼の婦を嫌ひたりと意ひしがゆゑに彼を汝の伴侶たりし者に與へたり彼が妹は彼よりも善にあらずやねがはくは彼に

代て之を汝のものとせよ 3 サムソン彼らにいひけるは今回はわれペリシテ人に害を加ふるとも彼らに對して罪なかるべしと 4 サムソンすなはち往て山犬三百をとらへ火炬をとり尾と尾をあはせてその二つの尾の間に一つの火炬を結びつけ 5 火炬に火をつけてペリシテ人のいまだ刈ぎる麥のなかにこれを放ち入れその束ね積たるものといまだ刈ぎるものを焚き橄欖の園にまで及ぼせり 6 ペリシテ人いひけるは是は誰の行爲なるやこたへて言ふテムナテ人の婿サムソンなりそは彼サムソンの妻をとりて其伴侶なりし者に與へたればなりとここにおいてペリシテ人上りきたりて彼の婦とその父とを火にて焼きうしなへり 7 サムソンかれらに言ふ汝ら斯おこなへば我汝らに仇をむくはでは止じと 8 すなはち脛に腿に彼らを撃て大いに之を殺せりかくてサムソンは下りてエタムの巖間に居る 9 ここにおいてペリシテ人上り來りてユダに陣を取りレヒに布き備へたれば 10 ユダの人々いひけるは汝ら何の故にわれらに攻めのぼりたるやとかれらこたへけるはサムソンをしばりて彼がわれらに爲しごとくかれに爲んとてのぼれるなりと 11 是をもてユダの人三千人エタムの巖間にくだりてサムソンにいふ汝ペリシテ人はわれらを轄るものなるを知らざるや汝などてかわれらに斯る事をなせしやサムソンかれらにいひけるは我は彼らが我に爲しごとく彼らに爲しなりと 12 かれらまたサムソンにいひけるは我らは汝をしばりてペリシテ人の手にわたさんとて下りきたれりサムソンかれらにいひけるは汝らの自われを害すまじきことを我に誓へ 13 彼ら之にかたりていふいなわれらはただ汝を縛りいましめてペリ

シテ人の手にわたさんのみわれらは必らず汝を殺さざるべしとすなはち二條の新しき索をもてかれをいましめて巖より之を携かへれり 14 サムソン、レヒにいたれるときペリシテ人聲を揚てかれに近づきしが時しもエホバの靈彼にのぞみたればその腕にかかれる索は火に焚たる麻のごとくになりて手のいましめ解はなれたり 15 サムソンすなはち驢馬のあたらしき腮骨ひとつを見出し手をのべて之を取り其をもて一千人を殺し 16 而して言ふ驢馬の腮骨をもて山をきづき山をつくる驢馬の腮骨をもて我一千人を撃殺せりと 17 かく言終りてその手より腮骨をうちすて其處をラマテレヒと名けたり 18 時に彼渴をおぼゆること甚だしかりしかばエホバによばはりていふ汝のしもべの手をもて汝この大なる拯をほどこしたまへるにわれ今渴きて死に割禮を受けざるもののおちいらんとすと 19 ここにおいて神レヒに在るくぼめる所を裂きたまひしかば水そこより流れいでしがサムソン之を飲たれば精神舊に返りてふたたび爽になりぬ故に其名をエンハッコレ（呼はれるものの泉）と呼ぶ是今日にいたるまでレヒに在り 20 サムソンはペリシテ人の治世の時に二十年イスラエルをさばけり

16 サムソン、ガザに往きかしこにて一人の妓を見てその處に入しに 2 サムソンここに來れりとガザ人につぐるものありければすなはち之を取り圍みよもすがら邑の門に埋伏し詰朝におよび夜の明たる時に之をころすべしといひてよもすがら靜まりかへりて居る 3 サムソン夜半までいね夜半にいたりて興き邑の門の扉とふたつの柱に手をかけて槌もろともに之をひきぬき肩に載てヘブロンに向ひなる山の巔に

負のぼれり 4 こののちサムソン、ソレクの谷に居る名はデリラと言ふ婦人を愛す 5 ペリシテ人の群伯その婦のもとに上り來て之にいひけるは汝サムソンを説すすめてその大なる力は何に在るかまたわれら如何にせば之に勝て之を縛りくるしむるを得べきかを見出せ然すればわれらおのおの銀千百枚づつをなんぢに與ふべし 6 ここにおいてデリラ、サムソンにいひけるは汝の大なる力は何にあるかまた如何せば汝を縛りて苦むることを得るや請ふ之をわれにつげよ 7 サムソン之にいひけるは人もし乾きしことなき七條の新しき繩をもてわれを縛るときはわれ弱くなりて別の人のごとくならんと 8 ここに於てペリシテ人の群伯乾きしことなき七條の新しき繩を婦にもち來りければ婦之を以てサムソンをしばりしが 9 かねて室のうちに人しのび居て己とともにありたれば斯してサムソンにむかひサムソンよペリシテ人汝に及ぶと言にサムソンすなはちその索を絶りあたかも麻絲の火にあひて斷るるがごとし斯其の力の原由知れざりき 10 デリラ、サムソンにいひけるは視よ汝われを欺きてわれに謊を告たり請ふ何をもてせば汝を縛ることをうるや今我に告よ 11 彼之にいひけるはもし人用ひたることなき新しき索をもてわれを縛りいましめなばわれ弱くなりて別の人のごとくならんと 12 是をもてデリラあたらしき索をとり其をもて彼を縛りしかして彼にいふサムソンよペリシテ人汝におよぶと時に室のうちに人しのび居たりしがサムソン絲の如くにその索を腕より絶おとせり 13 デリラ、サムソンにいひけるに今までは汝われを欺きて我に謊をつげたるが何をもてせば汝をしばることをうるやわ

れに告よと彼之にいひけるは汝もしわが髪毛七繚を
機の緯線とともに織ばすなはち可しと 14 婦すなはち
釘をもて之をとめおきて彼にいひけるはサムソンよ
ペリシテ人汝におよぶとサムソンすなはちその寝を
さまし織機の釘と緯線とを曳拔り 15 婦ここにおいて
サムソンにいひけるは汝の心われに居ざるに汝いか
でわれを愛すといふや汝すでに三次われをあざむき
て汝が大なる力の何にあるかをわれに告ずと 16 日々
にその言をもて之にせまりうながして彼の心を死る
ばかりに苦ませたれば 17 彼つひにその心をことごと
く打明して之にいひけるはわが頭にはいまだかつて
剃刀を當しことあらずそはわれ母の胎を出るよりし
て神のナザレ人たればなりもしわれ髪をそりおとさ
れなばわが力われをはなれわれは弱くなりて別の人
のごとくならんと 18 デリラ、サムソンがことごとく
其のころを明したるを見人をつかはしてペリシテ
人の群伯を召ていひけるはサムソンことごとくその
心をわれに明したれば今ひとたび上り來るべしとこ
こにおいてペリシテ人の群伯かの銀を携へて婦のも
とにいたる 19 婦おのが膝のうへにサムソンをねむら
せ人をよびてその頭髪七繚をきりおとさしめ之を苦
めはじめたるにその力すでにうせさりてあり 20 婦こ
こにおいてサムソンよペリシテ人汝におよぶといひ
ければ彼睡眠をさましていひけるはわれ毎のごとく
出て身を振はさんと彼はエホバのおのれをはなれた
まひしを覺らざりき 21 ペリシテ人すなはち彼を執へ
眼を抉りて之をガザにひき下り銅の鏈をもて之を繋
げりかくてサムソンは囚獄のうちに磨を挽居たりし
が 22 その髪毛剃りおとされてのち復長はじめたり

23 茲にペリシテ人の群伯共にあつまりてその神ダゴンに大なる祭物をささげて祝をなさんとしすなはち言ふわれらの神はわれらの敵サムソンをわれらの手に付したりと 24 民サムソンを見ておのれの神をほめたたへて言ふわれらの神はわれらの敵たる者われらの地を荒せしものわれらを數多殺せしものをわれらの手に付したりと 25 その心に喜びていひけるはサムソンを召てわれらのために戯技をなさしめよとて囚獄よりサムソンを召いだせしかばサムソン之がために戯技をなせり彼等サムソンを柱の間に立しめしに 26 サムソンおのが手をひきをる少者にいひけるはわれをはなして此家の倚て立ところの柱をさぐりて之に倚しめよと 27 その家には男女充ちペリシテ人の群伯もまたみな其處に居る又屋蓋のうへには三千ばかりの男女をりてサムソンの戯技をなすを觀てありき 28 時にサムソン、エホバに呼はりいひけるはああ主エホバよねがはくは我を記念えたまへ嗚呼神よ願くは唯今一度われを強くしてわがふたつの眼のひとつのためにだにもペリシテ人に仇をむくいしめたまへと 29 サムソンすなはちその家の倚てたつところの兩箇の中柱のひとつを右の手ひとつを左の手にかかへて身をこれによせたりしが 30 サムソン我はペリシテ人とともに死なんといひて力をきはめて身をかがめたれば家はそのなかに居る群伯とすべての民のうへに倒れたりかくサムソンが死るときに殺せしものは生けるときに殺せし者よりもおほかりき 31 こののちサムソンの兄弟およびその父の家族ことごとく下りて之を取り携へのぼりてゾラとエシタオルのあひだ

なる其の父マノアの墓にはうむれりサムソンがイスラエルをさばきしは二十年なりき

17 ここにエフライムの山の人にて名をミカとよべるものありしが **2** その母に言けるは汝かつてその千百枚の銀を取れしことを吾が聞ところにて詛ひて語りしが視よその銀はわが手に在り我之を取るなりと母すなはちわが子よねがはくはエホバ汝に祝福をたまへと言ひ **3** 彼千百枚の銀をその母にかへせしかば母いひけらくわれわが子のためにひとつの像を雕みひとつの像を鑄んためにその銀をわが手よりエホバに納む然ばわれ今之を汝にかへすべしと **4** ミカその銀を母にかへせしかば母その銀二百枚をとりて之を鑄物師にあたへてひとつの像をきざませひとつの像を鑄させたり其像はミカの家内に在り **5** このミカといふ人神の殿をもちをりエポデおよびテラピムを造りひとりの子を立ておのが祭司となせり **6** 此ときにはイスラエルに王なかりければ人々おのれの目に是とみゆることをおこなへり **7** ここにひとり少者ありてベテレヘムユダに於てユダの族の中に在る彼はレビ人にしてかしこに寓居るなり **8** この人居べきところをたづねてその邑ベテレヘムユダを去しが遂に旅してエフライムの山にゆきてミカの家にいたりしに **9** ミカ之にいひけるは汝いづこよ來れるやと彼之にいふ我はベテレヘムユダのレビ人なるが居べきところをたづねに往くものなり **10** ミカ之に言けるは汝われと偕に居りわがために父とも祭司ともなれよ然ばわれ年に銀十枚および衣服食物を汝にあたへんとレビ人すなはち入しが **11** レビ人つひにその人と偕に居んことを肯ふ是においてその少者はかれの子の一人の

ごとくなりぬ **12** ミカ、レビ人なるこの少者をたてて祭司となしたればすなはちミカの家に住る **13** ミカここにおいて言ふ今われ知るエホバわれに恩恵をたまはんそはこのレビ人われの祭司となればなり

18 当時イスラエルには王なかりしがダン人の支派其頃住むべき地を求めたり是は彼らイスラエルの支派の中にありて其日まで未だ産業の地を得ざりしが故なり **2** ダンの子孫すなはちゾラとエシタオルよりして自己の族の勇者五人を遣はしその境を出て土地を窺ひ探らしむ即ち彼等に言ふ往て土地を探れと彼等エフライムの山にいたりミカの家につきて其處に宿れり **3** かれらミカの家の際にある時レビ人なる少者の聲を聞認たれば身をめぐらして其處にいりて之に言ふ誰が汝を此に携きたりしや汝此處にて何をなすや此に何の用あるや **4** 其人かれらに言けるはミカ斯々我を待ひ我を雇ひて我その祭司となれりと **5** 彼等これに言ふ請ふ神に問ひ我等が往ところの途に利達あるや否を我等にしらしめよ **6** その祭司かれらに言けるは安んじて往よ汝らが往ところの途はエホバの前にあるなりと **7** 是に於て五人の者往てライシに至り其處に住る人民を視るに顧慮なく住ひをり其安穩にして安固なることシドン人のごとし此國には政權を握りて人を煩はす者絶てあらず其シドン人と隔たること遠くまた他の人民と交ることなし **8** 斯て彼等ゾラとエシタオルに返りてその兄弟等にいたるに兄弟等如何なりしやと彼等に問ければ **9** 答て言ふ起よ彼等の所に攻のぼらん我等その地を見るに甚だ善し汝等は安んじをるなり進みいたりてその地を取ることを怠るなかれ **10** 汝等往ば安固なる人民の所に至

らんその地は堅横ともに廣し神これを汝らの手に與へたまふなり此處には世にある物一箇も缺ることあらず **11** 是に於てダン人の族の者六百人武器を帶てゾラとエシタオルより出ゆき **12** 上りてユダのキリヤテヤリムに陣を張り是をもてその處をマハネダンと名けしがその名今日に存る是はキリヤテヤリムの後にあり **13** 彼等其處よりエフライム山に進みミカの家に至りけるに **14** 夫のライシの國を窺ひに往たりし五人の者その兄弟等に告て言けるは是等の家にはエポデ、テラピムおよび雕める像と鑄たる像あるを汝等知や然ば汝ら今その爲べきことを考へよと **15** 乃ち其方に身をめぐらして夫のレビ人の少者の家なるミカの家に至りてその安否を問けるが **16** 武器を帶たる六百人のダンの子孫は門の入口に立り **17** 夫の土地を窺ひに往たりし五人の者上りて其處にいりその雕める像とエポデとテラピムおよび鑄たる像を取けるが祭司は武器を帶たる六百人の者ととも門の入口に立ゐたり **18** 此人々ミカの家にいりて其雕める像とエポデとテラピムと鑄たる像とを取しかば祭司かれらに汝ら何をなすやと言ふに **19** 彼等これに言けるは汝黙せよ汝手を口にあてて我らとともに來り我らの父とも祭司ともなれよかし一人の家の祭司たるとイスラエルの一の支派一の族の祭司たるとは何か好や **20** 祭司すなはち心に悦びてエポデとテラピムと雕める像とを取て民の中に入る **21** 斯てかれら身をめぐらしその子女と家畜と財寶を前にたてて進みしが **22** ミカの家を遙かに離れし時ミカの家に近きところの家の人々呼はり集てダンの子孫に追ひつき **23** ダンの子孫を呼たれば彼等回顧てミカに言ふ汝何事ありて集りしや

24 かれら言けるは汝らはわが造れる神々および祭司を奪ひさりたれば我尚何かあらん然るに汝等何ぞ我にむかひて何事ぞやと言や 25 ダンの子孫かれに言けるは汝の聲を我らの中に聞えしむるなかれ恐くは心の荒き人々汝に撃かかるありて汝おのれの生命と家族の生命とを失ふにいたらんと 26 而してダンの子孫進みゆきけるがミカは彼らが己よりも強きを見て身をめぐらして家に返れり 27 彼等ミカが造りし者とその有し祭司をとりてライシにおもむき平穩にして安樂なる民の所にいたり刃をもて之を撃ち火をもてその邑を燬たりしが 28 其シドンと隔たること遠きが上に他の人民と交際ざりしによりて之を救ふ者なかりきその邑はベテレホブの邊の谷にあり彼ら邑を建なほして其處に住み 29 イスラエルの生たるその先祖ダンの名にしたがひて其邑の名をダンと名けたりその邑の名は本はライシなりき 30 斯てダンの子孫その雕める像を安置りモーセの子なるゲルシヨムの子ヨナタンとその子孫ダンの支派の祭司となりて國の奪はるる時にまでおよべり 31 神の家のシロにありし間恒に彼等はミカが造りしかの雕める像を安置おきぬ

19 其頃イスラエルに王なかりし時にあたりてエフライムの山の奥に一人のレビ人寄寓をりベテレヘムユダより一人の婦人をとりて妾となしたるに 2 その妾彼に背きて姦淫を爲し去てベテレヘムユダなるその父の家にかへり其所に四月といふ日をおくれり 3 是に於てその夫彼をなだめて携かへらんとてその僕と二頭の驢馬をしたがへ起てかれの後をしたひゆきければその父の家に之を導きいたりしに女の父これを見て之に遇ことを悦こべり 4 而してその女の父な

る外舅彼をひきとめたれば則ち三日これと共に居り
皆食飲して其所に宿りしが 5 四日におよびて朝早く
起あがり彼たちて去んとしければ女の父その婿に言
ふ少許の食物をもて汝の心を強くして然る後に去れ
よと 6 二人すなはち坐りて共に食飲しけるが女の父
その人にいひけるは請ふ幸に今一夜を明し汝の心を
樂ましめよと 7 其人起て去んとしけるに外舅これを
強たれば遂に復其所に宿り 8 五日におよびて朝はや
く起いでて去んとしたるに女の父これに言けるは請
ふ汝の心を強くせよと是をもて日の戻るまでとどま
りて共に食をなしけるが 9 其人つひに妾および僕と
ともに去んとて起あがりければ女の父彼に言ふ視よ
今は日暮なんとす請ふ今一夜を明されよ視よ日戻た
り汝此にやどりて汝の心をたのしませ明日蚤く起て
出たち汝の家にしたれよと 10 然るに其人止宿るこ
とを肯はずして起て去りエブスの對面に至れり是はエ
ルサレムなり鞍おける二の驢馬彼とともにあり妾も
彼とともにき 11 彼らエブスの近傍にをる時日はや
沒んとしければ僕その主人にいひけるは請ふ來れ我
等身をめぐらしてエブス人の此邑にいりて其所に宿
らんと 12 その主人これに言けるは我等は彼所に身を
めぐらしてイスラエルの子孫の邑ならざる外國の人
の邑にいるべからずギベアに進みゆかんと 13 すなは
ちその僕にいひけるは來れ我らギベアカラマか是等
の處の一に就て止宿んと 14 皆すすみ往きけるがベニ
ヤミンのギベアの近邊にて日暮たれば 15 ギベアにゆ
きて宿らんとて其所に身をめぐらし入て邑の衢に坐
しけるに誰も彼を家に接て宿らしむる者なかりき 16
時に一人の老人日暮に田野の働作をやめて歸りきた

る此人はエフライム山の者にしてギベアに寄寓れる
なり但し此處の人はベニヤミン人なり 17 彼目をあげ
て旅人の邑の衢にをるを見たり老人すなはちいひけ
るは汝は何所にゆくなるや何所より來れるやと 18 そ
の人これにいひけるは我らはベテレヘムユダよりエ
フライム山の奥におもむく者なり我は彼所の者にて
既にベテレヘムユダにゆき今エホバの室に詣らんと
するなるが誰もわれを家に接ものあらず 19 然ど驢馬
の藁も飼藁もあり又我と汝の婢および僕等とともに
なる少者の用ふべき食物も酒も在て何も事缺るところ
なし 20 老人いひけるは願くは汝安かれ汝が需むる者
は我そなへん唯衢に宿るなかれと 21 かれをその家に
携れ驢馬に飼ふ彼らすなはち足をあらひて食飲せし
が 22 その心を樂ませをる時にあたりて邑の人々の邪
なる者その家をとりにかこみ戸を打たたきて家の主人
なる老人に言ふ汝の家にきたれる人をひき出せ我ら
これを犯さんと 23 是に於て家の主人なる人かれらの
所にいでゆきてこれに言けるは否わが兄弟よ惡をな
す勿れ此人すでにわが家にいらればこの愚なる事
をなすなかれ 24 我が處女なる女と此人の妾とあるに
より我これを今つれいだすべければ汝らかれらを辱
しめ汝等の好むところをこれに爲せ唯この人には斯
る愚なる事を爲すなかれと 25 然るにその人々これを
聽いれざるにより其人その妾をとりてこれを彼らの
所にいだしやりければすなはちこれを犯して朝にい
たるまで終夜これを辱しめ日のいづる頃にいたりて
釋てり 26 是をもて婦黎明にきたりてその夫のをる彼
人の家の門に仆れ夜のあくるまで其處に臥をる 27 そ
の主朝におよびておきいで家の戸をひらきて去ん

とせしがその妾の婦の家の門にたふれをりて手を闕の上におくを見ければ 28 これにむかひ起よ我ら出往んと言たれども何の答もあらざりき是によりてその人これを驢馬にのせたちて己の所におもむきしが 29 家にいたるにおよびて刀をとり其妾を執へて骨ぐるみこれを十二分にたちわりて之をイスラエルの四方の境におくりければ 30 之を見る者皆いふイスラエルの子孫がエジプトの地より出のぼりし日より今日にいたるまで斯のごとき事は行はれしことなく見えしことなし思をめぐらし相議りて言ふことをせよ

20 是に於てイスラエルの子孫ダンよりベエルシバにいたりギレアデの地にいたるまで皆出きたり其會衆一人のごとくにしてミツパに於てエホバの前に集り 2 衆民の長たる者すなはちイスラエルの諸の支派の長等みづから神の民の集會に出づ劍をぬくところの歩兵四十萬人ありき 3 ペニヤミンの子孫はイスラエルの子孫がミツパにのぼれることを聞り斯てイスラエルの子孫此惡事の様を語れと言ければ 4 彼殺されし婦の夫なるレビの人こたへていふ我わが妾とともにペニヤミンのギベアに宿らんとて往たるに 5 ギベアの人起りたちて我をせめ夜の間に我がをる家をと리카こみて我を殺さんと企て遂にわが妾を辱しめてこれを死しめたれば 6 我わが妾をとらへてこれをたちわり是をイスラエルの産業なる全地に遣れり是は彼らイスラエルにおいて淫事をなし愚なる事をなしたればなり 7 汝等は皆イスラエルの子孫なり今汝らの意見と思考をのべよ 8 民みな一人のごとくに起ていひけるは我らは誰もおのれの天幕にゆかずまた誰もおのれの家におもむかじ 9 我らがギベアになさ

んところの事は是なりすなはち鬪にしたがひて之を
攻ん **10** 我らイスラエルの諸の支派の中に於て百人よ
り十人千人より百人萬人より千人を取りて民の糧食
を執せ之をしてベニヤミンのギベアにいたり彼らが
イスラエルにおこなひたるその愚なる事にしたがひ
て事をなさしむべしと **11** 斯イスラエルの人々皆あつ
まりて此邑を攻んとせしが其相結べること一人のご
とくなりき **12** イスラエルの諸の支派遍く人をベニヤ
ミンの支派の中に遣して言しめけるは汝らの中に此
悪事のおこなはれしは何事ぞや **13** 然ばギベアにをる
かの邪なる人々をわたせ我らこれを誅して悪をイス
ラエルに絶べしと然るにベニヤミンの子孫はその兄
弟なるイスラエルの子孫の言を聴いれざりき **14** 却て
ベニヤミンの子孫は邑々よりギベアにあつまりて出
てイスラエルの子孫と戦はんとす **15** その時邑々より
出たるベニヤミンの子孫を數ふるに劍をぬく所の人
二萬六千あり外にまたギベアの居民ありて之をかぞ
ふるに精兵七百人ありき **16** この諸の民の中に左手利
の精兵七百人あり皆能く投石器をもて石を投るに毫
末もたがふことなし **17** イスラエルの人を數ふるにベ
ニヤミンを除きて劍をぬくところの者四十萬人あり
き是みな軍人なり **18** 爰にイスラエルの子孫起あがり
てベテルにのぼり神に問て我等の中孰か最初にのぼ
りてベニヤミンの子孫と戦ふべきやと言ふにエホバ
、ユダ最初にと言たまふ **19** イスラエルの子孫すなは
ち朝おきてギベアにむかひて陣をとりけるが **20** イス
ラエルの人々ベニヤミンと戦はんとて出でゆきイス
ラエルの人々行伍をたててギベアにて彼らと戦はん
としければ **21** ベニヤミンの子孫ギベアより進みいで

其日イスラエル人二萬二千を地に撃仆せり **22** 然るにイスラエルの民の人々みづから奮ひその初の日に行伍をたてし所にまた行伍をたてたり **23** 而してイスラエルの子孫上りゆきてエホバの前に夕暮まで哭きエホバに問て言ふ我復進みよりて吾兄弟なるベニヤミンの子孫とたたかふべきやとエホバ彼に攻のぼれと言たまへり **24** 是に於てイスラエルの子孫次の日またベニヤミンの子孫の所に攻よするに **25** ベニヤミンまた次の日ギベアより進みて之にいであい再びイスラエルの子孫一萬八千人を地に撃仆せり是みな劍をぬくところの者なりき **26** 斯在しかばイスラエルの子孫と民みな上りてベテルにいたりて哭き其處にてエホバの前に坐りその日の夕暮まで食を斷ち燔祭と酬恩祭をエホバの前に獻げ **27** 而してイスラエルの子孫エホバにとへり（その頃は神の契約の櫃彼處にありて **28** アロンの子エレアザルの子なるピネハス當時これに事へたり）即ち言けるは我またも出てわが兄弟なるベニヤミンの子孫とたたかふべきや或は息べきやエホバ言たまふ上れよ明日はわれ汝の手にかれらを付すべしと **29** イスラエル是に於てギベアの周圍に伏兵を置き **30** 而してイスラエルの子孫三日目にまたベニヤミンの子孫の所に攻のぼり前のごとくにギベアにむかひて行伍をたてたれば **31** ベニヤミンの子孫民に出あひしが遂に邑より誘出されたり彼等始は民を撃ち大路にて前のごとくイスラエルの人三十人許を殺せりその大路は一筋はベテルにいたり一筋は野のギベアに至る **32** ベニヤミンの子孫すなはち言ふ彼らは初のごとく我らに撃破らると然るにイスラエルの人は云ふ我等逃て彼らを邑より大路に誘き出さんと

33 イスラエルの人々みなその所を起て去りバアルタマルに行伍をたてたり而して伏兵その處より即ちギベアの野原より起れり 34 イスラエルの全軍の中より選抜たる兵一萬來りてギベアを襲ひ其戦闘はげしかりしがベニヤミン人は蓄害の己にのぞむを知ざりき 35 エホバ、イスラエルのまへにベニヤミンを擊敗りたまひしかばイスラエルの子孫その日ベニヤミン人二萬五千一百人を殺せり是みな劍をぬくところの者なり 36 ベニヤミンの子孫すなはち己の擊敗らるるを見たり偕イスラエルの人々そのギベアにむかひて設たる所の伏兵を待てベニヤミン人を避て退きけるが 37 伏兵急ぎてギベアに突いり伏兵進みて刃をもて邑を盡く撃り 38 イスラエルの人々とその伏兵との間に定めたる合圖は邑より大なる黒烟をあげんとの事なりき 39 イスラエルの人々戰陣より引き退ぞくベニヤミン初が程はイスラエルの人々を撃ちて三千人許を殺し乃ち言ふ彼等はまことに最初の戦のごとく我等に撃やぶらると 40 然るに火焰烟の柱なして邑より上りはじめしかばベニヤミン人後を見かへりしに邑は皆烟となりて空にのぼる 41 時にイスラエルの人々ふりかへりしかばベニヤミンの人々蓄害のおのれに迫るを見て狼狽へ 42 イスラエルの人々の前より身をめぐらして野の途におもむきけるが戦闘これに迫せまりて遂にその邑々よりいでたる者どもその中に戦死す 43 イスラエルの人すなはちベニヤミン人をとりまきて之を追うち容易くこれを踏たふして東の方ギベアの對面にまでおよべり 44 ベニヤミンの仆る者一萬八千人是みな勇士なり 45 茲に彼等身をめぐらして野の方のにげリンモンの磐にいたれりイスラエルの

人大路にて彼等五千人を伐とり尚もこれを追うちてギドムにいたりその二千人を殺せり 46 是をもて其日ベニヤミンの仆れし者は劍をぬくところの人あはせて二萬五千なりき是みな勇士なり 47 但六百人の者身をめぐらして野の方にのがれリンモンの磐にいたりて四月があひだリンモンの磐にをる 48 是に於てイスラエルの人々また身をかへしてベニヤミンの子孫をせめ刃をもて邑の人より畜にいたるまで凡て目にあたる者を撃ち亦その至るところの邑々に火をかけた

21 イスラエルの人々曾てミヅパにて誓ひ曰けるは我等の中一人もその女をベニヤミンの妻にあたふる者あるべからずと 2 茲に民ベテルに至り彼處にて夕暮まで神の前に坐り聲を放ちて痛く哭き 3 言けるはイスラエルの神エホバよなんぞイスラエルに斯ること起り今日イスラエルに一の支派の缺るにいたりしやと 4 而して翌日民蚤に起て其處に壇を築き燔祭と酬恩祭をささげたり 5 茲にイスラエルの子孫いひけるはイスラエルの支派の中に誰か會衆とともに上りてエホバにいたらざる者あらんと其は彼らミヅパに來りてエホバにいたらざる者の事につきて大なる誓をたてて其人をばかならず死しむべしと言たればなり 6 イスラエルの子孫すなはち其兄弟ベニヤミンの事を憫然におもひて言ふ今日イスラエルに一の支派絶ゆ 7 我等エホバをさして我らの女をかれらの妻にあたへじと誓ひたれば彼の遺る者等に妻をめとらしめんには如何にすべきや 8 又言ふイスラエルの支派の中孰の者かミヅパにのぼりてエホバにいたらざると而して視るにヤベシギレアデよりは一人も陣營に

きたり集會に臨める者なし 9 即ち民をかぞふるにヤベシギレアデの居民は一人も其處にをらざりき 10 是に於て會衆勇士一萬二千を彼處に遣し之に命じて言ふ往て刃をもてヤベシギレアデの居民を撃て婦女兒女をも餘すなかれ 11 汝ら斯おこなふべし即ち汝等男人および男と寝たる婦人をば悉く滅し盡すべしと 12 彼等ヤベシギレアデの居民の中にて四百人の若き處女を獲たり是は未だ男と寝て男しりしことあらざる者なり彼らすなはち之をシロの陣營に曳きたる是はカナンの地にあり 13 斯て全會衆人をやりてリンモンの磐にをるベニヤミン人と語はしめ和睦をこれに宣しめたれば 14 ベニヤミンすなはち其時に歸りきたれり是において彼らヤベシギレアデの婦人の中より生しおきたるところの女子を之にあたへけるが尚足ざりき 15 エホバ、イスラエルの支派の中に缺を生ぜしめたまひしに因て民ベニヤミンの事を憫然におもへり 16 會衆の長老等いひけるはベニヤミンの婦女絶たれば彼の遺れる者等に妻をめとらせんには如何すべきや 17 又言けるはベニヤミンの中の逃れたる者等に産業あらしめん然らばイスラエルに一の支派の消ることなかるべし 18 然ながら我等は我等の女子を彼らの妻にあたふべからず其はイスラエルの子孫誓をなしベニヤミンに妻を與ふる者は詛はれんと言たればなりと 19 而して言ふ歳々シロにエホバの祭ありと其處はベテルの北にあたりてベテルよりシケムにのぼるところの大路の東レバナの南にあり 20 是に於てかれらベニヤミンの子孫に命じて言ふ汝らゆきて葡萄園に伏して窺ひ 21 若シロの女等舞をどらんと出きたらば葡萄園より出でシロの女の中より各人妻を執て

ベニヤミンの地に往け **22** 若その父あるひは兄弟來りて我らに懇へなば我らこれに言ふべし請ふ幸に彼らを我らに取せよ我等戦争の時に皆ことごとくその妻をとりしにあらざればなり汝等今かれらに與へしにあらざれば汝等は罪なしと **23** ベニヤミンの子孫すなはちかく行なひその踊れる者等を執へてその中より己の數にしたがひて妻を取り往てその地にかへり邑々を建なほして其處に住り **24** 斯てイスラエルの子孫その時に其處を去て各人その支派に往きその族にいたれり即ち其處より出て各人その地にいたりぬ **25** 當時はイスラエルに王なかりしかば各人その目に善と見るところを爲り

ルツ記

1 士師の世ををさむる時にあたりて國に饑饉たありければ一箇の人その妻と二人の男子をひきつれてベテレヘムユダを去りモアブの地にゆきて寄寓る **2** その人の名はエリメレクその妻の名はナオミその二人の男子の名はマロンおよびキリオンといふベテレヘムユダのエフラテ人なり 彼等モアブの地にいたりて其處にをりしが **3** ナオミの夫エリメレク死てナオミとその二人の男子のこさる **4** 彼等おのおのモアブの婦人を妻にめとる その一人の名はオルパといひ一人の名はルツといふ 彼處にすむこと十年許にして **5** マロンとキリオンの二人もまた死り 斯ナオミは二人の男子と夫に後れしが **6** モアブの地にて彼エホバその民を眷みて食物を之にたまふと聞ければその媳とともに起ちてモアブの地より歸らんとし **7** その在ところを出たりその二人の媳これとともにあり 彼等ユダの地にかへらんと途にすすむ **8** 爰にナオミその二人の媳にいひけるは汝らはゆきておのおの母の家にかへれ 汝らがかの死たる者と我とを善く待ひしごとくにねがはくはエホバまたなんぢらを善くあつかひたまへ **9** ねがはくはエホバなんぢらをして各々その夫の家にて安身處をえせしめたまへと 乃ちかれらに接吻しければ彼等聲をあげて哭き **10** 之にいひけるは我ら汝とともに汝の民にかへらんと **11** ナオミいひけるは女子よ返れ 汝らなんぞ我と共にゆくべけんや 汝らの夫となるべき子猶わが胎にあらんや **12** 女子よかへりゆけ 我は老たれば夫をもつをえざるなり 假設われ指望ありといふとも今夜夫を有つとも而してまた子を生むとも **13** 汝等これがために其子の生長までまち

をるべけんや 之がために夫をもたずしてひきこもり
をるべけんや 女子よ然すべきにあらず 我はエホバの
手ののぞみてわれを攻しことを汝らのために痛くう
れふるなり 14 彼等また聲をあげて哭く 而してオル
パはその姑に接吻せしがルツは之を離れず 15 是によ
りてナオミまたいひけるは視よ汝の姉はその民と
その神にかへり往く 汝も姉にしたがひてかへるべ
し 16 ルツいひけるは汝を棄て汝をはなれて歸るこ
を我に催すなかれ 我は汝のゆくところに往き汝の宿
るところにやどらん 汝の民はわが民汝の神はわが神
なり 17 汝の死るところに我は死て其處に葬らるべし
若死別にあらずして我なんぢとわかれなばエホバわ
れにかくなし又かさねてかくなしたまへ 18 彼 媳が
固く心をさだめて己とともに來らんとするを見しか
ば之に言ふことを止たり 19 かくて彼等二人ゆきて終
にベテレヘムにいたりしがベテレヘムにいたれる時
邑こぞりて之がためにさわぎたち婦女等是はナオミ
なるやといふ 20 ナオミかれらにいひけるは我をナオ
ミ(樂し)と呼なかれ マラ(苦し)とよぶべし 全能者痛
く我を苦め給ひたればなり 21 我盈足て出たるにエホ
バ我をして空くなりて歸らしめたまふ エホバ我を攻
め全能者われをなやましたまふに汝等なんぞ我をナ
オミと呼や 22 斯ナオミそのモアブの地より歸れる
媳モアブの女ルツとともに歸り來れり 即ち彼ら大麥
刈の初にベテレヘムにいたる

2 ナオミにその夫の知己あり 即ちエリメレクの族に
して大なる力の人なり その名をボアズといふ 2 茲に
モアブの女ルツ、ナオミにいひけるは請ふわれをし
て田にゆかしめよ 我何人かの目のまへに恩をうるこ

とあらばその人の後にしたがひて穂を拾はんと ナオミ彼に女子よ往べしといひければ 3 乃ち往き遂に至りて刈者の後にしたがひ田にて穂を拾ふ 彼意はずも エリメレクの族なるボアズの田の中にいたれり 4 時にボアズ、ベテレヘムより來り その刈者等刈者等に言ふ ねがはくはエホバ汝等とともに在せと 彼等すなはち答てねがはくはエホバ汝を祝たまへといふ 5 ボアズその刈者を督る僕にいひけるは此は誰の女なるや 6 刈者を督る人こたへて言ふ是はモアブの女にしてモアブの地よりナオミとともに還りし者なるが 7 いふ請ふ我をして刈者の後にしたがひて禾束の間に穂をひろひあつめしめよと 而して來りて朝より今にいたるまで此にあり 其家にやすみし間は暫時のみ 8 ボアズ、ルツにいひけるは女子よ聽け 他の田に穂をひろひにゆくなかれ 又此よりいつるなかれわが婢等に離ずして此にをるべし 9 人々の刈ところの田に目をとめてその後にしたがひゆけ 我少者等に汝にさはるなかれと命ぜしにあらずや 汝渴く時は器の所にゆきて少者の汲るを飲めと 10 彼すなはち伏て地に拜し之にいひけるは我如何して汝の目の前に恩恵を得たるか なんぢ異邦人なる我を顧みると 11 ボアズこたへて彼にいひけるは汝が夫の死たるより已來姑に盡したる事汝がその父母および生れたる國を離れて見ず識ずの民に來りし事皆われに聞えたり 12 ねがはくはエホバ汝の行爲に報いたまへ ねがはくはイスラエルの神エホバ即ち汝がその翼の下に身を寄んとて來れる者汝に十分の報施をたまはんことを 13 彼いひけるは主よ我をして汝の目の前に恩をえせしめたまへ 我は汝の仕女の一人にも及ざるに汝かく我を慰め斯仕

女に懇切に語りたまふ 14 ボアズかれにいひけるは食事の時は此にきたりてこのパンを食ひ且汝の食物をこの醋に濡せよと 彼すなはち刈者の傍に坐しければボアズ烘麥をかれに與ふ 彼くらひて飽き其餘を懷む 15 かくて彼また穂をひろはんとて起あがりければボアズその少者に命じていふ 彼をして禾束の間にても穂をひろはしめよ かれを羞しむるなかれ 16 且手の穂を故に彼がために抽落しおきて彼に拾はしめよ 叱るなかれ 17 彼かく薄暮まで田に穂をひろひてその拾ひし者を撲しに大麥一斗許ありき 18 彼すなはち之を携へて邑にいり姑にその拾ひし者を看せ且その飽たる後に懷めおきたる者を取り出して之にあたふ 19 姑かれにいひけるは汝今日何處にて穂をひろひしや 何の處にて工作しや 願くは汝を眷顧たる者に福祉あれ 彼すなはち姑にその誰の所に工作しかを告ていふ 今日われに工作をなさしめたる人の名はボアズといふ 20 ナオミ媳にいひけるは願はエホバの恩かれに至れ 彼は生る者と死る者とを棄ずして恩をほどこす ナオミまた彼にいひけるは其人は我等に縁ある者にして我等の贖業者の一人なり 21 モアブの女ルツいひけるは彼また我にかたりて汝わが穫刈の盡く終るまでわが少者の傍をはなるるなかれといへりと 22 ナオミその媳ルツにいひけるは女子よ汝かれの婢等とともに出るは善し 然れば他の田にて人に見らるることを免かれん 23 是によりて彼ボアズの婢等の傍を離れずして穂をひろひ大麥刈と小麥刈の終にまでおよぶ 彼その姑とともにをる

3 爰に姑ナオミ彼にいひけるは女子よ我汝の安身所を求めて汝を幸ならしむべきにあらずや **2** 夫汝が偕

にありし婢等を有る彼ボアズは我等の知己なるにあらずや 視よ彼は今夜 禾場にて大麥を簸る 3 然ば汝の身を洗て膏をぬり衣服をまとひて禾場に下り汝をその人にしらせずしてその食飲を終るを待て 4 而て彼が臥す時に汝その臥す所を見とめおき入てその脚を掀開りて其處に臥せよ 彼なんぢの爲べきことを汝につげんと 5 ルツ姑にいひけるは汝が我に言ところは我皆なすべしと 6 すなはち禾場に下り凡てその姑の命ぜしごとくなせり 7 偕ボアズは食飲をなしてその心をたのしませ往て麥を積る所の傍に臥す 是に於て彼潜にゆきその足を掀開て其處に臥す 8 夜半におよびて其人畏懼をおこし起かへりて見るに一人の婦その足の方に臥るたれば 9 汝は誰なるやといふに婦こたへて我は汝の婢ルツなり 汝の裾をもて婢を覆ひたまへ 汝は贖業者なればなり 10 ボアズいひけるは女子よねがはくはエホバの恩典なんぢにいたれ 汝の後の誠實は前のよりも勝る 其は汝貧きと富とを論ず少き人に従ふことをせざればなり 11 されば女子よ懼るなかれ 汝が言ふところの事は皆われ汝のためになすべし 其はわが邑の人皆なんぢの賢き女なるをしればなり 12 我はまことに贖業者なりと雖も我よりも近き贖業者あり 13 今夜は此に住宿れ 朝におよびて彼もし汝のために贖ふならば善し彼に贖はしめよ 然ど彼もし汝のために贖ふことを好まずばエホバは活く我汝のために贖はん 朝まで此に臥せよと 14 ルツ朝までその足の方に臥て誰彼の辨がたき頃に起あがる ボアズ此女の禾場に來りしことを人にしらしむべからずといへり 15 而していひけるは汝の著る袿衣を將きたりて其を開げよと 即ち開げければ大麥六升を量りて之に

負せたり 斯して彼邑にいたりぬ 16 爰にルツその姑の許に至るに姑いふ 女子よ如何ありしやと 彼すなはち其人の己になしたる事をことごとく之につげて 17 而していひけるは彼空手にて汝の姑の許に往くなかれといひて此六升の大麥を我にあたへたり 18 姑いひけるは女子よ坐して待ち事の如何になりゆくかを見よ 彼人今日その事を爲終ずば安んぜざるべければなり

4 爰にボアズ門の所にのぼり往て其處に坐しけるに前にボアズの言たる贖業者過りければ之に言ふ 某よ來りて此に坐せよと 即ち來りて坐す 2 ボアズまた邑の長老十人を招き汝等此に坐せよといひければ則ち坐す 3 時に彼その贖業人にいひけるはモアブの地より還りシナオミ我等の兄弟エリメレクの地を賣る 4 我汝につげしらせて此に坐する人々の前わが民の長老の前にて之を買へと言んと想へり 汝もし之を贖はんと思はば贖ふべし 然どもし之を贖はずば吾に告てしらしめよ 汝の外に贖ふ者なければなり 我はなんぢの次なりと彼我これを贖はんといひければ 5 ボアズいふ 汝ナオミの手よりその地を買ふ日には死者の妻なりし モアブの女ルツをも買て死者の名をその産業に存すべきなり 6 贖業人いひけるは我はみづから贖ふあたはず 恐くはわが産業を壞はん 汝みづから我にかはりてあがなへ 我あがなふことあたはざればなりと 7 昔イスラエルにて物を贖ひ或は交易んとする事につきて萬事を定めたる慣例は斯のごとし 即ち此人鞋を脱て彼人にわたせり 是イスラエルの中の證なりき 8 是によりてその贖業人ボアズにむかひ汝みづから買ふべしといひて其鞋を脱たり 9 ボアズ長老および諸の民にいひけるは汝等今日見證をなす 我エ

リメレクの凡の所有およびキリオンとマロンの凡の
所有をナオミの手より買たり **10** 我またマロンの妻な
りしモアブの女ルツを買て妻となし彼死る者の名を
その産業に存すべし 是かの死る者の名を其兄弟の中
とその處の門に絶ざらしめんためなり 汝等今日證を
なす **11** 門にをる人々および長老等いひけるはわれら
證をなす 願くはエホバ汝の家にいるところの婦人を
して彼イスラエルの家を造りなしたるラケルとレア
の二人のごとくならしめたまはんことを 願くは汝エ
フラタにて能を得ベテレヘムにて名をあげよ **12** ねが
はくはエホバが此若き婦よりして汝にたまはんとこ
ろの子に由て汝の家かのタマルがユダに生たるペレ
ズの家のごとくなるにいたれ **13** 斯てボアズ、ルツを
娶りて妻となし彼の所にいりければエホバ彼を孕ま
しめたまひて彼男子を生り **14** 婦女等ナオミにいひけ
るはエホバは讚べきかな 汝を遣ずして今日汝に贖業
人あらしめたまふ その名イスラエルに揚れ **15** 彼は
汝の心をなぐさむる者 汝の老を養ふ者とならん 汝を
愛する汝の媳即ち七人の子よりも汝に善もの之をう
みたり **16** ナオミその子をとりにて之を懐に置き之が養
育者となる **17** その隣人なる婦女等これに名をつけて
云ふ ナオミに男子うまれたりと その名をオベデと稱
り 彼はダビデの父なるエサイの父なり **18** 儲ペレヅ
の系圖は左のごとし ペレヅ、ヘヅロンを生み **19** ヘ
ヅロン、ラムを生み ラム、アミナダブを生み **20** ア
ミナダブ、ナシヨンを生み ナシヨン、サルモンを生
み **21** サルモン、ボアズを生み ボアズ、オベデを生
み **22** オベデ、エサイを生み エサイ、ダビデを生り

サムエル記Ⅰ

1 エフライムの山地のラマタイムヅビムにエルカナと名くる人ありエフライテ人にしてエロハムの子なりエロハムはエリウの子エリウはトフの子トフはツフの子なり **2** エルカナに二人の妻ありてひとりの名をハンナといひひとりの名をペニンナといふペニンナには子ありたれどもハンナには子あらざりき **3** 是人毎歳に其邑をいで上りてシロにおいて萬軍のエホバを拝み之に祭物をささぐ其處にエリの二人の子ホフニとピネハスをりてエホバに祭司たり **4** エルカナ祭物をささぐる時其妻ペニンナと其すべての息子女子にわかちあたへしが **5** ハンナには其倍をあたふ是はハンナを愛するが故なりされどエホバ其孕みをとどめたまふ **6** 其敵もまた痛くこれをなやましてエホバが其はらみをとどめしを怒らせんとす **7** 歳々ハンナ、エホバの家にのぼるごとにエルカナかくなせしかばペニンナかくのごとく之をなやます是故にハンナないてもものくはざりき **8** 其夫エルカナ之にいひけるはハンナよ何故になくや何故にもものくはざるや何故に心かなしむや我は汝のためには十人の子よりもまさるにあらざや **9** かくてシロにて食飲せしのちハンナたちあがりし時に祭司エリ、エホバの宮の柱の傍にある壇に坐す **10** ハンナ心にくるしみエホバにいのりて甚く哭き **11** 誓をなしていひけるは萬軍のエホバよ若し誠に婢の惱をかへりみ我を憶ひ婢を忘れずして婢に男子をあたへたまはば我これを一生のあひだエホバにささげ剃髮刀を其首にあつまじ **12** ハンナ、エホバのまへに長くいのりければエリ其口に目をとめたり **13** ハンナ心の中にもものいへば只唇うごくの

みにて聲きこえず是故にエリこれを酔たる者と思ひ
14 之にいひけるは何時まで酔ひをるか爾の酒をされ
よ 15 ハンナこたへていひけるは主よ然るにあらず我
は氣のわづらふ婦人にして葡萄酒をも濃き酒をもの
まず惟わが心をエホバのまへに明せるなり 16 婢を邪
なる女となすなかれ我はわが憂と悲みの多きよりし
て今までかたれり 17 エリ答へていひけるは安んじて
去れ願くはイスラエルの神汝の求むる願ひを許した
まはんことを 18 ハンナイひけるはねがはくは仕女の
汝のまへに恩をえんことをと斯てこの婦さりて食ひ
其顔ふたたび哀しげならざりき 19 是に於て彼等朝は
やくおきてエホバの前に拝をしかへりてラマの家に
いたる而してエルカナ其つまハンナとまじはるエホ
バ之をかへりみたまふ 20 ハンナ孕みてのち月みちて
男子をうみ我これをエホバに求めし故なりとて其名
をサムエル(エホバに聽る)となづく 21 爰に其人エル
カナ及び其家族みな上りて年々の祭物及び其誓ひし
物をささぐ 22 然どもハンナは上らず其夫にいひける
は我はこの子の乳ばなれするに及びてのち之をたづ
きへゆきエホバのまへにあらはれしめ恒にかしこに
居らしめん 23 其夫エルカナ之にいひけるは汝の善と
思ふところを爲し此子を乳ばなすまでとどまるべし
只エホバの其言を確實ならしめ賜んことをねがふと
斯くこの婦止まりて其子に乳をのませ其ちばなれす
るをまちしが 24 乳ばなせしとき牛三頭粉一斗酒一囊
を取り其子をたづきへてシロにあるエホバの家にい
たる其子なほ幼稚し 25 是に於て牛をころしその子を
エリの許に携へゆきぬ 26 ハンナイひけるは主よ汝の
たましひは活くわれはかつてここにてなんぢの傍に

たちエホバにいのりし婦なり 27 われ此子のためにいのりしにエホバわが求めしものをあたへたまへり 28 此故にわれまたこれをエホバにささげん其一生のあひだ之をエホバにささぐ斯てかしこにてエホバををがめり

2 ハンナ禱りて言けるは我心はエホバによりて喜び我角はエホバによりて高し我口はわが敵の上にはりひらく是は我汝の救拯によりて樂むが故なり **2** エホバのごとく聖き者はあらず其は汝の外に有る者なければなり又われらの神のごとき磐はあることなし **3** 汝等重ねて甚く誇りて語るなかれ汝等の口より漫言を出すなかれエホバは全知の神にして行爲を裁度りたまふなり **4** 勇者の弓は折れ倒るる者は勢力を帶ぶ **5** 飽足る者は食のために身を備はせ饑たる者は憩へり石女は七人を生み多くの子を有る者は衰ふるにいたる **6** エホバは殺し又生したまひ陰府に下し又上らしめたまふ (Sheol h7585) **7** エホバは貧からしめ又富しめたまひ卑くしまた高くしたまふ **8** 荏弱者を塵の中より擧げ窮乏者を埃の中より升せて王公の中に坐せしめ榮光の位をつがしめ給ふ地の柱はエホバの所屬なりエホバ其上に世界を置きたまへり **9** エホバ其聖徒の足を守りたまはん悪き者は黑暗にありて黙すべし其は人力をもて勝つべからざればなり **10** エホバと争ふ者は破碎かれんエホバ天より雷を彼等の上にくだしエホバは地の極を審き其王に力を與へ其膏そそぎし者の角を高くし給はん **11** エルカナ、ラマに往て其家にいたりしが稚子は祭司エリのまへにありてエホバにつかふ **12** さてエリの子は邪なる者にしてエホバをしらざりき **13** 祭司の民に於る習慣は斯のごとし人

祭物をささぐる時肉を煮るあひだに祭司の僕三の齒ある肉叉を手にとりて來り 14 之を釜あるひは鍋あるひは鼎又は炮烙に突きいれ肉叉の引きあぐるところの肉は祭司みなこれを己にとる是くシロに於て凡てそこに来るイスラエル人になせり 15 脂をやく前にも亦祭司のしもべ來り祭物をささぐる人にいふ祭司のために焼くべき肉をあたへよ祭司は汝より烹たる肉を受けず生腥の肉をこのむと 16 もし其人これにむかひ直ちに脂をやくべければ後心のこのむままに取れといはば僕之にいふ否今あたへよ然らずば我強て取んと 17 故に其壯者の罪エホバのまへに甚だ大なりそは人々エホバに祭物をささぐることをいとひたればなり 18 サムエルなほ幼して布のエポデを著てエホバのまへにつかふ 19 また其母これがために小き明衣をつくり歳毎にその夫とともに年の祭物をささげにのぼる時これをもちきたる 20 エリ、エルカナとその妻を祝していひけるは汝がエホバにささげたる者のためにエホバ此婦よりして子を汝にあたへたまはんことをねがふと斯てかれら其郷にかへる 21 しかしてエホバ、ハンナをかへりみたまひければハンナ孕みて三人の男子と二人の女子をうめり童子サムエルはエホバのまへにありて生育てり 22 ここにエリ甚だ老て其子等がイスラエルの人々になせし諸の事を聞きまた其集會の幕屋の門にいつる婦人たちと寝たるを聞て 23 これにいひけるは何ぞ斯る事をなすや我このすべての民より汝らのあしき行をきく 24 わが子よ然すべからず我きくところの風聞よからず爾らエホバの民をしてあやまたしむ 25 人もし人にむかひて罪をかさば神之をさばかんされど人もしエホバに向ひて

罪ををかさば誰かこれがためにとりなしをなさんや
としかれども其子父のことばを聴ざりきそはエホバ
かれらを殺さんと思ひたまへばなり **26** 童子サムエル
生長ゆきてエホバと人にと愛せらる **27** 茲に神の人エ
リの許に來りこれにいひけるはエホバ斯くいひたま
ふ爾の父祖の家エジプトにおいてパロの家にありし
とき我明かに之にあらはれしにあらずや **28** 我これを
イスラエルの諸の支派のうちより選みてわが祭司と
なしわが壇の上に祭物をささげ香をたかしめ我前に
エポデを衣しめまたイスラエルの人の火祭を悉く汝
の父の家にあたへたり **29** なんぞわが命ぜし犠牲と禮
物を汝の家にてふみつくるや何ぞ我よりもなんぢの
子をたふとみわが民イスラエルの諸の祭物の最も嘉
きところをもて己を肥すや **30** 是ゆゑにイスラエルの
神エホバイひたまはく我誠に曾ていへり汝の家およ
びなんぢの父祖の家永くわがまへにあゆまんと然ど
も今エホバイひたまふ決めてしからず我をたふとむ
者は我もこれをたふとむ我を賤しむる者はかるんぜ
らるべし **31** 視よ時いたらん我汝の腕と汝の父祖の家
の腕を絶ち汝の家に老たるもの无らしめん **32** 我大に
イスラエルを善すべけれど汝の家内には災見えん汝
の家にはこののち永く老るものなかるべし **33** またわ
が壇より絶ざる汝の族の者は汝の目をそこなひ汝の
心をいたましめん又汝の家にうまれいづるものは壯
年にして死なん **34** 汝のふたりの子ホフニとピネスの
遇ところの事を其徴とせよ即ち二人ともに同じ日に
死なん **35** 我はわがために忠信なる祭司をおこさん其
人わが心とわが意にしたがひておこなはんわれその
家をかたうせんかれわが膏そそぎし者のまへに恒に

あゆむべし 36 しかして汝の家にのこれる者は皆きたりてこれに屈み一厘の金と一片のパンを乞ひ且いはんねがはくは我を祭司の職の一に任じて些少のパンにても食ふことをえせしめよと

3 童子サムエル、エリのまへにありてエホバにつかふ當時はエホバの言まれにして黙示あること恒ならざりき **2** 偕エリ目漸くくもりて見ることをえず此時其室に寝たり **3** 神の燈なほきえずサムエル神の櫃あるエホバの宮に寝ね **4** 時にエホバ、サムエルをよびたまふ彼我此にありといひて **5** エリの許に趨ゆきいひけるは汝われをよぶ我ここにありエリいひけるは我よばず反りて臥よと乃ちゆきていぬ **6** エホバまたかさねてサムエルよとよびたまへばサムエルおきてエリのもとにいたりいひけるは汝われをよぶ我ここにありエリこたへけるは我よばずわが子よ反りていぬよ **7** サムエルいまだエホバをしらずまたエホバのことばいまだかれにあらはれず **8** エホバ、三たびめに又サムエルをよびたまへばサムエルおきてエリの許にたりいひけるは汝われをよぶ我ここにありとエリ乃ちエホバの童子をよびたまひしをさとり **9** 故にエリ、サムエルにいひけるはゆきて寝よ彼若し汝をよばば僕聴くエホバ語りたまへといへとサムエルゆきて其室にいねしに **10** エホバ來りて立ちまへの如くサムエル、サムエルとよびたまへばサムエル僕きく語りたまへといふ **11** エホバ、サムエルにいひ賜けるは視よ我イスラエルのうちに一の事をなさんこれをきくものは皆其耳ふたつながら鳴ん **12** 其日にはわれ嘗てエリの家について言しことを始より終までことごとくエリになすべし **13** われかつてエリに其惡事の

ために永くその家をさばかんとしめせりそは其子の
詛ふべきことをなすをしりて之をとどめざればなり
14 是故に我エリのいへに誓ひてエリの家が悪は犠牲
あるひは禮物をもて永くあがなふ能はずといへり **15**
サムエル朝までいねてエホバの家の戸を開きしが其
異象をエリにしめすことをおそる **16** エリ、サムエル
をよびていひけるはわが子サムエルよ答へけるはわ
れここにあり **17** エリいひけるは何事を汝につげたま
ひしや請ふ我にかくすなかれ汝もし其汝に告げたま
ひしところを一にてもかくすときは神汝にかくなし
又かさねてかくなしたまへ **18** サムエル其事をことご
とくしめして彼に隠すことなかりきエリいひけるは
是はエホバなり其よしと見たまふことをなしたまへ
と **19** サムエルそだちぬエホバこれとともにいまして
そのことばをして一も地におちざらしめたまふ **20** ダ
ンよりベエルシバにいたるまでイスラエルの人みな
サムエルがエホバの預言者とさだまれるをしれり **21**
エホバふたたびシロにてあらはれたまふエホバ、シ
ロにおいてエホバの言によりてサムエルにおのれを
しめしたまふなりサムエルの言あまねくイスラエル
人におよぶ

4 イスラエル人ペリシテ人にいであひて戦はんとし
エベネゼルの邊に陣をとりペリシテ人はアベクに陣
をとる **2** ペリシテ人イスラエル人にむかひて陣列を
なせり戦ふにおよびてイスラエル人ペリシテ人のま
へにやぶるペリシテ人戰場において其軍四千人ばか
りを殺せり **3** 民陣營にいたるにイスラエルの長老曰
けるはエホバ何故に今日我等をペリシテ人のまへに
やぶりたまひしやエホバの契約の櫃をシロより此に

たづさへ來らん其櫃われらのうちに來らば我らを敵
の手よりすくひいだすことあらんと 4 かくて民人を
シロにつかはしてケルビムの上に坐したまふ萬軍の
エホバの契約の櫃を其處よりたづさへきたらしむ時
にエリの二人の子ホフニとピネハス神の契約のはこ
とともに彼處にありき 5 エホバの契約の櫃陣營にい
たりしときイスラエル人皆大によばはりさけびけれ
ば地なりひびけり 6 ペリシテ人喊呼の聲を聞いていひ
けるはヘブル人の陣營に起れる此大なるさけびの聲
は何ぞやと遂にエホバの櫃の其陣營にいたれるを知
る 7 ペリシテ人おそれていひけるは神陣營にいたる
又いひけるは嗚呼われら禍なるかな今にいたるまで
斯ることなかりき 8 ああ我等禍なるかな誰かわれら
を是らの強き神の手よりすくひいださんや此等の神
は昔し諸の災を以てエジプト人を曠野に撃し者なり
9 ペリシテ人よ強くなり豪傑のごとく爲せヘブル人が
かつて汝らに事へしごとく汝らこれに事ふるなかれ
豪傑のごとく爲して戦へよ 10 かくてペリシテ人戦ひ
しかばイスラエル人やぶれて各々其天幕に逃かへる
戦死はなはだ多くイスラエルの歩兵の仆れし者三萬
人なりき 11 又神の櫃は奪はれエリの二人の子ホフニ
とピネハス殺さる 12 是日ベニヤミンの一人軍中より
走來り其衣を裂き土をかむりてシロにいたる 13 其い
たれる時エリ道の傍に壇に坐して觀望居たり其心に
神の櫃のことを思ひ煩らひたればなり其人いたり邑
にて人々に告げれば邑こぞりてさけびたり 14 エリ此
呼號の聲をききていひけるは是喧嘩の聲は何なるや
と其人いそぎきたりてエリにつぐ 15 時にエリ九十八
歳にして其目かたまりて見ることをあたはず 16 其人エ

りにいひけるは我は軍中より來れるもの我今日軍中より逃れたりエリいひけるは吾子よ事いかん 17 使人答へていひけるはイスラエル人ペリシテ人の前に逃げ且民の中に大なる戦死ありまた汝の二人の子ホフニとピネハスは殺され神の櫃は奪はれたり 18 神の櫃のことを演しときエリ其壇より仰げに門の傍におち頸をれて死ぬり是はかれ老て身重かりければなり其イスラエルを鞠しは四十年なりき 19 エリの媳ピネハスの妻孕みて子産ん時ちかかりしが神の櫃の奪はれしと舅と夫の死にしとの傳言を聞しかば其痛みおこりきたり身をかがめて子を産り 20 其死なんとする時傍にたてる婦人これにいひけるは懼るるなかれ汝男子を生りと然ども答へず又かへりみず 21 只榮光イスラエルをさりぬといひて其子をイカボデ(榮なし)と名く是は神の櫃奪はれしによりまた舅と夫の故に因るなり 22 またいひけるは榮光イスラエルをさりぬ神の櫃うばはれたればなり

5 ペリシテ人神の櫃をとりて之をエベネゼルよりアシドドにもちきたる 2 即ちペリシテ人神の櫃をとりて之をダゴンの家にもちきたりダゴンの傍に置ぬ 3 アシドド人次の日夙く興きエホバの櫃のまへにダゴンの俯伏に地にたふれをるをみ乃ちダゴンをとりに再びこれを本の處におく 4 また翌朝夙く興きエホバの櫃のまへにダゴン俯伏に地にたふれをるを見るダゴンの頭と其兩手門闕のうへに斷ち切れをり只ダゴンの體のみのこれり 5 是をもてダゴンの祭司およびダゴンの家にいるもの今日にいたるまでアシドドにあるダゴンの闕をふまず 6 かくてエホバの手おもくアシドド人にくははりエホバこれをほろぼし腫物を

もてアシドドおよび其四周の人をくるしめたまふ 7
アシドド人その斯るを見ていひけるはイスラエルの
神の櫃を我らのうちにとどむべからず其は其手いた
くわれらおよび我らの神ダゴンにくははればなり 8
是故に人をつかはしてペリシテ人の諸君主を集めて
いひけるはイスラエルの神の櫃をいかにすべきや彼
らいひけるはイスラエルの神のはこはガテに移さん
と遂にイスラエルの神のはこをうつす 9 之をうつせ
るのち神の手其邑にくははりて滅亡るもの甚だおほ
し即ち老たると幼とをいはず邑の人をうちたまひて
腫物人々におこれり 10 是において神のはこをエクロ
ンにおくりたるに神の櫃エクロンにいたりしときエ
クロン人さけびていひけるは我等とわが民をころさ
んとてイスラエルの神のはこを我等にうつすと 11 か
くて人を遣してペリシテ人の諸君主をあつめていひ
けるはイスラエルの神の櫃をおくりて本のところ
にかへさん然らば我等とわが民をころすことなからん
蓋は邑中に恐ろしき滅亡おこり神の手甚だおもく其
處にくははればなり 12 死なざる者は腫物にくるしめ
られ邑の號呼天に達せり

6 エホバの櫃七月のあひだペリシテ人の國にあり 2
ペリシテ人祭司と卜筮師をよびていひけるは我らエ
ホバの櫃をいかがせんや如何にして之をもとの所
にかへすべきか我らにつげよ 3 答へけるはイスラエ
ルの神の櫃をかへすときはこれを空しくかへすなかれ
必らず彼に過祭をなすべし然なきば汝ら愈ことをえ
且彼の手の汝らをはなれざる故を知にいたらん 4 人
々いひけるは如何なる過祭を彼になすべきや答へけ
るはペリシテ人の諸君主の數にしたがひて五の金の

腫物と五の金の鼠をつくれ是は汝ら皆と汝らの諸伯
におよべる災は一なるによる 5 汝らの腫物の像およ
び地をあらす鼠の像をつくりイスラエルの神に榮光
を販すべし庶幾はその手を汝等およびなんぢらの神
と汝等の地にくはふることを軽くせん 6 汝らなんぞ
エジプト人とパロの其心を頑にせしごとくおのれの
心をかたくなにするや神かれらの中に數度其力をし
めせしのち彼ら民をゆかしめ民つひにさりしにあら
ずや 7 されば今あたらしき車一輛をつくり乳牛のい
まだ軛をつけざるもの二頭をとり其牛を車に繋ぎ其
犢をはなして家につれゆき 8 エホバの櫃をとりて之
を其車に載せ汝らが過祭として彼になす金の製作物
を櫃にをさめて其傍におき之をおくりて去らしめ 9
しかして見よ若し其境のみちよりベテシメシにのぼ
らばこの大なる災を我らになせるものは彼なり若し
しかせずば我等をうちしは彼の手にあらずしてその
ことの偶然なりしをしるべし 10 人々つひに斯なし二
つの乳牛をとりて之を車につなぎその犢を室にとぢ
こめ 11 エホバの櫃および金の鼠と其腫物の像ををさ
めたる櫃を車に載す 12 牝牛直にあゆみてベテシメシ
の路をゆき鳴つつ大路をすすみゆきて右左にまがら
ずペリシテ人の君主ベテシメシの境まで其うしろに
したがひゆけり 13 時にベテシメシ人谷に麥を刈り居
たりしが目をあげて其櫃をみ之を見るをよろこべり
14 車ベテシメシ人ヨシユアの田にいりて其處にとど
まる此に大なる石あり人々車の木を劈り其牝牛を燔
祭としてエホバにささげたり 15 レビの人エホバの櫃
とこれとともにる櫃の金の製作物ををさめたる者を
とりおろし之を其大石のうへにおくしかしてベテシ

メシ人此日エホバに燔祭をそなへ犠牲をささげたり
16 ペリシテ人の五人の君主これを見て同じ日にエク
ロンにかへれり 17 さてペリシテ人が過祭としてエホ
バにたせし金の腫物はこれなり即ちアシドドのため
に一ガザのために一アシケロンのために一ガテのた
めに一エクロンのために一なりき 18 また金の鼠は城
邑と郷里をいはず凡て五人の君主に屬するペリシテ
人の邑の數にしたがひて造れりエホバの櫃をおろせ
し大石今日にいたるまでベテシメシ人ヨシユアの田
にあり 19 ベテシメシの人々エホバの櫃をうかがひし
によりエホバこれをうちたまふ即ち民の中七十人を
うてりエホバ民をうちて大にこれをころしたまひし
かば民なきさけべり 20 ベテシメシ人いひけるは誰か
この聖き神たるエホバのまへに立つことをえんエホ
バ我らをはなれて何人のところにのぼりゆきたまふ
べきや 21 かくて使者をキリアテヤリムの人に遣はし
ていひけるはペリシテ人エホバの櫃をかへしたれば
汝らくだりて之を汝らの所に携へのぼるべし

7 キリアテヤリムの人來りエホバのはこを携へのぼ
りこれを山のうへなるアピナダブの家にもちきたり
其子エレアザルを聖てエホバの櫃をまもらしむ 2 其
櫃キリアテヤリムにとどまること久しくして二十年
をへたりイスラエルの全家エホバをしたひて歎けり
3 時にサムエル、イスラエルの全家に告ていひけるは
汝らもし一心を以てエホバにかへり異なる神とアシタ
ロテを汝らの中より棄て汝らの心をエホバに定め之
にのみ事へなばエホバ汝らをペリシテ人の手より救
ひださん 4 ここにおいてイスラエルの人々バアルと
アシタロテをすててエホバにのみ事ふ 5 サムエルい

ひけるはイスラエル人をことごとくミズパにあつめよ我汝らのためにエホバにいのらん 6 かれらミズパに集り水を汲て之をエホバのまへに注ぎ其日斷食して彼處にいひけるは我等エホバに罪ををかしたりとサムエル、ミズパに於てイスラエルの人を鞠く 7 ペリシテ人イスラエルの人々のミズパに集れるを聞しかばペリシテ人の諸君主イスラエルにせめのぼれりイスラエル人これを聞てペリシテ人をおそれたり 8 イスラエルの人々サムエルに云けるは我らのために我らの神エホバに祈ることをやむるなかれ然らばエホバ我らをペリシテ人の手よりすくひいださん 9 サムエル哺乳羊をとり燔祭となしてこれをまつたくエホバにささぐまたサムエル、イスラエルのためにエホバにいのりければエホバこれにこたへたまふ 10 サムエル燔祭をささげ居し時ペリシテ人イスラエル人と戦はんとて近づきぬ是日エホバ大なる雷をくだしペリシテ人をうちて之を亂し賜ければペリシテ人イスラエル人のまへに敗れたり 11 イスラエル人ミズパをいでてペリシテ人をおひ之をうちてベテカルの下にいたる 12 サムエル一の石をとりてミズパとセンの間におきエホバ是まで我らを助けたまへりといひて其名をエベネゼル(助けの石)と呼ぶ 13 ペリシテ人攻伏られて再びイスラエルの境にいらざサムエルの一生のあひだエホバの手ペリシテ人をふせげり 14 ペリシテ人のイスラエルより取たる邑々はエクロンよりガテまでイスラエルにかへりぬまた其周囲の地はイスラエル人これをペリシテ人の手よりとりかへせりまたイスラエル人とアモリ人と好をむすべり 15 サムエル一生のあひだイスラエルをさばき 16 歳々ベテル

とギルガルおよびミズパをめぐりて其處々にてイスラエル人をさばき 17 またラマにかへれり此處に其家あり此にてイスラエルをさばき又此にてエホバに壇をきづけり

8 サムエル年老て其子をイスラエルの士師となす 2 兄の名をヨエルといひ弟の名をアビヤといふペエルシバにありて士師たり 3 其子父の道をあゆまずして利にむかひ賄賂をとりて審判を曲ぐ 4 是においてイスラエルの長老みなあつまりてラマにゆきサムエルの許に至りて 5 これにいひけるは視よ汝は老い汝の子は汝の道をあゆまずさればわれらに王をたててわれらを鞫かしめ他の國々のごとくならしめよと 6 その我らに王をあたへて我らを鞫かしめよといふを聞てサムエルよろこばず而してサムエル、エホバにいのりしかば 7 エホバ、サムエルにいひたまひけるは民のすべて汝にいふところのことばを聽け其は汝を棄るにあらず我を棄て我をして其王とならざらしめんとするなり 8 かれらはわがエジプトより救ひいだせし日より今日にいたるまで我をすてて他の神につかへて種々の所行をなせしごとく汝にもまた然す 9 然れどもいま其言をきけ但し深くいさめて其治むべき王の常例をしめすべし 10 サムエル王を求むる民にエホバのことばをことごとく告て 11 いひけるは汝等ををさむる王の常例は斯のごとし汝らの男子をとり己れのために之をたてて車の御者となし騎兵となしまた其車の前驅となさん 12 また之をおのれの爲に千夫長五十夫長となしまた其地をたがへし其作物を刈らしめまた武器と車器とを造らしめん 13 また汝らの女子をとりて製香者となし厨婢となし灸麵者となさ

ん 14 又汝らの田畝と葡萄園と橄欖園の最も善きところを取て其臣僕にあたへ 15 汝らの穀物と汝らの葡萄の什分一をとりて其官吏と臣僕にあたへ 16 また汝らの僕婢および汝らの最も善き牛と汝らの驢馬を取ておのれのために作かしめ 17 又汝らの羊の十分一をとり又汝らを其僕となさん 18 其日において汝等己のために擇みし王の事によりて呼號らんされどエホバ其日に汝らに聽たまはざるべしと 19 然るに民サムエルの言にしたがふことをせずしていひけるは否われらに王なかるべからず 20 我らも他の國々の如くなり我らの王われらを鞫きわれらを率て我らの戦にたたかはん 21 サムエル民のことばを盡く聞て之をエホバの耳に告ぐ 22 エホバ、サムエルにいひたまひけるはかれらのことばを聽きかれらのために王をたてよサムエル、イスラエルの人々にいひけるは汝らおのおの其邑にかへるべし

9 茲にベニヤミンの人にてキシと名くる力の大なるものありキシはアビエルの子アビニルはゼロンの子ゼロンはベコラテの子ベコラテはアビヤの子アビヤはベニヤミンの子なり 2 キシにサウルと名くる子あり壯にして美はしイスラエルの子孫の中に彼より美はしき者たく肩より上民のいづれの人よりも高し 3 サウルの父キシの驢馬失ぬキシ其子サウルにいひけるは一人の僕をともなひ起ちてゆき驢馬を尋ねよ 4 サウル、ニフライムの山地を通り過ぎシヤリシヤの地を通りすぐれども見あたらずシヤリムの地を通りすぐれども居らずベニヤミンの地をとほりすぐれども見あたらず 5 かれらツフの地にいたれる時サウル其ともなへる僕にいひけるはいぎ還らん恐らくはわ

が父驢馬の事を措て我等の事を思ひ煩はん 6 僕これにいひけるは此邑に神の人あり尊き人にして其言ふところは皆必らず成る我らかしこにいたらんかれ我らがゆくべき路をわれらにしめすことあらん 7 サウル僕にいひけるは我らもしゆかば何を其人におくらんか器のパンは既に罄て神の人におくるべき禮物あらず何かあるや 8 僕またサウルにこたへていひけるは視よわが手に銀一シケルの四分の一あり我これを神の人にあたへて我らに路をしめさしめんと 9 昔しイスラエルにおいては人神にとはんとてゆく時はいざ先見者にゆかんといへり其は今の預言者は昔しは先見者とよばれたればなり 10 サウル僕にいひけるは善くいへりいざゆかんとて神の人のをる邑におもむけり 11 かれら邑にいる坂をのぼれる時童女數人の水くみにいづるにあひ之にいひけるは先見者は此にをるや 12 答ていひけるはをる視よ汝のまへにをる急ぎゆけ今日民崇邱にて祭をなすにより彼けふ邑にきたれり 13 汝ら邑にる時かれが崇邱にのぼりて食に就くまへに直ちにかれにあはん其は彼まつ祭品を祝してしかるのち招かれたる者食ふべきに困りかれが來るまでは民食はざるなり故に汝らのぼれ今かれにあはんと 14 かれら邑にのぼりて邑のなかにいるとき視よサムエル崇邱にのぼらんとてかれらにむかひて出きたりぬ 15 エホバ、サウルのきたる一日まへにサムエルの耳につげていひたまひけるは 16 明日いまごろ我ベニヤミンの地より一箇の人を汝につかはさん汝かれに膏を注ぎてわが民イスラエルの長となせかれわが民をペリシテ人の手より救ひいださんわが民のさけび我に達せしにより我是をかへりみるなり 17 サム

エル、サウルを見るとときエホバこれにいひたまひけるは視よわが汝につげしは此人なり是人わが民ををさむべし 18 サウル門の中にてサムエルにちかづきいひけるは先見者の家はいつくにあるや請ふ我につげよ 19 サムエル、サウルにこたへていひけるは我はすなはち先見者なり汝わがまへにゆきて崇邱にのぼれ汝ら今日我とともに食す可し明日われ汝をさらしめ汝の心にあることを悉く汝にしめさん 20 三日まへに失たる汝の驢馬は既に見あたりたれば之をおもふなかれ抑もイスラエルの總ての寶は誰の者なるや即ち汝と汝の父の家のもならずや 21 サウルこたへていひけるは我はイスラエルの支派の最も小き支派なるベニヤミンの人にしてわが族はベニヤミンの支派の諸の族の最も小き者に非やなんぞ斯る事を我にかたるや 22 サムエル、サウルと其僕をみちびきて堂にいたり招かれたる三十人ばかりの者の中の最も上に坐せしむ 23 サムエル庖人にいひけるはわが汝にわたして汝の許におけといひし分をもちきたれ 24 庖人肩と肩に屬る者をとりあげて之をサウルのまへに置くサムエルいひけるは視よ是は存へおきたる物なり汝のまへにおきて食へ其はわれ民をまねきし時よりこれを汝の爲にたくはへおきたればなりかくてサウル此日サムエルとともに食せり 25 崇邱をくだりて邑にいらし時サムエル、サウルとともに屋背の上にてものがたる 26 かれら早くおく即ちサムエル曙に屋背の上なるサウルをよびていけるは起よわれ汝をかへさんとサウルすなはちおきあがるサウルとサムエルともに外にいで 27 邑の極處にくだれるときサムエル、サウルにいひけるは僕に命じて我等の先にゆかしめよ(僕

先にゆく)しかして汝暫くとどまれ我汝に神の言をしめさん

10 サムエルすなはち膏の瓶をとりてサウルの頭に沃ぎ口接して曰けるはエホバ汝をたてて其産業の長となしたまふにあらずや **2** 汝今日我をはなれて去りゆく時ベニヤミンの境のゼルザにあるラケルの墓のかたはらにて二人の人にあふべしかれら汝にいはん汝がたづねにゆきし驢馬は見あたりぬ汝の父驢馬のことをすてて汝らのことをおもひわづらひわが子の事をいかがすべきやといへりと **3** 其處より汝尚すすみてタボルの橡の樹のところにといたらんに彼處にてベテルにのぼり神にまうでんとする三人の者汝にあはん一人は三頭の山羊羔を携へ一人は三團のパンをたづき一人は一囊の酒をたづきふ **4** かれら汝に安否をとひ二團のパンを汝にあたへん汝之を其手よりうくべし **5** 其の後汝神のギベアにいたらん其處にペリシテ人の代官あり汝彼處にゆきて邑にいるとき一群の預言者の瑟と鼗と笛と琴を前に執らせて預言しつつ崇邱をくだるにあはん **6** 其の時神のみたま汝にのぞみて汝かれらとともに預言し變りて新しき人とならん **7** 是らの徴汝の身におこらば手のあたるにまかせて事を爲すべし神汝とともにいませばなり **8** 汝我にさきだちてギルガルにくだるべし我汝の許にくだりて燔祭を供へ酬恩祭を獻げんわが汝のもとに至り汝の爲すべきことを示すまで汝七日のあひだ待つべし **9** サケウル背をかへしてサムエルを離れし時神之に新しき心をあたへたまふしかして此しるし皆其日におこれり **10** ふたり彼處にゆきてギベアにいたれるときみよ一群の預言者これにあふしかして神の靈

サウルにのぞみてサウルかれらの中にありて預言せり **11** 素よりサウルを識る人々サウルの預言者と偕に預言するを見て互ひにいひけるはキシの子サウル今何事にあふやサウルも預言者の中にあるやと **12** 其處の人ひとり答へて彼等の父は誰ぞやといふ是故にサウルも預言者の中にあるやといふは諺となれり **13** サウル預言を終て崇邱にいたるに **14** サウルの叔父サウルと僕にいひけるは汝ら何處にゆきしやサウルいひけるは驢馬を尋ねに出しが何處にもをらざるを見てサムエルの許にいたれり **15** サウルの叔父いひけるはサムエルは汝に何をいひしか請ふ我につげよ **16** サウル叔父にいひけるは明かに驢馬の見あたりしを告げたりと然れどもサムエルが言る國王の事はこれにつげざりき **17** サムエル民をミヅパにてエホバのまへに集め **18** イスラエルの子孫にいひけるはイスラエルの神エホバ斯くいひたまふ我イスラエルをみちびきてエジプトより出し汝らをエジプト人の手および凡て汝らを虐遇る國人の手より救ひいだせり **19** 然るに汝らおのれを患難と難苦のうちより救ひいだしたる汝らの神を棄て且否われらに王をたてよといへり是故にいま汝等の支派と群にしたがひてエホバのまへに出よ **20** サムエル、イスラエルの諸の支派を呼よせし時ベニヤミンの支派籤にあたりぬ **21** またベニヤミンの支派を其族のかずにしたがひて呼よせしときマテリの族籤にあたりキシの子サウル籤にあたり人々かれを尋ねしかども見出ざれば **22** またエホバに其人は此に来るや否やを問しにエホバ答たまはく視よ彼は行李のあひだにかくると **23** 人々はせゆきて彼を其處よりつれきたれり彼民の中にたつに肩より以上民

の何の人よりも高かりき **24** サムエル民にいひけるは
汝らエホバの擇みたまひし人を見るか民のうちに是
人の如き者とし民みなよばはりいひけるは願くは王
いのちながかれ **25** 時にサムエル王國の典章を民にし
めして之を書にしるし之をエホバのまへに蔵めたり
しかしてサムエル民をことごとく其家にかへらしむ
26 サウルもまたギベアの家にかへるに神に心を感じ
られたる勇士等これとともにゆけり **27** 然れども邪な
る人々は彼人いかで我らを救はんやといひて之を蔑
視り之に禮物をおくらざりしかどサウルは唾のごと
くせり

11 アンモニ人ナハシ、ギレアデのヤベシにのぼり
て之を圍むヤベシの人々ナハシにいひけるは我らと
約をなせ然らば汝につかへん **2** アンモニ人ナハシこ
れに答へけるは我かくして汝らと約をなさん即ち我
汝らの右の目を抉りてイスラエルの全地に恥辱をあ
たへん **3** ヤベシの長老これにいひけるは我らに七日
の猶予をあたへて使をイスラエルの四方の境におく
ることを得さしめよ而して若し我らを救ふ者なくば
我ら汝にくだらん **4** 斯て使サウルのギベアにいたり
此事を民の耳に告しかば民皆聲をあげて哭きぬ **5** 爰
にサウル田より牛にしたがひて來るサウルいひける
は民何によりて哭くやと人々これにヤベシ人の事を
告ぐ **6** サウル之を聞るとき神の靈これに臨みてその
怒甚だしく燃えたち **7** 一軛の牛をころしてこれを切
り割き使の手をもてこれをイスラエルの四方の境に
あまねくおくりていはしめけるは誰にてもサウルと
サムエルにしたがひて出ざる者は其牛かくのごとく
せらるべしと民エホバを畏み一人のごとく均くいで

たり 8 サウル、ベゼクにてこれを數ふるにイスラエルの子孫三十萬ユダの人三萬ありき 9 斯て人々來れる使にいひけるはギレアデのヤベシの人にかくいへ明日日の熱き時汝ら助を得んと使かへりてヤベシ人に告げければ皆よろこびぬ 10 是をもてヤベシの人云けるは明日汝らに降らん汝らの善と思ふところを爲せ 11 明日サウル民を三隊にわかち曉更に敵の軍の中にいりて日の熱くなる時までアンモニ人をころしければ遺れる者は皆ちりぢりになりて二人俱にあるものなかりき 12 民サムエルにいひけるはサウル豈我らの王となるべけんやと言しは誰ぞや其人を引き來れ我ら之をころさん 13 サウルいひけるは今日エホバ救をイスラエルに施したまひたれば今日は人をころすべからず 14 茲にサムエル民にいひけるはいざギルガルに往て彼處にて王國を新にせんと 15 民みなギルガルにゆきて彼處にてエホバのまへにサウルを王となし彼處にて酬恩祭をエホバのまへに獻げサウルとイスラエルの人々皆かしこにて大に祝へり

12 サムエル、イスラエルの人々にいひけるは視よ我汝らが我にいひし言をことごとく聽て汝らに王を立たり 2 見よ今王汝らのまへにあゆむ我は老て髪しろし視よわが子ども汝らと共にあり我幼稚時より今日にいたるまで汝等のまへにあゆめり 3 視よ我ここにありエホバのまへと其膏そそぎし者のまへに我を訴へよ我誰の牛を取りしや誰の驢馬をとりしや誰を掠めしや誰を虐遇しや誰の手より賄賂をとりてわが目を矇せしや有ば我これを汝らにかへさん 4 彼らはいひけるは汝は我らをかすめずくるしめず又何をも人の手より取りしことなし 5 サムエルかれらにいひけ

るは汝らが我手のうちに何をも見いださざるをエホバ汝らに證したまふ其膏そそぎし者も今日證す彼ら答へけるは證したまふ 6 サムエル民にいひけるはエホバはモーセとアロンをたてし者汝らの先祖をエジプトの地より導きいだせしものなり 7 立ちあがれエホバが汝らおよび汝らの先祖になしたまひし諸の義しき行爲につきて我エホバのまへに汝らと論ぜん 8 ヤコブのエジプトにいたるにおよびて汝らの先祖のエホバに呼はりし時エホバ、モーセとアロンを遣はしたまひて此二人汝らの先祖をエジプトより導きいだして此處にすましめたり 9 しかるに彼ら其神エホバを忘れしかばエホバこれをハズルの軍の長シセラの手とペリシテ人の手およびモアブ王の手にわたしたまへり斯て彼らこれを攻ければ 10 民エホバに呼はりていひけるは我らエホバを棄てバアルとアシタロテに事へてエホバに罪を犯したりされど今我らを敵の手より救ひいだしたまへ我ら汝につかへんと 11 是においてエホバ、エルバアルとバラクとエフタとサムエルを遣はして汝らを四方の敵の手より救ひいだしたまひて汝ら安らかに住めり 12 しかるに汝らアンモンの子孫の王ナハシの汝らを攻んとて來るを見て汝らの神エホバ汝らの王なるに汝ら我にいふ否我らををさむる王なかるべからずと 13 今汝らが選みし王汝らがねがひし王を見よ視よエホバ汝らに王をたてたまへり 14 汝らもしエホバを畏みて之につかへ其言にしたがひてエホバの命にそむかずまた汝らと汝らををさむる王恒に汝らの神エホバに従はば善し 15 しかれども汝らもしエホバの言にしたがはずしてエホバの命にそむかばエホバの手汝らの先祖をせめしご

とく汝らをせむべし 16 汝ら今たちてエホバが爾らの目のまへになしたまふ此大なる事を見よ 17 今日 是は麥刈時にあらずや我エホバを呼んエホバ雷と雨をくだして汝らが王をもとめてエホバのまへに爲したる罪の大なるを見しらしめたまはん 18 かくてサムエル、エホバをよびければエホバ其日雷と雨をくだしたまへり民みな大にエホバとサムエルを恐る 19 民みなサムエルにいひけるは僕らのために汝の神エホバにいのりて我らを死なざらしめよ我ら諸の罪にまた王を求むるの悪をくはへたればなり 20 サムエル民にいひけるは懼るなかれ汝らこの總ての悪をなしたりされどエホバに従ふことを息ず心をつくしてエホバに事へ 21 虚しき物に迷ひゆくなかれ是は虚しき物なれば汝らを助くることも救ふことも得ざるなり 22 エホバ其大なる名のために此民をすてたまはざるべし其はエホバ汝らをおのれの民となすことを善としたまへばなり 23 また我は汝らのために祈ることをやめてエホバに罪ををかすことは決してせざるべし且われ善き正しき道をもて汝らををしへん 24 汝ら只エホバをかしこみ心をつくして誠にこれにつかへよ而して如何に大なることをエホバ汝らになしたまひしかを思ふ可し 25 しかれども汝らもしなほ悪をなさば汝らと汝らの王ともにほろぼさるべし

13 サウル三十歳にて王の位に即く彼二年イスラエルををさめたり 2 爰にサウル、イスラエル人三千を擇む其二千はサウルとともにミクマシおよびベテルの山地にあり其一千はヨナタンとともにベニヤミンのギベアにあり其餘の民はサウルおのおの其幕屋にかへらしむ 3 ヨナタン、ゲバにあるペリシテ人の代

官をころせりペリシテ人之れをきく是においてサウル國中にあまねくラツパを吹ていはしめけるはヘブル人よ聞くべし 4 イスラエル人皆聞けるに云くサウル、ペリシテ人の代官を撃りしかしてイスラエル、ペリシテ人の中に悪まると斯て民めされてサウルにしたがひギルガルにいたる 5 ペリシテ人イスラエルと戦はんとて集りけるが兵車三百騎兵六千にして民は濱の沙の多きがごとくなりき彼らのぼりてペテアベンにむかへるミクマシに陣をとれり 6 イスラエルの人苦められ其危きを見て皆巖穴に林叢に崗巒に高塔に坎阱にかくれたり 7 また或るヘブル人はヨルダンを渉りてガドとギレアデの地にいたる然るにサウルは尚ギルガルにあり民皆戦慄て之にしたがふ 8 サウル、サムエルの定めし期にしたがひて七日とどまりしがサムエル、ギルガルに來らず民はなれて散ければ 9 サウルいひけるは燔祭と酬恩祭を我にもちきたれと遂に燔祭をささげたり 10 燔祭をささぐることを終しときに視よサムエルいたるサウル安否を問はんとてこれをいで迎ふに 11 サムエルいひけるは汝何をなせしやサウルいひけるは我民の我をはなれてちりまた汝の定まれる日のうちに來らずしてペリシテ人のミクマシに集まれるを見しかば 12 ペリシテ人ギルガルに下りて我をおそはんに我いまだエホバをなごめずといひて勉て燔祭をささげたり 13 サムエル、サウルにいひけるは汝おろかなることをなせり汝その神エホバのなんぢに命じたまひし命令を守らざりしなり若し守りしならばエホバ、イスラエルををさむる位を永く汝に定めたまひしならん 14 然どもいま汝の位たもたざるべしエホバ其心に適ふ人を求めて

エホバ之に其民の長を命じたまへり汝がエホバの命
ぜしことを守らざるによる 15 かくてサムエルたちて
ギルガルよりベニヤミンのギベアにのぼりいたる 16
サウルおのれとともにある民をかぞふるに凡そ六百
人ありき 17 サウルおよび其子ヨナタン並にこれとと
もにある民はベニヤミンのゲバに居りペリシテ人は
ミクマシに陣を張る 18 劫掠人三隊にわかれてペリシ
テ人の陣よりいで一隊はオフラの路にむかひてシユ
アルの地にいたり 19 一隊はベテホロンの道に向ひ一
隊は曠野の方にあるゼボイムの谷をのぞむ境の路に
むかふ 20 時にイスラエルの地のうち何處にも鐵工な
かりき是はペリシテ人へブル人の劍あるひは槍を作
ることを恐れたればなり 21 イスラエル人皆其耜鋤斧
耒即ち耜鋤三齒鋤斧の鋳に缺ありてこれを鍛ひ改さ
んとする時又は鞭を尖らさんとする時は常にペリシ
テ人の所にくだれり 22 是をもて戦の日にサウルおよ
びヨナタンとともにある民の手には劍も槍も見えず
只サウルと其子ヨナクンのみ持ち 23 茲にペリシテ人
の先陣ミクマシの渡口に進む

14 其時サウルの子ヨナタン武器を執る若者にいひ
けるはいざ對面にあるペリシテ人の先陣に涉りゆか
んと然ど其父には告ざりき 2 サウル、ギベアの極に
おいてミグロンにある石榴の樹の下に住まりしが俱
にある民はおよそ六百人なりき 3 又アヒヤ、エポデ
を衣てともにをるアヒヤはアヒトブの子アヒトブは
イカボデの兄弟イカボデばピネハスの子ピネハスは
シロにありてエホバの祭司たりしエリの子なり民ヨ
ナタンの行けるをしらざりき 4 ヨナタンの涉りてペ
リシテ人の先陣にいたらんとする渡口の間に此傍に

巉巖あり彼傍にも巉巖あり一の名をボゼツといひ一
の名をセネといふ 5 其一は北に向ひてミクマシに對
し一に南にむかひてゲバに對す 6 ヨナタン武器を執
る少者にいふいざ我ら此割禮なき者どもの先陣にわ
たらんエホバ我らのためにはたらきたまことあらん
多くの人をもて救ふも少き人をもてすくふもエホバ
においては妨げなし 7 武器をとるもの之にいひける
は總て汝の心にあるところをなせ進めよ我汝の心に
したがひて汝とともにあり 8 ヨナタンいひけるは見
よ我らかの人々のところにわたり身をかれらにあら
はさん 9 かれら若し我らが汝らにいたるまでとどま
れと斯く我らにいはば我らはこのままとどまりてか
れらの所にのぼらじ 10 されど若し我らのところにの
ぼれとかくいはば我らのぼらんエホバかれらを我ら
の手にわたしたまふなり是を徴となさんと 11 斯て二
人其身をペリシテ人の先陣にあらはしければペリシ
テ人いひけるは視よへブル人其かくれたる穴よりい
で來ると 12 すなはち先陣の人ヨナタンと其武器を執
る者にこたへて我等の所に上りきたれ目に物見せん
といひしかばヨナタン武器を執る者にいひけるは我
にしたがひてのぼれエホバ彼らをイスラエルの手に
わたしたまふなり 13 ヨナタン攀のぼり其武器を執る
もの之にしたがふペリシテ人ヨナタンのまへに仆る
武器をとる者も後にしたがひて之をころす 14 ヨナタ
ンと其武器を取るもの手はじめに殺せし者およそ二
十人此事田畑半段の内になれり 15 しかして野にある
陣のものおよび凡ての民の中に戦慄おこり先陣の人
および劫掠人もまたおののき地ふるひ動けり是は神
よりの戦慄なりき 16 ベニヤミンのギベアにあるサウ

ルの戍卒望見しに視よペリシテ人の群衆くづれて此
彼にちらばる 17時にサウルおのれとともに民にい
ひけるは汝ら點驗て誰が我らの中よりゆきしかを見
よとすなはちしらべたるにヨナタンとその武器を執
るもの居らざりき 18サウル、アヒヤにエポデを持
きたれといふ其はかれ此時イスラエルのまへにエポ
デを著たれば也 19サウル祭司にかたれる時ペリシ
テ人の軍の騒いよいよましたりければサウル祭司に
いふ姑く汝の手を措けと 20かくてサウルおよびサ
ウルと共にある民皆呼はりて戦ひに至るにペリシテ
人おの劍を以て互に相撃ちければその敗績はなほ大
なりき 21また此時よりまへにペリシテ人とともに
ありてペリシテ人と共に上りて陣に来るところのヘ
ブル人もまた翻へりてサウルおよびヨナタンと共
に
あるイスラエル人に合せり 22又エフライムの山地
にかくれたるイスラエル人皆ペリシテ人の逃るを
聞てまた戦ひに出て之を追撃り 23是の如くエホバ
此日イスラエルをすくひたまふ而して戦はベテア
ベンにうつれり 24されど此日イスラエル人苦めり
其はサウル民を誓はせて夕まで即ちわが敵に仇を
むくゆるまでに食物を食ふ者は呪詛れんと言た
ればなり是故に民の中に食物を味ひし者なし 25
爰に民みな林森に至に地の表に蜜あり 26即ち
民森にいたりて蜜のながるるをみる然ども民誓を
畏るれば誰も手を口につくる者なし 27然にヨ
ナタンは其父が民をちかはせしを聞ざりければ
手にある杖の末をのぼして蜜にひたし手を口につ
けたり是に由て其目あきらかになりぬ 28時に民
のひとり答て言けるは汝の父かたく民をちかは
せて今日食物をくらふ人は呪詛はれんと言り是に
由て民

つかれたり 29 ヨナタンいひけるはわが父國を煩せり
請ふ我この蜜をすこしく嘗しによりて如何にわが目
の明かになりしかを見よ 30 ましてや民今日敵よりう
ばひし物を十分に食しならばペリシテ人をころすこ
と更におほかるべきにあらずや 31 イスラエル人かの
日ペリシテ人を撃てミクマシよりアヤロンにいたる
而して民はなはだ疲たり 32 是において民劫掠物に走
かかり羊と牛と犢とを取りて之を地のうへにころし
血のままに之をくらふ 33 人々サウルにつげていひけ
るは民肉を血のままに食ひて罪をエホバにをかすと
サウルいひけるは汝ら背けり直ちにわがもとに大石
をまろばしきたれ 34 サウルまたいひけるは汝らわか
れて民のうちにいりていへ人各其牛と各其羊をわが
もとに引ききたり此處にてころしくらへ血のままに
くらひて罪をエホバに犯すなかれと此において民お
のおこの夜其牛を手ひききたりて之をかしこに
ころせり 35 しかしてサウル、エホバに一つの壇をき
づく是はサウルのエホバに壇を築ける始なり 36 斯て
サウルいひけるは我ら夜のうちにペリシテ人を追
たり夜明までかれらを掠めて一人をも残すまじ皆い
ひけるは凡て汝の目に善とみゆる所をなせと時に祭
司いひけるは我ら此にちかより神にもとめんと 37 サ
ウル神に我ペリシテ人をおひくだるべきか汝かれら
をイスラエルの手にわたしたまふやと問けれど此日
はこたへたまはざりき 38 是においてサウルいひける
は民の長たちよ皆此にちかよれ汝らみて今日のこの
罪のいづくにあるを知れ 39 イスラエルを救ひたまへ
るエホバはいく假令わが子ヨナタンにもあれ必ず死
なざるべからずとされど民のうち一人もこれにこた

へざりき 40 サウル、イスラエルの人々にいひけるは
なんぢらは彼處にをれ我とわが子ヨナタンは此處に
をらんと民いひけるは汝の目によしとみゆるところ
をなせ 41 サウル、イスラエルの神エホバにいひける
はねがはくは眞實をしめしたまへとかくてヨナタン
とサウル籤にあたり民はのがれたり 42 サウルいひけ
るは我とわが子のあひだの鬪を撃けと即ちヨナタン
これにあたり 43 サウル、ヨナタンにいひけるは汝
がなせしところを我に告よヨナタンつげていひける
は我は只わが手の杖の末をもて少許の蜜をなめしの
みなるが我しなざるをえず 44 サウルこたへけるは神
かくなしまたかさねてかくなしたまへヨナタンよ汝
死ざるべからず 45 民サウルにいひけるはイスラエル
の中に此大なるすくひをなせるヨナタン死ぬべけん
や決めてしからずエホバは生くヨナタンの髪^の毛^ひ
とすぢも地におつべからず其はかれ神とともに今日
はたらきたればなりとかく民ヨナタンをすくひて死
なざらしむ 46 サウル、ペリシテ人を追ことを息ての
ぼりぬペリシテ人其國にかへれり 47 かくてサウル、
イスラエルの王の位につきて四方の敵を攻む即ちモ
アブ、アンモンの子孫エドム、ゾバの王たちおよび
ペリシテ人をせめけるに凡てむかふところにて勝利
を得たり 48 サウル力をえアマレク人をうちてイスラ
エルを其劫掠人の手よりすくひいだせり 49 サウルの
男子はヨナタン、エスイおよびマルキシユアなり其
二人の女子の名は姉はメラブといひ妹はミカルとい
ふ 50 サウルの妻の名はアヒノアムといひてアヒマア
ズの女子なり其軍の長の名はアブネルといひてサウ
ルの叔父なるネルの子なり 51 サウルの父キシとアブ

ネルの父ネルはアビエルの子なり 52 サウルの一生の
あひだ恒にペリシテ人と烈しき戦ありサウルは力あ
る人または勇ある人を見るごとにこれをかかへたり

15 茲にサムエル、サウルにいひけるはエホバ我を
つかはし汝に膏を沃ぎて其民イスラエルの王となさ
しめたりさればエホバの言の聲をきけ 2 萬軍のエホ
バかくいひたまふ我アマレクがイスラエルになせし
事すなはちエジプトよりのぼれる時其途を遮りしを
かへりみる 3 今ゆきてアマレクを撃ち其有る物をこ
とごとく滅しつくし彼らを憐むなかれ男女童稚哺乳
兒牛羊駱駝驢馬を皆殺せ 4 サウル民をよびあつめて
これをテライムに核ふ歩兵二十萬ユダの人一萬あり
5 しかしてサウル、アマレクの邑にいたりて谷に兵を
伏たり 6 サウル、ケニ人にいひけるは汝らゆきてさ
りアマレク人をはなれくだるべし恐らくはかれらと
ともに汝らをほろぼすにいたらんイスラエルの子孫
のエジプトよりのぼれる時汝らこれに恩みをほどこ
したりと即ちケニ人アマレク人をはなれてさりぬ 7
サウル、アマレク人をうちてハピラよりエジプトの
東面なるシウルにいたる 8 サウル、アマレク人の王
アガグを生擒り刃をもて其民をことごとくほろぼせ
り 9 然ども、サウルと民アガグをゆるしまた羊と牛
の最も嘉きもの及び肥たる物並に羔と凡て善き物を
殘して之をほろぼしつくすをこのまず但惡き弱き物
をほろぼしつくせり 10 時にエホバの言サムエルにの
ぞみていはく 11 我サウルを王となせしを悔ゆ其は彼
背きて我にしたがはずわが命をおこなはざればなり
とサムエル憂て終夜エホバによばはれり 12 かくてサ
ムエル、サウルにあはんとて夙く起きけるにサムエ

ルにつぐるものありていふサウル、カルメルにいたり勝利の表を立て轉り進みてギルガルにくだれりと
13 サムエル、サウルの許に至りければサウルこれにいひけるは汝がエホバより福祉を得んことをねがふ我エホバの命を行へりと **14** サムエルいひけるは然らばわが耳にいる此羊の聲およびわがきく牛のこゑは何ぞや **15** サウルいひけるは人々これをアマレク人のところより引ききたれり其は民汝の神エホバにささげんために羊と牛の最も嘉きものをのこせばなり其ほかは我らほろぼしつくせり **16** サムエル、サウルにいけるは止まれ昨夜エホバの我にかたりたまひしことを汝につげんサウルいひけるはいへ **17** サムエルいひけるはさきに汝が微き者とみづから憶へる時に爾イスラエルの支派の長となりしに非ずや即ちエホバ汝に膏を注いでイスラエルの王となせり **18** エホバ汝を途に遣はしていひたまはく往て悪人なるアマレク人をほろぼし其盡るまで戦へよと **19** 何故に汝エホバの言をきかずして敵の所有物にはせかかりエホバの目のまへに悪をなせしや **20** サウル、サムエルにひけるは我誠にエホバの言にしたがひてエホバのつかはしたまふ途にゆきアマレクの王アガグを執きたりアマレクをほろぼしつくせり **21** ただ民其ほろぼしつくすべき物の最初としてギルガルにて汝の神エホバにささげんとて敵の物の中より羊と牛をとれり **22** サムエルいひけるはエホバはその言にしたがふ事を善したまふごとく燔祭と犠牲を善したまふや夫れ順ふ事は犠牲にまさり聽く事は牡羔の脂にまさるなり **23** 其は違逆は魔術の罪のごとく抗戾は虚しき物につかふる如く偶像につかふるがごとし汝エホバの言を棄た

るによりエホバもまた汝をすてて王たらざらしめた
まふ 24 サウル、サムエルにいひけるに我エホバの命
と汝の言をやぶりて罪ををかしたり是は民をおそれ
て其言にしたがひたるによりてなり 25 されば今ねが
はくはわがつみをゆるし我とともにかへりて我をし
てエホバを拝することをえさしめよ 26 サムエル、サ
ウルにいひけるは我汝とともにかへらじ汝エホバの
言を棄たるによりエホバ汝をすててイスラエルに王
たらしめたまはざればなり 27 サムエル去らんとて振
還しときサウルその明衣の裾を捉へしかば裂たり 28
サムエルかれにいひけるは今日エホバ、イスラエル
の國を裂て汝よりはなし汝の隣なる汝より善きもの
にこれをあたへたまふ 29 またイスラエルの能力たる
者は謊らず悔ず其はかれは人にあらざればくゆるこ
となし 30 サウルいひけるは我罪ををかしたれどねが
はくはわが民の長老のまへおよびイスラエルのまへ
にて我をたふとみて我とともにかへり我をして汝の
神エホバを拝むことをえさしめよ 31 ここにおいてサ
ムエル、サウルにしたがひてかへるしかしてサウル
、エホバを拝む 32 時にサムエルいひけるは汝らわが
許にアマレクの王アガグをひききたれとアガグ喜ば
しげにサムエルの許にきたりアガグいひけるは死の
苦みは必ず過ぎりぬ 33 サムエルいひけるに汝の劍は
おほくの婦人を子なき者となせりかくのごとく汝の
母は婦人の中の最も子なき者となるべしとサムエル
、ギルガルにてエホバのまへにおいてアガグを斬り
34 かくてサムエルはラマにゆきサウルはサウルのギ
ベアにのぼりてその家にいたる 35 サムエル其しぬる
日までふたたびきたりてサウルをみざりきしかれど

もサムエル、サウルのためになしめりまたエホバはサウルをイスラエルの王となせしを悔たまへり

16 愛にエホバ、サムエルにいひたまひけるは我すでにサウルを棄てイスラエルに王たらしめざるに汝いつまでかれのために歎くや汝の角に膏油を満してゆけ我汝をベテレヘム人エサイの許につかはさん其は我其子の中にひとりの王を尋ねえたればなり **2** サムエルいひけるは我いかで往くことをえんサウル聞て我をころさんエホバいひたまひけるは汝一犢を携へゆきて言へエホバに犠牲をささげんために來ると **3** しかしてエサイを犠牲の場によべ我汝が爲すべき事をしめさん我汝に告るところの人に膏をそそぐ可し **4** サムエル、エホバの語たまひしごとくなしてベテレヘムにいたる邑の長老おそれて之をむかへいひけるは汝平康なる事のためにきたるや **5** サムエルいひけるは平康なることのためなり我はエホバに犠牲をささげんとてきたる汝ら身をきよめて我とともに犠牲の場にきたれと斯てエサイと其諸子を潔めて犠牲の場によびきたる **6** かれらが至れる時サムエル、エリアブを見ておもへらくエホバの膏そそぐものは必ず此人ならんと **7** しかるにエホバ、サムエルにいひたまひけるは其容貌と身長を觀るなかれ我すでにかれをすてたりわが視るところは人に異なり人は外の貌を見エホバは心をみるなり **8** エサイ、ヘアピナダブをよびてサムエルのまへを過しむサムエルいひけるは此人もまたエホバ擇みたまはず **9** エサイ、シヤンマを過しむサムエルいひけるは此人もまたエホバえらみたまはず **10** エサイ其七人の子をしてサムエルの前をすぎしむサムエル、エサイにいふエホバ是等を

えらみたまはず **11** サムエル、エサイにいひけるは汝の男子は皆此にをるやエサイいひけるは尚季子のこれり彼は羊を牧をるなりとサムエル、エサイにいひけるは彼を迎へきたらしめよかれが此にいたるまでは我ら食に就かざるべし **12** 是において人をつかはしてかれをつれきたらしむ其人色赤く目美しくして其貌麗しエホバいひたまひけるは起てこれにあぶらを沃げ是其人なり **13** サムエル膏の角をとりて其兄弟の中にてこれに膏をそそげり此日よりのちエホバの霊ダビデにのぞむサムエルはたちてラマにゆけり **14** かくてエホバの霊サウルをはなれエホバより來る惡鬼これを惱せり **15** サウルの臣僕これにいひけるは視よ神より來れる惡鬼汝をなやます **16** ねがはくはわれらの主汝のまへにつかふる臣僕に命じて善く琴を鼓く者一人を求めしめよ神よりきたれる惡鬼汝に臨む時彼手をもて琴を鼓て汝いゆることをえん **17** サウル臣僕にいひけるはわがために巧に鼓琴者をたづねてわがもとにつれきたれ **18** 時に一人の少者こたへていひけるは我ベテレヘム人エサイの子を見しが琴に巧にしてまた豪氣して善くたたかふ辯舌さはやかなる美しき人なりかつエホバこれとともにいます **19** サウルすなはち使者をエサイにつかはしていひけるは羊をかふ汝の子ダビデをわがもとに遣はせと **20** エサイすなはち驢馬にパンを負せ一囊の酒と山羊の羔を執りてこれを其子ダビデの手によりてサウルにおくれり **21** ダビデ、サウルの許にいたりて其まへに事ふサウル大にこれを愛し其武器を執る者となす **22** サウル人をエサイにつかはしていひけるはねがはくはダビデをしてわが前に事へしめよ彼はわが心にかなへりと

23 神より出たる悪鬼サウルに臨めるときダビデ琴を執り手をもてこれを弾にサウル慰さみて愈え悪鬼かれをはなる

17 爰にペリシテ人其軍を集めて戦はんとシユダに屬するシヨコにあつまりシヨコとアゼカの間なるバスタミムに陣をとる **2** サウルとイスラエルの人々集まりてエラの谷に陣をとりペリシテ人にむかひて軍の陣列をたつ **3** ペリシテ人は此方の山にたちイスラエルは彼方の山にたつ谷は其あひだにあり **4** 時にペリシテ人の陣よりガテのゴリアテと名くる挑戦者いできたる其身の長六キュビト半 **5** 首に銅の盔を戴き身に鱗綴の鎧甲を着たり其よろひの銅のおもさは五千シケルなり **6** また脛には銅の脛當を着け肩の間に銅の矛戟を負ふ **7** 其槍の柄は機の梁のごとく槍の鋒刃の鐵は六百シケルなり楯を執る者其前にゆく **8** ゴリアテ立てイスラエルの諸行伍によばはり云けるは汝らはなんぞ陣列をなして出きたるや我はペリシテ人にして汝らはサウルの臣下にあらずや汝ら一人をえらみて我とてころにくだせ **9** 其人もし我とたたかひて我をころすことをえば我ら汝らの臣僕とならんされど若し我かちてこれを殺さば汝ら我らの僕となりて我らに事ふ可し **10** かくて此ペリシテ人いひけるは我今日イスラエルの諸行伍を挑む一人をいだして我と戦はしめよと **11** サウルおよびイスラエルみなペリシテ人のこの言を聞き驚きて大に懼れたり **12** 抑ダビデはかのベテレヘムユダのエフラタ人エサイとなづくる者の子なり此人八人の子ありしがサウルの世には年邁みてすでに老たり **13** エサイの長子三人ゆきてサウルにしたがひて戦争にいづ其戦にいでし三人の

子の名は長をエリアブといひ次をアピナダブといひ
第三をシャンマといふ 14 ダビデは季子にして其兄三人はサウルにしたがへり 15 ダビデはサウルに往來してペテレヘムにて其父の羊を牧ふ 16 彼ペリシテ人四十日のあひだ朝夕近づきて前にたてり 17 時にエサイ其子ダビデにいひけるは今汝の兄のために此烘麥一斗と此十のパンを取りて陣營にをる兄のところにいそぎゆけ 18 また此十の乾酪をとりて其千夫の長におくり兄の安否を視て其返事もちきたれと 19 サウルと彼等およびイスラエルの人は皆ペリシテ人とたたかひてエラの谷にありき 20 ダビデ朝夙くおきて羊をひとりの牧者にあづけエサイの命ぜしごとく携へゆきて車營にいたるに軍勢いでて行伍をなし鯨波をあげたり 21 しかしてイスラエルとペリシテ人陣列をたてて行伍を行伍に相むかはせたり 22 ダビデ其荷をおろして荷をまもる者の手にわたし行伍の中にはせゆきて兄の安否を問ふ 23 ダビデ彼等と俱に語れる時視よペリシテ人の行伍よりガテのペリシテのゴリアテとなづく彼の挑戦者のぼりきたり前のことばのごとく言しかばダビデ之を聞けり 24 イスラエルの人其人を見て皆逃て之をはなれ痛く懼れたり 25 イスラエルの人いひけるは汝らこののぼり來る人を見しや誠にイスラエルを挑んとて上りきたるなり彼をころす人は王大なる富を以てこれをとまし其女子をこれにあたへて其父の家にはイスラエルの中にて租税をまぬかれしめん 26 ダビデ其傍にたてる人々にかたりていひけるは此ペリシテ人をころしイスラエルの耻辱を雪ぐ人には如何なることをなすや此割禮なきペリシテ人は誰なればか活る神の軍を搦む 27 民まへのご

とく答へていひけるはかれを殺す人には斯のごとく
せらるべしと **28** 兄エリアブ、ダビデが人々とかたる
を聞しかばエリアブ、ダビデにむかひて怒りを發し
いひけるは汝なにのために此に下りしや彼の野にあ
るわづかの羊を誰にあづけしや我汝の傲慢と悪き心
を知る其は汝戦争を見んとて下ればなり **29** ダビデい
ひけるは我今なにをなしたるや只一言にあらずやと
30 又ふりむきて他の人にむかひ前のごとく語れるに
民まへのごとく答たり **31** 人々ダビデが語れる言をき
きてこれをサウルのまへにつげければサウルかれを
召す **32** ダビデ、サウルにいひけるは人々かれがため
に氣をおとすべからず僕ゆきてかのペリシテ人とた
たかはん **33** サウル、ダビデにいひけるは汝はかのペ
リシテ人をむかへてたたかふに勝ず其は汝は少年な
るにかれは若き時よりの戦士なればなり **34** ダビデ、
サウルにいひけるは僕さきに父の羊を牧るに獅子と
熊と來りて其群の羔を取たれば **35** 其後をおひて之を
搏ち羔を其口より援ひいだせりしかして其獣我に猛
りかかりたれば其鬚をとらへてこれを撃ちころせり
36 僕は既に獅子と熊とを殺せり此割禮なきペリシテ
人活る神の軍をいどみたれば亦かの獣の一のごとく
なるべし **37** ダビデまたいひけるはエホバ我を獅子の
爪と熊の爪より援ひいだしたまひたれば此ペリシテ
人の手よりも援ひいだしたまはんとサウル、ダビデ
にいふ往けねがはくはエホバ汝とともにいませ **38** 是
においてサウルおのれの戎衣をダビデに衣せ銅の盔
を其首にかむらせ亦鱗綴の鎧をこれにきせたり **39** ダ
ビデ戎衣のうへに劍を佩て往かんことを試む未だ驗
せしことなればなりしかしてダビデ、サウルにい

ひけるは我いまだ験せしことなければ是を衣ては往くあたはずと 40 ダビデこれを脱ぎすて手に杖をとり谿間より五の光滑なる石を拾ひて之を其持てる牧羊者の具なる袋に容れ手に投石索を執りて彼ペリシテ人にちかづく 41 ペリシテ人進みきてダビデに近づけり楯を執るもの其まへにあり 42 ペリシテ人環視てダビデを見て之を藐視る其は少くして赤くまた美しき貌なればなり 43 ペリシテ人ダビデにいひけるは汝杖を持てきたる我豈犬ならんやとペリシテ人其神の名をもってダビデを呪詛ふ 44 しかしてペリシテ人ダビデにいひけるは我がもとに來れ汝の肉を空の鳥と野の獣にあたへんと 45 ダビデ、ペリシテ人にいひけるは汝は劍と槍と矛戟をもて我にきたる然ど我は萬軍のエホバの名すなはち汝が擲みたるイスラエルの軍の神の名をもて汝にゆく 46 今日エホバ汝をわが手に付したまはんわれ汝をうちて汝の首級を取りペリシテ人の軍勢の尸體を今日空の鳥と地の野獣にあたへて全地をしてイスラエルに神あることをしらしめん 47 且又この群衆みなエホバは救ふに劍と槍を用ひたまはざることをしるにいたらん其は戦はエホバによれば汝らを我らの手にわたしたまはんと 48 ペリシテ人すなはち立あがり進みちかづきてダビデをむかへしかばダビデいそぎ陣にはせゆきてペリシテ人をむかふ 49 ダビデ手を囊にいれて其中より一つの石をとり投てペリシテ人の額を撃ければ石其額に突きいりて俯伏に地にたふれたり 50 かくダビデ投石索と石をもてペリシテ人にかちペリシテ人をうちて之をころせり然どダビデの手には劍なかりしかば 51 ダビデはしりてペリシテ人の上にのり其劍を取て之を鞘より

抜きはなしこれをもて彼をころし其首級を斬りたり
爰にペリシテの人々其勇士の死るを見てにげしかば
52 イスラエルとユダの人おこり喊呼をあげてペリシ
テ人をおひガテの入口およびエクロンの門にいたる
ペリシテ人の負傷人シャライムの路に仆れてガテお
よびエクロンにおよぶ 53 イスラエルの子孫ペリシテ
人をおふてかへり其陣を掠む 54 ダビデかのペリシテ
人の首を取りて之をエルサレムにたづさへきたりし
が其甲冑はおのれの天幕におけり 55 サウル、ダビデ
がペリシテ人にむかひて出るを見て軍長アブネルに
いひけるはアブネル此少者はたれの子なるやアブネ
ルいひけるは王汝の靈魂は生くわれしらざるなり 56
王いひけるはこの少年はたれの子なるかを尋ねよ 57
ダビデかのペリシテ人を殺してかへれる時アブネル
これをひきて其ペリシテ人の首級を手にもてるまま
サウルのまへにつれゆきければ 58 サウルかれにいひ
けるは若き人よ汝はたれの子なるやダビデこたへけ
るは汝の僕ペテレヘム人エサイの子なり

18 ダビデ、サウルにかたることを終しときヨナタ
ンの心ダビデの心にむすびつきてヨナタンおのれの
命のごとくダビデを愛せり 2 此日サウル、ダビデを
かかへて父の家にかへらしめず 3 ヨナタンおのれの
命のごとくダビデを愛せしかばヨナタンとダビデ契
約をむすべり 4 ヨナタンおのれの衣たる明衣を脱て
ダビデにあたふ其戎衣および其刀も弓も帯もまたし
かせり 5 ダビデは凡てサウルが遣はすところにいで
ゆきて功をあらはしければサウルかれを兵隊の長と
なせりしかしてダビデ民の心にかなひ又サウルの僕
の心にもかなふ 6 衆人かへりきたれる時すなはちダ

ビデ、ペリシテ人をころして還れる時婦女イスラエルの邑々よりいできたり譏と祝歌と磬をもちて歌ひまひつつサウル王を迎ふ 7 婦人踊躍つつ相こたへて歌ひけるはサウルは千をうち殺しダビデは萬をうちころすと 8 サウル甚だ怒りこの言をよろこばずしていひけるは萬をダビデに歸し千をわれに歸す此上かれにあたふべき者は唯國のみと 9 サウルこの日より後ダビデを目がけたり 10 次の日神より出たる惡鬼サウルにのぞみてサウル家のなかにて預言したりしかばダビデ故のごとく手をもつて琴をひけり時にサウルの手に投槍ありければ 11 サウル我ダビデを壁に刺とほさんといひて其投槍をさしあげしがダビデ二度身をかはしてサウルをさけたり 12 エホバ、サウルをはなれてダビデと共にいますによりてサウル彼をおそれたり 13 是故にサウル彼を遠ざけて千夫長となせりダビデすなはち民のまへに出入す 14 またダビデすべて其ゆくところにて功をあらはし且エホバかれとともにいませり 15 サウル、ダビデが大に功をあらはすをみてこれを恐れたり 16 しかれどもイスラエルとユダの人はみなダビデを愛せり彼が其前に出入するによりてなり 17 サウル、ダビデにいひけるはわれわが長女メラブを汝に妻さん汝ただわがために勇みエホバの軍に戦ふべしと其はサウルわが手にてかれを殺さでペリシテ人の手にてころさんとおもひたればなり 18 ダビデ、サウルにいひけるは我は誰ぞわが命はなんぞわが父の家はイスラエルにおいて何なる者ぞや我いかでか王の婿となるべけん 19 然るにサウル的女子メラブはダビデに嫁ぐべき時におよびてメホラ人アデリエルに妻されたり 20 サウルの女ミカル

、ダビデを愛す人これを王に告げればサウル其事を善しとせり **21** サウルいひけるは我ミカルをかれにあたへて彼を謀る手段となしペリシテ人の手にてかれを殺さんといひてサウル、ダビデにいひけるは汝今日ふたたびわが婿となるべし **22** かくてサウル其僕に命じけるは汝ら密にダビデにかたりて言へ視よ王汝を悦び王の僕みな汝を愛すされば汝王の婿となるべしと **23** サウルの僕此言をダビデの耳に語りしかばダビデいひけるは王の婿となること汝らの目には易き事とみゆるや且われは貧しく賤しき者なりと **24** サウルの僕サウルにつげてダビデ是の如くかたれりといへり **25** サウルいひけるはなんぢらかくダビデにいへ王は聘禮を望まずただペリシテ人の陽皮一百をえて王の仇をむくいんことを望むと是はサウル、ダビデをペリシテ人の手に殞没しめんとおもへるなり **26** サウルの僕此言をダビデにつげしかばダビデは王の婿となることを善とせり斯て其時いまだ満ざるあひだに **27** ダビデ起て其従者ととともにゆきペリシテ人二百人をころして其陽皮をたづさへきたり之を悉く王にささげて王の婿とならんとすサウル乃はち其女ミカルをダビデに妻せたり **28** サウル見てエホバのダビデとともにいますを知りぬまたサウルの女ミカルはダビデを愛せり **29** サウルさらにますますダビデを恐れサウル一生のあひだダビデの敵となれり **30** 爰にペリシテ人の諸伯攻きたりしがダビデかれらが攻めきたるごとにサウルの諸の臣僕よりは多の功をたてしかば其名はなはだ尊まる

19 サウル其子ヨナタンおよび諸の臣僕にダビデをころさんとすることを語れり **2** されどサウルの子ヨ

ナタン深くダビデを愛せしかばヨナタン、ダビデにつげていひけるはわが父サウル汝をころさんことを求むこのゆゑに今ねがはくは汝翌朝謹恪で潜みをりて身を隠せ 3 我いでゆきて汝がをる野にてわが父の傍にたちわが父とともに汝の事を談はんしかして我其事の如何なるを見て汝に告ぐべし 4 ヨナタン其父サウルに向ひダビデを褒揚ていひけるは願くは王其僕ダビデにむかひて罪ををかすなかれ彼は汝に罪ををかさずまた彼が汝になす行爲ははなはだ善し 5 またかれは生命をかけてかのペリシテ人をころしたりしかしてエホバ、イスラエルの人々のためにおほいなる救をほどこしたまふ汝見てよろこべりしかるに何ぞゆゑなくしてダビデをころし無辜者の血をながして罪ををかさんとするや 6 サウル、ヨナタンの言を聴いれサウル誓ひけるはエホバはいくわれかならずかれをころさじ 7 ヨナタン、ダビデをよびてヨナタン其事をみなダビデにつげ遂にダビデをサウルの許につれきたりければダビデさきのごとくサウルの前にをる 8 愛に再び戦争おこりぬダビデすなはちいでてペリシテ人とたたかひ大にかれらを殺せしかばかれら其まへを逃げされり 9 サウル手に投槍を執て室に坐する時エホバより出たる悪鬼これにのりうつれり其時ダビデ乃ち手をもて琴を弾く 10 サウル投槍をもてダビデを壁に刺とほさんとしたりしがダビデ、サウルのまへを避ければ投槍を壁に衝たてたりダビデ其夜逃さりぬ 11 サウル使者をダビデの家につかはしてかれを守らしめ朝におよびてかれをころさしめんとすダビデの妻ミカル、ダビデにつげていひけるは若し今夜爾の命を援ずば明朝汝は殺されんと 12

ミカル即ち牖よりダビデを縋おろしければ往て逃されり 13 斯てミカル像をとりて其牀に置き山羊の毛の編物を其頭におき衣服をもて之をおほへり 14 サウル、ダビデを執ふる使者をつかはしければミカルいふかれは疾ありと 15 サウル使者をつかはしダビデを見させんとていひけるはかれを牀のまま我にたづさきたれ我これをころさん 16 使者いりて見たるに牀には像ありて其頭に山羊の毛の編物ありき 17 サウル、ミカルにいひけるはなんぞかく我をあざむきてわが敵を逃しやりしやミカル、サウルにこたへけるは彼我にいへり我をはなちてさらしめよ然らずば我汝をころさんと 18 ダビデにげさりてラマにゆきサムエルの許にいたりてサウルがおのれになせしことをことごとくつげたりしかしてダビデとサムエルはゆきてナヨテにすめり 19 サウルに告る者ありていふ視よダビデはラマのナヨテにをると 20 サウル乃ちダビデを執ふる使者をつかはせしが彼等預言者の一群の預言しをりてサムエルが其中の長となりて立てるを見るにおよび神の霊サウルの使者にのぞみて彼等もまた預言せり 21 人々これを告げればサウル他の使者を遣しけるにかれらも亦預言せしかばサウルまた三度使者を遣はしけるが彼等もまた預言せり 22 是においてサウルもまたラマにゆきけるがセクの大井にいたれる時問ていひけるはサムエルとダビデは何處にをるや 答ていふラマのナヨテにをる 23 サウルかしこにゆきてラマのナヨテに至りけるに神の霊また彼にのぞみて彼ラマのナヨテにいたるまで歩きつつ預言せり 24 彼もまた其衣服をぬぎすて同くサムエルのまへに預

言し其一日一夜裸體にて仆臥たり是故に人々サウルもまた預言者のうちにあるかといふ

20 ダビデ、ラマのナヨテより逃きたりてヨナタンにいひけるは我何をなし何のあしき事あり汝の父のまへに何の罪を得てか彼わが命を求むる **2** ヨナタンかれにいひけるは汝決して殺さるることあらじ視よわが父は事の大なるも小なるも我につげずしてなすことなしわが父なんぞこの事を我にかくさんやこの事しからず **3** ダビデまた誓ひていひけるは汝の父必ずわが汝のまへに恩恵をうるを知る是をもてかれ思へらく恐らくはヨナタン悲むべければこの事をかれにしらしむべからずとしかれどもエホバはいくまたなんぢの靈魂はいくわれは死をさること只一步のみ **4** ヨナタン、ダビデにいひけるはなんぢの心なにをねがふか我爾のために之をなさんと **5** ダビデ、ヨナタンにいひけるは明日は月朔なれば我王とともに食につかざるべからず然ども我をゆるして去らしめ三日の晩まで野に隠るることをえさしめよ **6** 若汝の父まことに我をもとめなば其時言へダビデ切に其邑ベテレヘムにはせゆかんことを我に請り其は彼處に全家の歳祭あればなりと **7** 彼もし善しといはば僕やすからんされど彼もし甚しく怒らば彼の害をくはへんと決しを知れ **8** 汝エホバのまへに僕と契約をむすびたれば願くは僕に恩をほどこせ然ど若我に悪き事あらば汝自ら我をこそ何ぞ我を汝の父に引ゆくべけんや **9** ヨナタンいひけるは斯る事かならず汝にあらざれ我わが父の害を汝にくはへんと決るをしらば必ず之を汝につげん **10** ダビデ、ヨナタンにいひけるは若し汝の父荒々しく汝にこたふる時は誰か其事を我に

告ぐべきや **11** ヨナタン、ダビデにいひけるは來れ我
ら野にいでゆかんと俱に野にいでゆけり **12** しかして
ヨナタン、ダビデにいひけるはイスラエルの神エホ
バよ明日か明後日の今ごろ我わが父を窺ひて事のダ
ビデのために善きを見ながら人を汝に遣はして告し
らさずばエホバ、ヨナタンに斯なしまた重て斯くな
したまへ **13** されど若しわが父汝に害をくはへんと欲
せば我これを告げしらせて汝をにがし汝を安らかに
さらしめん願くはエホバわが父とともに坐せしごと
く汝とともにいませ **14** 汝只わが生るあひだエホバの
恩を我にしめして死ざらしむるのみならず **15** エホバ
がダビデの敵を悉く地の表より絶ちさりたまふ時に
もまた汝わが家を永く汝の恩にはなれしむるなかれ
16 かくヨナタン、ダビデの家と契約をむすぶエホバ
之に關てダビデの敵を討したまへり **17** しかしてヨナ
タンふたたびダビデに誓はしむかれを愛すればなり
即ちおのれの生命を愛するごとく彼を愛せり **18** また
ヨナタン、ダビデにいひけるは明日は月朔なるが汝
の座空かるべければ汝求めらるべし **19** 汝三日とどま
りて速かに下り嘗てかの事の日に隠れたるところに
至りてエゼルの石の傍に居るべし **20** 我的を射るごと
くして其石の側に三本の矢をはなたん **21** しかしてゆ
きて矢をたづねよといひて童子をつかはすべし我も
し故に童子に視よ矢は汝の此旁にあり其を取と曰ば
なんぢきたるべしエホバは生く汝安くして何もなか
るべければなり **22** されど若し我少年に視よ矢は汝の
彼旁にありといはば汝さるべしエホバ汝をさらしめ
たまふなり **23** 汝と我とかたれることについては願は
くはエホバ恒に汝と我との間にいませと **24** ダビデ即

ち野にかくれぬ儲月朔になりければ王坐して食に就く 25 即ち王は常のごとく壁によりて座を占むヨナタン立あがりアブネル、サウルの側に坐すダビデの座はなむし 26 されど其日にはサウル何をも曰ざりき其は何事か彼におこりしならん彼きよからず定て潔からずと思ひたればなり 27 明日すなはち月の二日におよびてダビデの座なほ虚しサウル其子ヨナタンにいひけるは何ゆゑにエサイの子は昨日も今日も食に來らざるや 28 ヨナタン、サウルにこたへけるはダビデ切にペテレヘムにゆかんことを我にこひて曰けるは 29 ねがはくは我をゆるしてゆかしめよわが家邑にて祭をなすによりわが兄我にきたることを命ぜり故に我もし汝のまへにめぐみをえたるならばねがはくは我をゆるして去しめ兄弟をみることを得さしめよと是故にかれは王の席に來らざるなり 30 サウル、ヨナタンにむかひて怒りを發しかれにいひけるは汝は曲り且悖れる婦の子なり我あに汝がエサイの子を簡みて汝の身をはづかしめまた汝の母の膚を辱しむることを知ざらんや 31 エサイの子の此世にながらふるあひだは汝と汝の位固くたつを得ず是故に今人をつかはして彼をわが許に引きたれ彼は死ぬべき者なり 32 ヨナタン父サウルに對へていひけるは彼なにによりて殺さるべきか何をなしたるやと 33 ここにおいてサウル、ヨナタンを撃んとて投槍をさしあげたりヨナタンすなはち其父のダビデを殺さんと決しをしれり 34 かくてヨナタン烈しく怒りて席を立ち月の二日には食をなさざりき其は其父のダビデをはづかしめしによりてダビデのために憂へたればなり 35 翌朝ヨナタン一小童子を従がへダビデと約せし時刻に野にい

でゆき 36 童にいひけるは走りて我はなつ矢をたづね
よと童子はしる時ヨナタン矢を彼のさきに發てり 37
童子がヨナタンの發ちたる矢のところにいたれる時
ヨナタン童子のうしろに呼はりていふ矢は汝のさき
にあるにあらずや 38 ヨナタンまた童子のうしろによ
ばはりていひけるは速かにせよ急げ止まるなかれと
ヨナタンの童子矢をひろひあつめて其主人のもとに
かへる 39 されど童子は何をも知ざりき只ヨナタンと
ダビデ其事をしりたるのみ 40 かくてヨナタン其武器
を童子に授ていひけるは往けこれを邑に携へよと 41
童子すなはち往けり時にダビデ石の傍より立ちあが
り地にふして三たび拝せりしかしてふたり互に接吻
してたがひに哭くダビデ殊にはなはだし 42 ヨナタン
、ダビデにいひけるは安じて往け我ら二人ともにエ
ホバの名に誓ひて願くはエホバ恒に我と汝のあひだ
に坐し我が子孫と汝の子孫のあひだにいませといへ
りとダビデすなはちたちて去るヨナタン邑にいりぬ

21 ダビデ、ノブにゆきて祭司アヒメレクにいたる
アヒメレク懼れてダビデを迎へこれにいひけるは汝
なんぞ獨にして誰も汝とともにならざるや 2 ダビデ祭
司アヒメレクにいふ王我に一の事を命じて我にいふ
我が汝を遣はすところの事およびわが汝に命じたる
所については何をも人にしらすなかれと我某處に
我少者を出おけり 3 いま何か汝の手にあるや我手に
五のパンか或はなににてもある所を與よ 4 祭司ダビ
デに對ていひけるは常のパンはわが手になしされど
若し少者婦女をだに愼みてありしならば聖きパンあ
るなりと 5 ダビデ祭司に對へていひけるは實にわが
いでしより此三日は婦女われらにちかづかず且少者

等の器は潔し又パンは常の物のごとし今日器に潔きパンあれば殊に然と 6 祭司かれに聖きパンを與たり其はかしこに供前のパンの外はパン无りければなり即ち其パンは下る日に熱きパンをささげんとて之をエホバのまへより取されるなり 7 其日かしこにサウルの僕一人留められてエホバのまへにあり其名をドエグといふエドミ人にしてサウルの牧者の長なり 8 ダビデまたアヒメレクにいふ此に汝の手に槍か劍あらぬか王の事急なるによりて我は刀も武器も携へざりしと 9 祭司いひけるは汝がエラの谷にて殺したるペリシテ人ゴリアテの劍布に裹みてエポデの後にあり汝もし之をとらんとおもはば取れ此にはほかの劍なしダビデいひけるはそれにまさるものなし我にあたへよと 10 ダビデ其日サウルをおそれて立てガテの王アキシのところに逃げゆきぬ 11 アキシの臣僕アキシに曰けるは此は其地の王ダビデにあらずや人々舞踏のうちにこの人のことを歌ひあひてサウルは千をうちころしダビデは萬をうちころすといひしにあらずや 12 ダビデこの言を心に蔵め深くガテの王アキシをおそれ 13 人々のまへに伴て其氣を變じ執はれて狂人のさまをなし門の扉に書き其涎沫を鬚にながれくだらしむ 14 アキシ僕に云けるは汝らの見ごとく此人は狂人なり何ぞかれを我にひき來るや 15 我なんぞ狂人を須ひんや汝ら此者を引きたりてわがまへに狂しめんとするや此者なんぞ吾が家にいるべけんや

22 是故にダビデ其處をいでたちてアドラムの洞穴にのがる其兄弟および父の家みな聞きおよびて彼處にくだり彼の許に至る 2 また惱める人負債者心に嫌ぬ者皆かれの許にあつまりて彼其長となれりかれと

ともにある者はおよそ四百人なり 3 ダビデ其處よりモアブのミヅパにいたりモアブの王にいひけるは神の我をいかがなしたまふかを知るまでねがはくはわが父母をして出て汝らとともにをらしめよと 4 遂にかれらをモアブの王のまへにつれきたるかれらはダビデが要害にをる間王とともにありき 5 預言者ガデ、ダビデに云けるは要害に住るなかれゆきてユダの地にいたれとダビデゆきてハレテの叢林にいたる 6 爰にサウル、ダビデおよびかれともなる人々の見露されしを聞けり時にサウルはギベアにあり手に槍を執て岡巒の柳の樹の下にをり臣僕ども皆其傍にたてり 7 サウル側にたてる僕にいひけるは汝らベニヤミン人聞けよエサイの子汝らおのおのに田と葡萄園をあたへ汝らおのおのを千夫長百夫長となすことあらんや 8 汝ら皆我に敵して謀り一人もわが子のエサイの子と契約を結びしを我につげしらする者なしまた汝ら一人もわがために憂へずわが子が今日のごとくわが僕をはげまして道に伏て我をおそはしめんとするを我につげしらす者なし 9 時にエドミ人ドエグ、サウルの僕の中にたち居りしが答へていひけるは我エサイの子のノブにゆきてアヒトブの子アヒメレクに至るを見しが 10 アヒメレクかれのためにエホバに問ひまたかれに食物をあたへペリシテ人ゴリアテの劍をあたへたりと 11 王すなはち人をつかはしてアヒトブの子祭司アヒメレクなよびその父の家すなはちノブの祭司たる人々を召したればみな王の許にきたる 12 サウルいひけるは汝アヒトブの子聽よ答へけるは主よ我ここにあり 13 サウルかれにいふ汝なんぞエサイの子とともに我に敵して謀り汝かれにパンと

劍をあたへ彼が爲に神に問ひかれをして今日のごとく道に伏て我をおそはしめんとするや **14** アヒメレク王にこたへていひけるは汝の臣僕のうち誰かダビデのごとく忠義なる彼は王の婿にして親しく汝に見ゆるもの汝の家に尊まるる者にあらずや **15** 我其時かれのために神に問ことを始めしや決してしからずねがはくは王僕およびわが父の全家に何をも歸するなかれ其は僕この事については多少をいはず何をもしらざればなり **16** 王いひけるはアヒメレク汝必ず死ぬべし汝の父の全家もしかりと **17** 王旁にたてる前驅の人々にいひけるは身をひるがへしてエホバの祭司を殺せかれらもダビデと力を合するが故またかれらダビデの逃たるをしりて我に告ざりし故なりと然ど王の僕手をいだしてエホバの祭司を撃ことを好まざれば **18** 王ドエグにいふ汝身をひるがへして祭司をころせとエドミ人ドエグ乃ち身をひるがへして祭司をうち其日布のエポデを衣たる者八十五人をころせり **19** かれまた刃を以て祭司の邑ノブを撃ち刃をもて男女童稚嬰孩牛驢馬羊を殺せり **20** アヒトブの子アヒメレクの一人の子アビヤタルとなづくる者逃れてダビデにはしり従がふ **21** アビヤタル、サウルがエホバの祭司を殺したることをダビデに告しかば **22** ダビデ、アビヤタルにいふかの日エドミ人ドエグ彼處にをりしかば我かれが必らずサウルにつげんことを知れり我汝の父の家の人々の生命を喪へる源由となれり **23** 汝我とともに居れ懼るるなかれわが生命を求むる者汝の生命をも求むるなり汝我とともにあらば安全なるべし

23 人々ダビデにつげていひけるは視よペリシテ人ケイラを攻め穀場を掠むと **2** ダビデ、エホバに問て

いひけるは我ゆきて是のペリシテ人を撃つべきかと
エホバ、ダビデにいひたまひけるは往てペリシテ人
をうちてケイラを救へ 3ダビデの従者かれにいひけ
るは視よわれら此にユダにあるすら尚ほおそる況や
ケイラにゆきてペリシテ人の軍にあたるをやと 4ダ
ビデふたたびエホバに問ひけるにエホバ答ていひた
まひけるは起てケイラにくだれ我ペリシテ人を汝の
手にわたすべし 5ダビデとその従者ケイラにゆきて
ペリシテ人とたたかひ彼らの家畜を奪ひとり大にか
れらをうちこるせりかくダビデ、ケイラの居民をす
くふ 6アヒメルクの子アピヤタル、ケイラにのがれ
てダビデにいたれる時其手にエポデを執てくだれり
7爰にダビデのケイラに至れる事サウルに聞えければ
サウルいふ神かれを我手にわたしたまへり其はかれ
門あり關ある邑にいりたれば閉こめらるればなり 8
サウルすなはち民をことごとく軍によびあつめてケ
イラにくだりてダビデと其従者を圍んとす 9ダビデ
はサウルのおのれを害せんと謀るを知りて祭司アピ
ヤタルにいひけるはエポデを持ちきたれと 10しかし
てダビデいひけるはイスラエルの神エホバよ僕たし
かにサウルがケイラにきたりてわがために此邑をほ
ろぼさんと求むるを聞き 11ケイラの人々我をかれの
手にわたすならんか僕のきけるごとくサウル下るな
らんかイスラエルの神エホバよ請ふ僕につげたまへ
とエホバいひたまひけるは彼下るべしと 12ダビデい
ひけるはケイラの人々われとわが従者をサウルの手
にわたすならんかエホバいひたまひけるは彼らわた
すべし 13是においてダビデと其六百人ばかりの従者
起てケイラをいで其ゆきうる所にゆけりダビデのケ

イラをにげはなれしことサウルに聞えければサウル
いづることを止たり 14 ダビデは曠野にをり要害の地
にをりまたジフの野にある山に居るサウル恒にかれ
を尋ねたれども神かれを其手にわたしたまはざりき
15 ダビデ、サウルがおのれの生命を求めんために出
たるを見る時にダビデはジフの野の叢林にをりしが
16 サウルの子ヨナタンたちて叢林にいりてダビデに
いたり神によりて其力を強うせしめたり 17 即ちヨナ
タンかれにいひけるに懼るるなかれわが父サウルの
手汝にとどくことあらし汝はイスラエルの王となら
ん我は汝の次なるべし此事はわが父サウルもしれり
と 18 かくて彼ら二人エホバのまへに契約をむすびダ
ビデは叢林にとどまりヨナタンは其家にかへれり 19
時にジフ人ギベアにのぼりサウルの許にいたりてい
ひけるはダビデは曠野の南にあるハキラの山の叢林
の中なる要害に隠れて我らとともにをるにあらずや
20 今王汝のくだらんとする望のごとく下りたまへ我
らはかれを王の手にわたさんと 21 サウルいひけるは
汝ら我をあはれめば願くは汝等エホバより福祉をえ
よ 22 請ふゆきて尚ほ心を用ひ彼の踪跡ある處と誰が
かれを見たるかを見きはめよ其は人我にかれが甚だ
機巧く事を爲すを告たれば也 23 されば汝ら彼が隠る
る逃躲處を皆たしかに見きはめて再び我にきたれ我
汝らとともにゆかん彼もし其地にあらば我ユダの郡
中をあまねく尋ねて彼を獲んと 24 かれらたちてサウ
ルに先てジフにゆけりダビデと其従者は曠野の南の
アラバにあるマオンの野にをる 25 斯てサウルと其従
者ゆきて彼を尋ぬ人々これをダビデに告ければダビ
デ巖を下てマオンの野にをるサウル之を聞てマオン

の野に至てダビデを追ふ 26 サウルは山の此旁に行ダビデと其従者は山の彼旁に行ダビデは周章てサウルの前を避んとしサウルと其従者はダビデと其従者を圍んで之を取んとす 27 時に使者サウルに來て言けるはペリシテ人國ををかす急ぎきたりたまへと 28 故にサウル、ダビデを追ことを止てかへり往てペリシテ人にあたるここをもて人々その處をセラマレコテ(逃岩)となづく 29 ダビデ其處よりのぼりてエンゲデの要害にをる

24 サウル、ペリシテ人を追ふことをやめて還りし時人々かれにつけていひけるは視よダビデはエンゲデの野にありと 2 サウル、イスラエルの中より選みたる三千の人を率ゐゆきて野羊の巖にダビデと其従者を尋ぬ 3 途にて羊の棧にいたるに其處に洞穴ありサウル其足を掩んとていりぬ時にダビデと其従者洞の隅に居たり 4 ダビデの従者これにいひけるはエホバが汝に告て視よ我汝の敵を汝の手にわたし汝をして善と見るところを彼になさしめんといひたまひし日は今なりとダビデすなはち起てひそかにサウルの衣の裾をきり 5 ダビデ、サウルの衣の裾をきりしによりて後ち其心みづから責む 6 ダビデ其従者にいひけるはエホバの膏そそぎし者なるわが主にわが此事をなすをエホバ禁じたまふかれはエホバの膏そそぎし者なればかれに敵してわが手をのぶるは善らず 7 ダビデ此ことばをもつて其従者を止めサウルに撃ちかかる事を容さずサウルたちて洞を出て其道にゆく 8 ダビデもまた後よりたちて洞をいでサウルのうしろに呼はりて我主王よといふサウル後をかへりみる時ダビデ地にふして拝す 9 ダビデ、サウルにいひける

は汝なんぞダビデ汝を害せん事を求むといふ人の言を聴くや **10** 視よ今日汝の目エホバの汝を洞のうちに今日わが手にわたしたまひしことを見たり人々我に汝をころさんことを勧めたれども我汝を惜めり我いひけらくわが主はエホバの膏そそぎし者なればこれに敵してわが手をのぶべからずと **11** わが父よ視よわが手にある汝の衣の裾を見よわが汝の衣の裾をきりて汝を殺さざるを見ばわが手には悪も罪過もなきことを汝見て知るべし我汝に罪ををかせしことなし然るに汝わが生命をとらんとねらふ **12** エホバ我と汝の間を審きたまはんエホバわがために汝に報いたまふべし然どわが手は汝に加へざるべし **13** 古への諺にいふごとく悪は悪人よりいづされどわが手は汝にくはへざるべし **14** イスラエルの王は誰を趕んとて出たるや汝たれを追ふや死たる犬をおひ一の蚤をおふなり **15** ねがはくはエホバ審判者となりて我と汝のあひだをさばきかつ見てわが訟を理し我を汝の手よりすくひいだしたまはんことを **16** ダビデこれらの言をサウルに語りをはしときサウルいひけるはわが子ダビデよ是は汝の聲なるかとサウル聲をあげて哭きぬ **17** しかしてダビデにいひけるは汝は我よりも正し我は汝に悪をむくゆるに汝は我に善をむくゆ **18** 汝今日いかに汝が我に善くなすかを明かにせりエホバ我を爾の手にわたしたまひしに爾我をころさざりしなり **19** 人もし其敵にあはばこれを安らかに去しむべけんや爾が今日我になしたる事のためにエホバ爾に善をむくいたまふべし **20** 視よ我爾が必ず王とならんことを知りまたイスラエルの王國の爾の手によりて堅くたたんことをしる **21** 今爾エホバをさして我にわが後に

てわが子孫を斷ずわが名をわが父の家に滅せざらん
ことを誓へと 22 ダビデすなはちサウルにちかふ是に
おいてサウルは家にかへりダビデと其從者は要害に
のぼれり

25 爰にサムエル死にしかばイスラエル人皆あつま
りて之をかなしみラマにあるその家にてこれを葬む
れりダビデたちてバランの野にくだる 2 マオンに一
箇の人あり其所有はカルメルにあり其人甚だ大なる
者にして三千の羊と一千の山羊をもちしがカルメル
にて羊の毛を剪り居たり 3 其人の名はナバルといひ
其妻の名はアビガルといふアビガルは賢く顔美き婦
なりされど其夫は剛愎にして其爲すところ悪かりき
かれはカレフの人なり 4 ダビデ野にありてナバルが
其羊の毛を剪りをるを聞き 5 ダビデ十人の少者を遣
はすダビデ其少者にいひけるはカルメルにのぼりナ
バルにいたりわが名をもてかれに安否をとひ 6 かく
のごとくいへ願くは壽ながかれ爾平安なれ爾の家や
すらかなれ爾が有ところの物みなやすらかなれ 7 我
爾が羊毛を剪せをるを聞き爾の牧羊者は我らととも
にありしが我らこれを害せざりきまたかれらがカル
メルにありしあひだかれらの物何も失たることなし
8 爾の少者に問へかれら爾につげん願くは少者をして
爾のまへに恩をえせしめよ我ら吉日に来る請ふ爾の
手にあるところの物を爾の僕らおよび爾の子ダビデ
にあたへよ 9 ダビデの少者いたりダビデの名をもつ
て是らのことばの如くナバルに語りてやめり 10 ナバ
ル、ダビデの僕にこたへていひけるはダビデは誰な
るエサイの子は誰なる此頃は主人をすてて遁逃るる
僕おほし 11 我あにわがパンと水およびわが羊毛をき

る者のために殺したる肉をとりて何處よりか知れざるところの人々にあたふべけんや **12** ダビデの少者ふりかへりて其道に就き歸りきたりて此等の言のごとくダビデに告ぐ **13** 是においてダビデ其從者に爾らおのおの劍を帶よと言ければ各劍をおぶダビデもまた劍をおぶ而して四百人ばかりダビデにしたがひて上り二百人は輜重のところに止れり **14** 時にひとりの少者ナバルの妻アビガルに告ていひけるは視よダビデ野より使者をおくりて我らの主人を祝したるに主人かれらを詈れり **15** されどかの人々はわれらに甚だ善くなし我らは害をかうむらず亦われら野にありし時かれらとともにをるあひだはなにをも失なはざりき **16** 我らが羊をかひて彼らとともにありしあひだ彼らは日夜われらの墻となれり **17** されば爾今しりてなにをなさんかを考ふべし其はわれらの主人および主人の全家に定めて害きたるべければなり主人は邪魔なる者にして語ることをえずと **18** アビガルいそぎパン二百酒の革囊二既に調べたる羊五烘麥五セア乾葡萄百球乾無花果の團塊二百を取て驢馬にのせ **19** 其少者にいひけるは我先に進め視よ我爾らの後にゆくと然ど其夫ナバルには告げざりき **20** アビガル驢馬にのりて山の僻處にくだれる時視よダビデと其從者かれにむかひてくだりければかれ其人々にあふ **21** ダビデかつていひけるは誠にわれ徒に此人の野にて有る物をみなまもりてその物をして何もうせざらしめたりかれは悪をもてわが善にむくゆ **22** ねがはくは神ダビデの敵にかくなしたまへ明晨までに我はナバルに屬する總ての物の中ひとりの男をものこさざるべし **23** アビガル、ダビデを視しとき急ぎ

驢馬よりおりダビデのまへに地に俯して拝し 24 其足もとにふしていひけるはわが主よ此咎を我に歸したまへ但し婢をして爾の耳にいふことを得さしめ婢のことばを聽たまへ 25 ねがはくは我主この邪なる人ナバル(愚)の事を意に介むなかれ其はかれは其名の如くなればなりかれの名はナバルにしてかれは愚なりわれなんぢの婢はわが主のつかはせし少ものを見ざりき 26 さればわがしゆよエホバはいくまたなんぢのたましひはいくエホバなんぢのきたりて血をながしまた爾がみづから仇をむくゆるを阻めたまへりねがはくは爾の敵たるものおよびわが主に害をくはへんとする者はナバルのごとくなれ 27 さて仕女がわが主にもちきたりしこの禮物をねがはくはわが主の足跡にあゆむ少者にたてまつらしめたまへ 28 請ふ婢の過をゆるしたまへエホバ必ずわが主のために堅き家を立たまはん是はわが主エホバの軍に戦ふにより又世にいでてよりこのかた爾の身に悪きこと見えざるによりてなり 29 人たちて爾を追ひ爾の生命を求むれどもわが主の生命は爾の神エホバとともに生命の包裹の中に包みあり爾の敵の生命は投石器のうちより投すつる如くエホバこれをなげすてたまはん 30 エホバその爾につきて語りたまひし諸の善き事をわが主になして爾をイスラエルの主宰に命じたまはん時にいたりて 31 爾の故なくして血をながしたることも又わが主のみづから其仇をむくいし事も爾の憂となることなくまたわが主の心の責となることなかるべし但しエホバのわが主に善くなしたまふ時にいたらばねがはくは婢を憶たまへ 32 ダビデ、アビガルにいふ今日汝をつかはして我をむかへしめたまふイスラエル

の神エホバは頌美べきかな 33 また汝の智慧はほむべきかな又汝はほむべきかな汝今日わがきたりて血をながし自ら仇をむくゆるを止めたり 34 わが汝を害するを阻めたまひしイスラエルの神エホバは生く誠にもし汝いそぎて我を來り迎ずば必ず翌朝までにナバルの所にひとりの男ものこらざりしならんと 35 ダビデ、アビガルの携へきたりし物を其手より受てかれにいひけるは安かに汝の家にかへりのぼれ視よわれ汝の言をききいれて汝の顔を立たり 36 かくてアビガル、ナバルにいたりて視にかれは家に酒宴を設け居たり王の酒宴のごとしナバルの心これがために樂みて甚だしく酔たればアビガル多少をいはず何をも翌朝までかれにつげざりき 37 朝にいたりナバルの酒のさめたる時妻かれに是等の事をつげたるに彼の心そのうちに死て其身石のごとくなりぬ 38 十日ばかりありてエホバ、ナバルを撃ちたまひければ死り 39 ダビデ、ナバルの死たるを聞いていひけるはエホバは頌美べきかなエホバわが蒙むりたる恥辱の訟を理してナバルにむくい僕を阻めて悪をおこなはざらしめたまふ其はエホバ、ナバルの悪を其首に歸し賜へばなりと爰にダビデ、アビガルの妻にめとらんとて人を遣はしてこれとかたはしむ 40 ダビデの僕カルメルにをるアビガルの許にいたりてこれにかたりいひけるはダビデ汝を妻にめとらんとて我らを汝に遣はすと 41 アビガルたちて地にふして拜しいひけるは視よ婢はわが主の僕等の足を洗ふ仕女なりと 42 アビガルいそぎたちて驢馬に乗り五人の侍女とともにダビデの使者にしたがひゆきてダビデの妻となる 43 ダビデまたエズレルのアヒノアムを娶れり彼ら二人ダビデの

妻となる 44 但しサウルはダビデの妻なりし其女ミカルをガリムの人なるライシの子パルテにあたへたり

26 ジフ人ギベアにきたりサウルの許にいたりてひけるはダビデは曠野のまへなるハキラの山にかくれをるにあらずやと 2 サウルすなはち起ちジフの野にダビデを尋ねんとイスラエルの中より選みたる三千の人をしたがへてジフの野にくだる 3 サウルは曠野のまへなるハキラの山において路のほとりに陣を取るダビデは曠野に居てサウルのおのれをおふて曠野にきたるをさとりければ 4 ダビデ斥候を出してサウルの誠に來しをしれり 5 ここにおいてダビデたちてサウルの陣をとれるところにいたりサウルおよび其軍の長ネルの子アブネルの寝たるところを見たりすなはちサウルは車營の中に寝ぬ民其まはりに陣をはれり 6 ダビデ答へてへテ人アヒメレクおよびゼルヤの子にしてヨアブの兄弟なるアビシヤイにいひけるは誰か我とともにサウルの陣にくだらんかとアビシヤイいふ我汝とともに下らん 7 ダビデとアビシヤイすなはち夜にいりて民の所にいたるに視よサウルは車營のうちに寝臥し其槍地にさして枕邊にありアブネルと民は其まはりに寝たり 8 アビシヤイ、ダビデにいひけるは神今日爾の敵を爾の手にわたしたまふ請ふいま我に槍をもてかれを一度地にさしとほさしめよ再びするにおよばじ 9 ダビデ、アビシヤイにいふ彼をころすなかれ誰かエホバの膏そそぎし者に敵して其手をのべて罪なからんや 10 ダビデまたいひけるはエホバは生くエホバかれを撃たまはんあるひはその死ぬる日來らんあるひは戦ひにくだりて死うせん 11 わがエホバのあぶらそそぎしものに敵して手を

のぶることはきはめて善らずエホバ禁じたまふされ
どいま請ふ爾そのまくらもとの槍と水の瓶をとれし
かして我らさりゆかんと **12** ダビデ、サウルの枕邊よ
り槍と水の瓶を取りてかれらさりゆきしが誰も見ず
誰もしらず誰も目を醒さざりき其はかれら皆眠り居
たればなり即ちエホバかれらをふかく睡らしめたま
ふ **13** かくてダビデは彼旁にわたりて遥に山の頂にた
てり彼と此とのへだたり大なり **14** ダビデ民とネルの
子アブネルによばはりいひけるはアブネルよ爾こた
へざるかアブネルこたへていふ王をよぶ爾はたれな
るや **15** ダビデ、アブネルにいひけるは爾は勇士なら
ずやイスラエルの中にて誰か爾に如ものあらんしか
るに爾なんぞ爾の主なる王をまもらざるや民のひと
り爾の主なる王を殺さんとていりぬ **16** 爾がなせる此
事よからずエホバは生くなんぢらの罪死にあたり
爾らエホバの膏そそぎし爾らの主をまもらざればな
り今王の槍と王の枕邊にありし水の瓶はいづくにあ
るかを見よ **17** サウル、ダビデの聲をしりていひける
はわが子ダビデよ是は爾の聲なるかダビデいひける
は王わが主よわが聲なり **18** ダビデまたいひけるはわ
が主なにゆゑに斯くその僕をおふや我なにをなせし
や何の悪き事わが手にあるや **19** 王わが主よ請ふいま
僕の言を聴きたまへ若しエホバ爾を我に敵せしめた
まふならばねがはくはエホバ禮物をうけたまへされ
ど若し人ならばねがはくは其人々エホバのまへのの
ろはれよ其は彼等爾ゆきて他の神につかへよといひ
て今日我を追ひエホバの産業に連なることをえざら
しむるが故なり **20** ねがはくは我血をしてエホバのま
へをはなれて地におちしむるなかれそは人の山にて

鷓鴣をおふがごとくイスラエルの王一の蚤をたづね
にいでたればなり 21 サウルいひけるは我罪ををかせ
りわが子ダビデよ歸れわが生命今日爾の目に寶と見
なされたる故により我々かさねて爾に害を加へざる
べし嗚呼われ愚なることをなして甚だしく過てり 22
ダビデこたへていひけるは王よ槍を視よ請ひとりの
少者をしてわたりてこれを取しめよ 23 ねがはくはエ
ホバおのおのに其義と眞實とにしたがひて報いたま
へ共はエホバ今日爾をわが手にわたしたまひしに我
エホバの受膏者に敵してわが手をのぶることをせざ
ればなり 24 爾の生命を今日わがおもんぜしごとくね
がはくはエホバわが生命をおもんじて諸の艱難のう
ちより我をすくひいだしたまへ 25 サウル、ダビデに
いひけるはわが子ダビデよ爾はほむべきかな爾大な
る事を爲さん亦かならず勝をえんとしかしてダビデ
は其道にさりサウルはおのれの所にかへれり

27 ダビデ心の中にいひけるは是のごとくば我早晚
サウルの手にほろびん速にペリシテ人の地にのがる
るにまさることあらず然らばサウルかさねて我をイ
スラエルの四方の境にたづぬることをやめて我かれ
の手をのがれんと 2 ダビデたちておのれとともに六
百人のものとともにわたりてガテの王マオクの子ア
キシにいたる 3 ダビデと其從者ガテにてアキシとと
もに住ておのおの其家族とともにをるダビデはその
二人の妻すなはちエズレル人アヒノアムとカルメル
人ナバルの妻なりシアビガルとともにあり 4 ダビデ
のガテににげしことサウルにきこえければサウルか
さねてかれをたづねざりき 5 ここにダビデ、アキシ
にいひけるは我もし爾のまへに恩を得たるならばね

がはくは郷里にある邑のうちにて一のところを我にあたへて其處にすむことを得さしめよ僕なんぞ爾とともに王城にすむべけんやと 6 アキシ其日チクラグをかれにあたへたり是故にチクラグは今日にいたるまでユダの王に屬す 7 タビデのペリシテ人の國にをりし日數は一年と四箇月なりき 8 ダビデ其從者と共にのぼりゲシユル人ゲゼリ人アマレク人を襲ふたり昔より是等はシユルにいたる地にすみてエジプトの地にまでおよべり 9 ダビデ其地をうちて男をも女をも生し存さず羊と牛と駱駝と衣服をとりて還りてアキシに至る 10 アキシいひけるは爾ら今日何地を襲ひしやダビデいひけるはユダの南とエラメルエラメルの南とケニ人の南ををかせりと 11 ダビデ男も女も生存らしめずして一人をもガテにひきゆかざりき其はダビデ恐くは彼らダビデかくなせりといひて我儕の事を告んといひたればなりダビデ、ペリシテ人の地にすめるあひだは其なすところ常にかくのごとくなりき 12 アキシ、ダビデを信じていひけるは彼は其民イスラエルをして全くおのれを悪ましむされば永くわが僕となるべし

28 其頃ペリシテ人イスラエルと戦はんとて軍のために軍勢を集めたればアキシ、ダビデにいひけるは爾明かにこれをしれ爾と爾の從者我とともに出て軍にくははるべし 2 ダビデ、アキシにいひけるはされば爾僕のなさんところをしるべしとアキシ、ダビデにさらば我爾を永く我身をまもる者となさんといへり 3 サムエルすでに死たればイスラエルみなこれかなしみてこれをそのまちらマにはうむれりまたサウルは口寄者とト筮師を其地よりおひいだせり 4 ペ

リシテ人あつまりきたりてシユネムに陣をとりければサウル、イスラエルを悉くあつめてギルボアに陣をとれり 5 サウル、ペリシテ人の軍を見しときおそれて其心大にふるへたり 6 サウル、エホバに問ひけるにエホバ對たまはず夢に因てもウリムによりても預言者によりてもこたへたまはず 7 サウル僕等にいひけるは口寄の婦を求めよわれそのところにゆきてこれに尋ねんと僕等かれにいひけるは視よエンドルに口寄の婦あり 8 サウル形を變へて他の衣服を著二人の人をとまひてゆき彼等夜の間に其婦の所にとるサウルいひけるは請ふわがために口寄の術をおこなひてわが爾に言ふ人をわれに呼おこせ 9 婦かれにいひけるはなんぢサウルのなしたる事すなはち如何にかれが口寄者と卜筮師を國より斷さりたるを知る爾なんぞ我を死しめんとてわが生命を亡す謀計をなすや 10 サウル、エホバを指てかれに誓ひいひけるはエホバは生く此事のためになんぢ罪にあふことあらじ 11 婦いひけるは誰を我なんぢに呼起すべきかサウルいふサムエルをよびおこせ 12 婦サムエルを見て大なる聲にてさけびいだせりしかして婦サウルにいひけるは爾なにゆゑに我を欺きしや爾はすなはちサウルなり 13 王かれにいひけるは恐るるなかれ爾なにを見しや婦サウルにいひけるは我神の地よりのぼるを見たり 14 サウルかれにいひけるは其形容は如何彼いひけるは一人の老翁のぼる其人明衣を衣たりサウル其人のサムエルなるをしりて地にふして拝せり 15 サムエル、サウルにいひけるは爾なんぞ我をよびおこして我をわづらはすやサウルこたへけるは我いたく悩むペリシテ人我にむかひて軍をおこし又神我を

はなれて預言者によりても又夢によりてもふたたび
我にこたへたまはずこのゆゑに我なすべき事を爾に
まなばんとて爾を呼び **16** サムエルいひけるはエホバ
爾をはなれて爾の敵となりたまふに爾なんぞ我にと
ふや **17** エホバわれをもて語りたまひしことをみづか
ら行ひてエホバ國を爾の手より割きはなち爾の隣人
ダビデにあたへたまふ **18** 爾エホバの言にしたがはず
其烈しき怒をアマレクにもらさざりしによりてエホ
バ此事を今日爾になしたまふ **19** エホバ、イスラエル
をも爾とともにペリシテ人の手にわたしたまふべし
明日爾と爾の子等我とともになるべしまたイスラエルの
陣營をもエホバ、ペリシテ人の手にわたしたまは
んと **20** サウル直ちに地に伸びたふれサムエルの言の
ために痛くおそれ又其力を失へり其はかれ其一日一
夜物食ざりければなり **21** かの婦サウルにいたり其痛
く慄くを見てこれにいひけるは視よ仕女爾の言をき
きわが生命をかけて爾が我にいひし言にしたがへり
22 されば請ふ爾も仕女の言を聽て我をして一口のパ
ンを爾のまへにそなへしめよしかして爾くらひて途
に就く時に力を得よ **23** されどサウル否みて我は食は
じといひしを其僕および婦強ければ其言をききいれ
て地より立あがり床のうへに坐せり **24** 婦の家に肥た
る犢ありしかば急ぎて之を殺した粉をとり搏て酔
いれぬパンを炊き **25** サウルのまへと其僕等のまへに
持ちきたりければ彼等くらひて立ちあがり其夜のう
ちにされり

29 爰にペリシテ人其軍をことごとくアペクにあつ
むイスラエルはエズレルにある泉水の傍に陣をとる
2 ペリシテ人の君等あるひは百人或は千人をひきゐて

進みダビデと其従者はアキシとともに其後にすすむ
3 ペリシテ人の諸伯いひけるは是等のヘブル人は何なるやアキシ、ペリシテ人の諸伯にいひけるは此はイスラエルの王サウルの僕ダビデにあらずやかれ此日ごろ此年ごろ我とともにをりしがその逃げおちし日より今日にいたるまで我かれの身に咎あるを見ずと
4 ペリシテ人の諸伯これを怒る即ちペリシテ人の諸伯彼にいひけるは此人をかへらしめて爾が之をおきし其所にふたたびいたらしめよ彼は我らとともに戦ひにくだるべからず然ば彼戦争においてわれらの敵とならざるべしかれ其主と和がんとせば何をもてすべきやこの人々の首級をもてすべきにあらずや 5 是はかつて人々が舞踏の中にて歌ひあひサウルは千をうちころしダビデは萬をうちころすといひたるダビデにあらずや 6 アキシ、ダビデをよびてこれにいひけるはエホバは生くまことになんぢは正し爾の我とともに陣營に出入するはわが目には善と見ゆ其は爾が我に來りし日より今日にいたるまで我爾の身に惡き事あるを見ざればなり然ど諸伯の目には爾よからず
7 されば今かへりて安かにゆきペリシテ人の諸伯の目に悪く見ゆることをなすなかれ 8 ダビデ、アキシにいひけるは我何をなせしやわが爾のまへに出し日より今日までに爾何を僕の身に見たればか我ゆきてわが主なるわうの敵とたたかふことをえざると 9 アキシこたへてダビデにいひけるは我爾のわが目には神の使のごとく善きをしるされどペリシテ人の諸伯かれは我らとともに戦ひにのぼるべからずといへり 10 されば爾および爾の主の僕の爾とともにきたれる者明朝夙く起よ爾ら朝はやくおきて夜のあくるに及ば

ばさるべし 11 是をもてダビデと其従者ペリシテ人の地にかへらんと朝はやく起てされりしかしてペリシテ人はエズレルにのぼれり

30 ダビデと其従者第三日にチクラグにいたるにアマレク人すでに南の地とチクラグを侵したりかれらチクラグを撃ち火をもて之を燬き 2 其中に居りし婦女を擄にし老たるをも若きをも一人も殺さずして之をひきて其途におもむけり 3 ダビデと其従者邑にいたりて視に邑は火に燬けその妻と男子女子は擄にせられたり 4 ダビデおよびこれとともにある民聲をあげて哭き終に哭く力もなきにいたれり 5 ダビデのふたりの妻すなはちエズレル人アヒノアムとカルメル人ナバルの妻なりしアビガルも虜にせられたり 6 時にダビデ大に心を苦めたり其は民おのおの其男子女子のために氣をいらだてダビデを石にて撃んといひたればなりされどダビデ其神エホバによりておのれをはげませり 7 ダビデ、アヒメレクの子祭司アビヤタルにいひけるは請ふエポデを我にもちきたれとアビヤタル、エポデをダビデにもちきたる 8 ダビデ、エホバに問ていひけるは我此軍の後を追ふべきや我これに追つくことをえんかとエホバかれにこたへたまはく追ふべし爾かならず追つきてたしかに取もどすことをえん 9 ダビデおよびこれともなる六百人の者ゆきてベソル川にいたれり後にのこれる者はここにとどまる 10 即ちダビデ四百人をひきゐて追ゆきしが憊れてベソル川をわたることあたはざる者二百人はとどまれり 11 衆人野にて一人のエジプト人を見これをダビデにひききたりてこれに食物をあたへければ食へりまたこれに水をのませたり 12 すなはち一

段の乾無花果と二球の乾葡萄をこれにあたへたり彼
くらひて其氣ふたび爽かになれりかれは三日三夜
物をもくはず水をものまざりしなり **13** ダビデかれに
いひけるは爾は誰の人なる爾はいづくの者なるやか
れいひけるは我はエジプトの少者にて一人のアマレ
ク人の僕なり三日まへに我疾にかりしゆゑにわが
主人我をすてたり **14** 我らケレテ人の南とユダの地と
カレブの南ををかしめた火をもてチクラグをやけり
15 ダビデかれにいひけるは爾我を此軍にみちびきく
だるやかれいひけるは爾我をころさずまた我をわが
主人の手にわたさざるを神をさして我に誓へ我爾を
此軍にみちびきくだらん **16** かれダビデをみちびきく
だりしが視よ彼等はペリシテ人の地とユダの地より
奪ひたる諸の大なる掠取物のためによるこびて飲食
し踊りつつ地にあまねく散ひろがりて居る **17** ダビデ
暮あひより次日の晩にいたるまでかれらを撃しかば
駱駝にのりて逃げたる四百人の少者の外は一人もの
がれたるもの无りき **18** ダビデはすべてアマレク人の
奪ひたる物を取りもどせり其二人の妻もダビデとり
もどせり **19** 小きも大なるも男子も女子も掠取物もす
べてアマレク人の奪さりし物は一も失はずダビデこ
とごとく取かへせり **20** ダビデまた凡の羊と牛をとれ
り人々この家畜をそのまへに驅きたり是はダビデの
掠取物なりといへり **21** かくてダビデかの憊れてダビ
デにしたがひ得ずしてベッソル川のほとりに止まりし
二百人の者のところにいたるに彼らダビデをいでむ
かへまたダビデとともになる民をいでむかふダビデか
の民にちかづきてその安否をたづぬ **22** ダビデととも
にゆきし人々の中の悪く邪なる者みなこたへていひ

けるは彼等は我らとともにゆかざりければ我らこれに取りもどしたる掠取物をわけあたふべからず唯おのおのにその妻子をあたへてこれをみちびきさらしめん **23** ダビデ言けるはわが兄弟よエホバ我らをまもり我らにせめきたりし軍を我らの手にわたしたまひたれば爾らエホバのわれらにたまひし物をしかするは宜からず **24** 誰か爾らにかかることをゆるさんや戦ひにくだりし者の取る分のごとく輜重のかたはらに止まりし者の取る分もまた然あるべし共にひとしく取るべし **25** この日よりのちダビデこれをイスラエルの法となし例となせり其事今日にいたる **26** ダビデ、チクラグにいたりて其掠取物をユダの長老なる其朋友にわかちおくりて曰しめけるは是はエホバの敵よりとりて爾らにおくる饋物なり **27** ベテルにをるもの南のラモテにをるものヤツテルにをる者 **28** アロエルにをる者シフモテにをるものエシテモにをるもの **29** ラカルにをるものエラメル人の邑にをるものケニ人の邑にをるもの **30** ホルマにをるものコラシヤンにをるものアタクにをるもの **31** ヘブロンにをるものおよびすべてダビデが其従者とともに毎にゆきし所にこれをわかちおくれり

31 ペリシテ人イスラエルと戦ふイスラエルの人々ペリシテ人のまへより逃げ負傷者ギルボア山に斃れたり **2** ペリシテ人サウルと其子等に攻よりペリシテ人サウルの子ヨナタン、アピナダブおよびマルキシユアを殺したり **3** 戦はげしくサウルにせまりて射手の者サウルを射とめければ彼痛く射手の者のために苦しめり **4** サウル武器を執る者にいひけるは爾の劍を抜き其をもて我を刺とほせ恐らくは是等の割禮な

き者きたりて我を刺し我をはづかしめんと然ども武器をとるもの痛くおそれて肯ぜざればサウル劍をとりて其上に伏したり 5 武器を執るものサウルの死たるを見ておのれも劍の上にふしてかれとともに死り 6 かくサウルと其三人の子およびサウルの武器をとるもの並に其従者みな此日俱に死り 7 イスラエルの人々の谷の對向にをるもの及びヨルダンの對面にをるものイスラエルの人々の逃るを見サウルと其子等の死るをみて諸邑を棄て逃ければペリシテ人きたりて其中にをる 8 明日ペリシテ人戰没せる者を剥んとてきたりサウルと其三人の子のギルボア山にたふれを見るを見たり 9 彼等すなはちサウルの首を斬り其鎧甲をはぎとりペリシテ人の地の四方につかはして此好報を其偶像の家および民の中につげしむ 10 またかれら其鎧甲をアシタロテの家におき其體をベテシヤンの城垣に釘けたり 11 ヤベシギレアデの人々ペリシテ人のサウルになしたる事を聞きしかば 12 勇士みなおこり終夜ゆきてサウルの體と其子等の體をベテシヤンの城垣よりとりおろしヤベシにいたりて之を其處に焚き 13 其骨をとりてヤベシの柳樹の下にはうむり七日のあひだ斷食せり

サムエル記II

1 サウルの死し後ダビデ、アマレク人を撃てかへり
チクラグに二日とどまりけるが **2** 第三日に及びて一
個の人其衣を裂き頭に土をかむりて陣營より即ちサ
ウルの所より來りダビデの許にいたり地にふして拝
せり **3** ダビデかれにいひけるは汝いづくより來れる
やかれダビデにいひけるはイスラエルの陣營より逃
れきたれり **4** ダビデかれにいひけるは事いかん請ふ
我につげよかれこたへけるは民戰に敗れて逃げ民お
ほく仆れて死りまたサウルと其子ヨナタンも死り **5**
ダビデ其おのれにつぐる少者にいひけるは汝いかに
してサウルと其子ヨナタンの死たるをしるや **6** ダビ
デにつぐる少者いひけるは我はからずもギルボア山
にのぼり見しにサウル其槍に倚かかりをりて戰車と
騎兵かれにせめよらんとせり **7** 彼うしろにふりむき
て我を見我をよびたれば我こたへて我ここにありと
いふ **8** かれ我に汝は誰なるやといひければ我かれに
こたへて我はアマレク人なりといふ **9** かれまた我に
いひけるはわが身いたく攀ば請ふ我うへのりて我
をころせわが生命なほわれの中にまつたければなり
と **10** 我すなはちかれの上へのりてかれを殺したり其
は我かれが既に仆て生ることをえざるをしりたれば
なりしかして我その首にありし冕とその腕にありし
釧を取りてこれをわが主に携へきたれり **11** 是におい
てダビデおのれの衣を執てこれを裂けりまた彼とと
もにある者も皆しかせり **12** 彼等サウルのためまた其
子ヨナタンのためまたエホバの民のためイスラエル
の家のために哭きかなしみて晩まで食を斷り其は彼
ら劍にたふれたればなり **13** ダビデおのれに告し少者

にいひけるは汝は何處の者なるやかれこたへけるは
我は他國の人すなはちアマレク人なりと 14 ダビデか
れにいひけるは汝なんぞ手をのぼしてエホバの膏そ
そぎし者をころすことを畏ざりしやと 15 ダビデ一人
の少者をよびていひけるは近よりてかれをころせと
すなはちかれをうちければ死り 16 ダビデかれにいひ
けるは汝の血は汝の首に歸せよ其は汝口づから我エ
ホバのあぶらそそぎし者をころせりといひて己にむ
かひて證をたつればなり 17 ダビデ悲歌をもてサウル
と其子ヨナタンを吊ふ 18 ダビデ命じてこれをユダの
族にをしへしむ即ち弓の歌是なり是はヤシル書に記
さる 19 イスラエルよ汝の榮耀は汝の崇邱に殺さる鳴
呼勇士は仆れたるかな 20 此事をガテに告るなかれア
シケロンの邑に傳るなかれ恐くはペリシテ人の女等
喜ばん恐くは割禮を受ざる者の女等樂み祝はん 21 ギ
ルボアの山よ願は汝の上に雨露降ることあらざれ亦
供物の田園もあらざれ其は彼處に勇士の干棄らるれ
ばなり即ちサウルの干膏を沃がずして彼處に棄らる
22 殺せし者の血をのまずしてヨナタンの弓は退かず
勇士の脂を食ずしてサウルの劍は空く歸らず 23 サウ
ルとヨナタンは愛らしく樂げにして生死ともに離れ
ず二人は驚よりも捷く獅子よりも強かりき 24 イスラ
エルの女等よサウルのために哀けサウルは絳き衣を
もて汝等を華麗に粧ひ金の飾を汝等の衣に着たり 25
嗚呼勇士は戰の中に仆たるかなヨナタン汝の崇邱に
殺されぬ 26 兄弟ヨナタンよ我汝のために悲慟む汝は
大に我に樂き者なりき汝の我をいつくしめる愛は尋
常ならず婦の愛にも勝りたり 27 嗚呼勇士は仆たるか
な戰の具は失たるかな

2此のちダビデ、エホバに問ていひけるは我ユダの
ひとつの邑にのぼるべきやエホバかれにいひたまひ
けるはのぼれダビデいひけるは何處にのぼるべきや
エホバいひたまひけるはヘブロンにのぼるべしと **2**
ダビデすなはち彼處にのぼれりその二人の妻エズレ
ル人アヒノアムおよびカルメル人ナバルの妻なりし
アビガルもともにのぼれり **3**ダビデ其おのれととも
にありし従者と其家族をことごとく將のぼりければ
皆ヘブロンにすめり **4**時にユダの人々きたり
彼處にてダビデに膏をそそぎてユダの家の王となせ
り 人々ダビデにつけてサウルを葬りしはヤベシギレ
アデの人なりといひければ **5**ダビデ使者をヤベシギ
レアデの人におくりてこれにいひけるは汝らこの厚
意を汝らの主サウルにあらはしてかれを葬りたれば
ねがはくは汝らエホバより福祉をえよ **6**ねがはくは
エホバ恩寵と眞實を汝等にしめしたまへ汝らこの事
をなしたるにより我亦汝らに此恩恵をしめすなり **7**
されば汝ら手をつよくして勇ましくなれ汝らの主サ
ウルは死たり又ユダの家我に膏をそそぎて我をかれ
らの王となしたればなりと **8**爰にサウルの軍の長ネ
ルの子アブネル、サウルの子イシボセテを取りてこ
れをマナイムにみちびきわたり **9**ギレアデとアシユ
リ人とエズレルとエフライムとベニヤミンとイスラ
エルの衆の王となせり **10**サウルの子イシボセテはイ
スラエルの王となりし時四十歳にして二年のあひだ
位にありしがユダの家はダビデにしたがへり **11**ダビ
デのヘブロンにありてユダの家の王たりし日数は七
年と六ヶ月なりき **12**ネルの子アブネル及びサウルの
子なるイシボセテの臣僕等マハナイムを出てギベオ

ンに至れり **13** セルヤの子ヨアブとダビデの臣僕もいでゆけり彼らギベオンの池の傍にて出會一方は池の此畔に一方は池の彼岸に坐す **14** アブネル、ヨアブにいひけるはいざ少者をして起て我らのまへに戯れしめんヨアブいひけるは起しめんと **15** サウルの子イシボセテに屬するベニヤミンの人其數十二人及びダビデの臣僕十二人起て前み **16** おのおの其敵手の首を執へて劍を其敵手の脅に刺し斯して彼等俱に斃れたり是故に其處はヘルカテハヅリム(利劍の地)と稱らる即ちギベオンにあり **17** 此日戰甚だ烈しくしてアブネルとイスラエルの人々ダビデの臣僕のまへに敗る **18** 其處にゼルヤの三人の子ヨアブ、アビシヤイ、アサヘル居たりしがアサヘルは疾足なること野にをる塵のごとくなりき **19** アサヘル、アブネルの後を追ひけるが行に右左にまがらずアブネルの後をしたふ **20** アブネル後を顧みていふ汝はアサヘルなるか彼しかりと答ふ **21** アブネルかれにいひけるは汝の右か左に轉向て少者の一人を擒へて其戎服を取れと然どアサヘル、アブネルをおふことを罷て外に向ふを肯ぜず **22** アブネルふたたびアサヘルにいふ汝我を追ことをやめて外に向へ我なんぞ汝を地に撃ち仆すべけんや然せば我いかでかわが面を汝の兄ヨアブにむくべけん **23** 然どもかれ外にむかふことをいなむによりアブネル槍の後銛をもてかれの腹を刺しければ槍その背後にいでたりかれ其處にたふれて立時に死り斯しかばアサヘルの仆れて死るところに来る者は皆たちどまれり **24** されどヨアブとアビシヤイはアブネルの後を追きたりしがギベオンの野の道傍にギアの前にあるアンマの山にいたれる時日暮ぬ **25** ベニヤミンの子

孫アブネルにしたがひて集まり一隊となりてひとつの山の頂にたてり 26 爰にアブネル、ヨアブをよびていひけるは刀劍豈永久にほろぼさんや汝其終りには怨恨を結ぶにいたるをしらざるや汝何時まで民に其兄弟を追ふことをやめてかへることを命ぜざるや 27 ヨアブいひけるは神は活く若し汝が言出さざりしならば民はおのおの其兄弟を追はずして今晨のうちにさりゆきしならんと 28 かくてヨアブ喇叭を吹きければ民皆たちどまりて再イスラエルの後を追はずまたかさねて戦はざりき 29 アブネルと其従者終夜アラバを經ゆきてヨルダンを濟りピテロンを通りてマハナイムに至れり 30 ヨアブ、アブネルを追ことをやめて歸り民をことごとく集めたるにダビデの臣僕十九人とアサヘル缺てをらざりき 31 されどダビデの臣僕はベニヤミンとアブネルの従者三百六十人を撃ち殺せり 32 人々アサヘルを取りあげてペテレヘムにある其父の墓に葬るヨアブと其従者は終夜ゆきて黎明にヘブロンにいたれり

3 サウルの家とダビデの家の間の戦争久しかりしがダビデは益強くなりサウルの家はますます弱くなれり 2 ヘブロンにてダビデに男子等生る其首出の子はアムノンといひてエズレル人アヒノアムより生る 3 其次はギレアブといひてカルメル人ナバルの妻なりシアビガルより生る第三はアブサロムといひてゲシユルの王タルマイの女子マアカの子なり 4 第四はアドニヤといひてハギテの子なり第五はシバテヤといひてアビタルの子なり 5 第六はイテレヤムといひてダビデの妻エグラの子なり是等の子ヘブロンにてダビデに生る 6 サウルの家とダビデの家の間に戦争あ

りし間アブネルは堅くサウルの家に荷擔り 7 嚮にサウル一人の妾を有り其名をリヅパといふアヤの女なり愛にイシボセテ、アブネルにいひけるは汝何ぞわが父の妾に通じたるや 8 アブネル甚しくイシボセテの言を怒りていひけるは我今日汝の父サウルの家とその兄弟とその朋友に厚意をあらはし汝をダビデの手にわたさざるに汝今日婦人の過を擧て我を責む我あに犬の首ならんやユダにくみする者ならんや 9 神アブネルに斯なしまたかさねて斯なしたまへエホバのダビデに誓ひたまひしごとく我かれに然なすべし 10 即ち國をサウルの家より移しダビデの位をダンよりベエルシバにいたるまでイスラエルとユダの上にてたてん 11 イシボセテ、アブネルを恐れたればかさねて一言も之にこたふるをえざりき 12 アブネルおのれの代に使者をダビデにつかはしていひけるは此地は誰の所有なるや又いひけるは汝我と契約を爲せ我力を汝に添へてイスラエルを悉く汝に歸せしめん 13 ダビデいひけるは善し我汝と契約をなさん但し我一の事を汝に索む即ち汝來りてわが面を覲る時先づサウルの女ミカルを携きたらざれば我面を覲るを得じと 14 ダビデ使者をサウルの子イシボセテに遣していひけるはわがペリシテ人の陽皮一百を以て聘たるわが妻ミカルを我に交すべし 15 イシボセテ人をつかはしてかれを其夫ライシの子パルテより取しかば 16 其夫哭つつ歩みて其後にしたがひて俱にバホリムにいたりしがアブネルかれに歸り往けといひければすなはち歸りぬ 17 アブネル、イスラエルの長老等と語りていひけるは汝ら前よりダビデを汝らの王となさんことを求め居たり 18 されば今これをなすべし其はエホ

バ、ダビデに付て語りて我わが僕ダビデの手を以てわが民イスラエルをペリシテ人の手よりまたその諸の敵の手より救ひいださんといひたまひたればなりと **19** アブネル亦ベニヤミンの耳に語れりしかしてアブネル自らイスラエルおよびベニヤミンの全家の善とおもふ所をヘブロンにてダビデの耳に告んとて往り **20** すなはちアブネル二十人をしたがへてヘブロンにゆきてダビデの許にいたりければダビデ、アブネルと其したがへる従者のために酒宴を設けたり **21** アブネル、ダビデにいひけるは我起てゆきイスラエルをことごとくわが主王の所に集めて彼等に汝と契約を立しめ汝をして心の望む所の者をことごとく治むるにいたらしめんと是においてダビデ、アブネルを歸してかれ安然に去り **22** 時にダビデの臣僕およびヨアブ人の國を侵して歸り大なる掠取物を携へきたれり然どアブネルはダビデとともにヘブロンにはをらざりき其はダビデかれを歸してかれ安然に去りたればなり **23** ヨアブおよびともにありし軍兵皆かへりきたりしとき人々ヨアブに告ていひけるはネルの子アブネル王の所にきたりしが王かれを返してかれ安然にされりと **24** ヨアブ王に詣りていひけるは汝何を爲したるやアブネル汝の所にきたりしに汝何故にかれを返して去ゆかしめしや **25** 汝ネルの子アブネルが汝を誑かさんとてきたり汝の出入を知りまた汝のすべて爲す所を知んために來りしを知ると **26** かくてヨアブ、ダビデの所より出來り使者をつかはしてアブネルを追しめたれば使者シラの井よりかれを將返れりされどダビデは知ざりき **27** アブネル、ヘブロンに返りしかばヨアブ彼と密に語らんとてかれを門の内に

引きゆき其處にてその腹を刺てこれを殺し己の兄弟
アサヘルをむくいたり 28 其後ダビデ聞いていひけるは我と我國はネルの子アブネルの血につきてエホバのまへに永く罪あることなし 29 其罪はヨアブの首と其父の全家に歸せよねがはくはヨアブの家には白濁を疾ものか癩病人か杖に倚ものか劍に仆るものか食物に乏しき者か絶ゆることあらざれと 30 ヨアブとその弟アビシヤイのアブネルを殺したるは彼がギベオンにて戦陣のうちにおのれの兄弟アサヘルをころせしによれり 31 ダビデ、ヨアブおよびおのれとともにある民にいひけるは汝らの衣服を裂き麻の衣を著てアブネルのために哀哭くべしとダビデ王其棺にしたがふ 32 人衆アブネルをヘブロンに葬れり王聲をあげてアブネルの墓に哭き又民みな哭けり 33 王アブネルの爲に悲の歌を作りて云くアブネル如何にして愚なる人の如くに死けん 34 汝の手は縛もあらず汝の足は鏈にも繫れざりしものを嗚呼汝は悪人のために仆る人のごとくにたふれたり斯て民皆再びかれのために哭けり 35 民みな日のあるうちにダビデにパンを食はしめんとて來りしにダビデ誓ひていひけるは若し日の没まへに我パンにても何にても味ひなば神我にかくなし又重ねて斯なしたまへと 36 民皆見て之を其目に善しとせり凡て王の爲すところの事は皆民の目に善と見えたり 37 其日民すなはちイスラエル皆ネルの子アブネルを殺たるは王の所爲にあらざるを知れり 38 王その臣僕にいひけるは今日一人の大將大人イスラエルに斃る汝らこれをしらざるや 39 我は膏そそがれし王なれども今日尚弱しゼルヤの子等なる此等

の人我には制しがたしエホバ悪をおこな者に其惡に
隨ひて報いたまはん

4 サウルの子はアブネルのヘブロンにて死たるを聞きしかば其手弱くなりてイスラエルみな憂へたり **2** サウルの子隊長二人を有てり其一人をバアナといひ一人をレカブといふベニヤミンの支派なるペロテ人リンモンの子等なり其はペロテも亦ベニヤミンの中に數らるればなり **3** 昔にペロテ人ギツタイムに逃遁れて今日にいたるまで彼處に旅人となりて止まる **4** サウルの子ヨナタンに跛足の子一人ありエズレルよりサウルとヨナタンの事の報いたりし時には五歳なりき其乳媪かれを抱きて逃れたりしが急ぎ逃る時其子墮て跛者となれり其名をメピボセテといふ **5** ペロテ人リンモンの子レカブとバアナゆきて日の熱き頃イシボセテの家にいるにイシボセテ午睡し居たり **6** かれら麥を取らんといひて家の中にいりきたりかれの腹を刺りしかしてレカブと其兄弟バアナ逃げさりぬ **7** 彼等が家にいりしときイシボセテは其寢室にありて床の上に寝たりかれら即ちこれをうちころしこれを馘りて其首級をとり終夜アラバの道をゆきて **8** イシボセテの首級をヘブロンにダビデの許に携へいたりて王にいひけるは汝の生命を求めたる汝の敵サウルの子イシボセテの首を視よエホバ今日我主なる王の仇をサウルと其裔に報いたまへりと **9** ダビデ、ペロテ人リンモンの子レカブと其兄弟バアナに答へていひけるはわが生命を諸の艱難の中に救ひたまひしエホバは生く **10** 我は嘗て人の我に告て視よサウルは死りと言ひて自ら我に善き事を傳ふる者と思ひをりしを執てこれをチクラグに殺し其消息に報いたり

11 況や悪人の義人を其家の床の上に殺したるをやされば我彼の血をながせる罪を汝らに報い汝らをこの地より絶ざるべけんやと 12 ダビデ少者に命じければ少者かれらを殺して其手足を切離しヘブロンの上の池の上に懸たり又イシボセテの首を取りてヘブロンにあるアブネルの墓に葬れり

5 爰にイスラエルの支派咸くヘブロンにきたりダビデにいたりていひけるは視よ我儕は汝の骨肉なり 2 前にサウルが我儕の王たりし時にも汝はイスラエルを率ゐて出入する者なりきしかしてエホバ汝に汝わが民イスラエルを牧養はん汝イスラエルの君長とならんといひたまへりと 3 斯くイスラエルの長老皆ヘブロンにきたり王に詣りければダビデ王ヘブロンにてエホバのまへにかれらと契約をたてたり彼らすなはちダビデに膏を灑でイスラエルの王となす 4 ダビデは王となりし時三十歳にして四十年の間位に在き 5 即ちヘブロンにてユダを治むること七年と六箇月またエルサレムにてイスラエルとユダを全く治むること三十三年なり 6 茲に王其従者とともにエルサレムに往き其地の居民エブス人を攻んとすエブス人ダビデに語りていひけるは汝此に入ること能はざるべし反て盲者跛者汝を追はらはんと是彼らダビデ此に入るあたはずと思へるなり 7 然るにダビデ、シオンの要害を取り是即ちダビデの城邑なり 8 ダビデ其日いひけるは誰にても水道にいたりてエブス人を撃ちまたダビデの心の悪める跛者と盲者を撃つ者は(首となし長となさん)と是によりて人々盲者と跛者は家に入るべからずといひなせり 9 ダビデ其要害に住て之をダビデの城邑と名けたりまたダビデ、ミロ(城塞)よ

り内の四方に建築をなせり **10** かくてダビデはますます大に成りゆき且萬軍の神エホバこれと共にいませり **11** ツロの王ヒラム使者をダビデに遣はして香柏および木匠と石工をおくれり彼らダビデの爲に家を建つ **12** ダビデ、エホバのかたく己をたててイスラエルの王となしたまへるを暁りまたエホバの其民イスラエルのために其國を興したまひしを暁れり **13** ダビデ、ヘブロンより來りし後エルサレムの中よりまた妾と妻を納たれば男子女子またダビデに生る **14** エルサレムにて彼に生れたる者の名はかくのごとしシヤンマ、シヨバブ、ナタン、ソロモン **15** イブハル、エリシユア、ネペグ、ヤピア **16** エリシヤマ、エリアダ、エリバレテ **17** 爰に膏を沃いでダビデをイスラエルの王と爲し事ペリシテ人に聞えければペリシテ人皆ダビデを獲んとて上るダビデ聞て要害に下れり **18** ペリシテ人臻りてレバイムの谷に布き備たり **19** ダビデ、エホバに問ていひけるは我ペリシテ人にむかひて上るべきや汝かれらをわが手に付したまふやエホバ、ダビデにいひたまひけるは上れ我必らずペリシテ人を汝の手にわたさん **20** ダビデ、バアルペラジムに至りかれらを其所に撃ていひけるはエホバ水の破壊り出るとく我敵をわが前に破壊りたまへりと是故に其所の名をバアルペラジム(破壊の處)と呼ぶ **21** 彼處に彼等其偶像を遺たればダビデと其從者これを取あげたり **22** ペリシテ人再び上りてレバイムの谷に布き備へたれば **23** ダビデ、エホバに問にエホバいひたまひけるは上るべからず彼等の後にまはりベカの樹の方より彼等を襲へ **24** 汝ベカの樹の上に進行の音を聞ばすなけち突出づべし其時にはエホバ汝のまへにい

でてペリシテ人の軍を撃たまふべければなりと 25 ダビデ、エホバのおのれに命じたまひしごとくなしペリシテ人を撃てゲバよりガゼルにいたる

6 ダビデ再びイスラエルの選抜の兵士三萬人を悉く集む 2 ダビデ起ておのれと共にをる民とともにバアレユダに往て神の櫃を其處より昇上らんとす其櫃はケルビムの上に坐したまふ萬軍のエホバの名をもて呼る 3 すなはち神の櫃を新しき車に載せて山にあるアビナダブの家より昇だせり 4 アビナダブの子ウザとアヒオ神の櫃を載たる其新しき車を御しアヒオは櫃のまへにゆけり 5 ダビデおよびイスラエルの全家琴と瑟と鼗と鈴と鏡鈸をもちて力を極め謡を歌ひてエホバのまへに躍踴れり 6 彼等がナコンの禾場にいたれる時ウザ手を神の櫃に伸してこれを扶へたり其は牛振たればなり 7 エホバ、ウザにむかひて怒りを發し其誤謬のために彼を其處に撃ちたまひければ彼そこに神の櫃の傍に死ねり 8 エホバ、ウザを撃ちたまひしによりてダビデ怒り其處をペレヅウザ(ウザ撃)と呼り其名今日にいたる 9 其日ダビデ、エホバを畏れていひけるはエホバの櫃いかで我所にいたるべけんやと 10 ダビデ、エホバの櫃を己に移してダビデの城邑にいらしむるを好まず之を轉してガテ人オベデエドムの家にとらしむ 11 エホバの櫃ガテ人オベデエドムの家になること三月なりきエホバ、オベデエドムと其全家を恵みたまふ 12 エホバ神の櫃のためにオベデエドムの家と其所有を皆恵みたまふといふ事ダビデ王に聞えければダビデゆきて喜樂をもて神の櫃をオベデエドムの家よりダビデの城邑に昇上れり 13 エホバの櫃を昇者六歩行] (ゆき) } たる時ダビデ牛

と肥たる者を献げたり **14** ダビデ力を極めてエホバの前に踊躍れり時にダビデ布のエポデを著け居たり **15** ダビデおよびイスラエルの全家歓呼と喇叭の聲をもてエホバの櫃を昇のぼれり **16** 神の櫃ダビデの城邑にいりし時サウルの女ミカル窓より窺ひてダビデ王のエホバのまへに舞躍るを見其心にダビデを蔑視む **17** 人々エホバの櫃を昇入てこれをダビデが其爲に張たる天幕の中なる其所に置きしかしてダビデ燔祭と酬恩祭をエホバのまへに献げたり **18** ダビデ燔祭と酬恩祭を献ぐることを終し時萬軍のエホバの名を以て民を祝せり **19** また民の中即ちイスラエルの衆庶の中に男にも女にも俱にパン一箇 肉一斤 乾葡萄一塊を分ちあたへたり斯て民皆おのおの其家にかへりぬ **20** 爰にダビデ其家族を祝せんとて歸りしかばサウルの女ミカル、ダビデをいでむかへていひけるはイスラエルの王今日如何に威光ありしや自ら遊蕩者の其身を露すがごとく今日其臣僕の婢女のまへに其身を露したまへりと **21** ダビデ、ミカルにいふ我はエホバのまへに即ち汝の父よりもまたその全家よりも我を選みて我をエホバの民イスラエルの首長に命じたまへるエホバのまへに躍れり **22** 我は此よりも尚鄙からんまたみづから賤しと思はん汝が語る婢女等とともにありて我は尊榮をえんと **23** 是故にサウルの女ミカルは死ぬる日まで子あらざりき

7 王其家に住にいたり且エホバ其四方の敵を壊てかれを安らかならしめたまひし時 **2** 王預言者ナタンに云けるは視よ我は香柏の家に住む然ども神の櫃は幔幕の中にあり **3** ナタン王に云けるはエホバ汝と共に在せば往て凡て汝の心にあるところを爲せ **4** 其夜エ

ホバの言ナタンに臨みていはく 5 往てわが僕ダビデに言へエホバ斯く言ふ汝わがために我の住むべき家を建んとするや 6 我はイスラエルの子孫をエジプトより導き出せし時より今日にいたるまで家に住しことなくして但天幕と幕屋の中に歩み居たり 7 我イスラエルの子孫と共に凡て歩める處にて汝ら何故に我に香柏の家を建ざるやとわが命じてわが民イスラエルを牧養しめしイスラエルの士師の一人に一言も語りしことあるや 8 然ば汝わが僕ダビデに斯く言ふべし萬軍のエホバ斯く言ふ我汝を牧場より取り羊に随ふ所より取りてわが民イスラエルの首長となし 9 汝がすべて往くところにて汝と共にあり汝の諸の敵を汝の前より斷さりて地の上の大なる者の名のごとく汝に大なる名を得さしめたり 10 又我わが民イスラエルのために處を定めてかれらを植つけかれらをして自己の處に住て重て動くことなからしめたり 11 また悪人昔のごとくまたわが民イスラエルの上に士師を立てたる時よりの如くふたたび之を惱ますことなかるべし我汝の諸の敵をやぶりて汝を安かならしめたり又エホバ汝に告ぐエホバ汝のために家をたてん 12 汝の日の満て汝が汝の父祖等と共に寝らん時に我汝の身より出る汝の種子を汝の後にたてて其國を堅うせん 13 彼わが名のために家を建ん我永く其國の位を堅うせん 14 我はかれの父となり彼はわが子となるべし彼もし迷はば我人の杖と人の子の鞭を以て之を懲さん 15 されど我の恩恵はわが汝のまへより除きしサウルより離れたるごとくに彼よりは離ることあらじ 16 汝の家と汝の國は汝のまへに永く保つべし汝の位は永く堅うせらるべし 17 ナタン凡て是等の言のご

とくまたすべてこの異象のごとくダビデに語りければ 18 ダビデ王入りてエホバの前に坐していひけるは主エホバよ我は誰わが家は何なればか爾此まで我を導きたまひしや 19 主エホバよ此はなほ汝の目には小き事なり汝また僕の家の遙か後の事を語りたまへり主エホバよ是は人の法なり 20 ダビデ此上何を汝に言ふを得ん其は主エホバ汝僕を知らたまへばなり 21 汝の言のためまた汝の心に随ひて汝此諸の大なることを爲し僕に之をしらしめたまふ 22 故に神エホバよ爾は大なり其は我らが凡て耳に聞る所に依ば汝の如き者なくまた汝の外に神なければなり 23 地の何れの國か汝の民イスラエルの如くなる其は神ゆきてかれらを贖ひ己の民となして大なる名を得たまひまた彼らの爲に大なる畏るべき事を爲したまへばなり即ち汝がエジプトより贖ひ取たまひし民の前より國々の人と其諸神を逐拂ひたまへり 24 汝は汝の民イスラエルをかぎりなく汝の民として汝に定めたまへりエホバよ汝はかれの神となりたまふ 25 されば神エホバよ汝が僕と其家につきて語りたまひし言を永く堅うして汝のいひしごとく爲たまへ 26 ねがはくは永久に汝の名を崇めて萬軍のエホバはイスラエルの神なりと曰しめたまへねがはくは僕ダビデの家をして汝のまへに堅く立しめたまへ 27 其は萬軍のエホバ、イスラエルの神よ汝僕の耳に示して我汝に家をたてんと言たまひたればなり 是故に僕此祈祷を汝に爲す道を心の中に得たり 28 主エホバよ汝は神なり汝の言は眞なり汝この恵を僕に語りたまへり 29 願くは僕の家を祝福て汝のまへに永く続くことを得さしめたまへ其は主エ

ホバ汝これを語りたまへばなりねがはくは汝の祝福によりて僕の家^に永く祝福を蒙らしめたまへ

8 此後ダビデ、ペリシテ人を撃てこれを服すダビデまたペリシテ人の手よりメテグアンマをとれり **2** ダビデまたモアブを撃ち彼らをして地に伏しめ繩をもてかれらを度れり即ち二條の繩をもて死す者を度り一條の繩をもて生しおく者を量度るモアブ人は貢物を納てダビデの臣僕となれり **3** ダビデまたレホブの子なるゾバの王ハダデゼルがユフラテ河の邊にて其勢を新にせんとて往るを撃り **4** しかしてダビデ彼より騎兵千七百人歩兵二萬人を取りまたダビデ一百の車の馬を存して其餘の車馬は皆其筋を切斷り **5** ダマスコのスリア人ゾバの王ハダデゼルを援んとて來りければダビデ、スリア人二萬二千を殺せり **6** しかしてダビデ、ダマスコのスリアに代官を置きぬスリア人は貢物を納てダビデの臣僕となれりエホバ、ダビデを凡て其往く所にて助けたまへり **7** ダビデ、ハダデゼルの臣僕等の持つ金の楯を奪ひてこれをエルサレムに携きたる **8** ダビデ王又ハダデゼルの邑ベタとペロタより甚だ多くの銅を取り **9** 時にハマテの王トイ、ダビデがハダデゼルの總の軍を撃破りしを聞て **10** トイ其子ヨラムをダビデ王につかはし安否を問ひかつ祝を宣しむ其はハダデゼル嘗てトイと戦を爲したるにダビデ、ハダデゼルとたたかひてこれを撃やぶりたればなりヨラム銀の器と金の器と銅の器を携へ來りければ **11** ダビデ王其攻め伏せたる諸の國民の中より取りて納めたる金銀と共に是等をもエホバに納めたり **12** 即ちエドムよりモアブよりアンモンの子孫よりペリシテ人よりアマレクよりえたる物および

ゾバの王レホブの子ハダデゼルより得たる掠取物とともにこれを納めたり 13 ダビデ鹽谷にてエドム人一萬八千を撃て歸て名譽を得たり 14 ダビデ、エドムに代官を置き即ちエドムの全地に徧く代官を置いてエドム人は皆ダビデの臣僕となれりエホバ、ダビデを凡て其往くところにて助け給へり 15 ダビデ、イスラエルの全地を治め其民に公道と正義を行ふ 16 ゼルヤの子ヨアブは軍の長アヒルデの子ヨシヤバテは史官 17 アヒトブの子ザドクとアビヤタルの子アヒメレクは祭司セラヤは書記官 18 エホヤダの子ベナヤはケレテ人およびペレテ人の長ダビデの子等は大臣なりき

9 爰にダビデいひけるはサウルの家の遺存れる者尚あるや我ヨナタンの爲に其人に恩恵をほどこさんと
2 サウルの家の僕なるヂバと名くる者ありければかれをダビデの許に召きたるに王かれにいひけるは汝はヂバなるか彼いふ僕是なり **3** 王いひけるは尚サウルの家の者あるか我其人に神の恩恵をほどこさんとす
ヂバ王にいひけるはヨナタンの子尚あり跛足なり **4** 王かれにいひけるは其人は何處にをるやヂバ王にいひけるはロデバルにてアンミエルの子マキルの家にをる **5** ダビデ王人を遣はしてロデバルより即ちアンミエルの子マキルの家よりかれを携來らしむ **6** サウルの子ヨナタンの子なるメピボセテ、ダビデの所に來り伏て拝せりダビデ、メピボセテよといひければ答て僕此にありと曰ふ **7** ダビデかれにいひけるは恐るるなかれ我必ず汝の父ヨナタンの爲に恩恵を汝にしめさん我汝の父サウルの地を悉く汝に復すべし又汝は恒に我席において食ふべしと **8** かれ拝して言けるは僕何なればか汝死たる犬のごとき我を眷顧たま

ふ 9 王サウルの僕ヂバを呼てこれにいひけるは凡てサウルとその家の物は我皆汝の主人の子にあたへたり 10 汝と汝の子等と汝の僕かれのために地を耕へして汝の主人の子に食ふべき食物を取りきたるべし但し汝の主人の子メピボセテは恒に我席において食ふべしとヂバは十五人の子と二十人の僕あり 11 ヂバ王にいひけるは總て王わが主の僕に命じたまひしごとく僕なすべしとメピボセテは王の子の一人のごとくダビデの席にて食へり 12 メピボセテに一人の若き子あり其名をミカといふヂバの家に住る者は皆メピボセテの僕なりき 13 メピボセテはエルサレムに住みたり其はかれ恒に王の席にて食ひたればなりかれは兩の足ともに跛たる者なり

10 此後アンモンの子孫の王死て其子ハヌン之に代りて位に即く 2 ダビデ我ナハシの子ハヌンにその父の我に恩恵を示せしごとく恩恵を示さんといひてダビデかれを其父の故によりて慰めんとて其僕を遣せりダビデの僕アンモンの子孫の地にいたるに 3 アンモンの子孫の諸伯其主ハヌンにいひけるはダビデ慰者を汝に遣はしたるによりて彼汝の父を崇むと汝の目に見ゆるやダビデ此城邑を窺ひこれを探りて陥れんために其僕を汝に遣はせるにあらずや 4 是においてハヌン、ダビデの僕を執へ其鬚の半を剃り落し其衣服を中より斷て股までにしてこれを歸せり 5 人々これをダビデに告たればダビデ人を遣はしてかれらを迎へしむ其人々大に恥たればなり即ち王いふ汝ら鬚の長るまでエリコに止まりて然るのち歸るべしと 6 アンモンの子孫自己のダビデに悪まるるを見しかばアンモンの子孫人を遣はしてベテレホブのスリ

ア人とゾバのスリア人の歩兵二萬人およびマアカの王より一千人トブの人より一萬二千人を雇いれたり 7 ダビデ聞てヨアブと勇士の惣軍を遣はせり 8 アンモンの子孫出て門の入口に軍の陣列をなしたりゾバとレホブのスリア人およびトブの人とマアカの人は別に野に居り 9 ヨアブ戦の前後より己に向ふを見てイスラエルの選抜の兵の中を極めてこれをスリア人に對ひて備へしめ 10 其餘の民をば其兄弟アビシヤイの手に交してアンモンの子孫に向て備へしめて 11 いひけるは若スリア人我に手強からば汝我を助けよ若アンモンの子孫汝に手剛からば我ゆきて汝をたすけん 12 汝勇ましくなれよ我ら民のためとわれらの神の諸邑のために勇しく爲んねがはくはエホバ其目によしと見ゆるところをなしたまへ 13 ヨアブ己と共に在る民と共にスリア人にむかひて戦んとて近づきければスリア人彼のまへより逃たり 14 アンモンの子孫スリア人の逃たるを見て亦自己等もアビシヤイのまへより逃て城邑にいりぬヨアブすなはちアンモンの子孫の所より還りてエルサレムにいたる 15 スリア人其イスラエルのまへに敗れたるを見て俱にあつまれり 16 ハダデゼル人をやりて河の前岸にをるスリア人を將ゐ出して皆へラムにきたらしむハダデゼルの軍の長シヨバクかれらを率ゐたり 17 其事ダビデに聞えければ彼イスラエルを悉く集めてヨルダンを渉りてへラムに來れりスリア人ダビデに向ひて備へ之と戦ふ 18 スリア人イスラエルのまへより逃げればダビデ、スリアの兵車の人七百騎兵四萬を殺し又其軍の長シヨバクを撃てこれを其所に死しめたり 19 ハダデゼルの臣なる王等其イスラエルのまへに壞れたるを見てイ

スラエルと平和をなして之に事へたりススリア人は
恐れて再びアンモンの子孫を助くることをせざりき

11年歸りて王等の戦に出る時におよびてダビデ、
ヨアブおよび自己の臣僕並にイスラエルの全軍を遣
はせり彼等アンモンの子孫を滅ぼしてラバを圍めり
されどダビデはエルサレムに止りぬ **2**爰に夕暮にダ
ビデ其床より興きいでて王の家の屋蓋のうへに歩み
しが屋蓋より一人の婦人の體をあらふを見たり其婦
は觀るに甚だ美し **3**ダビデ人を遣して婦人を探らし
めしに或人いふ此はエリアムの女ハテシバにてヘテ
人ウリヤの妻なるにあらずやと **4**ダビデ乃ち使者を
遣はして其婦を取る婦彼に來りて彼婦と寝たりしか
して婦其不潔を清めて家に歸りぬ **5**かくて婦孕みけ
れば人をつかはしてダビデに告ていひけるは我子を
孕めりと **6**是においてダビデ人をヨアブにつかはし
てヘテ人ウリヤを我に遣はせといひければヨアブ、
ウリヤをダビデに遣はせり **7**ウリヤ、ダビデにいた
りしかばダビデこれにヨアブの如何なると民の如何
なると戦争の如何なるを問ふ **8**しかしてダビデ、ウ
リヤにいひけるは汝の家に下りて足を洗へとウリヤ
王の家を出るに王の贈物其後に從ひてきたる **9**然ど
ウリヤは王の家の門に其主の僕等とともに寝ておの
れの家にくだりいたらず **10**人々ダビデに告てウリヤ
其家にくだり至らずといひければダビデ、ウリヤに
いひけるは汝は旅路をなして來れるにあらずや何故
に自己の家にくだらざるや **11**ウリヤ、ダビデにいひ
けるは櫃とイスラエルとユダは小屋の中に住まりわ
が主ヨアブとわが主の僕は野の表に陣を取るに我い
かでわが家にゆきて食ひ飲しまた妻と寝べけけんや

汝は生きた汝の靈魂は活く我此事をなさじ 12 ダビデ、ウリヤにいふ今日も此にとどまれ明日我汝を去しめんとウリヤ其日と次の日エルサレムにとどまりしが 13 ダビデかれを召て其まへに食ひ飲せしめダビデかれを酔しめたり晩にいたりて彼出て其床に其主の僕と共に寝たりされどおのれの家にはくだりゆかざりき 14 朝におよびてダビデ、ヨアブへの書を認めて之をウリヤの手によりて遣れり 15 ダビデ其書に書ていはく汝らウリヤを烈しき戦の先鋒にいだしてかれの後より退きて彼をして戦死せしめよ 16 是においてヨアブ城邑を窺ひてウリヤをば其勇士の居ると知る所に置り 17 城邑の人出てヨアブと戦ひしかばダビデの僕の中の數人仆れへて人ウリヤも死り 18 ヨアブ人をつかはして軍の事を悉くダビデに告げしむ 19 ヨアブ其使者に命じていひけるは汝が軍の事を皆王に語り終しとき 20 王もし怒りを發して汝に汝らなんぞ戦はんとて城邑に近づきしや汝らは彼らが石墻の上より射ることを知らざりしや 21 エルベセテの子アビメレクを撃し者は誰なるや一人の婦が石垣の上より磨の上石を投て彼をテベツに殺せしにあらずや何ぞ汝ら城垣に近づきしやと言はば汝言べし汝の僕へて人ウリヤもまた死りと 22 使者ゆきてダビデにいたりヨアブが遣はしたるところのことをことごとく告げたり 23 使者ダビデにいひけるは敵我儕に手強かりしが城外にいでて我儕にいたりしかば我儕これに迫りて門の入口にまでいたれり 24 時に射手の者城垣の上より汝の僕を射たりければ王の僕の或者死に亦汝の僕へて人ウリヤも死りと 25 ダビデ使者にいひけるは斯汝ヨアブに言べし此事を憂ふるなかれ刀劍は此をも

彼をも同じく殺すなり強く城邑を攻て戦ひ之を陥いるべしと汝かくヨアブを勵ますべし 26 ウリヤの妻其夫ウリヤの死たるを聞て夫のために悲哀り 27 其喪の過し時ダビデ人を遣はしてかれをおのれの家を召いる彼すなはちその妻となりて男子を生り但しダビデの爲たる此事はエホバの目に悪かりき

12 エホバ、ナタンをダビデに遣はしたまへば彼ダビデに至りてこれにいひけるは一の邑に二箇の人あり一は富て一は貧し 2 其富者は甚だ多くの羊と牛を有り 3 されど貧者は唯自己の買て育てたる一の小き牝羊の外は何をも有ざりき其牝羊彼およびかれの子女とともに生長ちかれの食物を食ひかれの椀に飲みまた彼の懷に寝て彼には女子のごとくなりき 4 時に一人の旅人其富る人の許に來りけるが彼おのれの羊と牛の中を取りてそのおのれに來れる旅人のために烹を惜みてかの貧き人の牝羊を取りて之をおのれに來れる人のために烹たり 5 ダビデ其人の事を大に怒りてナタンにいひけるはエホバは生く誠に此をなしたる人は死べきなり 6 且彼此事をなしたるに因りまた憐憫まざりしによりて其牝羊を四倍になして償ふべし 7 ナタン、ダビデにいひけるは汝は其人なりイスラエルの神エホバ斯いひたまふ我汝に膏を沃いでイスラエルの王となし我汝をサウルの手より救ひいだし 8 汝に汝の主人の家をあたへ汝の主人の諸妻を汝の懷に與へまたイスラエルとユダの家を汝に與へたり若し少からば我汝に種々の物を増くはへしならん 9 何ぞ汝エホバの言を藐視じて其目のまへに惡をなせしや汝刃劍をもてへテ人ウリヤを殺し其妻をとりて汝の妻となせり即ちアンモンの子孫の劍をもて

彼を斬殺せり 10 汝我を軽んじてヘテ人ウリヤの妻を
とり汝の妻となしたるに因て劍何時までも汝の家を
離ることなかるべし 11 エホバ斯いひたまふ視よ我
汝の家の中より汝の上に禍を起すべし我汝の諸妻を
汝の目のまへに取て汝の隣人に與へん其人此日のま
へにて汝の諸妻とともに寝ん 12 其は汝は密に事をな
したれど我はイスラエルの衆のまへと日のまへに此
事をなすべければなりと 13 ダビデ、ナタンにいふ我
エホバに罪を犯したりナタン、ダビデにいひけるは
エホバまた汝の罪を除きたまへり汝死ざるべし 14 さ
れど汝此所行によりてエホバの敵に大なる罵る機會
を與へたれば汝に生れし其子必ず死べしと 15 かくて
ナタン其家にかへれり 爰にエホバ、ウリヤの妻がダ
ビデに生る子を撃たまひければ痛く疾めり 16 ダビデ
其子のために神に乞求む即ちダビデ斷食して入り終
夜地に臥したり 17 ダビデの家の年寄等彼の傍に立ち
てかれを地より起しめんとせしかども彼肯ぜず又か
れらとともに食を爲ざりき 18 第七日に其子死りダビ
デの僕其子の死たることをダビデに告ることを恐れ
たりかれらいひけるは子の尚生る間に我儕彼に語た
りしに彼我儕の言を聽いれざりき如何ぞ彼に其子の
死たるを告ぐべけんや彼害を爲んと 19 然にダビデ其
僕の私語くを見てダビデ其子の死たるを曉れりダビ
デ乃ち其僕に子は死たるやといひければかれら死り
といふ 20 是においてダビデ地よりおきあがり身を洗
ひ膏をぬり其衣服を更てエホバの家にいりて拝し自
己の家に至り求めておのれのために食を備へしめて
食へり 21 僕等彼にいひけるは此の汝がなせる所は何
事なるや汝子の生るあひだはこれがために斷食して

哭きながら子の死る時に汝は起て食を爲すと 22 ダビデいひけるは嬰孩の尚生るあひだにわが斷食して哭きたるは我誰かエホバの我を憐れみて此子を生しめたまふを知んと思ひたればなり 23 されど今死たれば我なんぞ斷食すべけんや我再びかれをかへらしむるを得んや我かれの所に往べけれど彼は私の所にかへらざるべし 24 ダビデ其妻バテシバを慰めかれの所にいりてかれとともに寝たりければ彼男子を生りダビデ其名をソロモンと呼ぶエホバこれを愛したまひて 25 預言者ナタンを遣はし其名をエホバの故によりてエデデア(エホバの愛する者)と名けしめたまふ 26 爰にヨアブ、アンモンの子孫のラバを攻めて王城を取れり 27 ヨアブ使者をダビデにつかはしていひけるは我ラバを攻て水城を取れり 28 されば汝今餘の民を集め斯城に向て陣どりて之を取れ恐らくは我此城を取て人我名をもて之を呼にいたらんと 29 是においてダビデ民を悉くあつめてラバにゆき攻て之を取り 30 しかしてダビデ、アンモン王の冕を其首より取はなしたり其金の重は一タラントなりまた寶石を嵌たりこれをダビデの首に置ダビデ其邑の掠取物を甚だ多く持出せり 31 かくてダビデ其中の民を將いだしてこれを鋸と鐵の千齒と鐵の斧にて斬りまた瓦陶の中を通行しめたり彼斯のごとくアンモンの子孫の凡ての城邑になせりしかしてダビデと民は皆エルサレムに還りぬ

13 此後ダビデの子アブサロムにタマルと名くる美しき妹ありしがダビデの子アムノンこれを戀ひたり 2 アムノン心を苦しめて遂に其姉妹タマルのためにわづらへり其はタマルは處女なりければアムノンかれ

に何事をも爲しがたしと思ひたればなり 3 然るにアムノンに一人の朋友ありダビデの兄弟シメアの子にして其名をヨナダブといふヨナダブに甚だ有智き人なり 4 彼アムノンにいひけるは汝王の子なんぞ日に日に斯く瘦ゆくや汝我に告ざるやアムノン彼にいひけるは我わが兄弟アブサロムの妹タマルを戀ふ 5 ヨナダブかれにいひけるは床に臥て病と伴り汝の父の來りて汝を見る時これにいへ請ふわが妹タマルをして來りて我に食を予へしめわが見て彼の手より食ふことをうる様にわが目のまへにて食物を調理しめよと 6 アムノンすなはち臥して病と伴りしが王の來りておのれを見る時アムノン王にいひけるは請ふ吾妹タマルをして來りてわが目のまへにて二の菓子を作へしめて我にかれの手より食ふことを得さしめよと 7 是においてダビデ、タマルの家にいひつかはしけるは汝の兄アムノンの家にゆきてかれのために食物を調理よと 8 タマル其兄アムノンの家にいたるにアムノンは臥し居たりタマル乃ち粉をとりて之を搏てかれの目のまへにて菓子を作へ其菓子を焼き 9 鍋を取て彼のまへに傾出たりしかれども彼食ふことを否めりしかしてアムノンいひけるは汝ら皆我を離れていでよと皆かれをはなれていでたり 10 アムノン、タマルにいひけるは食物を寢室に持きたれ我汝の手より食はんとタマル乃ち己の作りたる菓子を取りて寢室に持ゆきて其兄アムノンにいたる 11 タマル彼に食しめんとて近く持いたれる時彼タマルを執へて之にいひけるは妹よ來りて我と寝よ 12 タマルかれにいひける否兄上よ我を辱しむるなかれ是のごとき事はイスラエルに行はれず汝此愚なる事をなすべからず 13 我

は何處にわが恥辱を棄んか汝はイスラエルの愚人の一人となるべしされば請ふ王に語れ彼我を汝に予ざることなかるべしと **14** 然どもアムノン其言を聽ずしてタマルよりも力ありければタマルを辱しめてこれと偕に寝たりしが **15** 遂にアムノン甚だ深くタマルを惡むにいたる其かれを惡む所の惡みはかれを戀ひたるところの戀よりも大なり即ちアムノンかれにいひけるは起て往けよ **16** かれアムノンにいひけるは我を返して此惡を作るなかれ是は汝がさきに我になしたる所の惡よりも大なりとしかれども聽いれず **17** 其側に仕ふる少者を呼ていひけるは汝此女をわが許より遣りいだして其後に戸を鍵せと **18** タマル振袖を着ゐたり王の女等の處女なるものは斯のごとき衣服をもて粧ひたりアムノンの侍者かれを外にいだして其後に戸を鍵せり **19** タマル灰を其首に蒙り着たる振袖を裂き手を首にのせて呼はりつつ去ゆけり **20** 其兄アブサロムかれにいひけるは汝の兄アムノン汝と偕に在しや然ど妹よ黙せよ彼は汝の兄なり此事を心に留るなかれとかくてタマルは其兄アブサロムの家に凄しく住み居れり **21** ダビデ王是等の事を悉く聞て甚だ怒れり **22** アブサロムはアムノンにむかひて善も惡きも語ざりき其はアブサロム、アムノンを惡みたればたり是はかれがおのれの妹タマルを辱しめたるに由り **23** 全二年の後アブサロム、エフライムの邊なるバアルハズルにて羊の毛を剪しめ居て王の諸子を悉く招けり **24** アブサロム王の所にいりていひけるは視よ僕羊の毛を剪しめをるねがはくは王と王の僕等僕とともに來りたまへ **25** 王アブサロムに云けるは否わが子よ我儕を皆いたらしむるなかれおそらくは汝の費を

多くせんアブサロム、ダビデを強ふしかれどもダビ
デ往ことを肯ぜずして彼を祝せり 26 アブサロムいひ
けるは若しからずば請ふわが兄アムノンをして我ら
とともに來らしめよ王かれにいひけるは彼なんぞ汝
とともにゆくべけんやと 27 されどアブサロムかれを
強ければアムノンと王の諸子を皆アブサロムととも
にゆかしめたり 28 爰にアブサロム其少者等に命じて
いひけるは請ふ汝らアムノンの心の酒によりて樂む
時を視すましてわが汝等にアムノンを撃てと言ふ時
に彼を殺せ懼るるなかれ汝等に之を命じたるは我に
あらずや汝ら勇しく武くなれと 29 アブサロムの少者
等アブサロムの命ぜしごとくアムノンになしければ
王の諸子皆起て各其騾馬に乗て逃たり 30 彼等が路に
ある時風聞ダビデにいたりていはくアブサロム王の
諸子を悉く殺して一人も遺るものなしと 31 王乃ち起
ち其衣を裂きて地に臥す其臣僕皆衣を裂て其傍にた
てり 32 ダビデの兄弟シメアの子ヨナダブ答へていひ
けるは吾主よ王の御子等なる少年を皆殺したりと思
たまふなかれアムノン獨り死のみ彼がアブサロム
の妹タマルを辱かしめたる日よりアブサロム此事を
さだめおきたるなり 33 されば吾主王よ王の御子等皆
死るといひて此事をおもひ煩ひたまふなかれアムノ
ン獨死たるなればなりと 34 斯てアブサロムは逃れた
り爰に守望ある少者目をあげて視たるに視よ山の
傍よりして己の後の道より多くの人來れり 35 ヨナダ
ブ王にいひけるは視よ王の御子等來る僕のいへるが
ごとくしかりと 36 彼語ることを終し時視よ王の子等
來り聲をあげて哭り王と其僕等も皆大に甚く哭り 37
儲アブサロムは逃てゲシユルの王アミホデの子タル

マイにいたるダビデは日々其子のために悲めり 38 ア
ブサロム逃てゲシユルにゆき三年彼處に居たり 39 ダ
ビデ王アブサロムに逢んと思ひ煩らふ其はアムノン
は死たるによりてダビデかれの事はあきらめたれば
なり

14 ゼルヤの子ヨアブ王の心のアブサロムに趣くを
知れり 2 ヨアブ乃ちテコアに人を遣りて彼處より一
人の哲婦を呼きたらしめて其婦にいひけるは請ふ汝
喪にある眞似して喪の服を着油む身にぬらず死者の
ために久しく哀しめる婦のごとく爲りて 3 王の所に
いたり是のごとくかれに語るべしとヨアブ其語言を
かれの口に授けたり 4 テコアの婦王にいたり地に伏
て拝し王にいひけるは王よ助けたまへ 5 王婦にひけ
るは何事なるや婦いひけるは我は實に嫠婦にしてわ
が夫は死り 6 仕女に二人の子あり俱に野に争ひしが
誰もかれらを排解ものなきにより此遂に彼を撃て殺
せり 7 是において視よ全家仕女に逼りていふ其兄弟
を撃殺したる者を付せ我らかれをその殺したる兄弟
の生命のために殺さんと斯く嗣子をも滅ぼし存れる
わが炭火を熄てわが夫の名をも遺存をも地の面に無
らしめんとす 8 王婦にいひけるは汝の家に往け我汝
の事につきて命令を下さん 9 テコアの婦王にいひけ
るは王わが主よねがはくは其罪は我とわが父の家に
歸して王と王の位には罪あらざれ 10 王いひけるは誰
にても爾に語る者をば我に將來れしかせば彼かさね
て爾に觸ること无るべし 11 婦いひけるは願くは王爾
の神エホバを憶えてかの仇を報ゆる者をして重て滅
すことを爲しめず我子を斷ことなからしめたまへと
王いひけるはエホバは生く爾の子の髪の毛一すぢも地

に隕ることなかるべし **12** 婦いひけるは請ふ仕女をして一言わが主王に言しめたまへダビデいひけるは言ふべし **13** 婦いひけるは爾なんぞ斯る事を神の民にむかひて思ひたるや王此言を言ふにより王は罪ある者のごとし其は王その放れたる者を歸らしめざればなり **14** 抑我儕は死ざるべからず我儕は地に瀉れたる水の再び聚る能はざるがごとし神は生命を取りたまはず方法を設けて其放れたる者をして己の所より放たれをることなからしむ **15** 我此事を王我主に言んとて來れるは民我を恐れしめたればなり故に仕女謂らく王に言ん王婢の言を行ひたまふならんと **16** 其は王聞て我とわが子を共に滅して神の産業に離れしめんとする人の手より婢を救ひいだしたまふべければなり **17** 仕女また思り王わが主の言は慰となるべしと其は神の使のごとく王わが主は善も悪も聽たまへばなりねがはくは爾の神エホバ爾と共に在せと **18** 王こたへて婦にいひけるは請ふわが爾に問んところの事を我に隠すなかれ婦いふ請ふ王わが主言たまへ **19** 王いひけるは比すべての事においてはヨアブの手爾とともにあるや婦答へていひけるは爾の靈魂は活く王わが主よ凡て王わが主の言たまひしところは右にも左にもまがらず皆に爾の僕ヨアブ我に命じ是等の言を悉く仕女の口に授けたり **20** 其事の見ゆるところを變んとて爾の僕ヨアブ此事をなしたるなり然どわが主は神の使の智慧のごとく智慧ありて地にある事を悉く知たまふと **21** 是において王ヨアブにいひけるは視よ我此事を爲すされば往て少年アブサロムを携歸るべし **22** ヨアブ地に伏し拝し王を祝せりしかしてヨアブいひけるは王わが主よ王僕の言を行ひたまへば今日

僕わが爾に恵るるを知ると 23 ヨアブ乃ち起てゲシユルに往きアブサロムをエルサレムに携きたれり 24 王いひけるは彼は其家に退くべしわが面を見るべからずと故にアブサロム己の家に退きて王の面を觀ざりき 25 諸イスラエルの中にアブサロムのごとく其美貌のために讃られたる人はなかりき其足の跣より頭の頂にいたるまで彼には瑕疵あることなし 26 アブサロム其頭を剪る時其頭の髪を衡るに王の權衡の二百シケルあり毎年の終にアブサロム其頭を剪り是は己の重によりて剪たるなり 27 アブサロムに三人の男子と一人のタマルといふ女子生れたりタマルは美女なり 28 アブサロム二年のあひだエルサレムにをりたれども王の顔を見ざりき 29 是によりてアブサロム王に遣さんとてヨアブを呼に遣はしけるが彼來ることを肯ぜず再び遣せしかども來ることを肯ぜざりき 30 アブサロム其僕にいひけるは視よヨアブの田地は我の近くにありて其處に大麥あり往て其に火を放てとアブサロムの僕等田地に火を放てり 31 ヨアブ起てアブサロムの家に來りてこれにいひけるは何故に爾の僕等田地に火を放たるや 32 アブサロム、ヨアブにいひけるは我人を爾に遣はして此に來れ我爾を王につかはさんと語り即ち爾をして王に我何のためにゲシユルよりきたりしや彼處に尚あらば我ためには反て善しと言しめんとせり然ば我今王の面を見ん若し我に罪あらば王我を殺すべし 33 ヨアブ王にいたりてこれに告たれば王アブサロムを召す彼王にいたりて王のまへに地に伏て拝せり王アブサロムに接吻す

15 此後アブサロム己のために戰車と馬ならびに己のまへに驅る者五十人を備たり 2 アブサロム夙く興

きて門の途の傍にたち人の訴訟ありて王に裁判を求めんとて來る時はアブサロム其人を呼ていふ爾は何の邑の者なるやと其人僕はイスラエルの某の支派の者なりといへば **3** アブサロム其人にいふ見よ爾の事は善くまた正し然ど爾に聽くべき人は王いまだ立ずと **4** アブサロム又嗚呼我を此地の士師となす者もがな然れば凡て訴訟と公事ある者は我に來りて我之に公義を爲しあたへんといふ **5** また人彼を拝せんとて近づく時は彼手をのばして其人を扶け之に接吻す **6** アブサロム凡て王に裁判を求めんとて來るイスラエル人に是のごとくなせり斯アブサロムはイスラエルの人々の心を取り **7** 斯て四年の後アブサロム王にいひけるは請ふ我をして往てヘブロンにてエホバに我嘗て立し願を果さしめよ **8** 其は僕スリアのゲシユルに居し時願を立て若しエホバ誠に我をエルサレムに携歸りたまはば我エホバに事へんと言たればなりと **9** 王かれにいひけるは安然に往けと彼すなはち起てヘブロンに往り **10** しかしてアブサロム窺ふ者をイスラエルの支派の中に徧く遣はして言せけるは爾等喇叭の音を聞ばアブサロム、ヘブロンにて王となれりと思ふべしと **11** 二百人の招かれたる者エルサレムよりアブサロムとともにゆけり彼らは何心なくゆきて何事をもしらざりき **12** アブサロム犠牲をささぐる時にダビデの議官ギロ人アヒトペルを其邑ギロより呼よせたり徒黨強くして民次第にアブサロムに加はりぬ **13** 爰に使者ダビデに來りてイスラエルの人の心アブサロムにしたがふといふ **14** ダビデおのれと共にエルサレムに居る凡ての僕にいひけるは起てよ我ら逃ん然らずば我らアブサロムより遁るるあたはざるべし

急ぎ往け恐らくは彼急ぎて我らに追ひつき我儕に害を蒙らせ刃をもて邑を撃ん 15 王の僕等王にいひけるは視よ僕等王わが主の選ぶところを凡て爲ん 16 王いでゆき其全家これにしたがふ王十人の妾なる婦を遺して家をまもらしむ 17 王いでゆき民みな之にしたがふ彼等遠の家に息めり 18 かれの僕等みな其傍に進みケレテ人とペレテ人および彼にしたがひてガテよりきたれる六百人のガテ人みな王のまへに進めり 19 時に王がガテ人イツタイにいひけるは何ゆゑに爾もまた我らとともにゆくや爾かへりて王とともにをれ爾は外國人にして移住て處をもとむる者なり 20 爾は昨日來れり我は今日わが得るところに往くなれば豈爾をして我らとともにさまよはしむべけんや爾歸り爾の兄弟をも携歸るべしねがはくは恩と眞實爾とともにあれ 21 イツタイ王に答へていひけるはエホバは活く王わが主は活く誠に王わが主いかなる處に坐すとも生死ともに僕もまた其處に居るべし 22 ダビデ、イツタイにいひけるは進みゆけガテ人イツタイ乃ち進みかれのすべての從者およびかれとともにある妻子皆進めり 23 國中皆大聲をあげて哭き民皆進む王もまたキデロン川を渡りて進み民皆進みて野の道におもむけり 24 視よザドクおよび俱にあるレビ人もまた皆神の契約の櫃を昇ていたり神の櫃をおろして民の悉く邑よりいづるをまてりアピヤタルもまたのぼれり 25 ここに王ザドクにいひけるは神の櫃を邑に昇もどせ若し我エホバのまへに恩をうるならばエホバ我を携かへりて我にこれを見し其往處を見したまはん 26 されどエホバもし汝を悦ばずと斯いひたまはば視よ我は此にあり其目に善と見ゆるところを我になした

まへ **27** 王また祭司ザドクにいひけるは汝先見者汝らの二人の子即ち汝の子アヒマアズとアビヤタルの子ヨナタンを伴ひて安然に城邑に歸れ **28** 見よ我は汝より言のきたりて我に告るまで野の渡場に留まらんと **29** ザドクとアビヤタルすなはち神の櫃をエルサレムに舁もどりて彼處に止まれり **30** ここにダビデ橄欖山の路を陟りしが陟るときに哭き其首を蒙みて跣足にて行りかれと俱にある民皆各其首を蒙みてのぼり哭つつのぼれり **31** 時にアヒトペルがアブサロムに與せる者の中にあることダビデに聞えければダビデいふエホバねがはくはアヒトペルの計策を愚ならしめたまへと **32** ダビデ嶺にある神を拝する處に至れる時視よアルキ人ホシヤイ衣を裂き土を頭にかむりてきたりてダビデを迎ふ **33** ダビデかれにいひけるは爾若し我とともに進まば我の負となるべし **34** されど汝もし城邑にかへりてアブサロムにむかひ王よ我爾の僕となるべし此まで爾の父の僕たりしごとく今また汝の僕となるべしといはば爾はわがためにアヒトペルの計策を敗るにいたらん **35** 祭司ザドクとアビヤタル爾とともに彼處にあるにあらずや是故に爾が王の家より聞たる事はことごとく祭司ザドクとアビヤタルに告べし **36** 視よかれらとともに彼處にはその二人の子即ちザドクの子アヒマアズとアビヤタルの子ヨナタンをるなり爾ら其聞たる事をことごとく彼等の手によりて我に通ずべし **37** ダビデの友ホシヤイすなはち城邑にいたりぬ時にアブサロムはエルサレムに入居たり

16 ダビデ少しく嶺を過ゆける時視よメピボセテの僕ヂバ鞍おける二頭の驢馬を引き其上にパン二百乾

葡萄一百球乾棗の團塊一百酒一囊を載きたりてダビ
デを迎ふ 2 王ヂバにいひけるは此等は何なるかヂバ
いひけるは驢馬は王の家族の乗るためパンと乾棗は
少者の食ふため酒は野に困憊たる者の飲むためなり
3 王いひけるは爾の主人の子は何處にあるやヂバ王に
いひけるはかれはエルサレムに止まる其は彼イスラ
エルの家今日我父の國を我にかへさんと言をればなり
4 王ヂバにいひけるは視よメピボセテの所有は悉
く爾の所有となるべしヂバいひけるは我拝す王わが
主よ我をして爾のまへに恩を蒙むらしめたまへ 5 斯
てダビデ王バホルムにいたるに視よ彼處よりサウル
の家の族の者一人出きたる其名をシメイといふゲラ
の子なり彼出きたりて來りつつ詛へり 6 又彼ダビデ
とダビデ王の諸の臣僕にむかひて石を投たり時に民
と勇士皆王の左右にあり 7 シメイ詛の中に斯いへり
汝血を流す人よ爾邪なる人よ出され出され 8 爾が代
りて位に登りしサウルの家の血を凡てエホバ爾に歸
したまへりエホバ國を爾の子アブサロムの手につし
たまへり視よ爾は血を流す人なるによりて禍患の中
にあるなり 9 ゼルヤの子アビシヤイ王にいひけるは
此死たる犬なんぞ王わが主を詛ふべけんや請ふ我を
して涉りゆきてかれの首を取しめよ 10 王いひけるは
ゼルヤの子等よ爾らの與るところにあらず彼の詛ふ
はエホバ彼にダビデを詛へと言たまひたるによるな
れば誰か爾なんぞ然するやと言べけんや 11 ダビデ又
アビシヤイおよび己の諸の臣僕にいひけるは視よわ
が身より出たるわが子わが生命を求む況や此ベニヤ
ミン人をや彼を聽して詛はしめよエホバ彼に命じた
まへるなり 12 エホバわが艱難を俯視みたまふことあ

らん又エホバ今日彼の詛のために我に善を報いたまふことあらんと 13 斯てダビデと其従者途を行けるにシメイはダビデに對へる山の傍に行て行つつ詛ひまた彼にむかひて石を投げ塵を揚たり 14 王および俱にある民皆アエピムに來りて彼處に息をつげり 15 諸アブサロムと總ての民イスラエルの人々エルサレムに至れりアヒトベルもアブサロムとともにいたる 16 ダビデの友なるアルキ人ホシヤイ、アブサロムの許に來りし時アブサロムにいふ願くは王壽かれ願くは王壽かれ 17 アブサロム、ホシヤイにいひけるは此は爾が其友に示す厚意なるや爾なんぞ爾の友と往ざるやと 18 ホシヤイ、アブサロムにいひけるは然らずエホバと此民とイスラエルの總の人々の選む者に我は屬し且其人とともに居るべし 19 且又我誰に事ふべきか其子の前に事べきにあらずや我は爾の父のまへに事しごとく爾のまへに事べし 20 爰にアブサロム、アヒトベルにいひけるは我儕如何に爲べきか爾等計を爲すべしと 21 アヒトベル、アブサロムにいひけるは爾の父が遺して家を守らしむる妾等の處に入れ然ばイスラエル皆爾が其父に惡まるるを聞ん而して爾とともにをる總の者の手強くなるべしと 22 是において屋脊にアブサロムのために天幕を張ければアブサロム、イスラエルの目のまへにて其父の妾等の處に入りぬ 23 當時アヒトベルが謀れる謀計は神の言に問たるごとくなりきアヒトベルの謀計は皆ダビデとアブサロムとに俱に是のごとく見えたりき

17 時にアヒトベル、アブサロムにいひけるは請ふ我に一萬二千の人を擇み出さしめよ我起て今夜ダビデの後を追ひ 2 彼が憊れて手弱なりし所を襲ふて彼

をおびえしめん而して彼とともにをる民の逃ん時に
我王一人を撃とり 3 總の民を爾に歸せしむべし夫衆
の歸するは爾が求むる此人に依なれば民みな平穩に
なるべし 4 此言アブサロムの目とイスラエルの總の
長老の目に的當と見えたり 5 アブサロムいひけるは
アルキ人ホシヤイをも召きたれ我等彼が言ふ所をも
聞んと 6 ホシヤイ乃ちアブサロムに至るにアブサロ
ムかれにかたりていひけるはアヒトペル是のごとく
言り我等其言を爲べきか若し可ずば爾言ふべし 7 ホ
シヤイ、アブサロムにいひけるは此時にあたりてア
ヒトペルが授けし計略は善らず 8 ホシヤイまたいひ
けるは爾の知るごとく爾の父と其從者は勇士なり且
彼等は野にて其子を奪れたる熊の如く其氣激怒をれ
り又爾の父は戰士なれば民と共に宿らざるべし 9 彼
は今何の穴にか何の處にか匿れをる若し數人の者手
始に仆なば其を聞く者は皆アブサロムに従ふ者の中
に敗ありと言はん 10 しからば獅子の心のごとき心あ
る勇猛き夫といふとも全く挫碎ん其はイスラエル皆
爾の父の勇士にして彼とともにある者の勇猛き人な
るをしればなり 11 我は計議るイスラエルをダンより
ベエルシバにいたるまで海濱の沙の多きが如くに悉
く爾の處につどへ集めて爾親ら戰陣に臨むべし 12 我
等彼の見出さるる處にて彼を襲ひ露の地に下るがご
とく彼のうへに降らんしかして彼および彼とともに
あるすべての人々を一人も遺さざるべし 13 若し彼何
かの城邑に集らばイスラエル皆繩を其城邑にかけ我
等これを河に曳きたふして其處に一の小石も見えざ
らしむべしと 14 アブサロムとイスラエルの人々皆ア
ルキ人ホシヤイの謀計はアヒトペルの謀計よりも善

しといふ其はエホバ、アブサロムに禍を降さんとて
エホバ、アヒトペルの善き謀計を破ることを定めた
まひたればなり **15** 爰にホシヤイ祭司ザドクとアビヤ
タルにいひけるはアヒトペル、アブサロムとイスラ
エルの長老等のために斯々に謀れりきた我は斯々に
謀れり **16** されば爾ら速に人を遣してダビデに告て今
夜野の渡場に宿ることなく速に渡りゆけといへおそ
らくは王および俱にある民皆呑つくされん **17** 時にヨ
ナタンとアヒマアズはエンロゲルに俟居たり是は城
邑にいるを見られざらんとてなり爰に一人の仕女ゆ
きて彼等に告げければ彼らダビデ王に告んとて往く
18 しかるに一人の少者かれらを見てアブザロムにつ
げたりされど彼等二人は急ぎさりてバホルムの或人
の家にとりて其人の庭に井ありてかれら其處にくだ
りければ **19** 婦蓋をとりて井の口のうへに掩け其上に
擣たる麥をひろげたり故に事知れざりき **20** 時にアブ
サロムの僕等其婦の家に来りていひけるはアヒマア
ズとヨナタンは何處にをるや婦かれらに彼人々は小
川を濟れりといふかれら尋ねたれども見當ざればエ
ルサレムに歸れり **21** 彼等が去し時かの二人は井より
のぼりて往てダビデ王に告げたり即ちダビデに言け
るは起て速かに水を濟れ其はアヒトペル斯爾等につ
いて謀計を爲したればなりと **22** ダビデ起て己ととも
にある凡ての民とともにヨルダンを濟れり曙には一
人もヨルダンを濟らざる者はなかりき **23** アヒトペル
は其謀計の行れざるを見て其驢馬に鞍おき起て其邑
に往て其家にいたり家の人に遺言して自ら縊れ死て
其父の墓に葬らる **24** 爰にダビデ、マナハイムに至る
又アブサロムは己とともにあるイスラエルの凡の人

々とともにヨルダンを濟れり 25 アブサロム、アマサをヨアブの代りに軍の長と爲りアマサは夫のナハシの女にてヨアブの母ゼルヤの妹なるアビガルに通じたるイシマエル人名はエテルといふ人の子なり 26 かくてイスラエルとアブサロムはギレアデの地に陣どれり 27 ダビデ、マハナイムにいたれる時アンモンの子孫の中なるラバのナハシの子シヨピとロデバルのアンミエルの子マキルおよびロゲリムのギレアデ人バルジライ 28 臥床と鍋釜と陶器と小麦と大麦と粉と烘麥と豆と小豆の烘たる者と 29 蜜と牛酪と羊と犢をダビデおよび俱にある民の食ふために持來れり其は彼等民は野にて饑憊れ渴くならんと謂たればなり

18 爰にダビデ己とともにある民を核べて其上に千夫の長百夫の長を立たり 2 しかしてダビデ民を三に分ちて其一をヨアブの手に託け一をゼルヤの子ヨアブの兄弟アビシヤイの手に託け一をガテ人イツタイの手に託けたりかくして王民にいひけるは我もまた必ず汝らとともに出んと 3 されど民いふ汝は出べからず我儕如何に逃るとも彼等は我儕に心をとめじ又我儕半死とも我儕に心をとめざるべしされど汝は我儕の一萬に等し故に汝は城邑の中より我儕を助けなば善し 4 王かれらにいひけるは汝等の目に善と見ゆるところを爲すべしとかくて王門の傍に立ち民皆或は百人或は千人となりて出づ 5 王ヨアブ、アビシヤイおよびイツタイに命じてわがために少年アブサロムを寛に待へよといふ王のアブサロムの事について諸の將官に命を下せる時民皆聞り 6 爰に民イスラエルにむかひて野に出でエフライムの叢林に戦ひしが 7 イスラエルの民其處にてダビデの臣僕のまへに敗る

其日彼處の戦死大にして二萬にいたれり 8 しかして
戦徧く其地の表に廣がりぬ是日叢林の滅ぼせる者は
刀劔の滅ぼせる者よりも多かりき 9 爰にアブサロム
、ダビデの臣僕に行き遭り時にアブサロム騾馬に乗
居たりしが騾馬大なる橡樹の繁き枝の下を過ければ
アブサロムの頭其橡に繋りて彼天地のあひだにあが
れり騾馬はかれの下より行過たり 10 一箇の人見てヨ
アブに告ていひけるは我アブサロムが橡樹に懸りを
るを見たりと 11 ヨアブ其告たる人にいひけるはさら
ば爾見て何故に彼を其處にて地に撃落さざりしや我
爾に銀十枚と一本の帶を與へんものを 12 其人ヨアブ
にいひけるは假令わが手に銀千枚を受べきも我は手
をいだして王の子に敵せじ其は王我儕の聞るまへに
て爾とアビシヤイとイツタイに命じて爾ら各少年ア
ブサロムを害するなかれといひたまひたればなり 13
我若し反いてかれの生命を戕賊はば何事も王に隠る
る所なければ爾自ら立て我を責んと 14 時にヨアブ我
かく爾とともに滞るべからずといひて手に三本の槍
を携へゆきて彼の橡樹の中に尚生をるアブサロムの
胸に之を衝通せり 15 ヨアブの武器を執る十人の少者
繞きてアブサロムを撃ち之を死しめたり 16 かくてヨ
アブ喇叭を吹ければ民イスラエルの後を追ふことを
息てかへれりヨアブ民を止めたればなり 17 衆アブサ
ロムを將て叢林の中なる大なる穴に投げいれ其上に
甚だ大きく石を疊あげたり是においてイスラエル皆
おのおの其天幕に逃かへれり 18 アブサロム我はわが
名を傳ふべき子なしと言て其生る間に己のために一
の表柱を建たり王の谷にあり彼おのれの名を其表柱
に與たり其表柱今日にいたるまでアブサロムの碑と

稱らる 19 爰にザドクの子アヒマアズいひけるは請ふ我をして趨りて王にエホバの王をまもりて其敵の手を免かれしめたまひし音信を傳へしめよと 20 ヨアブかれにいひけるは汝は今日音信を傳ふるものとなるべからず他日に音信を傳ふべし今日は王の子死たれば汝音信を傳ふべからず 21 ヨアブ、クシ人にいひけるは往て爾が見たる所を王に告よクシ人ヨアブに禮をなして走れり 22 ザドクの子アヒマアズ再びヨアブにいひけるは請ふ何にもあれ我をも亦クシ人の後より走ゆかしめよヨアブいひけるは我子よ爾は充分の音信を持ちざるに何故に走りゆかんとするや 23 かれいふ何れにもあれ我をして走りゆかしめよとヨアブかれにいふ走るべし是においてアヒマアズ低地の路をはしりてクシ人を走越たり 24 時にダビデは二の門の間に坐しむたり爰に守望者門の蓋上にのぼり石墻にのぼりて其目を擧て見るに視よ獨一人にて走きたる者あり 25 守望者呼はりて王に告ければ王いふ若し獨ならば口に音信を持つならんと其人進み來りて近づけり 26 守望者復一人の走りきたるを見しかば守望者守門者に呼はりて言ふ獨一人にて走きたる者あり王いふ其人もまた音信を持ものなり 27 守望者言ふ我先者の走を見るにザドクの子アヒマアズの走るが如しと王いひけるは彼は善人なり善き音信を持來るならん 28 アヒマアズ呼はりて王にいひけるはねがはくは平安なれとかくて王のまへに地に伏していふ爾の神エホバは讚べきかなエホバかの手をあげて王わが主に敵したる人々を付したまへり 29 王いひけるは少年アブサロムは平安なるやアヒマアズこたへけるは王の僕ヨアブ僕を遣はせし時我大なる噪を見たれども

何をも知らざるなり 30 王いひけるは側にいたりて其處に立よと乃ち側にいたりて立つ 31 時に視よクシ人來れりクシ人いひけるはねがはくは王音信を受たまへエホバ今日爾をまもりて凡て爾にたち逆ふ者の手を免かれしめたまへり 32 王クシ人にいひけるは少年アブサロムは平安なるやクシ人いひけるはねがはくは王わが主の敵および凡て汝に起ち逆ひて害をなさんとする者は彼少年のごとくなれと 33 王大に感み門の樓にのぼりて哭り彼行ながらかくいへりわが子アブサロムよわが子わが子アブサロムよ嗚呼われ汝に代りて死たらん者をアブサロムわが子よわが子よ

19 時にヨアブに告る者ありていふ視よ王はアブサロムの爲に哭き悲しむと 2 其日の勝利は凡の民の悲哀となれり其は民其日王は其子のために憂ふと言ふを聞たればなり 3 其日民は戦争に逃て羞たる民の竊て去がごとく竊て城邑にいりぬ 4 王は其面を掩へり王大聲に叫てわが子アブサロムよアブサロムわが子よわが子よといふ 5 ここにヨアブ家にいり王の許にいたりていひけるは汝今日汝の生命と汝の男子汝の女子の生命および汝の妻等の生命と汝の妾等の生命を救ひたる汝の凡の臣僕の顔を羞させたり 6 是は汝おのれを惡む者を愛しおのれを愛する者を惡むなり汝今日汝が諸侯伯をも諸僕をも顧みざるを示せり今日我さとり若しアブサロム生をりて我儕皆死たらば汝の目に適ひしならん 7 されど今立て出で汝の諸僕を慰めてかたるべし我エホバを指て誓ふ汝若し出ずば今夜一人も汝とともに止るものなかるべし是は汝が若き時より今にいたるまでに蒙りたる諸の災禍よりも汝に惡かるべし 8 是に於て王たちて門に坐す人

々凡の民に告て視よ王は門に坐し居るといひければ
民皆王のまへにいたる然どイスラエルはおのむの其
天幕に逃かへれり 9 イスラエルの諸の支派の中に民
皆争ひていひけるは王は我儕を敵の手より救ひいだ
しまた我儕をペリシテ人の手より助けいだせりされ
ど今はアブサロムのために國を逃いでたり 10 また我
儕が膏そそぎて我儕の上にかきしアブサロムは戦争
に死ねりされば爾ら何ぞ王を導きかへらんことと言
ざるや 11 ダビデ王祭司ザドクとアビヤタルに言つか
はしけるはユダの長老等に告て言へイスラエルの全
家の言語王の家に達せしに爾ら何ぞ王を其家に導き
かへる最後となるや 12 爾等はわが兄弟爾らはわが骨
肉なりしかるになんぞ爾等王を導き歸る最後となる
やと 13 又アマサに言べし爾はわが骨肉にあらずや爾
ヨアブにかはりて常にわがまへにて軍長たるべし若
しからずば神我に斯なし又重ねてかくなしたまへと
14 かくダビデ、ユダの凡の人をして其心を傾けて一
人のごとくにならしめければかれら王にねがはくは
爾および爾の諸の臣僕歸りたまへといひおくれり 15
是において王歸りてヨルダンにいたるにユダの人々
王を迎へんとて來りてギルガルにいたり王を送りて
ヨルダンを濟らんとす 16 時にバホリムのベニヤミン
人ゲラの子シメイ急ぎてユダの人々とともに下りダ
ビデ王を逐ふ 17 一千のベニヤミン人彼とともにあり
亦サウルの家の僕ヂバも其十五人の男子と二十人の
僕をしたがへて偕に居たりしが皆王のまへにむかひ
てヨルダンをこぎ渡れり 18 時に王の家族を濟しまた
王の目に善と見ゆるところを爲んとて濟舟を濟せり
爰にゲラの子シメイ、ヨルダンを濟れる時王のまへ

に伏して 19 王にいひけるはわが主よねがはくは罪を
我に歸するなかれまた王わが主のエルサレムより出
たまへる日に僕が爲たる悪き事を記憶えたまふなか
れねがはくは王これを心に置たまふなかれ 20 其は僕
我罪を犯したるを知ればなり故に視よ我今日ヨセフ
の全家の最初に下り來りて王わが主を逐ふと 21 然に
ゼルヤの子アビシヤイ答へていひけるはシメイはエ
ホバの膏そそぎし者を誣たるに因て其がために誅さ
るべきにあらずやと 22 ダビデいひけるは爾らゼルヤ
の子よ爾らのあづかるところにあらず爾等今日我に
敵となる今日豈イスラエルの中にて人を誅すべけん
や我豈わが今日イスラエルの王となりたるをしらざ
らんやと 23 是をもて王はシメイに爾は誅されじとい
ひて王かれに誓へり 24 爰にサウルの子メピボセテ下
りて王をむかふ彼は王の去し日より安かに歸れる日
まで其足を飾らず其鬚を飾らず又其衣を濯ざりき 26
彼エルサレムよりきたりて王を逐ふる時王かれにい
ひけるはメピボセテ爾なんぞ我とともに往ざりしや
彼こたへけるはわが主王よわが僕我を欺けり僕はわ
れ驢馬に鞍おきて其に乗て王の處にゆかんといへり
僕跛者なればなり 27 しかるに彼僕を王わが主に讒言
せり然ども王わが主は神の使のごとし故に爾の目に
善と見るところを爲たまへ 28 わが父の全家は王わが
主のまへには死人なるのみなるに爾僕を爾の席にて
食ふ者の中に置たまへりされば我何の理ありてか重
ねて王に哀訴ることをえん 29 王かれにいひけるは爾
なんぞ重ねて爾の事を言や我いふ爾とゼバ其地を分
つべし 30 メピボセテ王にいひけるは王わが主安然に
其家に歸りたまひたればかれに之を悉くとらしめた

まへと 31 爰にギレアデ人バルジライ、ロゲリムより下り王を送りてヨルダンを渡らんとて王とともにヨルダンを濟れり 32 バルジライは甚だ老たる人にて八十歳なりきかれは甚だ大なる人なれば王のマハナムに留れる間王を養へり 33 王バルジライにいひけるは爾我とともに濟り來れ我エルサレムにて爾を我とともに養はん 34 バルジライ王にいひけるはわが生命の年の日尚幾何ありてか我王とともにエルサレムに上らんや 35 我は今日八十歳なり善きと惡きとを辨へるをえんや僕其食ふところと飲ところを味ふをえんや我再び謳歌之男と謳歌之女の聲を聽えんや僕なんぞ尚王わが主の累となるべけんや 36 僕は王とともにヨルダンを濟りて只少しくゆかん王なんぞこの報賞を我に報ゆるに及ばんや 37 請ふ僕を歸らしめよ我自己の邑にてわが父母の墓の側に死ん但し僕キムハムを視たまへかれを王わが主とともに濟り往しめたまへ又爾の目に善と見る所を彼になしたまへ 38 王いひけるはキムハム我とともに濟り往くべし我爾の目に善と見ゆる所をかれに爲ん又爾が望みて我に求むる所は皆我爾のために爲すべしと 39 民皆ヨルダンを濟れり王渡りし時王バルジライに接吻してこれを祝す彼遂に己の所に歸れり 40 かくて王ギルガルに進むにキムハムかれとともに進めりユダの民皆王を送れりイスラエルの民の半も亦しかり 41 是にイスラエルの民皆王の所にいたりて王にいひけるは我儕の兄弟なるユダの人々何故に爾を竊みさり王と其家族およびダビデとともに其凡の從者を送りてヨルダンを濟りしやと 42 ユダの人々皆イスラエルの民に對へていふ王は我に近きが故なり爾なんぞ此事について

怒るや我儕王の物を食ひしことあるや王我儕に賜物を與へたることあるや 43 イスラエルの人ユダの人に對ていひけるは我は王のうちに十の分を有ち亦ダビデのうちにも我は爾よりも多を有つなりしかるに爾なんぞ我らを軽じたるやわが王を導きかへらんと言しは我最初なるにあらずやとされどユダの人々の言はイスラエルの人々の言よりも厲しかりき

20 愛に一人の邪なる人あり其名をシバといビクリの子にしてベニヤミン人なり彼喇叭を吹ていひけるは我儕はダビデの中に分なし又エサイの子のうちに産業なしイスラエルよ各人其天幕に歸れよと 2 是によりてイスラエルの人皆ダビデに随ふことを止てのぼりビクリの子シバにしたがへり然どユダの人々は其王に附てヨルダンよりエルサレムにいたれり 3 ダビデ、エルサレムにある己の家にとりて王其遺して家を守らせたる妾なる十人の婦をとりてこれを一の室に守り置て養へりされどかれらの處には入ざりき斯かれらは死る日まで閉こめられて生涯嫠婦にてすごせり 4 愛に王アマサにいひけるは我ために三日のうちにユダの人々を召きたれしかして爾此處にをれ 5 アマサ乃ちユダを召あつめんとて往たりしが彼ダビデが定めたる期よりも長く留れり 6 是においてダビデ、アビシヤイにいひけるはビクリの子シバ今我儕にアブサロムよりもおほくの害をなさんとす爾の主の臣僕を率ゐて彼の後を追へ恐らくは彼堅固なる城邑を獲て我儕の目を逃れんと 7 是によりてヨアブの従者とケレテ人とペレテ人および都の勇士彼にしたがびて出たり即ち彼等エルサレムより出てビクリの子シバの後を追ふ 8 彼等がギベオンにある大石の傍

に居りし時アマサかれらにむかひ來れり時にヨアブ
戎衣に帯を結て衣服となし其上に刀を鞘にをさめ腰
に結びて帯び居たりしが其劍脱け墮ちたり 9 ヨアブ
、アマサにわが兄弟よ爾は平康なるやといひて右の
手をもてアマサの鬚を將て彼に接吻せんとせしが 10
アマサはヨアブの手にある劍に意を留ざりければヨ
アブ其をもてアマサの腹を刺して其腸を地に流しい
だし重ねて撃に及ばざらしめてこれをころせり かく
てヨアブと其兄弟アビシヤイ、ピクリの子シバの後
を追い 11 時にヨアブの少者の一人アマサの側にたち
ていふヨアブを助くる者とダビデに附従ものはヨア
ブの後に隨へと 12 アマサは血に染て大路の中に轉び
居たり斯人民の皆立どまるを見てアマサを大路より
田に移したるが其側にいたれる者皆見て立ちとまり
ければ衣を其上にかけたり 13 アマサ大路より移され
ければ人皆ヨアブにしたがひ進みてピクリの子シバ
の後を追ふ 14 彼イスラエルの凡の支派の中を行てア
ベルとベテマアカに至るに少年皆集りて亦かれにし
たがひゆけり 15 かくて彼等來りて彼をアベル、ベテ
マアカに圍み城邑にむかひて壘を築けり是は壕の中
にたてりかくしてヨアブとともにある民皆石垣を崩
さんとてこれを撃居りしが 16 一箇の哲き婦城邑より
呼はりていふ爾ら聽よ爾ら聽よ請ふ爾らヨアブに此
に近よれ我爾に言んと言へと 17 かれ其婦にちかよる
に婦いひけるは爾はヨアブなるやかれ然りといひけ
れば婦彼にいふ婢の言を聽けかれ我聽くといふ 18 婦
即ち語りていひけるは昔人々誠に語りて人必ずアベ
ルにおいて索問べしといひて事を終ふ 19 我はイスラ
エルの中の平和なる忠義なる者なりしかるに爾はイ

スラルの中にて母ともいふべき城邑を滅さんことを
求む何ゆゑに爾エホバの産業を呑み盡さんとするや
20 ヨアブ答へていひけるは決めてしからず決めてし
からずわれ呑み盡し或は滅ぼさんとする事なし **21**
其事しからずエフライムの山地の人ピクリの子名は
シバといふ者手を擧て王ダビデに敵せり爾ら只彼一
人を付せ然らば我此邑をさらんと婦ヨアブにいひけ
るは視よ彼の首級は石垣の上より爾に投いだすべし
22 かくて婦其智慧をもて凡の民の所にいたりければ
かれらピクリの子シバの首級を刎てヨアブの所に投
出せり是においてヨアブ喇叭を吹ならしければ人々
散て邑より退きておのおの其天幕に還りぬヨアブは
エルサレムにかへりて王の處にいたれり **23** ヨアブは
イスラエルの全軍の長なりエホヤダの子ベナヤはケ
レテ人とペレテ人の長なり **24** アドラムは徴募長なり
アヒルデの子ヨシヤパテは史官なり **25** シワは書記官
なりザドクとアビヤタルは祭司なり **26** 亦ヤイル人イ
ラはダビデの大臣なり

21 ダビデの世に年復年と三年饑饉ありければダビ
デ、エホバに問にエホバ言たまひけるは是はサウル
と血を流せる其家のためなり其は彼嘗てギベオン人
を殺したればなりと **2** 是において王ギベオン人を召
てかれらにいへりギベオン人はイスラエルの子孫に
あらずアモリ人の殘餘なりしがイスラエルの子孫昔
彼等に誓をなしたり然るにサウル、イスラエルとユ
ダの子孫に熱心なるよりして彼等を殺さんと求めたり
3 即ちダビデ、ギベオン人にいひけるは我汝等の
ために何を爲すべきか我何の賠償を爲さば汝等エホ
バの産業を祝するや **4** ギベオン人彼にいひけるは我

儕はサウルと其家の金銀を取じ又汝は我らのために
イスラエルの中の人一人をも殺すなかれダビデいひ
けるは汝等が言ふ所は我汝らのために爲ん 5 彼等王
にいひけるは我儕を滅したる人我儕を殲してイスラ
エルの境の中に居留ざらしめんとて我儕にむかひて
謀を設けし人 6 請ふ其人の子孫七人を我儕に與へよ
我儕エホバの選みたるサウルのギベアにて彼等をエ
ホバのまへに懸ん王いふ我與ふべしと 7 されど王サ
ウルの子ヨナタンの子なるメピボセテを惜めり是は
彼等のあひだ即ちダビデとサウルの子ヨナタンとの
間にエホバを指して爲る誓あるに因り 8 されど王ア
ヤの女リヅパがサウルに生し二人の子アルモニとメ
ピボセテおよびサウルの女メラブがメホラ人バルジ
ライの子アデリエルに生し五人の子を取りて 9 かれ
らをギベオン人の手に與へければギベオン人かれら
を山の上にてエホバの前に懸たり彼等七人俱に斃れ
て刈穫の初日即ち大麥刈の初時に死り 10 アヤの女リ
ヅパ麻布を取りて刈穫の初時より其屍上に天より雨
ふるまでこれをおのれのために磐の上に布きおきて
晝は空の鳥を屍の上に止らしめず夜は野の獣をちか
よらしめざりき 11 爰にアヤの女サウルの妾リヅパの
爲しことダビデに聞えければ 12 ダビデ往てサウルの
骨と其子ヨナタンの骨をヤベシギレアデの人々の所
より取り是はペリシテ人がサウルをギルボアに殺し
てベテシヤンの衢に懸たるをかれらが竊みさりたる
ものなり 13 ダビデ其處よりサウルの骨と其子ヨナ
タンの骨を携へ上れりまた人々其懸られたる者等の骨
を斂たり 14 かくてサウルと其子ヨナタンの骨をベニ
ヤミンの地のゼラにて其父キシの墓に葬り都て王の

命じたる所を爲り比より後神其地のため祈祷を聽たまへり **15** ペリシテ人復イスラエルと戦争を爲すダビデ其臣僕とともに下りてペリシテ人と戦ひけるがダビデ困憊居りければ **16** イシビベノブ、ダビデを殺さんと思へり(イシビベノブは巨人の子等の一人にて其槍の銅の重は三百シケルあり彼新しき劔を帶たり) **17** しかれどもゼルヤの子アビシャイ、ダビデを助けて其ペリシテ人を撃ち殺せり是においてダビデの従者かれに誓ひていひけるは汝は再我儕と共に戦争に出べからず恐らくは爾イスラエルの燈光を消さんと **18** 此後再びゴブにおいてペリシテ人と戦あり時にホシヤ人シベカイ巨人の子等の一人なるサフを殺せり **19** 爰に復ゴブにてペリシテ人と戦あり其處にてベテレヘム人ヤレオレギムの子エルハナン、ガテのゴリアテの兄弟ラミを殺せり其槍の柄は機の梁の如くなりき **20** 又ガテに戦ありしが其處に一人の身長き人あり手には各六の指あり足には各六の指ありて其數合せて二十四なり彼もまた巨人の生る者なり **21** 彼イスラエルを挑みしかばダビデに兄弟シメアの子ヨナタン彼を殺せり **22** 是らの四人はガテにて巨人の生るものなりしがダビデの手と其臣僕の手に斃れたり

22 ダビデ、エホバが己を諸の敵の手とサウルの手より救ひいだしたまへる日に此歌の言をエホバに陳たり曰く **2** エホバはわが巖わが要害我を救ふ者 **3** わが磐の神なりわれ彼に倚頼むエホバはわが干わが救の角わが高櫓わが逃躲處わが救主なり爾我をすくひて暴き事を免れしめたまふ **4** 我ほめまつるべきエホバに呼はりてわが敵より救はる **5** 死の波涛われを繞み邪曲なる者の河われをおそれしむ **6** 冥府の繩われ

をとりまき死の機檻われにのぞめり (Sheol h7585) 7 われ艱難のうちにエホバをよびまたわが神に顛れりエホバ其殿よりわが聲をききたまひわが喊呼其耳にいたりぬ 8 爰に地震ひ撼き天の基動き震へりそは彼怒りたまへばなり 9 烟其鼻より出てのぼり火その口より出て焼きつくしおこれる炭かれより燃いづ 10 彼天を傾けて下りたまふ黒雲その足の下にあり 11 ケルブに乗て飛び風の翼の上にあらはれ 12 其周圍に黑暗をおき集まれる水密雲を幕としたまふ 13 そのまへの光より炭火燃いづ 14 エホバ天より雷をくだし最高者聲をいだし 15 又箭をはなちて彼等をちらし電をはなちて彼等をうちやぶりたまへり 16 エホバの叱咤とその鼻の氣吹の風によりて海の底あらはれいで地の基あらはになりぬ 17 エホバ上より手をたれて我をとり洪水の中より我を引あげ 18 またわが勁き敵および我をにくむ者より我をすくひたまへり彼等は我よりも強かりければなり 19 彼等はわが菑災の日にわれに臨めりされどエホバわが支柱となり 20 我を廣き處にひきいだしわれを喜ぶがゆゑに我をすくひたまへり 21 エホバわが義にしたがひて我に報い吾手の清潔にしたがひて我に酬したまへり 22 其はわれエホバの道をまもり悪をなしてわが神に離しことなればなり 23 その律例は皆わがまへにあり其法憲は我これを離れざるなり 24 われ神にむかひて完全かり又身を守りて悪を避たり 25 故にエホバわが義にしたがひ其目のまへにわが潔白あるに循ひてわれに報いたまへり 26 矜恤者には爾矜恤ある者のごとくし完全人には爾完全者のごとくし 27 潔白者には爾潔白もののごとくし邪曲者には爾嚴刻者のごとくしたまふ 28 難る民は爾これを

救たまふ然ど矜高者は爾の目見て之を卑したまふ 29
エホバ爾はわが燈火なりエホバわが暗をてらしたま
ふ 30 われ爾によりて軍隊の中を驅とほりわが神に由
て石垣を飛こゆ 31 神は其道まつたしエホバの言は純
粋なし彼は都て己に倚頼む者の干となりたまふ 32 夫
エホバのほか誰か神たらん我儕の神のほか孰か磐た
らん 33 神はわが強き堅衆にてわが道を全うし 34 わ
が足を塵の如くなし我をわが崇邱に立しめたまふ 35
神わが手に戦を教へたまへばわが腕は銅の弓をも挽
を得 36 爾我に爾の救の干を與へ爾の慈悲われを大な
らしめたまふ 37 爾わが身の下の歩を恢廓しめたまへ
ば我蹠ふるはず 38 われわが敵を追て之をほろぼし之
を絶すまではかへらず 39 われ彼等を絶し彼等を破碎
ば彼等たちえずわが足の下にたふる 40 汝戦のために
力をもて我に帶しめ又われに逆ふ者をわが下に拝跪
しめたまふ 41 爾わが敵をして我に後を見せしめたま
ふ我を惡む者はわれ之をほろぼさん 42 彼等環視せど
救ふ者なしエホバを仰視ど彼等に應たまはず 43 地の
塵の如くわれ彼等をうちくだき又衢間の泥のごとく
われ彼等をふみにぢる 44 爾われをわが民の争闘より
救ひ又われをまもりて異邦人等の首長となしたまふ
わが知ざる民我につかふ 45 異邦人等は我に媚び耳に
聞と均しく我にしたがふ 46 異邦人等は衰へ其衛所よ
り戦慄て出づ 47 エホバは活る者なりわが磐は讚べき
かなわが救の磐の神はあがめまつるべし 48 此神われ
に仇を報いしめ國々の民をわが下にくだらしめたま
ひ 49 又わが敵の中よりわれを出し我にさからふ者の
上に我をあげまた強暴人の許よりわれを救ひいだし
たまふ 50 是故にエホバよわれ異邦人等のうちに爾を

ほめ爾の名を稱へん 51 エホバその王の救をおほいに
しその受膏者なるダビデと其裔に永久に恩を施した
まふなり

23 ダビデの最後の言は是なりエサイの子ダビデの
詔言即ち高く擧られし人ヤコブの神に膏をそそがれ
し者イスラエルの善き歌人の詔言 2 エホバの靈わが
中にありて言たまふ其諭言わが舌にあり 3 イスラエ
ルの神いひたまふイスラエルの磐われに語たまふ人
を正く治むる者神を畏れて治むる者は 4 日の出の朝
の光のごとく雲なき朝のごとく又雨の後の日の光明
によりて地に茁いづる新草ごとし 5 わが家かく神と
ともにあるにあらずや神萬具備りて鞏固なる永久の
契約を我になしたまへり吾が救と喜を皆いかで生ぜ
しめたまはざらんや 6 しかれども邪なる者は荆棘の
ごとくにして手をもて取がたければ皆ともにすてら
れん 7 之にふるる人は鐵と槍の柯とを其身に備ふべ
し是は火にやけて焼たゆるにいたらん 8 是等はダビ
デの勇士の名なりタクモニ人ヤシヨベアムは三人衆
の長なりしが一時八百人にむかひて槍を揮ひて之を
殺せり 9 彼の次はアホア人ドドの子エルアザルにし
て三勇士の中の者なり彼其處に戦はんとて集まれる
ペリシテ人にむかひて戦を挑みイスラエルの人々の
進みのぼれる時にダビデとともに居たりしが 10 たち
てペリシテ人を撃ち終に其手疲て其手劍に固着て離
れざるにいたれり此日エホバ大なる救拯を行ひたま
ふ民は彼の跡にしたがひゆきて只褌取而已なりき 11
彼の次はハラリ人アゲの子シャンマなり一時ペリシ
テ人一隊となりて集まれり彼處に扁豆の満たる地の
處あり民ペリシテ人のまへより逃たるに 12 彼其地の

中に立て禦ぎペリシテ人を殺せりしかしてエホバ大なる救拯を行ひたまふ 13刈穫の時に三十人衆の首長なる三人下りてアドラムの洞穴に往てダビデに詣れり時にペリシテ人の隊レパイムの谷に陣どれり 14其時ダビデは要害に居りペリシテ人の先陣はベテレヘムにあり 15ダビデ慕ひていひけるは誰かベテレヘムの門にある井の水を我にのましめんかと 16三勇士乃ちペリシテ人の陣を衝き過てベテレヘムの門にある井の水を汲取てダビデの許に携へ來れり然どダビデ之をのむことをせずこれをエホバのまへに灌ぎて 17いひけるはエホバよ我決してこれを爲じ是は生命をかけて往し人の血なりと彼これを飲ことを好まざりき三勇士は是等の事を爲り 18ゼルヤの子ヨアブの兄弟アビシヤイは三十人衆の首たり彼三百人にむかひて槍を揮ひて殺せり彼其三十人衆の中に名を得たり 19彼は三十人衆の中の最も尊き者にして彼等の長とたれり然ども三人衆には及ばざりき 20エホヤダの子カブリエルのペナヤは勇氣あり多くの功績ありし者なり彼モアブの人の獅子の如きもの二人を撃殺せり彼は亦雪の時に下りて穴の中にて獅子を撃殺せり 21彼また容貌魁偉たるエジプト人を撃殺せり其エジプト人は手に槍を持たるに彼は杖を執て下りエジプト人の手より槍を掬とりて其槍をもてこれを殺せり 22エホヤダの子ペナヤ是等の事を爲し三十勇士の中に名を得たり 23彼は三十人衆の中に尊かりしかども三人衆には及ばざりきダビデかれを參議の中に列しむ 24三十人衆の中にはヨアブの兄弟アサヘル、ベテレヘムのドドの子エルハナン 25ハロデ人シヤンマ、ハロデ人エリカ 26パルデ人ヘレヅ、テコア人イツケシの

子イラ **27** アネトテ人アビエゼル、ホシヤ人メブンナイ **28** アホア人ザルモン、ネトバ人マハライ **29** ネットバ人バアナの子ヘレブ、ベニヤミンの子孫のギベアより出たるリバイの子イツタイ **30** ヒラトン人ベナヤ、ガアシの谷のヒダイ **31** アルパテ人アビアルボン、バホリム人アズマウテ **32** シヤルボニ人エリヤバ、キゾニ人ヤセン **33** ハラリ人シヤンマの子ヨナタン、アラリ人シヤラルの子アヒアム **34** ウルの子エリパレテ、マアカ人ヘペル、ギロ人アヒトペルの子エリアム **35** カルメル人ヘヅライ、アルバ人パアライ **36** ズバのナタンの子イガル、ガド人バニ **37** アンモニ人ゼレク、ゼルヤの子ヨアブの武器を執る者ベエロデ人ナハライ **38** エテリ人イラ、エテリ人ガレブ **39** ヘテ人ウリヤあり都三十七人

24 エホバ復イスラエルにむかひて怒を發しダビデを感動して彼等に敵對しめ往てイスラエルとユダを數へよと言しめたまふ **2** 王乃ちヨアブおよびヨアブとともにある軍長等にいひけるは請ふイスラエルの諸の支派の中をダンよりベエルシバに至るまで行めぐりて民を核べ我をして民の數を知しめよ **3** ヨアブ王にいひけるは幾何あるともねがはくは汝の神エホバ民を百倍に増たまへ而して王わが主の目それを視るにいたれ然りといへども王わが主の此事を悦びたまふは何故ぞやと **4** されど王の言ヨアブと軍長等に勝ければヨアブと軍長等王の前を退きてイスラエルの民を核べに往り **5** かれらヨルダンを濟りアロエルより即ち河の中の邑より始めてガドにいたりヤゼルにいたり **6** ギレアデにいたりタテムホデシの地にいたり又ダニヤンにいたりてシドンに旋り **7** またツロ

の城にいたりヒビ人とカナン人の諸の邑にいたりユダの南に出てベエルシバにいたれり 8 彼等國を徧く行めぐり九月と廿日を経てルサレムに至りぬ 9 ヨアブ人口の數を王に告たり即ちイスラエルに劍を抜く壯士八十萬ありき又ユダの人は五十萬ありき 10 ダビデ民の數を書し後其心自ら責む是においてダビデ、エホバにいふ我これを爲して大に罪を犯したりねがはくはエホバよ僕の罪を除きたまへ我甚だ愚なる事を爲りと 11 ダビデ朝興し時エホバの言ダビデの先見者なる預言者ガデに臨みて曰く 12 往てダビデに言へエホバ斯いふ我汝に三を示す汝其一を擇べ我其を汝に爲んと 13 ガデ、ダビデの許にいたりこれに告てこれにいひけるは汝の地に七年の饑饉いたらんか或は汝敵に追れて三月其前に遁んか或は爾の地に三日の疫病あらんか爾考へてわが如何なる答を我を遣はせし者に爲べきかを決めよ 14 ダビデ、ガデにいひけるは我大に苦しむ請ふ我儕をしてエホバの手に陥らしめよ其憐憫大なればなり我をして人の手に陥らしむるなかれ 15 是においてエホバ朝より集會の時まで疫病をイスラエルに降したまふダンよりベエルシバまでに民の死者七萬人なり 16 天の使其手をエルサレムに伸てこれを滅さんとしたりしがエホバ此害惡を悔て民を滅す天使にいひたまひけるは足り今汝の手を住めよと時にエホバの使はエブス人アラウナの禾場の傍にあり 17 ダビデ民を撃つ天使を見し時エホバに申していひけるは嗚呼我は罪を犯したり我は惡き事を爲たり然ども是等の羊群は何を爲たるや請ふ爾の手を我とわが父の家に對たまへと 18 此日ガデ、ダビデの所にいたりてかれにいひけるは上りてエブス

人アラウナの禾場にてエホバに壇を建よ 19 ダビデ、
ガデの言に随ひエホバの命じたまひしごとくのぼれ
り 20 アラウナ觀望て王と其臣僕の己の方に進み來る
を見アラウナ出て王のまへに地に伏て拜せり 21 かく
てアラウナイひけるは何に因てか王わが主僕の所に
きませるやダビデひけるは汝より禾場を買ひとりエ
ホバに壇を築きて民に降る災をとどめんとてなり 22
アラウナ、ダビデにいひけるはねがはくは王わが主
其目に善と見ゆるものを取て獻げたまへ燔祭には牛
あり薪には打禾車と牛の器ありと 23 アラリナこれを
悉く王に奉呈ぐアラウナ又王にねがはくは爾の神エ
ホバ爾を受納たまはんことをといふ 24 王アラウナに
いひけるは斯すべからず我必ず値をはらひて爾より
買とらん我費なしに燔祭をわが神エホバに獻ぐるこ
とをせじとダビデ銀五十シケルにて禾場と牛を買と
れり 25 ダビデ其處にてエホバに壇を築き燔祭と酬恩
祭を獻げたり是においてエホバ其地のために祈祷を
聽たまひて災のイスラエルに降ること止りぬ

列王記 I

1 爰にダビデ王年邁みて老い寝衣を衣するも温らざりければ **2** 其臣僕等彼にいひけるは王わが主のために一人の若き處女を求めしめて之をして王のまへにたちて王の左右となり汝の懷に臥て王わが主を暖めしめんと **3** 彼等乃ちイスラエルの四方の境に美き童女を求めてシユナミ人アビシヤグを得て之を王に携きたれり **4** 此童女甚だ美しくして王の左右となり王に事たり然ど王之と交はらざりき **5** 時にハギテの子アドニヤ自ら高くし我は王とならんとて己のために戦車と騎兵および自己のまへに驅る者五十人を備へたり **6** 其父は彼が生れてより已來汝何故に然するやとてかれを痛しめし事なかりきアドニヤも亦容貌の甚だ美き者にてアブサロムの次に生れたり **7** 彼ゼルヤの子ヨアブおよび祭司アビヤタルと商議ひしかば彼等之に従ひゆきて助けたり **8** されど祭司ザドクとエホヤダの子ベナヤと預言者ナタンおよびシメイとレイならびにダビデに屬したる勇士はアドニヤに與せざりき **9** アドニヤ、エンロゲルの近邊なるゾヘレテの石の傍にて羊と牛と肥畜を宰りて王の子なる己の兄弟および王の臣僕なるユダの人を盡く請けり **10** されども預言者ナタンとベナヤと勇士とおのれの兄弟ソロモンとをば招かざりき **11** 爰にナタン、ソロモンの母バテシバに語りていひけるは汝ハギテの子アドニヤが王となれるを聞ざるかしかるにわれらの主ダビデはこれを知ざるなり **12** されば請ふ來れ我汝に計を授て汝をして己の生命と汝の子ソロモンの生命を救しめん **13** 汝往てダビデ王の所に入り之にいへ王わが主よ汝は婢に誓ひて汝の子ソロモンは我に繼

で王となりわが位に坐せんといひたまひしにあらず
や然にアドニヤ何故に王となれるやと 14 われまた汝
が尚其處にて王と語ふ時に汝に次て入り汝の言を證
すべしと 15 是においてバテシバ寢室に入りて王の所
にいたるに王は甚だ老てシユナミ人アビシヤグ王に
事へ居たり 16 バテシバ躬を鞠め王を拝す王いふ何な
るや 17 かれ王にいひけるはわが主汝は汝の神エホバ
を指て婢に汝の子ソロモンは我に繼で王となりわが
位に坐せんと誓ひたまへり 18 しかるに視よ今アドニ
ヤ王となれり而て王わが主汝は知たまはず 19 彼は牛
と肥畜と羊を饒く宰りて王の諸子および祭司アビヤ
タルと軍の長ヨアブを招けりされど汝の僕ソロモン
をば招かざりき 20 汝王わが主よイスラエルの目皆汝
に注ぎ汝が彼等に誰が汝に繼で王わが主の位に坐す
べきを告るを望む 21 王わが主の其父祖と共に寝たま
はん時に我とわが子ソロモンは罪人と見做さるるに
いたらんと 22 バテシバ尚王と語ふうちに視よ預言者
ナタンも亦入きたりければ 23 人々王に告て預言者ナ
タン此にありと曰ふ彼王のまへに入り地に伏て王を
拝せり 24 しかしてナタンいひけるは王わが主汝はア
ドニヤ我に繼で王となりわが位に坐すべしといひた
まひしや 25 彼は今日下りて牛と肥畜と羊を饒く宰り
て王の諸子と軍の長等と祭司アビヤタルを招けりし
かして彼等はアドニヤのまへに飲食してアドニヤ王
壽かれと言ふ 26 されど汝の僕なる我と祭司ザドクと
エホヤダの子ベナヤと汝の僕ソロモンとは彼請かざ
るなり 27 此事は王わが主の爲たまふ所なるかしかる
に汝誰が汝に繼で王わが主の位に坐すべきを僕に知
せたまはざるなりと 28 ダビデ王答ていふバテシバを

わが許に召せと彼乃ち王のまへに入て王のまへにたつに **29** 王誓ひていひけるはわが生命を諸の艱難の中に救ひたまひしエホバは活く **30** 我イスラエルの神エホバを指て誓ひて汝の子ソロモン我に継で王となり我に代りてわが位に坐すべしといひしごとくに我今日爲すべしと **31** 是においてバテシバ躬を鞠め地に伏て王を拜し願くはわが主ダビデ王長久に生ながらへたまへといふ **32** ダビデ王いひけるはわが許に祭司ザドクと預言者ナタンおよびエホヤダの子ベナヤを召と彼等乃ち王のまへに来る **33** 王彼等にいひけるは汝等の主の臣僕を伴ひわが子ソロモンをわが身の騾に乗せ彼をギホンに導き下り **34** 彼處にて祭司ザドクと預言者ナタンは彼に膏をそそぎてイスラエルの上に王と爲すべししかして汝ら喇叭を吹てソロモン王壽かれと言へ **35** かくして汝ら彼に隨ひて上り來るべし彼は來りてわが位に坐し我に代りて王となるべし我彼を立てイスラエルとユダの上に主君となせりと **36** エホヤダの子ベナヤ王に對へていひけるはアメンねがはくは王わが主の神エホバ然言たまはんことを **37** ねがはくはエホバ王わが主とともに在せしごとくソロモンとともに在してその位をわが主ダビデ王の位よりも大ならしめたまはんことを **38** 斯て祭司ザドクと預言者ナタンおよびエホヤダの子ベナヤ並にケレテ人とペレテ人下りソロモンをダビデ王の騾に乗せて之をギホンに導きいたれり **39** しかして祭司ザドク幕屋の中より膏の角を取てソロモンに膏そそげりかくて喇叭を吹きならし **40** 民みなソロモン王壽かれと言ひ民みなかれに隨ひ上りて笛を吹き大に喜祝ひ地はかれらの聲にて裂たり **41** アドニヤおよび彼とともに

に居たる賓客其食を終たる時に皆これを聞きヨアブ
喇叭の聲を聞いていひけるは城邑の中の聲音何ぞ喧囂
やと 42 彼が言をる間に視よ祭司アビヤタルの子ヨナ
タン來るアドニヤ彼にいひけるは入よ汝は勇ある人
なり嘉音を持きたれるならん 43 ヨナタン答へてアド
ニヤにいひけるは誠にわが主ダビデ王ソロモンを王
となしたまへり 44 王祭司ザドクと預言者ナタンおよ
びエホヤダの子ベナヤ並にケレテ人とペレテ人をソ
ロモンとともに遣したまふ即ち彼等はソロモンを王
の騾に乗せてゆき 45 祭司ザドクと預言者ナタン、ギ
ホンにて彼に膏をそそぎて王となせり而して彼等其
處より歡て上るが故に城邑は誼囂し汝らが聞る聲音
は是なり 46 又ソロモン國の位に坐し 47 且王の臣僕
來りてわれらの主ダビデ王に祝を陳て願くは汝の神
ソロモンの名を汝の名よりも美し其位を汝の位より
も大たらしめたまへと言りしかして王は牀の上にて
拝せり 48 王また斯いへりイスラエルの神エホバはほ
むべきかなエホバ今日わが位に坐する者を與たまひ
てわが目亦これを見るなりと 49 アドニヤとともにあ
る賓客皆驚愕き起て各其途に去りゆけり 50 茲にアド
ニヤ、ソロモンの面を恐れ起て往き壇の角を執へた
り 51 或人ソロモンに告ていふアドニヤ、ソロモン王
を畏る彼壇の角を執て願くはソロモン王今日我に劍
をもて僕を殺じと誓ひ給へと言たりと 52 ソロモンい
ひけるは彼もし善人となるならば其髮の毛一すぢも
地におちざるべし然ど彼の中に惡の見るあらば死し
むべしと 53 ソロモン王乃ち人を遣て彼を壇より携下
らしむ彼來りてソロモン王を拝しければソロモン彼
に汝の家に往といへり

2 ダビデ死ぬる日近よりければ其子ソロモンに命じていふ **2** 我は世人の皆往く途に往んとす汝は強く丈夫のごとく爲れ **3** 汝の神エホバの職守を守り其道に歩行み其法憲と其誠命と其律例と其証言とをモーセの律法に録されたるごとく守るべし然らば汝凡て汝の爲ところと凡て汝の向ふところにて榮ゆべし **4** 又エホバは其嘗に我の事に付て語りて若汝の子等其道を慎み心を盡し精神を盡して眞實をもて吾前に歩ばイスラエルの位に上る人汝に缺ることなかるべしと言たまひし言を堅したまはん **5** 又汝はゼルヤの子ヨアブが我に爲たる事即ち彼がイスラエルの二人の軍の長ネルの子アブネルとエテルの子アマサに爲たる事を知る彼此二人を切殺し太平の時に戦の血を流し戦の血を己の腰の周囲の帯と其足の履に染たり **6** 故に汝の智慧にしたがひて事を爲し其白髪を安然に墓に下らしむるなかれ (Sheol h7585) **7** 但しギレアデ人バルジライの子等には恩恵を施こし彼等をして汝の席にて食ふ者の中にあらしめよ彼等はわが汝の兄弟アブサロムの面を避て逃し時我に就たるなり **8** 視よ又バホリムのベニヤミン人ゲラの子シメイ汝とともに在り彼はわがマナハイムに往し時勵しき詛言をもて我を詛へり然ども彼ヨルダンに下りて我を迎へたれば我エホバを指て誓ひて我劍をもて汝を殺さじといへり **9** 然りといへども彼を辜なき者とする勿れ汝は智慧ある人なれば彼に爲べき事を知るなり血を流して其白髪を墓に下すべしと (Sheol h7585) **10** 斯てダビデは其父祖と偕に寝りてダビデの城に葬らる **11** ダビデのイスラエルに王たりし日は四十年なりき即ちヘブロンにて王たりし事七年エルサレムにて王たりし事

三十三年 **12** ソロモン其父ダビデの位に坐し其國は堅固く定まりぬ **13** 爰にハギテの子アドニヤ、ソロモンの母バテシバの所に来りければバテシバいひけるは汝は平穩なる事のために來るや彼いふ平穩たる事のためなり **14** 彼又いふ我は汝に言さんとする事ありとバテシバいふ言されよ **15** かれいひけるは汝の知ごとく國は我の有にしてイスラエル皆其面を我に向て王となさんと爲りしかるに國は轉てわが兄弟の有となれり其彼の有となれるはエホバより出たるなり **16** 今我一の願を汝に求む請ふわが面を黜くるなかれバテシバかれにいひけるは言されよ **17** 彼いひけるは請ふソロモン王に言て彼をしてシエナミ人アビシヤグを我に與て妻となさしめよ彼は汝の面を黜けざるべければなり **18** バテシバいふ善し我汝のために王に言んと **19** かくてバテシバ、アドニヤのために言とてソロモン王の許に至りければ王起てかれを迎へ彼を拝して其位に坐なほり王母のために座を設けしむ乃ち其右に坐せり **20** しかしてバテシバいひけるは我一の細小き願を汝に求むわが面を黜くるなかれ王かれにいひけるは母上よ求めたまへ我汝の面を黜けざるなり **21** 彼いひけるは請ふシユナミ人アビシヤグをアドニヤに與て妻となさしめよ **22** ソロモン王答て其母にいひけるは何ぞアドニヤのためにシユナミ人アビシヤグを求めらるるや彼のために國をも求められよ彼は我の兄なればなり彼と祭司アビヤタルとゼルヤの子ヨアブのために求められよと **23** ソロモン王乃ちエホバを指て誓ひていふ神我に斯なし又重ねて斯なしたまへアドニヤは其身の生命を喪はんとて此言を言いだせり **24** 我を立てわが父ダビデの位に上しめ其約せ

しごとく我に家を建たまひしエホバは生くアドニヤは今日戮さるべしと 25 ソロモン王エホヤダの子ベナヤを遣はしければ彼アドニヤを撃て死しめたり 26 王また祭司アビヤタルにいひけるは汝の故田アナトテにいたれ汝は死に當る者なれども嚮にわが父ダビデのまへに神エホバの櫃を昇き又凡てわが父の艱難を受たる處にて汝も艱難を受たれば我今日は汝を戮さじと 27 ソロモン、アビヤタルを逐いだしてエホバの祭司たらしめざりき斯エホバがシロにてエリの家につきて言たまひし言應たり 28 爰に其風聞ヨアブに達りければヨアブ、エホバの幕屋に遁れて壇の角を執たり其はヨアブは轉てアブサロムには隨はざりしかどもアドニヤに隨ひたればなり 29 ヨアブがエホバの幕屋に遁れて壇の傍に居ることソロモンに聞えければソロモン、エホヤダの子ベナヤを遣はしいひけるは往て彼を撃てと 30 ベナヤ乃ちエホバの幕屋にいたり彼にいひけるは王斯言ふ出來れ彼いひけるは否我は此に死んとベナヤ反て王に告てヨアブ斯言ひ斯我に答へたりと言ふ 31 王ベナヤにいひけるは彼が言ふごとく爲し彼を撃て葬りヨアブが故なくして流したる血を我とわが父の家より除去べし 32 又エホバはヨアブの血を其身の首に歸したまふべし其は彼は己よりも義く且善りし二の人を撃ち劍をもてこれを殺したればなり即ちイスラエルの軍の長ネルの子アブネルとユダの軍の長エテルの子アマサを殺せり然るに吾父ダビデは與り知ざりき 33 されば彼等の血は長久にヨアブの首と其苗裔の首に舁すべし然どダビデと其苗裔と其家と其位にはエホバよりの平安永久にあるべし 34 エホヤダの子ベナヤすなはち上りて彼を撃

ち彼を殺せり彼は野にある己の家に葬らる 35 王乃ち
エホヤダの子ペナヤをヨアブに代て軍の長となせり
王また祭司ザドクをしてアビヤタルに代しめたり 36
又王人を遣てシメイを召て之に曰けるはエルサレム
に於て汝の爲に家を建て其處に住み其處より此にも
彼にも出るなかれ 37 汝が出てキデロン川を濟る日には
汝確に知れ汝必ず戮さるべし汝の血は汝の首に歸
せん 38 シメイ王にいひけるは此言は善し王わが主の
言たまへるごとく僕然なすべしと斯シメイ日久しく
エルサレムに住り 39 三年の後シメイの二人の僕ガテ
の王マアカの子アキシの所に逃されり人々シメイに
告ていふ視よ汝の僕はガテにありと 40 シメイ乃ち起
て其驢馬に鞍置きガテに往てアキシに至り其僕を尋
ねたり即ちシメイ往て其僕をガテより携來りしが 41
シメイのエルサレムよりガテにゆきて歸しことソロ
モンに聞えければ 42 王人を遣てシメイを召て之にい
ひけるは我汝をしてエホバを指て誓しめ且汝を戒め
て汝確に知れ汝が出て此彼に歩く日には汝必ず戮さ
るべしと言しにあらざや又汝は我に我聞る言葉は善
しといへり 43 しかるに汝なんぞエホバの誓とわが汝
に命じたる命令を守ざりしや 44 王又シメイにいひけ
るは汝は凡て汝の心の知る諸の惡即ち汝がわが父ダ
ビデに爲たる所を知るエホバ汝の惡を汝の首に歸し
たまふ 45 されどソロモン王は福祉を蒙らんまたダビ
デの位は永久にエホバのまへに固く立べしと 46 王エ
ホヤダの子ペナヤに命じければ彼出てシメイを撃ち
て死しめたりしかして國はソロモンの手に固く立り

3 ソロモン、エジプトの王パロと縁を結びパロの女
を娶て之を携來り自己の家とエホバの家とエルサレ

ムの周囲の石垣を建築ことを終るまでダビデの城に
置り 2 當時までエホバの名のために建たる家なかり
ければ民は崇邱にて祭を爲り 3 ソロモン、エホバを
愛し其父ダビデの法憲に歩めり但し彼は崇邱にて祭
を爲し香を焚り 4 爰に王ギベオンに往て其處に祭を
爲んとせり其は彼處は大なる崇邱なればなり即ちソ
ロモン一千の燔祭を其壇に献たり 5 ギベオンにてエ
ホバ夜の夢にソロモンに顯れたまへり神いひたまひ
けるは我何を汝に與ふべきか汝求めよ 6 ソロモンい
ひけるは汝は汝の僕わが父ダビデが誠實と公義と正
心を以て汝と共に汝の前に歩みしに囚て大なる恩恵
を彼に示したまへり又汝彼のために此大なる恩恵を
存て今日のごとくかれの位に坐する子を彼に賜へり
7 わが神エホバ汝は僕をして我父ダビデに代て王とな
らしめたまへり而るに我は小き子にして出入するこ
とを知らず 8 且僕は汝の選みたまひし汝の民の中に
あり即ち大なる民にて其數衆くして數ふることも書す
ことも能はざる者なり 9 是故に聽き別る心を僕に與
へて汝の民を鞠しめ我をして善惡を辨別ることを得
さしめたまへ誰か汝の此夥多き民を鞠くことを得ん
と 10 ソロモン此事を求めければ其言主の心になへり
11 是において神かれにいひたまひけるは汝此事を
求めて己の爲に長壽を求めず又己のために富有をも
求めず又己の敵の生命をも求めずして惟訟を聽き別
る才智を求めたるに因て 12 視よ我汝の言に循ひて爲
り我汝に賢明く聡慧き心を與ふれば汝の先には汝の
如き者なく汝の後にも汝の如き者興らざるべし 13 我
亦汝の求めざる者即ち富と貴とをも汝に與ふれば汝
の生の涯王等の中に汝の如き者あらざるべし 14 又汝

若汝の父ダビデの歩し如く吾道に歩みてわが法憲と
命令を守らば我汝の日を長うせんと 15 ソロモン目寤
て視るに夢なりき斯てソロモン、エルサレムに至り
エホバの契約の櫃の前に立ち燔祭を献げ酬恩祭を爲
して其諸の臣僕に饗宴を爲り 16 爰に娼妓なる二人の
婦王の所に來りて其前に立ちしが 17 一人の婦いひけ
るはわが主よ我と此婦は一の家に住む我此婦と偕に
家にありて子を生子 18 しかるにわが生し後第三日に
此婦もまた生子しかして我儕偕にありき家には他人
の我らと偕に居りし者なし家には只我儕二人のみ 19
然るに此婦其子の上に臥たるによりて夜の中に其子
死たれば 20 中夜に起て婢の眠れる間にわが子をわれ
の側より取りて之を己の懷に臥しめ己の死たる子を
わが懷に臥しめたり 21 朝に及びて我わが子に乳を飲
せんとて興て見るに死むたり我朝にいたりて其を熟
く視たるに其はわが生るわが子にはあらざりしと 22
今一人の婦いふ否活るはわが子死るは汝の子なりと
此婦いふ否死るは汝の子活るはわが子なりと彼等斯
王のまへに論り 23 時に王いひけるは一人は此活るは
わが子死るは汝の子なりと言ひ又一人は否死るは汝
の子活るはわが子なりといふと 24 王乃ち劍を我に持
來れといひければ劍を王の前に持來れり 25 王いひけ
るは活る子を二に分て其半を此に半を彼に與へよと
26 時に其活子の母なる婦人心其子のために焚がごと
くなりて王に言していひけるは請ふわが主よ活る子
を彼に與へたまへ必ず殺したまふなかれと然ども他
の一人は是を我のにも汝のにもならしめず判たせよ
と言ひ 27 王答ていひけるは活子を彼に與へよ必ず殺
すなかれ彼は其母なるなりと 28 イスラエル皆王の審

理し所の判決を聞て王を畏れたり其は神の智慧の彼
の中にありて審理を爲しむるを見たればなり

4 ソロモン王はイスラエルの全地に王たり **2** 其有る
群卿は左の如しザドクの子アザリヤは相國 **3** シシヤ
の子エリホレフとアヒヤは書記官アヒルデの子ヨシ
ヤパテは史官 **4** エホヤダの子ベナヤは軍の長ザドク
とアビヤタルは祭司 **5** ナタンの子アザリヤは代官の
長ナタンの子ザブデは大臣にして王の友たり **6** アヒ
シヤルは宮内卿アブダの子アドニラムは徴募長なり
7 ソロモン又イスラエルの全地に十二の代官を置き其
人々王と其家のために食物を備へたり即ち各一年に
一月宛食物を備へたり **8** 其名左のごとしエフライム
の山地にはベンホル **9** マカヅとシヤラビムとベテシ
メシとエロンベテハナンにはベンデケル **10** アルポテ
にはベンヘセデありシヨコとヘベルの全地とは彼擔
任り **11** ドルの高地の全部にはベンアヒナダブあり彼
はソロモンの女タパテを妻とせり **12** アルヒデの子バ
アナはタアナクとメギドとエズレルの下にザルタナ
の邊にあるベテシヤンの全地とを擔任てベテシヤン
よりアベルメホラにいたりヨクネアムの外にまで及
ぶ **13** ギレアデのラモテにはベンゲベルあり彼はギレ
アデにあるマナセの子ヤイルの諸村を擔任ち又バシ
ヤンなるアルゴブの地にある石垣と銅の關を有る大
なる城六十を擔任り **14** イドの子アヒナダブはマハナ
イムを擔任り **15** ナフタリにはアヒマアズあり彼もソ
ロモンの女バスマテを妻に娶れり **16** アセルとアロテ
にはホシヤイの子バアナあり **17** イツサカルにはパル
アの子ヨシヤパテあり **18** ベニヤミンにはエラの子シ
メイあり **19** アモリ人の王シホンの地およびバシヤン

の王オグの地なるギレアデの地にはウリの子ゲベルあり其地にありし代官は唯彼一人のみ 20 ユダとイスラエルの人は多くして濱の沙の多きがごとくなりしが飲食して樂めり 21 ソロモンは河よりペリシテ人の地にいたるまでとエジプトの境に及ぶまでの諸國を治めたれば皆禮物を餽りてソロモンの一生の間事へたり 22 儲ソロモンの一日の食物は細麵三十石粗麵六十石 23 肥牛十牧場の牛二十羊一百其外に牡鹿羚羊小鹿および肥たる禽あり 24 其はソロモン河の此方をテフサよりガザまで盡く治めたればなり即ち河の此方の諸王を悉く統治たり彼は四方の臣僕より平安を得たりき 25 ソロモン的一生の間ユダとイスラエルはダンよりベエルシバに至るまで安然に各其葡萄樹の下と無花果樹の下に住り 26 ソロモン戦車の馬の厩四千騎兵一萬二千を有り 27 彼代官等各其月にソロモン王のためおよび總てソロモン王の席に来る者の爲に食を備へて缺るところなからしめたり 28 又彼等各其職に循ひて馬および疾足の馬に食する大麥と藟藟を其馬の在る處に携へ來れり 29 神ソロモンに智慧と聰明を甚だ多く賜ひ又廣大き心を賜ふ海濱の沙のごとし 30 ソロモンの智慧は東洋の人々の智慧とエジプトの諸の智慧よりも大なりき 31 彼は凡の人よりも賢くエズラ人エタンよりも又マホルの子なるヘマンとカルコルおよびダルダよりも賢くして其名四方の諸國に聞えたり 32 彼箴言三千を説り又其詩歌は一千五首あり 33 彼又草木の事を論じてレバノンの香柏より墻に生る苔に迄及べり彼亦獸と鳥と匍行物と魚の事を論じたり 34 諸の國の人々ソロモンの智慧を聽んとて來

り天下の諸の王ソロモンの智慧を聞及びて人を遣はせり

5 ツロの王ヒラム、ソロモンの膏そそがれて其父にかはりて王となりしを聞て其臣僕をソロモンに遣せりヒラムは恒にダビデを愛したる者なりければなり
2 是に於てソロモン、ヒラムに言遣はしけるは **3** 汝の知ごとく我父ダビデは其周圍にありし戦争に因て其神エホバの名のために家を建ること能はずしてエホバが彼等を其足の跣の下に置またふを待ち **4** 然るに今わが神エホバ我に四方の太平を賜ひて敵もなく殃もなければ **5** 我はエホバのわが父ダビデに語てわが汝の代に汝の位に上しむる汝の子其人はわが名のために家を建べしと言たまひしに循ひてわが神エホバの名のために家を建んとす **6** されば汝命じてわがためにレバノンより香柏を斫出さしめよわが僕汝の僕と共にあるべし又我は凡て汝の言ふごとく汝の僕の賃銀を汝に付すべし其は汝の知ごとく我儕の中にはシドン人の如く木を斫に巧みなる人なければなりと
7 ヒラム、ソロモンの言を聞て大に喜び言けるは今日エホバに稱譽あれエホバ、ダビデに此夥多しき民を治むる賢き子を與たまへりと **8** かくてヒラム、ソロモンに言遣りけるは我汝が言ひ遣したる所の事を聽り我香柏の材木と松樹の材木とに付ては凡て汝の望むごとく爲すべし **9** わが僕レバノンより海に持下らんしかして我これを海より桴にくみて汝が我に言ひ遣す處におくり其處にて之をくづすべし汝之を受よ又汝はわが家のために食物を與へてわが望を成せと
10 斯てヒラムはソロモンに其凡て望むごとく香柏の材木と松の材木を與へたり **11** 又ソロモンはヒラムに

其家の食物として小麦二萬石を與へまた清油二十石をあたへたり斯ソロモン年々ヒラムに與へたり 12 エホバ其言たまひしごとくソロモンに智慧を賜へりまたヒラムとソロモンの間睦しくして二人偕に契約を結べり 13 爰にソロモン王イスラエルの全地に徴募人を興せり其徴募人の數は三萬人なり 14 ソロモンかれらを一月交代に一萬人づつレバノンに遣せり即ち彼等は一月レバノンに二月家にありアドニラムは徴募人の督者なりき 15 ソロモン負載者七萬人山に於て石を砍る者八萬人あり 16 外に又其工事の長なる官吏三千三百人ありて工事に作く民を統たり 17 かくて王命じて大なる石貴き石を鑿出さしめ琢石を以て家の基礎を築かしむ 18 ソロモンの建築者とヒラムの建築者およびゲバル人之を砍り斯彼等材木と石を家を建るに備へたり

6 イスラエルの子孫のエジプトの地を出たる後四百八十年ソロモンのイスラエルに王たる第四年ジフの月即ち二月にソロモン、エホバのために家を建ることを始めたり 2 ソロモン王のエホバの爲に建たる家は長六十キュビト濶二十キュビト高三十キュビトなり 3 家の拝殿の廊は家の濶に循ひて長二十キュビト家の前の其濶十キュビトなり 4 彼家に造り附の格子ある窓を施たり 5 又家の牆壁に附て四周に連接屋を建て家の牆壁即ち拝殿と神殿の牆壁の周圍に環らせり又四周に旁房を造れり 6 下層の連接屋は濶五キュビト中層のは濶六キュビトを第三層のは濶七キュビトなり即ち家の外に階級を造り環らして何者をも家の牆壁に挿入ざらしむ 7 家は建る時に鑿石所にて鑿り預備たる石にて造りたれば造れる間に家の中には

鍮も鑿も其外の鐵器も聞えざりき 8 中層の旁房の戸は家の右の方にあり螺旋梯より中層の房にのぼり中層の房より第三層の房にいたるべし 9 斯彼家を建終り香柏の椽と板をもて家を葺り 10 又家に附て五キュビトの高たる連接屋を建環し香柏をもて家に交接待り 11 爰にエホバの言ソロモンに臨みて曰く 12 汝今此家を建つ若し汝わが法憲に歩みわが律例を行ひわが諸の誠命を守りて之にしたがひて歩まばわれはが汝の父ダビデに言し語を汝に固うすべし 13 我イスラエルの子孫の中に住わが民イスラエルを棄ざるべし 14 斯ソロモン家を建終れり 15 彼香柏の板を以て家の墻壁の裏面を作れり即ち家の牀板より頂格の墻壁まで木をもて其裏面をはりまた松の板をもて家の牀板をはれり 16 又家の奥に二十キュビトの室を牀板より墻壁まで香柏をもて造れり即ち家の内に至聖所なる神殿を造れり 17 家即ち前にある拝殿は四十キュビトなり 18 家の内の香柏は瓠と咲る花を雕刻める者なり皆香柏にして石は見えざりき 19 神殿は彼其處にエホバの契約の櫃を置んとて家の内の中に設けたり 20 神殿の内は長二十キュビト濶二十キュビト高二十キュビトなり純金をもて之を蔽ひ又香柏の壇を覆へり 21 又ソロモン純金をもて家の内を蔽ひ神殿の前に金の鍮をもて間隔を造り金をもて之を蔽へり 22 又金をもて残るところなく家を蔽ひ遂に家を飾ることを悉く終たりまた神殿の傍にある壇は皆金をもて蔽へり 23 神殿の内に橄欖の木をもて二のケルビムを造れり其高十キュビト 24 其ケルブの一の翼は五キュビト又其ケルブの他の翼も五キュビトなり一の翼の末より他の翼の末までは十キュビトあり 25 他のケルブも十キ

ユビトなり其ケルビムは偕に同量同形なり 26 此ケル
ブの高十キュビト彼ケルブも亦しかり 27 ソロモン家
の内の中にケルビムを置るケルビムの翼を展しけれ
ば此ケルブの翼は此牆壁に及び彼ケルブの翼は彼の
牆壁に及びて其兩翼家の中にて相接れり 28 彼金をも
てケルビムを蔽へり 29 家の周圍の牆壁には皆内外と
もにケルビムと棕櫚と咲る花の形を雕み 30 家の牀板
には内外ともに金を蔽へり 31 神殿の入口には橄欖の
木の戸を造れり其木匡の門柱は五分の一なり 32 其二
の扉も亦橄欖の木なりソロモン其上にケルビムと棕
櫚と咲る花の形を雕刻み金をもて蔽へり即ちケルビ
ムと棕櫚の上に金を鍍たり 33 斯ソロモン亦扨殿の戸
のために橄欖の木の門柱を造れり即ち四分の一なり
34 其二の戸は松の木にして此戸の兩扉は摺むべく彼
戸の兩扉も摺むべし 35 ソロモン其上にケルビムと棕
櫚と咲る花を雕刻み金をもてこれを蔽ひて善く其雕
工に適はしむ 36 また鑿石三層と香柏の厚板一層をも
て内庭を造れり 37 第四年のジフの月にエホバの家の
基礎を築き 38 第十一年のブルの月即ち八月に凡て其
箇條のごとく其定例のごとくに家成りぬ斯ソロモン
之に建るに七年を渉れり

7 ソロモン己の家を建しが十三年を経て全く其家を
建終たり 2 彼レバノン森の家を建たり其長は百キュ
ビト其濶は五十キュビト其高は三十キュビトなり香
柏の柱四行ありて柱の上に香柏の梁あり 3 四十五本
の柱の上なる梁の上は香柏にて蓋へり柱は一行に十
五本あり 4 また窓三行ありて牖と牖と三段に相對ふ
5 戸と戸柱は皆大木をもて角に造り牖と牖と三段に相
對へり 6 又柱の廊を造れり其長五十キュビト其濶三

十キュビトなり柱のまへに一の廊ありまた其柱のまへに柱と階あり 7又ソロモン審判を爲すために位の廊即ち審判の廊を造り牀板より牀板まで香柏をもて蔽へり 8ソロモンの居住る家は其廊の後の他の庭にありて其工作同じかりきソロモン亦其娶りたるパロの女のために家を建しが此廊に同じかりき 9是等は内外とも基礎より檐にいたるまで又外面にては大庭にいたるまで皆鑿石の量にしたがひて鋸にて割たる貴き石をもて造れるものなり 10又基礎は貴き石大なる石即ち十キュビトの石八キュビトの石なり 11其上には鑿石の量に循ひて貴き石と香柏あり 12又大庭の周圍に三層の鑿石と一層の香柏の厚板ありエホバの家の内庭と家の廊におけるが如し 13爰にソロモン人を遣はしてヒラムをツロより呼び來れり 14彼はナフタリの支派なる嫠婦の子にして其父はツロの人にて銅の細工人なりヒラムは銅の諸の細工を爲すの智慧と慧悟と知識の充ちたる者なりしがソロモン王の所に来りて其諸の細工を爲り 15彼銅の柱二を鑄たり其高各十八キュビトにして各十二キュビトの繩を環らすべし 16又銅を鎔して柱頭を鑄て柱の顛に置ゆ此の頭の高も五キュビト彼の頭の高も五キュビトなり 17柱の上にある頭の爲に組物の網と鏈様の榫物を造れり此頭に七つ彼頭に七つあり 18又二行の石榴を一の網工の上の四周に造りて柱の上にある頭を蓋ふ他の頭をも亦然せり 19柱の上にある頭は四キュビトの百合花の形にして廊におけるがごとし 20二の柱の頭の上には亦網工の外なる腹の所に接きて石榴あり他の柱の四周にも石榴二百ありて相列べり 21此柱を拝殿の廊に豎つ即ち右の柱を立て其名をヤキンと名け

左の柱を豎て其名をボアズと名く 22 其柱の上に百合花の形あり斯其柱の作成り 23 又海を鑄なせり此邊より彼邊まで十キュビトにして其四周圓く其高五キュビトなり其四周は三十キュビトの繩を環らすべし 24 其邊の下には四周に匏瓜ありて之を環れり即ち一キュビトに十づつありて海の周圍を圍り其匏瓜は海を鑄たる時に二行に鑄たるなり 25 其海は十二の牛の上に立り其三は北に向ひ三は西に向ひ三は南に向ひ三は東に向ふ海其上にありて牛の後は皆内に向ふ 26 海の厚は手寬にして其邊は百合花にて杯の邊の如くに作り海は二千斗を容たり 27 又銅の臺十を造れり一の臺の長四キュビト其濶四キュビト其高三キュビトなり 28 其臺の製作は左のごとし臺には嵌板あり嵌板は邊の中にあり 29 邊の中にある嵌板の上に獅子と牛とケルビムあり又邊の上に座あり獅子と牛の下に花飾の垂下物あり 30 其臺には各四の銅の輪と銅の軸あり其四の足には肩のごとき者あり其肩のごとき者は洗盤の下にありて凡の花飾の旁に鑄つけたり 31 其口は頭の内より上は一キュビトなり其口は圓く一キュビト半にして座の作の如し又其口には雕工あり其鏡板は四角にして圓からず 32 四の輪は鏡板の下にあり輪の手は臺の中にあり輪は各高一キュビト半 33 輪の工作は戦車の輪の工作の如し其手と縁と輻と轂とは皆鑄物なり 34 臺の四隅に四の肩の如き者あり其肩のごとき者は臺より出づ 35 臺の上の所の高半キュビトは其周圍圓し又臺の上の所の手と鏡板も臺より出づ 36 其手の板と鏡板には其各の隙處に循ひてケルビムと獅子と棕櫚を雕刻み又其四周に花飾を造れり 37 是のごとく十の臺を造れり其鑄法と量と形は皆同じ 38

又銅の洗盤十を造れり洗盤は各四十斗を容れ洗盤は各四キュビトなり十の臺の上には各一の洗盤あり 39 其臺五を家の右の旁に五を家の左の旁に置ぬ家の右の東南に其海を置り 40 ヒラム又鍋と火鑪と鉢とを造れり斯ヒラム、エホバの家の爲にソロモン王に爲る諸の細工を成終たり 41 即ち二の往と其柱の上なる頭の二の毬と柱の上なる其頭の二の毬を蓋ふ二の網工と 42 其二の網工の爲の石榴四百是は一の網工に石榴二行ありて柱の上なる二の毬を蓋ふ 43 又十の臺と其臺の上の十の洗盤と 44 一の海と其海の下十二の牛 45 及び鍋と火鑪と鉢是也ヒラムがソロモン王にエホバの家のために造りし此等の器は皆光明ある銅なりき 46 王ヨルダンの低地に於てスコテとザレタンの中の粘土の地にて之を鑄たり 47 ソロモン其器甚だしく多かりければ皆權ずに措り其銅の重しれざりき 48 又ソロモン、エホバの家の諸の器を造れり即ち金の壇と供前のパンを載る金の案 49 および純金の燈臺是は神殿のまへに五は右に五は左にあり又金の花と燈蓋と燈鉗と 50 純金の盆と剪刀と鉢と皿と滅燈器と至聖所なる内の家の戸のため及び扨殿なる家の戸のためなる金の肘鈕是なり 51 斯ソロモン王のエホバの家のために爲る諸の細工終れり是においてソロモン其父ダビデが奉納めたる物即ち金銀および器を携へいりてエホバの家の寶物の中に置り

8 爰にソロモン、エホバの契約の櫃をダビデの城即ちシオンより昇上らんとてイスラエルの長老と諸の支派の首イスラエルの子孫の家の長等をエルサレムにてソロモン王の所に召集む **2** イスラエルの人皆エタニムの月即ち七月の節筵に當てソロモン王の所に

集まれり 3 イスラエルの長老皆至り祭司櫃を執りあげて 4 エホバの櫃と集會の幕屋と幕屋にありし諸の聖き器を昇上れり即ち祭司とレビの人之を昇のぼれり 5 ソロモン王および其許に集れるイスラエルの會衆皆彼と偕に櫃の前にありて羊と牛を献げたりしが其數多くして書すことも數ふることも能はざりき 6 祭司エホバの契約の櫃を其處に昇いれたり即ち家の神殿なる至聖所の中のケルビムの翼の下に置めたり 7 ケルビムは翼を櫃の所に舒べ且ケルビム上より櫃と其棹を掩へり 8 杠長かりければ杠の末は神殿の前の聖所より見えたり然ども外には見えざりき其杠は今日まで彼處にあり 9 櫃の内には二の石牌の外何もあらざりき是はイスラエルの子孫のエジプトの地より出たる時エホバの彼等と契約を結たまへる時にモーセがホレブにて其處に置めたる者なり 10 斯て祭司聖所より出けるに雲エホバの家に盈たれば 11 祭司は雲のために立て供事ること能はざりき其はエホバの榮光エホバの家に盈たればなり 12 是においてソロモンいひけるはエホバは濃き雲の中に居んといひたまへり 13 我誠に汝のために住むべき家永久に居べき所を建たりと 14 王其面を轉てイスラエルの凡の會衆を祝せり時にイスラエルの會衆は皆立るたり 15 彼言けるはイスラエルの神エホバは響べきかなエホバは其口をもて吾父ダビデに言ひ其手をもて之を成し遂げたまへり 16 即ち我は吾民イスラエルをエジプトより導き出せし日より我名を置べき家を建しめんためにイスラエルの諸の支派の中より何れの城邑をも選みしことなし但ダビデを選みてわが民イスラエルの上に立しめたりと言たまへり 17 夫イスラエルの神エホバ

の名のために家を建てることはわが父ダビデの心
ありき 18 しかるにエホバわが父ダビデにいひたまひ
けるはわが名のために家を建てること汝の心にあり
汝の心に此事あるは善し 19 然ども汝は其家を
建べからず汝の腰より出る汝の子其人吾名
のために家を建べしと 20 而してエホバ其言
たまひし言を行ひたまへり即ち我わが父ダビ
デに代りて立ちエホバの言たまひし如くイス
ラエルの位に坐しイスラエルの神エホバの名
のために家を建たり 21 我又其處にエホバの
契約を蔵めたる櫃のために一の所を設けたり
即ち我儕の父祖をエジプトの地より導き出
したまひし時に彼等に爲したまひし者なりと
22 ソロモン、イスラエルの凡の會衆の前
にてエホバの壇のまへに立ち其手を天に舒
て 23 言けるはイスラエルの神エホバよ上
の天にも下の地にも汝の如き神なし汝は契
約を持ちたまひ心を全うして汝のまへに歩
むところの汝の僕等に恩恵を施したまふ
24 汝は汝の僕わが父ダビデに語たまへ
る所を持ちたまへり汝は口をもて語ひ手も
て成し遂たまへること今日のごとし 25
イスラエルの神エホバよ然ば汝が僕わが父
ダビデに語りて若し汝の子孫其道を慎みて
汝がわが前に歩めるとくわが前に歩まば
イスラエルの位に坐する人わがまへにて汝
に缺ること無るべしといひたまひし事をダ
ビデのために持ちたまへ 26 然ばイスラエ
ルの神よ爾が僕わが父ダビデに言たまへ
る爾の言に效驗あらしめたまへ 27 神果
して地の上に住たまふや視よ天も諸の天の
天も爾を容るに足ず況て我が建たる此家
をや 28 然どもわが神エホバよ僕の祈
禱と懇願を顧みて其號呼と僕が今日爾の
まへに祈る祈禱を聽たまへ 29 願くは
爾の目を

夜晝此家に即ち爾が我名は彼處に在べしといひたまへる處に向ひて開きたまへ願くは僕の此處に向ひて祈らん祈禱を聽たまへ 30 願くは僕と爾の民イスラエルが此處に向ひて祈る時に爾其懇願を聽たまへ爾は爾の居處なる天において聽き聽て赦したまへ 31 若し人其隣人に對ひて犯せることありて其人誓をもて誓ふことを要られんに來りて此家において爾の壇のまへに誓ひなば 32 爾天において聽て行ひ爾の僕等を鞭き惡き者を罪して其道を其首に歸し義しき者を義として其義に循ひて之に報いたまへ 33 若爾の民イスラエル爾に罪を犯したるがために敵の前に敗られんに爾に歸りて爾の名を崇め此家にて爾に祈り願ひなば 34 爾天において聽き爾の民イスラエルの罪を赦して彼等を爾が其父祖に與へし地に歸らしめたまへ 35 若彼等が爾に罪を犯したるが爲に天閉て雨无らんに彼等若此處にむかひて祈り爾の名を崇め爾が彼等を苦めたまふときに其罪を離れなば 36 爾天において聽き爾の僕等爾の民イスラエルの罪を赦したまへ爾彼等に其歩むべき善道を教へたまふ時は爾が爾の民に與へて産業となさしめたまひし爾の地に雨を降したまへ 37 若國に饑饉あるか若くは疫病枯死朽腐噬亡ぼす蝗蟲あるか若くは其敵國にいりて彼等を其門に圍むか如何なる災害如何なる病疾あるも 38 若一人か或は爾の民イスラエル皆各己の心の災を知て此家に向ひて手を舒なば其人如何なる祈禱如何なる懇願を爲とも 39 爾の居處なる天に於て聽て赦し行ひ各の人に其心を知給ふ如く其道々にしたがひて報い給へ其は爾のみ凡の人の心を知たまへばなり 40 爾かく彼等をして爾が彼等の父祖に與へたまへる地に居る日に常に

爾を畏れしめたまへ 41 且又爾の民イスラエルの者に
あらずして爾の名のために遠き國より來る異邦人は
42 (其は彼等爾の大なる名と強き手と伸たる腕を聞お
よぶべければなり) 若來りて此家にむかひて祈らば
43 爾の居處なる天に於て聽き凡て異邦人の爾に願求
むる如く爲たまへ爾かく地の諸の民をして爾の名を
しらしめ爾の民イスラエルのごとく爾を畏れしめ又
我が建たる此家は爾の名をもて稱呼するといふこと
を知しめ給へ 44 爾の民其敵と戦はんとて爾の遣はし
たまふ所に出たる時彼等若爾が選みたまへる城とわ
が爾の名のために建たる家の方に向ひてエホバに祈
らば 45 爾天において彼等の祈祷と懇願を聽て彼等を
助けたまへ 46 人は罪を犯さざる者なければ彼等爾に
罪を犯すことありて爾彼等を怒り彼等を其敵に付し
敵かれらを虜として遠近を諭ず敵の地に引ゆかん時
は 47 若彼等虜れゆきし地において自ら顧みて悔い己
を虜へゆきし者の地にて爾に願ひて我儕罪を犯し悖
れる事を爲たり我儕惡を行ひたりと言ひ 48 己を虜ゆ
きし敵の地にて一心一念に爾に歸り爾が其父祖に與
へたまへる地爾が選みたまへる城とわが爾の名のた
めに建たる家の方に向ひて爾に祈らば 49 爾の居處な
る天において爾彼等の祈祷と懇願を聽てかれらを助
け 50 爾の民の爾に對て犯したる事と爾に對て過てる
其凡の罪過を赦し彼等を虜ゆける者の前にて彼等に
憐を得させ其人々をして彼等を憐ましめたまへ 51 其
は彼等は爾がエジプトより即ち鐵の鑪の中よりいだ
したまひし爾の民爾の産業なればなり 52 願くは僕の
祈祷と爾の民イスラエルの祈願に爾の目を開きて凡
て其爾に願求むる所を聽たまへ 53 其は爾彼等を地の

凡の民の中より別ちて爾の産業となしたまへばなり
神エホバ爾が我儕の父祖をエジプトより導き出せし
時モーセによりて言給ひし如し 54 ソロモン此祈祷と
祈願を悉くエホバに祈り終りし時其天にむかひて手
を舒べ膝を屈居たるを止てエホバの壇のまへより起
あがり 55 立て大なる聲にてイスラエルの凡の會衆を
祝して言けるは 56 エホバは譽べきかなエホバは凡て
其言たまひし如く其民イスラエルに太平を與へたま
へり其僕モーセによりて言たまひし其善言は皆一も
違はざりき 57 願くは我儕の神エホバ我儕の父祖と偕
に在せしごとく我儕とともに在せ我儕を離れたまふ
なかれ我儕を棄たまふなかれ 58 願くは我儕の心をお
のれに傾けたまひて其凡の道に歩ましめ其我儕の父
祖に命じたまひし誠命と法憲と律例を守らしめたま
へ 59 願くはエホバの前にわが願し是等の言日夜われ
らの神エホバに近くあれ而してエホバ日々事に僕
を助け其民イスラエルを助けたまへ 60 斯して地の諸
の民にエホバの神なることと他に神なきことを知し
めたまへ 61 されば爾等我儕の神エホバとともにあり
て今日の如く爾らの心を完全しエホバの法憲に歩み
其誠命を守るべしと 62 斯て王および王と偕にありし
イスラエル皆エホバのまへに犠牲を献たり 63 ソロモ
ン酬恩祭の犠牲を献げたり即ち之をエホバに献ぐ其
牛二萬二千羊十二萬なりき斯王とイスラエルの子孫
皆エホバの家を開けり 64 其日に王エホバの家の前な
る庭の中を聖別め其處にて燔祭と禱祭と酬恩祭の脂
とを献げたり是はエホバの前なる銅の壇小さくして燔
祭と禱祭と酬恩祭の脂とを受るにたらざりしが故なり
65 其時ソロモン七日に七日合て十四日我儕の神エ

ホバのまへに節筵を爲りイスラエルの大なる會衆ハマテの入處よりエジプトの河にいたるまで悉く彼と偕にありき 66 第八日にソロモン民を歸せり民は王を祝しエホバが其僕ダビデと其民イスラエルに施したまひし諸の恩惠のために喜び且心に樂みて其天幕に往り

9 ソロモン、エホバの家と王の家を建る事を終へ且凡てソロモンが爲んと欲し望を遂し時 2 エホバ再ソロモンに嘗てギベオンにて顯現たまひし如くあらはれたまひて 3 彼に言たまひけるは我は爾が我まへに願し祈祷と祈願を聽たり我爾が建たる此家を聖別てわが名を永く其處に置べし且わが目とわが心は恒に其處にあるべし 4 爾若爾の父ダビデの歩みし如く心を完うして正しく我前に歩みわが爾に命じたる如く凡て行ひてわが憲法と律例を守らば 5 我は爾の父ダビデに告てイスラエルの位に上る人爾に缺ること無るべしと言しごとく爾のイスラエルに王たる位を固うすべし 6 若爾等又は爾等の子孫全く轉きて我にしたがはずわが爾等のまへに置たるわが誠命と法憲を守らずして往て他の神に事へ之を拝まば 7 我イスラエルをわが與へたる地の面より絶ん又わが名のために我が聖別たる此家をば我わがまへより投げ棄んしかしてイスラエルは諸の民の中に諺語となり嘲笑となるべし 8 且又此家は高くあれども其傍を過る者は皆之に驚き嘶きて言んエホバ何故に此地に此家に斯爲たまひしやと 9 人答へて彼等は己の父祖をエジプトの地より導き出せし其神エホバを棄て他の神に附從ひ之を拝み之に事へしに因てエホバ此の凡の害惡を其上に降せるなりと言ん 10 ソロモン二十年を経て

二の家即ちエホバの家と王の家を建をはりヒウムに
ガリラヤの地の城邑二十を與へたり **11** 其はツロの王
ヒラムはソロモンに凡て其望に循ひて香柏と松の木
と金を供給たればなり **12** ヒラム、ツロより出てソロ
モンが己に與へたる諸邑を見しに其目に善らざりけ
れば **13** 我兄弟よ爾が我に與へたる此等の城邑は何な
るやといひて之をカブルの地となづけたり其名今日
までのこる **14** 嘗てヒラムは金百二十タラントを王に
遣れり **15** ソロモン王の徴募人を興せし事は是なり即
ちエホバの家と自己の家とミロとエルサレムの石垣
とハズルとメギドンとゲゼルを建んが爲なりき **16** エ
ジプトの王パロ嘗て上りてゲゼルを取り火を以て之
を燬き其邑に住るカナン人を殺し之をソロモンの妻
なる其女に與へて粧奩と爲り **17** ソロモン、ゲゼルと
下ベテホロンと **18** バアラと國の野にあるタデモル **19**
及びソロモンの有てる府庫の諸邑其戦車の諸邑其騎
兵の諸邑並にソロモンがエルサレム、レバノンおよ
び其凡の領地に於て建んと欲し者を盡く建たり **20** 凡
てイスラエルの子孫に非るアモリ人ヘテ人ペリジ人
ヒビ人エブス人の遺存る者 **21** 其地に在て彼等の後に
遺存る子孫即ちイスラエルの子孫の滅し盡すことを
得ざりし者にソロモン奴隸の徴募を行ひて今日に至
る **22** 然どもイステエルの子孫をばソロモン一人も奴
隸と爲ざりき其は彼等は軍人彼の臣僕牧伯大將たり
戦車と騎兵の長たればなり **23** ソロモンの工事を管理
れる首なる官吏は五百五十人にして工事に働く民を
治めたり **24** 爰にパロの女ダビデの城より上りてソロ
モンが彼のために建たる家に至る其時にソロモン、
ミロを建たり **25** ソロモン、エホバに築きたる壇の上

に年に三次燔祭と酬恩祭を献げ又エホバの前なる壇に香を焚りソロモン斯家を全うせり 26 ソロモン王エドムの地紅海の濱に於てエラテの邊なるエジオングベルにて船數雙を造れり 27 ヒラム海の事を知れる舟人なる其僕をソロモンの僕と偕に其船にて遣せり 28 彼等オフルに至り其處より金四百二十タラントを取てこれをソロモン王の所に携來る

10 シバの女王エホバの名に關るソロモンの風聞を聞き及び難問を以てソロモンを試みんとて來れり 2 彼甚だ多くの部從香物と甚だ多くの金と寶石を負ふ駱駝を從へてエルサレムに至る彼ソロモンの許に來り其心にある所を悉く之に言たるに 3 ソロモン彼に其凡の事を告たり王の知ずして彼に告ざる事無りき 4 シバの女王ソロモンの諸の智慧と其建たる家と 5 其席の食物と其臣僕の列坐る事と其侍臣の伺候および彼等の衣服と其酒人と其エホバの家に上る階級とを見て全く其氣を奪はれたり 6 彼王にいひけるは我が自己の國にて爾の行爲と爾の智慧に付て聞たる言は眞實なりき 7 然ど我來りて目に見るまでは其言を信ぜざりしが今視るに其半も我に聞えざりしなり爾の智慧と昌盛はわが聞たる風聞に越ゆ 8 常に爾の前に立て爾の智慧を聽く是等の人爾の臣僕は幸福なるかな 9 爾の神エホバは讚べきかなエホバ爾を悦び爾をイスラエルの位に上らせたまへりエホバ永久にイスラエルを愛したまふに因て爾を王となして公道と義を行はしめたまふなりと 10 彼乃ち金百二十タラント及び甚だ多くの香物と寶石とを王に饋れりシバの女王のソロモン王に饋りたるが如き多くの香物は重て至ざりき 11 オフルより金を載來りたるヒラムの船は

亦オフルより多くの白檀木と寶石とを運び來りければ 12 王白檀木を以てエホバの家と王の家とに欄干を造り歌謡者のために琴と瑟を造れり是の如き白檀木は至らざりき亦今日までも見たることなし 13 ソロモン王の例に循ひてシバの女王に物を饋りたる外に又彼が望に任せて凡て其求むる物を饋れり斯て彼其臣僕等とともに歸りて其國に往り 14 倅一年にソロモンの所に至れる金の重量は六百六十六タラントなり 15 外に又商買および商旅の交易並にアラビヤの王等と國の知事等よりも至れり 16 ソロモン王展金の大楯二百を造れり其大楯には各六百シケルの金を用ひたり 17 又展金の干三百を造れり一の干に三斤の金を用ひたり王是等をレバノン森林の家に置り 18 王又象牙をもて大なる寶座を造り純金を以て之を蔽へり 19 其寶座に六の階級あり寶座の後に圓き頭あり坐する處の兩旁に扶手ありて扶手の側に二の獅子立てり 20 又其六の階級に十二の獅子此旁彼旁に立り是の如き者を作れる國はあらざりき 21 ソロモン王の用ひて飲る器は皆金なり又レバノン森林の家の器も皆純金にして銀の物無りき銀はソロモンの世には貴まざりしなり 22 其は王海にタルシシの船を有てヒラムの船と供にあらしめタルシシの船をして三年に一度金銀象牙猿猴および孔雀を載て來らしめたればなり 23 抑ソロモン王は富有と智慧に於て天下の諸の王よりも大なりければ 24 天下皆神がソロモンの心に授けたまへる智慧を聽んとてソロモンの面を見んことを求めたり 25 人々各其禮物を携へ來る即ち銀の器金の器衣服甲冑香物馬騾毎歳定分ありき 26 ソロモン戰車と騎兵を集めたるに戰車千四百輛騎兵壹萬二千ありきソロモ

ン之を戦車の城邑に置き或はエルサレムにて王の所に置き 27 王エルサレムに於て銀を石の如くに爲し香柏を平地の桑樹の如くに爲して多く用ひたり 28 ソロモンの馬を獲たるはエジプトとコアよりなり即ち王の商賣コアより價値を以て取り 29 エジプトより上り出る戦車一輛は銀六百にして馬は百五十なりき斯のごとくヘテ人の凡の王等およびスリアの王等のために其手をもて取出せり

11 ソロモン王パロの女の外に多の外國の婦を寵愛せり即ちモアブ人アンモニ人エドミ人シドン人ヘテ人の婦を寵愛せり 2 エホバ曾て是等の國民についてイスラエルの子孫に言たまひけらく爾等は彼等と交るべからず彼等も亦爾等と交るべからず彼等必ず爾等の心を轉して彼等の神々に従はしめんとしかるにソロモン彼等を愛して離れざりき 3 彼妃公主七百人嬪三百人あり其妃等彼の心を轉せり 4 ソロモンの年老たる時妃等其心を轉移して他の神に従はしめければ彼の心其父ダビデの心の如く其神エホバに全からざりき 5 其はソロモン、シドン人の神アシタロテに従ひアンモニ人の惡むべき者なるモロクに従ひたればなり 6 ソロモン斯エホバの目のまへに惡を行ひ其父ダビデの如く全くはエホバに従はざりき 7 爰にソロモン、モアブの憎むべき者なるケモシの爲又アンモンの子孫の憎むべき者なるモロクのためにエルサレムの前なる山に崇邱を築けり 8 彼又其異邦の凡の妃の爲にも然せしかば彼等は香を焚て己々の神を祭れり 9 ソロモンの心轉りてイスラエルの神エホバを離れしによりてエホバ彼を怒りたまふエホバ嘗て兩次彼に顯れ 10 此事に付て彼に他の神に従ふべからず

と命じたまひけるに彼エホバの命じたまひし事を守らざりしなり **11** エホバ、ソロモンに言たまひけるは此事爾にありしに因り又汝わが契約とわが爾に命じたる法憲を守らざりしに因て我必ず爾より國を裂きはなして之を爾の臣僕に與ふべし **12** 然ど爾の父ダビデの爲に爾の世には之を爲ざるべし我爾の子の手より之を裂きはなさん **13** 但し我は國を盡くは裂きはなさずしてわが僕ダビデのために又わが選みたるエルサレムのために一の支派を爾の子に與へんと **14** 是に於てエホバ、エドミ人ハダデを興してソロモンの敵と爲したまふ彼はエドム王の裔なり **15** 曩にダビデ、エドムに事ありし時軍の長ヨアブ上りて其戰死せし者を葬りエドムの男を盡く擊殺しける時に方りて **16** (ヨアブはエドムの男を盡く絶までイスラエルの群衆と偕に六月其處に止れり) **17** ハダデ其父の僕なる數人のエドミ人と共に逃てエジプトに往んとせり時にハダデは尚小童子なりき **18** 彼等ミデアンを起出てバランに至りバランより人を伴ひてエジプトに往きエジプトの王パロに詣るにパロ彼に家を與へ食糧を定め且土地を與へたり **19** ハダデ大にパロの心にかなひしかばパロ己の妻の妹即ち王妃タペネスの妹を彼に妻せり **20** タペネスの妹彼に男子ゲヌバテを生ければタペネス之をパロの家の中にて乳離せしむゲヌバテ、パロの家にてパロの子の中にありき **21** ハダデ、エジプトに在てダビデの其先祖と偕に寝りたると軍の長ヨアブの死たるを聞しかばハダデ、パロに言けるは我を去しめてわが國に往しめよと **22** パロ彼にいひけるは爾我とともにありて何の缺たる處ありてか爾の國に往ん事を求むる彼言ふ何も無し然どもねがは

くは我を去しめよ去しめよ **23** 神父エリアダの子レゾン
を興してソロモンの敵となせり彼は其主人ゾパの
王ハダデゼルの許を逃さりたる者なり **24** ダビデがゾ
パの人を殺したる時に彼人を自己に集めて一隊の首
領となりしが彼等ダマスコに往て彼處に住みダマス
コを治めたり **25** ハダデが爲たる害の外にレゾン、ソ
ロモンの一生の間イスラエルの敵となれり彼イステ
エルを悪みてスリアに王たりき **26** ゼレダのエフラタ
人ネバテの子ヤラベアムはソロモンの僕なりしが其
母の名はゼルヤと曰て嫠婦なりき彼も亦其手を擧て
王に敵す **27** 彼が手を擧て王に敵せし故は此なりソロ
モン、ミロを築き其父ダビデの城の損缺を塞ぎ居た
り **28** 其人ヤラベアムは大なる能力ある者なりしかば
ソロモン此少者が事に勤むるを見て之を立てヨセフ
の家の凡の役を督どらしむ **29** 其頃ヤラベアム、エル
サレムを出し時シロ人なる預言者アヒヤ路にて彼に
遭へり彼は新しき衣服を著るたりしが彼等二人のみ
野にありき **30** アヒヤ其著たる新しき衣服を執へて之
を十二片に裂き **31** ヤラベアムに言けるは爾自ら十片
を取れイスラエルの神エホバ斯言たまふ視よ我國を
ソロモンの手より裂きはなして爾に十の支派を與へ
ん **32** (但し彼はわが僕ダビデの故に因り又わがイス
ラエルの凡の支派の中より選みたる城エルサレムの
故に因りて一の支派を有つべし) **33** 其は彼等我を棄
てシドン人の神アシタロテとモアブの神ケモシとア
ンモンの子孫の神モロクを拝み其父ダビデの如くわ
が道に歩てわが目に適ふ事わが法とわが律例を行
はざればなり **34** 然ども我は國を盡くは彼の手より取
ざるべし我が選みたるわが僕ダビデわが命令とわが

法憲を守りたるに因て我彼が爲にソロモンを一生の間主たらしむべし 35 然ど我其子の手より國を取て其十の支派を爾に與へん 36 其子には我一の支派を與へてわが僕ダビデをしてわが己の名を置んとてわがために擇みたる城エルサレムにてわが前に常に一の光明を有しめん 37 我爾を取ん爾は凡て爾の心の望む所を治めイスラエルの上に王となるべし 38 爾若わが爾に命ずる凡の事を聽て吾が道に歩みわが目に適ふ事を爲しわが僕ダビデが爲し如く我が法憲と誠命を守らば我爾と偕にありてわがダビデのために建しごとく爾のために鞏固き家を建てイスラエルを爾に與ふべし 39 我之がためにダビデの裔を苦めんされど永遠には非じと 40 ソロモン、ヤラベアムを殺さんと求めければヤラベアム起てエジプトに逃遁れエジプトの王シシヤクに至りてソロモンの死ぬるまでエジプトに居たり 41 ソロモンの其餘の行爲と凡て彼が爲たる事および其智慧はソロモンの行爲の書に記さるるにあらずや 42 ソロモンのエルサレムにてイスラエルの全地を治めたる日は四十年なりき 43 ソロモン其父祖と偕に寝りて其父ダビデの城に葬らる其子レハベアム之に代て王となれり

12 爰にレハベアム、シケムに往り其はイスラエル皆彼を王と爲んとてシケムに至りたればなり 2 ネバテの子ヤラベアム尚エジプトに在て聞りヤラベアムはソロモン王の面をさけて逃さりエジプトに住居たるなり 3 時に人衆人を遣はして彼を招けり斯てヤラベアムとイスラエルの會衆皆來りてレハベアムに告て言けるは 4 汝の父我儕の軛を難くせり然ども爾今爾の父の難き役と爾の父の我儕に蒙らせたる重き軛

を軽くせよ然ば我儕爾に事へん 5 レハベアム彼等に
言けるは去て三日を経て再び我に來れと民乃ち去り
6 レハベアム王其父ソロモンの生る間其前に立たる老
人等と計りていひけるは爾等如何に教へて此民に答
へしむるや 7 彼等レハベアムに告て言けるは爾若今
日此民の僕となり之に事へて之に答へ善き言を之に
語らば彼等永く爾の僕となるべしと 8 然に彼老人の
教へし教を棄て自己と俱に生長て己のまへに立つ少
年等と計れり 9 即ち彼等に言けるは爾等何を教へて
我儕をして此我に告て爾の父の我儕に蒙むらせし軛
を軽くせよと言ふ民に答へしむるやと 10 彼と偕に生
長たる少年彼に告ていひけるは爾に告て爾の父我儕
の軛を重くしたれど爾これを我儕のために軽くせよ
と言たる此民に爾斯言べし我が小指はわが父の腰よ
りも太し 11 またわが父爾等に重き軛を負せたりしが
我は更に爾等の軛を重くせん我父は鞭にて爾等を懲
したれども我は蠍をもて爾等を懲んと爾斯彼等に告
べしと 12 ヤラベアムと民皆王の告て第三日に再び我
に來れと言しごとく第三日にレハベアムに詣りしに
13 王荒々しく民に答へ老人の教へし教を棄て 14 少年
の教の如く彼等に告て言けるは我父は爾等の軛を重
くしたりしが我は更に爾等の軛を重くせん我父は鞭
を以て爾等を懲したれども我は蠍をもて爾等を懲さ
んと 15 王斯民に聽ざりき此事はエホバより出たる者
なり是はエホバその嘗てシロ人アヒヤに由てネバテ
の子ヤラベアムに告し言をおこなはんとて爲たまへ
るなり 16 かくイスラエル皆王の己に聽ざるを見たり
是において民王に答へて言けるは我儕ダビデの中に
何の分あらんやエサイの子の中に産業なしイスラエ

ルよ爾等の天幕に歸れダビデよ今爾の家を視よと而してイスラエルは其天幕に去りゆけり 17 然どもユダの諸邑に住るイスラエルの子孫の上にはレハベアム其王となれり 18 レハベアム王徵募頭なるアドラムを遣はしけるにイスラエル皆石にて彼を撃て死しめたればレハベアム王急ぎて其車に登りエルサレムに逃たり 19 斯イスラエル、ダビデの家に背きて今日にいたる 20 爰にイスラエル皆ヤラベアムの歸りしを聞て人を遣して彼を集會に招き彼をイスラエルの全家の上に王と爲りユダの支派の外はダビデの家に從ふ者なし 21 ソロモンの子レハベアム、エルサレムに至りてユダの全家とベニヤミンの支派の者即ち壯年の武夫十八萬を集む斯してレハベアム國を己に販さんがためにイスラエルの家と戦はんとせしが 22 神の言神の人シマヤに臨みて曰く 23 ソロモンの子ユダの王レハベアムおよびユダとベニヤミンの全家並に其餘の民に告て言べし 24 エホバス言ふ爾等上るべからず爾等の兄弟なるイスラエルの子孫と戦ふべからず各人其家に歸れ此事は我より出たるなりと彼等エホバの言を聽きエホバの言に循ひて轉り去りぬ 25 ヤラベアムはエフライムの山地にシケムを建て其處に住み又其所より出てペヌエルを建たり 26 爰にヤラベアム其心に謂けるは國は今ダビデの家に歸らん 27 若此民エルサレムにあるエホバの家に禮物を獻げんとて上らば此民の心ユダの王なる其主レハベアムに歸りて我を殺しユダの王レハベアムに歸らんと 28 是に於て王計議て二の金の犢を造り人々に言けるは爾らのエルサレムに上ること既に足りイスラエルよ爾をエジプトの地より導き上りし汝の神を視よと 29 而して彼一

をベテルに安糸一をダンに置り 30 此事罪となれりそは民ダンに迄往て其一の前に詣たればなり 31 彼又崇邱の家を建てレビの子孫にあらざる凡民を祭司となせり 32 ヤラベアム八月に節期を定めたり即ち其月の十五日なりユダにある節期に等し而して壇の上に上りたりベテルにて彼斯爲し其作りたる犢に禮物を献げたり又彼其造りたる崇邱の祭司をベテルに立たり 33 かく彼其ベテルに造れる壇の上に八月の十五日に上れり是は彼が己の心より造り出したる月なり而してイスラエルの人々のために節期を定め壇の上ののぼりて香を焚り

13 視よ爰に神の人エホバの言に由てユダよりベテルに來れり時にヤラベアムは壇の上に立て香を焚めたり 2 神の人乃ちエホバの言を以て壇に向ひて呼はり言けるは壇よ壇よエホバ斯言たまふ視よダビデの家にヨシアと名くる一人の子生るべし彼爾の上に香を焚く所の崇邱の祭司を爾の上に献げん且人の骨爾の上に焼れんと 3 是日彼異蹟を示して言けるは是はエホバの言たまへる事の異蹟なり視よ壇は裂け其上にある灰は傾出んと 4 ヤラベアム王神の人がベテルにある壇に向ひて呼はりたる言を聞る時其手を壇より伸し彼を執へよと言けるが其彼に向ひて伸したる手枯て再び屈縮ることを得ざりき 5 しかして神の人がエホバの言を以て示したる異蹟の如く壇は裂け灰は壇より傾出たり 6 王答て神の人に言けるは請ふ爾の神エホバの面を和めわが爲に祈りてわが手を本に復しめよ神の人乃ちエホバの面を和めければ王の手本に復りて前のごとくに成り 7 是において王神の人に言けるは我と與に家に來りて身を息めよ我爾に禮

物を與へんと 8 神の人王に言けるは爾假令爾の家の半を我に與ふるも我は爾とともに入じ又此所にてパンを食ず水を飲ざるべし 9 其はエホバの言我にパンを食ふなかれ水を飲なかれ又爾が往る途より歸るなかれと命じたればなりと 10 斯彼他途を往き自己がベテルに來れる途よりは歸らざりき 11 爰にベテルに一人の老たる預言者住むたりしが其子等來りて是日神の人がベテルにて爲たる諸事を彼に宣たり亦神の人の王に言たる言をも其父に宣たり 12 其父彼等に彼は何の途を往しやといふ其子等ユダより來りし神の人の往たる途を見たればなり 13 彼其子等に言けるは我ために驢馬に鞍おけと彼等驢馬に鞍おきければ彼之に乗り 14 神の人の後に往きて橡の樹の下に坐するを見之にいひけるは汝はユダより來れる神の人なるか其人然りと言ふ 15 彼其人にいひけるは我と偕に家に往てパンを食へ 16 其人いふ我は汝と偕に歸る能はず汝と偕に入あたはず又我は此處にて爾と偕にパンを食ず水を飲じ 17 其はエホバの言我に爾彼處にてパンを食ふなかれ水を飲なかれ又爾が至れる所の途より歸り往なかれと言たればなりと 18 彼其人にいひけるは我も亦爾の如く預言者なるが天の使エホバの言を以て我に告て彼を爾と偕に爾の家に携かへり彼にパンを食はしめ水を飲しめよといへりと是其人を誑けるなり 19 是において其人彼と偕に歸り其家にてパンを食ひ水を飲り 20 彼等が席に坐せし時エホバの言其人を携歸し預言者に臨みければ 21 彼ユダより來れる神の人に向ひて呼はり言けるはエホバ斯言たまふ爾エホバの口に違き爾の神エホバの爾に命じたまひし命令を守らずして歸り 22 エホバの爾にパンを食ふな

かれ水を飲なかれと言たまひし處にてパンを食ひ水を飲たれば爾の屍は爾の父祖の墓に至らざるべしと
23 其人のパンを食ひ水を飲し後彼其人のため即ち己が携歸りたる預言者のために驢馬に鞍おけり 24 斯て其人往けるが獅子途にて之に遇ひて之を殺せり而して其屍は途に棄られ驢馬は其傍に立ち獅子も亦其屍の側に立り 25 人々經過て途に棄られたる屍と其屍の側に立る獅子を見て來り彼老たる預言者の住る邑にて語れり 26 彼人を途より携歸りたる預言者聞て言けるは其はエホバの口に違きたる神の人なりエホバの彼に言たまひし言の如くエホバ彼を獅子に付したまひて獅子彼を裂き殺せりと 27 しかして其子等に語りて言けるは我ために驢馬に鞍おけと彼等鞍おきければ 28 彼往て其屍の途に棄られ驢馬と獅子の其屍の傍に立るを見たり獅子は屍を食はず驢馬をも裂ざりき 29 預言者乃ち神の人の屍を取あげて之を驢馬に載せて携歸れりしかして其老たる預言者邑に入り哀哭みて之を葬れり 30 即ち其屍を自己の墓に置め皆之がために嗚呼わが兄弟よといひて哀哭り 31 彼人を葬りし後彼其子等に語りて言けるは我が死たる時は神の人を葬りたる墓に我を葬りわが骨を彼の骨の側に置めよ 32 其は彼がエホバの言を以てベテルにある壇にむかひ又サマリアの諸邑に在る崇邱の凡の家に向ひて呼はりたる言は必ず成べければなり 33 斯事の後ヤラベアム其惡き途を離れ歸らずして復凡の民を崇邱の祭司と爲り即ち誰にても好む者は之を立てければ其人は崇邱の祭司と爲り 34 此事ヤラベアムの家の罪戾となりて遂に之をして地の表面より消失せ滅亡に至らしむ

14 當時ヤラベアムの子アビヤ疾ゐたり **2** ヤラベアム其妻に言けるは請ふ起て装を改へ人をして汝がヤラベアムの妻なるを知しめずしてシロに往け彼處にわが此民の王となるべきを我に告たる預言者アヒヤをる **3** 汝の手に十のパン及び菓子と一瓶の蜜を取て彼の所に往け彼汝に此子の如何になるかを示すべしと **4** ヤラベアムの妻是爲し起てシロに往きアヒヤの家に至りしがアヒヤは年齢のために其目凝て見ることを得ざりき **5** エホバ、アヒヤにいひたまひけるは視よヤラベアムの妻其子疾るに因て其に付て汝に一の事を諮んとて來る汝斯々彼に言べし其は彼入り來る時其身を他の人とすべければなり **6** 彼が戸の所に入來れる時アヒヤ其履聲を聞て言けるはヤラベアムの妻入よ汝何ぞ其身を他の人とするや我汝に嚴酷き事を告るを命ぜらる **7** 往てヤラベアムに告べしイスラエルの神エホバ斯言たまふ我汝を民の中より擧げ我民イスラエルの上に汝を君となし **8** 國をダビデの家より裂き離して之を汝に與へたるに汝は我僕ダビデの我が命令を守りて一心に我に従ひ唯わが目に適ふ事のみを爲しが如くならずして **9** 汝の前に在し凡の者よりも惡を爲し往て汝のために他の神と鑄たる像を造り我が怒を激し我を汝の背後に棄たり **10** 是故に視よ我ヤラベアムの家に災害を下しヤラベアムに屬する男はイスラエルにありて繋がれたる者も繋がれざる者も盡く絶ち人の塵埃を残りなく除くがごとくヤラベアムの家の後を除くべし **11** ヤラベアムに屬する者の邑に死るをば犬之を食ひ野に死ぬるをば天空の鳥之を食はんエホバ之を語たまへばなり **12** 爾起て爾の家に往け爾の足の邑に入る時子は死ぬべし **13**

而してイスラエル皆彼のために哀みて彼を葬らんヤラベアムに屬する者は唯是のみ墓に入るべし其はヤラベアムの家の中にて彼はイスラエルの神エホバに向ひて善き意を懐けばなり **14** エホバ、イスラエル上に一人の王を興さん彼其日にヤラベアムの家を斷絶べし但し何れの時なるか今即ち是なり **15** 又エホバ、イスラエルを撃て水に搖撼ぐ葦の如くになしたまひイスラエルを其父祖に賜ひし此善地より抜き去りて之を河の外に散したまはん彼等其アシラ像を造りてエホバの怒を激したればなり **16** エホバ、ヤラベアムの罪の爲にイスラエルを棄たまふべし彼は罪を犯し又イスラエルに罪を犯さしめたりと **17** ヤラベアムの妻起て去テルザに至りて家の鬪に臻れる時子は死り **18** イスラエル皆彼を葬り彼の爲に哀めりエホバの其僕預言者アヒヤによりて言たまへる言の如し **19** ヤラベアムの其餘の行爲彼が如何に戦ひしか如何に世を治めしかは視よイスラエルの王の歴代志の書に記載る **20** ヤラベアムの王たりし日は二十二年なりき彼其父祖と偕に寝りて其子ナダブ之に代りて王となれり **21** ソロモンの子レハベアムはユダに王たりきレハベアムは王と成る時四十一歳なりしがエホバの其名を置んとてイスラエルの諸の支派の中より選みたまひし邑なるエルサレムにて十七年王たりき其母の名はナアマといひてアンモニ人なり **22** ユダ其父祖の爲たる諸の事に超てエホバの目の前に惡を爲し其犯したる罪に由てエホバの震怒を激せり **23** 其は彼等も諸の高山の上と諸の青木の下に崇邱と碑とアシラ像を建たればなり **24** 其國には亦男色を行ふ者ありぎ彼等はエホバがイスラエルの子孫の前より逐攘ひたまひし

國民の中にありし諸の憎むべき事を倣ひ行へり 25 レハベアム王の第五年にエジプトの王シシヤク、エルサレムに攻上り 26 エホバの家の寶物と王の家の寶物を奪ひたり即ち盡く之を奪ひ亦ソロモンの造りたる金の楯を皆奪ひたり 27 レハベアム王其代に銅の楯を造りて王の家の門を守る侍衛の長の手につせり 28 王のエホバの家に入る毎に侍衛之を負ひ復之を侍衛の房に携歸れり 29 レハベアムの其餘の行爲と其凡て爲たる事はユダの王の歴代志の書に記さるるに非ずや 30 レハベアムとヤラベアムの間に戦争ありき 31 レハベアム其父祖と偕に寝りて其父祖と共にダビデの城に葬らる其母のナアマといひてアンモニ人なり其子アビヤム之に代りて王と爲り

15 ネバテの子ヤラベアム王の第十八年にアビヤム、ユダの王となり 2 エルサレムにて三年世を治めたり其母の名はマアカといひてアブサロムの女なり 3 彼は其父が己のさきに爲たる諸の罪を行ひ其心其父ダビデの心の如く其神エホバに完全からざりき 4 然に其神エホバ、ダビデの爲にエルサレムに於て彼に一の燈明を與へ其子を其後に興しエルサレムを固く立しめ賜へり 5 其はダビデはヘテ人ウリヤの事の外は一生の間エホバの目に適ふ事を爲て其己に命じたまへる諸の事に背かざりければなり 6 レハベアムとヤラベアムの間には其一生の間戦争ありき 7 アビヤムの其餘の行爲と凡て其爲たる事はユダの王の歴代志の書に記載さるるにあらずやアビヤムとヤラベアムの間に戦争ありき 8 アビヤム其先祖と俱に寝りしかば之をダビデの城に葬りぬ其子アサ之に代りて王と爲り 9 イスラエルの王ヤラベアムの第二十年にア

サ、ユダの王となり 10 エルサレムにて四十一年世を治めたり其母の名はマアカといひてアブサロムの女なり 11 アサは其父ダビデの如くエホバの目に適ふ事を爲し 12 男色を行ふ者を國より逐ひ出し其父祖等の造りたる諸の偶像を除けり 13 彼は亦其母マアカのアシラの像を造りしがために之を貶して太后たらしめざりき而してアサ其像を毀ちてキデロンの谷に焚棄たり 14 但し崇邱は除かざりき然どアサの心は一生の間エホバに完全かりき 15 彼其父の献納めたる物と己のをさめたる物金銀器をエホバの家に携へいりぬ 16 アサとイスラエルの王バアシャの間に一生の間戦争ありき 17 イスラエルの王バアシャ、ユダに攻上りユダの王アサの所に誰をも往來せざらしめん爲にラマを築けり 18 是に於てアサ王エホバの家の府庫と王の家の府庫に残れる所の金銀を盡く將て之を其臣僕の手に付し之をダマスコに住るスリアの王ヘジヨンの子タブリモンの子なるベネハダデに遣はして言けるは 19 わが父と爾の父の間の如く我と爾の間に約を立ん視よ我爾に金銀の禮物を餽れり往て爾とイスラエルの王バアシャとの約を破り彼をして我を離れて上らしめよ 20 ベネハダデ、アサ王に聽きて自己の軍勢の長等を遣はしてイスラエルの諸邑を攻めイヨンとダンとアベルベテマアカおよびキンネレテの全地とナフタリの全地とを撃り 21 バアシャ聞及びラマを築くことを罷てテルザに止り 22 是に於てアサ王令をユダ全國に降したり一人も免かれし者なし斯して即ちバアシャが用ひてラマを築きたる石と材木を取きたらしめアサ王之を用てベニヤミンのゲバとミズパを築けり 23 アサの其餘の行爲と其諸の功業と凡て其爲

たる事および其建たる城邑はユダの王の歴代志の書に記載さるるにあらざや但し彼は年老るに及びて其足を病たり **24** アサ其父祖と時に寝りて其父ダビデの城に其父祖と偕に葬らる其子ヨシヤパテ之に代りて王と爲り **25** ユダの王アサの第二年にヤラベアムの子ナダブ、イスラエルの王と爲り二年イスラエルを治めたり **26** 彼エホバの目のまへに惡を爲其父の道に歩行み其イスラエルに犯させたる罪を行へり **27** 爰にイツサカルの家のアヒヤの子バアシヤ彼に敵して黨を結びペリシテ人に屬するギベトンにて彼を撃り其はナダブとイスラエル皆ギベトンを圍み居たればなり **28** ユダの王アサの第三年にバアシヤ彼を殺し彼に代りて王となれり **29** バアシヤ王となれる時ヤラベアムの全家を撃ち氣息ある者は一人もヤラベアムに残さずして盡く之を滅せりエホバの其僕シロ人アヒヤに由て言たまへる言の如し **30** 是はヤラベアムが犯し又イスラエルに犯させたる罪の爲め又彼がイスラエルの神エホバの怒を惹き起したる事に因るなり **31** ナダブの其餘の行爲と凡て其爲たる事はイスラエルの王の歴代志の書に記載さるるにあらざや **32** アサとイスラエルの王バアシヤの間に一生のあひだ戦争ありき **33** ユダの王アサの第三年にアヒヤの子バアシヤ、テルザに於てイスラエルの全地の王となりて二十四年を経たり **34** 彼エホバの目のまへに惡を爲しヤラベアムの道にあゆみ其イスラエルに犯させたる罪を行へり

16 爰にエホバの言ハナニの子エヒウに臨みバアシヤを責て曰く **2** 我爾を塵の中より擧て我民イスラエルの上に君となしたるに爾はヤラベアムの道に歩行

みわが民イスラエルに罪を犯させて其罪をもて我怒を激したり 3 されば我バアシヤの後と其家の後を除き爾の家をしてネバテの子ヤラベアムの家の如くならしむべし 4 バアシヤに屬する者の城邑に死るをば犬之を食ひ彼に屬する者の野に死るをば天空の鳥これを食はんと 5 バアシヤの其餘の行爲と其爲たる事と其功績はイスラエルの王の歴代志の書に記載さるるにあらざや 6 バアシヤ其父祖と俱に寝りてテルザに葬らる其子エラ之に代りて王となれり 7 エホバの言亦ハナニの子エヒウに由て臨みバアシヤと其家を責む是は彼がエホバの目のまへに諸の惡事を行ひ其手の所爲を以てエホバの怒を激してヤラベアムの家に倣たるに縁り又其ナダブを殺したるに縁てなり 8 ユダの王アサの第二十六年にバアシヤの子エラ、テルザに於てイスラエルの王となりて二年を経たり 9 彼がテルザにありてテルザの宮殿の宰アルザの家において飲み酔たる時其僕ジムリ戦車の半を督どる者之に敵して黨を結べり 10 即ちユダの王アサの第二十七年にジムリ入て彼を撃ち彼を殺し彼にかはりて王となれり 11 彼王となりて其位に上れる時バアシヤの全家を殺し男子は其親族にもあれ朋友にもあれ一人も之に遺さざりき 12 ジムリスバアシヤの全家を滅ぼせりエホバが預言者エヒウに由てバアシヤを責て言たまへる言の如し 13 是はバアシヤの諸の罪と其子エラの罪のためなり彼等は罪を犯し又イスラエルをして罪を犯し其虚物を以てイスラエルの神エホバの怒を激さしめたり 14 エラの其餘の行爲と凡て其爲たる事はイスラエルの王の歴代志の書に記載さるるにあらざや 15 ユダの王アサの第二十七年にジムリ、テル

ザにて七日の間王たりき民はペリシテ人に屬するギ
ベトンに向ひて陣どり居たりしが **16**陣どれる民ジム
リは黨を結び亦王を殺したりと言を聞き是に於てイ
スラエル皆其日陣營にて軍の長オムリをイスラエルの
王となせり **17**オムリ乃ちイスラエルの衆と偕にギ
ベトンより上りてテルザを圍り **18**ジムリ其邑の陥る
を見て王の家の天守に入り王の家に火をかけて其中
に死り **19**是は其犯したる罪によりてなり彼エホバの
目のまへに惡を爲しヤラベアムの道にあゆみヤラベ
アムがイスラエルに罪を犯させて爲したるところの
罪を行ひたり **20**ジムリの其餘の行爲と其なしたる徒
黨はイスラエルの王の歴代志の書に記載るるにあら
ずや **21**其時にイスラエルの民二に分れ民の半はギナ
ラの子テブニに従ひて之を王となさんとし半はオム
リに従へり **22**オムリに従へる民ギナテの子テブニに
従へる民に勝てテブニは死てオムリ王となれり **23**ユ
ダの王アサの第三十一年にオムリ、イスラエルの王
となりて十二年を経たり彼テルザにて六年王たりき
24彼銀二タラントを以てセメルよりサマリア山を買
ひ其上に邑を建て其建たる邑の名を其山の故主なり
しセメルの名に循ひてサマリアと稱り **25**オムリ、エ
ホバの目のまへに惡を爲し其先に在し凡の者よりも
惡き事を行へり **26**彼はネバテの子ヤラベアムの凡の
道にあゆみヤラベアムがイスラエルをして罪を犯し
其虚物を以てイスラエルの神エホバの怒をおこさし
めたる其罪を行へり **27**オムリの爲たる其餘の行爲と
其なしたる功績はイスラエルの王の歴代志の書に記
載るるにあらざや **28**オムリ其父祖と偕に寝りてサマ
リアに葬らる其子アハブ之に代りて王となれり **29**ユ

ダの王アサの第三十八年にオムリの子アハブ、イスラエルの王となれりオムリの子アハブ、サマリアに於て二十二年イスラエルに王たりき **30** オムリの子アハブは其先に在し凡の者よりも多くエホバの目のまへに悪を爲り **31** 彼はネバテの子ヤラベアムの罪を行ふ事を軽き事となせしがシドン人の王エテバルの女イゼベルを妻に娶り往てバルに事へ之を拝めり **32** 彼其サマリアに建たるバルの家の中にバルのために壇を築けり **33** アハブ又アシラ像を作れりアハブは其先にありしイスラエルの諸の王よりも甚だしくイスラエルの神エホバの怒を激すことを爲り **34** 其代にベテル人ヒエル、エリコを建たり彼其基を置る時に長子アビラムを喪ひ其門を立る時に季子セグブを喪へりヌンの子ヨシユアによりてエホバの言たまへるがごとし

17 ギレアデに居住れるテシベ人エリヤ、アハブに言ふ吾事ふるイスラエルの神エホバは活くわが言なき時は數年雨露あらざるべしと **2** エホバの言彼に臨みて曰く **3** 爾此より往て東に赴きヨルダンの前にあるケリテ川に身を匿せ **4** 爾其川の水を飲べし我鴉に命じて彼處にて爾を養はしむと **5** 彼往てエホバの言の如く爲り即ち往てヨルダンの前にあるケリテ川に住り **6** 彼の所に鴉朝にパンと肉亦夕にパンと肉を運べり彼は川に飲り **7** しかるに國に雨なかりければ數日の後其川涸ぬ **8** エホバの言彼に臨みて曰 **9** 起てシドンに屬するザレパテに往て其處に住め視よ我彼處の嫠婦に命じて爾を養はしむと **10** 彼起てザレパテに往けるが邑の門に至れる時一人の嫠婦の其處に薪を採ふを見たり乃ち之を呼て曰けるは請ふ器に少許

の水を我に携來りて我に飲せよと **11** 彼之を携きたらんとて往る時エリヤ彼を呼て言けるは請ふ爾の手に一口のパンを我に取きたれと **12** 彼いひけるは爾の神エホバは活く我はパン無し只桶に一握の粉と瓶に少許の油あるのみ觀よ我は二の薪を採ふ我いりてわれとわが子のために調理て之をくらひて死んとす **13** エリヤ彼に言ふ懼るなかれ往て汝がいへる如くせよ但し先其をもてわが爲に小きパンーを作りて我に携きたり其後爾のためと爾の子のために作るべし **14** 其はエホバの雨を地の面に降したまふ日までは其桶の粉は竭ず其瓶の油は絶ずとイスラエルの神エホバ言たまへばなりと **15** 彼ゆきてエリヤの言のごとくなし彼と其家及びエリヤ久く食へり **16** エホバのエリヤに由て言たまひし言のごとく桶の粉は竭ず瓶の油は絶ざりき **17** 是等の事の後其家の主母なる婦の子疾に罹しが其病甚だ劇くして氣息其中に絶て無きに至れり **18** 婦エリアに言けるは神の人よ汝なんぞ吾事に關渉るべけんや汝はわが罪を憶ひ出さしめんため又わが子を死しめんために我に來れるか **19** エリヤ彼に爾の子を我に授せと言て之を其懷より取り之を己の居る桜に抱のぼりて己の牀に臥しめ **20** エホバに呼はりていひけるは吾神エホバよ爾は亦吾ともに宿る嫠に菑をくだして其子を死しめたまふやと **21** 而して三度身を伸して其子の上に伏しエホバに呼はりて言ふわが神エホバ願くは此子の魂を中に歸しめたまへと **22** エホバ、エリヤの聲を聽いれたまひしかば其子の魂中にかへりて生たり **23** エリヤ乃ち其子を取て之を桜より家に携くだり其母に與していひけるは視よ爾の子は生くと **24** 婦エリヤにいひけるは此に縁て我は爾が

神の人にして爾の口にあるエホバの言は眞實なるを知ると

18 衆多の日を経たるのち第三年にエホバの言エリヤに臨みて曰く往て爾の身をアハブに示せ我爾を地の面に降さんと **2** エリヤ其身をアハブに示さんとて往り時に饑饉サムリアに甚しかりき **3** 茲にアハブ家宰なるオバデヤを召たり **4** (オバデヤは大にエホバを畏みたる者にてイゼベルがエホバの預言者を絶たる時にオバデヤ百人の預言者を取て之を五十人づつ洞穴に匿しパンと水をもて之を養へり) **5** アハブ、オバデヤにいひけるは國中の水の諸の源と諸の川に往け馬と騾を生活むる草を得ることあらん然ば我儕牲畜を盡くは失なふに至らじと **6** 彼等巡るべき地を二人に分ちアハブは獨にて此途に往きオバデヤは獨にて彼途に往けり **7** オバデヤ途にありし時觀よエリヤ彼に遭り彼エリヤを識て伏て言けるは我主エリヤ汝は此に居たまふや **8** エリヤ彼に言けるは然り往て汝の主のエリヤは此にありと告よ **9** 彼言けるは我何の罪を犯したれば汝僕をアハブの手に付して我を殺さしめんとする **10** 汝の神エホバは生くわが主の人を遣はして汝を尋ねざる民はなく國はなし若しエリヤは在らずといふ時は其國其民をして汝を見ずといふ誓を爲しめたり **11** 汝今言ふ往て汝の主のエリヤは此にありと告よと **12** 然ど我汝をはなれて往ときエホバの靈我しらざる處に汝を携へゆかん我至りてアハブに告て彼汝を尋獲ざる時は彼我を殺さん然ながら僕はわが幼少よりエホバを畏むなり **13** イゼベルがエホバの預言者を殺したる時に吾なしたる事即ち我がエホバの預言者の中百人を五十人づつ洞穴に匿してパンと水

を以て之を養ひし事は吾主に聞えざりしや **14**しかるに今汝言ふ往て汝の主にエリヤは此にありと告よと然らば彼我を殺すならん **15** エリヤいひけるは我が事ふる萬軍のエホバは活く我は必ず今日わが身を彼に示すべしと **16** オバデヤ乃ち往てアハブに會ひ之に告ければアハブはエリヤに會んとて往きけるが **17** アハブ、エリヤを見し時アハブ、エリヤに言けるは汝イスラエルを惱ます者此にをるか **18** 彼答へけるは我はイスラエルを惱さず但汝と汝の父の家之を惱すなり即ち汝等はエホバの命令を棄て且汝はバアルに従ひたり **19** されば人を遣てイスラエルの諸の人およびバアルの預言者四百五十人並にアシラ像の預言者四百人イゼベルの席に食ふ者をカルメル山に集めて我に詣しめよと **20** 是においてアハブ、イスラエルの都の子孫の中に人を遣り預言者をカルメル山に集めたり **21** 時にエリヤ總の民に近づきて言けるは汝等何時まで二の物の間にまよふやエホバ若し神ならば之に従へされどバアル若し神ならば之に従へと民は一言も彼に答ざりき **22** エリヤ民に言けるは惟我一人存りてエホバの預言者たり然どバアルの預言者は四百五十人あり **23** 然ば二の犢を我儕に與へよ彼等は其一の犢を選みて之を截り剖き薪の上に載せて火を縦たずに置べし我も其一の犢を調理へ薪の上に載せて火を縦たずに置べし **24** 斯して汝等は汝等の神の名を顛べ我はエホバの名を顛ん而して火をもて應る神を神と爲べしと民皆答て斯言は善と言り **25** エリヤ、バアルの預言者に言けるは汝等は多ければ一の犢を選みて最初に調理へ汝等の神の名を呼ぶべし但し火を縦なかれと **26** 彼等乃ち其與られたる犢を取て調理へ朝より午

にいたるまでバアルの名を顧てバアルよ我儕に應へ
たまへと言ひ然ど何の聲もなく又何の應る者もな
かりければ彼等は其造りたる壇のまはりに踊れり 27 日
中におよびてエリヤ彼等を嘲りていひけるは大聲を
あげて呼べ彼は神なればなり彼は黙想をるか他處に
行しか又は旅にあるか或は假寐て醒さるべきかと 28
是において彼等は大聲に呼はり其例に循ひて刀劍と
槍を以て其身を傷つけ血を其身に流すに至れり 29 斯
して午時すぐるに至りしが彼等なほ預言を言ひて晩
の祭物を献ぐる時にまで及べり然ども何の聲もなく
又何の應ふる者も無く又何の顧る者もなかりき 30 時
にエリヤ都の民にむかひて我に近よれと言ければ民
皆彼に近よれり彼乃ち破壊たるエホバの壇を修理へ
り 31 エリヤ、ヤコブの子等の支派の數に循ひて十二
の石を取れり(エホバの言昔ヤコブに臨みてイスラエ
ルを汝の名とすべしと言ひ) 32 彼其石にてエホバの
名を以て壇を築き壇の周圍に種子二セヤを容べき溝
を作れり 33 又薪を陳列べ犢を截剖て薪の上に載せて
言けるは四の桶に水を滿て燔祭と薪の上に沃げ 34 又
いひけるは再び之を爲せと再びこれをなせしかば又
言ふ三次これを爲せと三次これをなせり 35 水に壇の
周廻に流るまた溝にも水をみたしたり 36 晩の祭物を
献ぐる時に及て預言者エリヤ近よりて言けるはアブ
ラハム、イサク、イスラエルの神エホバよ汝のイス
ラエルにおいて神なることおよび我が汝の僕にして
汝の言に循ひて是等の諸の事を爲せることを今日知
しめたまへ 37 エホバよ我に應へたまへ我に應へたま
へ此民をして汝エホバは神なることおよび汝は彼等
の心を翻へしたまふといふことを知しめたまへと 38

時にエホバの火降りて燔祭と薪と石と塵とを焚つく
せり亦溝の水を飴潤せり 39 民皆見て伏ていひけるは
エホバは神なりエホバは神なり 40 エリヤ彼等に言け
るはバアルの預言者を執へよ其一人をも逃遁しむる
勿れと即ち之を執へたればエリヤ之をキシヨン川に
曳下りて彼處に之を殺せり 41 斯てエリヤ、アハブに
いひけるは大雨の聲あれば汝上りて食飲すべしと 42
アハブ乃ち食飲せんとて上れり然どエリヤはカルメ
ルの嶺に登り地に伏て其面を膝の間に容るたりしが
43 其少者にいひけるは請ふ上りて海の方を望めと彼
上り望みて何もなしといひければ再び往けといひて
遂に七次に及べり 44 第七次に及びて彼いひけるは視
よ海より人の手のごとく微の雲起るとエリヤいふ上
りてアハブに雨に阻められざるやう車を備へて下り
たまへと言ふべしと 45 驟に雲と風おこり霄漠黒くな
りて大雨ありきアハブはエズレルに乗り往り 46 エホ
バの能力エリヤに臨みて彼其腰を束帯びエズレルの
入口までアハブの前に趨りゆけり

19 アハブ、イゼベルにエリヤの凡て爲たる事及び
其如何に諸の預言者を刀劍にて殺したるかを告しか
ば 2 イゼベル使をエリヤに遣はして言けるは神等斯
なし復重て斯なしたまへ我必ず明日の今時分汝の命
を彼人々の一人の生命のごとくせんと 3 かれ恐れて
起ち其生命のために逃げ往てユダに屬するベエルシ
バに至り少者を其處に遣して 4 自ら一日程ほど曠野
に入り往て金雀花の下に坐し其身の死んことを求め
ていふエホバよ足り今わが生命を取たまへ我はわが
父祖よりも善にはあらざるなりと 5 彼金雀花の下に
伏して寝りしが天の使彼に捫り興て食へと云ければ

6 彼見しに其頭の側に炭に焼きたるパンと一瓶の水ありき乃ち食ひ飲て復偃臥たり 7 エホバの使者復再び來りて彼に捫りていひけるは興て食へ其は途長くして汝勝べからざればなりと 8 彼興て食ひ且飲み其食の力に仗て四十日四十夜行て神の山ホレブに至る 9 彼處にて彼洞穴に入りて其處に宿りしが主の言彼に臨みて彼に言けるはエリヤよ汝此にて何を爲や 10 彼いふ我は萬軍の神エホバのために甚だ熱心なり其はイスラエルの子孫汝の契約を棄て汝の壇を毀ち刀劍を以て汝の預言者を殺したればなり惟我一人存るに彼等我生命を取んことを求むと 11 エホバ言たまひけるは出てエホバの前に山の上に立てと茲にエホバ過ゆきたまふにエホバのまへに當りて大なる強き風山を裂き岩石を碎しが風の中にはエホバ在さざりき風の後地震ありしが地震の中にはエホバ在さざりき 12 又地震の後火ありしが火の中にはエホバ在さざりき火の後静なる細微き聲ありき 13 エリヤ聞て面を外套に蒙み出て洞穴の口に立ちけるに聲ありて彼に臨みエリヤよ汝此にて何をなすやといふ 14 かれいふ我は萬軍の神エホバの爲に甚だ熱心なり其はイスラエルの子孫汝の契約を棄て汝の壇を毀ち刀劍を以て汝の預言者を殺したればなり惟我一人存れるに彼等我が生命を取んことを求むと 15 エホバかれに言たまひけるは往て汝の途に返りダマスコの曠野に至り往てハザエルに膏を沃ぎてスリアの王となせ 16 又汝ニムシの子エヒウに膏を注ぎてイスラエルの王となすべし又アベルメホラのシャパテの子エリシャに膏をそそぎ爾に代りて預言者とならしむべし 17 ハザエルの刀劍を逃るる者をばエヒウ殺さんエヒウの刀劍

を逃るる者をばエリシヤ殺さん 18 又我イスラエルの
中に七千人を遣さん皆其膝をバアルに跼めず其口を
之に接ざる者なりと 19 エリヤ彼處よりゆきてシヤパ
テの子エリシヤに遭ふ彼は十二軛の牛を其前に行し
めて己は其第十二の牛と偕にありて耕し居たりエリ
ヤ彼の所にわたりゆきて外套を其上にかけたれば 20
牛を棄てエリヤの後に趨ゆきて言けるは請ふ我をし
てわが父母に接吻せしめよしかるのち我爾にしたが
はんとエリヤかれに言けるは行け還れ我爾に何をな
したるやと 21 エリシヤ彼をはなれて還り一軛の牛を
とりて之をころし牛の器具を焚て其肉を煮て民にあ
たへて食はしめ起て行きエリヤに従ひて之に事へた
り

20 スリアの王ベネハダデ其軍勢を悉く集む王三十
二人彼と偕にあり又馬と戦車とあり乃ち上りてサマ
リアを圍み之を攻む 2 彼使をイスラエルの王アハブ
に遣し邑に至りて彼に言しめけるはベネハダデ斯言
ふ 3 爾の金銀は我の所有なり亦爾の妻等と爾の子等
の美秀者は我の所有なり 4 イスラエルの王答へて言
けるは王わが主よ爾の言の如く我と我が有つ者は皆
爾の所有なり 5 使者再び來りて言けるはベネハダデ
斯語て言ふ我爾に爾我に爾の金銀妻子を付すべしと
言遣れり 6 然ど明日今頃我が僕を爾に遣さん彼等爾
の家と爾の臣僕の家を探索りて凡て爾の日に好まし
く見ゆる者を其手に置取り去るべしと 7 是におい
てイスラエルの王國の長老を皆召て言けるは請ふ爾
等見て此人の害をなさんと求るを知れ彼人を我に遣
りて我が妻子とわが金銀を索めたり而るに我之を謝
絶ざりしと 8 諸の長老および民皆彼に言けるは爾聽

なかれ許すなかれと 9 是故に彼ベネハダデの使者に
言けるは王わが主に告よ爾が最初に僕に言つかはし
たる事は皆我爲べし然ど比事は我爲あたはずと使者
往て反命をなせり 10 ベネハダデ彼に言つかはしける
は神等我に斯なし亦重て斯なしたまへサマリアの塵
は我に従ふ諸の民の手に満るに足ざるべしと 11 イス
ラエルの王答へて帶る者は解く者の如く誇るべから
ずと告よと言り 12 ベネハダデ天幕にありて王等と飲
るたりしが此事を聞て其臣僕に言けるは爾等陣列を
爲せと即ち邑に向ひて陣列をなせり 13 時に一人の預
言者イスラエルの王アハブの許に至りて言けるはエ
ホバス言たまふ爾此諸の大軍を見るや視よ我今日之
を爾の手に付さん爾は我がエホバなるを知にいたら
んと 14 アハブ言けるは誰を以てせんか彼いひけるは
エホバ斯いひたまふ諸省の牧伯の少者を以てすべし
アハブ言ふ誰か戦争を始むべき彼答けるは爾なりと
15 アハブ乃ち諸省の牧伯の少者を核るに二百三十二
人あり次に凡の民即ちイスラエルの凡の子孫を核る
に七千人あり 16 彼等日中出たちたりしがベネハダデ
は天幕にて王等即ち己を助る三十二人の王等ととも
に飲て酔居たり 17 諸省の牧伯の少者等先に出たりベ
ネハダデ人を出すにサマリアより人衆出來ると彼に
告げれば 18 彼言けるは和睦のために出來るも之を生
擒べし又戦争のために出來るも之を生擒べしと 19 諸
省の牧伯の是等の少者および之に従ふ軍勢邑より出
きたり 20 各其敵手を撃ち殺しければスリア人逃たり
イスラエル之を追ふスリアの王ベネハダデは馬に乗
り騎兵を従へて逃遁たり 21 イスラエルの王出て馬と
戦車を撃ち又大にスリア人を撃殺せり 22 茲に彼預言

者イスラエルの王の許に詣て彼に言けるは往て爾の力を養ひ爾の爲すべき事を知り辨ふべし年歸らばスリアの王爾に攻上るべければなりと **23** スリアの王の臣僕王に言けるは彼等の神等は山崗の神なるが故に彼等は我等よりも強かりしなり然ども我等若平地に於て彼等と戦はば必ず彼等よりも強かるべし **24** 但し此事を爲せ即ち王等を除きて各其處を離しめ方伯を置いて之に代べし **25** 又爾の失ひたる軍勢に均き軍勢を爾のために備へ馬は馬戦車は戦車をもて補ふべし斯して我儕平地において彼等と戦はば必ず彼等よりも強かるべしと彼其言を聽いれて然なせり **26** 年かへるに及びてベネハダデ、スリア人を核めてアベクに上りイスラエルと戦はんとす **27** イスラエルの子孫核められ兵糧を受て彼等に出會んとて往けりイスラエルの子孫は山羊の二の小群の如く彼等の前に陣どりしがスリア人は其地に充満たり **28** 時に神の人至りてイスラエルの王に告ていひけるはエホバ言たまふスリア人エホバは山獄の神にして谿谷の神にあらずと言ふによりて我此諸の大軍を爾の手に付すべし爾等は我がエホバなるを知に至らんと **29** 彼等七日互に相對て陣どり第七日におよびて戦争を交接しがイスラエルの子孫一日にスリア人の歩兵十萬人を殺しければ **30** 其餘の者はアベクに逃て邑に入ぬ然るに其石垣崩れて其存れる二萬七千人の上にたふれたりベネハダデは逃て邑にいたり奥の間に入ぬ **31** 其臣僕彼にいひけるは我儕イスラエルの家の王等は仁慈ある王なりと聞き請ふ我儕粗麻布を腰につけ繩を頭につけてイスラエルの王の所にいたらん彼爾の命を生むることあらんと **32** 斯彼等粗麻布を腰にまき繩を頭にまき

てイスラエルの王の所にいたりていひけるは爾の僕
ベネハダデ請ふ我が生命を生しめたまへと言ふとア
ハブいひけるは彼は尚生をるや彼はわが兄弟なりと
33 其人々これを吉兆と爲し速に彼の言を承て爾の兄
弟ベネハダデといへり彼言けるは爾等ゆきて彼を導
ききたるべしと是においてベネハダデ彼の所に出來
りしかば彼之を車に登しめたり **34** ベネハダデ彼に言
けるは我父の爾の父より取たる諸邑は我返すべし又
我が父のサマリアに造りたる如く爾ダマスコに於て
爾のために街衢を作るべしアハブ言ふ我此契約を以
て爾を歸さんと斯彼と契約を爲て彼を歸せり **35** 爰に
預言者の徒の一人エホバの言によりて其同儕に請我
を撃てといひけるが其人彼を撃つことを肯ぜざりし
かば **36** 彼其人に言ふ汝エホバの言を聽ざりしにより
て視よ汝の我をはなれて往く時獅子汝をころさんと
其人彼の側を離れて往きけるに獅子之に遇て之を殺
せり **37** 彼また他の人に遭て請ふ我を撃といひければ
其人之を撃ち撃て傷けたり **38** 預言者往て王を途に待
ち其目に掩巾をあてて儀容を變りたりしが **39** 王の經
過る時王に呼はりていひけるは僕戦争の中に出しに
人轉りて一箇の人を我の所に曳きたりて言けるは此
人を守れ若彼失ゆく事あらば汝の生命を彼の生命に
代べし或は爾銀一タラントを出すべしと **40** 而るに僕
此彼に事をなしむれば彼遂に失たりとイスラエルの
王彼にいひけるは爾の擬定は然なるべし爾之を決
めたり **41** 彼急ぎて其目の掩巾を取除たればイスラエ
ルの王彼が預言者の一人なるを識り **42** 彼王に言ける
はエホバ斯言たまふ爾はわが殲滅んと定めたる人を
爾の手より放ちたれば爾の命は彼の生命に代り爾の

民は彼の民に代るべしと **43** イスラエルの王憂へ且怒て其家に赴きサマリアに至れり

21 是等の事の後エズレル人ナボテ、エズレルに葡萄園を有ちみたりしがサマリアの王アハブの殿の側に在りければ **2** アハブ、ナボテに語て言けるは爾の葡萄園は近くわが家の側にあれば我に與へて蔬采の圃となさしめよ我之がために其よりも美き葡萄園を爾に與へん若し爾の心になはば其價を銀にて爾に予へんと **3** ナボテ、アハブに言けるはわが父祖の産業を爾に與ふる事は決して爲べからずエホバ禁じたまふと **4** アハブはエズレル人ナボテの己に言し言のために憂ひ且怒りて其家に入ぬ其は彼わが父祖の産業を爾に與へじと言たればなりアハブ床に臥し其面を轉けて食をなさざりき **5** 其妻イゼベル彼の處にいりて彼に言けるは爾の心何を憂へて爾食を爲ざるや **6** 彼之に言けるは我エズレル人ナボテに語りて爾の葡萄園を銀に易て我に與へよ若また爾好ば我其に易て葡萄園を爾に與へんと彼に言たるに彼答へて我が葡萄園を爾に與へじと言たればなりと **7** 其妻イゼベル彼に言けるは爾今イステエルの國を治むることを爲すや興て食を爲し爾の心を樂ましめよ我エズレル人ナボテの葡萄園を爾に與へんと **8** 彼アハブの名をもて書を書き彼の印を捺し其邑にナボテとともに住る長老と貴き人に其書をおくれり **9** 彼其書にしるして曰ふ斷食を宣傳てナボテを民の中に高く坐せしめよ **10** 又邪なる人二人を彼のまへに坐せしめ彼に對ひて證を爲して爾神と王を詛ひたりと言しめよ斯して彼を曳出し石にて撃て死しめよと **11** 其邑の人即ち其邑に住る長老および貴き人等イゼベルが己に言つかは

したる如く即ち彼が己に遣りたる書に書したる如く爲り 12 彼等斷食を宣達てナボテを民の中に高く坐せしめたり 13 時に二人の邪なる人入來りて其前に坐し其邪なる人民のまへにてナボテに對て證をなして言ふナボテ神と王を誑ひたりと人衆彼を邑の外に曳出し石にて之を撃て死しめたり 14 斯てイゼベルにナボテ撃れて死たりと言遣れり 15 イゼベル、ナボテの撃れて死たるを聞しかばイゼベル、アハブに言けるは起て彼エズレル人ナボテが銀に易て爾に與ることを拒みし葡萄園を取べし其はナボテは生をらず死たればなりと 16 アハブ、ナボテの死たるを聞しかばアハブ起ちエズレル人ナボテの葡萄園を取んとて之に下れり 17 時にエホバの言テシベ人エリヤに臨みて曰ふ 18 起て下りサムリアにあるイスラエルの王アハブに會ふべし彼はナボテの葡萄園を取んとて彼處に下りをるなり 19 爾彼に告て言べしエホバ言ふ爾は殺し亦取たるやと又爾彼に告て言ふべしエホバ言ふ犬ナボテの血を銛し處にて犬爾の身の血を銛べしと 20 アハブ、エリヤに言けるは我敵よ爾我に遇や彼言ふ我遇ふ爾エホバの目の前に惡を爲す事に身を委しに縁り 21 我災害を爾に降し爾の後裔を除きアハブに屬する男はイスラエルにありて繋がれたる者も繋がれざる者も悉く絶ん 22 又爾の家をネバテの子ヤラベアムの家のごとくなしアヒヤの子バアシヤの家のごとくなすべし是は爾我の怒を惹起しイスラエルをして罪を犯させたるに因てなり 23 イゼベルに關てエホバ亦語て言給ふ犬エズレルの濠にてイゼベルを食はん 24 アハブに屬する者の邑に死るをば犬之を食ひ野に死るをば天空の鳥之を食はんと 25 誠にアハブの如くエ

ホバの目の前に悪をなす事に身をゆだねし者はあらざりき其妻イゼベル之を懲憊たるなり **26** 彼はエホバがイスラエルの子孫のまへより逐退けたまひしアモリ人の凡てなせし如く偶像に従ひて甚だ悪むべき事を爲り **27** アハブ此等の言を聞ける時其衣を裂き粗麻布を體にまとひ食を斷ち粗麻布に臥し遅々に歩行り **28** 茲にエホバの言テシベ人エリヤに臨みて言ふ **29** 爾アハブの我前に卑下るを見るや彼わがまへに卑下るに縁て我災害を彼の世に降さずして其子の世に災害を彼の家に降すべし

22 スリアとイスラエルの間に戦争なくして三年を経たり **2** 第三年にユダの王ヨシヤパテ、イスラエルの王の所に降り **3** イスラエルの王其臣僕に言けるはギレアデのラモテは我儕の所有なるを爾等知や然るに我儕はスリアの王の手より之を取ることをせずして黙しをるなり **4** 彼ヨシヤパテに言けるは爾我と共にギレアデのラモテに戦ひにゆくやヨシヤパテ、イスラエルの王にいひけるは我は爾のごとくわが民は爾の民の如くわが馬は爾の馬の如しと **5** ヨシヤパテ、イスラエルの王に言けるは請ふ今日エホバの言を問へ **6** 是においてイスラエルの王預言者四百人許を集めて之に言けるは我ギレアデのラモテに戦ひにゆくべきや又は罷べきや彼等曰けるは上るべし主之を王の手に付したまふべしと **7** ヨシヤパテ曰けるは外に我儕の由て問べきエホバの預言者此にあらざるや **8** イスラエルの王ヨシヤパテに言けるは外にイムラの子ミカヤ一人あり之に由てエホバに問ふことを得ん然ど彼は我に關て善事を預言せず唯惡事のみを預言すれば我彼を惡むなりとヨシヤパテ曰けるは王

然言たまふなかれと 9 是によりてイスラエルの王一箇の官吏を呼てイムラの子ミカヤを急ぎ來らしめよと言り 10 イスラエルの王およびユダの王ヨシヤパテ朝衣を著てサマリアの門の入口の廣場に各其位に坐しるたり預言者は皆其前に預言せり 11 ケナアナの子ゼデキヤ鐵の角を造りて言けるはエホバス言給ふ爾是等を以てスリア人を抵觸て之を盡すべしと 12 預言者皆斯預言して言ふギレアデのラモテに上りて勝利を獲たまへエホバ之を王の手に付したまふべしと 13 茲にミカヤを召んとて往たる使者之に語りて言けるは預言者等の言一の口の如くにして王に善し請ふ汝の言を彼等の一人の言の如くならしめて善事を言へと 14 ミカヤ曰けるはエホバは生くエホバの我に言たまふ事は我之を言んと 15 かくて彼王に至るに王彼に言けるはミカヤよ我儕ギレアデのラモテに戦ひに往くべきや又は罷べきや彼王に言けるは上りて勝利を得たまへエホバ之を王の手に付したまふべしと 16 王彼に言けるは我幾度汝を誓はせたらば汝エホバの名を以て唯眞實のみを我に告るや 17 彼言けるは我イスラエルの皆牧者なき羊のごとく山に散をるを見たるにエホバ是等の者は主なし各安然に其家に歸るべしと言たまへりと 18 イスラエルの王ヨシヤパテに言けるは我汝に彼は我について善き事を預言せず唯惡き事のみを預言すと告たるにあらすやと 19 ミカヤ言けるは然ば汝エホバの言を聽べし我エホバの其位に坐しるたまひて天の萬軍の其傍に右左に立つを見たるに 20 エホバ言たまひけるは誰かアハブを誘ひて彼をしてギレアデのラモテに上りて弊れしめんかと則ち一は此の如くせんと言ひ一は彼の如くせんといへり

21 遂に一の靈進み出てエホバの前に立ち我彼を誘はんと
言ければ 22 エホバ彼に何を以てするかと言たまふに我出
て虚言を言ふ靈となりて其諸の預言者の口にあらんと言
りエホバ言たまひけるは汝は誘ひ亦之を成し遂ん出て然
なすべしと 23 故に視よエホバ虚言を言ふ靈を爾の此
諸の預言者の口に入たまへり又エホバ爾に關て災禍あら
んことを言たまへりと 24 ケナアナの子ゼデキヤ近より
てミカヤの頬を批て言けるはエホバの靈何途より我を離
れゆきて爾に語ふや 25 ミカヤいひけるは爾奥の間に入
て身を匿す日に見るにいたらん 26 イスラエルの王言
けるはミカヤを取て之を邑の宰アモンと王の子ヨアシに
曳かへりて言ふべし 27 王斯言ふ此を牢に置いて苦惱の
パンと苦惱の水を以て之を養ひ我が平安に來るを待てと
28 ミカヤ言けるは爾若眞に平安に歸るならばエホバ我
によりて言たまはざりしならん又曰けるは爾等民よ皆
聽べし 29 かくてイスラエルの王とユダの王ヨシヤパ
テ、ギレアデのラモテに上れり 30 イスラエルの王ヨシ
ヤパテに言けるは我装を改て戰陣の中に入らん然ど爾
は王衣を衣るべしとイスラエルの王装を改て戰陣の中
にいりぬ 31 スリアの王其戰車の長三十二人に命じて
言けるは爾等小者とも大者とも戰ふなかれ惟イスラエ
ルの王とのみ戰へと 32 戰車の長等ヨシヤパテを見て
是必ずイスラエルの王ならんと言ひ身をめぐらして之
と戰はんとしければヨシヤパテ號呼れり 33 戰車の長
彼がイスラエルの王にあらざるを見しかば之を追ふこ
とをやめて返れり 34 茲に一個の人偶然弓を挽てイス
ラエルの王の胸當と艸摺の間を射たりければ彼其御者
に言けるは我傷を受たれば爾の手を旋し

て我を軍中より出すべしと 35 是日戦争嚴くなりぬ王は車の中に扶持られて立ちスリア人に對ひをりしが晩景にいたりて死たり創の血車の中に流る 36 日の没る頃軍中に呼はりて曰ふあり各其邑に各其郷に歸るべしと 37 王死て携へられてサマリアに至りたれば衆人王をサマリアに葬れり 38 又其車をサマリアの池に濯ひけるに犬其血を舐たり又遊女其所に身をあらへりエホバの言たまへる言の如し 39 アハブの其餘の行爲と凡て其爲たる事と其建たる象牙の家と其建たる諸の邑はイスラエルの王の歴代志の書に記載るにあらずや 40 アハブ其父祖と共に寝りて其子アハジア之にかはりて王となれり 41 アサの子ヨシヤパテ、イスラエルの王アハブの第四年にユダの王となれり 42 ヨシヤパテ王となりし時三十五歳なりしがエルサレムにおいて二十五年王たりき其母の名はアズバといひてシルヒの女なり 43 ヨシヤパテ其父アサの諸の道に歩行み轉て之を離れずエホバの目に適ふ事をなせり但し崇邱は除かざりき民尚崇邱に犠牲を献げ香を焚り 44 ヨシヤパテ、イスラエルの王と和好を結べり 45 ヨシヤパテの其餘の行爲と其なせる功績および如何に戦争をなせしかはユダの王の歴代志の書に記載るにあらずや 46 彼其父アサの世に尚ほありし彼の男色を行ふ者の殘餘を國の中より逐はらへり 47 當時エドムには王なくして代官王たりき 48 ヨシヤパテ、タルシシの船を造りて金を取ためにオフルに往しめんとしたりしが其船エジオングベルに壞れたれば遂に往に至らざりき 49 是においてアハブの子アハジア、ヨシヤパテに言けるはわが僕をして爾の僕と偕に船にて往しめよと然どヨシヤパテ聽ざりき 50 ヨシヤパテ

其父祖とともに寝りて其父ダビデの城邑に其父祖と共に葬らる其子ヨラム之に代て王となれり 51 アハブの子アハジア、ユダの王ヨシヤパテの第十七年にサマリアにてイスラエルの王となり二年イスラエルを治めたり 52 彼はエホバの目のまへに悪をなし其父の道と其母の道および彼のイスラエルに罪を犯させたるネバテの子ヤラベアムの道に歩行み 53 バアルに事へて之を拝みイスラエルの神エホバの怒を激せり其父の凡て行へるがごとし

列王記II

1 アハブの死しのちモアブ、イスラエルにそむけり
2 アハジヤ、サマリヤにあるその樓の欄杆よりおちて病をおこせしかば使を遣さんとして之にいひけるは往てエクロンの神バアルゼブブにわがこの病の愈るや否を問べしと **3** 時にエホバの使テシベ人エリヤにいひけるは起てサマリヤ王の使にあひて之に言べし汝等がエクロンの神バアルゼブブに問んとてゆくはイスラエルに神なきがゆゑなるか **4** 是によりてエホバかくいふ汝はその登りし牀より下ることなかるべし汝かならず死んとエリヤ乃ち往り **5** 使者たちアハジヤに返りければアハジヤ彼等に何故に返りしやといふに **6** かれら之にいひけるは一箇の人上りきたりて我らに會ひわれらにいひけるは往てなんぢらを遣はせし王の所にかへり之にいふべしエホバ斯いひたまふなんぢエクロンの神バアルゼブブに問んとて人を遣すはイスラエルに神なきがゆゑなるか然ば汝その登りし牀より下ることなかるべし汝かならず死んと **7** アハジヤ彼等にいひけるはそののぼりきたりて汝等に會ひ此等の言を汝らに告たる人の形状は如何なりしや **8** かれら對へていひけるはそれは毛深き人にして腰に革の帶をむすび居たり彼いひけるはその人はテシベ人エリヤなりと **9** 是に於て王五十人の長とその五十人をエリヤの所に遣はせり彼エリヤの所に上りゆくに視よエリヤは山の嶺に坐し居たりかれエリヤにいひけるは神の人よ王いひたまふ下るべし **10** エリヤこたへて五十人の長にいひけるはわれもし神の人たらば火天より降りて汝と汝の五十人とを燒盡すべしと火すなはち天より降りて彼とその五十人

とを焼盡せり **11** アハジアまた他の五十人の長とその五十人をエリヤに遣せりかれ上りてエリヤにいひけるは神の人よ王かく言たまふ速かに下るべし **12** エリヤ答て彼にいひけるはわれもし神の人たらば火天より降りて爾となんぢの五十人を焼盡すべしと神の火すなはち天より降りてかれとその五十人を焼盡せり **13** かれまた第三の五十人の長とその五十人を遣せり第三の五十人の長のぼりいたりてエリヤのまへに跪きこれに願ひていひけるは神の人よ願くはわが生命となんぢの僕なるこの五十人の生命をなんぢの目に貴重き者と見なしたまへ **14** 視よ火天より降りて前の五十人の長二人とその五十人を焼盡せり然どわが生命をば汝の目に貴重き者となしたまへ **15** 時にエホバの使エリヤに云けるはかれとともに下れかれをおそることなかれとエリヤすなはち起てかれとともに下り王の許に至り **16** 之にいひけるはエホバかくいひたまふ汝エクロンの神バアルゼブブに問んとて使者を遣るはイスラエルにその言を問ふべき神なきがゆゑなるか是によりて汝はその登し牀より下ることなかるべし汝かならず死んと **17** 彼エリヤの言たるエホバの言の如く死けるが彼に子なかりしかばヨラムこれに代りて王となれり是はユダの王ヨシヤパテの子ヨラムの二年にあたる **18** アハジヤのなしたる其餘の事業はイスラエルの王の歴代志の書に記載さるるにあらずや

2 エホバ大風をもてエリヤを天に昇らしめんとしたまふ時エリヤはエリシヤとともにギルガルより出往り **2** エリヤ、エリシヤにいひけるは請ふここに止まれエホバわれをベテルに遣はしたまふなりとエリシ

やいひけるはエホバは活く汝の靈魂は活く我なんぢ
をはなれじと彼等つひにペテルに下れり 3 ペテルに
在る預言者の徒エリシヤの許に出きたりて之にいひ
けるはエホバの今日なんぢの主をなんぢの首の上よ
りとらんとしたまふを汝知やかれいふ然りわれ知り
汝等黙すべし 4 エリヤかれにいひけるはエリシヤよ
請ふ汝ここに止れエホバわれをエリコに遣したまふ
なりとエリシヤいふエホバは活くなんぢの靈魂は活
く我なんぢを離じとかれらエリコにいたる 5 エリコ
に在る預言者の徒エリシヤに詣りて彼にいひけるは
エホバの今日なんぢの主をなんぢの首の上よりとら
んとしたまふを汝知るやエリシヤ言ふ然り知り汝ら
黙すべしと 6 エリヤまたかれにいひけるは請ふここ
に止れエホバわれをヨルダンにつかはしたまふなり
とかれいふエホバは活くなんぢの靈魂は活くわれ汝
をはなれじと二人進ゆくに 7 預言者の徒五十人ゆき
て遙に立て望めり彼ら二人はヨルダンの濱に立ける
が 8 エリヤその外套をとりて之を巻き水をうちける
に此旁と彼旁にわかれたれば二人は乾ける土の上を
わたれり 9 涉りける時エリヤ、エリシヤにいひける
は我が取れてなんぢを離るる前に汝わが汝になすべ
きことを求めよエリシヤいひけるはなんぢの靈の二
の分の我にをらんことを願ふ 10 エリヤいひけるは汝
難き事を求む汝もしわが取れてなんぢを離るるを見
ばこの事なんぢにならんしからずば此事なんぢにな
らじ 11 彼ら進みながら語れる時火の車と火の馬あら
はれて二人を隔てたりエリヤは大風にのりて天に昇
れり 12 エリシヤ見てわが父わが父イスラエルの兵車
よその騎兵よと叫びしが／再びかれを見ざりき是に

おいてエリシヤその衣をとらへて之を二片に裂き 13
エリヤの身よりおちたるその外套をとりあげ返りて
ヨルダンの岸に立ち 14 エリヤの身よりおちたる外套
をとりて水をうちエリヤの神エホバはいづくにいま
すやと言ひ而して己も水をうちけるに水此旁と彼旁
に分れたればエリシヤすなはち渡れり 15 エリコにあ
る預言者の徒對岸にありて彼を見て言けるはエリヤ
の靈エリシヤの上にとどまるとかれら來りてかれを
迎へその前に地に伏て 16 かれにいひけるは僕等に勇
力者五十人あり請ふかれらをして往てなんぢの主を
尋ねしめよ恐くはエホバの靈かれを曳あげてこれを
或山か或谷に放ちしならんとエリシヤ遣すなかれと
言けれども 17 かれら彼の愧るまでに強ければすなは
ち遣せといへり是に於てかれら五十人の者を遣しけ
るが三日の間たづねたれども彼を看いださざりしか
ば 18 エリシヤの尚エリコに止れる時かれら返りてか
れの許にいたりしにエリシヤかれらに言けるはわれ
往ことなかれと汝らにいひしにあらずやと 19 邑の人
々エリシヤにいひけるは視よ吾主の見たまふごとく
此邑の建る處は善しされど水あしくしてこの地流産
をおこす 20 かれ言けるは新しき皿に鹽を盛て我に持
ち來れよと乃ちもちきたりければ 21 彼いでて水の源
に至り鹽を其處になげ入ていひけるはエホバかくい
ひたまふわれこの水を愈す此處よりして重て死ある
ひは流産おこらじと 22 其水すなはちエリシヤのいひ
し如くに愈て今日にいたる 23 かれそこよりペテルに
上りしが上りて途にありけるととき小童等邑よりいで
て彼を嘲り彼にむかひて禿首よのぼれ禿首よのぼれ
といひければ 24 かれ回轉りてかれらを見エホバの名

をもてかれらを呪詛ひければ林の中より二頭の牝熊
出てその兒子輩の中四十二人をさきたり 25 かれ彼處
よりカルメル山にゆき其處よりサマリヤにかへれり

3 ユダの王ヨシヤパテの十八年にアハブの子ヨラム
、サマリヤにありてイスラエルを治め十二年位にあ
りき 2 かれはエホバの目のまへに悪をなせしかども
その父母の如くはあらざりきそは彼その父の造りし
バアルの像を除きたればなり 3 されど彼はかのイス
ラエルに罪を犯させたるネバテの子ヤラベアムの罪
を行ひつづけて之をはなれざりき 4 モアブの王メシ
ヤは羊を有つ者にして十萬の羔と十萬の牡羊の毛と
をイスラエルの王に納めをりしが 5 アハブの死しの
ちモアブの王はイスラエルの王にそむけり 6 是に於
てヨラム王其時サマリヤを出てイスラエル人をこと
ごとく集め 7 また往て人をユダの王ヨシヤパテに遣
していはしむモアブの王われに背けり汝われとともに
モアブに攻めくやと彼いひけるは我上らん我は汝
の如くわが民はなんぢの民のごとくまたわが馬は汝
の馬の如しと 8 ヨラムいひけるは我儕いづれの路よ
り上らんかかれいふエドムの曠野の途よりせんと 9
イスラエルの王すなはちユダの王およびエドムの王
と共に出ゆきけるが行めぐること七日路にして軍勢
とこれにしたがふ家畜の飲むべき水なかりしかば 10
イスラエルの王いひけるは嗚呼エホバこの三人の王
をモアブの手にわたさんと召し集めたまへりと 11 ヨ
シヤパテいひけるは我儕が由てエホバに問ふべきエ
ホバの預言者此にあらざるやとイスラエルの王の臣
僕の一人答へていふエリヤの手に水をそそぎたるシ
ヤパテの子エリヤ此にあり 12 ヨシヤパテいひける

はエホバの言彼にありとかくてイスラエルの王およびヨシヤパテとエドムの王かれの許に下りゆきけるに **13** エリシヤ、イスラエルの王に言けるはわれ汝と何の干與あらんや汝の父の預言者と汝の母の預言者の所にゆくべしとイスラエルの王かれにいひけるは然らずそはエホバこの三人の王をモアブの手に付さんとて召集めたまへばなり **14** エリシヤ言けるはわが事ふる萬軍のエホバは活く我ユダの王ヨシヤパテのためにするにあらずばかならず汝を顧みず汝を見ざらんものを **15** 今樂人をわれにつれ來れと而して樂人の樂をなすにおよびてエホバの手かれに臨みて **16** 彼いひけるはエホバかくいひたまふ此谷に許多の溝を設けよ **17** それエホバかく言ひたまふ汝ら風を見ず雨をも見ざるに此谷に水盈て汝等と汝等の家畜および汝らの獸飲ことを得ん **18** 然るも是はエホバの目には瑣細き事なりエホバ、モアブ人をも汝らの手にわたしたまはん **19** 汝等は保障ある諸の邑と諸の美しき邑とを撃ち諸の佳樹を斫倒し諸の水の井を塞ぎ石をもて諸の善地を壞ふにいたらん **20** かくて朝におよびて供物を獻ぐる時に水エドムの途より流れきたりて水國に充つ **21** 儲またモアブ人はみな王等の己に攻のぼれるを聞しかば甲を著ることを得る以上の者を盡く集めてその境に備へしが **22** 朝はやく興いでしに水の上に日昇りみて對面の水血の如くに赤かりければモアブ人これを見て **23** いひけるはこれ乃はち血なり王たち戦ひて死たるならん互に相撃たるなるべし然ばモアブよ掠取に行けと **24** 而してモアブ人イスラエルの陣營に至るにイスラエル人起てこれを撃たればすなはちその前より逃はしれり是においてイスラエル人

進みてモアブ人を撃てその國にいり **25** その邑々を撃
圯し各石を諸の善地に投てこれに填し水の井をこと
ごとく塞ぎ佳樹をことごとく斫たふし唯キルハラセ
テにその石をのこせしのみなるに至る但し石を投る
もの周りあるきてこれを撃り **26** モアブ王戦闘の手い
たくして當りがたきを見て劍を抜く者七百人をひき
ゐてエドム王の所にまで衝きいたらんとせしが遂に
果さざりしかば **27** 己の位を継べきその長子をとりに
これを石垣の上にささげて燔祭となしたり是に於て
イスラエルに大なる憤怒おこりぬ彼等すなはちかれ
をすててその國に歸れり

4 預言者の徒の妻の中なる一人の婦人エリシャに呼
はりていひけるは汝の僕なるわが夫死りなんぢの僕
のエホバを畏れしことはなんぢの知るところなり今
債主きたりてわが二人の子をとりに奴僕となさんと
すと **2** エリシャ之にいひけるはわれなんぢの爲に何
をなすべきや汝の家如何なる物あるかわれに告よ
彼いひけるは僅少の油のほかは汝の婢の家にも有もの
なし **3** 彼いひけるは往て外より鄰の人々より器を借
よ空たる器を借るべし少許を借るなかれ **4** 而してな
んぢ入て汝の子等とともに戸の内に閉こもりそのす
べての器に油をつぎてその盈るところの者をとりの
けおくべし **5** 婦人すなはち彼を離れて去りその子等
とともに戸の内に閉こもり子等のもちきたる器に油
をつぎたりしが **6** 器のみな盈たるときその子にむか
ひ尚われに器をもちきたれといひけるに器はもはや
あらずといひたればその油すなはち止る **7** 是におい
てその婦神の人にいたりてかくと告げればかれいふ
往て油をうりてその負債をつくのひその餘分をもて

汝と汝の子等生計をなすべしと 8 一日エリシヤ、シユネムにゆきしに其所に一人の大なる婦人ありてしきりにこれに食をすすめたれば彼かしこを過る毎にそこに入て食をなせり 9 茲にその婦人夫にいひけるは視よ此つねにわれらを過る人は我これを見るに神の聖き人なり 10 請ふ小き室を石垣の上につくりそこに臥床と案と榻と燭臺をかれのために備へん彼われらに至る時はそこに入るべしと 11 かくてのちある日エリシヤそこに至りその室に入てそこに臥たりしが 12 その僕ゲハジにむかひ彼のシユナミ人を召きたれといへり彼かの婦人を召たればその前にきたりて立つに 13 エリシヤ、ゲハジにいひけるは彼にかく言へ汝かく懇に我らのために意を用ふ汝のために何をなすべきや王または軍勢の長に汝のことを告られんことを望むかと彼答へてわれはわが民の中にをるなりといふ 14 エリシヤいひけるは然ばかれのために何をなすべきやゲハジ答へけるは誠にかれは子なくその夫は老たりと 15 是においてエリシヤかれを召といひければこれを呼に來りて戸口に立たれば 16 エリシヤいふ明る年の今頃汝子を抱くあらん彼いひけるはいなわが主神の人よなんぢの婢をあざむきたまふなかれと 17 かくて婦つひに孕て明る年にいたりてエリシヤのいへるその頃に子を生子 18 その子育ちてある日刈獲人の所にいでゆきてその父にいたりしが 19 父にわが首わが首といひたれば父少者に彼を母のもとに負ゆけと語り 20 すなはちこれを負て母にいたりしに午まで母の膝に坐り居て遂に死たれば 21 母のぼりゆきてこれを神の人の臥床の上に置きこれをとちこめて出で 22 その夫をよびていひけるは請ふ一人の僕と

一頭の驢馬を我につかはせ我神の人の許にはせゆきて歸らんと **23** 夫いふ何故に汝は今日かれにいたらんとするや今日は朔日にもあらず安息日にもあらざるなり彼いひけるは宜しと **24** 婦すなはち驢馬に鞍おきてその僕にいひけるは驅て進め吾が命ずることなくば我が騎すすむることに緩漫あらしめざれと **25** つひにカルメル山にゆきて神の人にいたるに／神の人遙にかれの來るを見て僕ゲハジにいひけるは視よかしこにかのシユナミ人を **26** 請ふ汝はしりゆきて彼をむかへて言へなんぢは平安なるやなんぢの夫はやすらかなるやなんぢの子はやすらかなるやと彼こたへて平安なりといひ **27** 遂に山にきたりて神の人にいたりその足を抱きたればゲハジこれを逐ひはらはんとて近よりしに神の人いひけるは容しおけ彼は心の中に苦あるなりまたエホバその事を我にかくしていまだわれに告たまはざるなり **28** 婦いひけるはわれわが主に子を求めしやわれをあざむきたまふなかれとわれは言ざりしや **29** エリシヤすなはちゲハジにいひけるはなんぢ腰をひきからげわが杖を手にもちて行け誰に逢も禮をなすべからず又なんぢに禮をなす者あるともそれに答ふことなかれわが杖をかの子の面の上におけよと **30** その子の母いひけるはエホバは活くなんぢの靈魂は生く我は汝を離れじと是をもてエリシヤついに起て婦に従ひ行ぬ **31** ゲハジはかれらに先だちゆきて杖をかの子の面の上に置たるが聲もなく聞もせざりしかばかへりきたりてエリシヤに逢てこれに子いまだ目をさまさずと言ふ **32** エリシヤここにおいて家に入て視に子は死ておのれの臥床の上に臥てあれば **33** すなはち入り戸をとちて二人内におり

てエホバに祈り 34 而してエリシヤ上りて子の上に伏し己が口をその口におのが目をその目に己が手をその手の上にあて身をもてその子を掩しに子の身體やうやく温まり來る 35 かくしてエリシヤかへり來て家の内に其處此處とあゆみをり又のぼりて身をもて子をおほひしに子七度噓して目をひらきしかば 36 ゲハジを呼てかのシユナミ人をよべと言ければすなはちこれを呼り 37 彼入來りしかばエリシヤなんぢの子を取ゆけと言りかれすなはち入りてエリシヤの足下に伏し地に身をかがめて其子を取あげて出づ 38 斯てエリシヤまたギルガルにいたりしがその地に饑饉あり預言者の徒その前に坐しをる是において彼その僕にいひけるは大なる釜をすゑて預言者の徒のために羹を煮よと 39 時に一人田野にゆきて菜蔬を摘しが野籐のあるを見て其より野瓜を一風呂鋪摘きたりて羹の釜の中に截こみたり其は皆それをしらざればなり 40 斯てこれを盛て人々に食はせんとせしに彼等その羹を食はんとするにあたりて叫びて嗚呼神の人よ釜の中に死をきたらする者ありといひて得食はざりしかば 41 エリシヤさらば粉をもちきたれといひてこれを釜になげ入れ盛て人々に食しめよと言り釜の中にはすなはち害物あらずなりぬ 42 茲にバアルシヤリシヤより人來り初穂のパンと大麥のパン二十と圃の初物一袋とを神の人の許にもちいたりたればエリシヤ衆人にあたへて食はしめよと言ふに 43 その奴僕いひけるは如何にとや我これを百人の前にそなふべきかと然るに彼また言ふ衆人にあたへて食しめよ夫エホバかくいひたまふかれら食ふて尚あます所あらんと 44

すなはち之をその前にそなへたればみな食ふてなほ
餘せりエホバの言のごとし

5 スリア王の軍勢の長ナアマンはその主君のまへに
ありて大なる者にしてまた貴き者なりき是はエホバ
曾て彼をもてスリアに拯救をほどこしたまひしが故
なり彼は大勇士なりしが癩病をわづらひ居る **2** 昔に
スリア人隊を組ていでたりし時にイスラエルの地よ
り一人の少女を執へゆけり彼ナアマンの妻に事たり
しが **3** その女主にむかひわが主サマリヤに居る預言
者の前にいまさば善らん者をかれその癩病を痊すな
らんと言たれば **4** ナアマン入りてその主君に告てイ
スラエルの地よりきたれる女子斯々語りたりと言ふ
に **5** スリヤ王いひけるは往よ往よ我イスラエルの王
に書をおくるべしと是において彼いでゆき銀十タラ
ントと金六千および衣服十襲をたづさへ **6** イスラエ
ルの王にその書をもちゆけりその文に曰くこの書汝
にいたらば視よ我わが臣ナアマンをなんぢに遣はせ
るなりこは汝にその癩病を痊されんがためなり **7** イ
スラエルの王その書を読み衣を裂ていふ我神ならん
や争か殺すことをなし生すことをなしえん然るに此
人なんぞ癩病の人を我に遣はしてこれを痊さしめん
とするや然ば請ふ汝等彼が如何に我に争を求むるか
を見て知れと **8** 茲に神の人エリシャ、イスラエルの
王がその衣を裂たることをきき王に言遣しけるは汝
何とて汝の衣をさきしや彼をわがもとにいたらしめ
よ然ば彼イスラエルに預言者のあることを知にいた
るべし **9** 是においてナアマンその馬と車とをしたが
へ來りてエリシャの家の門に立けるに **10** エリシャ使
をこれに遣して言ふ汝ゆきて身をヨルダンに七たび

洗へ然ば汝の肉本にかへりて汝は清く爲べしと **11** ナアマン怒りて去り言けるは我は彼かならず我もとに
いできたりて立ちその神エホバの名を呼てその所の
上に手を動して癩病を痊すならんと思へり **12** ダマス
コの河アバナとパルパルはイスラエルのすべての河
水にまさるにあらずや我これらに身を洗ふて清まる
ことを得ざらんやと乃ち身をめぐらし怒りて去る **13**
時にその僕等近よりてこれにいひけるは我父よ預言
者なんぢに大なる事をなせと命ずるとも汝はそれを
爲ざらんや況て彼なんぢに身を洗ひて清くなれとい
ふをやと **14** 是においてナアマン下りゆきて神の人の
言のごとくに七たびヨルダンに身を洗ひしにその肉
本にかへり嬰兒の肉の如くになりて清くなりぬ **15** か
れすなはちその従者とともに神の人の許にかへりき
たりてその前に立ていふ我いまイスラエルのほかは
全地に神なしと知る然ば請ふ僕より禮物をうけよ **16**
エリシャいひけるはわが事へまつるエホバは活く肯
て禮物をうけじとかれ強て之を受しめんとしたれど
も遂にこれを辭したり **17** ナアマンいひけるは然ば請
ふ騾馬に二駄の土を僕にとらせよ僕は今よりのち他
の神には燔祭をも祭品をもささげずして只エホバに
のみ獻げんとす **18** ねがはくは主この事につきて僕を
ゆるしたまへ即ちわが主君リンモンの宮にいりそこ
にて崇拜をなしてわが手に倚ることありまた我リン
モンの宮にありて身をかがむることあらんわがリン
モンの宮において身をかがむる時に願くはエホバそ
の事につきて僕をゆるしたまへと **19** エリシャ彼にな
んぢ安じて去れといひければ彼エリシャをはなれて
少しく進みゆきけるに **20** 神の人エリシャの僕ゲハジ

いいひけるは吾が主人は此スリア人ナアマンをいたはりて彼が手に携へきたれるものを受ざりしがエホバは活くわれ彼のあとを追かけて彼より少く物をとらんと 21 ゲハジすなはちナアマンのあとをおひ行くにナアマンはおのれのあとに走り来る者あるを見て車より下りこれを迎へて皆平安やと言ふに 22 彼言けるは皆平安しわが主我を遣していはしむ只今エフライムの山より預言者の徒なる二人の少者わが許に來れり請ふ汝かれらに銀一タラントと衣二襲をあたへよと 23 ナアマンいひけるは望むらくは二タラントを取れとてかれを強ひ銀二タラントを二の袋にいれ衣二襲を添て二人の僕に負せたらば彼等これをゲハジの前に負きたりしが 24 彼岡に至りしとき之をかれらの手より取て室のうちにをさめかれらを放ちて去しめ 25 而して入てその主人のまへに立つにエリシャこれにいひけるはゲハジよ何處より來りしや答へていふ僕は何處にもゆかず 26 エリシャいひけるはその人が車をはなれ來りてなんぢを迎へし時にわが心其處にあらざりしや今は金をうけ衣をうけ橄欖園葡萄園羊牛僕婢をうくべき時ならんや 27 然ばナアマンの癩病はなんぢにつき汝の子孫におよびて限なからんと彼その前より退ぞくに癩病發して雪のごとくになりぬ

6 茲に預言者の徒エリシャに言けるは視よ我儕が汝とともに住ふ所はわれらのために隘し 2 請ふ我儕をしてヨルダンに往しめよ我儕おのおの彼處より一の材木を取て其處に我儕の住べき處を設けんエリシャ往よと言ふ 3 時にその一人希はくは汝も僕等と共に往けと言ければエリシャ答へて我ゆかんと言ふ 4 エ

リシヤかく彼等とともに往り彼等すなはちヨルダンにいたりて樹を斫りたふしけるが 5 一人の材木を斫りたふすに方りてその斧水におちいりしかば叫びて嗚呼主よ是は乞得たる者なりと言ふ 6 神の人其は何處におちいりしやと言ふにその處をしらせしかば則ち枝を切おとして其處に投いれてその斧を浮ましめ 7 汝これを取れと言ければその人手を伸てこれを取り 8 茲にスリアの王イスラエルと戦ひをりその臣僕と評議して斯々の處に我陣を張んと言たれば 9 神の人イスラエルの王に言おくりけるは汝慎んで某の處を過るなかれ其はスリア人其處に下ればなりと 10 イスラエルの王是において神の人が己に告げ己に教たる處に人を遣して其處に自防しこと一二回に止まらざりき 11 是をもてスリアの王是事のために心をなやましその臣僕を召て我儕の中誰がイスラエルの王と通じをるかを我に告ざるやと言ふに 12 その臣僕の一人言ふ王わが主よ然るにあらず但イスラエルの預言者エリシヤ汝が寢室にて語る所の言語をもイスラエルの王に告るなり 13 王いひけるは往て彼が安に居かを見よ我人をやりてこれを執へんと茲に彼はドタンに居ると王に告ていふ者ありければ 14 王そこに馬と車および大軍をつかはせり彼等すなはち夜の中に来りてその邑を取かこみけるが 15 神の人の從屬夙に興て出て見に軍勢馬と車をもて邑を取かこみ居ればその少者エリシヤに言けるは嗚呼わが主よ我儕如何にすべきや 16 エリシヤ答へけるは懼るなかれ我儕とともにある者は彼等とともにある者よりも多しと 17 エリシヤ祈りて願くはエホバかれの目を開きて見させたまへと言ければエホバその少者の眼を開きたまへり彼

すなはち見るに火の馬と火の車山に盈てエリシヤの四面に在り 18 スリア人エリシヤの所に下りいたれる時エリシヤ、エホバに祈りて言ふ願くは此人々をして目昏しめたまへと即ちエリシヤの言のごとくにその目を昏しめたまへり 19 是においてエリシヤ彼らに言けるは是はその途にあらず是はその城にもあらず我に従ひて來れ我汝らを汝らが尋ぬる人の所に携ゆかんとて彼等をサマリヤにひき至れり 20 彼等がサマリヤに至りし時エリシヤ言けるはエホバよ此人々の目をひらきて見させたまへと即ちエホバかれらの目を開きたまひたれば彼等見るにその身はサマリヤの中にあり 21 イスラエルの王かれらを見てエリシヤに言けるはわが父よ我擊殺すべきや擊殺すべきや 22 エリシヤ答けるは擊殺すべからず汝劍と弓をもて擲にせる者等を擊殺すことを爲んやパンと水と彼らの前にそなへて食飲せしめてその主君に往しむべきなり 23 王すなはちかれらの爲に大なる饗宴をまうけ其食飲ををはるに及びてこれを去しめたればすなはち其主君に歸れり是をもてスリアの兵ふたたびイスラエルの地に入ざりき 24 此後スリアの王ベネハダデその全軍を集めて上りきたりてサマリヤを攻圍みければ 25 サマリヤ大に糧食に乏しくなれり即ちかれら之を攻かこみたれば遂に驢馬の頭一箇は銀八十枚にいたり鳩の糞一カブの四分の一は銀五枚にいたる 26 茲にイスラエルの王石垣の上を通りをる時一人の婦人かれに呼はりて我主王よ助けたまへと言ければ 27 彼言ふエホバもし汝を助けたまはずば我何をもてか汝を助くることを得ん禾場の物をもてせんか酒榨の中の物をもてせんか 28 王すなはち婦に何事なるやと言ば

答へて言ふ此婦人我にむかひ汝の子を與へよ我儕今日これを食ひて明日わが子を食ふべしと言ひ 29 斯われら吾子を煮てこれを食ひけるが我次の日にいたりて彼にむかひ汝の子を與へよ我儕これを食はんと言しに彼その子を隠したり 30 王その婦人の言を聞て衣を裂き而して石垣の上を通りをりしが民これを見るにその膚に麻布を著居たり 31 王言けるは今日シヤパテの子エリシヤの首その身の上にすわりをらば神われに斯なしまた重ねてかく成たまへ 32 時にエリシヤはその家に坐しをり長老等これと共に坐し居る王すなはち己の所より人を遣しけるがエリシヤはその使者の未だ己にいたらざる前に長老等に言ふ汝等この人を殺す者の子が我の首をとらんとて人を遣はすを見るや汝等觀てその使者至らば戸を閉てこれを戸の内にいるなかれ彼の主君の足音その後にするにあらずやと 33 斯彼等と語をる間にその使者かれの許に來りしが王もつづいて來り言けるは此災はエホバより出たるなり我なんぞ此上エホバを待べけんや

7 エリシヤ言けるは汝らエホバの言を聽けエホバかく言たまふ明日の今頃サマリヤの門にて麥粉一セアを一シケルに賣り大麥二セアを一シケルに賣にいたらん 2 時に一人の大將すなはち王のその手に依る者神の人に答へて言けるは由やエホバ天に窓をひらきたまふも此事あるべけんやエリシヤいひけるは汝は汝の目をもて之を見ん然どこれを食ふことはあらし 3 茲に城邑の門の入口に四人の癩病人をりしが互に言けるは我儕なんぞ此に坐して死るを待べけんや 4 我ら若邑にいらんと言ば邑には食物竭てあれば我ら其處に死んもし又此に坐しをらば同く死ん然ば我儕ゆ

きてスリアの軍勢の所にいたらん彼ら我らを生しお
かば我儕生ん若われらを殺すも死るのみなりと 5す
なはちスリア人の陣營にいたらんとて黄昏に起あが
りしがスリアの陣營の邊にいたりて視に一人も其處
にをる者なし 6是より先に主スリアの軍勢をして車
の聲馬の聲大軍の聲を聞しめたまひしかば彼ら互に
言けるは視よイスラエルの王われらに敵せんとしてへ
テ人の王等およびエジプトの王等を備ひきたりて我
らを襲はんとすと 7すなはち黄昏に起て逃げその天
幕と馬と驢馬とを棄て陣營をその儘になしおき生命
を全うせんとして逃たり 8かの癩病人等陣營の邊に至
りしが遂に一の天幕にいりて食飲し其處より金銀衣
服を持さりて往てこれを隠し又きたりて他の天幕に
いり其處よりも持さりて往てこれを隠せり 9かくて
彼等互に言けるは我儕のなすところ善らず今日は好
消息ある日なるに我儕は黙し居る若夜明まで待ば菑
害身におよばん然ば來れ往て王の眷屬に告んと 10す
なはち來りて邑の門を守る者を呼びこれに告て言け
るは我儕スリア人の陣營にいたりて視に其處には一
人も居る者なく亦人の聲もせず但馬のみ繋ぎてあり
驢馬のみ繋ぎてあり天幕は其儘なりと 11是において
門を守る者呼はりてこれを王の家の中に報せたれば
12王夜の中に興いでてその臣下に言けるは我スリア
人が我儕になせる所の如何を汝等に示さん彼等はわ
れらの饑たるを知が故に陣營を去て野に隠る是はイ
スラエル人邑を出なば生擒て邑に推いらんと言て然
せるなり 13その臣下の一人對へて言けるは請ふ尚遣
されて邑に存れる馬の中五匹を取しめよ我儕人を遣
て窺はしめん視よ是等は邑の中に遣れるイスラエル

の全群衆のごとし視よ是等は滅び亡たるイスラエルの全群衆のごとくなり 14 是において二輛の戦車とその馬を取り王すなはち往て見よといひて人を遣はしてスリアの軍勢の跡を尾しめたれば 15 彼らその跡を尾てヨルダンにいたりしが途には凡てスリア人が狼狽逃る時に棄たる衣服と器具盈りその使者かへりてこれを王に告げれば 16 民いでてスリア人の陣營を掠めたり斯在しかば麥粉一セアは一シケルとなり大麥二セアは一シケルと成るエホバの言のごとし 17 爰に王その手に依ところの彼大將を立て門を司らしめたるに民門にて彼を踐たれば死り即ち神の人が王のおのれに下り來し時に言たる言のごとし 18 又神の人が王につげて明日の今頃サマリヤの門にて大麥二セアを一シケルに賣り麥粉二セアを一シケルに賣にいたらんとしごとくに成ぬ 19 彼大將その時に神の人にこたへてエホバ天に窓をひらきたまふも此事あるべけんやと言たりしかば答へて汝目をもてこれを見べけれどもこれを食ふことはあらじと言たりしが 20 其のごとくなりぬ即ち民門にてかれを踐て死しめたり

8 エリシヤ嘗てその子を甦へらせて與へし婦に言しことあり曰く汝起て汝の家族とともに往き汝の寄寓んとおもふ處に寄寓れ其はエホバ饑饉を呼くだしたまひたれば七年の間この地に臨むべければなりと 2 是をもて婦起て神の人の言のごとくに爲しその家族とともに往てペリシテ人の地に七年寄寓ぬ 3 かくて七年を経て後婦人ペリシテ人の地より歸りしが自己の家と田畝のために王に呼もとめんとて往り 4 時に王は神の人の僕ゲハジにむかひ請ふエリシヤが爲し

諸の大なる事等を我に告よと言てこれと談話をる 5
即ち彼エリシヤが死人を甦らせしことを王にもの
たりをる時にその子を彼が甦らせし婦自己の家と田
畝のために王に呼もとめければゲハジ言ふわが主王
よ是すなはちその婦人なり是すなはちエリシヤが甦
らせしその子なり 6 王すなはちその婦に尋ねけるに
これを陳たれば王彼のために一人の官吏を派出して
言ふ凡て彼に屬する物並に彼がこの地を去し日より
今にいたるまでの其田畝の産出物を悉く彼に還せよ
と 7 エリシヤ、ダマスコに至れる事あり時にスリア
の王ベネハダデ病にかかりをりしがこれにつけて神
の人此にきたると言ふ者ありければ 8 王ハザエルに
言ふ汝手に禮物をとり往て神の人を迎へ彼によりて
エホバに吾この病は愈るやと言て問へ 9 是において
ハザエルかれを迎へんとて出往きダマスコのもろも
ろの佳物駱駝に四十馱を禮物に携へて到りて彼の前
に立ち曰けるは汝の子スリアの王ベネハダデ我を汝
につかはして吾この病は愈るやと言しむ 10 エリシヤ
かれに言けるは往てかれに汝はかならず愈べしと告
よ但しエホバかれはかならず死んと我にしめしたま
ふなり 11 而して神の人瞳子をさだめて彼の羞るまで
に見つめ乃て哭いでたれば 12 ハザエルわが主よ何て
哭たまふやと言ふにエリシヤ答へけるは我汝がイス
ラエルの子孫になさんところの害悪を知らばなり即ち
汝は彼等の城に火をかけ壯年の人を劍にころし子等
を挫ぎ孕女を刳ん 13 ハザエル言けるは汝の僕は犬な
るか何ぞ斯の大なる事をなさんエリシヤ答へけるは
エホバ我にしめしたまふ汝はスリアの王となるにい
たらん 14 斯て彼エリシヤを離れて去てその主君にい

たるにエリシヤは汝に何と言しやと尋ければ答へて
彼汝はかならず愈るあらんと我に告たりと言ふ 15 翌
日にいたりてハザエル粗き布をとりて水に浸しこれ
をもて王の面を覆ひたれば死りハザエルすなはち之
にかはりて王となる 16 イスラエルの王アハブの子ヨ
ラムの五年にはヨシヤパテ尚ユダの王たりき此年に
ユダの王ヨシヤパテの子ヨラム位に即り 17 彼は位に
即し時三十二歳にして八年の間エルサレムにて世を
治めたり 18 彼はアハブの家のなせるがごとくにイス
ラエルの王等の道を行へりアハブの女かれの妻なり
ければなり斯彼はエホバの目の前に悪をなせしかど
も 19 エホバその僕ダビデのためにユダを滅すことを
好みたまはざりき即ち彼にその子孫によりて恒に光
明を與んと言たまひしがごとし 20 ヨラムの代にエド
ム叛きてユダの手に服せず自ら王を立たれば 21 ヨラ
ムその一切の戦車をしたがへてザイルに渉りしが遂
に夜の中に起あがりて自己を圍めるエドム人を撃ち
その戦車の長等を撃り斯して民はその天幕に逃ゆき
ぬ 22 エドムは斯叛きてユダの手に服せずなりしが今
日まで然り此時にあたりてリブナもまた叛けり 23 ヨ
ラムのその餘の行爲およびその凡て爲たる事等はユ
ダの王の歴代志の書に記さるるにあらずや 24 ヨラム
その先祖等とともに寝りてダビデの邑にその先祖た
ちと同じく葬られその子アハジアこれに代りて王と
なれり 25 イスラエルの王アハブの子ヨラムの十二年
にユダの王ヨラムの子アハジア位に即り 26 アハジア
は位に即し時二十二歳にしてエルサレムにて一年世
を治めたりその母はイスラエルの王オムリの孫女に
して名をアタリヤといふ 27 アハジアはアハブの家の

道にあゆみアハブの家のごとくにエホバの目の前に
悪をなせり是かれはアハブの家の婿なりければなり
28 茲にアハブの子ヨラム自身ゆきてスリアの王ハザ
エルとギレアデのラモテに戦ひけるがスリア人等ヨ
ラムに傷を負せたり 29 是に於てヨラム王はそのスリ
アの王ハザエルと戦ふにあたりてラマに於てスリア
人に負せられたるところの傷を療さんとてエズレル
に歸れりユダの王ヨラムの子アハジアはアハブの子
ヨラムが病をるをもてエズレルに下りて之を訪ふ

9 茲に預言者エリシャ預言者の徒一人を呼てこれに
言ふ汝腰をひきからげ此膏の瓶を手にとりてギレア
デのラモテに往け 2 而して汝かしこに到らばニムシ
の子なるヨシヤパテの子エヒウを其處に尋獲て内に
入り彼をその兄弟の中より起しめて奥の間につれゆ
き 3 膏の瓶をとりその首に灌ぎて言へエホバかく言
たまふ我汝に膏をそそぎてイスラエルの王となすと
而して戸を開きて逃されよ止ること勿れ 4 是におい
て預言者の僕なるその少者ギレアデのラモテに往け
るが 5 到りて見るに軍勢の長等坐してをりければ將
軍よ我汝に告べき事ありと言ふにエヒウこたへて我
儕諸人の中の誰にかと言たれば將軍よ汝にと言ふ 6
エヒウすなはち起て家にいりければ彼その首に膏を
そそぎて之に言ふイスラエルの神エホバかく言たま
ふ我汝に膏をそそぎてエホバの民イスラエルの王と
なす 7 汝はその主アハブの家を撃ほろぼすべし其に
よりて我わが僕なる預言者等の血とエホバの諸の僕
等の血をイゼベルの身に報いん 8 アハブの家は全く
滅亡べしアハブに屬する男はイスラエルにありて繫
がれたる者も繫がれざる者もともに之を絶べし 9 我

アハブの家をネバテの子ヤラベアムの家のごとくに
爲しアヒヤの子バアシヤの家のごとくになさん **10** エ
ズレルの地において犬イゼベルを食ふべし亦これを
葬るものあらじと而して戸を啓きて逃されり **11** かく
てエヒウその主の臣僕等の許にいできたりたれば一
人之に言ふ平安なるやこの狂る者何のために汝にき
たりしやエヒウこたへて汝等ほかの人を知りまたそ
の言ところを知なりと言ふに **12** 彼等言けらく謊なり
其を我儕に告よと是においてエヒウ言けるは彼斯々
我につげて言りエホバかく言たまふ我汝に膏をそそ
ぎてイスラエルの王となすと **13** 彼等すなはち急ぎて
各人その衣服をとりこれを階の上エヒウの下に布き
喇叭を吹てエヒウは王たりと言り **14** ニムシの子なる
ヨシャバテの子エヒウスヨラムに叛けり(ヨラムはイ
スラエルを盡くひきゐてギレアデのラモテに於てス
リアの王ハザエルを禦ぎたりしが **15** ヨラム王はその
スリアの王ハザエルと戦ふ時にスリア人に負せられ
たるところの傷を痊さんとてエズレルに歸りてをる
)エヒウ言けるは若なんぢらの心になはば一人もこ
の邑より走いでてこれをエズレルに言ふ者なからし
めよと **16** エヒウスなはちエズレルをさして乗往りヨ
ラムかしこに臥をればなりまたユダの王アハジアは
ヨラムを訪に下りてをる **17** エズレルの戍樓に一箇の
守望者立をりしがエヒウの群衆のきたるを見て我群
衆を見るといひければヨラム言ふ一人を馬に乗て遣
し其に會しめて平安なるやと言しめよと **18** 是におい
て一人馬にて行てこれに會ひ王かく宣まふ平安なる
やと言ふにエヒウ言けるは平安は汝の與るところな
らんや吾後にまはれと守望者また告て言ふ使者かれ

らの許に往たるが歸り來ずと 19 是をもて再び人を馬にて遣したればその人かれらに到りて王かく宣まふ何か變事あるやと言ふにエヒウ答て平安は汝の與るところならんや吾後にまはれと言ふ 20 守望者また告て言ふ彼も彼等の所にまで到りしが歸り來ずその車を趨するはニムシの子エヒウが趨するに似狂ふて趨らせ來る 21 是においてヨラム車を整へよと言ひけるが車整ひたればイスラエルの王ヨラムとユダの王アハジアおのおのその車にて出たり即ちかれらエヒウにむかひて出きたりエズレル人ナボテの地にて之に會けるが 22 ヨラム、エヒウを見てエヒウよ平安なるやといひたればエヒウこたへて汝の母イゼベルの姦淫と魔術と斯多かれば何の平安あらんやと云り 23 ヨラムすなはち手をめぐらして逃げアハジアにむかひ反逆なりアハジアよと言ふに 24 エヒウ手に弓をひきしぼりてヨラムの肩の間を射たればその矢かれの心をいぬきて出で彼は車の中に偃ししづめり 25 エヒウその將ビデカルに言けるは彼をとりてエズレル人ナボテの地の中に投すてよ其は汝憶ふべし嘗て我と汝と二人ともに乗て彼の父アハブに従へる時にエホバ斯かれの事を預言したまへり 26 曰くエホバ言ふ誠に我昨日ナボテの血とその子等の血を見たりエホバ言ふ我この地において汝にむくゆることあらんと然ば彼をとりてその地になげすてエホバの言のごとくにせよ 27 ユダの王アハジアはこれを視て園の家の途より逃ゆきけるがエヒウその後を追ひ彼をも車の中に撃ころせと言しかばイブレアムの邊なるグルの坂にてこれを撃たればメギドンまで逃ゆきて其處に死り 28 その臣僕等すなはち之を車にのせてエルサレム

にたづきへゆきダビデの邑においてかれの墓にその先祖等とおなじくこれを葬れり 29 アハブの子ヨラムの十一年にアハジアはユダの王となりしなり 30 斯てエヒウ、エズレルにきたりしかばイゼベル聞てその目を塗り髪をかざりて窓より望みけるが 31 エヒウ門に入きたりたればその主を弑せしジムリよ平安なるやと言り 32 エヒウすなはち面をあげて窓にむかひ誰か我に與ものあるや誰かあるやと言けるに二三の寺人エヒウを望みたれば 33 彼を投おとせと言りすなはち之を投おとしたればその血牆と馬とにほどぼしりつけりエヒウこれを踏とほれり 34 斯て彼内にいりて食飲をなし而して言けるは往てかの誼はれし婦を見これを葬れ彼は王の女子なればなりと 35 是をもて彼を葬らんとて往て見るにその頭骨と足と掌とありしのみなりければ 36 歸りで彼につぐるに彼言ふ是すなはちエホバがその僕なるテシベ人エリヤをもて告たまひし言なり云くエズレルの地において犬イゼベルの肉を食はん 37 イゼベルの屍骸はエズレルの地に於て糞土のごとくに野の表にあるべし是をもて是はイゼベルなりと指て言ふこと能ざらん

10 アハブ、サマリヤに七十人の子あり茲にエヒウ書をしたためてサマリヤにおくり邑の牧伯等と長老等とアハブの子等の師傳等とに傳へて云ふ 2 汝らの主の子等汝らとともにあり又汝等は車も馬も城もあり且武器もあれば此書汝らの許にいたらば 3 汝らの主の子等の中より最も優れる方正き者を選びだ出してその父の位に置ゑ汝等の主の家のために戦へよ 4 彼ら大に恐れて言ふ二人の王等すでに彼に當ることを得ざりしなれば我儕いかでか當ることを得んと 5

乃ち家宰邑宰長老師傳等エヒウに言おくりけるは我
儕は汝の僕なり凡て汝が我儕に命ずる事を爲ん我儕
は王を立てるを好まず汝の目に善と見ゆる所を爲せ 6
是においてエヒウ再度かれらに書をおくりて云ふ汝
らもし我に與き我言にしたがふならば汝らの主の子
なる人々の首をとりて明日の今頃エズレルにきたり
て吾許にいたれと當時王の子七十人はその師傳なる
邑の貴人等とともに居る 7 その書かれらに至りしか
ば彼等王の子等をとらへてその七十人をことごとく
殺しその首を籃につめてこれをエズレルのエヒウの
許につかはせり 8 すなはち使者いたりてエヒウに告
て人衆王の子等の首をたづさへ來れりと言ければ明
朝までそれを門の入口に二山に積おけと言ひ 9 朝に
および彼出て立ちすべての民に言ふ汝等は義し我は
わが主にそむきて之を弑したり然ど此すべての者等
を殺せしは誰なるぞや 10 然ば汝等知れエホバがアハ
ブの家につきて告たまひしエホバの言は一も地に隕
ず即ちエホバはその僕エリヤによりて告し事を成た
まへりと 11 斯てエヒウはアハブの家に屬する者のエ
ズレルに遺れるを盡く殺しまたその一切の重立たる
者その親き者およびその祭司等を殺して彼に屬する
者を一人も遺さざりき 12 エヒウすなはち起て往てサ
マリヤに至りしがエヒウ途にある時牧者の集會所
において 13 ユダの王アハジアの兄弟等に遇ひ汝等は何
人なるやと言けるに我儕はアハジアの兄弟なるが王
の子等と王母の子等の安否を問んとて下るなりと答
へたれば 14 彼等を生擒れと言ひ即ちかれらを生擒り
その集會所の穴の側にて彼等四十二人を盡く殺し一
人をも遺さざりき 15 斯てエヒウ其處より進みゆきし

がレカブの子ヨナダブの己を迎にきたるに遭ければ
その安否をとふてこれに汝の心はわが心の汝の心と
同一なるがごとくに眞實なるやと言けるにヨナダブ
答へて眞實なりと言たれば然ば汝の手を我に伸よと
言ひその手を伸ければ彼を挽て己の車に登らしめて
16 言ふ我とともに來りて我がエホバに熱心なるを見
よと斯かれを己の車に乗しめ **17** サマリヤにいたりて
アハブに屬する者のサマリヤに遺れるを盡く殺して
遂にその一族を滅せりエホバのエリヤに告たまひし
言語のごとし **18** 茲にエヒウ民をことごとく集てこれ
に言けるはアハブは少くバアルに事たるがエヒウは
大にこれに事へんとす **19** 然ば今バアルの諸の預言者
諸の臣僕諸の祭司等を我許に召せ一人も來らざる者
なからしめよ我大なる祭祀をバアルのためになさん
とするなり凡て來らざる者は生しおかじと但しエヒ
ウ、バアルの僕等を滅さんとて偽りて斯なせるなり
20 エヒウすなはちバアルの祭禮を設よと言ければ之
を宣たり **21** 是てエヒウあまねくイスラエルに人をつ
かはしたればバアルの僕たる者皆きたれり一人も來
らずして遺れるものはあらざりき彼等バアルの家に
いりたればバアルの家は末より末まで充わたれり **22**
時にエヒウ衣裳を掌どる者てむかひ禮服をとりいだ
してバアルの凡の僕等にあたへよといひければすな
はち禮服をとりいだせり **23** 斯ありてエヒウはレカブ
の子ヨナダブとともにバアルの家にいりしがバアル
の僕等に言ふ汝等尋ね見て此には只バアルの僕のみ
あらしめエホバの僕を一人も汝らの中にあらしめざ
れと **24** 彼等犠牲と燔祭を獻げんとて入し時エヒウ八
十人の者を外に置て言ふ凡てわがその手にわたすと

ころの人を一人にても逃れしむる者は己の生命をもてその人の生命に代べしと 25 期て燔祭を献ぐることの終りし時エヒウその士卒と諸將に言ふ入てかれらを殺せ一人をも出すなかれとすなはち刃をもて彼等を撃ころせり而して士卒と諸將これを投いだしてバアルの家の内殿に入り 26 諸の像をバアルの家よりとりいだしてこれを焼り 27 即ちかれらバアルの像をこぼちバアルの家をこぼち其をもて厠を造りしが今日までのこる 28 エヒウかくイスラエルの中よりバアルを絶さりたりしかども 29 エヒウは尚かのイスラエルに罪を犯させたるネバテの子ヤラベアムの罪に離るることをせざりき即ち彼なほペテルとダンにあるところの金の犢に事たり 30 エホバ、エヒウに言たまひけらく汝わが義と視るところの事を行ふにあたりて善く事をなしまたわが心にある諸の事をアハブの家になしたれば汝の子孫は四代までイスラエルの位に坐せんと 31 然るにエヒウは心を盡してイスラエルの神エホバの律法をおこなはんとはせず尚かのイスラエルに罪を犯させたるヤラベアムの罪に離れざりき 32 是時にあたりてエホバ、イスラエルを割くことを始めたまへりハザエルすなはちイスラエルの一切の邊境を侵し 33 ヨルダンの東においてギレアデの全地ガド人ルベン人マナセ人の地を侵しアルノン河の邊なるアロエルよりギレアデにいたりバシヤンにおよべり 34 エヒウのその餘の行爲とその凡て爲たる事むよびその大なる能はイスラエルの王の歴代志の書に記さるるにあらざや 35 エヒウその先祖等とともに寝りたればこれをサマリヤに葬りぬその子エホアハズ

これに代て王となれり 36 エヒウがサマリヤにをりて
イスラエルに王たりし間は二十八年なりき

11 茲にアハジアの母アタリヤその子の死たるを見て
起て王の種を盡く滅したりしが 2 ヨラム王の女に
してアハジアの姉妹なるエホシバといふ者アハジア
の子ヨアシを王の子等の殺さるる者の中より竊みと
り彼とその乳母を夜着の室にいでて彼をアタリヤに
匿したれば終にころされざりき 3 ヨアシは彼とともに
六年エホバの家に隠れてをりアタリヤ國を治めたり
4 第七年にいたりエホヤダ人を遣して近衛兵の大
將等を招きよせエホバの家に来たりて己に就しめ彼
等と契約を結び彼らにエホバの家にて誓をなさしめ
て王の子を見し 5 かれらに命じて言ふ汝等がなすべ
き事は是なり汝等安息日に入きたる者は三分の一は
王の家をまもり 6 三分の一はスル門にをり三分の一
は近衛兵の後の門にをるべし斯なんぢら宮殿をまも
りて人をいるべからず 7 また凡て汝等安息日に出ゆ
く者はその二手ともにエホバの家において王をまも
るべし 8 すなはち汝らおのおの武器を手にとりて王
を環て立べし凡てその列を侵す者をば殺すべし汝等
又王の出る時にも入る時にも王とともにをるべし 9
是においてその將官等祭司エホヤダが凡て命ぜしご
とくにおこなへり即ちかれらおのおの其手の人の安
息日に入すべき者と安息日に出ゆくべき者とを率て
祭司エホヤダに至りしかば 10 祭司はエホバの殿にあ
るダビデ王の槍と楯を大將等にわたせり 11 近衛兵は
おのおの手に武器をとりて王の四周にをり殿の右の
端より左の端におよびて壇と殿にそひて立つ 12 エホ
ヤダすなはち王子を進ませて之に冠冕をいただかせ

律法をわたし之を王となして之に膏をそそぎければ
人衆手を拍て王長壽かれと言ひ 13 茲にアタリヤ近衛
兵と民の聲を聞きエホバの殿にいりて民の所にいた
り 14 見るに王は常例のごとくに高座の上に立ち其傍
に大將等と喇叭手立をり又國の民みな喜びて喇叭を
吹をりしかばアタリヤ其衣を裂て反逆なり反逆なり
と叫べり 15 時に祭司エホヤダ大將等と軍勢の士官等
に命じてこれに言ふ彼をして列の間をとほりて出し
めよ彼に従がふ者をば劍をもて殺せと前にも祭司は
彼をエホバの家に殺すべからずと言おけり 16 是をも
て彼のために路をひらきければ彼王の家の馬道をと
ほりゆきしが遂に其處に殺されぬ 17 斯てエホヤダは
エホと王と民の間にその皆エホバの民とならんとい
ふ契約を立しめたり亦王と民の間にもこれを立しめ
たり 18 是をもて國の民みなバアルの家にいりてこれ
を毀ちその壇とその像を全く打碎きバアルの祭司マ
ツタンをその壇の前に殺せり而して祭司エホバの家
に監督者を設けたり 19 エホヤダすなはち大將等と近
衛兵と國の諸の民を率てエホバの家より王をみちび
き下り近衛兵の門の途よりして王の家にいたり王の
位に坐せしめたり 20 斯有しかば國の民はみな喜びて
邑は平穩なりきアタリヤは王の家に殺されぬ 21 ヨア
シは位に即し時七歳なりき

12 ヨアシはエヒウの七年に位に即きエルサレムに
おいて四十年世を治めたりその母はベエルシバより
出たるものにて名をデビアといへり 2 ヨアシは祭司
エホヤダの己を誨ふる間は恒にエホバの善と視たま
ふ事をおこなへり 3 然ど崇邱は除かずしてあり民は
尚その崇邱において犠牲をささげ香を焚り 4 茲にヨ

アシ祭司等に言けるは凡てエホバの家に聖別て献納
るところの金即ち核數らるる人の金估價にしたがひ
て出すところの身の代の金および人々が心より願て
エホバの家に持きたるところの金 5 これを祭司等お
のおのその知人より受をさめ何處にても殿に破壊の
見る時はこれをもてその破壊を修繕ふべしと 6 然る
にヨアシ王の二十三年におよぶまで祭司等殿の破壊
を修繕ふにいたらざりしかば 7 ヨアシ王祭司エホヤ
ダおよびその他の祭司等を召てこれに言ふ汝等など
て殿の破壊を修繕はざるや然ば今よりは汝等の知人
より金を受て自己のためにすべからず唯殿の破壊の
修理に其を供ふべしと 8 祭司等は重て民より自己の
ために金を受ず又殿の破壊を修理ふことをせじと約
せり 9 斯て後祭司エホヤダ一箇の櫃をとりその蓋に
孔を穿ちてこれをエホバの家の入口の右において壇
の傍に置り門守の祭司等すなはちエホバの家に入き
たるところの金をことごとくその中に入たり 10 爰に
その櫃の中に金の多くあることを見たれば王の書記
と祭司長と上り來りてそのエホバの家に積りし金を
包みてこれを數へ 11 その數へし金をこの工事をなす
者に付せり即ちエホバの家の監督者にこれを付しけ
れば彼等またエホバの家を修理ふところの木匠と建
築師にこれを與へ 12 石工および琢石者に與へまたこ
れをもてエホバの家の破壊を修繕ふ材木と琢石を買
ひ殿を修理ふために用ふる諸の物のためにこれを費
せり 13 但しエホバの家に來れるその金をもてエホ
バの家のために銀の盂燈剪鉢喇叭金の器銀の器等を
造ることはせざりき 14 唯これをその工事をなす者に
わたして之をもてエホバの家を修理はしめたり 15 ま

たその金を手にわたして工人にはらはしめたる人々と計算をなすことをせざりき是は彼等忠厚に事をなしたればなり 16 愆金と罪金はエホバの家にはらずして祭司に歸せり 17 當時スリアの王ハザエルのぼり來りてガテを攻てこれを取り而してハザエル、エルサレムに攻のぼらんとてその面をこれに向たり 18 是をもてユダの王ヨアシその先祖たるユダの王ヨシヤパテ、ヨラム、アハジア等が聖別て獻げたる一切の物および自己が聖別て獻げたる物ならびにエホバの家の庫と王の家とにあるところの金を悉く取てこれをスリアの王ハザエルにおくりければ彼すなはちエルサレムを離れて去ぬ 19 ヨアシのその餘の行爲およびその凡て爲たる事はユダの王の歴代志の書に記さるるにあらずや 20 茲にヨアシの臣僕等おこりて黨をむすびシラに下るところのミロの家にてヨアシを弑せり 21 即ちその僕シメアテの子ヨザカルとシヨメルの子ヨザバデかれを弑して死しめたればその先祖とおなじくこれをダビデの邑に葬れりその子アマジャこれに代りて王となる

13 ユダの王アハジアの子ヨアシの二十三年にエヒウの子ヨハアズ、サマリヤにおいてイスラエルの王となり十七年位にありき 2 彼はエホバの目の前に惡をなし夫のイスラエルに罪を犯させたるネバテの子ヤラベアムの罪を行ひつづけて之に離れざりき 3 是においてエホバ、イスラエルにむかひて怒を發しこれをその代のあひだ恒にスリアの王ハザエルの手におき又ハザエルの子ベネハダデの手に付し置たまひしが 4 ヨアハズ、エホバに請求めたればエホバつひにこれを聽いれたまへり其はイスラエルの苦

難を見そなはしたればなり即ちスリアの王これをなやませるなり 5 エホバつひに救者をイスラエルにたまひたればイスラエルの子孫はスリア人の手を脱れて疇昔の如くに己々の天幕に住にいたれり 6 但し彼等はイスラエルに罪を犯さしめたるヤラベアムの家の罪をはなれずして之をおこなひつづけたりサマリヤにも亦アシタロテの像たちをりぬ 7 嚮にスリアの王は民を滅し踐くだく塵のごとくに是をなして只騎兵五十人車十輛歩兵一萬人而已をヨアハズに遺せり 8 ヨアハズのその餘の行爲とその凡て爲たる事およびその能はイスラエルの王の歴代志の書にしるさるるに非ずや 9 ヨアハズその先祖等とともに寝りたればこれをサマリヤに葬れりその子ヨアシこれに代て王となる 10 ユダの王ヨアシの三十七年にヨアハズの子ヨアシ、サマリヤにおいてイスラエルの王となり十六年位にありき 11 彼エホバの目の前に悪をなし夫のイスラエルに罪を犯させたるネバテの子ヤラベアムの諸の罪にはなれずしてこれを行ひつづけたり 12 ヨアシのその餘の行爲とその凡て爲たる事およびそのユダの王アマジャと戦ひし能はイスラエルの王の歴代志の書に記さるるに非ずや 13 ヨアシその先祖等とともに寝りてヤラベアム位にのぼれりヨアシはイスラエルの王等とおなじくサマリヤに葬らる 14 茲にエリシヤ死病にかかりて疾をりしかばイスラエルの王ヨアシ彼の許にくだり來てその面の上に涙をこぼし吾父吾父イスラエルの兵車よその騎兵よと言ひ 15 エリシヤかれにむかひ弓矢をとれと言ければすなはち弓矢をとれり 16 エリシヤまたイスラエルの王に汝の手を弓にかけよと言ければすなはちその手をかけた

り是においてエリシヤその手を王の手の上に按て 17
東向の窓を開けと言たれば之を開きけるにエリシヤ
また射よと言り彼すなはち射たればエリシヤ言ふエ
ホバよりの拯救の矢スリアに對する拯救の矢汝必ら
ずアベクにおいてスリア人を撃やぶりてこれを滅し
つくすにいたらん 18 エリシヤまた矢を取れと言けれ
ば取りエリシヤまたイスラエルの王に地を射よとい
ひけるに三次射て止たれば 19 神の人怒て言ふ汝は五
回も六回も射るべかりしなり然せしならば汝スリア
を撃やぶりて之を滅しつくすことを得ん然ど今然せ
ざれば汝がスリアを撃やぶることは三次のみなるべ
しと 20 エリシヤ終に死たればこれを葬りしが年の立
かへるに及てモアブの賊黨國にいりきたれり 21 時に
一箇の人を葬らんとする者ありしが賊黨を見たれば
その人をエリシヤの墓におしいれけるにその人いり
てエリシヤの骨にふるるや生かへりて起あがれり 22
スリアの王ハザエルはヨアハズの一生の間イスラエ
ルをなやましたりしが 23 エホバそのアブラハム、イ
サク、ヤコブと契約をむすびしがためにイスラエル
をめぐみ之を憐みこれを眷みたまひ之を滅すことを
好まず尚これをその前より棄はなちたまはざりき 24
スリアの王ハザエルつひに死てその子ベネハダデこ
れに代りて王となれり 25 是においてヨアズの子ヨア
シはその父ヨアハズがハザエルに攻取れたる邑々を
ハザエルの子ベネハダデの手より取かへせり即ちヨ
アシは三次かれを敗りてイスラエルの邑々を取かへ
しぬ

14 イスラエルの王ヨアハズの子ヨアシの二年にユ
ダの王ヨアシの子アマジャ王となれり 2 彼は王とな

れる時二十五歳にして二十九年の間エルサレムにて世を治めたりその母はエルサレムの者にして名をエホアダンと云り 3 アマジヤはエホバの善と見たまふ事をなしたりしがその先祖ダビデのごとくはあらざりき彼は萬の事において其父ヨアシがなせしごとくに事をなせり 4 惟崇邱はのぞかずしてあり民はなほその崇邱において犠牲をささげ香を焚り 5 彼は國のその手に堅くたつにおよびてその父王を弑せし臣僕等を殺したりしが 6 その弑殺人の子女等は殺さざりき是はモーセの律法の書に記されたる所にしたがへるなり即ちエホバ命じて言たまはく子女の故によりて父を殺すべからず父の故によりて子女を殺すべからず人はみなその身の罪によりて死べき者なりと 7 アマジヤまた鹽谷においてエドミ人一萬を殺せり亦セラを攻とりてその名をヨクテルとなづけしが今日まで然り 8 かくてアマジヤ使者をエヒウの子ヨアハズの子なるイスラエルの王ヨアシにおくりて來れ我儕たがひに面をあはせんと言しめければ 9 イスラエルの王ヨアシ、ユダの王アマジヤに言おくりけるはレバノンの荆棘かつてレバノンの香柏に汝の女子をわが子の妻にあたへよと言おくりたることありしにレバノンの野獸とほりてその荆棘を踏たふせり 10 汝は大にエドムに勝たれば心に誇るその榮譽にやすんじて家に居れなんぞ禍を惹おこして自己もユダもともに亡んとするやと 11 然るにアマジヤ聽ことをせざりしかばイスラエルの王ヨアシのぼり來れり是において彼とユダの王アマジヤはユダのベテシメシにてたがひに面をあはせたりしが 12 ユダ、イスラエルに敗られて各人その天幕に逃かへりぬ 13 是においてイ

イスラエルの王ヨアシはアジアの子ヨアシの子なるユダの王アマジヤをベテシメシに擒へ而してエルサレムにいたりてエルサレムの石垣をエフライムの門より隅の門まで凡そ四百キュビトを毀ち 14 またエホバの家と王の家の庫とにあるところの金銀および諸の器をとりかつ人質をとりてサマリヤにかへれり 15 ヨアシがなしたるその餘の行爲とその能およびそのイスラエルの王アマジヤと戦ひし事はイスラエルの王の歴代志の書にしるさるるにあらざや 16 ヨアシその先祖等とともに寝りてイスラエルの王等とともにサマリヤに葬られその子ヤラベアムこれに代りて王となれり 17 ヨアシの子なるユダの王アマジヤはヨアハズの子なるイスラエルの王ヨアシの死てより後なほ十五年生存へたり 18 アマジヤのその餘の行爲はユダの王の歴代志の書にしるさるるにあらざや 19 茲にエルサレムにおいて黨をむすびて彼に敵する者ありければ彼ラキシに逃ゆきけるにその人々ラキシに人をやりて彼を彼處に殺さしめたり 20 人衆かれを馬に負せてもちきたりエルサレムにおいてこれをその先祖等とともにダビデの邑に葬りぬ 21 ユダの民みなアザリヤをとりて王となしてその父アマジヤに代しめたり時に年十六なりき 22 彼エラテの邑を建てこれを再びユダに歸せしめたり是はかの王がその先祖等とともに寝りし後なりき 23 ユダの王ヨアシの子アマジヤの十五年にイスラエルの王ヨアシの子ヤラベアム、サマリヤにおいて王となり四十一年位にありき 24 彼はエホバの目の前に惡をなし夫のイスラエルに罪を犯さしめたるネバテの子ヤラベアムの罪に離れざりき 25 彼ハマテの入處よりアラバの海までイスラエル

の邊境を恢復せりイスラエルの神エホバがガテへペルのアミツタイの子なるその僕預言者ヨナによりて言たまひし言のごとし **26** エホバ、イスラエルの艱難を見たまふに其は甚だ苦かり即ち繋れたる者もあらず繋れざる者もあらず又イスラエルを助る者もあらず **27** エホバは我イスラエルの名を天下に塗抹んとすと言たまひしこと無し反てヨアシの子ヤラベアムの手をもてこれを拯ひたまへり **28** ヤラベアムのその餘の行爲とその凡てなしたる事およびその戦争をなせし能その昔にユダに屬し居たることありしダマスコとハマテを再びイスラエルに歸せしめたる事はイスラエルの王の歴代志の書に記さるるにあらずや **29** ヤラベアムその先祖たるイスラエルの王等とともに寝りその子ザカリヤこれに代りて王となれり

15 イスラエルの王ヤラベアムの二十七年にユダの王アマジヤの子アザリヤ王となれり **2** 彼は王となれる時に十六歳なりしが五十二年の間エルサレムにおいて世を治めたりその母はエルサレムの者にして名をエコリアと言ふ **3** 彼はエホバの善と見たまふ事をなし萬の事においてその父アマジヤがなしたるごとく行へり **4** 惟崇邱は除かずしてあり民は尚その崇邱の上に犠牲をささげ香をたけり **5** エホバ王を撃たまひしかばその死る日まで癩病人となり別殿に居ぬその子ヨタム家の事を管理て國の民を審判り **6** アザリヤのその餘の行爲とその凡てなしたる事はユダの王の歴代志の書にしるさるるにあらずや **7** アザリヤその先祖等とともに寝りたればこれをダビデの邑にその先祖等とともに葬れりその子ヨタムこれに代りて王となる **8** ユダの王アザリヤの三十八年にヤラベア

ムの子ザカリア、サマリヤにおいてイスラエルの王となれりその間は六月 9 彼その先祖等のなせしごとくエホバの目の前に悪を爲し夫のイスラエルに罪を犯させたるネバテの子ヤラベアムの罪に離れざりき 10 茲にヤベシの子シャルム黨をむすびて之に敵し民の前にてこれを撃て弑しこれに代りて王となれり 11 ザカリアのその餘の行爲はイスラエルの王の歴代志の書に記さる 12 エホバのエヒウに告たまひし言は是なり云く汝の子孫は四代までイスラエルの位に坐せんと果して然り 13 ヤベシの子シャルムはユダの王ウジヤの三十九年に王となりサマリヤにおいて一月の間王たりき 14 時にガデの子メナヘム、テルザより上りてサマリヤに來りヤベシの子シャルムをサマリヤに撃てこれを殺し之にかはりて王となれり 15 シヤルムのその餘の行爲とその徒黨をむすびし事はイスラエルの王の歴代志の書にしるさる 16 その後メナヘム、テルザよりいたりてテフサとそこにあるところの者およびその四周の地を撃り即ちかれら己がために開くことをせざりしかばこれを撃てその中の孕婦をことごとく刳剔たり 17 ユダの王アザリヤの三十九年にガデの子メナヘム、イスラエルの王となりサマリヤにおいて十年の間世を治めたり 18 彼エホバの目の前に悪をなし彼のイスラエルに罪を犯させたるネバテの子ヤラベアムの罪に生涯離れざりき 19 茲にアツスリヤの王ブルその地に攻きたりければメナヘム銀一千タラントをブルにあたへたり是は彼をして己を助けしめ是によりて國を己の手に堅く立しめんとてなりき 20 即ちメナヘムその銀をイスラエルの諸の大富者に課しその人々に各々銀五十シケルを出さし

めてこれをアッシリアの王にあたへたり是をもてア
ッシリアの王は歸りゆきて國に止ることをせざりき
21 メナヘムのその餘の行爲とその凡てなしたる事は
イスラエルの王の歴代志の書にしるさるるにあらざ
りや **22** メナヘムその先祖等とともに寝りその子ペカヒ
ヤこれに代て王となれり **23** メナヘムの子ペカヒヤは
ユダの王アザリヤの五十年にサマリヤにおいてイス
ラエルの王となり二年のあひだ位にありき **24** 彼エホ
バの目のまへに惡をなし彼のイスラエルに罪を犯さ
せたるネバテの子ヤラベアムの罪に離れざりき **25** 茲
にその將官なるレマリヤの子ペカ黨をむすびて彼に
敵しサマリヤにおいて王の家の奥の室にこれを撃こ
ろしアルゴブとアリエをもこれとともに殺せり時に
ギレアデ人五十人ペカとともにありきペカすなはち
彼をころしかれに代て王となれり **26** ペカヒヤのその
餘の行爲とその凡て爲たる事はイスラエルの王の歴
代志の書にしるさる **27** レマリヤの子ペカはユダの王
アザリヤの五十二年にサマリヤに於てイスラエルの
王となり二十年位にありき **28** 彼エホバの目の前に惡
をなし彼のイスラエルに罪ををかさせたるネバテの
子ヤラベアムの罪にはなれざりき **29** イスラエルの王
ペカの代にアッシリアの王テグラテピレセル來りて
イヨン、アベルベテマアカ、ヤノア、ケデシ、ハゾ
ルおよびギレアデならびにナフタリの全地ガリラヤ
を取りその人々をアッシリアに擄へうつせり **30** 茲に
エラの子ホセア黨をむすびてレマリヤの子ペカに敵
しこれを撃て殺しこれに代て王となれり是はウジャ
の子ヨタムの二十年にあたり **31** ペカのその餘の行
爲とその凡てなしたる事はイスラエルの王の歴代志

の書にしるさる **32**レマリヤの子イスラエルの王ペカの二年にウ ज्याの子ユダの王ヨタム王となれり **33**彼は王となれる時二十五歳なりしがエルサレムにて十六年世を治めたり母はザドクの女にして名をエルシヤといへり **34**彼はエホバの目にかなふ事をなし凡てその父ウ ज्याのなしたるごとくにおこなへり **35**惟崇邱は除かずしてあり民なほその崇邱の上に犠牲をささげ香を焚り彼エホバの家の上の門を建たり **36**ヨタムのその餘の行爲とその凡てなしたる事はユダの王の歴代志の書にしるさるるにあらずや **37**當時エホバ、スリアの王レヂンとレマリヤの子ペカをユダにせめきたらせたまへり **38**ヨタムその先祖等とともに寝りてその父ダビデの邑にその先祖等とともに葬られその子アハズこれに代りて王となれり

16レマリヤの子ペカの十七年にユダの王ヨタムの子アハズ王となれり **2**アハズは王となれる時二十歳にしてエルサレムにおいて十六年世を治めたりしがその神エホバの善と見たまふ事をその父ダビデのごとくは行はざりき **3**彼はイスラエルの王等の道にあゆみまたその子に火の中を通らしめたり是はエホバがイスラエルの子孫の前より逐はらひたまひし異邦人のおこなふところの憎むべき事にしたがへるなり **4**彼は崇邱の上丘の上一切の青木の下に犠牲をささげ香をたけり **5**この頃スリアの王レヂンおよびレマリヤの子なるイスラエルの王ペカ、エルサレムにせめのぼりてアハズを圍みけるが勝ことを得ざりき **6**この時にあたりてスリアの王レヂン復エラテをスリアに歸せしめユダヤ人をエラテより逐いだせり而してスリア人エラテにきたりて其處に住み今日にいたる

7 是においてアハズ使者をアツスリヤの王テグラテピレセルにつかはして言しめけるは我は汝の臣僕汝の子なりスリアの王とイスラエルの王と我に攻かかりをれば請ふ上りきたりてかれらの手より我を救ひいだしたまへと 8 アハズすなはちエホバの家と王の家の庫とにあるところの銀と金をとりこれを禮物としてアツスリヤの王におくりしかば 9 アツスリヤの王かれの請を容たりアツスリヤの王すなはちダマスコに攻のぼりて之をとりその民をキルに擄うつしまたレヂンを殺せり 10 かくてアハズはアツスリヤの王テグラテピレセルに會んとてダマスコにゆきけるがダマスコにおいて一箇の祭壇を見ればアスス王その祭壇の工作にしたがひて委くこれが圖と式様を制へて祭司ウリヤにこれをおくれり 11 是において祭司ウリヤはアハズ王がダマスコよりおくりたる所にてらして一箇の祭壇をつくりアハズ王がダマスコより來るまでにこれを作りおけり 12 茲に王ダマスコより歸りてその祭壇を見壇にちかよりてこれに上り 13 壇の上に燔祭と素祭を焚き灌祭をそそぎ酬恩祭の血を灑げり 14 彼またエホバの前なる銅の壇を家の前より移せり即ちこれをかの新しき壇とエホバの家の間より移してかの壇の北の方に置たり 15 而してアハズ王祭司ウリヤに命じて言ふ朝の燔祭夕の素祭および王の燔祭とその素祭ならびに國中の民の燔祭とその素祭および灌祭はこの大なる壇の上に焚べし又この上に燔祭の牲の血と犠牲の物の血をすべて灑ぐべし彼の銅の壇の事はなほ考ふるあらん 16 祭司ウリヤすなはちアハズ王のすべて命じたるごとくに然なせり 17 またアハズ王臺の邊を削りて洗盤をその上よりうつし

また海をその下なる銅の牛の上よりおろして石の座の上に置ゑ 18 また家に造りたる安息日用の遊廊および王の外の入口をアッシリヤの王のためにエホバの家の中に變じたり 19 アハズのなしたるその餘の行爲はユダの王の歴代志の書にしるさるるにあらざりや 20 アハズその先祖等とともに寝りてダビデの邑にその先祖等とともに葬られその子ヒゼキヤこれにかはりて王となれり

17 ユダの王アハズの十二年にエラの子ホセア王となりサマリヤにおいて九年イスラエルを治めたり 2 彼エホバの目の前に惡をなせしがその前にありしイスラエルの王等のごとくはあらざりき 3 アッシリヤの王シャルマネセル攻のぼりたればホセアこれに臣服して貢を納たりしが 4 アッシリヤの王つひにホセアの己に叛けるを見たり其は彼使者をエジプトの王ソにおくり且前に歳々なせしごとくに貢をアッシリヤ王に納ざりければなり是においてアッシリヤの王かれを禁錮て獄におけり 5 すなはちアッシリヤの王せめ上りて國中を遍くゆきめぐりサマリヤにのぼりゆきて三年が間これをせめ圍みたりしが 6 ホセアの九年におよびてアッシリヤの王つひにサマリヤを取りイスラエルをアッシリヤに擄へゆきてこれをハラとハボルとゴザン河の邊とメデアの邑々とにおきぬ 7 此事ありしはイスラエルの子孫己をエジプトの地より導きのぼりてエジプトの王パロの手を脱しめたるその神エホバに對て罪を犯し他の神々を敬ひ 8 エホバがイスラエルの子孫の前より逐はらひたまひし異邦人の法度にあゆみ又イスラエルの王等の設けし法度にあゆみたるに困てなり 9 イスラエルの子孫義か

らぬ事をもてその神エホバを掩ひかくしその邑々に
崇邱をたてたり看守臺より城にいたるまで然り 10 彼
等一切の高丘の上一切の青樹の下に偶像とアシラ像
を立て 11 エホバがかれらの前より移したまひし異邦
人のなせしごとくにその崇邱に香を焚き又惡を行ひ
てエホバを怒らせたり 12 エホバかれらに汝等これら
の事を爲べからずと言おきたまひしに彼等偶像に事
ふることを爲しなり 13 エホバ諸の預言者諸の先見者
によりてイスラエルとユダに見證をたて汝等翻へり
て汝らの惡き道を離れわが誠命わが法度をまもり我
が汝等の先祖等に命じまたわが僕なる預言者等によ
りて汝等に傳へし法に率由ふやうにせよと言たまへ
り 14 然るに彼ら聽ことをせずしてその項を強くせり
彼らの先祖等がその神エホバを信ぜずしてその項を
強くしたるが如し 15 彼等はエホバの法度を棄てエホ
バがその先祖等と結びたまひし契約を棄てまたその
彼等に見證したまひし證言を棄て且虚妄物にしたが
ひて虚浮なりまたその周圍なる異邦人の跡をふめり
是はエホバが是のごとくに事をなすべからずと彼ら
に命じ給ひし者なり 16 彼等その神エホバの諸の誠命
を遺て己のために二の牛の像を鑄なし又アシラ像を
造り天の衆群を拝み且バアルに事へ 17 またその子息
女に火の中を通らしめト筮および禁厭をなしエホ
バの目の前に惡を爲ことに身を委ねてその怒を惹起
せり 18 是をもてエホバ大にイスラエルを怒りこれを
その前より除きたまひたればユダの支派のほかは遺
れる者なし 19 然るにユダもまたその神エホバの誠命
を守らずしてイスラエルの立たる法度にあゆみたれば
20 エホバ、イスラエルの苗裔ぞことごとく棄これを

苦しめこれをその掠むる者の手に付して遂にこれをその前より打すてたまへり **21** すなはちイスラエルをダビデの家より裂はなしたまひしかばイスラエル、ネバテの子ヤラベアムを王となせしにヤラベアム、イスラエルをしてエホバにしたがふことを止しめてこれに大なる罪を犯さしめたりしが **22** イスラエルの子孫はヤラベアムのなせし諸の罪をおこなひつづけてこれに離るることなかりければ **23** 遂にエホバその僕なる諸の預言者をもて言たまひしごとくにイスラエルをその前より除きたまへりイスラエルはすなはちその國よりアッスリヤにうつされて今日にいたる **24** 斯てアッスリヤの王バビロン、クタ、アワ、ハマテおよびセパルワイムより人をおくりてこれをイスラエルの子孫の代にサマリヤの邑々に置ければその人々サマリヤを有ちてその邑々に住しが **25** その彼處に始て住る時には彼等エホバを敬ふことをせざりしかばエホバ獅子をかれらの中に送りたまひてその獅子かれら若干を殺せり **26** 是によりてアッスリヤの王に告て言ふ汝が移てサマリヤの邑々におきたまひしかの國々の民はこの地の神の道を知ざるが故にその神獅子をかれらの中におくりて獅子かれらを殺せり是は彼等その國の神の道を知ざるに因てなり **27** アッスリヤの王すなはち命を下して言ふ汝等が彼處より曳きたりし祭司一人を彼處に携ゆけ即ち彼をして彼處にいたりて住しめその國の神の道をその人々に教へしめよと **28** 是に於てサマリヤより移れし祭司一人きたりてベテルに住みエホバの敬ふべき事をかれらに教へたり **29** その民はまた各々自分自分の神々を造りてこれをかのサマリア人が造りたる諸の崇邱に安

置せり民みなその住る邑々において然なしぬ 30 即ちバビロンの人々はスコテペノテを作りクタの人々はネルガルを作りハマテの人々はアシマを作り 31 アビ人はニブハズとタルタクを作りセパルワイ人は其子女を火に焚てセパルワイムの神アデランメルクおよびアナンメルクに奉げたり 32 彼ら又エホバを敬ひ凡俗の民をもて崇邱の祭司となしたれば其人これがために崇邱に家々にて職務をなせり 33 斯その人々エホバを敬ひたりしが亦その携へ出されし國々の風俗にしたがひて自己自己の神々に事へたり 34 今日にいたるまで彼等は前の習俗にしたがひて事をなしエホバを敬はず彼等の法度をも例典をも行はず又エホバがイスラエルを名けたまひしヤコブの子孫に命じたまひし律法をも誠命をも行はざるなり 35 昔エホバこれと契約をたてこれに命じて言たまひけらく汝等は他の神を敬ふべからずまたこれを拝みこれに事へこれに犠牲をささぐべからず 36 只大なる能をもて腕を伸て汝等をエジプトの地より導き上りしエホバをのみ汝等敬ひこれを拝みこれにこれに犠牲をささぐべし 37 またその汝等のために録したまへる法度と例典と律法と誠命を汝等謹みて恒に守るべし他の神々を敬ふべからず 38 我が汝等とむすびし契約を汝等忘るべからず又他の神々を敬ふべからず 39 只汝らの神エホバを敬ふべし彼なんじらをその諸の敵の手より救ひいださん 40 然るに彼等は聽ことをせずしてなほ前の習俗にしたがひて事を行へり 41 偕この國々の民は斯エホバを敬ひまたその雕める像に事たりしがその子も孫も共に然りその先祖のなせしごとくに今日までも然なすなり

18 イスラエルの王エラの子ホセアの三年にユダの王アハズの子ヒゼキア王となれり **2** 彼は王となれる時二十五歳にしてエルサレムにて二十九年世ををさめたりその母はザカリヤの女にして名をアビといへり **3** ヒゼキヤはその父ダビデの凡てなせしごとくエホバの善と見たまふ事をなし **4** 崇邱を除き偶像を毀ちアシラ像を斫たふしモーセの造りし銅の蛇を打碎けりこの時までイスラエルの子孫その蛇にむかひて香を焚たればなり人々これをネホシタン(銅物)と稱なせり **5** ヒゼキヤはイスラエルの神エホバを頼り是をもて彼の後にも彼の先にもユダの諸の王等の中に彼に如ものなかりき **6** 即ち彼は固くエホバに身をよせてこれに従ふことをやめずエホバがモーセに命じたまひしその誠命を守れり **7** エホバ彼とともに在したれば彼はその往ところにて凡て利達を得たり彼はアッシリヤの王に叛きてこれに事へざりき **8** 彼ペリシテ人を擊敗りてガザにいたりその境に達し看守臺より城にまで及べり **9** ヒゼキヤ王の四年すなはちイスラエルの王エラの子ホセアの七年にアッシリヤの王シャルマネセル、サマリヤに攻のぼりてこれを圍みけるが **10** 三年の後つひに之を取りサマリヤの取れしはヒゼキヤの六年にしてイスラエルの王ホセアの九年にあたる **11** アッシリヤの王イスラエルをアッシリヤに擄へゆきてこれをハラとゴザン河の邊とメデアの邑々におきぬ **12** 是は彼等その神エホバの言に遵はずその契約を破りエホバの僕モーセが凡て命じたる事をやぶりこれを聽ことも行ふこともせざるによりてなり **13** ヒゼキヤ王の十四年にアッシリヤの王セナケリブ攻のぼりてユダの諸の堅き邑を取れば **14**

ユダの王ヒゼキヤ人をラキシにつかはしてアッスリヤの王にいたらしめて言ふ我過てり我を離れて歸りたまへ汝が我に蒙らしむる者は我これを爲べしとアッスリヤの王すなはち銀三百タラント金三十タラントをユダの王ヒゼキヤに課したり 15 是においてヒゼキヤ、エホバの家と王の家の庫とにあるところの銀をことごとく彼に與へたり 16 此時ユダの王ヒゼキヤまた己が金を著たりしエホバの宮の戸および柱を剥てこれをアッスリヤの王に與へたり 17 アッスリヤの王またタルタン、ラブサリスおよびラブシヤケをしてラキシより大軍をひきゐてエルサレムにむかひてヒゼキヤ王の所にいたらしめたればすなはち上りてエルサレムにきたれり彼等則ち上り來り漂布場の大路に沿るよの池塘の水道の邊にいたりて立り 18 而して彼等王を呼たればヒルキヤの子なる宮内卿エリアキム書記官セブナおよびアサフの子なる史官ヨア出きたりて彼等に詣りけるに 19 ラブシヤケこれに言けるは汝等ヒゼキヤに言べし大王アッスリヤの王かく言たまふ此汝が頼むところの者は何ぞや 20 汝戦争をなすの謀計と勇力とを言も只これ口の先の言語たるのみ誰を恃みて我に叛くことをせしや 21 視よ汝は折かかれる葦の杖なるエジプトを頼む其は人の其に倚るあればすなはちその手を刺とほすなりエジプトの王パロは凡てこれを頼む者に斯あるなり 22 汝等あるひは我はわれらの神エホバを頼むと我に言ん彼はヒゼキヤがその崇邱と祭壇とを除きたる者にあらずやまた彼はユダとエルサレムに告て汝等はエルサレムに於てこの壇の前に禱拜をなすべしと言しにあらずや 23 然ば請ふわが主君アッスリヤの王に約をなせ汝

もし人を乗しむることを得ば我馬二千匹を汝にあたへん 24 汝いかにしてか吾主君の諸臣の中の最も微き一將だにも退くことを得ん汝なんぞエジプトを頼みて兵車と騎兵をこれに仰がんとするや 25 また我とても今エホバの旨によらずして比處を滅しに上れるならんやエホバ我に此處に攻のぼりてこれを滅せと言たり 26 時にヒルキヤの子エリアキムおよびセブナとヨア、ラダシヤケにいひけるは請ふスリアの語をもて僕等に語りたまへ我儕これを識なり石垣の上ををる民の聞るところにてユダヤ語をもて我儕に言談たまふなかれ 27 ラブシヤケかれらに言ふわが君唯我を汝の主と汝とにつかはして此言をのべしめたまふならんや亦石垣の上に坐する人々にも我を遣して彼等をして汝等とともに自己の便溺を食ひ且飲にいたらしめんとしたまふにあらざると 28 而してラブシヤケ起あがりユダヤ語をもて大聲に呼はり言をいだして曰けるは汝等大王アッスリヤの王の言を聽け 29 王かく言たまふ汝等ヒゼキヤに欺かるるなかれ彼は汝等をわが手より救ひいだすことをえざるなり 30 ヒゼキヤがエホバかならず我らを救ひたまはん此邑はアッスリヤの王の手に陥らじとて汝らにエホバを頼ましめんとするとも 31 汝等ヒゼキヤの言を聽なかれアッスリヤの王かく言たまふ汝等約をなして我に降れ而して各人おのれの葡萄の樹の果を食ひ各人おのれの無花果樹の果をくらひ各人おのれの井水を飲めよ 32 我來りて汝等を一の國に携ゆかん其は汝儕の國のごとき國穀と酒のある地パンと葡萄園のある地油の出る橄欖と蜜とのある地なり汝等は生ることを得ん死ることあらじヒゼキヤ、エホバ我儕を救ひたま

はんと言て汝らを勧るともこれを聽なかれ 33 國々の神の中孰かその國をアッスリヤの王の手より救ひたりしや 34 ハマテおよびアルパデの神々は何處にあるセパルワイム、ヘナおよびアワの神々は何處にあるやサマリヤをわが手より救ひ出せし神々あるや 35 國々の神の中にその國をわが手より救ひいだせし者ありしや然ばエホバいかでかエルサレムをわが手より救ひいだすことを得んと 36 然ども民は黙して一言もこれに應へざりき其は王命じてこれに應ふるなかれと言おきたればなり 37 かくてヒルキヤの子なる宮内卿エリアキム書記官セブナおよびアサの子なる史官ヨアその衣をさきてヒゼキヤの許にいたりラブシヤケの言をこれに告たり

19 ヒゼキヤ王これを聞てその衣を裂き麻布を身にまとひてエホバの家に入り 2 宮内卿エリアキムと書記官セブナと祭司の中の長老等とに麻布を衣せてこれをアモツの子預言者イザヤに遣せり 3 彼等イザヤに言けるはヒゼキヤかく言ふ今日は艱難の日懲罰の日打棄らるる日なり嬰孩すでに産門にいたりて之を産いだす力なき也 4 ラブシヤケその主君なるアッスリヤの王に差遣れて來り活る神を謗る汝の神エホバあるひは彼の言を聞たまはん而して汝の神エホバその聞る言語を責罰たまふこともあらん然ば汝この遺る者の爲に祈祷をたてまつれと 5 ヒゼキヤ王の僕等すなはちイザヤの許にいたりければ 6 イザヤかれらに言けるは汝等の主君にかく言べしエホバかく言たまふアッスリヤの王の臣僕等が我を謗るところの言を汝聞て懼るるなかれ 7 我かれの氣をうつして風聲を聞て己の國にかへるにいたらしめん我また彼をし

て自己の國に於て劍に斃れしむべしと 8 儲またラブシヤケは歸りゆきてアッスリヤの王がリブナに戰爭をなしをるところに至れり其は彼そのラキシを離れしを聞たればなり 9 茲にアッスリヤの王はエテオピアの王テルハカ汝に攻きたると言ふを聞てまた使者をヒゼキヤにつかはして言しむ 10 汝等ユダの王ヒゼキヤに告て言べし汝エルサレムはアッスリヤの王の手に陥らじとて汝が頼むところの神に欺かるるなかれ 11 汝はアッスリヤの王等が萬の國々になしたるところの事を知る即ちこれを滅しつくせしなり然ば汝いかで救らんや 12 吾父等はゴザン、ハラン、レゼフおよびテラサルのエデンの人々等を滅ぼせしがその國々の神これを救ひたりしや 13 ハマテの王アルバデの王セバルワイムの邑およびヘナとアワの王等は何處にあるや 14 ヒゼキヤ使者の手より書を受てこれを讀みエホバの家へのぼりゆきてエホバの前にこれを展開げ 15 而してヒゼキヤ、エホバの前に祈りて言けるはケルビムの中にいますイスラエルの神エホバよ世の國々の中において只汝のみ神にいます也汝は天地を造りたまひし者にいます 16 エホバよ耳を傾けて聞たまへエホバよ目を開きて見たまへセナケリブが活る神を誇りにおくれる言語を聞たまへ 17 エホバよ誠にアッスリヤの王等は諸の民とその國々を滅し 18 又その神々を火になげいれたり其等は神にあらず人の手の作れる者にして木石たればこれを滅せしなり 19 今われらの神エホバよ願くは我らをかかれの手より拯ひいだしたまへ然ば世の國々皆汝エホバのみ神にいますことを知にいたらん 20 茲にアモツの子イザヤ、ヒゼキヤに言つかはしけるはイスラエルの神エ

ホバかく言たまふ汝がセナケリブの事につきて我に
祈るところの事は我これを聴り 21 エホバが彼の事につきて言ふところの言語は是のごとし云く處女なる女子シオンは汝を藐視じ汝を嘲る女子エルサレムは汝にむかひて頭を揺る 22 汝誰を謗りかつ罵詈しや汝誰にむかひて聲をあげしや汝はイスラエルの聖者にむかひて汝の目を高く擧たるなり 23 汝使者をもて主を謗て言ふ我夥多き兵車をひきゐて山々の嶺にのぼりレバノンの奥にいたり長高き香柏と美しき松樹を斫たふす我その境の休息所にいたりその園の林にいたる 24 我は外國の地をほりて水を飲む我は足の跣をもてエジプトの河々をことごとくふみ涸すなり 25 汝聞ずや昔われ之を作し古時よりわれ之を定めたり今われ之をおこなふ即ち堅き邑々は汝のために丘墟となるなり 26 是をもてそれらの中にすむ民は力弱かり懼れかつ驚くなり彼等は野の草のごとく青菜のごとく屋蓋の草のごとく枯る苗のごとし 27 汝の止ると汝の出ると汝の入と汝の我にむかひて怒くるふとは我の知ところなり 28 汝の怒くるふ事と汝の傲慢ところの事上りてわが耳にいりたれば我圈を汝の鼻につけ轡を汝の唇にほどこして汝を元來し道へひきかへすべし 29 是は汝にあたふる徴なり即ち一年は糧を食ひ第二年には又その糧を食ふあらん第三年には汝ら稼ことをし穡ことをし又葡萄園をつくりてその果を食ふべし 30 ユダの家の逃れて遣れる者は復根を下に張り實を上につくべし 31 即ち殘餘者エルサレムより出で逃避たる者シオン山より出きたらんエホバの熱心これを爲べし 32 故にエホバ、アッスリヤの王の事をかく言たまふ彼は此邑に入じ亦これに矢を發つことあ

らず楯を之にむかひて撃ることあらず亦壘をきづきてこれを攻ることあらし **33** 彼はその來し路より歸らん此邑にいることあらしエホバこれを言ふ **34** 我わが身のため又わが僕ダビデのためにこの邑を守りてこれを救ふべし **35** その夜エホバの使者いでてアッスリヤ人の陣營の者十八萬五千人を撃ころせり朝早く起いでて見るに皆死て屍となりをる **36** アッスリヤの王セナケリブすなはち起いで歸りゆきてニネベに居しが **37** その神ニスロクの家にありて禮拜をなしをる時にその子アデランメレクとシヤレゼル劍をもてこれを殺せり而して彼等はアララテの池に逃ゆけり是においてその子エサルハドンこれに代りて王となれり

20 當時ヒゼキヤ病て死なんとせしことありアモツの子預言者イザヤ彼の許にいたりて之にいひけるはエホバかく言たまふ汝家の人に遺命をなせ汝は死ん生ることを得じと **2** 是においてヒゼキヤその面を壁にむけてエホバに祈り **3** 嗚呼エホバよ願くは我が眞實と一心をもて汝の前にあゆみ汝の目に適ふことを行ひしを記憶たまへとて痛く泣り **4** かくてイザヤ未だ中の邑を出はなれざる間にエホバの言これに臨みて言ふ **5** 汝還りてわが民の君ヒゼキヤに告よ汝の父ダビデの神エホバかく言ふ我汝の祈禱を聽り汝の涙を看たり然ば汝を愈すべし第三日には汝エホバの家に入ん **6** 我汝の齡を十五年増べし我汝とこの邑とをアッスリヤの王の手より救ひ我名のため又わが僕ダビデのためにこの邑を守らんと **7** 是に於てイザヤ乾無花果の団塊一箇を持きたれと言ければすなはち之を持きたりてその腫物に貼たればヒゼキヤ愈ぬ **8** ヒゼキヤ、イザヤに言けるはエホバが我を愈したま

ふ事と第三日に我がエホバの家にのぼりゆく事とにつきては何の徴あるや 9 イザヤ言けるはエホバがその言しところを爲たまはん事につきては汝エホバよりこの徴を得ん日影進めること十度なり若日影十度退かば如何 10 ヒゼキヤ答へけるは日影の十度進むは易き事なり然せざれ日影を十度しりぞかしめよ 11 是において預言者イザヤ、エホバに顛はりければアハスの日晷の上に進みし日影を十度しりぞかしめたまへり 12 その頃バラダンの子なるバビロンの王メロダクバラダン書および禮物をヒゼキヤにおくれり是はヒゼキヤの疾をるを聞たればなり 13 ヒゼキヤこれがために喜びその寶物の庫金銀香物貴き膏および武器庫ならびにその府庫にあるところの一切の物を之に見せたりその家にある物もその國の中にある物も何一箇としてヒゼキヤが彼等に見せざる者はなかりき 14 茲に預言者イザヤ、ヒゼキヤ王のもとに來りてこれに言けるは夫の人々は何を言しや何處より來りしやヒゼキヤ言けるは彼等は遠き國より即ちバビロンより來れり 15 イザヤ言ふ彼等は汝の家にて何を見しやヒゼキヤ答へて云ふ吾家にある物は皆かれら之を見たり我庫の中には我がかれに見せざる者なきなり 16 イザヤすなはちヒゼキヤに言けるは汝エホバの言を聞け 17 エホバ言たまふ視よ日いたる凡て汝の家にある物および汝の先祖等が今日までに積蓄へたる物はバビロンに携ゆかれん遺る者なかるべし 18 汝の身より出る汝の生んところの子等の中を彼等携へ去ん其等はバビロンの王の殿において官吏となるべし 19 ヒゼキヤ、イザヤに言ふ汝が語れるエホバの言は善し又いふ若わが世にある間に大平と眞實とあらば善

にあらずや 20 ヒゼキヤのその餘の行爲その能およびその池塘と水道を作りて水を邑にひきし事はユダの王の歴代志の書にしるさるるにあらずや 21 ヒゼキヤその先祖等とともに寝りてその子マナセこれに代りて王となれり

21 マナセ十二歳にして王となり五十五年の間エルサレムにて世を治めたりその母の名はヘフジバといふ 2 マナセはエホバの目の前に悪をなしエホバがイスラエルの子孫の前より逐はらひたまひし國々の人がなすところの憎むべき事に倣へり 3 彼はその父ヒゼキヤが毀たる崇邱を改め築き又イスラエルの王アハブのなせしごとくバアルのために祭壇を築きアシラ像を作り天の衆群を拝みてこれに事へ 4 またエホバの家の中に數箇の祭壇を築けり是はエホバがこれをさして我わが名をエルサレムにおかんと言たまひし家なり 5 彼エホバの家の二の庭に祭壇を築き 6 またその子に火の中を通らしめト占をなし魔術をおこなひ口寄者とト筮師を取もちひエホバの目の前に衆多の悪を爲てその震怒を惹おこせり 7 彼はその作りしアシラの銅像を殿にたてたりエホバこの殿につきてダビデとその子ソロモンに言たまひしことあり云く我この家と我がイスラエルの諸の支派の中より選みたるエルサレムとに吾名を永久におかん 8 彼等もし我が凡てこれに命ぜし事わが僕モーセがこれに命ぜし一切の律法を謹みて行はば我これが足をしてわがその先祖等に與へし地より重てさまよひ出ることなからしむべしと 9 然るに彼等は聽ことをせざりきマナセが人々を誘ひて悪をなせしことはエホバがイスラエルの子孫の前に滅したまひし國々の人よりも

甚だしかりき 10 是においてエホバその僕なる預言者等をもて語て言給はく 11 ユダの王マナセこれらの憎むべき事を行ひその前にありシアモリ人の凡て爲しところにも踰たる惡をなし亦ユダをしてその偶像をもて罪を犯させたれば 12 イスラエルの神エホバかく言ふ視よ我エルサレムとユダに災害をくだす是を聞く者はその耳ふたつながら鳴ん 13 我サマリヤを量りし繩とアハブの家にもちひし準繩をエルサレムにほどこし人が皿を拭ひこれを拭ひて反覆がごとくにエルサレムを拭ひさらん 14 我わが産業の民の殘餘を棄てこれをその敵の手に付さん彼等はその諸の敵の擄掠にあひ掠奪にあふべし 15 是は彼等その先祖等がエジプトより出し日より今日にいたるまで吾目の前に惡をおこなひて我を怒らするが故なり 16 マナセはエホバの目の前に惡をおこなひてユダに罪を犯させる上にまた無辜者の血を多く流してエルサレムのこの極よりかの極にまで盈せり 17 マナセのその餘の行爲とその凡て爲たる事およびその犯したる罪はユダの王の歴代志の書にしるさるるにあらずや 18 マナセその先祖等とともに寝りてその家の園すなはちウザの園に葬られその子アモンこれに代りて王となれり 19 アモンは王となれる時二十二歳にしてエルサレムにおいて二年世を治めたりその母はヨテバのハルツの女にしてその名をメシユレメテと云ふ 20 アモンはその父マナセのなせしごとくエホバの目の前に惡をなせり 21 すなはち彼は凡てその父のあゆみし道にあゆみその父の事へし偶像に事へてこれを拝み 22 その先祖等の神エホバを棄てエホバの道にあゆまざりき 23 茲にアモンの臣僕等黨をむすびて王をその家に弑

したりしが 24 國の民そのアモン王に敵して黨をむす
びし者をことごとく撃ころせり而して國の民アモン
の子ヨシアを王となしてそれに代らしむ 25 アモンの
なしたるその餘の行爲はユダの王の歴代志の書にし
るさるるにあらざや 26 アモンはウザの園にてその墓
に葬られその子ヨシアこれに代りて王となれり

22 ヨシアは八歳にして王となりエルサレムにおい
て三十一年世を治めたり其母はボヅカテのアダヤの
女にして名をエデダと曰ふ 2 ヨシアはエホバの目に
適ふ事をなしその父ダビデの道にあゆみて右にも左
にも轉らざりき 3 ヨシア王の十八年に王メシユラム
の子アザリヤの子なる書記官シヤパンをエホバの家
に遣せり即ちこれに言けらく 4 汝祭司の長ヒルキヤ
の許にのぼり行てエホバの家にいりし銀すなはち門
守が民よりあつめし者を彼に計算しめ 5 工事を司ど
るエホバの家の監督者の手にこれを付さしめ而して
また彼らをしてエホバの家にありて工事をなすところ
の者にこれを付さしめ殿の破壊を修理はしめよ 6 即
ち工匠と建築者と石工にこれを付さしめ又これをも
て殿を修理ふ材木と斫石を買しむべし 7 但し彼らは
誠實に事をなせば彼らの手にわたすところの銀の計
算をかれらとするには及ばざるなり 8 時に祭司の長
ヒルキヤ書記官シヤパンに言けるは我エホバの家に
おいて律法の書を見いだせりとヒルキヤすなはちそ
の書をシヤパンにわたしたれば彼これを讀り 9 かく
て書記官シヤパン王の許にいたり王に返事まうして
言ふ僕等殿にありし金を打あけてこれを工事を司ど
るエホバの家の監督者の手に付せりと 10 書記官シヤ
パンまた王につけて祭司ヒルキヤ我に一書をわたせ

りと言ひシヤパン其を王の前に讀けるに **11** 王その律法の書の言を聞やその衣を裂り **12** 而して王祭司ヒルキヤとシヤパンの子アヒカムとミカヤの子アクボルと書記官シヤパンと王の内臣アサヤとに命じて言ふ **13** 汝等往てこの見當し書の言につきて我のため民のためユダ全國のためにエホバに問へ其は我儕の先祖等はこの書の言に聽したがひてその凡て我儕のために記されたるところを行ふことをせざりしに因てエホバの我儕にむかひて怒を發したまふこと甚だしかるべければなり **14** 是において祭司ヒルキヤ、アヒカム、アクボル、シヤパンおよびアサヤ等シャルムの妻なる女預言者ホルダの許にいたれりシャルムはハルハスの子なるテクワの子にして衣裳の室を守る者なり時にホルダはエルサレムの下邑に住をる彼等すなはちホルダに物語せしかば **15** ホルダかれらに言けるはイスラエルの神エホバかく言たまふ汝等を我につかはせる人に告よ **16** エホバかく言ふ我ユダの王が讀たるかの書の一切の言にしたがひて災害をこの處と此にすめる民に降さんとす **17** 彼等はわれを棄て他の神に香を焚きその手に作れる諸の物をもて我を怒らすなり是故に我この處にむかひて怒の火を發す是は滅ざるべし **18** 但し汝等をつかはして我に問しむるユダの王には汝等かく言べし汝が聞る言につきてイスラエルの神エホバかく言たまふ **19** 汝はわが此處と此にすめる民にむかひて是は荒地となり呪詛とならんとしを聞たる時に心柔にしてエホバの前に身を卑し衣を裂て吾前に泣たれば我もまた聽ことをなすなりエホバこれを言ふ **20** 然ば視よ我なんぢを汝の先祖等に歸せしめん汝は安全に墓に歸することをう

べし汝はわが此處にくだす諸の災害を目に見ること
あらしと彼等すなはち王に返事まうしぬ

23 是において王人をつかはしてユダとエルサレムの長老をことごとく集め **2** 而して王エホバの家にのぼれりユダの諸の人々エルサレムの一切の民および祭司預言者ならびに大小の民みな之にしたがふ王すなはちエホバの家に見あたりし契約の書の言をことごとくかれらの耳に讀きかせ **3** 而して王高座の上に立てエホバの前に契約をなしエホバにしたがひて歩み心をつくし精神をつくしてその誠命と律法と法度を守り此書にしるされたる此契約の言をおこなはんと語り民みなその契約に加はりぬ **4** かくして王祭司の長ヒルキヤとその下にたつところの祭司等および門守等に命じてエホバの家よりしてバアルとアシラと天の衆群との爲に作りたる諸の器と執いだしめエルサレムの外にてキデロンの野にこれを焼きその灰をベテルに持ゆかしめ **5** 又ユダの王等が立てダの邑々とエルサレムの四圍なる崇邱に香をたかしめたる祭司等を廢しまたバアルと日月星宿と天の衆群とに香を焚く者等をも廢せり **6** 彼またエホバの家よりアシラ像をとりいだしエルサレムの外に持ゆきてキデロン川にいたりキデロン川においてこれを焼きこれを打碎きて粉となしその粉を民の墓に散し **7** またエホバの家の旁にある男娼の家を毀てり其處はまた婦人がアシラのために天幕を織ところなりき **8** 彼またユダの邑々より祭司をことごとく召よせまた祭司が香をたきたる崇邱をばゲバよりベエルシバまでこれを汚しまた門にある崇邱を毀てり是等の崇邱は一は邑の宰ヨシユアの門の入口にあり一は邑の門にあ

りて之に入る人の左にあたる 9 崇邱の祭司等はエルサレムにおいてエホバの壇にのぼることをせざりき但し彼等はその兄弟の中にありて無酵パンを食へり 10 王また人がその子息息女に火の中を通らしめて之をモロクにささぐることなからんためにベンヒンノムの谷にあるトベテを汚し 11 またユダの王等が日のためにささげてエホバの家の門における馬をうつせりこの馬はパルリムにある侍従ナタンメレクの室にをりしなり彼また日の車を皆火に焚り 12 またユダの王等がアハズの桜の屋背につくりたる祭壇とマナセがエホバの家の兩の庭につくりたる祭壇とは王これを毀ちこれを其處より取くづしてその碎片をキデロン川になげ捨たり 13 またイスラエルの王ソロモンが昔シドン人の憎むべき者なるアシタロテとモアブ人の憎むべき者なるケモシとアンモンの子孫の憎むべき者なるモロクのためにエルサレムの前において殲滅山の右に築きたる崇邱も王これを汚し 14 また諸の像をうち碎きアシラ像をきりたふし人の骨をもてその處々に充せり 15 またベテルにある壇かのイスラエルに罪を犯させたるネバテの子ヤラベアムが造りし崇邱すなはちその壇もその崇邱も彼これを毀ちその崇邱を焚てこれを粉にうち碎きかつアシラ像を焚り 16 茲にヨシア身をめぐらして山に墓のあるを見人をやりてその墓より骨をとりきたらしめ之をその壇の上に焚てそれを汚せり即ち神の人が宣たるエホバの言のごとし昔神の人この言語を宣しことありしなり 17 ヨシアまた其處に見ゆる碑は何なるやと言しに邑の人々これに告て其は汝がベテルの壇にむかひて爲るこの事等をユダより來りて宣たる神の人の墓なり

と言ければ 18 すなはち其には手をつくるなかれ誰も
その骨を移すなかれと言ひ是をもてその骨とサマリ
ヤより來りし預言者の骨には手をつけざりき 19 また
イスラエルの王等がサマリヤの邑々に造りてエホバ
を怒せし崇邱の家も皆ヨシアこれを取のぞき凡てそ
のペテルになせしごとくに之に事をなせり 20 彼また
其處にある崇邱の祭司等を壇の上にくろし人の骨を
壇の上に焚てエルサレムに歸りぬ 21 而して王一切の
民に命じて言ふ汝らこの契約の書に記されたるごと
くに汝らの神エホバに逾越の節を執行ふべしと 22 士
師のイスラエルを治めし日より已來もまたユダの王
等とイスラエルの王等の代にも斯のごとき逾越の節
を守りしことはなかりしが 23 ヨシア王の十八年にい
たりてエルサレムにて斯逾越節をエホバに守りしな
り 24 ヨシアまた祭司ヒルキヤがエホバの家にて見
だせし書に記されたる律法の言を世におこなはんた
めに口寄者とト筮師とテラピムと偶像およびユダの
地とエルサレムに見ゆる諸の憎むべき者を取のぞけ
り 25 ヨシアの如くに心を盡し精神を盡し力を盡して
モーセの法に全くしたがひてエホバに歸向せし王はヨ
シアの先にはあらざりきまた彼の後にも彼のごとき
者はなし 26 斯有しかどもエホバはユダにむかひて怒
を發したるその大いなる燃たつ震怒を息ることをし
たまはざりき是はマナセ諸の憤らしき事をもてエホ
バを怒らせしによるなり 27 エホバすなはち言たまは
く我イスラエルを移せし如くにユダをもわが目の前
より拂ひ移し我が選みし此エルサレムの邑と吾名を
そこに置んといひしこの殿とを棄べしと 28 ヨシアの
その餘の行爲とその凡て爲たる事はユダの王の歴代

志の書にしるさるるにあらずや **29** ヨシアの代にエジプトの王パロネコ、アッスリヤの王と戦はんとてユフラテ河をさして上り來しがヨシア王これを防がんとて進みゆきければ彼これに出あひてメギドンにこれを殺せり **30** その僕等すなはちこれが死骸を車にのせてメギドンよりエルサレムに持ゆきこれをその墓に葬れり國の民ここに於てヨシアの子エホアハズを取りこれに膏をそそぎて王となしてその父にかはらしめたり **31** エホアハズは王となれる時二十三歳にしてエルサレムにて三月世を治めたりその母はリブナのエレミヤの女にして名をハムタルと云ふ **32** エホアハズはその先祖等が凡てなしたるごとくにエホバの目の前に惡をなせしが **33** パロネコ彼をハマテの地のリブラに繋ぎおきてエルサレムにおいて王となりをることを得ざらしめ且銀百タラント金一タラントの罰金を國に課したり **34** 而してパロネコはヨシアの子エリアキムをしてその父ヨシアにかはりて王とならしめ彼の名をエホヤキムと改めエホアハズを曳て去ぬエホアハズはエジプトにいたりて其處に死り **35** エホヤキムは金銀をパロにおくれり即ち彼國に課してパロの命のままに金を出さしめ國の民各人に割つけて金銀を征取りてこれをパロネコにおくれり **36** エホヤキムは二十五歳にして王となりエルサレムにおいて十一年世を治めたりその母はルマのペダヤの女にして名をゼブタと云ふ **37** エホヤキムはその先祖等が凡てなしたるごとくにエホバの目の前に惡をなせり

24 エホヤキムの代にバビロンの王ネブカデネザル上り來りければエホヤキムこれに臣服して三年をへたりしが遂にひるがへりて之に叛けり **2** エホバ、カ

ルデヤの軍兵スリアの軍兵モアブの軍兵アンモンの軍兵をしてエホヤキムの所に攻きたらしめたまへり即ちユダを滅さんのためにこれをユダに遣はしたまふエホバがその僕なる預言者等によりて言たまひし言語のごとし **3** この事は全くエホバの命によりてユダにのぞみし者にてユダをエホバの目の前より拂ひ除かんがためなりき是はマナセがその凡てなす所において罪を犯したるにより **4** また無辜人の血をながし無辜人の血をエルサレムに充したるによりてなりエホバはその罪を赦すことをなしたまはざりき **5** エホヤキムのその餘の行爲とその凡て爲たる事はユダの王の歴代志の書にしるさるるにあらずや **6** エホヤキムその先祖等とともに寝りその子エコニアこれに代りて王となれり **7** 却説またエジプトの王は重てその國より出きたらざりき其はバビロンの王エジプトの河よりユフラテ河まで凡てエジプトの王に屬する者を悉く取たればなり **8** エコニアは王となれる時十八歳にしてエルサレムにて三月世を治めたりその母はエルサレムのエルナタンの女にして名をネホシタと云ふ **9** エコニアはその父の凡てなしたるごとくにエホバの目の前に悪をなせり **10** その頃バビロンの王ネブカデネザルの臣エルサレムに攻のぼりて邑を圍めり **11** 即ちバビロンの王ネブカデネザル邑に攻來りてその臣にこれを攻惱さしめたれば **12** ユダの王エコニアその母その臣その牧伯等およびその侍從等とともに出てバビロンの王に降りバビロンの王すなはち彼を執ふはその代の八年にあたり **13** 而して彼エホバの家の諸の寶物および王の家の寶物を其處より携へ去りイスラルの王ソロモンがエホバの宮に造

りたる諸の金の器を切はがせりエホバの言たまひしごとし **14** 彼またエルサレムの一切の民および一切の牧伯等と一切の大なる能力ある者ならびに工匠と鍛冶とを一萬人擄へゆけり遣れる者は國の民の賤き者のみなりき **15** 彼すなはちエコニアをバビロンに擄へゆきまた王の母王の妻等および侍従と國の中の能力ある者をもエルサレムよりバビロンに擄へうつせり **16** 凡て能力ある者七千人工匠と鍛冶一千人ならびに強壯して善戦ふ者は是等をバビロンの王擄へてバビロンにうつせり **17** 而してバビロンの王またエコニアの父の兄弟マツタニヤを王となしてエコニアに代へ其が名をゼデキヤと改めたり **18** ゼデキヤは二十一歳にして王となりエルサレムにて十一年世を治めたりその母はリブナのエレミヤの女にして名をハムタルと曰ふ **19** ゼデキヤはエホヤキムが凡てなしたるごとくにエホバの目の前に悪をなせり **20** エルサレムとユダに斯る事ありしはエホバの震怒による者にしてエホバつひにその人々を自己の前よりはらひ棄たまへり 儲またゼデキヤはバビロンの王に叛けり

25 茲にゼデキヤの代の九年の十月十日にバビロンの王ネブカデネザルその諸軍勢を率てエルサレムに攻きたりこれにむかひて陣を張り周圍に雲梯を建てこれを攻たり **2** かくこの邑攻かこまれてゼデキヤ王の十一年にまでおよびしが **3** その四月九日にいたりて城邑の中饑ること甚だしくなりその地の民食物を得ざりき **4** 是をもて城邑つひに打破られければ兵卒はみな王の園の邊なる二箇の石垣の間の途より夜の中に逃いで皆平地の途にしたがひておちゆけり時にカルデア人は城邑を圍みをる **5** 茲にカルデア人の軍

勢王を追ゆきエリコの平地にてこれに追つきけるに
その軍勢みな彼を離れて散しかば 6 カルデア人王を
執へてこれをリブラにをるバビロンの王の許に曳ゆ
きてその罪をさだめ 7 ゼデキヤの子等をゼデキヤの
目の前に殺しゼデキヤの目を抉しこれを鋼索につな
ぎてバビロンにたづさへゆけり 8 バビロンの王ネブ
カデネザルの代の十九年の五月七日にバビロンの王
の臣侍衛の長ネブザラダン、エルサレムにきたり 9
エホバの室と王の室を焼き火をもてエルサレムのす
べての室と一切の大なる室を焼り 10 また侍衛の長と
ともにありしカルデア人の軍勢エルサレムの四周の
石垣を毀てり 11 侍衛の長ネブザラダンすなはち邑に
遺されし殘餘の民およびバビロンの王に降りし降人
と群衆の殘餘者を攜へうつせり 12 但し侍衛の長その
地の或貧者をのこして葡萄をつくる者となし農夫と
なせり 13 カルデア人またエホバの家の銅の柱と洗盤
の臺と銅の海をくだきてその銅をバビロンに運び 14
また鍋と火鏟と燈剪と匙および凡て役事に用ふる銅
の器を取り 15 侍衛の長また火盤と鉢など金銀にて作
れる物を取り 16 またソロモンがエホバの室に造しと
ころの二の柱と一の海と臺とを取り此もろもろの銅
の重は量るべからず 17 この柱は高さ十八キユビトに
してその上に銅の頂ありその頂の高は三キユビトそ
の頂の四周に網子と石榴とありて皆銅なり他の柱と
その網子もこれに同じ 18 侍衛の長は祭司の長セラヤ
と第二の祭司ゼパニヤと三人の門守を執へ 19 また兵
卒を督どる一人の寺人と王の前にはべる者の中邑に
て遇しところの者五人とその地の民を募る軍勢の長
なる書記官と城邑の中にて遇しところの六十人の者

を邑より擄へされり 20 侍衛の長ネブザラダンこれらを執へてリブラにをるバビロンの王の許にいたりければ 21 バビロンの王ハマテの地のリブラにてこれらを撃殺せりかくユダはおのれの地よりとらへ移されたり 22 かくてバビロンの王ネブカデネザルは自己が遺してユダの地に止らしめし民の上にシヤパンの子なるアヒカムの子ゲダリヤをたててこれをその督者となせり 23 茲に軍勢の長等およびこれに屬する人々みなバビロンの王がゲダリヤを督者となせしことを聞しかばすなはちネタニヤの子イシマエル、カレヤの子ヨナハン、ネトバ人タンホメテの子セラヤおよび或マアカ人の子ヤザニヤならびに彼らに屬する人々ミヅパにきたりてゲダリヤの許にいたれり 24 ゲダリヤすなはち彼等とかれらに屬する人々に誓ひてこれに言けるは汝等カルデア人の僕となることを恐るなかれこの地に住てバビロンの王につかへなば汝等幸福ならんと 25 然るに七月に王の血統なるエリシヤマの子ネタニヤの子なるイシマエル十人の者とともに来りてゲダリヤを撃ころし又彼とともにミヅパにをりしユダヤ人とカルデア人を殺せり 26 是において大小の民および軍勢の長等みな起てエジプトにおもむけり是はカルデア人をおそれたればなり 27 ユダの王エホヤキムがとらへ移れたる後三十七年の十二月二十七日バビロンの王エビルメロダクその代の一年にユダの王エホヤキムを獄より出してその首をあげしめ 28 善言をもて彼をなぐさめその位をバビロンにともに居るところの王等の位よりも高くし 29 その獄の衣服を易しめたりエホヤキムは一生のあひだつ

ねに王の前に食をなせり 30 かれ一生のあひだたえず
日々の分を王よりたまはりてその食物となせり

歴代誌 I

1 アダム、セツ、エノス **2** ケナン、マハラレル、ヤレド **3** エノク、メトセラ、ラメク **4** ノア、セム、ハム、ヤベテ **5** ヤベテの子等はゴメル、マゴグ、マデア、ヤワン、トバル、メセク、テラス **6** ゴメルの子等はアシケナズ、リパテ、トガルマ **7** ヤワンの子等はエリシヤ、タルシシ、キツテム、ドダニム **8** ハムの子等はクシ、ミツライム、プテ、カナン **9** クシの子等はセバ、ハビラ、サブタ、ラアマ、サブテカ、ラアマの子等はセバとデダン **10** クシ、ニムロデを生り彼はじめて世の権力ある者となれり **11** ミツライムはルデ族アナミ族レハビ族ナフト族 **12** パテロス族カスル族カフトリ族を生りカスル族よりペリシテ族出たり **13** カナンその冢子シドンおよびヘテを生み **14** またエブス族アモリ族ギルガシ族 **15** ヒビ族アルキ族セニ族 **16** アルワデ族ゼマリ族ハマテ族を生り **17** セムの子等はエラム、アシユル、アルバクサデ、ルデ、アラム、ウズ、ホル、ゲテル、メセク **18** アルバクサデ、シラを生みシラ、エベルを生り **19** エベルに二人の子生れたりその一人の名をベレグ(分)と曰ふ其は彼の代に地の人散り分れたればなりその弟の名をヨクタンと曰ふ **20** ヨクタンはアルモダデ、シヤレフ、ハザルマウテ、エラ **21** ハドラム、ウザル、デクラ **22** エバル、アピマエル、シバ **23** オフル、ハビラおよびヨハブを生り是等はみなヨクタンの子なり **24** セム、アルバクサデ、シラ **25** エベル、ベレグ、リウ **26** セルグ、ナホル、テラ **27** アブラム是すなはちアブラハムなり **28** アブラハムの子等はイサクおよびイシマエル **29** 彼らの子孫は左のごとしイシマエルの冢子は

ネバヨテ次はケダル、アデビエル、ミブサム **30** ミシマ、ドマ、マツサ、ハダデ、テマ **31** エトル、ネフシ、ケデマ、イシマエルの子孫は是の如し **32** アブラハムの妾ケトラの生る子は左のごとし彼ジムラン、ヨクシヤン、メダン、ミデアン、イシバク、シユワを生りヨクシヤンの子等はシバおよびデダン **33** ミデアンの子等はエバ、エペル、ヘノク、アビダ、エルダア是等はみなケトラの生る子なり **34** アブラハム、イサクを生りイザクの子等はエサウとイスラエル **35** エサウの子等はエリバズ、リウエル、エウシ、ヤラム、コラ **36** エリバズの子等はteman、オマル、ゼビ、ガタム、ケナズ、テムナ、アマレク **37** リウエルの子等はナハテ、ゼラ、シヤンマ、ミツザ **38** セイの子等はロタン、シヨバル、ヂベオン、アナ、デシヨン、エゼル、デシヤン **39** ロタンの子等はホリとホمام、ロタンの妹はテムナ **40** シヨバルの子等はアルヤン、マナハテ、エバル、シピ、オナム、ヂベオンの子等はアヤとアナ **41** アナの子等はデシヨン、デシヨンの子等はハムラム、エシバン、イテラン、ケラン、**42** エゼルの子等はビルハン、ザワン、ヤカン、デシヤンの子等はウズおよびアラン **43** イスラエルの子孫を治むる王いまだ有ざる前にエドムの地を治めたる王等は左のごとしベオルの子ベラその都城の名はデナバといふ **44** ベラ薨てボズラのゼラの子ヨバブこれに代りて王となり **45** ヨバブ薨てteman人の地のホシヤムこれにかはりて王となり **46** ホシヤム薨てベダデの子ハダデこれにかはりて王となれり彼モアブの野にてミデアン人を撃りその都城の名はアビテといふ **47** ハダデ薨てマスレカのサムラこれに代りて王となり

48 サムラ薨て河の旁なるレホボテのサウルこれに代りて王となり 49 サウル薨てアクボルの子バアルハナンこれに代りて王となり 50 バアルハナン薨てハダデこれにかはりて王となれりその都城の名はパイといふその妻はマテレデの女子にして名をメヘタベルといへりマテレデはメザハブの女なり 51 ハダデも薨たり／エドムの諸侯は左のごとし、テムナ侯アルヤ侯エテテ侯 52 アホリバマ侯エラ侯ピノン侯 53 ケナズ侯テマン侯ミブザル侯 54 マグデエル侯イラム侯エドムの諸侯は是のごとし

2 イスラエルの子等は左のごとしルベン、シメオン、レビ、ユダ、イツサカル、ゼブルン **2** ダン、ヨセフ、ベニヤミン、ナフタリ、ガド、アセル **3** ユダの子等はエル、オナン、シラなり この三人はカナンの女バテシユアがユダによりて生たるなり ユダの長子エルはエホバの前に悪き事をなしたれば之を殺したまへり **4** ユダの媳タマルはユダによりてペレヅとゼラとを生りユダの子等は都合五人なりき **5** ペレヅの子等はヘヅロンおよびハムル **6** ゼラの子等はジムリ、エタン、ヘマン、カルコル、ダラ都合五人 **7** カルミの子はアカル、アカルは詛はれし物につきて罪を犯してイスラエルを悩ませし者なり **8** エタンの子はアザリヤ **9** ヘヅロンに生れたる子等はエラメル、ラム、ケルバイ **10** ラム、アミナダブを生みアミナダブ、ナシヨンを生りナシヨンはユダの子孫の牧伯なり **11** ナシヨン、サルマを生みサルマ、ボアズを生み **12** ボアズ、オベデを生み、オベデ、エツサイを生り **13** エツサイの生る者は長子はエリアブ その次はアミナダブ その三はシヤンマ **14** その四はネタンエル その

五はラダイ 15 その六はオゼム その七はダビデ 16 かれらの姉妹はゼルヤとアビガル、ゼルヤの産る子はアビシヤイ、ヨアブ、アサヘルあはせて三人 17 アビガルはアマサを産り アサの父はイシマエル人エテルといふ者なり 18 ヘヅロンの子カレブはその妻アズバによりまたエリオテによりて子を擧げたりその産る子等は左のごとし エシル、シヨバブおよびアルドン 19 アズバ死たればカレブまたエフラタを娶れり エフラタ、カレブによりてホルを産り 20 ホル、ウリを生み ウリ、ベザレルを生り 21 その後ヘヅロンはギレアデの父マキルの女の所にいれりその之を娶れる時は六十歳なりき彼ヘヅロンによりてセグブを産り 22 セグブ、ヤイルを生りヤイルはギレアデの地に邑二十三を有り 23 然るにゲシユルおよびアラム彼等よりヤイルの邑々およびケナテとその郷里など都合六十の邑を取り是皆ギレアデの父マキルの子等なりき 24 ヘヅロン、カレブエフテタに死て後ヘヅロンの妻アビヤその子アシユルを生りアシユルはテコアの父なり 25 ヘヅロンの長子エラメルの子等は長子はラム次はブナ、オレン、オゼム、アヒヤ 26 エラメルはまた他の妻をもてりその名をアタラといふ彼はオナムの母なり 27 エラメルの長子ラムの子等はマアツ、ヤミン、エケル 28 オナムの子等はシヤンマイ、ヤダ、シヤンマイの子等はナダブおよびアピシユル 29 アピシユルの妻の名はアビハイルといふ彼アバンおよびモリデを生り 30 ナダブの子等はセレデおよびアツパイク、セレデは子なくして死り 31 アツパイクの子はイシ、イシの子はセシヤン、セシヤンの子はアヘライ 32 シヤンマイの兄弟ヤダの子はエテルおよびヨナ

タン、エテルは子なくして死り 33 ヨナタンの子等は
ペレテおよびザザ、エラメルの子孫は斯のごとし 34
セシヤンは男子なくして惟女子ありしのみなるがセ
シヤンにヤルハと名くるエジプトの僕ありければ 35
セシヤンその女をこの僕ヤルハに與へて妻となさし
めたり彼ヤルハによりてアツタイを生り 36 アツタイ
、ナタンを生みナタン、ザバデを生み 37 ザバデ、エ
フラルを生み エフラル、オベデを生み 38 オベデ、
エヒウを生み エヒウ、アザリヤを生み 39 アザリヤ
、ヘレヅを生み ヘレヅ、エレアサを生み 40 エレア
サ、シスマイを生み シスマイ、シャルムを生み 41
シャルム、エカミヤを生み エカミヤ、エリシヤマを
生り 42 エラメルの子等はその長子をメ
シヤといふ是はジフの父なり ジフの子はマレシヤ、
マレシヤはヘブロンの子なり 43 ヘブロンの子等はコ
ラ、タツプア、レケム、シマ 44 シマはラハムを生り
ラハムはヨルカムの父なり レケムはシヤンマイを生
り 45 シヤンマイの子はマオン、マオンはペテスルの
父なり 46 カレブの妾エバでハラシ、モザおよびガゼ
ズを生り ハラシはガゼズを生り 47 エダイの子等は
レゲム、ヨタム、ゲシヤン、ペレテ、エバ、シヤフ
48 カレブの妾マアカはシベルおよびテルハナを生み
49 またマデマンナの父シヤフおよびマクベナとギベ
アの父シワを生り カレブの女子はアクサといふ 50
カレブの子孫は左のごとしエフラタの長子ホルの子
はキリアテヤリムの父シヨバル 51 ペテレヘムの父サ
ルマおよびベテカデルの父ハレフ 52 キリアテヤリム
の父シヨバルの子等はハロエにメヌコテ人の半 53 ま
たキリアテヤリムの宗族はイテリ族プヒ族シユマ族

ミシラ族 是等よりザレア族およびエシタオル族出たり 54 サルマの子孫はペテレヘム、ネトバ族アタロテベテヨアブ、マナハテ族の半およびゾリ族 55 ならびにヤベヅに住る諸士の宗族すなはちテラテ族シメアテ族スカテ族是等はケニ人にしてレカブの家の先祖ハマテより出たる者なり

3 ヘブロンにて生れたるダビデの子等は左のごとし長子はアムノンといひてエズレル人アヒノアムより生れ其次はダニエルといひてカルメル人アビガルより生る **2** その三はアブサロムといひてゲシユルの王タルマイの女マアカの生る子其四はアドニヤといひてハギテの生る子なり **3** その五はシバテヤといひてアビタルより生れ其六はイテレアムといひて妻エグラより生る **4** この六人ヘブロンにてかれに生れたりダビデ彼處にて王たりし事七年と六箇月またエルサレムにて王たりし事三十三年 **5** エルサレムにて生れたるその子等は左のごとしシメア、シヨバブ、ナタン、ソロモンこの四人はアンミエルの女バテシユアより生る **6** またイブハル、エリシヤマ、エリベレテ **7** ノガ、ネペグ、ヤピア **8** エリシヤマ、エリアダ、エリベレテの九人 **9** 是みなダビデの子なり此外にまた妾等の生る子等あり彼らの姉妹にタマルといふ者あり **10** ソロモンの子はレハベアムその子はアビヤその子はアサその子はヨシヤパテ **11** その子はヨラムその子はアハジアその子はヨアシ **12** その子はアマジャその子はアザリヤモの子はヨタム **13** その子はアハズその子はヒゼキヤその子はマナセ **14** その子はアモンその子はヨシア **15** ヨシアの子等は長子はヨハナンその次はエホヤキムその三はゼデキヤその四はシャルム

16 エホヤキムの子等はその子はエコニアその子はゼ
デキヤ 17 俘擄人エコニアの子等はその子シャルテル
18 マルキラム、ペダヤ、セナザル、エカミア、ホシ
ヤマ、ネダビヤ 19 ペダヤの子等はゼルバベルおよび
シメイ、ゼルバベルの子等はメシユラムおよびハナ
ニヤその姉妹にシロミテといふ者あり 20 またハシユ
バ、オヘル、ベレキヤ、ハサデヤ、ユサブヘセデの
五人あり 21 ハナニヤの子等はペラテヤおよびエサヤ
またレバヤの子等アルナンの子等オバデヤの子等シ
カニヤの子等あり 22 シカニヤの子はシマヤ、シマヤ
の子等はハットシ、イガル、バリア、ネアリア、シ
ヤパテの六人 23 ネアリアの子等はエリヨエナイ、ヒ
ゼキヤ、アズリカムの三人 24 エリヨエナイの子等は
ホダヤ、エリアシブ、ペラヤ、アツクブ、ヨハナン
、デラヤ、アナニの七人

4 ユダの子等はペレヅ、ヘヅロン、カルミ、ホル、
シヨバル 2 シヨバルの子レアヤ、ヤハテを生みヤハ
テ、アホマイおよびラハデを生り是等はザレア人の
宗族なり 3 エタムの父の生る者は左のごとしエズレ
ル、イシマおよびイデバシその姉妹の名はハゼレル
ポニといふ 4 ゲドルの父ペヌエル、ホシヤの父エゼ
ル是等はベテレヘムの父エフラタの長子ホルの子等
なり 5 テコアの父アシユルは二人の妻を有り即ちへ
ラとナアラ 6 ナアラ、アシユルによりてアホザム、
ヘベル、テメニおよびアハシタリを産り是等はナア
ラの産る子なり 7 へラの産る子はゼレテ、エヅアル
、エテナン 8 ハツコヅはアヌブおよびゾベバを産り
ハルムの子アハルヘルの宗族も彼より出づ 9 ヤベヅ
はその兄弟の中にて最も尊ばれたる者なりきその母

我くるしみてこれを産たればといひてその名をヤベツ(くるしみ)と名けたり **10** ヤベツ、イスラエルの神に籲はり我を祝福に祝福て我境を擴め御手をもて我を助け我をして災難に罹りてくるしむこと無らしめたまへと語り神その求むる所を允したまふ **11** シユワの兄弟ケルブはメヒルを生りメヒルはエシトンの父なり **12** エシトンはベテラバ、パセアおよびイルハナシの父テヒンナを生り是等はレカの人なり **13** ケナズの子等はオテニエルおよびセラヤ、オテニエルの子はハタテ **14** メオノタイはオフラを生みセラヤはヨアブを生りヨアブはカラシム(工匠)谷の人々の父なり彼處のものは工匠なればかくいふ **15** エフンネの子カレブの子等はイル、エラおよびナアム、エラの子等およびケナズ **16** エハレレルの子等はジフ、ジバ、テリア、アサレル **17** エズラの子等はエテル、メレデ、エペル、ヤロン、メレデの妻はミリアム、シヤンマイおよびイシバを産り イシバはエシテモアの父なり **18** そのユダヤ人なる妻はゲドルの父エレデとシヨコの父ヘベルとザノアの父エクテエルを産り是等はメレデが娶りたるパロの女ピテヤの生る子なり **19** ナハムの姉妹なるホデヤの妻の生める子等はガルミ人ケイラの父およびマアカ人エシテモアなり **20** シモンの子等はアムノン、リンナ、ベネハナン、テロン、イシの子等はゾヘテおよびベネゾヘテ **21** ユダの子シラの子等はレカの父エル、マレシヤの父ラダおよび織布者の家の宗族すなはちアシベアの家の人等 **22** ならびにモアブに主たりしヨキム、コゼバの人々ヨアシおよびサラフ等なり またヤシユブ、レハムといふ者ありその記録は古し **23** 是等の者は陶工にしてネタイ

ムおよびゲデラに住み王の地に居りてその用をなせり 24 シメオンの子等はネムエル、ヤミン、ヤリブ、ゼラ、シャウル 25 シャウルの子はシャルム その子はミブサムその子はミシマ 26 ミシマの子はハムエルその子はザツクル その子はシメイ 27 シメイには男子十六人女子六人ありしがその兄弟等には多の子あらざりきまたその宗族の者は凡てユダの子孫ほどには殖増ざりき 28 彼らの住る處はペエルシバ、モラダ、ハザルシユアル 29 ビルハ、エゼム、トラデ 30 ベトエル、ホルマ、チクラグ 31 ペテマルカボテ、ハザルスシム、ベテピリ、シャライム是等の邑はダビデの世にたるまで彼等の有たりき 32 その村郷はエタム、アイン、リンモン、トケン、アシヤンの五の邑なり 33 またこの邑々の周圍に衆多の村ありてバアルにまでおよべり彼らの住處は是のごとくにして彼ら各々系譜あり 34 メシヨバブ、ヤムレク、アマジヤの子ヨシヤ 35 ヨエル、アシエルの曾孫セラヤの孫ヨシピアの子エヒウ 36 エリオエナイ、ヤコバ、エシヨハヤ、アサヤ、アデエル、エシミエル、ベナヤ 37 およびシピの子ジザ、シピはアロンの子 アロンはエダヤの子 エダヤはシムリの子シムリはシマヤの子なり 38 此に名を擧げたる者等はその宗族の中の長たる者にしてその宗家は大に蔓延り 39 彼等はその群のために牧場を求めんとてゲドルの西におもむき谷の東の方にいたり 40 つひに膏腴なる善き牧場を見いだせしがその地は廣く靜穩にして安寧なりき其は昔より其處に住たりし者はハム人なればなり 41 即ち上にその名を記したる者等ユダの王ヒゼキヤの代に往て彼らの幕屋を撃やぶり彼らと其處に居しメウニ人を盡く滅

ぼし之に代りて其處に住て今日にいたる是はその群
を牧べき牧場其處にありたればなり 42 またシメオン
の子孫の者五百人許イシの子等ペラテア、ネアリア
、レバヤ、ウジエルを長としてセイル山に攻ゆき 43
アマレキ人の逃れて遺れる者を撃ほろぼして今日ま
で其處に住り

5 イスラエルの長子ルベンの子等は左のごとしルベ
ンは長子なりしがその父の床を瀆ししによりてその
長子の權はイスラエルの子ヨセフの子等に與へらる
然れども系譜は長子の權にしたがひて記すべきに非
ず 2 そはユダその諸兄弟に勝る者となりて君たる者
その中より出ればなり但し長子の權はヨセフに屬す
3 即ちイスラエルの長子ルベンの子等はハノク、パル
、ヘヅロン、カルミ 4 ヨエルの子はシマヤ その子は
ゴグ その子はシメイ 5 その子はミカ その子はレアヤ
その子はバアル 6 その子はベエラ このベエラはアッ
スリヤの王テルガテピルネセルに擄へられてゆけり
彼はルベン人の中に牧伯たる者なりき 7 彼の兄弟等
はその宗族に依りその歴代の系譜によれば左のごと
し長エイエルおよびゼカリヤ 8 ベラ等なりベラはア
ザズの子シマの孫ヨエルの曾孫なりかれアロエルに
住みて地をネボ、バアルメオンにまでおよぼししが
9 ギレアデの地にてその家畜殖増ければまた地を東の
方ユフラテ河の此方なる荒野の極端にまでおよぼせ
り 10 またサウルの時にハガリ人と戦争してこれを打
破りギレアデの東の全部なる彼らの幕屋に住たり 11
ガドの子孫はこれと相對ひてパシヤンの地にすみて
地をサルカにまで及ぼせり 12 長はヨエル次はシャパ
ム、ヤアナイ、シャパテ共にパシヤンに居り 13 彼ら

の兄弟等はその宗家によればミカエル、メシユラム、シバ、ヨライ、ヤカン、ジア、ヘベル都合七人 **14** 是等はホリの子アビハイルの子等なり ホリはヤロアの子ヤロアはギレアデの子ギレアデはミカエルの子ミカエはエシサイの子エシサイはヤドの子ヤドはブズの子 **15** アヒはアブデルの子アブデルはグニの子グニは其宗家の長たり **16** 彼らはギレアデとバシヤンと其郷里とシャロンの諸郊地に住て地を其四方の境に及ぼせり **17** 是等はみなユダの王ヨタムの世とイスラエルの王ヤラベアムの世に系譜に載たるなり **18** ルペンの子孫とガド人とマナセの半支派には出て戦ふべき者四萬四千七百六十人あり皆勇士にして能く楯と矛とを執り善く弓を彎きかつ善戦ふ者なり **19** 彼等ハガリ人およびエトル、ネフシ、ノダブ等と戦争しけるが **20** 助力をかうむりて攻撃たればハガリ人および之と偕なりし者等みな彼らの手におちいれり是は彼ら陣中にて神を呼びこれを頼みしによりて神これを聴いたまひしが故なり **21** かくて彼らその家畜を奪ひとりしに駱駝五萬 羊二十五萬 驢馬二千あり人十萬ありき **22** またころされて倒れたる者衆しその戦争神に由るがゆゑなり而して彼らはこれが地に代りて住その擄移さるる時におよべり **23** マナセの半支派の人々はこの地に住み殖蔓りてつひにバシヤンよりバアルヘルモン、セニルおよびヘルモン山まで地をおよぼせり **24** その宗家の長は左のごとし即ちエペル、イシ、エリエル、アズリエル、エレミヤ、ホダヤ、ヤデエル是みなその宗家の長にして名ある大勇士なりき **25** 彼等その先祖等の神にむかひて罪を犯し曾て彼等の前に神の滅ぼしたまひし國の民等の神を慕ひて

これと姦淫したれば 26 イスラエルの神アッスリヤの王ブルの心を振興しまたアッスリヤの王テグラテビレセルの心を振興したまへり彼つひにルベン人とガド人とマナセの半支派とを擄へゆきこれをハウラとハボルとハラとゴザンの河の邊とに移せり彼等は今日まで其處にあり

6 レビの子等はゲルシヨン、コハテ、メラリ **2** コハテの子等はアムラム、イツハル、ヘブロン、ウジエル **3** アムラムの子等はアロン、モーセ、ミリアム、アロンの子等はナダブ、アビウ、エレアザル、イタマル **4** エレアザル、ピネハスを生子ピネハス、アビシユアを生み **5** アビシユア、ブツキを生みブツキ、ウジを生み **6** ウジ、ゼラヒヤを生みゼラヒヤ、メラヨテを生み **7** メラヨテ、アマリヤを生みアマリヤ、アヒトブを生み **8** アヒトブ、ザドクを生みザドク、アヒマアズを生み **9** アヒマアズ、アザリヤを生みアザリヤ、ヨハナンを生み **10** ヨハナン、アザリヤを生り此アザリヤはエルサレムなるソロモンの建たる宮にて祭司の職をなせし者なり **11** アザリヤ、アマリヤを生みアマリヤ、アヒトブを生み **12** アヒトブ、ザドクを生みザドク、シャルムを生み **13** シャルム、ヒルキヤを生みヒルキヤ、アザリヤを生み **14** アザリヤ、セラヤを生みセラヤ、ヨザダクを生む **15** ヨザダグはエホバ、ネブカデネザルの手をもてユダおよびエルサレムの人を擄へうつしたまひし時に擄へられて往り **16** レビの子等はゲルシヨン、コハテおよびメラリ **17** ゲルシヨンの子等の名は左のごとしリブニおよびシメイ **18** コハテの子等はアムラム、イツハル、ヘブロン、ウジエル **19** メラリの子等はマヘリおよび

ムシ、レビ人の宗族はその宗家によれば是のごとし
20 ゲシヨンの子はリブニ その子はヤハテ その子はジ
ンマ 21 その子はヨア その子はイド その子はゼラ そ
の子はヤテライ 22 コハテの子はアミナダブ その子
はコラ その子はアシル 23 その子はエルカナ その子
はエビアサフ その子はアシル 24 その子はタハテ そ
の子はウリエル その子はウジャ その子はシャウル
25 エルカナの子等はアマサイおよびアヒモテ 26 エル
カナについてはエルカナの子はゾバイ その子はナハ
テ 27 その子はエリアブ その子はエロハム その子は
エルカナ 28 サムエルの子等は長子はヨエル 次はア
ビヤ 29 メラリの子はマヘリ その子はリブニ その子
はシメイ その子はウザ 30 その子はシメア その子は
ハギヤ その子はアサヤなり 31 契約の櫃を安置せし
後ダビデ左の人々を立てエホバの家にて謳歌事を司
どらせたり 32 彼等は集會の幕屋の住所の前にて謳歌
事をおこなひ來りしがソロモン、エルサレムにエホ
バの室を建るにおよびその次序に循ひてその職をつ
とめたり 33 立て奉事をなせるものおよびその子等は
左のごとしコハテの子等の中ヘマンは謳歌師長たり
ヘマンはヨルの子 ヨエルはサムエルの子 34 サムエ
ルはエルカナの子 エルカナはエロハムの子 エロハム
はエリエルの子 エリエルはトアの子 35 トアはヅフ
の子 ヅフはエルカナの子 エルカナはマハテの子 マ
ハテはアマサイの子 36 アマサイはエルカナの子 エ
ルカナはヨエルの子 ヨエルはアザリヤの子 アザリヤ
はゼパニヤの子 37 ゼパニヤはタハテの子 タハテは
アシルの子 アシルはエビアサフの子 エビアサフはコ
ラの子 38 コラはイツハルの子 イツハルはコハテの

子コハテはレビの子レビはイスラエルの子なり 39
ヘマンの兄弟アサフ、ヘマンの右に立り アサフはペ
レキヤの子ペレキヤはシメアの子 40 シメアはミカ
エルの子ミカエルはバアセヤの子バアセヤはマルキ
ヤの子 41 マルキヤはエテニの子エテニはゼラの子
ゼラはアダヤの子 42 アダヤはエタンの子エタンは
ジンマの子ジンマはシメイの子 43 シメイはヤハテ
の子ヤハテはゲルシヨンの子ゲルシヨンはレビの子
なり 44 また彼らの兄弟なるメラリ人等その左に立り
其中のエタンはキシの子なり キシはアブデの子アブ
デはマルクの子 45 マルクはハシヤビヤの子ハシヤ
ビヤはアマジヤの子アマジヤはヒルキヤの子 46 ヒ
ルキヤはアムジの子アムジはバニの子バニはセメル
の子 47 セメルはマヘリの子マヘリはムシの子ムシ
はメラリの子メラリはレビの子なり 48 彼らの兄弟
なるレビ人等は神の室の幕屋の諸の職に任ぜられたり
49 アロンおよびその子等は燔祭の壇と香壇の上に
物を献ぐることを司どりまた至聖所の諸の工をなし
且イスラエルのために贖をなすことを司どれり凡て
神の僕モーセの命じたるごとし 50 アロンの子孫は左
のごとしアロンの子はエレアザルその子はピネハス
その子はアビシユア 51 その子はブツキその子はウ
ジその子はゼラヒヤ 52 その子はメラヨテその子は
アマリヤその子はアヒトブ 53 その子はザドクその
子はアヒマアズ 54 アロンの子孫の住處は四方の境の
内にありその間里に循ひていはば左の如し先コハテ
人の宗族が籤によりて得たところは是なり 55 すな
はちユダの地の中よりはヘブロンとその周圍の郊地
を得たり 56 但しその邑の田野と村々はエフンネの子

カレブに歸せり 57 すなはちアロンの子孫の得たる邑は逃遁邑なるヘブロン、リブナとその郊地 ヤツテルおよびエシテモアとそれらの郊地 58 ホロンとその郊地 デビルとその郊地 59 アシヤンとその郊地 ベテシメシとその郊地なり 60 またベニヤミンの支派の中よりはゲバとその郊地 アレメテとその郊地 アナトテとその郊地を得たり 彼らの邑はその宗族の中に都合十三ありき 61 またコハテの子孫の支派の中此他なる者はかの半支派の中即ちマナセの半支派の中より籤によりて十の邑を得たり 62 またゲルシヨンの子孫の宗族はイツサカルの支派アセルの支派ナフタリの支派及びバシヤンなるマナセの支派の中より十三の邑を得たり 63 またメラリの子孫の宗族はルベンの支派ガドの支派およびゼブルンの支派の中より籤によりて十二の邑を得たり 64 イスラエルの子孫は邑とその郊地とをレビ人に與へたり 65 即ちユダの子孫の支派とシメオンの子孫の支派とベニヤミンの子孫の支派の中よりして此に名を擧たる是等の邑を籤によりて之に與へたり 66 コハテの子孫の宗族はまたエフライムの支派の中よりも邑を得てその領地となせり 67 即ちその得たる逃遁邑はエフライム山のシケムとその郊地およびゲゼルとその郊地 68 ヨクメアムとその郊地 ベテホロンとその郊地 69 アヤロンとその郊地 ガテリンモンとその郊地なり 70 またマナセの半支派の中よりはアネルとその郊地 ビレアムとその郊地是みなコハテの子孫の遺れる宗族に歸せり 71 ゲルシヨンの子孫に歸せし者はマナセの半支派の宗族の中よりはバシヤンのゴランとその郊地 アシタロテとその郊地 72 イツサカルの支派の中よりはゲデシとその郊地ダ

ベラテとその郊地 73 ラモテとその郊地 アネムとその郊地 74 アセル支派の中よりはミシアルとその郊地 アブドンとその郊地 75 ホコクとその郊地レホブとその郊地 76 ナフタリの支派の中よりはガリラヤのゲデシとその郊地 ハンモンとその郊地 キリアタイムとその郊地 77 比外の者すなはちメラリの子孫に歸せし者はゼブルンの支派の中よりはリンモンとその郊地 タボルとその郊地 78 エリコに對するヨルダンの彼旁すなはちヨルダンの東においてルベンの支派の中よりは曠野のベゼルとその郊地 ヤザとその郊地 79 ケデモテとその郊地 メバアテとその郊地 80 ガドの支派の中よりはギレアデのラモテとその郊地 マハナウムとその郊地 81 ヘシボンとその郊地 ヤゼルとその郊地

7 イッサカルの子等はトラ、プワ、ヤシユブ、シムロムの四人 **2** トラの子等はウジ、レバヤ、エリエル、ヤマイ、エブサム、サムエル是みなトラの子にして宗家の長なり其子孫の大勇士たる者はダビデの世にはその數二萬二千六百人なりき **3** ウジの子はイズラヒヤ、イズラヒヤの子等はミカエル、オバデヤ、ヨエル、イツシャの五人是みな長たる者なりき **4** その宗家によればその子孫の中に軍旅の士卒三萬六千人ありき是は彼等妻子を衆く有たればなり **5** イッサカルの諸の宗族の中なるその兄弟等すなはち名簿に記載たる大勇士は都合八萬七千人 **6** ベニヤミンの子等はベラ、ベケル、エデアエルの三人 **7** ベラの子等はエツボン、ウジ、ウジエル、エレモテ、イリの五人皆その宗家の長なりその名簿に記載たる大勇士は二萬二千三十四人 **8** ベケルの子等はセミラ、ヨアシ、エリエゼル、エリオエナイ、オムリ、エレモテ、

アビヤ、アナトテ、アラメテ是みなベケルの子等にして宗家の長なり 9 その子孫の中名簿に記載たる大勇士は二萬二百人なりき 10 またエデアエルの子はビルハン、ビルハンの子等はエウシ、ベニヤミン、エホデ、ケナアナ、ゼタン、タルシシ、アビシヤハル 11 是みなエデアエルの子にして宗家の長たりきその子孫の中に能く陣にのぞみて戦ふ大勇士一萬七千二百人ありき 12 またイリの子等はシユバムおよびホパム、またアヘラの子はホシム 13 ナフタリの子等はヤジエル、グニ、エゼル、シヤルム是みなビルハの産る子なり 14 マナセの子等はその妻の産る者はアシリエルその妾なるスリアの女の産る者はギレアデの父マキル 15 マキルはホパムとシユバムの妹名はマアカとい者を妻に娶れりその次の者はゼロペハデといふゼロペハデには女子ありしのみ 16 マキルの妻マアカ男子を産てその名をペレシとよべりその弟の名はシヤレシ、シヤレシの子等はウラムおよびラケム 17 ウラムの子はペダン是等はマナセの子マキルの子なるギレアデの子等なり 18 その妹ハンモレケテはイシホデ、アビエゼル、マヘラを産り 19 セミダの子等はアヒアン、シケム、リキ、アニヤム 20 エフライムの子はシユテラ その子はペレデ その子はタハテ その子はエラダ その子はタハテ 21 その子はザバデ その子はシユテラ エゼルとエレアデはガテの土人等これを殺せり其は彼ら下りゆきてこれが家畜を奪はんとしたればなり 22 その父エフライムこれがために哀むこと日久しかりければその兄弟等きたりてこれを慰さめたり 23 かくて後エフライムその妻の所にいりけるに胎みて男子を生たればその名をベリア(災難)ごと

なづけたりその家に災難ありたればなり **24** エフライムの子セラは上下のベテホロンおよびウゼンセラを建たり **25** ベリアの子はレバおよびレセフ その子はテラ その子はタハン **26** その子はラダン その子はアミホデ その子はエリシヤマ **27** その子はヌン その子はヨシユア **28** エフライムの子孫の産業と住處はベテルとその郷里 また東の方にてはナアラン 西の方にてはゲゼルとその郷里 またシケムとその郷里 およびアワとその郷里 **29** またマナセの子孫の國境に沿てはベテシヤンとその郷里 タアナクとその郷里 メギドンとその郷里 ドルとその郷里なり イスラエルの子ヨセフの子孫は是等の處に住り **30** アセルの子等はイムナ、イシワ、エスイ、ベリアおよびその姉妹セラ **31** ベリアの子等はヘベルおよびマルキエル、マルキエルはビルザヒテの父なり **32** ヘベルはヤフレテ、シヨメル、ホタムおよびその姉妹シユワを生り **33** ヤフレテの子等はバサク、ビムハル、アシワテ、ヤフレテの子等は是のごとし **34** シヨメルの子等はアヒ、ロガ、ホバおよびアラム **35** シヨメルの兄弟ヘレムの子等はゾバ、イムナ、シレン、アマル **36** ゾバの子等はスア、ハルネペル、シユアル、ベリ、イムラ **37** ベゼル、ホド、シヤンマ、シルシヤ、イテラン、ペエラ **38** エテルの子等はエフンネ、ピスパおよびアラ **39** ウラの子等はアラ、ハニエルおよびリヂア **40** 是みなアセルの子孫にして宗家の長たり挺出たる大勇士たり將官の長たりきその名簿に記載たる能く陣にのぞみて戦ふ者二萬六千人あり

8 ベニヤミンの生る者は長子はベラ その次はアシベル その三はアハラ **2** その四はアハ その五はラパ **3** ベ

ラの子等はアダル、ゲラ、アビウデ 4 アビシユア、
ナアマン、アホア 5 ゲラ、シフパム、ヒラム 6 エホ
デの子等は左のごとし是等はゲバの民の宗家の長な
り是はマナハテに移されたり 7 すなはちナアマンお
よびアヒヤとともにゲラこれに移せるなりエホデの
子等はすなはちウザとアヒウデ是なり 8 シヤハラ
イムはその妻ホシムとバアラを去し後モアブの國にお
いてまた子等を擧げたり 9 彼がその妻ホデシにより
て擧げたる子等はヨバブ、ヂビア、メシヤ、マルカ
ム 10 エウツ、シヤキヤおよびミルマ是の子等にし
て宗家の長なり 11 彼またホシムによりてアビトブと
エルパアルを擧げたり 12 エルパアルの子等はエベル
、ミシヤムおよびシヤメル彼はオノとロドとその郷
里を建たる者なり 13 またベリア、シマあり是等はア
ヤロンの民の宗家の長たる者にしてガテの民を逐は
らへり 14 またアヒオ、シヤシヤク、エレモテ 15 ゼ
バデヤ、アラデ、アデル 16 ミカエル、イシパ、ヨハ
是等はベリアの子等なり 17 ゼバデヤ、メシユラム、
ヘゼキ、ヘベル 18 イシメライ、エズリア、ヨバブ是
等はエルパアルの子等なり 19 ヤキン、ジクリ、ザベ
デ 20 エリエナイ、チルタイ、エリエル 21 アダヤ、
ペラヤ、シムラテ是等はシマの子等なり 22 イシパン
、ヘベル、エリエル 23 アブドン、ジクリ、ハナン 24
ハナニヤ、エラム、アントテヤ 25 イペデヤ、ペヌエ
ル是等はシヤシヤタの子等なり 26 シヤムセライ、シ
ハリア、アタリヤ 27 ヤレシヤ、エリヤ、ジクリ是等
はエロハムの子等なり 28 是等は歴代の宗家の長にし
て首たるものなり是らはエルサレムに住たり 29 ギベ
オンの祖はギベオンに住りその妻の名はマアカとい

ふ 30 その長子はアブドン、次はツル、キシ、バアル、ナダブ 31 ゲドル、アヒオ、ザケル 32 ミクロテはシメアを生り是等も又その兄弟等とともにエルサレムに住てこれに對ひ居り 33 ネル、キシを生み キシ、サウルを生みサウルはヨナタン、マルキシユア、アピナダブ、エシバアルを生り 34 ヨナタンの子はメリバアル、メリバアル、ミカを生り 35 ミカの子等はピトン、メレク、ダレア、アハズ 36 アハズはエホアダを生み エホアダはアレメテ、アズマウテおよびジムリを生み ジムリはモザを生み 37 モザはビネアを生り その子はラパその子はニレアサ その子はアゼル 38 アゼルには六人の子あり其名は左のごとシアズリカム、ボケル、イシマエル、シヤリヤ、オバデヤ、ハナン是みなアゼルの子なり 39 その兄弟エセクの子等の長子はウラムその次はエウンその三はエリペレテ 40 ウラムの子等は大勇士にして善く弓を射る者なりき彼は孫子多くして百五十人もありき是みなベニヤミンの子孫なり

9 イスラエルの人は皆名簿に記載られたり視よ是は皆イスラエルの列王紀に録さるユダはその罪のためにバビロンに擄へられてゆけり 2 その産業の邑々に最初に住ひし者にイスラエル人 祭司等レビ人およびネテニ人等なり 3 またエルサレムにはユダの子孫ベニヤミンの子孫およびエフライムとマナセの子孫等住り 4 即ちユダの子ペレヅの子孫の中にてはアミホデの子ウタイ、アミホデはオムリの子 オムリはイムリの子イムリはバニの子なり 5 シロ族の中にてはシロの長子アサヤおよびその他の子等 6 ゼラの子孫の中にてはユエルおよびその兄弟六百九十人 7 ベニヤ

ミンの子孫の中にてけハセヌアの子ハダヤの子なるメシユラムの子サル 8 エロハムの子イブニヤ、ミクリの子なるウジの子エラおよびイブニヤの子リウエルの子なるシパテヤの子メシユラム 9 並に彼らの兄弟等その世系によれば合せて九百五十六人はみなその宗家の長たる人々なり 10 また祭司の中にてはエダヤ、ヨアリブ、ヤキン 11 およびヒルキヤの子アザリヤ、ヒルキヤはメシユラムの子 メシユラムはザドクの子 ザドクはメラヨテの子 メラヨテはアヒトブの子なり アザリヤは神の室の宰たり 12 またエロハムの子アダヤ、エロハムはバシユルの子 バシユルはマルキヤの子なり またアデエルの子マアセヤ、アデエルはヤゼラの子 ヤゼラはメシユラムの子 メシユラムはメシレモテの子 メシレモテはインメルの子なり 13 また彼らの兄弟等是等は宗家の長たる者にして合せて一千七百六十人あり皆神の室の奉事をなすの力あるものなり 14 レビ人の中にてはハシユブの子シマヤ、ハシユブはアズリカムの子 アズリカムはハシヤビヤの子 是はメラリの子孫なり 15 またバクバツカル、ヘレシ、ガラルおよびアサフの子ジクリの子なるミカの子マツタニヤ 16 ならびにエドトンの子ガラルの子なるシマヤの子オバデヤおよびエルカナの子なるアサの子ベレキヤ、エルカナはネットバ人の郷里に住たる者なり 17 門を守る者はシャルム、アツクブ、タルモン、アヒマンおよびその兄弟等にしてシャルムその長たり 18 彼は今日まで東の方なる王の門を守りをる是等はレビの子孫の營の門を守る者なり 19 コラの子エビアサフの子なるコレの子シャルムおよびその父の家の兄弟等などのコラ人は幕屋の門々を守

る職務を主どれりその先祖等はエホバの營の傍にありてその入口を守れり 20 エレアザルの子ピネハス昔彼らの主宰たりきエホバ彼とともに在せり 21 メシレミヤの子ゼカリヤは集會の幕屋の門を守る者なりき 22 是みな選ばれて門を守る者にて合せて二百十二人ありき皆その村々の名簿に記載たる者なりしがダビデと先見者サムエルこれをその職に任じたり 23 彼等とその子孫は順番にエホバの室すなはち幕屋の門を司どれり 24 門を守る者は西東北南の四方に居り 25 またその村々に居る兄弟等は七日ごとに送り來りて彼らを助けたり 26 門を守る者の長たるこの四人のレビ人はその職にをりて神の室の諸の室と府庫とを司どれり 27 彼らは番守をなす身なるに因て神の室の四周に舍れり而して朝ごとにこれを開くことをせり 28 その中に奉事の器皿を司どる者あり是はその數を按べて携へいりそり數を按べて携へいだすべき者なり 29 またその他の器皿すなはち聖所の一切の器皿および麥粉酒油乳香香料を司どる者あり 30 また祭司の徒の中に香料をもて香膏を製る者あり 31 コラ人シャルムの長子なるマツタテヤといふレビ人は鍋にて製るところの物を司どれり 32 またコハテ人の子孫たるその兄弟等の中に供前のパンを司どりて安息日ごとにこれを調ふる者等あり 33 レビ人の宗家の長たる是等の者は謳歌師にして殿の諸の室に居て他の職を爲ざりき其は日夜その職務にかかりをればなり 34 是等はレビ人の歴代の宗家の長にして首長たる者なり是等はエルサレムに住り 35 ギベオンの祖エヒエルはギベオンに住りその妻の名はマアカといふ 36 その長子はアブドン次はツル、キシ、バアル、ネル、ナダブ

37 ゲドル、アヒオ、ゼカリヤ、ミクロテ 38 ミクロテ、シメアムを生り彼等もその兄弟等とともにエルサレムに住てその兄弟等と相對ひ居り 39 ネルはキシを生み キシはサウルを生み サウルはヨナタン、マルキシユア、アピナダブおよびエシバアタを生り 40 ヨナタンの子はメリバアル、メリバアル、ミカを生り 41 ミカの子等はピトン、メレク、タレアおよびアハズ 42 アハズはヤラを生み ヤラはアレメテ、アズマウテおよびジムリを生み ジムリはモザを生み 43 モザはピネアを生り ピネアの子はレバヤ その子はエレアサ その子はアゼル 44 アゼルは六人の子ありきその名は左のごとしアズリカム、ボケル、イシマエル、シヤリヤ、オバデヤ、ハナン是等はアゼルの子なり

10 茲にペリシテ人イスラエルと戦ひけるがイスラエルの人々はペリシテ人の前より逃げギルボア山に殺されて倒れたり 2 ペリシテ人はサウルとその子等を追撃しかしてペリシテ人サウルの子ヨナタン、アピナダブおよびマルキシユアを殺せり 3 斯その戦闘烈しうしてサウルにおし迫り射手の者等つひにサウルに追つきければサウルは射手の者等のために惱めり 4 サウル是におひてその武器を執る者に言けるは汝の劍をぬき其をもて我を刺せ恐らくはこの割禮なき者等きたりて我を辱しめんと然るにその武器を執る者痛くおそれて肯はざりければサウルすなはちその劍をとりてその上に伏たり 5 武器を執る者サウルの死たるを見て己もまた劍の上に伏て死り 6 斯サウルとその三人の子等およびその家族みな共に死り 7 谷に居るイスラエルの人々みな彼らの逃るを見またサウルとその子等の死るを見てその邑々を棄て逃げ

ればペリシテ人來りてその中に住り 8 明る日ペリシテ人殺されたる者を剥んとて來りサウルとその子等のギルボア山にたふれをるを見 9 すなはちサウルを剥てその首とその鎧甲を取りペリシテの國の四方に人を遣はしてこの事をその偶像と民に告しめ 10 しかしてかれが鎧甲をその神の室に蔵め彼が首をダゴンの宮に釘けたり 11 茲にペリシテ人がサウルになしたる事ことごとくヤベシギレアデ中に聞えければ 12 勇士等みな起りサウルの體とその子等の體とを奪ひ取てこれをヤベシに持きたりヤベシの橡樹の下にその骨を葬りて七日のあひだ斷食せり 13 斯サウルはエホバにむかひて犯せし罪のために死たり即ち彼はエホバの言を守らずまた憑鬼者に問ことを爲して 14 エホバに問ことをせざりしなり是をもてエホバかれを殺しその國を移してエツサイの子ダビデに與へたまへり

11 茲にイスラエルの民みなヘブロンに集まりてダビデの許に詣り言けるは我らは汝の骨肉なり 2 前にサウルが王たりし時にも汝はイスラエルを率ゐて出入する者なりき又なんぢの神エホバ汝にむかひて汝はわが民イスラエルを牧養ふ者となり我民イスラエルの君とならんと言たまへりと 3 斯イスラエルの長老みなヘブロンにきたりて王の許にいたりければダビデ、ヘブロンにてエホバの前に彼らと契約をたてたり彼らすなはちダビデに膏をそそぎてイスラエルの王となしサムエルによりて傳はりしエホバの言のごとくせり 4 かくてダビデはイスラエルの民を率ゐてエルサレムに往りエルサレムは即ちエブスなりその國の土人エブス人其處に居り 5 是においてエブ

スの民ダビデに言けるは汝は此に入べからずと然るにダビデはシオンの城を取り是すなはちダビデの邑なり 6 この時ダビデいひけるは誰にもあれ第一にエブス人を撃やぶる者を首となし將となさんと斯てゼルヤの子ヨアブ先登して首となれり 7 ダビデその城に住たればこれをダビデの邑と稱へたり 8 ダビデまたその邑の四方すなはちミロ(城塞)より内の四方に建築をなせり邑の中のその餘の處はヨアブこれを修理へり 9 斯てダビデはますます大になりゆけり萬軍のエホバこれとともに在したればなり 10 ダビデが有る勇士の重なる者は左のごとし是等はイスラエルの一切の人とともにダビデに力をそへて國を得させ終にこれを王となしてエホバがイスラエルにつきて宣ひし言を果せり 11 ダビデの有る勇士の數は是のごとし第一は三十人の長たるハクモニ人の子ヤシヨベアム彼は槍を揮ひて一時に三百人を衝殺せし事あり 12 彼の次はアホア人ドドの子エレアザルにして三勇士の中なり 13 彼ダビデとともにパスダミムに在けるにペリシテ人其處に集りきて戦へり其處に大麥の満たる地一箇所あり時に民ペリシテ人の前より逃たりしが 14 彼その地所の中に踐とどまり之を護りてペリシテ人を殺せり而してエホバ大なる拯救をほどこして之を救ひたまへり 15 三十人の長なる三人の者アドラムの洞穴に下り磐の處に往てダビデに詣りし事あり時にペリシテ人の軍兵はレパイムの谷に陣どれり 16 その時ダビデは砦に居りペリシテ人の鎮臺兵はベテレヘムにありけるが 17 ダビデ慕ひ望みて言けるは誰かベテレヘムの門にある井の水を持來りて我に飲せよかし 18 この三人すなはちペリシテ人の軍兵の中を

衝とほりてベテレヘムの門にある井の水を汲取てダビデの許に携へきたれり然どダビデこれを飲ことをせず之をエホバの前に灌ぎて **19** 言けるは我神よ我決してこれを爲じ我いかで命をかけし此三人の血を飲べけんやと彼らその命をかけて之を携へきたりたればなり故にダビデこれを飲ことを爲ざりき此三勇士は是らの事を爲り **20** ヨアブの兄弟アビシヤイは三人の長たり彼は槍を揮ひて三百人を衝ころし三人の中に名を得たり **21** 彼は第二の三人の中にて尤も貴くしてその首にせらる然ど第一の三人には及ばざりき **22** エホヤダの子カブジエルのベナヤは勇氣あり衆多の功績ありし者なり彼はモアブのアリエルの二人の子を撃殺せりまた雪の日に下りゆきて穴の中にて獅子一匹を撃殺せし事ありき **23** 彼はまた長身五キュビト程なるエジプト人を殺せりそのエジプト人は機織の膝のごとき槍を手に執をりしに彼は杖をとりて之が許に下りゆきエジプト人の手よりその槍を掬とりてその槍をもて之を殺せり **24** エホヤダの子ベナヤ是等の事を爲し三勇士の中に名を得たり **25** 彼は三十人の中にて尊かりしかども第一の三人には及ばざりきダビデかれを親兵の長となせり **26** 軍兵の中の勇士はヨアブの兄弟アサヘル、ベテレヘムのドドの子エルハナン **27** ハロデ人シヤンマ、ペロニ人ヘレヅ **28** テコア人イツケシの子イラ、アナトテ人アピエゼル **29** ホシヤ人シベカイ、アホア人イライ **30** ネットパ人マハライ、ネットパ人バナアの子ヘレデ **31** ベニヤミンの子孫のギベアより出たるリバイの子イツタイ、ピラトン人ベナヤ **32** ガアシの谷のホライ、アルバテ人アビエル **33** バハルム人アズマウテ、シャルボニ人エリヤバ **34**

ギゾニ人ハセム、ハラリ人シヤゲの子ヨナタン 35 ハ
ラリ人サカルの子アヒアム、ウルの子エリパル 36 メ
ケラ人ヘベル、ペロニ人アヒヤ 37 カルメル人ヘヅラ
イ、エズバイの子ナアライ 38 ナタンの兄弟ヨエル、
ハグリの子ミブハル 39 アンモニ人ゼレク、ゼルヤの
子ヨアブの武器を執る者なるベエロテ人ナハライ 40
エテリ人イラ、エテリ人ガレブ 41 ヘテ人ウリヤ、ア
ヘライの子ザバデ 42 ルベン人シザの子アデナ是はル
ベン人の軍長の一人にして従者三十人を率ゐたり 43
マアカの子ハナン、ミテニ人ヨシヤバテ 44 アシテラ
人ウジャ、アロエル人ホタンの子等シヤマとエイエ
ル 45 デジ人シムリの子エデアエルおよびその兄弟ヨ
ハ、 46 マハウ人エリエル、エルナアムの子等エリバ
イおよびヨシヤワヤ、モアブ人イテマ 47 エリエル、
オベデ、ソメバ人ヤシエル

12 ダビデがキシの子サウルの故によりて尚チクラ
グに閉こもり居ける時に彼處にゆきてダビデに就し
者は左のごとしその人々は勇士の中にしてダビデを
助けて戦ひたる者 2 能く弓を彎き右左の手を用ゐて
善く石を投げ弓矢を發つ者なりしが俱にベニヤミン
人にしてサウルの宗族たり 3 首はアヒエゼル次はヨ
アシ是らはギベア人シマアの子等なり又エジエルお
よびペレテ是らはアズマウラの子等なり又ベラカお
よびアナトテ人エヒウ 4 またギベオン人イシマヤ彼
は三十人の中の勇士にして三十人の首なり又エレミ
ヤ、ヤハジエル、ヨハナン、ゲデラ人ヨザバデ 5 エ
ルザイ、エリモテ、ベアリヤ、シマリヤ、ハリフ人
シバテヤ 6 エルカナ、エシヤ、アザリエル、ヨエゼ
ル、ヤシヨベアム是等はコラ人なり 7 またゲドルの

エロハムの子等たるヨエラおよひゼバデヤ 8 ガド人の中より曠野の砦に脱きたりてダビデに歸せし者あり是みな大勇士にして善戦かふ軍人能く楯と戈とをつかふ者にてその面は獅子の面のごとくその捷きことは山にをる鹿のごとくなりき 9 その首はエゼルその二はオバデヤその三はエリアブ 10 その四はミシマンその五はエレミヤ 11 その六はアツタイその六はエリエル 12 その八はヨハナンその九はエルザバデ 13 その十はエレミヤその十一はマクバナイ 14 是等はガドの人々にして軍旅の長たりそ最も小き者は百人に當りその最も大なる者は千人に當れり 15 正月ヨルダンその全岸に溢れたる時に是らの者濟りゆきて谷々に居る者をことごとく東西に打奔せたり 16 茲にベニヤミンとユダの子孫の中の人々砦に來りてダビデに就きけるに 17 ダビデこれを出むかへ應へて之に言けるは汝ら厚志をもて我を助けんとて來れるならば我心なんぢらと相結ばん然ど汝らもし我手に惡きこと有ざるに我を欺きて敵に付さんとせば我らの先祖の神ねがはくは之を監みて責たまへと 18 時に聖靈三十人の長アマサイに臨みて彼すなはち言けるはダビデよ我らは汝に屬すエツサイの子よ我らは汝を助けん願くは平安あれ汝にも平安あれ汝を助くる者にも平安あれ汝の神汝を助けたまふなりと是においてダビデ彼らを接いれて軍旅の長となせり 19 前にダビデ、ペリシテ人とともにサウルと戦はんとて攻きたれる時マナセ人數人ダビデに屬り但しダビデ等は遂にペリシテ人を助けざりき其はペリシテ人の君等あひ謀り彼は我らの首級をもてその主君サウルに歸らんとて彼を去しめたればなり 20 斯てダビデ、チクラ

グに往る時マナセ人アデナ、ヨザバデ、エデアエル、ミカエル、ヨザバデ、エリウ、ヂルタイこれに歸せり皆マナセ人の千人の長たる者なりき 21 彼等ダビデを助けて敵軍に當れり彼らは皆大勇士にして軍旅の長となれり 22 當時ダビデに歸して之を助くる者日々に加はりて終に大軍となり神の軍旅のごとくなれり 23 戦争のために身をよろひへブロンに來りてダビデに就きエホバの言のごとくサウルの國をダビデに歸せしめんとしたる武士の數は左のごとし 24 ユダの子孫にして楯と戈とを執り戦争のために身をよろへる者は六千八百人 25 シメオンの子孫にして善戦かふ大勇士は七千一百人 26 レビの子孫たる者は四千六百人 27 エホヤダ、アロン人を率ゐたり之に屬する者は三千七百人 28 またザドクといふ年若き勇士ありきその宗家の長たる者二十二人ありたり 29 サウルの宗族ベニヤミンの子孫たる者は三千人是ベニヤミン人は多くサウルの家に尚も忠義を盡しむればなり 30 エフライムの子孫たる者は二萬八百人皆大勇士にしてその宗家の名ある人々たり 31 マナセの半支派の者は一萬八千人皆名を録されたる者なるが來りてダビデを王にたてんとす 32 イツサカルの子孫たる者の中より善く時勢に通じイスラエルの爲べきことを知る者きたれりその首二百人ありその兄弟等は皆これが指揮にしたがへり 33 ゼブルンの者は五萬人皆よく身をよろひ各種の武器をもて善く戦闘をなし一心に行伍を守る者なりき 34 ナフタリの者は將たる者千人楯と戈とを執てこれに従ふ者三萬七千人 35 ダン人は二萬八千六百人にして皆そなへを守る者なりき 36 アセルの者は四萬人にして皆よく陣にのぞみ且行伍を守る

者なりき 37 またヨルダンの彼旁なるルベン人とガド人とマナセの半支派の者は十二萬人みな各種の武器を執て戦争にいつるに勝る者なりき 38 是等の行伍を守る軍人等眞實の心を懷きてヘブロンに來りダビデをもてイスラエル全國の王となさんとせり其餘のイスラエル人もまた心を一にしてダビデを王となさんとせり 39 彼ら彼處に三日をりてダビデとともに食ひかつ飲り其はその兄弟等これがために備をなしたればなり 40 また近處の者よりイツサカル、ゼブルンおよびナフタリの者に至るまでパンと麥粉の食物と乾無花果と乾葡萄と酒と油等を驢馬駱駝牛馬に載きたりかつ牛羊を多く携へいたれり是イスラエルみな喜びたればなり

13 茲にダビデ千人の長百人の長などの諸將とあひ議り 2 而してダビデ、イスラエルの全會衆に言けるは汝らもし之を善とし我らの神エホバこれを允したまはば我ら徧く人を遣してイスラエルの各地に留まれる我らの兄弟ならびにその諸郊地の邑々にをる祭司とレビ人とに至らせ之をして我らの所に集まらしめん 3 而して我らまた我らの神の契約の櫃を我らの所に移さんサウルの世には我ら之に就て詢ことをせざりしなりと 4 會衆みな然すべしと言り其は民みな此事を善と觀たればなり 5 是においてダビデはキリアテヤリムより神の契約の櫃を昇きたらんとてエジプトのジホルよりハマテの入口までのイスラエル人をことごとく召あつめ 6 而してダビデ、イスラエルの一切の人とともにバアラといふユダのキリアテヤリムに上り行きケルビムの上に坐したまふエホバ神の名をもて稱らるる契約の櫃を其處より昇のぼらん

とし 7 乃ち神の契約の櫃を新しき車に載てアビナダブの家より牽いだしウザとアヒオその車を御せり 8 ダビデおよびイスラエル人はみな歌と琴と瑟と鼗鼓と鏡鉞と喇叭などを以て力をきはめ歌をうたひて神の前に踊れり 9 かくてキドンの禾場に至れる時ウザ手を神の契約の櫃に伸してこれを扶へたり其は牛これを振たればなり 10 ウザその手を伸て契約の櫃につけたるによりてエホバこれに向ひて忿怒を發してこれを撃たまびければ其處にて神の前に死り 11 エホバ、ウザを撃たまひしに因てダビデ怒れり其處は今日までペレヅウザ(ウザ撃)と稱へらる 12 その日ダビデ神を畏れて言り我なんぞ神の契約の櫃を我所に昇ゆくべけんやと 13 ダビデその契約の櫃を己のところダビデの城邑にうつさず之を轉らしてガテ人オベデエドム之家に昇いらしめたり 14 神の契約の櫃オベデエドム之家にありて其家族とともにおかかるること三月なりきエホバ、オベデエドム之家とその一切の所有を祝福たまへり

14 茲にツロの王ヒラム使者をダビデに遣はし之がために家を建させんとて香柏および木匠と石工をおくれり 2 ダビデはエホバの固く己をたててイスラエルの王となしたまへるを曉れり其はその民イスラエルの故によりてその國振ひ興りたればなり 3 ダビデ、エルサレムにおいてまた妻妾を納たり而してダビデまた男子女子を得たり 4 そのエルサレムにて得たる子等の名は左のごとしシヤンマ、シヨバブ、ナタン、ソロモン 5 イブハル、エリシユア、エルバレテ 6 ノガ、ネベグ、ヤピア 7 エリシヤマ、ベエリアダ、エリバレテ 8 茲にダビデの膏そそがれてイスラエル

全國の王となれる事ペリシテ人に聞えければペリシテ人みなダビデを獲んとて上れりダビデは聞て之に當らんとて出たりしが 9 ペリシテ人すでに來りてレバイムの谷を侵したりき 10 時にダビデ神に問て言けるは我ペリシテ人にむかひて攻上るべきや汝彼らを吾手に付し給ふやエホバ、ダビデに言たまひけるは攻上れ我かれらを汝の手に付さんと 11 是において皆バアルペラジムに上りゆきけるがダビデつひに彼處にて彼らを打敗り而してダビデ言り神水の破壊り出るとくに我手をもてわが敵を敗りたまへりと是をもてその處の名をバアルペラジム(破壊の處)と呼ぶなり 12 彼ら其處にその神々を遣ゆきたればダビデ命じて火をもてこれを焚せたり 13 斯て後ペリシテ人復谷を侵しければ 14 ダビデまた神に問に神これに言たまひけるは彼らを追て上るべからず彼らを離れて回りベカの樹の方よりこれを襲へ 15 汝ベカの樹の上に進行の音あるを聞ば即ち進んで戦ふべし神汝のまへに進みいでペリシテ人の軍勢を撃たまふべければなりと 16 ダビデすなはち神の己に命じたまひし如くしてペリシテ人の軍勢を撃やぶりつつギベオンよりガゼルにまでいたれり 17 是においてダビデの名諸の國々に聞えわたりエホバ諸の國人に彼を懼れしめたまへり

15 ダビデはダビデの邑の中に自己のために家を建て又神の契約の櫃のために處を備へてこれがために幕屋を張り 2 而してダビデ言けるは神の契約の櫃を昇べき者は只レビ人のみ其はエホバ神の契約の櫃を昇しめまた己に永く事しめんとてレビ人を擇びたまひたればなりと 3 ダビデすなはちエホバの契約の櫃

をその之がために備へたる處に昇のぼらんとてイスラエルをことごとくエルサレムに召集めたり 4 ダビデまたアロンの子孫とレビ人を集めたり 5 即ちコハテの子孫の中よりはウリエルを長としてその兄弟百二十人 6 メラリの子孫の中よりはアサヤを長としてその兄弟二百二十人 7 ゲルシヨンの子孫の中よりはヨエルを長としてその兄弟百三十人 8 エリザバンの子孫の中よりはシマヤを長としてその兄弟二百人 9 ヘブロンの子孫の中よりはエリエルを長としてその兄弟八十人 10 ウジエルの子孫の中よりはアミナダブを長としてその兄弟百十二人 11 ダビデ祭司ザドクとアビヤタルおよびレビ人ウリエル、アサヤ、ヨエル、シマヤ、エリエル、アミナダブを召し 12 これに言けるは汝らはレビ人の宗家の長たり汝らと汝らの兄弟共に身を潔めイスラエルの神エホバの契約の櫃を我が其の爲に備へたる處に昇のぼれよ 13 前には之をかきしもの汝らにあらざりしに縁て我らの神エホバわれらを撃たまへり是は我らそのさだめにしたがひて之に求めざりしが故なりと 14 是において祭司等とレビ人等イスラエルの神エホバの契約の櫃を昇のぼらんと身を潔め 15 レビの子孫たる人々すなはちモーセがエホバの言にしたがひて命じたるごとく神の契約の櫃をその貫ける枉によりて肩に負り 16 ダビデまたレビ人の長等に告げその兄弟等を選びて謳歌者となし瑟と琴と鑢鈸などの樂器をもちて打はやして歡喜の聲を擧しめよと言たれば 17 レビ人すなはちヨエルの子ヘマンとその兄弟ベレキヤの子アサフおよびメラリの子孫たる彼らの兄弟クシャヤの子エタンを選べり 18 また之に次るその兄弟等これと偕にあり即

ちゼカリヤ、ベン、ヤジエル、セミラモテ、エイエル、ウンニ、エリアブ、ペナヤ、マアセヤ、マツタテヤ、エリペレホ、ミクネヤおよび門を守る者なるオベデエドムとエイエル **19** 謳歌者ヘマン、アサフおよびエタンは銅の鑊鋏をもて打はやす者となり **20** ゼカリヤ、アジエル、セミラモテ、エイエル、ウンニ、エリアブ、マアセヤ、ペナヤは瑟をもて細き音を出し **21** マツタテヤ、エリペレテ、ミクネヤ、オベデエドム、エイエル、アザジヤは琴をもて太き音を出して拍子をとれり **22** ケナニヤはレビ人の長にして負舁事に通じをるによりて負舁事を指揮せり **23** またベレキヤとエルカナは契約の櫃の門を守り **24** 祭司シバナヤ、ヨシヤパテ、ネタネル、アマサイ、ゼカリヤ、ペナヤ、エリエゼル等は神の契約の櫃の前に進みて喇叭を吹きオベデエドムとエヒアは契約の櫃の門を守れり **25** 斯ダビデとイスラエルの長老および千人の長等は往てオベデエドムの家よりエホバの契約の櫃を歡び勇みて舁のぼれり **26** 神エホバの契約の櫃を舁ところのレビ人を助けたまひければ牡牛七匹牡羊七匹を獻げたり **27** ダビデは細布の衣をまとへり又契約の櫃を舁ところの一切のレビ人と謳歌者および負舁事を主どれるケナニヤも然りダビデはまた白布のエポデを着居たり **28** 斯てイスラエルみな聲を擧げ角を吹ならし喇叭と鑊鋏と瑟と琴とをもて打はやしてエホバの契約の櫃を舁のぼれり **29** エホバの契約の櫃ダビデの邑にいりし時サウルの女ミカル窓より窺ひてダビデ王の舞躍るを見その心にこれを藐視めり

16 人々神の契約の櫃を舁いりて之をダビデがその爲に張たる幕屋の中に置ゑ而して燔祭と酬恩祭を神

の前に献げたり 2 ダビデ燔祭と酬恩祭を献ぐることを終しかばエホバの名をもて民を祝し 3 イスラエルの衆庶に男にも女にも都てパン一箇肉一片乾葡萄一塊を分ち與へたり 4 ダビデまたレビ人を立てエホバの契約の櫃の前にて職事をなさしめ又イスラエルの神エホバを崇め讃めかつ頌へしめたり 5 伶長はアサフその次はゼカリヤ、エイエル、セミラモテ、エヒエル、マツタテヤ、エリアブ、ペナヤ、オペデエドム、エイエルこれは瑟と琴とを弾じアサフは鑢鈸を打鳴し 6 また祭司ペナヤとヤハジエルは喇叭をとりて恒に神の契約の櫃の前に侍れり 7 當日ダビデ始めてアサフとその兄弟等を立てエホバを頌へしめたり其言に云く 8 エホバに感謝しその名をよびその作たまへることをもろもろの民輩の中にしらしめよ 9 エホバにむかひてうたへエホバを讃うたへそのもろもろの奇しき跡をかたれ 10 そのきよき名をほこれエホバをたづぬるものの心はよろこぶべし 11 エホバとその能力とをたづねよ恒にその聖顔をたづねよ 12 その僕イスラエルの裔よヤコダの子輩よそのえらびたまひし所のものよそのなしたまへる奇しき跡とその異事とその口のさばきとを心にとむれ 13 その僕イスラエルの裔よヤコダの子輩よそのえらびたまひし所のものよそのなしたまへる奇しき跡とその異事とその口のさばきとを心にとむれ 14 彼はわれらの神エホバなりそのおほくの審判は全地にあり 15 なんぢらたえずその契約をこころに記よ此はよろづ代に命じたまひし聖言なり 16 アブラハムとむすびたまひし契約イサクに與へたまひし誓なり 17 之をかたくしヤコブのために律法となしイスラエルのためにとこしへの契

約となして 18 言たまひけるは我なんぢにカナンの地
をたまひてなんぢらの嗣業の分となさん 19 この時な
んぢらの數おほからず甚すくなくしてかしこにて旅
人となり 20 この國よりかの國にゆきこの國よりほか
の民にゆけり 21 人のかれらを虐ぐるをゆるしたまは
ずかれらの故によりて王たちを懲しめて 22 宣給くわ
が受膏者たちにふるるなかれわが預言者たちをそこ
なふなかれ 23 全地よエホバにむかひて謳へ日ごとに
その拯救をのべつたへよ 24 もろもろの國のなかにそ
の榮光をあらはしもろもろの民のなかにその奇しき
みわざを顯すべし 25 そはエホバはおほいなり大にほ
めたたふべきものなりまたもろもろの神にまさりて
畏るべきものなり 26 もろもろの民のすべての神はこ
とごとく虚しされどエホはもろもろの天をつくりた
まへり 27 尊貴と稜威とはその前にあり能とよろこび
とはその聖所にあり 28 もろもろのたみの諸族よ榮光
とちからとをエホバにあたへよエホバにあたへよ 29
その聖名にかなふ榮光をもてエホバにあたへ獻物を
たづさへて其前にきたれきよき美はしき物をもてエ
ホバを拝め 30 全地よその前にをののけ世界もかたく
たちて動かさるることなし 31 天はよろこび地はたの
しむべしもろもろの國のなかにいへエホバは統治た
まふ 32 海とそのなかに盈るものとはなりどよみ田畑
とその中のすべての物とはよろこぶべし 33 かくて林
のもろもろの樹もまたエホバの前によろこびうたは
んエホバ地をさばかんとて來りたまふ 34 エホバに感
謝せよそのめぐみはふかくその憐憫はかぎりなし 35
汝ら言へ我らの拯救の神よ我らを救ひ我らを取り集
め列邦のなかより救ひいだしたまへ我らは聖名に謝

しなんぢのほむべき事をほこらん 36 イスラエルの神
エホバは窮なきより窮なきまでほむべきかなすべての
の民はアーメンとなへてエホバを讃稱へたり 37 ダ
ビデはアサフとその兄弟等をエホバの契約の櫃の前
に留めおきて契約の櫃の前に常に侍りて日々の事を
執行なはせたり 38 オベデエドムとその兄弟等は合せ
て六十八人またエドトンの子なるオベデエドムおよ
びホサは司門たり 39 祭司ザドクおよびその兄弟たる
祭司等はギベオンなる崇邱においてエホバの天幕の
前に侍り 40 燔祭の壇の上にて朝夕斷ず燔祭をエホバ
に獻げ且エホバがイスラエルに命じたまひし律法に
記されたる諸の事を行へり 41 またヘマン、エドトン
およびその餘の選ばれて名を記されたる者等彼らと
ともにありてエホバの恩寵の世々限なきを讃まつれ
り 42 即ちヘマンおよびエドトンかれらとともに居て
喇叭鏡鉞など神の樂器を操て樂を奏せり又エドトン
の子等は門を守れり 43 かくて民みな各々その家にか
へれり又ダビデはその家族を祝せんとて還りゆけり

17 ダビデその家に住にいたりてダビデ預言者ナタ
ンに言けるは觀よ我は香柏の家に住む然れどもエホ
バの契約の櫃は幕の下にありと 2 ナタン、ダビデに
言けるは神なんぢとともに在せば凡て汝の心にある
所を爲せ 3 その夜神の言ナタンに臨みて曰く 4 往て
わが僕ダビデに言へエホバかく言ふ汝は我ために我
の住べき家を建べからず 5 我はイスラエルを導びき
上りし日より今日にいたるまで家に住しこと無し
て但幕屋より幕屋に移り天幕より天幕に遷れり 6 我イ
スラエルの人々と共に歩みたる處々にて我わが民を
牧養ふことを命じたるイスラエルの士師の一人にも

なんぢ何故に香柏の家を我ために建ざるやと一言にても言し事ありや 7 然ば汝わが僕ダビデに斯言べし 萬軍のエホバかく言ふ我なんぢを牧場より取り羊に隨がふ處より取て我民イスラエルの君長と爲し 8 汝が凡て往る處にて汝と偕にあり汝の諸の敵を汝の前より斷されり我また世の中の大なる人の名のごとき名を汝に得させん 9 かつ我わが民イスラエルのために處を定めて彼らを植つけ彼らをして自己の處に住て重て動くこと無らしめん 10 又惡人昔のごとく即ち我民イスラエルの上に士師を立たる時より已來のごとく重ねて彼らを荒すこと無るべし我汝の諸の敵を圧服ん且今我汝に告ぐエホバまた汝のために家を建ん 11 汝の日の滿汝ゆきて先祖等と偕になる時は我汝の生る汝の子を汝の後に立て且その國を堅うせん 12 彼わが爲に家を建ん我ながく彼の位を堅うせん 13 我は彼の父となり彼はわが子となるべし我は汝の先にありし者より取たるごとくに彼よりは我恩惠を取さらじ 14 却て我かれを永く我家に我國に居置ん彼の位は何時までも堅く立べし 15 ナタン凡て是等の言のごとく凡てこの異象のごとくダビデに語りければ 16 ダビデ王入てエホバの前に坐して言けるはエホバ神よ我は誰わが家は何なれば汝此まで我を導きたまひしや 17 神よ是はなほ汝の目には小き事たりエホバ神よ汝はまた僕の家を遙後の事を語り高き者のごとくに我を見働たまへり 18 僕の名譽についてはダビデこの上何をか汝に望むべけん汝は僕を知らたまふなり 19 エホバよ汝は僕のため又なんぢの心に循ひて此もろもろの大なる事を爲し此すべての大なる事を示たまへり 20 エホバよ我らが凡て耳に聞る所に依ば汝のごと

き者は無くまた汝の外に神は無し 21 地の何の國か汝の民イスラエルに如ん是は在昔神の往て贖ひて己の民となして大なる畏るべき事を行なひて名を得たまひし者なり汝はそのエジプトより贖ひいだせし汝の民の前より國々の人を逐はらひたまへり 22 而して汝は汝の民イスラエルを永く汝の民となしたまふエホバよ汝は彼らの神となりたまへり 23 然ばエホバよ汝が僕とその家につきて宣まひし言を永く堅うして汝の言し如く爲たまへ 24 願くは汝の名の堅く立ち永久に崇められて萬軍のエホバ、イスラエルの神はイスラエルに神たりと曰れんことを願くは僕ダビデの家の汝の前に堅く立んことを 25 我神よ汝は僕の耳に示して之が爲に家を建んと宣へり是によりて僕なんぢの前に祈る道を得たり 26 エホバよ汝は即ち神にましまし此恩典を僕に傳たまへり 27 願くは今僕の家を祝福て汝の前に永く在しめたまへ其はエホバよ汝の祝福たまへる者は永く祝福を蒙ればなり

18 此後ダビデ、ベリシテ人を撃てこれを服し又ベリシテ人の手よりガテとその郷里を取り 2 彼またモアダを撃ければモアブ人はダビデの臣となりて貢を納たり 3 ダビデまたハマテの邊にてゾバの王ハダレゼルを撃り是は彼がユフラテ河の邊にてその權勢を振はんとて往る時なりき 4 而してダビデ彼より車千輛騎兵七千歩兵二萬を取りダビデまた一百の車の馬を存してその餘の車馬は皆その足の筋を切り 5 その時ダマスコのスリア人ゾバの王ハダレゼルを援けんとて來りければダビデそのスリア人二萬二千を殺せり 6 而してダビデ、ダマスコのスリアに鎮臺を置ぬスリア人は貢を納てダビデの臣となれりエホバ、ダ

ビデを凡てその往く處にて助たまへり 7 ダビデ、ハダレゼルの臣僕等の持つる金の楯を奪ひて之をエルサレムに持きたり 8 またハダレゼルの邑テフハテとクンより甚だ衆多の銅を取きたれりソロモンこれを用て銅の海と柱と銅の器具を造れり 9 時にハマテの王トイ、ダビデがゾバの王ハダレゼルの總の軍勢を撃破りしを聞て 10 その子ハドラムをダビデ王に遣し安否を問ひかつこれを賀せしむ其はハダレゼル曾てトイと戦闘をなしたるにダビデ、ハダレゼルと戦ひて之を撃やぶりたればなりハドラム金銀および銅の種々の器を携へきたりければ 11 ダビデ王そのエドム、モアブ、アンモンの子孫ペリシテ人アマレクなどの諸の國民の中より取きたりし金銀とともに是等をもエホバに奉納たり 12 ゼルヤの子アビシヤイ鹽谷にてエドム人一萬八千を殺せり 13 斯てダビデ、エドムに鎮臺を置エドム人は皆ダビデの臣となりぬエホバかくダビデを凡その往處にて助けたまへり 14 ダビデはイスラエルの全地を治めてその諸の民に公平と正義を行へり 15 ゼルヤの子ヨアブは軍旅の長アヒルデの子ヨシヤパテは史官 16 アヒトブの子ザドクとアビヤタルの子アビメレクは祭司シヤウシヤは書記官 17 エホヤダの子ペナヤはケレテ人とペレテ人の長ダビデの子等は王の座側に侍る大臣なりき

19 此後アンモンの子孫の王ナハシ死ければその子これに代りて王となりたり 2 ダビデ言けるは我ナハシの子ヌンをねんごろに遇らはんかれが父われをねんごろにあしらひたればなりとダビデすなはち彼をその父の故によりて慰めんとて使者を遣はせりダビデの臣僕等アンモンの子孫の地に往きハヌンに詣り

てこれを慰めけるに **3** アンモンの子孫の牧伯等ハヌンに言けるはダビデ慰籍者を汝につかはしたるに因て彼なんぢの父を尊ぶと汝の目に見ゆるや彼の臣僕等は此國を窺ひ探りて滅ぼさんとて來れるならずやと **4** 是においてハヌン、ダビデの臣僕等を執へてその鬚を剃おとしその衣服を中より斷て腎までにして之を歸したりしが **5** 或人きたりて此人々の爲られし事をダビデに告げればダビデ人をつかはして之を迎へしめたりその人々おほいに愧たればなり即ち王いひけるは汝ら鬚の長るまでエリコに止まりて然る後かへるべしと **6** アンモンの子孫自己のダビデに惡まる様になれるを見しかばハヌンおよびアンモンの子孫すなはち銀一千タラントをおくりてメソポタミヤとスリアマアカおよびゾバより戦車と騎兵とを雇ひいれたり **7** 即ち戦車三萬二千乘にマアカの王とその兵士を雇ひければ彼ら來りてメデバの前に陣を張り是においてアンモンの子孫その邑々より寄あつまりて戦はんとて來れり **8** ダビデ聞てヨアブと勇士の惣軍を遣しけるに **9** アンモンの子孫は出て邑の門の前に戦争の陣列をなせり又援助に來れる王等は別に野に居り **10** 時にヨアブ前後より敵の攻寄るを見てイスラエルの倔強の兵士の中を抽擢て之をしてスリア人にむかひて陣列しめ **11** その餘の民をばその兄弟アビシャイの手に交してアンモンの子孫にむかひて陣列しめ **12** 而して言けるはスリア人もし我に手強からば汝我を助けよアンモンの子孫もし汝に手強からば我なんぢを助けん **13** 汝勇しくなれよ我儕の民のためと我らの神の諸邑のために我ら勇しく爲ん願くはエホバその目に善と見ゆる所をなしたまへと **14** ヨアブ

己に従へる民とともに進みよりてスリア人を攻撃けるにスリア人かれの前より潰奔れり **15** アンモンの子孫はスリア人の潰奔れるを見て自己等もまたその兄弟アビシヤイの前より逃奔りて城邑にいりぬ是においてヨアブはエルサレムに歸れり **16** スリア人はそのイスラエルに撃やぶられたるを見て使者を遣はして河の彼旁なるスリア人を將ゐ出せりハダレゼルの軍旅の長シヨバクこれを率ゆ **17** その事ダビデに聞えければ彼イスラエルを悉く集めヨルダンを渡りて彼らの所に来り之にむかひて戦争の陣列を立たりダビデかく彼らにむかひて戦争の陣列を立たれば彼らこれと戦へり **18** 然るにスリア人イスラエルの前に潰たればダビデ、スリアの兵車の人七千歩兵四萬を殺しまた軍旅の長シヨバクを殺せり **19** ハダレゼルの臣たる者等そのイスラエルに撃やぶられたるを見てダビデと和睦をなしてこれが臣となれりスリア人は此後ふたたびアンモンの子孫を助くることを爲ざりき

20 年かへりて王等の戦争に出る時におよびてヨアブ軍勢を率ゐて出でアンモン人の地を打荒し往てラバを攻圍りされどダビデはエルサレムに止まりたりヨアブつひにラバを撃壊りてこれを滅ぼせり **2** ダビデ彼らの王の冠冕をその首より取はなしたりしがその金の重を量り見るに一タラントありまたその中に寶石を嵌たるありき之をダビデの首に冠せたり彼また甚だ衆多の掠取物をその邑より取り **3** 而して彼またその中の民を曳いだし鋸と鐵の打車と斧とをもてこれを斬りダビデ、アンモンの子孫の一切の邑に斯く爲り而してダビデとその民はみなエルサレムに歸りぬ **4** この後ゲゼルにおいてペリシテ人と戦争お

こりたりしがその時にホシヤ人シベカイ巨人の子孫の一人なるシバイを殺せり彼等つひに攻伏られき 5 復ペリシテ人と戦争ありしがヤイルの子エルハナン、ガテのゴリアテの兄弟ラミを殺せりラミの槍の柄は機の膝の如くなりき 6 またガテに戦争ありしが其處に一人の身長き人ありその手の指と足の趾は六宛にして合せて二十四あり彼も巨人の生る者なりき 7 彼イスラエルを挑みしかばダビデの兄弟シメアの子ヨナタンこれを殺せり 8 是等はガテにて巨人の生る者なりしがダビデの手とその臣僕の手に斃れたり

21 茲にサタン起りてイスラエルに敵しダビデを感動してイスラエルを核數しめんとせり 2 ダビデすなはちヨアブと民の牧伯等に言けるは汝等ゆきてベエルシバよりダンまでのイスラエル人を數へその數をとりきたりて我に知せよ 3 ヨアブ答へけるは幾何あるとも願くはエホバその民を百倍に増たまへ然ながら王わが主よ是はみな我主の僕ならずや然に何とて我主この事を爲んと要たまふや何ぞイスラエルをして之によりて罪を獲せしむべけんやと 4 されど王つひにヨアブに言勝たればヨアブすなはち出ゆきイスラエルを徧く行めぐりてエルサレムに還れり 5 而してヨアブ民の總數をダビデに告たり即ちイスラエルの中には劍を帶る者一百十萬人ありユダの中には劍を帶る者四十七萬人ありき 6 但しレビとベニヤミンとはその中に數へざりき其はヨアブ王の言を惡みたればなり 7 この事神の目に惡かりければイスラエルを撃なやましたまへり 8 ダビデ是において神に申しけるは我この事をなして大に罪を獲たり然ども今ねがはくは僕の罪を除きたまへ我はなはだ愚なる事を

なせりと 9 時にエホバ、ダビデの先見者ガデにきて
言たまひけるは 10 往てダビデに告て言へエホバかく
言ふ我なんぢに三のものを示す汝その一を撰べ我そ
れを汝に爲んと 11 ガデすなはちダビデの許に至り之
に言けるはエホバかく言たまふ汝擇べよ 12 即ち三年
の饑饉か又は汝三月の間汝の敵の前に敗れて汝の仇
の劍に追しかれんか又は三日の間エホバの劍すなは
ち疫病この國にありてエホバの使者イスラエルの四
方の境の中にて撃滅ぼすことをせんか我が如何なる
答を我を遣せし者に爲べきかを汝決めよ 13 ダビデ、
ガデに言けるは我おほいに苦む請ふ我はエホバの手
に陥らん其憐憫甚だおほいなればなり人の手には陥
らじと 14 是においてエホバ、イスラエルに疫病を降
したまひければイスラエルの人七萬人斃れたり 15 神
また使者をエルサレムに遣してこれを滅ぼさんとし
たまひしが其これを滅ぼすにあたりてエホバ視てこ
の禍害をなせしを悔い其ほろぼす使者に言たまひけ
るは足り今なんぢの手を住めよと時にエホバの使者
はエブス人オルナンの打場の傍に立をる 16 ダビデ目
をあげて視るにエホバの使者地と天の間に立て拔身
の劍を手にとりてエルサレムの方にこれを伸をりけ
ればダビデと長老等麻布を衣て俯伏り 17 而してダビ
デ神に申しけるは民を數へよと命ぜし者は我ならず
や罪を犯し悪き事をなしたる者は我なり然れども是
等の羊は何をなせしや我神エホバよ請ふ汝の手を我
とわが父の家に加へたまへ惟汝の民に加へて之を疾
めたまふ勿れと 18 時にエホバの使者ガデに命じ汝ダ
ビデに告てダビデをして上りゆきてエブス人オルナ
ンの打場にてエホバのために一箇の壇を築しめよと

言り 19 是においてダビデはガデがエホバの名をもて告たる言にしたがひて上りゆけり 20 オルナンは麥を打るけるが回顧て天の使の居るを視その四人の子等とともに匿れたり 21 やがてダビデはオルナンの方に來りけるがオルナン望てダビデを見すなはち打場より出ゆきて面を地につけてダビデを拝せり 22 ダビデ、オルナンに言けるは此打場の處を我に與へよ我そこにてエホバに一箇の壇を築かん汝その十分の値をとりて之を我にあたへ災害の民におよぶことを止めしめよ 23 オルナン、ダビデに言けるは請ふ之を取り王わが主の目に善と觀るところを爲たまへ我なんぢに獻げて牛を燔祭の料とし打禾車を柴薪とし麥を素祭とせん我みなこれを奉呈ると 24 ダビデ王オルナンに言けるは然るべからず我かならず十分の値をはらひて之を買ん我は汝の物を取てエホバに奉まつらじ又費なしに燔祭を獻ぐることをせじと 25 ダビデすなはち其處のために金六百シケルを衡りてオルナンに與へたり 26 而してダビデ其處にてエホバに一箇の祭壇を築き燔祭と酬恩祭を獻げてエホバを顧けるに天より燔祭の壇の上に火を降して之に應へたまへり 27 エホバすなはちその使者に命じたまひければ彼その劍を鞘に蔵めたり 28 その時ダビデはエホバがエブス人オルナンの打場において己に應へたまふを見たれば其處にて犠牲を獻ぐることを爲り 29 モーセが荒野にて造りたるエホバの幕屋と燔祭の壇とは當時ギベオンの崇邱にありけるが 30 ダビデはその前に進みゆきて神に求むることを得せざりき是は彼エホバの使者の劍のために懼れたるに因てなり

22 ダビデ言けるはエホバ神の室は此なりイスラエルの燔祭の壇は此なりと **2** ダビデすなはち命じてイスラエルの地に居る異邦人を集めしめ又神の室を建るに用ふる石を琢ために石工を設けたり **3** ダビデまた門の扉の釘および鋸に用ふる鐵を夥しく備へたり又銅を敷しれぬほどに夥しく備へたり **4** また香柏を備ふること敷しれず是はシドン人およびツロの者夥多しく香柏をダビデの所に運びきたりたればなり **5** ダビデ言けるは我子ソロモンは少くして弱し又エホバのために建る室は極めて高大にして萬國に名を得榮を得る者たらざる可らず今我其がために準備をなさんとダビデその死る前に大に之が準備をなせり **6** 而して彼その子ソロモンを召てイスラエルの神エホバのために家を建ることを之に命ぜり **7** 即ちダビデ、ソロモンに言けるは我子よ我は我神エホバの名のために家を建る志ありき **8** 然るにエホバの言われに臨みて言り汝は多くの血を流し大なる戰爭を爲したり汝我前にて多の血を地に流したれば我名の爲に家を建べからず **9** 視よ男子汝に生れん是は平安の人なるべし我これに平安を賜ひてその四周の諸の敵に煩はさること無らしめん故に彼の名はソロモン(平安)といふべし彼の世に我平安と靜謐をイスラエルに賜はん **10** 彼わが名のために家を建ん彼はわが子となり我は彼の父とならん我かれの國の祚を固うして永くイスラエルの上に立しめん **11** 然ば我子よ願くはエホバ汝とともに在し汝を盛ならしめ汝の神エホバの室を建させて其なんぢにつきて言たる如くしたまはんことを **12** 惟ねがはくはエホバ汝に智慧と穎悟を賜ひ汝をイスラエルの上に立て汝の神エホバの律法を汝

に守らせたまはんことを **13** 汝もしエホバがイスラエルにつきてモーセに命じたまひし法度と例規を謹みて行はば汝旺盛になるべし心を強くしかつ勇め懼る勿れ慄くなかれ **14** 視よ我患難の中にてエホバの室のために金十萬タラント銀百萬タラントを備へまた銅と鐵とを數しれぬほど夥多しく備へたり又材木と石をも備へたり汝また之に加ふべし **15** かつまた工人夥多しく汝の手にあり即ち石や木を琢刻む者および諸の工作を爲すところの工匠など都てあり **16** 夫金銀銅鐵は數限りなし汝起て爲せ願くはエホバ汝とともに在せと **17** ダビデまたイスラエルの一切の牧伯等にその子ソロモンを助くることを命じて云く **18** 汝らの神エホバなんぢらと偕に在すならずや四方において泰平を汝らに賜へるならずや即ちこの地の民を我手に付したまひてこの地はエホバの前とその民の前に服せり **19** 然ば汝ら心をこめ精神をこめて汝らの神エホバを求めよ汝ら起てエホバ神の聖所を建てエホバの名のために建るその室にエホバの契約の櫃と神の聖器を携さへいるべし

23 ダビデ老てその日滿ければその子ソロモンをイスラエルの王となせり **2** ダビデ、イスラエルの一切の牧伯および祭司とレビ人をあつめたり **3** レビ人の三十歳以上なる者を數へたるにその人々の頭數は三萬八千 **4** その中二萬四千はエホバの室の事幹を掌どり六千は有司および裁判人たり **5** 四千は門を守る者たりまた四千はダビデが造れる讚美の樂器をとりてエホバを頌ることをせり **6** ダビデ、レビの子孫を分ちて班列を立たり即ちゲルシヨン、コハテおよびメラリ **7** ゲルシヨン人たる者はラダンおよびシメイ **8**

ラダンの子等は長エヒエルにゼタムとヨエル合せて三人 9シメイの子等はシロミテ、ハジエル、ハランの三人是等はラダンの宗家の長たり 10シメイの子等はヤハテ、ジナ、エウシ、ベリア この四人はシメイの子なり 11ヤハデは長 ジナはその次 エウシ、ベリアは子多からざるが故に之をともに數へて一の宗家となせり 12コハテの子等はアムラム、イツハル、ヘブロン、ウジエルの四人 13アムラムの子等はアロンとモーセ、アロンはその子等とともに永く區別れてその身を潔めて至聖者となりエホバの前に香を焚き之に事へ恒にこれが名をもて祝することを爲り 14神の人モーセの子等はレビの支派の中に數へいれらる 15モーセの子等はゲルシヨンおよびエリエゼル 16ゲルシヨンの子等は長はシブエル 17エリエゼルの子等は長はレハビヤ、エリエゼルは此外に男子あらざりき但しレハビヤの子等は甚だ多かりき 18イツハルの子等は長はシロミテ 19ヘブロンの子等は長子はエリヤ その次はアマリヤ その三はヤハジエル その四はエカメアム 20ウジエルの子等は長子はミカ 次はエシヤ 21メラリの子等はマヘリおよびムシ、マヘリの子等はエレアザルおよびキシ 22エレアザルは男子なくして死り惟女子ありし而已その女子等はキシの子たるその兄弟等これを娶れり 23ムシの子等はマヘリ、エデル、エレモテの三人 24レビの子孫をその宗家に循ひて言は是のごとし是皆かの頭數を數へられその名を録されてエホバの家の役事をなせる二十歳以上の者の宗家の長なり 25ダビデ言けらくイスラエルの神エホバその民を安んじて永くエルサレムに住たまふ 26レビ人はまた重ねて幕屋およびその奉事の器具

を昇ことあらずと 27 ダビデの最後の詞にしたがひて
レビ人は二十歳以上よりして數へられたり 28 彼らの
職はアロンの子孫等の手に屬して神の家の役事を爲
し庭と諸の室の用を爲し一切の聖物を潔むるなど凡
て神の家の役事を勤むるの事なりき 29 また供前のパ
ン素祭の麥粉酵いれぬ菓子鍋にて製る者焼て製る者
などを掌どりまた凡て容積と長短を量度ることを掌
どり 30 また朝ごとに立てエホバを頌へ讚ることを掌
どれり夕もまた然り 31 又安息日と朔日と節會におい
てエホバに諸の燔祭を献げ其命ぜられたる所に循ひ
て數のごとくに斷ずこれをエホバの前にたてまつる
事を掌どれり 32 是のごとく彼らは集會の幕屋の職守
と聖所の職守とアロンの子孫たるその兄弟等の職守
とを守りてエホバの家の役事をおこなふ可りしなり

24 アロンの子孫の班列は左のごとしアロンの子等
はナダブ、アビウ、エレアザル、イタマル 2 ナダブ
とアビウはその父に先だちて死て子なかりければエ
レアザルとイタマル祭司となれり 3 ダビデ、エレア
ザルの子孫ザドクおよびイタマルの子孫アヒメレク
とともに彼らを分ちて各その職と務に任じたり 4 エ
レアザルの子孫の中にはイタマルの子孫の中よりも
長たる人多かりき是をもてその分かれし班列はエレ
アザルの子孫たる宗家の長には十六ありイタマルの
子孫たる宗家の長には八あり 5 斯彼らは籤によりて
分たる彼と此と相等し其は聖所の督者および神の督
者はエレアザルの子孫の中よりも出でイタマルの子
孫の中よりも出ればなり 6 レビ人ネタネルの子シマ
ヤといふ書記王と牧伯等と祭司ザドクとアビヤタル
の子アヒメレクと祭司およびレビ人の宗家の長の前

にて之を書しるせり即ちエレアザルのために宗家一
を取ばまたイタマルのために宗家一を取り 7 第一の
籤はヨアリブに當り第二はエダヤに當り 8 第三はハ
リムに當り第四はセオリムに當り 9 第五はマルキヤ
に當り第六はミヤミンに當り 10 第七はハツコヅに當
り第八はアピアに當り 11 第九はエシユアに當り第十
はシカニヤに當り 12 第十一はエリアシブに當り第十
二はヤキンに當り 13 第十三はホツバに當り第十四は
エシバブに當り 14 第十五はビルガに當り第十六はイ
ンメルに當り 15 第十七はヘジルに當り第十八はハビ
セツに當り 16 第十九はベタヒヤに當り第二十はエゼ
キエルに當り 17 第二十一はヤキンに當り第二十一は
ガムルに當り 18 第二十三はデラヤに當り第二十四は
マアジアに當れり 19 是の職務の順序なり彼らは之
にしたがひてエホバの家にいり其先祖アロンより傳
はりし例規によりて勤むべかりしなり即ちイスラエ
ルの神エホバの彼に命じたまひしごとし 20 その餘の
レビの子孫は左の如シアムラムの子等の中にてはシ
ユバエル、シユバエルの子等の中にてはエデヤ 21 レ
ハビヤについてはレハビヤの子等の中にては長子イ
ツシア 22 イヅハリ人の中にてはシロミテ、シロミテ
の子等の中にてはヤハテ 23 ヘブロンの子等の中にて
は長子エリヤ二子アマリヤ三子ヤハジエル四子エカ
メアム 24 ウジエルの子等の中にてはミカ、ミカの子
等の中にてはシャミル 25 ミカの兄弟をイツシアとい
ふイツシアの子等の中にてはゼカリヤ 26 メラリの子
等はマヘリオよびムシ、ヤジアの子等はベノ 27 メラ
リの子孫のヤジアより出たる者はベノ、シヨハム、
ザツクル、イブリ 28 マヘリよりエレアザル出たりエ

レアザルは子等なかりき 29 キシについてはキシの子はエラメル 30 ムシの子等はマヘリ、エデル、エリモテ是等はレビの子孫にしてその宗家にしたがひて言る者なり 31 是らの者もまたダビデ王とザドクとアヒメレクと祭司およびレビ人の宗家の長たる者等の前にてアロンの子孫たるその兄弟等のごとく籤を掣り兄の宗家も弟の宗家も異なること無りき

25 ダビデと軍旅の牧伯等またアサフ、ヘマンおよびエドトンの子等を選びて職に任じ之をして琴と瑟と鑢鈸を執て預言せしむその職によれば伶人の數左のごとし 2 アサフの子等はザツクル、ヨセフ、ネタニア、アサレラ 皆アサフの子等にしてアサフの手に屬すアサフは王の手につきて預言す 3 エドトンについてはエドトンの子等はゲダリア、ゼリ、エサヤ、ハシャビヤ、マツタテヤの六人 皆琴を操てその父エドトンの手に屬すエドトンはエホバを讃めかつ頌へて預言す 4 ヘマンについてはヘマンの子等たる者はブツキヤ、マツタニヤ、ウジエル、シブエル、エレモテ、ハナニヤ、ハナニ、エリアタ、ギダルテ、ロママテエゼル、ヨシベカシヤ、マロテ、ホテル、マハジオテ 5 是みな神の言をつたふる王の先見者ヘマンの子等にして角を擧ぐ 神ヘマンに男子十四人女子三人を賜へり 6 是等の者は皆その父の手に屬しエホバの家において歌を謡ひ鑢鈸と瑟と琴をもて神の家の奉事をなせり アサフ、エドトンおよびヘマンは王の手につけり 7 彼等およびエホバに歌を謡ふことを習へるその兄弟等即ち巧なる者の數は二百八十八人 8 彼ら大も小も巧なる者も習ふ者も皆ともにその職務の籤を掣けるが 9 第一の籤はアサフの家のヨセフに

當り第二はゲダリアに當れり彼もその兄弟等および子等十二人 **10** 第三はザツクルに當れりその子等とその兄弟等十二人 **11** 第四はイツリに當れりその子等とその兄弟等十二人 **12** 第五はネタニヤに當れりその子等とその兄弟等十二人 **13** 第六はブツキアに當れりその子等とその兄弟等十二人 **14** 第七はアサレラに當れりその子等とその兄弟等十二人 **15** 第八はエサヤに當れりその子等とその兄弟等十二人 **16** 第九はマッタニヤに當れりその子等とその兄弟等十二人 **17** 第十はシメイに當れりその子等とその兄弟等十二人 **18** 第十一はアザリエルに當れりその子等とその兄弟等十二人 **19** 第十二はハシヤビアに當れりその子等とその兄弟等十二人 **20** 第十三はシュバエルに當れりその子等とその兄弟等十二人 **21** 第十四はマッタテヤに當れりその子等とその兄弟等十二人 **22** 第十五はエレモテに當れりその子等とその兄弟等十二人 **23** 第十六はハナニヤに當れりその子等とその兄弟等十二人 **24** 第十七はヨシベカシヤに當れりその子等とその兄弟等十二人 **25** 第十八はでハナニに當れりその子等とその兄弟等十二人 **26** 第十九はマロテに當れりその子等とその兄弟等十二人 **27** 第二十はエリアタに當れりその子等とその兄弟等十二人 **28** 第二十一はホテルに當れりその子等とその兄弟等十二人 **29** 第二十二はギダルテに當れりその子等とその兄弟等十二人 **30** 第二十三はマハジオテに當れりその子等とその兄弟等十二人 **31** 第二十四はロサムテエゼルに當れりその子等とその兄弟等十二人

26 門を守る者の班列は左のごとしコラ人の中にてはアサフの子コレの子なるメシレミヤ **2** メシレミヤ

の子等は長子はゼカリヤその次はエデアエルその三はゼバデヤその四はヤテニエル 3 その五はエラムその六はヨハナンその七はエリヨエナイ 4 またオベデエドムの子等は長子はシマヤその次はヨザバデその三はヨアその四はサカルその五はネタネル 5 その六はアシミエルその七はイツサカルその八はピウレイ是は神かれを祝福たまひしなり 6 また彼の子シマヤにも數人の子生れたりしがその子等は大勇士にしてその父の家の主たる者なりき 7 すなはちシマヤの子等はオテニ、レバエル、オベデ、エルザバデ、エルザバデの兄弟エリウとセマキヤは力ある人なりき 8 是みなオベデエドムの孫子なり彼らとその子等および其兄弟等は合せて六十二人皆力ある者にしてその職に堪ふ是みなオベデエドムに屬する者なり 9 メシレミヤも子等と兄弟等合せて十八人あり皆力ある者なりき 10 メラリの子孫ホサもまた子等ありき其長はシムリ是は長子ならざりしかどもその父これを長となせしなり 11 その次はヒルキヤその三はデバリヤその四はゼカリヤ、ホサの子等と兄弟等は合せて十三人 12 門を守るところの班列此長等の中より出でみなその兄弟と等く勤務をなしてエホバの家に仕ふ 13 彼ら門々を分つために小も大もともにその宗家に循ひて籤を掣たりしが 14 東の方の籤はシレミヤに當れり又その子ゼカリヤのために籤を掣けるに北の方の籤これに當れりゼカリヤは智慧ある議士なりき 15 オベデエドムは南の方の籤に當りその子等は倉の籤に當れり 16 シユパムおよびホサは西の方の籤にあたり坂の大路にあるシャレケテの門の傍に居り守者はみな相對ふ 17 東の方にはレビ人六人北の方には日々に四

人南の方にも日々に四人倉のかたはらには二人に二人 18 西の方バルバルにおいては大路に四人バルバルに二人 19 門を守る者の班列は是のごとし皆コラの子孫とメラリの子孫なり 20 また神の府庫および聖物の府庫を司どれる彼らの兄弟なるレビ人は左のごとし 21 ラダンの子孫すなはちラダンより出たるゲルシヨン人にしてゲルシヨン人ラダンの宗家の長たる者の中にてはエヒエリ 22 およびエヒエリの子等ならびにその兄弟ゼタムとヨエル是らはエホバの家の府庫を司どれり 23 アムラミ人イヅハリ人ヘブロン人ウジエリ人の中においては左のごとし 24 モーセの子ゲルシヨムの子なるシブエルは府庫の宰たり 25 その兄弟にしてエリエゼルより出たる者は即ちエリエゼルの子レハビヤその子エサヤその子ヨラムその子ジクリその子シロミテ 26 此シロミテとその兄弟等はすべての聖物の府庫を掌どれりその聖物はすなはちダビデ王宗家の長千人の長百人の長軍旅の長等などが奉納たる者なり 27 即ち戦争において獲たる物および掠取物を奉納てエホバの家の修繕に供へたるなり 28 凡て先見者サムエル、キシの子サウル、ネルの子アブネル、ゼルヤの子ヨアブ等が奉献たる物および其他の奉納物は皆シロミテとその兄弟等の手の下にありき 29 イヅハリ人の中にてはケナニヤとその子等イスラエルの外事を理め有司となり裁判人となれり 30 ヘブロン人の中にてはハシャビアおよびその兄弟などの勇士一千七百人ありてヨルダンの此旁すなはち西の方にてイスラエルの監督者となりエホバの一切の事を行ひ王の用を爲り 31 ヘブロン人の中にてはその系譜と宗家とに依ばエリヤといふ者ヘブロン人の長なり

ダビデの治世の四十年に彼らを尋ね求めギレアデのヤゼルにおいて彼らの中より大勇士を得たり **32** エリヤの兄弟たる勇士は二千七百人にして皆宗家の長たりダビデ王かれらをしてルベン人ガド人およびマナセの半支派を監督しめ神につける事と王につける事とを宰どらせたり

27 イスラエルの子孫すなはち宗家の長千人の長百人の長およびその有司等は年の惣の月のあひだ月ごとに更り入り更り出で其班列の諸の事をつとめて王に事へたるが其數を按ふるに一班列に二萬四千人ありき **2** 先第一の班列すなはち正月の分はザブデエルの子ヤシヨベアムこれを率ゆ其班列は二萬四千人 **3** 彼は正月の軍團の長等の首たる者にしてペレヅの子孫なり **4** 二月の班列はアホア人ドダイその班列の者とともこれを率ゆミクロテといふ宰あり其班列は二萬四千人 **5** 三月の軍團を統る第三の將は祭司の長エホヤダの子ベナヤその班列は二萬四千人 **6** このベナヤはかの三十人の中の勇士にして三十人の上にたてり彼の子アミザバデその班列にあり **7** 四月の分を統る第四の將はヨアブの弟アサヘルにしてその子ゼバデヤこれに次り其班列は二萬四千人 **8** 五月の分を統る第五の將はイズラヒ人シヤンモテその班列は二萬四千人 **9** 六月の分を統る第六の將はテコア人イツケシの子イラその班列は二萬四千人 **10** 七月の分を統る第七の將はエフライムの子孫たるペロニ人ヘレヅその班列は二萬四千人 **11** 八月の分を統る第八の將はゼラの子孫たるホシヤ人シベカイその班列は二萬四千人 **12** 九月の分をすぶる第九の將はベニヤミンの子孫たるアナトテ人アビエゼルその班列は二萬四千人

13 十月の分をすぶる第十の將はゼラの子孫たるネト
パ人マハライその班列は二萬四千人 14 十一月の分を
すぶる第十一の將はエフライムの子孫たるピラトン
人ベナヤその班列は二萬四千人 15 十二月の分を統る
第十二の將はオテニエルの子孫たるネトパ人ヘルダ
イその班列は二萬四千人 16 イスラエルの支派を治む
る者は左のごとしルベン人の牧伯はヂクリの子エリ
エゼル、シメオンの牧伯はマアカの子シバテヤ 17 レ
ビ人の牧伯はケムエルの子ハシャビヤ、アロン人の
牧伯はザドク 18 ユダの牧伯はダビデの兄弟エリウ、
イツサカルの牧伯はミカエルの子オムリ 19 ゼブルン
の牧伯はオバデヤの子イシマヤ、ナフタリの牧伯は
アズリエルの子エレモテ 20 エフライムの子孫の牧伯
はアザジャの子ホセア、マナセの半支派の牧伯はペ
ダヤの子ヨエル 21 ギレアデなるマナセのご半支派の
牧伯はゼカリヤの子イド、ペニヤミンの牧伯はアブ
ネルの子ヤシエル 22 ダンの牧伯はエロハムの子アザ
リエル、イスラエルの支派の牧伯等は是のごとし 23
二十歳以下なる者はダビデこれを數へざりき其はエ
ホバかつてイスラエルを増て天空の星のごとくにせ
んと言たまひしことあればなり 24 ゼルヤの子ヨアブ
數ふることを始めたりしがこれを爲をへざりきその
かぞふることによりて震怒イスラエルにおよべりそ
の數はまたダビデ王の記録の籍に載ざりき 25 アデエ
ルの子アズマウテは王の府庫を掌どりウジャの子ヨ
ナタンは田野邑々村々城などにある府庫を掌どり 26
ケルブの子エズリは地を耕す農業の人を掌どり 27 ラ
マテ人シメイは葡萄園を掌どりシフミ人ザブデはそ
の葡萄園より取る葡萄酒の蔵を掌どり 28 ゲデラ人バ

アルハナンは平野なる橄欖樹と桑樹を掌どりヨアシは油の蔵を掌どり 29 シヤロン人シテナイはシヤロンにて牧ふ牛の群を掌どりアデライの子シャバテは谷々にある牛の群を掌どり 30 イシマエル人オビルは駱駝を掌どりメロノテ人エデヤは驢馬を掌どり 31 ハガリ人ヤジズは羊の群を掌どれり是みなダビデ王の所有を掌どれる者なり 32 またダビデの叔父ヨナタンは議官たり彼は智慧あり學識ある者なり又ハクモニの子エヒエルは王の子等の補佐たり 33 アヒトペルは王の議官たりアルキ人ホシヤイは王の伴侶たり 34 アヒトペルに次ぐ者はベナヤの子エホヤダおよびアビヤタル王の軍旅の長はヨアフ

28 茲にダビデ、イスラエルの一切の長支派の長王に事ふる班列の長千人の長百人の長王とその子等の所有及び家畜を掌どる者闖官有力者諸勇士などを盡くエルサレムに召集め 2 而してダビデ王その足にて起て言けるは我兄弟等我民よ我に聽け我はエホバの契約の櫃のため我らの神の足臺のために安居の家を建んと志ありて已にこれを建る準備をなせり 3 然るに神我に言たまへり汝は我名のために家を建べからず汝は軍人にして許多の血を流したればなりと 4 然りと雖もイスラエルの神エホバ我父の全家の中より我を選びて永くイスラエルに王たらしめたまふ即ちユダを選びて長となしユダの全家の中より我父の家を選び我父の子等の中にて我を悦びイスラエルの王とならしめたまふ 5 而してエホバ我に衆多の子をたまひて其わが諸の子等の中より我子ソロモンを選び之をエホバの國の位に坐せしめてイスラエルを治めしめんとしたまふ 6 エホバまた我に言たまひける

は汝の子ソロモンはわが家および我庭を作らん我かれを選びて吾子となせり我かれの父となるべし 7 彼もし今日のごとく我誠命と律法を堅く守り行はば我その國を永く堅うせんと 8 然ば今エホバの會衆たるイスラエルの全家の目の前および我らの神の聞しめす所にて汝らに勸む汝らその神エホバの一切の誠命を守りかつ之を追もとむべし然せば汝等この美地を保ちてこれを汝らの後の子孫に永く傳ふることを得ん 9 我子ソロモンよ汝の父の神を知り完全心をもて喜び勇んで之に事へよエホバは一切の心を探り一切の思想を暁りたまふなり汝もし之を求めなば之に遇ん然ど汝もし之を棄なば永く汝を棄たまはん 10 然ば汝謹めよエホバ汝を選びて聖所とすべき家を建させんと爲たまへば心を強くしてこれを爲べしと 11 而してダビデは殿の廊およびその家その府庫その上の室その内の室贖罪所の室などの式様をその子ソロモンに授け 12 また其心に思ひはかれる一切の物すなはちエホバの家の庭四周の諸の室神の家の府庫聖物の府庫などの式様を授け 13 また祭司およびレビ人の班列とエホバの家の諸の奉事の工とエホバの家の諸の奉事の器皿とにつきて諭すところあり 14 また諸の奉事に用ふる金の器皿を作る金の重量を定め又諸の奉事の器に用ふる諸の銀の器皿の銀の重量を定む 15 即ち金の燈臺とその金の燈盞の重量を宣て一切の燈臺とその燈盞の重量を定め又銀の燈臺につきても各々の燈臺の用法にしたがひて燈臺とその燈盞の重量を定め 16 また供前のパンの案につきてはその各の案のために金の重量を定め又銀の案のためにも銀を定め 17 又肉鉤孟杓のために用ふる純金の重量を定め金の

罌につきてもまた各々の大罌のために重量を定め銀の一切の大罌のためにも重量を定め 18 また香壇のために用ふる精金の重量を定めかつ車なるケルビムの式様の金を定む此ケルビムはその翼を展てエホバの契約の櫃を覆ふ 19 而してダビデ言けらく此工事の様は皆ことごとくエホバのその手を我上にくだして我を教へて書せたまひし者なりと 20 かくてダビデその子ソロモンに言けるは汝心を強くし勇みてこれを爲せ懼るる勿れ慄くなかれエホバ神我神汝とともに在さん彼かならず汝を離れず汝を棄ず汝をしてエホバの家の奉事の諸の工を成終しめたまふべし 21 視よ神の家の諸の役事をなすためには祭司とレビ人の班列あり又諸の工と従事を悦こびて爲ところの諸の技巧者汝とともに在り且また牧伯等および一切の民汝の命ずるところを悉く行はん

29 ダビデ王また全會衆に言けるは我子ソロモンは神の惟獨選びたまへる者なるが少くして弱く此工事は大なり此殿は人のために非ずエホバ神のためにする者なればなり 2 是をもて我力を盡して我神の家のために物を備へたり即ち金の物を作る金 銀の物の銀銅の物の銅 鐵の物の鐵 木の物の木を備へたり又葱珩嵌石 黒石火崗諸の寶石蠟石など夥多し 3 かつまた我わが神の家を悦ぶが故に聖所のために備へたる一切の物の外にまた自己の所有なる金銀をわが神の家に獻ぐ 4 即ちオフルの金三千タラント精銀七千タラントを獻げてその家々の壁を蔽ふに供ふ 5 金は金の物に銀は銀の物に凡て工人の手にて作るものに用ふべし誰か今日自ら進んでエホバのためにその手に物を盈さんかと 6 是において宗家の長イスラエルの支派

の牧伯等千人の長百人の長および王の工事を掌どる者等誠意より献物をなせり 7 その神の家の奉事のために献げたるものは金五千タラント一萬ダリク銀一萬タラント銅一萬八千タラント鐵十萬タラント 8 また寶石ある者はゲルシヨン人エヒエルの手にとて之を神の家の府庫に納めたり 9 彼ら斯誠意よりみづから進んでエホバに献げたれば民その献ぐるを喜びりダビデ王もまた大に喜びぬ 10 茲にダビデ全會衆の前にてエホバを頌へたりダビデの曰く我らの先祖イスラエルの神エホバよ汝は世々限なく頌へまつべきなり 11 エホバよ權勢と能力と榮光と光輝と威光とは汝に屬す凡て天にある者地にある者はみな汝に屬すエホバよ國もまた汝に屬す汝は萬有の首と崇られたまふ 12 富と貴とは共に汝より出づ汝は萬有を主宰たまふ汝の手には權勢と能力あり汝の手は能く一切をして大たらしめ又強くならしむるなり 13 然ば我儕の神よ我儕今なんぢに感謝し汝の尊き名を讚美す 14 但し我ら斯のごとく自ら進んで献ぐることを得たるも我は何ならんやまた我民は何ならんや萬の物は汝より出づ我らは只汝の手より受て汝に献げたるなり 15 汝の前にありては我らは先祖等のごとく旅客たり寄寓者たり我らの世にある日は影のごとし望む所ある無し 16 我らの神エホバよ汝の聖名のために汝に家を建んとて我らが備へたる此衆多の物は凡て汝の手より出づ亦皆なんぢの所有なり 17 我神よ我また知る汝は心を鑒みたまひ又正直を悦びたまふ我は正き心をもて眞實より此一切の物を献げたり今我また此にある汝の民が眞實より献物をするを見て喜悅にたへざるなり 18 我らの先祖アブラハム、イサク、イスラエ

ルの神エホバよ汝の民をして此精神を何時までもその心の思念に保たしめその心を固く汝に歸せしめたまへ **19** 又わが子ソロモンに完全心を與へ汝の誠命と汝の證言と汝の法度を守らせて之をことごとく行はせ我が備をなせるその殿を建させたまへ **20** ダビデまた全會衆にむかひて汝ら今なんぢらの神エホバを頌へよと言ければ全會衆その先祖等の神エホバを頌へ俯てエホバと王とを拝せり **21** 而して其翌日に至りてイスラエルの一切の人のためにエホバに犠牲を獻げエホバに燔祭を獻げたり其牡牛一千牡羊一千羔羊一千またその灌祭と祭物夥多しかりき **22** その日彼ら大に喜びてエホバの前に食ひかつ飲み／さらに改めてダビデの子ソロモンを王となしエホバの前にてこれに膏をそそぎて主君となし又ザドクを祭司となせり **23** かくてソロモンはエホバの位に坐しその父ダビデに代りて王となりその繁榮を極むイスラエルみな之に従がふ **24** また一切の牧伯等勇士等およびダビデ王の諸の子等みなソロモン王に服事す **25** エホバ、イスラエルの目の前にてソロモンを甚だ大ならしめ彼より前のイスラエルの王の未だ得たること有ざる王威を之に賜へり **26** 夫エツサイの子ダビデはイスラエルの全地を治めたり **27** そのイスラエルを治めし間は四十年なり即ちヘブロンにて七年世を治めエルサレムにて三十三年世を治めたりき **28** 遐齡にいたり年も富も尊貴も満足て死り其子ソロモンこれに代りて王となる **29** ダビデ王が始より終まで爲たる事等は先見者サムエルの書預言者ナタンの書および先見者ガドの書に記さる **30** 中にはまた彼の政治とその能力およ

び彼とイスラエルと國々の諸の民に臨みしところの
事等を載す

歴代誌II

1ダビデの子ソロモン堅くその國にたてりその神エホバこれとともに在して之を甚だ大ならしめたまひき **2**茲にソロモン、イスラエルの一切の人々すなはち千人の長百人の長裁判人ならびにイスラエルの全地の諸の牧伯等宗家の長などに告る所あり **3**而してソロモンおよび全會衆ともにギベオンなる崇邱に往りエホバの僕モーセが荒野にて作りたる神の集會の幕屋かしこにあればなり **4**されど神の契約の櫃はダビデすでにキリアテヤリムよりこれが爲に備へたる處に携へ上れりダビデ曩にエルサレムにて之が爲に幕屋を張まうけたりき **5**またホルの子ウリの子なるベザレルが作りたる銅の壇彼處においてエホバの幕屋の前にありソロモンおよび會衆これに就きて求む **6**即ちソロモン彼處に上りゆき集會の幕屋の中にあるエホバの前なる銅の壇に就き燔祭一千を其上に獻げたり **7**その夜神ソロモンに顯れてこれに言たまひけるは我なんぢに何を與ふべきか求めよ **8**ソロモン神に申しけるは汝は我父ダビデに大なる恩惠をほどこし又我をして彼に代りて王とならしめたまへり **9**今エホバ神よ願くは我父ダビデに宣ひし事を堅うしたまへ其は汝地の塵のごとき衆多の民の上に我を王となしたまへばなり **10**我が此民の前に出入することを得んために今我に智慧と智識とを與へたまへ斯のごとき大なる汝の民を誰か鞫きえんや **11**神ソロモンに言たまひけるは此事なんぢの心にあり汝は富有をも財寶をも尊貴をも汝を惡む者の生命をも求めずまた壽長からんことをも求めず惟智慧と智識とを己のためにもとめて我が汝を王となしたる我民を鞫かんと

すれば 12 智慧と智識は已に汝に授かれり我また汝の前の王等の未だ得たること有ざる程の富有と財寶と尊貴とを汝に與へん汝の後の者もまた是のごときを得ざるべし 13 斯てソロモンはギベオンの崇邱を去り集會の幕屋の前を去りてエルサレムに歸りイスラエルを治めたり 14 ソロモン戦車と騎兵とを集めしに戦車一千四百輛騎兵一萬二千人ありきソロモンこれを戦車の邑々に置き又エルサレムにて王の所に置り 15 王銀と金とを石のごとくエルサレムに多からしめまた香柏を平野の桑樹のごとく多からしめたり 16 ソロモンの有る馬は皆エジプトよりひききたれり王の商買一群一群となして之を取いだし群ごとに價金をはらへり 17 エジプトより取いだして携へ上る戦車一輛は銀六百馬一匹は百五十なりき是のごとくヘテ人の諸の王等およびスリアの王等のためにもその手をもて取いだせり

2 茲にソロモン、エホバの名のために一の家を建てまた己の國のために一の家を建んとし 2 ソロモンすなはち荷を負べき者七萬人山において木や石を斫べき者八萬人是等を監督すべき者三千六百人を數へ出せり 3 ソロモンまづツロの王ヒラムに人を遣して言しめけるは汝はわが父ダビデにその住むべき家を建る香柏をおくれり請ふ彼になせしごとく亦我にもせよ 4 今我わが神エホバの名のために一の家を建て之を聖別て彼に奉つり彼の前に馨しき香を焚き常に供前のパンを供へ燔祭を朝夕に獻げまた安息日月朔ならびに我らの神エホバの節期などに獻げんとす是はイスラエルの永く行ふべき事なればなり 5 我建る家は大なり其は我らの神は諸の神よりも大なればなり

6 然ながら天も諸天の天も彼を容ること能はざれば誰か彼のために家を建てることを得んや我は何人ぞや争か彼のために家を建てることを得ん唯彼の前に香を焚くためのみ 7 然ば請ふ今金銀銅鐵の細工および紫赤青の製造に精しく彫刻の術に巧なる工人一箇を我に遣り我父ダビデが備へおきたるユダとエルサレムのわが工人とともに操作しめよ 8 請ふ汝また香柏松木および白檀をレバノンより我におくれ我なんぢの僕等がレバノンにて木を斫ることを善するを知るなり我僕また汝の僕と共に操作べし 9 是のごとくして我ために材木を多く備へしめよ其は我が建んとする家は高大を極むる者なるべければなり 10 我は木を斫る汝の僕に搗麥二萬石大麥二萬石酒二萬バテ油二萬バテを與ふべしと 11 是においてツロの王ヒラム書をソロモンにおくりて之に答へて云ふエホバその民を愛するが故に汝をもて之が王となせりと 12 ヒラムまた言けるは天地の造主なるイスラエルの神エホバは讃べきかな彼はダビデ王に賢き子を與へて之に分別と才智とを賦け之をしてエホバのために家を建てまた己の國のために家を建てることを得せしむ 今我わが達人ヒラムといふ才智ある工人一人を汝におくる 14 彼はダンの子孫たる婦の産る者にて其父はツロの人なるが金銀銅鐵木石の細工および紫布青布細布赤布の織法に精しく又能く各種の彫刻を爲し奇巧を凝して諸の工をなすなり然ば彼を用ひてなんぢの工人および汝の父わが主ダビデの工人とともに操作しめよ 15 是については我主の宣まへる小麥大麥油および酒をその僕等に遣りたまへ 16 汝の凡て需むるごとく我らレバノンより木を斫いだしこれを筏にくみて海より

ヨツバにおくるべければ汝これをエルサレムに運びのぼりたまへと 17 ここにおいてソロモンその父ダビデが核數しごとくイスラエルの國にをる異邦人をことごとく核數みるに合せて十五萬三千六百人ありければ 18 その七萬人をもて荷を負ふ者となし八萬人をもて山にて木や石を斫る者となし三千六百人をもて民を操作かしむる監督者となせり

3 ソロモン、エルサレムのモリア山にエホバの家を建ることを始む彼處はその父ダビデにエホバの顯はれたまひし所にて即ちエブス人オルナンの打場の中にダビデが備へし處なり 2 之を建ることを始めたはその治世の四年の二月二日なり 3 神の家を建るためにソロモンの置たる基は是のごとし長六十キュビト濶二十キュビト皆古の尺に循がふ 4 家の前の廊は家の濶にしたがひてその長二十キュビトまたその高は百二十キュビトその内は純金をもて蔽ふ 5 またその大殿は松の木をもて張つめ美金をもて之を蔽ひその上に棕櫚と鏈索の形を施こし 6 また寶石をもてその家を美しく飾るその金はパルワイムの金なり 7 彼また金をもてその家その樑その闕その壁およびその戸を蔽ひ壁の上にケルビムを刻つく 8 また至聖所の家を造りしがその長は家の濶にしたがひて二十キュビトその濶も二十キュビト、美金をもてこれを蔽ふその金六百タラント 9 その釘の金は重五十シケルまた上の室も金にて覆ふ 10 また至聖所の家の内に刻鑄めたる二のケルビムを造り金をこれに覆ふ 11 そのケルビムの翼は長二十キュビト此ケルブの一の翼は五キュビトにして家の壁に達しその他の翼も五キュビトにして彼のケルブの翼に達す 12 また彼ケルブの一

の翼は五キュビトにして家の壁に達しその他の翼も五キュビトにして此ケルブの翼と相接はる 13 是等のケルビムの翼はその舒ひろがること二十キュビト共にその足にて立ちその面を家に向く 14 彼また青紫赤の布および細布をもて障蔽の幕を作りケルビムをその上に繡ふ 15 また家の前に柱二本を作るその高は三十五キュビトその頂の頭は五キュビト 16 また環飾を造り鏈索を之に繞らしてこれを柱の頂に施こし石榴一百をつくりてその鏈索の上に施こす 17 この柱を拝殿の前に豎て一本を右に一本を左に置ゑ右なる者をヤキンと名け左なる者をボアズと名く

4 ソロモンまた銅の壇を作れりその長二十キュビト濶二十キュビトその高十キュビト 2 また海を鑄造れり此邊より彼邊まで十キュビトにしてその周圍は圓くその高は五キュビトその周圍には三十キュビトの繩をめぐらすべし 3 その下には牛の像ありてその周圍を繞る即ち一キュビトに十宛ありて海の周圍を繞れり此牛は二行にして海を鑄る時に鑄付たるなり 4 その海は十二の牛の上に立りその三は北にむかひ三は西にむかひ三は南にむかひ三は東にむかふ海はその上にありて牛の後はみな内にむかふ 5 その厚は手寬その邊は百合花形にして杯の邊の如くに作れり是は三千バテを受容る 6 彼また洗盤十箇を作りて五箇を右に五箇を左に置たり是はものを洗ふ所にして燔祭の品をその中にて灌ぐ海は祭司が其身を洗ふ處なり 7 また金の燈臺十をその例規に従ひて作り拝殿の中に五を右に五を左に置き 8 また案十を作りて拝殿の中に五を右に五を左に据ゆ又金の鉢一百を作れり 9 彼また祭司の庭と大庭および庭の戸を作り銅をもて

その扉を覆ふ 10 海は東のかた右の方に置て南に向はしむ 11 ヒラムまた鍋と火鏟と鉢とを作れり／斯ヒラムはソロモン王のためになせる神の家の諸の工事を終たり 12 即ち二の柱と毬とその二の柱の頂の頭およびその柱の頂なる頭の二の毬を包む二の網工 13 ならびに其ふたつの網工の上にほどこす石榴四百この石榴は各々の網工の上に二行づつありて柱の頂なる頭の二の毬を包む 14 また臺を作り臺の上の洗盤を作れり 15 また一の海とその下なる十二の牛 16 および鍋火鏟肉叉などエホバの家の諸の器具を達人ヒラム ソロモン王の爲に作りたり是みな磨銅なり 17 王ヨルダンの窪地に於てスコテとゼレダタの間の黏土の地にて是等を鑄させたり 18 是のごとくソロモン是らの諸の器皿を甚だ多く造りたればその銅の重は測られざりき 19 ソロモン神の家の一切の器皿を造れり即ち金の壇供前のパンを載る案 20 また定規のごとく神殿の前にて火をとすべき純金の燈臺およびその燈蓋 21 その花その燈蓋その燈鉗是等は金の純精なる者なり 22 また剪刀鉢匙火盤是等も純金なり又家の内の戸すなはち至聖所の戸および拝殿の戸の肘鈕是も金なり

5 斯ソロモンがエホバの家のために爲る一切の工事をはれり是においてソロモンその父ダビデが奉納たる物なる金銀および諸の器皿を携へいりて神の家の府庫の中に置り 2 茲にソロモン、エホバの契約の櫃をダビデの邑シオンより昇のぼらんとてイスラエルの長者と諸の支派の長等イスラエルの子孫の宗家の長をエルサレムに召集めければ 3 イスラエルの人みな七月の節筵に當りて王の所に集まり 4 イスラエルの長老等みな至りレビ人契約の櫃を執あげ 5 その

契約の櫃と集會の幕屋と幕屋にありし諸の聖器を昇のぼれり即ち祭司レビ人これを昇のぼりぬ 6時にソロモン王および彼の許に集まれるイスラエルの會衆契約の櫃の前にありて羊と牛を獻げたりしがその數多くして書すことも數ふることも能はざりき 7かくて祭司等エホバの契約の櫃をその處に昇いれたり即ち室の神殿なる至聖所の中のケルビムの翼の下に昇いりぬ 8ケルビムは翼を契約の櫃の所の上に舒べケルビム上より契約の櫃とその杠を掩ふ 9杠長かりければ杠の末は神殿の前の契約の櫃より見えたり然れども外には見えざりき其は今日まで彼處にあり 10契約の櫃の内には二枚の板の外何もあらず是はイスラエルの子孫のエジプトより出たる時エホバが彼らと契約を結びたまへる時にモーセがホレブにて蔵めたる者なり 11斯て祭司等は聖所より出たり此にありし祭司はみな身を潔めその班列によらずして職務をなせり 12またレビ人の謳歌者すなはちアサフ、ヘマン、エドトン及び彼らの子等と兄弟等はみな細布を纏ひ鑢鈸と瑟とを操て壇の東に立りまた祭司百二十人彼らとともにありて喇叭を吹り 13喇叭を吹く者と謳歌者とは一人のごとくに聲を齊うしてエホバを讃かつ頌へたりしが彼ら喇叭鑢鈸等の樂器をもちて聲をふりたて善かなエホバその矜憫は世々限なしと云てエホバを讃ける時に雲その室すなはちエホバの室に充り 14祭司は雲の故をもて立て奉事をなすことを得ざりきエホバの榮光神の室に充たればなり

6是においてソロモン言けるはエホバは濃き雲の中に居んと言たまひしが 2我汝のために住むべき家永久に居べき所を建たりと 3而して王その面をふりむ

けてイスラエルの全會衆を祝せり時にイスラエルの
會衆は皆立をれり 4 彼いひけるはイスラエルの神エ
ホバは讚べき哉エホバはその口をもて吾父ダビデに
言ひその手をもて之を成とげたまへり 5 即ち言たま
ひけらく我はわが民をエジプトの地より導き出せし
日より我名を置べき家を建しめんためにイスラエルの
諸の支派の中より何の邑をも選みしこと無く又何
人をも選みて我民イスラエルの君となせしこと無し
6 只我はわが名を置くためにエルサレムを選みまた我
民イスラエルを治めしむるためにダビデを選めり 7
夫イスラエルの神エホバの名のために家を建ること
は我父ダビデの心にありき 8 然るにエホバわが父ダ
ビデに言たまひけるは我名のために家を建ること汝
の心にあり汝の心にこの事あるは善し 9 然れども汝
はその家を建べからず汝の腰より出る汝の子その人
わが名のために家を建べしと 10 而してエホバその言
たまひし言をおこなひたまへり即ち我わが父ダビデ
に代りて立ちエホバの言たまひしごとくイスラエルの
位に坐しイスラエルの神エホバの名のために家を
建て 11 その中にエホバがイスラエルの子孫になした
まひし契約を容る櫃ををさめたりと 12 ソロモン、イ
スラエルの全會衆の前にてエホバの壇の前に立てそ
の手を舒ぶ 13 ソロモンさきに長五キュビト濶五キュ
ビト高三キュビトの銅の臺を造りてこれを庭の眞中
に据おきたりしが乃ちその上に立ちイスラエルの全
會衆の前にて膝をかがめ其手を天に舒て 14 言けるは
イスラエルの神エホバ天にも地にも汝のごとき神な
し汝は契約を保ちたまひ心を全うして汝の前に歩む
ところの汝の僕等に恩恵を施こしたまふ 15 汝は汝の

僕わが父ダビデにのたまひし所を保ちたまへり汝は口をもて言ひ手をもて成就たまへること今日のごとし **16** イスラエルの神エホバよ然ば汝が僕わが父ダビデに語りて若し汝の子孫その道を慎みて汝がわが前に歩めるごとくに我律法にあゆまばイスラエルの位に坐する人わが前にて汝に缺ること無るべしと言たまひし事をダビデのために保ちたまへ **17** 然ばイスラエルの神エホバよ汝が僕ダビデに言たまへるなんぢの言に效驗あらしめたまへ **18** 但し神果して地の上に人とともに居たまふや夫天も諸天の天も汝を容るに足ず況て我が建たる此家をや **19** 然れども我神エホバよ僕の祈祷と懇願をかへりみて僕が今汝の前に祈るその號呼と祈祷を聽たまへ **20** 願くは汝の目を夜晝此家の上即ち汝が其名を置んと言たまへる所の上に開きたまへ願くは僕がこの處にむかひて祈らん祈祷を聽たまへ **21** 願くは僕と汝の民イスラエルがこの處にむかひて祈る時にその懇願を聽たまへ請ふ汝の住處なる天より聞き聽て赦したまへ **22** 人その隣人にむかひて罪を犯せることありてその人誓をもて誓ふことを要められんに若し來りてこの家において汝の壇の前に誓ひなば **23** 汝天より聽て行ひ汝の僕等を鞠き惡き者に返報をなしてその道をその首に歸し義者を義としてその義にしたがひて之を待ひたまへ **24** 汝の民イスラエルなんぢに罪を犯したるがために敵の前に敗れんに若なんぢに歸りて汝の名を崇め此家にて汝の前に祈り願ひなば **25** 汝天より聽て汝の民イスラエルの罪を赦し汝が彼等とその先祖に與へし地に彼等を歸らしめたまへ **26** 彼らが汝に罪を犯したるがために天閉て雨なからんに彼ら若この處にむかひて祈り

汝の名を崇め汝が彼らを苦しめたまふ時にその罪を
離れなば 27 汝天より聽きて汝の僕等なんぢの民イス
ラエルの罪を赦したまへ汝既にかれらにその歩むべ
き善道を教へたまへり汝の民に與へて産業となさし
めたまひし汝の地に雨を降したまへ 28 若くは國に饑
饉あるか若くは疫病枯死朽腐蝨賊稻蠹あるか若くは
其敵かれらをその國の邑に圍む等如何なる災禍如何
なる疾病あるとも 29 もし一人或は汝の民イスラエル
みな各々おのれの災禍と憂患を知てこの家にむかひ
て手を舒なば如何なる祈祷如何なる懇願をなすとも
30 汝の住處なる天より聽て赦し各々の人にその心を
知たまふごとくその道々にしたがひて報いたまへ其
は汝のみ人々の心を知たまへばなり 31 汝かく彼らを
して汝が彼らの先祖に與へたまへる地に居る日の間
つねに汝を畏れしめ汝の道に歩ましめたまへ 32 且汝
の民イスラエルの者にあらずして汝の大なる名と強
き手と伸たる腕とのために遠き國より來れる異邦人
においてもまた若來りてこの家にむかひて祈らば 33
汝の住處なる天より聽き凡て異邦人の汝に顧もとむ
るごとく成たまへ汝かく地の諸の民をして汝の名を
知らしめ汝の民イスラエルの爲ごとくに汝を畏れし
め又わが建たる此家は汝の名をもて稱らるるといふ
ことを知しめたまへ 34 汝の民その敵と戦はんとて汝
の遣はしたまふ道に進める時もし汝が選びたまへる
この邑およびわが汝の名のために建たる家にむかひ
て汝に祈らば 35 汝天より彼らの祈祷と懇願を聽て彼
らを助けたまへ 36 人は罪を犯さざる者なければ彼ら
汝に罪を犯すことありて汝かれらを怒り彼らをその
敵に付したまひて敵かれらを虜として遠き地または

近き地に曳ゆかん時 37 彼らその擄れゆきし地において自ら心に了るところあり其俘擄の地において翻へりて汝に祈り我らは罪を犯し悖れる事を爲し悪き事を行ひたりと言ひ 38 その擄へゆかれし俘擄の地にて一心一念に汝に立歸り汝がその先祖に與へたまへる地にむかひ汝が選びたまへる邑と我が汝の名のために建たる家にむかひて祈らば 39 汝の住處なる天より彼らの祈祷と懇願を聽て彼らを助け汝の民が汝にむかひて罪を犯したるを赦したまへ 40 然ば我神よ願くは此處にて爲す祈祷に汝の目を開き耳を傾むけたまへ 41 エホバ神よ今汝および汝の力ある契約の櫃起て汝の安居の所にいりたまへエホバ神よ願くは汝の祭司等に拯救の衣を纏はせ汝の聖徒等に恩恵を喜こばせたまへ 42 エホバ神よ汝の膏そそぎし者の面を黜ぞけたまふ勿れ汝の僕ダビデの徳行を記念たまへ

7 ソロモン祈ることを終し時天より火くだりて燔祭と犠牲とを焚きエホバの榮光その家に充り 2 エホバの榮光エホバの家に充しに因て祭司はエホバの家に入ことを得ざりき 3 イスラエルの子孫は皆火の降れるを見またエホバの榮光のその家にのぞめるを見て敷石の上にて地に俯伏て拝しエホバを讚て云り善かなエホバその恩恵は世々限なしと 4 斯て王および民みなエホバの前に犠牲を献ぐ 5 ソロモン王の献げたる犠牲は牛二萬二千羊十二萬斯王と民みな神の家を開けり 6 祭司は立てその職をなしレビ人はエホバの樂器を執て立つ其樂器はダビデ王彼らの手によりて讚美をなすに當り自ら作りてエホバの恩恵は世々限なしと頌へしめし者なり祭司は彼らの前にありて喇叭を吹きイスラエルの人は皆立をる 7 ソロモンまた

エホバの家の前なる庭の中を聖め其處にて燔祭と酬
恩祭の脂とを献げたり是はソロモンの造れる銅の壇
その燔祭と素祭と脂とを受るに足ざりしが故なり 8
その時ソロモン七日の間節筵をなしけるがイスラエ
ル全國の人々すなはちハマテの入口よりエジプトの
河までの人々あつまりて彼とともにあり其會はなは
だ大なりき 9 かくて第八日に聖會を開けり彼らは七
日のあひだ壇奉納の禮をおこなひまた七日のあひだ
節筵を守りけるが 10 七月の二十三日にいたりてソロ
モン民をその天幕に歸せり皆エホバがダビデ、ソロ
モンおよびその民イスラエルに施こしたまひし恩惠
のために喜び且心に楽しみて去り 11 ソロモン、エ
ホバの家と王の家とを造了へエホバの家と己の家と
につきて爲んと心に思ひし事を盡く成就たり 12 時に
エホバ夜ソロモンに顯れて之に言たまひけるは我す
でに汝の祈禱を聽きまた此處をわがために選びて犧
牲を献ぐる家となす 13 我天を閉て雨なからしめ又は
蝨賊に命じて地の物を食はしめ又は疫病を我民の中
におくらんに 14 我名をもて稱らるる我民もし自ら卑
くし祈りてわが面を求めその悪き道を離れなば我天
より聽てその罪を赦しその地を醫さん 15 今より我こ
の處の祈禱に目を啓き耳を傾むけん 16 今我すでに此
家を選びかつ聖別む我名は永く此にあるべしまた我
目もわが心も恒に此にあるべし 17 汝もし汝の父ダビ
デの歩みしごとく我前に歩み我が汝に命じたるごと
く凡て行ひてわが法度と律例を守らば 18 我は汝の父
ダビデに契約してイスラエルを治むる人汝に缺るこ
と無るべしと言しごとく汝の國の柝を堅うすべし 19
然ど汝ら若ひるがへり我が汝らの前に置たる法度と

誠命を棄て往て他の神々に事へかつ之を拝まば **20** 我かれらを我が與へたる地より拔さるべし又我名のために我が聖別たる此家は我これを我前より投棄て萬國の中に諺語となり嘲笑とならしめん **21** 且又この家は高くあれども終にはその傍を過る者は皆これに驚きて言んエホバ何故に此地に此家に斯なしたるやと **22** 人これに答へて言ん彼ら己の先祖をエジプトの地より導き出ししその神エホバを棄て他の神々に附從がひ之を拝み之に事へしによりてなりエホバ之がためにこの諸の災禍を彼らに降せりと

8 ソロモン二十年を経てエホバの家と己の家を建をはりけるが **2** ヒラム邑幾何をソロモンに歸しければソロモンまた之を建なほしイスラエルの子孫をしてその中に住しむ **3** ソロモンまたハマテゾバに往て之に勝り **4** 彼また曠野のタデモルを建てハマテの諸の府庫邑を建つ **5** また上ベテホロンおよび下ベテホロンを建つ是は堅固の邑にして石垣あり門あり關木あり **6** ソロモンまたバアラテとおのが有る府庫の邑々と戦車の諸の邑々と騎兵の邑々ならびにそのエルサレム、レバノンおよび己が治むところの全地に建んと望みし者を盡く建つ **7** 凡てイスラエルの子孫にあらざるヘテ人アモリ人ペリジ人ヒビ人エブス人の遺れる者 **8** その地にありて彼らの後に遺れるその子孫即ちイスラエルの子孫の滅ぼし盡さざりし民はソロモンこれを使役して今日にいたる **9** 然れどもイスラエルの子孫をばソロモン一人も奴隸となして其工事に使ふことをせざりき彼らは軍人となり軍旅の長となり戦車と騎兵の長となれり **10** ソロモン王の有司の首は二百五十人ありて民を統ぶ **11** ソロモン、パロ

の女をダビデの邑より携へのぼりて曩にこれがために建おきたる家にいたる彼すなはち言ひ我妻はイスラエルの王ダビデの家に居べからずエホバの契約の櫃のいたれる處は皆聖ければなりと 12 茲にソロモン曩に廊の前に築きおきたるエホバの壇の上にてエホバに燔祭を献ぐることをせり 13 即ちモーセの命令にしたがひて毎日例のごとくに之を献げ安息日月朔および年に三次の節會すなはち酵いれぬパンの節と七週の節と結茅節とに之を献ぐ 14 ソロモンその父ダビデの定めたる所にしたがひて祭司の班列を定めてその職に任じ又レビ人をその勤務に任じて日々例のごとく祭司の前にて頌讚をなし奉事をなさしめ又門を守る者をしてその班列にしたがひて諸門を守らしむ神の人ダビデの命ぜしところ是の如くなりければなり 15 祭司とレビ人は諸の事につきました府庫の事につきて王に命ぜられたる所に違ざりき 16 ソロモンはエホバの家の基を置く日までにその工事の準備をことごとく爲しおきて遂に之を成をへたればエホバの家は全備せり 17 茲にソロモン、エドムの地の海邊にあるエジオンゲベルおよびエロテに往り 18 時にヒラムその僕等の手に託て船を彼に遣りまた海の事を知る僕等を遣りけるが彼等すなはちソロモンの僕とともにオフルに往て彼處より金四百五十タラントを取てソロモン王の許に携へ來れり

9 茲にシバの女王ソロモンの風聞を聞および難問をもてソロモンを試みんとて甚だ衆多の部從をしたがへ香物と夥多き金と寶石とを駱駝に負せてエルサレムに來りソロモンの許にいたりてその心にある所をことごとく之に陳けるに 2 ソロモンこれが問に盡く

答へたりソロモンの知ずして答へざる事は無りき 3
シバの女王ソロモンの智慧とその建たる家を觀 4
またその席の食物とその諸臣の列坐る状とその侍臣の
伺候状と彼らの衣服およびその酒人とその衣服なら
びに彼がエホバの家に上りゆく昇道を觀におよびて
全くその氣を奪はれたり 5 是において彼王に言ける
は我が自己の國にて汝の行爲と汝の智慧とにつきて
聞およびたる言は眞實なりき 6 然るに我は來りて目
に觀るまではその言を信ぜざりしが今視ば汝の智慧
の大なる事我が聞たるはその半分にも及ばざりき汝
は我が聞たる風聞に愈れり 7 汝の人々は幸福なるか
な汝の前に常に立て汝の智慧を聽る此なんぢの臣僕
等は幸福なるかな 8 汝の神エホバは讚べき哉彼なん
ぢを悦びてその位に上らせ汝の神エホバの爲に汝
を王となしたまへり汝の神イスラエルを愛して永く
之を堅うせんとするが故に汝を之が王となして公平
と正義を行はせたまふなりと 9 すなはち金百二十タ
ラントおよび莫大の香物と寶石とを王に饋れりシバ
の女王がソロモン王に饋りたるが如き香物は未だ曾
て有ざりしなり 10 (かのオフルより金を取きたりし
ヒラムの臣僕とソロモンの臣僕等また白檀木と寶石
とをも携さへいたりければ 11 王その白檀木をもてエ
ホバの家と王の宮とに段階を作りまた謳歌者のため
に琴と瑟とを作れり是より前には是のごとき者ユダ
の地に見しこと無りき) 12 ソロモン王シバの女王に
物を饋りてその携へきたれる所に報いたるが上にま
た之が望にまかせて凡てその求むる者を與へたり斯
て彼はその臣僕とともに去てその國に還りぬ 13 一年
にソロモンの所に来れる金の重量は六百六十六タラ

ントなり 14 この外にまた商賣および商旅の携へきたる者ありアラビアの一切の王等および國の知事等もまた金銀をソロモンに携へ至れり 15 ソロモン王展金の大楯二百を作れりその大楯一枚には展金六百シケルを用ふ 16 また展金の小干三百を作れり其小干一枚には金三百シケルを用ふ王これらをレバノン森の家に置き 17 王また象牙をもて大なる寶座一を造り純金をもて之を蔽へり 18 その寶座には六の階級あり又金の足臺ありて共にその寶座に連なりその坐する處の此旁彼旁に按手ありて按手の側に二頭の獅子立をり 19 その六の階級に十二の獅子ありて此旁彼旁に立り是のごとき者を作る國は未だ曾て有ざりしなり 20 ソロモン王の用ゐる飲料の器は皆金なりまたレバノン森の家の器もことごとく精金なり銀はソロモンの世には何とも算ざりしなり 21 其は王の舟ヒラムの僕を乗てタルシシに往き三年毎に一回その舟タルシシより金銀象牙猿および孔雀を載て來りたればたり 22 ソロモン王は天下の諸王に勝りて富有と智慧とをもちたれば 23 天下の諸王みな神がソロモンの心に授けたまへる智慧を聽んとてソロモンの面を見んことを求め 24 各々その禮物を携さへ來る即ち銀の器金の器衣服甲冑香物馬騾など年々定分ありき 25 ソロモン戦車の馬四千厩騎兵一萬二千あり王これを戦車の邑々に置きまたエルサレムにて自己の所に置き 26 彼は河よりペリシテの地とエジプトの界までの諸王を統治めたり 27 王は銀を石のごとくエルサレムに多からしめまた香柏を平野の桑木のごとく多からしめたり 28 また人衆エジプトなどの諸國より馬をソロモンに率いたれり 29 ソロモンのその餘の始終の行爲は預言者

ナタンの書とシロ人アヒヤの預言と先見者イドがネバテの子ヤラベアムにつきて述たる黙旨の中に記さるるにあらざるや **30** ソロモンはエルサレムにて四十年の間イスラエルの全地を治めたり **31** ソロモンその先祖等と俱に寝りてその父ダビデの邑に葬られ其子レハベアムこれに代りて王となれり

10 爰にレハベアム、シケムに往り其はイスラエルみな彼を王となさんとてシケムに到りたればたり **2** ネバテの子ヤラベアムはさきにソロモン王の面を避てエジプトに逃れ居しがこのことを聞てエジプトより歸れり **3** 人衆人を遣はして之を招きたるなり斯てヤラベアムとイスラエルの人みな來りてレハベアムに語りて言けるは **4** 汝の父我らの軛を苦しくせり然ば汝今汝の父の苦しき役とその我らに蒙むらせたる重き軛を軽くしたまへ然れば我儕なんぢに事へん **5** レハベアムかれらに言けるは汝ら三日を経て再び我に來れと民すなはち去り **6** 是においてレハベアム王その父ソロモンの生る間これが前に立たる老人等に計りて言けるは汝ら如何に教へて此民に答へしむるや **7** 彼らレハベアムに語りて言けるは汝もし此民を厚く待ひ之を悦こばせ善言を之に語らば永く汝の僕たらんと **8** 然るに彼その老人等の教へし教を棄て自己とともに生長て己の前に立ところの少年等と計れり **9** 即ち彼らに言けるは汝ら如何に教へて我らをして此我に語りて汝の父の我らに蒙むらせし軛を軽くせよと言ふ民に答へしむるやと **10** 彼とともに生長たる少年等かれに語りて言けるは汝に語りて汝の父我らの軛を重くしたれば汝これを我らのために軽くせよと言たる此民に汝かく答へ斯これに言べし吾小指

は我父の腰よりも太し **11** 我父は汝らに重き軛を負せたりしが我は更に汝らの軛を重くせん我父は鞭をもて汝らを懲せしが我は蠍をもて汝らを懲さんと **12** 偕またヤラベアムと民等は皆王の告て第三日に再び我にきたれと言しごとく第三日にレハベアムに詣りしに **13** 王荒々しく彼らに答へたり即ちレハベアム王老人の教を棄て **14** 少年の教のごとく彼らに告て言けるは我父は汝らの軛を重くしたりしが我は更に之を重くせん我父は鞭をもて汝らを懲せしが我は蠍をもて汝らを懲さんと **15** 王かく民に聽ことをせざりき此事は神より出たる者にしてその然るはエホバかつてシロ人アヒヤによりてネバテの子ヤラベアムに告たる言を成就んがためなり **16** イスラエルの民みな王の己に聽ざるを見しかば王に答へて言けるは我らダビデの中に何の分あらんやエッサイの子の中には所有なしイスラエルよ汝ら各々その天幕に歸れダビデ族よ今おのれの家を顧みよと斯イスラエルは皆その天幕に歸れり **17** 但しユダの邑々に住るイスラエルの子孫の上にはレハベアムなほ王たりき **18** レハベアム王役夫の頭なるアドラムを遣はしけるにイスラエルの子孫石をもてこれを撃て死しめたればレハベアム王急ぎてその車に登りてエルサレムに逃かへれり **19** 是のごとくイスラエルはダビデの家に背きて今日にいたる

11 茲にレハベアム、エルサレムに至りてユダとベニヤミンの家より倔強の武者十八萬を集め而してレハベアム國を己に歸さんためにイスラエルと戦はんとせしに **2** エホバの言神の人シマヤに臨みて云ふ **3** ソロモンの子ユダの王レハベアムおよびユダとベニ

ヤミンにあるイスラエルの人々に告て言べし 4 エホバかく言ふ汝ら攻上るべからず又なんぢらの兄弟と戦ふべからず各々その家に歸れ此事は我より出たる者なりと彼ら乃はちエホバの言にしたがひヤラベアムに攻ゆくことを止て歸れり 5 斯てレハベアム、エルサレムに居りユダに守衛の邑々を建たり 6 即ちその建たる者はベテレヘム、エタム、テコア 7 ベテズル、シヨコ、アドラム 8 ガテ、マレシヤ、ジフ 9 アドライム、ラキシ、アゼカ 10 ゾラ、アヤロン、ヘブロン是等はユダとベニヤミンにありて守衛の邑なり 11 彼その守衛の邑々を堅固にし之に軍長を置き糧食と油と酒とを貯はへ 12 またその一切の邑に盾と矛とを備へて之を甚だ強からしむユダとベニヤミンこれに附り 13 イスラエルの全地の祭司とレビ人は四方の境より來りてレハベアムに投ず 14 即ちレビ人はその郊地と産業とを離れてユダとエルサレムに至れり是はヤラベアムとその子等かれらを廢して祭司の職をエホバの前に爲しめざりし故なり 15 ヤラベアムは崇邱と牡山羊と己が作れる犢とのために自ら祭司を立つ 16 またイスラエルの一切の支派の中凡てその心を傾むけてイスラエルの神エホバを求むる者はその先祖の神エホバに禮物を獻げんとてレビ人にしたがひてエルサレムに至れり 17 是のごとく彼等ユダの國を固うしソロモンの子レハベアムをして三年の間強からしめたり即ち民は三年の間ダビデとソロモンの道に歩めり 18 レハベアムはダビデの子エレモテの女マハラテを妻に娶れりマハラテはエッサイの子エリアブの女アビハイルの産し者なり 19 彼エウシ、シヤマリヤおよびザハムの三子を産む 20 また之が後にアブ

サロムの女マアカを娶れり彼アビヤ、アツタイ、ジザおよびシロミテを産む 21レハベアムはアブサロムの女マアカをその一切の妻と妾とにまさりて愛せり彼は妻十八人妾六十人を取り男子二十八人女子六十人を擧ぐ 22レハベアム、マアカの子アビヤを王となさんと思ふが故に之を立て首となしその兄弟の長となせり 23斯るが故に慧く取行ひ其男子等を盡くユダとベニヤミンの地なる守衛の邑々に散し置き之に糧食を多く與へかつ衆多の妻を求得させたり

12レハベアムその國を固くしその身を強くするに及びてエホバの律法を棄たりイスラエルみな之に倣ふ 2彼ら斯エホバにむかひて罪を犯すによりてレハベアムの五年にエジプトの王シシヤク、エルサレムに攻のぼれり 3その戦車は一千二百騎兵は六萬また彼に従がひてエジプトより來れる民ルビ人スキ人エテオピヤ人等は數しれず 4彼すなはちユダの守衛の邑々を取り進てエルサレムに至る 5是においてレハベアムおよびユダの牧伯等シシヤクの故によりてエルサレムに集まり居けるに預言者シマヤこれが許にいたりて之に言けるはエホバかく言たまふ汝等は我を棄たれば我も汝らをシシヤクの手に遺おけりと 6是をもてイスラエルの牧伯等および王は自ら卑くしてエホバは義と言ひ 7エホバかれらが自ら卑くするを見たまひければエホバの言シマヤに臨みて言ふ彼等は自ら卑くしたれば我かれらを滅ぼさず少く拯救を彼らに施こさん我シシヤクの手をもて我忿怒をエルサレムに洩さじ 8然ながら彼等は之が臣とならん是彼らが我に事ふる事と國々の王等に事ふる事との辨をしらん爲なりと 9エジプトの王シシヤクすなは

ちエルサレムに攻のぼりエホバの家の寶物と王の家の寶物とを奪ひて盡くこれを取り又ソロモンの作りたる金の楯を奪ひされり **10** 是をもてレハベアム王その代に銅の楯を作り王の家の門を守る侍衛の長等の手にこれを交し置けるが **11** 王エホバの家に入る時には侍衛きたりて之を負ひまた侍衛の房にこれを持かへれり **12** レハベアム自ら卑くしたればエホバの忿怒かれを離れこれを盡く滅ぼさんとは爲たまはず又ユダにも善事ありき **13** レハベアム王はエルサレムにありてその力を強くし世を治めたり即ちレハベアムは四十一歳のとき位に即き十七年の間エルサレムにて世を治む是すなはちエホバがその名を置んとてイスラエルの一切の支派の中より選びたまへる邑なり彼の母はアンモニ人にしてその名をナアマといふ **14** レハベアムはエホバを求むる事に心を傾けずして悪き事を行へり **15** レハベアムの始終の行爲は預言者シマヤの書および先見者イドの書の中に系圖の形に記さるるに非ずやレハベアムとヤラベアムの間には絶ず戦争ありき **16** レハベアムその先祖等とともに寝りてダビデの邑に葬られ其子アビヤ之にかはりて王となれり

13 ヤラベアム王の十八年にアビヤ、ユダの王となり **2** エルサレムにて三年の間世を治めたり其母はギベアのウリエルの女にして名をミカヤといふ茲にアビヤとヤラベアムの間に戦争あり **3** アビヤは四十萬の軍勢をもて戦闘に備ふ是みな倔強の猛き武夫なり又ヤラベアムは倔強の人八十萬をもて之にむかひて戦争の行伍を立つ是また大勇士なり **4** 時にアビヤ、エフライムの山地なるゼマライム山の上に立て言け

るはヤラベアムおよびイスラエルの人々皆聽よ 5 汝ら知ずやイスラエルの神エホバ鹽の契約をもてイスラエルの國を永くダビデとその子孫に賜へり 6 然るにダビデの子ソロモンの臣たるネバテの子ヤラベアム興りてその主君に叛き 7 邪曲なる放蕩者これに集り付き自ら強くしてソロモンの子レハベアムに敵せしがレハベアムは少くまた心弱くして之に當る力なかりき 8 今またなんぢらはダビデの子孫の手にあるエホバの國に敵對せんとす汝らは大軍なり又ヤラベアムが作りて汝らの神と爲たる金の犢なんぢらと偕にあり 9 汝らはアロンの子孫たるエホバの祭司とレビ人とを逐放ち國々の民の爲がごとくに祭司を立てるにあらずや即ち誰にもあれ少き牡牛一匹牡羊七匹を携へきたりて手に充す者は皆かの神ならぬ者の祭司となることを得るなり 10 然ど我儕に於てはエホバ我儕の神にましまして我儕は之を棄ずまたエホバに事ふる祭司はアロンの子孫にして役事をなす者はレビ人なり 11 彼ら朝ごと夕ごとにエホバに燔祭を獻げ香を焚くことを爲し又供前のパンを純精の案の上に供へまた金の燈臺とその燈蓋を整へて夕ごとに點すなり斯われらは我らの神エホバの職守を守れども汝らは却て彼を棄たり 12 視よ神みづから我らとともに在して我らの大將となりたまふまた其祭司等は喇叭を吹ならして汝らを攻むイスラエルの子孫よ汝らの先祖の神エホバに敵して戦ふ勿れ汝ら利あらざるべければなりと 13 ヤラベアム伏兵を彼らの後に回らせたればイスラエルはユダの前にあり伏兵は其後にあり 14 ユダ後を顧みるに敵前後にありければエホバにむかひて號呼り祭司等喇叭を吹り 15 ユダの人々すなは

ち呐喊を擧げるがユダの人々呐喊を擧るにあたりて神ヤラベアムとイスラエルの人々をアビヤとユダの前に打敗り給ひしかば **16** イスラエルの子孫はユダの前より逃はしれり神かく彼らを之が手に付したまひければ **17** アビヤとその民彼らを夥多く撃殺せりイスラエルの殺されて倒れし者は五十萬人みな倔強の人なりき **18** 是時にはイスラエルの子孫打負されユダの子孫勝を得たり是は彼らその先祖の神エホバを頼みしが故なり **19** アビヤすなはちヤラベアムを追撃て邑數箇を彼より取れり即ちペテルとその郷里エシヤナとその郷里エフロンとその郷里是なり **20** ヤラベアムはアビヤの世に再び權勢を奮ふことを得ずエホバに撃れて死り **21** 然どアビヤは權勢を得妻十四人を娶り男子二十二人女子十六人を擧けたり **22** アビヤのその餘の作爲とその行爲とその言は預言者イドの註釋に記さる

14 アビヤその先祖等とともに寝りてダビデの邑に葬られその子アサこれに代りて王となれりアサの代になりて其國十年の間平穩なりき **2** アサはその神エホバの目に善と視正義と視たまふ事を行へり **3** 即ち異なる祭壇を取のぞき諸の崇邱を毀ち柱像を打碎きアシラ像を斫倒し **4** ユダに命じてその先祖等の神エホバを求めしめその律法と誠命を行はしめ **5** ユダの一切の邑々より崇邱と日の像とを取除けり而して國は彼の前に平穩なりき **6** 彼また守衛の邑數箇をユダに建たり是はその國平安を得て此年頃戰爭なかりしに因る即ちエホバ彼に安息を賜ひしなり **7** 彼すなはちユダに言けるは我儕是等の邑を建てその四周に石垣を築き戍樓を起し門と門門とを設けん我儕の神エ

ホバを我儕求めしに因て此國なほ我儕の前にあり我ら彼を求めたれば四方において我らに平安を賜へりと斯彼ら阻滞なく之を建了たり 8 アサの軍勢はユダより出たる者三十萬ありて楯と戈とを執りベニヤミンより出たる者二十八萬ありて小楯を執り弓を彎く是みな大勇士なり 9 茲にエテオピア人ゼラ軍勢百萬人戦車三百輛を率ゐて攻きたりマレシヤに至りければ 10 アサこれにむかひて進み出で共にマレシヤのゼパタの谷において戦争の陣列を立つ 11 時にアサその神エホバにむかひて呼はりて言ふエホバよ力ある者を助くるも力なき者を助くるも汝においては異ること無し我らの神エホバよ我らを助けたまへ我らは汝に倚頼み汝の名に託りて往て此群集に敵るエホバよ汝は我らの神にましませり人をして汝に勝せたまふ勿れと 12 エホバすなはちアサの前とユダの前においてエテオピア人を撃敗りたまひしかばエテオピア人逃はしりけるに 13 アサと之に従がふ民かれらをゲラルまで追撃り斯エテオピア人は倒れて再び振ふことを得ざりき其は彼等エホバとその軍旅に打敗られたればなりユダの人々の得たる掠取物は甚だ多き 14 かれらはまたゲラルの四周の邑々を盡く撃やぶれり是の邑々エホバを畏れたればなり是において彼らその一切の邑より物を掠めたりしがその中より得たる掠取物は夥多かりき 15 また家畜のをる天幕を襲ふて羊と駱駝を多く奪ひ取り而してエルサレムに歸りぬ

15 茲に神の靈オデデの子アザリヤに臨みければ 2 彼出ゆきてアサを迎へ之に言けるはアサおよびユダとベニヤミンの人々よ我に聽け汝等がエホバと偕に

をる間はエホバも汝らと偕に在すべし汝ら若かれを
求めなば彼に遇ん然どかれを棄なば彼も汝らを棄た
まはん 3 抑イスラエルには眞の神なく教訓を施こす
祭司なく律法なきこと日久しかりしが 4 患難の時に
イスラエルの神エホバに立かへりて之を求めたれば
即ちこれに遇り 5 當時は出る者にも入る者にも平安
なく惟大なる苦患くにぐにの民に臨めり 6 國は國に
邑は邑に撃碎かる其は神諸の患難をもて之を苦しめ
たまへばなり 7 然ば汝ら強かれよ汝らの手を弱くす
る勿れ汝らの行爲には賞賜あるべければなりと 8 ア
サこれらの言および預言者オデデの預言を聽て力を
得憎むべき者をユダとベニヤミンの全地より除きま
た其エフライムの山地に得たる邑々より除きエホバ
の廊の前なるエホバの壇を再興せり 9 彼またユダと
ベニヤミンの人々およびエフライム、マナセ、シメ
オンより來りて寄寓る者を集めたりイスラエルの人
々の中エホバ神のアサと偕に在すを見てアサに降れ
る者夥多しかりしなり 10 彼等すなはちアサの治世の
十五年の三月にエルサレムに集り 11 其たづきへ來れ
る掠取物の中より牛七百羊七千をその日エホバに献
げ 12 皆契約を結びて曰く心を盡し精神を盡して先祖
の神エホバを求めん 13 凡てイスラエルの神エホバを
求めざる者は大小男女の區別なく之を殺さんと 14 而
して大聲を擧げ號呼をなし喇叭を吹き角を鳴してエ
ホバに誓を立て 15 ユダみなその誓を喜べり即ち彼ら
一心をもて誓を立て一念にエホバを求めたればエホ
バこれに遇ひ四方において之に安息をたまへり 16 儲
またアサ王の母マアカ、アシラ像を作りしこと有け
ればアサこれを貶して太后たらしめずその像を斫た

ふして粉々に碎きキデロン川にてこれを焚り 17 但し崇邱は尚イスラエルより除かざりき然どもアサの心は一生の間全かりしなり 18 彼はまたその父の納めたる物および己が納めたる物すなはち金銀ならびに器皿等をエホバの家に携へいれり 19 アサの治世の三十五年までは再び戦争あらざりき

16 アサの治世の三十六年にイスラエルの王バアシャ、ユダに攻のぼりユダの王アサの所に誰をも往來せざらしめんとてラマを建たり 2 是においてアサ、エホバの家と王の家との府庫より金銀を取いだしダマスコに住るスリアの王ベネハダデに餽りて言けるは 3 我父と汝の父の間の如く我と汝の間に約を立ん視よ我今汝に金銀を餽れり往て汝とイスラエルの王バアシャとの約を破り彼をして我を離れて去しめよ 4 ベネハダデすなはちアサ王に聽き自己の軍勢の長等をイスラエルの邑々に攻遣ければ彼等イヨン、ダン、アベルマイムおよびナフタリは一切の府庫の邑々を撃たり 5 バアシャ聞てラマを建ることを罷めその工事を廢せり 6 是においてアサ王ユダ全國の人を率ゐるバアシャがラマを建るに用ひたる石と材木を運びきたらしめ之をもてゲバとミズパを建たり 7 その頃先見者ハナニ、ユダの王アサの許にいたりて之に言けるは汝はスリアの王に倚頼みて汝の神エホバに倚頼まざりしに因てスリア王の軍勢は汝の手を脱せり 8 かのエテオピア人とルビ人は大軍にして戦車および騎兵はなはだ多かりしにあらずや然るも汝エホバに倚頼みたればエホバかれらを汝の手に付したまへり 9 エホバは全世界を徧く見そなはし己にむかひて心を全うする者のために力を顯したまふこの事において

汝は愚なる事をなせり故に此後は汝に戦争あるべし
と 10 然るにアサその先見者を怒りて之を獄舎にいれ
たり其は烈しくこの事のために彼を怒りたればなり
アサまた其頃民を虐げたる事ありき 11 アサの始終の
行爲はユダとイスラエルの列王の書に記さる 12 アサ
はその治世の三十九年に足を病みその病患つひに劇
しくなりしがその病患の時にもエホバを求めずして
醫師を求めたり 13 アサその先祖等と偕に寝りその治
世の四十一年に死り 14 人衆これをその己のためにダ
ビデの邑に堀おける墓に葬り製香の術をもて製した
る種々の香物を盈せる床の上に置き之がために夥多
しく焚物をなせり

17 アサの子ヨシヤパテ、アサに代りて王となりイ
スラエルにむかひて力を強くし 2 ユダの一切の堅固
なる邑々に兵を置きユダの地およびその父アサが取
たるエフライムの邑々に鎮臺を置く 3 エホバ、ヨシ
ヤパテとともに在せり其は彼その父ダビデの最初の
道に歩みてバアル等を求めず 4 その父の神を求めて
その誠命に歩みイスラエルの行爲に倣はざればなり
5 このゆゑにエホバ國を彼の手に堅く立たまへりまた
ユダの人衆みなヨシヤパテに禮物を餽れり彼は富と
貴とを極めたり 6 是において彼エホバの道にその心
を勵まし遂に崇邱とアシラ像とをユダより除けり 7
彼またその治世の三年にその牧伯ベネハイル、オバ
デヤ、ゼカリヤ、ネタンエルおよびミカヤを遣はし
てユダの邑々にて教誨をなさしめ 8 またレビ人の中
よりシマヤ、ネタニヤ、ゼバデヤ、アサヘル、セミ
ラモテ、ヨナタン、アドニヤ、トビヤ、トバドニヤ
などいふレビ人を遣して之と偕ならしめ且祭司エリ

シヤマとヨラムをも之と偕に遣はしけるが 9 彼らはエホバの律法の書を携へユダにおいて教誨をなしユダの邑々を盡く行めぐりて民を教へたり。 10 是においてユダの周囲の地の國々みなエホバを懼れてヨシヤパテを攻ることをせざりき 11 またペリシテ人の中に禮物および貢の銀をヨシヤパテに餽れる者あり且又アラビヤ人は家畜をこれに餽れり即ち牡羊七千七百牡山羊七千七百 12 ヨシヤパテは益々大になりゆきてユダに城および府庫邑を多く建て 13 ユダの邑々に多くの工事を爲し大勇士たる軍人をエルサレムに置り 14 彼等を數ふるにその宗家に循へば左のごとしユダより出たる千人の長の中にはアデナといふ軍長あり大勇士三十萬これに従がふ 15 その次は軍長ヨハナン之に従ふ者は二十八萬人 16 その次はジクリの子アマシヤ彼は悦びてその身をエホバに獻げたり大勇士二十萬これに従がふ 17 ベニヤミンより出たる者の中にはエリアダといふ大勇士あり弓および楯を持もの二十萬これに従がふ 18 その次はヨザバデ戰鬥の準備をなせる者十八萬これに従がふ 19 是等は皆王に事ふる者等なり此外にまたユダ全國の堅固なる邑々に王の置く者あり

18 ヨシヤパテは富と貴とを極めアハブと縁を結べり 2 かれ數年の後サマリアに下りてアハブを訪ければアハブ彼およびその部従のために牛羊を多く宰りギレアデのラモテに俱に攻上らんことを彼に勸む 3 すなはちイスラエルの王アハブ、ユダの王ヨシヤパテに言けるは汝我とともにギレアデのラモテに攻めくやヨシヤパテこれに答へけるは我は汝のごとく我民は汝の民のごとし汝とともに戰鬥に臨まんと 4 ヨ

シヤパテまたイスラエルの王に言けるは請ふ今日エホバの言を問たまへと **5** 是においてイスラエルの王預言者四百人を集めて之に言けるは我らギレアデのラモテに往て戦ふべきや又は罷べきや彼等いひけるは攻上りたまへ神これを王の手に付したまふべしと **6** ヨシヤパテいひけるは此外に我らの由て問べきエホバの預言者此にあらざるや **7** イスラエルの王こたへてヨシヤパテに言けるは外になほ一人あり我ら之によりてエホバに問ことを得ん然ど彼は今まで我につきて善事を預言せず恒に悪き事のみを預言すれば我彼を悪むなり其者は即ちイムラの子ミカヤなりと然るにヨシヤパテこたへて王しか宣ふ勿れと言ければ **8** イスラエルの王一人の官吏を呼てイムラの子ミカヤを急ぎ來らしめよと言り **9** イスラエルの王およびユダの王ヨシヤパテは朝衣を纏ひサマリアの門の入口の廣場にて各々その位に坐し居り預言者は皆その前に預言せり **10** 時にケナアナの子ゼデキヤ鐵の角を造りて言けるはエホバかく言たまふ汝是等をもてスリア人を衝て滅ぼし盡すべしと **11** 預言者みな斯預言して云ふギレアデのラモテに攻上りて勝利を得たまへエホバこれを王の手に付したまふべしと **12** 茲にミカヤを召んとて往たる使者これに語りて言けるは預言者等の言は一の口より出るがごとくにして王に善し請ふ汝の言をも彼らの一人のごとくにして善事を言へ **13** ミカヤ言けるはエホバは活く我神の宣ふ所を我は陳べんと **14** かくて王に至るに王彼に言けるはミカヤよ我らギレアデのラモテに往て戦かふべきや又は罷べきや彼言けるは上りゆきて利を得たまへ彼らは汝の手に付されんと **15** 王かれに言けるは我幾度なん

ぢを誓はせたらば汝エホバの名をもて唯眞實のみを
我に告るや **16** 彼言けるは我イスラエルが皆牧者なき
羊のごとく山に散をるを見たるがエホバ是等の者は
主なし各々やすらかに其家に歸るべしと言たまへり
17 イスラエルの王是においてヨシヤパテに言けるは
我なんぢに告て彼は善事を我に預言せず只惡き事の
みを預言せんと言しに非ずやと **18** ミカヤまた言ける
は然ば汝らエホバの言を聽べし我視しにエホバその
位に坐し居たまひて天の萬軍その傍に右左に立をり
しが **19** エホバ言たまひけるは誰かイスラエルの王ア
ハブを誘ひて彼をしてギレアデのラモテにのぼりゆ
きて彼處に斃れしめんかと即ち一は此ごとくせんと
言ひ一は彼ごとくせんと言ければ **20** 遂に一の靈すす
み出てエホバの前に立ち我かれを誘はんと言たれば
エホバ何をもてするかと之に問たまふに **21** 我いでて
虚言を言ふ靈となりてその諸の預言者の口にあらん
と言りエホバ言たまひけるは汝は誘なひ且これを成
就ん出て然すべしと **22** 故に視よエホバ虚言を言ふ靈
を汝のこの預言者等の口に入たまへり而してエホバ
汝に災禍を降さんと定めたまふと **23** 時にケナアナの
子ゼデキヤ近よりてミカヤの頬を批て言けるはエホ
バの靈何の途より我を離れゆきて汝と言ふや **24** ミカ
ヤ言けるは汝奥の室にいりて身を匿す日に見るべし
25 イスラエルの王いひけるはミカヤを取てこれを邑
の宰アモンおよび王の子ヨアシに曳かへりて言べし
26 王かく言ふ我が安然に歸るまで比者を牢にに入れて
苦惱のパンを食せ苦惱の水を飲せよと **27** ミカヤ言け
るは汝もし眞に平安に歸るならばエホバ我によりて
斯宣ひし事あらずと而してまた言り汝ら民よ皆聽べ

しと **28** かくてイスラエルの王およびユダの王ヨシヤパテはギレアデのラモテに上りゆけり **29** イスラエルの王時にヨシヤパテに言けるは我は服装を變て戰陣の中にいらん汝は朝衣を纏ひたまへとイスラエルの王すなはち服装を變へ二人俱に戰陣の中にいれり **30** スリアの王その戦車の長等にかねて命じおけり云く汝ら小き者とか大なる者とも戦ふなかれ惟イスラエルの王とのみ戦へと **31** 戦車の長等ヨシヤパテを見て是はイスラエルの王ならんと言ひ身をめぐらして之と戦はんとせしがヨシヤパテ號呼ければエホバこれを助けたまへり即ち神彼らを感動して之を離れしめたまふ **32** 戦車の長等彼がイスラエルの王にあらざるを見しかば之を追ことをやめて引返せり **33** 茲に一箇の人何心なく弓を彎てイスラエルの王の胸當と草摺の間に射あてたれば彼その御者に言けるは我傷を受たれば汝手を旋らして我を軍中より出せと **34** 此日戦争烈しくなりぬイスラエルの王は車の中に自ら扶持て立ち薄暮までスリア人をささへをりしが日の没る頃にいたりて死り

19 ユダの王ヨシヤパテは恙なくエルサレムに歸りてその家に至れり **2** 時に先見者ハナニの子エヒウ、ヨシヤパテ王を出むかへて之に言けるは汝惡き者を助けエホバを惡む者を愛して可らんや之がためにエホバの前より震怒なんぢの上に臨む **3** 然ながら善事もまた汝の身に見ゆ即ち汝はアシラ像を國中より除きかつ心を傾けて神を求むるなりと **4** ヨシヤパテはエルサレムに住をりしが復出てベエルシバよりエフライムの山地まで民の間を行めぐりその先祖の神エホバにこれを導き歸せり **5** 彼またユダの一切の堅固

なる邑に裁判人を立つ國中の邑々みな然り 6 而して
裁判人に言けるは汝等その爲ところを慎め汝らは人
のために裁判するに非ずエホバのために裁判するな
り裁判する時にはエホバ汝らと偕にいます 7 然ば汝
らエホバを畏れ慎みて事をなせ我らの神エホバは悪
き事なく人を偏視ことなく賄賂を取こと無ればなり
8 ヨシヤパテまたレビ人祭司およびイスラエルの族長
を選びてエルサレムに置きエホバの事および訴訟を
審判しむ彼らはエルサレムにかへれり 9 ヨシヤパテ
これに命じて云く汝らエホバを畏れ眞實と誠心をも
て斯おこなふべし 10 凡てその邑々に住む汝らの兄弟
血を相流せる事または律法と誠命法度と條例などの
事につきて汝らに訴へ出ること有ばこれを諭してエ
ホバに罪を犯さざらしめよ恐らくは震怒なんぢと汝
らの兄弟にのぞまん汝ら斯おこなはば愆なかるべし
11 視よ祭司の長アマリヤ汝らの上においてエホバの
事を凡て司どりユダの家の宰イシマエルの子ゼバデ
ヤ王の事を凡て司どる亦レビ人汝らの前にありて官
吏とならん汝ら心を強くして事をなせエホバ善人を
祐けたまふべし

20 この後モアブの子孫アンモンの子孫およびマオ
ニ人等ヨシヤパテと戦はんとて攻きたれり 2 時に或
人きたりてヨシヤパテに告て云ふ海の彼旁スリアよ
り大衆汝に攻きたる視よ今ハザゾンタマルにありと
ハザゾンタマルはすなはちエンゲデなり 3 是におい
てヨシヤパテ懼れ面をエホバに向てその助を求めユ
ダ全国に斷食を布令しめれば 4 ユダ擧て集りエホ
バの助を求めたり即ちユダの一切の邑より人々きた
りてエホバを求む 5 時にヨシヤパテ、エホバの室の

新しき庭の前においてユダとエルサレムの會衆の中に立ち 6 言けるは我らの先祖の神エホバよ汝は天の神にましますに非ずや異邦人の諸國を統たまふに非ずや汝の手には能力あり權勢ありて誰もなんぢを禦ぐこと能はざるに非ずや 7 我らの神よ汝は此國の民を汝の民イスラエルの前より逐はらひて汝の友アブラハムの子孫に之を永く與へたまひしに非ずや 8 彼らは此に住み汝の名のために此に聖所を建て言へり 9 刑罰の劍疫病饑饉などの災禍われらに臨まん時は我らこの家の前に立て汝の前にをりその苦難の中にて汝に呼號らんしかして汝聽て助けたまはん汝の名はこの家にあればなりと 10 今アンモン、モアブおよびセイル山の子孫を視たまへ在昔イスラエル、エジプトの國より出きたれる時汝イスラエルに是等を侵さしめたまはざりしかば之を離れさりて滅ぼさざりしなり 11 かれらが我らに報ゆる所を視たまへ彼らは汝がわれらに有たしめたまへる汝の産業より我らを逐はらはんとす 12 我らの神よ汝かれらを鞠きたまはざるや我らは此斯く攻よせたる此の大衆に當る能力なく又爲ところを不知唯汝を仰ぎ望むのみと 13 ユダの人々はその小者および妻子とともに皆エホバの前に立をれり 14 時に會衆の中にてエホバの靈アサフの子孫たるレビ人ヤハジエルに臨めりヤハジエルはゼカリヤの子ゼカリヤはベナヤの子ベナヤはエイエルの子エイエルはマッタニヤの子なり 15 ヤハジエルすなはち言けるはユダの人衆およびエルサレムの居民ならびにヨシヤパテ王よ聽べしエホバかく汝らに言たまふ此大衆のために懼るる勿れ慄くなかれ汝らの戦に非ずエホバの戦なればなり 16 なんぢら明日彼らの

所に攻くだれ彼らはヂヅの坡より上り来る汝らエル
エルの野の前なる谷の口にて之に遇ん 17 この戦争に
は汝ら戦ふにおよぼずユダおよびエルサレムよ汝ら
惟進みいでて立ち汝らとともに在すエホバの拯救を
見よ懼る勿れ慄くなかれ明日彼らの所に攻いでよエ
ホバ汝らとともに在せばなりと 18 是においてヨシヤ
パテ首をさげて地に俯伏りユダの人衆およびエルサ
レムの民もエホバの前に伏てエホバを拝す 19 時にコ
ハテの子孫およびコラの子孫たるレビ人立あがり聲
を高くあげてイスラエルの神エホバを讚美せり 20 か
くて皆朝はやく起てテコアの野に出ゆけり其いづる
に當りてヨシヤパテ立て言けるはユダの人衆および
エルサレムの民よ我に聽け汝らの神エホバを信ぜよ
然ば汝ら堅くあらんその預言者を信ぜよ然ば汝ら利
あらん 21 彼また民と議りて人々を選び之をして聖き
飾を著て軍勢の前に進ましめエホバにむかひて歌を
うたひ且これを讚美せしめエホバに感謝せよ其恩恵
は世々かぎりなしと言しむ 22 その歌を歌ひ讚美をな
し始むるに當りてエホバ伏兵を設けかのユダに攻き
たれるアンモン、モアブ、セイル山の子孫をなやま
したまひければ彼ら打敗られたり 23 即ちアンモンと
モアブの子孫起てセイル山の民にむかひ盡くこれを
殺して滅ししがセイルの民を殺し盡すに及びて彼ら
も亦力をいだして互に滅ぼしあへり 24 ユダの人々野
の觀望所に至りてかの群衆を觀たりければ唯地に仆
れたる死屍のみにして一人だに逃れし者なかりき 25
是においてヨシヤパテおよびその民彼らの物を奪は
んとて來り觀にその死屍の間に財寶衣服および珠玉
などおびただしく在たれば則ち各々これを剥とりけ

るが餘に多くして携さへ去こと能はざる程なりき其物多かりしに因て之を取に三日を費しけるが 26 第四日にベラカ(感謝)の谷に集り其處にてエホバに感謝せり是をもてその處の名を今日までベラカ(感謝)の谷と呼ぶ 27 而してユダとエルサレムの人々みな各々歸りきたりヨシヤパテの後にしたがひ歡びてエルサレムに至れり其はエホバ彼等をしてその敵の故によりて歡喜を得させたまひたればなり 28 即ち彼ら瑟と琴および喇叭を合奏してエルサレムに往てエホバの室にいたる 29 諸の國の民エホバがイスラエルの敵を攻撃たまひしことを聞て神を畏れたれば 30 ヨシヤパテの國は平穩なりき即ちその神四方において之に安息を賜へり 31 ヨシヤパテはユダの王となり三十五歳のときその位に即き二十五年の間エルサレムにて世を治めたり其母はシルヒの女にして名をアズバといふ 32 ヨシヤパテはその父アサの道にあゆみて之を離れずエホバの目に善と觀たまふ事を行へり 33 然れども崇邱はいまだ除かず又民はいまだその先祖の神に心を傾けざりき 34 ヨシヤパテのその餘の始終の行爲はハナニの子エヒウの書に記さるエヒウの事はイスラエルの列王の書に載す 35 ユダの王ヨシヤパテ後にイスラエルの王アハジアと相結べりアハジアは大に惡を行ふ者なりき 36 ヨシヤパテ、タルシシに遣る舟を造らんとて彼と相結びてエジオンゲベルにて共に舟數隻を造れり 37 時にマレシヤのドダワの子エリエゼル、ヨシヤパテにむかひて預言して云ふ汝アハジアと相結びたればエホバなんぢの作りし者を毀ちたまふと即ちその舟は皆壞れてタルシシに往くことを得ざりき

21 ヨシヤパテその先祖等とともに寝りてダビデの邑にその先祖等とともに葬られその子ヨラムこれに代て王となる **2** ヨシヤパテの子たるその兄弟はアザリヤ、エヒエル、ゼカリヤ、アザリヤ、ミカエルおよびシバテヤ是みなイスラエルの王ヨシヤパテの子なり **3** その父彼らに金銀寶物の賜物を多く與へまたユダの守衛の邑々を與へけるが國はヨラムに與へたりヨラム長子なりければなり **4** ヨラムその父の位に登りて力つよくなりければその兄弟等をことごとく劍にかけて殺し又イスラエルの牧伯等數人を殺せり **5** ヨラムは三十二歳の時位に即エルサレムにて八年の間世を治めたり **6** 彼はアハブの家をなせるごとくイスラエルの王等の道にあゆめりアハブの女を妻となしたればなり斯かれエホバの目に惡と觀たまふ事をなせしかども **7** エホバ曩にダビデに契約をなし且彼とその子孫とに永遠に光明を與へんと言たまひし故によりてダビデの家を滅ぼすことを欲み給はざりき **8** ヨラムの世にエドム人叛きてユダの手に服せず自ら王を立たれば **9** ヨラム其牧伯等および一切の戦車をしたがへて涉りゆき夜の中に起いでて自己を圍めるエドム人を撃ちその戦車の長等を撃り **10** エドム人は斯叛きてユダの手に服せずなりしが今日まで然り此時にあたりてリブナもまた叛きてユダの手に服せずなりぬ是はヨラムその先祖の神エホバを棄たるに因てなり **11** 彼またユダの山々に崇邱を作りてエルサレムの民に姦淫をおこなはせユダを惑はせり **12** 時に預言者エリヤの書ヨラムの許に達せり其言に云く汝の先祖ダビデの神エホバかく言たまふ汝はその父ヨシヤパテの道にあゆまずまたユダの王アサの道にあゆ

まずして **13** イスラエルの王等の道にあゆみユダの人とエルサレムの民をしてアハブの家の姦淫をなせるごとくに姦淫を行はしめまた汝の父の家の者にて汝に愈れるところの汝の兄弟等を殺せり **14** 故にエホバ大なる災禍をもて汝の民汝の子女汝の妻等および汝の一切の所有を撃たまふべし **15** 汝はまた臓腑の疾を得て大病になりその疾日々に重りて臓腑つひに墜んと **16** 即ちエホバ、ヨラムを攻させんとてエテオピアに近きところのペリシテ人とアラビヤ人の心を振起したまひければ **17** 彼らユダに攻のぼりて之を侵し王の家に在ところの貨財を盡く奪ひ取りまたヨウムの子等と妻等をも携へ去れり是をもてその末子エホアハズの外には一人も遣れる者なかりき **18** 此もろもろの事の後エホバ彼を撃て臓腑に愈ざる疾を生ぜしめたまひければ **19** 月日を送り二年を経るにおよびてその臓腑疾のために墜ち重き病苦によりて死ねり民かれの先祖のために焚物をなせし如く彼のためには焚物をなさざりき **20** 彼は三十二歳の時位に即き八年の間エルサレムにて世を治めて終に薨去れり之を惜む者なかりき人衆これをダビデの邑に葬れり但し王等の墓にはあらず

22 エルサレムの民ヨラムの季子アハジアを王となして之に継しむ其は曾てアラビヤ人とともに陣營に攻きたりし軍兵その長子をことごとく殺したればなり是をもてユダの王ヨラムの子アハジア王となれり **2** アハジアは四十二歳の時位に即きエルサレムにて一年の間世を治めたりその母はオムリの女にして名をアタリヤといふ **3** アハジアもまたアハブの家の道に歩めり其母かれを教へて悪をなさしめたるなり **4** 即

ち彼はアハブの家のごとくにエホバの目の前に悪をおこなへり其父の死し後彼かくアハブの家の者の教にしたがひたれば終に身を滅ぼすに至れり 5 アハジ
アまた彼らの教にしたがひイスラエルの王アハブの子ヨラムとともにギレアデのラモテにゆきてスリアの王ハザエルと戦ひけるにスリア人ヨラムに傷を負せたり 6 是においてヨラムはそのスリアの王ハザエルと戦ふにあたりてラムにて負たる傷を療さんとてエズレルに歸れりユダの王ヨラムの子アザリヤはアハブの子ヨラムが病をるをもてエズレルに下りてこれを訪ふ 7 アハジアがヨラムを訪ふて害に遇しは神の然らしめたまへるなり即ちアハジアは來り居てヨラムとともに出てニムシの子エヒウを迎へたりエヒウはエホバが曩にアハブの家を絶去しめんとて膏を沃ぎたまひし者なり 8 エヒウ、アハブの家を罰するに方りてユダの牧伯等およびアハジアの兄弟等の子等がアハジアに奉へるに遇て之を殺せり 9 アハジアはサマリヤに匿れたりしがエヒウこれを探求めければ人々これを執へエヒウの許に曳きたりて之を殺せり但し彼は心を盡してエホバを求めたるヨシヤパテの子なればとてこれを葬れり斯りしかばアハジアの家は國を統治むる力なくなりぬ 10 茲にアハジアの母アタリヤその子の死たるを見て起てユダの家の王子をことごとく滅ぼしたりしが 11 王の女エホシバ、アハジアの子ヨアシを王の子等の殺さるる者の中より竊み取り彼とその乳媪を夜衣の室におきて彼をアタリヤに匿したればアタリヤかれを殺さざりきエホシバはヨラム王の女アハジアの妹にして祭司エホヤ

ダの妻なり 12 かくてヨアシはエホバの家に匿れて彼らとともにをること六年アタリヤ國に王たりき

23 第七年にいたりエホヤダ力を強してエロハムの子アザリヤ、ヨハナンの子イシマエル、オベデの子アザリア、アダヤの子マアセヤ、ジクリの子エシヤパテなどいふ百人の長等を招きて己と契約を結ばしむ 2 是において彼らユダを行めぐりてユダの一切の邑よりレビ人を集めまたイスラエルの族長を集めてエルサレムに歸り 3 而してその會衆みな神の家において王と契約を結べり時にエホヤダかれらに言けるはダビデの子孫の事につきてエホバの宣まひしごとく王の子位に即べきなり 4 然ば汝ら斯なすべし汝ら祭司およびレビ人の安息日に入きたる者は三分の一は門を守り 5 三分の一は王の家に居り三分の一は基礎の門に居り民はみなエホバの室の庭に居べし 6 祭司と奉事をするレビ人の外は何人もエホバの家に入べからず彼らは聖者なれば入ことを得るなり民はみなエホバの殿を守るべし 7 レビ人はおのおの手に武器を執て王を繞りて立べし家に入る者をば凡て殺すべし汝らは王の出る時にも入る時にも王とともに居れと 8 是においてレビ人およびユダの人衆は祭司エホヤダが凡て命じたる如くに行ひ各々その手の人の安息日に入來べき者と安息日に出ゆくべき者とを率る居れり祭司エホヤダ班列の者を去せざればなり 9 祭司エホヤダすなはち神の家にあるダビデ王の鎗および大楯小楯を百人の長等に交し 10 一切の民をして各々武器を手に執て王の四周に立ち殿の右の端より殿の左の端におよびて壇と殿にそふて居しむ 11 斯て人衆王の子を携へ出し之に冠冕を戴かせ證詞をわた

して王となし祭司エホヤダおよびその子等これに膏をそそげり而して皆王長壽かれと言ふ 12 茲にアタリヤ民と近衛兵と王を讃る者との聲を聞きエホバの室に入て民の所に至り 13 視に王は入口にてその柱の傍に立ち王の側に軍長と喇叭手立をり亦國の民みな喜びて喇叭を吹き謳歌者樂を奏し先だちて讚美を歌ひをりしかばアタリヤその衣を裂き叛逆なり叛逆なりと言ひ 14 時に祭司エホヤダ軍兵を統る百人の長等を呼出してこれに言ふ彼をして列の間を通りて出しめよ凡て彼に従がふ者をば劍をもて殺すべしと祭司は彼をエホバの室に殺すべからずとて斯いへるなり 15 是をもて之がために路をひらき王の家の馬の門の入口まで往しめて其處にて之を殺せり 16 斯てエホヤダ己と一切の民と王との間にわれらは皆エホバの民とならんことの契約を結べり 17 是において民みなバアルの室にゆきて之を毀ちその壇とその像を打碎きバアルの祭司マツタンを壇の前に殺せり 18 エホヤダまたエホバの室の職事を祭司レビ人の手に委ぬ昔ダビデ、レビ人を班列にわかちてエホバの室におきモーセの律法に記されたる所にしたがひて歡喜と謳歌とをもてエホバの燔祭を獻げしめたりき今このダビデの例に倣ふ 19 彼またエホバの室の門々に看守者を立せ置き身の汚れたる者には何によりて汚れたるにもあれ凡て入ことを得ざらしむ 20 斯てエホヤダ百人の長等と貴族と民の牧伯等および國の一切の民を率ゐてエホバの家より王を導きくだり上の門よりして王の家に入り王を國の位に坐せしめたり 21 斯りしかば國の民みな喜びて邑は平穩なりきアタリヤは劍にて殺さる

24 ヨアシは七歳の時位に即きエルサレムにて四十年の間世を治めたりその母はペエルシバより出たる者にして名をヂビアといふ **2** ヨアシは祭司エホヤダの世にある日の間は恒にエホバの善と觀たまふことを行へり **3** エホヤダ彼のために二人の妻を娶れり男子女子生る **4** 此後ヨアシ、エホバの室を修繕んと志し **5** 祭司とレビ人を集めて之に言けるは汝ら出てユダの邑々に往き汝らの神エホバの室を歳々修繕ふべき金子をイスラエルの人衆より聚むべし其事を亟にせよと然るにレビ人これを亟にせざりき **6** 王エホヤダ長を召てこれに言けるは汝なんぞレビ人に求めてエホバの僕モーセおよびイスラエルの會衆の古昔證詞の幕屋のために集めたるが如き税をユダとエルサレムより取きたらせざるやと **7** かの惡き婦アタリヤの子等神の家を壊りかつエホバの家の諸の奉納物をバアルに供へたり **8** 是において王の命にしたがひて一箇の匱を作りエホバの室の門の外にこれを置き **9** ユダとエルサレムに宣布て汝ら神の僕モーセが荒野にてイスラエルに課したる如き税をエホバに携へきたれと言けるに **10** 一切の牧伯等および一切の民みな喜びて携へきたりその匱に投入れて遂に納めをはれり **11** レビ人その匱に金の多くあるを見てこれを王の廳に携へゆく時は王の書記と祭司の長の下役きたりてその匱を傾むけ復これを取て本の處に持ゆけり日々に斯のごとくして金を聚むること夥多し **12** 而して王とエホヤダこれをエホバの家の工事を爲す者に付し石工および木匠を雇ひてエホバの室を修繕はせまた鐵工および銅工を雇ひてエホバの室を修復せしめけるが **13** 工人動作てその工事を成をへ神の室を本の

状に復してこれを堅固にす 14 その既に成るにおよびて餘れる金を王とエホヤダの前に持いたりければ其をもてエホバの室のために器皿を作れり即ち奉事の器献祭の器および匙ならびに金銀の器を作れりエホヤダが世に在る日の間はエホバの室にて燔祭をささぐること絶ざりき 15 エホヤダは年邁み日満て死りその死る時は百三十歳なりき 16 人衆ダビデの邑にて王等の中間にこれを葬むる其は彼イスラエルの中において神とその殿とにむかひて善事をおこなひたればなり 17 エホヤダの死たる後ユダの牧伯等きたりて王を拜す是において王これに聽したがふ 18 彼らその先祖の神エホバの室を棄てアシラ像および偶像に事へたればその愆のために震怒ユダとエルサレムに臨めり 19 エホバかれらを己にひきかへさんとて預言者等を遣はし之にむかひて證をたてさせたまひしかども聽ことをせざりき 20 是において神の靈祭司エホヤダの子ゼカリヤに臨みければ彼民の前に高く起あがりて之に言けるは神かく宣ふ汝らエホバの誠命を犯して災禍を招くは何ぞや汝らエホバを棄たればエホバも汝らを棄たまふと 21 然るに人衆かれを害せんと謀り王の命によりて石をもてこれをエホバの室の庭にて擊殺せり 22 斯ヨアシ王はゼカリヤの父エホヤダが己にほどこせし恩を念ずしてその子を殺せり彼死る時にエホバこれを顧みこれを問討したまへと言ひ 23 かくてその年の終るにおよびてスリアの軍勢かれにむかひて攻のぼりユダとエルサレムにいたりて民の牧伯等をことごとく民の中より滅ぼし絶ちその掠取物を凡てダマスコの王に遣れり 24 この時スリアの軍勢は小勢にて來りけるにエホバ大軍をこれが手に付

したまへり是はその先祖の神エホバを棄たるが故なり斯かれらヨアシを罰せり 25 スリア人ヨアシに大傷をおはせて遣去けるがヨアシの臣僕等祭司エホヤダの子等の血のために黨をむすびて之に叛き之をその床の上に弑して死しめたり人衆これをダビデの邑に葬れり但し王の墓には葬らざりき 26 黨をむすびて之に叛きし者はアンモンの婦シメアテの子ザバデおよびモアブの婦シムリテの子ヨザバデなりき 27 ヨアシの子等の事ヨアシの告られし預言および神の室を修繕し事などは列王の書の註釋に記さるヨアシの子アマジャこれに代りて王となれり

25 アマジャは二十五歳の時位に即きエルサレムにて二十九年の間世を治めたりその母はエルサレムの者にして名をエホアダンといふ 2 アマジャはエホバの善と視たまふ事を行なひしかども心を全うしてこれを爲ざりき 3 彼國のおのが手に堅く立つにおよびてその父王を弑せし臣僕等を殺せり 4 然どその子女等をば殺さずしてモーセの書の律法に記せるごとく爲り即ちエホバ命じて言たまはく父はその子女の故によりて殺さるべからず子女はその父の故によりて殺さるべからず各々おのれの罪によりて殺さるべきなりと 5 アマジャ、ユダの人を集めその父祖の家にしたがひて或は千人の長に附屬せしめ或に百人の長に附屬せしむユダとベニヤミンともに然り且二十歳以上の者を數へ戈と楯とを執て戦闘に臨む倔強の士三十萬を得 6 また銀百タラントをもてイスラエルより大勇士十萬を傭へり 7 時に神の人かれに詣りて言けるは王よイスラエルの軍勢をして汝とともに往しむる勿れエホバはイスラエル人すなはちエフライム

の子孫とは偕にいまさざるなり 8 汝もし往ば心を強くして戦闘を爲せ神なんぢをして敵の前に斃れしめたまはん神は助くる力ありまた倒す力あるなり 9 アマジャ神の人にひけるは然ば已にイスラエルの軍隊に與へたる百タラントを如何にすべきや神の人答へけるはエホバは其よりも多き者を汝に賜ふことを得るなりと 10 是においてアマジャかのエフライムより來りて已に就る軍隊を分離してその處に歸らしめければ彼らユダにむかひて烈しく怒を發し火のごとくに怒りてその處に歸れり 11 かくてアマジャは力を強くしその民を率ゐて鹽の谷に往きセイル人一萬を擊殺せり 12 ユダの子孫またこの外に一萬人を生擒て磐の頂に曳ゆき磐の頂よりこれを投おとしければ皆微塵に碎けたり 13 前にアマジャが己とともに戦闘に往べからずとして歸し遣たる軍卒等サマリアよりベテホロンまでのユダの邑々を襲ひ人三千を擊ころし物を多く奪ふ 14 アマジャ、エドム人を戮して歸る時にセイル人の神々を携さへ來り之を安置して己の神となしその前に禮拜をなし之に香を焚り 15 是をもてエホバ、アマジャにむかひて怒を發し預言者をこれに遣はして言しめたまひけるは彼民の神々は己の民を汝の手より救ふことを得ざりし者なるに汝なにとて之を求むるや 16 彼かく王に語れる時王これにむかひ我儕汝を王の議官となせしや止よ汝なんぞ擊殺されんとするやと言ければ預言者すなはち止て言り我知る汝この事を行びて吾諫を聽いれざるによりて神なんぢを滅ぼさんと決めたまふと 17 斯てユダの王アマジャ相議りて人をエヒウの子エホアハズの子なるイスラエルの王ヨアシに遣し來れ我儕たがひに面を

あはせんと言しめければ **18** イスラエルの王ヨアシ、ユダの王アマジヤに言おくりけるはレバノンの荊棘かつてレバノンの香柏に汝の女子を我子の妻に與へよと言おくりたること有しにレバノンの野獸とほりてその荊棘を踏たふせり **19** 汝はエドム人を撃破れりと謂ひ心にたかぶりて誇る然ば汝家に安んじ居れ何ぞ禍を惹おこして自己もユダもともに亡びんとするやと **20** 然るにアマジヤ聽ことをせざりき此事は神より出たる者にて彼らをその敵の手に付さんがためなり是は彼らエドムの神々を求めしに因る **21** 是においてイスラエルの王ヨアシ上りきたりユダのベテシメシにてユダの王アマジヤと面をあはせたりしが **22** ユダ、イスラエルに撃敗られて各々その天幕に逃かへりぬ **23** 時にイスラエルの王ヨアシはエホアハズの子ヨアシの子なるユダの王アマジヤをベテシメシに執へてエルサレムに携へゆきエルサレムの石垣をエフライムの門より隅の門まで四百キュビト程を毀ち **24** また神の室の中にてオベデエドムが守り居る一切の金銀および諸の器皿ならびに王の家の財寶を取りかつ人質をとりてサマリアに歸れり **25** ユダの王ヨアシの子アマジヤはイスラエルの王エホアハズの子ヨアシの死てより後なほ十五年生存らへたり **26** アマジヤのその餘の始終の行爲はユダとイスラエルの列王の書に記さるるにあらずや **27** アマジヤ翻へりてエホバに従がはずなりし後エルサレムにおいて黨を結びて彼に敵する者ありければ彼ラキシに逃ゆきけるにその人々ラキシに人をやりて彼を其處に殺さしめたり **28** 人衆これを馬に負せてきたりユダの邑にてその先祖等とともにこれを葬りぬ

26 是においてユダの民みなウジヤをとりて王となしてその父アマジヤに代らしめたり時に年十六なりき **2** 彼エラテの邑を建てこれを再びユダに歸せしむ是はかの王がその先祖等とともに寝りし後なりき **3** ウジヤは十六歳の時位に即きエルサレムにて五十二年の間世を治めたりその母はエルサレムの者にして名をエコリアといふ **4** ウジヤはその父アマジヤが凡てなしたる如くエホバの善と觀たまふ事を行ひ **5** 神の默示に明なりしかのゼカリヤの世にある日の間心をこめてエホバを求めたりそのエホバを求むる間は神これをして幸福ならしめたまへり **6** 彼いでてペリシテ人と戦ひガテの石垣ヤブネの石垣およびアシドドの石垣を圮しアシドドの地ならびにペリシテ人の中間に邑を建つ **7** 神かれを助けてペリシテ人グルバルに住むアラビヤ人およびメウニ人を攻撃しめたまへり **8** アンモニ人はまたウジヤに貢を納るウジヤの名つひにエジプトの入口までも廣まれり其は甚だ強くなりければなり **9** ウジヤ、エルサレムの隅の門谷の門および角隅に戍樓を建てこれを堅固にし **10** また荒野に戍樓を建て許多の水溜を掘り其は家畜を多く有たればなり亦平野にも平地にも家畜を有り又山々およびカルメルには農夫と葡萄を修る者を有り農事を好みたればなり **11** ウジヤ戦士一旅團あり書記エイエルと牧伯マアセヤの數調査によりて隊々にわかれて戦争に出づ皆王の軍長ハナニヤの手に屬す **12** 大勇士の族長の數は都合二千六百 **13** その手に屬する軍勢は三十萬七千五百人みな大なる力をもて戦ひ王を助けて敵に當る **14** ウジヤその全軍のために楯戈兜鎧弓および投石器の石を備ふ **15** 彼またエルサレムにお

いて工人に機械を案へ造らしめ之を戌樓および石垣に施こし之をもて矢ならびに大石を射出せり是においてその名遠く廣まれり其は非常の援助を蒙りて旺盛になりたればなり 16 然るに彼旺盛になるにおよびその心に高ぶりて悪き事を行なへり即ち彼その神エホバにむかひて罪を犯しエホバの殿に入て香壇の上に香を焚んとせり 17 時に祭司アザリヤ、エホバの祭司たる勇者八十人を率ゐて彼の後にしたがひ入り 18 ウジャ王を阻へてこれに言けるはウジャよエホバに香を焚ことは汝のなすべき所にあらずアロンの子孫にして香を焚ために潔められたる祭司等のなすべき所なり聖所より出よ汝は罪を犯せりエホバ神なんぢに榮を加へたまはじと 19 是においてウジャ怒を發し香爐を手にとりて香を焚んとせしがその祭司にむかひて怒を發しをる間に癩病その額に起れり時に彼はエホバの室にて祭司等の前にあたりて香壇の側にをる 20 祭司の長アザリヤおよび一切の祭司等彼を見しに已にその額に癩病生じゐたれば彼を其處より速にいだせり彼もまたエホバの己を撃たまへるを見て自ら急ぎて出去り 21 ウジャ王はその死る日まで癩病人となり居しがその癩病人となるにおよびては別殿に住りエホバの室より斷れたればなり其子ヨタム王の家を管理て國の民を審判り 22 ウジャのその餘の始終の行爲はアモツの子預言者イザヤこれを書記したり 23 ウジャその先祖等とともに寝りたれば彼は癩病人なりとて王等の墓に連接る地にこれを葬りてその先祖等とともにならしむその子ヨタムこれに代りて王となれり

27 ヨタムは二十五歳の時位に即きエルサレムにて十六年の間世を治めたり其母はザドクの女にして名をエルシヤといふ **2** ヨタムはその父ウジヤの凡て爲たるごとくエホバの善と視たまふ事をなせり但しエホバの殿には入ざりき民は尚悪き事を爲り **3** 彼エホバの家の上の門を建なほしオペルの石垣を多く築き増し **4** ユダの山地に數箇の邑を建て林の間に城および戌楼を築けり **5** 彼アンモニ人の王と戦ひこれに勝り其年アンモンの子孫銀百タラント小麦一萬石大麦一萬石を彼におくれりアンモンの子孫は第二年にも第三年にも是のごとく彼に貢をいる **6** ヨタムその神エホバの前においてその行を堅うしたるに因て權能ある者となれり **7** ヨタムのその餘の行爲その一切の戦闘およびその行などはイスラエルとユダの列王の書に記さる **8** 彼は二十五歳の時位に即きエルサレムにて十六年の間世を治めたり **9** ヨタムその先祖等とともに寝りたればダビデの邑にこれを葬れりその子アハズこれに代りて王となる

28 アハズは二十歳の時位に即きエルサレムにて十六年の間世を治めたりしがその父ダビデと異にしてエホバの善と觀たまふ所を行はず **2** イスラエルの王等の道にあゆみ亦諸のバアルのために像を鑄造り **3** ベンヒンノムの谷にて香を焚きその子を火に焼きなどしてエホバがイスラエルの子孫の前より逐はらひたまひし異邦人の行ふところの憎むべき事に倣ひ **4** また崇邱の上丘の上一切の青木の下にて犠牲をささげ香を焚き **5** 是故にその神エホバかれをスリアの王の手に付したまひてスリア人つひに彼を撃破りその人々を衆く虜囚としてダマスコに曳ゆけり彼はまた

イスラエルの王の手にも付されたればイスラエルの王かれを撃て大にその人を殺せり 6 すなはちレマリヤの子ペカ、ユダにおいて一日の中に十二萬人を殺せり皆勇士なりき是は彼らその先祖の神エホバを棄しによるなり 7 その時にエフライムの勇士ジクリといふ者王の子マアセヤ宮内卿アズリカムおよび王に亞ぐ人エルカナを殺せり 8 イスラエルの子孫つひにその兄弟の中より婦人ならびに男子女子など合せて二十萬人を俘擄にしまた衆多の掠取物を爲しその掠取物をサマリアに携へゆけり 9 時に彼處にエホバの預言者ありその名をオデデといふ彼サマリアに歸れる軍勢の前に進みいでて之に言けるは汝らの先祖の神エホバ、ユダを怒りてこれを汝らの手に付したまひしが汝らは天に達するほどの忿怒をもて之を殺せり 10 然のみならず汝ら今ユダとエルサレムの子孫を圧つけて己の奴婢となさんと思ふ然ども汝ら自身もまた汝らの神エホバに罪を獲たる身にあらずや 11 然ば今我に聽き汝らはその兄弟の中より擄へ來りし俘擄を放ち歸せエホバの烈しき怒なんぢらの上に臨まんとすればなりと 12 是においてエフライム人の長たる人々すなはちヨハナンの子アザリヤ、メシレモテの子ベレキヤ、シャルムの子ヒゼキヤ、ハデライの子アマサ等戰爭より歸れる者等の前に立ふさがりて 13 之にいひけるは汝ら俘擄を此に曳いるべからず汝らは我らをしてエホバに愆を得せしめて更に我らの罪愆を増んとす我らの愆は大にして烈しき怒イスラエルにのぞまんとするなりと 14 是において兵卒等その俘擄と掠取物を牧伯等と全會衆の前に遺おきければ 15 上に名を擧げたる人々たちて俘擄を受取り掠取

物の中より衣服を取てその裸なる者に着せ之に靴を穿せ食飲を爲しめ膏油を沃ぎ等しその弱き者をば盡く驢馬に乘せ斯して之を棕櫚の邑エリコに導きゆきてその兄弟に詣らしめ而してサマリアに歸れり 16 當時アハズ王人をアツスリヤの王等に遣はして援助を乞しむ 17 其はエドム人また來りてユダを攻撃ち民を擄へて去たればなり 18 ベリシテ人もまた平野の邑々およびユダの南の邑々を侵してペテシメシ、アヤロン、ゲデロテおよびシヨコとその郷里テムナとその郷里ギムゾとその郷里を取て其處に住めり 19 イスラエルの王アハズの故をもてエホバかくユダを卑くしたまふ其は彼ユダの中に淫逸なる事を行ひかつエホバにむかひて大に罪を犯したればなり 20 アツスリヤの王テグラテピレセルは彼の所に来りしかども彼に力をそへずして反てこれを煩はせり 21 アハズ、エホバの家と王の家および牧伯等の家の物を取てアツスリヤの王に與へけれどもアハズを援くることをせざりき 22 このアハズ王はその困難の時に當りてますますエホバに罪を犯せり 23 即ち彼おのれを撃るダマスコの神々に犠牲を獻げて言ふスリアの王等の神々はその王等を助くれれば我もこれに犠牲を獻げん然ば彼ら我を助けんと然れども彼等はかへつてアハズとイスラエル全國を仆す者となれり 24 アハズ神の室の器皿を取聚めて神の室の器皿を切やぶりエホバの室の戸を閉ぢエルサレムの隅々に凡て祭壇を造り 25 ユダの一切の邑々に崇邱を造りて別神に香を焚き等してその先祖の神エホバの忿怒を惹おこせり 26 アハズのその餘の始終の行爲およびその一切の行跡はユダとイスラエルの列王の書に記さる 27 アハズその先祖等

とともに寝りたればエルサレムの邑にこれを葬れり
然どイスラエルの王等の墓にはこれを持ゆかざりき
其子ヒゼキヤこれに代りて王となる

29 ヒゼキヤは二十五歳の時位に即きエルサレムに
て二十九年の間世を治めたりその母はゼカリヤの女
にして名をアビヤといふ **2** ヒゼキヤはその父ダビデ
の凡てなしたる如くエホバの目に善と視たまふ事を
なせり **3** 即ち彼その治世の第一年一月にエホバの室
の戸を開きかつ之を修繕ひ **4** 祭司およびレビ人を携
さへいりて東の廣場にこれを集め **5** 而して之にいひ
けるはレビ人よ我に聽け汝等いま身を潔めて汝等の
先祖の神エホバの室を潔め汚穢を聖所より除きされ
6 夫我らの先祖は罪を犯し我らの神エホバの目に悪し
と見たまふことを行ひてエホバを棄てエホバの住所
に面を背けて後をこれに向け **7** また廊の戸を閉ぢ燈
火を消し聖所にてイスラエルの神に香を焚ず燔祭を
獻けざりし **8** 是をもてエホバの忿怒ユダとエルサレ
ムに臨みエホバ彼等をして打ただよはされしめ詫異
とならしめ胡盧とならしめたまへり汝らが目に靚る
ごとし **9** 即ち我儕の父は劍に斃れ我らの男子女子及
び妻等はこれがために俘擄となれり **10** 今我イスラエ
ルの神エホバと契約を結ばんとする意志ありその烈
しき怒我らを離るることあらん **11** 我子等よ今は怠
る勿れエホバ汝らを選びて己の前に立て事へしめ己
に事ふる者となし香を焚く者となしたまひたればな
りと **12** 是においてレビ人起り即ちコハテの子孫の中
にてはアマサイの子マハテおよびアザリヤの子ヨエ
ル、メラリの子孫の中にてはアブデの子キシおよび
エハレルの子アザリヤ、ゲルシヨン人の中にては

ジンマの子ヨアおよびヨアの子エデン **13** エリザパンの子孫の中にてはシムリおよびエイエル、アサフの子孫の中にてはゼカリヤおよびマツタニヤ **14** ヘマンの子孫の中にてはエヒエルおよびシメイ、エドトンの子孫の中にてはシマヤおよびウジエル **15** かれらその兄弟を集へて身を潔めエホバの言に依りて王の傳へし命令にしたがひてエホバの室を潔めんとて入きたり **16** 祭司等エホバの室の奥に入りてこれを潔めエホバの殿にありし汚穢をことごとくエホバの室の庭に携へいませばレビ人それを受て外にいだしキデロン河に持いたる **17** 彼ら正月の元日に潔むることを始めてその月の八日にエホバの廊におよびまたエホバの家を潔むるに八日を費し正月の十六日にいたりて之を終れり **18** かくて彼らヒゼキヤ王の處に入て言ふ我らエホバの室をことごとく潔めまた燔祭の壇とその一切の器具および供前のパンの案とその一切の器皿とを潔めたり **19** またアハズ王がその治世に罪を犯して棄たりし一切の器皿をも整へてこれを潔めエホバの壇の前にこれを据置りと **20** 是においてヒゼキヤ王蚤に起いで邑の牧伯等をあつめてエホバの家にのぼり行き **21** 牡牛七匹牡羊七匹羔羊七匹牡山羊七匹を牽きたらしめ國と聖所とユダのためにこれを罪祭となしアロンの子孫たる祭司等に命じてこれをエホバの壇の上に献げしむ **22** 即ち牡牛を宰れば祭司等その血を受て壇に灑ぎまた牡羊を宰ればその血を壇に灑ぎまた羔羊を宰ればその血を壇に灑げり **23** かくて人々罪祭の牡山羊を王と會衆の前に牽きたりければ彼らその上に手を按り **24** 而して祭司これを宰りその血を罪祭として壇の上に献げてイスラエル全國のため

に贖罪をなせり是は王イスラエル全國の爲に燔祭および罪祭を献ぐることを命じたるに因る 25 王レビ人をエホバの室に置きダビデおよび王の先見者ガデと預言者ナタンの命令にしたがひて之に鑢鉞瑟および琴を執しむ是はエホバがその預言者によりて命じたまひし所なり 26 是においてレビ人はダビデの樂器をとり祭司は喇叭をとりて立つ 27 時にヒゼキヤ燔祭を壇の上に献ぐることを命ぜり燔祭をささげ始むるときエホバの歌をうたひ喇叭を吹きイスラエルの王ダビデの樂器をならしはじめたり 28 しかして會衆みな禮拜をなし謳歌者歌をうたひ喇叭手喇叭を吹ならし燔祭の終るまで凡て斯ありしが 29 献ぐる事の終るにおよびて王および之と偕に在る者皆身をかがめて禮拜をなせり 30 かくて又ヒゼキヤ王および牧伯等レビ人に命じダビデと先見者アサフの詞をもてエホバを讚美せしむ彼等喜樂をもて讚美し首をさげて禮拜す 31 時にヒゼキヤこたへて言けるは汝らすでにエホバに事へんために身を潔めたれば進みよりてエホバの室に犠牲および感謝祭を携へきたれと會衆すなはち犠牲および感謝祭を携へきたる又志ある者はみな燔祭を携ふ 32 會衆の携へきたりし燔祭の數は牡牛七十牡羊一百羔羊二百是みなエホバに燔祭として奉つる者なり 33 また奉納物は牛六百羊三千なりき 34 然るに祭司寡くしてその燔祭の物の皮を剥つくすこと能はざりければその兄弟たるレビ人これを助けてその工を終ふ斯る間に他の祭司等も身を潔むレビ人は祭司よりも心正しくして身を潔めたり 35 燔祭夥多しくあり酬恩祭の脂及びすべての燔祭の酒も然り斯エホバの室の奉事備はれり 36 この事俄なりしかども神か

く民の爲に備をなしたまひしに因てヒゼキヤおよび一切の民喜べり

30 茲にヒゼキヤ、イスラエルとユダに遍ねく人を遣した書書をエフライムとマナセに書おくりエルサレムなるエホバの室に來りてイスラエルの神エホバに逾越節を行はんことを勸む **2** 王すでにその牧伯等およびエルサレムにある會衆と議り二月をもて逾越節を行はんと定めたり **3** 其は祭司の身を潔めし者足らず民またエルサレムに集らざりしに因て彼時にこれを行ふことを得ざればなり **4** 王も會衆もこの事を見て善となし **5** 即ちこの事を定めてベエルシバよりダンまでイスラエルに遍ねく宣布しめしエルサレムに來りてイスラエルの神エホバに逾越節を行はんことを勸む是はその録されたるごとくにこれを行ふ事久しく無りしが故なり **6** 飛脚すなはち王とその牧伯等が授けし書をもちてイスラエルとユダを遍ねく行めぐり王の命を傳へて云ふイスラエルの子孫よ汝らアブラハム、イサク、イスラエルの神エホバに起歸れ然ばエホバ、アツスリヤの王等の手より逃れて遺るところの汝らに歸りたまはん **7** 汝らの父および兄弟の如くならざれ彼らその先祖の神エホバにむかひて罪を犯したればこれを滅亡に就しめたまへり汝らが見るごとし **8** 然ば汝らの父のごとく汝ら項を強くせずしてエホバに歸服しその永久に聖別たまひし聖所に入り汝らの神エホバに事へよ然ればその烈しき怒なんぢらを離れん **9** 汝ら若エホバに歸らば汝らの兄弟および子女その己を擲へゆきし者の前に衿憫を得て遂にまた此國にかへらん汝らの神エホバは恩恵あり憐憫ある者にましませば汝らこれに起かへるにお

いては面を汝らに背けたまはじと **10** かくのごとく飛脚エフライム、マナセの國にいらて邑より邑に行めぐりて遂にゼブルンまで至りしが人衆これを嘲り笑へり **11** 但しアセル、マナセおよびゼブルンの中より身を卑くしてエルサレムに來りし者もあり **12** またユダに於ては神その力をいだして人々に心を一にせしめ王と牧伯等がエホバの言に依て傳へし命令を之に行はしむ **13** 斯りしかば二月にいたりて民酔いれぬパンの節をおこなはんとて多くエルサレムに來り集れりその會はなはだ大なりき **14** 彼等すなはち起てエルサレムにある諸の壇を取のぞきまた一切の香壇を取のぞきてこれをキデロン川に投すて **15** 二月の十四日に逾越の物を宰れり是において祭司等およびレビ人は自ら恥ぢ身を潔めてエホバの室に燧祭を携へきたり **16** 神の人モーセの律法に循ひ例に依て各々その所に立ち而して祭司等レビ人の手より血を受て灑げり **17** 時に會衆の中に未だ身を潔めざる者多かりければレビ人その潔からざる一切の人々に代りて逾越の物を宰りてエホバに潔め献ぐ **18** また衆多の民すたはちエフライム、マナセ、イツサカル、ゼブルンより來りし衆多の者未だ身を潔むる事をせずその書録されし所に違ひて逾越の物を食へり是をもてヒゼキヤこれがために祈りて云ふ **19** 恵ふかきエホバよ凡そその心を傾けて神を求めその先祖の神エホバを求むる者は假令聖所の潔齋に循はざるとも願くは是を赦したまへと **20** エホバ、ヒゼキヤに聽て民を醫したまへり **21** エルサレムにきたれるイスラエルの子孫は大なる喜びをいだきて七日の間酔いれぬパンの節をおこなへり又レビ人と祭司は日々にエホバを讚美し高聲の

樂を奏してエホバを頌へたり 22 ヒゼキヤ、エホバの奉事に善通じをる一切のレビ人を深く勞らふ斯人衆酬恩祭を獻げその先祖の神エホバに感謝して七日のあひだ節の物を食へり 23 かくて又全會あひ議りて更に七日を守らんと決め喜悅をいだきてまた七日を守れり 24 時にユダの王ヒゼキヤは牡牛一千羊七千を會衆に餽り又牧伯等は牡牛一千羊一萬を會衆に餽れり祭司もまた衆く身を潔めたり 25 ユダの全會衆および祭司レビ人ならびにイスラエルより來れる全會衆およびイスラエルの地より來れる異邦人とユダに住む異邦人みな喜べり 26 かくエルサレムに大なる喜悅ありきイスラエルの王ダビデの子ソロモンの時より以來かくのごとき事エルサレムに在ざりしなり 27 この時祭司レビ人起て民を祝しけるにその言聽れその祈祷エホバの聖き住所なる天に達せり

31 この事すべて終りしかば其處に在しイスラエル人みなユダの邑々に出ゆき柱像を碎きアシラ像を斫たふしユダとベニヤミンの全地より崇邱と祭壇を崩し絶ちエフライム、マナセにも及ぼして遂にまつたく之を毀ち而してイスラエルの子孫おのおのその邑々に還りて己の産業にいたれり 2 ヒゼキヤ祭司およびレビ人の班列を定めその班列にしたがひて各々にその職を行はしむ即ち祭司とレビ人をして燔祭および酬恩祭を獻げしめエホバの營の門において奉事をなし感謝をなし讚美をなさしめ 3 また己の財産の中より王の分を出して燔祭のためにす即ち朝夕の燔祭および安息日朔日節會などの燔祭のために之を出してエホバの律法に記さるる如くす 4 彼またエルサレムに住む民に祭司とレビ人にその分を與へんことを

命ず是かれらをしてエホバの律法に身を委ねしめんとてなり 5 其命令の傳はるや否やイスラエルの子孫穀物酒油蜜ならびに田野の諸の産物の初を多く献げまた一切の物の什一を夥多しく携へきたる 6 ユダの邑々に住るイスラエルとユダの子孫もまた牛羊の什一ならびにその神エホバに納むべき聖物の什一を携へきたりてこれを積疊ぬ 7 三月に之を積疊ぬることを始め七月にいたりて之を終れり 8 ヒゼキヤおよび牧伯等きたりて其積疊ねたる物を見エホバとその民イスラエルを祝せり 9 ヒゼキヤその積疊ねたる物の事を祭司とレビ人に問尋ねければ 10 ザドクの家より出し祭司の長アザリヤ彼に應へて言けるは民エホバの室に禮物を携ふることを始めしより以來我儕飽までに食ひしがその餘れる所はなほだ多しエホバその民をめぐみたまひたればなりその餘れる所かくのごとく夥多しと 11 ヒゼキヤ、エホバの家の内に室を設くることを命じければ則ちこれを設け 12 忠實にその禮物什一および奉納物を携へいれりレビ人コナニヤこれを主どりその兄弟シメイこれに副ふ 13 エヒエル、アザジャ、ナハテ、アサヘル、エレモテ、ヨザバデ、エリエル、イスマキヤ、マハテ、ベナヤ等ヒゼキヤ王および神の室の宰アザリヤの命に依りコナニヤ及びその兄弟シメイの手下につきてこれが監督者となる 14 東の門を守る者レビ人エムナの子コレ神に献ぐる誠意よりの禮物を司どりてエホバの献納物および至聖物を頒つ 15 その手につく者はエデン、ミニヤミン、エシユア、シマヤ、アマリヤおよびシカニヤみな祭司の邑々に居てその職を盡しその兄弟に班列に依て之を頒つ大小ともに均し 16 此外にまた凡て

名簿に載たる男子三歳以上にしてエホバの室に入り
その班列にしたがひて日々の職分を盡し擔任の勤務
を爲すところの者に之を頒つ 17 またその宗家にした
がひて名簿に載られその班列にしたがひて擔任の事
を執行ふところの祭司および二十歳以上のレビ人 18
ならびに名簿に載たるその小き者その妻その男子そ
の女子などに盡く之を頒つ會中すべて然り即ち彼等
は潔白忠實にその職を盡せり 19 また邑々の郊地に居
るアロンの子孫たる祭司等のためには邑ごとに人を
名指し選び祭司の中の一切の男およびレビ人の中の
名簿に載せたる一切の者にその分を予へしむ 20 ヒゼ
キヤ、ユダ全國に斯のごとく爲し善事正き事忠實な
る事をその神エホバの前に行へり 21 凡てその神の室
の職務につき律法につき誠命につきて行ひ始めてそ
の神を求めし工は悉く心をつくして行ひてこれを成
就たり

32 ヒゼキヤが此等の事を行ひ且つ忠實なりし後ア
ツスリヤの王セナケリブ來りてユダに入り堅固なる
邑々にむかひて陣を張り之を攻取んとす 2 ヒゼキヤ
、セナケリブの既に來りエルサレムに攻むかはんと
するを見 3 その牧伯等および勇士等と謀りて邑の外
なる一切の泉水を塞がんとす彼等これを助く 4 衆多
の民あつまりて一切の泉水および國の中を流れわた
る溪河を塞ぎていひけるはアツスリヤの王等來りて
水を多く得ば豈で可らんやと 5 ヒゼキヤまた力を強
くし破れたる石垣をことごとく建なほして之を戌樓
まで築き上げその外にまた石垣をめぐらしダビデの
邑のミロを堅くし戈盾を多く造り 6 軍長を多く民の
上に立て邑の門の廣場に民を集めてこれを努ひて言

ふ 7 汝ら心を強くし且勇めアツスリヤの王のためにも彼とともに群衆のためにも懼るる勿れ慄く勿れ我らとともになる者は彼とともになる者よりも多きぞかし 8 彼とともになる者は肉の腕なり然れども我らとともになる者は我らの神エホバにして我らを助け我らに代りて戦かひたまふべしと民はユダの王ヒゼキヤの言に安んず 9 此後アツスリヤの王セナケリブその全軍をもてラキシを攻圍み居りて臣僕をエルサレムに遣はしてユダの王ヒゼキヤおよびエルサレムに在る一切のユダ人に告しめて云く 10 アツスリヤの王セナケリブかく言ふ汝ら何を恃みてエルサレムに閉籠りをるや 11 ヒゼキヤ我らの神エホバ、アツスリヤの王の手より我らを救ひ出したまはんとて汝らを浚かし汝らをして饑渴て死しめんとするに非ずや 12 此ヒゼキヤはすなはちエホバの諸の崇邱と祭壇を取のぞきユダとエルサレムとに命じて汝らは唯一の壇の前にて崇拜を爲しその上に香を焚べしと言し者にあらずや 13 汝らは我およびわが先祖等が諸の國の民に爲したる所を知ざるか其等の國々の民の神少許にててもその國をわが手より救ひ取ることを得しや 14 わが先祖等の滅ぼし盡せし國民の諸の神の中誰か己の民をわが手より救ひ出すことを得し者あらんや然れば汝らの神いかでか汝らをわが手より救ひいだすことを得ん 15 然れば斯ヒゼキヤに欺かるる勿れ浚かさるる勿れまた彼を信ずる勿れ何の民何の國の神もその民を我手または我父祖の手より救ひ出すことを得ざりしなれば況て汝らの神いかでか我手より汝らを救ひ出すことを得んと 16 セナケリブの臣僕等この外にも多くエホバ神およびその僕ヒゼキヤを誹れり 17 セ

ナケリブまた書をかきおくりてイスラエルの神エホバを嘲りかつ誹り諸國の民の神々その民をわが手より救ひいださざりし如くヒゼキヤの神もその民をわが手より救ひ出さじと云ふ 18 彼ら遂に大聲を擧げユダヤ語をもて石垣の上なるエルサレムの民に語ひ之を威しかつ擾せり是は邑を取んとてなり 19 斯かれらはエルサレムの神を論ずること人の手の作なる地上の民の神々を論ずるがごとくせり 20 是によりてヒゼキヤ王およびアモツの子預言者イザヤともに祈祷て天に呼はりければ 21 エホバ天の使一箇を遣はしてアツスリヤ王の陣營にある一切の大勇士および將官軍長等を絶しめたまへり斯りしかば王面を赧らめて己の國に還りけるがその神の家にいりし時其身より出たる者等劍をもて之を其處に弑せり 22 是のごとくエホバ、ヒゼキヤとエルサレムの民をアツスリヤの王セナケリブの手および諸人の手より救ひいだし四方において之を守護たまへり 23 是において衆多の人献納物をエルサレムに携へきたりてエホバに奉りまた財寶をユダの王ヒゼキヤに餽れり此後ヒゼキヤは萬國の民に尊び見らる 24 當時ヒゼキヤ病て死んとせしがエホバに祈りければエホバこれに告をなし之に休徵を賜へり 25 然るにヒゼキヤその蒙むりし恩に酬ゆることをせずして心に高ぶりければ震怒これに臨まんとしたまユダとエルサレムに臨まんとせしが 26 ヒゼキヤその心に高慢を悔て身を卑くしエルサレムの民も同じく然なしたるに因てヒゼキヤの世にはエホバの震怒かれらに臨まざりき 27 ヒゼキヤは富と貴を極め府庫を造りて金銀寶石香物楯および各種の寶貴き器物を蔵め 28 また倉廩を造りて穀物酒油などの産

物を蔵め圈を造りて種々の家畜を置き牢を造りて羊の群を置き 29 また許多の邑を設けかつ牛羊を夥多しく有り是は神貨財を甚だ多くこれに賜ひしが故なり 30 このヒゼキヤまたギホンの水の上の源を塞ぎてこれを下より眞直にダビデの邑の西の方に引り斯ヒゼキヤはその一切の工を善なし就たり 31 但しバビロンの君等が使者を遣はしてこの國にありし奇蹟を問しめたる時には神かれを棄おきたまへり是その心に有ところの事を盡く知んがために之を試みたまへるなり 32 ヒゼキヤのその餘の行爲およびその徳行はユダとイスラエルの列王紀の書の中なるアモツの子預言者イザヤの黙示の中に記さる 33 ヒゼキヤその先祖等と偕に寝りたればダビデの子孫の墓の中なる高き處にこれを葬りユダの人々およびエルサレムの民みな厚くその死を送れり其子マナセこれに代りて王となる

33 マナセは十二歳の時位に即きエルサレムにて五十五年の間世を治めたり 2 彼はエホバの目に惡と觀たまふことを爲しイスラエルの子孫の前よりエホバの逐はらひたまひし國人の行ふところの憎むべき事に倣へり 3 即ちその父ヒゼキヤの毀ちたりし崇邱を改ため築き諸のバアルのために壇を設けアシラ像を作り天の衆群を拝みて之に事へ 4 またエホバが我名は永くエルサレムに在べしと宣まひしエホバの室内に數箇の壇を築き 5 天の衆群のためにエホバの室の兩の庭に壇を築き 6 またベンヒンノムの谷にてその子女に火の中を通らせかつ占トを行ひ魔術をつかひ禁厭を爲し憑鬼者とト筮師を取用ひなどしてエホバの目に惡と視たまふ事を多く行ひてその震怒を惹

起せり 7 彼またその作りし偶像を神の室に安置せり
神此室につきてダビデとその子ソロモンに言たまひ
し事あり云く我この室と我がイスラエルの諸の支派
の中より選びたるエルサレムとに我名を永く置ん 8
彼らもし我が凡て命ぜし事すなはちモーセが傳へし
一切の律法と法度と例典を謹みて行はば我が汝らの
先祖のために定めし地より我これが足を重てうつさ
じと 9 マナセかくユダとエルサレムの民とを迷はし
て悪を行はしめたり其状イスラエルの子孫の前にエ
ホバの滅ぼしたまひし異邦人よりも甚だし 10 エホバ
、マナセおよびその民を諭したまひしかども聽こと
をせざりき 11 是をもてエホバ、アッスリヤの王の軍
勢の諸將をこれに攻來らせたまひて彼等つひにマナ
セを鉤にて擄へ之を柵械に繋ぎてバビロンに曳ゆけ
り 12 然るに彼患難に罹るにおよびてその神エホバを
和めその先祖の神の前に大に身を卑くして 13 神に祈
りければその祈祷を容れその懇願を聽きこれをエル
サレムに携へかへりて再び國に蒞ましめたまへり是
によりてマナセ、エホバは誠に神にいますと知り 14
この後かれダビデの邑の外にてギホンの西の方なる
谷の内に石垣を築き魚門の入口までに及ぼし又オベ
ルに石垣を環らして甚だ高く之を築き上げユダの一
切の堅固なる邑に軍長を置き 15 またエホバの室より
異邦の神々および偶像を取除きエホバの室の山とエ
ルサレムとに自ら築きし一切の壇を取のぞきて邑の
外に投すて 16 エホバの壇を修復ひて酬恩祭および感
謝祭をその上に献げユダに命じてイスラエルの神エ
ホバに事へしめたり 17 然れども民は猶崇邱にて犠牲
を献ぐることを爲り但しその神エホバに而已なり

き 18 マナセのその餘の行爲その神になせし祈祷およびイスラエルの神エホバの名をもて彼を諭せし先見者等の言はイスラエルの列王の言行録に見ゆ 19 またその祈祷を爲たる事その聽れたる事その諸の罪愆その身を卑くする前に崇邱を築きてアシラ像および刻たる像を立たる處々などはホザイの言行録の中に記さる 20 マナセその先祖とともに寝りたれば之をその家に葬れり其子アモンこれに代りて王となる 21 アモンは二十二歳の時位に即きエルサレムにて二年の間世を治めたり 22 彼は其父マナセの爲しごとくエホバの目に惡と觀たまふ事を爲り即ちアモンその父マナセが作りたる諸の刻たる像に犠牲を献げてこれに事へ 23 その父マナセが身を卑くせしごとくエホバの前に身を卑くすることを爲ざりき斯このアモン愈その愆を増たりしが 24 その臣僕黨を結びて之に叛きこれをその家の内に弑せり 25 然るに國の民その黨を結びてアモン王に叛きし者等を盡く誅し而して國の民その子ヨシアを王となしてその後を嗣しむ

34 ヨシアは八歳の時位に即きエルサレムにて三十一年の間世を治めたり 2 彼はエホバの善と觀たまふ事を爲しその父ダビデの道にあゆみて右にも左にも曲らざりき 3 即ち尚若かりしかどもその治世の八年にその父ダビデの神を求むる事を始めその十二年には崇邱アシラ像刻たる像鑄たる像などを除きてユダとエルサレムを潔むることを始め 4 諸のバアルの壇を己の前にて毀たしめ其上に立る日の像を斫たふしアシラ像および雕像鑄像を打碎きて粉々にし是等に犠牲を献げし者等の墓の上に其を撒ちらし 5 祭司の骨をその諸の壇の上に焚き斯してユダとエルサレム

を潔めたり 6 またマナセ、エフライム、シメオンおよびナフタリの荒たる邑々にも斯なし 7 諸壇を毀ちアシラ像および諸の雕像を微塵に打碎きイスラエル全國の日の像を盡く斫たふしてエルサレムに歸りぬ 8 ヨシアその治世の十八年にいたりて已に國と殿とを潔め了りその神エホバの家を修繕はしめんとてアザリヤの子シャパン邑の知事マアセヤおよびヨアハズの子史官ヨアを遣せり 9 彼ら祭司の長ヒルキヤの許に至りてエホバの室に入し金を交せり是は門守のレビ人がマナセ、エフライムおよび其餘の一切のイスラエル人ならびにユダとベニヤミンの人およびエルサレムの民の手より斂めたる者なり 10 やがてエホバの室を監督するところの工師等の手にこれを交しければ彼等エホバの室にて操作ところの工人にこれを交して室を繕ひ修めしむ 11 即ち木匠および建築者に之を交しユダの王等が壞りたる家々のために琢石および骨木を買しめ梁木をととのはしむ 12 その人々忠實に操作けりその監督者はメラリの子孫たるヤハテ、オバデヤおよびコハテの子孫たるゼカリヤ、メシユラムなどのレビ人なりき彼等すなはち之を主どる又樂器を弄ぶに精巧なるレビ人凡て之に伴なふ 13 彼等亦荷を負ものを監督し種々の工事に操作ところの諸の工人をつかさどれり別のレビ人書記となり役人となり門守となれり 14 エホバの室にいりし金を取いだすに當りて祭司ヒルキヤ、モーセの傳へしエホバの律法の書を見いだせり 15 ヒルキヤ是において書記官シャパンにきて言けるは我エホバの室にて律法の書を見いだせりと而してヒルキヤその書をシャパンに付しければ 16 シャパンその書を王の所に持ゆき王

に復命まうして言ふ僕等その手に委ねられし所を盡く爲し 17 エホバの室にありし金を打あけて之を監督者の手および工人の手に交せりと 18 書記官シヤパン亦王に告て祭司ヒルキヤ我に一の書を交せりと言ひシヤパンそれを王の前に讀けるに 19 王その律法の言を聞て衣服を裂り 20 而して王ヒルキヤとシヤパンの子アヒカムとミカの子アブドンと書記官シヤパンと王の内臣アサヤとに命じて言ふ 21 汝ら往てこの見當りし書の言につきて我の爲またイスラエルとユダに遣れる者等のためにエホバに問へ我らの先祖等はエホバの言を守らず凡て此書に記されたる所を行ふことを爲ざりしに因てエホバ我等に大なる怒を斟ぎ給ふべければなりと 22 是においてヒルキヤおよび王の人々シャルムの妻なる女預言者ホルダの許に往りシヤルムはハルハスの子なるテクワの子にして衣裳を守る者なり時にホルダはエルサレムの第二の邑に住をれり彼等すなはちホルダに斯と語りしかば 23 ホルダこれに答へけるはイスラエルの神エホバかく言たまふ汝らを我に遣はせる人に告よ 24 エホバかく言たまふユダの王の前に讀し書に記されたる諸の呪詛に循ひて我この處と此に住む者に災害を降さん 25 其は彼ら我を棄て他の神に香を焚きおのが手にて作れる諸の物をもて我怒を惹起さんとしたればなりこの故にわが震怒この處に斟ぎて滅ざるべし 26 されど汝らを遣はしてエホバに問しむるユダの王には汝ら斯いふべしイスラエルの神エホバかく言たまふ汝が聞る言につきては 27 汝此處と此にすむ者を責る神の言を聞し時に心やさしくして神の前に於て身を卑くし我前に身を卑くし衣服を裂て我前に泣たれば我も汝に

聽りとエホバ宣まふ 28 然ば我汝をして汝の先祖等に列ならしめん汝は安然に墓に歸する事を得べし汝は我が此處と此に住む者に降すところの諸の災害を目に見る事あらじと彼等即ち王に復命まうしぬ 29 是において王人を遣はしてユダとエルサレムの長老をことごとく集め 30 而して王エホバの室に上りゆけりユダの人々エルサレムの民祭司レビ人及び一切の民大より小にいたるまでことごとく之にともなふ王すなはちエホバの室に見あたりし契約の書の言を盡く彼らの耳に讀聞せ 31 而して王己の所に立ちてエホバの前に契約を立てエホバにしたがひて歩み心を盡し精神を盡してその誠命と證詞と法度を守り此書にしるされたる契約の言を行はんと言ひ 32 エルサレムおよびベニヤミンの有ゆる人々をみな之に加はらしめたりエルサレムの民すなはちその先祖の神にまします御神の契約にしたがひて行へり 33 かくてヨシア、イスラエルの子孫に屬する一切の地より憎むべき者を盡く取のぞきイスラエルの有ゆる人をしてその神エホバに事まつらしめたりヨシアの世にある日の間は彼らその先祖の神エホバに従ひて離れざりき

35 茲にヨシア、エルサレムにおいてエホバに逾越節を行はんとし正月の十四日に逾越の物を宰らしめ 2 祭司をしてその職を執行はせ之を勵してエホバの室の務をなさしめ 3 またエホバの聖者となりてイスラエルの人衆を誨ふるレビ人に言ふ汝らイスラエルの王ダビデの子ソロモンが建たる家に聖契約の匱を放け再び肩に擔ふこと有ざるべし然ば今汝らの神エホバおよびその民イスラエルに事ふべし 4 汝らまたイスラエルの王ダビデの書およびその子ソロモンの書

に本づきて父祖の家に循がひその班列に依て自ら準備をなし 5 汝らの兄弟なる民の人々の宗家の區分に循ひて聖所に立ち之にレビ人の宗族の分缺ること無らしむべし 6 汝ら逾越の物を宰り身を潔め汝らの兄弟のために準備をなしモーセが傳へしエホバの言のごとく行ふべしと 7 ヨシアすなはち羔羊および羔山羊を民の人々に餽る其數三萬また牡牛三千を餽る是みな王の所有の中より出して其處に居る一切の人のために逾越の祭物となせるなり 8 その牧伯等も民と祭司とレビ人に誠意より與ふる所ありまた神の室の長等ヒルクヤ、ゼカリヤ、エヒエルも綿羊二千六百牛三百を祭司に與へて逾越の祭物と爲す 9 またレビ人の長たる人々すなはちコナニヤおよびその兄弟シマヤ、ネタンエル並にハシヤビヤ、エイエル、ヨザバデなども綿羊五千牛五百をレビ人に餽りて逾越の祭物となす 10 是のごとく獻祭の事備はりぬれば王の命にしたがひて祭司等はその擔任場に立ちレビ人はその班列に循がひ居り 11 やがて逾越の物を宰りければ祭司その血をこれが手より受て洒げりレビ人その皮を剥り 12 かくて燔祭の物を移して民の人々の父祖の家の區分に付してエホバに獻げしむモーセの書に記されたるが如し其牛に行ふところも亦是のごとし 13 而して例規のごとくに逾越の物を火にて炙りその他の聖物を鍋釜鼎などに煮て一切の民の人々に奔配れり 14 かくて後かれら自身のためと祭司等のために備ふ其はアロンの子孫たる祭司等は燔祭と脂を獻げて夜に入たればなり是に因て斯レビ人自分のためとアロンの子孫たる祭司等のために備ふるなり 15 アサフの子孫たる謳歌者等はダビデ、アサフ、ヘマンお

よび王の先見者エドトンの命にしたがひてその擔任場に居り門を守る者等は門々に居てその職務を離るるに及ばざりき其はその兄弟たるレビ人これがために備へたればなり 16 斯のごとく其日エホバの献祭の事ことごとく備はりければヨシア王の命にしたがひて逾越節を行ひエホバの壇に燔祭を献げたり 17 即ち其處に来れるイスラエルの子孫その時逾越節を行ひ七日の間酔いれぬパンの節を行へり 18 預言者サムエルの日より以來イスラエルにて是のごとくに逾越節を行ひし事なし又イスラエルの諸王の中にはヨシアが祭司レビ人ならびに來りあつまれるユダとイスラエルの諸人およびエルサレムの民とともに行ひし如き逾越節を行ひし者一人もあらず 19 この逾越節はヨシアの治世の十八年に行ひしなり 20 是のごとくヨシア殿をととのへし後エジプトの王ネコ、ユフラテの邊なるカルケミシを攻撃んとて上り來りけるにヨシアこれを禦がんとて出往り 21 是においてネコ使者をかれに遣はして言ふユダの王よ是あに汝の與る所ならんや今日は汝を攻んとには非ず我敵の家を攻んとするなり神われに命じて急がしむ神われとともにあり汝神に逆ふことを罷よ恐らくは彼なんぢを滅ぼしたまはんと 22 然るにヨシア面を轉して去ことを肯はず却てこれと戦はんとて服装を變へ神の口より出しネコの言を聽いれずしてメギドンの谷に到りて戦ひけるが 23 射手の者等ヨシア王に射中たれば王その臣僕にむかひて我を扶け出せ我太瘡を負ふと言ひ 24 是においてその臣僕等かれをその車より扶けおろし其引せたる次の車に乗てエルサレムにつれゆきけるが遂に死たればその先祖の墓にこれを葬りぬユダとエ

ルサレムみなヨシアのために哀しめり 25時にエレミヤ、ヨシアのために哀歌を作り謳歌男謳歌女今日にいたるまでその哀歌の中にヨシアの事を述ベイスラエルの中に之を例となせりその詞は哀歌の中に書さる 26ヨシアのその餘の行爲そのエホバの律法に録されたる所にしたがひて爲し徳行 27およびその始終の行爲などはイスラエルとユダの列王の書に記さる

36 是において國の民ヨシアの子エホアハズを取りエルサレムにてその父にかはりて王とならしむ 2エホアハズは二十三歳の時位に即きエルサレムにて三月が間世を治めけるが 3エジプトの王エルサレムにて彼を廢し且銀百タラント金一タラントの罰金を國に課せり 4而してエジプトの王ネコ彼の兄弟エリアキムをもてユダとエルサレムの王となして之が名をエホヤキムと改めその兄弟エホアハズを執へてエジプトに曳ゆけり 5エホヤキムは二十五歳の時位に即きエルサレムにて十一年の間世を治めその神エホバの惡と視たまふことを爲り 6彼の所にバビロンの王ネブカデネザル攻のぼりバビロンに曳ゆかんとて之を柵械に繋げり 7ネブカデネザルまたエホバの家を器具をバビロンに携へゆきてバビロンにあるその宮にこれを蔵めたり 8エホヤキムのその餘の行爲その行ひし憎むべき事等およびその心に企みし事などはイスラエルとユダの列王の書に記さる其子エホヤキンこれに代りて王となる 9エホヤキンは八歳の時位に即きエルサレムにて三月と十日の間世を治めエホバの惡と視たまふ事を爲けるが 10歳の歸るにおよびてネブカデネザル王人を遣はして彼とエホバの室の貴き器皿とをバビロンに携へいたらしめ之が兄弟ゼ

デキヤをもてユダとエルサレムの王となせり **11** ゼデキヤは二十一歳の時位に即きエルサレムにて十一年の間世を治めたり **12** 彼はその神エホバの悪と視たまふ事を爲しエホバの言を傳ふる預言者エレミヤの前に身を卑くせざりき **13** ネブカデネザル彼をして神を指て誓はしめたりしにまた之にも叛けり彼かくその項を強くしその心を剛愎にしてイスラエルの神エホバに立かへらざりき **14** 祭司の長等および民もまた凡て異邦人の中にある諸の憎むべき事に倣ひて太甚しく大に罪を犯しエホバのエルサレムに聖め置たまへるその室を汚せり **15** 其先祖の神エホバその民とその住所とを恤むが故に頻りにその使者を遣はして之を諭したまひしに **16** 彼ら神の使者等を嘲けり其御言を軽んじその預言者等を罵りたればエホバの怒その民にむかひて起り遂に救ふべからざるに至れり **17** 即ちエホバ、カルデヤ人の王を之に攻きたらせたまひければ彼その聖所の室にて劍をもて少者を殺し童男をも童女をも老人をも白髪の者をも憐まざりき皆ひとしく彼の手付したまへり **18** 神の室の諸の大小の器皿エホバの室の貨財王とその牧伯等の貨財など凡て之をバビロンに携へゆき **19** 神の室を焚きエルサレムの石垣を崩しその中の宮殿を盡く火にて焚きその中の貴き器を盡く壞なへり **20** また劍をのがれし者等はバビロンに擄れゆきて彼處にて彼とその子等の臣僕となりペルシヤの國の興るまで斯てありき **21** 是エレミヤの口によりて傳はりしエホバの言の應ぜんがためなりき斯この地遂にその安息を享たり即ち是はその荒をる間安息して終に七十年満ぬ **22** ペルシヤ王クロスの元年に當りエホバ曩にエレミヤの口によりて

傳へたまひしその聖言を成んとてペルシヤ王クロス
の心を感動したまひければ王すなはち宣命をつたへ
詔書を出して徧く國中に告示して云く **23** ペルシヤ王
クロスかく言ふ天の神エホバ地上の諸國を我に賜へ
りその家をユダのエルサレムに建ることを我に命ず
凡そ汝らの中もしその民たる者あらばその神エホバ
の助を得て上りゆけ

エズラ記

1 ペルシヤ王クロスの元年に當りエホバ曩にエレミヤの口によりて傳へたまひしその聖言を成んとてペルシヤ王クロスの心を感動したまひければ王すなはち宣命をつたへ詔書を出して徧く國中に告示して云く **2** ペルシヤ王クロスかく言ふ 天の神エホバ地上の諸國を我に賜へり その家をユダのエルサレムに建ることを我に命ず **3** 凡そ汝らの中もしその民たる者あらばその神の助を得てユダのエルサレムに上りゆきエルサレムなるイスラエルの神エホバの室を建ることをせよ 彼は神にましませり **4** その民にして生存れる者等の寓りをる處の人々は之に金銀貨財家畜を予へて助くべし その外にまたエルサレムなる神の室のために物を誠意よりささぐべしと **5** 是にユダとベニヤミンの宗家の長祭司レビ人など凡て神にその心を感動せられし者等エルサレムなるエホバの室を建んとて起おこれり **6** その周圍の人々みな銀の器黄金貨財家畜および寶物を予へて之に力をそへこの外にまた各種の物を誠意より獻げたり **7** クロス王またネブカデネザルが前にエルサレムより携へ出して己の神の室に納めたりしエホバの室の器皿を取いだせり **8** 即ちペルシヤ王クロス庫官ミテレダテの手をもて之を取いだしてユダの牧伯セシバザルに數へ交付せり **9** その數は是のごとし 金の盤三十 銀の盤一千 小刀二十九 **10** 金の大罌三十、二等の銀の大罌四百十 その他の器具一千 **11** 金銀の器皿は合せて五千四百ありしがセシバザル俘擄人等をバビロンよりエルサレムに將て上りし時に之をことごとく携さへ上れり

2 往昔バビロンの王ネブカデネザルに擄へられバビロンに遷されたる者のうち俘囚をゆるされてエルサレムおよびユダに上りおのおの己の邑に歸りし此州の者は左の如し **2** 是皆ゼルバベル、エシユア、ネヘミヤ、セラヤ、レエラヤ、モルデカイ、ビルシヤン、ミスパル、ビグワイ、レホム、バアナ等に隨ひ來れり 其イスラエルの民の人数は是のごとし **3** パロシの子孫二千百七十二人 **4** シパテヤの子孫三百七十二人 **5** アラの子孫七百七十五人 **6** エシユアとヨアブの族たるパハテモアブの子孫二千八百十二人 **7** エラムの子孫千二百五十四人 **8** ザツトの子孫九百四十五人 **9** ザツカイの子孫七百六十人 **10** パニの子孫六百四十二人 **11** ベバイの子孫六百二十三人 **12** アズガデの子孫千二百二十二人 **13** アドニカムの子孫六百六十六人 **14** ビグワイの子孫二千五十六人 **15** アデンの子孫四百五十四人 **16** ヒゼキヤの家のアテルの子孫九十八人 **17** ベザイの子孫三百二十三人 **18** ヨラの子孫百十二人 **19** ハシユムの子孫二百二十三人 **20** ギバルの子孫九十五人 **21** ベテレヘムの子孫百二十三人 **22** ネットパの人五十六人 **23** アナトテの人百二十八人 **24** アズマウテの民四十二人 **25** キリアテヤリム、ケピラおよびベエロテの民七百四十三人 **26** ラマおよびゲバの民六百二十一人 **27** ミクマシの人百二十二人 **28** ベテルおよびアイの人二百二十三人 **29** ネボの民五十二人 **30** マグビシの民百五十六人 **31** 他のエラムの民千二百五十四人 **32** ハリムの民三百二十人 **33** ロド、ハデデおよびオノの民七百二十五人 **34** エリコの民三百四十五人 **35** セナアの民三千六百三十人 **36** 祭司はエシユアの家のエダヤの子孫九百七十三人 **37** インメルの子孫千五十二

人 38 パシユルの子孫千二百四十七人 39 ハリムの子孫千十七人 40 レビ人はホダヤの子等エシユアとカデミエルの子孫七十四人 41 謳歌者はアサフの子孫百二十八人 42 門を守る者の子孫はシャルムの子孫アテルの子孫タルモンの子孫アツクブの子孫ハテタの子孫シヨバイの子孫合せて百三十九人 43 ネテニ人はゼハの子孫ハスパの子孫タバオテの子孫 44 ケロスの子孫シアハの子孫パドンの子孫 45 レバナの子孫ハガバの子孫アツクブの子孫 46 ハガブの子孫シャルマイの子孫ハナンの子孫 47 ギデルの子孫ガハルの子孫レアヤの子孫 48 レヂンの子孫ネコダの子孫ガザムの子孫 49 ウザの子孫パセアの子孫ベサイの子孫 50 アスナの子孫メウニムの子孫ネフシムの子孫 51 バクブクの子孫ハクパの子孫ハルホルの子孫 52 バヅリテの子孫メヒダの子孫ハルシャの子孫 53 バルコスの子孫シセラの子孫テマの子孫 54 ネヂアの子孫ハテパの子孫等なり 55 ソロモンの僕たりし者等の子孫すなはちソタイの子孫ハツツペレテの子孫ペリダの子孫 56 ヤアラの子孫ダルコンの子孫ギデルの子孫 57 シパテヤの子孫ハツテルの子孫ポケレテハツゼバィムの子孫アミの子孫 58 ネテニ人とソロモンの僕たりし者等の子孫とは合せて三百九十二人 59 またテルメラ、テルハレサ、ケルブ、アダンおよびインメルより上り來れる者ありしがその宗家の長とその血統とを示してイスラエルの者なるを明かにすることを得ざりき 60 是すなはちデラヤの子孫トビヤの子孫ネコダの子孫にして合せて六百五十二人 61 祭司の子孫たる者の中にハバヤの子孫ハッコヅの子孫バルジライの子孫あり バルジライはギレアデ人バルジライの女を妻に娶りてその

名を名りしなり 62 是等の者譜系に載たる者等の中におのが名を尋ねたれども在ざりき 是の故に汚れたる者として祭司の中より除かれたり 63 テルシヤタは之に告てウリムとトンミムを帶る祭司の興るまでは至聖物を食ふべからずと言ひ 64 會衆あはせて四萬二千三百六十人 65 この外にその僕婢七千三百三十七人謳歌男女二百人あり 66 その馬七百三十六匹 その騾二百四十五匹 67 その駱駝四百三十五匹 驢馬六千七百二十匹 68 宗家の長數人エルサレムなるエホバの室にいたるにおよびてエホバの室をその本の處に建んとて物を誠意より獻げたり 69 即ちその力にしたがひて工事のために庫を納めし者は金六萬一千ダリク銀五千斤祭司の衣服百襲なりき 70 祭司レビ人民等謳歌者門を守る者およびネテニ人等その邑々に住み一切のイスラエル人その邑々に住り

3 イスラエルの子孫かくその邑々に住居しが七月に至りて民一人のごとくにエルサレムに集まれり 2 是に於てヨザダクの子エシユアとその兄弟なる祭司等およびシャルテルの子ゼルバベルとその兄弟等立おこりてイスラエルの神の壇を築けり 是神の人モーセの律法に記されたる所に循ひてその上に燔祭を獻げんとてなりき 3 彼等は壇をその本の處に設けたり 是國々の民を懼れしが故なり 而してその上にて燔祭をエホバに獻げ朝夕にこれを獻ぐ 4 またその録されたる所に循ひて結茅節を行ひ毎日の分を按へて例に照し數のごとくに日々の燔祭を獻げたり 5 是より後は常の燔祭および月朔とエホバの一切のきよき節會とに用ゐる供物ならびに人の誠意よりエホバにたてまつる供物を獻ぐることをす 6 即ち七月の一日よりし

て燔祭をエホバに獻ぐることを始めけるがエホバの殿の基礎は未だ置ざりき 7是において石工と木工に金を交付しまたシドンとツロの者に食物飲物および油を與へてペルシヤの王クロスの允准にしたがひてレバノンよりヨツパの海に香柏を運ばしめたり 8斯てエルサレムより神の室に歸りたる次の年の二月にシャルテルの子ゼルバベル、ヨザダクの子エシユアおよびその兄弟たる他の祭司レビ人など凡て俘囚をゆるされてエルサレムに歸りし者等を始め二十歳以上のレビ人を立てエホバの室の工事を監督せしむ 9是に於てユダの子等なるエシユアとその子等および兄弟カデミエルとその子等齊しく立て神の家の工人を監督せり ヘナダデの子等およびその子等と兄弟等のレビ人も然り 10かくて建築者エホバの殿の基礎を置る時祭司等禮服を衣て喇叭を執りアサフの子孫たるレビ人鑢鍍を執りイスラエルの王ダビデの例に循ひてエホバを讚美す 11彼等班列にしたがひて諸共に歌を謠ひてエホバを讚めかつ頌へエホバは恩ふかく其矜恤は永遠にたゆることなればなりと言ひ そのエホバを讚美する時に民みな大聲をあげて呼はれりエホバの室の基礎を据ればなり 12されど祭司レビ人宗家の長等の中に以前の室を見たりし老人ありけるが今この室の基礎をその目の前に置るを見て多く聲を放ちて泣り また喜悅のために聲をあげて呼はる者も多かりき 13是をもて人衆民の歡こびて呼はる聲と民の泣く聲とを聞わくることを得ざりき そは民大聲に呼はり叫びければその聲遠くまで聞えわたりたればなり

4 茲にユダとベニヤミンの敵たる者等夫俘囚より歸り來りし人々イスラエルの神エホバのために殿を建ると聞き **2** 乃ちゼルバベルと宗家の長等の許に至りて之に言けるは我儕をして汝等と共に之を建しめよ我らは汝らと同じく汝らの神を求む アッスリヤの王エサルハドンが我儕を此に携へのぼりし日より以來我らはこれに犠牲を獻ぐるなりと **3** 然るにゼルバベル、エシユアおよびその餘のイスラエルの宗家の長等これに言ふ 汝らは我らの神に室を建ることに與るべからず 我儕獨りみづからイスラエルの神エホバのために建ることを爲べし 是ペルシヤの王クロス王の我らに命ぜし所なりと **4** 是に於てその地の民ユダの民の手を弱らせてその建築を妨げ **5** 之が計る所を敗らんために議官に賄賂して之に敵せしむペルシヤ王クロスの世にある日よりペルシヤ王ダリヨスの治世まで常に然り **6** アハシユエロスの治世すなはち其治世の初に彼ら表を上りてユダとエルサレムの民を誣訟へたり **7** またアルタシヤスタの世にピシラム、ミテレダテ、タビエルおよびその餘の同僚同じく表をペルシヤの王アルタシヤスタに上つれり その書の文はスリヤの文字にて書きスリヤ語にて陳述たる者なりき **8** 方伯レホム書記官シムシヤイ書をアルタシヤスタ王に書おくりてエルサレムを誣ゆ左のごとし **9** 即ち方伯レホム書記官シムシヤイおよびその餘の同僚デナ人アパルサテカイ人タルペライ人アパルサイ人アルケロイ人バビロン人シユシヤン人デハウ人エラマイ人 **10** ならびに其他の民すなはち大臣オスナパルが移してサマリアの邑および河外ふのその他の地に置し者等云々 **11** 其アルタシヤスタ王に上りし書の

稿は是なく云く河外ふの汝の僕等云々 **12** 王知たまへ
汝の所より上り來りしユダヤ人エルサレムに到りて
われらの中にいりかの背き悖る悪き邑を建なほし石
垣を築きあげその基礎を固うせり **13** 然ば王いま知た
まへ 若この邑を建て石垣を築きあげなば彼ら必ず貢
賦租税税金などを納じ 然すれば終に王等の不利とな
らん **14** そもそも我らは王の鹽を食む者なれば王の輕
んぜらるるを見るに忍びず 茲に人を遣はし王に奏聞
す **15** 列祖の記録の書を稽へたまへ必ずその記録の書
の中において此邑は背き悖る邑にして諸王と諸州と
に害を加へし者なるを見その中に古來叛逆の事あり
しを知たまふべし此邑の滅ぼされしは此故に縁るな
り **16** 我ら王に奏聞す 若この邑を建て石垣を築きあ
げなばなんぢは之がために河外ふの領分をうしなふ
なるべしと **17** 王すなはち方伯レホム書記官シムシャ
イこの餘サマリアおよび河外ふのほかの處に住る同
僚に答書をおくりて云く平安あれ云々 **18** 汝らが我儕
におくりし書をば我前に讀解しめたり **19** 我やがて詔
書を下して稽考しめしに此邑の古來起りて諸王に背
きし事その中に反亂謀叛のありし事など詳悉なり **20**
またエルサレムには在昔大なる王等ありて河外ふを
ことごとく治め貢賦租税税金などを己に納しめたる
事あり **21** 然ば汝ら詔言を傳へて其人々を止め我が詔
言を下すまで此邑を建ること無らしめよ **22** 汝ら慎め
之を爲ことを忽にする勿れ 何ぞ損害を増て王に害を
及ぼすべけんやと **23** アルタシヤスタ王の書の稿をレ
ホム及び書記官シムシャイとその同僚の前に讀あげ
ければ彼等すなはちエルサレムに奔ゆきてユダヤ人
に就き腕力と權威とをもて之を止めたり **24** 此をもて

エルサレムなる神の室の工事止みぬ 即ちペルシヤ王
ダリヨスの治世の二年まで止みたりき

5 爰に預言者ハガイおよびイドの子ゼカリヤの二人
の預言者ユダとエルサレムに居るユダヤ人に向ひて
イスラエルの神の名をもて預言する所ありければ **2**
シヤルテルの子ゼルバベルおよびヨザダクの子エシ
ユア起あがりてエルサレムなる神の室を建ることを
始む 神の預言者等これと共に在て之を助く **3** その時
に河外の總督タテナイといふ者セタルボズナイおよ
びその同僚とともにその所に来り誰が汝らに此室を
建て此石垣を築きあぐることを命ぜしやと斯言ひ **4**
また此建物を建る人々の名は何といふやと斯これに
問り **5** 然るにユダヤ人の長老等の上にはその神の目
そそぎゐたれば彼等これを止むること能はずして遂
にその事をダリヨスに奏してその返答の來るを待ち
6 河外ふの總督タテナイおよびセタルボズナイとその
同僚なる河外ふのアパルサカイ人がダリヨス王に上
まつりし書の稿は左のごとし **7** 即ち其上まつりし書
の中に書しるしたる所は是のごとし 云く願くはダリ
ヨス王に大なる平安あれ **8** 王知たまへ我儕ユダヤ州
に往てかの大神の室に至り視しに巨石をもて之を建
て材木を組て壁を作り居り其工事おほいに捗どりて
その手を下すところ成ざる無し **9** 是に於て我儕その
長老等に問てこれに斯いへり 誰が汝らに此室を建て
この石垣を築きあぐることを命ぜしやと **10** 我儕また
その首長たる人々の名を書しるして汝に奏聞せんが
ためにその名を問り **11** 時に彼等かく我らに答へて言
り 我儕は天地の神の僕にして年久しき昔に建おかれ
し殿を再び建るなり 是は素イスラエルの大なる王某

の建築きたる者なしりが **12** 我らの父等天の神の震怒を惹起せしに縁てつひに之をカルデヤ人バビロンの王ネブカデネザルの手に付したまひければ彼この殿を毀ち民をバビロンに攜へゆけり **13** 然るにバビロンの王クロスの元年にクロス王神のこの室を建べしとの詔言を下したまへり **14** 然のみならず エルサレムの殿よりネブカデネザルが取いだしてバビロンの殿に携へいれし神の室の金銀の器皿もクロス王これをバビロンの殿より取いだし其立たる總督セシバザルと名くる者に之を付し **15** 而して彼に言けらく是等の器皿を取り往て之をエルサレムの殿に携へいれ神の室をその本の處に建よと **16** 是において其セシバザル來りてエルサレムなる神の室の石礎を置たりき 其時よりして今に至るまで之を建つつありしが猶いまだ竣らざるなりと **17** 然ば今王もし善となされなば請ふ御膝下バビロンにある所の王の寶藏を查べたまひて神のこの室を建べしとの詔言のクロス王より出しや否を稽へ而して王此事につきて御旨を我らに諭したまえ

6 是に於てダリヨス王詔言を出しバビロンにて寶物を蔵むる所の文庫に就て查べ稽しめしに **2** メデア州の都城アクメタにて一の卷物を得たり その内に書しるせる記録は是のごとし **3** クロス王の元年にクロス王詔言を出せり云くエルサレムなる神の室の事につきて諭す その犠牲を獻ぐる所なる殿を建てその石礎を堅く置ゑ其室の高を六十キュビトにし其濶を六十キュビトにし **4** 巨石三行新木一行を以せよ 其費用は王の家より授くべし **5** またネブカデネザルがエルサレムの殿より取いだしてバビロンに携へきたりし神

の室の金銀の器皿は之を還してエルサレムの殿に持
ゆかしめ神の室に置いてその故の所にあらしむべしと
6 然ば河外ふの總督タテナイおよびセタルボズナイと
その同僚なる河外ふのアパルサカイ人汝等これに遠
ざかるべし 7 神のその室の工事を妨ぐる勿れ ユダヤ
人の牧伯とユダヤ人の長老等に神のその家を故の處
に建しめよ 8 我また詔言を出し其神の家を建ること
につきて汝らが此ユダヤ人の長老等に爲べきことを
示す 王の財寶の中すなはち河外ふの租税の中より迅
速に費用をその人々に與へよその工事を滞ほらしむ
る勿れ 9 又その需むる物即ち天の神にたてまつる燔
祭の小牛牡羊および羔羊ならびに麥鹽酒油など凡て
エルサレムにをる祭司の定むる所に循ひて日々に怠
慢なく彼等に與へ 10 彼らをして馨しき香の犠牲を天
の神に獻ぐることを得せしめ王とその子女の生命の
ために祈ることを得せしめよ 11 かつ我詔言を出す誰
にもせよ此言を易る者あらば其家の梁を抜きとり彼
を擧て之に釘ん その家はまた之がために厠にせらる
べし 12 凡そ之を易へまたエルサレムなるその神の室
を毀たんとて手を出す王あるひは民は彼處にその名
を留め給ふ神ねがはくはこれを倒したまへ 我ダリヨ
ス詔言を出せり 迅速に之を行なへ 13 ダリヨス王か
く諭しければ河外ふの總督タテナイおよびセタルボ
ズナイとその同僚迅速に之を行なへり 14 ユダヤ人の
長老等すなはち之を建て預言者ハガイおよびイドの
子ゼカリヤの預言に由て之を成就たり 彼等イスラエ
ルの神の命に循ひクロス、ダリヨスおよびペルシヤ
王アルタシヤスタの詔言に依て之を建竣ぬ 15 ダリヨ
ス王の治世の六年アダルの月の三日にこの室成り 16

是に於てイスラエルの子孫祭司レビ人およびその餘の俘擄人よろこびて神のこの室の落成禮を行なへり
17 即ち神のこの室の落成禮において牡牛一百牡羊二百 羔羊四百を獻げまたイスラエルの支派の數にしたがひて牡山羊十二を獻げてイスラエル全體のために罪祭となし **18** 祭司をその分別にしたがひて立てレビ人をその班列にしたがひて立て エルサレムに於て神に事へしむ 凡てモーセの書に書しるしたるが如し
19 斯て俘囚より歸り來りし人々正月の十四日に逾越節を行へり **20** 即ち祭司レビ人共に身を潔めて皆潔くなり一切俘囚より歸り來りし人々のため其兄弟たる祭司等のため又自己のために逾越の物を宰れり **21** 擄はれゆきて歸り來しイスラエルの子孫および其國の異邦人の汚穢を棄て是等に附てイスラエルの神エホバを求むる者等すべて之を食ひ **22** 喜びて七日の間酔いれぬパンの節を行へり 是はエホバかれらを喜ばせアッスリヤの王の心を彼らに向はせ彼をしてイスラエルの神にまします神の家の工事を助けさせたまひしが故なり

7 是等の事の後ペルシヤ王アルタシヤスタの治世にエズラといふ者あり エズラはセラヤの子セラヤはアザリヤの子アザリヤはヒルキヤの子 **2** ヒルキヤはシャルムの子シャルムはザドクの子ザドクはアヒトブの子 **3** アヒトブはアマリヤの子アマリヤはアザリヤの子アザリヤはメラヨテの子 **4** メラヨテはゼラヒヤの子ゼラヒヤはウジの子ウジはブツキの子 **5** ブツキはアビシユアの子アビシユアはピネハスの子ピネハスはエレアザルの子エレアザルは祭司の長アロンの子なり **6** 此エズラ、バビロンより上り來れり 彼はイ

スラエルの神エホバの授けたまひしモーセの律法に精しき學士なりき 其神エホバの手これが上にありしに因てその求むる所を王ことごとく許せり 7 アルタシヤスタ王の七年にイスラエルの子孫および祭司レビ人謳歌者門を守る者ネテニ人など多くエルサレムに上れり 8 王の七年の五月にエズラ、エルサレムに到れり 9 即ち正月の一日にバビロンを出たちて五月の一日にエルサレムに至る 其神のよき手これが上にありしに因てなり 10 エズラは心をこめてエホバの律法を求め之を行ひてイスラエルの中に法度と例規とを教へたりき 11 エホバの誠命の言に精しく且つイスラエルに賜ひし法度に明かなる學士にて祭司たるエズラにアルタシヤスタ王の與へし書の言は是のごとし 12 諸王の王アルタシヤスタ天の神の律法の學士なる祭司エズラに諭す 願くは全云々 13 我詔言を出す我國の内にをるイスラエルの民およびその祭司レビ人の中凡てエルサレムに往んと志す者は皆なんぢと偕に往べし 14 汝はおのが手にある汝の神の律法に照してユダとエルサレムの模様とを察せんために王および七人の議官に遣はされて往くなり 15 且汝は王とその議官がエルサレムに宮居するところのイスラエルの神のために誠意よりささぐる金銀を携へ 16 またバビロン全州にて汝が獲る一切の金銀および民と祭司とがエルサレムなる其神の室のために誠意よりする禮物を携さふ 17 然ば汝その金をもて牡牛牡羊羔羊およびその素祭と灌祭の品を速に買ひエルサレムにある汝らの神の室の壇の上にこれを獻ぐべし 18 また汝と汝の兄弟等その餘れる金銀をもて爲んと欲する所あらば汝らの神の旨にしたがひて之を爲せ 19 また

汝の神の室の奉事のために汝が賜はりし器皿は汝これをエルサレムの神の前に納めよ **20** その外汝の神の室のために需むる所あらば汝の用ひんとする所の者をことごとく王の府庫より取て用ふべし **21** 我や我アルタシヤスタ王 河外ふの一切の庫官に詔言を下して云ふ 天の神の律法の學士祭司エズラが汝らに需むる所は凡てこれを迅速に爲べし **22** 即ち銀は百タラント 小麥は百石 酒は百バテ 油は百バテ 鹽は量なかるべし **23** 天の神の室のために天の神の命ずる所は凡て謹んで之を行なへ しからずば王とその子等との國に恐くは震怒のぞまん **24** かつ我儕なんぢらに諭す 祭司レビ人謳歌者門を守る者ネテニ人および神のその室の役者などには貢賦租税税金などを課すべからず **25** 汝エズラ汝の手にある汝の神の智慧にしたがひて有司および裁判人を立て河外ふの一切の民すなはち汝の神の律法を知る者等を盡く裁判しめよ 汝らまた之を知ざる者を教へよ **26** 凡そ汝の神の律法および王の律法を行はざる者をば迅速にその罪を定めて或は殺し或は追放ち或はその貨財を沒收し或は獄に繋ぐべし **27** 我らの先祖の神エホバは讚べき哉 斯王の心にエルサレムなるエホバの室を飾る意を起させ **28** また王の前とその議官の前と王の大臣の前にて我に矜恤を得させたまへり 我神エホバの手わが上にありしに因て我は力を得 イスラエルの中より首領たる人々を集めて我とともに上らしむ

8 アルタシヤスタ王の治世に我とともにバビロンより上り來りし者等の宗家の長およびその系譜は左のごとし **2** ピネハスの子孫の中にてはゲルシヨム、イタマルの子孫の中にてはダニエル、ダビデの子孫の

中にはハットシ 3 シカニヤの子孫の中パロシの子孫の中にはゼカリヤ彼と偕にありて名簿に載られたる男子百五十人 4 パハテモアブの子孫の中にはゼラヒヤの子エリヨエナイ彼と偕なる男二百人 5 シカニヤの子孫の中にはヤハジエルの子 彼と偕なる男三百人 6 アデンの子孫の中にはヨナタンの子エベデ彼とともなる男五十人 7 エラムの子孫の中にはアタリヤの子エサヤ彼と偕なる男七十人 8 シパテヤの子孫の中にはミカエルの子ゼバデヤ彼とともなる男八十人 9 ヨハブの子孫の中にはエヒエルの子オバデヤ彼とともなる男二百十八人 10 シロミテの子孫の中にはヨシピアの子 彼とともなる男百六十人 11 ベバイの子孫の中にはベバイの子ゼカリヤ彼と偕なる男二十八人 12 アズガデの子孫の中にはハッカタンの子ヨハナン彼とともなる男百十人 13 アドニカムの子孫の中の後なる者等あり 其名をエリペレテ、ユエル、シマヤといふ彼らと偕なる男六十人 14 ビグワイの子孫の中にはウタイおよびザブデ彼等とともなる男七十人 15 我かれらをアハワに流るる所の河の邊に集めて三日が間かしこに天幕を張居たりしが我民と祭司とを閲せしにレビの子孫一人も其處に居ざりければ 16 すなはち人を遣てエリエゼル、アリエル、シマヤ、エルナタン、ヤリブ、エルナタン、ナタン、ゼカリヤ、メシユラムなどいふ長たる人々を招きまた教晦を施こす所のヨヤリブおよびエルナタンを招けり 17 而して我カシピアといふ處の長イドの許に彼らを出し遣せり 即ち我カシピアといふ處にをるイドとその兄弟なるネテ二人に告ぐべき詞を之が口に授け我等の神の室のために役者を我儕に携

へ來れと言けるが **18** 我らの神よく我儕を助けたまひて彼等つひにイスラエルの子レビの子マヘリの子孫イシケセルを我らに携さへ來り又セレビヤといふ者およびその子等と兄弟十八人 **19** ハシヤビヤならびにメラリの子孫のエサヤおよびその兄弟とその子等二十人を携へ **20** またネテ二人すなはちダビデとその牧伯等がレビ人に事へしむるために設けたりしネテ二人二百二十人を携へ來れり 此等の者は皆その名を掲げられたり **21** 斯て我かしこなるアハワの河の邊にて斷食を宣傳へ我儕の神の前にて我儕身を卑し我らと我らの小き者と我らの諸の所有のために正しき途を示されんことを之に求む **22** 其は我儕さきに王に告て我らの神は己を求むる者を凡て善く助けまた己を棄る者にはその權能と震怒とをあらはしたまふと言しに因て我道路の敵を防ぎて我儕を護るべき歩兵と騎兵とを王に請ふを羞ぢたればなり **23** かくてこのことを我ら斷食して我儕の神に求めけるに其祈禱を容たまへり **24** 時に我祭司の長十二人即ちセレビヤ、ハシヤビヤおよびその兄弟十人を之とともに擇び **25** 金銀および器皿すなはち王とその議官とその牧伯と彼處の一切のイスラエル人とが我らの神の室のために獻げたる奉納物を量りて彼らに付せり **26** その量りて彼らの手に付せし者は銀六百五十タラント銀の器百タラント金百タラントなりき **27** また金の大罎二十あり一千ダリクに當るまた光り輝く精銅の器二箇ありその貴きこと金のごとし **28** 而して我かれらに言り汝等はエホバの聖者なり 此器皿もまた聖し又この金銀は汝らの先祖の神エホバに奉まつりし誠意よりの禮物なり **29** 汝等エルサレムに至りてエホバの家の室に於

て祭司レビ人の長等およびイスラエルの宗家の首等の前に量るまで之を伺ひ守るべしと 30 是に於て祭司およびレビ人その金銀および器皿をエルサレムなる我らの神の室に携へゆかんとて其重にしたがひて之を受取れり 31 我ら正月の十二日にアハワの河邊を出たちてエルサレム赴きけるが我らの神その手を我らの上におき我らを救ひて敵の手また路に伏て窺ふ者の手に陥らしめたまはざりき 32 我儕すなはちエルサレムに至りて三日かしこに居しが 33 四日にいたりて我らの神の室においてその金銀および器皿をウリヤの子祭司メレモテの手に量り付せり ピネハスの子エレアザル彼に副ふ又エシユアの子ヨザバデおよびピンヌイの子ノアデヤの二人のレビ人かれらに副ふ 34 即ちその一々の重と數を査べ其重をことごとく其時かきとめたり 35 俘囚の人々のその俘囚をゆるされて歸り來し者イスラエルの神に燔祭を獻げたり 即ちイスラエル全體にあたる牡牛十二を獻げまた牡羊九十六羔羊七十七罪祭の牡山羊十二を獻げたり 是みなエホバにたてまつりし燔祭なり 36 彼等王の勅諭を王の代官と河外ふの總督等に示しければその人々民を助けて神の室を建しむ

9 是等の事の成し後牧伯等我許にきたりて言ふ イスラエルの民祭司およびレビ人は諸國の民とはなれずしてカナン人ヘテ人ペリジ人エビス人アンモニ人モアブ人エジプト人アモリ人などの中なる憎むべき事を行へり 2 即ち彼等の女子を自ら娶りまたその男子に娶れば聖種諸國の民と相雜れり牧伯たる者 長たる者さきだちてこの愆を犯せりと 3 我この事を聞て我衣と袍を裂き頭髮と鬚を抜き驚き呆れて坐せり 4 イ

スラエルの神の言を戦慄おそるる者はみな俘囚より
歸り來し者等の愆の故をもて我許に集まりしが我は
晩の供物の時まで驚きつつ茫然として坐しぬ 5 晩の
供物の時にいたり我その苦行より起て衣と袍とを裂
たるまま膝を屈めてわが神エホバにむかひ手を舒て
6 言けるは我神よ我はわが神に向ひて面を擧るを羞て
赧らむ 其は我らの罪積りて頭の上に出で我らの愆重
りて天に達すればなり 7 我らの先祖の日より今日に
いたるまで我らは大なる愆を身に負り 我らの罪の故
によりて我儕と我らの王等および祭司たちは國々の
王等の手に付され劍にかけられ擄へゆかれ掠められ
面に恥をかうぶれり 今日のごとし 8 然るに今われら
の神エホバ暫く恩典を施こして逃れ存すべき者を我
らの中に殘し我らをしてその聖所にうちし釘のごと
くならしめ斯して我らの神われらの目を明にし我ら
をして奴隸の中にありて少く生る心地せしめたまへ
り 9 そもそも我らは奴隸の身なるがその奴隸たる時
にも我らの神われらを忘れず反てペルシヤの王等の
目の前にて我らに憐憫を施こして我らに活る心地せ
しめ我らの神の室を建しめ其破壊を修理はしめユダ
とエルサレムにて我らに石垣をたまふ 10 我らの神よ
已に是のごとくなれば我ら今何と言のべんや 我儕は
やくも汝の命令を棄たればなり 11 汝かつて汝の僕な
る預言者等によりて命じて宣へり 云く汝らが往て獲
んとする地はその各地の民の汚穢により其憎むべき
事によりて汚れたる地にして此極より彼極までその
汚穢盈わたるなり 12 然ば汝らの女子を彼らの男子に
與ふる勿れ 彼らの女子をなんぢらの男子に娶る勿れ
又何時までもかれらの爲に平安をも福祿をも求むべ

からず 然すれば汝ら旺盛にしてその地の佳物を食ふ
ことを得永くこれを汝らの子孫に傳へて産業となさ
しむることを得んと 13 我らの悪き行により我らの大
なる愆によりて此事すべて我儕に臨みたりしが汝我
らの神はわれらの罪よりも軽く我らを罰して我らの
中に是のごとく人を遣したまひたれば 14 我儕再び汝
の命令を破りて是等の憎むべき行ある民と縁を結ぶ
べけんや 汝我らを怒りて終に滅ぼし盡し遣る者も逃
るる者も無にいたらしめたまはざらんや 15 イスラエ
ルの神エホバよ汝は義し 即ち我ら逃れて遣ること今
日のごとし 今我ら罪にまとはれて汝の前にあり 是が
ために一人として汝の前に立ことを得る者なきなり

10 エズラ神の室の前に泣伏して禱りかつ懺悔しを
る時に男女および兒女はなはだし多くイスラエルの
中より集ひて彼の許に聚り來れり すべての民はいた
く泣かなしめり 2 時にエラムの子エヒエルの子シカ
ニヤ答へてエズラに言ふ 我らはわれらの神に對ひて
罪を犯し此地の民なる異邦人の婦女を娶れり 然なが
ら此事につきてはイスラエルに今なほ望あり 3 然ば
我儕わが主の教晦にしたがひ又我らの神の命令に戰
慄く人々の教晦にしたがひて斯る妻をことごとく出
し之が産たる者を去んといふ契約を今われらの神に
立てん 而して律法にしたがひて之を爲べし 4 起よ是
事は汝の主どる所なり 我ら汝を助くべし心を強くし
て之を爲せと 5 エズラやがて起あがり祭司の長等レ
ビ人およびイスラエルの人衆をして此言のごとく爲
んと誓はしめたり 彼ら乃ち誓へり 6 かくてエズラ神
の家の前より起いでてエリアシブの子ヨハナンの室
に入しが彼處に至りてもパンを食ず水を飲ざりき 是

は俘囚より歸り來りし者の愆を憂へたればなり 7 斯てユダおよびエルサレムに遍ねく宣て俘囚の人々に盡く示して云ふ 汝ら皆エルサレムに集まるべし 8 凡そ牧伯等と長老等の諭言にしたがひて三日の内に來らざる者は皆その一切の所有を取あげられ俘擄人の會より黜けらるべしと 9 是においてユダとベニヤミンの人々みな三日の内にエルサレムに集まれり 是は九月にして恰もその月の廿日なりき 民みな神の室の前なる廣場に坐して此事のためまた大雨のために震ひ慄けり 10 時に祭司エズラ起て之に言けるは汝らは罪を犯し異邦の婦人を娶りてイスラエルの愆を増り 11 然ば今なんぢらの先祖の神エホバに懺悔してその御旨を行へ 即ち汝等この地の民等および異邦の婦人とはなるべしと 12 會衆みな聲をあげて答へて言ふ 汝が我らに諭せるごとく我儕かならず爲べし 13 然ど民は衆し 又今は大雨の候なれば我儕外に立こと能はず 且これは一日二日の事業にあらず 其は我らこの事について大に罪を犯したればなり 14 然ば我らの牧伯等この全會衆のために立れよ 凡そ我儕の邑の内にもし異邦の婦人を娶りし者あらば皆定むる時に來るべし 又その各々の邑の長老および裁判人これに伴ふべし 斯して此事を成ば我らの神の烈しき怒つひに我らを離るるあらんと 15 その時立てこれに逆ひし者はアサヘルの子ヨナタンおよびテクワの子ヤハジア而已 メシユラムおよびレビ人シャベタイこれを贊く 16 俘囚より歸り來りし者つひに然なし 祭司エズラおよび宗家の長數人その宗家にしたがひて名指して撰ばれ 十月の一日より共に坐してこの事を調べ 17 正月の一日に至りてやうやく異邦の婦人を娶りし人々を盡く

査べ畢れり **18** 祭司の徒の中にて異邦の婦人を娶りし者は即ちヨザダクの子エシユアの子等およびその兄弟マアセヤ、エリエゼル、ヤリブ、ゲダリヤ **19** 彼らはその妻を出さんといふ誓をなし已に愆を獲たればとて牡羊一匹をその愆のために獻げたり **20** インメルの子孫ハナニおよびゼバデヤ **21** ハリムの子孫マアセヤ、エリヤ、シマヤ、エヒエル、ウジャ **22** パシユルの子孫エリオエナイ、マアセヤ、イシマエル、ネタンエル、ヨザバデ、エラサ **23** レビ人の中にてはヨザバデ、シメイ、ケラヤ（即ちケリタ）ペタヒヤ、ユダ、エリエゼル **24** 謳歌者の中にてはエリアシブ 門を守る者の中にてはシャルム、テレムおよびウリ **25** イスラエルの中にてはパロシの子孫ラミヤ、エジア、マルキヤ、ミヤミン、エレアザル、マルキヤ、ベナヤ **26** エラムの子孫マッタニヤ、ゼカリヤ、エヒエル、アブデ、エレモテ、エリヤ **27** ザットの子孫エリオエナイ、エリアシブ、マッタニヤ、エレモテ、ザバデ、アジザ **28** ペバイの子孫ヨハナン、ハナニヤ、ザバイ、アテライ **29** バニの子孫メシユラム、マルク、アダヤ、ヤシュブ、シャル、エレモテ **30** パハテモアブの子孫アデナ、ケラル、ベナヤ、マアセヤ、マッタニヤ、ベザレル、ピンヌイ、マナセ **31** ハリムの子孫エリエゼル、エシヤ、マルキヤ、シマヤ、シメオン **32** ペニヤミン、マルク、シマリヤ **33** ハシユムの子孫マッテナイ、マツタタ、ザバデ、エリパレテ、エレマイ、マナセ、シメイ **34** バニの子孫マアダイ、アムラム、ウエル **35** ベナヤ、ベデヤ、ケルヒ **36** ワニヤ、メレモテ、エリアシブ **37** マッタニヤ、マッテナイ、ヤアス **38** バニ、ピンヌイ、シメイ **39** シレ

ミヤ、ナタン、アダヤ **40** マクナデバイ、シヤシヤイ
、シヤライ **41** アザリエル、シレミヤ、シマリヤ **42**
シヤルム、アマリヤ、ヨセフ **43** ネボの子孫エイエル
、マッタテヤ、ザバデ、ゼビナ、イド、ヨエル、ペ
ナヤ **44** 是みな異邦の婦人を娶りし者なり その婦人
の中には子女を産し者もありき

ネヘミヤ記

1 ハカリヤの子ネヘミヤの言詞／第二十年キスレウの月我シユシヤンの都にありける時 **2** わが兄弟の一人なるハナニ數人の者とともユダより來りしかば我俘虜人の遺餘なる夫の逃れかへりしユダヤ人の事およびエルサレムの事を問たづねしに **3** 彼ら我に言けるは俘虜人の遺餘なる夫の州内の民は大なる患難に遭ひ凌辱に遭ふ又エルサレムの石垣は打崩され其門は火に焚たりと **4** 我この言を聞坐りて泣き數日の間哀しみ斷食し天の神に祈りて言ふ **5** 天の神エホバ大なる畏るべき神己を愛し己の誠命を守る者にむかひて契約を保ち恩恵を施こしたまふ者よ **6** ねがはくは耳を傾むけ目を開きて僕の祈禱を聽いれたまへ我いま汝の僕なるイスラエルの子孫のために日夜なんぢの前に祈り我儕イスラエルの子孫が汝にむかひて犯せし罪を懺悔す誠に我も我父の家も罪を犯せり **7** 我らは汝にむかひて大に惡き事を行ひ汝の僕モーセに汝の命じたまひし誠命をも法度をも例規をも守らざりき **8** 請ふ汝の僕モーセに命じたまひし言を憶ひたまへ其言に云く汝ら若罪を犯さば我汝らを國々に散さん **9** 然れども汝らもし我にたちかへり我誠命を守りてこれを行なはば暇令逐れゆきて天の涯にをるとも我そより汝等をあつめ我名を住はせんとて撰びし處にきたらしめんと **10** そもそも是等の者は汝が大なる能力と強き手をもて贖ひたまひし汝の僕なんぢの民なり **11** 主よ請ふ僕の祈禱および汝の名を畏むことを悦こぶ汝の僕等の祈禱に耳を傾けたまへ願くは今日僕を助けて此人の目の前に憐憫を得させたまへこの時我は王の酒人なりき

2 茲にアルタシヤスタ王の二十年ニサンの月王の前に酒のいでし時我酒をつぎて王にたてまつれり我は今まで王の前にて憂色を帶しこと有ざりき **2** 王われに言けるは汝は疾病も有ざるに何とて面に憂色を帶るや是他ならず心に憂ふる所あるなりと是において我甚だ大に懼れたりしが **3** 遂に王に奏して曰ふ願くは王長壽かれ我が先祖の墓の地たるその邑は荒蕪その門は火にて焚たれば我いかで顔に憂色を帶ざるを得んやと **4** 王われに向ひて然らば汝何をなさんと願ふやと言ければ我すなはち天の神に祈りて **5** 王に言けるは王もし之を善としたまひ我もし汝の前に恩を得たる者なりせば願くはユダにあるわが先祖の墓の邑に我を遣はして我にこれを建起さしめたまへと **6** 時に后妃も傍に坐しをりしが王われに言けるは汝が往てをる間は何程なるべきや何時頃歸りきたるやと王かく我を遣はすことを善としければ我期を定めて奏せり **7** 而して我また王に言けるは王もし善としたまはば請ふ河外ふの總督等に與ふる書を我に賜ひ彼らをして我をユダまで通さしめたまへ **8** また王の山林を守るアサフに與ふる書をも賜ひ彼をして殿に屬する城の門を作り邑の石垣および我が入べき家に用ふる材木を我に授けしめたまへと我神善く我を助けたまひしに因て王これを我に允せり **9** 是に於て我河外ふの總督等に詣りて王の書をこれに付せり王は軍長數人に騎兵をそへて我に伴なはせたり **10** 時にホロニ人サンバラテおよびアンモニ人奴隸トビヤこれを聞きイスラエルの子孫の安寧を求むる人來れりとて大に憂ふ **11** 我ついにエルサレムに到りて彼處に三日居りける後 **12** 夜中に起いでたり數人の者われに伴な

ふ我はわが神がエルサレムのために爲せんとて我心に入たまひし所の事を何人にも告しらせず亦我が乗る一匹の畜の外には畜を引つれざりき 13 我すなはち夜中に立いで谷の門を通り龍井の對面を經糞門に至りてエルサレムの石垣を閱せしにその石垣は頽れをりその門は已に火に焚てありき 14 かくて又前みて泉の門にゆき王の池にいたりしに我が乗る畜の通るべき處なかりき 15 我亦その夜の中に溪川に沿て進みのぼりて石垣を觀めぐり頓て身を反して谷の門より歸りいりぬ 16 然るに牧伯等は我が何處に往しか何を爲しかをざりき我また未だこれをユダヤ人にも祭司にも貴き人にも方伯等にも其他の役人にも告しらせざりしが 17 遂に彼らに言けるは汝らの見るごとく我儕の境遇は悪くエルサレムは荒はてその門は火に焚たり來れ我儕エルサレムの石垣を築きあげて再び世の凌辱をうくることなからんと 18 而して我わが神の善われを助けたまひし事を彼らに告げまた王の我に語りし言詞をも告しらせければ去來起て築かんと云ひ皆奮ひてこの美事を爲んとす 19 時にホロニ人サンバラテ、アンモニ人奴隸トビヤおよびアラビヤ人ガシムこれを聞て我らを嘲けり我儕を悔りて言ふ汝ら何事をなすや王に叛かんとするなるかと 20 我すなはち答へて彼らに言ふ天の神われらをして志を得させたまはん故に其僕たる我儕起て築くべし然ど汝らはエルサレムに何の分もなく權理もなく記念もなしと

3 茲に祭司の長エリアシブその兄弟の祭司等とともに起て羊の門を建て之を聖別てその扉を設け尚も之を聖別てハンメアの戌樓に及ぼし又ハナネルの戌樓に及ぼせり 2 その次にはエリコの人々を築き建て其

次にはイムリの子ザツクル築き建たり 3 魚の門はハツセナアの子等これを建構へその扉を設けて之に鎖と門を施こせり 4 その次にはハツコヅの子ウリヤの子メレモタ修繕をなし其次にはメシザベルの子ベレキヤの子メシユラム修繕をなしその次にはバアナの子ザドク修繕をなし 5 その次にはテコア人等修繕をなせり但しその貴き族はその主の工事に服せざりき 6 古門はパセアの子ヨイアダおよびベソデヤの子メシユラムこれを修繕ひ構へその扉を設けて之に鎖と門を施せり 7 その次にはギベオン人メラテヤ、メロノテ人ヤドン河外ふの總督の管轄に屬するギベオンとミヅパの人々等修繕をなせり 8 その次にはハルハヤの子ウジエルなどの金工修繕をなし其次には製香者ハナニヤなど修繕をなしエルサレムを堅うして石垣の廣き處にまで及べり 9 その次にはエルサレムの郡の半の知事ホルの子レパヤ修繕をなせり 10 その次にはハルマフの子エダヤ己の家と相對ふ處を修繕りその次にはハシヤブニヤの子ハットシ修繕をなせり 11 ハリムの子マルキヤおよびバハテモアブの子ハシユブも一方を修繕ひまた爐戍樓を修繕へり 12 その次にはエルサレムの郡の半の知事ハロヘシの子シャルムその女子等とともに修繕をなせり 13 谷の門はハヌン、ザノアの民と偕に之を修繕ひ之を建なほしてその扉を設け之に鎖と門を施したまた糞の門までの石垣一千キュビトを修繕り 14 糞の門はベテハケレムの郡の半の知事レカブの子マルキヤこれを修繕ひ之を建なほしてその扉を設け之に鎖と門を施こせり 15 泉の門はミヅパの郡の知事コロホゼの子シャルンこれを修繕ひ之を建なほして覆ひその扉を設け之に鎖と門を

施こした王の園の邊なるシラの池に沿る石垣を修繕てダビデの邑より下るところの階級にまで及ぼせり 16 その後にはベテズルの郡の半の知事アズブクの子ネヘミヤ修繕をなしてダビデの墓に對ふ處にまで及ぼし堀池に至り勇士宅に至れり 17 その後にはバニの子レホムなどのレビ人修繕をなし其次にはケイラの郡の半の知事ハシヤピヤその郡の爲に修繕をなせり 18 その後にはケイラの郡の半の知事ヘナダデの子バワイなどいふ其兄弟修繕をなし 19 その次にはエシユアの子ミヅパの知事エゼル石垣の彎にある武器庫に上る所に對へる部分を修繕ひ 20 その後にはザバイの子バルク力を竭して石垣の彎より祭司の長エリアシブの家の門までの部分を修繕ひ 21 その次にはハツコヅの子ウリヤの子メレモテ、エリアシブの家の門よりエジアシブの家の極までの部分を修繕ひ 22 その次には窪地の人なる祭司等修繕をなし 23 その次にはベニヤミンおよびハシユブ己の家と相對ふ處を修繕ひ其次にはアナニヤの子マアセヤの子アザリヤ己の家に近き處を修繕ひ 24 その次にはヘナダデの子ビンヌイ、アザリヤの家より石垣の彎角までの部分を修繕へり 25 ウザイの子パラルは石垣の彎に對ふ處および王の上の家より聳え出たる戍樓に對ふ處を修繕り是は侍衛の廳に近し其次にはパロシの子ペダヤ修繕をなせり 26 時にネテニ人オペルに住をりて東の方水の門に對ふ處および聳え出たる戍樓に對ふ處まで及べり 27 その次にはテコア人聳出たる大戍樓に對ふところの部分を修繕てオペルの石垣に及ぼせり 28 馬の門より上は祭司等おのおのその己の家と相對ふ處を修繕り 29 その次にはインメルの子ザドク己の家と相

對ふ處を修繕ひ其次にはシカニヤの子シマヤといふ東の門を守る者修繕をなし 30 その次にはシレミヤの子ハナニヤおよびザラフの第六の子ハヌン一方を修繕ひその後にはベレキヤの子メシユラム己の室と相對ふ處を修繕へり 31 その次には金工の一人マルキヤといふ者ハンミフカデの門と相對ふ處を修繕ひて隅の昇口に至りネテニ人および商人の家に及ぼせり 32 また隅の昇口と羊の門の間は金工および商人等これを修繕へり

4 茲にサンバラテわれらが石垣を築くを聞て怒り大に憤ほりてユダヤ人を罵れり 2 即ち彼その兄弟等およびサマリアの軍兵の前に語りて言ふ此軟弱しきユダヤ人何を爲や自ら強くせんとするか獻祭をなさんとするか一日に事を終んとするか塵堆の中の石は既に燬たるに之を取出して活さんとするかと 3 時にアンモニ人トビヤその傍にありてまた言ふ彼らの築く石垣は狐上るも圯るべしと 4 我らの神よ聽たまへ我らは侮らる願くは彼らの出す凌辱をその身の首に歸し彼らを他國に擄はれしめ掠られしめたまへ 5 彼らの愆を蔽ひたまふ勿れ彼らの罪を汝の前より消去しめたまはざれ其は彼ら築建者の前にて汝の怒を惹おこしたればなり 6 斯われら石垣を築きけるが石垣はみな已に相連なりてその高さの半にまで及べり其は民心をこめて操作たればなり 7 然るにサンバラテ、トビヤ、アラビヤ人アンモニ人アシドド人等エルサレムの石垣改修れ其破壊も次第に塞がると聞て大に怒り 8 皆ともに相結びてエルサレムに攻來らんとしその中に擾亂をおこさんとせり 9 是において我ら神に祈祷をなしかれらのために日夜守望者を置て之に

備ふ 10 ユダ人は言ひ荷を負ふ者の力衰へしが上に灰土おびただしくして我ら石垣を築くこと能はずと 11 我らの敵は言ひ彼等が知ずまた見ざる間に我ら其中に入り之を殺してその工事を止めんと 12 又彼らの邊に住るユダヤ人來る時は我らに告て言ふ汝ら我らの所に歸らざるべからずと其事十次にも及べり 13 是に因て我石垣の後の顯露なる低き處に民を置き劍鎗または弓を持せてその宗族にしたがひて之をそなふ 14 我觀めぐり起て貴き人々および牧伯等ならびにその餘の民に告て云ふ汝ら彼等のために懼るる勿れ主の大にして畏るべきを憶ひ汝らの兄弟のため男子女子のため妻および家のために戦かへよと 15 我らの敵おのが事の我らに知れたるをききておのが謀計を神に破られたるを聞しによりて我ら皆石垣に歸り各々その工事をなせり 16 其時より後わが僕半は工事に操作き半は鎗楯弓などを持て鎧を着たり牧伯等はユダの全家の後にありき 17 石垣を築く者および荷を負ひはこぶ者は各々片手もて工事を爲し片手に武器を執り 18 築建者はおのおのその腰に劍を帶て築き建つ又喇叭を吹く者は我傍にあり 19 我貴き人々および牧伯等ならびにその餘の民に告て云ふ此工事は大にして廣ければ我儕石垣にありて彼此に相離ること遠し 20 何處にもあれ汝ら喇叭の音のきこゆるを聞ば其處に奔あつまりて我らに就け我らの神われらのために戦ひたまふべしと 21 我ら斯して工事をなしけるが半の者は東雲の出るより星の現はるるまで鎗を持をれり 22 當時われ亦民に言らく皆おのおのその僕とともにエルサレムの中に宿り夜は我らの防守となり晝は工事をつとむべしと 23 而して我もわが兄弟等もわが僕も

我に従がふ防守の人々もその衣服を脱ぎ水を汲に出るにも皆武器を執れり

5 茲に民その妻とともにその兄弟なるユダヤ人にむかひて大に叫べり **2** 或人言ふ我儕および我らの男子女子は多し我ら穀物を得食ふて生ざるべからず **3** 或人は言ふ我らは我らの田畑葡萄園および家をも質となすなり既に饑に迫れば我らに穀物を獲させよ **4** 或は言ふ我らは我らの田畝および葡萄園をもて金を貸て王の租税を納む **5** 然ど我らの肉も我らの兄弟の肉と同じく我らの子女も彼らの子女と同じ視よ我らは男子女子を人に伏従はせて奴隸となす我らの女子の中すでに人に伏従せし者もあり如何とも爲ん方法なし其は我らの田畝および葡萄園は別の人のもとなりたればなりと **6** 我は彼らの叫および是等の言を聞て大に怒れり **7** 是において我心に思ひ計り貴き人々および牧伯等を責てこれに言けるは汝らは各々その兄弟より利息を取るなりと而して我かれらの事につきて大會を開き **8** 彼らに言けるは我らは異邦人の手に賣れたる我らの兄弟ユダヤ人を我らの力にしたがひて贖へり然るにまた汝等は己の兄弟を賣んとするやいかで之をわれらの手に賣るべけんやと彼らは黙して言なかりき **9** 我また言けるは汝らの爲すところ善らず汝らは我らの敵たる異邦人の誹謗をおもひて我儕の神を畏れつつ事をなすべきに非ずや **10** 我もわが兄弟および僕等も同じく金と穀物とを貸て利息を取てことをなす願くは我らこの利息を廢ん **11** 請ふ汝ら今日にも彼らの田畝葡萄園橄欖園および家を彼らに還しまた彼らに貸あたへて金穀物および酒油などの百分の一を取ることを廢よと **12** 彼ら即ち言けるは我ら

之を還すべし彼らに何をも要めざらん汝の言のごとく我ら然なすべしと是に於て我祭司を呼び彼らをして此言のごとく行なふといふ誓を立しめたり **13** 而して我わが胸懷を打拂ひて言ふ此言を行はざる者をば願くは神是のごとく凡て打拂ひてその家およびその業を離れさせたまへ即ちその人は斯打拂はれて空しくなれかしと時に會衆みなアーメンと言てエホバを讚美せり而して民はこの言のごとくに行へり **14** 且また我がユダの地の總督に任ぜられし時より即ちアルタシヤユタ王の二十年より三十二年まで十二年の間は我もわが兄弟も總督の受べき禄を食ざりき **15** わが以前にありし舊の總督等は民に重荷を負せてパンと酒とを是より取り其外にまた銀四十シケルを取れり然のみならずその僕等も亦民を圧せり然ども我は神を畏るに因て然せざりき **16** 我は反てこの石垣の工事に身を委ね我儕は何の田地をも買しこと無し我僕等は皆かしこに集りて工事をなせり **17** 且また我席にはユダヤ人および牧伯等百五十人あり其外にまた我らの周圍の異邦人の中より我らに來れる者等もありき **18** 是をもて一日に牛一匹肥たる羊六匹を備へ亦鶏をも許多備へ十日に一回種々の酒を多く備へたり是ありしかどもこの民の役おもきに因て我は總督の受べき禄を要めざりき **19** わが神よ我が此民のために爲る一切の事を憶ひ仁慈をもて我をあしらひ給へ

6 サンバラテ、トビヤおよびアラビヤ人ガシムならびにその餘の我らの敵我が石垣を築き終りて一の破壊も遺らずと聞り(然どその時は未だ門に扉を設けざりしなり) **2** 是においてサンバラテとガシム我に言つかはしけるは來れ我らオノの平野なる某の村にて相

會せんとその實は我を害せんと思ひしなり 3 我すな
はち使者を彼らに遣はして言らく我は大なる工事を
なし居れば下りゆくことを得ずなんぞ工事を離れ汝
らの所に下りゆきてその間工事を休まずべけんやと
4 彼ら四次まで是のごとく我に言遣はしけるが我は何
時もかくのごとく之に答へたり 5 是においてサンバ
ラテまた五次目にその僕を前のごとく我に遣はせり
其手には封ぜざる書を携さふ 6 その文に云く國々に
て言傳ふガシムもまた然いふ汝はユダヤ人とともに
叛かんとして之がために石垣を築けり而して汝はそ
の王とならんとすとその言ところ是のごとし 7 また
汝は預言者を設けて汝の事をエルサレムに宣しめユ
ダに王ありと言しむといひ傳ふ恐くはその事この言
のごとく王に聞えん然ば汝いま來れ我ら共に相議ら
んと 8 我すなはち彼に言つかはしけるは汝が言るご
とき事を爲し事なし惟なんぢ之を己の心より作りい
だせるなりと 9 彼らは皆われらを懼れしめんとせり
彼ら謂らく斯なきば彼ら手弱りて工事を息べければ
工事成ざるべしと今ねがはくは我手を強くしたまへ
10 かくて後我メヘタベルの子デラヤの子シマヤの家
に往しに彼閉こもり居て言らく我ら神の室に到りて
神殿の内に相會し神殿の戸を閉おかん彼ら汝を殺さん
とて來るべければなり必ず夜のうちに汝を殺さん
とて來るべしと 11 我言けるは我ごとき人いかで逃べ
けんや我ごとき身にして誰か神殿に入て生命を全う
することを爲んや我は入じと 12 我曉れるに神かれを
遣はしたまひしに非ず彼が我にむかひて此預言を説
しはトビヤとサンバラテ彼に賄賂したればなり 13 彼
に賄賂せしは此事のためなり即ち我をして懼れて然

なして罪を犯さしめ悪き名を我に負する種を得て我を辱しめんとてなりき **14** わが神よトビヤ、サンバラテおよび女預言者ノアデヤならびにその他の預言者など凡て我を懼れしめんとする者等を憶えてその行爲に報をなしたまへ **15** 石垣は五十二日を歴てエルルの月の二十五日に成就せり **16** 我らの敵皆これを聞ければ我らの周囲の異邦人は凡て恐れ大に面目をうしなへり其は彼等この工事は我らの神の爲たまひし者なりと曉りたればなり **17** 其頃ユダの貴き人々しばしば書をトビヤにおくれりトビヤの書もまた彼らに來れり **18** トビヤはアラの子シカニヤの婿なるをもてユダの中に彼と盟を結べる者多かりしが故なりトビヤの子ヨハナンも亦ベレキヤの子メシユラムの女子を妻に娶りたり **19** 彼らはトビヤの善行を我前に語りまた我言を彼に通ぜりトビヤは常に書をおくりて我を懼れしめんとせり

7 石垣を築き扉を設け門を守る者謳歌者およびレビ人を立るにおよびて **2** 我わが兄弟ハナニおよび城の宰ハナニヤをしてエルサレムを治めしむ彼は忠信なる人にして衆多の者に超りて神を畏るる者なり **3** 我かれらに言ふ日の熱くなるまではエルサレムの門を啓くべからず人々の立て守りをる間に門を閉させて汝らこれを堅うせよ汝らエルサレムの民を番兵に立て各々にその所を守らしめ各々にその家と相對ふ處を守らしめよと **4** 邑は廣くして大なりしかどもその内の民は寡くして家は未だ建ざりき **5** 我神はわが心に貴き人々牧伯等および民を集めてその名簿をしらぶる思念を起さしめたまへり我最先に上り來りし者等の系圖の書を得て見にその中に書するして曰く **6**

往昔バビロンの王ネブカデネザルに擄へられバビロンに遷されたる者のうち俘囚をゆるされてエルサレムおよびユダに上りおのおの己の邑に歸りし此州の者は左の如し 是皆ゼルバベル、エシユア、ネヘミヤ、アザリヤ、ラアミヤ、ナハマニ、モルデカイ、ビルシヤン、ミスペレテ、ビグワイ、ネホム、バアナ等に隨ひ來れり 7 そのイスラエルの民の人数は是のごとし 8 パロシの子孫二千百七十二人 9 シパテヤの子孫三百七十二人 10 アラの子孫六百五十二人 11 エシユアとヨアブの族たるパハテモアブの子孫二千八百十八人 12 エラムの子孫千二百五十四人 13 ザツトの子孫八百四十五人 14 ザツカイの子孫七百六十人 15 ビンヌイの子孫六百四十八人 16 ベバイの子孫六百二十八人 17 アズガデの子孫二千三百二十二人 18 アドニカムの子孫六百六十七人 19 ビグワイの子孫二千六十七人 20 アデンの子孫六百五十五人 21 ヒゼキヤの家のアテルの子孫九十八人 22 ハシユムの子孫三百二十八人 23 ベザイの子孫三百二十四人 24 ハリフの子孫百十二人 25 ギベオンの子孫九十五人 26 ベテレヘムおよびネトパの人百八十八人 27 アナトテの人百二十八人 28 ベテアズマウテの人四十二人 29 キリアテヤリム、ケピラおよびベエロテの人七百四十三人 30 ラマおよびゲバの人六百二十一人 31 ミクマシの人百二十二人 32 ベテルおよびアイの人百二十三人 33 他のネボの人五十二人 34 他のエラムの民千二百五十四人 35 ハリムの民三百二十人 36 エリコの民三百四十五人 37 ロド、ハデデおよびオノの民七百二十一人 38 セナアの子孫三千九百三十人 39 祭司はエシユアの家のエダヤの子孫九百七十三人 40 インメルの子孫千

五十二人 **41** パシユルの子孫一千二百四十七人 **42** ハリムの子孫一千十七人 **43** レビ人はホデワの子等エシユアとカデミエルの子孫七十四人 **44** 謳歌者はアサフの子孫百四十八人 **45** 門を守る者はシャルムの子孫アテルの子孫タルモンの子孫アックブの子孫ハテタの子孫シヨバイの子孫百三十八人 **46** ネテニ人はジハの子孫ハスパの子孫タバオテの子孫 **47** ケロスの子孫シアの子孫パドンの子孫 **48** レバナの子孫ハガバの子孫サルマイの子孫 **49** ハナンの子孫ギデルの子孫ガハルの子孫 **50** レアヤの子孫レデンの子孫ネコダの子孫 **51** ガザムの子孫ウザの子孫パセアの子孫 **52** ベサイの子孫メウニムの子孫ネフセシムの子孫 **53** バクブクの子孫ハクパの子孫ハルホルの子孫 **54** バヅリテの子孫メヒダの子孫ハルシヤの子孫 **55** バルコスの子孫シセラの子孫テマの子孫 **56** ネギアの子孫ハテパの子孫等なり **57** ソロモンの僕たりし者等の子孫は即ちソタイの子孫ソペレテの子孫ペリダの子孫 **58** ヤアラの子孫ダルクコンの子孫ギデルの子孫 **59** シパテヤの子孫ハツテルの子孫ポケレテハツゼバィムの子孫アモンの子孫 **60** ネテニ人とソロモンの僕たりし者等の子孫とは合せて三百九十二人 **61** またテルメラ、テルハレサ、ケルブ、アドンおよびインメルより上り來れる者ありしがその宗家とその血統とを示してイスラエルの者なるを明かにすることを得ざりき **62** 是すなはちデラヤの子孫トビヤの子孫ネコダの子孫にして合せて六百四十二人 **63** 祭司の中にホバヤの子孫ハツコヅの子孫バルジライの子孫ありバルジライはギレアデ人バルジライの女を妻に娶りてその名を名りしなり **64** 是等の者系圖に載る者等の中にその籍を尋ねたれども

在ざりき是故に汚れたる者として祭司の中より除かれたり 65 テルシヤタ即ち之に告てウリムとトンミムを帶る祭司の興るまでは至聖物を食ふべからずと言り 66 會衆あはせて四萬二千三百六十人 67 この外にその僕婢七千三百三十七人謳歌男女二百四十五人あり 68 その馬七百三十六匹その騾二百四十五匹 69 駱駝四百三十五匹驢馬六千七百二十匹 70 宗家の長の中工事のために物を納めし人々ありテルシヤタは金一千ダリク鉢五十 祭司の衣服五百三十襲を施して庫に納む 71 また宗家の長數人は金二萬ダリク銀二千二百斤を工事のために庫に納む 72 その餘の民の納めし者は金二萬ダリク銀二千斤祭司の衣服六十七襲なりき 73 かくて祭司レビ人門を守る者謳歌者民等ネテニ人およびイスラエル人すべてその邑々に住り／イスラエルの子孫かくてその邑々に住みをりて七月にいたりぬ

8 茲に民みな一人のごとくになりて水の門の前なる廣場に集り學士エズラに請てエホバのイスラエルに命じたまひしモーセの律法の書を携へきたらんことを求めたり 2 この日すなはち七月一日祭司エズラ律法を携へ來りてその集りをる男女および凡て聽て了ることを得るところの人々の前に至り 3 水の門の前なる廣場にて曙より日中まで男女および了り得る者等の前にこれを誦めり民みな律法の書に耳を傾く 4 學士エズラこの事のために預て設けたる木の臺の上に立たりしがその傍には右の方にマツタテヤ、シマ、アナヤ、ウリヤ、ヒルキヤおよびマアセヤ立をり左の方にペダヤ、ミサエル、マルキヤ、ハシユム、ハシバダナ、ゼカリヤおよびメシユラム立をる 5 エ

ズラ一切の民の目の前にその書を開けり(彼一切の民より高きところに立たり)かれが開きたる時に民みな起あがり 6 エズラすなはち大神エホバを祝しければ民みなその手を擧て應へてアーメン、アーメンと言ひ首を下げ地に俯伏てエホバを拝めり 7 エシユア、バニ、セレピヤ、ヤミン、アツクブ、シヤペタイ、ホデヤ、マアセヤ、ケリタ、アザリヤ、ヨザバテ、ハナン、ペラヤおよびレビ人等民に律法を了らしめたり民はその所に立をる 8 彼等その書に就て神の律法を朗かに誦み且その意を解あかしてその誦ところを之に了らしむ 9 時にテルシヤタたるネヘミヤ祭司たる學士エズラおよび民を教ふるレビ人等一切の民にむかひて此日は汝らの神エホバの聖日なり哭なかれ泣なかれと言ひ其は民みな律法の言を聽て泣たればなり 10 而して彼らに言けるは汝ら去て肥たる者を食ひ甘き者を飲め而してその備をなし得ざる者に之を分ちおくれ此日は我らの主の聖日なり汝ら憂ふことをせざれエホバを喜ぶ事は汝らの力なるぞかしと 11 レビ人も亦一切の民を静めて言ふ汝ら黙せよ此日は聖きぞかし憂ふる勿れと 12 一切の民すなはち去りて食ひかつ飲み又人に分ちおくりて大なる喜悅をなせり是はその誦きかされし言を了りしが故なり 13 その翌日一切の民の族長等祭司およびレビ人等律法の語を學ばんとて學士エズラの許に集り來り 14 律法を視るにエホバのモーセによりて命じたまひし所を録して云く七月の節會にはイスラエルの子孫茅廬に居るべしと 15 又云く一切の邑々及びエルサレムに布傳へて言べし汝ら山に出ゆき橄欖の枝油木の枝烏拈の枝棕櫚の枝および茂れる木の枝を取きたりて

録されたるごとくに茅廬を造れと 16 是において民出
ゆきて之を取きたり各々その家の屋背の上あるひは
その庭あるひは神の室の庭あるひは水の門の廣場あ
るひはエフライムの門の廣場に茅廬を造れり 17 擲は
れゆきて歸り來りし會衆みな斯茅廬を造りて茅廬に
居りヌンの子ヨシユアの日より彼日までにイスラエ
ルの子孫斯おこなひし事なし是をもてその喜悅はな
はだ大なりき 18 初の日より終の日までエズラ日々に
神の律法の書を誦り人衆七日の間節筵をおこなひ第
八日にいたり例にしたがひて聖會を開けり

9 その月の二十四日にイスラエルの子孫あつまりて
斷食し麻布を纏ひ土を蒙れり 2 イスラエルの裔たる
者一切の異邦人とはなれ而して立て己の罪と先祖の
愆とを懺悔し 3 皆おのおのがその處に立てこの日の
四分の一をもてその神エホバの律法の書を誦み他の
四分の一をもて懺悔をなしその神エホバを拝めり 4
時にエシユア、バニ、カデミエル、シバニヤ、ブン
ニ、セレビヤ、バニ、ケナニ等レビ人の臺に立ち大
聲を擧てその神エホバに呼はれり 5 斯てまたエシユ
ア、カデミエル、バニ、ハシヤブニヤ、セレビヤ、
ホデヤ、セバニヤ、ペタヒヤなどのレビ人言けらく
汝ら起あがり永遠より永遠にわたりて在す汝らの神
エホバを讚よ汝の尊き御名は讚べきかな是は一切の
讚にも崇にも遠く超るなり 6 汝は唯なんぢのみエホ
バにまします汝は天と諸天の天およびその萬象地と
その上の一切の物ならびに海とその中の一切の物を
造り之をことごとく保存せたまふなり天軍なんぢを
拝す 7 汝はエホバ神にまします汝は在昔アブラムを
撰みてカルデヤのウルより之を導きいだしアブラハ

ムといふ名をこれにつけ 8 その心の汝の前に忠信なるを觀そなはし之に契約を立てカナン人ヘテ人アモリ人ペリジ人エブス人およびギルガシ人の地をこれに與へその子孫に授けんと宣まひて終に汝の言を成たまへり汝は實に義し 9 汝は我らの先祖がエジプトにて艱難を受るを鑿みその紅海の邊にて呼はり叫ぶを聽いれ 10 異兆と奇蹟とをあらはしてパロとその諸臣とその國の庶民とを攻たまへりそはかれらは傲りて我らの先祖等を攻しことを知たまへばなり而して汝の名を揚たまへること尚今日のごとし 11 汝はまた彼らの前にあたりて海を分ち彼らをして早ける地を踏て海の中を通らしめ彼らを追ふ者をば石を大水に投いるごとくに淵に投いれたまひ 12 また晝は雲の柱をもて彼らを導き夜は火の柱をもて其往べき路を照したまひき 13 汝はまたシナイ山の上に降り天より彼らと語ひ正しき例規および眞の律法善き法度および誠命を之に授け 14 汝の聖安息日を之に示し汝の僕モーセの手によりて誠命と法度と律法を之に命じ 15 天より食物を之に與へてその餓をとどめ磬より水を之がために出してその渴を濕し且この國をなんぢらに與へんと手を擧て誓ひ給ひしその國に入これを獲べきことをかれらに命じたまへり 16 然るに彼等すなはち我らの先祖みづから傲りその項を強くして汝の誠命に聽したがはず 17 聽從ふことを拒み亦なんぢが其中にて行ひたまひし奇蹟を憶はず還てその項を強くし悖りて自ら一人の首領を立てその奴隸たりし處に歸らんとせり然りと雖も汝は罪を赦す神にして恩恵あり憐憫あり怒ること遅く慈悲厚くましまして彼らを棄たまはざりき 18 また彼ら自ら一箇の犢を鑄造

りて是は汝をエジプトより導き上りし汝の神なりと
言て大に震怒をひきおこす事を行ひし時にすら **19** 汝
は重々も憐憫を垂て彼らを荒野に棄たまはず晝は雲
の柱その上を離れずして之を途に導き夜は火の柱離
れずして之を照しその行べき路を示したりき **20** 汝は
また汝の善霊を賜ひて彼らを訓へ汝のマナを常に彼
らの口にあたへまた水を彼らに與へてその渴をとど
め **21** 四十年の間かれらを荒野に養ひたまれば彼ら
は何の缺る所もなくその衣服も古びずその足も腫ざ
りき **22** 而して汝諸國諸民を彼らにあたへて之を各々
に分ち取しめ給へりかれらはシホンの地へシボンの
王の地およびバシヤンの王オグの地を獲たり **23** 斯て
また汝は彼らの子孫を増て空の星のごなくならしめ
前にその先祖等に入て獲よと宣まひたる地に之を導
きいりたまひしかば **24** 則ちその子孫入てこの地を獲
たり斯て汝この地にすめるカナン人をかれらの前に
打伏せその王等およびその國の民をかれらの手に付
して意のままに之を待はしめたまひき **25** 斯りしかば
彼ら堅固なる邑々および膏腴なる地を取り各種の美
物の充る家鑿井葡萄園橄欖園および許多の菓の樹を
獲乃ち食ひて飽き肥太り汝の大なる恩恵に沾ひて
樂みたりしが **26** 尚も悖りて汝に叛き汝の律法を後に
抛擲ち己を戒しめて汝に歸らせんとしたる預言者等
を殺し大に震怒を惹おこす事を行なへり **27** 是に因て
汝かれらをその敵の手に付して窘しめさせたまひし
が彼らその艱難の時に汝に呼はりければ汝天より之
を聽て重々も憐憫を加へ彼らに救ふ者を多く與へて
彼らをその敵の手より救はせたまへり **28** 然るに彼ら
は安を獲の後復も汝の前に惡き事を行ひしかば汝か

れらをその敵の手に棄おきて敵にこれを治めしめた
まひけるが彼ら復立歸りて汝に呼はりたれば汝天よ
りこれを聴き憐憫を加へてしばしば彼らを助け 29 彼
らを汝の律法に引もどさんとして戒しめたまへり然
りと雖も彼らは自ら傲りて汝の誠命に聴したがはず
汝の例規(人のこれを行はば之によりて生べしといふ
者)を犯し肩を聳かし項を強くして聴ことをせざりき
30 斯りしかど汝は年ひさしく彼らを容しおき汝の預
言者等に由て汝の霊をもて彼らを戒めたまひしが彼
等つひに耳を傾けざりしに因て彼らを國々の民等の
手に付したまへり 31 されど汝は憐憫おほくして彼ら
を全くは絶さず亦彼らを棄たまふことをも爲たまは
ざりき汝は恩恵あり憐憫ある神にましませばなり 32
然ば我らの神大にして力強く且畏るべくして契約を
保ち恩恵を施こしたまふ御神ねがはくはアッスリヤ
の王等の日より今日にいたるまで我儕の王等牧伯等
祭司預言者我らの先祖汝の一切の民等に臨みし諸の
苦難を小き事と觀たまはざれ 33 我らに臨みし諸の事
につきては汝義く在せり汝の爲たまひし所は誠實に
して我らの爲しところは悪かりしなり 34 我らの王等
牧伯等祭司父祖等は汝の律法を行はず汝が用ひて彼
らを戒しめたまひしその誠命と證詞に聽従はざりき
35 即ち彼らは己の國に居り汝の賜ふ大なる恩恵に沾
ひ汝が與へてその前に置たまひし廣き膏腴なる地に
ありける時に汝に事ふることを爲ず又ひるがへりて
自己の悪き業をやむる事もせざりしなり 36 嗚呼われ
らは今日奴隸たり汝が我らの先祖に與へてその中の
産出物およびその中の佳物を食はせんとしたまひし
地にて我らは奴隸となりをるこそはかなけれ 37 この

地は汝が我らの罪の故によりて我らの上に立たまひし王等のために衆多の産物を出すなり且また彼らは我らの身をも我らの家畜をも意のままに左右することを得れば我らは大難の中にあるなり 38 此もろもろの事のために我ら今堅き契約を立てこれを書し我らの牧伯等我らのレビ人我らの祭司これに印す

10 印を捺る者はハカリヤの子テルシャタ、ネヘミヤおよびゼデキヤ **2** セラヤ、アザリヤ、エレミヤ **3** パシユル、アマリヤ、マルキヤ、 **4** ハツトシ、シバニヤ、マルク **5** ハリム、メレモテ、オバデヤ **6** ダニエル、ギンネトン、バルク **7** メシユラム、アビヤ、ミヤミン **8** マアジヤ、ビルガ、シマヤ是等は祭司なり **9** レビ人は即ちアザニヤの子エシユア、ヘナダデの子ピンヌイ、カデミエル **10** ならびに其兄弟シバニヤ、ホデヤ、ケリタ、ペラヤ、ハナン **11** ミカ、レホブ、ハシヤピヤ **12** ザツクル、セレピヤ、シバニヤ **13** ホデヤ、パニ、ベニヌ **14** 民の長たる者はパロシ、パハテモアブ、エラム、ザット、パニ **15** ブンニ、アズカデ、ベバイ **16** アドニヤ、ビグワイ、アデン **17** アテル、ヒゼキヤ、アズル **18** ホデヤ、ハシユム、ベザイ **19** ハリフ、アナトテ、ノバイ **20** マグピアシ、メシユラム、ヘジル **21** メシザベル、ザドク、ヤドア **22** ペラテヤ、ハナン、アナニヤ **23** ホセア、ハナニヤ、ハシユブ **24** ハロヘシ、ピルハ、シヨベク **25** レホム、ハシヤブナ、マアセヤ **26** アヒヤ、ハナン、アナン **27** マルク、ハリム、バアナ **28** その餘の民祭司レビ人門をまもる者謳歌者ネテニ人ならびに都て國々の民等と離れて神の律法に附る者およびその妻その男子女子など凡そ事を知り辨まふる者は **29** 皆その兄弟た

る貴き人々に附したがひ呪詛に加はり誓を立て云く
我ら神の僕モーセによりて傳はりし神の律法に歩み
我らの主エホバの一切の誠命およびその例規と法度
を守り行はん **30** 我らは此地の民等に我らの女子を與
へじ亦われらの男子のために彼らの女子を娶らじ **31**
比地の民等たとひ貨物あるひは食物を安息日に携へ
來りて賣んとするとも安息日または聖日には我儕こ
れを取じ又七年ごとに耕作を廢め一切の負債を免さ
んと **32** 我らまた自ら例を設けて年々にシケルの三分
の一を出して我らの神の室の用となし **33** 供物のパン
常素祭常燔祭のため安息日月朔および節會の祭物の
ため聖物のためイスラエルの贖をなす罪祭および我
らの神の家の諸の工のために之を用ゐることを定む
34 また我ら祭司レビ人および民籤を掣き律法に記さ
れたるごとく我らの神エホバの壇の上に焚べき薪木
の禮物を年々定まれる時にわれらの宗家にしたがひ
て我らの神の室に納むる者を定め **35** かつ誓ひて云ふ
我らの産物の初および各種の樹の果の初を年々エホ
バの室に携へきたらん **36** また我らの子等および我ら
の獸畜の首出および我らの牛羊の首出を律法に記さ
れたるごとく我らの神の室に携へ來りて我らの神の
室に事ふる祭司に交し **37** 我らの麥粉の初われらの擧
祭の物各種の樹の果および洒油を祭司の許に携へ到
りて我らの神の家の室に納め我らの産物の什一をレ
ビ人に與へんレビ人は我らの一切の農作の邑におい
てその什一を受べき者なればなり **38** レビ人什一を受
る時にはアロンの子孫たる祭司一人そのレビ人と偕
にあるべし而してまたレビ人はその什一の十分の一
を我らの神の家に携へ上りて府庫の諸室に納むべし

39 即ちイスラエルの子孫およびレビの子孫は穀物および酒油の擧祭を携さへいたり聖所の器皿および奉事をする祭司門を守る者謳歌者などが在るところの室に之を納むべし我らは我らの神の家を棄じ

11 民の牧伯等はエルサレムに住りその餘の民もまた籤を擧ぎ十人の中よりして一人宛を聖邑エルサレムに來りて住しめその九人を他の邑々に住しめたり
2 又すべて自ら進でエルサレムに住んと言ふ人々は民これを祝せり 3 イスラエル祭司レビ人ネテニ人およびソロモンの臣僕たりし者等の子孫すべてユダの邑々にありておのおのその邑々なる自己の所有地に住をれり此州の貴き人々のエルサレムに住をりし者は左のごとし 4 即ちユダの子孫およびベニヤミンの子孫のエルサレムに住る者は是なりユダの子孫はウジヤの子アタヤ、ウジヤはゼカリヤの子ゼカリヤはアマリヤの子アマリヤはシパテヤの子シパテヤはマハラレルの子是はペレズの子孫なり 5 又バルクの子マアセヤといふ者ありバルクはコロホゼの子コロホゼはハザヤの子ハザヤはアダヤの子アダヤはヨヤリブの子ヨヤリブはゼカリヤの子ゼカリヤはシロニ人の子なり 6 ペレズの子孫のエルサレムに住る者は合せて四百六十八人にして皆勇士なり 7 ベニヤミンの子孫は左のごとしメシユラムの子サル、メシユラムはヨエデの子ヨエデはペダヤの子ペダヤはコラヤの子コラヤはマアセヤの子マアセヤはイテエルの子イテエルはエサヤの子なり 8 その次はガバイおよびサライなどにして合せて九百二十八人 9 ジクリの子ヨエルかれらの監督たりハツセヌアの子ユダこれに副ふて邑を治む 10 祭司はヨヤリブの子エダヤ、ヤキン 11

および神の室の宰セラヤ、セラヤはヒルヤキの子ヒルキヤはメシユラムの子メシユラムはザドクの子ザドクはメラヨテの子メラヨテはアヒトブの子なり **12** 殿の職事をするその兄弟八百二十二人あり又アダヤといふ者ありアダヤはエロハムの子エロハムはペラリヤの子ペラリヤはアムジの子アムジはゼカリヤの子ゼカリヤはパシホルの子パシホルはマルキヤの子なり **13** アダヤの兄弟たる宗家の長二百四十二人あり又アマシサイといふ者ありアマシサイはアザリエルの子アザリエルはアハザイの子アハザイはメシレモテの子メシレモテはイシメルの子なり **14** その兄弟たる勇士百二十八人ありハツゲドリムの子ザブデエル彼らの監督たり **15** レビ人はハシユブの子シマヤ、ハシユブはアズリカムの子アズリカムはハシヤビヤの子ハシヤビヤはブンニの子なり **16** またシヤベタイおよびヨザバデあり是等はレビ人の長にして神の室の外の事を掌どれり **17** またマツタニヤといふ者ありマツタニヤはミカの子ミカはザブデの子ザブデはアサフの子なりマツタニヤは祈祷の時に感謝の詞を唱へはじむる者なり彼の兄弟の中にてバクブキヤといふ者かれに次り又アブダといふ者ありアブダはシヤンマの子シヤンマはガラルの子ガラルはエドトンの子なり **18** 聖邑にあるレビ人は合せて二百八十四人 **19** 門を守る者アツクブ、タルモンおよびその兄弟等合せて百七十二人あり皆門々にありて伺守ることをせり **20** その餘のイスラエル人祭司およびレビ人は皆ユダの一切の邑々にありて各々おのれの産業に居り **21** 但しネテニ人はオペルに居りヂハ及びギシパ、ネタニ人を統ぶ **22** エルサレムにをるレビ人の監督はウジ

といふ者なりウジはバニの子バニはハシヤビヤの子
ハシヤビヤはマツタニヤの子マツタニヤはミカの子
なり是は謳歌者なるアサフの子孫なりその職務は神
の室の事にかかはる **23** 王より命令ありて是らの事を
定め謳歌者に日々の定まれる分を與へしむ **24** ユダの
子ゼラの子孫メシザベルの子ペタヒヤといふ者王の
手に屬して民に關る一切の事を取あつかへり **25** 又村
莊とその田圃につきてはユダの子孫の者キリアテア
ルバとその郷里デボンとその郷里およびエカブジエ
ルとその村莊に住み **26** エシユア、モラダおよびペテ
ペレテに住み **27** ハザルシユアルおよびベエルシバと
その郷里に住み **28** デクラグおよびメコナとその郷里
に住み **29** エンリンモン、ザレア、ヤルムテに住み **30**
ザノア、アドラムおよび其等の村莊ラキシとその田
野およびアゼカとその郷里に住り斯かれらはベエル
シバよりヒンノムの谷までに天幕を張り **31** ベニヤミ
ンの子孫はまたゲバよりしてミクマシ、アヤおよび
ペテルとその郷里に住み **32** アナトテ、ノブ、アナニ
ヤ **33** ハヅル、ラマ、ギツタイム **34** ハデデ、ゼボイ
ム、ネバラテ **35** ロド、オノ工匠谷に住り **36** レビ人
の班列のユダにある者の中ベニヤミンに合せし者も
ありき

12 シヤルテルの子ゼルバベルおよびエシユアと偕
に上りきたりし祭司とレビ人は左のごとしセラヤ、
エレミヤ、エズラ **2** アマリヤ、マルク、ハツトシ **3**
シカニヤ、レホム、メレモテ **4** イド、ギンネトイ、
アビヤ **5** ミヤミン、マアデヤ、ビルガ **6** シマヤ、ヨ
ヤリブ、エダヤ **7** サライ、アモク、ヒルキヤ、エダ
ヤ是等の者はエシユアの世に祭司およびその兄弟等

の長たりき **8** またレビ人はエシユア、ピンヌイ、カ
デミエル、セレビヤ、ユダ、マツタニヤ、マツタニ
ヤはその兄弟とともに感謝の事を掌どれり **9** またそ
の兄弟バクブキヤおよびウンノ之と相對ひて職務を
なせり **10** エシユア、ヨアキムを生みヨアキム、エリ
アシブを生みエリアシブ、ヨイアダを生み **11** ヨイア
ダ、ヨナタンを生みヨナタン、ヤドアを生り **12** ヨア
キムの日には祭司等の宗家の長たりし者はセラヤの族
にてはメラヤ、エレミヤの族にてはハナニヤ **13** エズ
ラの族にてはメシユラム、アマリヤの族にてはヨハ
ナン **14** マルキの族にてはヨナタン、シバニヤの族に
てはヨセフ **15** ハリムの族にてはアダナ、メラヨテの
族にてはヘルカイ **16** イドの族にてはゼカリヤ、ギン
ネトン膳良にてはメシユラム **17** アビヤの族にてはジ
クリ、ミニヤミンの族モアダヤの族にてはピルタイ
18 ビルガの族にてはシャンマ、シマヤの族にてはヨ
ナタン **19** ヨヤリブの族にてはマツテナイ、エダヤの
族にてはウジ **20** サライの族にてはカライ、アモクの
族にてはエベル **21** ヒルキヤの族にてはハシヤビヤ、
エダヤの族にてはネタンエル **22** エリアシブ、ヨイア
ダ、ヨハナンおよびヤドアの日にはレビ人の宗家の長
等冊に録さる亦ペルシヤ王ダリヨスの治世に祭司等
も然せらる **23** 宗家の長たるレビ人はエリアシブの子
ヨハナンの日まで凡て歴代志の書に記さる **24** レビ人
の長はハシヤビヤ、セレビヤおよびカデミエルの子
エシユアなりその兄弟等これと相對ひて居る即ち彼
らは班列と班列とあひむかひ居り神の人ダビデの命
令に本づきて讚美と感謝とをつとむ **25** マツタニヤ、
バクブキヤ、オバダヤ、メシユラム、タルモン、ア

ツクブは門を守る者にして門の内の府庫を伺ひ守れり 26 是等はヨザダクの子エシユアの子ヨアキムの日
に在り總督ネヘミヤおよび學士たる祭司エズラの日
に在りし者なり 27 エルサレムの石垣の落成せし節會
に當りてレビ人をその一切の處より招きてエルサレ
ムに來らせ感謝と歌と鑢鍬と瑟と琴とをもて歡喜を
盡してその落成の節會を行はんとす 28 是において謳
歌ふ徒輩エルサレムの周圍の窪地およびネトパ人の
村々より集り來り 29 またベテギルガルおよびゲバと
アズマウテとの野より集り來れりこの謳歌者等はエ
ルサレムの周圍に己の村々を建たりき 30 茲に祭司お
よびレビ人身を潔めまた民および諸の門と石垣とを
潔めければ 31 我すなはちユダの牧伯等をして石垣の
上に上らしめ又二の大なる隊を作り設けて之に感謝
の詞を唱へて並進ましむ即ちその一は糞の門を指て
石垣の上を右に進めり 32 その後につきて進める者は
ホシヤヤおよびユダの牧伯の半 33 ならびにアザリヤ
、エズラ、メシユラム 34 ユダ、ペニヤミン、シマヤ
、エレミヤなりき 35 又祭司の徒數人喇叭を吹て伴ふ
あり即ちヨナタンの子ゼカリヤ、ヨナタンはシマヤ
の子シマヤはマツタニヤの子マツタニヤはミカヤの
子ミカヤはザツクルの子ザツクルはアサフの子なり
36 またゼカリヤの兄弟シマヤ、アザリエル、ミララ
イ、ギラライ、マアイ、ネタンエル、ユダ、ハナニ
等ありて神の人ダビデの樂器を執り學士エズラこれ
に先だつ 37 而して彼ら泉の門を経ただちに進みて石
垣の上口に於てダビデの城の段階より登りダビデの
家の上を過て東の方水の門に至れり 38 また今一隊の
感謝する者は彼らに對ひて進み我は民の半とともに

その後に従がへり而して皆石垣の上を行き爐戍樓の上を過て石垣の廣き處にいたり 39 エフライムの門の上を通り舊門を過ぎ魚の門およびハナニエルの戍樓とハンメアの戍樓を過て羊の門に至り牢の門に立どまれり 40 かくて二隊の感謝する者神の室にいらりて立り我もそこにたち牧伯等の半われと偕にありき 41 また祭司エリアキム、マアセヤ、ミニヤミン、ミカヤ、エリヨエナイ、ゼカリヤ、ハナニヤ等喇叭を執て居り 42 マアセヤ、シマヤ、エレアザル、ウジ、ヨナハン、マルキヤ、エラム、エゼル之と偕にあり謳歌ふ者聲高くうたへりエズラヒヤはその監督なりき 43 斯してその日みな大なる犠牲を獻げて喜悅を盡せり其は神かれらをして大に喜び樂ませたまひたればなり婦女小兒までも喜悅り是をもてエルサレムの喜悅の聲とほくまで聞えわたりぬ 44 その日府庫のすべての室を掌どるべき人々を撰びて擧祭の品初物および什一など律法に定むるところの祭司とレビ人との分を邑々の田圃に准ひて取あつめてすべての室にいるることを掌どらしむ是は祭司およびレビ人の立て奉ふるをユダ人喜びたればなり 45 彼らは神の職守および潔齋の職守を勤む謳歌者および門を守る者も然り皆ダビデとその子ソロモンの命令に依る 46 在昔ダビデおよびアサフの日には謳歌者の長一人ありて神に讚美感謝をたてまつる事ありき 47 またゼルバベルの日およびネヘミヤの日にはイスラエル人みな謳歌者と門を守る者に日々の方を與へまたレビ人に物を聖別て與へレビ人またこれを聖別てアロンの子孫に與ふ

13 その日モーセの書を読んで民に聽しめけるに其中に録して云ふアンモニ人およびモアブ人は何時までも神の會に入べからず **2** 是は彼らパンと水とをもてイスラエルの子孫を迎へずして還て之を詛はせんとてバラムを傭ひたりしが故なり斯りしかども我らの神はその呪詛を變て祝福となしたまへりと **3** 衆人この律法を聞てのち雜りたる民を盡くイスラエルより分ち離てり **4** 是より先我らの神の家の室を掌れる祭司エリアシブといふ者トビヤと近くなりたれば **5** 彼のために大なる室を備ふ其室は元來素祭の物乳香器皿および例によりてレビ人謳歌者門を守る者等に與ふる穀物酒油の什一ならびに祭司に與ふる擧祭の物を置し處なり **6** 當時は我エルサレムに居ざりき我はバビロンの王アルタシヤスタの三十二年に王の所に往たりしが數日の後王に暇を乞て **7** エルサレムに來りエリアシブがトビヤのために爲たる惡事すなはちかれがために神の家の庭に一の室を備へし事を詳悉にせり **8** 我はなはだこれを憂ひてトビヤの家の器皿をことごとくその室より投いだし **9** 頓て命じてすべての室を潔めさせ而して神の家の器皿および素祭乳香などを再び其處に携へいれたり **10** 我また查べ觀しにレビ人そのうくべき分を與へられざりきこの故に其職務をなす所のレビ人および謳歌者等各々おのれの田に奔り歸りぬ **11** 是において我何故に神の室を棄させしやと言て牧伯等を詰り頓てまたレビ人を招き集めてその故の所に立しめたり **12** 斯りしかばユダ人みな穀物酒油の什一を府庫に携へ來れり **13** その時我祭司シレミヤ學士ザドクおよびレビ人ペダヤを府庫の有司とし之にマッタニヤの子ザツクルの子ハナン

を副て庫をつかさどらしむ彼らは忠信なる者と思はれたればなり其職は兄弟等に分配るの事なりき 14 わが神よ此事のために我を記念たまへ我神の室とその職事のために我が行ひし善事を拭ひ去たまはざれ 15 当時われ觀しにユダの中にて安息日に酒榨を踏む者あり麥束を持きたりて驢馬に負するあり亦酒葡萄無花果および各種の荷を安息日にエルサレムに携へいるるあり我かれらが食物を鬻ぎをる日に彼らを戒しめたり 16 彼處にまたツロの人々も住をりしが魚および各種の貨物を携へいりて安息日にユダの人々に之を鬻ぎかつエルサレムにて商賣せり 17 是において我ユダの貴き人々を詰りて之に言ふ汝ら何ぞ此惡き事をなして安息日を瀆すや 18 汝らの先祖等も斯おこなはざりしや我らの神これが爲にこの一切の災禍を我らとこの邑とに降したまひしにあらずや然るに汝らは安息日を瀆して更に大なる震怒をイスラエルに招くなり 19 而して安息日の前日エルサレムの門々暗くならんとする頃ほひに我命じてその扉を閉させ安息日の過るまで之を開くべからずと命じ我僕數人を門々に置て安息日に荷を携へいるる事なからしめたり 20 斯りしかば商賣および各種の品を賣る者等一二回エルサレムの外に宿れり 21 我これを戒めてこれに言ふ汝ら石垣の前に宿るは何ぞや汝等もし重ねて然なさば我なんぢらに手をかけんと其時より後は彼ら安息日には來らざりき 22 我またレビ人に命じてその身を潔めさせ來りて門を守らしめて安息日を聖くす我神よ我ために此事を記念し汝の大なる仁慈をもて我を憫みたまへ 23 当時われアシドド、アンモン、モアブなどの婦女を娶りしユダヤ人を見しに 24 そ

の子女はアシドドの言語を半雑へて言ひユダヤの言語を言ことあたはず各國の言語を雑へ用ふ 25 我彼等を詰りまた語りその中の數人を撻ちその毛を抜き神を指て誓はしめて言ふ汝らは彼らの男子におのが女子を與ふべからず又なんぢらの男子あるひはおのれ自身のために彼らの女子を娶るべからず 26 是らの事についてイスラエルの王ソロモンは罪を獲たるに非ずや彼がごとき王は衆多の國民の中にもあらずして神に愛せられし者なり神かれをイスラエル全國の王となしたまへり然るに尚ほ異邦の婦女等はこれに罪を犯さしめたり 27 然ば汝らが異邦の婦女を娶りこの一切の大惡をなして我らの神に罪を犯すを我儕聽し置べけんや 28 祭司の長エリアシブの子ヨイアダの一人の子はホロニ人サンバラテの婿なりければ我これを逐出して我を離れしむ 29 わが神よ彼らは祭司の職を汚し祭司およびレビ人の契約に背きたり彼らのことを忘れたまふ勿れ 30 我かく人衆を潔めて異邦の物を盡く棄しめ祭司およびレビ人の班列を立て各々その職務に服せしめ 31 また人衆をして薪柴の禮物をその定まる期に獻げしめかつ初物を奉つらしむ我神よ我を憶ひ仁慈をもて我を待ひたまへ

エステル記

1 アハシユエロスすなはち印度よりエテオピヤまで百二十七州を治めたるアハシユエロスの世 **2** アハシユエロス王シユシヤンの城にてその國の祚に坐しをりける当時 **3** その治世の第三年にその牧伯等および臣僕等のために酒宴を設けたり ペルシヤとメデアの武士および貴族と諸州の牧伯等その前にありき **4** 時に王その盛なる國の富有とその大なる威光の榮を示して衆多の日をわたり百八十日に及びぬ **5** これらの日のをはりし時王また王の宮の園の庭にてシユシヤンに居る大小のすべての民のために七日の間酒宴を設けたり **6** 白緑青の帳幔ありて細布と紫色の紐にて銀の環および蠟石の柱に繋がるまた牀榻は金銀にして赤白黄黒の蠟石の上に居らる **7** 金の酒盃にて酒を賜ふその酒盃は此と彼おのおの異なり王の用ゐる酒をたまふこと夥だし王の富有に適へり **8** その飲むことは法にかなひて誰も強ることを爲ず 其は王人として各々おのれの好むごとく爲しむべしとその宮内のすべての有司に命じたればなり **9** 后ワシテもまたアハシユエロス王に屬する王宮の内にて婦女のために酒宴をまうけたり **10** 第七日にアハシユエロス王酒のために心樂み王の前に事ふる七人の侍從メホマン、ピスタ、ハルボナ、ピグタ、アバグタ、セタルおよびカルカスに命じ **11** 后ワシテをして後の冠冕をかぶりて王の前に來らしめよと言ひ 是は彼觀に美しければその美麗を民等と牧伯等に見さんとてなりき **12** しかるに后ワシテ侍從が傳へし王の命に従ひて來ることを肯はざりしかば王おほいに憤ほりて震怒その衷に燃ゆ **13** 是において王時を知る智者にむかひて言ふ

(王はすべて法律と審理に明かなる者にむかひて是の如くするを常とせり 14時に彼の次にをりし者はペルシヤおよびメデアの七人の牧伯カルシナ、セタル、アダマタ、タルシシ、メレス、マルセナ、メムカンなりき 是みな王の面を見る者にして國の第一に位せり) 15后ワシテ、アハシユエロス王が侍従をもて傳へし命を爲ざれば法律にしたがひて如何に彼になすべきや 16メムカン王と牧伯たちの前に答へて曰ふ后ワシテは唯王にむかひて悪き事をなしたる而已ならず一切の牧伯たちおよびアハシユエロス王の各州のもろもろの民にむかひてもまた之を爲るなり 17后のこの事あまねく一切の婦女に聞えて彼らつひにその夫を藐め觀て言ん アハシユエロス王后ワシテに己のまへに來れと命じたりしに來らざりしと 18而して後の此所行を聞るペルシヤとメデアの諸夫人もまた今日王のすべての牧伯等に是のごとく言ん然すれば必らず藐視と忿怒多く起るべし 19王もし之を善としたまはばワシテは此後ふたたびアハシユエロス王の前に來るべからずといふ王命を下し之をペルシヤとメデアの律法の中に書いれて更ること無らしめ而してその後の位を彼に勝れる他の者に與へたまへ 20王の下したまはん御詔この大なる御國に徧ねく聞えわたる時は妻たる者ことごとくその夫を大小となく共に敬まふべしと 21王と牧伯等この言を善としければ王メムカンの言のごとく爲たり 22かくて王の諸州に徧ねく書をおくりもろもろの州にその文字にしたがひて書おくりもろもろの民にその言語にしたがひて書おくり凡て男子たる者はその家の主となるべくまたおのれの民の言を用ひてもないふべしと諭しぬ

2 これらの事の後アハシユエロス王忿怒とけてワシテおよび彼が爲たる所またその彼にむかひて議定めしところの事を憶ひおこせり **2** ここに王の前に事ふる僕等いひけるは請ふ美しき少き處女等を王のために尋もとめん **3** 願はくは王御國の各州において官吏を擇び之をして美はしき處女をことごとくシユシヤンの城に集めしめ婦人を管理する王の侍從ヘガイの手にわたして婦人の局に入らしめ而して潔淨の物をこれに與へたまへ **4** 斯して王の御意に適ふ女子を取りワシテに代りて后とならしめたまへと王この事を善として然なしぬ **5** 茲にシユシヤンの城に一人のユダヤ人ありその名をモルデカイと曰ひキシの曾孫シメイの孫ヤイルの子にしてベニヤミン人なり **6** かれはバビロンの王ネブカデネザルが擄へゆきしユダのエコニヤとともに擄はれ往る俘囚の中にありてエサレムより移されたる者なり **7** かれその叔父の女ハダツサすなはちエステルを養ひ育てたり 是は父も母もなかりければなり この女子顔貌勝れてうるはしかりしがその父母の死たる後モルデカイこれを取ておのれの女となせるなり **8** 王の命令と詔言の聞え傳はり衆多の女子シユシヤンの城にあつめられてヘガイの手にわたされし時エステルも亦王の家に携へられてゆき婦人を管理するヘガイの手に交されしが **9** この女子ヘガイの意にかなひて之が恵を受たり即はちヘガイすみやかに之に潔淨の物およびその分を與へまた王の家の中より七人の侍女を擧てこれに附そはしめ彼とその侍女等を婦人の局の中なる最も佳き處に移しぬ **10** エステルはおのれの民をもおのれの宗族をも顯はさざりき其はモルデカイこれを顯はすなかれと彼

に言ふくめたればなり **11** またモルデカイはエステルの模様およびその如何になれるかを知んため日々に婦人の局の庭の前をあゆめり **12** 女子はおのおの婦人の則にしたがひて十二ヶ月を経しかる後順番にいらてアハシユエロス王にいたるはその潔淨の日を終るはかくのごとくなるが故なり 即ち没薬の油を用ふること六ヶ月また各種の薫物および婦人の潔淨ごとにあつる物等を用ふること六ヶ月 **13** 女子の王にいたるは是のごとしその婦人の局より出て王の家にゆく時には凡てその望む物をことごとく與へらる **14** 而して夕に往き朝におよびて婦人の第二の局に還り妃嬪をつかさどる王の侍従シャシガスの手に屬す王これを喜こびて名をさして召すにあらざれば重ねて王にいたることなし **15** ここにモルデカイの叔父アビハイルの女すなはちモルデカイが取ておのれの女となしたるエステル入て王にいたるべき順番にあたりけるが彼は婦人をつかさどる王の侍従ヘガイが言きかせたる事の外には何をもとめざりき エステルは凡て彼を見る者によるこぼれたり **16** かくエステルは王の家に召いれられてアハシユエロス王にいたれり是の治世の第七年十月即ちテベテの月なり **17** 王一切の婦人に超てエステルを愛しければエステルはすべての處女にまさりて王の前に恩寵と厚情を得たり 王つひに後の冕をかれの首に戴かせ彼をしてワシテにかはりて后とならしむ **18** ここにおいて王おほいなる酒宴を設けてそのもろもろの牧伯と臣僕を饗す これをエステルの酒宴と稱ふまた諸州に租税をゆるし王の富有にかなひて物を賜ふ **19** 再度處女の集められし時モルデカイは王の門に坐しをりぬ **20** エステルはモルデ

カイがかれに言ふくめたる如くして未だおのれの宗族をもおのれの民をも顯はさざりき エステルはモルデカイの言語にしたがふことその彼に養なひ育てられし時と異ならざりき **21** 當時モルデカイ王の門に坐し居ける時王の侍從にて戸を守る者の中ビグタンおよびテレシの二人怨むる事ありてアハシユエロス王を弑せんともとめたりしが **22** その事モルデカイに知れければモルデカイこれを后エステルに告げエステルまたモルデカイの名をもてこれを王に告げたり **23** ここにおいて此事をしらべさせしにその然ること顯はれければ彼ら二人は木にかけられその事は王の前なる日誌の書にかきしるさる

3 これらの事の後アハシユエロス王アガグ人ハンメダタの子ハマンを貴びこれを高くして己とともにある一切の牧伯の上にその席を定めしむ **2** 王の門にある主の諸臣みな跪づきてハマンを拝せり 是は王斯かれになすことを命じたればなり 然れどもモルデカイは跪まづかず又これを拝せざりき **3** ここをもて王の門にある王の諸臣モデカイにむかひて言ふ 汝いかなれば王の命に背くやと **4** かれらモルデカイに日々かく言ふといへども聽ざりければその事の爲をふさるべきか否を見んとてハマンにこれを告たり 其はモルデカイおのれのユダヤ人なることを語りたればなり **5** ハマン、モルデカイの跪づかずまた己を拝せざるを見たれば ハマン忿怒にたへざりしが **6** ただモルデカイ一人を殺すは事小さしと思へり彼らモルデカイの屬する民をハマンに顯はしければハマンはアハシユエロスの國の中にある一切のユダヤ人すなはちモルデカイの屬する民をことごとく殺さんと謀れり **7** ア

ハシユエロス王の十二年正月即ちニサンの月にハマンの前にて十二月すなはちアダルの月まで一日一日のため一月一月のためにプルを投しむプルは即ち籤なり 8 ハマンかくてアハシユエロス王に言けるは御國の各州にある諸民の中に散されて別れ別れになりをする一の民ありその律法は一切の民と異り また王の法律を守らずこの故にこれを容しおくは王の益にあらず 9 王もしこれを善としたまはば願くは彼らを滅ぼせと書くだしたまへ さらば我王の事をつかさどる者等の手に銀一萬タラントを秤り交して王の府庫に入しめん 10 王すなはち指環をその手より取はづシアガグ人ハンメダタの子ハマンスなはちユダヤ人の敵たる者に交し 11 しかしてハマんに言けるはその銀はなんぢに與ふ その民もまた汝にあたふれば汝に善と見ゆるごとく爲よ 12 ここにおいて正月の十三日に王の書記官を召あつめ王に屬する州牧各州の方伯およびもろもろの民の牧伯にハマーンが命ぜんとする所をことごとく書しむ 即ちもろもろの州におくるものは其文字をもちひ もろもろの民におくるものはその言語をもちひ おのおのアハシユエロス王の名をもてこれを書き王の指環をもてこれに印したり 13 しかして驛卒をもて書を王の諸州におくり十二月すなはちアダルの月の十三日において一日の内に一切のユダヤ人を若き者老たる者小兒婦人の差別なくことごとく滅ぼし殺し絶しかつその所有物を奪ふべしと諭しぬ 14 この詔旨を諸州に傳へてかの日のために準備をなさしめんとてその書る物の寫本を一切の民に開きて示せり 15 驛卒王の命によりて急ぎて出ゆきぬ この詔書はシユシヤンの城に於て出されたり かくて

王とハマンは坐して酒飲めたりしがシユシヤンの邑は惑ひわづらへり

4 モルデカイ凡てこの爲れたる事を知しかばモルデカイ衣服を裂き麻布を纏ひ灰をかぶり邑の中に行て大に哭き痛く號び **2** 王の門の前までも斯して來れり其は麻布をまとふては王の門の内に入るに能はざればなり **3** すべて王の命とその詔書と到れる諸州にてはユダヤ人の中におほいなる哀みあり斷食哭泣號呼おこれり また麻布をまとふて灰の上に坐する者おほかりき **4** ここにエステルの侍女およびその侍從等きたりてこれを告げれば後はなほだしく憂ひ衣服をおくり之をモルデカイにきせてその麻布を脱しめんとしたりしがうけざりき **5** ここをもてエステルは王の侍從の一人すなはち王の命じて己に侍らしむるハタクといふ者を召しモルデカイの許に往きてその何事なるか何故なるかを知きたれと命ぜり **6** ハタクいでて王の門の前なる邑の廣場にをるモルデカイにいたりしに **7** モルデカイおのれの遇たるところを具にこれに語りかつハマンがユダヤ人を滅ぼす事のために王の府庫に秤りいれんと約したる銀の額を告げ **8** またその彼等をほろぼさしむるためにシユシヤンにおいて書て與へられし詔書の寫本を彼にわたし之をエステルに見せかつ解あかし また彼に王の許にゆきてその民のためにこれに矜恤を請ひその前に願ふことを爲べしと言つたへよと言ひ **9** ハタクかへり來りてモルデカイの言詞をエステルに告げれば **10** エステル、ハタクに命じモルデカイに言をつたへしむ云く **11** 王の諸臣がよび王の諸州の民みな知る男にもあれ女にもあれ凡て召れずして内庭に入て王にいたる者

は必ず殺さるべき一の法律ありされど王これに金圭を伸れば生るを得べしかくて我此三十日は王にいたるべき召をかうむらざるなり 12 エステルの言をモルデカイに告げけるに 13 モルデカイ命じてエステルに答へしめて曰く 汝王の家にあれば一切のユダヤ人の如くならずして免かるべしと心に思ふなかれ 14 なんぢ若この時にあたりて黙して言ずば他の處よりして助援と拯救ユダヤ人に興らんされど汝どなんぢの父の家は亡ぶべし 汝が後の位を得たるは此のごとき時のためなりしやも知るべからず 15 エステルまたモルデカイに答へしめて曰く 16 なんぢ行きシユシヤンにをるユダヤ人をことごとく集めてわがために斷食せよ 三日の間夜晝とも食ふことも飲むこともするなかれ 我とわが侍女等もおなじく斷食せんしかして我法律にそむく事なれども王にいたらん 我もし死べくば死べし 17 ここにおいてモルデカイ往てエステルが凡ておのれに命じたるごとく行なへり

5 第三日にエステル後の服を着王の家の内庭にいり王の家にむかひて立つ王は王宮の玉座に坐して王宮の戸口にむかひをりしが 2 王后エステルが庭にたちをるを見てこれに恩をくはへ其手にある金圭をエステルの方に申しければエステルすすみよりてその圭の頭にさはれり 3 王かれに言けるは后エステルなんぢ何をもとむるやなんぢの願意は何なるや國の半分にいたるとも汝にあたふべし 4 エステルいひけるは王もし善としたまはば願くは今日わが王のために設けたる酒宴に王とハマんと臨みたまへ 5 ここに於て王ハマンを急がしめてエステルの言るごとくならしめよと命じ王とハマんやがてエステルが設けたる酒

宴に臨めり 6 酒宴の時王またエステルに言けるは汝の所求は何なるやかならずゆるさるべし なんぢの願意は何なるや國の半分にいたるとも成就らるべし 7 エステル言けるは我が所求わが願意は是なり 8 われもし王の目の前に恩を得 王もしわが所求をゆるしわが願意を成就しむることを善としたまはば願くは王とハマンまたわが設けんとする酒宴に臨みたまへ われ明日王の宣まへる言にしたがはん 9 かくてハマンはその日よろこび心たのしみて出きたりけるがハマン、モルデカイが王の門に居て己にむかひて起もあがらず身動もせざるを見しかば 痛くモルデカイを怒れり 10 されどもハマン耐忍びて家にかへりその朋友等および妻ゼレシをまねき來らしめ 11 而してハマンその富の榮耀とその子の衆多ことと凡て王の己を貴とびし事また己をたかくして王の牧伯および臣僕の上にあらしむることを之に語れり 12 しかしてハマンまた言けらく后エステル酒宴を設けたりしが我のほかは何人をも王とともに之に臨ましめず明日もまた我は王とともに後に招かれをるなり 13 然れどユダヤ人モルデカイが王の門に坐しをるを見る間は是らの事も快樂からず 14 時にその妻ゼレシとその一切の朋友かれに言けるは請ふ高五十キュビトの木を立しめ明日の朝モルデカイをその上に懸んことを王に奏せ而して王とともに楽しみてその酒宴におもむけとハマンこの事を善としてその木を立しめたり

6 その夜王ねむること能はざりければ命じて日々の事を記せる記録の書を持きたらしめ王の前にこれを讀しめけるに 2 モルデカイ曾て王の侍従の二人戸を守る者なるピグタンとテレシがアハシユエロス王を

殺さんと謀れるを告たりと記せるに遇ふ 3 王すなはち言けるは之がために何の榮譽と爵位をモルデカイにあたへしや 王に事ふる臣僕等こたへて何をも彼にあたへしこと無しといへり 4 ここにおいて王誰ぞ庭にあるやと問ふ この時ハマンは己がモルデカイのために設けたる木にモルデカイを懸ることを王に奏せんとして己に王の家の外庭に來りて居る 5 王の臣僕等王につげてハマン庭に立をると言ければ王かれをして入來らしめよと言ふ 6 ハマンやがて入きたりしに王かれにいひけるは王の尊とぼんと欲する人には如何になさば善らんかとハマン心におもひけるは王の尊ぼんとする者は我にあらずして誰ぞやと 7 ハマンすなはち王にいひけるは王の尊ぼんと欲する人のためには 8 王の着たまへる衣服を携さへ來らしめかつ王の乗たまへる馬即ちその頭に王の冠冕を戴ける馬をひき來らしめ 9 これを王の最も貴とき一人の牧伯の手にわたし王の尊ぼんとする人に其衣服を衣せしめこれを馬にのせて邑の街衢をみちびき通り 王の尊とぼんと欲する人には是のごとくなすべしと呼はらしむべし 10 王ハマンに言けるは急ぎなんぢが言しごとくその衣服と馬とを取り王の門に坐するユダヤ人モルデカイに斯なせよ なんぢが言しところを一も缺こと無らしめよ 11 ここにおいてハマン衣服と馬とを取りモルデカイにその衣服を着せ彼をして邑の街衢を乗とほらしめその前に呼はりて云ふ王の尊ぼんと欲する人には是のごとくなすべしと 12 かくてモルデカイは王の門にかへりたりしがハマンは愁へなやみ首をおほふておのれの家にはしりゆき 13 しかしてハマンおのが遇る事をことごとくその妻ゼレシとそ

の朋友等に告げるにその智者等およびその妻ゼレシ
かれに言けるは 彼のモルデカイすなはちなんぢがそ
の前に敗れはじめたる者もしユダヤ人ならば汝これ
に勝ことを得じ必らずその前にやぶれんと 14 かれら
尚ハマントものいひをる間に王の侍従きたりてハマ
ンをうながしエステルが設けたる酒宴にのぞましむ

7 王またハマんとともに后エステルと酒宴せんとて
來れり 2 この第二の酒宴の日に王またエステルに言
けるは后エステルよなんぢのもとめは何なるや かな
らず許さるべし 汝のねがひは何なるや國の半分にい
たるとも成就らるべし 3 后エステルこたへて言ける
は王よ我もし王の御目の前に恩を得王もし善と見た
まはばわがもとめにしたがりがわが生命をわれに賜
へ またわが願にしたがひてわが民を我に賜へ 4 我と
わが民は賣れて滅ぼされ殺され絶されんとす 我らも
し奴婢に賣れたるならんには我黙してはべらん 敵人
は王の損害を償なふ事能はざるなり 5 アハシユエロ
ス王后エステルにこたへて言けるは之をなさんと心
にたくめる者は誰また何處にをるや 6 エステルいひ
けるはその敵その仇人は即ちこの悪きハマンなりと
是によりてハマンは王と後の前にありて懼れたり 7
王怒り酒宴の席をたちて宮殿の園に往きければハマ
ンたちあがりて后エステルに生命を乞り 其はかれ王
のおのれに禍災をなさんと決めしを見たればなり 8
王宮殿の園より歸りて酒宴の場にいたりしにエステ
ルのをる牀榻の上にハマン俯伏るたれば王いひける
は彼はまた家の内にてわが前に后を辱しめんとする
かと此ことば王の口より出るや人々ハマンの面をお
ほへり 9 時に王の前にある一人の侍従ハルボナイひ

けるは王の爲に善き事を言たりしかのモルデカイを懸んとてハマンが作りたる五十キュビトの木ハマンの家に立をるなりと王いひけるは彼をその上に懸よ
10 人々ハマンを其モルデカイをかけんとて設けし木の上に懸たり 王の震怒つひに解く

8 その日アハシユエロス王ユダヤ人の敵ハマンの家を后エステルに賜ふ モダカイもまた王の前に來れり 是はエステル彼が己と何なる係りなるかを告たればなり **2** 王ハマンより取かへせし己の指環をはづしてモルデカイに與ふ 而してエステル、モルデカイをしてハマンの家をつかさどらしむ **3** エステルふたたび王の前に奏してその足下にひれふしアガグ人ハマンがユダヤ人を害せんと謀りしその謀計を除かんことを涙ながらに乞求めたり **4** 王エステルにむかひて金圭を伸ければエステル起て王の前に立ち **5** 言けるは王もし之を善としたまひ我もし王の前に恩を得この事もし王に正と見え我もし御目にかなひたらば アガグ人ハンメダタの子ハマンが王の諸州にあるユダヤ人をほろぼさんと謀りて書おくりたる書を取りけすべき旨を書くだしたまへ **6** われ豈わが民に臨まんとする禍害を見るに忍びんや 豈わが宗族のほろぶるを見るにしのびんや **7** アハシユエロス王后エステルとユダヤ人モルデカイにいひけるはハマン、ユダヤ人を殺さんとしたれば我すでにハマンの家をエステルに與へまたハマンを木にかけたり **8** なんぢらも亦おのれの好むごとく王の名をもて書をつくり王の指環をもてこれに印してユダヤ人につたへよ王の名をもて書き王の指環をもて印したる書は誰もとりけすこと能はざればなり **9** ここをもてその時また王の書記

官を召あつむ是三月すなはちシワンの月の二十三日
なりきしかして印度よりエテオピアまでの百二十七
州のユダヤ人州牧諸州の方伯牧伯等にモルデカイが
命ぜんとするところを盡く書しるさしむ 即ちもろも
ろの州におくるものはその文字をもちひ諸の民にお
くるものはその言語をもちひて書おくりユダヤ人に
おくるものはその文字と言語をもちふ 10 かれアハシ
ユエロス王の名をもてこれをかき王の指環をもてこ
れに印し驛卒をして御厩にてそだてたる逸足の御用
馬にのりてその書をおくりつたへしむ 11 その中に云
ふ王すべての邑にあるユダヤ人に許す彼らあひ集ま
り立ておのれの生命を保護しおのれを襲ふ諸國諸州
の一切の兵民をその妻子もろともにほろぼし殺し絶
し且その所有物を奪ふべし 12 アハシユエロス王の諸
州において十二月すなはちアダルの月の十三日一日
の内かくのごとくするを許さる 13 この詔旨を諸州に
つたへんがためまたユダヤ人をしてかの日のために
準備してその敵に仇をかへさしめんがためにその書
る物の寫本を一切の民に開きて示せり 14 驛卒逸足の
御用馬にのり王の命によりて急がせられせきたてら
れて出ゆけりこの詔書はシユシヤンの城において出
されたり 15 かくてモルデカイは藍と白の朝服を着大
なる金の冠を戴き紫色の細布の外衣をまとひて王の
前よりいできたれり シユシヤンの邑中聲をあげて喜
びぬ 16 ユダヤ人には光輝あり喜悅あり快樂あり尊榮
ありき 17 いづれの州にても何の邑にても凡て王の命
令と詔書のいたるところにてはユダヤ人よろこび樂
しみ酒宴をひらきて此日を吉日となせりしかして國

の民おほくユダヤ人となれり是はユダヤ人を畏るる
心おこりたればなり

9十二月すなはちアダルの月の十三日王の命令と詔書のおこなはるべき時いよいよ近づける時すなはちユダヤ人の敵ユダヤ人を打伏んとまちかまへたりしに却てユダヤ人おのれを悪む者を打ふする事となりける其日に **2**ユダヤ人アハシユエロス王の各州にある己の邑々に相あつまりおのれを害せんとする者どもを殺さんとせり誰も彼らに敵ることを得る者なかりき 其は一切の民ユダヤ人を畏れたればなり **3**諸州の牧伯州牧方伯など凡て王の事を辨理ふ者は皆ユダヤ人をたすけたり 是モルデカイを畏るるによりてたり **4**モルデカイは王の家にて大なる者となりその名各州にきこえわたれり斯その人モルデカイはますます大になりゆきぬ **5**ユダヤ人すなはち刀刃をもてその一切の敵を撃て殺し滅ぼしおのれを悪む者を意のままに爲したり **6**ユダヤ人またシユシヤンの城においても五百人を殺しほろぼせり **7**パルシヤンダタ、ダルポン、アスパタ **8**ポラタ、アダリヤ、アリダタ **9**パルマシタ、アリサイ、アリダイ、ワエザタ **10**これらの者すなはちハンメダタの子ユダヤ人の敵たるハマンの十人の子をも彼ら殺せりされどその所有物には手をかけざりき **11**シユシヤンの城の内にて殺されし者の數をその日王にまうしあげければ **12**王きさきエステルにいひけるはユダヤ人シユシヤンの城の内にて五百人を殺したるハマンの十人の子をころせり王のその餘の諸州においては幾何なりしぞや 汝また何か求むるところあるやかならず許さるべし尚何かねがふところあるや必らず成就らるべし **13**エステ

ルいひけるは王もし之を善としたまはば願くはシユシヤンにあるユダヤ人に允して明日も今日の詔旨のごとくなさしめ且ハマンの十人の子を木に懸しめたまへ **14** 王かく爲せと命じシユシヤンにおいて詔旨を出せりマンの十人の子は木に懸らる **15** アダルの月の十四日にシユシヤンのユダヤ人また集まりシユシヤンの内にて三百人をころせり然れどもその所有物には手をかけざりき **16** 王の諸州にあるその餘のユダヤ人もまた相あつまり立ておのれの生命を保護しその敵に勝て安んじおのれを悪む者七萬五千人をころせり然れどもその所有には手をかけざりき **17** アダルの月の十三日にこの事をおこなひ十四日にやすみてその日に酒宴をなして喜こべり **18** されどシユシヤンををるユダヤ人はその十三日と十四日とにあひ集まり十五日にやすみてその日に酒宴をなして喜こべり **19** これによりて村々のユダヤ人すなはち石垣なき邑々にすめる者はアダルの月の十四日をもて喜樂の日酒宴の日吉日となして互に物をやりとりす **20** モルデカイこれらの事を書しるしてアハシユエロス王の諸州にをるユダヤ人に遠きにも近きにも書をおくり **21** アダルの月の十四日と十五日を年々にいはふことを命じ **22** この兩の日にユダヤ人その敵に勝て休みこの月は彼のために憂愁より喜樂にかはり悲哀より吉日にかはりたれば是らの日に酒宴をなして喜びたがひに物をやりとりし貧しき者に施與をなすべしと諭しぬ **23** ここをもてユダヤ人はその已にはじめたるごとくモルデカイがかれらに書おくりしごとく行なひつづけたり **24** アガグ人ハンメダタの子ハマンスなはちすべてのユダヤ人の敵たる者ユダヤ人を滅ぼさんと謀

りプルすなはち籤を投てこれを滅ぼし絶さんとしたりしが **25** その事王の前に明かになりし時王書をおくりて命じハマシがユダヤ人を害せんとはかりしその悪き謀計をしてハマシのかうべに歸らしめ彼とその子等を木に懸しめたり **26** このゆゑに此兩の日をそのプルの名にしたがひてプリムとなづけたり斯りしかばこの書のすべての詞によりこの事につきて見たるところ己の遇たるところに依て **27** ユダヤ人あひ定め年々その書るところにしたがひその定めたる時にしたがひてこの兩の日をまもり己とおのれの子孫および凡て己につらなる者これを行ひつづけて廢すること無く **28** この兩の日をもて代々家々州々邑々において必ず記念てまもるべき者となしこれらのプリムの日をしてユダヤ人の中に廢せらるること無らしめまたこの記念をしてその子孫の中に絶ること無らしむ **29** かくてアビハイルの女なる后エステルとユダヤ人モルデカイおほいなる力をもて此プリムの第二の書を書おくりてこれを堅うす **30** すなはちモルデカイ、アハシユエロスの國の百二十七州にある一切のユダヤ人に平和と眞實の言語をもて書をおくり **31** 斷食と悲哀のことにつきてプリムのこれらの日を堅うしてその定めたる時を守らしむすなはちユダヤ人モルデカイと后エステルが曾てかれらに命じたるごとくまたユダヤ人等が曾てみづから己のためおよびおのれの子孫のために定めたるがごとし **32** エステルの語プリムにかかはる是等の事のかたうせり是は書にしるされたり

10 アハシユエロス王國土および海の島々に貢をたてまつらしむ **2** アハシユエロス王が權勢と能力をも

て爲たる一切の事業および彼がモルデカイを高くして大いなる者とならしめたる事の委き話はメデアとペルシャの列王の日誌の書に記さるるにあらざや 3 ユダヤ人モルデカイはアハシユエロス王に次ぐ者となりユダヤ人の中にありて大なる者にしてその衆多の兄弟によるこぼれたり彼はその民の福祉をもとめその一切の宗族に平和の言をのべたりき

ヨブ記

1 ムヅの地にヨブと名くる人あり 其人と爲完全かつ
正くして神を畏れ惡に遠ざかる **2** その生る者は男の
子七人女の子三人 **3** その所有物は羊七千 駱駝三千 牛
五百 軛 牝馬五百 僕も夥多しくあり 此人は東の人
の中にて最も大なる者なり **4** その子等おのおの己の
家にて己の日に宴筵を設くる事を爲し その三人の姉
妹をも招きて與に食飲せしむ **5** その宴筵の日はつる
毎にヨブかならず彼らを召よせて潔む 即ち朝はやく
興き彼ら一切の數にしたがひて燔祭を獻ぐ 是はヨブ
我子ら罪を犯し心を神を忘れたらんも知べからずと
謂てなりヨブの爲ところ常に是のごとし **6** 或日神の
子等きたりてエホバの前に立つ サタンも來りてその
中にあり **7** エホバ、サタンに言たまひけるは汝何處
より來りしや サタン、エホバに應へて言けるは地を
行めぐり此彼經あるきて來れり **8** エホバ、サタンに
言たまひけるは汝心をもちひてわが僕ヨブを觀しや
彼のごとく完全かつ正くして神を畏れ惡に遠ざかる
人世にあらざるなり **9** サタン、エホバに應へて言け
るはヨブあにもとむることなくして神を畏れんや **10**
汝彼とその家およびその一切の所有物の周圍に藩屏
を設けたまふにあらざるや 汝かれが手に爲ところを盡
く成就せしむるがゆゑにその所有物地に遍ねし **11** 然
ど汝の手を伸て彼の一切の所有物を撃たまへ 然ば必
ず汝の面にむかひて汝を誚はん **12** エホバ、サタンに
言たまひけるは視よ彼の一切の所有物を汝の手に任
す 唯かれの身に汝の手をつくる勿れ サタンすなはち
エホバの前よりいでゆけり **13** 或日ヨブの子女等その
第一の兄の家にて物食ひ酒飲るたる時 **14** 使者ヨブの

許に來りて言ふ 牛耕しをり牝驢馬その傍に草食をり
しに 15 シバ人襲ひて之を奪ひ刃をもて少者を打殺せ
り 我ただ一人のがれて汝に告んとて來れりと 16 彼
なほ語ひをる中に又一人きたりて言ふ 神の火天より
降りて羊および少者を焚て滅ぼせり 我ただ一人のが
れて汝に告んとて來れりと 17 彼なほ語ひをる中に又
一人きたりて言ふ カルデヤ人三隊に分れ來て駱駝を
襲ひてこれを奪ひ刃をもて少者を打殺せり我ただ一
人のがれて汝に告んとて來れりと 18 彼なほ語ひをる
中に又一人來りて言ふ汝の子女等その第一の兄の家
にて物食ひ酒飲をりしに 19 荒野の方より大風ふき來
て家の四隅を撃ければ夫の若き人々の上に潰れおち
て皆しねり 我これを汝に告んとて只一人のがれ來れ
りと 20 是においてヨブ起あがり外衣を裂き髪を斬り
地に伏して拜し 21 言ふ我裸にて母の胎を出たり 又
裸にて彼處に歸らん エホバ與へエホバ取たまふなり
エホバの御名は讚べきかな 22 この事においてヨブは
全く罪を犯さず神にむかひて愚なることを言ざりき

2 或日神の子等きたりてエホバの前に立つ サタンも
來りその中にありてエホバの前に立つ 2 エホバ、サ
タンに言たまひけるは汝何處より來りしや サタン、
エホバに應へて言けるは地を行めぐり此彼經あるき
て來れり 3 エホバ、サタンに言たまひけるは汝心を
もちひて我僕ヨブを見しや 彼のごとく完全かつ正く
して神を畏れ惡に遠ざかる人世にあらざるなり 汝わ
れを勧めて故なきに彼を打惱さしめしかど彼なほ己
を完うして自ら堅くす 4 サタン、エホバに應へて言
けるは皮をもて皮に換るなれば人はその一切の所有
物をもて己の生命に換ふべし 5 然ど今なんぢの手を

伸て彼の骨と肉とを撃たまへ 然ば必らず汝の面にむかひて汝を詛はん 6 エホバ、サタンに言たまひけるは彼を汝の手に任す 只かれの生命を害ふ勿れと 7 サタンやがてエホバの前よりいでゆきヨブを撃てその足の跣より頂までに悪き腫物を生ぜしむ 8 ヨブ土瓦の碎片を取り其をもて身を搔き灰の中に坐りぬ 9 時にその妻かれに言けるは汝は尚も己を完たうして自ら堅くするや 神を詛ひて死るに如ずと 10 然るに彼はこれに言ふ汝の言ところは愚なる婦の言ところに似たり 我ら神より福祉を受るなれば災禍をも亦受ざるを得んやと 此事においてはヨブまつたくその唇をもて罪を犯さざりき 11 時にヨブの三人の友この一切の災禍の彼に臨めるを聞き各々おのれの處よりして來れり 即ちteman人エリパズ、シユヒ人ビルダデおよびマアナ人ゾバル是なり 彼らヨブを弔りかつ慰めんとして互に約してきたりしが 12 目を擧て遙に觀しに其ヨブなるを見識がたき程なりければ齊く聲を擧て泣き 各おのれの外衣を裂き天にむかひて塵を撒て己の頭の上にならし 13 乃ち七日七夜かれと偕に地に坐しゐて 一言も彼に言かくる者なかりき 彼が苦惱の甚だ大なるを見たればなり

3 斯て後ヨブ口を啓きて自己の日を詛へり 2 ヨブすなはち言詞を出して云く 3 我が生れし日亡びうせよ 男子胎にやどれりと言し夜も亦然あれ 4 その日は暗くなれ 神上よりこれを顧みたまはざれ 光これを照す勿れ 5 暗闇および死蔭これを取もどせ 雲これが上をおほえ 日を暗くする者これを懼しめよ 6 その夜は黑暗の執ふる所となれ 年の日の中に加はらざれ 月の數に入ざれ 7 その夜は孕むこと有ざれ 歡喜

の聲その中に興らざれ 8 日を詛ふ者レビヤタンを
激發すに巧なる者これを詛へ 9 その夜の晨星は暗
かれ その夜には光明を望むも得ざらしめ 又東雲の
眼蓋を見ざらしめよ 10 是は我母の胎の戸を闔ずま
た我目に憂を見ること無らしめざりしによる 11 何
とて我は胎より死て出ざりしや 何とて胎より出し
時に氣息たえざりしや 12 如何なれば膝ありてわれ
を接しや 如何なれば乳房ありてわれを養ひしや 13
否らば今は我偃て安んじかつ眠らん 然ばこの身
やすらひをり 14 かの荒墟を自己のために築きたり
し世の君等臣等と偕にあり 15 かの黄金を有ち白銀
を家に充したりし牧伯等と偕にあらん 16 又人しれ
ず墮る胎兒のごとくにして世に出ず また光を見ざ
る赤子のごとくならん 17 彼處にては悪き者 虐遇を
息め倦憊たる者安息を得 18 彼處にては俘囚人みな
共に安然に居りて驅使者の聲を聞ず 19 小き者も大
なる者も同じく彼處にあり 僕も主の手を離る 20 如
何なれば艱難にをる者に光を賜ひ 心苦しむ者に生
命をたまひしや 21 斯る者は死を望むなれどもきた
らず これをもとむるは藏れたる寶を掘るよりも甚
だし 22 もし墳墓を尋ねて獲ば大に喜び楽しむな
り 23 その道かくれ神に取籠られをる人に如何なれば
光明を賜ふや 24 わが歎息はわが食物に代り我呻吟は
水の流れそそぐに似たり 25 我が戦慄き懼れし者我に
臨み我が怖懼れたる者この身に及べり 26 我は安然な
らず穩ならず安息を得ず唯艱難のみきたる

4時にテマン人エリパズ答へて曰く 2 人もし汝にむ
かひて言詞を出さば汝これを厭ふや 然ながら誰か
言で忍ぶことを得んや 3 さきに汝は衆多の人を誨

へ諭せり 手の垂たる者をばこれを強くし 4 つまづ
く者をば言をもて扶けおこし 膝の弱りたる者を強
くせり 5 然るに今この事汝に臨めば汝悶え この事
なんぢに加はれば汝おちまどふ 6 汝は神を畏こめ
り 是なんぢの依頼む所ならずや 汝はその道を全うせ
り 是なんぢの望ならずや 7 請ふ想ひ見よ 誰か罪な
くして亡びし者あらん 義者の絶れし事いづくに在
や 8 我の観る所によれば不義を耕へし悪を播く者は
その穫る所も亦是のごとし 9 みな神の氣吹によりて
滅びその鼻の息によりて消うす 10 獅子の吼 猛き獅
子の聲ともに息み 少き獅子の牙折れ 11 大獅子獲物な
くして亡び小獅子散失す 12 前に言の密に我に臨める
ありて我その細聲を耳に聞得たり 13 即ち人の熟睡
する頃我夜の異象によりて想ひ煩ひをりける時 14
身に恐懼をもよほして戦慄き 骨節ことごとく振ふ
15 時に靈ありて我面の前を過ければ我は身の毛よ
だちたり 16 その物立とまりしが我はその状を見わか
つことえざりき 唯一の物の象わが目の前にあり 時に
我しづかなる聲を聞けり云く 17 人いかで神より正義
からんや 人いかでその造主より潔からんや 18 彼は
その僕をさへに恃みたまはず 其使者をも足ぬ者と
見做たまふ 19 況んや土の家に住をりて塵を基とし蜉
蝂のごとく亡ぶる者をや 20 是は朝より夕までの間に
亡びかへりみる者もなくして永く失逝る 21 その魂の
緒あに絶ざらんや皆悟ること無して死うす

5 請ふなんぢ顛びて看よ 誰か汝に應ふる者ありや 聖
者の中にて誰に汝むかはんとするや 2 夫愚なる者は
憤恨のために身を殺し 癡き者は嫉媚のために己を
死しむ 3 我みづから愚なる者のその根を張るを見

たりしがすみやかにその家を誼へり 4 その子等は
助援を獲ることなく門にて悩まざる之を救ふ者なし 5 その穡とれる物は饑たる人これを食ひ 荊棘の
籬の中にありてもなほ之を奪ひいだし 絹をその所
有物にむかひて口を張る 6 災禍は塵より起らず 艱
難は土より出ず 7 人の生れて艱難をうくるは火の
子の上に飛がごとし 8 もし我ならんには我は必ら
ず神に告求め 我事を神に任せん 9 神は大にして測
りがたき事を行ひたまふ 其不思議なる事を爲たま
ふこと數しれず 10 雨を地の上に降し 水を野に遣り
11 卑き者を高く擧げ 憂ふる者を引興して幸福ならし
めたまふ 12 神は狡しき者の謀計を取り 之をして何事
をもその手に成就ること能はざらしめ 13 慧き者をそ
の自分の詭計によりて執へ 邪なる者の謀計をして
敗れしむ 14 彼らは晝も暗黒に遇ひ 卓午にも夜の如
くに摸り惑はん 15 神は悩める者を救ひてかれらが口
の劍を免かれしめ 強き者の手を免かれしめたまふ 16
是をもて弱き者望あり 悪き者口を閉づ 17 神の懲し
たまふ人は幸福なり 然ば汝全能者の徹責を輕んず
る勿れ 18 神は傷け又裏み 撃ていため又その手をも
て善醫したまふ 19 彼はなんぢを六の艱難の中にて救
ひたまふ 七の中にも災禍なんぢにのぞまじ 20 饑
饉の時にはなんぢを救ひて死を免れしめ 戦争の時
には劍の手を免れしめたまふ 21 汝は舌にて鞭たる
時にも隠ることを得 壊滅の來る時にも懼ること
有じ 22 汝は壊滅と饑饉を笑ひ 地の獸をも懼ること
無るべし 23 田野の石なんぢと相結び 野の獸なんぢ
と和がん 24 汝はおのが幕屋の安然なるを知ん 汝の
住處を見まはるに缺たる者なからん 25 汝また汝の子

等の多くなり汝の裔の地の草の如くなるを知ん 26
汝は遐齡におよびて墓にいらん 宛然麥束を時にい
たりて運びあぐるごとくなるべし 27 視よ我らが尋ね
明めし所かくのごとし 汝これを聽て自ら知れよ

6 ヨブ應へて曰く 2 願はくは我憤恨の善く權られ我
懊惱の之とむかひて天秤に懸られんことを 3 然すれ
ば是は海の沙よりも重からん 斯ればこそ我言躁妄
なりけれ 4 それ全能者の箭わが身にいりわが魂神そ
の毒を飲り 神の畏怖我を襲ひ攻む 5 野驢馬あに青
草あるに鳴んや 牛あに食物あるに哂らんや 6 淡き
物あに鹽なくして食はれんや 蛋の白あに味あらん
や 7 わが心の觸ることを嫌ふ物是は我が厭ふ所の食
物のごとし 8 願はくは我求むる所を得んことを願は
くは神わが希ふ所の物を我に賜はらんことを 9 願は
くは神われを滅ぼすを善とし 御手を伸て我を絶た
まはんことを 10 然るとも我は尚みづから慰むる所あ
り 烈しき苦痛の中にありて喜ばん 是は我聖者の言に
悖りしことなればなり 11 我何の氣力ありてか尚俟
ん 我の終いかなれば我なほ耐へ忍ばんや 12 わが氣
力あに石の氣力のごとくならんや 我肉あに銅のご
とくならんや 13 わが助われの中に無にあらずや 救
拯我より逐はなされしにあらずや 14 憂患にしづむ者
はその友これを憐れむべし 然らずば全能者を畏る
ことを廢ん 15 わが兄弟はわが望を充さざること 溪
川のごとく 溪川の流のごとくに過さる 16 是は氷の
ために黒くなり 雪その中に藏るれども 17 温暖にな
る時は消ゆき熱くなるに及てはその處に絶はつ 18 隊
旅客身をめぐらして去り空曠處にいたりて亡ぶ 19 テ
マの隊旅客これを望みシバの旅客これを慕ふ 20 彼

等これを望みしによりて愧恥を取り 彼處に至りて
その面を赧くす 21 かく汝等も今は虚しき者なり 汝
らは怖ろしき事を見れば則ち懼る 22 我あに汝等我
に予へよと言しこと有んや 汝らの所有物の中より
物を取て我ために饋れと言しこと有んや 23 また敵
人の手より我を救ひ出せと言しことあらんや 虐ぐ
る者の手より我を贖へと言しことあらんや 24 我を
教へよ 然らば我黙せん 請ふ私の過てる所を知せよ
25 正しき言は如何に力あるものぞ 然ながら汝らの規
諫する所は何の規諫とならんや 26 汝らは言を規正んと
想ふや 望の絶たる者の語る所は風のごときなり 27
汝らは孤子のために籤を掣き 汝らの友をも商貨に
するならん 28 今ねがはくは我に向へ 我は汝らの面
の前に偽はらず 29 請ふ再びせよ 不義あらしむる勿
れ 請ふ再びせよ 此事においては我正義し 30 我舌に
不義あらんや 我口悪き物を辨へざらんや

7 それ人の世にあるは戦闘にあるがごとくならずや
又其日は傭人の日のごとくなるにあらずや 2 奴僕の
暮を冀がふが如く傭人のその價を望むがごとく 3 我
は苦しき月を得させられ 憂はしき夜をあたへらる 4
我臥ば乃はち言ふ何時夜あけて我おきいでんかと 曙
まで頻に輾轉ぶ 5 わが肉は蟲と土塊とを衣服となし
我皮は愈てまた腐る 6 わが日は機の梭よりも迅速な
り 我望む所なくし之を送る 7 想ひ見よ わが生命が氣
息なる而已 我目は再び福祉を見ること有じ 8 我を見
し者の眼かさねて我を見ざらん 汝目を我にむくるも
我は已に在ざるべし 9 雲の消て逝がごとく陰府に下
れる者は重ねて上りきたらじ (Sheol h7585) 10 彼は再び
その家に歸らず 彼の郷里も最早かれを認めじ 11 然ば

我はわが口を禁めず 我心の痛によりて語ひ わが神魂
の苦しきによりて歎かん 12 我あに海ならんや鱈なら
んや汝なにとて我を守らせおきたまふぞ 13 わが牀
われを慰め わが寢床わが愁を解んと思ひをる時に 14
汝夢をもて我を驚かし 異象をもて我を懼れしめたま
ふ 15 是をもて我心は氣息の閉んことを願ひ我この骨
よりも死を冀がふ 16 われ生命を厭ふ 我は永く生るを
ことを願はず 我を捨おきたまへ 我日は氣のごときな
り 17 人を如何なる者として汝これを大にし 之を心に
留 18 朝ごとに之を看そなはし 時わかず之を試みた
まふや 19 何時まで汝われに目を離さず 我が津を咽
む間も我を捨おきたまはざるや 20 人を鑿みたまふ者
よ我罪を犯したりとて汝に何をか爲ん 何ぞ我を汝の
的となして我にこの身を厭はしめたまふや 21 汝なん
ぞ我の愆を赦さず我罪を除きたまはざるや 我いま土
の中に睡らん 汝我を尋ねたまふとも我は在ざるべし

8時にシユヒ人ビルダデ答へて曰く 2 何時まで汝か
かる事を言や 何時まで汝の口の言語を大風のごと
くにするや 3 神あに審判を曲たまはんや 全能者あに
公義を曲たまはんや 4 汝の子等かれに罪を獲たるに
や之をその愆の手に付したまへり 5 汝もし神に求め
全能者に祈り 6 清くかつ正しうしてあらば必ず今汝
を顧み汝の義き家を榮えしめたまはん 7 然らば汝の
始は微小くあるとも汝の終は甚だ大ならん 8 請ふ汝
過にし代の人に問へ 彼らの父祖の尋究めしところ
の事を學べ 9 (我らは昨日より有しのみにて何を
も知ず 我らが世にある日は影のごとし) 10 彼等なん
ぢを教へ汝を諭し 言をその心より出さざらんや 11
葦あに泥なくして長んや 萩あに水なくしてそだた

んや 12 是はその青くして未だ刈ぎる時にも他の一切の草よりは早く穡る 13 神を忘るる者の道は凡て是のごとく悖る者の望は空しくなる 14 その恃む所は絶れ その倚ところは蜘蛛網のごとし 15 その家に倚かからんとすれば家立ず 之に堅くとりすがるも保たじ 16 彼日の前に青緑を呈はし その枝を園に蔓延らせ 17 その根を石堆に盤みて石の屋を眺むれども 18 若その處より取のぞかれなばその處これを認めずして我は汝を見たる事なしと言ん 19 視よその道の喜樂是のごとし 而してまた他の者地より生いでん 20 それ神は完全人を棄たまはず また悪き者の手を執りたまはず 21 遂に哂笑をもて汝の口に充し歡喜を汝の唇に置たまはん 22 汝を惡む者は羞恥を着せられ惡き者の住所は無なるべし

9 ヨブこたへて言けるは 2 我まことに其事の然るを知り 人いかでか神の前に義かるべけん 3 よし人は神と辨争はんとすとも千の一も答ふること能はざるべし 4 神は心慧く力強くましますなり 誰か神に逆ひてその身安からんや 5 彼山を移したまふに山しらず 彼震怒をもて之を顛倒したまふ 6 彼地を震ひてその所を離れしめたまへばその柱ゆるぐ 7 日に命じたまへば日いせず 又星辰を封じたまふ 8 唯かれ獨天を張り海の濤を覆たまふ 9 また北斗參宿昴宿および南方の密室を造りたまふ 10 大なる事を行ひたまふこと測られず奇しき業を爲たまふこと數しれず 11 視よ彼わが前を過たまふ 然るに我これを見ず彼すすみゆき賜ふ然るに我之を曉ず 12 彼奪ひ去賜ふ 誰か能之を沮まん 誰か之に汝何を爲やと言ことを得爲ん 13 神其震怒を息賜はず ラハブを助る者等之が下に屈む 14

然ば我争か彼に回答を爲ことを得ん 争われ言を選び
て彼と論ふ事をえんや 15 假令われ義かるとも彼に回
答をせじ 彼は我を審判く者なれば我彼に哀き求ん 16
假令我彼を呼て彼われに答たまふともわが言を聴い
れ賜ひしとは我信ぜざるなり 17 彼は大風をもて我を
撃碎き 故なくして我に衆多の傷を負せ 18 我に息を
つかさしめず 苦き事をもて我身に充せ賜ふ 19 強き
者の力量を言んか 視よ此にあり 審判の事ならんか
誰か我を喚出すことを得爲ん 20 假令われ義かるとも
我口われを惡しと爲ん 假令われ完全かるとも尚われ
を罪ありとせん 21 我は全し 然ども我はわが心を知
ず 我生命を賤む 22 皆同一なり 故に我は言ふ神は完
全者と惡者とを等しく滅したまふと 23 災禍の俄然に
人を誅す如き事あれば彼は辜なき者の苦痛を笑ひ見
たまふ 24 世は惡き者の手に交されてあり 彼またそ
の裁判人の面を蔽ひたまふ 若彼ならずば是誰の行爲
なるや 25 わが日は驛使よりも迅く 徒に過ぎりて福
祉を見ず 26 其はしること葦舟のごとく物を攫まん
とて飛かける鷺のごとし 27 たとひ我わが愁を忘れ面
色を改めて笑ひをらんと思ふとも 28 尚この諸の苦痛
のために戦慄くなり 我思ふに汝われを釋し放ちたま
はざらん 29 我は罪ありとせらるるなれば何ぞ徒然に
勞すべけんや 30 われ雪水をもて身を洗ひ 灰汁をも
て手を潔むるとも 31 汝われを汚はしき穴の中に陥い
れたまはん 而して我衣も我を厭ふにいたらん 32 神
は我のごとく人にあらざれば我かれに答ふべからず
我ら二箇して共に裁判に臨むべからず 33 また我らの
間には我ら二箇の上に手を置べき仲保あらず 34 願く
は彼その杖を我より取はなし その震怒をもて我を懼

れしめたまはざれ 35 然らば我言語て彼を畏れざらん 其は我みつから斯る者と思はざればなり

10 わが心生命を厭ふ 然ば我わが憂愁を包まず言あらはし わが魂神の苦きによりて語はん 2 われ神に申さん 我を罪ありしとしたまふ勿れ 何故に我とあらそふかを我に示したまへ 3 なんぢ虐遇を爲し 汝の手の作を打棄て悪き者の謀計を照すことを善としたまふや 4 汝は肉眼を有たまふや 汝の觀たまふ所は人の觀るがごとくなるや 5 なんぢの日は人間の日のごとく 汝の年は人の日のごとくなるや 6 何とて汝わが愆を尋ねわが罪をしらべたまふや 7 されども汝はすでに我の罪なきを知たまふ また汝の手より救ひいだし得る者なし 8 汝の手われをいとなみ我をことごとく作り 然るに汝今われを滅ぼしたまふなり 9 請ふ記念たまへ 汝は土塊をもてすてるがごとくに我を作りたまへり 然るに復われを塵に歸さんとしたまふや 10 汝は我を乳のごとく斟ぎ牛酪のごとくに凝しめたまひしに非ずや 11 汝は皮と肉とを我に着せ骨と筋とをもて我を編み 12 生命と恩恵とをわれに授け我を眷顧てわが魂神を守りたまへり 13 然はあれど汝これらの事を御心に藏しおきたまへり 我この事汝の心にあるを知る 14 我もし罪を犯さば汝われをみとめてわが罪を赦したまはじ 15 我もし行状あしからば禍あらん 假令われ義かるとも我頭を擧じ 其は我は哀に羞耻充ち眼にわが患難を見ればなり 16 もし頭を擧なば獅子のごとくに汝われを追打ち 我身の上に復なんぢの奇しき能力をあらはしたまはん 17 汝はしばしば證する者を入かへて我を攻め 我にむかひて汝の震怒を増し新手に新手を加へて我を攻めたまふ 18

何とて汝われを胎より出したまひしや 然らずば我は息絶え目に見らること無く 19 曾て有ざりし如くならん 即ち我は胎より墓に持ゆかれん 20 わが日は幾時也无きに非ずや 願くは彼姑らく息て我を離れ我をして少しく安んぜしめんことを 21 我が往て復返ることなきその先に斯あらしめよ 我は暗き地死の蔭の地に往ん 22 この地は暗くして晦冥に等しく死の蔭にして区分なし 彼處にては光明も黑暗のごとし

11 是においてナアマ人ゾパル答へて言けるは 2 言語多からば豈答へざるを得んや 口おほき人あに義とせられんや 3 汝も空しき言あに人をして口を閉しめんや 汝嘲らば人なんぢをして羞しめざらんや 4 汝は言ふ 我教は正し 我は汝の目の前に潔しと 5 願くは神言を出し 汝にむかひて口を開き 6 智慧の秘密をなんぢに示してその知識の相倍するを顯したまはんことを 汝しれ神はなんぢの罪よりも軽くなんぢを處置したまふなり 7 なんぢ神の深事を窮むるを得んや 全能者を全く窮むることを得んや 8 その高きことは天のごとし 汝なにを爲し得んや 其深きことは陰府のごとし 汝なにを知えんや (Sheol h7585) 9 その量は地よりも長く海よりも濶し 10 彼もし行めぐりて人を執へて召集めたまふ時は誰か能くこれを阻まんや 11 彼は偽る人を善く知りたまふ 又悪事は顧みること無して見知たまふなり 12 虚しき人は悟性なし その生るるよりして野驢馬の駒のごとし 13 汝もし彼にむかひて汝の心を定め汝の手を舒べ 14 手に罪のあらんには之を遠く去れ 悪をなんぢの幕屋に留むる勿れ 15 然すれば汝 面を擧て玷なかるべく堅く 立て懼るる事なかるべし 16 すなはち

汝憂愁を忘れん 汝のこれを憶ゆることは流れ去し
水のごとくならん 17 なんぢの生存らふる日は眞晝よ
りも輝かん 假令暗き事あるとも是は平旦のごとく
ならん 18 なんぢは望あるに因て安んじ 汝の周圍を
見めぐりて安然に寐るにいたらん 19 なんぢは何にも
懼れさせらるること無して偃やまん 必ず衆多の者
なんぢを悦ばせんと務むべし 20 然ど悪き者は目矇
み逃遁處を失なはん 其望は氣の斷ると等しかるべし

12 ヨブこたへて言ふ 2 なんぢら而已まことに人
なり 智慧は汝らと共に死ん 3 我もなんぢらと同じ
く心あり 我はなんぢらの下に立ず 誰か汝らの言し
如き事を知ざらんや 4 我は神に顛はりて聽るる者
なるに今その友に嘲けらるる者となれり 嗚呼正し
くかつ完たき人あざけらる 5 安逸なる者は思ふ輕
侮は不幸なる者に附そひ足のよろめく者を俟と 6
掠奪ふ者の天幕は繁榮え 神を怒らせ自己の手に神
を携ふる者は安泰なり 7 今請ふ獸に問へ然ば汝に
教へん 天空の鳥に問へ然ばなんぢに語らん 8 地に
言へ然ばなんぢに教へん 海の魚もまた汝に述べし
9 誰かこの一切の者に依てエホバの手のこれを作り
しなるを知ざらんや 10 一切の生物の生氣および一切
の人の靈魂ともに彼の手の中にあり 11 耳は説話を辨
へざらんや その状あたかも口の食物を味ふがごと
し 12 老たる者の中には智慧あり 壽長者の中には穎悟
あり 13 智慧と權能は神に在り 智謀と穎悟も彼に屬
す 14 視よ彼毀てば再び建ること能はず 彼人を閉こ
むれば開き出すことを得ず 15 視よ彼水を止むれば則
ち涸れ 水を出せば則ち地を滅ぼす 16 權能と穎悟は
彼に在り 惑はさるる者も惑はず者も共に彼に屬す 17

彼は議士を裸體にして擄へゆき 審判人をして愚なる者とならしめ 18 王等の權威を解て反て之が腰に繩をかけ 19 祭司等を裸體にして擄へゆき 權力ある者を滅ぼし 20 言爽なる者の言語を取除き 老たる者の了知を奪ひ 21 侯伯たる者等に恥辱を蒙らせ 強き者の帶を解き 22 暗中より隠れたる事等を顯し 死の蔭を光明に出し 23 國々を大にしまた之を滅ぼし 國々を廣くしまた之を舊に歸し 24 地の民の長たる者等の了知を奪ひ これを路なき荒野に吟行はしむ 25 彼らは光明なき暗にたどる 彼また彼らを酔る人のごとくによろめかしむ

13 視よわが目これを盡く觀わが耳これを聞て通達れり 2 汝らが知るところは我もこれを知る 我は汝らに劣らず 3 然りと雖ども我は全能者に物言ん 我は神と論ぜんことをのぞむ 4 汝らは只謊言を造り設くる者 汝らは皆無用の醫師なり 5 願くは汝ら全く黙せよ 然するは汝らの智慧なるべし 6 請ふわが論ずる所を聽き 我が唇にて辨争ふ所を善く聽け 7 神のために汝ら惡き事を言や 又かれのために虚偽を述るや 8 汝ら神の爲に偏るや またかれのために争はんとするや 9 神もし汝らを鑒察たまはば豈善らんや 汝等人を欺むくごとくに彼を欺むき得んや 10 汝等もし密に私しするあらば彼かならず汝らを責ん 11 その威光なんぢらを懼れしめざらんや 彼を懼るる畏懼なんぢらに臨まざらんや 12 なんぢらの諭言は灰に譬ふべし なんぢらの城は土の城となる 13 黙して我にかかはらざれ 我言語んとす 何事にもあれ我に來らば來れ 14 我なんぞ我肉をわが齒の間に置き わが生命をわが手に置かんや 15 彼われを殺すとも我は彼に依頼まん 唯われは吾道を彼の前に明かにせん とす 16 彼また終

に我救拯とならん 邪曲なる者は彼の前にいたること能はざればなり 17 なんぢら聽よ 我言を聽け我が述る所をなんぢらの耳に入しめよ 18 視よ我すでに吾事を言竝べたり 必ず義しとせられんと自ら知る 19 誰か能われと辨論ふ者あらん 若あらば我は口を緘て死ん 20 惟われに二の事を爲たまはざれ 然ば我なんぢの面をさけて隠れじ 21 なんぢの手を我より離したまへ 汝の威嚴をもて我を懼れしめたまはざれ 22 而して汝われを召たまへ 我こたへん 又われにも言はしめて汝われに答へたまへ 23 我の愆われの罪いくばくなるや 我の背反と罪とを我に知しめたまへ 24 何とて御顔を隠し我をもて汝の敵となしたまふや 25 なんぢは吹廻さるる木の葉を威し 干あがりたる朮殻を追たまふや 26 汝は我につきて苦き事等を書しるし 我をして我が幼稚時の罪を身に負しめ 27 わが足を足械にはめ 我すべての道を伺ひ 我足の周圍に限界をつけたまふ 28 我は腐れたる者のごとくに朽ゆき 蠹に食るる衣服に等し

14 婦の産む人はその日少なくして艱難多し 2 その來ること花のごとくにして散り 其馳ること影のごとくにして止まらず 3 なんぢ是のごとき者に汝の目を啓きたまふや 汝われを汝の前にひきて審判したまふや 4 誰か清き物を汚れたる物の中より出し得る者あらん 一人も無し 5 その日既に定まり その月の數なんぢに由り 汝これが區域を立て越ざらしめたまふなれば 6 是に目を離して安息を得させ 之をして傭人のその日を樂しむがごとくならしめたまへ 7 それ木には望あり 假令砍るとも復芽を出してその枝絶ず 8 たとひ其根地の中に老い 幹土に枯るとも 9 水の潤霑に

あへば即ち芽をふき枝を出して若樹に異ならず 10 然
ど人は死れば消うす 人氣絶なば安に在んや 11 水は海
に竭き河は涸てかわく 12 是のごとく人も寢臥てまた
興ず 天の盡るまで目覺ず睡眠を醒さざるなり 13 願
はくは汝われを陰府に藏し 汝の震怒の息むまで我
を掩ひ 我ために期を定め而して我を念ひたまへ (Sheol
h7585) 14 人もし死ばまた生んや 我はわが征戰の諸日
の間望みをりて我が變更の來るを待ん 15 なんぢ我を
呼たまはん 而して我こたへん 汝かならず汝の手の作
を顧みたまはん 16 今なんぢは我に步履を數へたまふ
我罪を汝うかがひたまはざらんや 17 わが愆は凡て囊
の中に封じてあり汝わが罪を縫こめたまふ 18 それ山
も倒れて終に崩れ巖石も移りてその處を離る 19 水
は石を鑿ち 浪は地の塵を押流す 汝は人の望を斷た
まふ 20 なんぢは彼を永く攻なやまして去ゆかしめ
彼の面容の變らせて逐やりたまふ 21 その子尊貴な
るも彼は之を知らず 卑賤なるもまた之を曉らざるな
り 22 只己みづからその肉に痛苦を覺え己みづからそ
の心に哀く而已

15 テマン人エリパズ答へて曰く 2 智者あに虚しき
知識をもて答へんや 豈東風をその腹に充さんや 3 あ
に裨なき談益なき詞をもて辨論はんや 4 まことに汝
は神を畏るる事を棄て その前に禱ることを止む 5
なんぢの罪なんぢの口を教ふ 汝はみづから擇びて
狡猾人の舌を用ふ 6 なんぢの口みづから汝の罪を
定む 我には非ず汝の唇なんぢの惡きを證す 7 汝あ
に最初に世に生れたる人ならんや 山よりも前に出
來しならんや 8 神の御謀議を聞しならんや 智慧を
獨にて藏めをらんや 9 なんぢが知る所は我らも知

ざらんや汝が暁るところは我らの心にも在ざらん
や 10 我らの中には白髪の人および老たる人ありて汝
の父よりも年高し 11 神の慰藉および夫の柔かき言詞
を汝小しとするや 12 なんぢ何ぞかく心狂ふや何ぞ
かく目をしばたたくや 13 なんぢ是のごとく神に對ひ
て氣をいらだて 斯る言詞をなんぢの口よりいだす
は如何ぞや 14 人は如何なる者ぞ 如何してか潔から
ん 婦の産し者は如何なる者ぞ 如何してか義からん
15 それ神はその聖者にすら信を置たまはず 諸の天も
その目の前には潔からざるなり 16 況んや罪を取ること
水を飲がごとくする 憎むべき穢れたる人をや 17
我なんぢに語る所あらん 聽よ 我見たる所を述ん
18 是すなはち智者等が父祖より受て隠すところ無
く傳へ來し者なり 19 彼らに而已この地は授けられて
外國人は彼等の中に往來せしこと無りき 20 惡き人は
その生る日の間つねに悶へ苦しむ 強暴人の年は數
へて定めおかる 21 その耳には常に懼怖しき音きこえ
平安の時にも滅ぼす者これに臨む 22 彼は幽暗を出得
るとは信ぜず 目ざされて劔に付さる 23 彼食物は何處
にありやと言つつ尋ねありき 黑暗日の備へられて
己の側にあるを知る 24 患難と苦痛とはかれを懼れし
め 戦闘の準備をなせる王のごとくして彼に打勝ん 25
彼は手を伸て神に敵し 傲りて全能者に悖り 26 頸を
強くし 厚き楯の面を向て之に馳かかり 27 面に肉を
滿せ 腰に脂を凝し 28 荒されたる邑々に住居を設け
て人の住べからざる家 石堆となるべき所に居る 29
是故に彼は富ず その貨物は永く保たず その所有物は
地に蔓延ず 30 また自己は黑暗を出づるに至らず 火
燄その枝葉を枯さん 而してその身は神の口の氣吹

によりて亡ゆかん 31 彼は虚妄を恃みて自ら欺くべからず 其報は虚妄なるべければなり 32 彼の日の來らざる先に其事成べし 彼の枝は緑ならじ 33 彼は葡萄の樹のその熟せざる果を振落すがごとく 橄欖の樹のその花を落すがごとくなるべし 34 邪曲なる者の宗族は零落れ 賄賂の家は火に焚ん 35 彼等は惡念を孕み 虚妄を生み その胎にて詭計を調ふ

16 ヨブ答へて曰く 2 斯る事は我おほく聞り 汝らはみな人を慰めんとして却つて人を煩はす者なり 3 虚しき言語あに終極あらんや 汝ななにに勵されて應答をなすや 4 我もまた汝らの如くに言ことを得もし 汝らの身わが身と處を換なば 我は言語を練て 汝らを攻め 汝らにむかひて首を揺ことを得 5 また口をもて 汝らを強くし 唇の慰藉をもて 汝らの憂愁を解ことを得るなり 6 たとひ我言を出すとも 我憂愁は解ず 黙するとても 何ぞ我身の安くなること有んや 7 彼いま已に我を疲らしむ 汝わが宗族をことごとく荒せり 8 なんぢ我をして皺らしめたり 是われに向ひて見證をなすなり 又わが瘦おとろへたる状貌わが面の前に現はれ立て 我を攻む 9 かれ怒て われを撕裂きかつ窘しめ 我にむかひて齒を嚙鳴し 我敵となり 目を鋭して 我を見る 10 彼ら我にむかひて口を張り 我を賤しめて わが頬を打ち 相集まりて 我を攻む 11 神われを邪曲なる者に交し 惡き者の手に擲ちたまへり 12 我は安穩なる身なりしに 彼いたく 我を打惱まし 頸を執へて 我をうちくだき 遂に 我を立て 鶻となしたまひ 13 その射手われを遶り圍めり やがて情もなく 我腰を射透し わが膽を地に流れ出しめたまふ 14 彼はわれを打敗りて 破壊に破壊を加へ

勇士のごとく我に奔かかりたまふ 15 われ麻布をわが
肌縫つけ我角を塵にて汚せり 16 我面は泣て顔くな
り我目縁には死の蔭あり 17 然れども我手には不義
あること無くわが祈祷は清し 18 地よ我血を掩ふな
かれ我號呼は休む處を得ざれ 19 視よ今にても我證
となる者天にありわが眞實を表明す者高き處にあ
り 20 わが朋友は我を嘲けれども我目は神にむかひて
涙を注ぐ 21 願くは彼人のために神と論辨し人の子
のためにこれが朋友と論辨せんことを 22 數年すぎさ
らば我は還らぬ旅路に往べし

17 わが氣息は已にくさり我日すでに盡なんとし墳
墓われを待つ 2 まことに嘲弄者等わが傍に在り我目
は彼らの辨争ふを常に見ざるを得ず 3 願くは質を賜
ふて汝みづから我の保證となりたまへ誰か他にわ
が手をうつ者あらんや 4 汝彼らの心を閉て悟るとこ
ろ無らしめたまへり必ず彼らをして愈らしめたま
はじ 5 朋友を交付して掠奪に遭しむる者は其子等の
目潰るべし 6 彼われを世の民の笑柄とならしめたま
ふ我は面に唾せらるべき者となれり 7 かつまた我目
は憂愁によりて昏み肢體は凡て影のごとし 8 義しき
者は之に驚き無辜者は邪曲なる者を見て憤ほる 9
然ながら義しき者はその道を堅く持ち手の潔淨き
者はますます力を得るなり 10 請ふ汝ら皆ふたたび
來れ我は汝らの中に一人も智き者あるを見ざるな
り 11 わが日は已に過ぎわが計る所わが心に冀ふ所は
已に敗れたり 12 彼ら夜を晝に變ふ 黑暗の前に光明
ちかづく 13 我もし俟つところ有ば是わが家たるべ
き陰府なるのみ我は黑暗にわが牀を展ぶ (Sheol h7585)
14 われ朽腐に向ひては汝はわが父なりと言ひ蛆に向

ひては汝は我母わが姉妹なりと言ふ 15 然ばわが望は
いづくにかある 我望は誰かこれを見る者あらん 16
是は下りて陰府の關に到らん 之と齊しく我身は塵
の中に臥靜まるべし (Sheol h7585)

18 シユヒ人ビルダデこたへて曰く 2 汝等いつまで
言語を獵求むることをするや 汝ら先曉るべし 然る後
われら辨論はん 3 われら何ぞ獸畜とおもはるべけん
や 何ぞ汝らの目に汚穢たる者と見らるべけんや 4 な
んぢ怒りて身を裂く者よ 汝のためとて地あに棄られ
んや 磐あに其處より移されんや 5 惡き者の光明は滅
され 其火の焰は照じ 6 その天幕の内なる光明は暗く
なり 其が上の燈火は滅さるべし 7 またその強き步履
は狭まり 其計るところは自分を陥いる 8 すなはち其
足に逐れて網に到り また陷阱の上を歩むに 9 索はそ
の踵に纏り 羂これを執ふ 10 索かれを執ふるために地
に隠しあり 羂かれを陥しいるるために路に設けあり
11 怖ろしき事四方において彼を懼れしめ 其足にした
がひて彼をおふ 12 その力は餓ゑ 其傍には災禍そなは
り 13 その膚の肢は蝕壞らる 即ち死の初子これが肢を
蝕壞るなり 14 やがて彼はその恃める天幕より曳離さ
れて懼怖の王の許に驅やられん 15 彼に屬せざる者か
れの天幕に住み 硫磺かれの家の上に降ん 16 下にては
その根枯れ 上にてはその枝斫る 17 彼の跡は地に絶え
彼の名は街衢に傳はらじ 18 彼は光明の中より黑暗に
逐やられ 世の中より驅出されん 19 彼はその民の中に
子も無く孫も有じ また彼の住所には一人も遺る者な
からん 20 之が日を見るにおいて後に來る者は駭ろき
先に出し者は怖おそれん 21 かならず惡き人の住所は
是のごとく 神を知ざる者の所は是のごとくなるべし

19 ヨブこたへて曰く **2** 汝ら我心をなやまし 言語をもて我を打くたくこと何時までぞや **3** なんぢら已に十次も我を辱しめ我を悪く待ひてなほ愧るところ無し **4** 假令われ眞に過ちたらんもその過は我の身に止れり **5** なんぢら眞に我に向ひて誇り我身に羞べき行爲ありと證するならば **6** 神われを虐げその網羅をもて我を包みたまへりと知るべし **7** 我虐げらると叫べども答なく呼はり求むれども審理なし **8** 彼わが路の周圍に垣を結めぐらして逾る能はざらしめ 我が行く途に黑暗を蒙むらしめ **9** わが光榮を褫ぎ我冠冕を首より奪ひ **10** 四方より我を毀ちて失しめ 我望を樹のごとくに根より抜き **11** 我にむかひて震怒を燃し 我を敵の一人と見たまへり **12** その軍旅ひとしく進み途を高くして我に攻寄せ わが天幕の周圍に陣を張り **13** 彼わが兄弟等をして遠くわれを離れしめたまへり 我を知る人々は全く我に疎くなりぬ **14** わが親戚は往來を休め わが朋友はわれを忘れ **15** わが家に寄寓る者 およびわが婢等は我を見て外人のごとくす 我かれらの前にては異國人のごとし **16** われわが僕を喚どもこたへず 我口をもて彼に請はざるを得ざるなり **17** わが氣息はわが妻に厭はれ わが臭氣はわが同胎の子等に嫌はる **18** 童子等さへも我を侮どり 我起あがれば即ち我を嘲ける **19** わが親しき友われを惡みわが愛したる人々ひるがへりてわが敵となれり **20** わが骨はわが皮と肉とに貼り 我は僅に齒の皮を全うして逃れしのみ **21** わが友よ汝等われを恤れめ 我を恤れめ 神の手われを撃り **22** 汝らなにとて神のごとくして我を攻め わが肉に屢ことなきや **23** 望むらくは我言の書留られんことを 望むらくは我言書に記されんことを **24**

望むらくは鐵の筆と鉛とをもて之を永く磐石に鑄つけおかんことを 25 われ知る我を贖ふ者は活く後の日に彼かならず地の上に立ん 26 わがこの皮この身の朽はてん後 われ肉を離れて神を見ん 27 我みづから彼を見たてまつらん 我目かれを見んに識らぬ者のごとくならじ 我が心これを望みて焦る 28 なんぢら若われら如何に彼を攻んかと言ひ また事の根われに在りと言ば 29 劍を懼れよ 忿怒は劍の罰をきたらす 斯なんぢら遂に審判のあるを知ん

20 ナアマ人ゾパルこたへて曰く 2 これに因てわれ答をなすの思念を起し心しきりに之がために急る 3 我を辱しむる警語を我聞ざるを得ず 然しながらわが了知の性われをして答ふことを得せしむ 4 なんぢ知ずや古昔より地に人の置れしより以來 5 悪き人の勝誇は暫時にして邪曲なる者の歡樂は時の間のみ 6 その高天に達しその首雲に及ぶとも 7 終には己の糞のごとくに永く亡絶べし 彼を見識る者は言ん彼は何處にありやと 8 彼は夢の如く過さりて復見るべからず 夜の幻のごとく追はらはれん 9 彼を見たる目かさねてかれを見ることあらず 彼の住たる處も再びかれを見ること無らん 10 その子等は貧しき者に寛待を求めん 彼もまたその取し貨財を手づから償さん 11 その骨に少壯氣勢充り 然れどもその氣勢もまた塵の中に彼とおなじく臥ん 12 かれ悪を口に甘しとして舌の底に藏め 13 愛みて捨ず 之を口の中に含みをもる 14 然どその食物腸の中にて變り 腹の内にて蝮の毒とならん 15 かれ貨財を吞たれども復之を吐いださん 神これを彼の腹より推いだしたまふべし 16 かれは蝮の毒を吸ひ 虺の舌に殺されん 17 かれは蜂蜜と

牛酪の湧て流るる河川を視ざらん 18 その勞苦て獲たる物は之を償して自ら食はず 又それを求めたる所有よりは快樂を得じ 19 是は彼貧しき者を虐遇げて之を棄たればなり 假令家を奪ひとるとも之を改め作ることを得ざらん 20 かれはその腹に飽ことを知ざるが故に自己の深く喜ぶ物をも保つこと能はじ 21 かれが遺して食はざる物とては一も無し 是によりてその福祉は永く保たじ 22 その繁榮の眞盛において彼は艱難に迫られ 乏しき者すべて手をこれが上に置ん 23 かれ腹を充さんとすれば神烈しき震怒をその上に下し その食する時にこれをその上に降したまふ 24 かれ鐵の器を避れば銅の弓これを射透す 25 是に於て之をその身より拔ば閃く鏃その膽より出きたりて畏懼これに臨む 26 各種の黑暗これが寶物ををほろぼすために蓄へらる 又人の吹おこせしに非る火かれを焚き その天幕に遺りをる者をも焚ん 27 天かれの罪を顯はし 地興りて彼を攻ん 28 その家の儲蓄は亡て神の震怒の日に流れ去ん 29 是すなはち悪き人が神より受る分 神のこれに定めたまへる數なり

21 ヨブこたへて曰く 2 請ふ汝等わが言を謹んで聽き 之をもて汝らの慰藉に代よ 3 先われに容して言しめよ 我が言る後なんぢ嘲るも可し 4 わが怨言は世の人の上につきて起れる者ならんや 我なんぞ氣をいらだつ可らざらんや 5 なんぢら我を視て驚き手を口にあてよ 6 われ思ひまはせば畏しくなりて身體しきりに戰慄く 7 悪き人何とて生ながらへ 老かつ勢力強くなるや 8 その子等はその周圍にありてその前に堅く立ち その子孫もその目の前に堅く立べし 9 またその家は平安にして畏懼なく 神の杖その上に臨

まじ 10 その牝牛は種を與へて過らず その牝牛は子を産てそこなふ事なし 11 彼等はその少き者等を外に出すこと群のごとし その子等は舞をどる 12 彼等は鼓と琴とをもて歌ひ 笛の音に由て樂み 13 その日を幸福に暮しまばたくまに陰府にくだる (Sheol h7585) 14 然はあれども彼等は神に言らく我らを離れ賜へ我らは汝の道をするを好まず 15 全能者は何者なれば我らこれに事ふべき 我儕これに祈るとも何の益を得んやと 16 視よ彼らの福祿は彼らの力に由にあらざるなり 惡人の希圖は我の與する所にあらず 17 惡人のその燈火を滅るる事幾度ありしか その滅亡のこれに臨む事 神の怒りて之に艱苦を蒙らせたまふ事幾度有しか 18 かれら風の前の藁の如く暴風に吹さらるる初穀の如くなること幾度有しか 19 神かれの愆を積たくはへてその子孫に報いたまふか 之を彼自己の身に報い知しむるに如ず 20 かれをして自らその滅亡を目に視させ かつ全能者の震怒を飲しめよ 21 その月の數すでに盡るに於ては何ぞその後の家に關はる所あらん 22 神は天にある者等をさへ審判たまふなれば誰か能これに知識を教へんや 23 或人は繁榮を極め全く平穩にかつ安康にして死に 24 その器に乳充ち その骨の髓は潤ほへり 25 また或人は心を苦しめて死し 終に福祉をあぢはふる事なし 26 是等は俱に齊しく塵に臥して蛆におほはる 27 我まことに汝らの思念を知り 汝らが我を攻撃んとするの計略を知る 28 なんぢらは言ふ王侯の家は何に在る 惡人の住所は何にあると 29 汝らは路往く人々に詢ざりしや 彼等の證據を曉らざるや 30 すなはち滅亡の日に惡人遺され 烈しき怒の日に惡人たづさへ出さる 31 誰か

能かれに打向ひて彼の行爲を指示さんや 誰か能彼の爲たる所を彼に報ゆることを爲ん 32 彼は昇れて墓に到り 塚の上にて守護することを爲す 33 谷の土塊も彼には快し 一切の人その後に従ふ 其前に行る者も數へがたし 34 既に是の如くなるに汝等なんぞ徒に我を慰さめんとするや 汝らの答ふる所はただ虚偽のみ

22 是においてテマン人エリパズこたへて曰く 2 人神を益する事をえんや 智人も唯みづから益する而已なるぞかし 3 なんぢ義かるとも全能者に何の歡喜かあらん なんぢ行爲を全たふするとも彼に何の利益かあらん 4 彼汝の畏懼の故によりて汝を責め汝を鞠きたまはんや 5 なんぢの惡大なるにあらずや 汝の罪はきはまり無し 6 即はち汝は故なくその兄弟の物を抑へて質となし 裸なる者の衣服を剥て取り 7 渴く者に水を與へて飲しめず 饑る者に食物を施こさず 8 力ある者土地を得 貴き者その中に住む 9 なんぢは寡婦に手を空しうして去しむ 孤子の腕は折る 10 是をもて網羅なんぢを環り 畏懼にはかに汝を擾す 11 なんぢ黑暗を見ずや 洪水のなんぢを覆ふを見ずや 12 神は天の高に在すならずや 星辰の巔ああ如何に高きぞや 13 是によりて汝は言ふ 神なにをか知しめさん 豈よく黒雲の中より審判するを得たまはんや 14 濃雲かれを蔽へば彼は見たまふ所なし 唯天の蒼穹を歩みたまふ 15 なんぢ古昔の世の道を行なはんとするや 是あしき人の踐たりし者ならずや 16 彼等は時いまだ至らざるに打絶れ その根基は大水に押流されたり 17 彼ら神に言けらく我儕を離れたまへ 全能者われらのために何を爲ことを得んと 18 しかるに彼は却つて佳物を彼らの家に盈したまへり 但し惡人の計畫は我に與

する所にあらず 19 義しき者は之を見て喜び 無辜者は彼らを笑ふ 20 曰く我らの仇は誠に滅ぼされ 其盈餘れる物は火にて焚つくさる 21 請ふ汝神と和らぎて平安を得よ 然らば福祿なんぢに來らん 22 請ふかれの口より教晦を受け その言語をなんぢの心に藏めよ 23 なんぢもし全能者に歸向り且なんぢの家より悪を除き去ば 汝の身再び興されん 24 なんぢの寶を土の上に置き オフルの黄金を谿河の石の中に置け 25 然れば全能者なんぢの寶となり汝のために白銀となりたまふべし 26 而してなんぢは又全能者を喜び且神にむかひて面をあげん 27 なんぢ彼に祈らば彼なんぢに聽たまはん 而して汝その誓願をつくのひ果さん 28 なんぢ事を爲んと定めなばその事なんぢに成ん 汝の道には光照ん 29 其卑く降る時は汝いふ昇る哉と 彼は謙遜者を拯ひたまふべし 30 かれは罪なきに非ざる者をも拯ひたまはん 汝の手の潔淨によりて斯る者も拯はるべし

23 ヨブこたへて曰く 2 我は今日にても尚つぶやきて服せず わが禍災はわが嘆息よりも重し 3 ねがはくは神をたづねて何處にか遇まつるを知り其御座に参いたらんことを 4 我この愁訴をその御前に陳べ口を極めて辨論はん 5 我その我に答へたまふ言を知りまた其われに言たまふ所を了らん 6 かれ大なる能をもて我と争ひたまはんや 然らじ反つて我を眷みたまふべし 7 彼處にては正義人かれと辨争ふことを得 斯せば我を鞫く者の手を永く免かるべし 8 しかるに我東に往くも彼いまさず 西に往くも亦見たてまつらず 9 北に工作きたまへども遇まつらず 南に隠れ居たまへば望むべからず 10 わが平生の道は彼知たまふ 彼わ

れを試みたまはば我は金のごとくして出きたらん 11
わが足は彼の步履に堅く隨がへり 我はかれの道を守
りて離れざりき 12 我はかれの唇の命令に違はず 我
が法よりも彼の口の言語を重ぜり 13 かれは一に居る
者にまします 誰か能かれをして意を變しめん 彼はそ
の心に慾する所をかならず爲たまふ 14 然ば我に向ひ
て定めし事を必らず成就たまはん 是のごとき事を多
く彼は爲たまふなり 15 是故に我かれの前に慄ふ 我
考ふれば彼を懼る 16 神わが心を弱くならしめ 全能
者われをして懼れしめたまふ 17 かく我は暗の來らぬ
先わが面を黑暗の覆ふ前に打絶れざりき

24 なにゆゑに全能者時期を定めおきたまはざるや
何故に彼を知る者その日を見ざるや 2 人ありて地界
を侵し群畜を奪ひて牧ひ 3 孤子の驢馬を驅去り 寡婦
の牛を取て質となし 4 貧しき者を路より推退け 世の
受難者をして盡く身を匿さしむ 5 視よ彼らは荒野に
をる野驢馬のごとく出て業を爲て食を求め 野原より
その子等のために食物を得 6 圃にて惡き者の麥を刈
り またその葡萄の遺餘を摘む 7 かれらは衣服なく裸
にして夜を明し 覆ふて寒氣を禦ぐべき物なし 8 山の
暴風に濡れ 庇はるるところ無して岩を抱く 9 孤子を
母の懷より奪ふ者あり 貧しき者の身につける物を取
て質となす者あり 10 貧き者衣服なく裸にて歩き 饑
つつ麥束を擔ふ 11 人の垣の内にて油を搾め また渴き
つつ酒酔を踐む 12 邑の中より人々の呻吟たちのぼり
傷けられたる者の叫喚おこる 然れども神はその怪事
を省みたまはず 13 また光明に背く者あり 光の道を
知ず 光の路に止らず 14 人を殺す者昧爽に興いで 受
難者や貧しき者を殺し 夜は盜賊のごとくす 15 姦淫

する者は我を見る目はなからんと言てその目に昏暮
をうかがひ待ち而してその面に覆ふ物を當つ 16 また
夜分家を穿つ者あり 彼等は晝は閉こもり居て光明を
知らず 17 彼らには晨は死の蔭のごとし 是死の蔭の
怖ろしきを知らばなり 18 彼は水の面に疾ながるる物の
如し その産業は世の中に詛はる その身重ねて葡萄圃
の路に向はず 19 亢旱および炎熱は雪水を直に乾涸す
陰府が罪を犯せし者におけるも亦かくのごとし (Sheol
h7585) 20 これを宿せし腹これを忘れ 蛆これを好みて
食ふ 彼は最早世におぼえらるること無く その悪は樹
を折るが如くに折る 21 是すなはち孕まず産ざりし婦
人をなやまし 寡婦を憐れまざる者なり 22 神はその
権能をもて強き人々を保存へさせたまふ 彼らは生命
あらじと思ふ時にも復興る 23 神かれらに安泰を賜へ
ば彼らは安らかなり 而してその目をもて彼らの道を見
そなはしたまふ 24 かれらは旺盛になり暫時が間に
無なり卑くなりて一切の人のごとくに没し麥の穂の
ごとくに断る 25 すでに是のごとくなれば誰か我の謬
まれるを示してわが言語を空しくすることを得ん

25 時にシユヒ人ビルダデこたへて曰く 2 神は大権
を握りたまふ者 畏るべき者にましまし 高き處に平和
を施したまふ 3 その軍旅數ふることを得んや 其光明
なに物をか照さざらん 4 然ば誰か神の前に正義かる
べき 婦人の産し者いかでか清かるべき 5 視よ月も輝
かず 星も其目には清明ならず 6 いはんや蛆のごとき
人 蟲のごとき人の子をや

26 ヨブこたへて曰く 2 なんぢ能力なき者を如何に
助けしや 氣力なきものを如何に救ひしや 3 智慧なき
者を如何に誨へしや 穎悟の道を如何に多く示しし

や 4 なんぢ誰にむかひて言語を出ししや なんぢより
出しは誰が靈なるや 5 陰靈水またその中に居る者の
下に慄ふ 6 かれの御前には陰府も顯露なり 滅亡の坑
も蔽ひ匿す所なし (Sheol h7585) 7 彼は北の天を虚空に
張り 地を物なき所に懸けたまふ 8 水を濃雲の中に包
みたまふてその下の雲裂ず 9 御寶座の面を隠して雲
をその上に展べ 10 水の面に界を設けて光と暗とに限
を立たまふ 11 かれ叱咤たまへば天の柱震ひかつ怖
る 12 その權能をもて海を静め その智慧をもてラハ
ブを撃碎き 13 その氣嘘をもて天を輝かせ 其手をも
て逃る蛇を衝とほしたまふ 14 視よ是等はただその御
工作の端なるのみ 我らが聞ところの者は如何にも
微細なる耳語ならずや 然どその權能の雷轟に至り
ては誰かこれを曉らんや

27 ヨブまた語を繼ぎていはく 2 われに義しき審判
を施したまはざる神 わが心魂をなやまし給ふ全能者
此神は活く 3 (わが生命なほ全くわれの衷にあり 神
の氣息なほわが鼻にあり) 4 わが口は惡を言ず わが
舌は謊言を語らじ 5 我決めて汝等を是とせじ 我に死
るまで我が罪なきを言ことを息じ 6 われ堅くわが正
義を持ちて之を棄じ 我は今まで一日も心に責られし
事なし 7 我に敵する者は惡き者と成り我を攻る者は
義からざる者と成るべし 8 邪曲なる者もし神に絶れ
その魂神を脱とらるるに於ては何の望かあらん 9 か
れ艱難に罹る時に神その呼號を聽いれたまはんや 10
かれ全能者を喜こばんや 常に神を顛んや 11 われ神の
御手を汝等に教へん 全能者の道を汝等に隠さじ 12 視
よ汝等もみな自らこれを觀たり 然るに何ぞ斯愚蒙を
きはむるや 13 惡き人の神に得る分 強暴の人の全能者

より受る業は是なり 14 その子等蕃れば劍に殺さる その子孫は食物に飽ず 15 その遺れる者は疫病に斃れて埋められ その妻等は哀哭をなさず 16 かれ銀を積こと塵のごとく衣服を備ふること土のごとくになるとも 17 その備ふる者は義き人これを着ん またその銀は無辜者これを分ち取ん 18 その建る家は蟲の巢のごとく また番人の造る茅家のごとし 19 彼は富る身にて寢臥し重ねて興ること無し また目を開けば即ちその身きえ亡す 20 懼ろしき事大水のごとく彼に追及き夜の暴風かれを奪ひ去る 21 東風かれを颯げて去り 彼をその處より吹はらふ 22 神かれを射て恤まず 彼その手より逃れんともがく 23 人かれに對ひて手を鳴し嘲りわらひてその處をいでゆかしむ

28 白銀掘いだす坑あり 煉るところの黄金は出處あり 2 鐵は土より取り 銅は石より鎔して獲るなり 3 人すなはち黑暗を破り極より極まで尋ね窮めて黑暗および死蔭の石を求む 4 その穴を穿つこと深くして上に住む人と遠く相離れ その上を歩む者まつたく之を覺えず 是のごとく身を縋下げ 遙に人と隔りて空に懸る 5 地その上は食物を出し 其下は火に覆へさるるがごとく覆へる 6 その石の中には碧の玉のある處あり 黄金の沙またその内にあり 7 その逕は鷲鳥もこれを知ず 鷹の目もこれを看ず 8 驚き獸も未だこれを踐ず 猛き獅子も未だこれを通らず 9 人堅き磐に手を加へまた山を根より倒し 10 岩に河を掘り各種の貴き物を目に見とめ 11 水路を塞ぎて漏ざらしめ隠れたる寶物を光明に取いだすなり 12 然ながら智慧は何處よりか覓め得ん 明哲の在る所は何處ぞや 13 人その價を知らず人のすめる地に獲べからず 14 淵は言ふ私の

内に在ずと海は言ふ我と偕ならずと 15 精金も之に換るに足ず 銀も秤りてその價となすを得ず 16 オフルの金にてもその價を量るべからず 貴き青玉も碧玉もまた然り 17 黄金も玻璃もこれに並ぶ能はず 精金の器皿も之に換るに足ず 18 珊瑚も水晶も論にたらず 智慧を得るは眞珠を得るに勝る 19 エテオピアより出る黄玉もこれに並ぶあたはず 純金をもてするともその價を量るべからず 20 然ば智慧は何處より來るや 明哲の在る所は何處ぞや 21 是は一切の生物の目に隠れ 天空の鳥にも見えず 22 滅亡も死も言ふ我等はその風聲を耳に聞し而已 23 神その道を曉り給ふ 彼その所を知りたまふ 24 そは彼は地の極までも觀そなはし 天が下を看きはめたまへばなり 25 風にその重量を與へ 水を度りてその量を定めたまひし時 26 雨のために法を立て 雷霆の光のために途を設けたまひし時 27 智慧を見て之を顯はし之を立て試みたまへり 28 また人に言たまはく 視よ 主を畏るるは是智慧なり 惡を離るるは明哲なり

29 ヨブまた語をつぎて曰く 2 嗚呼過にし年月のごとくならまほし 神の我を護りたまへる日のごとくならまほし 3 かの時には彼の燈火わが首の上に輝やき 彼の光明によりて我黑暗を歩めり 4 わが壮なりし日のごとくならまほし 彼時には神の恩恵わが幕屋の上にあるき 5 かの時には全能者なほ我とともに在し わが子女われの周圍にあるき 6 乳ながれてわが足跡を洗ひ 我が傍なる磐油を灌ぎいだせり 7 かの時には我いでて邑の門に上りゆき わが座を街衢に設けたり 8 少き者は我を見て隠れ 老たる者は起あがりて立ち 9 牧伯たる者も言談ずしてその口に手を當て 10 貴き者

も聲ををさめてその舌を上顎に貼たりき 11 我事を耳に聞る者は我を幸福なりと呼び 我を目に見たる者はわがために證據をなしぬ 12 是は我助力を求むる貧しき者を拯ひ 孤子および助くる人なき者を拯ひたればなり 13 亡びんとせし者われを祝せり 我また寡婦の心をして喜び歌はしめたり 14 われ正義を衣また正義の衣る所となれり 我が公義は袍のごとく冠冕のごとし 15 われは盲目の目となり跛者の足となり 16 貧き者の父となり知ざる者の訴訟の由を究め 17 悪き者の牙を折り その齒の間より獲物を取いだせり 18 我すなはち言けらく 我はわが巢に死ん 我が日は砂の如く多からん 19 わが根は水の邊に蔓り 露わが枝に終夜おかん 20 わが榮光はわが身に新なるべくわが弓はわが手に何時も強からんと 21 人々われに聴き黙して我が教を俟ち 22 わが言し後は彼等言を出さず 我説ところは彼等に甘露のごとく 23 かれらは我を望み待つこと雨のごとく 口を開きて仰ぐこと春の雨のごとくなりき 24 われ彼等にむかひて笑ふとも彼等は敢て眞實とおもはず我面の光を彼等は除くことをせざりき 25 われは彼等のために道を擇び その首として座を占め 軍中の王のごとくして居り また哀哭者を慰さむる人のごとくなりき

30 然るに今は我よりも年少き者等われを笑ふ 彼等の父は我が賤しめて群の犬と並べ置くことをもせざりし者なり 2 またかれらの手の力もわれに何の用をかなさん 彼らは其氣力すでに衰へたる者なり 3 かれらは缺乏と饑とによりて瘦おとろへ 荒かつ廢れたる暗き野にて乾ける地を咬む 4 すなはち灌木の中にて藜を摘み苜の根を食物となす 5 彼らは人の中より逐

いださる 盜賊を追ふがごとくに人かれらを追て呼は
る 6 彼等は懼ろしき谷に住み 土坑および磐穴に居り
7 灌木の中に嘶なき 荊棘の下に偃す 8 彼らは愚蠢な
る者の子 卑むべき者の子にして國より撃いださる 9
しかるに今は我かれらの歌謠に成り 彼らの嘲哂とな
れり 10 かれら我を厭ふて遠く我を離れ またわが面
に唾することを辭まず 11 神わが綱を解て我をなやま
したまへば彼等もわが前にその韁を縦せり 12 この輩
わが右に起あがり わが足を推のけ我にむかひて滅亡
の路を築く 13 彼らは自ら便なき者なれども尚わが逕
を毀ち わが滅亡を促す 14 かれらは石垣の大なる崩
口より入がごとくに進み來り 破壊の中にてわが上に
乗かかり 15 懼ろしき事わが身に臨み 風のごとくに
我が尊榮を吹はらふ わが福祿は雲のごとくに消失す
16 今はわが心われの衷に鎔て流れ 患難の日かたく我
を執ふ 17 夜にあれば我骨刺れて身を離る わが身を
噬む者つひに休むこと無し 18 わが疾病の大なる能に
よりにわが衣服は醜き様に變り 裏衣の襟の如くに我
身に固く附く 19 神われを泥の中に投こみたまひて我
は塵灰に等しくなれり 20 われ汝にむかひて呼はるに
汝答へたまはず 我立をるに 汝只われをながめ居たま
ふ 21 なんぢは我にむかひて無情なりたまひ 御手の
能力をもて我を攻撃たまふ 22 なんぢ我を擧げ風の上
に乗て負去しめ 大風の音とともに消亡しめたまふ 23
われ知る汝はわれを死に歸らしめ一切の生物の終に
集る家に歸らしめたまはん 24 かれは必ず荒埜にむか
ひて手を舒たまふこと有じ 假令人滅亡に陥るとも是
等の事のために號呼ぶことをせん 25 苦みて日を送る
者のために我哭ざりしや 貧しき者のために我心うれ

へざりしや 26 われ吉事を望みしに凶事きたり 光明
を待しに黑暗きたれり 27 わが腸沸かへりて安からず
患難の日我に追及ぬ 28 われは日の光を蒙らずして哀
しみつつ歩き 公會の中に立て助を呼もとむ 29 われ
は山犬の兄弟となり 駝鳥の友となれり 30 わが皮は
黒くなりて剥落ち わが骨は熱によりて焚け 31 わが
琴は哀の音となり わが笛は哭の聲となれり

31 我わが目と約を立たり 何ぞ小艾を慕はんや 2 然
せば上より神の降し給ふ分は如何なるべきぞ 高處よ
り全能者の與へ給ふ業は如何なるべきぞ 3 悪き人
には滅亡きたらざらんや 善らぬ事を爲す者には常なら
ぬ災禍あらざらんや 4 彼わが道を見そなはし わが歩
履をことごとく數へたまはざらんや 5 我虚誕とつれ
だちて歩みし事ありや わが足虚偽に奔従がひし事あ
りや 6 請ふ公平き權衡をもて我を稱れ 然ば神われの
正しきを知たまはん 7 わが步履もし道を離れ わが心
もしわが目に隨がひて歩み わが手にもし汚のつきて
あらば 8 我が播たるを人食ふも善し わが産物を根よ
り拔るるも善し 9 われもし婦人のために心まよへる
事あるか 又は我もしわが隣の門にありて伺ひし事あ
らば 10 わが妻ほかの人のために臼磨き ほかの人々
かれの上に寝るも善し 11 其は是は重き罪にして裁判
人に罰せらるべき悪事なればなり 12 是はすなはち滅
亡にまでも燬いたる火にしてわが一切の産をことご
とく絶さん 13 わが僕あるひは婢の我と辯争ひし時に
我もし之が權理を輕んぜし事あらば 14 神の起あがり
たまふ時には如何せんや 神の臨みたまふ時には何と
答へまつらんや 15 われを胎内に造りし者また彼をも
造りたまひしならずや われらを腹の内に形造りたま

ひし者は唯一の者ならずや 16 我もし貧き者にその願ふところを獲しめず 寡婦をしてその目おとろへしめし事あるか 17 または我獨みづから食物を啖ひて孤子にこれを啖はしめざりしこと有るか 18 (却つて彼らは我が若き時より我に育てられしこと父におけるが如し 我は胎内を出てより以來寡を導びく事をせり) 19 われ衣服なくして死んとする者あるひは身を覆ふ物なくして居る人を見し時に 20 その腰もし我を祝せず また彼もしわが羊の毛にて温まらざりし事あるか 21 われを助くる者の門にをるを見て我みなしごに向ひて手を上し事あるか 22 然ありしならば肩骨よりしてわが肩おち骨とはなれてわが腕折よ 23 神より出る災禍は我これを懼る その威光の前には我能力なし 24 我もし金をわが望となし 精金にむかひて汝わが所頼なりと言しこと有るか 25 我もしわが富の大なるとわが手に物を多く獲たることを喜びしことあるか 26 われ日の輝くを見または月の輝わたりて歩むを見し時 27 心竊にまよひて手を口に接しことあるか 28 是もまた裁判人に罪せらるべき悪事なり 我もし斯なせし事あらば上なる神に背しなり 29 我もし我を惡む者の滅亡るを喜び 又は其災禍に罹るによりて自ら誇りし事あるか 30 (我は之が生命を呪ひ索めて我口に罪を犯さしめし如き事あらず) 31 わが天幕の人は言はずや彼の肉に飽ざる者いづこにか在んと 32 旅人は外に宿らず わが門を我は街衢にむけて啓けり 33 我もしアダムのごとくわが罪を蔽ひ わが惡事を胸に隠せしことあるか 34 すなはち大衆を懼れ宗族の輕蔑に怖ぢて口を閉ぢ門を出ざりしごとき事あるか 35 嗚呼われの言ところを聽わくる者あらまほし(我が花押ここに在り

願くは全能者われに答へたまへ)我を訴ふる者みづから訴訟状を書け 36 われ必らず之を肩に負ひ冠冕のごとくこれを首に結ばん 37 我わが歩履の數を彼に述ん君王たる者のごとくして彼に近づかん 38 わが田圃號呼りて我を攻め その阡陌ことごとく泣さけぶあるか 39 若われ金を出さずしてその産物を食ひ またはその所有主をして生命を失はしめし事あらば 40 小麥の代に蒺藜生いで 大麥のかはりに雜草おひ出るとも善し ヨブの詞をはりぬ

32 ヨブみづから見て己の正義とするに因て此三人の者之に答ふる事を止む 2 時にラムの族ブジ人バラケルの子エリフ怒を發せり ヨブ神よりも己を正しとするに因て彼ヨブにむかひて怒を發せり 3 またヨブの三人の友答ふるに詞なくして猶ヨブを罪ありとせしによりて彼らにむかひて怒を發せり 4 エリフはヨブに言ふことをひかへて俟をりぬ 是は自己よりも彼等年老たればなり 5 茲にエリフこの三人の口に答ふる詞の有ざるを見て怒を發せり 6 ブジ人バラケルの子エリフすなはち答へて曰く 我は年少く汝等は年老たり是をもて我はばかりて我意見をなんぢらに陳ることを敢てせざりき 7 我意へらく日を重ねたる者宜しく言を出すべし 年を積たる者宜しく智慧を教ふべしと 8 但し人の衷には靈あり 全能者の氣息人に聰明を與ふ 9 大なる人すべて智慧あるに非ず 老たる者すべて道理に明白なるに非ず 10 然ば我言ふ 我に聽け 我もわが意見を陳ん 11 視よ我は汝らの言語を俟ち なんぢらの辯論を聽き なんぢらが言ふべき言語を尋ね 盡すを待り 12 われ細に汝らに聽しが汝らの中にヨブを駁折る者一人も無く また彼の言詞に答ふる者も無

し 13 おそらくは汝等いはん 我ら智慧を見得たり 彼に勝つ者は唯神のみ 人は能はずと 14 彼はその言語を我に向て發さざりき 我はまた汝らの言ふ所をもて 彼に答へじ 15 彼らは愕ろきて復答ふる所なく 言語かれらの衷に浮ばず 16 彼等ものいはず立とどまりて重ねて答へざればとて我あに俟をるべけんや 17 我も自らわが分を答へわが意見を吐露さん 18 われには言滿ち わが衷の心しきりに迫る 19 わが腹は口を啓かざる酒のごとし 新しき皮囊のごとく今にも裂んとす 20 われ説いだして胸を安んぜんとす われ口を啓きて答へん 21 かならず我は人に偏らず 人に諂はじ 22 我は諂らふことを知ず もし諂らはば我の造化主ただちに我を絶たまふべし

33 然ばヨブよ請ふ我が言ふ事を聽け わが一切の言語に耳を傾むけよ 2 視よ我口を啓き 舌を口の中に動かす 3 わが言ふ所は正義き心より出づ わが唇あきらかにその知識を陳ん 4 神の靈われを造り 全能者の氣息われを活しむ 5 汝もし能せば我に答へよ わが前に言をいひつらねて立て 6 我も汝とおなじく神の者なり 我もまた土より取てつくられしなり 7 わが威嚴はなんぢを懼れしめず わが勢はなんぢを壓せず 8 汝わが聽くところにて言談り 我なんぢの言語の聲を聞けり云く 9 われは潔淨くして愆なし 我は辜なく惡き事わが身にあらず 10 視よ彼われを攻る鬨隙を尋ね われを己の敵と算へ 11 わが脚を桎に夾めわが一切の舉動に目を着たまふと 12 視よ我なんぢに答へん なんぢ此事において正義からず 神は人よりも大なる者にいませり 13 彼その凡て行なふところの理由を示したまはずとて汝かれにむかひて辯争そふは何ぞや 14 ま

ことに神は一度二度と告示したまふなれど人これを
曉らざるなり 15 人熟睡する時または床に睡る時に夢
あるひは夜の間の異象の中にて 16 かれ人の耳をひら
き その教ふるところを印して堅うし 17 斯して人に
その悪き業を離れしめ 傲慢を人の中より除き 18 人
の魂靈を護りて墓に至らしめず 人の生命を護りて劍
にほろびざらしめたまふ 19 人床にありて疼痛に攻ら
れ その骨の中に絶ず戦闘のあるあり 20 その氣食物
を厭ひ その魂靈うまき物をも嫌ふ 21 その肉は瘦お
ちて見えぬ その骨は見えざりし者までも顯露になり
22 その魂靈は墓に近より その生命は滅ぼす者に近づ
く 23 しかる時にもし彼とともに一箇の使者あり 千
の中の一箇にして中保となり 正しき道を人に示さば
24 神かれを憫れみて言給はん彼を救ひて墓にくだる
こと無らしめよ 我すでに收贖の物を得たりと 25 そ
の肉は小兒の肉よりも瑞々しくなり その若き時の形
状に歸らん 26 かれ若し神に禱らば神かれを顧りみ
彼をしてその御面を喜こび見ることを得せしめたま
はん 神は人の正義に報をなしたまふべし 27 かれ人
の前に歌ひて言ふ 我は罪を犯し正しきを枉たり 然ど
報を蒙らず 28 神わが魂靈を贖ひて墓に下らしめず
わが生命光明を見ん 29 そもそも神は是等のもろもろ
の事をしばしば人におこなひ 30 その魂靈を墓より牽
かへし生命の光明をもて彼を照したまふ 31 ヨブよ耳
を傾むけて我に聽け 請ふ黙せよ 我かたらん 32 なん
ぢもし言ふべきことあらば我にこたへよ 請ふ語れ 我
なんぢを義とせん 愆すればなり 33 もし無ば我に聽
け 請ふ黙せよ 我なんぢに智慧を教へん

34 エリフまた答へて曰く **2** なんぢら智慧ある者よ我言を聴け 知識ある者よ我に耳を傾むけよ **3** 口 of 食物を味はふごとく耳は言詞を辨まふ **4** われら自ら是非を究め われらもろともに善惡を明らかにせん **5** それヨブは言ふ我は義し 神われに正しき審判を施こしたまはず **6** われは義しかれども偽る者とせらる 我は愆なけれどもわが身の矢創愈がたと **7** 何人かヨブのごとくならん彼は罵言を水のごとくに飲み **8** 惡き事を爲す者等と交はり 惡人とともに歩むなり **9** すなはち彼いへらく人は神と親しむとも身に益なしと **10** 然ばなんぢら心ある人々よ我に聴け 神は惡を爲すことを決めて無く 全能者は不義を行ふこと決めて無し **11** 却つて人の所爲をその身に報い 人をしてその行爲にしたがひて獲るところあらしめたまふ **12** かならず神は惡き事をなしたまはず全能者は審判を枉たまはざるなり **13** たれかこの地を彼に委ねし者あらん 誰か全世界を定めし者あらん **14** 神もしその心を己にのみ用ひ その靈と氣息とを己に回収したまはば **15** もろもろの血肉ことごとく亡び人も亦塵にかへるべし **16** なんぢもし曉ることを得ば請ふ我に聴けわが言詞の聲に耳を側だてよ **17** 公義を惡む者あに世ををさむるを得んや なんぢあに至義き者を惡しとすべけんや **18** 王たる者にむかひて汝は邪曲なりと言ひ 牧伯たる者にむかひて汝らは惡しといふべけんや **19** まして君王たる者をも偏視ず貧しき者に超て富る者をかへりみるごとき事をせざる者にむかひてをや 斯爲たまふは彼等みな同じくその御手の作るところなればなり **20** 彼らは瞬く時間に死に 民は夜の間に滅びて消失せ 力ある者も人手によらずして除かる **21** それ神の目は

人の道の上にあり 神は人の一切の歩履を見そなはず
22 悪を行なふ者の身を匿すべき 黑暗も無く死蔭も無し
23 神は人をして審判を受しむるまでに長くその人を窺がふに及ばず
24 權勢ある者をも査ぶることを須ひずして打ほろぼし他の人々を立て之に替たまふ
25 かくの如く彼らの所爲を知り 夜の間には彼らを覆がへしたまへば彼らは乃て滅ぶ
26 人の觀るところにて彼等を惡人のごとく撃たまふ
27 是は彼ら背きて之に従はずその道を全たく顧みざるに因る
28 かれら是のごとくして遂に貧しき者の號呼を彼の許に達らしめ患難者の號呼を彼に聽しむ
29 かれ平安を賜ふ時には誰か惡しと言ふことをえんや 彼面をかくしたまふ時には誰かこれを見るを得んや 一國におけるも一人におけるも凡て同じ
30 かくのごとく邪曲なる者をして世を治むること無らしめ 民の機檻となることなからしむ
31 人は宜しく神に申すべし 我は已に懲しめられたり再度惡き事を爲じ
32 わが見ざる所は請ふ我にをしへたまへ 我もし惡き事を爲たるならば重ねて之をなさじと
33 かれ豈なんぢの好むごとくに應報をなしたまはんや 然るに汝はこれを咎む 然ばなんぢ自ら之を選ぶべし 我は爲じ 汝の知るところを言へ
34 心ある人々は我に言ん 我に聽ところの智慧ある人々は言ん
35 ヨブの言ふ所は辨知なし その言詞は明哲からずと
36 ねがはくはヨブ終まで試みられんことを其は惡き人のごとくに應答をなせばなり
37 まことに彼は自己の罪に愆を加へわれらの中間にありて手を拍ちかつ言詞を繁くして神に逆らふ

35 エリフまた答へて曰く 2 なんぢは言ふ 我が義しきは神に愈れりと なんぢ之を正しとおもふや 3 すな

はち汝いへらく 是は我に何の益あらんや 罪を犯すに
較ぶれば何の愈るところか有んと 4 われ言詞をもて
汝およびなんぢにそへる汝の友等に答へん 5 天を仰
ぎて見よ 汝の上なる高き空を望め 6 なんぢ罪を犯す
とも神に何の害か有ん 愆を熾んにするとも神に何を
爲えんや 7 汝正義かるとも神に何を與るを得んや 神
なんぢの手より何をか受たまはん 8 なんぢの悪は只
なんぢに同じき人を損ぜん而已 なんぢの善は只人の
子を益せんのみ 9 暴虐の甚だしきに因て叫び 權勢あ
る者の腕に壓れて呼はる人々あり 10 然れども一人と
して我を造れる神は何處にいますやといふ者なし 彼
は人をして夜の中に歌を歌ふに至らしめ 11 地の獸畜
よりも善くわれらを教へ 空の鳥よりも我らを智か
らしめたまふ者なり 12 悪き者等の驕傲ふるに因て斯
のごとく人々叫べども應ふる者あらず 13 虚しき語は
神かならず之を聽たまはず 全能者これを顧みたま
はじ 14 汝は我かれを見たてまつらずと言といへども
審判は神の前にあり この故に汝彼を待べきなり 15
今かれ震怒をもて罰することを爲ず 罪愆を深く心
に留たまはざる(が如くなる)に因て 16 ヨブ口を啓き
て虚しき事を述べ無知の言語を繁くす

36 エリフまた言詞を繼て曰く 2 暫らく我に容せ我
なんぢに示すこと有ん 尚神のために言ふべき事あれ
ばなり 3 われ廣くわが知識を取り我の造化主に正義
を歸せんとす 4 わが言語は眞實に虚偽ならず 知識の
完全き者なんぢの前にあり 5 視よ神は權能ある者に
ましませども何をも藐視めたまはず その了知の能力
は大なり 6 悪しき者を生し存ず 艱難者のために審判
を行ひたまふ 7 義しき者に目を離さず 位にある王等

とともに永遠に坐せしめて之を貴くしたまふ 8 もし
彼ら鏈索に繋がれ 艱難の繩にかかる時は 9 彼らの所
行と愆尤とを示してその驕れるを知せ 10 彼らの耳を
開きて教を容れしめ かつ悪を離れて歸れよと彼ら
に命じたまふ 11 もし彼ら聴したがひて之に事へなば
繁昌てその日を送り 楽しくその年を渉らん 12 若かれ
ら聴したがはずば刀劍にて亡び 知識を得ずして死
なん 13 しかれども心の邪曲なる者等は忿怒を蓄はへ
神に縛しめらるるとも祈ることを爲す 14 かれらは年
わかくして死亡せ 男娼とその生命をひとしようせん 15
神は艱難者を艱難によりて救ひ 之が耳を虐待によ
りて開きたまふ 16 然ば神また汝を狭きところより出
して狭からぬ廣き所に移したまふあらん 而して汝
の席に陳ぬる物は凡て肥たる物ならん 17 今は悪人
の鞫罰なんぢの身に充り 審判と公義となんぢを執
ふ 18 なんぢ忿怒に誘はれて嘲笑に陥いらざるやう慎
しめよ 收贖の大なるが爲に自ら誤るなかれ 19 なんぢ
の號叫なんぢを艱難の中より出さんや 如何に力を
盡すとも所益あらじ 20 世の人のその處より絶る其夜
を慕ふなかれ 21 慎しみて悪に傾むくなかれ 汝は艱難
よりも寧ろ之を取んとせり 22 それ神はその權能をも
て大なる事を爲したまふ 誰か能く彼のごとくに教
晦を垂んや 23 たれか彼のためにその道を定めし者あ
らんや 誰かなんぢは悪き事をなせりと言ふことを
得ん 24 なんぢ神の御所爲を讚歎ふることを忘れざれ
これ世の人の歌ひ崇むる所なり 25 人みな之を仰ぎ觀
る 遠き方より人これを視たてまつるなり 26 神は大
なる者にいまして我儕かれを知たてまつらず その
御年の數は計り知るべからず 27 かれ水を細にして引

あげたまへば霧の中に滴り出て雨となるに 28 雲これを降せて人々の上に沛然に灌ぐなり 29 たれか能く雲の舒展る所以 またその幕屋の響く所以を了知んや 30 視よ彼その光明を自己の周圍に繞らし また海の底をも蔽ひたまひ 31 これらをもて民を鞠き また是等をもて食物を豊饒に賜ひ 32 電光をもてその兩手を包み その電光に命じて敵を撃しめたまふ 33 その鳴聲かれを顯はし 家畜すらも彼の來ますを知らすなり

37 之がためにわが心わななき その處を動き離る 2 神の聲の響およびその口より出る轟聲を善く聽け 3 これを天が下に放ち またその電光を地の極にまで至らせたまふ 4 その後聲ありて打響き 彼威光の聲を放ちて鳴わたりたまふ その御聲聞えしむるに當りては電光を押へおきたまはず 5 神奇しくも御聲を放ちて鳴わたり 我儕の知ざる大なる事を行ひたまふ 6 かれ雪にむかひて地に降れと命じたまふ 雨すなはちその權能の大雨にも亦しかり 7 斯かれ一切の人の手を封じたまふ 是すべての人にその御工作を知しめんがためなり 8 また獸は穴にいりてその洞に居る 9 南方の密室より暴風きたり 北より寒氣きたる 10 神の氣吹によりて氷いできたり 水の寛狭くせらる 11 かれ水をもて雲に搭載せまた電光の雲を遠く散したまふ 12 是は神の導引によりて遇る 是は彼の命ずるところを盡く世界の表面に爲んがためなり 13 その之を來らせたまふは或は懲罰のため あるひはその地のため 或は恩惠のためなり 14 ヨブよ是を聽け 立ちて神の奇妙き工作を考がへよ 15 神いかに是等に命を傳へその雲の光明をして輝やかせたまふか汝これを知るや 16 なんぢ雲の平衡知識の全たき者の奇妙き工作を知るや 17

南風によりて地の穩かになる時なんぢの衣服は熱くなるなり 18 なんぢ彼とともに彼の堅くして鑄たる鏡のごとくなる蒼穹を張ることを能せんや 19 われらが彼に言ふべき事を我らに教へよ 我らは暗昧して言詞を列ぬること能はざるなり 20 われ語ることありと彼に告ぐべけんや 人あに滅ぼさるることを望まんや 21 人いまは雲霄に輝やく光明を見ること能はず 然れど風きたりて之を吹清む 22 北より黄金いできたる神には畏るべき威光あり 23 全能者はわれら測りきはむることを得ず 彼は能おほいなる者にいまし 審判をも公義をも枉たまはざるなり 24 この故に人々かれを畏る 彼はみづから心に有智とする者をかへりみたまはざるなり

38 茲にエホバ大風の中よりヨブに答へて宣まはく 2 無智の言詞をもて道を暗からしむる此者は誰ぞや 3 なんぢ腰ひきからげて丈夫のごとくせよ 我なんぢに問ん 汝われに答へよ 4 地の基を我が置たりし時なんぢは何處にありしや 汝もし穎悟あらば言へ 5 なんぢ若知んには誰が度量を定めたりしや 誰が準繩を地の上に張りたりしや 6 その基は何の上に奠れたりしや その隅石は誰が置たりしや 7 かの時には晨星あひともに歌ひ 神の子等みな歡びて呼はりぬ 8 海の水ながれ出で 胎内より涌いでし時誰が戸をもて之を閉こめたりしや 9 かの時我雲をもて之が衣服となし 黑暗をもて之が襁褓となし 10 これに我法度を定め關および門を設けて 11 曰く此までは來るべし此を越べからず 汝の高浪ここに止まるべしと 12 なんぢ生れし日より以來朝にむかひて命を下せし事ありや また黎明にその所を知しめ 13 これをして地の縁を取へ

て悪き者をその上より振落さしめたりしや 14 地は變りて土に印したるごとくに成り 諸の物は美はしき衣服のごとくに顯る 15 また悪人はその光明を奪はれ高く擧たる手は折らる 16 なんぢ海の泉源にいたりしことありや 淵の底を歩みしことありや 17 死の門なんぢのために開けたりしや 汝死蔭の門を見たりしや 18 なんぢ地の廣を看きはめしや 若これを盡く知ば言へ 19 光明の在る所に往く路は孰ぞや 黑暗の在る所は何處ぞや 20 なんぢ之をその境に導びき得るや その家の路を知るや 21 なんぢ之を知らん汝はかの時すでに生れをり また汝の經たる日の數も多ければなり 22 なんぢ雪の庫にいりしや 雹の庫を見しや 23 これ我が艱難の時にために蓄はへ 戦争および戦闘の日のために蓄はへ置くものなり 24 光明の發散る道 東風の地に吹わたる所の路は何處ぞや 25 誰が大雨を灌ぐ水路を開き 雷電の光の過る道を開き 26 人なき地にも人なき荒野にも雨を降し 27 荒かつ廢れたる處々を潤ほし かつ若菜蔬を生出しむるや 28 雨に父ありや 露の珠は誰が生る者なるや 29 氷は誰が胎より出るや 空の霜は誰が産むところなるや 30 水かたまりて石のごとくに成り 淵の面こほる 31 なんぢ昴宿の鏈索を結びうるや 參宿の繫繩を解うるや 32 なんぢ十二宮をその時にしたがひて引いだし得るや また北斗とその子星を導びき得るや 33 なんぢ天の常經を知るや 天をして其權力を地に施こさしむるや 34 なんぢ聲を雲に擧げ 滂沛の水をして汝を掩はしむるを得るや 35 なんぢ閃電を遣はして往しめ なんぢに答へて我儕は此にありと言しめ得るや 36 胸の中の智慧は誰が與へし者ぞ 心の内の聰明は誰が授けし者ぞ 37 たれか

能く智慧をもて雲を數へんや たれか能く天の瓶を
傾むけ 38 塵をして一塊に流れあはしめ土塊をしてあ
ひかたまらしめんや 39 なんぢ牝獅子のために食物を
獵や また小獅子の食氣を満すや 40 その洞穴に伏し
森の中に隠れ伺がふ時なんぢこの事を爲うるや 41 ま
た鴉の子 神にむかひて呼はり 食物なくして徘徊る時
鴉に餌を與ふる者は誰ぞや

39 なんぢ岩間の山羊が子を産む時をしるや また麋
鹿の産に臨むを見しや 2 なんぢ是等の在胎の月を數
へうるや また是等が産む時を知るや 3 これらは身を
鞠めて子を産みその痛苦を出す 4 またその子は強く
なりて野に育ち 出ゆきて再たびその親にかへらず 5
誰が野驢馬を放ちて自由にせしや 誰が野驢馬の繫
繩を解しや 6 われ野をその家となし 荒野をその住所
となせり 7 是は邑の喧鬧を賤しめ 馭者の號呼を聽い
れず 8 山を走まはりて草を食ひ 各種の青き物を尋ぬ
9 兕肯て汝に事へ なんぢの飼草槽の傍にとどまらん
や 10 なんぢ兕に綱附て阡陌をあるかせ得んや 是あに
汝にしたがひて谷に馬鈹を牽んや 11 その力おほいな
ればとて汝これに恃まんや またなんぢの工事をこれ
に任せんや 12 なんぢこれにたよりにて己が穀物を運び
かへらせ之を打禾場にあつめしめんや 13 駝鳥は歡然
にその翼を鼓ふ 然どもその羽と毛とはあに鶴にしか
んや 14 是はその卵を土の中に棄おき これを砂の中に
て暖たまらしめ 15 足にてその潰さるべきと 野の獸の
これを踐むべきとを思はず 16 これはその子に情なく
して宛然おのれの子ならざるが如くし その劬勞の
空しくなるも繫念ところ無し 17 是は神これに智慧を
授けず 穎悟を與へざるが故なり 18 その身をおこして

走るにおいては馬をもその騎手をも嘲けるべし 19 なんぢ馬に力を與へしや その頸に勇ましき鬣を粧ひしや 20 なんぢ之を蝗蟲のごとく飛しむるや その嘶なく聲の響は畏るべし 21 谷を脚爬て力に誇り 自ら進みて兵士に向ふ 22 懼るることを笑ひて驚ろくところ無く 劍にむかふとも退ぞかず 23 矢筒その上に鳴り 鎗に矛あひきらめく 24 猛りつ狂ひつ地を一呑にし 喇叭の聲鳴わたるも立どまる事なし 25 喇叭の鳴ごとにハーハーと言ひ遠方より戦闘を嗅つけ 將帥の大聲および呐喊聲を聞しる 26 鷹の飛かけり その羽翼を舒て南に向ふは豈なんぢの智慧によるならんや 27 鷲の翔のぼり 高き處に巢を營なむは豈なんぢの命令に依んや 28 これは岩の上に住所を構へ 岩の尖所または峻險き所に居り 29 其處よりして攫むべき物をうかがふ その目のおよぶところ遠し 30 その子等もまた血を吸ふ 凡そ殺されし者のあるところには是そこに在り

40 エホバまたヨブに對へて言たまはく 2 非難する者エホバと争はんとするや 神と論ずる者これに答ふべし 3 ヨブ是においてエホバに答へて曰く 4 嗚呼われは賤しき者なり 何となんぢに答へまつらんや 唯手をわが口に當んのみ 5 われ已に一度言たり 復いはじ 已に再度せり 重ねて述じ 6 是に於てエホバまた大風の中よりヨブに應へて言たまはく 7 なんぢ腰ひきからげて丈夫のごとくせよ 我なんぢに問ん なんぢ我にこたへよ 8 なんぢ我審判を廢んとするや 我を非として自身を是とせんとするや 9 なんぢ神のごとき腕ありや 神のごとき聲をもて轟きわたらんや 10 さればなんぢ威光と尊貴とをもて自ら飾り 榮光と華美とをもて身に纏へ 11 なんぢの溢るる震怒を洩し 高ぶる

者を視とめて之をことごとく卑くせよ 12 すなはち高ぶる者を見てこれを盡く鞠ませ また悪人を立所に踐つけ 13 これを塵の中に埋め これが面を隠れたる處に閉こめよ 14 さらば我もなんぢを讚てなんぢの右の手なんぢを救ひ得ると爲ん 15 今なんぢ我がなんぢとともに造りたりし河馬を視よ 是は牛のごとく草を食ふ 16 觀よその力は腰にあり その勢力は腹の筋にあり 17 その尾の搖く様は香柏のごとく その腿の筋は彼此に盤互ふ 18 その骨は銅の管ごとく その肋骨は鐵の棒のごとし 19 これは神の工の第一なる者にして之を造りし者これに劍を賦けたり 20 山もこれがために食物を産出し もろもろの野獸そこに遊ぶ 21 これは蓮の樹の下に臥し 葦蘆の中または沼の裏に隠れをる 22 蓮の樹その蔭をもてこれを覆ひ また河の柳これを環りかこむ 23 たとひ河荒くなるとも驚ろかず ヨルダンその口に注ぎかかるも惶てず 24 その目の前にて誰か之を執ふるを得ん 誰か羂をその鼻に貫ぬくを得ん

41 なんぢ鈎をもて鱷を釣いだすことを得んや その舌を糸にひきかくることを得んや 2 なんぢ葦の繩をその鼻に通し また鈎をその齧に衝とほし得んや 3 是あに頻になんぢに願ふことをせんや 柔かになんぢに言談んや 4 あに汝と契約を爲んや なんぢこれを執て永く僕と爲しおくを得んや 5 なんぢ鳥と戯むる如くこれとたはむれ また汝の婦人等のために之を繋ぎおくを得んや 6 また漁夫の社會これを商貨と爲して商賣人の中間に分たんや 7 なんぢ漁叉をもてその皮に満し 魚矛をもてその頭を衝とほし得んや 8 手をこれに下し見よ 然ばその戰鬥をおぼえて再びこれを爲ざるべし 9 視よその望は虚

し之を見てすら倒るるに非ずや 10 何人も之に激する勇氣あるなし 然ば誰かわが前に立うる者あらんや 11 誰か先に我に與へしところありて我をして之に酬いしめんとする者あらん 普天の下にある者はことごとく我有なり 12 我また彼者の肢體とその著るしき力とその美はしき身の構造とを言では措じ 13 誰かその外甲を剥ん 誰かその雙齧の間に入ん 14 誰かその面の戸を開きえんや その周圍の齒は畏るべし 15 その並列る鱗甲は之が誇るところ その相闘たる様は堅く封じたるがごとく 16 此と彼とあひ接きて風もその中間にいるべからず 17 一々あひ連なり堅く膠て離すことを得ず 18 嚏すれば即はち光發す その目は曙光の眼瞼(を開く)に似たり 19 その口よりは炬火いで火花發し 20 その鼻の孔よりは煙いできたりて宛然葦を焚く釜のごとし 21 その氣息は炭火を蒸し 火燄その口より出づ 22 力氣その頸に宿る 懼るる者その前に彷徨まよふ 23 その肉の片は密に相連なり 堅く身に着て動かす可らず 24 その心の堅硬こと石のごとく その堅硬こと下磨のごとし 25 その身を興す時は勇士も戰慄き 恐怖によりて狼狽まどふ 26 劍をもて之を撃とも利ず 鎗も矢も漁叉も用ふるところ無し 27 是は鐵を見ること稿のごとくし銅を見ること朽木のごとくす 28 弓箭もこれを逃しむること能はず 投石機の石も稿屑と見做る 29 棒も是には稿屑と見ゆ 鎗の閃めくを是は笑ふ 30 その下腹には瓦礫の碎片を連ね 泥の上に麥打車を引く 31 淵をして鼎のごとく沸かへらしめ 海をして香油の釜のごとくならしめ 32 己が後に光る道を遺せば淵は白髪をいただけるかと疑がはる 33 地の上には是と並ぶ者なし 是は恐

怖なき身に造られたり 34 是は一切の高大なる者を輕視ず 誠に諸の誇り高ぶる者の王たるなり

42 ヨブ是に於てエホバに答へて曰く 2 我知る汝は一切の事をなすを得たまふ また如何なる意志にても成あたはざる無し 3 無知をもて道を蔽ふ者は誰ぞや 斯われは自ら了解らざる事を言ひ 自ら知ざる測り難き事を述たり 4 請ふ聽たまへ 我言ふところあらん 我なんぢに問まつらん 我に答へたまへ 5 われ汝の事を耳にて聞ふたりしが今は目をもて汝を見たてまつる 6 是をもて我みづから恨み 塵灰の中にて悔ゆ 7 エホバ是等の言語をヨブに語りたまひて後エホバ、テマン人エリパズに言たまひけるは我なんぢと汝の二人の友を怒る 其はなんぢらが我に關て言述べたるところはわが僕ヨブの言たることのごとく正當からざればなり 8 然ば汝ら牡牛七頭 牡羊七頭を取てわが僕ヨブに至り汝らの身のために燔祭を獻げよ わが僕ヨブなんぢらのために祈らん われかれを嘉納べければ之によりて汝らの愚を罰せざらん 汝らの我について言述べたところは我僕ヨブの言たることのごとく正當からざればなり 9 是においてテマン人エリパズ、シユヒ人ビルダデ、ナアマ人ゾパル往てエホバの自己に宣まひしごとく爲ければエホバすなはちヨブを嘉納たまへり 10 ヨブその友のために祈れる時 エホバ、ヨブの艱難をときて舊に復ししかしてエホバつひにヨブの所有物を二倍に増たまへり 11 是において彼の諸の兄弟諸の姉妹およびその舊相識る者等ことごとく來りて彼とともにその家にて飲食を爲しかつエホバの彼に降したまひし一切の災難につきて彼をいたはり慰さめ また各金一ケセタと金の環一箇を之に

贈れり 12 エホバかくのごとくヨブをめぐみてその終
を初よりも善したまへり 即ち彼は綿羊一萬四千匹 駱
駝六千匹 牛一千軛 牝驢馬一千匹を有り 13 また男子
七人 女子三人ありき 14 かれその第一の女をエミマ
と名け第二をケジアと名け 第三をケレンハツプクと
名けたり 15 全國の中にてヨブの女子等ほど美しき婦
人は見えざりき その父之にその兄弟等とおなじく産
業をあたへたり 16 この後ヨブは百四十年いきながら
へてその子その孫と四代までを見たり 17 かくヨブは
年老い日満て死たりき

詩篇

1 悪きものの謀略にあゆまず つみびとの途にたたず
嘲るものの座にすわらぬ者はさいはひなり **2** かかる
人はエホバの法をよろこびて日も夜もこれをおもふ
3 かかる人は水流のほとりにうゑし樹の期にいたりて
實をむすび 葉もまた凋まざるごとく その作ところ皆
さかえん **4** あしき人はしからず 風のふきさる糶糠の
ごとし **5** 然ばあしきものは審判にたへず 罪人は義き
ものの會にたつことを得ざるなり **6** そはエホバはた
だしきものの途をしりたまふ されど悪きものの途は
ほろびん

2 何なればもろもろの國人はさわぎたち 諸民はむな
しきことを謀るや **2** 地のもろもろの王はたちかまへ
群伯はともに議り エホバとその受膏者とにさからひ
ていふ **3** われらその械をこぼち その繩をすてんと **4**
天に坐するもの笑ひたまはん 主かれらを嘲りたまふ
べし **5** かくて主は忿恚をもてものいひ大なる怒をも
てかれらを怖まどはしめて宣給ふ **6** しかれども我わ
が王をわがきよきシオンの山にたてたりと **7** われ詔
命をのべん エホバわれに宣まへり なんぢはわが子な
り 今日われなんぢを生り **8** われに求めよ さらば汝に
もろもろの國を嗣業としてあたへ地の極をなんぢの
有としてあたへん **9** 汝くろがねの杖をもて彼等をう
ちやぶり陶工のうつはもののごとくに打碎かんと **10**
されば汝等もろもろの王よ さとかれ地の審士輩をし
へをうけよ **11** 畏をもてエホバにつかへ 戦慄をもてよ
ろこべ **12** 子にくちつけせよ おそらくはかれ怒をは
なちなんぢら途にほろびん その忿恚はすみやかに燃
べければなり すべてかれに依頼むものは福ひなり

3 エホバよ我にあたする者のいかに蔓延れるや我に
さからひて起りたつもの多し **2** わが靈魂をあげつら
ひて かれは神にすくはるることなしといふ者ぞおほ
き(セラ) **3** されどエホバよ なんぢは我をかこめる盾
わが榮わが首をもたげ給ふものなり **4** われ聲をあげ
てエホバによばはればその聖山より我にこたへたま
ふ(セラ) **5** われ臥していね また目さめたり エホバ
われを支へたまへばなり **6** われをかこみて立かまへ
たる千萬の人をも我はおそれじ **7** エホバよねがはく
は起たまへ わが神よわれを救ひたまへ なんぢ曩にわ
がすべての仇の頬骨をうち悪きものの齒ををりたま
へり **8** 救はエホバにあり ねがはくは恩恵なんぢの民
のうへに在んことを(セラ)

4 わが義をまもりたまふ神よ ねがはくはわが呼ると
きに答へたまへ わがなやみたる時なんぢ我をくつろ
がせたまへり ねがはくは我をあはれみ わが祈をきき
たまへ **2** 人の子よなんぢらわが榮をはぢしめて幾何
時をへんとするか なんぢらむなしき事をこのみ虚偽
をしたひていくそのときを経んとするか(セラ) **3** 然
どなんぢら知れ エホバは神をうやまふ人をわかちて
己につかしめたまひしことを われエホバによばはら
ば聴たまはん **4** なんぢら慎みをののきて罪ををかす
なかれ 臥床にておのが心にかたりて黙せ(セラ) **5** な
んぢら義のそなへものを献てエホバに依頼め **6** おほ
くの人はいふたれか嘉事をわれらに見するものあら
んやと エホバよねがはくは聖顔の光をわれらの上
にのぼらせたまへ **7** なんぢのわが心にあたへたまひし
歓喜はかれらの穀物と酒との豊かなる時にまさりき

8 われ安然にして臥またねぶらん エホバよわれを獨
にて坦然にをらしむるものは汝なり

5 エホバよねがはくは我がことばに耳をかたむけわ
が思にみこころを注たまへ 2 わが王よわが神よ わが
號呼のこゑをききたまへ われ汝にいのればなり 3 エ
ホバよ朝になんぢわが聲をききたまはん 我あしたに
なんぢの爲にそなへして俟望むべし 4 なんぢは悪き
ことをよろこびたまふ神にあらず 悪人はなんぢの賓
客たるを得ざるなり 5 たかぶる者はなんぢの目前に
たつをえず なんぢはすべて邪曲をおこなふものを
憎みたまふ 6 なんぢは虚偽をいふ者をほろぼしたま
ふ 血をながすものと詭計をなすものとは エホバ憎み
たまふなり 7 然どわれは豊かなる仁慈によりてなん
ぢの家いらん われ汝をおそれつつ聖宮にむかひ
て拝まん 8 エホバよ願くはわが仇のゆゑになんぢの
義をもて我をみちびき なんぢの途をわが前になほ
くしたまへ 9 かれらの口には眞實なく その衷はよこ
しま その喉はあばける墓 その舌はへつらひをいへば
なり 10 神よねがはくはかれらを刑なひ その謀略によ
りてみづから仆れしめ その愆のおほきによりて之
をおひいだしたまへ かれらは汝にそむきたればなり
11 されど凡てなんぢに依頼む者をよろこばせ永遠
によろこびよばはらせたまへ なんぢ斯る人をまも
りたまふなり 名をいつくしむ者にもなんぢにより
て歡喜をえしめたまへ 12 エホバよなんぢに義者にさ
いはひし盾のごとく恩惠をもて之をかこみたまはん

6 エホバよねがはくは忿恚をもて我をせめ烈しき怒
をもて我をこらしめたまふなかれ 2 エホバよわれを
憐みたまへ われ萎みおとろふなり エホバよ我を醫し

たまへ わが骨わななきふるふ 3 わが靈魂さへも甚く
ふるひわななく エホバよかくて幾何時をへたまふや
4 エホバよ歸りたまへ わがたましひを救ひたまへ な
んぢの仁慈の故をもて我をたすけたまへ 5 そは死に
ありては汝をおもひいづることなし 陰府にありては
誰かなんぢに感謝せん (Sheol h7585) 6 われ歎息にてつ
かれたり 我よなよな床をただよはせ涙をもてわが衾
をひたせり 7 わが目うれへによりておとろへ もろも
ろの仇ゆゑに老ぬ 8 なんぢら邪曲をおこなふ者こと
ごとく我をはなれよ エホバはわが泣こゑをききたま
ひたり 9 エホバわが懇求をききたまへり エホバわが
祈をうけたまはん 10 わがもろもろの仇ははぢて大に
おちまどひ あわただしく恥てしりぞきぬ

7 わが神エホバよわれ汝によりたのむ 願くはすべての
の逐せまるものより我をすくひ我をたすけたまへ 2
おそらくはかれ獅の如くわが靈魂をかきやぶり援る
ものなき間にさきてずたずたに爲ん 3 わが神エホバ
よ もしわれ此事をなししならんには わが手によこし
まの纏りをらんには 4 故なく仇ずるものをさへ助け
しに禍害をもてわが友にむくいしならんには 5 よし
仇人わがたましひを逐とらへ わが生命をつちにふみ
にじりわが榮を塵におくとも その作にまかせよ (セ
ラ) 6 エホバよなんぢの怒をもて起わが仇のいきどほ
りにむかひて立たまへ わがために目をさましたまへ
なんぢは審判をおほせ出したまへり 7 もろもろの國
人の會がなんぢのまはりに集はしめ 其上なる高座に
かへりたまへ 8 エホバはもろもろの民にさばきを行
ひたまふ エホバよわが正義とわが衷なる完全とにし
たがひて我をさばきたまへ 9 ねがはくは悪きものの

曲事をたちて義しきものを堅くしたまへ だだしき神
は人のこころと腎とをさぐり知たまふ 10 わが盾をと
るものは心のなほきものをすくふ神なり 11 神はだ
しき審士ひごとに忿恚をおこしたまふ神なり 12 人も
しかへらずば神はその劍をとぎ その弓をはりてかま
へ 13 これに死の器をそなへ その矢に火をそへたま
はん 14 視よその人はよこしまを産んとしてくるしむ
殘害をはらみ虚偽をうむなり 15 また坑をほりてふか
くし己がつくれるその溝におちいれり 16 その殘害は
おのが首にかへり その強暴はおのが頭上にくだらん
17 われその義によりてエホバに感謝しいとたかきエ
ホバの名をほめうたはん

8 われらの主エホバよなんぢの名は地にあまねくし
て尊きかな その榮光を天におきたまへり 2 なんぢは
嬰兒ちのみごの口により力の基をおきて敵にそなへ
たまへり こは仇人とうらみを報るものを鎮靜めんが
ためなり 3 我なんぢの指のわざなる天を觀なんぢの
設けたまへる月と星とをみるに 4 世人はいかなるも
のなればこれを聖念にとめたまふや 人の子はいかな
るものなればこれを顧みたまふや 5 只すこしく人を
神よりも卑つくりて榮と尊貴とをかうぶらせ 6 また
これに手のわざを治めしめ萬物をその足下におきた
まへり 7 すべての羊うしまた野の獸 8 そらの鳥うみ
の魚もろもろの海路をかよふものをまで皆しかなせ
り 9 われらの主エホバよなんぢの名は地にあまねく
して尊きかな

9 われ心をつくしてエホバに感謝し そのもろもろ
の奇しき事迹をのべつたへん 2 われ汝によりてたの
しみ且よろこばん 至上者よなんぢの名をほめうた

はん 3 わが仇しりぞくとき躓きたふれて御前にほろ
ぶ 4 なんぢわが義とわが訟とをまもりたまへばな
り なんぢはだしき審判をしつつ寶座にすわりたま
へり 5 またもろもろの國をせめ悪きものをほろぼし
世々かぎりなくかれらが名をけしたまへり 6 仇はた
えはてて世々あれすたれたり 汝のくつがへしたま
へるもろもろの邑はうせてその跡だにもなし 7 エホ
バはとしへに聖位にすわりたまふ 審判のために
その寶座をまうけたまひたり 8 エホバは公義をもて
世をさばき 直をもてもろもろの民に審判をおこな
ひたまはん 9 エホバは虐げらるるものの城また難み
のときの城なり 10 聖名をしるものはなんぢに依頼
ん そはエホバよなんぢを尋るものの棄られしこと斷
てなければなり 11 シオンに住たまふエホバに對ひて
ほめうたへ その事迹をもろもろの民のなかにのべつ
たへよ 12 血を問糺したまふものは苦しむものを心
とめてその號呼をわすれたまはず 13 エホバよ我をあ
はれみたまへ われを死の門よりすくひいだしたまへ
る者よ ねがはくは仇人のわれを難むるを視たまへ
14 さらば我なんぢのすべての頌美をのぶるを得また
シオンのむすめの門にてなんぢの救をよろこぼん 15
もろもろの國民はおのがつくれる阱におちいり そ
のかくしまうけたる網におのが足をとらへらる 16
エホバは己をしらしめ審判をおこなひたまへり あ
しき人はおのが手のわざなる繯にかかれり ヒガイ
オン(セラ) 17 あしき人は陰府にかへるべし 神を
わするもろもろの國民もまたしからん (Sheol h7585)
18 貧者はつねに忘らるるにあらず苦しむものの望
はとしへに滅ぶるにあらず 19 エホバよ起たま

へ ねがはくは勝を人にえしめたまふなかれ御前にて
もろもろのくにびとに審判をうけしめたまへ 20 エホ
バよ願くはかれらに懼をおこさしめたまへ もろもろ
の國民におのれただ人なることを知しめたまへ(セ
ラ)

10 ああエホバよ何ぞはるかに立たまふや なんぞ患
難のときに匿れたまふや 2 あしき人はたかぶりて苦
しむものを甚だしくせむ かれらをそのくはだての謀
略にとらはれしめたまへ 3 あしきひとは己がこころ
の欲望をほこり貪るものを祝してエホバをかるしむ
4 あしき人はほこりかにいふ 神はさぐりもとむるこ
とをせざるなりと 凡てそのおもひに神なしとせり 5
かれの途はつねに堅く なんぢの審判はその眼よりは
なれてたかし 彼はそのもろもろの敵をくちききらに
て吹く 6 かくて己がこころの中にいふ 我うごかさる
ことなく世々われに禍害なかるべしと 7 その口には
のろひと虚偽としへたげとみち その舌のしたには
残害とよこしまとあり 8 かれは村里のかくれたる處
にをり隠やかなるところにて罪なきものをころす そ
の眼はひそかに倚仗なきものをうかがひ 9 窟にをる
獅のごとく潜みまち苦しむものをとらへんために伏
ねらひ 貧しきものをその網にひきいれてとらふ 10
また身をかがめて蹲まるその強勁によりて依仗なき
ものは仆る 11 かれ心のうちにいふ 神はわすれたり神
はその面をかくせり神はみることなかるべしと 12 エ
ホバよ起たまへ 神よ手をあげたまへ 苦しむものを忘
れたまふなかれ 13 いかなれば悪きもの神をいやしめ
て心中になんぢ探求むることをせじといふや 14 なん
ぢは鑿たまへりその残害と怨恨とを見てこれに手を

くだしたまへり 倚仗なきものは身をなんぢに委ぬ なんぢは昔しより孤子をたすけたまふ者なり 15 ねがはくは悪きものの臂ををりたまへあしきものの悪事を一つだにのこらぬまでに探究したまへ 16 エホバはいやとほながに王なり もろもろの國民はほろびて神の國より跡をたちたり 17 エホバよ汝はくるしむものの懇求をききたまへり その心をかたくしたまはん なんぢは耳をかたぶけてきき 18 孤子と虐げらる者とのために審判をなし地につける人にふたたび恐嚇をもちひざらしめ給はん

11 われエホバに依頼めり なんぢら何ぞわが靈魂にむかひて鳥のごとくなんぢの山にのがれよといふや
2 視よあしきものは暗處にかくれ心なほきものを射んとて弓をはり絃に矢をつがふ **3** 基みなやぶれたらんには義者なにをなさんや **4** エホバはその聖宮にいます エホバの寶座は天にありその目はひとのこを鑿その眼瞼はかれらをこころみたまふ **5** エホバは義者をこころむ そのみこころは悪きものと強暴をこのむ者とをにくみ **6** 羂をあしきものうへに降したまはん火と硫磺ともゆる風とはかれらの酒杯にうくべきものなり **7** エホバはただしき者にして義きことを愛したまへばなり 直きものはその聖顔をあふぎみん

12 ああエホバよ助けたまへ そは神をうやまふ人はたえ誠あるものは人の子のなかより消失るなり **2** 人はみな虚偽をもてその隣とあひかたり滑なるくちびると貳心をもてものいふ **3** エホバはすべての滑なるくちびると大なる言をかたる舌とをほろぼし給はん **4** かれらはいふわれら舌をもて勝をえん この口唇はわがものなり誰かわれらに主たらんやと **5** エホバ

のたまはく 苦しむもの掠められ貧しきもの歎くがゆ
ゑに我いま起てこれをその慕ひもとむる平安におか
ん 6 エホバの言はきよきことばなり 地にまうけたる
爐にてねり七次きよめたる白銀のごとし 7 エホバよ
汝はかれらをまもり之をたすけてとこしへにこの類
より免れしめたまはん 8 人の子のなかに穢しきこと
の崇めらるるときは悪者ここやかしこにあるくなり

13 ああエホバよ かくて幾何時をへたまふや 汝とこ
しへに我をわすれたまふや 聖顔をかくしていくその
ときを歴たまふや 2 われ心のうちに終日かなしみを
いだき 籌畫をたましひに用ひて幾何時をふべきか わ
が仇はわがうへに崇められて幾何時をふべきか 3 わ
が神エホバよ 我をかへりみて答をなしたまへ わが
目をあきらかにしたまへ 恐らくはわれ死の睡につ
かん 4 おそらくはわが仇いはん 我かれに勝りとおそ
らくはわが敵わがうごかさるるによりて喜ばん 5 さ
れど我はなんぢの憐憫によりたのみ わが心はなん
ぢの救によりてよろこばん 6 エホバはゆたかに我を
あしらひたまひたれば われエホバに對ひてうたはん

14 愚なるものは心のうちに神なしといへり かれ
らは腐れたり かれらは憎むべき事をなせり 善をお
こなふ者なし 2 エホバ天より人の子をのぞみみて
悟るもの神をたづぬる者ありやと見たまひしに 3
みな逆きいでてことごとく腐れたり 善をなすもの
なし一人だになし 4 不義をおこなふ者はみな智覺
なきか かれらは物くふごとくわが民をくらひまた
エホバをよぶことをせざるなり 5 視よかかる時か
れらは大におそれたり 神はただしきものの類のな
かに在せばなり 6 なんぢらは苦しめるものの謀略

をあなどり辱かしむされどエホバはその避所なり
7ねがはくはシオンよりイスラエルの救のいでんこ
とを エホバその民のとらはれたるを返したまふと
きヤコブはよろこびイスラエルは樂まん

15 エホバよなんぢの帷幄のうちにやどらん者はた
れぞ なんぢの聖山にすまはんものは誰ぞ 2直くあゆ
み義をおこなひ そのところに眞實をいふものぞその
人なる 3かかる人は舌をもてそしらず その友をそこ
なはず またその隣をはぢしむる言をあげもちひず 4
悪にしづめるものを見ていとひかるしめ エホバをお
そるものをたふとび 誓ひしことはおのれに禍害と
なるも變ることなし 5貨をかして過たる利をむさぼ
らず 賄賂をいれて無辜をそこなはざるなり 斯ること
どもを行ふものは永遠にうごかさるることなかるべ
し

16 神よねがはくは我を護りたまへ 我なんぢに依頼
む 2われエホバにいへらくなんぢはわが主なり なん
ぢのほかになんぢが福祉はなしと 3地にある聖徒はわが
極めてよろこぶ勝れしものなり 4 エホバにかへて他
神をとるものの悲哀はいやまさん 我かれらがささ
ぐる血の御酒をそそがず その名を口にとふること
をせし 5 エホバはわが嗣業またわが酒杯にうくべ
き有なり なんぢはわが所領をまもりたまはん 6 準繩
はわがために楽しき地におちたり 宜われよき嗣業
をえたるかな 7 われは訓諭をさづけたまふエホバを
ほめまつらん 夜はわが心われををしふ 8 われ常にエ
ホバをわが前におけり エホバわが右にいませばわ
れ動かさるることなかるべし 9 このゆゑにわが心は
たのしみ わが榮はよろこぶ わが身もまた平安にをら

ん 10 そは汝わがたましひを陰府にすておきたまはず
なんぢの聖者を墓のなかに朽しめたまはざる可
ればなり (Sheol h7585) 11 なんぢ生命の道をわれに示し
たまはん なんぢの前には充足るよろこびあり なんぢ
の右にはもろもろの快樂とこしへにあり

17 ああエホバよ公義をききたまへわが哭聲にみこ
ころをとめたまへ いつはりなき口唇よりいづる我が
いのりに耳をかたぶけたまへ 2 ねがはくはわが宣告
みまへよりいでてなんぢの目公平をみたまはんこと
を 3 なんぢわが心をこころみ また夜われにのぞみた
まへり 斯てわれを糺したまへど我になにの悪念ある
をも見出たまはざりき わが口はつみを犯すことな
からん 4 人の行爲のことをいはば我なんぢのくちびる
の言によりて暴るものの途をさけたり 5 わが歩はか
たくなんぢの途にたちわが足はよろめくことなかり
き 6 神よなんぢ我にこたへたまふ 我なんぢをよべり
ねがはくは汝の耳をかたぶけてわが陳るところをき
きたまへ 7 なんぢに依頼むものを右手をもて仇する
ものより救ひたまふ者よ ねがはくはなんぢの妙なる
仁慈をあらはしたまへ 8 願くはわれを瞳のごとくに
まもり汝のつばさの蔭にかくし 9 我をなやむるあし
き者また我をかこみてわが命をそこなはんとする仇
よりのがれしめ給へ 10 かれらはおのが心をふさぎ
その口をもて誇かにもいへり 11 いづこにまれ往と
ころにてわれらを打圍み われらを地にたふさんと目
をとむ 12 かれは抓裂んといらだつ獅のごとく隠やか
なるところに潜みまつ壯獅のごとし 13 エホバよ起た
まへ ねがはくはかれに立對ひてこれをたふし御劍を
もて悪きものよりわが靈魂をすくひたまへ 14 エホバ

よ手をもて人より我をたすけいだしたまへ おのがう
くべき有をこの世にてうけ 汝のたからにてその腹を
みたさる世人より我をたすけいだし給へ かれらは
おほくの子にあきたり その富ををさなごに遺す 15
されどわれは義にありて聖顔をみ目さむるとき容光
をもて飽足ることをえん

18 エホバわれの力よ われ切になんぢを愛しむ 2 エ
ホバはわが巖わが城われをすくふ者わがよりたの
む神わが堅固なるいはほわが盾わがすくひの角わ
がたかき櫓なり 3 われ讃稱ふべきエホバをよびて仇
人よりすくはるることをえん 4 死のつな我をめぐり
悪のみなざる流われをおそれしめたり 5 陰間のなは
我をかこみ死のわな我にたちむかへり (Sheol h7585) 6
われ窮苦のうちにありてエホバをよび又わが神にさ
げびたり エホバはその宮よりわが聲をききたまふ そ
の前にてわがよびし聲はその耳にいれり 7 このとき
エホバ怒りたまひたれば地はふるひうごき山の基は
ゆるぎうごきたり 8 烟その鼻よりたち火その口より
いでてやきつくし炭はこれがために燃あがれり 9 エ
ホバは天をたれて臨りたまふ その足の下はくらきこ
と甚だし 10 かくてケルブに乗りてとび風のつばさに
て翔り 11 闇をおほひとなし水のくらきとそらの密雲
とをそのまはりの幕となしたまへり 12 そのみまへの
光輝よりくろくもをへて雹ともえたる炭とふりきた
れり 13 エホバは天に雷鳴をとどろかせたまへり 至
上者のこゑいでて雹ともえたる炭とふりきたり 14 エ
ホバ矢をとばせてかれらを打ちらし數しげき電光を
はなちてかれらをうち敗りたまへり 15 エホバよ斯る
ときになんぢの叱咤となんぢの鼻のいぶきとにより

て水の底みえ地の基あらはれいでたり 16 エホバはた
かきより手をのべ我をとりて大水よりひきあげ 17 わ
がつよき仇とわれを憎むものとより我をたすけいだ
したまへり かれらは我にまさりて最強かりき 18 か
れらはわが災害の日にせまりきたれり 然どエホバは
わが支柱となりたまひき 19 エホバはわれを悦びたま
ふがゆゑにわれをたづさへ廣處にだして助けたまへ
り 20 エホバはわが正義にしたがひて恩賜をたまひ
わが手のきよきにしたがひて報賞をたれたまへり 21
われエホバの道をまもり悪をなしてわが神よりはな
れしことなければなり 22 そのすべての審判はわがま
へにありて われその律法をすてしことなければなり
23 われ神にむかひて缺るところなく己をまもりて不
義をはなれたり 24 この故にエホバはわがただしきと
その目前にわが手のきよきとにしたがひて我にむく
いをなし給へり 25 なんぢ憐憫あるものには憐みある
ものとなり完全ものには全きものとなり 26 きよきも
のには潔きものとなり僻むものにはひがむ者となり
たまふ 27 そは汝くるしめる民をすくひたまへど高ぶ
る目をひくくしたまふ可ればなり 28 なんぢわが燈火
をともし給ふべければなり わが神エホバわが暗をて
らしたまはん 29 我なんぢによりて軍の中をはせとほ
りわが神によりて垣ををどりこゆ 30 神はしもその
途またくエホバの言はきよし エホバはすべて依頼む
ものの盾なり 31 そはエホバのほかには神はたれぞや
われらの神のほかには巖はたれぞや 32 神はちからをわ
れに帶しめ わが途を全きものとなしたまふ 33 神は
わが足を塵のあしのごとくし我をわが高處にたたせ
たまふ 34 神はわが手をたたかひにならはせてわが臂

に銅弓をひくことを得しめたまふ 35 又なんぢの救の盾をわれにあたへたまへり なんぢの右手われをささへなんぢの謙卑われを大ならしめたまへり 36 なんぢわが歩むところを寛濶ならしめたまひたれば わが足ふるはざりき 37 われ仇をおひてこれに追及かれらのほろぶるまでは歸ることをせじ 38 われかれらを撃てたつことを得ざらしめん かれらはわが足の下にたふるべし 39 そはなんぢ戦争のために力をわれに帯しめわれにさからひておこりたつ者をわが下にかがませたまひたればなり 40 我をにくむ者をわが滅しえんがために汝またわが仇の背をわれにむけしめ給へり 41 かれら叫びたれども救ふものなく エホバに對ひてさげびたれども答へたまはざりき 42 我かれらを風のまへの塵のごとくに搗碎き ちまたの坭のごとくに打棄たり 43 なんぢわれを民のあらそひより助けいだし我をたててもろもろの國の長となしたまへり わがしらざる民われにつかへん 44 かれらわが事をききて立刻われにしたがひ異邦人はきたりて佞りつかへん 45 ことくにびとは衰へてその城よりをののきいでん 46 エホバは活ていませり わが磐はほむべきかな わがすくひの神はあがむべきかな 47 わがために讎をむくい異邦人をわれに服はせたまふはこの神なり 48 神はわれを仇よりすくひたまふ實になんぢは我にさからひて起りたつ者のうへに我をあげ あらぶる人より我をたすけいだし給ふ 49 この故にエホバよ われもろもろの國人のなかにてなんぢに感謝し なんぢの名をほめうたはん 50 エホバはおほいなる救をその王にあたへその受膏者ダビデとその裔とに世々かぎりなく憐憫をたれたまふ

19 もろもろの天は神のえいくわうをあらはし 穹
蒼はその手のわざをしめす **2** この日ことばをか
の日につたへこのよ知識をかの夜におくる **3** 語
らずいはずその聲きこえざるに **4** そのひびきは
全地にあまねく そのことばは地のはてにまでおよ
ぶ 神はかしこに帷幄を日のためにまうけたまへり
5 日は新婿がいはひの殿をいづるごとく勇士がきそ
ひはしるをよろこぶに似たり **6** そのいでたつや天の
涯よりし その運びゆくや天のはてにいたる 物として
その和煦をかうぶらざるはなし **7** エホバの法はまた
くして靈魂をいきかへらしめ エホバの證詞はかた
くして愚なるものを智からしむ **8** エホバの訓諭はな
ほくして心をよろこばしめ エホバの誠命はきよく
して眼をあきらかならしむ **9** エホバを惶みおそるる
道はきよくして世々にたゆることなく エホバのさ
ばきは眞實にしてことごとく正し **10** これを黄金にく
らぶるもおほくの純精金にくらぶるも 彌増りてし
たふべく これを蜜にくらぶるも蜂のすの滴瀝にく
らぶるもいやまさりて甘し **11** なんぢの僕はこれらに
よりにて儆戒をうく これらをまもらば大なる報賞あ
らん **12** たれかおのれの過失をしりえんや ねがはく
は我をかくれたる愆より解放ちたまへ **13** 願くはなん
ぢの僕をひきとめて故意なる罪ををかさしめず そ
れをわが主たらしめ給ふなかれ さればわれ玷なき
ものとなりて大なる愆をまぬかるるをえん **14** エホバ
わが磐わが贖主よ わがくちの言わがこころの思念
なんぢのまへに悦ばるることを得しめたまへ

20 ねがはくはエホバなやみの日になんぢにこたへ
ヤユブのかみの名なんぢを高にあげ **2** 聖所より援助

をなんぢにおくりシオンより能力をなんぢにあたへ
3 汝のもろもろの献物をみこころにとめ なんぢの燔
祭をうけたまはんことを (セラ) 4 ねがはくはなんぢ
がこころの願望をゆるし なんぢの謀略をことごとく
遂しめたまはんことを 5 我儕なんぢの救によりて歓
びうたひ われらの神の名によりて旗をたてん ねがは
くはエホバ汝のもろもろの求をとげしめたまはんこ
とを 6 われ今エホバその受膏者をすくひたまふを知
る エホバそのきよき天より右手なるすくひの力にて
かれに應へたまはん 7 あるひは車をたのみあるひは
馬をたのみとする者あり されどわれらはわが神エホ
バの名をとなへん 8 かれらは屈みまた仆るわれらは
起てかたくたてり 9 エホバよ王をすくひたまへ われ
らがよぶとき應へたまへ

21 エホバよ王はなんぢの力によりてたのしみ汝の
すくひによりて奈何におほいなる歡喜をなさん 2 な
んぢ彼がこころの願望をゆるし そのくちびるの求を
いなみ給はざりき (セラ) 3 そはよきたまものの恵を
もてかれを迎へ まじりなきこがねの冕弁をもてかれ
の首にいただかせ給ひたり 4 かれ生命をもとめしに
汝これをあたへてその齡の日を世々かぎりなからし
め給へり 5 なんぢの救によりてその榮光おほいなり
なんぢは尊貴と稜威とをかれに衣せたまふ 6 そは之
をとこしへに福ひなるものとなし聖顔のまへの歡喜
をもて樂しませたまへばなり 7 王はエホバに依頼み
いとたかき者のいつくしみを蒙るがゆゑに動かさる
ることなからん 8 なんぢの手はそのもろもろの仇を
たづねいだし 汝のみぎの手はおのれを憎むものを探
ねいだすべし 9 なんぢ怒るときは彼等をもゆる爐の

ごとくにせんエホバはげしき怒によりてかれらを呑
たまはん 火はかれらを食つくさん 10 汝かれらの裔
を地よりほろぼし かれらの種を人の子のなかよりほ
ろぼさん 11 かれらは汝にむかひて悪事をくはだて遂
がたき謀略をおもひまはせばなり 12 汝かれらをして
背をむけしめ その面にむかひて弓絃をひかん 13 エ
ホバよ能力をあらはしてみづからを高くしたまへ 我
儕はなんぢの稜威をうたひ且ほめたたへん

22 わが神わが神なんぞ我をすてたまふや 何なれば
遠くはなれて我をすくはず わが歎きのこゑをきき給
はざるか 2 ああわが神われ晝よばはれども汝こたへ
たまはず 夜よばはれどもわれ平安をえず 3 然はあれ
イスラエルの讚美のなかに住たまふものよ汝はきよ
し 4 われらの列祖はなんぢに依頼めり かれら依頼み
たればこれを助けたまへり 5 かれら汝をよびて援を
え汝によりたのみて恥をおへることなかりき 6 然は
あれどわれは蟲にして人にあらず 世にそしられ民に
いやしめらる 7 すべてわれを見るものはわれをあざ
みわらひ 口唇をそらし首をふりていふ 8 かれはエホ
バによりたのめりエホバ助くべし エホバかれを悦び
たまふが故にたすくべしと 9 されど汝はわれを胎内
よりいだし給へるものなり わが母のふところにあり
しとき既になんぢに依頼ましめたまへり 10 我うまれ
いでしより汝にゆだねられたり わが母われを生しと
きより汝はわが神なり 11 われに遠ざかりたまふなか
れ 患難ちかづき又すくふものなければなり 12 おほ
くの牡牛われをめぐりバサンの力つよき牡牛われを
かこめり 13 かれらは口をあけて我にむかひ物をかき
さき吼うだく獅のごとし 14 われ水のごとくそそぎい

だされ わがもろもろの骨ははづれ わが心は蟬のごと
くなりて腹のうちに鎔たり 15 わが力はかわきて陶器
のくだけのごとく わが舌は齧にひたつくり なんぢわ
れを死の塵にふさせたまへり 16 そは犬われをめぐり
悪きものの群われをかこみてわが手およびわが足を
さしつらぬけり 17 わが骨はことごとく數ふるばかり
になりぬ 悪きものの目をとめて我をみる 18 かれら
たがひにわが衣をわかち我がしたぎを鬪にす 19 エホ
バよ遠くはなれ居たまふなかれ わが力よねがはくは
速きたりてわれを授けたまへ 20 わがたましひを劍よ
り助けいだし わが生命を犬のたけいきほひより脱
れしめたまへ 21 われを獅の口また野牛のつより救
ひいだしたまへ なんぢ我にこたへたまへり 22 われ
なんぢの名をわが兄弟にのべつたへ なんぢを會のな
かにて讃たたへん 23 エホバを懼るものよエホバを
ほめたたへよ ヤコブのもろもろの裔よエホバをあが
めよ イスラエルのもろもろのすゑよエホバを畏め 24
エホバはなやむものの辛苦をかるしめ棄たまはず こ
れに聖顔をおほふことなくしてその叫ぶときにきき
たまへばなり 25 大なる會のなかにてわが汝をほめた
たふるは汝よりいづるなり わが誓ひしことはエホバ
をおそる者のまへにてことごとく償はん 26 謙遜者
はくらひて飽ことをえ エホバをたづねもとむるもの
はエホバをほめたたへん 願くはなんぢらの心とこし
へに生んことを 27 地のはては皆おもひいだしてエホ
バに歸りもろもろの國の族はみな前にふしをがむべ
し 28 國はエホバのものなればなり エホバはもろも
ろの國人をすべをさめたまふ 29 地のこえたるものは
皆くらひてエホバををがみ塵にくだるものと己がた

ましひを存ふる事能はざるものと皆そのみまへに
拝跪かん 30 たみの裔のうちにエホバにつかる者あら
ん 主のことは代々にかたりつたへらるべし 31 かれ
ら來りて此はエホバの行爲なりとてその義を後にう
まるる民にのべつたへん

23 エホバは我が牧者なり われ乏しきことあらじ 2
エホバは我をみどりの野にふさせいこひの水濱に
ともなひたまふ 3 エホバはわが靈魂をいかし名のゆ
ゑをもて我をただしき路にみちびき給ふ 4 たとひわ
れ死のかげの谷をあゆむとも禍害をおそれじ なん
ぢ我とともに在せばなり なんぢの笞なんぢの杖わ
れを慰む 5 なんぢわが仇のまへに我がために筵をま
うけ わが首にあぶらをそそぎたまふ わが酒杯はあふ
るるなり 6 わが世にあらん限りはかならず恩恵と憐
憫とわれにそひきたらん 我はとこしへにエホバの
宮にすまん

24 地とそれに充るもの世界とその中にすむもの
は皆エホバのものなり 2 エホバはそのもとゐるを大海
のうへに置これを大川のうへに定めたまへり 3 エホ
バの山にのぼるべきものは誰ぞ その聖所にたつべき
者はたれぞ 4 手きよく心いさぎよき者そのたましひ
虚きことを仰ぎのぞまず偽りの誓をせざるものぞ そ
の人なる 5 かかる人はエホバより福祉をうけ そのす
くひの神より義をうけん 6 斯のごとき者は神をした
ふものの族類なり ヤコブの神よなんぢの聖顔をもと
むる者なり (セラ) 7 門よなんぢらの首をあげよ とこ
しへの戸よあがれ 榮光の王いりたまはん 8 えいくわ
うの王はたれなるか ちからをもちたまふ猛きエホバ
なり 戦闘にたけきエホバなり 9 門よなんぢらの首を

あげよ とこしへの戸よあがれ 栄光の王いりたまはん
10 この栄光の王はたれなるか 萬軍のエホバ是ぞえい
くわうの王なる (セラ)

25 ああエホバよ わがたましひは汝をあふぎ望む **2**
わが神よわれなんぢに依頼めり ねがはくはわれに愧
をおはしめたまふなかれ わが仇のわれに勝誇ること
なからしめたまへ **3** 實になんぢを俟望むものははぢ
しめられず 故なくして信をうしなふものは愧をう
けん **4** エホバよなんぢの大路をわれにしめし なんぢ
の徑をわれにをしへたまへ **5** 我をなんぢの眞理にみ
ちびき我ををしへたまへ 汝はわがすくひの神なり わ
れ終日なんぢを俟望む **6** なんぢのあはれみと仁慈と
はいにしへより絶ずあり エホバよこれを思ひいだ
したまへ **7** わがわかきときの罪とわが愆とはおもひ
いでたまふなかれ エホバよ汝のめぐみの故になん
ぢの仁慈にしたがひて我をおもひいでたまへ **8** エホ
バはめぐみ深くして直くましませり 斯るがゆゑに
道をつみびとにしへ **9** 謙だるものを正義にみちび
きたまはん その道をへりくだる者にしめしたまは
ん **10** エホバのもろもろの道はそのけいやくと證詞と
をまもるものには仁慈なり眞理なり **11** わが不義はお
ほいなり エホバよ名のために之をゆるしたまへ **12**
エホバをおそるる者はたれなるか 之にそのえらぶ
べき道をしめしたまはん **13** かかる人のたましひは平
安にすまひ その裔はくにをつぐべし **14** エホバの親
愛はエホバをおそるる者とともにあり エホバはそ
の契約をかれらに示したまはん **15** わが目はつねにエ
ホバにむかふ エホバわがあしを網よりとりいだし
たまふ可ればなり **16** ねがはくは歸りきたりて我を

あはれみたまへ われ獨わびしくまた苦しみをるなり 17 願くはわが心のうれへをゆるめ我をわざはひより脱かれしめたまへ 18 わが患難わが辛苦をかへりみ わがすべての罪をゆるしたまへ 19 わが仇をみたまへ かれらの數はおほし情なき憾をもてわれをにくめり 20 わがたましひをまもり我をたすけたまへ われに愧をおはしめたまふなかれ 我なんぢに依頼めばなり 21 われなんぢを挨拶むねがはくは完全と正直とわれをまもれかし 22 神よすべての憂よりイスラエルを贖ひいだしたまへ

26 エホバよねがはくはわれを鞠きたまへわれわが完全によりてあゆみたり 然のみならず我たゆたはず エホバに依頼めり 2 エホバよわれを糺した試みたまへ わが腎ところとを鍊きよめたまへ 3 そは汝のいつくしみわが眼前にあり 我はなんぢの眞理によりてあゆめり 4 われは虚しき人とともに座らざりき 惡をいつはりかざる者とともにはゆかじ 5 惡をなすものの會をにくみ惡者とともすわることをせじ 6 われ手をあらひて罪なきをあらはす エホバよ斯てなんぢの祭壇をめぐり 7 感謝のこゑを聞えしめ すべてなんぢの奇しき事をのべつたへん 8 エホバよ我なんぢのまします家となんぢが榮光のとどまる處とをいつくしむ 9 願くはわがたましひを罪人とともに わが生命を血をながす者ととも取收めたまふなかれ 10 かかる人の手にはあしきくはだてあり その右の手は賄賂にてみつ 11 されどわれはわが完全によりてあゆまん 願くはわれをあがなひ我をあはれみたまへ 12 わがあしは平坦なるところにたつ われもろもろの會のなかにてエホバを讃まつらん

27 エホバはわが光わが救なり われ誰をかおそれん
エホバはわが生命のちからなり わが懼るべきものは
たれぞや **2** われの敵われの仇なるあしきもの襲ひき
たりてわが肉をくらはんとせしが蹶きかつ仆れたり
3 縦ひいくさびと營をつらねて我をせむるともわが心
おそれじ たとひ戦ひおこりて我をせむるとも我にな
ほ恃あり **4** われ一事をエホバにこへり我これをもと
む われエホバの美しきを仰ぎその宮をみんながために
わが世にあらん限りはエホバの家にするところ願
ふなれ **5** エホバはなやみの日にその行宮のうちに我
をひそませその幕屋のおくにわれをかくし巖のうへ
に我をたかく置たまふべければなり **6** 今わが首はわ
れをめぐれる仇のうへに高くあげらるべし この故に
われエホバのまくやにて歡喜のそなへものを献ん わ
れうたひてエホバをほめたたへん **7** わが聲をあげて
さけぶときエホバよきき給へ また憐みてわれに應へ
たまへ **8** なんぢらわが面をたづねもとめよと(斯る聖
言のありしとき)わが心なんぢにむかひてエホバよ我
なんぢの聖顔をたづねんといへり **9** ねがはくは聖顔
をかくしたまふなかれ 怒りてなんぢの僕をとほざけ
たまふなかれ汝はわれの助なり 噫わがすくひの神よ
われをおひいだし我をすてたまふなかれ **10** わが父母
われをすつるともエホバわれを迎へたまはん **11** エホ
バよなんぢの途をわれにをしへ わが仇のゆゑに我を
たひらかなる途にみちびきたまへ **12** いつはりの證を
なすもの暴厲を吐もの我にさからひて起りたてり 願
くはわれを仇にわたしてその心のままに爲しめたま
ふなかれ **13** われもしエホバの恩寵をいけるものの地
にて見るの侍なからましかば奈何ぞや **14** エホバを俟

望ぞめ雄々しかれ汝のこころを堅うせよ 必ずやエホバをまちのぞめ

28 ああエホバよわれ汝をよばん わが磐よねがはくは我にむかひて暗唾となりたまふなかれ なんぢ黙したまはば恐らくはわれ墓にいるものとひとしからん
2 われ汝にむかひてさけび聖所の奥にむかひて手をあぐるときわが懇求のこゑをききたまへ **3** あしき人また邪曲をおこなふ者ととも我をとらへてひきゆき給ふなかれ かれらはその隣にやはらぎをかたれども心には残害をいだけり **4** その事にしたがひそのなす悪にしたがひて彼等にあたへ その手の行爲にしたがひて與へこれにその受べきものを報いたまへ **5** かれらはエホバのもろもろの事とその手のなしわざとをかへりみず この故にエホバかれらを毀ちて建たまふことなからん **6** エホバは讃べきかな わが祈のこゑをききたまひたり **7** エホバはわが力わが盾なり わがこころこれに依頼みたれば我たすけをえたり 然るゆゑにわが心いたくよろこぶ われ歌をもてほめまつらん
8 エホバはその民のちからなり その受膏者のすくひの城なり **9** なんぢの民をすくひなんぢの嗣業をさきはひ且これをやしなひ之をとこしなへに懐きたすけたまへ

29 なんぢら神の子らよ エホバに獻げまつれ榮と能とをエホバにささげまつれ **2** その名にふさはしき榮光をエホバにささげ奉れ きよき衣をつけてエホバを拝みまつれ **3** エホバのみこゑは水のうへにあり えいくわうの神は雷をとどろかせたまふ エホバは大水のうへにいませり **4** エホバの聲はちからあり エホバのみこゑは稜威あり **5** エホバのみこゑは香柏を

をりくたく エホバ、レバノンのかうはくを折くだ
きたまふ 6 これを犢のごとくをどらせレバノンとシ
リオンとをわかき野牛のごとくをどらせたまふ 7 エ
ホバのみこゑは火焰をわかつ 8 エホバのみこゑは野
をふるはせエホバはカデシの野をふるはせたまふ 9
エホバのみこゑは鹿に子をうませ また林木をはだ
かにす その宮にあるすべてのもの呼はりて榮光な
るかなといふ 10 エホバは洪水のうへに坐したまへり
エホバは寶座にぞして永遠に王なり 11 エホバはその
民にちからをあたへたまふ 平安をもてその民をさ
きはひたまはん

30 エホバよわれ汝をあがめん なんぢ我をおこして
わが仇のわがことによりて喜ぶをゆるし給はざれば
なり 2 わが神エホバよわれ汝によばはれば汝我をい
やしたまへり 3 エホバよ汝わがたましひを陰府より
あげ我をながらへしめて墓にくだらせたまはざりき
(Sheol h7585) 4 エホバの聖徒よ エホバをほめうたへ奉
れ きよき名に感謝せよ 5 その怒はただしばしにてそ
の恵はいのちとともにながし 夜はよもすがら泣かな
しむとも朝にはよろこびうたはん 6 われ安けかりし
ときに謂く とこしへに動かさるることなからんと 7
エホバよなんぢ恵をもてわが山をかたく立せたまひ
き 然はあれどなんぢ面をかくしたまひたれば我おち
まどひたり 8 エホバよわれ汝によばはれり 我ひたす
らエホバにねがへり 9 われ墓にくだらばわが血なに
の益あらん 塵はなんぢを讃たたへんや なんぢの眞理
をのべつたへんや 10 エホバよ聽たまへ われを憐み
たまへ エホバよ願くはわが助となりたまへ 11 なんぢ
踴躍をもてわが哀哭にかへわが匍服をとき歡喜をも

てわが帯としたまへり 12 われ榮をもてほめうたひつ
つ黙すことなからんためなり わが神エホバよわれ永
遠になんぢに感謝せん

31 エホバよわれ汝によりたのむ 願くはいづれの日
までも愧をおはしめたまふなかれ なんぢの義をもて
われを助けたまへ 2 なんぢの耳をかたぶけて速かに
われをすくひたまへ 願くはわがためにかたき磐とな
り我をすくふ保障の家となりたまへ 3 なんぢはわが
磐わが城なり されば名のゆゑをもてわれを引われを
導きたまへ 4 なんぢ我をかれらが密かにまうけたる
網よりひきいだしたまへ なんぢはわが保砦なり 5 わ
れ靈魂をなんぢの手にゆだね エホバまことの神よな
んぢはわれを贖ひたまへり 6 われはいつはりの虚き
ことに心をよする者をにくむ われは獨エホバにより
たのむなり 7 我はなんぢの憐憫をよろこびたのしま
ん なんぢわが艱難をかへりみ わがたましひの禍害を
しり 8 われを仇の手にとぢこめしめたまはず わが足
をひろきところに立たまへばなり 9 われ迫りくるし
めり エホバよ我をあはれみたまへ わが目はうれひに
よりておとろふ 靈魂も身もまた衰へぬ 10 わが生命
はかなしみによりて消えゆき わが年華はなげきによ
りて消ゆけばなり わが力はわが不義によりておとろ
へわが骨はかれはてたり 11 われもろもろの仇ゆゑに
そしらる わが隣にはわけて甚だし相識ものには忌憚
られ衢にてわれを見るもの避てのがる 12 われは死た
るもののごとく忘れて人のこころに置れず われは
やぶれたる器もののごとくなれり 13 そは我おほくの
人のそしりをきい到るところに懼あり かれら我にさ
からひて互にはかりしが わが生命をさへとらんと企

てたり **14** されどエホバよわれ汝によりたのめり また汝はわが神なりといへり **15** わが時はすべてなんぢの手にあり ねがはくはわれを仇の手よりたすけ われに追迫るものより助けいだしたまへ **16** なんぢの僕のうへに聖顔をかがやかせ なんぢの仁慈をもて我をすくひたまへ **17** エホバよわれに愧をおはしめ給ふなかれ そは我なんぢをよべばなり 願くはあしきものに恥をうけしめ陰府にありて口をつぐましめ給へ (Sheol h7585) **18** 傲慢と軽侮とをもて義きものにむかひ妄りにののしるいつはりの口唇をつぐましめたまへ **19** 汝をおそる者のためにたくはへ なんぢに依頼むもののために人の子のまへにてほどこしたまへる汝のいつくしみは大なるかな **20** 汝かれらを御前なるひそかなる所にかくして人の謀略よりまぬかれしめ また行宮のうちにひそませて舌のあらそひをさけしめたまはん **21** 讚べきかなエホバは堅固なる城のなかにて奇しまるばかりの仁慈をわれに顯したまへり **22** われ驚きあわてていへらく なんぢの目のまへより絶れたり と 然どわれ汝によびもとめしとき汝わがねがひの聲をききたまへり **23** なんぢらもろもろの聖徒よエホバをいつくしめ エホバは眞實あるものをまもり傲慢者におもく報をほどこしたまふ **24** すべてエホバを俟望むものよ雄々しかれ なんぢら心をかたうせよ

32 その愆をゆるされその罪をおほはれしものは福ひなり **2** 不義をエホバに負せられざるもの心にいつはりなき者はさいはひなり **3** 我いひあらはさざりしときは終日かなしみさけびたるが故にわが骨ふるびおとろへたり **4** なんぢの手はよるも晝もわがうへにありて重し わが身の潤澤はかはりて夏の早のごとく

なれり（セラ）**5** 斯てわれなんぢの前にわが罪をあらはしわが不義をおほはざりき 我いへらくわが愆をエホバにいひあらはさんと 斯るときしも汝わがつみの邪曲をゆるしたまへり（セラ）**6** されば神をうやまふ者はなんぢに遇ことをうべき間になんぢに祈らん 大水あふれ流るるともかならずその身におよぼじ **7** 汝はわがかくるべき所なり なんぢ患難をふせぎて我をまもり救のうたをもて我をかこみたまはん（セラ）**8** われ汝ををしへ汝をあゆむべき途にみちびき わが目をなんぢに注てきとさん **9** 汝等わきまへなき馬のごとく驢馬のごとくなるなかれ かれらは鑣たづなのごとき具をもてひきとめずば近づききたることなし **10** 悪者はかなしみ多かれどエホバに依頼むものは憐憫にてかこまれん **11** ただしき者よエホバを喜びたのしめ 凡てこころの直きものよ喜びよばふべし

33 ただしき者よエホバによりてよろこべ 讚美はなほきものに適はしきなり **2** 琴をもてエホバに感謝せよ 十絃のこともてエホバをほめうたへ **3** あたらしき歌をエホバにむかひてうたひ 歡喜の聲をあげてたくみに琴をかきならせ **4** エホバのことばは直く そのすべて行ひたまふところ眞實なればなり **5** エホバは義と公平とをこのみたまふ その仁慈はあまねく地にみつ **6** もろもろの天はエホバのみことばによりて成り てんの萬軍はエホバの口の氣によりてつくられたり **7** エホバはうみの水をあつめてうづだかくし深淵を庫にをさめたまふ **8** 全地はエホバをおそれ世にすめるもろもろの人はエホバをおぢかしこむべし **9** そはエホバ言たまへば成り おほせたまへば立るがゆゑなり **10** エホバはもろもろの國のはかりごとを虚くし

もろもろの民のおもひを徒勞にしたまふ 11 エホバの謀略はとこしへに立ち そのみこころのおもひは世々にたつ 12 エホバをおのが神とする國はさいはひなり エホバ嗣業にせんとして撰びたまへるその民はさいはひなり 13 エホバ天よりうかがひてすべての人の子を見 14 その在すところより地にすむもろもろの人をみたまふ 15 エホバはすべてかれらの心をつくり その作ところをことごとく鑿みたまふ 16 王者いくさびと多をもて救をえず勇士ちから大なるをもて助をえざるなり 17 馬はすくひに益なく その大なるちからも人をたすくことなからん 18 視よエホバの目はエホバをおそるるもの並その憐憫をのぞむものうへにあり 19 此はかれらのたましひを死よりすくひ饑饉たるときにも世にながらへしめんがためなり 20 われらのたましひはエホバを侯望めり エホバはわれらの援われらの盾なり 21 われらはきよき名にりたのめり 斯てぞわれらの心はエホバにありてよろこばん 22 エホバよわれら汝をまちのぞめり これに循ひて憐憫をわれらのうへに垂たまへ

34 われつねにエホバを祝ひまつらんその頌詞はわが口にたえじ 2 わがたましひはエホバによりて誇らん 謙だるものは之をききてよろこばん 3 われとともにエホバを崇めよ われらともにその名をあげたたへん 4 われエホバを尋ねたればエホバわれにこたへ我をもろもろの畏懼よりたすけいだしたまへり 5 かれらエホバを仰ぎのぞみて光をかうぶれり かれらの面ははぢあからむことなし 6 この苦しむもの叫びたればエホバこれをきき そのすべての患難よりすくひいだしたまへり 7 エホバの使者はエホバをおそるる者

のまはりに營をつらねてこれを援く 8 なんぢらエホバの恩恵ふかきを嘗ひしれ エホバによりたのむ者はさいはひなり 9 エホバの聖徒よエホバを畏れよエホバをおそるるものには乏しきことなればなり 10 わかき獅はともしくして饑ることあり されどエホバをたづぬるものは嘉物にかくることあらじ 11 子よきたりて我にきけ われエホバを畏るべきことを汝等にをしへん 12 福祉をみんながために生命をしたひ存へんことをこのむ者はたれぞや 13 なんぢの舌をおさへて惡につかしめず なんぢの口唇をおさへて虚偽をいはざらしめよ 14 惡をはなれて善をおこなひ和睦をもとめて切にこのことを勉めよ 15 エホバの目はただしきものをかへりみ その耳はかれらの號呼にかたぶく 16 エホバの聖顔はあくをなす者にむかひてその跡を地より斷滅したまふ 17 義者さけびたればエホバ之をききてそのすべての患難よりたすけいだしたまへり 18 エホバは心のいたみかなしめる者にちかく在してたましひの悔顔れたるものをすくひたまふ 19 ただしきものは患難おほし されどエホバはみなその中よりたすけいだしたまふ 20 エホバはかれがすべての骨をまもりたまふ その一つだに折らるることなし 21 惡はあしきものをころさん 義人をにくむものは刑なはるべし 22 エホバはその僕等のたましひを贖ひたまふ エホバに依頼むものは一人だにつみなはるることなからん

35 エホバよねがはくは我にあらそふ者とあらそひ我とたたかふものと戦ひたまへ 2 干と大盾とをとりてわが援にたちいでたまへ 3 戟をぬきいだしたまひて我におひせまるものの途をふさぎ且わが靈魂にわれはなんぢの救なりといひたまへ 4 願くはわが靈魂

をたづぬるものの恥をえていやしめられ 我をそこな
はんと謀るものの退けられて惶てふためかんことを
5 ねがはくはかれらが風のまへなる糶糠のごとくなり
エホバの使者におひやられんことを 6 願くはかれら
の途をくらくし滑らかにしエホバの使者にかれらを
追ゆかしめたまはんことを 7 かれらは故なく我をと
らへんとて網をあなにふせ 故なくわが靈魂をそこな
はんとて阱をうがちたればなり 8 願くはかれらが思
ひよらぬ間にほろびきたり己がふせたる網にとらへ
られ自らその滅におちいらんことを 9 然ときわが靈
魂はエホバによりてよろこび その救をもて樂しまん
10 わがすべての骨はいはん エホバよ汝はくるしむも
のを之にまさりて力つよきものより並くるしむもの
貧しきものを掠めうばふ者よりたすけいだし給ふ 誰
かなんぢに比ふべき者あらんと 11 ころあしき證人
おこりてわが知ざること詰りとふ 12 かれらは悪を
もてわが善にむくい我がたましひを依仗なきものと
せり 13 然どわれかれらが病しときには僮服をつけ糧
をたちてわが靈魂をくるしめたり わが祈はふところ
にかへれり 14 わがかれに作ることはわが友わが兄弟
にことならず母の喪にありて痛哭がごとく哀しみう
なたれたり 15 然どかれらはわが倒れんとせしとき喜
びつどひわが知ざりしとき匪類あつまりきたりて我
をせめわれを裂てやめざりき 16 かれらは酒宴にて
穢きことをのぶる嘲笑者のごとく我にむかひて齒を
かみならせり 17 主よいたづらに見るのみにして幾何
時をへたまふや 願くはわがたましひの彼等にほろぼ
さるるを脱れしめ わが生命をわかき獅よりまぬかれ
しめたまへ 18 われ大なる會にありてなんぢに感謝し

おほくの民のなかにて汝をほめたたへん 19 虚偽をも
てわれに仇するもののわが故によろこぶことを容し
たまなかれ 故なくして我をにくむ者のたがひに胸せ
することなからしめたまへ 20 かれらは平安をかたら
ず あざむきの言をつくりまうけて國內におだやかに
すまふ者をそこなはんと謀る 21 然のみならず我にむ
かひて口をあけひろげ ああ視よや視よやわれらの眼
これをみたりといへり 22 エホバよ汝すでにこれを視
たまへり ねがはくは黙したまふなかれ主よわれに遠
ざかりたまふなかれ 23 わが神よわが主よ おきたま
へ醒たまへ ねがはくはわがために審判をなしわが訟
ををさめたまへ 24 わが神エホバよなんぢの義にした
がひて我をさばきたまへ わが事によりてかれらに歡
喜をえしめたまふなかれ 25 かれらにその心裡にて
ああこちよきかな觀よこれわが願ひしところなり
といはしめたまふなかれ 又われらかれを呑つくせり
といはしめたまふなかれ 26 願くはわが害なはるるを
喜ぶもの皆はぢて惶てふためき 我にむかひてはこり
かに高ぶるものの愧とはづかしめとを衣んことを 27
わが義をよみする者をばよろこび謳はしめ大なるか
なエホバその僕のさいはひを悦びたまふと恒にい
はしめたまへ 28 わが舌は終日なんぢの義となんぢの譽
とをかたらん

36 あしきものの愆はわが心のうちにかたりてその
目のまへに神をおそるるの畏あることなしといふ 2
かれはおのが邪曲のあらはるることなく憎まるること
なからんとて自からその目にて諂る 3 その口のこ
とばは邪曲と虚偽となり智をこぼみ善をおこなふこ
とを息たり 4 かつその寢床にてよこしまなる事をは

かりよからぬ途にたちとまりて悪をきはらず 5 エホバよなんぢの仁慈は天にあり なんぢの眞實は雲にまでおよぶ 6 汝のただしきは神の山のごとく なんぢの審判はおほいなる淵なり エホバよなんぢは人とけものとを護りたまふ 7 神よなんぢの仁慈はたふときかな 人の子はなんぢの翼の蔭にさけどころを得 8 なんぢの屋のゆたかなるによりてことごとく飽ことをえん なんぢはその歡樂のかはの水をかれらに飲しめたまはん 9 そはいのちの泉はなんぢに在り われらはなんぢの光によりて光をみん 10 ねがはくはなんぢを知るものにたえず憐憫をほどこし心なほき者にたえず正義をほどこしたまへ 11 たかぶるものの足われをふみ悪きものの手われを逐去ふをゆるし給ふなかれ 12 邪曲をおこなふ者はかしこに仆れたり かれら打伏られてまた起ことあたはざるべし

37 悪をなすものの故をもて心をなやめ 不義をおこなふ者にむかひて嫉をおこすなかれ 2 かれらはやがて草のごとくかりとられ青菜のごとく打萎るべければなり 3 エホバによりたのみて善をおこなへ この國にとどまり眞實をもて糧とせよ 4 エホバによりて歡喜をなせ エホバはなんぢが心のねがひを汝にあたへたまはん 5 なんぢの途をエホバにゆだねよ 彼によりたのまば之をなしとげ 6 光のごとくなんぢの義をあきらかにし午日のごとくなんぢの訟をあきらかにしたまはん 7 なんぢエホバのまへに口をつぐみ忍びてこれを俟望め おのが途をあゆみて榮るものの故をもてあしき謀略をとぐる人の故をもて心をなやむるなかれ 8 怒をやめ忿恚をすてよ 心をなやむるなかれ これ悪をおこなふ方にうつらん 9 そは悪をおこなふも

のは斷滅され エホバを俟望むものは國をつぐべければなり 10 あしきものは久しからずしてうせん なんぢ細密にその處をおもひみるともあることなからん 11 されど謙だるものは國をつぎ また平安のゆたかなるを樂まん 12 悪きものは義きものにさからはんとて謀略をめぐらし之にむかひて切齒す 13 主はあしきものを笑ひたまはん かれが日のきたるを見たまへばなり 14 あしきものは劍をぬき弓をはりて苦しむものと貧しきものとをたふし行ひなほきものを殺さんとせり 15 されどその劍はおのが胸をさしその弓はをらるべし 16 義人のもてるもののすくなきは多くの悪きものの豊かなるにまされり 17 そは悪きものの臂はをらるれどエホバは義きものを扶持たまへばなり 18 エホバは完全もののもろもろの日をしりたまふ かれらの嗣業はかぎりなく久しからん 19 かれらは禍害にあふとき愧をおはず饑饉の日にもあくことを得ん 20 あしき者ははろびエホバのあは牧場のさかえの枯るがごとくうせ烟のごとく消ゆかん 21 あしき者はものかりて償はず 義きものは恵ありて施しあたふ 22 神のことほぎたまふ人は國をつぎ 神ののろひたまふ人は斷滅さるべし 23 人のあゆみはエホバによりて定めらる そのゆく途をエホバよろこびたまへり 24 縦ひその人たふるることありとも全くうちふせらるることなし エホバかれが手をたすけ支へたまへばなり 25 われむかし年わかくして今おいたれど 義者のすてられ或はその裔の糧こひありくを見しことなし 26 ただしきものは終日めぐみありて貸あたふ その裔はさいはひなり 27 悪をはなれて善をなせ 然ばなんぢの住居とこしへならん 28 エホバは公平をこのみ その聖

徒をすてたまはざればなり かれらは永遠にまもりた
すけらるれど悪きもののすゑは斷滅さるべし 29 ただ
しきものは國をつぎ その中にすまひてとこしへに及
ばん 30 ただしきものの口は智慧をかたり その舌は
公平をのぶ 31 かれが神の法はそのところにあり そ
のあゆみは一步だにすべることあらじ 32 あしきもの
は義者をひそみうかがひて之をころさんとはかる 33
エホバは義者をあしきもの手にのこしおきたまは
ず 審判のときに罰ひたまふことなし 34 エホバを俟
望みてその途をまもれ さらば汝をあげて國をつがせ
たまはん なんぢ悪者のたちほろぼさるる時にこれを
みん 35 我あしきものの猛くしてはびこれるを見るに
生立たる地にさかえしげれる樹のごとし 36 然れども
かれは逝ゆけり 視よたちまちに無なりぬ われ之をた
づねしかど邁ことをえざりき 37 完人に目をそそぎ直
人をみよ 和平なる人には後あれど 38 罪ををかすも
のらは共にほろぼされ悪きものの後はかならず斷る
べければなり 39 ただしきものの救はエホバよりいづ
エホバはかれらが辛苦のときの保砦なり 40 エホバは
かれらを助け かれらを解脱ちたまふ エホバはかれら
を悪者よりときはなちて救ひたまふ かれらはエホバ
をその避所とすればなり

38 エホバよねがはくは忿恚をもて我をせめ はげ
しき怒をもて我をこらしめ給ふなかれ 2 なん
ぢの矢われにあたり なんぢの手わがうへを壓へた
り 3 なんぢの怒によりてわが肉には全きところ
なく わが罪によりてわが骨には健かなるところな
し 4 わが不義は首をすぎてたかく重荷のごとく負
がたければなり 5 われ愚なるによりてわが傷あし

き臭をはなちて腐れただれたり 6 われ折屈みてい
たくなげきうなたれたり われ終日かなしみありく
7 わが腰はことごとく焼るがごとく肉に全きところ
なければなり 8 我おとろへはて甚くきずつけられわ
が心のやすからざるによりて歎歎さけべり 9 ああ主
よわがすべての願望はなんぢの前にあり わが嘆息は
なんぢに隠ることなし 10 わが胸をどりわが力おと
ろへ わが眼のひかりも亦われをはなれたり 11 わが友
わが親めるものはわが瘻をみて遥にたち わが隣もま
た遠かりてたてり 12 わが生命をたづぬるものは罽を
まうけ我をそこなはんとするものは悪言をいひま
た終日たばかりを謀る 13 然はあれどわれは聾者
のごとくきかず われは口をひらかぬ啞者のごとし
14 如此われはきかざる人のごとく口にことあげせ
ぬ人のごときなり 15 エホバよ我なんぢを俟望め
り 主わが神よなんぢかならず答へたまふべければ
なり 16 われ曩にいふ おそらくはかれらわが事によ
りて喜び わが足のすべらんととき我にむかひて誇り
かにたかぶらんと 17 われ仆るるばかりになりぬ わ
が悲哀はたえずわが前にあり 18 そは我みづから不
義をいひあらはし わが罪のためになしめばなり
19 わが仇はいきはたらきてたけく故なくして我を
うらむるものおほし 20 悪をもて善にむくゆるものは
われ善事にしたがふが故にわが仇となれり 21 エホバ
よねがはくは我をはなれたたまふなかれ わが神よ
われに遠かりたまふなかれ 22 主わがすくひよ速きた
りて我をたすけたまへ

39 われ曩にいへり われ舌をもて罪ををかさざらん
ために我すべての途をつつしみ悪者のわがまへに在

るあひだはわが口に衝をかけんと 2 われ黙して唾となり善言すらことばにいださず わが憂なほおこれり 3 わが心わがうちに熱し おもひつづくるほどに火もえぬればわれ舌をもていへらく 4 エホバよ願くはわが終とわが日の数のいくばくを知しめたまへ わが無常をしらしめたまへ 5 観よなんぢわがすべての日を一掌にすぎさらしめたまふ わがかいのち主前にてはなきにことならず 實にすべての人は皆その盛時だにもむなしからざるはなし(セラ) 6 人の世にあるは影にことならず その思ひなやむことはむなしからざるなし その積蓄ふるものはたが手にをさまるをしらず 7 主よわれ今なにをかまたん わが望はなんぢにあり 8 ねがはくは我ぞすべて愆より助けいだしたまへ 愚なるものに誹らるることなからしめたまへ 9 われは黙して口をひらかず 此はなんぢの成したまふ者なればなり 10 願くはなんぢの責をわれよりはなちたまへ 我なんぢの手にうちこらさるるによりて亡ぶるばかりになりぬ 11 なんぢ罪をせめて人をこらしその慕ひよろこぶところのものを蠹のくらふがごとく消うせしめたまふ 實にもろもろの人はむなしからざるなし(セラ) 12 ああエホバよねがはくはわが祈をきき わが號呼に耳をかたぶけたまへ わが涙をみて黙したまふなかれ われはなんぢに寄る旅客すべてわが列祖のごとく宿れるものなり 13 我ここを去てうせざる先になんぢ面をそむけてわれを爽快ならしめたまへ

40 我たへしのびてエホバを俟望みたり エホバ我にむかひてわが號呼をききたまへり 2 また我をほろびの阱より泥のなかよりとりいだしてわが足を磐のうへにおきわが歩をかたくしたまへり 3 エホバはあた

らしき歌をわが口にいれたまへり此はわれらの神に
ささぐる讚美なり おほくの人はこの見ておそれか
つエホバによりたのまん 4 エホバをおのが頼となし
高るものによらず虚偽にかたぶく者によらざる人は
さいはひなり 5 わが神エホバよなんぢの作たまへる
奇しき迹と われらにむかふ念とは甚おほくして汝の
みまへにつらねいふことあたはず 我これをいひのべ
んとすれどその數かぞふることあたはず 6 なんぢ犠
牲と祭物とをよろこびたまはず汝わが耳をひらきた
まへり なんぢ燔祭と罪祭とをもとめたまはず 7 その
とき我いへらく 觀よわれきたらんわがことを書の巻
にしるしたり 8 わが神よわれは聖意にしたがふこと
を樂む なんぢの法はわが心のうちにありと 9 われ大
なる會にて義をつげしめせり 視よわれ口唇をとぢず
エホバよなんぢ之をしりたまふ 10 われなんぢの義を
わが心のうちにひめおかず なんぢの眞實となんぢの
拯救とをのべつたへたり 我なんぢの仁慈となんぢの
眞理とをおほいなる會にかくさざりき 11 エホバよな
んぢ憐憫をわれにをしみたまふなかれ 仁慈と眞理と
をもて恒にわれをまもりたまへ 12 そはかぞへがたき
禍害われをかこみ わが不義われに追及てあふぎみる
こと能はぬまでになりぬ その多きことわが首の髪に
もまさり わが心きえうするばかりなればなり 13 エ
ホバよ願くはわれをすくひたまへ エホバよ急ぎきた
りて我をたすけたまへ 14 願くはわが靈魂をたづねほ
ろぼさんとするものの皆はぢあわてんことを わが害
はるるをよろこぶもののみな後にしりぞきて恥をお
はんことを 15 われにむかひて ああ視よや視よやと
いふ者おのが恥によりておどろきおそれんことを 16

願くはなんぢを尋求むるものの皆なんぢによりて樂
みよろこばんことを なんぢの救をしたふものの恒に
エホバは大なるかなとなへんことを 17 われはくる
しみ且ともし 主われをねんごろに念ひたまふ なんぢ
はわが助なり われをすくひたまふ者なり ああわが神
よねがはくはためらひたまふなかれ

41 よわき人をかへりみる者はさいはひなり エホバ
斯るものを禍ひの日にたすけたまはん 2 エホバ之を
まもり之をながらへしめたまはん かれはこの地にあ
りて福祉をえん なんぢ彼をその仇ののぞみにまかせ
て付したまふなかれ 3 エホバは彼がわづらひの床に
あるをたすけ給はん なんぢかれが病るときその衾襦
をしきかへたまはん 4 我いへらくエホバよわれを憐
みわがたましひを醫したまへ われ汝にむかひて罪を
をかしたりと 5 わが仇われをそしりていへり 彼いづ
れのときに死いづれのときにその名ほろびんと 6 か
れ又われを見んとてきたるときは虚偽をかたり邪曲
をその心にあつめ 外にいでてはこれを述ぶ 7 すべて
われをにくむもの互ひにささやき我をそこなはんと
て相謀る 8 かつ云 かれに一のわざはひつきまとひた
れば仆れふしてふたたび起ることなからんと 9 わが
恃みしところ わが糧をくらひしところのわが親しき
友さへも我にそむきてその踵をあげたり 10 然はあれ
どエホバよ汝ねがはくは我をあはれみ我をたすけて
起したまへ されば我かれらに報ることをえん 11 わが
仇われに打勝てよろこぶこと能はざるをもて汝がわ
れを愛いつくしみたまふを我しりぬ 12 わが事をいは
ば なんぢ我をわが完全うちにてたもち我をとこしへ
に面のまへに置たまふ 13 イスラエルの神エホバはと

こしへより永遠までほむべきかな アーメン アーメン

42 ああ神よしかの溪水をしたひ喘ぐがごとくわが
靈魂もなんぢをしたひあへぐなり **2** わがたましひは
渴けるごとくに神をしたふ 活神をぞしたふ 何れのと
きにか我ゆきて神のみまへにいでん **3** かれらが終日
われにむかひて なんぢの神はいづくにありやとのの
しる間はただわが涙のみ晝夜そそぎてわが糧なりき
4 われむかし群をなして祭日をまもる衆人とともにゆ
き歡喜と讚美のこゑをあげてかれらを神の家にとも
なへり 今これらのことを追想してわが哀よりたまし
ひを注ぎいだすなり **5** ああわが靈魂よ なんぢ何ぞう
なたるや なんぞわが哀におもひみだるや なんぢ
神をまちのぞめ われに聖顔のたすけありて我なほわ
が神をほめたたふべければなり **6** わが神よわがたま
しひはわが哀にうなたる 然ばわれヨルダンの地より
ヘルモンよりミザルの山より汝をおもひいづ **7** なん
ぢの大瀑のひびきによりて淵々よびこたへ なんぢの
波なんぢの猛浪ことごとくわが上をこえゆけり **8** 然
はあれど晝はエホバその憐憫をほどこしたまふ 夜は
その歌われとともにあり 此うたはわがいのちの神に
ささぐる祈なり **9** われわが磐なる神にいはん なんぞ
われを忘れたまひしや なんぞわれは仇のしへたげに
よりにて悲しみありくや **10** わが骨もくだくるばかりに
わがてきはひねもす我にむかひて なんぢの神はいづ
くにありやといひののしりつつ我をそしれり **11** ああ
わがたましひよ 汝なんぞうなたるや 何ぞわがうち
に思ひみだるや なんぢ神をまちのぞめ われ尚わが
かほの助なるわが神をほめたたふべければなり

43 神よねがはくは我をさばき 情しらぬ民にむかひ
てわが訟をあげつらひ 詭計おほきよこしまなる人よ
り我をたすけいだし給へ **2** なんぢはわが力の神なり
なんぞ我をすてたまひしや 何ぞわれは仇の暴虐によ
りてかなしみありくや **3** 願くはなんぢの光となんぢ
の眞理とをはなち我をみちびきてその聖山とその帷
幄とにゆかしめたまへ **4** さらばわれ神の祭壇にゆき
又わがよろこびよろこぶ神にゆかん ああ神よわが神
よわれ琴をもてなんぢを讃たたへん **5** ああわが靈魂
よなんぢなんぞうなたるや なんぞわが衷におもひ
みだるや なんぢ神によりて望をいだけ 我なほわが
面のたすけなるわが神をほめたたふべければなり

44 ああ神よむかしわれらの列祖の日になんぢがな
したまひし事迹をわれら耳にきけり 列祖われらに語
れり **2** なんぢ手をもてもろもろの國人をおひしりぞ
け われらの列祖をうゑ並もろもろの民をなやまして
われらの列祖をはびこらせたまひき **3** かれらはおの
が劔によりて國をえしにあらず おのが臂によりて勝
をえしにあらず 只なんぢの右の手なんぢの臂なんぢ
の面のひかりによれり 汝かれらを恵みたまひたれば
なり **4** 神よなんぢはわが王なり ねがはくはヤコブの
ために救をほどこしたまへ **5** われらは汝によりて敵
をたふし また我儕にさからひて起りたつものをなん
ぢの名によりて踐壓ふべし **6** そはわれわが弓により
たのまず わが劔もまた我をすくふことあたはざれば
なり **7** なんぢわれらを敵よりすくひ またわれらを悪
むものを辱かしめたまへり **8** われらはひねもす神に
よりてほこり われらは永遠になんぢの名に感謝せん
(セラ) **9** しかるに今はわれらをすてて恥をおはせた

まへり われらの軍人とともに出ゆきたまはず 10 われらを敵のまへより退かしめたまへり われらを悪むものその任意にわれらを掠めうばへり 11 なんぢわれらを食にそなへらるる羊のごとくにあたへ斯てわれらをもろもろの國人のなかにちらし 12 得るところなくしてなんぢの民をうり その價によりてなんぢの富をましたまはざりき 13 汝われらを隣人にそしらしめわれらを環るものにあなどらしめ 嘲けらしめたまへり 14 又もろもろの國のなかにわれらを談柄となしもろもろの民のなかにわれらを頭ふるる者となしたまへり 15 わが凌辱ひねもす我がまへにあり わがかほの恥われをおほへり 16 こは我をそしり我をのしるものの聲により我にあだし我にうらみを報るものの故によるなり 17 これらのこと皆われらに臨みきつれどわれらなほ汝をわすれず なんぢの契約をいつはりまもらざりき 18 われらの心しりぞかずわれらの歩履なんぢの道をはなれず 19 然どなんぢは野犬のすみかにてわれらをきずつけ死蔭をもてわれらをおほひ給へり 20 われらもしおのれの神の名をわすれ或はわれらの手を異神にのべしことあらんには 21 神はこれを糺したまはざらんや 神はこころの隠れたることをも知たまふ 22 われらは終日なんぢのために死にわたされ屠られんとする羊の如くせられたり 23 主よさめたまへ何なればねぶりたまふや起たまへ われらをとこしへに棄たまふなかれ 24 いかなれば聖顔をかくしてわれらがうくる苦難と虐待とをわすれたまふや 25 われらのたましひはかがみて塵にふし われらの腹は土につきたり 26 ねがはくは起てわれらをたすけたまへ なんぢの仁慈のゆゑをもてわれらを贖ひたまへ

45 わが心はうるはしき事にてあふる われは王のため
に詠たるものをいひいでん わが舌はすみやけく寫
字人の筆なり **2** なんぢは人の子輩にまさりて美しく
文雅そのくちびるにそそがる このゆゑに神はとこし
へに汝をさいはひしたまへり **3** 英雄よなんぢその劍
その榮その威をこしに佩べし **4** なんぢ眞理と柔和と
ただしきとのために威をたくましくし勝をえて乗す
すめ なんぢの右手なんぢに畏るべきことををしへん
5 なんぢの矢は鋭して王のあたの胸をつらぬき もろ
もろの民はなんぢの下にたふる **6** 神よなんぢの寶座
はいやとほ永くなんぢの國のつゑは公平のつゑなり
7 なんぢは義をいつくしみ惡をにくむ このゆゑに神
なんぢの神はよろこびの膏をなんぢの侶よりまさり
て汝にそそぎたまへり **8** なんぢの衣はみな沒葉蘆薈
肉桂のかをりあり 琴瑟の音ざうげの諸殿よりいでて
汝をよろこばしめたり **9** なんぢがたふとき婦のなか
にはもろもろの王のむすめあり 皇后はオフルの金を
かざりてなんぢの右にたつ **10** 女よきけ目をそそげ
なんぢの耳をかたぶけよ なんぢの民となんぢが父の
家とをわすれよ **11** さらば王はなんぢの美麗をしたは
ん 王はなんぢの主なりこれを伏拝め **12** ツロの女は
贈物をもてきたり民間のとめるものも亦なんぢの恵
をこひもとめん **13** 王のむすめは殿のうちにいとど
榮えかがやき そのころもは金をもて織なせり **14** か
れは鍼繡せる衣をきて王のもとにいぎなはる 之にと
もなへる處女もそのあとにしたがひて汝のもとにみ
ちびかれゆかん **15** かれらは歡喜と快樂とをもていぎ
なはれ斯して王の殿にいらん **16** なんぢの子らは列祖
にかはりてたち なんぢはこれを全地に君となさん **17**

我なんぢの名をよろづ代にしらしめん この故にもろもろの民はいやとほ永くなんぢに感謝すべし

46 神はわれらの避所また力なり なやめるときの最ちかき助なり **2** さればたとひ地はかはり山はうみの中央にうつるとも我儕はおそれじ **3** よしその水はなりとどろきてさわぐとも その溢れきたるによりて山はゆるぐとも何かあらん（セラ） **4** 河ありそのながれは神のみやこをよろこばしめ至上者のすみたまふ聖所をよろこばしむ **5** 神そのなかにいませば都はうごかじ 神は朝つとにこれを助けたまはん **6** もろもろの民はさわぎたち もろもろの國はうごきたり 神その聲をいだしたまへば地はやがてとけぬ **7** 萬軍のエホバはわれらとともに ヤコブの神はわれらのたかき櫓なり（セラ） **8** きたりてエホバの事跡をみよ エホバはおほくの懼るべきことを地になしたまへり **9** エホバは地のはてまでも戦闘をやめしめ弓ををり戈をたち戦車を火にてやきたまふ **10** 汝等しづまりて我の神たるをしれ われはもろもろの國のうちに崇められ全地にあがめらるべし **11** 萬軍のエホバはわれらと偕なり ヤコブの神はわれらの高きやぐらなり（セラ）

47 もろもろのたみよ手をうち歡喜のこゑをあげ神にむかひてさけべ **2** いとたかきエホバはおそるべくまた地をあまねく治しめす大なる王にてましませばなり **3** エホバはもろもろの民をわれらに服はせ もろもろの國をわれらの足下にまつろはせたまふ **4** 又そのいつくしみたまふヤコブが響とする嗣業をわれらのために選びたまはん（セラ） **5** 神はよろこびさけぶ聲とともにのぼり エホバはラッパの聲とともにのぼりたまへり **6** ほめうたへ神をほめうたへ 頌歌へわれ

らの王をほめうたへ 7 かみは地にあまねく王なれば
なり 教訓のうたをうたひてほめよ 8 神はもろもろの
國をすべをさめたまふ 神はそのきよき寶座にすわり
たまふ 9 もろもろのたみの諸侯はつどひきたりてア
ブラハムの神の民となれり 地のもろもろの盾は神の
ものなり神はいとたふとし

48 エホバは大なり われらの神の都そのきよき山の
うへにて甚くほめたたへられたまふべし 2 シオンの
山はきたの端たかくしてうるはしく喜悦を地にあま
ねくあたふ ここは大なる王のみやこなり 3 そのもろ
もろの殿のうちに神はおのれをたかき櫓としてあら
はしたまへり 4 みよ王等はつどひあつまりて偕にす
ぎゆきぬ 5 かれらは都をみてあやしみ且おそれて忽
ちのがれされり 6 戦慄はかれらにのぞみ その苦痛は
子をうまんとする婦のごとし 7 なんぢは東風をおこ
してタルシシの舟をやぶりたまふ 8 曩にわれらが聞
しごとく今われらは萬軍のエホバの都われらの神の
みやこにて之をみることをえたり 神はこの都をとこ
しへまで固くしたまはん（セラ） 9 神よ我らはなんぢ
の宮のうちにて仁慈をおもへり 10 神よなんぢの譽は
その名のごとく地の極にまでおよべり なんぢの右手
はただしきにて充り 11 なんぢのもろもろの審判によ
りてシオンの山はよろこびユダの女輩はたのしむべ
し 12 シオンの周圍をありき徧くめぐりてその櫓をか
ぞへよ 13 その石垣に目をとめよ そのもろもろの殿
をみよ なんぢらこれを後代にかたりつたへんが爲な
り 14 そはこの神はいや遠長にわれらの神にましまし
てわれらを死るまでみちびきたまはん

49 もろもろの民よきけ賤きも貴きも富るも貧きも
すべて地にすめる者よ なんぢらともに耳をそばだて
よ **2** もろもろの民よきけ賤きも貴きも富るも貧きも
すべて地にすめる者よ なんぢらともに耳をそばだて
よ **3** わが口はかしこきことかたり わが心はさとき
ことを思はん **4** われ耳を喩言にかたぶけ琴をならし
てわが幽玄なる語をときあらはさん **5** わが踵にちか
かる不義のわれを打圍むわざはひの日もいかで懼る
ることあらんや **6** おのが富をたのみ財おほきを誇る
もの **7** たれ一人おのが兄弟をあがなふことあたはず
之がために贖價を神にささげ **8** 之をとこしへに生存
へしめて朽ざらしむることあたはず（靈魂をあがな
ふには費いとおほくして此事をとこしへに捨置ざる
を得ざればなり） **9** 之をとこしへに生存へしめて朽
ざらしむることあたはず（靈魂をあがなふには費い
とおほくして此事をとこしへに捨置ざるを得ざれば
なり） **10** そは智きものも死 おろかものも獸心者も
ひとしくほろびてその富を他人にのこすことは常に
みるところなり **11** かれら竊におもふわが家はとこし
へに存りわがすまひは世々にいたらんと かれらはそ
の地におのが名をおはせたり **12** されど人は譽のなか
に永くとどまらず亡びうする獸のごとし **13** 斯のごと
きは愚かなるものの途なり 然はあれど後人はその言
をよしとせん（セラ） **14** かれらは羊のむれのごとく
に陰府のものと定めらる 死これが牧者とならん直き
もの朝にかれらををさめん その美容は陰府にほろぼ
されて宿るところなかるべし (Sheol h7585) **15** されど神
われを接たまふべければわが靈魂をあがなひて陰府
のちからより脱かれしめたまはん（セラ） (Sheol h7585)

16 人のとみてその家のさかえくははらんとき汝おそ
るるなかれ 17 かれの死るときは何一つたづさへゆく
ことあたはず その榮はこれにしたがひて下ることを
せざればなり 18 かかる人はいきながらふるほどに己
がたましひを祝するとも みづからを厚うするがゆゑ
に人々なんぢをほむるとも 19 なんぢ列祖の世にゆか
ん かれらはたえて光をみざるべし 20 尊貴なかにあ
りて暁らざる人はほろびうする獣のごとし

50 ぜんのうの神エホバ詔命して日のいつるところ
より日のいるところまであまねく地をよびたまへり
2 かみは美麗の極なるシオンより光をはなちたまへり
3 われらの神はきたりて黙したまはじ火その前にも
のをやきつくし暴風その四周にふきあれん 4 神はその
民をさばかんとて上なる天および地をよびたまへり
5 いはく祭物をもて我とけいやくをたてしわが聖徒を
わがもとに集めよと 6 もろもろの天は神の義をあら
はせり 神はみづから審士たればなり (セラ) 7 わが民
よきけ我ものいはんイスラエルよきけ我なんぢにむ
かひて證をなさん われは神なんぢの神なり 8 わがな
んぢを責るは祭物のゆゑにあらず なんぢの燔祭はつ
ねにわが前にあり 9 我はなんぢの家より牡牛をとら
ず なんぢの牢より牡山羊をとらず 10 林のもろもろの
けもの山のうへの千々の牲畜はみなわが有なり 11 わ
れは山のすべての鳥をしる 野のたけき獣はみなわが
ものなり 12 世界とそのなかに充るものとはわが有な
れば縦ひわれ饑るともなんぢに告じ 13 われいかで牡
牛の肉をくらひ牡山羊の血をのまんや 14 感謝のそな
へものを神にささげよ なんぢのちかひを至上者につ
くのへ 15 なやみの日にわれをよべ我なんぢを援けん

而してなんぢ我をあがむべし 16 然はあれど神あしきものに言給く なんぢは教をにくみ わが言をその後につつるものなるに何のかかはりありてわが律法をのべわがけいやくを口にとりしや 17 然はあれど神あしきものに言給く なんぢは教をにくみ わが言をその後につつるものなるに何のかかはりありてわが律法をのべわがけいやくを口にとりしや 18 なんぢ盗人を見れば之をよしとし姦淫をおこなふものの伴侶となれり 19 なんぢその口を悪にわたす なんぢの舌は詭計をくみなせり 20 なんぢ坐りて兄弟をそしり己がははの子を誣ののしれり 21 汝これらの事をなししをわれ黙しぬれば なんぢ我をおのれに恰にたるものとおもへりされど我なんぢを責めてその罪をなんぢの目前につらぬべし 22 神をわするものよ今このことを念へおそらくは我なんぢを抓さかんとし助るものあらじ 23 感謝のそなへものを献るものは我をあがむおのれの行爲をつつしむ者にはわれ神の救をあらはさん

51 ああ神よねがはくはなんぢの仁慈によりて我をあはれみ なんぢの憐憫のおほきによりてわがもろもろの愆をけしたまへ 2 わが不義をことごとくあらひさり我をわが罪よりきよめたまへ 3 われはわが愆をせる わが罪はつねにわが前にあり 4 我はなんぢにむかひて獨なんぢに罪ををかし聖前にあしきことを行へりされば汝ものいふときは義とせられ なんぢ鞫くときは咎めなしとせられ給ふ 5 視よわれ邪曲のなかに生まれ罪ありてわが母われをはらみたりき 6 なんぢ眞實をこころの衷にまでのぞみ わが隠れたる所に智慧をしらしめ給はん 7 なんぢヒソブをもて我をきよめたまへさらばわれ淨まらん 我をあらひたま

へさらばわれ雪よりも白からん 8 なんぢ我によろこ
びと快樂とをきかせ なんぢが碎きし骨をよろこばせ
たまへ 9 ねがはくは聖顔をわがすべての罪よりそむ
け わがすべての不義をけしたまへ 10 ああ神よわが
ために清心をつくり わが衷になほき霊をあらたにお
こしたまへ 11 われを聖前より棄たまふなかれ 汝のき
よき霊をわれより取りたまふなかれ 12 なんぢの救の
よろこびを我にかへし自由の霊をあたへて我をたも
ちたまへ 13 さらばわれ愆ををさせる者になんぢの途
ををしへん罪人はなんぢに歸りきたるべし 14 神よわ
が救のかみよ血をながしし罪より我をたすけいだし
たまへ わが舌は聲たからかになんぢの義をうたはん
15 主よわが口唇をひらきたまへ 然ばわが口なんぢの
頌美をあらはさん 16 なんぢは祭物をこのみたまはず
もし然らずば我これをささげん なんぢまた燔祭をも
悦びたまはず 17 神のもとめたまふ祭物はくだけたる
靈魂なり 神よなんぢは碎けたる悔しころを藐しめ
たまふまじ 18 ねがはくは聖意にしたがひてシオンに
さいはひし エルサレムの石垣をきづきたまへ 19 そ
の時なんぢ義のそなへものと燔祭と全きはんさいと
を悦びたまはん かくて人々なんぢの祭壇に牡牛をさ
さぐべし

52 猛者よなんぢ何なればあしき企圖をもて自らほ
こるや神のあはれみは恒にたえざるなり 2 なんぢの
舌はあしきことをはかり利き剃刀のごとくいつはり
をおこなふ 3 なんぢは善よりも悪をこのみ正義をい
ふよりも虚偽をいふをこのむ(セラ) 4 たばかりの舌
よなんぢはすべての物をくひほろぼす言をこのむ 5
されば神とこしへまでも汝をくだき また汝をとらへ

てその幕屋よりぬきいだし生るものの地よりなんぢの根をたやしたまはん（セラ）**6** 義者はこれを見ておそれ彼をわらひていはん **7** 神をおのが力となさずその富のゆたかなるをたのみ その悪をもて己をかたくせんとする人をみよと **8** 然はあれどわれは神の家にあるあをき橄欖の樹のごとし 我はいやとほながに神のあはれみに依頼まん **9** なんぢこの事をおこなひ給ひしによりて我とこしへになんぢに感謝し なんぢの聖徒のまへにて聖名をまちのぞまん こは宜しきことなればなり

53 愚かなるものは心のうちに神なしといへりかれらは腐れたりかれらは憎むべき不義をおこなへり善をおこなふ者なし **2** 神は天より人の子をのぞみて悟るものと神をたづぬる者とありやなしやを見たまひしに **3** みな退ぞきてことごとく汚れたり善をなすものなし一人だになし **4** 不義をおこなふものは知覺なきかかれらは物くふごとくわが民をくらひ また神をよばふことをせざるなり **5** かれらは懼るべきことのなきときに大におそれたり 神はなんぢにむかひて營をつらぬるものの骨をちらしたまへばなり 神かれらを棄たまひしによりて汝かれらを辱かしめたり **6** 願くはシオンよりイスラエルの救のいでんことを 神その民のとらはれたるを返したまふときヤコブはよろこびイスラエルは樂まん

54 神よねがはくは汝の名によりて我をすくひ なんぢの力をもて我をさばきたまへ **2** 神よわが祈をききたまへ わが口のことばに耳をかたぶけたまへ **3** そは外人はわれにさからひて起りたち強暴人はわがたましひを索むるなり かれらは神をおのが前に

おかざりき（セラ） 4 みよ神はわれをたすくるものなり
主はわがたましひを保つものとともに在せり 5 主
はわが仇にそのあしきことの報をなしたまはん 願
くはなんぢの眞實によりて彼等をほろぼしたまへ 6
我よろこびて祭物をなんぢに献ん エホバよ我なん
ぢの名にむかひて感謝せん こは宜しきことなれば
なり 7 そはエホバはすべての患難より我をすくひた
まへり わが目はわが仇につきての願望をみたり

55 神よねがはくは耳をわが祈にかたぶけたまへわ
が懇求をさけて身をかくしたまふなかれ 2 われに聖
意をとめ 我にこたへたまへ われ歎息によりてやすか
らず悲みうめくなり 3 これ仇のこゑと悪きものの暴
虐とのゆゑなり そはかれら不義をわれに負せ いきど
ほりて我におひせまるなり 4 わが心わがうちに憂ひ
いたみ死のもろもろの恐懼わがうへにおちたり 5 お
それと戦慄とわれにのぞみ甚だしき恐懼われをおほ
へり 6 われ云ねがはくは鳩のごとく羽翼のあらんこ
とをさらば我とびさりて平安をえん 7 みよ我はるか
にのがれさりて野にすまん（セラ） 8 われ速かにのが
れて暴風と狂風とをはなれん 9 われ都のうちに強暴
とあらそひとをみたり 主よねがはくは彼等をほろぼ
したまへ かれらの舌をわかれしめたまへ 10 彼等は
ひるもよるも石垣のうへをあるきて邑をめぐる 邑の
うちには邪曲とあしき企圖とあり 11 また悪きこと邑
のうちにあり しへたげと欺詐とはその街衢をはなる
ることなし 12 われを謗れるものは仇たりしものにあ
らず もし然りしならば尚しのぼれしなるべし 我にむ
かひて己をたかくせし者はわれを恨たりしものにあ
らず 若しかりしならば身をかくして彼をさけしなる

べし 13 されどこれ汝なり われとおなじきもの わが
友われと親しきものなり 14 われら互にしたしき語ら
ひをなし また會衆のなかに在てともに神の家へのぼ
りたりき 15 死は忽然かれらにのぞみ その生るまま
にて陰府にくだらんことを そは惡事その住處にあり
その中にあればなり (Sheol h7585) 16 されど我はただ神
をよばん エホバわれを救ひたまふべし 17 夕にあした
に晝にわれなげき且かなしみうめかん エホバわが聲
をききたまふべし 18 エホバは我をせむる戦闘よりわ
が靈魂をあがなひいだして平安をえしめたまへり そ
はわれを攻るもの多かりければなり 19 太古よりいま
す者なる神はわが聲をききてかれらを惱めたまべし
(セラ) かれらには變ることなく神をおそるることな
し 20 かの人はおのれと睦みをりしものに手をのべて
その契約をけがしたり 21 その口はなめらかにして乳
酥のごとくなれどもその心はたたかひなり その言は
あぶらに勝りてやはらかなれどもぬきたる劍にこと
ならず 22 なんぢの荷をエホバにゆだねよさらば汝を
ささへたまはん ただしき人のうごかざることを常
にゆるしたまふまじ 23 かくて神よなんぢはかれらを
亡の坑におとしいれたまはん血をながすものと詭計
おほきものとは生ておのが日の半にもいたらざるべ
し 然はあれどわれは汝によりたのまん

56 ああ神よねがはくは我をあはれみたまへ 人いき
まきて我をのまんとし終日たたかひて我をしへたぐ
2 わが仇ひねもす急喘てわれをのまんとなす誇りたかぶ
りて我とたたかふものおほし 3 われおそるるときは
汝によりたのまん 4 われ神によりてその聖言をほめ
まつらん われ神に依頼みたらばおそるることあらじ

肉體われになにをなし得んや 5 かれらは終日わがこ
とばを曲るなり その思念はことごとくわれにわざは
ひをなす 6 かれらは群つどひて身をひそめ わが歩に
目をとめてわが靈魂をうかがひもとむ 7 かれらは不
義をもてのがれんとおもへり 神よねがはくは憤ほり
てもろもろの民をたふしたまへ 8 汝わがあまた土の
流離をかぞへたまへり なんぢの革囊にわが涙をたく
はへたまへ こは皆なんぢの冊にしるしあるにあらず
や 9 わがよびもとむる日にはわが仇しりぞかん われ
神のわれを守りたまふことを知る 10 われ神によりて
その聖言をはめまつらん 我エホバによりてそのみこ
とばを讃まつらん 11 われ神によりたのみたれば懼る
ることあらじ 人はわれに何をなしえんや 12 神よわ
がなんぢにたてし誓はわれをまとへり われ感謝のさ
さげものを汝にささげん 13 汝わがたましひを死より
すくひたまへばなり なんぢ我をたふさじとわが足を
まもり生命の光のうちにて神のまへに我をあゆませ
給ひしにあらずや

57 我をあはれみたまへ神よわれをあはれみたまへ
わが靈魂はなんぢを避所とす われ禍害のすぎさるま
ではなんぢの翼のかげを避所とせん 2 我はいとたか
き神によばはん わがために百事をなしをへたまふ神
によばはん 3 神はたすけを天よりおくりて我をのま
んとする者のそしるときに我を救ひたまはん (セラ)
神はその憐憫その眞實をおくりたまはん 4 わがたま
しひは群るる獅のなかにあり 火のごとくもゆる者 そ
の齒は戈のごとく矢のごとくその舌はとき劍のごと
き人の子のなかに我ふしぬ 5 神よねがはくはみづか
らを天よりも高くしみさかえを全地のうへに擧たま

へ 6 かれらはわが足をとらへんとて網をまうくわが
靈魂はうなたる かれらはわがまへに阱をほりたり而
してみづからその中におちいれり (セラ) 7 わが心さ
だまれり神よわがこころ定まれり われ謳ひまつらん
頌まつらん 8 わが榮よさめよ 箏よ琴よさめよ われ黎
明をよびさますん 9 主よわれもろもろの民のなか
にてなんぢに感謝し もろもろの國のなかにて汝をほめ
うたはん 10 そは汝のあはれみは大にして天にまでい
たり なんぢの眞實は雲にまでいたる 11 神よねがはく
は自からを天よりも高くし光榮をあまねく地のうへ
に擧たまへ

58 なんぢら黙しゐて義をのべうるか 人の子よなん
ぢらなほき審判をおこなふや 2 否なんぢらは心のう
ちに悪事をおこなひ その手の強暴をこの地にはかり
いだすなり 3 あしきものは胎をはなるるより背きと
ほざかり生れいづるより迷ひていつはりをいふ 4 か
れらの毒は蛇のどくのごとし かれらは蠱術をおこな
ふものの甚たくみにまじなふその聲をだにきかざる
耳ふさぐ聾ひの蝮のごとし 5 かれらの毒は蛇のどく
のごとし かれらは蠱術をおこなふものの甚たくみに
まじなふその聲をだにきかざる耳ふさぐ聾ひの蝮の
ごとし 6 神よかれらの口の齒ををりたまへ エホバよ
壯獅の牙をぬきくだきたまへ 7 願くはかれらを流れ
ゆく水のごとくに消失しめ その矢をはなつときは折
れたるごとくなし給はんことを 8 また融てきえゆく
蝸牛のごとく婦のときならず産たる目をみぬ嬰のご
とくならしめ給へ 9 なんぢらの釜いまだ荆棘の火を
うけざるさきに青をも燃たるをもともに狂風にて吹
さりたまはん 10 義者はかれらが讎かへさるるを見て

よろこび その足をあしきものの血のなかにてあらは
ん 11 かくて人はいふべし實にただしきものに報賞あ
り實にさばきをほどこしたまふ神はましますなりと

59 わが神よねがはくは我をわが仇よりたすけい
だし われを高處におきて我にさからひ起立つものより
脱かれしめたまへ 2 邪曲をおこなふものより我をた
すけいだし血をながす人より我をすくひたまへ 3 視
よかれらは潜みかくれてわが靈魂をうかがひ猛者む
れつどひて我をせむ エホバよ此はわれに愆あるにあ
らず われに罪あるにあらず 4 かれら趨りまはりて過
失なきに我をそこなはんとて備をなす ねがはくは我
をたすくために目をさまして見たまへ 5 なんぢエ
ホバ萬軍の神イスラエルの神よ ねがはくは目をさま
してもろもろの國にのぞみたまへ あしき罪人にあは
れみを加へたまふなかれ(セラ) 6 かれらは夕にかへ
りきたり犬のごとくほえて邑をへありく 7 視よかれ
らは口より惡をはく そのくちびるに劍あり かれらお
もへらく誰ありてこの言をきかんやと 8 されどエホ
バよ汝はかれらをわらひ もろもろの國をあざわらひ
たまはん 9 わが力よわれ汝をまちのぞまん 神はわが
たかき櫓なり 10 憐憫をたまふ神はわれを迎へたまは
ん 神はわが仇につきての願望をわれに見させたまは
ん 11 願くはかれらを殺したまふなかれ わが民つひに
忘れやはせん 主われらの盾よ 大能をもてかれらを散
しました卑したまへ 12 かれらがくちびるの言はその
口のつみなり かれらは詛と虚偽とをいひいづるによ
りてその傲慢のためにとらへられしめたまへ 13 忿恚
をもてかれらをほろぼしたまへ 再びながらふること
なきまでに彼等をほろぼしたまへ ヤコブのなかに神

いまして統治めたまふことをかれらに知しめて地の
極にまでおよぼしたまへ（セラ） 14 かれらは夕にか
へりきたり犬のごとくほえて邑をへありくべし 15 か
れらはゆききして食物をあさり もし飽ことなくば終
夜とどまれり 16 されど我はなんぢの大能をうたひ清
晨にこゑをあげてなんぢの憐憫をうたひまつらん な
んぢわが迫りくるしみたる日にたかき櫓となり わが
避所となりたまひたればなり 17 わがちからよ我なん
ぢにむかひて頌辭をうたひまつらん 神はわがたかき
櫓われにあはれみをたまふ神なればなり

60 神よなんぢわれらを棄われらをちらし給へり な
んぢは憤ほりたまへり ねがはくは再びわれらを歸
したまへ 2 なんぢ國をふるはせてこれを裂たまへ
り ねがはくはその多くの隙をおぎなひたまへ その國
ゆりうごくなり 3 なんぢはその民にたへがたきこと
をしめし 人をよろめかする酒をわれらに飲しめ給
へり 4 なんぢ眞理のために擧しめんとて汝をおそる
るものに一つの旗をあたへたまへり（セラ） 5 ねがは
くは右の手をもて救をほどこし われらに答をなし
て愛しみたまふものに助をえしめたまへ 6 神はその
聖をもていひたまへり われ甚くよろこばん われシケ
ムをわかちスコテの谷をはからん 7 ギレアデはわ
がもの マナセはわが有なり エフライムも亦わが首
のまもりなり ユダはわが杖 8 モアブはわが足盥な
り エドムにはわが履をなげん ベリシテよわが故によ
りて聲をあげよと 9 たれかわれを堅固なる邑にすす
ましめんや 誰かわれをみちびきてエドムにゆきた
るか 10 神よなんぢはわれらを棄たまひしにあらず
や 神よなんぢはわれらの軍とともにいでゆきたま

はず 11 ねがはくは助をわれにあたへて敵にむかはし
めたまへ 人のたすけは空しければなり 12 われらは
神によりて勇しくはたらかん われらの敵をみたま
ふものは神なればなり

61 ああ神よねがはくはわが哭聲をききたまへわが
祈にみこころをとめたまへ 2 わが心くづほるとき
地のはてより汝をよばん なんぢ我をみちびきてわが
及びがたきほどの高き磐にのぼらせたまへ 3 なんぢ
はわが避所われを仇よりのがれしむる堅固なる櫓な
ればなり 4 われ永遠になんぢの帷幄にすまはん我な
んぢの翼の下にのがれん（セラ） 5 神よなんぢはわが
もろもろの誓をきき名をおそるるものにたまふ嗣業
をわれにあたへたまへり 6 なんぢは王の生命をのぼ
し その年を幾代にもいたらせたまはん 7 王はとこし
へに神のみまへにとどまらん ねがはくは仁慈と眞實
とをそなへて彼をまもりたまへ 8 さらば我とこしへ
に名をほめうたひて日ごとにわがもろもろの誓をつ
くのひ果さん

62 わがたましひは黙してただ神をまつわがすくひ
は神よりいづるなり 2 神こそはわが磐わがすくひな
れ またわが高き櫓にしあれば我いたくは動かされじ
3 なんぢらは何のときまで人におしせまるや なんぢ
ら相共にかたぶける石垣のごとく揺ぎうごける籬の
ごとくに人をたふさんとするか 4 かれらは人をたふ
とき位よりおとさんとのみ謀り いつはりをよろこび
またその口にてはいはひその心にてはのろふ（セラ）
5 わがたましひよ黙してただ神をまて そはわがのぞ
みは神よりいづ 6 神こそはわが磐わがすくひなれ 又
わがたかき櫓にしあれば我はうごかされじ 7 わが救

とわが榮とは神にあり わがちからの磐わがさけどころは神にあり 8 民よいかなる時にも神によりたのめその前になんぢらの心をそそぎいだせ 神はわれらの避所なり(セラ) 9 實にひくき人はむなしくたかき人はいつはりなり すべてかれらを權衡におかば上にあがりて虚しきものよりも軽きなり 10 暴虐をもて恃とするなかれ 掠奪ふをもてほこるなかれ 富のましくははる時はこれに心をかくるなかれ 11 ちからは神にあり 神ひとたび之をのたまへり われ二次これをきけり 12 ああ主よあはれみも亦なんぢにあり なんぢは人おのおのの作にしたがひて報をなしたまへばなり

63 ああ神よなんぢはわが神なり われ切になんぢをたづねもとむ 水なき燥きおとろへたる地にあるごとくわが靈魂はかわきて汝をのぞみ わが肉體はなんぢを戀したふ 2 曩にも我かくのごとく大權と榮光とをみんことをねがひ聖所にありて目をなんぢより離れしめざりき 3 なんぢの仁慈はいのちにも勝れるゆゑにわが口唇はなんぢを讃まつらん 4 斯われはわが生るあひだ汝をいはひ名によりてわが手をあげん 5 われ床にありて汝をおもひいで夜の更るままになんぢを深くおもはん時 わがたましひは髓と脂とにて饗さるごとく飽ことをえ わが口はよろこびの口唇をもてなんぢを讃たたへん 6 われ床にありて汝をおもひいで夜の更るままになんぢを深くおもはん時 わがたましひは髓と脂とにて饗さるごとく飽ことをえ わが口はよろこびの口唇をもてなんぢを讃たたへん 7 そはなんぢわが助となりたまひたれば 我なんぢの翼のかげに入てよろこびたのしまん 8 わがたましひはなんぢを慕追ふ みぎの手はわれを支ふるなり 9 然ど

わがたましひを滅さんとて尋ねもとむるものは地の
ふかきところにゆき 10 又つるぎの刃にわたされ野犬
の獲るところとなるべし 11 しかれども王は神をよろ
こばん 神によりて誓をたつるものはみな誇ることを
えん 虚偽をいふものの口はふさがるべければなり

64 神よわがなげくときわが聲をききたまへわが生
命をまもりて仇のおそれより脱かれしめたまへ 2 ね
がはくは汝われをかくして悪をなすものの陰かなる
謀略よりまぬかれしめ不義をおこなふものの喧嘩よ
りまぬかれしめ給へ 3 かれらは劍のごとくおのが舌
をとぎ その弓をはり矢をつがへるごとく苦言をはな
ち 4 隠れたるところにて全者を射んとす俄かにこれ
を射ておそることなし 5 また彼此にあしき企圖を
はげまし共にはかりてひそかに罾をまうく 斯ていふ
誰かわれらを見んと 6 かれらはさまざまの不義をた
づねいだして云われらは懇ろにたづね終れりと おの
おのの衷のおもひと心とはふかし 7 然はあれど神は
矢にてかれらを射たまふべし かれらは俄かに傷をう
けん 8 斯てかれらの舌は其身にさからふがゆゑに遂
にかれらは躓かん これを見るものみな逃れさるべし
9 もろもろの人はおそれん而して神のみわざをのべつ
たへ その作たまへることを考ふべし 10 義者はエホ
バをよろこびて之によりたのまん すべて心のなほき
ものは皆ほこることを得ん

65 ああ神よさんびはシオンにて汝をまつ人はみま
へにて誓をはたさん 2 祈をききたまふものよ諸人こ
ぞりて汝にきたらん 3 不義のことば我にかてり なん
ぢ我儕のもろもろの愆をきよめたまはん 4 汝にえら
ばれ汝にちかづけられて大庭にすまふ者はさいはひ

なり われらはなんぢの家なんぢの宮のきよき處のめぐみにて飽ことをえん 5 われらが救のかみよ 地と海とのもろもろの極なるきはめて遠ものの恃とするなんぢは公義によりて畏るべきことをもて我儕にこたへたまはん 6 かみは大能をおび その權力によりてもろもろの山をかたくたたしめ 7 海のひびき狂瀾のひびき もろもろの民のかしがましきを鎮めたまへり 8 されば極遠にすめる人々もなんぢのくさぐさの豫兆をみておそる なんぢ朝夕のいづる處をよろこび謳はしめたまふ 9 なんぢ地にのぞみて漑そぎおほいに之をゆたかにしたまへり 神のかはに水みちたり なんぢ如此そなへをなして穀物をかれらにあたへたまへり 10 なんぢ畝をおほいにうるほし畝をたひらにし白雨にてこれをやはらかにし その萌芽を祝し 11 また恩恵をもて年の冕弁としたまへり なんぢの途には膏したたれり 12 その恩滴は野の牧場をうるほし小山はみな歡びにかこまる 13 牧場はみな羊のむれを衣もろもろの谷は穀物におほはれたり かれらは皆よろこびてよばはりまた謳ふ

66 全地よ神にむかひて歡びよばはれ 2 その名の榮光をうたへその頌美をさかえしめよ 3 かみに告まつれ 汝のもろもろの功用はおそるべきかな大なる力によりてなんぢの仇はなんぢに畏れしたがひ 4 全地はなんぢを拝みてうたひ名をほめうたはんと（セラ） 5 來りて神のみわざをみよ 人の子輩にむかひて作たまふことはおそるべきかな 6 神はうみをかへて乾ける地となしたまへり ひとびと歩行にて河をわたりき その處にてわれらは神をよろこべり 7 神はその大能をもてとこしへに統治め その目は諸國をみたまふ そむ

く者みづからを崇むべからず（セラ） 8 もろもろの民よ われらの神をほめまつれ神をほめたたふる聲をきこえしめよ 9 神はわれらの靈魂をながらへしめ われらの足のうごかざることをゆるしたまはず 10 神よ なんぢはわれらを試みて白銀をねるごとくにわれらを錬たまひたればなり 11 汝われらを綱にひきいれわれらの腰におもき荷をおき 12 人々をわれらの首のうへに騎こえしめたまひき われらは火のなか水のなかをすぎゆけり されど汝その中よりわれらをひきいたし豊盛なる處にいたらしめたまへり 13 われ燔祭をもてなんぢの家にゆかん 迫りくるしみたるときにわが口唇のいひいでわが口ののべし誓をなんぢに償はん 14 われ燔祭をもてなんぢの家にゆかん 迫りくるしみたるときにわが口唇のいひいでわが口ののべし誓をなんぢに償はん 15 われ肥たるものを燔祭とし牡羊を馨香として汝にささげ牡牛と牡山羊とをそなへまつらん（セラ） 16 神をおそるる人よ みな來りてきけわれ神のわがたましひのために作たまへることをのべん 17 われわが口をもて神によばはり また舌をもてあがむ 18 然るにわが心にしれる不義あらば主はわれにききたまふまじ 19 されどまことに神はききたまへり 聖意をわがいのりの聲にとめたまへり 20 神はほむべきかな わが祈をしりぞけず その憐憫をわれよりとりのぞきたまはざりき

67 ねがはくは神われらをあはれみ われらをさきはひてその聖顔をわれらのうへに照したまはんことを（セラ） 2 此はなんぢの途のあまねく地にしられ なんぢの救のもろもろの國のうちに知れんがためなり 3 かみよ庶民はなんぢに感謝し もろもろの民はみな汝

をほめたたへん 4 もろもろの國はたのしみ又よろこ
びうたふべし なんぢ直をもて庶民をさばき地のうへ
なる萬の國ををさめたまべければなり（セラ） 5 神よ
たみらはなんぢに感謝し もろもろの民はみな汝をほ
めたたへん 6 地は産物をいだせり 神わが神はわれら
を福ひたまはん 7 神われらをさきはひたまふべし か
くて地のもろもろの極ことごとく神をおそれん

68 ねがはくは神おきたまへ その仇はことごとくち
り 神をにくむものは前よりにげさらんことを 2 烟の
おひやらるることくかれらを驅逐たまへ 悪きものは
火のまへに蟻のとくるごとく 神のみまへにてほろぶ
べし 3 されど義きものには歡喜あり かれら神の前に
てよろこびをどらん實にたのしみて喜ばん 4 神のみ
まへにうたへ その名をほめたたへよ 乗て野をすぐる
者のために大道をきづけ かれの名をヤハとよぶ その
前によろこびをどれ 5 きよき住居にまします神はみ
なしごの父やもめの審士なり 6 神はよるべなきもの
を家族の中にをらしめ囚人をとき福祉にみちびきた
まふ されど悖逆者はうるほひなき地にすめり 7 神よ
なんぢは民にさきだちいでて野をすすみゆきたまひ
き（セラ） 8 そのとき地ふるひ天かみのみまへに漏る
シナイの山すら神イスラエルの神の前にふるひうご
けり 9 神よなんぢの嗣業の地のつかれおとろへたる
とき豊かなる雨をふらせて之をかたくしたまへり 10
曩になんぢの公會はそれの中にとどまれり 神よなんぢ
は恵をもて貧きもののために預備をなしたまひき 11
主みことばを賜ふ その佳音をのぶる婦女はおほくし
て群をなせり 12 もろもろの軍旅の王たちはにげさる
逃去りたれば家なる婦女はその掠物をわかつ 13 なん

ぢら羊の牢のうちにふすときは鴿のつばさの白銀に
おほはれその毛の黄金におほはるるがごとし 14 全能
者かしこにて列王をちらし給へるときはサルモンの
山に雪ふりたるがごとくなりき 15 バシヤンのやまは
神の山なりバシヤンのやまは峰かさなれる山なり 16
峰かさなれるもろもろの山よ なんぢら何なれば神の
住所にえらびたまへる山をねたみ見るや 然れエホバ
は永遠にこの山にすみたまはん 17 神の戦車はよろづ
に萬をかさね千にちぢをくはふ 主その中にいませり
聖所にいますがごとくシナイの山にいまししがごと
し 18 なんぢ高處にのぼり虜者をとりこにしてひきみ
禮物を人のなかよりも叛逆者のなかよりも受たまへ
り ヤハの神ここに住たまはんが爲なり 19 日々にわれ
らの荷をおひたまふ主われらのすくひの神はほむべ
きかな（セウ） 20 神はしばしばわれらを助けたまへ
る神なり 死よりのがれうるは主エホバに由る 21 神
はその仇のかうべを撃やぶりたまはん 愆のなかにと
どまるものの髪おほき顛頂をうちやぶりたまはん 22
主いへらく我バシヤンよりかれらを携へかへり海の
ふかき所よりたづさへ歸らん 23 斯てなんぢの足をそ
のあたの血にひたし之をなんぢの犬の舌になめしめ
ん 24 神よすべての人はなんぢの進行きたまふをみたり
わが神わが王の聖所にすすみゆきたまふを見たり
25 戯うつ童女のなかにありて謳ふものは前にゆき琴
ひくものは後にしたがへり 26 なんぢらすべての會に
て神をほめよイスラエルのみなもとより出るなんぢ
らよ 主をほめまつれ 27 彼處にかれらを統るとしわ
かきベニヤミンあり ユダの諸侯とその群衆とありま
たゼブルンのきみたちナフタリの諸侯あり 28 なんぢ

の神はなんぢの力をたてたまへり 神よなんぢ我儕のためになしたまひし事をかたくしたまへ 29 エルサレムなるなんぢの宮のために列王なんぢに禮物をささげん 30 ねがはくは葦間の獣むらがれる牯犢のごときもろもろの民をいましめてかれらに白銀をたづさへきたり みづから服ふことを爲しめたまへ 神はたたかひを好むもろもろの民をちらしたまへり 31 諸侯はエジプトよりきたり エテオピアはあわただしく神にむかひて手をのべん 32 地のもろもろのくによ神のまへにうたへ主をほめうたへ（セラ） 33 上古よりの天の天にのりたま者にむかひてうたへ みよ主はみこゑを發したまふ勢力ある聲をいだしたまふ 34 なんぢらちからを神に歸せよその稜威はイスラエルの上にとどまり その大能は雲のなかにあり 35 神のおそるべき状はきよき所よりあらはる イスラエルの神はその民にちからと勢力とをあたへたまふ 神はほむべきかな

69 神よねがはくは我をすくひたまへ 大水ながれきたりて我がたましひにまでおよべり 2 われ立止なきふかき泥の中にしづめり われ深水におちいるおほみづわが上をあふれすぐ 3 われ歎息によりてつかれたり わが喉はかわき わが目はわが神をまちわびておとるへぬ 4 故なくしてわれをにくむ者わがかしらの髪よりもおほく謂なくしてわが仇となり我をほろぼさんとするものの勢力つよし われ掠めざりしものをも償はせらる 5 神よなんぢはわが愚なるをしりたまふ わがもろもろの罪はなんぢにかくれざるなり 6 萬軍のエホバ主よ ねがはくは汝をまちのぞむ者をわが故によりて辱かしめらるることなからしめたまへ イスラエルの神よねがはくはなんぢを求むる者をわが故

によりて恥をおはしめらるることなからしめたまへ
7我はなんぢのために謗をおひ恥はわが面をおほひた
ればなり 8われわが兄弟には旅人のごとくわが母の
子には外人のごとくなれり 9そはなんぢの家をおも
ふ熱心われをくらひ汝をそしるものの謗われにおよ
べり 10われ涙をながして食をたちわが靈魂をなげか
すれば反てこれによりて謗をうく 11われ麤布をころ
もとなししにかれらが諺語となりぬ 12門にすわる者
はわがうへをかたる われは酔狂たるものに謳ひはや
されたり 13然はあれどエホバよわれは恵のときに汝
にいのる ねがはくは神よなんぢの憐憫のおほきによ
りて汝のすくひの眞實をもて我にこたへたまへ 14ね
がはくは泥のなかより我をたすけいだして沈ざらし
めたまへ 我をにくむものより深水よりたすけいだし
たまへ 15大水われを淹ふことなく淵われをのむこと
なく坑その口をわがうへに閉ることなからしめたま
へ 16エホバよねがはくは我にこたへたまへ なんぢ
の仁慈うるはしければなり なんぢの憐憫はおほしわ
れに歸りきたりたまへ 17面をなんぢの僕にかくした
まふなかれ われ迫りくるしめり ねがはくは速かに我
にこたへたまへ 18わがたましひに近くよりて之をあ
がなひわが仇のゆゑに我をすくひたまへ 19汝はわが
うくる謗とはちと侮辱とをしりたまへり わが敵はみ
な汝のみまへにあり 20譏謗わが心をくだきぬれば我
いたくわづらへり われ憐憫をあたふる者をまちたれ
ど一人だになく慰むるものを俟たれど一人をもみざ
りき 21かれら苦草をわがくひものにあたへわが渴
けるときに醋をのませたり 22ねがはくは彼等のまへ
なる筵は網となり そのたのむ安逸はつひに罾となれ

23 その目をくらくして見しめず その腰をつねにふる
はしめたまへ 24 願くはなんぢの忿恚をかれらのうへ
にそそぎ汝のいかりの猛烈をかれらに追及せたまへ
25 かれらの屋をむなしくせよ その幕屋に人をすまは
するなかれ 26 かれらはなんぢが撃たまひたる者をせ
め なんぢが傷けたまひたるものの痛をかたりふるれ
ばなり 27 ねがはくはれらの不義に不義をくはへてな
んぢの義にあづからせ給ふなかれ 28 かれらを生命の
冊よりけして義きものとともに記さるることなから
しめたまへ 29 斯てわれはくるしみ且うれひあり 神
よねがはくはなんぢの救われを高處におかんことを
30 われ歌をもて神の名をほめたたへ 感謝をもて神を
あがめまつらん 31 此はをうしまたは角と蹄とある力
つよき牡牛にまさりてエホバよろこびたまはん 32 謙
遜者はこれを見てよろこべり 神をしたふ者よなんぢ
らの心はいくべし 33 エホバは乏しきものの聲をきき
その俘囚をかるしめたまはざればなり 34 天地はエホ
バをほめ蒼海とその中にうごくあらゆるものとはエ
ホバを讃まつるべし 35 神はシオンをすくひユダのも
ろもろの邑を建たまふべければなり かれらは其處に
すみ且これをおのが有とせん 36 その僕のすゑも亦こ
れを嗣その名をいつくしむ者その中にすまん

70 神よねがはくは我をすくひたまへ エホバよ速き
たりて我をたすけたまへ 2 わが靈魂をたづぬるもの
の恥あわてんことを わが害はるるをよろこぶものの
後にしりぞきて恥をおはんことを 3 ああ視よや視よ
やといふもののおのが恥によりて後にしりぞかんこ
とを 4 すべて汝をたづねもとむる者のなんぢにより
て樂みよろこばんことを なんぢの救をしたふものの

つねに神は大なるかなととなへんことを 5 われは苦しみ且ともし神よいそぎて我にきたりたまへ 汝はわが助われを救ふものなり エホバよねがはくは猶豫たまふなかれ

71 エホバよ我なんぢに依頼む ねがはくは何の日までも恥うくることなからしめ給へ 2 なんぢの義をもて我をたすけ我をまぬかれしめたまへ なんぢの耳をわれに傾けて我をすくひたまへ 3 ねがはくは汝わがすまひの磐となりたまへ われ恒にそのところに往ことを得ん なんぢ我をすくはんとて勅命をいだしたまへり そは汝はわが磐わが城なり 4 わが神よあしきものの手より不義残忍なる人のてより 我をまぬかれしめたまへ 5 主エホバよなんぢはわが望なり わが幼少よりの恃なり 6 われ胎をはなるるより汝にまもられ母の腹にありしときより汝にめぐまれたり 我つねに汝をほめたたへん 7 我おほくの人にあやしまるるとき者となれり 然どなんぢはわが堅固なる避所なり 8 なんぢの頌辭となんぢの頌美とは終日わが口にみちん 9 わが年老ぬるとき我をすてたまふなかれ わが力おとろふるとき我をはなれたまなかれ 10 わが仇はわがことを論ひ ひわが靈魂をうかがふ者はたがひに議ていふ 11 神かれを離れたり彼をたすくる者なし かれを追とらへよと 12 神よわれに遠ざかりたまふなかれ わが神よとく來りて我をたすけたまへ 13 わがたましひの敵ははぢ且おとろへ我をそこなはんとするものは謗と辱とにおほはれよ 14 されど我はたえず望をいだきていやすます汝をほめたたへん 15 わが口はひねもす汝の義となんぢの救とをかたらん われその數をしらざればなり 16 われは主エホバの大能の事

跡をたづさへゆかん われは只なんぢの義のみをかたらん 17 神よなんぢわれを幼少より教へたまへり われ今にいたるまで汝のくすしき事跡をのべつたへたり 18 神よねがはくはわれ老て頭髮しろくなくとも我がなんぢの力を次代にのべつたへ なんぢの大能を世にうまれいづる凡のものに宣傳ふるまで我をはなれ給ふなかれ 19 神よなんぢの義もまた甚たかし なんぢは大なることをなしたまへり 神よたれか汝にひとしき者あらんや 20 汝われらを多のおもき苦難にあはせたまへり なんぢ再びわれらを活しわれらを地の深所よりあげたまはん 21 ねがはくは我をいよいよ大ならしめ歸りきたりて我をなぐさめ給へ 22 わが神よさらばわれ箏をもて汝をほめ なんぢの眞實をほめたたへん イスラエルの聖者よわれ琴をもてなんぢを讃うたはん 23 われ聖前にうたときわが口唇よろこびなんぢの贖ひたまへるわが靈魂おほいに喜ばん 24 わが舌もまた終日なんぢの義をかたらん われを害はんとするもの愧惶つればなり

72 神よねがはくは汝のもろもろの審判を王にあたへ なんぢの義をわうの子にあたへたまへ 2 かれは義をもてなんぢの民をさばき公平をもて苦しむものを鞫かん 3 義によりて山と岡とは民に平康をあたふべし 4 かれは民のくるしむ者のために審判をなし乏しきものの子輩をすくひ虐ぐるものを壊きたまはん 5 かれらは日と月とのあらんかぎり世々おしなべて汝をおそるべし 6 かれは蒹とれる牧にふる雨のごとく地をうるほす白雨のごとくのぞまん 7 かれの世にただしき者はさかえ平和は月のうするまで豊かならん 8 またその政治は海より海にいたり河より地のはてに

およぶべし 9 野にをる者はそのまへに屈み そり仇は塵をなめん 10 タルシシおよび島々の王たちは貢ををさめ シバとセバの王たちは禮物をささげん 11 もろもろの王はそのまへに俯伏し もろもろの國はかれにつかへん 12 かれは乏しき者をその叫ぶときにすくひ助けなき苦しむ者をたすけ 13 弱きものと乏しき者とをあはれみ乏しきものの靈魂をすくひ 14 かれらのたましひを暴虐と強暴とよりあがなひたまふ その血はみまへに貴かるべし 15 かれらは存ふべし 人はシバの黄金をささげてかれのために恒にいのり終日かれをいははん 16 國のうち五穀ゆたかにしてその實はレバノンのごとく山のいただきにそよぎ 邑の人々は地の草のごとく榮ゆべし 17 かれの名はつねにたえず かれの名は日の久しきごとくに絶ることなし 人はかれによりて福祉をえん もろもろの國はかれをさいはひなる者ととなへん 18 ただイスラエルの神のみ奇しき事跡をなしたまへり 神エホバはほむべきかな 19 その榮光の名はよよにほむべきかな全地はその榮光にて満べしアーメン アーメン 20 エッサイの子ダビデの祈はをはりぬ

73 神はイスラエルにむかひ心のきよきものに對ひてまことに恵あり 2 然はあれどわれはわが足つまづくばかりわが歩すべるばかりにてありき 3 こはわれ悪きものの榮ゆるを見てその誇れる者をねたみしによる 4 かれらは死るに苦しみなくそのちからは反てかたし 5 かれらは人のごとく憂にをらず人のごとく患難にあふことなし 6 このゆゑに傲慢は妝飾のごとくその頸をめぐり強暴はころものごとく彼等をおほへり 7 かれら肥ふとりてその目とびいで心の欲にま

さりとて物をうるなり 8 また嘲笑をなし悪をもて暴虐
のことばをいだし高ぶりてもものいふ 9 その口を天に
おきその舌を地にあまねく往しむ 10 このゆゑにかれ
の民はここにかへり水のみちたる杯をしぼりいだし
て 11 いへらく神いかで知たまはんや至上者に知識あ
らんやと 12 視よかれらは悪きものなるに常にやすら
かにしてその富ましくははれり 13 誠に我はいたづら
に心をきよめ罪ををかさずして手をあらひたり 14 そ
はわれ終日なやみにあひ朝ごとに責をうけしなり 15
われもし斯ることを述んといひしならば我なんぢが
子輩の代をあやまらせしならん 16 われこれらの道理
をしらんとし思ひめぐらししにわが眼いたく痛た
り 17 われ神の聖所にゆきてかれらの結局をふかく思
へるまでは然りき 18 誠になんぢはかれらを滑かなる
ところにおきかれらを滅亡におとしいれ給ふ 19 かれ
らは瞬間にやぶれたるかな彼等は恐怖をもてことご
とく滅びたり 20 主よなんぢ目をさましてかれらが像
をかるしめたまはんときは夢みし人の目さめたるが
ごとし 21 わが心はうれへわが腎はさされたり 22 わ
れおろかにして知覺なし聖前にありて獣にひとしか
りき 23 されど我つねになんぢとともにあり汝わが右
手をたもちたまへり 24 なんぢその訓諭をもて我をみ
ちびき後またわれをうけて榮光のうちに入たまはん
25 汝のほかには我たれをか天にもたん地にはなんぢの
他にわが慕ふものなし 26 わが身とわが心とはおとろ
ふされど神はわがこころの磐わがとこしへの嗣業な
り 27 視よなんぢに遠きものは滅びん 汝をはなれて
姦淫をおこなふ者はみななんぢ之をほろぼしたまひ
たり 28 神にちかづき奉るは我によきことなり われ

は主エホバを避所としてそのもろもろの事跡をのべ
つたへん

74 神よいかなれば汝われらをかぎりなく棄たまひ
しや 奈何ばなんぢの草苑の羊にみかいかりの煙あが
れるや **2** ねがはくは往昔なんぢが買求めたまへる公
會ゆづりの支派となさんとて贖ひたまへるものを思
ひいでたまへ又なんぢが住たまふシオンの山をおも
ひいで給へ **3** とこしへの滅亡の跡にみあしを向たま
へ仇は聖所にてもろもろの悪きわざをおこなへり **4**
なんぢの敵はなんぢの集のなかに吼たけびおのが旗
をたてて誌とせり **5** かれらは林のしげみにて斧をあ
ぐる人の状にみゆ **6** いま鉞と鎚とをもて聖所のなか
なる彫刻めるものをことごとく毀ちおとせり **7** かれ
らはなんぢの聖所に火をかけ名の居所をけがして地
におとしたり **8** かれら心のうちにいふわれらことご
とく之をこぼちあらさんと かくて國內なる神のもろ
もろの會堂をやきつくせり **9** われらの誌はみえず預
言者も今はなし 斯ていくその時をかふべき われらの
うちに知るものなし **10** 神よ敵はいくその時をふるま
でそしるや 仇はなんぢの名をとこしへに汚すならん
か **11** いかなれば汝その手みぎの手をひきたまふや ね
がはくは手をふところよりいだしてかれらを滅した
まへ **12** 神はいにしへよりわが王なり すぐひを世の
中におこなひたまへり **13** なんぢその力をもて海をわ
かち水のなかなる龍の首をくだき **14** 鱈のかうべをう
ちくだき野にすめる民にあたへて食となしたまへり
15 なんぢは泉と水流とをひらき又もろもろの大河を
からしたまへり **16** 晝はなんぢのもの夜も又汝のもの
なり なんぢは光と日とをそなへ **17** あまねく地のも

ろもろの界をたて夏と冬をつくりたまへり 18 エホバよ仇はなんぢをそしり愚かなる民はなんぢの名をけがせり この事をおもひいでたまへ 19 願くはなんぢの鶴のたましひを野のあらき獣にわたしたまふなかれ 苦しむものに命をとこしへに忘れたまふなかれ 20 契約をかへりみたまへ地のくらきところは強暴の宅にて充たればなり 21 ねがはくは虐げらるるものを慚退かしめ給ふなかれ 悩るものと苦しむものにと聖名をほめたたへしめたまへ 22 神よおきてなんぢの訟をあげつらひ愚かなるものの終日なんぢを謗れるをみこころに記たまへ 23 なんぢの敵の聲をわすれたまふなかれ 汝にさからひて起りたつ者のかしがましき聲はたえずあがれり

75 神よわれら汝にかんしやすわれら感謝すなんぢの名はちかく坐せばなり もろもろの人はなんぢの奇しき事跡をかたりあへり 2 定りたる期いたらば我なほき審判をなさん 3 地とすべての之にすむものと消去しとき我そのもろもろの柱をたてたり (セラ) 4 われ誇れるものに誇りかにおこなふなかれといひ 悪きものに角をあぐるなかれといへり 5 なんぢらの角をたかく擧るなかれ頸をかたくして高りいふなかれ 6 擧ることは東よりにあらず西よりにあらずまた南よりにあらずなり 7 ただ神のみ審士にましませば此をさげ彼をあげたまふ 8 エホバの手にさかづきありて酒あわだてり その中にもものまじりてみつ 神これをそそぎいだせり 誠にその滓は地のすべてのあしき者しぼりて飲むべし 9 されど我はヤコブの神をのべつたへん とこしへに讃うたはん 10 われ悪きものの

すべての角をきりはなたん 義きものの角はあげらるべし

76 神はユダにしられたまへり その名はイスラエルに大なり **2** またサレムの中にその幕屋あり その居所はシオンにあり **3** 彼所にてかれは弓の火矢ををり盾と劍と戦陣とをやぶりたまひき（セラ） **4** なんぢ榮光あり掠めうばふ山よりもたふとし **5** 心のつよきものは掠めらる かれらは睡にしづみ勇ましきものは皆その手を見うしなへり **6** ヤコブの神よなんぢの叱咤によりて戦車と馬とともに深睡につけり **7** 神よなんぢこそ懼るべきものなれ 一たび怒りたまふときは誰かみまへに立えんや **8** なんぢ天より宣告をのりたまへり 地のへりくだる者をみなすくはんとて神のさばきに立たまへるとき地はおそれて黙したり（セラ） **9** なんぢ天より宣告をのりたまへり 地のへりくだる者をみなすくはんとて神のさばきに立たまへるとき地はおそれて黙したり（セラ） **10** 實に人のいかりは汝をほむべし 怒のあまりは汝おのれの帯としたまはん **11** なんぢの神エホバにちかひをたてて償へ そのまはりなるすべての者はおそるべきエホバに禮物をささぐべし **12** エホバはもろもろの諸侯のたましひを絶たまはん エホバは地の王たちのおそるべき者なり

77 我わがこゑをあげて神によばはん われ聲を神にあげなばその耳をわれにかたぶけたまはん **2** わがなやみの日にわれ主をたづねまつれり 夜わが手をのべてゆるむることなかりき わがたましひは慰めらるるをいなみたり **3** われ神をおもひいでて打なやむ われ思ひなげきてわが靈魂おとろへぬ（セラ） **4** なんぢはわが眼をささへて閉がしめたまはず 我はものいふこ

と能はぬほどに悩みたり 5 われむかしの日いにしへの年をおもへり 6 われ夜わが歌をむもひいづ我わが心にてふかくおもひわが靈魂はねもころに尋ねもとむ 7 主はとこしへに棄たまふや 再びめぐみを垂たまはざるや 8 その憐憫はのこりなく永遠にさり そのちかひは世々ながく廢れたるや 9 神は恩をほどこすことを忘れたまふや 怒をもてそのあはれみを絨たまふや (セラ) 10 斯るときに我いへらく此はただわが弱きがゆゑのみいで至上者のみぎの手のもろもろの年をおもひいでん 11 われヤハの作爲をのべとなへん われ往古よりありし汝がくすしみわざを思ひいたさん 12 また我なんぢのすべての作爲をおもひいで汝のなしたまへることを深くおもはん 13 神よなんぢの途はいときよし 神のごとく大なる神はたれぞや 14 なんぢは奇きみわざをなしたまへる神なり もろもろの民のあひだにその大能をしめし 15 その臂をもてヤコブ、ヨセフの子輩なんぢの民をあがなひたまへり (セラ) 16 かみよ大水なんぢを見たり おほみづ汝をみてをのき淵もまたふるへり 17 雲はみづをそそぎいだし空はひびきをいだし なんぢの矢ははしりいでたり 18 なんぢの雷鳴のこゑは暴風のうちにありき 電光は世をてらし地はふるひうごけり 19 なんぢの大道は海のなかにあり なんぢの徑はおほみづの中にあり なんぢの蹤跡はたづねがたかりき 20 なんぢその民をモーセとアロンとの手によりて羊の群のごとくみちびきたまへり

78 わが民よわが教訓をきき、わが口のことばになんぢらの耳をかたぶけよ 2 われ口をひらきて譬喩をまうけ いにしへの玄幽なる語をかたりいでん 3 是わ

れらが曩にききしところ知しところ又われらが列祖のかたりつたへし所なり 4 われら之をその子孫にかくさずエホバのもろもろの頌美と能力とそのなしたまへる奇しき事跡とをきたらんとする世につげん 5 そはエホバ證詞をヤコブのうちにたて律法をイスラエルのうちに定めてその子孫にしらすべきことをわれらの列祖におほせたまひたればなり 6 これ來らんとする代のちに生るる子孫がこれを知みづから起りてそのまた子孫につたへ 7 かれらをして神によりたのみ神のみわざを忘れずその誠命をまもらしめん爲なり 8 またその列祖のごとく頑固にしてそむくもの類となり そのこころ修まらず そのたましひ神に忠ならざる類とならざらん爲なり 9 エフライムのこらは武具ととのへ弓をたづさへしに戦ひの日にうしろをそむけたり 10 かれら神のちかひをまもらず そのおきてを履ことをいなみ 11 エホバのなしたまへることとかれらに示したまへる奇しき事跡とをわすれたり 12 神はエジプトの國にてゾアンの野にて妙なる事をかれらの列祖のまへになしたまへり 13 すなはち海をさきてかれらを過ぎしめ水をつみて堆かくしたまへり 14 ひるは雲をもてかれらのみちびき夜はよもすがら火の光をもてこれを導きたまへり 15 神はあれのにて磐をさき大なる淵より汲がごとくにかれらに飲しめ 16 また磐より流をひきて河のごとくに水をながれしめたまへり 17 然るにかれら尚たえまなく罪ををかして神にさからひ荒野にて至上者にそむき 18 またおのが慾のために食をもとめてその心のうちに神をこころみたり 19 然のみならずかれらは神にさからひていへり 神は荒野にて筵をまうけたまふを得んや 20

みよ神いはを撃たまへば水ほどぼしりいで流あぶれ
たり 糧をもあたへたまふを得んや神はその民のため
に肉をそなへたまはんやと **21** この故にエホバこれを
聞いていきどほりたまひき 火はヤコブにむかひてもえ
あがり怒はイスラエルにむかひて立騰れり **22** こはか
れら神を信ぜずその救にたのまざりし故なり **23** され
どなほ神はうへなる雲に命じて天の戸をひらき **24** 彼
等のうへにマナをふらせて食はしめ天の穀物をあた
へたまへり **25** 人みな勇士の糧をくらへり 神はかれ
らに食物をおくりて飽足らしめたまふ **26** 神は天に東
風をふかせ大能もて南の風をみちびきたまへり **27** 神
はかれらのうへに塵のごとく肉をふらせ海の沙のご
とく翼ある鳥をふらせて **28** その營のなかその住所の
まはりに落したまへり **29** 斯てかれらは食ひて飽たり
ぬ 神はこれにその欲みしものを與へたまへり **30** か
れらが未だその慾をはなれず食物のなほ口のうちに
あるほどに **31** 神のいかり既にかれらに對ひてたちの
ぼり彼等のうちにて最もこえたる者をころしイスラ
エルのわかき男をうちたふしたまへり **32** これらの事
ありしかど彼等はなほ罪ををかしてその奇しきみわ
ぎを信ぜざりしかば **33** 神はかれらの日を空しくすぐ
させ その年をおそれつつ過させたまへり **34** 神かれ
らを殺したまへる時かれら神をたづね歸りきたりて
懇ろに神をもとめたり **35** かくて神はおのれの磐いと
たかき神はおのれの贖主なることをおもひいでたり
36 然はあれど彼等はただその口をもて神にへつらひ
その舌をもて神にいつはりをいひたりしのみ **37** そは
かれらのこころは神にむかひて堅からず その契約を
まもるに忠信ならざりき **38** されど神はあはれみに充

たまへばかれらの不義をゆるして亡したまはず屢ば
そのみいかりを轉してことごとくは忿恚をふりおこ
し給はざりき 39 又かれがただ肉にして過去ばふたた
び歸りこぬ風なるをおもひいで給へり 40 かれらは野
にて神にそむき荒野にて神をうれへしめしこと幾次
ぞや 41 かれらかへすがへす神をこころみイスラエルの
聖者をはづかしめたり 42 かれらは神の手をも敵よ
り贖ひたまひし日をもおもひいでざりき 43 神はその
もろもろの豫兆をエジプトにあらはしその奇しき事
をゾアンの野にあらはし 44 かれらの河を血にかはら
せてその流を飲あたはざらしめ 45 また蠅の群をおく
りてかれらをくはしめ蛙をおくりてかれらを亡させ
たまへり 46 神はかれらの田産を蠹賊にわたし かれ
らの勤勞を蝗にあたへたまへり 47 神は雹をもてかれ
らの葡萄の樹をからし霜をもてかれらの桑の樹をか
らし 48 その家畜をへうにわたしその群をもゆる閃電
にわたし 49 かれらの上にはげしき怒といきどほりと
怨恨となやみと禍害のつかひの群とをなげいだし給
へり 50 神はその怒をもらす道をまうけ かれらのた
ましひを死よりまぬかれしめず そのいのちを疫癘に
わたし 51 エジプトにてすべての初子をうちハムの幕
屋にてかれらの力の始をうちたまへり 52 されどおの
れの民を羊のごとくに引いだし かれらを曠野にてけ
だものの群のごとくにみちびき 53 かれらをともなひ
ておそれなく安けからしめ給へり されど海はかれら
の仇をおほへり 54 神はその聖所のさかひ その右の
手にて購たまへるこの山に彼らを携へたまへり 55 又
かれらの前にてもろもろの國人をおもひいだし準繩
をもちぬ その地をわかちて嗣業となし イスラエルの

族をかれらの幕屋にすまはせたまへり 56 然はあれど
彼等はいとたかき神をこころみ之にそむきてそのも
ろもろの證詞をまもらず 57 叛きしりぞきてその列祖
の如く眞實をうしなひ くるへる弓のごとくひるがへ
りて逸ゆけり 58 高處をまうけて神のいきどほりをひ
き刻める像にて神の嫉妬をおこしたり 59 神ききたま
ひて甚だしくいかり大にイスラエルを憎みたまひし
かば 60 人々の間におきたまひし幕屋なるシロのあげ
ばりを棄さり 61 その力をとりことならしめ その榮
光を敵の手にわたし 62 その民を劍にあたへ その嗣
業にむかひて甚だしく怒りたまへり 63 火はかれらの
わかき男をやきつくし かれらの處女はその婚姻の歌
によりて響らることなく 64 かれらの祭司はつるぎ
にて仆れ かれらの寡婦は喪のなげきだにせざりき 65
斯るときに主はねぶりし者のさめしごとく勇士の酒
によりてさけぶがごとく目さめたまひて 66 その敵を
うちしりぞけ とこしへの辱をかれらに負せたまへり
67 またヨセフの幕屋をいなみエフライムの族をえら
ばず 68 ユダの族そのいつくしみたまふシオンの山を
えらびたまへり 69 その聖所を山のごとく永遠にさだ
めたまへる地のごとくに立たまへり 70 またその僕ダ
ビデをえらびて羊の牢のなかよりとり 71 乳をあたふ
る牝羊にしたがひゆく勤のうちより携へきたりてそ
の民ヤコブその嗣業イスラエルを牧はせたまへり 72
斯てダビデはそのこころの完全にしたがひてかれら
を牧ひ その手のたくみをもて之をみちびけり

79 ああ神よもろもろの異邦人はなんぢの嗣業の地
ををかし なんぢの聖宮をけがしエルサレムをこぼち
て礫堆となし 2 なんぢの僕のしかばねをそらの鳥に

與へて餌となし なんぢの聖徒の肉を地のけものにあ
たへ 3 その血をエルサレムのめぐりに水のごとく流
したりされど之をはうむる人なし 4 われらは隣人に
そしられ四周のひとびとに侮られ嘲けらるるもの
となれり 5 エホバよ斯て幾何時をへたまふや 汝とこし
へに怒たまふや なんぢのねたみは火のごとく燃るか
6 願くはなんぢを識ざることくにびと聖名をよばざる
もろもろの國のうへに烈怒をそそぎたまへ 7 かれら
はヤコブを呑その住處をあらしたればなり 8 われら
にむかひて先祖のよこしまなるわざを記念したまふ
なかれ 願くはなんぢの憐憫をもて速かにわれらを迎
へたまへ われらは貶されて甚だしく卑くなりたれば
なり 9 われらのすくひの神よ名のえいくわうのため
に我儕をたすけ名のためにわれらを救ひ われらの罪
をのぞきたまへ 10 いかなれば異邦人はいふ かれら
の神はいづくにありやと 願くはなんぢの僕等がなが
されし血の報をわれらの目前になして異邦人にしら
しめたまへ 11 ねがはくは汝のみまへにとらはれびと
の嘆息のとどかんことを なんぢの大なる能力により
死にさだめられし者をまもりて存へしめたまへ 12 主
よわれらの隣人のなんぢをそしりたる謗を七倍まし
てその懐にむくいかへしたまへ 13 然ばわれらなんぢ
の民なんぢの草苑のひつじは永遠になんぢに感謝し
その頌辭を世々あらはさん

80 イスラエルの牧者よひつじの群のごとくヨセフ
を導きたまものよ 耳をかたぶけたまへ ケルビムのう
へに坐したまふものよ 光をはなちたまへ 2 エフライ
ム、ベニヤミン、マナセの前になんぢの力をふりお
こし來りてわれらを救ひたまへ 3 神よふたたびわれ

らを復し なんぢの聖顔のひかりをてらしたまへ 然ば
われら救をえん 4 ばんぐんの神エホバよなんぢその
民の祈にむかひて何のときまで怒りたまふや 5 汝か
れらになみだの糧をくらはせ涙を量器にみちみつる
ほどあたへて飲しめ給へり 6 汝われらを隣人のあひ
あらそふ種料となしたまふ われらの仇はたがひにあ
ざわらへり 7 萬軍の神よふたたびわれらを復したま
へ 汝のみかほの光をてらしたまへ さらばわれら救を
えん 8 なんぢ葡萄の樹をエジプトより携へいだしも
ろもろの國人をおひしりぞけて之をうゑたまへり 9
汝そのまへに地をまうけたまひしかば深く根して國
にはびこれり 10 その影はもろもろの山をおほひ そ
のえだは神の香柏のごとくにてありき 11 その樹はえ
だを海にまでのべ その若枝を河にまでのべたり 12
汝いかなればその垣をくづして路ゆくすべての人に
嫡取らせたまふや 13 はやしの猪はこれをあらし野の
あらし獣はこれをくらふ 14 ああ萬軍の神よねがはく
は歸りたまへ 天より俯視てこの葡萄の樹をかへりみ
15 なんぢが右の手にてうゑたまへるもの自己のため
に強くなしたまへる枝をまもりたまへ 16 その樹は火
にて焼れまた斫たふさる かれらは聖顔のいかりにて
亡ぶ 17 ねがはくはなんぢの手をその右の手の人のう
へにおき自己のためにつよくなしたまへる人の子の
うへにおきたまへ 18 さらばわれら汝をしりぞき離る
ることなからん 願くはわれらを活したまへ われら名
をよばん 19 ああ萬軍の神エホバよふたたび我儕をか
へしたまへ なんぢの聖顔のひかりを照したまへ 然ば
われら救をえん

81 われらの力なる神にむかひて高らかにうたひヤ
コブの神にむかひてよろこびの聲をあげよ **2** 歌をう
たひ鼓とよき音のことと箏とをもちきたれ **3** 新月と
満月とわれらの節會の日とにラッパをふきならせ **4**
これイスラエルの律法ヤコブのかみの格なり **5** 神さ
きにエジプトを攻たまひしときヨセフのなかに之を
たてて證となしたまへり 我かしこにて未だしらざり
し方言をきけり **6** われかれの肩より重荷をのぞきか
れの手を籃よりまぬかれしめたり **7** 汝なやめるとき
呼しかば我なんぢをすくへり われ雷鳴のかくれたる
ところにて汝にこたへメリバの水のほとりにて汝を
こころみたり（セラ） **8** わが民よきけ我なんぢに證せ
ん イスラエルよ汝がわれに従はんことをもとむ **9** 汝
のうちに他神あるべからず なんぢ他神ををがむべか
らず **10** われはエジプトの國よりなんぢを携へいでた
る汝の神エホバなり なんぢの口をひろくあけよ われ
物をみたしめん **11** されどわが民はわか聲にしたがは
ず イスラエルは我をこのまず **12** このゆゑに我かれ
らが心のかたくななるにまかせ彼等がその任意にゆ
くにまかせたり **13** われはわが民のわれに従ひイスラ
エルのわが道にあゆまんことを求む **14** さらば我すみや
かにかれらの仇をしたがへ わが手をかれらの敵にむ
けん **15** 斯てエホバをにくみし者もかれらに従ひか
れらの時はとこしへにつづかん **16** 神はむぎの最嘉を
もてかれらをやしなひ 磐よりいでたる蜜をもて汝を
あかしむべし

82 かみは神のつどひの中にたちたまふ 神はもろも
ろの神のなかに審判をなしたまふ **2** なんぢらは正か
らざる審判をなし あしきものの身をかたよりみて幾

何時をへんとするや（セラ）**3**よわきものと孤兒とのためにさばき苦しむものと乏しきものとのために公平をほどこせ**4**弱きものと貧しきものをすくひ彼等をあしきものの手よりたすけいだせ**5**かれらは知ることなく悟ることなくして暗中をゆきめぐりぬ地のもろもろの基はうごきたり**6**我いへらくなんぢらは神なりなんぢらはみな至上者の子なりと**7**然どなんぢらは人のごとくに死もろもろの侯のなかの一人のごとく仆れん**8**神よおきて全地をさばきたまへ汝もろもろの國を嗣たまふべければなり

83神よもだしたまふなかれ神よものいはで寂靜たまふなかれ**2**視よなんぢの仇はかしがきしき聲をあげ汝をにくむものは首をあげたり**3**かれらはたくみな謀略をもてなんぢの民にむかひ相共にはかりて汝のかくれたる者にむかふ**4**かれらいひたりき來かれらを斷滅してふたたび國をたつことを得ざらしめイスラエルの名をふたたび人にしられざらしめんと**5**かれらは心を一つにしてともにはかり互にちかひをなしてなんぢに逆ふ**6**こはエドムの幕屋にすめる人イシマエル人モアブ、ハガル人**7**ゲバル、アンモン、アマレク、ペリシテおよびツロの民などなり**8**アッスリヤも亦かれらにくみせり 斯てロトの子輩のたすけをなせり（セラ）**9**なんぢ曩にミデアンになしたまへる如くキシヨンの河にてシセラとヤピンとに作たまへるごとく彼等にもなしたまへ**10**かれらはエンドルにてほろび地のために肥料となれり**11**かれらの貴人をオレブ、ゼエブのごとくそのもろもろの侯をゼバ、ザルムンナのごとくなしたまへ**12**かれらはいへり われら神の草苑をえてわが有とすべしと**13**

わが神よかれらをまきあげらるる塵のごとく風のまへの藁のごとくならしめたまへ 14 林をやく火のごとく山をもやす焔のごとく 15 なんぢの暴風をもてかれらを追ひなんぢの旋風をもてかれらを恐れしめたまへ 16 かれらの面に恥をみたしめたまへ エホバよ然ばかれらなんぢの名をもとめん 17 かれらをとこしへに恥おそれしめ惶てまどひて亡びうせしめたまへ 18 然ばかれらはエホバてふ名をもちたまふ汝のみ全地をしろしめす至上者なることを知るべし

84 萬軍のエホバよなんぢの帷幄はいかに愛すべきかな 2 わが靈魂はたえいるばかりにエホバの大庭をしたひ わが心わが身はいける神にむかひて呼ぶ 3 誠やすずめは窩をえ燕子はその雛をいるる巢をえたり 萬軍のエホバわが王わが神よ これなんぢの祭壇なり 4 なんぢの家にすむものは福ひなり かかるひとはつねに汝をたたへまつらん（セラ） 5 その力なんぢにあり その心シオンの大路にある者はさいはひなり 6 かれらは涙の谷をすぐれども其處をおほくの泉あるところとなす また前の雨はもろもろの恵をもて之をおほへり 7 かれらは力より力にすすみ遂におのおのシオンにいたりて神にまみゆ 8 ばんぐんの神エホバよわが祈をききたまへ ヤコブの神よ耳をかたぶけたまへ（セラ） 9 われらの盾なる神よ みそなはしてなんぢの受膏者の顔をかへりみたまへ 10 なんぢの大庭にすまふ一日は千日にもまされり われ惡の幕屋にをらんよりは 寧ろわが神のいへの門守とならんことを欲ふなり 11 そは神エホバは日なり盾なり エホバは恩とえいくわうとをあたへ直くあゆむものに善物をこぼ

みたまふことなし 12 萬軍のエホバよなんぢに依頼む
ものはさいはひなり

85 エホバよなんぢは御國にめぐみをそそぎたまへ
り なんぢヤコブの俘囚をかへしたまひき 2 なんぢお
のが民の不義をゆるしそのもろもろの罪をおほひた
まひき（セラ） 3 汝すべての怒をすてその烈しきいき
どほりを遠けたまへり 4 われらのすくひの神よかへ
りきたり我儕にむかひて忿怒をやめたまへ 5 なんぢ
永遠にわれらをいかり萬世にみいかりをひきのべた
まふや 6 汝によりてなんぢの民の喜悦をえんが爲に
我儕を活したまはざるか 7 エホバよなんぢの憐憫を
われらにしめし汝のすくひを我儕にあたへたまへ 8
わが神エホバのいたりたまふ事をきかん エホバはそ
の民その聖徒に平和をかたりたまへばなり さればか
れらは愚かなる行爲にふたたび歸るなけれ 9 實にそ
のすくひは神をおそるる者にちかし かくて榮光はわ
れらの國にとどまらん 10 あはれみと眞實とともにあ
ひ義と平和とたがひに接吻せり 11 まことは地よりは
え義は天よりみおろせり 12 エホバ善物をあたへたま
へばわれらの國は物産をいださん 13 義はエホバのま
へにゆきエホバのあゆみたまふ跡をわれに踏しめん

86 エホバよなんぢ耳をかたぶけて我にこたへたま
へ 我はくるしみかつ乏しければなり 2 ねがはくはわ
が靈魂をまもりたまへ われ神をうやまふ者なればな
り わが神よなんぢに依頼める汝のしもべを救ひ給へ
3 主よわれを憐みたまへ われ終日なんぢによばふ 4
なんぢの僕のたましひを悦ばせたまへ 主よわが靈魂
はなんぢを仰ぎのぞむ 5 主よなんぢは恵ふかくまた
赦をこのみたまふ 汝によばふ凡てのものを豊かにあ

はれみたまふ 6 エホバよわがいのりに耳をかたぶけ
わが懇求のこゑをききたまへ 7 われわが患難の日に
なんぢに呼はん なんぢは我にこたへたまふべし 8 主
よもろもろの神のなかに汝にひとしきものはなく汝
のみわざに侘しきものはなし 9 主よなんぢの造れる
もろもろの國はなんぢの前にきたりて伏拝まん かれ
らは聖名をあがむべし 10 なんぢは大なり奇しき事跡
をなしたまふ 唯なんぢのみ神にましませり 11 エホバ
よなんぢの道をわれに教へたまへ我なんぢの眞理を
あゆまん ねがはくは我をして心ひとつに聖名をおそ
れしめたまへ 12 主わが神よ我心をつくして汝をほめ
たたへ とこしへに聖名をあがめまつらん 13 そはな
んぢの憐憫はわれに大なり わがたましひを陰府のふ
かき處より助けいだしたまへり (Sheol h7585) 14 神よた
かぶれるものは我にさからひて起りたち暴ぶる人の
會はわがたましひをもとめ 斯てなんぢを己がまへに
置ざりき 15 されど主よなんぢは憐憫とめぐみとにと
み怒をおそくし愛しみと眞實とにゆたかなる神にま
しませり 16 我をかへりみ我をあはれみたまへ ねが
はくは汝のしもべに能力を與へ汝のはしための子を
すくひたまへ 17 我にめぐみの憑據をあらはしたまへ
然ばわれをにくむ者これをみて恥をいだかん そはエ
ホバよなんぢ我をたすけ我をなぐさめたまへばなり

87 エホバの基はきよき山にあり 2 エホバはヤコブ
のすべての住居にまさりてシオンのもろもろの門を
愛したまふ 3 神の都よなんぢにつきておほくの榮光
のことを語りはやせり (セラ) 4 われはラハブ、パピ
ロンをも我をしるものの中にあげん ペリシテ、ツロ
、エテオピアを視よこの人はかしこに生れたりとい

はん 5 シオンにつきては如此いはん 此もの彼ものそ
の中にうまれたり至上者みづからシオンを立たまは
んと 6 エホバもろもろの民をしるしたまふ時このも
のは彼處にうまれたりと算へあげたまはん (セラ) 7
うたふもの踊るもの皆いはん わがもろもろの泉はな
んぢの中にありと

88 わがすくひの神エホバよわれ晝も夜もなんぢの
前にさけべり 2 願くはわが祈をみまへにいたらせ汝
のみみをわが號呼のこゑにかたぶけたまへ 3 わがた
ましひは患難にてみち我がいのちは陰府にちかづけ
り (Sheol h7585) 4 われは穴にいるものとともにかぞへ
られ依仗なき人のごとくなれり 5 われ墓のうちなる
殺されしもののごとく死者のうちにすてらる汝かれ
らを再びここに記たまはず かれらは御手より斷滅
されしものなり 6 なんぢ我をいとふかき穴くらき處
ふかき淵におきたまひき 7 なんぢの怒はいたくわれ
にせまれり なんぢそのもろもろの浪をもて我をくる
しめ給へり (セラ) 8 わが相識ものを我よりとほざけ
我をかれらに憎ませたまへり われは錮閉されていづ
ることあたはず 9 わが眼はなやみの故をもておとろ
へぬ われ日ごとに汝をよべり エホバよなんぢに向ひ
てわが兩手をのべたり 10 なんぢ死者にくすしき事跡
をあらはしたまはんや 亡にしもの立てなんぢを讃た
たへんや (セラ) 11 汝のいつくしみは墓のうちに汝の
まことは滅亡のなかに宣傳へられんや 12 汝のくすし
きみわざは幽暗になんぢの義は忘失のくにに知るる
ことあらんや 13 されどエホバよ我なんぢに向ひてさ
けべり わがいのりは朝にみまへに達らん 14 エホバ
よなんぢ何なればわが靈魂をすてたまふや何なれば

われに面をかくしたまふや 15 われ幼稚よりなやみて
死るばかりなり我なんぢの恐嚇にあひてくるしみま
どへり 16 汝のはげしき怒わがうへをすぐ汝のおびや
かし我をほろぼせり 17 これらの事ひねもす大水のご
とく我をめぐり ことごとく來りて我をかこみふさげ
り 18 なんぢ我をいつくしむ者とわが友とをとほざけ
わが相識るものを幽暗にいれたまへり

89 われエホバの憐憫をとしへにうたはん われ口
もてエホバの眞實をよろづ代につげしらせん 2 われ
いふ あはれみは永遠にたてる 汝はその眞實をかた
く天にさだめたまはんと 3 われわが撰びたるものと
契約をむすびわが僕ダビデにちかひたり 4 われなん
ぢの裔をとしへに固うしなんぢの座位をたてて代
々におよぼしめん（セラ） 5 エホバよもろもろの天は
なんぢの奇しき事跡をほめん なんぢの眞實もまた潔
きものの會にてほめらるべし 6 蒼天にてたれかエホ
バに類ふものあらんや 神の子のなかに誰かエホバの
ごとき者あらんや 7 神はきよきものの公會のなか
にて畏むべきものなり その四周にあるすべての者にま
さりて懼るべきものなり 8 萬軍の神エホバよヤハよ
汝のごとく大能あるものは誰ぞや なんぢの眞實はな
んぢをめぐりたり 9 なんぢ海のあるるををさめ その
浪のたちあがらるときは之をしづめたまふなり 10 な
んぢラハブを殺されしもののごとく撃碎きおのれの
仇どもを力ある腕をもて打散したまへり 11 もろもろ
の天はなんぢのもの地もまた汝のものなり世界とそ
の中にみつるものとはなんぢの基したまへるなり 12
北と南はなんぢ造りたまへり タボル、ヘルモンはな
んぢの名によりて歡びよばふ 13 なんぢは大能のみう

でをもちたまふ なんぢの手はつよく汝のみぎの手は
たかし 14 義と公平はなんぢの寶座のもとゐなり あ
はれみと眞實とは聖顔のまへにあらはれゆく 15 よろ
こびの音をする民はさいはひなり エホバよかれらは
みかほの光のなかをあゆめり 16 かれらは名によりて
終日よろこび 汝の義によりて高くあげられたり 17
かれらの力の榮光はなんぢなり 汝の恵によりてわれ
らの角はたかくあげられん 18 そはわれらの盾はエホ
バに屬われらの王はイスラエルの聖者につけり 19 そ
のとき異象をもてなんぢの聖徒につげたまはく われ
佑助をちからあるものに委ねたり わが民のなかより
一人をえらびて高くあげたり 20 われわが僕ダビデを
えて之にわが聖膏をそそげり 21 わが手はかれととも
に堅くわが臂はかれを強くせん 22 仇かれをしへたぐ
ることなし悪の子かれを苦しむることなからん 23 わ
れかれの前にそのもろもろの敵をたふし彼をにくめ
るものを撃ん 24 されどわが眞實とわが憐憫とはダビ
デとともに居り わが名によりてその角はたかくあげ
られん 25 われ亦かれの手を海のうへにおき そのみ
ぎの手を河のうへにおかん 26 ダビデ我にむかひて汝
はわが父わが神わがすくひの岩なりとよぼん 27 われ
また彼をわが初子となし地の王たちのうち最もたか
き者となさん 28 われとこしへに憐憫をかれがために
たもち之とたてし契約はかはることなかるべし 29
われまたその裔をとこしへに存へ そのくらゐを天の
日數のごとくながらへしめん 30 もしその子わが法を
はなれ わが審判にしたがひて歩まず 31 わが律法を
やぶりわが誠命をまもらずば 32 われ杖をもてかれら
の愆をただし鞭をもてその邪曲をただすべし 33 され

ど彼よりわが憐憫をことごとくはとりさらず わが眞
實をおとろへしむることなからん 34 われおのれの契
約をやぶらず己のくちびるより出しことをかへじ 35
われ曩にわが聖をさして誓へり われダビデに虚偽を
いはじ 36 その裔はとこしへにつづきその座位は日の
ごとく恒にわが前にあらん 37 また月のごとく永遠に
たてられん空にある證人はまことなり (セラ) 38 さ
れどその受膏者をとほざけて棄たまへり なんぢ之を
いきどほりたまへり 39 なんぢ己がしもべの契約をい
み 其かんむりをけがして地にまでおとし給へり 40
またその垣をことごとく倒し その保砦をあれすたれ
しめたまへり 41 その道をすぐるすべての者にかすめ
られ隣人にののしらる 42 なんぢかれが敵のみぎの手
をたかく擧そのもろもろの仇をよろこばしめたまへ
り 43 なんぢかれの劍の刃をふりかへして戦闘にたつ
に堪へざらしめたまひき 44 またその光輝をけしその
座位を地になげおとし 45 その年若き日をちぢめ恥を
そのうへに覆たまへり (セラ) 46 エホバよかくて幾
何時をへたまふや自己をとこしへに隠したまふや忿
怒は火のもゆるごとくなるべきか 47 ねがはくはわが
時のいかに短かきかを思ひたまへ 汝いたづらにすべ
ての人の子をつくりたまはんや 48 誰かいきて死をみ
ず又おのがたましひを陰府より救ひうるものあらん
や (セラ) (Sheol h7585) 49 主よなんぢが眞實をもてダビ
デに誓ひたまへる昔日のあはれみはいづこにありや
50 主よねがはくはなんぢの僕のうちる謗をみこころ
にとめたまへ エホバよ汝のもろもろの仇はわれをそ
しりなんぢの受膏者のあしあとをそしれり 我もろも
ろの民のそしりをわが懐中にいだく 51 主よねがはく

はなんぢの僕のうくる謗をみこころにとめたまへ エ
ホバよ汝のもろもろの仇はわれをそしりなんぢの受
膏者のあしあとをそしれり 我もろもろの民のそしり
をわが懐中にいだく 52 エホバは永遠にほむべきかな
アーメン アーメン

90 主よなんぢは往古より世々われらの居所にてま
しませり 2 山いまだ生いはず汝いまだ地と世界とを
つくりたまはざりしとき 永遠よりとこしへまでなん
ぢは神なり 3 なんぢ人を塵にかへらしめて宣はく人
の子よなんぢら歸れと 4 なんぢの目前には千年もす
でにすぐる昨日のごとく また夜間のひとときにおな
じ 5 なんぢこれらが大水のごとく流去らしめたまふ
かれらは一夜の寝のごとく朝にはえいづる青草のご
とし 6 朝にはえいでてさかえ夕にはかられて枯るな
り 7 われらはなんぢの怒によりて消うせ 汝のいきど
ほりによりて怖まどふ 8 汝われらの不義をみまへに
置 われらの隠れたるつみを聖顔のひかりのなかにお
きたまへり 9 われらのもろもろの日はなんぢの怒に
よりて過去り われらがすべての年のつくるは一息の
ごとし 10 われらが年をふる日は七十歳にすぎず あ
るひは壯やかにして八十歳にいたらん されどその誇
るところはただ勤勞とかなしみとのみ その去ゆくこ
と速かにしてわれらもまた飛去れり 11 誰かなんぢの
怒のちからを知らんや たれか汝をおそるる畏にたく
らべて汝のいきどほりをしらんや 12 願くはわれらに
おのが日をかぞふることををしへて智慧のこころを
得しめたまへ 13 エホバよ歸りたまへ斯ていくそのと
きを歴たまふや ねがはくは汝のしもべらに係れるみ
こころを變へたまへ 14 ねがはくは朝にわれらを汝の

あはれみにてあきたらしめ 世をはるまで喜びたのし
ませたまへ 15 汝がわれらを苦しめたまへるもろもろ
の日と われらが禍害にかかれるもろもろの年とにた
くらべて我儕をたのしませたまへ 16 なんぢの作爲を
なんぢの僕等に なんぢの榮光をその子等にあらはし
たまへ 17 斯てわれらの神エホバの佳美をわれらのう
へにのぞましめ われらの手のわざをわれらのうへに
確からしめたまへ 願くはわれらの手のわざを確から
しめたまへ

91 至上者のもとなる隠れたるところにすまふその
人は全能者の蔭にやどらん 2 われエホバのことを宣
て エホバはわが避所わが城わがよりのむ神なりと
いはん 3 そは神なんぢを狩人のわなと毒をながす疫
癘よりたすけいだしたまふべければなり 4 かれその
翮をもてなんぢを庇ひたまはん なんぢその翼の下に
かくれん その眞實は盾なり干なり 5 夜はおどろくべ
きことあり晝はとびきたる矢あり 6 幽暗にはあゆむ
疫癘あり日午にはそこなふ勵しき疾あり されどなん
ぢ畏ることあらじ 7 千人はなんぢの左にたふれ萬
人はなんぢの右にたふる されどその災害はなんぢに
近づくことなからん 8 なんぢの眼はただこの事をみ
るのみ なんぢ悪者のむくいを見ん 9 なんぢ曩にいへ
りエホバはわが避所なりと なんぢ至上者をその住居
となしたれば 10 災害なんぢにいたらず苦難なんぢの
幕屋に近づかじ 11 そは至上者なんぢのためにその使
者輩におほせて 汝があゆむもろもろの道になんぢを
守らせ給へばなり 12 彼ら手にてなんぢの足の石にふ
れざらんために汝をささへん 13 なんぢは獅と蝮とを
ふみ壯獅と蛇とを足の下にふみにじらん 14 彼その愛

をわれにそそげるがゆゑに我これを助けん かれわが
名をしるがゆゑに我これを高處におかん 15 かれ我を
よはば我こたへん 我その苦難のときに偕にをりて之
をたすけ之をあがめん 16 われ長寿をもてかれを足は
しめ且わが救をしめさん

92 いとたかき者よエホバにかんしやし聖名をほめ
たたふるは善かな 2 あしたに汝のいつくしみをあら
はし 夜々なんぢの眞實をあらはすに 3 十絃のなりも
のと箏とをもちる 琴の妙なる音をもちゐるはいと善
かな 4 そはエホバよ なんぢその作爲をもて我をたの
しませたまへり 我なんぢの手のわざをよろこびほこ
らん 5 エホバよ汝のみわざは大なるかな汝のもろも
ろの思念はいとふかし 6 無知者はしることなく愚な
るものは之をさとらず 7 悪きものは草のごとくもえ
いで 不義をおこなふ衆庶はさかゆるとも 遂にはとこ
しへにほろびん 8 されどエホバよ汝はとこしへに高
處にましませり 9 エホバよ吁なんぢの仇ああなんぢ
の仇はほろびん 不義をおこなふ者はことごとく散さ
れん 10 されど汝わが角をたかくあげて 野の牛のつ
のごとくならしめたまへり 我はあたらしき膏をそ
そがれたり 11 又わが目はわが仇につきて願へること
を見わが耳はわれにさからひておこりたつ悪をなす
ものにつきて願へることをききたり 12 義しきものは
棕櫚の樹のごとく榮え レバノンの香柏のごとくそだ
つべし 13 エホバの宮にうゑられしものはわれらの神
の大庭にさかえん 14 かれらは年老てなほ果をむすび
豊かにうるほひ緑の色みちみちて 15 エホバの直きも
のなることを示すべし エホバはわが巖なりエホバに
は不義なし

93 エホバは統治たまふ エホバは稜威をきたまへり
エホバは能力をころもとなし帯となしたまへり さ
ればまた世界もかたくたちて動かさることなし **2**
なんぢの寶座はいにしへより堅くたちぬ 汝はとこ
しへより在せり **3** 大水はこゑをあげたり エホ
バよおほみづは聲をあげたり おほみづは浪をあぐ
4 エホバは高處にいましてその威力はおほくの水の
こゑ海のさかまくにまさりて盛んなり **5** なんぢの證
詞はいとかたし エホバよ聖潔はなんぢの家にとこ
しへまでも適應なり

94 エホバよ仇をかへすは汝にあり神よあたを報す
はなんぢにあり ねがはくは光をはなちたまへ **2** 世を
さばきたまふものよ 願くは起てたかぶる者にそのう
くべき報をなしたまへ **3** エホバよ悪きもの幾何のと
きを経んとするや あしきもの勝誇りていくそのとし
を経るや **4** かれらはみだりに言をいだして誇りもの
いふ すべて不義をおこなふ者はみづから高ぶれり **5**
エホバよ彼等はなんぢの民をうちくだき なんぢの業
をそこなふ **6** かれらは嫠婦と旅人との生命をうしな
ひ孤子をころす **7** かれらはいふ ヤハは見ずヤコブの
神はさとらざるべしと **8** 民のなかなる無知よ なんぢ
らさとれ 愚かなる者よ いづれのと看にか智からん **9**
みみを植るものきくことをせざらんや 目をつくれる
もの見ることをせざらんや **10** もろもろの國ををしふ
る者ただすことを爲ざらんや 人に知識をあたふる者
しることなからんや **11** エホバは人の思念のむなしき
を知りたまふ **12** ヤハよなんぢの懲めたまふ人なんぢ
の法をしへらるる人は さいはひなるかな **13** かか
る人をわざはひの日よりのがれしめ 悪きもののため

に坑のほらるるまで これに平安をあたへたまはん 14
そはエホバその民をすてたまはず その嗣業をはなれ
たまはざるなり 15 審判はただしきにかへり心のなほ
き者はみなその後にしたがはん 16 誰かわがために起
りたちて悪きものを責んや 誰か我がために立て不義
をおこなふ者をせめんや 17 もしエホバ我をたすけた
まはざりせば わが靈魂はとくに幽寂ところに住ひし
ならん 18 されどわが足すべりぬといひしとき エホ
バよなんぢの憐憫われをささへたまへり 19 わがうち
に憂慮のみつる時 なんぢの安慰わがたましひを喜ば
せたまふ 20 律法をもて害ふことをはかる悪の位はな
んぢに親むことを得んや 21 彼等はあひかたらひて義
人のたましひをせめ罪なき血をつみに定む 22 然はあ
れどエホバはわがたかき櫓 わが神はわが避所の磐な
りき 23 神はかれらの邪曲をその身におはしめ かれ
らとその悪き事のなかに滅したまはん われらの神エ
ホバはこれを滅したまはん

95 率われらエホバにむかひてうたひすくひの磐に
むかひてよろこばしき聲をあげん 2 われら感謝をも
てその前にゆき エホバにむかひ歌をもて歡ばしき
こゑをあげん 3 そはエホバは大なる神なり もろも
ろの神にまされる大なる王なり 4 地のふかき處み
なその手にあり 山のいただきもまた神のものなり
5 うみは神のものその造りたまふところ早ける地もま
たその手にて造りたまへり 6 いざわれら拝みひれふ
し我儕をつくれる主エホバのみまへに曲跪くべし 7
彼はわれらの神なり われらはその草苑の民その手
のひつじなり 今日なんぢらがその聲をきかんこと
をのぞむ 8 なんぢらメリバに在りしときのごとく野

なるマサにありし日の如く その心をかたくなにするなかれ 9 その時なんぢらの列祖われをこころみ我をためし 又わがわざをみたり 10 われその代のためにうれへて四十年を歴 われいへり かれらは心あやまれる民わが道を知ざりきと 11 このゆゑに我いきどほりて彼等はわが安息にいるべからずと誓ひたり

96 あたらしき歌をエホバにむかひてうたへ 全地よエホバにむかひて謳ふべし 2 エホバに向ひてうたひその名をほめよ 日ごとにその救をのべつたへよ 3 もろもろの國のなかにその榮光をあらはし もろもろの民のなかにその奇しきみわざを顯すべし 4 そはエホバはおほいなり大にほめたたふべきものなり もろもろの神にまさりて畏るべきものなり 5 もろもろの民のすべての神はことごとく虚し されどエホバはもろもろの天をつくりたまへり 6 尊貴と稜威とはその前にあり能と善美とはその聖所にあり 7 もろもろの民のやからよ榮光とちからとをエホバにあたへよエホバにあたへよ 8 その聖名にかなふ榮光をもてエホバにあたへ 獻物をたづさへてその大庭にきたれ 9 きよき美しきものをもてエホバををがめ 全地よその前にをののけ 10 もろもろの國のなかにいへ エホバは統治たまふ世界もかたくたちて動かさるることなし エホバは正直をもてすべての民をさばきたまはんと 11 天はよろこび地はたのしみ海とそのなかに盈るものとはなりどよみ 12 田畑とその中のすべての物とはよろこぶべし かくて林のもろもろの樹もまたエホバの前によろこびうたはん 13 エホバ來りたまふ地をさばかんとて來りたまふ 義をもて世界をさばきその眞實をもてもろもろの民をさばきたまはん

97 エホバは統治たまふ 全地はたのしみ多くの島々はよろこぶべし **2** 雲とくらきとはそり周環にあり 義と公平とはその寶座のもとるなり **3** 火ありそのみまへにすすみ その四周の敵をやきつくす **4** エホバのいなびかりは世界をてらす 地これを見てふるへり **5** もろもろの山はエホバのみまへ全地の主のみまへにて 蟻のごとくとけぬ **6** もろもろの天はその義をあらはし よろづの民はその榮光をみたり **7** すべてきざめる像につかへ虚しきものによりてみづから誇るものは 恥辱をうくべし もろもろの神よみなエホバをふしをがめ **8** エホバよなんぢの審判のゆゑによりシオンはききてよろこびユダの女輩はみな楽しみ **9** エホバよなんぢ全地のうへにましまして至高く なんぢもろもろの神のうへにましまして至貴とし **10** エホバを愛しむものよ悪をにくめ エホバはその聖徒のたましひをまもり 之をあしきものの手より助けいだしたまふ **11** 光はただしき人のためにまかれ 欣喜はこころ直きものために播れたり **12** 義人よエホバにより喜べ そのきよき名に感謝せよ

98 あたらしき歌をエホバにむかひてうたへ そは妙なる事をおこなひその右の手そのきよき臂をもて 己のために救をなし畢たまへり **2** エホバはそのすくひを知しめ その義をもろもろの國人の目のまへにあらはし給へり **3** 又その憐憫と眞實とをイスラエルの家 にむかひて記念したまふ 地の極もことごとくわが神のすくひを見たり **4** 全地よエホバにむかひて歡ばしき聲をあげよ 聲をはなちてよろこびうたへ讃うたへ **5** 琴をもてエホバをほめうたへ 琴の音と歌のこゑとをもてせよ **6** ラッパと角笛をふきならし 王エホ

バのみまへによろこばしき聲をあげよ 7 海とそのなかに盈るもの 世界とせかいにすむものと鳴響むべし 8 大水はその手をうち もろもろの山はあひともにエホバの前によろこびうたふべし 9 エホバ地をさばかんために來りたまへばなり エホバ義をもて世界をさばき 公平をもて もろもろの民をさばきたまはん

99 エホバは統治たまふ もろもろの民はをののくべし エホバはケルビムの間にいます 地ふるはん 2 エホバはシオンにましまして大なり もろもろの民にすぐれてたふとし 3 かれらは汝のおほいなる畏るべき名をほめたたふべし エホバは聖なるかな 4 王のちからは審判をこのみたまふ 汝はかたく公平をたてヤコブのなかに審判と公義とをおこなひたまふ 5 われらの神エホバをあがめ その承足のもとにて拝みまつれ エホバは聖なるかな 6 その祭司のなかにモーセとアロンとあり その名をよぶ者のなかにサムエルあり かれらエホバをよびしに應へたまへり 7 エホバ雲の柱のうちましましてかれらに語りたまへり かれらはその證詞とその賜はりたる律法とを守りたりき 8 われらの神エホバよなんぢ彼等にこたへたまへり かれらのなしし事にむくいたまひたれど また赦免をあたへたまへる神にてまします 9 われらの神エホバを崇めそのきよき山にてをがみまつれ そはわれらの神エホバは聖なるなり

100 全地よエホバにむかひて歡ばしき聲をあげよ 2 欣喜をいだきてエホバに事へ うたひつつその前にきたれ 3 知れエホバこそ神にますなれ われらを造りたまへるものはエホバにまします 我儕はその屬なり われらはその民その草苑のひつじなり 4 感謝しつつ

その門にいり ほめたたへつつその大庭にいれ 感謝してその名をほめたたへよ 5 エホバはめぐみふかくその憐憫かぎりなく その眞實よろづ世におよぶべければなり

101 われ憐憫と審判とをうたはん エホバよ我なんぢを讃うたはん 2 われ心をさとくして全き道をまもらん なんぢいづれの時われにきたりたまふや 我なほき心をもてわが家のうちをありかん 3 われわが眼前にいやしき事をおかず われ叛くものの業をにくむ そのわざは我につかじ 4 僻めるところは我よりはなれん 悪きものを知ることをこのまず 5 隠にその友をそしめるものは我これをほろぼさん 高ぶる眼また驕れる心のもは我これをしのぼじ 6 わが眼は國のうちの忠なる者を見て之をわれとともに住はせん 全き道をあゆむ人はわれに事へん 7 欺くことをなす者はわが家のうちに住むことをえず 虚偽をいふものはわが目前にたつことを得じ 8 われ朝な朝なこの國のあしき者をことごとく滅し エホバの邑より不義をおこなふ者をことごとく絶除かん

102 エホバよわが祈をききたまへ 願くはわが號呼のこゑの御前にいたらんことを 2 わが窮苦の日みかほを蔽ひたまふなかれ なんぢの耳をわれにかたぶけ我がよぶ日にすみやかに我にこたへたまへ 3 わがもろもろの日は煙のごとくきえ わが骨はたきぎのごとく焚るるなり 4 わがところは草のごとく撃れてしほれたり われ糧をくらふを忘れしによる 5 わが歎息のこゑによりてわが骨はわが肉につく 6 われは野の鷄鷓のごとく荒たる跡のふくろふのごとくになりぬ 7 われ醒てねぶらず ただ友なくして屋蓋にをる雀のご

とくなれり 8 わが仇はひねもす我をそしる 猖狂ひて
我をせむるもの我をさして誓ふ 9 われは糧をくらふ
ごとくに灰をくらひ わが飲ものには涙をまじへたり
10 こは皆なんぢの怒と忿恚とによりてなり なんぢ我
をもたげてなげすて給へり 11 わが齡はかたぶける日
影のごとく またわれは草のごとく萎れたり 12 され
どエホバよなんぢは永遠にながらへ その名はよろづ
世にながらへん 13 なんぢ起てシオンをあはれみたま
はん そはシオンに恩恵をほどこしたまふときなり そ
のさだまれる期すでに來れり 14 なんぢの僕はシオン
の石をもよろこび その塵をさへ愛しむ 15 もろもろ
の國はエホバの名をおそれ 地のもろもろの王はその
榮光をおそれん 16 エホバはシオンをきづき榮光をも
てあらはれたまへり 17 エホバは乏しきものの祈をか
へりみ彼等のいのりを藐しめたまはざりき 18 來らん
とするのちの世のためにこの事をするさん 新しくつ
くられたる民はヤハをほめたたふべし 19 エホバその
聖所のたかき所よりみおろし天より地をみたまへり
20 こは俘囚のなげきをきき死にさだまれる者をとき
はなち 21 人々のシオンにてエホバの名をあらはしエ
ルサレムにてその頌美をあらはさんが爲なり 22 かか
る時にもろもろの民もろもろの國つどひあつまりて
エホバに事へまつらん 23 エホバはわがちからを途に
ておとろへしめ わが齡をみじかからしめ給へり 24
我いへりねがはくはわが神よわがすべての日のなか
ばにて我をとりさりたまふなかれ 汝のよはひは世々
かぎりなし 25 汝いにしへ地の基をすゑたまへり 天
もまたなんぢの手の工なり 26 これらは亡びん され
ど汝はつねに存らへたまはん これらはみな衣のごと

くふるびん 汝これらを袍のごとく更たまはん されば
彼等がかはらん 27 然れども汝はかはることなし なん
ぢの齡はをはらざるなり 28 汝のしもべの子輩はな
がらへん その裔はかたく前にたてらるべし

103 わが靈魂よエホバをほめまつれ わが衷なるす
べてのものよそのきよき名をほめまつれ 2 わがたま
しひよエホバを讚まつれ そのすべての恩恵をわする
るなかれ 3 エホバはなんぢがすべての不義をゆるし
汝のすべての疾をいやし 4 なんぢの生命をほろびよ
り贖ひいだし 仁慈と憐憫とを汝にかうぶらせ 5 なん
ぢの口を嘉物にてあかしめたまふ 斯てなんぢは壯ぎ
て驚のごとく新になるなり 6 エホバはすべて虐げら
るる者のために公義と審判とをおこなひたまふ 7 お
のれの途をモーセにしらしめ おのれの作爲をイスラ
エルの子輩にしらしめ給へり 8 エホバはあはれみと
恩恵にみちて怒りたまふことおそく仁慈ゆたかにま
しませり 9 恒にせむることをせず永遠にいかりを懐
きたまはざるなり 10 エホバはわれらの罪の量にした
がひて我儕をあしらひたまはず われらの不義のかさ
にしたがひて報いたまはざりき 11 エホバをおそるる
ものにエホバの賜ふそのあはれみは大にして 天の地
よりも高きがごとし 12 そのわれらより愆をとほざけ
たまふことは東の西より遠きがごとし 13 エホバの己
をおそるる者をあはれみたまふことは父がその子を
あはれむが如し 14 エホバは我儕のつくられし状をし
りわれらの塵なることを念ひ給へばなり 15 人のよは
ひは草のごとく その榮はこの花のごとし 16 風すぐ
れば失てあとなくその生いでし處にとへど尚しらざ
るなり 17 然はあれどエホバの憐憫はとこしへより永

遠まで エホバをおそるるものにとり 其の公義は子孫のまた子孫にいたらん 18 其の契約をまもり其の訓諭を心にとめて行ふものぞ其の人なる 19 エホバはその寶座をもちもろの天にかたく置たまへり 其の政權はよろづのものうへにあり 20 エホバにつかふる使者よ エホバの聖言のこゑをきき 其の聖言をおこなふ勇士よ エホバをほめまつれ 21 其の萬軍よ 其の聖旨をおこなふ僕等よ エホバをほめまつれ 22 其の造りたまへる萬物よ エホバの政權の下なるすべての處にてエホバをほめよ わがたましひよエホバを讚まつれ

104 わが靈魂よエホバをほめまつれ わが神エホバよなんぢは至大にして尊貴と稜威とを衣たまへり 2 なんぢ光をころものごとくにまとひ天を幕のごとくにはり 3 水のなかにおのれの殿の棟梁をおき 雲をおのれの車となし 風の翼にのりあるき 4 かぜを使者となし 焔のいづる火を僕となしたまふ 5 エホバは地を基のうへにおきて 永遠にうごくことなからしめたまふ 6 衣にておほふがごとく大水にて地をおほひたまへり 水たたへて山のうへをこゆ 7 なんぢ叱咤すれば水しりぞき 汝いかづちの聲をはなれば水たちまち去ぬ 8 あるひは山にのぼり或ひは谷にくだりて 汝のさだめたまへる所にゆけり 9 なんぢ界をたてて之をこえしめず ふたたび地をおほふことなからしむ 10 エホバはいづみを谷にわきいだし給ふ 其の流は山のあひだにはしる 11 かくて野のもろもろの獸にのましむ 野の驢馬も其の渴をやむ 12 空の鳥も其のほとりにすみ 樹梢の間よりさえづりうたふ 13 エホバは其の殿よりもろもろの山に灌漑たまふ 地はなんぢのみわざの實によりて飽足ぬ 14 エホバは草をはえしめて家畜

にあたへ 田産をはえしめて人の使用にそなへたまふ
かく地より食物をいだしたまふ 15 人のところを飲ば
しむる葡萄酒 ひとの顔をつややかならしむるあぶら
人のところを強からしむる糧どもなり 16 エホバの樹
とその植たまへるレバノンの香柏とは飽足ぬべし 17
鳥はそのなかに巢をつくり鶴は松をその棲とせり 18
たかき山は山羊のすまひ磐石は山鼠のかくるる所な
り 19 エホバは月をつくりて時をつかさどらせたまへ
り 日はその西にすることをしる 20 なんぢ黑暗をつ
くりたまへば夜あり そのとき林のけものは皆しのび
しのびに出きたる 21 わかき獅ほえて餌をもとめ神に
くひものをもとむ 22 日いづれば退きてその穴にふす
23 人はいでて工をとりその勤勞はゆふべにまでいた
る 24 エホバよなんぢの事跡はいかに多なる これら
は皆なんぢの智慧にてつくりたまへり 汝のもろもろ
の富は地にみつ 25 かしこに大なるひろき海あり そ
のなかに數しられぬ匍ふもの小なる大なる生るもの
あり 26 舟そのうへをはしり汝のつくりたまへる鱧そ
のうちにあそびたはぶる 27 彼ら皆なんぢを俟望む
なんぢ宜時にくひものを之にあたへたまふ 28 彼等は
なんぢの予へたまふ物をひろふ なんぢ手をひらきた
まへばかれら嘉物にあきたりぬ 29 なんぢ面をおほひ
たまへば彼等はあわてふためく 汝かれらの氣息をと
りたまへばかれらは死て塵にかへる 30 なんぢ靈をい
だしたまへば百物みな造らるなんぢ地のおもてを新
にしたまふ 31 願くはエホバの榮光とこしへにあらん
ことを エホバそのみわざを喜びたまはんことを 32
エホバ地をみたまへば地ふるひ山にふれたまへば山
は煙をいだす 33 生るかぎりはエホバに向ひてうたひ

我ながらふるほどはわが神をほめうたはん 34 エホバ
をおもふわが思念はたのしみ深からん われエホバに
よりにて喜ぶべし 35 罪人は地より絶滅され あしきも
のは復あらざるべし わが靈魂よエホバをほめまつれ
エホバを讃稱へよ

105 エホバに感謝してその名をよび そのなしたま
へる事をもろもろの民輩のなかにしらしめよ 2 エホ
バにむかひてうたへエホバを讃うたへ そのもろもろ
の妙なる事跡をかたれ 3 そのきよき名をほこれ エホ
バをたづねもとむるものの心はよろこぶべし 4 エホ
バとその能力とをたづねもとめよ つねにその聖顔を
たづねよ 5 その僕アブラムの裔よヤコブの子輩よ そ
のえらびたまひし所のものよ そのなしたまへる妙な
るみわざと奇しき事跡とその口のさばきとを心にと
むれ 6 その僕アブラムの裔よヤコブの子輩よ そのえ
らびたまひし所のものよ そのなしたまへる妙なるみ
わざと奇しき事跡とその口のさばきとを心にとむれ
7 彼はわれらの神エホバなり そのみさばきは全地に
あり 8 エホバはたえずその契約をみこころに記たま
へり 此はよろづ代に命じたまひし聖言なり 9 アブラ
ハムとむすびたまひし契約イサクに與へたまひし誓
なり 10 之をかたくしヤコブのために律法となし イ
スラエルのためにとこしへの契約となして 11 言たま
ひけるは我なんぢにカナンの地をたまひてなんぢら
の嗣業の分となさん 12 この時かれらの數おほからず
甚すくなくしてかしこにて旅人となり 13 この國より
かの國にゆき この國よりほかの民にゆけり 14 人の
かれらを虐ぐるをゆるし給はず かれらの故によりて
王たちを懲しめて 15 宣給くわが受膏者たちにふるる

なかれ わが預言者たちをそこなふなかれ 16 エホバは饑饉たを地にまねき 人の杖とする糧をことごとく砕きたまへり 17 又かれらの前にひとりを遣したまへり ヨセフはうられて僕となりぬ 18 かれら足械をもてヨセフの足をそこなひ くろかねの鏈をもてその靈魂をつなげり 19 斯てそのことばの驗をうるまでに及ぶ エホバのみことば彼をこころみたまへり 20 王は人をつかはしてこれを解き もろもろの民の長はこれをゆるし 21 之をその家司となし その財寶をことごとく司どらせ 22 その心のままにかの國のきみたちを縛しめ 長老たちに智慧ををしへしむ 23 イスラエルも亦エジプトにゆき ヤコブはハムの地にやどれり 24 エホバはその民を大にましくはへ之をその敵よりも強くしたまへり 25 また敵のこころをかへておのれの民をにくましめ おのれの僕輩をあざむき待さしめたまへり 26 又そのしもべモーセとその選びたまへるアロンとを遣したまへり 27 かれらはエホバの預兆をハムの地におこなひ またその國にくすしき事をおこなへり 28 エホバは闇をつかはして暗くしたまへり かれらその聖言にそむくことをせざりき 29 彼等のすべての水を血にかへてその魚をころしたまへり 30 かれらの國は蛙むれいでて王の殿のうちにまでみちふさがりぬ 31 エホバいひたまへば蠅むらがり蚤そのすべての境にいりきたりぬ 32 また雨にかへて霰をかれらに與へもゆる火をかれらの國にふらし 33 かれらの葡萄の樹といちじくの樹とをうちその境のもろちろの樹ををりくだきたまへり 34 エホバいひたまへば算しられぬ蝗と蝨賊きたり 35 かれらの國のすべての田産をはみつくしその地のすべての實を食つくせり 36 エ

ホバはかれらの國のすべての首出者をうち かれらの
すべての力の始をうちたまへり 37 しろかね黄金をた
づきへて彼等をいでゆかしめたまへり その家族のう
ちに一人のよわき者もなかりき 38 エジプトはかれら
の出るをよろこべり かれらをおそるの念そのうち
におこりたればなり 39 エホバは雲をしきて蓋となし
夜は火をもて照したまへり 40 又かれらの求によりて
鶉をきたらしめ天の餅にてかれらを飽しめたまへり
41 磐をひらきたまへば水ほどぼしりいで 潤ひなきと
ころに川をなして流れいでたり 42 エホバそのきよき
聖言とその僕アブラハムとをおもひいでたまひたれ
ばなり 43 その民をみちびきて歎びつついでしめ そ
のえらべる民をみちびきて謳ひつついでしめたまへ
り 44 もろもろの國人の地をかれらに與へたまひしか
ば 彼等もろもろのたみの勤勞をおのが有とせり 45
こは彼等がその律にしたがひその法をまもらんが爲
なり エホバをほめたたへよ

106 エホバをほめたたへエホバに感謝せよ そのめ
ぐみはふかくその憐憫はかぎりなし 2 たれかエホバ
の力ある事跡をかたり その讃べきことを悉とくいひ
あらはし得んや 3 審判をまもる人々つねに正義をお
こなふ者はさいはひなり 4 エホバよなんぢの民にた
まふ恵をもて我をおぼえ なんぢの救をもてわれに臨
みたまへ 5 さらば我なんぢの撰びたまへる者のさい
はひを見 なんぢの國の歡喜をよろこび なんぢの嗣業
とともに誇ることをせん 6 われら列祖とともに罪を
をかせり 我儕よこしまをなし惡をおこなへり 7 われ
らの列祖はなんぢがエジプトにてなしたまへる奇し
き事跡をさとらず 汝のあはれみの豊かなるを心にと

めず海のほとり即ち紅海のほとりにて逆きたり 8 さ
れどエホバはその名のゆゑをもて彼等をすくひたま
へり こは大なる能力をしらしめんとてなり 9 また紅
海を叱咤したまひたれば乾きたり かくて民をみちび
きて野をゆくがごとくに淵をすぎしめ 10 恨むるもの
の手よりかれらをすくひ 仇の手よりかれらを贖ひた
まへり 11 水その敵をおほひたればその一人だにのこ
りし者なかりき 12 このとき彼等そのみことばを信じ
その頌美をうたへり 13 彼等しばしがほどにその事跡
をわすれその訓誨をまたず 14 野にていたくむさぼり
荒野にて神をこころみたりき 15 エホバはかれらの願
欲をかなへたまひしかど その靈魂をやせしめたまへ
り 16 たみは營のうちにてモーセを嫉みエホバの聖者
アロンをねたましかば 17 地ひらけてダタンを呑みア
ピラムの黨類をおほひ 18 火はこのともがらの中にも
えおこり焔はあしき者をやきつくせり 19 かれらはホ
レブの山にて犢をつくり鑄たる像ををがみたり 20 か
くの如くおのが榮光をかへて草をくらふ牛のかたち
に似す 21 救主なる神はエジプトにて大なるわざをな
し 22 ハムの地にて奇しき事跡をなし紅海のほとりに
て懼るべきことを爲たまへり かれは斯る神をわすれ
たり 23 この故にエホバかれらを亡さんと宣まへり
されど神のえらみたまへる者モーセやぶれの間隙に
ありてその前にたちその烈怒をひきかへして滅亡を
まぬかれしめたり 24 かれら美しき地を蔑しそのみこ
とばを信ぜず 25 剩さへその幕屋にてつぶやきエホバ
の聲をもきかざりき 26 この故に手をあげて彼等にむ
かひたまへり これ野にてかれらを斃れしめんとし 27
又もろもろの國のうちにてその裔をたふれしめ もろ

もろの地にかれらを散さんとしたまへるなり 28 彼らはバアルベオルにつきて死るものの祭物をくらひたり 29 斯のごとくその行爲をもてエホバの烈怒をひきいだしければえやみ侵しいりたり 30 そのときピネハスたちて裁判をなせり かくて疫癘はやみぬ 31 ピネハスは萬代までとこしへにこのことを義とせられたり 32 民メリバの水のほとりにてエホバの烈怒をひきおこしかば かれらの故によりてモーセも禍害にあへり 33 かれら神の霊にそむきしかばモーセその口唇にて妄にもいひたればなり 34 かれらはエホバの命じたまへる事にしたがはずしてもろもろの民をほろぼさず 35 反てもろもろの國人とまじりをりてその行爲にならひ 36 おのが羈となりしその偶像につかへたり 37 かれらはその子女を鬼にささぐ 38 罪なき血すなはちカナンの偶像にささげたる己がむすこむすめの血をながしぬ 斯てくには血にてけがされたり 39 またそのわざは自己をけがし そのおこなふところは姦淫なり 40 このゆゑにエホバの怒その民にむかひて起り その嗣業をにくみて 41 かれらをもろもろの國の手にわたしたまへり 彼等はおのれを恨るものに制へられ 42 おのれの仇にしへたげられ その手の下にうちふせられたり 43 エホバはしばしば助けたまひしかどかれらは謀略をまうけて逆き そのよこしまに卑くせられたり 44 されどエホバはかれらの哭聲をききたまひしとき その患難をかへりみ 45 その契約をかかれらの爲におもひいだし その憐憫のゆたかなるにより聖意をかへさせ給ひて 46 かれらを己がとりこにせられたる者どもに憐まるることを得しめたまへり 47 われらの神エホバよ われらをすくひて列邦のなかよ

り取集めたまへ われらは聖名に謝し なんぢのほむべき事をほこらん 48 イスラエルの神エホバはとこしへより永遠までほむべきかな すべての民はアーメンとなふべし エホバを讃稱へよ

107 エホバに感謝せよ エホバは恵ふかくましましてその憐憫かぎりなし 2 エホバの救贖をかうぶる者はみな然いふべきなり 3 エホバは敵の手よりかれらを贖ひもろもろの地よ東西北南よりとりあつめたまへり 4 かれら野にてあれはてたる路にさまよひその住ふべき邑にあはざりき 5 かれら饑また渴きそのうちの靈魂おとろへたり 6 斯てその困苦のうちにてエホバをよばはりたればエホバこれを患難よりたすけいだし 7 住ふべき邑にゆかしめんとて直き路にみちびきたまへり 8 願くはすべての人はエホバの恵により人の子になしたまへる奇しき事跡によりてエホバを讃稱へんことを 9 エホバは渴きしたふ靈魂をたらはせ饑たるたましひを嘉物にてあかしめ給へばなり 10 くらきと死の蔭とに居るもの患難とくろがねとに縛しめらるるもの 11 神の言にそむき至高者のをしへを蔑しめければ 12 勤勞をもてその心をひくうしたまへり かれら仆れたれど助くるものもなかりき 13 斯てその困苦のうちにてエホバをよばはりたればエホバこれを患難よりすくひ 14 くらきと死のかけより彼等をみちびき出してその械をこぼちたまへり 15 願くはすべての人はエホバの恵により人の子になしたまへる奇しき事跡によりてエホバを讃稱へんことを 16 そはあかがねの門をこぼち くろがねの關木をたちきりたまへり 17 愚かなる者はおのが愆の道により己がよこしまによりて惱めり 18 かれらの靈魂はすべての

食物をきらひて死の門にちかづく 19 かくてその困苦のうちにてエホバをよばふ エホバこれを患難よりすくひたまふ 20 その聖言をつかはして之をいやし之をその滅亡よりたすけいだしたまふ 21 願くはすべての人エホバのめぐみにより人の子になしたまへる奇しき事跡によりてエホバをほめたたへんことを 22 かれらは感謝のそなへものをささげ喜びうたひてその事跡をいひあらはすべし 23 舟にて海にうかび大洋にて事をいとなむ者は 24 エホバのみわざを見また淵にてその奇しき事跡をみる 25 エホバ命じたまへばあらし風おこりてその浪をあぐ 26 かれら天にのぼりまた淵にくだり患難によりてその靈魂とけさり 27 左た右たにかたぶき酔たる者のごとく踉蹌てなす所をしらず 28 かくてその困苦のうちにてエホバをよばふ エホバこれを患難よりたづさへいで 29 狂風をしづめて浪をおだやかになし給へり 30 かれらはおのが静かなるをよろこぶ 斯てエホバはかれらとその望むところの湊にみちびきたまふ 31 願くはすべての人エホバの恵により人の子になしたまへる奇しき事跡によりてエホバをほめたたへんことを 32 かれら民の會にてこれをあがめ長老の座にてこれを讃稱ふべし 33 エホバは河を野にかはらせ泉をかわける地に變らせ 34 また豊かなる地にすめる民の悪によりてそこを鹵の地にかはらせ給ふ 35 野を池にかはらせ乾ける地をいづみにかはらせ 36 ここに餓たるものを住はせたまふ されば彼らは己がすまひの邑をたて 37 島にたねをまき葡萄園をまうけてそのむすべる實をえたり 38 エホバはかれらの甚くふえひろごれるまでに恵をあたへ その牲畜のへることをも許したまはず 39 されどまた虐待く

るしみ悲哀によりて減ゆき且うなたれたり 40 エホバ
もろもろの君に侮辱をそそぎ道なき荒地にさまよは
せたまふ 41 然はあれど貧しきものを患難のうちより
擧てその家族をひつじの群のごとくならしめたまふ
42 直きものは之をみて喜びもろもろの不義はその口
をふさがん 43 すべて慧者はこれらのことに心をよせ
エホバの憐憫をさとるべし

108 神よわが心はさだまれり われ謳ひまつらん 稱
まつらん わが榮をもてたたへまつらん 2 箏よ琴よさ
むべし われ黎明をよびさまさん 3 エホバよ我もろも
ろの民のなかにてなんぢに感謝し もろもろの國のな
かにてなんぢをほめうたはん 4 そは汝のあはれみは
大にして天のうへにあがり なんぢの眞實は雲にまで
およぶ 5 神よねがはくはみづからを天よりもたかく
し榮光を全地のうへに擧たまへ 6 ねがはくは右の手
をもて救をほどこし われらに答をなして愛しみたま
ふものに助をえしめたまへ 7 神はその聖をもていひ
たまへり われ甚くよろこばん我シケムをわかちスコ
テの谷をはからん 8 ギレアデはわがものマナセはわ
が有なりエフライムも亦わが首のまもりなりユダは
わが杖 9 モアブはわが足盥なりエドムにはわが履を
なげんペリシテよわが故によりて聲をあげよと 10 誰
かわれを堅固なる邑にすすましめんや 誰かわれをみ
ちびきてエドムにゆきしや 11 神よなんぢはわれらを
棄たまひしにあらずや 神よなんぢはわれらの軍とと
もに出ゆきたまはず 12 ねがはくは助をわれにあたへ
て敵にむかはしめたまへ 人のたすけは空しければな
り 13 われらは神によりて勇しくはたらかん われら
の敵をふみたまふものは神なればなり

109 わが讃たたふる神よもだしたまふなかれ **2** かれ
らは悪の口とあざむきの口とをあけて我にむかひ い
つはりの舌をもて我にかたり **3** うらみの言をもて我
をかこみ ゆゑなく我をせめて闘ふことあればなり **4**
われ愛するにかれら反りてわが敵となる われただ祈
るなり **5** かれらは悪をもてわが善にむくい恨をもて
わが愛にむくいたり **6** ねがはくは彼のうへに悪人を
たてその右方に敵をたたしめたまへ **7** かれが鞫かる
るときはその罪をあらはにせられ又そのいのりは罪
となり **8** その日はすくなく その職はほかの人にえら
れ **9** その子輩はみなしごとなり その妻はやもめとな
り **10** その子輩はさすらひて乞丐 そのあれたる處よ
りいできたりて食をもとむべし **11** 彼のもてるすべて
のものは債主にうばはれ かれの勤勞は外人にかすめ
らるべし **12** かれに恵をあたふる人ひとりだになく
かれの孤子をあはれむ者もなく **13** その裔はたえその
名はつぎの世にきえうすべし **14** その父等のよこしま
はエホバのみこころに記され その母のつみはきえざ
るべし **15** かれらは恒にエホバの前におかれ その名
は地より斷るべし **16** かかる人はあはれみを施すこと
をおもはず反りて貧しきもの乏しきもの心のいため
る者をころさんとして攻たりき **17** かかる人は詛ふこ
とをこのむ この故にのろひ己にいたる恵むことをた
のしまず この故にめぐみ己にとほざかれり **18** かか
る人はころものごとくに詛をきる この故にのろひ水
のごとくにおのれの衷にいり油のごとくにおのれの
骨にいれり **19** ねがはくは詛をおのれのきたる衣のご
とく帯のごとくなして恒にみづから纏はんことを **20**
これらの事はわが敵とわが靈魂にさからひて悪言を

いふ者にとにエホバのあたへたまふ報なり 21 されど主
エホバよなんぢの名のゆゑをもて我をかへりみたま
へ なんぢの憐憫はいとふかし ねがはくは我をたすけ
たまへ 22 われは貧しくして乏し わが心うちにて傷
をうく 23 わがゆく状はゆふ日の影のごとく また蝗
のごとく吹さらるるなり 24 わが膝は斷食によりてよ
ろめき わが肉はやせおとろふ 25 われは彼等にそし
らるる者となれり かれら我をみるときは首をふる 26
わが神エホバよねがはくは我をたすけその憐憫にし
たがひて我をすくひたまへ 27 エホバよこれらは皆な
んぢの手よりいで 汝のなしたまへることなるを彼等
にしらしめたまへ 28 かれらは詛へども汝はめぐみた
まふ かれらの立ときは恥かしめらるれどもなんぢの
僕はよろこばん 29 わがもろもろの敵はあなどりを衣
おのが恥を外袍のごとくにまとふべし 30 われはわが
口をもて大にエホバに謝し おほくの人のなかにて讃
まつらむ 31 エホバはまづしきものの右にたちてその
靈魂を罪せんとする者より之をすくひたまへり

110 エホバわが主にのたまふ我なんぢの仇をなん
ぢの承足とするまではわが右にざすべし 2 エホバは
なんぢのちからの杖をシオンよりつきいださしめた
まはん 汝はもろもろの仇のなかに王となるべし 3 な
んぢのいきほひの日になんぢの民は聖なるうるはし
き衣をつけ 心よりよろこびて己をささげん なんぢは
朝の胎よりいづる壯きものの露をもてり 4 エホバ誓
をたてて聖意をかへさせたまふことなし 汝はメルキ
セデクの状にひとしくとこしへに祭司たり 5 主はな
んぢの右にありてそのいかりの日に王等をうちたま
へり 6 主はもろもろの國のなかにて審判をおこなひ

たまはん 此處にも彼處にも屍をみたしめ 寛濶なる地
をすぶる首領をうちたまへり 7 かれ道のほとりの川
より汲てのみ斯てかうべを擧ん

111 エホバを讚たたへよ 我はなほきものの會あるひ
は公會にて心をつくしてエホバに感謝せん 2 エホバ
のみわざは大なりすべてその事跡をしたふものは之
をかながへ究む 3 その行ひたまふところは榮光あり
また稜威あり その公義はとこしへに失することなし
4 エホバはその奇しきみわざを人のところに記しめた
まへり エホバはめぐみと憐憫とにて充たまふ 5 エホ
バは己をおそるるものに糧をあたへたまへり またそ
の契約をとこしへに心にとめたまはん 6 エホバはも
ろもろの國の所領をおのれの民にあたへてその作爲
のちからを之にあらはしたまへり 7 その手のみわざ
は眞實なり公義なり そのもろもろの訓諭はかたし 8
これらは世々かぎりなく堅くたち眞實と正直とにて
なれり 9 エホバはそのために救贖をほどこし その契
約をとこしへに立たまへり エホバの名は聖にしてあ
がむべきなり 10 エホバをおそるるは智慧のはじめな
り これらを行ふものは皆あきらかなる聰ある人なり
エホバの頌美はとこしへに失ることなし

112 エホバを讚まつれエホバを畏れてそのもろもろ
の誠命をいたく喜ぶものはさいはひなり 2 かかる人
のすゑは地にてつよく直きものの類はさいはひを得
ん 3 富と財とはその家にあり その公義はとこしへに
うすることなし 4 直き者のために暗きなかにも光あ
らはる 彼は恵ゆたかに憐憫にみつる義しきものなり
5 恵をほどこし貸ことをなす者はさいはひなり かか
る人は審判をうくるときおのが訴をささへうべし 6

又とこしへまで動かさるることなからん義者はながく忘れらるることなかるべし 7彼はあしき音信によりて畏れず その心エホバに依頼みてさだまれり 8その心かたくたちて懼ることなく敵につきての願望をつひに見ん 9彼はちらして貧者にあたふ その正義はとこしへにうすることなし その角はあがめをうけて擧られん 10悪者はこれを見てうれへもだえ切齒しつつ消さらん また悪きものの願望はほろぶべし

113 エホバをほめまつれ汝等エホバの僕よほめまつれエホバの名をほめまつれ 2今より永遠にいたるまでエホバの名はほむべきかな 3日のいづる處より日のいる處までエホバの名はほめらるべし 4エホバはもろもろの國の上においてたかく その榮光は天よりもたかし 5われらの神エホバにたぐふべき者はたれぞや 寶座をその高處にすゑ己をひくくして天と地とをかへりみ給ふ 6われらの神エホバにたぐふべき者はたれぞや 寶座をその高處にすゑ己をひくくして天と地とをかへりみ給ふ 7まづしきものを塵よりあげ 乏しきものを糞土よりあげて 8もろもろの諸侯とともにすわらせ その民のきみたちと共にすわらせたまはん 9又はらみなき婦に家をまもらせ おほくの子女のよろこばしき母たらしめたまふ エホバを讚まつれ

114 イスラエルの民エジプトをいでヤコブのいへ異言の民をはなれしとき 2ユダはエホバの聖所となりイスラエルはエホバの所領となれり 3海はこれを見てにげヨルダンは後にしりぞき 4山は牡羊のごとくをどり小山はこひつじのごとく躍れり 5海よなんぢ何とてにぐるやヨルダンよなんぢ何とて後にしりぞくや 6山よなにとて牡羊のごとくをどるや小山よ

なにとて小羊のごとく躍るや 7 地よ主のみまへヤコブの神の前にをののけ 8 主はいはを池にかはらせ石をいづみに變らせたまへり

115 エホバよ榮光をわれらに歸するなかれわれらに歸するなかれ なんぢのあはれみと汝のまこととの故によりてただ名にのみ歸したまへ 2 もろもろの國人はいかなればいふ 今かれらの神はいづくにありやと 3 然どわれらの神は天にいます 神はみこころのままにすべての事をおこなひ給へり 4 かれらの偶像はしろかねと金にして人の手のわざなり 5 その偶像は口あれどいはず目あれどみず 6 耳あれどきかず鼻あれどかがず 7 手あれどとらず脚あれどあゆまず 喉より聲をい出すことなし 8 此をつくる者とこれに依頼むものとは皆これにひとしからん 9 イスラエルよなんぢエホバに依頼め エホバはかれらの助かれらの盾なり 10 アロンの家よなんぢらエホバによりたのめ エホバはかれらの助かれらの盾なり 11 エホバを畏るるものよエホバに依頼め エホバはかれらの助かれらの盾なり 12 エホバは我儕をみこころに記たまへり われらを恵みイスラエルの家をめぐみアロンのいへをめぐみ 13 また小なるも大なるもエホバをおそるる者をめぐみたまはん 14 願くはエホバなんぢらを増加へ なんぢらとなんぢらの子孫とをましくはへ給はんことを 15 なんぢらは天地をつくりたまへるエホバに恵まるる者なり 16 天はエホバの天なり されど地は人の子にあたへたまへり 17 死人も幽寂ところに下れるものもヤハを讚稱ふることなし 18 然どわれらは今より永遠にいたるまでエホバを讚まつらむ 汝等エホバをほめたたへよ

116 われエホバを愛しむ そはわが聲とわが願望と
をききたまへばなり 2 エホバみみを我にかたぶけた
まひしが故に われ世にあらんかぎりエホバを呼ま
つらむ 3 死の縄われをまとひ陰府のくるしみ我に
のぞめり われは患難とうれへとにあへり (Sheol h7585)

4 その時われエホバの名をよべり エホバよ願くはわ
が靈魂をすくひたまへと 5 エホバは恩恵ゆたかにし
て公義ましませり われらの神はあはれみ深し 6 エホ
バは愚かなるものを護りたまふ われ卑くせられし
がエホバ我をすくひたまへり 7 わが靈魂よなんぢの
平安にかへれ エホバは豊かになんぢを待ひたまへ
ばなり 8 汝はわがたましひを死より わが目をなみ
だより わが足を顛蹶よりたすけいだしたまひき 9
われは活るものの國にてエホバの前にあゆまん 10
われ大になやめりといひつつもなほ信じたり 11 わ
れ惶てしときに云らくすべての人はいつはりなり
と 12 我いかにしてその賜へるもろもろの恩恵をエホ
バにむくいんや 13 われ救のさかづきをとりてエホバ
の名をよびまつらむ 14 我すべての民のまへにてエホ
バにわが誓をつくのはん 15 エホバの聖徒の死はその
みまへにて貴とし 16 エホバよ誠にわれはなんぢの僕
なり われはなんぢの婢女の子にして汝のしもべな
りなんぢわが縲紲をときたまへり 17 われ感謝をそな
へものとして汝にささげん われエホバの名をよば
ん 18 我すべての民のまへにてエホバにわがちかひを
償はん 19 エルサレムよ汝のなかにてエホバのいへの
大庭のなかにて此をつくのふべし エホバを讃まつれ

117 もろもろの國よなんぢらエホバを讃まつれも
ろもろの民よなんぢらエホバを稱へまつれ 2 そはわ

れらに賜ふその憐憫はおほいなり エホバの眞實は
とこしへに絶ることなし エホバをほめまつれ

118 エホバに感謝せよ エホバは恩恵ふかくその憐憫
とこしへに絶ることなし **2** イスラエルは率いふべし
その憐憫はとこしへにたゆることなしと **3** アロンの
家はいぎ言ふべし そのあはれみは永遠にたゆること
なしと **4** エホバを畏るるものは率いふべし その憐憫
はとこしへにたゆることなしと **5** われ患難のなかより
エホバをよべば エホバこたへて我をひろき處にお
きたまへり **6** エホバわが方にいませばわれにおそれ
なし 人われに何をなしえんや **7** エホバはわれを助く
るものとともに我がかたに坐す この故にわれを憎む
ものにつきての願望をわれ見することをえん **8** エホバ
に依頼むは人にたよるよりも勝りてよし **9** エホバに
よりのむはもろもろの侯にたよるよりも勝りてよ
し **10** もろもろの國はわれを圍めり われエホバの名
によりて彼等をほろぼさん **11** かれらは我をかこめり
我をかこめりエホバの名によりて彼等をほろぼさん
12 かれらは蜂のごとく我をかこめり かれらは荊の火
のごとく消たり われはエホバの名によりてかれらを
滅さん **13** 汝われを倒さんとしていたく刺つれど エ
ホバわれを助けたまへり **14** エホバはわが力わが歌に
してわが救となりたまへり **15** 歓喜とすくひとの聲は
ただしきものの幕屋にあり エホバのみぎの手はいさ
ましき動作をなしたまふ **16** エホバのみぎの手はたか
くあがりエホバの右の手はいさましき動作をなした
まふ **17** われは死ることなからん 存へてヤハの事跡
をいひあらはさん **18** ヤハはいたく我をこらしたまひ
しかど死には付したまはざりき **19** わがために義の門

をひらけ 我そのうちにいりてヤハに感謝せん 20 こ
はエホバの門なりただしきものはその内にいるべし
21 われ汝に感謝せん なんぢ我にこたへてわが救とな
りたまへばなり 22 工師のすてたる石はすみの首石と
なれり 23 これエホバの成たまへる事にしてわれらの
目にあやしとする所なり 24 これエホバの設けたまへ
る日なり われらはこの日によろこびたのしまん 25
エホバよねがはくはわれらを今すくひたまへ エホバ
よねがはくは我儕をいま榮えしめたまへ 26 エホバの
名によりて來るものは福ひなり われらエホバの家よ
りなんぢらを祝せり 27 エホバは神なり われらに光
をあたへたまへり 繩をもて祭壇の角にいけにへをつ
なげ 28 なんぢはわが神なり我なんぢに感謝せん な
んぢはわが神なり我なんぢを崇めまつらん 29 エホバ
にかんしやせよ エホバは恩恵ふかくその憐憫とこし
へに絶ることなし

119 おのが道をなほくしてエホバの律法をあゆむ者
はさいはひなり 2 エホバのもろもろの證詞をまもり
心をつくしてエホバを尋求むるものは福ひなり 3 か
かる人は不義をおこなはずしてエホバの道をあゆむ
なり 4 エホバよなんぢ訓諭をわれらに命じてねんご
ろに守らせたまふ 5 なんぢわが道をかたくたててそ
の律法をまもらせたまはんことを 6 われ汝のもろも
ろの誠命にこころをとむるときは恥ることあらじ 7
われ汝のただしき審判をまなばば 直き心をもてなん
ぢに感謝せん 8 われは律法をまもらん われを棄はて
たまふなかれ 9 わかき人はなにによりてかその道を
きよめん 聖言にしたがひて慎むのほかぞなき 10 わ
れ心をつくして汝をたづねもとめたり 願くはなんぢ

の誠命より迷ひいださしめ給ふなかれ 11 われ汝にむかひて罪ををかすまじき爲になんぢの言をわが心のうちに蔵へたり 12 讚べきかなエホバよねがはくは律法をわれに教へたまへ 13 われわが口唇をもてなんぢの口よりいでしもろもろの審判をのべつたへたり 14 我もろもろの財貨をよろこぶごとくに汝のあかしの道をよろこべり 15 我なんぢの訓諭をおもひ汝のみちに心をとめん 16 われは律法をよろこび聖言をわするることなからん 17 ねがはくは汝のしもべを豊にあしらひて存へしめたまへ さらばわれ聖言をまもらん 18 なんぢわが眼をひらき なんぢの法のうちなる奇しきことを我にみせたまへ 19 われは世にある旅客なり 我になんぢの誠命をかくしたまふなかれ 20 斷るときなくなんぢの審判をしたふが故にわが靈魂はくだくるなり 21 汝はたかぶる者をせめたまへり なんぢの誠命よりまよひづる者はのろはる 22 我なんぢの證詞をまもりたり 我より謗とあなどりとを取去たまへ 23 又もろもろの候は坐して相語りわれをそこなはんとせり 然はあれど汝のしもべは律法をふかく思へり 24 汝のもろもろの證詞はわれをよろこばせわれをさとする者なり 25 わが靈魂は塵につきぬ なんぢの言にしたがひて我をいかしたまへ 26 我わがふめる道をあらはししかば汝こたへを我になしたまへり なんぢの律法をわれに教へたまへ 27 なんぢの訓諭のみちを我にわきまへしめたまへ われ汝のくすしき事跡をふかく思はん 28 わがたましひ痛めるによりてとけゆくねがはくは聖言にしたがひて我にちからを予へたまへ 29 願くはいつはりの道をわれより遠ざけ なんぢの法をもて我をめぐみたまへ 30 われは眞實のみちをえらび

恒になんぢのもろもろの審判をわが前におけり 31 我
なんぢの證詞をしたひて離れず エホバよねがはくは
我をはづかしめ給ふなかれ 32 われ汝のいましめの道
をはしらん その時なんぢわが心をひろく爲たまふべ
し 33 エホバよ願くはなんぢの律法のみちを我にをし
へたまへ われ終にいたるまで之をまもらん 34 われ
に智慧をあたへ給へ さらば我なんぢの法をまもり心
をつくして之にしたがはん 35 われに汝のいましめの
道をふましめたまへ われその道をたのしめばなり 36
わが心をなんぢの證詞にかたぶかしめて 貪利にかた
ぶかしめ給ふなかれ 37 わが眼をほかにむけて虚しき
ことを見ざらしめ 我をなんぢの途にて活し給へ 38 ひ
たすらに汝をおそるる汝のしもべに 聖言をかたくし
たまへ 39 わがおそるる謗をのぞきたまへ そはなんぢ
の審判はきはめて善し 40 我なんぢの訓諭をしたへり
願くはなんぢの義をもて我をいかしたまへ 41 エホバ
よ聖言にしたがひてなんぢの憐憫なんぢの拯救を我
にのぞませたまへ 42 さらば我われを謗るものに答ふ
ることをえん われ聖言によりたのめばなり 43 又わ
が口より眞理のことばをことごとく除き給ふなかれ
われなんぢの審判をのぞみたればなり 44 われたえず
いや永久になんぢの法をまもらん 45 われなんぢの訓
諭をもとめたるにより障なくしてあゆまん 46 われま
た王たちの前になんぢの證詞をかたりて恥ることあ
らじ 47 我わが愛するなんぢの誠命をもて己をたのし
ましめん 48 われ手をわがあいする汝のいましめに擧
げ なんぢの律法をふかく思はん 49 ねがはくは汝の
しもべに宣ひたる聖言をおもひいだしたまへ 汝われ
に之をのぞましめ給へり 50 なんぢの聖言はわれを活

ししがゆゑに 今もなほわが艱難のときの安慰なり 51
高ぶる者おほいに我をあざわらへり されど我なんぢ
の法をはなれざりき 52 エホバよわれ汝がふるき往昔
よりの審判をおもひいだして自から慰めたり 53 なん
ぢの法をすつる悪者のゆゑによりて 我はげしき怒を
おこしたり 54 なんぢの律法はわが旅の家にてわが歌
となれり 55 エホバよわれ夜間になんぢの名をおもひ
いだして なんぢの法をまもれり 56 われ汝のさとし
を守りしによりてこの事をえたるなり 57 エホバはわ
がうくべき有なり われ汝のもろもろの言をまもらん
といへり 58 われ心をつくして汝のめぐみを請求めた
り ねがはくは聖言にしたがひて我をあはれみたまへ
59 我わがすべての途をおもひ 足をかへしてなんぢの
證詞にむけたり 60 我なんぢの誠命をまもるに速けく
してたゆたはざりき 61 悪きものの繩われに纏ひたれ
ども 我なんぢの法をわすれざりき 62 我なんぢのた
だしき審判のゆゑに 夜半におきてなんぢに感謝せん
63 われは汝をおそるる者またなんぢの訓諭をまもる
ものの侶なり 64 エホバよ汝のあはれみは地にみちた
り 願くはなんぢの律法をわれにをしへたまへ 65 エ
ホバよなんぢ聖言にしたがひ恵をもてその僕をあし
らひたまへり 66 われ汝のいましめを信ず ねがはく
はわれに聡明と智識とをしへたまへ 67 われ苦しま
ざる前にはまよひいでぬ されど今はわれ聖言をまも
る 68 なんぢは善にして善をおこなひたまふ ねがは
くは汝のおきてを我にをしへたまへ 69 高ぶるもの虚
偽をくはだてて我にさからへり われ心をつくしてな
んぢの訓諭をまもらん 70 かれらの心はこえふとりて
脂のごとし されど我はなんぢの法をたのしむ 71 困

苦にあひたりしは我によきことなり 此によりて我なんぢの律法をまなびえたり 72 なんぢの口の法はわがためには千々のこがね白銀にもまされり 73 なんぢの手はわれを造りわれを形づくれり ねがはくは智慧をあたへて我になんぢの誠命をまなばしめたまへ 74 なんぢを畏るものは我をみて喜ばん われ聖言によりて望をいたきたればなり 75 エホバよ我はなんぢの審判のただしく又なんぢが眞實をもて我をくるしめたまひしを知る 76 ねがはくは汝のしもべに宣ひたる聖言にしたがひて汝の仁慈をわが安慰となしたまへ 77 なんぢの憐憫をわれに臨ませたまへ さらばわれ生んなんぢの法はわが楽しめるところなり 78 高ぶるものに恥をかうふらせたまへ かれらは虚偽をもて我をくつがへしたればなり されど我なんぢの訓諭をふかくおもはん 79 汝をおそるる者となんぢの證詞をするものを我にかへらしめたまへ 80 わがところを全くして汝のおきてを守らしめたまへ さらばわれ恥をかうぶらじ 81 わが靈魂はなんぢの救をしたひてたえいるばかりなり 然どわれなほ聖言によりて望をいなく 82 なんぢ何のとき我をなぐさむるやといひつつ 我みことばを慕ふによりて眼おとろふ 83 我は煙のなかの革囊のごとくなりぬれども 尚なんぢの律法をわすれず 84 汝のしもべの日は幾何ありや 汝いづれのとき我をせむるものに審判をおこなひたまふや 85 たかぶる者われを害はんとて阱をほれり かれらはなんぢの法にしたがはず 86 なんぢの誠命はみな眞實なり かれらは虚偽をもて我をせむ ねがはくは我をたすけたまへ 87 かれらは地にてほとんど我をほろぼせり されど我はなんぢの訓諭をすてざりき 88 願くはなんぢの仁慈

にしたがひて我をいかしたまへ 然ばわれ御口よりい
づる證詞をまもらん 89 エホバよみことばは天にてと
こしえに定まり 90 なんぢの眞實はよろづ世におよぶ
なんぢ地をかたく立たまへば地はつねにあり 91 これ
らのものはなんぢの命令にしたがひ 恒にありて今日
にいたる 萬のものは皆なんぢの僕なればなり 92 な
んぢの法わがたのしみとならざりしならば我はつひ
に患難のうちに滅びたるならん 93 われ恒になんぢの
訓諭をわすれじ 汝これをもて我をいかしたまへばな
り 94 我はなんぢの有なりねがはくは我をすくひたま
へわれ汝のさとしを求めたり 95 悪きものは我をほ
ろぼさんとして窺ひぬ われは唯なんぢのもろもろの
證詞をおもはん 96 我もろもろの純全に限あるをみた
りされど汝のいましめはいと廣し 97 われなんぢの
法をいつくしむこといかばかりぞや われ終日これを
深くおもふ 98 なんぢの誠命はつねに我とともにあり
て我をわが仇にまさりて慧からしむ 99 我はなんぢ
の證詞をふかくおもふが故に わがすべての師にまさ
りて智慧おほし 100 我はなんぢの訓諭をまもるがゆ
ゑに 老たる者にまさりて事をわきまふるなり 101 わ
れ聖言をまもらんために わが足をとどめてもろもろ
のあしき途にゆかしめず 102 なんぢ我ををしへたま
ひしによりて 我なんぢの審判をはなれざりき 103 み
ことばの滋味はわが脣にあまきこといかばかりぞや
蜜のわが口に甘きにまされり 104 我なんぢの訓諭に
よりて智慧をえたり このゆゑに虚偽のすべての途を
にくむ 105 なんぢの聖言はわがあしの燈火わが路の
ひかりなり 106 われなんぢのただしき審判をまもら
んことをちかひ且かたくせり 107 われ甚いたく苦し

めり エホバよねがはくは聖言にしたがひて我をいか
したまへ 108 エホバよねがはくは誠意よりするわが
口の献物をうけて なんぢの審判ををしへたまへ 109
わが靈魂はつねに危険ををかす されど我なんぢの法
をわすれず 110 あしき者わがために罠をまうけたり
されどわれ汝のさとしより迷ひいでざりき 111 われ
汝のもろもろの證詞をとこしへにわが嗣業とせり こ
れらの證詞はわが心をよろこばしむ 112 われ汝のお
きてを最後までとこしへに守らんとて之にころを傾
けたり 113 われ二心のものをにくみ汝のおきてを愛
しむ 114 なんぢはわが匿るべき所わが盾なり われ聖
言によりて望をいだく 115 悪きをなすものよ我をは
なれされ われわが神のいましめを守らん 116 聖言に
したがひ我をささへて生存しめたまへ わが望につき
て恥なからしめたまへ 117 われを支へたまへ さらば
われ安けかるべし われ恒になんぢの律法にころを
そそがん 118 すべて律法よりまよひいづるものを汝
かろしめたまへり かれらの欺詐はむなしければなり
119 なんぢは地のすべての悪きものを渣滓のごとく除
きさりたまふ この故にわれ汝のあかしを愛す 120 わ
が肉體なんぢを懼るるによりてふるふ 我はなんぢの
審判をおそる 121 われは審判と公義とをおこなふ 我
をすてて虐ぐるものに委ねたまふなかれ 122 汝のし
もべの中保となりて福祉をえしめたまへ 高ぶるもの
の我をしへたぐるを容したまふなかれ 123 わが眼は
なんぢの救となんぢのただしき聖言とをしたふによ
りておとろふ 124 ねがはくはなんぢの憐憫にしたが
ひてなんぢの僕をあしらひ 我になんぢの律法ををし
へたまへ 125 我はなんぢの僕なり われに智慧をあた

へてなんぢの證詞をしらしめたまへ 126 彼等はなんぢの法をすてたり 今はエホバのはたらきたまふべき時なり 127 この故にわれ金よりもまじりなき金よりもまさりて汝のいましめを愛す 128 この故にもろもろのことに係るなんぢの一切のさとしを正しとおもふ 我すべてのいつはりの途をにくむ 129 汝のあかしは妙なり かかるが故にわが靈魂これをまもる 130 聖言うちひらくれば光をはなちて 愚かなるものをさとからしむ 131 我なんぢの誠命をしたふが故に わが口をひろくあけて喘ぎもとめたり 132 ねがはくは聖名を愛するものに恒になしたまふごとく身をかへして 我をあはれみたまへ 133 聖言をもてわが步履をととのへ もろもろの邪曲をわれに主たらしめたまふなかれ 134 われを人のしへたげより贖ひたまへ さらばわれ訓諭をまもらん 135 ねがはくは聖顔をなんぢの僕のうへにてらし 汝のおきてを我にをしへ給へ 136 人なんぢの法をまもらざるによりて わが眼のなみだ河のごとくに流る 137 エホバよなんぢは義しくなんぢの審判はなほし 138 汝ただしきと此上なき眞實とをもて その證詞を命じ給へり 139 わが敵なんぢの聖言をわすれたるをもて わが熱心われをほろぼせり 140 なんぢの聖言はいときよし 此故になんぢの僕はこれを受す 141 われは微なるものにて人にあなどらるれども汝のさとしを忘れず 142 なんぢの義はとこしへの義なり汝ののりは眞理なり 143 われ患難と憂とにかかれども 汝のいましめはわが喜樂なり 144 なんぢの證詞はとこしへに義し ねがはくはわれに智慧をたまへ 我ながらふることを得ん 145 われ心をつくしてよばはれり エホバよ我にこたへたまへ 我なんぢの律

法をまもらん 146 われ汝をよばはれり ねがはくはわれを救ひ給へ 我なんぢの證詞をまもらん 147 われ詰朝おきいでて呼はれり われ聖言によりて望をいだけり 148 夜の更のきたらぬに先だちわが眼はさめて汝のみことばを深くおもふ 149 ねがはくはなんぢの仁慈にしたがひてわが聲をききたまへ エホバよなんぢの審判にしたがひて我をいかしたまへ 150 悪をおひもとむるものは我にちかづけり 彼等はなんぢの法にとほくはなる 151 エホバよ汝はわれに近くましませり なんぢのすべての誠命はまことなり 152 われ早くよりなんぢの證詞によりて汝がこれを永遠にたてたまへることを知れり 153 ねがはくはわが患難をみて我をすくひたまへ 我なんぢの法をわすれざればなり 154 ねがはくはわが訟をあげつらひて我をあがなひ 聖言にしたがひて我をいかしたまへ 155 すくひは悪きものより遠くはなる かれらはなんぢの律法をもとめざればなり 156 エホバよなんぢの憐憫はおほいなり 願くはなんぢの審判にしたがひて我をいかしたまへ 157 我をせむる者われに敵するものおほし 我なんぢの證詞をはなるることなかりき 158 虚偽をおこなふもの汝のみことばを守らざるにより 我かれらを見てうれへたり 159 ねがはくはわが汝のさとしを愛すること幾何なるをかへりみたまへ エホバよなんぢの仁慈にしたがひて我をいかしたまへ 160 なんぢのみことばの總計はまことなり 汝のただしき審判はとこしへにいたるまで皆たゆることなし 161 もろもろの侯はゆゑなくして我をせむ 然どわが心はただ汝のみことばを畏る 162 われ人のおほいなる掠物をえたるごとくに汝のみことばをよろこぶ 163 われ虚偽をにくみ

之をいみきらへども 汝ののりを愛す 164 われ汝のた
だしき審判のゆゑをもて 一日に七次なんぢを讃稱ふ
165 なんぢの法をあいするものには大なる平安あり か
れらには躓礙をあたふる者なし 166 エホバよ我なん
ぢの救をのぞみ汝のいましめをおこなへり 167 わが
靈魂はなんぢの證詞をまもれり 我はいたく之をあ
いす 168 われなんぢの訓諭となんぢの證詞とをまもり
ぬ わがすべての道はみまへにあればなり 169 エホバ
よ願くはわがよぶ聲をみまへにちかづけ 聖言にした
がひて我にちゑをあたへたまへ 170 わが願をみまへ
にいたらせ 聖言にしたがひて我をたすけたまへ 171
わがくちびるは讚美をいだすべし 汝われに律法をを
しへ給へばなり 172 わが舌はみことばを謳ふべし な
んぢの一切のいましめは義なればなり 173 なんぢの
手をつねにわが助となしたまへ われなんぢの訓諭を
えらび用ゐたればなり 174 エホバよ我なんぢの救を
したへり なんぢの法はわがたのしみなり 175 願くは
わが靈魂をながらへしめたまへ さらば汝をほめたた
へん 汝のさばきの我をたすけんことを 176 われは亡
はれたる羊のごとく迷ひいでぬ なんぢの僕をたづね
たまへ われ汝のいましめを忘れざればなり

120 われ困苦にあひてエホバをよびしかば我にこた
へたまへり 2 エホバよねがはくは虚偽のくちびる欺
詐の舌よりわが靈魂をたすけいだしたまへ 3 あざむ
きの舌よなんぢに何をあたへられ 何をくはへらるべ
きか 4 ますらをの利き箭と金萵花のあつき炭となり
5 わざはひなるかな我はメセクにやどりケダルの幕屋
のかたはらに住めり 6 わがたましひは平安をにくむ

ものと偕にすめり 7 われは平安をねがふ されど我ものいふときにかれら戦争をこのむ

121 われ山にむかひて目をあぐ わが扶助はいづこよりきたるや 2 わがたすけは天地をつくりたまへる エホバよりきたる 3 エホバはなんぢの足のうごかさるるを容したまはず 汝をまもるものは微睡たまふことなし 4 視よイスラエルを守りたまふものは微睡こともなく寝ることもなからん 5 エホバは汝をまもる者なり エホバはなんぢの右手をおほふ蔭なり 6 ひるは日なんぢをうたず夜は月なんぢを傷じ 7 エホバはなんぢを守りてもろもろの禍害をまぬかれしめ並なんぢの靈魂をまもりたまはん 8 エホバは今よりとこしへにいたるまで汝のいづると入るとをまもりたまはん

122 人われにむかひて率エホバのいへにゆかんといへるとき我よろこべり 2 エルサレムよわれらの足はなんぢの門のうちにたてり 3 エルサレムよなんぢは稠くつらなりたる邑のごとく固くたてり 4 もろもろのやから即ちヤハの支派かしこに上りきたり イスラエルにむかひて證詞をなし またエホバの名にかんしやをなす 5 彼處にさばきの寶座まうけらる これダビデの家のみくらなり 6 エルサレムのために平安をいのれ エルサレムを愛するものは榮ゆべし 7 ねがはくはなんぢの石垣のうちに平安あり なんぢの諸殿のうちに福祉あらんことを 8 わが兄弟のためわが侶のために われ今なんぢのなかに平安あれといはん 9 われらの神エホバのいへのために我なんぢの福祉をもとめん

123 天にいますものよ我なんぢにむかひて目をあぐ
2 みよ僕その主の手に目をそそぎ 婢女その主母の手に目をそそぐがごとく われらはわが神エホバに目をそそぎて そのわれを憐みたまはんことをまつ 3 ねがはくはわれらを憐みたまへ エホバよわれらを憐みたまへ そはわれらに軽侮はみちあふれぬ 4 おもひわづらひなきものの凌辱と たかぶるものの軽侮とはわれらの靈魂にみちあふれぬ

124 今イスラエルはいふべし エホバもしわれらの方にいまさず 2 人々われらにさからひて起りたつとき エホバもし我儕のかたに在さざりしならんには 3 かれらの怒のわれらにむかひておこりし時 われらを生るままにて呑しならん 4 また水はわれらをおほひ 流はわれらの靈魂をうちこえ 5 高ぶる水はわれらの靈魂をうちこえしならん 6 エホバはほむべきかな我儕をかれらの齒にわたして噛くらはせたまはざりき 7 我儕のたましひは捕鳥者のわなをのがるる鳥のごとくにのがれたり 羅はやぶれてわれらはのがれたり 8 われらの助は天地をつくりたまへるエホバの名にあり

125 エホバに依頼むものはシオンの山のうごかさることなくして永遠にあるがごとし 2 エルサレムを山のかこめるごとくエホバも今よりとこしへにその民をかこみたまはん 3 悪の杖はただしきものの所領にとどまることなかるべし 斯てただしきものはその手を不義にのぶることあらじ 4 エホバよねがはくは善人ところ直きものにと福祉をほどこしたまへ 5 されどエホバは轉へりておのが曲れる道にいるもの

を悪きわざをなすものとともに去しめたまはん 平安
はイスラエルのうへにあれ

126 エホバ、シオンの俘囚をかへしたまひし時 わ
れらは夢みるもののごとくなりき **2** そのとき笑はわ
れらの口にみち歌はわれらの舌にみてり エホバかれ
らのために大なることを作たまへりといへる者もろ
もろの國のなかにありき **3** エホバわれらのために大
なることをなしたまひたれば我儕はたのしめり **4** エ
ホバよ願くはわれらの俘囚をみなみの川のごとくに
歸したまへ **5** 涙とともに播くものは歡喜とともに穫
らん **6** その人は種をたづさへ涙をながしていでゆけ
ど禾束をたづさへ喜びてかへりきたらん

127 エホバ家をたてたまふにあらざば 建るものの
勤勞はむなく エホバ城をまもりたまふにあらざ
ば衛士のさめをるは徒勞なり **2** なんぢら早くおき遅
くいねて辛苦の糧をくらふはむなしきなり 斯てエ
ホバその愛しみたまふものに寝をあたへたまふ **3** み
よ子輩はエホバのあたへたまふ嗣業にして 胎の實
はその報のたまものなり **4** 年壯きころほひの子はま
すらをの手にある矢のごとし **5** 矢のみちたる箎をも
つ人はさいはひなり かれら門にありて仇とものい
ふとき恥ることあらじ

128 エホバをおそれその道をあゆむものは皆さいは
ひなり **2** そはなんぢおのが手の勤勞をくらふべけれ
ばなり なんぢは福祉をえまた安處にをるべし **3** なん
ぢの妻はいへの奥にをりておほくの實をむすぶ葡萄
の樹のごとく汝の子輩はなんぢの筵に円居してかん
らんの若樹のごとし **4** 見よエホバをおそるる者はか
く福祉をえん **5** エホバはシオンより恵をなんぢに賜

はん なんぢ世にあらんかぎりエルサレムの福祉を
みん 6 なんぢおのが子輩の子をみるべし 平安はイスラ
エルの上にある

129 今イスラエルはいふべし彼等はしばしば我をわ
かきときより悩めたり 2 かれらはしばしば我をわか
きときより悩めたり されどわれに勝ことを得ざりき
3 耕すものはわが背をたがへしてその畝をながくせり
4 エホバは義し あしきものの繩をたちたまへり 5 シ
オンをにくむ者はみな恥をおびてしりぞかせらるべ
し 6 かれらは長たざるさきにかかる屋上の草のごと
し 7 これを刈るものはその手にみたく 之をつかぬる
ものはその束ふところに盈ざるなり 8 かたはらを過
るものはエホバの恵なんぢの上にあれといはず われ
らエホバの名によりてなんぢらを祝すといはず

130 ああエホバよわれふかき淵より汝をよべり 2 主
よねがはくはわが聲をきき汝のみみをわが懇求のこ
ゑにかたぶけたまへ 3 ヤハよ主よなんぢ若もろもろ
の不義に目をとめたまはば誰たれかよく立ことをえ
んや 4 されどなんぢに赦あれば人におそれかしこま
れ給ふべし 5 我エホバを俟望む わが靈魂はまちのぞ
む われはその聖言によりて望をいだく 6 わがたまし
ひは衛士があしたを待にまさり 誠に糸じが旦をまつ
にまさりて主をまつ 7 イスラエルよエホバにより
て望をいだけ そはエホバにあはれみあり またゆたか
なる救贖あり 8 エホバはイスラエルをそのもろもろ
の邪曲よりあがなひたまはん

131 エホバよわが心おごらずわが目たかぶらず わ
れは大なることと我におよばぬ奇しき事とをつとめ
ざりき 2 われはわが靈魂をもださしめまた安からし

めたり 乳をたちし 嬰兒のその母にたよるごとく 我が
たましひは乳をたちし 嬰兒のごとく われに恃れり 3
イスラエルよ 今よりとこしへに エホバにたよりて 望
をいだけ

132 エホバよ ねがはくは ダビデの爲に そのもろもろ
の憂を ところに記たまへ 2 ダビデ、エホバにちかひ
ヤコブの全能者にうけひていふ 3 われエホバのため
に處をたづねいだし ヤコブの全能者のために 居所を
もとめうるまでは 我家の幕屋にいらす わが臥床にの
ぼらず わが目をねぶらしめず わが眼瞼をとぢしめざ
るべしと 4 われエホバのために 處をたづねいだし ヤ
コブの全能者のために 居所をもとめうるまでは 我家
の幕屋にいらす わが臥床にのぼらず わが目をねぶら
しめず わが眼瞼をとぢしめざるべしと 5 われエホバ
のために 處をたづねいだし ヤコブの全能者のために
居所をもとめうるまでは 我家の幕屋にいらす わが臥
床にのぼらず わが目をねぶらしめず わが眼瞼をとぢ
しめざるべしと 6 われら エフラタにて之をきき ヤア
ルの野にて見とめたり 7 われらはその居所にゆきて
その承足のまへに 俯伏さん 8 エホバよ ねがはくは 起
きて なんぢの稜威の櫃とともに なんぢの安居所にい
りたまへ 9 なんぢの祭司たちは 義を衣 なんぢの聖徒
はみな 歡びよばふべし 10 なんぢの僕ダビデのため
に なんぢの受膏者の面をしりぞけたまふなかれ 11 エホ
バ眞實をもてダビデに 誓ひたまひたれば 之にたがふ
ことあらじ 曰く われなんぢの身よりいよし者をなん
ぢの座位にぎせしめん 12 なんぢの子輩もし わがをし
ふる 契約と證詞とをまもらば かれらの子輩もまた永
遠になんぢの座位にぎすべしと 13 エホバはシオンを

擇びておのが居所にせんとのぞみたまへり 14 曰くこれ
は永遠にわが安居處なり われここに住ん そはわれ
之をのぞみたればなり 15 われシオンの糧をゆたかに
祝し くひものをもてその貧者をあかしめん 16 われ
救をもてその祭司たちに衣せん その聖徒はみな聲た
からかによるこびよばふべし 17 われダビデのために
かしこに一つの角をはえしめん わが受膏者のために
燈火をそなへたり 18 われかれの仇にはちを衣せん
されどかれはその冠弁さかゆべし

133 觀よはらから相睦とともにをるはいかに善いか
に樂きかな 2 首にそそがれたる貴きあぶら鬚になが
れ アロンの鬚にながれ その衣のすそにまで流れした
たるがごとく 3 またヘルモンの露くだりてシオン
の山にながるるがごとし そはエホバかしこに福祉を
くだし窮なき生命をさへあたへたまへり

134 夜間エホバの家にたちエホバに事ふるもろもろ
の僕よ エホバをほめまつれ 2 なんぢら聖所にむかひ
手をあげてエホバをほめまつれ 3 ねがはくはエホバ
天地をつくりたまへるもの シオンより汝をめぐみた
まはんことを

135 なんぢらエホバを讚稱へよ エホバの名をほめ
たたへよ エホバの僕等ほめたたへよ 2 エホバの家わ
れらの神のいへの大庭にたつものよ讚稱へよ 3 エホ
バは恵ふかし なんぢらエホバをほめたたへよ その聖
名はうるはし讚うたへ 4 そはヤハおのがためにヤコ
ブをえらみ イスラエルをえらみてその珍寶となした
まへり 5 われエホバの大なるとわれらの主のもろも
ろの神にまされるとをしれり 6 エホバその聖旨にか
なふことを天にも地にも海にも淵にもみなことごと

く行ひ給ふなり 7 エホバは地のはてより霧をのぼらせ 雨のために電光をつくりその庫より風をいだしたまふ 8 エホバは人より畜類にいたるまでエジプトの首出をうちたまへり 9 エジプトよエホバはなんぢの中にしるしと奇しき事跡とをおくりて パロとその僕とに臨ませ給へり 10 エホバはおほくの國々をうち又いきほひある王等をころし給へり 11 アモリ人のわうシホン、バシヤンの王オグならびにカナンの國々なり 12 かれらの地をゆづりとしその民イスフルの嗣業としてあたへ給へり 13 エホバよなんぢの名はどこしへに絶ることなし エホバよなんぢの記念はよろづ世におよばん 14 エホバはその民のために審判をなしその僕等にかかはれる聖意をかへたまふ可ればなり 15 もろもろのくにの偶像はしろかねと金にして人の手のわざなり 16 そのぐうごうは口あれどいはず目あれど見ず 17 耳あれどきかず またその口に氣息あることなし 18 これを造るものと之によりたのむものとは皆これにひとしからん 19 イスラエルの家よエホバをほめまつれ アロンのいへよエホバをほめまつれ 20 レビの家よエホバをほめまつれ エホバを畏るるものよエホバをほめまつれ 21 エルサレムにすみたまふエホバはシオンにて讃まつるべきかな エホバをほめたたへよ

136 エホバに感謝せよエホバはめぐみふかし その憐憫はとこしへに絶ることなければなり 2 もろもろの神の神にかんしやせよ その憐憫はとこしへにたゆることなければなり 3 もろもろの主の主にかんしやせよ その憐憫はとこしへにたゆることなければなり 4 ただ獨りおほいなる奇跡なしたまふものに感謝せよ

その憐憫はとこしへにたゆることなればなり **5** 智慧をもてもろもろの天をつくりたまへるものに感謝せよ そのあはれみはとこしへにたゆることなればなり **6** 地を水のうへに布たまへるものに感謝せよ そのあはれみは永遠にたゆることなればなり **7** 巨大なる光をつくりたまへる者にかんしやせよ その憐憫はとこしへに絶ることなればなり **8** 晝をつかさどらするために日をつくりたまへる者にかんしやせよ その憐憫はとこしへにたゆることなればなり **9** 夜をつかさどらするために月ともろもろの星とをつくりたまへる者にかんしやせよ その憐憫はとこしへにたゆることなればなり **10** もろもろの首出をうちてエジプトを賁たまへるものに感謝せよ そのあはれみは永遠にたゆることなればなり **11** イスラエルを率てエジプト人のなかより出したまへる者にかんしやせよ そのあはれみはとこしへに絶ることなればなり **12** 臂をのぼしつよき手をもて之をひきいだしたまへる者にかんしやせよ その憐憫はとこしへにたゆることなればなり **13** 紅海をふたつに分たまへる者にかんしやせよ その憐憫はとこしへにたゆることなればなり **14** イスラエルをしてその中をわたらしめ給へるものに感謝せよ そのあはれみは永遠にたゆることなればなり **15** パロとその軍兵とを紅海のうちに仆したまへるものに感謝せよ そのあはれみは永遠にたゆることなればなり **16** その民をみちびきて野をすぎしめたまへる者にかんしやせよ その憐憫はとこしへにたゆることなればなり **17** 大なる王たちを撃たまへるものに感謝せよ そのあはれみは永遠にたゆることなればなり **18** 名ある王等をころしたまへる

者にかんしやせよ その憐憫はとこしへに絶ることな
ければなり 19 アモリ人のわうシホンをころしたまへ
る者にかんしやせよ その憐憫はとこしへにたゆるこ
となければなり 20 バシヤンのわうオグを誅したまへ
るものに感謝せよ そのあはれみは永遠にたゆること
なければなり 21 かれらの地を嗣業としてあたへたま
へる者にかんしやせよ その憐憫はとこしへにたゆる
ことなければなり 22 その僕イスラエルにゆづりとし
て之をあたへたまへるものに感謝せよ そのあはれみ
は永遠にたゆることなければなり 23 われらが微賤か
りしときに記念したまへる者にかんしやせよ その憐
憫はとこしへに絶ることなければなり 24 わが敵より
われらを助けいだしたまへる者にかんしやせよ その
憐憫はとこしへに絶ることなければなり 25 すべての
生るものに食物をあたへたまふものに感謝せよ その
あはれみはとこしへに絶ることなければなり 26 天の
神にかんしやせよ その憐憫はとこしへに絶ることな
ければなり

137 われらバビロンの河のほとりにすわり シオン
をおもひいでて涙をながしぬ 2 われらそのあたりの
柳にわが琴をかけたなり 3 そはわれらを虜にせしもの
われらに歌をもとめたり 我儕をくるしむる者われら
におのれを歎ばせんとて シオンのうた一つうたへと
いへり 4 われら外邦にありていかでエホバの歌をう
たはんや 5 エルサレムよもし我なんぢをわすれなば
わが右の手にその巧をわすれしめたまへ 6 もしわれ
汝を思ひいはず もしわれエルサレムをわがすべての
歓喜の極となさずばわが舌をわが脣につかしめたま
へ 7 エホバよねがはくはエルサレムの日のエドムの

子輩がこれを掃除けその基までもはらひのぞけといへるを聖意にとめたまへ 8ほろぼさるべきバビロンの女よ なんぢがわれらに作しごとく汝にむくゆる人はさいはひなるべし 9なんぢの嬰兒をとりて岩のうへになげうつものは福ひなるべし

138 われはわが心をつくしてなんぢに感謝し もろもろの神のまへにて汝をほめうたはん 2我なんぢのきよき宮にむかひて伏拝み なんぢの仁慈とまこととの故によりて聖名にかんしやせん そは汝そのみことばをもろもろの聖名にまさりて高くしたまひたればなり 3汝わがよばはりし日にわれにこたへ わが靈魂にちからをあたへて雄々しからしめたまへり 4エホバよ地のすべての王はなんぢに感謝せん かれらはなんぢの口のもろもろの言をききたればなり 5かれらはエホバのもろもろの途についてうたはん エホバの榮光おほいなればなり 6エホバは高くましませども卑きものを顧みたまふ されど亦おごれるものを遠よりしりたまへり 7縦ひわれ患難のなかを歩むとも汝われをふたたび活し その手をのぼしてわが仇のいかりをふせぎ その右の手われをすくひたまふべし 8エホバはわれに係れることを全うしたまはん エホバよなんぢの憐憫はとこしへにたゆることなし願くはなんぢの手のもろもろの事跡をすてたまふなかれ

139 エホバよなんぢは我をさぐり我をしりたまへり 2なんぢはわが坐るをも立をもしり 又とほくよりわが念をわきまへたまふ 3なんぢはわが歩むをもわが臥をもさぐりいだし わがもろもろの途をことごとく知たまへり 4そはわが舌に一言ありとも觀よエホバよなんぢことごとく知たまふ 5なんぢは前より後よ

りわれをかこみ わが上にその手をおき給へり 6 かか
る知識はいとくすしくして我にすぐ また高くして及
ぶことあたはず 7 我いつこにゆきてなんぢの聖霊を
はなれんや われいつこに往てなんぢの前をのがれん
や 8 われ天にのぼるとも汝かしこにいまし われわが
榻を陰府にまうくるとも 觀よなんぢ彼處にいます
(Sheol h7585) 9 我あけぼのの翼をかりて海のはてにすむ
とも 10 かしこにて尚なんぢの手われをみちびき汝の
みぎの手われをたもちたまはん 11 暗はかならず我を
おほひ 我をかこめる光は夜とならんと我いふとも 12
汝のみまへには暗ものをかくすことなく 夜もひるの
ごとくに輝けり なんぢにはくらきも光もことなるこ
となし 13 汝はわがはらわたをつくり 又わがははの
胎にわれを組成たまひたり 14 われなんぢに感謝す
われは畏るべく奇しくつくられたり なんぢの事跡は
ことごとくくすし わが靈魂はいとつばらに之をしれ
り 15 われ隠れたるところにてつくられ地の底所にて
妙につづりあはされしとき わが骨なんぢにかくるる
ことなかりき 16 わが體いまだ全からざるに なんぢ
の目ははやくより之をみ 日々かたちづくられしわが
百體の一だにあらざりし時に ことごとくなんぢの冊
にしるされたり 17 神よなんぢりもろもろの思念はわ
れに寶きこといかばかりぞや そのみおもひの總計は
いかに多きかな 18 我これを算へんとすれどもそのか
ずは沙よりもおほし われ眼さむるときも尚なんぢと
ともにをる 19 神よなんぢはかならず悪者をころし給
はん されば血をながすものよ我をはなれされ 20 か
れらはあしき企圖をもて汝にさからひて言ふ なんぢ
の仇はみだりに聖名をとふなり 21 エホバよわれ

は汝をにくむ者をにくむにあらずや なんぢに逆ひて
おこりたつものを厭ふにあらずや 22 われ甚くかれら
をにくみてわが仇とす 23 神よねがはくは我をさぐり
てわが心をしり 我をこころみてわがもろもろの思念
をしりたまへ 24 ねがはくは我によこしまなる途のあ
りやなしやを見て われを永遠のみちに導きたまへ

140 エホバよねがはくは悪人よりわれを助けいだし
我をまもりて強暴人よりのがれしめたまへ 2 かれら
は心のうちに殘害をくはだて たえず戦闘をおこす 3
かれらは蛇のごとくおのが舌を利す そのくちびるの
うちに蝮の毒あり (セラ) 4 エホバよ願くはわれを保
ちてあしきひとの手よりのがれしめ 我をまもりてわ
が足をつまづかせんと謀るあらぶる人よりのがれし
め給へ 5 高ぶるものはわがために罫と索とをふせ路
のほとりに網をはり かつ機をまうけたり (セラ) 6 わ
れエホバにいへらく汝はわが神なり エホバよねがは
くはわが祈のこゑをきき給へ 7 わが救のちからなる
主の神よ なんぢはたたかひの日にわが首をおほひた
まへり 8 エホバよあしきひとの欲のままにすること
をゆるしたまふなかれ そのあしき企圖をとげしめた
まふなかれ おそらくは彼等みづから誇らん (セラ) 9
われを圍むものの首はおのれのくちびるの殘害にお
ほはるべし 10 もえたる炭はかれらのうへにおち か
れらは火になげいれられ ふかき穴になげいれられて
再びおきいづることあたはざるべし 11 悪言をいふも
のは世にたてられず 暴ぶるものはわざはひに追及れ
てたふさるべし 12 われは苦しむものの訴とまづしき
ものの義とをエホバの守りたまふを知る 13 義者はか
ならず聖名にかんしやし直者はみまへに住ん

141 エホバよ我なんぢを呼ぶ ねがはくは速かにわれにきたりたまへ われ汝をよばふときわが聲に耳をかたぶけたまへ **2** われは薫物のごとくにわが祈をみまへにささげ 夕のそなへものの如くにわが手をあげて聖前にささげんことをねがふ **3** エホバよねがはくはわが口に門守をおきて わがくちびるの戸をまもりたまへ **4** 悪事にわがころを傾かして邪曲をおこなふ者ととも悪きわざにあづからしめ給ふなかれ 又かれらの珍饈をくらはしめたまふなかれ **5** 義者われをうつとも我はこれを愛しみとしその我をせむるを頭にあふらとせん わが頭はこれを辭まず かれらが禍害にあふときもわが祈はたえじ **6** その審士ははほの崕になげられん かれらわがことばの甘美によりて聽ことをすべし **7** 人つちを耕しうがつがごとく我儕のほねははかの口にちらさる (Sheol h7585) **8** されど主エホバよわが目はなほ汝にむかふ 我なんぢに依頼めり ねがはくはわが靈魂をともしきままに捨おきたまなかれ **9** 我をまもりてかれらがわがためにまうくる羅とよこしまを行ふものの機とをまぬかれしめたまへ **10** われは全くのがれん あしきものをおのれの網におちいらしめたまへ

142 われ聲をいだしてエホバによばはり 聲をいだしてエホバにこひもとむ **2** われはその聖前にわが歎息をそそぎいだし そのみまへにわが患難をあらはす **3** わが靈魂わがうちにきえうせんとするときも汝わがみちを識たまへり 人われをとらへんとてわがゆくみちに羅をかくせり **4** 願くはわがみぎの手に目をそそぎて見たまへ 一人だに我をしるものなし われには避所なくまたわが靈魂をかへりみる人なし **5** エホ

ばよわれ汝をよばふ 我いへらく汝はわがさけどころ
有生の地にてわがうべき分なりと 6 ねがはくはわが
號呼にみこころをとめたまへ われいたく卑くせら
れたればなり 我をせむる者より助けいだしたまへ 彼
等はわれにまさりて強ければなり 7 願くはわがたま
しひを囹圄よりいだし われに聖名を感謝せしめた
まへ なんぢ豊かにわれを待ひたまふべければ 義者わ
れをめぐらん

143 エホバよねがはくはわが祈をきき わが懇求に
みみをかたぶけたまへ なんぢの眞實なんぢの公義を
もて我にこたへたまへ 2 汝のしもべの審判にかかつ
らひたまふなかれ そはいけるもの一人だにみまへ
に義とせらるるはなし 3 仇はわがたましひを迫めわ
が生命を地にうちすて 死てひさしく世を経たるも
のごとく我をくらき所にすまはせたり 4 又わがた
ましひはわが衷にきえうせんとし わが心はわがう
ちに曠さびれたり 5 われはいにしへの日をおもひい
で 汝のおこなひたまひし一切のことを考へ なんぢの
手のみわざをおもふ 6 われ汝にむかひてわが手をの
べわがたましひは燥きおとろへたる地のごとく汝
をしたへり(セラ) 7 エホバよ速かにわれにこたへた
まへ わが靈魂はおとろふ われに聖顔をかくしたまふ
なかれ おそらくはわれ穴にくだるもののごとくな
らん 8 朝になんぢの仁慈をきかしめたまへ われ汝に
よりのめばなり わが歩むべき途をしらせたまへ わ
れわが靈魂をなんぢに擧ればなり 9 エホバよねがは
くは我をわが仇よりのたすけ出したまへ われ匿れん
として汝にはしりゆく 10 汝はわが神なり われに聖旨
をおこなふことををしへたまへ 恵ふかき聖霊をも

て我をたひらかなる國にみちびきたまへ 11 エホバよ
ねがはくは聖名のために我をいかし なんぢの義に
よりてわがたましひを患難よりいだしたまへ 12 又な
んぢの仁慈によりてわが仇をたち 靈魂をくるしむ
る者をことごとく滅したまへ そは我なんぢの僕なり

144 戦することをわが手にをしへ 闘ふことをわが
指にをしへたまふ わが磐エホバはほむべきかな 2 エ
ホバはわが仁慈わが城なり わがたかき櫓われをすく
ひたまふ者なり わが盾わが依頼むものなり エホバは
わが民をわれにしたがはせたまふ 3 エホバよ人はい
かなる者なれば之をしり 人の子はいかなる者なれば
之をみこころに記たまふや 4 人は氣息にことならず
その存らふる日はすぎゆく影にひとし 5 エホバよね
がはくはなんぢの天をたれてくだり 手を山につけて
煙をたたしめたまへ 6 電光をうちいだして彼等をち
らし なんぢの矢をはなちてかれらを敗りたまへ 7 上
より手をのべ我をすくひて 大水より外人の手よりた
すけいだしたまへ 8 かれらの口はむなしき言をいひ
その右の手はいつはりのみぎの手なり 9 神よわれ汝
にむかひて新らしき歌をうたひ 十絃の琴にあはせて
汝をほめうたはん 10 なんぢは王たちに救をあたへ
僕ダビデをわざはひの劍よりすくひたまふ神なり 11
ねがはくは我をすくひて外人の手よりたすけいだし
たまへ かれらの口はむなしき言をいひ その右の手は
いつはりのみぎの手なり 12 われらの男子はとしわか
きとき育ちたる草木のごとくわれらの女子は宮のふ
りにならひて刻みいだしし隅の石のごとくならん 13
われらの倉はみちたらひてさまざまのものをそなへ
われらの羊は野にて千萬の子をうみ 14 われらの牡牛

はよく物をおひ われらの衢にはせめいることなく亦
おしいづることなく叫ぶこともなからん 15 かかる状
の民はさいはひなり エホバをおのが神とする民はさ
いはひなり

145 わがかみ王よわれ汝をあがめ 世かぎりなく聖
名をほめまつらん 2 われ日ごとに汝をほめ世々かぎ
りなく聖名をはめたたへん 3 エホバは大にましませ
ば最もほむべきかな その大なることは尋ねしるこ
とかたし 4 この代はかの代にむかひてなんぢの事跡
をほめたたへ なんぢの大能のはたらきを宣つたへ
ん 5 われ汝のほまれの榮光ある稜威となんぢの奇し
きみわざとを深くおもはん 6 人はなんぢのおそるべ
き動作のいきほひをかたり 我はなんぢの大なること
を宣つたへん 7 かれらはなんぢの大なる恵の跡をい
ひいで なんぢの義をほめうたはん 8 エホバは恵ふか
く憐憫みち また怒りたまふことおそく憐憫おほいな
り 9 エホバはよろづの者にめぐみあり そのふかき憐
憫はみわざの上にあまねし 10 エホバよ汝のすべての
事跡はなんぢに感謝し なんぢの聖徒はなんぢをほめ
ん 11 かれらは御國のえいくわうをかたり汝のみちか
らを宣つたへて 12 その大能のはたらきとそのみくに
の榮光あるみいづとを人の子輩にしらすべし 13 なん
ぢの國はとこしへの國なり なんぢの政治はよろづ代
にたゆることなし 14 エホバはすべて倒れんとする者
をささへかがむものを直くたたしめたまふ 15 よろづ
のもの目はなんぢを待 なんぢは時にしたがひて
かれらに糧をあたへ給ふ 16 なんぢ手をひらきてもろ
もろの生るものの願望をあかしめたまふ 17 エホバは
そのすべての途にただしく そのすべての作爲にめ

ぐみふかし 18 すべてエホバをよぶもの 誠をもて之を
よぶものに エホバは近くましますなり 19 エホバは己
をおそるものの願望をみちたらしめ その號呼を
ききて之をすくひたまふ 20 エホバはおのれを愛しむ
ものをすべて守りたまへど 悪者をことごとく滅し
たまはん 21 わが口はエホバの頌美をかたり よろづの
民は世々かぎりなくそのきよき名をほめまつるべし

146 エホバを讃稱へよ わがたましひよエホバをほ
めたたへよ 2 われ生るかぎりにはエホバをほめたたへ
わがながらふるほどはわが神をほめうたはん 3 もろ
もろの君によりたのむことなく 人の子によりたのむ
なかれ かれらに助あることなし 4 その氣息いでゆけ
ばかれ土にかへる その日かれがもろもろの企圖は
ほろびん 5 ヤコブの神をおのが助としその望をおの
が神エホバにおくものは福ひなり 6 此はあめつちと
海とそのなかなるあらゆるものを造り とこしへに
眞實をまもり 7 虐げらるるものために審判をおこ
なひ 饑ゑたるものに食物をあたへたまふ神なり エホ
バはとらはれたる人をときはなちたまふ 8 エホバは
めしひの目をひらき エホバは屈者をなほくたたせ エ
ホバは義しきものを愛しみたまふ 9 エホバは他邦人
をまもり 孤子と寡婦とをささへたまふ されど悪きも
のの徑はくつがへしたまふなり 10 エホバはとこしへ
に統治めたまはん シオンよなんぢの神はよろづ代
まで統治めたまはん エホバをほめたたへよ

147 エホバをほめたたへよ われらの神をほめうた
ふは善ことなり 樂しきことなり 稱へまつるはよろし
きに適へり 2 エホバはエルサレムをきづきイスラエ
ルのさすらへる者をあつめたまふ 3 エホバは心のく

だけたるものを醫しその傷をつつみたまふ 4 エホバはもろもろの星の數をかぞへてすべてこれに名をあたへたまふ 5 われらの主はおほいなりその能力もまた大なりその智慧はきはまりなし 6 エホバは柔和なるものをささへ悪きものを地にひきおとし給ふ 7 エホバに感謝してうたへ琴にあはせてわれらの神をほめうたへ 8 エホバは雲をもて天をおほひ地のために雨をそなへもろもろの山に草をはえしめ 9 くひものを獸にあたへ並なく小鴉にあたへたまふ 10 エホバは馬のちからを喜びたまはず 人の足をよみしたまはず 11 エホバはおのれを畏るるものとおのれの憐憫をのぞむものとを好したまふ 12 エルサレムよエホバをほめたたへよ シオンよなんぢの神をほめたたへよ 13 エホバはなんぢの門の關木をかたうし 汝のうちなる子輩をさきはひ給ひたればなり 14 エホバは汝のすべての境にやはらぎをあたへいと嘉麥をもて汝をあかしたまふ 15 エホバはそのいましめを地にくだしたまふ その聖言はいとすみやかにはしる 16 エホバは雪をひつじの毛のごとくふらせ霜を灰のごとくにまきたまふ 17 エホバは氷をつちくれのごとくに擲ちたまふ たれかその寒冷にたふることをえんや 18 エホバ聖言をくだしてこれを消し その風をふかしめたまへばもろもろの水はながる 19 エホバはそのみことばをヤコブに示し そのもろもろの律法とその審判とをイスラエルにしめしたまふ 20 エホバはいづれの國をも如此あしらひたまひしにあらざ エホバのもろもろの審判をかへらしらざるなり エホバをほめたたへよ

148 エホバをほめたたへよ もろもろの天よりエホバをほめたたへよ もろもろの高所にてエホバをほ

めたたへよ 2 その天使よみなエホバをほめたたへよ
その萬軍よみなエホバをほめたたへよ 3 日よ月よエ
ホバをほめたたへよ ひかりの星よみなエホバをほ
めたたへよ 4 もろもろの天のてんよ 天のうへなる水
よ エホバをほめたたへよ 5 これらはみなエホバの聖
名をほめたたふべし そはエホバ命じたまひたれば
かれらは造られたり 6 エホバまた此等をいやとほな
がに立たまひたり 又すぎうすまじき詔命をくだし
たまへり 7 龍よ すべての淵よ地よりエホバをほめた
たへよ 8 火よ霰よ雪よ霧よみことばにしたがふ狂風
よ 9 もろもろの山もろもろのをか實をむすぶ樹すべ
ての香柏よ 10 獣もろもろの牲畜はふもの翼ある鳥よ
11 地の王たち もろもろのたみ 地の諸侯よ 地のもろ
もろの審士よ 12 少きをのこ 若きをみな 老たる人を
さなきものよ 13 みなエホバの聖名をほめたたふべ
し その聖名はたかくして類なく そのえいくわうは地
よりも天よりもうへにあればなり 14 エホバはその民
のために一つの角をあげたまへり こはそもろもろ
の聖徒のほまれ エホバにちかき民なるイスラエル
の子輩のほまれなり エホバを讃稱へよ

149 エホバをほめたたへよ エホバに對ひてあたら
しき歌をうたへ 聖徒のつどひにてエホバの頌美を
うたへ 2 イスラエルはおのれを造りたまひしものを
よろこび シオンの子輩は己が王のゆゑによりて樂
しむべし 3 かれらをどりつつその聖名をほめたたへ
琴鼓にてエホバをほめうたべし 4 エホバはおのが
民をよろこび 救にて柔和なるものを美しくしたま
へばなり 5 聖徒はえいくわうの故によりてよろこ
び その寢牀にてよろこびうたふべし 6 その口に神

をほむるうたあり その手にもろはの劍あり 7こは
もろもろの國に仇をかへし もろもろの民をつみな
ひ 8かれらの王たちを鏈にてかれらの貴人をくろか
ねの械にていましめ 9録したる審判をかれらに行ふ
べきためなり 斯るほまれはそのもろもろの聖徒に
あり エホバをほめたたへよ

150 エホバをほめたたへよ その聖所にて神をほめ
たたへよ その能力のあらはるる穹蒼にて神をほめ
たたへよ 2その大能のはたらきのゆゑをもて神をほ
めたたへよ その秀ておほいなることの故によりて
エホバをほめたたへよ 3ラッパの聲をもて神をほめ
たたへよ 箏と琴とをもて神をほめたたへよ 4つづみ
と蹈舞とをもて神をほめたたへよ 絃簫をもて神を
ほめたたへよ 5音のたかき鑢鉞をもて神をほめたた
へよ なりひびく鑢鉞をもて神をほめたたへよ 6氣息
あるものは皆ヤハをほめたたふべし なんぢらエホ
バをほめたたへよ

箴言 知恵の泉

1 ダビデの子イスラエルの王ソロモンの箴言 **2** こは人に智慧と訓誨とをしらしめ哲言を曉らせ **3** さとき訓と公義と公平と正直とをえしめ **4** 拙者にさとりを與へ少者に知識と謹慎とを得させん爲なり **5** 智慧ある者は之を聞て學にすすみ 哲者は智略をうべし **6** 人これによりて箴言と譬喩と智慧ある者の言とその隠語とを悟らん **7** エホバを畏るるは知識の本なり 愚なる者は智慧と訓誨とを軽んず **8** 我が子よ汝の父の教をきけ 汝の母の法を棄ることなかれ **9** これ汝の首の美しき冠となり 汝の項の妝飾とならん **10** わが子よ悪者なんぢ誘ふとも從ふことなかれ **11** 彼等なんぢにむかひて請ふわれらと偕にきたれ 我儕まちぶせして人の血を流し 無辜ものを故なきに伏てねらひ **12** 陰府のごとく彼等を活たるままにて呑み 壯健なる者を墳に下る者のごとくになさん (Sheol h7585) **13** われら各様のたふとき財貨をえ 奪ひ取たる物をもて我儕の家に盈さん **14** 汝われらと偕に籤をひけ 我儕とともに一の金囊を持べしと云とも **15** 我が子よ彼等とともに途を歩むことなかれ 汝の足を禁めてその路にゆくこと勿れ **16** そは彼らの足は惡に趨り 血を流さんとて急げばなり **17** (すべて鳥の目の前にて羅を張は徒勞なり) **18** 彼等はおのれの血のために埋伏し おのれの命をふしてねらふ **19** 凡て利を貧る者の途はかくの如し 是その持主をして生命をうしなはしむるなり **20** 智慧外に呼はり衢に其聲をあげ **21** 熱鬧しき所にさけび 城市の門の口邑の中にその言をのべていふ **22** なんぢら拙者のつたなきを愛し 嘲笑者のあざけりを樂しみ 愚なる者の知識を

悪むは幾時までぞや 23 わが督斥にしたがひて心を改めよ 視よわれ我が霊を汝らにそそぎ 我が言をなんぢらに示さん 24 われ呼たれども汝らこたへず手を伸たれども顧る者なく 25 かへつて我がすべての勧告をすて我が督斥を受ざりしに由り 26 われ汝らが禍災にあふとき之を笑ひ 汝らの恐懼きたらんとき嘲るべし 27 これは汝らのおそれ颶風の如くきたり 汝らのほろび颶風の如くきたり 艱難とかなしみと汝らにきたらん時なり 28 そのとき彼等われを呼ばん 然れどわれ應へじ 只管に我を求めん されど我に遇じ 29 かれら知識を憎み又エホバを畏るることを悦ばず 30 わが勸に従はず凡て我督斥をいやしめたるによりて 31 己の途の果を食ひおのれの策略に飽べし 32 拙者の違逆はおのれを殺し 愚なる者の幸福はおのれを滅さん 33 されど我に聞ものは平穩に住ひかつ禍害にあふ恐怖なくして安然ならん

2 我が子よ汝もし我が言をうけ我が誠命を汝のところに蔵め 2 斯て汝の耳を智慧に傾け汝の心をさとりにむけ 3 もし知識を呼求め聰明をえんと汝の聲をあげ 4 銀の如くこれを探り 秘れたる寶の如くこれを尋ねば 5 汝エホバを畏るることを曉り 神を知ることを得べし 6 そはエホバは智慧をあたへ知識と聰明とその口より出づればなり 7 かれは義人のために聰明をたくはへ 直く行む者の盾となる 8 そは公平の途をたもち その聖徒の途すぢを守りたまへばなり 9 斯て汝はつひに公義と公平と正直と一切の善道を曉らん 10 すなはち智慧なんぢの心にいり 知識なんぢの靈魂に樂しからん 11 謹慎なんぢを守り 聰明なんぢをたもちて 12 悪き途よりすくひ

虚偽をかたる者より救はん 13 彼等は直き途をはなれて幽暗き路に行み 14 悪を行ふを樂しみ 悪者のいつはりを悦び 15 その途はまがり その行爲は邪曲なり 16 聰明はまた汝を妓女より救ひ 言をもて諂ふ婦より救はん 17 彼はわかき時の侶をすて その神に契約せしことを忘るるなり 18 その家は死に下り その途は陰府に赴く 19 凡てかれにゆく者は歸らず また生命の途に達らざるなり 20 聰明汝をたもちてよき途に行ませ 義人の途を守らしめん 21 そは義人は地にながらへをり 完全者は地に止らん 22 されど悪者は地より亡され悖逆者は地より拔さらるべし

3 我が子よわが法を忘るるなかれ 汝の心にわが誠命をまもれ 2 さらば此事は汝の日をながくし生命の年を延べ平康をなんぢに加ふべし 3 仁慈と眞實とを汝より離すことなかれ 之を汝の項にむすび これを汝の心の碑にするせ 4 さらばなんぢ神と人との前に恩寵と好名とを得べし 5 汝こころを盡してエホバに倚頼め おのれの聰明に倚ることなかれ 6 汝すべての途にてエホバをみとめよ さらばなんぢの途を直くしたまふべし 7 自から見て聰明とする勿れ エホバを畏れて悪を離れよ 8 これ汝の身に良薬となり汝の骨に滋潤とならん 9 汝の貨財と汝がすべての産物の初生をもてエホバをあがめよ 10 さらば汝の倉庫はみちて餘り 汝の酒酔は新しき酒にて溢れん 11 我子よ汝エホバの懲治をかるんずる勿れ その譴責を受くるを厭ふこと勿れ 12 それエホバはその愛する者をいましめたまふ あたかも父のその愛する子を譴むるが如し 13 智慧を求め得る人および聰明をうる人は福なり 14 そは智慧を獲るは銀を獲るに愈りその利は精金よりも善けれ

ばなり 15 智慧は眞珠よりも尊し 汝の凡ての財貨も
之と比ぶるに足らず 16 其右の手には長壽あり その
左の手には富と尊貴とあり 17 その途は楽しき途なり
その徑すぢは悉く平康し 18 これは執る者には生命の
樹なり これ持ものは福なり 19 エホバ智慧をもて地を
さだめ 聰明をもて天を置たまへり 20 その知識によ
りて海洋はわきいで 雲は露をそそぐなり 21 我が子
よこれらを汝の眼より離す勿れ 聰明と謹慎とを守れ
22 然ばこれは汝の靈魂の生命となり汝の項の妝飾と
ならん 23 かくて汝やすらかに汝の途をゆかん 又な
んぢの足つまづかじ 24 なんぢ臥とき怖るところあ
らず 臥ときは酣く睡らん 25 なんぢ猝然なる恐懼を
おそれず 悪者の滅亡きたる時も之を怖るまじ 26 そ
はエホバは汝の倚頼むものにして汝の足を守りてと
らはれしめたまはざるべければなり 27 汝の手善をな
す力あらば之を爲すべき者に爲さざること勿れ 28 も
し汝に物あらば汝の鄰に向ひ 去て復來れ明日われ汝
に予へんといふなかれ 29 汝の鄰なんぢの傍に安らか
に居らば之にむかひて悪を謀ること勿れ 30 人もし汝
に悪を爲さずば故なく之と争ふこと勿れ 31 暴虐人を
羨むことなく そのすべての途を好とすることなかれ
32 そは邪曲なる者はエホバに悪まるればなり されど
義者はその親き者とせらるべし 33 エホバの呪詛は悪
者の家にあり されど義者の室はかれにめぐまる 34
彼は嘲笑者をあざけり 謙る者に恩恵をあたへたまふ
35 智者は尊榮をえ 愚なる者は羞辱之をとりさるべし

4 小子等よ父の訓をきけ 聰明を知んために耳をかた
むけよ 2 われ善教を汝らにさづく わが律を棄つるこ
となかれ 3 われも我が父には子にして 我が母の目に

は獨の愛子なりき 4 父われを教へていへらく我が言
を汝の心にとどめ わが誠命をまもれ 然らば生べし 5
智慧をえ聰明をえよ これを忘るるなかれ また我が口
の言に身をそむくるなかれ 6 智慧をすつることなか
れ彼なんぢを守らん 彼を愛せよ彼なんぢを保たん 7
智慧は第一なるものなり 智慧をえよ 凡て汝の得たる
物をもて聰明をえよ 8 彼を尊べ さらば彼なんぢを高
く擧げん もし彼を懷かば彼汝を尊榮からしめん 9 か
れ美しき飾を汝の首に置き 榮の冠弁を汝に予へん 10
我が子よきけ 我が言を納れよ さらば汝の生命の年お
ほからん 11 われ智慧の道を汝に教へ義しき徑筋に汝
を導けり 12 歩くとき汝の歩は艱まず 趨るときも躓
かじ 13 堅く訓誨を執りて離すこと勿れ これを守れ
これは汝の生命なり 14 邪曲なる者の途に入ることな
かれ 悪者の路をあやむこと勿れ 15 これを避よ 過る
こと勿れ 離れて去れ 16 そは彼等は惡を爲さざれば
睡らず 人を躓かせざればいねず 17 不義のパンを食
ひ暴虐の酒を飲めばなり 18 義者の途は旭光のごとし
いよいよ光輝をまして晝の正午にいたる 19 悪者の途
は幽冥のごとし 彼らはその躓くものなになるを
知ざるなり 20 わが子よ我が言をきけ 我が語るとこ
ろに汝の耳を傾けよ 21 之を汝の目より離すこと勿れ
汝の心のうちに守れ 22 是は之を得るものの生命にし
てまたその全體の良薬なり 23 すべての操守べき物よ
りもまさりて汝の心を守れ そは生命の流これより
出ればなり 24 虚偽の口を汝より棄さり 惡き口唇を
汝より遠くはなせ 25 汝の目は正く視 汝の眼瞼は汝
の前を眞直に視るべし 26 汝の足の徑をかんがへはか

り 汝のすべての道を直くせよ 27 右にも左にも偏ること勿れ 汝の足を悪より離れしめよ

5 我が子よわが智慧をきけ 汝の耳をわが聰明に傾け 2 しかしてなんぢ謹慎を守り 汝の口唇に知識を保つべし 3 娼妓の口唇は蜜を滴らし 其口は脂よりも滑なり 4 されど其終は茵陳の如くに苦く 兩刃の劍の如くに利し 5 その足は死に下り その歩は陰府に趣く (Sheol h7585) 6 彼は生命の途に入らず 其徑はさだかならねども自ら之を知ざるなり 7 小子等よいま我にきけ 我が口の言を棄つる勿れ 8 汝の途を彼より遠く離れしめよ 其家の門に近づくことなかれ 9 恐くは汝の榮を他人にわたし 汝の年を憐憫なき者にわたすにいたらん 10 恐くは他人なんぢの資財によりて盈され 汝の勞苦は他人の家にあらん 11 終にいたりて汝の身なんぢの體亡ぶる時なんぢ泣悲みていはん 12 われ教をいとひ 心に譴責をかるんじ 13 我が師の聲をきかず 我を教ふる者に耳を傾けず 14 あつまりの中會衆のうちにてほとんど諸の悪に陥れりと 15 汝おのれの水溜より水を飲み おのれの泉より流るる水をのめ 16 汝の流をほかに溢れしめ 汝の河の水を衢に流れしむべけんや 17 これを自己に歸せしめ 他人をして汝と偕にこに與らしむること勿れ 18 汝の泉に福祉を受しめ 汝の少き時の妻を楽しめ 19 彼は愛しき麕のごとく 美しき鹿の如し その乳房をもて常にたれりとし その愛をもて常によるこべ 20 我子よ何なればあそびめをたのしみ 淫婦の胸を懐くや 21 それ人の途はエホバの目の前にあり 彼はすべて其行爲を量りたまふ 22 悪者はおのれの愆にとらへられ その罪の繩に繋る 23 彼は訓誨なきによりて死 その多くの愚なることに由りて亡ぶべし

6 我子よ汝もし朋友のために保證をなし 他人のために汝の手を拍ば **2** 汝その口の言によりてわなにかかり その口の言によりてとらへらるるなり **3** 我子よ汝友の手に陥りしならば斯して自ら救へすなはち往て自ら謙だり只管なんぢの友に求め **4** 汝の目をして睡らしむることなく 汝の眼瞼をして閉しむること勿れ **5** かりうどの手より鹿ののがるごとく 鳥とる者の手より鳥ののがる如くして みづからを救へ **6** 惰者よ蟻にゆき其爲すところを觀て智慧をえよ **7** 蟻は首領なく有司なく君主なけれども **8** 夏のうちに食をそなへ 収穫のときに糧を斂む **9** 惰者よ汝いづれの時まで臥息むやいづれの時まで睡りて起ざるや **10** しばらく臥ししばらく睡り 手を叉きてまた片時やすむ **11** さらば汝の貧窮は盗人の如くきたり 汝の缺乏は兵士の如くきたるべし **12** 邪曲なる人あしき人は虚偽の言をもて事を行ふ **13** 彼は眼をもて胸せし 脚をもてしらせ 指をもて示す **14** その心に虚偽をたもち 常に悪をはかり 争端を起す **15** この故にその禍害にはかに來り 援助なくして立刻に敗らるべし **16** エホバの憎みたまふもの六あり 否その心に嫌ひたまふもの七あり **17** 即ち驕る目いつはりをいふ舌 つみなき人の血を流す手 **18** 悪き謀計をめぐらす心 すみやかに悪に趨る足 **19** 詐偽をのぶる證人 および兄弟のうちに争端をおこす者なり **20** 我子よ汝の父の誠命を守り 汝の母の法を棄る勿れ **21** 常にこれを汝の心にむすび之をなんぢの頸に佩よ **22** これは汝のゆくとき汝をみちびき 汝の寝るとき汝をまもり 汝の寤るとき汝とかたらん **23** それ誠命は燈火なり 法は光なり 教訓の懲治は生命の道なり **24** これは汝をまもりて悪き婦より

まぬかれしめ 汝をたもちて淫婦の舌の諂媚にまどはされざらしめん 25 その艶美を心に戀ふことなかれその眼瞼に捕へらるること勿れ 26 それ娼妓のために人はただ僅に一撮の糧をのこすのみにいたる 又淫婦は人の尊き生命を求むるなり 27 人は火を懷に抱きてその衣を焚れざらんや 28 人は熱火を踏て其足を焚れざらんや 29 その隣の妻と姦淫をおこなふ者もかくあるべし 凡て之に捫る者は罪なしとせられず 30 竊む者もし饑しときに其饑を充さん爲にぬすめるならば人これを藐ぜじ 31 もし捕へられなばその七倍を償ひ其家の所有をことごとく出さざるべからず 32 婦と姦淫をおこなふ者は智慧なきなり 之を行ふ者はおのれの靈魂を亡し 33 傷と陵辱とをうけて其恥を雪ぐこと能はず 34 妒忌その夫をして忿怒をもやさしむればその怨を報ゆるときかならず寛さじ 35 いかなる贖物をも顧みず 衆多の饋物をなすともやはらがざるべし

7 我子よわが言をまもり我が誠命を汝の心にたくはへよ 2 我が誠命をまもりで生命をえよ 我法を守ること汝の眸子を守るが如くせよ 3 これを汝の指にむすびこれを汝の心の碑に銘せ 4 なんぢ智慧にむかひて汝はわが姉妹なりといひ 明理にむかひて汝はわが友なりといへ 5 さらば汝をまもりて淫婦にまよはざらしめ 言をもて媚る娼妓にとほざからしめん 6 われ我室の牖により 樞子よりのぞきて 7 拙き者のうち幼弱者のうちに一人の智慧なき者あるを觀たり 8 彼衢をすぎ婦の門にちかづき其家の路にゆき 9 黄昏に半宵に夜半に黑暗の中にあるけり 10 時に娼妓の衣を着たる狡らなる婦かれにあふ 11 この婦は謹しくしてつ

しみなく 其足は家に止らず 12 あるときは衢にあり
或時はひろばにあり すみずみにたちて人をうかがふ
13 この婦かれをひきて接吻し恥しらぬ面をもていひ
けるは 14 われ酬恩祭を献げ今日すでにわが誓願を償
せり 15 これによりて我なんぢを迎へんとていで 汝
の面をたづねて汝に逢へり 16 わが榻には美しき褥お
よびエジプトの文臬をしき 17 没薬蘆薈桂皮をもて我
が榻にそそげり 18 來れわれら詰朝まで情をつくし愛
をかよはして相なぐさめん 19 そは夫は家にあらず遠
く旅立して 20 手に金囊をとれり 望月ならでは家に
歸らじと 21 多の婉言をもて惑し口唇の諂媚をもて誘
へば 22 わかき人ただちにこれに隨へり あだかも牛
の宰地にゆくが如く 愚なる者の桎梏をかけらるる爲
にゆくが如し 23 遂には矢その肝を刺さん 鳥の速か
に羅にいりてその生命を喪ふに至るを知ざるがごと
し 24 小子等よいま我にきけ 我が口の言に耳を傾け
よ 25 なんぢの心を淫婦の道にかたむくること勿れ
またこれが徑に迷ふこと勿れ 26 そは彼は多の人を傷
つけて仆せり 彼に殺されたる者ぞ多かる 27 その家
は陰府の途にして死の室に下りゆく (Sheol h7585)

8 智慧は呼はらざるか 聰明は聲を出さざるか 2 彼は
路のほとりの高處また街衢のなかに立ち 3 邑のもろ
もろの門 邑の口および門々の入口にて呼はりいふ 4
人々よわれ汝をよび 我が聲をもて人の子等をよぶ 5
拙き者よなんぢら聰明に明かなれ 愚なる者よ汝ら
明かなる心を得よ 6 汝きけ われ善事をかたらん わが
口唇をひらきて正事をいださん 7 我が口は眞實を述
べ わが口唇はあしき事を憎むなり 8 わが口の言はみ
な義し そのうちに虚偽と奸邪とあることなし 9 是み

な智者の明かにするところ 知識をうる者の正とするところなり 10 なんぢら銀をうくるよりは我が教をうけよ 精金よりもむしろ知識をえよ 11 それ智慧は眞珠に愈れり 凡の寶も之に比ぶるに足らず 12 われ智慧は聰明をすみかとし 知識と謹慎にいたる 13 エホバを畏るとは惡を憎むことなり 我は傲慢と驕奢 惡道と虚偽の口とを憎む 14 謀略と聰明は我にあり 我は了知なり 我は能力あり 15 我に由て王者は政をなし 君たる者は義しき律をたて 16 我によりて主たる者および牧伯たちなど 凡て地の審判人は世ををさむ 17 われを愛する者は我これを愛す 我を切に求むるものは我に遇ん 18 富と榮とは我にあり 貴き寶と公義とも亦然り 19 わが果は金よりも精金よりも愈り わが利は精銀よりもよし 20 我は義しき道にあゆみ 公平なる路徑のなかを行む 21 これ我を愛する者に貨財をえさせ 又その庫を充しめん爲なり 22 エホバいにしへ其御わざをなしそめたまへる前に その道の始として我をつくりたまひき 23 永遠より元始より地の有ざりし前より我は立られ 24 いまだ海洋あらず いまだ大なるみづの泉あざりしとき我すでに生れ 25 山いまださだめられず 陵いまだ有ざりし前に我すでに生れたり 26 即ち神いまだ地をも野をも地の塵の根元をも造り給はざりし時なり 27 かれ天をつくり海の面に穹蒼を張たまひしとき我かしこに在りき 28 彼うへに雲氣をかたく定め 淵の泉をつよくならしめ 29 海にその限界をたて 水をしてその岸を踰えざらしめ また地の基を定めたまへるとき 30 我はその傍にありて創造者となり 日々に欣び恒にその前に樂み 31 その地にて樂み又世の人を喜べり 32 されば小子等よい

ま我にきけ わが道をまもる者は福ひなり 33 教をき
きて智慧をえよ 之を棄ることなかれ 34 凡そ我にき
き 日々わが門の傍にまち わが戸口の柱のわきにたつ
人は福ひなり 35 そは我を得る者は生命をえ エホバ
より恩寵を獲ればなり 36 我を失ふものは自己の生命
を害ふ すべて我を惡むものは死を愛するなり

9 智慧はその家を建て その七の柱を砍成し 2 その畜
を宰り その酒を混和せ その筵をそなへ 3 その婢女を
つかはして邑の高處に呼はりいはしむ 4 拙者よここ
に來れと また智慧なき者にいふ 5 汝等きたりて我が
糧を食ひ わがまぜあはせたる酒をのみ 6 拙劣をすて
て生命をえ 聰明のみちを行め 7 嘲笑者をいましむる
者は恥を己にえ 惡人を責むる者は疵を己にえん 8 嘲
笑者を責むることなかれ 恐くは彼なんぢを惡まん 智
慧ある者をせめよ 彼なんぢを愛せん 9 智慧ある者に
授けよ 彼はますます智慧をえん 義者を教へよ 彼は
知識に進まん 10 エホバを畏ることは智慧の根本な
り 聖者を知るは聰明なり 11 我により汝の日は多くせ
られ 汝のいのちの年は増べし 12 汝もし智慧あらば
自己のために智慧あるなり 汝もし嘲らば汝ひとり
之を負ん 13 愚なる婦は嘩しく且つたなくして何事を
も知らず 14 その家の門に坐し邑のたかき處にある座
にすわり 15 道をますますに過る往來の人を招きていふ
16 拙者よここに來れと また智慧なき人にむかひては
之にいふ 17 竊みたる水は甘く密かに食ふ糧は美味あ
りと 18 彼處にある者は死し者その客は陰府のふかき
處にあることを是等の人は知らざるなり (Sheol h7585)

10 ソロモンの箴言 智慧ある子は父を欣ばす 愚なる
子は母の憂なり 2 不義の財は益なし されど正義は救

ひて死を脱かれしむ 3 エホバは義者の靈魂を餓ゑし
めず 悪者にその欲するところを得ざらしむ 4 手をも
のうくして動くものは貧くなり 勤めはたらく者の
手は富を得 5 夏のうちに斂むる者は智き子なり 収穫
の時にねむる者は辱をきたす子なり 6 義者の首には
福祉きたり 悪者の口は強暴を掩ふ 7 義者の名は讃ら
れ 悪者の名は腐る 8 心の智き者は誠命を受く されど
口の頑愚なる者は滅さる 9 直くあゆむ者はそのあゆ
むこと安し されどその途を曲ぐる者は知るべし 10
眼をもて胸せする者は憂をおこし 口の頑愚なる者
は亡さる 11 義者の口は生命の泉なり 悪者の口は強暴
を掩ふ 12 怨恨は争端をおこし 愛はすべての愆を掩ふ
13 哲者のくちびるには智慧あり 智慧なき者の背のた
めには鞭あり 14 智慧ある者は知識をたくはふ 愚かな
る者の口はいまにも滅亡をきたらす 15 富者の資財は
その堅き城なり 貧者のともしきはそのほろびなり 16
義者が動作は生命にいたり 悪者の利得は罪にいた
る 17 教をまもる者は生命の道にあり 懲戒をすつる者
はあやまりにおちいる 18 怨をかくす者には虚偽のく
ちびるあり 誹謗をいだす者は愚かなる者なり 19 言お
ほければ罪なきことあたはず その口唇を禁むるも
のは智慧あり 20 義者の舌は精銀のごとし 悪者の心
は値すくなし 21 義者の口唇はおほくの人をやしなひ
愚なる者は智慧なきに由て死ぬ 22 エホバの祝福は人
を富す 人の勞苦はこれに加ふるところなし 23 愚か
なる者は悪をなすを戯れごとのごとくす 智慧のさ
とかる人にとりても是のごとし 24 悪者の怖るるとこ
ろは自己にきたり 義者のねがふところはあたへら
る 25 狂風のすぐるとき悪者は無に歸せん 義者は窮

なくたもつ基のごとし 26 情る者のこれを遣すものに
於るは酢の齒に於るが如く煙の目に於るが如し 27 エ
ホバを畏ることは人の日を多くす されど悪者の
年はちぢめらる 28 義者の望は喜悦にいたり悪者の望
は絶べし 29 エホバの途は直者の城となり 悪を行ふ
ものの滅亡となる 30 義者は何時までも動かされず
悪者は地に住むことを得じ 31 義者の口は智慧をい
だすなり 虚偽の舌は拔るべし 32 義者のくちびるは喜
ばるべきことをわきまへ 悪者の口はいつはりを語る

11 いつはりの權衡はエホバに惡まれ 義しき法馬は
彼に欣ばる 2 驕傲きたれば辱も亦きたる 謙だる者
には智慧あり 3 直者の端莊は己を導き 悖逆者の邪曲は
己を亡す 4 寶は震怒の日に益なし されど正義は救ふ
て死をまぬかれしむ 5 完全者はその正義によりてそ
の途を直くせられ 悪者はその惡によりて 6 直者はその正義によりて救はれ 悖逆者は自己の惡
によりて執へらる 7 悪人は死るときにその望たえ 不
義なる者の望もまた絶べし 8 義者は艱難より救はれ
悪者はこれに代る 9 邪曲なる者は口をもてその鄰を
亡す されど義しき者はその知識によりて救はる 10 義
しきもの幸福を受ればその城邑に歡喜あり 惡きも
の亡さるれば歡喜の聲おこる 11 城邑は直者の祝ふに
倚て高く擧られ 悪者の口によりて亡さる 12 その鄰を
侮る者は智慧なし 聰明人はその口を噤む 13 往て人
の是非をいふ者は密事を洩し 心の忠信なる者は事
を隠す 14 はかりごとなければ民たふれ 議士多けれ
ば平安なり 15 他人のために保證をなす者は苦難をう
け 保證を嫌ふ者は平安なり 16 柔順なる婦は榮譽を
え 強き男子は資財を得 17 慈悲ある者は己の靈魂に

益をくはへ 殘忍者はおのれの身を擾はす 18 悪者の
獲る報はむなしく 義を播くものの得る報賞は確し 19
堅く義をたもつ者は生命にいたり 惡を追もとむる
者はおのれの死をまねく 20 心の戻れる者はエホバに
憎まれ 直く道を歩む者は彼に悦ばる 21 手に手をあ
はするとも悪人は罪をまぬかれず 義人の苗裔は救
を得 22 美しき婦のつつしみなきは金の環の豕の鼻に
あるが如し 23 義人のねがふところは凡て福祉にいた
り 悪人ののぞむところは震怒にいたる 24 ほどこし
散して反りて増ものあり 與ふべきを吝みてかへり
て貧しきにいたる者あり 25 施與を好むものは肥え
人を潤ほす者はまた利潤をうく 26 穀物を蔵めて糶ざ
る者は民に詛はる 然れど售る者の首には祝福あり 27
善をもとむる者は恩恵をえん 惡をもとむる者には
惡き事きたらん 28 おのれの富を恃むものは仆れん
されど義者は樹の青葉のごとくさかえん 29 おのれの
家をくるしむるものは風をえて所有とせん 愚なる
者は心の智きものの僕とならん 30 義人の果は生命の
樹なり 智慧ある者は人を捕ふ 31 みよ義人すらも世
にありて報をうくべし 況て悪人と罪人とをや

12 訓誨を愛する者は知識を愛す 懲戒を惡むものは
畜のごとし 2 善人はエホバの恩寵をうけ 惡き謀略を
設くる人はエホバに罰せらる 3 人は惡をもて堅く立
ことあたはず 義人の根は動くことなし 4 賢き婦はそ
の夫の冠弁なり 辱をきたらす婦は夫をしてその
骨に腐あるが如くならしむ 5 義者のおもひは直し 惡
者の計るところは虚偽なり 6 悪者の言は人の血を流
さんとて伺ふ されど直者の口は人を救ふなり 7 悪者
はたふされて無ものとならん されど義者の家は立

べし 8 人はその聰明にしたがひて譽られ 心の惇れる者は藐めらる 9 卑賤してしもべある者は自らたかぶりて食に乏き者に愈る 10 義者はその畜の生命を顧みる されど悪者は残忍をもてその憐憫とす 11 おのれの田地を耕すものは食にあく 放蕩なる人にしたがふ者は智慧なし 12 悪者はあしき人の獲たる物をうらやみ 義者の根は芽をいだす 13 悪者はくちびるの愆によりて罟に陥る されど義者は患難の中よりまぬかれいでん 14 人はその口の徳によりて福祉に飽ん 人の手の行爲はその人の身にかへるべし 15 愚なる者はみづからその道を見て正しとす されど智慧ある者はすすめを容る 16 愚なる者はただちに怒をあらはし 智きものは恥をつつむ 17 眞實をいふものは正義を述べ いつもの證人は虚偽をいふ 18 妄りに言をいだし 劍をもて刺がごとくする者あり されど智慧ある者の舌は人をいやす 19 眞理をいふ口唇は何時までも存つ されど虚偽をいふ舌はただ瞬息のあひだのみなり 20 悪事をはかる者の心には欺詐あり 和平を謀る者には歡喜あり 21 義者には何の禍害も來らず 悪者はわざはひをもて充さる 22 いつもの口唇はエホバに憎まれ 眞實をおこなふ者は彼に悦ばる 23 賢人は知識をかくす されど愚なる者のところは愚なる事を述べ 24 勤めはたらく者の手は人ををさむるにいたり 惰者は人に服ふるにいたる 25 うれひ人の心にあれば之を屈ます されど善言はこれを樂します 26 義者はその友に道を示す されど悪者は自ら途にまよふ 27 惰者はおのれの獵獲たる物をも燔ず 勉めはたらくことは人の貴とき寶なり 28 義しき道には生命あり その道すぢには死なし

13 智慧ある子は父の教訓をきき 戯謔者は懲治をきかず **2** 人はその口の徳によりて福祉をくらひ 悖逆者の靈魂は強暴をくらふ **3** その口を守る者はその生命を守る その口唇を大きくひらく者には滅亡きたる **4** 惰る者はここに慕へども得ることなし 勤めはたらく者の心は豊饒なり **5** 義者は虚偽の言をにくみ 悪者ははぢをかうむらせ面を赤くせしむ **6** 義は道を直く あゆむ者をまもり 悪は罪人を倒す **7** 自ら富めりといひあらはして些少の所有もなき者あり 自ら貧しと稱へて資財おほき者あり **8** 人の資財はその生命を贖ふものとなるあり 然ど貧者は威嚇をきくことあらず **9** 義者の光は輝き悪者の燈火はけさる **10** 驕傲はただ争端を生ず 勧告をきく者は智慧あり **11** 詭計をもて得たる資財は減る されど手をもて聚めたくはふる者はこれを増すことを得 **12** 望を得ること遅きときは心を疾しめ 願ふ所既にとぐるときは生命の樹を得たるがごとし **13** 御言をかるんずる者は亡され 誠命をおそる者は報賞を得 **14** 智慧ある人の教訓はいのちの泉なり 能く人をして死の罟を脱れしむ **15** 善にして哲きものは恩を蒙る されど悖逆者の途は艱難なり **16** 凡そ賢者は知識に由りて事をおこなひ 愚なる者はおのれの痴を顯す **17** 悪き使者は災禍に陥る されど忠信なる使者は良薬の如し **18** 貧乏と恥辱とは教訓をすつる者にきたる されど譴責を守る者は尊まる **19** 望を得れば心に甘し 愚なる者は悪を棄つることを嫌ふ **20** 智慧ある者と偕にあゆむものは智慧をえ 愚なる者の友となる者はあしくなる **21** わざはひは罪人を追ひ 義者は善報をうく **22** 善人はその産業を子孫に遺す されど罪人の資財は義者のために蓄へらる **23**

貧しき者の新田にはおほくの糧あり されど不義によりて亡る者あり 24 鞭をくはへざる者はその子を憎むなり 子を愛する者はしきりに之をいましむ 25 義しき者は食をえて飽く されど悪者の腹は空し

14 智慧ある婦はその家をたて 愚なる婦はおのれの手をもて之を毀つ 2 直くあゆむ者はエホバを畏れ 曲りてあゆむ者はこれを侮る 3 愚なる者の口にはその傲のために鞭笞あり 智者の口唇はおのれを守る 4 牛なければ飼藁倉むなし 牛の力によりて生産る物おほし 5 忠信の證人はいつはらず 虚偽のあかしびとは謊言を吐く 6 嘲笑者は智慧を求むれどもえず 哲者は知識を得ること容易し 7 汝おろかなる者の前を離れされ つひに知識の彼にあるを見ざるべし 8 賢者の智慧はおのれの道を暁るにあり 愚なる者の痴は欺くにあり 9 おろかなる者は罪をかるんず されど義者の中には恩恵あり 10 心の苦みは心みづから知る 其よろこびには他人あづからず 11 悪者の家は亡され 正直き者の幕屋はさかゆ 12 人のみづから見て正しとする途にしてその終はつひに死にいたる途となるものあり 13 笑ふ時にも心に悲あり 歓樂の終に憂あり 14 心の悖れる者はおのれの途に飽かん 善人もまた自己に飽かん 15 拙者はすべての言を信ず 賢者はその行を慎む 16 智慧ある者は怖れて悪をはなれ 愚なる者はたかぶりて怖れず 17 怒り易き者は愚なることを行ひ 悪き謀計を設くる者は悪まる 18 拙者は愚なる事を得て所有となし 賢者は知識をもて冠弁となす 19 悪者は善者の前に俯伏し 罪ある者は義者の門に俯伏す 20 貧者はその鄰にさへも悪まる されど富者を愛する者はおほ

し 21 その鄰を藐むる者は罪あり 困苦者を憐むものは幸福あり 22 悪を謀る者は自己をあやまるにあらずや 善を謀る者には憐憫と眞實とあり 23 すべての勤勞には利益あり されど口唇のことは貧乏をきたらすのみなり 24 智慧ある者の財寶はその冠弁となる 愚なる者のおろかはただ痴なり 25 眞實の證人は人のいのちを救ふ 謊言を吐く者は偽人なり 26 エホバを畏ることは堅き依頼なり その兒輩は逃避場をうべし 27 エホバを畏ることは生命の泉なり 人を死の罟より脱れしむ 28 王の榮は民の多きにあり 牧伯の衰敗は民を失ふにあり 29 怒を遅くする者は大なる知識あり 氣の短き者は愚なることを顯す 30 心の安穩なるは身のいのちなり 娼嫉は骨の腐なり 31 貧者を虐ぐる者はその造主を侮るなり 彼をうやまふ者は貧者をあはれむ 32 悪者はその惡のうちにて亡され 義者はその死ぬる時にも望あり 33 智慧は哲者の心にとどまり 愚なる者の衷にある事はあらはる 34 義は國を高くし 罪は民を辱しむ 35 さとき僕は王の恩を蒙ぶり 辱をきたらす者はその震怒にあふ

15 柔和なる答は憤恨をとどめ 厲しき言は怒を激す 2 智慧ある者の舌は知識を善きものとおもはしめ 愚なる者の口はおろかをはく 3 エホバの目は何處にもありて 悪人と善人とを鑒みる 4 溫柔き舌は生命の樹なり 悖れる舌は靈魂を傷ましむ 5 愚なる者はその父の訓をかるんず 誠命をまもる者は賢者なり 6 義者の家には多くの資財あり 悪者の利潤には擾累あり 7 智者のくちびるは知識をひろむ 愚なる者の心は定りなし 8 悪者の祭物はエホバに憎まれ 直き人の祈は彼に悦ばる 9 悪者の道はエホバに憎まれ 正義をも

とむる者は彼に愛せらる 10 道をはなるる者には厳しき懲治あり 譴責を惡む者は死ぬべし 11 陰府と沉淪とはエホバの目の前にあり 況て人の心をや (Sheol h7585) 12 嘲笑者は誠めらるることを好まず また智慧ある者に近づかず 13 心に喜樂あれば顔色よろこばし 心に憂苦あれば氣ふさぐ 14 哲者のところは知識をたづね 愚なる者の口は愚をくらふ 15 艱難者の日はことごとく悪く 心の懽べる者は恒に酒宴にあり 16 すこしの物を有てエホバを畏るるは多の寶をもちて擾煩あるに愈る 17 蔬菜をくらひて互に愛するは肥たる牛を食ひて互に恨むるに愈る 18 憤ほり易きものは争端をおこし 怒をおそくする者は争端をとどむ 19 惰者の道は棘の籬に似たり 直者の途は平坦なり 20 智慧ある子は父をよろこばせ 愚なる人はその母をからんず 21 無知なる者は愚なる事をよろこび 哲者はその途を直くす 22 相議ることあらざれば謀計やぶる 議者おほければ謀計かならず成る 23 人はその口の答によりて喜樂をう 言語を出して時に適ふはいかに善らずや 24 智人の途は生命の路にして上へ昇りゆく これ下にあるところの陰府を離れんが爲なり (Sheol h7585) 25 エホバはたかぶる者の家をほろぼし 寡婦の地界をさだめたまふ 26 あしき謀計はエホバに憎まれ 溫柔き言は潔白し 27 不義の利をむさぼる者はその家をわづらはせ 賄賂をにくむ者は活ながらふべし 28 義者の心は答ふべきことを考へ 惡者の口は惡を吐く 29 エホバは惡者に遠ざかり 義者の祈祷をききたまふ 30 目の光は心をよろこばせ 好音信は骨をうる 31 生命の誠命をきくところの耳は智慧ある者の中間に駐まる 32 教をすつる者は自己の生命をかるん

ざるなり 懲治をきく者は聰明を得 33 エホバを畏ることは智慧の訓なり 謙遜は尊貴に先だつ

16 心に謀るところは人にあり 舌の答はエホバより出づ 2 人の途はおのれの目にことごとく潔しと見ゆ 惟エホバ靈魂をはかりたまふ 3 なんぢの作爲をエホバに託せよ さらば汝の謀るところ必ず成るべし 4 エホバはすべての物をおのおのその用のために造り 悪人をも悪き日のために造りたまへり 5 すべて心たかぶる者はエホバに悪まれ 手に手をあはするとも罪をまぬかれじ 6 憐憫と眞實とによりて愆は贖はる エホバを畏ることによりて人惡を離る 7 エホバもし人の途を喜ばば その人の敵をも之と和がしむべし 8 義によりて得たるところの僅少なる物は不義によりて得たる多の資財にまさる 9 人は心におのれの途を考へはかる されどその歩履を導くものはエホバなり 10 王のくちびるには神のさばきあり 審判するときその口あやまる可らず 11 公平の權衡と天秤とはエホバのものなり 囊にある法馬もことごとく彼の造りしものなり 12 惡をおこなふことは王の憎むところなり 是その位は公義によりて堅く立ばなり 13 義しき口唇は王によろこばる 彼等は正直をいふものを愛す 14 王の怒は死の使者のごとし 智慧ある人はこれをなだむ 15 王の面の光には生命あり その恩寵は春雨の雲のごとし 16 智慧を得るは金をうるよりも更に善らずや聰明をうるは銀を得るよりも望まし 17 惡を離るるは直き人の路なり おのれの道を守るは靈魂を守るなり 18 驕傲は滅亡にさきだち誇る心は傾跌にさきだつ 19 卑き者に交りて謙だるは驕ぶる者と偕にありて贓物をわかつに愈る 20 慎みて御言をおこ

なふ者は益をうべし エホバに倚頼むものは福なり 21
心に智慧あれば哲者と稱へらる くちびる甘ければ人の知識をます 22 明哲はこれを持つものに生命の泉となる 愚なる者をいましむる者はおのれの痴是なり 23
智慧ある者の心はおのれの口ををしへ 又おのれの口唇に知識をます 24 ころよき言は蜂蜜のごとくにして 靈魂に甘く骨に良薬となる 25 人の自から見て 正しとする途にして その終はつひに死にいたる途となるものあり 26 勞をるものは飲食のために骨をる 是その口おのれに迫ればなり 27 邪曲なる人は惡を掘る その口唇には烈しき火のごときものあり 28 いはる者はあらしひを起し つけぐちする者は朋友を離れしむ 29 強暴人はその鄰をいざなひ 之を善らざる途にみちびく 30 その目を閉て惡を謀り その口唇を蹙めて惡事を成遂ぐ 31 白髪は榮の冠弁なり 義しき途にてこれを見ん 32 怒を遅くする者は勇士に愈り おのれの心を治むる者は城を攻取る者に愈る 33 人は籤をひく されど事をさだむるは全くエホバにあり

17 睦じうして一塊の乾けるパンあるは あらしひありて宰れる畜の盈たる家に愈る 2 かしこき僕は恥をきたらす子のををさめ 且その子の兄弟の中にありて産業を分ち取る 3 銀を試むる者は坩堝金を試むる者は鑪人の心を試むる者はエホバなり 4 惡を行ふものは虚偽のくちびるにきき 虚偽をいふ者はあしき舌に耳を傾ぶく 5 貧人を嘲るものはその造主をあなどるなり 人の災禍を喜ぶものは罪をまぬかれず 6 孫は老人の冠弁なり 父は子の榮なり 7 勝れたる事をいふは愚なる人に適はず 況て虚偽をいふ口唇は君たる者に適はんや 8 贈物はこれを受

る者の目には貴き珠のごとし その向ふところにて
凡て幸福を買ふ 9 愛を追求むる者は人の過失をお
ほふ 人の事を言ひふるる者は朋友をあひ離れしむ
10 一句の誠命の智人に徹るは百回扑つことの愚な
る人に徹るよりも深し 11 叛きもとる者はただ悪きこ
とのみをもとむ 比故に彼にむかひて残忍なる使者
遣はさる 12 愚なる者の愚妄をなすにあはんよりは寧
ろ子をとられたる牝熊にあへ 13 悪をもて善に報ゆる
者は悪その家を離れじ 14 争端の起源は堤より水をも
らすに似たり この故にあらそひの起らざる先にこ
れを止むべし 15 悪者を義とし義者を悪しとするこの
二の者はエホバに憎まる 16 愚なる者はすでに心なし
何ぞ智慧をかはんとて手にその價の金をもつや 17 朋
友はいづれの時にも愛す 兄弟は危難の時のために
生る 18 智慧なき人は手を拍てその友の前にて保證を
なす 19 争端をこのむ者は罪を好み その門を高くす
る者は敗壞を求む 20 邪曲なる心ある者はさいはひを
得ず その舌をみだりにする者はわざはひに陥る 21
愚なる者を産むものは自己の憂を生じ 愚なる者の
父は喜樂を得ず 22 心のたのしみは良薬なり 靈魂の
うれひは骨を枯す 23 悪者は人の懐より賄賂をうけて
審判の道をまぐ 24 智慧は哲者の面のまへにあり さ
れど愚なる者は目を地の極にそそぐ 25 愚なる子は其
父の憂となり 亦これを生る母の煩勞となる 26 義者
を罰するは善らず 貴き者をその義きがために扑は
善らず 27 言を寡くする者は知識あり 心の静なる者
は哲人なり 28 愚なる者も黙するときは智慧ある者と
思はれ その口唇を閉るときは哲者とおもはるべし

18 自己を人と異にする者はおのれの欲するところのみを求めてすべての善き考察にもとる **2** 愚なる者は明哲を喜ばず 惟おのれの心意を顯すことを喜ぶ **3** 悪者きたれば藐視したがひてきたり 恥きたれば凌辱もともに來る **4** 人の口の言は深水の如し 湧てながるる川 智慧の泉なり **5** 悪者を偏視るは善らず 審判をなして義者を悪しとするも亦善らず **6** 愚なる者の口唇はあらそひを起し その口は打るることを招く **7** 愚なる者の口はおのれの敗壞となり その口唇はおのれの靈魂の罟となる **8** 人の是非をいふものの言はたはおのれのごとしといへども反つて腹の奥にいる **9** その行爲をおこたる者は滅すものの兄弟なり **10** エホバの名はかたき櫓のごとし 義者は之に走りいりて救を得 **11** 富者の資財はその堅き城なり これを高き石垣の如くに思ふ **12** 人の心のたかぶりは滅亡に先だち 謙遜はたふとまるる事にさきだつ **13** いまだ事をきかざるさきに應ふる者は愚にして辱をかうぶる **14** 人の心は尚其疾を忍ぶべし されど心の傷める時は誰かこれに耐んや **15** 哲者の心は知識をえ 智慧ある者の耳は知識を求む **16** 人の贈物はその人のために道をひらき かつ貴きものの前にこれを導く **17** 先に訴訟の理由をのぶるものは正義に似たれども その鄰人きたり詰問ひてその事を明かにす **18** 籤は争端をとどめ且つよきものの間にへだてとなる **19** 怒れる兄弟はかたき城にもまさりて説き伏せがたし 兄弟のあらそひは櫓の貫木のごとし **20** 人は口の徳によりて腹をあかし その口唇の徳によりて自ら飽べし **21** 死生は舌の權能にあり これを愛する者はその果を食はん **22** 妻を得るものは美物を得るなり 且エホバより恩寵をあたへらる **23**

貧者は哀なる言をもて乞ひ 富人は厲しき答をなす 24
多の友をまうくる人は遂にその身を亡す 但し兄弟より
もたのもしき知己もまたあり

19 ただしく歩むまづしき者は くちびるの悖れる愚
なる者に愈る 2 心に思慮なければ善らず 足にて急ぐ
ものは道にまよふ 3 人はおのれの痴によりて道につ
まづき 反て心にエホバを怨む 4 資財はおほくの友を
あつむ されど貧者はその友に疎まる 5 虚偽の證人は
罰をまぬかれず 謊言をはくものは避るることをえ
ず 6 君に媚る者はおほし 凡そ人は贈物を與ふる者の
友となるなり 7 貧者はその兄弟すらも皆これをにく
む 況てその友これに遠ざからざらんや 言をはなちて
これを呼とも去てかへらざるなり 8 智慧を得る者は
おのれの靈魂を愛す 聰明をたもつ者は善福を得ん 9
虚偽の證人は罰をまぬかれず 謊言をはく者はほろ
ぶべし 10 愚なる者の驕奢に居るは適當からず 況て僕
にして上に在る者を治むることをや 11 聰明は人に怒
をしのばしむ 過失を宥すは人の榮譽なり 12 王の怒
は獅の吼るが如く その恩典は草の上におく露のご
とし 13 愚なる子はその父の災禍なり 妻の相争そふ
は雨漏のたえぬにひとし 14 家と資財とは先祖より承
嗣ぐもの 賢き妻はエホバより賜ふものなり 15 懶惰
は人を酣寐せしむ 懈怠人は饑べし 16 誠命を守るも
のは自己の靈魂を守るなり その道をかろむるもの
は死ぬべし 17 貧者をあはれむ者はエホバに貸すなり
その施濟はエホバ償ひたまはん 18 望ある間に汝の子
を打て これを殺すところを起すなかれ 19 怒ること
の烈しき者は罰をうく 汝もしこれを救ふともしば
しば然せざるを得じ 20 なんぢ勸をきき訓をうけよ

然ばなんぢの終に智慧あらん 21 人の心には多くの計
畫あり されど惟エホバの旨のみ立べし 22 人のよろ
こびは施濟をするにあり 貧者は謊人に愈る 23 エホ
バを畏ることは人をして生命にいたらしめ かつ
恒に飽足りて災禍に遇ざらしむ 24 惰者はその手を盤
にいるも之をその口に擧ることをだにせず 25 嘲笑
者を打て さらば拙者も慎まん 哲者を誹めよ さらば
かれ知識を得ん 26 父を煩はし母を逐ふは羞赧をきた
らし凌辱をまねく子なり 27 わが子よ哲言を離れしむ
る教を聴くことを息めよ 28 悪き證人は審判を嘲り
悪者の口は悪を呑む 29 審判は嘲笑者のために備へら
れ 鞭は愚なる者の背のために備へらる

20 酒は人をして嘲らせ 濃酒は人をして騒がしむ 之
に迷はさるる者は無智なり 2 王の震怒は獅の吼るが
ごとし 彼を怒らす者は自己のいのちを害ふ 3 穩か
に居りて争はざるは人の榮譽なり すべて愚なる者は
怒り争ふ 4 惰者は寒ければとて耕さず この故に収穫
のときにおよびて求るとも得るところなし 5 人の心
にある謀計は深き井の水のごとし 然れど哲人はこれ
を汲出す 6 凡そ人は各自おのれの善を誇る されど誰
か忠信なる者に遇しぞ 7 身を正しくして歩履む義人
はその後の子孫に福祉あるべし 8 審判の位に坐する
王はその目をもてすべての悪を散す 9 たれか我わが
心をきよめ わが罪を潔められたりといひ得るや 10
二種の權衡二種の斗量は等しくエホバに憎まる 11 幼
子といへどもその動作によりておのれの根性の清き
か或は正しきかをあらはす 12 聴くところの耳と視る
ところの眼とはともにエホバの造り給へるものなり
13 なんぢ睡眠を愛すること勿れ 恐くは貧窮にいたら

ん 汝の眼をひらけ 然らば糧に飽べし 14 買者はいふ
悪し悪しと 然れど去りて後はみづから誇る 15 金も
あり眞珠も多くあれど貴き器は知識のくちびるなり
16 人の保證をなす者よりは先その衣をとれ 他人の保
證をなす者をばかたくとらへよ 17 欺きとりし糧は人
に甜し されど後にはその口に沙を充されん 18 謀計
は相議るによりて成る 戦はんとせば先よく議るべし
19 あるきめぐりて人の是非をいふ者は密事をもらす
口唇をひらきてあるくものと交ること勿れ 20 おのれ
の父母を罵るものはその燈火くらやみの中に消ゆべ
し 21 初に俄に得たる産業はその終さいはひならず 22
われ悪に報いんと言ふこと勿れ エホバを待て 彼なん
ぢを救はん 23 二種の法馬はエホバに憎まる 虚偽の
權衡は善らず 24 人の歩履はエホバによる 人いかで
自らその道を明かにせんや 25 漫に誓願をたつこと
は其人の罟となる 誓願をたててのちに考ふることも
亦然り 26 賢き王は箕をもて簸るごとく悪人を散し
車輪をもて碾すごとく之を罰す 27 人の靈魂はエホバ
の燈火にして人の心の奥を窺ふ 28 王は仁慈と眞實を
もて自らたもつ その位もまた恩惠のおこなひにより
て堅くなる 29 少者の榮はその力 おいたる者の美し
きは白髪なり 30 傷つくまでに打たば悪きところきよ
まり 打てる鞭は腹の底までもとほる

21 王の心はエホバの手の中にありて恰かも水の流
れのごとし 彼その聖旨のままに之を導きたまふ 2 人
の道はおのれの目に正しとみゆ されどエホバは人の
心をはかりたまふ 3 正義と公平を行ふは犠牲よりも
愈りてエホバに悦ばる 4 高ぶる目と驕る心とは悪人
の光にしてただ罪のみ 5 勤めはたらく者の圖るとこ

ろは遂にその身を豊裕ならしめ 凡てさわがしく急ぐ者は貧乏をいたす 6 虚偽の舌をもて財を得るは吹はらはるる雲烟のごとし 之を求むる者は死を求むるなり 7 悪者の残虐は自己を亡す これ義しきを行ふことを好まざればなり 8 罪人の道は曲り 潔者の行爲は直し 9 相争ふ婦と偕に室に居らんよりは屋蓋の隅にをるはよし 10 悪者の靈魂は悪をねがふ その鄰も彼にあはれみ見られず 11 あざけるもの罰をうくれば拙者は智慧を得 ちゑあるもの教をうくれば知識を得 12 義しき神は悪者の家をもとめて悪者を滅亡に投いたまふ 13 耳を掩ひて貧者の呼ぶ聲をきかざる者はおのれ自ら呼ぶときもまた聽れざるべし 14 潜なる饋物は忿恨をなだめ 懐中の賄賂は烈しき瞋恚をやはらぐ 15 公義を行ふことは義者の喜樂にして 悪を行ふものの敗壞なり 16 さとりの道を離るる人は死し者の集會の中にをらん 17 宴樂を好むものは貧人となり 酒と膏とを好むものは富をいたさじ 18 悪者は義者のあがなひとなり 悖れる者は直き者に代る 19 争ひ怒る婦と偕にをらんよりは荒野に居るはよし 20 智慧ある者の家には貴き寶と膏とあり 愚なる人は之を呑つくす 21 正義と憐憫と追求むる者は生命と正義と尊貴とを得べし 22 智慧ある者は強者の城にのぼりてその堅く頼むところを倒す 23 口と舌とを守る者はその靈魂を守りて患難に遇せじ 24 高ぶり驕る者を嘲笑者となづく これ驕奢を逞しくして行ふものなり 25 情慾者の情慾はおのれの身を殺す 是はその手を肯て働かせざればなり 26 人は終日しきりに慾を圖る されど義者は與へて吝まず 27 悪者の献物は憎まる 況て悪き事のために献ぐる者をや 28 虚偽の證人は滅さる

然れど聴く人は恒にいふべし 29 悪人はその面を厚く
し 義者はその道を謹む 30 エホバにむかひては智慧
も明哲も謀略もなすところなし 31 戦闘の日のために
馬を備ふされど勝利はエホバによる

22 嘉名は大なる富にまさり恩寵は銀また金よりも
佳し 2 富者と貧者と偕に世にをる 凡て之を造りし者
はエホバなり 3 賢者は災禍を見てみづから避け 拙者
はすすみて罰をうく 4 謙遜とエホバを畏るる事との
報は富と尊貴と生命となり 5 悖れる者の途には荆棘
と罟とあり 靈魂を守る者は遠くこれを離れん 6 子を
その道に従ひて教へよ 然ばその老たる時も之を離れ
じ 7 富者は貧者を治め借者は貸人の僕となる 8 悪を
播くものは禍害を穡り その怒の杖は廢るべし 9 人を
見て恵む者はまた恵まる 此はその糧を貧者に與ふれ
ばなり 10 嘲笑者を逐へば争論も亦さり 且鬪争も恥
辱もやむ 11 心の潔きを愛する者はその口唇に憐憫を
もてり 王その友とならん 12 エホバの目は知識ある
者を守る 彼は悖れる者の言を敗りたまふ 13 惰者は
いふ獅そとにあり われ衢にて殺されんと 14 妓婦の
口は深き坑なり エホバに憎まるる者これに陥らん 15
痴なること子の心の中に繋がる 懲治の鞭これを逐い
だす 16 貧者を虐げて自らを富さんとする者と富者に
與ふる者とは遂にかならず貧しくなる 17 汝の耳を傾
ぶけて智慧ある者の言をきき且なんぢの心をわが知
識に用ゐよ 18 之を汝の腹にたもちて 盡くなんぢの
口唇にそなはらしめば樂しかるべし 19 汝をしてエホ
バに倚頼ましめんが爲にわれ今日これを汝に教ふ 20
われ勸言と知識とをふくみたる勝れし言を汝の爲に
録ししにあらざるや 21 これ汝をして眞の言の確實なる

ことを曉らしめ 且なんぢを遣しし者に眞の言を持歸らしめん爲なり 22 弱き者を弱きがために掠むることなかれ 艱難者を門にて壓つくること勿れ 23 そはエホバその訴を糺し且かれらに害ふものの生命をそこなはん 24 怒る者と交ること勿れ 憤ほる人とともに往ことなかれ 25 恐くは汝その道に效ひてみづから罣に陥らん 26 なんぢ人と手をうつ者となることなかれ 人の負債の保證をなすこと勿れ 27 汝もし償ふべきものあらずば人なんぢの下なる臥牀までも奪ひ取ん 是豈よからんや 28 なんぢの先祖がたてし古き地界を移すこと勿れ 29 汝その業に巧なる人を見るか 斯る人は王の前に立ん かならず賤者の前にたたじ

23 なんぢ侯たる者とともに坐して食ふときは 慎みて汝の前にある者の誰なるかを思へ 2 汝もし食を嗜む者ならば汝の喉に刀をあてよ 3 その珍饈を貧り食ふこと勿れ これ迷惑の食物なればなり 4 富を得んと思煩らふこと勿れ 自己の明哲を恃むこと勿れ 5 なんぢ虚しきに歸すべき者に目をとむるか 富はかならず自ら翹を生じて驚のごとく天に飛さらん 6 悪目をする者の糧をくらふことなく その珍饈をむさぼりねがふことなかれ 7 そはその心に思ふごとくその人となりも亦しかればなり 彼なんぢに食へ飲めといふこといへどもその心は汝に眞實ならず 8 汝つひにその食へる物を吐出すにいたり 且その出しし懇懃の言もむなしくならん 9 愚なる者の耳に語ること勿れ 彼なんぢが言の示す明哲を藐めん 10 古き地界を移すことなかれ 孤子の畑を侵すことなかれ 11 そはかれが贖者は強し 必ず汝に對らひて之が訴をのべん 12 汝の心を教に用る 汝の耳を知識の言に傾けよ 13 子

を懲すことを爲ざるなかれ 鞭をもて彼を打とも死
ることあらし **14** もし鞭をもて彼をうたばその靈魂を
陰府より救ふことをえん (Sheol h7585) **15** わが子よもし
汝のこころ智からば我が心もまた歡び **16** もし汝の口
唇ただしき事をいはば我が腎腸も喜ぶべし **17** なんぢ
心に罪人をうらやむ勿れ ただ終日エホバを畏れよ **18**
そは必ず應報ありて汝の望は廢らざればなり **19** わ
が子よ 汝ききて智慧をえ かつ汝の心を道にかたぶ
けよ **20** 酒にふけり肉をたしむものと交ること勿れ
21 それ酒にふける者と肉を嗜む者とは貧しくなり 睡
眠を貧る者は敝れたる衣をきるにいたらん **22** 汝を生
る父にきけ 汝の老たる母を軽んずる勿れ **23** 眞理を
買へ これを售るなかれ 智慧と誠命と知識とまた然あ
れ **24** 義き者の父は大によるこび 智慧ある子を生る
者はこれがために楽しまん **25** 汝の父母を楽しませ
汝を生る者を喜ばせよ **26** わが子よ汝の心を我にあた
へ 汝の目にわが途を楽しめ **27** それ妓婦は深き坑の
ごとく 淫婦は狭き井のごとし **28** 彼は盜賊のごとく
人を窺ひ かつ世の人の中に悖れる者を増なり **29** 禍
害ある者は誰ぞ 憂愁ある者は誰ぞ 争端をなす者は誰
ぞ 煩慮ある者は誰ぞ 故なくして傷をうくる者は誰ぞ
赤目ある者は誰ぞ **30** 是すなはち酒に夜をふかすもの
往て混和せたる酒を味ふる者なり **31** 酒はあかく盃
の中に泡だち滑かにくだる 汝これを見るなかれ **32**
是は終に蛇のごとく 噬み蝮の如く刺すべし **33** また
汝の目は怪しきものを見 なんぢの心は謊言をいは
ん **34** 汝は海のなかに偃すもののごとく 帆桅の上に偃
すもののごとし **35** 汝いはん人われを撃ども我いたま

ず我を拷けども我おぼえず我さめなばまた酒を求め
んと

24 なんぢ悪き人を羨むことなかれ 又これと偕に居
らんことを願ふなかれ **2** そはその心に暴虐をはかり
その口唇に人を害ふことをいへばなり **3** 家は智慧に
よりにて建られ 明哲によりて堅くせられ **4** また室は知
識によりて各種の貴く美しき寶にて充されん **5** 智
慧ある者は強し 知識ある人は力をます **6** 汝よき謀
計をもて戦闘をなせ 勝利は議者の多きによる **7** 智
慧は高くして愚なる者の及ぶところにあらず 愚な
る者は門にて口を啓くことをえず **8** 悪をなさんと
謀る者を邪曲なる者と稱ふ **9** 愚なる者の謀るとこ
ろは罪なり 嘲笑者は人に憎まる **10** 汝もし患難の日
に氣を挫かば汝の力は弱し **11** なんぢ死地に曳れゆ
く者を拯へ 滅亡によろめきゆく者をすくはざる勿
れ **12** 汝われら之を知らずといふとも心をはかる者こ
れを曉らざらんや 汝の靈魂をまもる者これを知ざ
らんや 彼はおのおのの行爲によりて人に報ゆべし **13**
わが子よ蜜を食へ 是は美ものなり また蜂のすの滴瀝
を食へ 是はなんぢの口に甘し **14** 智慧の汝の靈魂に
おけるも是の如しと知れ これを得ばかならず報い
ありて汝の望すたれじ **15** 悪者よ義者の家を窺ふこと
なかれ その安居所を攻ること勿れ **16** そは義者は七
次たふるるともまた起くされど 悪者は禍災により
て亡ぶ **17** 汝の仇たふるるとき楽しむこと勿れ 彼の
亡ぶるときここに喜ぶことなかれ **18** 恐くはエホバ
これを見て悪しとし その震怒を彼より離れしめた
まはん **19** なんぢ悪者を怒ることなかれ 邪曲なる者
を羨むなかれ **20** それ悪者には後の善賚なし 邪曲な

る者の燈火は滅されん 21 わが子よエホバと王とを畏れよ 叛逆者に交ること勿れ 22 斯るものらの災禍は速におこる この兩者の滅亡はたれか知えんや 23 是等もまた智慧ある者の箴言なり 偏り鞫するは善らず 24 罪人に告て汝は義しといふものをは衆人これを詛ひ諸民これを悪まん 25 これを譴る者は恩をえん また福祉これにきたるべし 26 ほどよき應答をなす者は口唇に接吻するなり 27 外にて汝の工をととのへ田圃にてこれを自己のためにそなへ 然るのち汝の家を建よ 28 故なく汝の鄰に敵して證することなかれ 汝なんぞ口唇をもて欺くべけんや 29 彼の我に爲しし如く我も亦かれになすべし われ人の爲ししところに循ひてこれに報いんといふこと勿れ 30 われ曾て惰人の田圃と智慧なき人の葡萄園とをすぎて見しに 31 荆棘あまねく生え薊その地面を掩ひ その石垣くづれりたり 32 我これをみて心をとどめ これを觀て教をえたり 33 しばらく臥し 暫らく睡り 手を叉きて又しばらく休む 34 さらば汝の貧窮は盜人のごとく汝の缺乏は兵士の如くきたるべし

25 此等もまたソロモンの箴言なり ユダの王ヒゼキヤに屬せる人々これを輯めたり 2 事を隠すは神の榮譽なり 事を窮むるは王の榮譽なり 3 天の高さと地の深さと 王たる者の心とは測るべからず 4 銀より渣滓を除け さらば銀工の用ふべき器いでん 5 王の前より悪者をのぞけ 然ばその位義によりて堅く立ん 6 王の前に自ら高ぶることなかれ 貴人の場に立つことなかれ 7 なんぢが目に見る王の前にて下にさげらるるよりは ここに上れといはるること愈れり 8 汝かるがろしく出でて争ふことなかれ 恐くは終にいたりて汝の

鄰に辱しめられん その時なんぢ如何になさんとする
か 9 なんぢ鄰と争ふことあらば只これと争へ 人の密
事を洩すなかれ 10 恐くは聞者なんぢを卑しめん 汝
そしられて止ざらん 11 機にかなひて語る言は銀の彫
刻物に金の林檎を嵌たるが如し 12 智慧をもて譴むる
者の之をきく者の耳におけることは 金の耳環と精金
の飾のごとし 13 忠信なる使者は之を遣す者における
こと穡收の日に冷かなる雪あるがごとし 能その主の
心を喜ばしむ 14 おくりものすと偽りて誇る人は雨な
き雲風の如し 15 怒を緩くすれば君も言を容る 柔か
なる舌は骨を折く 16 なんぢ蜜を得るか 惟これを足
る程に食へ 恐くは食ひ過ぎて之を吐出さん 17 なん
ぢの足を鄰の家にしげくするなかれ 恐くは彼なんぢ
を厭ひ悪まん 18 その鄰に敵して虚偽の證をたつる人
は斧刃または利き箭のごとし 19 艱難に遇ふとき忠實
ならぬ者を頼むは悪しき齒または跛たる足を恃むが
ごとし 20 心の傷める人の前に歌をうたふは寒き日に
衣をぬぐが如く 曹達のうへに酢を注ぐが如し 21 な
んぢの仇もし饑ゑなば之に糧をくらはせ もし渴かば
之に水を飲ませよ 22 なんぢ斯するは火をこれが首に
積むなり エホバなんぢに報いたまふべし 23 北風は
雨をおこし かげごとをいふ舌は人の顔をいからす 24
争ふ婦と偕に室に居らんより屋蓋の隅にをるは宜し
25 遠き國よりきたる好き消息は渴きたる人における
冷かなる水のごとし 26 義者の悪者の前に服するは井
の濁れるがごとく 泉の汚れたるがごとし 27 蜜をおほ
く食ふは善らず 人おのれの榮譽をもとむるは榮譽に
あらず 28 おのれの心を制へざる人は石垣なき壊れた
る城のごとし

26 榮譽の愚なる者に適はざるは夏の時に雪ふり 穡
收の時に雨ふるがごとし **2** 故なき詛は雀の翔り燕の
飛ぶが如くにきたるものにあらず **3** 馬の爲には策あ
り 驢馬の爲には銜あり 愚なる者の背のために杖あり
4 愚なる者の痴にしたがひて答ふること勿れ 恐くは
おのれも是と同じからん **5** 愚なる者の痴にしたがひ
て之に答へよ 恐くは彼おのれの目に自らを智者と見
ん **6** 愚なる者に托して事を言おくる者はおのれの足
をきり身に害をうく **7** 跛者の足は用なし 愚なる者の
口の箴もかくのごとし **8** 榮譽を愚なる者に與ふるは
石を投石索に繋ぐが如し **9** 愚なる者の口にたもつ箴
言は酔へるものの刺ある杖を手にて擧ぐるがごとし
10 愚なる者を備ひ流浪者を備ふ者はすべての人を傷
くる射手の如し **11** 狗のかへり來りてその吐たる物を
食ふがごとく 愚なる者は重ねてその痴なる事をおこ
なふ **12** 汝おのれの目に自らを智慧ある者とする人
を見るか 彼よりも却て愚なる人に望あり **13** 惰者は途
に獅あり 衢に獅ありといふ **14** 戸の蝶鉸によりて轉
るごとく惰者はその牀に輾轉す **15** 惰者はその手を盤
にいるも之をその口に擧ることを厭ふ **16** 惰者はお
のれの目に自らを善く答ふる七人の者よりも智慧あ
りとなす **17** 路をよぎり自己に關りなき争擾にたづさ
はる者は狗の耳をとらふる者のごとし **18** 既にその鄰
を欺くことをなして我はただ戯れしのみといふ者は
火箭または鎗または死を擲つ狂人のごとし **19** 既にそ
の鄰を欺くことをなして我はただ戯れしのみといふ
者は 火箭または鎗または死を擲つ狂人のごとし **20**
薪なければ火はきえ 人の是非をいふ者なければ争端
はやむ **21** 煨火に炭をつぎ火に薪をくぶるがごとく争

論を好む人は争論を起す 22 人の是非をいふものの言
はたはぶれのごとしと雖もかへつて腹の奥に入る 23
温かき口唇をもちて悪き心あるは銀の滓をきせたる
瓦片のごとし 24 恨むる者は口唇をもて自ら飾れども
心の衷には虚偽をいだく 25 彼その聲を和らかにする
とも之を信ずるなかれ その心に七の憎むべき者あれ
ばなり 26 たとひ虚偽をもてその恨をかくすとも そ
の悪は會集の中に顯はる 27 坑を掘るものは自ら之に
陥らん 石を轉ばしあぐる者の上にはその石まるびか
へらん 28 虚偽の舌はおのれの害す者を憎み 諂ふ口
は滅亡をきたらす

27 なんぢ明日のことを誇るなかれ そは一日の生ず
るところの如何なるを知ざればなり 2 汝おのれの口
をもて自ら讃むることなく人をして己を讃めしめよ
自己の口唇をもてせず 他人をして己をほめしめよ 3
石は重く沙は軽からず 然ど愚なる者の怒はこの二よ
りも重し 4 忿怒は猛く憤恨は烈し されど嫉妬の前
には誰か立ことをを得ん 5 明白に譴むるに秘に愛する
に愈る 6 愛する者の傷つくるは眞實よりし 敵の接吻
するは偽詐よりするなり 7 飽るものは蜂の蜜をも踐
つく されど饑たる者には苦き物さへもすべて甘し 8
その家を離れてさまよふ人は その巢を離れてさまよ
ふ鳥のごとし 9 膏と香とは人の心をよろこばすなり
心よりして勸言を與ふる友の美しきもまた斯のごと
し 10 なんぢの友と汝の父の友とを棄るなかれ なんぢ
患難にあふ日に兄弟の家にいることなかれ 親しき隣
は疏き兄弟に愈れり 11 わが子よ智慧を得てわが心を
悦ばせよ 然ば我をそしる者に我こたふることを得ん
12 賢者は禍害を見てみづから避け 拙者はすすみて罰

をうく 13 人の保證をなす者よりは先その衣をとれ
他人の保證をなす者をば固くとらへよ 14 晨はやく起
て大聲にその鄰を祝すれば却て呪詛と見なされん 15
相争ふ婦は雨ふる日に絶ずある雨漏のごとし 16 これ
を制ふるものは風をおさふるがごとく 右の手に膏を
つかむがごとし 17 鐵は鐵をとぐ 斯のごとくその友
の面を研なり 18 無花果の樹をまもる者はその果をく
らふ 主を貴ぶものは譽を得 19 水に照せば面と面と
相肖るがごとく 人の心は人の心に似たり 20 陰府と
沈淪とは飽ことなく 人の目もまた飽ことなし (Sheol
h7585) 21 坩堝によりて銀をためし 鑪によりて金をため
し その讚らるる所によりて人をためす 22 なんぢ愚
なる者を臼にいれ杵をもて麥と偕にこれを搗ともそ
の愚は去らざるなり 23 なんぢの羊の状況をよく知り
なんぢの群に心を留めよ 24 富は永く保つものにあ
らず いかで位は世々にたもたん 25 艸枯れ 苗いで山の
蔬菜あつめらる 26 羔羊はなんぢの衣服を出し 牝羊
は田圃を買ふ價となり 27 牝羊の乳はおほくして汝と
なんぢの家人の糧となり 汝の女をやしなふにたる

28 悪者は逐ふ者なけれども逃げ 義者は獅子のご
とくに勇まし 2 國の罪によりて侯伯多くなり 智
くして知識ある人によりて國は長く保つ 3 弱者を
虐ぐる貧人は糧をのこさざる 暴しき雨のごとし 4
律法を棄るものは悪者をほめ 律法を守る者はこれ
に敵す 5 悪人は義きことを覺らず エホバを
求むる者は凡の事をさとり 6 義しくあゆむ貧者
は曲れる路をあゆむ 富者に愈る 7 律法を守る者
は智子なり 放蕩なる者に交るものは父を辱かしむ
8 利息と高利とをもてその財産を増すものは貧人を

めぐむ者のために之をたくはふるなり 9 耳をそむけて律法を聞ざる者はその祈すらも憎まる 10 義者を悪き道に惑す者はみづから自己の阱に陥らん されど質直なる者は福祉をつぐべし 11 富者はおのれの目に自らを智慧ある者となす されど聰明ある貧者は彼をはかり知る 12 義者の喜ぶときは大なる榮あり 悪者の起るときは民身を匿す 13 その罪を隠すものは榮ゆることなし 然ど認らはして之を離るる者は憐憫をうけん 14 恒に畏るる人は幸福なり その心を剛愎にする者は災禍に陥るべし 15 貧しき民を治むるあしき侯伯は吼る獅子あるひは饑たる熊のごとし 16 智からざる君はおほく暴虐をおこなふ 不義の利を悪む者は遐齡をうべし 17 人を殺してその血を心に負ふ者は墓に奔るなり 人これを阻むること勿れ 18 義く行む者は救をえ 曲れる路に行む者は直に跌れん 19 おのれの田地を耕す者は糧にあき 放蕩なる者に従ふものは貧乏に飽く 20 忠信なる人は多くの幸福をえ 速かに富を得んとする者は罪を免れず 21 人を偏視るはよからず 人はただ一片のパンのために愆を犯すなり 22 悪目をもつ者は財をえんとて急がはしく却て貧窮のおのれに来るを知らず 23 人を譴むる者は舌をもて諂ふ者よりも大なる感謝をうく 24 父母の物を竊みて罪ならずといふ者は滅す者の友なり 25 心に貧る者は争端を起し エホバに倚頼むものは豊饒になるべし 26 おのれの心を恃む者は愚なり 智慧をもて行む者は救をえん 27 貧者に賙すものは乏しからず その目を掩ふ者は詛を受ること多し 28 悪者の起るときは人匿れ その滅るときは義者ます

29 しばしば責られてもなほ強項なる者は救はるることなくして猝然に滅されん **2** 義者ませば民よろこび 悪きもの權を掌らば民かなしむ **3** 智慧を愛する人はその父を悦ばせ 妓婦に交る者はその財産を費す **4** 王は公義をもて國を堅うす されど租税を征取る者はこれを滅す **5** その鄰に諂ふ者はかれの脚の前に羅を張る **6** 悪人の罪の中には罟あり 然ど義者は歡び楽しむ **7** 義きものは貧きものの訟をかへりみる 然ど悪人は之を知ることを願はず **8** 嘲笑人は城邑を擾し 智慧ある者は怒をしづむ **9** 智慧ある人おろかなる人と争へば或は怒り或は笑ひて休むことなし **10** 血をながす人は直き人を悪む されど義き者はその生命を救はんことを求む **11** 愚なる者はその怒をことごとく露はし 智慧ある者は之を心に蔵む **12** 君王もし虚偽の言を聽かばその臣みな悪し **13** 貧者と苛酷者と偕に世にをるエホバは彼等の目に光をあたへ給ふ **14** 眞實をもて弱者を審判する王はその位つねに堅く立つべし **15** 鞭と譴責とは智慧をあたふ 任意になしおかれたる子はその母を辱しむ **16** 悪きもの多ければ罪も亦おほし 義者は彼等の傾覆をみん **17** なんぢの子を懲せ さらば彼なんぢを安からしめ 又なんぢの心に喜樂を與へん **18** 黙示なければ民は放肆にす 律法を守るものは福ひなり **19** 僕は言をもて譴むるとも改めず 彼は知れども従はざればなり **20** なんぢ言を謹まざる人を見しや 彼よりは却て愚なる者に望あり **21** 僕をその幼なき時より柔かに育てなば終には子の如くならしめん **22** 怒る人は争端を起し 憤る人は罪おほし **23** 人の傲慢はおのれを卑くし 心に謙だる者は榮譽を得 **24** 盗人に黨する者はおのれの靈魂を悪むなり 彼は誓を聽けども

説述せず 25 人を畏るれば罍におちいる エホバをた
のむ者は護られん 26 君の慈悲を求むる者はおほし
然れど人の事を定むるはエホバによる 27 不義をなす
人は義者の悪むところ 義くあゆむ人は悪者の悪むと
ころなり

30 ヤケの子アグルの語なる箴言 かれイテエルにむ
かひて之をいへり 即ちイテエルとウカルとにいへ
る所のものなり 2 我は人よりも愚なり 我には人の聰
明あらず 3 我いまた智慧をならひ得ず またいまだ至
聖きものを曉ることをえず 4 天に昇りまた降りし
者は誰か 風をその掌中に聚めし者は誰か 水を衣に
つつみし者は誰か 地のすべての限界を定めし者は
誰か その名は何ぞ その子の名は何ぞ 汝これを知る
や 5 神の言はみな潔よし 神は彼を頼むものの盾な
り 6 汝その言に加ふることを勿れ 恐くは彼なんぢを
せめ 又なんぢを誑る者となしたまはん 7 われ二の
事をなんぢに求めたり 我が死ざる先にこれをたま
へ 8 即ち虚假と謊言とを我より離れしめ 我をして貧
からしめず また富しめず 惟なくてならぬ糧をあた
へ給へ 9 そは我あきて神を知らずといひ エホバは誰
なりやといはんことを恐れ また貧くして窃盜をな
し我が神の名を汚さんことを恐るればなり 10 なん
ぢ僕をその主に讒ることなかれ 恐くは彼なんぢを
詛ひてなんぢ罪せられん 11 その父を詛ひその母を
祝せざる世類あり 12 おのれの目に自らを潔者とな
して尚その汚穢を滌はれざる世類あり 13 また一の
世類あり 嗚呼その眼はいかに高きぞや その臉は昂
れり 14 その齒は劍のごとく その牙は刃のごとき世
類あり 彼等は貧き者を地より呑み 窮乏者を人の中

より食ふ 15 蛭に二人の女あり 與へよ與へよと呼は
る 飽ことを知ざるもの三あり 否な四あり皆たれりと
いはず 16 即ち陰府姪まざる胎水に満されざる地 足
りといはざる火これなり (Sheol h7585) 17 おのれの父を
嘲り母に従ふことをいやしとする眼は 谷の鴉これ
を抜いだし鷲の雛これを食はん 18 わが奇とするもの
三あり否な四あり共にわが識ざる者なり 19 即ち空
にとぶ鷲の路 磐の上にはふ蛇の路 海にはしる舟の
路 男の女にあふの路これなり 20 淫婦の途も亦しか
り 彼は食ひてその口を拭ひ われ悪きことを爲ざりき
といふ 21 地は三の者によりて震ふ否な四の者により
て耐ることあたはざるなり 22 即ち僕たるもの王とな
るに因り愚なるもの糧に飽るにより 23 厭忌はれたる
婦の嫁ぐにより婢女その主母に續に因りてなり 24 地
に四の物あり微小といへども最智し 25 蟻は力なき者
なれどもその糧を夏のうちに備ふ 26 山鼠ば強からざ
れどもその室を磐につくる 27 蝗は王なけれどもみ
な隊を立ていづ 28 守宮は手をもてつかまり王の宮
にをる 29 善あゆむもの三あり否な四あり皆よく歩
く 30 獣の中にて最も強くもろもろのもの前より退
かざる獅子 31 肚帯せし戦馬 牡野羊 および當ること
能はざる王これなり 32 汝もし愚にして自から高ぶり
或は悪きことを計らば汝の手を口に當つべし 33 それ
乳を搾れば乾酪いで鼻を搾れば血いで 怒を激ふれ
ば争端おこる

31 レムエル王のことば即ちその母の彼に教へし箴
言なり 2 わが子よ何を言んか わが胎の子よ何をいは
んか 我が願ひて得たる子よ何をいはんか 3 なんぢの
力を女につひやすなかれ 王を滅すものに汝の途をま

かする勿れ 4 レムエルよ酒を飲は王の爲べき事に非
ず 王の爲べき事にあらず 醇醪を求むるは牧伯の爲す
べき事にあらず 5 恐くは酒を飲て律法をわすれ 且す
べて悩まさる者の審判を枉げん 6 醇醪を亡びんと
する者にあたへ 酒を心の傷める者にあたへよ 7 かれ
飲てその貧窮をわすれ 復その苦楚を憶はざるべし 8
なんぢ瘠者のため又すべての孤者の訟のために口を
ひらけ 9 なんぢ口をひらきて義しき審判をなし貧者
と窮乏者の訟を糺せ 10 誰か賢き女を見出すことを得
ん その價は眞珠よりも貴とし 11 その夫の心は彼を恃
み その産業は乏しくならじ 12 彼が存命ふる間はそ
の夫に善事をなして悪き事をなさず 13 彼は羊の毛と
麻とを求め喜びて手から操き 14 商賈の舟のごとく遠
き國よりその糧を運び 15 夜のあけぬ先に起てその家
人に糧をあたへ その婢女に日用の分をあたふ 16 田
畝をはかりて之を買ひ その手の操作をもて葡萄園を
植ゑ 17 力をもて腰に帶し その手を強くす 18 彼はそ
の利潤の益あるを知る その燈火は終夜きえず 19 か
れ手を紡線車にのべ その指に紡錘をとり 20 手を貧
者にのべ 手を困苦者に舒ぶ 21 彼は家人の爲に雪を
おそれず 蓋その家人みな蕃紅の衣をきればなり 22
彼はおのれの爲に美しき褥子をつくり 細布と紫とを
もてその衣とせり 23 その夫はその地の長老とともに
邑の門に坐するによりて人に知るるなり 24 彼は細布
の衣を製りてこれをうり 帶をつくりて商賈にあたふ
25 彼は筋力と尊貴とを衣とし且のちの日を笑ふ 26 彼
は口を啓きて智慧をのぶ 仁愛の教誨その舌にあり 27
かれはその家の事を鑿み 怠惰の糧を食はず 28 その
衆子は起て彼を祝す その夫も彼を讚ていふ 29 賢く

事をなす女子は多けれども 汝はすべての女子に愈れ
り 30 艶麗はいつはりなり 美色は呼吸のごとし 惟エ
ホバを畏るる女は譽られん 31 その手の操作の果をこ
れにあたへ その行爲によりてこれを邑の門にほめよ

伝道者の書

1ダビデの子 エルサレムの王 伝道者の言 **2**伝道者言
く空の空空の空なる哉 都て空なり **3**日の下に人の
勞して爲ところの諸の動作はその身に何の益かあら
ん **4**世は去り世は來る 地は永久に長存なり **5**日は出
で日は入り またその出し處に喘ぎゆくなり **6**風は南
に行き又轉りて北にむかひ 旋轉に旋りて行き 風復そ
の旋轉る處にかへる。 **7**河はみな海に流れ入る 海は
盈ること無し 河はその出きたれる處に復還りゆくな
り **8**萬の物は勞苦す 人これを言つくすことあたはず
目は見に飽ことなく耳は聞に充ること無し **9**囊に有
し者はまた後にあるべし 囊に成し事はまた後に成べ
し 日の下には新しき者あらざるなり **10**見よ是は新
しき者なりと指て言べき物あるや 其は我等の前にあ
りし世々に既に久しくありたる者なり **11**己前のもの
の事はこれを記憶ることなし 以後のもの事もまた
後に出る者これをおぼゆることあらじ **12**われ伝道者
はエルサレムにありてイスラエルの王たりき **13**我心
を盡し智慧をもちひて天が下に行はるる諸の事を尋
ねかつ考覈たり此苦しき事件は神が世の人にさづけ
て之に身を勞せしめたまふ者なり **14**我日の下に作と
ころの諸の行爲を見たり 嗚呼皆空にして風を捕ふる
がごとし **15**曲れる者は直からしむるあたはず缺たる
者は數をあはするあたはず **16**我心の中に語りて言ふ
嗚呼我は大なる者となれり 我より先にエルサレムに
をりしすべての者よりも我は多くの智慧を得たり 我
心は智慧と知識を多く得たり **17**我心を盡して智慧を
知んとし狂妄と愚癡を知んとしたりしが 是も亦風を

捕ふるがごとくなるを暁れり 18 夫智慧多ければ憤激
多し 知識を増す者は憂患を増す

2 我わが心に言けらく 來れ我試みに汝をよろこばせ
んとす 汝逸樂をきはめよと 嗚呼是もまた空なりき **2**
我笑を論ふ是は狂なり 快樂を論ふは何の爲ところあ
らんやと **3** 我心に智慧を懷きて居つつ酒をもて肉身
を肥さんと試みたり 又世の人は天が下において生涯
如何なる事をなさば善らんかを知んために我は愚な
る事を行ふことをせり **4** 我は大なる事業をなせり 我
はわが爲に家を建て葡萄園を設け **5** 園をつくり囿を
つくり 又菓のなる諸の樹を其處に植ゑ **6** また水の塘
池をつくりて樹木の生茂れる林に其より水を灌がし
めたり **7** 我は僕婢を買得たり また家の子あり 我はま
た凡て我より前にエルサレムにをりし者よりも衆多
の牛羊を有り **8** 我は金銀を積み 王等と國々の財寶を
積あげたり また歌詠之男女を得 世の人の樂なる妻妾
を多くえたり **9** 斯我は大なる者となり 我より前にエ
ルサレムにをりし諸の人よりも大になりぬ 吾智慧も
またわが身を離れざりき **10** 凡そわが目の好む者は我
これを禁ぜず 凡そわが心の悦ぶ者は我これを禁ぜざ
りき 即ち我はわが諸の勞苦によりて快樂を得たり 是
は我が諸の勞苦によりて得たるところの分なり **11** 我
わが手にて爲たる諸の事業および我が勞して事を爲
たる勞苦を顧みるに 皆空にして風を捕ふるが如くな
りき 日の下には益となる者あらざるなり **12** 我また
身を轉らして智慧と狂妄と愚癡とを觀たり 抑王に嗣
ぐところの人は如何なる事を爲うるや その既になせ
しところの事に過ぎるべし **13** 光明の黑暗にまさるが
ごとく智慧は愚癡に勝るなり 我これを暁れり **14** 智

者の目はその頭にあり愚者は黑暗に歩む 然ど我しる
其みな遇ふところの事は同一なり 15 我心に謂けらく
愚者の遇ふところの事に我もまた遇ふべければ 我な
んぞ智慧のまさる所あらんや 我また心に謂り是も亦
空なるのみと 16 夫智者も愚者と均しく永く世に記念
らるることなし 來らん世にいたれば皆早く既に忘ら
るるなり 嗚呼智者の愚者とおなじく死るは是如何な
る事ぞや 17 是に於て我世にながらふことを厭へり
凡そ日の下に爲ところの事は我に悪く見ればなり 即
ち皆空にして風を捕ふるがごとし 18 我は日の下にわ
が勞して諸の動作をなしたるを恨む其は我の後を嗣
ぐ人にこれを遺さざるを得ざればなり 19 其人の智慧
は誰かこれを知らん然るにその人は日の下に我が勞
して爲し智慧をこめて爲たる諸の工作を管理るにい
たらん是また空なり 20 我身をめぐらし日の下にわが
勞して爲たる諸の動作のために望を失へり 21 今茲に
人あり 智慧と知識と才能をもて勞して事をなさんに
終には之がために勞せざる人に一切を遺してその所
有となさしめざるを得ざるなり 是また空にして大に
悪し 22 夫人はその日の下に勞して爲ところの諸の動
作とその心勞によりて何の得ところ有るや 23 その世
にある日には常に憂患あり その勞苦は苦し その心は
夜の間も安んずることあらず 是また空なり 24 人の
食飲をなしその勞苦によりて心を樂しましむるは幸
福なる事にあらず 是もまた神の手より出るなり 我こ
れを見る 25 誰かその食ふところその歡樂を極むると
ころに於て我にまさる者あらん 26 神はその心に適ふ
人には智慧と知識と喜樂を賜ふ 然れども罪を犯す人
には勞苦を賜ひて斂めかつ積ことを爲さしむ 是は其

を神の心に適ふ人に與へたまはんためなり 是もまた
空にして風を捕ふるがごとし

3 天が下の萬の事には期あり 萬の事務には時あり **2**
生るるに時あり死るに時あり 植るに時あり植たる者
を抜に時あり **3** 殺すに時あり醫すに時あり 毀つに時
あり建るに時あり **4** 泣に時あり笑ふに時あり 悲むに
時あり躍るに時あり **5** 石を擲つに時あり石を斂むる
に時あり 懐くに時あり懐くことをせざるに時あり **6**
得に時あり失ふに時あり 保つに時あり棄るに時あり
7 裂に時あり縫に時あり 黙すに時あり語るに時あり **8**
愛しむに時あり惡むに時あり 戦ふに時あり和ぐに時
あり **9** 働く者はその勞して爲ところよりして何の益
を得んや **10** 我神が世の人にさづけて身をこれに勞せ
しめたまふところの事件を視たり **11** 神の爲したまふ
ところは皆その時に適ひて美麗しかり 神はまた人の
心に永遠をおもふの思念を賦けたまへり 然ば人は神
のなしたまふ作爲を始より終まで知明むることを得
ざるなり **12** 我知る人の中にはその世にある時に快樂
をなし善をおこなふより外に善事はあらず **13** また人
はみな食飲をなしその勞苦によりて逸樂を得べきなり
是すなはち神の賜物たり **14** 我知る凡て神のなした
まふ事は限なく存せん 是は加ふべき所なく是は減す
べきところ無し 神の之をなしたまふは人をしてその
前に畏れしめんがためなり **15** 昔ありたる者は今もあ
り 後にあらん者は既にありし者なり 神はその遂やら
れし者を索めたまふ **16** 我また日の下を見るに審判を
おこなふ所に邪曲なる事あり 公義を行ふところに邪
曲なる事あり **17** 我すなはち心に謂けらく神は義者と
惡者とを鞠きたまはん 彼處において萬の事と萬の所

爲に時あるなり 18 我また心に謂けらく是事あるは是世の人のためなり 即ち神は斯世の人を檢して之にその獸のごとくなることを自ら暁らしめ給ふなり 19 世の人に臨むところの事はまた獸にも臨む この二者に臨むところの事は同一にして是も死ば彼も死るなり 皆同一の呼吸に依れり 人は獸にまさる所なし皆空なり 20 皆一の所に往く皆塵より出で皆塵にかへるなり 21 誰か人の魂の上に昇り獸の魂の地にくだることを知ん 22 然ば人はその動作によりて逸樂をなすに如はなし 是その分なればなり 我これを見る その身の後の事は誰かこれを携へゆきて見さしむる者あらんや

4 茲に我身を轉して日の下に行はるる諸の虐遇を視たり 嗚呼虐げらる者の涙ながる 之を慰むる者あらざるなり また虐ぐる者の手には權力あり 彼等はこれを慰むる者あらざるなり 2 我は猶生る生者よりも既に死たる死者をもて幸なりとす 3 またこの二者よりも幸なるは未だ世にあらずして日の下におこなはるる惡事を見ざる者なり 4 我また諸の勞苦と諸の工事の精巧とを觀るに 是は人のたがひに嫉みあひて成せる者たるなり 是も空にして風を捕ふるが如し 5 愚なる者は手を束ねてその身の肉を食ふ 6 片手に物を盈て平穩にあるは 兩手に物を盈て勞苦て風を捕ふるに愈れり 7 我また身をめぐらし日の下に空なる事のあるを見たり 8 茲に人あり只獨にして伴侶もなく子もなく兄弟もなし 然るにその勞苦は都て窮なくの目は富に飽ことなし 彼また言ず嗚呼我は誰がために勞するや何とて我は心を樂ませざるやと 是もまた空にして勞力の苦き者なり 9 二人は一人に愈る其はその勞苦のために善報を得ればなり 10 即ちその跌倒る時には

一箇の人その伴侶を扶けおこすべし 然ど孤身にして
跌倒る者は憐なるかな之を扶けおこす者なきなり 11
又二人ともに寝れば温暖なり一人ならば争で温暖な
らんや 12 人もしその一人を攻撃ば二人してこれに當
るべし 三根の繩は容易く斷ざるなり 13 貧くして賢
き童子は 老て愚にして諫を納れざる王に愈る 14 彼
は牢獄より出て王となれり 然どその國に生れし時は
貧かりき 15 我日の下にあゆむところの群生が彼王に
続てこれに代りて立ところの童子とともにあるを觀
たり 16 民はすべて際限なし その前にありし者みな
然り 後にきたる者また彼を悦ばず 是も空にして風を
捕ふるがごとし

5 汝エホバの室にいたる時にはその足を慎め 進みよ
りて聽聞は愚なる者の犠牲にまさる 彼等はその惡を
おこなひをることを知ざるなり 2 汝神の前にありて
は軽々し口を開くなかれ 心を攝めて妄に言をいだす
なかれ 其は神は天にいまし汝は地にをればなり 然ば
汝の言詞を少からしめよ 3 夫夢は事の繁多によりて
生じ 愚なる者の聲は言の衆多によりて識るなり 4 汝
神に誓願をかけなば之を還すことを怠るなかれ 神は
愚なる者を悦びたまはざるなり 汝はそのかけし誓願
を還すべし 5 誓願をかけてこれを還さざるよりは寧
ろ誓願をかけざるは汝に善し 6 汝の口をもて汝の身
に罪を犯さしむるなかれ 亦使者の前に其は過誤なり
といふべからず 恐くは神汝の言を怒り汝の手の所爲
を滅したまはん 7 夫夢多ければ空なる事多し 言詞の
多きもまた然り 汝エホバを畏め 8 汝國の中に貧き者
を虐待る事および公道と公義を枉ることあるを見る
もその事あるを怪むなかれ 其はその位高き人よりも

高き者ありてその人を伺へばなり又其等よりも高き者あるなり 9 國の利益は全く是にあり 即ち王者が農事に勤むるにあるなり 10 銀を好む者は銀に飽こと無し 豊富ならんことを好む者は得るところ有らず 是また空なり 11 貨財増せばこれを食む者も増すなり その所有主は唯目にこれを看るのみ その外に何の益かあらん 12 勞する者はその食ふところは多きも少きも快く睡るなり 然れども富者はその貨財の多きがために睡ることを得せず 13 我また日の下に患の大なる者あるを見たり すなはち財寶のこれを蓄ふる者の身に害をおよぼすことある是なり 14 その財寶はまた災難によりて失落ことあり 然ばその人子を擧ることあらんもその手には何物もあることなし 15 人は母の胎より出て來りしごとくにまた裸體にして販りゆくべし その勞苦によりて得たる者を毫厘も手にとりて携へゆくことを得ざるなり 16 人は全くその來りしごとくにまた去ゆかざるを得ず 是また患の大なる者なり 抑風を追て勞する者何の益をうること有んや 17 人は生命の涯黑暗の中に食ふことを爲す また憂愁多かり 疾病身にあり 憤怒あり 18 視よ我は斯觀たり 人の身にとりて善かつ美なる者は 神にたまはるその生命の極食飲をなし 且その日の下に勞して働ける勞苦によりて得るところの福祿を身に享るの事なり 是その分なればなり 19 何人によらず神がこれに富と財を與へてそれに食ことを得せしめ またその分を取りその勞苦によりて快樂を得ることをせさせたまふあれば その事は神の賜物たるなり 20 かかる人はその年齢の日を憶ゆること深からず 其は神これが心の喜ぶところにしたがひて應ることを爲したまへばなり

6 我觀るに日の下に一件の患あり是は人の間に恒なる者なり **2** すなはち神富と財と貴を人にあたへてその心に慕ふ者を一件もこれに缺ることなからしめたまひながらも 神またその人に之を食ふことを得せしめたまはずして 他人のこれを食ふことあり 是空なり 惡き疾なり **3** 假令人百人の子を擧げまた長壽してその年齢の日多からんも 若その心景福に満足せざるか 又は葬らるることを得ざるあれば 我言ふ流産の子はその人にまさるたり **4** 夫流産の子はその來ること空しくして 黑暗の中に去ゆきその名は黑暗の中にかくるるなり **5** 又是は日を見ることなく物を知ることなければ 彼よりも安泰なり **6** 人の壽命千年に倍すると 福祉を蒙れるにはあらず 皆一所に往くにあらずや **7** 人の勞苦は皆その口のためなり その心はなほも飽ざるところ有り **8** 賢者なんぞ愚者に勝るところあらんや また世人の前に歩行ことを知ところの貧者も何の勝るところ有んや **9** 目に觀る事物は心のさまよひ 歩くに愈るなり 是また空にして風を捕ふるがごとし **10** 嘗て在し者は久しき前にすでにその名を命られたり 即ち是は人なりと知る 然ば是はかの自己よりも力強き者と争ふことを得ざるなり **11** 衆多の言論ありて 虚浮き事を増す然ど人に何の益あらんや **12** 人はその虚空き生命の日を影のごとくに送るなり 誰かこの世において如何なる事か人のために善き者なるやを知ん 誰かその身の後に日の下にあらんところの事を人に告うる者あらんや

7 名は美膏に愈り 死る日は生るる日に愈る **2** 哀傷の家に入は 宴樂の家に入に愈る 其は一切の人の終かくのごとくなればなり 生る者またこれをその心

にとむるあらん 3 悲哀は嬉笑に愈る 其は面に憂色
を帯るなれば心も善にむかへばなり 4 賢き者の心
は哀傷の家にあり 愚なる者の心は喜樂の家にあり
5 賢き者の勸責を聽は愚なる者の歌詠を聽に愈るなり
6 愚なる者の笑は釜の下に焚る荊棘の聲のごとし
是また空なり 7 賢き人も虐待る事によりて狂するに
至るあり賄賂は人の心を壞なふ 8 事の終はその始
よりも善し 容忍心ある者は傲慢心ある者に勝る 9
汝氣を急くして怒るなかれ 怒は愚なる者の胸にや
どるなり 10 昔の今にまさるは何故ぞやと汝言な
かれ 汝の斯る問をなすは是智慧よりいづる者にあら
ざるなり 11 智慧の上に財産をかぬれば善し 然れば日
を見る者等に利益おほかるべし 12 智慧も身の護庇と
なり 銀子も身の護庇となる 然ど智慧はまたこれを
有る者に生命を保しむ 是知識の殊勝たるところなり
13 汝神の作爲を考ふべし 神の曲たまひし者は誰
かこれを直くすることを得ん 14 幸福ある日には樂
め 禍患ある日には考へよ 神はこの二者をあひ交錯て
降したまふ 是は人をしてその後の事を知ることな
からしめんためなり 15 我この空の世にありて各様の
事を見たり 義人の義をおこなひて亡ぶるあり 悪人の
惡をおこなひて長壽あり 16 汝義に過るなかれまた賢
に過るなかれ 汝なんぞ身を滅すべけんや 17 汝惡に
過るなかれまた愚なる勿れ 汝なんぞ時いたらざる
に死べけんや 18 汝此を執は善しまた彼にも手を放す
なかれ 神を畏む者はこの一切の者の中より逃れ出
るなり 19 智慧の智者を幫くことは邑の豪雄者十人
にまさるなり 20 正義して善をおこなひ罪を犯すこと
なき人は世にあることなし 21 人の言出す言詞には凡

て心をとむる勿れ 恐くは汝の僕の汝を詛ふを聞こともあらん 22 汝も屡人を詛ふことあるは汝の心に知ところなり 23 我智慧をもてこの一切の事を試み我は智者とならんと謂たりしが遠くおよぼざるなり 24 事物の理は遠くして甚だ深し 誰かこれを究むることを得ん 25 我は身をめぐらし心もちひて物を知り事を探り 智慧と道理を索めんとし 又惡の愚たると愚癡の狂妄たるを知んとせり 26 我了れり 婦人のその心羅と網のごとくその手縲綫のごとくなる者は是死よりも苦き者なり 神の悦びたまふ者は之を避ることを得ん 罪人は之に執らるべし 27 傳道者言ふ 視よ我その數を知んとして一々に算へてつひに此事を了る 28 我なほ尋ねて得ざる者は是なり 我千人の中には一箇の男子を得たれども その數の中には一箇の女子をも得ざるなり 29 我了れるところは唯是のみ 即ち神は人を正直者に造りたまひしに 人衆多の計略を案出せしなり

8 誰か智者に如ん 誰か事物の理を解ことを得ん 人の智慧はその人の面に光輝あらしむ 又その粗暴面も變改べし 2 我言ふ王の命を守るべし 既に神をさして誓ひしことあれば然るべきなり 3 早まりて王の前を去ることなかれ 惡き事につのること勿れ 其は彼は凡てその好むところを爲ばなり 4 王の言語には權力あり 然ば誰か之に汝何をなすやといふことを得ん 5 命令を守る者は禍患を受るに至らず 智者の心は時期と判斷を知なり 6 萬の事務には時あり 判斷あり 是をもて 人大なる禍患をうくるに至るあり 7 人は後にあらん ところの事を知ず また誰か如何なる事のあらんかを之に告る者あらん 8 靈魂を掌管て 靈魂を留めうる人

あらず 人はその死る日には權力あること無し 此戦争には釋放たる者あらず 又罪惡はこれを行ふ者を救ふことを得せざるなり 9 我この一切の事を見また日の下におこなはるる諸の事に心を用ひたり時としては此人彼人を治めてこれに害を蒙らしむることあり 10 我見しに惡人の葬られて安息にいるあり また善をおこなふ者の聖所を離れてその邑に忘らるるに至るあり是また空なり 11 惡き事の報速にきたらざるが故に世人心を専にして惡をおこなふ 12 罪を犯す者百次惡をなして猶長命あれども 我知る神を畏みてその前に畏怖をいやく者には幸福あるべし 13 但し惡人には幸福あらず またその生命も長からずして影のごとし 其は神の前に畏怖をいやくことなければなり 14 我日の下に空なる事のおこなはるるを見たり 即ち義人にして惡人の遭べき所に遭ふ者あり 惡人にして義人の遭べきところに遭ふ者あり 我謂り是もまた空なり 15 是に於て我喜樂を讚む 其は食飲して樂むよりも好き事は日の下にあらざればなり 人の勞して得る物の中是こそはその日の下にて神にたまはる生命の日の間その身に離れざる者なれ 16 茲に我心をつくして智慧を知らんとし世に爲ところの事を究めんとしたり 人は夜も晝もその目をとちて眠ることをせざるなり 17 我神の諸の作爲を見しが人は日の下におこなはるるところの事を究むるあたはざるなり 人これを究めんと勞するもこれを究むることを得ず 且又智者ありてこれを知ると思ふもこれを究むることあたはざるなり

9 我はこの一切の事に心を用ひてこの一切の事を明めんとせり 即ち義き者と賢き者およびかれらの爲と

ころは神の手にあるなるを明めんとせり 愛むや惡む
やは人これを知ることなし一切の事はその前にある
なり 2 諸の人に臨む所は皆同じ 義き者にも惡き者にも
善者にも 淨者にも穢れたる者にも 犠牲を獻ぐる者
にも犠牲を獻げぬ者にもその臨むところの事は同一
なり 善人も罪人に異ならず 誓をなす者も誓をなすこ
とを畏るる者に異ならず 3 諸の人に臨むところの事
の同一なるは是日の下におこなはるる事の中の惡き
者たり 抑人の心には惡き事充をり その生る間は心に
狂妄を懐くあり 後には死者の中に往くなり 4 凡活
る者の中に列る者は望あり 其は生る犬は死る獅子に愈
ればなり 5 生者はその死んことを知る 然ど死者は
何事をも知らずまた應報をうくることも重てあらず そ
の記憶らるる事も遂に忘れらるるに至る 6 またその
愛も惡も嫉も既に消うせて彼等は日の下におこなは
るる事に最早何時までも關係ことあらざるなり 7 汝
往て喜悅をもて汝のパンを食ひ樂き心をも汝の酒を
飲め 其は神久しく汝の行爲を嘉納たまへばなり 8 汝
の衣服を常に白からしめよ 汝の頭に膏を絶しむるな
かれ 9 日の下に汝が賜はるこの汝の空なる生命の日
の間汝その愛する妻とともに喜びて度生せ 汝の空な
る生命の日の間しかせよ 是は汝が世にありて受る分
汝が日の下に働ける勞苦によりて得る者なり 10 凡て
汝の手に堪ることは力をつくしてこれを爲せ 其は汝
の往んところの陰府には工作も計謀も知識も智慧も
あることなければなり (Sheol h7585) 11 我また身をめぐ
らして日の下を觀るに 迅速者走ることに勝にあらず
強者戰爭に勝にあらず 智慧者食物を獲にあらず 明哲
人財貨を得にあらず 知識人恩顧を得にあらず 凡て人

に臨むところの事は時ある者偶然なる者なり 12 人はまたその時を知らず 魚の禍の網にかかり鳥の鳥羅にかかるが如くに世の人もまた禍患の時の計らざるに臨むに及びてその禍患にかかるなり 13 我日の下には是事を觀て智慧となし大なる事となせり 14 すなはち茲に一箇の小さき邑ありて その中の人は鮮かりしが大なる王これに攻きたりてこれを圍みこれに向ひて大なる雲梯を建たり 15 時に邑の中に一人の智慧ある貧しき人ありてその智慧をもて邑を救へり 然るに誰ありてその貧しき人を記念もの無し 16 是において我言り智慧は勇力に愈る者なりと 但しかの貧しき人の智慧は藐視られその言詞は聽れざりしなり 17 靜に聽る智者の言は患者の君長たる者の號呼に愈る 18 智慧は軍の器に勝れり一人の惡人は許多の善事を壞ふなり

10 死し蠅は和香者の膏を臭くしこれを腐らす 少許の愚癡は智慧と尊榮よりも重し 2 智者の心はその右に患者の心はその左に行くなり 3 患者は出て途を行にあたりてその心たらず自己の愚なることを一切の人に告ぐ 4 君長たる者汝にむかひて腹たつとも汝の本處を離るる勿れ温順は大なる愆を生ぜしめざるなり 5 我日の下に一の患事あるを見たり是は君長たる者よりいつる過誤に似たり 6 すなはち愚なる者高き位に置かれ貴き者卑き處に坐る 7 我また僕たる者が馬に乗り王侯たる者が僕のごとく地の上に歩むを觀たり 8 坑を掘る者はみづから之におちいり石垣を毀つ者は蛇に咬れん 9 石を打くだく者はそれがために傷を受け木を割る者はそれがために危難に遭ん 10 鐵の鈍くなれるあらんにその刃を磨ざれば力を多く之にもちひざるを得ず 智慧は功を成に益あるなり 11 蛇

もし呪術を聴ずして咬ば呪術師は用なし 12 智者の口の言語は恩徳あり 愚者の唇はその身を呑ほろぼす 13 愚者の口の言は始は愚なり またその言は終は狂妄にして悪し 14 愚者は言詞を衆くす 人は後に有ん事を知ず 誰かその身の後にあらんところの事を述るを得ん 15 愚者の勞苦はその身を疲らす彼は邑にいることをも知ざるなり 16 その王は童子にしてその侯伯は朝に食をなす國よ 汝は禍なるかな 17 その王は貴族の子またその侯伯は酔樂むためならず力を補ふために適宜き時に食をなす國よ 汝は福なるかな 18 懶惰とてころよりして屋背は落ち 手を垂をとてころよりして家屋は漏る 19 食事をもて笑ひ喜ぶの物となし酒をもて快樂を取れり 銀子は何事にも應ずるなり 20 汝心の中にて王たる者を詛ふなかれ また寢室にても富者を詛なかれ 天空の鳥その聲を傳へ羽翼ある者その事を布べければなり

11 汝の糧食を水の上に投げよ 多くの日の後に汝ふたたび之を得ん 2 汝一箇の分を七また八にわけて其は汝如何なる災害の地にあらんかを知ざればなり 3 雲もし雨の充るあれば地に注ぐ また樹もし南か北に倒るるあればその樹は倒れたる處にあるべし 4 風を伺ふ者は種播ことを得ず 雲を望む者は刈ことを得ず 5 汝は風の道の如何なるを知ず また孕める婦の胎にて骨の如何に生長つを知ず 斯汝は萬事を爲たまふ神の作爲を知ことなし 6 汝朝に種を播け 夕にも手を歇るなかれ 其はその實る者は此なるか彼なるか又は二者ともに美なるや汝これを知ざればなり 7 夫光明は快き者なり 目に日を見るは樂し 8 人多くの年生ながらへてその中凡て幸福なるもなほ幽暗の日を憶ふべ

きなり 其はその數も多かるべければなり 凡て來らんと
ころの事は皆空なり 9 少者よ汝の少き時に快樂を
なせ 汝の少き日に汝の心を悦ばしめ汝の心の道に歩
み汝の目に見るところを爲せよ 但しその諸の行爲の
ために神汝を鞫きたまはんと知べし 10 然ば汝の心よ
り憂を去り 汝の身より惡き者を除け 少き時と壯なる
時はともに空なればなり

12 汝の少き日に汝の造主を記えよ 即ち惡き日の來
り年のよりて我は早何も樂むところ無しと言にいた
らざる先 2 また日や光明や月や星の暗くならざる先
雨の後に雲の返らざる中に汝然せよ 3 その日いたる
時は家を守る者は慄ひ 力ある人は屈み 磨碎者は寡き
によりて息み 窓より窺ふ者は目昏むなり 4 磨こなす
聲低くなれば衢の門は閉づ その人は鳥の聲に起あが
り 歌の女子はみな身を卑くす 5 かかる人々は高き者
を恐る畏しき者多く途にあり 巴旦杏は花咲くまた蝗
もその身に重くその嗜欲は廢る 人永遠の家にいたら
んとすれば哭婦衢にゆきかふ 6 然る時には銀の紐は
解け金の蓋は碎け吊瓶は泉の側に壞れ轆轤は井の傍
に破ん 7 而して塵は本の如くに土に販り 靈魂はこれ
を賦けし神にかへるべし 8 傳道者云ふ空の空なるか
な皆空なり 9 また傳道者は智慧あるが故に恒に知識
を民に教へたり 彼は心をもちひて尋ね究め許多の箴
言を作れり 10 傳道者は務めて佳美き言詞を求めたり
その書しるしたる者は正直して眞實の言語なり 11 智
者の言語は刺鞭のごとく 會衆の師の釘たる釘のごと
くにして 一人の牧者より出し者なり 12 わが子よ是
等より訓誡をうけよ 多く書をつくれば竟なし 多く學
べば體疲る 13 事の全體の販する所を聽べし 云く神

を畏れその誠命を守れ 是は諸の人の本分たり 14 神
は一切の行爲ならびに一切の隠れたる事を善悪とも
に審判たまふなり

雅歌

1 これはソロモンの雅歌なり **2** ねがはしきは彼その口の接吻をもて我にくちつけせんことなり 汝の愛は酒よりもまさりぬ **3** なんぢの香膏は其香味たへに馨しくなんぢの名はそそがれたる香膏のごとし 是をもて女子等なんぢを愛す **4** われを引たまへ われら汝にしたがひて走らん 王われをたづさへてその後宮にいられたまへり 我らは汝によりて歡び樂しみ酒よりも勝りてなんぢの愛をほめたたふ 彼らは直きころをもて汝を愛す **5** エルサレムの女子等よ われは黒けれどもなほ美はし ケダルの天幕のごとく またソロモンの帷帳に似たり **6** われ色くろきが故に日のわれを焼たるが故に我を視るなかれ わが母の子等われを怒りて我に葡萄園をまもらしめたり 我はおのが葡萄園をまもらざりき **7** わが心の愛する者よなんぢは何處にてなんぢの群を牧ひ 午時いづこにて之を息ますや 請ふわれに告よ なんぞ面を覆へる者の如くしてなんぢが伴侶の群のかたはらにをるべけんや **8** 婦女の最も美はしき者よ なんぢ若しらずば群の足跡にしたがひて出ゆき 牧羊者の天幕のかたはらにて汝の羔山羊を牧へ **9** わが佳耦よ 我なんぢをパロの車の馬に譬ふ **10** なんぢの臉には鏈索を垂れ なんぢの頭には珠玉を陳ねて至も美はし **11** われら白銀の星をつけたる黄金の鏈索をなんぢのために造らん **12** 王其席につきたまふ時 わがナルダ其香味をいだせり **13** わが愛する者は我にとりてはわが胸のあひだにおきたる没薬の袋のごとし **14** わが愛する者はわれにとりてはエンゲデの園にあるコペルの英華のごとし **15** ああ美はしきかな わが佳耦よ ああうるはしきかな

なんぢの目は鴿のごとし 16 わが愛する者よ ああなんぢは美はしくまた楽しきかな われらの牀は青緑なり
17 われらの家の棟梁は香柏 その垂木は松の木なり
2 われはシャロンの野花谷の百合花なり 2 女子等の中にわが佳耦のあるは荆棘の中に百合花のあるがごとし 3 わが愛する者の男子等の中にあるは林の樹の中に林檎のあるがごとし 我ふかく喜びてその蔭にすわれり その實はわが口に甘かりき 4 彼われをたづさへて酒宴の室にいたたまへり その我上にひるがへしたる旗は愛なりき 5 請ふ なんぢら乾葡萄をもてわが力をおぎなへ 林檎をもて我に力をつけよ 我は愛によりて疾わづらふ 6 彼が左の手はわが頭の下にあり その右の手をもて我を抱く 7 エルサレムの女子等よ我なんぢらに獐と野の鹿とをさし誓ひて請ふ 愛のおのづから起るときまでは殊更に喚起し且つ醒すなかれ 8 わが愛する者の聲きこゆ 視よ 山をとび 岡を躍りこえて來る 9 わが愛する者は獐のごとくまた小鹿のごとし 視よ彼われらの壁のうしろに立ち 窓より覗き格子より窺ふ 10 わが愛する者われに語りて言ふ わが佳耦よ わが美はしき者よ 起ていできたれ 11 視よ 冬すでに過ぎ 雨もやみてはやさりぬ 12 もろもろの花は地にあらはれ 鳥のさへづる時すでに至り 班鳩の聲われらの地にきこゆ 13 無花果樹はその青き果を赤らめ 葡萄の樹は花さきてその馨はしき香氣をはなつ わが佳耦よ わが美しき者よ 起て出きたれ 14 磐間にをり 斷崖の匿處にをるわが鴿よ われに汝の面を見させよ なんぢの聲をきかしめよ なんぢの聲は愛らしく なんぢの面はうるはし 15 われらのために狐をとらへよ 彼の葡萄園をそこなふ小狐をとらへよ 我等の葡萄

園は花盛なればなり 16 わが愛する者は我につき我は
かれにつく 彼は百合花の中にてその群を牧ふ 17 わ
が愛する者よ 日の涼しくなるまで 影の消るまで身を
かへして出ゆき 荒き山々の上において 獐のごとく 小
鹿のごとくせよ

3 夜われ床にありて我心の愛する者をたづねしが尋
ねたれども得ず 2 我おもへらく今おきて邑をまはり
ありき わが心の愛する者を街衢あるひは大路にてた
づねんと 乃ちこれを尋ねたれども得ざりき 3 邑をま
はりありく夜巡者らわれに遇ければ 汝らわが心の愛
する者を見しやと問ひ 4 これに別れて過ゆき間もな
くわが心の愛する者の遇たれば 之をひきとめて放さ
ず 遂にわが母の家にともなひゆき 我を産し者の室に
いりぬ 5 エルサレムの女子等よ 我なんぢらに獐と野
の鹿とをさし誓ひて請ふ 愛のおのづから起る時まで
殊更に喚起し且つ醒すなかれ 6 この没薬乳香など商
人のもろもろの薫物をもて身をかをらせ 煙の柱のご
とくして荒野より來る者は誰ぞや 7 視よ こはソロモ
ンの乗輿にして 勇士六十人その周圍にあり イスラエ
ルの勇士なり 8 みな刀劍を執り 戦闘を善す 各人腰に
刀劍を帶て夜の警誡に備ふ 9 ソロモン王レバノンの
木をもて己のために輿をつくれり 10 その柱は白銀
その欄杆は黄金 その座は紫色にて作り その内部には
イスラエルの女子等が愛をもて繡たる物を張つく 11
シオンの女子等よ 出きたりてソロモン王を見よ かれ
は婚姻の日 心の喜べる日にその母の己にかうぶらし
し冠冕を戴けり

4 ああなんぢ美はしきかな わが佳耦よ ああなんぢう
るはしきかな なんぢの目は面帕のうしろにありて

鶺鴒のごとし なんぢの髪はギレアデ山の腰に臥たる
山羊の群に似たり 2 なんぢの齒は毛を剪たる牝羊
の浴場より出たるがごとし おのおの雙子をうみて
ひとつも子なきものはなし 3 なんぢの唇は紅色の
線維のごとく その口は美はし なんぢの頬は面帕の
うしろにありて石榴の半片に似たり 4 なんぢの頸
項は武器庫にとて建たるダビデの戍樓のごとし そ
の上には一千の盾を懸け列ぬ みな勇士の大楯なり
5 なんぢの兩乳房は牝獐の雙子なる二箇の小鹿が百
合花の中に草はみをるに似たり 6 日の涼しくなる
まで 影の消るまでわれ没薬の山また乳香の岡に行
べし 7 わが佳耦よ なんぢはことごとくうるはしく
してすこしのきずもなし 8 新婦よ レバノンより我
にともなへレバノンより我とともに來れ アマナの
巔セニルまたヘルモンの巔より望み 獅子の穴また
豹の山より望め 9 わが妹わが新婦よ なんぢはわが
心を奪へり なんぢは只一目をもてまた頸玉の一を
もてわが心をうばへり 10 わが妹わが新婦よ なんぢ
の愛は楽しきかな なんぢの愛は酒よりも遙にすぐ
れ なんぢの香膏の馨は一切の香物よりもすぐれた
り 11 新婦よ なんぢの唇は蜜を滴らす なんぢの舌
の底には蜜と乳とあり なんぢの衣裳の香氣はレバ
ノンの香氣のごとし 12 わが妹わがはなよめよ な
んぢは閉たる園 閉たる水源 封じたる泉水のごとし
13 なんぢの園の中に生いづる者は石榴及びもろも
ろの佳果またコペル及びナルダの草 14 ナルダ 番紅花
菖蒲 桂枝さまさまの乳香の木および没薬 蘆薈一切の
貴とき香物なり 15 なんぢは園の泉水 活る水の井レバ
ノンよりいづる流水なり 16 北風よ起れ 南風よ來れ 我

園を吹てその香氣を揚よ ねがはくはわが愛する者の
おのが園にいりきたりてその佳き果を食はんことを

5 わが妹わがはなよめよ 我はわが園にいり わが没
薬と薫物とを採り わが蜜房と蜜とを食ひ わが酒と
わが乳とを飲り わが伴侶等よ 請ふ食へ わが愛す
る人々よ 請ふ飲あけよ **2** われは睡りたれどもわが
心は醒るたり時にわが愛する者の聲あり 即はち門
をたたきていふ わが妹わが佳耦 わが鴿 わが完き
ものよ われのために開け わが首には露満ち わが
髪の毛には夜の点滴みてりと **3** われすでにわが衣
服を脱り いかでまた着るべき 已にわが足をあらへ
り いかでまた汚すべき **4** わが愛する者戸の穴より
手をさしいれしかば わが心かれのためにうごきた
り **5** やがて起いでてわが愛する者の爲に開かんとせ
しとき 没薬わが手より没薬の汁わが指よりながれて
關木の把柄のうへにしたたれり **6** 我わが愛する者の
爲に開きしに わが愛する者は已に退き去りぬ さきに
その物いひし時はわが心さわぎたり 我かれをたづね
たれども遇ず呼たれども答應なかりき **7** 邑をまはり
ありく夜巡者等われを見てうちて傷つけ 石垣をまも
る者らはわが上衣をはぎとれり **8** エルサレムの女子
等よ 我なんぢらにかたく請ふ もしわが愛する者にあ
はば汝ら何とこれにつぐべきや 我愛によりて疾わづ
らふと告よ **9** なんぢの愛する者は別の人の愛する者
に何の勝れるところありや 婦女の中のいと美はし
き者よ なんぢが愛する者は別の人の愛する者に何
の勝れるところありて斯われらに固く請ふや **10** わが
愛する者は白くかつ紅にして萬人の上に越ゆ **11** その
頭は純金のごとく その髪はふさやかにして黒きこ

と鳥のごとし 12 その目は谷川の水のほとりにをる鶺鴒
のごとく乳にて洗はれて美はしく嵌れり 13 その頬は
馨しき花の床のごとく 香草の壇のごとし その唇は百
合花のごとくにして没薬の汁をしたたらす 14 その手
はきばみたる碧玉を嵌し黄金の釦のごとく 其軀は
青玉をもておほひたる象牙の彫刻物のごとし 15 その
脛は蠟石の柱を黄金の臺にてたてたるがごとく そ
の相貌はレバノンのごとく その優れたるさまは香
柏のごとし 16 その口ははなはだ甘く誠に彼には一つ
だにうつくしからぬ所なし エルサレムの女子等よ こ
れぞわが愛する者 これぞわが伴侶なる

6 婦女のいと美はしきものよ 汝の愛する者は何處へ
ゆきしや なんぢの愛する者はいつこへおもむきし
や われら汝とともにたづねん 2 わが愛するものは己
の園にくだり 香しき花の床にゆき 園の中にて群を牧
ひ また百合花を採る 3 我はわが愛する者につき わが
愛する者はわれにつく 彼は百合花の中にてその群
を牧ふ 4 わが佳耦よ なんぢは美はしきことテルザの
ごとく 華やかなることエルサレムのごとく 畏るべき
こと旗をあげたる軍旅のごとし 5 なんぢの目は我を
おそれしむ 請ふ我よりはなれしめよ なんぢの髪はギ
レアデ山の腰に臥たる山羊の群に似たり 6 なんぢの
齒は毛を剪たる牝羊の浴場より出たるがごとし お
のおの雙子をうみてひとつも子なきものはなし 7 な
んぢの頬は面帕の後にありて石榴の半片に似たり 8
后六十人 妃嬪八十人 數しられぬ處女あり 9 わが鶺鴒
が完き者はただ一人のみ 彼はその母の獨子にして
産たる者の喜ぶところの者なり 女子等は彼を見て
幸福なる者ととなへ 后等妃嬪等は彼を見て讃む 10

この晨光のごとくに見えわたり 月のごとくに美は
しく 日のごとくに輝やき 畏るべきこと旗をあげたる
軍旅のごとき者は誰ぞや **11** われ胡桃の園にくだりゆ
き 谷の青き草木を見 葡萄や芽しし石榴の花や咲し
と見回しをりしに **12** 意はず知ず我が心われをして
わが貴とき民の車の中間にあらしむ **13** 歸れ歸れシ
ユラミの婦よ 歸れ歸れ われら汝を觀んことをねが
ふ なんぢら何とてマハナイムの跳舞を觀るごとく
にシユラミの婦を觀んとねがふや

7 君の女よ なんぢの足は鞋の中にありて如何に美は
しきかな 汝の腿はまろらかにして玉のごとく 巧匠の
手にて作りたるがごとし **2** なんぢの臍は美酒の缺る
ことあらざる圓き杯盤のごとく なんぢの腹は積かさ
ねたる麥のまはりを百合花もてかこめるが如し **3** な
んぢの兩乳房は牝鹿の雙子なる二の小鹿のごとし **4**
なんぢの頸は象牙の戍樓の如く 汝の目はヘシボンに
てパテラビムの門のほとりにある池のごとく なんぢ
の鼻はダマスコに對へるレバソンの戍樓のごとし **5**
なんぢの頭はカルメルのごとく なんぢの頭の髪は紫
花のごとし 王その垂たる髪につながれたり **6** ああ愛
よ もろもろの快樂の中にありてなんぢは如何に美は
しく如何に悦ばしき者なるかな **7** なんぢの身の長は
棕櫚の樹に等しく なんぢの乳房は葡萄のふさのご
とし **8** われ謂ふこの棕櫚の樹にのぼり その枝に執つ
かんと なんぢの乳房は葡萄のふさのごとく なんぢの
鼻の氣息は林檎のごとく匂はん **9** なんぢの口は美酒
のごとし わが愛する者のために滑かに流れくだり 睡
れる者の口をして動かしむ **10** われはわが愛する者に
つき 彼はわれを戀したふ **11** わが愛する者よ われら

田舎にくだり 村里に宿らん 12 われら夙におきて葡萄や芽しし蒼やいでし石榴の花やさきし いざ葡萄園にゆきて見ん かしこにて我わが愛をなんぢにあたへん 13 戀茄かぐはしき香氣を發ち もろもろの佳き果物古き新らしき共にわが戸の上により わが愛する者よ我これをなんぢのためにたくはへたり

8 ねがはくは汝わが母の乳をのみしわが兄弟のごとくならんことを われ戸外にてなんぢに遇ふとき接吻せん 然するとも誰ありてわれをいやしむるものあらじ 2 われ汝をひきてわが母の家にいたり 汝より教晦をうけん 我かぐはしき酒 石榴のあまき汁をなんぢに飲しめん 3 かれが左の手はわが頭の下にあり その右の手をもて我を抱く 4 エルサレムの女子等よ 我なんぢ等に誓ひて請ふ 愛のおのづから起る時まで殊更に喚起し且つ醒すなかれ 5 おのれの愛する者に倚かかりて荒野より上りきたる者は誰ぞや 林檎の樹の下にてわれなんぢを喚きませり なんぢの母かしこにて汝のために劬勞をなし なんぢを産し者かしこにて劬勞をなしぬ 6 われを汝の心におきて印のごとくし なんぢの腕におきて印のごとくせよ 其の愛は強くして死のごとく 嫉妬は堅くして陰府にひとし その焔は火のほのほのごとし いともはげしき焔なり (Sheol h7585) 7 愛は大水も消ことあたはず 洪水も溺らすことあたはず 人その家の一切の物をことごとく與へて愛に換んとするとも尚いやしめらるべし 8 われら小さき妹子あり 未だ乳房あらず われらの妹子の間聘をうくる日には之に何をなしてあたへんや 9 かれもし石垣ならんには我ら白銀の城をその上にたてん 彼もし戸ならんには香柏の板をもてこれを圍まん 10 われは石垣わ

が乳房は成樓のごとし 是をもてわれは情をかうむれる者のごとく彼の目の前にありき **11** バアルハモンにソロモンの葡萄園をもてり これをその守る者等にあづけおき 彼等をしておのおの銀一千をその果のために納めしむ **12** われ自らの有なる葡萄園われの手にあり ソロモンなんぢは一千を獲よ その果をまもる者も二百を獲べし **13** なんぢ園の中に住む者よ 伴侶等なんぢの聲に耳をかたむく 請ふ我にこれを聽しめよ **14** わが愛する者よ 請ふ急ぎはしれ 香はしき山々の上において 獐のごとく 小鹿のごとくあれ

イザヤ書

1 アモツの子イザヤがユダの王ウジヤ、ヨタム、アハズ、ヒゼキヤのときに示されたるユダとエルサレムとに係る異象 **2** 天よきけ地よ耳をかたぶけよ エホバの語りたまふ言あり 曰く われ子をやしなひ育てしにかれらは我にそむけり **3** 牛はその主をしり驢馬はそのあるじの厩をしる 然どイスラエルは識ず わが民はさとらず **4** ああ罪ををさせる國人よこしまを負ふたみ 悪をなす者のすゑ 壊りそこなふ種族 かれらはエホバをすてイスラエルの聖者をあなどり之をうとみて退きたり **5** なんぢら何ぞかさねがさね悖りて猶撻れんとするか その頭はやまざる所なくその心はつかれはてたり **6** 足のうらより頭にいたるまで全きところなくただ創痕と打傷と腫物とのみなり 而してこれを合すものなく包むものなく亦あぶらにて軟らぐる者もなし **7** なんぢらの國はあれすたれなんぢらの諸邑は火にてやかれなんぢらの田畑はその前にて外人にのまれ既にあだし人にくつがへされて荒廢れたり **8** シオンの女はぶだうぞのの廬のごとく瓜田の假舎のごとくまた圍をうけたる城のごとく唯ひとり遺れり **9** 萬軍のエホバわれらに少しの遺をとどめ給ふことなくば我儕はソドムのごとく又ゴモラに同じかりしならん **10** なんぢらソドムの有司よエホバの言をきけ なんぢらゴモラの民よ われらの神の律法に耳をかたぶけよ **11** エホバ言たまはくなんぢらが獻ぐるおほくの犠牲はわれに何の益あらんや 我はをひつじの燔祭とこえたるけもの膏とにあけり われは牡牛あるひは小羊あるひは牡山羊の血をよろこばず **12** なんぢらは我に見えんとてきたる このことを誰がなんぢ

らに要めしや 徒らにわが庭をふむのみなり **13** むな
しき祭物をふたたび携ふることなかれ 燻物はわがに
くむところ 新月および安息日また會衆をよびあつむ
ることも我がにくむところなり なんぢらは聖會に惡
を兼ね われ容すにたへず **14** わが心はなんぢらの新
月と節會とをきらふ 是わが重荷なり われ負にうみた
り **15** 我なんぢらが手をのぶるとき目をおほひ 汝等
がおほくの祈禱をなすときも聞ことをせじ なんぢら
の手には血みちたり **16** なんぢら己をあらひ己をきよ
くしわが眼前よりその惡業をさり 惡をおこなふこと
を止め **17** 善をおこなふことをならひ 公平をもとめ
虐げらるる者をたすけ 孤子に公平をおこなひ 寡婦の
訟をあげつらへ **18** エホバいひたまはく 率われらと
もに論らはん なんぢらの罪は緋のごとくなるも雪の
ごとく白くなり紅のごとく赤くとも羊の毛のごとく
にならん **19** 若なんぢら肯ひしたがはば地の美産をく
らふことを得べし **20** もし汝等こぼみそむかば劍にの
まるべし 此はエホバその御口よりかたりたまへるな
り **21** 忠信なりし邑いかにして妓女とはなれる 昔し
は公平にてみち正義その中にやどりしに今は人をこ
ろす者ばかりとなりぬ **22** なんぢの白銀は滓となり
なんぢの葡萄酒は水をまじへ **23** なんぢの長輩はそむ
きて盗人の伴侶となり おのおの賄賂をよろこび 贓財
をおひもとめ 孤子に公平をおこなはず 寡婦の訟はか
れらの前にいつること能はず **24** このゆゑに主萬軍の
エホバ、イスラエルの全能者のたまはく 唉われ敵に
むかひて念をはらし 仇にむかひて報をすべし **25** 我ま
た手をなんぢの上にそへ なんぢの滓をことごとく淨
くし なんぢの鉛をすべて取去り **26** なんぢの審士を

舊のごとく なんぢの議官を始のごとくに復すべし 然るのちなんぢは正義の邑忠信の邑となへられん 27 シオンは公平をもてあがなはれ 歸來るものも正義をもて贖はるべし 28 されど愆ををかすものと罪人とはともに敗れ エホバをすつる者もまた亡びうせん 29 なんぢらはその喜びたる櫃樹によりて恥をいだき そのえらびたる園によりて慙赧むべし 30 なんぢらは葉のかるる櫃樹のごとく水なき園のごとくならん 31 權勢あるものは麻のごとく その工は火花のごとく 二つのもの一同もえてこれを撲滅すものなし

2 アモツの子イザヤが示されたるユダとエルサレムとにかかる言 2 すゑの日にエホバの家の山はもろもろの山のいただきに堅立ち もろもろの嶺よりもたかく擧り すべての國は流のごとく之につかん 3 おほくの民ゆきて相語いはん 率われらエホバの山にのぼり ヤコブの神の家にゆかん 神われらにその道ををしへ 給はん われらその路をあゆむべしと そは律法はシオンよりいでエホバの言はエルサレムより出べければなり 4 エホバはもろもろの國のあひだを鞫き おほくの民をせめたまはん 斯てかれらはその劔をうちかへて鋤となし その鎗をうちかへて鎌となし 國は國にむかひて劔をあげず 戦闘のことを再びまなばざるべし 5 ヤコブの家よきたれ 我儕エホバの光にあゆまん 6 主よなんぢはその民ヤコブの家をすてたまへり 此はかれらのなかに東のかたの風俗みち 皆ペリシテ人のごとく陰陽師となり 異邦人のともがらと手をうちて盟をたてしが故なり 7 かれらの國には黄金白銀みちて財寶の數かぎりなし かれらの國には馬みちて戦車のかず限りなし 8 かれらの國には偶像みち 皆おのが

手の工その指のつくれる者ををがめり 9 賤しきものは屈められ尊きものは卑せらる かれらを容したまふなかれ 10 なんぢ岩間にいり また土にかくれて エホバの畏るべき容貌とその稜威の光輝とをさくべし 11 この日には目をあげて高ぶるもの卑せられ 驕る人ががめられ 唯エホバのみ高くあげられ給はん 12 そは萬軍のエホバの一の日あり すべて高ぶる者おごる者みづからを崇るものの上にのぞみて之をひくくし 13 またレバノンのたかく聳たるすべての香柏バシヤンのすべての櫃樹 14 もろもろの高山もろもろの聳えたる嶺 15 すべてのたかき櫓すべての堅固なる石垣 16 およびタルシシのすべての舟すべての慕ふべき美はしきものに臨むべし 17 この日には高ぶる者はかがめられ 驕る人はひくくせられ 唯エホバのみ高くあげられ給はん 18 かくて偶像はことごとく亡びうすべし 19 エホバたちて地を震動したまふとき人々そのおそるべき容貌とその稜威の光輝とをさけて巖の洞と地の穴とにいらん 20 その日人々おのが拜せんとて造れる白銀のぐうざうと黄金のぐうざうとを鼯鼠のあな蝙蝠の穴になげすて 21 岩々の隙けはしき山峽にいり エホバの起て地をふるひうごかしたまふその畏るべき容貌と稜威のかがやきとを避ん 22 なんぢら鼻より息のいでいりする人に倚ることをやめよ斯るものは何ぞかぞふるに足らん

3 みよ主ばんぐんのエホバ、エルサレムおよびユダの頼むところ倚ところなる凡てその頼むところの糧すべてその頼むところの水 2 勇士 戦士 審士 預言者 卜筮者 長老 3 五十人の首 貴顯者 議官 藝に長たる者 および言語たくみなるものを除去りたまはん 4 われ

童子をもてかれらの君とし嬰兒にかれらを治めしめん 5 民たがひに相虐げ 人おのおのその隣をしへたげ 童子は老たる者にむかひて高ぶり 賤しきものは貴きものに對ひてたかぶらん 6 そのとき人ちちの家にて兄弟にすがりていはん 汝なほ衣あり われらの有司となりてこの荒敗をその手にてをさめよと 7 その日かれ聲をあげていはん 我なんぢらを愈すものとなるを得じ わが家に糧なくまた衣なし 我をたてて民の有司とすることなかれと 8 是かれらの舌と行爲とはみなエホバにそむきてその榮光の目ををかししが故に エルサレムは敗れユダは仆れたればなり 9 かれらの面色はその悪きことの證をなし ソドムのごとくその罪をあらはして隠すことをせざるなり かれらの靈魂はわざはひなるかな自らその惡の報をとれり 10 なんぢら義人にいへ かならず福祉をうけんと 彼等はそのおこなひの實をくらふべければなり 11 悪者はわざはひなる哉かならず災禍をうけん その手の報きたるべければなり 12 わが民はをさなごに虐げられ婦女にをさめらる 唉わが民よなんぢを導くものは反てなんぢを迷はせ汝のゆくべき途を絶つ 13 エホバ立いでて公理をのべ起てもろもろの民を審判し給ふ 14 エホバ來りておのが民の長老ともろもろの君とをさばきて言給はん なんぢらは葡萄園をくひあらせり 貧きものより掠めとりたる物はなんぢらの家にあり 15 いかなれば汝等わが民をふみにじり貧きものの面をすりくだくやと これ主萬軍のエホバのみことばなり 16 エホバまた言給はくシオンの女輩はおごり 項をのぼしてあるき 眼にて媚をおくり 徐々としてあゆみゆくその足にはりんりんと音あり 17 このゆゑに主シオンのむす

めらの頭をかぶろにしエホバ彼らの醜所をあらはし
給はん 18 その日主かれらが足にかざれる美はしき釧
をとり 瓔珞 半月飾 19 耳環 手釧 面帕 20 華冠 脛飾 紳
香盒 符囊 21 指環 鼻環 22 公服 上衣 外帔 金囊 23 鏡 細
布の衣 首帕 被衣などを取除きたまはん 24 而して馨
はしき香はかはりて臭穢となり 紳はかはりて繩とな
り 美はしく編たる髪はかぶろとなり 華かなる衣はか
はりて麤布のころもとなり 麗顔はかはりて烙鐵せら
れたる痕とならん 25 なんぢの男はつるぎにたふれ
なんぢの勇士はたたかひに仆るべし 26 その門はなげ
きかなしみ シオンは荒廢れて地にすわらん

4 その日七人のをんな一人の男にすがりていはん 我
儕おのれの糧をくらひ己のころもを着るべし ただ我
儕になんぢの名をとふることを許してわれらの恥
をとりのぞけと 2 その日エホバの枝はさかえて輝か
ん 地よりなりいづるものの實はすぐれ並うるはしく
して逃れのこれるイスラエルの益となるべし 3 而し
てシオンに遣れるもの エルサレムにとどまれる者 す
べて此等のエルサレムに存ふる者のなかに録された
るものは聖ととなへられん 4 そは主さばきするみた
まと焼つくす靈とをもてシオンのむすめらの汚をあ
らひ エルサレムの血をその中よりのぞきたまふ期き
たるべければなり 5 爰にエホバはシオンの山のすべ
ての住所と もろもろの聚會とのうへに 晝は雲と煙と
をつくり夜はほのほの光をつくり給はん あまねく榮
のうへに覆庇あるべし 6 また一つの假廬ありて 晝は
あつさをふせぐ陰となり 暴風と雨とをさけてかくる
所となるべし

5 われわが愛する者のために歌をつくり我があいするものの葡萄園のことをうたはん わが愛するものは土肥たる山にひとつの葡萄園をもてり **2** 彼その園をすきかへし石をのぞきて嘉ぶだうをうゑ そのなかに望樓をたて酒榨をほりて嘉葡萄のむすぶを望みまてり 然るに結びたるものは野葡萄なりき **3** さればエルサレムに住るものとユダの人よ 請なんぢら我とわがぶだうぞとの間をさばけ **4** わが葡萄園にわれの作たるほか何のなすべき事ありや 我はよきぶだうの結ぶをのぞみまちしに 何なれば野葡萄をむすびしや **5** 然ばわれわが葡萄園になさんとすることを汝等につげん 我はぶだうぞの籬芭をとりさりてその食あらさるるにまかせ その垣をこぼちてその踐あらさるるにまかせん **6** 我これを荒してふたび剪ことをせず 耕すことをせず棘と荊とをはえいでしめん また雲に命せてそのうへに雨ふることなからしめん **7** それ萬軍のエホバの葡萄園はイスラエルの家なり その喜びたまふところの植物はユダの人なり これに公平をのぞみたまひしに反りて血をながし これに正義をのぞみ給ひしにかへりて號呼あり **8** 禍ひなるかな彼らは家に家をたてつらね 田圃に田圃をましくはへて 餘地をあまさず 己ひとり國のうちに住んとす **9** 萬軍のエホバ我耳につげて宣はく 實におほくの家はあれすたれ大にして美しき家は人のすむことなきにいたらん **10** 十段のぶだうぞの僅かに一バテをみのり一ホメルの穀種はわづかに一エパを實るべし **11** 禍ひなるかなかれらは朝つとにおきて濃酒をおひもとめ 夜のふくまで止まりてのみ 酒にその身をやかるるなり **12** かれらの酒宴には琴あり 瑟あり 鼓あり 笛あり 葡萄

酒あり されどエホバの作爲をかへりみずその手のな
したまふところに目をとめず 13 斯るが故にわが民は
無知にして虜にせられ その貴顯者はうゑ そのもろも
ろの民は渴によりて疲れはてん 14 また陰府はその欲
望をひろくし その度られざる口をはる かれらの榮華
かれらの群衆 かれらの饒富 および喜びたのしめる人
みなその中におつべし (Sheol h7585) 15 賤しき者はかが
められ 貴きものは卑くせられ 目をあげて高ぶる者は
ひくくせらるべし 16 されど萬軍のエホバは公平によ
りてあがめられ 聖なる神は正義によりて聖とせられ
給ふべし 17 而して小羊おのが牧場にあるごとくに草
をはみ 豊かなるものの田はあれて旅客にくらはれん
18 禍ひなるかな彼等はいつはりを繩となして悪をひ
き 索にて車をひくごとく罪をひけり 19 かれらは云
その成んとする事をいそぎて速かになせ 我儕これ
を見ん イスラエルの聖者のさだむることを逼來らせよ
われらこれを知んと 20 禍ひなるかな かれらは悪を
よびて善とし善をよびて悪とし 暗をもて光とし光を
もて暗とし 苦をもて甘とし甘をもて苦とする者なり
21 わざはひなる哉 かれらは己をみて智しとし自らか
へりみて聰とする者なり 22 禍ひなるかな かれらは
葡萄酒をのむに丈夫なり 濃酒を和するに勇者なり 23
かれらは賄賂によりて悪きものを義となし 義人より
その義をうばふ 24 此によりて火舌の刈株をくらふが
ごとく また枯草の火焰のなかにおつるがごとく その
根はくちはてその花は塵のごとくに飛さらん かれら
は萬軍のエホバの律法をすててイスラエルの聖者の
ことばを蔑したればなり 25 この故にエホバその民に
むかひて怒をはなち 手をのべてかれらを撃たまへり

山はふるひうごきかれらの屍は衢のなかにて糞土のごとくなれり 然はあれどエホバの怒やまずして尚その手を伸したまふ 26 かくて旗をたててとほき國々をまねき彼等をよびて地の極より來らしめたまはん 視よかれら趨りて速かにきたるべし 27 その中には疲れたふるるものなく眠りまたは寝るものなし その腰の帯はとけずその履の紐はきれず 28 その矢は鋭その弓はことごとく張り その馬のひづめは石のごとくその車の輪は疾風のごとしと稱へられん 29 その嘯ること獅のごとく また小獅のごとく嘯うなりつつ獲物をつかみて掠去れども之をすくふ者なし 30 その日かれらが嘯響めくこと海のなりどよめくがごとし もし地をのぞまば暗と難とありて光は黒雲のなかにくらくなりたるを見ん

6 ウジャ王のしにたる年われ高くあがれる御座にエホバの坐し給ふを見しにその衣裾は殿にみちたり 2 セラピムその上にたつ おのおの六の翼あり その二をもて面をおほひ その二をもて足をおほひ 其二をもて飛翔り 3 たがひに呼びひけるは聖なるかな聖なるかな聖なるかな萬軍のエホバ その榮光は全地にみつ 4 斯よばはる者の聲によりて闕のもとみ揺うごき家のうちに煙みちたり 5 このとき我いへり 禍ひなるかな我ほろびなん 我はけがれたる唇の民のなかにすみて穢たるくちびるの者なるに わが眼ばんぐんのエホバにまします王を見まつればなりと 6 爰にかのセラピムのひとり鉗をもて壇の上よりとりたる熱炭を手にとつぎへて我にとびきたり 7 わが口に觸ていひけるは 視よこの火なんぢの唇にふれたれば既になんぢの惡はのぞかれ なんぢの罪はきよめられたりと 8 我ま

たエホバの聲をきく曰く われ誰をつかはさん誰かわれらのために往べきかと そのとき我いひけるはわれ此にあり我をつかはしたまへ 9 エホバいひたまはく 往てこの民にかくのごとく告よ なんぢら聞てきけよ 然どさとらざるべし 見てみよ然どしらざるべしと 10 なんぢこの民のこころを鈍くしその耳をものうくしその眼をおほへ 恐らくは彼らその眼にて見その耳にてきき その心にてさとり翻へりて醫さるることあらん 11 ここに我いひけるは 主よいつまで如此あらんか 主こたへたまはく 邑はあれすたれて住むものなく 家に人なく 邦ことごとく荒土となり 12 人々エホバに遠方までうつされ 廢りたるところ國中におほくならん時まで 如此あるべし 13 そのなかに十分の一のこる者あれども此もまた呑つくされん されど聖裔のこりてこの地の根となるべし彼のテレピントまたは樞樹がきらるることありともその根ののこるがごとし

7 ウジャの子ヨタムその子ユダヤ王アハズの時 アラムの王レヂンとレマリヤの子イスラエル王ペカと上りきたりてエルサレムを攻しがつひに勝ことあたはざりき 2 ここにアラムとエフライムと結合なりたりとダビデの家につぐる者ありければ 王のこころと民の心とは林木の風にうごかさるるが如くに動けり 3 その時エホバ、イザヤに言たまひけるは今なんぢと汝の子シャルヤシユブと共にいでて布をさらす野の大路のかたはらなる上池の樋口にゆきてアハズを迎へ 4 これに告べし なんぢ 謹みて靜かなれ アラムのレヂン及びレマリヤの子はげしく怒るとも二の燼餘りたる煙れる片柴のごとし 懼るるなかれ心をよわくするなかれ 5 アラム、エフライム及びレマリヤの子

なんぢにむかひて悪き謀ごとを企てていふ 6 われら
ユダに攻上りて之をおびやかし我儕のためにこれを
破りとり タビエルの子をその中にたてて王とせんと
7 されど主エホバいひたまはく この事おこなはれず
また成ことなし 8 アラムの首はダマスコ、ダマスコ
の首はレヂンなり エフライムは六十五年のうちに敗
れて國をなさざるべし 9 またエフライムの首はサマ
リヤ、サマリヤの首はレマリヤの子なり 若なんぢら
信ぜずばかならず立ことを得じと 10 エホバ再びアハ
ズに告ていひたまはく 11 なんぢの神エホバに一の豫
兆をもとめよ 或はふかき處あるひは上のたかき處に
もとめよ (Sheol h7585) 12 アハズいひけるは我これを求
めじ 我はエホバを試むることをせざるべし 13 イザ
ヤいひけるは ダビデのいへよ請なんぢら聞 なんぢら
人をわづらはしこれを小事として亦わが神をも煩は
さんとするか 14 この故に主みづから一の豫兆をなん
ぢらに賜ふべし 視よをとめ孕みて子をうまん その名
をインマヌエルと稱ふべし 15 かれ悪をすて善をえら
ぶことを知ころほひにいたりて乳酥と蜂蜜とをくら
はん 16 そはこの子いまだ悪をすて善をえらぶことを
知ざるさきになんぢが忌きらふ兩の王の地はすてら
るべし 17 エホバはエフライムがユダを離れし時より
このかた臨みしことなき日を汝となんぢの民となん
ぢの父の家とにのぞませ給はん是アツスリヤの王な
り 18 其日エホバ、エジプトなる河々のほとりの蠅を
まねきアツスリヤの地の蜂をよびたまはん 19 皆きた
りて荒たるたに岩穴すべての荆棘すべての牧場のう
へに止まるべし 20 その日主はかはの外ふより雇へる
アツスリヤの王を剃刀として首と足の毛とを剃たま

はん また髯をも除きたまふべし 21 その日人わかき
牝犢ひとつと羊ふたつとを飼をらん 22 その出すところ
の乳おほきによりて乳酥をくらふことを得ん すべて
國のうちに遺れるものは乳酥と蜂蜜とをくらふべ
し 23 その日千株に銀一千の價をえたる葡萄ありし處
もことごとく荊と棘はえいづべし 24 荊とおどろと地
にあまねきがゆゑに人々矢と弓とをもて彼處にゆく
なり 25 鋤をもて掘たがへしたる山々もいばらと棘の
ために人おそれてその中にゆくことを得じ その地は
ただ牛をはなち羊にふましむる處とならん

8 エホバ我にいひたまひけるは一の大なる牌をとり
そのうへに平常の文字にてマヘル シャラル ハシ バ
ズと録せ 2 われ信實の證者なる祭司ウリヤおよびエ
ベレキヤの子ゼカリヤをもてその證をなさしむ 3 わ
れ預言者の妻にちかづきしとき彼はらみて子をうみ
ければ エホバ我にいひたまはく その名をマヘル シ
ャラル ハシ バズと稱へよ 4 そはこの子いまだ我が父
わが母とよぶことを知らざるうちに ダマスコの富と
サマリヤの財寶はうばはれてアツスリヤ王のまへに
到るべければなり 5 エホバまた重て我につげたまへ
り云く 6 この民はゆるやかに流るるシロアの水をす
ててレギンとレマリヤの子とをよろこぶ 7 此により
て主はいきほひ猛くみなぎりわたる大河の水をかれ
らのうへに堰入たまはん 是はアツスリヤ王とそのも
ろもろの威勢とにして 百の支流にはびこり もろもろ
の岸をこえ 8 ユダにながれいり 溢れひろごりてその
項にまで及ばん インマヌエルよ そののぶる翼はあま
ねくなんぢの地にみちわたらん 9 もろもろの民よ さ
ばめき騒げなんぢら摧かるべし 遠きくにぐにの者よ

きけ 腰におびせよ 汝等くだかるべし 腰に帯せよ な
んぢら摧かるべし 10 なんぢら互にはかれ つひに徒
勞ならん なんぢら言をいませ遂におこなはれし そは
神われらとともに在せばなり 11 エホバつよき手をも
て此如われに示し この民の路にあゆまざらんことを
我にさとして言給はく 12 此民のすべて叛逆ととなふ
るところの者をなんぢら叛逆ととなふるなかれ 彼等
のおそるところを汝等おそるるなかれ 懼くなかれ
13 なんぢらはただ萬軍のエホバを聖としてこれを畏
みこれを恐るべし 14 然らばエホバはきよき避所とな
りたまはん 然どイスラエルの兩の家には躓く石とな
り妨ぐる磐とならん エルサレムの民には網罟となり
機濫とならん 15 おほくの人々これによりて蹶きかつ
仆れやぶれ 網せられまた捕へらるべし 16 證詞をつ
かね律法をわが弟子のうちに封べし 17 いま面をおほ
ひてヤコブの家をかへりみ給はずといへども 我その
エホバを待そのエホバを望みまつらん 18 視よわれと
エホバが我にたまひたる子輩とはイスラエルのうち
の豫兆なり奇しき標なり 此はシオンの山にいます萬
軍のエホバの與へたまふ所なり 19 もし人なんぢらに
つけて巫女および魔術者のさえづるがごとく細語が
ごとき者にもとめよといはば民はおのれの神にもと
むべきにあらずや いかで活者のために死者にもとむ
ることを爲んといへ 20 ただ律法と證詞とを求むべし
彼等のいふところ此言にかなはずば晨光あらじ 21 か
れら國をへあるきて苦みうゑん その饑るとき怒をは
なち己が王おのが神をさして誼ひかつその面をうへ
に向ん 22 また地をみれば艱難と幽暗とくるしみの闇
とあり かれらは昏黒におひやられん

9 今くるしみを受れども後には聞なかるべし 昔しは
ゼブルンの地ナフタリの地をあなどられしめ給ひし
かど 後には海にそひたる地ヨルダンの外の地 ことく
に人のガリラヤに榮をうけしめ給へり **2** 幽暗をあゆ
める民は大なる光をみ 死蔭の地にすめる者のうへに
光てらせり **3** なんぢ民をましその歡喜を大にしたま
ひければ かれらは收穫時によろこぶがごとく 掠物を
わかつときに樂むがごとく 汝の前によろこべり **4** そ
は汝かれらがおへる輓とその肩の笞と虐ぐるもの
杖とを折り これを折りてミデアンの日のごとくなし
給ひたればなり **5** すべて亂れたたかふ兵士のよろひ
と血にまみれたる衣とはみな火のもえくさとなりて
焚るべし **6** ひとりの嬰兒われらのために生れたり 我
儕はひとりの子をあたへられたり 政事はその肩にあ
り その名は奇妙また議士 また大能の神とこしへのち
ち 平和の君ととなへられん **7** その政事と平和とはま
しくははりて窮りなし 且ダビデの位にすわりてその
國ををさめ今よりのちとこしへに公平と正義とをも
てこれを立これを保ちたまはん 萬軍のエホバの熱心
これを成たまふべし **8** 主一言をヤコブにおくり之を
イスラエルの上ののぞませ給へり **9** すべてのこの民
エフライムとサマリヤに居るものとは知ららん かれ
らは高ぶり誇る心をもていふ **10** 瓦くづるるともわれ
ら斫石をもて建 くはの木きらるるともわれら香柏を
もて之にかへんと **11** この故にエホバ、レヂンの敵を
あげもちゑてイスラエルを攻しめ その仇をたけび勇
しめたまはん **12** 前にアラム人あり後にペシリテ人あ
り 口をはりてイスラエルを呑んとす 然はあれどエホ
バの怒やまずして尚その手をのぼしたまふ **13** 然どこ

の民はおのれをうつものに歸らず萬軍のエホバを求めず 14 斯るゆゑにエホバ一日のうちに首と尾と椽欄のえだと葦とをイスラエルより斷切たまはん 15 その首とは老たるもの尊きもの その尾とは謊言をのぶる預言者をいふなり 16 この民をみちびく者はこれを迷はせその引導をうくる者はほろぶるなり 17 このゆゑに主はその少壯者をよろこびたまはず その孤兒と寡婦とを憐みたまはざるべし 是その民はことごとく邪まなり悪をおこなふ者なり おのおのの口は愚かなる言をかたればなり 然はあれどエホバの怒やまずして尚その手をのぼしたまふ 18 悪は火のごとくもえ棘と荊とを食つくし茂りあふ林をやくべければみな煙となりむらがりて上騰らん 19 萬軍のエホバの怒によりて地はくろく焼 その民は火のもえくさとなり人々たがひに相憐むことなし 20 人みぎに攫めどもなほ饑ひだりに食へども尚あかず おのおのその腕の肉をくらふべし 21 マナセはエフライムを エフライムはマナセをくらひ 又かれら相合てユダを攻めん 然はあれどエホバの怒やまずして尚その手をのぼしたまふ

10 不義のおきてをさだめ暴虐のことばを録すものは禍ひなるかな 2 かれらは乏きものの訴をうけずわが民のなかの貧しきものの権利をはぎ寡婦の資産をうばひ孤兒のものを掠む 3 なんぢら懲しめらるる日きたらば何をなさんとするか 敗壞とほきより來らんとき何をなさんとするか なんぢら逃れゆきて誰にくひを求めんとするか また何處になんぢらの榮をのこさんとするか 4 ただ縛められたるもの下にかがみ殺されたるものしたに伏仆れんのみ 然はあれどエホバのいかり止ずして尚ほその手をのぼしたまふ

5 咄アツスリヤ人 なんぢはわが怒の杖なり その手の
笞はわが忿恚なり 6 われ彼をつかはして邪曲なる國
をせめ我かれに命じて我がいかれる民をせめてその
所有をかすめその財寶をうばはしめ かれらを街の泥
のごとくに蹂躪らしめん 7 されどアツスリヤ人のこ
ころごしは斯のごとくならず その心の念もまた斯の
ごとくならず そのところは敗壞をこのみ あまたの國
をほろぼし絶ん 8 かれ云 わが諸侯はみな王にあらず
や 9 カルノはカルケミシの如く ハマテはアルパデの
如く サマリヤはダマスコの如きにあらずや 10 わが
手は偶像につかふる國々を得たり その彫たる像はエ
ルサレムおよびサマリヤのものに勝れたり 11 われ既
にサマリヤとその偶像とに行へるごとく亦エルサレ
ムとその偶像とにおこなはざる可んやと 12 このゆゑ
に主いひたまふ 我シオンの山とエルサレムとに爲ん
とする事をことごとく遂をはらんとき 我アツスリヤ
王のおごれる心の實とその高ぶり仰ぎたる眼とを罰
すべし 13 そは彼いへらく われ手の力と智慧とによ
りて之をなせり 我はかしこし 國々の境をのぞき そ
の獲たるものをうばひ 又われは丈夫にしてかの位に
坐するものを下したり 14 わが手もろもろの民のたか
らを得たりしは巢をとるが如く また天が下を取收め
たりしは遺しすてたる卵をとりあつむるが如くなり
きあるひは翼をうごかし あるひは口をひらきある
ひは喃々する者もなかりしなりと 15 斧はこれもち
るて伐ものにむかひて己みづから誇ることをせんや
鋸は これを動かす者にむかひて己みづから高ぶるこ
とをせんや 此はあだかも笞がおのれを擧るものを動
かし杖みづから木にあらざるものを擧んとするにひ

とし 16 このゆゑに主萬軍のエホバは肥たるものを瘠しめ 且その榮光のしたに火のもゆるが如き火焰をおこし給はん 17 イスラエルの光は火のごとく その聖者はほのほの如くならん 斯て一日のうちに荊とおどろとを焼ほろぼし 18 又かの林と土肥たる田圃の榮をうせしめ 靈魂をも身をもうせしめて病るものの衰へたるが如くなさん 19 かつ林のうちに残れる木わづかにして童子も算へうるが如くなるべし 20 その日イスラエルの遣れる者とヤコブの家のがれたる者とは再びおのれを撃し者にたよらず誠意をもてイスラエルの聖者エホバにたよらん 21 その遣れるものヤコブの遣れるものは大能の神にかへるべし 22 ああイスラエルよ なんぢの民は海の沙のごとしといへども遣りて歸りきたる者はただ僅少ならん そは敗壞すでにさだまり義にて溢るべければなり 23 主萬軍のエホバの定めたまへる敗壞はこれを徧く國內におこなひ給ふべし 24 このゆゑに主萬軍のエホバいひたまはく シオンに住るわが民よアツスリヤ人エジプトの例にならひ笞をもて汝をうち杖をあげて汝をせむるとも懼るるなかれ 25 ただ頃刻にして忿恚はやまん 我がいかりは彼等をほろぼして息ん 26 萬軍のエホバむかしミデアン人をオレブの巖のあたりにて撃たまひしごとくに禍害をおこして之をせめ 又その杖を海のうへに伸しエジプトの例にしたがひてこれを擧たまはん 27 その日かれの重荷はなんぢの肩より下 かれの軛はなんぢの頸よりはなれ その軛はあぶらの故をもて壞れん 28 かれアイにきたりミグロンを過ミクマシにてその輜重をとどめ 29 渡口をすぎてゲバに宿るここに於てラマはをのきサウルギベア人は逃れは

しれり 30 ガリムの女よなんぢ聲をあげて叫べ ライ
シよ耳をかたぶけて聴け アナトテよなんぢも聲をあ
げよ 31 マデメナはさすらひゲビムの民はのがれ走れ
り 32 この日かれノブに立とどまり シオンのむすめ
の山エルサレムの岡にむかひて手をふりたり 33 主ば
んぐんのエホバは雄々しくたけびてその枝を断たま
はん 丈高きものは伐おとされ聳えたる者はひくくせ
らるべし 34 また鋏をもて茂りあふ林をきり給はん
レバノンに能力あるものに倒さるべし

11 エツサイの株より一つの芽いで その根より一つ
の枝はえて實をむすばん 2 その上にエホバの靈とど
まらん これ智慧聰明の靈 謀略才能の靈 知識の靈 エ
ホバをおそるるの靈なり 3 かれはエホバを畏るるを
もて歡樂とし また目みるところによりて審判をなさ
ず 耳きくところによりて断定をなさず 4 正義をもて
貧しき者をさばき 公平をもて國のうちの卑しき者の
ために断定をなし その口の杖をもて國をうちその口
唇の氣息をもて悪人をころすべし 5 正義はその腰の
帯となり 忠信はその身のおびとならん 6 おほかみは
小羊とともにやどり 豹は小山羊とともにふし 犢を
じし 肥たる家畜ともに居てちひさき童子にみちびか
れ 7 牝牛と熊とはくひものを同にし 熊の子と牛の子
とともにふし 獅はうしのごとく藁をくらひ 8 乳兒は
毒蛇のほらにたはふれ 乳ばなれの兒は手をまむしの
穴にいれん 9 斯てわが聖山のいづこにても害ふこと
なく傷ることなからん そは水の海をおほへるごとく
エホバをしの知識地にみつべければなり 10 その日
エツサイの根たちてもろもろの民の旂となり もろも
ろの邦人はこれに服ひきたり 榮光はそのとどまる所

にあらん **11** その日主はまたふたたび手をのべてその民ののこれる僅かのもをアツスリヤ、エジプト、パテロス、エテオピア、エラム、シナル、ハマテおよび海のしまじまより贖ひたまふべし **12** エホバは國々の爲に旂をたててイスラエルの逐やられたる者をあつめ地の四極よりユダの散失たるものを集へたまはん **13** またエフライムの猜はうせユダを悩ますものは斷れ エフライムはユダをそねまずユダはエフライムを悩ますことなかるべし **14** かれらは西なるペリシテ人の境にとびゆき相共にひがしの子輩をかすめその手をエドムおよびモアブにのベアンモンの子孫をおのれに服はしめん **15** エホバ、エジプトの海汊をからし河のうへに手をふりて熱風をふかせ その河をうちて七の小流となし 履をはきて渉らしめたまはん **16** 斯てその民ののこれる僅かのもを爲にアツスリヤより來るべき一つの大路あり 昔しイスラエルがエジプトの地よりいでし時のごとくなるべし

12 その日なんぢ言ん エホバよ我なんぢに感謝すべし 汝さきに我をいかり給ひしかどその怒はやみて我をなぐさめたまへり **2** 視よ神はわが救なり われ依頼ておそるところなし 主エホバはわが力わが歌なり エホバは亦わが救となりたまへりと **3** 此故になんぢら欣喜をもて救の井より水をくむべし **4** その日なんぢらいはん エホバに感謝せよ その名をよべ その行爲をもろもろの民の中につたへよ その名のあがむべきことを語りつけよと **5** エホバを頌うたへ そのみわざは高くすぐれたればなり これを全地につたへよ **6** シオンに住るものよ聲をあげてよばはれイスラエルの聖者はなんぢの中にて大なればなり

13 アモツの子イザヤが示されたるバビロンにかか
る重負の預言 **2** なんぢらかぶろの山に旂をたて聲を
あげ手をふり彼等をまねきて貴族の門にいらしめよ
3 われ既にきよめ別ちたるものに命じ わが丈夫ほこ
りかにいさめる者をよびてわが怒をもらさしむ **4** 山
におほくの人の聲きこゆ大なる民あるがごとし もろ
もろの國民のよりつどひて喧めく聲きこゆ これ萬軍
のエホバたたかひの軍兵を召したまふなり **5** かれら
はとほき國より天の極よりきたる これエホバとその
忿恚をもらす器とともに全國をほろぼさんとて來る
なり **6** なんぢら泣號ぶべしエホバの日ちかづき全能
者よりいつる敗亡きたるべければなり **7** この故にす
べての手はたれ凡の人のところは消ゆかん **8** かれら
慥きおそれ艱難と憂とにせまられ子をうまんとする
婦のごとく苦しみ互におどろき相みあひてその面は
燄のごとくならん **9** 視よエホバの日苛くして忿恚と
はげしき怒とをもて來り この國をあらしその中より
つみびとを絶滅さん **10** 天のもろもろの星とほしの宿
は光をはなはず 日はいでてくらく月は その光をかが
やかさざるべし **11** われ惡ことのために世をつみし不
義のために惡きものをばつし 驕れるものの誇をとど
め暴ふるものの傲慢をひくくせん **12** われ人をして
精金よりもすくなくオフルの黄金よりも少なからし
めん **13** かくて亦われ萬軍のエホバの忿恚のとき烈し
き怒りの日に天をふるはせ地をうごかしてその處を
うしなはしむべし **14** かれらは逐る鹿のごとく集む
るものなき羊のごとくなりて各自おのれの民にかへ
りおのれの國にのがれゆかん **15** すべて其處にあるも
の見出さるれば 刺れ 拘留らるるものは劍にたふされ

16 彼等の嬰兒はその目前にてなげくだかれ その家財
はかすめうばはれ その妻はけがさるべし 17 視よわ
れ白銀をかかへりみず黄金をもよろこばざるメデア
人をおこして之にむかはしめん 18 かれらは弓をもて
若きものを射くだき腹の實をあはれむことなく小子
をみてをしむことなし 19 すべての國の中にてうるは
しくカルデア人がほこり飾となせるバビロンはむか
し神にほろぼされたるソドム、ゴモラのごとくなら
ん 20 ここに住むもの永くたえ世々にいたるまで居も
のなく アラビヤ人もかしこに幕屋をはらず牧人もま
たかしこにはその群をふさすることなく 21 ただ猛獸
かしこにふし 吼るものその家にみち 駝鳥かしこにす
み 牡山羊かしこに躍らん 22 豺狼その城のなかにな
き野犬えいぐわの宮にさけばん その時のいたるは近
きにあり その日は延ることなかるべし

14 エホバ、ヤコブを憐みイスラエルをふたたび撰
びて之をおのれの地におきたまはん 異邦人これに加
りてヤコブの家にむすびつらなるべし 2 もろもろの
民はかれらをその處にたづさへいたらん而してイス
ラエルの家はエホバの地にてこれを奴婢となし曩に
おのれを虜にしたるものを虜にし おのれを虐げたる
ものを治めん 3 エホバなんぢの憂と艱難とをのぞき
亦なんぢが勤むるからき役をのぞきて安息をたまふ
の日 4 なんぢこの歌をとらへバビロン王をせめてい
はん虐ぐる者いかにして息みしや 金をはたる者い
かにして息みしやと 5 エホバあしきものの笞ともろも
ろの有司の杖とををりたまへり 6 かれらは怒をもて
もろもろの民をたえず撃てはうち 忿恚をもてもろも
ろの國ををさむれど その暴虐をとどむる者なかりき

7 今は全地やすみを得おだやかを得 ことごとく聲を
あげてうたふ 8 實にまつの樹およびレバノンの香柏
さへもなんぢの故により歡びていふ 汝すでに仆たれ
ば樵夫のぼりきたりてわれらを攻ることなしと 9 下
の陰府はなんぢの故により動きて汝のきたるをむか
へ世のもろもろの英雄の亡靈をおこし國々のもろも
ろの王をその位より起おこらしむ (Sheol h7585) 10 かれ
らは皆なんぢに告ていはん 汝もわれらのごとく弱く
なりしや 汝もわれらと同じくなりしやと 11 なんぢの
榮華となんぢの琴の音はすでに陰府におちたり 蛆な
んぢの下にしかれ 蚯蚓なんぢをおほふ (Sheol h7585) 12
あしたの子明星よいかにして天より隕しや もろもろ
の國をたふしし者よいかにして斫れて地にたふれし
や 13 汝さきに心中におもへらく われ天にのぼり我
くらゐを神の星のうへにあげ北の極なる集會の山に
ぞし 14 たかき雲漢にのぼり至上者のごとくなるべし
と 15 然どなんぢは陰府におとされ坑の最下にいれら
れん (Sheol h7585) 16 なんぢを見るものは熟々なんぢを
視なんぢに目をとめていはん この人は地をふるはせ
列國をうごかし 17 世を荒野のごとくし もろもろの
邑をこぼち 捕へたるものをその家にときかへさざり
しものなるかと 18 もろもろの國の王たちはことごと
く皆たふとき狀にておのおのその家にねぶる 19 然ど
なんぢは忌きらふべき枝のごとく おのが墓のそとに
すてられその周圍には劍にて刺ころされ坑におろさ
れ 石におほはれたる者ありて踐つけらるる屍にこと
ならず 20 汝おのれの國をほろぼし おのれの民をこ
ろししが故に かれらとおなじく葬らるることあたはず
それ悪をおこなふものの裔はとこしへに名をよば

るることなかるべし 21 先祖のよこしまの故をもて
その子孫のために戮場をそなへ 彼等をしてたちて地
をとり世界のおもてに邑をみたすことなからしめよ
22 萬軍のエホバのたまはく 我立てかれらを攻めバビ
ロンよりその名と遺りたるものとを絶滅し その子そ
の孫をたちほろぼさんと これエホバの聖言なり 23
われバビロンを刺蝟のすみかとし沼とし且ほろびの
箒をもてこれを掃除かんと これ萬軍のエホバのみこ
とばなり 24 萬軍のエホバ誓をたてて言給はくわがお
もひし事はかならず成 わがさだめし事はかならず立
ん 25 われアツスリヤ人をわが地にてうちやぶりわ
が山々にてふみにじらん ここにおいて彼がおきし軛
はイスラエル人よりはなれ 彼がおはせし重負はイス
ラエル人の肩よりはなるべし 26 これは全地のことに
つきて定めたる謀略なり 是はもろもろの國のうへに
伸したる手なり 27 萬軍のエホバさだめたまへり誰か
これを破ることを得んや その手をのぼしたまへり誰
かこれを押返すことを得んや 28 アハズ王の死たる年
おもにの預言ありき 29 曰く ペリシテの全地よなん
ぢをうちし杖をれたればとて喜ぶなかれ 蛇の根より
蝮いでその果はとびかける巨蛇となるべければなり
30 いと貧しきものはものくひ乏しきものは安然にふ
さん われ饑饉をもてなんぢの根をしなせ汝がのこれ
る者をころすべし 31 門よなげけ邑よさけべ ペリシ
テよなんぢの全地きえうせたり そはけぶり北よりい
できたり その軍兵の列におくるものなし 32 その
國の使者たちに何とこたふべきや 答へていはん エホ
バ、シオンの基をおきたまへり その民のなかの苦し
むものは避所をこの中にえん

15 モアブにかかる重負のよげん曰く／モアブのアルは一夜の間にあらされて亡びうせ モアブのキルは一夜のまに荒されてほろびうせん **2** かれバイテおよびデボンの高所にのぼりて哭き モアブはネボ及びメデバの上にてなげきさけぶ おのおのその頭を禿にしその鬚をことごとく剃たり **3** かれら籠服をきてその衢にあり 屋蓋または廣きところにて皆なきさけび悲しむこと甚だし **4** ヘシボンとエレアレと叫びてその聲ヤハズにまで聞ゆ この故にモアブの軍兵こゑをあげ その靈魂うちに在てをののけり **5** わが心モアブのために叫びよばはれり その貴族はゾアルおよびエグラテシリシヤにのがれ 哭つつルヒテの坂をのぼり ホロナイムの途にて敗亡の聲をあぐ **6** ニムリムの水はかわき草はかれ苗はつきて緑蔬あらず **7** このゆゑに彼等はその獲たる富とその藏めたる物をたづさへて柳の河をわたらん **8** その泣號のこゑはモアブの境をめぐり 悲歎のこゑはエグライムにいたり なげきの聲はペエルエリムにいたる **9** デモンの水は血にて充 われデモンの上にひとしほ禍害をくはへ モアブの遁れたる者とこの地の遺りたるものにとり獅をおくらん

16 なんぢら荒野のセラより羔羊をシオンの女の山におくりて國の首にをさむべし **2** モアブの女輩はアルノンの津にありてさまよふ鳥のごとく巢をおはれたる雛のごとくなるべし **3** 相謀りて審判をおこなひ亭午にもなんぢの蔭を夜のごとくならしめ 驅逐人かくし 遁れきたるものを顯はすなかれ **4** わが驅逐人をなんぢとともに居しめ 汝モアブの避所となりて之をそこなふ者のまへより脱れしめよ 勒索者はうせ害

ふものはたえ暴虐者は地より絶れん 5 ひとつの位あはれみをもて堅くたち眞實をおこなふ者そのうへに坐せん 彼ダビデの幕屋にをりて審判をなし公平をもとめて義をおこなふに速し 6 われらモアブの傲慢をきけり その高ぶること甚だし われらその誇とたかぶりと忿恚とをきけり その大言はむなし 7 この故にモアブはモアブの爲になきさけび民みな哭さけぶべし なんぢら必らず甚だしく心をいためてキルハレステの乾葡萄のためになげくべし 8 そはヘシボンの畑とシブマのおだうの樹とは凋みおとろへたり その枝さきにはヤゼルにまでいたりて荒野にはびこりのびて海をわたりしが 國々のもろもろの主その美はしき枝ををりたり 9 この故にわれヤゼルの哭とひとしくシブマの葡萄の樹のためになかん ヘシボンよエレアレよわが涙なんぢをひたさん そは鬨聲なんぢが果物なんぢが收穫の實のうへにおちきたればなり 10 欣喜とたのしみとは土肥たる畑より取さられ 葡萄園には謳ふことなく歡呼ばふことなく酒榨にはふみて酒をしぼるものなし 我そのよろこびたつる聲をやめしめたり 11 このゆゑにわが心腸はモアブの故をもて琴のごとく鳴ひびき キルハレスの故をもてわが衷もまた然り 12 モアブは高處にいでて倦つかれその聖所にきたりて祈るべけれど驗あらじ 13 こはエホバが曩にモアブに就てかたりたまへる聖言なり 14 されど今エホバかたりて言たまはくモアブの榮はその大なる群衆とともに傭人の期にひとしく 三年のうちに恥かしめをうけ 遣れる者はなはだ少なくして力なからん

17 ダマスコにかかはる重負の預言いはく／視よダマスコは邑のすがたをうしなひて荒墟となるべし 2

アロエルの諸邑はすてられん 獸畜のむれそこにすみ
てその伏やすめるをおびやかす者もなからん 3 エフ
ライムの城はすたりダマスコの政治はやみ スリアの
遣れる者はイスラエルの子輩のさかえのごとく消う
せん 是は萬軍のエホバの聖言なり 4 その日ヤコブの
榮はおとろへその肥たる肉はやせて 5 あだかも收穫
人の麥をかりあつめ腕をもて穂をかりたる後のごと
くレパイムの谷に穂をひろひたるあとの如くならん
6 されど橄欖樹をうつとき二つ三の核を杪にのこし
あるひは四つ五をみのりおほき樹の外面のえだに遺
せるが如く採のこさるるものあるべし 是イスラエル
の神エホバの聖言なり 7 その日人おのれを造れるも
のを仰ぎのぞみイスラエルの聖者に目をとめん 8 斯
ておのれの手工なる祭壇をあふぎ望まず おのれの
指のつくりたるアシラの像と日の像とに目をとめじ
9 その日かれが堅固なるまちまちは 昔イスラエルの
子輩をさけてすてさりたる森のなか嶺のうへに今の
これる荒跡のごとく荒地となるべし 10 そは汝おのが
すくひの神をわすれ 己がちからとなるべき磐を心に
とめざりしによる このゆゑになんぢ美しくき植物を
うゑ異やうの枝をさし 11 かつ植たる日に籬をまはし
朝に芽をいださしむれども 患難の日といたましき憂
の日ときたりて收穫の果はとびさらん 12 唉おほくの
民はなりどよめけり海のなりどよめく如くかれらも
鳴動めけり もろもろの國はなりひびけり大水のなり
ひびくが如くかれらも鳴響けり 13 もろもろの國はお
ほくの水のなりひびくがごとく鳴響かん されど神か
れらを攻たまふべし かれら遠くのがれて風にふきさ
らるる山のうへの糝糠のごとく また旋風にふきさら

るる塵のごとくならん 14 視よゆふぐれに恐怖あり
いまだ黎明にいたらずして彼等は亡たり これ我儕を
かすむる者のうくべき報われらを奪ふもののひくべ
き鬪なり

18 唉エテオピアの河の彼方なるさやさやと羽音の
きこゆる地 2 この地蒹のふねを水にうかべ海路より
使者をつかはさんとてその使者にいへらく 疾走る使
よなんぢら河々の流のわかるる國にゆけ丈たかく肌
なめらかなる 始めより今にいたるまで懼るべく繩も
てはかり人を踐にじる民にゆけ 3 すべて世にをるも
の地にすむものよ 山のうへに旗のたつとき汝等これ
を見ラッパの鳴響くときなんぢら之をきけ 4 そはエ
ホバわれに如此いひ給へりいはく 空はれわたり日て
り收穫の熱むしてつゆけき雲のたるる間 われわが居
所にしづかに居てながめん 5 收穫のまへにその芽ま
たく生その花ぶだうとなりて熟せんとするとき かれ
鎌をもて蔓をかり枝をきり去ん 6 斯てみな山のたけ
きとりと地の獸とになげあたへらるべし 猛鳥そのう
へにて夏をすごし地のけものその上にて冬をわたら
ん 7 そのとき河々の流のわかるる國の丈たかく肌な
めらかなる 始めより今にいたるまで懼るべく繩もて
はかり人をふみにじる民より 萬軍のエホバにささぐ
る禮物をたづさへて 萬軍のエホバの聖名のところシ
オンの山にきたるべし

19 エジプトにかかる重負のよげん いはく／エホバ
ははやき雲にのりてエジプトに來りたまふ エジプト
のもろもろの偶像はその前にふるひをののき エジプ
ト人のころはその衷にて消ゆかん 2 我エジプト人
をたけび勇ましめてエジプト人を攻しめん斯てかれ

ら各自その兄弟をせめおのおのその鄰をせめ 邑は邑
をせめ國はくにを攻べし 3 エジプト人の靈魂うせて
その中むなしくならん われその謀略をほろぼすべし
かれらは偶像および呪文をとふもの巫女魔術者
にもとむることを爲ん 4 われエジプト人を苛酷なる
主人の手にわたさん あらあらしき王かれらを治むべ
し是主萬軍のエホバの聖言なり 5 海の水はつき河も
また涸てかわかん 6 また河々はくさき臭をはなちエ
ジプトの埴はみな漸次にへりてかわき葦と蘆とかれ
はてん 7 ナイルのほとりの草原ナイルの岸にほどち
かき所すべてナイルの最寄にまきたる者はことごと
く枯てちりうせん 8 漁者もまた歎き すべてナイルに
釣をたるる者はかなしみ網を水のうへに施ものはお
とろふべし 9 練たる麻にて物つくるもの白布を織も
のは恥あわて 10 その柱はくだけ一切のやとはれたる
者のこころ憂ひかなしまん 11 誠やゾアンの諸侯は愚
なりパロの最もかしこき議官のはかりごとは癡鈍べ
し 然ばなんぢら何でパロにむかひて我はかしこきも
の子 われは古への王の子なりといふを得んや 12
なんぢの智者いづくにありや 彼らもし萬軍のエホバ
の定めたまひしエジプトに係はることを曉得ばこれ
をなんぢに告るこそよけれ 13 ゾアンのもろもろの諸
侯は愚かなり ノフの諸侯は惑ひたり かれらはエジプ
トのもろもろの支派の隅石なるに却てエジプトをあ
やまらせたり 14 エホバ曲れる心をその中にまじへ給
ひしにより 彼等はエジプトのすべて作ところを謬ら
せ恰かも酔る人の哇吐ときによろめくが如くならし
めたり 15 エジプトにて或は首あるひは尾あるひは椽
櫓のえだまたは葦すべてその作ところの工なかるべ

し 16 その日エジプトは婦女のごとくならん 萬軍のエホバの動かしたまふ手のその上にうごくが故におそれをのくべし 17 ユダの地はエジプトに懼れらるこの事をかたりつぐれば聴くもの皆おそる これ萬軍のエホバ、エジプトに對ひて定めたまへる謀略の故によるなり 18 その日エジプトの地に五の邑あり カナンの方言をかたりまた萬軍のエホバに誓ひをたてん その中のひとつは日邑ととなへらるべし 19 その日エジプトの地の中にエホバをまつ一つの祭壇あり その境にエホバをまつ一柱あらん 20 これエジプトの地にて萬軍のエホバの徴となり證となるなり かれら暴虐者の故によりてエホバに號求むべければエホバは救ふもの護るものを遣してこれを助けたまはん 21 エホバおのれをエジプトに知せたまはん その日エジプト人はエホバをしり犠牲と祭物とをもて之につかへん 誓願をエホバにたてて成とぐべし 22 エホバ、エジプトを撃たまはん エホバこれを撃これを醫したまふ この故にかれらエホバに歸らん エホバその懇求をいれて之をいやし給はん 23 その日エジプトよりアツスリヤにかよふ大路ありて アツスリヤ人はエジプトにきたり エジプト人はアツスリヤにゆきエジプト人とアツスリヤ人と相共につかふることをせん 24 その日イスラエルはエジプトとアツスリヤとを共にし三あひならび地のうへにて福祉をうくる者となるべし 25 萬軍のエホバこれを祝して言たまはくわが民なるエジプトわが手の工なるアツスリヤわが産業なるイスラエルは福ひなるかな

20 アツスリヤのサルゴン王タルタンを遣してアシドドにゆかしむ 彼がアシドドを攻てとりし年にあた

り 2 この時エホバ、アモツの子イザヤに托てかたり
たまはく 往なんぢの腰よりあらたへの衣をとき汝の
足より履をぬげ ここに於てかれその如くなし赤裸跣
足にて歩めり 3 エホバ言給く わが僕イザヤは三年の
間はだかはだしにてあゆみ エジプトとエテオピアと
の豫兆となり奇しき標となりたり 4 斯のごとくエジ
プトの虜とエテオピアの俘囚とはアツスリヤの王に
ひきゆかれ その若きも老たるもみな赤裸跣足にて臀
までもあらはしエジプトの恥をしめすべし 5 かれら
はその恃とせるエテオピアその誇とせるエジプトの
ゆゑをもて懼れはぢん 6 その日この濱邊の民いはん
視よ われらの恃とせる國われらが遁れゆきて助をも
とめアツスリヤ王の手より救出されんとせし國すで
に斯のごとし 我儕はいかにして脱かるを得んやと

21 うみべの荒野にかかる重負のよげん いはく／荒
野よりおそるべき地より南のかたの暴風のふきすぐ
るが如くきたれり 2 われ苛き黙示をしめされたり 欺
騙者はあざむき荒すものはあらずべし エラムよ上れ
メデアよかこめ 我すでにすべての歎息をやめしめたり
3 この故にわが腰は甚だしくいたみ 産にのぞめる
婦人の如き苦しみ我にせまれり われ悶へ苦しみて聞
ことあたはず我をののきて見ことあたはず 4 わが心
みだれまどひて慄き怖ること甚だし わが楽しむ夕
はかはりて懼れとなりぬ 5 彼らは席をまうけ筵をし
きてくひのみす もろもろの君よたちて盾にあぶらぬ
れ 6 エホバかく我にいひ給へり 汝ゆきて斥候をおき
その見るところを告しめよ 7 かれ馬にのりて二列に
ならび來るものを見 また驢馬にのりたると駱駝にの
りたるとをみば 耳をかたぶけて詳細にきくことをせ

しめよと 8 かれ獅の如く呼はりて曰けるは わが主よ
われ終日やぐらに立よもすがら斥候の地にたつ 9 馬
にのりて二列にならびたる者きたれり 彼こたへてい
はくバビロンは倒れたり 倒れたりそのもろもろの神
の像はくだけて地にふしたり 10 蹂躪らるるわが民よ
わが打場のたなつものよ 我イスラエルの神萬軍のエ
ホバに聞るところのものを汝につげたり 11 ドマに係
るおもにの預言 いはく／人ありセイルより我をよび
ていふ 斥候よ夜はなにのときぞ 斥候よ夜はなにの時
ぞ 12 ものみ答へていふ 朝きたり夜またきたる 汝も
しとはんとおもはば問 なんぢら歸りきたるべし 13
アラビヤにかかる重負のよげん 曰く／デダンの客商
よなんぢらはアラビヤの林にやどらん 14 テマの地の
たみよ水をたづさへて渴ける者をむかへ 糧をもて逃
遁れたるものを迎へよ 15 かれらは刃をさけ 既にぬ
きたる劍すでに張たる弓およびたかひの艱難をさ
けて逃きたれり 16 そは主われにいひたまはく 傭人
の期にひとしく一年のうちにケダルのすべての榮華
はつきはてん 17 そののこれる弓士のかずとケダルの
子孫のますらをとは少なかるべし 此はイスラエルの
神エホバのかたり給へるなり

22 異象の谷にかかる重負のよげん 曰く／なんぢら
何故にみな屋蓋にのぼれるか 2 汝はさわがしく喧す
しき邑ほこりたのしむ邑 なんぢのうちの殺されたる
ものは劍をもて殺されしにあらず 亦たたかひにて死
しにもあらず 3 なんぢの有司はみな共にのがれゆき
しかど弓士にいましめられ 汝の民はとほくにげゆき
しかど見出されて皆ともに縛められたり 4 この故に
われいふ回顧てわれを見るなかれ 我いたく哭かなし

まん わが民のむすめの害はれたるによりて我をなぐ
さめんと勉むるなかれ 5 そは主萬軍のエホバ異象の
たにに騒亂ふみにじり惶惑の日をきたらせたまふ 垣
はくづれ號呼のこゑは山々にきこゆ 6 エラムは箠を
おひたり 歩兵と騎兵とありキルは盾をあらはせり 7
かくて戦車はなんぢの美しき谷にみち 騎兵はその門
にむかひてつらなれり 8 ユダの庇護はのぞかる その
日なんぢは林のいへの武具をあふぎのぞめり 9 なん
ぢらダビデのまちの壞おほきを見る なんぢら下のい
けの水をあつめ 10 またエルサレムの家をかぞへ且そ
の家をこぼちて垣をかたくし 11 一つの水坑をかきと
かきとの間につくりて古池の水をひけりされどこの
事をなし給へるものを仰望まず この事をむかしより
營みたまへる者をかへりみざりき 12 その日主萬軍の
エホバ命じて哭かなしみ首をかぶろにし籠服をまと
へと仰せたまひしかど 13 なんぢらは喜びたのしみ牛
をほふり羊をころし肉をくらひ酒をのみていふ 我儕
くらひ且のむべし明日はしぬべければなりと 14 萬軍
のエホバ黙示をわが耳にきかしめたまはく まことに
この邪曲はなんぢらが死にいたるまで除き清めらる
るを得ずと これ主萬軍のエホバのみことばなり 15
主ばんぐんのエホバ如此のたまふ ゆけ宮ををさめ庫
をつかさどるセブナにゆきていへ 16 なんぢここに何
のかかはりありや また茲にいかなる人のありとして
己がために墓をほりしや 彼はたかきところに墓をほ
り磐をうがちて己がために住所をつくれり 17 視よエ
ホバはつよき人のなげうつ如くに汝をなげうち給は
ん 18 なんぢを包みかためふりまはして闊かなる地に
球のごとくなげいだしたまはん 主人のいへの恥とな

るものよ汝そこにて死そのえいぐわの車もそこにあ
らん 19 我なんぢをその職よりおひその位よりひきお
とさん 20 その日われわが僕ヒルキヤの子エリアキム
を召て 21 なんぢの衣をきせ汝の帯をもて固め なん
ぢの政權をその手にゆだねべし 斯て彼エルサレムの
民とユダの家とに父とならん 22 我またダビデのいへ
の鑰をその肩におかん 彼あくればとづるものなく彼
とづればあくるものなし 23 我かれをたてて堅處にう
ちし釘のごとくすべし 而してかれはその父の家のさ
かえの位とならん 24 その父の家のもろもろの榮は彼
がうへに懸る その子その孫およびすべての器のちひ
さきもの皿より瓶子にいたるまでも然らざるなし 25
萬軍のエホバのたまはくその日かたき處にうちたる
釘はぬけいで斫れておちん そのうへにかかれる負も
また絶るべし こはエホバ語り給へるなり

23 ツロに係るおもにの預言いはく／タルシシのも
ろもろの舟よなきさけべ ツロは荒廢れて屋なく入べ
きところなければなり かれら此事をキツテムの地に
て告しらせらる 2 うみべの民よもだせ 曩には海をゆ
きかふシドンの商賣くさぐさの物をかしこに充せたり
3 ツロは大なる水をわたりくるシホルの種物とナ
イルがはの穀物とによりて収納をえたり ツロはもろ
もろの國のつどふ市なりき 4 シドンよはづべし そは
海すなはち海城かくいへり曰く われ苦しまずうまず
壯男をやしなはず處女をそだてざりきと 5 この音信
のエジプトにいたるとき彼等ツロのおとづれにより
て甚くうれふべし 6 なんぢらタルシシにわたれ 海邊
のたみよ汝等なきさけぶべし 7 これは上れる世いに
しへよりありし邑おのが足にてうつり遠くたびずま

ひせる邑なんぢらの樂しみの邑なりしや 8 斯のごとくツロに對ひてはかりしは誰なるか ツロは冕をさづけし邑 その中のあきうどは君 その中の貿易するものは地のたふとき者なりき 9 これ萬軍のエホバの定め給ふところにして すべて華美にかざれる驕奢をけがし地のもろもろの貴者をひくくしたまはんが爲なり 10 タルシシの女よナイルのごとく己が地にあふれよなんぢを結びかたむる帶ふたたびなかるべし 11 エホバその手を海の上にのべて國々をふるひうごかし給へり エホバ、カナンにつきて詔命をいだしその保砦をこぼたしめたまふ 12 彼いひたまはく虐げられたる處女シドンのむすめよ 汝ふたたびよろこぶことなかるべし 起てキツテムにわたれ彼處にてなんぢまた安息をえじ 13 カルデヤ人のくにを視よ この民はふたたびあることなし アッスリヤ人この國を野のけもの居所にさだめたり かれら櫓をたてもろもろの殿をこぼちて荒墟となせり 14 タルシシのもろもろの舟よなきさけべ なんぢの保砦はくだかれたり 15 その日ツロは七十年のあひだ忘れらるべし ひとりの王のながらふる日のかずなり七十年終りてのちツロは妓女のうたの如くならん 16 さきに忘れられたるうかれめよ琴をとりて城市をめぐり 巧に弾じておほくの歌をうたひ人にふたたび記念らるべし 17 七十年をはりてエホバまたツロを顧みたまはん ツロはふたたびその利潤をえて地のおもてにあるもろもろの國と淫をおこなふべし 18 その貿易とその獲たる利潤とはきよめてエホバに獻ぐべければ之をたくはへず積ことをせざるなり その貿易はエホバの前にをるものの用となり飽くらふ料となり華美なるころもの料とならん

24 視よエホバこの地をむなしからしめ荒廢れしめ
これを覆へしてその民をちらしたまふ **2** かくて民も
祭司もひとしく 僕も主もひとしく 下婢も主婦もひと
しく 買ものも賣ものもひとしく 貸ものも借ものもひ
としく 利をはたるものも利をいだす者もひとしくこ
の事にあふべし **3** 地はことごとく空しくことごとく
掠められん こはエホバの言たまへるなり **4** 地はうれ
へおとろへ世は萎おとろへ地のたふときものも萎は
てたり **5** 民おきてにそむき法ををかし とこしへの契
約をやぶりたるがゆゑに 地はその下にけがされたり
6 このゆゑに呪詛は地をのみつくしそこに住るものは
罪をうけまた地の民はやかれて僅かばかり遺れり **7**
あたらしき酒はうれへ葡萄はなえ 心たのしめるもの
はみな歎息せざるはなし **8** 鼓のおとは寂まり歡ぶも
のの聲はやみ琴の音もまたしづまれり **9** 彼等はふた
たび歌うたひ酒のまず濃酒はこれをのむものに苦く
なるべし **10** 騒ぎみだれたる邑はすでにやぶられ每家
はことごとく閉て人のいるなし **11** 街頭には酒の故に
よりにて叫ぶこゑあり すべての歡喜はくらくなり地の
たのしみは去ゆけり **12** 邑はあれすたれたる所のみの
こり その門もこぼたれて破れぬ **13** 地のうちにても
ろもろの民のなかにて遺るものは橄欖の樹のうたれ
しのちの果の如く葡萄の收穫はてしのちの實のごと
し **14** これらのもの聲をあげてよばはん エホバの稜
威のゆゑをもて海より歡びよばはん **15** この故になん
ぢら東にてエホバをあがめ 海のしまじまにてイスラ
エルの神エホバの名をあがむべし **16** われら地の極よ
り歌をきけり いはく榮光はただしきものに歸すと／
われ云らく我やせおとろへたり我やせおとろへたり

我はわざはひなるかな 欺騙者はあざむき 欺騙者はい
つはりをもて欺むけり 17 地にすむものよ 恐怖と陷阱
と罟とはなんちに臨めり 18 おそのの聲をのがるる者
はおとしあなに陥り おとしあなの中よりいづるもの
は罟にかかるべし そは高處の窓ひらけ地の基ふるひ
うごけばなり 19 地は碎けにくだけ地はやぶれにやぶ
れ地は揺にゆれ 20 地はゑへる者のごとく 躑きによろ
めき 假廬のごとく ぶりうごく その罪はそのうへにお
もく 遂にたふれて再びおくることなし 21 その日エホ
バはたかき處にて 高きところの軍兵を征め 地にて地
のもろもろの王を征めたまはん 22 かれらは囚人が阱
にあつめらるるごとく 集められて 獄中にとざされ 多
くの日をへてのち 刑せらるべし 23 かくて 萬軍のエホ
バ、シオンの山 およびエルサレムにて 統治め かつそ
の長老たちのまへに 榮光あるべければ 月は面あから
み日ははぢて 色かはるべし

25 エホバよ 汝はわが神なり 我なんぢを崇め なんぢ
の名をほめたたへん 汝さきに 妙なる事をおこなひ 古
時より 定めたることを 眞實をもて 成たまひたれば な
り 2 なんぢ邑をかへて 石堆となし 堅固なる城を 荒墟
となし 外人の京都を 邑とならしめ ず 永遠に たつるこ
とを得ざらしめたまへり 3 この故につよき民はなん
ぢをあがめ 暴びたる 國々の城はなんぢをおそるべし
4 そはなんぢ弱きものの 保砦となり 乏しきものの 難
のときの 保砦となり 雨風の ふききたりて 垣を うつご
とく 暴ぶるもの 荒きたるとき の 避所となり 熱を さ
くる 蔭となり たまへり 5 なんぢ 外人の 喧嘩をおさへ
て 早ける地より 熱を とりのぞく 如く ならしめ 暴ぶる
もの 凱歌を とどめて 雪の陰をもて 熱を とどむる 如

くならしめたまはん 6 萬軍のエホバこの山にてもろもろの民のために肥たるものをもて宴をまうけ 久しくたくはへたる葡萄酒をもて宴をまうく 臚おほき肥たるもの久しくたくはへたる清るぶだう酒の宴なり 7 又この山にてもろもろの民のかぶれる面帕と もろもろの國のおほへる外帔をとりのぞき 8 とこしへまで死を呑たまはん 主エホバはすべての面より涙をぬぐひ 全地のうへよりその民の凌辱をのぞき給はん これはエホバの語りたまへるなり 9 その日此如いはん これはわれらの神なり われら俟望めり 彼われらを救ひたまはん 是エホバなり われらまちのぞめり 我儕そのすくひを歡びたのしむべしと 10 エホバの手はこの山にとどまり モアブはその處にてあくたの水のなかにふまるる藁のごとく蹂躪られん 11 彼そのなかにて游者のおよがんとして手をのぼすが如く己が手をのぼさん 然どエホバその手の脆計とともにその傲慢を伏たまはん 12 なんぢの垣たかき堅固なる城はエホバかたぶけたふし 地におとして塵にまじへたまはん

26 その日ユダの國にてこの歌をうたはん われらに堅固なる邑あり 神すくひをもてその垣その藩となしたまふべし 2 なんぢら門をひらきて忠信を守るただしき國民をいれよ 3 なんぢは平康にやすきをもて心志かたき者をまもりたまふ 彼はなんぢに依頼めばなり 4 なんぢら常盤にエホバによりたのめ 主エホバはとこしへの巖なり 5 たかきに居るものを仆し そびえたる城をふせしめ 地にふせしめて塵にまじへ給へり 6 かくて足これをふまん 苦しむものは足にて之をふみ 貧しき者はその上をあゆまん 7 義きものの道は直からざるなし なんぢ義きものの途を直く平らかにし

給ふ 8 エホバよ審判をおこなひたまふ道にてわれら
汝をまちのぞめり われらの心はなんぢの名となんぢ
の記念の名とをしたふなり 9 わがこころ夜なんぢを
慕ひたり わがうちなる靈あしたに汝をもとめん そは
汝のさばき地におこなはるるとき世にすめるもの正
義をまなぶべし 10 悪者はめぐまるれども公義をまな
ばず 直き地にありてなほ不義をおこなひエホバの稜
威を見ることをこのまず 11 エホバよなんぢの手たか
く擧れどもかれら顧みず 然どなんぢが民をすくひた
まふ熱心を見ばはぢをいだかん 火なんぢの敵をやき
つくすべし 12 エホバよ汝はわれらのために平和をま
うけたまはん 我儕のおこなひしことは皆なんぢの成
たまへるなり 13 エホバわれらの神よなんぢにあらぬ
他の主ども曩にわれらを治めたり 然どわれらはただ
汝によりて汝の名をかたりつげん 14 かれら死たれば
またいきず 亡霊となりたればまた復らず なんぢかれ
らを糺してこれを滅ぼし その記念の名をさへ悉くう
せしめたまへり 15 エホバよなんぢこの國民をました
まへり此くにびとを増たまへり なんぢは尊ばれたま
ふ なんぢ地の界をことごとく擴めたまへり 16 エホ
バよかれら苦難のときに汝をあふぎのぞめり 彼等な
んぢの懲罰にあへるとき切になんぢに禱告せり 17 エ
ホバよわれらは孕める婦のうむとき近づきてくるし
み その痛みによりて叫ぶがごとく汝のまへに然あり
き 18 われらは孕みまた苦しみたれどその産るところ
は風ににたり われら救を地にほどこさず世にすむ者
うまれいでざりき 19 なんぢの死者はいきわが民の屍
はおきん 塵にふすものよ醒てうたうたふべし なんぢ
の露は草木をうるほす露のごとく地はなきたまをい

ださん 20 わが民よゆけ なんぢの室にいり汝のうしろの戸をとちて忿恚のすぎゆくまで暫時かくるべし
21 視よエホバはその處をいでて地にすむものの不義をただしたまはん 地はその上なる血をあらはにして殺されたるものをまた掩はざるべし

27 その日エホバは硬く大いなるつよき劍をもて疾走るへびレピヤタン曲りうねる蛇レピヤタンを罰しまた海にある鱷をころし給ふべし 2 その日如此うたはん うるはしき葡萄園あり之をうたへよ 3 われエホバこれを護り をりをり水そそぎ 夜も晝もまもりて害ふものあらざらしめん 4 我にいきどほりなし願はくは荆棘のわれと戦はんことを 然ばわれすすみ迎へて皆もろともに焚盡さん 5 寧ろわが力にたよりて我とやはらぎを結べ われと平和をむすぶべし 6 後にいたらばヤコブは根をはりイスラエルは芽をいだして花さきその實せかいの面にみちん 7 ヤコブ主にうたるといへども彼をうちしもの主にうたるとが如きことあらんや ヤコブの殺さるるは彼をころししもの殺さるるが如きことあらんや 8 汝がヤコブを逐たまへる懲罰は度にかなひぬ 東風のふきし日なんぢあらき風をもてこれをうつし給へり 9 斯るがゆゑにヤコブの不義はこれによりて潔められん これに因てむすぶ果は罪をのぞくことをせん 彼は祭壇のもろもろの石を碎けたる石灰のごとくになし アシラの像と日の像とをふたたび建ることなからしめん 10 堅固なる邑はあれてすさまじく棄去れたる家のごとく また荒野のごとし 犢このところにて草をはみ此所にてふし且そこなる樹のえだをくらはん 11 その枝かるるとき折とらる 婦人きたりてこれを焼ん これは無知の民な

るが故に之をつくれる者あはれまず これを形づくれるもの恵まざるべし 12 その日なんぢらイスラエルの子輩よ エホバは打落したる果をあつむるごとく 大河の流よりエジプトの川にいたるまでなんぢらを一一つにあつめたまふべし 13 その日大なるラッパ鳴ひびきアツスリヤの地にさすらひたる者 エジプトの地におひやられたる者 きたりてエルサレムの聖山にてエホバを拜むべし

28 酔るものなるエフライム人よなんぢらの誇の冠はわざはひなるかな 酒におぼるるものよ肥たる谷の首にある凋んとする花のうるはしき飾はわざはひなるかな 2 みよ主はひとりの力ある強剛者をもち給へり それは雹をまじへたる暴風のごとく壊りそこなふ狂風のごとく大水のあふれ漲るごとく烈しくかれを地になげうつべし 3 酔るものなるエフライム人のほこりの冠は足にて踐にじられん 4 肥たる谷のかしらにある凋んとする花のうるはしきかざりは 夏こぬに熟したる初結の無花果のごとし 見るものこれをみて取る手おそしと呑いるるなり 5 その日萬軍のエホバ その民ののこれる者のために榮のかんむりとなり美しき冠となり給はん 6 さばきの席にざするものには 審判の靈をあたへ軍を門よりおひかへす者には力をあたへ給ふべし 7 然どかれらも酒によりてよろめき濃酒によりてよろぼひたり 祭司と預言者とは濃酒によりてよろめき 酒にのまれ濃酒によりてよろぼひ 而して黙示をみるときにもよろめき審判をおこなふときにも躓けり 8 すべて膳には吐たるものと穢とみちて潔きところなし 9 かれは誰にをしへて知識をあたへんとするか 誰にしめして音信を曉らせんとするか

乳をたち懷をはなれたる者にするならんか **10** そは誠命にいましめをくはへ誠命にいましめをくはへ 度にのりをくはへ度にのりをくはへ 此にもすこしく彼にもすこしく教ふ **11** このゆゑに神あだし唇と異なる舌とをもてこの民にかたりたまはん **12** 曩にかれらに言たまひけるは此は安息なり疲困者にやすみをあたへよ 此は安慰なりと されど彼らは聞ことをせざりき **13** 斯るがゆゑにエホバの言かれらにくだりて誠命にいましめをくはへ誠命にいましめをくはへ 度にのりをくはへ度にのりをくはへ 此にもすこしく彼にも少しくをしへん 之によりて彼等すすみてうしろに仆れそこなはれ罣にかかりて捕へらるべし **14** なんぢら此エルサレムにある民ををさむるところの輕慢者よエホバの言をきけ **15** なんぢらは云り 我ら死と契約をたて陰府とちぎりをむすべり 漲りあふるる禍害のすぐるときわれらに來らじ そはわれら虚偽をもて避所となし欺詐をもて身をかしたればなりと (Sheol h7585) **16** このゆゑに神エホバかくいひ給ふ 視よわれシオンに一つの石をすゑてその基となせり これは試をへたる石たふとき隅石かたくすゑたる石なり これに依頼むものはあわつることなし **17** われ公平を準繩とし正義を錘とす 斯て雹はいつはりにてつくれる避所をのぞきさり水はその匿れたるところに漲りあふれん **18** 汝らが死とたてし契約はきえうせ陰府とむすべるちぎりは成ことなし されば漲り溢るるわざはひのすぐるとき汝等はこれに踐たふさるべし (Sheol h7585) **19** その過るごとになんぢらを捕へん 朝々にすぎ晝も夜もすぐ この音信をきき わきまふるのみにても慴きをるなり **20** その状は床みじかくして身をのぶることあた

はず衾せまくして身をおほふこと能はざるが如し 21
そはエホバ往昔ペラヂムの山にて起たまひしがごと
くにたち ギベオンの谷にて忿恚をはなちたまひしが
如くにいきどほり 而してその所爲をおこなひ給はん
奇しき所爲なり その工を成たまはん 異なる工なり
22 この故になんぢら侮るなかれ 恐くはなんぢらの縲
紲きびしくならん 我すでに全地のうへにさだまれる
敗亡あるよしを主萬軍のエホバより聞たればなり 23
なんぢら耳をかたぶけてわが聲をきけ 懇ろにわが言
をきくべし 24 農夫たねをまかんに何で日々たがへし
日々その地をすき その土塊をくだくことのみを爲ん
や 25 もし地の面をたひらかにせばいかで罌粟をまき
馬芹の種をおろし 小麥をうねにうゑ 大麥をさだめた
る處にうゑ 粗麥を畔にうゑざらんや 26 斯のごときは
かれの神これに智慧をあたへて教へたまへるなり 27
けしは連枷にてうたず 馬芹はそのうへに車輪をきし
らせず 罌粟をうつには杖をもちひ 馬芹をうつには棒
をもちふ 28 麥をくだくか否くるまにきしらせ馬にふ
ませて落すことはすれども斷ずしかするにあらず こ
れを碎くことをせざるべし 29 此もまた萬軍のエホバ
よりいづ その謀略はくすしくその智慧はすぐれたり
29 ああアリエルよアリエルよ ああダビデの營をか
まへたる邑よ としに年をくはへ節會まはりきたらば
2 われアリエルをなやまし之にかなしみと歎息とあら
しめん 彼をアリエルのごとき者となすべし 3 われ汝
のまはりに營をかまへ 保砦をきづきて汝をかこみ櫓
をたててなんぢを攻べし 4 かくてなんぢは卑くせら
れ 地にふしてものいひ塵のなかより低聲をいだして
かたらん 汝のこゑは巫女のこゑのごとく地よりいで

汝のことばは塵のなかより囀づるがごとし 5 然どなんぢのあだの群衆はこまやかなる塵の如く あらぶるものの群衆はふきさらるる糝糠の如くならん 俄にまたたく間にこの事あるべし 6 萬軍のエホバはいかづち地震 おほごゑ 暴風 つむじかぜ及びやきつくす火の燄をもて臨みたまふべし 7 斯てアリエルを攻てたかふ國々のもろもろ アリエルとその城とをせめたたかひて難ますものは みな夢のごとく夜のまぼろしの如くならん 8 饑たるものの食ふことを夢みて醒きたればその心なほ空しきがごとく 渴けるものの飲ことを夢みて醒きたれば疲れかつ頻にのまんことを欲するがごとく シオンの山をせめて戦ふくにぐにの群衆もまた然あらん 9 なんぢらためらへ而しておどろかん なんぢら放肆にせよ而して目くらまん かれらは酔りされど酒のゆゑにあらず かれらはよろめけりされど濃酒のゆゑにあらず 10 そはエホバ酣睡の靈をなんぢらの上にそそぎ 而してなんぢらの目をとち なんぢらの面をおほひたまへり その目は預言者そのかほは先知者なり 11 かかるが故にすべての黙示はなんぢらには封じたる書のことばのごとくなり 文字しれる人にわたして請これを讀といはん に答へて封じたるがゆゑによむこと能はずといはん 12 また文字しらぬ人にわたして請これをよめといはん にこたへて文字しらざるなりといはん 13 主いひ給はく この民は口をもて我にちかづき口唇をもてわれを敬へども その心はわれに遠かれり そのわれを畏みおそるるは人の誠命によりてをしへられしのみ 14 この故にわれこの民のなかにて再びくすしき事をおこなはん そのわざは奇しくしていとあやし かれらの中なる智者のちゑは

うせ聰明者のさときはかくれん 15 己がはかりごとを
エホバに深くかくさんとする者はわざはひなるかな
暗中にありて事をおこなひていふ 誰かわれを見んや
たれか我をしらんやと 16 なんぢらは曲れり いかで
陶工をみて土塊のごとくおもふ可んや 造られし者お
のれを作るものをさして我をつくれるにあらずと
いふをえんや 形づくられたる器はかたちづくりし者
をさして智慧なしといふを得んや 17 暫くしてレバノ
ンはかはりて良田となり 良田は林のごとく見ゆると
ききたるならずや 18 その日聾者はこの書のことばを
きき盲者の目はくらきより闇よりみることを得べし
19 謙だるものはエホバによりてその歡喜をまし 人の
なかの貧きものはイスラエルの聖者によりて快樂を
うべし 20 暴るものはたえ 侮慢者はうせ 邪曲の機を
うかがふ者はことごとく斷滅さるべければなり 21 か
れらは訟をきく時まげて人をつみし 邑門にていさむ
るものを謀略におとしいれ 虚しき語をかまへて義人
をしりぞく 22 この故にむかしアブラハムを贖ひたま
ひしエホバはヤコブの家につきて如此いひたまふ ヤ
コブは今より恥をかうむらず その面はいまより色を
うしなはず 23 かれの子孫はその中にわがおこなふ手
のわざをみん その時わが名を聖としヤコブの聖者を
聖としてイスラエルの神をおそるべし 24 心あやまれ
るものも知識をえ つぶやけるものも教誨をまなばん
30 エホバのたまはく 悖るる子輩はわざはひなるか
な かれら謀略をすれども我によりてせず 盟をむすべ
どもわが靈にしたがはず ますます罪につみをくはへ
ん 2 かれらわが口にとはずしてエジプトに下りゆき
パロの力をかりておのれを強くしエジプトの蔭によ

らん 3 パロのちからは反てなんぢらの恥となり エジプトの蔭によるは反てなんぢらの辱かしめとなるべし 4 かれの君たちはゾアンにあり かれの使者たちはハネスにきたれり 5 かれらは皆おのれを益することあたはざる民によりて恥をいやく かの民はたすけとならず益とならず かへりて恥となり謗となれり 6 南のかたの牲畜にかかる重負のよげん 曰く／＼かれらその財貨を若き驢馬のかたにおはせ その寶物を駱駝の背におはせて 牝獅 牡獅 まむし 及びとびかける蛇のいづる苦しみと艱難との國をすぎて 己をえきすること能はざる民にゆかん 7 そのエジプトの助はいたづらにして虚し このゆゑに我はこれを休みをるラハブとよべり 8 いま往てこれをその前にて牌にしるし書にのせ 後の世に傳へてとこしへに證とすべし 9 これは悖れる民いつはりをいふ子輩エホバの律法をきくことをせざる子輩なり 10 かれら見るものに對ひていふ見るなかれと 黙示をうる者にむかひていふ直きことを示すなかれ 滑かなることをかたれ虚偽をしめせ 11 なんぢら大道をさり逕をはなれ われらが前にイスラエルの聖者をあらしむるなかれと 12 此によりてイスラエルの聖者かくいひ給ふ なんぢらこの言をあなどり暴虐と邪曲とをたのみて之にたよれり 13 斯るがゆゑにこの不義なんぢらには凸出しておちんとするたかき垣のさけたところのごとく その破壊にはかに暫しが間にきたらんと 14 主これを破りあだかも陶工の瓶をくだきやぶるがごとくして惜みたまはず その碎のなかに爐より火をとり池より水をくむほどの一片だに見出すことなからん 15 主エホバ、イスラエルの聖者かくいひたまへり なんぢら立かへりて靜かに

せば救をえ 平穩にして依頼まば力をうべしと 然どなんぢらこの事をこのまざりき **16** なんぢら反ていへり 否われら馬のにりて逃走らんと この故になんぢら逃走らん 又いへりわれら疾きものに乗んと この故になんぢらを追もの疾かるべし **17** ひとり叱咤すれば千人にげはしり 五人しつたすればなんぢら逃走りて その遺るものは僅かに山嶺にある杆のごとく 岡のうへにある旗のごとくならん **18** エホバこれにより俟てのち恩恵を汝等にほどこし これにより上りてのちなんぢらを憐れみたまはん エホバは公平の神にましませり 凡てこれを俟望むものは福ひなり **19** シオンにをりエルサレムにをる民よ なんぢは再びなくことあらじ そのよばはる聲に應じて必ずなんぢに恵をほどこしたまはん 主ききたまふとき直にこたへたまふべし **20** 主はなんぢらになやみの糧とくるしみの水とをあたへ給はん なんぢを教るもの再びかくれじ 汝の目はその教るものを恒にみるべし **21** なんぢ右にゆくも左にゆくもその耳に これは道なりこれを歩むべしと後邊にてかたるをきかん **22** 又なんぢら白銀をおほひし刻める像 こがねをはりし鑄たる像をけがれとし 穢物のごとく打棄ていはん 去れと **23** なんぢが地にまく種に主は雨をあたへ また地になりいづる糧をたまふ その土産こえて豊かならん その日なんぢの家畜はひろき牧場に草をはむべし **24** 地をたがへす牛と驢馬とは團扇にてあふぎ箕にてとほし鹽をくはへたる飼料をくらはん **25** 大なる殺戮の日やぐらのたふるる時もろもろのたかき山もろもろのそびえたる嶺に河とみづの流とあるべし **26** かくてエホバその民のきずをつつみ そのうたれたる創痍をいやしたまふ日には月のひ

かりは日の光のごとく日のひかりは七倍をくはへて
七の日のひかりの如くならん 27 視よエホバの名はと
ほき所よりきたり そのはげしき怒はもえあがる焰の
ごとく その唇はいきどほりにてみち その舌はやきつ
くす火のごとく 28 その氣息はみなぎりて項にまでい
たる流のごとし 且ほろびの篩にてもろもろの國をふ
るひ又まどはす韁をもろもろの民の口におきたまは
ん 29 なんぢらは歌うたはん節會をまもる夜のごとし
なんぢらは心によろこばん笛をならしエホバの山に
きたりイスラエルの磐につくときの如し 30 エホバは
その稜威のこゑをきかしめ 烈しき怒をはなちて焼つ
くす火のほのほと暴風と大雨と雹とをもて その臂の
くだることを示したまはん 31 エホバのこゑによりて
アッスリヤ人はくじけん 主はこれを笞にてうち給ふ
べし 32 エホバの豫じめさだめたまへる杖をアッスリ
ヤのうへにくはへたまふごとに 鼓をならし琴をひか
ん 主はうごきふるふ戦闘をもてかれらとたたかひ給
ふべし 33 トペテは往古よりまうけられまた王のた
めに備へられたり これを深くしこれを廣くしここに
火とおほくの薪とをつみおきたり エホバの氣息これ
を硫黄のながれのごとくに燃さん

31 助をえんとてエジプトにくだり馬によりたのむ
ものは禍ひなるかな 戦車おほきが故にこれにたのみ
騎兵はなはだ強きがゆゑに之にたのむ されどイスラ
エルの聖者をあふがずエホバを求ることをせざるな
り 2 然はあれどもエホバもまた智慧あるべし かなら
ず禍害をくだしてその言をひるがへしたまはず 起て
あしきものの家をせめ また不義を行ふ者の助をせめ
給はん 3 かのエジプト人は人にして神にあらずその

馬は肉にして靈にあらず エホバその手をのばしたまはば助くるものも躓き たすけらるる者もたふれてみなひとしく亡びん 4 エホバ如此われにいひたまふ 獅のほえ壯獅の獲物をつかみてほえたければとき 許多のひつじかひ相呼つどひてむかひゆくとも その聲によりて挫けずその喧譁しきによりて臆せざるごとく 萬軍のエホバくだりてシオンの山およびその岡にて戦ひ給ふべし 5 鳥の雛をまもるがごとく 萬軍のエホバはエルサレムをまもりたまはん これを護りてこれをすくひ踰越てこれを援けたまはん 6 イスラエルの子輩よなんぢらさきには甚だしく主にそむけり 今たちかへるべし 7 なんぢらおのが手につくりて罪ををかしし 白銀のぐうごう黄金の偶像をその日おのおのなげすてん 8 愛にアツスリヤびとは劍にてたふれん されど人のつるぎにあらず 劍かれらをほろぼさん されど世の人のつるぎにあらず かれら劍のまへより逃はしりその壯きものは役丁とならん 9 かれらの警はおそれによりて逝去り その君たちは旗をみてくじけん こはエホバの御言なり エホバの火はシオンにあり エホバの爐はエルサレムにあり

32 茲にひとりの王あり 正義をもて統治め その君たちは公平をもて宰さどらん 2 また人ありて風のさけどころ 暴雨ののがれどころとなり 旱ける地にある水のながれのごとく 倦つかれたる地にある大なる岩陰の如くならん 3 見るものの目はくらまず 聞ものの耳はかたぶけきくをうべし 4 躁がしきものの心はひとりて知識をえ 吃者の舌はすみやけくあざやかに語るをうべし 5 愚かなる者はふたたび尊貴とよぼるることなく 狡猾なる者はふたたび大人とよぼるこ

となかるべし 6 そは愚なるものは愚なることをかたり その心に不義をかもし邪曲をおこなひ エホバにむかひて妄なることをかたり 饑たる者のこころを空しくし 渴けるものの飲料をつきはてしむ 7 狡猾なるものの用ゐる器はあしし 彼あしき企圖をまうけ 虚偽のことばをもて苦しむ者をそこなひ 乏しき者のかたること 正理なるも尚これを害へり 8 たふとき人はたふとき 謀略をまうけ 恒にたふとき事をおこなふ 9 安逸にをる婦等よ おきてわが聲をきけ 思煩ひなき女等よ わが言に耳を傾けよ 10 思煩ひなきをんなたちよ 一年あまりの日をすぎて 摺きあわてん そは葡萄の収穫むなく 果ををさむる期きたるまじければなり 11 やすらかにをる婦等よ ふるひおそれよ おもひわづらひなき者よ をのきあわてよ 衣をぬぎ裸體になりて 腰に籠服をまとへ 12 かれら良田のため 實りゆたかなる葡萄の樹のために 胸をうたん 13 棘と荊わが民の地にはえ 樂みの邑なるよろこびの家々にもはえん 14 そは殿はすてられ にぎはひたる邑はあれすたれ オペルと櫓とはとこしへに 洞穴となり 野の驢馬のたのしむところ 羊のむれの草はむところとなるべし 15 されど 遂には靈うへより我儕にそそぎて 荒野はよき田となり 良田は林のごとく見ゆるとききたらん 16 そのとき公平はあれのにすみ 正義はよき田にをらん 17 かくて正義のいさをは平和 せいぎのむすぶ果はとこしへの平隠とやすきなり 18 わが民はへいわの家にをり 思ひわづらひなき住所にをり 安らかなる休息所にをらん 19 されど まづ雹ふりて 林くだけ邑もことごとくたふるべし 20 なんぢらもろもろの水のほと

りに種をおろし 牛および驢馬の足をはなちおく者
はさいはひなり

33 禍ひなるかななんぢ害はれざるに人をそこなひ
欺かれざるに人をあざむけり なんぢが害ふこと終ら
ば汝そこなはれ なんぢが欺くことはてなば汝あざむ
かるべし **2** エホバよわれらを恵み給へわれらなんぢ
を俟望めり なんぢ朝ごとにわれらの臂となり また患
難のときにわれらの救となりたまへ **3** なりとどろく
聲によりてもろもろの民にげはしり なんぢの起たま
ふによりてもろもろの國はちりうせぬ **4** 蝨賊のもの
をはみつくすがごとく人なんぢらの財をとり盡さん
また蝗のとびつどふがごとく人なんぢらの財にとび
つどふべし **5** エホバは最たかし高處にすみたまふな
り エホバはシオンに公正と正義とを充せたまひたり
6 なんぢの代はかたくたち 救と智恵と知識とはゆた
かにあらん エホバをおそるるは國の寶なり **7** 視よか
れらの勇士は外にありてさけび 和をもとむる使者は
いたく哭く **8** 大路あれすたれて旅客たえ 敵は契約を
やぶり諸邑をなみし人をもののかずとせず **9** 地はう
れへおとろへ レバノンに恥らひて枯れ シヤロンはア
ラバの如くなり バシヤンとカルメルとはその葉をお
とす **10** エホバ言給はく われ今おきん今たたん 今み
づからを高くせん **11** なんぢらの孕むところは枇糠の
ごとく なんぢらの生ところは藁のごとし なんぢらの
氣息は火となりてなんぢらを食ひつくさん **12** もろも
ろの民はやかれて灰のごとくなり 荊のきられて火に
もやされたるが如くならん **13** なんぢら遠にあるもの
よわが行ひしことをきけ なんぢら近にあるものよ
わが能力をしれ **14** シオンの罪人はおそる 戦慄はよ

こしまなる者にのぞめり われらの中たれか焼つくす
火に止ることを得んや 我儕のうち誰かとこしへに焼
るなかに止るをえんや **15** 義をおこなふもの直をかた
るもの虐げてえたる利をいとひすつもの手をふり
て賄賂をとらざるもの 耳をふさぎて血をながす謀略
をきかざるもの 目をとちて悪をみざる者 **16** かかる
人はたかき處にすみ かたき磐はその櫓となり その糧
はあたへられその水はともしきことなからん **17** なん
ぢの目はうるはしき状なる王を見 とほくひろき國を
みるべし **18** 汝の心はかの懼しかりしことどもを思ひ
いでん 會計せし者はいつくにありや 貢をはかりし者
はいつくにありや 櫓をかぞへし者はいつくにありや
19 汝ふたたび暴民をみざるべし かの民の言語はふか
くして悟りがたくその舌は異にして解がたし **20** われ
らの節會の邑シオンを見よ なんぢの目はやすらかな
る居所となれるエルサレムを見ん エルサレムはうつ
さることなき幕屋にして その杙はとこしへにぬか
れず その繩は一すぢだに斷れざるなり **21** エホバ我
らとともに彼處にいまして稜威をあらはし給はん 斯
てそのところはひろき川ひろき流あるところとなり
て その中には漕舟もいらず巨艦もすぐることなかる
べし **22** エホバはわれらを鞫きたまふもの エホバは
われらに律法をたてたまひし者 エホバはわれらの王
にましまして我儕をすくひ給ふべければなり **23** なん
ぢの船纜はとけたり その桅杆のもとを結びかたむる
ことあたはず 帆をあぐることあたはず その時おほく
の財をわかち跛者までも掠物あらん **24** かしこに住る
ものの中われ病りといふ者なし彼處にをる民の咎は
ゆるされん

34 もろもろの國よちかづきてきけ もろもろの民よ
耳をかたぶけよ 地と地にみつるもの世界とせかいよ
り出るすべての者きけ **2** エホバはよろづの國にむか
ひて怒り そのよろづの軍にむかひて忿恚り かれらを
ことごとく滅し かれらを屠らしめたまふ **3** かれらは
殺されて抛棄られ その屍の臭氣たちのぼり山はその
血にて融されん **4** 天の萬象はきえうせ もろもろの天
は書卷のごとくにまかれん その萬象のおつるは葡萄
の葉のおつるがごとく無花果のかれたる葉のおつる
が如くならん **5** わが劍は天にてうるほひたり 視よエ
ドムの上にくだり滅亡に定めたる民のうへにくだり
て之をさばかん **6** エホバの劍は血にてみち脂にてこ
え小羊と山羊との血 牡羊の腎のあぶらにて肥ゆ エホ
バはボズラにて牲のけものをころしエドムの地にて
大にほふることをなし給へり **7** その屠場には野牛 こ
うし 牡牛もともに下る そのくには血にてうるほされ
その塵はあぶらにて肥さるべし **8** こはエホバの仇を
かへしたまふ日にしてシオンの訟のために報をなし
たまふ年なり **9** エドムのもろもろの河はかはりて樹
脂となり その塵はかはりて硫磺となり その土はかは
りてもゆる樹脂となり **10** 晝も夜もきえずその烟つく
る期なく上騰らん かくて世々あれすたれ永遠までも
その所をすぐる者なかるべし **11** 鶉と刺猬とそこを己
がものとなし鷲と鴉とそこにすまん エホバそのうへ
に亂をおこす繩をはり空虛をきたらする錘をさげ給
ふべし **12** 國をつぐべき者をたてんとて貴者ふたたび
呼集ることをせじ もろもろの諸侯はみな失てなくな
るべし **13** その殿にはことごとく荊はえ 城にはこと
ごとく刺草と薊とはえ 野犬のすみか駝鳥の場となら

ん 14 野のけものと豺狼とここにあひ 牡山羊その友
をよび 鴟鵂もまた宿りてここを安所とせん 15 蛇こ
こに穴をつくり卵をうみてこれを孚しおのれの影の
下に子をあつむ 鳶もまたその偶とともに此處にあつ
まらん 16 なんぢらエホバの書をつまびらかにたづね
て讀べし これらのもの一つも缺ることなく又ひとつ
もその偶をかくものあらじ そはエホバの口このこと
を命じ その靈これらを集めたまふべければなり 17
エホバこれらのものに鬪をひかせ手づから繩をもて
量り この地をわけあたへて永くかれらに保たしめ 世
々にいたるまでここに住しめたまはん

35 荒野とうるほひなき地とはたのしみ 沙漠はよろ
こびて番紅の花のごとくに咲かがやかん 2 盛に咲か
がやきてよろこび且よろこび且うたひ レバノンの榮
をえカルメルおよびシヤロンの美しきを得ん かれら
はエホバのさかえを見われらの神のうるはしきを見
るべし 3 なんぢら萎たる手をつよくし弱りたる膝を
すこやかにせよ 4 心さわがしきものに對ていへ なん
ぢら雄々しかれ懼るるなかれ なんぢらの神をみよ 刑
罰きたり神の報きたらん 神きたりてなんぢらを救ひ
たまふべし 5 そのとき瞽者の目はひらけ聾者の耳は
あくことを得べし 6 そのとき跛者は鹿の如くにとび
はしり啞者の舌はうたうたはん そは荒野に水わきい
で沙漠に川ながるべければなり 7 やけたる沙は池と
なり うるほひなき地はみづの源となり 野犬のふした
るすみかは蘆葦のしげりあふ所となるべし 8 かしこ
に大路あり そのみちは聖道となへられん 穢れたる
ものはこれを過ることあたはず ただ主の民のために
備へらる これを歩むものはおろかなりとも迷ふこと

なし 9 かしこに獅をらず あらき獸もその路にのぼることなし 然ばそこにて之にあふ事なかるべし ただ贖はれたる者のみそこを歩まん 10 エホバに贖ひすくはれし者うたうたひつつ歸てシオンにきたり その首にとこしへの歡喜をいただき樂とよろこびとをえん 而して悲哀となげきとは逃さるべし

36 ヒゼキヤ王の十四年にアツスリヤの王セナケリブ上りきたりてユダのもろもろの堅固なる邑をせめとれり 2 アツスリヤ王ラキシよりラブシャケをエルサレムに遣はし大軍をひきゐてヒゼキヤ王のもとに往しむ ラブシャケ漂工の野のおほぢの傍なる上の池の樋にそひてたてり 3 この時ヒゼキヤの子なる家司エリアキム 書記セブナ、アサフの子なる史官ヨア出てこれを迎ふ 4 ラブシャケかれらにいひけるは なんぢら今ヒゼキヤにいへ大王アツスリヤの王かくいへり なんぢの恃とするその恃むところは何なるか 5 我いふ なんぢが説ところの軍のはかりごととその能力とはただ口唇のことばのみ 今なんぢ誰によりたのみて我にさかふことをなすや 6 視よなんぢエジプトに依頼めり これ傷める葦の杖によりたのめるがごとしもし人これに倚もたれなばその手をつきさされん エジプト王パロがすべて己によりたのむものに對するは斯のごとし 7 汝われらはわれらの神エホバに依頼めりと我にいはんかそは曩にヒゼキヤが高きところと祭壇とをみな取去てユダとエルサレムとにむかひ汝等ここなる一つの祭壇のまへにて拜すべしといへる夫ならずや 8 いま請わが君アツスリヤ王に賭をせよ われ汝に二千の馬を與ふべければ汝よりこれに乗ものをいだせ果して出しうべしや 9 然ばいかで我君

のいとちひさき僕の長一人をだに退くることを得んや
なんぞエジプトによりたのみて戦車と騎兵とをえんとするや
10 いま我のぼりきたりてこの國をせめほるぼすはエホバの旨にあらざるべけんや エホバわれにいひたまはく
のぼりゆきてこの國をせめほるぼせと **11** 爰にエリアキムとセブナとヨアと共にラブシヤケにいひけるは請スリアの方言にて僕輩にかたれ我儕これをさとりうるなり石垣のうへなる民のきくところにてはユダヤの方言をもてわれらに語るなかれ
12 ラブシヤケいひけるはわが君はこれらのことをなんぢの君となんぢとにのみ語らんために我をつかはししならんや
なんぢらと共におのが糞をくらひおのが溺をのまんとする石垣のうへに坐する人々にも我をつかはししならずや
13 斯てラブシヤケたちてユダヤの方言もて大聲によばはりいひけるは なんぢら大王アツスリヤ王のことばをきくべし **14** 王かくのたまへり
なんぢらヒゼキヤに惑はさるるなかれ 彼なんぢらを救ふことあたはず **15** ヒゼキヤがなんぢらをエホバに頼しめんとする言にしたがふなかれ 彼いへらく
エホバかならず我儕をすくひこの邑はアツスリヤ王の手にわたさるることなしと **16** ヒゼキヤに聽従ふなかれ
アツスリヤ王かくのたまへり なんぢらわれと親和をなし出できたりて我にくだれ
おのおのその葡萄とその無花果とをくらひ かのおのその井の水をのむことを得べし **17** 遂には我きたりて汝等をほかの國にたづさへゆかん
その國はなんぢの國のごとき國にして穀物 ぶどう酒 パンおよび葡萄園あり **18** おそらくはをヒゼキヤなんぢらに説てエホバわれらを救ふべしといはん
然どももろもろの國の神等のなかにその

國をアッスリヤ王の手より救へる者ありしや **19** ハマテ、アルバデの神等いづこにありや セバルワイムの神等いづこにありや 又わが手よりサマリヤを救出しし神ありや **20** これらの國のもろもろの神のなかに誰かその國をわが手よりすくひいだしし者ありや さればエホバも何でわが手よりエルサレムを救ひいだし得んと **21** 如此ありければ民は黙して一言をもこたへざりき そは之にこたふるなかれとの王のおほせありつればなり **22** そのときヒルキヤの子なる家司エリアキム書記セブナおよびアサフの子なる史官ヨアころもを裂てヒゼキヤにゆき之にラブシヤケの言をつけたり

37 ヒゼキヤ王これをききてその衣をさき麓衣をまとひてエホバの家²にゆき **2** 家司エリアキム書記セブナおよび祭司のなかの長老等をして皆あらたへをまとはせてアモツの子預言者イザヤのもとにゆかしむ **3** かれらイザヤにいひけるは ヒゼキヤ如此いへりけふは患難と責と辱かしめの日なり そは子うまれんとして之をうみいだすの力なし **4** なんぢの神エホバあるひはラブシヤケがもろもろの言をききたまはん 彼はその君アッスリヤ王につかはされて活る神をそしれり なんぢの神エホバその言をききて或はせめたまふならん されば請なんぢこの遺れるもののために祈禱をささげよと **5** かくてヒゼキヤ王の諸僕イザヤにいたる **6** イザヤかれらに言けるは なんぢらの君につげよ エホバ斯いひたまへり曰く アッスリヤ王のしもべら我をののしりけがせり なんぢらその聞しことばによりて懼るるなかれ **7** 視よわれかれが意をうごかさべければ 一つの風聲をききておのが國にかへらん

かれをその國にて劍にたふれしむべし 8 爰にラブシヤケはアツスリヤ王がラキシを離れさりしとききて歸りけるとき際しも王はリブナを攻をれり 9 このときエテオピアの王テルハカの事についてきけり云くかれいでて汝とたたかふべしと このことをききて使者をヒゼキヤに遣していふ 10 なんぢらユダの王ヒゼキヤにつげて如此いへ なんぢが頼める神なんぢを欺きてエルサレムはアツスリヤ王の手にわたされじといふを聽ことなかれ 11 視よアツスリヤの王等もろもろの國にいかなることをおこなひ如何してこれを悉くほろぼししかを汝ききしならん されば汝すくはることを得んや 12 わが先祖たちの滅ぼししゴザン、ハラン、レゼフおよびテラサルなるエデンの族など此等のくにぐにの神はその國をすくひたりしや 13 ハマテの王アルバデの王セバルワイムの都の王ヘナの王およびイワの王はいづこにありやと 14 ヒゼキヤつかひの手より書をうけて之を讀り しかしてヒゼキヤ、エホバの宮にのぼりゆきエホバの前にこのふみを展ぶ 15 ヒゼキヤ、エホバに祈ていひけるは 16 ケルビムの上に坐したまふ萬軍のエホバ、イスラエルの神よ ただ汝のみ地のうへなるよろづの國の神なり なんぢは天地をつくりたまへり 17 エホバよ耳をかたむけて聽たまへ エホバよ目をひらきて視たまへ セナケリブ使者して活る神をそしらしめし言をことごとくききたまへ 18 エホバよ實にアツスリヤの王等はもろもろの國民とその地とをあらし毀ち 19 かれらの神たちを火になげいれたり これらのものは神にあらず人の手の工にして あるひは木あるひは石なり 斯るがゆゑに滅ぼされたり 20 さればわれらの神エホバよ 今

われらをアッスリヤ王の手より救ひいだして 地のも
ろもろの國にただ汝のみエホバなることを知しめた
まへ **21**ここにアモツの子イザヤ人をつかはしてヒゼ
キヤにいはせけるは イスラエルの神エホバかくいひ
たまふ 汝はアッスリヤ王セナケリブのことにつきて
我にいのれり **22**エホバが彼のことに つきて語り給へ
るみことばは是なり いはくシオンの處女はなんぢを
侮りなんぢをあざけり エルサレムの女子はなんぢの
背後より頭をふれり **23**汝がそしりかつ罵れるものは
誰ぞ なんぢが聲をあげ目をたかく向てさからひたる
ものはたれぞ イスラエルの聖者ならずや **24**なんぢ
その使者によりて主をそしりていふ 我はおほくの戦
車をひきみて山々のいただきに登りレバノンの奥に
までいりぬ 我はたけたかき香柏とうるはしき松樹と
をきり またその境なるたかき處にゆき腴たる地の林
にゆかん **25**我は井をほりて水をのみたり われは足
跡をもてエジプトの河々をからさんと **26**なんぢ聞ず
や これらのことはわが昔よりなす所 いにしへの日よ
りさだめし所なり 今なんぢがこの堅城をこぼちあら
して石堆となすも亦わがきたらしし所なり **27**そのな
かの民はちから弱くをののきて恥をいだき 野草のご
とく青き菜のごとく屋蓋の草のごとく未だそだたざ
る苗のごとし **28**我なんぢが居ること出入すること又
われにむかひて怒りさけべることをする **29**なんぢが
我にむかひて怒りさけべると汝がほこれる言とわが
耳にいりたれば我なんぢの鼻に環をはめ汝のくちび
るに鑣をつけて汝がきたれる路よりかへらしめん **30**
ヒゼキヤよ我がなんぢにたまふ徴はこれなり なんぢ
ら今年は落穂より生たるものを食ひ 明年は蘘生より

出たるものを食はん 三年にあたりては種ことをなし
收ことをなし 葡萄ぞのを作りてその果を食ふべし 31
ユダの家ののがれて遺れる者はふたたび下は根をは
り上は果を結ぶべし 32 そは遺るものはエルサレムよ
りいで脱るるものはシオンの山よりいづるなり 萬軍
のエホバの熱心これを成たまふべし 33 この故にエホ
バ、アツスリヤの王については如此いひたまふ 彼は
この城にいらす ここに箭をはなたず盾を城のまへに
ならべす 壘をきづきて攻ることなし 34 かれはその
きたりし道よりかへりてこの城にいらす 35 我おのれ
の故によりて僕ダビデの故によりて この城をまもり
この城をすくはん これエホバ宣給るなり 36 エホバ
の使者いできたりアツスリヤの陣營のなかにて十八
萬五千人をうちころせり早晨におきいでて見ればみ
な死てかばねとなれり 37 アツスリヤ王セナケリブ起
てかへりゆきニネベにとどまる 38 一日おのが神ニス
ロクのみやにて禮拜をなし居しにその子アデランメ
レクとシヤレゼルと劍をもて彼をころし而してアラ
ラテの地ににげゆけり かれが子エサルハドンつぎて
王となりぬ

38 そのころヒゼキヤやみて死んとせしにアモツの
子預言者イザヤきたりて彼にいふ エホバ如此いひた
まはく なんぢ家に遺言をとどめよ 汝しにて活ること
あたはざればなり 2 爰にヒゼキヤ面を壁にむけてエ
ホバに祈りいひけるは 3 ああエホバよ 願くはわがな
んぢの前に眞實をもて一心をもてあゆみ なんぢの目
によきことを行ひたるをおもひいでたまへ 斯てヒゼ
キヤ甚くなきぬ 4 エホバの言イザヤにのぞみて曰く
5 なんぢ往てヒゼキヤにいへ なんぢの祖ダビデの神

エホバかくいひ給はく 我なんぢの禱告をききなんぢ
の涙をみたり 我なんぢの齡を十五年ましくはへ 6 且
なんぢとこの城とを救ひてアツスリヤわうの手をの
がれしめん又われこの城をまもるべし 7 エホバ語り
たまひたる此事を成たまふ證にこの徴をなんぢに賜
ふ 8 視よわれアハズの日晷にすすみたる日影を十度
しりぞかしめんといひければ乃ちひばかりにすすみ
たる日影十度しりぞきぬ 9 ユダの王ヒゼキヤ病にか
かりてその病のいえしのち記しし書は左のごとし 10
我いへり わが齡ひの全盛のとき陰府の門にいりわが
餘年をうしなはんと (Sheol h7585) 11 我いへり われ再び
エホバを見奉ることあらじ再びいけるものの地にて
エホバを見奉ることあらじ われは無ものの中にいり
てふたび人を見ることあらじ 12 わが住所はうつさ
れて牧人の幕屋をとりさるごとくに我をはなる わが
いのちは織工の布をまきをはりて機より翦はなすご
とくならん なんぢ朝夕のあひだに我をたえしめたま
はん 13 われは天明におよぶまで己をおさへてしづめ
たり 主は獅のごとくに我もろもろの骨を碎きたまふ
なんぢ朝夕の間にわれを絶しめたまはん 14 われは燕
のごとく鶴のごとくに哀みなき鳩のごとくにうめき
わが眼はうへを視ておとろふ エホバよわれは迫りく
るしめらる 願くはわが中保となりたまへ 15 主はわ
れともいひ且そのごとくみづから成たまへり われ
何をいふべきか わが世にある間わが靈魂の苦しめる
故によりて慎みてゆかん 16 主よこれらの事によりて
人は活るなり わが靈魂のいのちも全くこれらの事
によるなり 願くはわれを醫しわれを活したまへ 17 視
よわれに甚しき艱苦をあたへたまへるは我に平安を

えしめんがためなり 汝わがたましひを愛して滅亡の
穴をまぬかれしめ給へり そはわが罪をことごとく背
後にすてたまへり **18** 陰府はなんちに感謝せず 死は
なんちを讚美せず 墓にくだる者はなんちの誠實をの
ぞまず (Sheol h7585) **19** 唯いけるもののみ活るものこそ
汝にかんしやするなれ わが今日かんしやするが如し
父はなんちの誠實をその子にしらしめん **20** エホバ我
を救ひたまはん われら世にあらんかぎりエホバのい
へにて琴をひきわが歌をうたはん **21** イザヤいへらく
無花果の一團をとりきたりて腫物のうへにつけよ 王
かならずいえん **22** ヒゼキヤも亦いへらく わがエホ
バの家へのぼることにつきては何の兆あらんか

39 そのころバラダンの子バビロン王メロダクバラ
ダン、ヒゼキヤが病をうれへて愈しことをききけれ
ば書と禮物とおくれり **2** ヒゼキヤその使者のきた
るによりて喜びこれに財物 金銀 香料 たふとき油を
をさめたる家およびすべての軍器ををさめたる家ま
た庫のなかなる物をことごとく見す おほよそヒゼキ
ヤのいへの裏にあるものと全國のうちにあるものと
見せざるものは一もあらざりき **3** ここに預言者イザ
ヤ、ヒゼキヤ王のもとに來りていひけるは この人々
はなにをいひしや何處よりなんちのもとに來りしや
ヒゼキヤ曰けるは かれらはとほき國よりバビロンよ
り我にきたれり **4** イザヤいふ 彼等はなんちの家にて
なにを見たりしや ヒゼキヤ答ふ かれらはわが家にあ
るものを皆みたり又わが庫のなかにあるものは一つ
をもかれらに見せざるものなかりき **5** イザヤ、ヒゼ
キヤにいふ なんち萬軍のエホバの言をきけ **6** みよ日
きたらん なんちの家のものなんちの列祖がけふまで

蓄へたるものは皆バビロンにたづさへゆかれて遺るもの一もなかるべし 是はエホバのみことばなり 7 なんぢの身より生れいでん者もとらはれ寺人とせられてバビロン王の宮のうちにあらん 8 ヒゼキヤ、イザヤにいひけるは 汝がかたるエホバのみことばは善し また云わが世にあるほどは太平と眞理とあるべしと

40 なんぢらの神いひたまはく なぐさめよ汝等わが民をなぐさめよ 2 懇ろにエルサレムに語り之によばはり告よ その服役の期すでに終り その咎すでに赦されたり そのもろもろの罪によりてエホバの手よりうけしところは倍したりと 3 よばはるものの聲きこゆ云く なんぢら野にてエホバの途をそなへ沙漠にわれらの神の大路をなほくせよと 4 もろもろの谷はたかくもろもろの山と岡とはひくくせられ 曲りたるはなほく崎嶇はたひらかにせらるべし 5 斯てエホバの榮光あらはれ人みな共にこれを見ん こはエホバの口より語りたまへるなり 6 聲きこゆ云く よばはれ答へていふ何とよばはるべきか いはく人はみな草なり その榮華はすべて野の花のごとし 7 草はかれ花はしぼむエホバの息そのうへに吹ければなり 實に民はくさなり 8 草はかれ花はしぼむ 然どわれらの神のことばは永遠にたたん 9 よき音信をシオンにつたふる者よ なんぢ高山にのぼれ 嘉おとづれをエルサレムにつたふる者よ なんぢ強く聲をあげよ こゑを揚ておそるるなかれ ユダのもろもろの邑につけよ なんぢらの神きたり給へりと 10 みよ主エホバ能力をもちて來りたまはん その臂は統治めたまはん 賞賜はその手にありはたらきの値はその前にあり 11 主は牧者のごとくその群をやしなひ その臂にて小羊をいだき之をその懐中

にいらてたづさへ乳をふくまする者をやはらかに導きたまはん **12** たれか掌心をもてもろもろの水をはかり指をのぼして天をはかり また地の塵を量器にもり天秤をもてもろもろの山をはかり權衡をもてもろもろの岡をはかりしや **13** 誰かエホバの靈をみちびきその議士となりて教しや **14** エホバは誰とともに議りたまひしや たれかエホバを聴くしこれに公平の道をまなばせ知識をあたへ明通のみちを示したりしや **15** 視よもろもろの國民は桶のひとしづくのごとく 權衡のちりのごとくに思ひたまふ島々はたちのぼる塵埃のごとし **16** レバノンには柴にたらずそのなかの獸は燔祭にたらず **17** エホバの前にはもろもろの國民みななきにひとし エホバはかれらを無もののごとく空きもののごとく思ひたまふ **18** 然ばなんぢら誰をもて神にくらべいかなる肖像をもて神にたぐふか **19** 偶像はたくみ鑄てつくり 金工こがねをもて之をおほひ白銀をもて之がために鏈をつくれり **20** かかる寶物をそなへえざる貧しきものは朽まじき木をえらみ良匠をもとめてうごくことなき像をたたしむ **21** なんぢら知ざるか なんぢら聞ざるか 始よりなんぢらに傳へざりしか なんぢらは地の基をおきしときより悟らざりしか **22** エホバは地のはるか上にすわり地にすむものを蝗のごとく視たまふ おほぞらを薄絹のごとく布き これを住ふべき幕屋のごとくはり給ふ **23** 又もろもろの君をなくならしめ地の審士をむなしくせしむ **24** かれらは僅かに植られ僅かに播れ その幹わづかに地に根ざししに 神そのうへを吹たまへば即ちかれて藁のごとく暴風にまきさらるべし **25** 聖者いひ給はくさらばなんぢら誰をもて我にくらべ我にたぐふか **26** なんぢら

眼をあげて高をみよ たれか此等のものを創造せしや
をおもへ 主は數をしらべてその萬象をひきいだしお
のおのの名をよびたまふ 主のいきほひ大なり その力
のつよきがゆゑに一も缺ることなし 27 ヤコブよなん
ぢ何故にわが途はエホバにかくれたりといふや イス
ラエルよ汝なにゆゑにわが訟はわが神の前をすぎさ
れりとかたるや 28 汝しらざるか聞ざるかエホバはと
こしへの神地のはての創造者にして倦たまふことな
く また疲れたまふことなく その聰明こと測りがたし
29 疲れたるものには力をあたへ勢力なきものには強
きをまし加へたまふ 30 年少きものもつかれてうみ壯
んなるものも衰へおとろふ 31 然はあれどエホバを俟
望むものは新なる力をえん また驚のごとく翼をはり
てのぼらん 走れどもつかれず歩めども倦ざるべし

41 もろもろの島よわがまへに黙せ もろもろの民よ
あらたなる力をえて近づききたれ 而して語れ われら
寄集ひて諭らはん 2 たれか東より人をおこししやわ
れは公義をもて之をわが足下に召し その前にもろも
ろの國を服せしめ また之にもろもろの王ををさめし
め かれらの劍をちりのごとくかれらの弓をふきさら
るる藁のごとくならしむ 3 斯て彼はこれらのものを
追 その足いまだ行ざる道をやすらかに過ゆけり 4 こ
のことは誰がおこなひしや たが成しや たが太初より
世々の人をよびいだししや われエホバなり 我ははじ
めなり終なり 5 もろもろの島はこれを見ておそれ地
の極はをのきて寄集ひきたれり 6 かれら互にその
隣をたすけ その兄弟にいひけるは なんぢ雄々しかれ
7 木匠は鐵工をはげまし鎚をもて平らぐるものは鐵礎
をうつものを勵ましていふ 接合せいとよしと また釘

をもて堅うして揺くことなからしむ **8** 然どわが僕イスラエルよ わが選めるヤコブわが友アブラハムの裔よ **9** われ地のはてより汝をたづきへきたり地のはしよりなんぢを召かくて汝にいへり 汝はわが僕われ汝をえらみて棄ざりきと **10** おそるるなかれ 我なんぢとともにあり 驚くなかれ我なんぢの神なり われなんぢを強くせん 誠になんぢを助けん 誠にわがただしき右手なんぢを支へん **11** 視よなんぢにむかひて怒るものはみな恥をえて惶てふためかん なんぢと争ふものは無ものごとくなりて滅亡せん **12** なんぢ尋ねるとも汝とたたかふ人々にあはざるべし 汝といくさする者はなきものの如くなりて虚しくなるべし **13** そは我エホバなんぢの神はなんぢの右手をとりて汝にいふ 懼るるなかれ我なんぢを助けんと **14** またエホバ宣給ふ なんぢ虫にひとしきヤコブよイスラエルの人よ おそるるなかれ我なんぢをたすけん 汝をあがなふものはイスラエルの聖者なり **15** 視よわれ汝をおほくの鋭齒ある新しき打麥の器となさん なんぢ山をうちて細微にし岡を糝糠のごとくにすべし **16** なんぢ簸げば風これを巻さり 狂風これを吹ちらさん 汝はエホバによりて喜びイスラエルの聖者によりて誇らん **17** 貧しきものと乏しきものと水を求めて水なくその舌かわきて衰ふるとき われエホバ聽てこたへん 我イスラエルの神かれらを棄ざるなり **18** われ河をかぶろの山にひらき泉を谷のなかにいだし また荒野を池となし乾ける地を水の源と變ん **19** 我あれのに香柏 合歡樹 もちの樹 および油の樹をうゑ 沙漠に松 杉 及び黄楊とともに置ん **20** かくて彼等これを見てエホバの手の作たまふところイスラエルの聖者の造り給ふ所なるをし

り且ころをとめ且ともどもにさとらん 21 エホバ言
給く なんぢらの道理をとり出せ ヤコブの王いひたま
はく 汝等のかたき證をもちきたれ 22 これを持來り
てわれらに後ならんとする事をしめせ そのいやさき
に成るべきことを示せ われら心をとめてその終をし
らん 或はきたらんとする事をわれらに聞すべし 23
なんぢら後ならんとすることをしめせ我儕なんぢら
が神なることを知らん なんぢら或はさいはひし或は
わざはひせよ 我儕ともに見ておどろかん 24 視よな
んぢらは無もののごとし なんぢらの事はむなし なん
ぢらを撰ぶものは憎むべきものなり 25 われ一人を起
して北よりきたらせ我が名をよぶものを東よりきた
らしむ 彼きたりもろもろの長をふみて泥のごとくに
し陶工のつちくれを踐がごとくにせん 26 たれか初よ
りこれらの事をわれらに告てしらしめたりや たれか
上古よりわれらに告てこは是なりといはしめたりや
一人だに告るものなし一人だに聞するものなし 一人
だになんぢらの言をきくものなし 27 われ豫じめシオ
ンにいはん なんぢ視よ かれらを見よと われ又よき
おとづれを告るものをエルサレムに予へん 28 われ見
るに一人だになし かれらのなかに謀略をまうくるも
の一人だになし 我かれらに問どこたふるもの一人だ
になし 29 かれらの爲はみな徒然にして無もののごと
し その偶像は風なりまた空しきなり

42 わが扶くるわが僕わが心よろこぶわが撰人をみ
よ 我わが靈をかれにあたへたり かれ異邦人に道をし
めすべし 2 かれは叫ぶことなく聲をあぐることなく
その聲を街頭にきこえしめず 3 また傷める蘆ををる
ことなくほのくらき燈火をけすことなく 眞理をもて

道をしめさん 4 かれは衰へず喪膽せずして道を地に
たてをはらん もろもろの島はその法言をまちのぞむ
べし 5 天をつくりてこれをのべ 地とそのうへの産物
とをひらき そのうへの民に息をあたへ その中をあゆ
むものに靈をあたへたまふ神エホバかく言給ふ 6 云
くわれエホバ公義をもてなんぢを召たり われなんぢ
の手をとり汝をまもり なんぢを民の契約とし異邦人
のひかりとなし 7 而して瞽の目を開き俘囚を獄より
いだし 暗にすめるものを檻のうちより出さしめん 8
われはエホバなり是わが名なり 我はわが榮光をほか
の者にあたへず わがほまれを偶像にあたへざるなり
9 さきに預言せるところはや成れり 我また新しきこ
とをつげん 事いまだ兆さざるさきに我まづなんぢら
に聞せんと 10 海にうかぶもの 海のなかに充るもの
もろもろの島およびその民よ エホバにむかひて新し
き歌をうたひ 地の極よりその頌美をたたへまつれ 11
荒野とその中のもろもろの邑とケダル人のすめるも
ろもろの村里はこゑをあげよ セラの民はうたひて山
のいただきよりよばはれ 12 榮光をエホバにかうぶら
せ その頌美をもろもろの島にて語りつげよ 13 エホ
バ勇士のごとく出たまふ また戦士のごとく熱心をお
こし 聲をあげてよばはり大能をあらはして仇をせめ
給はん 14 われ久しく聲をいささず黙して己をおさへ
たり 今われ子をうまんとする婦人のごとく叫ばん 我
いきづかしくかつ喘がん 15 われ山と岡とをあらし且
すべてその上の木草をからし もろもろの河を島とし
もろもろの池を涸さん 16 われ瞽者をその未だしらざ
る大路にゆかしめ その未だしらざる徑をふましめ 暗
をその前に光となし 曲れるをその前になほくすべし

我これらの事をおこなひて彼らをすてじ 17 刻みたる
偶像にたのみ鑄たる偶像にむかひて汝等はわれらの
神なりといふものは退けられて大に恥をうけん 18 聾
者よきけ 瞽者よ眼をそそぎてみよ 19 瞽者はたれぞ
わが僕にあらずや 誰かわがつかはせる使者の如き瞽
者あらんや 誰かわが友の如きめしひあらんや 誰かエ
ホバの僕のごときめしひあらんや 20 汝おほくのこ
を見れども顧みず 耳をひらけども聞ざるなり 21 エ
ホバおのれ義なるがゆゑに大にしてたふとき律法を
たまふをよるこび給へり 22 然るにこの民はかすめら
れ奪はれて みな穴中にとらはれ獄のなかに閉こめら
る 斯てその掠めらるるを助くる者なく その奪はれた
るを償へといふ者なし 23 なんぢらのうち誰かこのこ
とに耳をかたぶけん たれか心をもちゐて後のために
之をきかん 24 ヤコブを奪はせしものは誰ぞ かすむ
る者にイスラエルをわたしし者はたれぞ 是エホバに
あらずや われらエホバに罪ををかし その道をあゆま
ず その律法にしたがふことを好まざりき 25 この故
にエホバ烈しき怒をかたぶけ 猛きいくさをきたらせ
その烈しきこと火の如く四圍にもゆれども彼しらず
その身に焚せまれども心におかざりき

43 ヤコブよなんぢを創造せるエホバいま如此いひ
給ふ イスラエルよ汝をつくれるもの今かく言給ふ お
そるなかれ我なんぢを贖へり 我なんぢの名をよべ
り汝はわが有なり 2 なんぢ水中をすぐるときは我と
もにあらん河のなかを過るときは水なんぢの上にあ
ふれじ なんぢ火中をゆくとき焚ることなく火焰も
また燃つかじ 3 我はエホバなんぢの神イスラエルの
聖者 なんぢの救主なり われエジプトを予えてなんぢ

の贖代となし エテオピアとセバとをなんぢに代ふ 4
われ見てなんぢを寶とし尊きものとして亦なんぢを
愛す この故にわれ人をもてなんぢにかへ 民をなんぢ
の命にかへん 5 懼るるなかれ我なんぢとともにあり
我なんぢの裔を東よりきたらせ西より汝をみつむべ
し 6 われ北にむかひて釋せといひ南にむかひて留る
なかれといはん わが子輩を遠きよりきたらせ わが女
らを地の極よりきたらせよ 7 すべてわが名をもて稱
へらるる者をきたらせよ 我かれらをわが榮光のため
に創造せり われ曩にこれを造りかつ成をはれり 8 目
あれども瞽者のごとく耳あれど聾者のごとき民をた
づさへ出よ 9 國々はみな相集ひもろもろの民はあつ
まるべし 彼等のうち誰かいやさきに成るべきことを
つけ之をわれらに聞することを得んや その證人をい
だして己の是なるをあらはすべし 彼等ききて此はま
ことなりといはん 10 エホバ宣給くなんぢらはわが證
人わがえらみし僕なり 然ばなんぢら知てわれを信じ
わが主なるをさとりうべし 我よりまへにつくられし
神なく我よりのちにもあることなからん 11 ただ我の
み我はエホバなり われの外にすくふ者あることなし
12 われ前につげまた救をほどこし また此事をきかせ
たり 汝等のうちには他神なかりき なんぢらはわが證
人なり 我は神なり これエホバ宣給るなり 13 今より
われは主なりわが手より救ひいだし得るものなし わ
れ行はば誰かとどむることを得んや 14 なんぢらを贖
ふものイスラエルの聖者エホバかく言たまふ なんぢ
らの爲にわれ人をバビロンにつかはし彼處にあるカ
ルデヤ人をことごとく下らせ その宴樂の船にのりて
のがれしむ 15 われはエホバなんぢらの聖者イスラエ

ルを創造せしもの又なんぢらの王なり 16 エホバは海のなかに大路をまうけ大なる水のなかに徑をつくり
17 戦車および馬 軍兵 武士をいできたらせ ことごとく仆れて起ることあたはず 皆ほろびて燈火のきえうするが如くならしめ給へり 18 エホバ言給く なんぢら往昔のことを思ひいづるなかれ また上古のことをかんがふるなかれ 19 視よわれ新しき事をなさん頼ておこるべし なんぢら知ざるべけんや われ荒野に道をまうけ沙漠に河をつくらん 20 野の獣われを崇むべし 野犬および駝鳥もまた然り われ水を荒野にいだし河を沙漠にまうけてわが民わがえらびたる者にのましむべければなり 21 この民はわが頌美をのべしめんとて我おのれのために造れるなり 22 然るにヤコブよ汝われを呼たのまざりき イスラエルよ汝われを厭ひたり 23 なんぢ燔祭のひつじを我にもちきたらず犠牲をもて我をあがめざりき われ汝にそなへものの荷をおはせざりき また乳香をもて汝をわづらはせざりき 24 なんぢは銀貨をもて我がために菖蒲をかはず 犠牲のあぶらをもて我をあかしめず 反てなんぢの罪の荷をわれに負せ なんぢの邪曲にて我をわづらはせたり 25 われこそ我みづからの故によりてなんぢの咎をけし 汝のつみを心にとめざるなれ 26 なんぢその是なるをあらはさんがために己が事をのべて我に記念せしめよ われら相共にあげつらふべし 27 なんぢの遠祖つみををかし汝のをしへの師われにそむけり 28 この故にわれ聖所の長たちを汚さしめヤコブを誣はしめイスラエルをののしらしめん

44 されどわが僕ヤコブよわが撰みたるイスラエルよ今きけ 2 なんぢを創造し なんぢを胎内につくり又

なんぢを助くるエホバ如此いひたまふ わがしもベヤ
コブよわが撰みたるエシュルンよおそるるなかれ 3
われ渴けるものに水をそそぎ乾たる地に流をそそぎ
わが靈をなんぢの子輩にそそぎ わが恩恵をなんぢの
裔にあたふべければなり 4 斯てかれらは草のなか
にて川のほとりの柳のごとく生そだつべし 5 ある人は
いふ我はエホバのものなりと ある人はヤコブの名を
となへん ある人はエホバの有なりと手にしるしてイ
スラエルの名をなのらん 6 エホバ、イスラエルの王
イスラエルをあがなふもの 萬軍のエホバ如此いひた
まふ われは始なりわれは終なり われの外に神あるこ
となし 7 我いにしへの民をまうけしより以來 たれか
われのごとく後事をしめし又つけ又わが前にいひつ
らねんや 試みに成んとすること來らんとすることを
告よ 8 なんぢら懼るるなかれ懼くなかれ 我いにしへ
より聞せたるにあらずや告しにあらずや なんぢらは
わが證人なり われのほか神あらんや 我のほかには譬
あらず われその一つだに知ことなし 9 偶像をつくる
者はみな空しく かれらが慕ふところのものは益なし
その證を見るものは見ことなく知ことなし 斯るがゆ
ゑに恥をうくべし 10 たれか神をつくり又えきなき偶
像を鑄たりしや 11 視よその伴侶はみなはぢん その匠
工らは人なり かれら皆あつまりて立ときはおそれて
もろともに恥るなるべし 12 鐵匠は斧をつくるに炭の
火をもてこれをやき鎚もてこれを鍛へつよき碗をも
てこれをうちかたむ 饑れば力おとろへ水をのまざれ
ばつかれはつべし 13 木匠はすみなはをひきはり朱に
てゑがき鋸にてけづり文回をもて畫き 之を人の形に
かたどり人の美しき容にしたがひて造り 而して家の

うちに安置す 14 あるひは香柏をきりあるひは榦をとり
あるひは櫃をとり 或ははやしの樹のなかにて一を
えらび あるひは杉をうゑ雨をえて長たしむ 15 而して
人これを薪となし之をもておのが身をあたため又
これを燃してパンをやき又これを神につくりてをが
み偶像につくりてその前にひれふす 16 その半は火に
もやしその半は肉をにて食ひ あるひは肉をあぶりて
くひあき また身をあたためていふ ああ我あたたまれ
り われ熱きをおぼゆ 17 斯てその餘をもて神につく
り偶像につくりてその前にひれふし之ををがみ之に
いのりていふ なんぢは吾神なり我をすくへと 18 こ
れらの人は知ことなく悟ることなし その眼ふさがり
て見えず その心とちてあきらかならず 19 心のうち
に思ふことをせず智識なく明悟なきがゆゑに我その
なかばを火にもやしその炭火のうへにパンをやき肉
をあぶりて食ひ その木のあまりをもて我いかで憎む
べきものを作るべけんや 我いかで木のはしくれに俯
伏すことをせんやといふ者もなし 20 かかる人は灰を
くらひ 迷へる心にまどはされて己がたましひを救ふ
あたはず またわが右手にいつはりあるにあらずやと
おもはざるなり 21 ヤコブよ イスラエルよ 此等のこ
とを心にとめよ 汝はわが僕なり 我なんぢを造れり
なんぢわが僕なり イスラエルよ 我はなんぢを忘れじ
22 我なんぢの愆を雲のごとくに消し なんぢの罪を霧
のごとくにちらせり なんぢ我にかへれ 我なんぢを贖
ひたればなり 23 天よ うたうたへエホバこのことを
成たまへり 下なる地よよばはれ もろもろの山よ林お
よびその中のもろもろの木よ こゑを發ちてうたふべ
し エホバはヤコブを贖へり イスラエルのうちに榮光

をあらはし給はん 24 なんぢを贖ひなんぢを胎内につ
くれるエホバかく言たまふ 我はエホバなり我よろづ
のものを創造し ただ我のみ天をのべ みづから地をひ
らき 25 いつはるものの豫兆をむなしくしト者をくる
はせ智者をうしろに退けてその知識をおろかならし
む 26 われわが僕のことばを遂しめ わが使者のはか
りごとを成しめ エルサレムについては民また住はん
といひ ユダのもろもろの邑については重ねて建らる
べし我その荒廢たるところを舊にかへさんといふ 27
また淵に命ず かわけ我なんぢのもろもろの川をほさ
んと 28 又クロスについては彼はわが牧者すべてわが
好むところを成しむる者なりといひ エルサレムにつ
いてはかさねて建られその宮の基すゑられんといふ

45 われエホバわが受膏者クロスの右手をとりても
ろもろの國をそのまへに降らしめ もろもろの王の腰
をとき扉をその前にひらかせて門をとづるものなか
らしめん 2 われ汝のまへにゆきて崎嶇をたひらかに
し 銅の門をこぼち くろがねの關木をたちきるべし 3
われなんぢに暗ところの財貨とひそかなるところに
藏せるたからとを予へ なんぢに我はエホバなんぢの
名をよべるイスラエルの神なるを知しめん 4 わが僕
ヤコブわが撰みたるイスラエルのために我なんぢの
名をよべり 汝われを知らずといへどわれ名をなんぢに
賜ひたり 5 われはエホバなり 我のほかに神なし 一人
もなし 汝われをしらずといへども我なんぢを固うせ
ん 6 而して日のいづるところより西のかたまで人々
我のほかに神なしと知べし 我はエホバなり他にひとり
もなし 7 われは光をつくり又くらきを創造す われ
は平和をつくりまた禍害をさうごうす 我はエホバな

り我すべてこれらの事をなすなり 8 天ようへより滴
らすべし 雲よ義をふらすべし 地はひらけて救を生じ
義をもともに萌いだすべし われエホバ之を創造せり
9 世人はすゑものの中のひとつの陶器なるに己をつ
くれる者とあらそふはわざはひなるかな 泥塊はすゑも
のつくりむかひて汝なにを作るかといふべけんや
又なんぢの造りたる者なんぢを手なしといふべけん
や 10 父にむかひて汝なにゆゑに生むことをせしやと
いひ 婦にむかひて汝なにゆゑに産のくるしみをなし
しやといふ者はわざはひなるかな 11 エホバ、イスラ
エルの聖者イスラエルを造れるもの如此いひたまふ
後きたらんとすることを我にとへ またわが子女とわ
が手の工とにつきて汝等われに言せよ 12 われ地をつ
くりてそのうへに人を創造せり われ自らの手をもて
天をのべ その萬象をさだめたり 13 われ義をもて彼
のクロスを起せり われそのすべての道をなほくせん
彼はわが邑をたてわが俘囚を價のためならず報のた
めならずして釋すべし これ萬軍のエホバの聖言なり
14 エホバ如此いひたまふ エジプトがはたらきて得し
ものとエテオピアがあきなひて得しものとはなんぢ
の有とならん また身のたけ高きセバ人きたりくだり
て汝にしたがひ繩につながれて降り なんぢのまへに
伏しなんぢに祈りていはん まことに神はなんぢの中
にいませり このほかに神なし一人もなしと 15 救を
ほどこし給ふイスラエルの神よ まことに汝はかくれ
ています神なり 16 偶像をつくる者はみな恥をいだき
辱かしめをうけ諸共にはぢあわてて退かん 17 されど
イスラエルはエホバにすくはれて永遠の救をえん な
んぢらは世々かぎりなく恥をいだかず辱かしめをう

けじ 18 エホバは天を創造したまへる者にしてすなはち神なり また地をもつくり成てこれを堅くし徒然にこれを創造し給はず これを人の住所につくり給へり エホバかく宣給ふ われはエホバなり我のほかに神あることなしと 19 われは隠れたるところ地のくらき所にてかたらず 我はヤコブの裔になんぢらが我をたづぬるは徒然なりといはず 我エホバはただしき事をかたり直きことを告ぐ 20 汝等もろもろの國より脱れきたれる者よ つどひあつまり共にすすみききたれ 木の像をになひ救ふことあたはざる神にいのりするものは無智なるなり 21 なんぢらその道理をもちきたりて述よ また共にはかれ 此事をたれか上古より示したりや 誰かむかしより告たりしや 此はわれエホバならずや 我のほかに神あることなし われは義をおこなひ救をほどこす神にして我のほかに神あることなし 22 地の極なるもろもろの人よ なんぢら我をあふぎのぞめ然ばすくはれん われは神にして他に神なければなり 23 われは己をさして誓ひたり この言はただしき口よりいでたれば反ることなし すべての膝はわがまへに屈み すべての舌はわれに誓をたてん 24 人われに就ていはん正義と力とはエホバにのみありと 人々エホバにきたらん すべてエホバにむかひて怒るものは恥をいだくべし 25 イスラエルの裔はエホバによりて義とせられ且ほこらん

46 ベルは伏しネボは屈む かれらの像はけものと家畜とのうへにあり なんぢらが擡げあるきしものは荷となりて疲れおとろへたるけもの負ところとなりぬ 2 かれらは屈みかれらは共にふし その荷となれる者をすくふこと能はずして己とらはれゆく 3 ヤコブ

の家よイスラエルのいへの遺れるものよ 腹をいでし
より我におはれ胎をいでしより我にもたげられしものよ
皆われにきくべし 4 なんぢらの年老るまで我は
かはらず白髪となるまで我なんぢらを負ん 我つくり
たれば擡ぐべし我また負ひかつ救はん 5 なんぢら我
をたれに比べたれに配ひ たれに擬らへ かつ相くら
ぶべきか 6 人々ふくろより黄金をかたぶけいだし權
衡をもて白銀をはかり金工をやとひてこれを神につ
くらせ之にひれふして拜む 7 彼等はこれをもたげて
肩にのせ 負ひゆきてその處に安置す すなはち立てそ
の處をはなれず 人これにむかひて呼はれども答ふる
こと能はず 又これをすくひて苦難のうちより出すこ
とあたはず 8 なんぢら此事をおもひいでて堅くたつ
べし 悖逆者よこのことを心にとめよ 9 汝等いにしへ
より以來のことをおもひいでよ われは神なり我のほ
かに神なし われは神なり我のごとき者なし 10 われ
は終のことを始よりつけ いまだ成ざることを昔より
つけ わが謀畧はかならず立つといひ すべて我がよろ
こぶことを成んといへり 11 われ東より驚をまねき遠
國よりわが定めおける人をまねかん 我このことを語
りたれば必らず來らすべし 我このことを謀りたれば
かならず成すべし 12 なんぢら心かたくなにして義に
とほごかるものよ我にきけ 13 われわが義をちかづか
しむ可ればその來ること遠からず わが救おそからず
我すくひをシオンにあたへ わが榮光をイスラエルに
あたへん

47 バビロンの處女よ くだりて塵のなかにすわれ カ
ルデヤ人のむすめよ座にすわらずして地にすわれ 汝
ふたたび婀娜にして嬌なりととなへらるることなか

らん 2 髻をとりて粉をひけ 面帟をとりさり袿をぬぎ
髓をあらはして河をわたれ 3 なんぢの肌はあらはれ
なんぢの恥はみゆべし われ仇をむくいて人をかへり
みず 4 われらを贖ひたまふ者はその名を萬軍のエホ
バ、イスラエルの聖者といふ 5 カルデヤ人のむすめ
よ なんぢ口をつぐみてすわれ 又くらき所にいりてを
れ 汝ふたたびもろもろの國の主母となへらるること
なからん 6 われわが民をいきどほりわが産業をけ
がして之をなんぢの手にあたへたり 汝これに憐憫を
ほどこさず年老たるものうへに甚だおもき軛をお
きたり 7 汝いへらく我とこしへに主母たらんと 斯て
これらのことを心にとめず亦その終をおもはざりき
8 なんぢ歡樂にふけり安らかにをり 心のうちにただ
我のみにして我のほかになんぢはやもめとなり
てをらず また子をうしなふことを知まじとおもへる
者よなんぢ今きけ 9 子をうしなひ寡婦となるこの二
つのこと一日のうちに俄になんぢに來らん 汝おほく
魔術をおこなひひろく呪詛をほどこすと雖もみちみ
ちて汝にきたるべし 10 汝おのれの悪によりたのみて
いふ 我をみるものなしと なんぢの智慧となんぢの聰
明とはなんぢを惑せたり なんぢ心のうちにおもへら
くただ我のみにして我のほかになんぢはやもめとなり
てをらず 11 この故にわがはひ汝にきたらん なんぢ呪ひてこれを除くこ
とをしらず 艱難なんぢに落きたらん 汝これをはらふ
こと能はず なんぢの思ひよらざる荒廢にはかに汝に
きたるべし 12 今なんぢわかきときより勤めおこなひ
たる呪詛とおほくの魔術とをもて立むかふべしある
ひは益をうることあらん あるひは敵をおそれしむる
ことあらん 13 なんぢは謀畧おほきによりて倦つかれ

たり かの天をうらなふもの星をみるもの新月をうら
なふ者もし能はば いざたちて汝をきたらんとする事
よりまぬかれしむることをせよ 14 彼らは藁のごとく
なりて火にやかれん おのれの身をほのほの勢力より
すくひいだすこと能はず その火は身をあたたむべき
炭火にあらず又その前にすわるべき火にもあらず 15
汝がつとめて行ひたる事は終にかくのごとくならん
汝のわかきときより汝とうりかひしたる者おのおの
その所にさすらひゆきて一人だになんぢを救ふもの
なかるべし

48 ヤコブの家よなんぢら之をきけ 汝らはイスラエ
ルの名をもて稱へられ ユダの根源よりいでエホバの
名によりて誓ひイスラエルの神をかたりつぐれども
眞實をもてせず正義をもてせざるなり 2 かれらはみ
づから聖京のものとなへイスラエルの神によりた
のめり その名は萬軍のエホバといふ 3 われ今よりさ
きに成しことを既にいにしへより告たり われ口より
いだして既にのべつたへたり 我にはかにこの事をお
こなひ而して成ぬ 4 われ汝がかたくなにして項の筋
はくろがねその額はあかがねなるを知れり 5 このゆ
ゑに我はやくよりかの事をなんぢにつげ その成ざる
さきに之をなんぢに聞しめたり 恐くはなんぢ云ん わ
が偶像これを成せり刻みたるごう鑄たる像これを命
じたりと 6 なんぢ既にきけり 凡てこれを視よ 汝ら之
をのべつたへざるか われ今より新なる事なんぢが未
だしらざりし秘事をなんぢに示さん 7 これらの事は
いま創造せられしにて上古よりありしにあらず この
日よりさきに汝これを聞ざりき 然らずば汝いはん視
よわれこれを知れりと 8 汝これを聞こともなく知こ

ともなく なんぢの耳はいにしへより開けざりき 我なんぢが欺きあざむきて生れながら悖逆者ととなへられしを知ればなり 9 わが名のゆゑによりて我いかりを遅くせん わが頌美のゆゑにより我しのびてなんぢを絶滅すことをせじ 10 視よわれなんぢを煉たりされど白銀の如くせずして患難の爐をもてこころみたり 11 われ己のため我おのれの爲にこれを成ん われ何でわが名をけがさしむべき 我わが榮光をほかの者にあたることをせじ 12 ヤコブよわが召たるイスラエルよわれにきけ われは是なり われは始また終なり 13 わが手は地のもとを置わが右の手は天をのべたり 我よべば彼等はもろともに立なり 14 汝ら皆あつまりてきけ エホバの愛するものエホバの好みたまふ所をバビロンに成し その腎はカルデヤ人のうへのにぞまん 彼等のうち誰かこれらの事をのべつげしや 15 ただ我のみ我かたれり 我かれをめし我かれをきたらせたり その道さかゆべし 16 なんぢら我にちかよりて之をきけ 我はじめより之をひそかに語りしにあらず その成しときより我はかしこに在り いま主エホバわれとその靈とをつかはしたまへり 17 なんぢの贖主イスラエルの聖者エホバかく言給く われはなんぢの神エホバなり 我なんぢに益することを教へ なんぢを導きてそのゆくべき道にゆかしむ 18 願くはなんぢわが命令にききしたがはんことを もし然らばなんぢの平安は河のごとく 汝の義はうみの波のごとく 19 なんぢの裔はすなのごとく 汝の體よりいづる者は細沙のごとくになりて その名はわがまへより絶ることなく亡さることなからん 20 なんぢらバビロンより出てカルデヤ人よりのがれよ なんぢら歡の聲をもてのべきか

せ地のはてにいたるまで語りつたへ エホバはその僕
ヤコブをあがなひ給へりといへ 21 エホバかれらをして
て沙漠をゆかしめ給へるとき彼等はいかたもなかりき
エホバ彼等のために磐より水をながれしめ
また磐をさきたまへば水ほどぼしりいでたり 22 エホ
バはいひたまはく悪きものには平安あることなし

49 もろもろの島よ我にきけ 遠きところのもろもろ
の民よ耳をかたむけよ 我うまれいづるよりエホバ我
を召し われ母の胎をいづるよりエホバわが名をかた
りつげたまへり 2 エホバわが口を利劍となし我をそ
の手のかげにかくし 我をとぎすましたる矢となして
箎にをさめ給へり 3 また我にいひ給はく 汝はわが僕
なり わが榮光のあらはるべきイスラエルなりと 4 さ
れど我いへり われは徒然にはたらき益なくむなしく
力をつひやしぬと 然はあれど誠にわが審判はエホバ
にあり わが報はわが神にあり 5 ヤコブをふたたび己
にかへらしめイスラエルを己のもとにあつまらせん
とて 我をうまれいでしより立ておのれの僕となし給
へるエホバはいひ給ふ(我はエホバの前にたふとくせら
る 又わが神はわが力となりたまへり) 6 その聖言に
いはく なんぢわが僕となりてヤコブのもろもろの支
派をおこし イスラエルのうちののこりて全うせしも
のを歸らしむることはいと輕し 我また汝をたてて異
邦人の光となし 我がすくひを地のはてにまで到らし
む 7 エホバ、イスラエルの贖主イスラエルの聖者は
人にあなどらるるもの 民にいみきはるるもの 長た
ちに役せらるる者にむかひて如此いひたまふ もろも
ろの王は見てたちもろもろの君はみて拜すべし これ
信實あるエホバ、イスラエルの聖者なんぢを選びた

まへるが故なり 8 エホバ如此いひたまふ われ恵のとき
に汝にこたへ救の日になんぢを助けたり われ汝を
まもりて民の契約とし國をおこし荒すたれたる地を
また産業としてかれらにつがしめん 9 われ縛しめら
れたる者にいでよといひ暗にをるものに顯れよとい
はん かれら途すがら食ふことをなし もろもろの禿な
る山にも牧草をうべし 10 かれらは饑ずかわかず 又
やけたる砂もあつき日もうつことなし 彼等をあはれ
むもの之をみちびきて泉のほとりに和かにみちびき
給ければなり 11 我わがもろもろの山を路としわが大
路をたかくせん 12 視よ人々あるひは遠きよりきたり
あるひは北また西よりきたらん 或はまたシニムの地
よりきたるべし 13 天ようたへ地よよろこべ もろも
ろの山よ聲をはなちてうたへ エホバはその民をなぐ
さめその苦むものを憐みたまへばなり 14 然どシオン
はいへり エホバ我をすて主われをわすれたまへりと
15 婦その乳兒をわすれて己がはらの子をあはれまご
ることあらんや 縦ひかれら忘ることありとも我は
なんぢを忘ることなし 16 われ掌になんぢを彫刻め
り なんぢの石垣はつねにわが前にあり 17 なんぢの
子輩はいそぎ來り なんぢを毀つもの汝をあらず者は
汝より出さらん 18 なんぢ目をあげて環視せよ これ
らのもの皆あひあつまりて汝がもとに來るべし エホ
バ宣給く われは活なんぢ此等をみな身によそほひて
飾となし 新婦の帯のごとくに之をまとふべし 19 な
んぢの荒かつ廢れたるところ毀たれたる地は このの
ち住ふもの多くして狭きをおぼえん なんぢを吞つく
ししもの遙にはなれ去るべし 20 むかし別れたりしな
んぢの子輩はのちの日なんぢの耳のあたりにて語り

あはん云く ここは我がために狭し なんぢ外にゆきて
我にすむべき所をえしめよと **21** その時なんぢ心裏に
いはん 誰かわがために此等のものを生しや われ子を
うしなひて獨居りかつ俘れ且さすらひたり 誰かこれ
を育てしや 視よわれ一人のこされたり 此等はいづこ
に居しや **22** 主エホバいひたまはく 視よわれ手をも
ろもろの國にむかひてあげ 旗をもろもろの民にむか
ひてたてん 斯てかれらはその懐中になんぢの子輩を
たづさへ その肩になんぢの女輩をのせきたらん **23**
もろもろの王はなんぢの養父となり その后妃はなん
ぢの乳母となり かれらはその面を地につけて汝にひ
れふし なんぢの足の塵をなめん 而して汝わがエホバ
なるをしり われを俟望むものの恥をかうぶることな
きを知るならん **24** 勇士がうばひたる掠物をいかでと
りかへし 強暴者がかすめたる虜をいかで救いだすこ
とを得んや **25** されどエホバ如此いひたまふ云く ま
すらをが掠めたる虜もとりかへされ 強暴者がうばひ
たる掠物もすくひいださるべし そは我なんぢを攻る
ものをせめてなんぢの子輩をすくふべければなり **26**
我なんぢを虐ぐるものにその肉をくらはせ またその
血をあたらしき酒のごとくにのませて酔しめん 而し
て萬民はわがエホバにして汝をすくふ者なんぢを贖
ふものヤコブの全能者なることを知るべし

50 エホバかくいひ給ふわがなんぢらの母をさりた
る離書はいづこにありや 我いづれの債主になんぢら
を賣わたししや 視よなんぢらはその不義のために賣
られ なんぢらの母は汝らの咎戾のために去られたり
2 わがきたりし時なにゆゑ一人もをらざりしや 我よ
びしとき何故ひとりも答ふるものなかりしや わが手

みぢかくして贖ひえざるか われ救ふべき力なからん
や 視よわれ叱咤すれば海はかれ河はあれのとなりそ
のなかの魚は水なきによりかわき死て臭氣をいだす
なり 3 われ黒きころもを天にきせ麤布をもて蔽とな
す 4 主エホバは教をうけしものの舌をわれにあたへ
言をもて疲れたるものを扶支ふることを知得しめた
まふ また朝ごとに醒しわが耳をさまして教をうけし
者のごとく聞ことを得しめたまふ 5 主エホバわが耳
をひらき給へり われは逆ふことをせず退くことをせ
ざりき 6 われを撻つものにわが背をまかせわが鬚を
ぬくものにわが頬をまかせ 恥と唾とをさくるために
面をおほふことをせざりき 7 主エホバわれを助けた
まはん この故にわれ恥ることなかるべし 我わが面を
石の如くして恥しめらるることなきを知る 8 われを
義とするもの近きにあり たれか我とあらそはんや わ
れら相共にたつべし わが仇はたれぞや近づききたれ
9 主エホバわれを助け給はん 誰かわれを罪せんや 視
よかれらはみな衣のごとくふるび蠹のためにくひつ
くされん 10 汝等のうちエホバをおそれその僕の聲を
きくものは誰ぞや 暗をあゆみて光をえざるともエホ
バの名をたのみおのれの神にたよれ 11 火をおこし火
把を帯るものよ汝等みなその火のほのほのなかをあ
ゆめ 又なんぢらの燃したる火把のなかをあゆめ なん
ぢら斯のごとき事をわが手よりうけて悲みのうちに
臥べし

51 義をおひ求めエホバを尋ねもとむるものよ我に
きけ なんぢらが斫出されたる磐となんぢらの掘出さ
れたる穴とおもひ見よ 2 なんぢらの父アブラハム
及びなんぢらを生たるサラをおもひ見よ われ彼をそ

の唯一人なりしときに召しこれを祝してその子孫を
まし加へたり 3 そはエホバ、シオンを慰めまたその
凡てあれたる所をなぐさめて その荒野をエデンのご
とくその沙漠をエホバの園のごとくなしたまへり 斯
てその中によろこびと歡樂とあり感謝とうたうたふ
聲とありてきこゆ 4 わが民よわが言にこころをとめ
よ わが國人よわれに耳をかたぶけよ 律法はわれより
出づ われわが途をかたく定めてもろもろの民の光と
なさん 5 わが義はちかづきわが救はすでに出たり わ
が臂はもろもろの民をさばかん もろもろの島はわれ
を俟望み わがかひなに依頼ん 6 なんぢら目をあげて
天を觀また下なる地をみよ 天は烟のごとくきえ地は
衣のごとくふるびその中にすむ者これとひとしく死
ん されどわが救はとこしへにながらへ わが義はくだ
くることなし 7 義をやるものよ心のうちにわが律法
をたもつ民よ われにきけ 人のそしりをおそるるなか
れ人のののしりに慍くなかれ 8 そはかれら衣のごと
く蠹にはまれ羊の毛のごとく蟲にはまれん されどわ
が義はとこしへに存らへ わがすくひ萬代におよぶべ
し 9 さめよ醒よエホバの臂よちからを着よ さめて古
への時むかしの代にありし如くなれ ラハブをきりこ
ろし鱷をさしつらぬきたるは汝にあらずや 10 海をか
わかし大なる淵の水をかわかし また海のふかきとこ
ろを贖はれたる人のすぐべき路となししは汝にあら
ずや 11 エホバに贖ひすくはれしもの歌うたひつつ歸
りてシオンにきたり その首にとこしへの歡喜をいた
だきて快樂とよろこびとをえん 而してかなしみと歎
息とはにげさるべし 12 我こそ我なんぢらを慰むれ
汝いかなる者なれば死べき人をおそれ草の如くなる

べき人の子をおそるるか **13** いかなれば天をのべ地の基をすゑ汝をつくりたまへるエホバを忘れしや 何なれば汝をほろぼさんとて豫備する虐ぐるものの憤れるをみて常にひねもす懼るるか 虐ぐるものの忿恚はいつこにありや **14** 身をかがめゐる俘囚はすみやかに解れて死ることなく穴にくだることなく その食はつくること無るべし **15** 我は海をふるはせ波をなりどよめかする汝の神エホバなり その御名を萬軍のエホバといふ **16** 我わが言をなんぢの口におきわが手のかけにて汝をおほへり かくてわれ天をうゑ地の基をすゑシオンにむかひて汝はわが民なりといはん **17** エルサレムよさめよさめよ起よ なんぢ前にエホバの手よりその忿恚のさかづきをうけて飲み よろめかす大杯のみ且すひほしたり **18** なんぢの生るもろもろの子のなかに汝をみちびく者なく 汝のそだてたるもろもろの子の中にてなんぢの手をたづさふる者なし **19** この二のこと汝にのぞめり誰かなんぢのために歎んや 荒廢の饑饉ほろびの劍なんぢに及べり我いかにして汝をなぐさめんや **20** なんぢの子らは息たえだえにして網にかかれる羚羊のごとくし街衢の口にふす エホバの忿恚となんぢの神のせめとはかれらに満たり **21** このゆゑに苦しめるもの酒にあらで酔たるものよ之をきけ **22** なんぢの主エホバおのが民の訟をあげつらひ給ふ なんぢの神かくいひ給ふ 我よろめかす酒杯をなんぢの手より取除き わがいきどほりの大杯をとりのぞきたり 汝ふたたびこれを飲ことあらし **23** 我これを汝をなやますもの手にわたさん 彼らは曩になんぢの靈魂にむかひて云らく なんぢ伏せよわれら越ゆ

かんと 而してなんぢその背を地のごとくし 衢のごとくし 彼等のこえゆくに任せたり

52 シオンよ醒よさめよ 汝の力を衣よ 聖都エルサレムよ なんぢの美しき衣をつけよ 今より割禮をうけざる者 および潔からざるもの ふたたび汝に いること無るべければなり **2** なんぢ身の塵をふりおとせ エルサレムよ 起よすわれ 俘れたるシオンのむすめよ 汝がうなじの繩をときすてよ **3** そはエホバかく言給ふ なんぢらは 價なくして賣られたり 金なくして贖はるべし **4** 主エホバ如此いひ給ふ 曩にわが民エジプトにくだりゆきて 彼處にとどまれり アツスリヤ人ゆゑなくして 彼等をしへたげたり **5** エホバ宣給く わが民はゆゑなくして 俘れたり されば我ここに何をなさん エホバのたまはく 彼等をつかさどる者さけびよばはり わが名はつねに終日けがさるるなり **6** この故にわが民は わが名をしらん このゆゑにその日には 彼らこの言をかたるもの 我なるをしらん 我ここに在り **7** よろこびの音信をつたへ 平和をつけ 善おとづれをつたへ 救をつけ シオンに向ひて なんぢの神はすべ治めたまふといふもの 足は山上にありていかに美しきかな **8** なんぢが斥候の聲きこゆ かれらはエホバのシオンに 歸り給ふを 目と目とあひあはせて 視るが故に みな聲をあげてもろともにうたへり **9** エルサレムの荒廢れたるところよ 聲をはなちて 共にうたふべし エホバその民をなぐさめ エルサレムを贖ひたまひたればなり **10** エホバそのきよき手をもろもろの國人の目のまへに あらはしたまへり 地のもろもろの極までもわれらの神のすくひを見ん **11** なんぢら去よされよ 彼處をいでて 汚れたるものに 觸るなかれ その中をいでよ エホ

バの器をになふ者よ なんぢら潔くあれ 12 なんぢら急ぎいづるにあらず趨りゆくにあらず エホバはなんぢらの前にゆきイスラエルの神はなんぢらの軍後となり給ふべければなり 13 視よわがしもべ智慧をもておこなはん 上りのぼりて甚だたかくならん 14 曩にはおほくの人かれを見ておどろきたり(その面貌はそこなはれて人と異なりその形容はおとろへて人の子とことなれり) 15 後には彼おほく國民にそそがん 王たち彼によりて口を緘まん そはかれら未だつたへられざるを見いまだ聞ざることを悟るべければなり

53 われらが宣るところを信ぜしものは誰ぞや エホバの手はたれにあらはれしや 2 かれは主のまへに芽えのごとく 燥きたる土よりいづる樹株のごとくそだちたり われらが見るべきうるはしき容なく うつくしき貌はなく われらがしたふべき艶色なし 3 かれは侮られて人にすてられ 悲哀の人にして病患をしれり また面をおほひて避ることをせらるる者のごとく侮られたり われらも彼をたふとまざりき 4 まことに彼はわれらの病患をおひ我儕のかなしみを擔へり 然るにわれら思へらく彼はせめられ神にうたれ苦しめらるるなりと 5 彼はわれらの愆のために傷けられ われらの不義のために碎かれ みづから懲罰をうけてわれらに平安をあたふ そのうたれし瘡によりてわれらは癒されたり 6 われらはみな羊のごとく迷ひておのおの己が道にむかひゆけり 然るにエホバはわれら凡てのものの不義をかれのうへに置たまへり 7 彼はくるしめらるれどもみづから謙だりて口をひらかず 屠場にひかる羔羊の如く毛をきる者のまへにもだす羊の如くしてその口をひらかざりき 8 かれは虐待と審判

とによりて取去れたり その代の人のうち誰か彼が活
るものの地より絶れしことを思ひたりしや 彼はわが
民のとがの爲にうたれしなり 9 その墓はあしき者と
ともに設けられたれど 死るときは富るものとも
なれり かれは暴をおこなはずその口には虚偽なかり
き 10 されどエホバはかれを砕くことをよろこびて之
をなやましたまへり 斯てかれの靈魂とがの献物をな
すにいたらば彼その末をみるを得その日は永からん
かつエホバの悦び給ふことは彼の手によりて榮ゆべ
し 11 かれは己がたましひの煩勞をみて心たらはん わ
が義しき僕はその知識によりておほくの人を義とし
又かれらの不義をおはん 12 このゆゑに我かれをして
大なるものとともに物をわかち取しめん かれは強き
ものとともに掠物をわかちとるべし 彼はおのが靈魂
をかたぶけて死にいたらしめ懲あるものとともに數
へられたればなり 彼はおほくの人の罪をおひ懲ある
ものの爲にとりなしをなせり

54 なんぢ孕まず子をうまざるものよ歌うたふべし
産のくるしみなきものよ聲をはなちて謳ひよばはれ
夫なきものの子はとつげるものの子よりおほしと 此
はエホバの聖言なり 2 汝が幕屋のうちを廣くし なん
ぢが住居のまくをはりひろげて吝むなかれ 汝の綱を
ながくしなんぢの杙をかたくせよ 3 そはなんぢが右
に左にひろがり なんぢの裔はもろもろの國をえ 荒廢
れたる邑をもすむべき所となさしむべし 4 懼るるな
かれなんぢ恥ることなからん 惶てためくことなかれ
汝はぢしめらるることなからん 若きときの恥をわす
れ寡婦たりしときの恥辱をふたたび覺ることなから
ん 5 なんぢを造り給へる者はなんぢの夫なり その名

は萬軍のエホバ なんぢを贖ひ給ふものはイスラエルの聖者なり 全世界の神となへられ給ふべし 6 エホバ汝をまねきたまふ 棄られて心うれふる妻また若きとき嫁てさられたる妻をまねくがごとしと 此はなんぢの神のみことばなり 7 我しばし汝をすてたれど大なる憐憫をもて汝をあつめん 8 わが忿恚あふれて暫くわが面をなんぢに隠したれど 永遠のめぐみをもて汝をあはれまんと 此はなんぢをあがなひ給ふエホバの聖言なり 9 このこと我にはノアの洪水のときのごとし 我むかしノアの洪水をふたたび地にあふれ流ることなからしめんと誓ひしが 其のごとく我ふたたび汝をいきどほらず 再びなんぢを責じとちかひたり 10 山はうつり岡はうごくとも わが仁慈はなんぢよりうつらず 平安をあたふるわが契約はうごくことなからんと 此はなんぢを憐みたまふエホバのみことばなり 11 なんぢ苦しみをうけ暴風にひるがへされ 安慰をえざるものよ 我うるはしき彩色をなしてなんぢの石をすゑ 青き玉をもてなんぢの基をおき 12 くれなるの玉をもてなんぢの櫓をつくり むらさきの玉をもてなんぢの門をつくり なんぢの境内はあまねく寶石にてつくるべし 13 又なんぢの子輩はみなエホバに教をうけ なんぢの子輩のやすきは大ならん 14 なんぢ義をもて堅くたち 虐待よりとほざかりて懼ることなく また恐懼よりとほざかるべし そは恐懼なんぢに近づくことなければなり 15 縦ひかれら群集ふとも我によるにあらず 凡てむれつどひて汝をせむる者はなんぢの故にたふるべし 16 みよ炭火をふきおこして用ゐべき器をいだす鐵工はわが創造するところ 又あらし滅ぼす者もわが創造するところなり 17 すべてなんぢを

攻んとてつくられしうつはものは利あることなし 興
起ちてなんぢとあらそひ訴ふる舌はなんぢに罪せら
るべし これエホバの僕等のうくる産業なり 是かれら
が我よりうくる義なりとエホバのたまへり

55 噫なんぢら渴ける者ことごとく水にきたれ 金な
き者もきたるべし 汝等きたりてかひ求めてくらへ き
たれ金なく價なくして葡萄酒と乳とをかへ 2 なにゆ
ゑ糧にもあらぬ者のために金をいだし 飽ことを得ざ
るものために勞するや われに聽從へ さらばなんぢ
ら美物をくらふをえ脂をもてその靈魂をたのします
るを得ん 3 耳をかたぶけ我にきたりてきけ 汝等のた
ましひは活べし われ亦なんぢらととしへの契約を
なしてダビデに約せし變らざる恵をあたへん 4 視よ
われ彼をたててもろもろの民の證とし又もろもろの
民の君となし命令する者となせり 5 なんぢは知ざる
國民をまねかん 汝をしらざる國民はなんぢのもとに
走りきたらん 此はなんぢの神エホバ、イスラエルの
聖者のゆゑによりてなり エホバなんぢを尊くしたま
へり 6 なんぢら遇ことをうる間にエホバを尋ねよ 近
くるたまふ間によびもとめよ 7 悪きものはその途を
すて よこしまなる人はその思念をすててエホバに反
れ さらば憐憫をほどこしたまはん 我等の神にかへれ
豊に赦をあたへ給はん 8 エホバ宣給くわが思はなん
ぢらの思とことなり わが道はなんぢらのみちと異な
れり 9 天の地よりたかきがごとくわが道はなんぢら
の道よりも高く わが思はなんぢらの思よりもたかし
10 天より雨くだり雪おちて復かへらず 地をうるほし
て物をはえしめ 萌をいだしめて播ものに種をあた
へ 食ふものに糧をあたふ 11 如此わが口よりいづる言

もむなしくは我にかへらず わが喜ぶところを成し わ
が命じ遣りし事をはたさん 12 なんぢらは喜びて出き
たり平穩にみちびかれゆくべし山と岡とは聲をはな
ちて前にうたひ野にある樹はみな手をうたん 13 松樹
はいばらにかはりてはえ岡拈樹は棘にかはりてはゆ
べし 此はエホバの頌美となり並とこしへの徴となり
て絶ることなからん

56 エホバ如此いひ給ふ なんぢら公平をまもり正義
をおこなふべし わが救のきたるはちかく わが義のあ
らはるるは近ければなり 2 安息日をまもりて汚さ
ず その手をおさへて悪きことをなさず 斯おこなふ人
かく堅くまもる人の子はさいはひなり 3 エホバにつ
らなれる異邦人はいふなかれ エホバ必ず我をその民
より分ち給はんと 寺人もまたいふなかれ われは枯た
る樹なりと 4 エホバ如此いひたまふ わが安息日をま
もり わが悦ぶことをえらみて我が契約を堅くまもる
寺人には 5 我わが家のうちにてわが垣のうちにて子
にも女にもまさる記念のしるしと名とをあたへ 並
とこしへの名をたまふて絶ることなからしめん 6
またエホバにつらなりこれに事へ エホバの名を愛
しその僕となり 安息日をまもりて汚すことなく凡
てわが契約をかたくまもる異邦人は 7 我これをわ
が聖山にきたらせ わが祈の家のうちにて樂ましめ
ん かれらの燔祭と犠牲とはわが祭壇のうへに納めら
るべし わが家はすべての民のいのりの家となへら
るべければなり 8 イスラエルの放逐れたるものを集
めたまふ主エホバのたまはく 我さらに人をあつめ
て既にあつめられたる者にくはへん 9 野獸よみなき
たりてくらへ 林にをるけものよ皆きたりてくらへ 10

斥候はみな瞽者にしてしることなし みな唾なる犬に
して吠ることあたはず みな夢みるもの臥るもの眠
ることをこのむ者なり 11 この犬はむさぼること甚だ
しくして飽ことをしらず かれらは悟ることを得ざ
る牧者にして皆おのが道にむかひゆき 何れにをる
者もおのおの己の利をおもふ 12 かれら互にいふ請わ
れ酒をたづきへきたらん われら濃酒にのみあかん か
くて明日もなほ今日のごとく大にみち足はせんと

57 義者ほろぶれども心にとむる人なく 愛しみ深き
人々とりさらるれども義きものの禍害のまへより取
去るるなるを悟るものなし 2 かれは平安にいり 直き
をおこなふ者はその寐床にやすめり 3 なんぢら巫女
の子 淫人また妓女の裔よ 近ききたれ 4 なんぢら誰に
むかひて戯れをなすや 誰にむかひて口をひらき舌を
のぼすや なんぢらは悖逆の子輩いつはりの黨類にあ
らずや 5 なんぢらは櫃樹のあひだ緑りなる木々のし
たに心をこがし 谷のなか岩の狭間に子をころせり 6
なんぢは谷のなかの滑かなる石をうくべき嗣業とし
これをなんぢが所有とす なんぢ亦これに灌祭をなし
之にそなへものを献げたり われ之によりていかで心
をなだむべしや 7 なんぢは高くそびえたる山の上に
なんぢの床をまうけ かつ其處にのぼりゆきて犠牲を
ささげたり 8 また戸および柱のうしろに汝の記念を
おけり なんぢ我をはなれて他人に身をあらはし 登り
ゆきてその床をひろくし かれらと誓をなし 又かれら
の床を愛し これがためにその所をえらびたり 9 なん
ぢ香膏とおほくの薫物とをたづさへて王にゆき 又な
んぢの使者をとほきにつかはし陰府にまで己をひく
くせり (Sheol h7585) 10 なんぢ途のながきに疲れたれど

なほ望なしといはず なんぢ力をいきかへされしによりて衰弱ざりき **11** なんぢ誰をおそれ誰のゆゑに懼きていつはりをいひ 我をおもはず亦そのことを心におかざりしや われ久しく黙したれど汝かへりて我をおそれざりしにあらずや **12** 我なんぢの義をつけしめさん なんぢの作はなんぢに益せじ **13** なんぢ呼るときその集めおきたるもの汝をすくへ 風はかれらを悉くあげさり 息はかれらを吹さらん 然どわれに依頼むものは地をつぎわが聖山をうべし **14** また人いはん 土をもり土をもりて途をそなへよ わが民のみちより躓礙をとりされと **15** 至高く至上なる永遠にすめるもの聖者となづくるもの如此いひ給ふ 我はたかき所きよき所にすみ 亦こころ碎けてへりくだる者とともすみ 謙だるものの靈をいかし碎けたるものの心をいかす **16** われ限なくは争はじ我たえずは怒らじ 然らば人のこころ我がまへにおとろへん わが造りたる靈はみな然らん **17** 彼のむさぼりの罪により我いかりて之をうちまた面をおほひて怒りたり 然るになほ悖りて己がこころの途にゆけり **18** されど我その途をみたり 我かれを愈すべし 又かれを導きてふたたび安慰をかれとその中のかなしめる者にかへすべし **19** 我くちびるの果をつくれり 遠きものにも近きものにも平安あれ平安あれ 我かれをいやさん 此はエホバのみことばなり **20** 然はあれど悪者はなみだつ海のごとし 靜かなること能はずしてその水つねに濁と泥とをいだせり **21** わが神いひたまはく悪きものには平安あることなしと

58 大によばはりて聲ををしむなかれ 汝のこゑをラッパのごとくあげ わが民にその愆をつけヤコブの家

にその罪をつけしめせ **2**かれらは日々われを尋求め
わが途をしらんことをこのむ 義をおこなひ神の法を
すてざる國のごとく義しき法をわれにもとめ神と相
近づくことをこのめり **3**かれらはいふ われら斷食す
るになんぢ見たまはず われら心をくるしむるになん
ぢ知たまはざるは何ぞやと 視よなんぢらの斷食の日
にはおのがこのむ作をなし その工人をことごとく惱
めつかふ **4**視よなんぢら斷食するときは相あらそひ
相きそひ惡の拳をもて人をうつ なんぢらの今のだん
じきはその聲をうへに聞えしめんとにあらざるなり
5斯のごとき斷食はわが悦ぶところのものならんや
かくのごときは人その靈魂をなやますの日ならんや
その首を葦のごとくにふし 籠服と灰とをその下にし
くをもて斷食の日またエホバに納らるる日となふ
べけんや **6**わが悦ぶところの斷食はあくの繩をほど
き 軛のつなをととき 虐げらるるものを放ちさらしめ す
べての軛ををるなどの事にあらずや **7**また饑たる者
になんぢのパンを分ちあたへ さすらへる貧民をなん
ぢの家にいれ裸かなるものを見てこれに衣せ おのが
骨肉に身をかきさざるなどの事にあらずや **8**しかる
時はなんぢのひかり 暁の如くにあらはれいで 汝すみ
やかに愈さるることを得 なんぢの義はなんぢの前に
ゆき エホバの榮光はなんぢの軍後となるべし **9**また
汝よぶときはエホバ答へたまはん なんぢ叫ぶときは
我ここに在りといひ給はん／もし汝のなかより軛を
のぞき指點をのぞき惡きことをかたるを除き **10**なん
ぢの靈魂の欲するものをも饑たる者にほどこし 苦し
むものの心を満足しめば なんぢの光くらきにてりい
でなんぢの闇は晝のごとくならん **11**エホバは常にな

んちをみちびき 乾けるところにても汝のこころを満足しめ なんちの骨をかたうし給はん なんちは潤ひたる園のごとく水のたえざる泉のごとくなるべし 12 汝よりいづる者はひさしく荒廢れたる所をおこし なんちは累代やぶれたる基をたてん 人なんちをよびて破隙をおぎなふ者といひ 市街をつくろひてすむべき所となす者といふべし 13 もし安息日になんちの歩行をとどめ 我聖日になんちの好むわざをおこなはず 安息日をとなへて樂日となし エホバの聖日をとなへて尊むべき日となし 之をたふとみて己が道をおこなはず おのが好むわざをなさず おのが言をかたらずば 14 その時なんちエホバを楽しむべし エホバなんちを地のたかき處にのらしめ なんちが先祖ヤコブの産業をもて汝をやしなひ給はん こはエホバ口より語りたまへるなり

59 エホバの手はみぢかくして救ひえざるにあらず その耳はにぶくして聞えざるにあらず 2 惟なんぢらの邪曲なる業なんぢらとなんぢらの神との間をへだてたり 又なんぢらの罪その面をおほひて聞えざらしめたり 3 そはなんぢらの手は血にてけがれ なんぢらの指はよこしまにて汚れ なんぢらのくちびるは虚偽をかたり なんぢらの舌は惡をささやき 4 その一人だに正義をもてうつたへ眞實をもて論らふものなし 彼らは虚浮をたのみ虚偽をかたり 惡しきくはだてをはらみ不義をうむ 5 かれらは蝮の卵をかへし蛛網をおる その卵をくらふものは死るなり 卵もし踐るればやぶれて毒蛇をいだす 6 その織るところは衣になすあたはず その工をもて身をおほふこと能はず かれらの工はよこしまの工なり かれらの手には暴虐のおこな

ひあり 7かれらの足はあくにはしり罪なき血をながすに速し かれらの思念はよこしまの思念なり 殘害と滅亡とその路徑にのこれり 8彼らは平穩なる道をしらず その過るところに公平なく又まがれる小徑をつくる 凡てこれを踐ものは平穩をしらず 9このゆゑに公平はとほくわれらをはなれ正義はわれらに追及ず われら光をのぞめど暗をみ 光輝をのぞめど闇をゆく 10われらは瞽者のごとく牆をさぐりゆき目なき者のごとく模りゆき正午にても日暮のごとくにつまづき強壯なる者のなかにありても死るもののごとし 11我儕はみな熊のごとくにほえ鴿のごとくに甚くうめき 審判をのぞめどもあることなく 救をのぞめども遠くわれらを離る 12われらの愆はなんぢの前におほくわれらのつみは證してわれらを訟へ われらのとがは我らとともに在り われらの邪曲なる業はわれら自らしれり 13われら罪ををかしてエホバを棄われらの神にはなれてしたがはず 暴虐と悖逆とをかたり虚偽のことばを心にはらみて説出すなり 14公平はうしろに退けられ正義ははるかに立り そは眞實は衢間にたふれ 正直はいることを得ざればなり 15眞實はかけてなく悪をはなるるものは掠めうばはる／エホバこれを見てその公平のなかりしを悦びたまはざりき 16エホバは人なきをみ中保なきを奇しみたまへり 斯てその臂をもてみづから助け その義をもてみづから支たまへり 17エホバ義をまとひて護胸とし救をその頭にいただきて兜となし 仇をまとひて衣となし 熱心をきて外服となしたまへり 18かれらの作にしたがひて報をなし敵にむかひていかり仇にむかひて報をなし また島々にむくいをなし給はん 19西方にてエホバの名

をおそれ 日のいづる所にてその榮光をおそるべし エホバは堰ぎとめたる河のその氣息にふき潰えたるがごとくに來りたまふ可ればなり 20 エホバのたまはく贖者シオンにきたりヤコブのなかの愆をはなるる者につかんと 21 エホバいひ給く なんぢの上にあるわが靈なんぢの口におきたるわがことばは 今よりのち永遠になんぢの口よりなんぢの裔の口より汝のすゑの裔の口よりはなれざるべし わがかれらにたつる契約はこれなりと此はエホバのみことばなり

60 起よひかりを發て なんぢの光きたりエホバの榮光なんぢのうへに照出たればなり 2 視よくらきは地をおほひ聞はもろもろの民をおほはん されど汝の上にはエホバ照出たまひてその榮光なんぢのうへに顯はるべし 3 もろもろの國はなんぢの光にゆき もろもろの王はてり出るなんぢが光輝にゆかん 4 なんぢの目をあげて環視せ かれらは皆つどひて汝にきたり 汝の子輩はとほきより來り なんぢの女輩はいだかれて來らん 5 そのときなんぢ視てよろこびの光をあらはし なんぢの心おどろきあやしみ且ひろらかなるべし そは海の富はうつりて汝につき もろもろの國の貨財はなんぢに來るべければなり 6 おほくの駱駝ミデアンおよびエバのわかき駱駝なんぢの中にあまねくみち シバのもろもろの人こがね乳香をたづきへきたりてエホバの譽をのべつたへん 7 ケダルのひつじの群はみな汝にあつまりきたり ネバヨテの牡羊はなんぢに事へ わが祭壇のうへにのぼりて受納られん 斯てわれわが榮光の家をかがやかすべし 8 雲のごとくとび鳩のその窠にとびかへるが如くしてきたる者はたれぞ 9 もろもろの島はわれを俟望み タルシシのふ

ねは首先になんぢの子輩をとほきより載きたり 並かれらの金銀をともにのせきたりてなんぢの神エホバの名にささげ イスラエルの聖者にささげん エホバなんぢを輝かせたまひたればなり **10** 異邦人はなんぢの石垣をきづき かれらの王等はなんぢに事へん そは我いかりて汝をうちしかどまた恵をもて汝を憐みたればなり **11** なんぢの門はつねに開きて夜も日もとぎすことなし こは人もろもろの國の貨財をなんぢに携へきたり その王等をひきゐる來らんがためなり **12** なんぢに事へざる國と民とはほろび そのくにぐには全くあれすたるべし **13** レバノンの榮はなんぢにきたり 松杉黄楊はみな共にきたりて我が聖所をかがやかさん われ亦わが足をおく所をたふとくすべし **14** 汝を苦しめたるものの子輩はかがみて汝にきたり 汝をさげしめたる者はことごとくなんぢの足下にふし 斯て汝をエホバの都イスラエルの聖者のシオンととなへん **15** なんぢ前にはすてられ憎まれてその中をすぐる者もなかりしが 今はわれ汝をとしへの華美よよの歡喜となさん **16** なんぢ亦もろもろの國の乳をすひ王たちの乳房をすひ 而して我エホバなんぢの救主なんぢの贖主ヤコブの全能者なるを知るべし **17** われ黄金をたづさへきたりて赤銅にかへ 白銀をたづさへきたりて鐵にかへ 赤銅を木にかへ鐵を石にかへ なんぢの施政者をおだやかにし なんぢを役するものを義うせん **18** 強暴のこと再びなんぢの地にきこえず 殘害と敗壞とはふたたびなんぢの境にきこえず 汝その石垣をすくひととなへ その門を響ととなへん **19** 晝は日ふたたびなんぢの光とならず 月もまた輝きてなんぢを照さず エホバ永遠になんぢの光となり なんぢの神

はなんぢの榮となり給はん 20 なんぢの日はふたたび
落ず なんぢの月はかくることなかるべし そはエホバ
永遠になんぢの光となり 汝のかなしみの日畢るべけ
ればなり 21 汝の民はことごとく義者となりてとこし
へに地を嗣ん かれはわが植たる樹株わが手の工わが
榮光をあらはす者となるべし 22 その小きものは千と
なり その弱きものは強國となるべし われエホバその
時いたらば速かにこの事をなさん

61 主エホバの靈われに臨めり こはエホバわれに膏
をそそぎて貧きものに福音をのべ傳ふことをゆだ
ね 我をつかはして心の傷める者をいやし俘囚にゆる
しをつげ 縛められたるものに解放をつげ 2 エホバの
めぐみの年とわれらの神の刑罰の日とを告しめ 又す
べて哀むものをなぐさめ 3 灰にかへ冠をたまひてシ
オンの中のかなしむ者にあたへ 悲哀にかへて歡喜の
あぶらを予へ うれひの心にかへて讚美の衣をかたへ
しめたまふなり かれらは義の樹 エホバの植たまふ者
その榮光をあらはす者ととなへられん 4 彼等はひさ
しく荒たる處をつくろひ 上古より廢れたる處をおこ
し 荒たる邑々をかされて新にし世々すたれたる處を
ふたたび建べし 5 外人はたちてなんぢらの群をかひ
異邦人はなんぢらの畑をたがへす者となり 葡萄をつ
くる者とならん 6 然どなんぢらはエホバの祭司とと
なへられ われらの神の役者とよばれ もろもろの國の
富をくらひ かれらの榮をえて自らほこるべし 7 曩に
うけし恥にかへ倍して賞賜をうけ凌辱にかへ嗣業を
えて樂むべし 而してその地にありて倍したる賞賜を
たもち永遠によるこびを得ん 8 われエホバは公平を
このみ邪曲なるかすめごとをにくみ 眞實をもて彼等

にむくいをあたへ 彼等ととしへの契約をたつべければなり 9 かれらの裔はもろもろの國のなかに知れかれらの子輩はもろもろの民のなかに知れん すべてこれを見るものはそのエホバの祝したまへる裔なるを辨ふべし 10 われエホバを大によろこび わが靈魂はわが神をたのしまん そは我にすくひの衣をさせ義の外服をまとはせて 新郎が冠をいただき新婦が玉こがねの飾をつくるが如くなしたまへばなり 11 地は芽をいだし畑はまけるものを生ずるがごとく 主エホバは義と譽とをもろもろの國のまへに生ぜしめ給ふべし

62 われシオンの義あさ日の光輝のごとくにいでエルサレムの救もゆる松火のごとくなるまではシオンのために黙さずエルサレムのために休まざるべし 2 もろもろの國はなんぢの義を見 もろもろの王はみななんぢの榮をみん 斯てなんぢはエホバの口にて定め給ふ新しき名をもて稱へらるべし 3 また汝はうるはしき冠のごとくエホバの手にあり 王の冕のごとくなんぢの神のたなごころにあらん 4 人ふたたび汝をすてられたる者といはず 再びなんぢの地をあれたる者といはじ 却てなんぢをへフジバ(わが悦ぶところ)ととなへなんぢの地をベウラ(配偶)ととなふべし そはエホバなんぢをよろこびたまふ なんぢの地は配偶をえん 5 わかきものの處女をめとる如くなんぢの子輩はなんぢを娶らん 新郎の新婦をよろこぶごとくなんぢの神なんぢを喜びたまふべし 6 エルサレムよ我なんぢの石垣のうへに斥候をおきて終日終夜たえず黙すことなからしむ なんぢらエホバに記念したまはんことを求むるものよ 自らやすむなかれ 7 エホバ、エルサレムをたてて全地に譽をえしめ給ふまでは

息め奉るなかれ 8 エホバその右手をさしその大能の
臂をさし誓ひて宣給く われ再びなんぢの五穀をなん
ぢの敵にあたへて食はせず 異邦人はなんぢが勞した
る酒をのまざるべし 9 収穫せしものは之をくらひて
エホバを讃たたへ 葡萄をあつめし者はわが聖所の庭
にて之をのむべし 10 門よりすすみゆけ進みゆけ 民
の途をそなへ土をもり土をもりて大路をまうけよ 石
をとりのぞけ もろもろの民に旗をあげて示せ 11 エホ
バ地の極にまで告てのたまはく 汝等シオンの女にい
へ 視よなんぢらの救きたる 視よ主の手にその恩賜あ
りはたらきの價はその前にあり 12 而してかれらは
きよき民またエホバにあがなはれたる者ととなへら
れん なんぢは人にもとめ尋らるるもの棄られざる邑
ととなへらるべし

63 このエドムよりきたり緋衣をきてボヅラよりき
たる者はたれぞ その服飾はなやかに大なる能力をも
て厳しく歩みきたる者はたれぞ これは義をもてかた
り大にすくひをほどこす我なり 2 なんぢの服飾はな
にゆゑに赤くなんぢの衣はなにゆゑに酒榨をふむ者
とひとしきや 3 我はひとりにて酒榨をふめり もろも
ろの民のなかに我とともにする者なし われ怒により
て彼等をふみ忿恚によりてかれらを踏にじりたれば
かれらの血わが衣にそそぎわが服飾をことごとく汚
したり 4 そは刑罰の日わが心の中にあり 救贖の歳す
でにきたれり 5 われ見てたすくる者なく扶る者なき
を奇しめり この故にわが臂われをすくひ我いきどほ
り我をささへたり 6 われ怒によりてもろもろの民を
ふみおさへ 忿恚によりてかれらを酔しめ かれらの血
を地に流れしめたり 7 われはエホバのわれらに施し

たまへる各種のめぐみとその譽とをかたりつけ 又その憐憫にしたがひ其おほくの恩恵にしたがひてイスラエルの家にほどこし給ひたる大なる恩寵をかたり告ん 8 エホバいひたまへり 誠にかれらはわが民なり 虚偽をせざる子輩なりと 斯てエホバはかれらのために救主となりたまへり 9 かれらの艱難のときはエホバもなやみ給ひてその面前の使をもて彼等をすくひ その愛とその憐憫とによりて彼等をあがなひ彼等をもたげ昔時の日つねに彼等をいだきたまへり 10 然るにかれらは悖りてその聖靈をうれへしめたる故にエホバ翻然かれらの仇となりて自らこれを攻たまへり 11 爰にその民いにしへのモーセの日をおもひいでて 曰けるは かれらとその群の牧者とを海より携へあげし者はいつこにありや 彼等のなかに聖靈をおきしものは何處にありや 12 榮光のかひなをモーセの右にゆかしめ 彼等のまへに水をさきて自らとこしへの名をつくり 13 彼等をみちびきて馬の野をはしるがごとく 躓かで淵をすぎしめたりし者はいつこに在りや 14 谷にくだる家畜の如くにエホバの靈かれらをいこはせ給へり 主よなんぢは斯おのれの民をみちびきて榮光の名をつくり給へり 15 ねがはくは天より俯觀なはし その榮光あるきよき居所より見たまへ なんぢの熱心となんぢの大能あるみわざとは今いつこにありや なんぢの切なる仁慈と憐憫とはおさへられて我にあらはれず 16 汝はわれらの父なり アブラハムわれらを知ず イスラエルわれらを認めず されどエホバよ汝はわれらの父なり 上古よりなんぢの名をわれらの贖主といへり 17 エホバよ何故にわれらをなんぢの道より離れまどはしめ我儕のこころを頑固にして汝を畏れ

ざらしめたまふや 願くはなんぢの僕等のためになんぢの産業なる支派のために歸りたまへ 18 汝のきよきたみ地をえて久しからざるにわれらの敵なんぢの聖所をふみにじれり 19 我儕はなんぢに上古より治められざる者のごとく なんぢの名をもて稱られざる者のごとくなりぬ

64 願くはなんぢ天を裂てくだり給へ なんぢのみまへに山々ふるひ動かんことを 2 火の柴をもやし火の水を沸すがごとくして降りたまへ かくて名をなんぢの敵にあらはし もろもろの國をなんぢのみまへに戦慄かしめたまへ 3 汝われらが逆料あたはざる懼るべき事をおこなひ給ひしときに降りたまへり 山々はその前にふるひうごけり 4 上古よりこのかた汝のほかになんぢに何なる神ありて俟望みたる者にかかる事をおこなひしや いまだ聴ず いまだ耳にいらず いまだ目にみしことなし 5 汝はよろこびて義をおこなひなんぢの途にありてなんぢを記念するものを迎へたまふ 視よなんぢ怒りたまへり われらは罪ををかせり かかる状なること既にひさし 我儕いかで救はるるを得んや 6 我儕はみな潔からざる物のごとくなり われらの義はことごとく汚れたる衣のごとし 我儕はみな木葉のごとく枯れ われらのよこしまは暴風のごとく我らを吹去れり 7 なんぢの名をよぶ者なく みづから勵みて汝によりすがる者なし なんぢ面をおほひてわれらを顧みたまはず われらが邪曲をもてわれらを消失せしめたまへり 8 されどエホバよ汝はわれらの父なり われらは泥塊にしてなんぢは陶工なり 我らは皆なんぢの御手のわざなり 9 エホバよいたく怒りたまふなかれ 永くよこしまを記念したまふなかれ 願くは顧みたま

へ我儕はみななんぢの民なり 10 汝のきよき諸邑は野となりシオンは野となりエルサレムは荒廢れたり 11 我らの先祖が汝を讃たたへたる榮光ある我儕のきよき宮は火にやかれ 我儕のしたひたる處はことごとく荒はてたり 12 エホバよこれらの事あれども汝なほみづから制へたまふや なんぢなほ黙してわれらに深くくるしみを受しめたまふや

65 我はわれを求めざりしものに問もとめられ 我をたづねざりしものに見出され わが名をよばざりし國にわれ曰らくわれは此にあり我はここに在と 2 善らぬ途をあゆみおのが思念にしたがふ悖れる民をひねもす手をのべて招けり 3 この民はまのあたり恒にわが怒をひき 園のうちにて犠牲をささげ 瓦の壇にて香をたき 4 墓のあひだにすわり隠密なる處にやどり 猪の肉をくらひ憎むべきものの糞をその器皿にもりて 5 人にいふなんぢ其處にたちて我にちかづくなかれそは我なんぢよりも聖しと 彼らはわが鼻のけぶり終日もゆる火なり 6 視よこの事わが前にしるされたりわれ黙さずして報いかへすべし 必ずかれらの懷中に報いかへすべし 7 エホバいひ給く なんぢらの邪曲となんぢらが列祖のよこしまとはともに報いかへすべし かれらは山上にて香をたき岡のうへにて我を汚ししがゆゑに 我まづその作をはかりてその懷中にかへすべし 8 エホバ如此いひたまふ 人ぶだうのなかに汁あるを見ばいはん これを壞るなかれ福祉その中にあればなりと 我わが僕等のために如此おこなひてことごとくは壞らじ 9 ヤコブより一裔をいだしユダよりわれ山々をうけつぐべき者をいださん わが撰みたる者はこれをうけつぎ我がしもべらは彼處にすむべし

10 シヤロンは羊のむれの牧場となりアコルの谷はう
しの群のふす所となりて我をたづねもとめたるわが
民の有とならん 11 然どなんぢらエホバを棄わがきよ
き山をわすれ 机をガド(禍福の神)にそなへ雑合せた
る酒をもちてメニ(運命の神)にささぐる者よ 12 われ
汝らを劍にわたすべく定めたり なんぢらは皆かがみ
て屠らるべし 汝等はわが呼しときこたへず わが語り
しとききかず わが目にあしき事をおこなひ わが好ま
ざりし事をえらみたればなり 13 このゆゑに主エホバ
かく言給ふ わが僕等はくらへども汝等ほうゑ わが僕
等はのめども汝等はいかき 我しもべらは喜べどもな
んぢらははぢ 14 わが僕等はこころ樂きによりて歌う
たへども汝等はこころ哀きによりて叫び また靈魂う
れふるによりて泣嘸ぶべし 15 なんぢらが遺名はわが
撰みたるものの呪詛の料とならん 主エホバなんぢら
を殺したまはん 然どおのれの僕等をほかの名をもて
呼たまふべし 16 斯るがゆゑに地にありて己のために
福祉をねがふものは眞實の神にむかひて福祉をもと
め 地にありて誓ふものは眞實の神をさして誓ふべし
さきの困難は忘れられてわが目よりかくれ失たるに
因る 17 視よわれ新しき天とあたらしき地とを創造す
人さきものを記念することなく之をその心におも
ひ出ることなし 18 然どなんぢらわが創造する者によ
りて永遠にたのしみよろこべ 視よわれはエルサレム
を造りてよろこびとしその民を快樂とす 19 われエル
サレムを喜びわが民をたのしまん 而して泣聲とさけ
ぶ聲とはふたたびその中にきこえざるべし 20 日數わ
づかにして死る嬰兒といのちの日をみたさざる老人
とはその中にまたあることなかるべし 百歳にて死る

ものも尚わかしとせられ 百歳にて死るものを詛れたる罪人とすべし 21 かれら家をたてて之にすみ葡萄園をつくりてその果をくらふべし 22 かれらが建るところにほかの人すまず かれらが造るところの果はほかの人くらはず そはわが民のいのちは樹の命の如く我がえらみたる者はその手の工ふるびうするとも存ふべければなり 23 かれらの勤勞はむなしからず その生ところの者はわざはひにかからず 彼等はエホバの福祉をたまひしものの裔にしてその子輩もあひ共にをる可ればなり 24 かれらが呼ざるさきにわれこたへ彼らが語りをへざるに我きかん 25 豺狼とこひつじと食物をともにし 獅は牛のごとく藁をくらひ 蛇はちりを糧とすべし 斯てわが聖山のいつこにても害ふことなく傷ることなからん これエホバの聖言なり

66 エホバ如此いひたまふ 天はわが位地はわが足臺なり なんぢら我がために如何なる家をたてんとするか 又いかなる處かわが休憩の場とならん 2 エホバ宣給く 我手はあらゆる此等のものを造りてこれらの物ことごとく成れり 我はただ苦しみまた心をいため我がことばを畏れをのくものを顧みるなりと 3 牛をほふるものは人をころす者のごとく 羔を犠牲とするものは狗をくぶりころす者のごとく 祭物をささぐるものは豕の血をささぐる者のごとく 香をたくものは偶像をほむる者のごとし 彼等はおのが途をえらみその心にくむべき者をたのしみとせり 4 我もまた災禍をえらびて彼等にあたへ その懼るところの事を彼らに臨ましめん そは我よびしとき應ふるものなく 我かたりしとき聽ことをせざりき わが目にあしき事をおこなひわが好まざる事をえらみたればなり 5 な

んぢらエホバの言をおそれをののく者よエホバの言
をきけ なんぢらの兄弟なんぢらを憎みなんぢらをわ
が名のために逐出していふ 願くはエホバその榮光を
あらはして我儕になんぢらの歡喜を見せしめよと 然
どかれらは恥をうけん 6 騒亂るこゑ邑よりきこえ聲
ありて宮よりきこゆ 此はエホバその仇にむくいをな
したまふ聲なり 7 シオンは産のなやみを知ざるさき
に生 その劬勞きたらざるさきに男子をうみいだせり
8 誰がかかる事をききしや誰がかかる類をみしや 一
の國はただ一日のくるしみにて成べけんや 一つの國
民は一時にうまるべけんや 然どシオンはくるしむ間
もなく直にその子輩をうめり 9 エホバ言給くわれ産
にのぞましめしに何でうまざらしめんや なんぢの神
いひたまはく 我はうましむる者なるにいかで胎をと
ぎさんや 10 エルサレムを愛するものよ皆かれとともに
に喜べ かれの故をもてたのしめ 彼のために悲めるも
のよ皆かれとともに喜びたのしめ 11 そはなんぢら乳
をすふ如くエルサレムの安慰をうけて飽ことを得ん
また乳をしぼるごとくその豊なる榮をうけておのづ
から心さわやかならん 12 エホバ如此いひたまふ 視
よわれ河のごとく彼に平康をあたへ 漲ぎる流のごと
く彼にもろもろの國の榮をあたへん 而して汝等これ
をすひ背におはれ膝におかれて楽しむべし 13 母のそ
の子をなぐさむるごとく我もなんぢらを慰めん なん
ぢらはエルサレムにて安慰をうべし 14 なんぢら見て
心よろこばん なんぢらの骨は若草のさかゆるごとく
だるべし エホバの手はその僕等にあらはれ又その仇
をはげしく怒りたまはん 15 視よエホバは火中にあら
はれて來りたまふその 車輦ははやちのごとし 烈しき

威勢をもてその怒をもらし火のほのほをもてその譴
をほどこし給はん 16 エホバは火をもて劍をもてよろ
づの人を刑ひたまはん エホバに刺殺さるるもの多か
るべし 17 エホバ宣給く みづからを潔くしみづから
を別ちて園にゆき その中にある木の像にしたがひ 豕
の肉けがれたる物および鼠をくらふ者はみな共にた
えうせん 18 我かれらの作爲とかれらの思念とをしれ
り 時きたらばもろもろの國民ともろもろの族とをあ
つめん 彼等きたりてわが榮光をみるべし 19 我かれ
らのなかに一つの休徴をたてて逃れたる者をもろも
ろの國すなはちタルシシよく弓をひくブル、ルデお
よびトバル、ヤワン又わが聲名をきかずわが榮光を
みざる遙かなる諸島につかはさん 彼等はわが榮光を
もろもろの國にのべつたふべし 20 エホバいひ給ふ
かれらはイスラエルの子輩がきよき器にそなへもの
をもりてエホバの家にとづきへきたるが如く なんぢ
らの兄弟をもろもろの國の中よりとづきへて馬車 輻
輳 駱駝にのらしめ わが聖山エルサレムにきたらせて
エホバの祭物とすべし 21 エホバいひ給ふ 我また彼
等のうちより人をえらびて祭司としレビ人とせんと
22 エホバ宣給く わが造らんとする新しき天とあた
らしき地とわが前にながくとどまる如く なんぢの裔と
なんぢの名はながくとどまらん 23 エホバいひ給ふ新
月ごとに安息日ごとによろづの人わが前にきたりて
崇拜をなさん 24 かれら出てわれに逆きたる人の屍を
みん その蛆しなずその火きえず よろづの人にいみき
らはるべし

エレミヤ書

1 これはベニヤミンの地アナトテの祭司の一人なるヒルキヤの子エレミヤの言なり **2** アモンの子ユダの王ヨシヤの時すなはちその治世の十三年にエホバの言エレミヤに臨めり **3** その言またヨシヤの子ユダの王エホヤキムの時にもものぞみてヨシヤの子ユダの王ゼデキヤの十一年のをはり即ちその年の五月エルサレムの民の移されたる時までにといたれり **4** エホバの言我にのぞみて云ふ **5** われ汝を腹につくらざりし先に汝をしり汝が胎をいでざりし先に汝を聖め汝をたてて萬國の預言者となせりと **6** 我こたへけるは噫主エホバよ視よわれは幼少により語ることを知らず **7** エホバわれにいひたまひけるは汝われは幼少といふ勿れすべて我汝を遣すところにゆき我汝に命ずるすべてのことを語るべし **8** なんぢ彼等の面を畏るる勿れ蓋われ汝と偕にありて汝をすくふべければなりとエホバいひたまへり **9** エホバ遂にその手をのべて我口につけエホバ我にいひたまひけるは視よわれ我言を汝の口にいれたり **10** みよ我けふ汝を萬民のうへと萬國のうへにたて汝をして或は抜き或は毀ち或は滅し或は覆し或は建て或は植しめん **11** エホバの言また我に臨みていふエレミヤよ汝何をみるや我こたへけるは巴旦杏の枝をみる **12** エホバ我にいひたまひけるは汝善く見たりそはわれ速に我言をなさんとすればなり **13** エホバの言ふたび我に臨みていふ汝何をみるや我こたへけるは沸騰たる鑊をみるその面は北より此方に向ふ **14** エホバ我にいひたまひけるは災北よりおこりてこの地に住るすべての者にきたらん **15** エホバいひたまひけるはわれ北の國々のすべての族をよ

ばん彼等きたりてエルサレムの門の入口とその周囲のすべての石垣およびユダのすべての邑々に向ひておのおのその座を設けん 16 われかれらの凡の悪事のために我鞫をかれにつげん是はかれら我をすてて別の神に香を焚きおのれの手にて作りし物を拝するによる 17 汝腰に帯して起ちわが汝に命ずるすべての事を彼等につげよその面を畏る勿れ否らざれば我かれらの前に汝を辱かしめん 18 視よわれ今日この全國とユダの王とその牧伯とその祭司とその地の民の前に汝を堅き城 鐵の柱 銅の牆となせり 19 彼等なんぢと戦はんとするも汝に勝ざるべしそはわれ汝とともにありて汝をすくふべければなりとエホバいひたまへり

2 エホバの言我にのぞみていふ 2 ゆきてエルサレムに住る者の耳につげよエホバ斯くいふ我汝につきて汝の若き時の懇切なんぢが契をなせしときの愛曠野なる種播ぬ地にて我に従ひしことを憶ゆと 3 イスラエルはエホバの聖物にしてその初に結べる實なりすべて之を食ふものは罰せられ災にあふべしとエホバ云ひたまへり 4 ヤコブの家とイスラエルの家の諸の族よエホバの言をきけ 5 エホバかくいひたまふ汝等の先祖は我に何の悪事ありしを見て我に遠かり 虚しき物にしたがひて虚しくなりしや 6 かれらは我儕をエジプトの地より導きいだし曠野なる岩穴ある荒たる地 早きたる死の蔭の地 人の過ぎざる地 人の住はざる地を通らしめしエホバはいづこにあるといはざりき 7 われ汝等を導きて園のごとき地にいれ其實と佳物をくらはしめたり然ど汝等此處にいり我地を汚し我産業を憎むべきものとなせり 8 祭司はエホバは

何處にいますといはず律法をあつかふ者は我を知ら
ず牧者は我に背き預言者はバアルによりて預言し益
なきものに従へり 9 故にわれ尚汝等とあらそはん且
汝の子孫とあらそふべしとエホバいひたまふ 10 汝等
キツテムの諸島にわたりて觀よまた使者をケダルに
つかはし斯のごとき事あるや否やを詳細に察せしめ
よ 11 その神を神にあらざる者に易たる國ありや然る
に我民はその榮を益なき物にかへたり 12 天よこの事
を驚け懼けいたく怖れよとエホバいひたまふ 13 蓋わ
が民はふたつの惡事をなせり即ち活る水の源なる我
をすて自己水溜を掘れりすなはち壞れたる水溜にし
て水を有たざる者なり 14 イスラエルはしもべなるか
家にうまれし僕なるかいかにして擄掠となれるや 15
わかき獅子かれにむかひて哮えその聲をあげてその
地を荒せりその諸邑は焚れて住む人なし 16 ノフとタ
パネスの諸子も汝の頭首の髪をくらはん 17 汝の神エ
ホバの汝を途にみちびきたまへる時に汝これを棄た
るによりて此事汝におよぶにあらずや 18 汝ナイルの
水を飲んとてエジプトの路にあるは何ゆゑぞまた河
の水を飲んとてアツスリヤの路にあるは何故ぞ 19 汝
の惡は汝をこらしめ汝の背は汝をせめん斯く汝が汝
の神エホバをすてたると我を畏るることの汝の衷に
あらざるとは惡く且つ苦きことなるを汝見てしるべ
しと主なる萬軍のエホバいひ給ふ 20 汝昔より汝の軛
ををり汝の縛を截ちていひけるは我つかふることを
せじと即ち汝すべての高山のうへと諸の青木の下に
妓女のごとく身をかがめたり 21 われ汝を植て佳き葡
萄の樹となし全き眞の種となせしにいかなれば汝わ
れに向ひて異なる葡萄の樹の惡き枝にかはりしや 22

たとひ囁言をもて自ら濯ひまたおほくの灰汁を加ふるも汝の悪はわが前に汚れたりと主エホバいひ給ふ
23 汝いかで我は汚れずバアルに従はざりしといふことを得んや汝谷の中のおこなひを觀よ汝のなせしことを知れ汝は疾走るわかき牝の駱駝にしてその途にさまよへり 24 汝は曠野になれたる野の牝驢馬なり其欲のために風にあへぐその欲のうごくときは誰かこれをとどめん凡てこれを尋る者は自ら勞するにおよばすその月の中に之にあふべし 25 汝足をつつしみて跣足にならざるやうにし喉をつつしみて渴かぬやうにせよしかるに汝いふ是は徒然なり然りわれ異なる國の者を愛してこれに従ふなりと 26 盜人の執へられて恥辱をうくるがごとくイスラエルの家恥辱をうく彼等その王その牧伯その祭司その預言者みな然り 27 彼等木にむかひて汝は我父なりといひまた石にむかひて汝は我を生みたりといふ彼等は背を我にむけて其面をわれに向けずされど彼等災にあふときは起てわれらを救ひ給へといふ 28 汝がおのれの爲に造りし神はいづこにあるやもし汝が災にあふときかれら汝を救ふを得ば起つべきなりそはユダよ汝の神は汝の邑の數に同じければなり 29 汝等なんぞ我とあらそふや汝らは皆我に背けりとエホバいひ給ふ 30 我が汝らの衆子を打しは益なかりき彼等は懲治をうけず汝等の劍は猛き獅子のごとく汝等の預言者を滅せり 31 なんぢらこの世の人よエホバの言をきけ我はイスラエルのために曠野となりしや暗き地となりしや何故にわが民はわれら徘徊りて復汝に來らじといふや 32 それ處女はその飾物を忘れんや新婦はその帯をわすれんや然ど我民の我を忘れたる日は數へがたし 33 汝

愛を得んとて如何に汝の途を美しくするぞよされば汝の行はあしき事を爲すに慣たり 34 また汝の裾に辜なき貧者の生命の血ありわれ盗人の穿たる所にて之を見ずしてすべて此等の上にこれを見る 35 されど汝いふわれは辜なし故にその怒はかならず我に臨まじとみよ汝われ罪を犯さざりしといふにより我汝とあらそふべし 36 なんぢ何故にその途を易んとて迅くはしるや汝アツスリヤに恥辱をうけしごとくエジプトにも亦恥辱をうけん 37 汝兩手を頭に置てかしこよりも出去らんそはエホバ汝のたのむところの者を棄れば汝彼等によりて望を遂ること無るべければなり

3 世にいへるあり人もしその妻をいださんに去りゆきてほかの人の妻とならば其夫ふたたび彼に歸るべけんやさすれば其地はおほいに汚れざらんや汝はおほくの者と姦淫を行へりされど汝われに皈れよとエホバいひ給ふ 2 汝目をあげてもろもろの童山をみよ姦淫を行はざる所はいづこにあるや汝は曠野にをるアラビヤ人の爲すがごとく路に坐して人をまてり汝は姦淫と悪をもて此地を汚せり 3 この故に雨はとどめられ春の雨はふらざりし然れど汝娼妓の額あれば肯て恥ず 4 汝いまより我を呼ていはざらんや我父よ汝はわが少時の交友なり 5 窮なくその怒を含まんや恒に之を存たんやと視よ汝はかくいへど力をきはめて悪を爲すなり 6 ヨシヤ王のときエホバまた我にいひ給ひけるは汝そむけるイスラエルのなせしことを見しや彼はすべての高山にのぼりすべての青木の下にゆきて其處に姦淫を行へり 7 彼このすべての事を爲せしのち我かれに汝われに歸れと言しかどもわれに歸らざりき其悖れる姊妹なるユダ之を見たり 8 我

に背けるイスラエル姦淫をなせしにより我かれを出して離縁状をあたへたれどその悖れる姉妹なるユダは懼れずして往て姦淫を行ふ我これを見る 9 また其姦淫の噪をもてこの地を汚し且石と木とに姦淫を行へり 10 此諸の事あるも仍其悖れる姉妹なるユダは眞心をもて我にかへらず僞れるのみとエホバいひたまふ 11 エホバまた我にいひたまひけるは背けるイスラエルは悖れるユダよりも自己を義とす 12 汝ゆきて北にむかひ此言を宣ていふべしエホバいひたまふ背けるイスラエルよ歸れわれ怒の面を汝らにむけじわれは矜恤ある者なり怒を限なく含みをることあらじとエホバいひたまふ 13 汝ただ汝の罪を認はせそは汝の神エホバにそむき經めぐりてすべての青木の下にて異邦人にゆき汝等わが聲をきかざればなりとエホバいひ給ふ 14 エホバいひたまふ背ける衆子よ我にかへれそはわれ汝等を娶ればなりわれ邑より一人支派より二人を取りて汝等をシオンにつれゆかん 15 われ我心に合ふ牧者を汝等にあたへん彼等は知識と明哲をもて汝等を養ふべし 16 エホバいひたまふ汝等地に増して多くならんときは人々復エホバの契約の櫃といはず之を想ひいでず之を憶えずこれを尋ねずこれを作らざるべし 17 その時エルサレムはエホバの座位と稱へられ萬國の民ここに集るべし即ちエホバの名によりてエルサレムに集り重て其惡き心の剛愎なるにしたがひて行まざるべし 18 その時ユダの家はイスラエルの家とともに行みて北の地よりいで我汝らの先祖たちに與へて嗣しめし地に偕にきたるべし 19 我いへり嗚呼われいかにして汝を諸子の中に置き萬國の中にて最も美しき産業なる此美地を汝にあたへんと

我またいへり汝われを我父とよび亦我を離れざるべしと 20 然にイスラエルの家よ妻の誓に違きてその夫を棄るがごとく汝等われに背けりとエホバいひたまふ 21 聲山のうへに聞ゆ是はイスラエルの民の悲み祈るなり蓋彼等まがれる途にあゆみ其神エホバを忘るればなり 22 背ける諸子よ我に歸れわれ汝の退違をいやさん／視よ我儕なんぢに到る汝はわれらの神エホバなればなり 23 信に諸の岡とおほくの山に救を望むはいたづらなり誠にイスラエルの救はわれらの神エホバにあり 24 羞恥はわれらの幼時より我儕の先祖の産業すなはち其多の羊とそのおほくの牛および其子その女を吞盡せり 25 われらは羞恥に臥し我らは恥辱に覆はるべしそは我儕とわれらの列祖は我らの幼時より今日にいたるまで罪をわれらの神エホバに犯し我儕の神エホバの聲に遵はざればなり

4 エホバいひたまふイスラエルよ汝もし歸らば我に歸れ汝もし憎むべき者を我前より除かば流蕩はじ 2 かつ汝は眞實と正直と公義とをもてエホバは活くと誓はんさらば萬國の民は彼によりて福祉をうけ彼によりて誇るべし 3 エホバ、ユダとエルサレムの人々にかくいひ給ふ汝等の新田を耕せ荆棘の中に種くなかれ。 4 ユダの人々とエルサレムに住める者よ汝等みづから割禮をおこなひてエホバに屬きおのれの心の前の皮を去れ然らざれば汝等の悪行のためわが怒火の如くに發して燃えんこれを滅すものなかるべし 5 汝等ユダに告げエルサレムに示していへ籟を國の中に吹けとまた大聲に呼はりていへ汝等あつまれ我儕堅き邑にゆくべしと 6 シオンに指示す合圖の旗をたてよ逃よ留まる勿れそは我北より災とおほいなる敗

壊をきたらすればなり 7 獅子は其森よりいでて上り
國々を滅すものは進みきたる彼汝の國を荒さんとて
既にその處よりいでたり汝の諸邑は滅されて住む者
なきに至らん 8 この故に汝等麻の衣を身にまとひて
悲み哭けそはエホバの烈しき怒いまだ我儕を離れざ
ればなり 9 エホバいひたまひけるはその日王と牧伯
等はその心をうしなひ祭司は驚き預言者は異むべし
10 我いひけるは嗚呼主エホバよ汝はまことに此民と
エルサレムを大にあざむきたまふすなはち汝はなん
ぢら安かるべしと云給ひしに劍命にまでおよべり 11
その時この民とエルサレムにいふものあらん熱き風
曠野の童山よりわが民の女にふききたると此は簸る
ためにあらず潔むる爲にもあらざるなり 12 これより
も猶はげしき風われより來らん今我かれらに鞫を示
さん 13 みよ彼は雲のごとく上りきたらん其車は颯風
のごとくにしてその馬は鷹よりも疾し嗚呼われらは
禍なるかな我儕滅さるべし 14 エルサレムよ汝の心の
惡をあらひ潔めよ然ばすくはれん汝の惡き念いつま
で汝のうちにあるや 15 ダンより告ぐる聲ありエフラ
イムの山より災を知するなり 16 汝ら國々の民に告げ
またエルサレムに知らせよ攻めかこむ者遠き國より
來りユダの諸邑にむかひて其聲を揚ぐと 17 彼らは田
圃をまもる者のごとくにこれを圍むこは我に従はざ
りしに由るとエホバいひ給ふ 18 汝の途と汝の行これ
を汝に招けりこれは汝の惡なり誠に苦くして汝の心
におよぶ 19 嗚呼わが腸よ我腸よ痛苦心の底におよび
わが心胸とどろくわれ黙しがたし我靈魂よ汝箎の聲
と軍の鬨をきくなり 20 敗滅に敗滅のしらせありこの
地は皆荒されわが幕屋は頃刻にやぶられ我幕は忽ち

破られたり 21 我が旗をみ籐の聲をきくは何時までぞ
や 22 それ我民は愚にして我を識らず拙き子等にして
曉ることなし彼らは悪を行ふに智けれども善を行ふ
ことを知ず 23 われ地を見るに形なくして空くあり天
を仰ぐに其處に光なし 24 我山を見るに皆震へまた諸
の丘も動けり 25 我見に人あることなし天空の鳥も皆
飛されり 26 我みるに肥美なる地は沙漠となり且その
諸の邑はエホバの前にその烈しき怒の前に毀たれた
り 27 そはエホバかくいひたまへりすべて此地は荒地
とならんされど我ことごとくは之を滅さじ 28 故に地
は皆哀しみ上なる天は暗くならん我すでに之をいひ
且これを定めて悔いずまた之をなす事を止ざればなり
29 邑の人みな騎兵と射者の咄喊のために逃て叢林
にいり又岩の上に升れり邑はみな棄られて其處に住
む人なし 30 滅されたる者よ汝何をなさんとするや設
令汝くれなるの衣をき金の飾物をもて身を粧ひ目を
ぬりて大きくするとともに汝が身を粧ふはいたづらなり汝
の戀人らは汝をいやしめ汝のいのちを索るなり 31 わ
れ子をうむ婦のごとき聲首子をうむ者の苦むがごと
き聲を聞く是れシオンの女の聲なりかれ自ら歎き手
をのべていふ嗚呼われは禍なるかな我靈魂殺す者の
ために疲れはてぬ

5 汝等エルサレムの邑をめぐりて視且察りその街を
尋ねよ汝等もし一人の公義を行ひ眞理を求る者に逢
はばわれ之(エルサレム)を赦すべし 2 彼らエホバは
活くといふとも實は偽りて誓ふなり 3 エホバよ汝の
目は誠實を顧みるにあらずや汝彼らを撻どもかれら
痛苦をおぼえず彼等を滅せどもかれら懲治をうけず
其面を磐よりも硬くして歸ることを拒めり 4 故に我

いひけるは此輩は惟いやしき愚なる者なればエホバの途と其神の鞫を知ざるなり 5 われ貴人にゆきて之に語らんかれらはエホバの途とその神の鞫を知るなり然に彼らも皆軛を折り縛を斷り 6 故に林よりいづる獅子は彼らを殺しアラバの狼はかれらを滅し豹はその邑をねらふ此處よりいづる者は皆裂るべしそは其罪おほくその背違はなはだしければなり 7 我なに故に汝をゆるすべきや汝の諸子われを棄て神にあらざる神を指して誓ふ我すでに彼らを誓はせたれど彼ら姦淫して娼妓の家に群集る 8 彼らは肥たる牡馬のごとくに行めぐりおのおの嘶きて隣の妻を慕ふ 9 エホバいひたまふ我これらの事のために彼らを罰せざらんや我心はかくの如き民に仇を復さざらんや 10 汝等その石垣にのぼりて滅せされど悉くはこれを滅す勿れその枝を截除けエホバのものに有ざればなり 11 イスラエルの家とユダの家は大に我に悖るなりとエホバいひたまふ 12 彼等はエホバを認ずしていふエホバはある者にあらず災われらに來らじ我儕劍と饑饉をも見ざるべし 13 預言者は風となり言はかれらの哀にあらず斯彼らになるべしと 14 故に萬軍の神エホバかくいひたまふ汝等この言を語により視よわれ汝の口にある我言を火となし此民を薪となさんその火彼らを焚盡すべし 15 エホバいひ給ふイスラエルの家よみよ我遠き國人をなんぢらに來らしめん其國は強くまた古き國なり汝等その言をしらず其語ることをも曉らざるなり 16 その箎は啓きたる墓のごとし彼らはみな勇士なり 17 彼らは汝の穢れたる物と汝の糧食を食ひ汝の子女を食ひ汝の羊と牛を食ひ汝の葡萄の樹と無花果の樹を食ひまた劍をもて汝の頼むところの

堅き邑を滅さん 18 されど其時われことごとくは汝を
滅さじとエホバいひたまふ 19 汝等何ゆゑにわれらの
神エホバ此等の諸のことを我儕になしたまふやとい
はば汝かれらに答ふべし汝ら我をすて汝らの地に於
て異なる神に奉へしごとく汝らのものにあらざる地
に於て異邦人につかふべしと 20 汝これをヤコブの家
にのべまたこれをユダに示していへ 21 愚にして了知
なく目あれども見えず耳あれども聞えざる民よこれ
をきけ 22 エホバいひ給ふ汝等われを畏れざるか我前
に戦慄かざるか我は沙を置いて海の界となしこれを永
遠の限界となし踰ることをえざらしむ其浪さかまき
いたるも勝ことあたはず澎湃もこれを踰るあたはざ
るなり 23 然るにこの民は背き且悖れる心あり既に背
きて去れり 24 彼らはまた我儕に雨をあたへて秋の雨
と春の雨を時にしたがひて下し我儕のために收穫の
時節を定め給へる我神エホバを畏るべしと其心にい
はざるなり 25 汝等の愆はこれらの事を退け汝等の罪
は嘉物を汝らに來らしめざりき 26 我民のうちに悪者
あり網を張る者のごとくに身をかがめてうかがひ罟
を置いて人をとらふ 27 樊籠に鳥の盈るがごとく不義の
財彼らの家に充つこの故に彼らは大なる者となり富
る者となる 28 彼らは肥て光澤あり其悪き行は甚し彼
らは訟をたださず孤の訟を糺さずして利達をえ亦貧
者の訴を鞠かず 29 エホバいひ給ふわれかくのごとき
ことを罰せざらんや我心は是のごとき民に仇を復さ
ざらんや 30 この地に驚くべき事と憎むべきこと行は
る 31 預言者は偽りて預言をなし祭司は彼らの手によ
りて治め我民は斯る事を愛すされど汝等その終に何
をなさんとするや

6 ベニヤミンの子等よエルサレムの中より逃れテコ
アに籐をふきベテハケレムに合圖の火をあげよそは
北より災と大なる敗壞のぞめばなり **2** われ美しき窈
窕なるシオンの女を滅さん **3** 牧者は其群を牽て此處
にきたりその周圍に天幕をはらん群はおのおのその
處にて草を食はん **4** 汝ら戦端を開きて之を攻べし起
よわれら日午にのぼらん嗚呼惜かな日ははや昃き夕
日の影長くなれり **5** 起よわれら夜の間にのぼりてそ
の諸の殿舎を毀たん **6** 萬軍のエホバかくいひたまへ
り汝ら樹をきりエルサレムに向ひて壘を築けこれは
罰すべき邑なりその中には唯暴逆のみあり **7** 源の水
をいだすがごとく彼その惡を流すその中に暴逆と威
虐きこゆ我前に憂と傷たえず **8** エルサレムよ汝訓戒
を受けよ然らざれば我心汝をはなれ汝を荒蕪となし
住む人なき地となさん **9** 萬軍のエホバかくいひたま
ふ彼らは葡萄の遺餘を摘みとるごとくイスラエルの
遺れる者を摘とらん汝葡萄を摘取者のごとく屢手を
筐に入るべし **10** 我たれに語り誰を警めてきかしめん
や視よその耳は割禮を受けざるによりて聽えず彼ら
はエホバの言を嘲りこれを悦ばず **11** エホバの怒わが
身に充つわれ忍ぶに倦むこれを衢街にある童子と集
れる年少者とに泄すべし夫も婦も老たる者も年邁し
者も執へらるるにいたらん **12** その家と田地と妻はと
もに佗人にわたらん其はわれ手を擧てこの地に住る
者を撃ばなりとエホバいひたまふ **13** 夫彼らは少さき
者より大なる者にいたるまで皆貪婪者なり又預言者
より祭司にいたるまで皆詭詐をなす者なればなり **14**
かれら淺く我民の女の傷を醫し平康からざる時に平
康平康といへり **15** 彼らは憎むべき事を爲て恥辱をう

くれども毫も恥ずまた愧を知らずこの故に彼らは傾
仆る者と偕にたふれん我來るとき彼ら躓かんとエ
ホバいひたまふ 16 エホバかくいひたまふ汝ら途に立
て見古き徑に就て何か善道なるを尋ねて其途に行め
さらば汝らの靈魂安を得ん然ど彼らこたへて我儕は
それに行まじといふ 17 我また汝らの上に守望者をた
て籬の聲をきけといへり然ど彼等こたへて我儕は聞
じといふ 18 故に萬國の民よきけ會衆よかれらの遇と
ころを知れ 19 地よきけわれ災をこの民にくださんこ
は彼らの思の結ぶ果なりかれら我言とわが律法をき
かずして之を棄るによる 20 シバより我許に乳香きた
り遠き國より菖蒲きたるは何のためぞやわれは汝ら
の燔祭をよろこばず汝らの犠牲を甘しとせず 21 故に
エホバかくいひたまふみよ我この民の前に躓礙をお
く父と子とそれに躓き隣人とその友偕に滅ぶべし 22
エホバかくいひたまふみよ民北の國よりきたる大な
る民地の極より起る 23 彼らは弓と槍をとる殘忍にし
て憫なしその聲は海の如く鳴るシオンの女よかれら
は馬に乗り軍人のごとく身をよろひて汝を攻めん 24
我儕その風聲をききたれば我儕の手弱り子をうむ婦
のごとき苦痛と劬勞われらに迫る 25 汝ら田地に出る
勿れまた路に行むなかれ敵の劍と畏怖四方にあれば
なり 26 我民の女よ麻衣を身にまとひ灰のうちにまろ
び獨子を喪ひしごとくに哀みていたく哭けそは毀滅
者突然に我らに來るべければなり 27 われ汝を民のう
ちに立て金を驗る者のごとくなし又城のごとくなす
こは汝をしてその途を知しめまた試みしめんためな
り 28 彼らは皆いたく悖れる者なり歩行て人を謗る者
なり彼らは銅のごとく鐵のごとし皆邪なる者なり 29

鞴は火に焚け鉛はつき鎔匠はいたづらに鎔す悪者いまだ除かれざればなり 30 エホバ彼らを棄たまふによりて彼等は棄られたる銀と呼ばれん

7 エホバよりエレミヤにのぞめる言云ふ **2** 汝エホバの室の門にたち其處にてこの言を宣て言へエホバを拜まんとてこの門にいりしユダのすべての人よエホバの言をきけ **3** 萬軍のエホバ、イスラエルの神かくいひ給ふ汝らの途と汝らの行を改めよさらばわれ汝等をこの地に住しめん **4** 汝ら是はエホバの殿なりエホバの殿なりエホバの殿なりと云ふ偽の言をたのむ勿れ **5** 汝らもし全くその途と行を改め人と人との間を正しく鞴き **6** 異邦人と孤兒と寡を虐げず無辜者の血をこの處に流さず他の神に従ひて害をまねかずば **7** 我なんぢらを我汝等の先祖にあたへしこの地に永遠より永遠にいたるまで住しむべし **8** みよ汝らは益なき偽の言を頼む **9** 汝等は盗み殺し姦淫し妄りて誓ひバアルに香を焚き汝らがしらざる他の神にしたがふなれど **10** 我名をもて稱へらるるこの室にきたりて我前にたち我らはこれらの憎むべきことを行ふとも救はるるなりといふは何にぞや **11** わが名をもて稱へらるる此室は汝らの目には盜賊の巢と見ゆるや我も之をみたりとエホバいひたまふ **12** 汝等わが初シロに於て我名を置し處にゆき我がイスラエルの民の惡のため其處になせしところのことをみよ **13** エホバいひたまふ今汝ら此等のすべての事をなす又われ汝らに語り頻にかたりたれども聽かず汝らを呼びたれども答へざりき **14** この故に我シロになせしごとく我名をもて稱へらるる此室になさんすなはち汝等が頼むところ我汝らと汝らの先祖にあたへし此處になすべし

15 またわれ汝等のすべての兄弟すなはちエフライムのすべての裔を棄てしごとく我前より汝らをも棄つべし 16 故に汝この民のために祈る勿れ彼らの爲に歎くなかれ求むるなかれ又我にとりなしをなす勿れわれ汝にきかじ 17 汝かれらがユダの邑とエルサレムの街になすところを見ざるか 18 諸子は薪を拾め父は火を燃き婦は麵を搏ねパンをつくりて之を天后にそなふ又かれら他の神の前に酒をそそぎて我を怒らす 19 エホバいひたまふ彼ら我を怒らすか是れおのが面を辱むるにあらずや 20 是故に主エホバかくいひたまふ視よわが震怒とわが憤怒はこの處と人と獸と野の樹および地の果にそそがん且燃て滅ざるべし 21 萬軍のエホバ、イスラエルの神かくいひたまふ汝らの犠牲に燔祭の物をあはせて肉をくらへ 22 そはわれ汝等の先祖をエジプトより導きいだせし日に燔祭と犠牲とに就てかたりしことなく又命ぜしことなし 23 惟われこの事を彼等に命じ汝ら我聲を聽ばわれ汝らの神となり汝ら我民とならん且わが汝らに命ぜしすべての道を行みて福祉をうべしといへり 24 されど彼らはきかず其耳を傾けずおのれの悪き心の謀と剛愎なるとにしたがひて行みまた後を我にむけて其面を向けざりき 25 汝らの先祖がエジプトの地をいでし日より今日にいたるまでわれ我僕なる預言者を汝らにつかはし日々晨より之をつかはせり 26 されど彼らは我にきかず耳を傾けずして其項を強くしその列祖よりも愈りて悪をなすなり 27 汝彼らに此等のすべてのことばを語るとも汝にきかずかれらと呼ぶとも汝にこたへざるべし 28 汝かく彼らに語れこれは其神エホバの聲を聽ずその訓を受ざる民なり眞實はうせてその口

に絶たり 29 (シオンの女よ)汝の髪を剃りてこれを棄て山の上に哀哭の聲をあげよエホバその怒るところの世の人をすててこれを離れたまへばなり 30 エホバいひたまふユダの民は我前に悪を行へり即ちその憎むべき者を我名をもて稱へらるる室に置てこれを汚せり 31 又ベンヒンノムの谷に於てトペテの崇邱を築きてその子女を火に焚かんとせり我これを命ぜずまた斯ることを思はざりし 32 エホバいひたまふ然ば視よ此處をトペテまたはベンヒンノムの谷と稱へずして殺戮の谷と稱ふる日きたらん其は葬るべき地所なきまでにトペテに葬るべければなり 33 この民の屍は天空の鳥と地の獣の食物とならんこれを逐ふものなかるべし 34 その時われユダの邑とエルサレムの街に欣喜の聲 歡樂の聲 新婿の聲 新婦の聲なからしむべしこの地荒蕪ればなり

8 エホバいひたまふその時人ユダの王等の骨とその牧伯等の骨と祭司の骨と預言者の骨とエルサレムの民の骨をその墓よりほりいだし 2 彼等の愛し奉へ従ひ求め且祭れるところの日と月と天の衆群の前にこれを曝すべし其骨はあつむる者なく葬る者なくして糞土のごとくに地の面にあらん 3 この悪き民の中ののこれる餘遺の者すべてわが逐やりしところに餘れる者皆生るよりも死ぬることを願んと萬軍のエホバ云たまふ 4 汝また彼らにエホバかくいふと語るべし人もし仆るれば起きかへるにあらずやもし離るれば歸り來るにあらずや 5 何故にエルサレムにをる此民は恒にわれを離れて歸らざるや彼らは詐偽をかたく執て歸ることを否めり 6 われ耳を側てて聽に彼らは善ことを云ず一人もその悪を悔いてわがなせし事は

何ぞやといふ者なし彼らはみな戦場に馳入る馬のごとくにその途に歸るなり 7 天空の鶴はその定期を知り斑鳩と燕と鴈はそのきたる時を守るされど我民はエホバの律法をしらざるなり 8 汝いかで我ら智慧ありわれらにはエホバの律法ありといふことをえんや視よまことに書記の偽の筆之を偽とせり 9 智慧ある者は辱しめられまたあわてて執へらる視よ彼等エホバの言を棄たり彼ら何の智慧あらんや 10 故にわれその妻を他人にあたへ其田圃を他人に嗣しめん彼らは小さき者より大なる者にいたるまで皆貪婪者また預言者より祭司にいたるまで皆詭詐をなす者なればなり 11 彼ら我民の女の傷を淺く醫し平康からざる時に平康平康といへり 12 彼ら憎むべき事をなして恥辱らる然れど毫も恥ずまた恥を知らずこの故に彼らは仆る者と偕に仆れんわが彼らを罰するときかれら躓くべしとエホバいひたまふ 13 エホバいひたまふ我彼らをことごとく滅さん葡萄の樹に葡萄なく無花果の樹に無花果なしその葉も槁れたり故にわれ殲滅者を彼らにつかはす 14 我ら何ぞ此にとどまるやあつまれよ我ら堅き城邑にゆきて其處に滅ん我儕エホバに罪を犯せしによりて我らの神エホバ我らを滅し毒なる水を飲せたまへばなり 15 われら平康を望めども善こと來らず慰めらるる時を望むにかへつて恐懼きたる 16 その馬の嘶はダンよりきこえこの地みなその強き馬の聲によりて震ふ彼らきたりて此地とその上にある者および邑とその中に住る者を食ふ 17 視よわれ呪詛のきかざる蛇虺を汝らのうちに遣はさん是汝らを嚙べしとエホバいひたまふ 18 嗚呼われ憂ふいかにして慰藉をえんや我哀の心惱む 19 みよ遠き國より我

民の女の聲ありていふエホバはシオンに在さざるか
其王はその中に在ざるか(エホバいひたまふ)彼ら
は何故にその偶像と異邦の虚き物をもて我を怒らせ
しやと 20 収穫の時は過ぎ夏もはや畢りぬされど我ら
はいまだ救はれず 21 我民の女の傷によりて我も傷み
且悲しむ恐懼我に迫れり 22 ギレアデに乳香あるにあ
らずや彼處に醫者あるにあらずやいかにして我民の
女はいやされざるや

9 ああ我わが首を水となし我目を涙の泉となすこと
をえんものを我民の女の殺されたる者の爲に晝夜哭
かん 2 嗚呼われ曠野に旅人の寓所をえんものを我民
を離れてさりゆかん彼らはみな姦淫するもの悖れる
者の族なればなり 3 彼らは弓を援くがごとく其舌を
もて偽をいだし彼らは此地において眞實のために強
からず悪より悪にすすみまた我を知ざるなりとエホ
バいひたまふ 4 汝らおのおの其隣に心せよ何の兄弟
をも信ずる勿れ兄弟はみな欺きをなし隣はみな讒り
まはればなり 5 彼らはおのおの其隣を欺きかつ眞實
をいはず其舌に謊をかたることを教へ悪をなすに勞
る 6 汝の住居は詭譎の中にあり彼らは詭譎のために
我を識ことをいなめりとエホバいひたまふ 7 故に萬
軍のエホバかくいひたまへり視よ我かれらを鎔し試
むべしわれ我民の女の事を如何になすべきや 8 彼ら
の舌は殺す矢のごとしかれら詭をいふまた其口をも
て隣におだやかにかたれども其心の中には害をはか
るなり 9 エホバいひたまふ我これらの事のために彼
らを罰せざらんや我心はかくのごとき民に仇を復さ
ざらんや 10 われ山のために泣き咄び野の牧場のため
に悲むこれらは焚れて過る人なしまたここに牛羊の

聲をきかず天空の鳥も獣も皆逃てさりぬ **11** われエルサレムを邱墟とし山犬の巢となさんまたユダの諸の邑々を荒して住む人なからしめん **12** 智慧ありてこの事を曉る人は誰ぞやエホバの口の言を受てこれを示さん者は誰ぞやこの地滅されまた野のごとく焚れて過る者なきにいたりしは何故ぞ **13** エホバいひたまふ是彼ら我その前に立しところの律法をすて我聲をきかず之に従はざるによりてなり **14** 彼らはその心の剛愎なるとその列祖たちがおのれに教へしバアルとに従へり **15** この故に萬軍のエホバ、イスラエルの神かくいひたまふ視よわれ彼等すなはち斯民に茵陳を食はせ毒なる水を飲せ **16** 彼らもその先祖たちもしらざりし國人のうちに彼らを散しまた彼らを滅し盡すまで其後に劍をつかはさん **17** 萬軍のエホバかくいひたまふ汝らよく考へ哭婦をよびきたれ又人を遣して智き婦をまねけよ **18** 彼らは速にきたりて我儕のために哭哀しみ我儕の目に涙をこぼさせ我儕の目蓋より水を溢れしめん **19** シオンより哀の聲きこゆ云く嗚呼われら滅され我ら痛く辱めらる我らは其地を去り彼らはわが住家を毀ちたり **20** 婦たちよエホバの言をきけ汝らの耳に其口の言をいれよ汝らの女に哭ことを教へおのおのその隣に哀の歌を教ふべし **21** そは死のぼりてわれらの窓よりいり我らの殿舎に入り外にある諸子を絶し街にある壯年を殺さんとすればなり **22** エホバかくいへりと汝云ふべし人の屍は糞土のごとく田野に墮ちんまた收穫者のうしろに残りて斂めずにある把のごとくならんと **23** エホバかくいひたまふ智慧ある者はその智慧に誇る勿れ力ある者は其力に誇るなかれ富者はその富に誇る事勿れ **24** 誇る者はこ

れをもて誇るべし即ち明哲して我を識る事とわがエホバにして地に仁恵と公道と公義とを行ふ者なるを知る事是なり我これらを悦ぶなりとエホバいひたまふ 25 エホバいひたまひけるは視よわれすべて陽の皮に割禮をうけたる者すなはちエジプトとユダとエドムとアンモンの子孫とモアブと野にをりてその鬚を剃る者とを罰する日きたらんそはすべて異邦人は割禮をうけずまたイスラエルの家も心に割禮をうけざればなり 26 エホバいひたまひけるは視よわれすべて陽の皮に割禮をうけたる者すなはちエジプトとユダとエドムとアンモンの子孫とモアブと野にをりてその鬚を剃る者とを罰する日きたらんそはすべて異邦人は割禮をうけずまたイスラエルの家も心に割禮をうけざればなり

10 イスラエルの家よエホバの汝らに語たまふ言をきけ 2 エホバかくいひたまふ汝ら異邦人の途に效ふ勿れ異邦人は天にあらはるる徴を懼るとも汝らはこれを懼る勿れ 3 異國人の風俗はむなしその崇むる者は林より斫たる木にして木匠の手に斧をもて作りし者なり 4 彼らは銀と金をもてこれを飾り釘と鍔をもて之を堅めて揺動かざらしむ 5 こは圓き柱のごとくにして言はずまた歩むこと能はざるによりて人にたづさへらる是は災害をくだし亦是は福祉をくだすの權なきによりて汝らこれを畏る勿れ 6 エホバよ汝に比ふべき者なし汝は大なり汝の名は其權威のために大なり 7 汝萬國の王たる者よ誰か汝を畏れざるべきや汝を畏るるは當然なりそは萬國のすべての博士たちのうちにもその諸國のうちにも汝に比ふべき者なければなり 8 彼らはみな獸のことくまた痴愚な

り虚しき者の教は惟木のみ 9 タルシシより携へ來し銀箔ウパズより携へ來し金は鍛冶と鑄匠の作りし物なり青と紫をその衣となす是はすべて巧みな細工人の工作なり 10 エホバは眞の神なり彼は活る神なり永遠の王なり其怒によりて地は震ふ萬國はその憤怒にあたること能はず 11 汝等かく彼らにいふべし天地を造らざりし諸神は地の上よりこの天の下より失きざらんと 12 エホバはその能をもて地をつくり其智慧をもて世界を建てその明哲をもて天を舒べたまへり 13 かれ聲をいませば天に衆の水ありかれ雲を地の極よりいだし電と雨をおこし風をその府庫よりい出す 14 すべての人は獸の如くにして智なしすべての鑄匠はその作りし像のために辱をとる其鑄るところの像は偽物にしてその中に靈魂なければなり 15 是らは虚き者にして迷妄の工作なりその罰せらるるときに滅ぶべし 16 ヤコブの分は是のごとくならず彼は萬物の造化主なりイスラエルはその産業の杖なりその名は萬軍のエホバといふなり 17 圍の中に坐する者よ汝の包を地より取りあげよ 18 エホバかくいひたまふみよ我この地にすめる者を此度擲たん且かれらをせめなやまして擄へられしむべし 19 われ毀傷をうく嗚呼われは禍なるかな我傷は重し我いふこれまことにわが患難なりわれ之を忍べし 20 わが幕屋はやぶれわが繩索は悉く斷れ我衆子は我をすてゆきて居ずなりぬ幕屋を張る者なくわが幃をかくる者なし 21 牧者は愚にしてエホバを求めず故に利達ずその群はみな散れり 22 きけよ風聲あり北の國より大なる騒きたる是ユダの諸邑を荒して山犬の巢となさん 23 エホバよわれ知る人の途は自己によらず且歩む人は自らその步履を

定むること能はざるなり 24 エホバよ我を懲したまへ
但道にしたがひ怒らずして懲したまへおそらくは我
無に歸せん 25 汝を知ざる國人と汝の名を顧ざる族に
汝の怒を斟ぎたまへ彼らはヤコブを噬ひ之をくらふ
て滅しその牧場を荒したればなり

11 エホバよりエレミヤにのぞめる言いふ 2 汝らこ
の契約の言をききユダの人とエルサレムにすめる者
に告よ 3 汝がかれらに語れイスラエルの神エホバかく
いひたまふこの契約の言に遵はざる人は詛はる 4 こ
の契約はわが汝らの先祖をエジプトの地獄の爐の中
より導き出せし日にかれらに命ぜしものなり即ち我
いひけらく汝ら我聲をきき我汝らに命ぜし諸の事に
従ひて行はば汝らは我民となり我は汝らの神となら
ん 5 われ汝らの先祖に乳と蜜の流るる地を與へんと
誓ひしことを成就んと即ち今日のごとしその時我こ
たへてアーメン、エホバといへり 6 またエホバ我に
いひたまひけるは汝すべて此等の言をユダの諸邑と
エルサレムの衢にしめし汝ら此契約の言をききてこ
れを行へといふべし 7 われ汝らの列祖をエジプトの
地より導出せし日より今日にいたるまで切に彼らを
戒め頻に戒めて汝ら我聲に遵へといへり 8 然ど彼ら
は遵はずその耳を傾けずおのおの其悪き心の剛愎な
るにしたがひて歩めり故にわれ此契約の言を彼等に
きたらす是はわがかれらに之を行へと命ぜしかども
彼等がおこなはざりし者なり 9 またエホバ我にいひ
たまひけるはユダの人々とエルサレムに住る者の中
に叛逆の事あり 10 彼らは我言をきくことを好まざり
しところのその先祖の罪にかへり亦他の神に従ひて
之に奉へたりイスラエルの家とユダの家はわがその

列祖たちと締たる契約をやぶれり **11** この故にエホバ
かくいひ給ふみよわれ災禍をかれらにくださん彼ら
これを免かるることをえざるべし彼ら我をよぶとも
我聽じ **12** ユダの邑とエルサレムに住る者はゆきてそ
の香を焚し神を顧んされど是等はその災禍の時に絶
てかれらを救ふことあらじ **13** ユダよ汝の神の數は汝
の邑の數のごとし且汝らエルサレムの衢の數にした
がひて恥べき者に壇をたてたり即ちバアルに香を焚
んとて壇をたつ **14** 故に汝この民の爲に祈る勿れ又そ
の爲に泣きあるひは求る勿れ彼らはその災禍のため
に我を呼ときわれ彼らに聽ざるべし **15** わが愛する者
は我室にて何をなすや惡き謀をなすや願と聖き肉汝
に災を脱れしむるやもし然らば汝よろこぶべし **16** エ
ホバ汝の名を嘉果ある美しき青橄欖の樹と稱たまひ
しがおほいなる喧嚷の聲をもて之に火をかけ且その
枝を折りたまふ **17** 汝を植し萬軍のエホバ汝の災をさ
だめ給へりこれイスラエルの家とユダの家みづから
害ふの惡をなしたるによるなり即ちバアルに香を焚
きてわれを怒らせたり **18** エホバ我に知せたまひけれ
ば我これを知るその時汝彼らの作爲を我にしめした
まへり **19** 我は牽れて宰られにゆく羔の如く彼らが我
をそこなはんとて謀をなすを知らず彼らいふいざ我ら
樹とその果とを共に滅さんかれを生る者の地より絶
てその名を人に忘れしむべしと **20** 義き鞫をなし人の
心腸を察りたまふ萬軍のエホバよ我わが訴を汝にの
べたればわれをして汝が彼らに仇を報すを見せしめ
たまへ **21** 是をもてエホバ、アナトテの人々につきて
かくいひたまふ彼等汝の生命を取んと索めて言ふ汝
エホバの名をもて預言する勿れ恐らくは汝我らの手

に死んと 22 故に萬軍のエホバかくいひ給ふみよ我かれらを罰すべし壯丁は劍に死にその子女は饑饉にて死なん 23 餘る者なかるべし我災をアナトテの人々にきたらしめわが彼らを罰するの年をきたらしめん

12 エホバよわが汝と争ふ時に汝は義し惟われ鞠の事につきて汝と言ん悪人の途のさかえ悖れる者のみな福なるは何故ぞや 2 汝かれらを植たり彼らは根づき成長て實を結べりその口は汝に近けどもその心は汝に遠ざかる 3 エホバ汝われを知り我を見またわが心の汝にむかひて何なるかを試みたまふ羊を宰りに牽いだすがごとく彼らを牽いだし殺す日の爲にかれらをそなへたまへ 4 いつまでこの地は哭きすべての畑の蔬菜は枯るべけんやこの地に住る者の悪によりて畜獸と鳥は滅さる彼らいふ彼は我らの終をみざるべしと 5 汝もし歩行者とともに趨てつかれなばいかで騎馬者と競はんや汝平安なる地を恃まばいかでヨルダンの傍の叢に居ることをえんや 6 汝の兄弟と汝の父の家も汝を欺きまた大聲をあげて汝を追ふかれらしたしく汝に語るともこれを信ずる勿れ 7 われ我家を離れわが産業をすて我靈魂の愛するところの者をその敵の手にわたせり 8 わが産業は林の獅子のごとし我にむかひて其聲を揚ぐ故にわれ之を惡めり 9 我産業は我におけること班駁ある鳥のごとくならずや鳥之を圍むにあらずや野のすべての獸きたりあつまれ來てこれを食へ 10 衆の牧者わが葡萄園をほろぼしわが地を踐踏しわがうるはしき地を荒野となせり 11 彼らこれを荒地となせりその荒地我にむかひて哭くなり一人もかへりみる者なければこの全地は荒たり 12 毀滅者は野のすべての童山のうへに來れりエホ

バの劍地のこの極よりかの極までを滅ぼすすべて血
氣ある者は安をえず 13 彼らは麥を播て荆棘をかる勞
れども得るところなし汝はその作物のために恥る
にいたらん是エホバの烈き怒によりてなり 14 わがイ
スラエルの民に嗣しむる産業をせむるところのすべ
てのわが惡き隣にむかひてエホバかくいふみよわれ
彼等をその地より拔出しまたユダの家を彼らの中よ
り拔出すべし 15 われ彼らを拔出せしちまた彼らを
恤みておのおのを其産業にかへし各人をその地に歸
らしめん 16 彼等もし我民の道をまなび我名をさして
エホバは活くと誓ふこと嘗て我民を教へてバアルを
指て誓はしめし如くせば彼らはわが民の中に建らる
べし 17 されど彼らもし聽かざれば我かならずかかる
民を全く拔出して滅すべしとエホバいひたまふ

13 エホバかくいひたまへり汝ゆきて麻の帶をかひ
汝の腰にむすべ水に入る勿れ 2 われすなはちエホバ
の言に遵ひ帶をかひてわが腰にむすべり 3 エホバの
言ふたび我にのぞみて云ふ 4 汝が買て腰にむすべ
る帶を取り起てユフラテにゆき彼處にてこれを磐の
穴にかくせと 5 ここに於てわれエホバの命じたまひ
し如く往てこれをユフラテの涯にかくせり 6 おほく
の日を経しちエホバ我にいひたまひけるは起てユ
フラテにゆきわが汝に命じて彼處にかくさしめし帶
を取れと 7 われすなはちユフラテにゆき帶を我隠せ
しところより掘取りしにその帶は朽て用ふるにたへ
ず 8 またエホバの言われにのぞみて云ふ 9 エホバか
くいふ我かくの如くユダの驕傲とエルサレムの大な
る驕傲をやぶらん 10 この惡き民はわが言を聽ことを
こぼみ己の心の剛愎なるにしたがひて行み且他の神

に従ひてこれにつかへ之を拜す彼等は此帶の用ふる
にたへざるが如くなるべし 11 エホバいふ帶の人の腰
に附がごとくわれイスラエルのすべての家とユダの
すべての家を我に附しめ之を我民となし名となし譽
となし榮となさんとせり然るに彼等はきかざりき 12
故に汝この言を彼らに語るべしイスラエルの神エホ
バかくいふ酒壺には皆酒盈つと彼汝にこたへていは
ん我儕豈酒壺に酒の盈ることを知ざらんやと 13 其時
汝かれらにいふべしエホバかくいふみよわれ此地に
住るすべての者とダビデの位に坐する王等と祭司と
預言者およびエルサレムに住るすべての者に酔を盈
せ 14 彼らを此と彼と打あはせて碎かん父と子をも然
すべしわれ彼らを恤まず惜まず憐まずして滅さん 15
汝らきけ耳を傾けよ驕る勿れエホバかたりたまふな
り 16 汝らの神エホバに其いまだ暗を起したまはざる
先汝らの足のくらき山に躓かざる先に榮光を舐すべ
し汝ら光明を望まんにエホバ之を死の蔭に變へ之を
昏黒となしたまふにいたらん 17 汝ら若これを聽ずば
我靈魂は汝らの驕を隠なるところに悲まん又エホバ
の群の掠めらるるによりて我目いたく泣て涙をなが
すべし 18 なんぢ王と太后につげよ汝ら自ら謙りて坐
せそはなんぢらの美しき冕汝らの首より落べければ
なり 19 南の諸邑は閉てこれを啓く人なしユダは皆擄
移され盡くとらへ移さる 20 汝ら目を擧げて北より來
る者を見よ汝らが賜はりし群汝のうるはしき群はい
づこにあるや 21 かれ汝の親み馴たる者を汝の上にた
てて首領となさんとき汝何のいふべきことあらんや
汝の痛は子をうむ婦のごとくならざらんや 22 汝心の
うちに何故にこの事我にきたるやといふか汝の罪の

重によりて汝の裾は掲げられなんぢの踵はあらはさ
るるなり 23 エテオピア人その膚をかへうるか豹その
斑駁をかへうるか若これを爲しえば悪に慣たる汝ら
も善をなし得べし 24 故にわれ彼らを散して野の風に
吹散さるる皮壳のごとくせん 25 エホバいひたまふこ
は汝の得べき分わが量て汝にあたふる産業なり汝我
をわすれて虚假を依頼ばなり 26 故にわれ汝の前の裳
を剥ぎて汝の羞恥をあらはさん 27 われ汝の姦淫と汝
の嘶と汝が岡のうへと野になせし汝の亂淫の罪と汝
の憎むべき行をみたりエルサレムよ汝は禍なるかな
汝の潔くせらるるには尚いくばくの時を経べきや

14 乾旱の事につきてエレミヤにのぞみしエホバの
言は左のごとし 2 ユダは悲むその門は傾き地にたふ
れて哭くエルサレムの咷は上る 3 その侯伯等は僕を
つかはして水を汲しむ彼ら井にいたれども水を見ず
空き器をもちて歸り恥かつ憂へてその首をおほふ 4
地に雨ふらずして土燥裂たるにより農夫は恥て首を
掩ふ 5 また野にある麀は子をうみて之を棄つ草なけ
ればなり 6 野の驢馬は童山のうへにたちて山犬のご
とく喘ぎ草なきによりて目眩む 7 エホバよ我儕の罪
われらを訟へて證をなすとも願くは汝の名の爲に事
をなし給へ我儕の違背はおほいなり我儕汝に罪を犯
したり 8 イスラエルの企望なる者その艱るときに救
ひたまふ者よ汝いかなれば此地に於て他邦人のごと
くし一夜寄宿の旅客のごとくしたまふや 9 汝いかな
れば呆てをる人のごとくし救をなすこと能はざる勇
士のごとくしたまふやエホバよ汝は我らの間にいま
す我儕は汝の名をもて稱へらるる者なり我らを棄た
まふ勿れ 10 エホバこの民にかくいひたまへり彼らか

く好んでさまよひ其足を禁めざればエホバ彼らを悦ばずいまその愆をおぼえ其罪を罰すべし 11 エホバまた我にいひたまひけるは汝この民のために恩をいのる勿れ 12 彼ら斷食するとも我その呼籲をきかず燔祭と素祭を献るとも我これをうけず却てわれ劍と饑饉と疫病をもて彼らを滅すべし 13 われいひけるは嗚呼主エホバよみよ預言者たちはこの民にむかひ汝ら劍を見ざるべし饑饉は汝らにきたらじわれ此處に鞏固なる平安を汝らにあたへんといへり 14 エホバ我にいひたまひけるは預言者等は我名をもて詭を預言せりわれ之を遣さず之に命ぜずまた之にははず彼らは虚誕の黙示と卜筮と虚きことと己の心の詐を汝らに預言せり 15 この故にかの吾が遣さざるに我名をもて預言して劍と饑饉はこの地にきたらじといへる預言者等につきてエホバかくいふこの預言者等は劍と饑饉に滅さるべし 16 また彼等の預言をうけし民は饑饉と劍によりてエルサレムの街に擲棄られんこれを葬る者なかるべし彼等とその妻および其子その女みな然りそはわれ彼らの悪をその上に斟げばなり 17 汝この言を彼らに語るべしわが目は夜も晝もたえず涙を流さんそは我民の童女大なる滅と重き傷によりて亡さるればなり 18 われ出て畑にゆくに劍に死る者あり我邑にいるに饑饉に艱むものあり預言者も祭司もみなその地にさまよひて知ところなし 19 汝はユダを悉くすてたまふや汝の心はシオンをきらふや汝いかなれば我儕を撃て愈しめざるか我ら平安を望めども善ことあらず又醫さる時を望むに却て驚懼あり 20 エホバよ我らはおのれの悪と先祖の愆を知るわれら汝に罪を犯したり 21 汝の名のために我らを棄たまふ勿れ

汝の榮の位を辱めたまふ勿れ汝のわれらに立し契約
をおぼえて毀りたまふなかれ 22 異邦の虚き物の中に
雨を降せうるものあるや天みづから白雨をくだすを
えんや我らの神エホバ汝これを爲したまふにあらず
や我ら汝を望むそは汝すべて此等を悉く作りたまひ
たればなり

15 エホバ我にいひたまひけるはたとひモーセとサ
ムエルわが前にたつとも我こころは斯民を顧ざるべ
しかれらを我前より逐ひていでさらしめよ 2 彼らも
し汝にわれら何處にいでさらんやといはば汝彼らに
エホバかくいへりといへ死に定められたる者は死に
いたり劍に定められたる者は劍にいたり饑饉に定め
られたる者は饑饉にいたり虜に定められたる者は虜
にいたるべしと 3 エホバ云たまひけるはわれ四の物
をもて彼らを罰せんすなはち劍をもて戮し犬をもて
噬せ天空の鳥および地の獸をもて食ひ滅さしめん 4
またユダの王ヒゼキヤの子マナセがエルサレムにな
せし事によりわれ彼らをして地のすべての國に艱難
をうけしめん 5 エルサレムよ誰か汝を憐まんたれか
汝のために嘆かん誰かちかづきて汝の安否を問はん
6 エホバいひたまふ汝われをすてたり汝退けり故にわ
れ手を汝のうへに伸て汝を滅さんわれ憫に倦り 7 わ
れ風扇をもて我民をこの地の門に煽がんかれらは其
途を離れざるによりて我その子を絶ち彼らを滅すべ
し 8 彼らの寡婦はわが前に海濱の沙よりも多し晝わ
れほろぼす者を携へきたりて彼らと壯者の母とをせ
め驚駭と恐懼を突然にかれの上におこさん 9 七人の
子をうみし婦は衰へて氣たえ尚晝なるにその日は早
く没る彼は辱められて面をあからめん其餘れる者は

われ之をその敵の劍に付さんとエホバいひたまふ 10
嗚呼われは禍なるかな我母よ汝なに故に我を生しや
全國の人我と争ひ我を攻むわれ人に貸さず人また我
に貸さず皆我を詛ふなり 11 エホバいひたまひけるは
我實に汝に益をえせしめんために汝を惱す我まこと
に敵をして其艱の時と災の時に汝に求むることをな
さしめん 12 鐵いかで北の鐵と銅を碎かんや 13 われ
汝の資産と汝の資財を擄掠物とならしめ價をうるこ
となからしめん是汝のすべての罪によるなりすべて
汝の境のうちにかくなさん 14 われ汝の敵をして汝を
汝の識ざる地にとらへ移さしめん夫我怒によりて火
燃え汝を焚んとするなり 15 エホバよ汝これを知りた
まふ我を憶え我をかへりみたまへ我を迫害るものに
仇を復したまへ汝の容忍によりて我をとらへられし
むる勿れ我汝の爲に辱を受るを知りたまへ 16 われ汝
の言を得て之を食へり汝の言はわが心の欣喜快樂な
り萬軍の神エホバよわれは汝の名をもて稱へらるる
なり 17 われ嬉笑者の會に坐せずまた喜ばずわれ汝の
手によりて獨り坐す汝憤怒をもて我に充したまへり
18 何故にわが痛は息ずわが傷は重くして愈ざるか汝
はわれにおけること水をたもたずして人を欺く溪河
のごとくなるや 19 是をもてエホバかくいひたまへり
汝もし歸らば我また汝をかへらしめて我前に立しめ
ん汝もし賤をすてて貴をいださば我口のごとくな
らん彼らは汝に歸らんされど汝は彼らにかへる勿れ 20
われ汝をこの民の前に堅き銅の牆となさんかれら汝
を攻るとも汝にかたざるべしそはわれ汝と偕にあり
て汝をたすけ汝を救へばなりとエホバいひたまへり

21 我汝を悪人の手より救ひとり汝を怖るべき者の手より放つべし

16 エホバの言また我にのぞみていふ **2** 汝この處にて妻を娶るなかれ子女を得るなかれ **3** 此處に生るる子女とこの地に之を生む母と之を生む父とに就てエホバかくいひたまふ **4** 彼らは惨しき病に死し哀まれず葬られずして糞土のごとくに田地の面にあらんまた劍と饑饉に滅されて其屍は天空の鳥と地の獸の食物とならん **5** エホバかくいひたまへり喪ある家にいる勿れまた往て之を哀み嗟く勿れそはわれ我平安と恩寵と矜恤をこの民より取ばなりとエホバいひたまへり **6** 大なる者も小さき者もこの地に死べし彼らは葬られずまた彼らのために哀む者なく自ら傷くる者なく髪をそる者なかるべし **7** またその哀むときパンをさきて其死者のために之を慰むるものなく又父あるひは母のために慰藉の杯を彼らに飲しむる者なかるべし **8** 汝また筵宴の家にいりて偕に坐して食飲する勿れ **9** 萬軍のエホバ、イスラエルの神かくいひたまふ視よ汝の目の前汝の世に在るときにわれ欣喜の聲と歡樂の聲と新娶者の聲と新婦の聲とを此處に絶しめん **10** 汝このすべての言を斯民に告るとき彼ら汝に問ふてエホバわれらを責てこの大なる災を示したまふは何故ぞやまたわれらに何の悪事あるやわが神エホバに背きてわれらのなせし罪は何ぞやといはば **11** 汝かれらに答ふべしエホバいひたまふ是汝らの先祖われを棄て他の神に従ひこれに奉へこれを拜した我をすてわが律法を守らざりしによる **12** 汝らは汝らの先祖よりも多く悪をなせりみよ汝らはおのおの自己の悪き心の剛愎なるにしたがひて我にきかず **13**

故にわれ汝らを此の地より逐ひて汝らと汝らの先祖の識ざる地にいたらしめん汝らかしこにて晝夜ほかの神に奉へん是わが汝らを憐まざるによるなりと **14** エホバいひたまふ然ばみよ此後イスラエルの民をエジプトの地より導きいだせしエホバは活くといふことなくして **15** イスラエルの民を北の地とそのすべて逐やられし地より導出せしエホバは活くといふ日きたらん我かれらを我その先祖に與へしかれらの地に導きかへるべし **16** エホバいひたまふみよ我おほくの漁者をよび來りて彼らを漁らせまたその後おほくの獵者を呼來りて彼らを諸の山もろもろの岡および岩の穴より獵いださしめん **17** 我目はかれらの諸の途を鑿る皆我にかくるところなし又その惡は我目に匿れざるなり **18** われまづ倍して其惡とその罪に報いんそは彼らその汚れたる者の屍をもて我地を汚しその惡むべきものをもて我産業に充せばなり **19** エホバ我の力 我の城 難の時の逃場よ萬國の民は地の極より汝にきたりわれらの先祖の嗣るところの者は惟謊と虚浮事と益なき物のみなりといはん **20** 人豈神にあらざる者をおのれの神となすべけんや **21** 故にみよわれ此度かれらに知らしむるところあらん即ち我手と我能をかれらに知らしめん彼らは我名のエホバなるを知るべし

17 ユダの罪は鐵の筆金剛石の尖をもてしるされその心の碑と汝らの祭壇の角に鐫らるるなり **2** 彼らはその子女をおもふが如くに青木の下と高岡のうへなるその祭壇とアシラをおもふ **3** われ野に在る我山と汝の資産と汝のもろもろの財産および汝の四方の境の内なる汝の罪を犯せる崇邱を擄掠物とならしめん

4 わが汝にあたへし産業より汝手をはなさん又われ汝をして汝の識ざる地に於て汝の敵につかへしめんそは汝ら我をいからせて限なく燃る火を發したればなり 5 エホバかくいひたまふおほよそ人を恃み肉をその臂とし心にエホバを離るる人は詛るべし 6 彼は荒野に棄られたる者のごとくならん彼は善事のきたるをみず荒野の燥きたる處鹽あるところ人の住ざる地に居らん 7 おほよそエホバをたのみエホバを其恃とする人は福なり 8 彼は水の旁に植たる樹の如くならん其根を河にのべ炎熱きたるも恐るところなしその葉は青く亢旱の年にも憂へずして絶ず果を結ぶべし 9 心は萬物よりも偽る者にして甚だ惡し誰かこれを知るをえんや 10 われエホバは心腹を察り腎腸を試みおのおのに其途に順ひその行爲の果によりて報ゆべし 11 鷓鴣のおのれの生ざる卵をいだが如く不義をもて財を獲る者あり其人は命の半にてこれに離れその終に愚なる者とならん 12 榮の位よ原始より高き者わが聖所たる者 13 イスラエルの望なるエホバよ凡て汝を離るる者は辱められん我を棄る者は土に録されん此はいける水の源なるエホバを離るるによる 14 エホバよ我を醫し給へ然らばわれ愈んわれを救ひたまへさらば我救はれん汝はわが頌るものなり 15 彼ら我にいふエホバの言は何にあるやいま之をのぞましめよと 16 われ牧者の職を退かずして汝にしたがひ又禍の日を願はざりき汝これを知りたまふ我唇よりいづる者は汝の面の前にあり 17 汝我を懼れしむる者となり給ふ勿れ禍の時に汝は我避場なり 18 我を攻る者を辱しめ給へ我を辱しむるなかれ彼らを怖れしめよ我を怖れしめ給ふなかれ禍の日を彼らに來らしめ滅

亡を倍して之を滅し給へ **19** エホバ我にかくいひ給へり汝ゆきてユダの王等の出入する民の門及びエルサレムの諸の門に立て **20** 彼らにいへ此門より入る所のユダの王等とユダのすべての民とエルサレムに住るすべての者よ汝らエホバの言をきけ **21** エホバかくいひたまふ汝ら自ら慎め安息日に荷をたづさへてエルサレムの門にいる勿れ **22** また安息日に汝らの家より荷を出す勿れ諸の工作をなす勿れ我汝らの先祖に命ぜしごとく安息日を聖くせよ **23** されど彼らは遵はず耳を傾けずまたその項を強くして聽ず訓をうけざるなり **24** エホバいひ給ふ汝らもし謹慎て我にきき安息日に荷をたづさへてこの邑の門にいらざ安息日を聖くなくして諸の工作をなさずば **25** ダビデの位に坐する王等牧伯たちユダの民エルサレムに住る者車と馬に乗てこの邑の門よりいることをえんまた此邑には限なく人すまはん **26** また人々ユダの邑とエルサレムの四周およびベニヤミンの地と平地と山と南の方よりきたり燔祭 犠牲 素祭 馨香 謝祭を携へてエホバの室にいらん **27** されど汝らもし我に聽ずして安息日を聖くせず安息日に荷をたづさへてエルサレムの門にいらばわれ火をその門の内に燃してエルサレムの殿舎を燬んその火は滅ざるべし

18 エホバよりエレミヤにのぞめる言いふ **2** 汝起て陶人の屋にくだれ我かしこに於てわが言を汝に聞しめんと **3** われすなはち陶人の屋にくだり視るに轆轤をもて物をつくりをりしが **4** その泥をもて造れるところの器陶人の手のうちに傷ねたれば彼その心のままに之をもて別の器をつくれり **5** 時にエホバの言我にのぞみていふ **6** エホバいふイスラエルの家よこの

陶人のなすが如くわれ汝になすことをえざるかイスラエルの家よ陶人の手に泥のあるごとく汝らはわが手にあり 7 われ急に民あるひは國をぬくべし敗るべし滅すべしといふことあらんに 8 もし我いひしところの國その惡を離れなば我之に災を降さんとおもひしことを悔ん 9 我また急に民あるいは國を立べし植べしといふことあらんに 10 もし其國わが目に悪く見ゆるところの事を行ひわが聲に遵はずば我これに福祉を錫へんといひしことを悔ん 11 汝いまユダの人々とエルサレムに住る者にいへエホバかくいへり視よ我汝らに災をくださんと思ひめぐらし汝らをはかる計策を設く故に汝らおのおの其惡き途を離れ其途と行をあらためよと 12 しかるに彼らいふ是は徒然なりわれらは自己の圖維ところにしたがひ各自その惡き心の剛復なるを行はんと 13 この故にエホバかくいひたまふ汝ら異國のうちに問へ斯の如きことを聞し者ありやイスラエルの處女はいと驚くべきことをなせり 14 レバノンの雪豈野の磬を離れんや遠方より流くる冷なる水豈澗かんや 15 しかるに我民は我をわすれて虚き物に香を焚り是等の物彼らをその途すなはち古き途に蹶かせまた徑すなはち備なき道に行しめ 16 その地を荒して恒に人の笑とならしめん凡て其處を過る者は驚きてその首を揺らん 17 われ東風のごとくに彼らをその敵の前に散さん其滅亡の日にはわれ背を彼らに向て面をむけじ 18 彼らいふ去來われら計策を設てエレミヤをはからんそれ祭司には律法あり智慧ある者には謀畧あり預言者には言ありて失ざるべし去來われら舌をもて彼を撃ちその諸の言を聽ことをせざらんと 19 エホバよ我にききたまへ又我と争ふ

者の聲をききたまへ 20 悪をもて善に報ゆべきものならんや彼らはわが生命をとらん爲に坑を掘れりわが汝の前に立て彼らを善く言ひ汝の憤怒を止めんとせしを憶えたまへ 21 さればかれらの子女を饑饉にあたへ彼らを劍の刃にわたしたまへ其妻は子を失ひ且寡となり其男は死をもて亡されその少者は劍をもて戦に殺されよかし 22 汝突然に敵をかれらに臨ませたまふ時號呼をその家の内より聞えしめよそは彼ら坑を掘りて我を執へんとしたまふ機檻を置てわが足を執へんとすればなり 23 エホバよ汝はかれらが我を殺さんとするすべての謀畧を知りたまふ其惡を赦すことなく其罪を汝の前より抹去りたまふなかれ彼らを汝の前に仆れしめよ汝の怒りたまふ時にかく彼らになしたまへ

19 エホバかくいひたまふ往て陶人の瓦罇をかひ民の長老と祭司の長老の中より數人をともなひて 2 陶人の門の前にあるベンヒンノムの谷にゆき彼處に於てわが汝に告んところの言を宣よ 3 云くユダの王等とエルサレムに住る者よエホバの言をきけ萬軍のエホバ、イスラエルの神かくいひたまふ視よ我災を此處にくだすべし凡そ之をきく者の耳はかならず鳴らん 4 こは彼ら我を棄てこの處を瀆し此にて自己とその先祖およびユダの王等の知ざる他の神に香を焚き且辜なきものの血をこの處に盈せばなり 5 又彼らはバアルの爲に崇邱を築き火をもて己の兒子を焚き燔祭となしてバアルにささげたり此わが命ぜしことにあらず我いひしことにあらず又我心に意はざりし事なり 6 エホバいひたまふさればみよ此處をトベテまたはベンヒンノムの谷と稱ずして屠戮の谷と稱ふる

日きたらん 7 また我この處に於てユダとエルサレムの謀をむなしうし劍をもて彼らを其敵の前とその生命を索る者の手に仆しまたその屍を天空の鳥と地の獸の食物となし 8 かつ此邑を荒して人の胡盧とならしめん凡そこを過る者はその諸の災に驚きて笑ふべし 9 また彼らとその敵とその生命を索る者と共に圍みくるしめらるる時我彼らをして己の子の肉女の肉を食はせん又彼らは互にその友の肉を食ふべし 10 汝ともに行く人の目の前にてその瓦罇を毀ちて彼らにいふべし 11 萬軍のエホバかくいひ給ふ一回毀てば復全うすること能はざる陶人の器を毀つが如くわれ此民とこの邑を毀たんまた彼らは葬るべき地なきによりてトペテに葬られん 12 エホバいひ給ふ我この處とこの中に住る者と共に斯なし此邑をトペテの如くなすべし 13 且エルサレムの室とユダの王等の室はトペテの處のごとく汚れん其は彼らすべての室の屋蓋のうへにて天の衆群に香をたき他の神に酒をそそげばなり 14 エレミヤ、エホバの己を遣はして預言せしめたまひしトペテより歸りきたりエホバの室の庭に立ちすべての民に語りていひけるは 15 萬軍のエホバ、イスラエルの神かくいひたまふ視よわれ我いひし諸の災をこの邑とその諸の郷村にくださん彼らその項を強くして我言を聽ざればなり

20 祭司インメルの子エホバの室の宰の長なるパシユル、エレミヤがこの言を預言するをきけり 2 是に於てパシユル預言者エレミヤを打ちエホバの室にある上のベニヤミンの門の桎梏に繋げり 3 翌日パシユル、エレミヤを桎梏より釋はなちしにエレミヤ彼にいひけるはエホバ汝の名をパシユルと稱ずしてマゴ

ルミッサビブ(驚懼周圍にあり)と稱び給ふ 4 即ちエホバかくいひたまふ視よわれ汝をして汝と汝のすべての友に恐怖をおこさしむる者となさん彼らはその敵の劍に仆れん汝の目はこれを見べし我またユダのすべての民をバビロン王の手に付さん彼は彼らをバビロンに移し劍をもて殺すべし 5 我またこの邑のすべての貨財とその得たる諸の物とその諸の珍寶とユダの王等のすべての儲蓄を其敵の手に付さん彼らはこれを掠めまた民を擄へてバビロンに移すべし 6 パシユルよ汝と汝の家にすめる者は悉く擄へ移されん汝はバビロンにいたりて彼處に死にかしこに葬られん汝も汝が偽りて預言せし言を聽し友もみな然らん 7 エホバよ汝われを勧めたまひてわれ其勸に従へり汝我をとらへて我に勝給へりわれ日々人の笑となり人皆我を嘲りぬ 8 われ語り呼はるごとに暴逆殘虐の事をいふエホバの言日々わが身の恥辱となり嘲弄となるなり 9 是をもて我かさねてエホバの事を宣ず又その名をもてかたらじといへり然どエホバのことは我心にありて火のわが骨の中に閉こもりて燃るがごとくなれば忍耐につかれて堪難し 10 そは我おほくの人の讒をきく驚懼まはりにあり訴へよ彼を訴へん我親しき者はみな我蹶くことあらんかと窺ひて互にいふ彼誘はるることあらんしからば我儕彼に勝て仇を報ゆることをえんと 11 然どエホバは強き勇士のごとくにして我と偕にいます故に我を攻る者は蹶きて勝ことをえずそのなし遂ざるが爲に大なる恥辱を取ん其羞恥は何時迄も忘れざるべし 12 義人を試み人の心腸を見たまふ萬軍のエホバよ我汝に訴を申たれば我をして汝が彼らに仇を報すを見せしめよ 13 エホ

バに歌を謡へよエホバを頌めよそは貧者の生命を悪者の手より救ひ給へばなり 14 ああ我生れし日は詛はれよ我母のわれを生し日は祝せられざれ 15 わが父に男子汝に生れしと告て父を大に喜ばせし人は詛はれよ 16 其人はエホバの憫まずして滅したまひし邑のごとくなれよ彼をして朝に號呼をきかしめ午間に鬨聲をきかしめよ 17 彼我を胎のうちに殺さず我母を我の墓となさず常にその胎を大ならしめざりしが故なり 18 我何なれば胎をいでて艱難と憂患をかうむり恥辱をもて日を送るや

21 ゼデキヤ王マルキヤの子バシユルと祭司マアセヤの子ゼパニヤをエレミヤに遣し 2 バビロンの王ネブカデネザル我らを攻むれば汝われらの爲にエホバに求めよエホバ恒のごとくそのもろもろの奇なる跡をもて我らを助けバビロンの王を我らより退かしめたまふことあらんと曰しむ其時エホバの言エレミヤに臨めり 3 エレミヤ彼らにこたへけるは汝らゼデキヤにかく語ふべし 4 イスラエルの神エホバかくいひたまふ視よわれ汝らがこの邑の外にありて汝らを攻め圍むところのバビロン王およびカルデヤ人とたたかひて手に持ところのその武器をかへし之を邑のうちに聚めん 5 われ手を伸べ臂をつよくし震怒と憤恨と烈き怒をもて汝らをせむべし 6 我また此邑にすめる人と畜を撃ん皆重き疫病によりて死べし 7 エホバいひたまふ此後われユダの王ゼデキヤとその諸臣および民此邑に疫病と劍と饑饉をまぬかれて遺れる者をバビロンの王ネブカデネザルの手と其敵の手および凡そその生命を索る者の手に付さんバビロンの王は劍の刃をもて彼らを撃ちかれらを惜まず顧みず恤

れまざるべし 8 汝また此民にエホバかくいふと語るべし 視よわれ生命の道と死の道を汝らの前に置く 9 この邑にとどまる者は劍と饑饉と疫病に死べしされど汝らを攻め圍むところのカルデヤ人に出降る者はいきん其命はおのれの掠取物となるべし 10 エホバいひたまふ我この邑に面を向しは福をあたふる爲にあらず禍をあたへんが爲なりこの邑はバビロンの王の手に付されん彼火をもて之を焚くべし 11 またユダの王の家に告べし汝らエホバの言をきけ 12 ダビデの家よエホバかくいふ汝朝ごとに義く鞫をなし物を奪はるる人をその暴逆者の手より救へ否ざれば汝らの行の悪によりて我怒火のごとくに發で燃て滅ざるべし 13 エホバいひたまふ谷と平原の磐とにすめる者よみよ我汝に敵す汝らは誰か降て我儕を攻んや誰かわれらの居處にいらんやといふ 14 我汝らをその行の果によりて罰せん又其林に火を起し其四周をことごとく焚つくすべしとエホバいひたまふ

22 エホバかくいひたまへり汝ユダの王の室にくだり彼處にこの言をのべていへ 2 ダビデの位に坐するユダの王よ汝と汝の臣および此門よりいる汝の民エホバの言をきけ 3 エホバかくいふ汝ら公道と公義を行ひ物を奪はるる人をその暴虐者の手より救ひ異邦人と孤子と嫠婦をなやまし虐ぐる勿れまた此處に無辜の血を流す勿れ 4 汝らもし此言を眞に行はばダビデの位に坐する王とその臣および其民は車と馬に乗てこの室の門にいることをえん 5 然ど汝らもし此言を聽ずばわれ自己を指して誓ふ此室は荒地となるべしとエホバいひたまふ 6 エホバ、ユダの王の家につきてかく曰たまふ汝は我におけることギレアデのご

とくレバノンの巔のごとし然どわれかならず汝を荒野となし人の住はざる邑となさん 7 われ破壊者をまふけて汝を攻めしめん彼ら各人その武器を執り汝の美しき香柏を斫てこれを火に投いれん 8 多の國の人此邑をすぎ互に語てエホバ何なれば此大なる邑にかく爲せしやといはんに 9 人こたへて是は彼等其神エホバの契約をすてて他の神を拜し之に奉へしに由なりといはん 10 死者の爲に泣くことなくまた之が爲に嗟くこと勿れ寧擄へ移されし者の爲にいたく嗟くべし彼は再び歸てその故園を見ざるべければなり 11 ユダの王ヨシヤの子シャルム即ちその父に繼で王となりて遂に此處をいでたる者につきてエホバかくいひたまへり彼は再び此處に歸らじ 12 彼はその移されし處に死んふたたび此地を見ざるべし 13 不義をもて其室をつくり不法をもて其樓を造り其隣人を備て何も與へず其價を拂はざる者は禍なるかな 14 彼いふ我己の爲に廣厦と涼しき樓をつくり又己の爲に窓を造り香柏をもて之を蔽ひ赤く之を塗んと 15 汝香柏を争ひもちふるによりて王たるを得るか汝の父は食飲せざりしや公義と公道を行ひて福を得ざりしや 16 彼は貧者と患艱者の訟を理して祥をえたりかく爲すは我を識ことに非ずやとエホバいひ給ふ 17 然ど汝の目と心は惟貪をなさんとし無辜の血を流さんとし虐遇と暴逆をなさんとするのみ 18 故にエホバ、ユダの王のヨシヤの子エホヤキムにつきてかく曰たまふ衆人は哀しいかな我兄かなしいかな我姉といひて嗟かず又哀しいかな主よ哀しいかな其榮と曰て嗟かじ 19 彼は驢馬を埋るがごとく埋られん即ち曳れてエルサレムの門の外に投棄らるべし 20 汝レバノンに登りて呼ば

はりバシヤンに汝の聲を揚げアバリムより呼はれ其は汝の愛する者悉く滅されたればなり 21 汝の平康なる時我汝に語しかども汝は我にきかじといへり汝いとけなき時よりわが聲を聽ずこれ汝の故習なり 22 汝の牧者はみな風に吞つくされ汝の愛する者はとらへ移されん其時汝はおのれの諸の惡のために痛く恥べし 23 汝レバノンにすみ巢を香柏につくる者よ汝の劬勞子を産む婦の痛苦のごとくにきたらんとき汝の哀慘はいかにぞや 24 エホバいひたまふ我は活くユダの王エホヤキムの子エコニヤは我右の手の指環なれども我これを抜ん 25 われ汝の生命を索る者の手および汝が其面を畏るる者の手すなはちバビロンの王ネブカデネザルの手とカルデヤ人の手に汝を付さん 26 われ汝と汝を生し母を汝等がうまれざりし他の地に逐やらん汝ら彼處に死べし 27 彼らの靈魂のいたく歸らんことを願ふところの地に彼らは歸ることをえず 28 この人エコニヤは賤しむべき壞れたる器ならんや好ましからざる器具ならんや如何なれば彼と其子孫は逐出されてその識ざる地に投やらるるや 29 地よ地よ地よエホバの言をきけ 30 エホバかくいひたまふこの人を子なくして其生命の中に榮えざる人と録せそはその子孫のうちに榮えてダビデの位に坐しユダを治る人かさねてなかるべければなり

23 エホバいひ給ひけるは嗚呼わが養ふ群を滅し散す牧者は禍なるかな 2 故にイスラエルの神エホバ我民を養ふ牧者につきて斯いふ汝らはわが群を散しこれを逐はなちて顧みざりき視よわれ汝らの惡き行によりて汝等に報ゆべしとエホバいふ 3 われ我群の遺餘たる者をその逐はなちたる諸の地より集め再びこ

れを其牢に歸さん彼らは子を産て多くなるべし 4 我
これを養ふ牧者をその上に立ん彼等はふたたび慄か
ず懼ずまた失じとエホバいひたまふ 5 エホバいひた
まひけるは視よわがダビデに一の義き枝を起す日來
らん彼王となりて世を治め榮え公道と公義を世に行
ふべし 6 其日ユダは救をえイスラエルは安に居らん
其名はエホバ我儕の義と稱らるべし 7 この故にエホ
バいひ給ふ視よイスラエルの民をエジプトの地より
導出せしエホバは活くと人衆復いはずして 8 イスラ
エルの家の裔を北の地と其諸て逐やりし地より導出
せしエホバは活くといふ日來らん彼らは自己の地に
居るべし 9 預言者輩のために我心はわが衷に壞れわ
が骨は皆震ふ且エホバとその聖言のためにわれは酔
る人のごとく酒に勝る人のごとし 10 この地は姦淫
をなすもの盈ち地は呪詛によりて憂へ曠野の艸は枯
る彼らの途はあしく其力は正しからず 11 預言者と祭
司は偕に邪惡なりわれ我家に於てすら彼等の惡を見
たりとエホバいひたまふ 12 故にかれらの途は暗に在
る滑なる途の如くならん彼等推れて其途に仆るべし
我災をその上にのぞましめん是彼らが刑罰らるる年
なりとエホバいひたまふ 13 われサマリヤの預言者の
中に愚昧なる事あるをみたり彼等はバアルに託りて
預言し我民イスラエルを惑はせり 14 我エルサレムの
預言者の中にも憎むべき事あるを見たり彼等は姦淫
をなし詐偽をおこなひ惡人の手を堅くして人をその
惡に離れざらしむ彼等みな我にはソドムのごとく其
民はゴモラのごとし 15 この故に萬軍のエホバ預言者
につきてかくいひたまふ視よわれ茵陳を之に食はせ
毒水をこれに飲せんそは邪惡エルサレムの預言者よ

りいでて此全地に及べばなり 16 萬軍のエホバかくい
ひたまふ汝等に預言する預言者の言を聽く勿れ彼等
は汝らを欺きエホバの口よりいでざるおのが心の默
示を語るなり 17 常に彼らは我を藐忽する者にむかひ
て汝等平安をえんとエホバいひたまへりといひ又己
が心の剛愎なるに循ひて行むところのすべての者に
向ひて災汝らに來らじといへり 18 誰かエホバの議會
に立て其言を見聞せし者あらんや誰か其耳を傾けて
我言を聽し者あらんや 19 みよエホバの暴風あり怒と
旋轉風いでて悪人の首をうたん 20 エホバの怒はかれ
がその心の思を行ひてこれを遂げ給ふまでは息じ末
の日に汝ら明にこれを曉らん 21 預言者等はわが遣さ
ざるに趨り我告ざるに預言せり 22 彼らもし我議會に
立ちしならば我民にわが言をきかして之をその悪
き途とその悪き行に離れしめしならん 23 エホバいひ
給ふ我はただ近くにおいてのみ神たらんや遠くに於
ても神たるにあらずや 24 エホバいひたまふ人我に見
られざる様に密かなる處に身を匿し得るかエホバい
ひたまふ我は天地に充るにあらずや 25 われ我名をも
て謊を預言する預言者等がわれ夢を見たりわれ夢を
見たりと曰ふをきけり 26 謊を預言する預言者等はい
つまで此心をいだくや彼らは其心の詐偽を預言する
なり 27 彼らは其先祖がバアルによりて我名を忘れし
ごとく互に夢をかたりて我民にわが名を忘れしめん
と思ふや 28 夢をみし預言者は夢を語るべし我言を受
し者は誠實をもて我言を語るべし糠いかで麥に比擬
ことをえんやとエホバいひたまふ 29 エホバ言たまは
く我言は火のごとくならずや又磐を打碎く槌の如く
ならずや 30 故に視よわれ我言を相互に竊める預言者

の敵となるとエホバいひたまふ 31 視よわれは彼いひ
たまへりと舌をもて語るところの預言者の敵となる
とエホバいひたまふ 32 エホバいひたまひけるは視よ
われ偽の夢を預言する者の敵となる彼らは之を語り
またその謊と其誇をもて我民を惑はす我かれらを遣
さずかれらに命ぜざるなり故に彼らは斯民に益なし
とエホバいひ給ふ 33 この民或は預言者又は祭司汝に
問てエホバの重負は何ぞやといはば汝彼等にこたへ
てエホバの重負は我汝等を棄んとエホバの云たまひ
し事是なりといふべし 34 エホバの重負といふところ
の預言者と祭司と民には我その人と其家にこれを降
さん 35 汝らはおのおの斯互に言ひその兄弟にいふべ
しエホバは何と應へたまひしやエホバは何と云たま
ひしやと 36 汝ら復びエホバの重負といふべからず人
の重負となる者は其人の言なるべし汝らは活る神萬
軍のエホバなる我らの神の言を枉るなり 37 汝かく預
言者にいふべしエホバは汝に何と答へ給ひしやエホ
バは何といひたまひしやと 38 汝らもしエホバの重負
といはばエホバそれにつきてかくいひたまふ我人を
汝らに遣して汝等エホバの重負といふべからずとい
はしむるも汝らはエホバの重負といふ此言をいふに
よりて 39 われ必ず汝らを忘れ汝らと汝らの先祖にあ
たへし此邑と汝らとを我前より棄ん 40 且われ永遠の
辱と永遠なる忘らるることなき恥を汝らにかうむら
しめん

24 バビロンの王ネブカデネザル、ユダの王エホヤ
キムの子エコニヤおよびユダの牧伯等と木匠と鐵匠
をエルサレムよりバビロンに移せしのちエホバ我に
エホバの殿の前に置れたる二筐の無花果を示したま

へり **2** その一の筐には始に熟せしがごとき至佳き無花果ありその一の筐にはいと悪くして食ひ得ざるほどなる悪き無花果あり **3** エホバ我にいひ給ひけるはエレミヤよ汝何を見しや我答へけるは無花果なりその佳き無花果はいと佳しその悪きものは至悪くして食ひ得ざるほどに悪し **4** エホバの言また我にのぞみていふ **5** イスラエルの神エホバかくいふ我わが此處よりカルデヤ人の地に逐ひやりしユダの虜人を此佳き無花果のごとくに顧みて恵まん **6** 我彼等に目をかけて之をめぐみ彼らを此地にかへし彼等を建て仆さず植て拔じ **7** 我彼らに我のエホバなるを識るの心をあたへん彼等我民となり我彼らの神とならん彼等は一心をもて我に歸るべし **8** エホバかくいひたまへり我ユダの王ゼデキヤとその牧伯等およびエルサレムの人の遺りて此地にをる者ならびにエジプトの地に住る者とを此悪くして食はれざる悪き無花果のごとくになさん **9** 我かれらをして地のもろもろの國にて虐遇と災害にあはしめん又彼らをしてわが逐やらん諸の處にて辱にあはせ諺となり嘲と詛に遭しめん **10** われ劍と饑饉と疫病をかれらの間におくりて彼らをしてわが彼らとその先祖にあたへし地に絶るにいたらしめん

25 ユダの王ヨシヤの子エホヤキムの四年バビロンの王ネブカデネザルの元年にユダのすべての民にかかはる言エレミヤにのぞめり **2** 預言者エレミヤこの言をユダのすべての民とエルサレムにすめるすべての者に告ていひけるは **3** ユダの王アモンの子ヨシヤの十三年より今日にいたるまで二十三年のあひだエホバの言我にのぞめり我これを汝等に告げ頻にこれ

を語りしかども汝らきかざりし 4 エホバその僕なる
預言者を汝らに遣し頻に遣したまひけれども汝らは
きかず又きかんとて耳を傾けざりき 5 彼らいへり汝
等おのおのいま其惡き途とその惡き行を棄よ然ばエ
ホバが汝らと汝らの先祖に與へたまひし地に永遠よ
り永遠にいたるまで住ことをえん 6 汝ら他の神に従
ひこれに事へこれを拜み汝らの手にて作りし物をも
て我を怒らす勿れ然ば我汝らを害はじ 7 然ど汝ら
は我にきかず汝等の手にて作りし物をもて我を怒ら
せて自ら害へりとエホバいひたまふ 8 この故に萬軍
のエホバかく云たまふ汝ら我言を聽ざれば 9 視よ我
北の諸の族と我僕なるバビロンの王ネブカデネザル
を招きよせ此地とその民と其四圍の諸國を攻滅さし
めて之を詫異物となし人の嗤笑となし永遠の荒地と
なさんとエホバいひたまふ 10 またわれ欣喜の聲 歡樂
の聲 新夫の聲 新婦の聲 磬磨の音および燈の光を彼
らの中にたえしめん 11 この地はみな空曠となり詫異
物とならん又その諸國は七十年の間バビロンの王に
つかふべし 12 エホバいひたまふ七十年のをはりし後
我バビロンの王と其民とカルデヤの地をその罪のた
めに罰し永遠の空曠となさん 13 我かの地につきて我
かたりし諸の言をその上に臨しめん是エレミヤが萬
國の事につきて預言したる者にて皆この書に録さる
るなり 14 多の國々と大なる王等は彼らをして己につ
かへしめん我かれらの行爲とその手の所作に循ひて
これに報いん 15 イスラエルの神エホバかく我に云た
まへり我手より此怒の杯をうけて我汝を遣はすとこ
ろの國々の民に飲しめよ 16 彼らは飲てよろめき狂は
んこは我かれらの中に劍をつかはすによりてなり 17

是に於てわれエホバの手より杯をうけエホバのわれを遣したまふところの國々の民に飲しめたり 18 即ちエルサレムとユダの諸の邑とその王等およびその牧伯等に飲せてこれをほろぼし詫異物となし人の嗤笑となし詛るる者となせり今日のごとし 19 またエジプトの王パロと其臣僕その牧伯等その諸の民と 20 諸の雜種の民およびウズの諸の王等およびペリシテ人の地の諸の王等アシケロン、ガザ、エクロン、アシドドの遺餘の者 21 エドム、モアブ、アンモンの子孫 22 ツロのすべての王等シドンのすべての王等海のかなたの島々の王等 23 デダン、テマ、ブズおよびすべて鬚をそる者 24 アラビヤのすべての王等曠野の雜種の民の諸の王等 25 ジムリの諸の王等エラムの諸の王等メデアのすべての王等 26 北のすべての王等その彼と此とにおいて或は遠者或は近きもの凡地の面にある世の國々の王等はこの杯を飲んせしヤク王はこれら後に飲べし 27 故に汝かれらに語ていへ萬軍のエホバ、イスラエルの神かくいひたまふ我汝等の中に劍を遣すによりて汝らは飲みまた酔ひまた吐き又仆て再び起ざれと 28 彼等もし汝の手より此杯を受て飲ずば汝彼らにいへ萬軍のエホバかくいひたまふ汝ら必ず飲べし 29 視よわれ我名をもて稱へらるるこの邑にすら災を降すなり汝らいかで罰を免るることをえんや汝らは罰を免れじ蓋われ劍をよびて地に住るすべての者を攻べければなりと萬軍のエホバかくいひたまふ 30 汝彼等にこの諸の言を預言していふべしエホバ高き所より呼號り其聖宮より聲を出し己の住家に向てよばはり地に住る諸の者にむかひて葡萄を踐む者のごとく咄たまはん 31 號咄地の極まで聞ゆ蓋エホバ列

國と争ひ萬民を審き悪人を劍に付せば也とエホバ曰
たまへり 32 萬軍のエホバかく曰たまふ視よ災いでて
國より國にいたらん大なる暴風地の極よりおこるべ
し 33 其日エホバの戮したまふ者は地の此極より地の
彼の極に及ばん彼等は哀まれず殞められず葬られず
して地の面に糞土とならん 34 牧者よ哭き叫べ群の長
等よ汝ら灰の中に轉ぶべし蓋汝らの屠らるる日滿れ
ば也我汝らを散すべければ汝らは貴き器のごとく墮
べし 35 牧者は避場なく群の長等は逃る處なし 36 牧
者の呼號の聲と群の長等の哀哭きこゆ蓋エホバ其牧
場を滅したまへば也 37 エホバの烈き怒によりて平安
なる牧場は滅さる 38 彼は獅子の如く其巢を出たり滅
す者の怒と其烈き忿によりて彼らの地は荒されたり

26 ユダの王ヨシヤの子エホヤキムが位に即し初の
ころエホバより此言いでていふ 2 エホバかくいふ汝
エホバの室の庭に立我汝に命じていはしむる諸の言
をユダの邑々より來りてエホバの室に拜をする人々
に告よ一言をも減す勿れ 3 彼等聞ておのおの其惡き
途を離るることあらん然ば我かれらの行の惡がため
に災を彼らに降さんとせることを悔べし 4 汝彼等に
エホバかくいふといへ汝等もし我に聽ずわが汝らの
前に置し律法を行はず 5 我汝らに遣し切に遣せし我
僕なる預言者の言を聽ずば(汝らは之をきかざりき)
6 我この室をシロの如くになし又この邑を地の萬國に
誚はるる者となすべし 7 祭司と預言者及び民みなエ
レミヤがエホバの室に立てこの言をのぶるをきけり
8 エレミヤ、エホバに命ぜられし諸の言を民に告畢り
しとき祭司と預言者および諸の民彼を執へいひける
は汝は必ず死べし 9 汝何故にエホバの名をもて預言

し此室はシロの如くになりこの邑は荒蕪となりて住む者なきにいたらんと云しやと民みなエホバの室にあつまりてエレミヤを攻む **10** ユダの牧伯等この事をききて王の家をいでエホバの室にのぼりてエホバの家の新しき門の入口に坐せり **11** 祭司と預言者等牧伯等とすべての民に訴ていふ此人は死にあたる者なり是は汝らが耳に聽しごとくこの邑にむかひて惡き預言をなしたるなり **12** 是に於てエレミヤ牧伯等とすべての民にいひけるはエホバ我を遣し汝らが聽る諸の言をもて此宮とこの邑にむかひて預言せしめたまふ **13** 故に汝らいま汝らの途と行爲をあらためて汝らの神エホバの聲にしたがへ然ばエホバ汝らに災を降さんとせしことを悔たまふべし **14** みよ我は汝らの手にあり汝らの目に善とみゆるところ義とみゆることを我に行へ **15** 然ど汝ら善くこれを知れ汝らもし我を殺さば必ず無辜ものの血なんぢらの身とこの邑と其中に住る者に歸せんエホバ我を遣してこの諸の言を汝らの耳につげしめたまひしなればなり **16** 牧伯等とすべての民すなはち祭司と預言者にいひけるは此人は死にあたる者にあらず是は我らの神エホバの名によりて我儕に語りしなりと **17** 時にこの地の長老數人立て民のすべての集れる者につげていひけるは **18** ユダの王ヒゼキヤの代にモレシテ人ミカ、ユダの民に預言して云けらく萬軍のエホバかくいひ給ふシオンは田地のごとく耕されエルサレムは邱墟となり此室の山は樹深き崇邱とならんと **19** ユダの王ヒゼキヤとすべてのユダ人は彼を殺さんとせしことありしやヒゼキヤ、エホバを畏れエホバに求ければエホバ彼らに降さんと告給ひし災を悔給ひしにあらずや我儕かく

爲すは自己の靈魂をそこなふ大なる惡をなすなり 20
又前にエホバの名をもて預言せし人あり即ちキリヤ
テヤリムのシマヤの子ウリヤなり彼エレミヤの凡て
いへるごとく此邑とこの地にむかひて預言せり 21 エ
ホヤキム王と其すべての勇士とすべての牧伯等その
言を聽り是において王彼を殺さんと欲ひしがウリヤ
これをきき懼てエジプトに逃ゆきしかば 22 エホヤキ
ム王人をエジプトに遣せり即ちアクボルの子エルナ
タンに數人をそへてエジプトにつかはしければ 23 彼
らウリヤをエジプトより引出しエホヤキム王の許に
携きたりしに王劍をもて之を殺し其屍骸を賤者の墓
に棄させたりと 24 時にシヤパンの子アヒカム、エレ
ミヤをたすけこれを民の手にわたして殺さざらしむ

27 ユダの王ヨシヤの子エホヤキムが位に即し初の
ころエホバより此言エレミヤに臨みていふ 2 すなは
ちエホバかく我に云たまへり汝索と軛をつくりて汝
の項に置き 3 之をエルサレムにきたりてゼデキヤ王
にいたるところの使臣等の手によりてエドムの王モ
アブの王アンモン人の王ツロの王シドンの王に送る
べし 4 汝彼らに命じて其主にいはしめよ萬軍のエホ
バ、イスラエルの神かくいひたまふ汝ら其主にかく
告べし 5 われ我大なる能力と伸たる臂をもて地と地
の上にをる人と獸とをつくり我心のままに地を人に
あたへたり 6 いま我この諸の地を我僕なるバビロン
の王ネブカデネザルの手にあたへ又野の獸を彼にあ
たへてかれにつかへしむ 7 かれの地の時期いたるま
で萬國民は彼と其子とその孫につかへん其時いたら
ばおほくの國と大なる王は彼を己に事へしむべし 8
バビロンの王ネブカデネザルに事へずバビロンの王

の軛をその項に負ざる國と民は我彼の手をもて悉くこれを滅すまで劍と饑饉と疫病をもてこれを罰せんとエホバいひたまふ 9 故に汝らの預言者なんぢらの占筮師汝らの夢みる者汝らの法術士汝らの魔法士汝らに告て汝らはバビロンの王に事ふることあらじといふとも聽なかれ 10 彼らは謊を汝らに預言して汝らをその國より遠く離れしめ且我をして汝らを逐しめ汝らを滅さしむるなり 11 然どバビロンの王の軛をその項に負ふて彼に事ふる國々の人は我これをその故土に存し其處に耕し住しむべしとエホバいひたまふ 12 我この諸の言のごとくユダの王ゼデキヤに告ていひけるは汝らバビロンの王の軛を汝らの項に負ふて彼と其民につかへよ然ば生べし 13 汝と汝の民なんぞエホバがバビロンの王につかへざる國につきていひたまひし如く劍と饑饉と疫病に死ぬべけんや 14 故に汝らはバビロンの王に事ふることあらじと汝等に告る預言者の言を聽なかれ彼らは謊を汝らに預言するなり 15 エホバいひたまひけるは我彼らを遣さざるに彼らは我名をもて謊を預言す是をもて我汝らを逐はなち汝らと汝らに預言する預言者等を滅すにいたらん 16 我また祭司とこのすべての民に語りていひけるはエホバかくいひたまふ視よエホバの室の器皿いま速にバビロンより持歸さるべしと汝らに預言する預言者の言をきく勿れそは彼ら謊を汝らに預言すればなり 17 汝ら彼らに聽なかれバビロンの王に事へよ然ば生べしこの邑を何ぞ荒蕪となすべけんや 18 もし彼ら預言者にしてエホバの言かれらの衷にあらばエホバの室とユダの王の家とエルサレムとに餘れるところの器皿のバビロンに移されざることを萬軍のエホ

バに求むべきなり 19 萬軍のエホバ柱と海と臺およびこの邑に餘れる器皿につきてかくいひたまふ 20 是はバビロンの王ネブカデネザルがユダの王エホヤキムの子エコニヤおよびユダとエルサレムのすべての牧伯等をエルサレムよりバビロンにとらへ移せしときに掠ざりし器皿なり 21 すなはち萬軍のエホバ、イスラエルの神エホバの室とユダの王の室とエルサレムとに餘れる器皿につきてかくいひたまふ 22 これらはバビロンに携へゆかれ我これを顧る日まで彼處にあらん其後我これを此處にたづさへ歸らしめんとエホバいひたまふ

28 この年すなはちユダの王ゼデキヤが位に即し初その四年の五月ギベオンのアズルの子なる預言者ハナニヤ、エホバの室にて祭司と凡の民の前にて我に語りいひけるは 2 萬軍のエホバ、イスラエルの神かくいひたまふ我バビロンの王の軛を摧けり 3 二年の内にバビロンの王ネブカデネザルがこの處より取てバビロンに携へゆきしエホバの室の器皿を再び悉くこの處に歸らしめん 4 我またユダの王エホヤキムの子エコニヤおよびバビロンに住しユダのすべての擄人をこの處に歸らしめんそは我バビロンの王の軛を摧くべければなりとエホバいひたまふ 5 是に於て預言者エレミヤ、エホバの家に立る祭司の前とすべての民の前にて預言者ハナニヤと語ふ 6 預言者エレミヤすなはちいひけるはアーメン願くはエホバかくなし給へ願くはバビロンに携へゆかれしエホバの室の器皿及びすべて虜へうつされし者をエホバ、バビロンより復びこの處に歸らしめたまはんと汝の預言せし言の成らんことを 7 然ど汝いま我なんぢの耳と諸

の民の耳に語らんとする此言をきけ 8 我と汝の先に
いでし預言者は古昔より多くの地と大なる國につき
て戦闘と災難と疫病の事を預言せり 9 泰平を預言す
るところの預言者は若しその預言者の言とげなばそ
の誠にエホバの遣したまへる者なること知るべし
10 ここに於て預言者ハナニヤ預言者エレミヤの項よ
り軛を取てこれを摧けり 11 ハナニヤ諸の民の前にて
語りエホバかくいひたまふわれ二年のうちに是の如
く萬國民の項よりバビロン王ネブカデネザルの軛を
摧きはなさんといふ預言者エレミヤ遂に去りぬ 12 預
言者ハナニヤ預言者エレミヤの項より軛を摧きはな
せし後エホバの言エレミヤに臨みていふ 13 汝ゆきて
ハナニヤにエホバかくいふと告よ汝木の軛を摧きた
れども之に代て鐵の軛を作れり 14 萬軍のエホバ、イ
スラエルの神かくいふ我鐵の軛をこの萬國民の項に
置きてバビロンの王ネブカデネザルに事へしむ彼ら
之につかへんわれ野の獸をもこれに與へたり 15 また
預言者エレミヤ預言者ハナニヤにいひけるはハナニ
ヤよ請ふ聽けエホバ汝を遣はし給はず汝はこの民に
謊を信ぜしむるなり 16 是故にエホバいひ給ふ我汝を
地の面よりのぞかん汝エホバに叛くことを教ふるに
よりにて今年死ぬべしと 17 預言者ハナニヤはこの年の
七月死ねり

29 預言者エレミヤ、エルサレムより書をかの擲へ
うつされて餘れるところの長老および祭司と預言者
ならびにネブカデネザルがエルサレムよりバビロン
に移したるすべての民に送れり 2 是より先エコニヤ
王と王后と寺人およびユダとエルサレムの牧伯等お
よび木匠と鐵匠はエルサレムをされり 3 エレミヤそ

の書をシヤパンの子エラサおよびヒルキヤの子ゲマリヤ即ちユダの王ゼデキヤがバビロンにつかはしてバビロンの王ネブカデネザルにいたらしむる者の手によりて送れり其書にいはいはく 4 萬軍のエホバ、イスラエルの神すべて擄うつされし者即ち我エルサレムよりバビロンに移さしめし者にかくいふ 5 汝ら屋を建てこれに住ひ圃をつくりてその果をくらへ 6 妻を娶て子女をうみ又汝らの子に媳を娶り汝らの女を嫁がしめ彼らに子女を生しめよ此は汝等かしこに滅ずして増んがためなり 7 我汝らを擄移さしめしところの邑の安を求めこれが爲にエホバにいのれその邑の安によりて汝らもまた安をうればなり 8 萬軍のエホバ、イスラエルの神かくいひたまふ汝らの中の預言者と卜筮士に惑はさるる勿れまた汝ら自ら作りしところの夢に聽したがふ勿れ 9 そは彼ら我名をもて謊を汝らに預言すればなり我彼らを遣さずエホバはいひたまふ 10 エホバかくいひたまふバビロンに於て七十年滿なばわれ汝らを眷み我嘉言を汝らになして汝らをこの處に歸らしめん 11 エホバはいひたまふ我が汝らにむかひて懐くところの念は我これを知るすなはち災をあたへんとにあらず平安を與へんとおもひ又汝らに後と望をあたへんとおもふなり 12 汝らわれに籲はり往て我にいのらん我汝らに聽べし 13 汝らもし一心をもて我を索めなば我に尋ね遇はん 14 エホバはいひたまふ我汝らの遇ところとならんわれ汝らの俘擄を解き汝らを萬國よりすべて我汝らを逐やりし處より集め且我汝らをして擄らはれて離れしめしその處に汝らをひき歸らんとエホバはいひたまふ 15 エホバわれらの爲にバビロンに於て預言者を立たまひしと汝ら

はいふ **16** ダビデの位に坐する王とこの邑に住るすべての民汝らと偕にとらへ移されざりし兄弟につきてエホバかくいひたまふ **17** 萬軍のエホバかくいふ視よわれ劍と饑饉と疫病を彼らにおくり彼らを悪くして食はれざる悪き無花果のごとくになさん **18** われ劍と饑饉と疫病をもて彼らを逐ひまた彼らを地の萬國にわたして虐にあはしめ我彼らを逐やる諸國に於て呪詛となり詫異となり人の嗤笑となり恥辱とならしめん **19** 是彼ら我言を聽ざればなりとエホバいひたまふ我この言を我僕なる預言者によりて遣り頻におくれども汝ら聽ざるなりとエホバいひたまふ **20** わがエルサレムよりバビロンにおくりし諸の俘擄人よ汝らエホバの言をきけ **21** 我名をもて謊を汝らに預言するコラヤの子アハブとマアセヤの子ゼデキヤにつきて萬軍のエホバ、イスラエルの神かくいふ視よわれ彼らをバビロンの王ネブカデネザルの手に付さん彼これを汝らの目の前に殺すべし **22** バビロンにあるユダの俘擄人は皆彼らをもて詛となし願くはエホバ汝をバビロンの王が火にて焚しゼデキヤとアハブのごとき者となしたまはん事をといふ **23** こは彼らイスラエルの中に悪をなし鄰の妻を犯し且我彼らに命ぜざる謊の言をわが名をもて語りしによる我これを知りまた證すとエホバいひたまふ **24** 汝ネヘラミ人シマヤにかく語りいふべし **25** 萬軍のエホバ、イスラエルの神かくいふ汝おのれの名をもて書をエルサレムにある諸の民と祭司マアセヤの子ゼパニヤおよび諸の祭司に送りにていふ **26** エホバ汝を祭司エホヤダに代て祭司となし汝らをエホバの室の監督となしたまふ此すべて狂妄ひ且みづから預言者なりといふ者を獄と桎梏に

つながしめんためなり 27 然るに汝いま何故に汝らに
むかひてみづから預言者なりといふところのアナト
テのエレミヤを斥責めざるや 28 そは彼バビロンにを
る我儕に書を送り時尚長ければ汝ら家を建て之に住
ひ圃をつくりてその實をくらへといへり 29 祭司ゼパ
ニヤこの書を預言者エレミヤに讀きかせたり 30 時に
エホバの言エレミヤにのぞみていふ 31 諸の俘擄人に
書をおくりて云べしネヘラミ人シマヤの事につきて
エホバかくいふ我シマヤを遣さざるに彼汝らに預言
し汝らに謊を信ぜしめしによりて 32 エホバかくいふ
視よ我ネヘラミ人シマヤと其子孫を罰すべし彼エホ
バに逆くことを教へしによりて此民のうちに彼に屬
する者一人も住ふことなからん且我民に吾がなさん
とする善事をみざるべしとエホバいひたまふ

30 エホバよりエレミヤにのぞめる言いふ 2 イスラ
エルの神エホバかく告ていふ我汝に言し言をことご
とく書に録せ 3 エホバいふわれ我民イスラエルとユ
ダの俘囚人を返す日きたらんエホバこれをいふ我彼
らをその先祖にあたへし地にかへらしめん彼らは之
をたもたん 4 エホバのイスラエルとユダにつきてい
ひたまひし言は是なり 5 エホバかくいふ我ら戰慄の
聲をきく驚懼あり平安あらず 6 汝ら子を産む男ある
やを尋ね觀よ我男が皆子を産む婦のごとく手をその
腰におき且その面色皆青く變るをみるこは何故ぞや
7 哀しいかなその日は大にして之に擬ふべき日なし此
はヤコブの患難の時なり然ど彼はこれより救出され
ん 8 萬軍のエホバいふ其日我なんぢの項よりその軛
をくだきはなし汝の繩目をとかん異邦人は復彼を使
役はざるべし 9 彼らは其神エホバと我彼らの爲に立

んところの其王ダビデにつかふべし 10 エホバいふ我僕ヤコブよ懼るる勿れイスラエルよ驚く勿れ我汝を遠方より救ひかへし汝の子孫を其とらへ移されし地より救ひかへさんヤコブは歸りて平穩と寧靜をえん彼を畏れしむる者なかるべし 11 エホバいふ我汝と偕にありて汝を救はん設令われ汝を散せし國々を悉く滅しつくすとも汝をば滅しつくさじされど我道をもて汝を懲さん汝を全たく罰せずにはおかざるべし 12 エホバかくいふ汝の創は愈ず汝の傷は重し 13 汝の訟を理す者なく汝の創を裹む膏藥あらず 14 汝の愛する者は皆汝を忘れて汝を求めず是汝の愆の多きと罪の數多なるによりて我仇敵の撃がごとく汝を撃ち嚴く汝を懲せばなり 15 何ぞ汝の創のために叫ぶや汝の患は愈ることなし汝の愆の多きと罪の數多なるによりて我これを汝になすなり 16 然どすべて汝を食ふ者は食はれすべて汝を虐ぐる者は皆とらはれ汝を掠むる者は掠められん凡て汝の物を奪ふ者は我これをして奪はるる事にあはしむべし 17 エホバいふ我汝に膏藥を貼り汝の傷を醫さんそは人汝を棄られし者とよび尋る者なきシオンといへばなり 18 エホバかくいふ視よわれかの擄移されたるヤコブの天幕をかへし其住居をあはれまん斯邑はその故の丘塚に建られん城には宜き様に人住はん 19 感謝と歡樂者の聲とその中よりいでん我かれらを増ん彼ら少からじ我彼らを崇せん彼ら藐められじ 20 其子は疇昔のごとくあらん其集會は我前に固く立ん凡かれを虐ぐる者は我これを罰せん 21 其首領は本族よりいで其督者はその中よりいでん我彼をちかづけ彼に近かん誰かその生命を繫て我に近くものあらんやとエホバいふ 22 汝等是我民と

なり我は汝らの神とならん 23 みよエホバの暴風あり
怒と旋轉風いでて悪人の首をうたん 24 エホバの烈き
忿はかれがその心の思を行ひてこれを遂るまでは息
じ末の日に汝ら明にこれを曉らん

31 エホバいひたまふ其時われはイスラエルの諸の
族の神となり彼らは我民とならん 2 エホバかくいひ
たまふ劍をのがれて遺りし民は曠野の中に恩を獲た
りわれ往て彼イスラエルに安息をあたへん 3 遠方よ
りエホバ我に顯れていひたまふ我窮なき愛をもて汝
を愛せり故にわれたえず汝をめぐむなり 4 イスラエ
ルの童女よわれ復び汝を建ん汝は建らるべし汝ふた
たび鬘をもて身を飾り歡樂者の舞にいでん 5 汝また
葡萄の樹をサマリヤの山に植ん植る者は植てその果
を食ふことをえん 6 エフライムの山の上に守望者の
立て呼はる日きたらんいはく汝ら起よ我らシオンに
のぼりて我儕の神エホバにまうでんと 7 エホバかく
いひたまふ汝らヤコブの爲に歡びて呼はり萬國の首
なる者のために叫べ汝ら示し且歌ひて言へエホバよ
願くはイスラエルの遺れる者汝の民を救ひたまへと
8 みよ我彼らを北の地よりひきかへり彼らを地の極よ
り集めん彼らの中には瞽者 跛者 孕める婦子を産み
し婦ともに居る彼らは大なる群をなして此處にかへ
らん 9 彼ら悲泣來らん我かれらをして祈禱をもて來
らしめ直くして蹶かざる途より水の流に歩みいたら
しめん我はイスラエルの父にしてエフライムは我長
子なればなり 10 萬國の民よ汝らエホバの言をきき之
を遠き諸島に示していえへイスラエルを散せしもの
これを聚め牧者のその群を守るが如く之を守らん 11
すなはちエホバ、ヤコブを贖ひ彼等よりも強き者の

手よりかれを救出したまへり **12** 彼らは來てシオンの頂によばはりエホバの賜ひし福なる麥と酒と油および若き羊と牛の爲に寄集はんその靈魂は灌ふ園のごとくならん彼らは重て愁ふること無るべし **13** その時童女は舞てたのしみ壯者と老者もろともに樂しまん我かれらの悲をかへて喜となしかれらの愁をさりてこれを慰さめん **14** われ膏をもて祭司の心を飫しめ我恩をもて我民に満しめんとエホバ言たまふ **15** エホバかくいひたまふ歎き悲みいたく憂ふる聲ラマに聞ゆラケルその兒子のために歎きその兒子のあらずなりしによりて慰をえず **16** エホバかくいひ給ふ汝の聲を禁て哭こと勿れ汝の目を禁て涙を流すこと勿れ汝の工に報あるべし彼らは其敵の地より歸らんとエホバいひたまふ **17** 汝の後の日に望あり兒子等その境に歸らんとエホバいひたまふ **18** われ固にエフライムのみづから歎くをきけり云く汝は我を懲しめたまふ我は軛に馴ざる犢のごとくに懲治を受たりエホバよ汝はわが神なれば我を牽轉したまへ然ば我轉るべし **19** われ轉りし後に悔い教を承しのちに我髀を撃つ我幼時の羞を身にもてば恥ぢかつ辱しめらるるなりと **20** エホバいひたまふエフライムは我愛するところの子悦ぶところの子ならずや我彼にむかひてかたのごとに彼を念はざるを得ず是をもて我腸かれの爲に痛む我必ず彼を恤むべし **21** 汝のために指路號を置き汝のために柱をたてよ汝のゆける道なる大路に心をとめよイスラエルの童女よ歸れこの汝の邑々にかへれよ **22** 違ける女よ汝いつまで流蕩ふやエホバ新しき事を地に創造らん女は男を抱くべし **23** 萬軍のエホバ、イスラエルの神かくいひ給ふ我かの俘囚し者を返さん時

人々復ユダの地とその邑々に於て此言をいはん義き
居所よ聖き山よ願くはエホバ汝を祝みたまへと 24 ユ
ダとその諸の邑々に農夫と群を牧ふもの偕に住はん
25 われ疲れたる靈魂を飫しめすべての憂ふる靈魂を
なぐさむるなり 26 茲にわれ目を醒しみるに我眠は甘
かりし 27 エホバいひたまふ視よ我が人の種と畜の種
とをイスラエルの家とユダの家とに播く日いたらん
28 我彼らを抜き毀ち覆し滅し難さんとうかがひし如
くまた彼らを建て植ゑんとうかがふべしとエホバい
ひ給ふ 29 その時彼らは父が酸き葡萄を食ひしにより
て兒子の齒齷くと再びいはざるべし 30 人はおのおの
自己の惡によりて死なん凡そ酸き葡萄をくらふ人は
その齒齷く 31 エホバいひたまふみよ我イスラエルの
家とユダの家とに新しき契約を立つる日きたらん 32
この契約は我彼らの先祖の手をとりてエジプトの地
よりこれを導きいだせし日に立しところの如きにあ
らず我かれらを娶りたれども彼らはその我契約を破
れりとエホバいひたまふ 33 然どかの日の後に我イス
ラエルの家に立んところの契約は此なり即ちわれ我
律法をかれらの衷におきその心の上に録さん我は彼
らの神となり彼らは我民となるべしとエホバいひた
まふ 34 人おのおの其隣とその兄弟に教へて汝エホバ
を識と復いはじそは小より大にいたるまで悉く我を
するべければなりとエホバいひたまふ我彼らの不義
を赦しその罪をまた思はざるべし 35 エホバかく言す
なはち是日をあたへて晝の光となし月と星をさだめ
て夜の光となし海を激してその濤を鳴しむる者その
名は萬軍のエホバと言なり 36 エホバいひたまふもし
此等の規律我前に廢らばイスラエルの子孫も我前に

廢りて永遠も民たることを得ざるべし 37 エホバかく
いひたまふ若し上の天量ることを得下の地の基探る
ことをえば我またイスラエルのすべての子孫を其も
るもろの行のために棄べしエホバこれをいふ 38 エホ
バいひたまふ視よ此邑ハナネルの塔より隅の門まで
エホバの爲に建つ日きたらん 39 量繩ふたたび直ちに
ガレブの岡をこえゴアテの方に轉るべし 40 屍と灰の
谷またケデロンケデロンの溪にいたるまでと東の方の馬の門
の隅にいたるまでの諸の田地皆エホバの聖き處とな
り永遠におよぶまで再び拔れまた覆さるる事なかる
べし

32 ユダの王ゼデキヤの十年即ちネブカデネザルの
十八年の頃エホバの言エレミヤにのぞめり 2 その時
バビロンの軍勢エルサレムを攻環み居て預言者エレ
ミヤはユダの王の室にある獄の庭の内に禁錮られたり
3 ユダの王ゼデキヤ彼を禁錮ていひけるは汝何故
に預言してエホバかく云たまふといふや云く視よ我
この邑をバビロン王の手に付さん彼之を取るべし 4
またユダの王ゼデキヤはカルデヤ人の手より脱れず
必ずバビロン王の手に付され口と口とあひ語り目と
目あひ觀るべし 5 彼ゼデキヤをバビロンに携きゆか
んゼデキヤはわが彼を顧る時まで彼處に居んとエホ
バいひたまふ汝らカルデヤ人と戦ふとも勝ことを得
じと 6 エレミヤいふエホバの言われに臨みていはく
7 みよ汝の叔父シャルムの子ハナメル汝にきたりてい
はん汝アナトテに在るわが田地を買へそは之を贖ふ
事は汝の分なればなりと 8 かくてエホバの言のごと
く我叔父の子ハナメル獄の庭にて我に來り云けるは
願くは汝ベニヤミンの地のアナトテに在るわが田地

を買へそは之を嗣ぎこれを贖ふことは汝の分なれば
汝みつからこれを買ひとれとここに於てわれ此はエ
ホバの言なりと知りたれば 9 我叔父の子ハナメルが
アナトテにもてる田地をかひて彼に銀十七シケルを
稱てあたふ 10 すなはち我その契券を書てこれに封印
し證人をたて權衡をもて銀を稱て與ふ 11 而してわれ
その約定をのするところの封印せし買券とその開き
たるものを取り 12 わが叔父の子ハナメルと買券に印
せし證人の前および獄の庭に坐するユダ人の前にて
その買券をマアセヤの子なるネリヤの子バルクに與
へ 13 彼らの前にてわれバルクに命じていひけるは 14
萬軍のエホバ、イスラエルの神かく云たまふ汝これ
らの契券すなはち此買券の封印せし者と開きたるも
のを取り之を瓦器の中に貯へて多くの日の間保たし
めよ 15 萬軍のエホバ、イスラエルの神かくいひたま
ふそは此地に於て人復屋と田地と葡萄園を買ふにい
たらんと 16 われ買契をネリヤの子バルクに付せしの
ちエホバに祈りて云ひけるは 17 嗚呼主エホバよ汝は
その大なる能力と伸たる腕をもて天と地を造りたま
へり汝には爲す能はざるところなし 18 汝は恩寵を千
萬人に施し又父の罪をその後の子孫の懷に報いたま
ふ汝は大なる全能の神にいまして其名は萬軍のエホ
バとまうすなり 19 汝の謀略は大なり汝は事をなすに
能あり汝の目は人のこどもらの諸の途を鑿はしおの
おのの行に循ひその行爲の果によりて之に報いたま
ふ 20 汝休徴と奇跡をエジプトの地に行ひたまひて今
日にまでいたるまたイスラエルと他の民の中にも然
りかくして今日のごとくに汝の名を揚たまへり 21 汝
は休徴と奇跡と強き手と伸たる腕と大なる怖しき事

をもて汝の民イスラエルをエジプトの地より導きい
だし 22 この地を彼らにたまへり是即ち汝がかれらの
先祖等に與へんと誓ひたまひし乳と蜜の流るる地な
り 23 彼等すなはち入てこれを獲たりしかども汝の聲
に遵はず汝の例典を行はず凡て汝がなせと命じたま
ひし事を爲ざりしによりて汝この災を其上にくだら
しむ 24 みよ壘成れり是のこの邑を取んとて來れるなり
劍と饑饉と疫病のためにこの邑は之を攻むるカルデ
ヤ人の手に付さる汝のいひたまひしことば既に成れ
り汝之を見たまふなり 25 主エホバよ汝われに銀をも
て田地を買へ證人を立よといひたまへり然るにこの
邑はカルデヤ人の手に付さる 26 時にエホバの言エレ
ミヤに臨みていふ 27 みよ我はエホバなりすべて血氣
ある者の神なり我に爲す能はざるところあらんや 28
故にエホバかくいふ視よわれ此邑をカルデヤ人の手
とバビロンの王ネブカデネザルの手に付さん彼これ
を取るべし 29 この邑を攻るところのカルデヤ人きた
り火をこの邑に放ちて之を焚ん屋蓋のうへにて人が
バアルに香を焚き他の神に酒をそそぎて我を怒らせ
しその屋をも彼ら亦焚ん 30 そはイスラエルの子孫と
ユダの子孫はその幼少時よりわが前に惡き事のみを
なしまたイスラエルの民はその手の作爲をもて我を
いからする事のみをなしたればなりエホバ之をいふ
31 此邑はその建し日より今日にいたるまで我震怒を
惹き我憤恨をおこすところの者なれば我前よりわれ
之を除かんとするなり 32 こはイスラエルの民とユダ
の民諸の惡を行ひて我を怒らせしによりてなり彼ら
その王等その牧伯等その祭司その預言者およびユダ
の人々とエルサレムに住る者皆然なせり 33 彼ら背を

我にむけて面を我にむけずわれ彼らををしへ頻に教ふれどもかれらは教をきかずしてうけざるなり 34 彼らは憎むべき物をわが名をもて稱へらるる室にたてて之を汚し 35 又ペンヒンノムの谷にあるバアルの崇邱を築きその子女をモロクに献げたりわれは彼らにこの憎むべきことを行ひてユダに罪を犯さしむることを命ぜず斯る事は我心におこらざりしなり 36 いまイスラエルの神エホバこの邑すなはち汝らが劔と饑饉と疫病のためにバビロン王の手に付されんといひしところの邑につきて斯いひたまふ 37 みよわれ我震怒と憤恨と大なる怒をもて彼らを逐やりし諸の國より彼らを集め此處に導きかへりて安然に居らしめん 38 彼らは我民となり我は彼らの神とならん 39 われ彼らに一の心と一の途をあたへて常に我を畏れしめんこは彼らと其子孫とに福をえせしめん爲なり 40 われ彼らを棄ずして恩を施すべしといふ永遠の契約をかれらにたて我を畏るるの畏をかれらの心におきて我を離れざらしめん 41 われ悦びて彼らに恩を施し心を盡し精神をつくして誠に彼らを此地に植べし 42 エホバかくいひたまふわれ此諸の大なる災をこの民に降せしごとくわがかれらに言し諸の福を彼等に降さん 43 人衆この地に田野を買はん是汝等が荒て人も畜もなきにいたりカルデヤ人の手に付されしといへる地なり 44 人衆ベニヤミンの地とエルサレムの四周とユダの邑々と山の邑々と平地の邑々と南の方の邑々において銀をもて田野をかひ契券を書きてこれに封印し又證人をたてんそは我かの俘囚者を歸らしむればなりとエホバいひたまふ

33 エレミヤ尚獄の庭に禁錮られてをる時エホバの言ふたたび彼に臨みていふ **2** 事をおこなふエホバ事をなして之を成就るエホバ其名をエホバと名る者かく言ふ **3** 汝我に穌求めよわれ汝に應へん又汝が知る大なる事と秘密たる事とを汝に示さん **4** イスラエルの神エホバ壘と劍によりて毀たれたる此邑の室とユダの王の室につきてかくいひ給ふ **5** 彼らカルデア人と戦はんとて來る是には我震怒と憤恨をもて殺すところの人々の屍體充るにいたらん我かれらの諸の惡のためにわが面をこの邑に蔽ひかくせり **6** 視よわれ卷布と良藥をこれに持きたりて人々を醫し平康と眞實の豊厚なるをこれに示さん **7** 我ユダの俘囚人とイスラエルの俘囚人を歸らしめ彼らを建て従前のごとくになすべし **8** われ彼らが我にむかひて犯せし一切の罪を潔め彼らが我にむかひて犯し且行ひし一切の罪を赦さん **9** 此邑は地のもろもろの民の中において我がために欣喜の名となり頌美となり榮耀となるべし彼等はわが此民にほどこすところの諸の恩恵を聞ん而してわがこの邑にほどこすところの諸の恩恵と諸の福祿のために發振へ且身を動搖さん **10** エホバかくいひ給へり汝らが荒れて人もなく畜もなしといひしこの處即ち荒れて人もなく住む者もなく畜もなきユダの邑とエルサレムの街に **11** 再び欣喜の聲 歡樂の聲 新娶者の聲 新婦の聲および萬軍のエホバをあがめよエホバは善にしてその矜恤は窮なしといひて其感謝の祭物をエホバの室に携ふる者の聲聞ゆべし蓋われこの地の俘囚人を返らしめて初のごとくになすべければなりエホバ之をいひたまふ **12** 萬軍のエホバかくいひたまふ荒れて人もなく畜もなきこの處と其

すべての邑々に再び牧者のその群を伏しむる牧場あるにいたらん **13** 山の邑と平地の邑と南の方の邑とベニヤミンの地とエルサレムの四周とユダの邑において群ふたたびその之を核ふる者の手の下を過らんとエホバいひたまふ **14** エホバ言たまはく視よ我イスラエルの家とユダの家に語りし善言を成就ぐる日きたらん **15** その日その時にいたらばわれダビデの爲に一の義き枝を生ぜしめん彼は公道と公義を地に行ふべし **16** その日ユダは救をえエルサレムは安らかに居らんその名はエホバ我儕の義と稱へらるべし **17** エホバかくいひたまふイスラエルの家の位に坐する人ダビデに缺ることなかるべし **18** また我前に燔祭をささげ素祭を燃し恒に犠牲を献ぐる人レビ人なる祭司に絶ざるべし **19** エホバのことばエレミヤに臨みていふ **20** エホバかくいふ汝らもし我晝につきての契約と我夜につきての契約を破りてその時々晝も夜もなからしむることをえば **21** 僕ダビデに吾が立し契約もまた破れその子はかれの位に坐して王となることをえざらんまたわが我に事ふるレビ人なる祭司に立し契約も破れん **22** 天の星は數へられず濱の沙は量られずわれその如く我僕ダビデの裔と我に事ふるレビ人を増ん **23** エホバの言またエレミヤに臨みていふ **24** 汝この民の語りてエホバはその選みし二の族を棄たりといふを聞ざるか彼らはかく我民を藐じてその眼にこれを國と見なさざるなり **25** エホバかくいひ給ふもしわれ晝と夜とについての契約を立ずまた天地の律法を定めずば **26** われヤコブと我僕ダビデとの裔をすてて再びかれの裔の中よりアブラハム、イサク、ヤコ

ブの裔を治むる者を取ざるべし我その俘囚し者を返らしめこれを恤れむべし

34 バビロンの王ネブカデネザルその全軍および己の手の下に屬するところの地の列國の人および諸の民を率てエルサレムとその諸邑を攻めて戦ふ時エホバの言エレミヤに臨みていふ **2** イスラエルの神エホバかくいふ汝ゆきてユダの王ゼデキヤに告ていふべしエホバかくいひたまふ視よわれ此邑をバビロン王の手に付さん彼火をもてこれを焚べし **3** 汝はその手を脱れず必ず擒へられてこれが手に付されん汝の目はバビロン王の目をみ又かれの口は汝の口と語ふべし汝はバビロンにゆくにいたらん **4** 然どユダの王ゼデキヤよエホバの言をきけエホバ汝の事につきてかくいひたまふ汝は劍に死じ **5** 汝は安らかに死なん民は汝の先祖たる汝の先の王等の爲に香を焚しごとく汝のためにも香を焚き且汝のために嘆て嗚呼主よといはん我この言をいふとエホバいひたまふ **6** 預言者エレミヤすなはち此言をことごとくエルサレムにてユダの王ゼデキヤにつげたり **7** 時にバビロン王の軍勢はエルサレムおよび存れるユダの諸の邑を攻めラキシとアゼカを攻て戦ひをる其はユダの諸邑のうちに是等の城の邑尚存りゐたればなり **8** ゼデキヤ王エルサレムに居る諸の民と契約を立てて彼らに釋放の事を宣示せし後エホバの言エレミヤに臨めり **9** その契約はすなはち人をしておのおの其僕婢なるヘブルの男女を釋たしめその兄弟なるユダヤ人を奴隸となさざらしむる者なりき **10** この契約をなせし牧伯等とすべての民は人おのおのその僕婢を釋ちて再び之を奴隸となすべからずといふをききて遂にそれに聽し

たがひてこれを釋ちしが **11** 後に心をひるがへしてその釋ちし僕婢をひきかへりて再び之を伏従はしめて僕婢となせり **12** 是故にエホバの言エホバよりエレミヤにのぞみて云 **13** イスラエルの神エホバかくいふ我汝らの先祖をエジプトの地その奴隸たりし宅より導きいだせし時彼らと契約を立ていひけらく **14** 汝らの兄弟なるヘブル人の身を汝らに賣たる者をば七年の終に汝らおのおのこれを釋つべし彼六年汝につかへたらば之を釋つべしと然るに汝らの先祖等は我に聽ず亦その耳を傾けざりし **15** 然ど汝らは今日心をあらためておのおの其鄰人に釋放の事を示してわが目に正とみゆる事を行ひ且我名をもて稱へらるる室に於て我前に契約を立たり **16** 然るに汝ら再び心をひるがへして我名を汚し各自釋ちて其心に任せしめたる僕婢をひき歸り再び之を伏従はしめて汝らの僕婢となせり **17** この故にエホバかくいひたまふ汝ら我に聽ておのおの其兄弟とその鄰に釋放の事を示さざりしによりて視よわれ汝らの爲に釋放を示して汝らを劍と饑饉と疫病にわたさん我汝らをして地の諸の國にて艱難をうけしむべし **18** エホバこれを云ふ犢を兩にさきて其二個の間を過り我前に契約をたてて却つて其言に従はずわが契約をやぶる人々 **19** 即ち兩に分ちし犢の間を過りしユダの牧伯等エルサレムの牧伯等と寺人と祭司とこの地のすべての民を **20** われ其敵の手とその生命を索る者の手に付さんその屍體は天空の鳥と野の獸の食物となるべし **21** 且われユダの王ゼデキヤとその牧伯等をその敵の手其生命を索むる者の手汝らを離れて去しバビロン王の軍勢の手に付さん **22** エホバいひたまふ視よ我彼らに命じて此邑に歸ら

しめん彼らこの邑を攻て戦ひ之を取り火をもて焚く
べしわれユダの諸邑を住人なき荒地となさん

35 ユダの王ヨシヤの子エホヤキムの時エレミヤに
のぞみしエホバの言いふ **2** 汝レカブ人の家に往て彼
らとかたり彼らをエホバの室の一房に携きたりて酒
をのませよと **3** 是に於てわれハバジニヤの子なるエ
レミヤの子ヤザニヤとその兄弟とその諸子およびレ
カブ人の全家を取り **4** これをエホバの室にあるハナ
ンの諸子の房につれきたれりハナンはイグダリヤの
子にして神の人なり其房は牧伯等の房の次にして門
を守るシャレムの子マアセヤの房のうへに在り **5** 我
すなはちレカブ人の家の諸子の前に酒を満したる壺
と杯を置き彼らに告て汝ら酒を飲めといひければ **6**
彼らこたへけるは我儕は酒をのまず蓋レカブの子な
る我らの先祖ヨナダブ我らに命じて汝等と汝らの子
孫はいつまでも酒をのむべからず **7** また汝ら屋を建
ず種をまかず葡萄園を植ざれ亦これを有べからず汝
らの生存ふるあひだ幕屋にをれ然らば汝らが寄寓と
ころの地に於て汝らの生命長からんと云たればなり
8 斯我らはレカブの子なるわれらの先祖ヨナダブの凡
て命ぜし言に遵ひて我儕とわれらの妻と子女は生存
ふるあひだ酒を飲ず **9** 我らは住べき屋を建てず葡萄
園も田野も種も有ずして **10** 幕屋にをりすべて我儕の
先祖ヨナダブが我らに命ぜしごとく行へり **11** 然どバ
ビロンの王ネブカデネザルがこの地に上り來りしと
き我ら云けるは我らカルデヤ人の軍勢とスリア人の
軍勢を畏るれば去來エルサレムにゆかんとすなはち
我らはエルサレムに住へり **12** 時にエホバの言エレミ
ヤにのぞみていふ **13** 萬軍のエホバ、イスラエルの神

かくいふ汝ゆきてユダの人々とエルサレムに住る者
とに告よエホバいひたまふ汝らは我言を聽て教を受
ざるか **14**レカブの子ヨナダブがその子孫に酒をのむ
べからずと命ぜし言は行はる彼らは今日に至るまで
酒をのまず其先祖の命令に遵ふなり然るに汝らは吾
汝らに語り頻りに語れども我にきかざるなり **15**我ま
た我僕なる預言者たちを汝らに遣し頻りにこれを遣
していはせけるは汝らいまおのおの其惡き道を離れ
て歸り汝らの行をあらためよ他の神に従ひて之に奉
ふる勿れ然ば汝らはわが汝らと汝らの先祖に與へた
るこの地に住ことをえんと然ど汝らは耳を傾けず我
にきかざりき **16**レカブの子ヨナダブの子孫はその先
祖が彼らに命ぜしところの命令に遵ふなり然ど此民
は我に聽ず **17**この故に萬軍の神エホバ、イスラエル
の神かくいふ視よわれユダとエルサレムに住る者と
に我彼らにつきていひし所の災を降さん我かれらに
語れども聽ずかれらを召ども應へざればなり **18**茲に
エレミヤ、レカブ人の家にいひけるは萬軍のエホバ
、イスラエルの神かくいひたまふ汝らはその先祖ヨ
ナダブの命に遵ひその凡の誠を守り彼が汝らに命ぜ
しことを行ふ **19**是によりて萬軍のエホバ、イスラエ
ルの神かくいひたまふレカブの子ヨナダブには我前
に立つ人いつまでも缺ることあらじ

36ユダの王ヨシヤの子エホヤキムの四年にこの言
エホバよりエレミヤに臨みていふ **2**汝卷物を取り我
汝に語りし日即ちヨシヤの日より今日に至るまでイ
スラエルとユダと萬國とにつきてわが汝に語りしす
べての言を之に録せ **3**ユダの家わが降さんと擬ると
ころの災をききて各自その惡き途をはなれて轉るこ

ともあらん然ばわれ其愆とその罪を赦すべし 4 是に於てエレミヤ、ネリヤの子バルクを召べりバルクすなはちエレミヤの口にしたがひエホバの彼に告たまひし言をことごとく巻物に録せり 5 エレミヤ、バルクに云ひけるはわれは禁錮られたればエホバの室に往くことを得ず 6 故に汝ゆきて汝が私の口にしたがひて巻物に録したるエホバの言をよみ斷食の日にエホバの室に於て民の耳にこれを聴しめよまた之を讀みてユダの人々のその邑々より來れる者の耳に聴しむべし 7 彼らエホバの前にその祈禱を献り各自其惡き途をはなれて轉ることもあらんエホバの此民につきてのべたまひし怒と憤は大なり 8 斯てネリヤの子バルクは凡て預言者エレミヤが己に命ぜしごとくエホバの室にてその巻物よりエホバの言を讀り 9 ユダの王ヨシヤの子エホヤキムの五年九月エルサレムの諸の民およびユダの諸邑よりエルサレムに來れる諸の民にエホバの前に斷食を行ふべきこと宣示さる 10 バルク、エホバの室の上庭に於てエホバの室の新しき門の入口の旁にあるシヤパンの子なる書記ゲマリヤの房にてその書よりエレミヤの言を民に讀きかせたり 11 シヤパンの子なるゲマリヤの子ミカヤその書のエホバの言を盡くききて 12 王の宮にある書記の房にくだりいたるに諸の牧伯等即ち書記エリシヤマ、シマヤの子デラヤ、アカボルの子エルナタン、シヤパンの子ゲマリヤ、ハナニヤの子ゼデキヤおよび諸の牧伯等そこに坐せり 13 ミカヤ、バルクが書を讀て民の耳に聴せしときに己が聴しところのすべての言を彼らに告げれば 14 牧伯等クシの子シレミヤの子なるネタニヤの子エホデをバルクに遣はしていはせけ

るは汝が民に讀きかせしその卷物を手に取て來れと
ネリヤの子バルクすなはち手に卷物を取りて彼らの
許にきたりたれば **15** 彼らバルクにいひけるは請ふ坐
して之を我らに讀きかせよとバルクすなはち彼らに
讀聞せたり **16** 彼らその諸の言をききて俱に懼れバル
クにいひけるは我ら必ずこの諸の言を王に告んと **17**
またバルクに問ていひけるは請ふ汝いかにこの諸の
言をかれの口にしたがひて録せしや我らに告よ **18** バ
ルク答へけるは彼その口をもてこの諸の言を我に述
べたればわれ墨をもて之を書に録せり **19** 牧伯等バル
クにいひけるは汝ゆきてエレミヤとともに身を匿し
在所を人に知しむべからずと **20** すなはち卷物を書記
エリシヤマの房に置いて庭にいり王に詣りてこの諸
の言を王につげければ **21** 王その卷物を持來らせんと
てエホデを遣せりエホデすなはち書記エリシヤマの
房より卷物を取來りて之を王と王の側に立るすべての
の牧伯等に讀みきかせたり **22** 時は九月にして王冬の
室に坐せり其前に火の燃る爐あり **23** エホデ三枚か四
枚を讀けるとき王小刀をもてその卷物を切割き爐の
火に投いれて之を盡く爐の火に焚り **24** 王とその臣僕
等はこの諸の言をきけども懼れず亦その衣を裂ざり
き **25** エルナタン、デラヤ、ゲマリヤ等王にその卷物
を焚たまふ勿れと求めたれども聽ざりき **26** 王ハンメ
レクの子エラメルとアヅリエルの子セラヤとアブデ
ルの子セレミヤに書記バルクと預言者エレミヤを執
へよと命ぜしがエホバかれらを匿したまへり **27** 王卷
物およびバルクがエレミヤの口にしたがひて記せし
言を焚しのちエホバの言エレミヤに臨みていふ **28** 汝
また他の卷物をとりユダの王エホヤキムが焚しとこ

ろの前の巻物の中の言をことごとく其に録せ 29 汝またユダの王エホヤキムに告よエホバかくいふ汝かの巻物を焚ていへり汝何なれば此巻物に録してバビロンの王必ず來りてこの地を滅し此に人と畜を絶さんと云しやと 30 この故にエホバ、ユダの王エホヤキムにつきてかくいひ給ふ彼にはダビデの位に坐する者無にいたらん且かれの屍は棄られて晝は熱氣にあひ夜は寒氣にあはん 31 我また彼とその子孫とその臣僕等をその惡のために罰せんまた彼らとエルサレムの民とユダの人々には我わが彼らにつきて語りしかども彼らが聽ことをせざりし所の禍を降すべし 32 是に於てエレミヤ他の巻物を取てネリヤの子書記バルクにあたふバルクすなはちユダの王エホヤキムが火に焚たところの書の諸の言をエレミヤの口にしたがひて之に録し外にまた斯る言を多く之に加へたり

37 ヨシヤの子ゼデキヤ、エホヤキムの子コニヤに代りて王となるバビロンの王ネブカデネザル彼をユダの地に王となせしなり 2 彼もその臣僕等もその地の人々もエホバが預言者エレミヤによりて示したまひし言を聽ざりき 3 ゼデキヤ王シレミヤの子ユカルとマアセヤの子祭司ゼパニヤを預言者エレミヤに遣して請ふ汝我らの爲に我らの神エホバに祈れといはしむ 4 エレミヤは民の中に入出せりそはいまだ獄に入られざればなり 5 パロの軍勢のエジプトより來りしかばエルサレムを攻圍みたるカルデア人は其音信をききてエルサレムを退けり 6 時にエホバの言預言者エレミヤにのぞみていふ 7 イスラエルの神エホバかくいふ汝らを遣して我に求めしユダの王にかくいへ汝らを救はんとて出きたりしパロの軍勢はおのれ

の地エジプトへ歸らん 8 カルデヤ人再び來りてこの
邑を攻て戦ひこれを取り火をもて焚べし 9 エホバか
くいふ汝らカルデヤ人は必ず我らをはなれて去んと
いひて自ら欺く勿れ彼らは去ざるべし 10 設令汝らお
のれを攻て戦ふところのカルデヤ人の軍勢を悉く撃
ちやぶりてその中に負傷人のみを遺すとも彼らはお
のおの其幕屋に起ちあがり火をもて此邑を焚かん 11
茲にカルデヤ人の軍勢パロの軍勢を懼れてエルサレ
ムを退きければ 12 エレミヤ、ベニヤミンの地にて民
の中にその分を分ち取らんとてエルサレムを出でて
かの地に行きしが 13 ベニヤミンの門にいりし時そこ
にハナニヤの子シレミヤの子なるイリヤと名くる門
守をり預言者エレミヤを執へて汝はカルデヤ人に降
るなりといふ 14 エレミヤいひけるは詐なり我はカル
デヤ人に降るにあらずと然どイリヤこれを聽ずエレ
ミヤを執へて侯伯等の許に引ゆけり 15 侯伯等すなは
ち怒りてエレミヤを撻ちこれを書記ヨナタンの室の
獄にいれたり蓋この室を獄となしたればなり 16 エレ
ミヤ獄にいり土牢に入りてそこに多の日を送りし
のち 17 ゼデキヤ王人を遣して彼をひきいださしむ而し
て王室にて竊にかれにいひけるはエホバより臨める
言あるやとエレミヤ答へていひけるは有り汝はバビ
ロン王の手に付されん 18 エレミヤまたゼデキヤ王に
いひけるは我汝あるいは汝の臣僕或はこの民に何な
る罪を犯したれば汝ら我を獄にいれしや 19 汝らに預
言してバビロンの王は汝らにも此地にも攻來らじと
いひし汝らの預言者はいま何處にあるや 20 されば王
わが君よ願くはいま我に聽たまへ請ふわが願望を受
納れ給へ我を書記ヨナタンの家に歸らしめたまふな

かれ恐らくは我彼處に死なんと 21 是においてゼデキヤ王命じてエレミヤを獄の庭にいれしめ且邑のパンの悉く盡るまでパンを製る者の街より日々に一片のパンを彼に與へしむ即ちエレミヤは獄の庭にをる

38 マツタンの子シパテヤ、パシユルの子ゲダリヤ、シレミヤの子ユカル、マルキヤの子パシユル、エレミヤがすべての民に告たるその言を聞き 2 云くエホバかくいひたまふこの邑に留まるものは劍と饑饉と疫病に死べし然どいにてカルデヤ人に降る者は生んすなはちその生命をおのれの掠取物となして生べし 3 エホバかくいひたまふこの邑は必ずバビロン王の軍勢の手に付されん彼之を取べしと 4 是をもてかの牧伯等王にいひけるは請ふこの人を殺したまへ彼はかくの如き言をのべて此邑に遺れる兵卒の手と民の手を弱くす夫人は民の安を求めずして其害を求むるなりと 5 ゼデキヤ王いひけるは視よ彼は汝らの手にあり王は汝らに逆ふこと能はざるなりと 6 彼らすなはちエレミヤを取て獄の庭にあるハンメレクの子マルキヤの阱に投いる即ち索をもてエレミヤを縋下せしがその阱は水なくして汚泥のみなりければエレミヤは汚泥のなかに沈めり 7 王の室の寺人エテオピア人エベデメレク彼らがエレミヤを阱になげいれしを聞き時に王ベニヤミンの門に坐しゐたれば 8 エベデメレク王の室よりいでゆきて王にいひけるは 9 王わが君よかの人々が預言者エレミヤに行ひし事は皆好らず彼らこれを阱になげ入たり邑の中に食物なければ彼はその居るところに餓死せん 10 王エテオピヤ人エベデメレクに命じていひけるは汝ここより三十人を携へゆきて預言者エレミヤをその死ざる先にを

阱より曳あげよ **11** エベデメレクすなはちその人々を携へて王の室の庫の下にいら其處より破れたる舊き衣の布片をとり索をもてこれをを阱にをるエレミヤの所に縋下せり **12** 而してエテオピア人エベデメレク、エレミヤに告て汝この破れたる舊き衣の布片を汝の腋の下にはさみて索に當よと云ければエレミヤ然なせり **13** 彼らすなはち索をもてエレミヤを阱より曳あげたりエレミヤは獄の庭にをる **14** かくてゼデキヤ王人を遣はして預言者エレミヤをエホバの室の第三の門につれきたらしめ王エレミヤにいひけるは我汝に問ことあり毫もわれに隠す勿れ **15** エレミヤ、ゼデキヤにいひけるは我もし汝に示さば汝かならず我を殺さざらんや假令われ汝を勸むるとも汝われに聴じ **16** ゼデキヤ王密にエレミヤに誓ひていひけるは我らにこの靈魂を造りあたへしエホバは活く我汝を殺さず汝の生命を索むる者の手に汝を付さじ **17** エレミヤ、ゼデキヤにいひけるは萬軍の神イスラエルの神エホバかくいひたまふ汝もしまことにバビロン王の牧伯等に降らば汝の生命活んまた此邑は火にて焚れず汝と汝の家の者はいくべし **18** 然ど汝もし出てバビロンの王の牧伯等に降らずば此邑はカルデヤ人の手に付されん彼らは火をもて之を焚ん汝はその手を脱れざるべし **19** ゼデキヤ王エレミヤに云けるは我カルデヤ人に降りしところのユダ人を恐る恐くはカルデヤ人我をかれらの手に付さん彼ら我を辱しめん **20** エレミヤいひけるは彼らは汝を付さじ願くはわが汝に告しエホバの聲に聴したがひたまへさらば汝祥をえん汝の生命いきん **21** 然ど汝もし降ることを否まばエホバこの言を我に示し給ふ **22** すなはちユダの王の室に

遺れる婦は皆バビロンの王の牧伯等の所に曳いだされん其婦等いはん汝の朋友等は汝を誘ひて汝に勝り汝の足は泥に沈む彼らは退き去る 23 汝の妻たちと汝の子女等はカルデヤ人の所に曳出されん汝は其手を脱れじバビロンの王の手に執へられん汝此邑をして火に焚しめん 24 ゼデキヤ、エレミヤにいひけるは汝この事を人に知する勿れさらば汝殺されじ 25 もし牧伯等わが汝と語りしことを我儕に告げよ我らに隠す勿れ然ば我ら汝を殺さじ又王の汝に語りしことを告よといはば 26 汝彼らに答へて我王に求めて我をヨナタンの家に歸して彼處に死しむること勿れといへりといふべし 27 かくて牧伯等エレミヤにきたりて聞けるに彼王の命ぜし言のごとく彼らに告たればその事露はれざりき是をもて彼ら彼どものいふことを罷たり 28 エレミヤはエルサレムの取る日まで獄の庭に居りしがエルサレムの取れし時にも彼處にをれり

39 ユダの王ゼデキヤの九年十月バビロンの王ネブカデネザルその全軍をひきゐるエルサレムにきたりて之を攻圍みけるが 2 ゼデキヤの十一年四月九日にいたりて城邑破れたれば 3 バビロンの王の牧伯等即ちネルガルシヤレゼル、サムガルネボ 寺人の長サルセキム 博士の長ネルガルシヤレゼルおよびバビロンの王のその外の牧伯等皆ともに入て中の門に坐せり 4 ユダの王ゼデキヤおよび兵卒ども之を見て逃げ夜の中に王の園の途より兩の石垣の間の門より邑をいでてアラバの途にゆきしが 5 カルデヤ人の軍勢これを追ひエリコの平地にてゼデキヤにおひつき之を執へてハマテの地リブラにをるバビロンの王ネブカデネザルの許に曳ゆきければ王かしこにて彼の罪をさだ

めたり 6 すなはちバビロンの王リブラにてゼデキヤの諸子をかれの目の前に殺せりバビロンの王またユダのすべての牧伯等を殺せり 7 王またゼデキヤの目を抉さしめ彼をバビロンに曳ゆかんとて銅索に縛げり 8 またカルデヤ人火をもて王の室と民の家をやき且エルサレムの石垣を毀てり 9 かくて侍衛の長ネブザラダンは邑の中に餘れる民とおのれに降りし者およびその外の遺れる民をバビロンに移せり 10 されど侍衛の長ネブザラダンはその時民の貧しくして所有なき者等をユダの地に遺し葡萄園と田地とをこれにあたへたり 11 爰にバビロンの王ネブカデネザル、エレミヤの事につきて侍衛の長ネブザラダンに命じていひけるは 12 彼を取りて善く待へよ害をくはふる勿れ彼が汝に云ふごとくなすべしと 13 是をもて侍衛の長ネブザラダン寺人の長ネブシヤスバン博士の長ネルガルシヤレゼルおよびバビロンの王の牧伯等 14 人を遣してエレミヤを獄の庭よりたづさへ來らしめシヤパンの子アヒカムの子なるゲダリヤに付して之を家につれゆかしむ斯彼民の中に居る 15 エレミヤ獄の庭に禁錮られをる時エホバの言彼にのぞみていふ 16 汝ゆきてエテオピア人エベデメレクに告よ萬軍のエホバ、イスラエルの神かくいふわれ我語しところの禍を此邑に降さん福はこれに降さじその日この事汝の目前にならん 17 エホバいひたまふその日にはわれ汝を救はん汝はその畏るところの人衆の手に付されじ 18 われ必ず汝を救はん汝は劍をもて殺されじ汝の生命は汝の掠取物とならん汝われに倚頼めばなりとエホバいひたまふ

40 侍衛の長ネブザラダンかのバビロンにとらへ移さるるエルサレムとユダの人々の中にエレミヤを鏈につなぎおきてこれを執へゆきけるが遂にこれを放ちてラマを去しめたりその後エホバの言エレミヤにのぞめり **2** 茲に侍衛の長エレミヤを召てこれにいひけるは汝の神エホバ此處にこの災あらんことを言り **3** エホバこれを降しその云し如く行へり汝らエホバに罪を犯しその聲に聽したがはざりしによりてこの事汝らに來りしなり **4** 視よ我今日汝の手の鏈を解て汝を放つ汝もし我とともにバビロンにゆくことを善とせば來れわれ汝を善くあしらはん汝もし我と偕にバビロンにゆくを惡とせば留れ視よこの地は皆汝の前に在り汝の善とする所汝の心に合ふところに往べし **5** エレミヤいまだ答へざるに彼またいひけるは汝バビロンの王がユダの諸邑の上にたてて有司となせしシヤパンの子アヒカムの子なるゲダリヤの許に歸り彼とともに民の中に居れ或は汝の善とおもふところにゆくべしと侍衛の長彼に食糧と禮物をとらせて去しめたり **6** エレミヤすなはちミツパに往きてアヒカムの子ゲダリヤに詣りその地に遺れる民のうちに彼と偕にをる **7** 茲に田舎にある軍勢の長等および彼らに屬する人々バビロンの王がアヒカムの子ゲダリヤを立てこの地の有司となし男女嬰孩および國の中のバビロンに移されざる貧者を彼にあづけたることをききしかば **8** 即ちネタニヤの子イシマエルとカレヤの子ヨハナンとヨナタンおよびタンホメテの子セラヤとネトパ人なるエパイの諸子と或マアカ人の子ヤザニヤおよび彼らに屬する人々ミツパにゆきてゲダリヤの許にいたる **9** シヤパンの子アヒカムの子なるゲ

ダリヤ彼らと彼らに屬する人々に誓ひていひけるは
汝らカルデヤ人に事することを怖る勿れこの地に住
てバビロンの王に事へなば汝ら幸福ならん **10** 我はミ
ヅパに居り我らに來らんとする所のカルデヤ人に事へ
ん汝らは葡萄酒と菓物と油とをあつめて之を器に蓄
へ汝らが獲るところの諸邑に住めと **11** 又モアブとア
ンモン人の中およびエドムと諸の邦にをるところの
ユダヤ人はバビロンの王がユダに人を遣したるシヤ
パンの子アヒカムの子なるゲダリヤを立てこれが有
司となしたることを聞き **12** 是においてそのユダヤ人
皆その追やられし諸の處よりかへりてユダの地のミ
ヅパに來りゲダリヤに詣れり而して多くの葡萄酒と
菓物をあつむ **13** 又カレヤの子ヨハナンおよび田舎に
をりし軍勢の長たちミヅパにきたりてゲダリヤの許
にいたり **14** 彼にいひけるは汝アンモン人の王バアリ
スが汝を殺さんとてネタニヤの子イシマエルを遣せ
しを知るやと然どアヒカムの子ゲダリヤこれを信ぜ
ざりしかば **15** カレヤの子ヨハナン、ミヅパにて密に
ゲダリヤに語りて言けるは請ふわれゆきて人知ずに
ネタニヤの子イシマエルを殺さんいかで彼汝を殺し
汝に集れるユダ人を散しユダの遺れる者を滅すべけ
んやと **16** 然るにアヒカムの子ゲダリヤ、カレヤの子
ヨハナンにいひけるは汝この事をなすべからず汝イ
シマエルにつきて偽をいふなり

41 七月ごろ王の血統なるエリシヤマの子ネタニヤ
の子イシマエル王の十人の牧伯等とともにミヅパに
ゆきてアヒカムの子ゲダリヤにいたりミヅパにて偕
に食をなせしが **2** ネタニヤの子イシマエルおよび偕
にをりし十人の者起上りバビロンの王がこの地の有

司となせしシヤパンの子アヒカムの子なるゲダリヤを刀にて殺せり 3 イシマエルまたミヅパにゲダリヤと偕にをりし諸のユダヤ人と彼處にをりしカルデア人の兵卒を殺したり 4 彼がゲダリヤを殺してより二日の後いまだ誰も之を知ざりし時 5 ある人八十人その鬚を薙り衣を裂き身に傷つけ手に素祭の物と香を携へてシケム、シロ、サマリヤよりきたりてエホバの室にいたらんとせしかば 6 ネタニヤの子イシマエル、ミヅパよりいでて哭きつつ行て彼らを迎へ彼等に逢てアヒカムの子ゲダリヤの許に來れといへり 7 而して彼ら邑の中に入しときネタニヤの子イシマエル己と偕にある人々とともに彼らを殺してその屍を阱に投いれたり 8 但しその中の十人イシマエルにむかひ我らは田地に小麦 薺麥油および蜜を藏し有り我らをころすなかれと言たれば彼らをその兄弟と偕に殺さずして已ぬ 9 イシマエルがゲダリヤの名をもて殺せし人の屍を投入れし阱はアサ王がイスラエルの王バアシヤを怖れて鑿し阱なりネタニヤの子イシマエルその殺せし人々を之に充せり 10 イシマエルはミヅパに遺りをる諸の民即ち王の諸女と侍衛の長ネブザラダンがアヒカムの子ゲダリヤに交付しところのミヅパに遺れる諸の民とを擄にせりネタニヤの子イシマエルすなはち彼らを擄にしアンモン人に往んとて去れり 11 カレヤの子ヨハナンおよび彼と偕に在る軍勢の長たちネタニヤの子イシマエルの爲し諸の悪事を聞ければ 12 その衆卒を率てネタニヤの子イシマエルと戦はんとて出でギベオンの池の旁にて彼に遇ふ 13 イシマエルと偕に在る人々はカレヤの子ヨハナンおよび彼とともに在る軍勢の長たちを見て欣べり

14 是をもてイシマエルがミヅパより擄へきたりし所の人々身をめぐらしてカレヤの子ヨハナンの許にゆけり 15 ネタニヤの子イシマエルは八人の者と偕にヨハナンを避け逃てアンモン人に往り 16 カレヤの子ヨハナンおよび彼とともにある軍勢の長等はネタニヤの子イシマエルがアヒカムの子ゲダリヤを殺してミヅパより擄へゆけるところの彼遣れる民すなはち兵卒婦人兒女寺人等を其手より取りかへして之をギベオンより携かへりしが 17 進てエジプトにいたらんとてベツレヘムの近傍にあるキムハムの住處に往て留れり 18 こはネタニヤの子イシマエルがバビロンの王の此地の有司となしたるアヒカムの子ゲダリヤを殺せしによりカルデヤ人を懼たればなり

42 茲に軍勢の長たちおよびカレヤの子ヨハナンとホシャヤの子エザニヤ並に民の至微者より至大者にいたるまで 2 皆預言者エレミヤの許に來りて言けるは汝の前に我らの求の受納られんことを願ふ請ふ我ら遣れる者の爲に汝の神エホバに祈れ(今汝の目に見がごとく我らは衆多の中の遣れる者にして寡なり) 3 さらば汝の神エホバ我らの行むべき途となすべき事を示したまはん 4 預言者エレミヤ彼らに云けるは我汝らに聽り汝らの言に循ひて汝らの神エホバに祈らん凡そエホバが汝らに應へたまふことはわれ隠す所なく汝らに告べし 5 彼らエレミヤにいひけるは願くはエホバ我儕の間にありて眞實なる信ずべき證者となりたまへ我らは汝の神エホバの汝を遣して我らに告しめたまふ諸の事に遵ひて行ふべし 6 我らは善にまれ惡きにまれ我らが汝を遣すところの我らの神エホバの聲に遵はん斯我らの神エホバの聲に遵ひてわ

れら福をうけん 7 十日の後エホバの言エレミヤにのぞみしかば 8 エレミヤ、カレヤの子ヨハナンおよび彼と偕に在る軍勢の長たち並に民の至微者より至大者までを悉く招きて 9 これにいひけるは汝らが我を遣して汝らの祈を献げしめしところのイスラエルの神エホバかくいひ給ふ 10 汝らもし信に此地に留らばわれ汝らを建てて倒さず汝らを植て拔じそは我汝らに災を降せしを悔ればなり 11 エホバいひたまふ汝らが畏るところのバビロンの王を畏るる勿れ彼をおそるる勿れわれ汝らとともにありて汝らを救ひ彼の手より汝らを拯ふべし 12 われ汝らを恤みまた彼をして汝らを恤ませ汝らを故土に歸らしめん 13 然ど汝らもし我らはこの地に留らじ汝らの神エホバの聲に遵はじと言ひ 14 また然りわれらはかの戦争を見ず箠の聲をきかず食物に乏しからざるエジプトの地にいたりて彼處に住はんといはば 15 汝らユダの遺れる者よエホバの言をきけ萬軍のエホバ、イスラエルの神かくいひたまふ汝らもし強てエジプトにゆきて彼處に住はば 16 汝らが懼るところの劍エジプトの地にて汝らに臨み汝らが恐るところの饑饉エジプトにて汝らにおよばん而して汝らは彼處に死べし 17 凡そエジプトにおもむき至りて彼處に住はんとする人々は劍と饑饉と疫病に死べしその中には我彼らに降さんところの災を脱れて遺る者無るべし 18 萬軍のエホバ、イスラエルの神かくいひたまふ我震怒と憤恨のエルサレムに住る者に注ぎし如くわが憤恨汝らがエジプトにいらん時に汝らに注がん汝らは呪詛となり詫異となり罵詈となり凌辱とならん汝らは再びこの處を見ざるべしと 19 ユダの遺れる者よエホバ汝らにつ

きていひたまへり汝らエジプトにゆく勿れと汝ら今日わが汝らを警めしことを確に知れ 20 汝ら我を汝らの神エホバに遣して言へり我らの爲に我らの神エホバに祈り我らの神エホバの汝に示したまふ事をことごとく我らに告よ我ら之を行はんと斯なんぢら自ら欺けり 21 われ今日汝らに告たれど汝らは汝らの神エホバの聲に遵はず汝らはエホバが我を遣して命ぜしめたまひし事には都て遵はざりき 22 然ば汝らはその往て住んとねがふ處にて劍と饑饉と疫病に死ることを今確に知るべし

43 エレミヤ諸の民にむかひて其神エホバの言を盡く宣べその神エホバが己を遣して言しめたまへる其諸の言を宣をはりし時 2 ホシャヤの子アザリヤ、カレヤの子ヨハナンおよび驕る人皆エレミヤに語りていひけるは汝は謊をいふ我らの神エホバはエジプトにゆきて彼處に住む勿れと汝をつかはして云せたまはざるなり 3 ネリヤの子バルク汝を唆して我らに逆はしむ是我らをカルデヤ人の手に付して殺さしめバビロンに移さしめん爲なり 4 スカレヤの子ヨハナンと軍勢の長等および民皆エホバの聲に遵はずしてユダの地に住ことをせざりき 5 斯てカレヤの子ヨハナンと軍勢の長等はユダに遣れる者即ちその逐やられし國々よりユダの地に住んとて販りし者 6 男女嬰孩王の女たちおよび凡て侍衛の長ネブザラダンがシャパンの子なるアヒカムの子ゲダリヤに付し置し者並に預言者エレミヤとネリヤの子バルクを取て 7 エジプトの地に至れり彼ら斯エホバの聲に遵はざりき而して遂にタパネスに至れり 8 エホバの言タパネスにてエレミヤに臨みていふ 9 汝大なる石を手に取りユ

ダの人々の目の前にてこれをタパネスに在るパロの
室の入口の旁なる磚窰の泥土の中に藏して 10 彼らに
いへ萬軍のエホバ、イスラエルの神かくいひたまふ
視よわれ使者を遣はしてわが僕なるバビロンの王ネ
ブカデネザルを召きその位をこの藏したる石の上に
置しめん彼錦繡をその上に敷べし 11 かれ來りてエジ
プトの地を撃ち死に定まれる者を死しめ虜に定まれ
る者を虜にし劍に定まれる者を劍にかけん 12 われエ
ジプトの諸神の室に火を燃さんネブカデネザル之を
焚きかれらを虜にせん而して羊を牧ふ者のその身に
衣を纏ふがごとくエジプトの地をその身に纏はん彼
安然に其處をさるべし 13 彼はエジプトの地のベテシ
メシの偶像を毀ち火をもてエジプト人の諸神の室を
焚べし

44 エジプトの地に住るところのユダの人衆すなは
ちミグドル、タパネス、ノフ、パテロスの地に住る
者の事につきてエレミヤに臨みし言に曰く 2 萬軍の
エホバ、イスラエルの神かくいふ汝らは我エルサレ
ムとユダの諸邑に降せしところの災をみたり視よこ
れらは今日すでに空曠となりて住む人なし 3 こは彼
ら悪をなして我を怒らせしによる即ちかれらは己も
汝らも汝らの先祖等も識ざるところの他の神にゆき
て香を焚き且これに奉へたり 4 われ我僕なる預言者
たちを汝らに遣し頻にこれを遣して請ふ汝らわが嫌
ふところの此憎むべき事を行ふ勿れといはせけるに
5 彼ら聽かず耳を傾けず他の神に香を焚きてその悪を
離れざりし 6 是によりて我震怒とわが憤恨ユダの諸
邑とエルサレムの街にそそぎて之を焚たれば其等は
今日のごとく荒れかつ傾圮たり 7 萬軍の神イスラエ

ルの神エホバいまかくいふ汝ら何なれば大なる悪を
なして己の靈魂を害しユダの中より汝らの男と女と
孩童と乳哺子を絶て一人も遣らざらしめんとするや
8 何なれば汝ら其手の行爲をもて我を怒らせ汝らが往
て住ふところのエジプトの地に於て他の神に香を焚
きて己の身を滅し地の萬國の中に呪詛となり凌辱と
ならんとするや 9 ユダの地とエルサレムの街にて行
ひし汝らの先祖等の悪ユダの王等の悪其妻等の悪お
よび汝らの身の悪汝らの妻等の悪を汝ら忘れしや 10
彼らは今日にいたるまで悔いずまた畏れず汝らと汝
らの先祖等の前に立たる我律法とわが典例に循ひて
行まざるなり 11 是故に萬軍のエホバ、イスラエルの
神かくいふ視よわれ面を汝らにむけて災を降しユダ
の人衆を悉く絶ん 12 又われエジプトの地にすまんと
てその面をこれにむけて往しところの彼ユダの遺れ
る者を取らん彼らは皆滅されてエジプトの地に仆れ
ん彼らは劍と饑饉に滅され微者も大者も劍と饑饉に
よりにて死べし而して呪詛となり詫異となり罵詈とな
り凌辱とならん 13 われエルサレムを罰せし如く劍と
饑饉と疫病をもてエジプトに住る者を罰すべし 14 是
をもてエジプトの地に往て彼處に住るところのユダ
の遺れる者の中に一人も逃れまたは遣りてその心に
したひて歸り住はんとねがふところのユダの地に歸
るもの無るべし逃るる者の外には歸る者無るべし 15
是に於てその妻が香を他の神に焚しことを知れる人
々および其處に立てる婦人等の大なる群衆並にエジ
プトの地のパテロスに住るところの民エレミヤに答
へて云けるは 16 汝がエホバの名をもてわれらに述し
言は我ら聴かじ 17 我らは必ず我らの口より出る言を

行ひ我らが素なせし如く香を天后に焚きまた酒をその前に灌ぐべし即ちユダの諸邑とエルサレムの街にて我らと我らの先祖等および我らの王等と我らの牧伯等の行ひし如くせん當時われらは糧に飽き福をえて災に遇ざりし **18** 我ら天后に香を焚くことを止め酒をその前に灌がざりし時より諸の物に乏しくなり劍と饑饉に滅されたり **19** 我らが天后に香を焚き酒をその前に灌ぐに方りて之に象りてパンを製り酒を灌ぎしは我らの夫等の許せし事にあらずや **20** エレミヤ即ち男女の諸の人衆および此言をもて答へたる諸の民にいひけるは **21** ユダの諸邑とエルサレムの街にて汝らと汝らの先祖等および汝等の王等と汝らの牧伯等および其地の民の香を焚しことはエホバ之を憶えまた心に思ひたまふにあらずや **22** エホバは汝らの悪き爲のため汝らの憎むべき行の爲に再び忍ぶことをえせざりきこの故に汝らの地は今日のごとく荒地となり詫異となり呪詛となり住む人なき地となれり **23** 汝ら香を焚きエホバに罪を犯しエホバの聲に聴したがはずその律法と憲法と證詞に循ひて行まざりしに由て今日のごとく此災汝らにおよべり **24** エレミヤまたすべての民と婦等にいひけるはエジプトの地に居るユダの子孫よエホバの言をきけ **25** 萬軍のエホバ、イスラエルの神かくいひたまふ汝らと汝らの妻等は口をもていひ手をもて成し我ら香を天后に焚き酒を灌ぎて立しところの誓を必ず成就んといふ汝ら必ず誓をたてかならず其誓を成就んとす **26** この故にエジプトの地に住るユダの人々よエホバの言をきけエホバいひたまふわれ我大なる名を指て誓ふエジプトの全地にユダの人々一人もその口に主エホバは活くと

いひて再び我名を稱ふることなきにいたらん 27 視よわれ彼らをうかがはん是福をあたふる爲にあらず禍をくださん爲なりエジプトの地に居るユダの人々は劍と饑饉に滅びて絶るにいたらん 28 然ど劍を逃るる僅少の者はエジプトの地を出てユダの地に歸らん又エジプトの地にゆきて彼處に寄寓れるユダの遺れる者はその立ところの言は我のなるか彼らのなるかを知るにいたるべし 29 エホバいひ給ふわがこの處にて汝らを罰する兆は是なり我かくして我汝らに禍をくださんといひし言の必ず立ことを知しめん 30 すなはちエホバかくいひたまふ視よわれユダの王ゼデキヤを其生命を索むる敵なるバビロンの王ネブカデネザルの手に付せしが如くエジプトの王パロホフラを其敵の手その生命を索むる者の手に付さん

45 ユダの王ヨシヤの子エホヤキムの四年ネリヤの子バルクが此等の言をエレミヤの口にしたがひて書に録せしとき預言者エレミヤこれに語りていひけるは 2 バルクよイスラエルの神エホバ汝にかくいひ給ふ 3 汝曾ていへり嗚呼我は禍なるかなエホバ我憂に悲を加へたまへり我は歎きて疲れ安きをえずと 4 汝かく彼に語れエホバかくいひたまふ視よわれ我建しところの者を毀ち我植しところの者を拔ん是の全地なり 5 汝己れの爲に大なる事を求むるかこれを求むる勿れ視よわれ災をすべての民に降さん然ど汝の生命は我汝のゆかん諸の處にて汝の掠物とならしめんとエホバいひたまふ

46 茲にエホバの言預言者エレミヤに臨みて諸國の事を論ふ 2 先エジプトの事すなはちユフラテ河の邊なるカルケミシの近傍にをるところのエジプト王パ

ロネコの軍勢の事を論ふ是はユダの王ヨシヤの子エ
ホヤキムの四年にバビロンの王ネブカデネザルが撃
やぶりし者なり其言にいはく 3 汝ら大楯小干を備へ
て進み戦へ 4 馬を車に繋ぎ馬に乗り盔を被りて立て
戈を磨き甲を着よ 5 われ見るに彼らは懼れて退きそ
の勇士は打敗られ狼狽遁て後をかへりみず是何故ぞ
や畏懼かれらのまはりにありとエホバいひたまふ 6
快足なる者も逃えず強者も遁れえず皆北の方にてユ
フラテ河の旁に蹶き仆れん 7 かのナイルのごとくに
湧あがり河のごとくに其水さかまく者は誰ぞや 8 エ
ジプトはナイルの如くに湧あがりその水は河の如く
に逆まくなり而していふ我上りて地を蔽ひ邑とその
中に住る者とを滅さん 9 汝等馬に乗り車を驅馳らせ
よ勇士よ盾を執るエテオピア人プテ人および弓を張
り挽くルデ人よ進みいづべし 10 此は主なる萬軍のエ
ホバの復仇の日即ちその敵に仇を復し給ふ日なり劍
は食ひて飽きその血に酔はん主なる萬軍のエホバ北
の地にてユフラテ河の旁に宰ることをなし給へばな
り 11 處女よエジプトの女よギレアデに上りて乳香を
取れ汝多くの薬を用ふるも益なし汝は愈ざるべし 12
汝の恥辱は國々にきこえん汝の號泣は地に満てり勇
士は勇士にうち觸てともに仆る 13 バビロンの王ネブ
カデネザルが來りてエジプトの地を撃んとする事
につきてエホバの預言者エレミヤに告たまひし言 14 汝
らエジプトに宣ベミグドルに示し又ノフ、タパネス
に示しいふべし汝ら堅く立ちて自ら備よ 劍なんぢの
四周を食ひたればなり 15 汝の力ある者いかにして拂
ひ除かれしやその立ざるはエホバこれを仆したまふ
に由るなり 16 彼多の者を蹶かせたまふ人其友の上に

仆れかさなり而していふ起よ我ら滅すところの劍を
避けてわが國にかへり故土にいたらんと 17 人彼處に
叫びてエジプトの王パロは滅されたり彼は機會を失
へりといふ 18 萬軍のエホバと名りたまふところの王
いひたまふ我は活く彼は山々の中のタボルのごとく
海の傍のカルメルのごとくに來らん 19 エジプトに住
る女よ汝移轉の器皿を備へよそはノフは荒蕪となり
焼れて住む人なきにいたるべければなり 20 エジプト
は至美しき牝の犢のごとし蜚虻きたり北の方より來
る 21 また其中の傭人は肥たる犢のごとし彼ら轉向て
ともに逃げ立ことをせず是その滅さるる日いたり其
罰せらるる時來りたればなり 22 彼は蛇の如く聲をい
だす彼ら軍勢を率ゐて來り樵夫の如く斧をもて之に
のぞめり 23 エホバいひ給ふ彼らは探りえざるに由り
て彼の林を砍仆せり彼等は蝗蟲よりも多して數へが
たし 24 エジプトの女は辱められ北の民の手に付され
ん 25 萬軍のエホバ、イスラエルの神いひ給ふ視よわ
れノフのアモンとパロとエジプトとその諸神とその
王等すなはちパロとかれを頼むものを罰せん 26 わ
れ彼らを其生命を索むる者の手とバビロンの王ネブ
カデネザルの手とその臣僕の手につすべしその後こ
の地は昔のごとく人の住むところとならんとエホバ
いひたまふ 27 我僕ヤコブよ怖るる勿れイスラエルよ
驚く勿れ視よわれ汝を遠方より救ひきたり汝の子孫
をその擄移されたる地より救ひとるべしヤコブは歸
りて平安と寧靜をえん彼を畏れしむる者なかるべし
28 エホバいひたまふ我僕ヤコブよ汝怖るる勿れ我汝
と偕にあればなり我汝を逐やりし國々を悉く滅すべ

けれど汝をば悉くは滅さじわれ道をもて汝を懲し汝を全くは罪なき者とせざるべし

47 パロがガザを撃ざりし先にペリシテ人の事につきて預言者エレミヤに臨みしエホバの言 **2** エホバかくいひたまふ視よ水北より起り溢れながれて此地と其中の諸の物とその邑と其中に住る者と共に溢れかかるべしその時人衆は叫びこの地に住る者は皆哭くべし **3** その逞しき馬の蹄の蹴たつる音のため其車の響のため其輪の轟のために父は手弱りて己の子女を顧みざるなり **4** 是ペリシテ人を滅しつくしツロとシドンにのこりて助力をなす者を悉く絶す日來ればなりエホバ、カフトルの地に遣れるペリシテ人を滅したまふべし **5** ガザには髪を剃るの事はじまるアシケロンと其剰餘の平地は滅ぼさる汝いつまで身に傷くるや **6** エホバの劍よ汝いつまで息まざるや汝の鞘に歸りて息み静まれ **7** エホバこれに命じたるなればいかで息むことをえんやアシケロンと海邊を攻ることを定めたまへり

48 萬軍のエホバ、イスラエルの神モアブの事につきてかくいひたまふ嗚呼ネボは禍なるかな是滅されたりキリヤタイムは辱められて取られミスガブは辱められて毀たる **2** モアブの榮譽は失さりぬヘシボンにて人衆モアブの害を謀り去來之を絶ちて國をなさざらしめんといふマデメンよ汝は滅されん劍汝を追はん **3** ホロナイムより號咷の聲きこゆ毀敗と大なる滅亡あり **4** モアブ滅されてその嬰孩等の號咷聞ゆ **5** 彼らは哭き哭きてルヒテの坂を登る敵はホロナイムの下り路にて滅亡の號咷をきけり **6** 逃て汝らの生命を救へ曠野に棄られたる者の如くなれ **7** 汝は汝の工

作と財寶を頼むによりて汝も執へられん又ケモシは
其祭司およびその牧伯等と偕に擄へうつさるべし 8
殘害者諸の邑に來らん一の邑も免れざるべし谷は滅
され平地は荒されんエホバのいひたまひしがごとし
9 翼をモアブに予へて飛さらしむ其諸邑は荒て住者な
からん 10 エホバの事を行ふて怠る者は詛はれ又その
劍をおさへて血を流さざる者は詛はる 11 モアブはそ
の幼時より安然にして酒の其滓のうへにとどまりて
此器よりかの器に斟うつされざるが如くなりき彼擄
うつされざりしに由て其味尚存ちその香氣變らざる
なり 12 エホバのいひたまふ此故にわがこれを傾くる者
を遣はす日來らん彼らすなはち之を傾け其器をあけ
其罇を碎くべし 13 モアブはケモシのために羞をとら
ん是イスラエルの家はその恃めるところのペテルの
ために羞をとりしが如くなるべし 14 汝ら何ぞ我らは
勇士なり強き軍人なりといふや 15 モアブはほろぼさ
れその諸邑は騰りその選擇の壯者は下りて殺さる萬
軍のエホバと名る王これをいひ給ふ 16 モアブの滅亡
近けりその禍速に來る 17 凡そ其四周にある者よ彼の
ために歎けその名を知る者よ強き竿美しき杖いかに
して折しやといへ 18 デボンに住る女よ榮をはなれて
下り燥ける地に坐せよモアブを敗る者汝にきたりて
汝の城を滅さん 19 アロエルに住る婦よ道の側にたち
て鬪ひ逃きたる者と脱れいたる者に事いかんと問へ
20 モアブは敗られて羞をとる汝ら呼はり咷びモアブ
は滅されたりとアルノンに告よ 21 鞠災平地に臨みホ
ロン、ヤハツ、メパアテ 22 デボン、ネボ、ベテデブ
ラタイム 23 キリヤタイム、ベテガムル、ベテメオン
24 ケリオテ、ボズラ、モアブの地の諸邑の遠き者に

も近き者にも臨めり 25 モアブの角は碎け其臂は折たりとエホバいひたまふ 26 汝らモアブを酔はしめよ彼エホバにむかひて驕傲ればなりモアブは其吐たる物に轉びて笑柄とならん 27 イスラエルは汝の笑柄にあらざりしや彼盜人の中にありしや汝彼の事を語るごとに首を揺たり 28 モアブに住る者よ汝ら邑を離れて磐の間にすめ穴の口の側に巢を作る斑鳩の如くせよ 29 われらモアブの驕傲をきけり其驕傲は甚だし即ち其驕慢矜高驕誇およびその心の自ら高くするを聞き 30 エホバいひたまふ我モアブの驕傲とその言の虚きとを知る彼らは偽を行ふなり 31 この故に我モアブの爲に咄びモアブの全地の爲に呼はるキルハレスの人々の爲に嗟歎あり 32 シブマの葡萄の樹よわれヤゼルの哭泣にこえて汝の爲になげくべし汝の蔓は海を踰え延てヤゼルの海にまでいたる掠奪者來りて汝の果と葡萄をとらん 33 欣喜と歡樂園とモアブの地をはなれ去る我酒酔に酒無からしめん呼はりて葡萄を踐もの無るべし其喚呼は葡萄をふむ喚呼にあらざらん 34 ヘシボンよりエレアレとヤハヅにいたりゾアルよりホロナイムとエグラテシリシヤにいたるまで人聲を揚ぐそはニムリムの水までも絶たればなり 35 エホバいひたまふ我祭物を崇邱に獻げ香をその諸神に焚くところの者をモアブの中に滅さんと 36 この故に我心はモアブの爲に簫のごとく歎き我心はキルハレスの人衆のために簫のごとく歎く是其獲たるところの財うせたればなり 37 人みなその髪を剃り皆その鬚をそり皆その手に傷け腰に麻布をまとはん 38 モアブにては家蓋の上と街のうちに遍く悲哀ありそはわれ心に適ざる器のごとくにモアブを碎きたればなりとエホ

バいひたまふ 39 嗚呼モアブはほろびたり彼らは咷ぶ
嗚呼モアブは羞て面を背けたりモアブはその四周の
者の笑柄となり恐懼となれり 40 エホバかくいひたま
ふ視よ敵鷲のごとくに飛來りて翼をモアブのうへに
舒ん 41 ケリオテは取られ城はみな奪はるその日には
モアブの勇士の心子を産む婦のごとくになるべし 42
モアブはエホバにむかひて傲りしゆゑに滅ぼされて
再び國を成ざるべし 43 エホバいひたまふモアブにす
める者よ恐怖と陷阱と罟汝に臨めり 44 恐怖をさけて
逃るものは陷阱におちいり陷阱より出るものは罟に
とらへられん其はわれモアブにその罰をうくべき年
をのぞましむればなりエホバこれをいふ 45 遁逃者は
力なくしてヘシボンの蔭に立つ是は火ヘシボンより
出で火焰シホンのうちより出てモアブの地および喧
鬧をなす者の首の頂を焼ばなり 46 嗚呼禍なるかなモ
アブよケモシの民は亡びたり即ち汝の諸子は擄へう
つされ汝の女等は執へゆかれたり 47 然ど末の日に我
モアブの擄移されたる者を返さんとエホバいひ給ふ
此まではモアブの鞫をいへる言なり

49 アンモン人の事につきてエホバかくいひたまふ
イスラエルに子なからんや嗣子なからんや何なれば
彼らの王ガドを受嗣ぎ彼の民その邑々に住や 2 エホ
バいひたまふ是故に視よわが戦闘の號呼をアンモン
人のラバに聞えしむる日いたらんラバは荒塚となり
その女等は火に焚れんその時イスラエルはおのれの
嗣者となりし者等の嗣者となるべしエホバこれをい
ひたまふ 3 ヘシボンよ咷ベアイは滅びたりラバの女
たちよ呼はれ麻布を身にまとひ嗟て籬のうちに走れ
マルカムとその祭司およびその牧伯等は偕に擄へ移

されたり 4 汝何なれば谷の事を誇るや背ける女よ汝の谷は流るるなり汝財貨に倚頼みていふ誰か我に來らんと 5 主なる萬軍のエホバいひたまふ視よ我畏懼を汝の四周の者より汝に來らしめん汝らおのおの逐れて直にすすまん逃る者を集むる人無るべし 6 然ど後にいたりてわれアンモン人の擄移されたる者を返さんとエホバいひたまふ 7 エドムの事につきて萬軍のエホバかくいひたまふテマンの中には智慧あることなきにいたりしや明哲者には謀略あらずなりしやその智慧は盡はてしや 8 デダンに住る者よ逃よ遁れよ深く竄れよ我エサウの滅亡をかれの上へのぞませ彼を罰する時をきたらしむべし 9 葡萄を斂むる者もし汝に來らば少許の果をも餘さざらんもし夜間盜人きたらばその飽まで滅さん 10 われエサウを裸にし又その隱處を露にせん彼は身を匿すことをえざるべしその裔も兄弟も隣舍も滅されん而して彼は在ざるべし 11 汝の孤子を遺せわれ之を生存へしめん汝の贅は我に倚頼むべし 12 エホバかくいひ給ふ視よ杯を飲べきにあらざる者もこれを飲ざるをえざるなれば汝まつたく罰を免るることをえんや汝は罰を免れじ汝これを飲ざるべからず 13 エホバいひたまふ我おのれを指して誓ふボズラは詫異となり羞辱となり荒地となり呪詛とならんその諸邑は永く荒地となるべし 14 われエホバより音信をきけり使者遣されて萬國にいたり汝ら集りて彼に攻めきたり起て戦へよといへり 15 視よわれ汝を萬國の中に小者となし人々の中に藐めらるる者となせり 16 磐の隱場にすみ山の高處を占る者よ汝の恐ろしき事と汝の心の驕傲汝を欺けり汝鷹のごとくに巢を高き處に作りたれどもわれ其處よ

り汝を取り下さんとエホバいひたまふ 17 エドムは詫異とならん凡そ其處を過る者は驚きその災害のために笑ふべし 18 エホバいひたまふソドムとゴモラとその隣の邑々の滅しがごとく其處に住む人なく其處に宿る人の子なかるべし 19 視よ敵獅子のヨルダンの叢より上るがごとく堅き宅に攻めきたらんわれ直に彼を其處より逐奔らせわが選みたる者をその上に立てん誰か我のごとき者あらん誰か我爲に時期を定めんや孰の牧者か我前にたつことをえん 20 さればエドムにつきてエホバの謀りたまひし御謀とテマンに住る者につきて思ひたまひし思をきけ群の弱者はかならず曳ゆかれん彼かならずかれらの住宅を滅すべし 21 その傾圮の響によりて地は震ふ號咷ありその聲紅海にきこゆ 22 みよ彼鷹のごとくに上り飛びその翼をボズラの上に舒べんその日エドムの勇士の心は子を産む婦の心の如くならん 23 ダマスコの事 ハマテとアルパデは羞づそは凶き音信をきけばなり彼らは心を喪へり海の上に恐懼あり安き者なし 24 ダマスコは弱り身をめぐらして逃んとす恐懼これに及び憂愁と痛劬子を産む婦にあるごとくこれにおよぶ 25 頌美ある邑我欣ぶところの邑を何なれば棄さらざるや 26 さればその日に壯者は街に仆れ兵卒は悉く滅されんと萬軍のエホバいひたまふ 27 われ火をダマスコの石垣の上に燃しベネハダデの殿舎をことごとく焚くべし 28 バビロンの王ネブカデネザルが攻め撃たるケダルとハゾルの諸國の事につきて／エホバかくいひたまふ汝ら起てケダルに上り東の衆人を滅せ 29 その幕屋とその羊の群は彼等これを取りその幕とその諸の器と駱駝とは彼等これを奪ひとらん人これに向ひ惶懼四方

にありと呼ぶべし **30** エホバはいひたまふハズルに住る者よ逃よ急に走りゆき深き處に居れバビロンの王ネブカデネザル汝らをせむる謀略を運らし汝らをせむる術計を設けたればなり **31** エホバはいひ給ふ汝ら起て穩なる安かに住める民の所に攻め上れ彼らは門もなく關もなくして獨り居ふなり **32** その駱駝は擄掠とせられその多の畜は奪はれん我かの毛の角を剪る者を四方に散しその滅亡を八方より來らせんとエホバはいひたまふ **33** ハズルは山犬の窟となり何までも荒蕪となりをらん彼處に住む人なく彼處に宿る人の子なかるべし **34** ユダの王ゼデキヤが位に即し初のころエホバの言預言者エレミヤに臨みてエラムの事をいふ **35** 萬軍のエホバかくいひたまふ視よわれエラムが權能として頼むところの弓を折らん **36** われ天の四方より四方の風をエラムに來らせ彼らを四方の風に散さんエラムより追出さるる者のいたらざる國はなかるべし **37** エホバはいひたまふわれエラムをしてその敵の前とその生命を索むるものの前に懼れしめん我災をくだし我烈しき怒をその上にいたらせんまたわれ劍をその後につかはしてこれを滅し盡すべし **38** われ我位をエラムに居る王と牧伯等を其處より滅したたんとエホバはいひたまふ **39** 然ど末の日にいたりてわれエラムの擄移されたる者を返すべしとエホバはいひたまふ

50 エホバ預言者エレミヤによりてバビロンとカルデヤ人の地のことを語り給ひし言 **2** 汝ら國々の中に告げまた宣示せ蘘を樹よ隱すことなく宣示して言へバビロンは取られベルは辱められメロダクは碎かれ其像は辱められ其木像は碎かると **3** そは北の方より一の國人きたりて之を攻めその地を荒して其處に住

む者無らしむればなり人も畜も皆逃去れり 4 エホバ
いひたまふその日その時イスラエルの子孫かへり來
らん彼らと偕にユダの子孫かへり來るべし彼らは哭
きつつ行てその神エホバに請求むべし 5 彼ら面をシ
オンに向てその路を問ひ來れ我らは永遠わするこ
となき契約をもてエホバにつらならんといふべし 6
我民は迷へる羊の群なりその牧者之をいぎなひて山
にふみ迷はしめたれば山より岡とゆきめぐりて其休
息所を忘れてたり 7 之に遇ふもの皆之を食ふその敵い
へり我らは罪なし彼らエホバすなはち義きの在所そ
の先祖の望みしところなるエホバに罪を犯したるな
り 8 汝らバビロンのうちより逃よカルデヤ人の地よ
り出よ群の前にゆくところの牡山羊のごとくせよ 9
視よわれ大なる國々より人を起しあつめて北の地よ
りバビロンに攻め來らしめん彼ら之にむかひて備を
たてん是すなはち取るべし彼らの矢は空しく返らざ
る狡き勇士の矢のごとくなるべし 10 カルデヤは人に
掠められん之を掠むる者は皆飽ことをえんとエホバ
曰たまふ 11 我産業を掠る者よ汝らは喜び樂み穀物を
碾す犢のごとくに躍り牡馬のごとく嘶けども 12 汝ら
の母は痛く辱められん汝らを生しものは恥べし視よ
國々の中の終末の者荒野となり燥ける地となり沙漠
とならん 13 エホバの怒りの爲に之に住む者なくして
悉く荒地となるべしバビロンを過る者は皆その禍に
驚き且嗤はん 14 凡そ弓を張る者よバビロンの四周に
備をなして攻め矢を惜まずして之を射よそは彼エホ
バに罪を犯したればなり 15 その四周に喊き叫びて攻
めかかれ是手を伸ぶその城堞は倒れその石垣は崩る
是エホバ仇を復したまふなり汝らこれに仇を復せ是

の行ひしごとく是に行へ **16** 播種者および穡收時に鎌を執る者をバビロンに絶せその滅すところの劍を怖れて人おのおの其民に歸り各その故土に逃べし **17** イスラエルは散されたる羊にして獅子之を追ふ初にアツスリヤの王之を食ひ後にこのバビロンの王ネブカデネザルその骨を碎けり **18** この故に萬軍のエホバ、イスラエルの神かくいひたまふ視よわれアツスリヤの王を罰せしごとくバビロンの王とその地を罰せん **19** われイスラエルを再びその牧場に歸さん彼カルメルとバシヤンの上に草をくらはんまたエフライムとギレアデの山にてその心を飽すべし **20** エホバいひたまふ其日その時にはイスラエルの愆を尋るも有らず又ユダの罪を尋るも遇じそはわれ我存せしところの者を赦すべければなり **21** エホバいひたまふ汝ら上りて悖れる國罰を受べき民を攻めその後より之を荒し全くこれを滅せ我汝らに命ぜしごとく行ふべし **22** その地に戦闘の咷と大なる敗壞あり **23** 嗚呼全地を摧きし鎚折れ碎くるかな嗚呼バビロン國々の中に荒地となるかな **24** バビロンよわれ汝をとるために罟を置けり汝は擒へらるれども知ず汝エホバに敵せしにより尋られて獲へらるるなり **25** エホバ庫を啓きてその怒りの武器をいだしたまふ是主なる萬軍のエホバ、カルデア人の地に事をなさんとしたまへばなり **26** 汝ら終の者にいたるまで來りてこれを攻めその庫を啓き之を積て塵塚のごとくせよ盡くこれを滅ぼして其處に遺る者なからしめよ **27** その牡牛を悉く殺せこれを屠場にくだらしめよ其等は禍なるかな其日その罰を受べき時來れり **28** バビロンの地より逃げて遁れ來し者の聲ありて我らの神エホバの仇復その殿の仇復を

シオンに宣ふ 29 射者をバビロンに召集めよ凡そ弓を張る者よその四周に陣どりて之を攻め何人をも逃す勿れその作爲に循ひて之に報いそのすべて行ひし如くこれに行へそは彼イスラエルの聖者なるエホバにむかひて驕りたればなり 30 是故にその日壯者は衢に踏れその兵卒は悉く絶されんとエホバいひたまふ 31 主なる萬軍のエホバいひたまふ驕傲者よ視よわれ汝の敵となる汝の日わが汝を罰する時きたれり 32 驕傲者は蹶きて仆れん之を扶け起す者なかるべしわれ火をその諸邑に燃しその四周の者を焼盡さん 33 萬軍のエホバかくいひたまふイスラエルの民とユダの民は偕に虐げらる彼らを擄にせし者は皆固くこれを守りて釋たざるなり 34 彼らを贖ふ者は強しその名は萬軍のエホバなり彼必ずその訴を理してこの地に安を與へバビロンに住る者を戦慄しめ給はん 35 エホバいひたまふカルデヤ人の上バビロンに住る者の上およびその牧伯等とその智者等の上に劍あり 36 劍僞る者の上であり彼ら愚なる者とならん劍その勇士の上であり彼ら懼れん 37 劍その馬の上であり其車の上であり又その中にあるすべての援兵の上であり彼ら婦女のごとくにならん劍その寶の上であり是掠めらるべし 38 早その水の上であり是涸かん斯は偶像の地にして人々偶像に迷へばなり 39 是故に野の獸彼處に山犬と偕に居り駝鳥も彼處に棲べし何時までも其地に住む人なく世々ここに住む人なかるべし 40 エホバいひたまふ神のソドム、ゴモラとその近隣の邑々を滅せしごとく彼處に住む人なく彼處に宿る人の子なかるべし 41 視よ北の方より民きたるあらん大なる國の人とおほくの王たち地の極より起らん 42 彼らは弓と槍を

とる情なく矜恤なしその聲は海のごとくに鳴るバビロンの女よ彼らは馬に乗り戦士のごとくに備へて汝を攻ん 43 バビロンの王その風聲をききしかば其手弱り苦痛と子を産む婦の如き劬勞彼に迫る 44 視よ敵獅子のヨルダンの叢より上るが如く堅き宅に攻めきたらんわれ直に彼等を其處より逐奔らせわが選みたる者をその上に立ん誰か我のごとき者あらんや誰かわが爲に時期を定めんや何の牧者か我前に立ことをえん 45 さればバビロンにつきてエホバの謀りたまひし御謀とカルデヤ人の地につきて思ひたまひし思想をきけ群の弱者必ず曳ゆかれん彼必ずかれらの住居を滅すべし 46 バビロンは取れたりとの聲によりて地震へその號咷國々の中に聞ゆ

51 エホバかくいひたまふ視よわれ滅すところの風を起してバビロンを攻め我に悖る者の中に住む者を攻べし 2 われ簸者をバビロンに遣さん彼らこれを簸てその地を空くせん彼らすなはちその禍の日にこれを四方より攻むべし 3 弓を張る者に向ひまた鎧を被て立あがる者に向ひて射者の者其弓を張らん汝らその壯者を憫れまず其軍勢を悉く滅すべし 4 然ば殺さるる者カルデヤ人の地に踏れ刺るる者その街に踏れん 5 イスラエルとユダはその神萬軍のエホバに棄てられず彼らの地にはイスラエルの至聖者にむかひて犯せるところの罪充つ 6 汝らバビロンのうちより逃げいでておのおの其生命をすくへ其の罪のために滅さるる勿れ今はエホバの仇をかへしたまふ時なれば報をそれになしたまふなり 7 バビロンは金の杯にしてエホバの手にあり諸の地を酔せたり國々その酒を飲めり是をもて國々狂へり 8 バビロンは忽ち踏れて

壊る之がために哭けその傷のために乳香をとれ是或
は愈ん 9 われらバビロンを醫さんとすれども愈ず我
らこれをすてて各その國に歸るべしそはその罰天に
および雲にいたればなり 10 エホバわれらの義をあら
はしたまふ來れシオンに於て我らの神エホバの作爲
をのべん 11 矢を磨ぎ楯を取れエホバ、メデア人の王
等の心を激發したまふエホバ、バビロンをせめんと
謀り之を滅さんとしたまふ是エホバの復仇その殿の
復仇たるなり 12 バビロンの石垣に向ひて纛を樹て圍
を堅くし番兵を設け伏兵をそなへよ蓋エホバ、バビ
ロンに住める者をせめんとて謀りその言しごとく行
ひたまへばなり 13 おほくの水の傍に住み多くの財寶
をもてる者よ汝の終汝の貧婪の限來れり 14 萬軍のエ
ホバおのれを指して誓ひいひ給ふ我まことに人を蝗
のごとくに汝の中に充さん彼ら汝に向ひて鯨波の聲
を揚ぐべし 15 エホバその能力をもて地をつくり其知
慧をもて世界を建てその明哲をもて天を舒たまへり
16 彼聲を發したまふ時は天に衆の水いづかれ雲を地
の極より起らしめ電光と雨をおこし風をその庫より
いだしたまふ 17 すべての人は獸のごとくにして智慧
なし諸の鑄物師はその作りし像のために辱を取る其
鑄るところの像は偽の者にしてその中に靈なし 18 其
等は空しき者にして迷妄の工作なりわが臨むとき其
等は滅べし 19 ヤコブの分は此の如くならず彼は萬物
およびその産業の族の造化主なりその名は萬軍のエ
ホバといふ 20 汝はわが鎗にして戰の器具なりわれ汝
をもて諸の邦を碎き汝をもて萬國を滅さん 21 われ汝
をもて馬とその騎る者を摧き汝をもて車とその御す
る者を碎かん 22 われ汝をもて男と女をくだき汝をも

て老たる者と幼き者をくだき汝をもて壯者と童女を
くだくべし 23 われ汝をもて牧者とその群をくだき汝
をもて農夫とその軛を負ふ牛をくだき汝をもて方伯
等と督宰等をくだかん 24 汝らの目の前にて我バビロ
ンとカルデヤに住るすべての者がシオンになせし諸
の悪きことに報いんとエホバひたまふ 25 エホバ言
ひたまはく全地を滅したる滅す山よ視よわれ汝の敵
となるわれ手を汝の上に伸て汝を巖より轉ばし汝を
焚山となすべし 26 エホバひたまふ人汝より石を取
て隅石となすことあらし亦汝より石を取りて基礎と
なすことあらし汝はいつまでも荒地となりをらん 27
燾を地に樹て籟を國々の中に吹き國々の民をあつめ
て之を攻めアララテ、ミンニ、アシケナズの諸國を
招きて之を攻め軍長をたてて之を攻め恐しき蝗のご
とくに馬をすすめよ 28 國々の民をあつめて之を攻め
メデア人の王等とその方伯等とその督宰等およびそ
のすべての領地の人をあつめて之を攻めよ 29 地は震
ひ揺かんそはエホバその意旨をバビロンになしバビ
ロンの地をして住む人なき荒地とならしめたまふべ
ければなり 30 バビロンの勇者は戦をやめて其城にこ
もりその力失せて婦のごとくにならん其宅は焼けそ
の門門は折れん 31 駟は趨て駟にあひ使者は趨て使者
にあひバビロンの王につげて邑は盡く取られ 32 渡口
は取られ沼は焼れ兵卒は怖るといはん 33 萬軍のエホ
バ、イスラエルの神かくいひたまふバビロンの女は
禾場のごとしその踏るる時きたれり暫くありてその
苳るる時いたらん 34 バビロンの王ネブカデネザル我
を食ひ我を滅し我を空き器のごとくなし龍の如くに
我を呑みわが珍饈をもて其腹を充し我を逐出せり 35

シオンに住る者いはんわがうけし虐遇と我肉はバビロンにかかるべしエルサレムいはん我血はカルデアに住める者にかかるべしと **36** さればエホバかくいひたまふ視よわれ汝の訟を理し汝の爲に仇を復さん我その海を涸かし其泉を乾かすべし **37** バビロンは頽壘となり山犬の巢窟となり詫異となり嗤笑となり人なき所とならん **38** 彼らは獅子のごとく共に吼え小獅子のごとくに吼ゆ **39** 彼らの慾の燃る時にわれ筵を設けてかれらを酔せ彼らをして喜ばしめながき寢にいらて目を醒すことなからしめんとエホバいひたまふ **40** われ屠る羔羊のごとく又牡羊と牡山羊のごとくにかれらをくだらしめん **41** セシヤクいかにして取られしや全地の人の頌美者いかにして執へられしや國々の中にバビロンいかにして詫異となりしや **42** 海バビロンに溢れかかりその多くの波濤これを覆ふ **43** その諸邑は荒れて燥ける地となり沙漠となり住む人なき地とならん人の子そこを過ることあらじ **44** われベルをバビロンに罰しその呑みたる者を口より取出さん國々はまた川の如くに彼に來らじバビロンの石垣踏れん **45** 我民よ汝らその中よりいで各エホバの烈しき怒をまぬかれてその命を救へ **46** 汝ら心を弱くする勿れ此地にてきく所の浮言によりて畏るる勿れ浮言は此年も來り次の年も亦きたらん此地に強暴あり宰者と宰者とあひ攻むることあらん **47** 故に視よ我バビロンの偶像を罰する日來らんその全地は辱められ其殺さるる者は悉くその中に踏れん **48** 然して天と地とそこの中にあるところのすべての者はバビロンの事の爲に歡び歌はんそは敗壞者北の方より此處に來ればなりエホバこれをいひたまふ **49** バビロンがイスラエルの殺

さるる者を踏せし如く全地の殺さるる者バビロンに
踏るべし 50 剣を逃るる者よ往け止る勿れ遠方よりエ
ホバを憶えエルサレムを汝らの心に置くべし 51 罵言
をきくによりて我ら羞づ異邦人エホバの室の聖處に
いるによりて我らの面には羞恥盈つ 52 この故にエホ
バいひたまふ視よわがその偶像を罰する日いたらん
傷けられたる者はその全國に呻吟べし 53 たとひバビ
ロン天に昇るとも其城を高くして堅むるとも敗壞者
我よりいでて彼らにいたらんとエホバいひたまふ 54
バビロンに號咷の聲ありカルデヤ人の地に大なる敗
壞あり 55 エホバ、バビロンをほろぼし其中に大なる
聲を絶したまふ其波濤は巨水のごとくに鳴りその聲
は響わたる 56 破滅者これに臨みバビロンにいたる其
勇士は執へられ其弓は折らるエホバは施報をなす神
なればかならず報いたまふなり 57 われその牧伯等と
博士等と督宰等と勇士とを酔せん彼らは永き寢にい
りて目を醒すことあらし萬軍のエホバと名くる王こ
れをいひ給ふ 58 萬軍のエホバかくいひたまふバビロ
ンの闊き石垣は悉く毀たれその高き門は火に焚れん
斯民の勞苦は徒となるべし民は火のために憊れん 59
これマアセヤの子なるネリヤの子セラヤがユダの王
ゼデキヤとともに其治世の四年にバビロンに往くと
きにあたりて豫言者エレミヤがこれに命ぜし言なり
このセラヤは侍従の長なり 60 エレミヤ、バビロンに
のぞまんとする諸の災を書にしるせり是即ちバビロ
ンの事につきて録せる此すべての言なり 61 エレミヤ
、セラヤにいひけるは汝バビロンに往しとき慎みて
この諸の言を讀め 62 而して汝いふべしエホバよ汝は
この處を滅し人と畜をいはず凡て此處に住む者なか

らしめて窮なくこれを荒地となさんと此處にむかひ
ていひたまへり 63 汝この書を讀畢りしとき之に石を
むすびつけてユフラテの中に投入れよ 64 而していふ
べしバビロンは我これに災蓄をくだすによりて是し
づみて復おこらざるべし彼らは絶はてんと／此まで
はエレミヤの言なり

52 ゼデキヤは位に即きしとき二十一歳なりしがエル
サレムに於て十一年世ををさめたりその母の名は
ハムタルといひてリブナのエレミヤの女なり 2 ゼデ
キヤはエホヤキムが凡てなしたる如くエホバの目の
前に惡をなせり 3 すなはちエホバ、エルサレムとユ
ダとを怒りて之をその前より棄てはなちたまふ／是
に於てゼデキヤ、バビロンの王に叛けり 4 ゼデキヤ
の世の九年十月十日にバビロンの王ネブカデネザル
その軍勢をひきゐてエルサレムに攻めきたり之に向
ひて陣をはり四周に戌樓を建て之を攻めたり 5 かく
この邑攻圍まれてゼデキヤ王の十一年にまでおよび
しが 6 その四月九日にいたりて城邑のうち饑ること
甚だしくなり其地の民食物をえざりき 7 是をもて城
邑つひに打破られたれば兵卒は皆逃て夜の中に王の
園の邊なる二個の石垣の間の門より城邑をぬけいで
平地の途に循ひておちゆけり時にカルデヤ人は城邑
を圍みをる 8 茲にカルデヤ人の軍勢王を追ひゆきエ
リコの平地にてゼデキヤに追付けるにその軍勢みな
彼を離れて散りしかば 9 カルデヤ人王を執へて之を
ハマテの地のリブラにをるバビロンの王の所に曳き
ゆきければ王彼の罪をさだめたり 10 バビロンの王す
なはちゼデキヤの子等をその目の前に殺さしめユダ
の牧伯等を悉くりブラに殺さしめ 11 またゼデキヤの

目を抉さしめたり斯てバビロンの王かれを銅索に繋ぎてバビロンに携へゆきその死る日まで獄に置けり
12 バビロン王ネブカデネザルの世の十九年の五月十日バビロンの王の前につかふる侍衛の長ネブザラダン、エルサレムにきたり **13** エホバの室と王の室を焼き火をもてエルサレムのすべての室と大なる諸の室を焼けり **14** また侍衛の長と偕にありしカルデヤ人の軍勢エルサレムの四周の石垣を悉く毀てり **15** 侍衛の長ネブザラダンすなはち民のうちの貧乏者城邑の中に餘れる者およびバビロンの王に降りし人と民の餘れる者を携へ移せり **16** 但し侍衛の長ネブザラダンその地のある貧者を遺して葡萄を耕る者となし農夫となせり **17** カルデヤ人またエホバの室の銅の柱と洗盥の臺と銅の海を碎きてその銅を悉くバビロンに運び **18** また鍋と火鑪と燭剪と鉢と匙およびすべて用ふるところの銅器を取れり **19** 侍衛の長もまた洗盥と火盤と鉢と鍋と燭臺と匙と罍など凡て金銀にて作れる者を取り **20** またソロモン王がエホバの室に造りしところの二つの柱と一の海と臺の下なる十二の銅の牛を取れりこのもろもろの銅の重は稱る可らず **21** この柱は高さ十八キュビトなり又紐をもてその周圍を測るに十二キュビトあり指四本の厚にして空なり **22** その上に銅の頂ありその頂の高さは五キュビトその周圍は銅の網子と石榴にて飾れり他の柱とその石榴も之におなじ **23** その四方に九十六の石榴あり網子の上なるすべての石榴の数は百なり **24** 侍衛の長は祭司の長セラヤと第二の祭司ゼパニヤと三人の門守を執へ **25** また兵卒を督る一人の寺人と王の前にはべるものうち城邑にて遇しところの者七人とその地の民を募

る軍勢の長なる書記と城邑の中にて遇しところの六十人の者を邑よりとらへされり 26 侍衛の長ネブザラダンこれらを執へてリブラに居るバビロンの王の許にいたれり 27 バビロンの王ハマテの地のリブラにこれを撃ち殺せりかくユダはおのれの地よりとらへ移されたり 28 ネブカデネザルがとらへ移せし民は左の如し第七年にユダ人三千二十三人 29 またネブカデネザルその十八年にエルサレムより八百三十二人をとらへ移せり 30 ネブカデネザルの二十三年に侍衛の長ネブザラダン、ユダ人七百四十五人をとらへ移したり其總ての数は四千六百人なりき 31 ユダの王エホヤキンがとらへ移されたる後三十七年の十二月二十五日バビロンの王エビルメロダクその治世の一年にユダの王エホヤキンを獄よりいだしてその首をあげしめ 32 善言をもて彼を慰めその位をバビロンに偕に居るところの王等の位よりもたかくし 33 其獄の衣服を易へしむエホヤキンは一生の間つねに王の前に食せり 34 かれ其死る日まで一生の間たえず日々をバビロンの王よりたまはりて其食物となせり

哀歌

1 ああ哀しいかな古昔は人のみちみちたりし此都邑
いまは凄しき様にて坐し 寡婦のごとくになれり 嗟も
ろもろの民の中にて大いなりし者 もろもろの州の中
に女王たりし者 いまはかへつて貢をいるる者となり
ぬ **2** 彼よもすがら痛く泣きかなしみて涙面になる
その戀人の中にはこれを慰むる者ひとりだに無く そ
の朋これに背きてその仇となれり **3** ユダは艱難の故
によりまた大いなる苦役のゆゑによりて擄はれゆき
もろもろの國に住ひて安息を得ず これを追ふものみ
な狭隘にてこれに追しきぬ **4** シオンの道路は節會の
上り來る者なきがために哀しみ その門はことごとく
荒れ その祭司は歎き その處女は憂へ シオンもまた
自から苦しむ **5** その仇は首となり その敵は享ゆ その
愆の多きによりてエホバこれをなやませたまへるな
り そのわかき子等は擄はれて仇の前にゆけり **6** シオ
ンの女よりはその榮華ことごとく離れされり またそ
の牧伯等は草を得ざる鹿のごとくに成り おのれを追
ふものの前に力つかれて歩みゆけり **7** エルサレムは
その艱難と窘迫の時むかしの代にありしもろもろの
樂しき物を思ひ出づ その民仇の手におちいり誰もこ
れを助くるものなき時 仇人これを見てその荒はてた
るを笑ふ **8** エルサレムははなはだしく罪ををかけた
れば汚穢たる者のごとくになれり 前にこれを尊とび
たる者もその裸體を見しによりて皆これをいやしむ
是もまたみづから嗟き身をそむけて退ぞけり **9** その
汚穢これが裾にあり 彼その終局をおもはざりき 此故
に驚ろくまでに零落たり 一人の慰さむる者だに無し
エホバよわが艱難をかへりみたまへ 敵は勝ほこれり

10 敵すでに手を伸てその財寶をことごとく奪ひたり
汝さきに異邦人等はなんぢの公會にいるべからずと
命じおきたまひしに 彼らが聖所を侵しいるをシオン
は見たり 11 その民はみな哀きて食物をもとめ その生
命を支へんがために財寶を出して食にかへたり エホ
バよ見そなはし我のいやしめらるるを顧りみたまへ
12 すべて行路人よ なんぢら何ともおもはざるか エホ
バその烈しき震怒の日に我をなやましてわれに降し
たまへるこの憂苦にひとしき憂苦また世にあるべき
や考がへ見よ 13 エホバ上より火をくだしわが骨にい
れて之を克服せしめ 網を張りわが足をとらへて我を
後にむかしめ 我をして終日心さびしくかつ疾わづら
はしめたまふ 14 わが愆尤の軛は主の御手にて結ばれ
諸の愆あひ纏はりてわが項にのれり 是はわが力をし
ておとろへしむ 主われを敵たりがたき者の手にわた
したまへり 15 主われの中なる勇士をことごとく除き
節會をもよほして我を攻め わが少き人を打ほろぼし
たまへり 主酒榨をふむがごとくにユダの處女をふみ
たまへり 16 これがために我なげく わが目やわが目
には水ながる わがたましひを活すべき慰さむるもの
われに遠ければなり わが子等は敵の勝るによりて滅
びうせにき 17 シオンは手をのぶれども誰もこれを慰
さむる者なし ヤコブにつきてはエホバ命をくだして
その周圍の民をこれが敵とならしめたまふ エルサレ
ムは彼らの中にありて汚れたる者のごとくなりぬ 18
エホバは正し 我その命令にそむきたるなり 一切の民
よわれに聽け わが憂苦をかへりみよ わが處女もわか
き男も俘囚て往り 19 われわが戀人を呼たれども彼ら
はわれを欺むけり わが祭司およびわが長老は生命を

繋がんとして食物を求むる間に都邑の中にて氣息たえたり 20 エホバよかへりみたまへ 我はなやみてをりわが腸わきかへり わが心わが衷に顛倒す 我甚しく悖りたればなり 外には劍ありてわが子を殺し 内には死のごとき者あり 21 かれらはわが嗟歎をきけり 我をなぐさむるもの一人だに無し わが敵みなわが艱難をききおよび 汝のこれを爲たまひしを喜こべり 汝はさきに告しらせしその日を來らせたまはん 而して彼らもつひに我ごとくに成るべし 22 ねがはくは彼等が與へし艱難をことごとくなんぢの御前にあらはし 前にわがもろもろの罪愆のために我におこなひし如く彼らにも行ひたまへ わが嗟歎は多くわが心はうれひかなしむなり

2 ああエホバ震怒をおこし 黒雲をもてシオンの女を蔽ひたまひ イスラエルの榮光を天より地におとし その震怒の日に己の足凳を心にとめたまはざりき 2 主ヤコブのすべての住居を呑つくしてあはれまず 震怒によりてユダの女の保砦を毀ち これを地にたふし その國とその牧伯等を辱かしめ 3 烈しき震怒をもてイスラエルのすべての角を絶ち 敵の前にて己の右の手をひきちぢめ 四面を焚きつくす燃る火のごとくヤコブを焚き 4 敵のごとく弓を張り 仇のごとく右の手を挺て立ち 凡て目に喜こばしきものを滅し シオンの女の幕屋に火のごとくその怒をそそぎたまへり 5 主敵のごとくに成たまひてイスラエルを呑ほろぼし その諸の殿を呑ほろぼし そのもろもろの保砦をこぼち ユダの女の上に憂愁と悲哀を増くはへ 6 園のごとく己の幕屋を荒し その集會の所をほろぼしたまへり エホバ節會と安息日とをシオンに忘れしめ 烈しき怒によ

りて王と祭司とをいやしめ棄たまへり 7 主その祭壇
を忌棄て その聖所を嫌ひ憎みて その諸の殿の石垣を
敵の手にわたしたまへり 彼らは節會の日のごとくエ
ホバの室にて聲をたつ 8 エホバ、シオンの女の石垣
を毀たんと思ひさだめ 繩を張り こぼち進みてその手
をひかず 壕と石垣とをして哀しましめたまふ 是らは
共に憂ふ 9 その門は地に埋もれ エホバその關木をこ
ぼちくだき その王ともろもろの牧伯は律法なき國人
の中にあり その預言者はエホバより異象を蒙らず 10
シオンの女の長老等は地に坐りて黙し 首に灰をかむ
り 身に麻をまとふ エルサレムの處女は首を地に低る
11 わが目は涙の爲に潰れんとし わが腸は沸かへり わ
が肝は地に塗る わが民の女ほろぼされ 幼少ものや乳
哺子は疲れはてて邑の街衢に氣息たへなんとすれば
なり 12 かれらは疵を負る者の如く邑のちまたにて氣
息たえなんとし 母の懷にその靈魂をそそがんとし 母
にむかひて言ふ 穀物と酒とはいづくにあるやと 13
エルサレムの女よ 我なにをもて汝にあかしし 何をも
て汝にならべんや シオンの處女よ われ何をもて汝に
なぞらへて汝をなぐさめんや 汝のやぶれは海のごと
く大なり 嗟たれか能く汝を醫さんや 14 なんぢの預
言者は虚しき事と愚なることとなんぢに預言し かつ
て汝の不義をあらはしてその俘囚をまぬかれしめん
とはせざりき その預言するところは唯むなしき重荷
および追放たるる根本となるべき事のみ 15 すべて往
來の人なんぢにむかひて手を拍ち エルサレムの女に
むかひて嘲りわらひ かつ頭をふりて言ふ 美麗の極全
地の欣喜ととなへたりし邑は是なるかと 16 なんぢの
もろもろの敵はなんぢに對ひて口を開け あざけり笑

ひて切齒をなす 斯て言ふわれら之を呑つくしたり 是
われらが望みたりし日なり 我ら已に之にあへり 我ら
すでに之を見たりと 17 エホバはその定めたまへるこ
とを成し いにしへより其命じたまひし言を果したま
へり エホバはほろぼして憐れまず 敵をして汝にかち
ほこらしめ汝の仇の角をたかくしたまへり 18 かれら
の心は主にむかひて呼はれり シオンの女の墻垣よ な
んぢ夜も晝も河の如く涙をながせ みづから安んずる
ことをせず 汝の瞳子を休むることなかれ 19 なんぢ
夜の初更に起いでて呼さけべ 主の御前に汝の心を水
のごとく灌げ 街衢のほとりに饑たふるるなんぢの幼
兒の生命のために主にむかひて兩手をあげよ 20 エホ
バよ視たまへ 汝これを誰におこなひしか 願はくは顧
みたまへ 婦人おのが實なるその懐き育てし孩兒を食
ふべけんや 祭司預言者等主の聖所において殺さるべ
けんや 21 をさなきも老たるも街衢にて地に臥し わ
が處女も若き男も刃にかかりて斃れたり なんぢはそ
の震怒の日にこれを殺し これを屠りて恤れみたまは
ざりき 22 なんぢ節會の日のごとくわが懼るところ
の者を四方より呼あつめたまへり エホバの震怒の日
には遁れたる者なく又のこりたる者なかりき わが懐
き育てし者はみなわが敵のためにほろぼされたり

3 我はかれの震怒の答によりて艱難に遭たる人なり
2 かれは我をひきて黑暗をあゆませ光明にゆかしめた
まはず 3 まことに屢々その手をむけて終日われを攻
なやまし 4 わが肉と肌膚をおとろへしめ わが骨を摧
き 5 われにむかひて患苦と艱難を築きこれをもて我
を圍み 6 われをして長久に死し者のごとく暗き處に
住しめ 7 我をかこみて出ること能はざらしめわが鏈

索を重くしたまへり 8 我さけびて助をもとめしとき
彼わが祈禱をふせぎ 9 斫たる石をもてわが道を塞ぎ
わが途をまげたまへり 10 その我に對することは伏て
伺がふ熊のごとく潜みかくる獅子のごとし 11 われ
に路を離れしめ 我をひきさきて獨くるしましめ 12
弓を張りてわれを矢先の的となし 13 矢筒の矢をもて
わが腰を射ぬきたまへり 14 われはわがすべての民の
あざけりとなり 終日うたひそしらる 15 かれ我をし
て苦き物に飽しめ 茵陳を飲しめ 16 小石をもてわが齒
を摧き灰をもて我を蒙ひたまへり 17 なんぢわが靈魂
をして平和を遠くはなれしめたまへば 我は福祉をわ
すれたり 18 是において我みづから言り わが氣力う
せゆきぬ エホバより何を望むべきところ無しと 19
ねがはくは我が艱難と苦楚茵陳と膽汁とを心に記た
まへ 20 わがたましひは今なほ是らの事を想ひてわが
衷に鬱ぐ 21 われこの事を心におもひ起せり この故
に望をいだくなり 22 われらの尚ほろびざるはエホバ
の仁愛によりその憐憫の盡ざるに因る 23 これは朝ご
とに新なり なんぢの誠實はおほいなるかな 24 わが
靈魂は言ふ エホバはわが分なり このゆゑに我彼を待
ち望まん 25 エホバはおのれを待ち望む者とおのれを
尋ねもとむる人に恩恵をほどこしたまふ 26 エホバの
救拯をのぞみて靜にこれを待は善し 27 人わかき時に
軛を負は善し 28 エホバこれを負せたまふなれば獨坐
して黙すべし 29 口を塵につけよ あるひは望あらん
30 おのれを撃つ者に頬をむけ 充足れるまでに恥辱を
うけよ 31 そは主は永久に棄ることを爲たまはざるべ
ければなり 32 かれは患難を與へ給ふといへどもその
慈悲おほいなればまた憐憫を加へたまふなり 33 心よ

り世の人をなやましかつ苦しめ給ふにはあらざるなり
34 世のもろもろの俘囚人を脚の下にふみにじり 35
至高者の面の前にて人の理を枉げ 36 人の詞訟を屈む
ることは主のよろこび給はざるところなり 37 主の命
じたまふにあらざれば誰か事を述んにその事即ち成ん
や 38 禍も福もともに至高者の口より出るにあらざや
39 活る人なんぞ怨言べけんや 人おのれの罪の罰せら
るるをつぶやくべけんや 40 我等みづからの行をしら
べかつ省みてエホバに歸るべし 41 我ら天にいます神
にむかひて手とともに心をも擧べし 42 われらは罪を
をかし我らは叛きたり なんぢこれを赦したまはざり
き 43 なんぢ震怒をもてみづから蔽ひ 我らを追攻め
殺してあはれまず 44 雲をもてみづから蔽ひ 祈禱を
して通ぜざらしめ 45 もろもろの民の中にわれらを塵
埃となしたまへり 46 敵は皆われらにむかひて口を張
れり 47 恐懼と陷阱また暴行と滅亡我らに來れり 48
わが民の女の滅亡によりてわが眼には涙の河ながる
49 わが目は斷ず涙をそそぎて止ず 50 天よりエホバの
臨み見て顧みたまふ時にまで至らん 51 わが邑の一切
の女等の故によりてわが眼はわが心をいたましむ 52
故なくして我に敵する者ども鳥を追ごとくにいたく
我をおひ 53 わが生命を坑の中にほろぼし わが上に
石を投かけ 54 また水わが頭の上に溢る 我みづから
言ひ滅びうせぬと 55 エホバよ われ深き坑の底より
汝の名を呼び 56 なんぢ我が聲を聽たまへり わが哀
歎と祈求に耳をおほひたまふなかれ 57 わが汝を顧た
りし時なんぢは近よりたまひて恐るるなかれと宣へ
り 58 主よなんぢはわが靈魂の訴を助け伸べ わが生
命を贖ひ給へり 59 エホバよ なんぢは我がかうむり

たる不義を見たまへり 願はくは我に正しき審判を與へたまへ 60 なんぢは彼らが我を怨み われを害せんとはかるを凡て見たまへり 61 エホバよなんぢは彼らが我を詈り 我を害せんとはかるを凡て聞たまへり 62 かの立て我に逆らふ者等の言語およびその終日われを攻んとて運らす謀計もまた汝これを聞たまへり 63 ねがはくは彼らの起居をかながみたまへ 我はかれらに歌ひそしらる 64 エホバよ なんぢは彼らが手に爲すところに循がひて報をなし 65 かれらをして心くからしめたまはん なんぢの呪詛かれらに歸せよ 66 なんぢは震怒をもてかれらを追ひ エホバの天の下よりかれらをほろぼし絶たまはん

4 ああ黄金は光をうしなひ純金は色を變じ 聖所の石はもろもろの街衢の口に投すてられたり **2** ああ精金にも比ぶべきシオンの愛子等は陶器師の手の作なる土の器のごとくに見做る **3** 山犬さへも乳房をたれてその子に乳を哺す 然るにわが民の女は殘忍荒野の鴆鳥のごとくなれり **4** 乳哺兒の舌は渴きて上顎にひたと貼き 幼兒はパンをもとむるも擘てあたふる者なし **5** 肥甘物をくらひ居りし者はおちぶれて街衢にあり紅の衣服にて育てられし者も今は塵堆を抱く **6** 今我民の女のうくる愆の罰はソドムの罪の罰よりもおほいなり ソドムは古昔人に手を加へらるることなくして瞬く間にほろぼされしなり **7** わが民の中なる貴き人は従前には雪よりも皎潔に乳よりも白く 珊瑚よりも躰紅色にしてその形貌のうるはしきこと藍玉のごとくなりしが **8** いまはその面くろきが上に黒く街衢にあるとも人にしられず その皮は骨にひたと貼き 乾きて枯木のごとくなれり **9** 劍にて死る者は饑て死る

者よりもさいはひなり そは斯る者は田圃の産物の罄
るによりて漸々におとろへゆき刺れし者のごとくに
成ばなり 10 わが民の女のほろぶる時には情愛ふかき
婦人等さへも手づから己の子等を煮て食となせり 11
エホバその憤恨をことごとく洩し 烈しき怒をそそぎ
給ひ シオンに火をもやしてその基礎までも焼しめ給
へり 12 地の諸王も世のもろもろの民もすべてエルサ
レムの門に仇や敵の打いらんとは信ぜざりき 13 斯な
りしはその預言者の罪によりその祭司の愆によれり
かれらは即ち正しき者の血をその邑の中にながした
りき 14 今かれらは盲人のごとく街衢にさまよひ 身
は血にて汚れをれば人その衣服にふるるあたはず 15
人かれらに向ひて呼はり言ふ 去れよ穢らはし 去れ去
れ觸るなかれと 彼らはしり去りて流離ば異邦人の中
間にても人々また言ふ 彼らは此に寓るべからずと 16
エホバ怒れる面をもてこれを散し給へり 再びこれを
顧みたまはじ 人々祭司の面をも尊ばず長老をもあは
れまざりき 17 われらは頼まれぬ救援を望みて目つか
れおとろふ 我らは俟るたりしが救拯をなすこと能は
ざる國人を待をりぬ 18 敵われらの脚をうかがへば我
らはおのれの街衢をも歩くことあたはず 我らの終ち
かづけり 我らの日つきたり 即ち我らの終きたりぬ
19 我らを追ふものは天空ゆく驚よりも迅し 山にて我
らを追ひ 野に伏てわれらを伺ふ 20 かの我らが鼻の
氣息たる者エホバに膏そそがれたるものは陷阱にて
執へられにき 是はわれらが異邦にありてもこの蔭に
住んとおもひたりし者なり 21 ウズの地に住むエドム
の女よ悦び樂しめ 汝にもまたつひに杯めぐりゆかん
なんぢも酔て裸になるべし 22 シオンの女よ なんぢ

が愆の罰はをはれり 重ねてなんぢを擲へゆきたまは
じ エドムの女よ なんぢの愆を罰したまはん 汝の罪
を露はしたまはん

5 エホバよ我らにありし所の事をおもひたまへ我
らの恥辱をかへりみ觀たまへ **2** われらの産業は
外國人に歸し われらの家屋は他國人の有となれり
3 われらは孤子となりて父あらず われらの母は寡
婦にひとし **4** われらは金を出して自己の水を飲
み おのれの薪を得るにも價をはらふ **5** われらを
追ふ者われらの頸に迫る 我らは疲れて休むことを
得ず **6** 食物を得て饑を凌がんとてエジプト人およ
びアッスリヤ人に手を與へたり **7** われらの父は罪
ををかして已に世にあらず 我らその罪を負ふなり
8 奴僕等われらを制するに誰ありて我らを之が手よ
りすくひ出すものなし **9** 荒野の刀兵の故によりて我
ら死を冒して食物を得 **10** 饑饉の烈しき熱氣により
てわれらの皮膚は爐のごとく熱し **11** シオンにて婦
人等をかされユダの邑々にて處女等けがさる **12** 侯
伯たる者も敵の手にて吊され 老たる者の面も尊と
ばれず **13** 少き者は石磨を擔はせられ 童子は薪を負
ふてよろめき **14** 長老は門にあつまることを止め 少
き者はその音樂を廢せり **15** 我らが心の快樂はすで
に罷み われらの跳舞はかはりて悲哀となり **16** われ
らの冠冕は首より落たり われら罪ををかしたれば
禍なるかな **17** これが爲に我らの心うれへ これらの
ために我らが目くらくなれり **18** シオンの山は荒は
て 山犬はその上を歩くなり **19** エホバよなんぢは永
遠に在す なんぢの御位は世々かぎりなし **20** 何とて
我らを永く忘れ われらを斯ひさしく棄おきたまふ

や 21 エホバよねがはくは我らをして汝に歸らしめた
まへ われら歸るべし 我らの日を新にして昔日の日の
ごとくならしめたまへ 22 さりとも汝まつたく我らを
棄てたまひしや 痛くわれらを怒りゐたまふや

エゼキエル書

1第三十年四月の五日に我ケバル河の邊にてかの擣うつされたる者の中にをりしに天ひらけて我神の異象を見たり **2**是エコニヤ王の擣ゆかれしより第五年のその月の五日なりき **3**時にカルデア人の地に於てケバル河の邊にてエホバの言祭司ブシの子エゼキエルに臨めりエホバの手かしこにて彼の上により **4**我見しに視よ烈き風大なる雲および燃る火の團塊北より出きたる又雲の周圍に輝光ありその中よりして火の中より熱たる金族のごときもの出づ **5**其火の中に四箇の生物にて成る一箇の形あり其状は是のごとし即ち人の象あり **6**各四の面あり各四の翼あり **7**その足は直なる足その足の跖は犢牛の足の跖のごとくにして磨ける銅のごとくに光れり **8**その生物の四方に翼の下に人の手ありこの四箇の物皆面と翼あり **9**その翼はたがひに相つらなれりその往ときに回轉ずして各その面の向ふところに行く **10**その面の形は人の面のごとし四箇の者右には獅子の面あり四箇の者左には牛の面あり又四箇の者鷲の面あり **11**その面とその翼は上にて分るその各箇の翼二箇は彼と此と相つらなり二箇はその身を覆ふ **12**各箇その面の向ふところへ行き靈のゆかんとする方に行く又行にまはることなし **13**その生物の形は蒸る炭の火のごとく松明のごとし火生物の中に此彼に行き火輝きてその火の中より電光いづ **14**その生物奔りて電光の如くに往來す **15**我生物を觀しに生物の近邊にあたりてその四箇の面の前に地の上に輪あり **16**其輪の形と作は黄金色の玉のごとしその四箇の形は皆同じその形と作は輪の中に輪のあるがごとくなり **17**その行く時は四方に行

く行にまはることなし 18 その輪輞は高くして畏懼かり輪輞は四箇ともに皆遍く目あり 19 生物の行く時は輪その傍に行き生物地をはなれて上る時は輪もまた上る 20 凡て靈のゆかんとする所には生物その靈のゆかんとする方に往く輪またその傍に上る是生物の靈輪の中にあればなり 21 此の行く時は彼もゆき此の止る時は彼も止り此地をはなれて上る時は輪も共にあがる是生物の靈輪の中にあればなり 22 生物の首の上に畏しき水晶のごとき穹蒼ありてその首の上に展開る 23 穹蒼の下に其翼直く開きて此と彼とあひ連る又各二箇の翼ありその各の二箇の翼此方彼方にありて身をおほふ 24 我その行く時の羽聲を聞に大水の聲のごとく全能者の聲のごとし其聲音の響は軍勢の聲のごとしその立どまる時は翼を垂る 25 その首の上なる穹蒼の上より聲ありその立どまる時は翼を垂る 26 首の上なる穹蒼の上に青玉のごとき寶位の狀式ありその寶位の狀式の上に人のごとき者在す、 27 又われその中と周圍に磨きたる銅のごとく火のごとくなる者を見る其人の腰より上も腰より下も火のごとくに見ゆ其周圍に輝光あり 28 その周圍の輝光は雨の日に雲にあらはるる虹のごとしエホバの榮光かくのごとく見ゆ我これを見て俯伏したるに語る者の聲あるを聞く

2 彼われに言たまひけるは人の子よ起あがれ我なんぢに語はんと 2 斯われに言給ひし時靈われにきたりて我を立あがらしむ爰に我その我に語りたまふを聞くに 3 われに言たまひけるは人の子よ我なんぢをイスラエルの子孫に遣すすなはち我に叛ける叛逆の民につかはさん彼等とその先祖我に悖りて今日にいた

る 4 その子女等は厚顔にして心の剛愎なる者なり我
汝をかれらに遣す汝かれらに主エホバかくいふと告
べし 5 彼等は悖逆る族なり彼等は之を聴も之を拒む
も預言者の己等の中にありしを知ん 6 汝人の子よた
とひ薊と棘汝の周圍にあるとも亦汝蠟の中に住とも
これを懼るるなかれその言をおそるるなかれ夫かれ
らは悖逆る族なり汝その言をおそるるなかれ其面に
慄くなかれ 7 彼等は悖逆る族なり彼らこれを聴もこ
れを拒むも汝吾言をかれらに告よ 8 人の子よわが汝
に言ところを聴け汝かの悖逆る族のごとく悖るなか
れ汝の口を開きてわが汝にあたふる者をくらふべし
9 時に我見に吾方に伸たる手ありて其中に巻物あり
10 彼これをわが前に開けり巻物は裏と表に文字あり
て上に嗟嘆と悲哀と憂患とを録す

3 彼また我に言たまひけるは人の子よ汝獲るところ
の者を食へ此巻物を食ひ往てイスラエルの家に告よ
2 是に於て我口をひらけばその巻物を我に食はしめて
3 我にいひ給ひけるは人の子よわが汝にあたふる此巻
物をもて腹をやしなへ腸にみたせよと我すなはち之
をくらふに其わが口に甘きこと蜜のごとくなりき 4
彼また我にいひたまひけるは人の子よイスラエルの
家にゆきて吾言を之につげよ 5 我なんぢを唇の深き
舌の重き民につかはすにあらざイスラエルの家につ
かはすなり 6 汝がその言語をしらざる唇の深き舌の
重き多くの國人に汝をつかはすにあらざ我もし汝を
彼らに遣さば彼等汝に聴べし 7 然どイスラエルの家
は我に聴ことを好まざれば汝に聴ことをせざるべし
イスラエルの全家は厚顔にして心の剛愎なる者なれ
ばなり 8 視よ我かれらの面のごとく汝の面をかたく

しかれらの額のごとく汝の額を堅くせり 9 我なんぢの額を金剛石のごとくし磐よりも堅くせり彼らは背逆る族なり汝かれらを懼るるなかれ彼らの面に戦慄くなかれ 10 又われに言たまひけるは人の子よわが汝にいふところの凡の言を汝の心にをさめ汝の耳にきけよ 11 往てかの擲へ移されたる汝の民の子孫にいたりこれに語りて主エホバかく言たまふと言へ彼ら聴も拒むも汝然すべし 12 時に靈われを上を擧しが我わが後に大なる響の音ありてエホバの榮光のその處より出る者は讚べきかなと云ふを聞けり 13 また生物の互にあひ連る翼の聲とその傍にある輪の聲および大なる響の音を聞く 14 靈われを上をあげて携へゆけば我苦々しく思ひ心を熱くして往くエホバの手強くわが上にあり 15 爰に我ケバル河の邊にてテラアビブに居るかの擲移れたる者に至り驚きあきれてその坐する所に七日俱に坐せり 16 七日すぎし後エホバの言われにのぞみて言ふ 17 人の子よ我なんぢを立てイスラエルの家の爲に守望者となす汝わが口より言を聴き我にかはりてこれを警むべし 18 我悪人に汝かならず死べしと言んに汝かれを警めず彼をいましめ語りその惡き道を離れしめて之が生命を救はずばその悪人はおのが惡のために死んされど其血をば我汝の手に要むべし 19 然ど汝悪人を警めん彼その惡とその惡き道を離れずば彼はその惡の爲に死ん汝はおのれの靈魂を救ふなり 20 又義人その義事をすてて惡を行はんに我躓礙をその前におかば彼は死べし汝かれを警めざれば彼はその罪のために死てそのおこなひし義き事を記ゆる者なきにいたらん然ば我その血を汝の手に要むべし 21 然ど汝もし義き人をいましめ義き人

に罪ををかさしめずして彼罪を犯すことをせずば彼は警戒をうけたるがためにならずその生命をたもたん汝はおのれの靈魂を救ふなり 22 茲にエホバの手かしこにてわが上にあり彼われに言たまひけるは起て平原にいでよ我そこにて汝にかたらん 23 我すなはち起て平原に往にエホバの榮光わがケバル河の邊にて見し榮光のごとく其處に立ければ俯伏たり 24 時に靈われの中にいりて我を立あがらせ我にかたりていふ往て汝の家にこもれ 25 人の子よ彼等汝に繩をうちかけ其をもて汝を縛らん汝はかれらの中に出ゆくことを得ざるべし 26 我なんぢの舌を上顎に堅く着しめて汝を啞となし彼等を警めざらしむべし彼等は悖逆の族なればなり 27 然ど我汝に語る時は汝の口をひらかん汝彼らにいふべし主エホバかく言たまふ聽者は聽べし拒む者は拒むべし彼等は悖逆の族なり

4 人の子よ汝磚瓦をとりて汝の前に置きその上にエルサレムの邑を畫け 2 而して之を取圍み之にむかひて雲梯を建て壘を築き陣營を張り邑の周圍に破城槌を備へて之を攻めよ 3 汝また鐵の鍋を取り汝と邑の間に置て鐵の石垣となし汝の面を之に向よ斯この邑圍まる汝之を圍むべし是すなはちイスラエルの家にあたふる徴なり 4 又汝左側を下にして臥しイスラエルの家の罪を其上に置よ汝が斯臥ところの日の數は是なんぢがその罪を負ふ者なり 5 我かれらが罪を犯せる年を算へて汝のために日の數となす即ち三百九十日の間汝イスラエルの家の罪を負ふべし 6 汝これを終なば復右側を下にして臥し四十日の間ユダの家の罪を負ふべし我汝のために一日を一年と算ふ 7 汝エルサレムの圍に面を向け腕を袒して其の事を預言

すべし 8 視よ我索を汝にかけて汝の圍の日の終るまで右左に動くことを得ざらしめん 9 汝 小麦 大麥 豆 扁豆 粟 および裸麥を取て之を一箇の器にいれ汝が横はる日の數にしたがひてこれを食とせよ即ち三百九十日の間これを食ふべし 10 汝食を權りて一日に二十シケルを食へ時々これを食ふべし 11 又汝水を量りて一ヒンの六分一を飲め時々これを飲むべし 12 汝大麥のパンの如くにして之を食へ即ち彼等の目のまへにて人の糞をもて之を烘べし 13 エホバ いひ給ふ是のごとくイスラエルの民はわが追やらんところの國々においてその汚穢たるパンを食ふべし 14 是において我いふ嗚呼主エホバよわが魂は絶て汚れし事なし我は幼少時より今にいたるまで自ら死し者や裂殺れし者を食ひし事なし又絶て汚れたる肉わが口にいりしことなし 15 エホバ我にいひ給ふ我牛の糞をもて人の糞にかふることを汝にゆるす其をもて汝のパンを調ふべし 16 又われに言たまふ人の子よ視よ我エルサレムに於て人の杖とするパンを打碎かん彼等は食をはかりて惜みて食ひ水をはかりて驚きて飲まん 17 斯食と水と乏しくなりて彼ら互に面を見あはせて駭きその罪に亡びん

5 人の子よ汝利き刀を執り之を剃刀となして汝の頭と頷をそり權衡をとりてその毛を分てよ 2 而して圍城の日の終る時邑の中にて火をもて其三分の一を焼き又三分の一を取り刀をもて邑の周圍を撃ち三分の一を風に散すべし我刀をぬきて其後を追ん 3 汝その毛を少く取りて裾に包み 4 又その中を取りてこれを火の中になげいれ火をもて之をやくべし火その中より出てイスラエルの全家におよばん 5 主エホバかく

いひ給ふ我このエルサレムを萬國の中におき列邦を
その四圍に置けり 6 エルサレムは異邦よりも悪くわ
が律法に悖り其四圍の國々よりもわが法憲に悖る即
ち彼等はわが律法を蔑如にしわが法憲に歩行まざる
なり 7 故に主エホバかくいひたまふ汝等はその周圍
の異邦人よりも甚だしく噪ぎたち吾憲にあゆまず吾
法をおこなはず又汝らの周圍なる異邦人の法のごと
くに行ふことすらもせざるなり 8 是故に主エホバか
くいひ給ふ視よ我 われは汝を攻め異邦人の目の前に
て汝の中に鞫をおこなはん 9 なんぢの爲せし諸の悪
むべき事のために我わが未だ爲ざりしところの事此
後ふたたび其ごとく爲ざるべきところの事を汝にな
さん 10 是がために汝の中にて父たる者はその子を食
ひ子たる者はその父を食はん我汝の中に鞫をおこな
ひ汝の中の餘れる者を盡く四方の風に散さん 11 是故
に主エホバいひ給ふ我は活く汝その忌むべき物とそ
の憎むべきところの事とをもてわが聖所を穢したれ
ば我かならず汝を滅さん我目なんぢを惜み見ず我な
んぢを憐まざるべし 12 汝の三分の一は汝の中におい
て疫病にて死に饑饉にて滅びん又三分の一は汝の四
周にて刀に仆れん又三分の一をば我四方の風に散し
刀をぬきて其後をおはん 13 斯我怒を洩し盡しわが憤
を彼らの上にかうむらせて心を安んぜん我わが憤を
彼らの上に洩し盡す時は彼ら我エホバの熱心をもて
かたりたる事をしるに至らん 14 我汝を荒地となし汝
の周圍の國々の中に汝を笑柄となし凡て往來の人の
目に斯あらしむべし 15 我怒と憤と重き責をもて鞫を
汝に行ふ時は汝はその周圍の邦々の笑柄となり嘲と
なり警戒となり驚懼とならん我エホバこれを言ふ 16

即ち我饑饉の悪き矢を彼等に放たん是は滅亡するための者なり我汝らを滅さんために之を放つべし我なんぢらの上に饑饉を増しくはへ汝らが杖とするところのパンを打碎かん 17 我饑饉と悪き獸を汝等におくらん是汝をして子なき者とならしめん又疫病と血なんぢの間に行わたらん我刀を汝にのぞましむべし我エホバこれを言ふ

6 エホバの言われに臨みて言ふ 2 人の子よ汝の面をイスラエルの山々にむけて預言して言ふべし 3 イスラエルの山よ主エホバの言を聽け主エホバ山と岡と谷と平原にむかひて斯いひたまふ視よ我劍を汝等に遣り汝らの崇邱を滅ぼす 4 汝等の壇は荒され日の像は毀たれん我汝らの中の殺さるる者をして汝らの偶像の前に仆れしむべし 5 我イスラエルの子孫の尸骸をその偶像の前に置ん汝らの骨をその壇の周圍に散さん 6 凡て汝らの住ところにて邑々は滅され崇邱は荒されん斯して汝らの壇は壞れて荒れ汝らの偶像は毀たれて滅び汝等の日の像は斫たふされ汝等の作りし者は絶されん 7 又殺さるる者なんぢらの中に仆れん汝等これに由て吾エホバなるを知るにいたらん 8 我或者を汝らにのこす即ち劍をのがれて異邦の中にをる者國々の中にちらさるる者はなり 9 汝等の中の逃れたる者はその擄ゆかれし國々において我を記念ふに至らん是は我かれらの我をはなれたるその姦淫をなすの心を挫き且かれらの姦淫を好みてその偶像を慕ふところの目を挫くに由てなり而して彼等はその諸の憎むべき者をもて爲たるところの惡のために自ら恨むべし 10 斯彼等はわがエホバなるを知るにいたらん吾がこの災害をかれらになさんと語しことは

徒然にならざるなり 11 主エホバかく言たまふ汝手をもて撃ち足を踏ならして言へ嗚呼凡てイスラエルの家の悪き憎むべき者は禍なるかな皆刀と饑饉と疫病に仆るべし 12 遠方にある者は疫病にて死に近方にある者は刀に仆れん又生存りて身を全うする者は饑饉に死ぬべし 斯我わが憤怒を彼等に洩しつくすべし 13 彼等の殺さるる者その偶像の中にありその壇の周圍にあり諸の高岡にあり諸の山の頂にあり諸の青樹の下にあり諸の茂れる橡樹の下にあり彼等が馨しき香をその諸の偶像にささげたる處にあらん其時汝等はわがエホバなるを知るべし 14 我手をかれらの上に伸べ凡てかれらの住居ところにて其地を荒してデブラの野にもまさる荒地となすべし是によりて彼らはわがエホバなるを知るにいたらん

7 エホバの言また我にのぞみて言ふ 2 汝人の子よ主エホバかくいふイスラエルの地の末期いたる此國の四方の境の末期來れり 3 今汝の末期いたる我わが忿怒を汝に洩らし汝の行にしたがひて汝を鞫き汝の諸の憎むべき物のために汝を罰せん 4 わが目は汝を惜み見ず我なんぢを憫まず汝の行の爲に汝を罰せん汝のなせし憎むべき事の報汝の中にあるべし是によりて汝等はわがエホバなるを知らん 5 主エホバかくいひ給ふ視よ災禍あり非常災禍きたる 6 末期きたる其末期きたる是起りて汝に臨む視よ來る 7 此地の人よ汝の命數いたる時いたる日ちかし山々には擾亂のみありて喜樂の聲なし 8 今我すみやかに吾憤恨を汝に蒙らせわが怒氣を汝に洩しつくし汝の行爲にしたがひて汝を鞫き汝の諸の憎むべきところの事のために汝を罰せん 9 わが目は汝を惜み見ず我汝をあはれま

ず汝の行のために汝を罰せん汝の爲し憎むべき事の
果報汝の中にあるべし是によりて汝等は我エホバの
汝を撃なるを知ん **10** 視よ日きたる視よ來れり命數い
たりのぞむ杖花咲き驕傲茁す **11** 暴逆おこりて惡の杖
と成る彼等もその群衆もその驕奢も皆失んかれら
中には何も残る者なきにいたるべし **12** 時きたる日ち
かつけり買者は喜ぶなかれ賣者は思ひわづらふなか
れ怒その群衆におよぶべければなり **13** 賣者は假令そ
の生命ながらふるともその賣たる者に歸ることあた
はじ此地の全の群衆をさすところの預言は廢らざる
べければなり其惡の中にありて生命を全うする者な
かるべし **14** 人衆ラツパを吹て凡て預備をなせども戰
にいづる者なし其はわが怒その全の群衆におよべば
なり **15** 外には劍あり内には疫病と饑饉あり田野にを
る者は劍に死なん邑の中にをる者は饑饉と疫病これ
をほろぼすべし **16** その中の逃るる者は逃れて谷の鶺鴒
のごとくに山の上にをりて皆その罪のために悲しま
ん **17** 手みな弱くなり膝みな水となるべし **18** 彼等は
麻の衣を身にまとはん恐懼かれらを蒙まん諸の面
には羞あらはれ諸の首は髪をそりおとされん **19** 彼等そ
の銀を街にすてん其金はかれらに塵芥のごとくなる
べしエホバの怒の日にはその金銀もかれらを救ふこ
とあたはざるなり是等はその心魂を満足せしめず其
腹を充さず唯彼等をつまづかせて惡におとしいるる
者なり **20** 彼の美しき飾物を彼等驕傲のために用ひ又
これをもてその憎べき偶像その憎むべき物をつくれ
り是をもて我これを彼らに芥とならしむ **21** 我これを
外國人にわたして奪はしめ地の惡人にわたして掠め
しめん彼等すなはちこれを汚すべし **22** 我かれらにわ

が面を背くべければ彼等わが密たる所を汚さん強暴人其處にいりてこれを汚すべし 23 汝鏈索を作れよ死にあたる罪國に満ち暴逆邑に充たり 24 我國々の中の悪き者等を招きて彼らの家を奪しめん我強者の驕傲を止めんその聖所は汚さるべし 25 滅亡きたれり彼等平安を求むれども得ざるなり 26 災害に災害くははり注進に注進くははる彼等預言者に黙示を求めん律法は祭司の中に絶え謀略は長老の中に絶べし 27 王は哀き牧伯は驚惶を身に纏ひ國の民の手は慄へん我その行爲に循ひて彼らを處置ひその審判に循ひて彼らを罰せん彼等は我エホバなるを知にいたるべし

8 爰に六年の六月五日に我わが家に坐しをりユダの長老等わがまへに坐りゐし時主エホバの手われの上に降り 2 我すなはち視しに火のごとくに見ゆる形象あり腰より下は火のごとく見ゆ腰より上は光輝て見え焼たる金屬の色のごとし 3 彼手のごとき者を伸て吾が頭髮を執りしかば靈われを地と天の間に曳あげ神の異象の中に我をエルサレムに携へゆき北にむかへる内の門の口にいたらしむ其處に嫉妬をおこすところの嫉妬の像たてり 4 彼處にイスラエルの神の榮光あらはる吾が平原にて見たる異象のごとし 5 彼われに言たまふ人の子よ目をあげて北の方をのぞめと我すなはち目をあげて北の方を望むに視よ壇の門の北にあたりてその入口に此嫉妬の像あり 6 彼また我にいひたまふ人の子よ汝かれらが爲ところ即ちイスラエルの家が此にてなすところの大なる憎むべき事を見るや我これがために吾が聖所をはなれて遠くさるべし汝身を轉らせ復大なる憎むべき事等を見ん 7 斯て彼われを領て庭の門にいたりたまふ我見しに其

壁に一の穴あり 8 彼われに言たまふ人の子よ壁を穿てよと我すなはち壁を鑿つに一箇の戸あるを視る 9 茲に彼われにいひ給ひけるは入て彼等が此になすところの悪き憎むべき事等を見よと 10 便ち入りて見るに諸の爬虫と憎むべき獸畜の形およびイスラエルの家の諸の偶像その周囲の壁に畫きてあり 11 イスラエルの家の長老七十人その前に立てりシヤパンの子ヤザニヤもかれらの中に立ちてあり各手に香爐を執るその香の煙雲のごとくにのぼれり 12 彼われに言たまひけるは人の子よ汝イスラエルの家の長老等が暗におこなふ事即ちかれらが各人その偶像の間におこなふ事を見るや彼等いふエホバは我儕を見ずエホバこの地を棄てたりと 13 また我に言たまはく汝身を轉らせ復かれらが爲すところの大なる憎むべき事等を見ん 14 斯て彼我を携てエホバの家の北の門の入口にいたるに其處に婦女等坐してタンムズのために哭をる 15 彼われに言たまふ人の子よ汝これを見るや又身を轉らせよ汝これよりも大なる憎むべき事等を見ん 16 彼また我を携てエホバの家の内庭にいたるにエホバの宮の入口にて廊と壇の間に二十五人ばかりの人その後をエホバの宮にむけ面を東にむけ東にむかひて日の前に身を鞠めをる 17 彼われに言たまふ人の子よ汝これを見るやユダの家はその此におこなふところの憎むべき事等をもて瑣細き事となすにや亦暴逆を國に充して大に我を怒らす彼等は枝をその鼻につくるなり 18 然ば我また怒をもて事をなさん吾目はかれらを惜み見ず我かれらを憫まじ彼等大聲にわが耳に呼はるとも我かれらに聽じ

9 斯て彼大聲に吾耳に呼はりて言たまふ邑を主どる者等各々剪滅の器具を手にとりて前み來れと 2 即ち北にむかへる上の門の路より六人の者おのおの打壞る器具を手にとりて來る其中に一人布の衣を着筆記人の墨盃を腰におぶる者あり彼等來りて銅の壇の傍に立てり 3 爰にイスラエルの神の榮光その居るところのケルブの上より起あがりて家の闕にいたり彼の布の衣を着て腰に筆記人の墨盃をおぶる者を呼ぶ 4 時にエホバかれに言たまひけるは邑の中エルサレムの中を巡れ而して邑の中に行はるるところの諸の憎むべき事のために歎き哀しむ人々の額に記號をつけよと 5 我聞に彼またその他の者等にいひたまふ彼にしたがひて邑を巡りて撃てよ汝等の目人を惜み見るべからず憐れむべからず 6 老人も少者も童女も孩子も婦人も悉く殺すべし然ど身に記號ある者には觸べからず先わが聖所より始めよと彼等すなはち家の前にをりし老人より始む 7 彼またかれらに言たまふ家を汚し死人をもて庭に充せよ汝等往けよと彼等すなはち出ゆきて邑の中に人を撃つ 8 彼等人を撃ちける時我遺されたれば俯伏て叫び言ふ嗚呼主エホバよ汝怒をエルサレムにもらしてイスラエルの殘餘者を悉くほろぼしたまふや 9 彼われに言たまひけるはイスラエルとユダの家の罪甚だ大なり國には血盈ち邑には邪曲充つ即ち彼等いふエホバは此地を棄てたりエホバは見ざるなりと 10 然ば亦わが目かれらを惜み見ず我かれらを憐まじ彼らの行ふところを彼等の首に報いん 11 時にかの布の衣を着て腰に筆記人の墨盃をおぶる人復命まをして言ふ汝が我に命じたまひしごとく爲たりと

10 茲に我見しにケルビムの首の上なる穹蒼に青玉のごとき者ありて寶位の形に見ゆ彼そのケルビムの上にあらはれたまひて **2** かの布の衣を着たる人に告て言たまひけるはケルビムの下なる輪の間に入りて汝の手にケルビムの間の炭火を盈し之を邑に散すべしとすなはち吾目の前にて其處に入しが **3** 其人の入る時ケルビムは家の右に立をり雲その内庭に盈り **4** 茲にエホバの榮光ケルブの上より昇りて家の闕にいたる又家には雲満ちその庭にはエホバの榮光の輝光盈てり **5** 時にケルビムの羽音外庭に聞ゆ全能の神の言語たまふ聲のごとし **6** 彼布の衣を着たる人に命じて輪の間ケルビムの間より火を取れと言たまひければ即ち入りて輪の傍に立ちけるに **7** 一のケルブその手をケルビムの間より伸てケルビムの間の火を取り之をかの布の衣を着たる人の手に置れたれば彼これを取りて出づ **8** ケルビムに人の手の形の者ありて其翼の下に見ゆ **9** 我見しにケルビムの側に四箇の輪あり此ケルブにも一箇の輪あり彼ケルブにも一箇の輪あり輪の式は黄金色の玉のごとくに見ゆ **10** その式は四箇みな同じ形にして輪の中に輪のあるがごとし **11** その行ときは四方に行く行にまはることなし首の向ふところに従ひ行く行にまはることなし **12** その全身その脊その手その翼および輪には四周に徧く目ありその四箇みな輪あり **13** 我聞に轉回れと輪にむかひてよばはるあり **14** 其は各々四の面あり第一の面はケルブの面第二の面は人の面第三のは獅子の面第四のは鷲の面なり **15** ケルビムすなはち昇れり是わがケバル河の邊にて見たるところの生物なり **16** ケルビムの行く時は輪もその傍に行きケルビム翼をあげて地より

飛上る時は輪またその傍を離れず 17 その立つときは立ちその上る時は俱に上れりその生物の靈は其等の中にあり 18 時にエホバの榮光家の闕より出ゆきてケルビムの上に立ちければ 19 ケルビムすなはちその翼をあげ出ゆきてわが目の前にて地より飛のぼれり輪はその傍にあり而して遂にエホバの家の東の門の入口にいたりて止るイスラエルの神の榮光その上にあり 20 是すなはち吾がケバル河の邊にてイスラエルの神の下に見たるところの生物なり吾そのケルビムなるを知れり 21 是等には各々四宛の面あり各箇四の翼あり又人の手のごとき物その翼の下にあり 22 その面の形は吾がケバル河の邊にて見たるところの面なりその姿も身も然り各箇その面にしたがひて行けり

11 茲に靈我を擧げてエホバの室の東の門に我を携へゆけり門は東に向ふ視るにその門の入口に二十五人の人あり我その中にアズルの子ヤザニヤおよびベナヤの子ペラテヤ即ち民の牧伯等を見る 2 彼われに言たまひけるは人の子よ此邑において惡き事を考へ惡き計謀をめぐらす者は此人々なり 3 彼等いふ家を建ることは近からず此邑は鍋にして我儕は肉なりと 4 是故にかれらに預言せよ人の子よ預言すべし 5 時にエホバの靈わが上に降りて我にいひ給ひけるはエホバかく言ふと言べしイスラエルの家よ汝等は斯いへり汝等の心におこる所の事は我これを知るなり 6 汝等は此邑に殺さるる者を増し死人をもて街衢に充せり 7 是故に主エホバ斯いふ汝等が邑の中に置くところのその殺されし者はすなはち肉にして邑は鍋なり然ど人邑の中より汝等を曳いだすべし 8 汝等は刀劍を懼る我劍を汝等にのぞましめんと主エホバいひた

まふ 9 我なんぢらを其中よりひき出し外國人の手に付して汝等に罰をかうむらすべし 10 汝等は劍に踏れん我イスラエルの境にて汝等を罰すべし汝等は是によりてわがエホバなるを知るにいたらん 11 是は汝らの鍋とならず汝らはその中の肉たることを得ざるなりイスラエルの境にて我汝らに罰をかうむらすべし 12 汝ら即ちわがエホバなるを知にいたらん汝らはわが憲法に遵はずわが律法を行はずしてその周圍の外國人の慣例のごとくに事をなせり 13 斯てわが預言しをる時にベナヤの子ペラテヤ死たれば我俯向に伏て大聲に叫び嗚呼主エホバよイスラエルの遺餘者を盡く滅ぼさんとしたまふやといふに 14 エホバの言われに臨みていふ 15 人の子よ汝の兄弟汝の兄弟たる者は汝の親族の人々にして即ちイスラエルの全家全躰なりエルサレムに居る人々は是にむかひて汝等は遠くエホバをはなれて居れ此地はわれらの所有としてあたへらると言ふ 16 是故に汝言ふべしエホバかく言ひたまふ我かれらを遠く逐やりて國々に散したればその往る國々に於て暫時の間かれらの聖所となると 17 是故に言ふべし主エホバかく言たまふ我なんぢらを諸の民の中より集へ汝等をその散されたる國々より聚めてイスラエルの地を汝らに與へん 18 彼等は彼處に到りその諸の汚たる者とその諸の憎むべき者を彼處より取除かん 19 我かれらに唯一の心を與へ新しき靈を汝らの衷に賦けん我かれらの身の中より石の心を取さりて肉の心を與へ 20 彼らをしてわが憲法に遵はしめ吾律法を守りて之を行はしむべし彼らはわが民となり我はかれらの神とならん 21 然どその汚れたる者とその憎むべき者の心をもておのれの心となす

者等は我これが行ふところをその首に報ゆべし主エホバこれを言ふ 22 茲にケルビムその翼をあぐ輪その傍にありイスラエルの神の榮光その上に在す 23 エホバの榮光つひに邑の中より昇りて邑の東の山に立てり 24 時に靈われを擧げ神の靈に由りて異象の中に我をカルデヤに携へゆきて俘囚者の所にいたらしむ吾見たる異象すなはちわれを離れて昇れり 25 かくて我エホバの我にしめしたまひし言を盡く俘囚者に告たり

12 エホバの言また我にのぞみて云ふ 2 人の子よ汝は背戻る家の中に居る彼等を見る目あれども見ず聞く耳あれども聞かず背戻る家なり 3 然ば人の子よ移住の器具を備へかれらの目の前にて晝の中に移れ彼らの目の前にて汝の處より他の處に移るべし彼等は背戻る家なれども或は見て考ふることあらん 4 汝移住の器具のごとき器具を彼等の目の前にて晝の中に持いだせ而して移住者の出ゆくがごとく彼等の目の前にて宵の中に出ゆくべし 5 即ちかれらの目の前にて壁をやぶりて之を其處より持いだせ 6 彼らの目の前にてこれを肩に負ひ黑暗の中にこれを持いだすべし汝の面を掩へ地を見るなかれ我汝を豫兆となしてイスラエルの家に示すなり 7 我すなはち命ぜられしごとく爲し移住の器具のごとき器具を晝の中に持いだし又宵に手をもて壁をやぶり黑暗の中にこれを持いだし彼らの目の前にてこれを肩に負り 8 明旦におよびてエホバの言われに臨みて言ふ 9 人の子よ背戻る家なるイスラエルの家汝にむかひて汝なにを爲やと言しにあらずや 10 汝かれらに言ふべし主エホバかく言たまふこの負荷はエルサレムの君主および彼等の

中なるイスラエルの全家に當るなり **11** 汝また言ふべし我は汝等の豫兆なりわが爲るごとく彼等然なるべし彼等は擧へうつされん **12** 彼らの中の君主たる者黑暗のうちに物を肩に載て出ゆかん彼等壁をやぶりて其處より物を持ちだすべし彼はその面を覆ひて土地を目に見ざらん **13** 我わが網を彼の上に打かけん彼はわが羅にかかるべし我かれをカルデヤ人の地に曳ゆきてバビロンにいたらしめん然れども彼はこれを見ずして其處に死べし **14** 凡て彼の四周にありて彼を助くる者およびその軍兵は皆我これを四方に散し刀刃をぬきて其後をおふべし **15** 吾がかれらを諸の民の中に散し國々に撒布さん時にいたりて彼らは我のエホバなるをしるべし **16** 但し我かれらの中に僅少の人を遣して劍と饑饉と疫病を免れしめ彼らをしてそのおこなひし諸の憎むべき事をその到るところの民の中に述しめん彼等はわがエホバなるを知るにいたらん **17** エホバの言また我にのぞみて言ふ **18** 人の子よ汝發震て食物を食ひ戰慄と恐懼をもて水を飲め **19** 而してこの地の民に言べし主エホバ、エルサレムの民のイスラエルにをる者に斯いひたまふ彼等は懼れて食物を食ひ驚きて水を飲にいたるべし是はその地凡てその中に住る者の暴逆のために富饒をうしなひて荒地となるが故なり **20** 人の住る邑々は荒はて國は滅亡ぶべし汝等すなはち我がエホバなるを知ん **21** エホバの言われに臨みて言ふ **22** 人の子よイスラエルの國の中に汝等いふ日は延び黙示はみな空しくなれりと是何の言ぞや **23** 是故に汝彼等に言べし主エホバかくいひ給ふ我この言を止め彼等をして再びこれをイスラエルの中に言ことなからしめん即ち汝かれらに言へ其

日とその諸の黙示の言は近づけりと **24** イスラエルの家には此後重ねて空浮き黙示と虚偽の占トあらざるべし **25** 夫我はエホバなり我わが言をいださん吾いふところは必ず成んかさねて延ることあらじ背戻る家よ汝等が世にある日に我言を發して之を成すべし主エホバこれを言ふ **26** エホバの言また我にのぞみて言ふ **27** 人の子よ視よイスラエルの家言ふ彼が見たる黙示は許多の日の後の事にして彼は遙後の事を預言するのみと **28** 是故にかれらに言ふべし主エホバかくいひたまふ我言はみな重ねて延ず吾がいへる言は成べしと主エホバこれを言ふなり

13 エホバの言われに臨みて言ふ **2** 人の子よ預言を事とするイスラエルの預言者にむかひて預言せよ彼のおのれの心のままに預言する者等に言ふべし汝らエホバの言を聴け **3** 主エホバかくいひ給ふ彼の何をも見ずして己の心のままに行ふところの愚なる預言者は禍なるかな **4** イスラエルよ汝の預言者は荒墟にをる狐のごとくなり **5** 汝等は破壊口を守らずまたイスラエルの家の四周に石垣を築きてエホバの日に防ぎ戦はんともせざるなり **6** 彼らは虚浮者および虚妄の占トを見る彼等はエホバいひたまふと言ふといへどもエホバはかれらを遣さざるなり然るに彼らその言の成らんことを望む **7** 汝らは空しき異象を見虚妄の占トを宣べ吾が言ふことあらざるにエホバいひ給ふと言ふにあらずや **8** 是故に主エホバかくいひたまふ汝等空虚き事を言ひ虚偽の物を見るによりて我なんぢらを罰せん主エホバこれをいふ **9** 我手はかの虚浮き事を見虚偽の事を卜ひいふところの預言者等に加はるべし彼等はわが民の會にをらずなりイスラエ

ルの家の籍にしるされずイスラエルの地にいることをえざるべし汝等すなはち吾のエホバなるをしるにいたらん 10 かれらは吾民を感し平安あらざるに平安といふ又わが民の屏を築くにあたりて彼等灰砂をもて之を圯る 11 是故にその灰砂を圯る者に是は圯るべしと言へ大雨くだらん雹よ降れ大風よ吹べし 12 視よ屏は圯る然ば人々汝等が用ひて圯たる灰砂は何處にあるやと汝等に言ざらんや 13 即ち主エホバかく言たまふ我憤恨をもて大風を吹せ忿怒をもて大雨を注がせ憤恨をもて雹を降せてこれを毀つべし 14 我なんぢらが灰砂をもて圯たる屏を毀ちてこれを地に倒しその基礎を露にすべし是すなはち圯れん汝等はその中にほろびて吾のエホバなるを知にいたらん 15 斯われその屏とこれを灰砂にてぬれる者にとむかひてわが憤恨を洩しつつして汝等にいふべし屏はあらずなり又灰砂にてこれを圯る者もあらずなれりと 16 是すなはちイスラエルの預言者等なり彼等はエルサレムにむかひて預言をなし其處に平安のあらざるに平安の黙示を見たりといへり主エホバこれをいふ 17 人の子よ汝の民の女等の其心のままに預言する者に汝の面をむけ之にむかひて預言し 18 言べし主エホバかくいひたまふ吾手の節々の上に小枕を縫つけ諸の大きさの頭に帽子を造り蒙せて靈魂を獵んとする者は禍なるかな汝等はわが民の靈魂を獵て己の靈魂を生しめんとするなり 19 汝等小許の麥のため小許のパンのために吾民の前にて我を汚しかの偽言を聽いるる吾民に偽言を陳て死べからざる者を死しめ生べからざる者を生しむ 20 是故に主エホバかくいひたまふ我汝等が用ひて靈魂を獵ところの小枕を奪ひ靈魂を飛さらし

めん我なんぢらの臀より小枕を裂とりて汝らが獵と
ころの靈魂を釋ち其靈魂を飛さらしむべし 21 我なん
ぢらの帽子を裂き吾民を汝らの手より救ひいださん
彼等はふたたび汝等の手に陥りて獵れざるべし汝ら
は吾エホバなるを知にいたらん 22 汝等虚偽をもて義
者の心を憂へしむ我はこれを憂へしめざるなり又汝
等悪者の手を強くし之をしてその悪き道を離れかへ
りて生命を保つことをなさしめず 23 是故に汝等は重
ねて虚浮き物を見ることを得ず占トをなすことを得
ざるに至るべし我わが民を汝らの手より救ひいださ
ん汝等すなはちわがエホバなるを知にいたるべし

14 爰にイスラエルの長老の中の人々我にきたりて
吾前に坐しけるに 2 エホバの言われに臨みて言ふ 3
人の子よこの人々はその偶像を心の中に立しめ罪に
陥いるるところの障礙をその面の前に置なり我あに
是等の者の求を容べけんや 4 然ば汝かれらに告げて
言ふべし主エホバかくいひたまふ凡そイスラエルの
家の人のその心の中に偶像を立しめその面のまへに
罪に陥いるるところの障礙を置きて預言者に來る者
には我エホバその偶像の多衆にしたがひて應をなす
べし 5 斯して我イスラエルの家の人の心を執へん是
かれら皆その偶像のために我を離れたればなり 6 是
故にイスラエルの家に言ふべし主エホバかくいひた
まふ汝等悔い汝らの偶像を棄てはなるべし汝等面を
回らしてその諸の憎むべき物を離れよ 7 凡てイスラ
エルの家およびイスラエルに寓るところの外國人若
われを離れてその偶像を心の中に立しめ其面の前に
罪に陥いるるところの障礙をおきて預言者に來りその
心のままに我に求むる時は我エホバわが心のままに

これに應ふべし 8 即ち我面をその人にむけこれを滅して兆象となし諺語となし之をわが民の中より絶さるべし汝等これによりて我がエホバなるを知るにいたらん 9 もし預言者欺かれて言を出すことあらば我エホバその預言者を欺けるなり我かれの上にわが手を伸べ吾民イスラエルの中より彼を絶さらん 10 彼等その罪を負ふべしその預言者の罪はかの問求むる者の罪のごとくなるべし 11 是イスラエルの民をして重ねて我を離れて迷はざらしめ重ねてその諸の愆に汚れざらしめんため又かれらの吾民となり我の彼らの神とならんためなり主エホバこれをいふ 12 エホバの言また我にのぞみて言ふ 13 人の子よ國もし悖れる事をおこなひて我に罪を犯すことあり我手をその上に伸て其杖とたのむところのパンを打碎き饑饉を之におくりて人と畜とをその中より絶ことある時には 14 其處にかのノア、ダニエル、ヨブの三人あるも只其義によりて己の生命を救ふことをうるのみなり主エホバこれをいふ 15 我もし悪き獸を國に行めぐらしめて之を子なき處となし荒野となして其獸のために其處を通る者なきに至らん時には 16 主エホバ言ふ我は活く此三人そこにをるもその子女を救ふことをえず只その身を救ふことを得るのみ國は荒野となるべし 17 又は我劍を國に臨ませて劍よ國を行めぐるべしと言ひ人と畜をそこより絶さらん時には 18 主エホバいふ我は活く此三人そこにをるもその子女をすくふことをえず只その身をすくふことを得るのみ 19 又われ疫病を國におくり血をもてわが怒をその上にそそぎ人と畜をそこより絶さらん時には 20 主エホバいふ我は活くノア、ダニエル、ヨブそこにをるもその子女

を救ふことをえず只その義によりて己の生命を救ふことを得るのみ 21 主エホバかくいひたまふ然ばわが四箇の厳しき罰すなはち劍と饑饉と悪き獸と疫病をエルサレムにおくりて人と畜をそこより絶さらんとする時は如何にぞや 22 其中に逃れて遺るところの男子女子あり彼等携へ去らるべし彼ら出ゆきて汝等の所にいたらん汝らかれらの行爲と擧動を見ば吾がエルサレムに災をくだせし事につきて心をやすむるにいたるべし 23 汝ら彼らの行爲と擧動を見ばこれがためにその心をやすむるにいたりわがこれに爲たる事は皆故なくして爲たるにあらざるなるをしるにいたらん主エホバこれを言ふ

15 エホバの言われに臨みて言ふ 2 人の子よ葡萄の樹森の中にあるところの葡萄の枝なんぞ他の樹に勝るところあらんや 3 其木物をつくるに用ふべけんや 又人これを用ひて器をかくる木釘を造らんや 4 視よ是は火に投げられて燃ゆ火もしその兩の端を焼くあり又その中間焦たらば争でか物をつくるに勝べけんや 5 是はその全かる時すらも物を造るに用ふべからざれば況て火のこれを焚焦したる時には争で物をつくるに用ふべけんや 6 是故に主エホバかく言たまふ我森の樹の中なる葡萄の樹を火になげいれて焚く如くにエルサレムの民をも然するなり 7 我面をかれらに向けて攻む彼らは火の中より出たれども火なほこれを焼つくすべし我面をかれらにむけて攻むる時に汝らは我のエホバなるをしらん 8 彼等悖逆る事をおこなひしに由て我かの地を荒地となすべし主エホバこれを言ふ

16 エホバの言また我にのぞみて言ふ **2** 人の子よエルサレムに其憎むべき事等を示して **3** 言ふべし主エホバ、エルサレムに斯いひたまふ汝の起本汝の誕生はカナンの地なり汝の父はアモリ人汝の母はヘテ人なり **4** 汝の誕生を言んに汝の生れし日に汝の臍帯を斷ことなく又水にて汝を洗ひ潔むることなく鹽をもて汝を擦ることなく又布に裹むことなかりき **5** 一人も汝を憐み見憫をもて是等の事の一をも汝になせし者なし汝の生れたる日に人汝の生命を忌て汝を野原に棄たり **6** 我汝のかたはらを通りし時汝が血の中にをりて踐るを見汝が血の中にある時汝に生よと言ひ即ち我なんぢが血の中にある時に汝に生よといへり **7** 我野の百卉のごとくに汝を増して千萬となせり汝は生長て大きくなり美しき姿となるにいたり乳は堅くなり髪は長たりしが衣なくして裸なりき **8** 茲に我汝の傍を通りて汝を見に今は汝の時汝の愛せらるべき時なりければ我衣服の裾をもて汝を覆ひ汝の恥るところを蔽し而して汝に誓ひ汝に契約をたてたり汝すなはち吾所屬となれり主エホバこれを言ふ **9** 斯て我水をもてなんぢを洗ひ汝の血を滌ぎおとして膏を汝にぬり **10** 文繡あるものを着せ皮の鞋を穿たしめ細布を蒙らせ絹をもて汝の身を罩めり **11** 而して飾物をもて汝をかざり腕環をなんぢの手にはめ金索を汝の項にかけしめ **12** 鼻には鼻環 耳には耳環 首には華美なる冠冕をほどこせり **13** 汝すなはち金銀をもて身を飾り細布と絹および文繡をその衣服となし麥粉と蜜と油とを食へり汝は甚だ美しくして遂に榮えて王の權勢に進みいたる **14** 汝の美貌のために汝の名は國々にひろまれり是わが汝にほどこせしわれの飾物に

よりにて汝の美麗極りたればなり主エホバこれを言ふ
15 然るに汝その美麗を恃み汝の名によりて姦淫をおこなひ凡て其傍を過る者と縦窓に姦淫をなしたりはその人の所屬となる 16 汝おのれの衣服をとりて崇邱を彩り作りその上に姦淫をおこなへり是爲べからず有べからざる事なり 17 汝はわが汝にあたへし金銀の飾の品を取り男の像を造りて之と姦淫をおこなひ 18 汝の繡衣を取りて之に纏ひ吾の膏と香をその前に陳へ 19 亦わが汝にあたへし我の食物我が用ひて汝をやしなふところの麥粉油および蜜を其前に陳へて馨しき香氣となせり是事ありしと主エホバいひ給ふ 20 汝またおのれの我に生たる男子女子をとりてこれをその像にそなへて食はしむ汝が姦淫なほ小き事なるや 21 汝わが子等を殺し亦火の中を通らしめてこれに獻ぐ 22 汝その諸の憎むべき事とその姦淫とをおこなふに當りて汝が若かりし日に衣なくして裸なりしことおよび汝が血のうちにをりて蹈れしことを想はざるなり 23 主エホバまた言たまふ汝は禍なるかな禍なるかな 24 汝その諸の悪をおこなひし後街衢街衢に樓をしつらひ臺を造り 25 また路の辻々に臺をつくりて汝の美麗を汚辱むることを爲し凡て傍を過るところの者に足をひらきて大に姦淫をおこなふ 26 汝かの肉の大なる汝の隣人エジプトの人々と姦淫をおこなひ大に姦淫をなして我を怒らせたれば 27 我手を汝の上のべて汝のたまはる分を減し彼の汝を惡み汝の淫なる行爲を羞るところのペリシテ人の女等の心に汝をまかせたり 28 然るに汝は厭ことなければ亦アツスリヤの人々と姦淫をおこなひしが之と姦淫をおこなひたるも尚厭ことなかりき 29 汝また大に姦淫をおこな

ひてカナンの國カルデアに迄およびしが是にても尚
厭ことなし 30 主エホバいひたまふ汝の心如何に戀煩
ふにや汝の諸の事を爲り是氣隨なる遊女の行爲なり
り 31 汝道の辻々に樓をしつらひ衢々に臺を造りしが
金錢を輕んじたれば娼妓のごとくならざりき 32 夫淫
婦はその夫のほかに他人と通ずるなり 33 人は凡て娼
妓に物を贈るなるに汝はその諸の戀人に物をおくり
且汝と姦淫せんとて四方より汝に來る者に報金を與
ふ 34 汝は姦淫をおこなふに當りて他の婦と反す即ち
人汝を戀求むるにあらざるなり汝金錢を人にあたへ
て人金錢を汝にあたへざるは是の相反するところ
なり 35 然ば娼妓よエホバの言を聽け 36 主エホバか
く言たまふ汝金銀を撒散し且汝の戀人と姦淫して汝
の恥處を露したるに由り又汝の憎むべき諸の偶像と
汝が之にささげたる汝の子等の血の故により 37 視よ
我汝が交れる諸の戀人および凡て汝が戀たる者並に
凡て汝が惡みたる者を集め四方よりかれらを汝の所
に集め汝の恥處を彼らに現さん彼ら汝の恥處を悉く
見るべし 38 我姦淫を爲せる婦および血をながせる婦
を鞫くがごとくに汝を鞫き汝をして忿怒と嫉妬の血
とならしむべし 39 我汝を彼等の手に付せば彼等汝
の樓を毀ち汝の臺を倒しなんぢの衣服を褫取り汝の美
しき飾を奪ひ汝をして衣服なからしめ裸にならしむ
べし 40 彼等群衆をひきゐて汝の所にのぼり石をもて
汝を撃ち劍をもて汝を切さき 41 火をもて汝の家を焚
き多くの婦女の目の前にて汝を鞫かん斯われ汝をし
て姦淫を止しむべし汝は亦ふたび金錢をあたふる
ことなからん 42 我ここに於て汝に對するわが怒を息
め汝にかかはるわが嫉妬を去り心をやすんじて復怒

らざらん 43 主エホバいひたまふ汝その若かりし日の事を記憶えずしてこの諸の事をもて我を怒らせたれば視よ我も汝の行ふところを汝の首に報ゆべし汝その諸の憎むべき事の上に此悪事をなしたるにあらざるなり 44 視よ諺語をもちふる者みな汝を指てこの諺を用ひ言ん母のごとくに女も然りと 45 汝の母はその夫と子女を棄たり汝はその女なり汝の姉妹はその夫と子女を棄たり汝はその姉妹なり汝の母はヘテ人汝の父はアモリ人なり 46 汝の姉はサマリヤなり彼その女子等とともに汝の左に住む汝の妹はソドムなり彼その女子等とともに汝の右に住む 47 汝は只少しく彼らの道に歩み彼らの憎むべきところの事等を行ひしのみならず汝の爲る事は皆かれらのよりも悪かりき 48 主エホバ言たまふ我は活く汝の妹ソドムと其女子らが爲しところは汝とその女子らが爲しところの如くはあらざりき 49 汝の妹ソドムの罪は是なり彼は傲り食物に飽きその女子らとともに安泰にをり而して難める者と貧しき者を助けざりき 50 かれらは傲りわが前に憎むべき事をなしたれば我見てかれらを掃ひ除けり 51 サマリヤは汝の罪の半分ほども罪を犯さざりき汝は憎むべき事等を彼らよりも多く行ひ増し汝の爲たる諸の憎むべき事のために汝の姉妹等をして義きが如くならしめたり 52 然ば汝が曾てその姉妹等の蒙るべき者と定めたところの恥辱を汝もまた蒙れよ汝が彼等よりも多くの憎むべき事をなしたるその罪の爲に彼等は汝よりも義くなれり然ば汝も辱を受け恥を蒙れ是は汝その姉妹等を義き者となしたればなり 53 我ソドムとその女等の俘囚をかへしサマリヤとその女等の俘囚をかへさん時に其と同じ擲は

れたる汝の俘囚人を歸し 54 汝をして恥を蒙らしめ汝が凡て爲たるところの事を羞しむべし汝かく彼らの慰とならん 55 汝の姉妹ソドムとその女子等は舊の様に歸りサマリヤとその女子等は舊の様に歸らん又汝と汝の女子等も舊の様にかへるべし 56 汝はその驕傲れる日には汝の姉妹ソドムの事を口に述ざりき 57 汝の惡の露れし時まで即ちスリアの女子等と凡て汝の周圍の者ペリシテ人の女等が四方より汝を黜りて辱しめし時まで汝は是のごとくなりき 58 エホバひたまふ汝の淫なる行爲と汝のもろもろの憎むべき事は汝みづからこれを身に負ふなり 59 主エホバかく言たまふ誓言を輕んじて契約をやぶりたるところの汝には我汝の爲るところにしたがひて爲べし 60 我汝の若かりし日に汝になせし契約を記憶え汝と限りなき契約をたてん 61 汝その姉妹の汝より大なる者と小き者とを得る時にはおのれの行爲をおぼえて羞ん彼等は汝の契約に屬する者にあらざれども我かれらを汝にあたへて女となさしむべし 62 我汝と契約をたてん汝すなはち吾のエホバなるを知にいたらん 63 我なんぢの凡て行ひしところの事を赦す時には汝憶えて羞ぢその恥辱のために再び口を開くことなかるべし主エホバこれを言ふ

17 爰にエホバの言我にのぞみて言ふ 2 人の子よ汝イスラエルの家に謎をかけ譬言を語りて 3 言べし主エホバかく言たまふ大なる翼長き羽ありて種々の色の毛の満たる大鷲レバノンに來りて香柏の梢を採り 4 其芽の巔を摘みカナンの地にこれを持きたりて商人の邑に置きけるが 5 又その地の種をとりて之を種田に播けりすなはち之を水の多き處にもちゆきて柳の

ごとくにこれを樹しに 6 成長ちて丈卑き垂さがりたる葡萄樹となり其枝は驚にむかひその根は驚の下にあり遂に葡萄樹となりて芽をふき葉を出す 7 此に又大なる翼多くの羽ある一箇の大驚ありしがその葡萄樹根をこれにむかひて張り枝をこれにむかひて伸べ之をしてその植りたる地の外より水を灌がしめんとす 8 抑是を善き圃に多くの水の旁に植たるは根を張り實をむすびて盛なる葡萄樹とならしめんためなりき 9 なんぢ主エホバかく言ふといふべし是旺盛になるや驚その根を抜きその果を絶ちて之を枯しめざらんや其芽の若葉は皆枯ん之を根より擧るには強き腕と多くの人を用ふるにおよぼざるなり 10 是は樹られたれども旺盛にならんや東風これに當らば枯果ざらんや是の生たるところの地に枯べし 11 エホバの言また我にのぞみて言ふ 12 背ける家に言ふべし汝等此の何たるを知ざるかと又言へ視よバビロンの王エルサレムに來りその王とその牧伯等を執へてこれをバビロンに曳ゆけり 13 彼また王の族の一人を取てこれと契約を立て誓言をなさしめ又國の強き者等を執へゆけり 14 是の國を卑くして自ら立つことを得ざらしめその人をして契約を守りてこれを堅うせしめんがためなりき 15 然るに彼これに背きて使者をエジプトに遣し馬と多くの人を己におくらしめんとせり彼旺盛にならんや是を爲る者逃るることをえんや彼の契約をやぶりたり争で逃るることを得んや 16 主エホバいひたまふ我は活く必ず彼は己を王となしたる彼王の處に偕にをりてバビロンに死べし彼その王の誓言を輕んじ其契約を破りたるなり 17 夫壘を築き雲梯を建てて衆多の人を殺さんとする時にはパロ大な

る軍勢と衆多の人をもて彼のために戦争をなさじ 18
彼は誓言を軽んじて契約を破る彼手を與へて却て此
等の事をなしたれば逃るることを得ざるべし 19 故に
主エホバかく言たまふ我は活く彼が私の誓言を軽ん
じ私の契約をやぶりたる事を必ずかれの首にむくい
ん 20 我わが網をかれの上にうちかけ彼をわが羅にと
らへてバビロンに曳ゆき彼が私にむかひて爲しとこ
ろの叛逆につきて彼を鞫くべし 21 彼の諸の軍隊の逃
脱者は皆刀に仆れ生残れる者は八方に散さるべし汝
等は我エホバがこれを言しなるを知にいたらん 22 主
エホバかく言たまふ我高き香柏の梢の一を取てこれ
を樹ゑその芽の巔より若芽を摘みとりて之を高き勝
れたる山に樹べし 23 イスラエルの高山に我これを植
ん是は枝を生じ果をむすびて榮華なる香柏となり諸
の類の鳥皆その下に棲ひその枝の蔭に住はん 24 是に
於て野の樹みな我エホバが高き樹を卑くし卑き樹を
高くし緑なる樹を枯しめ枯木を緑ならしめしことを
知ん我エホバこれを言ひ之を爲なり

18 エホバの言また我にのぞみて言ふ 2 汝等なんぞ
イスラエルの地に於て此諺語を用ひ父等酸き葡萄を
食ひたれば子等の齒齷くと言ふや 3 主エホバいふ我
は生く汝等ふたたびイスラエルに於てこの諺語をも
ちふることなかるべし 4 夫凡の靈魂は我に屬す父の
靈魂も子の靈魂も我に屬するなり罪を犯せる靈魂は
死べし 5 若人正義して公道と公義を行ひ 6 山の上に
食をなさず目をあげてイスラエルの家の偶像を仰が
ず人の妻を犯さず穢れたる婦女に近づかず 7 何人をも
虐げず質物を還し物を奪はずその食物を饑る者に
與へ裸なる者に衣を着せ 8 利を取て貸さず息を取ず

手をひきて悪を行はず眞實の判断を人と人の間になし 9 わが法憲にあゆみ又吾が律例を守りて眞實をおこなはば是義者なり彼は生べし主エホバこれを言ふ 10 然ど彼子を生んにその子暴き者にして人の血をながし是の如き事の一箇を行ひ 11 是をば凡て行はずして山の上に食をなし人の妻を犯し 12 悩める者と貧しき者を虐げ物を奪ひ質物を還さず目をあげて偶像を仰ぎ憎むべき事をおこなひ 13 利をとりて貸し息を取ば彼は生べきや彼は生べからず彼この諸の憎むべき事をなしたれば必ず死べしその血はかれに歸せん 14 又子生れんに其子父のなせる諸の罪を視しかども視て斯有ことを行はず 15 山の上に食をなさず目をあげてイスラエルの家の偶像を仰がず人の妻を犯さず 16 何人をも虐げず質物を存留めず物を奪はず饑る者にその食物を與へ裸なる者に衣を着せ 17 その手をひきて悩める者を苦めず利と息を取らずわが律法を行ひわが法度に歩まば彼はその父の悪のために死ことあらし必ず生べし 18 その父は甚だしく人を掠めその兄弟を痛く虐げその民の中に善らぬ事をなしたるに由てその悪のために死べし 19 しかるに汝等は子なんぞ父の悪を負ざるやと言ふ夫子は律法と公義を行ひわが凡ての法度を守りてこれを行ひたれば必ず生べし 20 罪を犯せる靈魂は死べし子は父の悪を負ず父は子の悪を負ざるなり義人の義はその人に歸し悪人の悪はその人に歸すべし 21 然ど悪人もしその凡て行ひしところの悪を離れわが諸の法度を守り律法と公義を行ひなばかならず生ん死ざるべし 22 その爲しところの咎は皆記念られざるべしその爲し義き事のために彼は生べし 23 主エホバ言たまふ我争で悪人の死を好ま

んや寧彼がその道を離れて生んことを好まざらんや
24 若義人その義をはなれて悪を行ひ悪人の爲る諸の
憎むべき事をなさば生べきや其なせし義き事は皆記
念られざるべし彼はその爲る咎とその犯せる罪との
ために死べし 25 然るに汝等主の道は正しからずと言
ふ然ばイスラエルの家よ聽け吾道正しからざるやそ
の正しからざる者は汝らの道にあらずや 26 若義人そ
の義をはなれて悪を爲し其がために死ることあらば
はその爲る悪のために死るなり 27 若悪人その爲る悪
をはなれて律法と公義を行はばその靈魂を生しむる
ことをえん 28 彼もし視てその行ひし諸の咎を離れな
ば必ず生ん死ざるべし 29 然るにイスラエルの家は主
の道は正しからずといふイスラエルの家よわが道正
しからざるやその正しからざる者は汝らの道にあら
ずや 30 主エホバいひ給ふ是故に我汝らをば各その道
にしたがひて審くべし汝らその諸の咎を悔改めよ然
らば惡汝らを躓かせて滅ぼすことなかるべし 31 汝等
その行ひし諸の罪を棄去り新しき心と新しき靈魂を
起すべしイスラエルの家よ汝らなんぞ死べけんや 32
我は死者の死を好まざるなり然ば汝ら悔て生よ主エ
ホバこれを言ふ

19 汝イスラエルの君等のために哀の詞をのべて 2
言ふべし汝の母なる牝獅は何故に牡獅の中に伏し小
獅の中にその子を養ふや 3 彼その一の子を育てたれ
ば小獅となりて食を攫ことを學ひ遂に人を食へり 4
國々の人これの事を聞きこれを陷阱にて執へ鼻環を
ほどこしてこれをエジプトの地にひきいたれり 5 牝
獅姑く待しがその望を失ひしを見たれば又一个の子
を取てこれを小獅とならしむ 6 是すなはち牝獅の中

に歩みて小獅となり食を攫ことを學ひしが亦人を食ひ 7 其寡婦をしりその邑々を滅せりその咆哮聲によりてその地とその中に盈る者荒たり 8 是をもて四方の國人その國々より攻來り網をこれにうちかけ陷阱にてこれを執へ 9 鼻環をほどこして籠にいれ之をバピロンの王の許に曳いたりて城の中に携へ入れ其聲を再びイスラエルの山々に聞えざらしむ 10 汝の母は汝の血にして水の側に植たる葡萄樹のごとし水の多きがために結實多く蔓はびこれり 11 是に強き枝ありて君王等の杖となすべし是の長は雲に至りその衆多の枝のために高く聳えて見へたり 12 然るに是怒をもて抜れて地に擲たる東風その實を吹乾かしその強き枝は折れて枯れ火に焚る 13 今これは荒野にて乾ける水なき地に植りてあり 14 その枝の芽より火いでてその果を焼けば復強き枝の君王等の杖となるべき者其になし是哀の詞なり哀の詞となるべし

20 七年の五月十日にイスラエルの長老の中の人々エホバに問んとて來りてわが前に坐しけるに 2 エホバの言我にのぞみて云ふ 3 人の子よイスラエルの長老等に告て之にいふべし主エホバかく言ふ汝等我に問んとて來れるや主エホバいふ我は活く我汝らの間を容じと 4 汝かれらを鞫かんとするや人の子よ汝かれらを鞫かんとするや彼等の先祖等のなしたる憎むべき事等をかれらに知しめて 5 言べし主エホバかくいふ我イスラエルを選びヤコブの家の裔にむかひてわが手をあげエジプトの地にて我をかれらに知せかれらにむかひて吾手をあげて我は汝らの神エホバなりと言し日 6 その日に我かれらにむかひて吾手をあげエジプトの地よりかれらをいだし吾がかれらのた

めに求め得たるその乳と蜜の流るる地に導かんとせり是諸の地の中の美しき者なり 7 而して我かれらに言けらく各人その目にあるところの憎むべき事等を棄てよエジプトの偶像をもてその身を汚すなかれ我は汝らの神エホバなりと 8 然るに彼らは我に背きて我に聴したがふことを好まざりき彼等一人もその目にあるところの憎むべき者を棄てずエジプトの偶像を棄てざりしかば我エジプトの地の中において吾憤恨をかれらに注ぎわが忿怒をかれらに洩さんと言ひ 9 然れども我わが名のために事をなして彼らをエジプトの地より導きいだせり是吾名の異邦人等の前に汚されざらんためなりその異邦人等の中に彼等居り又その前にて我おのれを彼等に知せたり 10 すなはち我エジプトの地より彼等を導き出して曠野に携ゆき 11 わが法憲をこれに授けわが律法をこれに示せり是は人の行ひて之に由て生べき者なり 12 我また彼らに安息日を與へて我と彼らの間の徴となしかれらをして吾エホバが彼らを聖別しを知しめんとせり 13 然るにイスラエルの家は曠野にて我に背き人の行ひて之によりて生べき者なるわが法度にあゆまず吾が律法を輕んじ大に吾が安息日を汚したれば曠野にてわが憤恨をかれらに注ぎてこれを滅さんと言ひたりしが 14 我わが名のために事をなせり是わが彼らを導きいだして見せしところの異邦人等の目のまへにわが名を汚されざらしめんためなりき 15 但し我曠野にて彼らにむかひて吾手をあげ彼らをわが與へしその乳と蜜の流るる地に導かじと誓へり是は諸の地の中の美しき者なり 16 是かれら心にその偶像を慕ひてわが律法を輕んじ棄てわが法憲にあゆまずわが安息日を汚し

たればなり 17 然りといへども吾かれらを惜み見てかれらを滅ぼさず曠野にて彼らを絶さざりき 18 我曠野にてかれらの子等に語り汝らの父の法度にあゆむなかれ汝らの律法を守るなかれ汝らの偶像をもて汝らの身を汚すなかれ 19 我は汝らの神エホバなり吾法度にあゆみ吾律法を守りてこれを行ひ 20 わが安息日を聖くせよ是は我と汝らの間の徴となりて汝らをして我が汝らの神エホバなるを知しめんと 21 然るにその子等我にそむき人の行ひてこれによりて活べき者なるわが法度にあゆまず吾律法をまもりて之をおこなはずわが安息日を汚したれば我わが憤恨を彼らにそそぎ曠野にてわが忿怒をかれらに洩さんと言たりしが 22 吾手を翻してわが名のために事をなせり是わが彼らを導き出して見せしところの異邦人等の目のまへにわが名を汚されざらしめんためなりき 23 但し我汝らを國々に散し處々に撒んと曠野にてかれらにむかひて我手を擧たり 24 是かれらわが律法を行はずわが法度を輕じわが安息日をけがしその父の偶像を目に慕ひたればなり 25 我かれらに善らぬ法度を與へかれらが由て活べからざる律法を與へ 26 彼らをしてその禮物によりて己の身を汚さしむ即ちかれらその長子をして火の中を通過しめたり是は我彼らを滅し彼らをして我のエホバなるを知しめんためなり 27 然ば人の子よイスラエルの家につげて之にいふべし主エホバかくいひたまふ彼らの父等は更にまた不忠の罪ををかし我を瀆せり 28 我わが彼らに與へんと手をあげし此地にかれらを導きいれしに彼ら諸の高丘と諸の茂樹を尋ね得てその犠牲を其處に供へその憤らしき禮物をそこに獻げその馨しき佳氣をそこに奉つり

その神酒をそこに灌げり 29 我かれらに言り汝らが往
ところの崇き處は何なるやと其名は今日にいたるま
でバマと言ふなり 30 この故にイスラエルの家に言ふ
べし主エホバかくいひたまふ汝らの先祖の途をもて
汝らはその身を汚し彼等の憎むべき物をしたひてこ
れと姦淫を行ふにあらずや 31 汝等はその禮物を獻げ
その子女に火の中を通らしめて今日にいたるまで汝
らの諸の偶像をもてその身を汚すなり然ばイスラエ
ルの家よ我なんぢらの間を容るべけんや主エホバい
ふ我は活く我は汝らの間を容ざるなり 32 汝ら我儕は
木と石に事へて異邦人の如くなり國々の宗族のごと
くならんと言ば汝らの心に起るところの事は必ず成
ざるべし 33 主エホバいふ我は生く我かならず強き手
と伸たる腕をもて怒を注ぎて汝らを治めん 34 我強き
手と伸たる腕をもて怒を注ぎて汝らを國々より曳い
だし汝らが散れたる處々より汝らを集め 35 國々の曠
野に汝らを導き其處にて面をあはせて汝らを鞫かん
36 主エホバいふ我エジプトの曠野にて汝らの先祖等
を鞫しごとくに汝らを鞫くべし 37 我なんぢらをし
て杖の下を通らしめ契約の索に汝らを入しめ 38 汝ら
の中より背ける者および我に悖れる者を別たんその
寓れる地より我かれらをいだすべし彼らはイスラエ
ルの地に來らざるべし汝らすなはち我のエホバなる
を知ん 39 然ばイスラエルの家よ主エホバかくいふ汝
等おのおの往てその偶像に事へよ然ど後には汝らか
ならず我に聽て重てその禮物と偶像をもてわが名を
汚さざるべし 40 主エホバいふ吾が聖山の上イスラエ
ルの高山の上にてイスラエルの全家その地の者皆我
に事へん其處にて我かれらを悦びて受納ん其處にて

我なんぢらの獻物および初成の禮物すべて汝らが聖別たる者を求むべし 41 我汝らを國々より導き出し汝らが散されたる處々より汝らを集むる時馨しき香氣のごとくに汝らを悦びて受納れ汝らによりて異邦人等の目のまへに我の聖ことをあらはすべし 42 我が汝らをイスラエルの地すなはちわが汝らの先祖等にあたへんと手をあげしところの地にいたらしめん時に汝等は我のエホバなるを知るにいたらん 43 汝らは其身を汚したるところの汝らの途と汝らのもろもろの行爲を彼處にて憶え其なしたる諸の惡き作爲のために自ら恨み視ん 44 イスラエルの家よ我汝らの惡き途によらず汝らの邪なる作爲によらずして吾名のために汝等を待はん時に汝らは我のエホバなるを知るにいたらん主エホバこれを言ふなり 45 エホバの言また我にのぞみて言ふ 46 人の子よ汝の面を南方に向け南にむかひて言を垂れ南の野の森の事を預言せよ 47 すなはち南の森に言ふべしエホバの言を聽け主エホバかく言ふ視よ我なんぢの中に火を燃さん是なんぢの中の諸の青樹と諸の枯木を焚べしその烈しき火焰消ることなし南より北まで諸の面これがために焼ん 48 肉ある者みな我エホバのこれを焼しなるを見ん是は消ざるべし 49 我是において言り嗚呼主エホバよ人われを指て言ふ彼は譬言をもて語るにあらずやと

21 エホバの言われにのぞみて言ふ 2 人の子よ汝の面をエルサレムに向け聖き處々にむかひて言を垂れイスラエルの地にむかひて預言し 3 イスラエルの地に言ふべしエホバかく言ふ視よ我汝を責め吾刀を鞘より拔はなし義者と惡者とを汝の中より絶ん 4 我義者と惡者とを汝の中より絶んとすればわが刀鞘より

脱出て南より北までの凡て肉ある者を責ん 5 肉ある者みな我エホバのその刀を鞘より抜はなちしを知らん是は歸りをさまらざるべし 6 人の子よ腰の碎くるまでに歎き彼らの目のまへにて痛く歎け 7 人汝に何て歎くやと言ば汝言べし來るところの風聞のためなり心みな鎔け手みな痿え魂みな弱り膝みな水とならん視よ事いたれりかならず成ん主エホバこれを言ふ 8 エホバの言我にのぞみて言ふ 9 人の子よ預言して言ふべしエホバかく言ふ劍あり研ぎ且磨きたる劍あり 10 是は大に殺す事をなさんがために研てあり光り閃かんがために磨きてあり我子の杖は萬の樹を藐視ずとて我等喜ぶべけんや 11 是を手に執んために與へて磨かしむ是劍は殺す者の手に付さんために之を研かつ磨かしむるなり 12 人の子よ叫び哭け其は是わが民の上に臨みイスラエルの諸の牧伯等の上に臨めばなり彼らはわが民とともに劍に仆る故に汝腿を撃べし 13 その試すでに成る若かの藐視ずるところの杖きたらずば如何ぞや主エホバこれを言ふ 14 人の子よ汝預言し手を拍べし劍人を刺透すところの劍三倍に働かん是は人を刺透し大なる者を殺すところの劍にして彼らを責る者なり 15 彼らの心を鎔し礙く物を増んがために我拔身の劍をその諸の門に立つ嗚呼是は光ひらめき脱いでて人を殺さんとす 16 汝合して右に向へ進んで左に向へ汝の刃の向ふところに隨へ 17 我また吾手を拍ちわが怒を静めん我エホバこれを言ふなり 18 エホバの言また我にのぞみて言ふ 19 人の子よバビロンの王の劍の由て來るべき二の途を設けよ其二の途を一の國より出しめて道標の記號を畫き邑の途の首處にこれを畫くべし 20 汝またアンモンの子孫のラ

バとユダの堅き城の邑エルサレムとに劍のきたるべき途を設けよ **21** バビロンの王その道の首處その途の岐處に止りて占トをなし箭を揺りテラピムに問ひ肝を察べをるなり **22** 彼の右にエルサレムといふ占トいづ云く破城槌を備へ口をひらきて喊き殺し聲をあげて呐喊を作り門にむかひて破城槌を備へ壘をきづき雲梯を建べしと **23** 是はかれらの目には虚偽の占考と見ゆ聖き誓言かれらに在ばなり然れども彼罪を憶ひおこさしむ即ちかれらは取るべし **24** 是故に主エホバかく言ふ汝ら既にその罪を憶おこさしめて汝らの愆著明になりたれば汝らの罪その諸の行爲に顯る汝ら既に憶いださるれば必ず手に執へらるべし **25** 汝刺透さるる者罪人イスラエルの君主よ汝の罪その終を來らしめて汝の罰せらるる日至る **26** 主エホバかく言ふ冕旒を去り冠冕を除き離せ是は是ならざるべし卑き者は高くせられ高き者は卑くせられん **27** 我顛覆をなし顛覆を爲ん權威を持べき者の來る時まで是は有ことなし彼に我之を與ふ **28** 人の子よ汝預言して言べし主エホバ、アンモンの子孫とその嘲笑につきて斯言ふと即ち汝言べし劍あり劍あり是殺すことのために拔てあり滅すことのために磨きありて光ひらめくなり **29** 人なんぢに虚淨を預言し汝に假偽の占考を示して汝をその殺さるる悪人の頸の上に置んとす彼らの罪その終を來らしめて彼らの罰せらるる日いたる **30** これをその鞞にかへし納めよ汝の造られし處なんぢの生れし地にて我汝を鞞き **31** わが怒を汝に斟ぎ吾憤恨の火を汝にむかひて燃し狂暴人滅すことに巧なる者の手に汝を付すべし **32** 汝は火の薪とな

り汝の血は國の中にあらん汝は重ねて憶えらるること
となかるべし我エホバこれを言ばなり

22 エホバの言われに臨みて言ふ **2** 人の子よ汝鞫かんとするや此血を流すところの邑を鞫かんとするや
汝これにその諸の憎むべき事を示して **3** 言へ主エホバかく言ふ己の中に血を流してその罰せらるる時を
來らせ己の中に偶像を作りてその身を汚すところの
邑よ **4** 汝はその流せる血によりて罪を得その作れる
偶像をもて身を汚し汝の日を近づかせすでに汝の年
にいたれり是故に我汝を國々の嘲とならしめ萬國の
笑とならしむべし **5** 汝に近き者も遠き者も汝が名の
汚れたると混亂の多きとを笑はん **6** 視よイスラエルの
君等各その力にしたがひて血を流さんと汝の中に
をる **7** 彼ら汝の中にて父母を賤め汝の中にて他國の
人を虐げ汝の中にて孤兒と寡婦を悩ますなり **8** 汝わ
が聖き物を賤めわが安息日を汚す **9** 人を譖づる者血
を流さんと汝の中にあり人汝の中にて山の上に食を
なし汝の中にて邪淫をおこなひ **10** 汝の中にてその父
の妻に交り汝の中にて月經のさほりに穢れたる婦女
を犯す **11** 又汝の中にその鄰の妻と憎むべき事をおこ
なふものあり邪淫をおこなひてその嫁を犯すものあり
その父の女なる己の姉妹を犯すものあり **12** 人汝の
中にて賄賂をうけて血を流すことをなすなり汝は利
と息を取り汝の隣の物を掠め取り又我を忘る主エホ
バこれを言ふ **13** 見よ我汝が掠めとる事をなし且血を
汝の中に流すによりて我手を拍つ **14** 我が汝を攻る日
には汝の心堅く立ち汝の手強くあることを得んや我
エホバこれを言ひこれをなすなり **15** 我汝を異邦の中
に散し國々の中に播き全く汝の汚穢を取のぞくべし

16 汝は己の故によりて異邦人の目に汚れたる者と見えん而して汝我のエホバなるを知べし 17 エホバの言また我にのぞみて言ふ 18 人の子よイスラエルの家は我に渣滓のごとくなれり彼等は凡て爐の中の銅錫鐵鉛のごとし彼らは銀の渣滓のごとく成れり 19 此故に主エホバかく言ふ汝らは皆渣滓となりたれば視よ我なんぢらをエルサレムの中に集む 20 人の銀銅鐵鉛錫を爐の中に集め火を吹かけて鎔すが如く我怒と憤をもて汝らを集め入て鎔すべし 21 即ち我汝らを集め吾怒の火を汝らに吹かけん汝らはその中に鎔ん 22 銀の爐の中に鎔るがごとくに汝らはその中に鎔け我エホバが怒を汝らに斟ぎしを知にいたらん 23 エホバの言われに臨みて言ふ 24 人の子よ是に言ふべし汝は怒の日に日も照らず雨もふらざる地なり 25 預言者等の徒黨その中にありその食を撕くところの吼ゆる獅子のごとくに彼らは靈魂を呑み財寶と貴き物を取り寡婦をその中に多くす 26 その祭司等はわが法を犯しわが聖き物を汚し聖きと聖からざるとの區別をなさず潔きと穢たるとの差別を教へずその目を掩ひてわが安息日を顧みず我はかれらの中に汚さる 27 その中にある公伯等は食を撕くところの豺狼のごとくにして血をながし靈魂を滅し物を掠めとらんとす 28 その預言者等は灰砂をもて是等を塗り虚浮物を見偽の占トを人になしエホバの告あらざるに主エホバかく言たまふと言ふなり 29 國の民は暴虐をおこなひ奪ふ事をなし難める者と貧き者を掠め道に反きて他國の人を虐ぐ 30 我一箇の人の國のために石垣を築き我前にあたりてその破壊處に立ち我をして之を滅さしめざるべき者を彼等の中に尋れども得ざるなり 31 主エホバ

ふ是故に我わが怒を彼らに斟ぎわが憤の火をもて彼ら
を滅し彼らの行爲をその首に報ゆ

23 エホバの言われに臨みて言ふ **2** 人の子よ爰に二人の婦女あり一人の母の女子なり **3** 彼等エジプトにおいて淫を行ひその少き時に淫を行へり即ち彼處において人かれらの乳を拈り彼處においてその處女の乳房に觸る **4** その名は姉はアホラ妹はアホリバと云ふ彼ら我に歸して男子女子を生り彼らの本名はアホラはサマリヤと言ひアホリバはエルサレムと云ふなり **5** アホラは我有たる間に淫を行ひてその戀人等に焦れたり是すなはちその隣なるアッスリヤ人にして **6** 紫の衣を着る者牧伯たる者督宰たる者なり是等は皆美麗き秀でたる人馬に乗る者なり **7** 彼凡てアッスリヤの秀でたる者と淫を行ひ且その焦れたる諸の者すなはちその諸の偶像をもてその身を汚せり **8** 彼またエジプトよりの淫行を捨ざりき即ち彼の少き時に彼ら彼と寝ねその處女の乳房にさはりその淫慾を彼の身の上に洩せり **9** 是故に我彼をその戀人の手に付しその焦れたるアッスリヤの子孫の手に付せり **10** 是に於て彼等かれの陰所を露しその子女を奪ひ劍をもて彼を殺して婦人の中にその名を聞えしめその身の上に鞫を行へり **11** 彼の妹アホリバこれを見彼よりも甚だしくその慾を縦恣にしその姉の淫行よりもましたる淫行をなし **12** その隣なるアッスリヤの人々に戀焦れたり彼らはすなはち牧伯たる者 督宰たる者 華美に粧ひたる者 馬に騎る者にして皆美しき秀でたる者なり **13** 我かれがその身を汚せしを見たり彼らは共に一の途をあゆめり **14** 彼その淫行を増り彼壁に彫つけたる人々を見たり是すなはち朱をもて壁に彫つけたる

カルデヤ人の像にして 15 腰には帯を結び首には垂さがれる帨巾を戴けり是等は皆君王たる者の形ありてその生れたる國なるカルデヤのバビロン人に似たり 16 彼その目に是等を見てこれに戀焦れ使者をカルデヤにおくりて之にいたらしむ 17 是に於てバビロンの人々彼の許にきたりて戀の床に就きその淫行をもて彼を汚したりしが彼らにその身を汚さるるにおよびて彼その心にかれらを疎んず 18 彼その淫行を露しその陰所を顯したれば我心彼を疎んず吾心かれの姉を疎んじたるがごとし 19 彼その淫行を増しその少き日にエジプトに於て淫をおこなひし事を憶え 20 彼らの戀人に焦るその人の肉は驢馬の肉のごとく其精は馬の精のごとし 21 汝は己の少き時にエジプト人が汝の處女の乳房のために汝の乳にさはりたる時の淫行を顧みるなり 22 この故に主エホバかく言ふアホリバよ我汝が心に疎んずるに至りしところの戀人等を激して汝を攻しめ彼らをして四方より汝に攻きたらしむべし 23 即ちバビロンの人々およびカルデヤの諸の人々ペコデ、シヨワ、コア並にアツスリヤの諸の人々美しき秀でたる人々牧伯等および督宰等 大君および名高き人 凡て馬に騎る者 24 鋒車および輪を持ち衆多の民をひきゐて汝に攻め來り大楯小楯および兜をそなへて四方より汝に攻かからん我裁判をかれらに委ぬべし彼らすなはち其律法によりて汝を鞫かん 25 我汝にむかひてわが嫉妬を發すれば彼ら怒をもて汝を待ひ汝の鼻と耳を切とるべし汝のうちの存れる者は劍に仆れん彼ら汝の子女を奪ふべし汝の中の残れる者は火に焼ん 26 彼ら汝の衣を剥脱り汝の美しき妝飾を取べし 27 我汝の淫行を除き汝がエジプトの地よ

り行ひ來れるところの邪淫を除き汝をして重て彼らに目をつけざらしめ再びエジプトの事を憶はざらしめん 28 主エホバかく言ふ視よ我汝が悪む者の手汝が心に疎ざる者の手に汝を付せば 29 彼ら怨憎をもて汝を待ひ汝の得たる物を盡く取り汝を赤裸に成おくべし是をもて汝が淫をおこなへる陰所露にならん汝の淫行と邪淫もしかり 30 汝異邦人を慕ひて淫をおこなひ彼らの偶像をもて身を汚したるに由て是等の事汝におよぶなり 31 汝その姉の途に歩みたれば我かれの杯を汝の手に交す 32 主エホバかく言ふ汝その姉の深き大なる杯を飲べし是は笑と嘲を充す者なり 33 酔と憂汝に満ちん汝の姉サマリヤの杯は駭異と滅亡の杯なり 34 汝これを飲み乾しこれを吸つくしその碎片を咬み汝の乳房を摘去ん我これを言ふと主エホバ言ふ 35 然ば主エホバかく言ふ汝我を忘れ我を後に棄たれば汝またその淫行と邪淫の罪を負べし 36 斯てエホバ我にいひたまふ人の子よ汝アホラとアホリバを鞫かんとするや然らば彼らにその憎むべき事等を示せ 37 夫彼らは姦淫をおこなへり又血その手にあり彼らその偶像と姦淫をおこなひ又その我に生たる男子等に火の中をとほらしめてこれを焼り 38 加之また是をなせり即ち彼ら同日にわが聖處を汚しわが安息日を犯せり 39 彼らその偶像のために男子等を宰りしその日にわが聖處に來りてこれを汚し斯わが家の中に事をなせり 40 且又彼らは使者をやりて遠方より人を招きて至らしむ其人々のために汝身を洗ひ目を畫き妝飾を着け 41 華美なる床に坐し臺盤をその前に備へその上にわが香とわが膏を置り 42 斯て群衆の喧噪その中に靜りしがその多衆の人々の上にまた曠野よりサバ

人を招き寄たり彼らは手に腕環をはめ首に美しき冠を戴けり 43 我かの姦淫のために衰弱たる女の事を云り今は早彼の姦淫その姦淫をなしをはらんかと 44 彼らは遊女の所にいるごとくに彼の所に入たり斯かれらすなはち淫婦アホラとアホリバの所に入ぬ 45 義人等姦婦の律法に照し故殺の律法に照して彼らを鞫かん彼らは姦婦にしてまたその手に血あればなり 46 主エホバかく言ふ我群衆を彼等に攻きたらしめ彼らを是に付して虐と掠にあはしめん 47 群衆かれらを石にて撃ち劍をもて斬りその子女を殺し火をもてその家を焼べし 48 斯我この地に邪淫を絶さん婦女みな自ら警めて汝らのごとくに邪淫をおこなはざるべし 49 彼ら汝らの邪淫の罪を汝らに報いん汝らはその偶像の罪を負ひ而して我の主エホバなるを知にいたるべし

24 九年の十月十日にエホバの言我にのぞみて言ふ 2 人の子よ汝此日すなはち今日の名を書せバビロンの王今日エルサレムを攻をるなり 3 汝背ける家に譬喩をかたりて之に言へ主エホバかく言たまふ釜を居ゑ居ゑてこれに水を斟いれ 4 其肉の凡て佳き所を集めて股と肩とを之に入れ佳き骨をこれに充し 5 羊の選擇者を取れ亦薪一束を取り下に入れて骨を煮釜を善く煮たて亦その中の骨を煮よ 6 是故に主エホバかく言ふ禍なるかな血の流るる邑錆のつきたる釜 その錆これを離れざるなり肉を一箇一箇に取いだせ之がために籤を掣べからず 7 彼の血はその中にあり彼乾ける磐の上にこれを置りこれを土にそそぎて塵に覆はれしめず 8 我怒を來らせ仇を復さんがためにその血を乾ける磐の上に置り塵に覆はれざらしめたり 9 是故に主エホバかく言ふ禍なるかな血の流るる邑我ま

たその薪の束を大にすべし 10 薪を積かさね火を燃し
肉を善く煮てこれを煮つくしその骨をも焼しむべし
11 而して釜を空にして炭火の上に置きその銅をして
熱くなりて焼しめ其汚穢をして中に鎔しめその銹を
去しむべし 12 既に手を盡したれどもその大なる銹さ
らざればその銹を火に投棄べし 13 汝の汚穢の中に淫
行あり我汝を淨めんとしたれども汝淨まらざりしに
因てわが怒を汝に洩しつくすまでは汝その汚穢をは
なれて淨まることあらじ 14 我エホバこれを言ひ是至
る我これを爲べし止ず惜まず悔ざるなり汝の道にし
たがひ汝の行爲にしたがひて彼ら汝を鞫かん主エホ
バこれを言ふ 15 エホバの言われに臨みて言ふ 16 人
の子よ我頓死をもて汝の目の喜ぶ者を取去ん汝哀か
ず泣ず涙をながすべからず 17 聲をたてずして哀け死
人のために哀哭をなすなかれ冠物を戴き足に鞋を穿
べし鬚を掩ふなかれ人のおくれる食物を食ふべから
ず 18 朝に我人々に語りしが夕にわが妻死ねり明朝に
およびて我命ぜられしごとくなせり 19 茲に人々我に
言けるは此汝がなすところの事は何の意なるや我ら
に告ざるや 20 我かれらに言けるはエホバの言我にの
ぞみて言ふ 21 イスラエルの家にいふべし主エホバか
く言ふ視よ我汝らの勢力の榮汝らの目の喜愛汝らの
心の望なるわが聖所を汚さん汝らが遺すところの子
女等は劍に仆れん 22 汝らもわが爲るごとくなし鬚を
覆はず人のおくれる食物を食はず 23 首に冠物を戴き
足に履を穿き哀かず泣ずその罪の中に瘦衰へて互に
呻かん 24 斯エゼキエル汝らに兆とならん彼がなした
るごとく汝ら爲ん是事の至らん時に汝ら我の主エホ
バなるを知べし 25 人の子よわが彼らの力かれらの樂

むところの榮その目の喜愛その心の望その子女を取
去る日 26 その日に逃亡者汝の許に來り汝の耳に告る
ことあらん 27 その日に汝逃亡者にむかひて口を啓き
語りて再び黙せざらん斯汝かれらに兆となるべし彼
らは遂に我のエホバなるを知ん

25 エホバの言我に臨みて言ふ 2 人の子よ汝の面を
アンモンの人々に向けこれに向ひて預言し 3 アンモ
ンの人々に言べし汝ら主エホバの言を聽け主エホバ
かく言ひたまふ汝わが聖處の汚さるる事につきイス
ラエルの地の荒さるる事につき又ユダの家の擄へ移
さるることにつきて嗚呼心地善しと語り 4 是故に視
よ我汝を東方の人々に付して所有と爲さしめん彼等
汝の中に畜圈を設け汝の中にその住宅を建て汝の作
物を食ひ汝の乳を飲ん 5 ラバをば我駱駝を豢ふ地と
なしアンモンの人々の地をば羊の臥す所となすべし
汝ら我のエホバなるを知にいたらん 6 主エホバかく
言たまふ汝イスラエルの地の事を見て手を拍ち足を
踏み傲慢を極めて心に喜べり 7 是故に視よ我わが手
を汝に伸べ汝を國々に付して掠奪に遭しめ汝を國民
の中より絶ち諸國に斷し滅すべし汝我のエホバなる
を知るにいたらん 8 主エホバかく言たまふモアブと
セイル言ふユダの家は他の諸の國と同じと 9 是故に
我モアブの肩を闢くべし即ちその邑々その最遠の邑
にして國の莊嚴なるベテエシモテ、バアルメオンお
よびキリヤタイムよりこれを闢き 10 之をアンモンの
人々に添て東方の人々に與へその所有となさしめア
ンモンの人々をして國々の中に記憶らるること無し
めん 11 我モアブに鞫を行ふべし彼ら我のエホバなる
を知にいたらん 12 主エホバかく言たまふエドムは怨

恨をふくんでユダの家に事をなし且これに怨を復して大に罪を得たり 13 是故に主エホバかく言たまふ我エドムの上にわが手を伸して其中より人と畜を絶去り之をテマンより荒地となすべしデダンの者は劍に仆れん 14 我わが民イスラエルの手をもてエドムにわが仇を報いん彼らわが怒にしたがひわが憤にしたがひてエドムに行ふべしエドム人すなはち我が仇を復すなるを知ん主エホバこれを言ふ 15 主エホバかく言たまふペリシテ人は怨を含みて事をなし心に傲りて仇を復し舊き恨を懐きて滅すことをなせり 16 是故に主エホバかく言たまふ視よ我ペリシテ人の上に手を伸ベケレテ人を絶ち海邊に遺れる者を滅すべし 17 我怒の罰をもて大なる復仇を彼らに爲ん我仇を彼らに復す時に彼らは我のエホバなるを知べし

26 十一年の月の首の日にエホバの言我にのぞみて言ふ 2 人の子よツロはエルサレムの事につきて言い嗚呼心地よし諸の國民の門破る是我に移るならん我は豊満になるべし彼は荒はてたりと 3 是故に主エホバかく言たまふツロよ我汝を攻め海のその波濤を起すが如く多くの國人を汝に攻きたらしむべし 4 彼らツロの石墻を毀ちその櫓を倒さん我その塵を拂ひ去りて是を乾ける磐と爲べし 5 是は海の中の網を張る處とならん我これを言ばなりと主エホバいひたまふ是は諸の國人に掠めらるべし 6 その野にをる女子等は劍に殺されん彼らすなはち我のエホバなるを知べし 7 主エホバかく言たまふ視よ我王の王なるバビロンの王ネブカデネザルをして馬車騎兵群衆および多くの民を率て北よりツロに攻きたらしむべし 8 野にをる汝の女子等をば彼劍にかけて殺し又汝にむかひ

て雲梯を建て汝にむかひて壘を築き汝にむかひて干
を備へ 9 破城槌を汝の石垣に向けその斧をもて汝の
櫓を打碎かん 10 その衆多の馬の煙塵汝を覆はん彼等
敵れたる城に入るごとくに汝の門々に入來らん時そ
の騎兵と輪と車の聲のために汝の石垣震動べし 11 彼
その馬の蹄をもて汝の諸の衢を踏あらし劍をもて汝
の民を殺さん汝の榮光の柱地に仆るべし 12 彼ら汝の
財寶を奪ひ汝の商貨を掠め汝の石垣を打崩し汝の樂
き館を毀ち汝の石と木と土を水に沈めん 13 我汝の歌
の聲を止めん汝の琴の音は復聞えざるべし 14 我汝を
乾ける磐となさん汝は網を張る處となり再び建こと
なかるべし我エホバこれを言ふと主エホバ言たまふ
15 主エホバ、ツロにかく言たまふ島々汝の仆るる聲
手負の呻吟 および汝の中の殺戮によりて震動ざらん
や 16 海の君主等皆その座を下り朝服を脱ぎ繡ある衣
を去り恐懼を身に纏ひ地に坐し時となく怖れ汝の事
を驚かん 17 彼ら汝の爲に哀の詞を擧て汝に言ふべし
汝海より出たる住處名の高き邑自己もその居民も共
に海に於て勢力ある者その凡の居民に己を恐れしむ
る者よ汝如何にして亡びたるや 18 それ島々は汝の仆
るる日に震ひ海の島々は汝の亡ぶるに驚くなり 19 主
エホバかく言たまふ我汝を荒たる邑となし人の住は
ざる邑々のごとく爲し洋海を沸あがらしめて大水に
汝を掩没しめん時 20 汝を墓に往る者等の所昔時の民
の所に下し汝をして下の國に住しめ古昔よりの墟址
に於て彼の墓に下れる者等とともに居しめ汝の中に
復人の住こと无らしむべし而して我活る人の地に榮
を創造いざさん 21 我汝をもて人の戒懼となすべし汝

は復有ることなし人汝を尋るも終に汝を看ざるべし
主エホバこれを言ふなり

27 エホバの言また我に臨みて言ふ **2** 人の子よ汝ツロのために哀の詞を宣べ **3** ツロに言べし汝海の口に居りて諸の國人の商人となり多衆の島々に通ふ者よ主エホバかく言たまふツロよ汝言ふ我の美は極れりと **4** 汝の國は海の中にあり汝を建る者汝の美を盡せり **5** 人セニルの樅をもて船板を作りレバノンより香柏を取て汝のために檣を作り **6** バシヤンの櫂をもて汝の槳を作りキツテムの島より至れる黄楊に象牙を嵌て汝の坐板を作れり **7** 汝の帆はエジプトより至れる文布にして旗に用ふべし汝の天遮はエリシヤの島より至れる藍と紫の布なり **8** 汝の水手はシドンとアルワデの人なりツロよ汝の中にある賢き者汝の舵師となる **9** ゲバルの老人等およびその賢き者汝の中にをりて汝の漏を繕ひ海の諸の船およびその舟子汝の中にありて汝の貨物を交易す **10** ペルシヤ人ルデ人フテ人汝の軍にありて汝の戦士となる彼等汝の中に干と兜を懸け汝に光輝を與ふ **11** アルワデの人々および汝の軍勢汝の四周の石垣の上にあり勇士等汝の櫓にあり彼等汝の四周の石垣にその楯をかけ汝の美を盡せり **12** その諸の貨物に富るがためにタルシシ汝と商をなし銀 鐵 錫および鉛をもて汝と交易を爲り **13** ヤワン、トバルおよびメセクは汝の商賈にして人の身と銅の器をもて汝と貿易を行ふ **14** トガルマの族馬と騎馬および騾をもて汝と交易し **15** デダンの人々汝と商をなせり衆の島々汝の手にありて交易し象牙と黒檀をもて汝と貿易せり **16** 汝の製造品の多がためにスリア汝と商をなし赤玉 紫貨 繡貨 細布 珊瑚および瑪

璫をもて汝と交易す 17 ユダとイスラエルの地汝に商をなしミンニテの麥と菓子と蜜と油と乳香をもて汝と交易す 18 汝の製造物の多がため諸の貨物の多きがためにダマスコ、ヘルボンの酒と曝毛をもて汝と交易せり 19 ウザルのベダンとヤワン熟鐵をもて汝と交易す肉桂と菖蒲汝の市にあり 20 デダン車の毛氈を汝に商へり 21 アラビヤとケダルの君等とは汝の手に在りて商をなし羔羊と牡羊と牡山羊をもて汝と交易す 22 シバとラアマの商人汝と商をなし諸の貴き香料と諸の寶石と金をもて汝と交易せり 23 ハランとカンネとエデンとシバの商賈とアツスリヤとキルマデ汝と商をなし 24 華美なる物と紫色なる繡の衣服と香柏の箱の綾を盛て紐にて結たる者をもて汝の市にあり 25 タルシシの船汝のために往來して商賈を爲す汝は海の中にありて豊滿にして榮あり 26 水手汝を蕩て大水の中にいたるに海の中にて東風汝を打破る 27 汝の財寶汝の商貨物汝の交易の物汝の舟子汝の舵師汝の漏を繕ふ者汝の貨物を商ふ者汝の中にあるところの凡ての軍人並に汝の中の乗者みな汝の壞るる日に海の中に陥るべし 28 汝の舵師等の叫號の聲にその處々震ふ 29 凡て棹を執る者舟子および凡て海の舵師その船より下りて陸に立ち 30 汝のために聲を擧げて痛く哭き塵を首に蒙り灰の中に輾轉び 31 汝のために髪を剃り麻布を纏ひ汝のために心を痛めて泣き甚く哭くべし 32 彼等悲みて汝のために哀の詞を宣べ汝を弔ひて言ふ孰かツロの如くなる海の中に滅びたる者の如くなると 33 汝の商貨の海より出し時は汝衆多の國民を厭しめ汝の衆多の財寶と貨物をもて世の王等を富しめたりしが 34 汝海に壞れて深き水にあらん時は汝

の貨物汝の乗人みな陥らん 35 島々に住る者皆汝に駭かんその君等大に恐れてその面を振はずべし 36 國々の商賈汝のために嘶かん汝は人の戒懼となり限りなく失果ん

28 エホバの言われに臨みて言ふ 2 人の子よツロの君に言ふべし主エホバかく言たまふ汝心に高ぶりて言ふ我は神なり神の座に坐りて海の中にありと汝は人にして神にあらず而して神の心のごとき心を懐くなり 3 夫汝はダニエルよりも賢かり隠れたる事として汝に明ならざるは無し 4 汝の智慧と明哲によりて汝富を獲金銀を汝の庫に收め 5 汝の大なる智慧と汝の貿易をもて汝の富有を増しその富有のために心に高ぶれり 6 是故に主エホバかく言ふ汝神の心のごとき心を懐くに因り 7 視よ我異國人を汝に攻きたらしめん是國々の暴き人々なり彼ら劍を抜きて汝が智慧をもて得たるところの美しき者に向ひ汝の美を汚し 8 汝を穴に投いれん汝は海の中にて殺さる者のごとき死を遂べし 9 汝は人にして神にあらず汝を殺す者の手にあるも尚その己を殺す者の前に我は神なりと言んとするや 10 汝は割禮をうけざる者の死を異國人の手に遂べし我これを言ばなりとエホバ言たまふ 11 エホバの言我にのぞみて言ふ 12 人の子よツロの王のために哀の詞を述べこれに言べし主エホバかく言たまふ汝は全く整へたる者の印智慧の充ち美の極れる者なり 13 汝神の園エデンに在りき諸の寶石 赤玉 黄玉 金剛石 黄緑玉 葱圻 碧玉 青玉 紅玉 瑪瑙および金 汝を覆へり汝の立らるる日に手鼓と笛汝のために備へらる 14 汝は膏そそがれしケルブにして掩ふことを爲り我汝を斯なせしなり汝神の聖山に在り又火の石

の間に歩めり 15 汝はその立られし日より終に汝の中に悪の見ゆるにいたるまでは其行全かりき 16 汝の交易の多きがために汝の中には暴逆満ちて汝罪を犯せり是故に掩ふことを爲ところのケルブよ我神の山より汝を汚し出し火の石の間より汝を滅し去べし 17 汝その美麗のために心に高ぶり其榮耀のために汝の智慧を汚したれば我汝を地に擲ち汝を王等の前に置て觀物とならしむべし 18 汝正しからざる交易をなして犯したる多くの罪を以て汝の聖所を汚したれば我なんぢの中より火を出して汝を焼き凡て汝を見る者の目の前にて汝を地に灰となさん 19 國々の中にて汝を知る者は皆汝に驚かん汝は人の戒懼となり限なく失果てん 20 エホバの言我にのぞみて言ふ 21 人の子よ汝の面をシドンに向けこれに向ひて預言し 22 言べし主エホバかく言たまふシドンよ視よ我汝の敵となる我汝の中において榮耀を得ん我彼らを鞫き我の聖き事を彼らに顯す時彼ら我のエホバなるを知ん 23 われ疫病を是におくりその衢に血あらしめんその四方より是に来るところの劍に殺さるる者その中に仆るべし彼らすなはち我のエホバなるを知ん 24 イスラエルの家にはその周圍にありて之を賤むる者の所より重て惡き荆棘苦き芒薊來ることなし彼らは我の主エホバなるを知にいたらん 25 主エホバかく言ふ我イスラエルの家をその散されたる國々より集めん時彼らに由りて我の聖き事を異國人の目の前にあらはさん彼らはわが僕ヤコブに與へたるその地に住ん 26 彼ら彼處に安然に住み家を建て葡萄園を作らん彼らの周圍にありて彼らを藐視る者を悉く我が鞫かん時彼らは安然に住み我エホバの己の神なるを知らん

29 十年の十月の十二日にエホバの言我にのぞみて
言ふ **2** 人の子よ汝の面をエジプトの王パロにむけ彼
とエジプト全国にむかひて預言し **3** 語りて言べし主
エホバかく言たまふエジプトの王パロよ視よ我汝の
敵となる汝その河に臥すところの鱷よ汝いふ河は我
の所有なり我自己のためにこれを造れりと **4** 我鉤を
汝の腮に鉤け汝の河の魚をして汝の鱗に附しめ汝お
よび汝の鱗に附る諸の魚を汝の河より曳いだし **5** 汝
と汝の河の諸の魚を曠野に投すてん汝は野の面に仆
れん汝を取あぐる者なく集むる者なかるべし我汝を
地の獸と天の鳥の餌に與へん **6** エジプトの人々皆我
のエホバなるを知らん彼等のイスラエルの家における
は葦の杖のごとくなりき **7** イスラエル汝の手を執ば
汝折れてその肩を盡く裂き又汝に倚ば汝破れてその
腰を盡く振へしむ **8** 是故に主エホバかく言ふ視よ我
劍を汝に持きたり人と畜を汝の中より絶ん **9** エジプ
トの地は荒て空曠なるべし彼らすなはち我のエホバ
なるを知らん彼河は我の有なり我これを作れりと言ふ
10 是故に我汝と汝の河々を罰しエジプトの地をミグ
ドルよりスエネに至りエテオピアの境に至るまで盡
く荒して空曠くせん **11** 人の足此を渉らず獸の足此を
渉らじ四十年の間此に人の住ことなかるべし **12** 我エ
ジプトの地を荒して荒たる國々の中にあらしめんそ
の邑々は荒て四十年の間荒たる邑々の中にあるべし
我エジプト人を諸の民の中に散し諸の國に散さん **13**
但し主エホバかく言たまふ四十年の後我エジプト人
をその散されたる諸の民の中より集めん **14** 即ちエジ
プトの俘囚人を歸しその生れし國なるパテロスの地
にかへらしむべし彼らは其處に卑き國を成ん **15** 是は

諸の國よりも卑くして再び國々の上にいづることな
かるべし我かれらを小さくすれば彼らは重て國々を治
むることなし **16** 彼らは再びイスラエルの家の恃とな
らじイスラエルはこれに心をよせてその罪をおもひ
出さしむることなかるべし彼らすなはち我の主エホ
バなるを知ん **17** 茲に二十七年の一月の一日にエホバ
の言我にのぞみて言ふ **18** 人の子よバビロンの王ネブ
カデネザルその軍勢をしてツロにむかひて大に働か
しむ皆首禿げ皆肩破る然るに彼もその軍勢もその爲
るところの事業のためにツロよりその報を得ず **19** 是
故に主エホバかくいふ視よ我バビロンの王ネブカデ
ネザルにエジプトの地を與へん彼その衆多の財寶を
取り物を掠め物を奪はんはその軍勢の報たらん **20** 彼
の労働る値として我エジプトの地をかれに與ふ彼わ
がために之をなしたればなり主エホバこれを言ふ **21**
當日に我イスラエルの家に一の角を生ぜしめ汝をし
て彼らの中に口を啓くことを得せしめん彼等すなは
ち我がエホバなるを知べし

30 エホバの言我にのぞみて言ふ **2** 人の子よ預言し
て言へ主エホバかく言たまふ汝ら叫べ其日は禍なる
かな **3** その日近しエホバの日近し是雲の日これ異邦
人の時なり **4** 劍エジプトに臨まん殺さるる者のエジ
プトに仆る時エテオピアに痛苦あるべし敵その財
寶を奪はんその基址は毀たるべし **5** エテオピア人フ
テ人ルデ人凡て加勢の兵およびクブ人ならびに同盟
の國の人々彼らとともに劍にたふれん **6** エホバかく
言ふエジプトを扶くる者は仆れ其驕るところの勢力
は失せんミグドルよりスエネにいたるまで人劍によ
りて己の中に仆るべし主エホバこれを言なり **7** 其は

荒て荒地の中にあり其邑々は荒たる邑の中にあるべし 8 我火をエジプトに降さん時又是を助くる者の皆ほろびん時は彼等我のエホバなるを知ん 9 その日には使者船にて我より出てかの心強きエテオピア人を懼れしめんエジプトの日にありし如く彼等の中に苦痛あるべし視よ是は至る 10 主エホバかく言たまふ我バビロンの王ネブカデネザルをもてエジプトの喧噪を止むべし 11 彼および彼にしたがふ民即ち國民の中の暴き者を召來りてその國を滅さん彼ら劍をぬきてエジプトを攻めその殺せる者を國に滿すべし 12 我その河々を涸し國を惡き人の手に賣り外國人の手をもて國とその中の物を荒すべし我エホバこれを言り 13 主エホバかく言たまふ我偶像を毀ち神々をノフに絶さんエジプトの國よりは再び君のいづることなかるべし我エジプトの國に畏怖を蒙らしめん 14 我バテロスに荒しゾアンに火を擧げノに鞫を行ひ 15 わが怒をエジプトの要害なるシンに洩しノの群衆を絶つべし 16 我火をエジプトに降さんシンは苦痛に悶えノは打破られノフは日中敵をうけん 17 アベンとピベセテの少者は劍に仆れ其中の人々は擄ゆかれん 18 テバネスに於ては吾がエジプトの軛を其處に摧く時に日暗くならんその誇るところの勢力は失せん雲これを覆はんその女子等は擄へゆかれん 19 かく我エジプトに鞫をおこなはん彼等すなはち我のエホバなるを知べし 20 十一年の一月の七日にエホバの言われに臨みて言ふ 21 人の子よ我エジプトの王パロの腕を折れり是は再び束へて薬を施し裏布を巻て之を裹み強く爲して劍を執にたへしむること能はざるなり 22 是故に主エホバかく言たまふ視よ我エジプトの王パロを罰し其

強き腕と折たる腕とを俱に折り劍をその手より落しむべし 23 我エジプト人を諸の民の中に散し諸の國に散さん 24 而してバビロンの王の腕を強くして我劍をこれに授けん然ど我パロの腕を折れば彼は刺透されたる者の呻くが如くにその前に呻かん 25 我バビロンの王の腕を強くせんパロの腕は弱くならん我わが劍をバビロンの王の手に授けて彼をしてエジプトにむかひて之を伸しむる時は人衆我のエホバなるを知ん 26 我エジプト人を諸の民の中に散し諸の國に散さん 彼らすなはち我のエホバなるを知るべし

31 十一年の三月の一日にエホバの言我に臨みて云ふ 2 人の子よエジプトの王パロとその群衆に言へ汝はその大なること誰に似たるや 3 アツスリヤはレバノンの香柏のごとし其枝美しくして生茂りその丈高くして其巔雲に至る 4 水これを大ならしめ大水これを高からしむ其川々その植れる處を環りその流を野の諸の樹に及ぼせり 5 是によりてその長野の諸の樹よりも高くなりその生長にあたりて多の水のために枝葉茂りその枝長く伸たり 6 その枝葉に空の諸の鳥巢をくひ其枝の下に野の諸の獸子を生子その蔭に諸の國民住ふ 7 是はその大なるとその枝の長きとに由て美しかりき其根多くの水の傍にありたればなり 8 神の園の香柏これを蔽ふことあたはず縦もその枝葉に及ばず槻もその枝に如ず神の園の樹の中その美しき事これに如ものあらざりき 9 我これが枝を多してこれを美しくなせりエデンの樹の神の園にある者皆これを羨めり 10 是故に主エホバかく言ふ汝その長高くなれり是は其巔雲に至りその心高く驕れば 11 我これを萬國の君たる者の手に付さん彼これを處置せん

其惡のために我これを打棄たり **12** 他國人國々の暴き者これを截倒して棄つ其枝葉は山々に谷々に墮ち其枝は碎けて地の諸の谷川にあり地の萬民その蔭を離れてこれを遺つ **13** その倒れたる上に空の諸の鳥止まり其枝の上に野の諸の獸居る **14** 是水の邊の樹その高のために誇ることなくその巔を雲に至らしむることなからんためまた水に濕ふ者の高らかに自ら立ことなからんためなり夫是等は皆死に付されて下の國に入り他の人々の中にあり墓に下る者等と偕なるべし **15** 主エホバかく言たまふ彼が下の國に下れる日に我哀哭あらしめ之がために大水を蓋ひその川々をせきとめたれば大水止まれり我レバノンをして彼のために哭かしめ野の諸の樹をして彼のために瘦衰へしむ (Sheol h7585) **16** 我かれを陰府に投くだして墓に下る者と共ならしむる時に國々をしてその墮る響に震動しめたり又エデンの諸の樹レバノンの勝れたる最美しき者凡て水に濕ふ者皆下の國に於て慰を得たり (Sheol h7585) **17** 彼等も彼とともに陰府に下り劍に刺れたる者の處にいたる是すなはちその助者となりてその蔭に坐し萬國民の中にをりし者なり (Sheol h7585) **18** エデンの樹の中にありて汝は其榮とその大なること孰に似たるや汝は斯エデンの樹とともに下の國に投下され劍に刺透されたる者とともに割禮を受ざる者の中にあるべしパロとその群衆は是のごとし主エホバこれを言ふ

32 茲にまた十二年の十二月の一日にエホバの言我にのぞみて言ふ **2** 人の子よエジプトの王パロのために哀の詞を述て彼に言ふべし汝は自ら萬國の中の獅子に擬へたるが汝は海の鱷の如くなり汝河の中に跳

起き足をもて水を濁しその河々を踏みだす 3 主エホバかく言たまふ我衆多の國民の中にてわが網を汝に打掛け彼らをしてわが網にて汝を引あげしめん 4 而して我汝を地上に投ずて汝を野の面に擲ち空の諸の鳥をして汝の上に止らしめ全地の獸をして汝に飽しむべし 5 我汝の肉を山々に遺て汝の屍を堆くして谷々を埋むべし 6 我汝の溢るる血をもて地を濕し山にまで及ぼさん谷川には汝盈べし 7 我汝を滅する時は空を蔽ひその星を暗くし雲をもて日を掩はん月はその光を發たざるべし 8 我空の照る光明を盡く汝の上に暗くし汝の地を黑暗となすべし主エホバこれを言ふ 9 我なんぢの滅亡を諸の民汝の知ざる國々の中に知しめて衆多の民をして心を傷ましめん 10 我衆多の民をして汝に驚かしめんその王等はわが其前にわれの劍を振ふ時に戰慄かん汝の仆る日には彼ら各人その生命のために絶ず發振ん 11 即ち主エホバかく言たまふバビロンの王の劍汝に臨まん 12 我汝の群衆をして勇士の劍に仆れしめん彼等は皆國々の暴き者なり彼らエジプトの驕傲を絶さん其の群衆は皆ほろぼさるべし 13 我その家畜を盡く多の水の傍より絶去ん人の足再び之を濁すことなく家畜の蹄これを濁すことなかるべし 14 我すなはちその水を清しめ其河々をして油のごとく流れしめん主エホバこれを云ふ 15 我エジプトの國を荒地となしてその國荒てこれが富を失ふ時また我その中に住る者を盡く撃つ時人々我のエホバなるを知ん 16 是哀の詞なり人悲みてこれを唱へん國々の女等悲みて之を唱ふべし即ち彼等エジプトとその諸の群衆のために悲みて之を唱へん主エホバこれを言ふ 17 十二年の月の十五日にエホバの言ま

た我に臨みて言ふ 18 人の子よエジプトの群衆のために哀き是と大なる國々の女等とを下の國に投ぐだし墓にくだる者と共ならしめよ 19 汝美しき事誰に勝るや下りて割禮なき者とともに臥せよ 20 彼らは劍に殺さる者の中に仆るべし劍已に付してあり是とその諸の群衆を曳下すべし 21 勇士の強き者陰府の中より彼にその助者と共に言ふ割禮を受ざる者劍に殺されたる者彼等下りて臥す (Sheol h7585) 22 彼處にアツスリアとその凡の群衆をりその周圍に之が墓あり彼らは皆殺され劍に仆れたる者なり 23 かれの墓は穴の奥に設けてありその群衆墓の四周にあり是皆殺されて劍に仆れたる者生者の地に畏怖をおこせし者なり 24 彼處にエラムありその凡の群衆その墓の周圍にあり是皆ころされて劍に仆れ割禮を受ずして下の國に下りし者生者の地に畏怖をおこせし者にて夫穴に下れる者等とともに恥辱を蒙るなり 25 殺されたる者の中にその床を置いてその凡の群衆と共にすその墓周圍にあり彼等は皆割禮を受ざる者にして劍に殺さる彼ら生者の地に畏怖をおこしたれば穴に下れる者とともに恥辱を蒙るなり彼は殺されし者の中に置く 26 彼處にメセクとトバルおよびその凡の群衆ありその墓周圍にあり彼らは皆割禮を受ざる者にして劍に殺さる是生者の地に畏怖をおこしたればなり 27 彼らは割禮を受ずして仆れたる勇士とともに臥さず是等はその武器を持って陰府に下りその劍を枕にすその罪は骨にあり是生者の地に於て勇士を畏れしめたればなり (Sheol h7585) 28 汝は割禮を受ざる者の中に打碎け劍に殺されたる者とともに臥ん 29 彼處にエドムとその王等とその諸の君等あり彼らは勇力をもちながら劍に

殺さるる者の中に入り割禮なき者および穴に下れる者とともに臥すべし 30 彼處に北の君等皆あり又シドン人皆あり彼らは殺されし者等とともに下り人を怖れしむる勇力もちて羞辱を受く彼處に彼らは割禮を受ずして劍に殺されたる者とともに臥し穴に下れる者とともに恥辱を蒙る 31 パロかれらを見その諸の群衆の事につきて心を安めんパロとその軍勢皆劍に殺さる主エホバこれを言ふ 32 我かれをして生者の地に畏怖をおこさしめたりパロとその諸の群衆は割禮をうけざる者の中にありて劍に殺されし者とともに臥す主エホバこれを言ふ

33 爰にエホバの言われに臨みて言ふ 2 人の子よ汝の民の人々に告て之に言へ我劍を一の國に臨ましめん時その國の民おのれの國人の中より一人を選みて之を守望人となさんに 3 かれ國に劍の臨むを見ラッパを吹てその民を警むることあらん 4 然るに人ラッパの音を聞て自ら警めず劍つひに臨みて其人を失ふにいたらばその血はその人の首に歸すべし 5 彼ラッパの音を聞て自ら警むることを爲ざればその血は己に歸すべし然どもし自ら警むることを爲ばその生命を保つことを得ん 6 然れども守望者劍の臨むを見てラッパを吹ず民警戒をうけざるあらんに劍のぞみて其中の一人を失はば其人は己の罪に死るなれど我その血を守望者の手に討問めん 7 然ば人の子よ我汝を立てイスラエルの家の守望者となす汝わが口より言を聞き我にかはりて彼等を警むべし 8 我惡人に向ひて惡人よ汝死ざるべからずと言んに汝その惡人を警めてその途を離るるやうに語らずば惡人はその罪に死んなれどその血をば我汝の手に討問むべし 9 然ど

汝もし悪人を警めて翻りてその途を離れしめんとし
たるに彼その途を離れずば彼はその罪に死んで而して
汝はおのれの生命を保つことを得ん 10 然ば人の子よ
イスラエルの家に言へ汝らは斯語りて言ふ我らの愆
と罪は我らの身の上であり我儕はその中にありて消
失ん争でか生ることを得んと 11 汝かれらに言べし主
エホバ言たまふ我は活く我悪人の死るを悦ばず悪人
のその途を離れて生るを悦ぶなり汝ら翻へり翻へり
てその悪き道を離れよイスラエルの家よ汝等なんぞ
死べけんや 12 人の子よ汝の民の人々に言べし義人の
義はその人の罪を犯せる日にはその人を救ふことあ
たはず悪人はその悪を離れたる日にはその悪のため
に仆ることあらじ義人はその罪を犯せる日にはそ
の義のために生ることを得じ 13 我義人に汝かならず
生べしと言んに彼その義を恃みて罪ををかさばその
義は悉く忘らるべし其をかせる罪のために彼は死べ
し 14 我悪人に汝かならず死べしと言んに彼その悪を
離れ公道と公義を行ふことあらん 15 即ち悪人質物を
歸しその奪ひし者を還し悪をなさずして生命の憲法
にあゆみなば必ず生んで死ざるべし 16 その犯したる各
種の罪は記憶らるることなかるべし彼すでに公道と
公義を行ひたれば必ず生べし 17 汝の民の人々は主の
道正しからずと言ふ然ど實は彼等の道の正しからざ
るなり 18 義人もしその義を離れて罪ををかさば是が
ために死べし 19 悪人もしその悪を離れて公道と公義
を行ひなば是がために生べし 20 然るに汝らは主の道
正しからずといふイスラエルの家よ我各人の行爲に
したがひて汝等を鞫くべし 21 我らが擄へうつされし
後すなはち十二年の十月の五日にエルサレムより脱

逃者きたりて邑は撃敗られたりと言ふ 22 その逃亡者の来る前の夜エホバの手我に臨み彼が朝におよびて我に来るまでに我口を開けり斯わが口開けたれば我また黙せざりき 23 即ちエホバの言われに臨みて言ふ 24 人の子よイスラエルの地の彼の墟址に住る者語りて云ふアブラハムは一人にして此地を有てり我等は衆多し此地はわれらの所有に授かると 25 是故に汝かれらに言ふべし主エホバかく言ふ汝らは血のままに食ひ汝らの偶像を仰ぎ且血を流すなれば尚此地を有つべけんや 26 汝等は劍を恃み憎むべき事を行ひ各々人の妻を汚すなれば此地を有つべけんや 27 汝かれらに斯言べし主エホバかく言ふ我は活くかの荒場に居る者は劍に仆れん野の表にをる者をば我獸にあたへて噬はしめん要害と洞穴とにをる者は疫病に死ん 28 我この國を全く荒さん其誇るところの權勢は終に至らんイスラエルの山々は荒て通る者なかるべし 29 彼らが行ひたる諸の憎むべき事のために我その國を全く荒さん時に彼ら我のエホバなるを知ん 30 人の子よ汝の民の人々垣の下家の門にて汝の事を論じ互に語りあひ各々その兄弟に言ふ去來われら如何なる言のエホバより出るかを聽んと 31 彼ら民の集會のごとくに汝に來り吾民のごとくに汝の前に坐して汝の言を聞ん然ども之を行はじ彼らは口に悦ばしきところの事をなし其心は利にしたがふなり 32 彼等には汝悦ばしき歌美しき聲美く奏る者のごとし彼ら汝の言を聞ん然ど之をおこなはじ 33 視よその事至る其事のいたる時には彼らおのれの中に預言者あるを知べし

34 エホバの言われに臨みて言ふ 2 人の子よ汝イスラエルの牧者の事を預言せよ預言して彼ら牧者に言

ふべし主エホバかく言ふ己を牧ふところのイスラエルの牧者は禍なるかな牧者は群を牧ふべき者ならずや 3 汝らは脂を食ひ毛を纏ひ肥たる物を屠りその群をば牧はざるなり 4 汝ら其弱き者を強くせずその病る者を醫さずその傷ける者を裹まず散されたる者をひきかへらず失たる者を尋ねず手荒に嚴刻く之を治む 5 是は牧者なきに因て散り失せ野の諸の獸の餌となりて散失するなり 6 我羊は諸の山々に諸の高丘に迷ふ我羊全地の表に散りをれど之を索す者なく尋ぬる者なし 7 是故に牧者よ汝らエホバの言を聽け 8 主エホバ言たまふ我は活く我羊掠められわが羊野の諸の獸の餌となる又牧者あらず我牧者わが羊を尋ねず牧者己を牧ふてわが羊を牧はず 9 是故に牧者よ汝らエホバの言を聞け 10 主エホバ言たまふ視よ我牧者等を罰し吾羊を彼らの手に討問め彼等をしてわが群を牧ふことを止しめて再び己を牧ふことなからしめ又わが羊をかれらの口より救とりてかれらの食とならざらしむべし 11 主エホバかく言たまふ我みづからわが群を索して之を守らん 12 牧者がその散たる羊の中にある日にその群を守るとく我わが群を守り之がその雲深き暗き日に散たる諸の處よりこれを救ひとるべし 13 我かれらを諸の民の中より導き出し諸の國より集めてその國に携へいりイスラエルの山の上と谷の中および國の凡の住居處にて彼らを養はん 14 善き牧場にて我かれらを牧はんその休息處はイスラエルの高山にあるべし彼處にて彼らは善き休息所に臥しイスラエルの山々の上にて肥たる牧場に草を食はん 15 主エホバいひたまふ我みづから我群を牧ひ之を偃しむべし 16 亡たる者は我これを尋ね逐はなたれ

たる者はこれを引返り傷けられたる者はこれを裏み
病る者はこれを強くせん然ど肥たる者と強き者は我
これを滅さん我公道をもて之を牧ふべし 17 主エホバ
かく言たまふ汝等わが群よ我羊と羊の間および牡羊
と牡山羊の間の審判をなさん 18 汝等は善き牧場に草
食ひ足をもてその残れる草を踏あらし又清たる水を
飲み足をもてその残餘を濁す是汝等にとりて小き事
ならんや 19 わが群汝等が足にて踏あらしたる者を食
ひ汝等が足にて濁したる者を飲べけんや 20 是をもて
主エホバ斯かれらに言たまふ視よ我肥たる羊と瘦た
る羊の間を審判くべし 21 汝等は脅と肩とをもて擠し
角をもて弱き者を盡く衝て遂に之を外に逐散せり 22
是によりて我わが群を助けて再び掠められざらしめ
又羊と羊の間をさばくべし 23 我かれらの上に一人の
牧者をたてん其人かれらを牧ふべし是わが僕ダビデ
なり彼はかれらを牧ひ彼らの牧者となるべし 24 我エ
ホバかれらの神とならん吾僕ダビデかれらの中に君
たるべし我エホバこれを言ふ 25 我かれらと平和の契
約を結び國の中より悪き獸を滅し絶つべし彼らすな
はち安かに野に住み森に眠らん 26 我彼らおよび吾山
の周圍の處々に福祉を下し時に隨ひて雨を降しめん
是すなはち福祉の雨なるべし 27 野の樹はその實を結
び地はその産物を出さん彼等は安然にその國にある
べし我がかれらの軛を碎き彼らをその僕となせる人
の手より救ひいだす時に彼等は我のエホバなるを知
べし 28 彼等は重ねて國々の民に掠めらるる事なく野
の獸かれらを食ふことなかるべし彼等は安然に住は
ん彼等を懼れしむる者なかるべし 29 我かれらのため
に一の栽植處を起してその名を聞えしめん彼等は重

ねて國の饑饉に滅ぶることなく再び外邦人の凌辱を蒙ることなかるべし 30 彼らはその神なる我エホバが己と共にあるを知り自己イスラエルの家はわが民なることを知るべし主エホバこれを言ふ 31 汝等はわが羊わが牧場の群なり汝等は人なり我は汝らの神なりと主エホバ言たまふ

35 爰にエホバの言われに臨みて言ふ 2 人の子よ汝の面をセイル山にむけ之にむかひて預言し 3 之にいふべし主エホバかく言ふセイル山よ視よ我汝を罰し汝にむかひてわが手を伸べ汝を全く荒し 4 汝の邑々を滅すべし汝は荒はてん而して我のエホバなるを知にいたらん 5 汝果しなき恨を懷きてイスラエルの人々をその艱難の時その終の罪の時に劍の手に付せり 6 是故に主エホバ言ふ我は活く我汝を血になさん血汝を追べし汝血を嫌はざれば血汝を追ん 7 我セイル山を全く荒し其處に往來する者を絶ち 8 殺されし者をその山々に満すべし劍に殺されし者汝の岡々谷々および窪地窪地に仆れん 9 我汝を長に荒地となさん汝の邑々には人の住むことあらじ汝等すなはち我のエホバなるを知にいたらん 10 汝言ふこの二箇の民二箇の國は我が所有なり我等これを獲んとエホバ其處に居せしなり 11 是故に主エホバいふ我は活く汝が恨をもて彼らに示したる忿怒と嫉惡に循ひて我汝に事をなさん我汝を鞠くことを以て我を彼等に示すべし 12 汝は我エホバの汝がイスラエルの山々にむかひて是は荒はて我儕の食に授かるといひて吐たるところの諸の謗讟を聞たることを知にいたらん 13 汝等口をもて我にむかひて誇り我にむかひて汝等の言を多くせり我これを聞く 14 主エホバ斯いひたまふ全地の歡ぶ

時に我汝を荒地となさん 15 汝イスラエルの家の産業の荒るを喜びたれば我汝をも然なすべしセイル山よ汝荒地とならんエドムも都て然るべし人衆すなはち我のエホバなるを知にいたらん

36 人の子よ汝イスラエルの山々に預言して言べしイスラエルの山々よエホバの言を聽け 2 主エホバかく言たまふ敵汝等の事につきて言ふ嗚呼是等の舊き高處我儕の所有となると 3 是故に汝預言して言へ主エホバかく言ふ彼等汝らを荒し四方より汝らを呑り是をもて汝等は國民の中の殘餘者の所有となり亦人の口齒にかかりて嚙せらる 4 然ばイスラエルの山々よ主エホバの言を聞け主エホバ山と岡と窪地と谷と滅びたる荒跡と人の棄たる邑々即ちその周圍に残れる國民に掠められ嘲けらるる者にかく言たまふ 5 即ち主エホバかく言たまふ我まことに吾が嫉妬の火焰をもやして國民の殘餘者とエドム全國の事を言り是等は心に歡樂を極め心に誇りて吾地をおのれの所有となし之を奪ひ掠めし者なり 6 然ばイスラエルの國の事を預言し山と岡と窪地と谷とに言ふべし主エホバかく言たまふ汝等諸の國民の羞辱を蒙りしに因て我わが嫉妬と忿怒を發して語れり 7 是をもて主エホバかく言たまふ我わが手を擧ぐ汝の周圍の諸の國民は必ず自身羞辱を蒙るべし 8 然どイスラエルの山々よ汝等は枝を生じわが民イスラエルのために實を結ばん此事遠からず成ん 9 視よ我汝らに臨み汝らを眷みん汝らは耕されて種をまかるべし 10 我汝等の上に人を殖さん是皆悉くイスラエルの家の者なるべし邑々には人住み墟址は建直さるべし 11 我なんぢらの上に人と牲畜を殖さん是等は殖て多く子を生ん我汝ら

の上に昔時のごとくに人を住しめ汝らの初の時よりもまされる恩恵を汝等に施すべし汝等は我がエホバなるを知にいたらん 12 我わが民イスラエルの人を汝らの上に歩ましめん彼等汝を有つべし汝はかれらの産業となり重ねて彼等に子なからしむることあらし 13 主エホバかく言ひたまふ彼等汝らに向ひ汝は人を食ひなんぢの民をして子なからしめたりと言ふ 14 是故に主エホバ言たまふ汝ふたたび人を食ふべからず再び汝の民を躓かしむべからず 15 我汝をして重ねて國々の民の嘲笑を聞しめじ汝は重ねて國々の民の羞辱を蒙ることあらず汝の民を躓かしむることあらし 主エホバこれを言ふ 16 エホバの言また我にのぞみて言ふ 17 人の子よ昔イスラエルの家その國に住み己の途と行爲とをもて之を汚せりその途は月穢ある婦の穢のごとくに我に見えたり 18 彼等國に血を流し且その偶像をもて國を汚したるに因て我わが怒を彼等に斟ぎ 19 彼らを諸の國の民の中に散したれば則ち諸の國に散ぬ我かれらの道と行爲とにしたがひて彼等を鞠けり 20 彼等その往ところの國々に至りしが遂にわが聖き名を汚せり即ち人かれらを見てこれはエホバの民にしてかれの國より出來れる者なりと言ひ 21 是をもて我イスラエルの家がその至れる國々にて瀆せしわが聖き名を惜めり 22 此故に汝イスラエルの家と言べし主エホバかく言たまふイスラエルの家よ我汝らのために之をなすにあらず汝らがその至れる國々にて汚せしわが聖き名のためになすなり 23 我國々の民の中に汚されたるわが大なる名即ち汝らがかれらの中にありて汚したるところの者を聖くせん國々の民はわが汝らに由て我の聖き事をその目の前にあら

はさん時我がエホバなるを知ん 24 我汝等を諸の民の中より導き出し諸の國より集めて汝らの國に携いたり 25 清き水を汝等に灑ぎて汝等を清くならしめ汝等の諸の汚穢と諸の偶像を除きて汝らを清むべし 26 我新しき心を汝等に賜ひ新しき靈魂を汝らの衷に賦け汝等の肉より石の心を除きて肉の心を汝らに與へ 27 吾靈を汝らの衷に置き汝らをして我が法度に歩ましめ吾律を守りて之を行はしむべし 28 汝等はわが汝らの先祖等に與へし地に住て吾民とならん我は汝らの神となるべし 29 我汝らを救ひてその諸の汚穢を離れしめ穀物を召て之を増し饑饉を汝らに臨ませず 30 樹の果と田野の作物を多くせん是をもて汝らは重て饑饉の羞を國々の民の中に蒙ることあらじ 31 汝らはその悪き途とその善らぬ行爲を憶えてその罪とその憎むべき事のために自ら恨みん 32 主エホバ言たまふ我が之を爲は汝らのためにあらず汝らこれを知れよイスラエルの家よ汝らの途を愧て悔むべし 33 主エホバかく言たまふ我汝らの諸の罪を清むる日に邑々に人を住しめ墟址を再興しめん 34 荒たる地は前に往來の人々の目に荒地と見たるに引かへて耕さるるに至るべし 35 人すなはち言ん此荒たりし地はエデンの園のごとくに成り荒滅び圯れたりし邑々は堅固なりて人の住に至れりと 36 汝らの周圍に残れる國々の民はすなはち我エホバが圯れし者を再興し荒たるところに栽植することを知にいたらん我エホバこれを言ふ之を爲ん 37 主エホバかく言たまふイスラエルの家我が是を彼らのために爲んことをまた我に求むべきなり我群のごとくに彼ら人々を殖さん 38 荒たる邑々には

聖き群のごとくエルサレムの節日の群のごとくに人の群満ん人々すなはち我がエホバなるを知べし

37 爰にエホバの手我に臨みエホバ我をして靈にて出行しめ谷の中に我を放賜ふ其處には骨充てり **2** 彼の周圍に我をひきめぐりたまふに谷の表には骨はなはだ多くあり皆はなはだ枯たり **3** 彼われに言たまひけるは人の子よ是等の骨は生るや我言ふ主エホバよ汝知たまふ **4** 彼我に言たまふ是等の骨に預言し之に言べし枯たる骨よエホバの言を聞け **5** 主エホバ是らの骨に斯言たまふ視よ我汝らの中に氣息を入しめて汝等を生しめん **6** 我筋を汝らの上に作り肉を汝らの上に生ぜしめ皮をもて汝らを蔽ひ氣息を汝らの中に與へて汝らを生しめん汝ら我がエホバなるを知ん **7** 我命ぜられしごとく預言しけるが我が預言する時に音あり骨うごきて骨と骨あひ聯る **8** 我見しに筋その上に出きたり肉生じ皮上よりこれを蔽ひしが氣息その中にあらず **9** 彼また我に言たまひけるは人の子よ氣息に預言せよ人の子よ預言して氣息に言へ主エホバかく言たまふ氣息よ汝四方の風より來り此殺されし者等の上に呼吸きて是を生しめよ **10** 我命ぜられしごとく預言せしかば氣息これに入て皆生きその足に立ち甚だ多くの群衆となれり **11** 斯て彼われに言たまふ人の子よ是等の骨はイスラエルの全家なり彼ら言ふ我らの骨は枯れ我らの望は竭く我儕絶はつるなりと **12** 是故に預言して彼らに言へ主エホバかく言たまふ吾民よ我汝等の墓を啓き汝らをその墓より出きたらしめてイスラエルの地に至らしむべし **13** わが民よ我汝らの墓を開きて汝らを其墓より出きたらしむる時汝らは我のエホバなるを知ん **14** 我わが靈を汝らの

中におきて汝らを生しめ汝らをその地に安んぜしめん汝等すなはち我エホバがこれを言ひ之を爲たることを知にいたるべし 15 エホバの言我にのぞみて言ふ 16 人の子よ汝一片の木を取てその上にユダおよびその侶なるイスラエルの子孫と書き又一片の木をとりてその上にヨセフおよびその侶なるイスラエルの全家と書べし是はエフライムの木なり 17 而して汝これを俱にあはせて一の木となせ是汝の手の中にて相聯らん 18 汝の民の人々汝に是は何の意なるか我儕に示さざるやと言ふ時は 19 これに言ふべし主エホバかく言たまふ我エフライムの手にあるヨセフとその侶なるイスラエルの支派の木を取り之をユダの木に合せて一の木となしわが手にて一とならしめん 20 汝が書つきたるところの木を彼らの目のまへにて汝の手にあらしめ 21 かれらに言ふべし主エホバかく言たまふ我イスラエルの子孫をその往るところの國々より出し四方よりかれを集めてその地に導き 22 その地に於て汝らを一の民となしてイスラエルの山々にをらしめん一人の王彼等全體の王たるべし彼等は重て二の民となることあらず再び二の國に分れざるべし 23 彼等またその偶像とその憎むべき事等およびその諸の愆をもて身を汚すことあらじ我かれらをその罪を犯せし諸の住處より救ひ出してこれを清むべし而して彼らはわが民となり我は彼らの神とならん 24 わが僕ダビデかれらの王とならん彼ら全體の者の牧者は一人なるべし彼らはわが律法にあゆみ吾法度をまもりてこれを行はん 25 彼らは我僕ヤコブに我が賜ひし地に住ん是其先祖等が住ひし所なり彼處に彼らとその子及びその子の子とこしなへに住はん吾僕ダビデ長

久にかれらの君たるべし 26 我かれらと和平の契約を
立ん是は彼らに永遠の契約となるべし我かれらを堅
うし彼らを殖しわが聖所を長久にかれらの中におか
ん 27 我が住所は彼らの上にあるべし我かれらの神と
なり彼らわが民とならん 28 わが聖所長久にかれら
の中にあるにいたらば國々の民は我のエホバにしてイ
スラエルを清むる者なるを知ん

38 エホバの言我にのぞみて言ふ 2 人の子よロシ、
メセクおよびトバルの君たるマゴグの地の王ゴグに
汝の面をむけ之にむかひて預言し 3 言べし主エホバ
かく言たまふロシ、メセク、トバルの君ゴグよ視よ
我なんぢを罰せん 4 我汝をひきもどし汝の腮に鉤を
ほどこして汝および汝の諸の軍勢と馬とその騎者を
曳いだすべし是みな其服粧に美を極め大楯小楯をも
ち凡て劍を執る者にして大軍なり 5 ペルシヤ、エテ
オピアおよびフテこれとともにあり皆楯と盔をもつ
6 ゴメルとその諸の軍隊北の極のトガルマの族とその
諸の軍隊など衆多の民汝とともにあり 7 汝準備をな
せ汝と汝にあつまれるところの軍隊みな備をせよ而
して汝かれらの保護となれ 8 衆多の日の後なんぢ罰
せられん末の年に汝かの劍をのがれてかへり衆多の
民の中より集りきたれる者の地にいたり久しく荒み
たるイスラエルの山々にいたらん是は國々より導き
いだされて皆安然に住ふなり 9 汝その諸の軍隊およ
び衆多の民をひきゐりて上り暴風のごとく至り雲のご
とく地を覆はん 10 主エホバかくいひたまふ其日に汝
の心に思想おこり悪き謀計をくはだてて 11 言ん我平
原の邑々にのぼり穩にして安然に住る者等にいたら
ん是みな石垣なくして居り關も門もあらざる者なり

と 12 斯して汝物を奪ひ物を掠め汝の手をかへして彼の人の住むにいたれる墟址を攻め又かの國々より集りきたりて地の塊區にすみて群と財寶をもつところの民をせめんとす 13 シバ、デダン、タルシシの商賈およびその諸の小獅子汝に言ん汝物を奪はんとて來れるや汝物を掠めんために軍隊をあつめしや金銀をもちさり群と財寶を取り多くの物を奪はんとするやと 14 是故に人の子よ汝預言してゴグに言へ主エホバかくいひたまふ其日に汝わが民イスラエルの安然に住むを知らんや 15 汝すなはち北の極なる汝の處より來らん衆多の民汝とともにあり皆馬に乗る其軍隊は大にしてその軍勢は夥多し 16 而して汝わが民イスラエルに攻きたり雲のごとくに地を覆はんゴグよ末の日にこの事あらんすなはち我汝をわが地に攻きたらしめ汝をもて我の聖き事を國々の民の目のまへにあらはして彼らに我をしらしむべし 17 主エホバかく言たまふ我の昔日わが僕なるイスラエルの預言者等をもて語りし者は汝ならずや即ち彼ら其頃年ひさしく預言して我汝を彼らに攻きたらしめんと言ひ 18 主エホバいひたまふ其日すなはちゴグがイスラエルの地に攻來らん日にわが怒面にあらはるべし 19 我嫉妬と燃たつ怒をもて言ふ其日には必ずイスラエルの地に大なる震動あらん 20 海の魚空の鳥野の獸凡て地に匍ふところの昆蟲凡て地にある人わが前に震へん又山々崩れ嶄巖たふれ石垣みな地に仆れん 21 主エホバいひたまふ我劍をわが諸の山に召きたりて彼をせめしめん人々の劍その兄弟を撃べし 22 我疫病と血をもて彼の罪をたださん我漲ぎる雨と雹と火と硫磺を彼とその軍勢および彼とともになる多の民の上に降すべ

し 23 而して我わが大なることと聖きことを明かにし衆多の國民の目のまへに我を示さん彼らはすなはち我のエホバなることをしるべし

39 人の子よゴグにむかひ預言して言へ主エホバかく言たまふロシ、メセク、トバルの君ゴグよ視よ我汝を罰せん 2 我汝をひきもどし汝をみちびき汝をして北の極より上りてイスラエルの山々にいたらしめ 3 汝の左の手より弓をうち落し右の手より矢を落しむべし 4 汝と汝の諸の軍勢および汝とともになる民はイスラエルの山々に仆れん我汝を諸の類の鷲と野の獣にあたへて食しむべし 5 汝は野の表面に仆れん我これを言ばなりと主エホバ言たまふ 6 我マゴグと島々に安然に住る者と共に火をおくり彼らをして我のエホバなるを知しめん 7 我わが聖き名をわが民イスラエルの中に知しめ重てわが聖き名を汚さしめじ國々の民すなはち我がエホバにしてイスラエルにありて聖者なることを知るにいたらん 8 主エホバいひたまふ視よ是は來れり成れり是わが言る日なり 9 茲にイスラエルの邑々に住る者出きたり甲冑 大楯 小楯 弓 矢 手鎗 手矛 および槍を燃し焚き之をもて七年のあひだ火を燃さん 10 彼ら野より木をとりきたること無く林より木をきりとらずして甲冑をもて火を燃しまた己を掠めし者をかすめ己の物を奪ひし者の物を奪はん主エホバこれを言ふ 11 其日に我イスラエルにおいて墓地をゴグに與へん是往來の人の谷にして海の東にあり是往來の人を礙げん其處に人ゴグとその群衆を埋めこれをゴグの群衆の谷となづけん 12 イスラエルの家之を埋めて地を清むるに七月を費さん 13 國の民みなこれを埋め之によりて名をえん是我が榮光を

あらず日なり 14 彼等定れる人を選む其人國の中を
ゆきめぐりて往來の人とともにかの地の面に遺れる
者を埋めてこれを清む七月の終れる後かれら尋ぬる
ことをなさん 15 國を行巡る者往來し人の骨あるを見
るときはその傍に標をたつれば死人を埋むる者これ
をゴグの群衆の谷に埋む 16 邑の名もまた群衆とな
へられん斯かれら國を清めん 17 人の子よ主エホバか
く言ふ汝諸の類の鳥と野の諸の獸に言べし汝等集ひ
來り我が汝らのために殺せるところの犠牲に四方よ
り聚れ即ちイスラエルの山々の上なる大なる犠牲に
臨み肉を食ひ血を飲め 18 汝ら勇士の肉を食ひ地の君
等の血を飲め 牡羊 羔羊 牡山羊 牡牛など凡てバシヤ
ンの肥たる畜を食へ 19 汝らわが汝らのために殺せる
ところの犠牲につきて飽まで脂を食ひ酔まで血を飲
べし 20 汝らわが席につきて馬と騎者と勇士と諸の軍
人に鷹べしと主エホバいひたまふ 21 我わが榮光を國
々の民にしめさん國々の民みな我がおこなふ審判を
見我がかれらの上に加ふる手を見るべし 22 是日より
後イスラエルの家我エホバの己の神なることを知ん
23 又國々の民イスラエルの家の擄へうつされしは其
惡によりしなるを知べし彼等われに背きたるに因て
我わが面を彼らに隠し彼らをその敵の手に付したれ
ば皆劍に仆れたり 24 我かれらの汚穢と愆惡とにした
がひて彼らを待ひわが面を彼等に隠せり 25 然ば主エ
ホバかく言たまふ我今ヤコブの俘擄人を歸しイスラ
エルの全家を憐れみ吾聖き名のために熱中せん 26 彼
らその地に安然に住ひて誰も之を怖れしむる者なき
に至る時はその我にむかひて爲たるところの諸の悖
れる行爲のために愧べし 27 我かれらを國々より導き

かへりその敵の國々より集め彼らをもて我の聖き事を衆多の國民にしめす時 28 彼等すなはち我エホバの己の神なるを知ん是は我かれらを國々に移し又その地にひき歸りて一人をも其處にのこさざればなり 29 我わが靈をイスラエルの家にそそぎたれば重て吾面を彼らに隠さじ主エホバこれを言ふ

40 我らの擄へ移されてより二十五年邑の撃破られて後十四年その年の初の月の十日其日にエホバの手われに臨み我を彼處に携へ往く 2 即ち神異象の中に我をイスラエルの地にたづさへゆきて甚だ高き山の上におろしたまふ其處に南の方にあたりて邑のごとき者建てり 3 彼我をひきて彼處にいたり給ふに一箇の人あるを見るその面容は銅のごとくにして手に麻の繩と間竿を執り門に立てり 4 其人われに言けるは人の子よ汝目をもて視耳をもて聞き我が汝にしめす諸の事に心をとめよ汝を此にたづさへしはこれを汝にしめさんためなり汝が見るところの事を盡くイスラエルの家に告よと 5 斯ありて視るに家の外の四周に牆垣ありその人の手に六キュビトの間竿ありそのキュビトは各一キュビトと一手濶なり彼その牆の厚を量るに一竿ありその高もまた一竿あり 6 彼東向の門にいたりその階をのぼりて門の闕を量るに其濶一竿あり即ち第一の闕の濶一竿なり 7 守房は長一竿廣一竿守房と守房の間は五キュビトあり内の門の廊の傍なる門の闕も一竿あり 8 内の門の廊を量るに一竿あり 9 又門の廊を量るに八キュビトありその柱は二キュビトなりその門の廊は内にあり 10 東向の門の守房は此旁に三箇彼處に三箇あり此三みな其寸尺おなじ柱もまた此處彼處ともにその寸尺おなじ 11 門の入

口の廣をはかるに十キュビトあり門の長は十三キュビトなり 12 守房の前に一キュビトの界あり彼隣の界も一キュビトなり守房は此隣彼隣ともに六キュビトなり 13 彼また此守房の屋背より彼屋背まで門をはかるに入口より入口まで二十五キュビトあり 14 柱は六十キュビトに作れる者なり門のまはりに庭ありて柱にまでおよぶ 15 入口の門の前より内の門の廊の前にいたるまで五十キュビトあり 16 守房と門の内面の周囲の柱とに閉窓あり墻垣の差出たる處にもしかり内面の周囲には窓あり柱には棕櫚あり 17 彼また我を外庭に携ゆくに庭の周囲に設けたる室と鋪石あり鋪石の上に三十の室あり 18 鋪石は門の側にありて門の長におなじ是下鋪石なり 19 彼下の門の前より内庭の外の前までの廣を量るに東と北とに百キュビトあり 20 又外庭なる北向の門の長と寛をはかれり 21 守房その此隣に三箇彼隣に三箇あり柱および差出たる處もあり是は前の門の寸尺のごとく長五十キュビト濶二十五キュビトなり 22 その窓と差出たる處と棕櫚は東向の門にある者の寸尺と同じ七段の階級を経て上るに差出たる處その前にあり 23 内庭の門は北と東の門に向ふ彼門より門までを量るに百キュビトあり 24 彼また我を南に携ゆくに南向の門ありその柱と差出たる處をはかるに前の寸尺の如し 25 是とその差出たる處の周囲に窓あり彼窓のごとしその門は長五十キュビト濶二十五キュビトなり 26 七段の階級をへて登るべし差出たる處その前にありその柱の上には此隣に一箇彼隣に一箇の棕櫚あり 27 内庭に南向の門あり門より門まで南の方をはかるに百キュビトあり 28 彼我を携へて南の門より内庭に至る彼南の門をはかるにそ

の寸尺前のごとし 29 その守房と柱と差出たる處は前の寸尺のごとしその門と差出たる處の周圍とに窓あり門の長五十キュビト濶二十五キュビトなり 30 差出たる處周圍にありその長二十五キュビト濶五キュビト 31 其差出たる處は外庭に出づその柱の上に棕櫚あり八段の階級をへて升るべし 32 彼また内庭の東の方に我をたづさへゆきて門をはかるに前の寸尺の如し 33 その守房と柱および差出たる處は寸尺前のごとしその門と差出たる處の周圍とに窓あり門の長五十キュビト濶二十五キュビト 34 その差出たる處は外庭にいつ柱の上には此旁彼旁に棕櫚あり八段の階級をへて升るべし 35 彼われを北の門にたづさへゆきてこれを量るに寸尺おなじ 36 その守房と柱と差出たる處ありその周圍に窓あり門の長五十キュビト濶二十五キュビト 37 その柱は外庭に出づ柱の上に此旁彼旁に棕櫚あり八段の階をへて升るべし 38 門の柱の傍に戸のある室あり其處は燔祭の牲を洗ふところなり 39 門の廊に此旁に二の臺彼旁に二の臺あり其上に燔祭 罪祭 愆祭の牲畜を屠るべし 40 北の門の入口に升るに外面に於て門の廊の傍に二の臺あり亦他の旁にも二の臺あり 41 門の側に此旁に四の臺彼旁に四の臺ありて八なり其上に屠ることを爲す 42 升口に琢石の四の臺あり長一キュビト半廣一キュビト半高一キュビトなり燔祭および犠牲を宰るところの器具をその上に置く 43 内の周圍に一手寛の曲釘うちてあり犠牲の肉は臺の上におかる 44 内の門の外において内庭に謳歌人の室あり一は北の門の側にありて南にむかひ一は南の門の側にありて北にむかふ 45 彼われに言ふ此南にむかへる室は殿をまもる祭司のための者 46 北にむかへ

る室は壇をまもる祭司のための者なり彼等はレビの子孫の中なるザドクの後裔にしてエホバに近よりて之に事ふるなり 47 而して彼庭をはかるに長百キュビト寛百キュビトにして四角なり殿の前に壇あり 48 彼殿の廊に我をひきゆきて廊の柱を量るに此旁も五キュビト彼方も五キュビトあり門の廣は此旁三キュビト彼旁三キュビトなり 49 廊の長は二十キュビト寛は十一キュビト階級によりて升るべし柱にそふて柱あり此旁に一箇彼旁に一箇

41 彼殿に我をひきゆきて柱を量るに此旁の寛六キュビト彼旁の寛六キュビト幕屋の寛なり 2 戸の寛は十キュビト戸の側柱は此旁も五キュビト彼旁も五キュビト彼量るに其長四十キュビト廣二十キュビトあり 3 内にいりて戸の柱を量るに二キュビトあり戸は六キュビト戸の濶は七キュビト 4 彼量るに其長二十キュビト廣二十キュビトにして殿に向ふ彼我に言けるは是至聖所なり 5 彼室の壁を量るに六キュビトあり室の周圍の連接屋の寛は四キュビトなり 6 連接屋は三階にして各三十の間あり室の壁周圍の連接屋の側にありて連接屋は之に連りて堅く立つ然れども室の壁に挿入て堅く立るにあらず 7 連接屋は上にいたるに隨ひて廣くなり行く即ち家の圍牆家の四周に高くのぼれば家は上廣くして下のより上のにのぼる様は中の割合にしたがふなり 8 我室に高き處あるを見る連接屋の基は一竿に足てその連接る處まで六キュビトなり 9 連接屋にある外の壁の厚は五キュビト室の連接屋の傍の隙もまた然り 10 室の間にあたりて家の四周に廣二十キュビトの處あり 11 連接屋の戸は皆かの隙にむかふ一の戸は北にむかひ一の戸は南にむ

かふ其隙たる處は四周にありて廣五キュビトなり 12
西の方にあたる離處の前の建物は廣七十キュビトそ
の建物の周圍の壁は厚五キュビト長九十キュビト 13
彼殿をはかるにその長百キュビトあり離處とその建
物とその壁は長百キュビト 14 殿の面および離處の東
面は廣百キュビトなり 15 彼後なる離處の前の建物の
長を量れり其此旁彼旁の廊下は百キュビトありまた
内殿と庭の廊を量り 16 彼の三にある處の闕と閉窓と
周圍の廊下を量れり闕の對面に當りて周圍に嵌板あ
り窓まで地を量りしが窓は皆蔽ふてあり 17 戸の上な
る處内室と外の處および内外の周圍の諸の壁まで量
ることをなせり 18 ケルビムと棕櫚と造りてあり二の
ケルビムの間毎に一本の棕櫚ありケルブには二の面
あり 19 此旁には人の面ありて棕櫚にむかひ彼旁には
獅子の面ありて棕櫚にむかふ家の周圍に凡て是のご
とく造りてあり 20 地より戸の上までケルビムと棕櫚
の設あり殿の壁も然り 21 殿には四角の戸柱あり聖所
の前にも同形の者あり 22 壇は木にして高三キュビト
長二キュビトなり是に隅木ありその臺と其周圍も木
なり彼われに言けるは是はエホバの前の壇なり 23 殿
と聖所とは二の戸あり 24 その戸に二の扉あり是二
の開扉なり此戸に二箇彼戸に二箇の扉あり 25 殿の戸
にケルビムと棕櫚つくりてあり壁におけるがごとし
外の廊の前に木の段あり 26 廊の横壁と家の連接屋と
段には此旁彼旁に閉窓と棕櫚あり

42 彼われを携へ出して北におもむく路よりして外
庭にいたり我を室に導く是は北の方にありて離處に
對ひ建物に對ひをる 2 その百キュビトの長ある所の
前に至るに戸は北の方にあり寬は五十キュビト 3 内

庭の二十キュビトなる處に對ひ外庭の鋪石に對ふ廊下の上に廊下ありて三なり 4 室の前に寛十キュビトの路あり又内庭にいたるところの百キュビトの路あり室の戸は北にむかふ 5 その建物の上の室は下のと中のとに比れば狭し是は廊下の爲に其場を削らるればなり 6 是等は三階にして庭の柱の如くは柱あらず是をもて上のは下のと中のよりもその場狭し 7 室の前にあたりて外に垣あり室にそひて外庭にいたる其長五十キュビト 8 外庭の室の長は五十キュビトにして殿に對ふ所は百キュビトあり 9 その下の方より是等の室いづ外庭よりこれに往ときは其入口東にあり 10 南の庭垣の廣き方にあたり離處とその建物にむかひて室あり 11 北の方なる室のごとく其前に路ありその長寛およびその出口その建築みな同じ 12 その入口のごとく南の方なる室の入口も然り路の頭に入口あり是は垣に連るところの路にて東より來る路なり 13 彼われに言けるは離處の前なる北の室と南の室は聖き室にしてエホバに近くところの祭司の至聖き物を食ふべき所なり其處にかれら最聖き物 素祭 罪祭 愆祭の物を置べし其處は聖ければなり 14 祭司は入たるときは聖所より外庭に出べからず彼等職掌を行ふところの衣服を其處に置べし是聖ければなり而して他の衣を着て民に屬するの處に近くべし 15 彼内室を量ることを終て東向の門の路より我を携へ出して四方を量れり 16 彼間竿をもて東面を量るにその周圍 間竿五百竿あり 17 又北面をはかるにその周圍 間竿五百竿あり 18 また南面をはかるに間竿五百竿あり 19 また西面にまはりて量るに間竿五百竿あり 20 斯四方

を量れり周圍に牆ありその長 五百竿 寬 五百竿 聖所
と俗所とを區別つなり

43 彼われを携へて門にいたる其門は東に向ふ **2** 時にイスラエルの神の榮光東よりきたりしがその聲大水の音のごとくにして地その榮光に照さる **3** 其状を見るに我がこの邑を滅しに來りし時に見たるところの状の如くに見ゆ又ケバル河の邊にて我が見しところの形のごとき形の者あり我すなはち俯伏す **4** エホバの榮光東向の門よりきたりて室に入る **5** 靈われを引あげて内庭にたづさへいるにエホバの榮光室に充てる **6** 我聽に室より我に語ふ者あり又人ありてわが傍に立つ **7** 彼われに言たまひけるは人の子よ吾位のある所我脚の跣のふむ所此にて我長久にイスラエルの子孫の中に居んイスラエルの家とその王等再びその姦淫とその王等の屍骸およびその崇邱をもてわが聖き名を汚すことなかるべし **8** 彼らその鬪をわが鬪の側に設け其門柱をわが門柱の傍に設けたれば我と其等との間には只壁一重ありしのみ而して彼ら憎むべき事等をおこなひて吾が聖名を汚したるが故に我怒りてかれらを滅したり **9** 彼ら今はその姦淫とその王等の屍骸をわが前より除き去ん我また彼らの中に長久に居べし **10** 人の子よ汝この室をイスラエルの家に示せ彼らその惡を愧ぢまたこの式様を量らん **11** 彼らその爲たる諸の事を愧なば彼らに此室の製法とその式様その出口入口その一切の製法その一切の則その一切の製法その一切の法をしらしめよ是をかれらの目の前に書て彼らにその諸の製法とその一切の則を守りてこれを爲しむべし **12** 室の法は是なり山の頂の上なるその地は四方みな最聖し是室の法なり **13** 壇

の寸尺はキュビトをもて言ば左のごとしそのキュビトは一キュビトと手寛あり壇の底は一キュビト寛一キュビトその周囲の邊は半キュビト是壇の臺なり 14 土に坐れる底座より下の層まで二キュビト寛一キュビト又小き層より大なる層まで四キュビト寛一キュビトなり 15 正壇は四キュビト壇の上の面に四の角あり 16 壇の上の面は長十二キュビト寛十二キュビトにしてその四面角なり 17 その層は四方とも長十四キュビト寛十四キュビトその四周の縁は半キュビトその底は四方一キュビトその階は東に向ふ 18 彼われに言けるは人の子よ主エホバかく言たまふ壇を建て其上に燔祭を献げ血を灑ぐ日には是をその則とすべし 19 主エホバかく言ふ汝レビの支派ザドクの裔にして我にちかづき事ふるところの祭司等に犢なる牡牛を罪祭として與ふべし 20 又その血を取てこれをその四の角と層の四隅と四周の邊に抹り斯して之を清め潔ようすべし 21 汝罪祭の牛を取てこれを聖所の外にて殿の中の定まれる處に焚べし 22 第二日に汝全き牡山羊を罪祭に献ぐべし即ちかれら牡牛をもて清めしごとく之をもて壇を清むべし 23 汝潔禮を終たる時は犢なる牡牛の全き者および群の全き牡羊を献ぐべし 24 汝これをエホバの前に持きたるべし祭司等これに鹽を撒かけ燔祭としてエホバに献ぐべし 25 七日の間汝日々に牡山羊を罪祭に供ふべしまた彼ら犢なる牡牛と群の牡羊との全き者を供ふべし 26 七日の間かれら壇を潔ようしこれを清めその手を満すべし 27 是等の日満て八日にいたりて後は祭司等汝らの燔祭と酬恩祭をその壇の上に奉へん我悦びて汝らを受納べし主エホバこれを言たまふ

44 斯て彼我を引て聖所の東向なる外の門の路にかへるに門は閉てあり **2** エホバすなはち我に言たまひけるは此門は閉おくべし開くべからず此より誰も入るべからずイスラエルの神エホバ此より入たれば是は閉おくべきなり **3** その君は君たるが故にこの内に坐してエホバの前に食をなさん彼は門の廊の路より入りまたその路より出ん **4** 彼また我をひきて北の門の路より家の前に至りしが視るにエホバの榮光エホバの家に満るたれば我俯伏けるに **5** エホバわれに言たまふ人の子よエホバの家の諸の則とその諸の法につきて我が汝に告るところの諸の事に心を用ひ目を注ぎ耳を傾け又殿の入口と聖所の諸の出口に心を用ひよ **6** 而して悖れる者なるイスラエルの家に言べし主エホバ斯いふイスラエルの家よ汝らその行ひし諸の憎むべき事等をもて足りとせよ **7** 即ち汝等は心にも割禮をうけず肉にも割禮をうけざる外國人をひききたりて吾聖所にあらしめてわが家を汚し又わが食なる脂と血を獻ぐることを爲り斯汝らの諸の憎むべき事の上に彼等また吾契約を破れり **8** 汝ら我が聖物を守る職守を怠り彼らをして我が聖所において汝らにかはりて我の職守を守らしめたり **9** 主エホバかく言たまふイスラエルの子孫の中に居るところの諸の異邦人の中凡て心に割禮をうけず肉に割禮をうけざる異邦人はわが聖所に入るべからず **10** 亦レビ人も迷へるイスラエルがその憎むべき偶像をしたひて我を棄て迷ひし時に我を棄ゆきたる者はその罪を蒙るべし **11** 即ち彼らは吾が聖所にありて下僕となり家の門を守る者となり家にて下僕の業をなさん又彼ら民のために燔祭および犠牲の牲畜を殺し民のまへに立て

これに事へん **12** 彼等その偶像の前にて民に事へイスラエルの家を礙かせて罪におちいらしめたるが故に主エホバ言ふ我手をあげて彼らを罰し彼らをしてその罪を蒙らしめたり **13** 彼らは我に近づきて祭司の職をなすべからず至聖所にきたりわが諸の聖き物に近よるべからずその恥とその行ひし諸の憎むべき事等の報を蒙るべし **14** 我かれらをして宮守の職務をおこなはしめ宮の諸の業および其中に行ふべき諸の事を爲しむべし **15** 然どザドクの裔なるレビの祭司等すなはちイスラエルの子孫が我を棄て迷謬し時にわが聖所の職守を守りたる者等は我に近づきて事へ我まへに立ち脂と血をわれに獻げん主エホバこれを言ふなり **16** 即ち彼等わが聖所にいり吾が臺にちかづきて我に事へわが職守を守るべし **17** 彼等内庭の門にいる時は麻の衣を衣べし内庭の門および家において職をなす時は毛服を身につくべからず **18** 首には麻の冠をいただき腰には麻の袴を穿つべし汗のいづるごとくに身をよそほふべからず **19** 彼ら外庭にいづる時すなはち外庭にいでて民に就く時はその職をなせるところの衣服を脱てこれを聖き室に置き他の衣服をつくべし是その服をもて民を聖くすること無らんためなり **20** 彼ら頭を剃べからず又髪を長く長すべからずその頭髪を剪るべし **21** 祭司たる者は内庭に入るときに酒をのむべからず **22** 又寡婦および去れたる婦を妻にめとるべからず唯イスラエルの家の出なる處女を娶るべし又は祭司の妻の寡となりし者を娶るべし **23** 彼らわが民を教へ聖き物と俗の物の區別および汚れたる物と潔き物の區別を之に知しむべし **24** 争論ある時は彼ら起ちて判決き吾定例にしたがひて斷決をなさん我

が諸の節期において彼らわが法と憲を守るべく又わが安息日を聖くすべし 25 死人の許にいたりて身を汚すべからず只父のため母のため息子のため息女のため兄弟のため夫なき姉妹のためには身を汚すも宜し 26 斯る人にはその潔齋の後なほ七日を數へ加ふべし 27 彼聖所にいたり内庭にいり聖所にて職を執行ふ日には罪祭を獻ぐべし主エホバこれを言ふ 28 彼らの産業は是なり即ち我これが産業たり汝らイスラエルの中にて彼らに所有を與ふべからず我すなはちこれが所有たるなり 29 祭物および罪祭愆祭の物是等を彼等食ふべし凡てイスラエルの中の奉納物は彼らに歸す 30 諸の物の初實の初および凡て汝らが獻ぐる諸の献物みな祭司に歸すべし汝等その諸の麥粉の初を祭司に與ふべし是汝の家に幸福あらしめんためなり 31 鳥にもあれ獸にもあれ凡て自ら死にたる者又は裂ころされし者をば祭司たる者食ふべからず

45 汝ら籤をひき地をわかちて産業となす時は地の一分を取り聖き者となしてエホバに獻ぐべし其長は二萬五千寬は一萬なるべし是は其四方周圍凡て聖し 2 此中聖所に屬する者は長五百寬五百にして周圍四角なり又五十キュビトの隙地その周圍にあり 3 汝この量りたる處より長二萬五千寬一萬の場を度り取るべし此うちに聖所至聖所を設くべし 4 是は地の聖場なりエホバに近づき事ふる聖所の役者なる祭司等に屬すべし是かれらの家を建てまた聖所を設くる聖地なり 5 又長二萬五千寬一萬の處家に事ふるレビ人に屬し其所有に二十の室あるべし 6 その獻げたる聖地に並びて汝ら寬五千長二萬五千の處を分ち邑の所有となすべし是はイスラエルの全家に屬す 7 又君たる者

の分はかの献げたる聖地と邑の所有の此處彼處にあり
献げたる聖地に沿ひ邑の所有に沿ひ西は西にわたり
東は東に渉るべし西の極より東の極まで其長は支
派の分の一と等し 8 イスラエルの中に彼が有ところ
の者は地にあり吾君等は重てわが民を虐ぐることな
くイスラエルの家にその支派にしたがひて地を與へ
おかん 9 主エホバかく言たまふイスラエルの君等よ
汝ら足ことを知れ虐ぐることと掠むる事を止め公道
と公義を行へ我民を逐放すことを止よ主エホバこれ
を言ふ 10 汝ら公平き權衡公平きエパ公平きバテを用
ふべし 11 エパとバテとはその量を同じうすべし即ち
バテもホメルの十分一を容れエパもホメルの十分一
を容るべしホメルに準じてその度量を定むべし 12 シ
ケルは二十ゲラに當る二十シケル二十五シケル十五
シケルを汝等マネとなすべし 13 汝らが献ぐべき献物
は左のごとし一ホメルの小麥の中よりエパの六分一
を献げ一ホメルの大麥の中よりエパの六分一を献ぐ
べし 14 油の例油のバテは是のごとし一コルの中より
バテの十分一を献ぐべしコルは十バテを容る者にて
即ちホメルなり十バテ一ホメルとなればなり 15 又イ
スラエルの腴なる地より群二百ごとに一箇の羊を出
して素祭および燔祭 酬恩祭の物に供へ民の罪を贖ふ
ことに用ひしむべし主エホバこれを言ふ 16 國の民み
なこの獻物をイスラエルの君にもちきたるべし 17 又
君たる者は祭日朔日安息日およびイスラエルの家の
諸の節期に燔祭 素祭 灌祭を奉ぐべし即ち彼イスラエ
ルの家の贖罪をなすために罪祭 素祭 燔祭 酬恩祭を
執行なふべし 18 主エホバかく言たまふ正月の元日に
汝犢なる全き牡牛を取り聖所を清むべし 19 又祭司は

罪祭の牲の血を取りて殿の門柱にぬり壇の層の四隅と内庭の門の柱に塗べし 20 月の七日に汝等また迷ふ人および拙き者のために斯なして殿のために贖をなすべし 21 正月の十四日に汝ら逾越節を守り七日の間祝をなし無酵パンを食ふべし 22 その日に君は己のため又國の諸の民のために牡牛を備へて罪祭となし 23 七日の節筵の間七箇の牡牛と七箇の牡羊の全き者を日々に七日の間備へてエホバに燔祭となし又牡山羊を日々に備へて罪祭となすべし 24 彼また素祭として一エパを牡牛のために一エパを牡山羊のために備へ油一ヒンをエパに加ふべし 25 七月の十五日の節筵に彼また罪祭 燔祭 素祭および油を是のごとく七日の間備ふべし

46 主エホバかく言たまふ内庭の東向の門は事務をなすところの六日の間は閉ぢ置き安息日にこれを開き又月朔にこれを開くべし 2 君たる者は外より門の廊の路をとほりて入り門の柱の傍に立つべし祭司等その時かれの爲に燔祭と酬恩祭を備ふべし彼は門の闕において禮拜をなして出べし但し門は暮まで閉べからず 3 國の民は安息日と月朔とにその門の入口においてエホバの前に禮拜をなすべし 4 君が安息日にエホバに獻ぐる燔祭には六の全き羔羊と一の全き牡羊を用ふべし 5 又素祭は牡羊のために一エパを用ふべし羔羊のために用ふる素祭はその手の出しうる程を以し一エパに油一ヒンを加ふべし 6 月朔には犢なる一頭の全き牡牛および六の羔羊と一の牡羊の全き者を用ふべし 7 素祭は牛のために一エパ牡羊のために一エパ羔羊のために其手のおよぶ程を備へ一エパに油一ヒンを加ふべし 8 君は來る時に門の廊の路よ

り入りまたその路より出べし 9 國の民祭日にエホバの前に來る時は北の門よりいりて禮拜をなせる者は南の門より出で南の門より入る者は北の門より出べし其入りたる門より歸るべからず眞直に進みて出べし 10 君彼らの中にありてその入る時に入りその出る時に出べし 11 祭日と祝日には素祭として牛のために一エパ牡羊のために一エパ羔羊のためにその手の出し得る程を備へ一エパに油一ヒンを加ふべし 12 君もし自ら好んでエホバに燔祭を備へんとし又は自ら好んで酬恩祭を備へんとせば彼のために東向の門を開くべし彼は安息日に爲ごとくその燔祭と酬恩祭を備ふべし又彼が出たる時はその出たる後に門を閉べし 13 汝日々に一歳の全き羔羊一箇を燔祭としてエホバに備ふべし即ち朝ごとにこれを備ふべし 14 汝朝ごとに素祭をこれに加ふべし即ち一エパの六分一と麥粉を濕す油一ヒンの三分一とを素祭としてエホバに獻ぐべし是は長久に續くところの例典なり 15 即ち朝ごとに羔羊と素祭と油とを燔祭にそなへて止ことなかるべし 16 主エホバかく言たまふ君もし其子の一人に讓物をなす時は是はその人の産業となりその子孫に傳はりて之が所有となるべし 17 然ど若その産業の中をその僕の一人に與ふる時は是は解放の年までその人に屬し居て遂に君にかへるべし彼の産業は只その子孫にのみ傳はるべきなり 18 君たる者は民の産業を取て民をその所有より逐放すべからず只己の所有の中をその子等に傳ふべし是わが民のその所有をはなれて散ことなからんためなり 19 斯て彼門の傍の入口より我をたづさへいりて北向なる祭司の聖き室にいたるに西の奥に一箇の處あり 20 彼われに言けるは是は

祭司が愆祭および罪祭の物を烹 素祭の物を拷ところ
なり斯するはこれを外庭に携へいでて民を聖くする
ことなからんためなり 21 彼また我を外庭に携へいだ
して庭の四隅をとほらしむるに庭の隅々にまた庭あ
り 22 即ち庭の四隅に庭の設ありてその長四十キュビ
ト廣三十キュビトなり四隅の處その寸尺みな同じ 23
凡てその四の周圍なるその建物の下に烹飪の處造り
てあり 24 彼われに云けるは是等は家の役者等が民の
犠牲の品を烹る厨房なり

47 斯てかれ我を室の門に携へかへりしが室の闕の
下より水の東の方に流れ出るあり室の面は東にむか
ひをりその水下より出で室の右の方よりして壇の南
より流れ下る 2 彼北の門の路より我を携へいだして
外面をまはらしめ東にむかふ外の門にいたらしむる
に水門の右の方より流れ出づ 3 その人東に進み手に
度繩を持って一千キュビトを度り我に水をわたらしむ
るに水踝骨にまでおよぶ 4 彼また一千を度り我を涉
らしむるに水膝にまでおよぶ而してまた一千を度り
我を涉らしむるに水腰にまで及ぶ 5 彼また一千を度
るに早わが渉るあたはざる河となり水高くして泓ぐ
ほどの水となり徒渉すべからざる河とはなりぬ 6 彼
われに言けるは人の子よ汝これを見とめたるやと乃
ち河の岸に沿て我を將かへれり 7 我歸るに河の岸の
此方彼方に甚だ衆多の樹々生ひ立るあり 8 彼われに
言ふこの水東の境に流れゆきアラバにおち下りて海
に入る是海に入ればその水すなはち醫ゆ 9 凡そ此河
の往ところには諸の動くところの生物みな生ん又甚
だ衆多の魚あるべし此水到るところにて醫すことを
なせばなり此河のいたる處にては物みな生べきなり

10 漁者その傍に立んエンゲデよりエネグライムまでは網を張る處となるべしその魚はその類にしたがひて大海の魚のごとく甚だ多からん 11 但しその澤地と濕地とは愈ることあらずして鹽地となりをるべし 12 河の傍その岸の此旁彼旁に食はるる果を結ぶ諸の樹生そだたんその葉は枯ずその果は絶ず月々新しき果をむすべし是はその水かの聖所より流れいづればなりその果は食となりその葉は藥とならん 13 主エホバかく言たまふ汝らイスラエルの十二の支派の中に地を分ちてその産業となさしむるにはその界を斯さだむべしヨセフは二分を得べきなり 14 汝ら各々均しく之を獲て産業とすべし是は我が手をあげて汝らの先祖等に與へし者なり斯この地汝らに歸して産業とならん 15 地の界は左のごとし北は大海よりヘテロンの路をへてゼダデの方にいたり 16 ハマテ、ベロクにいたりダマスコの界とハマテの界の間なるシブライムにいたりハウランの界なるハザルハテコンにいたる 17 海よりの界はダマスコの界のハザルエノンにいたる北の方においてはハマテその界たり北の方は是のごとし 18 東の方はハウラン、ダマスコ、ギレアデとイスラエルの地との間にヨルダンあり汝らかの界より東の海までを量るべし東の方は斯のごとし 19 南の方はタマルよりメリボテカデシにおよび河に沿て大海にいたる南の方は是のごとし 20 西の方は大海にしてこの界よりハマテにおよぶ西の方は是のごとし 21 汝らイスラエルの支派にしたがひて此地を汝らの中にわかつべし 22 汝ら籤をもて之を汝らの中に分ち又汝らの中にをりて汝らの中に子等を擧けたる異邦人の中に分ちて産業となすべし斯る人は汝らにおける

ことイスラエルの子孫の中に生れたる本國人のごとし彼らも汝らと共に籤をひきてイスラエルの支派の中に産業を得べし 23 異邦人にはその住ところの支派の中にて汝ら之に産業を與ふべし主エホバこれを言たまふ

48 支派の名は是のごとしダンの一分は北の極よりヘテロンの路の傍にいたりハマテにいたり北におもむきてダマスコの界なるハザルエノンにいたりハマテの傍におよぶはその東の方と西の方なり 2 アセルの一分はダンの界にそひて東の方より西の方にわたる 3 ナフタリの一分はアセルの界にそひて東の方より西の方にわたる 4 マナセの一分はナフタリの界にそひて東の方より西の方にわたる 5 エフライムの一分はマナセの界にそひて東の方より西の方にわたる 6 ルベンの一分はエフライムの界にそひて東の方より西の方にわたる 7 ユダの一分はルベンの界にそひて東の方より西の方にわたる 8 ユダの界にそひて東の方より西の方にわたる處をもて汝らが献ぐるところの献納地となすべし其廣二萬五千其東の方より西の方にわたる長は他の一の分のごとし聖所はその中にあるべし 9 即ち汝らがエホバに献ぐるところの献納地は長二萬五千廣一萬なるべし 10 この聖き献納地は祭司に屬し北は二萬五千西は廣一萬東は廣一萬南は長二萬五千エホバの聖所その中にあるべし 11 ザドクの子孫たる者すなはち我が職守をまもりイスラエルの子孫が迷謬し時にレビ人の迷ひしごとく迷はざりし者の中聖別られて祭司となれる者に是は屬すべし 12 その献げたる地の中より一分の至聖き献納地かれらに屬してレビの境界に沿ふ 13 レビ人の地は祭司の

地にならびて其長二萬五千廣一萬なり即ちその都の長二萬五千その廣一萬なり 14 彼らこれを賣べからず換べからず又その地の初實は人にわたすべからず是エホバに屬する聖物なればなり 15 彼二萬五千の處に沿て残れる廣五千の處は俗地にして邑を建て住家を設くべし又郊地となすべし邑その中にあるべし 16 その廣狹は左のごとし北の方四千五百南の方四千五百東の方四千五百西の方四千五百 17 邑の郊地は北二百五十南二百五十東二百五十西二百五十 18 聖き獻納地にならびて餘れる處の長は東へ一萬西へ一萬なり是は聖き獻納地に並びその産物は邑の役人の食物となるべし 19 邑の役人はイスラエルの諸の支派より出てその職をなすべし 20 その獻納地の惣體は堅二萬五千横二萬五千なりこの聖き獻納地の四分の一にあたる處を取て邑の所有となすべし 21 聖き獻納地と邑の所有との此旁彼旁に餘れる處は君に屬すべし是はすなはち獻納地の二萬五千なる所に沿て東の界にいたり西はかの二萬五千なる所にそひて西の界に至りて支派の分と相並ぶ是君に屬すべし聖き獻納地と室の聖所とはその中間にあるべし 22 君に屬する所の中間にあるレビ人の所有と邑の所有の兩傍ユダの境とベニヤミンの境の間にある所は君の所有たり 23 その餘の支派はベニヤミンの一分東の方より西の方にわたる 24 シメオンの一分はベニヤミンの境にそひて東の方より西の方にわたる 25 イッサカルの一分はシメオンの境にそひて東の方より西の方にわたる 26 ゼブルンの一分はイッサカルの境にそひて東の方より西の方にわたる 27 ガドの一分はゼブルンの境にそひて東の方より西の方にわたる 28 南の方はその界ガドの境界

にそひてタマルよりメリボテカデシにおよび河に沿
て大海にいたる 29 是は汝らが籤をもてイスラエルの
支派の中にわかちて産業となすべき地なりその分は
斯のごとし主エホバこれを言たまふ 30 邑の出口は斯
のごとしすなはち北の方の廣四千五百あり 31 邑の門
はイスラエルの支流の名にしたがひ北に三あり即ち
ルベンの門―ユダの門―レビの門― 32 東の方も四千
五百にして三の門あり即ちヨセフの門―ベニヤミン
の門―ダンの門― 33 南の方も四千五百にして三の門
ありすなはちシメオンの門―イツサカルの門―ゼブ
ルンの門― 34 西の方も四千五百にしてその門三あり
即ちガドの門―アセルの門―ナフタリの門― 35 四周
は一萬八千あり邑の名は此日よりエホバ此に在すと
云ふ

ダニエル書

1 ユダの王エホヤキムの治世の第三年にバビロンの王ネブカデネザル、エルサレムにきたりて之を攻圍みしに **2** 主ユダの王エホヤキムと神の家の器具幾何とをかれの手にわたしたまひければ則ちこれをシナルの地に携へゆきて己の神の家にいたりその器具を己の神の庫に蔵めたり **3** 茲に王寺人の長アシベナズに命じてイスラエルの子孫の中より王の血統の者と貴族たる者幾何を召寄しむ **4** 即ち身に疵なく容貌美しくして一切の智慧の道に穎く知識ありて思慮深く王の宮に侍るに足る能幹ある少き者を召寄しめこれにカルデア人の文學と言語とを學ばせんとす **5** 是をもて王は命を下して日々に王の用ゐる饌と王の飲む酒とを彼らに與へしめ三年の間かく彼らを養ひ育てしめんとす是の後に彼らをして王の前に立ことを得せしめんとてなり **6** 是等の中にユダの人ダニエル、ハナニヤ、ミシヤエル、アザリヤありしが **7** 寺人の長かれらに名をあたへてダニエルをペルテシヤザルと名けハナニヤをシヤデラクと名けミシヤエルをメシヤクと名けアザリヤをアベデネゴと名く **8** 然るにダニエルは王の用ゐる饌と王の飲む酒とをもて己の身を汚すまじと心に思ひさだめたれば己の身を汚さざらしめんことを寺人の長に求む **9** 以前よりエホバ、ダニエルをして寺人の長の慈悲と寵愛とを蒙らしめたまふ **10** 是において寺人の長ダニエルに言けるは吾主なる王すでに命をくだして汝らの食物と汝らの飲物とを頒たしめたまへば我かれを畏る恐くは彼なんぢらの面の其同輩の少者等と異にして憂色あるを見ん然る時は汝らのために我首王の前に危からん

11 寺人の長はメルザル官をしてダニエル、ハナニヤ、ミシヤエル及びアザリヤを監督らせ置たればダニエル之に言けるは 12 請ふ十日の間僕等を験したまへ即ち我らには菜蔬を與へて食せ水を與へて飲せよ 13 而して我らの面と王の饌を食ふ少者どもの面とを較べ見汝の視るところにしたがひて僕等を待ひたまへと 14 是において彼この事を聽いれ十日のあひだ彼らを験しけるが 15 十日の後にいたりて見るに王の饌を食へる諸の少者よりも彼らの面は美しくまた肥え膩つきてありければ 16 メルザル官すなはち彼らの分なる饌と彼らの飲べき酒とを撤きさりて菜蔬をこれに與へたり 17 この四人の少者には神知識を得させ諸の文學と智慧に穎からしめたまへりダニエはまた能く各諸の異象と夢兆を暁る 18 王かねて命をくだし少者どもを召いる迄に經べき日を定めおきしがその日數も過たるに因て寺人の長かれらを引てネブカデザルの前にいたりければ 19 王かれらと言談へり彼ら一切の中にはダニエル、ハナニヤ、ミシヤエル、アザリヤに比ぶ者あらざりければこの四人は王の前に侍れり 20 王かれらに諸の事を詢たづね見に彼らは智慧の學においてその全國の博士と法術士に愈ること十倍なり 21 ダニエルはクロス王の元年までありき

2 ネブカデネザルの治世の二年にネブカデネザル夢を見それがために心に思ひなやみて復睡ること能はざりき 2 是をもて王は命を下し王のためにその夢を解せんとして博士と法術士と魔術士とカルデヤ人とを召しめたれば彼ら來りて王の前に立つ 3 王すなはち彼らにむかひ我夢を見その夢の義を知んと心に思ひなやむと言ければ 4 カルデヤ人等スリア語をもて王

に申しけるは願くは王長壽かれ請ふ僕等にその夢を語りたまへ我らその解明を進めたてまつらんと 5 王こたへてカルデヤ人に言けるは我すでに命を出せり汝等もしその夢とこれが解明とを我に示さざるにおいては汝らの身は切裂れ汝らの家は厠にせられん 6 又汝らもしその夢とこれが解明を示さば驢物と賞賚と大なる尊榮とを我より獲ん然ばその夢と之が解明を我に示せ 7 彼らまた對へて言けるは願くは王僕どもにその夢を語りたまへ然ば我らその解明を奏すべしと 8 王こたへて言けるは我あきらかに知る汝らは吾命の下りしを見るが故に時を延さんことを望むなり 9 汝らもしその夢を我に示さずば汝らを處置するの法は只一のみ汝らは相語らひて虚言と妄誕なる詞を我前にのべて時の變るを待んとするなり汝ら今先その夢を我に示せ然すれば汝らがその解明をも我にしめし得ることを我しらんと 10 カルデヤ人等こたへて王の前に申しけるは世の中には王のその事を示し得る人一箇もなし是をもて王たる者主たる者君たる者等の中に斯る事を博士または法術士またはカルデヤ人に問たづねし者絶てあらざるなり 11 王の問たまふその事は甚だ難し肉身なる者と共に居ざる神々を除きては王の前にこれを示すことを得る者無るべしと 12 斯りしかば王怒を發し大に憤りバビロンの智者をことごとく殺せと命じたり 13 即ち此命くだりければ智者等は殺されんとせり又ダニエルとその同僚をも殺さんともとめたり 14 茲に王の侍衛の長アリオク、バビロンの智者等を殺さんとして出きたりければダニエル遠慮と智慧とをもて之に應答せり 15 すなはち王の高官アリオクに對へて言けるは王なにとて斯す

みやかにこの命を下したまひしやとアリオクその事をダニエルに告しらせたれば 16 ダニエルいりて王に乞求めて言ふ暫くの時日を賜へ然ばその解明を王に奏せんと 17 斯てダニエルその家にかへりその同僚ハナニヤ、ミシヤエルおよびアザリヤにこの事を告しらせ 18 共にこの秘密につき天の神の憐憫を乞ひダニエルとその同僚等をしてその他のバビロンの智者とともに滅びさらしめんことを求めたりしが 19 ダニエルつひに夜の異象の中にこの秘密を示されければダニエル天の神を稱賛ふ 20 即ちダニエル應へて言けるは永遠より永遠にいたるまでこの神の御名は讃まつべきなり智慧と權能はこれが有なればなり 21 彼は時と期とを變じ王を廢し王を立て智者に智慧を與へ賢者に知識を賜ふ 22 彼は深妙秘密の事を顯し幽暗にあるところの者を知たまふまた光明彼の裏にあり 23 わが先祖等の神よ汝は我に智慧と權能を賜ひ今われらが汝に乞求めたるところの事を我にしめし給へば我感謝して汝を稱賛ふ即ち汝は王のかの事を我らに示したまへり 24 是においてダニエルは王がバビロンの智者等を殺すことを命じおけるアリオクの許にいたり即ちいりてこれに言けるはバビロンの智者等を殺す勿れ我を王の前に引いたれよ我その解明を王に奏上ぐべしと 25 アリオクすなはちダニエルを引て急ぎ王の前にいたり王にまうしけるは我ユダの俘囚人の中に一箇の人を得たり是者その解明を王にまうしあげん 26 王こたへてペルテシヤザルと名くるダニエルに言けるは汝は我が見たる夢とその解明とを我に知らすることを得るやと 27 ダニエルすなはち應へて王の前に言けるは王の間たまふ秘密は智者法術士博

士ト筮師など之を王に奏上ぐることを得ず 28 然ど天に一の神ありて秘密をあらはし給ふ彼後の日に起らんところの事の如何なるかをネブカデネザル王にしたらせたまふなり汝の夢汝が牀にありて想見たまひし汝の腦中の異象は是なり 29 王よ汝牀にいりし時將來の事の如何を想ひまはしたまひしが秘密を顯す者將來の事の如何を汝にしめし給へり 30 我がこの示現を蒙れるは凡の生る者にまさりて我に智慧あるに由にあらず唯その解明を王に知しむる事ありて王のつひにその心に想ひたまひし事を知にいたり給はんがためなり 31 王よ汝は一箇の巨なる像の汝の前に立るを見たまへり其像は大きくしてその光輝は常ならずその形は畏ろしくあり 32 其像は頭は純金 胸と兩腕とは銀 腹と腿とは銅 33 脛は鐵 脚は一分は鐵一分は泥土なり 34 汝見て居たまひしに遂に一箇の石人手によらずして鑿れて出でその像の鐵と泥土との脚を撃てこれを碎けり 35 斯りしかばその鐵と泥土と銅と銀と金とは皆ともに碎けて夏の禾場の糠のごとくに成り風に吹はらはれて止るところ無りき而してその像を撃たる石は大なる山となりて全地に充り 36 是その夢なり我らその解明を王の前に陳ん 37 王よ汝は諸王の王にいませり即ち天の神汝に國と權威と能力と尊貴とを賜へり 38 また人の子等野の獸畜および天空の鳥は何處にをる者にもあれ皆これを汝の手に與へて汝にこれをことごとく治めしめたまふ汝はすなはち此金の頭なり 39 汝の後に汝に劣る一の國おこらんまた第三に銅の國おこりて全世界を治めん 40 第四の國は堅きこと鐵のごとくならん鐵は能く萬の物を毀ち碎くなり 鐵の是等をことごとく打碎くがごとく其國は毀

ちかつ砕くことをせん 41 汝その足と足の趾を見たまひしに一分は陶人の泥土一分は鐵なりければその國は分裂たる者ならん又汝鐵と粘土との混和たるを見たまひたればその國は鐵のごとく強からん 42 その足の趾の一分は鐵一分は泥土なりしごとくその國は強きところもあり脆きところも有ん 43 汝が鐵と粘土との混りたるを見たまひしごとく其等は人草の種子と混らん然ど鐵と泥土との相合せざるごとく彼と此と相合すること有じ 44 この王等の日に天の神一の國を建たまはん是は何時までも滅ぶること無らん此國は他の民に歸せず却てこの諸の國を打破りてこれを滅せん是は立ちて永遠にいたらん 45 かの石の人手によらずして山より鑿れて出で鐵と銅と泥土と銀と金とを打碎きしを汝が見たまひしは即ちこの事なり大御神この後に起らんとするの事を王にしらせたまへるなりその夢は眞にしてこの解明は確なり 46 是においてネブカデネザル王は俯伏てダニエルを拜し禮物と香をこれに献ぐることを命じたり 47 而して王こたへてダニエルに言けるは汝がこの秘密を明かに示すことを得たるを見れば誠に汝らの神は神等の神王等の主にして能く秘密を示す者なりと 48 かくて王はダニエルに高位を授け種々の大なる賜物を與へてこれをバビロン全州の總督となしまたバビロンの智者等を統る者の首長となせり 49 王またダニエルの願によりてシャデラクとメシャクとアベデネゴを擧てバビロン州の事務をつかさどらしめたりダニエルは王の宮にをる

3 茲にネブカデネザル王一箇の金の像を造れりその高は六十キュビトその横の廣は六キュビトなりき即

ちこれをバビロン州のドラの平野に立たり 2 而して
ネブカデネザル王は州牧將軍方伯刑官庫官法官士師
および州郡の諸有司を召集めそのネブカデネザル王
の立たる像の告成禮に臨ましめんとせり 3 是におい
てその州牧將軍方伯刑官庫官法官士師および州郡の
諸有司等はネブカデネザル王の立たる像の告成禮に
臨みそのネブカデネザル王の立たる像の前に立り 4
時に傳令者大聲に呼はりて言ふ諸民諸族諸音よ汝ら
は斯命ぜらる 5 汝ら喇叭簫琵琶琴瑟箏箏などの諸の
樂器の音を聞く時は俯伏しネブカデネザル王の立た
まへる金像を拝すべし 6 凡て俯伏て拝せざる者は即
時に火の燃る爐の中に投こまるべしと 7 是をもて諸
民等喇叭簫琵琶琴瑟などの諸の樂器の音を聞くや直
に諸民諸族諸音みな俯伏しネブカデネザル王の立た
る金像を拝したり 8 その時或カルデヤ人等進みきた
りてユダヤ人を讒奏せり 9 即ち彼らネブカデネザル
王に奏聞して言ふ願くは王長壽かれ 10 王よ汝は命を
出して宣へり凡て喇叭簫琵琶琴瑟箏箏などの諸の樂
器の音を聞く者はみな俯伏しこの金像を拝すべし 11
凡て俯伏し拝せざる者はみな火の燃る爐の中に投こ
まるべしと 12 此に汝が立てバビロン州の事務を司ど
らせ給へるユダヤ人シャデラク、メシヤクおよびア
ベデネゴあり王よ此人々は汝を尊ばず汝の神々にも
事へず汝の立たまへる金像をも拝せざるなりと 13 是
においてネブカデネザル怒りかつ憤りてシャデラク
、メシヤクおよびアベデネゴを召寄よと命じければ
即ちこの人々を王の前に引きたりしに 14 ネブカデネ
ザルかれらに問て言けるはジャデラク、メシヤク、
アベデネゴよ汝ら我神に事へずまた我が立たる金像

を拝せざるは是故意にするなるか **15** 汝らもし何の時にもあれ喇叭簫琵琶琴瑟箏箏などの諸の樂器の音を聞く時に俯伏し我が造れる像を拝することを爲ば可し然ど汝らもし拝することをせずば即時に火の燃る爐の中に投こまるべし何の神か能く汝らをわが手より救ひいだすことをせん **16** シヤデラク、メシヤクおよびアベデネゴ對へて王に言けるはネブカデネザルよこの事においては我ら汝に答ふるに及ばず **17** もし善らんには王よ我らの事ふる我らの神我らを救ふの能あり彼その火の燃る爐の中と汝の手の中より我らを救ひいださん **18** 假令しからざるも王よ知たまへ我らは汝の神々に事へずまた汝の立たる金像を拝せじ **19** 是においてネブカデネザル怒氣を充しシヤデラク、メシヤクおよびアベデネゴにむかひてその面の容を變へ即ち爐を常に熱くするよりも七倍熱くせよと命じ **20** またその軍勢の中の力強き人々を喚てシヤデラク、メシヤクおよびアベデネゴを縛りてこれを火の燃る爐の中に投こめと命じたり **21** 是をもて此人々はその褲子羽織外套およびその他の服装を着たるままにて縛られて火の燃る爐の中に投こまれたりしが **22** 王の命はなはだ急にして爐は甚だしく熱しむたれば彼のシヤデラク、メシヤクおよびアベデネゴを引抱へゆける者等はその火焰に焼ころされたり **23** また此シヤデラク、メシヤク、アベデネゴの三人は縛られたるままにて燃る爐の中に落いりぬ **24** 時にネブカデネザル王驚きて急忙しくたちあがり大臣等に言ふ我らは三人を縛りて火の中に投いれざりしや彼ら王にこたへて言ふ王よ然りと **25** 王また應へて言ふ今我見るに四人の者縲紲解て火の中に歩みをり凡て何の

害をも受ずまたその第四の者の容は神の子のごとし
と 26 ネブカデネザルすなはちその火の燃る爐の口に
進みよりて呼て言ふ至高神の僕シヤデラク、メシヤ
ク、アベデネゴよ汝ら出きたれと是においてシヤデ
ラク、メシヤクおよびアベデネゴその火の中より出
きたりしかば 27 州牧將軍方伯および王の大臣等集り
て比人々を見たり此人々の身は火もこれを害する力
なかりきまたその頭の髪は焼けずその衣裳は傷ねず
火の臭氣もこれに付ざりき 28 ネブカデネザルすなは
ち宣て曰くシヤデラク、メシヤク、アベデネゴの神
は讃べき哉彼その使者を遣りて己を頼む僕を救へり
また彼らは自己の神の外には何の神にも事へずまた
拝せざらんとて王の命をも用ひず自己の身をも捨ん
とせり 29 然ば我今命を下す諸民諸族諸音の中凡てシ
ヤデラク、メシヤクおよびアベダネゴの神を詈る者
あらばその身は切裂れその家は厠にせられん其は是
のごとくに救を施す神他にあらざればなりと 30 かく
て王またシヤデラク、メシヤクおよびアベデネゴの
位をすすめてバビロン州にをらしむ

4 ネブカデネザル王全世界に住める諸民諸族諸音に
諭す願くは大なる平安汝らにあれ 2 至高神我にむか
ひて徴證と奇蹟を行へり我これを知しむることを善
と思ふ 3 嗚呼大なるかなその徴證嗚呼盛なるかなそ
の奇蹟その國は永遠の國その權は世々限なし 4 我ネ
ブカデネザルわが家に安然に居りわが宮に榮え居れ
り 5 我一の夢を見て之がために懼れ即ち床にありて
その事を想ひめぐらしその我腦中の異象のために心
をなやませり 6 是に於て我命を下しバビロンの智者
をことごとく我前に召よせしめてその夢の解明を我

にしめさせんと爲たれば 7 すなはち博士法術士カル
デヤ人ト筮師等きたりしに囚て我その夢を彼らに語
りけるに彼らはその解明を我にしめすことを得ざり
き 8 かくて後ダニエルわが前に來れり彼の名は吾神
の名にしたがひてベルテシヤザルと稱へられその裏
には聖神の靈やどれり我その夢を彼の前に語りて曰
けらく 9 博士の長ベルテシヤザルよ我しる汝の裏に
は聖神の靈やどれば如何なる秘密も汝には難き事な
し我が夢に見たるところの事等を聞きその解明を我
に告げよ 10 我が床にありて見たる吾腦中の異象は是
のごとし我觀しに地の當中に一の樹ありてその丈高
かりしが 11 その樹長じて強固なり天に達するほどの
高となりて地の極までも見えわたり 12 その葉は美し
くその菓は饒にして一切の者その中より食を得また
野の獸その蔭に臥し空の鳥その枝に棲み凡て血氣あ
る者みな是によりて身を養ふ 13 我床にありて得たる
腦中の異象の中に一箇の警寤者一箇の聖者の天より
下るを見たりしが 14 彼聲高く呼はりて斯いへり此樹
を伐たふしその枝を斫はなしその葉を揺おとしその
果を打散し獸をしてその下より逃はしらせ鳥をして
その枝を飛さらしめよ 15 但しその根の上の斬株を地
に遺しおき鐵と銅の索をかけて之を野の草の中にあ
らしめよ是は天よりくだる露に濡れまた地の草の中
にて獸とその分を同じうせん 16 又その心は變りて人
間の心のごとくならず獸の心を稟て七の時を經ん 17
この事は警寤者等の命によりこの事は聖者等の言に
よる是至高者人間の國を治めて自己の意のままにこ
れを人に與へまた人の中の最も賤き者をその上に立
たまふといふ事を一切の者に知しめんがためなり 18

我ネブカデネザル王この夢を見たりベルテシヤザル
よ汝その解明を我に述よ我國の智者は孰も皆その解
明を我に示すことを得ざりしが汝は之を能せん其は
汝の裏には聖神の靈やどればなりと 19 その時ダニエ
ル又の名はベルテシヤザルとい者暫時の間驚き居り
心に深く懼れたれば王これに告て言りベルテシヤザ
ルよ汝この夢とその解明のために懼るるにおよばず
とベルテシヤザルすなはち答へて言けらく我主よ願
くはこの夢汝を惡む者の上にかからん事を願くは此
解明汝の敵にのぞまんことを 20 汝が見たまひし樹す
なはちその長じて強くなり天に達するほどの高とな
りて地の極までも見えわたり 21 その葉は美しくその
果は饒にして一切の者その中より食を得またその下
に野の獸臥しその枝に空の鳥棲たる者 22 王よ是はす
なはち汝なり汝は長じて強くなり汝の勢ひは盛にし
て天におよび汝の權は地の極にまでおよべり 23 王ま
た一箇の警寤者一箇の聖者の天より下りて斯言ふを
見たまへり云くこの樹を伐たふして之をそこなへ但
し其根の上の斬株を地に遺しおき鐵と銅の索をかけ
て之を野の草の中にあらしめよ是は天より下る露に
濡れ野の獸とその分を同じうして七の時を経ん 24 王
よその解明は是の如し是即ち至高者の命にして王我
主に臨まんとする者なり 25 即ち汝は逐れて世の人と
離れ野の獸とともに居り牛のごとくに草を食ひ天よ
りくだる露に濡れん是の如くにして七の時を経て汝
つひに知ん至高者人間の國を治めて自己の意のまま
に之を人に與へ給ふと 26 又彼らその樹の根の上の斬
株を遺しおけと言たれば汝の國は汝が天は主たりと
知にいたる時まで汝を離れん 27 然ば王よ吾諫を容れ

義をおこなひて罪を離れ貧者を憐みて惡を離れよ然らば汝の平安あるひは長く続かんと 28 この事みなネブカデネザル王に臨めり 29 十二箇月を経て後王バビロンの王宮の上に歩みをり 30 王すなはち語りて言ふ此大なるバビロンは我が大なる力をもて建て京城となし之をもてわが威光を耀かす者ならずや 31 その言なほ王の口にある中に天より聲降りて言ふネブカデネザル王よ汝に告ぐ汝は國の位を失はん 32 汝は逐れて世の人と離れ野の獸と共に居り牛のごとくに草を食はん斯の如くにして七の時を経て汝つひに知ん至高者人間の國を治めて己れの意のままにこれを人に與へたまふと 33 その時直にこの事ネブカデネザルに臨み彼は逐れて世の人に離れ牛のごとくに草を食ひてその身は天よりくだる露に濡れ終にその髮毛は鷲の羽のごとくなりその爪は鳥の爪のごとくなりぬ 34 斯てその日の満たる後我ネブカデネザル目をあげて天を望みしにわが分別性我に歸りたれば我至高者に感謝しその永遠に生る者を讚かつ崇めたり彼の御宇は永遠の御宇彼の國は世々かぎり無し 35 地上の居民は凡て無き者のごとし天の衆群にも地の居民にも彼はその意のままに事をなしたまふ誰も彼の手をおさへて汝なんぞ然するやと言ことを得る者なし 36 この時わが分別性かく我に歸りたりしがわが國の榮光につきてはまた我の尊嚴と光耀我にかへれり且また大臣牧伯等我に請求めて我ふたたび國の祚を踐み前よりも著しく威光を増たり 37 是において我ネブカデネザル今は天の王を讚頌へかつ崇む彼の作爲は凡て眞實彼の道は正義自ら高ぶる者は彼能くこれを卑くしたまふ

5 ベルシヤザル王その大臣一千人のために酒宴を設けその一千人の者の前に酒を飲たりしが **2** 酒の進むにいたりてベルシヤザルはその父ネブカデネザルがエルサレムの宮より取きたりし金銀の器を携へいたれと命ぜり是王とその大臣および王の妻妾等みな之をもて酒を飲んとてなりき **3** 是をもてそのエルサレムなる神の宮の内院より取たりし金の器を携へいたりければ王とその大臣および王の妻妾等これをもて飲めり **4** すなはち彼らは酒をのみて金銀銅鐵木石などの神を讃たたへたりしが **5** その時に人の手の指あらはれて燭臺と相對する王の宮の粉壁に物書り王その物書る手の末を見たり **6** 是において王の愉快なる顔色は變りその心は思ひなやみて安からず腿の關節はゆるみ膝はあひ撃り **7** 王すなはち大聲に呼はりて法術士カルデア人ト筮師等を召きたらしめ而して王バビロンの智者等に告て言ふこの文字を讀みその解明を我に示す者には紫の衣を衣せ頸に金の鏈をかけさせて之を國の第三の牧伯となさんと **8** 王の智者等は皆きたりしかどもその文字を讀こと能はずまたその解明を王にしめすこと能はざりければ **9** ベルシヤザル王おほいに思ひなやみてその顔色を失へりその大臣等もまた驚き懼れたり **10** 時に太后王と大臣等の言を聞てその酒宴の室にいりきたり太后すなはち陳て言ふ願くは王長壽かれ汝心に思ひなやむ勿れまた顔色を失ふにおよばず **11** 汝の國に聖神の靈のやどれる一箇の人あり汝の父の代に彼聰明了知および神の智慧のごとき智慧あることを顯せり汝の父ネブカデネザル王すなはち汝の父の王彼を立てて博士法術士カルデア人ト筮師等の長となせり **12** 彼はダニエルと

いへる者なるが王これにベルテシヤザルといふ名を
與へたり彼は心の殊勝たる者にて了知あり知識あり
て能く夢を解き隠語を解き難問を解くなり然ばダニ
エルを召されよ彼その解明をしめさんと 13 是におい
てダニエル召れて王の前に至りければ王ダニエルに
語りて言ふ汝は吾父の王がユダより曳きたりしユダ
の俘囚人なるそのダニエルなるか 14 我聞になんぢの
裏には神の靈やどりをりて汝は聰明了知および非凡
の智慧ありと云ふ 15 我智者法術士等を吾前に召よせ
てこの文字を讀しめその解明を我にしめさせんと爲
たれども彼らはこの事の解明を我にしめすことを得
ず 16 我聞に汝は能く物事の解明をなしかつ難問を解
くと云ふ然ば汝もし能くこの文字を讀みその解明を
我に示さば汝に紫の衣を衣せ金の索を汝の頸にかけ
させて汝をこの國の第三の牧伯となさんと 17 ダニエ
ルこたへて王に言けるは汝の賜物は汝みづからこれ
を取り汝の饒物はこれを他の人に與へたまへ然なが
ら我は王のためにその文字を讀みその解明をこれに
知せてまつらん 18 王よ至高神汝の父ネブカデネザ
ルに國と權勢と榮光と尊貴を賜へり 19 彼に權勢を賜
ひしによりて諸民諸族諸音みな彼の前に慄き畏れた
り彼はその欲する者を殺しその欲する者を活しその
欲する者を上げその欲する者を下ししなり 20 而して
彼心に高ぶり氣を剛愎にして驕りしかばその國の位
をすべりてその尊貴を失ひ 21 逐れて世の人と離れそ
の心は獸のごとくに成りその住所は野馬の中にあり
牛のごとくに草を食ひてその身は天よりの露に濡た
り是のごとくにして終に彼は至高神の人間の國を治
めてその意のままに人を立たまふといふことをしる

にいたれり 22 ペルシヤザルよ汝は彼の子にして此事を盡く知るといへども猶その心を卑くせず 23 却つて天の主にかひて自ら高ぶりその家の器皿を汝の前に持きたらしめて汝と汝の大臣と汝の妻妾等それをもて酒を飲み而して汝は見ことも聞ことも知こともあらぬ金銀銅鐵木石の神を讃頌ふことを爲し汝の生命をその手に握り汝の一切の道を主どりたまふ神を崇むることをせず 24 是をもて彼の前よりこの手の末いできたりてこの文字を書くなり 25 その書く文字は是のごとしメネ、メネ、テケル、ウバルシン 26 その言の解明は是のごとしメネ(數へたり)は神汝の治世を數へてこれをその終に至らせしを謂なり 27 テケル(秤れり)は汝が權衡にて秤られて汝の重の足らざることの顯れたるを謂なり 28 ペレス(分たれたり)は汝の國の分たれてメデアとペルシヤに與へらるるを謂なり 29 是においてペルシヤザル命を降してダニエルに紫の衣を着せしめ金の鏈をこれが頸にかけさせて彼は國の第三の牧伯なりと布告せり 30 カルデア人の王ペルシヤザルはその夜の中に殺され 31 メデア人ダリヨスその國を獲たり此時ダリヨスは六十二歳なりき

6 ダリヨスはその國に百二十人の牧伯を立てることを善とし即ちこれを立て全國を治理しめ 2 また彼らの上に監督三人を立てりダニエルはその一人なりき是はその州牧をして此三人の前にその職を述しめて王に損失の及ぶこと無らしめんためなりき 3 ダニエルは心の殊勝たる者にしてその他の監督および州牧等に勝りたれば王かれを立て全國を治めしめんとせり 4 是においてその監督と州牧等國事につきてダエルを

訟ふる隙を得んとしたりしが何の隙をも何の咎をも
見いだすことを得ざりき其は彼は忠義なる者にてそ
の身に何の咎もなく何の過失もなかりければなり 5
是においてその人々言けるはこのダニエルはその神
の例典について之が隙を獲にあらざればついにこれ
を訟るに由なしと 6 すなはちその監督と州牧等王の
許に集り來りて斯王に言りダリヨス王よ願くは長壽
かれ 7 國の監督將軍州牧牧伯方伯等みな相議りて王
に一の律法を立て一の禁令を定めたまはんことを求
めんとす王よその事は是の如し即ち今より三十日の
内は唯汝にのみ願事をなさしめ若汝をおきて神また
は人にこれをなす者あらば凡て獅子の穴に投いれん
といふ是なり 8 然ば王よねがはくはその禁令を立て
その詔書を認めメデアとペルシヤの廢ることなき律
法のごとくに之をして變らざらしめたまへと 9 王す
なはち詔書をしたためてその禁令を出せり 10 茲にダ
ニエルはその詔書を認めたることを知りて家にかへ
りけるがその二階の窓のエルサレムにむかひて開け
る處にて一日に三度づつ膝をかがめて禱りその神に
向て感謝せり是その時の前よりして斯なし居たれば
なり 11 斯りしかばその人々馳よりてダニエルがその
神にむかひて禱りかつ求めをるを見あらはせり 12 而
して彼ら進みきたり王の禁令の事につきて王に奏上
して言けるは王よ汝は禁令をしたため出し今より三
十日の内には只なんぢにのみ願事をなさしめ若し汝
をおきて神または人にこれをなす者あらば凡てその
者を獅子の穴に投いれんと定めたまへるならずやと
王こたへて言ふ其事は眞實にしてメデアとペルシヤ
の律法のごとく廢べからざる者なり 13 彼らまた對へ

て王の前に言けるは王よユダの俘擄人なるダニエルは汝をも汝の認め出し給ひし禁令をも顧みずして一日に三度づつ祈祷をなすなりと 14 王この事を聞てこれがために大に愁ひダニエルを救はんと心を用ひ即ちこれを拯けんと力をつくして日の入る頃におよびければ 15 その人々また王の許に集ひきたりて王に言けるは王よ知りたまへメデアとペルシヤの律法によれば王の立たる禁令または法度は變べからざる者なりと 16 是において王命を下しければダニエルを曳きたりて獅子の穴に投いれたり王ダニエルに語りて言ふ願くは汝が恒に事ふる神汝を救はんことをと 17 時に石を持きたりてその穴の口を塞ぎければ王おのれの印と大臣等の印をもてこれに封印をなせり是ダニエルの處置をして變ることなからしめんためなりき 18 斯て後王はその宮にかへりけるがその夜は食をなさずまた嬪等を召よせずして全く寝ることをせざりき 19 而して王は朝まだきに起いでてその獅子の穴に急ぎいたりしが 20 穴にいたりける時哀しげなる聲をあげてダニエルを呼びすなはち王ダニエルに言けるは活神の僕ダニエルよ汝が恒に事ふる神汝を救ふて獅子の害を免れしむることを得しや 21 ダニエル王にいひけるは願くは王長壽かれ 22 吾神その使をおくりて獅子の口を閉させたまひたれば獅子は我を害せざりき其は私の辜なき事かれの前に明かなればなり王よ我は汝にも悪しき事をなさざりしなりと 23 是において王おほいに喜びダニエルを穴の中より出せと命じければダニルは穴の中より出されけるがその身に何の害をも受をらざりき是は彼おのれの神を頼みたるによりてなり 24 かくて王また命を下しかのダニエ

ルを讒奏せし者等を曳きたらせて之をその妻子とともに獅子の穴に投いれしめたるにその穴の底につかざる内に獅子はやくも彼らを攫みてその骨までもことごとく咬碎けり 25 是においてダリヨス王全世界に住る諸民諸族諸音に詔書を頒てり云く願くは大なる平安なんぢらにあれ 26 今我詔命を出す我國の各州の人みなダニエルの神を畏れ敬ふべし是は活神にして永遠に立つ者またその國は亡びずその權は終極まで続くなり 27 是は救を施し拯をなし天においても地においても休徴をほどこし奇蹟をおこなふ者にてすなはちダニエルを救ひて獅子の力を免れしめたりと 28 このダニエルはダリヨスの世とペルシヤ人クロスの世においてその身榮えたり

7 バビロンの王ペルシヤザルの元年にダニエルその牀にありて夢を見 腦中に異象を得たりしが即ちその夢を記してその事の大意を述ぶ 2 ダニエル述て曰く我夜の異象の中に見てありしに四方の天風大海にむかひて烈しく吹きたり 3 四箇の大なる獸海より上りきたれりその形はおのおの異なり 4 第一のは獅子の如くにして鷲の翼ありけるが我見てをりしに是はその翼を抜とられまた地より起され人のごとく足にて立せられ且人の心を賜はれり 5 第二の獸は熊のごとくなりき是はその體の一方を擧げその口の齒の間に三の脇骨を啣へ居けるが之にむかひて言る者あり曰く起あがりて許多の肉を食へと 6 その後に我見しに豹のごとき獸いでたりしがその背には鳥の翼四ありこの獸はまた四の頭ありて統轄權をたまはれり 7 我夜の異象の中に見しにその後第四の獸いでたりしが是は畏しく猛く大に強くして大なる鐵の齒あり食ひ

かつ咬碎きてその殘餘をば足にて踏つけたり是はその前に出たる諸の獸とは異なりてまた十の角ありき
8 我その角を考へ觀つつありけるにその中にまた一箇のの小き角出きたりしがこの小き角のために先の角三箇その根より抜おちたりこの小き角には人の目のごとき目ありまた大なる事を言ふ口あり 9 我觀つつありしに遂に寶座を置列ぶるありて日の老たる者座を占めたりしがその衣は雪のごとくに白くその髮毛は漂潔めたる羊の毛のごとし又その寶座は火の焰にしてその車輪は燃る火なり 10 而して彼のの前より一道の火の流わきいづ彼に仕ふる者は千々彼の前に侍る者は萬々審判すなはち始りて書を開けり 11 その角の大なる事を言ふ聲によりて我觀つつありけるが我が見る間にその獸は終に殺され體を壞はれて燃る火に投げられたり 12 またその餘の獸はその權威を奪はれたりしがその生命は時と期の至るまで延されたり 13 我また夜の異象の中に觀てありけるに人の子のごとき者雲に乗て來り日の老たる者の許に到りたればすなはちその前に導きけるに 14 之に權と榮と國とを賜ひて諸民諸族諸音をしてこれに事へしむその權は永遠の權にして移りさらず又その國は亡ぶることなし 15 是において我ダニエルその體の内の魂を憂へしめわが腦中の異象のために思ひなやみたれば 16 すなはち其處にたてる者の一箇に就てこの一切の事の眞意を問けるに其者われにこの事の解明を告しらせて云く 17 この四の大なる獸は地に興らんとする四人の王なり 18 然ど終には至高者の聖徒國を受け長久にその國を保ちて世々限りなからんと 19 是において我またその第四の獸の眞意を知んと欲せり此獸は他の獸と

異なりて至畏ろしくその齒は鐵その爪は銅にして食ひかつ咬碎きてその殘餘を足にて踏つけたり 20 此獸の頭には十の角ありしが其他にまた一の角いできたりしかば之がために三の角抜おちたり此角には目ありまた大なる事を言ふ口ありてその状はその同類よりも強く見えたり我またこの事を知んと欲せり 21 我觀つつありけるに此角聖徒と戦ひてこれに勝たりしが 22 終に日の老たる者來りて至高者の聖徒のために公義をおこなへり而してその時いたりて聖徒國を獲たり 23 彼かく言ひ第四の獸は地上の第四の國なり是は一切の國と異なり全世界を并呑しこれを踏つけかつ打破らん 24 その十の角はこの國に興らんとする所の十人の王なり之が後にまた一人興るべし是は先の者と異なり且その王三人を倒すべし 25 かれ至高者に敵して言を出しかつ至高者の聖徒を悩まさん彼また時と法とを變んことを望まん聖徒は一時と二時と半時を経るまで彼の手に付されてあらん 26 斯て後審判はじまり彼はその權を奪はれて終極まで滅び亡ん 27 而して國と權と天下の國々の勢力とはみな至高者の聖徒たる民に歸せん至高者の國は永遠の國なり諸國の者みな彼に事へかつ順はんと 28 その事此にて終れり我ダニエルこれを思ひまはして大に憂へ顔色も變りぬ我この事を心に蔵む

8 我ダニエル前に異象を得たりしが後またベルシヤザルの第三年にいたりて異象を得たり 2 我異象を見たり我これを見たる時に吾身はエラム州なるシユシヤンの城にあり我が異象を見たるはウライ河の邊においてなりき 3 我目を擧て觀しに河の上に一匹の牡羊立をり之に二の角ありてその角共に長かりしが一

の角はその他の角よりも長かりきその長き者は後に長たるなり 4 我觀しにその牡羊西北南にむかひて牴觸りけるが之に敵ることを得る獸一匹も無くまたその手より救ひいだすことを得る者絶てあらざりき是はその意にまかせて事をなしその勢威はなはだ盛なりき 5 我これを考へ見つつありけるにて一匹の牡山羊全地の上を飛わたりて西より來りしがその足は土を履ざりきこの牡山羊は目の間に著明しき一の角ありき 6 此者さきに我が河の上に立るを見たる彼の二の角ある牡羊に向ひ來り熾盛なる力をもて之の所に跑いたりけるが 7 我觀てあるに牡羊に近づくに至りて之にむかひて怒を發し牡羊を撃てその二の角を碎きたるに牡羊には之に敵る力なかりければこれを地に打倒して踏つけたり然るにその牡羊をこれが手より救ひ得る者あらざりき 8 而してその牡山羊甚だ大きくなりけるがその盛なる時にあたりてかの大なる角折れその代に四の著明しき角生じて天の四方に對へり 9 またその角の一よりして一の小き角いできたり南にむかひ東にむかひ美地にむかひて甚だ大きくなり 10 天軍におよぶまでに高くなりその軍と星數箇を地に投くだしてこれを踏つけ 11 また自ら高ぶりてその軍の主の敵しその常供の物を取のぞきかつその聖所を毀てり 12 一軍罪の故によりて常供の物とともに棄られたり彼者はまた眞理を地に擲ち事をなしてその意志を得たり 13 かくて我聞に一箇の聖者語ひをりしが又一箇の聖者ありてその語ひをる聖者にむかひて言ふ常供の物と荒廢を來らす罪とにつきて異象にあらはれたるところの事聖所とその軍との棄られて踏つけらるる事は何時まで斯てあるべきかと 14

彼すなはち我に言けるは二千三百の朝夕をかさぬる
まで斯てあらん而して聖所は潔めらるべし 15 我ダニ
エルこの異象を見てその意義を知んと求めをりける
時人のごとく見ゆる者わが前に立り 16 時に我聞にウ
ライ河の兩岸の間より人の聲出て呼はりて言ふガブ
リエルよこの異象をその人に曉らしめよと 17 彼すな
はち我の立る所にきたりしがその到れる時に我おそ
れて仆れ伏たるに彼われに言けるは人の子よ曉れ此
異象は終の時にかはる者なりと 18 彼の我に語ひけ
る時我は氣を喪へる状にて地に俯伏をりしが彼我に
手をつけて我を立せ言けるは 19 視よ我忿怒の終に起
らんところの事を汝に知せん此事は終末の期におよ
びてあらん 20 汝が見たるかの二の角ある牡羊はメデ
アとペルシヤの王なり 21 またかの牡山羊はギリシヤ
の王その目の間の大なる角はその第一の王なり 22 ま
たその角をれてその代に四の角生じたればその民よ
りして四の國おこらん然ど第一の者の權勢には及ば
ざるなり 23 彼らの國の末にいたり罪人の罪貫盈にお
よびて一人の王おこらんその顔は猛惡にして巧に詭
譎を言ひ 24 その權勢は熾盛ならん但し自己の能力を
もて之を致すに非ずその毀滅ことを爲は常ならず意
志を得て事を爲し權能ある者等と聖民とを滅さん 25
彼は機巧をもて詭譎をその手に行ひ遂げ心にみづか
ら高ぶり平和の時に衆多の人を打滅しまた君の君た
る者に敵せん然ど終には人手によらずして滅されん
26 前に告たる朝夕の異象は眞實なり汝その異象の事
を秘しおけはは衆多の日の後に有べき事なり 27 是に
おいて我ダニエル疲れはてて數日の間病わづらひて

後興いでて王の事務をおこなへり我はこの異象の事を案ひて駭けり人もまたこれを暁ることを得ざりき

9 メデア人アハシユエロスの子ダリヨスがカルデア人の王とせられしその元年 **2** すなはちその世の元年に我ダニエル、エホバの言の預言者エレミヤにのぞみて告たるその年の數を書によりて暁れり即ちその言にエルサレムは荒て七十年を経んとあり **3** 是にかいて我面を主エホバに向け斷食をなし麻の衣を着灰を蒙り祈りかつ願ひて求むることをせり **4** 即ち我わが神エホバに禱り懺悔して言り嗚呼大にして畏るべき神なる主自己を愛し自己の誠命を守る者のために契約を保ち之に恩恵を施したまふ者よ **5** 我等は罪を犯し悖れる事を爲し惡を行ひ叛逆を爲して汝の誠命と律法を離れたり **6** 我等はまた汝の僕なる預言者等が汝の名をもて我らの王等君等先祖等および全國の民に告たる所に聽したがはざりしなり **7** 主よ公義は汝に歸し羞辱は我らに歸せりその状今日のごとし即ちユダの人々エルサレムの居民およびイスラエルの全家の者は近き者も遠き者も皆汝の逐やりたまひし諸の國々にて羞辱を蒙れり是は彼らが汝に背きて獲たる罪によりて然るなり **8** 主よ羞辱は我儕に歸し我らの王等君等および先祖等に歸す是は我儕なんぢに向ひて罪を犯したればなり **9** 憐憫と赦宥は主たる我らの神の裏にあり其は我らこれに叛きたればなり **10** 我らはまた我らの神エホバの言に遵はずエホバがその僕なる預言者等によりて我らの前に設けたまひし律法を行はざりしなり **11** 抑イスラエル人は皆汝の律法を犯し離れさりて汝の言に遵はざりき是をもて神の僕モーセの律法に記したる呪詛と誓詞我らの上

に斟ぎかかれり是は我らこれに罪を獲たればなり 12
即ち神は大なる災害を我らに蒙らせたまひてその前
に我らと我らを鞠ける士師とにむかひて宣ひし言を
行ひとげたまへりかのエルサレムに臨みたる事の如
きは普天の下に未だ曾て有ざりしなり 13 モーセの律
法に記したる如くにこの災害すべて我らに臨みしか
ども我らはその神エホバの面を和めんとも爲ずその
惡を離れて汝の眞理を暁らんとも爲ざりき 14 是をも
てエホバ心にかけて災害を我らに降したまへり我ら
の神エホバは何事をなしたまふも凡て公義いますな
り然るに我らはその言に遵はざりき 15 主たる我らの
神よ汝は強き手をもて汝の民をエジプトの地より導
き出して今日のごとく汝の名を揚たまふ我らは罪を
犯し惡き事を行へり 16 主よ願くは汝が是まで公義き
御行爲を爲たまひし如く汝の邑エルサレム汝の聖山
より汝の忿怒と憤恨を取離し給へ其は我らの罪と我
らの先祖の惡のためにエルサレムと汝の民は我らの
周圍の者の笑柄となりたればなり 17 然ば我らの神よ
僕の禱と願を聽たまへ汝は主にいませばかの荒を
る汝の聖所に汝の面を耀かせたまへ 18 我神よ耳を傾け
て聽たまへ目を啓きて我らの荒蕪たる状を觀汝の名
をもて稱へらるる邑を觀たまへ我らが汝の前に祈禱
をたてまつるは自己の公義によるに非ず唯なんぢの
大なる憐憫によるなり 19 主よ聽いれたまへ主よ赦し
たまへ主よ聽いれて行ひたまへこの事を遅くしたま
ふなかれわが神よ汝みづからのために之をなしたま
へ其は汝の邑と汝の民は汝の名をもて稱へらるれば
なり 20 我かく言て祈りかつわが罪とわが民イスラエ
ルの罪を懺悔し我神の聖山の事につきてわが神エホ

バのまへに願をたてまつりをる時 **21** 即ち我祈祷の言をのべをる時我が初に異象の中に見たるかの人ガブリエル迅速に飛て晩の祭物を献ぐる頃我許に達し **22** 我に告げ我に語りて言けるはダニエルよ今我なんぢを教へて了解を得せしめんとて出きたれり **23** 汝が祈祷を始むるに方りて我言を受たれば之を汝に示さんとて來れり汝は大に愛せらるる者なり此言を了りその現れたる事の義を曉れ **24** 汝の民と汝の聖邑のために七十週を定めおかる而して惡を抑へ罪を封じ愆を贖ひ永遠の義を携へ入り異象と預言を封じ至聖者に膏を灌がん **25** 汝曉り知べしエルサレムを建なほせといふ命令の出づるよりメッシャたる君の起るまでに七週と六十二週ありその街と石垣とは擾亂の間に建なほされん **26** その六十二週の後メッシャ絶れん但し是は自己のために非ざるなりまた一人の君の民きたりて邑と聖所とを毀たんその終は洪水に由れる如くなるべし戦争の終るまでに荒蕪すでに極る **27** 彼一週の間衆多の者と固く契約を結ばん而して彼その週の半に犠牲と供物を廢せんまた殘暴可惡者羽翼の上に立たん斯てつひにその定まれる災害殘暴るる者の上に斟ぎくだらん

10 ペルシヤの王クロスの三年にベルテシヤザルといふダニエル一の事の黙旨を得たるがその事は眞實にしてその戦争は大なり彼その事を曉りその示現の義を曉れり **2** 當時我ダニエル三七日の間哀めり **3** 即ち三七日の全く滿るまでは旨き物を食ず肉と酒とを口にいれずまた身に膏油を抹ざりき **4** 正月の二十四日に我ヒデケルといふ大河の邊に在り **5** 目を擧て望觀しに一箇の人ありて布の衣を衣ウバズの金の帶を

腰にしめをり 6 その體は黄金色の玉のごとくその面は電光の如くその目は火の焰のごとくその手とその足の色は磨ける銅のごとくその言ふ聲は群衆の聲の如し 7 この示現は唯我ダニエル一人これを觀たり我と偕なる人々はこの示現を見ざりしが何となくその身大に慄きて逃かくれたり 8 故に我ひとり遺りたるがこの大なる示現を觀るにおよびて力ぬけさり顔色まつたく變りて毫も力なかりき 9 我その語ふ聲を聞けるがその語ふ聲を聞る時我は氣を喪へる状にて俯伏し面を土につけゐたりしに 10 一の手ありて我に捫りければ我戦ひながら跪づきて手をつきたるに 11 彼われに言けるは愛せらるる人ダニエルよ我が汝に告る言を曉れよ汝まづ起あがれ我は今汝の許に遣されたるなりと彼がこの言を我に告る時に我は戦ひて立り 12 彼すなはち我に言けるはダニエルよ懼るる勿れ汝が心をこめて悟らんとし汝の神の前に身をなやませるその初の日よりして汝の言はずでに聽れたれば我汝の言によりて來れり 13 然るにペルシヤの國の君二十一日の間わが前に立塞がりけるが長たる君の一なるミカエル來りて我を助けたれば我勝留りてペルシヤの王等の傍にをる 14 我は末の日に汝の民に臨まんとするところの事を汝に曉らせんとて來れりまた後の日に關はる所の異象ありと 15 かれ是等の言を我に宣たる時に我は面を土につけて居り辭を措ところ無りしが 16 人の子のごとき者わが唇に捫りければ我すなはち口を開きわが前に立る者に陳て言り我主よこの示現によりて我は畏怖にたへず全く力を失へり 17 此わが主の僕いかでか此わが主と語ふことを得んとその時は我まつたく力を失ひて氣息も止らんばか

りなりしが 18 人の形のごとき者ふたたび我に捫り我に力をつけて 19 言けるは愛せらるる人よ懼るる勿れ安んぜよ心強かれ心強かれと斯われに言ければ我力づきて曰り我主よ語りたまへ汝われに力をつけたまへりと 20 彼われに言けるは汝は我が何のために汝に臨めるかを知るや我今また歸りゆきてペルシヤの君と戦はんとす我が出行ん後にギリシヤの君きたらん 21 但し我まづ眞實の書に記されたる所を汝に示すべし我を助けて彼らに敵る者は汝らの君ミカエルのみ

11 我はまたメデア人ダリヨスの元年にかれを助け彼に力をそへたる事ありしなり 2 我いま眞實を汝に示さん視よ此後ペルシヤに三人の王興らんその第四の者は富ること一切の者に勝りその富強の大なるを恃みて一切を激發してギリシヤの國を攻ん 3 また一箇の強き王おこり大なる威權を振ふて世を治めその意のままに事を爲ん 4 但し彼の正に旺盛なる時にその國は破裂して天の四方に分れん其は彼の兒孫に歸せず又かれの振ひしほどの威權あらず即ち彼の國は抜とられて是等の外なる者等に歸せん 5 南の王は強からん然どその大臣の一人これに逾て強くなり威權を振はんその威權は大なる威權なるべし 6 年を経て後彼等相結ばん即ち南の王の女子北の王に適て和好を圖らん然どその腕には力なしまたその王およびその腕は立ことを得じこの女とこれを導ける者とこれを生せたる者とこれに力をつけたる者はみな時におよびて付されん 7 斯て後この女の根より出たる芽興りて之に代り北の王の軍勢にむかひて來りこれが城に打いりて之を攻て勝を得 8 之が神々鑄像および金銀の貴き器具をエジプトに携へさらん彼は北の王の

上に立て年を重ねん 9 彼南の王の國に打入ことあらん然ど自己の國に退くべし 10 その子等また憤激して許多の大軍を聚め進みきたり溢れて往來しその城まで攻寄せん 11 是において南の王大に怒り出きたりて北の王と戦ふべし彼大軍を興してこれに當らん然れどもその軍兵はこれが手に付されん 12 大軍すなはち興りて彼心に高ぶり數萬人を仆さん然れどもその勢力はこれがために増さじ 13 また北の王は退きて初よりも大なる軍兵を興し或時すなはち或年數を経て後かならず大兵を率ゐる莫大の輜重を備へて攻來らん 14 是時にあたりて衆多の者興りて南の王に敵せん又なんぢの民の中の奸惡人等みづから高ぶりて事を爲しつひに預言をして應ぜしめん即ち彼らは自ら仆るべし 15 茲に北の王襲ひきたり壘を築きて堅城を攻おとさん南の王の腕はこれに當ることを得じ又その撰抜の民もこれに當る力なかるべし 16 之に攻きたる者はその意に任せて事をなさんその前に立ことを得る者なかるべし彼は美しき地に到らんその地はこれがために荒さるべし 17 彼その全國の力を盡して打入んとその面をこれに向べけれどまたこれと和好をなして婦人の女子を之に與へん然るにその婦人の女子は之がために身を滅すに至り何事をも成あたはず毫も彼のために益する所なかるべし 18 彼またその面を島々にむけて之を多く取らん茲に一人の大將ありて彼が與へたる恥辱を雪ぎその恥辱をかれの身に與へかへさん 19 かくて彼その面を自己の國の城々に向ん而して終に躓き仆れて亡ん 20 彼に代りて興る者は榮光の國に人を出して租税を征斂しめん但し彼は忿怒にも戰鬥にもよらずして數日の内に滅亡せん 21 また之に

かはりて起る者は賤まるる者にして國の尊榮これに歸せざらん然れども彼不意に來り巧言をもて國を獲ん 22 洪水のごとき軍勢かれのために押流されて敗れん契約の君たる者も然らん 23 彼は之に契約をむすびて後詭計を行ひ上りきたりて僅少の民をもて勢を得ん 24 彼すなはち不意にきたりてその國の膏腴なる處に攻いりその父もその父の父も爲ざりしところの事を行はん彼はその奪ひたる物掠めたる物および財寶を衆人の中に散すべし彼は謀略をめぐらして堅固なる城々を攻取べし時の至るまで斯のごとくならん 25 彼はその勢力を奮ひ心を勵まし大軍を率ゐて南の王に攻よせん南の王もまた自ら奮ひ甚だ大なる強き軍勢をもて迎へ戦はん然ど謀略をめぐらして攻るが故にこれに當ることを得ざるべし 26 すなはち彼の珍膳に與り食ふ者彼を倒さんその軍兵溢れん打死する者衆かるべし 27 此二人の王は害をなさんと心にはかり同席に共に食して詭計を言ん然れどもその志ならざるべし定まれる時のいたる迄は其事終らじ 28 彼は莫大の財寶をもちて自己の國に歸らん彼は聖約に敵する心を懷きて事をなし而してその國にかへらん 29 定まれる時にいたりて彼また進みて南に到らん然ど後の模様は先の模様のごとくならざらん 30 即ちキツテムの船かれに到るべければ彼力をおとして還り聖約にむかひて忿怒をもらして事をなさん而して彼歸りゆき聖約を棄る者と相謀らん 31 彼より腕おこりて聖所すなはち堅城を汚し常供の物を撤除かせかつ殘暴可惡者を立ん 32 彼はまた契約に關て罪を獲る者等を巧言をもて引誘して背かせん然どその神を知る人々は力ありて事をなさん 33 民の中の穎悟者ども衆多の人

を教ふるあらん然ながら彼らは暫時の間刃にかかり
火にやかれ擄はれ掠められ等して仆れん 34 その仆る
時にあたりて彼らは少しく扶助を獲ん又衆多の人
詐りて彼らに合せん 35 また穎悟者等の中にも仆るる
者あらん斯のごとく彼らの中に試むる事淨むる事潔
よくする事おこなはれて終の時にいたらん即ち定ま
れる時まで然るべし 36 此王その意のままに事をおこ
なひ萬の神に逾て自己を高くし自己を大にし神々の
神たる者にむかひて大言を吐き等して忿怒の息む時
までその志を得ん其はその定まれるところの事成ざ
るべからざればなり 37 彼はその先祖の神々を顧みず
婦女の愉快を思はずまた何の神をも顧みざらん其は
彼一切に逾て自己を大にすればなり 38 彼は之の代に
軍神を崇め金銀珠玉および寶物をもてその先祖等の
識ざりし神を崇めん 39 彼はこの異邦の神に由り要害
の城々にむかひて事を爲ん凡て彼を尊ぶ者には彼加
ふるに榮を以てし之をして衆多の人を治めしめ土地
をこれに分ち與へて賞賜とせん 40 終の時にいたりて
南の王彼と戦はん北の王は車と馬と衆多の船をもて
大風のごとく之に攻寄せ國に打いりて潮のごとく溢
れ渉らん 41 彼はまた美しき國に進み入ん彼のために
亡ぶる者多かるべし然どエドム、モアブ、アンモン
人の中の第一なる者などは彼の手を免かれん 42 彼國
々にその手を伸さんエジプトの地も免かれがたし 43
彼は遂にエジプトの金銀財寶を手に入れんリブア人
とエテオピア人は彼の後に従はん 44 彼東と北より報
知を得て周章ふためき許多の人を滅し絶んと大に忿
りて出ゆかん 45 彼は海の間において美しき聖山に天

幕の宮殿をしつらはん然ど彼つひにその終にいたらん之を助くる者なかるべし

12 その時汝の民の人々のために立ところの大なる君ミカエル起あがらん是艱難の時なり國ありてより以來その時にいたるまで斯る艱難ありし事なかるべしその時汝の民は救はれん即ち書にしるされたる者はみな救はれん **2** また地の下に睡りをる者の中衆多の者目を醒さんその中永生を得る者ありまた恥辱を蒙りて限なく羞る者あるべし **3** 穎悟者は空の光輝のごとくに耀かんまた衆多の人を義に導ける者は星のごとくなりて永遠にいたらん **4** ダニエルよ終末の時まで此言を秘し此書を封じおけ衆多の者跋渉らん而して知識増べしと **5** 茲に我ダニエル觀に別にまた二箇の者ありて一箇は河の此傍の岸にあり一箇は河の彼傍の岸にありけるが **6** その一箇の者かの布の衣を衣て河の水の上に立る人にむかひて言り此奇跡は何の時にいたりて終るべきやと **7** 我聞にかの布の衣を衣て河の水の上に立る人天にむかひてその右の手と左の手を擧げ永久に生る者を指て誓ひて言りその間は一時と二時と半時なり聖民の手の碎くこと終らん時に是等の事みな終るべしと **8** 我聞たれども暁ることを得ざりき我また言りわが主よ是等の事の終は何ぞやと **9** 彼いひけるはダニエルよ往け此言は終極の時まで秘しかつ封じ置るべし **10** 衆多の者淨められ潔よくせられ試みられん然ど悪き者は悪き事を行はん悪き者は一人も暁ること無るべし然ど穎悟者は暁るべし **11** 常供の者を除き殘暴可惡者を立ん時よりして一千二百九十日あらん **12** 待をりて一千三百三十五

日に至る者は幸福なり **13** 汝終りに進み行け汝は安息
に入り日の終りに至り起て汝の分を享ん

ホセア書

1 これユダの王ウジヤ、ヨタム、アハズ、ヒゼキヤの世イスラエルの王ヨアシの子ヤラベアムの世にベエリの子ホセアに臨めるエホバの言なり **2** エホバはじめホセアによりて語りたまへる時エホバ、ホセアに宣はく汝ゆきて淫行の婦人を娶り淫行の子等を取れ この國エホバに遠ざかりてはなはだしき淫行をなせばなり **3** 是において彼ゆきてデブライムの女子ゴメルを妻に娶りけるがその婦はらみて男子を産り **4** エホバまた彼にいひ給ひけるは汝その名をエズレルと名くべし 暫時ありて我エズレルの血をエヒウの家に報いイスラエルの家の國をほろぼすべければなり **5** その日われエズレルの谷にてイスラエルの弓を折べしと **6** ゴメルまた孕みて女子を産ければエホバ、ホセアに言たまひけるは汝その名をロルマハ(憐まれぬ者)と名くべしそは我もはやイスラエルの家をあはれみて赦すが如きことを爲ざるべければなり **7** 然どわれユダの家をあはれまん その神エホバによりて之をすくはん 我は弓劍戰爭馬騎兵などによりてすくふことをせじ **8** ロルハマ乳をやめゴメルまた孕みて男子を産けるに **9** エホバ言たまひけるはその子の名をロアンミ(吾民に非ざる者)と名くべし 其は汝らは吾民にあらず我は汝らの神に非ざればなり **10** 然どイスラエルの子孫の數は濱の沙石のごとくに成ゆきて量ることも數ふる事も爲しがたく前になんぢらわが民にあらずと言れしその處にて汝らは活神の子なりと言れんとす **11** 斯てユダの子孫とイスラエルの子孫は共に集り一人の首をたててその地より上り來らん エズレルの日は大なるべし

2 汝らの兄弟に向ひてはアンミ(わが民)と言ひ汝らの姉妹にむかひてはルハマ(憐まるる者)と言へ **2** なんぢらの母とあげつらへ論辨ふことをせよ彼はわが妻にあらず我はかれの夫にあらざるなりなんぢら斯してかれにその面より淫行を除かせその乳房の間より姦淫をのぞかしめよ **3** 然らざれば我かれを剥て赤體にしその生れいでたる日のごとくにしまた荒野のごとくならしめ潤ひなき地のごとくならしめ渴によりて死しめん **4** 我その子等を憐まじ淫行の子等なればなり **5** かれらの母は淫行をなせりかれらを生る者は恥べき事をおこなへり蓋かれいへる言あり我はわが戀人等につきしたがはん彼らはわがパンわが水わが羊毛わが麻わが油わが飲物などを我に與ふるなりと **6** この故にわれ荆棘をもてなんぢの路をふさぎ垣をたてて彼にその徑をえざらしむべし **7** 彼はその戀人たちの後をしたひゆけども追及ことなく之をたづぬれども遇ことなし是において彼いはん我ゆきてわが前の夫にかへるべしかのときのわが状態は今にまさりて善きと **8** 彼が得る穀物と酒と油はわが與ふところ彼がバアルのために用ゐたる金銀はわが彼に増あたへたるところなるを彼はしらざるなり **9** これによりて我わが穀物をその時におよびて奪ひわが酒をその季にいたりてうばひ又かれの裸體をおほふに用ゆべきわが羊毛およびわが麻をとらん **10** 今われかれの恥るところをその戀人等の目のまへに露すべし彼をわが手より救ふものあらじ **11** 我かれがすべての喜樂すなはち祝筵新月のいはひ安息日および一切の節會をして息しめん **12** また彼の葡萄の樹と無花果樹をそこなはん彼さきに此等をさしてわが戀人の我

にあたへし賞賜なりと言しがわれこれを林となし野
の獣をしてくらはしめん **13** われかれが耳環頸玉など
を掛けてその戀人らをしたひゆき我をわすれ香をたき
て事へしもろもろのバアルの日のゆゑをもてその罪
を罰せんエホバかく言たまふ **14** 斯るがゆゑに我かれ
を誘ひて荒野にみちびきいり終にかれの心をなぐさ
め **15** かしこを出るや直ちにわれかれにその葡萄園を
與へアコル(艱難)の谷を望の門となしてあたへん彼
はわかりし時のごとくエジプトの國より上りきた
りし時のごとくかしこにて歌うたはん **16** エホバ言た
まふその日にはなんぢ我をふたたびバアリとよばず
してイシ(吾夫)とよばん **17** 我もろもろのバアルの名
をかれが口よりとりのぞき重ねてその名を世に記憶
せらるること無らしめん **18** その日には我かれら(我
民)のために野の獣そらの鳥および地の昆蟲と誓約を
むすびまた弓箭ををり戦争を全世界よりのぞき彼ら
をして安らかに居しむべし **19** われ汝をめとりて永遠
にいたらん公義と公平と寵愛と憐憫とをもてなんぢ
を娶り **20** かはることなき眞實をもて汝をめとるべし
汝エホバをしらん **21** エホバいひ給ふその日われ應へ
ん我は天にこたへ天は地にこたへ **22** 地は穀物と酒と
油とに應へまた是等のものはエズレルに應へん **23** 我
わがためにかれを地にまき憐まれざりし者をあはれ
みわが民ならざりし者にむかひて汝はわが民なりと
いはんかれらは我にむかひて汝はわが神なりといは
ん

3 エホバわれに言給ひけるは汝ふたたび往てエホバ
に愛せらるれども轉りてほかのもろもろの神にむか
ひ葡萄の菓子を受するイスラエルの子孫のごとくそ

のつれそふものに愛せらるれども姦淫をおこなふ婦人をあいせよ 2 われ銀十五枚おほむぎ一ホメル半をもてわが爲にその婦人をえたり 3 我これにいひけるは汝おほくの日わがためにとどまりて淫行をなすことなく他の人にゆくことなかれ 我もまた汝にむかひて然せん 4 イスラエルの子輩は多くの日王なく君なく犠牲なく表柱なくエボデなくテラピムなくして居らん 5 その後イスラエルの子輩はかへりてその神エホバとその王ダビデをたづねもとめ末日にをののきてエホバとその恩恵とにむかひてゆかん

4 イスラエルの子輩よエホバの言を聽けエホバこの地に住る者と争辨たまふ其は此地には誠實なく愛情なく神を知る事なければなり 2 ただ詛偽凶殺盜姦淫のみにして互に相襲ひ血血につづき流る 3 このゆゑにその地うれひにしづみ之にすむものはみな野のけもの空のとりとともにおとろへ海の魚もまた絶はてん 4 されど何人もあらそふべからずいましむ可らず汝の民は祭司と争ふ者の如くなれり 5 汝は晝つまづき汝と偕なる預言者は夜つまづかん我なんぢの母を亡すべし 6 わが民は知識なきによりて亡さるなんぢ知識を棄つるによりて我もまた汝を棄ててわが祭司たらしめじ汝おのが神の律法を忘るるによりて我もなんぢの子等を忘れん 7 彼らは大なるにしたがひてますます我に罪を犯せば我かれらの榮を辱に變ん 8 彼らはわが民の罪をくらひ心をかたむけてその罪ををかすを願へり 9 このゆゑに民の遇ふところは祭司もまた同じわれその途をかれらにきたらせその行爲をもて之にむくゆべし 10 かれらは食へども飽ず淫行をなせどもその數まさずその心をエホバにとむるこ

とを止ればなり 11 淫行と酒と新しき酒はその人の心をうばふ 12 わが民木にむかひて事をとふその杖かれらに事をしめす是かれら淫行の霊にまよはされその神の下を離れて淫行を爲すなり 13 彼らは山々の巔にて犠牲を献げ岡の上にて香を焚き橡樹 楊樹 栗樹の下にてこの事をおこなふ此はその樹蔭の美しきによりてなりここをもてなんぢらの女子は淫行をなしなんぢらの兒婦は姦淫をおこなふ 14 我なんぢらのむすめ淫行をなせども罰せずなんぢらの兒婦かんいんをおこなへども刑せじ其はなんぢらもみづから離れゆきて妓女とともに居り淫婦とともに献物をそなふればなり悟らざる民はほろぶべし 15 イスラエルよ汝淫行をなすともユダに罪を犯さす勿れギルガルに往なかれベテアペンに上るなかれエホバは活くと曰て誓ふなかれ 16 イスラエルは頑強なる牛のごとくに頑強なり今エホバ恙羊をひろき野にはなてるが如くして之を牧はん 17 エフライムは偶像にむすびつらなれりその爲にまかせよ 18 かれらの酒はくされかれらの淫行はやまずかれらの楯となるべき者等は恥を愛しいたく之を愛せり 19 かれは風の翼につつまれかれらはその禮物によりて恥辱をかうむらん

5 祭司等よこれを聽けイスラエルの家よ耳をかたむけよ 王のいへよ之にこころを注よ さばきは汝等にのぞまん そは我らはミズパに設くる繙タボルに張れる網のごとくなればなり 2 悖逆者はふかく罪にしづみたり我かれらをことごとく懲しめん 3 我はエフライムを知る イスラエルはわれに隠るところ無し エフライムよなんぢ今すでに淫行をなせりイスラエルはすでに汚れたり 4 かれらの行爲かれらをしてその神

に歸ること能はざらしむ そは淫行の靈その衷にあり
てエホバを知ることなければなり 5 イスラエルの驕
傲はその面にむかひて證をなしその罪によりてイス
ラエルとエフライムは仆れユダもまた之とともにた
ふれん 6 かれらは羊のむれ牛の群をたづさへ往てエ
ホバを尋ね求めん然どあふことあらしエホバ既にか
れらより離れ給ひたればなり 7 かれらエホバにむか
ひ貞操を守らずして他人の子を産り新月かれらとそ
の産業とをともに滅さん 8 なんぢらギベアにて角を
ふきラマにてラッパを吹ならしベテアペンにて呼は
りて言へベニヤミンよなんぢの後にありと 9 罰せら
るるの日にエフライムは荒廢れん我イスラエルの支
派の中にならず有るべきことを示せり 10 ユダの牧
伯等は境界をうつすもののごとくなれり我わが震怒
を水のごとくに彼らのうへに斟がん 11 エフライムは
甘んじて人のさだめたるところに従ひあゆむがゆゑ
に鞫をうけて虐げられ圧られん 12 われエフライムに
は蠹のごとくユダの家には腐朽のごとし 13 エフライ
ムおのれに病あるを見ユダおのれに傷あるをみたり
斯てエフライムはアツスリヤに往きヤレブ王に人を
つかはしたれど彼はなんぢらを醫すことをえず又な
んぢらの傷をのぞきさることを得ざるべし 14 われエ
フライムには獅子のごとくユダの家にはわかき獅子
のごとし我しも我は抓劈てさり掠めゆけども救ふ者
なかるべし 15 我ふたたびわが處にかへりゆき彼らが
その罪をくいてひたすらわが面をたづね求むるまで
其處にをらん彼らは艱難によりて我をたづねもとむ
ることをせん

6 來れわれらエホバにかへるべし エホバわれらを抓
劈たまひたれどもまた醫すことをなし我儕をうち給
ひたれどもまたその傷をつつむことを爲したまふ可
ればなり **2** エホバは二日ののちわれらむ活かへし三
日にわれらを起せたまはん 我らその前にて生ん **3** こ
の故にわれらエホバをしるべし切にエホバを知ること
を求むべしエホバは晨光のごとく必ずあらはれい
で雨のごとくわれらにのぞみ後の雨のごとく地をう
るほし給ふ **4** エフライムよ我なんぢに何をなさんや
ユダよ我なんぢに何をなさんやなんぢの愛情はあし
たの雲のごとくまたただちにきゆる露のごとし **5** こ
のゆゑにわれ預言者等をもてかれらを撃ちわが口の
言をもてかれらえを殺せりわが審判はあらはれいづ
る光明のごとし **6** われは愛情をよろこびて犠牲をよ
ろこばず神をしるを悦ぶこと燔祭にまされり **7** 然る
に彼らはアダムのごとく誓をやぶりかしこにて不義
をわれにおこなへり **8** ギレアデは悪をおこなふもの
の邑にして血の足跡そのなかに徧し **9** 祭司のともが
らは山賊の群のごとく伏伺して人をそこなひシケム
に往く大路にて人をころす彼等はかくのごとき悪き
ことをおこなへり **10** われイスラエルのいへに憎むべ
きことあるを見たりかの處にてエフライムは淫をお
こなふイスラエルは汚れたり **11** ユダよ我わが民の俘囚
をかへさんときまた汝のためにも穫刈をそなへん

7 われイスラエルを醫さんときエフライムの愆とサ
マリヤのあしきわざと露るかれらは詐詭をおこなひ
内には偷盗いるあり外には山賊のむれ掠めさるあり
2 かれら心にわがその一切の悪をしたためたることを
思はず今その行爲はかれらを圍みふさぎて皆わが目

前にあり 3 かれらはその悪をもて王を悦ばせその詐
詭をもてもろもろの牧伯を悦ばせり 4 かれらはみな
姦淫をおこなふ者にしてパンを作るものに焼るる爐
のごとし捏粉をこねてその發酵ときまでしばらく火
をおこすことをせざるのみなり 5 われらの王の日に
もろもろの牧伯は酒の熱によりて疾し王は嘲るもの
とともに手を伸ぶ 6 かれら伏伺するほどに心を爐の
ごとくして備をなすそのパンを焼くものは終夜ねむ
りにつき朝におよべばまた焰のごとく燃ゆ 7 かれら
はみな爐のごとくに熱してその審士をやくそのもろ
もろの王はみな仆るかれらの中には我をよぶもの一
人だになし 8 エフライムは異邦人にいりまじるエフ
ライムはかへさざる饅餅となれり 9 かれは他邦人ら
にその力をのまるれども之をしらず白髪その身に雜
り生れどもこれをさとらず 10 イスラエルの驕傲はそ
の面にむかひて證をなすかれらは此もろもろの事あ
れどもその神エホバに歸ることをせず又もとむるこ
とをせざるなり 11 エフライムは智慧なくして愚なる
鳩のごとし彼等はエジプトにむかひて呼求めまたア
ツスリヤに往く 12 我かれらの往ときわが網をその上
にはりて天空の鳥のごとくに引墮し前にその公會に
告しごとくかれらを懲しめん 13 禍なるかなかれらは
我をはなれて迷ひいでたり敗壞かれらにきたらんか
れらは我にむかひて罪ををかしたり我かれらを贖は
んとおもへどもかれら我にさからひて謊言をいへり
14 かれら誠心をもて我をよばず唯牀にありて哀號べ
りかれらは穀物とあたらしき酒のゆゑをもて相集り
かつわれに逆らふ 15 我かれらを教へその腕をつよく
せしかども彼らはわれにもとりて悪きことを謀る 16

かれらは歸るされども至高者にかへらず彼らはたのみがたき弓のごとし彼らのもろもろの牧伯はその舌のあらき言によりて劍にたふれん彼らは之がためにエジプトの國にて嘲笑をうくべし

8 ラッパをなんぢの口にあてよ敵は驚のごとくエホバの家のにぞめりこの民わが契約をやぶりわが律法を犯ししによる **2** かれら我にむかひてわが神よわれらイスラエルはなんぢを知れりと叫ばん **3** イスラエルは善をいみきらへり敵これを追ん **4** かれら王をたてたり然れども我により立しにあらずかれら牧伯をたてたり然れども我がしらざるところなり彼らまたその金銀をもて己がために偶像をつくれりその造れるは毀ちすてられんが爲にせしにことならず **5** サマリヤよなんぢの犢は忌きらふべきものなりわが怒かれらにむかひて燃ゆかれら何れの時にか罪なきにいたらん **6** この犢はイスラエルより出づ匠人のつくれる者にして神にあらずサマリヤの犢はくだけて粉とならん **7** かれらは風をまきて狂風をかりとらん種ところは生長る穀物なくその穂はみのらざるべしたとひ實るとも他邦人これを呑ん **8** イスラエルは既に呑れたり彼等いま列國の中において悦ばれざる器のごとく視做るるなり **9** 彼らは獨るし野の驢馬のごとくアッスリヤにゆけりエフライムは物を餽りて戀人を得たり **10** かれら列國の民に物を餽りたりと雖も今われ彼等をつどへ集む彼らは諸侯伯の王に負せらるる重擔のために衰へ始めん **11** エフライムは多くの祭壇を造りて罪を犯すこの祭壇はかれらが罪に陥る階とはなれり **12** 我かれらのために律法をしるして數件の箇條を示したれど彼らは反て之を異物とおもへり **13**

かれらは我に献ふべき物を献ふれども只肉をそなへて己みづから之を食ふエホバは之を納たまはず今かれらの愆を記え彼らの罪を罰したまはん彼らはエジプトに歸るべし 14 イスラエルは己が造主を忘れてもろもろの社廟を建てユダは塙をとりまはせる邑を多く増し加へたり然どわれ火をその邑々におくりて諸の城を焼亡さん

9 イスラエルよ異邦人のごとく喜びすさむ勿れなんぢ淫行をなして汝の神を離る汝すべての麥の打場にて賜はる淫行の賞賜を愛せり 2 打場と酒榨とはかれらを養はじ亦あたらしき酒もむなしくならん 3 かれらはエホバの地にとどまらずエフライムはエジプトに歸りアッスリヤにて汚穢たる物を食はん 4 彼等はエホバにむかひて酒を灌ぐべき者にあらずその祭物はエホバの悦びたまふ所にあらずかれらの犠牲は喪に居もののパンのごとし凡てこれを食ふものは汚るべし彼等のパンは只おのが食ふためにのみ用ゐべくしてエホバの家に入るべきにあらず 5 なんぢら集會の日とエホバの節會の日に何をなさんとするや 6 視よかれら滅亡の故によりて去ゆきぬエジプトかれらをあつめメンピスかれらを葬らん蒺藜かれらが銀の寶物を獲いばら彼らの天幕に蔓らん 7 刑罰の日きたり應報の日きたれりイスラエルこれを知ん預言者は愚なるもの靈に感じたるものは狂へるものなりこれ汝の悪おほく汝の怨恨おほいなるに因る 8 エフライムは我が神にならべて他の神をも佇望めり預言者の一切の途は鳥を捕ふる者の網のごとく且その神の室の中にて怨恨を懐けり 9 かれらはギベアの日のごとく甚だしく悪き事を行へりエホバはその悪をこころ

に記てその罪を罰したまはん **10** 在昔われイスラエルを見ること荒野の葡萄のごとく汝らの先祖等を看ること無花果樹の始にむすべる最先の果の如くなししに彼等はバアルペオルにゆきて身を恥辱にゆだねその愛する物とともに憎むべき者とはなれり **11** エフライムの榮光は鳥のごとく飛さらん即ち産ことも孕むことも妊娠こともなかるべし **12** 假令かれら子等を育つるとも我その子を喪ひて遺る人なきにいたらしめん我が離るる時かれらの禍大なる哉 **13** われエフライムを美地に植てツロのごとくなししかどもエフライムはその子等を携へいだして人を殺すに付さんとす **14** エホバよ彼らに與へたまへ汝なにを與へんとしたまふや孕まざる胎と乳なき乳房とを與へたまへ **15** かれらが凡の悪はギルガルにあり此故に我かしこにて之を惡めりその行爲あしければ我が家より逐いだし重て愛することをせじその牧伯等はみな悖れる者なり **16** エフライムは撃れその根はかれて果を結ぶまじ若し産ことあらば我その胎なる愛しむ實を殺さん **17** かれら聽從はざるによりて我が神これを棄たまふべしかれらは列國民のうちに流離人とならん

10 イスラエルは果をむすびて茂り榮る葡萄の樹その果の多くなるがままに祭壇をましその地の饒かなるがままに偶像を美しくせり **2** かれらは二心をいだけり今かれら罪せらるべし神はその祭壇を打毀ちその偶像を折棄てたまはん **3** かれら今いふべし我儕神を畏れざりしに因て我らに王なしこの王はわれらのために何をかなさんと **4** かれらは虚しき言をいだし偽の誓をなして約をたつ審判は畑の畝にもえいづる茵陳のごとし **5** サマリヤの居民はベテアベンの犢の

故によりて戦慄かんその民とこれを悦ぶ祭司等はそ
の榮のうせたるが爲になげかん 6 犢はアッスリヤに
携へられ禮物としてヤレブ王に獻げらるべしエフラ
イムは羞をかうむりイスラエルはおのが計議を恥ぢ
ん 7 サマリヤはほろびその王は水のうへの木片のご
とし 8 イスラエルの罪なるアペンの崇邱は荒はてて
荆棘と蒺藜その壇のうへにはえ茂らんその時かれら
山にむかひて我儕をおほへ陵にむかひて我儕のうへ
に倒れよといはん 9 イスラエルよ汝はギベアの日よ
り罪ををかせり彼等はそこに立り邪惡のひとびとを
攻たりし戦争はギベアにてかれらに及ばざりき 10 我
思ふままに彼等をいましめん彼等その二の罪につな
がれん時もろもろの民あつまりて之をせめん 11 エフ
ライムは馴されたる牝牛のごとくにして穀をふむこ
とを好むされどわれその美しき頸に物を負しむべし
我エフライムに軛をかけんユダは耕しヤコブは土塊
をくだかん 12 なんぢら義を生ずるために種をまき憐
憫にしたがひてかりとり又新地をひらけ今はエホバ
を求むべき時なり終にはエホバきたりて義を雨のご
とく汝等のうへに降せたまはん 13 なんぢらは惡をた
がへし不義を穫をさめ虚偽の果をくらへりこは汝お
のれの途をたのみ己が勇士の數衆きをたのめるに縁
る 14 この故になんぢらの民のなかに擾亂おこりて汝
らの城はことごとく打破られんシャルマンが戰鬥の
日にベテアルベルを打破りしにことならず母その子
とともに碎かれたり 15 なんぢらの大なる惡のゆゑに
よりてベテル如此なんぢらに行へるなりイスラエル
の王はあしたに滅びん

11 イスラエルの幼かりしとき我これを愛しぬ我わが子をエジプトより呼びだしたり **2** かれらは呼るるに随ひていよいよその呼者に遠ざかり且もろもろのバアルに犠牲をささげ彫たる偶像に香を焚り **3** われエフライムに歩むことををしへ彼等をわが腕にのせて抱けり然どかれらは我にいやされたるを知らず **4** われ人にもちるる索すなはち愛のつなをもて彼等をひけり我がかれらを待ふは軛をその腮より擧のくるものごとくにして彼等に食物をあたへたり **5** かれらはエジプトの地にかへらじ然どかれらがエホバに歸らざるによりてアッスリヤ人その王とならん **6** 劍かれらの諸邑にまはりゆきてその關門をこぼち彼らをその謀計の故によりて滅さん **7** わが民はともすれば我にはなれんとする心あり人これを招きて上に在るものに屬しめんとすれども身をおこすもの一人だになし **8** エフライムよ我いかで汝をすてんやイスラエルよ我いかで汝をわたさんや我いかで汝をアデマのごとくせんや争でなんぢをゼボイムのごとく爲んやわが心わが衷にかはりて私の愛憐ことごとく燃おこれり **9** 我わが烈しき震怒をほどこすことをせじ我かさねてエフライムを滅すことをせじ我は人にあらず神なればなり我は汝のうちにいます聖者なりいかりをもて臨まじ **10** かれらは獅子の吼のごとくに聲を出したまふエホバに随ひて歩まんエホバ聲を出したまへば子等は西より急ぎ來らん **11** かれらエジプトより鳥のごとくアッスリヤより鶺鴒のごとくに急ぎ來らん我かれらをその家々に住はしむべし是エホバの聖言なり **12** エフライムは謊言をもてイスラエルの家は詐

偽をもて我を圍めりユダは神と信ある聖者とに屬き
みつかずみ漂蕩をれり

12 エフライムは風をくらひ東風をおひ日々に詐偽
と暴逆とを増くはヘアッスリヤと契約を結び油をエ
ジプトに餽れり **2** エホバはユダと争辨をなしたまふ
ヤコブをその途にしたがひて罰しその行爲にしたが
ひて報いたまふ **3** ヤコブは胎にゐし時その兄弟の踵
をとらへまた己が力をもて神と角力あらそへり **4** か
れは天の使と角力あらそひて勝ちなきて之に恩をも
とめたり彼はベテルにて神にあへり其處にて神われ
らに語ひたまへり **5** これは萬軍の神エホバなりエホ
バは其記念の名なり **6** 然ばなんぢの神にかへり矜恤
と公義とをまもり恒になんぢの神を仰ぐべし **7** 彼は
カナン人(商賈)なりその手に詭詐の權衡をもち好で
あざむき取ことをなす **8** エフライムはいふ誠にわれ
は富る者となれり我は身に財寶をえたり凡てわが勞
したることの中に罪をうべき不義を見いだす者なか
るべし **9** 我エホバはエジプトの國をいでしより以來
なんぢらの神なり我いまも尚なんぢを幕屋にすまは
せて節會の日のごとくならしめん **10** 我もろもろの預
言者にかたり又これに益々おほく異象をしめしたり
我もろもろの預言者に托して譬喩をまうく **11** ギレア
デは不義なる者ならずや彼らは全く虚しかれらはギ
ルガルにて牛を犠牲に献ぐかれらの祭壇は圃の畝に
つみたる石の如し **12** ヤコブはアラムの野ににげゆけ
りイスラエルは妻を得んために人に事へ妻を得んた
めに羊を牧へり **13** エホバ一人の預言者をもてイスラ
エルをエジプトより導きいだし一人の預言者をもて
之を護りたまへり **14** エフライムは怒を激ふること極

てはなはだしその主かれが流しし血をかれが上にと
どめその恥辱をかれに歸らせたまはん

13 エフライム言を出せば人をののけり彼はイスラ
エルのなかに己をたかうしバアルにより罪を犯して
死たりしが **2** 今も尚ますます罪を犯しその銀をもて
己のために像を鑄その機巧にしたがひて偶像を作る
是みな工人の作なるなり彼らは之につきていふ犠牲
を献ぐる者はこの犢に吻を接べしと **3** 是によりて彼
らは朝の雲のごとく速にきえうする露のごとく打場
より大風に吹散さるる穀殻のごとく窓より出ゆく煙
のごとくならん **4** されど我はエジプトの國をいでて
より以來なんぢの神エホバなり爾われの外に神を知
ことなし我のほかには救者なし **5** 我さきに荒野にて水
なき地にて爾を顧みたり **6** かれらは秣場によりて食
に飽き飽くによりてその心たかぶり是によりて我を
忘れてたり **7** 斯るがゆゑに我かれらに對ひて獅子の如
くなり途の傍にひそみうかがふ豹のごとくならん **8**
われ子をうしなへる熊のごとく彼らに向ひてその心
膜を裂き獅子の如くこれを食はん野の獣これを攫斷
るべし **9** イスラエルよ汝の滅ぶるは我に背き汝を助
くる者に背くが故なり **10** 汝のもろもろの邑に汝を助
くべき汝の王は今いづくにかあるなんぢらはその王
と牧伯等とを我に與へよと言たりし士師等は今いづ
くにかある **11** われ忿怒をもて汝に王を與へ憤恨をも
て之をうばひたり **12** エフライムの不義は包まれてあ
りその罪はをさめたくはへられたり **13** 劬勞にかかれ
る婦のかなしみ之に臨まん彼は愚なる子なり時に臨
みてもなほ産門に入らず **14** 我かれらを陰府の手より
贖はん我かれらを死より贖はん死よなんぢの疫は何

處にあるか陰府よなんぢの災は何處にあるか悔改は
かくれて我が目にみえず (Sheol h7585) 15 彼は兄弟のな
かにて果を結ぶこと多けれども東風吹きたりエホバ
の息荒野より吹おこらん之がためにその泉は乾その
源は涸れんその積蓄へたるもろもろの寶貴器皿は掠
め奪はるべし 16 サマリヤはその神にそむきたれば刑
せられ劍に斃れんその嬰兒はなげくだかれその孕た
る婦は割れん

14 イスラエルよ汝の神エホバに歸れよ汝は不義の
ために仆れたり 2 汝ら言詞をたづきへ來りエホバに
歸りていへ諸の不義は赦して善ところを受納れたま
へ斯て我らは唇をもて牛のごとくに汝に獻げん 3 ア
ッスリヤはわれらを授けじ我らは馬に騎らじまたふ
たたび我儕みづからの手にて作れる者にむかひわが
神なりと言じ孤兒は爾によりて憐憫を得べければな
りと 4 我かれらの反逆を醫し悦びて之を愛せん我が
怒はかれを離れ去たり 5 我イスラエルに對しては露
のごとくならん彼は百合花のごとく花さきレバノン
のごとく根をはらん 6 その枝は茂りひろがり其美麗
は橄欖の樹のごとくその芬芳はレバノンのごとくな
らん 7 その蔭に住む者かへり來らんかれらは穀物の
如く活かへり葡萄樹のごとく花さきその馨香はレバ
ノンの酒のごとくなるべし 8 エフライムはいふ我ま
た偶像と何のあづかる所あらんやと我これに應へた
り我かれを顧みん我は蒼翠の松のごとし汝われより
果を得ん 9 誰か智慧ある者ぞその人はこの事を曉ら
ん誰か穎悟ある者ぞその人は之を知んエホバの道は
凡て直し義者は之を歩む然ど罪人は之に躓かん

ヨエル書

1 ペトエルの子ヨエルに臨めるエホバの言 **2** 老たる人よ汝ら是を聽け すべて此地に住む者汝ら耳を傾けよ 汝らの世あるは汝らの先祖の世にも是のごとき事ありしや **3** 汝ら之を子に語り子はまた之をその子に語りその子之を後の代に語りつたへよ **4** 噬くらふ蝗虫の遺せる者は群るる蝗虫のくらふ所となりその遺せる者はなめつくすおほねむしのくらふ所となりその遺せる者は喫ほろぼす蝗虫の食ふ所となれり **5** 酔る者よ汝ら目を醒して泣け すべて酒をのむ者よ哭きさけべ あたらしき酒なんぢらの口に絶えたればなり **6** そはことなる民わが國に攻よすればなり その勢ひ強くその數はかられずその齒は獅子の齒のごとくその牙は牝獅子の牙のごとし **7** 彼等わが葡萄の樹を荒しわが無花果の樹を折りその皮をはぎはだかにして之を棄つ その枝白くなれり **8** 汝ら哀哭かなしめ 貞女その若かりしときの夫のゆゑに麻布を腰にまとひて哀哭かなしむがごとくせよ **9** 素祭灌祭ともにエホバの家絶えエホバに事ふる祭司等哀傷をなす **10** 田は荒れ地は哀傷む 是穀物荒はて新しき酒つき油たえんとすればなり **11** こむぎ大むぎの故をもて農夫羞ぢよ葡萄をつくり哭けよ 田の禾稼うせはてたればなり **12** 葡萄樹は枯れ無花果樹は萎れ石榴椰子林檎および野の諸の樹は凋みたり 是をもて世の人の喜樂かれうせぬ **13** 祭司よ汝ら麻布を腰にまとひてなきかなしめ 祭壇に事ふる者よ汝らなきさけべ 神に事ふる者よなんぢら來り麻布をまとひて夜をすごせ 其は素祭も灌祭も汝らの神の家に入ことあらざればなり **14** 汝ら斷食を定め集會を設け長老等を集め國の居民をことごと

く汝らの神エホバの家に集めエホバにむかひて號呼
れよ 15 ああその日は禍なるかな エホバの日近く暴風
のごとくに全能者より來らん 16 我らがまのあたりに
食物絶えしにあらずや 我らの神の家に歡喜と快樂絶
しにあらずや 17 種は土の下に朽ち倉は壞れ廩は圯る
そは穀物ほろぼされたればなり 18 いかにか畜獸は哀み
鳴くや 牛の群は亂れ迷ふ 草なければなり 羊の群も
また死喪ん 19 エホバよ我なんぢに向ひて呼はらん 荒
野の諸の草は火にて焼け野の諸の樹は火焰にてやけ
つくればなり 20 野の獸もまた汝にむかひて呼はらん
其は水の流涸はて荒野の草火にてやけつくればなり

2 汝らシオンにて喇叭を吹け 我聖山にて音たかく之
を吹鳴せ 國の民みな慄ひわななかん そはエホバの日
きたらんとすればなり すでに近づけり 2 この日は黒
くをぐらき日雲むらがるまぐらき日にしてしののめ
の山々にたなびくが如し 數おほく勢さかんなる民む
れいたらん かかる者はいにしへよりありしことなく
のちの代々の年にもあることなかるべし 3 火彼らの
前を焚き火焰かれらの後にもゆ その過ぎる前は地エ
デンのごとくその過しのちは荒はてたる野の如し 此
をのがれうるもの一としてあることなし 4 彼らの状
は馬のかたちのごとく其馳ありくことは軍馬のごと
し 5 その山の嶺にとびをどる音は車の轟聲がごとし
また火の稗株をやくおとの如くしてその様強き民の
行伍をたてて戰陣にのぞむに似たり 6 そのむかふと
ころ諸民戰慄きその面みな色を失ふ 7 彼らは勇士の
如くに趨あるき軍人のごとくに石垣に攀のぼる 彼ら
各々おのが道を進みゆきてその列を亂さず 8 彼ら互
に推あはず各々その道にしたがひて進み行く 彼らは

刃に觸るとも身を害はず 9 彼らは邑をかけめぐり石垣の上に奔り家に攀登り盜賊のごとくに窓より入る 10 そのむかふところ地ゆるぎ天震ひ日も月も暗くなり星その光明を失ふ 11 エホバその軍勢の前にて聲をあげたまふ 其軍旅はなはだ大なればなり 其言を爲とぐる者は強し エホバの日は大にして甚だ畏るべきが故に誰かこれに耐ることを得んや 12 然どエホバ言たまふ 今にても汝ら斷食と哭泣と悲哀とをなし心をつくして我に歸れ 13 汝ら衣を裂かずして心を裂き汝等の神エホバに歸るべし 彼は恩恵あり憐憫ありかつ怒ることゆるく愛憐大にして災害をなすを悔たまふなり 14 誰か彼のあるひは立歸り悔て祝福をその後にとめのこし汝らをして素祭と灌祭とをなんぢらの神エホバにささげしめたまはじと知んや 15 汝らシオンにて喇叭を吹きならし斷食を定め公會をよびつどへ 16 民を集めその會を潔くし老たる人をあつめ孩童と乳哺子を集め新郎をその室より呼びだし新婦をその密室より呼びだせ 17 而してエホバに事ふる祭司等は廊と祭壇の間にて泣て言へ エホバよ汝の民を赦したまへ 汝の産業を恥辱しめらるるに任せ之を異邦人に治めさす勿れ 何ぞ異邦人をして彼らの神は何處にあると言しむべけんや 18 然せばエホバ己の地にために嫉妬を起しその民を憐みたまはん 19 エホバ應へてその民に言たまはん 視よ我穀物とあたらしき酒と油を汝におくる 汝ら之に飽ん 我なんぢらをして重ねて異邦人の中に恥辱を蒙らしめじ 20 我北よりきたる軍を遠く汝らより離れしめうるほひなき荒地に逐やらん 其前軍を東の海にその後軍を西の海に入れん その臭味立ちその惡臭騰らん 是大なる事を爲たるに因る 21

地よ懼るる勿れ 喜び樂しめ エホバ大なる事を行ひたまふなり **22** 野の獸よ懼るる勿れ あれ野の牧草はもえいで樹は果を結び無花果樹葡萄樹はその力をめざすなり **23** シオンの子等よ 汝らの神エホバによりて樂め喜べ エホバは秋の雨を適當なんぢらに賜ひまた前のごとく秋の雨と春の雨とを汝らの上に降せたまふ **24** 打場には穀物盈ち甕にはあたらしき酒と油溢れん **25** 我が汝らに遣しし大軍すなはち群ある蝗なめつくす蝗喫ほろぼす蝗噬くらふ蝗の觸あらせる年をわれ汝らに賠はん **26** 汝らは食ひ食ひて飽きよのつねならずなんぢらを待ひたまひし汝らの神エホバの名をほめ頌へん 我民はとこしへに辱しめらるることなかるべし **27** かくて汝らはイスラエルの中に我が居るを知り汝らの神エホバは我のみにて外に無きことを知らん 我民は永遠に辱かしめらるることなかるべし **28** その後われ吾靈を一切の人に注がん 汝らの男子女子は預言せん 汝らの老たる人は夢を見 汝らの少き人は異象を見ん **29** その日我またわが靈を僕婢に注がん **30** また天と地に徴證を顯さん 即ち血あり火あり煙の柱あるべし **31** エホバの大なる畏るべき日の來らん前に日は暗く月は血に變らん **32** 凡てエホバの名を顛ぶ者は救はるべし そはエホバの宣ひし如くシオンの山とエルサレムとに救はれし者あるべければなり 其遣れる者の中にエホバの召し給へるものあらん

3 觀よ我ユダとエルサレムの俘囚人を歸さん その日その時 **2** 萬國の民を集め之を携へてヨシヤパテの谷にくだりかしこにて我民我ゆづりの産なるイスラエルのために彼らをさばかん 彼らこれを國々に散してその地を分ち取りたればなり **3** 彼らは籤をひきて我

民を取り童子を娼妓に換へ童女を賣り酒に換て飲め
り 4 ツロ、シドンよベリシテのすべての國よ 汝ら我
と何のかかはりあらんや 汝ら我がなししことに返を
なさんとするや 若し我に返報をなさんとならば我忽
ち迅速に汝らがなししことをもてその首に歸らしめ
ん 5 是は汝らは我の金銀を取り我のしたふべき寶を
汝らの宮にたづきへゆき 6 またユダの人とエルサレ
ムの人をギリシヤ人に賣りてその本國より遠く離ら
せたればなり 7 視よ我かられを起して汝らが賣りた
る處より出し汝らがなししことをもてその首にかへ
らしめん 8 我はなんぢらの男子女子をユダの人の手
に賣り彼らは之を遠き民なるシバ人に賣らん エホバ
これを言ふ 9 もろもろの國に宣つたへよ 戦争の準備
を爲し勇士を上げまし軍人をことごとくちかより來
らしめよ 10 汝等の鋤を劍に打かへ汝らの鎌を鎗に打
かへよ 弱き者も我は強しと言へ 11 四周の國々の民よ
汝ら急ぎ上りて集れ エホバよ汝の勇士をかしこに降
したまへ 12 國々の民よ起て上りヨシヤパテの谷に至
れ 彼處に我座をしめて四周の國々の民をことごとく
鞫かん 13 鎌をいれよ 穀物は熟せり 來り踏めよ酒榨
は盈ち甕は溢る 彼らの惡大なればなりと 14 かまび
すしきかな無数の民審判の谷にありてかまびすし エ
ホバの日審判の谷に近づくが故なり 15 日も月も暗く
なり星その光明を失ふ 16 エホバ、シオンよりよびと
どろかしエルサレムより聲をはなち天地を震ひうご
かしたまふ 然れどエホバはその民の避所イスラエル
の子孫の城となりたまはん 17 かくて汝ら我はエホバ
汝等の神にして我聖山シオンに住むことをしるべし
エルサレムは聖き所となり他國の人は重ねてその中

をかよふまじ 18 その日山にあたらしき酒滴り岡に乳
流れユダのもろもろの河に水流れエホバの家より泉
水流れいでてシッテムの谷に灌がん 19 エジプトは荒
すたれエドムは荒野とならん 是はかれらユダの子孫
を虐げ辜なき者の血をその國に流したればなり 20 さ
れどユダは永久にすまひエルサレムは世々に保たん
21 我さきにはかれらが流しし血の罪を報いざりしが
今はこれをむくいん エホバ、シオンに住みたまはん

アモス書

1 テコアの牧者の中なるアモスの言 是はユダの王ウ
ジヤの世 イスラエルの王ヨアシの子ヤラベアムの世
地震の二年前に彼が見されたる者にてイスラエルの
事を論るなり 其言に云く **2** エホバ、シオンより呼號
りエルサレムより聲を出したまふ 牧者の牧場は哀き
カルメルの巔は枯る **3** エホバかく言たまふ ダマスコ
は三の罪あり 四の罪あれば我かならず之を罰して赦
さじ 即ち彼らは鐵の打禾車をもてギレアデを打ち **4**
我ハザエルの家を遣りベネハダデの宮殿を焚ん
5 我ダマスコの關を碎きアベンの谷の中よりその居民
を絶のぞきベテエデンの中より王の杖を執る者を絶
のぞかん スリアの民は擄へられてキルにゆかん エホ
バこれを言ふ **6** エホバかく言たまふ ガザは三の罪あ
り 四の罪あれば我かならず之を罰して赦さじ 即ち彼
らは俘囚をことごとく曳ゆきてこれをエドムに付せ
り **7** 我ガザの石垣の内に火を遣り一切の殿を焚ん **8**
我アシドドの中よりその居民を絶のぞきアシケロン
の中より王の杖を執る者を絶除かん 我また手を反し
てエクロンを撃ん ペリシテ人の遺れる者亡ぶべし 主
エホバこれを言ふ **9** エホバかく言たまふ ツロは三の
罪あり 四の罪あれば我かならず之を罰して赦さじ 即
ち彼らは俘囚をことごとくエドムに付しまた兄弟の
契約を忘れてたり **10** 我ツロの石垣の内に火を遣り一切
の殿を焚ん **11** エホバかく言たまふ エドムは三の罪あ
り 四の罪あれば我かならず之を罰して赦さじ 即ち彼
は劍をもてその兄弟を追ひ全く憐憫の情を斷ち恒に
怒りて人を害し永くその憤恨をたくはへたり **12** 我テ
マンに火を遣りボヅラの一切の殿を焚ん **13** エホバか

く言たまふ アンモンの人々は三の罪あり 四の罪あれば我かならず之を罰して赦さじ 即ち彼らはその國境を廣めんとてギレアデの孕める婦を剖たり 14 我ラバの石垣の内に火を放ちその一切の殿を焚ん 是は戦闘の日に呐喊の聲をもて爲され暴風の日に旋風をもて爲されん 15 彼らの王はその牧伯等と諸共に擄へられて往ん エホバこれを言ふ

2 エホバかく言たまふ モアブは三の罪あり 四の罪あれば我かならず之を罰して赦さじ 即ち彼はエドムの王の骨を焼て灰となせり 2 我モアブに火を遣りケリオテの一切の殿を焚ん モアブは噪擾と呐喊の聲と喇叭の音の中に死ん 3 我その中より 審判長を絶除きその諸の牧伯を之とともに殺さん エホバはこれを言ふ 4 エホバかく言たまふ ユダは三の罪あり 四の罪あれば我かならず之を罰して赦さじ 即ち彼らはエホバの律法を輕んじその法度を守らずその先祖等が従ひし偽の物に惑はさる 5 我ユダに火を遣りエルサレムの諸の殿を焚ん 6 エホバかく言たまふ イスラエルは三の罪あり 四の罪あれば我かならず之を罰して赦さじ 即ち彼らは義者を金のために賣り貧者を鞋一足のために賣る 7 彼らは弱き者の頭に地の塵のあらんことを喘ぎて求め柔かき者の道を曲げ又父子共に一人の女子に行て我聖名を汚す 8 彼らは質に取れる衣服を一切の壇の傍に敷きてその上に偃し罰金をもて得たる酒をその神の家に飲む 9 嚮に我はアモリ人を彼らの前に絶たり アモリ人はその高きこと香柏のごとくその強きこと橡の樹のごとくなりしが我その上の果と下の根とをほろぼしたり 10 我は汝らをエジプトの地より携へのぼり四十年のあひだ荒野において汝ら

を導き終にアモリ人の地を汝らに獲させたり **11** 我は汝らの子等の中より預言者を興し汝らの少者の中よりナザレ人を興したり イスラエルの子孫よ然るにあらずや エホバこれを言ふ **12** 然るに汝らはナザレ人に酒を飲ませ預言者に命じて預言するなかれと言ひ **13** 視よ我麥束を積滿せる車の物を壓するがごとく汝らを壓せん **14** その時は疾走者も逃るに暇あらず 強き者もその力を施すを得ず 勇士も己の生命を救ふこと能はず **15** 弓を執る者も立ことを得ず 足駛の者も自ら救ふ能はず 馬に騎れる者も己の生命を救ふこと能はず **16** 勇士の中の心剛き者もその日には裸にて逃ん エホバこれを言ふ

3 イスラエルの子孫よエホバが汝らにむかひて言ところ我がエジプトの地より導き上りし全家にむかひて言ところの此言を聽け **2** 地の諸の族の中にて我ただ汝ら而已を知れり この故に我なんぢらの諸の罪のために汝らを罰せん **3** 二人もし相會せずば争で共に歩かんや **4** 獅子もし獲物あらずば豈林の中に吼んや 猛獅子もし物を攫まずば豈その穴より聲を出さんや **5** もし罾の設なくば鳥あに地に張れる網にかからんや 網もし何の得るところも無くば豈地よりあがらんや **6** 邑にて喇叭を吹かば民おどらかざらんや 邑に災禍のおこるはエホバのこれを降し給ふならずや **7** 夫主エホバはその隠れたる事をその僕なる預言者に傳へずしては何事をも爲たまはざるなり **8** 獅子吼ゆ 誰か懼れざらんや 主エホバ言語たまふ 誰か預言せざらんや **9** アシドドの一切の殿に傳へエジプトの地の一切の殿に宣て言へ 汝等サマリヤの山々に集りその中にある大なる紛亂を觀その中間におこなはるる虐遇を

観よ 10 エホバいひたまふ 彼らは正義をおこなふことを知ず 虐げ取し物と奪ひたる物とをその宮殿に積蓄ふ 11 是故に主エホバかく言たまふ 敵ありて此國を攻かこみ汝の權力を汝より取下さん 汝の一切の殿は掠めらるべし 12 エホバかく言たまふ 牧羊者は獅子の口より羊の兩足あるひは片耳を取かへし得るのみ サマリヤに於て床の隅またはダマスコ錦の榻に坐するイスラエルの子孫もその救はるること是のごとくならん 13 萬軍の神 主エホバかく言たまふ 汝ら聽てヤコブの家に證せよ 14 我イスラエルの諸の罪を罰する日にはベテルの壇を罰せん 其壇の角は折て地に落べし 15 我また冬の家および夏の家をうたん 象牙の家ほろび大きなる家失ん エホバこれを言ふ

4 バシヤンの牝牛等よ 汝ら此言を聽け 汝らはサマリヤの山に居り弱者を虐げ貧者を壓し又その主にむかひて此に持きたりて我らに飲せよと言ふ 2 主エホバ己の聖を指し誓ひて云ふ 視よ日汝らの上に臨む その日には人汝らを鈎にかけ汝等の遺餘者を釣魚鈎にかけて曳いださん 3 汝らは各々その前なる石垣の破壊たる處より奔出てハルモンに逃往ん エホバこれを言ふ 4 汝らベテルに往て罪を犯しギルガルに往て益々おほく罪を犯せ 朝ごとに汝らの犠牲を携へゆけ 三日ごとに汝らの什一を携へゆけ 5 酔いれたる者を感謝祭に獻げ願意よりする禮物を召てこれを告示せ イスラエルの子孫よ 汝らは斯するを好むなりと主エホバ言たまふ 6 また我汝らの一切の邑に於て汝らの齒を清からしめ汝らの一切の處において汝らの食を乏しからしめたり 然るに汝らは我に歸らずとエホバ言給ふ 7 また我收穫までには尚三月あるに雨をとどめて

汝らに下さず かの邑には雨を降しこの邑には雨をふ
らさざりき 此田圃は雨を得 彼田圃は雨を得ずして枯
れたり 8 二三の邑別の一の邑に躑めきゆきて水を飲
ども飽ことあたはず 然るに汝らは我に歸らずとエホ
バ言たまふ 9 我枯死穀と朽腐穂とをもて汝等を撃な
やませり また汝らの衆多の園と葡萄園と無花果樹と
橄欖樹とは蝗これを食へり 然るに汝らは我に歸らず
とエホバ言たまふ 10 我なんぢらの中にエジプトに爲
し如く疫病をおこし 劍をもて汝らの少き人を殺し又
汝らの馬を奪さり汝らの營の臭氣をして騰りて汝ら
の鼻を撲しめたり 然るも汝らは我に歸らずとエホバ
いひたまふ 11 我なんぢらの中の邑を滅すことソドム
、ゴモラを神の滅したまひし如くしたれば汝らは焔
の中より取いだしたる燃柴のごとくなれり 然るも汝
らは我に歸らずとエホバ言たまふ 12 イスラエルよ然
ば我かく汝に行はん 我是を汝に行ふべければイスラ
エルよ汝の神に會ふ準備をせよ 13 彼は即ち山を作り
なし風を作り出し人の思想の如何なるをその人に示
した 晨光をかへて 黑暗となし地の高處を踏む者な
り その名を萬軍の神エホバといふ

5 イスラエルの家よ我が汝らに對ひて宣る此言を聽
け 是は哀歎の歌なり 2 處女イスラエルは仆れて復起
あがらず彼は己の地に扑倒さる 之を扶け起す者なし
3 主エホバかく言たまふ イスラエルの家においては
前に千人出たる邑は只百人のみのこり前に百人出た
る邑は只十人のみのこらん 4 エホバかくイスラエルの
家に言たまふ 汝ら我を求めよ さらば生べし 5 ペテ
ルを求むるなかれ ギルガルに往なかれ ペエルシバに
赴く勿れ ギルガルは必ず擄へられゆきペテルは無に

歸せん 6 汝らエホバを求めよ 然ば生べし 恐くはエホバ火のごとくにヨセフの家に落くだりたまひてその火これを焼ん ベテルのためにこれを熄す者一人もあらじ 7 汝ら公道を茵蔯に變じ正義を地に擲つる者よ 8 昴宿および參宿を造り死の蔭を變じて朝となし晝を暗くして夜となし海の水を呼て地の面に溢れさする者を求めよ 其名はエホバといふ 9 彼は滅亡を忽然強者に臨ましむ 滅亡つひに城に臨む 10 彼らは門にありて勸戒る者を惡み正直を言ふ者を忌嫌ふ 11 汝らは貧き者を踐つけ麥の驢物を之より取る この故に汝らは鑿石の家を建しと雖どもその中に住ことあらじ 美しき葡萄園を作りしと雖どもその酒を飲ことあらじ 12 我知る汝らの愆は多く汝らの罪は大なり 汝らは義き者を虐げ賄賂を取り門において貧き者を推枉ぐ 13 是故に今の時は賢き者黙す 是惡き時なればなり 14 汝ら善を求めよ 惡を求めざれ 然らば汝ら生べし また汝らが言ごとく萬軍の神エホバ汝らと偕に在さん 15 汝ら惡を惡み善を愛し門にて公義を立よ 萬軍の神エホバあるひはヨセフの遺れる者を憐れみたまはん 16 是故に主たる萬軍の神エホバかく言たまふ 諸の街衢にて啼ことあらん 諸の大路にて人哀哉哀哉と呼ん 又農夫を呼きたりて哀哭しめ啼女を招きて啼しめん 17 また諸の葡萄園にも啼こと有べし 其は我汝らの中を通るべければなり エホバこれを言たまふ 18 エホバの日を望む者は禍なるかな 汝ら何とてエホバの日を望むや 是は昏くして光なし 19 人獅子の前を逃れて熊に遇ひ又家にいりてその手を壁に附て蛇に咬るるに宛も似たり 20 エホバの日は昏くして光なく暗にして耀なきに非ずや 21 我は汝らの節筵を惡みかつ藐

視む また汝らの集會を悦ばじ 22 汝ら我に燔祭または素祭を獻ぐるとも我之を受納れじ 汝らの肥たる犢の感謝祭は我これを顧みじ 23 汝らの歌の聲を我前に絶て汝らの琴の音は我これを聴じ 24 公道を水のごとくに正義をつきざる河のごとくに流れしめよ 25 イスラエルの家よ汝らは四十年荒野に居し間犠牲と供物を我に獻げたりしや 26 かへつて汝らは汝らの王シクテを負ひ汝らの偶像キウンを負へり 是即ち汝らの神とする星にして汝らの自ら造り設けし者なり 27 然ば我汝らをダマスコの外に移さん 萬軍の神となふるエホバこれを言たまふ

6 身を安くしてシオンに居る者思ひわづらはずしてサマリヤの山に居る者 諸の國にて勝れたる國の中なる聞高くしてイスラエルの家に就きしたがはるる者は禍なるかな 2 カルネに涉りゆき彼處より大ハマテに至りまたペリシテ人のガテに下りて視よ其等は此二國に愈るや 彼らの土地は汝らの土地よりも大なるや 3 汝等は災禍の日をもて尚遠しと爲し強暴の座を近づけ 4 自ら象牙の牀に臥し寢臺の上に身を伸し群の中より羔羊を取り圈の中より犢牛を取て食ひ 5 琴の音にあはせて唄ひ噪ぎダビデのごとくに樂器を製り出し 6 大罍をもて酒を飲み最も貴とき膏を身に抹りヨセフの艱難を憂へざるなり 7 是故に今彼等は擄はれて俘囚人の眞先に立て往んかの身を伸したる者等の嘈の聲止べし 8 萬軍の神エホバ言たまふ 主エホバ己を指て誓へり 我ヤコブが誇る所の物を忌嫌ひその宮殿を惡む 我この邑とその中に充る者とを付すべし 9 一の家に十人遺りをるとも皆死ん 10 而してその親戚すなはち之を焚く者その死骸を家より運びいだ

さんとて之を取あげまたその家の奥に潛み居る者に向ひて他になほ汝とともに居る者あるやと言ふとき對へて一人も無しと言ん 此時かの人また言べし 默せよエホバの名を口に擧ること有べからずと 11 視よエホバ命を下し大なる家を撃て墟址とならしめ小き家を撃て微塵とならしめたまふ 12 馬あに能く岩の上を走らんや 人あに牛をもて岩を耕へすことを得んや 然るに汝らは公道を毒に變じ正義の果を茵陳に變じたり 13 汝らは無物を喜び我儕は自分の力をもて角を得しにあらずやと言ふ 14 是をもて萬軍の神エホバ言たまふ イスラエルの家よ我一の國を起して汝らに敵せしめん 是はハマテの入口よりアラバの川までも汝らをなやまさん

7 主エホバの我に示したまへるところ是のごとし 即ち草の再び生ずる時にあたりて彼蝗を造りたまふ その草は王の刈たる後に生じたるものなり 2 その蝗地の青物を食盡しし後我言り 主エホバよ願くは赦したまへ ヤコブは小し 争でか立ことを得んと 3 エホバその行へる事につきて悔をなし我これを爲じと言たまふ 4 主エホバの我に示したまへる所是のごとし 即ち主エホバ火をもて罰せんとて火を呼たまひければ火大淵を焚きまた産業の地を焚かんとす 5 時に我言り 主エホバよ願くは止みたまへ ヤコブは小し 争でか立ことを得んと 6 エホバその行へる事につきて悔をなし我これをなきじと主エホバ言たまふ 7 また我に示したまへるところ是のごとし 即ち準繩をもて築ける石垣の上にエホバ立ちその手に準繩を執たまふ 8 而してエホバ我にむかひアモス汝何を見るやと言たまひければ準繩を見ると我答へしに主また言たまはく

我準繩を我民イスラエルの中に設く 我再び彼らを見
過しにせじ 9 イサクの崇邱は荒されイスラエルの聖
所は毀たれん 我劍をもちてヤラベアムの家に起むか
はん 10 時にベテルの祭司アマジヤ、イスラエルの王
ヤラベアムに言遣しけるはイスラエルの家の真中に
てアモス汝に叛けり 彼の諸の言には此地も堪るあた
はざるなり 11 即ちアモスかく言り ヤラベアムは劍に
よりにて死ん イスラエルは必ず擄へられてゆきてその
國を離れんと 12 而してアマジヤ、アモスに言けるは
先見者よ 汝往てユダの地に逃れ彼處にて預言して汝
の食物を得よ 13 然どベテルにては重ねて預言すべか
らず 是は王の聖所王の宮なればなり 14 アモス對へ
てアマジヤに言けるは我は預言者にあらず また預言
者の子にも非ず 我は牧者なり 桑の樹を作る者なりと
15 然るにエホバ羊に従ふ所より我を取り往て我民イ
スラエルに預言せよとエホバわれに宣へり 16 今エホ
バの言を聽け 汝は言ふイスラエルにむかひて預言す
る勿れ イサクの家にむかひて言を出すなかれと 17
是故にエホバかく言たまふ 汝の妻は邑の中にて妓婦
となり汝の男子女子は劍に斃れ汝の地は繩をもて分
たれん 而して汝は穢れたる地に死にイスラエルは擄
られゆきてその國を離れん

8 主エホバの我に示したまへるところ是のごとし 即
ち熟したる果物一筐あり 2 エホバわれにむかひてア
モス汝何を見るやと言たまひければ熟したる果物一
筐を見ると答へしにエホバ我に言たまはく我民イス
ラエルの終いたれり 我ふたたび彼らを見過しにせじ
3 主エホバ言たまふ 其日には宮殿の歌は哀哭に變ら
ん 死屍おびただしくあり 人これを遍き處に投棄ん

黙せよ 4 汝ら喘ぎて貧しき者に迫り且地の困難者を滅す者よ之を聽け 5 汝らは言ふ月朔は何時過去んか我等穀物を賣んとす 安息日は何時過去んか 我ら麥倉を開かんとす 我らエパを小さくしシケルを大きくし偽の權衡をもて欺く事をなし 6 銀をもて賤しき者を買ひ鞋一足をもて貧き者を買ひかつ屑麥を賣いださんと 7 エホバ、ヤコブの榮光を指て誓ひて言たまふ 我かならず彼等の一切の行爲を何時までも忘れじ 8 之がために地震はざらんや地に住る者みな哭かざらんや地みな河のごとく噴あがらん エジプトの河のごとく湧あがり又沈まん 9 主エホバ言たまふ其日には我日をして眞晝に沒せしめ地をして白晝に暗くならしめ 10 汝らの節筵を悲傷に變らせ汝らの歌を盡く哀哭に變らせ一切の人に麻布を腰に纏はしめ一切の人に頂を剃しめ其日をして獨子を喪へる哀傷のごとくならしめ其終をして苦き日のごとくならしめん 11 主エホバ言たまふ 視よ日至らんとす その時我饑饉たを此國におくらん 是はパンに乏しきに非ず 水に渴くに非ず エホバの言を聽ことの饑饉なり 12 彼らは海より海とさまよひ歩き北より東と奔まはりてエホバの言を求めん 然ど之を得ざるべし 13 その日には美しき處女も少き男もともに渴のために絶いらん 14 かのサマリヤの罪を指て誓ひダンよ汝の神は活くと言ひまたベエルシバの路は活くと言る者等は必ず仆れん 復興ることあらじ

9 我觀るに主壇の上に立て言たまはく柱の頭を撃て鬨を震はせ之を打碎きて一切の人の首に落かからしめよ 其遺れる者をば我劍をもて殺さん 彼らの逃る者も逃おほすることを得ず 彼らの遁るる者もたすから

じ 2 假令かれら陰府に掘くだるとも我手をもて之を
其處より曳いださん 假令かれら天に攀のぼるとも我
これを其處より曳おろさん (Sheol h7585) 3 假令かれら
カルメルの巔に匿るとも我これを捜して其處より
曳いださん 假令かれら海の底に匿れて我目を逃るとも
我蛇に命じて其處にて之を咬しめん 4 假令かれ
らその敵に擄はれゆくとも我劍に命じて其處にて之
を殺さしめん 我かれらの上に我目を注ぎて災禍を降
さん 福祉を降さじ 5 主たる萬軍のエホバ地に捫れば
地鎔けその中に住む者みな哀む 即ち全地は河のごと
くに噴あがりエジプトの河のごとくにまた沈むなり
6 彼は樓閣を天に作り穹蒼の基を地の上に置ゑまた海
の水を呼て地の面にこれを斟ぐなり 其名をエホバと
いふ 7 エホバ言たまふ イスラエルの子孫よ 我は汝ら
を視ことエテオピア人を觀がごとくするにあらずや
我はイスラエルをエジプトの國よりペリシテ人をカ
フトルよりスリア人をキルより導き來りしにあらず
や 8 視よ我主エホバその目を此罪を犯すところの國
に注ぎ之を地の面より滅し絶ん 但し我はヤコブの家
を盡くは滅さじ エホバこれを言ふ 9 我すなはち命を
下し篩にて物を篩ふがごとくイスラエルの家を萬國
の中にて篩はん 一粒も地に落ざるべし 10 我民の罪
人即ち災禍われらに及ばず我らに降らじと言をる者
等は皆劍によりて死ん 11 其日には我ダビデの倒れた
る幕屋を興しその破壊を修繕ひその傾\圯たるを興し
古代の日のごとくに之を建なほすべし 12 而して彼ら
はエドムの遺餘者および我名をもて稱へらるる一切
の民を獲ん 此事を行ふ エホバかく言なり 13 エホバ
言ふ 視よ日いたらんとす その時には耕者は刈者に相

繼ぎ葡萄を踐む者は播種者に相繼がん また山々には
酒滴り岡は皆鎔て流れん 14 我わが民イスラエルの俘
囚を返さん 彼らは荒たる邑々を建なほして其處に住
み葡萄園を作りてその酒を飲み園圃を作りてその果
を食はん 15 我かれらをその地に植つけん 彼らは我
がこれに與ふる地より重ねて抜とらるることあらし
汝の神エホバこれを言ふ

オバデヤ書

1 オバデヤの預言主エホバ、エドムにつきて斯いひ
たまふ 我らエホバより出たる音信を聞けり 一人の使
者國々の民の中に遣されて云ふ 起よ我儕起てエドム
を攻撃んと **2** 我汝をして國々の中において小き者た
らしむ 汝は大に藐視らるるなり **3** 山崖の巖屋に居り
高き處に住む者よ 汝が心の傲慢なんぢを欺けり 汝心
の中に謂ふ誰か我を地に曳くだすことを得んと **4** 汝
たとひ驚のごとくに高く擧り星の間に巢を造るとも
我そこより汝を曳くださん エホバこれを言たまふ **5**
盜賊汝に來り 強盜夜なんぢに來り竊むともその心に
満るときは止ざらんや 嗚呼なんぢは滅されて絶ゆ 葡
萄を摘む者汝にいたるも尚 幾何を遺さざらんや **6** 嗚
呼エサウは搜されその隠しおける物は探りいださる
7 汝と盟約を結べる人々はみな汝を國境に逐やり汝と
和好をなせる人々はみな汝を欺きて汝に勝ち汝の食
物を食ふ者等は汝の下に罠を設く 彼の中には穎悟あ
らず **8** エホバ言たまふ當日には我智慧ある者をエド
ムより絶除き穎悟をエサウの山より絶除かざらんや
9 テマンよ汝の勇士は驚き懼れん 而して人みな終に
殺されてエサウの山より絶除かるべし **10** 汝はその兄
弟ヤコブに暴虐を加へたるに因て恥辱なんぢを蒙は
ん 汝は永遠に至るまで絶るべし **11** 汝が遠く離れて立
をりし日即ち異邦人これが財寶を奪ひ他國人これが
門に進み入りエルサレムのために籤を掣たる日には
汝も彼らの一人のごとくなりき **12** 汝は汝の兄弟の日
すなはちその災禍の日を觀るべからず 又ユダの子孫
の滅亡の日を喜ぶべからず その苦難の日には汝口を
大きく開べからざるなり **13** 我民の滅ぶる日には汝そ

の門に入べからず其滅ぶる日には汝その患難を見べからず 又その滅ぶる日には汝その財寶に手をかく可らず 14 汝路の辻々に立て その逃亡者を斬べからず 其患難の日にこれが遺る者を付すべからず 15 エホバの日萬國に臨むこと邇し 汝の爲せるとく汝も爲られ汝の應報なんぢの首に歸すべし 16 汝等のわが聖山にて飲しごとく萬國の民も恒に飲ん 即ちみな飲かつ啜りて従前より有ざりし者のごとく成ん 17 シオン山には救はるる者等をりてその山聖所とならん またヤコブの家はその産業を獲ん 18 ヤコブの家は火となり ヨセフの家は火燄となり エサウの家は藁とならん 即ち彼等これが上に燃てこれを焚ん エサウの家には遺る者一人も無にいたるべし エホバこれを言なり 19 南の人はエサウの山を獲 平地の人はペリシテを獲ん 又彼らはエフライムの地およびサマリヤの地を獲 ベニヤミンはギレアデを獲ん 20 かの擄はれゆきシイスラエルの軍旅はカナン人に屬する地をザレパテまで取ん セパラデにあるエルサレムの俘擄人は南の邑々を獲ん 21 然る時に救者シオンの山に上りてエサウの山を鞫かん而して國はエホバに歸すべし

ヨナ書

1 エホバの言アミタイの子ヨナに臨めりいはく **2** 起てかの大なる邑ニネベに往きこれと呼はり責めよ 是は其惡わが前に上り來ればなりと **3** 然るにヨナはエホバの面をさけてタルシシへ逃れんと起てヨツパに下り行けるが機しもタルシシへ往く舟に遇ければその價値を給へエホバの面をさけて偕にタルシシへ行んとてその舟に乗れり **4** 時にエホバ大風を海の上に起したまひて烈しき颶風海にありければ舟は幾んど破れんとせり **5** かかりしかば船夫恐れて各おのれの神を呼び又舟を軽くせんとしてその中なる載荷を海に投すたり 然るにヨナは舟の奥に下りゐて臥て酣睡せり **6** 船長來りて彼に云けるは汝なんぞかく酣睡するや起て汝の神を呼べあるひは彼われらを眷顧て淪亡ざらしめんと **7** かくて人衆互に云けるは此災の我儕にのぞめるは誰の故なるかを知んがため去來鬪を掣んと やがて鬪をひきしに鬪ヨナに當りければ **8** みな彼に云けるはこの災禍なにゆゑに我らにのぞめるか請ふ告げよ 汝の業は何なるや 何處より來れるや 汝の國は何處ぞや 何處の民なるや **9** ヨナ彼等にいひけるは我はヘブル人にして海と陸とを造りたまひし天の神エホバを畏るる者なり **10** 是に於て船夫甚だしく懼れて彼に云けるは汝なんぞ其事をなせしやと その人々は彼がエホバの面をさけて逃れしなるを知れり 其はさきにヨナ彼等に告たればなり **11** 遂に船夫彼にいひけるは我儕のために海を靜かにせんには汝に如何がなすべきや 其は海いよいよ甚だしく狂蕩たればなり **12** ヨナ彼等に曰けるはわれを取りて海に投いれよ さらば海は汝等の爲に靜かにならん そはこの大

なる颶風の汝等にのぞめるはわが故なるを知ればなり 13されど船夫は陸に漕もどさんとつとめたりしが終にあたはざりき 其は海かれらにむかひていよいよ烈しく蕩たればなり 14 ここにおいて彼等エホバに呼はりて曰けるはエホバよこひねがはくは此人の命の爲に我儕を滅亡したまふ勿れ 又罪なきの血をわれらに歸し給ふなかれ そはエホバよ汝聖意にかなふところを爲し給へるなればなりと 15 すなわちヨナを取りて海に投入たりしかして海のあることやみぬ 16 かかりしかばその人々おほいにエホバを畏れエホバに犠牲を獻げ誓願を立たり 17 さてエホバすでに大なる魚を備へおきてヨナを呑しめたまへり ヨナは三日三夜魚の腹の中にありき

2 ヨナ魚の腹の中よりその神エホバに祈祷て **2** 曰けるは われ患難の中よりエホバを呼びしに彼われこたへたまへり われ陰府の腹の中より呼はりしに汝わが聲を聴たまへり (Sheol h7585) **3** 汝我を淵のうち海の中心に投いれたまひて海の水我を環り汝の波濤と巨浪すべて我上にながる **4** われ曰けるは我なんぢの目の前より逐れたれども復汝の聖殿を望まん **5** 水われを環りて 魂にも及ぼんとし淵我をとりかこみ海草わが頭に纏へり **6** われ山の根基にまで下れり 地の關木いつも我うしろにありき しかるに我神エホバよ汝はわが命を深き穴より救ひあげたまへり **7** わが靈魂衷に弱りしとき我エホバをおもへり しかしてわが祈なんぢに至りなんぢの聖殿におよべり **8** いつはりなる虚き者につかふるものは自己の恩たる者を棄つ **9** されど我は感謝の聲をもて汝に獻祭をなし 又わが誓願を

なんぢに償さん 救はエホバより出るなりと 10 エホバ其魚に命じたまひければヨナを陸に吐出せり

3 エホバの言ふたびヨナに臨めり曰く **2** 起てかの
大なる府ニネベに往きわが汝に命ずるところを宣よ
3 ヨナすなはちエホバの言に循ひて起てニネベに往り
ニネベは甚だ大なる邑にしてこれをめぐるに三日を
歴る程なり **4** ヨナその邑に入はじめ一日路を行つつ
呼はり曰けるは四十日を歴ばニネベは滅亡さるべし
5 かかりしかばニネベの人々神を信じ斷食を宣れ大なる
者より小き者に至るまでみな麻布を衣たり **6** この
言ニネベの王に聞えければ彼 位より起ち朝服を脱ぎ
麻布を身に纏ふて灰の中に坐せり **7** また王大臣ととも
に命をくだしてニネベ中に宣しめて曰く人も畜も
牛も羊もともに何をも味ふべからず 又物をくらひ水
を飲べからず **8** 人も畜も麻布をまとひ只管神に呼は
り且おのおの其惡き途および其手に作す邪惡を離る
べし **9** 或は神その聖旨をかへて悔い其烈しき怒を息
てわれらを滅亡さざらん 誰かその然らざるを知んや
10 神かれらの爲すところをかながみ其あしき途を離
るるを見そなはし彼等になさんと言し所の災禍を悔
て之をなしたまはざりき

4 ヨナこの事を甚だ惡しとして烈く怒り **2** エホバに
祈りて曰けるはエホバよ我なほ本國にありし時斯あ
らんと曰しに非ずや さればこそ前にタルシシへ逃れ
たるなれ 其は我なんぢは矜恤ある神 憐憫あり 怒る
こと遅く慈悲深くして災禍を悔たまふものなりと知
ばなり **3** エホバよ願くは今わが命を取たまへ 其は生
ることよりも死るかた我に善ればなり **4** エホバ曰た
まひけるは汝の怒る事いかで宜しからんや **5** ヨナは

邑より出てその東の方に居り己が爲に其處に一の小
屋をしつらひその蔭の下に坐して府の如何に成行く
かを見る 6 エホバ神瓢を備へこれをして發生てヨナ
の上を覆はしめたり こはヨナの首の爲に庇蔭をまう
けてその憂を慰めんが爲なりき ヨナはこの瓢の木に
よりにて甚だ喜び 7 されど神あくる日の夜明に虫を
そなへて其ひさごを噛せたまひければ瓢は枯たり 8
かくて日の出し時神暑き東風を備へ給ひ又日ヨナの
首を照しければ彼よわりて心の中に死ることを願ひ
て言ふ 生ることよりも死るかた我に善し 9 神またヨ
ナに曰たまひけるは瓢の爲に汝のいかる事いかで宜
しからんや 彼曰けるはわれ怒りて死るともよろし 10
エホバ曰たまひけるは汝は勞をくはへず生育ざる此
の一夜に生じて一夜に亡びし瓢を惜めり 11 まして十
二萬餘の右左を辨へざる者と許多の家畜とあるこの
大なる府ニネベをわれ惜まざらんや

ミカ書

1 ユダの王ヨタム、アハズおよびヒゼキヤの代にモ
レシテ人ミカに臨めるエホバの言是すなはちサマリ
アとエルサレムの事につきて彼が示されたる者なり
2 萬民よ聽け 地とその中の者よ耳を傾けよ 主エホバ
汝らに對ひて證を立たまはん 即ち主その聖殿より之
を立たまふべし **3** 視よエホバその處より出てくだり
地の高處を踏たまはん **4** 山は彼の下に融け谷は裂け
たり 火の前なる蠟のごとく坡に流るる水の如し **5** 是
みなヤコブの咎の故イスラエルの家の罪のゆゑなり
ヤコブの愆とは何か サマリヤにあらずや ユダの崇邱
とは何か エルサレムにあらずや **6** 是故に我サマリヤ
を野の石堆となし葡萄を植る處と爲し又その石を谷
に投おとしその基を露さん **7** その石像はみな碎かれ
その獲たる價金はみな火にて焚れん 我その偶像をこ
とごとく毀たん 彼妓女の價金よりこれを積たれば是
はまた歸りて妓女の價金となるべし **8** 我これがため
に哭き咷ばん 衣を脱ぎ裸體にて歩行ん 山犬のごとく
に哭き駝鳥のごとくに啼ん **9** サマリヤの傷は醫すべ
からざる者にてすでにユダに至り我民の門エルサレ
ムにまでおよべり **10** ガテに傳ふるなかれ 泣きけぶ
勿れ ベテレアフラにて我塵の中に輾びたり **11** サピル
に住る者よ 汝ら裸になり辱を蒙りて進みゆけ ザアナ
ンに住る者は敢て出ず ベテエゼルのの哀哭によりて
汝らは立處を得ず **12** マロテに住る者は己の幸福につ
きて思ひなやむ 其は災禍エホバより出てエルサレム
の門に臨めばなり **13** ラキシに住る者よ馬に車をつな
げ ラキシはシオンの女の罪の根本なり イスラエルの
愆は汝の中に見ゆ **14** この故に汝モレセテガテに離別

の饋物を與へよ アクジブの家々はイスラエルの王等
におけること人を欺く溪川のごとくなるべし 15 マレ
シヤにすめる者よ 我また汝の地を獲べき者を汝に携
へ往べし イスラエルの榮光アドラムに往ん 16 汝そ
の悦ぶところの子等の故によりて汝の髪を剃おろせ
汝の首の剃し處を大きくして驚のごとくにせよ 其は
彼等擄へられて汝を離るればなり

2 その牀にありて不義を圖り惡事を工夫る者等には
禍あるべし 彼らはその手に力あるが故に天亮におよ
べばこれを行ふ 2 彼らは田圃を貧りてこれを奪ひ家
を貧りて是を取りまた人を虐げてその家を掠め人を
虐げてその産業をかすむ 3 是故にエホバかく言たま
ふ 視よ我此族にむかひて災禍を降さんと謀る 汝らは
その頸を是より脱すること能はじ また首をあげて歩
くこと能はざるべし 其時は災禍の時なればなり 4 そ
の日には人汝らにつきて詩を作り悲哀の歌をもて悲
哀て言ん 事既にいたれり 我等は悉く滅さる 彼わが
民の産業を人に與ふ 如何なれば我よりこれを離すや
我儕の田圃を違逆者に分ち與ふ 5 然ば汝らエホバの
會衆の中には籤によりて繩をうつ者一人も有じ 6 預
言する勿れ 彼らは預言す 彼らは是等の者等にむかひ
て預言せじ 恥辱彼らを離れざるべし 7 汝ヤコブの家
と稱へらるる者よ エホバの氣短からんや エホバの行
爲是のごとくならんや 我言は品行正直者の益となら
ざらんや 8 然るに我民は近頃起りて敵となれり 汝ら
は夫の戦争を避て心配なく過るところの者等に就て
その衣服の外衣を奪ひ 9 我民の婦女をその悦ぶとこ
ろの家より逐いだしその子等より私の妝飾を永く奪
ふ 10 起て去れ 是は汝らの安息の地にあらず 是は已

に汚れたれば必ず汝らを滅さん 其滅亡は劇かるべし
11 人もし風に歩み謊言を宣べ我葡萄酒と濃酒の事につきて汝に預言せんと言ことあらばその人はこの民の預言者とならん 12 ヤコブよ我かならず汝をことごとく集へ 必ずイスラエルの遺餘者を聚めん 而して我之を同一に置いてボヅラの羊のごとく成しめん 彼らは人数衆きによりて牧場の中なる群のごとくにその聲をたてん 13 打破者かれらに先だちて登彼ら遂に門を打敗り之を通りて出ゆかん 彼らの王その前にたちて進みエホバその首に立たまふべし

3 我言ふヤコブの首領よイスラエルの家の侯伯よ 汝ら聽け公義は汝らの知べきことに非ずや 2 汝らは善を惡み惡を好み民の身より皮を剥ぎ骨より肉を剔り 3 我民の肉を食ひその皮を剥ぎその骨を碎きこれを切きぎみて鍋に入る物のごとくし鼎の中にいるる肉のごとくす 4 然ば彼時に彼らエホバに呼はるともエホバかれらに應へたまはじ 却てその時には面を彼らに隠したまはん 彼らの行惡ければなり 5 我民を惑す預言者は齒にて噛べき物を受る時は平安あらんと呼はれども何をもその口に與へざる者にむかひては戰鬥の準備をなす エホバ彼らにつきて斯いひたまふ 6 然ば汝らは夜に遭べし 復異象を得じ 黑暗に遭べし 復ト兆を得じ 日はその預言者の上をはなれて没りその上は晝も暗かるべし 7 見者は愧を抱きト者は面を赧らめ皆共にその唇を掩はん 神の垂應あらざればなり 8 然れども我はエホバの御靈によりて能力身に満ち公義および勇氣衷に満ればヤコブにその愆を示しイスラエルにその罪を示すことを得 9 ヤコブの家の首領等およびイスラエルの家の牧伯等公義を惡み一切の

正直事を曲る者よ汝ら之を聽け 10 彼らは血をもてシオンを建て不義をもてエルサレムを建つ 11 その首領等は賄賂をとりて審判をなしその祭司等は値錢を取て教晦をなす 又その預言者等は銀子を取て占トを爲しエホバに倚頼みて云ふエホバわれらと偕に在すにあらずや 然ば災禍われらに降らじと 12 是によりてシオンは汝のゆゑに田圃となりて耕へされエルサレムは石堆となり宮の山は樹の生しげる高處とならん

4 末の日にいたりてエホバの家の山諸の山の巔に立ち諸の嶺にこえて高く聳へ萬民河のごとく之に流れ歸せん 2 即ち衆多の民來りて言ん 去來我儕エホバの山に登ヤコブの神の家にゆかん エホバその道を我らに教へて我らにその路を歩ましめたまはん 律法はシオンより出でエホバの言はエルサレムより出べければなり 3 彼衆多の民の間を鞠き強き國を規戒め遠き處にまでも然したまふべし 彼らはその劍を鋤に打かへその鎗を鎌に打かへん 國と國とは劍を擧て相攻めず また重て戰爭を習はじ 4 皆その葡萄の樹の下に坐しその無花果樹の下に居ん 之を懼れしむる者なかるべし 萬軍のエホバの口之を言ふ 5 一切の民はみな各々その神の名によりて歩む 然れども我らはわれらの神エホバの名によりて永遠に歩まん 6 エホバ言たまふ 其日には我かの足蹇たる者を集へかの散されし者および我が苦しめし者を聚め 7 その足蹇たる者をもて遺餘民となし遠く逐やられたりし者をもて強き民となさん 而してエホバ、シオンの山において今より永遠にこれが王とならん 8 羊樓シオンの女の山よ最初の權汝に歸らん 即ちエルサレムの女の國祚なんぢに歸るべし 9 汝なにとて喚叫ぶや 汝の中に王なきや

汝の議者絶果しや 汝は産婦のごとくに痛苦を懐くなり
10 シオンの女よ産婦のごとく劬勞て産め 汝は今
邑を出て野に宿りバビロンに往ざるを得ず 彼處にて
汝救はれん エホバ汝を彼處にて汝の敵の手より贖ひ
取り給ふべし 11 今許多の國民あつまりて汝におしよ
せて言ふ 願くはシオンの汚されんことを 我ら目にシ
オンを觀てなぐさまんと 12 然ながら彼らはエホバの
思念を知らずまたその御謀議を曉らず エホバ麥束を打
場にあつむるごとくに彼らを聚め給へり 13 シオンの
女よ起てこなせ 我なんぢの角を鐵にし汝の蹄を銅に
せん 汝許多の國民を打碎くべし 汝かれらの掠取物を
エホバに獻げ彼らの財産を全地の主に奉納べし

5 軍隊の女よ今なんぢ集りて隊をつくれ 敵われらを
攻圍み杖をもてイスラエルの士師の頬を撃つ 2 ペテ
レヘム、エフラタ汝はユダの郡中にて小き者なり 然
れどもイスラエルの君となる者汝の中より我ために
出べし その出る事は古昔より永遠の日よりなり 3 是
故に産婦の産おとすまで彼等を付しおきたまはん 然
る後その遺れる兄弟イスラエルの子孫とともに歸る
べし 4 彼はエホバの力に由りその神エホバの名の威
光によりて立てその群を牧ひ之をして安然に居しめ
ん 今彼は大なる者となりて地の極にまでおよばん 5
彼は平和なり アッスリヤ人われらの國に入り我らの
宮殿を踏あらさんとする時は我儕七人の牧者八人の
人君を立てこれに當らん 6 彼ら劍をもてアッスリヤ
の地をほろぼしニムロデの地の邑々をほろぼさん ア
ッスリヤの人我らの地に攻いり我らの境を踏あらず
時には彼その手より我らを救はん 7 ヤコブの遺餘者
は衆多の民の中に在こと人に頼らず世の人を俟ずして

エホバより降る露の如く青草の上にふりしく雨の如く
ならん 8 ヤコブの遺餘者の國々にをり衆多の民の
中にをる様は林の獸の中に獅子の居るごとく羊の群
の中に猛き獅子の居るごとくならん その過るときは
踏みかつ裂ことをなす救ふ者なし 9 望らくは汝の手
汝が諸の敵の上にあげられ汝がもろもろの仇ことごとく
絶れんことを 10 エホバ言たまふ其日には我なんぢの馬を
汝の中より絶ち汝の車を毀ち 11 汝の國の邑々を絶し
汝の一切の城をことごとく圮さん 12 我また汝の手より
魔術を絶ん 汝の中に卜筮師無にいたるべし 13 我なんぢの
彫像および柱像を汝の中より絶ん 汝の手にて作れる者を
汝重て拜むこと無るべし 14 我また汝のアシラ像を汝の中より
抜たふし汝の邑々を滅さん 15 而して我忿怒と憤恨をもて
その聽從はざる國民に仇を報いん

6 請ふ汝らエホバの宣まふところを聽け 汝起あがりて
山の前に辨争へ 崗に汝の聲を聽しめよ 2 山々よ地の
易ることなき基よ 汝らエホバの辨争を聽け エホバ
その民と辨争を爲しイスラエルと論ぜん 3 我民よ我
何を汝になししや 何において汝を疲勞たるや 我にむかひ
て證せよ 4 我はエジプトの國より汝を導きのぼり 奴隸の
家より汝を贖ひいだし モーセ、アロンおよびミリアムを遣
して汝に先だたしめたり 5 我民よ請ふモアブの王バラクが
謀りし事およびベオルの子パラムがこれに應へし事を念ひ
シツテムよりギルガルにいたるまでの事等を念へ 然らば
汝エホバの正義を知ん 6 我エホバの前に何をもちゆきて
高き神を拜せん 燔祭の物および當歳の犢をもてその御
前にいたるべきか 7 エホバ數千の牡羊萬流の油を悦びたまはん

か 我愆のためにわが長子を獻げんか 我靈魂の罪のために我身の産を獻げんか 8 人よ彼さきに善事の何なるを汝に告たり エホバの汝に要めたまふ事は唯正義を行ひ憐憫を愛し謙遜りて汝の神とともに歩む事ならずや 9 エホバの聲邑にむかひて呼はる 智慧ある者はなんぢの名を仰がん 汝ら笞杖および之をおくらんと定めし者に聽け 10 悪人の家に猶惡財ありや 詛ふべき縮小たる升ありや 11 我もし正からざる權衡を用ひ袋に偽の碼子をいれおかば争で潔からんや 12 その富る人は強暴にて充ち其居民は謊言を言ひその舌は口の中にて欺くことを爲す 13 是をもて我も汝を撃て重傷を負はせ汝の罪のために汝を滅す 14 汝は食ふとも飽ず腹はつねに空ならん 汝は移すともつひに拯ふことを得じ 汝が拯ひし者は我これを劍に付すべし 15 汝は種播とも刈ることあらず 橄欖を踐ともその油を身に抹ることあらず 葡萄を踐ともその酒を飲ことあらず 16 汝らはオムリの法度を守りアハブの家の一切の行爲を行ひて彼等の謀計に遵ふ 是は我をして汝を荒さしめ且その居民を胡盧となさしめんが爲なり 汝らはわが民の恥辱を任べし

7 我は禍なるかな 我の景況は夏の菓物を採る時のごとく遺れる葡萄を斂むる時に似たり 食ふべき葡萄あること無く我が心に嗜む初結の無花果あること無し 2 善人地に絶ゆ 人の中に直き者なし 皆血を流さんと伏て伺ひ各々網をもてその兄弟を獵る 3 兩手は惡を善なすに急がし 牧伯は要求め裁判人は賄賂を取り力ある人はその心の惡き望を言あらはし斯共にその惡をあざなひ合す 4 彼らの最も善き者も荆棘のごとく最も直き者も刺ある樹の垣より惡し 汝の觀望人の日

すなはち汝の刑罰の日いたる 彼らの中に今混亂あら
ん 5 汝ら伴侶を信ずる勿れ 朋友を恃むなかれ 汝の懐
に寝る者にむかひても汝の口の戸を守れ 6 男子は父
を藐視め 女子は母の背き 媳は姑に背かん 人の敵はそ
の家の方なるべし 7 我はエホバを仰ぎ望み 我を救ふ
神を望み 俟つ 我神われに聽たまふべし 8 我敵人よ 我
につきて喜ぶなかれ 我仆るれば興あがる 幽暗に居れ
ばエホバ我の光となりたまふ 9 エホバわが訴訟を理
し 我ために審判をおこなひたまふまで 我は忍びてそ
の忿怒をかうむらん 其は我これに罪を得たればなり
エホバつひに我を光明に携へいだし給はん 而して我
エホバの正義を見ん 10 わが敵これを見ん 汝の神エ
ホバは何處にをるやと 我に言る者 恥辱をかうむらん
我かれを目に見るべし 彼は街衢の泥のごとくに踏つ
けらるべし 11 汝の垣を築く日いたらん 其日には法度
遠く徙るべし 12 その日にはアッスリヤよりエジプト
の邑々より人々 汝に來り 埃ジプトより河まで 海より
海まで 山より山までの人々 汝に來り就ん 13 その日 地
はその居民の故によりて荒はつべし 是その行爲の果
報なり 14 汝の杖をもて 汝の民即ち獨離れてカルメル
の中の林にをる 汝の産業の羊を牧養ひ之をして 古昔
の日のごとく バシヤンおよびギレアデにおいて草を
食はしめたまへ 15 汝がエジプトの國より出來し日
のごとく 我ふしぎなる事等を彼にしめさん 16 國々の民
見てその一切の能力を恥ぢ その手を口にあてん その
耳は聾となるべし 17 彼らは蛇のごとくに塵を舐め 地
に匍ふ者の如くにその城より振ひて出で 戰慄て我ら
の神エホバに詣り 汝のために懼れん 18 何の神か 汝に
如ん 汝は罪を赦し その産業の遺餘者の愆を見過した

まふなり 神は憐憫を悦ぶが故にその震怒を永く保ち
たまはず **19** ふたたび顧みて我らを憐み我らの愆を踏
つけ我らの諸の罪を海の底に投しづめたまはん **20** 汝
古昔の日われらの先祖に誓ひたりし其眞實をヤコブ
に賜ひ憐憫をアブラハムに賜はん

ナホム書

1 ニネベに關る重き預言 エルコシ人ナホムの異象の書 **2** エホバは妬みかつ仇を報ゆる神 エホバは仇を報ゆる者また忿怒の主 エホバは己に逆らふ者に仇を報い己に敵する者にむかひて憤恨を含む者なり **3** エホバは怒ることの遅く能力の大なる者 また罰すべき者をば必ず赦すことを爲ざる者 エホバの道は旋風に在り 大風に在り 雲はその足の塵なり **4** 彼海を指斥て之を乾かし河々をしてことごとく涸しむ バシヤンおよびカルメルの草木は枯れレバノンの花は凋む **5** 彼の前には山々ゆるぎ嶺々溶く 彼の前には地墳上り世界およびその中に住む者皆ふきあげらる **6** 誰かその憤恨に當ることを得ん 誰かその燃る忿怒に堪ることを得ん 其震怒のそそぐこと火のごとし 巖も之がために裂く **7** エホバは善なる者にして患難の時の要害なり 彼は己に倚頼む者を善知たまふ **8** 彼みなざる洪水をもてその處を全く滅し己に敵する者を幽暗處に逐やりたまはん **9** 汝らエホバに對ひて何を謀るや 彼全く滅したまふべし 患難かさねて起らじ **10** 彼等むすびからまれる荆棘のごとく なるとも酒に浸りをるとも乾ける藁のごとくに焚つくさるべし **11** エホバに對ひて惡事を謀る者一人汝の中より出て邪曲なる事を勸む **12** エホバかく言たまふ 彼等全くしてその數夥多しかるとも必ず芟たふされて皆絶ん 我前にはなんぢを苦めたれども重て汝を苦めじ **13** いま我かれが汝に負せし軛を碎き汝の縛を切はなすべし **14** エホバ汝の事につきて命令を下す 汝の名を負ふ者再び播ること有じ 汝の神々の室より我雕像および鑄像を除き絶べし 我汝の墓を備へん 汝輕ければなり **15** 嘉音信を

傳ふる者の脚山の上に見ゆ 彼平安を宣ふ ユダよ汝の
節筵を行ひ汝の誓願を果せ 邪曲なる者重て汝の中を
通らざるべし 彼は全く絶る

2 撃破者攻のぼりて汝の前に至る 汝城を守り路を窺
ひ腰を強くし汝の力を大に強くせよ **2** エホバはヤコ
ブの榮を舊に復してイスラエルの榮のごとくしたま
ふ 其は掠奪者これを掠めその葡萄蔓を壞ひたればなり **3** その勇士は楯を紅にしその軍兵は紅に身を甲ふ
其行伍を立つる時には戦車の鐵灼燦て火のごとし 鎗
また閃めきふるふ **4** 戦車街衢に狂ひ奔り大路に推あ
ふ 其形状火炬のごとく其疾く馳すること電光の如し
5 彼その將士を憶ひいだす 彼らはその途にて躓き仆
れその石垣に奔ゆき大楯を備ふ **6** 河々の門啓け宮消
うせん **7** この事定まれり 彼は裸にせられて擄はれゆ
きその宮女胸を打て鴿のごとくに啼くべし **8** ニネベ
はその建し日より以來水の満る池に似たりしがその
民今は逃奔る 止れ止れと呼ども後を顧みる者なし **9**
白銀を奪へよ 黄金を奪へよ その寶物限なく諸の貴と
き器用夥多し **10** 滅亡たり 空虚なれり 荒果たり 心は
消え膝は慄ひ腰には凡て劇しき痛あり 面はみな色を
失ふ **11** 獅子の穴は何處ぞや 少き獅子の物を食ふ處は
何處ぞや 雄獅子雌獅子その小獅子とともに彼處に歩
むに之を懼れしむる者なし **12** 雄獅子は小獅子のため
に物を噛ころし雌獅子の爲に物をくぶり殺しその掠
獲たる物をもて穴に充しその裂殺しし物をもて住所
に満す **13** 萬軍のエホバ言たまふ 視よ我なんぢに臨
む 我なんぢの戦車を焚て煙となすべし 汝の少き獅子
はみな劍の殺す所とならん 我また汝の獲物を地より
絶べし 汝の使者の聲かさねて聞ゆること無らん

3 禍なるかな血を流す邑 その中には全く詭譎および暴行充ち掠め取ること息まず **2** 鞭の音あり輪の轟く音あり 馬は躍り跳ね車は輾り行く **3** 騎兵馳のぼり剣きらめき鎗ひらめく 殺さるる者夥多しくして死屍山を爲し死骸限なし 皆死屍に躓きて倒る **4** 是はかの魔術の主なる美しき妓女多く淫行を行ひその淫行をもて諸國を奪ひその魔術をもて諸族を感したるに因てなり **5** 萬軍のエホバ言たまふ 視よ我なんぢに臨む 我なんぢの裳裾を掲げて面の上にまで及ぼし 汝の陰所を諸民に見し 汝の羞る所を諸國に見すべし **6** 我また穢はしき物を汝の上に投かけて 汝を辱しめ 汝をして賽物とならしめん **7** 凡て汝を見る者はみな 汝を避て奔り去りニネベは亡びたりと言ん 誰か汝のために哀かんや 何處よりして我なんぢを弔ふ者を尋ね得んや **8** 汝あにノアモンに愈らんや ノアモンは河々の間に立ち水をその周圍に環らし海をもて壕となし海をもて垣となせり **9** かつその勢力たる者はエテオピア人およびエジプト人などにして限あらず フテ人ルビ人等汝を助けたりき **10** 然るに是も俘囚となりて擄はれてゆきその子女は一切の衢の隅々にて投付られて碎け又その尊貴者は籤にて分たれ其大なる者はみな鏈に繋がれたり **11** 汝もまた酔せられて終に隠匿ん 汝もまた敵を避て逃る處を尋ね求めん **12** 汝の城々はみな初に結びし果のなれる無花果樹のごとし 之を撼がせばその果落て食はんとする者の口にいる **13** 汝の中にある民は婦人のごとし 汝の地の門はみな汝の敵の前に廣く開きてあり 火なんぢの關を焚ん **14** 汝水を汲て圍まるる時の用に備へ 汝の城々を堅くし泥の中に入れて踐て石灰を作りかつ瓦燒窯を修理へよ **15** 其處

にて火汝を焼き劍なんぢを斬ん 其なんぢを滅すこと
吸蝗のごとくなるべし 汝吸蝗のごとく數多からば多
かれ 汝群蝗のごとく數多からば多かれ 16 汝はおの
れの商賣を空の星よりも多くせり 吸蝗掠めて飛さる
17 汝の重臣は群蝗のごとく汝の軍長は蝗の群のごと
し 寒き日には垣に巢窟を構へ日出きたれば飛て去る
その在る處を知る者なし 18 アッスリヤの王よ汝の牧
者は睡り汝の貴族は臥す 又なんぢの民は山々に散さ
る 之を聚むる者なし 19 汝の傷は愈ること無し 汝の
創は重し 汝の事を聞およぶ者はみな汝の故によりて
手を拍ん 誰か汝の惡行を恒に身に受ざる者やある

ハバクク書

1 預言者ハバククが示を蒙りし預言の重負 **2** エホバよ我呼はるに汝の我に聽たまはざること何時までぞや 我なんぢにむかひて強暴を訴ふれども汝は助けたまはざるなり **3** 汝なにとて我に害悪を見せたまふや 何とて艱難を瞻望居たまふや 奪掠および強暴わが前に行はる且争論あり鬭争おこる **4** 是によりて律法弛み公義正しく行はれず悪き者義しき者を圍むが故に公義曲りて行はる **5** 汝ら國々の民の中を望み觀おどろけ駭け 汝らの日に我一の事を爲ん 之を告る者あるとも汝ら信ぜざらん **6** 視よ我カルデヤ人を興さんとす 是すなはち猛くまた荒き國人にして地を縦横に行めぐり 己の有ならざる住處を奪ふ者なり **7** 是は懼るべく又驚くべし 其是非威光は己より出づ **8** その馬は豹よりも迅く夜求食する豺狼よりも疾し 其騎兵は跑まはる 即ちその騎兵は遠き處より來る 其飛ことは物を食はんと急ぐ驚のごとし **9** 是は全く強暴のために來り 其面を前にむけて頻に進むその俘虜を寄集むることは砂のごとし **10** 是は王等を侮り君等を笑ひ諸の城々を笑ひ土を積あげてこれを取ん **11** 斯て風のごとくに行めぐり進みわたりて罪を獲ん 是は己の力を神とす **12** エホバわが神わが聖者よ 汝は永遠より在すに非ずや 我らは死なじ エホバよ汝は是を審判のために設けたまへり 譬よ汝は是を懲戒のために立たまへり **13** 汝は目清くして肯て悪を觀たまはざる者 肯て不義を視たまはざる者なるに何ゆゑ邪曲の者を觀すて置たまふや 悪き者を己にまさりて義しき者を吞噬ふに何ゆゑ汝黙し居たまふや **14** 汝は人をして海の魚のごとくならしめ君あらぬ昆蟲のごとくならしめた

まふ 15 彼鉤をもて之を盡く釣あげ網をもて之を寄せ
集め引網をもて之を捕ふるなり 是に因て彼歡び樂し
む 16 是故に彼その網に犠牲を獻げその引網に香を焚
く 其は之がためにその分肥まさりその食饒になりた
ればなり 17 然ど彼はその網を傾けつつなほたえず國
々の人を惜みなく殺すことをするならんか

2 我わが觀望所に立ち戍樓に身を置ん 而して我候ひ
望みて其われに何と宣まふかを見 わが訴言に我みづ
から何と答ふべきかを見ん **2** エホバわれに答へて言
たまはく 此默示を書しるして之を板の上に明白に鐫
つけ奔りながらも之を讀むべからしめよ **3** この默示
はなほ定まれる時を俟てその終を急ぐなり 偽ならず
若し遅くあらば待べし 必ず臨むべし 濡滯りはせじ **4**
視よ彼の心は高ぶりその中にありて直からず 然ど義
き者はその信仰によりて活べし **5** かの酒に耽る者は
邪曲なる者なり 驕傲者にして安んぜず彼はその情慾
を陰府のごとくに濶くす また彼は死のごとし 又足こ
とを知らず 萬國を集へて己に歸せしめ萬民を聚めて己
に就しむ (Sheol h7585) **6** 其等の民みな諺語をもて彼を
評し嘲弄の詩歌をもて彼を諷せざらんや 即ち言ん己
に屬せざる物を積累ぬる者は禍なるかな 斯て何の時
にまでおよばんや 嗟かの質物の重荷を身に負ふ者よ
7 汝を噬む者にはかに興らざらんや 汝を惱ます者醒
出ざらんや 汝は之に掠めらるべし **8** 汝衆多の國民を
掠めしに因てその諸の民の遺れる者なんぢを掠めん
是人の血を流ししに因る また強暴を地上に行ひて邑
とその内に住る一切の者にとに及ぼせしに因るなり **9**
災禍の手を免れんが爲に高き處に巢を構へんとして
己の家に不義の利を取る者は禍なるかな **10** 汝は事を

圖りて己の家に恥辱を來らせ衆多の民を滅して自ら罪を取れり 11 石垣の石叫び建物の梁これに應へん 12 血をもて邑を建て悪をもて城を築く者は禍なるかな 13 諸の民は火のために勞し諸の國人は虚空事のために疲る 是は萬軍のエホバより出る者ならずや 14 エホバの榮光を認むるの知識地上に充て宛然海を水の掩ふが如くならん 15 人に酒を飲せ己の忿怒を酌和へて之を酔せ而して之が陰所を見んとする者は禍なるかな 16 汝は榮譽に飽ずして羞辱に飽り 汝もまた飲て汝の不割禮を露はせ エホバの右の手の杯汝に巡り來るべし 汝は汚なき物を吐て榮耀を掩はん 17 汝がレバノンに爲たる強暴と獸を懼れしめしその殲滅とは汝の上に報いきたるべし 是人の血を流ししに因りまた強暴を地上に行ひて邑とその内に住る一切の者とに及ぼししに因るなり 18 雕像はその作者これを刻みたりとて何の益あらんや 又鑄像および偽師は語はぬ偶像なればその像の作者これを作りて頼むとも何の益あらんや 19 木にむかひて興ませと言ひ 語はぬ石にむかひて起たまへと言ふ者は禍なるかな 是めに教晦を爲んや 視よ是は金銀に着せたる者にてその中には全く氣息なし 20 然りといへどもエホバはその聖殿に在ますぞかし 全地その御前に黙すべし

3 シギヨノテに合せて歌へる預言者ハバククの祈禱
2 エホバよ我なんぢの宣ふ所を聞て懼る エホバよこの諸の年の中間に汝の運動を活齎かせたまへ 此諸の年の間に之を顯現したまへ 怒る時にも憐憫を忘れ給はざれ 3 神テマンより來り聖者パラン山より臨みたまふ(セラ) 其榮光諸天を蔽ひ其讚美世界に徧ねし 4 その朗耀は日のごとく光線その手より出づ 彼處はそ

の權能の隠るる所なり 5 疫病その前に先だち行き熱病その足下より出づ 6 彼立て地を震はせ觀まはして萬國を戰慄しめたまふ 永久の山は崩れ常磐の岡は陥る 彼の行ひたまふ道は永久なり 7 我觀るにクシヤンの天幕は艱難に罹りミデアンの地の幃幕は震ふ 8 エホバよ汝は馬を驅り汝の拯救の車に乗りたまふ 是河にむかひて怒りたまふなるか 河にむかひて汝の忿怒を發したまふなるか 海にむかひて汝の憤恨を洩し給ふなるか 9 汝の弓は全く囊を出で杖は言をもて言かためらる(セウ) 汝は地を裂て河となし給ふ 10 山々汝を見て震ひ洪水溢れわたり淵聲を出してその手を高く擧ぐ 11 汝の奔る矢の光のため汝の鎗の電光のごとき閃爍のために日月その住處に立とどまる 12 汝は憤ほりて地を行めぐり 怒りて國民を踏つけ給ふ 13 汝は汝の民を救んとて出きたり 汝の膏沃げる者を救はんとて臨みたまふ 汝は惡き者の家の頭を碎きその石礎を露はして頸におよぼし給へり(セウ) 14 汝は彼の鎗をもてその將帥の首を刺とほし給ふ 彼らは我を散さんとて大風のごとくに進みきたる 彼らは貧き者を密に吞ほろぼす事をもてその樂とす 15 汝は汝の馬をもて海を乗とほり大水の逆巻ところを涉りたまふ 16 我聞て腸を斷つ 我唇その聲によりて震ふ 腐朽わが骨に入り我下體わななく 其は我患難の日の來るを待ばなり 其時には即ち此民に攻寄る者ありて之に押逼らん 17 その時には無花果の樹は花咲ず葡萄の樹には果ならず 橄欖の樹の産は空くなり 田圃は食糧を出さず圈には羊絶え小屋には牛なかるべし 18 然ながら我はエホバによりて樂み わが拯救の神によりて喜ばん 19 主エホバは我力にして我足を鹿の如くならし

め 我をして我高き處を歩ましめ給ふ 伶長これを我琴
にあはすべし

ゼパニヤ書

1 アモンの子ユダの王ヨシヤの世にゼパニヤに臨めるエホバの言 ゼパニヤはクシの子 クシはゲダリアの子 ゲダリアはアマリヤの子 アマリヤはヒゼキヤの子なり **2** エホバ言たまふ われ地の面よりすべての物をはらひのぞかん **3** われ人と獣畜をほろぼし空の鳥海の魚および躑躅になる者と悪人とを滅さん 我かならず地の面より人をほろぼし絶ん エホバこれを言ふ **4** 我ユダとエルサレムの一切の居民との上に手を伸ん 我 この處よりかの漏のこれるバアルを絶ちケマリムの名を祭司と與に絶ち **5** また屋上にて天の衆軍を拜む者エホバに誓を立てて拜みながらも亦おのれの王を指て誓ふことをする者 **6** エホバに悖り離るる者エホバを求めず尋ねざる者を絶ん **7** 汝 主エホバの前に黙せよ そはエホバの日近づきエホバすでに犠牲を備へその招くべき者をさだめ給ひたればなり **8** エホバの犠牲の日に我もろもろの牧伯と王の子等および凡て異邦の衣服を着る者を罰すべし **9** その日には我また凡て鬪をとびこえ強暴と詭譎をもて獲たる物をおのが主の家に満す者等を罰せん **10** エホバ曰たまはく その日には魚の門より號呼の聲おこり下邑より喚く聲おこり山々より大なる敗壞おこらん **11** マクテシの民よ汝ら叫べ 其は商賣する民 悉くほろび銀を擔ふ者 悉く絶たればなり **12** その時はわれ燈をもちてエルサレムの中を尋ねん 而して滓の上に居着て心の中にエホバは福をもなさず災をもなさずといふものを罰すべし **13** かれらの財寶は掠められ彼らの家は荒果んかれら家を造るともその中に住ことを得ず 葡萄を植るともその葡萄酒を飲ことを得ざるべし **14** エホバの

大なる日近づけり 近づきて速かに來る 聽よ是エホバ
の日なるぞ 彼處に勇士のいたく叫ぶあり 15 その日
は忿怒の日 患難および痛苦の日 荒かつ亡ぶるの日
黑暗またをぐらき日 濃き雲および黒雲の日 16 箠を
ふき 鯨聲をつくり 堅き城を攻め 高き櫓を攻るの日な
り 17 われ人々に患難を蒙らせて 盲者のごとくに惑ひ
あるかしめん 彼らエホバにむかひて罪を犯したれば
なり 彼らの血は流されて塵のごとくになり 彼らの肉
は捨られて糞土のごとくなるべし 18 かれらの銀も金
もエホバの烈き怒の日には彼らを救ふことあたはず
全地その嫉妬の火に呑るべし 即ちエホバ地の民をこ
とごとく滅したまはん 其事まことに速なるべし

2 汝等羞恥を知ぬ民早く自ら内に省みよ 2 夫日は糠
粃の如く過ぎさる 然ば詔言のいまだ行はれざる先エ
ホバの烈き怒のいまだ汝等に臨まざる先エホバの忿
怒の日のいまだ汝等にきたらざるさきに自ら省みる
べし 3 すべてエホバの律法を行ふ斯地の遜るものよ
汝等エホバを求め 公義を求め 謙遜を求めよ 然すれば
汝等エホバの忿怒の日に或は匿さるることあらん 4
夫ガザは棄られ アシケロンは荒はて アシドドは白晝
に逐はらはれ エクロンは抜さらるべし 5 海邊に住る
者およびケレテの國民は禍なるかな ペリシテ人の國
カナンよ エホバの言なんぢらを攻む 我なんぢを滅し
て住者なきに至らしむべし 6 海邊は必ず牧場となり
牧者の洞および羊の牢そこに在ん 7 此地はユダの家
の殘餘れる者に歸せん 彼ら其處にて草飼ひ暮に至れ
ばアシケロンの家に臥ん そは彼らの神エホバかれら
を顧みその俘囚を歸したまふべければなり 8 我すで
にモアブの嘲弄とアンモンの子孫の罵言を聞けり 彼

らはわが民を嘲り自ら誇りて之が境界を侵せしなり
9 是故に萬軍のエホバ、イスラエルの神言たまふ我
は活く 必ずモアブはソドムのごとくになりアンモン
の子孫はゴモラのごとくにならん 是は共に蓴麻の蔓
延る處となり鹽坑の地となりて長久に荒はつべし 我
民の遺れる者かれらを掠めわが國民の餘されたる者
かれらを獲ん 10 この事の彼らに臨むはその傲慢によ
る 即ち彼ら萬軍のエホバの民を嘲りて自ら誇りたれ
ばなり 11 エホバは彼等に對ひては畏ろしくましまし
地の諸の神や饑し滅したまふなり 諸の國の民おのお
のその處より出てエホバを拜まん 12 エテオピア人よ
汝等もまたわが劍にかかりて殺さる 13 エホバ北に手
を伸てアッスリヤを滅したまはん 亦ニネベを荒して
荒野のごとき旱地となしたまはん 14 而して畜の群も
ろもろの類の生物その中に伏し鸚鷯および刺猬其柱
の頂に住み囀る者の聲窓の内にきこえ荒落たる物鬪
の上に積り香柏の板の細工露顯になるべし 15 是邑は
驕り傲ぶりて安泰に立をり 唯我あり 我の外には誰も
なしと心の中に言つつありし者なるが斯も荒はてて
畜獸の臥す處となる者かな 此を過る者はみな嘶きて
手をふるはん

3 此暴虐を行ふ悖りかつ汚れたる邑は禍なるかな 2
是は聲を聽いれず教晦を承ずエホバに依頼まずおの
れの神に近よらず 3 その中にをる牧伯等は吼る獅子
の如くその審士は明旦までに何をも遺さざる 夜求食
する狼のごとし 4 その預言者は傲りかつ詐る人なり
その祭司は聖物を汚し律法を破ることをなせり 5 そ
の中にいますエホバは義くして不義を行なひたまは
ず朝な朝な己の公義を顯して缺ることなし 然るに不

義なる者は恥を知らず 6 我國々の民を滅したればその
櫓は凡て荒たり 我これが街を荒涼れしめたれば往來
する者なし その邑々は滅びて人なく住む者なきに至
れり 7 われ前に言ひ 汝ただ我を畏れまた警教を受べ
し 然らばその住家は我が凡て之につきて定めたる所
の如くに滅されざるべしと 然るに彼等は夙に起て己
の一切の行状を壊れり 8 エホバ曰たまふ 是ゆゑに汝
らわが起て獲物をする日いたるまで我を俟て 我もろ
もろの民を集へ諸の國を聚めてわが憤恨とわが烈き
忿怒を盡くその上にそそがんと思ひ定む 全地はわが
嫉妬の火に焼ほろぼさるべし 9 その時われ國々の民
に清き唇をあたへ彼らをして凡てエホバの名を呼し
め心をあはせて之につかへしめん 10 わが散せし者等
の女即ち我を拜む者エテオピアの河々の彼旁よりも
きたりて我に禮ものをささぐべし 11 その日には汝わ
れに對てをかしきたりし諸の行爲をもて羞を得こと
なかるべし その時には我なんぢの中より高ぶり樂む
者等を除けば汝かさねてわが聖山にて傲り高ぶること
なければなり 12 われ柔和にして貧き民をなんぢの
中にのこさん 彼らはエホバの名に依頼むべし 13 イス
ラエルの遺れる者は惡を行はず 謊をいはず その口の
うちには詐偽の舌なし 彼らは草食ひ臥やすまん 之を
懼れしむる者なかるべし 14 シオンの女よ歡喜の聲を
擧よ イスラエルよ樂み呼はれ エルサレムの女よ心の
かぎり喜び樂め 15 エホバすでに汝の鞫を止め汝の敵
を逐はらひたまへり イスラエルの王エホバ汝の中に
います 汝はかさねて災禍にあふことあらし 16 その日
にはエルサレムに向ひて言あらん 懼るるなかれ シオ
ンよ 汝の手をしなえ垂るるなかれと 17 なんぢの神

エホバなんぢの中にいます 彼は拯救を施す勇士なり
彼なんぢのために喜び樂み愛の餘りに黙し汝のため
に喜びて呼はりたまふ **18** われ節會のことにつきて憂
ふるものを集めん 彼等は汝より出し者なり 恥辱かれ
らに蒙むること重負のごとし **19** 視よその時われ汝を
虐待する者を盡く處置し足蹇たるものを救ひ逐はなた
れたる者を集め彼らをして其羞辱を蒙りし一切の國
にて稱譽を得させ名を得さすべし **20** その時われ汝ら
を携へその時われ汝らを集むべし 我なんぢらの目の
前において汝らの俘囚をかへし汝らをして地上の萬
國に名を得させ稱譽を得さすべし エホバこれを言ふ

ハガイ書

1 ダリヨス王の二年六月其月の一日にエホバの言預言者ハガイによりてシャルテルの子ユダの方伯ゼルバベルおよびヨザダクの子 祭司の長ヨシユアに臨めりいはく **2** 萬軍のエホバかくいひたまふ是民はエホバの殿を建べき時期未だ來らずといへり **3** エホバの言また預言者ハガイによりて臨めり曰く **4** 此殿かく毀壞をれば汝等板をもてはれる家に居るべき時ならんや **5** されば今萬軍のエホバかく曰たまふ 汝等おのれの行爲を省察べし **6** 汝らは多く播ども収入るところは少く食へども飽ことを得ず 飲ども満足ことを得ず 衣れども暖きことを得ず 又工價を得るものは之を破れたる袋に入る **7** 萬軍のエホバまた曰たまふ 汝等おのれの行爲を省察べし **8** 山に上り木を携へ來て殿を建てよ さすれば我これを悦び又榮光を受ん エホバこれを言ふ **9** なんぢら多く得んと望みたりしに反て少かりき 又汝等これを家に携へ歸りしとき我これを吹はらへり 萬軍のエホバいひたまふ 是何故ぞや 是は我が殿破壊をるに汝等おのおの己の室に走り至ればなり **10** この故になんぢらの上の天は雨露を止め地はその産物を止めたり **11** 且われ地にも山にも穀物にも新酒にも油にも地の生ずる物にも人にも家畜にも手のもろもろの工にもすべて毀壞を召きかうむらしめたり **12** シャルテルの子ゼルバベルとヨザダクの子 祭司の長ヨシユアおよびその殘れるすべての民ともに其神エホバの聲と預言者ハガイの言に聽したがへり 是は其神エホバかれを遣したまひしに因る 民みなエホバの前に敬畏たり **13** 時にエホバの使者ハガイ、エホバの命により民に告て曰けるは我なんぢらと偕

に在りとエホバ曰たまふと **14** エホバ、シャルテルの子ユダの方伯ゼルバベルの心とヨザダクの子祭司の長ヨシユアの心およびその残れるすべての民の心をふりおこしたまひければ彼等來りて其神萬軍のエホバの殿にて工作を爲り **15** これダリヨス王の二年六月二十四日なりき

2 七月其月の二十一日エホバの言預言者ハガイによりて臨めり曰く **2** シャルテルの子ユダの方伯ゼルバベルとヨザダクの子祭司の長ヨシユアおよびその残れる一切の民に告よ **3** なんぢら遺れる者の中この殿の従前の榮光を見しものは誰ぞや 今これを如何に見るや かの殿にくらぶれば是は汝らの目に何もなきが如く見ゆるにあらずや **4** エホバ曰たまふゼルバベルよ自ら強くせよ ヨザダクの子祭司の長ヨシユアよ自ら強くせよ エホバ言たまふ この地の民よ自らつよくしてはたらけ 我なんぢらとともに在り 萬軍のエホバこれを言ふ **5** 汝らがエジプトよりいでし時わがなんぢらに約せし言およびわが靈なほなんぢらの中に留れり 懼るるなかれ **6** 萬軍のエホバかくいひたまふ いま一度しばらくありてわれ天と地と海と陸とを震動はん **7** 又われ萬國を震動はん また萬國の願ふところのもの來らん 又われ榮光をもてこの殿に充滿さん 萬軍のエホバこれを言ふ **8** 銀も我ものなり 金もわが物なりと萬軍のエホバいひたまふ **9** この殿の後の榮光は従前の榮光より大ならんと萬軍のエホバいひたまふ この處においてわれ平康をあたへんと萬軍のエホバいひたまふ **10** ダリヨスの二年九月二十四日エホバのことば預言者ハガイによりて臨めり曰く **11** 萬軍のエホバかく曰たまふ 律法につきて祭司に問ふて曰ふ

べし **12** 人衣の裾にて聖肉を携へたらんにその裾もしパン或は羹あるひは酒あるひは油あるひは他の食物に捫らばそれらは聖ものとなるや 祭司たち答へて曰けるはしからず **13** ハガイまたいひけるは屍體に捫りて汚れしもの若これらの物にさはらば其ものはけがるべきや 祭司等こたへて曰けるは汚れん **14** ここに於てハガイ答へて曰けるはエホバ曰たまふ 我前此民もかくの如くまた此國もかくの如し 又其手の一切のわざもかくのごとく彼等がその處に獻ぐるものもけがれたるものなり **15** また今われ汝らに乞 この日より以前すなはちエホバの殿にて石の上に石の置れざりし時を憶念べし **16** かの時には二十舛もあるべき麥束につきてわづかに十を得 また酒榨につきて五十桶汲んとせしにただ二十を得たるのみ **17** 汝が手をもて爲せる一切の事に於てわれ不實穂と朽腐穂と雹を以てなんぢらを撃り されど汝ら我にかへらざりき エホバこれを言ふ **18** なんぢらこの日より以前を憶念みよ即ち九月二十四日よりエホバの殿の基を置し日までをおもひ見よ **19** 種子なほ倉にあるや 葡萄の樹 無花果の樹 石榴の樹 橄欖の樹もいまだ實を結ばざりき此日よりのちわれ汝らを恵まん **20** 此月の二十四日にエホバのことは再びハガイに臨めり曰く **21** ユダの方伯ゼルバベルに告よ われ天地を震動ん **22** 列國の位を倒さん また異邦の諸國の權勢を滅さん 又車および之に駕る者を倒さん 馬および之に騎る者もおのおの其伴侶の劍によりてたふれん **23** 萬軍のエホバ曰たまはくシャルテルの子わが僕ゼルバベルよエホバいふその日に我なんぢを取りなんぢを印の如くにせん そはわれ汝をえらびたればなり 萬軍のエホバこれを言ふ

ゼカリヤ書

1ダリヨスの二年八月のエホバの言イドの子ベレキヤの子なる預言者ゼカリヤに臨めり云く **2**エホバいたく汝らの父等を怒りたまへり **3**萬軍のエホバかく言ふと汝かれらに告よ萬軍のエホバ言ふ汝ら我に歸れ萬軍のエホバいふ我も汝らに歸らん **4**汝らの父等のごとくならざれ前の預言者等かれらに向ひて呼はりて言り萬軍のエホバかく言たまふ請ふ汝らその惡き道を離れその惡き行を棄てて歸れと然るに彼等は聽ず耳を我に傾げざりきエホバこれを言ふ **5**汝らの父等は何處にありや預言者たち永遠に生んや **6**然ながら我僕なる預言者等に我が命じたる吾言とわが法度とは汝らの父等に追及たるに非ずや然ゆゑに彼らかへりて言り萬軍のエホバ我らの道に循ひ我らの行に循ひて我らに爲んと思ひたまひし事を我らに爲たまへりと **7**ダリヨスの二年十一月すなはちセバテといふ月の二十四日にエホバの言イドの子ベレキヤの子なる預言者ゼカリヤに臨めり云く **8**我夜觀しに一箇の人赤馬に乗て谷の裏なる鳥拈樹の中に立ちその後赤馬駁馬白馬をる **9**我わが主よ是等は何ぞやと問けるに我と語ふ天の使われにむかひて是等の何なるをわれ汝に示さんと云り **10**鳥拈樹の中に立る人答へて言けるは是等は地上を遍く歩かしめんとてエホバの遣したまひし者なりと **11**彼ら答へて鳥拈樹の中に立るエホバの使に言けるは我ら地上を行めぐり觀しに全地は穩にして安し **12**エホバの使こたへて言ふ萬軍のエホバよ汝いつまでエルサレムとユダの邑々を恤みたまはざるか汝はこれを怒りたまひてすでに七十年になりぬと **13**エホバ我と語ふ天の使に嘉事慰

事をもて答へたまへり **14** かくて我と語ふ天の使我に言けるは汝呼はりて言へ萬軍のエホバかく言たまふ我エルサレムのためシオンのために甚だしく心を熱して嫉妬おもひ **15** 安居せる國々の民を太く怒る其は我すこしく怒りしに彼ら力を出して之に害を加へたればなり **16** エホバかく言ふ是故に我憐憫をもてエルサレムに歸る萬軍のエホバのたまふ我室その中に建られ量繩エルサレムに張られん **17** 汝また呼はりて言へ萬軍のエホバかく宣ふ我邑々には再び嘉物あふれんエホバふたたびシオンを慰め再びエルサレムを簡びたまふべしと **18** かくて我目を擧て觀しに四の角ありければ **19** 我に語ふ天の使に是等は何なるやと問しに彼われに答へけるは是等はユダ、イスラエルおよびエルサレムを散したる角なりと **20** 時にエホバ四箇の鍛冶を我に見し給へり **21** 我是等は何を爲んとて來れるやと問しに斯こたへ給へり是等の角はユダを散して人にその頭を擧しめざりし者なるが今この四箇の者來りて之を威しかのユダの地にむかひて角を擧て之を散せし諸國の角を擲たんとす

2 茲に我目を擧て觀しに一箇の人量繩を手に執居ければ **2** 汝は何處へ往くやと問しにエルサレムを量りてその廣と長の幾何なるを觀んとすと我に答ふ **3** 時に我に語ふ天の使出行たりしが又一箇の天の使出きたりて之に會ひ **4** 之に言けるは走ゆきてこの少き人に告て言へエルサレムはその中に人と畜と饒なるによりて野原のごとくに廣く亘るべし **5** エホバ言たまふ我その四周にて火の垣となりその中にて榮光とならん **6** エホバいひたまふ來れ來れ北の地より逃きたれ我なんぢらを四方の天風のごとくに行わたらしむ

ればなりエホバこれを言ふ 7 來れバビロンの女子とともに居るシオンよ遁れ來れ 8 萬軍のエホバかく言たまふエホバ汝等を擄へゆきし國々へ榮光のために我儕を遣したまふ汝らを打つ者は彼の目の珠を打なればなり 9 即ち我手をかれらの上に搖ん彼らは己に事へし者の俘虜となるべし汝らは萬軍のエホバの我を遣したまへるなるを知ん 10 エホバ言たまふシオンの女子よ喜び樂め我きたりて汝の中に住ばなり 11 その日には許多の民エホバに附て我民とならん我なんぢの中に住べし汝は萬軍のエホバの我を遣したまへるなるを知ん 12 エホバ聖地の中にてユダを取て己の分となし再びエルサレムを簡びたまふべし 13 エホバ起てその聖住所よりいでたまへば凡そ血肉ある者エホバの前に肅然たれ

3 彼祭司の長ヨシユアがエホバの使の前に立ちサタンのその右に立てこれに敵しをるを我に見す 2 エホバ、サタンに言たまひけるはサタンよエホバ汝をせむべし即ちエルサレムを簡びしエホバ汝をいましむ是は火の中より取いだしたる燃柴ならずやと 3 ヨシユア汚なき衣服を衣て使の前に立をりしが 4 エホバ己の前に立る者等に告て汚なき衣服を之に脱せよと宣ひまたヨシユアに向ひて觀よ我なんぢの罪を汝の身より取のぞけり汝に美服を衣すべしと宣へり 5 我また潔き冠冕をその首に冠らせよと言り是において潔き冠冕をその首に冠らせ衣服をこれに衣すエホバの使は立をる 6 エホバの使證してヨシユアに言ふ 7 萬軍のエホバかく言たまふ汝もし我道を歩みわが職守を守らば我家を司どり我庭を守ることを得ん我また此に立る者等の中に往來する路を汝に與ふべし 8

祭司の長ヨシユアよ請ふ汝と汝の前に坐する汝の同僚とともに聽べし彼らは即ち前表となるべき人なり我かならず我僕たる枝を來らすべし 9 ヨシユアの前に我が立つところの石を視よ此一箇の石の上に七箇の目あり我自らその彫刻をなす萬軍のエホバこれを言ふなり我この地の罪を一日の内に除くべし 10 萬軍のエホバ言たまふ其日には汝等おのおの互に相招きて葡萄の樹の下無花果の樹の下にあらん

4 我に語へる天の使また來りて我を呼醒せり我は睡れる人の呼醒されしごとくなりき 2 彼我にむかひて汝何を見るやと言ければ我いへり我觀に惣金の燈臺一箇ありてその頂に油を容る器ありまた燈臺の上に七箇の燭蓋ありその燭蓋は燈臺の頂にありて之に各七本づつの管あり 3 また燈臺の側に橄欖の樹二本ありて一は油を容る器の右にあり一はその左にあり 4 我答へて我と語ふ天の使の問言けるは我主よ是等は何ぞやと 5 我と語ふ天の使我に答へて汝是等の何なるを知ざるかと言しにより我主よ知ずとわれ言り 6 彼また答へて我に言けるはゼルバベルにエホバの告たまふ言は是のごとし萬軍のエホバ宣ふ是は權勢に由らず能力に由らず我靈に由るなり 7 ゼルバベルの前にあたれる大山よ汝は何者ぞ汝は平地とならん彼は恩惠あれ之に恩惠あれと呼はる聲をたてて頭石を曳いださん 8 エホバの言われに臨めり云く 9 ゼルバベルの手この室の石礎を置たり彼の手これを成終ん汝しらん萬軍のエホバ我を汝等に遣したまひしと 10 誰か小き事の日を藐視むる者ぞ夫の七の者は遍く全地に往來するエホバの目なり準繩のゼルバベルの手にあるを見て喜ばん 11 我また彼に問て燈臺の右左に

ある此二本の橄欖の樹は何なるやと言ひ 12 重ねてまた彼に問て此二本の金の管によりて金の油をその中より斟ぎ出す二枝の橄欖は何ぞやと言しに 13 彼われに答へて汝是等の何なるを知ざるかと言ければ我主よ知ずと言けるに 14 彼言らく是等は油の二箇の子にして全地の主の前に立つ者なり

5 我また目を擧て觀しに卷物の飛あり 2 彼われに汝何を見るやと言ければ我言ふ我卷物の飛ぶを見る其長は二十キュビトその寛は十キュビト 3 彼またわれに言けるは是は全地の表面を往めぐる呪詛の言なり凡て竊む者は卷物のこの面に照して除かれ凡て誓ふ者は卷物の彼の面に照して除かるべし 4 萬軍のエホバのたまふ我これを出せり是は竊盜者の家に入りまた我名を指て偽り誓ふ者の家に入てその家の中に宿りその木と石とを並せて盡く之を焼べしと 5 我に語へる天の使進み來りて我に言けるは請ふ目を擧てこの出きたれる物の何なるを見よ 6 これは何なるやと我言ければ彼言ふ此出來れる者はエパ舂なり又言ふ全地において彼等の形状は是のごとしと 7 かくて鉛の圓き蓋を取あぐれば一人の婦人エパ舂の中に坐し居る 8 彼是は罪惡なりと言てその婦人をエパ舂の中に投いれ鉛の錘をその舂の口に投かぶらせたり 9 我また目を擧て觀しに婦人二人出きたれり之に鶴の翼のごとき翼ありてその翼風を含む彼等そのエパ舂を天地の間に持擧ぐ 10 我すなはち我に語ふ天の使にむかひて彼等エパ舂を何處へ携へゆくなるやと言けるに 11 彼我に言ふシナルの地にて之がために家を建んとてなり是は彼處に置られてその臺の上に立ん

6 我また目を擧て觀しに四輻の車二の山の間より出きたれりその山は銅の山なり **2** 第一の車には赤馬を着け第二の車には黒馬を着け **3** 第三の車には白馬を着け第四の車には白點なる強馬を着く **4** 我すなはち我に語ふ天の使に問て我主よ是等は何なるやと言けるに **5** 天の使こたへて我に言ふ是は四の天風にして全地の主の前より罷り出たる者なり **6** 黒馬は北の地をさして進み行き白馬その後に従ふ又白點馬は南の地をさして進みゆき **7** 強馬は進み出て地を徧く行めぐらんとす彼汝ら行き地を徧くめぐれと言たまひければ則ち地を行めぐれり **8** 彼われを呼て我に告て言ふこの北の地に往る者等は北の地にて我靈を安んず **9** エホバの言われに臨めり曰く **10** 汝かの囚虜人の中の者ヘルダイ、トビヤおよびエダヤより取ことをせよ即ちその日に汝かれらがバビロンより歸りて宿りをるゼパニヤの子ヨシヤの家に到り **11** 金銀を取て冠冕を造りヨザダクの子なる祭司の長ヨシユアの首にこれを冠らせ **12** 彼に語りて言べし萬軍のエホバ斯言たまふ視よ人ありその名を枝といふ彼おのれの處より生いでてエホバの宮を建ん **13** 即ち彼者エホバの宮を建て尊榮を帶びその位に坐して政事を施しその位にありて祭司とならん此二の者の間に平和の計議あるべし **14** 儲またその冠冕はヘレム、トビヤ、ユダヤおよびゼパニヤの子ヘンの記念のために之をエホバの殿に納むべし **15** 遠き處の者等來りてエホバの殿を建ん而して汝らは萬軍のエホバの我を遣したまひしなるを知にいたらん汝らもし汝らの神エホバの聲に聽したがはば是のごとくなるべし

7 ダリヨス王の四年の九月すなはちキスリウといふ月の四日にエホバの言ゼカリヤに臨めり **2** ペテルかの時シャレゼル、レゲンメレクおよびその従者を遣してエホバを和めさせ **3** かつ萬軍のエホバの室にをる祭司に問しめ且預言者に問しめて言けらく我今まで年久しく爲きたりしごとく尚五月をもて哭きかつ齋戒すべきやと **4** ここにおいて萬軍のエホバの言我に臨めり云く **5** 國の諸民および祭司に告て言へ汝らは七十年のあひだ五月と七月とに斷食しかつ哀哭せしがその斷食せし時果して我にむかひて斷食せしや **6** 汝ら食ひかつ飲は全く己のために食ひ己のために飲ならずや **7** 在昔エルサレムおよび周圍の邑々人の住ふありて平安なりし時南の地および平野にも人の住ひをりし時に已往の預言者によりてエホバの宣ひたりし言を汝ら知ざるや **8** エホバの言ゼカリヤに臨めり云く **9** 萬軍のエホバかく宣へり云く正義き審判を行ひ互に相愛しみ相憐め **10** 寡婦孤兒旅客および貧者を虐ぐるなかれ人を害せんと心に圖る勿れと **11** 然るに彼等は肯て耳を傾けず背を向け耳を鈍くして聽ず **12** 且その心を金剛石のごとくし萬軍のエホバがその御靈をもて已往の預言者に由て傳へたまひし律法と言詞に聽したがはずき是をもて大なる怒萬軍のエホバより出て臨めり **13** 彼かく呼はりたれども彼等聽ざりき其ごとく彼ら呼はるとも我聽じ萬軍のエホバこれを言ふ **14** 我かれらをその識ざる諸の國に吹散すべし其後にてこの地は荒て往來する者なきに至らん彼等かく美しき國を荒地となす

8 萬軍のエホバの言われに臨めり曰く **2** 萬軍のエホバかく言たまふ我シオンのために甚だしく心を熱し

て妬く思ひ大なる忿怒を起して之がために妬く思ふ
3 エホバかく言たまふ今我シオンに歸れり我エルサレムの中に住んエルサレムは誠實ある邑と稱へられ萬軍のエホバの山は聖山と稱へらるべし 4 萬軍のエホバかく言たまふエルサレムの街衢には再び老たる男老たる女坐せん皆年高くして各々杖を手に持べし 5 またその邑の街衢には男の兒女の兒滿て街衢に遊び戯れん 6 萬軍のエホバかく言たまふこの事その日には此民の遺餘者の目に奇といふとも我目に何の奇きこと有んや萬軍のエホバこれを言ふ 7 萬軍のエホバかく言たまふ視よ我わが民を日の出る國より日の入る國より救ひ出し 8 かれらを携へ來りてエルサレムの中に住しめん彼らは我民となり我は彼らの神となりて共に誠實と正義に居ん 9 萬軍のエホバかく言たまふ汝ら萬軍のエホバの室なる殿を建んとて其基礎を置たる日に起りし預言者等の口の言詞を今日聞く者よ汝らの腕を強くせよ 10 此日の先には人も工の價を得ず獸畜も工の價を得ず出者も入者も仇の故をもて安然ならざりき即ち我人々をして互に相攻しめたり 11 然れども今は我此民の遺餘者に對すること曩の日の如くならずと萬軍のエホバ言たまふ 12 即ち平安の種子あるべし葡萄の樹は果を結び地は産物を出し天は露を與へん我この民の遺餘者にこれを盡く獲さすべし 13 ユダの家およびイスラエルの家よ汝らが國々の中に呪詛となりしごとく此度は我なんぢらを救ふて祝言とならしめん懼るる勿れ汝らの腕を強くせよ 14 萬軍のエホバかく言たまふ在昔汝らの先祖我を怒らせし時に我これに災禍を降さんと思ひて之を悔ざりき萬軍のエホバこれを言ふ 15 是のごとく我また

今日エルサレムとユダの家に福祉を降さんと思ふ汝ら懼るる勿れ 16 汝らの爲べき事は是なり汝ら各々たがひに眞實を言べし又汝等の門にて審判する時は眞實を執て平和の審判を爲べし 17 汝等すべて人の災害を心に圖る勿れ偽の誓を好む勿れ是等はみな我が惡む者なりとエホバ言たまふ 18 萬軍のエホバの言われに臨めり云く 19 萬軍のエホバかく言たまふ四月の斷食五月の斷食七月の斷食十月の斷食かへつてユダの家の宴樂となり欣喜となり佳節となるべし惟なんぢら眞實と平和を愛すべし 20 萬軍のエホバかく言たまふ國々の民および衆多の邑の居民來り就ん 21 即ちこの邑の居民往てかの邑の者に向ひ我儕すみやかに往てエホバを和め萬軍のエホバを求めんと言んに我も往べしと答へん 22 衆多の民強き國民エルサレムに來りて萬軍のエホバを求めエホバを和めん 23 萬軍のエホバかく言たまふ其日には諸の國語の民十人にてユダヤ人一箇の裾を拉へん即ち之を拉へて言ん我ら汝らと與に往べし其は我ら神の汝らと偕にいますを聞たればなり

9 エホバの言詞の重負ハデラクの地に臨むダマスコはその止る所なりエホバ世の人を眷みイスラエルの一切の支派を眷みたまへばなり 2 之に界するハマテも然りツロ、シドンも亦是はなはだ怜悯ければ同じく然るべし 3 ツロは自己のために城郭を構へ銀を塵のごとくに積み金を街衢の土のごとくに積み 4 視よ主これを攻取り海にて之が力を打ほろぼしたまふべし是は火にて焚うせん 5 アシケロンこれを見て懼れガザもこれを見て太く慄ふエクロンもその望む所の者辱しめらるるに因て亦然りガザには王絶えアシケ

ロンには住者なきに至らん 6 アシドドにはまた雑種の民すまん我ペリシテ人が誇る所の者を絶べし 7 我これが口より血を取除き之が齒の間より憎むべき物を取除かん是も遣りて我儕の神に歸しユダの牧伯のごとくに成べしまたエクロンはエブス人のごとくなるべし 8 我わが家のために陣を張て敵軍に當り之をして往來すること無らしめん虐遇者かさねて逼ること無るべし我いま我目をもて親ら見ればなり 9 シオンの女よ大に喜べエルサレムの女よ呼はれ視よ汝の王汝に来る彼は正義して拯救を賜り柔和にして驢馬に乗る即ち牝驢馬の子なる駒に乗るなり 10 我エフライムより車を絶ちエルサレムより馬を絶ん戦争弓も絶るべし彼國々の民に平和を諭さん其政治は海より海に及び河より地の極におよぶべし 11 汝についてはまた汝の契約の血のために我かの水なき坑より汝の被俘人を放ち出さん 12 望を懐く被俘人よ汝等城に歸れ我今日もなほ告て言ふ我かならず倍して汝等に賚ふべし 13 我ユダを張て弓となしエフライムを矢となして之につがへんシオンよ我汝の人々を振起してギリシヤの人々を攻しめ汝をして大丈夫の劍のごとくならしむべし 14 エホバこれが上に顯れてその箭を電光のごとくに射いだしたまはん主エホバ喇叭を吹ならし南の暴風に乗て出來まさん 15 萬軍のエホバ彼らを護りたまはん彼等は食ふことを爲し投石器の石を踏つけん彼等は飲ことを爲し酒に酔るごとくに聲を擧ん其これに盈さるることは血を盛る鉢のごとく祭壇の隅のごとくなるべし 16 彼らの神エホバ當日に彼らを救ひその民を羊のごとくに救ひたまはん彼等は冠冕の玉のごとくになりて其地に輝くべし 17 その

福祉は如何計ぞや其美麗は如何計ぞや穀物は童男を
長ぜしめ新酒は童女を長ぜしむ

10 汝ら春の雨の時に雨をエホバに乞へエホバは電
光を造り大雨を人々に賜ひ田野において草蔬を各々
に賜ふべし **2** 夫テラピムは空虚き事を言ひト筮師は
その見る所眞實ならずして虚偽の夢を語る其慰むる
所は徒然なり是をもて民は羊のごとくに迷ひ牧者な
きに因て悩む **3** 我牧者にむかひて怒を發す我牡山羊
を罰せん萬軍のエホバその群なるユダの家を顧み之
をしてその美しき軍馬のごとくならしめたまふ **4** 隅
石彼より出で釘かれより出で軍弓かれより出で宰た
る者みな齊く彼より出ん **5** 彼等戦ふ時は勇士のごと
くにして街衢の泥の中に敵を蹂躪らんエホバかれら
とともに在せば彼ら戦はん馬に騎れる者等すなはち
媿を抱くべし **6** 我ユダの家を強くしヨセフの家を救
はん我かれらを恤むが故に彼らをして歸り住しめん
彼らは我に棄られし事なきが如くなるべし我は彼ら
の神エホバなり我かれらに聽べし **7** エフライム人は
勇士に等しくして酒を飲たるごとく心に歡ばん其子
等は見て喜びエホバに因て心に樂しまん **8** 我かれら
に向ひて嘯きて之を集めん其は我これを贖ひたれば
なり彼等は昔殖増たる如くに殖増ん **9** 我かれらを國
々の民の中に捲ん彼等は遠き國において我をおぼへ
ん彼らは其子等とともに生ながらへて歸り來るべし
10 我かれらをエジプトの國より携へかへりアッスリ
ヤより彼等を集めギレアデの地およびレバノンに彼
らを携へゆかんその居處も無きほどなるべし **11** 彼艱
難の海を通り海の浪を撃破りたまふナイルの淵は盡
く潤るアッスリヤの傲慢は卑くせられエジプトの杖

は移り去ん 12 我彼らをしてエホバに由て強くならし
めん彼等はエホバの名をもて歩まんエホバこれを言
たまふ

11 レバノンよ汝の門を啓き火をして汝の香柏を焚
しめよ 2 松よ叫べ香柏は倒れ威嚴樹はそこなはれたり
りバシヤンの椽よ叫べ高らかなる林は倒れたり 3 牧
者の叫ぶ聲あり其榮そこなはれたればなり猛き獅子
の吼る聲ありヨルダンの叢そこなはれたればなり 4
我神エホバかく言たまふ宰らるべき羔を牧へ 5 之を
買ふ者は之を宰るとも罪なし之を賣る者は言ふ我富
を得ればエホバを祝すべしと其牧者もこれを惜まざ
るなり 6 エホバ言たまふ我かさねて地の居民を惜ま
じ視よ我人を各々その隣人の手に付しその王の手に
付さん彼ら地を荒すべし我これを彼らの手より救ひ
出さじ 7 我すなはち其宰らるべき羊を牧り是は最も
憫然なる羊なり我みづから二本の杖を取り一を恩と
名け一を結と名けてその羊を牧り 8 我一月に牧者三
人を絶り我心に彼らを厭ひしが彼等も心に我を惡め
り 9 我いへり我は汝らを飼はじ死る者は死に絶るる
者は絶れ遺る者は互にその肉を食ひあふべし 10 我恩
といふ杖を取て之を折れり是諸の民に立し我契約を
廢せんとてなりき 11 是は其日に廢せられたり是に於
てかの我に聽したがひし憫然なる羊は之をエホバの
言なりしと知れり 12 我彼らに向ひて汝等もし善と視
なば我價を我に授けよ若しからずば止めよと言けれ
ば彼等すなはち銀三十を權りて我價とせり 13 エホバ
我に言たまひけるは彼等に我が估價せられしその善
價を陶人に投あたへよと我すなはち銀三十を取てエ
ホバの室に投いれて陶人に歸せしむ 14 我また結とい

ふ杖を折れり是ユダとイスラエルの間の和好を絶んとてなりき 15 エホバ我に言たまはく汝また愚なる牧者の器を取れ 16 視よ我地に一人の牧者を興さん彼は亡ぶる者を顧みず迷へる者を尋ねず傷つける者を醫さず健剛なる者を飼はず肥たる者の肉を食ひ且その蹄を裂ん 17 其羊の群を棄る悪き牧者は禍なるかな劍その腕に臨みその右の目に臨まん其腕は全く枯えその右の目は全く盲れん

12 イスラエルにかかはるエホバの言詞の重負 エホバ即ち天を舒べ地の基を置る人のうちの靈魂を造る者言たまふ 2 視よ我エルサレムをしてその周圍の國民を蹠跟はする杯とならしむべしエルサレムの攻圍まるる時是はユダにも及ばん 3 其日には我エルサレムをして諸の國民に對ひて重石とならしむべし之を持擧る者は大傷を受ん地上の諸國みな集りて之に攻寄べし 4 エホバ言たまふ當日には我一切の馬を撃て駭かせその騎手を撃て狂はせん而して我ユダの家の上に我目を開き諸の國民の馬を撃て盲になすべし 5 ユダの牧伯等その心の中に謂んエルサレムの居民はその神萬軍のエホバに由て我力となるべしと 6 當日には我ユダの牧伯等をして薪の下にある火盤のごとく麥束の下にある炬火のごとくならしむべし彼等は右左にむかひその周圍の國民を盡く焚んエルサレム人はなほエルサレムにてその本の處に居ことを得べし 7 エホバまづユダの幕屋を救ひたまはん是ダビデの家の榮およびエルサレムの居民の榮のユダに勝ること無らんためたり 8 當日エホバ、エルサレムの居民を護りたまはん彼らの中の弱き者もその日にはダビデのごとくなるべしまたダビデの家は神のごとく

彼らに先だつエホバの使のごとくなるべし 9 その日には我エルサレムに攻きたる國民をことごとく滅すことを務むべし 10 我ダビデの家およびエルサレムの居民に恩恵と祈禱の靈をそそがん彼等はその刺たりし我を仰ぎ觀獨子のため哭くがごとく之がために哭き長子のために悲しむがごとく之がために痛く悲しまん 11 その日にはエルサレムに大なる哀哭あらん是はメギドンの谷なるハダデリンモンに在し哀哭のごとくなるべし 12 國中の族おのおの別れ居て哀哭べし即ちダビデの族別れ居て哀哭きその妻等別れ居て哀哭きナタンの家の族別れ居て哀哭きその妻等別れ居て哀哭かん 13 レビの家の族別れ居て哀哭きその妻等別れ居て哀哭きシメイの族別れ居て哀哭きその妻等わかれ居て哀哭かん 14 その他の族も凡て然りすなはち族おのおの別れ居て哀哭きその妻等別れ居て哀哭くべし

13 その日罪と汚穢を清むる一の泉ダビデの家とエルサレムの居民のために開くべし 2 萬軍のエホバ言たまふ其日には我地より偶像の名を絶のぞき重て人に記憶らるること無らしむべし我また預言者および汚穢の靈を地より去しむべし 3 人もしなほ預言することあらば其生の父母これに言ん汝は生べからず汝はエホバの名をもて虚偽を語るなりと而してその生の父母これが預言しをるを刺ん 4 その日には預言者等預言するに方りてその異象を羞ん重て人を欺かんために毛衣を纏はじ 5 彼言ん我は預言者にあらず地を耕へす者なり即ち我は若き時より人に買れたりと 6 若これに向ひて然らば汝の両手の間の傷は何ぞやと言あらば是は我が愛する者の家にて受たる傷なりと

答へん 7 萬軍のエホバ言たまふ劍よ起て我牧者わが
伴侶なる人を攻よ牧者を撃て然らばその羊散らん我
また我手を小き者等の上に伸べし 8 エホバ言たまふ
全地の人二分は絶れて死に三分の一はその中に遺ら
ん 9 我その三分の一を携へて火にいれ銀を熬分るご
とくに之を熬分け金を試むるごとくに之を試むべし
彼らわが名を呼ん我これにこたへん我これは我民な
りと言ん彼等またエホバは我神なりと言ん

14 視よエホバの日來る汝の貨財奪はれて汝の中に
て分たるべし 2 我萬國の民を集めてエルサレムを攻
撃しめん邑は取られ家は掠められ婦女は犯され邑の
人は半は擄へられてゆかん然どその餘の民は邑より
絶れじ 3 その時エホバ出きたりて其等の國人を攻撃
たまはん在昔その軍陣の日に戦ひたまひしごとな
るべし 4 其日にはエルサレムの前に當りて東にある
ところの橄欖山の上に彼の足立たん而して橄欖山そ
の眞中より西東に裂て甚だ大なる谷を成しその山の
半は北に半は南に移るべし 5 汝らは我山の谷に逃い
らん其山の谷はアザルにまで及ぶべし汝らはユダの
王ウジャの世に地震を避て逃しごとくに逃ん我神エ
ホバ來りたまはん諸の聖者なんぢとともなるべし 6
その日には光明なかるべく輝く者消うすべし 7 茲に
只一日あるべしエホバこれを知たまふ是は晝にも
あらず夜にもあらず夕暮の頃に明くなるべし 8 その
日に活る水エルサレムより出でその半は東の海にそ
の半は西の海に流れん夏も冬も然あるべし 9 エホバ
全地の王となりたまはん其日には只エホバのみ只そ
の御名のみにならん 10 全地はアラバのごとくなりて
ゲバよりエルサレムの南のリンモンまでの間のごと

くなるべし而してエルサレムは高くなりてその故の處に立ちベニヤミンの門より第一の門の處に及び隅の門にいたりハナニエルの戍樓より王の酒榨倉までに渉るべし **11** その中には人住ん重て呪詛あらしエルサレムは安然に立べし **12** エルサレムを攻撃し諸の民にエホバ災禍を降してこれを撃なやましたまふこと是のごとくなるべし即ち彼らその足にて立をる中に肉腐れ目その孔の中にて腐れ舌その口の中にて腐れん **13** その日にはエホバかれらをして大に狼狽しめたまはん彼らは各々人の手を執へん此手と彼手撃あふべし **14** ユダもまたエルサレムに於て戦ふべしその四周の一切の國人の財寶金銀衣服など甚だ多く聚められん **15** また馬騾駱駝驢馬およびその諸營の一切の家畜の蒙る災禍もこの災禍のごとくなるべし **16** エルサレムに攻きたりし諸の國人の遺れる者はみな歳々に上りきてその王なる萬軍のエホバを拜み結茅の節を守るにいたるべし **17** 地上の諸族の中その王なる萬軍のエホバを拜みにエルサレムに上らざる者の上には凡て雨ふらざるべし **18** 例ばエジプトの族もし上り來らざる時はその上に雨ふらじエホバその結茅の節を守りに上らざる一切の國人を撃なやます災禍を之に降したまふべし **19** エジプトの罪凡て結茅の節を守りに上り來らざる國人の罪是のごとくなるべし **20** その日には馬の鈴にまでエホバに聖とするさん又エホバの家の鍋は壇の前の鉢と等しかるべし **21** エルサレムおよびユダの鍋は都て萬軍のエホバの聖物となるべし凡そ犠牲を獻ぐる者は來りてこれを取り其中にて祭肉を煮ん其日には萬軍のエホバの室に最早カナン人あらざるべし

マラキ書

1 これマラキに托てイスラエルに臨めるエホバの言の重負なり **2** エホバ曰たまふ我汝らを愛したり 然るに汝ら云ふ 汝いかに我儕を愛せしやと エホバいふ エサウはヤコブの兄に非ずや されど我はヤコブを愛し **3** エサウを惡めり 且つわれ彼の山を荒し其嗣業を山犬にあたへたり **4** エドムは我儕ほろぼされたれども再び荒たる所を建んといふによりて萬軍のエホバかく曰たまふ 彼等は建ん されど我これを倒さん 人は彼等を惡境とよび又エホバの恒に怒りたまふ人民と稱へん **5** 汝らこれを目に見て云ん エホバはイスラエルの地に大なりと **6** 子は其父を敬ひ僕はその主を敬ふ されば我もし父たらば我を敬ふこと安にあるや 我もし主たらば我をおそるること安にあるや なんぢら我が名を藐視る祭司よと萬軍のエホバいひたまふ 然るに汝曹はいふ我儕何に汝の名を藐視りしやと **7** 汝ら汚れたるパンをわが壇の上に獻げしかして言ふ我儕何に爾を汚せしやと 汝曹エホバの臺は卑しきなりと云しがゆゑなり **8** 汝ら盲目なる者を犠牲に獻ぐるは惡に非ずや 又跛足なるものと病者を獻ぐるは惡に非ずや 今これを汝の方伯に獻げよ されば彼なんぢを悦ぶや 汝を受納るや 萬軍のエホバこれをいふ **9** 請ふ 汝ら神に我らをあはれみ給はんことをもとめよ これらは凡て汝らの手になれり 彼なんぢらを納んや 萬軍のエホバこれを言ふ **10** 汝らがわが壇の上にいたづらに火をたくこと無らんために汝らの中一人扉を閉づる者あらまほし われ汝らを悦ばず 又なんぢらの手より獻物を受じと萬軍のエホバいひ給ふ **11** 日の出る處より没る處までの列國の中に我名は大ならん 又何處

にても香と潔き獻物を我名に獻げん そはわが名列國
の中に大なるべければなりと萬軍のエホバいひ給ふ
12しかるになんぢら之を褻したり そは爾曹はエホバ
の臺は汚れたり また其果すなはちその食物は卑しと
云ばなり 13なんぢらは又如何に煩勞しきことにあ
らずやといひ且これを藐視たり 萬軍のエホバこれをい
ふ 又なんぢらは奪ひし物跛足たる者病る者を携へ來
れり 汝らかく獻物を携へ來ればわれ之を汝らの手よ
り受べけんや エホバこれをいひ給へり 14群の中に
牡あるに誓を立てて疵あるものをエホバに獻ぐる詐
僞者は詛はるべし そは我は大なる王また我名は列國
に畏れらるべきなればなり 萬軍のエホバこれをいふ

2 祭司等よ今この命令なんぢらにあたへらる 2 萬軍
のエホバいひたまふ汝等もし聽きしたがはず又これ
を心にとめず我名に榮光を歸せずばわれ汝らの上に
詛を來らせん 又なんぢらの祝福を詛はん われすでに
此等を詛へり 汝らこれを心にとめざりしに因てなり
3 視よ我なんぢらのために種をいましめん また糞す
なはち汝らの犠牲の糞を汝らの面の上に撒さん 汝ら
これとともに携へさられん **4** わが此命令をなんぢら
に下し與ふるは我契約をしてレビに保たしめんため
なるを汝ら知るべし 萬軍のエホバこれをいふ **5** わが
彼と結びし契約は生命と平安とにあり 我がこれを彼
に與へしは彼に我を畏れしめんが爲なり 彼われを懼
れわが名の前にをののけり **6** 眞理の法彼の口に在て
不義その口唇にあらず 彼平安と公義をとりて我とと
もにあゆみ又多の人を不義より立歸らせたりき **7** 夫
れ祭司の口唇に知識を持べく又人彼の口より法を諮
詢べし そは祭司は萬軍のエホバの使者なればなり **8**

しかるに汝らは道を離れ衆多の人を法に躓礙かせレ
ビの契約を壊りたり 萬軍のエホバこれをいふ 9 汝ら
は我道を守らず法をおこなふに當りて人に偏りし故
にわれも汝らを一切の民の前に輕められまた賤めら
れしむ 10 我儕の父は皆同一なるにあらずや われら
を造りし神は同一なるにあらずや 我儕先祖等の契約
を破りて各々おのれの兄弟にいつはりを行ふは何ぞ
11 ユダは誓約にそむけり イスラエル及びエルサレム
の中には憎むべき事行はる すなはちユダはエホバの
愛したまふ聖所を褻して他神の女をめとれり 12 エホ
バこれをおこなふ人をば主なるものをも事ふる者を
もヤコブの幕屋よりのぞきたまはん 萬軍のエホバに
獻物をささぐるものにてもまた然り 13 つぎに又なん
ぢらはこれをなせり 即ち涙と泣と歎とをもてエホバ
の壇をおほはしめたり 故に彼もはや獻物を顧みずま
たこれを汝らの手より悦び納たまはざるなり 14 汝ら
はなほ何故ぞやと言ふ そは是はエホバ汝となんぢの
若き時の妻の間にいりて證をなしたまへばなり 彼は
なんぢの伴侶汝が契約をなせし妻なるに汝誓約に背
きてこれを棄つ 15 エホバは只一を造りたまひしにあ
らずや されども彼にはなほ靈の餘ありき 何故にひと
つのみなりしや 是は神を敬虔の裔を得んが爲なりき
故になんぢら心に謹みその若き時の妻を誓約にそむ
きて棄るなかれ 16 イスラエルの神エホバいひたまふ
われは離縁を惡みまた虐待をもて其衣を蔽ふ人を惡
む 故に汝ら誓約にそむきて妻を待遇はざるやう心に
つつしむべし 萬軍のエホバこれをいふ 17 なんぢら
は言をもてエホバを煩勞はせり されど汝ら言ふ 何に
わづらはせしやと 如何となればなんぢら凡て惡をな

すものはエホバの目に善と見えかつ彼に悦ばると言ひまた審判の神は安にあるやといへばなり

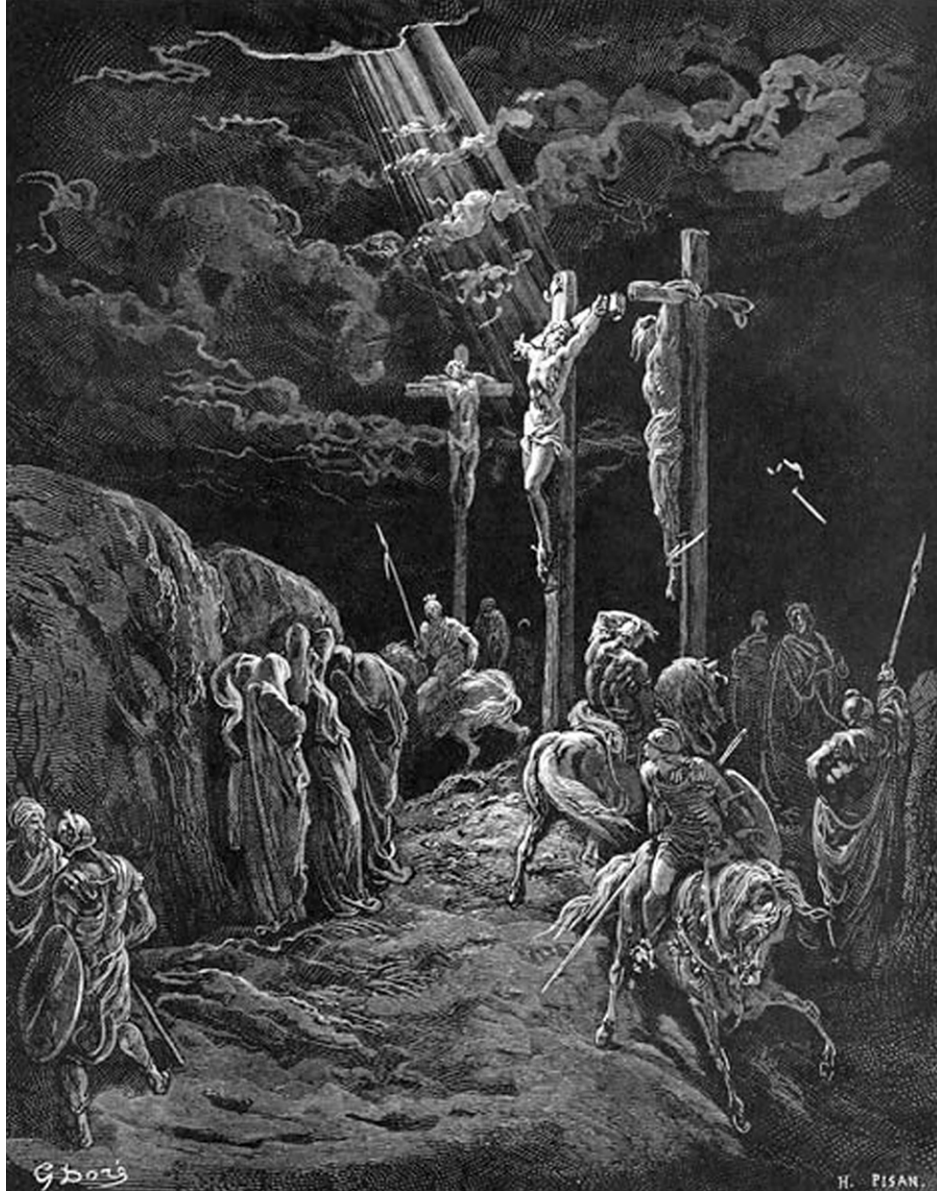
3 視よ我わが使者を遣さん かれ我面の前に道を備へん また汝らが求むるところの主すなはち汝らの悦樂ぶ契約の使者忽然その殿に來らん 視よ彼來らんと萬軍のエホバ云たまふ **2** されど其來る日には誰か堪えんや その顯著る時には誰か立えんや 彼は金をふきわくる者の火の如く布晒の灰汁のごとくならん **3** かれは銀をふきわけてこれを潔むる者のごとく坐せん 彼はレビの裔を潔め金銀の如くかれらをきよめん 而して彼等は義をもて獻物をエホバにささげん **4** その時ユダとエルサレムの獻物はむかし日の如く又先の年のごとくエホバに悦ばれん **5** われ汝らにちかづきて審判をなし巫術者にむかひ姦淫を行ふ者にむかひ偽の誓をなせる者にむかひ傭人の價金をかすめ寡婦と孤子をしへたげ異邦人を推拵げ我を畏れざるものどもにむかひて速に證をなさんと萬軍のエホバ云たまふ **6** それわれエホバは易らざる者なり 故にヤコブの子等よ汝らは亡されず **7** なんぢら其先祖等の日よりこのかたわが律例をはなれてこれを守らざりき 我にかへれ われ亦なんぢらに歸らん 萬軍のエホバこれを言ふ 然るに汝らはわれら何においてかへるべきやと言ひ **8** ひと神の物をぬすむことをせんや されど汝らはわが物を盗めり 汝らは又何において汝の物をぬすみしやといへり 十分の一および獻物に於てなり **9** 汝らは呪詛をもて詛はる またなんぢら一切の國人はわが物をぬすめり **10** わが殿に食物あらしめんために汝ら什一をすべて我倉にたづさへきたれ 而して是をもて我を試みわが天の窓をひらきて容べきところなき

までに恩澤を汝らにそそぐや否やを見るべし 萬軍のエホバこれを言ふ **11** 我また噬食ふ者をなんぢらの爲に抑へてなんぢらの地の産物をやぶらざらしめん 又なんぢらの葡萄の樹をして時のいたらざる前にその實を圃におとさざらしめん 萬軍のエホバこれをいふ **12** 又萬國の人なんぢらを幸福なる者ととなへん そは汝ら樂しき地となるべければなり 萬軍のエホバこれをいふ **13** エホバ云たまふ 汝らは言詞をはげしくして我に逆らへり しかるも汝らは我儕なんぢらにさからひて何をいひしやといへり **14** 汝らは言らく神に服事することは徒然なり われらその命令をまもりかつ萬軍のエホバの前に悲みて歩みたりとて何の益あらんや **15** 今われらは驕傲ものを幸福なりと稱ふ また惡をおこなふものも盛になり 神を試むるものすらも救はると **16** その時エホバをおそるる者互に相かたり エホバ耳をかたむけてこれを聽たまへり またエホバを畏るる者およびその名を記憶る者のためにエホバの前に記念の書をかきしるせり **17** 萬軍のエホバいひたまふ 我わが設くる日にかれらをもて我寶となすべし また人の己につかふる子をあはれむがごとく我彼等をあはれまん **18** その時汝らは更にまた義者と惡きものと神に服事るものと事へざる者との區別をしらん

4 萬軍のエホバいひたまふ 視よ爐のごとくに焼る日來らん すべて驕傲者と惡をおこなふ者は藁のごとくにならん 其きたらんとする日彼等を焼つくして根も枝ものこらざらしめん **2** されど我名をおそるる汝らには義の日いでて昇らん その翼には醫す能をそなへん 汝らは牢よりいでし犢の如く躍跳ん **3** 又なんぢらは惡人を踐つけん 即ちわが設くる日にかれらは汝ら

の脚の掌の下にありて灰のごとくならん 萬軍のエホバこれを言ふ 4 なんぢらわが僕モーセの律法をおぼえよ すなはち我がホレブにてイスラエル全體のために彼に命ぜし法度と誠命をおぼゆべし 5 視よエホバの大なる畏るべき日の來るまへにわれ預言者エリヤを汝らにつかはさん 6 かれ父の心にその子女の心を慈はせ 子女の心にその父をおもはしめん 是は我が來りて詛をもて地を撃ことなからんためなり

新約聖書



かくてイエス言ひたまふ『父よ、彼らを赦し給へ、その爲す所を知らざればなり』
彼らイエスの衣を分ちて鬭取にせり、
ルカの福音書 23:34

マタイの福音書

1 アブラハムの子、ダビデの子、イエス・キリストの系圖。 **2** アブラハム、イサクを生み、イサク、ヤコブを生み、ヤコブ、ユダとその兄弟らとを生み、 **3** ユダ、タマルによりてパレスとザラとを生み、パレス、エスロンを生み、エスロン、アラムを生み、 **4** アラム、アミナダブを生み、アミナダブ、ナアソンを生み、ナアソン、サルモンを生み、 **5** サルモン、ラハブによりてボアズを生み、ボアズ、ルツによりてオベデを生み、オベデ、エツサイを生み、 **6** エツサイ、ダビデ王を生めり。ダビデ、ウリヤの妻たりし女によりてソロモンを生み、 **7** ソロモン、レハベアムを生み、レハベアム、アビヤを生み、アビヤ、アサを生み、 **8** アサ、ヨサパテを生み、ヨサパテ、ヨラムを生み、ヨラム、ウジヤを生み、 **9** ウジヤ、ヨタムを生み、ヨタム、アハズを生み、アハズ、ヒゼキヤを生み、 **10** ヒゼキヤ、マナセを生み、マナセ、アモンを生み、アモン、ヨシヤを生み、 **11** バビロンに移さるる頃、ヨシヤ、エコニヤとその兄弟らとを生めり。 **12** バビロンに移されて後、エコニヤ、サラテルを生み、サラテル、ゾロバベルを生み、 **13** ゾロバベル、アビウデを生み、アビウデ、エリヤキムを生み、エリヤキム、アゾルを生み、 **14** アゾル、サドクを生み、サドク、アキムを生み、アキム、エリウデを生み、 **15** エリウデ、エレアザルを生み、エレアザル、マタンを生み、マタン、ヤコブを生み、 **16** ヤコブ、マリヤの夫ヨセフを生めり。此のマリヤよりキリストと稱ふるイエス生れ給へり。 **17** されば總て世をふる事、アブラハムよりダビデまで十四代、

ダビデよりバビロンに移さるるまで十四代、バビロンに移されてよりキリストまで十四代なり。18 イエス・キリストの誕生は左のごとし。その母マリヤ、ヨセフと許嫁したるのみにて、未だ偕にならざりしに、聖靈によりて孕り、その孕りたること顯れたり。19 夫ヨセフは正しき人にして、之を公然にするを好まず、私に離縁せんと思ふ。20 かくて、これらの事を思ひ回らしをるとき、視よ、主の使、夢に現れて言ふ『ダビデの子ヨセフよ、妻マリヤを納るる事を恐るな。その胎に宿る者は聖靈によるなり。21 かれ子を生まん、汝その名をイエスと名づくべし。己が民をその罪より救ひ給ふ故なり』22 すべて此の事の起りしは、預言者によりて主の云ひ給ひし言の成就せん爲なり。曰く、23 『視よ、處女みごもりて子を生まん。その名はインマヌエルと稱へられん』之を釋けば、神われらと偕に在すといふ意なり。24 ヨセフ寐より起き、主の使の命ぜし如くして妻を納れたり。25 されど子の生るるまでは、相知る事なかりき。かくてその子をイエスと名づけたり。

2 イエスはヘロデ王の時、ユダヤのベツレヘムに生れ給ひしが、視よ、東の博士たちエルサレムに來りて言ふ、2 『ユダヤ人の王とて生れ給へる者は、何處に在すか。我ら東にてその星を見れば、拜せんために來れり』3 ヘロデ王これを聞きて惱みまどふ、エルサレムも皆然り。4 王、民の祭司長・學者らを皆あつめて、キリストの何處に生るべきを問ひ質す。5 かれら言ふ『ユダヤのベツレヘムなり。それは預言者によりて、6 「ユダの地ベツレヘムよ、汝はユダの長たちの中にて最 小き者にあらず、汝の中

より一人の君いでて、わが民イスラエルを牧せん』
と録されたるなり』 7ここにヘロデ密に博士たちを
招きて、星の現れし時を詳細にし、 8彼らをベツレ
ヘムに遣さんとして言ふ『往きて幼児のことを細に
たづね、之にあはば我に告げよ。我も往きて拜せん
』 9彼ら王の言をききて往きしに、視よ、前に東に
て見し星、先だちゆきて、幼児の在すところの上に
止る。 10かれら星を見て、歡喜に溢れつつ、 11家
に入りて、幼児のその母マリヤと偕に在すを見、平
伏して拜し、かつ寶の匣をあけて、黄金・乳香・沒
藥など禮物を献げたり。 12かくて夢にてヘロデの許
に返るなどの御告を蒙り、ほかの路より己が國に去
りゆきぬ。 13その去り行きしのち、視よ、主の使、
夢にてヨセフに現れていふ『起きて、幼児とその母
とを携へ、エジプトに逃れ、わが告ぐるまで彼處に
留れ。ヘロデ幼児を求めて亡さんとするなり』 14ヨ
セフ起きて、夜の間幼児とその母とを携へて、エ
ジプトに去りゆき、 15ヘロデの死ぬるまで彼處に留
りぬ。これ主が預言者によりて『我エジプトより我
が子と呼ばせり』と云ひ給ひし言の成就せん爲な
り。 16ここにヘロデ、博士たちに騙されたりと悟り
て、甚だしく憤ほり、人を遣し、博士たちに由りて
詳細にせし時を計り、ベツレヘム及び凡てその邊の
地方なる、二歳以下の男の兒をことごとく殺せり。
17ここに預言者エレミヤによりて云はれたる言は成
就したり。曰く、 18『聲ラマにありて聞ゆ、慟哭な
り、いとどしき悲哀なり。ラケル己が子らを歎き、
子等のなき故に慰めらるるを厭ふ』 19ヘロデ死に
てのち、視よ、主の使、夢にてエジプトなるヨセフ

に現れて言ふ、**20** 『起きて、幼児とその母とを携へ、イスラエルの地にゆけ。幼児の生命を索めし者どもは死にたり』 **21** ヨセフ起きて、幼児とその母とを携へ、イスラエルの地に到りしに、**22** アケラオその父ヘロデに代りてユダヤを治むと聞き、彼處に往くことを恐る。また夢にて御告を蒙り、ガリラヤの地方に退き、**23** ナザレといふ町に到りて住みたり。これは預言者たちに由りて、『彼はナザレ人と呼ばれん』と云はれたる言の成就せん爲なり。

3 その頃バプテスマのヨハネ來り、ユダヤの荒野にて教を宣べて言ふ **2** 『なんぢら悔改めよ、天國は近づきたり』 **3** これ預言者イザヤによりて、斯く云はれし人なり、曰く『荒野に呼はる者の聲す「主の道を備へ、その路すぢを直くせよ」』 **4** このヨハネは駱駝の毛織衣をまとひ、腰に皮の帶をしめ、蝗と野蜜とを食とせり。 **5** ここにエルサレム及びユダヤ全國、またヨルダンの邊なる全地方の人々、ヨハネの許に出できたり、 **6** 罪を言ひ表し、ヨルダン川にてバプテスマを受けたり。 **7** ヨハネ、パリサイ人およびサドカイ人のバプテスマを受けんとて、多く來るを見て、彼らに言ふ『蝮の裔よ、誰が汝らに、來らんとする御怒を避くべき事を示したるぞ。 **8** さらば悔改に相應しき果を結べ。 **9** 汝ら「われらの父にアブラハムあり」と心のうちに言はんと思ふな。我なんぢらに告ぐ、神は此らの石よりアブラハムの子らを起し得給ふなり。 **10** 斧ははや樹の根に置かる。されば凡て善き果を結ばぬ樹は、伐られて火に投げ入れらるべし。 **11** 我は汝らの悔改のために、水にてバプテスマを施す。されど我より後にきたる者は、我

よりも能力あり、我はその鞋をとるにも足らず、彼は聖霊と火とにて汝らにバプテスマを施さん。 12 手には箕を持ちて禾場をきよめ、その麥は倉に納め、穀は消えぬ火にて焼きつくさん』 13 ここにイエス、ヨハネにバプテスマを受けんとて、ガリラヤよりヨルダンに來り給ふ。 14 ヨハネ之を止めんとして言ふ『われは汝にバプテスマを受くべき者なるに、反つて我に來り給ふか』 15 イエス答へて言ひたまふ『今は許せ、われら斯く正しき事をことごとく爲すは、當然なり』ヨハネ乃ち許せり。 16 イエス、バプテスマを受けて直ちに水より上り給ひしとき、視よ、天ひらけ、神の御霊の、鳩のごとく降りて己が上にきたるを見給ふ。 17 また天より聲あり、曰く『これは我が愛しむ子、わが悦ぶ者なり』

4 ここにイエス御霊によりて荒野に導かれ給ふ、悪魔に試みられんとするなり。 2 四十日四十夜斷食して、後に飢ゑたまふ。 3 試むる者きたりて言ふ『汝もし神の子ならば、命じて此等の石をパンと爲らしめよ』 4 答へて言ひ給ふ『「人の生くるはパンのみに由るにあらず、神の口より出づる凡ての言に由る」と録されたり』 5 ここに悪魔イエスを聖なる都につれゆき、宮の頂上に立たせて言ふ、 6 『汝もし神の子ならば己が身を下に投げよ。それは「なんぢの爲に御使たちに命じ給はん。彼ら手にて汝を支へ、その足を石にうち當つること無からしめん」と録されたるなり』 7 イエス言ひたまふ『「主なる汝の神を試むべからず」と、また録されたり』 8 悪魔またイエスを最高き山につれゆき、世のもろもろの國と、その榮華とを示して言ふ、 9 『汝もし平伏して

我を拜せば、此等を皆なんぢに與へん』 10 ここにイエス言ひ給ふ『サタンよ、退け「主なる汝の神を拜し、ただ之にのみ事へ奉るべし」と録されたるなり』 11 ここに悪魔は離れ去り、視よ、御使たち來り事へぬ。 12 イエス、ヨハネの囚はれし事をききて、ガリラヤに退き、 13 後ナザレを去りて、ゼブルンとナフタリとの境なる、海邊のカペナウムに到りて住み給ふ。 14 これは預言者イザヤによりて云はれたる言の成就せん爲なり。曰く 15 『ゼブルンの地、ナフタリの地、海の邊、ヨルダンの彼方、異邦人のガリラヤ、 16 暗きに坐する民は、大なる光を見、死の地と死の蔭とに坐する者に、光のぼれり』 17 この時よりイエス教を宣べはじめて言ひ給ふ『なんぢら悔改めよ、天國は近づきたり』 18 かくて、ガリラヤの海邊をあゆみて、二人の兄弟ペテロといふシモンとその兄弟アンデレとが、海に網うちをるを見給ふ、かれらは漁人なり。 19 これに言ひたまふ『我に従ひきたれ、さらば汝らを人を漁る者となさん』 20 かれら直ちに網をすてて従ふ。 21 更に進みゆきて、また二人の兄弟、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネとが、父ゼベダイとともに舟にありて網を繕ひをるを見て呼び給へば、 22 直ちに舟と父とを置きて従ふ。 23 イエスあまねくガリラヤを巡り、會堂にて教をなし、御國の福音を宣べつたへ、民の中のもろもろの病、もろもろの疾患をいやし給ふ。 24 その噂あまねくシリヤに弘り、人々すべての惱めるもの、即ちさまざまの病と苦痛とに罹れるもの、悪鬼に憑かれたるもの、癲癩および中風の者などを連れ來りたれば、イエス之を醫したまふ。 25 ガリラヤ、デカポリス

、エルサレム、ユダヤ及びヨルダンの彼方より、大なる群衆きたり従へり。

5 イエス群衆を見て、山にのぼり、座し給へば、弟子たち御許にきたる。**2** イエス口をひらき、教へて言ひたまふ、**3** 『幸福なるかな、心の貧しき者。天國はその人のものなり。**4** 幸福なるかな、悲しむ者。その人は慰められん。**5** 幸福なるかな、柔和なる者。その人は地を嗣がん。**6** 幸福なるかな、義に飢ゑ渴く者。その人は飽くことを得ん。**7** 幸福なるかな、憐憫ある者。その人は憐憫を得ん。**8** 幸福なるかな、心の清き者。その人は神を見ん。**9** 幸福なるかな、平和ならしむる者。その人は神の子と稱へられん。**10** 幸福なるかな、義のために責められたる者。天國はその人のものなり。**11** 我がために、人なんぢらを罵り、また責め、詐りて各様の悪しきことを言ふときは、汝ら幸福なり。**12** 喜びよろこべ、天にて汝らの報は大なり。汝等より前にありし預言者たちをも、斯く責めたりき。**13** 汝らは地の鹽なり、鹽もし効力を失はば、何をもてか之に鹽すべき。後は用なし、外にすてられて人に踏まるのみ。**14** 汝らは世の光なり。山の上にある町は隠ることなし。**15** また人は燈火をともして升の下におかず、燈臺の上におく。かくて燈火は家にある凡ての物を照すなり。**16** かくのごとく汝らの光を人の前にかがやかせ。これ人の汝らが善き行爲を見て、天にいます汝らの父を崇めん爲なり。**17** われ律法また預言者を毀つために來れりと思ふな。毀たんとて來らず、反つて成就せん爲なり。**18** 誠に汝らに告ぐ、天地の過ぎ往かぬうちに、律法の一點、一畫も廢ることなく、

ことごとく全うせらるべし。 **19** この故にもし此等のいと小き誠命の一つをやぶり、且その如く人に教ふる者は、天國にて最 小き者と稱へられ、之を行ひ、かつ人に教ふる者は、天國にて大なる者と稱へられん。 **20** 我なんぢらに告ぐ、汝らの義、學者・パリサイ人に勝らずば、天國に入るに能はず。 **21** 古への人に「殺すなかれ、殺す者は審判にあふべし」と云へることあるを汝等きけり。 **22** されど我は汝らに告ぐ、すべて兄弟を怒る者は、審判にあふべし。また兄弟に對ひて、愚者よといふ者は、衆議にあふべし。また痴者よといふ者は、ゲヘナの火にあふべし。 **(Geenna g1067)** **23** この故に汝もし供物を祭壇にささぐる時、そこにて兄弟に怨まる事あるを思ひ出さば、 **24** 供物を祭壇のまへに遺しおき、先づ往きて、その兄弟と和睦し、然るのち來りて、供物をささげよ。 **25** なんぢを訴ふる者とともに途に在るうちに、早く和解せよ。恐らくは、訴ふる者なんぢを審判人にわたし、審判人は下役にわたし、遂になんぢは獄に入れられん。 **26** まことに汝に告ぐ、一厘ものこりなく償はずば、其處をいづること能はず。 **27** 「姦淫するなかれ」と云へることあるを汝等きけり。 **28** されど我は汝らに告ぐ、すべて色情を懷きて女を見るものは、既に心のうち姦淫したるなり。 **29** もし右の目なんぢを躓かせば、抉り出して棄てよ、五體の一つ亡びて、全身ゲヘナに投げ入れられぬは益なり。 **(Geenna g1067)** **30** もし右の手なんぢを躓かせば、切りて棄てよ、五體の一つ亡びて、全身ゲヘナに往かぬは益なり。 **(Geenna g1067)** **31** また「妻をいだす者は離縁状を與ふべし」と云へることあり。 **32** されど

我は汝らに告ぐ、淫行の故ならで其の妻をいだす者は、これに姦淫を行はしむるなり。また出されたる女を娶るものは、姦淫を行ふなり。 33 また古への人に「いつはり誓ふなかれ、なんぢの誓は主に果すべし」と云へる事あるを汝ら聞けり。 34 されど我は汝らに告ぐ、一切ちかふな、天を指して誓ふな、神の御座なればなり。 35 地を指して誓ふな、神の足臺なればなり。エルサレムを指して誓ふな、大君の都なればなり。 36 己が頭を指して誓ふな、なんぢ頭髮一筋だに白くし、また黒くし能はねばなり。 37 ただ然り然り、否 否といへ、之に過ぐるは悪より出づるなり。 38 「目には目を、齒には齒を」と云へることあるを汝ら聞けり。 39 されど我は汝らに告ぐ、悪しき者に抵抗ふな。人もし汝の右の頬をうたば、左をも向けよ。 40 なんぢを訟へて下衣を取らんとする者には、上衣をも取らせよ。 41 人もし汝に一里ゆくことを強ひなば、共に二里ゆけ。 42 なんぢに請ふ者にあたへ、借らんとする者を拒むな。 43 「なんぢの隣を愛し、なんぢの仇を憎むべし」と云へることあるを汝等きけり。 44 されど我は汝らに告ぐ、汝らの仇を愛し、汝らを責むる者のために祈れ。 45 これ天にいます汝らの父の子とならん爲なり。天の父は、その日を悪しき者のうへにも善き者のうへにも昇らせ、雨を正しき者にも正しからぬ者にも降らせ給ふなり。 46 なんぢら己を愛する者を愛すとも何の報をか得べき、取税人も然するにあらずや。 47 兄弟にのみ挨拶すとも何の勝ることかある、異邦人も然するにあらずや。 48 さらば汝らの天の父の全きが如く、汝らも全かれ。

6 汝ら見られんために己が義を人の前にて行はぬやうに心せよ。然らずば、天にいます汝らの父より報を得じ。**2** さらば施濟をなすとき、偽善者が人に崇められんとて會堂や街にて爲すごとく、己が前にラッパを鳴すな。誠に汝らに告ぐ、彼らは既にその報を得たり。**3** 汝は施濟をなすとき、右の手のなすことを左の手に知らすな。**4** 是はその施濟の隠れん爲なり。さらば隠れたるに見たまふ汝の父は報い給はん。**5** なんぢら祈るとき、偽善者の如くあらざれ。彼らは人に顯さんとして、會堂や大路の角に立ちて祈ることを好む。誠に汝らに告ぐ、かれらは既にその報を得たり。**6** なんぢは祈るとき、己が部屋にいり、戸を閉ぢて隠れたるに在す汝の父に祈れ。さらば隠れたるに見給ふなんぢの父は報い給はん。**7** また祈るとき、異邦人の如くいたづらに言を反復すな。彼らは言多きによりて聽かれんと思ふなり。**8** さらば彼らに效ふな、汝らの父は求めぬ前に、なんぢらの必要なる物を知りたまふ。**9** この故に汝らは斯く祈れ。「天にいます我らの父よ、願はくは御名の崇められん事を。**10** 御國の來らんことを。御意の天のごとく地にも行はれん事を。**11** 我らの日用の糧を今日もあたへ給へ。**12** 我らに負債ある者を我らの免したる如く、我らの負債をも免し給へ。**13** 我らを嘗試に遇はせず、惡より救ひ出したまへ」**14** 汝等もし人の過失を免さば、汝らの天の父も汝らを免し給はん。**15** もし人を免さずば、汝らの父も汝らの過失を免し給はじ。**16** なんぢら斷食するとき、偽善者のごとく、悲しき面容をすな。彼らは斷食することを人に顯さんとして、その顔色を害ふなり。誠に汝らに告

ぐ、彼らは既にその報を得たり。 17 なんぢは斷食するとき、頭に油をぬり、顔をあらへ。 18 これ斷食することの人に顯れずして、隠れたるに在す汝の父にあらはれん爲なり。さらば隠れたるに見たまふ汝の父は報い給はん。 19 なんぢら己がために財寶を地に積むな、ここは蟲と錆とが損ひ、盜人うがちて盜むなり。 20 なんぢら己がために財寶を天に積み、かしこは蟲と錆とが損はず、盜人うがちて盜まぬなり。 21 なんぢの財寶のある所には、なんぢの心もあるべし。 22 身の燈火は目なり。この故に汝の目ただしくば、全身あかるからん。 23 されど汝の目あしくば、全身くらからん。もし汝の内の光、闇ならば、その闇いかばかりぞや。 24 人は二人の主になね事ふること能はず、或はこれを憎み彼を愛し、或はこれに親しみ彼を輕しむべければなり。汝ら神と富とになね事ふること能はず。 25 この故に我なんぢらに告ぐ、何を食ひ、何を飲まんと生命のことを思ひ煩ひ、何を著んと體のことを思ひ煩ふな。生命は糧にまさり、體は衣に勝るならずや。 26 空の鳥を見よ、播かず、刈らず、倉に收めず、然るに汝らの天の父は、これを養ひたまふ。汝らは之よりも遙に優るる者ならずや。 27 汝らの中たれか思ひ煩ひて身の長一尺を加へ得んや。 28 又なにゆゑ衣のことを思ひ煩ふや。野の百合は如何にして育つかを思へ、勞せず、紡がざるなり。 29 されど我なんぢらに告ぐ、榮華を極めたるソロモンだに、その服裝この花の一つにも及かざりき。 30 今日ありて明日 爐に投げ入れらるる野の草をも、神はかく装ひ給へば、まして汝らをや、ああ信仰うすき者よ。 31 さらば何を食ひ、何を飲み

、何を著んとて思ひ煩ふな。 **32** 是みな異邦人の切に求むる所なり。汝らの天の父は、凡てこれらの物の汝らに必要なるを知り給ふなり。 **33** まづ神の國と神の義とを求めよ、さらば凡てこれらの物は汝らに加へらるべし。 **34** この故に明日のことを思ひ煩ふな、明日は明日みづから思ひ煩はん。一日の苦勞は一日にて足れり。

7 なんぢら人を審くな、審かれざらん爲なり。 **2** 己がさばく審判にて己もさばかれ、己がはかる量にて己も量らるべし。 **3** 何ゆゑ兄弟の目にある塵を見て、おのが目にある梁木を認めぬか。 **4** 視よ、おのが目に梁木のあるに、いかで兄弟にむかひて、汝の目より塵をとり除かせよと言ひ得んや。 **5** 偽善者よ、まづ己が目より梁木をとり除け、さらば明かに見えて、兄弟の目より塵を取りのぞき得ん。 **6** 聖なる物を犬に與ふな。また眞珠を豚の前に投ぐな。恐らくは足にて踏みつけ、向き返りて汝らを嘔みやぶらん。 **7** 求めよ、さらば與へられん。尋ねよ、さらば見出さん。門を叩け、さらば開かれん。 **8** すべて求むる者は得、たづぬる者は見いだし、門をたたく者は開かるなり。 **9** 汝等のうち、誰かその子パンを求めんに石を與へ、 **10** 魚を求めんに蛇を與へんや。 **11** さらば、汝ら悪しき者ながら、善き賜物をその子らに與ふるを知る。まして天にいます汝らの父は、求むる者に善き物を賜はざらんや。 **12** さらば凡て人に爲られんと思ふことは、人にも亦その如くせよ。これは律法なり、預言者なり。 **13** 狭き門より入れ、滅にいたる門は大きく、その路は廣く、之より入る者おほし。 **14** 生命にいたる門は狭く、その路は細く、

之を見出す者すくなし。15 偽預言者に心せよ、羊の扮装して來れども、内は奪ひ掠むる豺狼なり。16 その果によりて彼らを知るべし。茨より葡萄を、薊より無花果をとる者あらんや。17 斯く、すべて善き樹は善き果をむすび、悪しき樹は悪しき果をむすぶ。18 善き樹は悪しき果を結ぶこと能はず、悪しき樹はよき果を結ぶこと能はず。19 すべて善き果を結ばぬ樹は、伐られて火に投げ入れらる。20 さらばその果によりて彼らを知るべし。21 我に對ひて主よ主よといふ者、ことごとくは天國に入らず、ただ天にいます我が父の御意をおこなふ者のみ、之に入るべし。22 その日おほくの者われに對ひて「主よ、主よ、我らは汝の名によりて預言し、汝の名によりて悪鬼を逐ひいだし、汝の名によりて多くの能力ある業を爲ししにあらざるや」と言はん。23 その時われ明白に告げん「われ斷えて汝らを知らず、不法をなす者よ、我を離れされ」と。24 さらば凡て我がこれらの言をききて行ふ者を、磐の上に家をたてたる慧き人に擬へん。25 雨ふり流みなぎり、風ふきてその家をうてど倒れず、これ磐の上に建てられたる故なり。26 すべて我がこれらの言をききて行はぬ者を、沙の上に家を建てたる愚なる人に擬へん。27 雨ふり流みなぎり、風ふきて其の家をうてば、倒れてその顛倒はなはだし』28 イエスこれらの言を語りてへ給へるとき、群衆その教に驚きたり。29 それは學者らの如くならず、權威ある者のごとく教へ給へる故なり。

8 イエス山を下り給ひしとき、大なる群衆これに従ふ。2 視よ、一人の癩病人みもとに來り、拜して言ふ『主よ、御意ならば、我を潔くなし給ふを得ん』

3 イエス手をのべ、彼につけて『わが意なり、潔くなれ』と言ひ給へば、癩病ただちに潔れり。 4 イエス言ひ給ふ『つつしみて誰にも語るな、ただ往きて己を祭司に見せ、モーセが命じたる供物を献げて、人々に證せよ』 5 イエス、カペナウムに入り給ひしとき、百卒長きたり、 6 請ひていふ『主よ、わが僕、中風を病み、家に臥しみて甚く苦しめり』 7 イエス言ひ給ふ『われ往きて醫さん』 8 百卒長こたへて言ふ『主よ、我は汝をわが屋根の下に入れまつるに足らぬ者なり。ただ御言のみを賜へ、さらば我が僕はいえん。 9 我みづから權威の下にある者なるに、我が下にまた兵卒ありて、此に「ゆけ」と言へば行き、彼に「きたれ」と言へば來り、わが僕に「これを爲せ」といへば爲すなり』 10 イエス聞きて怪しみ、從へる人々に言ひ給ふ『まことに汝らに告ぐ、かかる篤き信仰はイスラエルの中の一人にだに見しことなし。 11 又なんぢらに告ぐ、多くの人、東より西より來り、アブラハム、イサク、ヤコブとともに天國の宴につき、 12 御國の子らは外の暗きに逐ひ出され、そこにて哀哭・切齒することあらん』 13 イエス百卒長に『ゆけ、汝の信ずるごとく汝になれ』と言ひ給へば、このとき僕いえたり。 14 イエス、ペテロの家に入り、その外姑の熱を病みて臥しをるを見、 15 その手に觸り給へば、熱去り、女おきてイエスに事ふ。 16 夕になりて、人々、惡鬼に憑かれたる者をおほく御許につれ來りたれば、イエス言にて靈を逐ひいだし、病める者をことごとく醫し給へり。 17 これは預言者イザヤによりて『かれは自ら我らの疾患を受け、我らの病を負ふ』と云はれし言の成就せん爲

なり。18 さてイエス群衆の己を環れるを見て、ともに彼方の岸に往かんことを弟子たちに命じ給ふ。19 一人の學者きたりて言ふ『師よ、何處にゆき給ふとも、我は従はん』。20 イエス言ひたまふ『狐は穴あり、空の鳥は罅あり、されど人の子は枕する所なし』 21 また弟子の一人いふ『主よ、先づ、往きて、我が父を葬ることを許したまへ』 22 イエス言ひたまふ『我に従へ、死にたる者にその死にたる者を葬らせよ』 23 かくて舟に乗り給へば、弟子たちも従ふ。24 視よ、海に大なる暴風おこりて、舟波に蔽はるるばかりなるに、イエスは眠り給ふ。25 弟子たち御許にゆき、起して言ふ『主よ、救ひたまへ、我らは亡ぶ』 26 彼らに言ひ給ふ『なにゆゑ臆するか、信仰うすき者よ』乃ち起きて、風と海とを禁め給へば、大なる風となりぬ。27 人々あやしみて言ふ『こは如何なる人ぞ、風も海も従ふとは』 28 イエス彼方にわたり、ガダラ人の地にゆき給ひしとき、悪鬼に憑かれたる二人のもの、墓より出できたりて之に遇ふ。その猛きこと甚だしく、其處の途を人の過ぎ得ぬほどなり。29 視よ、かれら叫びて言ふ『神の子よ、われら汝と何の関係あらん、未だ時いたらぬに、我らを責めんとて此處にきたり給ふか』 30 遙にへだたりて多くの豚の一群、食しゐたりしが、31 悪鬼ども請ひて言ふ『もし我らを逐ひ出さんとならば、豚の群に遣したまへ』 32 彼らに言ひ給ふ『ゆけ』悪鬼いでて豚に入りたれば、視よ、その群みな崖より海に駈け下りて、水に死にたり。33 飼ふ者ども逃げて町にゆき、すべての事と悪鬼に憑かれたりし者の事とを告げたれば、34 視よ、町人こぞりてイエスに逢は

んとて出できたり、彼を見て、この地方より去り給はんことを請へり。

9 イエス舟にのり、渡りて己が町にきたり給ふ。**2** 視よ、中風にて床に臥しをる者を、人々みもとに連れ來れり。イエス彼らの信仰を見て、中風の者に言ひたまふ『子よ、心安かれ、汝の罪ゆるされたり』
3 視よ、或學者ら心の中にいふ『この人は神を瀆すなり』**4** イエスその思を知りて言ひ給ふ『何ゆゑ心に悪しき事をおもふか。**5** 汝の罪ゆるされたりと言ふと、起きて歩めと言ふと、孰か易き。**6** 人の子地にて罪を赦す權威あることを汝らに知らせん爲に』——ここに中風の者に言ひ給ふ——『起きよ、床をとりて汝の家にかへれ』**7** 彼おきてその家にかへる。**8** 群衆これを見ておそれ、かかる能力を人にあたへ給へる神を崇めたり。**9** イエス此處より進みて、マタイといふ人の收税所に坐しをるを見て『我に従へ』と言ひ給へば、立ちて従へり。**10** 家にて食事の席につき居給ふとき、視よ、多くの取税人・罪人ら來りて、イエス及び弟子たちと共に列る。**11** パリサイ人これを見て弟子たちに言ふ『なに故なんぢらの師は、取税人・罪人らと共に食するか』**12** 之を聞き、言ひたまふ『健かなる者は醫者を要せず、ただ、病める者これを要す。**13** なんぢら往きて學べ「われ憐憫を好みて、犠牲を好まず」とは如何なる意ぞ。我は正しき者を招かんとにあらで、罪人を招かんとて來れり』**14** ここにヨハネの弟子たち御許にきたりて言ふ『われらとパリサイ人は斷食するに、何故なんぢの弟子たちは斷食せぬか』**15** イエス言ひたまふ『新郎の友だち、新郎と偕にをる間は、悲しむこ

とを得んや。されど新郎をとらるる日きたらん、その時には斷食せん。 16 誰も新しき布の裂を舊き衣につぐことは爲じ、補ひたる裂は、その衣をやぶりて、破綻さらに甚だしかるべし。 17 また新しき葡萄酒をふるき革囊に入ることは爲じ。もし然せば、囊はりさけ酒ほどぼしり出でて、囊もまた廢らん。新しき葡萄酒は新しき革囊にいれ、かくて兩ながら保つなり』 18 イエス此等のことを語り給ふとき、視よ、一人の司きたり、拜して言ふ『わが娘いま死にたり。されど來りて御手を之におき給はば活きん』 19 イエス起ちて彼に伴ひ給ふに、弟子たちも従ふ。 20 視よ、十二年血漏を患ひゐたる女、イエスの後にきたりて、御衣の總にさはる。 21 それは、御衣にだに觸らば救はれんと心の中にいへるなり。 22 イエスふりかへり、女を見て言ひたまふ『娘よ、心安かれ、汝の信仰なんぢを救へり』女この時より救はれたり。 23 かくてイエス司の家に行き、笛ふく者と騒ぐ群衆とを見て言ひたまふ、 24 『退け、少女は死にたるにあらず、寐ねたるなり』人々イエスを嘲笑ふ。 25 群衆の出されし後、いりてその手を取り給へば、少女おきたり。 26 この聲聞あまねく其の地に弘りぬ。 27 イエス此處より進みたまふ時、ふたりの盲人さけびて『ダビデの子よ、我らを憫みたまへ』と言ひつつ従ふ。 28 イエス家にいたり給ひしに、盲人ども御許に來りたれば、之に言ひたまふ『我この事をなし得と信ずるか』彼等いふ『主よ、然り』 29 爰にイエスカれらの目に觸りて言ひたまふ『なんぢらの信仰のごとく汝らに成れ』 30 乃ち彼らの目あきたり。イエス嚴しく戒めて言ひたまふ『慎みて誰に

も知らずな』 31 されど彼ら出でて、あまねくその地にイエスの事をいひ弘めたり。 32 盲人どもの出づるとき、視よ、人々、悪鬼に憑かれたる啞者を御許につれきたる。 33 悪鬼おひ出されて啞者ものいひたれば、群衆あやしみて言ふ『かかる事は未だイスラエルの中に顯れざりき』 34 然るにパリサイ人いふ『かれは悪鬼の首によりて悪鬼を逐ひ出すなり』 35 イエスあまねく町と村とを巡り、その會堂にて教へ、御國の福音を宣べつたへ、もろもろの病、もろもろの疾患をいやし給ふ。 36 また群衆を見て、その牧ふ者なき羊のごとく悩み、且たふるるを甚く憫み、 37 遂に弟子たちに言ひたまふ『收穫はおほく労働人はすくなし。 38 この故に收穫の主に、労働人をその收穫場に遣し給はんことを求めよ』

10 かくてイエスその十二弟子を召し、穢れし靈を制する權威をあたへて、之を逐ひ出し、もろもろの病、もろもろの疾患を醫すことを得しめ給ふ。 2 十二使徒の名は左のごとし。先づペテロといふシモン及びその兄弟アンデレ、ゼベダイの子ヤコブ及びその兄弟ヨハネ、 3 ピリポ及びバルトロマイ、トマス及び取税人マタイ、アルパヨの子ヤコブ及びタダイ、 4 熱心黨のシモン及びイスカリオテのユダ、このユダはイエスを賣りし者なり。 5 イエスこの十二人を遣さんとて、命じて言ひたまふ。『異邦人の途にゆくな、又サマリヤ人の町に入るな。 6 むしろイスラエルの家の失せたる羊にゆけ。 7 往きて宣べつたへ「天國は近づけり」と言へ。 8 病める者をいやし、死にたる者を甦へらせ、癩病人をきよめ、悪鬼を逐ひいだせ。價なしに受けたれば價なしに與へよ。

9 帯のなかに金・銀または錢をもつな。10 旅の囊も、二枚の下衣も、鞋も、杖ももつな。労働人の、その食物を得るは相應しきなり。11 いづれの町いづれの村に入るとも、その中にて相應しき者を尋ねいだして、立ち去るまでは其處に留れ。12 人の家に入らば平安を祈れ。13 その家もし之に相應しくば、汝らの祈る平安はその上に臨まん。もし相應しからずば、その平安はなんぢらに歸らん。14 人もし汝らを受けず、汝らの言を聽かずば、その家その町を立ち去るとき、足の塵をはらへ。15 まことに汝らに告ぐ、審判の日には、その町よりもソドム、ゴモラの地のかた耐へ易からん。16 視よ、我なんぢらを遣すは、羊を豺狼のなかに入るるが如し。この故に蛇のごとく慧く、鳩のごとく素直なれ。17 人々に心せよ、それは汝らを衆議所に付し、會堂にて鞭うたん。18 また汝等わが故によりて、司たち王たちの前に曳かれん。これは彼らと異邦人との證をなさん爲なり。19 かれら汝らを付さば、如何に何を言はんと思ひ煩ふな、言ふべき事は、その時きづけらるべし。20 これ言ふものは汝等にあらず、其の中にありて言ひたまふ汝らの父の靈なり。21 兄弟は兄弟を、父は子を死に付し、子どもは親に逆ひて之を死なしめん。22 又なんぢら我が名のために凡ての人に憎まれん。されど終まで耐へ忍ぶものは救はるべし。23 この町にて責めらるる時は、かの町に逃れよ。誠に汝らに告ぐ、なんぢらイスラエルの町々を巡り盡さぬうちに人の子は來るべし。24 弟子はその師にまさらず、僕はその主にまさらず、25 弟子はその師のごとく、僕はその主の如くならば足れり。もし家主をベルゼブル

と呼びたらんには、ましてその家の者をや。 26 この故に、彼らを懼るな。蔽はれたるものに露れぬはなく、隠れたるものに知られぬは無ければなり。 27 暗黒にて我が告ぐることを光明にて言へ。耳をあてて聴くことを屋の上にて宣べよ。 28 身を殺して靈魂をこらし得ぬ者どもを懼るな、身と靈魂とをゲヘナにて滅し得る者をおそれよ。 (Geenna g1067) 29 二羽の雀は一錢にて賣るにあらずや、然るに、汝らの父の許なくば、その一羽も地に落つること無からん。 30 汝らの頭の髪までも皆かぞへらる。 31 この故におそるな、汝らは多くの雀よりも優るるなり。 32 されど凡そ人の前にて我を言ひあらはす者を、我もまた天にいます我が父の前にて言ひ顯さん。 33 されど人の前にて我を否む者を、我もまた天にいます我が父の前にて否まん。 34 われ地に平和を投ぜんために來れりと思ふな。平和にあらず、反つて劍を投ぜん爲に來れり。 35 それ我が來れるは、人をその父より、娘をその母より、嫁をその姑嬢より分たん爲なり。 36 人の仇はその家の者なるべし。 37 我よりも父または母を愛する者は、我に相應しからず。我よりも息子または娘を愛する者は、我に相應しからず。 38 又おのが十字架をとりて我に従はぬ者は、我に相應しからず。 39 生命を得る者はこれを失ひ、我がために生命を失ふ者はこれを得べし。 40 汝らを受くる者は、我を受くるなり。我をうくる者は、我を遣し給ひし者を受くるなり。 41 預言者たる名の故に預言者をうくる者は、預言者の報を受け、義人たる名のゆゑに義人をうくる者は、義人の報を受くべし。 42 凡そわが弟子たる名の故に、この小き者の一人に冷かなる

水一杯にても與ふる者は、まことに汝らに告ぐ、必ずその報を失はざるべし』

11 イエス十二弟子に命じ終へてのち、町々にて教へ、かつ、宣傳へんとて、此處を去り給へり。 **2** ヨハネ牢舎にてキリストの御業をきき、弟子たちを遣して、 **3** イエスに言はしむ『來るべき者は汝なるか、或は、他に待つべきか』 **4** 答へて言ひたまふ『ゆきて、汝らが見聞する所をヨハネに告げよ。 **5** 盲人は見、跛者はあゆみ、癩病人は潔められ、聾者はきき、死人は甦へらせられ、貧しき者は福音を聞かせらる。 **6** おほよそ我に躓かぬ者は幸福なり』 **7** 彼らの歸りたるをり、ヨハネの事を群衆に言ひ出でたまふ『なんぢら何を眺めんとて野に出でし、風にそよぐ葦なるか。 **8** さらに何を見んとて出でし、柔かき衣を著たる人なるか。視よ、やはらかき衣を著たる者は、王の家に在り。 **9** さらに何のために出でし、預言者を見んとてか。然り、汝らに告ぐ、預言者よりも勝る者なり。 **10** 「視よ、わが使をなんぢの顔の前につかはす。彼はなんぢの前に、なんぢの道をそなへん」と録されたるは此の人なり。 **11** 誠に汝らに告ぐ、女の産みたる者のうち、バプテスマのヨハネより大なる者は起らざりき。されど天國にて小き者も、彼よりは大なり。 **12** バプテスマのヨハネの時より今に至るまで、天國は烈しく攻めらる、烈しく攻むる者はこれを奪ふ。 **13** 凡ての預言者と律法との預言したるは、ヨハネの時までなり。 **14** もし汝等わが言をうけんことを願はば、來るべきエリヤは此の人なり、 **15** 耳ある者は聽くべし。 **16** われ今の代を何に比へん、童子、市場に坐し、友を呼びて、 **17** 「

われら汝等のために笛吹きたれど、汝ら踊らず、歎きたれど、汝ら胸うたざりき」と言ふに似たり。18 それは、ヨハネ來りて飲食せざれば「惡鬼に憑かれたる者なり」といひ、19 人の子來りて飲食すれば、「視よ、食を貪り酒を好む人、また取税人・罪人の友なり」と言ふなり。されど智慧は己が業によりて正しとせらる』20 爰にイエス多くの能力ある業を行ひ給へる町々の悔改めぬによりて、之を責めはじめ給ふ、21 『禍害なる哉コラジンよ、禍害なる哉ベツサイダよ、汝らの中にて行ひたる能力ある業を、ツロとシドンとにて行ひしならば、彼らは早く荒布を著、灰の中にて悔改めしならん。22 されば汝らに告ぐ、審判の日にはツロとシドンとのかた汝等よりも耐へ易からん。23 カペナウムよ、なんぢは天にまで擧げらるべきか、黄泉にまで下らん。汝のうちにて行ひたる能力ある業を、ソドムにて行ひしならば、今日までもかの町は遺りしならん。(Hadēs g86) 24 されば汝らに告ぐ、審判の日にはソドムの地のかた汝よりも耐へ易からん』25 その時イエス答へて言ひたまふ『天地の主なる父よ、われ感謝す、此等のことを智き者慧き者にかくして、嬰兒に顯し給へり。26 父よ、然り、かくの如きは御意に適へるなり。27 すべての物は我わが父より委ねられたり。子を知る者は父の外になく、父をしる者は子または子の欲するまゝに顯すところの者の外になし。28 凡て勞する者・重荷を負ふ者、われに來れ、われ汝らを休ません。29 我は柔和にして心卑ければ、我が軛を負ひて我に學べ、さらば靈魂に休息を得ん。30 わが軛は易く、わが荷は輕ければなり』

12 その頃イエス安息日に麥阜をとほり給ひしに、弟子たち飢ゑて穂を摘み、食ひ始めたるを、**2** パリサイ人見てイエスに言ふ『視よ、なんぢの弟子は安息日に爲まじき事をなす』**3** 彼らに言ひ給ふ『ダビデがその伴へる人々とともに飢ゑしとき、爲しし事を讀まぬか。**4** 即ち神の家に入りて、祭司のほかは、己もその伴へる人々も食ふまじき供のパンを食へり。**5** また安息日に祭司らは宮の内にて安息日を犯せども、罪なきことを律法にて讀まぬか。**6** われ汝らに告ぐ、宮より大なる者ここに在り。**7** 「われ憐憫を好みて犠牲を好まず」とは、如何なる意かを汝ら知りたらんには、罪なき者を罪せざりしならん。**8** それ人の子は安息日の主たるなり』**9** イエス此處を去りて、彼らの會堂に入り給ひしに、**10** 視よ、片手なえたる人あり。人々イエスを訴へんと思ひ、問ひていふ『安息日に人を醫すことは善きか』**11** 彼らに、言ひたまふ『汝等のうち一匹の羊をもてる者あらんに、もし安息日に穴に陥らば、之を取りあげぬか。**12** 人は羊より優ること如何ばかりぞ。さらば安息日に善をなすは可し』**13** ここにかの人に言ひ給ふ『なんぢの手を伸べよ』かれ伸べたれば、他の手のごとく癒ゆ。**14** パリサイ人いでていかにしてかイエスを亡さんと議る。**15** イエス之を知りて此處を去りたまふ。多くの人したがひ來りたれば、ことごとく之を醫し、**16** かつ我を人に知らすなと戒め給へり。**17** これ預言者イザヤによりて云はれたる言の成就せんためなり。曰く、**18** 『視よ、わが選びたる我が僕、わが心の悦ぶ我が愛しむ者、我わが靈を彼に與へん、彼は異邦人に正義を告げ示さん。**19** 彼は争

はず、叫ばず、その聲を大路にて聞く者なからん。
20 正義をして勝ち遂げしむるまでは、傷へる葦を折ることなく、煙れる亞麻を消すことなからん。 21 異邦人も彼の名に望をおかん』 22 ここに悪鬼に憑かれたる盲目の啞者を御許に連れ來りたれば、之を醫して、啞者の物言ひ見ゆるやうに爲し給ひぬ。 23 群衆みな驚きて言ふ『これはダビデの子にあらぬか』
24 然るにパリサイ人ききて言ふ『この人、悪鬼の首ベルゼブルによらでは、悪鬼を逐ひ出すことなし』
25 イエス彼らの思を知りて言ひ給ふ『すべて分れ争ふ國はほろび、分れ争ふ町また家はたたず。 26 サタンもしサタンを逐ひ出さば、自ら分れ争ふなり。さらばその國いかで立つべき。 27 我もしベルゼブルによりて悪鬼を逐ひ出さば、汝らの子は誰によりて之を逐ひ出すか。この故に彼らは汝らの審判人となるべし。 28 されど我もし神の靈によりて悪鬼を逐ひ出さば、神の國は既に汝らに到れるなり。 29 人まづ強き者を縛らずば、いかで強き者の家に入りて、その家財を奪ふことを得ん、縛りて後その家を奪ふべし。 30 我と偕ならぬ者は我にそむき、我とともに集めぬ者は散すなり。 31 この故に汝らに告ぐ、人の凡ての罪と瀆とは赦されん、されど御靈を瀆すことは赦されじ。 32 誰にても言をもて人の子に逆ふ者は赦されん、されど言をもて聖靈に逆ふ者は、この世にても後の世にても赦されじ。(aiōn g165) 33 或は樹をも善しとし、果をも善しとせよ。或は樹をも悪しとし、果をも悪しとせよ。樹は果によりて知らるるなり。
34 虻の裔よ、なんぢら悪しき者なるに、争で善きことを言ひ得んや。それ心に滿つるより口に言はるる

なり。 35 善き人は善き倉より善き物をいだし、悪しき人は悪しき倉より悪しき物をいだす。 36 われ汝らに告ぐ、人の語る凡ての虚しき言は、審判の日に糾さるべし。 37 それは汝の言によりて義とせられ、汝の言によりて罪せらるるなり』 38 ここに或學者・パリサイ人ら答へて言ふ『師よ、われら汝の徴を見んことを願ふ』 39 答へて言ひたまふ『邪曲にして不義なる代は徴を求む、されど預言者ヨナの徴のほかには徴は與へられじ。 40 即ち「ヨナが三日三夜、大魚の腹の中に在りし」ごとく、人の子も三日三夜、地の中に在るべきなり。 41 ニネベの人、審判のとき今の代の人とともに立ちて之が罪を定めん、彼らはヨナの宣ぶる言によりて悔改めたり。視よ、ヨナよりも勝るもの此處に在り。 42 南の女王、審判のとき今の代の人とともに起きて之が罪を定めん、彼はソロモンの智慧を聽かんとて地の極より來れり。視よ、ソロモンよりも勝る者ここに在り。 43 穢れし靈、人を出づるときは、水なき處を巡りて休を求む、而して得ず。 44 乃ち「わが出でし家に歸らん」といひ、歸りて、その家の空きて掃き淨められ、飾られたるを見、 45 遂に往きて己より悪しき他の七つの靈を連れきたり、共に入りて此處に住む。されば其の人の後の状は前よりも悪くなるなり。邪曲なる此の代もまた斯くの如くならん』 46 イエスなほ群衆にかたり居給ふとき、視よ、その母と兄弟たちと、彼に物言はんとて外に立つ。 47 或人イエスに言ふ『視よ、なんぢの母と兄弟たちと、汝に物言はんとて外に立てり』 48 イエス告げし者に答へて言ひたまふ『わが母とは誰ぞ、わが兄弟とは誰ぞ』 49 かくて手を

のべ、弟子たちを指して言ひたまふ『視よ、これは我が母、わが兄弟なり。50誰にても天にいます我が父の御意をおこなふ者は、即ち我が兄弟、わが姉妹、わが母なり』

13 その日イエスは家を出でて、海邊に坐したまふ。2大なる群衆みもとに集りたれば、イエスは舟に乗りて坐したまひ、群衆はみな岸に立てり。3譬にて數多のことを語りて言ひたまふ、『視よ、種播く者まかんとて出づ。4播くとき路の傍らに落ちし種あり、鳥きたりて啄む。5土うすき礫地に落ちし種あり、土深からぬによりて速かに萌え出でたれど、6日の昇りし時やけて根なき故に枯る。7茨の地に落ちし種あり、茨そだちて之を塞ぐ。8良き地に落ちし種あり、あるひは百倍、あるひは六十倍、あるひは三十倍の實を結べり。9耳ある者は聽くべし』10弟子たち御許に來りて言ふ『なにゆゑ譬にて彼らに語り給ふか』11答へて言ひ給ふ『なんぢらは天國の奧義を知ることが許されたれど、彼らは許されず。12それ誰にても、有てる人は與へられて愈々豊ならん。されど有たぬ人は、その有てる物をも取らるべし。13この故に彼らには譬にて語る、これ彼らは見ゆれども見ず、聞ゆれども聽かず、また悟らぬ故なり、14かくてイザヤの預言は、彼らの上に成就す。曰く、「なんぢら聞きて聞けども悟らず、見て見れども認めず。15この民の心は鈍く、耳は聞くに懶く、目は閉ぢたればなり。これ目にて見、耳にて聽き、心にて悟り、翻へりて、我に醫さるる事なからん爲なり」16されど汝らの目なんぢらの耳は、見るゆゑに聞くゆゑに、幸福なり。17まことに汝らに告ぐ

、多くの預言者・義人は、汝らが見る所を見んとせしが見ず、なんぢらが聞く所を聞かんとせしが聞かざりしなり。 **18** されば汝ら種播く者の譬を聽け。 **19** 誰にても天國の言をききて悟らぬときは、悪しき者きたりて、其の心に播かれたるものを奪ふ。路の傍らに播かれしとは斯かる人なり。 **20** 礮地に播かれしとは、御言をききて、直ちに喜び受くれども、 **21** 己に根なければ暫し耐ふるのみにて、御言のために艱難あるひは迫害の起るときは、直ちに躓くものなり。 **22** 茨の中に播かれしとは、御言をきけども、世の心勞と財貨の惑とに、御言を塞がれて實らぬものなり。 (aiōn g165) **23** 良き地に播かれしとは、御言をききて悟り、實を結びて、あるひは百倍、あるひは六十倍、あるひは三十倍に至るものなり』 **24** また他の譬を示して言ひたまふ『天國は良き種を畑にまく人のごとし。 **25** 人々の眠れる間に、仇きたりて麥のなかに毒麥を播きて去りぬ。 **26** 苗はえ出でて實りたるとき、毒麥もあらはる。 **27** 僕ども來りて家主にいふ「主よ、畑に播きしは良き種ならずや、然るに如何にして毒麥あるか」 **28** 主人いふ「仇のなしたるなり」僕ども言ふ「さらば我らが往きて之を抜き集むるを欲するか」 **29** 主人いふ「いな、恐らくは毒麥を抜き集めんとて、麥をも共に抜かん。 **30** 兩ながら收穫まで育つに任せよ。收穫のとき我かる者に「まづ毒麥を抜きあつめて、焚くために之を束ね、麥はあつめて我が倉に納れよ」と言はん』 **31** また他の譬を示して言ひたまふ『天國は一粒の芥種のごとし、人これを取りてその畑に播くときは、 **32** 萬の種よりも小けれど、育ちては他の野菜よりも大く

、樹となりて、空の鳥きたり其の枝に宿るほどなり
』 33 また他の譬を語りたまふ『天國はパンだねのご
とし、女これを取りて、三斗の粉の中に入るれば、
ことごとく脹れいだすなり』 34 イエスすべて此等
のことを、譬にて群衆に語りたまふ、譬ならでは何
事も語り給はず。 35 これ預言者によりて云はれたる
言の成就せん爲なり。曰く、『われ譬を設けて口を
開き、世の創より隠れたる事を言ひ出さん』 36 ここ
に群衆を去らしめて、家に入りたまふ。弟子たち御
許に來りて言ふ『畑の毒 麥の譬を我らに解きたまへ
』 37 答へて言ひ給ふ『良き種を播く者は人の子なり
、 38 畑は世界なり、良き種は天國の子どもなり、毒
麥は悪しき者の子どもなり、 39 之を播きし仇は悪魔
なり、收穫は世の終なり、刈る者は御使たちなり。
(aiōn g165) 40 されば毒 麥の集められて火に焚かるる如
く、世の終にも斯くあるべし。(aiōn g165) 41 人の子そ
の使たちを遣さん。彼ら御國の中より凡ての顛躓と
なる物と不法をなす者とを集めて、 42 火の爐に投げ
入るべし、其處にて哀哭・切齒することあらん。 43
其のとき義人は父の御國にて日のごとく輝かん。耳
ある者は聴くべし。 44 天國は畑に隠れたる寶のごと
し。人見出さば、之を隠しおきて、喜びゆき、有て
る物をことごとく賣りて其の畑を買ふなり。 45 また
天國は良き眞珠を求むる商人のごとし。 46 價たかき
眞珠一つを見出さば、往きて有てる物をことごとく
賣りて、之を買ふなり。 47 また天國は、海におろし
て各様のものを集むる網のごとし。 48 充つれば岸に
ひきあげ、坐して良きものを器に入れ、悪しきもの
を棄つるなり。 49 世の終にも斯くあるべし。御使た

ち出でて、義人の中より悪人を分ちて、 (aiōn g165) 50
之を火の爐に投げ入るべし。其處にて哀哭・切齒す
ることあらん。 51 汝等これらの事をみな悟りしか
』彼等いふ『然り』 52 また言ひ給ふ『この故に、
天國のことを教へられたる凡ての學者は、新しき物
と舊き物とをその倉より出す家主のごとし』 53 イエ
スこれらの譬を終へて此處を去りたまふ。 54 己が郷
にいたり、會堂にて教へ給へば、人々おどろきて言
ふ『この人はこの智慧と此等の能力とを何處より得
しぞ。 55 これ木匠の子にあらずや、其の母はマリヤ
、其の兄弟はヤコブ、ヨセフ、シモン、ユダにあら
ずや。 56 又その姉妹も皆われらと共にをるに非ずや
。然るに此等のすべての事は何處より得しぞ』 57
遂に人々かれに躓けり。イエス彼らに言ひたまふ『
預言者は、おのが郷おのが家の外にて尊ばれざる事
なし』 58 彼らの不信仰によりて其處にては多くの
能力ある業を爲し給はざりき。

14 そのころ、國守ヘロデ、イエスの噂をききて、 2
侍臣どもに言ふ『これバプテスマのヨハネなり。か
れ死人の中より甦へりたり、さればこそ此等の能力
その内に働くなれ』 3 ヘロデ先に、己が兄弟ピリポ
の妻ヘロデヤの爲にヨハネを捕へ、縛りて獄に入れ
たり。 4 ヨハネ、ヘロデに『かの女を納るるは宜し
からず』と言ひしに因る。 5 かくてヘロデ、ヨハネ
を殺さんと思へど、群衆を懼れたり。群衆ヨハネを
預言者とすればなり。 6 然るにヘロデの誕生日に當
り、ヘロデヤの娘その席上に舞をまひてヘロデを喜
ばせたれば、 7 ヘロデ之に何にても求むるままに與
へんと誓へり。 8 娘その母に唆かされて言ふ『バプ

テスマのヨハネの首を盆に載せてここに賜はれ』 9
王 憂ひたれど、その誓と席に在る者とに對して、之
を與ふことを命じ、 10 人を遣し獄にてヨハネの首
を斬り、 11 その首を盆にのせて持ち來らしめ、之を
少女に與ふ。少女はこれを母に捧ぐ。 12 ヨハネの弟
子たち來り、屍體を取りて葬り、往きて、イエスに
告ぐ。 13 イエス之を聞きて人を避け、其處より舟に
のりて寂しき處に往き給ひしを群衆ききて町々より
徒歩にて従ひゆく。 14 イエス出でて大なる群衆を見
、これを憫みて、その病める者を醫し給へり。 15 夕
になりたれば、弟子たち御許に來りて言ふ『ここは
寂しき處、はや時も晩し、群衆を去らしめ、村々に
往きて、己が爲に食物を買はせ給へ』 16 イエス言ひ
給ふ『かれら往くに及ばず、汝ら之に食物を與へよ
』 17 弟子たち言ふ『われらが此處にもてるは、唯
五つのパンと二つの魚とのみ』 18 イエス言ひ給ふ『
それを我に持ちきたれ』 19 かくて群衆に命じて草の
上に坐せしめ、五つのパンと二つの魚とを取り、天
を仰ぎて祝し、パンを裂きて、弟子たちに與へ給へ
ば、弟子たち之を群衆に與ふ。 20 凡ての人 食ひて
飽く、裂きたる餘を集めしに十二の筐に滿ちたり。
21 食ひし者は、女と子供とを除きて凡そ五千人なり
き。 22 イエス直ちに弟子たちを強ひて舟に乗らせ、
自ら群衆をかへす間に、彼方の岸に先に往かしむ。
23 かくて群衆を去らしめてのち、祈らんとて竊に山
に登り、夕になりて獨そこにお給ふ。 24 舟ははや陸
より數丁はなれ、風 逆ふによりて波に難されりたり。
25 夜明の四時ごろ、イエス海の上を歩みて、彼ら
に到り給ひしに、 26 弟子たち其の海の上を歩み給ふ

を見て心騒ぎ、變化の者なりと言ひて懼れ叫ぶ。 27 イエス直ちに彼らに語りて言ひたまふ『心安かれ、我なり、懼るな』 28 ペテロ答へて言ふ『主よ、もし汝ならば我に命じ、水を踏みて御許に到らしめ給へ』 29 『來れ』と言ひ給へば、ペテロ舟より下り、水の上を歩みてイエスの許に往く。 30 然るに風を見て懼れ、沈みかかりければ、叫びて言ふ『主よ、我を救ひたまへ』 31 イエス直ちに御手を伸べ、これを捉へて言ひ給ふ『ああ信仰うすき者よ、何ぞ疑ふか』 32 相共に舟に乗りしとき、風やみたり。 33 舟に居る者どもイエスを拜して言ふ『まことに汝は神の子なり』 34 遂に渡りてゲネサレの地に著きしに、 35 その處の人々イエスを認めて、あまねく四方に人をつかはし、又すべての病める者を連れきたり、 36 ただ御衣の總にだに觸らしめ給はんことを願ふ、觸りし者はみな醫されたり。

15 ここにパリサイ人・學者ら、エルサレムより來りてイエスに言ふ、 2 『なにゆゑ汝の弟子は、古への人の言傳を犯すか、食事のときに手を洗はぬなり』 3 答へて言ひ給ふ『なにゆゑ汝らは、また汝らの言傳によりて神の誠命を犯すか。 4 即ち神は「父母を敬へ」と言ひ「父または母を罵る者は必ず殺さるべし」と言ひたまへり。 5 然るに汝らは「誰にても父または母に對ひて、我が負ふ所のものは供物となりたりと言はば、 6 父または母を敬ふに及ばず」と言ふ。斯くその言傳によりて神の言を空しうす。 7 偽善者よ、宜なる哉、イザヤは汝らに就きて能く預言せり。曰く、 8 「この民は口唇にて我を敬ふ、されど其の心は我に遠ざかる。 9 ただ徒らに我を拜む

。人の訓誡を教とし教へて」』 10 かくて群衆を呼び寄せて言ひたまふ『聽きて悟れ。 11 口に入るものは人を汚さず、されど口より出づるものは、これ人を汚すなり』 12 ここに弟子たち御許に來りていふ『御言をききてパリサイ人の躓きたるを知り給ふか』 13 答へて言ひ給ふ『わが天の父の植ゑ給はぬものは、みな抜かれん。 14 彼らを捨ておけ、盲人を手引する盲人なり、盲人もし盲人を手引せば、二人とも穴に落ちん』 15 ペテロ答へて言ふ『その譬を我らに解き給へ』 16 イエス言ひ給ふ『なんぢらも今なほ悟りなきか。 17 凡て口に入るものは腹にゆき、遂に厠に棄てらるる事を悟らぬか。 18 されど口より出づるものは心より出づ、これ人を汚すものなり。 19 それ心より悪しき念いづ、すなはち殺人・姦淫・淫行・竊盜・偽證・誹謗、 20 これらは人を汚すものなり、されど洗はぬ手にて食する事は人を汚さず』 21 イエスここを去りてツロとシドンとの地方に往き給ふ。 22 視よ、カナンの女その邊より出できたり、叫びて『主よ、ダビデの子よ、我を憫み給へ、わが娘、悪鬼につかれて甚く苦しむ』と言ふ。 23 されどイエス一言も答へ給はず。弟子たち來り請ひて言ふ『女を歸したまへ、我らの後より叫ぶなり』 24 答へて言ひたまふ『我はイスラエルの家の失せたる羊のほかには遣されず』 25 女きたり拜して言ふ『主よ、我を助けたまへ』 26 答へて言ひたまふ『子供のパンをとりて小狗に投げ與ふるは善からず』 27 女いふ『然り、主よ、小狗も主人の食卓よりおつる食屑を食ふなり』 28 ここにイエス答へて言ひたまふ『をんなよ、汝の信仰は大なるかな、願のごとく汝になれ』 娘この時より

癒えたり。 **29** イエス此處を去り、ガリラヤの海邊にいたり、而して山に登り、そこに坐し給ふ。 **30** 大なる群衆、跛者・不具・盲人・啞者および他の多くの者を連れ來りて、イエスの足下に置きたれば、醫し給へり。 **31** 群衆は、啞者の物いひ、不具の癒え、跛者の歩み、盲人の見たるを見て之を怪しみ、イスラエルの神を崇めたり。 **32** イエス弟子たちを召して言ひ給ふ『われ此の群衆をあはれむ、既に三日われと偕にをりて食ふべき物なし。飢ゑたるままにて歸らしむるを好まず、恐らくは途にて疲れ果てん』 **33** 弟子たち言ふ『この寂しき地にて、斯く大なる群衆を飽かしむべき多くのパンを、何處より得べき』 **34** イエス言ひ給ふ『パン幾つあるか』彼らいふ『七つ、また小き魚すこしあり』 **35** イエス群衆に命じて地に坐せしめ、 **36** 七つのパンと魚とを取り、謝して之をさき弟子たちに與へ給へば、弟子たちこれを群衆に與ふ。 **37** 凡ての人くらひて飽き、裂きたる餘を拾ひしに、七つの籃に満ちたり。 **38** 食ひし者は、女と子供とを除きて四千人なりき。 **39** イエス群衆をかへし、舟に乗りてマガダンの地方に往き給へり。

16 パリサイ人とサドカイ人と來りてイエスを試み、天よりの徴を示さんことを請ふ。 **2** 答へて言ひたまふ『夕には汝ら「空あかき故に晴ならん」と言ひ、 **3** また朝には「そら赤くして曇る故に、今日は風雨ならん」と言ふ。なんぢら空の氣色を見分くることを知りて、時の徴を見分くること能はぬか。 **4** 邪曲にして不義なる代は徴を求む、されどヨナの徴の外に徴は與へられじ』かくて彼らを離れて去り給ひぬ。 **5** 弟子たち彼方の岸に到りしに、パンを携ふる

ことを忘れたり。 6 イエス言ひたまふ『慎みてパリサイ人とサドカイ人とのパン種に心せよ』 7 弟子たち互に『我らはパンを携へざりき』と語り合ふ。 8 イエス之を知りて言ひ給ふ『ああ信仰うすき者よ、何ぞパン無きことを語り合ふか。 9 未だ悟らぬか、五つのパンを五千人に分ちて、その餘を幾籃ひろひ、 10 また七つのパンを四千人に分ちて、その餘を幾籃ひろひしかを覚えぬか。 11 我が言ひしはパンの事にあらぬを何ぞ悟らざる。唯パリサイ人とサドカイ人とのパンだねに心せよ』 12 ここに弟子たちイエスの心せよと言ひ給ひしは、パンの種にはあらで、パリサイ人とサドカイ人との教なることを悟れり。 13 イエス、ピリポ・カイザリヤの地方にいたり、弟子たちに問ひて言ひたまふ『人々は人の子を誰と言ふか』 14 彼等いふ『或人はバプテスマのヨハネ、或人はエリヤ、或人はエレミヤ、また預言者の一人』 15 彼らに言ひたまふ『なんぢらは我を誰と言ふか』 16 シモン・ペテロ答へて言ふ『なんぢはキリスト、活ける神の子なり』 17 イエス答へて言ひ給ふ『バルヨナ・シモン、汝は幸福なり、汝に之を示したるは血肉にあらず、天にいます我が父なり。 18 我はまた汝に告ぐ、汝はペテロなり、我この磐の上に我が教會を建てん、黄泉の門はこれに勝たざるべし。 (Hadēs g86) 19 われ天國の鍵を汝に與へん、凡そ汝が地にて縛ぐ所は天にても縛ぎ、地にて解く所は天にても解くなり』 20 ここにイエス、己がキリストなる事を誰にも告ぐなど、弟子たちを戒め給へり。 21 この時よりイエス・キリスト、弟子たちに、己のエルサレムに往きて、長老・祭司長・學者らより多くの苦難を

受け、かつ殺され、三日めに甦へるべき事を示し始めたまふ。 22 ペテロ、イエスを傍にひき戒め出でて言ふ『主よ、然あらざれ、此の事なんぢに起らざるべし』 23 イエス振反りてペテロに言ひ給ふ『サタンよ、我が後に退け、汝はわが躓物なり、汝は神のことを思はず、反つて人のことを思ふ』 24 ここにイエス弟子たちに言ひたまふ『人もし我に従ひ來らんと思はば、己をすて、己が十字架を負ひて、我に従へ。 25 己が生命を救はんと思ふ者は、これを失ひ、我がために己が生命をうしなふ者は、之を得べし。 26 人、全世界を贏くとも、己が生命を損せば、何の益あらん、又その生命の代に何を與へんや。 27 人の子は父の榮光をもて、御使たちと共に來らん。その時おのおのの行爲に隨ひて報ゆべし。 28 まことに汝らに告ぐ、ここに立つ者のうちに、人の子のその國をもて來るを見るまでは、死を味はぬ者どもあり』

17 六日の後、イエス、ペテロ、ヤコブ及びヤコブの兄弟ヨハネを率きつれ、人を避けて高き山に登りたまふ。 2 かくて彼らの前にてその状かはり、其の顔は日のごとく輝き、その衣は光のごとく白くなりぬ。 3 視よ、モーセとエリヤとイエスに語りつつ彼らに現る。 4 ペテロ差出でてイエスに言ふ『主よ、我らの此處に居るは善し。御意ならば我ここに三つの廬を造り、一つを汝のため、一つをモーセのため、一つをエリヤの爲にせん』 5 彼なほ語りをするとき、視よ、光れる雲かれらを覆ふ。また雲より聲あり、曰く『これは我が愛しむ子、わが悦ぶ者なり、汝ら之に聽け』 6 弟子たち之を聞きて倒れ伏し、懼ること甚だし。 7 イエスその許にきたり之に觸りて

『起きよ、懼るな』と言ひ給へば、**8** 彼ら目を擧げしに、イエス一人の他は誰も見えざりき。**9** 山を下るとき、イエス彼らに命じて言ひたまふ『人の子の死人の中より甦へるまでは、見たることを誰にも語るな』**10** 弟子たち問ひて言ふ『さらばエリヤ先づ來るべしと學者らの言ふは何ぞ』**11** 答へて言ひたまふ『實にエリヤ來りて萬の事をあらためん。**12** 我なんぢらに告ぐ、エリヤは既に來れり。されど人々これを知らず、反つて心のままに待へり。かくのごとく人の子もまた人々より苦しめらるべし』**13** ここに弟子たちバプテスマのヨハネを指して言ひ給ひしなるを悟れり。**14** かれら群衆の許に到りしとき、或人御許にきたり跪づきて言ふ、**15** 『主よ、わが子を憫みたまへ。癩癩にて難み、しばしば火の中に、しばしば水の中に倒るるなり。』**16** 之を御弟子たちに連れ來りしに、醫すこと能はざりき』**17** イエス答へて言ひ給ふ『ああ信なき曲れる代なるかな、我いつまで汝らと偕にをらん、何時まで汝らを忍ばん。その子を我に連れきたれ』**18** 遂にイエスこれを禁め給へば、惡鬼いでてその子この時より癒えたり。**19** ここに弟子たち竊にイエスに來りて言ふ『われらは何故に逐ひ出し得ざりしか』**20** 彼らに言ひ給ふ『なんぢら信仰うすき故なり。まことに汝らに告ぐ、もし芥種一粒ほどの信仰あらば、この山に「此處より彼處に移れ」と言ふとも移らん、かくて汝ら能はぬこと無かるべし』**21** [なし]**22** 彼らガリラヤに集ひをる時、イエス言ひたまふ『人の子は人の手に付され、**23** 人々は之を殺さん、かくて三日めに甦へるべし』弟子たち甚く悲しめり。**24** 彼らカペナウムに到りしと

き、納金を集むる者どもペテロに來りて言ふ『なんぢらの師は納金を納めぬか』 25 ペテロ『納む』と言ひ、やがて家に入りしに、逸速くイエス言ひ給ふ『シモンいかに思ふか、世の王たちは税または貢を誰より取るか、己が子よりか、他の者よりか』 26 ペテロ言ふ『ほかの者より』 イエス言ひ給ふ『されば子は自由なり。 27 されど彼らを躓かせぬ爲に、海に往きて釣をたれ、初に上る魚をとれ、其の口をひらかば銀貨一つを得ん、それを取りて我と汝との爲に納めよ』

18 そのとき弟子たちイエスに來りて言ふ『しからば天國にて大なるは誰か』 2 イエス幼兒を呼び、彼らの中に置いて言ひ給ふ 3 『まことに汝らに告ぐ、もし汝ら翻へりて幼兒の如くならずば、天國に入るを得じ。 4 されば誰にても此の幼兒のごとく己を卑うする者は、これ天國にて大なる者なり。 5 また我が名のために、かくのごとき一人の幼兒を受くる者は、我を受くるなり。 6 されど我を信ずる此の小さき者の一人を躓かす者は、寧ろ大なる礮臼を頸に懸けられ、海の深處に沈められんかた益なり。 7 この世は躓物あるによりて禍害なるかな。躓物は必ず來らん、されど躓物を來らす人は禍害なるかな。 8 もし汝の手または足なんぢを躓かせば、切りて棄てよ。不具または蹇跛にて生命に入るは、兩手 兩足ありて永遠の火に投げ入れらるるよりも勝るなり。 (aiōnios g166) 9 もし汝の眼なんぢを躓かせば、抜きて棄てよ。片眼にて生命に入るは、兩眼ありて火のゲヘナに投げ入れらるるよりも勝るなり。 (Geenna g1067) 10 汝ら慎みて此の小さき者の一人をも侮るな。我なんぢ

らに告ぐ、彼らの御使たちは天にありて、天にいます我が父の御顔を常に見るなり。 **11** [なし] **12** 汝等いかに思ふか、百匹の羊を有てる人あらんに、若しその一匹まよはば、九十九匹を山に遺しおき、往きて迷へるものを尋ねぬか。 **13** もし之を見出さば、まことに汝らに告ぐ、迷はぬ九十九匹に勝りて此の一匹を喜ばん。 **14** かくのごとく此の小さき者の一人の亡ぶるは、天にいます汝らの父の御意にあらず。 **15** もし汝の兄弟罪を犯さば、往きてただ彼とのみ相對して諫めよ。もし聽かば其の兄弟を得たるなり。 **16** もし聽かずば、一人・二人を伴ひ往け、これ二三の證人の口に由りて、凡ての事の慥められん爲なり。 **17** もし彼等にも聽かずば、教會に告げよ。もし教會にも聽かずば、之を異邦人または取税人のごとき者とすべし。 **18** まことに汝らに告ぐ、すべて汝らが地にて縛ぐ所は天にても縛ぎ、地にて解く所は天にても解くなり。 **19** また誠に汝らに告ぐ、もし汝等のうち二人、何にても求むる事につき地にて心を一つにせば、天にいます我が父は之を成し給ふべし。 **20** 二三人わが名によりて集る所には、我もその中に在るなり。 **21** ここにペテロ御許に來りて言ふ『主よ、わが兄弟われに對して罪を犯さば幾たび赦すべきか、七度までか』 **22** イエス言ひたまふ『否、われ「七度まで」とは言はず「七度を七十倍するまで」と言ふなり。 **23** この故に、天國はその家來どもと計算をなさんとする王のごとし。 **24** 計算を始めしとき、一萬タラントの負債ある家來つれ來られしが、 **25** 償ひ方なかりしかば、其の主人、この者と其の妻子と凡ての所有とを賣りて償ふことを命じたるに、 **26**

その家來ひれ伏し拜して言ふ「寛くし給へ、さらば悉とく償はん」 27 その家來の主人あはれみて之を解き、その負債を免したり。 28 然るに其の家來いでて、己より百デナリを負ひたる一人の同僚にあひ、之をとらへ、喉を締めて言ふ「負債を償へ」 29 その同僚ひれ伏し、願ひて「寛くし給へ、さらば償はん」と言へど、 30 肯はずして往き、その負債を償ふまで之を獄に入れたり。 31 同僚ども有りし事を見て甚く悲しみ、往きて有りし凡ての事をその主人に告ぐ。 32 ここに主人かれを呼び出して言ふ「悪しき家來よ、なんぢ願ひしによりて、かの負債をことごとく免せり。 33 わが汝を憫みしごとく、汝もまた同僚を憫むべきにあらずや」 34 斯くその主人、怒りて、負債をことごとく償ふまで彼を獄卒に付せり。 35 もし汝等おのおの心より兄弟を赦さずば、我が天の父も亦なんぢらに斯のごとく爲し給ふべし』

19 イエスこれらの言を語り終へて、ガリラヤを去り、ヨルダンの彼方なるユダヤの地方に來り給ひしに、 2 大なる群衆したがひたれば、此處にて彼らを醫し給へり。 3 パリサイ人ら來り、イエスを試みて言ふ『何の故にかかはらず、人その妻を出すは可きか』 4 答へて言ひたまふ『人を造り給ひしもの、元始より之を男と女とに造り、而して、 5 「かかる故に人は父母を離れ、その妻に合ひて、二人のもの一體となるべし」と言ひ給ひしを未だ讀まぬか。 6 されば、はや二人にはあらず、一體なり。この故に神の合せ給ひし者は、人これを離すべからず』 7 彼らイエスに言ふ『さらば何故モーセは離縁状を與へて出すことを命じたるか』 8 彼らに言ひ給ふ『モーセ

は汝の心つれなきによりて妻を出すことを許したり。されど元始より然にはあらぬなり。 9 われ汝らに告ぐ、おほよそ淫行の故ならで其の妻をいだし他に娶る者は、姦淫を行ふなり』 10 弟子たちイエスに言ふ『人もし妻のことに於てかくのごとくば、娶らざるに如かず』 11 彼らに言ひたまふ『凡ての人この言を受け容るるにはあらず、ただ授けられたる者のみなり。 12 それ生れながらの闖人あり、人に爲られたる闖人あり、また天國のために自らなりたる闖人あり、之を受け容れうる者は受け容るべし』 13 ここに人々イエスの手をおきて祈り給はんことを望みて、幼児らを連れ來りしに、弟子たち禁めたれば、 14 イエス言ひたまふ『幼児らを許せ、我に來るを止むな、天國はかくのごとき者の國なり』 15 かくて手を彼らの上におきて此處を去り給へり。 16 視よ、或人みもとに來りて言ふ『師よ、われ永遠の生命をうる爲には、如何なる善き事を爲すべきか』 (aiōnios g166) 17 イエス言ひたまふ『善き事につきて何ぞ我に問ふか、善き者は唯ひとりのみ。汝もし生命に入らんと思はば誠命を守れ』 18 彼いふ『孰を』 イエス言ひたまふ『「殺すなかれ」「姦淫するなかれ」「盗むなかれ」「偽證を立つる勿れ」 19 「父と母とを敬へ」また「己のごとく汝の隣を愛すべし』』 20 その若者いふ『我みな之を守れり、なほ何を缺くか』 21 イエス言ひたまふ『なんぢ若し全からんと思はば、往きて汝の所有を賣りて貧しき者に施せ、さらば財寶を天に得ん。かつ來りて我に従へ』 22 この言をききて、若者 悲しみつつ去りぬ。大なる資産を有てる故なり。 23 イエス弟子たちに言ひ給ふ『まことに汝らに

告ぐ、富める者の天國に入るは難し。 24 復なんぢらに告ぐ、富める者の神の國に入るよりは、駱駝の針の孔を通るかた反つて易し』 25 弟子たち之をきき、甚だしく驚きて言ふ『さらば誰か救はるることを得ん』 26 イエス彼らに目を注めて言ひ給ふ『これは人に能はねど、神は凡ての事をなし得るなり』 27 ここにペテロ答へて言ふ『視よ、われら一切をすてて汝に従へり、されば何を得べきか』 28 イエス彼らに言ひ給ふ『まことに汝らに告ぐ、世あらたまりて人の子その榮光の座位に坐するとき、我に従へる汝等もまた十二の座位に坐して、イスラエルの十二の族を審かん。 29 また凡そ我が名のために、或は家、あるひは兄弟、あるひは姉妹、あるひは父、あるひは母、あるひは子、あるひは田畑を棄つる者は、數倍を受け、また永遠の生命を嗣がん。(aiōnios g166) 30 されど多くの先なる者後に、後なる者先になるべし。

20 天國は労働人を葡萄園に雇ふために、朝早く出でたる主人のごとし。 2 一日一デナリの約束をなして、労働人どもを葡萄園に遣す。 3 また九時ごろ出でて市場に空しく立つ者どもを見て、 4 「なんぢらも葡萄園に往け、相當のものを與へん」といへば、彼らも往く。 5 十二時頃と三時頃とに復いでて前のごとくす。 6 五時頃また出でしに、なほ立つ者どものあるを見ていふ「何ゆゑ終日ここに空しく立つか」 7 かれら言ふ「たれも我らを雇はぬ故なり」主人いふ「なんぢらも葡萄園に往け」 8 夕になりて葡萄園の主人その家司に言ふ「労働人を呼びて、後の者より始め、先の者にまで賃銀をはらへ」 9 かくて五時ごろに雇はれしもの來りて、おのおの一デナリ

を受く。10 先の者きたりて、多く受くるならんと思ひしに、之も亦おのおの一デナリを受く。11 受けしとき、家主にむかひ呟きて言ふ、12 「この後の者どもは僅に一時間はたらきたるに、汝は一日の勞と暑さを忍びたる我らと均しく之を遇へり」13 主人こたへて其の一人に言ふ「友よ、我なんぢに不正をなさず、汝は我と一デナリの約束をせしにあらざるや。14 己が物を取りて往け、この後の者に汝とひとしく與ふるは、我が意なり。15 わが物を我が意のままにするは可からざるや、我よきが故に汝の目あしきか」16 かくのごとく後なる者は先に、先なる者は後になるべし』17 イエス、エルサレムに上らんとし給ふとき、竊に十二弟子を近づけて、途すがら言ひ給ふ、18 『視よ、我らエルサレムに上る、人の子は祭司長・學者らに付されん。彼ら之を死に定め、19 また嘲弄し、鞭うち、十字架につけん爲に異邦人に付さん、かくて彼は三日めに甦へるべし』20 ここにゼベダイの子らの母、その子らと共に御許にきたり、拜して何事か求めんとしたるに、21 イエス彼に言ひたまふ『何を望むか』かれ言ふ『この我が二人の子が汝の御國にて、一人は汝の右に、一人は左に坐せんことを命じ給へ』22 イエス答へて言ひ給ふ『なんぢらは求むる所を知らず、我が飲まんとする酒杯を飲み得るか』かれら言ふ『得るなり』23 イエス言ひたまふ『實に汝らは我が酒杯を飲むべし、されど我が右左に坐することは、これ我の與ふべきものならず、我が父より備へられたる人こそ與へらるるなれ』24 十人の弟子これを聞き、二人の兄弟の事によりて憤ほる。25 イエス彼らと呼ばひて言ひたまふ『異邦人の

君のその民を宰どり、大なる者の民の上に權を執ることは、汝らの知る所なり。 26 汝らの中には然らず、汝らの中に大ならんと思ふ者は、汝らの役者となり、 27 首たらんと思ふ者は汝らの僕となるべし。 28 かくのごとく、人の子の來れるも事へらるる爲にあらず、反つて事ふることをなし、又おほくの人の贖償として己が生命を與へん爲なり』 29 彼らエリコを出づるとき、大なる群衆イエスに従へり。 30 視よ、二人の盲人、路の傍らに坐しをりしが、イエスの過ぎ給ふことを聞き、叫びて言ふ『主よ、ダビデの子よ、我らを憫みたまへ』 31 群衆かれらを禁めて黙さしめんとしたれど、愈々 叫びて言ふ『主よ、ダビデの子よ、我らを憫み給へ』 32 イエス立ちどまり、彼らを呼びて言ひ給ふ『わが汝らに何を爲さんことを望むか』 33 彼ら言ふ『主よ、目の開かれんことなり』 34 イエスいたく憫みて彼らの目に觸り給へば、直ちに物見ることが得て、イエスに従へり。

21 彼らエルサレムに近づき、オリブ山の邊なるベテパゲに到りし時、イエス二人の弟子を遣さんとして言ひ給ふ、 2 『向の村にゆけ、やがて繋ぎたる驢馬のその子とともに在るを見ん、解きて我に牽ききたれ。 3 誰かもし汝らに何とか言はば「主の用なり」と言へ、さらば直ちに之を遣さん』 4 此の事の起りしは、預言者によりて云はれたる言の成就せん爲なり。曰く、 5 『シオンの娘に告げよ、「視よ、汝の王、なんぢに來り給ふ。柔和にして驢馬に乗り、軛を負ふ驢馬の子に乗りて』』 6 弟子たち往きて、イエスの命じ給へる如くして、 7 驢馬とその子とを牽ききたり、己が衣をその上におきたれば、イエス

之に乗りたまふ。 8 群衆の多くはその衣を途にしき、
或者は樹の枝を伐りて途に敷く。 9 かつ前にゆき
後にしたがふ群衆よばはりて言ふ『ダビデの子にホ
サナ、讃むべきかな、主の御名によりて來る者。い
と高き處にてホサナ』 10 遂にエルサレムに入り給へ
ば、都擧りて騒立ちて言ふ『これは誰なるぞ』 11
群衆いふ『これガリラヤのナザレより出でたる預言
者イエスなり』 12 イエス宮に入り、その内なる凡て
の賣買する者を逐ひいだし、兩替する者の臺、鴿を
賣る者の腰掛を倒して言ひ給ふ、 13 『「わが家は祈
の家と稱へらるべし」と録されたるに、汝らは之を
強盜の巢となす』 14 宮にて盲人・跛者ども御許に來
りたれば、之を醫したまへり。 15 祭司長・學者らイ
エスの爲し給へる不思議なる業と、宮にて呼はり『
ダビデの子にホサナ』と言ひをる子等とを見、憤ほ
りて、 16 イエスに言ふ『なんぢ彼らの言ふところを
聞くか』 イエス言ひ給ふ『然り「嬰兒 乳兒の口に讃
美を備へ給へり」とあるを未だ讀まぬか』 17 遂に彼
らを離れ、都を出でてベタニヤにゆき、そこに宿り
給ふ。 18 朝早く都にかへる時、イエス飢ゑたまふ。
19 路の傍なる一もとの無花果の樹を見て、その下
に到り給ひしに、葉のほかは何をも見出さず、之に
對ひて『今より後いつまでも果を結ばざれ』と言ひ
給へば、無花果の樹たちどころに枯れたり。(aiōn
g165) 20 弟子たち之を見、怪しみて言ふ『無花果の樹
の斯く立刻に枯れたるは何ぞや』 21 イエス答へて言
ひ給ふ『まことに汝らに告ぐ、もし汝ら信仰ありて
疑はずば、啻に此の無花果の樹にありし如きことを
爲し得るのみならず、此の山に「移りて海に入れ」

と言ふとも亦成るべし。 22 かつ祈のとき何にても信じて求めば、ことごとく得べし』 23 宮に到りて教へ給ふとき、祭司長・民の長老ら御許に來りて言ふ『何の權威をもて此等の事をなすか、誰がこの權威を授けしか』 24 イエス答へて言ひたまふ『我も一言なんぢらに問はん、もし夫を告げなば、我もまた何の權威をもて此等のことを爲すかを告げん。 25 ヨハネのパプテスマは何處よりぞ、天よりか、人よりか』かれら互に論じて言ふ『もし天よりと言はば「何故かれを信ぜざりし」と言はん。 26 もし人よりと言はんか、人みなヨハネを預言者と認むれば、我らは群衆を恐る』 27 遂に答へて『知らず』と言へり。イエスもまた言ひたまふ『我も何の權威をもて此等のことを爲すか汝らに告げじ。 28 なんぢら如何に思ふか、或人ふたりの子ありしが、その兄にゆきて言ふ「子よ、今日、葡萄園に往きて働け」 29 答へて「主よ、我ゆかん」と言ひて終に往かず。 30 また弟にゆきて同じやうに言ひしに、答へて「往かじ」と言ひたれど、後くいて往きたり。 31 この二人のうち孰か父の意を爲しし』彼らいふ『後の者なり』イエス言ひ給ふ『まことに汝らに告ぐ、取税人と遊女とは汝らに先だちて神の國に入るなり。 32 それヨハネ義の道をもて來りしに、汝らは彼を信ぜず、取税人と遊女とは信じたり。然るに汝らは之を見し後も、なほ悔改めずして信ぜざりき。 33 また一つの譬を聽け、ある家主、葡萄園をつくりて籬をめぐらし、中に酒槽を掘り、櫓を建て、農夫どもに貸して遠く旅立せり。 34 果期ちかづきたれば、その果を受取らんとて僕らを農夫どもの許に遣ししに、 35 農夫どもそ

の僕らを執へて、一人を打ちたたき、一人をころし、一人を石にて撃てり。 36 復ほかの僕らを前よりも多く遣ししに、之をも同じやうに遇へり。 37 「わが子は敬ふならん」と言ひて、遂にその子を遣ししに、 38 農夫ども此の子を見て互に言ふ「これは世嗣なり、いざ殺して、その嗣業を取らん」 39 かくて之をとらへ、葡萄園の外に逐ひ出して殺せり。 40 さらば葡萄園の主人きたる時、この農夫どもに何を爲さんか』 41 かれら言ふ『その悪人どもを飽くまで滅し、果期におよびて果を納むる他の農夫どもに葡萄園を貸し與ふべし』 42 イエス言ひたまふ『聖書に、「造家者らの棄てたる石は、これぞ隅の首石となれる、これ主によりて成れるにて、我らの目には奇しきなり」とあるを汝ら未だ讀まぬか。 43 この故に汝らに告ぐ、汝らは神の國をとられ、其の果を結ぶ國人は、之を與へらるべし。 44 この石の上に倒るる者はくだけ、又この石、人のうへに倒るれば、其の人を微塵とせん』 45 祭司長・パリサイ人ら、イエスの譬をきき、己らを指して語り給へるを悟り、 46 イエスを執へんと思へど群衆を恐れたり、群衆かれを預言者とするに因る。

22 イエスまた譬をもて答へて言ひ給ふ 2 『天國は己が子のために婚筵を設くる王のごとし。 3 婚筵に招きおきたる人々を迎へんとて僕どもを遣ししに、來るを肯はず。 4 復ほかの僕どもを遣すとて言ふ「招きたる人々に告げよ、視よ、晝餐は既に備りたり。我が牛も肥えたる畜も屠られて、凡ての物 備りたれば、婚筵に來れと」 5 然るに人々 顧みずして、或者は己が畑に、或者は己が商賣に往けり。 6 また他

の者は僕を執へて、辱しめかつ殺したれば、7王怒りて軍勢を遣し、かの兇行者を滅して其の町を焼きたり。8かくて僕どもに言ふ「婚筵は既に備りたれど、招きたる者どもは相應しからず。9されば汝ら街に往きて、遇ふほどの者を婚筵に招け」10僕ども途に出でて、善きも悪しきも遇ふほどの者をみな集めれば、婚禮の席は客にて満てり。11王、客を見んとて入り來り、一人の禮服を著けぬ者あるを見て、12之に言ふ「友よ、如何なれば禮服を著けずして此處に入りたるか」かれ黙しゐたり。13ここに王、侍者らに言ふ「その手足を縛りて外の暗黒に投げいだせ、其處にて哀哭・切齒することあらん」14それ招かるる者は多かれど、選ばるる者は少し』15ここにパリサイ人ら出でて、如何にしてかイエスを言の繻に係けんと相議り、16その弟子らをヘロデ黨の者どもと共に遣して言はしむ『師よ、我らは知る、なんじは眞にして、眞をもて神の道を教へ、かつ誰をも憚りたまふ事なし、人の外貌を見給はぬ故なり。17されば我らに告げたまへ、貢をカイザルに納むるは可きか、悪しきか、如何に思ひたまふ』18イエスその邪曲なるを知りて言ひたまふ『偽善者よ、なんぞ我を試むるか。19貢の金を我に見せよ』彼らデナリ一つを持ち來る。20イエス言ひ給ふ『これは誰の像、たれの號なるか』21彼ら言ふ『カイザルのなり』ここに彼らに言ひ給ふ『さらばカイザルの物はカイザルに、神の物は神に納めよ』22彼ら之を聞きて怪しみ、イエスを離れて去り往けり。23復活なしといふサドカイ人ら、その日みもとに來り問ひて言ふ24『師よ、モーセは「人もし子なくして死なば、

其の兄弟かれの妻を娶りて、兄弟のために世嗣を擧ぐべし」と云へり。 25 我らの中に七人の兄弟ありしが、兄めとりて死に、世嗣なくして其の妻を弟に遺したり。 26 その二その三より、その七まで皆かくの如く爲し、 27 最後にその女も死にたり。 28 されば復活の時、その女は七人のうち誰の妻たるべきか、彼ら皆これを妻としたればなり』 29 イエス答へて言ひ給ふ『なんぢら聖書をも神の能力をも知らぬ故に誤れり。 30 それ人よみがへりの時は、娶らず嫁がず、天に在る御使たちの如し。 31 死人の復活に就きては、神なんぢらに告げて、 32 「我はアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神なり」と言ひ給へることを未だ讀まぬか。神は死にたる者の神にあらず、生ける者の神なり』 33 群衆これを聞きて其の教に驚けり。 34 パリサイ人ら、イエスのサドカイ人らを黙さしめ給ひしことを聞きて相集り、 35 その中なる一人の教法師、イエスを試むる爲に問ふ 36 『師よ、律法のうち孰の誠命が大なる』 37 イエス言ひ給ふ『「なんぢ心を盡し、精神を盡し、思を盡して主なる汝の神を愛すべし」 38 これは大にして第一の誠命なり。 39 第二もまた之にひとし「おのれの如くなんぢの隣を愛すべし」 40 律法 全體と預言者とは此の二つの誠命に據るなり』 41 パリサイ人らの集りたる時、イエス彼らに問ひて言ひ給ふ 42 『なんぢらはキリストに就きて如何に思ふか、誰の子なるか』 かれら言ふ『ダビデの子なり』 43 イエス言ひ給ふ『さらばダビデ御靈に感じて何故かれを主と稱ふるか。曰く 44 「主わが主に言ひ給ふ、われ汝の敵を汝の足の下に置くまでは、我が右に坐せよ」 45 斯くダビデ彼を主

と稱ふれば、争でその子ならんや』 46 誰も一言だに答ふること能はず、その日より敢へて復イエスに問ふ者なかりき。

23 ここにイエス群衆と弟子たちとに語りて言ひ給ふ、 2 『學者とパリサイ人とはモーセの座を占む。 3 されば凡てその言ふ所は守りて行へ、されどその所作には效ふな、彼らは言ふのみにて行はぬなり。 4 また重き荷を括りて人の肩にのせ、己は指にて之を動かさんともせず。 5 凡てその所作は人に見られん爲にするなり。即ちその經札を幅ひろくし、衣の總を大きくし、 6 饗宴の上席、會堂の上座、 7 市場にての敬禮、また人にラビと呼ばるることを好む。 8 されど汝らはラビの稱を受くな、汝らの師は一人にして、汝等はみな兄弟なり。 9 地にある者を父と呼ぶな、汝らの父は一人、すなはち天に在す者なり。 10 また導師の稱を受くな、汝らの導師はひとり、即ちキリストなり。 11 汝等のうち大なる者は、汝らの役者とならん。 12 凡そおのれを高うする者は卑うせられ、己を卑うする者は高うせらるるなり。 13 禍害なるかな、偽善なる學者、パリサイ人よ、なんぢらは人の前に天國を閉して自ら入らず、入らんとする人の入るをも許さぬなり。 14 [なし] 15 禍害なるかな、偽善なる學者、パリサイ人よ、汝らは一人の改宗者を得んために海陸を経めぐり、既に得れば、之を己に倍したるゲヘナの子となすなり。 (Geenna g1067) 16 禍害なるかな、盲目なる手引よ、なんぢらは言ふ「人もし宮を指して誓はば事なし、宮の黄金を指して誓はば果さざるべからず」と。 17 愚にして盲目なる者よ、黄金と黄金を聖ならしむる宮とは孰か貴き。

18 なんぢら又いふ「人もし祭壇を指して誓はば事なし、其の上の供物を指して誓はば果さざるべからず」と。19 盲目なる者よ、供物と供物を聖ならしむる祭壇とは孰か貴き。20 されば祭壇を指して誓ふ者は、祭壇とその上の凡ての物とを指して誓ふなり。21 宮を指して誓ふ者は、宮とその内に住みたまふ者とを指して誓ふなり。22 また天を指して誓ふ者は、神の御座とその上に坐したまふ者とを指して誓ふなり。23 禍害なるかな、偽善なる學者、パリサイ人よ、汝らは薄荷・蒔蘿・クミンの十分の一を納めて、律法の中にて尤も重き公平と憐憫と忠信とを等閑にす。されど之は行ふべきものなり、而して、彼もまた等閑にすべきものならず。24 盲目なる手引よ、汝らは蚋を漉し出して駱駝を呑むなり。25 禍害なるかな、偽善なる學者、パリサイ人よ、汝らは酒杯と皿との外を潔くす、されど内は貪慾と放縱とにて滿つるなり。26 盲目なるパリサイ人よ、汝まづ酒杯の内を潔めよ、さらば外も潔くなるべし。27 禍害なるかな、偽善なる學者、パリサイ人よ、汝らは白く塗りたる墓に似たり、外は美しく見ゆれども、内は死人の骨とさまざまの穢とにて滿つ。28 かくのごとく汝らも外は人に正しく見ゆれども、内は偽善と不法とにて滿つるなり。29 禍害なるかな、偽善なる學者、パリサイ人よ、汝らは預言者の墓をたて、義人の碑を飾りて言ふ、30 「我らもし先祖の時にありしならば、預言者の血を流すことに與せざりしものを」と。31 かく汝らは預言者を殺しし者の子たるを自ら證す。32 なんぢら己が先祖の桤目を充せ。33 蛇よ、蝮の裔よ、なんぢら争でゲヘナの刑罰を避け得んや。

(Geenna g1067) 34 この故に視よ、我なんぢらに預言者・智者・學者らを遣さんに、其の中の或者を殺し、十字架につけ、或者を汝らの會堂にて鞭うち、町より町に逐ひ苦しめん。 35 之によりて義人アペルの血より、聖所と祭壇との間にて汝らが殺ししバラキヤの子ザカリヤの血に至るまで、地上にて流したる正しき血は、皆なんぢらに報い來らん。 36 まことに汝らに告ぐ、これらの事はみな今の代に報い來るべし。 37 ああエルサレム、エルサレム、預言者たちを殺し、遣されたる人々を石にて撃つ者よ、牝鷄のその雛を翼の下に集むるごとく、我なんぢの子どもを集めんとせしこと幾度ぞや、されど汝らは好まざりき。 38 視よ、汝らの家は廢てられて汝らに遣らん。 39 われ汝らに告ぐ「讚むべきかな、主の名によりて來る者」と、汝等のいふ時の至るまでは、今より我を見ざるべし』

24 イエス宮を出でてゆき給ふとき、弟子たち宮の建造物を示さんとて御許に來りしに、 2 答へて言ひ給ふ『なんぢら此の一切の物を見ぬか。誠に汝らに告ぐ、此處に一つの石も崩されずしては石の上に遣らじ』 3 オリーブ山に坐し給ひしとき、弟子たち竊に御許に來りて言ふ『われらに告げ給へ、これらの事は何時あるか、又なんぢの來り給ふと世の終とには、何の兆あるか』 (aiōn g165) 4 イエス答へて言ひ給ふ『なんぢら人に惑されぬやうに心せよ。 5 多くの者わが名を冒し來り「我はキリストなり」と言ひて多くの人を惑さん。 6 又なんぢら戰爭と戰爭の噂とを聞かん、愼みて懼るな。かかる事はあるべきなり、されど未だ終にはあらず。 7 即ち「民は民に、國は

國に逆ひて起たん」また處々に饑饉と地震とあらん、**8**此等はみな産の苦難の始なり。**9**そのとき人々なんぢらを患難に付し、また殺さん、汝等わが名の爲に、もろもろの國人に憎まれん。**10**その時おほくの人つまづき、且たがひに付し、互に憎まん。**11**多くの偽預言者おこりて、多くの人を惑さん。**12**また不法の増すによりて、多くの人愛ひややかにならん。**13**されど終まで耐へしのお者は救はるべし。**14**御國のこの福音は、もろもろの國人に證をなさんため全世界に宣傳へられん、而してのち終は至るべし。**15**なんぢら預言者ダニエルによりて言はれたる「荒す悪むべき者」の聖なる處に立つを見ば（讀む者さとれ）**16**その時ユダヤに居る者どもは山に遁れよ。**17**屋の上に居る者はその家の物を取り出さんとして下るな。**18**畑にをる者は上衣を取らんとて歸るな。**19**その日には孕りたる者と乳を哺まする者とは禍害なるかな。**20**汝らの遁ぐることの冬または安息日に起らぬように祈れ。**21**そのとき大なる患難あらん、世の創より今に至るまでかかる患難はなく、また後にも無からん。**22**その日もし少くせられずば、一人だに救はるる者なからん、されど選民の爲にその日少くせらるべし。**23**その時あるひは「視よ、キリスト此處にあり」或は「此處にあり」と言ふ者ありとも信ずな。**24**偽キリスト・偽預言者おこりて、大なる徴と不思議とを現し、爲し得べくば選民をも惑さんとするなり。**25**視よ、あらかじめ之を汝らに告げおくなり。**26**されば人もし汝らに「視よ、彼は荒野にあり」といふとも出で往くな「視よ、彼は部屋にあり」と言ふとも信ずな。**27**電光の東より

出でて西にまで閃きわたる如く、人の子の來るも亦然らん。 28 それ死骸のある處には驚あつまらん。 29 これらの日の患難ののち直ちに日は暗く、月は光を發たず、星は空より隕ち、天の萬象ふるひ動かん。 30 そのとき人の子の兆、天に現れん。そのとき地上の諸族みな嘆き、かつ人の子の能力と大なる榮光とをもて、天の雲に乗り來るを見ん。 31 また彼は使たちを大なるラッパの聲とともに遣さん。使たちは天の此の極より彼の極まで、四方より選民を集めん。 32 無花果の樹よりの譬をまなべ、その枝すでに柔らかくなりて葉芽ぐめば、夏の近きを知る。 33 かくのごとく汝らも此等のすべての事を見ば、人の子すでに近づきて門邊に到るを知れ。 34 誠に汝らに告ぐ、これらの事ことごとく成るまで、今の代は過ぎ往くまじ。 35 天地は過ぎゆかん、されど我が言は過ぎ往くことなし。 36 その日その時を知る者なし、天の使たちも知らず、子も知らず、ただ父のみ知り給ふ。 37 ノアの時のごとく人の子の來るも然あるべし。 38 曾て洪水の前ノア方舟に入る日までは、人々飲み食ひ、娶り嫁がせなどし、 39 洪水の來りて悉とく滅すまでは知らざりき、人の子の來るも然あるべし。 40 そのとき二人の男畑にをらん、一人は取られ一人は遣されん。 41 二人の女磨ひき居らん、一人は取られ一人は遣されん。 42 されば目を覺しをれ、汝らの主のきたるは、何れの日なるかを知らざればなり。 43 汝等これを知れ、家主もし盜人いづれの時きたるかを知らば、目をさまし居て、その家を通たすまじ。 44 この故に汝らも備へをれ、人の子は思はぬ時に來ればなり。 45 主人が時に及びて食物を與

へさする爲に、家の者のうへに立てたる忠實にして
慧き僕は誰なるか。 46 主人のきたる時、かく爲し居
るを見らる僕は幸福なり。 47 まことに汝らに告ぐ
、主人すべての所有を彼に掌どらすべし。 48 もしそ
の僕 悪くして、心のうちに主人は遅しと思ひて、
49 その同輩を扑きはじめ、酒徒らと飲食を共にせば
、 50 その僕の主人おもはぬ日しらぬ時に來りて、 51
之を烈しく答うち、その報を偽善者と同じうせん。
其處にて哀哭・切齒することあらん。

25 このとき天國は、燈火を執りて新郎を迎へに出
づる、十人の處女に比ふべし。 2 その中の五人は愚
にして五人は慧し。 3 愚なる者は燈火をとりて油を
携へず、 4 慧きものは油を器に入れて燈火とともに
携へたり。 5 新郎 遅かりしかば、皆まどろみて寝ぬ
。 6 夜半に「やよ、新郎なるぞ、出で迎へよ」と呼
はる聲す。 7 ここに處女みな起きてその燈火を整へ
たるに、 8 愚なる者は慧きものに言ふ「なんぢらの
油を分けあたへよ、我らの燈火きゆるなり」 9 慧き
もの答へて言ふ「恐らくは我らと汝らとに足るまじ
、寧ろ賣るものに往きて己がために買へ」 10 彼ら買
はんとて往きたる間に新郎きたりたれば、備へをり
し者どもは彼とともに婚筵にいり、而して門は閉さ
れたり。 11 その後かの他の處女ども來りて「主よ、
主よ、われらの爲にひらき給へ」と言ひしに、 12 答
へて「まことに汝らに告ぐ、我は汝らを知らず」と
言へり。 13 されば目を覺しをれ、汝らは其の日その
時を知らざるなり。 14 また或人とほく旅立せんと
して、其の僕どもを呼び、之に己が所有を預くるが
如し。 15 各人の能力に應じて、或者には五タラン

ト、或者には二タラント、或者には一タラントを與へ置きて旅立せり。16 五タラントを受けし者は、直ちに往き、之をはたらかせて他に五タラントを贏け、17 二タラントを受けし者も同じく他に二タラントを贏く。18 然るに一タラントを受けし者は、往きて地を掘り、その主人の銀をかくし置けり。19 久しうして後この僕どもの主人きたりて彼らと計算したるに、20 五タラントを受けし者は他に五タラントを持ちきたりて言ふ「主よ、なんぢ我に五タラントを預けたりしが、視よ、他に五タラントを贏けたり」21 主人いふ「宜いかな、善かつ忠なる僕、なんぢは僅なる物に忠なりき。我なんぢに多くの物を掌どらせん、汝の主人の勸喜に入れ」22 二タラントを受けし者も來りて言ふ「主よ、なんぢ我に二タラントを預けたりしが、視よ、他に二タラントを贏けたり」23 主人いふ「宜いかな、善かつ忠なる僕、なんぢは僅なる物に忠なりき。我なんぢに多くの物を掌どらせん、汝の主人の勸喜にいれ」24 また一タラントを受けし者もきたりて言ふ「主よ、我はなんぢの厳しき人にて、播かぬ處より刈り、散らさぬ處より斂むることを知るゆゑに、25 懼れてゆき、汝のタラントを地に藏しおけり。視よ、汝はなんぢの物を得たり」26 主人こたへて言ふ「悪しくかつ惰れる僕、わが播かぬ處より刈り、散らさぬ處より斂むることを知るか。27 さらば我が銀を銀行にあづけ置くべかりしなり、我きたりて利子とともに我が物をうけ取りしものを。28 されば彼のタラントを取りて十タラントを有てる人に與へよ。29 すべて有てる人は、與へられて愈々豊ならん。されど有たぬ者は、その有てる物を

も取らるべし。 30 而して此の無益なる僕を外の暗黒に逐ひいだせ、其處にて哀哭・切齒することあらん」 31 人の子その榮光をもて、もろもろの御使を率ゐきたる時、その榮光の座位に坐せん。 32 かくてその前にもろもろの國人あつめられん、之を別つこと牧羊者が羊と山羊とを別つ如くして、 33 羊をその右に、山羊をその左におかん。 34 ここに王その右にをる者どもに言はん「わが父に祝せられたる者よ、來りて世の創より汝等のために備へられたる國を嗣げ。 35 なんぢら我が飢ゑしときに食はせ、渴きしときに飲ませ、旅人なりし時に宿らせ、 36 裸なりしときに衣せ、病みしときに訪ひ、獄に在りしときに來りたればなり」 37 ここに、正しき者ら答へて言はん「主よ、何時なんぢの飢ゑしを見て食はせ、渴きしを見て飲ませし。 38 何時なんぢの旅人なりしを見て宿らせ、裸なりしを見て衣せし。 39 何時なんぢの病みまた獄に在りしを見て、汝にいたりし」 40 王こたへて言はん「まことに汝らに告ぐ、わが兄弟なる此等のいと小き者の一人になしたるは、即ち我に爲したるなり」 41 かくてまた左にをる者どもに言はん「詛はれたる者よ、我を離れて惡魔とその使らとのために備へられたる永遠の火に入れ。(aiōnios g166) 42 なんぢら我が飢ゑしときに食はせず、渴きしときに飲ませず、 43 旅人なりしときに宿らせず、裸なりしときに衣せず、病みまた獄にありしときに訪はざればなり」 44 ここに彼らも答へて言はん「主よ、いつ汝の飢ゑ、或は渴き、或は旅人、あるひは裸、あるひは病み、或は獄に在りしを見て事へざりし」 45 ここに王こたへて言はん「誠になんぢらに告ぐ、此等のい

と小きもの一人に爲さざりしは、即ち我になさざりしなり」と。46 かくて、これらの者は去りて永遠の刑罰にいたり、正しき者は永遠の生命に入らん』

(aiōnios g166)

26 イエスこれらの言をみな語りをへて、弟子たちに言ひ給ふ 2 『なんぢらの知るごとく、二日の後は過越の祭なり、人の子は十字架につけられん爲に賣らるべし』 3 そのとき祭司長・民の長老ら、カヤパといふ大祭司の中庭に集り、 4 詭計をもてイエスを捕へ、かつ殺さんと相議りたれど、 5 又いふ『まつりの間は爲すべからず、恐らくは民の中に亂起らん』 6 イエス、ペタニヤにて癩病人シモンの家に居給ふ時、 7 ある女、石膏の壺に入りたる貴き香油を持ちて、近づき來り、食事の席に就き居給ふイエスの首に注げり。 8 弟子たち之を見て憤ほり言ふ『何故かく濫なる費をなすか。 9 之を多くの金に賣りて、貧しき者に施すことを得たりしものを』 10 イエス之を知りて言ひたまふ『何ぞこの女を惱すか、我に善き事をなせるなり。 11 貧しき者は常に汝らと偕にをれど、我は常に偕に居らず。 12 この女の我が體に香油を注ぎしは、わが葬りの備をなせるなり。 13 まことに汝らに告ぐ、全世界いずこにても、この福音の宣傳へらるる處には、この女のなしし事も記念として語らるべし』 14 ここに十二弟子の一人イスカリオテのユダといふ者、祭司長らの許にゆきて言ふ 15 『なんぢらに彼を付さば、何ほど我に與へんとするか』 彼ら銀三十を量り出せり。 16 ユダこの時よりイエスを付さんと好き機を窺ふ。 17 除酵祭の初の日、弟子たちイエスに來りて言ふ『過越の食をなし給

ふために、何處に我らが備ふる事を望み給ふか』 18 イエス言ひたまふ『都にゆき、某のもとに到りて「師いふ、わが時 近づけり。われ弟子たちと共に過越を汝の家にて守らん」と言へ』 19 弟子たちイエスの命じ給ひし如くして、過越の備をなせり。 20 日暮れて十二弟子とともに席に就きて、 21 食するとき言ひ給ふ『まことに汝らに告ぐ、汝らの中の一人われを賣らん』 22 弟子たち甚く憂ひて、おのおの『主よ、我なるか』と言ひいでしに、 23 答へて言ひたまふ『我とともに手を鉢に入る者われを賣らん。 24 人の子は己に就きて録されたる如く逝くなり。されど人の子を賣る者は禍害なるかな、その人は生れざりし方よかりしものを』 25 イエスを賣るユダ答へて言ふ『ラビ、我なるか』 イエス言ひ給ふ『なんぢの言へる如し』 26 彼ら食しをる時、イエス、パンをとり、祝してさき、弟子たちに與へて言ひ給ふ『取りて食へ、これは我が體なり』 27 また酒杯をとりて謝し、彼らに與へて言ひ給ふ『なんぢら皆この酒杯より飲め。 28 これは契約のわが血なり、多くの人のために、罪の赦を得させんとて流す所のものなり。 29 われ汝らに告ぐ、わが父の國にて新しきものを汝らと共に飲む日までは、われ今より後この葡萄の果より成るものを飲まじ』 30 彼ら讚美を歌ひて後オリブ山に出でゆく。 31 ここにイエス弟子たちに言ひ給ふ『今宵なんぢら皆われに就きて躓かん「われ牧羊者を打たん、さらば群の羊 散るべし」と録されたるなり。 32 されど我よみがへりて後、なんぢらに先だちてガリラヤに往かん』 33 ペテロ答へて言ふ『假令みな汝に就きて躓くとも我はいつまでも躓かじ』 34 イ

エス言ひ給ふ『まことに汝に告ぐ、こよひ鶏 鳴く前に、なんぢ三たび我を否むべし』 35 ペテロ言ふ『我なんぢと共に死ぬべき事ありとも汝を否まず』弟子たち皆かく言へり。 36 ここにイエス彼らと共にゲッセマネといふ處にいたりて、弟子たちに言ひ給ふ『わが彼處にゆきて祈る間、なんぢら此處に坐せよ』 37 かくてペテロとゼベダイの子二人とを伴ひゆき、憂ひ悲しみ出でて言ひ給ふ、 38 『わが心いたく憂ひて死ぬばかりなり。汝ら此處に止りて我と共に目を覺しをれ』 39 少し進みゆきて、平伏し祈りて言ひ給ふ『わが父よ、もし得べくば此の酒杯を我より過ぎ去らせ給へ。されど我が意の儘にとにはあらず、御意のままに爲し給へ』 40 弟子たちの許にきたり、その眠れるを見てペテロに言ひ給ふ『なんぢら斯く一時も我と共に目を覺し居ること能はぬか。 41 誘惑に陥らぬやう、目を覺しかつ祈れ。實に心は熱すれども肉體よわきなり』 42 また二度ゆき祈りて言ひ給ふ『わが父よ、この酒杯もし我 飲までは過ぎ去りがたくば、御意のままに成し給へ』 43 復きたりて彼らの眠れるを見たまふ、是その目 疲れたるなり。 44 また離れゆきて、三たび同じ言にて祈り給ふ。 45 而して弟子たちの許に來りて言ひ給ふ『今は眠りて休め。視よ、時 近づけり、人の子は罪人らの手に付さるるなり。 46 起きよ、我ら往くべし。視よ、我を賣るもの近づけり』 47 なほ語り給ふほどに、視よ、十二弟子の一人なるユダ來る、祭司長・民の長老らより遣されたる大なる群衆、劍と棒とをもちて之に伴ふ。 48 イエスを賣る者あらかじめ合圖を示して言ふ『わが接吻する者はそれなり、之を捕へよ』 49 かくて

直ちにイエスに近づき『ラビ、安かれ』といひて接吻したれば、**50** イエス言ひたまふ『友よ、何とて來る』このとき人々すすみてイエスに手をかけて捕ふ。**51** 視よ、イエスと偕にありし者のひとり、手をのべ劍を抜きて、大祭司の僕をうちて、その耳を切り落せり。**52** ここにイエス彼に言ひ給ふ『なんぢの劍をもとに收めよ、すべて劍をとる者は劍にて亡ぶるなり。**53** 我わが父に請ひて、十二軍に餘る御使を今あたへらるること能はずと思ふか。**54** もし然せば、斯くあるべく録したる聖書はいかで成就すべき』**55** この時イエス群衆に言ひ給ふ『なんぢら強盜に向ふごとく劍と棒とをもち、我を捕へんとて出で來るか。我は日々宮に坐して教へたりしに、汝ら我を捕へざりき。**56** されどかくの如くなるは、みな預言者たちの書の成就せん爲なり』ここに弟子たち皆イエスを棄てて逃げさりぬ。**57** イエスを捕へたる者ども、學者・長老らの集り居る大祭司カヤパの許に曳きゆく。**58** ペテロ遠く離れ、イエスに従ひて大祭司の中庭まで到り、その成行を見んとて、そこに入り下役どもと共に坐せり。**59** 祭司長らと全議會と、イエスを死に定めんとて、いつはりの證據を求めたるに、**60** 多くの偽證者いでたれども得ず。後に二人の者いでて言ふ**61** 『この人は「われ神の宮を毀ち三日にて建て得べし」と云へり』**62** 大祭司たちてイエスに言ふ『この人々が汝に對して立つる證據に何をも答へぬか』**63** されどイエス黙し居給ひたれば、大祭司いふ『われ汝に命ず、活ける神に誓ひて我らに告げよ、汝はキリスト、神の子なるか』**64** イエス言ひ給ふ『なんぢの言へる如し。かつ我なんぢらに

告ぐ、今より後、なんぢら人の子の全能者の右に坐し、天の雲に乗りて來るを見ん』 65 ここに大祭司おのが衣を裂きて言ふ『かれ瀆言をいへり、何ぞ他に證人を求めん。視よ、なんぢら今この瀆言をきけり。 66 いかにも思ふか』 答へて言ふ『かれは死に當れり』 67 ここに彼等その御顔に唾し、拳にて搏ち、或者どもは手掌にて批きて言ふ 68 『キリストよ、我らに預言せよ、汝をうちし者は誰なるか』 69 ペテロ外にて中庭に坐しゐたるに、一人の婢女きたりて言ふ『なんぢもガリラヤ人イエスと偕にゐたり』 70 かれ凡ての人の前に肯はずして言ふ『われは汝の言ふことを知らず』 71 かくて門まで出で往きたるとき、他の婢女かれを見て、其處にをる者どもに向ひて『この人はナザレ人イエスと偕にゐたり』と言へるに、 72 重ねて肯はず、契ひて『我はその人を知らず』といふ。 73 暫くして其處に立つ者ども近づきてペテロに言ふ『なんぢも慥にかの黨與なり、汝の國訛なんぢを表せり』 74 ここにペテロ盟ひかつ契ひて『我その人を知らず』と言ひ出づるをりしも、鶏鳴きぬ。 75 ペテロ『にはとり鳴く前に、なんぢ三度われを否まん』と、イエスの言ひ給ひし御言を思ひだし、外に出でて甚く泣けり。

27 夜明けになりて、凡ての祭司長・民の長老ら、イエスを殺さんと相議り、 2 遂に之を縛り、曳きゆきて總督ピラトに付せり。 3 ここにイエスを賣りしユダ、その死に定められ給ひしを見て悔い、祭司長・長老らに、かの三十の銀をかへして言ふ、 4 『われ罪なきの血を賣りて罪を犯したり』 彼ら曰ふ『われら何ぞ干らん、汝みづから當るべし』 5 彼その銀

を聖所に投げすてて去り、ゆきて自ら縊れたり。 6
祭司長らその銀をとりて言ふ『これは血の價なれば
、宮の庫に納むるは可からず』 7かくて相議り、そ
の銀をもて陶工の畑を買ひ、旅人らの墓地とせり。
8之によりて其の畑は、今に至るまで血の畑と稱へら
る。 9ここに預言者エレミヤによりて云はれたる言
は成就したり。曰く『かくて彼ら値積られしもの、
即ちイスラエルの子らが値積りし者の價の銀 三十を
とりて、 10陶工の畑の代に之を與へたり。主の我に
命じ給ひし如し』 11さてイエス、總督の前に立ち給
ひしに、總督 問ひて言ふ『なんぢはユダヤ人の王な
るか』 イエス言ひ給ふ『なんぢの言ふが如し』 12祭
司長・長老ら訴ふれども、何をも答へ給はず。 13こ
こにピラト彼に言ふ『聞かぬか、彼らが汝に對して
如何におほくの證據を立つるを』 14されど總督の甚
く怪しむまで、一言をも答へ給はず。 15祭の時には
、總督 群衆の望にまかせて、囚人一人を之に赦す例
あり。 16ここにバラバといふ隠れなき囚人あり。 17
されば人々の集れる時、ピラト言ふ『なんぢら我が
誰を赦さんことを願ふか。バラバなるか、キリスト
と稱ふるイエスなるか』 18これピラト彼らのイエス
を付ししは嫉に因ると知る故なり。 19彼なほ審判の
座にをる時、その妻、人を遣して言はしむ『かの義
人に係ることを爲な、我けふ夢の中にて彼の故にさ
まざま苦しめり』 20祭司長・長老ら、群衆にバラバ
の赦されん事を請はしめ、イエスを亡さんことを勸
む。 21總督こたへて彼らに言ふ『二人の中いづれを
我が赦さん事を願ふか』 彼らいふ『バラバなり』 22
ピラト言ふ『さらばキリストと稱ふるイエスを我い

かにすべきか』皆いふ『十字架につくべし』 23 ピラト言ふ『かれ何の悪事をなしたるか』彼ら烈しく叫びていふ『十字架につくべし』 24 ピラトは何の效なく反つて亂にならんとするを見て、水をとり群衆のまへに手を洗ひて言ふ『この人の血につきて我は罪なし、汝等みづから當れ』 25 民みな答へて言ふ『其の血は、我らと我らの子孫とに歸すべし』 26 ここにピラト、バラバを彼らに赦し、イエスを鞭うちて、十字架につくる爲に付せり。 27 ここに總督の兵卒ども、イエスを官邸につれゆき、全隊を御許に集め、 28 その衣をはぎて、緋色の上衣をきせ、 29 茨の冠冕を編みて、その首に冠らせ、葦を右の手にもたせ、且その前に跪づき、嘲弄して言ふ『ユダヤ人の王、安かれ』 30 また之に唾し、かの葦をとりて其の首を叩く。 31 かく嘲弄してのち、上衣を剥ぎて、故の衣をきせ、十字架につけんとて曳きゆく。 32 その出づる時、シモンといふクレネ人にあひしかば、強ひて之にイエスの十字架をおはしむ。 33 かくてゴルゴタといふ處、即ち髑髏の地にいたり、 34 苦味を混ぜたる葡萄酒を飲ませんとしたるに、嘗めて、飲まんとし給はず。 35 彼らイエスを十字架につけてのち、籤をひきて其の衣をわかち、 36 且そこに坐して、イエスを守る。 37 その首の上に『これはユダヤ人の王イエスなり』と記したる罪標を置きたり。 38 ここにイエスとともに二人の強盜、十字架につけられ、一人はその右に、一人はその左におかる。 39 往來の者どもイエスを譏り、首を振りていふ、 40 『宮を毀ちて三日のうちに建つる者よ、もし神の子ならば己を救へ、十字架より下りよ』 41 祭司長らもまた同じ

く、學者・長老らとともに嘲弄して言ふ、**42** 『人を救ひて己を救ふこと能はず。彼はイスラエルの王なり、いま十字架より下りよかし、さらば我ら彼を信ぜん。**43** 彼は神に依り頼めり、神かれを愛しまば今すぐひ給ふべし「我は神の子なり」と云へり』 **44** ともに十字架につけられたる強盜どもも、同じ事をもてイエスを罵れり。**45** 晝の十二時より地の上あまねく暗くなりて、三時に及ぶ。**46** 三時ごろイエス大聲に叫びて『エリ、エリ、レマ、サバクタニ』と言ひ給ふ。わが神、わが神、なんぞ我を見棄て給ひしとの意なり。**47** そこに立つ者のうち或人々これを聞きて『彼はエリヤを呼ぶなり』と言ふ。**48** 直ちにその中の一人はしりゆきて海綿をとり、酸き葡萄酒を含ませ、葦につけてイエスに飲ましむ。**49** その他の者ども言ふ『さて、エリヤ來りて彼を救ふや否や、我ら之を見ん』 **50** イエス再び大聲に呼はりて息絶えたまふ。**51** 視よ、聖所の幕、上より下まで裂けて二つとなり、また地震ひ、磐さけ、**52** 墓ひらけて、眠りたる聖徒の屍體おほく活きかへり、**53** イエスの復活ののち墓をいで、聖なる都に入りて、多くの人に現れたり。**54** 百卒長および之と共にイエスを守りゐたる者ども、地震とその有りし事とを見て甚く懼れ『實に彼は神の子なりき』と言へり。**55** その處にて遙に望みゐたる多くの女あり、イエスに事へてガリラヤより従ひ來りし者どもなり。**56** その中には、マグダラのマリヤ、ヤコブとヨセフとの母マリヤ、及びゼベダイの子らの母などもゐたり。**57** 日暮れて、ヨセフと云ふアリマタヤの富める人きたる。彼もイエスの弟子なるが、**58** ピラトに往きてイエス

の屍體を請ふ。ここにピラト之を付すことを命ず。

59 ヨセフ屍體をとりて淨き亞麻布につつま、60 岩にほりたる己が新しき墓に納め、墓の入口に大なる石を轉しおきて去りぬ。61 其處にはマグダラのマリヤと他のマリヤと墓に向ひて坐しゐたり。62 あくる日、即ち準備日の翌日、祭司長らとパリサイ人らとピラトの許に集りて言ふ、63 『主よ、かの惑すもの生き居りし時「われ三日の後に甦へらん」と言ひしを、我ら思ひいだせり。64 されば命じて三日に至るまで墓を固めしめ給へ、恐らくはその弟子ら來りて之を盗み、「彼は死人の中より甦へれり」と民に言はん。然らば後の惑は前のよりも甚だしからん』65 ピラト言ふ『なんぢらに番兵あり、往きて力限り固めよ』66 乃ち彼らゆきて石に封印し、番兵を置きて墓を固めたり。

28 さて安息日をはりて、一週の初の日ほの明き頃、マグダラのマリヤと他のマリヤと墓を見んとて來りしに、2 視よ、大なる地震あり、これ主の使、天より降り來りて、かの石を轉し退け、その上に坐したるなり。3 その状は電光のごとく輝き、その衣は雪のごとく白し。4 守の者ども彼を懼れたれば、戦きて死人の如くなりぬ。5 御使こたへて女たちに言ふ『なんぢら懼るな、我なんぢらが十字架につけられ給ひしイエスを尋ぬるを知る。6 此處には在さず、その言へる如く甦へり給へり。來りてその置かれ給ひし處を見よ。7 かつ速かに往きて、その弟子たちに「彼は死人の中より甦へり給へり。視よ、汝らに先だちてガリラヤに往き給ふ、彼處にて謁ゆるを得ん」と告げよ。視よ、汝らに之を告げたり』8

女たち懼と大なる歡喜とをもて、速かに墓を去り、弟子たちに知らせんとて走りゆく。 9 視よ、イエス彼らに遇ひて『安かれ』と言ひ給ひたれば、進みゆき、御足を抱きて拜す。 10 ここにイエス言ひたまふ『懼るな、往きて我が兄弟たちに、ガリラヤにゆき、彼處にて我を見るべきことを知らせよ』 11 女たちの往きたるとき、視よ、番兵のうちの數人、都にいたり、凡て有りし事どもを祭司長らに告ぐ。 12 祭司長ら、長老らと共に集りて相議り、兵卒どもに多くの銀を與へて言ふ、 13 『なんぢら言へ「その弟子ら夜きたりて、我らの眠れる間に彼を盜めり」と。 14 この事もし總督に聞えなば、我ら彼を宥めて汝らに憂なからしめん』 15 彼ら銀をとりて言ひ含められたる如くしたれば、此の話ユダヤ人の中にひろまりて、今日に至れり。 16 十一弟子たちガリラヤに往きて、イエスの命じ給ひし山にのぼり、 17 遂に謁えて拜せり。されど疑ふ者もありき。 18 イエス進みきたり、彼らに語りて言ひたまふ『我は天にても地にても一切の權を與へられたり。 19 されば汝ら往きて、もろもろの國人を弟子となし、父と子と聖靈との名によりてバプテスマを施し、 20 わが汝らに命ぜし凡ての事を守るべきを教へよ。視よ、我は世の終まで常に汝らと偕に在るなり』 (aiōn g165)

マルコの福音書

1神の子イエス、キリストの福音の始。**2**預言者イザヤの書に、『視よ、我なんぢの顔の前に、わが使を遣す、彼なんぢの道を設くべし。**3**荒野に呼はる者の聲す、「主の道を備へ、その路すぢを直くせよ』』と録されたる如く、**4**バプテスマのヨハネ出で、荒野にて罪の赦を得さす悔改のバプテスマを宣傳ふ。**5**ユダヤ全國またエルサレムの人々、みな其の許に出で來りて罪を言ひあらはし、ヨルダン川にてバプテスマを受けたり。**6**ヨハネは駱駝の毛織を著、腰に皮の帶して、蝗と野蜜とを食へり。**7**かれ宣傳へて言ふ『我よりも力ある者、わが後に來る。我は屈みてその鞋の紐をとくにも足らず、**8**我は水にて汝らにバプテスマを施せり。されど彼は聖靈にてバプテスマを施さん』**9**その頃イエス、ガリラヤのナザレより來り、ヨルダンにてヨハネよりバプテスマを受け給ふ。**10**かくて水より上るをりしも、天さけゆき、御靈、鳩のごとく己に降るを見給ふ。**11**かつ天より聲出づ『なんぢは我が愛しむ子なり、我なんぢを悦ぶ』**12**かくて御靈ただちにイエスを荒野に逐ひやる。**13**荒野にて四十日の間サタンに試みられ、獸とともに居給ふ、御使たち之に事へぬ。**14**ヨハネの囚はれし後、イエス、ガリラヤに到り、神の福音を宣傳へて言ひ給ふ、**15**『時は満てり、神の國は近づけり、汝ら悔改めて福音を信ぜよ』**16**イエス、ガリラヤの海にそひて歩みゆき、シモンと其の兄弟アンデレとが、海に網うちをるを見給ふ。かれらは漁人なり。**17**イエス言ひ給ふ『われに従ひきたれ、汝等をして人を漁る者とならしめん』**18**彼ら

直ちに網をすてて従へり。 19 少し進みゆきて、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネとを見給ふ、彼らも舟にありて網を繕ひるたり。 20 直ちに呼び給へば、父ゼベダイを雇人とともに舟に遺して従ひゆけり。 21 かくて彼らカペナウムに到る、イエス直ちに安息日に會堂にいりて教へ給ふ。 22 人々その教に驚きあへり。それは學者の如くならず、權威ある者のごとく教へ給ふゆゑなり。 23 時にその會堂に、穢れし靈に憑かれたる人あり、叫びて言ふ 24 『ナザレのイエスよ、我らは汝と何の關係あらんや、汝は我らを亡さんとて來給ふ。われは汝の誰なるを知る、神の聖者なり』 25 イエス禁めて言ひ給ふ『黙せ、その人を出でよ』 26 穢れし靈その人を痙攣けさせ、大聲をあげて出づ。 27 人々みな驚き相問ひて言ふ『これ何事ぞ、權威ある新しき教なるかな、穢れし靈すら命ずれば従ふ』 28 ここにイエスの噂あまねくガリラヤの四方に弘りたり。 29 會堂をいで、直ちにヤコブとヨハネとを伴ひて、シモン及びアンデレの家に入り給ふ。 30 シモンの外姑、熱をやみて臥しるたれば、人々ただちに之をイエスに告ぐ。 31 イエス往きて、その手を取り、起し給へば、熱さりて女かれらに事ふ。 32 夕となり、日いりてのち、人々すべての病ある者・惡鬼に憑かれたる者をイエスに連れ來り、 33 全町こぞりて門に集る。 34 イエスさまごまの病を患ふ多くの人をいやし、多くの惡鬼を逐ひいだし、之に物言ふことを免し給はず、惡鬼イエスを知るに困りてなり。 35 朝まだき暗き程に、イエス起き出でて、寂しき處にゆき、其處にて祈りたまふ。 36 シモン及び之と偕にをる者ども、その跡を慕ひゆ

き、**37** イエスに遇ひて言ふ『人みな汝を尋ぬ』 **38**
イエス言ひ給ふ『いざ最寄の村々に往かん、われ彼
處にも教を宣ふべし、我はこの爲に出で來りしなり
』 **39** 遂にゆきて、徧くガリラヤの會堂にて教を宣べ
、かつ惡鬼を逐ひ出し給へり。 **40** 一人の癩病人みも
とに來り、跪づき請ひて言ふ『御意ならば、我を潔
くなし給ふを得ん』 **41** イエス憫みて、手をのべ彼に
つけて『わが意なり、潔くなれ』と言ひ給へば、 **42**
直ちに癩病さりて、その人きよまれり。 **43** やがて彼
を去らしめんとて、嚴しく戒めて言ひ給ふ **44** 『つつ
しみて誰にも語るな、唯ゆきて己を祭司に見せ、モ
ーセが命じたる物を汝の潔のために獻げて、人々に
證せよ』 **45** されど彼いでて此の事を大に述べつたへ
、徧く弘め始めたれば、この後イエスあらはに町に
入りがたく、外の寂しき處に留りたまふ。人々 四方
より御許に來れり。

2 數日の後、またカペナウムに入り給ひしに、その
家に在することを聞きて、 **2** 多くの人あつまり來り
、門口すら隙間なき程なり。イエス彼らに御言を語
り給ふ。 **3** ここに四人に擔はれたる中風の者を人々
つれ來る。 **4** 群衆によりて御許にゆくこと能はざれ
ば、在す所の屋根を穿ちあけて、中風の者を床のま
ま縋り下せり。 **5** イエス彼らの信仰を見て、中風の
者に言ひたまふ『子よ、汝の罪ゆるされたり』 **6** あ
る學者たち其處に坐しゐたるが、心の中に、 **7** 『こ
の人なんぞ斯く言ふか、これは神を瀆すなり、神ひ
とりの外は誰か罪を赦すことを得べき』と論ぜしか
ば、 **8** イエス直ちに彼等がかく論ずるを心に悟りて
言ひ給ふ『なにゆゑ斯かることを心に論ずるか、 **9**

中風の者に「なんぢの罪ゆるされたり」と言ふと「起きよ、床をとりて歩め」と言ふと、孰か易き。10 人の子の地にて罪を赦す權威ある事を、汝らに知らせん爲に』——中風の者に言ひ給ふ—— 11 『なんぢに告ぐ、起きよ、床をとりて家に歸れ』 12 彼おきて直ちに床をとりあげ、人々の眼前いで往けば、皆おどろき、かつ神を崇めて言ふ『われら斯くの如きことは斷えて見ざりき』 13 イエスまた海邊に出でゆき給ひしに、群衆みもとに集ひ來りたれば、之を教へ給へり。 14 かくて過ぎ往くとき、アルパヨの子レビの收税所に坐しをるを見て『われに従へ』と言ひ給へば、立ちて従へり。 15 而して其の家にて食事の席につき居給ふとき、多くの取税人・罪人ら、イエス及び弟子たちと共に席に列る、これらの者おほく居て、イエスに従へるなり。 16 パリサイ人の學者ら、イエスの罪人・取税人とともに食し給ふを見て、その弟子たちに言ふ『なにゆゑ取税人・罪人とともに食するか』 17 イエス聞きて言ひ給ふ『健かなる者は醫者を要せず、ただ病ある者これを要す。我は正しき者を招かんとにあらで、罪人を招かんとて來れり』 18 ヨハネの弟子とパリサイ人とは、斷食しゐたり。人々イエスに來りて言ふ『なにゆゑヨハネの弟子とパリサイ人の弟子とは斷食して、汝の弟子は斷食せぬか』 19 イエス言ひ給ふ『新郎の友だち、新郎と偕にをるうちは斷食し得べきか、新郎と偕にをる間は、斷食するを得ず。 20 されど新郎をとらるる日きたらん、その日には斷食せん。 21 誰も新しき布の裂を舊き衣に縫ひつくることは爲じ。もし然せば、その補ひたる新しきものは、舊き物をやぶり、破綻さ

らに甚だしからん。22 誰も新しき葡萄酒を、ふるき革囊に入ることは爲じ。もし然せば、葡萄酒は囊をはりさきて、葡萄酒も囊も廢らん。新しき葡萄酒は、新しき革囊に入るなり』 23 イエス安息日に麥畠をとほり給ひしに、弟子たち歩みつつ穂を摘み始めたれば、24 パリサイ人、イエスに言ふ『視よ、彼らは何ゆゑ安息日に爲まじき事をするか』 25 答へ給ふ『ダビデその伴へる人々と共に乏しくして飢ゑしとき爲しし事を未だ讀まぬか。26 即ち大祭司アピアタルの時、ダビデ神の家に入りて、祭司のほかは食ふまじき供のパンを取りて食ひ、おのれと偕なる者にも與へたり』 27 また言ひたまふ『安息日は人のために設けられて、人は安息日のために設けられず。28 されば人の子は安息日にも主たるなり』

3 また會堂に入り給ひしに、片手なえたる人あり。2 人々イエスを訴へんと思ひて、安息日にかの人を醫すや否やと窺ふ。3 イエス手なえたる人に『中に立て』といひ、4 また人々に言ひたまふ『安息日に善をなすと惡をなすと、生命を救ふと殺すと、孰かよき』彼ら默然たり。5 イエスその心の頑固なるを憂ひて、怒り見回して、手なえたる人に『手を伸べよ』と言ひ給ふ。かれ手を伸べたれば癒ゆ。6 パリサイ人いでて、直ちにヘロデ黨の人とともに、如何にしてイエスを亡さんと議る。7 イエスその弟子とともに海邊に退き給ひしに、ガリラヤより來れる夥多しき民衆も從ふ。又ユダヤ、8 エルサレム、イドマヤ、ヨルダンの向の地、およびツロ、シドンの邊より夥多しき民衆その爲し給へる事を聞きて、御許に來る。9 イエス群衆のおしなやますを逃れんとて

、小舟を備へ置くことを弟子に命じ給ふ。 **10** これ多くの人を醫し給ひたれば、凡て病に苦しむもの、御體に觸らんとて押迫る故なり。 **11** また穢れし靈イエスを見る毎に、御前に平伏し、叫びて『なんぢは神の子なり』と言ひたれば、 **12** 我を顯すなとて、厳しく戒め給ふ。 **13** イエス山に登り、御意に適ふ者を召し給ひしに、彼ら御許に来る。 **14** ここに十二人を擧げたまふ。是かれらを御側におき、また教を宣べさせ、 **15** 惡鬼を逐ひ出す權威を用ひさする爲に、遣さんとてなり。 **16** 此の十二人を擧げて、シモンにペテロといふ名をつけ、 **17** ゼベダイの子ヤコブ、その兄弟ヨハネ、此の二人にボアネルゲ、即ち雷霆の子といふ名をつけ給ふ。 **18** 又アンデレ、ピリポ、バルトロマイ、マタイ、トマス、アルパヨの子ヤコブ、タダイ、熱心黨のシモン、 **19** 及びイスカリオテのユダ、このユダはイエスを賣りしなり。かくてイエス家に入り給ひしに、 **20** 群衆また集り來りたれば、食事する暇もなかりき。 **21** その親族の者これを聞き、イエスを取押へんとて出で來る、イエスを狂へりと謂ひてなり。 **22** 又エルサレムより下れる學者たちも『彼はベルゼブルに憑かれたり』と言ひ、かつ『惡鬼の首によりて惡鬼を逐ひ出すなり』と言ふ。 **23** イエス彼らを呼びよせ、譬にて言ひ給ふ『サタンはいかでサタンを逐ひ出し得んや。 **24** もし國分れ争はば、其の國立つこと能はず。 **25** もし家分れ争はば、其の家立つこと能はざるべし。 **26** もしサタン己に逆ひて分れ争はば、立つこと能はず、反つて亡び果てん。 **27** 誰にても先づ強き者を縛らずば、強き者の家に入りて其の家財を奪ふこと能はじ、縛り

て後その家を奪ふべし。 28 まことに汝らに告ぐ、人の子らの凡ての罪と、けがす瀆とは赦されん。 29 されど聖靈をけがす者は、永遠に赦されず、永遠の罪に定めらるべし』 (aiōn g165, aiōnios g166) 30 これは彼らイエスを『穢れし靈に憑かれたり』と云へるが故なり。 31 ここにイエスの母と兄弟と來りて外に立ち、人を遣してイエスを呼ばしむ。 32 群衆イエスを環りて坐したりしが、或者いふ『視よ、なんぢの母と兄弟姉妹と外にありて汝を尋ぬ』 33 イエス答へて言ひ給ふ『わが母、わが兄弟とは誰ぞ』 34 かくて周圍に坐する人々を見回して言ひたまふ『視よ、これは我が母、わが兄弟なり。 35 誰にても神の御意を行ふものは、是わが兄弟、わが姉妹、わが母なり』

4 イエスまた海邊にて教へ始めたまふ。夥多しき群衆、みもとに集りたれば、舟に乗り海に泛びて坐したまひ、群衆はみな海に沿ひて陸にあり。 2 譬にて數多の事ををしへ、教の中に言ひたまふ、 3 『聽け、種播くもの、播かんとて出づ。 4 播くとき、路の傍らに落ちし種あり、鳥きたりて啄む。 5 土うすき礫地に落ちし種あり、土深からぬによりて、速かに萌え出でたれど、 6 日出でてやけ、根なき故に枯る。 7 茨の中に落ちし種あり、茨そだち塞ぎたれば、實を結ばず。 8 良き地に落ちし種あり、生え出でて茂り、實を結ぶこと、三十倍、六十倍、百倍せり』 9 また言ひ給ふ『きく耳ある者は聽くべし』 10 イエス人々を離れ居給ふとき、御許にをる者ども、十二弟子とともに、此等の譬を問ふ。 11 イエス言ひ給ふ『なんぢらには神の國の奧義を與ふれど、外の者には、凡て譬にて教ふ。 12 これ「見るとき見ゆと

も認めず、聴くとき聞ゆとも悟らず、翻へりて赦さるる事なからん」爲なり』 13 また言ひ給ふ『なんぢら此の譬を知らぬか、さらば争でもろもろの譬を知り得んや。 14 播く者は御言を播くなり。 15 御言の播かれて路の傍らにありとは、かかる人をいふ、即ち聞くとき、直ちにサタン來りて、その播かれたる御言を奪ふなり。 16 同じく播かれて礮地にありとは、かかる人をいふ、即ち御言をききて、直ちに喜び受くれども、 17 その中に根なければ、ただ暫し保つのみ、御言のために患難また迫害にあふ時は、直ちに躓くなり。 18 また播かれて茨の中にありとは、かかる人をいふ、 19 すなはち御言をきけど、世の心勞、財貨の惑、さまざまの慾いりきたり、御言を塞ぐによりて、遂に實らざるなり。(aiōn g165) 20 播かれて良き地にありとは、かかる人をいふ、即ち御言を聴きて受け、三十倍、六十倍、百倍の實を結ぶなり』 21 また言ひたまふ『升のした、寢臺の下におかんとて、燈火をもち來るか、燈臺の上におく爲ならずや。 22 それ顯るる爲ならで隠るるものなく、明かにせらるる爲ならで秘めらるるものなし。 23 聴く耳ある者は聴くべし』 24 また言ひ給ふ『なんぢら聴くことに心せよ、汝らが量る量にて量られ、更に増し加へらるべし。 25 それ有てる人は、なほ與へられ、有たぬ人は、有てる物をも取らるべし』 26 また言ひたまふ『神の國は、或人たねを地に播くが如し、 27 日夜 起臥するほどに、種はえ出でて育てども、その故を知らず。 28 地はおのづから實を結ぶものにして、初には苗、つぎに穂、つひに穂の中に充ち足れる穀なる。 29 實みのれば直ちに鎌を入る、收穫時の到

れるなり』 30 また言ひ給ふ『われら神の國を何にな
ずらへ、如何なる譬をもて示さん。 31 一粒の芥種
のごとし、地に播く時は、世にある萬の種よりも小け
れど、 32 既に播きて生え出づれば、萬の野菜よりは
大きく、かつ大なる枝を出して、空の鳥その蔭に棲み
得るほどになるなり』 33 かくのごとき數多の譬をも
て、人々の聴きうる力に随ひて、御言を語り、 34 譬
ならでは語り給はず、弟子たちには、人なき時に凡
ての事を釋き給へり。 35 その日、夕になりて言ひ給
ふ『いざ彼方に往かん』 36 弟子たち群衆を離れ、イ
エスの舟にゐ給ふまま共に乗り出づ、他の舟も従ひ
ゆく。 37 時に烈しき颶風おこり、浪うち込みて、舟
に滿つるばかりなり。 38 イエスは艫の方に茵を枕と
して寝ねたまふ。弟子たち呼び起して言ふ『師よ、
我らの亡ぶるを顧み給はぬか』 39 イエス起きて風を
いましめ、海に言ひたまふ『黙せ、鎮れ』乃ち風や
みて、大なる風となりぬ。 40 かくて弟子たちに言ひ
給ふ『なに故かく臆するか、信仰なきは何ぞ』 41 か
れら甚く懼れて互に言ふ『こは誰ぞ、風も海も順ふ
とは』

5 かくて海の彼方なるゲラセネ人の地に到る。 2 イ
エスの舟より上り給ふとき、穢れし靈に憑かれたる
人、墓より出でて直ちに遇ふ。 3 この人、墓を住處
とす、鏈にてすら今は誰も繋ぎ得ず。 4 彼はしばし
ば足械と鏈とにて繋がれたれど、鏈をちぎり、足械
をくだきたり、誰も之を制する力なかりしなり。 5
夜も晝も、絶えず墓あるひは山にて叫び、己が身を
石にて傷つけるたり。 6 かれ遙にイエスを見て、走
りきたり、御前に平伏し、 7 大聲に叫びて言ふ『い

と高き神の子イエスよ、我は汝と何の關係あらん、神によりて願ふ、我を苦しめ給ふな』 8 これはイエス『穢れし靈よ、この人より出で往け』と言ひ給ひしに因るなり。 9 イエスまた『なんぢの名は何か』と問ひ給へば『わが名はレギオン、我ら多きが故なり』と答へ、 10 また己らを此の地の外に逐ひやり給はざらんことを切に求む。 11 彼處の山邊に豚の大なる群、食しゐたり。 12 惡鬼どもイエスに求めて言ふ『われらを遣して豚に入らしめ給へ』 13 イエス許したまふ。穢れし靈いでて、豚に入りたれば、二千匹ばかりの群、海に向ひて崖を駈けくんだり、海に溺れたり。 14 飼ふ者ども逃げ往きて、町にも里にも告げたれば、人々何事の起りしかを見んとて出づ。 15 かくてイエスに來り、惡鬼に憑かれたりし者、即ちレギオンをもちたりし者の、衣服をつけ、慥なる心にて坐しをるを見て、懼れあへり。 16 かの惡鬼に憑かれたる者の上にある事と、豚の事とを見し者ども、之を具に告げたれば、 17 人々イエスにその境を去り給はん事を求む。 18 イエス舟に乗らんとし給ふとき、惡鬼に憑かれたりしもの偕に在らん事を願ひたれど、 19 許さずして言ひ給ふ『なんぢの家に、親しき者に歸りて、主がいかに大なる事を汝に爲し、いかに汝を憫み給ひしかを告げよ』 20 彼ゆきて、イエスの如何に大なる事を己になし給ひしかを、デカポリスに言ひ弘めたれば、人々みな怪しめり。 21 イエス舟にて復かなたに渡り給ひしに、大なる群衆もとに集る、イエス海邊に在せり。 22 會堂司の一人、ヤイロという者きたり、イエスを見て、その足下に伏し、 23 切に願ひて言ふ『わが稚なき娘、いま

はの際なり、來りて手をおき給へ、さらば救はれて
活くべし』 24 イエス彼と共にゆき給へば、大なる群
衆したがひつつ御許に押迫る。 25 ここに十二年 血
漏を患ひたる女あり。 26 多くの醫者に多く苦しめら
れ、有てる物をことごとく費したれど、何の效なく
、反つて増々 悪しくなりたり。 27 イエスの事をき
きて、群衆にまじり、後に來りて、御衣にさはる、
28 『その衣にだに觸らば救はれん』と自ら謂へり。
29 かくて血の泉ただちに乾き、病のいえたるを身に
覺えたり。 30 イエス直ちに能力の己より出でたるを
自ら知り、群衆の中にて、振反り言ひたまふ『誰が
私の衣に觸りしぞ』 31 弟子たち言ふ『群衆の押迫る
を見て、誰が私に觸りしぞと言ひ給ふか』 32 イエス
この事を爲しし者を見んとて見回し給ふ。 33 女おそ
れ戦き、己が身になりし事を知り、來りて御前に平
伏し、ありしままを告ぐ。 34 イエス言ひ給ふ『娘よ
、なんぢの信仰なんぢを救へり、安らかに往け、病
いえて健かになれ』 35 かく語り給ふほどに、會堂
司の家より人々きたりて言ふ『なんぢの娘は早や死
にたり、争でなほ師を煩はすべき』 36 イエス其の告
ぐる言を傍より聞きて、會堂 司に言ひたまふ『懼る
な、ただ信ぜよ』 37 かくてペテロ、ヤコブその兄弟
ヨハネの他は、ともに往く事を誰にも許し給はず。
38 彼ら會堂 司の家に来る。イエス多くの人の、甚く
泣きつ叫びつする騒を見、 39 入りて言ひ給ふ『なん
ぞ騒ぎかつ泣くか、幼兒は死にたるにあらず、寐ね
たるなり』 40 人々イエスを嘲笑ふ。イエス彼等を
みな外に出し、幼兒の父と母と己に伴へる者とを率
きつれて、幼兒のをる處に入り、 41 幼兒の手を執り

て『タリタ、クミ』と言ひたまふ。少女よ、我なんぢに言ふ、起きよ、との意なり。42 直ちに少女たちて歩む、その歳 十二なりければなり。彼ら直ちに甚く驚きおどろけり。43 イエス此の事を誰にも知れぬやうにせよと、堅く彼らを戒め、また食物を娘に與ふことを命じ給ふ。

6 かくて其處をいで、己が郷に到り給ひしに、弟子たちも従へり。2 安息日になりて、會堂にて教へ始め給ひしに、聞きたる多くのもの驚きて言ふ『この人は此等のことを何處より得しぞ、此の人の授けられたる智慧は何ぞ、その手にて爲すかくのごとき能力あるわざは何ぞ。3 此の人は木匠にして、マリヤの子、またヤコブ、ヨセ、ユダ、シモンの兄弟ならずや、其の姉妹も此處に我らと共にをるに非ずや』遂に彼に躓けり。4 イエス彼らに言ひたまふ『預言者は、おのが郷、おのが親族、おのが家の外にて尊ばれざる事なし』5 彼處にては、何の能力ある業をも行ひ給ふこと能はず、ただ少數の病める者に、手をおきて醫し給ひしのみ。6 彼らの信仰なきを怪しみ給へり。かくて村々を歴巡りて教へ給ふ。7 また十二弟子を召し、二人づつ遣しはじめ、穢れし靈を制する權威を與へ、8 かつ旅のために、杖一つの他は、何をも持たず、糧も囊も帶の中に錢をも持たず、9 ただ草鞋ばかりをはきて、二つの下衣をも著ざること命じ給へり。10 かくて言ひたまふ『何處にても人の家に入らば、その地を去るまで其處に留れ。11 何地にても汝らを受けず、汝らに聽かずば、其處を出づるとき、證のために足の裏の塵を拂へ』12 ここに弟子たち出で往きて、悔改むべきことを宣傳

へ、**13**多くの悪鬼を逐ひいだし、多くの病める者に油をぬりて醫せり。**14**かくてイエスの名顯れたれば、ヘロデ王ききて言ふ『バプテスマのヨハネ死人の中より甦へりたり。この故に此等の能力その中に働くなり』**15**或人は『エリヤなり』といひ、或人は『預言者、いにしへの預言者のごとき者なり』といふ。**16**ヘロデ聞きて言ふ『わが首斬りしヨハネ、かれ甦へりたるなり』**17**ヘロデ先にその娶りたる己が兄弟ピリポの妻ヘロデヤの爲に、みづから人を遣し、ヨハネを捕へて獄に繋げり。**18**ヨハネ、ヘロデに『その兄弟の妻を納るるは宣しからず』と言へるに因る。**19**ヘロデヤ、ヨハネを怨みて殺さんと思へど能はず。**20**それはヘロデ、ヨハネの義にして聖なる人たるを知りて、之を畏れ、之を護り、且つその教をききて、大に悩みつつも、なほ喜びて聽きたる故なり。**21**然るに機よき日來れり。ヘロデ己が誕生日に、大臣・將校・ガリラヤの貴人たちを招きて饗宴せしに、**22**かのヘロデヤの娘いり來りて、舞をまひ、ヘロデと其の席に列れる者とを喜ばしむ。王、少女に言ふ『何にても欲しく思ふものを求めよ、我あたへん』**23**また誓ひて言ふ『なんぢ求めば、我が國の半までも與へん』**24**娘いでて母にいふ『何を求むべきか』母いふ『バプテスマのヨハネの首を』**25**娘ただちに急ぎて王の許に入りきたり、求めて言ふ『ねがはくは、バプテスマのヨハネの首を盆に載せて速かに賜はれ』**26**王いたく憂ひたれど、その誓と席に在る者とに對して拒むことを好まず、**27**直ちに衛兵を遣し、之にヨハネの首を持ち來ることを命ぜず、衛兵ゆきて、獄にてヨハネを首斬り、**28**その首

を盆にのせ、持ち來りて少女に與ふ、少女これを母に與ふ。 29 ヨハネの弟子たち聞きて來り、その屍體を取りて墓に納めたり。 30 使徒たちイエスの許に集りて、その爲ししこと、教へし事をことごとく告ぐ。 31 イエス言ひ給ふ『なんぢら人を避け、寂しき處に、いざ來りて暫し息へ』これは往來の人おほくして、食する暇だになかりし故なり。 32 かくて人を避け、舟にて寂しき處にゆく。 33 其の往くを見て、多くの人それと知り、その處を指して、町々より徒歩にてともに走り、彼等よりも先に往けり。 34 イエス出でて大なる群衆を見、その牧ふ者なき羊の如くなるを甚く憫みて、多くの事を教へはじめ給ふ。 35 時すでに晩くなりたれば、弟子たち御許に來りていふ『ここは寂しき處、はや時も晩し。 36 人々を去らしめ、周圍の里また村に往きて、己がために食物を買はせ給へ』 37 答へて言ひ給ふ『なんぢら食物を與へよ』弟子たち言ふ『われら往きて二百デナリのパンを買ひ、これに與へて食はすべきか』 38 イエス言ひ給ふ『パン幾つあるか、往きて見よ』彼ら見ていふ『五つ、また魚二つあり』 39 イエス凡ての人の組々となりて、青草の上に坐することを命じ給へば、 40 或は百人、あるひは五十人、畝のごとく列びて坐す。 41 かくてイエス五つのパンと二つの魚とを取り、天を仰ぎて祝し、パンをさき、弟子たちに付して人々の前に置かしめ、二つの魚をも人毎に分け給ふ。 42 凡ての人食ひて飽きたれば、 43 パンの餘、魚の殘を集めしに、十二の筐に満ちたり。 44 パンを食ひたる男は五千人なりき。 45 イエス直ちに、弟子たちを強ひて舟に乗らせ、自ら群衆を返す間に

、彼方なるベツサイダに先に往かしむ。46 群衆に別れてのち、祈らんとて山にゆき給ふ。47 夕になりて、舟は海の真中にあり、イエスはひとり陸に在す。48 風逆ふに因りて、弟子たちの漕ぎ煩ふを見て、夜明の四時ごろ、海の上を歩み、その許に到りて、往き過ぎんとし給ふ。49 弟子たち其の海の上を歩み給ふを見、變化の者ならんと思ひて叫ぶ。50 皆これを見て心騒ぎたるに因る。イエス直ちに彼らに語りて言ひ給ふ『心安かれ、我なり、懼るな』51 かくて弟子たちの許にゆき、舟に登り給へば、風やみたり。弟子たち心の中にて甚く驚く、52 彼らは先のパンの事をさとらず、反つて其の心鈍くなりしなり。53 遂に渡りてゲネサレの地に著き、舟がかりす。54 舟より上りしに、人々ただちにイエスを認めて、55 徧くあたりを馳せまはり、その在すと聞く處々に、患ふ者を床のままつれ來る。56 その到りたまふ處には、村にても、町にても、里にても、病める者を市場におきて、御衣の總にだに觸らしめ給はんことを願ふ。觸りし者は、みな醫されたり。

7 パリサイ人と或學者らと、エルサレムより來りてイエスの許に集る。2 而して、その弟子たちの中に、潔からぬ手、即ち洗はぬ手にて食事する者のあるを見たり。3 パリサイ人および凡てのユダヤ人は、古への人の言傳を固く執りて、懇ろに手を洗はねば食はず。4 また市場より歸りては、まず襖がざれば食はず。このほか酒杯・鉢・銅の器を濯ぐなど、多くの傳を承けて固く執りたり。5 パリサイ人および學者らイエスに問ふ『なにゆゑ汝の弟子たちは、古への人の言傳に遵ひて歩まず、潔からぬ手にて食事

するか』 6 イエス言ひ給ふ『イザヤは汝ら偽善者につきて能く預言せり。「この民は口唇にて我を敬ふ、されどその心は我に遠ざかる。 7 ただ徒らに我を拜む、人の訓誡を教とし教へて」と録したり。 8 なんぢらは神の誡命を離れて、人の言傳を固く執る』 9 また言ひたまふ『汝等はおのれの言傳を守らんとて、能くも神の誡命を棄つ。 10 即ちモーセは「なんぢの父、なんぢの母を敬へ」といひ「父また母を罵る者は、必ず殺さるべし」といへり。 11 然るに汝らは「人もし父また母にむかひ、我が汝に對して負ふ所のものは、コルバン即ち供物なりと言はば可し」と言ひて、 12 そののち人をして、父また母に事ふること無からしむ。 13 かく汝らの傳へたる言傳によりて、神の言を空しうし、又おほく此の類の事をなしをるなり』 14 更に群衆を呼び寄せて言ひ給ふ『なんぢら皆われに聽きて悟れ。 15 外より人に入りて、人を汚し得るものなし、されど人より出づるものは、これ人を汚すなり』 16 [なし] 17 イエス群衆を離れて家に入り給ひしに、弟子たち其の譬を問ふ。 18 彼らに言ひ給ふ『なんぢらも然か悟なきか、外より人に入る物の、人を汚しえぬを悟らぬか、 19 これ心には入らず、腹に入りて厠におつるなり』 かく凡ての食物を潔しとし給へり。 20 また言ひたまふ『人より出づるものは、これ人を汚すなり。 21 それ内より、人の心より、悪しき念いづ、即ち淫行・竊盜・殺人、 22 姦淫・慳貪・邪曲・詭計・好色・嫉妬・誹謗・傲慢・愚痴。 23 すべて此等の悪しき事は、内より出でて人を汚すなり』 24 イエス起ちて此處を去り、ツロの地方に往き、家に入りて人に知られじとし給

ひたれど、隠ること能はざりき。 25 ここに穢れし靈に憑かれたる稚なき娘をもてる女、ただちにイエスの事をきき、來りて御足の許に平伏す。 26 この女はギリシヤ人にて、スロ・フェニキヤの生なり。その娘より惡鬼を逐ひ出し給はんことを請ふ。 27 イエス言ひ給ふ『まづ子供に飽かしむべし、子供のパンをとりて小狗に投げ與ふるは善からず』 28 女こたへて言ふ『然り、主よ、食卓の下の小狗も子供の食屑を食ふなり』 29 イエス言ひ給ふ『なんぢ此の言によりて〔安んじ〕往け、惡鬼は既に娘より出でたり』 30 をんな家に歸りて見るに、子は寢臺の上に臥し、惡鬼は既に出でたり。 31 イエスまたツロの地方を去りて、シドンを過ぎ、デカポリスの地方を経て、ガリラヤの海に來り給ふ。 32 人々、耳聾にして物言ふこと難き者を連れ來りて、之に手をおき給はんことを願ふ。 33 イエス群衆の中より、彼をひとり連れ出し、その兩耳に指をさし入れ、また唾して其の舌に觸り、 34 天を仰ぎて嘆じ、その人に對ひて『エパタ』と言ひ給ふ、ひらけよとの意なり。 35 かくてその耳ひらけ、舌の縛ただちに解け、正しく物いへり。 36 イエス誰にも告ぐなと人々を戒めたまふ。されど戒むるほど反つて愈々言ひ弘めたり。 37 また甚だしく打驚きて言ふ『かれの爲しし事は皆よし、聾者をも聞えしめ、啞者をも物いはしむ』

8 その頃また大なる群衆にて食ふべき物なかりしかば、イエス弟子たちを召して言ひ給ふ、 2 『われ此の群衆を憫む、既に三日われと偕にをりて、食ふべき物なし。 3 飢ゑしままにて其の家に歸らしめば、途にて疲れ果てん。其の中には遠くより來れる者あ

り』 4 弟子たち答へて言ふ『この寂しき地にては、何處よりパンを得て、この人々を飽かしむべき』 5 イエス問ひ給ふ『パン幾つあるか』答へて『七つ』といふ。 6 イエス群衆に命じて地に坐せしめ、七つのパンを取り、謝して之を裂き、弟子たちに與へて群衆の前におかしむ。弟子たち乃ちその前におく。 7 また小き魚すこしばかりあり、祝して、之をもその前におけと言ひ給ふ。 8 人々食ひて飽き、裂きたる餘を拾ひしに、七つの籃に満ちたり。 9 その人おほよそ四千人なりき。イエス彼らを歸し、 10 直ちに弟子たちと共に舟に乗りて、ダルマヌタの地方に往き給へり。 11 パリサイ人いで來りて、イエスと論じはじめ、之を試みて天よりの徴をもとむ。 12 イエス心に深く歎じて言ひ給ふ『なにゆゑ今の代は徴を求むるか、まことに汝らに告ぐ、徴は今の代に斷えて與へられじ』 13 かくて彼らを離れ、また舟に乗りて彼方に往き給ふ。 14 弟子たちパンを携ふることを忘れ、舟には唯一つの他パンなかりき。 15 イエス彼らを戒めて言ひたまふ『慎みて、パリサイ人のパンだねと、ヘロデのパンだねとに心せよ』 16 弟子たち互に、これはパン無き故ならんと語り合ふ。 17 イエス知りて言ひたまふ『何ぞパン無き故ならんと語り合ふか、未だ知らぬか、悟らぬか、汝らの心なほ鈍きか。 18 目ありて見ぬか、耳ありて聽かぬか。又なんぢら思ひ出でぬか、 19 五つのパンを裂きて、五千人に與へし時、その餘を幾筐ひろひしか』弟子たち言ふ『十二』 20 『七つのパンを裂きて四千人に與へし時、その餘を幾籃ひろひしか』弟子たち言ふ『七つ』 21 イエス言ひたまふ『未だ悟らぬか』 22 彼

ら遂にベツサイダに到る。人々、盲人をイエスに連れ來りて、觸り給はんことを願ふ。 23 イエス盲人の手をとりて、村の外に連れ行き、その目に唾し、御手をあてて『なにか見ゆるか』と問ひ給へば、 24 見上げて言ふ『人を見る、それは樹の如き物の歩くが見ゆ』 25 また御手をその目にあて給へば、視凝めたるに、癒えて凡てのもの明かに見えたり。 26 かくて『村にも入るな』と言ひて、その家に歸し給へり。 27 イエス其の弟子たちとピリポ・カイザリヤの村々に出でゆき、途にて弟子たちに問ひて言ひたまふ『人々は我を誰と言ふか』 28 答へて言ふ『バプテスマのヨハネ、或人はエリヤ、或人は預言者の一人』 29 また問ひ給ふ『なんぢらは我を誰と言ふか』 ペテロ答へて言ふ『なんぢはキリストなり』 30 イエス己がことを誰にも告ぐなど、彼らを戒め給ふ。 31 かくて人の子の必ず多くの苦難をうけ、長老・祭司長・學者らに棄てられ、かつ殺され、三日の後に甦へるべき事を教へはじめ、 32 此の事をあらはに語り給ふ。ここにペテロ、イエスを傍にひきて戒め出でたれば、 33 イエス振反りて弟子たちを見、ペテロを戒めて言ひ給ふ『サタンよ、わが後に退け、汝は神のことを思はず、反つて人のことを思ふ』 34 かくて群衆を弟子たちと共に呼び寄せて言ひたまふ『人もし我に従ひ來らんと思はば、己をすて、己が十字架を負ひて我に従へ。 35 己が生命を救はんと思ふ者は、これを失ひ、我が爲また福音の爲に己が生命をうしなふ者は、之を救はん。 36 人、全世界を贏くとも、己が生命を損せば、何の益あらん、 37 人その生命の代に何を與へんや。 38 不義なる罪深き今の代にて、

我または我が言を恥づる者をば、人の子もまた、父の榮光をもて、聖なる御使たちと共に來らん時に恥づべし』

9 また言ひ給ふ『まことに汝らに告ぐ、此處に立つ者のうちに、神の國の、權能をもて來るを見るまでは、死を味はぬ者どもあり』 **2** 六日の後、イエスただペテロ、ヤコブ、ヨハネのみを率きつれ、人を避けて高き山に登りたまふ。かくて彼らの前にて其の状かはり、 **3** 其の衣かがやきて甚だ白くなりぬ、世の晒布者を爲し得ぬほど白し。 **4** エリヤ、モーセともに彼らに現れて、イエスと語りあたり。 **5** ペテロ差出でてイエスに言ふ『ラビ、我らの此處に居るは善し。われら三つの廬を造り、一つを汝のため、一つをモーセのため、一つをエリヤのためにせん』 **6** 彼等いたく懼れたれば、ペテロ何と言ふべきかを知らざりしなり。 **7** かくて雲おこり、彼らを覆ふ。雲より聲出づ『これは我が愛しむ子なり、汝ら之に聽け』 **8** 弟子たち急ぎ見回すに、イエスと己らとの他には、はや誰も見えざりき。 **9** 山をくだる時、イエス彼らに、人の子の、死人の中より甦へるまでは、見しことを誰にも語るなと戒め給ふ。 **10** 彼ら此の言を心にとめ『死人の中より甦へる』とは、如何なる事ぞと互に論じ合ふ。 **11** かくてイエスに問ひて言ふ『學者たちは、何故エリヤまづ來るべしと言ふか』 **12** イエス言ひ給ふ『實にエリヤ先づ來りて、萬の事をあらたむ。さらば人の子につき、多くの苦難を受け、かつ蔑せらるる事の録されたるは何ぞや。 **13** されど我なんぢらに告ぐ、エリヤは既に來れり。然るに彼に就きて録されたる如く、人々心のままに之を

待へり』 14 相共に弟子たちの許に來りて、大なる群衆の之を環り、學者たちの之と論じゐたるを見給ふ。 15 群衆みなイエスを見るや否や、いたく驚き、御許に走り往きて禮をなせり。 16 イエス問ひ給ふ『なんぢら何を彼らと論ずるか』 17 群衆のうちの一人こたふ『師よ、唾の靈に憑かれたる我が子を御許に連れ來れり。 18 靈いつこにても彼に憑けば、痙攣け泡をふき、齒をくひしぼり、而して瘦せ衰ふ。御弟子たちに之を逐ひ出すことを請ひたれど能はざりき』 19 ここに彼らに言ひ給ふ『ああ信なき代なるかな、我いつまで汝らと偕にをらん、何時まで汝らを忍ばん。その子を我が許に連れきたれ』 20 乃ち連れきたる。彼イエスを見しとき、靈ただちに之を痙攣けたれば、地に倒れ、泡をふきて轉び廻る。 21 イエスその父に問ひ給ふ『いつの頃より斯くなりしか』父いふ『をさなき時よりなり。 22 靈しばしば彼を火のなか水の中に投げ入れて亡さんとせり。されど汝なにか爲し得ば、我らを憫みて助け給へ』 23 イエス言ひたまふ『爲し得ばと言ふか、信ずる者には、凡ての事なし得らるるなり』 24 その子の父ただちに叫びて言ふ『われ信ず、信仰なき我を助け給へ』 25 イエス群衆の走り集るを見て、穢れし靈を禁めて言ひたまふ『唾にて耳聾なる靈よ、我なんぢに命ず、この子より出でよ、重ねて入るな』 26 靈さけびて甚だしく痙攣けさせて出でしに、その子、死人の如くなりたれば、多くの者これを死にたりと言ふ。 27 イエスその手を執りて起し給へば立てり。 28 イエス家に入り給ひしとき、弟子たち竊に問ふ『我等いかなれば逐ひ出し得ざりしか』 29 答へ給ふ『この類は祈に由ら

ざれば、如何にすとも出でざるなり』 30 此處を去りてガリラヤを過ぐ。イエス人の此の事を知るを欲し給はず。 31 これは弟子たちに教をなし、かつ『人の子は人々の手にわたされ、人々これを殺し、殺されて三日ののち甦へるべし』と言ひ給ふが故なり。 32 弟子たちはその言を悟らず、また問ふ事を恐れたり。 33 かくてカペナウムに到る。イエス家に入りて弟子たちに問ひ給ふ『なんぢら途すがら何を論ぜしか』 34 弟子たち黙然たり、これは途すがら、誰か大ならんと、互に争ひたるに因る。 35 イエス坐して十二弟子を呼び、之に言ひたまふ『人もし頭たらんと思はば、凡ての人の後となり、凡ての人の役者となるべし』 36 かくてイエス幼児をとりて彼らの中におき、之を抱きて言ひ給ふ、 37 『おほよそ我が名のために斯かる幼児の一人を受くる者は、我を受くるなり。我を受くる者は、我を受くるにあらず、我を遣しし者を受くるなり』 38 ヨハネ言ふ『師よ、我らに従はぬ者の、御名によりて悪鬼を逐ひ出すを見しが、我らに従はぬ故に、之を止めたり』 39 イエス言ひたまふ『止むな、我が名のために能力ある業をおこなひ、俄に我を譏り得る者なし。 40 我らに逆はぬ者は、我らに附く者なり。 41 キリストの者たるによりて、汝らに一杯の水を飲まする者は、我まことに汝らに告ぐ、必ずその報を失はざるべし。 42 また我を信ずる此の小さき者の一人を躓かす者は、寧ろ大なる礮臼を頸に懸けられて、海に投げ入れられんかた勝れり。 43 もし汝の手なんぢを躓かせば、之を切り去れ、不具にて生命に入るは、兩手ありてゲヘナの消えぬ火に往くよりも勝るなり。 (Geenna g1067) 44 [なし

〕 45 もし汝の足なんぢを躓かせば、之を切り去れ、蹇跛にて生命に入るは、兩足ありてゲヘナに投げ入れらるるよりも勝るなり。(Geenna g1067) 46 [なし] 47
もし汝の眼なんぢを躓かせば、之を抜き出せ、片眼にて神の國に入るは、兩眼ありてゲヘナに投げ入れらるるよりも勝るなり。(Geenna g1067) 48 「彼處にては、その蛆つきず、火も消えぬなり」 49 それ人はみな火をもて鹽つけらるべし。 50 鹽は善きものなり、されど鹽もし其の鹽氣を失はば、何をもて之に味つけん。汝ら心の中に鹽を保ち、かつ互に和ぐべし』

10 イエス此處をたちて、ユダヤの地方およびヨルダンの彼方に來り給ひしに、群衆またも御許に集ひたれば、常のごとく教へ給ふ。 2 時にパリサイ人ら來り試みて問ふ『人その妻を出すはよきか』 3 答へて言ひ給ふ『モーセは汝らに何と命ぜしか』 4 彼ら言ふ『モーセは離縁状を書きて出すことを許せり』
5 イエス言ひ給ふ『汝らの心つれなきによりて、此の誠命を録ししなり。 6 されど開闢の初より「人を男と女とに造り給へり」 7 「かかる故に人はその父母を離れて、 8 二人のもの一體となるべし」さればはや二人にはあらず、一體なり。 9 この故に神の合せ給ふものは、人これを離すべからず』 10 家に入りて弟子たち復この事を問ふ。 11 イエス言ひ給ふ『おほよそ其の妻を出して他に娶る者は、その妻に對して姦淫を行ふなり。 12 また妻もし其の夫を棄てて他に嫁がば、姦淫を行ふなり』 13 イエスの觸り給はんことを望みて、人々 幼兒らを連れ來りしに、弟子たち禁めたれば、 14 イエス之を見、いきどほりて言ひたまふ『幼兒らの我に來るを許せ、止むな、神の國は

斯くのごとき者の國なり。 15 まことに汝らに告ぐ、凡そ幼兒の如くに神の國をうくる者ならずば、之に入るに能はず』 16 かくて幼兒を抱き、手をその上におきて祝し給へり。 17 イエス途に出で給ひしに、一人はしり來り、跪づきて問ふ『善き師よ、永遠の生命を嗣ぐためには、我なにを爲すべきか』 (aiōnios g166) 18 イエス言ひ給ふ『なにゆゑ我を善しと言ふか、神ひとりの他に善き者なし。 19 誠命は汝が知るところなり「殺すなかれ」「姦淫するなかれ」「盗むなかれ」「偽證を立つるなかれ」「欺き取るなかれ」「汝の父と母とを敬へ』』 20 彼いふ『師よ、われ幼き時より皆これを守れり』 21 イエス彼に目をとめ、愛しみて言ひ給ふ『なんぢ尚ほ一つを缺く、往きて汝の有てる物をことごとく賣りて、貧しき者に施せ、さらば財寶を天に得ん。且きたりて我に従へ』 22 この言によりて、彼は憂を催し、悲しみつつ去りぬ、大なる資産をもてる故なり。 23 イエス見回して弟子たちに言ひたまふ『富ある者の神の國に入るは如何に難いかな』 24 弟子たち此の御言に驚く。イエスまた答へて言ひ給ふ『子たちよ、神の國に入るは如何に難いかな、 25 富める者の神の國に入るよりは、駱駝の針の孔を通るかた反つて易し』 26 弟子たち甚く驚きて互に言ふ『さらば誰か救はるる事を得ん』』 27 イエス彼らに目を注めて言ひたまふ『人には能はねど、神には然らず、夫れ神は凡ての事をなし得るなり』 28 ペテロ、イエスに對ひて『我らは一切をすてて汝に従ひたり』』と言ひ出でたれば、 29 イエス言ひ給ふ『まことに汝らに告ぐ、我がため、福音のために、或は兄弟、あるひは姉妹、或は父、或は母

、或は子、或は田畑をすつる者は、**30** 誰にても今、今の時に百 倍を受けぬはなし。即ち家・兄弟・姉妹・母・子・田畑を迫害と共に受け、また後の世にては、永遠の生命を受けぬはなし。(aiōn g165, aiōnios g166)

31 されど多くの先なる者は後に、後なる者は先になるべし』 **32** エルサレムに上る途にて、イエス先だち往き給ひしかば、弟子たち驚き、随ひ往く者ども懼れたり。イエス再び十二 弟子を近づけて、己が身に起らんとする事どもを語り出で給ふ **33** 『視よ、我らエルサレムに上る。人の子は祭司長・學者らに付されん。彼ら死に定めて、異邦人に付さん。 **34** 異邦人は嘲弄し、唾し、鞭うち、遂に殺さん、かくて彼は三日の後に甦へるべし』 **35** ここにゼベダイの子ヤコブ、ヨハネ御許に來りて言ふ『師よ、願はくは我らが何にても求むる所を爲したまへ』 **36** イエス言ひ給ふ『わが汝らに何を爲さんことを望むか』 **37** 彼ら言ふ『なんぢの榮光の中にて、一人をその右に、一人をその左に坐せしめ給へ』 **38** イエス言ひ給ふ『なんぢらは求むる所を知らず、汝 等わが飲む酒杯を飲み、我が受くるバプテスマを受け得るか』 **39** 彼等いふ『得るなり』 イエス言ひ給ふ『なんぢら我が飲む酒杯を飲み、また我が受くるバプテスマを受くべし。 **40** されど我が右 左に坐することは、私の與ふべきものならず、ただ備へられたる人こそ與へらるるなれ』 **41** 十人の弟子これを聞き、ヤコブとヨハネとの事により憤り出でたれば、 **42** イエス彼らを呼びて言ひたまふ『異邦人の君と認めらるる者の、その民を宰どり、大なる者の、民の上に權を執ることは、汝らの知る所なり。 **43** されど汝らの中にては然

らず、反つて大ならんと思ふ者は、汝らの役者となり、**44** 頭たらんと思ふ者は、凡ての者の僕となるべし。**45** 人の子の來れるも、事へらるる爲にあらず、反つて事ふることをなし、又おほくの人の贖償として己が生命を與へん爲なり』 **46** かくて彼らエリコに到る。イエスその弟子たち及び大なる群衆と共に、エリコを出でたまふ時、テマイの子バルテマイといふ盲目の乞食、路の傍に坐しをりしが、**47** ナザレのイエスなりと聞き、叫び出して言ふ『ダビデの子イエスよ、我を憫みたまへ』 **48** 多くの人かれを禁めて黙さしめんとしたれど、ますます叫びて『ダビデの子よ、我を憫みたまへ』と言ふ。**49** イエス立ち止りて『かれを呼べ』と言ひ給へば、人々 盲人を呼びて言ふ『心安かれ、起て、なんぢを呼びたまふ』 **50** 盲人うはぎを脱ぎ捨て、躍り上りて、イエスの許に來りしに、**51** イエス答へて言ひ給ふ『わが汝に何を爲さんことを望むか』盲人いふ『わが師よ、見えんことなり』 **52** イエス彼に『ゆけ、汝の信仰なんぢを救へり』と言ひ給へば、直ちに見ることを得、イエスに従ひて途を往けり。

11 彼らエルサレムに近づき、オリブ山の麓なるベテパゲ及びベタニヤに到りし時、イエス二人の弟子を遣さんとして言ひ給ふ、**2** 『むかひの村にゆけ、其處に入らば、やがて人の未だ乗りたることなき驢馬の子の繋ぎあるを見ん、それを解きて牽き來れ。**3** 誰かもし汝らに「なにゆゑ然するか」と言はば「主の用なり、彼ただちに返さん」といへ』 **4** 弟子たち往きて、門の外の路に驢馬の子の繋ぎあるを見て解きたれば、**5** 其處に立つ人々のうちの或者『なんぢ

ら驢馬の子を解きて何とするか』と言ふ。 6 弟子たちイエスの告げ給ひし如く言ひしに、彼ら許せり。 7 かくて弟子たち驢馬の子をイエスの許に牽ききたり、己が衣をその上に置きたれば、イエス之に乗り給ふ。 8 多く人は己が衣を、或人は野より伐り取りたる樹の枝を途に敷く。 9 かつ前に往き後に従ふ者ども呼はりて言ふ『「ホサナ、讃むべきかな、主の御名によりて來る者」 10 讃むべきかな、今し來る我らの父ダビデの國。「いと高き處にてホサナ」』 11 遂にエルサレムに到りて宮に入り、凡ての物を見回し、時はや暮に及びたれば、十二弟子と共にベタニヤに出で往きたまふ。 12 あくる日かれらベタニヤより出で來りし時、イエス飢ゑ給ふ。 13 遙に葉ある無花果の樹を見て、果をや得んと其のもとに到り給ひしに、葉のほかは何をも見出し給はず、是は無花果の時ならぬに因る。 14 イエスその樹に對ひて言ひたまふ『今より後いつまでも、人なんぢの果を食はざれ』弟子たち之を聞けり。(aiōn g165) 15 彼らエルサレムに到る。イエス宮に入り、その内にて賣買する者どもを逐ひ出し、兩替する者の臺、鴿を賣るものの腰掛を倒し、 16 また器物を持ちて宮の内を過ぐることを免し給はず。 17 かつ教へて言ひ給ふ『「わが家は、もろもろの國人の祈の家と稱へらるべし」と録されたるにあらずや、然るに汝らは之を「強盜の巢」となせり』 18 祭司長・學者ら之を聞き、如何にしてかイエスを亡さんと謀る、それは群衆みな其の教に驚きたれば、彼を懼れしなり。 19 夕になる毎に、イエス弟子たちと共に都を出でゆき給ふ。 20 彼ら朝早く路をすぎしに、無花果の樹の根より枯れたるを

見る。21 ペテロ思ひ出してイエスに言ふ『ラビ、見給へ、詛ひ給ひし無花果の樹は枯れたり』 22 イエス答へて言ひ給ふ『神を信ぜよ。23 まことに汝らに告ぐ、人もし此の山に「移りて海に入れ」と言ふとも、其の言ふところ必ず成るべしと信じて、心に疑はずば、その如く成るべし。24 この故に汝らに告ぐ、凡て祈りて願ふ事は、すでに得たりと信ぜよ、さらば得べし。25 また立ちて祈るとき、人を怨む事あらば免せ、これは天に在す汝らの父の、汝らの過失を免し給はん爲なり』 26 [なし] 27 かれら又エルサレムに到る。イエス宮の内を歩み給ふとき、祭司長・學者・長老たち御許に來りて、28 『何の權威をもて此等の事をなすか、誰が此等の事を爲すべき權威を授けしか』と言ふ。29 イエス言ひ給ふ『われ一言なんぢらに問はん、答へよ、さらば我も何の權威をもて、此等の事を爲すかを告げん。30 ヨハネのバプテスマは、天よりか、人よりか、我に答へよ』 31 彼ら互に論じて言ふ『もし天よりと言はば「何故かれを信ぜざりし」と言はん。32 されど人よりと言はんか……』彼ら群衆を恐れたり、人みなヨハネを實に預言者と認めたればなり。33 遂にイエスに答へて『知らず』と言ふ。イエス言ひ給ふ『われも何の權威をもて此等の事を爲すか、汝らに告げじ』

12 イエス譬をもて彼らに語り出で給ふ『ある人、葡萄園を造り、籬を環らし、酒槽の穴を掘り、櫓をたて、農夫どもに貸して、遠く旅立せり。2 時いたりて農夫より葡萄園の所得を受取らんとて、僕をその許に遣ししに、3 彼ら之を執へて打ちたたき、空手にて歸らしめたり。4 又ほかの僕を遣ししに、そ

の首に傷つけ、かつ辱しめたり。 5 また他の者を遣ししに、之を殺したり。又ほかの多くの僕をも、或は打ち或は殺したり。 6 なほ一人あり、即ち其の愛しむ子なり「わが子は敬ふならん」と言ひて、最後に之を遣ししに、 7 かの農夫ども互に言ふ「これは世嗣なり、いざ之を殺さん、さらばその嗣業は、我らのものとなるべし」 8 乃ち執へて之を殺し、葡萄園の外に投げ棄てたり。 9 さらば葡萄園の主、なにを爲さんか、來りて農夫どもを亡し、葡萄園を他の者どもに與ふべし。 10 汝ら聖書に「造家者らの棄てたる石は、これぞ隅の首石となれる。 11 これ主によりて成れるにて、我らの目には奇しきなり」とある句をすら讀まぬか』 12 ここに彼等イエスを執へんと思ひたれど、群衆を恐れたり、この譬の己らを指して言ひ給へるを悟りしに因る。遂にイエスを離れて去り往けり。 13 かくて彼らイエスの言尾をとらへて陥入れん爲に、パリサイ人とヘロデ黨との中より、數人を御許に遣す。 14 その者ども來りて言ふ『師よ、我らは知る、汝は眞にして、誰をも憚りたまふ事なし、人の外貌を見ず、眞をもて神の道を教へ給へばなり。我ら貢をカイザルに納むるは、宜きか、悪しきか、納めんか、納めざらんか』 15 イエス其の詐偽なるを知りて『なんぞ我を試むるか、デナリを持ち來りて我に見せよ』と言ひ給へば、 16 彼ら持ち來る。イエス言ひ給ふ『これは誰の像、たれの號なるか』『カイザルのなり』と答ふ。 17 イエス言ひ給ふ『カイザルの物はカイザルに、神の物は神に納めよ』彼らイエスに就きて甚だ怪しめり。 18 また復活なしと云ふサドカイ人ら、イエスに來り問ひて言ふ

19 『師よ、モーセは、人の兄弟もし子なく妻を遺して死なば、その兄弟かれの妻を娶りて、兄弟のため嗣子を擧ぐべしと、我らに書き遺したり。 20 ここに七人の兄弟ありて、兄 妻を娶り、嗣子なくして死に、 21 第二の者その女を娶り、また嗣子なくして死に、第三の者もまた然なし、 22 七人とも嗣子なくして死に、終には其の女も死にたり。 23 復活のとき彼らみな甦へらん、この女は誰の妻たるべきか、七人これを妻としたればなり』 24 イエス言ひ給ふ『なんぢらの誤れるは、聖書をも神の能力をも知らぬ故ならずや。 25 人、死人の中より甦へる時は、娶らず、嫁がず、天に在る御使たちの如くなるなり。 26 死にたる者の甦へる事に就きては、モーセの書の中なる柴の條に、神モーセに「われはアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神なり」と告げ給ひし事あるを、未だ讀まぬか。 27 神は死にたる者の神にあらず、生ける者の神なり。なんぢら大に誤れり』 28 學者の一人、かれらの論じをるを聞き、イエスの善く答へ給へるを知り、進み出でて問ふ『すべての誠命のうち、何か第一なる』 29 イエス答へたまふ『第一は是なり「イスラエルよ聽け、主なる我らの神は唯一の主なり。 30 なんぢ心を盡し、精神を盡し、思を盡し、力を盡して、主なる汝の神を愛すべし」 31 第二は是なり「おのれの如く汝の隣を愛すべし」此の二つより大なる誠命はなし』 32 學者いふ『善きかな師よ「神は唯一にして他に神なし」と言ひ給へるは眞なり。 33 「こころを盡し、知慧を盡し、力を盡して神を愛し、また己のごとく隣を愛する」は、もろもろの燔祭および犠牲に勝るなり』 34 イエスその聰く答

へしを見て言ひ給ふ『なんぢ神の國に遠からず』此の後たれも敢へてイエスに問ふ者なかりき。 35 イエス宮にて教ふるとき、答へて言ひ給ふ『なにゆゑ學者らはキリストをダビデの子と言ふか。 36 ダビデ聖靈に感じて自らいへり「主わが主に言ひ給ふ、我なんぢの敵を汝の足の下に置くまでは、我が右に坐せよ」と。 37 ダビデ自ら彼を主と言ふ、されば争でその子ならんや』大なる群衆は喜びてイエスに聽きたり。 38 イエスその教のうちに言ひたまふ『學者らに心せよ、彼らは長き衣を著て歩むこと、市場にての敬禮、 39 會堂の上座、饗宴の上席を好み、 40 また寡婦らの家を呑み、外見をつくりて長き祈をなす。その受くる審判は更に厳しからん』 41 イエス賽錢函に對ひて坐し、群衆の錢を賽錢函に投げ入るるを見給ふ。富める多くの者は、多く投げ入れしが、 42 一人の貧しき寡婦きたりて、レプタ二つを投げ入れたり、即ち五厘ほどなり。 43 イエス弟子たちを呼び寄せて言ひ給ふ『まことに汝らに告ぐ、この貧しき寡婦は、賽錢函に投げ入るる凡ての人よりも多く投げ入れたり。 44 凡ての者は、その豊なる内よりなげ入れ、この寡婦は其の乏しき中より、凡ての所有、即ち己が生命の料をことごとく投げ入れたればなり』

13 イエス宮を出で給ふとき、弟子の一人いふ『師よ、見給へ、これらの石、これらの建造物、いかに盛ならずや』 2 イエス言ひ給ふ『なんぢ此等の大なる建造物を見るか、一つの石も崩されずしては石の上に残らじ』 3 オリブ山にて宮の方に對ひて坐し給へるに、ペテロ、ヤコブ、ヨハネ、アンデレ竊に問ふ 4 『われらに告げ給へ、これらの事は何時あるか

、又すべて此等の事の成し遂げられんとする時は、如何なる兆あるか』 5 イエス語り出で給ふ『なんぢら人に惑されぬやうに心せよ。 6 多くの者わが名を冒し來り「われは夫なり」と言ひて多くの人を惑さん。 7 戦争と戦争の噂とを聞くとき懼るな、かかる事はあるべきなり、されど未だ終にはあらず。 8 即ち「民は民に、國は國に逆ひて起たん」また處々に地震あり、饑饉あらん、これらは産の苦難の始なり。 9 汝等みづから心せよ、人々なんぢらを衆議所に付さん。なんぢら會堂に曳かれて打たれ、且わが故によりて、司たち及び王たちの前に立てられん、これは證をなさん爲なり。 10 かくて福音は先づもろもろの國人に宣傳へらるべし。 11 人々なんぢらを曳きて付さんとき、何を言はんと預じめ思ひ煩ふな、唯そのとき授けらるることを言へ、これ言ふ者は汝等にあらず、聖靈なり。 12 兄弟は兄弟を、父は子を死にわたし、子らは親たちに逆ひ立ちて死なしめん。 13 又なんぢら我が名の故に凡ての人に憎まれん、されど終まで耐へ忍ぶ者は救はるべし。 14 「荒す惡むべき者」の立つべからざる所に立つを見ば（讀むもの悟れ）その時ユダヤにをる者どもは、山に遁れよ。 15 屋の上ををる者は、内に下るな。また家の物を取り出さんとて内に入るな。 16 畑にをる者は上衣を取らんとて歸るな。 17 其の日には孕りたる女と、乳を哺まする女とは禍害なるかな。 18 この事の冬おこらぬやうに祈れ、 19 その日は患難の日なればなり。神の萬物を造り給ひし開闢より今に至るまで、かかる患難はなく、また後にもなからん。 20 主その日を少くし給はずば、救はるる者一人だになからん。

されど其の選び給ひし選民の爲に、その日を少くし給へり。 21 其の時なんぢらに「視よ、キリスト此處にあり」「視よ、彼處にあり」と言ふ者ありとも信ずな。 22 偽キリスト・偽預言者ら起りて、徴と不思議とを行ひ、爲し得べくは、選民をも惑さんとするなり。 23 汝らは心せよ、あらかじめ之を皆なんぢらに告げおくなり。 24 其の時、その患難ののち、日は暗く、月は光を發たず。 25 星は空より隕ち、天にある萬象ふるひ動かん。 26 其のとき人々、人の子の大なる能力と榮光とをもて、雲に乗り來るを見ん。 27 その時かれは使者たちを遣して、地の極より天の極まで、四方より其の選民をあつめん。 28 無花果の樹よりの譬を學べ、その枝すでに柔かくなりて葉芽ぐめば、夏の近きを知る。 29 かくの如く此等のことの起るを見ば、人の子すでに近づきて門邊にいたるを知れ。 30 まことに汝らに告ぐ、これらの事ごとく成るまで、今の代は過ぎ逝くことなし。 31 天地は過ぎゆかん、されど我が言は過ぎ逝くことなし。 32 その日その時を知る者なし。天にある使者たちも知らず、子も知らず、ただ父のみ知り給ふ。 33 心して目を覺しをれ、汝等その時の何時なるかを知らぬ故なり。 34 例へば家を出づる時、その僕どもに權を委ねて、各自の務を定め、更に門守に、目を覺しをれと命じ置きて、遠く旅立したる人のごとし。 35 この故に目を覺しをれ、家の主人の歸るは、夕か、夜半か、鶏鳴くころか、夜明か、いづれの時なるかを知らねばなり。 36 恐らくは俄に歸りて、汝らの眠れるを見ん。 37 わが汝らに告ぐるは、凡ての人に告ぐるなり。目を覺しをれ』

14 さて過越と除酵との祭の二日前となりぬ。祭司長・學者ら詭計をもてイエスを捕へ、かつ殺さんと企てて言ふ **2** 『祭の間は爲すべからず、恐らくは民の亂あるべし』 **3** イエス、ペタニヤに在して、癩病人シモンの家にて食事の席につき居給ふとき、或女、價高き混なきナルドの香油の入りたる石膏の壺を持ち來り、その壺を毀ちてイエスの首に注ぎたり。
4 ある人々、憤ほりて互に言ふ『なに故かく濫に油を費すか、**5** この油を三百デナリ餘に賣りて、貧しき者に施すことを得たりしものを』而して甚く女を咎む。**6** イエス言ひ給ふ『その爲すに任せよ、何ぞこの女を惱すか、我に善き事をなせり。**7** 貧しき者は常に汝らと偕にをれば、何時にても心のままに助け得べし、されど我は常に汝らと偕にをらず。**8** 此の女は、なし得る限をなして、我が體に香油をそそぎ、あらかじめ葬りの備をなせり。**9** まことに汝らに告ぐ、全世界いづこにても、福音の宣傳へらるる處には、この女の爲しし事も記念として語るべし』
10 ここに十二弟子の一人なるイスカリオテのユダ、イエスを賣らんとて祭司長の許にゆく。**11** 彼等これを聞いて喜び、銀を與へんと約したれば、ユダ如何にしてか機好くイエスを付さんと謀る。**12** 除酵祭の初の日、即ち過越の羔羊を屠るべき日、弟子たちイエスに言ふ『過越の食をなし給ふために、我らが何處に往きて備ふることを望み給ふか』 **13** イエス二人の弟子を遣さんとして言ひたまふ『都に往け、然らば水をいれたる瓶を持つ人、なんぢらに遇ふべし。之に従ひ往き、**14** その入る所の家主に「師いふ、われ弟子らと共に過越の食をなすべき座敷は何處な

るか」と言へ。 15 さらば調へ備へたる大なる二階座敷を見すべし。其處に我らのために備へよ』 16 弟子たち出で往きて都に入り、イエスの言ひ給ひし如くなるを見て、過越の設備をなせり。 17 日暮れてイエス十二弟子とともに往き、 18 みな席に就きて食するとき言ひ給ふ『まことに汝らに告ぐ、我と共に食する汝らの中の一人、われを賣らん』 19 弟子たち憂ひて一人一人『われなるか』と言ひ出でしに、 20 イエス言ひたまふ『十二のうちの一人にて、我と共にパンを鉢に浸す者は夫なり。 21 實に人の子は己に就きて録されたる如く逝くなり。されど人の子を賣る者は禍害なるかな、その人は生れざりし方よかりしものを』 22 彼ら食しをる時、イエス、パンを取り、祝してさき、弟子たちに與へて言ひたまふ『取れ、これは我が體なり』 23 また酒杯を取り、謝して彼らに與へ給へば、皆この酒杯より飲めり。 24 また言ひ給ふ『これは契約の我が血、おほくの人の爲に流す所のものなり。 25 まことに汝らに告ぐ、神の國にて新しきものを飲む日までは、われ葡萄の果より成るものを飲まじ』 26 かれら讚美をうたひて後、オリブ山に出でゆく。 27 イエス弟子たちに言ひ給ふ『なんぢら皆 躓かん、それは「われ牧羊者を打たん、さらば羊散るべし」と録されたるなり。 28 されど我よみがへりて後、なんぢらに先だちてガリラヤに往かん』 29 時にペテロ、イエスに言ふ『假令みな躓くとも、我は然らじ』 30 イエス言ひ給ふ『まことに汝に告ぐ、今日この夜、鶏ふたたび鳴く前に、なんぢ三たび我を否むべし』 31 ペテロ力をこめて言ふ『われ汝とともに死ぬべき事ありとも、汝を否まず』

弟子たち皆かく言へり。 32 彼らゲツセマネと名づくる處に到りし時、イエス弟子たちに言ひ給ふ『わが祈る間、ここに座せよ』 33 かくてペテロ、ヤコブ、ヨハネを伴ひゆき、甚く驚き、かつ悲しみ出でて言ひ給ふ 34 『わが心いたく憂ひて死ぬばかりなり、汝ら此處に留りて目を覺しをれ』 35 少し進みゆきて、地に平伏し、若しも得べくば此の時の己より過ぎ往かんことを祈りて言ひ給ふ 36 『アバ父よ、父には能はぬ事なし、此の酒杯を我より取り去り給へ。されど我が意のままを成さんとにあらず、御意のままを成し給へ』 37 來りて、その眠れるを見、ペテロに言ひ給ふ『シモンよ、なんぢ眠るか、一時も目を覺しをること能はぬか。 38 なんぢら誘惑に陥らぬやう、目を覺しかつ祈れ。實に心は熱すれども肉體よわきなり』 39 再びゆき、同じ言にて祈り給ふ。 40 また來りて彼らの眠れるを見たまふ、是その目いたく疲れたるなり、彼ら何と答ふべきかを知らざりき。 41 三度 來りて言ひたまふ『今は眠りて休め、足れり、時きたれり、視よ、人の子は罪人らの手に付きたるなり。 42 起て、われらは往くべし。視よ、我を賣る者ちかづけり』 43 なほ語り給ふほどに、十二弟子の一人なるユダ、やがて近づき來る、祭司長・學者・長老らより遣されたる群衆、劍と棒とを持ちて之に伴ふ。 44 イエスを賣るもの、あらかじめ合圖を示して言ふ『わが接吻する者はそれなり、之を捕へて確と引きゆけ』 45 かくて來りて直ちに御許に行き『ラビ』と言ひて接吻したれば、 46 人々イエスに手をかけて捕ふ。 47 傍らに立つ者のひとり、劍を抜き、大祭司の僕を撃ちて、耳を切り落せり。 48 イエ

ス人々に對ひて言ひ給ふ『なんぢら強盜にむかふ如く、劍と棒とを持ち、我を捕へんとて出で來るか。49 我は日々なんぢらと偕に宮にありて教へたりしに、我を執へざりき、されど是は聖書の言の成就せん爲なり』 50 其のとき弟子みなイエスを棄てて逃げ去る。 51 ある若者、素肌に亞麻布を纏ひて、イエスに従ひたりしに、人々これを捕へければ、 52 亞麻布を棄て裸にて逃げ去れり。 53 人々イエスを大祭司の許に曳き往きたれば、祭司長・長老・學者ら皆あつまる。 54 ペテロ遠く離れてイエスに従ひ、大祭司の中庭まで入り、下役どもと共に坐して火に煖まりゐたり。 55 さて祭司長ら及び全議會、イエスを死に定めんとて、證據を求むれども得ず。 56 それはイエスに對して偽證する者多くあれども、其の證據あはざりしなり。 57 遂に或者ども起ちて偽證して言ふ 58 『われら此の人の「われは手にて造りたる此の宮を毀ち、手にて造らぬ他の宮を三日にて建つべし」と云へるを聞けり』 59 然れど尚この證據もあはざりき。 60 ここに大祭司、中に立ちイエスに問ひて言ふ『なんぢ何をも答へぬか、此の人々の立つる證據は如何に』 61 されどイエス黙して何をも答へ給はず。大祭司ふたたび問ひて言ふ『なんぢは頌むべきものの子キリストなるか』 62 イエス言ひ給ふ『われは夫なり、汝ら、人の子の全能者の右に坐し、天の雲の中にありて來るを見ん』 63 此のとき大祭司おのが衣を裂きて言ふ『なんぞ他に證人を求めん。 64 なんぢら此の瀆言を聞けり、如何に思ふか』かれら擧りてイエスを死に當るべきものと定む。 65 而して或者どもはイエスに唾し、又その顔を蔽ひ、拳

にて搏ちなど爲始めて言ふ『預言せよ』下役どもイエスを受け、手掌にてうてり。66 ペテロ下にて中庭にをりしに、大祭司の婢女の一人きたりて、67 ペテロの火に煖まりをるを見、これに目を注めて『汝もかのナザレ人イエスと偕に居たり』と言ふ。68 ペテロ肯はずして『われは汝の言ふことを知らず、又その意をも悟らず』と言ひて庭口に出でたり。69 婢女かれを見て、また傍らに立つ者どもに『この人はかの黨與なり』と言ひ出でしに、70 ペテロ重ねて肯はず、暫くしてまた傍らに立つ者どもペテロに言ふ『なんぢは慥にかの黨與なり、汝もガリラヤ人なり』71 此の時ペテロ盟ひかつ誓ひて『われは汝らの言ふ其の人を知らず』と言ひ出づ。72 その折しも、また鶏なきぬ。ペテロ『にはとり二度なく前に、なんぢ三度われを否まん』とイエスの言ひ給ひし御言を思ひいだし、思ひ反して泣きたり。

15 夜明るや直ちに、祭司長・長老・學者ら、即ち全議會ともに相議りて、イエスを縛り、曳きゆきてピラトに付す。2 ピラト、イエスに問ひて言ふ『なんぢはユダヤ人の王なるか』答へて言ひ給ふ『なんぢの言ふが如し』3 祭司長らさまざまに訴ふれば、4 ピラトまた問ひて言ふ『なにも答へぬか、視よ、如何に多くの事をもて訴ふるか』5 されどピラトの怪しむばかり、イエス更に何をも答へ給はず。6 さて祭の時には、ピラト民の願に任せて、囚人ひとりを赦す例なるが、7 ここに一揆を起し、人を殺して繋がれをる者の中に、バラバといふ者あり。8 群衆すみ來りて、例の如くせんことを願ひ出でたれば、9 ピラト答へて言ふ『ユダヤ人の王を赦さんことを願

ふか』 10 これピラト、祭司長らのイエスを付ししは、嫉に因ると知る故なり。 11 されど祭司長ら群衆を唆かし、反つてバラバを赦さんことを願はしむ。 12 ピラトまた答へて言ふ『さらば汝らがユダヤ人の王と稱ふる者をわれ如何にすべきか』 13 人々また叫びて言ふ『十字架につけよ』 14 ピラト言ふ『そも彼は何の悪事を爲したるか』 かれら烈しく叫びて『十字架につけよ』と言ふ。 15 ピラト群衆の望を満さんとて、バラバを釋し、イエスを鞭うちたるのち、十字架につくる爲にわたせり。 16 兵卒どもイエスを官邸の中庭に連れゆき、全隊を呼び集めて、 17 彼に紫色の衣を著せ、茨の冠冕を編みて冠らせ、 18 『ユダヤ人の王、安かれ』と禮をなし始め、 19 また葦にて其の首をたたき、唾し、跪づきて拜せり。 20 かく嘲弄してのち、紫色の衣を剥ぎ、故の衣を著せ、十字架につけんとして曳き出せり。 21 時にアレキサンデルとルポスとの父シモンといふクレネ人、田舎より來りて通りかかりしに、強ひてイエスの十字架を負はせ、 22 イエスをゴルゴダ、釋けば髑髏といふ處に連れ往けり。 23 かくて没薬を混ぜたる葡萄酒を與へたれど、受け給はず。 24 彼らイエスを十字架につけ、而して誰が何を取るべきと、鬮を引きて其の衣を分つ、 25 イエスを十字架につけしは、朝の九時頃なりき。 26 その罪標には『ユダヤ人の王』と書せり。 27 イエスと共に、二人の強盜を十字架につけ、一人をその右に、一人をその左に置く。 28 [なし] 29 往來の者どもイエスを譏り、首を振りて言ふ『ああ、宮を毀ちて三日のうちに建つる者よ、 30 十字架より下りて己を救へ』 31 祭司長らも亦同じく、學者ら

と共に嘲弄して互に言ふ『人を救ひて、己を救ふこと能はず、**32** イスラエルの王キリスト、いま十字架より下りよかし、さらば我ら見て信ぜん』共に十字架につけられたる者どもも、イエスを罵りたり。**33** 晝の十二時に、地のうへ徧く暗くなりて、三時に及ぶ。**34** 三時にイエス大聲に『エロイ、エロイ、ラマ、サバクタニ』と呼はり給ふ。之を釋けば、わが神、わが神、なんぞ我を見棄て給ひし、との意なり。**35** 傍らに立つ者のうち或人々これを聞きて言ふ『視よ、エリヤを呼ぶなり』**36** 一人はしり往きて、海綿に酸き葡萄酒を含ませて葦につけ、イエスに飲ましめて言ふ『待て、エリヤ來りて、彼を下すや否や、我ら之を見ん』**37** イエス大聲を出して息絶え給ふ。**38** 聖所の幕、上より下まで裂けて二つとなりたり。**39** イエスに向ひて立てる百卒長、かかる様にて息絶え給ひしを見て言ふ『實にこの人は神の子なりき』**40** また遙に望み居たる女たちあり、その中にはマグダラのマリヤ、小ヤコブとヨセとの母マリヤ、及びサロメなども居たり。**41** 彼らはイエスのガリラヤに居給ひしとき、従ひ事へし者どもなり。此の他イエスと共にエルサレムに上りし多くの女もありき。**42** 日既に暮れて、準備日すなはち安息日の前の日となりたれば、**43** 貴き議員にして、神の國を待ち望める、アリマタヤのヨセフ來りて、憚らずピラトの許に往き、イエスの屍體を乞ふ。**44** ピラト、イエスは早や死にしかと訝り、百卒長を呼びて、その死にしより時經しや否やを問ひ、**45** 既に死にたる事を百卒長より聞き知りて、屍體をヨセフに與ふ。**46** ヨセフ亞麻布を買ひ、イエスを取下して之に包み、岩

に鑿りたる墓に納め、墓の入口に石を轉し置く。 47
マグダラのマリヤとヨセの母マリヤと、イエスを納
めし處を見りたり。

16 安息日終りし時、マグダラのマリヤ、ヤコブの
母マリヤ及びサロメ、往きてイエスに抹らんとて香
料を買ひ、 2 一週の首の日、日の出でたる頃いと早
く墓にゆく。 3 誰か我らの爲に墓の入口より石を轉
すべきと語り合ひしに、 4 目を擧ぐれば、石の既に
轉しあるを見る。この石は甚だ大なりき。 5 墓に入
り、右の方に白き衣を著たる若者の坐するを見て甚
く驚く。 6 若者いふ『おどろくな、汝らは十字架に
つけられ給ひしナザレのイエスを尋ぬれど、既に甦
へりて、此處に在さず。視よ、納めし處は此處なり
。 7 されど往きて弟子たちとペテロとに告げよ「汝
らに先だちてガリラヤに往き給ふ、彼處にて謁ゆる
を得ん、曾て汝らに言ひ給ひしが如し」』 8 女たち
甚く驚きをののき、墓より逃げ出でしが、懼れたれ
ば一言をも人に語らざりき。 9 (note: The most reliable and
earliest manuscripts do not include Mark 16:9-20.) [一週の首の日
の拂曉、イエス甦へりて先づマグダラのマリヤに現
れたまふ、前にイエスが七つの惡鬼を逐ひいだし給
ひし女なり。 10 マリヤ往きて、イエスと偕にありし
人々の、泣き悲しみ居るときに之を告ぐ。 11 彼らイ
エスの活き給へる事と、マリヤに見え給ひし事とを
聞けども信ぜざりき。 12 此の後その中の二人、田舎
に往く途を歩むほどに、イエス異なりたる姿にて現
れ給ふ。 13 此の二人ゆきて、他の弟子たちに之を告
げたれど、なほ信ぜざりき。 14 其ののち十一弟子
の食しをる時に、イエス現れて、己が甦へりたるを

見し者どもの言を信ぜざりしにより、其の信仰なきと、其の心の頑固なるを責め給ふ。 15 かくて彼らに言ひたまふ『全世界を巡りて凡ての造られしものに福音を宣傳へよ。 16 信じてバプテスマを受くる者は救はるべし、然れど信ぜぬ者は罪に定めらるべし。 17 信ずる者には此等の徴ともなはん。即ち我が名によりて悪鬼を逐ひいだし、新しき言をかたり、 18 蛇を握るとも、毒を飲むとも、害を受けず、病める者に手をつけなば癒えん』 19 語り終へてのち、主イエスは天に擧げられ、神の右に坐し給ふ。 20 弟子たち出でて、あまねく福音を宣傳へ、主も亦ともに働き、伴ふところの徴をもて、御言を確うし給へり]

ルカの福音書

1 我らの中に成りし事の物語につき、始よりの目撃者にして、**2** 御言の役者となりたる人々の、我らに傳へし其のままを書き列ねんと、手を著けし者あまたある故に、**3** 我も凡ての事を最初より詳細に推し尋ねたれば、**4** テオピロ閣下よ、汝の教へられたる事の慥なるを悟らせん爲に、これが序を正して書き贈るは善き事と思はるるなり。**5** ユダヤの王ヘロデの時、アビヤの組の祭司に、ザカリヤという人あり。その妻はアロンの裔にて、名をエリサベツといふ。**6** 二人ながら神の前に正しくして、主の誠命と定規とを、みな缺なく行へり。**7** エリサベツ石女なれば、彼らに子なし、また二人とも年邁みぬ。**8** さてザカリヤその組の順番に當りて、神の前に祭司の務を行ふとき、**9** 祭司の慣例にしたがひて、籤をひき主の聖所に入りて、香を焼くこととなりぬ。**10** 香を焼くとき、民の群みな外にありて祈りゐたり。**11** 時に主の使あらはれて、香壇の右に立ちたれば、**12** ザカリヤ之を見て、心さわぎ懼を生ず。**13** 御使いいふ『ザカリヤよ、懼るな、汝の願は聽かれたり。汝の妻エリサベツ男子を生まん、汝その名をヨハネと名づくべし。**14** なんぢに喜悅と歡樂とあらん、又おほくの人もその生るるを喜ぶべし。**15** この子、主の前に大ならん、また葡萄酒と濃き酒とを飲まず、母の胎を出づるや聖靈にて満されん。**16** また多くのイスラエルの子らを、主なる彼らの神に歸らしめ、**17** 且エリヤの靈と能力とをもて、主の前に往かん。これ父の心を子に、戻れる者を義人の聰明に歸らせて、整へたる民を主のために備へんとてなり』**18** ザカリ

ヤ御使にいふ『何に據りてか此の事あるを知らん。我は老人にて、妻もまた年邁みたり』 19 御使こたへて言ふ『われは神の御前に立つガブリエルなり、汝に語りてこの嘉き音信を告げん爲に遣さる。 20 視よ、時いたらば必ず成就すべき我が言を信ぜぬに因り、なんぢ物言へずなりて、此らの事の成る日までには語ること能はじ』 21 民はザカリヤを俟ちゐて、其の聖所の内に久しく留るを怪しむ。 22 遂に出で來りたれど語ること能はねば、彼らその聖所の内にて異象を見たることを悟る。ザカリヤは、ただ首にて示すのみ、なほ唾なりき。 23 かくて務の日満ちたれば、家に歸りぬ。 24 此の後その妻エリサベツ孕りて、五月ほど隠れをりて言ふ、 25 『主わが恥を人の中に雪がせんとて、我を顧み給ふときは、斯く爲し給ふなり』 26 その六月めに、御使ガブリエル、ナザレといふガリラヤの町にをる處女のもとに、神より遣さる。 27 この處女はダビデの家のヨセフといふ人と許嫁せし者にて、其の名をマリヤと云ふ。 28 御使、處女の許にきたりて言ふ『めでたし、恵まるる者よ、主なんぢと偕に在せり』 29 マリヤこの言によりて心いたく騒ぎ、斯かる挨拶は如何なる事ぞと思ひ廻らしたるに、 30 御使いふ『マリヤよ、懼るな、汝は神の御前に恵を得たり。 31 視よ、なんぢ孕りて男子を生まん、其の名をイエスと名づくべし。 32 彼は大ならん、至高者の子と稱へられん。また主たる神、これに其の父ダビデの座位をあたへ給へば、 33 ヤコブの家を永遠に治めん。その國は終ることなかるべし』 (aiōn g165) 34 マリヤ御使に言ふ『われ未だ人知らぬに、如何にして此の事のあるべき』 35 御使こた

へて言ふ『聖靈なんぢに臨み、至高者の能力なんぢを被はん。此の故に汝が生むところの聖なる者は、神の子と稱へらるべし。 36 視よ、なんぢの親族エリサベツも、年老いたれど、男子を孕めり。石女といはれたる者なるに、今は孕りてはや六月になりぬ。 37 それ神の言には能はぬ所なし』 38 マリヤ言ふ『視よ、われは主の婢女なり。汝の言のごとく、我に成れかし』 つひに御使はなれ去りぬ。 39 その頃マリヤ立ちて山里に急ぎ行き、ユダの町にいたり、 40 ザカリヤの家に入りてエリサベツに挨拶せしに、 41 エリサベツその挨拶を聞くや、兒は胎内にて躍れり。エリサベツ聖靈にて満され、 42 聲高らかに呼はりて言ふ『をんなの中にて汝は祝福せられ、その胎の實もまた祝福せられたり。 43 わが主の母われに来る、われ何によりてか之を得し。 44 視よ、なんぢの挨拶の聲、わが耳に入るや、我が兒、胎内にて喜びをどれり。 45 信ぜし者は幸福なるかな、主の語り給ふことは必ず成就すべければなり』 46 マリヤ言ふ、『わがこころ主をあがめ、 47 わが靈はわが救主なる神を喜びまつる。 48 その婢女の卑しきをも顧み給へばなり。視よ、今よりのち萬世の人われを幸福とせん。 49 全能者われに大なる事を爲したまへばなり。その御名は聖なり、 50 そのあはれみは代々かしこみ恐るる者に臨むなり。 51 神は御腕にて權力をあらはし、心の念に高ぶる者を散し、 52 權勢ある者を座位より下し、いやしき者を高うし、 53 飢ゑたる者を善き物に飽かせ、富める者を空しく去らせ給ふ。 54 また我らの先祖に告げ給ひし如く、 55 アブラハムとその裔とに對するあはれみを永遠に忘れじとて、僕イスラ

エルを助けたまへり』 (aiōn g165) 56 かくてマリヤは、三月ばかりエルザベツと偕に居りて、己が家に歸れり。 57 さてエリサベツ産む期みちて男子を生みたれば、 58 その最寄のもの親族の者ども、主の大なる憐憫をエリサベツに垂れ給ひしことを聞きて、彼とともに喜ぶ。 59 八日めになりて、其の子に割禮を行はんとて人々きたり、父の名に因みてザカリヤと名づけんとせしに、 60 母こたへて言ふ『否、ヨハネと名づくべし』 61 かれら言ふ『なんぢの親族の中には此の名をつけたる者なし』 62 而して父に首にて示し、いかに名づけんと思ふか、問ひたるに、 63 ザカリヤ書板を求めて『その名はヨハネなり』と書きしかば、みな怪しむ。 64 ザカリヤの口たちどころに開け、舌ゆるみ、物いひて神を讃めたり。 65 最寄に住む者みな懼をいだき、又すべて此等のこと徧くユダヤの山里に言ひ囃されたれば、 66 聞く者みな之を心にとめて言ふ『この子は如何なる者にか成らん』主の手かれと偕に在りしなり。 67 かくて父ザカリヤ聖靈にて満され預言して言ふ、 68 『讃むべきかな、主イスラエルの神、その民をかへりみて贖罪をなし、 69 我らのために救の角を、その僕ダビデの家に立て給へり。 70 これぞ古へより聖預言者の口をもて言ひ給ひし如く、 (aiōn g165) 71 我らを仇より、凡て我らを憎む者の手より、取り出したまふ救なる。 72 我らの先祖に憐憫を垂れ、その聖なる契約を思し、 73 我らの先祖アブラハムに立て給ひし御誓を忘れずして、 74 我らを仇の手より救ひ、生涯、主の御前に、 75 聖と義とをもて懼なく事へしめたまふなり。 76 幼児よ、なんぢは至高者の預言者と稱へられん。これ主の

御前に先だちゆきて、其の道を備へ、**77** 主の民に罪の赦による救を知らしむればなり。**78** これ我らの神の深き憐憫によるなり。この憐憫によりて朝のひかり、上より臨み、**79** 暗黒と死の蔭とに坐する者をてらし、我らの足を平和の路にみちびかん』**80** かくて幼児は漸に成長し、その靈強くなり、イスラエルに現る日まで荒野にゐたり。

2 その頃、天下の人を戸籍に著かすべき詔令、カイザル・アウグストより出づ。**2** この戸籍登録は、クレニオ、シリヤの總督たりし時に行はれし初のものなり。**3** さて人みな戸籍に著かんとて、各自その故郷に歸る。**4** ヨセフもダビデの家系また血統なれば、既に孕める許嫁の妻マリヤとともに、戸籍に著かんとて、ガリラヤの町ナザレを出でてユダヤに上り、ダビデの町ベツレヘムといふ處に到りぬ。**5** ヨセフもダビデの家系また血統なれば、既に孕める許嫁の妻マリヤとともに、戸籍に著かんとて、ガリラヤの町ナザレを出でてユダヤに上り、ダビデの町ベツレヘムといふ處に到りぬ。**6** 此處に居るほどに、マリヤ月満ちて、**7** 初子をうみ、之を布に包みて馬槽に臥させたり。旅舎にをる處なかりし故なり。**8** この地に野宿して、夜群を守りをる牧者ありしが、**9** 主の使その傍らに立ち、主の榮光その周圍を照したれば、甚く懼る。**10** 御使かれらに言ふ『懼るな、視よ、この民一般に及ぶべき、大なる歡喜の音信を我なんぢらに告ぐ。**11** 今日ダビデの町にて汝らの爲に救主生まれ給へり、これ主キリストなり。**12** なんぢら布にて包まれ、馬槽に臥しをる嬰兒を見ん、是の徴なり』**13** 忽ちあまたの天の軍勢、御使に加はり

、神を讚美して言ふ、**14** 『いと高き處には榮光、神にあれ。地には平和、主の悦び給ふ人にあれ』 **15** 御使等さりて天に往きしとき、牧者たがひに語る『いざ、ベツレヘムにいたり、主の示し給ひし起れる事を見ん』 **16** 乃ち急ぎ往きて、マリヤとヨセフと、馬槽に臥したる嬰兒とに尋ねあふ。**17** 既に見て、この子につき御使の語りしことを告げたれば、**18** 聞く者はみな牧者の語りしことを怪しみたり。**19** 而してマリヤは凡て此等のことを心に留めて思ひ回せり。**20** 牧者は御使の語りしごとく凡ての事を見聞せしによりて、神を崇めかつ讚美しつつ歸れり。**21** 八日みちて幼児に割禮を施すべき日となりたれば、未だ胎内に宿らぬ先に御使の名づけし如く、その名をイエスと名づけたり。**22** モーセの律法に定めたる潔の日満ちたれば、彼ら幼児を携へてエルサレムに上る。**23** これは主の律法に『すべて初子に生るる男子は、主につける聖なる者と稱へらるべし』と録されたる如く、幼児を主に獻げ、**24** また主の律法に『山鳩一つがひ或は家鳩の雛二羽』と云ひたるに遵ひて、犠牲を供へん爲なり。**25** 視よ、エルサレムにシメオンといふ人あり。この人は義かつ敬虔にして、イスラエルの慰められんことを待ち望む。聖靈その上に在す。**26** また聖靈に、主のキリストを見ぬうちは死を見ずと示されたれしが、**27** 此とき御靈に感じて宮に入る。兩親その子イエスを携へ、この子のために律法の慣例に遵ひて行はんとて來りたれば、**28** シメオン、イエスを取りいだき、神を讚めて言ふ、**29** 『主よ、今こそ御言に循ひて、僕を安らかに逝かしめ給ふなれ。**30** わが目は、はや主の救を見たり。

31 是もろもろの民の前に備へ給ひし者、 32 異邦人を
てらす光、御民イスラエルの榮光なり』 33 かく幼児
に就きて語ることを、其の父 母あやしみ居たれば、
34 シメオン彼らを祝して母マリヤに言ふ『視よ、こ
の幼児は、イスラエルの多くの人の或は倒れ、或は
起たん爲に、また言ひ逆ひを受くる徴のために置か
る。 35 ——劔なんぢの心をも刺し貫くべし——これ
は多くの人の心の念の顯れん爲なり』 36 ここにアセ
ルの族パヌエルの娘に、アンナといふ預言者あり、
年いたく老ゆ。處女るとき、夫に適きて七 年ともに
居り、 37 八十四年 寡婦たり。宮を離れず、夜も晝
も斷食と祈禱とを爲して神に事ふ。 38 この時すすみ
寄りて神に感謝し、また凡てエルサレムの拯贖を待
ちのぞむ人に、幼児のことを語れり。 39 さて主の律
法に遵ひて、凡ての事を果したれば、ガリラヤに歸
り、己が町ナザレに到れり。 40 幼児は漸に成長して
健かになり、智慧みち、かつ神の恵その上にありき
。 41 かくてその兩親、過越の祭には年毎にエルサレ
ムに往きぬ。 42 イエスの十二 歳のとき、祭の慣例
に遵ひて上りゆき、 43 祭の日 終りて歸る時、その
子イエスはエルサレムに止りたまふ。兩親は之を知
らずして、 44 道伴のうちに居るならんと思ひ、一日
路ゆきて、親族・知邊の うちを尋ぬれど、 45 遇はぬ
に因りて復たづねつつエルサレムに歸り、 46 三日の
のち、宮にて教師のなかに坐し、かつ聽き、かつ問
ひる給ふに遇ふ。 47 聞く者は皆その聰と答とを怪し
む。 48 兩親イエスを見て、いたく驚き、母は言ふ『
兒よ、何 故かかる事を我らに爲しぞ、視よ、汝の父
と我と憂ひて尋ねたり』 49 イエス言ひたまふ『何

故われを尋ねたるか、我はわが父の家に居るべきを知らぬか』 50 兩親はその語りたまふ事を悟らず。 51 かくてイエス彼等とともに下り、ナザレに往きて順ひ事へたまふ。其の母これらの事をことごとく心に藏む。 52 イエス智慧も身のたけも彌まさり、神と人とにますます愛せられ給ふ。

3 テベリオ・カイザル在位の十五年、ポンテオ・ピラトはユダヤの總督、ヘロデはガリラヤ分封の國守、その兄弟ピリポはイツリヤ及びテラコニテの地の分封の國守、ルサニヤはアビレネ分封の國守たり、
2 アンナスとカヤパとは大祭司たりしとき、神の言、荒野にてザカリヤの子ヨハネに臨む。 **3** かくてヨルダン河の邊なる四方の地にゆき、罪の赦を得さする悔改のバプテスマを宣傳ふ。 **4** 預言者イザヤの言の書に『荒野に呼はる者の聲す。「主の道を備へ、その路すじを直くせよ。 **5** 諸の谷は埋められ、諸の山と岡とは平げられ、曲りたるは直く、峻しきは坦かなる路となり、 **6** 人みな神の救を見ん』と録されたるが如し。 **7** さてヨハネ、バプテスマを受けんとて出できたる群衆にいふ『蝮の裔よ、誰が汝らに、來らんとする御怒を避くべき事を示したるぞ。 **8** さらば悔改に相應しき果を結べ。なんぢら「我らの父にアブラハムあり」と心のうちに言ひ始むな。我なんぢらに告ぐ、神はよく此らの石よりアブラハムの子等を起し得給ふなり。 **9** 斧ははや樹の根に置かる。されば凡て善き果を結ばぬ樹は、伐られて火に投げ入れらるべし』 **10** 群衆ヨハネに問ひて言ふ『さらば我ら何を爲すべきか』 **11** 答へて言ふ『二つの下衣をもつ者は、有たぬ者に分け與へよ。食物を有つ

者もまた然せよ』 12 取税人もバプテスマを受けんとて來りて言ふ『師よ、我ら何を爲すべきか』 13 答へて言ふ『定りたるものの外、なにをも促るな』 14 兵卒もまた問ひて言ふ『我らは何を爲すべきか』 答へて言ふ『人を劫かし、また誣ひ訴ふな、己が給料をもて足れりとせよ』 15 民、待ち望みあたらば、みな心の中にヨハネをキリストならんかと論ぜしに、 16 ヨハネ凡ての人に答へて言ふ『我は水にて汝らにバプテスマを施す、されど我よりも能力ある者きたらん、我はその鞋の紐を解くにも足らず。彼は聖靈と火にて汝らにバプテスマを施さん。 17 手には箕を持ちたまふ。禾場をきよめ、麥を倉に納めんとてなり。而して殻は消えぬ火にて焚きつくさん』 18 ヨハネこの他なほ、さまざまの勸をなして、民に福音を宣傳ふ。 19 然るに國守ヘロデ、その兄弟の妻ヘロデヤの事につき、又その行ひたる凡ての悪しき事につきて、ヨハネに責められたれば、 20 更に復一つの悪しき事を加へて、ヨハネを獄に閉ぢこめたり。 21 民みなバプテスマを受けし時、イエスもバプテスマを受けて祈り給へば、天ひらけ、 22 聖靈、形をなして鴿のごとく其の上に降り、かつ天より聲あり、曰く『なんぢは我が愛しむ子なり、我なんぢを悦ぶ』 23 イエスの、教を宣べ始め給ひしは、年おほよそ三十の時なりき。人にはヨセフの子と思はれ給へり。ヨセフの父はヘリ、 24 その先はマタテ、レビ、メルキ、ヤンナイ、ヨセフ、 25 マタテヤ、アモス、ナホム、エスリ、ナンガイ、 26 マハテ、マタテヤ、シメイ、ヨセク、ヨダ、 27 ヨハナン、レサ、ゾロバベル、サラテル、ネリ、 28 メルキ、アデイ、コサム

、エルマダム、エル、 **29** ヨセ、エリエゼル、ヨリム、マタテ、レビ、 **30** シメオン、ユダ、ヨセフ、ヨナム、エリヤキム、 **31** メレヤ、メナ、マタタ、ナタン、ダビデ、 **32** エツサイ、オペデ、ボアズ、サラ、ナアソン、 **33** アミナダブ、アデミン、アルニ、エスロン、パレス、ユダ、 **34** ヤコブ、イサク、アブラハム、テラ、ナホル、 **35** セルグ、レウ、ペレグ、エベル、サラ、 **36** カイナン、アルパクサデ、セム、ノア、ラメク、 **37** メトセラ、エノク、ヤレデ、マハラレル、カイナン、 **38** エノス、セツ、アダムに至る。アダムは神の子なり。

4 さてイエス聖霊にて満ち、ヨルダン河より歸り、荒野にて四十日のあひだ御霊に導かれ、 **2** 悪魔に試みられ給ふ。この間なにをも食はず、日數満ちてのち餓ゑ給ひたれば、 **3** 悪魔いふ『なんぢ若し神の子ならば、此の石に命じてパンと爲らしめよ』 **4** イエス答へたまふ『「人の生くるはパンのみに由るにあらず」と録されたり』 **5** 悪魔またイエスを携へのぼりて、瞬間に天下のもろもろの國を示して言ふ、 **6** 『この凡ての權威と國々の榮華とを汝に與へん。我これを委ねられたれば、我が欲する者に與ふるなり。 **7** この故にもし我が前に拜せば、ことごとく汝の有となるべし』 **8** イエス答へて言ひたまふ『「主なる汝の神を拜し、ただ之にのみ事ふべし」と録されたり』 **9** 悪魔またイエスをエルサレムに連れゆき、宮の頂上に立たせて言ふ『なんぢ若し神の子ならば、此處より己が身を下に投げよ。 **10** それは「なんぢの爲に御使たちに命じて守らしめ給はん」 **11** 「かれら手にて汝をささへ、その足を石に打當つる事なか

らしめん』と録されたるなり』 12 イエス答へて言ひたまふ『「主なる汝の神を試むべからず」と云ひてあり』 13 悪魔あらゆる嘗試を盡してのち、暫くイエスを離れたり。 14 イエス御靈の能力をもてガリラヤに歸り給へば、その聲聞あまねく四方の地に弘る。 15 かくて諸會堂にて教をなし、凡ての人に崇められ給ふ。 16 偕その育てられ給ひし處のナザレに到り、例のごとく安息日に會堂に入りて、聖書を讀まんとて立ち給ひしに、 17 預言者イザヤの書を與へたれば、其の書を繙きて、かく録されたる所を見出し給ふ。 18 『主の御靈われに在す。これ我に油を注ぎて貧しき者に福音を宣べしめ、我をつかはして囚人に赦を得ることと、盲人に見ゆることとを告げしめ、壓へらるる者を放ちて自由を與へしめ、 19 主の喜ばしき年を宣傳へしめ給ふなり』 20 イエス書を巻き、係の者に返して坐し給へば、會堂に居る者みな之に目を注ぐ。 21 イエス言ひ出でたまふ『この聖書は今日なんぢらの耳に成就したり』 22 人々みなイエスを譽め、又その口より出づる恵の言を怪しみて言ふ『これヨセフの子ならずや』 23 イエス言ひ給ふ『なんぢら必ず我に俚諺を引きて「醫者よ、みづから己を醫せ、カペナウムにて有りしといふ我らが聞ける事どもを、己が郷なる此の地にても爲せ」と言はん』 24 また言ひ給ふ『われ誠に汝らに告ぐ、預言者は己が郷にて喜ばるることなし。 25 われ實をもて汝らに告ぐ、エリヤのとき三年六個月、天とちて、全地大なる饑饉なりしが、イスラエルの中に多くの寡婦ありたれど、 26 エリヤは其の一人にすら遣されず、唯シドンなるサレプタの一人の寡婦にのみ遣されたり。

27 また預言者エリシヤの時、イスラエルの中に多くの癩病人ありしが、其の一人だに潔められず、唯シリヤのナアマンのみ潔められたり』 28 會堂にをる者みな之を聞きて憤恚に滿ち、 29 起ちてイエスを町より逐ひ出し、その町の建ちたる山の崖に引き往きて、投げ落さんとせしに、 30 イエスその中を通りて去り給ふ。 31 かくてガリラヤの町カペナウムに下りて、安息日ごとに人を教へ給へば、 32 人々その教に驚きあへり。その言、權威ありたるに因る。 33 會堂に穢れし惡鬼の靈に憑かれたる人あり、大聲に叫びて言ふ、 34 『ああ、ナザレのイエスよ、我らは汝となにの關係あらんや。我らを亡さんとて來給ふか。我はなんぢの誰なるを知る、神の聖者なり』 35 イエス之を禁めて言ひ給ふ『黙せ、その人より出でよ』惡鬼その人を人々の中に倒し、傷つけずして出づ。 36 みな驚き語り合ひて言ふ『これ如何なる言ぞ、權威と能力とをもて命ずれば、穢れし惡鬼すら出で去る』 37 ここにイエスの噂あまねく四方の地に弘りたり。 38 イエス會堂を立ち出でて、シモンの家に入り給ふ。シモンの外姑おもき熱を患ひ居たれば、人々これが爲にイエスに願ふ。 39 その傍らに立ちて熱を責めたまへば、熱去りて女たちどころに起きて彼らに事ふ。 40 日のいる時、さまざまの病を患ふ者をもつ人、みな之をイエスに連れ來れば、一々その上に手を置きて醫し給ふ。 41 惡鬼もまた多くの人より出でて叫びつつ言ふ『なんぢは神の子なり』之を責めて物言ふことを免し給はず、惡鬼そのキリストなるを知るに因りてなり。 42 明くる朝イエス出でて寂しき處にゆき給ひしが、群衆たづねて御許に到り、そ

の去り行くことを止めんとせしに、**43** イエス言ひ給ふ『われ又ほかの町々にも神の國の福音を宣傳へざるを得ず、わが遣されしは之が爲なり』**44** かくてユダヤの諸會堂にて教を宣べたまふ。

5 群衆おし迫りて神の言を聽きをる時、イエス、ゲネサレの湖のほとりに立ちて、**2** 渚に二艘の舟の寄せあるを見たまふ、漁人は舟をいでて網を洗ひ居たり。**3** イエスその一艘なるシモンの舟に乗り、彼に請ひて陸より少しく押し出さしめ、坐して舟の中より群衆を教へたまふ。**4** 語り終へてシモンに言ひたまふ『深處に乗りいだし、網を下して漁れ』**5** シモン答へて言ふ『君よ、われら終夜 勞したるに、何をも得ざりき、されど御言に隨ひて網を下さん』**6** かくて然せしに、魚の夥多しき群を圍みて、網裂けかかりたれば、**7** 他の一艘の舟にをる組の者を差招きて來り助けしむ。來りて魚を二艘の舟に滿したれば、舟沈まんばかりになりぬ。**8** シモン・ペテロ之を見て、イエスの膝下に平伏して言ふ『主よ、我を去りたまへ。我は罪ある者なり』**9** これはシモンも偕に居る者もみな、漁りし魚の夥多しきに驚きたるなり。**10** ゼベダイの子にしてシモンの侶なるヤコブもヨハネも同じく驚けり。イエス、シモンに言ひたまふ『懼るな、なんぢ今よりのち人を漁らん』**11** かれら舟を陸につけ、一切を棄ててイエスに従へり。**12** イエス或町に居給ふとき、視よ、全身癩病をわづらふ者あり。イエスを見て平伏し、願ひて言ふ『主よ、御意ならば、我を潔くなし給ふを得ん』**13** イエス手をのべ彼につけて『わが意なり、潔くなれ』と言ひ給へば、直ちに癩病されり。**14** イエス之を誰にも

語らぬやうに命じ、かつ言ひ給ふ『ただ往きて己を祭司に見せ、モーセが命じたるごとく汝の潔のために献物して、人々に證せよ』 15 されど彌増々イエスの事ひろまりて、大なる群衆、あるひは教を聽かんとし、或は病を醫されんとして集り來りしが、16 イエス寂しき處に退きて祈り給ふ。17 或日イエス教をなし給ふとき、ガリラヤの村々、ユダヤ及びエルサレムより來りしパリサイ人、教法學者ら、そこに坐しゐたり。病を醫すべき主の能力イエスと偕にありき。18 視よ、人々、中風を病める者を、床にのせて擔ひきたり、之を家に入れて、イエスの前に置かんとすれど、19 群衆によりて擔ひ入るべき道を得ざれば、屋根にのぼり、瓦を取り除けて、床のまま人々の中に、イエスの前につり縋り下せり。20 イエス彼らの信仰を見て言ひたまふ『人よ、汝の罪ゆるされたり』 21 ここに學者・パリサイ人ら論じ出でて言ふ『瀆言をいふ此の人は誰ぞ、神より他に誰か罪を赦すことを得べき』 22 イエス彼らの論ずる事をさとり、答へて言ひ給ふ『なにを心のうちに論ずるか。23 「なんぢの罪ゆるされたり」と言ふと「起きて歩め」と言ふと孰か易き、24 人の子の地にて罪をゆるす權威あることを汝らに知らせん爲に』——中風を病める者に言ひ給ふ——『なんぢに告ぐ、起きよ、床をとりて家に往け』 25 かれ立刻に人々の前にて起きあがり、臥しゐたる床をとりあげ、神を崇めつつ己が家に歸りたり。26 人々みな甚く驚きて神をあがめ懼に満ちて言ふ『今日われら珍しき事を見たり』 27 この事の後イエス出でて、レビといふ取税人の收税所に坐しをるを見て『われに従へ』と言ひ給へ

ば、**28**一切を棄ておき、起ちて従へり。**29**レビ己が家にて、イエスの爲に大なる饗宴を設けしに、取税人および他の人々も多く食事の席に列りゐたれば、**30**パリサイ人および其の曹輩の學者ら、イエスの弟子たちに向ひ、呟きて言ふ『なにゆゑ汝らは取税人・罪人らと共に飲食するか』**31**イエス答へて言ひたまふ『健康なる者は醫者を要せず、ただ病ある者これを要す。**32**我は正しき者を招かんとにあらで、罪人を招きて悔改めさせんとて來れり』**33**彼らイエスに言ふ『ヨハネの弟子たちは、しばしば斷食し祈禱し、パリサイ人の弟子たちも亦然するに、汝の弟子たちは飲食するなり』**34**イエス言ひたまふ『新郎の友だち新郎と偕にをるうちは、彼らに斷食せしめ得んや。**35**されど日來りて新郎をとられん、その日には斷食せん』**36**イエスまた譬を言ひ給ふ『たれも新しき衣を切り取りて、舊き衣を繕ふ者はあらじ。もし然せば、新しきものも破れ、かつ新しきものより取りたる裂も舊きものに合はじ。**37**誰も新しき葡萄酒を、ふるき革囊に入ることは爲じ。もし然せば、葡萄酒は囊をはりさき漏れ出でて、囊も廢らん。**38**新しき葡萄酒は、新しき革囊に入るべきなり。**39**誰も舊き葡萄酒を飲みてのち、新しき葡萄酒を望む者はあらじ。「舊きは善し」と云へばなり』

6イエス安息日に麥阜を過ぎ給ふとき、弟子たち穂を摘み、手にて揉みつつ食ひたれば、**2**パリサイ人のうち或者ども言ふ『なんぢらは何ゆゑ安息日に爲まじき事をするか』**3**イエス答へて言ひ給ふ『ダビデその伴へる人々とともに飢ゑしとき、爲しし事をすら讀まぬか。**4**即ち神の家に入りて、祭司の他は

食ふまじき供のパンを取りて食ひ、己と偕なる者にも與へたり』 5 また言ひたまふ『人の子は安息日の主たるなり』 6 又ほかの安息日に、イエス會堂に入りて教をなし給ひしに、此處に人あり、其の右の手なえたり。 7 學者・パリサイ人ら、イエスを訴ふる廉を見出さんと思ひて、安息日に人を醫すや否やを窺ふ。 8 イエス彼らの念を知りて、手なえたる人に『起きて中に立て』と言ひ給へば、起きて立てり。 9 イエス彼らに言ひ給ふ『われ汝らに問はん、安息日に善をなすと惡をなすと、生命を救ふと亡すと、孰かよき』 10 かくて一同を見まはして、手なえたる人に『なんぢの手を伸べよ』と言ひ給ふ。かれ然なしたれば、その手癒ゆ。 11 然るに彼ら狂氣の如くなりて、イエスに何をなさんと語り合へり。 12 その頃イエス祈らんとて山にゆき、神に祈りつつ夜を明したまふ。 13 夜明になりて弟子たちを呼び寄せ、その中より十二人を選びて、之を使徒と名づけたまふ。 14 即ちペテロと名づけ給ひしシモンと其の兄弟アンデレと、ヤコブとヨハネと、ピリポとバルトロマイと、 15 マタイとトマスと、アルパヨの子ヤコブと熱心黨と呼ばるるシモンと、 16 ヤコブの子ユダとイスカリオテのユダとなり。このユダはイエスを賣る者となりたり。 17 イエス此等とともに下りて、平かなる處に立ち給ひしに、弟子の大なる群衆、およびユダヤ全國、エルサレム又ツロ、シドンの海邊より來りて、或は教を聽かんとし、或は病を醫されんとする民の大なる群も、そこにあり。 18 穢れし靈に惱されたる者も醫される。 19 能力イエスより出でて、凡ての人を醫せば、群衆みなイエスに觸らん事を

求む。 20 イエスをあげ弟子たちを見て言ひたまふ
『幸福なるかな、貧しき者よ、神の國は汝らの有なり。 21 幸福なる哉、いま飢うる者よ、汝ら飽くことを得ん。幸福なる哉、いま泣く者よ、汝ら笑ふことを得ん。 22 人なんぢらを憎み、人の子のために遠ざけ、謗り、汝らの名を悪しとして棄てなば、汝ら幸福なり。 23 その日には喜び躍れ。視よ、天にて汝らの報は大なり、彼らの先祖が預言者たちに爲ししも斯くありき。 24 されど禍害なるかな、富む者よ、汝らは既にその慰安を受けたり。 25 禍害なる哉、いま飽く者よ、汝らは飢ゑん。禍害なる哉、いま笑ふ者よ、汝らは、悲しみ泣かん。 26 凡ての人、なんぢらを譽めなば、汝ら禍害なり。彼らの先祖が虚偽の預言者たちに爲ししも斯くありき。 27 われ更に汝ら聴くものに告ぐ、なんぢらの仇を愛し、汝らを憎む者を善くし、 28 汝らを詛ふ者を祝し、汝らを辱しむる者のために祈れ。 29 なんぢの頬を打つ者には、他の頬をも向けよ。なんぢの上衣を取る者には下衣をも拒むな。 30 すべて求むる者に與へ、なんぢの物を奪ふ者に復索むな。 31 なんぢら人に爲られんと思ふごとく、人にも然せよ。 32 なんぢら己を愛する者を愛せばとて、何の嘉すべき事あらん、罪人にて己を愛する者を愛するなり。 33 汝等おのれに善をなす者に善を爲すとも、何の嘉すべき事あらん、罪人にて然するなり。 34 なんぢら得る事あらんと思ひて人に貸すとも、何の嘉すべき事あらん、罪人にて均しきものを受けんとて罪人に貸すなり。 35 汝らは仇を愛し、善をなし、何をも求めずして貸せ、さらば、その報は大ならん。かつ至高者の子たるべし

。至高者は、恩を知らぬもの悪しき者にも、仁慈あるなり。 36 汝らの父の慈悲なるごとく、汝らも慈悲なれ。 37 人を審くな、さらば汝らも審かるる事あらじ。人を罪に定むな、さらば、汝らも罪に定めらるる事あらじ。人を赦せ、さらば汝らも赦されん。 38 人に與へよ、さらば汝らも與へられん。人は量をよくし、押し入れ、揺り入れ、溢るるまでにして、汝らの懐中に入れん。汝等おのが量る量にて量らるべし』 39 また譬にて言ひたまふ『盲人は盲人を手引するを得んや。二人とも穴に落ちざらんや。 40 弟子はその師に勝らず、凡そ全うせられたる者は、その師の如くならん。 41 何ゆゑ兄弟の目にある塵を見て、己が目にある梁木を認めぬか。 42 おのが目にある梁木を見ずして、争で兄弟に向ひて「兄弟よ、汝の目にある塵を取り除かせよ」といふを得んや。偽善者よ、先づ己が目より梁木を取り除け。さらば明かに見えて、兄弟の目にある塵を取りのぞき得ん。 43 悪しき果を結ぶ善き樹はなく、また善き果を結ぶ悪しき樹はなし。 44 樹はおのおの其の果によりて知らる。茨より無花果を取らず、野荊より葡萄を收めざるなり。 45 善き人は心の善き倉より善きものを出し、悪しき人は悪しき倉より悪しき物を出す。それ心に満つるより、口は物言ふなり。 46 なんぢら我を「主よ主よ」と呼びつつ、何ぞ我が言ふことを行はぬか。 47 凡そ我にきたり我が言を聽きて行ふ者は、如何なる人に似たるかを示さん。 48 即ち家を建つるに、地を深く掘り岩の上に基を据ゑたる人のごとし。洪水いでて流その家を衝けども動かすこと能はず、これ固く建てられたる故なり。 49 されど聽きて行は

ぬ者は、基なくして家を土の上に建てたる人のごとし。流その家を衝けば、直ちに崩れて、その破壊はなはだし』

7 イエス凡て此らの言を民に聞かせ終へて後、カペナウムに入り給ふ。**2**時に或百卒長、その重んずる僕やみて死ぬばかりなりしかば、**3**イエスの事を聽きて、ユダヤ人の長老たちを遣し、來りて僕を救ひ給はんことを願ふ。**4**彼らイエスの許にいたり、切に請ひて言ふ『かの人は此の事を爲らるるに相應し。**5**わが國人を愛し、我らのために會堂を建てたり』**6**イエス共に往き給ひて、その家はや程近くなりしとき、百卒長、數人の友を遣して言はしむ『主よ、自らを煩はし給ふな。我は汝をわが屋根の下に入れまつるに足らぬ者なり。**7**されば御前に出づるにも相應しからずと思へり、ただ御言を賜ひて我が僕をいやし給へ。**8**我みづから權威の下に置かるる者なるに、我が下にまた兵卒ありて、此に「往け」と言へば往き、彼に「來れ」と言へば來り、わが僕に「これを爲せ」と言へば爲すなり』**9**イエス聞きて彼を怪しみ、振反りて従ふ群衆に言ひ給ふ『われ汝らに告ぐ、イスラエルの中にだに斯かるあつき信仰は見しことなし』**10**遣されたる者ども家に歸りて僕を見れば、既に健康となれり。**11**その後イエス、ナインといふ町にゆき給ひしに、弟子たち及び大なる群衆も共に往く。**12**町の門に近づき給ふとき、視よ、昇き出さるる死人あり。これは獨息子にて母は寡婦なり、町の多くの人々これに伴ふ。**13**主、寡婦を見て憫み『泣くな』と言ひて、**14**近より、柩に手をつけ給へば、昇くもの立ち止る。イエス言ひたまふ

『若者よ、我なんぢに言ふ、起きよ』 15 死人、起きかへりて物言ひ始む。イエス之を母に付したまふ。

16 人々みな懼をいだき、神を崇めて言ふ『大なる預言者われらの中に興れり』また言ふ『神その民を顧み給へり』 17 この事ユダヤ全国および最寄の地に徧くひろまりぬ。 18 諸ヨハネの弟子たち、凡て此等のことを告げたれば、 19 ヨハネ兩三人の弟子を呼び、主に遣して言はしむ『來るべき者は汝なるか、或は他に待つべきか』 20 彼ら御許に到りて言ふ『バプテスマのヨハネ、我らを遣して言はしむ「來るべき者は汝なるか、或は他に待つべきか」』 21 この時イエス多くの者の病・疾患を醫し、惡しき靈を逐ひいだし、又おほくの盲人に見ることを得しめ給ひしが、 22 答へて言ひたまふ『往きて汝らが見聞せし所をヨハネに告げよ。盲人は見、跛者はあゆみ、癩病人は潔められ、聾者はきき、死人は甦へらせられ、貧しき者は福音を聞かせらる。 23 おほよそ我に躓かぬ者は幸福なり』 24 ヨハネの使の去りたる後、ヨハネの事を群衆に言ひいで給ふ『なんぢら何を眺めんとて野に出でし、風にそよぐ葦なるか。 25 さらに何を見んとて出でし、柔かき衣を著たる人なるか。視よ、華美なる衣をきて奢り暮す者は王宮に在り。 26 さらに何を見んとて出でし、預言者なるか。然り、我なんぢらに告ぐ、預言者よりも勝る者なり。 27 「視よ、わが使を汝の顔の前につかはす。かれは汝の前になんじの道をそなへん」と録されたるは此の人なり。 28 われ汝らに告ぐ、女の産みたる者の中、ヨハネより大なる者はなし。されど神の國にて小き者も、彼よりは大きなり。 29 (凡ての民これを聞いて

、取税人までも神を正しとせり。ヨハネのバプテスマを受けたるによる。 30 されどパリサイ人・教法師らは、其のバプテスマを受けざりしにより、各自にかかはる神の御旨をこぼみたり) 31 さればわれ今の代の人を何に比へん。彼らは何に似たるか。 32 彼らは、童 市場に坐し、たがひに呼びて「われら汝らの爲に笛 吹きたれど、汝ら躍らず。歎きたれど、汝ら泣かざりき」と云ふに似たり。 33 それはバプテスマのヨハネ來りて、パンをも食はず葡萄酒をも飲まねば、「悪鬼に憑かれたる者なり」と汝ら言ひ、 34 人の子きたりて飲食すれば「視よ、食を貪り、酒を好む人、また取税人・罪人の友なり」と汝ら言ふなり。 35 されど智慧は己が凡ての子によりて正しとせらる』 36 ここに或パリサイ人ともに食せん事をイエスに請ひたれば、パリサイ人の家に入りて、席につき給ふ。 37 視よ、この町に罪ある一人の女あり。イエスのパリサイ人の家にて食事の席にゐ給ふを知り、香油の入りたる石膏の壺を持ちきたり、 38 泣きつつ御足 近く後にたち、涙にて御足をうるほし、頭の髪にて之を拭ひ、また御足に接吻して香油を抹れり。 39 イエスを招きたるパリサイ人これを見て、心のうちに言ふ『この人もし預言者ならば、觸る者の誰、如何なる女なるかを知らん、彼は罪人なるに』 40 イエス答へて言ひ給ふ『シモン、我なんぢに言ふことあり』シモンいふ『師よ、言ひたまへ』 41 『或債主に二人の負債者ありて、一人はデナリ五百、一人は五十の負債せしに、 42 償ひかたなければ、債主この二人を共に免せり。されば二人のうち債主を愛すること孰か多き』 43 シモン答へて言ふ『われ思

ふに、多く免されたる者ならん』 イエス言ひ給ふ『
なんぢの判断は當れり』 44 かくて女の方に振向きて
シモンに言ひ給ふ『この女を見るか。我なんぢの家
に入りしに、なんぢは我に足の水を與へず、此の女
は涙にて我足を濡し、頭髮にて拭へり。 45 なんぢ
は我に接吻せず、此の女は我が入りし時より、我が
足に接吻して止まず。 46 なんぢは我が頭に油を抹ら
ず、此の女は我が足に香油を抹れり。 47 この故に
我なんぢに告ぐ、この女の多くの罪は赦されたり。
その愛すること大なればなり。赦さるる事の少き者
は、その愛する事もまた少し』 48 遂に女に言ひ給ふ
『なんぢの罪は赦されたり』 49 同席の者ども心の内
に『罪をも赦す此の人は誰なるか』と言ひ出づ。 50
ここにイエス女に言ひ給ふ『なんぢの信仰なんぢを
救へり、安らかに往け』

8 この後イエス教を宣べ、神の國の福音を傳へつつ
、町々村々を廻り給ひしに、十二弟子も伴ふ。 2 ま
た前に悪しき靈を逐ひ出され、病を醫されなどせし
女たち、即ち七つの悪鬼のいでしマグラダと呼ばる
るマリヤ、 3 ヘロデの家司クーザの妻ヨハンナ及び
スザンナ、此の他にも多くの女ともなひゐて、其の
財産をもて彼らに事へたり。 4 大なる群衆むらがり
、町々の人みもとに寄り集ひたれば、譬をもて言ひ
たまふ、 5 『種播く者その種を播かんとて出づ。播
くとき路の傍らに落ちし種あり、踏みつけられ、ま
た空の鳥これを啄む。 6 岩の上に落ちし種あり、生
え出でたれど潤澤なきによりて枯る。 7 茨の中に落
ちし種あり、茨も共に生え出でて之を塞ぐ。 8 良き
地に落ちし種あり、生え出でて百倍の實を結べり』

これらの事を言ひて呼はり給ふ『きく耳ある者は聴くべし』 9 弟子たち此の譬の如何なる意なるかを問ひたるに、 10 イエス言ひ給ふ『なんぢらは神の國の奥義を知ることが許されたれど、他の者は譬にてせらる。彼らの見て見ず、聞きて悟らぬ爲なり。 11 譬の意は是なり。種は神の言なり。 12 路の傍らなるは、聴きたるのち、悪魔きたり、信じて救はるる事のなからんために、御言をその心より奪ふ所の人なり。 13 岩の上なるは、聴きて御言を喜び受くれども、根なければ、暫く信じて嘗試のときに退く所の人なり。 14 茨の中に落ちしは、聴きてのち過ぐるほどに、世の心勞と財貨と快樂とに塞がれて實らぬ所の人なり。 15 良き地なるは、御言を聴き、正しく善き心にて之を守り、忍びて實を結ぶ所の人なり。 16 誰も燈火をともし器にて覆ひ、または寢臺の下におく者なし、入り來る者のその光を見んために、之を燈臺の上に置くなり。 17 それ隠れたるものの顯れぬはなく、秘めたるものの知られぬはなく、明かにならぬはなし。 18 されば汝ら聴くこと如何にと心せよ、誰にても有てる人はなほ與へられ、有たぬ人はその有てりと思ふ物をも取らるべし』 19 さてイエスの母と兄弟と來りたれど、群衆によりて近づくこと能はず。 20 或人イエスに『なんぢの母と兄弟と、汝に逢はんとて外に立つ』と告げたれば、 21 答へて言ひたまふ『わが母わが兄弟は、神の言を聴き、かつ行ふ此らの者なり』 22 或日イエス弟子たちと共に舟に乗りて『みづうみの彼方にゆかん』と言ひ給へば、乃ち船出す。 23 渡るほどにイエス眠りたまふ。颶風みづうみに吹き下し、舟に水 満ちんとして危かりし

かば、**24** 弟子たち御側により、呼び起して言ふ『君よ、君よ、我らは亡ぶ』 イエス起きて風と浪とを禁め給へば、ともに鎮りて凧となりぬ。**25** かくて弟子たちに言ひ給ふ『なんぢらの信仰いづこに在るか』かれら懼れ怪しみて互に言ふ『こは誰ぞ、風と水とに命じ給へば順ふとは』 **26** 遂にガリラヤに對へるゲラセネ人の地に著く。**27** 陸に上りたまふ時、その町の人にて悪鬼に憑かれたる者きたり遇ふ。この人は久しきあひだ衣を著ず、また家に住まずして墓の中にあたり。**28** イエスを見てさげび、御前に平伏して大聲にいふ『至高き神の子イエスよ、我は汝と何の關係あらん、願はくは我を苦しめ給ふな』 **29** これはイエス穢れし靈に、この人より出で往かんことを命じ給ひしに因る。この人けがれし靈にしばしば拘へられ、鏈と足械とにて繋ぎ守られたれど、その繋をやぶり、悪鬼に逐はれて荒野に往けり。**30** イエス之に『なんぢの名は何か』と問ひ給へば『レギオン』と答ふ、多くの悪鬼その中に入りたる故なり。**31** 彼らイエスに、底なき所に往くを命じ給はざらんことを請ふ。**(Abyssos g12)** **32** 彼處の山に、多くの豚の一群、食し居たりしが、悪鬼ども其の豚に入るを許し給はんことを請ひたれば、イエス許し給ふ。**33** 悪鬼、人を出でて豚に入りたれば、その群、崖より湖水に駈け下りて溺れたり。**34** 飼ふ者ども此の起りし事を見て、逃げ往きて、町にも里にも告げたれば、**35** 人々ありし事を見んとて出で、イエスに來りて、悪鬼の出でたる人の、衣服をつけ慥なる心にて、イエスの足下に坐しをるを見て懼れあへり。**36** かの悪鬼に憑かれたる人の救はれし事柄を見し者ども、之を彼

らに告げれば、**37** ゲラセネ地方の民衆、みなイエスに出で去り給はんことを請ふ。これ大に懼れたるなり。ここにイエス舟に乗りて歸り給ふ。**38** 時に悪鬼の出でたる人、ともに在らんことを願ひたれど、之を去らしめんとて、**39** 言ひ給ふ『なんぢの家に歸りて、神が如何に大なる事を汝になし給ひしかを具に告げよ』彼ゆきて、イエスの如何に大なる事を己になし給ひしかを、徧くその町に言ひ弘めたり。**40** かくてイエスの歸り給ひしとき、群衆これを迎ふ、みな待ちあたるなり。**41** 視よ、會堂 司にてヤイロといふ者あり、來りてイエスの足下に伏し、その家にきたり給はんことを願ふ。**42** おほよそ十二歳ほどの一人 娘ありて、死ぬばかりなる故なり。イエスの往き給ふとき、群衆かこみ塞がる。**43** ここに十二年このかた血漏を患ひて、醫者の爲に己が身代をことごとく費したれども、誰にも癒され得ざりし女あり。**44** イエスの後に來りて、御衣の總にさはりたれば、血の出づること立刻に止みたり。**45** イエス言ひ給ふ『我に觸りしは誰ぞ』人みな否みたれば、ペテロ及び共にをる者ども言ふ『君よ、群衆なんぢを圍みて押迫るなり』**46** イエス言ひ給ふ『われに觸りし者あり、能力の我より出でたるを知る』**47** 女おのれが隠れ得ぬことを知り、戦き來りて御前に平伏し、觸りし故と立刻に癒えたる事を、人々の前にて告ぐ。**48** イエス言ひ給ふ『むすめよ、汝の信仰なんぢを救へり、安らかに往け』**49** かく語り給ふほどに、會堂 司の家より人きたりて言ふ『なんぢの娘は早や死にたり、師を煩はすな』**50** イエス之を聞きて會堂 司に答へたまふ『懼るな、ただ信ぜよ。さらば娘は

救はれん』 51 イエス家に到りて、ペテロ、ヨハネ、ヤコブ及び子の父母の他は、ともに入ることを誰にも許し給はず。 52 人みな泣き、かつ子のために歎き居たりしが、イエス言ひたまふ『泣くな、死にたるにあらず、寝ねたるなり』 53 人々その死にたるを知れば、イエスを嘲笑ふ。 54 然るにイエス子の手をとり、呼びて『子よ、起きよ』と言ひ給へば、 55 その靈かへりて立刻に起く。イエス食物を之に與ふることを命じ給ふ。 56 その兩親おどろきたり。イエス此の有りし事を誰にも語らぬやうに命じ給ふ。

9 イエス十二弟子を召し寄せて、もろもろの悪鬼を制し、病をいやす能力と權威とを與へ、 2 また神の國を宣傳へしめ、人を醫さしむる爲に、之を遣さんとして言ひ給ふ、 3 『旅のために何をも持つな、杖も袋も糧も銀も、また二つの下衣をも持つな。 4 いづれの家に入るとも、其處に留れ、而して其處より立ち去れ。 5 人もし汝らを受けずば、その町を立ち去るとき、證のために足の塵を拂へ』 6 ここに弟子たち出でて村々を歴巡り、あまねく福音を宣傳へ、醫すことを爲せり。 7 さて國守ヘロデ、ありし凡ての事をききて周章てまどふ。或人はヨハネ死人の中より甦へりたりといひ、 8 或人はエリヤ現れたりといひ、また或人は、古への預言者の一人よみがへりたりと言へばなり。 9 ヘロデ言ふ『ヨハネは我すでに首斬りたり、然るに斯かる事のきこゆる此の人は誰なるか』 かくてイエスを見んことを求めたり。 10 使徒たち歸りきて、其の爲しし事を具にイエスに告ぐ。イエス彼らを携へて竊にベツサイダといふ町に退きたまふ。 11 されど群衆これを知りて従ひ來り

たれば、彼らを接けて、神の國の事を語り、かつ治療を要する人々を醫したまふ。 12 日 傾きたれば、十二 弟子きたりて言ふ『群衆を去らしめ、周圍の村また里にゆき、宿をとりて食物を求めさせ給へ。我らは斯かる寂しき所に居るなり』 13 イエス言ひ給ふ『なんぢら食物を與へよ』 弟子たち言ふ『我らただ五つのパンと二つの魚とあるのみ、此の多くの人のために、往きて買はねば他に食物なし』 14 男おほよそ五千人みたればなり。イエス弟子たちに言ひたまふ『人々を組にして五十人づつ坐せしめよ』 15 彼等その如くなして、人々をみな坐せしむ。 16 かくてイエス五つのパンと二つの魚とを取り、天を仰ぎて祝し、擘きて弟子たちに付し、群衆のまへに置かしめ給ふ。 17 彼らは食ひて皆飽く。擘きたる餘を集めしに十二 筐ほどありき。 18 イエス人々を離れて祈り居給ふとき、弟子たち偕にをりしに、問ひて言ひたまふ『群衆は我を誰といふか』 19 答へて言ふ『バプテスマのヨハネ、或人はエリヤ、或人は古への預言者の一人よみがへりたりと言ふ』 20 イエス言ひ給ふ『なんぢらは我を誰と言ふか』 ペテロ答へて言ふ『神のキリストなり』 21 イエス彼らを戒めて、之を誰にも告げぬやうに命じ、かつ言ひ給ふ 22 『人の子は必ず多くの苦難をうけ、長老・祭司長・學者らに棄てられ、かつ殺され、三日めに甦へるべし』 23 また一同の者に言ひたまふ『人もし我に従ひ來らんと思はば、己をすて、日々おのが十字架を負ひて我に従へ。 24 己が生命を救はんと思ふ者は之を失ひ、我がために己が生命を失ふその人は之を救はん。 25 人、全世界を贏くとも、己をうしなひ己を損せば、

何の益あらんや。 26 我と我が言とを恥づる者をば、
人の子もまた、己と父と聖なる御使たちとの榮光を
もて來らん時に恥づべし。 27 われ實をもて汝らに告
ぐ、此處に立つ者のうちに、神の國を見るまでは死
を味はぬ者どもあり』 28 これらの言をいひ給ひし
のち八日ばかり過ぎて、ペテロ、ヨハネ、ヤコブを率
きつれ、祈らんとて山に登り給ふ。 29 かくて祈り給
ふほどに、御顔の状かはり、其の衣 白くなりて輝け
り。 30 視よ、二人の人ありてイエスと共に語る。こ
れはモーセとエリヤとにて、 31 榮光のうちに現れ、
イエスのエルサレムにて遂げんとする逝去のことを
言ひゐたるなり。 32 ペテロ及び共にをる者いたく睡
氣ざしたれど、目を覺してイエスの榮光および偕に
立つ二人を見たり。 33 二人の者イエスと別れんとす
る時、ペテロ、イエスに言ふ『君よ、我らの此處に
居るは善し、我ら三つの廬を造り、一つを汝のため
、一つをモーセのため、一つをエリヤの爲にせん』
彼は言ふ所を知らざりき。 34 この事を言ひ居るほど
に、雲おこりて彼らを覆ふ。雲の中に入りしとき、
弟子たち懼れたり。 35 雲より聲出でて言ふ『これ
は我が選びたる子なり、汝ら之に聽け』 36 聲出で
しとき、唯イエスひとり見え給ふ。弟子たち黙して
、見し事を何一つ其の頃たれにも告げざりき。 37
次の日、山より下りたるに、大なる群衆イエスを迎
ふ。 38 視よ、群衆のうちの或人さけびて言ふ『師
よ、願はくは我が子を顧みたまへ、之は我が獨子な
り。 39 視よ、靈の憑くときは俄に叫ぶ、痙攣けて沫
をふかせ、甚く害ひ、漸くにして離るるなり。 40 御
弟子たちに之を逐ひ出すことを請ひたれど、能はざ

りき』 41 イエス答へて言ひ給ふ『ああ信なき曲れる代なる哉、われ何時まで汝らと偕にをりて、汝らを忍ばん。汝の子をここに連れ來れ』 42 乃ち來るとき、惡鬼これを打ち倒し、甚く痙攣けさせたり。イエス穢れし靈を禁め、子を醫して、その父に付したまふ。 43 人々みな神の稜威に驚きあへり。人々みなイエスの爲し給ひし凡ての事を怪しめる時、イエス弟子たちに言ひ給ふ、 44 『これらの言を汝らの耳にをさめよ。人の子は人々の手に付さるべし』 45 かれら此の言を悟らず、辨へぬやうに隠されたるなり。また此の言につきて問ふことを懼れたり。 46 ここに弟子たちの中に、誰か大ならんとの爭論おこりたれば、 47 イエスその心の爭論を知りて、幼兒をとり御側に置いて言ひ給ふ、 48 『おほよそ我が名のために此の幼兒を受くる者は、我を受くるなり。我を受くる者は、我を遣しし者を受くるなり。汝らの中にて最も小き者は、これ大なるなり』 49 ヨハネ答へて言ふ『君よ、御名によりて惡鬼を逐ひいだす者を見しが、我等とともに従はぬ故に、之を止めたり』 50 イエス言ひ給ふ『止むな。汝らに逆はぬ者は、汝らに附く者なり』 51 イエス天に擧げらるる時満ちんとしたれば、御顔を堅くエルサレムに向けて進まんとし、 52 己に先だちて使を遣したまふ。彼ら往きてイエスの爲に備をなさんとて、サマリヤ人の或村に入りしに、 53 村人そのエルサレムに向ひて行き給ふさまなるが故に、イエスを受けず、 54 弟子のヤコブ、ヨハネ、これを見て言ふ『主よ、我らが天より火を呼び下して彼らを滅すことを欲し給ふか』 55 イエス顧みて彼らを戒め、 56 遂に相共に他の村に往きた

まふ。 57 途を往くとき、或人イエスに言ふ『何處に往き給ふとも我は従はん』 58 イエス言ひたまふ『狐は穴あり、空の鳥は罅あり、されど人の子は枕する所なし』 59 また或人に言ひたまふ『我に従へ』かれ言ふ『まづ往きて我が父を葬ることを許し給へ』 60 イエス言ひたまふ『死にたる者に、その死にたる者を葬らせ、汝は往きて神の國を言ひ弘めよ』 61 また或人いふ『主よ、我なんぢに従はん、されど先づ家の者に別を告ぐることを許し給へ』 62 イエス言ひたまふ『手を鋤につけてのち後を顧みる者は、神の國に適ふ者にあらず』

10 この事ののち、主、ほかに七十人をあげて、自ら往かんとする町々 處々へ、おのれに先だち二人づつを遣さんとして言ひ給ふ、 2 『收穫はおほく、労働人は少し。この故に收穫の主、労働人をその收穫場に遣し給はんことを求めよ。 3 往け、視よ、我なんぢらを遣すは、羔羊を豺狼のなかに入るが如し。 4 財布も袋も鞋も携ふな。また途にて誰にも挨拶すな。 5 孰の家に入るとも、先づ平安この家にあれと言へ。 6 もし平安の子そこに居らば、汝らの祝する平安はその上に留らん。もし然らずば、其の平安は汝らに歸らん。 7 その家にとどまりて、與ふる物を食ひ飲みせよ。労働人のその値を得るは相應しきなり。家より家に移るな。 8 孰の町に入るとも、人々なんぢらを受けなば、汝らの前に供ふる物を食し、 9 其處にをる病のものを醫し、また「神の國は汝らに近づけり」と言へ。 10 孰の町に入るとも、人々なんぢらを受けずば、大路に出でて、 11 「我らの足につきたる汝らの町の塵をも、汝らに對して拂ひ

棄つ、されど神の國の近づけるを知れ」と言へ。 12 われ汝らに告ぐ、かの日にはソドムの方その町よりも耐へ易からん。 13 禍害なる哉、コラジンよ、禍害なる哉、ベツサイダよ、汝らの中にて行ひたる能力ある業を、ツロとシドンとにて行ひしならば、彼らは早く荒布をき、灰のなかに坐して、悔改めしならん。 14 されば審判には、ツロとシドンとのかた汝等よりも耐へ易からん。 15 カペナウムよ、汝は天にまで擧げらるべきか、黄泉にまで下らん。 (Hadēs g86)

16 汝等に聽く者は我に聽くなり、汝らを棄つる者は我を棄つるなり。我を棄つる者は我を遣し給ひし者を棄つるなり』 17 七十人よろこび歸りて言ふ『主よ、汝の名によりて悪鬼すら我らに服す』 18 イエス彼らに言ひ給ふ『われ天より閃く電光のごとくサタンの落ちしを見たり。 19 視よ、われ汝らに蛇・蠍を踏み、仇の凡ての力を抑ふる權威を授けたれば、汝らを害ふもの斷えてなからん。 20 されど靈の汝らに服するを喜ぶな、汝らの名の天に録されたるを喜べ』 21 その時イエス聖靈により喜びて言ひたまふ『天地の主なる父よ、われ感謝す、此等のことを智きもの慧き者に隠して、嬰兒に顯したまへり。父よ、然り、此のごときは御意に適へるなり。 22 凡ての物は我わが父より委ねられたり。子の誰なるを知る者は、父の外になく、父の誰なるを知る者は、子また子の欲するままに顯すところの者の外になし』 23 かくて弟子たちを顧み竊に言ひ給ふ『なんぢらの見る所を見る眼は幸福なり。 24 われ汝らに告ぐ、多くの預言者も、王も、汝らの見るところを見んと欲したれど見ず、汝らの聞く所を聞かんと欲したれど聞か

ざりき』 25 視よ、或 教法師、立ちてイエスを試みて言ふ『師よ、われ永遠の生命を嗣ぐためには何をなすべきか』 (aiōnios g166) 26 イエス言ひたまふ『律法に何と録したるか、汝いかに讀むか』 27 答へて言ふ『なんぢ心を盡し精神を盡し、力を盡し、思を盡して、主たる汝の神を愛すべし。また己のごとく汝の隣を愛すべし』 28 イエス言ひ給ふ『なんぢの答は正し。之を行へ、さらば生くべし』 29 彼おのれを義とせんとしてイエスに言ふ『わが隣とは誰なるか』 30 イエス答へて言ひたまふ『或 人エルサレムよりエリコに下るとき強盜にあひしが、強盜どもその衣を剥ぎ、傷を負はせ、半死半生にして棄て去りぬ。 31 或 祭司たまたま此の途より下り、之を見てかなたを過ぎ往けり。 32 又レビ人も此處にきたり、之を見て同じく彼方を過ぎ往けり 33 然るに或るサマリヤ人、旅して其の許にきたり、之を見て憫み、 34 近寄りて油と葡萄酒とを注ぎ、傷を包みて己が畜にのせ、旅舎に連れゆきて介抱し、 35 あくる日デナリ二つを出し、主人に與へて「この人を介抱せよ。費もし増さば、我が歸りくる時に償はん」と言へり。 36 汝いかに思ふか、此の三人のうち、孰か強盜にあひし者の隣となりしぞ』 37 かれ言ふ『その人に憐憫を施したる者なり』 イエス言ひ給ふ『なんぢも往きて其の如くせよ』 38 かくて彼ら進みゆく間に、イエス或 村に入り給へば、マルタと名づくる女おのが家に迎へ入る。 39 その姉妹にマリヤといふ者ありて、イエスの足下に坐し、御言を聴きをりしが、 40 マルタ饗應のこと多くして心いりみだれ、御許に進みよりて言ふ『主よ、わが姉妹われを一人のこして働かするを、

何とも思ひ給はぬか、彼に命じて我を助けしめ給へ』 41 主、答へて言ひ給ふ『マルタよ、マルタよ、汝さまごまの事により、思ひ煩ひて心勞す。 42 されど無くてならぬものは多からず、唯一つのみ、マリヤは善きかたを選びたり。此は彼より奪ふべからざるものなり』

11 イエス或處にて祈り居給ひしが、その終りしとき、弟子の一人いふ『主よ、ヨハネの其の弟子に教へし如く、祈ることを我らに教へ給へ』 2 イエス言ひ給ふ『なんぢら祈るときに斯く言へ「父よ、願はくは御名の崇められん事を。御國の來らん事を。 3 我らの日用の糧を日毎に與へ給へ。 4 我らに負債ある凡ての者を我ら免せば、我らの罪をも免し給へ。我らを嘗試にあはせ給ふな』 5 また言ひ給ふ『なんぢらの中たれか友あらんに、夜半にその許に往きて「友よ、我に三つのパンを貸せ。 6 わが友、旅より來りしに、之に供ふべき物なし」と言ふ時、 7 かれ内より答へて「われを煩はすな、戸ははや閉ぢ、子らは我と共に臥所にあり、起ちて與へ難し」といふ事ありとも、 8 われ汝らに告ぐ、友なるによりては起ちて與へねど、求の切なるにより、起きて其の要する程のものを與へん。 9 われ汝らに告ぐ、求めよ、さらば與へられん。尋ねよ、さらば見出さん。門を叩け、さらば開かれん。 10 すべて求むる者は得、尋ぬる者は見出し、門を叩く者は開かるるなり。 11 汝等のうち父たる者、たれか其の子魚を求めんに、魚の代に蛇を與へ、 12 卵を求めんに蠍を與へんや。 13 さらば汝ら悪しき者ながら、善き賜物をその子らに與ふるを知る。まして天の父は、求むる者に聖

靈を賜はざらんや』 14 さてイエス唾の悪鬼を逐ひい
だし給へば、悪鬼いでて唾もの言ひしにより、群衆
あやしめり。 15 其の中の或者ども言ふ『かれは悪鬼
の首ベルゼブルによりて悪鬼を逐ひ出すなり』 16 ま
た或者どもは、イエスを試みんとて天よりの徴を求
む。 17 イエスその思を知りて言ひ給ふ『すべて分れ
争ふ國は亡び、分れ争ふ家は倒る。 18 サタンもし分
れ争はば、その國いかで立つべき。汝等わが悪鬼を
逐ひ出すを、ベルゼブルに由ると言へばなり。 19 我
もしベルゼブルによりて悪鬼を逐ひ出さば、汝らの
子は誰によりて之を逐ひ出すか。この故に彼らは汝
らの審判人となるべし。 20 されど我もし神の指によ
りて悪鬼を逐ひ出さば、神の國は既に汝らに到れる
なり。 21 強きもの武具をよろひて己が屋敷を守ると
きは、其の所有安全なり。 22 されど更に強きもの來
りて之に勝つときは、恃とする武具をことごとく奪
ひて、分捕物を分たん。 23 我と偕ならぬ者は我にそ
むき、我と共に集めぬ者は散すなり。 24 穢れし靈、
人を出づる時は、水なき處を巡りて休を求む。され
ど得ずして言ふ「わが出でし家に歸らん」 25 歸りて
其の家の掃き淨められ、飾られたるを見、 26 遂に往
きて己よりも悪しき他の七つの靈を連れきたり、共
に入りて此處に住む。さればその人の後の状は、前
よりも悪しくなるなり』 27 此等のことを言ひ給ふ
とき、群衆の中より或女、聲をあげて言ふ『幸福な
るかな、汝を宿しし胎、なんぢの哺ひし乳房は』 28
イエス言ひたまふ『更に幸福なるかな、神の言を聽
きて之を守る人は』 29 群衆おし集れる時、イエス言
ひ出でたまふ『今の世は邪曲なる代にして徴を求む

。されどヨナの徴のほかには徴は與へられじ。 **30** ヨナがニネベの人に徴となりし如く、人の子もまた今の代に然らん。 **31** 南の女王、審判のとき、今の代の人と共に起きて之が罪を定めん。彼はソロモンの智慧を聽かんとて地の極より來れり。視よ、ソロモンよりも勝るもの此處にあり。 **32** ニネベの人、審判のとき、今の代の人と共に立ちて之が罪を定めん。彼らはヨナの宣ぶる言によりて悔改めたり。視よ、ヨナよりも勝るもの此處に在り。 **33** 誰も燈火をともして、穴藏の中または升の下におく者なし。入り來る者の光を見んために、燈臺の上に置くなり。 **34** 汝の身の燈火は目なり、汝の目 正しき時は、全身 明るからん。されど悪しき時は、身もまた暗からん。 **35** この故に汝の内の光、闇にはあらぬか、省みよ。 **36** もし汝の全身 明るくして暗き所なくば、輝ける燈火に照さるる如く、その身 全く明るからん』 **37** イエスの語り給へるとき、或パリサイ人その家にて食事し給はん事を請ひたれば、入りて席に著きたまふ。 **38** 食事前に手を洗ひ給はぬを、此のパリサイ人 見て怪しみたれば、 **39** 主これに言ひたまふ『今や汝らパリサイ人は、酒杯と盆との外を潔くす、されど汝らの内は貪慾と惡とにて滿つるなり。 **40** 愚なる者よ、外を造りし者は、内をも造りしならずや。 **41** 唯その内にある物を施せ。さらば一切の物なんぢらの爲に潔くなるなり。 **42** 禍害なるかな、パリサイ人よ、汝らは薄荷・芸香その他あらゆる野菜の十分の一を納めて、公平と神に對する愛とを等閑にす、されど之は行ふべきものなり。而して彼もまた等閑にすべきものならず。 **43** 禍害なるかな、パリサイ人よ、汝らは會

堂の上座、市場にての敬禮を喜ぶ。 44 禍害なるかな、汝らは露れぬ墓のごとし。其の上を歩む人これを知らぬなり』 45 教法師の一人、答へて言ふ『師よ、斯かることを言ふは、我らをも辱しむるなり』 46 イエス言ひ給ふ『なんぢら教法師も禍害なる哉。なんぢら擔ひ難き荷を人に負せて、自ら指一つだに其の荷につけぬなり。 47 禍害なるかな、汝らは預言者たちの墓を建つ、之を殺しし者は汝らの先祖なり。 48 げに汝らは先祖の所作を可しとする證人ぞ。それは彼らは之を殺し、汝らは其の墓を建つればなり。 49 この故に神の智慧いへる言あり、われ預言者と使徒とを彼らに遣さん、その中の或者を殺し、また逐ひ苦しめん。 50 世の創より流されたる凡ての預言者の血、 51 即ちアベルの血より、祭壇と聖所との間に殺されたるザカリヤの血に至るまでを、今の代に糺すべきなり。然り、われ汝らに告ぐ、今の代は糺さるべし。 52 禍害なるかな教法師よ、なんぢらは知識の鍵を取り去りて自ら入らず、入らんとする人をも止めしなり』 53 此處より出で給へば、學者・パリサイ人ら烈しく詰め寄せて、様々のことを詰りはじめ、 54 その口より何事をか捉へんと待構へたり。

12 その時、無数の人あつまりて、群衆ふみ合ふばかりなり。イエスマづ弟子たちに言ひ出で給ふ『なんぢら、パリサイ人のパンだねに心せよ、これ偽善なり。 2 蔽はれたるものに露れぬはなく、隠れたるものに知られぬはなし。 3 この故に汝らが暗きにて言ふことは、明るきにて聞え、部屋の内にて耳によりて語りしことは、屋の上にて宣べらるべし。 4 我が友たる汝らに告ぐ。身を殺して後に何をも爲し得

ぬ者どもを懼るな。 **5** 懼るべきものを汝らに示さん。
。殺したる後ゲヘナに投げ入るる權威ある者を懼れよ。
われ汝らに告ぐ、げに之を懼れよ。 (Geenna g1067)

6 五羽の雀は二錢にて賣るにあらずや、然るに其の一羽だに神の前に忘れらるる事なし。 **7** 汝らの頭の髪までもみな數へらる。懼るな、汝らは多くの雀よりも優るなり。 **8** われ汝らに告ぐ、凡そ人の前に我を言ひあらはす者を、人の子もまた神の使たちの前にて言ひあらはさん。 **9** されど人の前にて我を否む者は、神の使たちの前にて否まれん。 **10** 凡そ言をもて人の子に逆ふ者は赦されん。されど聖靈を瀆すものは赦されじ。 **11** 人なんぢらを會堂、或は司、あるひは權威ある者の前に引きゆかん時、いかに何を答へ、または何を言はんと思ひ煩ふな。 **12** 聖靈そのとき言ふべきことを教へ給はん』 **13** 群衆のうちの或人いふ『師よ、わが兄弟に命じて、嗣業を我に分たしめ給へ』 **14** 之に言ひたまふ『人よ、誰が我を立てて汝らの裁判人また分配者とせしぞ』 **15** かくて人々に言ひたまふ『慎みて凡ての慳貪をふせげ、人の生命は所有の豊なるには因らぬなり』 **16** また譬を語りて言ひ給ふ『ある富める人、その畑豊に實りたれば、 **17** 心の中に議りて言ふ「われ如何にせん、我が作物を藏めおく處なし」 **18** 遂に言ふ「われ斯く爲さん、わが倉を毀ち、更に大なるものを建てて、其處にわが穀物および善き物をことごとく藏めん。 **19** かくてわが靈魂に言はん、靈魂よ、多年を過すに足る多くの善き物を貯へたれば、安んぜよ、飲食せよ、樂しめよ」 **20** 然るに神かれに「愚なる者よ、今宵なんぢの靈魂とらるべし、さらば汝の備へたる物は

、誰がものとなるべきぞ」と言ひ給へり。21己のために財を貯へ、神に對して富まぬ者は斯くのごとし』22また弟子たちに言ひ給ふ『この故にわれ汝らに告ぐ、何を食はんと生命のことを思ひ煩ひ、何を著んと體のことを思ひ煩ふな。23生命は糧にまさり、體は衣に勝るなり。24鴉を思ひ見よ、播かず、刈らず、納屋も倉もなし。然るに神は之を養ひたまふ、汝ら鳥に優ること幾許ぞや。25汝らの中たれか思ひ煩ひて、身の長一尺を加へ得んや。26されば最小き事すら能はぬに、何ぞ他のことを思ひ煩ふか。27百合を思ひ見よ、紡がず、織らざるなり。されど我なんぢらに告ぐ、榮華を極めたるソロモンだに、其の服裝この花の一つにも及かざりき。28今日ありて、明日 爐に投げ入れらるる野の草をも、神は斯く装ひ給へば、況て汝らをや、ああ信仰うすき者よ、29なんぢら何を食ひ何を飲まんと求むな、また心を動かすな。30是みな世の異邦人の切に求むる所なれど、汝らの父は、此等の物のなんぢらに必要なるを知り給へばなり。31ただ父の御國を求めよ。さらば此等の物は、なんぢらに加へらるべし。32懼るな、小き群よ、なんぢらに御國を賜ふことは、汝らの父の御意なり。33汝らの所有を賣りて施濟をなせ。己がために舊びぬ財布をつくり、盡きぬ財寶を天に貯へよ。かしこは盜人も近づかず、蟲も壞らぬなり、34汝らの財寶のある所には、汝らの心もあるべし。35なんぢら腰に帶し、燈火をともして居れ。36主人、婚筵より歸り來りて戸を叩かば、直ちに開くために待つ人のごとくなれ。37主人の來るとき、目を覺しをるを見らるる僕どもは幸福なるかな。われ

誠に汝らに告ぐ、主人 帶して其の僕どもを食事の席に就かせ、進みて給仕すべし。 38 主人、夜の半ごろ若くは夜の明るる頃に來るとも、かくの如くなるを見らるる僕どもは幸福なり。 39 なんぢら之を知れ、家主もし盜人いづれの時 來るかを知らば、その家を穿たすまじ。 40 汝らも備へをれ。人の子は思はぬ時に來ればなり』 41 ペテロ言ふ『主よ、この譬を言ひ給ふは我らにか、また凡ての人にか』 42 主いひ給ふ『主人が時に及びて僕どもに定の糧を與へさする爲に、その僕どもの上に立つる忠實にして慧き支配人は誰なるか、 43 主人のきたる時、かく爲し居るを見らるる僕は幸福なるかな。 44 われ實をもて汝らに告ぐ、主人すべての所有を彼に掌どらすべし。 45 若しその僕、心のうちに、主人の來るは遅しと思ひ、僕・婢女をたたき、飲食して酔ひ始めなば、 46 その僕の主人、おもはぬ日 知らぬ時に來りて、之を烈しく答うち、その報を不忠者と同じうせん。 47 主人の意を知りながら用意せず、又その意に従はぬ僕は、答うたるること多からん。 48 されど知らずして打たるべき事をなす者は、答うたるること少からん。多く與へらるる者は、多く求められん。多く人に托くれば、更に多くその人より請ひ求むべし。 49 我は火を地に投ぜんとて來れり。此の火すでに燃えたらんには、我また何をか望まん。 50 されど我には受くべきバプテスマあり。その成し遂げらるるまでは、思ひ逼ること如何ばかりぞや。 51 われ地に平和を與へんために來ると思ふか。われ汝らに告ぐ、然らず、反つて分争なり。 52 今よりのち一家に五人あらば、三人は二人に、二人は三人に分れ争はん。 53 父は

子に、子は父に、母は娘に、娘は母に、姑母は嫁に、嫁は姑母に分れ争はん』 54 イエスまた群衆に言ひ給ふ『なんぢら雲の西より起るを見れば、直ちに言ふ「急雨きたらん」と、果して然り。 55 また南風ふけば、汝等いふ「強き暑あらん」と、果して然り。 56 偽善者よ、汝ら天地の氣色を辨ふることを知りて、今の時を辨ふること能はぬは何ぞや。 57 また何故みづから正しき事を定めぬか。 58 なんぢ訴ふる者とともに司に往くとき、途にて和解せんことを力めよ。恐らくは訴ふる者なんぢを審判人に引きゆき、審判人なんぢを下役にわたし、下役なんぢを獄に投げ入れん。 59 われ汝に告ぐ、一レプタも残りなく償はずば、其處に出づること能はじ』

13 その折しも或人々きたりて、ピラトがガリラヤ人らの血を彼らの犠牲にまじへたりし事をイエスに告げたれば、 2 答へて言ひ給ふ『かのガリラヤ人は斯かることに遭ひたる故に、凡てのガリラヤ人に勝れる罪人なりしと思ふか。 3 われ汝らに告ぐ、然らず、汝らも悔改めずば皆おなじく亡ぶべし。 4 又シロアムの櫓たふれて、壓し殺されし十八人は、エルサレムに住める凡ての人に勝りて、罪の負債ある者なりしと思ふか。 5 われ汝らに告ぐ、然らず、汝らも悔改めずば、みな斯くのごとく亡ぶべし』 6 又この譬を語りたまふ『或人おのが葡萄園に植ゑありし無花果の樹に來りて、果を求むれども得ずして、 7 園丁に言ふ「視よ、われ三年きたりて此の無花果の樹に果を求むれども得ず。これを伐り倒せ、何ぞ徒らに地を塞ぐか」 8 答へて言ふ「主よ、今年も容したまへ、我その周圍を掘りて肥料せん。 9 そののち

果を結ばば善し、もし結ばずば伐り倒したまへ」』

10 イエス安息日に或會堂にて教えたまふ時、11 視よ、十八年のあひだ病の靈に憑かれたる女あり、屈まりて少しも伸ぶること能はず。12 イエスこの女を見、呼び寄せて『女よ、なんぢは病より解かれたり』と言ひ、13 之に手を按きたまへば、立刻に身を直にして神を崇めたり。14 會堂司イエスの安息日に病を醫し給ひしことを憤ほり、答へて群衆に言ふ『働くべき日は六日あり、その間に來りて醫されよ。安息日には爲ざれ』15 主こたへて言ひたまふ『偽善者らよ、汝等おのおの安息日には、己が牛または驢馬を小屋より解きいだし、水飼はんとて牽き往かぬか。16 さらば長き十八年の間サタンに縛られたるアブラハムの娘なる此の女は、安息日にその繋より解かるべきならずや』17 イエス此等のことを言ひ給へば、逆ふ者はみな恥ぢ、群衆は擧りてその爲し給へる榮光ある凡ての業を喜び。18 かくてイエス言ひたまふ『神の國は何に似たるか、我これを何に擬へん、19 一粒の芥種のごとし。人これを取りて己の園に播きたれば、育ちて樹となり、空の鳥その枝に宿れり』20 また言ひたまふ『神の國を何に擬へんか、21 パン種のごとし。女これを取りて、三斗の粉の中に入るれば、ことごとく脹れいだすなり』22 イエス教へつつ町々村々を過ぎて、エルサレムに旅し給ふとき、23 或人いふ『主よ、救はるる者は少きか』24 イエス人々に言ひたまふ『力を盡して狭き門より入れ。我なんぢらに告ぐ、入らん事を求めて入り能はぬ者おほからん。25 家主おきて門を閉ぢたる後、なんぢら外に立ちて「主よ、我らに開き給へ」

と言ひつつ門を叩き始めんに、主人こたへて「われ汝らは何處の者なるかを知らず」と言はん。26 その時「われらは御前にて飲食し、なんぢは、我らの町の大路にて教へ給へり」と言ひ出でんに、27 主人こたへて「われ汝らは何處の者なるかを知らず、惡をなす者どもよ、皆われを離れ去れ」と言はん。28 汝らアブラハム、イサク、ヤコブ及び凡ての預言者の、神の國に居り、己らの逐ひ出さるるを見ば、其處にて哀哭・切齒する事あらん。29 また人々、東より西より南より北より來りて、神の國の宴に就くべし。30 視よ、後なる者の先になり、先なる者の後になる事あらん』31 そのとき或パリサイ人らイエスに來りて言ふ『いでて此處を去り給へ、ヘロデ汝を殺さんとす』32 答へて言ひ給ふ『往きてかの狐に言へ。視よ、われ今日 明日、惡鬼を逐ひ出し、病を醫し、而して三日めに全うせられん。33 されど今日も明日も次の日も我は進み往くべし。それ預言者のエルサレムの外にて死ぬることは有るまじきなり。34 噫エルサレム、エルサレム、預言者たちを殺し、遣されたる人々を石にて撃つ者よ、牝鷄の己が雛を翼のうちに集むるごとく、我なんぢの子どもを集めんとせしこと幾度ぞや。されど汝らは好まざりき。35 視よ、汝らの家は棄てられて汝らに遣らん。我なんぢらに告ぐ、「讚むべきかな、主の名によりて來る者」と、汝らの言ふ時の至るまでは、我を見ざるべし』

14 イエス安息日に食事せんとて、或パリサイ人の頭の家に入り給へば、人々これを窺ふ。2 視よ、御前に水腫をわづらふ人あるれば、3 イエス答へて教法師とパリサイ人とに言ひたまふ『安息日に人を醫

すことは善しや、否や』 4 かれら黙然たり。イエス
その人を執り、醫して去らしめ、 5 且かれらに言ひ
給ふ『なんぢらの中その子あるひは其の牛、井に陥
らんに、安息日には直ちに之を引揚げぬ者あるか』
6 彼等これに對して物言ふこと能はず。 7 イエス招
かれたる者の上席をえらぶを見、譬をかたりて言ひ
給ふ、 8 『なんぢ婚筵に招かるるとき、上席に著く
な。恐らくは汝よりも貴き人の招かれんに、 9 汝と
彼とを招きたる者きたりて「この人に席を譲れ」と
言はん。さらば其の時なんぢ恥ぢて末席に往きはじ
めん。 10 招かるるとき、寧ろ往きて末席に著け、さ
らば招きたる者きたりて「友よ、上に進め」と言は
ん。その時なんぢ同席の者の前に響あるべし。 11 凡
そおのれを高うする者は卑うせられ、己を卑うする
者は高うせらるるなり』 12 また己を招きたる者にも
言ひ給ふ『なんぢ晝餐または夕餐を設くるとき、朋
友・兄弟・親族・富める隣人などをよぶな。恐らく
は彼らも亦なんぢを招きて報をなさん。 13 饗宴を設
くる時は、寧ろ貧しき者・不具・跛者・盲人などを
招け。 14 彼らは報ゆること能はぬ故に、なんぢ幸福
なるべし。正しき者の復活の時に報いらるるなり』
15 同席の者の一人これらの事を聞いてイエスに言ふ
『おほよそ神の國にて食事する者は幸福なり』 16 之
に言ひたまふ『或人、盛なる夕餐を設けて、多くの
人を招く。 17 夕餐の時いたりて、招きおきたる者の
許に僕を遣して「來れ、既に備りたり」と言はしめ
たるに、 18 皆ひとしく辭りはじむ。初の者いふ「わ
れ田地を買へり。往きて見ざるを得ず。請ふ、許さ
れんことを」 19 他の者いふ「われ五 𦉳の牛を買へ

り、之を驗すために往くなり。請ふ、許されんことを」 20 また他も者いふ「われ妻を娶れり、此の故に往くこと能はず」 21 僕かへりて此等の事をその主人に告ぐ、家主いかりて僕に言ふ「とく町の大路と小路とに往きて、貧しき者・不具者・盲人・跛者などを此處に連れきたれ」 22 僕いふ「主よ、仰のごとく爲したれど、尚ほ餘の席あり」 23 主人、僕に言ふ「道や籬の邊にゆき、人々を強ひて連れきたり、我が家に充たしめよ。 24 われ汝らに告ぐ、かの招きおきたる者のうち、一人だに我が夕餐を味ひ得る者なし』 25 さて大なる群衆イエスに伴ひゆきたれば、顧みて之に言ひたまふ、 26 『人もし我に來りて、その父母・妻子・兄弟・姉妹・己が生命までも憎まざば、我が弟子となるを得ず。 27 また己が十字架を負ひて我に従ふ者ならでは、我が弟子となるを得ず。 28 汝らの中たれか櫓を築かと思はば、先づ坐して其の費をかぞへ、己が所有、竣工までに足るか否かを計らざらんや。 29 然らずして基を据ゑ、もし成就すること能はずば、見る者みな嘲笑ひて、 30 「この人は築きかけて成就すること能はざりき」と言はん。 31 又いづれの王か出でて他の王と戦争をせん、先づ坐して、此の一萬人をもて、かの二萬人を率ゐきたる者に對ひ得るか否か籌らざらんや。 32 もし及かずば、敵なほ遠く隔るうちに、使を遣して和睦を請ふべし。 33 かくのごとく、汝らの中その一切の所有を退くる者ならでは、我が弟子となるを得ず。 34 鹽は善きものなり、然れど鹽もし效力を失はば、何によりてか味つけられん。 35 土にも肥料にも適せず、外に棄てらるるなり。聽く耳ある者は聽くべし』

15 取税人、罪人ども、みな御言を聽かんとて近寄りたれば、**2** パリサイ人・學者ら眩きて言ふ、『この人は罪人を迎へて食を共にす』 **3** イエス之に譬を語りて言ひ給ふ、**4** 『なんぢらの中たれか百匹の羊を有たんに、若その一匹を失はば、九十九匹を野におき、往きて失せたる者を見出すまでは尋ねざらんや。**5** 遂に見出さば、喜びて之を己が肩にかけ、**6** 家に歸りて其の友と隣人と呼び集めて言はん「我とともに喜べ、失せたる我が羊を見出せり」 **7** われ汝らに告ぐ、かくのごとく悔改むる一人の罪人のためには、悔改の必要な九十九人の正しき者にも勝りて、天に歡喜あるべし。**8** 又いづれの女か銀貨十枚を有たんに、若しその一枚を失はば、燈火をともし、家を掃きて見出すまでは懇ろに尋ねざらんや。**9** 遂に見出さば、其の友と隣人と呼び集めて言はん、「我とともに喜べ、わが失ひたる銀貨を見出せり」 **10** われ汝らに告ぐ、かくのごとく悔改むる一人の罪人のために、神の使たちの前に歡喜あるべし』 **11** また言ひたまふ『或人に二人の息子あり、**12** 弟、父に言ふ「父よ、財産のうち我が受くべき分を我にあたへよ」父その身代を二人に分けあたふ。**13** 幾日も経ぬに、弟おのが物をことごとく集めて、遠國にゆき、其處にて放蕩にその財産を散せり。**14** ことごとく費したる後、その國に大なる饑饉おこり、自ら乏しくなり始めたれば、**15** 往きて其の地の或人に依附りしに、其の人かれを畑に遣して豚を飼はしむ。**16** かれ豚の食ふ蝗豆にて、己が腹を充さんと思ふ程なれど、何をも與ふる人なかりき。**17** 此のとき我に反りて言ふ『わが父の許には食物あまれる

雇人いくばくぞや、然るに我は飢ゑてこの處に死なんとす。18 起ちて我が父にゆき「父よ、われは天に對し、また汝の前に罪を犯したり。19 今より汝の子と稱へらるるに相應しからず、雇人の一人のごとく爲し給へ』と言はん」20 乃ち起ちて其の父のもとに往く。なほ遠く隔りたるに、父これを見て憫み、走りゆき、其の頸を抱きて接吻せり。21 子、父にいふ「父よ、我は天に對し又なんぢの前に罪を犯したり。今より汝の子と稱へらるるに相應しからず」22 されど父、僕どもに言ふ「とくとく最上の衣を持ち來りて之に著せ、その手に指輪をはめ、其の足に鞋をはかせよ。23 また肥えたる犢を牽ききたりて屠れ、我ら食して楽しまん。24 この我が子、死にて復生き、失せて復得られたり」かくて彼ら楽しみ始む。25 然るに其の兄、畑にありしが、歸りて家に近づきたるとき、音樂と舞踏との音を聞き、26 僕の一人を呼びてその何事なるかを問ふ。27 答へて言ふ「なんぢの兄弟 歸りたり、その恙なきを迎へたれば、汝の父肥えたる犢を屠れるなり」28 兄 怒りて内に入ることを好まざりしかば、父いでて勧めしに、29 答へて父に言ふ「視よ、我は幾歳もなんぢに仕へて、未だ汝の命令に背きし事なきに、我には小山羊一匹だに與へて友と楽しましめし事なし。30 然るに遊女らと共に、汝の身代を食ひ盡したる此の汝の子 歸り來れば、之がために肥えたる犢を屠れり」31 父いふ「子よ、なんぢは常に我とともに在り、わが物は皆なんぢの物なり。32 されど此の汝の兄弟は死にて復生き、失せて復得られたれば、我らの楽しみ喜ぶは當然なり』』

16 イエスまた弟子たちに言ひ給ふ『或 富める人に一人の支配人あり、主人の所有を費しをりと訴へられたれば、**2** 主人かれを呼びて言ふ「わが汝につきて聞く所は、これ何事ぞ、務の報告をいませ、汝こののち支配人たるを得じ」**3** 支配人 心のうちに言ふ「如何にせん、主人わが職を奪ふ。われ土 掘るには力なく、物乞ふは恥かし。**4** 我なすべき事こそ知りたれ、斯く爲ば職を罷めらるるとき、人々その家に我を迎ふるならん」とて、**5** 主人の負債者を一人一人 呼びよせて、初の者に言ふ「なんぢ我が主人より負ふところ何程あるか」**6** 答へて言ふ「油、百 樽」支配人いふ「なんぢの證書をとり、早く坐して五十と書け」**7** 又ほかの者に言ふ「負ふところ何程あるか」答へて言ふ「麥、百 石」支配人いふ「なんぢの證書をとりて八十と書け」**8** ここに主人、不義なる支配人の爲しし事の巧なるによりて、彼を譽めたり。この世の子らは、己が時代の事には光の子らよりも巧なり。(aiōn g165) **9** われ汝らに告ぐ、不義の富をもて、己がために友をつくれ。さらば富の失する時、その友なんぢらを永遠の住居に迎へん。(aiōnios g166) **10** 小事に忠なる者は大事にも忠なり。小事に不忠なる者は大事にも不忠なり。**11** さらば汝等もし不義の富に忠ならずば、誰か眞の富を汝らに任すべき。**12** また汝等もし人のものに忠ならずば、誰か汝等のもを汝らに與ふべき。**13** 僕は二人の主兼ね事ふること能はず、或は之を憎み彼を愛し、或は之に親しみ彼を軽しむべければなり。汝ら神と富とに兼ね事ふること能はず』**14** ここに慾深きパリサイ人ら、この凡ての事を聞いてイエスを嘲笑ふ。

15 イエス彼らに言ひ給ふ『なんぢらは人のまへに己を義とする者なり。されど神は汝らの心を知りたまふ。人のなかに尊ばるる者は、神のまへに憎まるる者なり。 16 律法と預言者とはヨハネまでなり、その時より神の國は宣傳へられ、人みな烈しく攻めて之に入る。 17 されど律法の一畫の落つるよりも、天地の過ぎ往くは易し。 18 凡てその妻を出して、他に娶る者は、姦淫を行ふなり。また夫より出されたる女を娶る者も、姦淫を行ふなり。 19 或 富める人あり、紫色の衣と細布とを著て、日々 奢り樂しめり。 20 又ラザロといふ貧しき者あり、腫物にて腫れただれ、富める人の門に置かれ、 21 その食卓より落つる物にて飽かんと思ふ。而して犬ども來りて其の腫物を舐れり。 22 遂にこの貧しきもの死に、御使たちに携へられてアブラハムの懷裏に入れり。富める人もまた死にて葬られしが、 23 黄泉にて苦惱の中より目を擧げて、遙にアブラハムと其の懷裏にをるラザロとを見る。(Hadēs g86) 24 乃ち呼びて言ふ「父アブラハムよ、我を憐みて、ラザロを遣し、その指の先を水に浸して我が舌を冷させ給へ、我はこの焰のなかに悶ゆるなり」 25 アブラハム言ふ「子よ、憶へ、なんぢは生ける間なんぢの善き物を受け、ラザロは惡しき物を受けたり。今ここにて彼は慰められ、汝は悶ゆるなり。 26 然のみならず、此處より汝らに渡り往かんとすとも得ず、其處より我らに來り得ぬために、我らと汝らとの間に大なる淵 定めおかれたり」 27 富める人また言ふ「さらば父よ、願はくは我が父の家にラザロを遣したまへ。 28 我に五人の兄弟あり、この苦痛のところに来らぬよう、彼らに證せしめ

給へ」 29 アブラハム言ふ「彼らにはモーセと預言者とあり、之に聽くべし」 30 富める人いふ「いな、父アブラハムよ、もし死人の中より彼らに往く者あらば、悔改めん」 31 アブラハム言ふ「もしモーセと預言者にとに聽かずば、たとひ死人の中より甦へる者ありとも、其の勸を納れざるべし」』

17 イエス弟子たちに言ひ給ふ『躓物は必ず來らざるを得ず、されど之を來らす者は禍害なるかな。 2 この小き者の一人を躓かするよりは、寧ろ礮臼の石を頸に懸けられて、海に投げ入れられんかた善きなり。 3 汝等みづから心せよ。もし汝の兄弟罪を犯さば、これを戒めよ。もし悔改めなば之をゆるせ。 4 もし一日に七度なんぢに罪を犯し、七たび「悔改む」と言ひて、汝に歸らば之をゆるせ』 5 使徒たち主に言ふ『われらの信仰を増したまへ』 6 主いひ給ふ『もし芥種 一粒ほどの信仰あらば、此の桑の樹に「抜けて海に植れ」と言ふとも汝らに従ふべし。 7 汝等のうち誰か或は耕し、或は牧する僕を有たんに、その僕 畑より歸りたる時、これに對ひて「直ちに來り食に就け」と言ふ者あらんや。 8 反つて「わが夕餐の備をなし、我が飲食するあひだ、帶して給仕せよ、然る後に、なんぢ飲食すべし」と言ふにあらずや。 9 僕、命ぜられし事を爲したればとて、主人これに謝すべきか。 10 かくのごとく汝らも命ぜられし事をことごとく爲したる時「われらは無益なる僕なり、爲すべき事を爲したるのみ」と言へ』 11 イエス、エルサレムに往かんとて、サマリヤとガリラヤとの間をとほり、 12 或村に入り給ふとき、十人の癩病人これに遇ひて、遙に立ち止り、 13 聲を揚げて言

ふ『君イエスよ、我らを憫みたまへ』 14 イエス之を見て言ひたまふ『なんぢら往きて身を祭司らに見せよ』彼ら往く間に潔められたり。 15 その中の一人、おのが醫されたるを見て、大聲に神を崇めつつ歸りきたり、 16 イエスの足下に平伏して謝す。これはサマリア人なり。 17 イエス答へて言ひたまふ『十人みな潔められしならずや、九人は何處に在るか。 18 この他國人のほかは、神に榮光を歸せんとして歸りきたる者なきか』 19 かくて之に言ひたまふ『起ちて往け、なんぢの信仰なんぢを救へり』 20 神の國の何時きたるべきかをパリサイ人に問はれし時、イエス答へて言ひたまふ『神の國は見ゆべき状にて來らず。 21 また「視よ、此處に在り」「彼處に在り」と人々言はざるべし。視よ、神の國は汝らの中に在るなり』 22 かくて弟子たちに言ひ給ふ『なんぢら人の子の日の一日を見んと思ふ日きたらん、されど見ることを得じ。 23 そのとき人々なんぢらに「見よ彼處に、見よ此處に」と言はん、されど往くな、從ふな。 24 それ電光の天の彼方より閃きて、天の此方に輝くごとく、人の子もその日には然あるべし。 25 されど人の子は先づ多くの苦難を受け、かつ今の代に棄てらるべきなり。 26 ノアの日にありし如く、人の子の日にも然あるべし。 27 ノア方舟に入る日までは、人々飲み食ひ娶り嫁ぎなど爲たりしが、洪水きたりて彼等をことごとく滅せり。 28 ロトの日にも斯くのごとく、人々 飲み食ひ、賣り買ひ、植ゑつけ、家造りなど爲たりしが、 29 ロトのソドムを出でし日に、天より火と硫黄と降りて、彼等をことごとく滅せり。 30 人の子の顯るる日にも、その如くなるべし。 31 その

日には、人もし屋の上ををりて、器物家の内にあらば、之を取らんとて下るな。畑にをる者も同じく歸るな。 32 ロトの妻を憶へ。 33 おほよそ己が生命を全うせんとする者はこれを失ひ、失ふ者はこれを保つべし。 34 われ汝らに告ぐ、その夜ふたりの男、一つ寢臺に居らん、一人は取られ一人は遣されん。 35 二人の女ともに白ひき居らん、一人は取られ一人は遣されん』 36 [なし] 37 弟子たち答へて言ふ『主よ、それは何處ぞ』 イエス言ひたまふ『屍體のある處には驚も亦あつまらん』

18 また彼らに、落膽せずして常に祈るべきことを、譬にて語り言ひ給ふ 2 『或町に、神を畏れず人を顧みぬ裁判人あり。 3 その町に寡婦ありて、屢次その許にゆき「我がために仇を審きたまへ」と言ふ。 4 かれ久しく聴き入れざりしが、其ののち心の中に言ふ「われ神を畏れず、人を顧みねど、 5 此の寡婦われを煩はせば、我かれが爲に審かん、然らずば絶えず來りて我を惱さん」と』 6 主いひ給ふ『不義なる裁判人の言ふことを聴け、 7 まして神は夜晝よばはる選民のために、たとひ遅くとも遂に審き給はざらんや。 8 我なんぢらに告ぐ、速かに審き給はん。されど人の子の來るとき地上に信仰を見んや』 9 また己を義と信じ、他人を輕しむる者どもに、此の譬を言ひたまふ、 10 『二人のもの祈らんとて宮にのぼる、一人はパリサイ人、一人は取税人なり。 11 パリサイ人たちて心の中に斯く祈る「神よ、我はほかの人の、強奪・不義・姦淫するが如き者ならず、又この取税人の如くならぬを感謝す。 12 我は一週のうちに二度斷食し、凡て得るものの十分の一を献ぐ』 13

然るに取税人は遙に立ちて、目を天に向くる事だにせず、胸を打ちて言ふ「神よ、罪人なる我を憫みたまへ」 14 われ汝らに告ぐ、この人は、かの人よりも義とせられて、己が家に下り往けり。おほよそ己を高うする者は卑うせられ、己を卑うする者は高うせらるるなり』 15 イエスの觸り給はんことを望みて、人々 嬰兒らを連れ來りしに、弟子たち之を見て禁めたれば、 16 イエス幼兒らを呼びよせて言ひたまふ『幼兒らの我に來るを許して止むな、神の國はかくのごとき者の國なり。 17 われ誠に汝らに告ぐ、おほよそ幼兒のごとくに神の國をうくる者ならずば、之に入ることは能はず』 18 或 司 問ひて言ふ『善き師よ、われ何をなして永遠の生命を嗣ぐべきか』 (aiōnios g166) 19 イエス言ひ給ふ『なにゆゑ我を善しと言ふか、神ひとり他に善き者なし。 20 誠命はなんぢが知る所なり「姦淫するなかれ」「殺すなかれ」「盗むなかれ」「偽證を立つる勿れ」「なんぢの父と母とを敬へ』 21 彼いふ『われ幼き時より皆これを守れり』 22 イエス之をききて言ひたまふ『なんぢなほ足らぬこと一つあり、汝の有てる物をことごとく賣りて、貧しき者に分ち與へよ、然らば財寶を天に得ん。かつ來りて我に従へ』 23 彼は之をききて甚く悲しめり、大に富める者なればなり。 24 イエス之を見て言ひたまふ『富める者の神の國に入るは如何に難いかな。 25 富める者の神の國に入るよりは、駱駝の針の穴をとほるは反つて易し』 26 之をきく人々いふ『さらば誰か救はるる事を得ん』 27 イエス言ひたまふ『人のなし得ぬところは、神のなし得る所なり』 28 ペテロ言ふ『視よ、我等わが物をすてて汝に従へり

』 29 イエス言ひ給ふ『われ誠に汝らに告ぐ、神の國のために、或は家、或は妻、或は兄弟、あるひは両親、あるひは子を棄つる者は、誰にても、 30 今の時に數倍を受け、また後の世にて永遠の生命を受けぬはなし』 (aiōn g165, aiōnios g166) 31 イエス十二弟子を近づけて言ひたまふ『視よ、我らエルサレムに上る。人の子につき預言者たちによりて録されたる凡ての事は、成し遂げらるべし。 32 人の子は異邦人に付され、嘲弄せられ、辱しめられ、唾せられん。 33 彼等これを鞭うち、かつ殺さん。かくて彼は三日めに甦へるべし』 34 弟子たち此等のことを一つだに悟らず、此の言かれらに隠れたれば、その言ひ給ひしことを知らざりき。 35 イエス、エリコに近づき給ふとき、一人の盲人、路の傍らに坐して、物乞ひ居たりしが、 36 群衆の過ぐるを聞いて、その何事なるかを問ふ。 37 人々ナザレのイエスの過ぎたまふ由を告げたれば、 38 盲人よばはりて言ふ『ダビデの子イエスよ、我を憐みたまへ』 39 先だち往く者ども、彼を禁めて黙さしめんと爲たれど、増々さけびて言ふ『ダビデの子よ、我を憐みたまへ』 40 イエス立ち止り、盲人を連れ來るべきことを命じ給ふ。かれ近づきたれば、 41 イエス問ひ給ふ『わが汝に何を爲さんことを望むか』 彼いふ『主よ、見えんことなり』 42 イエス彼に『見ることを得よ、なんぢの信仰なんぢを救へり』と言ひ給へば、 43 立刻に見ることを得、神を崇めてイエスに従ふ。民みな之を見て神を讚美せり。

19 エリコに入りて過ぎゆき給ふとき、 2 視よ、名をザアカイといふ人あり、取税人の長にて富める者なり。 3 イエスの如何なる人なるかを見んと思へど

、丈矮うして群衆のために見ること能はず、**4**前に走りゆき、桑の樹にのぼる。イエスその路を過ぎんとし給ふ故なり。**5** イエス此處に至りしとき、仰ぎ見て言ひたまふ『ザアカイ、急ぎおりよ、今日われ汝の家に宿るべし』**6** ザアカイ急ぎおり、喜びてイエスを迎ふ。**7** 人々みな之を見て眩きて言ふ『かれは罪人の家に入りて客となれり』**8** ザアカイ立ちて主に言ふ『主、視よ、わが所有の半を貧しき者に施さん、若しわれ誣ひ訴へて人より取りたる所あらば、四倍にして償はん』**9** イエス言ひ給ふ『けふ救はこの家に来れり、此の人もアブラハムの子なればなり。**10** それ人の子の來れるは、失せたる者を尋ねて救はん爲なり』**11** 人々これらの事を聽きゐるとき、譬を加へて言ひ給ふ。これはイエス、エルサレムに近づき給ひ、神の國たちどころに現るべしと彼らが思ふ故なり。**12** 乃ち言ひたまふ『或 貴人、王の權を受けて歸らんとて遠き國へ往くとき、**13** 十人の僕をよび、之に金 十ミナを付して言ふ「わが歸るまで商賣せよ」**14** 然るに其の地の民かれを憎み、後より使を遣して「我らは此の人の我らの王となることを欲せず」と言はしむ。**15** 貴人、王の權をうけて歸り來りしとき、銀を付し置きたる僕どもの、如何に商賣せしかを知らんとて彼らと呼ばしむ。**16** 初のもの進み出でて言ふ「主よ、なんぢの一ミナは十ミナを贏けたり」**17** 王いふ「善いかな、良き僕、なんぢは小事に忠なりしゆゑ、十の町を司どるべし」**18** 次の者きたりて言ふ「主よ、なんぢの一ミナは五ミナを贏けたり」**19** 王また言ふ「なんぢも五つの町を司どるべし」**20** また一人きたりて言ふ「主、視よ、

なんぢの一ミナは此處に在り。我これを袱紗に包みて藏め置きたり。 21 これ汝の厳しき人なるを懼れたるに因る。なんぢは置かぬものを取り、播かぬものを刈るなり」 22 王いふ「悪しき僕、われ汝の口によりて汝を審かん。我の厳しき人にて、置かぬものを取り、播かぬものを刈るを知るか。 23 何ぞわが金を銀行に預けざりし、さらば我きたりて元金と利子とを請求せしものを」 24 かくて傍らに立つ者どもに言ふ「かれの一ミナを取りて十ミナを有てる人に付せ」 25 彼等いふ「主よ、かれは既に十ミナを有てり」 26 「われ汝らに告ぐ、凡て有てる人はなほ與へられ、有たぬ人は有てるものをも取らるべし。 27 而して我が王たる事を欲せぬ、かの仇どもを此處に連れきたり、我が前にて殺せ」』 28 イエス此等のことを言ひてのち、先だち進みてエルサレムに上り給ふ。 29 オリブといふ山の麓なるベテパゲ及びベタニヤに近づきし時、イエス二人の弟子を遣さんとして言ひ給ふ、 30 『向の山にゆけ、其處に入らば、一度も人の乗りたる事なき驢馬の子の繋ぎあるを見ん、それを解きて牽ききたれ。 31 誰かもし汝らに「なにゆゑ解くか」と問はば、斯く言ふべし「主の用なり」と』 32 遣されたる者ゆきたれば、果して言ひ給ひし如くなるを見る。 33 かれら驢馬の子をとく時、その持主ども言ふ『なにゆゑ驢馬の子を解くか』 34 答へて言ふ『主の用なり』 35 かくて驢馬の子をイエスの許に牽ききたり、己が衣をその上にかけて、イエスを乗せたり。 36 その往き給ふとき、人々おのが衣を途に敷く。 37 オリブ山の下りあたりまで近づき來り給へば、群れるる弟子たち皆喜びて、その見しとこ

ろの能力ある御業につき、聲高らかに神を讚美して言ひ始む、**38**『讚むべきかな、主の名によりて来る王。天には平和、至高き處には榮光あれ』**39**群衆のうちの或パリサイ人ら、イエスに言ふ『師よ、なんぢの弟子たちを禁めよ』**40**答へて言ひ給ふ『われ汝らに告ぐ、此のともがら黙さば、石叫ぶべし』**41**既に近づきたるとき、都を見やり、之がために泣きて言ひ給ふ、**42**『ああ汝、なんぢも若しこの日の間に、平和にかかはる事を知りたらんには――されど今なんぢの目に隠れたり。』**43**日きたりて敵なんぢの周圍に壘をきづき、汝を取圍みて四方より攻め、**44**汝とその内にある子らとを地に打倒し、一つの石をも石の上に遺さざるべし。なんぢ眷顧の時を知らざりしに因る』**45**かくて宮に入り、商ひする者どもを逐ひ出しはじめ、**46**之に言ひたまふ『「わが家は祈の家たるべし」と録されたるに、汝らは之を強盜の巢となせり』**47**イエス日々宮にて教へたまふ。祭司長・學者ら及び民の重立ちたる者ども、之を殺さんと思ひたれど、**48**民みな耳を傾けてイエスに聴きたれば、爲すべき方を知らざりき。

20或日イエス宮にて民を教へ、福音を宣べ給ふとき、祭司長・學者らは、長老どもと共に近づき來り、**2**イエスに語りて言ふ『なにの權威をもて此等の事をなすか、此の權威を授けし者は誰か、我らに告げよ』**3**答へて言ひ給ふ『われも一言なんぢらに問はん、答へよ。**4**ヨハネのバプテスマは天よりか、人よりか』**5**彼ら互に論じて言ふ『もし「天より」と言はば「なに故かれを信ぜざりし」と言はん。**6**もし「人より」と言はんか、民みなヨハネを預言者

と信ずるによりて、我らを石にて撃たん』 7 遂に何處よりか知らぬ由を答ふ。 8 イエス言ひたまふ『われも何の權威をもて此等の事をなすか、汝らに告げじ』 9 かくて次の譬を民に語りいで給ふ『ある人、葡萄園を造りて農夫どもに貸し、遠く旅立して久しくなりぬ。 10 時至りて、葡萄園の所得を納めしめんとて、一人の僕を農夫の許に遣ししに、農夫ども之を打ちたたき、空手にて歸らしめたり。 11 又ほかの僕を遣ししに、之をも打ちたたき、辱しめ、空手にて歸らしめたり。 12 なほ三度めの者を遣ししに、之をも傷つけて逐ひ出したり。 13 葡萄園の主いふ「われ何を爲さんか。我が愛しむ子を遣さん、或は之を敬ふなるべし」 14 農夫ども之を見て互に論じて言ふ「これは世嗣なり。いざ殺して其の嗣業を我らの物とせん」 15 かくてこれを葡萄園の外に逐ひ出して殺せり。さらば葡萄園の主かれらに何を爲さんか、 16 來りてかの農夫どもを亡し、葡萄園を他の者どもに與ふべし』 人々これを聽きて言ふ『然はあらざれ』 17 イエス彼らに目を注めて言ひ給ふ『されば「造家者らの棄てる石は、これぞ隅の首石となれる」と録されたるは何ぞや。 18 凡そその石の上に倒るる者は碎け、又その石、人の上に倒るれば、その人を微塵にせん』 19 此のとき學者・祭司長ら、イエスに手をかけんと思ひたれど、民を恐れたり。この譬の己どもを指して言ひ給へるを悟りしに因る。 20 かくて彼ら機を窺ひ、イエスを司の支配と權威との下に付さんとて、その言を捉ふるために、義人の様したる間諜どもを遣したれば、 21 其の者どもイエスに問ひて言ふ『師よ、我らは汝の正しく語り、かつ教へ、

外貌を取らず、眞をもて神の道を教へ給ふを知る。

22 われら貢をカイザルに納むるは、善きか、悪しきか』 23 イエスその悪巧を知りて言ひ給ふ、 24 『デナリを我に見せよ。これは誰の像、たれの號なるか』 『カイザルのなり』と答ふ。 25 イエス言ひ給ふ『さらばカイザルの物はカイザルに、神の物は神に納めよ』 26 かれら民の前にて其の言をとらへ得ず、且その答を怪しみて黙したり。 27 また復活なしと言張るサドカイ人の或者ども、イエスに來り問ひて言ふ、 28 『師よ、モーセは、人の兄弟もし妻あり子なくして死なば、其の兄弟かれの妻を娶りて、兄弟のために嗣子を擧ぐべしと、我らに書き遣したり。 29 さて茲に七人の兄弟ありて、兄、妻を娶り、子なくして死に、 30 第二、第三の者も之を娶り、 31 七人みな同じく子を殘さずして死に、 32 後には其の女も死にたり。 33 されば復活の時、この女は誰の妻たるべきか、七人これを妻としたればなり』 34 イエス言ひ給ふ『この世の子らは娶り嫁ぎすれど、(aiōn g165) 35 かの世に入るに、死人の中より甦へるに相應しとせらるる者は、娶り嫁ぎすることなし。(aiōn g165) 36 彼等ははや死ぬること能はざればなり。御使たちに等しく、また復活の子どもにして、神の子供たるなり。 37 死にたる者の甦へる事は、モーセも柴の條に、主を「アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神」と呼びて之を示せり。 38 神は死にたる者の神にあらず、生ける者の神なり。それ神の前には皆生けるなり』 39 學者のうちの或者ども答へて『師よ、善く言ひ給へり』と言ふ。 40 彼等ははや何事をも問ひ得ざりし故なり。 41 イエス彼らに言ひたまふ『如何

なれば人々、キリストをダビデの子と言ふか。 42 ダビデ自ら詩篇に言ふ「主わが主に言ひたまふ、 43 われ汝の敵を汝の足臺となすまでは、わが右に坐せよ」 44 ダビデ斯く彼を主と稱ふれば、争でその子ならんや』 45 民の皆ききを在中にて、イエス弟子たちに言ひ給ふ、 46 『學者らに心せよ。彼らは長き衣を著て歩むことを好み、市場にての敬禮、會堂の上座、饗宴の上席を喜び、 47 また寡婦らの家を呑み、外見をつくりて長き祈をなす。其の受くる審判は更に厳しからん』

21 イエス目を擧げて、富める人々の納物を賽銭函に投げ入るるを見、 2 また或貧しき寡婦のレプタ二つを投げ入るるを見て言ひ給ふ、 3 『われ實をもて汝らに告ぐ、この貧しき寡婦は、凡ての人よりも多く投げ入れたり。 4 彼らは皆その豊なる内より納物の中に投げ入れ、この寡婦はその乏しき中より、己が有てる生命の料をことごとく投げ入れたればなり』 5 或人々、美麗なる石と献物とにて宮の飾られたる事を語りしに、イエス言ひ給ふ、 6 『なんぢらが見る此等の物は、一つの石も崩されずして石の上に残らぬ日きたらん』 7 彼ら問ひて言ふ『師よ、さらば此等のことは何時あるか、又これらの事の成らんとする時は如何なる兆あるか』 8 イエス言ひ給ふ『なんぢら惑されぬように心せよ、多くの者わが名を冒し來り「われは夫なり」と言ひ「時は近づけり」と言はん、彼らに従ふな。 9 戦争と騒亂との事を聞くとき、怖づな。斯かることは先づあるべきなり。然れど終は直ちに來らず』 10 また言ひたまふ『「民は民に、國は國に逆ひて起たん」 11 かつ大なる地震

あり、處々に疫病・饑饉あらん。懼るべき事と天よりの大なる兆とあらん。 12 すべて此等のことに先だちて、人々なんぢらに手をくだし、汝らを責めん、即ち汝らを會堂および獄に付し、わが名のために王たち司たちの前に曳きゆかん。 13 これは汝らに證の機とならん。 14 されば汝ら如何に答へんと預じめ思慮るまじき事を心に定めよ。 15 われ汝らに、凡て逆ふ者の言ひ逆ひ言ひ消すことをなし得ざる、口と智慧とを與ふべければなり。 16 汝らは兩親・兄弟・親族・朋友にさへ付されん。又かれらは汝らの中の或者を殺さん。 17 汝等わが名の故に凡ての人に憎まるべし。 18 然れど汝らの頭の髮一すぢだに失せじ。 19 汝らは忍耐によりて其の靈魂を得べし。 20 汝らエルサレムが軍勢に圍まるるを見ば、其の亡近づけりと知れ。 21 その時ユダヤに居る者どもは山に遁れよ、都の中にをる者どもは出でよ、田舎にをる者どもは都に入るな、 22 これ録されたる凡ての事の遂げらるべき刑罰の日なり。 23 その日には孕りたる者と、乳を哺まする者とは禍害なるかな。地に大なる艱難ありて、御怒この民に臨み、 24 彼らは劍の刃に斃れ、又は捕はれて諸國に曳かれん。而してエルサレムは異邦人の時満つるまで、異邦人に蹂躪らるべし。 25 また日・月・星に兆あらん。地にては國々の民なやみ、海と濤との鳴り轟くによりて狼狽へ、 26 人々おそれ、かつ世界に來らんとする事を思ひて膽を失はん。これ天の萬象ふるひ動けばなり。 27 其のとき人々、人の子の能力と大なる榮光とをもて、雲に乗りきたるを見ん。 28 これらの事起り始めなば、仰ぎて首を擧げよ。汝らの贖罪近づけるなり』

29 また譬を言ひたまふ『無花果の樹また凡ての樹を見よ、30 既に芽ごせば、汝等これを見てみづから夏の近きを知る。31 斯くのごとく此等のことの起るを見ば、神の國の近きを知れ。32 われ誠に汝らに告ぐ、これらの事ことごとく成るまで、今の代は過ぎゆくことなし。33 天地は過ぎゆく、されど我が言は過ぎゆくことなし。34 汝等みづから心せよ、恐らくは飲食にふけり、世の煩勞にまとはれて心鈍り、思ひがけぬ時、かの日 羅のごとく來らん。35 これは徧く地の面に住める凡ての人に臨むべきなり。36 この起るべき凡ての事をのがれ、人の子のまへに立ち得るやう、常に祈りつつ目を覺しをれ』37 イエスは晝は宮にて教へ、夜は出でてオリブといふ山に宿りたまふ。38 民はみな御教を聽かんとて、朝とく宮にゆき、御許に集れり。

22 さて過越といふ除酵祭 近づけり。2 祭司長・學者らイエスを殺さんとし、その手段いかにと求む、民を懼れたればなり。3 時にサタン、十二の一人なるイスカリオテと稱ふるユダに入る。4 ユダ乃ち祭司長・宮守頭どもに往きて、イエスを如何にして付さんと議りたれば、5 彼ら喜びて銀を與へんと約す。6 ユダ諾ひて、群衆の居らぬ時にイエスを付さんと好き機をうかがふ。7 過越の羔羊を屠るべき除酵祭の日 來りたれば、8 イエス、ペテロとヨハネとを遣さんとして言ひたまふ『往きて我らの食せん爲に過越の備をなせ』9 彼ら言ふ『何處に備ふることを望み給ふか』10 イエス言ひたまふ『視よ、都に入らば、水をいれたる瓶を持つ人なんぢらに遇ふべし、之に従ひゆき、その入る所の家にいりて、11 家の主

人に「師なんぢに言ふ、われ弟子らと共に過越の食をなすべき座敷は何處なるか」と言へ。 12 さらば調べたる大なる二階 座敷を見すべし。其處に備へよ』 13 かれら出で往きて、イエスの言ひ給ひし如くなるを見て、過越の設備をなせり。 14 時いたりてイエス席に著きたまひ、使徒たちも共に著く。 15 かくて彼らに言ひ給ふ『われ苦難の前に、なんぢらと共にこの過越の食をなすことを望みに望みたり。 16 われ汝らに告ぐ、神の國にて過越の成就するまでは、我復これを食せざるべし』 17 かくて酒杯を受け、かつ謝して言ひ給ふ『これを取りて互に分ち飲め。 18 われ汝らに告ぐ、神の國の來るまでは、われ今よりのち葡萄の果より成るものを飲まじ』 19 またパンを取り謝してさき、弟子たちに與へて言ひ給ふ『これは汝らの爲に與ふる我が體なり。我が記念として之を行へ』 20 夕餐ののち酒杯をも然して言ひ給ふ『この酒杯は、汝らの爲に流す我が血によりて立つる新しき契約なり。 21 されど視よ、我を賣る者の手、われと共に食卓の上にある、 22 實に人の子は定められたる如く逝くなり。されど之を賣る者は禍害なるかな』 23 弟子たち己らの中にて此の事をなす者は、誰ならんと互に問ひ始む。 24 また彼らの間に、己らの中たれか大ならんとの争論おこりたれば、 25 イエス言ひたまふ『異邦人の王はその民を宰どり、また民を支配する者は恩人と稱へらる。 26 されど汝らは然あらざれ、汝等のうち大なる者は若き者のごとく、頭たる者は事ふる者の如くなれ。 27 食事の席に著く者と事ふる者とは、何れか大なる。食事の席に著く者ならずや、されど我は汝らの中にて事ふる者のごとし

。 28 汝らは我が嘗試のうちに絶えず我とともに居りし者なれば、 29 わが父の我に任じ給へるごとく、我も亦なんぢらに國を任ず。 30 これ汝らの我が國にて我が食卓に飲食し、かつ座位に坐してイスラエルの十二の族を審かん爲なり。 31 シモン、シモン、視よ、サタン汝らを麥のごとく篩はんとて請ひ得たり。 32 されど我なんぢの爲に、その信仰の失せぬやうに祈りたり、なんぢ立ち歸りてのち兄弟たちを堅うせよ』 33 シモン言ふ『主よ、我は汝とともに獄にまでも、死にまでも往かんと覺悟せり』 34 イエス言ひ給ふ『ペテロよ、我なんぢに告ぐ、今日なんぢ三度われを知らずと否むまでは、鷄鳴かざるべし』 35 かくて弟子たちに言ひ給ふ『財布・囊・鞋をも持たせずして汝らを遣ししとき、缺けたる所ありしや』彼ら言ふ『無かりき』 36 イエス言ひ給ふ『されど今は財布ある者は之を取れ、囊ある者も然すべし。また劍なき者は衣を賣りて劍を買へ。 37 われ汝らに告ぐ「かれは愆人と共に數へられたり」と録されたるは、我が身に成し遂げらるべし。凡そ我に係る事は成し遂げらるればなり』 38 弟子たち言ふ『主、見たまへ、茲に劍二振あり』 イエス言ひたまふ『足れり』 39 遂に出でて、常のごとくオリブ山に往き給へば、弟子たちも従ふ。 40 其處に至りて彼らに言ひたまふ『誘惑に入らぬやうに祈れ』 41 かくて自らは石の投げらるる程かれらより隔り、跪づきて祈り言ひたまふ、 42 『父よ、御旨ならば、此の酒杯を我より取り去りたまへ、されど我が意にあらずして御意の成らんことを願ふ』 43 時に天より御使あらはれて、イエスに力を添ふ。 44 イエス悲しみ迫り、いよいよ切に祈

り給へば、汗は地上に落つる血の雫の如し。 45 祈を了へ、起ちて弟子たちの許にきたり、その憂によりて眠れるを見て言ひたまふ、 46 『なんぞ眠るか、起て、誘惑に入らぬやうに祈れ』 47 なほ語り給ふとき、視よ、群衆あらはれ、十二の一人なるユダ先だち來り、イエスに接吻せんとて近寄りたれば、 48 イエス言ひ給ふ『ユダ、なんぢは接吻をもて人の子を賣るか』 49 御側に居る者ども事の及ぼんとするを見て言ふ『主よ、われら劍をもて撃つべきか』 50 その中の一人、大祭司の僕を撃ちて、右の耳を切り落せり。 51 イエス答へて言ひたまふ『之にてゆるせ』而して僕の耳に手をつけて醫し給ふ。 52 かくて己に向ひて來れる祭司長・宮守頭・長老らに言ひ給ふ『なんぢら強盜に向ふごとく、劍と棒とを持ちて出できたるか。 53 我は日々なんぢらと共に宮に居りしに、我が上に手を伸べざりき。されど今は汝らの時、また暗黒の權威なり』 54 遂に人々イエスを捕へて、大祭司の家に曳きゆく。ペテロ遠く離れて從ふ。 55 人々、中庭のうちに火を焚きて、諸共に坐したれば、ペテロもその中に坐す。 56 或婢女ペテロの火の光を受けて坐し居るを見、これに目を注ぎて言ふ『この人も彼と偕にゐたり』 57 ペテロ肯はずして言ふ『をんなよ、我は彼を知らず』 58 暫くして他の者ペテロを見て言ふ『なんぢも彼の黨與なり』 ペテロ言ふ『人よ、然らず』 59 一時ばかりして又ほかの男、言張りて言ふ『まさしく此の人も彼とともに在りき、是ガリラヤ人なり』 60 ペテロ言ふ『人よ、我なんぢの言ふことを知らず』 なほ言ひ終へぬに、やがて鶏鳴きぬ。 61 主、振反りてペテロに目をとめ給ふ。こ

こにペテロ、主の『今日にはとり鳴く前に、なんぢ三度われを否まん』と言ひ給ひし御言を憶ひいだし、**62**外に出でて甚く泣けり。**63**守る者どもイエスを嘲弄し、之を打ち、**64**その目を蔽ひ問ひて言ふ『預言せよ、汝を撃ちし者は誰なるか』**65**この他なほ多くのことを言ひて譏れり。**66**夜明になりて、民の長老・祭司長・學者ら相集り、イエスをその議會に曳き出して言ふ、**67**『なんぢ若しキリストならば、我らに言へ』イエス言ひ給ふ『われ言ふとも汝ら信ぜじ、**68**又われ問ふとも汝ら答へじ。**69**されど人の子は今よりのち神の能力の右に坐せん』**70**皆いふ『されば汝は神の子なるか』答へ給ふ『なんぢらの言ふごとく我はそれなり』**71**彼ら言ふ『何ぞなほ他に證據を求めんや。我ら自らその口より聞けり』

23民衆みな起ちて、イエスをピラトの前に曳きゆき、**2**訴へ出でて言ふ『われら此の人が、わが國の民を惑し、貢をカイザルに納むるを禁じ、かつ自ら王なるキリストと稱ふるを認めたり』**3**ピラト、イエスに問ひて言ふ『なんぢはユダヤ人の王なるか』答へて言ひ給ふ『なんぢの言ふが如し』**4**ピラト祭司長らと群衆とに言ふ『われ此の人に愆あるを見ず』**5**彼等ますます言ひ募り『かれはユダヤ全國に教をなして民を騒がし、ガリラヤより始めて、此處に至る』と言ふ。**6**ピラト之を聞き、そのガリラヤ人なるかを問ひて、**7**ヘロデの權下の者なるを知り、ヘロデ此の頃エルサレムに居たれば、イエスをその許に送れり。**8**ヘロデ、イエスを見て甚く喜ぶ。これは彼に就きて聞く所ありたれば、久しく逢はんことを欲し、何をか徴を行ふを見んと望み居たる故な

り。 9 かくて多くの言をもて問ひたれど、イエス何をも答へ給はず。 10 祭司長・學者ら起ちて激甚くイエスを訴ふ。 11 ヘロデその兵卒と共にイエスを侮り、かつ嘲弄し、華美なる衣を著せて、ピラトに返す。 12 ヘロデとピラトと前には仇たりしが、此の日たがひに親しくなれり。 13 ピラト、祭司長らと司らと民とを呼び集めて言ふ、 14 『汝らこの人を民を惑す者として曳き來れり。視よ、われ汝らの前にて訊したれど、其の訴ふる所に就きて、この人に愆あるを見ず。 15 ヘロデも亦然り、彼を我らに返したり。視よ、彼は死に當るべき業を爲さざりき。 16 されば懲しめて之を赦さん』 17 [なし] 18 民衆ともに叫びて言ふ『この人を除け、我らにバラバを赦せ』 19 此のバラバは、都に起りし一揆と殺人との故によりて、獄に入れられたる者なり。 20 ピラトはイエスを赦さんと欲して、再び彼らに告げたれど、 21 彼ら叫びて『十字架につけよ、十字架につけよ』と言ふ。 22 ピラト三度まで『彼は何の惡事を爲ししか、我その死に當るべき業を見ず、故に懲しめて赦さん』と言ふ。 23 されど人々、大聲をあげ迫りて、十字架につけんことを求めたれば、遂にその聲勝てり。 24 ここにピラトその求の如くすべしと言渡し、 25 その求むるままに、かの一揆と殺人との故によりて獄に入れられたる者を赦し、イエスを付して彼らの心の隨ならしめたり。 26 人々イエスを曳きゆく時、シモンといふクレネ人の田舎より來るを執へ、十字架を負はせてイエスの後に従はしむ。 27 民の大なる群と、歎き悲しめる女たちの群と之に従ふ。 28 イエス振反りて女たちに言ひ給ふ『エルサレムの娘よ、わが爲

に泣くな、ただ己がため、己が子のために泣け。 29
視よ「石婦、兒 産まぬ腹、哺ませぬ乳は幸福なり」
と言ふ日きたらん。 30 その時ひとびと「山に向ひて
我らの上に倒れよ、岡に向ひて我らを掩へ」と言ひ
出でん。 31 もし青樹に斯く爲さば、枯樹は如何に
せられん』 32 また他に二人の悪人をも、死罪に行は
んとてイエスと共に曳きゆく。 33 髑髏といふ處に到
りて、イエスを十字架につけ、また悪人の一人をそ
の右、一人をその左に十字架につく。 34 かくてイエ
ス言ひたまふ『父よ、彼らを赦し給へ、その爲す所
を知らざればなり』彼らイエスの衣を分ちて鬪取に
せり、 35 民は立ちて見ふたり。司たちも嘲りて言ふ
『かれは他人を救へり、もし神の選ひ給ひしキリス
トならば、己をも救へかし』 36 兵卒どもも嘲弄しつ
つ、近よりて酸き葡萄酒をさし出して言ふ、 37 『な
んぢ若しユダヤ人の王ならば、己を救へ』 38 又イエ
スの上には『これはユダヤ人の王なり』との罪標あ
り。 39 十字架に懸けられたる悪人の一人、イエスを
譏りて言ふ『なんぢはキリストならずや、己と我ら
とを救へ』 40 他の者これに答へ禁めて言ふ『なんぢ
同じく罪に定められながら、神を畏れぬか。 41 我ら
は爲しし事の報を受くるなれば當然なり。されど此
の人は何の不善をも爲さざりき』 42 また言ふ『イ
エスよ、御國に入り給ふとき、我を憶えたまえ』 43
イエス言ひ給ふ『われ誠に汝に告ぐ、今日なんぢは
我と偕にパラダイスに在るべし』 44 晝の十二時ご
ろ、日、光をうしなひ、地のうへ徧く暗くなりて、
三時に及び、 45 聖所の幕、眞中より裂けたり。 46
イエス大聲に呼はりて言ひたまふ『父よ、わが靈を

御手にゆだね』斯く言ひて息絶えたまふ。 47 百卒長この有りし事を見て、神を崇めて言ふ『實にこの人は義人なりき』 48 これを見んとて集りたる群衆も、ありし事どもを見て、みな胸を打ちつつ歸れり。 49 凡てイエスの相識の者およびガリラヤより従ひ來れる女たちも、遙に立ちて此等のことを見たり。 50 議員にして善かつ義なるヨセフといふ人あり。 51 ——この人はかの評議と仕業とに與せざりき——ユダヤの町なるアリマタヤの者にて、神の國を待ちのぞめり。 52 此の人ピラトの許にゆき、イエスの屍體を乞ひ、 53 これを取りおろし、亞麻布にて包み、巖に鑿りたる未だ人を葬りし事なき墓に納めたり。 54 この日は準備日なり、かつ安息日近づきぬ。 55 ガリラヤよりイエスと共に來りし女たち後に従ひ、その墓と屍體の納められたる様とを見、 56 歸りて香料と香油とを備ふ。かくて誠命に遵ひて、安息日を休みたり。

24 一週の初の日、朝まだき、女たち備へたる香料を携へて墓にゆく。 2 然るに石の既に墓より轉し除けあるを見、 3 内に入りたるに、主イエスの屍體を見ず、 4 これが爲に狼狽へをりしに、視よ、輝ける衣を著たる二人の人その傍らに立てり。 5 女たち懼れて面を地に伏せたれば、その二人の者いふ『なんぞ死にし者どもの中に生ける者を尋ぬるか。 6 彼は此處に在さず、甦へり給へり。尚ガリラヤに居給へるとき、如何に語り給ひしかを憶ひ出でよ。 7 即ち「人の子は必ず罪ある人の手に付され、十字架につけられ、かつ三日めに甦へるべし」と言ひ給へり』 8 ここに彼らその御言を憶ひ出で、 9 墓より歸りて、

凡て此等のことを十一弟子および凡て他の弟子たちに告ぐ。10 この女たちはマグダラのマリヤ、ヨハanna及びヤコブの母マリヤなり、而して彼らと共に在りし他の女たちも、之を使徒たちに告げたり。11 使徒たちは其の言を妄語と思ひて信ぜず。12 [ペテロは起ちて墓に走りゆき、屈みて布のみあるを見、ありし事を怪しみつつ歸れり] 13 視よ、この日二人の弟子、エルサレムより三里ばかり隔りたるエマオといふ村に往きつつ、14 凡て有りし事どもを互に語りあふ。15 語りかつ論じあふ程に、イエス自ら近づきて共に往き給ふ。16 されど彼らの目遮へられて、イエスたるを認むること能はず。17 イエス彼らに言ひ給ふ『なんぢら歩みつつ互に語りあふ言は何ぞや』かれら悲しげなる状にて立ち止り、18 その一人なるクレオパと名づくるもの答へて言ふ『なんぢエルサレムに寓り居て、獨り此の頃かしこに起りし事どもを知らぬか』19 イエス言ひ給ふ『如何なる事ぞ』答へて言ふ『ナザレのイエスの事なり、彼は神と凡ての民との前にて、業にも言にも能力ある預言者なりしに、20 祭司長ら及び我が司らは、死罪に定めんとて之を付し遂に十字架につけたり。21 我らはイスラエルを贖ふべき者は、この人なりと望みゐたり、然のみならず、此の事の有りしより今日ははや三日めなるが、22 なほ我等のうちの或女たち、我らを驚かせり、即ち彼ら朝夙く墓に往きたるに、23 屍體を見ずして歸り、かつ御使たち現れて、イエスは活き給ふと告げたりと言ふ。24 我らの朋輩の數人もまた墓に往きて見れば、正しく女たちの言ひし如くにしてイエスを見ざりき』25 イエス言ひ給ふ『あ

あ愚にして預言者たちの語りたる凡てのことを信ずるに心鈍き者よ。 26 キリストは必ず此らの苦難を受けて、其の榮光に入るべきならずや』 27 かくてモーセ及び凡ての預言者をはじめ、己に就きて凡ての聖書に録したる所を説き示したまふ。 28 遂に往く所の村に近づきしに、イエスなほ進みゆく様なれば、 29 強ひて止めて言ふ『我らと共に留れ、時夕に及びて、日も早や暮れんとす』乃ち留らんとて入りたまふ。 30 共に食事の席に著きたまふ時、パンを取りて祝し、擘きて與へ給へば、 31 彼らの目開けてイエスなるを認む、而してイエス見えずなり給ふ。 32 かれら互に言ふ『途にて我らと語り、我らに聖書を説明し給へるとき、我らの心、内に燃えしならずや』 33 かくて直ちに立ちエルサレムに歸りて見れば、十一弟子および之と偕なる者あつまり居て言ふ、 34 『主は實に甦へりて、シモンに現れ給へり』 35 二人の者もまた途にて有りし事と、パンを擘き給ふによりてイエスを認めし事とを述ぶ。 36 此等のことを語る程に、イエスその中に立ち [『平安なんぢらに在れ』と言ひ] 給ふ。 37 かれら怖ぢ懼れて、見る所のものを靈ならんと思ひしに、 38 イエス言ひ給ふ『なんぢら何ぞ心騒ぐか、何ゆゑ心に疑惑おこるか、 39 我が手わが足を見よ、これ我なり。我を撫でて見よ、靈には肉と骨となし、我にはあり、汝らの見るごとし』 40 [斯く言ひて手と足とを示し給ふ] 41 かれら歡喜の餘に信ぜずして怪しめる時、イエス言ひたまふ『此處に何か食物あるか』 42 かれら炙りたる魚一片を捧げたれば、 43 之を取り、その前にて食し給へり。 44 また言ひ給ふ『これらの事は、我が

なほ汝らと偕に在りし時に語りて、我に就きモーセの律法・預言者および詩篇に録されたる凡ての事は、必ず遂げらるべしと言ひし所なり』 45 ここに聖書を悟らしめんとて、彼らの心を開きて言ひ給ふ、 46 『かく録されたり、キリストは苦難を受けて、三日めに死人の中より甦へり、 47 且その名によりて罪の赦を得さする悔改は、エルサレムより始りて、もろもろの國人に宣傳へらるべしと。 48 汝らは此等のことの證人なり。 49 視よ、我は父の約し給へるものを汝らに贈る。汝ら上より能力を著せらるるまでは都に留れ』 50 遂にイエス彼らをベタニヤに連れゆき、手を擧げて之を祝したまふ。 51 祝する間に、彼らを離れ [天に擧げられ] 給ふ。 52 彼ら [之を拜し] 大なる歡喜をもてエルサレムに歸り、 53 常に宮に在りて、神を讃めりたり。

ヨハネの福音書

1 太初に言あり、言は神と偕にあり、言は神なりき。
2 この言は太初に神とともに在り、**3** 萬の物これに由りて成り、成りたる物に一つとして之によらで成りたるはなし。**4** 之に生命あり、この生命は人の光なりき。**5** 光は暗黒に照る、而して暗黒は之を悟らざりき。**6** 神より遣されたる人いでたり、その名をヨハネといふ。**7** この人は證のために來れり、光に就きて證をなし、また凡ての人の彼によりて信ぜん爲なり。**8** 彼は光にあらず、光に就きて證せん爲に來れるなり。**9** もろもろの人をてらす眞の光ありて、世にきたれり。**10** 彼は世にあり、世は彼に由りて成りたるに、世は彼を知らざりき。**11** かれは己の國にきたりしに、己の民は之を受けざりき。**12** されど之を受けし者、即ちその名を信ぜし者には、神の子となる權をあたへ給へり。**13** かかる人は血脈によらず、肉の欲によらず、人の欲によらず、ただ、神によりて生れしなり。**14** 言は肉體となりて我らの中に宿りたまへり、我らその榮光を見たり、實に父の獨子の榮光にして、恩恵と眞理とにて満てり。**15** ヨハネ彼につきて證をなし、呼はりて言ふ『「わが後にきたる者は我に勝れり、我より前にありし故なり」と、我が曾ていへるは此の人なり』**16** 我らは皆その充ち満ちたる中より受けて、恩恵に恩恵を加へらる。**17** 律法はモーセによりて與へられ、恩恵と眞理とはイエス・キリストによりて來れるなり。**18** 未だ神を見し者なし、ただ父の懷裡にいます獨子の神のみ之を顯し給へり。**19** さてユダヤ人、エルサレムより祭司とレビ人とをヨハネの許に遣して『なんぢは

誰なるか』と問はせし時、ヨハネの證はかくのごとし。20 乃ち言ひあらはして諱まず『我はキリストにあらず』と言ひあらはせり。21 また問ふ『さらば何、エリヤなるか』答ふ『然らず』問ふ『かの預言者なるか』答ふ『いな』22 ここに彼ら言ふ『なんぢは誰なるか、我らを遣しし人々に答へ得るやうにせよ、なんぢ己につきて何と言ふか』23 答へて言ふ『我は預言者イザヤの云へるが如く「主の道を直くせよと、荒野に呼はる者の聲」なり』24 かの遣されたる者はパリサイ人なりき。25 また問ひて言ふ『なんぢ若しキリストに非ず、またエリヤにも、かの預言者にも非ずば、何故バプテスマを施すか』26 ヨハネ答へて言ふ『我は水にてバプテスマを施す。なんじらの中に汝らの知らぬもの一人たてり。27 即ち我が後にきたる者なり、我はその鞋の紐を解くにも足らず』28 これらの事は、ヨハネのバプテスマを施しめたりしヨルダンの向なるベタニヤにてありしなり。29 明るる日ヨハネ、イエスの己が許にきたり給ふを見ていふ『視よ、これぞ世の罪を除く神の羔羊。30 われ曾て「わが後に來る人あり、我にまされり、我より前にありし故なり」と云ひしは此の人なり。31 我もと彼を知らざりき。然れど彼のイスラエルに顯れんために、我きたりて水にてバプテスマを施すなり』32 ヨハネまた證をなして言ふ『われ見しに、御靈 鳩のごとく天より降りて、その上に止れり。33 我もと彼を知らざりき。されど我を遣し水にてバプテスマを施させ給ふもの、我に告げて「なんぢ御靈 くだりて或人の上に止るを見ん、これぞ聖靈にてバプテスマを施す者なる」といひ給へり。34 われ之を

見て、その神の子たるを證せしなり』 35 明くる日ヨハネまた二人の弟子とともに立ちて、 36 イエスの歩み給ふを見ていふ『視よ、これぞ神の羔羊』 37 かく語るをききて、二人の弟子イエスに従ひゆきたれば、 38 イエス振反りて、その従ひきたるを見て言ひたまふ『何を求むるか』彼等いふ『ラビ（釋きていへば師）いつこに留り給ふか』 39 イエス言ひ給ふ『きたれ、さらば見ん』彼ら往きてその留りたまふ所を見、この日ともに留れり、時は第十時ごろなりき。 40 ヨハネより聞きてイエスに従ひし二人のうち一人は、シモン・ペテロの兄弟アンデレなり。 41 この人まづ其の兄弟シモンに遇ひ『われらメシヤ（釋けばキリスト）に遇へり』と言ひて、 42 彼をイエスの許に連れきたれり。イエス之に目を注めて言ひ給ふ『なんぢはヨハネの子シモンなり、汝ケパ（釋けばペテロ）と稱へらるべし』 43 明くる日イエス、ガリラヤに往かんとし、ピリポにあひて言ひ給ふ『われに従へ』 44 ピリポはアンデレとペテロとの町なるベツサイダの人なり。 45 ピリポ、ナタナエルに遇ひて言ふ『我らはモーセが律法に録ししところ、預言者たちが録しし所の者に遇へり、ヨセフの子ナザレのイエスなり』 46 ナタナエル言ふ『ナザレより何の善き者か出づべき』ピリポいふ『來りて見よ』 47 イエス、ナタナエルの己が許にきたるを見、これを指して言ひたまふ『視よ、これ眞にイスラエル人なり、その衷に虚偽なし』 48 ナタナエル言ふ『如何にして我を知り給ふか』イエス答えて言ひたまふ『ピリポの汝を呼ぶまへに、我なんぢが無花果の樹の下に居るを見たり』 49 ナタナエル答ふ『ラビ、なんぢは神の

子なり、汝はイスラエルの王なり』 50 イエス答へて言ひ給ふ『われ汝が無花果の樹の下にをるを見たりと言ひしに困りて信ずるか、汝これよりも更に大なる事を見ん』 51 また言ひ給ふ『まことに汝らに告ぐ、天ひらけて、人の子のうへに神の使たちの昇り降りするを汝ら見るべし』

2 三日めにガリラヤのカナに婚禮ありて、イエスの母そこに居り、 2 イエスも弟子たちと共に婚禮に招かれ給ふ。 3 葡萄酒つきたれば、母イエスに言ふ『かれらに葡萄酒なし』 4 イエス言ひ給ふ『をんなよ、我と汝となにの關係あらんや、我が時は未だ來らず』 5 母 僕どもに『何にても其の命ずる如くせよ』と言ひおく。 6 彼處にユダヤ人の潔の例にしたがひて、四五斗入りの石甕 六個ならべあり。 7 イエス僕に『水を甕に満せ』といひ給へば、口まで満す。 8 また言ひ給ふ『いま汲み取りて饗宴 長に持ちゆけ』乃ち持ちゆけり。 9 饗宴 長、葡萄酒になりたる水を嘗めて、その何處より來りしかを知らざれば（水を汲みし僕どもは知れり）新郎を呼びて言ふ、 10 『おほよそ人は先よき葡萄酒を出し、酔のまはる頃ほひ劣れるものを出すに、汝はよき葡萄酒を今まで留め置きたり』 11 イエス此の第一の徴をガリラヤのカナにて行ひ、その榮光を顯し給ひたれば、弟子たち彼を信じたり。 12 この後イエス及びその母・兄弟・弟子たちカペナウムに下りて、そこに數日 留りたり。 13 かくてユダヤ人の過越の祭ちかづきたれば、イエス、エルサレムに上り給ふ。 14 宮の内に牛・羊・鳩を賣るもの、兩替する者の坐するを見て、 15 繩を鞭につくり、羊をも牛をもみな宮より逐ひ出し、兩

替する者の金を散し、その臺を倒し、**16** 鳩をうる者に言ひ給ふ『これらの物を此處より取り去れ、わが父の家を商賣の家とすな』**17** 弟子たち『なんじの家をおもふ熱心われを食はん』と録されたるを憶ひ出せり。**18** ここにユダヤ人こたへてイエスに言ふ『なんぢ此等の事をなすからには、我らに何の徴を示すか』**19** 答へて言ひ給ふ『なんぢら此の宮をこぼて、われ三日の間に之を起さん』**20** ユダヤ人いふ『この宮を建つるには四十六年を経たり、なんぢは三日のうちに之を起すか』**21** これはイエス己が體の宮をさして言ひ給へるなり。**22** 然れば死人の中より甦へり給ひしのち、弟子たち斯く言ひ給ひしことを憶ひ出して、聖書とイエスの言ひ給ひし言とを信じたり。**23** 過越のまつりの間、イエス、エルサレムに在すほどに、多くの人々その爲し給へる徴を見て御名を信じたり。**24** されどイエス己を彼らに任せ給はざりき。それは凡ての人を知り、**25** また人の衷にある事を知りたまへば、人に就きて證する者を要せざる故なり。

3 ここにパリサイ人にて名をニコデモといふ人あり、ユダヤ人の宰なり。**2** 夜イエスの許に來りて言ふ『ラビ、我らは汝の神より來る師なるを知る。神もし偕に在さずば、汝が行ふこれらの徴は誰もなし能はぬなり』**3** イエス答へて言ひ給ふ『まことに誠に汝に告ぐ、人あらたに生れずば、神の國を見ること能はず』**4** ニコデモ言ふ『人はや老いぬれば、争で生るる事を得んや、再び母の胎に入りて生るることを得んや』**5** イエス答へ給ふ『まことに誠に汝に告ぐ、人は水と靈とによりて生れずば、神の國に入る

こと能はず、**6** 肉によりて生るる者は肉なり、靈によりて生るる者は靈なり。**7** なんぢら新に生るべしと我が汝に言ひしを怪しむな。**8** 風は己が好むところに吹く、汝その聲を聞けども、何處より來り何處へ往くを知らず。すべて靈によりて生るる者も斯くのごとし』**9** ニコデモ答へて言ふ『いかで斯かる事どものあり得べき』**10** イエス答へて言ひ給ふ『なんぢはイスラエルの師にして、猶かかる事どもを知らぬか。**11** 誠にまことに汝に告ぐ、我ら知ることを語り、また見しことを證す、然るに汝らその證を受けず。**12** われ地のことを言ふに汝ら信ぜずば、天のことを言はんには争で信ぜんや。**13** 天より降りし者、即ち人の子の他には、天に昇りしものなし。**14** モーセ荒野にて蛇を擧げしごとく、人の子もまた必ず擧げらるべし。**15** すべて信ずる者の彼によりて永遠の生命を得ん爲なり』 (aiōnios g166) **16** それ神はその獨子を賜ふほどに世を愛し給へり、すべて彼を信ずる者の亡びずして、永遠の生命を得んためなり。(aiōnios g166) **17** 神その子を世に遣したまへるは、世を審かん爲にあらず、彼によりて世の救はれん爲なり。**18** 彼を信ずる者は審かれず、信ぜぬ者は既に審かれたり。神の獨子の名を信ぜざりしが故なり。**19** その審判は是なり。光、世にきたりしに、人その行爲の悪しきによりて、光よりも暗黒を愛したり。**20** すべて惡を行ふ者は光をにくみて光に來らず、その行爲の責められざらん爲なり。**21** 眞をおこなふ者は光にきたる、その行爲の神によりて行ひたることの顯れん爲なり。**22** この後イエス、弟子たちとユダヤの地にゆき、其處にともに留りてバプテスマを施し給ふ。**23**

ヨハネもサリムに近きアイノンにてバプテスマを施しむたり、其處に水おほくある故なり。人々つどひ來りてバプテスマを受く。 24 ヨハネは未だ獄に入れられざりしなり。 25 ここにヨハネの弟子たちと一人のユダヤ人との間に、潔につきて論起りたれば、 26 彼らヨハネの許に來りて言ふ『ラビ、視よ、汝とともにヨルダンの彼方にありし者、なんぢが證せし者、バプテスマを施し、人みなその許に往くなり』 27 ヨハネ答へて言ふ『人は天より與へられずば、何をも受くること能はず。 28 「我はキリストにあらず」唯「その前に遣されたる者なり」と我が言ひしことに就きて證する者は汝らなり。 29 新婦をもつ者は新郎なり、新郎の友は、立ちて新郎の聲をきくとき大に喜ぶ、この我が勸喜いま満ちたり。 30 彼は必ず盛になり、我は衰ふべし』 31 上より來るものは凡ての物の上であり、地より出づるものは地の者にして、その語ることも地の事なり。天より來るものは凡ての物の上であり。 32 彼その見しところ聞きしところを證したまふに、誰もその證を受けず。 33 その證を受くる者は、印して神を眞なりとす。 34 神の遣し給ひし者は神の言をかたる、神、御靈を賜ひて量りなければなり。 35 父は御子を愛し、萬物をその手に委ね給へり。 36 御子を信ざる者は永遠の生命をもち、御子に従はぬ者は生命を見ず、反つて神の怒その上に止るなり。(aiōnios g166)

4 主、おのれの弟子を造り、之にバプテスマを施すこと、ヨハネよりも多しと、パリサイ人に聞えたるを知り給ひし時、 **2** (その實イエス自らバプテスマを施ししにあらず、その弟子たちなり) **3** ユダヤを

去りて復ガリラヤに往き給ふ。 4 サマリヤを経ざるを得ず。 5 サマリヤのスカルといふ町にいたり給へるが、この町はヤコブその子ヨセフに與へし土地に近くして、 6 此處にヤコブの泉あり。イエス旅路に疲れて泉の傍らに坐し給ふ、時は第六時頃なりき。 7 サマリヤの或女、水を汲まんとて來りたれば、イエス之に『われに飲ませよ』と言ひたまふ。 8 弟子たちは食物を買はんとて町にゆきしなり。 9 サマリヤの女いふ『なんぢはユダヤ人なるに、如何なればサマリヤの女なる我に、飲むことを求むるか』これはユダヤ人とサマリヤ人とは交りせぬ故なり。 10 イエス答へて言ひ給ふ『なんぢ若し神の賜物を知り、また「我に飲ませよ」といふ者の誰なるを知りたらんには、之に求めしならん、さらば汝に活ける水を與へしものを』 11 女いふ『主よ、なんぢは汲む物を持たず、井は深し、その活ける水は何處より得しぞ。 12 汝はこの井を我らに與へし我らの父ヤコブよりも大なるか、彼も、その子らも、その家畜も、これより飲みたり』 13 イエス答へて言ひ給ふ『すべて此の水をのむ者は、また渴かん。 14 されど我があたふる水を飲む者は、永遠に渴くことなし。わが與ふる水は彼の中にて泉となり、永遠の生命の水湧きいづべし』 (aiōn g165, aiōnios g166) 15 女いふ『主よ、わが渴くことなく、又ここに汲みに來ぬために、その水を我にあたへよ』 16 イエス言ひ給ふ『ゆきて夫をここに呼びきたれ』 17 女こたへて言ふ『われに夫なし』イエス言ひ給ふ『夫なしといふは宜なり。 18 夫は五人までありしが、今ある者はなんぢの夫にあらず。無しと云へるは眞なり』 19 女いふ『主よ、我なんぢ

を預言者とみとむ。 20 我らの先祖たちは此の山にて拜したるに、汝らは拜すべき處をエルサレムなりと言ふ』 21 イエス言ひ給ふ『をんなよ、我が言ふことを信ぜよ、此の山にもエルサレムにもあらで、汝ら父を拜する時きたるなり。 22 汝らは知らぬ者を拜し、我らは知る者を拜す、救はユダヤ人より出づればなり。 23 されど眞の禮拜者の、靈と眞とをもて父を拜する時きたらん、今すでに來れり。父はかくのごとく拜する者を求めたまふ。 24 神は靈なれば、拜する者も靈と眞とをもて拜すべきなり』 25 女いふ『我はキリストと稱ふるメシヤの來ることを知る、彼きたらば諸般のことを我らに告げん』 26 イエス言ひ給ふ『なんぢと語る我はそれなり』 27 時に弟子たち歸りきたりて、女と語り給ふを怪しみたれど、何を求め給ふか、何 故かれと語り給ふかと問ふもの誰もなし。 28 ここに女その水瓶を遺しおき、町にゆきて人々にいふ、 29 『來りて見よ、わが爲しし事をことごとく我に告げし人を。この人あるいはキリストならんか』 30 人々 町を出でてイエスの許にゆく。 31 この間に弟子たち請ひて言ふ『ラビ、食し給へ』 32 イエス言ひたまふ『我には汝らの知らぬ我が食する食物あり』 33 弟子たち互にいふ『たれか食する物を持ち來りしか』 34 イエス言ひ給ふ『われを遣し給へる物の御意を行ひ、その御業をなし遂ぐるは、是わが食物なり。 35 なんぢら收穫時の來るには、なほ四月ありと言はずや。我なんぢらに告ぐ、目をあげて畑を見よ、はや黄ばみて收穫時になれり。 36 刈る者は價を受けて永遠の生命の實を集む。播く者と刈る者とともに喜ばん爲なり。(aiōnios g166) 37 俚諺に、彼は

播き此は刈るといへるは、斯において眞なり。 38 我なんぢらを遣して、勞せざりしものを刈らしむ。他の人々さきに勞し、汝はその勞を收むるなり』 39 此の町の多くのサマリヤ人、女の『わが爲しし事をことごとく告げし』と證したる言によりてイエスを信じたり。 40 かくてサマリヤ人御許にきたりて、此の町に留らんことを請ひたれば、此處に二日とどまり給ふ。 41 御言によりて猶もおほくの人信じたり。 42 かくて女に言ふ『今われらの信ずるは、汝のかたる言によるにあらず、親しく聽きて、これは眞に世の救主なりと知りたる故なり』 43 二日の後、イエスここを去りてガリラヤに往き給ふ。 44 イエス自ら證して、預言者は己が郷にて尊ばるる事なしと言ひ給へり。 45 かくてガリラヤに往き給へば、ガリラヤ人これを迎へたり。前に彼らも祭に上り、その祭の時にエルサレムにて行ひ給ひし事を見たる故なり。 46 イエス復ガリラヤのカナに往き給ふ、ここは前に水を葡萄酒になし給ひし處なり。時に王の近臣あり、その子カペナウムにて病みゐたれば、 47 イエスのユダヤよりガリラヤに來り給へるを聞き、御許にゆきて、カペナウムに下りその子を醫し給はんことを請ふ、子は死ぬばかりなりしなり。 48 ここにイエス言ひ給ふ『なんぢら徴と不思議とを見ずば、信ぜじ』 49 近臣いふ『主よ、わが子の死なぬ間に下り給へ』 50 イエス言ひ給ふ『かへれ、汝の子は生くるなり』彼はイエスの言ひ給ひしことを信じて歸りしが、 51 下る途中、僕ども往き遇ひて、その子の生きたることを告ぐ。 52 その癒えはじめし時を問ひしに『昨日の第七時に熱去れり』といふ。 53 父その時の

、イエスが『なんぢの子は生くるなり』と言ひ給ひし時と同じきを知り、而して己も家の者もみな信じたり。54 是はイエス、ユダヤよりガリラヤに往きて爲し給へる第二の徴なり。

5 この後ユダヤ人の祭ありて、イエス、エルサレムに上り給ふ。2 エルサレムにある羊門のほとりに、ヘブル語にてベテスダといふ池あり、之にそひて五つの廊あり。3 その内に病める者、盲人、跛者、痩せ衰へたる者ども夥多しく臥しゐたり。(水の動くを待てるなり。4 それは御使のをりをり降りて水を動かすことあれば、その動きたるのち最先に池にいる者は、如何なる病にても癒ゆる故なり) 5 爰に三十八年病になやむ人ありしが、6 イエスその臥し居るを見、かつその病の久しきを知り、之に『なんぢ癒えんことを願ふか』と言ひ給へば、7 病める者こたふ『主よ、水の動くとき、我を池に入る者なし、我が往くほどに、他の人さきだち下るなり』 8 イエス言ひ給ふ『起きよ、床を取りあげて歩め』 9 この人ただちに癒え、床を取りあげて歩めり。その日は安息日に當りたれば、10 ユダヤ人 醫されたる人にいふ『安息日なり、床を取りあぐるは宜しからず』 11 答ふ『われを醫ししその人「床を取りあげて歩め」と云へり』 12 かれら問ふ『「取りあげて歩め」と言ひし人は誰なるか』 13 されど醫されし者は、その誰なるを知らざりき、そこに群衆ゐたればイエス退き給ひしに因る。14 この後イエス宮にて彼に遇ひて言ひたまふ『視よ、なんぢ癒えたり。再び罪を犯すな、恐らくは更に大なる悪しきこと汝に起らん』 15 この人ゆきてユダヤ人に、おのれを醫したる者

のイエスなるを告ぐ。 16 ここにユダヤ人、かかる事を安息日になすとて、イエスを責めたれば、 17 イエス答へ給ふ『わが父は今にいたるまで働き給ふ、我もまた働くなり』 18 此に由りてユダヤ人いよいよイエスを殺さんと思ふ。それは安息日を破るのみならず、神を我が父といひて、己を神と等しき者になし給ひし故なり。 19 イエス答へて言ひ給ふ『まことに誠に汝らに告ぐ、子は父のなし給ふことを見て行ふほかは、自ら何事をも爲し得ず、父のなし給ふことは子もまた同じく爲すなり。 20 父は子を愛して、その爲す所をことごとく子に示したまふ。また更に大なる業を示し給はん、汝等をして怪しましめん爲なり。 21 父の死にし者を起して活し給ふごとく、子もまた己が欲する者を活すなり。 22 父は誰をも審き給はず、審判をさへみな子に委ね給へり。 23 これ凡ての人の父を敬ふごとくに子を敬はん爲なり。子を敬はぬ者は、之を遣し給ひし父をも敬はぬなり。 24 誠にまことに汝らに告ぐ、わが言をききて我を遣し給ひし者を信ずる人は、永遠の生命をもち、かつ審判に至らず、死より生命に移れるなり。(aiōnios g166) 25 誠にまことに汝らに告ぐ、死にし人、神の子の聲をきく時きたらん、今すでに來れり、而して聞く人は活くべし。 26 これ父みづから生命を有ち給ふごとく、子にも自ら生命を有つことを得させ、 27 また人の子たるに困りて、審判する權を與へ給ひしなり。 28 汝ら之を怪しむな、墓にある者みな神の子の聲をききて出づる時きたらん。 29 善をなしし者は生命に甦へり、惡を行ひし者は審判に甦へるべし。 30 我みづから何事もなし能はず、ただ聞くままに審くなり

。わが審判は正し、それは我が意を求めずして、我を遣し給ひし者の御意を求むるに因る。 31 我もし己につきて證せば、我が證は眞ならず。 32 我につきて證する者は他にあり、その我につきて證する證の眞なるを我は知る。 33 なんぢら前に人をヨハネに遣ししに、彼は眞につきて證せり。 34 我は人よりの證を受くる事をせねど、唯なんぢらの救はれん爲に之を言ふ。 35 かれは燃えて輝く燈火なりしが、汝等その光にありて暫時よろこぶ事をせり。 36 されど我にはヨハネの證よりも大なる證あり。父の我にあたへて成し遂げしめ給ふわざ、即ち我がおこなふ業は、我につきて父の我を遣し給ひたるを證し、 37 また我をおくり給ひし父も、我につきて證し給へり。汝らは未だその御聲を聞きし事なく、その御形を見し事なし。 38 その御言は汝らの衷にとどまらず、その遣し給ひし者を信ぜぬに因りて知らるるなり。 39 汝らは聖書に永遠の生命ありと思ひて之を査ぶ、されどこの聖書は我につきて證するものなり。(aiōnios g166)

40 然るに汝ら生命を得んために我に來るを欲せず。 41 我は人よりの譽をうくる事をせず、 42 ただ汝らの衷に神を愛する事なきを知る。 43 我はわが父の名によりて來りしに、汝等われを受けず、もし他の人おのれの名によりて來らば之を受けん。 44 互に譽をうけて、唯一の神よりの譽を求めぬ汝らは、争で信ずることを得んや。 45 われ父に汝らを訴へんとすと思ふな、訴ふるもの一人あり、汝らが頼とするモーセなり。 46 若しモーセを信ぜしならば、我を信ぜしならん、彼は我につきて録したればなり。 47 されど彼の書を信ぜずば、争で我が言を信ぜんや』

6 この後イエス、ガリラヤの海、即ちテベリヤの海の彼方にゆき給へば、**2** 大なる群衆これに従ふ、これは病みたる者に行ひたまへる徴を見し故なり。**3** イエス山に登りて、弟子たちと共にそこに坐し給ふ。**4** 時はユダヤ人の祭なる過越に近し。**5** イエス眼をあげて大なる群衆のきたるを見て、ピリポに言ひ給ふ『われら何處よりパンを買ひて、此の人々に食はすべきか』**6** かく言ひ給ふはピリポを試むるためにて、自ら爲さんとする事を知り給ふなり。**7** ピリポ答へて言ふ『二百デナリのパンありとも、人々すこしづつ受くるになほ足らじ』**8** 弟子の一人にてシモン・ペテロの兄弟なるアンデレ言ふ**9** 『ここに一人の童子あり、大麥のパン五つと小き肴二つとをもち、されど此の多くの人には何にかならん』**10** イエス言ひたまふ『人々を坐せしめよ』その處に多くの草ありて人々坐せしが、その數おほよそ五千人なりき。**11** ここにイエス、パンを取りて謝し、坐したる人々に分ちあたへ、また肴をも然なして、その欲するほど與へ給ふ。**12** 人々の飽きたるのち弟子たちに言ひたまふ『廢るもののなきように擘きたる餘をあつめよ』**13** 乃ち集めたるに、五つの大麥のパンの擘きたるを食ひしものの餘、十二の筐に満ちたり。**14** 人々その爲し給ひし徴を見ていふ『實にこれは世に来るべき預言者なり』**15** イエス彼らが來りて己をとらへ、王となさんとするを知り、復ひとりにて山に遁れたまふ。**16** 夕になりて弟子たち海にくだり、**17** 船にのり海を渡りて、カペナウムに往かんとす。既に暗くなりたるに、イエス未だ來りたまはず。**18** 大風ふきて海ややに荒出づ。**19** かくて四五十丁

こぎ出でしに、イエスの海の上をあゆみ、船に近づき給ふを見て懼れたれば、**20** イエス言ひたまふ『我なり、懼るな』 **21** 乃ちイエスを船に歡び迎へしに、船は直ちに往かんとする地に著けり。**22** 明くる日、海のかなたに立てる群衆は、一艘のほか船なく、又イエスは弟子たちと共に乗りたまはず、弟子たちのみ出でゆきしを見たり。**23** (時にテベリヤより數艘の船、主の謝して人々にパンを食はせ給ひし處の近くに來る) **24** ここに群衆はイエスも居給はず、弟子たちも居らぬを見て、その船に乗り、イエスを尋ねてカペナウムに往けり。**25** 遂に海の彼方にてイエスに遇ひて言ふ『ラビ、何時ここに來り給ひしか』 **26** イエス答へて言ひ給ふ『まことに誠に汝らに告ぐ、汝らが我を尋ぬるは、徴を見し故ならで、パンを食ひて飽きたる故なり。**27** 朽ちる糧のためならで、永遠の生命にまで至る糧のために働け。これは人の子の汝らに與へんとするものなり、父なる神は印して彼を證し給ひたるに因る』 (aiōnios g166) **28** ここに彼ら言ふ『われら神の業を行はんには何をなすべきか』 **29** イエス答へて言ひたまふ『神の業はその遣し給へる者を信ずる是なり』 **30** 彼ら言ふ『さらば我らが見て汝を信ぜしために、何の徴をなすか、何を行ふか。 **31** 我らの先祖は荒野にてマナを食へり、録して「天よりパンを彼らに與へて食はしめたり」と云へるが如し』 **32** イエス言ひ給ふ『まことに誠に汝らに告ぐ、モーセは天よりのパンを汝らに與へしにあらざ、されど我が父は天よりの眞のパンを與へたまふ。**33** 神のパンは天より降りて生命を世に與ふるものなり』 **34** 彼等いふ『主よ、そのパンを常に與へよ

』 35 イエス言ひ給ふ『われは生命のパンなり、我にきたる者は飢えず、我を信ずる者はいつまでも渴くことなからん。 36 されど汝らは我を見てなほ信ぜず、我さきに之を告げたり。 37 父の我に賜ふものは皆われに來らん、我にきたる者は我これを退けず。 38 夫わが天より降りしは、我が意をなさん爲にあらず、我を遣し給ひし者の御意をなさん爲なり。 39 我を遣し給ひし者の御意は、すべて我に賜ひし者を、我その一つをも失はずして、終の日に甦へらす是なり。 40 わが父の御意は、すべて子を見て信ずる者の永遠の生命を得る是なり。われ終の日にこれを甦へらすべし』 (aiōnios g166) 41 ここにユダヤ人ら、イエスの『われは天より降りしパンなり』と言ひ給ひしにより、 42 呟きて言ふ『これはヨセフの子イエスならずや、我等はその父 母を知る、何ぞ今「われは天より降りし」と言ふか』 43 イエス答へて言ひ給ふ『なんぢら呟き合ふな、 44 我を遣しし父ひき給はずば、誰も我に來ること能はず、我これを終の日に甦へらすべし。 45 預言者たちの書に「彼らみな神に教へられん」と録されたり。すべて父より聽きて學びし者は我にきたる。 46 これは父を見し者ありとにあらず、ただ神よりの者のみ父を見たり。 47 まことに誠になんぢらに告ぐ、信ずる者は永遠の生命をもつ。(aiōnios g166) 48 我は生命のパンなり。 49 汝らの先祖は、荒野にてマナを食ひしが死にたり。 50 天より降るパンは、食ふ者をして死ぬる事なからしむるなり。 51 我は天より降りし活けるパンなり、人このパンを食はば永遠に活くべし。我が與ふるパンは我が肉なり、世の生命のために之を與へん』 (aiōn g165) 52 ここ

にユダヤ人たがひに争ひて言ふ『この人はいかで己が肉を我らに與へて食はしむることを得ん』 53 イエス言ひ給ふ『まことに誠になんぢらに告ぐ、人の子の肉を食はず、その血を飲まずば、汝らに生命なし。 54 わが肉をくらひ、我が血をのむ者は、永遠の生命をもつ、われ終の日にこれを甦へらすべし。

(aiōnios g166) 55 夫わが肉は眞の食物、わが血は眞の飲物なり。 56 わが肉をくらひ我が血をのむ者は、我に居り、我もまた彼に居る。 57 活ける父の我をつかはし、私の父によりて活くるごとく、我をくらふ者も我によりて活くべし。 58 天より降りしパンは、先祖たちが食ひてなほ死にし如きものにあらず、此のパンを食ふものは永遠に活きん』 (aiōn g165) 59 此等のことはイエス、カペナウムにて教ふるとき、會堂にて言ひ給ひしなり。 60 弟子たちの中おほくの者これを聞きて言ふ『こは甚だしき言なるかな、誰か能く聞き得べき』 61 イエス弟子たちの之に就きて呟くを自ら知りて言ひ給ふ『このことは汝らを躓かするか。 62 さらば人の子のもと居りし處に昇るを見れば如何に。 63 活すものは靈なり、肉は益する所なし、わが汝らに語りし言は、靈なり、生命なり。 64 されど汝らの中に信ぜぬ者どもあり』 イエス初より、信ぜぬ者どもは誰、おのれを賣る者は誰なるかを知り給へるなり。 65 かくて言ひたまふ『この故に我さきに汝らに告げて、父より賜はりたる者ならずば我に來るを得ずと言ひしなり』 66 ここにおいて、弟子たちのうち多くの者かへり去りて、復イエスと共に歩まざりき。 67 イエス十二弟子に言ひ給ふ『なんじらも去らんとするか』 68 シモン・ペテロ答ふ『主よ、われ

ら誰にゆかん、永遠の生命の言は汝にあり。(aiōnios
g166) 69 又われらは信じかつ知る、なんぢは神の聖者
なり』 70 イエス答へ給ふ『われ汝ら十二人を選び
しにあらずや、然るに汝らの中の一人は悪魔なり』
71 イスカリオテのシモンの子ユダを指して言ひ給へ
るなり、彼は十二弟子の一人なれど、イエスを賣ら
んとする者なり。

7 この後イエス、ガリラヤのうちを巡り給ふ、ユ
ダヤ人の殺さんとするに困りて、ユダヤのうちを巡
ることを欲し給はぬなり。 2 ユダヤ人の假廬の祭ち
かつきたれば、 3 兄弟たちイエスに言ふ『なんぢの
行ふ業を弟子たちにも見せんために、此處を去りて
ユダヤに往け。 4 誰にても自ら顯れんことを求めて
、隠に業をなす者なし。汝これらの事を爲すからに
は、己を世にあらはせ』 5 是その兄弟たちもイエス
を信ぜぬ故なり。 6 ここにイエス言ひ給ふ『わが時
はいまだ到らず、汝らの時は常に備れり。 7 世は汝
らを憎むこと能はねど我を憎む、我は世の所作の悪
しきを證すればなり。 8 なんぢら祭に上れ、わが時
いまだ満たねば、我は今この祭にのぼらず』 9 かく
言ひて尚ガリラヤに留り給ふ。 10 而して兄弟たちの
祭にのぼりたる後、あらはならで潜びやかに上り給
ふ。 11 祭にあたりユダヤ人らイエスを尋ねて『かれ
は何處に居るか』と言ふ。 12 また群衆のうちに囁く
者おほくありて、或は『イエスは善き人なり』とい
ひ、或は『いな、群衆を惑すなり』と言ふ。 13 され
どユダヤ人を懼るるに困りて、誰もイエスのことを
公然に言はず。 14 祭も、はや半となりし頃、イエス
宮にのぼりて教へ給へば、 15 ユダヤ人あやしみて言

ふ『この人は學びし事なきに、如何にして書を知るか』 16 イエス答へて言ひ給ふ『わが教はわが教にあらず、我を遣し給ひし者の教なり。 17 人もし御意を行はんと欲せば、此の教の神よりか、我が己より語るかを知らん。 18 己より語るものは己の榮光をもとむ、己を遣しし者の榮光を求むる者は眞なり、その中に不義なし。 19 モーセは汝らに律法を與へしにあらずや、されど汝等のうちに律法を守る者なし。汝ら何ゆゑ我を殺さんとするか』 20 群衆こたふ『なんぢは惡鬼に憑かれたり、誰が汝を殺さんとするぞ』 21 イエス答へて言ひ給ふ『われ一つの業をなしたれば、汝等みな怪しめり。 22 モーセは汝らに割禮を命じたり（これはモーセより起りしとにあらず、先祖より起りしなり）この故に汝ら安息日にも人に割禮を施す。 23 モーセの律法の廢らぬために、安息日に人の割禮を受くる事あらば、何ぞ安息日に人の全身を健かにせしとて我を怒るか。 24 外貌によりて裁くな、正しき審判にて審け』 25 ここにエルサレムの或人々いふ『これは人々の殺さんとする者ならずや。 26 視よ、公然に語るに、之に對して何をも言ふ者なし、司たちは此の人のキリストたるを眞に認めしならんか。 27 されど我らは此の人の何處よりかを知る、キリストの來る時には、その何處よりかを知る者なし』 28 ここにイエス宮にて教へつつ呼はりて言ひ給ふ『なんぢら我を知り、亦わが何處よりかを知る。されど我は己より來るにあらず、眞の者ありて我を遣し給へり。汝らは彼を知らず、 29 我は彼を知る。我は彼より出で、彼は我を遣し給ひしに因りてなり』 30 ここに人々イエスを捕へんと謀りたれど、彼

の時いまだ到らぬ故に手出する者なかりき。 31 かくて群衆のうち多くの人々イエスを信じて『キリスト來るとも、此の人の行ひしより多く徴を行はんや』と言ふ。 32 イエスにつきて群衆のかく囁くことパリサイ人の耳に入りたれば、祭司長・パリサイ人ら彼を捕へんとて下役どもを遣ししに、 33 イエス言ひ給ふ『我なほ暫く汝らと偕に居り、而してのち我を遣し給ひし者の御許に往く。 34 汝ら我を尋ねん、されど逢はざるべし、汝等わが居る處に往くこと能はず』 35 ここにユダヤ人ら互に云ふ『この人われらの逢ひ得ぬいづこに往かんとするか、ギリシヤ人のうちに散りをる者に往きて、ギリシヤ人を教へんとするか。 36 その言に「なんぢら我を尋ねん、然れど逢はざるべし、汝ら我がをる處に往くこと能はず」と云へるは何ぞや』 37 祭の終の大なる日に、イエス立ちて呼はりて言ひたまふ『人もし渴かば我に來りて飲め。 38 我を信ずる者は、聖書に云へるごとく、その腹より活ける水、川となりて流れ出づべし』 39 これは彼を信ずる者の受けんとする御靈を指して言ひ給ひしなり。イエス未だ榮光を受け給はざれば、御靈いまだ降らざりしなり。 40 此等の言をききて群衆のうちの或人は『これ眞にかの預言者なり』といひ、 41 或人は『これキリストなり』と言ひ、又ある人は『キリストいかでガリラヤより出でんや、 42 聖書に、キリストはダビデの裔またダビデの居りし村ベツレヘムより出づと云へるならずや』と言ふ。 43 斯くイエスの事によりて、群衆のうちに紛争おこりたり。 44 その中には、イエスを捕へんと欲する者もありしが、手出する者なかりき。 45 而して下役ども、祭

司長・パリサイ人らの許に歸りたれば、彼ら問ふ『なに故かれを曳き來らぬか』 46 下役ども答ふ『この人の語るごとく語りし人は未だなし』 47 パリサイ人等これに答ふ『なんぢらも惑されしか、 48 司たち又はパリサイ人のうちに、一人だに彼を信ぜし者ありや、 49 律法を知らぬこの群衆は誼はれたる者なり』 50 彼等のうちの一人にてききにイエスの許に來りしニコデモ言ふ、 51 『われらの律法は、先その人に聽き、その爲すところを知るにあらずば、審く事をせんや』 52 かれら答へて言ふ『なんぢもガリラヤより出でしか、査べ見よ、預言者はガリラヤより起る事なし』 53 [斯くておのおの己が家に歸れり。

8 イエス、オリブ山にゆき給ふ。 2 夜明ごろ、また宮に入りしに、民みな御許に來りたれば、坐して教へ給ふ。 3 ここに學者・パリサイ人ら、姦淫のとき捕へられたる女を連れきたり、眞中に立ててイエスに言ふ、 4 『師よ、この女は姦淫のをり、そのまま捕へられたるなり。 5 モーセは律法に、斯かる者を石にて撃つべき事を我らに命じたるが、汝は如何に言ふか』 6 かく云へるは、イエスを試みて、訴ふる種を得んとてなり。イエス身を屈め、指にて地に物書き給ふ。 7 かれら問ひて止まざれば、イエス身を起して『なんぢらの中、罪なき者まづ石を擲て』と言ひ、 8 また身を屈めて地に物書きたまふ。 9 彼等これを聞きて良心に責められ、老人をはじめ若き者まで一人一人いでゆき、唯イエスと中に立てる女とのみ遺れり。 10 イエス身を起して、女のほかに誰も居らぬを見て言ひ給ふ『をんなよ、汝を訴へたる者どもは何處にをるぞ、汝を罪する者なきか』 11 女い

ふ『主よ、誰もなし』 イエス言ひ給ふ『われも汝を罪せじ、往け、この後ふたたび罪を犯すな』] 12 かくてイエスマた人々に語りて言ひ給ふ『われは世の光なり、我に従ふ者は暗き中を歩まず、生命の光を得べし』 13 パリサイ人ら言ふ『なんぢは己につきて證す、なんぢの證は眞ならず』 14 イエス答へて言ひ給ふ『われ自ら己につきて證すとも、我が證は眞なり、我は何處より來り何處に往くを知る故なり。汝らは我が何處より來り、何處に往くを知らず、 15 なんぢらは肉によりて審く、我は誰をも審かず。 16 されど我もし審かば、我が審判は眞なり、我は一人ならず、我と我を遣し給ひし者と偕なるに因る。 17 また汝らの律法に、二人の證は眞なりと録されたり。 18 我みづから己につきて證をなし、我を遣し給ひし父も我につきて證をなし給ふ』 19 ここに彼ら言ふ『なんぢの父は何處にあるか』 イエス答へ給ふ『なんぢらは我をも我が父をも知らず、我を知りしならば、我が父をも知りしならん』 20 イエス宮の内にて教へし時、これらの事を賽錢函の傍らにて語り給ひしが、彼の時いまだ到らぬ故に、誰も捕ふる者なかりき。 21 かくてまた人々に言ひ給ふ『われ往く、なんぢら我を尋ねん。されど己が罪のうちに死なん、わが往くところに汝ら來ること能はず』 22 ユダヤ人ら言ふ『「わが往く處に汝ら來ること能はず」と云へるは、自殺せんとてか』 23 イエス言ひ給ふ『なんぢらは下より出で、我は上より出づ、汝らは此の世より出で、我は此の世より出でず。 24 之によりて我なんぢらは己が罪のうちに死なんと云へるなり。汝等もし私の夫なるを信ぜずば、罪のうちに死ぬべし』

25 彼ら言ふ『なんぢは誰なるか』 イエス言ひ給ふ『われは正しく汝らに告げ來りし所の者なり。 26 われ汝らに就きて語るべきこと審くべきこと多し、而して我を遣し給ひし者は眞なり、我は彼に聽きしその事を世に告ぐるなり』 27 これは父をさして言ひ給へるを、彼らは悟らざりき。 28 ここにイエス言ひ給ふ『なんぢら人の子を擧げしのち、我の夫なるを知り、又わが己によりて何事をも爲さず、ただ父の我に教へ給ひしごとく、此等のことを語りたるを知らん。 29 我を遣し給ひし者は、我とともに在す。我つねに御意に適ふことを行ふによりて、我を獨おき給はず』 30 此等のことを語り給へるとき、多くの人々イエスを信じたり。 31 ここにイエス己を信じたるユダヤ人に言ひたまふ『汝等もし常に我が言に居らば、眞にわが弟子なり。 32 また眞理を知らん、而して眞理は汝らに自由を得さすべし』 33 かれら答ふ『われはアブラハムの裔にして、未だ人の奴隸となりし事なし。如何なれば「なんぢら自由を得べし」と言ふか』 34 イエス答へ給ふ『まことに誠に汝らに告ぐ、すべて罪を犯す者は罪の奴隸なり。 35 奴隸はとしへに家に居らず、子は永遠に居るなり。 (aiōn g165) 36 この故に子もし汝らに自由を得させば、汝ら實に自由とならん。 37 我は汝らがアブラハムの裔なるを知る、されど我が言なんぢらの衷に留らぬ故に、我を殺さんと謀る。 38 我はわが父の許にて見しことを語り、汝らは又なんぢらの父より聞きしことを行ふ』 39 かれら答へて言ふ『われらの父はアブラハムなり』 イエス言ひ給ふ『もしアブラハムの子ならば、アブラハムの業をなさん。 40 然るに汝らは今、神よ

り聴きたる眞理を汝らに告ぐる者なる我を殺さんと謀る。アブラハムは斯かることを爲さざりき。 41 汝らは汝らの父の業を爲すなり』かれら言ふ『われら淫行によりて生れず、我らの父はただ一人、即ち神なり』 42 イエス言ひたまふ『神もし汝らの父ならば、汝ら我を愛せん、われ神より出でて來ればなり。我は己より來るにあらず、神われを遣し給へり。 43 何故わが語ることを悟らぬか、是わが言をきくこと能はぬに因る。 44 汝らは己が父 悪魔より出でて、己が父の慾を行はんことを望む。彼は最初より人殺なり、また眞その中になき故に眞に立たず、彼は虚偽をかたる毎に己より語る、それは虚偽者にして虚偽の父なればなり。 45 然るに我は眞を告ぐるによりて、汝ら我を信ぜず、 46 汝等のうち誰か我を罪ありとして責め得る。われ眞を告ぐるに、我を信ぜぬは何故ぞ。 47 神より出づる者は神の言をきく、汝らの聴かぬは神より出でぬに因る』 48 ユダヤ人こたへて言ふ『なんぢはサマリヤ人にて悪鬼に憑かれたる者なりと、我らが云へるは宜ならずや』 49 イエス答へ給ふ『われは悪鬼に憑かれず、反つて我が父を敬ふ、なんぢらは我を輕んず。 50 我はおのれの榮光を求めず、之を求めかつ審判し給ふ者あり。 51 誠にまことに汝らに告ぐ、人もし我が言を守らば、永遠に死を見ざるべし』 (aiōn g165) 52 ユダヤ人いふ『今ぞなんぢが悪鬼に憑かれたるを知る。アブラハムも預言者たちも死にたり、然るに汝は「人もし我が言を守らば、永遠に死を味はざるべし」と云ふ。 (aiōn g165) 53 汝われらの父アブラハムよりも大なるか、彼は死に、預言者たちも死にたり、汝はおのれを誰と

するか』 54 イエス答へたまふ『我もし己に榮光を歸せば、我が榮光は空し。我に榮光を歸する者は我が父なり、即ち汝らが己の神と稱ふる者なり。 55 然るに汝らは彼を知らず、我は彼を知る。もし彼を知らずと言はば、汝らの如く偽者たるべし。されど我は彼を知り、且その御言を守る。 56 汝らの父アブラハムは、我が日を見んとて楽しみ且これを見て喜べり』 57 ユダヤ人いふ『なんぢ未だ五十歳にもならぬにアブラハムを見しか』 58 イエス言ひ給ふ『まことに誠に汝らに告ぐ、アブラハムの生れいでぬ前より我は在るなり』 59 ここに彼ら石をとりてイエスに擲たんとしたるに、イエス隠れて宮を出で給へり。

9 イエス途往くとき、生れながらの盲人を見給ひたれば、 **2** 弟子たち問ひて言ふ『ラビ、この人の盲目にて生れしは、誰の罪によるぞ、己のか、親のか』 **3** イエス答へ給ふ『この人の罪にも親の罪にもあらず、ただ彼の上に神の業の顯れん爲なり。 **4** 我を遣し給ひし者の業を我ら晝の間になさざる可からず。夜きたらん、その時は誰も働くこと能はず。 **5** われ世にをる間は世の光なり』 **6** かく言ひて地に唾し、唾にて泥をつくり、之を盲人の目にぬりて言ひ給ふ、 **7** 『ゆきてシロアム（釋けば遣されたる者）の池にて洗へ』乃ちゆきて洗ひたれば、見ゆることを得て歸れり。 **8** ここに隣人および前に彼の乞食なるを見し者ども言ふ『この人は坐して物乞ひるたるにあらずや』 **9** 或人は『夫なり』といひ、或人は『否、ただ似たるなり』といふ。かの者『われは夫なり』と言ひたれば、 **10** 人々いふ『さらば汝の目は如何にして開きたるか』 **11** 答ふ『イエスといふ人、泥をつくり

我が目に塗りて言ふ「シロアムに往きて洗へ」と、乃ち往きて洗ひたれば、物を見ることを得たり』 12 彼ら『その人は何處に居るか』と言へば『知らず』と答ふ。 13 人々さきに盲目なりし者をパリサイ人らの許に連れきたる。 14 イエスの泥をつくりて其の人の目をあけし日は安息日なりき。 15 パリサイ人らも亦いかにして物を見ることを得しかと問ひたれば、彼いふ『かの人わが目に泥をぬり、我これを洗ひて見ゆることを得たり』 16 パリサイ人の中なる或人は『かの人、安息日を守らぬ故に、神より出でし者にあらず』と言ひ、或人は『罪ある人いかで斯かる徴をなし得んや』と言ひて互に相争ひたり。 17 ここにまた盲目なりし人に言ふ『なんぢの目をあけしに因り、汝は彼に就きて如何にいふか』彼いふ『預言者なり』 18 ユダヤ人ら、彼が盲目なりしに見ゆるやうになりしことを、未だ信ぜずして、目の開きたる人の兩親を呼び、 19 問ひて言ふ『これは盲目にて生れしと言ふ汝らの子なりや、さらば今いかにして見ゆるか』 20 兩親こたへて言ふ『かれの我が子なることと、盲目にて生れたる事とを知る。 21 されど今いかにして見ゆるかを知らず、又その目をあけしは誰なるか、我らは知らず、彼に問へ、年長けたれば自ら己がことを語らん』 22 兩親のかく言ひしはユダヤ人を懼れたるなり。ユダヤ人ら相議りて『若しイエスをキリストと言ひ顯す者あらば、除名すべし』と定めたるに因る。 23 兩親の『かれ年長けたれば彼に問へ』と云へるは此の故なり。 24 かれら盲目なりし人を再び呼びて言ふ『神に榮光を歸せよ、我等はかの人罪人たるを知る』 25 答ふ『かれ罪人なるか、我は

知らず、ただ一つの事をする、即ち我さきに盲目たりしが、今見ゆることを得たる是なり』 26 彼ら言ふ『かれは汝に何をなししか、如何にして目をあけしか』 27 答ふ『われ既に汝らに告げたれど聴かざりき。何ぞまた聴かんとするか、汝らもその弟子とならんことを望むか』 28 かれら罵りて言ふ『なんぢは其の弟子なり、我等モーセの弟子なり。 29 モーセに神の語り給ひしことを知れど、此の人の何處よりかを知らず』 30 答へて言ふ『その何處よりかを知らずとは怪しき事なり、彼わが目をあけしに。 31 神は罪人に聴き給はねど、敬虔にして御意をおこなふ人に聴き給ふことを我らは知る。 32 世の太初より、盲目にて生れし者の目をあけし人あるを聞きし事なし。

(aiōn g165) 33 かの人もし神より出でずば、何事をも爲し得ざらん』 34 かれら答へて『なんぢ全く罪のうちに生れながら、我らを教ふるか』と言ひて、遂に彼を追ひ出せり。 35 イエスその追ひ出されしことを聞き、彼に逢ひて言ひ給ふ『なんぢ人の子を信ずるか』 36 答へて言ふ『主よ、それは誰なる乎、われ信ぜまほし』 37 イエス言ひ給ふ『なんぢ彼を見たり、汝と語る者は夫なり』 38 ここに彼『主よ、我は信ず』といひて拜せり。 39 イエス言ひ給ふ『われ審判の爲にこの世に來れり。見えぬ人は見え、見ゆる人は盲目とならん爲なり』 40 パリサイ人の中イエスと共に居りし者、これを聞いて言ふ『我らも盲目なるか』 41 イエス言ひ給ふ『もし盲目なりしならば、罪なかりしならん、されど見ゆと言ふ汝らの罪は遣れり』

10 『まことに誠に汝らに告ぐ、羊の檻に門より入らずして、他より越ゆる者は、盜人なり、強盜なり

。 2 門より入る者は、羊の牧者なり。 3 門守は彼のために開き、羊はその聲をきき、彼は己の羊の名を呼びて牽きいだす。 4 悉とく其の羊をいだしし時、これに先だちゆく、羊その聲を知るによりて従ふなり。 5 他の者には従はず、反つて逃ぐ、他の者どもの聲を知らぬ故なり』 6 イエスこの譬を言ひ給へど、彼らその何事のかたり給ふかを知らざりき。 7 この故にイエス復いひ給ふ『まことに誠に汝らに告ぐ、我は羊の門なり。 8 すべて我より前に來りし者は、盜人なり、強盜なり、羊は之に聽かざりき。 9 我は門なり、おほよそ我によりて入る者は救はれ、かつ出入をなし、草を得べし。 10 盜人のきたるは盜み、殺し、亡さんとするの他なし。わが來るは羊に生命を得しめ、かつ豊に得しめん爲なり。 11 我は善き牧者なり、善き牧者は羊のために生命を捨つ。 12 牧者ならず、羊も己がものならぬ雇人は、豺狼のきたるを見れば羊を棄てて逃ぐ、一一豺狼は羊をうばひ且ちらす一一 13 彼は雇人にて、その羊を顧みぬ故なり。 14 我は善き牧者にして、我がものを知り、我がものは我を知る、 15 父の我を知り、私の父を知るが如し、我は羊のために生命を捨つ。 16 我には亦この檻のものならぬ他の羊あり、之をも導かざるを得ず、彼らは我が聲をきかん、遂に一つの群ひとりの牧者となるべし。 17 之によりて父は我を愛し給ふ、それは我ふたたび生命を得んために生命を捨つる故なり。 18 人これを我より取るにあらず、我みづから捨つるなり。我は之をすつる權あり、復これを得る權あり、我この命令をわが父より受けたり』 19 これらの言によりて復ユダヤ人のうちに紛争おこり、 20 そ

の中なる多くの者いふ『かれは悪鬼に憑かれて氣狂へり、何ぞ之にきくか』 21 他の者ども言ふ『これは悪鬼に憑かれたる者の言にあらず、悪鬼は盲人の目をあけ得んや』 22 その頃エルサレムに宮潔の祭あり、時は冬なり。 23 イエス宮の内、ソロモンの廊を歩きたまふに、 24 ユダヤ人ら之を取圍みて言ふ『何時まで我らの心を惑しむるか、汝キリストならば明白に告げよ』 25 イエス答へ給ふ『われ既に告げたれど汝ら信ぜず、わが父の名によりて行ふわざは、我に就きて證す。 26 されど汝らは信ぜず、我が羊ならぬ故なり。 27 わが羊はわが聲をきき、我は彼らを知り、彼らは我に従ふ。 28 我かれらに永遠の生命を與ふれば、彼らは永遠に亡ぶることなく、又かれらを我が手より奪ふ者あらじ。(aiōn g165, aiōnios g166) 29 彼らを我にあたへ給ひし我が父は、一切のものよりも大なれば、誰にても父の御手よりは奪ふこと能はず。 30 我と父とは一つなり』 31 ユダヤ人また石を取りあげてイエスを撃たんとす。 32 イエス答へ給ふ『われは父によりて多くの善き業を汝らに示したり、その孰の業ゆゑに我を石にて撃たんとするか』 33 ユダヤ人こたふ『なんぢを石にて撃つは善きわざの故ならず、瀆言の故にして、なんぢ人なるに、己を神とする故なり』 34 イエス答へ給ふ『なんぢらの律法に「われ言ふ、汝らは神なり」と録されたるに非ずや。 35 かく神の言を賜はりし人々を神と云へり。聖書は廢るべきにあらず、 36 然るに父の潔め別ちて世に遣し給ひし者が「われは神の子なり」と言へばとて、何ぞ「瀆言を言ふ」といふか。 37 我もし我が父のわざを行はずば、我を信ずな、 38 もし行はば、假令われ

を信ぜずとも、その業を信ぜよ。さらば父の我にをり、私の父に居ることを知りて悟らん』 39 かれら復イエスを捕へんとせしが、その手より脱れて去り給へり。 40 かくてイエス復ヨルダンの彼方、ヨハネの最初にバプテスマを施したる處にいたり、其處にとどまり給ひしが、 41 多くの人みもとに來りて『ヨハネは何の徴をも行はざりしかど、この人に就きてヨハネの言ひし事は、ことごとく眞なりき』と言ふ。 42 而して多くの人かしこにてイエスを信じたり。

11 ここに病める者あり、ラザロと云ふ、マリヤとその姉妹マルタとの村ベタニヤの人なり。 2 此のマリヤは、主に香油をぬり、頭髮にて御足を拭ひし者にして、病めるラザロはその兄弟なり。 3 姉妹ら人をイエスに遣して『主、視よ、なんぢの愛し給ふもの病めり』と言はしむ。 4 之を聞きてイエス言ひ給ふ『この病は死に至らず、神の榮光のため、神の子のこれに由りて榮光を受けんためなり』 5 イエスはマルタと、その姉妹と、ラザロとを愛し給へり。 6 ラザロの病みたるを聞きて、その居給ひし處になほ二日とどまり、 7 而してのち弟子たちに言ひ給ふ『われら復ユダヤに往くべし』 8 弟子たち言ふ『ラビ、この程もユダヤ人、なんぢを石にて撃たんとせしに、復かしこに往き給ふか』 9 イエス答へたまふ『一日に十二時あるならずや、人もし晝あるかば、此の世の光を見るゆゑに躓くことなし。 10 夜あるかば、光その人になき故に躓くなり』 11 かく言ひて復その後いひ給ふ『われらの友ラザロ眠れり、されど我よび起さん爲に往くなり』 12 弟子たち言ふ『主よ、眠れるならば癒ゆべし』 13 イエスは彼が死にたるこ

とを言ひ給ひしなれど、弟子たちは寝ねて眠れるを言ひ給ふと思へるなり。 14 ここにイエス明白に言ひ給ふ『ラザロは死にたり。 15 我かしこに居らざりし事を汝等のために喜ぶ、汝等をして信ぜしめんとてなり。されど我ら今その許に往くべし』 16 デドモと稱ふるトマス、他の弟子たちに言ふ『われらも往きて彼と共に死ぬべし』 17 さてイエス來り見給へば、ラザロの墓にあること既に四日なりき。 18 ベタニヤはエルサレムに近くして、二十五丁ばかりの距離なるが、 19 數多のユダヤ人、マルタとマリヤとをその兄弟の事につき慰めんとて來れり。 20 マルタはイエス來給ふと聞きて出で迎へたれど、マリヤはなほ家に坐し居たり。 21 マルタ、イエスに言ふ『主よ、もし此處に在ししならば、我が兄弟は死なざりしものを。 22 されど今にても我は知る、何事を神に願ひ給ふとも、神は與へ給はん』 23 イエス言ひ給ふ『なんぢの兄弟は甦へるべし』 24 マルタ言ふ『をはりの日、復活のときに甦へるべきを知る』 25 イエス言ひ給ふ『我は復活なり、生命なり、我を信ずる者は死ぬとも生きん。 26 凡そ生きて我を信ずる者は、永遠に死なざるべし。汝これを信ずるか』 (aiōn g165) 27 彼いふ『主よ然り、我なんぢは世に來るべきキリスト、神の子なりと信ず』 28 かく言ひて後、ゆきて竊にその姉妹マリヤを呼びて『師きたりて汝を呼びたまふ』と言ふ。 29 マリヤ之をきき、急ぎ起ちて御許に往けり。 30 イエスは未だ村に入らず、尚マルタの迎へし處に居給ふ。 31 マリヤと共に家に居りて慰め居たるユダヤ人、その急ぎ立ちて出でゆくを見、かれは歎かんとて墓に往くと思ひて後に隨へり。 32 か

くてマリヤ、イエスの居給ふ處にいたり、之を見てその足下に伏し『主よ、もし此處に在ししならば、我が兄弟は死なざりしものを』と言ふ。33 イエスカれが泣き居り、共に來りしユダヤ人も泣き居るを見て、心を傷め悲しみて言ひ給ふ、34 『かれを何處に置きしか』彼ら言ふ『主よ、來りて見給へ』35 イエス涙をながし給ふ。36 ここにユダヤ人ら言ふ『視よ、いかばかり彼を愛せしぞや』37 その中の或者ども言ふ『盲人の目をあけし此の人にして、彼を死なざらしむること能はざりしか』38 イエスまた心を傷めつつ墓にいたり給ふ。墓は洞にして石を置いて塞げり。39 イエス言ひ給ふ『石を除けよ』死にし人の姉妹マルタ言ふ『主よ、彼ははや臭し、四日を経たればなり』40 イエス言ひ給ふ『われ汝に、もし信ぜば神の榮光を見んと言ひしにあらざや』41 ここに人々石を除けたり。イエス目を擧げて言ひたまふ『父よ、我にきき給ひしを謝す。42 常にきき給ふを我は知る。然るに斯く言ふは、傍らに立つ群衆の爲にして、汝の我を遣し給ひしことを之に信ぜしめんとてなり』43 斯く言ひてのち、聲高く『ラザロよ、出で來れ』と呼はり給へば、44 死にしもの布にて足と手とを巻かれたるまま出で來る、顔も手拭にて包まれたり。イエス『これを解きて往かしめよ』と言ひ給ふ。45 かくてマリヤの許に來りて、イエスの爲し給ひし事を見たる多くのユダヤ人、かれを信じたりしが、46 或者はパリサイ人に往きて、イエスの爲し給ひし事を告げたり。47 ここに祭司長・パリサイ人ら議會を開きて言ふ『われら如何に爲すべきか、此の人おほくの徴を行ふなり。48 もし彼をこのま

ま捨ておけば、人々みな彼を信ぜん、而して 로마人きたりて、我らの土地と國人とを奪はん』 49 その中の一人にて此の年の大祭司なるカヤパ言ふ『なんぢら何をも知らず。 50 ひとりの人、民のために死にて、國人すべての滅びぬは、汝らの益なるを思はぬなり』 51 これは己より云へるに非ず、この年の大祭司なれば、イエスの國人のため、 52 又ただに國人の爲のみならず、散りたる神の子らを一つに集めん爲に死に給ふことを預言したるなり。 53 彼等この日よりイエスを殺さんと議れり。 54 されば此の後イエス顯にユダヤ人のなかを歩み給はず、此處を去りて、荒野にちかき處なるエフラ임といふ町に往き、弟子たちと偕に其處に留りたまふ。 55 ユダヤ人の過越の祭近づきたれば、多くの人々身を潔めんとて、祭のまへに田舎よりエルサレムに上れり。 56 彼らイエスをたづね、宮に立ちて互に言ふ『なんぢら如何に思ふか、彼は祭に來らぬか』 57 祭司長・パリサイ人らは、イエスを捕へんとて、その在處を知る者あらば、告げ出づべく預て命令したりしなり。

12 過越の祭の六日前に、イエス、ベタニヤに來り給ふ、ここは死人の中より甦へらせ給ひしラザロの居る處なり。 2 此處にてイエスのために饗宴を設け、マルタは事へ、ラザロはイエスと共に席に著ける者の中にあり。 3 マリヤは價高き混りなきナルドの香油一斤を持ち來りて、イエスの御足にぬり、己が頭髮にて御足を拭ひしに、香油のかをり家に満ちたり。 4 御弟子の一人にて、イエスを賣らんとするイスカリオテのユダ言ふ、 5 『何ぞこの香油を三百デナリに賣りて、貧しき者に施さざる』 6 かく云へる

は貧しき者を思ふ故にあらず、おのれ盗人にして、財囊を預り、その中に納むる物を掠めたるればなり。 7 イエス言ひ給ふ『この女の爲すに任せよ、我が葬りの日のために之を貯へたるなり。 8 貧しき者は常に汝らと偕に居れども、我は常に居らぬなり』 9 ユダヤの多くの民ども、イエスの此處に居給ふことを知りて來る、これはイエスの爲のみにあらず、死人の中より甦へらせ給ひしラザロを見んとてなり。 10 かくて祭司長ら、ラザロをも殺さんと議る。 11 彼のために多くのユダヤ人さり往きてイエスを信ぜし故なり。 12 明るる日、祭に來りし多くの民ども、イエスのエルサレムに來り給ふをきき、 13 棕梠の枝をとりて出で迎へ、『「ホサナ、讃むべきかな、主の御名によりて來る者」イスラエルの王』と呼はる。 14 イエスは小驢馬を得て之に乗り給ふ。これは録して、 15 『シオンの娘よ、懼るな。視よ、なんぢの王は驢馬の子に乗りて來り給ふ』と有るが如し。 16 弟子たちは最初これらの事を悟らざりしが、イエスの榮光を受け給ひし後に、これらの事のイエスに就きて録されたと、人々が斯く爲ししとを思ひ出せり。 17 ラザロを墓より呼び起し、死人の中より甦へらせ給ひし時に、イエスと偕に居りし群衆、證をなせり。 18 群衆のイエスを迎へたるは、かかる徴を行ひ給ひしことを聞きたるに因りてなり。 19 パリサイ人ら互に言ふ『見るべし、汝らの謀ることの益なきを。視よ、世は彼に従へり』 20 禮拜せんとて祭に上りたる者の中に、ギリシヤ人 數人ありしが、 21 ガリラヤなるベツサイダのピリポに來り、請ひて言ふ『君よ、われらイエスに謁えんことを願ふ』 22 ピリポ

往きてアンデレに告げ、アンデレとピリポと共に往きてイエスに告ぐ。 23 イエス答へて言ひ給ふ『人の子の榮光を受くべき時きたれり。 24 誠にまことに汝らに告ぐ、一粒の麥、地に落ちて死なずば、唯一つにて在らん、もし死なば、多くの果を結ぶべし。 25 己が生命を愛する者は、これを失ひ、この世にてその生命を憎む者は、之を保ちて永遠の生命に至るべし。 (aiōnios g166) 26 人もし我に事へんとせば、我に従へ、わが居る處に我に事ふる者もまた居るべし。人もし我に事ふることをせば、我が父これを貴び給はん。 27 今わが心さわぐ、われ何を言ふべきか。父よ、この時より我を救ひ給へ、されど我この爲にこの時に到れり。 28 父よ、御名の榮光をあらはし給へ』ここに天より聲いでて言ふ『われ既に榮光をあらはしたり、復さらに顯さん』 29 傍らに立てる群衆これを聞きて『雷霆 鳴れり』と言ひ、ある人々は『御使かれに語れるなり』と言ふ。 30 イエス答へて言ひ給ふ『この聲の來りしは、我が爲にあらず、汝らの爲なり。 31 今この世の審判は來れり、今この世の君は逐ひ出さるべし。 32 我もし地より擧げられなば、凡ての人をわが許に引きよせん』 33 かく言ひて、己が如何なる死にて死ぬるかを示し給へり。 34 群衆こたふ『われら律法によりて、キリストは永遠に存へ給ふと聞きたるに、汝いかなれば人の子は擧げらるべしと言ふか、その人の子とは誰なるか』 (aiōn g165) 35 イエス言ひ給ふ『なほ暫し光は汝らの中にあり、光のある間に歩みて、暗黒に追及かれぬやうにせよ、暗き中を歩む者は往方を知らず。 36 光の子とならんために、光のある間に光を信ぜよ』 イエス此等のこ

とを語りてのち、彼らを避けて隠れ給へり。 37 かく多くの徴を人々の前におこなひ給ひたれど、なほ彼を信ぜざりき。 38 これ預言者イザヤの言の成就せん爲なり。曰く『主よ、我らに聞きたる言を誰か信ぜし。主の御腕は誰にあらはれし』 39 彼らが信じ得ざりしは此の故なり。即ちイザヤまた云へらく、 40 『彼らの眼を暗くし、心を頑固にし給へり。これ目にて見、心にて悟り、ひるがへりて、我に醫さる事なからん爲なり』 41 イザヤの斯く云へるは、その榮光を見し故にて、イエスに就きて語りしなり。 42 されど司たちの中にもイエスを信じたるもの多かりしが、パリサイ人の故によりて言ひ顯すことをせざりき、除名せられん事を恐れたるなり。 43 彼らは神の譽よりも人の譽を愛でしなり。 44 イエス呼はりて言ひ給ふ『われを信ずる者は我を信ずるにあらず、我を遣し給ひし者を信じ、 45 我を見る者は我を遣し給ひし者を見るなり。 46 我は光として世に來れり、すべて我を信ずる者の暗黒に居らざらん爲なり。 47 人たとひ我が言をききて守らずとも、我は之を審かず。夫わが來りしは世を審かん爲にあらず、世を救はん爲なり。 48 我を棄て我が言を受けぬ者を審く者あり、わが語れる言こそ終の日に之を審くなれ。 49 我はおのれに由りて語れるにあらず、我を遣し給ひし父みづから、我が言ふべきこと語るべきことを命じ給ひし故なり。 50 我その命令の永遠の生命たるを知る。されば我は語るに我が父の我に言ひ給ふまを語るなり』 (aiōnios g166)

13 過越のまつりの前に、イエスこの世を去りて父に往くべき己が時の來れるを知り、世に在る己の者

を愛して、極まで之を愛し給へり。 2 夕餐のとき、
悪魔 早くもシモンの子イスカリオテのユダの心に、
イエスを賣らんとする思を入れたるが、 3 イエス父
が萬物をおのが手にゆだね給ひしことと、己の神より
出でて神に到ることを知り、 4 夕餐より起ちて上
衣をぬぎ、手巾をとりて腰にまとひ、 5 尋で盥に水
をいれて、弟子たちの足をあらひ、纏ひたる手巾に
て之を拭ひはじめ給ふ。 6 かくてシモン・ペテロに
至り給へば、彼いふ『主よ、汝わが足を洗ひ給ふか』
7 イエス答へて言ひ給ふ『わが爲すことを汝いま
は知らず、後に悟るべし』 8 ペテロ言ふ『永遠に我
が足をあらひ給はざれ』 イエス答へ給ふ『我もし汝
を洗はずば、汝われと關係なし』 (aiōn g165) 9 シモン
・ペテロ言ふ『主よ、わが足のみならず、手をも頭
をも』 10 イエス言ひ給ふ『すでに浴したる者は足の
ほか洗ふを要せず、全身きよきなり。斯く汝らは潔
し、されど悉とくは然らず』 11 これ己を賣る者の誰
なるを知りたまふ故に『ことごとくは潔からず』と
言ひ給ひしなり。 12 彼らの足をあらひ、己が上衣を
とり、再び席につきて後いひ給ふ『わが汝らに爲し
たることを知るか。 13 なんぢら我を師また主とな
ふ、然か言ふは宜なり、我は是なり。 14 我は主また
師なるに、尚なんぢらの足を洗ひたれば、汝らも互
に足を洗ふべきなり。 15 われ汝らに模範を示せり、
わが爲ししごとく汝らも爲さんためなり。 16 誠にま
ことに汝らに告ぐ、僕はその主よりも大ならず。遣
されたる者は之を遣す者よりも大ならず。 17 汝等
これらの事を知りて之を行はば幸福なり。 18 これ汝
ら凡ての者につきて言ふにあらざ、我はわが選びた

る者どもを知る。されど聖書に「我とともにパンを食ふ者、われに向ひて踵を擧げたり」と云へることは、必ず成就すべきなり。 19 今その事の成らぬ前に之を汝らに告ぐ、事の成らん時、わが夫なるを汝らの信ぜんためなり。 20 誠にまことに汝らに告ぐ、わが遣す者を受くる者は我をうくるなり。我を受くる者は我を遣し給ひし者を受くるなり』 21 イエス此等のことを言ひ終へて、心さわぎ證をなして言ひ給ふ『まことに誠に汝らに告ぐ、汝らの中の一人われを賣らん』 22 弟子たち互に顔を見合せ、誰につき言ひ給ふかを訝る。 23 イエスの愛したまふ一人の弟子、イエスの御胸によりそひ居たれば、 24 シモン・ペテロ首にて示し『誰のことを言ひ給ふか、告げよ』といふ。 25 彼そのまま御胸によりかかりて『主よ、誰なるか』と言ひしに、 26 イエス答へ給ふ『わが一撮の食物を浸して與ふる者は夫なり』かくて一撮の食物を浸して、シモンの子イスカリオテのユダに與へたまふ。 27 ユダ一撮の食物を受くるや、悪魔かれに入りたり。イエス彼に言ひたまふ『なんぢが爲すことを速かに爲せ』 28 席に著きゐたる者は一人として、何故かく言ひ給ふかを知らず。 29 ある人々は、ユダが財囊を預るによりて『祭のために要する物を買へ』とイエスの言ひ給へるか、また貧しき者に何か施さしめ給ふならんと思へり。 30 ユダ一撮の食物を受くるや、直ちに出づ、時は夜なりき。 31 ユダの出でし後、イエス言ひ給ふ『今や人の子、榮光をうく、神も彼によりて榮光をうけ給ふ。 32 神かれに由りて榮光をうけ給はば、神も己によりて彼に榮光を與へ給はん、直ちに與へ給ふべし。 33 若子よ

、我なほ暫く汝らと偕にあり、汝らは我を尋ねん、されど曾てユダヤ人に「なんぢらは我が行く處に来ること能はず」と言ひし如く、今汝らにも然か言ふなり。 34 われ新しき誠命を汝らに與ふ、なんぢら相愛すべし。わが汝らを受せしごとく、汝らも相愛すべし。 35 互に相愛する事をせば、之によりて人みな汝らの我が弟子たるを知らん』 36 シモン・ペテロ言ふ『主よ、何處にゆき給ふか』 イエス答へ給ふ『わが行く處に、なんぢ今は從ふこと能はず。されど後に從はん』 37 ペテロ言ふ『主よ、いま從ふこと能はぬは何故ぞ、我は汝のために生命を棄てん』 38 イエス答へ給ふ『なんぢ我がために生命を棄つるか、誠にまことに汝に告ぐ、なんぢ三度われを否むまでは、鷄鳴かざるべし』

14 『なんぢら心を騒がすな、神を信じ、また我を信ぜよ。 2 わが父の家には住處おほし、然らずば我かねて汝らに告げしならん。われ汝等のために處を備へに往く。 3 もし往きて汝らの爲に處を備へば、復きたりて汝らを我がもとに迎へん、わが居るところに汝らも居らん爲なり。 4 汝らは我が行くところに至る道を知る』 5 トマス言ふ『主よ、何處にゆき給ふかを知らず、いかでその道を知らんや』 6 イエス彼に言ひ給ふ『われは道なり、眞理なり、生命なり、我に由らでは誰にても父の御許にいたる者なし。 7 汝等もし我を知りたらば、我が父をも知りしならん。今より汝ら之を知る、既に之を見たり』 8 ピリポ言ふ『主よ、父を我らに示し給へ、さらば足れり』 9 イエス言ひ給ふ『ピリポ、我かく久しく汝らと偕に居りしに、我を知らぬか。我を見し者は父を

見しなり、如何なれば「我らに父を示せ」と言ふか。
10 我の父に居り、父の我に居給ふことを信ぜぬか。
わが汝等にいふ言は、己によりて語るにあらず、
父われに在して御業をおこなひ給ふなり。11 わが言
ふことを信ぜよ、我は父にをり、父は我に居給ふな
り。もし信ぜずば、我が業によりて信ぜよ。12 誠に
まことに汝らに告ぐ、我を信ずる者は我がなす業を
なさん、かつ之よりも大なる業をなすべし、われ父
に往けばなり。13 汝らが我が名によりて願ふことは
、我みな之を爲さん、父、子によりて榮光を受け給
はんためなり。14 何事にても我が名によりて我に願
はば、我これを成すべし。15 汝等もし我を愛せば
、我が誠命を守らん。16 われ父に請はん、父は他に
助主をあたへて、永遠に汝らと偕に居らしめ給ふべ
し。(aiōn g165) 17 これは眞理の御靈なり、世はこれを
受くること能はず、これを見ず、また知らぬに因る
。なんぢらは之を知る、彼は汝らと偕に居り、また
汝らの中に居給ふべければなり。18 我なんぢらを遣
して孤兒とはせず、汝らに来るなり。19 暫くせば世
は復われを見ず、されど汝らは我を見る、われ活く
れば汝らも活くべければなり。20 その日には、我わ
が父に居り、なんぢら我に居り、われ汝らに居るこ
とを汝ら知らん。21 わが誠命を保ちて之を守るもの
は、即ち我を愛する者なり。我を愛する者は我が父
に愛せられん、我も之を愛し、之に己を顯すべし』
22 イスカリオテならぬユダ言ふ『主よ、何故おのれ
を我らに顯して、世には顯し給はぬか』23 イエス答
へて言ひ給ふ『人もし我を愛せば、わが言を守らん
、わが父これを愛し、かつ我等その許に來りて住處

を之とともにせん。24 我を愛せぬ者は、わが言を守らず。汝らが聞くところの言は、わが言にあらず、我を遣し給ひし父の言なり。25 此等のことは我なんぢらと偕にありて語りしが、26 助主すなはちわが名によりて父の遣したまふ聖靈は、汝らに萬の事ををしへ、又すべて我が汝らに言ひしことを思ひ出さしむべし。27 われ平安を汝らに遣す、わが平安を汝らに與ふ。わが與ふるは世の與ふる如くならず、なんぢら心を騒がすな、また懼るな。28 「われ往きて汝らに來るなり」と云ひしを汝ら既に聞けり。もし我を愛せば、父にわが往くを喜ぶべきなり、父は我よりも大なるに因る。29 今その事の成らぬ前に、これを汝らに告げたり、事の成らんとき汝らの信ぜんためなり。30 今より後われ汝らと多く語らじ、この世の君きたる故なり。彼は我に對して何の權もなし、31 されど斯くなるは、私の、父を愛し、父の命じ給ふところに遵ひて行ふことを、世の知らん爲なり。起きよ、いざ此處を去るべし。

15 我は眞の葡萄の樹、わが父は農夫なり。2 おほよそ我にありて果を結ばぬ枝は、父これを除き、果を結ぶものは、いよいよ果を結ばせん爲に之を潔めたまふ。3 汝らは既に潔し、わが語りたる言に困りてなり。4 我に居れ、さらば我なんぢらに居らん。枝もし樹に居らずば、自ら果を結ぶこと能はぬごとく、汝らも我に居らずば亦然り。5 我は葡萄の樹、なんぢらは枝なり。人もし我にをり、我また彼にをらば、多くの果を結ぶべし。汝ら我を離るれば、何事をも爲し能はず。6 人もし我に居らずば、枝のごとく外に棄てられて枯る、人々これを集め火に投げ

入れて焼くなり。7 汝等もし我に居り、わが言なんぢらに居らば、何にても望に随ひて求めよ、さらば成らん。8 なんぢら多くの果を結ばば、わが父は榮光を受け給ふべし、而して汝等わが弟子とならん。9 父の我を愛し給ひしごとく、我も汝らを愛したり、わが愛に居れ。10 なんぢら若しわが誠命をまもらば、我が愛にをらん、我わが父の誠命を守りて、その愛に居るがごとし。11 我これらの事を語りたるは、我が喜悦の汝らに在り、かつ汝らの喜悦の満されん爲なり。12 わが誠命は是なり、わが汝らを愛せしごとく互に相愛せよ。13 人その友のために己の生命を棄つる、之より大なる愛はなし。14 汝等もし我が命ずる事をおこなはば、我が友なり。15 今よりのち我なんぢらを僕といはず、僕は主人のなす事を知らざるなり。我なんぢらを友と呼べり、我が父に聽きし凡てのことを汝らに知らせたればなり。16 汝ら我を選びしにあらず、我なんぢらを選べり。而して汝らの往きて果を結び、且その果の残らんために、又おほよそ我が名によりて父に求むるものを、父の賜はんために汝らを立てたり。17 これらの事を命ずるは、汝らの互に相愛せん爲なり。18 世もし汝らを憎まば、汝等より先に我を憎みたることを知れ。19 汝等もし世のものならば、世は己がものを愛するならん。汝らは世のものならず、我なんぢらを世より選びたり。この故に世は汝らを憎む。20 わが汝らに「僕はその主人より大ならず」と告げし言をおぼえよ。人もし我を責めしならば、汝等をも責め、わが言を守りしならば、汝らの言をも守らん。21 すべて此等のことを我が名の故に汝らに爲さん、それは

我を遣し給ひし者を知らぬに因る。 **22** われ來りて語らざりしならば、彼ら罪なかりしならん。されど今はその罪いひのがるべき様なし。 **23** 我を憎むものは我が父をも憎むなり。 **24** 我もし誰もいまだ行はぬ事を彼らの中に行はざりしならば、彼ら罪なかりしならん。されど今ははや我をも我が父をも見たり、また憎みたり。 **25** これは彼らの律法に「ひとびと故なくして我を憎めり」と録したる言の成就せん爲なり。 **26** 父の許より我が遣さんとする助主、すなはち父より出づる眞理の御靈のきたらんとき、我につきて證せん。 **27** 汝等もまた初より我とともに在りたれば證するなり。

16 我これらの事を語りたるは、汝らの躓かざらん爲なり。 **2** 人なんぢらを除名すべし、然のみならず、汝らを殺す者みな自ら神に事ふと思ふとき來らん。 **3** これらの事をなすは、父と我とを知らぬ故なり。 **4** 我これらの事を語りたるは、時いたりて我が斯く言ひしことを汝らの思ひいでん爲なり。初より此等のことを言はざりしは、我なんぢらと偕に在りし故なり。 **5** 今われを遣し給ひし者にゆく、然るに汝らの中、たれも我に「何處にゆく」と問ふ者なし。 **6** 唯これらの事を語りしによりて、憂なんぢらの心にみたり。 **7** されど、われ實を汝らに告ぐ、わが去るは汝らの益なり。我さらずば助主なんぢらに來らじ、我ゆかば之を汝らに遣さん。 **8** かれ來らんとき、世をして罪につき、義につき、審判につきて、過てるを認めしめん。 **9** 罪に就きてとは、彼ら我を信ぜぬに因りてなり。 **10** 義に就きてとは、われ父にゆき、汝ら今より我を見ぬに因りてなり。 **11** 審判に就き

てとは、此の世の君さばかりに困りてなり。 12 我なほ汝らに告ぐべき事あまたあれど、今なんぢら得耐へず。 13 されど彼すなはち眞理の御靈きたらん時、なんぢらを導きて眞理をことごとく悟らしめん。かれ己より語るにあらず、凡そ聞くところの事を語り、かつ來らんとする事どもを汝らに示さん。 14 彼はわが榮光を顯さん、それは我がものを受けて汝らに示すべければなり。 15 すべて父の有ち給ふものは我がものなり、此の故に我がものを受けて汝らに示さんと云へるなり。 16 暫くせば汝ら我を見ず、また暫くして我を見るべし』 17 ここに弟子たちのうち或者たがひに言ふ『「暫くせば我を見ず、また暫くして我を見るべし」と言ひ、かつ「父に往くによりて」と言ひ給へるは、如何なることぞ』 18 復いふ『この暫くとは如何なることぞ、我等その言ひ給ふところを知らず』 19 イエスその間はんと思へるを知りて言ひ給ふ『なんぢら「暫くせば我を見ず、また暫くして我を見るべし」と我が言ひしを尋ねあふか。 20 誠にまことに汝らに告ぐ、なんぢらは泣き悲しみ、世は喜ばん。汝ら憂ふべし、然れどその憂は喜悅とならん。 21 をんな産まんとする時は憂あり、その期いたるに困りてなり。子を産みてのちは苦痛をおぼえず、世に人の生れたる喜悅によりてなり。 22 斯く汝らも今は憂あり、されど我ふたたび汝らを見ん、その時なんぢらの心よろこぶべし、その喜悅を奪ふ者なし。 23 かの日には汝ら何事をも我に問ふまじ。誠にまことに汝らに告ぐ、汝等のすべて父に求むる物をば、我が名によりて賜ふべし。 24 なんぢら今までは何をも我が名によりて求めたることなし。求め

よ、然らば受けん、而して汝らの喜悅みたさるべし。
25 我これらの事を譬にて語りたりしが、また譬にて語らず、明白に父のことを汝らに告ぐるとき來らん。26 その日には汝等わが名によりて求めん。我は汝らの爲に父に請ふと言はず、27 父みづから汝らを愛し給へばなり。これ汝等われを愛し、また我の父より出で來りしことを信じたるに因る。28 われ父より出でて世にきたれり、また世を離れて父に往くなり』29 弟子たち言ふ『視よ、今は明白に語りて聊かも譬をいひ給はず。30 我ら今なんぢの知り給はぬ所なく、また人の汝に問ふを待ち給はぬことを知る。之によりて汝の神より出できたり給ひしことを信ず』31 イエス答へ給ふ『なんぢら今、信ずるか。32 視よ、なんぢら散されて各自おのが處にゆき、我をひとり遺すとき到らん、否すでに到れり。然れど我ひとり居るにあらず、父われと偕に在すなり。33 此等のことを汝らに語りたるは、汝ら我に在りて平安を得んが爲なり。なんぢら世にありては患難あり、されど雄々しかれ。我すでに世に勝てり』

17 イエスこれらの事を語りて、目を擧げ天を仰ぎて言ひ給ふ『父よ、時來れり、子が汝の榮光を顯さんために、汝の子の榮光を顯したまへ。2 汝より賜はりし凡ての者に、永遠の生命を與へしめんとて、萬民を治むる權威を子に賜ひたればなり。(aiōnios g166) 3 永遠の生命は、唯一の眞の神にいます汝と、なんぢの遣し給ひしイエス・キリストとを知るにあり。(aiōnios g166) 4 我に成さしめんとて汝の賜ひし業を成し遂げて、我は地上に汝の榮光をあらはせり。5 父よ、まだ世のあらぬ前に、わが汝と偕にもちたり

し榮光をもて、今 御前にて我に榮光あらしめ給へ。

6 世の中より我に賜ひし人々に、われ御名をあらはせり。彼らは汝の有なるを我に賜へり、而して彼らは汝の言を守りたり。 **7** 今かれらは、凡て我に賜ひしものの汝より出づるを知る。 **8** 我は我に賜ひし言を彼らに與へ、彼らは之を受け、わが汝より出でたるを眞に知り、なんぢの我を遣し給ひしことを信じたるなり。 **9** 我かれらの爲に願ふ、わが願ふは世のためにあらず、汝の我に賜ひたる者のためなり、彼らは即ち汝のものなり。 **10** 我がものは皆なんぢの有、なんぢの有は我がものなり、我かれらより榮光を受けたり。 **11** 今より我は世に居らず、彼らは世に居り、我は汝にゆく。聖なる父よ、我に賜ひたる汝の御名の中に彼らを守りたまへ。これ我等のごとく、彼らの一つとならん爲なり。 **12** 我かれらと偕にをる間、われに賜ひたる汝の御名の中に彼らを守り、かつ保護したり。其のうち一人だに亡びず、ただ亡の子のみ亡びたり、聖書の成就せん爲なり。 **13** 今は我なんぢに往く、而して此等のことを世に在りて語るは、我が喜悅を彼らに全からしめん爲なり。 **14** 我は御言を彼らに與へたり、而して世は彼らを憎めり、我の世のものならぬごとく、彼らも世のものならぬに困りてなり。 **15** わが願ふは、彼らを世より取り給はんことならず、惡より免れさせ給はんことなり。 **16** 我の世のものならぬ如く、彼らも世のものならず。 **17** 眞理にて彼らを潔め別ちたまへ、汝の御言は眞理なり。 **18** 汝われを世に遣し給ひし如く、我も彼らを世に遣せり。 **19** また彼等のために我は己を潔めわかつ、これ眞理にて彼らも潔め別たれん爲なり。 **20**

我かれらの爲のみならず、その言によりて我を信ずる者のためにも願ふ。 21 これ皆一つとならん爲なり。父よ、なんぢ我に在し、我なんぢに居るごとく、彼らも我らに居らん爲なり、是なんぢの我を遣し給ひしことを世の信ぜん爲なり。 22 我は汝の我に賜ひし榮光を彼らに與へたり、是われらの一つなる如く、彼らも一つとならん爲なり。 23 即ち我かれらに居り、汝われに在し、彼ら一つとなりて全くせられん爲なり、是なんぢの我を遣し給ひしことと、我を愛し給ふごとく彼らをも愛し給ふこととを、世の知らん爲なり。 24 父よ、望むらくは、我に賜ひたる人々の我が居るところに我と偕にをり、世の創の前より我を愛し給ひしによりて、汝の我に賜ひたる我が榮光を見んことを。 25 正しき父よ、げに世は汝を知らず、されど我は汝を知り、この者どもも汝の我を遣し給ひしことを知れり。 26 われ御名を彼らに知らしめたり、復これを知らしめん。これ我を愛し給ひたる愛の、彼らに在りて、我も彼らに居らん爲なり』

18 此等のことを言ひ終へて、イエス弟子たちと偕にケデロンの小川の彼方に出でたまふ。彼処に園あり、イエス弟子たちとともども入り給ふ。 2 ここは弟子たちと屢々あつまり給ふ處なれば、イエスを賣るユダもこの處を知れり。 3 かくてユダは一組の兵隊と祭司長・パリサイ人等よりの下役どもを受け、炬火・燈火・武器を携へて此處にきたる。 4 イエス己に臨まんとする事をことごとく知り、進みいでて彼らに言ひたまふ『誰を尋ぬるか』 5 答ふ『ナザレのイエスを』 イエス言ひたまふ『我はそれなり』 イエスを賣るユダも彼らと共に立てり。 6 『我は

それなり』と言ひ給ひし時、かれら後退して地に倒れたり。7ここに再び『たれを尋ぬるか』と問ひ給へば『ナザレのイエスを』と言ふ。8イエス答へ給ふ『われは夫なりと既に告げたり、我を尋ぬるならば此の人々の去るを容せ』9これさきに『なんぢの我に賜ひし者の中より、われ一人をも失はず』と言ひ給ひし言の成就せん爲なり。10シモン・ペテロ劍をもちたるが、之を抜き大祭司の僕を撃ちて、その右の耳を斬り落す、僕の名はマルコスと云ふ。11イエス、ペテロに言ひたまふ『劍を鞘に收めよ、父の我に賜ひたる酒杯は、われ飲まざらんや』12ここにかの兵隊・千卒長・ユダヤ人の下役ども、イエスを捕へて縛り、13先づアンナスの許に曳き往く、アンナスはその年の大祭司なるカヤパの舅なり。14カヤパはさきにユダヤ人に、一人、民のために死ぬるは益なる事を勧めし者なり。15シモン・ペテロ及び他の一人の弟子、イエスに従ふ。この弟子は大祭司に知られたる者なれば、イエスと共に大祭司の庭に入りしが、16ペテロは門の外に立てり。ここに大祭司に知られたる彼の弟子いでて、門を守る女に物言ひてペテロを連れ入れしに、17門を守る婢女、ペテロに言ふ『なんぢも彼の人の弟子の一人なるか』かれ言ふ『然らず』18時寒くして僕・下役ども炭火を熾し、その傍らに立ちて煖まり居りしに、ペテロも共に立ちて煖まりゐたり。19ここに大祭司、イエスにその弟子とその教とにつきて問ひたれば、20イエス答へ給ふ『われ公然に世に語れり、凡てのユダヤ人の相集ふ會堂と宮とにて常に教へ、密には何をも語りし事なし。21何ゆゑ我に問ふか、我が語

れることは聴きたる人々に問へ。視よ、彼らは我が言ひしことを知るなり』 22 かく言ひ給ふとき、傍らに立つ下役の一人、手掌にてイエスを打ちて言ふ『かくも大祭司に答ふるか』 23 イエス答へ給ふ『わが語りし言もし悪しくば、その悪しき故を證せよ。善くば何とて打つぞ』 24 ここにアンナス、イエスを縛りたるままにて、大祭司カヤパの許に送れり。 25 シモン・ペテロ立ちて煖まり居たるに、人々いふ『なんぢも彼が弟子の一人なるか』 否みて言ふ『然らず』 26 大祭司の僕の一にて、ペテロに耳を斬り落されし者の親族なるが言ふ『われ汝が園にて彼と偕なるを見しならずや』 27 ペテロまた否む折しも鶏鳴きぬ。 28 かくて人々イエスをカヤパの許より官邸にひきゆく、時は夜明なり。彼ら過越の食をなさんために、汚穢を受けじとて己らは官邸に入らず。 29 ここにピラト彼らの前に出でゆきて言ふ『この人に對して如何なる訴訟をなすか』 30 答へて言ふ『もし惡をなしたる者ならずば汝に付さじ』 31 ピラト言ふ『なんぢら彼を引取り、おのが律法に循ひて審け』 ユダヤ人いふ『我らに人を殺す權威なし』 32 これイエス、己が如何なる死にて死ぬるかを示して、言ひ給ひし御言の成就せん爲なり。 33 ここにピラトまた官邸に入り、イエスを呼び出して言ふ『なんぢはユダヤ人の王なるか』 34 イエス答へ給ふ『これは汝おのれより言ふか、將わが事を人の汝に告げたるか』 35 ピラト答ふ『我はユダヤ人ならんや、汝の國人・祭司長ら汝を我に付したり、汝なにを爲ししぞ』 36 イエス答へ給ふ『わが國はこの世のものならず、若し我が國この世のものならば、我が僕ら我をユダヤ

人に付きじと戦ひしならん。然れど我が國は此の世よりのものならず』 37ここにピラト言ふ『されば汝は王なるか』 イエス答へ給ふ『われの王たることは汝の言へるごとし。我は之がために生れ、之がために世に來れり、即ち眞理につきて證せん爲なり。凡て眞理に屬する者は我が聲をきく』 38ピラト言ふ『眞理とは何ぞ』 かく言ひて再びユダヤ人の前に出でて言ふ『我この人に何の罪あるをも見ず。 39過越のとき我なんぢらに一人の囚人を赦す例あり、されば汝らユダヤ人の王をわが赦さんことを望むか』 40彼らまた叫びて『この人ならず、バラバを』と言ふ、バラバは強盜なり。

19ここにピラト、イエスをとりにて鞭うつ。 2兵卒ども茨にて冠冕をあみ、その首にかむらせ、紫色の上衣をきせ、 3御許に進みて言ふ『ユダヤ人の王やすかれ』而して手掌にて打てり。 4ピラト再び出でて人々にいふ『視よ、この人を汝らに引出す、これは何の罪あるをも我が見ぬことを汝らの知らん爲なり』 5ここにイエス茨の冠冕をかむり、紫色の上衣をきて出で給へば、ピラト言ふ『視よ、この人なり』 6祭司長・下役どもイエスを見て叫びいふ『十字架につけよ、十字架につけよ』ピラト言ふ『なんぢら自らとりて十字架につけよ、我は彼に罪あるを見ず』 7ユダヤ人こたふ『我らに律法あり、その律法によれば死に當るべき者なり、彼はおのれを神の子となせり』 8ピラトこの言をききて増々おそれ、 9再び官邸に入りてイエスに言ふ『なんぢは何處よりぞ』 イエス答をなし給はず。 10ピラト言ふ『われに語らぬか、我になんぢを赦す權威あり、また十字架

につくる權威あるを知らぬか』 11 イエス答へ給ふ『なんぢ上より賜はらずば、我に對して何の權威もなし。この故に我をなんぢに付しし者の罪は更に大なり』 12 ここにおいてピラト、イエスを赦さんことを力む。されどユダヤ人さけびて言ふ『なんぢ若しこの人を赦さば、カイザルの忠臣にあらず、凡そおのれを王となす者はカイザルに叛くなり』 13 ピラトこれらの言をききて、イエスを外にひきゆき、敷石（ヘブル語にてガバタ）といふ處にて審判の座につく。 14 この日は過越の準備日にて、時は第六時ごろなりき。ピラト、ユダヤ人にいふ『視よ、なんぢらの王なり』 15 かれら叫びていふ『除け、除け、十字架につけよ』ピラト言ふ『われ汝らの王を十字架につくべけんや』祭司長ら答ふ『カイザルの他われらに王なし』 16 ここにピラト、イエスを十字架に釘くるために彼らに付せり。彼らイエスを受取りたれば、 17 イエス己に十字架を負ひて、髑髏（ヘブル語にてゴルゴダ）といふ處に出でゆき給ふ。 18 其處にて彼らイエスを十字架につく。又ほかに二人の者とともに十字架につけ、一人を右に、一人を左に、イエスを真中に置けり。 19 ピラト罪標を書きて十字架の上に掲ぐ『ユダヤ人の王、ナザレのイエス』と記したり。 20 イエスを十字架につけし處は都に近ければ、多くのユダヤ人この標を読む、標はヘブル、ロマ、ギリシヤの語にて記したり。 21 ここにユダヤ人の祭司長らピラトに言ふ『ユダヤ人の王と記さず、我はユダヤ人の王なりと自稱せりと記せ』 22 ピラト答ふ『わが記したることは記したるままに』 23 兵卒どもイエスを十字架につけし後、その衣をとりて四つに

分け、おのおの其の一つを得たり。また下衣を取りしが、下衣は縫目なく、上より惣て織りたる物なれば、**24**兵卒ども互にいふ『これを裂くな、誰がうるか鬪にすべし』これは聖書の成就せん爲なり。曰く『かれら互にわが衣をわけ、わが衣を鬪にせり』兵卒ども斯くなしたり。**25**さてイエスの十字架の傍らには、その母と母の姉妹と、クロパの妻マリヤとマグダラのマリヤと立てり。**26**イエスその母とその愛する弟子との近く立てるを見て、母に言ひ給ふ『をんなよ、視よ、なんぢの子なり』**27**また弟子に言ひたまふ『視よ、なんぢの母なり』この時より、その弟子かれを己が家に接けたり。**28**この後イエス萬の事の終りたるを知りて、――聖書の全うせられん爲に――『われ渴く』と言ひ給ふ。**29**ここに酸き葡萄酒の満ちたる器あり、その葡萄酒のふくみたる海綿をヒソプに著けてイエスの口に差附く。**30**イエスの葡萄酒をうけて後いひ給ふ『事 畢りぬ』遂に首をたれて靈をわたし給ふ。**31**この日は準備日なれば、ユダヤ人、安息日に屍體を十字架のうへに留めおかじとて（殊にこの度の安息日は大なる日なるにより）ピラトに、彼らの脛ををりて屍體を取除かんことを請ふ。**32**ここに兵卒ども來りて、イエスとともに十字架に釘けられたる第一の者と他のものとの脛を折り、**33**而してイエスに來りしに、はや死に給ふを見て、その脛を折らず。**34**然るに一人の兵卒、鎗にてその脅をつきたれば、直ちに血と水と流れいづ。**35**之を見しもの證をなす、其の證は眞なり、彼はその言ふことの眞なるを知る、これ汝等にも信ぜしめん爲なり。**36**此等のことの成りたるは『その骨くだ

かれず』とある聖句の成就せん爲なり。37 また他に『かれら己が刺したる者を見るべし』と云へる聖句あり。38 この後、アリマタヤのヨセフとて、ユダヤ人を懼れ密にイエスの弟子たりし者、イエスの屍體を引取らんことをピラトに請ひたれば、ピラト許せり、乃ち往きてその屍體を引取る。39 また曾て夜御許に來りしニコデモも、沒藥・沈香の混和物を百斤ばかり携へて來る。40 ここに彼らイエスの屍體をとり、ユダヤ人の葬りの習慣にしたがひて、香料とともに布にて巻けり。41 イエスの十字架につけられ給ひし處に園あり、園の中にいまだ人を葬りしことなき新しき墓あり。42 ユダヤ人の準備日なれば、この墓の近きままに其處にイエスを納めたり。

20 一週のはじめの日、朝まだき暗きうちに、マグダラのマリヤ墓にきたりて、墓より石の取除けあるを見る。2 乃ち走りゆき、シモン・ペテロとイエスの愛し給ひしかの弟子との許に到りて言ふ『たれか主を墓より取去れり、何處に置きしか我ら知らず』3 ペテロと、かの弟子といでて墓にゆく。4 二人ともに走りたいど、かの弟子ペテロより疾く走りて先に墓にいたり、5 屈みて布の置きたるを見れど、内には入らず。6 シモン・ペテロ後れ來り、墓に入りて布の置きたるを視、7 また首を包みし手拭は布とともに在らず、他のところに巻きてあるを見る。8 先に墓にきたれる彼の弟子もまた入り、之を見て信ず。9 彼らは聖書に録したる、死人の中よりその甦へり給ふべきことを未だ悟らざりしなり。10 遂に二人の弟子おのが家にかへれり。11 然れどマリヤは墓の外に立ちて泣き居りしが、泣きつつ屈みて墓の内を

見るに、**12** イエスの屍體の置かれし處に、白き衣をきたる二人の御使、首の方にひとり足の方にひとり坐しゐたり。**13** 而してマリヤに言ふ『をんなよ、何ぞ泣くか』マリヤ言ふ『誰かわが主を取去れり、何處に置きしか我しらず』**14** かく言ひて後に振反れば、イエスの立ち居給ふを見る、されどイエスたるを知らず。**15** イエス言ひ給ふ『をんなよ、何ぞ泣く、誰を尋ぬるか』マリヤは園守ならんと思ひて言ふ『君よ、汝もし彼を取去りしならば、何處に置きしかを告げよ、われ引取るべし』**16** イエス『マリヤよ』と言ひ給ふ。マリヤ振反りて『ラボニ』（釋けば師よ）と言ふ。**17** イエス言ひ給ふ『われに觸るな、我いまだ父の許に昇らぬ故なり。我が兄弟たちに往きて「我はわが父すなはち汝らの父、わが神すなはち汝らの神に昇る」といへ』**18** マグダラのマリヤ往きて弟子たちに『われは主を見たり』と告げ、また云々の事を言ひ給ひしと告げたり。**19** この日すなはち一週のはじめの日の夕、弟子たちユダヤ人を懼るるに因りて、居るところの戸を閉ぢおきしに、イエスキたり彼らの中に立ちて言ひたまふ『平安なんぢらに在れ』**20** 斯く言ひてその手と脅とを見せたまふ、弟子たち主を見て喜び。**21** イエスまた言ひたまふ『平安なんぢらに在れ、父の我を遣し給へるごとく、我も亦なんぢらを遣す』**22** 斯く言ひて、息を吹きかけ言ひたまふ『聖靈をうけよ。**23** なんじら誰の罪を赦すとも其の罪ゆるされ、誰の罪を留むるとも其の罪とどめらるべし』**24** イエス來り給ひしとき、十二弟子の一人デドモと稱ふるトマスともに居らざりしかば、**25** 他の弟子これに言ふ『われら主を見た

り』トマスいふ『我はその手に釘の痕を見、わが指を釘の痕にさし入れ、わが手をその脅に差入るるにあらざば信ぜじ』 26 八日ののち弟子たちまた家にをり、トマスも偕に居りて戸を閉ぢおきしに、イエス來り、彼らの中に立ちて言ひたまふ『平安なんぢらに在れ』 27 またトマスに言ひ給ふ『なんぢの指をここに伸べて、わが手を見よ、汝の手をのべて、我が脅にさしいれよ、信ぜぬ者とならで信ずる者となれ』 28 トマス答へて言ふ『わが主よ、わが神よ』 29 イエス言ひ給ふ『なんぢ我を見しによりて信じたり、見ずして信ずる者は幸福なり』 30 この書に録さざる外の多くの徴を、イエス弟子たちの前にて行ひ給へり。 31 されど此等の事を録ししは、汝等をしてイエスの神の子キリストたることを信ぜしめ、信じて御名により生命を得しめんが爲なり。

21 この後、イエス復テベリヤの海邊にて己を弟子たちに現し給ふ、その現れ給ひしこと左のごとし。
2 シモン・ペテロ、デドモと稱ふるトマス、ガリラヤのカナのナタナエル、ゼベダイの子ら及びほかの弟子二人もともに居りしに、 3 シモン・ペテロ『われ漁獵にゆく』と言へば、彼ら『われらも共に往かん』と言ひ、皆いでて舟に乗りしが、その夜は何をも得ざりき。 4 夜明の頃イエス岸に立ち給ふに、弟子たち其のイエスなるを知らず。 5 イエス言ひ給ふ『子どもよ、獲物ありしか』彼ら『なし』と答ふ。 6 イエス言ひたまふ『舟の右のかたに網をおろせ、然らば獲物あらん』乃ち網を下したるに、魚おびただしくして、網を曳き上ぐるに能はざりしかば、 7 イエスの愛し給ひし弟子、ペテロに言ふ『主なり』

シモン・ペテロ『主なり』と聞きて、裸なりしを上衣をまとひて海に飛びいれり。 8 他の弟子たちは陸を離ること遠からず、僅に五十間ばかりなりしかば、魚の入りたる網を小舟にて曳き來り、 9 陸に上りて見れば、炭火ありてその上に肴あり、又パンあり。 10 イエス言ひ給ふ『なんぢらの今とりたる肴を少し持ちきたれ』 11 シモン・ペテロ舟に往きて網を陸に曳き上げしに、百五十三尾の大なる魚満ちたり、斯く多かりしが網は裂けざりき。 12 イエス言ひ給ふ『きたりて食せよ』弟子たちその主なるを知れば『なんぢは誰ぞ』と敢へて問ふ者もなし。 13 イエス進みてパンをとり彼らに與へ、肴をも然なし給ふ。 14 イエス死人の中より甦へりてのち、弟子たちに現れ給ひし事、これにて三度なり。 15 かくて食したる後、イエス、シモン・ペテロに言ひ給ふ『ヨハネの子シモンよ、汝この者どもに勝りて我を愛するか』ペテロいふ『主よ、然り、わが汝を愛する事は、なんぢ知り給ふ』イエス言ひ給ふ『わが羔羊を養へ』 16 また二度いひ給ふ『ヨハネの子シモンよ、我を愛するか』ペテロ言ふ『主よ、然り、わが汝を愛する事は、なんぢ、知り給ふ』イエス言ひ給ふ『わが羊を牧へ』 17 三度いひ給ふ『ヨハネの子シモンよ、我を愛するか』ペテロ三度『われを愛するか』と言ひ給ふを憂ひて言ふ『主よ、知りたまはぬ處なし、わが汝を愛する事は、なんぢ識りたまふ』イエス言ひ給ふ『わが羊をやしなへ。 18 まことに誠になんぢに告ぐ、なんぢ若かりし時は自ら帶して欲する處を歩めり、されど老いては手を伸べて他の人に帶せられ、汝の欲せぬ處に連れゆかれん』 19 これペテロが

如何なる死にて神の榮光を顯すかを示して言ひ給ひしなり。斯く言ひて後かれに言ひ給ふ『われに従へ』 **20** ペテロ振反りて、イエスの愛したまひし弟子の従ふを見る。これはさきに夕餐のとき御胸に寄りかかりて『主よ、汝を賣る者は誰か』と問ひし弟子なり。 **21** ペテロこの人を見てイエスに言ふ『主よ、この人は如何に』 **22** イエス言ひ給ふ『よしや我、かれが私の來るまで留るを欲すとも、汝になにの關係あらんや、汝は我に従へ』 **23** ここに兄弟たちの中に、この弟子 死なずと云ふ話つたはりたり。されどイエスは死なずと言ひ給ひしにあらず『よしや我、かれが私の來るまで留るを欲すとも、汝になにの關係あらんや』と言ひ給ひしなり。 **24** これらの事につきて、證をなし、又これを録しし者は、この弟子なり、我等はその證の眞なるを知る。 **25** イエスの行ひ給ひし事は、この外なほ多し、もし一つ一つ録さば、我おもふに世界もその録すところの書を載するに耐へざらん。

使徒の働き

1 テオピロよ、我さきに前の書をつくりて、凡そイエスの行ひはじめ教へはじめ給ひしより、**2** その選り給へる使徒たちに、聖靈によりて命じたるのち、擧げられ給ひし日に至るまでの事を記せり。**3** イエスは苦難をうけしのち、多くの慥なる證をもて、己の活きたることを使徒たちに示し、四十日の間、しばしば彼らに現れて、神の國のことを語り、**4** また彼等とともに集りゐて命じたまふ『エルサレムを離れずして、我より聞きし父の約束を待て。**5** ヨハネは水にてバプテスマを施ししが、汝らは日ならずして聖靈にてバプテスマを施されん』**6** 弟子たち集れるとき問ひて言ふ『主よ、イスラエルの國を回復し給ふは此の時なるか』**7** イエス言ひたまふ『時また期は父おのれの權威のうちに置き給へば、汝らの知るべきにあらず。**8** 然れど聖靈なんぢらの上に臨むとき、汝ら能力をうけん、而してエルサレム、ユダヤ全國、サマリヤ、及び地の極にまで我が證人とならん』**9** 此等のことを言ひ終りて、彼らの見るがうちに擧げられ給ふ。雲これを受けて見えざらしめたり。**10** その昇りゆき給ふとき、彼ら天に目を注ぎみたりしに、視よ、白き衣を著たる二人の人かたはらに立ちて言ふ、**11** 『ガリラヤの人々よ、何ゆゑ天を仰ぎて立つか、汝らを離れて天に擧げられ給ひし此のイエスは、汝らが天に昇りゆくを見たるその如く復きたり給はん』**12** ここに彼等オリブといふ山よりエルサレムに歸る。この山はエルサレムに近く、安息日の道程なり。**13** 既に入りてその留りをる高樓に登る。ペテロ、ヨハネ、ヤコブ及びアンデレ、ピ

リポ及びトマス、バルトロマイ及びマタイ、アルパヨの子ヤコブ、熱心 黨のシモン及びヤコブの子ユダなり。 14 この人々はみな女たち及びイエスの母マリヤ、イエスの兄弟たちと共に、心を一つにして只管いのりを務めたり。 15 その頃ペテロ、百二十名ばかり共に集りて群をなせる兄弟たちの中に立ちて言ふ、 16 『兄弟たちよ、イエスを捕ふる者どもの手引となりしユダにつきて、聖 靈ダビデの口によりて預じめ言ひ給ひし聖書は、かならず成就せざるを得ざりしなり。 17 彼は我らの中に數へられ、此の務に與りたればなり。 18 (この人は、かの不義の價をもて地所を得、また俯伏に墜ちて直中より裂けて臟腑みな流れ出でたり。 19 この事エルサレムに住む凡ての人に知られて、その地所は國語にてアケルダマと稱へらる、血の地所との義なり) 20 それは詩篇に録して「彼の住處は荒れ果てよ、人その中に住はざれ」と云ひ、又「その職はほかの人に得させよ」と云ひたり。 21 然れば主イエス我等のうちに往來し給ひし間、 22 即ちヨハネのバプテスマより始り、我らを離れて擧げられ給ひし日に至るまで、常に我らと偕に在りし此の人々のうち一人、われらと共に主の復活の證人となるべきなり』 23 ここにバルサバと稱へられ、またの名をユストと呼ぶるヨセフ及びマツテヤの二人をあげ、 24 祈りて言ふ『凡ての人の心を知りたまふ主よ、ユダ己が所に往かんとて此の務と使徒の職とより墮ちたれば、その後を繼がするに、此の二人のうち孰を選び給ふか示したまへ』 25 祈りて言ふ『凡ての人の心を知りたまふ主よ、ユダ己が所に往かんとて此の務と使徒の職とより墮ちたれ

ば、その後を繼がするに、此の二人のうち孰を選び給ふか示したまへ』 26 かくて鬪せしに、鬪はマツテヤに當りたれば、彼は十一の使徒に加へられたり。

2 五旬節の日となり、彼らみな一處に集ひ居りしに、**2** 烈しき風の吹ききたるとき響、にはかに天より起りて、その坐する所の家に満ち、**3** また火の如きもの舌のやうに現れ、分れて各人の上にとどまる。**4** 彼らみな聖靈にて満され、御靈の宣べしむるままに異邦の言にて語りはじむ。**5** 時に敬虔なるユダヤ人ら、天下の國々より來りてエルサレムに住み居りしが、**6** この音おこりたれば群衆あつまり來り、おのおの己が國語にて使徒たちの語るを聞いて騒ぎ合ひ、**7** かつ驚き怪しみて言ふ『視よ、この語る者は皆ガリラヤ人ならずや、**8** 如何にして我等おのおのの生れし國の言をきくか。**9** 我等はパルテヤ人、メヂヤ人、エラム人、またメソポタミヤ、ユダヤ、カパドキヤ、ポント、アジヤ、**10** フルギヤ、パンフリヤ、エジプト、リビヤのクレネに近き地方などに住む者、ロマよりの旅人——ユダヤ人および改宗者——**11** クレテ人およびアラビヤ人なるに、我が國語にて彼らが神の大なる御業をかたるを聞かんとは』**12** みな驚き惑ひて互に言ふ『これ何事ぞ』 **13** 或者どもは嘲りて言ふ『かれらは甘き葡萄酒にて満されたり』 **14** ここにペテロ十一の使徒とともに立ち、聲を揚げ宣べて言ふ『ユダヤの人々および凡てエルサレムに住める者よ、汝等わが言に耳を傾けて、この事を知れ。**15** 今は朝の九時なれば、汝らの思ふごとく彼らは酔ひたるに非ず、**16** これは預言者ヨエルによりて言はれたる所なり。**17** 「神いひ給はく、末の

世に至りて、我が靈を凡ての人に注がん。汝らの子女は預言し、汝らの若者は幻影を見、なんぢらの老人は夢を見るべし。 18 その世に至りて、わが僕・婢女にわが靈を注がん、彼らは預言すべし。 19 われ上は天に不思議を、下は地に徴をあらはさん、即ち血と火と煙の氣とあるべし。 20 主の大なる顯著しき日のきたる前に、日は闇に月は血に變らん。 21 すべて主の御名を呼び頼む者は救はれん」 22 イスラエルの人々よ、これらの言を聽け。ナザレのイエスは、汝らの知るごとく、神かれに由りて汝らの中に行ひ給ひし能力ある業と不思議と徴とをもて、汝らに證し給へる人なり。 23 この人は神の定め給ひし御旨と、預じめ知り給ふ所とによりて付されしが、汝ら不法の人の手をもて釘磔にして殺せり。 24 然れど神は死の苦難を解きて之を甦へらせ給へり。彼は死に繋がれをるべき者ならざりしなり。 25 ダビデ彼につきて言ふ「われ常に我が前に主を見たり、我が動かされぬ爲に我が右に在せばなり。 26 この故に我が心は樂しみ、我が舌は喜べり、かつ我が肉體もまた望の中に宿らん。 27 汝わが靈魂を黄泉に棄て置かず、汝の聖者の朽果つることを許し給はざればなり。(Hadēs g86) 28 汝は生命の道を我に示し給へり、御顔の前にて我に勸喜を満し給はん」 29 兄弟たちよ、先祖ダビデに就きて、われ憚らず汝らに言ふを得べし、彼は死にて葬られ、その墓は今日に至るまで我らの中にあり。 30 即ち彼は預言者にして、己の身より出づる者をおのれの座位に坐せしむることを、誓をもて神の約し給ひしを知り、 31 先見して、キリストの復活に就きて語り、その黄泉に棄て置かれず、その肉體

の朽果てぬことを言へるなり。(Hadēs g86) 32 神はこのイエスを甦へらせ給へり、我らは皆その證人なり。

33 イエスは神の右に擧げられ、約束の聖靈を父より受けて、汝らの見聞する此のものを注ぎ給ひしなり。

34 それダビデは天に昇りしことなし、然れど自ら言ふ「主わが主に言ひ給ふ、35 我なんぢの敵を汝の足臺となすまでは、わが右に坐せよ」と。

36 然ればイスラエルの全家は確と知るべきなり。汝らが十字架に釘けし此のイエスを、神は立てて主となし、キリストとなし給へり』

37 人々これを聞きて心を刺され、ペテロと他の使徒たちとに言ふ『兄弟たちよ、我ら何をなすべきか』

38 ペテロ答ふ『なんぢら悔改めて、おのおの罪の赦を得んために、イエス・キリストの名によりてバプテスマを受けよ、然らば聖靈の賜物を受けん。39 この約束は汝らと汝らの子らと、凡ての遠き者すなはち主なる我らの神の召し給ふ者にとに屬くなり』

40 この他なほ多くの言をもて證し、かつ勧めて『この曲れる代より救ひ出されよ』と言へり。

41 かくてペテロの言を聽納れし者はバプテスマを受く。この日、弟子に加はりたる者、おほよそ三千人なり。

42 彼らは使徒たちの教を受け、交際をなし、パンを擘き、祈禱をなすことを只管つとむ。

43 ここに人みな敬畏を生じ、多くの不思議と徴とは使徒たちに由りて行はれたり。

44 信じたる者はみな偕に居りて諸般の物を共にし、45 資産と所有とを賣り、各人の用に従ひて分け與へ、46 日々、心を一つにして弛みなく宮に居り、家にてパンをさき、歡喜と眞心とをもて食事をなし、47 神を讚美して一

般の民に悦ばる。かくて主は救はるる者を日々かれらの中に加へ給へり。

3 晝の三時いのりの時に、ペテロとヨハネと宮に上りしが、**2** ここに生れながらの跛者かかれて来る。宮に入る人より施濟を乞ふために、日々 宮の美麗といふ門に置かるるなり。**3** ペテロとヨハネとの宮に入らんとするを見て施濟を乞ひたれば、**4** ペテロ、ヨハネと共に目を注めて『我らを見よ』と言ふ。**5** かれ何をか受くるならんと、彼らを見つめたるに、**6** ペテロ言ふ『金銀は我になし、然れど我に有るものを汝に與ふ、ナザレのイエス・キリストの名によりて歩め』**7** 乃ち右の手を執りて起ししに、足の甲と踝骨とたちどころに強くなりて、**8** 躍り立ち歩み出して、且あゆみ且をどり、神を讚美しつつ彼らと共に宮に入れり。**9** 民みな其の歩み、また神を讚美するを見て、**10** 彼が前に乞食にて宮の美麗門に坐しるたるを知れば、この起りし事に就きて驚駭と奇異とに充ちたり。**11** かくて彼がペテロとヨハネとに取りすがり居るほどに、民みな甚だしく驚きてソロモンの廊と稱ふる廊に馳せつどふ。**12** ペテロこれを見て民に答ふ『イスラエルの人々よ、何ぞ此の事を怪しむか、何ぞ我らが己の能力と敬虔とによりて此の人を歩ませしごとく、我らを見つむるか。**13** アブラハム、イサク、ヤコブの神、われらの先祖の神は、その僕イエスに榮光あらしめ給へり。汝等このイエスを付し、ピラトの之を釋さんと定めしを、其の前にて否みたり。**14** 汝らは、この聖者・義人を否みて、殺人者を釋さんことを求め、**15** 生命の君を殺したれど、神はこれを死人の中より甦へらせ給へり、

我らは其の證人なり。 16 斯くてその御名を信ずるに因りてその御名は、汝らの見るところ識るところの此の人を健くしたり。イエスによる信仰は、汝等もろもろの前にて斯かる全癒を得させたり。 17 兄弟よ、われ知る、汝らが、かの事を爲ししは知らぬに因りてなり。汝らの司たちも亦然り。 18 然れど神は凡ての預言者の口をもて、キリストの苦難を受くべきことを預じめ告げ給ひしを、斯くは成就し給ひしなり。 19 然れば汝ら罪を消されん爲に、悔改めて心を轉ぜよ。 20 これ主の御前より慰安の時きたり、汝らの爲に預じめ定め給へるキリスト・イエスを遣し給はんとてなり。 21 古へより神が、その聖なる預言者の口によりて語り給ひし、萬物の革まる時まで、天は必ずイエスを受けおくべし。(aiōn g165) 22 モーセ云へらく「主なる神は汝らの兄弟の中より我がごとき預言者を起し給はん。その語る所のことは汝等ごとごとく聴くべし。 23 凡てこの預言者に聴かぬ者は民の中より滅し盡さるべし」 24 又サムエル以來かたりし預言者も、皆この時につきて宣傳へたり。 25 汝らは預言者たちの子孫なり、又なんぢらの先祖たちに神の立て給ひし契約の子孫なり、即ち神アブラハムに告げ給はく「なんぢの裔によりて地の諸族はみな祝福せらるべし」 26 神はその僕を甦へらせ、まづ汝らに遣し給へり、これ汝ら各人を、その罪より呼びかへして祝福せん爲なり』

4 かれら民に語り居るとき、祭司ら・宮守頭およびサドカイ人ら近づき來りて、 2 その民を教へ、又イエスの事を引きて死人の中よりの復活を宣ぶるを憂ひ、 3 手をかけて之を捕へしに、はや夕になりたれ

ば、明くる日まで留置場に入れたり。 4 然れど、その言を聴きたる人々の中にも信ぜし者おほくありて、男の數おほよそ五千人となりたり。 5 明くる日、司・長老・學者らエルサレムに會し、 6 大祭司アンナス、カヤパ、ヨハネ、アレキサンデル及び大祭司の一族みな集ひて、 7 その中にかの二人を立てて問ふ『如何なる能力いかなる名によりて此の事を行ひしぞ』 8 この時ペテロ聖靈にて滿され、彼らに言ふ『民の司たち及び長老たちよ、 9 我らが病める者になしし善き業に就き、その如何にして救はれしかを今日もし訊さるるならば、 10 汝ら一同およびイスラエルの民みな知れ、この人の健かになりて汝らの前に立つは、ナザレのイエス・キリスト、即ち汝らが十字架に釘け、神が死人の中より甦へらせ給ひし者の名に頼ることを。 11 このイエスは汝ら造家者に輕しめられし石にして、隅の首石となりたるなり。 12 他の者によりては救を得ることなし、天の下には我らの頼りて救はるべき他の名を、人に賜ひし事なければなり』 13 彼らはペテロとヨハネとの臆することなきを見、その無學の凡人なるを知りたれば、之を怪しみ、且そのイエスと偕にありし事を認む。 14 また醫されたる人の之とともに立つを見るによりて、更に言ひ消す辭なし。 15 ここに、命じて彼らを衆議所より退け、相共に議りて言ふ、 16 『この人々を如何にすべきぞ。彼等によりて顯著しき徴の行はれし事は、凡てエルサレムに住む者に知られ、我ら之を否むこと能はねばなり。 17 然れど愈々ひろく民の中に言ひ弘らぬやうに、彼らを脅かして、今より後かの名によりて誰にも語る事なからしめん』 18 乃ち彼

らを呼び、一切イエスの名によりて語り、また教へざらんことを命じたり。 19 ペテロとヨハネと答へていふ『神に聴くよりも汝らに聴くは、神の御前に正しきか、汝ら之を審け。 20 我らは見しこと聴きしことを語らざるを得ず』 21 民みな此の有りし事に就きて神を崇めたれば、彼らを罰するに由なく、更にまた脅かして釋せり。 22 かの徴によりて醫されし人は四十歳餘なりしなり。 23 彼ら釋されて、その友の許にゆき、祭司長・長老らの言ひし凡てのことを告げたれば、 24 之を聞きて皆心を一つにし、神に對ひ、聲を揚げて言ふ『主よ、汝は天と地と海と、其の中のあらゆる物とを造り給へり。 25 曾て聖靈によりて、汝の僕われらの先祖ダビデでの口をもて「何ゆゑ異邦人は騒ぎ立ち、民らは空しき事を謀るぞ。 26 世の王たちは共に立ち、司らは一つにあつまりて、主および其のキリストに逆ふ」と宣給へり。 27 果してヘロデとポンテオ・ピラトとは、異邦人およびイスラエルの民等とともに、汝の油そそぎ給ひし聖なる僕イエスに逆ひて、此の都にあつまり、 28 御手と御旨とにて、斯く成るべしと預じめ定め給ひし事をなせり。 29 主よ、今かれらの脅喝を御覽し、僕らに御言を聊かも臆することなく語らせ、 30 御手をのべて醫を施させ、汝の聖なる僕イエスの名によりて、徴と不思議とを行はせ給へ』 31 祈り終へしとき、其の集りをる處ふるひ動き、みな聖靈にて滿され、臆することなく神の御言を語れり。 32 信じたる者の群は、おなじ心おなじ思となり、誰一人その所有を己が者と謂はず、凡ての物を共にせり。 33 かくて使徒たちは大なる能力をもて、主イエスの復活の證をなし

、みな大なる恩恵を蒙りたり。34 彼らの中には一人の乏しき者もなかりき。これ地所あるいは家屋を有てる者、これを賣り、その賣りたる物の價を持ち來りて、35 使徒たちの足下に置きしを、各人その用に隨ひて分け與へられたればなり。36 ここにクプロに生れたるレビ人にて、使徒たちにバルナバ（釋けば慰籍の子）と稱へらるるヨセフ、37 畑ありしを賣りて其の金を持ちきたり、使徒たちの足下に置けり。

5 然るにアナニヤと云ふ人、その妻サツピラと共に資産を賣り、2 その價の幾分を匿しおき、殘る幾分を持ちきたりて使徒たちの足下に置きしが、妻も之を與れり。3 ここにペテロ言ふ『アナニヤよ、何故なんぢの心サタンに滿ち、聖靈に對し詐りて、地所の價の幾分を匿したるぞ。4 有りし時は汝の物なり、賣りて後も汝の權の内にあるに非ずや、何とて斯ることを心に企てし。なんぢ人に對してにあらず、神に對して詐りしなり』5 アナニヤこの言をきき、倒れて息絶ゆ。これを聞く者みな大なる懼を懷く。6 若者ども立ちて彼を包み、舁き出して葬れり。7 凡そ三時間を経て、その妻この有りし事を知らずして入り來りしに、8 ペテロ之に向ひて言ふ『なんぢら此程の價にてかの地所を賣りしか、我に告げよ』女いふ『然り、此程なり』9 ペテロ言ふ『なんぢら何ぞ心を合せて主の御靈を試みんとせしか、視よ、なんぢの夫を葬りし者の足は門口にあり、汝をもまた舁き出すべし』10 をんな立刻にペテロの足下に倒れて息絶ゆ。若者ども入り來りて、その死にたるを見、これを舁き出して夫の傍らに葬れり。11 ここに全教會および此等のことを聞く者みな大なる懼を懷け

り。12使徒たちの手によりて多くの徴と不思議と民の中に行はれたり。彼等はみな心を一つにして、ソロモンの廊にあり。13他の者どもは敢へて近づかず、民は彼らを崇めたり。14信ずるもの男女とも増々おほく主に屬けり。15終には人々、病める者を大路に昇ききたり、寢臺または床の上におく。此等のうち誰にもせよ、ペテロの過ぎん時、その影になりと庇はれんとてなり。16又エルサレムの周圍の町々より多くの人々、病める者・穢れし靈に惱されたる者を携へきたりて集ひたりしが、みな醫されたり。17ここに大祭司および之と偕なる者、即ちサドカイ派の人々、みな嫉に滿されて立ち、18使徒たちに手をかけて之を留置場に入る。19然るに主の使、夜、獄の戸をひらき、彼らを連れ出して言ふ、20『往きて宮に立ち、この生命の言をことごとく民に語れ』21かれら之を聞き、夜明がた宮に入りて教ふ。大祭司および之と偕なる者ども集ひきたりて、議會とイスラエル人の元老とを呼びあつめ、使徒たちを曳き來らせんとて人を牢舎に遣したり。22下役ども往きしに、獄のうちに彼らの居らぬを見て、歸りきたり告げて言ふ、23『われら牢舎の堅く閉ぢられて、戸の前に牢番の立ちたるを見しに、開きて見れば、内には誰も居らざりき』24宮守頭および祭司長らこの言を聞きて、如何になりゆくべきかと惑ひいたるに、25或人きたり告げて言ふ『視よ、汝らの獄に入れし人は、宮に立ちて民を教へ居るなり』26ここに宮守頭、下役を伴ひて出でゆき、彼らを曳き來る。されど手暴きことをせざりき、これ民より石にて打たれんことを恐れたるなり。27彼らを連れ來りて議會の

中に立てたれば、大祭司問ひて言ふ、**28** 『我等かの名によりて教ふることを堅く禁ぜしに、視よ、汝らは其の教をエルサレムに満し、かの人の血を我らに負はせんとす』 **29** ペテロ及び他の使徒たち答へて言ふ『人に従はんよりは神に従ふべきなり。**30** 我らの先祖の神はイエスを起し給ひしに、汝らは之を木に懸けて殺したり。**31** 神は彼を君とし救主として己が右にあげ、悔改と罪の赦とをイスラエルに與へしめ給ふ。**32** 我らは此の事の証人なり。神のおのれに従ふ者に賜ふ聖靈もまた然り』 **33** かれら之をききて怒に満ち、使徒たちを殺さんと思へり。**34** 然るにパリサイ人にて凡ての民に尊ばるる教法學者ガマリエルと云ふもの、議會の中に立ち、命じて使徒たちを暫く外に出さしめ、議員らに向ひて言ふ、**35** 『イスラエルの人よ、汝らが此の人々に爲さんとする事につきて心せよ。**36** 前にチウダ起りて、自ら大なりと稱し、之に附隨ふ者の數おほよそ四百人なりしが、彼は殺され、従へる者はみな散されて跡なきに至れり。**37** そののち戸籍登録のときガリラヤのユダ起りて、多くの民を誘ひおのれに従はしめしが、彼も亡び従へる者もことごとく散されたり。**38** 然れば今なんぢらに言ふ、この人々より離れて、その爲すに任せよ。若しその企圖その所作、人より出でたらんにはおのづから壊れん。**39** もし神より出でたらんには彼らを壊ること能はず、恐らくは汝ら神に敵する者とならん』 **40** 彼等その勸告にしたがひ、遂に使徒たちを呼び出して之を鞭うち、イエスの名によりて語ることを堅く禁じて釋せり。**41** 使徒たちは御名のために辱しめらるるに相應しき者とせられた

るを喜びつつ、議員らの前を出で去れり。42 かくて日毎に宮また家にて教をなし、イエスのキリストなる事を宣傳へて止まざりき。

6 そのころ弟子のかず増加はり、ギリシヤ語のユダヤ人、その寡婦らが日々の施濟に漏されたれば、ヘブル語のユダヤ人に對して眩く事あり。2 ここに十二使徒すべての弟子を呼び集めて言ふ『われら神の言を差措きて、食卓に事ふるは宣しからず。3 然れば兄弟よ、汝らの中より御靈と智慧とにて満ちたる令聞ある者七人を見出せ、それに此の事を掌どらせん。4 我らは専ら祈をなすことと、御言に事ふることとを務めん』5 集れる凡ての者この言を善しとし、信仰と聖靈とにて満ちたるステパノ及びピリポ、プロコロ、ニカノル、テモン、パルメナ、またアンテオケの改宗者ニコラオを選びて、6 使徒たちの前に立てたれば、使徒たち祈りて手をその上に按けり。7 かくて神の言ますます弘り、弟子の數エルサレムにて甚だ多くなり、祭司の中にも信仰の道に従へるもの多かりき。8 さてステパノは恩恵と能力とにて満ち、民の中に大なる不思議と徴とを行へり。9 ここに世に稱ふるリベルテンの會堂およびクレネ人、アレキサンデリヤ人、またキリキヤとアジヤとの人の諸會堂より、人々起ちてステパノと論ぜしが、10 その語るところの智慧と御靈とに敵すること能はず。11 乃ち或者どもを唆かして『我らはステパノが、モーセと神とを瀆す言をいふを聞けり』と言はしめ、12 民および長老・學者らを煽動し、俄に來りてステパノを捕へ、議會に曳きゆき、13 偽證者を立てて言はしむ『この人はこの聖なる所と律法とに逆ふ

言を語りて止まず、**14** 即ち、かのナザレのイエスは此の所を毀ち、かつモーセの傳へし例を變ふべしと、彼が云へるを聞けり』と。**15** ここに議會に坐したる者みな目を注ぎてステパノを見しに、その顔は御使の顔の如くなりき。

7 かくて大祭司いふ『此等のこと果してかくの如きか』**2** ステパノ言ふ『兄弟たち親たちよ、聽け、我らの先祖アブラハム未だカランに住まずして尚メソポタミヤに居りしとき、榮光の神あらはれて、**3** 「なんぢの土地、なんぢの親族を離れて、我が示さんとする地に往け」と言ひ給へり。**4** ここにカルデアの地に出でてカランに住みたりしが、その父の死にしのち、神は彼を彼處より汝らの今 住める此の地に移らしめ、**5** 此處にて足、踏立つる程の地をも嗣業に與へ給はざりき。然るに、その地を未だ子なかりし彼と彼の裔とに所有として與へんと約し給へり。**6** 神また其の裔は他の國に寄寓人となり、その國人は之を四百年のあひだ奴隸となして苦しめん事を告げ給へり。**7** 神いひ給ふ「われは彼らを奴隸とする國人を審かん、然るのち彼等その國を出で、この處にて我に事へん」**8** 神また割禮の契約をアブラハムに與へ給ひたれば、イサクを生みて八日めに之に割禮を行へり。イサクはヤコブを、ヤコブは十二の先祖を生めり。**9** 先祖たちヨセフを嫉みてエジプトに賣りしに、神は彼と偕に在して、**10** 凡ての患難より之を救ひ出し、エジプトの王パロの前にて寵愛を得させ、また智慧を與へ給ひたれば、パロ之を立ててエジプトと己が全家との宰となせり。**11** 時にエジプトとカナンの全地とに飢饉ありて大なる患難おこり、

我らの先祖たち糧を求め得ざりしが、**12** ヤコブ、エジプトに穀物あるを聞いて、先づ我らの先祖たちを遣す。**13** 二度めの時ヨセフその兄弟たちに知られ、ヨセフの氏族パロに明かになれり。**14** ヨセフ言ひ遣して己が父ヤコブと凡ての親族と七十五人を招きたれば、**15** ヤコブ、エジプトに下り、彼處にて己も我らの先祖たちも死にたり。**16** 彼等シケムに送られ、曾てアブラハムがシケムにてハモルの子等より銀をもて買ひ置きし墓に葬られたり。**17** かくて神のアブラハムに語り給ひし約束の時 近づくに隨ひて、民はエジプトに蓄えひろがり、**18** ヨセフを知らぬ他の王、エジプトに起るに及べり。**19** 王は悪計をもて我らの同族にあたり、我らの先祖たちを苦しめて、其の嬰兒の生存ふる事なからんやう、之を棄つるに至らしめたり。**20** その頃モーセ生れて甚うるはしくして三月のあいだ父の家に育てられ、**21** 遂に棄てられしを、パロの娘ひき上げて己が子として育てたり。**22** かくてモーセはエジプト人の凡ての學術を教へられ、言と業とに能力あり。**23** 年齢四十になりたる時、おのが兄弟たるイスラエルの子孫を顧みる心おこり、**24** 一人の害はるるを見て之を護り、エジプト人を撃ちて、虐げらるる者の仇を復せり。**25** 彼は己の手によりて神が救を與へんとし給ふことを、兄弟たち悟りしならんと思ひたるに、悟らざりき。**26** 翌日かれらの相争ふところに現れて和睦を勧めて言ふ「人々よ、汝らは兄弟なるに、何ぞ互に害ふか」**27** 隣を害ふ者モーセを押退けて言ふ「誰が汝を立てて我らの司また審判人とせしぞ、**28** 昨日エジプト人を殺したる如く、我をも殺さんとするか」**29** この

言により、モーセ遁れてミデアンの地の寄寓人となり、彼處にて二人の子を儲けたり。 30 四十年を歴て後シナイ山の荒野にて、御使、柴の焰のなかに現れたれば、 31 モーセ之を見て視るところを怪しみ、認めんとして近づきしとき、主の聲あり。曰く、 32 「我は汝の先祖たちの神、即ちアブラハム、イサク、ヤコブの神なり」モーセ戦慄き敢へて認むることを爲す。 33 主いひ給ふ「なんぢの足の鞋を脱げ、なんぢの立つところは聖なる地なり。 34 我エジプトに居る我が民の苦難を見、その歎息をききて之を救はん爲に降り。いで我なんぢをエジプトに遣さん」 35 斯く彼らが「誰が汝を立てて司また審判人とせしぞ」と言ひて拒みし此のモーセを、神は柴のなかに現れたる御使の手により、司また救人として遣し給へり。 36 この人かれらを導き出し、エジプトの地にても、また紅海および四十年のあひだ荒野にても、不思議と徴とを行ひたり。 37 イスラエルの子らに「神は汝らの兄弟の中より、我がごとき預言者を起し給はん」と云ひしは此のモーセなり。 38 彼はシナイ山にて語りし御使および我らの先祖たちと偕に荒野なる集會に在りて汝らに與へん爲に生ける御言を授りし人なり。 39 然るに我らの先祖たちは此の人に従ふことを好まず、反つて之を押退け、その心エジプトに還りて、 40 アロンに言ふ「我らに先だち往くべき神々を造れ、我らをエジプトの地より導き出しし、かのモーセの如何になりしかを知らざればなり」 41 その頃かれら犢を造り、その偶像に犠牲をささげて己が手の所作を喜べり。 42 爰に神は彼らを離れ、その天の軍勢に事ふるに任せ給へり。これは預言者

たちの書に「イスラエルの家よ、なんぢら荒野にて四十年の間、屠りし畜と犠牲とを我に献げしや。43 汝らは拜せんとして造れる像、すなはちモロクの幕屋と神ロンパの星とを昇きたり。われ汝らをバビロンの彼方に移さん」と録されたるが如し。44 我らの先祖たちは荒野にて證の幕屋を有てり、モーセに語り給ひし者の、彼が見し式に循ひて造れと命じ給ひしままなり。45 我らの先祖たちは之を承け繼ぎ、先祖たちの前より神の逐ひいだし給ひし異邦人の領地を收めし時、ヨシユアとともに携へ來りてダビデの日に及べり。46 ダビデ神の前に恩恵を得て、ヤコブの神のために住處を設けんと求めたり。47 而して、その家を建てたるはソロモンなりき。48 されど至高者は手にて造れる所に住み給はず、即ち預言者の49 「主のたまはく、天は我が座位、地は我が足臺なり。汝等わが爲に如何なる家をか建てん、わが休息のところは何處なるぞ。50 わが手は凡て此等の物を造りしにあらずや」と云へるが如し。51 項強くして心と耳とに割禮なき者よ、汝らは常に聖靈に逆ふ、その先祖たちの如く汝らも然り。52 汝らの先祖たちは預言者のうちの誰をか迫害せざりし。彼らは義人の來るを預じめ告げし者を殺し、汝らは今この義人を賣り、かつ殺す者となれり。53 なんぢら、御使たちの傳へし律法を受けて、尚これを守らざりき』54 人々これらの言を聞きて、心いかりに満ち切齒しつつステパノに向ふ。55 ステパノは聖靈にて満ち、天に目を注ぎ、神の榮光およびイエスの神の右に立ちたまふを見て言ふ、56 『視よ、われ天開けて人の子の神の右に立ち給ふを見る』57 ここに彼ら大聲

に叫びつつ、耳を掩ひ心を一つにして驅け寄り、**58**
ステパノを町より逐ひいだし、石にて撃てり。證人
らその衣をサウロといふ若者の足下に置けり。**59**か
くて彼等がステパノを石にて撃てるとき、ステパノ
呼びて言ふ『主イエスよ、我が靈を受けたまへ』**60**
また跪づきて大聲に『主よ、この罪を彼らの負はせ
給ふな』と呼はる。斯く言ひて眠に就けり。

8 サウロは彼の殺さるるを可しとせり。その日エル
サレムに在る教會に對ひて大なる迫害おこり、使徒
たちの他は皆ユダヤ及びサマリヤの地方に散さる。
2 敬虔なる人々ステパノを葬り、彼のために大に胸
打てり。**3** サウロは教會をあらし、家々に入り男女
を引出して獄に付せり。**4** ここに散されたる者ども
歴巡りて御言を宣べしが、**5** ピリポはサマリヤの町
に下りてキリストの事を傳ふ。**6** 群衆ピリポの行ふ
徴を見聞して、心を一つにし、謹みて其の語る事ど
もを聽けり。**7** これ多くの人より、之に憑きたる穢
れし靈、大聲に叫びて出で、また中風の者と跛者と
多く醫されたるに因る。**8** この故にその町に大なる
勸喜おこれり。**9** ここにシモンといふ人あり、前に
その町にて魔術を行ひ、サマリヤ人を驚かして自ら
大なる者と稱へたり。**10** 小より大に至る凡ての人つ
つしみて之に聽き『この人は、いわゆる神の大能な
り』といふ。**11** かく謹みて聽けるは、久しき間その
魔術に驚かされし故なり。**12** 然るにピリポが、神の
國とイエス・キリストの御名とに就きて宣傳ふるを
人々信じたれば、男女ともにバプテスマを受く。**13**
シモンも亦みづから信じ、バプテスマを受けて、常
にピリポと偕に居り、その行ふ徴と、大なる能力と

を見て驚けり。 14 エルサレムに居る使徒たちは、サマリヤ人、神の御言を受けたりと聞きて、ペテロとヨハネとを遣したれば、 15 彼ら下りて人々の聖靈を受けんことを祈れり。 16 これ主イエスの名によりてバプテスマを受けしのみにて、聖靈いまだ其の一人にだに降らざりしなり。 17 ここに二人のもの彼らの上に手を按きたれば、みな聖靈を受けたり。 18 使徒たちの按手によりて其の御靈を與へられしを見て、シモン金を持ち來りて言ふ、 19 『わが手を按くすべての人の聖靈を受くるやうに、此の權威を我にも與へよ』 20 ペテロ彼に言ふ『なんぢの銀は汝とともに亡ぶべし、なんぢ金をもて神の賜物を得んと思へばなり。 21 なんぢは此の事に關係なく干與なし、なんぢの心、神の前に正しからず。 22 然ればこの惡を悔改めて主に祈れ、なんぢが心の念あるひは赦されん。 23 我なんぢが苦き膽汁と不義の繫とに居るを見るなり』 24 シモン答へて言ふ『なんぢらの言ふ所のこと一つも我に來らぬやう、汝ら我がために主に祈れ』 25 かくて使徒たちは證をなし、主の御言を語りて後、サマリヤ人の多くの村に福音を宣傳へつつエルサレムに歸れり。 26 然るに主の使ピリポに語りて言ふ『なんぢ起ちて南に向ひエルサレムよりガザに下る道に往け。そこは荒野なり』 27 ピリポ起ちて往きたれば、視よ、エテオピヤの女王カンダケの權官にして、凡ての寶物を掌どる闍人エテオピヤ人あり、禮拜の爲にエルサレムに上りしが、 28 歸る途すがら馬車に坐して預言者イザヤの書を読みたり。 29 御靈ピリポに言ひ給ふ『ゆきて此の馬車に近寄れ』 30 ピリポ走り寄りて、その預言者イザヤの書を読

むを聽きて言ふ『なんぢ其の讀むところを悟るか』
31 闍人いふ『導く者なくば、いかで悟り得ん』而して
ピリポに、乗りて共に坐せんことを請ふ。 32 その
讀むところの聖書の文は是なり『彼は羊の屠場に就
くが如く曳かれ、羔羊のその毛を剪る者のまへに黙
すがごとく口を開かず。 33 卑しめられて審判を奪は
れたり、誰かその代の状を述べ得んや。その生命 地
上より取られたればなり』 34 闍人こたへてピリポに
言ふ『預言者は誰に就きて斯く云へるぞ、己に就き
てか、人に就きてか、請ふ示せ』 35 ピリポ口を開き
、この聖句を始としてイエスの福音を宣傳ふ。 36
途を進むる程に水ある所に來りたれば、闍人いふ『
視よ、水あり、我がバプテスマを受くるに何の障り
かある』 37 [なし] 38 乃ち命じて馬車を止め、ピリ
ポと闍人と二人ともに水に下りて、ピリポ闍人にバ
プテスマを授く。 39 彼ら水より上りしとき、主の靈
ピリポを取去りたれば、闍人ふたたび彼を見ざりし
が、喜びつつ其の途に進み往けり。 40 かくてピリポ
はアゾトに現れ、町々を経て福音を宣傳へつつカイ
ザリヤに到れり。

9 サウロは主の弟子たちに對して、なほ恐喝と殺害
との氣を充し、大祭司にいたりて、 2 ダマスコにあ
る諸教會への添書を請ふ。この道の者を見出さば、
男女にかかはらず縛りてエルサレムに曳かん爲なり
。 3 往きてダマスコに近づきたるとき、忽ち天より
光いでて、彼を環り照したれば、 4 かれ地に倒れて
『サウロ、サウロ、何ぞ我を迫害するか』といふ聲
をきく。 5 彼いふ『主よ、なんぢは誰ぞ』答へたま
ふ『われは汝が迫害するイエスなり。 6 起きて町に

入れ、さらば汝なすべき事を告げらるべし』 7 同行の人々、物言ふこと能はずして立ちたりしが、聲は聞けども誰をも見ざりき。 8 サウロ地より起きて目をあけたれど何も見えざれば、人その手をひきてダマスコに導きゆきしに、 9 三日のあひだ見えず、また飲食せざりき。 10 さてダマスコにアナニヤといふ一人の弟子あり、幻影のうちに主いひ給ふ『アナニヤよ』 答ふ『主よ、我ここに在り』 11 主いひ給ふ『起きて直といふ街にゆき、ユダの家にてサウロといふタルソ人を尋ねよ。視よ、彼は祈りをるなり。 12 又アナニヤといふ人の入り來りて、再び見ゆることを得しめんために、手を己がうへに按くを見たり』 13 アナニヤ答ふ『主よ、われ多くの人より此の人に就きて聞きしに、彼がエルサレムにて汝の聖徒に害を加へしこと如何ばかりぞや。 14 また此處にても、凡て汝の御名をよぶ者を縛る權を祭司長らより受けをるなり』 15 主いひ給ふ『往け、この人は異邦人・王たち・イスラエルの子孫のまへに、我が名を持ちゆく我が選の器なり。 16 我かれに我が名のために如何に多くの苦難を受くるかを示さん』 17 ここにアナニヤ往きて其の家にいり、彼の上に手をおきて言ふ『兄弟サウロよ、主すなはち汝が來る途にて現れ給ひしイエス、われを遣し給へり。なんぢが再び見ることを得、かつ聖靈にて満されん爲なり』 18 直ちに彼の目より鱗のごときもの落ちて見ることを得、すなはち起きてパプテスマを受け、 19 かつ食事して力づきたり。サウロは數日の間ダマスコの弟子たちと偕にをり、 20 直ちに諸會堂にて、イエスの神の子なることを宣べたり。 21 聞く者みな驚きて言ふ『

こはエルサレムにて此の名をよぶ者を害ひし人ならずや、又ここに來りしも、之を縛りて祭司長らの許に曳きゆかんが爲ならずや』 22 サウロますます能力くははり、イエスのキリストなることを論證して、ダマスコに住むユダヤ人を言ひ伏せたり。 23 日を経ること久しくして後、ユダヤ人かれを殺さんと相謀りたれど、 24 その計畧サウロに知らる。かくて彼らはサウロを殺さんとて、晝も夜も町の門を守りしに、 25 その弟子ら夜中かれを籃にて石垣より縋り下せり。 26 ここにサウロ、エルサレムに到りて弟子たちの中に列らんとすれど、皆かれが弟子たるを信ぜずして懼れたり。 27 然るにバルナバ彼を迎へて、使徒たちの許に伴ひゆき、その途にて主を見しこと、主の之に物言ひ給ひしこと、又ダマスコにてイエスの名のために臆せず語りし事などを具に告ぐ。 28 ここにサウロはエルサレムにて弟子たちと共に出入し、 29 主の御名のために臆せず語り、又ギリシヤ語のユダヤ人と、かつ語りかつ論じたれば、彼等これを殺さんと謀りしに、 30 兄弟たち知りて彼をカイザリヤに伴ひ下り、タルソに往かしめたり。 31 かくてユダヤ、ガリラヤ及びサマリヤを通じて、教會は平安を得、ややに堅立し、主を畏れて歩み、聖靈の祐助によりて人數いや増せり。 32 ペテロは徧く四方をめぐりてルダに住む聖徒の許にいたり、 33 彼處にてアイネヤといふ人の中風を患ひて八年のあひだ牀に臥し居るに遇ふ。 34 かくてペテロ之に『アイネヤよ、イエス・キリスト汝を醫したまふ、起きて牀を收めよ』と言ひたれば、直ちに起きたり。 35 ここにルダ及びサロンに住む者みな之を見て主に歸依せり。 36 ヨ

ツパにタビタと云ふ女の弟子あり、その名を譯すればドルカスなり。此の女は、ひたすら善き業と施濟とをなせり。 37 彼そのころ病みて死にたれば、之を洗ひて高樓に置く。 38 ルダはヨツパに近ければ、弟子たちペテロの彼處に居るを聞きて、二人の者を遣し『ためらはで我らに來れ』と請はしむ。 39 ペテロ起ちてともに往き、遂に到れば、彼を高樓に伴れてのぼりしに、寡婦らみな之をかこみて泣きつつ、ドルカスが偕に居りしほどに製りし下衣・上衣を見せたり。 40 ペテロ彼等をみな外に出し、跪づきて祈りし後、ふりかへり屍體に向ひて『タビタ、起きよ』と言ひたれば、かれ目を開き、ペテロを見て起られり。 41 ペテロ手をあたへ、起して聖徒と寡婦とを呼び、タビタを活きたるままにて見す。 42 この事ヨツパ中に知られたれば、多くの人、主を信じたり。 43 ペテロ皮工シモンの家にありて日久しくヨツパに留れり。

10 ここにカイザリヤにコルネリオといふ人あり、イタリヤ隊と稱ふる軍隊の百卒長なるが、 2 敬虔にして全家族とともに神を畏れ、かつ民に多くの施濟をなし、常に神に祈れり。 3 或日の午後三時ごろ幻影のうちに神の使きたりて『コルネリオよ』と言ふを明かに見たれば、 4 之に目をそそぎ怖れて言ふ『主よ、何事ぞ』御使いふ『なんぢの祈と施濟とは、神の前に上りて記念とせらる。 5 今ヨツパに人を遣してペテロと稱ふるシモンを招け、 6 彼は皮工シモンの家に宿る。その家は海邊にあり』 7 斯く語れる御使の去りし後、コルネリオ己が僕二人と從卒中の敬虔なる者一人とを呼び、 8 凡ての事を告げてヨツ

パに遣せり。 9 明くる日かれらなほ途中にあり、既に町に近づかんとする頃ほひ、ペテロ祈らんとて屋の上に登る、時は晝の十二時ごろなりき。 10 飢ゑて物欲しくなり、人の食を調ふるほどに我を忘れし心地して、 11 天開け、器のくだるを見る、大なる布のごとき物にして、四隅もて地に縋り下されたり。 12 その中には諸種の四足のもの、地を匍ふもの、空の鳥あり。 13 また聲ありて言ふ『ペテロ、立て、屠りて食せよ』 14 ペテロ言ふ『主よ、可からじ、我いまだ潔からぬもの穢れたる物を食せし事なし』 15 聲再びありて言ふ『神の潔め給ひし物を、なんぢ潔からずとすな』 16 かくの如きこと三度にして、器は直ちに天に上げられたり。 17 ペテロその見し幻影の何の意なるか、心に惑ふほどに、視よ、コルネリオより遣されたる人、シモンの家を尋ねて門の前に立ち、 18 訪ひて、ペテロと稱ふるシモンの此處に宿るかを問ふ。 19 ペテロなほ幻影に就きて打案じるたるに、御靈いひ給ふ『視よ、三人なんぢを尋ぬ。 20 起ちて下り疑はずして共に往け、彼らを遣したるは我なり』 21 ペテロ下りて、かの人たちに言ふ『視よ、我は汝らの尋ぬる者なり、何の故ありて來るか』 22 かれら言ふ『義人にして神を畏れ、ユダヤの國人の中に令聞ある百卒長コルネリオ、聖なる御使より、汝を家に招きて、その語ることを聽けとの告を受けたり』 23 ここにペテロ彼らを迎へ入れて宿らす。明くる日たちて彼らと共に出でゆきしが、ヨツパの兄弟も數人ともに往けり。 24 明くる日カイザリヤに入りし時、コルネリオは親族および親しき朋友を呼び集めて彼らを待ちゐたり。 25 ペテロ入り來れば、コル

ネリオ之を迎へ、その足下に伏して拜す。 26 ペテロ彼を起して言ふ『立て、我も人なり』 27 かくて相語りつつ内に入り、多くの人集れるを見て、ペテロ之に言ふ、 28 『なんぢらの知る如く、ユダヤ人たる者の外の國人と交りまた近づくことは、律法に適はぬ所なり、然れど神は、何人をも穢れたるもの潔からぬ者と言ふまじきことを我に示したまへり。 29 この故に、われ招かるるや躊躇はずして來れり。然れば問ふ、汝らは何の故に我をまねきしか』 30 コルネリオ言ふ『われ四日前に我が家にて午後三時の祈をなし、此の時刻に至りしに、視よ、輝く衣を著たる人、わが前に立ちて、 31 「コルネリオよ、汝の祈は聽かれ、なんぢの施濟は神の前に憶えられたり。 32 人をヨツパに送りてペテロと稱ふるシモンを招け、かれは海邊なる皮工シモンの家に宿るなり」と云へり。 33 われ速かに人を汝に遣したるに、汝の來れるは忝けなし。いま我等はみな、主の汝に命じ給ひし凡てのことを聽かんとて、神の前に在り』 34 ペテロ口を開きて言ふ、『われ今まことに知る、神は偏ることをせず、 35 何れの國の人にてても神を敬ひて義をおこなふ者を容れ給ふことを。 36 神はイエス・キリスト（これ萬民の主）によりて平和の福音をのべ、イスラエルの子孫に言をおくり給へり。 37 即ちヨハネの傳へしバプテスマの後、ガリラヤより始り、ユダヤ全國に弘りし言なるは汝らの知る所なり。 38 これは神が聖靈と能力とを注ぎ給ひしナザレのイエスの事にして、彼は徧くめぐりて善き事をおこなひ、凡て悪魔に制せらるる者を醫せり、神これと偕に在したればなり。 39 我等はユダヤの地およびエルサ

レムにて、イエスの行ひ給ひし諸般のことの證人なり、人々は彼を木にかけて殺せり。 40 神は之を三日めに甦へらせ、かつ明かに現したまへり。 41 然れど凡ての民にはあらで、神の預じめ選び給へる證人、即ちイエスの死人の中より甦へり給ひし後、これと共に飲食せし我らに現し給ひしなり。 42 イエスは己の生ける者と死にたる者との審判主に、神より定められしを證することと、民どもに宣傳ふる事とを我らに命じ給ふ。 43 彼につきては預言者たちも皆、おほよそ彼を信ずる者の、その名によりて罪の赦を得べきことを證す』 44 ペテロ尚これらの言を語りをる間に、聖靈、御言をきく凡ての者に降りたまふ。 45 ペテロと共に來りし割禮ある信者は、異邦人にも聖靈の賜物のそそがれしに驚けり。 46 そは彼らが異言をかたり、神を崇むるを聞きたるに因る。 47 ここにペテロ答へて言ふ『この人々われらの如く聖靈をうけたれば、誰か水を禁じて其のバプテスマを受くることを拒み得んや』 48 遂にイエス・キリストの御名によりてバプテスマを授けられんことを命じたり。ここに彼らペテロに數日とどまらんことを請へり。

11 使徒たち及びユダヤに居る兄弟たちは、異邦人も神の言を受けたりと聞く。 2 かくてペテロのエルサレムに上りしとき、割禮ある者ども彼を詰りて言ふ、 3 『なんぢ割禮なき者の内に入りて之と共に食せり』 4 ペテロ有りし事を序正しく説き出して言ふ、 5 『われヨツパの町にて祈り居るとき、我を忘れし心地し、幻影にて器のくだるを見る、大なる布のごとき物にして、四隅もて天より縋り下され我が許にきたる。 6 われ目を注めて之を視るに、地の四足

のもの、野の獣、匍ふもの、空の鳥を見たり。 7 また「ペテロ、立て、屠りて食せよ」といふ聲を聞けり。 8 我いふ「主よ、可からじ、潔からぬもの穢れたる物は、曾て我が口に入りしことなし」 9 再び天より聲ありて答ふ「神の潔め給ひし物を、なんぢ潔からずと爲な」 10 かくの如きこと三度にして、終にはみな天に引上げられたり。 11 視よ、三人の者カイザリヤより我に遣されて、はや我らの居る家の前に立てり。 12 御靈われに、疑はずして彼らと共に往くことを告げ給ひたれば、此の六人の兄弟も我とともに往きて、かの人の家に入れり。 13 彼はおのが家に御使の立ちて「人をヨツパに遣し、ペテロと稱ふるシモンを招け、 14 その人、なんぢと汝の全家族との救はるべき言を語らん」と言ふを、見しことを我らに告げたり。 15 ここに、われ語り出づるや、聖靈かれらの上に降りたまふ、初め我らの上に降りし如し。 16 われ主の曾て「ヨハネは水にてバプテスマを施ししが、汝らは聖靈にてバプテスマを施されん」と宣給ひし御言を思ひ出せり。 17 神われらが主イエス・キリストを信ぜしときに賜ひしと同じ賜物を彼らにも賜ひたるに、われ何者なれば神を阻み得ん』 18 人々これを聞きて黙然たりしが、頓て神を崇めて言ふ『されば神は異邦人にも生命を得さす悔改を與へ給ひしなり』 19 かくてステパノによりて起りし迫害のために散されたる者ども、ピニケ、クブロ、アンテオケまで到り、ただユダヤ人にのみ御言を語りたるに、 20 その中にクブロ及びクレネの人、數人ありて、アンテオケに來りし時、ギリシヤ人にも語りて主イエスの福音を宣傳ふ。 21 主の手かれらと偕

にありたれば、數多の人、信じて主に歸依せり。 **22**
この事エルサレムに在る教會に聞えたれば、バルナ
バをアンテオケに遣す。 **23** かれ來りて、神の恩恵を
見てよろこび、彼等に、みな心を堅くして主にをら
んことを勧む。 **24** 彼は聖靈と信仰とにて満ちたる
善き人なればなり。ここに多くの人々、主に加はり
たり。 **25** かくてバルナバはサウロを尋ねんとてタル
ソに往き、 **26** 彼に逢ひてアンテオケに伴ひきたり、
二人ともに一年の間かしこの教會の集會に出でて多
くの人を教ふ。弟子たちのキリストアンと稱へらる
る事はアンテオケより始れり。 **27** その頃エルサレム
より預言者たちアンテオケに下る。 **28** その中の一人
アガボと云ふもの起ちて、大なる飢饉の全世界にあ
るべきことを御靈によりて示せるが、果してクラウ
デオの時に起れり。 **29** ここに弟子たち各々の力に應
じてユダヤに住む兄弟たちに扶助をおくらん事をさ
だめ、 **30** 遂に之をおこなひ、バルナバ及びサウロの
手に托して長老たちに贈れり。

12 その頃ヘロデ王、教會のうちの或人どもを苦し
めんとて手を下し、 **2** 劍をもてヨハネの兄弟ヤコブ
を殺せり。 **3** この事ユダヤ人の心に適ひたるを見て
、またペテロをも捕ふ、頃は除酵祭の時なりき。 **4**
すでに執りて獄に入れ、過越の後に民のまへに曳き
出さんとの心構にて、四人一組なる四組の兵卒に付
して之を守らせたり。 **5** かくてペテロは獄のなかに
因はれ、教會は熱心に彼のために神に祈をなせり。
6 ヘロデこれを曳き出さんとする其の前の夜、ペテロ
は二つの鎖にて繋がれ、二人の兵卒のあひだに睡り
、番兵らは門口にゐて獄を守りたるに、 **7** 視よ、主

の使ペテロの傍らに立ちて、光明 室内にかがやく。
御使かれの脇をたたき、覺していふ『疾く起きよ』
かくて鏈その手より落ちたり。 8 御使いふ『帯をし
め、鞋をはけ』彼その如く爲たれば、又いふ『上衣
をまとひて我に従へ』 9 ペテロ出でて隨ひしが、御
使のする事の眞なるを知らず、幻影を見るならんと思ふ。
10 かくて第一・第二の警固を過ぎて町に入るところの鐵の門に到れば、門おのづから彼等のために開け、相共にいでて一つの街を過ぎしとき、直ちに御使はなれたり。 11 ペテロ我に反りて言ふ『われ今まことに知る、主その使を遣して、ヘロデの手およびユダヤの民の凡て思ひ設けし事より、我を救ひ出し給ひしを』 12 斯く悟りてマルコと稱ふるヨハネの母マリヤの家に往きしが、其處には數多のもの集りて祈りみたり。 13 ペテロ門の戸を叩きたれば、ロダといふ婢女ききに出できたり、 14 ペテロの聲なるを知りて、勸喜のあまりに門を開けずして走り入り、ペテロの門の前に立てることを告げたれば、 15 彼ら『なんぢは氣狂へり』と言ふ。然れどロダは夫なりと言張る。かれら言ふ『それはペテロの御使ならん』 16 然るにペテロなほ叩きて止まざれば、かれら門をひらき之を見て驚けり。 17 かれ手を揺かして人々を鎮め、主の己を獄より導きいだし給ひしことを具に語り『これをヤコブと兄弟たちとに告げよ』と言ひて他の處に出で往けり。 18 夜明になりて、ペテロは如何にせしとて兵卒の中の騒一方ならず。 19 ヘロデ之を索むれど見出さず、遂に守卒を訊して死罪を命じ、而してユダヤよりカイザリヤに下りて留れり。 20 儲ヘロデ、ツロとシドンとの人々を甚く怒

りたれば、其の民ども心を一つにして彼の許にいたり、王の内侍の臣ブラストに取り入りて和諧を求む。かれらの地方は王の國より食品を得るに困りてなり。 21 ヘロデ定めたる日に及びて王の服を著け高座に坐して言を宣べたれば、 22 集民よばはりて『これ神の聲なり、人の聲にあらず』と言ふ。 23 ヘロデ神に榮光を歸せぬに困りて、主の使たちどころに彼を撃ちたれば、蟲に噛まれて息絶えたり。 24 かくて主の御言いよいよ増々ひろまる。 25 バルナバ、サウロはその職務を果し、マルコと稱ふるヨハネを伴ひてエルサレムより歸れり。

13 アンテオケの教會にバルナバ、ニゲルと稱ふるシメオン、クレネ人ルキオ、國守ヘロデの乳兄弟マナエン及びサウロなどいふ預言者と教師とあり。 2 彼らが主に事へ斷食したるとき、聖靈いひ給ふ『わが召して行はせんとする業の爲に、バルナバとサウロとを選び、別て』 3 ここに彼ら斷食し、祈りて二人の上に手を按きて往かしむ。 4 この二人、聖靈に遣されてセルキヤに下り、彼處より船にてクプロに渡り、 5 サラミスに著きてユダヤ人の諸會堂にて神の言を宣傳へ、またヨハネを助人として伴ふ。 6 徧くこの島を經行きてパポスに到り、バルイエスといふユダヤ人にて偽預言者たる魔術者に遇ふ。 7 彼は地方總督なる慧き人セルギオ・パウロと偕にありき。總督はバルナバとサウロとを招き神の言を聽かんとしたるに、 8 かの魔術者エルマ（この名を釋けば魔術者）二人に敵對して總督を信仰の道より離れしめんとせり。 9 サウロ又の名はパウロ、聖靈に滿され、彼に目を注めて言ふ、 10 『ああ有らゆる詭計と

奸悪とにて満ちたる者、悪魔の子、すべての義の敵よ、なんぢ主の直き道を曲げて止まぬか。 11 視よ、いま主の御手なんぢの上であり、なんぢ盲目となりて暫く日を見ざるべし』かくて立刻に朦と闇とその目を掩ひたれば、探り回りて導きくるる者を求む。 12 ここに總督この有りし事を見て、主の教に驚きて信じたり。 13 さてパウロ及び之に伴ふ人々、パポスより船出してパンフリヤのペルガに到り、ヨハネは離れてエルサレムに歸れり。 14 彼らはペルガより進み往きてピシデヤのアンテオケに到り、安息日に會堂に入りて坐せり。 15 律法および預言者の書の朗讀ありしのち、會堂司たち人を彼らに遣し『兄弟たちよ、もし民に勸の言あらば言へ』と言はしめたれば、 16 パウロ起ちて手を揺かして言ふ、『イスラエルの人々および神を畏るる者よ、聽け。 17 このイスラエルの民の神は、我らの先祖を選び、そのエジプトの地に寄寓せし時、わが民をおこし、強き御腕にて之を導きいだし、 18 おほよそ四十年のあひだ、荒野にて彼らの所作を忍び、 19 カナンの地にて七つの民族をほろぼし、その地を彼らに嗣がしめて、 20 凡そ四百五十年を経たり。此ののち預言者サムエルの時代まで審判人を賜ひしを、 21 後に至りて彼ら王を求めたれば、神は之にキスの子サウロと云ふベニヤミンの族の人を四十年のあひだ賜ひ、 22 之を退けて後、ダビデを擧げて王となし、且これを證して「我エッサイの子ダビデといふ我が心に適ふ者を見出せり、彼わが意をことごとく行はん」と宣給へり。 23 神は約束に隨ひて此の人の裔より、イスラエルの爲に救主イエスを興し給ひしが、 24 その來る前

にヨハネ預じめイスラエルの凡ての民に悔改のバプテスマを宣傳へたり。 25 かくてヨハネ己が走るべき道程を終へんとする時「なんぢら我を誰と思ふか、我はかの人にあらず、視よ、我に後れて來る者あり、我はその鞋の紐を解くにも足らず」と云へり。 26 兄弟たち、アブラハムの血統の子ら及び汝等のうち神を畏るる者よ、この救の言は我らに贈られたり。 27 それエルサレムに住める者および其の司らは、彼をも安息日ごとに讀むところの預言者たちの言をも知らず、彼を刑ひて預言を成就せしめたり。 28 その死に當るべき故を得ざりしかど、ピラトに殺さんことを求め、 29 彼につきて記されたる事をことごとく成しをへ、彼を木より下して墓に納めたり。 30 されど神は彼を死人の中より甦へらせ給へり。 31 かくてイエスは己と偕にガリラヤよりエルサレムに上りし者に多くの日のあひだ現れ給へり。その人々は今、民の前にイエスの證人たるなり。 32 我らも先祖たちが與へられし約束につきて喜ばしき音信を汝らに告ぐ、 33 神はイエスを甦へらせて、その約束を我らの子孫に成就したまへり。即ち詩の第二篇に「なんぢは我が子なり、われ今日なんぢを生めり」と録されたるが如し。 34 また朽腐に歸せざる状に彼を死人の中より甦へらせ給ひし事に就きては、斯く宣給へり。曰く「われダビデに約せし確き聖なる恩恵を汝らに與へん」 35 そは他の篇に「なんぢは汝の聖者を朽腐に歸せざらしむべし」と云へり。 36 それダビデは、その代にて神の御旨を行ひ、終に眠りて先祖たちと共に置かれ、かつ朽腐に歸したり。 37 然れど神の甦へらせ給ひし者は朽腐に歸せざりき。 38 この故に

兄弟たちよ、汝ら知れ。この人によりて罪の赦のなんぢらに傳へらるることを。 39 汝らモーセの律法によりて義とせられ得ざりし凡ての事も、信ずる者は皆この人によりて義とせらるる事を。 40 然れば汝ら心せよ、恐らくは預言者たちの書に云ひたること來らん、 41 曰く「あなどる者よ、なんぢら視よ、おどろけ、亡びよ、われ汝らの日に一つの事を行はん。これを汝らに具に告ぐる者ありとも信ぜざる程の事なり」』 42 彼らが會堂を出づるとき、人々これらの言を次の安息日にも語らんことを請ふ。 43 集會の散ぜし後、ユダヤ人および敬虔なる改宗者おほくパウロとバルナバとに従ひ往きたれば、彼らに語りて神の恩恵に止らんことを勧めたり。 44 次の安息日には、神の言を聽かんとて殆ど町 擧りて集りたり。 45 されどユダヤ人はその群衆を見て嫉に滿され、パウロの語ることに言ひ逆ひて罵れり。 46 パウロとバルナバとは臆せずして言ふ『神の言を先づ汝らに語るべかりしを、汝等これを斥けて己を永遠の生命に相應しからぬ者と自ら定むるによりて、視よ、我ら轉じて異邦人に向はん。(aiōnios g166) 47 それ主は斯く我らに命じ給へり。曰く「われ汝を立てて異邦人の光とせり。地の極にまで救とならしめん爲なり」』 48 異邦人は之を聽きて喜び、主の言をあがめ、又とこしへの生命に定められたる者はみな信じ、(aiōnios g166) 49 主の言この地に徧く弘りたり。 50 然るにユダヤ人ら、敬虔なる貴女たち及び町の重立ちたる人々を唆かして、パウロとバルナバとに迫害をくはへ、遂に彼らを其の境より逐ひ出せり。 51 二人は彼らに

對ひて足の塵をはらひ、イコニオムに往く。52 弟子たちは喜悦と聖靈とにて満され居たり。

14 二人はイコニオムにて相共にユダヤ人の會堂に入りて語りたれば、之に由りてユダヤ人およびギリシヤ人あまた信じたり。2 然るに従はぬユダヤ人ら異邦人を唆かし、兄弟たちに對して惡意を懷かしむ。3 二人は久しく留り、主によりて臆せずして語り、主は彼らの手により、徴と不思議とを行ひて惠の御言を證したまふ。4 ここに町の人々相分れて、或者はユダヤ人に黨し、或者は使徒たちに黨せり。5 異邦人ユダヤ人および其の司ら相共に使徒たちを辱しめ、石にて撃たんと企てしに、6 彼ら悟りてルカオニヤの町なるルステラ、デルベ及びその邊の地にのがれ、7 彼處にて福音を宣傳ふ。8 ルステラに足弱き人ありて坐しゐたり、生れながらの跛者にて曾て歩みたる事なし。9 この人パウロの語るを聞きゐたるが、パウロ之に目をとめ、救はるべき信仰あるを見て、10 大聲に『なんぢの足にて眞直に起て』と言ひたれば、かれ躍り上りて歩めり。11 群衆、パウロの爲ししことを見て聲を揚げ、ルカオニヤの國語にて『神たち人の形をかりて我らに降り給へり』と言ひ、12 パルナバをゼウスと稱へ、パウロを宗と語る人なる故にヘルメスと稱ふ。13 而して町の外なるゼウスの宮の祭司、數匹の牛と花飾とを門の前に携へきたりて、群衆とともに犠牲を獻げんとせり。14 使徒たち、即ちパルナバとパウロと之を聞きて、己が衣をさき群衆のなかに馳せ入り、15 呼はりて言ふ『人々よ、なんぞ斯かる事をなすか、我らも汝らと同じ情を有てる人なり、汝らに福音を宣べて斯かる

虚しき者より離れ、天と地と海とそこにある有らゆる物とを造り給ひし活ける神に歸らしめんとするなり。 16 過ぎし時代には神、すべての國人の己が道々を歩むに任せ給ひしかど、 17 また自己を證し給はざりし事なし。即ち善き事をなし、天より雨を賜ひ、豊穰の時をあたへ、食物と勸喜とをもて汝らの心を満ち足らはせ給ひしなり』 18 斯く言ひて辛うじて群衆の己らに犠牲を献げんとするを止めたり。 19 然るに數人のユダヤ人、アンテオケ及びイコニオムより來り、群衆を勸め、而してパウロを石にて撃ち、既に死にたりと思ひて町の外に曳き出せり。 20 弟子たち之を立 圍みゐるに、パウロ起きて町に入る。明るる日バルナバと共にデルベに出で往き、 21 その町に福音を宣傳へ、多くの人を弟子として後、ルステラ、イコニオム、アンテオケに還り、 22 弟子たちの心を堅うし信仰に止らんことを勸め、また我らが多くの艱難を歴て神の國に入るべきことを教ふ。 23 また教會 毎に長老をえらび、斷食して祈り、弟子たちを其の信ずる所の主に委ぬ。 24 かくてピシデヤを経てパンフリヤに到り、 25 ペルガにて御言を語りて後アタリヤに下り、 26 彼處より船出して、その成し果てたる務のために神の恵みに委ねられし處なるアンテオケに往けり。 27 既に到りて教會の人々を集めたれば、神が己らと偕に在して成し給ひし凡てのこと、竝に信仰の門を異邦人にひらき給ひしことを述べ。 28 かくて久しく留りて弟子たちと偕にゐたり。

15 或人々ユダヤより下りて、兄弟たちに『なんぢらモーセの例に遵ひて割禮を受けずば救はるるを得ず』と教ふ。 2 ここに彼らとパウロ及びバルナバと

の間に、大なる紛争と議論と起りたれば、兄弟たちはパウロ、バルナバ及びその中の數人をエルサレムに上らせ、此の問題につきて使徒・長老たちに問はしめんと定む。 3 かれら教會の人々に見送られて、ピニケ及びサマリヤを經、異邦人の改宗せしことを具に告げて、凡ての兄弟に大なる喜悦を得させたり。 4 エルサレムに到り、教會と使徒と長老とに迎へられ、神が己らと偕に在して爲し給ひし凡ての事を述べたるに、 5 信者となりたるパリサイ派の或人々立ちて『異邦人にも割禮を施し、モーセの律法を守ることを命ぜざる可からず』と言ふ。 6 ここに使徒・長老たち此の事につきて協議せんとて集る。 7 多くの議論ありし後、ペテロ起ちて言ふ『兄弟たちよ、汝らの知るごとく、久しき前に神は、なんぢらの中より我を選び、わが口より異邦人に福音の言を聞かせ、之を信ぜしめんとし給へり。 8 人の心を知りたまふ神は、我らと同じく、彼等にも聖靈を與へて證をなし、 9 かつ信仰によりて彼らの心をきよめ、我らと彼らとの間に隔を置き給はざりき。 10 然るに何ぞ神を試みて、弟子たちの頸に我らの先祖も我らも負ひ能はざりし軛をかけんとするか。 11 然らず、我らの救はるるも彼らと均しく主イエスの恩恵に由ることを我らは信ず』 12 ここに會衆みな黙して、バルナバとパウロとの、己等によりて神が異邦人のうちに爲し給ひし多くの徴と不思議とを述ぶるを聽く。 13 彼らの語り終へし後、ヤコブ答へて言ふ『兄弟たちよ、我に聽け、 14 シメオン既に神の初めて異邦人を顧み、その中より御名を負ふべき民を取り給ひしことを述べしが、 15 預言者たちの言もこれと合へ

り。16 録して「こののち我かへりて、倒れたるダビデの幕屋を再び造り、その頽れし所をふたたび造り、而して之を立てん。17 これ殘餘の人々、主を尋ね求め、凡て我が名をもて稱へらるる異邦人もまた然せん爲なり。18 古へより此等のことを知らしめ給ふ主、これを言ひ給ふ」とあるが如し。(aiōn g165) 19 之によりて我は判断す、異邦人の中より神に歸依する人を煩はすべきにあらず。20 ただ書き贈りて、偶像に穢されたる物と、淫行と、絞殺したる物と、血とを避けしむべし。21 昔より、いづれの町にもモーセを宣ぶる者ありて、安息日毎に諸會堂にてその書を讀めばなり』 22 ここに使徒・長老たち及び全教會は、その中より人を選びてパウロ、バルナバと共にアンテオケに送ることを可しとせり。選ばれたるは、バルサバと稱ふるユダとシラスとにて、兄弟たちの中の重立ちたる者なり。23 之に托したる書にいふ『使徒および長老たる兄弟ら、アンテオケ、シリヤ、キリキヤに在る異邦人の兄弟たちの平安を祈る。24 我等のうちの或人々われらが命じもせぬに、言をもて汝らを煩はし、汝らの心を亂したりと聞きたれば、25 我ら心を一つにして人を選びて、26 我らの主イエス・キリストの名のために生命を惜まざりし者なる、我らの愛するバルナバ、パウロと共に汝らに遣すことを可しとせり。27 之によりて我らユダとシラスとを遣す、かれらも口づから此等のことを述べん。28 聖靈と我らとは左の肝要なるものの他に何を汝らに負はせぬを可しとするなり。29 即ち偶像に獻げたる物と、血と、絞殺したる物と、淫行とを避くべき事なり、汝等これを慎まば善し。な

んぢら健かなれ』 30 かれら別を告げてアンテオケに下り、人々を集めて書を付す。 31 人々これを讀み慰安を得て喜べり。 32 ユダもシラスもまた預言者なれば、多くの言をもて兄弟たちを勧めて彼らを堅うし、 33 暫く留りてのち、兄弟たちに平安を祝せられ、別を告げて、己らを遣しし者に歸れり。 34 [なし] 35 斯てパウロとバルナバとは尚アンテオケに留りて多くの人とともに主の御言を教へ、かつ宣傳へたり。 36 數日の後パウロはバルナバに言ふ『いざ、我ら曩に主の御言を傳へし凡ての町にまた往きて、兄弟たちを訪ひ、その安否を尋ねん』 37 バルナバはマルコと稱ふるヨハネを伴はんと望み、 38 パウロは彼が曾てパンフリヤより離れ去りて、勤勞のために共に往かざりしをもて、伴ふは宣しからずと思ひ、 39 激しき爭論となりて遂に二人相別れ、バルナバはマルコを伴ひ、舟にてクプロに渡り、 40 パウロはシラスを選び、兄弟たちより主の恩恵に委ねられて出で立ち、 41 シリヤ、キリキヤを経て諸教會を堅うせり。

16 かくてパウロ、デルベとルステラとに到りたるに、視よ、彼處にテモテと云ふ弟子あり、その母は信者なるユダヤ人にて、父はギリシヤ人なり。 2 彼はルステラ、イコニオムの兄弟たちの中に令聞ある者なり。 3 パウロかれの共に出で立つことを欲したれば、その邊に居るユダヤ人のために之に割禮を行へり、その父のギリシヤ人たるを凡ての人の知る故なり。 4 かくて町々を経ゆきて、エルサレムに居る使徒・長老たちの定めし規を守らせんとて、之を人々に授けたり。 5 ここに諸教會はその信仰を堅うせられ、人員日毎にいや増せり。 6 彼らアジャにて御

言を語ることを聖靈に禁ぜられたれば、フルギヤ及びガラテヤの地を経ゆきて、7 ムシヤに近づき、ピテニヤに往かんと試みたれど、イエスの御靈ゆるし給はず、8 遂にムシヤを過ぎてトロアスに下れり。9 パウロ夜、幻影を見たるに、一人のマケドニヤ人あり、立ちて己を招き『マケドニヤに渡りて我らを助けよ』と言ふ。10 パウロこの幻影を見れば、我らは神のマケドニヤ人に福音を宣傳へしむる爲に、我らを召し給ふことと思ひ定めて、直ちにマケドニヤに赴かんとせり。11 さてトロアスより船出して、眞直にはせてサモトラケにいたり、次の日ネアポリスにつき、12 彼處よりピリピにゆく。ここはマケドニヤの中にて、この邊の第一の町にして殖民地なり、われら數日の間この町に留る。13 安息日に町の門を出でて、祈場あらんと思はるる河のほとりに行き、其處に坐して、集れる女たちに語りたれば、14 テアテラの町の紫布の商人にして、神を敬ふルデヤと云ふ女きき居りしが、主その心をひらき、謹みてパウロの語る言をきかしめ給ふ。15 彼は己も家族もバプテスマを受けてのち、我らに勧めて言ふ『なんぢら我を主の信者なりとせば、我が家に來りて留れ』斯く強ひて我らを留めたり。16 われら祈場に往く途中、卜筮の靈に憑れて卜筮をなし、其の主人らに多くの利を得さする婢女、われらに遇ふ。17 彼はパウロ及び我らの後に従ひつつ叫びて言ふ『この人たちは至高き神の僕にて、汝らに救の道を教ふる者なり』18 幾日も斯くするをパウロ憂ひて、振反りその靈に言ふ『イエス・キリストの名によりて、汝にこの女より出でん事を命ず』靈ただちに出でたり。19 然

るにこの女の主人ら利を得る望のなくなりたるをみて、パウロとシラスとを捕へ、市場に曳きて司たちに往き、**20**之を上役らに出して言ふ『この人々はユダヤ人にて、我らの町を甚く騒がし、**21**我らローマ人たる者の受くまじく行ふまじき習慣を傳ふるなり』**22**群衆も齊しく起り立ちたれば、上役ら命じて其の衣を褫ぎ、かつ笞にて打たしむ。**23**多く打ちてのち獄に入れ、獄守に固く守るべきことを命ず。**24**獄守この命令を受けて二人を奥の獄に入れ、桎にてその足を締め置きたり。**25**夜半ごろパウロとシラスと祈りて神を讚美する囚人ら聞きゐたるに、**26**俄に大なる地震おこりて牢舎の基ふるひ動き、その戸たちどころに皆ひらけ、凡ての囚人の縲綯とけたり。**27**獄守、目さめ獄の戸の開けたるを見て、囚人にげ去れりと思ひ、刀を抜きて自殺せんとしたるに、**28**パウロ大聲に呼はりて言ふ『みづから害ふな、我ら皆ここに在り』**29**獄守、燈火を求め、駈け入りて戦きつつパウロとシラスとの前に平伏し、**30**之を連れ出して言ふ『君たちよ、われ救はれん爲に何をなすべきか』**31**二人は言ふ『主イエスを信ぜよ、然らば汝も汝の家族も救はれん』**32**かくて神の言を獄守とその家に居る凡ての人々に語れり。**33**この夜、即時に獄守かれらを引取りて、その打傷を洗ひ、遂に己も己に屬する者もみな直ちにバプテスマを受け、**34**かつ二人を自宅に伴ひて食事をそなへ、全家とともに神を信じて喜べり。**35**夜明になりて上役らは警吏どもを遣して『かの人々を釋せ』と言はせられたれば、**36**獄守これらの言をパウロに告げて言ふ『上役、人を遣して汝らを釋さんとす。然れば今いでて安らかに往

け』 37ここにパウロ警吏に言ふ『我らは 로마人たるに罪を定めずして公然に鞭うち、獄に投げ入れたり。然るに今ひそかに我らを出さんと爲るか。然るべからず、彼等みづから來りて我らを連れ出すべし』

38警吏これらの言を上役に告げれば、其の 로마人たるを聞いて懼れ、 39來り宥めて、二人を連れ出し、かつ町を去らんことを請ふ。 40二人は獄を出でてルデヤの家に入り、兄弟たちに逢ひ、勸をなして出で往けり。

17かくてアムピポリス及びアポロニヤを経てテサロニケに到る。此處にユダヤ人の會堂ありたれば、
2パウロは例のごとく彼らの中に入り、三つの安息日にわたり、聖書に基きて論じ、かつ解き明して、
3キリストの必ず苦難をうけ、死人の中より甦へるべきことを述べ『わが汝らに傳ふる此のイエスはキリストなり』と證せり。 4その中のある人々および敬虔なる數多のギリシヤ人、また多くの重立ちたる女も信じてパウロとシラスとに従へり。 5ここにユダヤ人ら嫉を起して市の無頼者をかたらひ、群衆を集めて町を騒がし、又ふたりを集民の前に曳き出さんとしてヤソンの家を圍みしが、 6見出さざれば、ヤソンと數人の兄弟とを町司たちの前に曳ききたり、呼はりて言ふ『天下を顛覆したる彼の者ども此處にまで來れるを、 7ヤソン迎へ入れたり。この曹輩は皆カイザルの詔勅にそむき、他にイエスと云ふ王ありと言ふ』 8之をききて群衆と町司たちと心をさわがし、 9保證を取りてヤソンと他の人々とを釋せり。 10兄弟たち直ちに夜の間にパウロとシラスとをベレヤに送りいだす。二人は彼處につきてユダヤ人の

會堂にいたる。11 此處の人々はテサロニケに居る人よりも善良にして、心より御言をうけ、この事正しく然るか然らぬか、日々聖書をしらぶ。12 この故にその中の多くのもの信じたり、又ギリシヤの貴女、男子にして信じたる者も少からざりき。13 然るにテサロニケのユダヤ人ら、パウロがベレヤにも神の言を傳ふることを聞きたれば、此處にも來りて群衆を動かし、かつ騒がしたり。14 ここに兄弟たち直ちにパウロを送り出して海邊に往かしめ、シラスとテモテとは尚ベレヤに留れり。15 パウロを導ける人々はアテネまで伴ひ行き、パウロよりシラスとテモテとに、疾く我に來れとの命を受けて立ち去れり。16 パウロ、アテネにて彼らを待ちをる間に、町に偶像の満ちたるを見て、その心に憤慨を懷く。17 されば會堂にてはユダヤ人および敬虔なる人々と論じ、市場にては日々逢ふところの者と論じたり。18 斯てエピクロス派ならびにストア派の哲學者 數人これと論じあひ、或者は言ふ『この囀る者なにを言はんとするか』或者は言ふ『かれは異なる神々を傳ふる者の如し』是はパウロがイエスと復活とを宣べたる故なり。19 遂にパウロをアレオパゴスに連れ往きて言ふ『なんぢが語るこの新しき教の如何なるものなるを、我ら知り得べきか。20 なんぢ異なる事を我らの耳に入るが故に、我らその何事たるを知らんと思ふなり』21 アテネ人も、彼處に住む旅人も、皆ただ新しき事を或は語り、或は聞きてのみ日を送りゐたり。22 パウロ、アレオパゴスの中に立ちて言ふ『アテネ人よ、我すべての事に就きて汝らが神々を敬ふ心の篤きを見る。23 われ汝らが拜むものを見つつ道

を過ぐるほどに「知らざる神に」と記したる一つの祭壇を見出したり。然れば我なんぢらが知らずして拜む所のものを汝らに示さん。24 世界とその中のあらゆる物とを造り給ひし神は、天地の主にましませば、手にて造れる宮に住み給はず。25 みづから凡ての人に生命と息と萬の物とを與へ給へば、物に乏しき所あるが如く、人の手にて事ふることを要し給はず。26 一人よりして諸種の國人を造りいだし、之地の全面に住ましめ、時期の限と住居の界とを定め給へり。27 これ人をして神を尋ねしめ、或は探りて見出す事あらしめん爲なり。されど神は我等おのおのを離れ給ふこと遠からず、28 我らは神の中に生き、動きまた在るなり。汝らの詩人の中の或者どもも「我らは又その裔なり」と云へる如し。29 かく神の裔なれば、神を金・銀・石など人の工と思考とにて刻める物と等しく思ふべきにあらず。30 神はかかる無知の時代を見過しにし給ひしが、今は何處にても凡ての人に悔改むべきことを告げたまふ。31 曩に立て給ひし一人によりて、義をもて世界を審かんために日をさだめ、彼を死人の中より甦へらせて保證を萬人に與へ給へり』32 人々、死人の復活をききて、或者は嘲笑ひしが、或者は『われら復この事を汝に聞かん』と言へり。33 ここにパウロ人々のなかを出で去る。34 されど彼に附隨ひて信じたるもの數人あり。其の中にアレオパゴスの裁判人デオヌシオ及びダマリスと名づくる女あり、尚その他にもありき。

18 この後パウロ、アテネを離れてコリントに到り、2 アクラと云ふポイントに生れたるユダヤ人に遇ふ。クラウデオ、ユダヤ人にことごとくロマを退くべ

き命を下したるによりて、近頃その妻プリスキラと共にイタリヤより來りし者なり。 3 パウロ其の許に到りしに、同業なりしかば偕に居りて工をなせり。彼らの業は幕屋製造なり。 4 かくて安息日毎に會堂にて論じ、ユダヤ人とギリシヤ人とを勸む。 5 シラスとテモテとマケドニヤより來りて後は、パウロ専ら御言を宣ぶることに力め、イエスのキリストたることをユダヤ人に證せり。 6 然るに、彼ら之に逆ひかつ罵りたれば、パウロ衣を拂ひて言ふ『なんぢらの血は汝らの首に歸すべし、我はいさぎよし、今より異邦人に往かん』 7 遂に此處を去りて、神を敬ふテテオ・ユストと云ふ人の家に到る。この家は會堂に隣れり。 8 會堂司クリスポその家族一同と共に主を信じ、また多くのコリント人も聽きて信じ、かつバプテスマを受けたり。 9 主は夜まぼろしの中にパウロに言ひ給ふ『おそるな、語れ、黙すな、 10 我なんぢと偕にあり、誰も汝を攻めて害ふ者なからん。此の町には多くの我が民あり』 11 かくてパウロ一年六个月ここに留りて神の言を教へたり。 12 ガリオ、アカヤの總督たる時、ユダヤ人、心を一つにしてパウロを攻め、審判の座に曳きゆき、 13 『この人は律法にかなはぬ仕方にて神を拜むことを人に勸む』と言ひたれば、 14 パウロ口を開かんとせしに、ガリオ、ユダヤ人に言ふ『ユダヤ人よ、不正または奸惡の事ならば、我が汝らに聽くは道理なれど、 15 もし言・名あるいは汝らの律法にかかはる問題ならば、汝等みづから理むべし。我かかる事の審判人となるを好まず』 16 かくて彼らを審判の座より逐ひいだす。 17 ここに人々みな會堂司ソステネを執へ、審

判の座の前にて打ち拵きたり。ガリオは凡て此らの事を意とせざりき。18 パウロなほ久しく留りてのち、兄弟たちに別を告げ、プリスキラとアクラとを伴ひ、シリヤに向ひて船出す。早くより誓願ありたれば、ケンクレヤにて髪を剃れり。19 かくてエペソに著き、其處にこの二人を留めおき、自らは會堂に入りてユダヤ人と論ず。20 人々かれに今しばらく居らんことを請ひたれど、肯んぜずして、21 別を告げ『神の御意ならば復なんぢらに返らん』と言ひてエペソより船出し、22 カイザリヤにつき、而してエルサレムに上り、教會の安否を問ひてアンテオケに下り、23 此處に暫く留りて後、また去りてガラテヤ、フルギヤの地を次々に經て凡ての弟子を堅うせり。24 時にアレキサンデリヤ生れのユダヤ人にて、聖書に通達したるアポロと云ふ能辯なる者エペソに下る。25 この人は曩に主の道を教へられ、ただヨハネのバプテスマを知るのみなれど、熱心にして詳細にイエスの事を語り、かつ教へたり。26 かれ會堂にて臆せずして語り始めしを、プリスキラとアクラと聞きみて之を迎へ入れ、なほも詳細に神の道を解き明せり。27 アポロ遂にアカヤに渡らんとしたれば、兄弟たち之を勵まし、かつ弟子たちに彼を受け容るるやうに書き贈れり。彼かしこに往き、既に恩惠によりて信じたる者に多くの益を與ふ。28 即ち聖書に基き、イエスのキリストたる事を示して、激甚くかつ公然にユダヤ人を言ひ伏せたるなり。

19 かくてアポロ、コリントに居りし時、パウロ東の地方を經てエペソに到り、或弟子たちに逢ひて、**2** 『なんぢら信者となりしとき聖靈を受けしか』と

言ひたれば、彼等いふ『いな、我らは聖靈の有ることすら聞かず』 3 パウロ言ふ『されば何によりてバプテスマを受けしか』彼等いふ『ヨハネのバプテスマなり』 4 パウロ言ふ『ヨハネは悔改のバプテスマを授けて、己に後れて來るもの（即ちイエス）を信ずべきことを民に云へるなり』 5 彼等これを聞いて主イエスの名によりてバプテスマを受く。 6 パウロ手を彼らの上に按きしとき、聖靈その上に望みたれば、彼ら異言を語り、かつ預言せり。 7 この人々は凡て十二人ほどなり。 8 ここにパウロ會堂に入りて、三个月のあひだ臆せずして神の國に就きて論じ、かつ勧めたり。 9 然るに或者ども頑固になりて従はず、會衆の前に神の道を譏りたれば、パウロ彼らを離れ、弟子たちをも退かしめ、日毎にツラノの會堂にて論ず。 10 斯くすること二年の間なりしかば、アジアに住む者は、ユダヤ人もギリシヤ人もみな主の言を聞けり。 11 而して神はパウロの手によりて尋常ならぬ能力ある業を行ひたまふ。 12 即ち人々かれの身より或は手拭あるひは前垂をとりて病める者に著くれば、病は去り惡靈は出でたり。 13 ここに諸國遍歴の咒文師なるユダヤ人數人あり、試みに惡靈に憑かれたる者に對して、主イエスの名を呼び『われパウロの宣ふるイエスによりて、汝らに命ず』と言へり。 14 斯くなせる者の中に、ユダヤの祭司長スケワの七人の子もありき。 15 惡靈こたへて言ふ『われイエスを知り、又パウロを知る。然れど汝らは誰ぞ』 16 かくて惡靈の入りたる人、かれらに跳びかかりて二人に勝ち、これを打拉ぎたれば、彼ら裸體になり傷を受けてその家を逃げ出でたり。 17 此の

事エペソに住む凡てのユダヤ人とギリシヤ人にと知れたれば、懼かれら一同のあひだに生じ、主イエスの名崇めらる。 18 信者となりし者おほく來り、懺悔して自らの行爲を告ぐ。 19 また魔術を行ひし多くの者ども、その書物を持ちきたり、衆人の前にて焚きたるが、其の價を算ふれば銀五萬ほどなりき。 20 主の言、大に弘りて權力を得しこと斯くの如し。 21 此等の事のありし後、パウロ、マケドニヤ、アカヤを経てエルサレムに往かんと心を決めて言ふ『われ彼處に到りてのち必ずロマをも見るべし』 22 かくて己に事ふる者の中にてテモテとエラストとの二人をマケドニヤに遣し、自己はアジヤに暫く留る。 23 その頃この道に就きて一方ならぬ騒擾おこれり。 24 デメテリオと云ふ銀細工人ありしが、アルテミスの銀の小宮を造りて細工人らに多くの業を得させたり。 25 それらの者および同じ類の職業者を集めて言ふ『人々よ、われらが此の業に頼りて利益を得ることは、汝らの知る所なり。 26 然るに、かのパウロは手にて造れる物は神にあらずと云ひて、唯にエペソのみならず、殆ど全アジヤにわたり、多くの人々を説き勸めて感したり、これ亦なんぢらの見聞する所なり。 27 かくては啻に我らの職業の輕しめらるる恐あるのみならず、また大女神アルテミスの宮も蔑せられ、全アジヤ全世界のをがむ大女神の稜威も滅ぶるに至らん』 28 彼等これを聞きて憤恚に滿され、叫びて言ふ『大なる哉、エペソ人のアルテミス』 29 かくて町擧りて騒ぎ立ち、人々パウロの同行者なるマケドニヤ人ガイオとアリスタルコとを捕へ、心を一つにして劇場に押入りたり。 30 パウロ集民のなか

に入らんとしたれど、弟子たち許さず。31 又アジャの祭の司のうちの或者どもも彼と親しかりしかば、人を遣して劇場に入らぬやうにと勧めたり。32 ここに會衆おほいに亂れ、大方はその何のために集りたるかを知らずして、或者はこの事を、或者はかの事を叫びたり。33 遂に群衆の或者ども、ユダヤ人の推し出したるアレキサンデルに勧めたれば、かれ手を揺かして集民に辯明をなさんとすれど、34 其のユダヤ人たるを知り、みな同音に『おほいなる哉、エペソ人のアルテミス』と呼はりて二時間ばかりに及ぶ。35 時に書記役、群衆を鎮めおきて言ふ『さてエペソ人よ、誰かエペソの町が大女神アルテミス及び天より降りし像の宮守なることを知らざる者あらんや。36 これは言ひ消し難きことなれば、なんぢら靜なるべし、妄なる事を爲すべからず。37 この人々は宮の物を盗む者にあらず、我らの女神を謗る者にもあらず、然るに汝ら之を曳き來れり。38 もしデメテリオ及び偕にをる細工人ら、人に就きて訴ふべき事あらば、裁判の日あり、かつ司あり、彼等おのおの訴ふべし。39 もし又ほかの事につきて議する所あらば、正式の議會にて決すべし。40 我ら今日の騷擾につきては、何の理由もなきにより咎を受くる恐あり。この會合につきて言ひひらくこと能はねばなり』

41 斯く言ひて集會を散じたり。

20 騷亂のやみし後、パウロ弟子たちを招きて勸をなし、之に別を告げ、マケドニヤに往かんとて出で立つ。2 而して、かの地方を巡り多くの言をもて弟子たちを勧めし後、ギリシヤに到る。3 そこに留ること三ヶ月にして、シリヤに向ひて船出せんとする

時、おのれを害はんとするユダヤ人らの計略に遭ひたれば、マケドニヤを経て歸らんと心を決む。4之に伴へる人々はベレア人にしてプロの子なるソパテロ、テサロニケ人アリストアルコ及びセクンド、デルベ人ガイオ及びテモテ、アジャ人テキコ及びトロピモなり。5彼らは先だちゆき、トロアスにて我らを待てり。6我らは除酵祭の後ピリピより船出し、五日にしてトロアスに著き、彼らの許に到りて七日のあひだ留れり。7一週の首の日われらパンを擘かんとて集りしが、パウロ明日いで立たんとて彼等とかなり、夜半まで語り續けたり。8集りたる高樓には多くの燈火ありき。9ここにユテコといふ若者窓に倚りて坐しみるが、甚く眠氣ざすほどに、パウロの語る事愈々久しくなりたれば、遂に熟睡して三階より落つ。これを扶け起したるに、はや死にたり。10パウロ降りて其の上に伏し、かき抱きて言ふ『なんぢら騒ぐな、生命はなほ内にあり』11乃ち復のぼりてパンを擘き、食してのち久しく語りあひ、夜明に至り遂に出でたり。12人々かの若者の活きたるを連れきたり、甚く慰藉を得たり。13かくて我らは先だちて船に乗り、アソスにてパウロを載せんとして彼處に船出せり。彼は徒歩にて往かんとて斯くは定めたるなり。14我らアソスにてパウロを待ち迎へ、これを載せてミテレネに渡り、15また彼處より船出して翌日キヨスの彼方にいたり、次の日サモスに立ち寄り、その次の日ミレトに著く。16パウロ、アジャにて時を費さぬ爲に、エペソには船を寄せずして過ぐることに定めしなり。これは成るべく五旬節の日エルサレムに在ることを得んとて急ぎしに因

る。17 而してパウロ、ミレトより人をエペソに遣し、教會の長老たちを呼びて、18 その來りし時かれらに言ふ『わがアジヤに來りし初の日より、如何なる状にて常に汝らと偕に居りしかは、汝らの知る所なり。19 即ち謙遜の限をつくし、涙を流し、ユダヤ人の計略によりて迫り來し艱難に耐へて主につかへ、20 益となる事は何くれとなく憚らずして告げ、公然にても家々にても汝らを教へ、21 ユダヤ人にもギリシヤ人にも、神に對して悔改め、われらの主イエスに對して信仰すべきことを證せり。22 視よ、今われは心 搦められてエルサレムに往く。彼處にて如何なる事の我に及ぶかを知らず。23 ただ聖靈いづれの町にても我に證して、縲紲と患難と我を待てりと告げたまふ。24 然れど我わが走るべき道程と、主イエスより承けし職、すなわち神の恵の福音を證する事とを果さん爲には、固より生命をも重んぜざるなり。25 視よ、今われは知る、前に汝らの中を歴巡りて御國を宣傳へし我が顔を、汝ら皆ふたたび見ざるべきを。26 この故に、われ今日なんぢらに證す、われは凡ての人の血につきていさぎよし。27 我は憚らずして神の御旨をことごとく汝らに告げしなり。28 汝等みづから心せよ、又すべての群に心せよ、聖靈は汝等を群のなかに立てて監督となし、神の己の血をもて買ひ給ひし教會を牧せしめ給ふ。29 われ知る、わが出で去るのち、暴き豺狼なんぢらの中に入りきたりて、群を惜まず、30 又なんぢらの中よりも、弟子たちを己が方に引き入れんとて、曲れることを語るもの起らん。31 されば汝ら目を覺しをれ。三年の間わが夜も晝も休まず、涙をもて汝等おのおのを

訓戒せしことを憶えよ。 **32** われ今なんぢらを、主および其の恵の御言に委ぬ。御言は汝らの徳を建て、すべての潔められたる者ととも嗣業を受けしめ得るなり。 **33** 我は人の金銀・衣服を貪りし事なし。 **34** この手は我が必要に供へ、また我と偕なる者に供へしことを汝等みづから知る。 **35** 我すべての事に於て例を示せり、即ち汝らも斯く働きて、弱き者を助け、また主イエスの自ら言ひ給ひし「與ふるは受くるよりも幸福なり」との御言を記憶すべきなり』 **36** 斯く言ひて後、パウロ跪づきて一同とともに祈れり。 **37** みな大に歎きパウロの頸を抱きて接吻し、 **38** そのふたたび我が顔を見ざるべしと云ひし言によりて特に憂ひ、遂に彼を船まで送りゆけり。

21 ここに我ら人々と別れて船出をなし、眞直にはせてコスに到り、次の日ロドスにつき、彼處よりパタラにわたる。 **2** 此の處にてピニケにゆく船に遇ひ、これに乗りて船出す。 **3** クプロを望み、之を左にして過ぎ、シリヤに向ひて進み、ツロに著きたり、此處にて船荷を卸さんとすればなり。 **4** かくて弟子たちに尋ね逢ひて七日 留れり。かれら御靈によりてパウロに、エルサレムに上るまじき事を云へり。 **5** 然るに我ら七日 終りて後、いでて旅立ちたれば、彼等みな妻子とともに町の外まで送りきたり、諸共に濱邊に跪づきて祈り、 **6** 相互に別を告げて我らは船に乗り、彼らは家に歸れり。 **7** ツロをいでトレマイに到りて船路つきたり。此處にて兄弟たちの安否を訪ひ、かれらの許に一日 留り、 **8** 明くる日ここを去りてカイザリヤにいたり、傳道者ピリポの家に入りて留る、彼はかの七人の一人なり。 **9** この人に預言

する四人の娘ありて、處女なりき。10 我ら數日 留り居るうちに、アガボと云ふ預言者ユダヤより下り、11 我らの許に來りてパウロの帶をとり、己が足と手とを縛りて言ふ『聖靈かく言ひ給ふ「エルサレムにて、ユダヤ人この帶の主を斯くの如く縛りて異邦人の手に付さん」と』12 われら之を聞きて此の地の人々とともにパウロに、エルサレムに上らざらんことを勸む。13 その時パウロ答ふ『なんぢら何ぞ歎きて我が心を挫くか、我エルサレムにて、主イエスの名のために、唯に縛らるるのみかは、死ぬることも覺悟せり』14 斯く我らの勸告を納れるによりて『主の御意の如くなれかし』と言ひて止む。15 この後われら行李を整へてエルサレムに上る。16 カイザリヤに居る弟子も數人ともに往き、我らの宿らんとするクプロ人マナソンといふ舊き弟子のもとに案内したり。17 エルサレムに到りたれば、兄弟たち歡びて我らを迎へたり。18 翌日パウロ我らと共にヤコブの許に往きしに、長老たちみなあつまり居たり。19 パウロその安否を問ひて後、おのが勤勞によりて異邦人のうちに神の行ひ給ひしことを、一々 告げたれば、20 彼ら聞きて神を崇め、またパウロに言ふ『兄弟よ、なんぢの見るごとく、ユダヤ人のうち、信者となりたるもの數萬人あり、みな律法に對して熱心なる者なり。21 彼らは、汝が異邦人のうちに居る凡てのユダヤ人に對ひて、その兒らに割禮を施すな、習慣に従ふなと云ひて、モーセに遠ざかることを教ふと聞けり。22 如何にすべきか、彼らは必ず汝の來りたるを聞かん。23 されば汝われらの言ふ如くせよ、我らの中に誓願あるもの四人あり、24 汝かれらと組

みて之とともに潔をなし、彼等のために費を出して髪を剃らしめよ。さらば人々みな汝につきて聞きたることの虚偽にして、汝も律法を守りて正しく歩み居ることを知らん。 25 異邦人の信者となりたる者につきては、我ら既に書き贈りて、偶像に献げたる物と、血と、絞殺したる物と、淫行とに遠ざかるべき事を定めたり』 26 ここにパウロその人々と組み、次の日ともどもに潔をなして宮に入り、潔の期満ちて各人のために献物をささぐべき日を告げたり。 27 かくて七日の終らんとする時、アジャより來りシユダヤ人ら、宮の内にパウロの居るを見て、群衆を騒がし、かれに手をかけ叫びて言ふ、 28 『イスラエルの人々 助けよ、この人はいたる處にて民と律法と此の所とに悖れることを人々に教ふる者なり、然のみならず、ギリシヤ人を宮に率き入れて、此の聖なる所をも汚したり』 29 からら曩にエペソ人トロピモがパウロとともに市中にゐたるを見て、パウロ之を宮に率き入れしと思ひしなり。 30 ここに市中みな騒ぎたち、民ども馳せ集り、パウロを捕へて宮の外に曳き出せり、かくて門は直ちに鎖されたり。 31 彼らパウロを殺さんとせしとき、軍隊の千卒長に、エルサレム中さわぎ立てりとの事きこえたれば、 32 かれ速かに兵卒および百卒長らを率ゐて馳せ下る。かれら千卒長と兵卒とを見て、パウロを打つことを止む。 33 千卒長、近よりてパウロを執へ、命じて二つの鎖にて繋がせ、その何人なるか、何事をなしたるかを尋ぬるに、 34 群衆の中にて或者はこの事を、或者はかの事を呼はり、騒亂のために確なる事を知るに由なく、命じて陣營に曳き來らしめたり。 35 階段に

至れるに、群衆の手暴きによりて、兵卒パウロを負ひたり。36 これ群れる民ども『彼を除け』と叫びつつ随ひ迫れる故なり。37 パウロ陣營に曳き入れられんとするとき、千卒長に言ふ『われ汝に語りて可きか』かれ言ふ『なんぢギリシヤ語を知るか。38 汝はかのエジプト人にして、曩に亂を起して四千人の刺客を荒野に率ゐる出でし者ならずや』39 パウロ言ふ『我はキリキヤなるタルソのユダヤ人、鄙しからぬ市の市民なり。請ふ民に語るを許せ』40 之を許したれば、パウロ階段の上に立ち、民に對ひて手を搖かし、大に靜まれる時、ヘブルの語にて語りて言ふ、

22 『兄弟たち親たちよ、今なんぢらに對する辯明を聽け』2 人々そのヘブルの語を語るを聞きてますます靜になりたれば、又いふ、3 『我はユダヤ人にてキリキヤのタルソに生れしが、此の都にて育てられ、ガマリエルの足下にて先祖たちの律法の厳しき方に遵ひて教へられ、今日の汝らのごとく神に對して熱心なる者なりき。4 我この道を迫害し、男女を縛りて獄に入れ、死にまで至らしめしことは、5 大祭司も凡ての長老も我に就きて證するなり。我は彼等より兄弟たちへの書を受けて、ダマスコに寓り居る者どもを縛り、エルサレムに曳き來りて罰を受けしめんとて彼處にゆけり。6 往きてダマスコに近づきたるに、正午ごろ忽ち大なる光、天より出でて我を環り照せり。7 その時われ地に倒れ、かつ我に語りて「サウロ、サウロ、何ぞ我を迫害するか」といふ聲を聞き、8 「主よ、なんぢは誰ぞ」と答へしに「われは汝が迫害するナザレのイエスなり」と言ひ給へり。9 偕に居る者ども光は見しが、我に語る者

の聲は聞かざりき。 10 われ復いふ「主よ、我なにを爲すべきか」主いひ給ふ「起ちてダマスコに往け、なんぢの爲すべき定りたる事は彼處にて悉とく告げらるべし」 11 我は、かの光の晃耀にて目見えなくなりたれば、偕にをる者に手を引かれてダマスコに入りたり。 12 ここに律法に據れる敬虔の人にして、其の町に住む凡てのユダヤ人に令聞あるアナニヤという者あり。 13 彼われに來り傍らに立ちて「兄弟サウロよ、見ることを得よ」と言ひたれば、その時、仰ぎて彼を見たり。 14 かれ又いふ「我らの先祖の神は、なんぢを選びて御意を知らしめ、又かの義人を見、その御口の聲を聞かしめんとし給へり。 15 これは汝の見聞したる事につきて、凡ての人に對し彼の證人とならん爲なり。 16 今なんぞ躊躇ふか、起て、その御名を呼び、バプテスマを受けて汝の罪を洗ひ去れ」 17 かくて我エルサレムに歸り、宮にて祈りをするとき、我を忘れし心地して主を見奉るに、我に斯く言ひ給ふ、 18 「なんぢ急げ、早くエルサレムを去れ、人々われに係る汝の證を受けぬ故なり」 19 我いふ「主よ、我さきに汝を信ずる者を獄に入れ、諸會堂にて之を扑ち、 20 又なんぢの證人ステパノの血の流されしとき、我もその傍らに立ちて之を可しとし、殺す者どもの衣を守りしことは、彼らの知る所なり」 21 われに言ひ給ふ「往け、我なんぢを遠く異邦人に遣すなり」と』 22 人々きき居たりしが、此の言に及び、聲を揚げて言ふ『斯くのごとき者をば地より除け、生かしおくべき者ならず』 23 斯く叫びつつ其の衣を脱ぎすて、塵を空中に撒きたれば、 24 千卒長、人々が何故パウロにむかひて斯く叫び呼はるかを知

らんとし、鞭うちて訊ぶることを命じて、彼を陣營に曳き入れしむ。 25 革鞭をあてんとてパウロを引き張りし時、かれ傍らに立つ百卒長に言ふ『 로마人たる者を罪も定めずして鞭うつは可きか』 26 百卒長これを聞いて千卒長に往き、告げて言ふ『なんぢ何をなさんとするか、此の人は 로마人なり』 27 千卒長きたりて言ふ『なんぢは 로마人なるか、我に告げよ』かれ言ふ『然り』 28 千卒長こたふ『我は多くの金をもて此の民籍を得たり』パウロ言ふ『我は生れながらなり』 29 ここに訊べんとせし者どもは直ちに去り、千卒長はその 로마人なるを知り、之を縛りしことを懼れたり。 30 明くる日、千卒長かれが何故ユダヤ人に訴へられしか、確なる事を知らんと欲して、彼の縛を解き、命じて祭司長らと全議會とを呼び集め、パウロを曳き出して其の前に立たしめたり。

23 パウロ議會に目を注ぎて言ふ『兄弟たちよ、我は今日に至るまで事毎に良心に従ひて神に事へたり』 2 大祭司アナニヤ傍らに立つ者どもに、彼の口を撃つことを命ず。 3 ここにパウロ言ふ『白く塗りたる壁よ、神なんぢを撃ち給はん、なんぢ律法によりて我を審くために坐しながら、律法に悖りて我を撃つことを命ずるか』 4 傍らに立つ者いふ『なんぢ神の大祭司を罵るか』 5 パウロ言ふ『兄弟たちよ、我その大祭司たることを知らざりき。録して「なんぢの民の司をそしる可からず」とあればなり』 6 かくてパウロ、その一部はサドカイ人、その一部はパリサイ人たるを知りて、議會のうちに呼はりて言ふ『兄弟たちよ、我はパリサイ人にしてパリサイ人の子なり、我は死人の甦へることの希望につきて審かる

るなり』 7 斯く言ひしに因りて、パリサイ人とサドカイ人との間に紛争おこりて、會衆相分れたり。 8 サドカイ人は復活もなく御使も靈もなしと言ひ、パリサイ人は兩ながらありと云ふ。 9 遂に大なる喧噪となりて、パリサイ人の中の學者 數人たちて争ひて言ふ『われら此の人に悪しき事あるを見ず、もし靈または御使かれに語りたるならば如何』 10 紛争いよいよ激しくなりたれば、千卒長、パウロの彼らに引裂かれんことを恐れ、兵卒どもに命じて下りゆかしめ、彼らの中より引取りて陣營に連れ來らしめたり。 11 その夜、主パウロの傍らに立ちて言ひ給ふ『雄々しかれ、汝エルサレムにて我につきて證をなしたる如く、ロマにても證をなすべし』 12 夜明になりてユダヤ人、徒黨を組み盟約を立てて、パウロを殺すまでは飲食せじと言ふ。 13 この徒黨を結びたる者は四十人餘なり。 14 彼らは祭司長・長老らに往きて言ふ『われらパウロを殺すまでは何をも味ふまじと堅く盟約を立てたり。 15 されば汝等なほ詳細に訊べんとする状して、彼を汝らの許に連れ下らすことを、議會とともに千卒長に訴へよ。我等その近くならぬ間に殺す準備をなせり』 16 パウロの姉妹の子この待伏の事をきき、往きて陣營に入りパウロに告げたれば、 17 パウロ百卒長の一人を呼びて言ふ『この若者を千卒長につれ往け、告ぐる事あり』 18 百卒長これを携へ、千卒長に至りて言ふ『囚人パウロ我を呼びて、この若者なんぢに言ふべき事ありとて、汝に連れ往くことを請へり』 19 千卒長その手を執り退きて、私に問ふ『われに告ぐる事とは何ぞ』 20 若者いふ『ユダヤ人は、汝がパウロの事をなほ詳細に

訊ぶる爲にとて、明日かれを議會に連れ下ることを汝に請はんと申合せたり。 21 汝その請に従ふな、彼らの中にて四十人餘の者、パウロを待伏せ、之を殺すまでは飲食せじと盟約を立て、今その準備をなして汝の許諾を待てり』 22 ここに千卒長、若者に『これらの事を我に訴へたりと誰にも語るな』と命じて歸せり。 23 さて百卒長を兩三人よびて言ふ『今夜九時ごろカイザリヤに向けて往くために、兵卒二百、騎兵七十、槍をとる者二百を整へよ』 24 また畜を備へ、パウロを乗せて安全に總督ペリクスの許に護送することを命じ、 25 かつ左のごとき書をかき贈る。 26 『クラウデオ・ルシヤ謹みて總督ペリクス閣下の平安を祈る。 27 この人はユダヤ人に捕へられて殺されんとせしを、我その 로마人なるを聞き、兵卒どもを率る往きて救へり。 28 ユダヤ人の彼を訴ふる理由を知らんと欲して、その議會に引き往きたるに、 29 彼らの律法の問題につき訴へられたるにて、死もしくは縛に當る罪の訴訟にあらざるを知りたり。 30 又この人を害せんとする謀計ありと我に聞えたらば、われ俄にこれを汝のもとに送り、これを訴ふる者に、なんぢの前にて彼を訴へんことを命じたり』 31 ここに兵卒ども命ぜられたる如くパウロを受けとりて、夜中アンテパトリスまで連れてゆき、 32 翌日これを騎兵に委ね、ともに往かしめて陣營に歸れり。 33 騎兵はカイザリヤに入り、總督に書をわたし、パウロを其の前に立たしむ。 34 總督、書を読み、パウロのいつこの國の者なるかを問ひ、そのキリキヤ人なるを知りて、 35 『汝を訴ふる者の來らんとき

、尚つまびらかに汝のことを聽かん』と言ひ、かつ命じて、ヘロデでの官邸に之を守らしめたり。

24 五日ののち、大祭司アナニヤ數人の長老およびテルトロと云ふ辯護士とともに下りて、パウロを總督に訴ふ。 **2** パウロ呼び出されたれば、テルトロ訴へ出でて言ふ『ペリクス閣下よ、われらは汝によりて太平を楽しみ、 **3** なんぢの先見によりて、此の國人のために時に隨ひ處に隨ひて、惡しき事の改められたるを感謝して罷まず。 **4** ここに喃々しく陳べて汝を妨ぐまじ、願はくは寛容をもて我が少しの言を聽け。 **5** 我等この人を見るに、恰も疫病のごとくにて、全世界のユダヤ人のあひだに騷擾をおこし、且ナザレ人の異端の首にして、 **6** 宮をさへ瀆さんとしたれば、之を捕へたり。 **7** [なし] **8** 汝この人に就きて訊さば、我らの訴ふる所をことごとく知り得べし』 **9** ユダヤ人も之に加へて、誠にその如くなりと主張す。 **10** 總督、首にて示しパウロに言はしめられたれば、答ふ『なんぢが年久しくこの國人の審判人たることを我は知るゆゑに、喜びて我が辯明をなさん。 **11** なんぢ知り得べし、我が禮拜のためにエルサレムに上りてより僅か十二日に過ぎず、 **12** また彼らは、我が宮にても會堂にても市中にても、人と争ひ群衆を騒がしたるを見ず、 **13** いま訴へたる我が事につきても證明すること能はざるなり。 **14** 我ただ此の一事を汝に言ひあらはさん、即ち我は彼らが異端と稱ふる道に循ひて、我が先祖たちの神につかへ、律法と預言者の書とに録したる事をことごとく信じ、 **15** かれら自らも待てるごとく、義者と不義者との復活あるべしと、神を仰ぎて望を懷くなり。 **16** この故に、

われ常に神と人とに對して良心の責なからんことを勉む。 17 我は多くの年を経てのち歸りきたり、我が民に施濟をなし、また献物をささげゐたりしが、 18 その時かれらは我が潔をなして宮にをるを見たるのみにて、群衆もなく騷擾もなかりしなり。 19 然るにアジアより來れる數人のユダヤ人ありて――もし我に咎むべき事あらば、彼らが汝の前に出でて訴ふことを爲べきなり。 20 或はまた此處なる人々、わが先に議會に立ちしとき、我に何の不義を認めしか言へ。 21 唯われ彼らの中に立ちて「死人の甦へる事につきて我けふ汝らの前にて審かる」と呼はりし一言の他には何もなかるべし』 22 ペリクスこの道のことを詳しく知りたれば、審判を延して言ふ『千卒長ルシヤの下るを待ちて汝らの事を定むべし』 23 かくて百卒長に命じパウロを守らせ、寛かならしめ、かつ友の之に事ふるをも禁ぜざらしむ。 24 數日の後ペリクス、その妻なるユダヤ人の女ドルシラとともに來り、パウロを呼びよせてキリスト・イエスに對する信仰のことを聽き、 25 パウロが正義と節制と來らんとする審判とにつきて論じたる時、ペリクス懼れて答ふ『今は去れ、よき機を得てまた招かん』 26 かくてパウロより金を與へられんことを望みて、尚しばしば彼を呼びよせては語れり。 27 二年を経てポルシオ・フェスト、ペリクスの任に代りしが、ペリクス、ユダヤ人の意を迎へんとして、パウロを繋ぎたるままに差措けり。

25 フェスト任國にいたりて三日の後、カイザリヤよりエルサレムに上りたれば、 2 祭司長ら及びユダヤ人の重立ちたる者ども、パウロを訴へ之を害はん

として、**3** フェストの好意にて彼をエルサレムに召し出されんことを願ふ。斯くして道に待伏し、之を殺さんと思へるなり。**4** 然るにフェスト答へて、パウロのカイザリヤに囚はれ在ることと、己が程なく歸るべき事とを告げ、**5** 『もし彼に不善あらんには、汝等のうち然るべき者ども我とともに下りて訴ふべし』と言ふ。**6** かくて彼處に八日十日ばかり居りてカイザリヤに下り、明くる日、審判の座に坐し、命じてパウロを引出さしむ。**7** その出で來りし時、エルサレムより下りしユダヤ人ら、これを取圍みて様々の重き罪を言ひ立てて訴ふれども、證すること能はず。**8** パウロは辯明して言ふ『我はユダヤ人の律法に對しても、宮に對しても、カイザルに對しても、罪を犯したる事なし』**9** フェスト、ユダヤ人の意を迎へんとしてパウロに答へて言ふ『なんぢエルサレムに上り、彼處にて我が前に審かるることを諾ふか』**10** パウロ言ふ『我はわが審かるべきカイザルの審判の座の前に立ちをるなり。汝の能く知るごとく、我はユダヤ人を害ひしことなし。**11** 若しも罪を犯して死に當るべき事をなしたらんには、死ぬるを厭はじ。然れど此の人々の訴ふることを實ならずば、誰も我を彼らに付すことを得じ、我はカイザルに上訴せん』**12** ここにフェスト陪席の者と相議りて答ふ『なんぢカイザルに上訴せんとす、カイザルの許に往くべし』**13** 數日を経て後、アグリッパ王とベルニケとカイザリヤに到りてフェストの安否を問ふ。**14** 多くの日留りゐたれば、フェスト、パウロのことを王に告げて言ふ『ここにペリクスが囚人として遺しおきたる一人の人あり、**15** 我エルサレムに居りし

とき、ユダヤ人の祭司長・長老ら之を訴へて罪に定めんことを願ひしが、**16** 我は答へて、訴へらるる者の未だ訴ふる者の面前にて辯明する機を與へられぬ前に付すは、 로마人の慣例にあらぬ事を告げたり。**17** この故に彼等ここに集りたれば、時を延さず次の日 審判の座に坐し、命じてかの者を引出さしむ。**18** 訴ふる者かれを圍みて立ちしが、思ひしごとき悪しき事は一つも陳ぶる所なし。**19** ただ己らの宗教、またはイエスと云ふ者の死にたるを活きたりと、パウロが主張するなどに關する問題のみなれば、**20** かかる審理には我も當惑せし故、かの人に「なんぢエルサレムに往き彼處にて審かるる事を好むか」と問ひしに、**21** パウロは上訴して皇帝の判決を受けん爲に守られんことを願ひしにより、命じて之をカイザルに送るまで守らせ置けり』**22** アグリッパ、フェストに言ふ『我もその人に聽かんと欲す』フェスト言ふ『なんぢ明日かれに聽くべし』**23** 明くる日アグリッパとペルニケと大に威儀を整へてきたり、千卒長ら及び市の重立ちたる者どもと共に訊問所に入りたれば、フェストの命によりてパウロ引出さる。**24** フェスト言ふ『アグリッパ王、竝びに此處に居る凡ての者よ、汝らの見るこの人は、ユダヤの民衆が擧りて生かしておくべきにあらずと呼はりて、エルサレムにても此處にても我に訴へし者なり。**25** 然るに我はその死に當るべき悪しき事を一つだに犯したるを認めねば、彼の自ら皇帝に上訴せんとする隨にその許に送らんと決めたり。**26** 而して彼につきて我が主に上書すべき實情を得ず。この故に汝等のまへ、特にアグリッパ王よ、なんぢの前に引出し、訊問をなして

のち、上書すべき箇條を得んと思へり。27 囚人を送るに訴訟の次第を陳べざるは道理ならずと思ふ故なり』

26 アグリッパ、パウロに言ふ『なんぢは自己のために陳ぶことを許されたり』ここにパウロ手を伸べ、辯明して言ふ、**2** 『アグリッパ王よ、我ユダヤ人より訴へられし凡ての事につきて、今日なんぢらの前に辯明するを我が幸福とす。**3** 汝がユダヤ人の凡ての習慣と問題とを知るによりて殊に然りとす。されば請ふ、忍びて我に聽け。**4** わが始より國人のうちに又エルサレムに於ける幼き時よりの生活の状は、ユダヤ人のみな知る所なり。**5** 彼等もし證せんと思はば、わが我らの宗教の最も厳しき派に従ひて、パリサイ人の生活をなしし事を始より知れり。**6** 今わが立ちて審かるるは、神が我らの先祖たちに約束し給ひしことの希望に因りてなり。**7** 之を得んことを望みて、我が十二の族は夜も晝も熱心に神に事ふるなり。王よ、この希望につきて、我はユダヤ人に訴へられたり。**8** 神は死人を甦へらせ給ふとも、汝等なんぞ信じ難しとするか。**9** 我も曩にはナザレ人イエスの名に逆ひて様々の事をなすを宜きことと自ら思へり。**10** 我エルサレムにて之をおこなひ、祭司長らより權威を受けて多くの聖徒を獄にいれ、彼らの殺されし時これに同意し、**11** 諸教會堂にてしばしば彼らを罰し、強ひて瀆言を言はしめんとし、甚だしく狂ひ、迫害して外國の町にまで至れり。**12** 此のとき祭司長らより權威と委任とを受けてダマスコに赴きしが、**13** 王よ、その途にて正午ごろ天よりの光を見たり、日にも勝りて輝き、我と伴侶とを圍み

照せり。14我等みな地に倒れたるに、ヘブルの語にて「サウロ、サウロ、何ぞ我を迫害するか、刺ある策を蹴るは難し」といふ聲を我きけり。15われ言ふ「主よ、なんぢは誰ぞ」主いひ給ふ「われは汝が迫害するイエスなり。16起きて汝の足にて立て、わが汝に現れしは、汝をたてて其の見しことと我が汝に現れて示さんとする事との役者また證人たらしめん爲なり。17我なんぢを此の民および異邦人より救はん、又なんぢを彼らに遣し、18その目をひらきて暗より光に、サタンの權威より神に立ち歸らせ、我に對する信仰によりて罪の赦と潔められたる者のうちの嗣業とを得しめん」と。19この故にアグリッパ王よ、われは天よりの顯示に背かずして、20先づダマスコに居るもの、次にエルサレム及びユダヤ全國、また異邦人にまで、悔改めて神に立ちかへり、其の悔改にかなふ業をなすべきことを宣傳へたり。21之がためにユダヤ人われを宮にて捕へ、かつ殺さんとせり。22然るに神の祐によりて今日に至るまで尚存へて、小なる人にも大なる人にも證をなし、言ふところは預言者およびモーセが必ず來るべしと語りしことの外ならず。23即ちキリストの苦難を受くべきこと、最先に死人の中より甦へる事によりて、民と異邦人とに光を傳ふべきこと是なり』24パウロスく辯明しつつある時、フェスト大聲に言ふ『パウロよ、なんぢ狂氣せり、博學なんぢを狂氣せしめたり』25パウロ言ふ『フェスト閣下よ、我は狂氣せず、宣ぶる所は眞にして慥なる言なり。26王は此等のことを知るゆゑに、我その前に憚らずして語る。これらの事は片隅に行はれたるにあらねば、一つとし

て王の眼に隠れたるはなしと信ずるに因る。 27 アグリッパ王よ、なんぢ預言者の書を信ずるか、我なんぢの信ずることを知る』 28 アグリッパ、パウロに言ふ『なんぢ説くこと僅にして我をキリステアンたらしめんとするか』 29 パウロ言ふ『説くことの僅なるにもせよ、多きにもせよ、神に願ふは、啻に汝のみならず、凡て今日われに聽ける者の、この縲綫なくして我がごとき者とならんことなり』 30 ここに王も總督もベルニケも、列座の者どもも皆ともに立つ、 31 退きてのち相語りて言ふ『この人は死罪または縲綫に當るべき事をなさず』 32 アグリッパ、フェストに言ふ『この人カイザルに上訴せざりしならば釋さるべかりしなり』

27 すでに我等をイタリヤに渡らしむること決りたれば、パウロ及びその他 數人の囚人を、近衛隊の百卒長ユリアスと云ふ人に付せり。 2 ここに我らアジヤの海邊なる各處に寄せゆくアドラミテオの船の出帆せんとするに乗りて出づ。テサロニケのマケドニヤ人アリストアルコも我らと共にありき。 3 次の日シドンに著きたれば、ユリアス懇切にパウロを遇ひ、その友らの許にゆきて歡待を受くることを許せり。 4 かくて此處より船出せしが、風の逆ふによりてクプロの風下の方をはせ、 5 キリキヤ及びパンフリヤの沖を過ぎてルキヤのミラに著く。 6 彼處にてイタリヤにゆくアレキサンデリヤの船に遇ひたれば、百卒長われらを之に乗らしむ。 7 多くの日のあひだ船の進み遅く、辛うじてクニドに對へる處に到りしが、風に阻へられてサルモネの沖を過ぎ、クレテの風下の方をはせ、 8 陸に沿ひ辛うじて良き港といふ處に

つく。その近き處にラサヤの町あり。 9 船路 久しきを歴て、斷食の期節も既に過ぎたれば、航海 危きにより、パウロ人々に勧めて言ふ、 10 『人々よ、我この航海の害あり損 多くして、ただ積荷と船とのみならず、我らの生命にも及ぶべきを認む』 11 されど百卒長は、パウロの言ふ所よりも船 長と船 主との言を重んじたり。 12 且この港は冬を過すに不便なるより、多數の者も、なし得んにはピニクスに到り、彼處にて冬を過さんとて、此處を船出するを可しとせり。ピニクスはクレテの港にて東 北と東 南とに向ふ。 13 南 風おもむろに吹きたれば、彼ら志望を得たりとして錨をあげ、クレテの岸邊に沿ひて進みたり。 14 幾程もなくユーラクロンといふ疾風その島より吹きおろし、 15 之がために船は吹き流され、風に向ひて進むこと能はねば、船は風の追ふに任す。 16 クラウダといふ小島の風下の方にいたり、辛うじて小艇を收め、 17 これを船に引上げてのち、備綱にて船體を巻き縛り、またスルテスの洲に乗りかけんことを恐れ、帆を下して流る。 18 いたく暴風に惱され、次の日、船の者ども積荷を投げすて、 19 三日めに手づから船具を棄てたり。 20 數日のあひだ日も星も見えず、暴風はげしく吹き荒びて、我らの救はるべき望ついに絶え果てたり。 21 人々の食せぬこと久しくなりたる時、パウロその中に立ちて言ふ『人々よ、なんぢら前に我が勸をきき、クレテより船出せずして、この害と損とを受けずあるべき筈なりき。 22 いま我なんぢらに勸む、心 安かれ、汝 等のうち一人だに生命をうしなふ者なし、ただ船を失はん。 23 わが屬するところ我が事ふる所の神の使、昨夜わが傍らに立

ちて、**24** 「パウロよ、懼るな、なんぢ必ずカイザルの前に立たん、視よ、神は汝と同船する者をことごとく汝に賜へり」と云ひたればなり。**25** この故に人々よ、心安かれ、我はその我に語り給ひしごとく必ず成るべしと神を信ず。**26** 而して我らは或島に推上げらるべし』**27** かくて十四日めの夜に至りて、アドリヤの海を漂ひゆきたるに、夜半ごろ水夫ら陸に近づきたりと思ひて、**28** 水を測りたれば、二十尋なるを知り、少しく進みてまた測りたれば、十五尋なるを知り、**29** 岩に乗り上げんことを恐れて、艫より錨を四つ投して夜明を待ちわぶ。**30** 然るに水夫ら船より逃れ去らんと欲し、舳より錨を曳きゆくに言寄せて小艇を海に下したれば、**31** パウロ、百卒長と兵卒らとに言ふ『この者ども若し船に留らずば、汝ら救はるること能はず』**32** ここに兵卒ら小艇の綱を斷切りて、その流れゆくに任す。**33** 夜の明けんとする頃、パウロ凡ての人に食せんことを勧めて言ふ『なんぢら待ち待ちて食事せぬこと今日にて十四日なり。**34** されば汝らに食せんことを勧む、これ汝らが救のためなり、汝らの頭髮一筋だに首より落つる事なし』**35** 斯く言ひて後みづからパンを取り、一同の前にて神に謝し、擘きて食し始めたれば、**36** 人々もみな心を安んじて食したり。**37** 船に居る我らは凡て二百七十六人なりき。**38** 人々食し飽きてのち、穀物を海に投げ棄てて船を軽くせり。**39** 夜明になりて、孰の土地かは知らねど、砂濱の入江を見出し、なし得べくば此處に船を寄せんと相議り、**40** 錨を斷ちて海に棄つるとともに、舵纜をゆるめ舳の帆を揚げて、風にまかせつつ砂濱さして進む。**41** 然

るに潮の流れあふ處にいたりて船を淺瀬に乗り上げたれば、舳膠著きて動かず、艫は浪の激しきに破れたり。42 兵卒らは囚人の泳ぎて逃れ去らんことを恐れ、これを殺さんと議りしに、43 百卒長パウロを救はんと欲して、その議るところを阻み、泳ぎうる者に命じ、海に跳び入りてまず上陸せしめ、44 その他の者をば或は板あるひは船の碎片に乗らしむ。斯くしてみな上陸して救はるるを得たり。

28 われら救はれて後、この島のマルタと稱ふるを知れり。2 土人ら一方ならぬ情を我らに表し、降りしきる雨と寒氣とのために、火を焚きて我ら一同を待遇せり。3 パウロ柴を束ねて火にくべたれば、熱によりて蝮いでて其の手につく。4 蛇のその手に懸りたるを土人ら見て互に言ふ『この人は必ず殺人者なるべし、海より救はれしも、天道はその生くるを容さぬなり』5 パウロ蛇を火のなかに振り落して何の害をも受けざりき。6 人々は彼が腫れ出づるか、または忽ち倒れ死ぬるならんと候ふ。久しく窺ひたれど、聊かも害を受けぬを見て、思を變へて、此は神なりと言ふ。7 この處の邊に島司のもてる土地あり、島司の名はポプリオといふ。此の人われらを迎へて懇切に三日の間もてなせり。8 ポプリオの父、熱と痢病とに罹りて臥し居たれば、パウロその許にいたり、祈りかつ手を按きて醫せり。9 この事ありてより、島の病める人々みな來りて醫されたれば、10 禮を厚くして我らを敬ひ、また船出の時には必要な品々を贈りたり。11 三月の後、われらはこの島に冬籠せしデオスクリの號あるアレキサンデリヤの船にて出で、12 シラクサにつきて三日とまり、13

此處より繞りてレギオンにいたり、一日を過ぎて南風ふき起りたれば、我ら二日めにポテオリに著き、
14 此處にて兄弟たちに逢ひ、その勸によりて七日のあひだ留り、而して遂にロマに往く。**15** かしこの兄弟たち我らの事をききて、アピオポロおよびトレス
タベルネまで來りて我らを迎ふ。パウロこれを見て神に感謝し、その心勇みたり。**16** 我らロマに入りて後、パウロは己を守る一人の兵卒とともに別に住む
ことを許さる。**17** 三日すぎてパウロ、ユダヤ人の重立ちたる者呼び集む。その集りたる時これに言ふ
『兄弟たちよ、我はわが民わが先祖たちの慣例に悖ることを一つも爲さざりしに、エルサレムより囚人となりて、ロマ人の手に付されたり。**18** かれら我を
審きて死に當ることなき故に、我を釋さんと思ひしに、**19** ユダヤ人さからひたれば、餘義なくカイザルに上訴せり。然れど我が國人を訴へんとせしにあら
ず。**20** この故に我なんぢらに會ひ、かつ共に語らんことを願へり、我はイスラエルの懐く希望の爲にこの鎖に繋がれたり』**21** かれら言ふ『われら汝につき
てユダヤより書を受けず、また兄弟たちの中より來りて、汝の善からぬ事を告げたる者も、語りたる者もなし。**22** ただ我らは汝の思ふところを聞かんと欲
するなり。それは此の宗旨の到る處にて非難せらるるを知ればなり』**23** ここに日を定めて多くの人パウロの宿に來りたれば、パウロ朝より夕まで神の國の
ことを説明して證をなし、かつモーセの律法と預言者の書とを引きてイエスのことを勧めたり。**24** パウロのいふ言を或者は信じ、或者は信ぜず。**25** 互に相
合はずして退かんとしたるに、パウロ一言を述べ

て言ふ『宜なるかな、聖靈は預言者イザヤによりて
汝らの先祖たちに語り給へり。曰く、**26**「なんぢら
この民に往きて言へ、なんぢら聞いて聞けども悟ら
ず、見て見れども認めず、**27**この民の心はにぶく、
耳は聞くにもものうく、目は閉ぢたればなり。これ目
にて見、耳にて聞き、心にてきとり、ひるがへりて
我に醫さることなからん爲なり」**28**然れば汝ら知
れ、神のこの救は異邦人に遣されたり、彼らは之を
聴くべし』**29**[なし]**30**パウロは滿二年のあひだ、
己が借り受けたる家に留り、その許にきたる凡ての
者を迎へて、**31**更に臆せずまた妨げられずして、神
の國をのべ、主イエス・キリストの事を教へたり。

ローマ人への手紙

1 キリスト・イエスの僕、召されて使徒となり、神の福音のために選り別たれたるパウロ—— **2** この福音は神その預言者たちにより、聖書の中に預じめ御子に就きて約し給ひしものなり。 **3** 御子は肉によれば、ダビデの裔より生れ、 **4** 潔き靈によれば、死人の復活により大能をもて神の子と定められ給へり、即ち我らの主イエス・キリストなり。 **5** 我等その御名の爲にもろもろの國人を信仰に従順ならしめんとて、彼より恩恵と使徒の職とを受けたり。 **6** 汝等もその中にあり、てイエス・キリストの有とならん爲に召されたるなり。—— **7** われ書をロマに在りて神に愛せられ、召されて聖徒となりたる凡ての者に贈る。願はくは我らの父なる神および主イエス・キリストより賜ふ恩恵と平安と汝らに在らんことを。 **8** 汝らの信仰、全世界に言ひ傳へられたれば、我まづ汝ら一同の爲にイエス・キリストによりて我が神に感謝す。 **9** その御子の福音に於て我が靈をもて事ふる神は、わが絶えず祈のうちに汝らを覚え、 **10** 如何にしてか御意に適ひ、いつか汝らに到るべき途を得んと、常に冀がふことを我がために證し給ふなり。 **11** われ汝らを見んことを切に望むは、汝らの堅うせられん爲に靈の賜物を分け與へんとてなり。 **12** 即ち我なんぢらの中にありて、互の信仰により相共に慰められん爲なり。 **13** 兄弟よ、我ほかの異邦人の中より得しごとく、汝らの中よりも實を得んとて、屢次なんぢらに往かんとしたれど、今に至りてなほ妨げらる、此の事を汝らの知らざるを欲せず。 **14** 我はギリシヤ人にも夷人にも、智き者にも愚なる者にも負

債あり。15 この故に我はロマに在る汝らにも福音を
宣傳へんことを頻りに願ふなり。16 我は福音を恥と
せず、この福音はユダヤ人を始めギリシヤ人にも、
凡て信ずる者に救を得さす神の力たればなり。17
神の義はその福音のうちに顯れ、信仰より出でて信
仰に進ましむ。録して『義人は信仰によりて生くべ
し』とある如し。18 それ神の怒は、不義をもて眞理
を阻む人の、もろもろの不虔と不義とに對ひて天よ
り顯る。19 その故は、神につきて知り得べきことは
彼らに顯著なればなり、神これを顯し給へり。20 そ
れ神の見るべからざる永遠の能力と神性とは、造ら
れたる物により世の創より悟りえて明かに見るべけ
れば、彼ら言ひ遁るる術なし。(aīdios g126) 21 神を知
りつつも尚これを神として崇めず、感謝せず、その
念は虚しく、その愚なる心は暗くなれり。22 自ら智
しと稱へて愚となり、23 朽つることなき神の榮光を
易へて、朽つべき人および禽獸・匍ふ物に似たる像
となす。24 この故に神は彼らを其の心の慾にまかせて
て、互にその身を辱しむる汚穢に付し給へり。25 彼
らは神の眞を易へて虚偽となし、造物主を措きて造
られたる物を拜し、且これに事ふ、造物主は永遠に
讃むべき者なり、アアメン。(aiōn g165) 26 之によりて
神は彼らを恥づべき慾に付し給へり。即ち女は順性
の用を易へて逆性の用となし、27 男もまた同じく女
の順性の用を棄てて互に情慾を熾し、男と男と恥づ
ることを行ひて、その迷に値すべき報を己が身に受
けたり。28 また神を心に存むるを善しとせざれば、
神もその邪曲なる心の隨に爲まじき事をするに任せ
給へり。29 即ちもろもろの不義・悪・慳貪・悪意に

て満つる者、また嫉妬・殺意・紛争・詭計・悪念の溢るる者、**30** 讒言する者・謗る者・神に憎まるる者・侮る者・高ぶる者・誇る者・悪事を企つる者・父母に逆ふ者、**31** 無知・違約・無情・無慈悲なる者にして、**32** かかる事どもを行ふ者の死罪に當るべき神の定を知りながら、啻に自己これらの事を行ふのみならず、また人の之を行ふを可しとせり。

2 されば凡て人を審く者よ、なんぢ言ひ遁るる術なし、他の人を審くは、正しく己を罪するなり。人をさばく汝もみづから同じ事を行へばなり。**2** かかる事をおこなふ者を罪する神の審判は眞理に合へり我らは知る。**3** かかる事をおこなふ者を審きて自己これを行ふ人よ、なんぢ神の審判を遁れんと思ふか。**4** 神の仁慈なんぢを悔改に導くを知らずして、その仁慈と忍耐と寛容との豊なるを軽んずるか。**5** なんぢ頑固と悔改めぬ心とにより、己のために神の怒を積み、その正しき審判の顯る怒の日に及ぶなり。**6** 神はおのおのの所作に随ひて報い、**7** 耐へ忍びて善をおこない光榮と尊貴と朽ちざる事とを求むる者には、永遠の生命をもて報い、**(aiōnios g166)** **8** 徒黨により眞理に従はずして不義にしたがう者には、怒と憤恚をもて報い給はん。**9** すべて悪をおこなふ人には、ユダヤ人を始めギリシヤ人にも患難と苦難とあり。**10** 凡て善をおこなふ人には、ユダヤ人を始めギリシヤ人にも光榮と尊貴と平安とあらん。**11** そは神には偏り視給ふこと無ければなり。**12** 凡そ律法なくして罪を犯したる者は律法なくして滅び、律法ありて罪を犯したる者は律法によりて審かるべし。**13** 律法を聞くもの神の前に義たるにあらず、律

法をおこなふ者のみ義とせらるべし。―― **14** 律法を有たぬ異邦人、もし本性のまま律法に載せたる所をおこなふ時は、律法を有たずともおのづから己が律法たるなり。 **15** 即ち律法の命ずる所のその心に録されたるを顯し、おのが良心もこれを證をなして、その念、たがひに或は訴へ或は辯明す。―― **16** 是わが福音に云へる如く、神のキリスト・イエスによりて人々の隠れたる事を審きたまふ日に成るべし。 **17** 汝ユダヤ人と稱へられ、律法に安んじ、神を誇り、 **18** その御意を知り、律法に教へられて善惡を辨へ、 **19** また律法のうちに知識と眞理との式を有てりとして、盲人の手引、暗黒にをる者の光明、 **20** 愚なる者の守役、幼児の教師なりと自ら信ずる者よ、 **21** 何ゆゑ人に教へて己を教へぬか、竊む勿れと宣べて自ら竊むか、 **22** 姦淫する勿れと言ひて姦淫するか、偶像を惡みて宮の物を奪ふか、 **23** 律法に誇りて律法を破り神を輕んずるか。 **24** 録して『神の名は汝らの故によりて異邦人の中に流さる』とあるが如し。 **25** なんぢ律法を守らば割禮は益あり、律法を破らば汝の割禮は無割禮となるなり。 **26** 割禮なき者も律法の義を守らば、その無割禮は割禮とせらるるにあらずや。 **27** 本性のまま割禮なくして律法を全うする者は、儀文と割禮とありてなほ律法をやぶる汝を審かん。 **28** それ表面のユダヤ人はユダヤ人たるにあらず、肉に在る表面の割禮は割禮たるにあらず。 **29** 隠なるユダヤ人はユダヤ人なり、儀文によらず、靈による心の割禮は割禮なり、その譽は人よりにあらず、神より來るなり。

3さらばユダヤ人に何の優る所ありや、また割禮に何の益ありや。 **2**凡ての事に益おほし、先づ第一に彼らは神の言を委ねられたり。 **3**されど如何ん、ここに信ぜざる者ありとも、その不信は神の眞實を廢つべきか。 **4**決して然らず、人をみな虚偽者とすとも神を誠實とすべし。録して『なんぢは其の言にて義とせられ、審かるとき勝を得給はん爲なり』とあるが如し。 **5**然れど若し我らの不義は神の義を顯すとせば何と言はんか、怒を加へたまふ神は不義なるか（こは人の言ふごとく言ふなり） **6**決して然らず、若し然らば神は如何にして世を審き給ふべき。 **7**わが虚偽によりて神の誠實いよいよ顯れ、その榮光とならんには、いかで我なほ罪人として審かざる事あらん。 **8**また『善を來らせん爲に惡をなすは可からずや』（或者われらを譏りて之を我らの言なりといふ）かかる人の罪に定めらるるは正し。 **9**さらば如何ん、我らの勝る所ありや、有ることなし。我ら既にユダヤ人もギリシヤ人もみな罪の下に在りと告げたり。 **10**録して『義人なし、一人だになし、 **11**聰き者なく、神を求むる者なし。 **12**みな迷ひて相共に空しくなれり、善をなす者なし、一人だになし。 **13**彼らの咽は開きたる墓なり、舌には詭計あり、口唇のうちには蝮の毒あり、 **14**その口は詛と苦とにて滿つ。 **15**その足は血を流すに速し、 **16**破壊と艱難とその道にあり、 **17**彼らは平和の道を知らず。 **18**その眼前に神をおそるる畏なし』とあるが如し。 **19**それ律法の言ふところは律法の下にある者に語ると我らは知る、これは凡ての口ふさがり、神の審判に全世界の服せん爲なり。 **20**律法の行爲によりて

は、一人だに神のまへに義とせられず、律法によりて罪は知らるるなり。 **21** 然るに今や律法の外に神の義は顯れたり、これ律法と預言者との由りて證せられ、 **22** イエス・キリストを信ずるに由りて凡て信ずる者に與へたまふ神の義なり。之には何等の差別あるなし。 **23** 凡ての人、罪を犯したれば神の榮光を受くるに足らず、 **24** 功なくして神の恩恵により、キリスト・イエスにある贖罪によりて義とせらるるなり。 **25** 即ち神は忍耐をもて過來しかたの罪を見遁し給ひしが、己の義を顯さんとて、キリストを立て、その血によりて信仰によれる宥の供物となし給へり。 **26** これ今おのれの義を顯して、自ら義たらん爲、またイエスを信ずる者を義とし給はん爲なり。 **27** さらば誇るところ何處にあるか。既に除かれたり、何の律法に由りてか、行爲の律法か、然らず、信仰の律法に由りてなり。 **28** 我らは思ふ、人の義とせらるるは、律法の行爲によらず、信仰に由るなり。 **29** 神はただユダヤ人のみの神なるか、また異邦人の神ならずや、然り、また異邦人の神なり。 **30** 神は唯一にして、割禮ある者を信仰によりて義とし、割禮なき者をも信仰によりて義とし給へばなり。 **31** 然らば我ら信仰をもて律法を空しくするか、決して然らず、反つて律法を堅うするなり。

4 さらば我らの先祖アブラハムは肉につきて何を得たりと言はんか。 **2** アブラハム若し行爲によりて義とせられたらんには誇るべき所あり、然れど神の前には有ることなし。 **3** 聖書に何と云へるか『アブラハム神を信ず、その信仰を義と認められたり』と。 **4** それ働く者への報酬は恩恵といはず、負債と認めら

る。 5 されど働く事なくとも、敬虔ならぬ者を義と
したまふ神を信ずる者は、その信仰を義と認めらる
るなり。 6 ダビデもまた行爲なくして神に義と認め
らるる人の幸福につきて斯く云へり。曰く、 7 『不
法を免され、罪を蔽はれたる者は幸福なるかな、 8
主が罪を認め給はぬ人は幸福なるかな』 9 されば此
の幸福はただ割禮ある者にのみあるか、また割禮な
き者にもあるか、我らは言ふ『アブラハムはその信
仰を義と認められたり』と。 10 如何なるときに義と
認められたるか、割禮ののちか、無 割禮のときか、
割禮の後ならず、無 割禮の時なり。 11 而して無 割
禮のときの信仰によれる義の印として割禮の徽を受
けたり、これ無 割禮にして信ずる凡ての者の義と認
められん爲に、その父となり、 12 また割禮のみに由
らず、我らの父アブラハムの無 割禮のときの信仰の
跡をふむ割禮ある者の父とならん爲なり。 13 アブラ
ハム世界の世嗣たるべしとの約束を、アブラハムと
その裔との與へられしは、律法に由らず、信仰の義
に由れるなり。 14 もし律法による者ども世嗣たらば
、信仰は空しく約束は廢るなり。 15 それ律法は怒を
招く、律法なき所には罪を犯すこともなし。 16 この
故に世嗣たることの恩恵に干らんために信仰に由る
なり、是かの約束のアブラハムの凡ての裔、すなわ
ち律法による裔のみならず、彼の信仰に效ふ裔にも
堅うせられん爲なり。 17 彼はその信じたる所の神、
すなはち死人を活し、無きものを有るものの如く呼
びたまふ神の前にて、我等すべての者の父たるなり
。録して『われ汝を立てて多くの國人の父とせり』
とあるが如し。 18 彼は望むべくもあらぬ時になほ望

みて信じたり、是なんぢの裔はかくの如くなるべし
と言ひ給ひしに隨ひて、多くの國人の父とならん爲
なりき。19 かくて凡そ百歳に及びて己が身の死にた
るがごとき状なると、サラの胎の死にたるが如きと
を認むれども、その信仰よわらず、20 不信をもて
神の約束を疑はず、信仰により強くなりて神に榮光
を歸し、21 その約し給へることを、成し得給ふと確
信せり。22 之に由りて其の信仰を義と認められたり
。23 斯く『義と認められたり』と録したるは、アブ
ラハムの爲のみならず、また我らの爲なり。24 我ら
の主イエスを死人の中より甦へらせ給ひし者を信ず
る我らも、その信仰を義と認められん。25 主は我ら
の罪のために付され、我らの義とせられん爲に甦へ
らせられ給へるなり。

5 斯く我ら信仰によりて義とせられたれば、我らの
主イエス・キリストに頼り、神に對して平和を得た
り。2 また彼により信仰によりて、今立つところの
恩恵に入ることを得、神の榮光を望みて喜ぶなり。
3 然のみならず患難をも喜ぶ、そは患難は忍耐を生じ
、4 忍耐は練達を生じ、練達は希望を生ずと知れば
なり。5 希望は恥を來らせず、我らに賜ひたる聖靈
によりて神の愛われらの心に注げばなり。6 我等の
なほ弱かりし時、キリスト定りたる日に及びて、敬
虔ならぬ者のために死に給へり。7 それ義人のため
に死ぬるもの殆どなし、仁者のためには死ぬるこ
とを厭はぬ者もやあらん。8 然れど我等がなほ罪人た
りし時、キリスト我等のために死に給ひしに由りて
、神は我らに對する愛をあらはし給へり。9 斯く今
その血に頼りて我ら義とせられたらんには、まして

彼によりて怒より救はれざらんや。 **10** 我等もし敵たりしとき御子の死に頼りて神と和ぐことを得たらんには、まして和ぎて後その生命によりて救はれざらんや。 **11** 然のみならず今われらに和睦を得させ給へる我らの主イエス・キリストに頼りて神を喜ぶなり。 **12** それ一人の人によりて罪は世に入り、また罪によりて死は世に入り、凡ての人 罪を犯しし故に、死は凡ての人に及べり。 **13** 律法のきたる前にも罪は世にありき、されど律法なくば罪は認めらるること無し。 **14** 然るにアダムよりモーセに至るまで、アダムの咎と等しき罪を犯さぬ者の上にも死は王たりき。アダムは來らんとする者の型なり。 **15** されど恩恵の賜物は、かの咎の如きにあらず、一人の咎によりて多くの人の死にたらんには、まして神の恩恵と一人の人イエス・キリストによる恩恵の賜物とは、多くの人に溢れざらんや。 **16** 又この賜物は罪を犯しし一人より來れるものの如きにあらず、審判は一人よりして罪を定むるに至りしが、恩恵の賜物は多くの咎よりして義とするに至るなり。 **17** もし一人の咎のために一人によりて死は王となりたらんには、まして恩恵と義の賜物とを豊に受くる者は、一人のイエス・キリストにより生命に在りて王たらざらんや。 **18** されば一つの咎によりて罪を定むることの凡ての人に及びしごとく、一つの正しき行爲によりて義とせられ生命を得るに至ることも、凡ての人に及べり。 **19** それは一人の不従順によりて多くの人の罪人とせられし如く、一人の従順によりて多くの人、義人とせらるるなり。 **20** 律法の來りしは咎の増さんためなり。されど罪の増すところには恩恵も彌増せり。 **21**

これ罪の死によりて王たりし如く、恩恵も義によりて王となり、我らの主イエス・キリストに由りて永遠の生命に至らん爲なり。(aiōnios g166)

6 されば何をか言はん、恩恵の増さんために罪のうち止るべきか、**2** 決して然らず、罪に就きて死にたる我らは争で尚その中に生きんや。**3** なんじら知らぬか、凡そキリスト・イエスに合ふバプテスマを受けたる我らは、その死に合ふバプテスマを受けしを。**4** 我らはバプテスマによりて彼とともに葬られ、その死に合せられたり。これキリスト父の榮光によりて死人の中より甦へらせられ給ひしごとく、我らも新しき生命に歩まんためなり。**5** 我らキリストに接がれて、その死の状にひとしくば、その復活にも等しかるべし。**6** 我らは知る、われらの舊き人、キリストと共に十字架につけられたるは、罪の體ほろびて、此ののち罪に事へざらん爲なるを。**7** そは死にし者は罪より脱るるなり。**8** 我等もしキリストと共に死にしならば、また彼とともに活きんことを信ず。**9** キリスト死人の中より甦へりて復死に給はず、死もまた彼に主とならぬを我ら知ればなり。**10** その死に給へるは罪につきて一たび死に給へるにて、その活き給へるは神につきて活き給へるなり。**11** 斯くのごとく汝らも己を罪につきては死にたるもの、神につきては、キリスト・イエスに在りて活きたる者と思ふべし。**12** されば罪を汝らの死ぬべき體に王たらしめて其の慾に従ふことなく、**13** 汝らの肢體を罪に獻げて不義の器となさず、反つて死人の中より活き返りたる者のごとく己を神にささげ、その肢體を義の器として神に獻げよ。**14** 汝らは律法の下に

あらずして恩恵の下にあれば、罪は汝らに主となる事なきなり。 15 然らば如何に、我らは律法の下にあらず、恩恵の下にあるが故に、罪を犯すべきか、決して然らず。 16 なんぢら知らぬか、己を献げ僕となりて、誰に従ふとも其の僕たることを。或は罪の僕となりて死に至り、或は従順の僕となりて義に至る。 17 然れど神に感謝す、汝等のもと罪の僕なりしが、傳へられし教の範に心より従ひ、 18 罪より解放されて義の僕となりたり。 19 斯く人の事をかりて言ふは、汝らの肉よわき故なり。なんぢら舊その肢體をささげ、穢と不法との僕となりて不法に到りしごとく、今その肢體をささげ、義の僕となりて潔に到れ。 20 なんぢら罪の僕たりしときは義に對して自由なりき。 21 その時に今は恥とする所の事によりて何の實を得しか、これらの事の極は死なり。 22 然れど今は罪より解放されて神の僕となりたれば、潔にいたる實を得たり、その極は永遠の生命なり。(aiōnios g166) 23 それ罪の拂ふ價は死なり、然れど神の賜物は我らの主キリスト・イエスにありて受くる永遠の生命なり。(aiōnios g166)

7 兄弟よ、なんぢら知らぬか、(われ律法を知る者に語る)律法は人の生ける間のみ之に主たるなり。 2 夫ある婦は律法によりて夫の生ける中は之に縛らる。然れど夫死なば夫の律法より解かるるなり。 3 されば夫の生ける中に他の人に適かば淫婦と稱へらるれど、夫死なばその律法より解放さるる故に、他の人に適くとも淫婦とはならぬなり。 4 わが兄弟よ、斯くのごとく汝等もキリストの體により律法に就きて死にたり。これ他の者、すなはち死人の中より甦

へらせられ給ひし者に適き、神のために實を結ばん爲なり。 5 われら肉に在りしとき、律法に由れる罪の情は我らの肢體のうちに働きて、死のために實を結ばせたり。 6 されど縛られたる所に就きて我等いま死にて律法より解かれたれば、儀文の舊きによらず、靈の新しきに従ひて事ふることを得るなり。 7 さらば何をか言はん、律法は罪なるか、決して然らず、律法に由らでは、われ罪を知らず、律法に『貪る勿れ』と言はずば、慳貪を知らざりき。 8 されど罪は機に乘じ誠命によりて各様の慳貪を我がうちに起せり、律法なくば罪は死にたるものなり。 9 われ曾て律法なくして生きたれど、誠命きたりし時に罪は生き、我は死にたり。 10 而して我は生命にいたるべき誠命の反つて死に到らしむるを見出せり。 11 これ罪は機に乘じ誠命によりて我を欺き、かつ之によりて我を殺せり。 12 それ律法は聖なり、誠命もまた聖にして正しく、かつ善なり。 13 されば善なるもの我に死となりたるか。決して然らず、罪は罪たることの現れんために、善なる者によりて我が内に死を來らせたるなり。これ誠命によりて罪の甚だしき惡とならん爲なり。 14 われら律法は靈なるものと知る、されど我は肉なる者にて罪の下に賣られたり。 15 わが行ふことは我しらず、我が欲する所は之をなさず、反つて我が憎むところは之を爲すなり。 16 わが欲せぬ所を爲すときは律法の善なるを認む。 17 然れば之を行ふは我にあらず、我が中に宿る罪なり。 18 我はわが中、すなわち我が肉のうちに善の宿らぬを知る、善を欲すること我にあれど、之を行ふ事なければなり。 19 わが欲する所の善は之をなさず、反つ

て欲せぬ所の悪は之をなすなり。 **20** 我もし欲せぬ所の事をなさば、之を行ふは我にあらず、我が中に宿る罪なり。 **21** 然れば善をなさんと欲する我に悪ありとの法を、われ見出せり。 **22** われ中なる人にては神の律法を悦べど、 **23** わが肢體のうちに他の法ありて、我が心の法と戦ひ、我を肢體の中にある罪の法の下に虜とするを見る。 **24** 噫われ悩める人なるかな、此の死の體より我を救はん者は誰ぞ。 **25** 我らの主イエス・キリストに頼りて神に感謝す、然れば我みづから心にては神の律法につかへ、内にては罪の法に事ふるなり。

8 この故に今やキリスト・イエスに在る者は罪の定めらるることなし。 **2** キリスト・イエスに在る生命の御靈の法は、なんじを罪と死との法より解放したればなり。 **3** 肉によりて弱くなれる律法の成し能はぬ所を神は爲し給へり、即ち己の子を罪ある肉の形にて罪のために遣し、肉に於て罪を定めたまへり。 **4** これ肉に従はず靈に従ひて歩む我らの中に、律法の義の完うせられん爲なり。 **5** 肉にしたがふ者は肉の事をおもひ、靈にしたがふ者は靈の事をおもふ。 **6** 肉の念は死なり、靈の念は生命なり、平安なり。 **7** 肉の念は神に逆ふ、それは神の律法に服はず、否したがふこと能はず、 **8** また肉に居る者は神を悦ばすこと能はざるなり。 **9** 然れど神の御靈なんぢらの中に宿り給はば、汝らは肉に居らで靈に居らん、キリストの御靈なき者はキリストに屬する者にあらず。 **10** 若しキリスト汝らに在さば、體は罪によりて死にたる者なれど、靈は義によりて生命に在らん。 **11** 若しイエスを死人の中より甦へらせ給ひし者の御靈な

んぢらの中に宿り給はば、キリスト・イエスを死人の中より甦へらせ給ひし者は、汝らの中に宿りたまふ御靈によりて、汝らの死ぬべき體をも活し給はん。 **12** されば兄弟よ、われらは負債あれど、肉に負ふ者ならねば、肉に従ひて活くべきにあらず。 **13** 汝等もし肉に従ひて活きなば、死なん。もし靈によりて體の行爲を殺さば活くべし。 **14** すべて神の御靈に導かるる者は、これ神の子なり。 **15** 汝らは再び懼を懐くために僕たる靈を受けしにあらず、子とせられたる者の靈を受けたり、之によりて我らはアバ父と呼ぶなり。 **16** 御靈みづから我らの靈とともに我らが神の子たることを證す。 **17** もし子たらば世嗣たらん、神の嗣子にしてキリストと共に世嗣たるなり。これはキリストとともに榮光を受けん爲に、その苦難をも共に受くるに因る。 **18** われ思うに、今の時の苦難は、われらの上に顯れんとする榮光にくらぶるに足らず。 **19** それ造られたる者は、切に慕ひて神の子たちの現れんことを待つ。 **20** 造られたるものの虚無に服せしは、己が願によるにあらず、服せしめ給ひし者によるなり。 **21** 然れどなほ造られたる者にも滅亡の僕たる状より解かれて、神の子たちの光榮の自由に入る望は存れり。 **22** 我らは知る、すべて造られたるものの今に至るまで共に嘆き、ともに苦しむことを。 **23** 然のみならず、御靈の初の實をもつ我らも自ら心のうちに嘆きて、子とせられんこと、即ちおのが體の贖はれんことを待つなり。 **24** 我らは望によりて救はれたり、眼に見ゆる望は望にあらず、人その見るところを争でなほ望まんや。 **25** 我等もし其の見ぬところを望まば、忍耐をもて之を待たん。 **26** 斯

くのごとく御靈も我らの弱を助けたまふ。我らは如何に祈るべきかを知らざれども、御靈みづから言ひ難き歎をもて執成し給ふ。 27 また人の心を極めたまふ者は御靈の念をも知りたまふ。御靈は神の御意に適ひて聖徒のために執成し給へばなり。 28 神を愛する者、すなはち御旨によりて召されたる者の爲には、凡てのこと相働きて益となるを我らは知る。 29 神は預じめ知りたまふ者を御子の像に象らせんと預じめ定め給へり。これ多くの兄弟のうちに、御子を嫡子たらせんが爲なり。 30 又その預じめ定めたる者を召し、召したる者を義とし、義としたる者には光榮を得させ給ふ。 31 然れば此等の事につきて何をか言はん、神もし我らの味方ならば、誰か我らに敵せんや。 32 己の御子を惜まずして我ら衆のために付し給ひし者は、などか之にそへて萬物を我らに賜はざらんや。 33 誰か神の選び給へる者を訴へん、神は之を義とし給ふ。 34 誰か之を罪に定めん、死にて甦へり給ひしキリスト・イエスは神の右に在して、我らの爲に執成し給ふなり。 35 我等をキリストの愛より離れしむる者は誰ぞ、患難か、苦難か、迫害か、飢か、裸か、危険か、劍か。 36 録して『汝のために我らは、終日ころされて屠らるべき羊の如きものとせられたり』とあるが如し。 37 されど凡てこれらの事の中にありても、我らを愛したまふ者に頼り、勝ち得て餘あり。 38 われ確く信ず、死も生命も、御使も、權威ある者も、今ある者も後あらん者も、力ある者も、 39 高きも深きも、此の他の造られたるものも、我らの主キリスト・イエスにある神の愛より、我らを離れしむるを得ざることを。

9 我キリストに在りて眞をいひ虚偽を言はず、**2** 我に大なる憂あることと心に絶えざる痛あることとを、我が良心も聖靈によりて證す。**3** もし我が兄弟わが骨肉の爲にならんには、我みづから詛はれてキリストに棄てらるるも亦ねがふ所なり。**4** 彼等はイスラエル人にして、彼らには神の子とせられたることと、榮光と、もろもろの契約と、授けられたる律法と、禮拜と、もろもろの約束とあり。**5** 先祖たちも彼等のものなり、肉によれば、キリストも彼等より出で給ひたり。キリストは萬物の上にあり、永遠に讃むべき神なり、アアメン。(aiōn g165) **6** それ神の言は廢りたるに非ず。イスラエルより出づる者みなイスラエルなるに非ず。**7** また彼等はアブラハムの裔なればとて皆その子たるに非ず『イサクより出づる者は、なんぢの裔と稱へらるべし』とあり。**8** 即ち肉の子らは神の子らにあらず、ただ約束の子等のみ其の裔と認めらるるなり。**9** 約束の御言は是なり、曰く『時ふたたび巡り來らば、我きたりてサラに男子あらん』と。**10** 然のみならず、レベカも我らの先祖イサク一人によりて孕りたる時、**11** その子いまだ生れず、善も悪もなさぬ間に、神の選の御旨は動かず、**12** 行爲によらで召す者によらん爲に『兄は次第に事ふべし』とレベカに宣へり。**13** 『われヤコブを愛シエザウを憎めり』と録されたる如し。**14** さらば何をか言はん、神には不義あるか。決して然らず。**15** モーセに言ひ給ふ『われ憐まんとする者をあはれみ、慈悲を施さんとする者に慈悲を施すべし』と。**16** されば欲する者にも由らず、走る者にも由らず、ただ憐みたまふ神に由るなり。**17** パロにつきて聖書

に言ひ給ふ『わが汝を起したるは此の爲なり、即ち我が能力を汝によりて顯し、且わが名の全世界に傳へられん爲なり』と。18 されば神はその憐まんと欲する者を憐み、その頑固にせんと欲する者を頑固にし給ふなり。19 さらば汝あるいは我に言はん『神なんぞなほ人を咎め給ふか、誰かその御定に悖る者あらん』20 ああ人よ、なんぢ誰なれば神に言ひ逆ふか、造られしもの造りたる者に對ひて『なんぢ何ぞ我を斯く造りし』と言ふべきか。21 陶工は同じ土塊をもて、此を貴きに用ふる器とし、彼を賤しきに用ふる器とするの權なからんや。22 もし神、怒をあらはし權力を示さんと思しつつも、なほ大なる寛容をもて、滅亡に備れる怒の器を忍び、23 また光榮のために預じめ備へ給ひし憐憫の器に對ひて、その榮光の富を示さんとし給ひしならば如何に。24 この憐憫の器は我等にして、ユダヤ人の中よりのみならず、異邦人の中よりも召し給ひしものなり。25 ホゼヤの書に『我わが民たらざる者を我が民と呼び、愛せられざる者を愛せらるる者と呼ばん、26 「なんぢら我が民にあらず」と言ひし處にて、彼らは活ける神の子と呼ばるべし』と宣へる如し。27 イザヤもイスラエルに就きて叫べり『イスラエルの子孫の數は海の砂のごとくなりとも、救はるるはただ殘の者のみならん。28 主、地の上に御言をなしたるへ、これを遂げ、これを速かにし給はん』29 また『萬軍の主われらに裔を遣し給はずば、我等ソドムの如くになり、ゴモラと等しかりしならん』とイザヤの預言せしが如し。30 然らば何をか言はん、義を追ひ求めざりし異邦人は義を得たり、即ち信仰による義なり。31 イスラ

エルは義の律法を追ひ求めたれど、その律法に到らざりき。 32 何の故か、かれらは信仰によらず、行爲によりて追ひ求めたる故なり。彼らは躓く石に躓きたり。 33 録して『視よ、我つまづく石さまたぐる岩をシオンに置く、之に依頼む者は辱しめられじ』とあるが如し。

10 兄弟よ、わが心のねがひ、神に對する祈は、彼らの救はれんことなり。 2 われ彼らが神のために熱心なることを證す、されど其の熱心は知識によらざるなり。 3 それは神の義を知らず、己の義を立てんとして、神の義に服はざればなり。 4 キリストは凡て信ずる者の義とせられん爲に律法の終となり給へり。 5 モーセは、律法による義をおこなふ人は之によりて生くべしと録したり。 6 されど信仰による義は斯くいふ『なんぢ心に「誰か天に昇らん」と言ふなかれ』と。 7 これキリストを引下さんとするなり『また「たれか底なき所に下らん」と言ふなかれ』と。是キリストを死人の中より引上げんとするなり。(Abyssos g12) 8 さらば何と言ふか『御言はなんぢに近し、なんぢの口にあり、汝の心にあり』と。これ我らが宣ぶる信仰の言なり。 9 即ち、なんぢ口にてイエスを主と言ひあらはし、心にて神の之を死人の中より甦へらせ給ひしことを信ぜば、救はるべし。 10 それ人は心に信じて義とせられ、口に言ひあらはして救はるるなり。 11 聖書にいふ『すべて彼を信ずる者は辱しめられじ』と。 12 ユダヤ人とギリシヤ人との區別なし、同一の主は萬民の主にましまして、凡て呼び求むる者に對して豊なり。 13 『すべて主の御名を呼び求むる者は救はるべし』とあればなり。

14 然れど未だ信ぜぬ者を争で呼び求むることをせん、未だ聴かぬ者を争で信ずることをせん、宣傳ふる者なくば争で聴くことをせん。 15 遣されずば争で宣傳ふることをせん『ああ美しきかな、善き事を告ぐる者の足よ』と録されたる如し。 16 されど、みな福音に従ひしにはあらず、イザヤいふ『主よ、われらに聞きたる言を誰か信ぜし』 17 斯く信仰は聞くにより、聞くはキリストの言による。 18 されど我いふ、彼ら聞えざりしか、然らず『その聲は全地にゆきわたり、其の言は世界の極にまで及べり』 19 我また言ふ、イスラエルは知らざりしか、先づモーセ言ふ『われ民ならぬ者をもて汝らに嫉を起させ、愚なる民をもて汝らを怒らせん』 20 またイザヤ憚らずして言ふ『我を求めざる者に、われ見出され、我を尋ねざる者に我あらはれたり』 21 更にイスラエルに就きては『われ服はずして言ひさからふ民に、終日手を伸べたり』と云へり。

11 されば我いふ、神はその民を棄て給ひしか。決して然らず。我もイスラエル人にしてアブラハムの裔ベニヤミンの族の者なり。 2 神はその預じめ知り給ひし民を棄て給ひしにあらず。汝らエリヤに就きて聖書に云へることを知らぬか、彼イスラエルを神に訴へて言ふ、 3 『主よ、彼らは汝の預言者たちを殺し、なんぢの祭壇を毀ち、我ひとり遣りたるに、亦わが生命をも求めんとするなり』と。 4 然るに御答は何と云へるか『われバアルに膝を屈めぬ者、七千人を我がために遣し置けり』と。 5 斯くのごとく今もなほ恩恵の選によりて遣れる者あり。 6 もし恩恵によるとせば、もはや行爲によるにあらず。然ら

ずば恩恵はもはや恩恵たらざるべし。7さらば如何に、イスラエルはその求むる所を得ず、選ばれたる者は之を得たり、その他の者は鈍くせられたり。8『神は今日に至るまで、彼らに眠れる心、見えぬ目、聞えぬ耳を與へ給へり』と録されたるが如し。9ダビデも亦いふ『かれらの食卓は絹となれ、網となれ、つまづきとなれ、報となれ、10その眼は眩みて見えぬ、常にその背を屈めしめ給へ』11されば我いふ、彼らの躓きしは倒れんが爲なりや。決して然らず、反つて其の落度によりて救は異邦人に及べり、これイスラエルを勵まさん爲なり。12もし彼らの落度、世の富となり、その衰微、異邦人の富となりたらんには、まして彼らの數滿つるに於てをや。13われ異邦人なる汝等にいふ、我は異邦人の使徒たるによりて己が職を重んず。14これ或は我が骨肉の者を勵まし、その中の幾許かを救はん爲なり。15もし彼らの棄てらるること世の平和となりたらんには、其の受け納れらるるは、死人の中より活くと等しからずや。16もし初穂の粉潔くば、パンの團塊も潔く、樹の根潔くば、其の枝も潔からん。17若しオリブの幾許の枝きり落されて野のオリブなる汝、その中に接がれ、共にその樹の液汁ある根に與らば、18かの枝に對ひて誇るな、たとひ誇るとも汝は根を支へず、根は反つて汝を支ふるなり。19なんぢ或は言はん『枝の折られしは我が接がれん爲なり』と。20實に然り、彼らは不信によりて折られ、汝は信仰によりて立てるなり、高ぶりたる思をもたず、反つて懼れよ。21もし神、原樹の枝を惜み給はざりしならば、汝をも惜み給はじ。22神の仁慈と、

その嚴肅とを見よ。嚴肅は倒れし者にあり、仁慈はその仁慈に止る汝にあり、若しその仁慈に止らずば、汝も切り取るべし。 23 彼らも若し不信に止らずば、接がるることあらん、神は再び彼らを接ぎ得給ふなり。 24 なんぢ生來の野のオリブより切り取られ、その生來に悖りて善きオリブに接がれたらんには、まして原樹のままなる枝は己がオリブに接がれざらんや。 25 兄弟よ、われ汝らが自己を聰しとする事なからん爲に、この奥義を知らざるを欲せず、即ち幾許のイスラエルの鈍くなれるは、異邦人の入り來りて數滿つるに及ぶ時までなり。 26 かくしてイスラエルは悉とく救はれん。録して『救ふ者シオンより出で來りて、ヤコブより不虔を取り除かん、 27 われその罪を除くときに彼らに立つる我が契約は是なり』とあるが如し。 28 福音につきて云へば、汝等のために彼らは敵とせられ、選につきて云へば、先祖たちの爲に彼らは愛せらるるなり。 29 それ神の賜物と召とは變ることなし。 30 汝ら前には神に従はざりしが、今は彼らの不順によりて憐まれたる如く、 31 彼らも汝らの受くる憐憫によりて憐まれん爲に、今は従はざるなり。 32 神は凡ての人を憐まんために、凡ての人を不順の中に取籠め給ひたり。(eleēsē g1653) 33 ああ神の智慧と知識との富は深いかな、その審判は測り難く、その途は尋ね難し。 34 『たれか主の心を知りし、誰かその議士となりし。 35 たれか先づ主に與へて其の報を受けんや』 36 これ凡ての物は神より出で、神によりて成り、神に歸すればなり、榮光とこしへに神にあれ。アアメン。(aiōn g165)

12 されば兄弟よ、われ神のもろもろの慈悲によりて汝らに勧む、己が身を神の悦びたまふ潔き活ける供物として献げよ、これ靈の祭なり。 **2** 又この世に效ふな、神の御意の善にして悦ぶべく、かつ全きことを辨へ知らんために、心を更へて新にせよ。 (aiōn g165) **3** われ與へられし恩恵によりて汝等おのおのに告ぐ、思ふべき所を超えて自己を高しとすな。神のおのおのに分ち給ひし信仰の量にしたがひ慎みて思ふべし。 **4** 人は一つ體におほくの肢あれども、凡ての肢その運用を同じうせぬ如く、 **5** 我らも多くあれど、キリストに在りて一つ體にして、各人たがひに肢たるなり。 **6** われらが有てる賜物はおのおの與へられし恩恵によりて異なる故に、或は預言あらば信仰の量にしたがひて預言をなし、 **7** 或は務あらば務をなし、或は教をなす者は教をなし、 **8** 或は勸をなす者は勸をなし、施す者はをしみなく施し、治むる者は心を盡して治め、憐憫をなす者は喜びて憐憫をなすべし。 **9** 愛には虚偽あらざれ、悪はにくみ、善はしたしみ、 **10** 兄弟の愛をもて互に愛しみ、禮儀をもて相譲り、 **11** 勤めて怠らず、心を熱くし、主につかへ、 **12** 望みて喜び、患難にたへ、祈を恆にし、 **13** 聖徒の缺乏を賑し、旅人を懇ろに待せ、 **14** 汝らを責むる者を祝し、これを祝して詛ふな。 **15** 喜ぶ者と共によろこび、泣く者と共になけ。 **16** 相互に心を同じうし、高ぶりたる思をなさず、反つて卑きに附け。なんぢら己を聰しとすな。 **17** 悪をもて悪に報いず、凡ての人のまへに善からんことを圖り、 **18** 汝らの爲し得るかぎり力めて凡ての人と相和げ。 **19** 愛する者よ、自ら復讐すな、ただ神の怒に任せまつれ。

録して『主いひ給ふ、復讐するは我にあり、我これに報いん』とあり。 20 『もし汝の仇 飢ゑなば之に食はせ、渴かば之に飲ませよ、なんぢ斯するは熱き火を彼の頭に積むなり』 21 悪に勝たるることなく、善をもて悪に勝て。

13 凡ての人、上にある權威に服ふべし。そは神によらぬ權威なく、あらゆる權威は神によりて立てらる。 2 この故に權威にさからふ者は神の定に悖るなり、悖る者は自らその審判を招かん。 3 長たる者は善き業の懼にあらず、悪しき業の懼なり、なんぢ權威を懼れざらんとするか、善をなせ、然らば彼より譽を得ん。 4 かれは汝を益せんための神の役者なり。然れど悪をなさば懼れよ、彼は徒らに劍をおびず、神の役者にして、悪をなす者に怒をもて報ゆるなり。 5 然れば服はざるべからず、畜に怒の爲のみならず、良心のためなり。 6 また之がために汝ら貢を納む、彼らは神の仕人にして此の職に勵むなり。 7 汝等その負債をおのおのに償へ、貢を受くべき者に貢ををさめ、税を受くべき者に税ををさめ、畏るべき者をおそれ、尊ぶべき者をたふとべ。 8 汝等たがひに愛を負ふのほか何をも人に負ふな。人を愛する者は律法を全うするなり。 9 それ『姦淫する勿れ、殺すなかれ、盗むなかれ、貪るなかれ』と云へるこの他なほ誠命ありとも『おのれの如く隣を愛すべし』といふ言の中にみな籠るなり。 10 愛は隣を害はず、この故に愛は律法の完全なり。 11 なんぢら時を知る故に、いよいよ然なすべし。今は眠より覺むべき時なり。始めて信ぜし時よりも今は我らの救 近ければなり。 12 夜ふけて日 近づきぬ、然れば我ら暗黒

の業をすてて光明の甲を著るべし。13晝のごとく正しく歩みて宴樂・醉酒に、淫樂・好色に、争鬪・嫉妬に歩むべきに非ず。14ただ汝ら主イエス・キリストを衣よ、肉の慾のために備すな。

14 なんぢら信仰の弱き者を容れよ、その思ふところを詰るな。2或人は凡ての物を食ふを可しと信じ、弱き人はただ野菜を食ふ。3食ふ者は食はぬ者を蔑すべからず、食はぬ者は食ふ者を審くべからず、神は彼を容れ給へばなり。4なんぢ如何なる者なれば、他人の僕を審くか、彼が立つも倒るも其の主人に由れり。彼は必ず立てられん、主は能く之を立たせ給ふべし。5或人は此の日を彼の日に勝ると思ひ、或人は凡ての日を等しとおもふ、各人おのが心の中に確く定むべし。6日を重んずる者は主のために之を重んず。食ふ者は主のために食ふ、これ神に感謝すればなり。食はぬ者も主のために食はず、かつ神に感謝するなり。7我等のうち己のために生ける者なく、己のために死ぬる者なし。8われら生くるも主のために生き、死ぬるも主のために死ぬ。然れば生くるも死ぬるも我らは主の有なり。9それキリストの死にて復 生き給ひしは、死にたる者と生ける者との主とならん爲なり。10なんぢ何ぞその兄弟を審くか、汝なんぞ其の兄弟を蔑するか、我等はみな神の審判の座の前に立つべし。11録して『主いひ給ふ、我は生くるなり、凡ての膝はわが前に屈み、凡ての舌は神を讃め稱へん』とあり。12我等おのおの神のまへに己の事を陳ぶべし。13されば今より後、われら互に審くべからず、むしろ兄弟のまへに妨碍または躓物を置かぬように心を決めよ。14われ如

何なる物も自ら潔からぬ事なきを主イエスに在りて知り、かつ確く信ず。ただ潔からずと思ふ人にのみ潔からぬなり。 **15**もし食物によりて兄弟を憂ひしめば、汝は愛によりて歩まざるなり、キリストの代りて死に給ひし人を、汝の食物によりて亡すな。 **16**汝らの善きことの譏られぬようにせよ。 **17**それ神の國は飲食にあらず、義と平和と聖靈によれる歡喜とに在るなり。 **18**かくしてキリストに事ふる者は神に悦ばれ、人々に善しとせらるるなり。 **19**されば我ら平和のことに互に徳を建つる事とを追ひ求むべし。 **20**なんぢ食物のために神の御業を毀つな。凡ての物は潔し、されど之を食ひて人を躓かする者には惡とならん。 **21**肉を食はず、葡萄酒を飲まず、その他なんぢの兄弟を躓かする事をせぬは善し。 **22**なんぢの有てる信仰を己みづから神の前に保て。善しとする所につきて自ら咎めなき者は幸福なり。 **23**疑ひつつ食ふ者は罪せらる。これ信仰によらぬ故なり、凡て信仰によらぬ事は罪なり。

15われら強き者はおのれを喜ばせずして、力なき者の弱を負ふべし。 **2**おのおの隣人の徳を建てん爲に、その益を圖りて之を喜ばすべし。 **3**キリストだに己を喜ばせ給はざりき。録して『なんぢを誇る者の謗は我に及べり』とあるが如し。 **4**夙くより録されたる所は、みな我らの教訓のために録しものにして、聖書の忍耐と慰安とによりて希望を保たせんとなり。 **5**願はくは忍耐と慰安との神、なんぢらをしてキリスト・イエスに效ひ、互に思を同じうせしめ給はん事を。 **6**これ汝らが心を一つにし口を一つにして、我らの主イエス・キリストの父なる神を

崇めん爲なり。 7此の故にキリスト汝らを容れ給ひしごとく、汝らも互に相容れて神の榮光を彰すべし。 8われ言ふ、キリストは神の眞理のために割禮の役者となり給へり。これ先祖たちの蒙りし約束を堅うし給はん爲、 9また異邦人も憐憫によりて神を崇めんためなり。録して『この故に、われ異邦人の中にて汝を讃めたたへ、又なんぢの名を謳はん』とあるが如し。 10また曰く『異邦人よ、主の民と共に喜べ』 11又いはく『もろもろの國人よ、主を讃め奉れ、もろもろの民よ、主を稱へ奉れ』 12又イザヤ言ふ『エッサイの萌蘆生じ、異邦人を治むるもの興らん。異邦人は彼に望をおかん』 13願はくは希望の神、信仰より出づる凡ての喜悦と平安とを汝らに満たしめ、聖靈の能力によりて希望を豊ならしめ給はんことを。 14わが兄弟よ、われは汝らが自ら善に満ち、もろもろの知識に満ちて互に訓戒し得ることを確く信ず。 15されど我なほ汝らに憶ひ出させん爲に、ここかしこ少しく憚らずして書きたる所あり、これ神の我に賜ひたる恩恵に因る。 16即ち異邦人のためにキリスト・イエスの仕人となり、神の福音につきて祭司の職をなす。これ異邦人の聖靈によりて潔められ、御心に適ふ献物とならん爲なり。 17されば、われ神の事につきては、キリスト・イエスによりて誇る所あり。 18我は、キリストの異邦人を服はせん爲に我を用ひて、言と業と、 19また徴と不思議との能力、および聖靈の能力にて働き給ひし事のほかは敢へて語らず、エルサレムよりイルリコの地方に到るまで、徧くキリストの福音を充たせり。 20我は努めて他人の置ゑたる基礎のうへに建てじとて、未だキ

リストの御名の稱へられぬ所にのみ福音を宣傳へり。
21 録して『未だ彼のことを傳へられざりし者は見、いまだ聞かざりし者は悟るべし』とあるが如し。
22 この故に、われ汝らに往かんとせしが、しばしば妨げられたり。23 されど今は此の地方に働くべき處なく、且なんぢらに往かんことを多年 切に望みあたれば、24 イスパニヤに赴かんとし立寄りて汝らを見、ほぼ意に満つるを得てのち汝らに送られんとを望むなり。25 されど今、聖徒に事へん爲にエルサレムに往かんとす。26 マケドニアとアカヤとの人々は、エルサレムに在る聖徒の貧しき者に幾許かの施與をするを善しとせり。27 實に之を善しとせり、また聖徒に對して斯くする負債あり。異邦人もし彼らの靈の物に與りたらんには、肉の物をもて彼らに事ふべきなり。28 されば此の事を成し了へ、この果を付してのち、汝らを歴てイスパニヤに往かん。29 われ汝らに到るときは、キリストの満ち足れる祝福をもて到らんことを知る。30 兄弟よ、我らの主イエス・キリストにより、また御靈の愛によりて汝らに勧む、なんぢらの祈のうちに、我とともに力を盡して我がために神に祈れ。31 これユダヤに在る従はぬ者の中より我が救はれ、又エルサレムに對する我が務の聖徒の心に適ひ、32 かつ神の御意により、歡喜をもて汝等にいたり、共に安んぜん爲なり。33 願はくは平和の神なんぢら衆と偕に在さんことを、アアメン。

16 我ケンクレヤの教會の執事なる我らの姉妹フィベを汝らに薦む。2 なんぢら主にありて聖徒たるに相應しく彼を容れ、何にても其の要する所を助けよ、彼は夙くより多くの人の保護者また我が保護者た

り。 **3** プリスカとアクラとに安否を問へ、彼らはキリスト・イエスに在る我が同勞者にして、 **4** わが生命のために己の首をも惜まざりき。彼らに感謝するは、ただ我のみならず、異邦人の諸 教會もまた然り。 **5** 又その家にある教會にも安否を問へ。又わが愛するエパネットに安否を問へ。彼はア ज्याにて結べるキリストの初の實なり。 **6** 汝等のために甚く勞せしマリヤに安否を問へ。 **7** 我とともに囚人たりし我が同族アンデロニコとユニアスとに安否を問へ、彼らは使徒たちの中に名聲あり、かつ我に先だちてキリストに歸せし者なり。 **8** 主にありて我が愛するアンプリヤに安否を問へ。 **9** キリストにある我らの同勞者ウルパノと我が愛するスタキスとに安否を問へ。 **10** キリストに在りて鍊達せるアペレに安否を問へ。アリストプロの家の方に安否を問へ。 **11** わが同族ヘロデオンの方に安否を問へ。ナルキソの家なる主に在る方に安否を問へ。 **12** 主に在りて勞せしツルパナとツルポサとに安否を問へ。主に在りて甚く勞せし愛するペルスに安否を問へ。 **13** 主に在りて選ばれたるルポスと其の母とに安否を問へ、彼の母は我にもまた母なり。 **14** アスンクリト、フレゴン、ヘルメス、パトロバ、ヘルマス及び彼らと偕に在る兄弟たちに安否を問へ。 **15** ピロロゴ及びユリヤ、ネレオ及びその姉妹、またオルンパ及び彼らと偕に在る凡ての聖徒に安否を問へ。 **16** 潔き接吻をもて互に安否を問へ。キリストの諸 教會みな汝らに安否を問ふ。 **17** 兄弟よ、われ汝らに勸む、おほよそ汝らの學びし教に背きて分離を生じ、顛躓をおこす者に心して之に遠ざかれ。 **18** かかる者は我らの主キリストに事へず、

反つて己が腹に事へ、また甘き言と媚諂とをもて質朴なる人の心を欺くなり。 19 汝らの従順は凡ての人に聞えたれば、我なんぢらの爲に喜べり。而して我が欲する所は、汝らが善に智く、惡に疏からんことなり。 20 平和の神は速かにサタンを汝らの足の下に碎き給ふべし。願はくは我らの主イエスの恩恵、なんぢらと偕に在らんことを。 21 わが同勞者テモテ及び我が同族ルキオ、ヤソン、ソシパテロ汝らに安否を問ふ。 22 この書を書ける我テルテオも主にありて汝らに安否を問ふ。 23 我と全教會との家主ガイオ汝らに安否を問ふ。町の庫司エラストと兄弟クワルトと汝らに安否を問ふ。 24 [なし] 25 願はくは長き世のあひだ隠れたれども、(aiōnios g166) 26 今顯れて、永遠の神の命にしたがひ、預言者たちの書によりて信仰の従順を得しめん爲に、もろもろの國人に示されたる奥義の黙示に循へる我が福音と、イエス・キリストを宣ぶる事とによりて、汝らを堅うし得る、(aiōnios g166) 27 唯一の智き神に、榮光 世々 限りなくイエス・キリストに由りて在らんことを、アアメン。

(aiōn g165)

コリント人への手紙第一

1 神の御意により召されてイエス・キリストの使徒となれるパウロ及び兄弟ソステネ、**2** 書をコリントに在る神の教會、即ちいづれの處にありても、我らの主、ただに我等のみならず彼らの主なるイエス・キリストの名を呼び求むる者とともに、聖徒となるべき召を蒙り、キリスト・イエスに在りて潔められたる汝らに贈る。**3** 願はくは我らの父なる神および主イエス・キリストより賜ふ恩恵と平安と汝らに在らんことを。**4** われ汝らがキリスト・イエスに在りて神より賜はりし恩恵に就きて、常に神に感謝す。**5** 汝らはキリストに在りて、諸般のこと即ち凡ての言と凡ての悟とに富みたればなり。**6** これキリストの證なんぢらの中に堅うせられたるに因る。**7** 斯く汝らは凡ての賜物に缺くる所なくして、我らの主イエス・キリストの現れ給ふを待てり。**8** 彼は汝らを終まで堅うして、我らの主イエス・キリストの日に責むべき所なからしめ給はん。**9** 汝らを召して其の子われらの主イエス・キリストの交際に入らしめ給ふ神は眞實なる哉。**10** 兄弟よ、我らの主イエス・キリストの名に頼りて汝らに勸む、おのおの語るところを同じうし、分争する事なく、同じ心おなじ念にて全く一つになるべし。**11** わが兄弟よ、クロエの家の者、なんぢらの中に紛争あることを我に知らせたり。**12** 即ち汝等おのおの『我はパウロに屬す』『われはアポロに』『我はケパに』『我はキリストに』と言ふこれなり。**13** キリストは分たるる者ならんや、パウロは汝らの爲に十字架につけられしや、汝らパウロの名に頼りてバプテスマを受けしや。**14** 我は

感謝す、クリスポとガイオとの他には、我なんぢらの中の一人にもバプテスマを施さざりしを。15 是わが名に頼りて汝らがバプテスマを受けしと人の言ふ事なからん爲なり。16 またステパノの家族にバプテスマを施しし事あり、此の他には我バプテスマを施しし事ありや知らざるなり。17 そはキリストの我を遣し給へるはバプテスマを施させん爲にあらず、福音を宣傳へしめんとてなり。而して言の智慧をもつてせず、是キリストの十字架の虚しくならざらん爲なり。18 それ十字架の言は亡ぶる者には愚なれど、救はるる我らには神の能力なり。19 録して、『われ智者の智慧をほろぼし、慧き者のさときを空しうせん』とあればなり。20 智者いつこにか在る、學者いつこにか在る、この世の論者いつこにか在る、神は世の智慧をして愚ならしめ給へるにあらずや。(aiōn g165) 21 世は己の智慧をもて神を知らず(これ神の智慧に適へるなり)この故に神は宣教の愚をもて、信ずる者を救ふを善しとし給へり。22 ユダヤ人は徴を請ひ、ギリシヤ人は智慧を求む。23 されど我らは十字架に釘けられ給ひしキリストを宣傳ふ。これはユダヤ人に躓物となり、異邦人に愚となれど、24 召されたる者にはユダヤ人にもギリシヤ人にも、神の能力また神の智慧たるキリストなり。25 神の愚は人よりも智く、神の弱は人よりも強ければなり。26 兄弟よ、召を蒙れる汝らを見よ、肉によれる智き者おほからず、能力ある者おほからず、貴きもの多からず。27 されど神は智き者を辱しめんとて世の愚なる者を選び、強き者を辱しめんとて弱き者を選び、28 有る者を亡さんとて世の卑しきもの、輕んぜらるる者

、すなわち無きが如き者を選び給へり。 **29** これ神の前に人の誇る事なからん爲なり。 **30** 汝らは神に頼りてキリスト・イエスに在り、彼は神に立てられて我らの智慧と義と聖と救贖とになり給へり。 **31** これ『誇る者は主に頼りて誇るべし』と録されたる如くならん爲なり。

2 兄弟よ、われ曩に汝らに到りしとき、神の證を傳ふるに言と智慧との優れたるを用ひざりき。 **2** イエス・キリスト及びその十字架に釘けられ給ひし事のほかは、汝らの中にありて何をも知るまじと心を定めたればなり。 **3** 我なんぢらと偕に居りし時に、弱くかつ懼れ、甚く戦けり。 **4** わが談話も、宣教も、智慧の美しき言によらずして、御靈と能力との證明によりたり。 **5** これ汝らの信仰の、人の智慧によらず、神の能力に頼らん爲なり。 **6** されど我らは成人したる者の中にて智慧を語る。これ此の世の智慧にあらず、又この世の廢らんとする司たちの智慧にあらず、(aiōn g165) **7** 我らは奥義を解きて神の智慧を語る、即ち隠れたる智慧にして、神われらの光榮のために、世の創の先より預じめ定め給ひしものなり。(aiōn g165) **8** この世の司には之を知る者なかりき、もし知らば榮光の主を十字架に釘けざりしならん。(aiōn g165) **9** 録して『神のおのれを愛する者のために備へ給ひし事は、眼いまだ見ず、耳いまだ聞かず、人の心いまだ思はざりし所なり』と有るが如し。 **10** されど我らには神これを御靈によりて顯し給へり。御靈はすべての事を究め、神の深き所まで究むればなり。 **11** それ人のことは己が中にある靈のほかに誰か知る人あらん、斯くのごとく神のことは神の御靈のほ

かに知る者なし。12 我らの受けし靈は世の靈にあらず、神より出づる靈なり、是われらに神の賜ひしものを知らんためなり。13 又われら之を語るに人の智慧の教ふる言を用ひず、御靈の教ふる言を用ふ、即ち靈の事に靈の言を當つるなり。14 性來のままなる人は神の御靈のこゝを受けず、彼には愚なる者と見ゆればなり。また之を悟ること能はず、御靈のこゝは靈によりて辨ふべき者なるが故なり。15 されど靈に屬する者は、すべての事をわきまふ、而して己は人に辨へらるる事なし。16 誰か主の心を知りて主を教ふる者あらんや。然れど我らはキリストの心を有てり。

3 兄弟よ、われ靈に屬する者に對する如く汝らに語るに能はず、反つて肉に屬するもの、即ちキリストに在る幼兒に對する如く語れり。2 われ汝らに乳のみ飲ませて堅き食物を與へざりき。汝等そのとき食ふこと能はざりし故なり。3 今もなほ食ふこと能はず、今もなほ肉に屬する者なればなり。汝らの中に嫉妬と紛争とあるは、これ肉に屬する者にして世の人の如くに歩むならずや。4 或者は『われパウロに屬す』といひ、或者は『われアポロに屬す』と言ふ、これ世の人の如くなるにあらずや。5 アポロは何者ぞ、パウロは何者ぞ、彼等はおのおの主の賜ふところに隨ひ、汝らをして信ぜしめたる役者に過ぎざるなり。6 我は植ゑ、アポロは水灌げり、されど育てたるは神なり。7 されば種うる者も、水灌ぐ者も數ふるに足らず、ただ尊きは育てたまふ神なり。8 種うる者も、水灌ぐ者も歸する所は一つなれど、各自おのが勞に隨ひて其の値を得べし。9 我らは

神と共に働く者なり。汝らは神の畠なり、また神の建築物なり。 **10** 我は神の賜ひたる恩恵に随ひて、熟練なる建築師のごとく基を据ゑたり、而して他の人その上に建つるなり。然れど如何にして建つべきか、おのおの心して爲すべし、 **11** 既に置きたる基のほかは誰も据うることを能はず、この基は即ちイエス・キリストなり。 **12** 人もし此の基の上に金・銀・寶石・木・草・藁をもつて建てなば、 **13** 各人の工は顯るべし。かの日これを明かにせん、かの日は火をもつて顯れ、その火おのおのの工の如何を驗すべければなり。 **14** その建つる所の工、もし保たば値を得、 **15** もし其の工 焼けなば損すべし。然れど己は火より脱れ出づる如くして救はれん。 **16** 汝ら知らずや、汝らは神の宮にして、神の御靈なんぢらの中に住み給ふを。 **17** 人もし神の宮を毀たば神かれを毀ち給はん。それ神の宮は聖なり、汝らも亦かくの如し。 **18** 誰も自ら欺くな。汝等のうち此の世にて自ら智しと思ふ者は、智くならんために愚なる者となれ。 (aiōn g165) **19** そは此の世の智慧は神の前に愚なればなり。録して『彼は智者をその悪巧によりて捕へ給ふ』 **20** また『主は智者の念の虚しきを知り給ふ』とあるが如し。 **21** さらば誰も人を誇とすな、萬の物は汝らの有なればなり。 **22** 或はパウロ、或はアポロ、或はケパ、或は世界、あるひは生、あるひは死、あるひは現在のもの、或は未來のもの、皆なんぢらの有なり。 **23** 汝等はキリストの有、キリストは神のものなり。

4 人よろしく我らをキリストの役者また神の奥義を掌どる家司のごとく思ふべし。 **2** さて家司に求むべきは忠實ならん事なり。 **3** 我は汝らに審かれ、或は

人の審判によりて審かるることを最 小き事とし、また自らも己を審かず。 **4** 我みづから責むべき所あるを覚えねど、之に由りて義とせらるる事なければなり。我を審きたまふ者は主なり。 **5** 然れば主の來り給ふまでは時に先だちて審判すな。主は暗にある隠れたる事を明かにし、心の謀計をあらはし給はん。その時おのおの神より其の譽を得べし。 **6** 兄弟よ、われ汝等のために此等のことを我とアポロとの上に當てて言へり。これ汝らが『録されたる所を踰ゆまじき』を我らの事によりて學び、この人をあげ、かの人を貶して誇らざらん爲なり。 **7** 汝をして人と異ならしむる者は誰ぞ、なんぢの有てる物に何か受けぬ物あるか。もし受けしならば、何ぞ受けぬごとく誇るか。 **8** なんぢら既に飽き、既に富めり、我らを差措きて王となれり。われ實に汝らが王たらんことを願ふ、われらも共に王たることを得んが爲なり。 **9** 我おもふ、神は使徒たる我らを死に定められし者のごとく、後の者として見せ給へり。實に我らは宇宙のもの、即ち御使にも、衆人にも、觀物にせられたるなり。 **10** 我らはキリストのために愚なる者となり、汝らはキリストに在りて慧き者となれり。我等は弱く汝らは強し、汝らは尊く我らは卑し。 **11** 今の時にいたるまで我らは飢ゑ、渴き、また裸となり、また打たれ、定れる住家なく、 **12** 手づから働きて勞し、罵らるるときは祝し、責めらるるときは忍び、 **13** 譏らるるときは勸をなせり。我らは今に至るまで世の塵芥のごとく、萬の物の垢のごとくせられたり。 **14** わが斯く書すは汝らを辱しめんとにあらず、我が愛する子として訓戒せんためなり。 **15** 汝等にはキ

リストに於ける守役 一萬ありとも、父は多くあることなし。そはキリスト・イエスに在りて福音により汝らを生みたるは、我なればなり。 16 この故に汝らに勧む、我に效ふ者とならんことを。 17 之がために主にありて忠實なる我が愛子テモテを汝らに遣せり。彼は我がキリストにありて行ふところ、即ち常に各地の教會に教ふる所を、汝らに思ひ出さしむべし。 18 わが汝らに到ること無しとして誇る者あり。 19 されど主の御意ならば速かに汝等にいたり、誇る者の言にはあらで、その能力を知らんとす。 20 神の國は言にあらず、能力にあればなり。 21 汝ら何を欲するか、われ答をもて到らんか、愛と柔和の心とをもて到らんか。

5 現に聞く所によれば、汝らの中に淫行ありと、而してその淫行は異邦人の中にもなき程にして、或人その父の妻を有てりと云ふ。 2 斯くてもなほ汝ら誇ることをなし、かかる行爲をなしし者の除かれんことを願ひて悲しまざるか。 3 われ身は汝らを離れ居れども、心は偕に在りて其處に居るごとく、かかる事を行ひし者を既に審きたり。 4 すなはち汝ら及び我が靈の、我らの主イエスの能力をもて偕に集らんとき、主イエスの名によりて、 5 斯くのごとき者をサタンに付さんとす、是その肉は亡されて、其の靈は主イエスの日に救はれん爲なり。 6 汝らの誇は善からず。少しのパン種の、粉の團塊をみな膨れしむるを知らぬか。 7 なんぢら新しき團塊とならんために舊きパン種を取り除け、汝らはパン種なき者なればなり。夫われらの過越の羔羊すなはちキリスト既に屠られ給へり、 8 されば我らは舊きパン種を用ひ

ず、また悪と邪曲とのパン種を用ひず、眞實と眞との種なしパンを用ひて祭を行ふべし。 9 われ前の書にて淫行の者と交るなど書き贈りしは、 10 此の世の淫行の者、または貪欲のもの、奪ふ者、または偶像を拜む者と更に交るなど言ふにあらず（もし然せば世を離れざるを得ず） 11 ただ兄弟と稱ふる者の中に、或は淫行のもの、或は貪欲のもの、或は偶像を拜む者、あるひは罵るもの、或は酒に酔ふもの、或は奪ふ者あらば、斯かる人と交ることなく、共に食する事だにすなどの意なり。 12 外の者を審くことは我の干る所ならんや、汝らの審くは、ただ内の者ならずや。 13 外にある者は神これを審き給ふ。かの悪しき者を汝らの中より退けよ。

6 汝等のうち互に事あるとき、之を聖徒の前に訴へずして、正しからぬ者の前に訴ふることを敢へてする者あらんや。 2 汝ら知らぬか、聖徒は世を審くべき者なるを。世もし汝らに審かれんには、汝ら最小き事を審くに足らぬ者ならんや。 3 なんぢら知らぬか、我らは御使を審くべき者なるを、ましてこの世の事をや。 4 然るに汝ら審くべき此の世の事のあるとき、教會にて輕しむる所の者を審判の座に坐らしむるか。 5 わが斯く言ふは汝らを辱しめんとてなり。汝等のうちに兄弟の間のことを審き得る智きもの一人だになく、 6 兄弟は兄弟を、而も不信者の前に訴ふるか。 7 互に相訴ふるは既に當しく汝らの失態なり。何故むしろ不義を受けぬか、何故むしろ欺かれぬか。 8 然るに汝ら不義をなし、詐欺をなし、兄弟にも之を爲す。 9 汝ら知らぬか、正しからぬ者の神の國を嗣ぐことなきを。自ら欺くな、淫行のもの

、偶像を拜むもの、姦淫をなすもの、男娼となるもの、男色を行ふ者、**10** 盗するもの、貪欲のもの、酒に酔ふもの、罵るもの、奪ふ者などは、みな神の國を嗣ぐことなきなり。**11** 汝等のうち曩には斯くのごとき者ありしかど、主イエス・キリストの名により、我らの神の御靈によりて、己を洗ひかつ潔められ、かつ義とせらるることを得たり。**12** 一切のもの我に可からざるなし、然れど一切のもの益あるにあらず。一切のもの我に可からざるなし、されど我は何物にも支配せられず、**13** 食物は腹のため、腹は食物のためなり。されど神は之をも彼をも亡し給はん。身は淫行をなさん爲にあらず、主の爲なり、主はまた身の爲なり。**14** 神は既に主を甦へらせ給へり、又その能力をもて我等をも甦へらせ給はん。**15** 汝らの身はキリストの肢體なるを知らぬか、然らばキリストの肢體をとりて遊女の肢體となすべきか、決して然すべからず。**16** 遊女につく者は彼と一つ體となることを知らぬか『二人のもの一體となるべし』と言ひ給へり。**17** 主につく者は之と一つ靈となるなり。**18** 淫行を避けよ。人のをかす罪はみな身の外にあり、されど淫行をなす者は己が身を犯すなり。**19** 汝らの身は、その内にある神より受けたる聖靈の宮にして、汝らは己の者にあらざるを知らぬか。**20** 汝らは價をもて買はれたる者なり、然らばその身をもて神の榮光を顯せ。

7 汝らが我に書きおくりし事に就きては、男の女に觸れぬを善しとす。**2** 然れど淫行を免れんために、男はおのおの其の妻をもち、女はおのおの其の夫を有つべし。**3** 夫はその分を妻に盡し、妻もまた夫に

然すべし。4 妻は己が身を支配する權をもたず、之を持つ者は夫なり。斯くのごとく夫も己が身を支配する權を有たず、之を有つ者は妻なり。5 相共に拒むな、ただ祈に身を委ぬるため合意にて暫く相別れ、後また偕になるは善し。これ汝らが情の禁じがたきに乗じてサタンの誘ふことなからん爲なり。6 されど我が斯くいふは命ずるにあらず、許すなり。7 わが欲する所は、すべての人の我が如くならん事なり。然れど神より各自おのが賜物を受く、此は此のごとく、彼は彼のごとし。8 我は婚姻せぬ者および寡婦に言ふ。もし我が如くにして居らば、彼等のために善し。9 もし自ら制すること能はずば婚姻すべし、婚姻するは胸の燃ゆるよりも勝ればなり。10 われ婚姻したる者に命ず（命ずる者は我にあらず、主なり）妻は夫と別るべからず。11 もし別る事あらば、嫁がずして居るか、又は夫と和げ。夫もまた妻を去るべからず。12 その外の人に我いふ（主の言ひ給ふにあらず）もし或兄弟に不信者なる妻ありて偕に居ることを可しとせば、之を去るな。13 また女に不信者なる夫ありて偕に居ることを可しとせば、夫を去るな。14 そは不信者なる夫は妻によりて潔くなり、不信者なる妻は夫によりて潔くなりたればなり。然なくば汝らの子供は潔からず、されど今は潔き者なり。15 不信者みづから離れ去らば、その離るるに任せよ。斯くのごとき事あらば、兄弟または姉妹、もはや繋がるる所なし。神の汝らを召し給へるは平和を得させん爲なり。16 妻よ、汝いかで夫を救ひ得るや否やを知らん。夫よ、汝いかで妻を救ひ得るや否やを知らん。17 唯おのおの主の分ち賜ふと

ころ、神の召し給ふところに循ひて歩むべし。凡ての教會に我が命ずるは斯くのごとし。 18 割禮ありて召されし者あらんか、その人、割禮を廢つべからず。割禮なくして召されし者あらんか、その人、割禮を受くべからず。 19 割禮を受くるも受けぬも數ふるに足らず、ただ貴きは神の誠命を守ることなり。 20 各人その召されし時の状に止るべし。 21 なんぢ奴隸にて召されたるか、之を思ひ煩ふな（もし釋さるることを得ばゆるされよ） 22 召されて主にある奴隸は、主につける自主の人なり。斯くのごとく自主にして召されたる者は、キリストの奴隸なり。 23 汝らは價をもて買はれたる者なり。人の奴隸となるな。 24 兄弟よ、おのおの召されし時の状に止りて神と偕に居るべし。 25 處女のことに就きては主の命を受けず、然れど主の憐憫によりて忠實の者となりたれば、我が意見を告ぐべし。 26 われ思ふに、目前の患難のためには、人その在るが隨にて止るぞ善き。 27 なんぢ妻に繋がるる者なるか、釋くことを求むな。妻に繋がれぬ者なるか、妻を求むな。 28 たとひ妻を娶るとも罪を犯すにはあらず。處女もし嫁ぐとも罪を犯すにあらず。然れどかかる者はその身、苦難に遭はん、我なんぢらを苦難に遭はすに忍びず。 29 兄弟よ、われ之を言はん、時は縮れり。されば此よりのち妻を有てる者は有たぬが如く、 30 泣く者は泣かぬが如く、喜ぶ者は喜ばぬが如く、買ふ者は有たぬが如く、 31 世を用ふる者は用ひ盡さぬが如くすべし。此の世の状態は過ぎ往くべければなり。 32 わが欲する所は汝らが思ひ煩はざらん事なり。婚姻せぬ者は如何にして主を喜ばせんと主のことを慮ばかり、 33 婚

姻せし者は如何にして妻を喜ばせんと、世のことを慮ばかりて心を分つなり。 34 婚姻せぬ女と處女とは身も靈も潔くならんために主のことを慮ばかり、婚姻せし者は如何にしてその夫を喜ばせんと世のことを慮ばかりなり。 35 わが之を言ふは汝らを益せん爲にして、汝らに絆を置かんとするにあらず、寧ろ汝らを宣しきに適はせ、餘念なく只管、主に事へしめんとてなり。 36 人もし處女たる己が娘に對すること宣しきに適はずと思ひ、年の頃もまた過ぎんとし、かつ然せざるを得ずば、心のままに行ふべし。これ罪を犯すにあらず、婚姻せさすべし。 37 されど人もし其の心を堅くし、止むを得ざる事もなく、又おのが心の隨になすを得て、その娘を留め置かんと心のうちに定めたらば、然するは善きなり。 38 されば其の娘を嫁がする者の行爲は善し。されど之を嫁がせぬ者の行爲は更に善し。 39 妻は夫の生ける間は繋がるなり。然れど夫もし死なば、欲するままに嫁ぐ自由を得べし、また主にある者にのみ適くべし。 40 然れど我が意見にては、その儘に止らば殊に幸福なり。我もまた神の御靈に感じたりと思ふ。

8 偶像の供物に就きては我等みな知識あることを知る。知識は人を誇らしめ、愛は徳を建つ。 2 もし人みづから知れりと思はば、知るべき程の事をも知らぬなり。 3 されど人もし神を愛せば、その人、神に知られたるなり。 4 偶像の供物を食ふことに就きては、我ら偶像の世になき者なるを知り、また唯一の神の外には神なきを知る。 5 神と稱ふるもの、或は天に或は地にありて、多くの神、おほくの主あるが如くなれど、 6 我らには父なる唯一の神あるのみ、

萬物これより出で、我らも亦これに歸す。また唯一の主イエス・キリストあるのみ、萬物これに由り、我らも亦これに由れり。 7 されど人みな此の知識あるにあらず、或人は今もなほ偶像に慣れ、偶像の献物として食する故に、その良心よわくして汚さるるなり。 8 我らを神の前に立たしむるものは食物にあらず、されば食するも益なく、食せざるも損なし。 9 されど心して汝らの有てる此の自由を弱き者の躓物とすな。 10 人もし知識ある汝が偶像の宮にて食事するを見んに、その人弱きときは良心そそのかされて偶像の献物を食せざらんや。 11 さらばキリストの代りて死に給ひし弱き兄弟は、汝の知識によりて亡ぶべし。 12 斯くのごとく汝ら兄弟に對して罪を犯し、その弱き良心を傷めしむるは、キリストに對して罪を犯すなり。 13 この故に、もし食物わが兄弟を躓かせんには、兄弟を躓かせぬ爲に、我は何時までも肉を食はじ。(aiōn g165)

9 我は自主の者ならずや、使徒にあらずや、我らの主イエスを見しにあらずや、汝らは主に在りて我が業ならずや。 2 われ他の人には使徒ならずとも汝らには使徒なり。汝らは主にありて我が使徒たる職の印なればなり。 3 われを審く者に對する我が辯明は斯くのごとし。 4 我らは飲食する權なきか。 5 我らは他の使徒たち主の兄弟たち及びケパのごとく、姉妹たる妻を携ふる權なきか。 6 ただ我とバルナバとのみ工を止むる權なきか。 7 誰か己の財にて兵卒を務むる者あらんや。誰か葡萄畑を作りてその果を食はぬ者あらんや。誰か群を牧ひてその乳を飲まぬ者あらんや。 8 我ただ人の思にのみ由りて此等のこと

を言はんや、律法も亦かく言ふにあらずや。 9 モーセの律法に『穀物を碾す牛には口籠を繋ぐべからず』と録したり。神は牛のために慮ばかり給へるか、
10 また専ら我等のために之を言ひ給ひしか、然り、我らのために録されたり。それ耕す者は望をもて耕し、穀物をこなす者は之に與る望をもて碾すべきなり。 11 もし我ら靈の物を汝らに蒔きしならば、汝らの肉の物を刈り取るは過分ならんや。 12 もし他の人なんぢらに對してこの權あらんには、まして我らをや。然れど我等はこの權を用ひざりき。唯キリストの福音に障碍なきやうに一切のことを忍ぶなり。 13 なんぢら知らぬか、聖なる事を務むる者は宮のものを食し、祭壇に事ふる者は祭壇のものに與るを。 14 斯くのごとく主もまた福音を宣傳ふる者の福音によりて生活すべきことを定め給へり。 15 されど我は此等のことを一つだに用ひし事なし、また自ら斯くせられんために之を書き贈るにあらず、斯くせられんよりは寧ろ死ぬるを善しとすればなり。誰もわが誇を空しくせざるべし。 16 われ福音を宣傳ふとも誇るべき所なし、已むを得ざるなり。もし福音を宣傳へずば、我は禍害なるかな。 17 若しわれ心より之をなさば報を得ん、たとひ心ならずとも我はその務を委ねられたり。 18 然らば我が報は何ぞ、福音を宣傳ふるに、人をして費なく福音を得しめ、而も福音によりて我が有てる權を用ひ盡さぬこと是なり。 19 われ凡ての人に對して自主の者なれど、更に多くの人を得んために、自ら凡ての人の奴隸となれり。 20 我ユダヤ人にはユダヤ人の如くなれり、これユダヤ人を得んが爲なり。律法の下にある者には一一律法の下

に我はあらねど——律法の下にある者の如くなれり。これ律法の下にある者を得んが爲なり。 **21** 律法なき者には——われ神に向ひて律法なきにあらざ、反つてキリストの律法の下にあれど——律法なき者の如くなれり、これ律法なき者を得んがためなり。 **22** 弱き者には弱き者となれり、これ弱き者を得んためなり。我すべての人には凡ての人の状に従へり、これ如何にもして幾許かの人を救はんためなり。 **23** われ福音のために凡ての事をなす、これ我も共に福音に與らん爲なり。 **24** なんぢら知らぬか、馳場を走る者はみな走れども、褒美を得る者の、ただ一人なるを。汝らも得んために斯く走れ。 **25** すべて勝を争ふ者は何事をも節し慎む、彼らは朽つる冠冕を得んが爲なれど、我らは朽ちぬ冠冕を得んがために之をなすなり。 **26** 斯く我が走るは目標なきが如きにあらず、我が拳闘するは空を撃つが如きにあらず。 **27** わが體を打ち擲きて之を服従せしむ。恐らくは他人に宣傳へて自ら棄てらるる事あらん。

10 兄弟よ、我なんぢらが之を知らぬを好まず。即ち我らの先祖はみな雲の下にあり、みな海をとほり、 **2** みな雲と海とにてバプテスマを受けてモーセにつけり。 **3** 而して皆おなじく靈なる食物を食し、 **4** みな同じく靈なる飲物を飲めり。これ彼らに隨ひし靈なる岩より飲みたるなり、その岩は即ちキリストなりき。 **5** 然れど彼らのうち多くは神の御意に適はず、荒野にて亡されたり。 **6** 此等のことは我らの鑑にして、彼らが貪りし如く惡を貪らざらん爲なり。 **7** 彼らの中の或者に效ひて偶像を拜する者となるな、即ち『民は坐して飲食し立ちて戯る』と録された

り。 8 又かれらの中の或者に效ひて我ら姦淫すべからず、姦淫を行ひしもの一日に二萬三千人死にたり。 9 また彼等のうちの或者に效ひて我ら主を試むべからず、主を試みしもの蛇に亡されたり、 10 又かれらの中の或者に效ひて眩くな、眩きしもの亡す者に亡されたり。 11 彼らが遭へる此等のことは鑑となれり、かつ末の世に遭へる我らの訓戒のために録されたり。(aiōn g165) 12 さらば自ら立てりと思ふ者は倒れぬやうに心せよ。 13 汝らが遭ひし試煉は人の常ならぬはなし。神は眞實なれば、汝らを耐へ忍ぶこと能はぬほどの試煉に遭はせ給はず。汝らが試煉を耐へ忍ぶことを得んために之と共に遁るべき道を備へ給はん。 14 さらば我が愛する者よ、偶像を拜することを避けよ。 15 され慧き者に言ふごとく言はん、我が言ふところを判断せよ。 16 我らが祝ふところの祝の酒杯は、これキリストの血に與るにあらずや。我らが擘く所のパンは、これキリストの體に與るにあらずや。 17 パンは一つなれば、多くの我らも一體なり、皆ともに一つのパンに與るに因る。 18 肉によるイスラエルを視よ、供物を食ふ者は祭壇に與るにあらずや。 19 さらば我が言ふところは何ぞ、偶像の供物はあるものと言ふか、また、偶像はあるものと言ふか。 20 否、我は言ふ、異邦人の供ふる物は神に供ふるにあらず、惡鬼に供ふるなりと。我なんぢらが惡鬼と交るを欲せず。 21 なんぢら主の酒杯と惡鬼の酒杯とを兼ね飲むこと能はず。主の食卓と惡鬼の食卓とに兼ね與ること能はず。 22 われら主の妬を惹起さんとするか、我らは主よりも強き者ならんや。 23 一切のもの可からざるなし、然れど一切のもの益あ

るにあらざ、一切のもの可からざるなし、されど、一切のもの徳を建つるにあらざ。 **24** 各人おのが益を求むることなく、人の益を求めよ。 **25** すべて市場にて賣る物は、良心のために何をも問はずして食せよ。 **26** そは地と之に満つる物とは主の物なればなり。 **27** もし不信者に招かれて往かんとせば、凡て汝らの前に置く物を、良心のために何をも問はずして食せよ。 **28** 人もし此は犠牲にせし肉なりと言はば、告げし者のため、また良心のために食すな。 **29** 良心とは汝の良心にあらざ、かの人の良心を言ふなり。何ぞわが自由を他の人の良心によりて審かるる事をせん。 **30** もし感謝して食する事をせば、何ぞわが感謝する所のものに就きて譏らるる事をせん。 **31** さらば食ふにも飲むにも何事をなすにも、凡て神の榮光を顯すやうにせよ。 **32** ユダヤ人にもギリシヤ人にも、また、神の教會にも躓物となるな。 **33** 我も凡ての事を凡ての人の心に適ふやうに力め、人々の救はれんために、己の益を求めずして多くの人の益を求むるなり。

11 我がキリストに效ふ者なる如く、なんぢら我に效ふ者となれ。 **2** 汝らは凡ての事につきて我を憶え、且わが傳へし所をそのまま守るに因りて、我なんぢらを譽む。 **3** されど我なんぢらが之を知らんことを願ふ。凡ての男の頭はキリストなり、女の頭は男なり、キリストの頭は神なり。 **4** すべて男は祈をなし、預言をなすとき、頭に物を被るは其の頭を辱しむるなり。 **5** すべて女は祈をなし、預言をなすとき、頭に物を被らぬは其の頭を辱しむるなり。これ薙髪と異なる事なし。 **6** 女もし物を被らずば、髪をも

剪るべし。されど髪を剪り或は薙ることを女の恥とせば、物を被るべし。7 男は神の像、神の榮光なれば、頭に物を被るべきにあらず、されど女は男の光榮なり。8 男は女より出でずして、女は男より出で、9 男は女のために造られずして、女は男のために造られたればなり。10 この故に女は御使たちの故によりて頭に權の徽を戴くべきなり。11 されど主に在りては、女は男に由らざるなく、男は女に由らざるなし。12 女の男より出でしごとく、男は女によりて出づ。而して萬物はみな神より出づるなり。13 汝等みづから判断せよ、女の物を被らずして神に祈るは宣しき事なるか。14 なんぢら自然に知るにあらずや、男もし長き髪の毛あらば恥づべきことにして、15 女もし長き髪 of 毛あらばその光榮なるを。それ女の髪 of 毛は被物として賜はりたるなり。16 假令これを坑辯ふ者ありとも、斯くのごとき例は我らにも神の諸教會にもある事なし。17 我これらの事を命じて汝らを讐めず。汝らの集ること益を受けずして損を招けばなり。18 先づ汝らが教會に集るとき分争ありと聞く、われ略これを信ず。19 それは汝等のうちに是とせらるべき者の現れんために黨派も必ず起るべければなり。20 なんぢら一處に集るとき、主の晚餐を食すること能はず。21 食する時おのおの人に先だちて己の晚餐を食するにより、饑うる者あり、酔ひ飽ける者あればなり。22 汝ら飲食すべき家なきか、神の教會を輕んじ、また乏しき者を辱しめんとするか、我なにを言ふべきか、汝らを讐むべきか、之に就きては讐めぬなり。23 わが汝らに傳へしことは主より授けられたるなり。即ち主イエス付され給

ふ夜、パンを取り、**24** 祝して之を擘き、而して言ひ給ふ『これは汝 等のための我が體なり。我が記念として之を行へ』 **25** 夕餐ののち酒杯をも前の如くして言ひたまふ『この酒杯は我が血によれる新しき契約なり。飲むごとに我が記念として之をおこなへ』 **26** 汝 等このパンを食し、この酒杯を飲むごとに、主の死を示して其の來りたまふ時にまで及ぶなり。 **27** されば宣しきに適はずして主のパンを食し、主の酒杯を飲む者は、主の體と血とを犯すなり。 **28** 人みづから省みて後、そのパンを食し、その酒杯を飲むべし。 **29** 御體を辨へずして飲食する者は、その飲食によりて自ら審判を招くべければなり。 **30** この故に汝等のうちに弱きもの病めるもの多くあり、また眠に就きたる者も少からず。 **31** 我等もし自ら己を辨へなば審かるる事なからん。 **32** されど審かるる事のあるは、我らを世の人とともに罪に定めじとて、主の懲しめ給ふなり。 **33** この故に、わが兄弟よ、食せんとて集るときは互に待ち合せよ。 **34** もし飢うる者あらば、汝らの集會の審判を招くこと無からん爲に、己が家にて食すべし。その他のことは我いたらん時これを定めん。

12 兄弟よ、靈の賜物に就きては、我なんぢらが知らぬを好まず。 **2** なんぢら異邦人なりしとき、誘はるるままに物を言はぬ偶像のもとに導き往かれしは、汝らの知る所なり。 **3** 然れば我なんぢらに示さん、神の御靈に感じて語る者は、誰も『イエスは誼はるべき者なり』と言はず、また聖靈に感ぜざれば、誰も『イエスは主なり』と言ふ能はず。 **4** 賜物は殊なれども、御靈は同じ。 **5** 務は殊なれども、主は同

じ。6活動は殊なれども、凡ての人のうちに凡ての活動を爲したまふ神は同じ。7御靈の顯現をおののに賜ひたるは、益を得させんためなり。8或人は御靈によりて智慧の言を賜はり、或人は同じ御靈によりて知識の言、9或人は同じ御靈によりて信仰、ある人は一つ御靈によりて病を醫す賜物、10或人は異能ある業、ある人は預言、ある人は靈を辨へ、或人は異言を言ひ、或人は異言を釋く能力を賜はる。11凡て此等のことは同じ一つの御靈の活動にして、御靈その心に隨ひて各人に分け與へたまふなり。12體は一つにして肢は多し、體の肢は多くとも一つの體なるが如く、キリストも亦然り。13我らはユダヤ人・ギリシヤ人・奴隸・自主の別なく、一體とならん爲に、みな一つ御靈にてバプテスマを受けたり。而してみな一つ御靈を飲めり。14體は一肢より成らず、多くの肢より成るなり。15足もし『我は手にあらぬ故に體に屬せず』と云ふとも、之によりて體に屬せぬにあらず。16耳もし『それは眼にあらぬ故に體に屬せず』と云ふとも、之によりて體に屬せぬにあらず。17もし全身、眼ならば、聽くところ何れか。もし全身、聽く所ならば、臭ぐところ何れか。18げに神は御意のままに肢をおのの體に置き給へり。19若しみな一肢ならば、體は何れか。20げに肢は多くあれど、體は一つなり。21眼は手に對ひて『われ汝を要せず』と言ひ、頭は足に對ひて『われ汝を要せず』と言ふこと能はず。22否、からだの中にて最も弱しと見ゆる肢は、反つて必要なり。23體のうちにて尊からずと思はるる所に、物を纏ひて殊に之を尊ぶ。斯く我らの美しからぬ所は、一層

すぐれて美しくすれども、**24** 美しき所には、物を纏ふの要なし。神は劣れる所に殊に尊榮を加へて、人の體を調和したまへり。**25** これ體のうちに分争なく、肢々一致して互に相顧みんためなり。**26** もし一つの肢 苦しまば、もろもろの肢ともに苦しみ、一つの肢 尊ばれなば、もろもろの肢ともに喜ぶなり。**27** 乃ち汝らはキリストの體にして各自その肢なり。**28** 神は第一に使徒、第二に預言者、第三に教師、その次に異能ある業、次に病を醫す賜物、補助をなす者、治むる者、異言などを教會に置きたまへり。**29** 是みな使徒ならんや、みな預言者ならんや、みな教師ならんや、みな異能ある業を行ふ者ならんや。**30** みな病を醫す賜物を有てる者ならんや、みな異言を語る者ならんや、みな異言を釋く者ならんや。**31** なんぢら優れたる賜物を慕へ、而して我さらに善き道を示さん。

13 たとひ我もろもろの國人の言および御使の言を語るとも、愛なくば鳴る鐘や響く鐃鈸の如し。**2** 假令われ預言する能力あり、又すべての奧義と凡ての知識とに達し、また山を移すほどの大なる信仰ありとも、愛なくば數ふるに足らず。**3** たとひ我わが財産をことごとく施し、又わが體を焼かるる爲に付すとも、愛なくば我に益なし。**4** 愛は寛容にして慈悲あり。愛は妬まず、愛は誇らず、驕らず、**5** 非禮を行はず、己の利を求めず、憤ほらず、人の惡を念はず、**6** 不義を喜ばずして、眞理の喜ぶところを喜び、**7** 凡そ事 忍び、おほよそ事 信じ、おほよそ事 望み、おほよそ事 耐ふるなり。**8** 愛は長久までも絶ゆることなし。然れど預言は廢れ、異言は止み、知識

もまた廢らん。 9 それ我らの知るところ全からず、我らの預言も全からず。 10 全き者の來らん時は全からぬもの廢らん。 11 われ童子の時は語ることも童子のごとく、思ふことも童子の如く、論ずる事も童子の如くなりしが、人と成りては童子のことを棄てたり。 12 今われらは鏡をもて見るごとく見るところ朧なり。然れど、かの時には顔を對せて相見ん。今わが知るところ全からず、然れど、かの時には我が知られたる如く全く知るべし。 13 げに信仰と希望と愛と此の三つの者は限りなく存らん、而して其のうち最も大なるは愛なり。

14 愛を追ひ求めよ、また靈の賜物、ことに預言する能力を慕へ。 2 異言を語る者は人に語るにあらずして神に語るなり。そは靈にて奥義を語るとも、誰も悟る者なければなり。 3 されど預言する者は人に語りて其の徳を建て、勸をなし、慰安を與ふるなり。 4 異言を語る者は己の徳を建て、預言する者は教會の徳を建つ。 5 われ汝等がみな異言を語らんことを欲すれど、殊に欲するは預言せん事なり。異言を語る者、もし釋きて教會の徳を建つるにあらずば、預言する者のかた勝るなり。 6 然らば兄弟よ、我もし汝らに到りて異言をかたり、或は默示、あるいは知識、あるいは預言、あるいは教をもて語らずば、何の益かあらん。 7 生命なくして聲を出すもの、或は笛、あるいは立琴、その音もし差別なくば、争で吹くところ弾くところの何たるを知らん。 8 ラッパ若し定りなき音を出さば、誰か戦闘の備をなさん。 9 斯くのごとく汝らも舌をもて明かなる言を出さずば、いかで語るところの何たるを知らん、これ汝等た

だ空氣に語るのみ。10世には國語の類おほかれど、一つとして意義あらぬはなし。11我もし國語の意義を知らずば、語る者に對して夷人となり、語る者も我に對して夷人とならん、12然らば汝らも靈の賜物を慕ふ者なれば、教會の徳を建つる目的にて賜物の豊ならん事を求めよ。13この故に異言を語る者は自ら釋き得んことをも祈るべし。14我もし異言をもて祈らば、我が靈は祈るなれど、我が心は果を結ばず。15然らば如何にすべきか、我は靈をもて祈り、また心をもて祈らん。我は靈をもて謳ひ、また心をもて謳はん。16汝もし然せずば、靈をもて祝するとき、凡人は汝の語ることを知らねば、その感謝に對し如何にしてアアメンと言はんや。17なんぢの感謝はよし、然れど、その人の徳を建つることなし。18我なんぢら衆の者よりも多く異言を語ることを神に感謝す。19然れど我は教會にて異言をもて一萬言を語るよりも、寧ろ人を教へんために我が心をもて五言を語らんことを欲するなり。20兄弟よ、智慧に於ては子供となるな、惡に於ては幼兒となり、智慧に於ては成人となれ。21律法に録して『主、宣はく、他し言の民により、他し國人の口唇をもて此の民に語らん、然れど尚かれらは我に聽かじ』とあり。22されば異言は、信者の爲ならで不信者のための徴なり。預言は、不信者の爲ならで信者のためなり。23もし全教會一處に集れる時、みな異言にて語らば、凡人または不信者いり來らんに、汝らを狂へる者と言はざらんや。24然れど若しみな預言せば、不信者または凡人の入りきたるとき、會衆のために自ら責められ、會衆のために是非せられ、25その心の秘

密あらはるる故に、伏して神を拜し『神は實に汝らの中に在す』と言はん。 26 兄弟よ、さらば如何にすべきか、汝らの集る時はおのおの聖歌あり、教あり、黙示あり、異言あり、釋く能力あり、みな徳を建てん爲にすべし。 27 もし異言を語る者あらば、二人、多くとも三人、順次に語りて一人これを釋くべし。 28 もし釋く者なき時は、教會にては黙し、而して己に語り、また神に語るべし。 29 預言者は二人もしくは三人かたり、その他の者はこれを辨ふべし。 30 もし坐しをる、他のもの黙示を蒙らば、先のもの黙すべし。 31 汝らは皆すべての人に學ばせ勸を受けしめんために、一人一人預言することを得べければなり。 32 また預言者の靈は預言者に制せらる。 33 それ神は亂の神にあらず、平和の神なり。 34 聖徒の諸教會のするごとく、女は教會にて黙すべし。彼らは語ることを許されず。律法に云へるごとく順ふべき者なり。 35 何事か學ばんとする事あらば、家にて己が夫に問ふべし、女の教會にて語るは恥づべき事なればなり。 36 神の言は汝等より出でしか、また汝等にのみ來りしか。 37 人もし自己を預言者とし、或は御靈に感じたる者と思はば、わが汝らに書きおくる言を主の命なりと知れ。 38 もし知らずば其の知らざるに任せよ。 39 されば我が兄弟よ、預言することを慕ひ、また異言を語ることを禁ずな。 40 凡ての事、宣しきに適ひ、かつ秩序を守りて行へ。

15 兄弟よ、曩にわが傳へし福音を更に復なんぢらに示す。汝らは之を受け、之に頼りて立ちたり。 2 なんぢら徒らに信ぜずして、我が傳へしママを堅く守らば、この福音に由りて救はれん。 3 わが第一に

汝らに傳へしは、我が受けし所にして、キリスト聖書に應じて我らの罪のために死に、**4** また葬られ、聖書に應じて三日めに甦へり、**5** ケパに現れ、後に十二弟子に現れ給ひし事なり。**6** 次に五百人以上の兄弟に同時にあらはれ給へり。その中には既に眠りたる者もあれど、多くは今なほ世にあり。**7** 次にヤコブに現れ、次にすべての使徒に現れ、**8** 最終には月足らぬ者のごとき我にも現れ給へり。**9** 我は神の教會を迫害したれば、使徒と稱へらるるに足らぬ者にて、使徒のうち最小き者なり。**10** 然るに我が今の如くなるは、神の恩恵に由るなり。斯くてその賜はりし御恵は空しくならずして、凡ての使徒よりも我は多く働けり。これ我にあらず、我と偕にある神の恩恵なり。**11** されば我にもせよ、彼等にもせよ、宣傳ふる所はかくの如くにして、汝らは斯くのごとく信じたるなり。**12** キリストは死人の中より甦へり給へりと宣傳ふるに、汝等のうちに、死人の復活なしと云ふ者のあるは何ぞや。**13** もし死人の復活なくば、キリストもまた甦へり給はざりしならん。**14** もしキリスト甦へり給はざりしならば、我らの宣教も空しく、汝らの信仰もまた空しからん、**15** かつ我らは神の偽證人と認められん。我ら神はキリストを甦へらせ給へりと證したればなり。もし死人の甦へることなくば、神はキリストを甦へらせ給はざりしならん。**16** もし死人の甦へる事なくば、キリストも甦へり給はざりしならん。**17** 若しキリスト甦へり給はざりしならば、汝らの信仰は空しく、汝等なほ罪に居らん。**18** 然ればキリストに在りて眠りたる者も亡びしならん。**19** 我等この世にあり、キリストに頼

りて空しき望みを懐くに過ぎずば、我らは凡ての人の中にて最も憫むべき者なり。 20 然れど正しくキリストは死人の中より甦へり、眠りたる者の初穂となり給へり。 21 それ人によりて死の來りし如く、死人の復活もまた人に由りて來れり。 22 凡ての人、アダムに由りて死ぬるごとく、凡ての人、キリストに由りて生くべし。 23 而して各人その順序に隨ふ。まづ初穂なるキリスト、次はその來り給ふときキリストに屬する者なり。 24 次には終きたらん、その時キリストは、もろもろの權能・權威・權力を亡して國を父なる神に付し給ふべし。 25 彼は凡ての敵をその足の下に置き給ふまで、王たらざるを得ざるなり。 26 最後の敵なる死もまた亡されん。 27 『神は萬の物を彼の足の下に服はせ給ひ』たればなり。萬の物を彼に服はせたりと宣ふときは、萬の物を服はせ給ひし者のその中になきこと明かなり。 28 萬の物かれに服ふときは、子も亦みづから萬の物を己に服はせ給ひし者に服はん。これ神は萬の物に於て萬の事となり給はん爲なり。 29 もし復活なくば、死人の爲にバプテスマを受くるもの何をなすか、死人の甦へること全くなくば、死人のためにバプテスマを受くるは何の爲ぞ。 30 また我らが何時も危険を冒すは何の爲ぞ。 31 兄弟よ、われらの主イエス・キリストに在りて、汝等につき我が有てる誇によりて誓ひ、我は日々死すと言ふ。 32 我がエペソにて獸と闘ひしこと、若し人のごとき思にて爲ししならば、何の益あらんや。死人もし甦へる事なくば『我等いざ飲食せん、明日死ぬべければなり』 33 なんぢら欺かるな、惡しき交際は善き風儀を害ふなり。 34 なんぢら醒めて

正しうせよ、罪を犯すな。汝等のうちに神を知らぬ者あり、我が斯く言ふは汝等を辱しめんとてなり。

35 されど人あるひは言はん、死人いかにして甦へるべきか、如何なる體をもて來るべきかと。 **36** 愚なる者よ、なんぢの播く所のもの先づ死なずば生きず。

37 又その播く所のものは後に成るべき體を播くにあらず、麥にても他の穀にても、ただ種粒のみ。 **38** 然るに神は御意に隨ひて之に體を予へ、おのおのの種にその體を予へたまふ。 **39** 凡ての肉、おなじ肉にあらず、人の肉あり、獸の肉あり、鳥の肉あり、魚の肉あり。 **40** 天上の體あり、地上の體あり、されど天上の物の光榮は地上の物と異なり。 **41** 日の光榮あり、月の光榮あり、星の光榮あり、此の星は彼の星と光榮を異にす。 **42** 死人の復活もまた斯くのごとし。朽つる物にて播かれ、朽ちぬものに甦へらせられ、

43 卑しき物にて播かれ、光榮あるものに甦へらせられ、弱きものにて播かれ、強きものに甦へらせられ、 **44** 血氣の體にて播かれ、靈の體に甦へらせられん。血氣の體ある如く、また靈の體あり。 **45** 録して、始の人アダムは、活ける者となれるとあるが如し。而して終のアダムは、生命を與ふる靈となれり。 **46** 靈のものは前にあらず、反つて血氣のもの前にありて靈のもの後にあり。 **47** 第一の人は地より出でて土に屬し、第二の人は天より出でてたる者なり。 **48** この土に屬する者に、すべて土に屬する者は似、この天に屬する者に、すべて天に屬する者は似るなり。 **49** 我ら土に屬する者の形を有てのごとく、天に屬する者の形をも有つべし。 **50** 兄弟よ、われ之を言はん、血肉は神の國を嗣ぐこと能はず、朽つるものは朽ち

ぬものを嗣ぐことなし。 51 視よ、われ汝らに奥義を告げん、我らは悉とく眠るにはあらず、 52 終のラッパの鳴らん時みな忽ち瞬間に化せん。ラッパ鳴りて死人は朽ちぬ者に甦へり、我らは化するなり。 53 そは此の朽つる者は朽ちぬものを著、この死ぬる者は死なぬものを著るべければなり。 54 此の朽つるものは朽ちぬものを著、この死ぬる者は死なぬものを著るとき『死は勝に呑まれたり』と録されたる言は成就すべし。 55 『死よ、なんぢの勝は何處にかある。死よ、なんぢの刺は何處にかある』 (Hadēs g86) 56 死の刺は罪なり、罪の力は律法なり。 57 されど感謝すべきかな、神は我らの主イエス・キリストによりて勝を與へたまふ。 58 然れば我が愛する兄弟よ、確くして揺くことなく、常に勵みて主の事を務めよ、汝等その勞の、主にありて空しからぬを知らばなり。

16 聖徒たちの爲にする寄附の事に就きては、汝らも我がガラテヤの諸教會に命ぜしごとくせよ。 2 一週の首の日ごとに、各人その得る所にしたがひて己が家に貯へ置け、これ我が到らんとき始めて寄附を集むる事なからん爲なり。 3 われ到らば、汝らを選ぶところの人々に添書をあたへ、汝らの恵む物をエルサレムに携へ往かしめん。 4 もし我も往くべきならば、彼らは我と共に往くべし。 5 我マケドニヤを通らんとすれば、マケドニヤを過ぎて後に汝らの許にゆかん。 6 かくて汝らの中に留りゐて、或は冬を過すこともあらん、是わが何處に往くも汝らに送られん爲なり。 7 我は今なんぢらを途の次に見ることを欲せず、主ゆるし給はば、暫く汝らと偕に留らんことを望む。 8 われ五旬節まではエペソに留らんと

す。 9 そは活動のために大なる門わが前にひらけ、
また逆ふ者も多ければなり。 10 テモテもし到らば、
慎みて汝等のうちに懼なく居らしめよ、彼は我と同じく
主の業を務むる者なり。 11 されば誰も之を卑しむることなく、
安らかに送りて我が許に來らしめよ、我かれが兄弟たちと共に來るを
待てるなり。 12 兄弟アポロに就きては、我かれに兄弟たちと共に汝ら
に到らんことを懇ろに勧めたりしが、今は往くことを更に欲せず、
されど好き機を得ば往くべし。 13 目を覺し、堅く信仰に立ち、
雄々しく、かつ剛かれ。 14 一切のこと愛をもて行へ。 15 兄弟よ、
ステパナの家はアカヤの初穂にして、彼らが身を委ねて聖徒に事へたることは、
汝らの知る所なり。 16 われ汝らに勧む、斯くのごとき人々また凡て之と
ともに働きて勞する者に服せよ。 17 我ステパナとポルトナトとアカイコとの
來るを喜ぶ。かれらは汝らの居らぬを補ひたればなり。 18 彼らは我が心と
汝らの心とを安んじたり、斯くのごとき者を認めよ。 19 アジヤの諸教會
なんぢらに安否を問ふ。アクラとプリスカ及びその家の教會、主に在りて
懇ろに汝らに安否を問ふ。 20 すべての兄弟なんぢらに安否を問ふ。
なんぢら潔き接吻をもて互に安否を問へ。 21 我パウロ自筆をもて汝らに
安否を問ふ。 22 もし人、主を愛せずば詛はるべし、我らの主きたり給ふ。
23 願はくは主イエスの恩恵なんぢらと偕にあらんことを。 24 わが愛は
キリスト・イエスに在りて汝等すべての者とともに在るなり。

コリント人への手紙第二

1 神の御意によりてイエス・キリストの使徒となれるパウロ及び兄弟テモテ、書をコリントに在る神の教會、ならびにアカヤ全國に在る凡ての聖徒に贈る。**2** 願はくは我らの父なる神および主イエス・キリストより賜ふ恩恵と平安と汝らに在らんことを。**3** 讃むべき哉、われらの主イエス・キリストの父なる神、即ちもろもろの慈悲の父、一切の慰安の神、**4** われらを凡ての患難のうちに慰め、我等をして自ら神に慰めらるる慰安をもて、諸般の患難に居る者を慰むることを得しめ給ふ。**5** そはキリストの苦難われらに溢るる如く、我らの慰安も亦キリストによりて溢るればなり。**6** 我ら或は患難を受くるも汝らの慰安と救とのため、或は慰安を受くるも汝らの慰安の爲にして、その慰安は汝らの中に働きて、我らが受くる如き苦難を忍ぶことを得しむるなり。**7** かくて汝らが苦難に與るごとく、また慰安にも與ることを知れば、汝らに對する我らの望は堅し。**8** 兄弟よ、我らがアジャにて遭ひし患難を汝らの知らざるを好まず、すなはち壓せらるること甚だしく、力耐へがたくして、生きる望を失ひ、**9** 心のうちに死を期するに至れり。これ己を頼まずして、死人を甦へらせ給ふ神を頼まん爲なり。**10** 神は斯かる死より我らを救ひ給へり、また救ひ給はん。我らは後もなほ救ひ給はんことを望みて神を頼み、**11** 汝らも我らの爲に祈をもて助く。これ多くの人の願望によりて賜はる恩恵を、多くの人の感謝するに至らん爲なり。**12** われら世に在りて殊に汝らに對し、神の清淨と眞實とをもて、また肉の智慧によらず、神の恩恵により

て行ひし事は、我らの良心の證する所にして、我らの誇なり。 **13** 我らの書き贈ることは、汝らの讀むところ知る所の他ならず。 **14** 而して我は汝等のうち或者の既に知れる如く、我らの主イエスの日に我らが汝らの誇、なんぢらが我らの誇たるを終まで知らんことを望む。 **15** この確信をもて先づ汝らに到り、再び益を得させ、 **16** かくて汝らを経てマケドニアに往き、マケドニアより更に復なんぢらに到り、而して汝らに送られてユダヤに往かんことを定めたり。 **17** かく定めたるは浮きたる事ならんや。わが定むるところ肉によりて定め、然り然り、否々と言ふが如きこと有らんや。 **18** 神は眞實にて在せば、我らが汝らに對する言も、然りまた否と言ふが如きにあらず。 **19** 我ら即ちパウロ、シルワノ、テモテが汝らの中に傳へたる神の子キリスト・イエスは、然りまた否と言ふが如き者にあらず、然りと言ふことは彼によりて成りたるなり。 **20** 神の約束は多くありとも、然りと言ふことは彼によりて成りたれば、彼によりてアアメンあり、我ら神に榮光を歸するに至る。 **21** 汝らと共に我らをキリストに堅くし、且われらに膏を注ぎ給ひし者は神なり。 **22** 神はまた我らに印し、保證として御靈を我らの心に賜へり。 **23** 我わが靈魂を賭けて神の證を求む、我がコリントに往くことの遅きは、汝らを寛うせん爲なり。 **24** されど我らは汝らの信仰を掌どる者にあらず、汝らの喜悦を助くる者なり、汝らは信仰によりて立てばなり。

2 われ再び憂をもて汝らに到らじと自ら定めたり。
2 我もし汝らを憂ひしめば、我が憂ひしむる者のほかに誰か我を喜ばせんや。 **3** われ前に此の事を書き贈

りしは、我が到らんとき、我を喜ばすべきもの、反
つて我を憂ひしむる事のなからん爲にして、汝らは
皆わが喜びを喜びとするを信ずるに因りてなり。 4
われ大なる患難と心の悲哀とにより、多くの涙をも
て汝らに書き贈れり。これ汝らを憂ひしめんとにあ
らず、我が汝らに對する愛の溢るるばかりなるを知ら
しめん爲なり。 5 もし憂ひしむる人あらば、我を
憂ひしむるにあらず、幾許か汝ら衆を憂ひしむるなり。
(幾許かと云へるは、われ激しく責むるを好まぬ故なり) 6
かかる人の多數の者より受けたる懲罰は足れり。 7
されば汝ら寧ろ彼を恕し、かつ慰めよ、恐らくは其の人、
甚だしき愁に沈まん。 8 この故に我なんぢらの愛を彼に
顯さんことを勧む。 9 前に書き贈りしは、凡ての事につ
きて汝らが従順なりや否やをも試み知らん爲なり。 10
なんぢら何事にても人を恕さば、我も亦これを恕さん、
われ恕したる事あらば、汝らの爲にキリストの前に恕した
るなり。 11 これサタンに欺かれざらん爲なり、我等はその
詭謀を知らざるにあらず。 12 我キリストの福音の爲に
トロアスに到り、主われに門を開き給ひたれど、 13
我が兄弟テトスに逢はぬによりて心に平安をえず、
彼處の者に別を告げてマケドニヤに往けり。 14 感謝
すべきかな、神は何時にてもキリストにより、我らを
執へて凱旋し、何處にても我等によりてキリストを知る
知識の馨をあらはし給ふ。 15 救はるる者にも亡ぶる者
にも、我らは神に對してキリストの香しき馨なり。 16
この人には死よりいづる馨となりて死に至らしめ、かの
人には生命より出づる馨となりて生命に至らしむ。誰か
此の任に耐へんや。 17 我らは多

くの人のごとく神の言を曲げず、眞實により神による者のごとく、神の前にキリストに在りて語るなり。

3我等ふたたび己を薦め始めんや、また或人のごとく人の推薦の書を汝らに齎し、また汝等より受くることを要せんや。 **2**汝らは即ち我らの書にして我らの心に録され、又すべての人に知られ、かつ讀まるなり。 **3**汝らは明かに我らの職によりて書かれたるキリストの書なり。而も墨にあらで活ける神の御靈にて録され、石碑にあらで心の肉碑に録されたるなり。 **4**我らはキリストにより、神に對して斯かる確信あり。 **5**されど己は何事をも自ら定むるに足らず、定むるに足るは神によるなり。 **6**神は我らを新約の役者となるに足らしめ給へり、儀文の役者にあらず、靈の役者なり。そは儀文は殺し、靈は活せばなり。 **7**石に彫り書されたる死の法の職にも光榮ありて、イスラエルの子等はそのやがて消ゆべきモーセの顔の光榮を見つめ得ざりし程ならんには、 **8**まして靈の職は光榮なからんや。 **9**罪を定むる職もし光榮あらんには、まして義とする職は光榮に溢れざらんや。 **10**もと光榮ありし者も更に勝れる光榮に比ぶれば、光榮なき者となれり。 **11**もし消ゆべき者に光榮ありしならんには、まして永存ふるものに光榮なからんや。 **12**我らは斯くのごとき希望を有つゆゑに、更に臆せずして言ひ、 **13**又モーセの如くせざるなり。彼は消ゆべき者の消えゆくをイスラエルの子らに見せぬために、面帕を顔におほひたり。 **14**然れど彼らの心鈍くなれり。キリストによりて面帕の廢るべきを悟らねば、今日に至るまで舊約を讀む時そ

の面帕なほ存れり。 15 今日に至るまでモーセの書を
讀むとき、面帕は彼らの心のうへに置かれたり。 16
然れど主に歸する時、その面帕は取り除かるべし。
17 主は即ち御靈なり、主の御靈のある所には自由あ
り。 18 我等はみな面帕なくして、鏡に映るごとく主
の榮光を見、榮光より榮光にすすみ、主たる御靈に
よりにて主と同じ像に化するなり。

4 この故に我ら憐憫を蒙りて此の職を受けたれば、
落膽せず、 2 恥づべき隠れたる事をすて、悪巧に歩
まず、神の言をみださず、眞理を顯して神の前に己
を凡ての人の良心に薦むるなり。 3 もし我らの福音
おほはれ居らば、亡ぶる者に覆はれをるなり。 4 こ
の世の神は此等の不信者の心を暗まして、神の像な
るキリストの榮光の福音の光を照さざらしめたり。

(aiōn g165) 5 我らは己の事を宣べず、ただキリスト・イ
エスの主たる事と、我らがイエスのために汝らの僕
たる事とを宣ふ。 6 光、暗より照り出でよと宣ひし
神は、イエス・キリストの顔にある神の榮光を知る
知識を輝かしめんために、我らの心を照し給へるな
り。 7 我等この寶を土の器に有てり、これ優れて大
なる能力の我等より出でずして、神より出づること
の顯れんためなり。 8 われら四方より患難を受くれ
ども窮せず、爲ん方つくれども希望を失はず、 9 責
めらるれども棄てられず、倒さるれども亡びず、 10
常にイエスの死を我らの身に負ふ。これイエスの生
命の我らの身にあらはれん爲なり。 11 それ我ら生け
る者の常にイエスのため死に付さるるは、イエスの
生命の我らの死ぬべき肉體にあらはれん爲なり。 12
さらば死は我等のうちに働き、生命は汝等のうちに

働くなり。13 録して『われ信ずるによりて語れり』とあるごとく、我等にも同じ信仰の靈あり、信ずるに因りて語るなり。14 これ主イエスを甦へらせ給ひし者の我等をもイエスと共に甦へらせ、汝らと共に立たしめ給ふことを我ら知ればなり。15 凡ての事は汝らの益なり。これ多くの人によりて御恵の増し加はり、感謝いや増りて神の榮光の顯れん爲なり。16 この故に我らは落膽せず、我らが外なる人は壞るれども、内なる人は日々に新なり。17 それ我らが受くる暫くの輕き患難は、極めて大なる永遠の重き光榮を得しむるなり。(aiōnios g166) 18 我らの顧みる所は見ゆるものにあらで見えぬものなればなり。見ゆるものは暫時にして、見えぬものは永遠に至るなり。

(aiōnios g166)

5 我らは知る、我らの幕屋なる地上の家、壞るれば、神の賜ふ建造物、すなはち天にある、手にて造らぬ、永遠の家あることを。(aiōnios g166) 2 我等はその幕屋にありて歎き、天より賜ふ住所をこの上に著んことを切に望む。3 之を著るときは裸にてある事なからん。4 我等この幕屋にありて重荷を負へる如くに歎く、之を脱がんとにあらで、此の上に著んことを欲すればなり。これ死ぬべき者の生命に吞まれん爲なり。5 我らを此の事に適ふものとなし、その證として御靈を賜ひし者は神なり。6 この故に我らは常に心強し、かつ身に居るうちは主より離れ居るを知る、7 見ゆる所によらず、信仰によりて歩めばなり。8 斯く心強し、願ふところは寧ろ身を離れて主と偕に居らんことなり。9 然れば身に居るも身を離るるも、ただ御心に適はんことを力む。10 我等はみ

な必ずキリストの審判の座の前にあらはれ、善にもあれ悪にもあれ、各人その身になしたる事に随ひて報を受くべければなり。 **11** 斯く主の畏るべきを知るによりて人々に説き勸む。われら既に神に知られたり、亦なんぢらの良心にも知られたりと思ふ。 **12** 我等は再び己を汝らに薦むるにあらず、ただ我等をもて誇とする機を汝らに與へ、心によらず外貌によりて誇る人々に答ふことを得させんとするなり。 **13** 我等もし心狂へるならば、神の爲なり、心慥ならば、汝らの爲なり。 **14** キリストの愛われらに迫れり。我ら思ふに、一人すべての人に代りて死にたれば、凡ての人すでに死にたるなり。 **15** その凡ての人に代りて死に給ひしは、生ける人の最早おのれの爲に生きず、己に代り死にて甦へり給ひし者のために、生きん爲なり。 **16** されば今より後われ肉によりて人を知るまじ、曾て肉によりてキリストを知りしが、今より後は斯くの如くに知ることをせじ。 **17** 人もしキリストに在らば新に造られたる者なり、古きは既に過ぎ去り、視よ、新しくなりたり。 **18** これらの事はみな神より出づ、神はキリストによりて我らを己と和がしめ、かつ和がしむる職を我らに授け給へり。 **19** 即ち神はキリストに在りて世を己と和がしめ、その罪を之に負はせず、かつ和がしむる言を我らに委ね給へり。 **20** されば我等はキリストの使者たり、恰も神の我等によりて汝らを勧め給ふがごとし。我等キリストに代りて願ふ、なんぢら神を和げ。 **21** 神は罪を知り給はざりし者を我らの代に罪となし給へり、これ我らが彼に在りて神の義となるを得んためなり。

6 我らは神とともに働く者なれば、神の恩恵を汝らが徒らに受けざらんことを更に勸む。 **2** (神いひ給ふ『われ恵の時に汝に聴き、救の日に汝を助けたり』と。視よ、今は恵のとき、視よ、今は救の日なり) **3** 我等この職の謗られぬ爲に何事にも人を躓かせず。 **4** 反つて凡ての事において神の役者のごとく己をあらはす、即ち患難にも、窮乏にも、苦難にも、**5** 打たるるにも、獄に入るにも、騷擾にも、労働にも、眠らぬにも、斷食にも、大なる忍耐を用ひ、 **6** また廉潔と知識と寛容と仁慈と聖靈と虚偽なき愛と、**7** 眞の言と神の能力と左右に持ちたる義の武器とにより、 **8** また光榮と恥辱と惡名と美名とによりて表す。我らは人を惑す者の如くなれども眞、 **9** 人に知られぬ者の如くなれども人に知られ、死なんとする者の如くなれども、視よ、生ける者、懲さるる者の如くなれども殺されず、 **10** 憂ふる者の如くなれども常に喜び、貧しき者の如くなれども多くの人を富ませ、何も有たぬ者の如くなれども凡ての物を有てり。**11** コリント人よ、我らの口は汝らに向ひて開け、我らの心は廣くなれり。 **12** 汝らの狭くせらるるは我らに因るにあらず、反つて己が心に因るなり。 **13** 汝らも心を廣くして我に報をせよ。(我わが子に對する如く言ふなり) **14** 不信者と軛を同じうすな、釣合はぬなり、義と不義と何の干與かあらん、光と暗と何の交際かあらん。 **15** キリストとベリアルと何の調和かあらん、信者と不信者と何の關係かあらん。 **16** 神の宮と偶像と何の一致かあらん、我らは活ける神の宮なり、即ち神の言ひ給ひしが如し。曰く『われ彼らの中に住み、また歩まん。我かれらの神となり

、彼等わが民とならん』と。17この故に『主いひ給ふ、「汝等かれらの中より出で、之を離れ、穢れたる者に觸るなかれ」と。「さらば我なんぢらを受け、18われ汝らの父となり、汝等わが息子むすめとならん」と、全能の主いひ給ふ』とあるなり。

7 されば愛する者よ、我らかかる約束を得たれば、肉と靈との汚穢より全く己を潔め、神を畏れてその清潔を成就すべし。2我らを受け容れよ、われら誰にも不義をなしし事なく、誰をも害ひし事なく、誰をも掠めし事なし。3わが斯く言ふは、汝らを咎めんとにあらず、そは我が既に言へる如く、汝らは我らの心にありて、共に死に共に生くればなり。4我なんぢらを信ずること大なり、また汝等をもて誇とすること大なり、我は慰安にみち、凡ての患難の中にも喜悅あふるるなり。5マケドニヤに到りしとき、我らの身はなほ聊かも平安を得ずして、様々の患難に遭ひ、外には分争、内には恐懼ありき。6然れど哀なる者を慰むる神は、テトスの來るによりて我らを慰め給へり。7唯その來るに因りてのみならず、彼が汝らによりて得たる慰安をもて慰め給へり。即ち汝らの我を慕ふこと、歎くこと、我に對して熱心なることを我らに告ぐるによりて、我ますます喜べり。8われ書をもて汝らを憂ひしめたれども悔いず、その書の汝らを暫く憂ひしめしを見て、前には悔いたれども今は喜ぶ。9わが喜ぶは汝らの憂ひしが故にあらず、憂ひて悔改に至りし故なり。汝らは神に従ひて憂ひたれば、我等より聊かも損を受けざりき。10それ神にしたがふ憂は、悔なきの救を得るの悔改を生じ、世の憂は死を生ず。11視よ、汝らが

神に従ひて憂ひしことは、如何ばかりの奮勵・辯明・憤激・恐懼・愛慕・熱心・罪を責むる心などを汝らの中に生じたりしかを。汝等かの事に就きては全く潔きことを表せり。12 されば前に書を汝らに書き贈りしも、不義をなしたる人の爲にあらず、また不義を受けたり人の爲にあらず、我らに對する汝らの奮勵の、神の前にて汝らに顯れん爲なり。13 この故に我らは慰安を得たり。慰安を得たる上にテトスの喜悅によりて更に喜べり。そは彼の心なんぢら一同によりて安んぜられたればなり。14 われ曩に彼の前に汝らに就きて誇りたれど恥づることなし、我らが汝らに語りし事のみな誠實なりし如く、テトスの前に誇りし事もまた誠實となれり。15 彼は汝等みな從順にして畏れ戦き、己を迎へしことを思ひ出して、心を汝らに寄すること増々深し。16 われ凡ての事に汝らに就きて心強きを喜ぶ。

8 兄弟よ、我らマケドニヤの諸教會に賜ひたる神の恩恵を汝らに知らす。2 即ち患難の大なる試練のうちに彼らの喜悅あふれ、又その甚だしき貧窮は吝みなく施す富の溢るるに至れり。3 われ證す、彼らは聖徒に事ふることに與る恵を切に我らに請ひ求め、みづから進みて、力に應じ、否これに過ぎて施濟をなせり。4 われ證す、彼らは聖徒に事ふることに與る恵を切に我らに請ひ求め、みづから進みて、力に應じ、否これに過ぎて施濟をなせり。5 我らの望のほか先づ己を主にささげ、神の御意によりて我らにも身を委ねたり。6 されば我らはテトスが前に此の慈惠のことを汝らの中に始めたれば、又これを成就せんことを勧めたり。7 汝等もろもろの事、すな

はち信仰に、言に、知識に、凡ての奮勵に、また我らに對する愛に富めるごとく、此の慈惠にも富むべし。 8 われ斯く言ふは汝らに命ずるにあらず、ただ他の人の奮勵によりて、汝らの愛の眞實を試みん爲なり。 9 汝らは我らの主イエス・キリストの恩惠を知る。即ち富める者にて在したれど、汝等のために貧しき者となり給へり。これ汝らが彼の貧窮によりて富める者とならん爲なり。 10 施濟のことに就きて我ただ意見を述ぶ、これは汝らの益なり。汝らは此の事をただに一年前より人に先だちて行ひしのみならず、又これを願ひ始めし事なれば、 11 今これを成し遂げよ、汝らが心より願ひしごとく、所有に應じて成し遂げよ。 12 人もし志望あらば、其の有たぬ所に由るにあらず、其の有つ所に由りて嘉納せらるるなり。 13 これ他の人を安くして汝らを苦しめんとにあらず、均しくせんとするなり。 14 すなはち今なんぢらの餘るところは彼らの足らざるを補ひ、後また彼らの餘る所は汝らの足らざるを補ひて、均しくなるに至らんためなり。 15 録して『多く集めし者にも餘る所なく、少く集めし者にも足らざる所なかりき』とあるが如し。 16 汝らに對する同じ熱心をテトスの心にも賜へる神に感謝す。 17 彼はただに勸を容れしのみならず、甚だ熱心にして、自ら進んで汝らに往くなり。 18 我等また彼とともに一人の兄弟を遣す。この人は福音をもて諸教會のうちに譽を得たる上に、 19 主の榮光と我らの志望とを顯さんがために、掌どれる此の慈惠に就きて、諸教會より我らの道伴として選ばれたる者なり。 20 彼を遣すは、此の大なる贖金を掌どるに、人に咎めらるる事を避けんため

なり。21 そは主の前のみならず、人の前にも善からんことを慮ばかりてなり。22 また一人の兄弟を彼らと共につかはす、我らは多くの事につきて屢次かれの熱心なるを認めたり。而して今は彼が汝らを深く信ずるに因りて、その熱心の更に加はるを認む。23 テトスのことを言へば、我が友なり、汝らに對して我が同勞者なり。この兄弟たちの事をいへば、彼らは諸教會の使なり、キリストの榮光なり。24 されば汝らの愛と我らが汝らに就きて誇れる事との證を、諸教會の前にて彼らに顯せ。

9 聖徒に施すことに就きては汝らに書きおくるに及ばず、2 我なんぢらの志望あるを知ればなり。その志望につき汝らの事をマケドニヤ人に誇りて、アカヤは既に一年前に準備をなせりと云へり。かくて汝らの熱心は多くの人を勵ましたり。3 されどわれ兄弟たちを遣すは、我が言ひしごとく汝らに準備をなさしめ、之につきて我らの誇りし事の空しくならざらん爲なり。4 もしマケドニヤ人われと共に來りて汝らの準備なきを見ば、汝らは言ふに及ばず、我らも確信せしによりて恐らくは恥を受けん。5 この故に兄弟たちを勸めて、先づ汝らに往かしめ、曩に汝らが約束したる慈惠を、吝むが如くせずして、恵む心よりせん爲に預じめ調べしむるは、必要のことと思へり。6 それ少く播く者は少く刈り、多く播く者は多く刈るべし。7 おのおの吝むことなく、強ひてすることなく、その心に定めし如くせよ。神は喜びて與ふる人を愛し給へばなり。8 神は汝等をして常に凡ての物に足らざることなく、凡ての善き業に溢れしめんために、凡ての恩惠を溢るるばかり與ふる

ことを得給ふなり。 9 録して『彼は散して貧しき者に與へたり。その正義は永遠に存らん』とある如し。
。(aiōn g165) 10 播く人に種と食するパンとを與ふる者は、汝らにも種をあたへ、且これを殖し、また汝らの義の果を増し給ふべし。 11 汝らは一切に富みて吝みなく施すことを得、かくて我らの事により、人々神に感謝するに至るなり。 12 此の施濟の務は、ただに聖徒の窮乏を補ふのみならず、充ち溢れて神に対する感謝を多からしむ。 13 即ち彼らは此の務を證據として、汝らがキリストの福音に對する言明に順ふことと、彼らにも凡ての人にも吝みなく施すこととに就きて、神に榮光を歸し、 14 かつ神の汝らに給ひし優れたる恩恵により、汝らを慕ひて汝等のために祈らん。 15 言ひ盡しがたき神の賜物につきて感謝す。

10 汝らに對し面前にては謙だり、離れりては勇ましき我パウロ、自らキリストの柔和と寛容とをもて汝らに勸む。 2 我らを肉に従ひて歩むごとく思ふ者あれば、斯かる者に對しては雄々しくせんと思へど、願ふ所は我が汝らに逢ふとき斯く勇ましくせざらん事なり。 3 我らは肉にありて歩めども、肉に従ひて戦はず。 4 それ我らの戦争の武器は肉に屬するにあらず、神の前には城砦を破るほどの能力あり、我等はもろもろの論説を破り、 5 神の示教に逆ひて建てたる凡ての櫓を毀ち、凡ての念を虜にしてキリストに服はしむ。 6 且なんぢらの従順の全くならん時、すべての不従順を罰せんと覺悟せり。 7 汝らは外貌のみを見る、若し人みづからキリストに屬する者と信ぜば、己がキリストに屬する如く、我らも亦キ

リストに屬する者なることを更に考ふべし。 8 假令われ汝らを破る爲ならずして建つる爲に、主が我らに賜ひたる權威につきて誇る事稍過ぐとも恥とはならじ。 9 われ書をもて汝らを嚇すと思はざれ。 10 彼らは言ふ『その書は重くかつ強し、その逢ふときの容貌は弱く、言は鄙し』と。 11 斯くのごとき人は思ふべし。我らが離れをる時おくる書の言のごとく、逢ふときの行爲も亦然るを。 12 我らは己を譽むる人と敢へて並び、また較ぶる事をせず、彼らは己によりて己を度り、己をもて己に較ぶれば智なき者なり。 13 我らは範圍を踰えて誇らず、神の我らに分ち賜ひたる範圍にしたがひて誇らん。その範圍は汝らに及べり。 14 汝らに及ばぬ者のごとく範圍を踰えて身を延すに非ず、キリストの福音を傳へて汝らにまで到れるなり。 15 我らは己が範圍を踰えて他の人の勞を誇らず、唯なんぢらの信仰の彌増すにより、我らの範圍に循ひて汝らのうちに更に大なることを望む。 16 これ他の人の範圍に既に備りたるものを誇らず、汝らを踰えて外の處に福音を宣傳へん爲なり。 17 誇る者は主によりて誇るべし。 18 そは是とせらるるは己を譽むる者にあらず、主の譽め給ふ者なればなり。

11 願はくは汝等わが少しの愚を忍ばんことを。請ふ我を忍べ。 2 われ神の熱心をもて汝らを慕ふ、われ汝らを潔き處女として一人の夫なるキリストに獻げんとて、之に許嫁したればなり。 3 されど我が恐るるは、蛇の惡巧によりてエバの惑されし如く、汝らの心害はれてキリストに對する眞心と貞操とを失はん事なり。 4 もし人きたりて我らの未だ宣べざる

他のイエスを宣ぶる時、また汝らが未だ受けざる他の靈を受け、未だ受け容れざる他の福音を受くるときは、汝ら能く之を忍ばん。 5 我は何事にもかの大使徒たちに劣らずと思ふ。 6 われ言に拙けれども知識には然らず、凡ての事にて全く之を汝らに顯せり。 7 われ汝らを高うせんために自己を卑うし、價なくして神の福音を傳へたるは罪なりや。 8 我は他の教會より奪ひ取り、その俸給をもて汝らに事へたり。 9 又なんぢらの中に在りて乏しかりしとき、誰をも煩はさず、マケドニヤより來りし兄弟たち我が窮乏を補へり。斯く凡ての事に汝らを煩はすまじと慎みたるが、此の後もなほ慎まん。 10 我に在るキリストの誠實によりて言ふ、我この誇をアカヤの地方にて阻まるる事あらじ。 11 これ何故ぞ、汝らを愛せぬに因るか、神は知りたまふ。 12 我わが行ふ所をなほ行はん、これ機會をうかがふ者の機會を斷ち、彼等をしてその誇る所につき我らの如くならしめん爲なり。 13 かくの如きは偽 使徒また詭計の労働人にして、己をキリストの使徒に扮へる者どもなり。 14 これ珍しき事にあらず、サタンも己を光の御使に扮へば、 15 その役者らが義の役者のごとく扮ふは大事にはあらず、彼等の終局はその業に適ふべし。 16 われ復いはん、誰も我を愚と思ふな。もし然おもふとも、少しく誇る機を我にも得させん爲に、愚なる者として受け容れよ。 17 今いふ所は主によりて言ふにあらず、愚なる者として大膽に誇りて言ふなり。 18 多くの人、肉によりて誇れば、我も誇るべし。 19 汝らは智き者なれば喜びて愚なる者を忍ぶなり。 20 人もし汝らを奴隸とすとも、食ひ盡すとも、掠めとる

とも、驕るとも、顔を打つとも、汝らは之を忍ぶ。
21 われ恥ぢて言ふ、我らは弱き者の如くなりき。されど人の雄々しき所は我もまた雄々し、われ愚にも斯く言ふなり。**22** 彼らヘブル人なるか、我も然り、彼らイスラエル人なるか、我も然り、彼らアブラハムの裔なるか、我も然り。**23** 彼らキリストの役者なるか、われ狂へる如く言ふ、我はなほ勝れり。わが勞は更におほく、獄に入れられしこと更に多く、鞭うたれしこと更に夥だしく、死に瀕みたりしこと屢次なりき。**24** ユダヤ人より四十に一つ足らぬ鞭を受けしこと五度、**25** 笞にて打たれしこと三たび、石にて打たれしこと一たび、破船に遭ひしこと三度に於て、一晝夜海にありき。**26** しばしば旅行して河の難、盜賊の難、同族の難、異邦人の難、市中の難、荒野の難、海上の難、偽兄弟の難にあひ、**27** 勞し、苦しみ、しばしば眠らず、飢ゑ渴き、しばしば斷食し、凍え、裸なりき。**28** ここに擧げざる事もあるに、なほ日々われに迫る諸教會の心勞あり。**29** 誰か弱りて我弱らざらんや、誰か躓きて我燃えざらんや。**30** もし誇るべくは、我が弱き所につきて誇らん。**31** 永遠に讃むべき者、すなはち主イエスの神また父は、我が偽らざるを知り給ふ。(aiōn g165) **32** ダマスコにてアレタ王の下にある總督、われを捕へんとてダマスコ人の町を守りたれば、**33** 我は籠にて窓より石垣傳ひに縋り下されて其の手を脱れたり。

12 わが誇るは益なしと雖も止むを得ざるなり、茲に主の顯示と默示とに及ばん。**2** 我はキリストにある一人の人を知る。この人、十四年前に第三の天にまで取去られたり(肉體にてか、われ知らず、肉體

を離れてか、われ知らず、神しり給ふ) 3 われ斯くのごとき人を知る(肉體にてか、肉體の外にてか、われ知らず、神しり給ふ) 4 かれパラダイスに取去られて、言ひ得ざる言、人の語るまじき言を聞けり。 5 われ斯くのごとき人のために誇らん、されど我が爲には弱き事のほか誇るまじ。 6 もし自ら誇るとも我が言ふところ誠實なれば、愚なる者とならじ。されど之を罷めん。恐らくは人の我を見われに聞くところに過ぎて、我を思ふことあらん。 7 我は我が蒙りたる黙示の鴻大なるによりて高ぶることのなからん爲に、肉體に一つの刺を與へらる、即ち高ぶることなからん爲に我を撃つサタンの使なり。 8 われ之がために三度まで之を去らしめ給はんことを主に求めたるに、 9 言ひたまふ『わが恩恵なんぢに足れり、わが能力は弱きうちに全うせらるればなり』さればキリストの能力の我を庇はんために、寧ろ大に喜びて我が微弱を誇らん。 10 この故に我はキリストの爲に微弱・恥辱・艱難・迫害・苦難に遭ふことを喜ぶ、そは我よわき時に強ければなり。 11 われ汝らに強ひられて愚になれり、我は汝らに譽めらるべかりしなり。我は數ふるに足らぬ者なれども、何事にもかの大使徒たちに劣らざりしなり。 12 我は徴と不思議と能力ある業とを行ひ、大なる忍耐を用ひて汝等のうちに使徒の徴をなせり。 13 なんぢら他の教會に何の劣る所かある、唯わが汝らを煩はさざりし事のみならずや、此の不義は請ふ我に恕せ。 14 視よ、茲に三度なんぢらに到らんとして準備したれど、尚なんぢらを煩はすまじ。我は汝らの所有を求めず、ただ汝らを求む。それ子は親のために貯ふべきにあ

らず、親は子のために貯ふべきなり。 **15** 我は大に喜びて汝らの靈魂のために物を費し、また身をも費さん。我なんぢらを多く愛するによりて、汝ら我を少く愛するか。 **16** 或人いはん、我なんぢらを煩はさざりしも、狡猾にして詭計をもて取りしなりと。 **17** 然れど我なんぢらに遣しし者のうちの誰によりて汝らを掠めしや。 **18** 我テトスを勧めて汝らに遣し、これと共にかの兄弟を遣せり、テトスは汝らを掠めしや。我らは同じ御靈によりて歩み、同じ足跡を踏みしにあらずや。 **19** 汝らは夙くより我等なんぢらに對して辯明すと思ひしならん。されど我らはキリストに在りて神の前にて語る。愛する者よ、これ皆なんぢらの徳を建てん爲なり。 **20** わが到りて汝らを見ん時、わが望の如くならず、汝らが我を見んとき、亦なんぢらの望の如くならざらんことを恐れ、かつ分争・嫉妬・憤恚・徒黨・誹謗・讒言・驕傲・騒亂などの有らんことを恐る。 **21** また重ねて到らん時、わが神われを汝等のまへにて辱しめ、且おほくの人の、前に罪を犯して行ひし不潔と姦淫と好色とを悔改めざるを悲しましめ給ふことあらん乎と恐る。

13 今われ三度なんぢらに到らんとす、二三の證人の口によりて凡てのこと慥めらるべし。 **2** われ既に告げたれど、今 離れをりて、二度なんぢらに逢ひし時のごとく、前に罪を犯したる者とその他の凡ての人々とに預じめ告ぐ、われ復いたらば決して宥さじ。 **3** 汝らはキリストの我にありて語りたまふ證據を求むればなり。キリストは汝らに對ひて弱からず、汝等のうちに強し。 **4** 微弱によりて十字架に釘けられ給ひたれど、神の能力によりて生き給へばなり。

我らもキリストに在りて弱き者なれど、汝らに向ふ神の能力によりて彼と共に生きん。 5 なんぢら信仰に居るや否や、みづから試み自ら験しみよ。汝らみづから知らざらんや、若し棄てらるる者ならずば、イエス・キリストの汝らの中に在す事を、 6 我は我らの棄てらるる者ならぬを汝らの知らんことを望む。 7 我らは汝らの少しにても悪を行はざらんことを神に祈る。これ我らの是とせらるるを顯さん爲にあらず、よし我らは棄てらるる者の如くなるとも、汝らの善を行はん爲なり。 8 我らは眞理に逆ひて能力なく、眞理のためには能力あり。 9 われら弱くして汝らの強きことを喜ぶ、また之に就きて祈るは、汝らの全くならん事なり。 10 われ離れ居りて此等のことを書き贈るは、汝らに逢ふとき、主の破る爲ならずして建つる爲に我に賜ひたる權威に隨ひて厳しくせざらん爲なり。 11 終に言はん、兄弟よ、汝ら喜べ、全くなれ、慰安を受けよ、心を一つにせよ、睦み親しめ、然らば愛と平和との神なんぢらと偕に在さん。 12 潔き接吻をもて相互に安否を問へ、 13 凡ての聖徒なんぢらに安否を問ふ。 14 願はくは主イエス・キリストの恩恵・神の愛・聖靈の交感、なんぢら凡ての者と偕にあらんことを。

ガラテヤ人への手紙

1 人よりに非ず、人に由るにも非ず、イエス・キリスト及び之を死人の中より甦へらせ給ひし父なる神に由りて使徒となれるパウロ、**2** 及び我と偕にある凡ての兄弟、書をガラテヤの諸教會に贈る。**3** 願はくは、我らの父なる神および主イエス・キリストより賜ふ恩恵と平安と汝らに在らんことを。**4** 主は我らの父なる神の御意に隨ひて、我らを今の悪しき世より救ひ出さんとて、己が身を我らの罪のために與へたまへり。(aiōn g165) **5** 願はくは榮光、世々限りなく神にあらん事を、アアメン。(aiōn g165) **6** 我は汝らが斯くも速かにキリストの恩恵をもて召し給ひし者より離れて、異なる福音に移りゆくを怪しむ。**7** 此は福音と言ふべき者にあらず、ただ或人々が汝らを擾してキリストの福音を變へんとするなり。**8** されど我等にもせよ、天よりの御使にもせよ、我らの曾て宣傳へたる所に背きたる福音を汝らに宣傳ふる者あらば詛はるべし。**9** われら前に言ひし如く今また言はん、汝らの受けし所に背きたる福音を宣傳ふる者あらば詛はるべし。**10** 我いま人に喜ばれんとするか、或は神に喜ばれんとするか、抑もまた人を喜ばせんことを求むるか。もし我なほ人を喜ばせをらば、キリストの僕にあらじ。**11** 兄弟よ、われ汝らに示す、わが傳へたる福音は、人に由れるものにあらず。**12** 我は人より之を受けず、また教へられず、唯イエス・キリストの黙示に由れるなり。**13** 我がユダヤ教に於ける曩の日の擧動は、なんぢら既に聞けり、即ち烈しく神の教會を責め、かつ暴したり。**14** 又わが國人のうち、我と同じ年輩なる多くの者にも勝り

てユダヤ教に進み、わが先祖たちの言傳に對して甚だ熱心なりき。 15 されど母の胎を出でしより我を選び別ち、その恩惠をもて召し給へる者 16 御子を我が内に顯して其の福音を異邦人に宣傳へしむるを可しとし給へる時、われ直ちに血肉と謀らず、 17 我より前に使徒となりし人々に逢はんとてエルサレムにも上らず、アラビヤに出で往きて遂にまたダマスコに返れり。 18 その後三年を歴て、ケパを尋ねんとエルサレムに上り、十五日の間かれと偕に留りしが、 19 主の兄弟ヤコブのほか孰の使徒にも逢はざりき。 20 (茲に書きおくる事は、視よ、神の前にて偽らざるなり) 21 その後シリヤ、キリキヤの地方に往けり。 22 キリストにあるユダヤの諸教會は我が顔を知らざりしかど、 23 ただ人々の『われらを前に責めし者、曾て暴したる信仰の道を今は傳ふ』といふを聞き、 24 わが事によりて神を崇めたり。

2その後十四年を歴て、バルナバと共にテトスをも連れて、復エルサレムに上れり。 2 我が上りしは默示に因りてなり。かくて異邦人の中に宣ぶる福音を彼らに告げ、また名ある者どもに私に告げたり、これは我が走る事、又すでに走りしことの空しからざらん爲なり。 3 而して我と偕なるギリシヤ人テトスすら割禮を強ひられざりき。 4 これ私に入りたる偽兄弟あるに因りてなり。彼らの忍び入りたるは、我らがキリスト・イエスに在りて有てる自由を窺ひ、且われらを奴隸とせん爲なり。 5 然れど福音の眞理の汝らの中に留らんために、我ら一時も彼らに譲り従はざりき。 6 然るに、かの名ある者どもより——彼らは如何なる人なるにもせよ、我には關係な

し、神は人の外面を取り給はず——實にかの名ある者どもは我に何をも加へず、**7** 反つてペテロが割禮ある者に対する福音を委ねられたる如く、我が割禮なき者に対する福音を委ねられたるを認め、**8** (ペテロに能力を與へて割禮ある者の使徒となし給ひし者は、我にも異邦人のために能力を與へ給へり)**9** また我に賜はりたる恩恵をさとりて、柱と思はるるヤコブ、ケパ、ヨハネは、交誼の印として我とバルナバとに握手せり。これは我らが異邦人にゆき、彼らが割禮ある者に往かん爲なり。**10** 唯その願ふところは我らが貧しき者を顧みんことなり、我も固より此の事を勵みて行へり。**11** されどケパがアンテオケに來りしとき、責むべき事のありしをもて面前これと諍ひたり。**12** その故はある人々のヤコブの許より來るまでは、かれ異邦人と共に食しゐたるに、かの人々の來りてよりは、割禮ある者どもを恐れ、退きて異邦人と別れたり。**13** 他のユダヤ人も彼とともに偽行をなし、バルナバまでもその偽行に誘はれゆけり。**14** されど我かれらが福音の眞理に循ひて正しく歩まざるを見て、會衆の前にてケパに言ふ『なんぢユダヤ人なるにユダヤ人の如くせず、異邦人のごとく生活せば、何ぞ強ひて異邦人をユダヤ人の如くならしめんとするか』**15** 我らは生來のユダヤ人にして、罪人なる異邦人にあらざれども、**16** 人の義とせらるるは律法の行爲に由らず、唯キリスト・イエスを信ずる信仰に由るを知りて、キリスト・イエスを信じたり。これ律法の行爲に由らず、キリストを信ずる信仰によりて義とせられん爲なり。律法の行爲によりては義とせらるる者一人だになし。**17** 若しキ

リストに在りて義とせららんことを求めて、なほ罪人と認められなば、キリストは罪の役者なるか、決して然らず。18 我もし前に毀ちしものを再び建てなば、己みづから犯罪者たるを表す。19 我は神に生きんために、律法によりて律法に死にたり。20 我キリストと偕に十字架につけられたり。最早われ生くるにあらず、キリスト我が内に在りて生くるなり。今われ肉體に在りて生くるは、我を愛して我がために己が身を捨て給ひし神の子を信ずるに由りて生くるなり。21 我は神の恩恵を空しくせず、もし義とせらるること律法に由らば、キリストの死に給へるは徒然なり。

3 愚なる哉、ガラテヤ人よ、十字架につけられ給ひしままなるイエス・キリスト、汝らの眼前に顯されたるに、誰が汝らを誑かししぞ。2 我は汝等より唯この事を聞かんと欲す。汝らが御靈を受けしは律法の行爲に由るか、聽きて信じたるに由るか。3 汝らは斯くも愚なるか、御靈によりて始りしに、今肉によりて全うせらるるか。4 斯程まで多くの苦難を受けしことは徒然なるか、徒然にはあるまじ。5 然らば汝らに御靈を賜ひて汝らの中に能力ある業を行ひ給へるは、律法の行爲に由るか、聽きて信ずるに由るか。6 録して『アブラハム神を信じ、その信仰を義とせられたり』とあるが如し。7 されば知れ、信仰に由る者は是アブラハムの子なるを。8 聖書は神が異邦人を信仰に由りて義とし給ふことを知りて、預じめ福音をアブラハムに傳へて言ふ『なんぢに由りてもろもろの國人は祝福せられん』と。9 この故に信仰による者は、信仰ありしアブラハムと共に祝

福せらる。 **10** されど凡て律法の行爲による者は詛の下にあり。録して『律法の書に記されたる凡ての事を常に行はぬ者はみな詛はるべし』とあればなり。 **11** 律法に由りて神の前に義とせらるる事なきは明かなり『義人は信仰によりて生くべし』とあればなり。 **12** 律法は信仰に由るにあらず、反つて『律法を行ふ者は之に由りて生くべし』と云へり。 **13** キリストは我等のために詛はるる者となりて、律法の詛より我らを贖ひ出し給へり。録して『木に懸けらるる者は凡て詛はるべし』と云へばなり。 **14** これアブラハムの受けたる祝福の、イエス・キリストによりて異邦人におよび、且われらが信仰に由りて約束の御靈を受けん爲なり。 **15** 兄弟よ、われ人の事を藉りて言はん、人の契約すら既に定むれば、之を廢しまた加ふる者なし。 **16** かの約束はアブラハムと其の裔とに與へ給ひし者なり。多くの者を指すごとく『裔々に』とは云はず、一人を指すごとく『なんぢの裔に』と云へり、これ即ちキリストなり。 **17** 然れば我いはん、神の預じめ定め給ひし契約は、その後 四百三十年を歴て起りし律法に廢せらるることなく、その約束も空しくせらるる事なし。 **18** もし嗣業を受くること律法に由らば、もはや約束には由らず、然るに神は約束に由りて之をアブラハムに賜ひたり。 **19** 然れば律法は何のためぞ。これ罪の爲に加へ給ひしものにて、御使たちを経て中保の手によりて立てられ、約束を與へられたる裔の來らん時にまで及ぶなり。 **20** (中保は一方のみの者にあらず、然れど神は唯一に在せり) **21** さらば律法は神の約束に悖るか、決して然らず。もし人を生かすべき律法を與へられたら

んには、實に義とせらるるは律法に由りしならん。
22されど聖書は凡ての者を罪の下に閉ぢ籠めたり。
これ信ずる者のイエス・キリストに對する信仰に由
れる約束を與へられん爲なり。**23**信仰の出で來らぬ
前は、われら律法の下に守られて、後に顯れんとす
る信仰の時まで閉ぢ籠められたり。**24**かく信仰によ
りて我らの義とせられん爲に、律法は我らをキリス
トに導く守役となれり。**25**されど信仰の出で來りし
後は、我等もはや守役の下に居らず。**26**汝らは信仰
によりキリスト・イエスに在りて、みな神の子たり。
27凡そバプテスマに由りてキリストに合ひし汝ら
は、キリストを衣たるなり。**28**今はユダヤ人もギリ
シヤ人もなく、奴隸も自主もなく、男も女もなし、
汝らは皆キリスト・イエスに在りて一體なり。**29**汝
等もしキリストのものならば、アブラハムの裔にし
て約束に循へる世嗣たるなり。

4われ言ふ、世嗣は全業の主なれども、成人となら
ぬ間は僕と異なることなく、**2**父の定めし時の至る
までは後見者と家令との下にあり。**3**斯くのごとく
我らも成人とならぬほどは、世の小學の下にありて
僕たりしなり。**4**されど時滿つるに及びては、神そ
の御子を遣し、これを女より生れしめ、律法の下に
生れしめ給へり。**5**これ律法の下にある者をあがな
ひ、我等をして子たることを得しめん爲なり。**6**か
く汝ら神の子たる故に、神は御子の御靈を我らの心
に遣して『アバ、父』と呼ばしめ給ふ。**7**されば最
早なんぢは僕にあらず、子たるなり、既に子たらば
亦神に由りて世嗣たるなり。**8**されど汝ら神を知ら
ざりし時は、その實 神にあらざる神々に事へたり。

9 今は神を知り、むしろ神に知られたるに、何ぞ復かの弱くして賤しき小學に還りて、再びその僕たらんとするか。 10 汝らは日と月と季節と年とを守る。 11 我は汝らの爲に働きし事の或は無益にならんことを恐る。 12 兄弟よ、我なんぢらに請ふ、われ汝等のごとく成りたれば、汝ら我がごとく成れ。汝ら何事にも我を害ひしことなし。 13 わが初め汝らに福音を傳へしは、肉體の弱かりし故なるを汝ら知る。 14 わが肉體に汝らの試鍊となる者ありたれど汝ら之を卑しめず、又きはらず、反つて我を神の使の如く、キリスト・イエスの如く迎へたり。 15 汝らの其の時の幸福はいま何處に在るか。我なんぢらに就きて證す、もし爲し得べくば己が目を抉りて我に與へんとまで思ひしを。 16 然るに我なんぢらに眞を言ふによりて仇となりたるか。 17 かの人々の汝らに熱心なるは善き心にあらず、汝らを我らより離して己らに熱心ならしめんとてなり。 18 善き心より熱心に慕はるるは、啻に我が汝らと偕にをる時のみならず、何時にても宜しき事なり。 19 わが幼兒よ、汝らの衷にキリストの形成るまでは、我ふたたび産の苦痛をなす。 20 今なんぢらに到りて我が聲を易へんことを願ふ、汝らに就きて惑へばなり。 21 律法の下にあらんと願ふ者よ、我にいへ、汝ら律法をきかぬか。 22 即ちアブラハムに子二人あり、一人は婢女より、一人は自主の女より生れたりと録されたり。 23 婢女よりの子は肉によりて生れ、自主の女よりの子は約束による。 24 この中に譬あり、二人の女は二つの契約なり、その一つはシナイ山より出でて、奴隷たる子を生む、これハガルなり。 25 このハガルはアラビヤに在る

シナイ山にして今のエルサレムに當る。エルサレムはその子らとともに奴隷たるなり。 26 されど上なるエルサレムは、自主にして我らの母なり。 27 録していふ『石女にして産まぬものよ、喜べ。産の苦痛せぬ者よ、聲をあげて呼はれ。獨住の女の子は多し、夫ある者の子よりも多し』とあり。 28 兄弟よ、なんぢらはイサクのごとく約束の子なり。 29 然るに其の時、肉によりて生れし者 御靈によりて生れし者を責めしごとく、今なほ然り。 30 されど聖書は何と云へるか『婢女とその子とを逐ひいだせ、婢女の子は自主の女の子と共に業を嗣ぐべからず』とあり。 31 されば兄弟よ、われらは婢女の子ならず、自主の女の子なり。

5 キリストは自由を得させん爲に我らを釋き放ちたまへり。されば堅く立ちて再び奴隷の軛に繋がるな。 2 視よ、我パウロ汝らに言ふ、もし割禮を受けば、キリストは汝らに益なし。 3 又さらに凡て割禮を受くる人に證す、かれは律法の全體を行ふべき負債あり。 4 律法に由りて義とせられんと思ふ汝らは、キリストより離れたり、恩恵より墮ちたり。 5 我らは御靈により、信仰によりて希望をいだき、義とせらるることを待てるなり。 6 キリスト・イエスに在りては、割禮を受くるも割禮を受けぬも益なく、ただ愛に由りてはたらく信仰のみ益あり。 7 なんぢら前には善く走りたるに、誰が汝らの眞理に従ふを阻みしか。 8 かかる勸は汝らを召したまふ者より出づるにあらず。 9 少しのパン種は粉の團塊をみな膨れしむ。 10 われ汝らに就きては、その聊かも異念を懐かぬことを主によりて信ず。されど汝らを擾す者は

、誰にもあれ審判を受けん。 11 兄弟よ、我もし今も割禮を宣傳へば、何ぞなほ迫害せられんや。もし然せば十字架の顛躓も止みしならん。 12 願はくは汝らを亂す者どもの自己を不具にせんことを。 13 兄弟よ、汝らの召されたるは自由を與へられん爲なり。ただ其の自由を肉に従ふ機會となさず、反つて愛をもて互に事へよ。 14 それ律法の全體は『おのれの如くなんぢの隣を愛すべし』との一言にて全うせらるるなり。 15 心せよ、若し互に咬み食はば相共に亡されん。 16 我いふ、御靈によりて歩め、さらば肉の慾を遂げざるべし。 17 肉の望むところは御靈にさからひ、御靈の望むところは肉にさからひて互に相 戻ればなり。これ汝らの欲する所をなし得ざらしめん爲なり。 18 汝等もし御靈に導かれなば、律法の下にあらじ。 19 それ肉の行爲はあらはなり。即ち淫行・汚穢・好色・ 20 偶像崇拜・呪術・怨恨・紛争・嫉妬・憤恚・徒黨・分離・異端・ 21 猜忌・醉酒・宴樂などの如し。我すでに警めたるごとく、今また警む。斯かることを行ふ者は神の國を嗣ぐことなし。 22 されど御靈の果は愛・喜悅・平和・寛容・仁慈・善良・忠信・ 23 柔和・節制なり。斯かるものを禁ずる律法はあらず。 24 キリスト・イエスに屬する者は、肉とともに其の情と慾とを十字架につけたり。 25 もし我ら御靈に由りて生きなば、御靈に由りて歩むべし。 26 互に挑み互に妬みて、虚しき譽を求むることを爲な。

6 兄弟よ、もし人の罪を認むることあらば、御靈に感じたる者、柔和なる心をもて之を正すべし、且おのおの自ら省みよ、恐らくは己も誘はるる事あらん

。 2 なんぢら互に重を負へ、而してキリストの律法を全うせよ。 3 人もし有ること無くして自ら有りとなせば、是みづから欺くなり。 4 各自おのが行爲を驗し見よ、さらば誇るところは他にあらで、ただ己にあらん。 5 各自おのが荷を負ふべければなり。 6 御言を教へらるる人は、教ふる人と凡ての善き物を共にせよ。 7 自ら欺くな、神は侮るべき者にあらず、人の播く所は、その刈る所とならん。 8 己が肉のために播く者は肉によりて滅亡を刈りとり、御靈のために播く者は御靈によりて永遠の生命を刈りとらん。 (aiōnios g166) 9 われら善をなすに倦まざれ、もし撓まずば、時いたりて刈り取るべし。 10 この故に機に隨ひて、凡ての人、殊に信仰の家族に善をおこなへ。 11 視よ、われ手づから如何に大なる文字にて汝らに書き贈るかを。 12 凡そ肉において美しき外觀をなさんと欲する者は、汝らに割禮を強ふ。これ唯キリストの十字架の故によりて責められざらん爲のみ。 13 そは割禮をうくる者すら自ら律法を守らず、而も汝らに割禮をうけしめんと欲するは、汝らの肉につきて誇らんが爲なり。 14 されど我には、我らの主イエス・キリストの十字架のほかに誇る所あらざれ。之によりて世は我に對して十字架につけられたり、我が世に對するも亦然り。 15 それ割禮を受くるも受けぬも、共に數ふるに足らず、ただ貴きは新に造らるる事なり。 16 此の法に循ひて歩む凡ての者の上に、神のイスラエルの上に、平安と憐憫とあれ。 17 今よりのち誰も我を煩はすな、我はイエスの印を身に佩びたるなり。 18 兄弟よ、願はくは我らの主イエ

ス・キリストの恩恵、なんぢらの靈とともに在らん
ことを、アマメン。

エペソ人への手紙

1 神の御意によりてキリスト・イエスの使徒となれるパウロ、書をエペソに居る聖徒、キリストに在りて忠實なる者に贈る。 **2** 願はくは我らの父なる神および主イエス・キリストより賜ふ恩恵と平安と汝らに在らんことを。 **3** 讃むべきかな、我らの主イエス・キリストの父なる神、かれはキリストに由りて靈のもろもろの祝福をもて天の處にて我らを祝し、 **4** 御前にて潔く瑕なからしめん爲に、世の創の前より我等をキリストの中を選び、 **5** 御意のままにイエス・キリストに由り愛をもて己が子となさんことを定め給へり。 **6** 是その愛しみ給ふ者によりて我らに賜ひたる恩恵の榮光に響あらん爲なり。 **7** 我らは彼にありて恩恵の富に隨ひ、その血に頼りて贖罪、すなはち罪の赦を得たり。 **8** 神は我らに諸般の知慧と聰明とを與へてその恩恵を充しめ、 **9** 御意の奥義を御意のままに示し給へり。 **10** 即ち時満ちて經綸にしたがひ、天に在るもの地にあるものを、悉とくキリストに在りて一つに歸せしめ給ふ。これ自ら定め給ひし所なり。 **11** 我らは、凡ての事を御意の思慮のままに行ひたまふ者の御旨によりて預じめ定められ、キリストに在りて神の産業とせられたり。 **12** これ夙くよりキリストに希望を置きし我らが、神の榮光の響とならん爲なり。 **13** 汝等もキリストに在りて、眞の言すなはち汝らの救の福音をきき、彼を信じて約束の聖靈にて印せられたり。 **14** これは我らが受くべき嗣業の保證にして、神に屬けるものの贖はれ、かつ神の榮光に響あらん爲なり。 **15** この故に我も汝らが主イエスに對する信仰と凡ての聖徒に對する

愛とを聞いて、**16** 絶えず汝らのために感謝し、わが祈のうちに汝らを憶え、**17** 我らの主イエス・キリストの神、栄光の父、なんぢらに智慧と黙示との靈を與へて、神を知らしめ、**18** 汝らの心の眼を明かにし、神の召にかかはる望と、聖徒にある神の嗣業の栄光の富と、**19** 神の大能の勢威の活動によりて信ずる我らに對する能力の極めて大なるを知らしめ給はんことを願ふ。**20** 神はその大能をキリストのうちに働かせて、之を死人の中より甦へらせ、天の所にて己の右に坐せしめ、**21** もろもろの政治・權威・能力・支配、また啻に此の世のみならず、來らんとする世にも稱ふる凡ての名の上に置き、**(aiōn g165)** **22** 萬の物をその足の下に服はせ、彼を萬の物の上に首として教會に與へ給へり。**23** この教會は彼の體にして、萬の物をもて萬の物に満し給ふ者の満つる所なり。

2 汝ら前には咎と罪とによりて死にたる者にして、**2** この世の習慣に従ひ、空中の權を執る宰、すなはち不從順の子らの中に今なほ働く靈の宰にしたがひて歩めり。**(aiōn g165)** **3** 我等もみな前には彼らの中にをり、肉の慾に従ひて日をおくり、肉と心との欲する隨をなし、他の者のごとく生れながら怒の子なりき。**4** されど神は憐憫に富み給ふが故に、我らを愛する大なる愛をもて、**5** 咎によりて死にたる我等をすら、キリスト・イエスに由りてキリストと共に活し、(汝らの救はれしは恩惠によれり)**6** 共に甦へらせ、共に天の處に坐せしめ給へり。**7** これキリスト・イエスに由りて我らに施したまふ仁慈をもて、其の恩惠の極めて大なる富を、來らんとする後の世々に顯さんとてなり。**(aiōn g165)** **8** 汝らは恩惠により、

信仰によりて救はれたり、是おのれに由るにあらず、神の賜物なり。 9 行爲に由るにあらず、これ誇る者のなからん爲なり。 10 我らは神に造られたる者にして、神の預じめ備へ給ひし善き業に歩むべく、キリスト・イエスの中に造られたるなり。 11 されば記憶せよ、肉によりては異邦人にして、手にて肉に行ひたるかの割禮ありと稱ふる者に無割禮と稱へらるる汝ら、 12 曩にはキリストなく、イスラエルの民籍に遠く、約束に屬する諸般の契約に與りなく、世に在りて希望なく、神なき者なりき。 13 されど前に遠かりし汝ら今キリスト・イエスに在りて、キリストの血によりて近づくことを得たり。 14 彼は我らの平和にして、己が肉により、様々の誡命の規より成る律法を廢して、二つのものを一つとなし、怨なる隔の中籬を毀ち給へり。これは二つのものを己に於て一つの新しき人に造りて平和をなし、 15 彼は我らの平和にして、己が肉により、様々の誡命の規より成る律法を廢して、二つのものを一つとなし、怨なる隔の中籬を毀ち給へり。これは二つのものを己に於て一つの新しき人に造りて平和をなし、 16 十字架によりて怨を滅し、また之によりて二つのものを一つの體となして神と和がしめん爲なり。 17 かつ來りて、遠かりし汝等にも平和を宣べ、近きものにも平和を宣べ給へり。 18 そはキリストによりて我ら二つのもの一つ御靈にありて父に近づくことを得たればなり。 19 されば汝等はもはや旅人また寄寓人にあらず、聖徒と同じ國人また神の家族なり。 20 汝らは使徒と預言者との基の上に建てられたる者にして、キリスト・イエス自らその隅の首石たり。 21 おのお

のの建造物、かれに在りて建て合せられ、彌増に聖なる宮、主のうちに成るなり。 22 汝等もキリストに在りて共に建てられ、御靈によりて神の御住となるなり。

3 この故に汝ら異邦人のためにキリスト・イエスの囚人となれる我パウロ—— 2 汝等のために我に賜ひたる神の恩恵の經綸は汝ら聞きしならん、 3 即ち我まへに簡單に書きおくりし如く、この奥義は默示にて我に示されたり。 4 汝等これを讀みてキリストの奥義にかかはる我が悟を知ることを得べし。 5 この奥義は、いま御靈によりて聖使徒と聖預言者とに顯されし如くに、前代には人の子らに示されざりき。 6 即ち異邦人が福音によりキリスト・イエスに在りて共に世嗣となり、共に一體となり、共に約束に與る者となる事なり。 7 我はその福音の役者とせらる。これ神の能力の活動に隨ひて我に賜ふ恵の賜物によるなり。 8 我は凡ての聖徒のうちの最小き者よりも小き者なるに、キリストの測るべからざる富を異邦人に傳へ、 9 また萬物を造り給ひし神のうちに、世々隠れたる奥義の經綸の如何なるもの乎をあらはす恩恵を賜はりたり。 (aiōn g165) 10 いま教會によりて神の豊なる知慧を、天の處にある政治と權威とに知らしめん爲なり。 11 これは永遠より我らの主キリスト・イエスの中に、神の定め給ひし御旨によるなり。 (aiōn g165) 12 我らは彼に在りて彼を信ずる信仰により、臆せず疑はずして神に近づくことを得るなり。 13 されば汝らに請ふ、わが汝等のために受くる患難に就きて落膽すな、是なんぢらの譽なり。 14 この故に我は天と地とに在る諸族の名の起るところの父に跪

づきて願ふ。 15 この故に我は天と地とに在る諸族の名の起るところの父に跪づきて願ふ。 16 父その榮光の富にしたがひて、御靈により力をもて汝らの内なる人を強くし、 17 信仰によりてキリストを汝らの心に住はせ、汝らをして愛に根ざし、愛を基とし、 18 凡ての聖徒とともにキリストの愛の廣さ・長さ・高さ・深さの如何ばかりなるかを悟り、 19 その測り知るべからざる愛を知ることを得しめ、凡て神に満てる者を汝らに満しめ給はん事を。 20 願はくは我らの中にはたらく能力に隨ひて、我らの凡て求むる所、すべて思ふ所よりも甚く勝る事をなし得る者に、 21 榮光 世々 限りなく教會によりて、又キリスト・イエスによりて在らんことを、アアメン。(aiōn g165)

4 されば主に在りて囚人たる我なんぢらに勸む。汝ら召されたる召に適ひて歩み、 2 事毎に謙遜と柔和と寛容とを用ひ、愛をもて互に忍び、 3 平和の繋のうちに勉めて御靈の賜ふ一致を守れ。 4 體は一つ、御靈は一つなり。汝らが召にかかはる一つ望をもて召されたるが如し。 5 主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つ、 6 凡ての者の父なる神は一つなり。神は凡てのものの上に在し、凡てのものを貫き、凡てのものの中に在したまふ。 7 我等はキリストの賜物の量に隨ひて、おのおの恩恵を賜はりたり。 8 されば云へることあり『かれ高きところに昇りしとき、多くの虜をひきゐ、人々に賜物を賜へり』と。 9 既に昇りしと云へば、まづ地の低き處まで降りしにあらずや。 10 降りし者は即ち萬の物に満たん爲に、もろもろの天の上に昇りし者なり。 11 彼は或人を使徒とし、或人を預言者とし、或人を傳道者とし、或

人を牧師・教師として與へ給へり。 **12** これ聖徒を全うして職を行はせ、キリストの體を建て、 **13** 我等を試してみな信仰と神の子を知る知識とに一致せしめ、全き人、すなはちキリストの満ち足れるほどに至らせ、 **14** また我等はもはや幼童ならず、人の欺騙と誘惑の術たる悪巧とより起る様々の教の風に吹きまはされず、 **15** ただ愛をもて眞を保ち、育てて凡てのこと首なるキリストに達せん爲なり。 **16** 彼を本とし全身は凡ての節々の助にて整ひ、かつ聯り、肢體おのおの量に應じて働くにより、その體 成長し、自ら愛によりて建てらるるなり。 **17** されば我これを言ひ、主に在りて證す、なんぢら今よりのち、異邦人のその心の虚無に任せて歩むが如く歩むな。 **18** 彼らは念暗くなりて、其の内なる無知により、心の頑固によりて神の生命に遠ざかり、 **19** 恥を知らず、放縱に凡ての汚穢を行はんとて己を好色に付せり。 **20** されど汝らはかくの如くならん爲にキリストを學べるにあらず。 **21** 汝らは彼に聞き、彼に在りてイエスにある眞理に循ひて教へられしならん。 **22** 即ち汝ら誘惑の慾のために亡ぶべき前の動作に屬ける舊き人を脱ぎすて、 **23** 心の靈を新にし、 **24** 眞理より出づる義と聖とにて、神に象り造られたる新しき人を著るべきことなり。 **25** されば虚偽をすてて各自その隣に實をかたれ、我ら互に肢なればなり。 **26** 汝ら怒るとも罪を犯すな、憤恚を日の入るまで續くな。 **27** 悪魔に機會を得さすな。 **28** 盜する者は今よりのち盜すな、むしろ貧しき者に分け與へ得るために手づから働きて善き業をなせ。 **29** 悪しき言を一切なんぢらの口より出すな、ただ時に隨ひて人の徳を建つべき善き言を

出して、聴く者に益を得させよ。 **30** 神の聖靈を憂ひしむな、汝らは贖罪の日のために聖靈にて印せられたるなり。 **31** 凡ての苦・憤恚・怒・喧噪・誹謗、および凡ての悪意を汝等より棄てよ。 **32** 互に仁慈と憐憫とあれ、キリストに在りて神の汝らを赦し給ひしごとく、汝らも互に赦せ。

5 されば汝ら愛せらるる子供のごとく、神に效ふ者となれ。 **2** 又キリストの汝らを愛し、我らのために己を馨しき香の献物とし犠牲として、神に献げ給ひし如く、愛の中をあゆめ。 **3** 聖徒たるに適ふごとく、淫行、もろもろの汚穢、また慳貪を汝らの間にて稱ふる事だに爲な。 **4** また恥づべき言・愚なる話・戯言を言ふな、これ宜しからぬ事なり、寧ろ感謝せよ。 **5** 凡て淫行のもの、汚れたるもの、貪るもの、即ち偶像を拜む者どもの、キリストと神との國の世嗣たることを得ざるは、汝らの確く知る所なり。 **6** 汝ら人の虚しき言に欺かるな、神の怒はこれらの事によりて不従順の子らに及ぶなり。 **7** この故に彼らに與する者となるな。 **8** 汝ら舊は闇なりしが、今は主に在りて光となれり、光の子供のごとく歩め。 **9** (光の結ぶ實はもろもろの善と正義と誠實となり)
10 主の喜び給ふところの如何なるかを辨へ知れ。 **11** 實を結ばぬ暗き業に與する事なく、反つて之を責めよ。 **12** 彼らが隠れて行ふことは之を言ふだに恥づべき事なり。 **13** 凡てかかる事は、責めらるるとき光にて顯さる、顯さるる者はみな光となるなり。 **14** この故に言ひ給ふ『眠れる者よ、起きよ、死人の中より立ち上れ。さらばキリスト汝を照し給はん』 **15** されば慎みてその歩むところに心せよ、智からぬ者の如

くせず、智き者の如くし、**16** また機会をうかがへ、
そは時 悪しければなり。**17** この故に愚とならず、
主の御意の如何を悟れ。**18** 酒に酔ふな、放蕩はその
中にあり、むしろ御靈にて満され、**19** 詩と讃美と靈
の歌とをもて語り合ひ、また主に向ひて心より且う
たひ、かつ讃美せよ。**20** 凡ての事に就きて常に我ら
の主イエス・キリストの名によりて父なる神に感謝
し、**21** キリストを畏みて互に服へ。**22** 妻たる者よ
、主に服ふごとく己の夫に服へ。**23** キリストは自ら
體の救主にして教會の首なるごとく、夫は妻の首な
ればなり。**24** 教會のキリストに服ふごとく、妻も凡
てのこと夫に服へ。**25** 夫たる者よ、キリストの教會
を愛し、之がために己を捨て給ひしごとく、汝らも
妻を愛せよ。**26** キリストの己を捨て給ひしは、水の
洗をもて言によりて教會を潔め、これを聖なる者と
して、**27** 汚點なく皺なく、凡て斯くのごとき類なく
、潔き瑕なき尊き教會を、おのれの前に建てん爲な
り。**28** 斯くのごとく夫はその妻を己の體のごとく愛
すべし。妻を愛するは己を愛するなり。**29** 己の身を
憎む者は曾てあることなし、皆これを育て養ふ、キ
リストの教會に於けるも亦かくの如し。**30** 我らは彼
の體の肢なり、**31** 『この故に人は父母を離れ、そ
の妻に合ひて二人のもの一體となるべし』**32** この奥
義は大なり、わが言ふ所はキリストと教會とを指せ
るなり。**33** 汝等おのおの己のごとく其の妻を愛せ
よ、妻も亦その夫を敬ふべし。

6 子たる者よ、なんぢら主にありて兩親に順へ、こ
れ正しき事なり。**2** 『なんぢの父母を敬へ（これ約
束を加へたる誠命の首なり）**3** さらばなんぢ幸福を

得、また地の上に壽長からん』 4 父たる者よ、汝らの子供を怒らすな、ただ主の薫陶と訓戒とをもて育てよ。 5 僕たる者よ、キリストに従ふごとく畏れをののき、眞心をもて肉につける主人に従へ。 6 人を喜ばす者の如く、ただ目の前の事のみを勤めず、キリストの僕のごとく心より神の御旨をおこなひ、 7 人に事ふる如くせず、主に事ふるごとく快くつかへよ。 8 そは奴隷にもあれ、自主にもあれ、各自おこなふ善き業によりて主より其の報を受くることを汝ら知ればなり。 9 主人たる者よ、汝らも僕に對し斯く行ひて威嚇を止めよ、そは彼らと汝らとの主は天に在して、偏り視たまふことなきを汝ら知ればなり。 10 終に言はん、汝ら主にありて其の大能の勢威に頼りて強かれ。 11 悪魔の術に向ひて立ち得んために、神の武具をもて鎧ふべし。 12 我らは血肉と戦ふにあらず、政治・權威、この世の暗黒を掌どるもの、天の處にある惡の靈と戦ふなり。 (aiōn g165) 13 この故に神の武具を執れ、汝ら惡しき日に遭ひて仇に立ちむかひ、凡ての事を成就して立ち得んためなり。 14 汝ら立つに誠を帶として腰に結び、正義を胸當として胸に當て、 15 平和の福音の備を靴として足に穿け。 16 この他なほ信仰の盾を執れ、之をもて惡しき者の凡ての火矢を消すことを得ん。 17 また救の胃および御靈の劍、すなはち神の言を執れ。 18 常にさまざまの祈と願とをなし、御靈によりて祈り、また目を覺して凡ての聖徒のためにも願ひて倦まざれ。 19 又わが口を開くとき言を賜はり、憚らずして福音の奧義を示し、 20 語るべき所を憚らず語り得るように、我がためにも祈れ、我はこの福音のために使者とな

りて鎖に繋がれたり。 **21** 愛する兄弟、主に在りて忠實なる役者テキコ、我が情況わが爲す所のことを、具に汝らに知らせん。 **22** われ彼を遣すは、我が事を汝らに知らせて、汝らの心を慰めしめん爲なり。 **23** 願はくは父なる神および主イエス・キリストより賜ふ平安と、信仰に伴へる愛と、兄弟たちに在らんことを。 **24** 願はくは朽ちぬ愛をもて我らの主イエス・キリストを愛する凡ての者に御恵あらんことを。

ピリピ人への手紙

1 キリスト・イエスの僕たる我ら、パウロとテモテと、書をピリピにをるキリスト・イエスに在る凡ての聖徒、および監督たちと執事たちとに贈る。**2** 願はくは我らの父なる神および主イエス・キリストより賜ふ恩恵と平安と汝らに在らんことを。**3** われ汝らを憶ふごとに、我が神に感謝し、**4** 常に汝ら衆のために、願のつどつど喜びて願をなす。**5** 是なんぢら初の日より今に至るまで、福音を弘むることに與るが故なり。**6** 我は汝らの衷に善き業を始め給ひし者の、キリスト・イエスの日まで之を全うし給ふべきことを確信す。**7** わが斯くも汝ら衆を思ふは當然の事なり、我が縲綫にある時にも、福音を辯明して之を堅うする時にも、汝らは皆われと共に恩恵に與るによりて、我が心にあればなり。**8** 我いかにキリスト・イエスの心をもて汝ら衆を戀ひ慕ふか、その證をなし給ふ者は神なり。**9** 我は祈る、汝らの愛、知識ともろもろの悟とによりて彌が上にも増し加はり、**10** 善惡を辨へ知り、キリストの日に至るまで潔よくして躓くことなく、**11** イエス・キリストによる義の果を充して、神の榮光と譽とを顯さん事を。**12** 兄弟よ、我はわが身にありし事の反つて福音の進歩の助となりしを汝らが知らんことを欲するなり。**13** 即ち我が縲綫のキリストの爲なることは、近衛の全營にも、他の凡ての人にも顯れ、**14** かつ兄弟のうちの多くの者は、わが縲綫によりて主を信ずる心を厚くし、懼るる事なく、ますます勇みて神の言を語るに至れり。**15** 或者は嫉妬と分争とによりてキリストを宣傳へ、あるものは善き心によりて之を宣傳ふ

。 16 これは福音を辯明するために我が立てられたることを知り、愛によりてキリストを宣べ、 17 かれは我が縲綫に患難を加へんと思ひ、誠意によらず、徒黨によりて之を宣ぶ。 18 さらば如何、外貌にもあれ、眞にもあれ、孰も宣ぶる所はキリストなれば、我これを喜ぶ、また之を喜ばん。 19 そは此のこの汝らの祈とイエス・キリストの御靈の賜物とによりて、我が救となるべきを知ればなり。 20 これは我が何事をも恥ぢずして、今も常のごとく聊かも臆することなく、生きるにも、死ぬるにも、我が身によりてキリストの崇められ給はんことを切に願ひ、また望むところに適へるなり。 21 我にとりて、生きるはキリストなり、死ぬるもまた益なり。 22 されど若し肉體にて生きる事わが勤勞の果となるならば、孰を選ぶべきか、我これを知らず。 23 我はこの二つの間に介まれたり。わが願は世を去りてキリストと偕に居らんことなり、これ遙に勝るなり。 24 されど我なほ肉體に留るは汝らの爲に必要なり。 25 我これを確信する故に、なほ存へて汝らの信仰の進歩と喜悅とのために、汝等すべての者と偕に留らんことを知る。 26 これは我が再び汝らに到ることにより、汝らキリスト・イエスに在りて我にかかはる誇を増さん爲なり。 27 汝等ただキリストの福音に相應しく日を過せ、さらば我が往きて汝らを見るも、離れりて汝らの事をきくも、汝らが靈を一つにして堅く立ち、心を一つにして福音の信仰のために共に戦ひ、 28 凡ての事において逆ふ者に驚かされぬを知ることを得ん。その驚かされぬは、彼らには亡の兆、なんぢらには救の兆にて、此は神より出づるなり。 29 汝等は

キリストのために啻に彼を信ずる事のみならず、また彼のために苦しむ事をも賜はりたればなり。 30 汝らが遭ふ戦闘は、曩に我の上に見しところ、今また我に就きて聞くところに同じ。

2 この故に若しキリストによる勸、愛による慰安、御靈の交際、また憐憫と慈悲とあらば、 2 なんぢら念を同じうし、愛を同じうし、心を合せ、思ふことを一つにして、我が喜悦を充しめよ。 3 何事にまれ、徒黨また虚榮のためにすな、おのおの謙遜をもて互に人を己に勝れりとせよ。 4 おのおの己が事のみを顧みず、人の事をも顧みよ。 5 汝らキリスト・イエスの心を心とせよ。 6 即ち彼は神の貌にて居給ひしが、神と等しくある事を固く保たんとは思はず、 7 反つて己を空しうし、僕の貌をとりて人の如くなれり。 8 既に人の状にて現れ、己を卑うして死に至るまで、十字架の死に至るまで順ひ給へり。 9 この故に神は彼を高く上げて、之に諸般の名にまさる名を賜ひたり。 10 これ天に在るもの、地に在るもの、地の下にあるもの、悉とくイエスの名によりて膝を屈め、 11 且もろもろの舌の『イエス・キリストは主なり』と言ひあらはして、榮光を父なる神に歸せん爲なり。 12 されば我が愛する者よ、なんぢら常に服ひしごとく、我が居る時のみならず、我が居らぬ今もますます服ひ、畏れ戦きて己が救を全うせよ。 13 神は御意を成さんために汝らの衷にはたらき、汝等をして志望をたて、業を行はしめ給へばなり。 14 なんぢら眩かず疑はずして、凡ての事をおこなへ。 15 是なんぢら責むべき所なく素直にして、此の曲れる邪惡なる時代に在りて神の瑕なき子とならん爲なり。

汝らは生命の言を保ちて、世の光のごとく此の時代に輝く。16 かくて我が走りしところ勞せしところ空しからず、キリストの日にわれ誇ることを得ん。17 さらば汝らの信仰の供物と祭とに加へて、我が血を灌ぐとも我は喜ばん、なんぢら衆と共に喜ばん。18 かく汝等もよろこべ、我とともに喜べ。19 われ汝らの事を知りて慰安を得んとて、速かにテモテを汝らに遣さんことを主イエスに頼りて望む。20 そは彼のほかに我と同じ心をもて眞實に汝らのことを慮ばかる者なければなり。21 人は皆イエス・キリストの事を求めず、唯おのれの事のみを求む。22 されどテモテの鍊達なるは汝らの知る所なり、即ち子の父に於ける如く我とともに福音のために勤めたり。23 この故に我わが身の成行を見ば、直ちに彼を遣さんことを望む。24 我もまた速かに往くべきを主によりて確信す。25 されど今は先われと共に働き共に戦ひし兄弟、すなはち汝らの使として我が窮乏を補ひしエパフロデトを、汝らに遣すを必要のことと思ふ。26 彼は汝等すべての者を戀ひしたひ、又おのが病みたることの汝らに聞えしを以て悲しみ居るに因りてなり。27 彼は實に病にかかりて死ぬばかりなりしが、神は彼を憐みたまへり、啻に彼のみならず、我をも憐み、憂に憂を重ねしめ給はざりき。28 この故に急ぎて彼を遣す、なんぢらが再び彼を見て喜ばん爲なり。又わが憂を少うせん爲なり。29 されば汝ら主にありて歡喜を盡して彼を迎へ、かつ斯くのごとき人を尊べ。30 彼は汝らが我を助くるに當り、汝らの居らぬを補はんとて、己が生命を賭け、キリストの事業のために死ぬばかりになりたればなり。

3終に言はん、我が兄弟よ、なんぢら主に在りて喜べ。なんぢらに同じことを書きおくるは、我に煩はしきことなく、汝等には安然なり。**2**なんぢら犬に心せよ、悪しき労働人に心せよ、肉の割禮ある者に心せよ。**3**神の御靈によりて禮拜をなし、キリスト・イエスによりて誇り、肉を恃まぬ我らは眞の割禮ある者なり。**4**されど我は肉にも恃むことを得るなり。もし他の人、肉に恃むところありと思はば、我は更に恃む所あり。**5**我は八日めに割禮を受けたる者にして、イスラエルの血統、ベニヤミンの族、ヘブル人より出でたるヘブル人なり。律法に就きてはパリサイ人、**6**熱心につきては教會を迫害したるもの、律法によれる義に就きては責むべき所なかりし者なり。**7**されど曩に我が益たりし事はキリストのために損と思ふに至れり。**8**然り、我はわが主キリスト・イエスを知ることの優れたるために、凡ての物を損なりと思ひ、彼のために既に凡ての物を損せしが、之を塵芥のごとく思ふ。**9**これキリストを獲、かつ律法による己が義ならで、唯キリストを信ずる信仰による義、すなはち信仰に基きて神より賜はる義を保ち、キリストに在るを認められ、**10**キリストとその復活の力とを知り、又その死に效ひて彼の苦難にあづかり、**11**如何にもして死人の中より甦へることを得んが爲なり。**12**われ既に取れり、既に全うせられたりと言ふにあらず、唯これを捉へんとて追ひ求む。キリストは之を得させんとて我を捉へたまへり。**13**兄弟よ、われは既に捉へたりと思はず、唯この一事を務む、即ち後のものを忘れ、前のものに向ひて勵み、**14**標準を指して進み、神のキリスト

・イエスに由りて上に召したまふ召にかかはる褒美を得んとて之を追ひ求む。 15 されば我等のうち成人したる者は、みな斯くのごとき思を懐くべし、汝等もし何事にても異なる思を懐き居らば、神これをも示し給はん。 16 ただ我等はその至れる所に随ひて歩むべし。 17 兄弟よ、なんぢら諸共に我に效ふものとなれ、且なんぢらの模範となる我らに循ひて歩むものを視よ。 18 そは我しばしば汝らに告げ、今また涙を流して告ぐる如く、キリストの十字架に敵して歩む者おほければなり。 19 彼らの終は滅亡なり。おのが腹を神となし、己が恥を光榮となし、ただ地の事のみを念ふ。 20 されど我らの國籍は天に在り、我らは主イエス・キリストの救主として其の處より來りたまふを待つ。 21 彼は萬物を己に服はせ得る能力によりて、我らの卑しき状の體を化へて、己が榮光の體に象らせ給はん。

4 この故に我が愛するところ慕ふところの兄弟、われの喜悅われの冠冕たる愛する者よ、斯くのごとく主にありて堅く立て。 2 我ユウオデヤに勧めストケに勧む、主にありて心を同じうせんことを。 3 また眞實に我と軛を共にする者よ、なんぢに求む。この二人の女を助けよ。彼らはクレメンス其のほか生命の書に名を録されたる我が同勞者と同じく、福音のために我とともに勤めたり。 4 汝ら常に主にありて喜べ、我また言ふ、なんぢら喜べ。 5 凡ての人に汝らの寛容を知らしめよ、主は近し。 6 何事をも思ひ煩ふな、ただ事ごとに祈をなし、願をなし、感謝して汝らの求を神に告げよ。 7 さらば凡て人の思にすぐる神の平安は、汝らの心と思とをキリスト・イ

エスによりて守らん。 8 終に言はん、兄弟よ、凡そ眞なること、凡そ尊ぶべきこと、凡そ正しきこと、凡そ潔よきこと、凡そ愛すべきこと、凡そ令聞あること、如何なる徳いかなる譽にても、汝等これを念へ。 9 なんぢら我に學びしところ、受けしところ、聞きしところ、見し所を皆おこなへ、さらば平和の神なんぢらと偕に在さん。 10 汝らが我を思ふ心の今また萌したるを、われ主にありて甚く喜ぶ。汝らは固より我を思ひるたるなれど、機を得ざりしなり。 11 われ窮乏によりて之を言ふにあらず、我は如何なる状に居るとも、足ることを學びたればなり。 12 我は卑賤にをる道を知り、富にをる道を知る。また飽くことにも、飢うることにも、富むことにも、乏しき事にも、一切の秘訣を得たり。 13 我を強くし給ふ者によりて、凡ての事をなし得るなり。 14 されど汝らが我が患難に與りしは善き事なり。 15 ピリピ人よ、汝らも知る、わが汝らに福音を傳ふる始、マケドニヤを離れ去るとき、授受して我が事に與りしは、汝等のみにして、他の教會には無かりき。 16 汝らは我がテサロニケに居りし時に、一度ならず二度までも我が窮乏に物贈れり。 17 これ贈物を求むるにあらず、唯なんぢらの益となる實の繁からんことを求むるなり。 18 我には凡ての物そなはりて餘あり、既にエパフロデトより汝らの贈物を受けたれば、飽き足れり。これは馨しき香にして神の享け給ふところ、喜びたまふ所の供物なり。 19 かくてわが神は己の富に隨ひ、キリスト・イエスによりて汝らの凡ての窮乏を榮光のうちに補ひ給はん。 20 願はくは榮光世々限りなく、我らの父なる神にあれ、アマメン。

(aiōn g165) **21** 汝らキリスト・イエスに在りて聖徒おのおのに安否を問へ、我と偕にある兄弟たち汝らに安否を問ふ。**22** 凡ての聖徒、殊にカイザルの家のもの、汝らに安否を問ふ。**23** 願はくは主イエス・キリストの恩恵、なんぢらの靈と偕に在らんことを。

コロサイ人への手紙

1 神の御心によりてキリスト・イエスの使徒となれるパウロ及び兄弟テモテ、**2** 書をコロサイに居る聖徒、キリストにありて忠實なる兄弟に贈る。願はくは我らの父なる神より賜ふ恩恵と平安と汝らに在らんことを。**3** 我らは常に汝らの爲に祈りて、我らの主イエス・キリストの父なる神に感謝す。**4** これキリスト・イエスを信ずる汝らの信仰と、凡ての聖徒に對する汝らの愛とにつきて聞きたればなり。**5** かく聖徒を愛するは、汝らの爲に天に蓄へあるものを望むに因る。この望のことは汝らに及べる福音の眞の言によりて汝らが曾て聞きし所なり。**6** この福音は全世界にも及び、果を結びて増々大になれり。汝らが神の恩恵をききて眞に之を知りし日より、汝らの中に然りしが如し。**7** 汝らが、我らと共に僕たる愛するエパフラスより學びたるは、この福音なり。彼は汝らの爲にキリストの忠實なる役者にして、**8** 汝らが御靈によりて懐ける愛を我らに告げたり。**9** この故に我らこの事を聞きし日より、汝等のために絶えず祈りかつ求むるは、汝ら靈のもろもろの知慧と穎悟とをもて神の御意を具に知り、**10** 凡てのこと主を悦ばせんが爲に、その御意に従ひて歩み、凡ての善き業によりて果を結び、いよいよ神を知り、**11** また神の榮光の勢威に隨ひて賜ふもろもろの力によりて強くなり、凡ての事よろこびて忍び、かつ耐へ、**12** 而して我らを光にある聖徒の嗣業に與るに足る者とし給ひし父に感謝せん事なり。**13** 父は我らを暗黒の權威より救ひ出して、その愛しみ給ふ御子の國に遷したまへり。**14** 我らは御子に在りて贖罪すなは

ち罪の赦を得るなり。 **15** 彼は見得べからざる神の像にして、萬の造られし物の先に生れ給へる者なり。
16 萬の物は彼によりて造らる、天に在るもの、地に在るもの、見ゆるもの、見えぬもの、或は位、あるひは支配、あるひは政治、あるひは權威、みな彼によりて造られ、彼のために造られたればなり。 **17** 彼は萬の物より先にあり、萬の物は彼によりて保つことを得るなり。 **18** 而して彼はその體なる教會の首なり、彼は始にして死人の中より最先に生れ給ひし者なり。これ凡ての事に就きて長とならん爲なり。
19 神は凡ての満ち足れる徳を彼に宿して、 **20** その十字架の血によりて平和をなし、或は地にあるもの、或は天にあるもの、萬の物をして己と和がしむるを善しとし給ひたればなり。 **21** 汝等もとは悪しき業を行ひて神に遠ざかり、心にて其の敵となりしが、
22 今は神キリストの肉の體をもて、其の死により汝等をして己と和がしめ、潔く瑕なく責むべき所なくして、己の前に立たしめんし給ふなり。 **23** 汝等もし信仰に止り、之に基きて堅く立ち、福音の望より移らずば、斯くせらるることを得べし。此の福音は汝らの聞きし所、また天の下なる凡ての造られし物に宣傳へられたるものにして、我パウロはその役者となれり。 **24** われ今なんぢらの爲に受くる苦難を喜び、又キリストの體なる教會のために、我が身をもてキリストの患難の缺けたるを補ふ。 **25** われ神より汝等のために與へられたる職に隨ひて教會の役者となれり。 **26** これ神の言、すなはち歴世 歴代かくれて、今 神の聖徒に顯れたる奥義を宣傳へんとてなり。
(aiōn g165) **27** 神は聖徒をして異邦人の中なるこの奥

義の榮光の富の如何ばかりなるかを知らしめんと欲し給へり、此の奧義は汝らの中に在すキリストにして榮光の望なり。 28 我らは此のキリストを傳へ、知慧を盡して凡ての人を訓戒し、凡ての人を教ふ。これ凡ての人をしてキリストに在り、全くなりて神の前に立つことを得しめん爲なり。 29 われ之がために我が衷に能力をもて働き給ふものの活動にしたがひ、力を盡して勞するなり。

2 我なんぢら及びラオデキヤに居る人々、その他すべて我が肉體の顔をまだ見ぬ人のために、如何に苦心するかを汝らの知らんことを欲す。 2 かく苦心するは、彼らが心慰められ、愛をもて相列り、全き穎悟の凡ての富を得て、神の奧義なるキリストを知らん爲なり。 3 キリストには知慧と知識との凡ての寶藏れあり。 4 我これを言ふは、巧なる言をもて人の汝らを欺くこと勿らん爲なり。 5 われ肉體にては汝らと離れ居れど、靈にては汝らと偕に居りて喜び、また汝らの秩序あるとキリストに對する信仰の堅きとを見るなり。 6 汝らキリスト・イエスを主として受けたるにより、其のごとく彼に在りて歩め。 7 また彼に根ざしてその上に建てられ、かつ教へられし如く信仰を堅くし、溢るるばかり感謝せよ。 8 なんぢら心すべし、恐らくはキリストに従はずして人の言傳と世の小學とに従ひ、人を惑す虚しき哲學をもて汝らを奪ひ去る者あらん。 9 それ神の満ち足れる徳はことごとく形體をなしてキリストに宿れり。 10 汝らは彼に在りて満ち足れるなり。彼は凡ての政治と權威との首なり。 11 汝らまた彼に在りて手をもてせざる割禮を受けたり、即ち肉の體を脱ぎ去るもの

にして、キリストの割禮なり。12 汝らバプテスマを受けしとき、彼とともに葬られ、又かれを死人の中より甦へらせ給ひし神の活動を信ずるによりて、彼と共に甦へらせられたり。13 汝ら前には諸般の咎と肉の割禮なきとに因りて死にたる者なりしが、神は汝らを彼と共に生かし、我らの凡ての咎を赦し、14 かつ我らを責むる規の證書、すなはち我らに逆ふ證書を塗抹し、これを中間より取り去りて十字架につけ、15 政治と權威とを褫ぎて之を公然に示し、十字架によりて凱旋し給へり。16 然れば汝ら食物あるひは飲物につき、祭あるいは月朔あるいは安息 日の事につきて、誰にも審かるな。17 此等はみな來らんとする者の影にして、其の本體はキリストに屬けり。18 殊更に謙遜をよそほひ御使を拜する者に、汝らの褒美を奪はるな。かかる者は見し所のものに基き、肉の念に隨ひて徒らに誇り、19 首に屬くことをせざるなり。全體は、この首によりて節々 維々に助けられ、相 聯り、神の育にて生長するなり。20 汝等もしキリストと共に死にて此の世の小學を離れしならば、何ぞなほ世に生ける者のごとく人の誠命と教とに循ひて 21 『捫るな、味ふな、觸るな』と云ふ規の下に在るか。22 (此等はみな用ふれば盡くる物なり) 23 これらの誠命は、みづから定めたる禮拜と謙遜と身を惜まぬ事とによりて知慧あるごとく見ゆれど、實は肉 慾の放縱を防ぐ力なし。

3 汝等もしキリストと共に甦へらせられしならば、上にあるものを求めよ、キリスト彼處に在りて神の右に坐し給ふなり。2 汝ら上にあるものを念ひ、地に在るものを念ふな、3 汝らは死にたる者にして、

其の生命はキリストとともに神の中に隠れ在ればなり。 4 我らの生命なるキリストの現れ給ふとき、汝らも之とともに榮光のうちに現れん。 5 されば地にある肢體、すなはち淫行・汚穢・情慾・惡慾・また慳貪を殺せ、慳貪は偶像崇拜なり。 6 神の怒は、これらの事によりて不從順の子らに來るなり。 7 汝らもかかる人の中に日を送りし時は、これらの惡しき事に歩めり。 8 されど今は凡て此等のこと及び怒・憤恚・惡意を棄て、譏と恥づべき言とを汝らの口より棄てよ。 9 互に虚言をいふな、汝らは既に舊き人とその行爲とを脱ぎて、 10 新しき人を著たればなり。この新しき人は、これを造り給ひしものの像に循ひ、いよいよ新になりて知識に至るなり。 11 かくてギリシヤ人とユダヤ人、割禮と無割禮、あるひは夷狄、スクテヤ人・奴隸・自主の別ある事なし、それキリストは萬の物なり、萬のものの中にあり。 12 この故に汝らは神の選民にして聖なる者また愛せらるる者なれば、慈悲の心・仁慈・謙遜・柔和・寛容を著よ。 13 また互に忍びあひ、若し人に責むべき事あらば互に恕せ、主の汝らを恕し給へる如く汝らも然すべし。 14 凡て此等のものの上に愛を加へよ、愛は徳を全うする帶なり。 15 キリストの平和をして汝らの心を掌どらしめよ、汝らの召されて一體となりたるはこれが爲なり、汝ら感謝の心を懷け。 16 キリストの言をして豊に汝らの衷に住ましめ、凡ての知慧によりて、詩と讚美と靈の歌とをもて、互に教へ互に訓戒し、恩恵に感じて心のうちに神を讚美せよ。 17 また爲す所の凡ての事、あるひは言あるひは行爲、みな主イエスの名に頼りて爲し、彼によりて父

なる神に感謝せよ。18 妻たる者よ、その夫に服へ、これ主にある者のなすべき事なり。19 夫たる者よ、その妻を愛せよ、苦をもて之を待ふな。20 子たる者よ、凡ての事みな両親に順へ、これ主の喜びたまふ所なり。21 父たる者よ、汝らの子供を怒らすな、或は落膽することあらん。22 僕たる者よ、凡ての事みな肉につける主人にしたがへ、人を喜ばする者の如く、ただ眼の前の事のみを勤めず、主を畏れ、眞心をもて従へ。23 汝ら何事をなすにも人に事ふる如くせず、主に事ふる如く心より行へ。24 汝らは主より報として嗣業を受くることを知ればなり。汝らは主キリストに事ふる者なり。25 不義を行ふ者はその不義の報を受けん、主は偏り視 給ふことなし。

4 主人たる者よ、汝らも天に主あるを知れば、義と公平とをもて其の僕をあしらへ。2 汝ら感謝しつつ目を覺して祈を常にせよ。3 また我らの爲にも祈りて、神の我らに御言を傳ふる門をひらき、我等をしてキリストの奥義を語らしめ、4 之を我が語るべき如く顯させ給はんことを願へ、我はこの奥義のために繋がれたり。5 なんぢら機をうかがひ、外の人に對し知慧をもて行へ。6 汝らの言は常に恵を用ひ、鹽にて味つけよ。然らば如何にして各人に答ふべきかを知らん。7 愛する兄弟、忠實なる役者、主にありて我とともに僕たるテキコ、我がことを具に汝らに知らせん。8 われ殊に彼を汝らに遣すは、我らの事を知らしめ、又なんぢらの心を慰めしめん爲なり。9 汝らの中の一人、忠實なる愛する兄弟オネシモを彼と共につかはす、彼等この處の事を具に汝らに知らせん。10 我と共に囚人となれるアリスタルコ及

びバルナバの従弟なるマルコ、汝らに安否を問ふ。
此のマルコに就きては汝ら既に命を受けたり、彼も
し汝らに到らば之を接けよ。 **11** またユストと云へる
イエス汝らに安否を問ふ。割禮の者の中ただ此の三
人のみ、神の國のために働く我が同勞者にして我が
慰安となりたる者なり。 **12** 汝らの中の一人にてキリ
スト・イエスの僕なるエパフラス汝らに安否を問ふ
。彼は常に汝らの爲に力を盡して祈をなし、汝らが
全くなり、凡て神の御意を確信して立たんことを願
ふ。 **13** 我かれが汝らとラオデキヤ及びヒエラポリス
に在る者との爲に甚く心を勞することを證す。 **14** 愛
する醫者ルカ及びデマス汝らに安否を問ふ。 **15** 汝ら
ラオデキヤにある兄弟とヌンパ及びその家にある教
會とに安否を問へ。 **16** この書を汝らの中にて讀みた
らば、之をラオデキヤ人の教會にも讀ませ、汝等は
またラオデキヤより來る書を読め。 **17** アルキポに言
へ『主にありて受けし職を慎みて盡せ』と。 **18** 我パ
ウロ手づから安否を問ふ。わが縲綫を記憶せよ。願
はくは御惠なんぢらと偕に在らんことを。

テサロニケ人への手紙第一

1 パウロ、シルワノ、テモテ、書を父なる神および主イエス・キリストにあるテサロニケ人の教會に贈る。願はくは恩恵と平安と汝らに在らんことを。 **2** われら祈のときに汝らを憶えて、常に汝ら衆人のために神に感謝す。 **3** これ汝らが信仰のはたらき、愛の勞苦、主イエス・キリストに對する望の忍耐を、我らの父なる神の前に絶えず念ふに因りてなり。 **4** 神に愛せらるる兄弟よ、また汝らの選ばれたることを知るに因りてなり。 **5** それ我らの福音の汝らに至りしは、言にのみ由らず、能力と聖靈と大なる確信とに由れり。且われらが汝らの中にありて汝らの爲に如何なる行爲をなししかは、汝らの知る所なり。 **6** かくて汝らは大なる患難のうちにも、聖靈による喜悅をもて御言をうけ、我ら及び主に效ふ者となり、 **7** 而してマケドニヤ及びアカヤに在る凡ての信者の模範となれり。 **8** それは主のことば汝等より出でて、啻にマケドニヤ及びアカヤに響きしのみならず、神に對する汝らの信仰のことは諸方に弘りたるなり。されば之に就きては何をも語るに及ばず。 **9** 人々親しく我らが汝らの中に入りし状を告げ、また汝らが偶像を棄てて神に歸し、活ける眞の神に事へ、 **10** 神の死人の中より甦へらせ給ひし御子、すなはち我らを來らんとする怒より救ひ出すイエスの、天より降りたまふを待ち望むことを告ぐればなり。

2 兄弟よ、我らの汝らに到りしことの空しからざりしは、汝ら自ら知る。 **2** 前に我らは汝らの知ることく、ピリピにて苦難と侮辱とを受けたれど、我らの神に頼りて大なる紛争のうちに、憚らず神の福音を

汝らに語り。 **3** 我らの勸は、迷より出でず、汚穢より出でず、詭計を用ひず、 **4** 神に嘉せられて福音を委ねられたる者なれば、人を喜ばせんとせず、我らの心を鑿たまふ神を喜ばせ奉つらんとして語るなり。 **5** 我らは汝らの知るごとく何時にても諂諛の言を用ひず、事によせて慳貪をなさず（神これを證し給ふ） **6** キリストの使徒として重んぜらるべき者なれども、汝らにも他の者にも人よりは譽を求めず、 **7** 汝らの中にありて優しきこと、母の己が子を育てやしなふ如くなりき。 **8** かく我らは汝らを戀ひ慕ひ、なんぢらは我らの愛する者となりたれば、啻に神の福音のみならず、我らの生命をも與へんと願へり。 **9** 兄弟よ、なんぢらは我らの勞と苦難とを記憶す、われらは汝らの中の一人をも累はすまじとて、夜晝工をなし、勞しつつ福音を宣傳へたり。 **10** また信じる汝等にむかひて、如何に潔く正しく責むべき所なく行ひしかは、汝らも證し神も證し給ふなり。 **11** 我らは知る、我らが父のその子に對するごとく各人に對し、 **12** 御國と榮光とに招きたまふ神の心に適ひて歩むべきことを勧め、また勵まし、また諭したるを。 **13** かくてなほ我ら神に感謝して已まざるは、汝らが神の言を我らより聞きし時、これを人の言とせず、神の言として受けし事なり。これは誠に神の言にして、汝ら信ざる者のうちに働くなり。 **14** 兄弟よ、汝らはユダヤに於けるキリスト・イエスにある神の教會に效ふ者となれり、彼らのユダヤ人に苦しめられたる如く、汝らも己が國人に苦しめられたるなり。 **15** ユダヤ人は主イエスをも預言者をも殺し、我らを追ひ出し、 **16** 我らが異邦人に語りて救を得させん

とするを拒み、神を悦ばせず、かつ萬民に逆ひ、かくして常に己が罪を充すなり。而して神の怒はかれらに臨みてその極に至れり。 **17** 兄弟よ、われら心は離れねど、顔にて暫時なんぢらと離れ居れば、汝らの顔を見んことを愈々切に願ひて、 **18** (我パウロは一度ならず再度までも) なんぢらに到らんと爲たれど、サタンに妨げられたり。 **19** 我らの主イエスの來り給ふとき、御前における我らの希望、また喜悅、また誇の冠冕は誰ぞ、汝らならずや。 **20** 實に汝らは我らの光榮、我らの喜悅なり。

3 この故に、もはや忍ぶこと能はず、我等のみアテネに留ることに決し、 **2** キリストの福音において神の役者たる我らの兄弟テモテを汝らに遣せり。これは汝らを堅うし、また信仰につきて勧め、 **3** この患難によりて動かさるる者の無からん爲なり。患難に遭ふことの我らに定りたるは、汝等みづから知る所なり。 **4** 我らが患難に遭ふべきことは、汝らと偕に在りしとき預じめ告げたるが、今果して汝らの知のごとく然か成れり。 **5** この故に最早われ忍ぶこと能はず、試むる者の汝らを試みて、我らの勞の空しくならんことを恐れ、なんぢらの信仰を知らんとて人を遣せり。 **6** 然るに今テモテ汝らより歸りて、汝らの信仰と愛とにつきて喜ばしき音信を聞かせ、又なんぢら常に我らを懇ろに念ひ、我らに逢はんことを切に望み居るは、我らが汝らに逢はんことを望むに等しと告げたるによりて、 **7** 兄弟よ、われらは諸般の苦難と患難との中にも、汝らの信仰によりて慰安を得たり。 **8** 汝等もし主に在りて堅く立たば我らは生くるなり。 **9** 汝等につきて我らの神の前によるこ

ぶ大なる喜悅のために、如何なる感謝をか神に献ぐべき。10我らは夜晝祈りて、汝らの顔を見んことと、汝らの信仰の足らぬ所を補はんこととを切に願ふ。11願はくは我らの父なる神みづからと我らの主なるイエスと、我らを導きて汝らに到らせ給はんことを。12願はくは主、なんぢら相互の愛および凡ての人に對する愛を増し、かつ豊にして、我らが汝らを愛する如くならしめ、13かくして汝らの心を堅うし、我らの主イエスの、凡ての聖徒と偕に來りたまふ時、われらの父なる神の前に潔くして責むべき所なからしめ給はんことを。

4されば兄弟よ、終に我ら主イエスによりて汝らに求め、かつ勸む。なんぢら如何に歩みて神を悦ばすべきかを我等より學びし如く、また歩みをする如くに増々進まんことを。2我らが主イエスに頼りて如何なる命令を與へしかは、汝らの知る所なり。3それ神の御旨は、なんぢらの潔からんことにして、即ち淫行をつつしみ、4各人おのが妻を得て、潔くかつ貴くし、5神を知らぬ異邦人のごとく情慾を放縱にすまじきを知り、6かかる事によりて兄弟を欺き、また掠めざらんことなり。凡て此等のことを行ふ者に主の報し給ふは、わが既に汝らに告げ、かつ證せしごとし。7神の我らを招き給ひしは、汚穢を行はしめん爲にあらず、潔からしめん爲なり。8この故に之を拒む者は人を拒むにあらず、汝らに聖靈を與へたまふ神を拒むなり。9兄弟の愛につきては汝らに書きおくるに及ばず。汝らは互に相愛する事を親しく神に教へられ、10また既にマケドニヤ全國に在るすべての兄弟を愛するに困りてなり。されど兄弟

よ、なんぢらに勸む。ますます之を行ひ、**11** 我らが前に命ぜしことく力めて安靜にし、己の業をなし、手づから働け。**12** これ外の人に對して正しく行ひ、また自ら乏しきことなからん爲なり。**13** 兄弟よ、既に眠れる者のことに就きては、汝らの知らざるを好まず、希望なき他の人のごとく歎かざらん爲なり。**14** 我らの信ずる如く、イエスもし死にて甦へり給ひしならば、神はイエスによりて眠に就きたる者を、イエスと共に連れきたり給ふべきなり。**15** われら主の言をもて汝らに言はん、我等のうち主の來りたまふ時に至るまで生きて存れる者は、既に眠れる者に決して先だたじ。**16** それ主は、號令と御使の長の聲と神のラッパと共に、みづから天より降り給はん。その時キリストにある死人まづ甦へり、**17** 後に生きて存れる我らは、彼らと共に雲のうちに取り去られ、空中にて主を迎へ、斯くていつまでも主と偕に居るべし。**18** されば此等の言をもて互に相慰めよ。

5 兄弟よ、時と期とに就きては汝らに書きおくるに及ばず。**2** 汝らは主の日の盜人の夜きたるが如くに來ることを、自ら詳細に知ればなり。**3** 人々の平和無事なりと言ふほどに、滅亡にはかに彼らの上に来らん、妊める婦に産の苦痛の臨むがごとし、必ず遁るることを得じ。**4** されど兄弟よ、汝らは暗に居らざれば、盜人の來るごとく其の日なんぢらに追及くことなし。**5** それ汝等はみな光の子ども晝の子供なり。我らは夜に屬く者にあらず、暗に屬く者にあらず。**6** されば他の人のごとく眠るべからず、目を覺して慎むべし。**7** 眠る者は夜眠り、酒に酔ふ者は夜酔ふなり。**8** されど我らは晝に屬く者なれば、信仰

と愛との胸當を著け、救の望の兜をかむりて慎むべし。 **9** それ神は我らを怒に遣はせんとにあらず、主イエス・キリストに頼りて救を得させんと定め給へるなり。 **10** 主の我等のために死に給へるは、我等をして寤めをるとも眠りをるとも己と共に生くることを得しめん爲なり。 **11** 此の故に互に勧めて各自の徳を建つべし、これ汝らが常に爲す所なり。 **12** 兄弟よ、汝らに求む。なんぢらの中に勞し、主にありて汝らを治め、汝らを訓戒する者を重んじ、 **13** その勤勞によりて厚く之を愛し敬へ。また互に相和ぐべし。 **14** 兄弟よ、汝らに勧む、妄なる者を訓戒し、落膽せし者を勵まし、弱き者を扶け、凡ての人に對して寛容なれ。 **15** 誰も人に對し惡をもて惡に報いぬやう慎め。ただ相互に、また凡ての人に對して常に善を追ひ求めよ。 **16** 常に喜べ、 **17** 絶えず祈れ、 **18** 凡てのことを感謝せよ、これキリスト・イエスに由りて神の汝らに求め給ふ所なり。 **19** 御靈を熄すな、 **20** 預言を蔑すな、 **21** 凡てのこと試みて善きものを守り、 **22** 凡て惡の類に遠ざかれ。 **23** 願はくは平和の神、みづから汝らを全く潔くし、汝らの靈と心と體とを全く守りて、我らの主イエス・キリストの來り給ふとき責むべき所なからしめ給はん事を。 **24** 汝らを召したまふ者は眞實なれば、之を成し給ふべし。 **25** 兄弟よ、我らのために祈れ。 **26** きよき接吻をもて凡ての兄弟の安否を問へ。 **27** 主によりて汝らに命ず、この書を凡ての兄弟に讀み聞かせよ。 **28** 願はくは主イエス・キリストの恩惠、なんぢらと偕に在らんことを。

テサロニケ人への手紙第二

1 パウロ、シルワノ、テモテ、書を我らの父なる神および主イエス・キリストに在るテサロニケ人の教會に贈る。**2** 願はくは父なる神および主イエス・キリストより賜ふ恩恵と平安と汝らに在らんことを。**3** 兄弟よ、われら汝等につきて常に神に感謝せざるを得ず、これ當然の事なり。そは汝らの信仰おほいに加はり、各自みな互の愛を厚くしたればなり。**4** されば我らは、汝らが忍べる凡ての迫害と患難との中にありて保ちたる忍耐と信仰とを、神の諸教會の間に誇る。**5** これ神の正しき審判の兆にして、汝らが神の國に相應しき者とならん爲なり。今その御國のために苦難を受く。**6** 汝らに患難を加ふる者に患難をもて報い、患難を受くる汝らに、我らと共に安息をもて報い給ふは、神の正しき事なり。**7** 即ち主イエス焔の中にその能力の御使たちと共に天より顯れ、**8** 神を知らぬ者と我らの主イエスの福音に服はぬ者にとに報いをなし給ふとき、**9** かかる者どもは主の顔とその能力の榮光とを離れて、限りなき滅亡の刑罰を受くべし。(aiōnios g166) **10** その時は主おのが聖徒によりて崇められ、凡ての信ざる者(なんぢらも我らの證を信じたる者なり)によりて讃められんとて來りたまふ日なり。**11** これに就きて我ら常に汝らのために祈るは、我らの神の汝等をして召に適ふ者となし、能力をもて汝らの凡て善に就ける願と信仰の業とを成就せしめ給はんことなり。**12** これ我らの神および主イエス・キリストの恵によりて、我らの主イエスの御名の汝らの中に崇められ、又なんぢらも彼に在りて崇められん爲なり。

2 兄弟よ、我らの主イエス・キリストの來り給ふこと、又われらが主の許に集ふことに就きては、汝らに求む。**2** 或は靈により、或は言により、或は我等より出でし如き書により、主の日すでに來れりとて、容易く心を動かしかつ驚かざらん事を。**3** 誰が如何にすとも、それに欺かるな。その日の前に背教の事あり、不法の人すなはち滅亡の子あらはれざるを得ず、**4** 彼はすべて神と稱ふる者および人の拜む者に逆ひ、此等よりも己を高くし、遂に神の聖所に坐し己を神として見する者なり。**5** われ汝らと偕に在りし時、これらの事を告げしを汝ら憶えぬか。**6** 彼をして己が時に至りて顯れしめんために、彼を阻めをる者を汝らは知る。**7** 不法の秘密は既に働けり、然れど此はただ阻めをる者の除かるるまでなり。**8** かくて其のとき不法の者あらはれん、而して主イエス御口の氣息をもて彼を殺し、降臨の輝耀をもて彼を亡し給はん。**9** 彼はサタンの活動に従ひて來り、もろもろの虚偽なる力と徴と不思議と、**10** 不義のもろもろの誑惑とを行ひて、亡ぶる者どもに向はん、彼らは眞理を愛する愛を受けずして、救はるることを爲ざればなり。**11** この故に神は、彼らが虚偽を信ぜんために惑をその中に働かせ給ふ。**12** これ眞理を信ぜず不義を喜ぶ者の、みな審かれん爲なり。**13** されど主に愛せらるる兄弟よ、われら常に汝等のために神に感謝せざるを得ず。神は御靈によれる潔と眞理に對する信仰とをもて、始より汝らを救に選び、**14** また我らの主イエス・キリストの榮光を得させんとて、我らの福音をもて汝らを招き給へばなり。**15** されば兄弟よ、堅く立ちて我らの言あるひは書に由

りて教へられたる傳を守れ。 **16** 我らの主イエス・キリスト、及び我らを愛し恩恵をもて永遠の慰安と善き望とを與へ給ふ我らの父なる神、(aiōnios g166) **17** 願はくは汝らの心を慰めて、凡ての善き業と言とに堅うし給はんことを。

3 終に言はん、兄弟よ、我らの爲に祈れ、主の言の汝らの中における如く、疾く弘りて崇められん事と、 **2** われらが無法なる悪人より救はれんこととを祈れ。そは人みな信仰あるに非ざればなり。 **3** されど神は眞實なれば、汝らを堅うし汝らを護りて、惡しき者より救ひ給はん。 **4** かくて我らの命ずることを汝らが今も行ひ、後もまた行はんことを主によりて信ずるなり。 **5** 願はくは主なんぢらの心を、神の愛とキリストの忍耐とに導き給はんことを。 **6** 兄弟よ、我らの主イエス・キリストの名によりて汝らに命ず、我等より受けし傳に従はずして妄に歩む凡ての兄弟に遠ざかれ。 **7** 如何にして我らに效ふべきかは、汝らの自ら知る所なり。我らは汝らの中にありて妄なる事をせず、 **8** 價なしに人のパンを食せず、反つて汝等のうち一人をも累はさざらんために勞と苦難とをもて、夜晝はたらけり。 **9** これは權利なき故にあらず、汝等をして我らに效はしめん爲に、自ら模範となりたるなり。 **10** また汝らと偕に在りしとき、人もし働くことを欲せずば食すべからずと命じたりき。 **11** 聞く所によれば、汝等のうちに妄に歩みて何の業をもなさず、徒事にたづきはる者ありと。 **12** 我ら斯くのごとき人に、靜に業をなして己のパンを食せんことを、我らの主イエス・キリストに由りて命じかつ勸む。 **13** 兄弟よ、なんぢら善を行ひて倦む

な。 **14** もし此の書にいへる我らの言に従はぬ者あらば、その人を認めて交ることをすな、彼みづから恥ぢんためなり。 **15** 然れど彼を仇の如くせず、兄弟として訓戒せよ。 **16** 願はくは平和の主、みづから何時にても凡ての事に平和を汝らに與へ給はんことを。 願はくは主なんぢら凡ての者と偕に在さん事を。 **17** 我パウロ手づから筆を執りて汝らの安否を問ふ。これ我がすべての書の記章なり。わが書けるものは斯くの如し。 **18** 願はくは我らの主イエス・キリストの恩恵なんぢら凡ての者と偕ならんことを。

テモテへの手紙第一

1 我らの救主なる神と我らの希望なるキリスト・イエスの命によりて、キリスト・イエスの使徒となるパウロ、**2** 書を信仰に由りて我が眞實の子たるテモテに贈る。願はくは父なる神および我らの主キリスト・イエスより賜ふ恩恵と憐憫と平安と、汝に在らんことを。**3** 我マケドニヤに往きしとき汝に勧めし如く、汝なほエペソに留まり、ある人々に命じて、異なる教を傳ふことなく、**4** 昔話と窮りなき系圖とに心を寄する事なからしめよ。此等のことは信仰に基ける神の經綸の助とならず、反つて議論を生ずるなり。**5** 命令の目的は清き心と善き良心と偽りなき信仰とより出づる愛にあり。**6** ある人々これらの事より外れて虚しき物語にうつり、**7** 律法の教師たらんと欲して、反つて其の言ふ所その確證する所を自ら悟らず。**8** 律法は道理に循ひて之を用ひば善き者なるを我らは知る。**9** 律法を用ふる者は、律法の正しき人の爲にあらずして、不法のもの、服従せぬもの、敬虔ならぬもの、罪あるもの、潔からぬもの、妄なるもの、父を撃つもの、母を撃つもの、人を殺す者、**10** 淫行のもの、男色を行ふもの、人を誘拐すもの、偽るもの、いつはり誓ふ者の爲、そのほか健全なる教に逆ふ凡ての事のために設けられたるを知るべし。**11** これは我に委ね給ひし幸福なる神の榮光の福音に循へるなり。**12** 我に能力を賜ふ我らの主キリスト・イエスに感謝す。**13** われ曩には洗す者、迫害する者、暴行の者なりしに、我を忠實なる者として、この職に任じ給ひたればなり。われ信ぜぬ時に知らずして行ひし故に憐憫を蒙れり。**14** 而し

て我らの主の恩恵は、キリスト・イエスに由れる信仰および愛とともに溢るるばかり彌増せり。 15 『キリスト・イエス罪人を救はん爲に世に來り給へり』とは、信ずべく正しく受くべき言なり、其の罪人の中にて我は首なり。 16 然るに我が憐憫を蒙りしは、キリスト・イエス我を首に寛容をことごとく顯し、この後、かれを信じて永遠の生命を受けんとする者の模範となし給はん爲なり。(aiōnios g166) 17 願はくは萬世の王、すなはち朽ちず見えざる唯一の神に、世々限りなく尊貴と榮光とあらん事を、アアメン。(aiōn g165) 18 わが子テモテよ、汝を指したる凡ての預言に循ひて、我この命令を汝に委ぬ。これ汝がその預言により、信仰と善き良心とを保ちて、善き戦闘を戦はん爲なり。 19 或人よき良心を棄てて信仰の破船をなせり。 20 その中にヒメナオとアレキサンデルとあり、彼らに洗すまじきことを學ばせんとて、我これをサタンに付せり。

2 さればわれ第一に勸む、凡ての人のため、王たち及び凡て權を有つものの爲に、おのおの願・祈祷・とりなし・感謝せよ。 2 是われら敬虔と謹嚴とを盡して、安らかに靜に一生を過さん爲なり。 3 斯くするは美事にして、我らの救主なる神の御意に適ふことなり。 4 神は凡ての人の救はれて、眞理を悟るに至らんことを欲し給ふ。 5 それ神は唯一なり、また神と人との間の中保も唯一にして、人なるキリスト・イエス是なり。 6 彼は己を與へて凡ての人の贖價となり給へり、時至りて證せらる。 7 我これが爲に立てられて宣傳者となり、使徒となり(我は眞を言ひて虚偽を言はず)また信仰と眞とをもて異邦人を

教ふる教師となれり。 8 これ故にわれ望む、男は怒らず争はず、何れの處にても潔き手をあげて祈らんことを。 9 また女は恥を知り、慎みて宜しきに合ふ衣にて己を飾り、編みたる頭髮と金と眞珠と價 貴き衣とを飾とせず、 10 善き業をもて飾とせんことを。これ神を敬はんと公言する女に適へる事なり。 11 女は凡てのこと従順にして靜に道を學ぶべし。 12 われ女の教ふることと男の上に權を執ることとを許さず、ただ靜にすべし。 13 それアダムは前に造られ、エバは後に造られたり。 14 アダムは惑されず、女は惑されて罪に陥りたるなり。 15 然れど女もし慎みて信仰と愛と潔とに居らば、子を生むことに因りて救はるべし。

3 『人もし監督の職を慕はば、これよき業を願ふなり』とは、信すべき言なり。 2 それ監督は責むべき所なく、一人の妻の夫にして、自ら制し、慎み、品行正しく、旅人を懇ろに待し、能く教へ、 3 酒を嗜まず、人を打たず、寛容にし、争はず、金を貪らず、 4 善く己が家を理め、謹嚴にして子女を従順ならしむる者たるべし。 5 (人もし己が家を理むることを知らずば、争でが神の教會を扱ふことを得ん) 6 また新に教に入りし者ならざるべし、恐らくは傲慢になりて悪魔と同じ審判を受くるに至らん。 7 外の人にも令聞ある者たるべし、然らずば誹謗と悪魔の網とに陥らん。 8 執事もまた同じく謹嚴にして、言を二つにせず、大酒せず、恥づべき利をとらず、 9 潔き良心をもて信仰の奥義を保つものたるべし。 10 まづ彼らを試みて責むべき所なくば、執事の職に任ずべし。 11 女もまた謹嚴にして人を謗らず、自ら制

して凡ての事に忠實なる者たるべし。12 執事は一人の妻の夫にして、子女と己が家とを善く理むる者たるべし。13 善く執事の職をなす者は良き地位を得、かつキリスト・イエスに於ける信仰につきて大なる勇氣を得るなり。14 われ速かに汝に往かんことを望めど、今これらの事を書きおくるは、15 若し遅からんとき、人の如何に神の家に行ふべきかを汝に知らしめん爲なり。神の家は活ける神の教會なり、眞理の柱、眞理の基なり。16 實に大なるかな、敬虔の奥義『キリストは肉にて顯され、靈にて義とせられ、御使たちに見られ、もろもろの國人に宣傳へられ、世に信ぜられ、榮光のうちに上げられ給へり』

4 されど御靈あきらかに、或人の後の日に及びて、惑す靈と惡鬼の教とに心を寄せて、信仰より離れんことを言ひ給ふ。2 此れ虚偽をいふ者の偽善に由りてなり。彼らは良心を燒金にて烙かれ、3 婚姻するを禁じ、食を斷つことを命ず。されど食は神の造り給へる物にして、信じかつ眞理を知る者の感謝して受くべきものなり。4 神の造り給へる物はみな善し、感謝して受くる時は棄つべき物なし。5 そは神の言と祈とによりて潔めらるるなり。6 汝もし此等のことを兄弟に教へば、信仰と汝の従ひたる善き教との言にて養はるる所のキリスト・イエスの良き役者たるべし。7 されど妄なる談と老いたる女の昔話とを捨てよ、また自ら敬虔を修行せよ。8 體の修行もいささかは益あれど、敬虔は今の生命と後の生命との約束を保ちて凡ての事に益あり。9 此れ信ずべく正しく受くべき言なり。10 我らは之がために勞しかつ苦心す、そは我ら凡ての人、殊に信ずる者の救主

なる活ける神に望を置けばなり。 **11** 汝これらの事を命じかつ教へよ。 **12** なんぢ年若きをもて人に輕んぜらるな、反つて言にも、行状にも、愛にも、信仰にも、潔にも、信者の模範となれ。 **13** わが到るまで、讀むこと勸むること教ふる事に心を用ひよ。 **14** なんぢ長老たちの按手を受け、預言によりて賜はりたる賜物を等閑にすな。 **15** なんぢ心を傾けて此等のことを専ら務めよ。汝の進歩の明かならん爲なり。 **16** なんぢ己とおのれの教とを慎みて此等のことに怠るな、斯くにして己と聽く者とを救ふべし。

5 老人を譴責すな、反つて之を父のごとく勧め、若き人を兄弟の如くに、 **2** 老いたる女を母の如くに勧め、若き女を姉妹の如くに全き貞潔をもて勧めよ。 **3** 寡婦のうちの眞の寡婦を敬へ。 **4** されど寡婦に子もしくは孫あらば、彼ら先づ己の家に孝を行ひて親に恩を報ゆることを學ぶべし。これ神の御意にかなふ事なり。 **5** 眞の寡婦にして獨残りたる者は、望を神におきて、夜も晝も絶えず願と祈とを爲す。 **6** されど佚樂を放恣にする寡婦は、生けりと雖も死にたる者なり。 **7** これらの事を命じて彼らに責むべき所なからしめよ。 **8** 人もし其の親族、殊に己が家族を顧みずば、信仰を棄てたる者にて、不信者よりも更に惡しきなり。 **9** 六十歳以下の寡婦は寡婦の籍に記すべからず、記すべきは一人の夫の妻たりし者にして、 **10** 善き業の聲聞あり、或は子女をそだて、或は旅人を宿し、或は聖徒の足を洗ひ、或は惱める者を助くる等、もろもろの善き業に従ひし者たるべし。 **11** 若き寡婦は籍に記すな、彼らキリストに背きて心亂る時は、嫁ぐことを欲し、 **12** 初の誓約を棄つるに

困りて批難を受くべければなり。 13 彼等はまた懶惰に流れて家々を遊びめぐり、畜に懶惰なるのみならず、言多くして徒事にたづさはり、言ふまじき事を言ふ。 14 されば若き寡婦は嫁ぎて子を生子、家を理めて敵に少しにても謗るべき機を與へざらんことを我は欲す。 15 彼らの中には既に迷ひてサタンに従ひたる者あり。 16 信者たる女もし其の家に寡婦あらば、自ら之を助けて教會を煩はすな。これ眞の寡婦を教會の助けん爲なり。 17 善く治むる長老、殊に言と教とをもて勞する長老を一層 尊ぶべき者とせよ。 18 聖書に『穀物を碾す牛に口籠を繋ぐべからず』また『労働人のその價を得るは相應しきなり』と云へばなり。 19 長老に對する訴訟は二三人の證人なくば受くべからず。 20 罪を犯せる者をば衆の前にて責めよ、これ他の人をも懼れしめんためなり。 21 われ神とキリスト・イエスと選ばれたる御使たちとの前にて嚴かに汝に命ず、何事をも偏り行はず、偏頗なく此等のことを守れ、 22 輕々しく人に手を按くな、人の罪に與るな、自ら守りて潔くせよ。 23 今よりのち水のみを飲まず、胃のため、又しばしば病に罹る故に、少しく葡萄酒を用ひよ。 24 或人の罪は明かにして先だちて審判に往き、或人の罪は後にしたがふ。 25 斯くのごとく善き業も明かなり、然らざる者も遂には隠ること能はず。

6 おほよそ軛の下にありて奴隸たる者は、おのれの主人を全く尊ぶべき者とすべし。これ神の名と教との譏られざらん爲なり。 2 信者たる主人を有てる者は、その兄弟なるに困りて之を輕んぜず、反つて彌増々これに事ふべし。その益を受くる主人は信者に

して愛せらるる者なればなり。汝これらの事を教へかつ勧めよ。 3 もし異なる教を傳へて、健全なる言すなはち我らの主イエス・キリストの言と、敬虔にかなふ教とを肯はぬ者あらば、 4 その人は傲慢にして何をも知らず、ただ議論と言争とにのみ耽るなり、之によりて嫉妬・争闘・悪しき念おこり、 5 また心腐りて眞理をはなれ、敬虔を利益の道とおもふ者の争論おこるなり。 6 されど足ることを知りて敬虔を守る者は、大なる利益を得るなり。 7 我らは何をも携へて世に來らず、また何をも携へて世を去ること能はざればなり。 8 ただ衣食あらば足れりとせん。 9 されど富まんと欲する者は、誘惑と羈、また人を滅亡と沈淪とに溺らす愚にして害ある各様の慾に陥るなり。 10 それ金を愛するは諸般の悪しき事の根なり、ある人々これを慕ひて信仰より迷ひ、さまざまの痛をもて自ら己を刺しとほせり。 11 神の人よ、なんぢは此等のことを避けて、義と敬虔と信仰と愛と忍耐と柔和とを追ひ求め、 12 信仰の善き戦闘をたたかへ、永遠の生命をとらへよ。汝これが爲に召を蒙り、また多くの證人の前にて善き言明をなせり。

(aiōnios g166) 13 われ凡ての物を生かしたまふ神のまへ、及びポンテオ・ピラトに向ひて善き言明をなし給ひしキリスト・イエスの前にて汝に命ず。 14 汝われらの主イエス・キリストの現れたまふ時まで汚點なく責むべき所なく、誠命を守れ。 15 時いたらば幸福なる唯一の君主、もろもろの王の王、もろもろの主の主、これを顯し給はん。 16 主は唯ひとり不死を保ち近づきがたき光に住み、人の未だ見ず、また見ること能はぬ者なり。願はくは尊貴と限りなき權力

と彼にあらんことを、アアメン。(aiōnios g166) 17 汝この世の富める者に命ぜよ。高ぶりたる思をもたず、定なき富をたのまずして、唯われらを樂しませんとて萬の物を豊に賜ふ神に依頼み、(aiōn g165) 18 善をおこなひ、善き業に富み、惜みなく施し、分け與ふることを喜び、 19 かくて己のために善き基を蓄へ、未來の備をなして眞の生命を捉ふることを爲よと。 20 テモテよ、なんぢ委ねられたる事を守り、妄なる虚しき物語、また偽りて知識と稱ふる反對論を避けよ。 21 ある人々この知識を装ひて信仰より外れたり。願はくは御惠なんじと偕に在らんことを。

テモテへの手紙第二

1 神の御意により、キリスト・イエスにある生命の約束に循ひて、キリスト・イエスの使徒になれるパウロ、**2** 書を我が愛する子テモテに贈る。願はくは父なる神および我らの主キリスト・イエスより賜ふ、恩恵と憐憫と平安と汝に在らんことを。**3** われ夜も晝も祈の中に絶えず汝を思ひて、わが先祖に效ひ清き良心をもて事ふる神に感謝す。**4** 我なんぢの涙を憶え、わが歡喜の満ちん爲に汝を見んことを欲す。**5** 是なんぢに在る虚偽なき信仰をおもひ出すに因りてなり。その信仰の曩に汝の祖母ロイス及び母ユニケに宿りしごとく、汝にも然るを確信す。**6** この故に、わが按手に因りて汝の内に得たる神の賜物をますます熾にせんことを勧む。**7** そは神の我らに賜ひたるは、臆する靈にあらず、能力と愛と謹慎との靈なればなり。**8** されば汝われらの主の證をなす事と、主の囚人たる我とを恥とすな、ただ神の能力に隨ひて福音のために我とともに苦難を忍べ。**9** 神は我らを救ひ聖なる召をもて召し給へり。是われらの行爲に由るにあらず、神の御旨にて創世の前にキリスト・イエスをもて我らに賜ひし恩恵に由るなり。

(aiōnios g166) **10** この恩恵は今われらの救主キリスト・イエスの現れ給ふに因りて顯れたり。彼は死をほろぼし、福音をもて生命と朽ちざる事とを明かにし給へり。**11** 我はこの福音のために立てられて宣傳者・使徒・教師となれり。**12** 之がために我これらの苦難に遭ふ。されど之を恥とせず、我わが依頼む者を知り、且わが委ねたる者を、かの日に至るまで守り得給ふことを確信すればなり。**13** 汝キリスト・イエス

にある信仰と愛とをもて我より聴きし健全なる言の模範を保ち、**14** かつ委ねられたる善きものを我等のうちに宿りたまふ聖靈に頼りて守るべし。**15** ア ज्याに居る者みな我を棄てしは汝の知る所なり、その中にフゲロとヘルモゲネとあり。**16** 願はくは主オネシポロの家に憐憫を賜はんことを。彼はしばしば我を慰め、又わが鎖を恥とせず。**17** そのロマに居りし時には懇ろに尋ね來りて、遂に逢ひたり。**18** 願はくは主かの日にいたり主の憐憫を彼に賜はんことを、彼がエペソにて我に事へしことの如何ばかりなりしかは、汝の能く知るところなり。

2 わが子よ、汝キリスト・イエスにある恩恵によりて強かれ。**2** 且おほくの證人の前にて、我より聴きし所のことを他の者に教へ得る忠實なる人々に委ねよ。**3** 汝キリスト・イエスのよき兵卒として我とともに苦難を忍べ。**4** 兵卒を務むる者は生活のために纏はるる事なし、これ募れる者を喜ばせんとすればなり。**5** 技を競ふ者、もし法に随ひて競はずば冠冕を得ず。**6** 勞する農夫まづ實の分配を得べきなり。**7** 汝わが言ふ所をおもへ、主なんぢに凡ての事に就きて悟を賜はん。**8** わが福音に云へる如く、ダビデの裔にして死人の中より甦へり給へるイエス・キリストを憶えよ。**9** 我はこの福音のために苦難を受けて惡人のごとく繋がるるに至れり、されど神の言は繋がれたるにあらず。**10** この故に我えらばれたる者のために凡ての事を忍ぶ。これ彼等をして永遠の光榮と共にキリスト・イエスによる救を得しめんとてなり。(aiōnios g166) **11** ここに信ずべき言あり『我等もし彼と共に死にたる者ならば、彼と共に生くべし。**12**

もし耐へ忍ばば、彼と共に王となるべし。若し彼を
否まば、彼も我らを否み給はん。 13 我らは眞實なら
ずとも、彼は絶えず眞實にましませり、彼は己を否
み給ふこと能はざればなり』 14 汝かれらに此等の
ことを思ひ出さしめ、かつ言争する事なきやう神の
前にて嚴かに命ぜよ、言争は益なくして聞く者を滅
亡に至らしむ。 15 なんぢ眞理の言を正しく教へ、恥
づる所なき労働人となりて、神の前に鍊達せる者とな
らんことを勵め。 16 また妄なる虚しき物語を避け
よ。かかる者はますます不敬虔に進み、 17 その言
は脱疽のごとく腐れひろがるべし、ヒメナオとピレ
トとは斯くのごとき者の中にあり。 18 彼らは眞理よ
り外れ、復活ははや過ぎたりと云ひて、或人々の信
仰を覆へすなり。 19 されど神の据ゑ給へる堅き基は
立てり、之に印あり、記して曰ふ『主おのれの者を
知り給ふ』また『凡て主の名を稱ふる者は不義を離
るべし』と。 20 大なる家の中には金銀の器あるの
みならず、木また土の器もあり、貴きに用ふるもの
あり、また賤しきに用ふるものあり。 21 人もし賤し
きものを離れて自己を潔よくせば貴きに用ひらるる
器となり、淨められて主の用に適ひ、凡ての善き業
に備へらるべし。 22 汝わかき時の慾を避け、主を清
き心にて呼び求むる者とともに、義と信仰と愛と平
和とを追ひ求めよ。 23 愚なる無學の議論を棄てよ、
これより分争の起るを知ればなり。 24 主の僕は争ふ
べからず、凡ての人に優しく能く教へ忍ぶことをな
し、 25 逆ふ者をば柔和をもて戒むべし、神あるひは
彼らに悔改むる心を賜ひて眞理を悟らせ給はん。 26

彼ら一度は悪魔に囚はれたれど、醒めてその罠をのがれ、神の御心を行ふに至らん。

3されど汝これを知れ、末の世に苦しき時きたらん。
2人々おのれを愛する者・金を愛する者・誇るもの・高ぶる者・罵るもの・父母に逆ふもの・恩を忘るる者・潔からぬ者、**3**無情なる者・怨を解かぬ者・譏る者・節制なき者・殘刻なる者・善を好まぬ者、**4**友を賣る者・放縱なる者・傲慢なる者・神よりも快樂を愛する者、**5**敬虔の貌をとりてその徳を捨つる者とならん、斯かる類の者を避けよ。**6**彼らの中には人の家に潜り入りて愚なる女を虜にする者あり、斯くせらるる女は罪を積み重ねて各様の慾に引かれ、**7**常に學べども眞理を知る知識に至ること能はず。**8**彼の者らはヤンネとヤンブレとがモーセに逆ひし如く、眞理に逆ふもの、心の腐れたる者、また信仰につきて棄てられたる者なり。**9**されど此の上になほ進むこと能はじ、そはかの二人のごとく彼らの愚なる事も亦すべての人に顯るべければなり。**10**汝は我が教誨・品行・志望・信仰・寛容・愛・忍耐・迫害、および苦難を知り、**11**またアンテオケ、イコニウム、ルステラにて起りし事、わが如何なる迫害を忍びしかを知る。主は凡てこれらの中より我を救ひ出したまへり。**12**凡そキリスト・イエスに在りて敬虔をもて一生を過さんと欲する者は迫害を受くべし。**13**悪しき人と人を欺く者とは、ますます悪にすすみ、人を惑し、また人に惑されん。**14**されど汝は學びて確信したる所に常に居れ。なんぢ誰より之を學びしかを知り、**15**また幼き時より聖なる書を識りし事を知ればなり。この書はキリスト・イエス

を信ずる信仰によりて救に至らしむる知恵を汝に與へ得るなり。16 聖書はみな神の感動によるものにして、教誨と譴責と矯正と義を薰陶するとに益あり。17 これ神の人の全くなりて諸般の善き業に備を全うせん爲なり。

4 われ神の前また生ける者と死にたる者とを審かんとし給ふキリスト・イエスの前にて、その顯現と御國とをおもひて嚴かに汝に命ず。2 なんぢ御言を宣傳へよ、機を得るも機を得ざるも常に勵め、寛容と教誨とを盡して責め、戒め、勸めよ。3 人々健全なる教に堪へず、耳痒くして私慾のまにまに己がために教師を増し加へ、4 耳を眞理より背けて昔話に移る時來らん。5 されど汝は何事にも愼み、苦難を忍び、傳道者の業をなし、なんぢの職を全うせよ。6 我は今 供物として血を灑がんとす、わが去るべき時は近づけり。7 われ善き戰鬥をたたかひ、走るべき道程を果し、信仰を守れり。8 今よりのち義の冠冕わが爲に備はれり。かの日に至りて正しき審判 主なる主、これを我に賜はん、啻に我のみならず、凡てその顯現を慕ふ者にも賜ふべし。9 なんぢ勉めて速かに我に來れ。10 デマスは此の世を愛し、我を棄ててテサロニケに往き、クレスケンスはガラテヤに、テトスはダルマテヤに往きて、(aiōn g165) 11 唯ルカのみ我とともに居るなり。汝マルコを連れて共に來れ、彼は職のために我に益あればなり。12 我テキコをエペソに遣せり。13 汝きたる時わがトロアスにてカルポの許に遣し置きたる外衣を携へきたれ、また書物、殊に羊皮紙のものを携へきたれ。14 金細工人アレキサンデル大に我を惱せり。主はその行爲に隨

ひて彼に報いたまふべし。 **15** 汝もまた彼に心せよ、かれは甚だしく我らの言に逆ひたり。 **16** わが始の辯明のとき誰も我を助けず、みな我を棄てたり、願はくはこの罪の彼らに歸せざらんことを。 **17** されど主われと偕に在して我を強めたまへり。これ我によりて宣教の全うせられ、凡ての異邦人のこれを聞かん爲なり。而して我は獅子の口より救ひ出されたり。 **18** また主は我を凡ての悪しき業より救ひ出し、その天の國に救ひ入れたまはん。願はくは榮光 世々 限りなく彼にあらん事を、アアメン。 (aiōn g165) **19** 汝プリスカ及びアクラ、またオネシポロの家に安否を問へ。 **20** エラストはコリントに留れり。トロピモは病ある故に我かれをミレトに遺せり。 **21** なんぢ勉めて冬のまへに我に來れ、ユプロ、プデス、リノス、クラウデヤ、及び凡ての兄弟、なんぢに安否を問ふ。 **22** 願はくは主なんぢの靈と偕に在し、御惠なんぢらと偕に在らんことを。

テトスへの手紙

1 神の僕またイエス・キリストの使徒パウロ——我が使徒となれるは、永遠の生命の望に基きて神の選民の信仰を堅うし、また彼らを敬虔にかなふ眞理を知る知識に至らしめん爲なり。 **2** 偽りなき神は、創世の前に、この生命を約束し給ひしが、 (aiōnios g166) **3** 時いたりて御言を宣教にて顯さんとし、その宣教を我らの救主たる神の命令をもて我に委ねたまへり。—— **4** われ書を同じ信仰によりて我が眞實の子たるテトスに贈る。願はくは父なる神および我らの救主キリスト・イエスより賜ふ恩恵と平安と、汝にあらんことを。 **5** わが汝をクレテに遣し置きたる故は、汝をして缺けたる所を正し、且わが命ぜしごとく町々に長老を立てしめん爲なり。 **6** 長老は責むべき所なく、一人の女の夫にして、子女もまた放蕩をもて訴へらるる事なく、服従せぬことなき信者たるべきなり。 **7** それ監督は神の家司なれば、責むべき所なく、放縦ならず、軽々しく怒らず、酒を嗜まず、人を打たず、恥づべき利を取らず、 **8** 反つて旅人を懇ろに待ひ、善を愛し、謹慎あり、正しく潔く節制にして、 **9** 教に適ふ信ずべき言を守る者たるべし。これ健全なる教をもて人を勧め、かつ言ひ逆ふ者を言ひ伏することを得んためなり。 **10** 服従せず、虚しき事をかたり、人の心を惑す者おほし、殊に割禮ある者のうちに多し。 **11** 彼らの口を箝がしむべし、彼らは恥づべき利を得んために、教ふまじき事を教へて全家を覆へすなり。 **12** クレテ人の中なる或る預言者いふ『クレテ人は常に虚偽をいふ者、あしき獸、また懶惰の腹なり』 **13** この證は眞なり。されば汝きび

しく彼らを責めよ、**14**彼らがユダヤ人の昔話と眞理を棄てたる人の誠命とに心を寄することなく、信仰を健全にせん爲なり。**15**潔き人には凡ての物きよく、汚れたる人と不信者とは一つとして潔き物なし、彼らは既に心も良心も汚れたり。**16**みづから神を知ると言ひあらはせど、其の行爲にては神を否む。彼らは憎むべきもの、服はぬ者、すべての善き業に就きて棄てられたる者なり。

2されど汝は健全なる教に適ふことを語れ。**2**老人には自ら制することと謹嚴と謹慎とを勧め、また信仰と愛と忍耐とに健全ならんことを勧めよ。**3**老いたる女にも同じく、清潔にかなふ行爲をなし、人を謗らず、大酒の奴隷とならず、善き事を教ふる者とならんことを勧めよ。**4**かつ彼等をして若き女に夫を愛し、子を愛し、**5**謹慎と貞操とを守り、家の務をなし、仁慈をもち、己が夫に服はんことを教へしめよ。これ神の言の汚されざらん爲なり。**6**若き人にも同じく謹慎を勧め、**7**なんぢ自ら凡ての事につきて善き業の模範を示せ。教をなすには邪曲なきことと謹嚴と、**8**責むべき所なき健全なる言とを以てすべし。これ逆ふ者をして我らの惡を言ふに由なく、自ら恥づる所あらしめん爲なり。**9**奴隷には己が主人に服ひ、凡ての事において之を喜ばせ、之に言ひ逆はず、**10**物を盗まず、反つて全き忠信を顯すべきことを勧めよ。これ凡ての事において我らの救主なる神の教を飾らん爲なり。**11**凡ての人に救を得さする神の恩恵は既に顯れて、**12**不敬虔と世の慾とを棄てて謹慎と正義と敬虔とをもて此の世を過し、**(aiōn g165)** **13**幸福なる望、すなはち大なる神、われら

の救主イエス・キリストの榮光の顯現を待つべきを我らに教ふ。14キリストは我等のために己を與へたまへり。是われらを諸般の不法より贖ひ出して、善き業に熱心なる特選の民を己がために潔めんとてなり。15なんぢ全き權威をもて此等のことを語り、勧め、また責めよ。なんぢ人に輕んぜらるな。

3汝かれらに司と權威ある者にとに服し、かつ従ひ、凡ての善き業をおこなふ備をなし、2人を謗らず、争はず、寛容にし、常に柔和を凡ての人に顯すべきことを思ひ出させよ。3我らも前には愚なるもの、順はぬもの、迷へる者、さまざまの慾と快樂とに事ふるもの、惡意と嫉妬とをもて過すもの、憎むべき者、また互に憎み合ふ者なりき。4されど我らの救主なる神の仁慈と、人を愛したまふ愛との顯れしとき、5我らの行ひし義の業にはよらで、唯その憐憫により、更生の洗と、我らの救主イエス・キリストをもて豊に注ぎたまふ聖靈による維新とにて、我らを救ひ給へり。6我らの行ひし義の業にはよらで、唯その憐憫により、更生の洗と、我らの救主イエス・キリストをもて豊に注ぎたまふ聖靈による維新とにて、我らを救ひ給へり。7これ我らが其の恩惠によりて義とせられ、永遠の生命の望にしたがひて世嗣とならん爲なり。(aiōnios g166) 8この言は信ずべきなれば、我なんぢが此等につきて確證せんことを欲す。神を信じたる者をして慎みて善き業を務めしめん爲なり。かくするは善き事にして人に益あり。9されど愚なる議論・系圖・争鬪、また律法に就きての分争を避けよ。これらは益なくして空しきものなり。10異端の者をば一度もしくは二度、訓戒して後

これを棄てよ。 **11** かかる者は汝の知るごとく、邪曲にして自ら罪を認めつつ尚これを犯すなり。 **12** 我アルテマス或はテキコを汝に遣さん、その時なんぢ急ぎてニコポリなる我がもとに來れ。われ彼處にて冬を過さんと定めたり。 **13** 教法師ゼナス及びアポロを懇ろに送りて、乏しき事なからしめよ。 **14** かくて我らの伴侶も善き業を務めて必要を資けんことを學ぶべし、これ果を結ばぬ事なからん爲なり。 **15** 我と偕に居る者みな汝に安否を問ふ。信仰に在りて我らを愛する者に安否を問へ。願はくは御惠、なんぢら凡ての者と偕にあらん事を。

ピレモンへの手紙

1 キリスト・イエスの囚人たるパウロ及び兄弟テモテ、書を我らが愛する同労者ピレモン、**2** 我らの姉妹アピヤ、我らと共に戦闘をなせるアルキポ及び汝の家にある教會に贈る。**3** 願はくは我らの父なる神および主イエス・キリストより賜ふ恩恵と平安と、汝らに在らんことを。**4** われ祈るとき常に汝をおぼえて我が神に感謝す。**5** これ主イエスと凡ての聖徒とに對する汝の愛と信仰とを聞きたればなり。**6** 願ふところは、汝の信仰の交際の活動により、人々われらの中なる凡ての善き業を知りて、榮光をキリストに歸するに至らんことなり。**7** 兄弟よ、我なんぢの愛によりて大なる勸喜と慰安とを得たり。聖徒の心は汝によりて安んぜられたればなり。**8** この故に、われキリストに在りて、汝になすべき事を聊かも憚らず命じ得れど、**9** むしろ愛の故によりて汝にねがふ。**10** 既に年老いて今はキリスト・イエスの囚人となれる我パウロ、縲綆の中にて生みし我が子オネシモの事をなんぢに願ふ。**11** かれ前には汝に益なき者なりしが、今は汝にも我にも益ある者となれり。**12** 我かれを汝に歸す、かれは我が心なり。**13** 我は彼をわが許に留めおきて、我が福音のために縲綆にある間、なんぢに代りて我に事へしめんと欲したれど、**14** なんぢの承諾を経ずして斯くするを好まざりき、是なんぢの善の止むを得ざるに出でずして心より出でんことを欲したればなり。**15** 彼が暫時なんぢを離れしは、或は汝かれを永遠に保ち、(aiōnios g166) **16** もはや奴隸の如くせず、奴隸に勝りて愛する兄弟の如くせん爲なりしやも知るべからず。我は殊

に彼を愛す、まして汝は肉によりても主によりても、之を愛せざる可けんや。 17 汝もし我を友とせば、請ふ、われを納るるごとく彼を納れよ。 18 彼もし汝に不義をなし、または汝に負債あらば、之を我に負はせよ。 19 我パウロ手づから之を記す、われ償はん、汝われに身を以て償ふべき負債あれど、我これを言はず。 20 兄弟よ、請ふ、なんぢ主に在りて我に益を得させよ、キリストに在りて我が心を安んぜよ。 21 我なんぢの従順を確信して之を書き贈る。わが言ふところに勝りて汝の行はんことを知るなり。 22 而して我がために宿を備へよ、我なんぢらの祈により、遂に我が身の汝らに與へられんことを望めばなり。 23 キリスト・イエスに在りて我とともに囚人となれるエパフラス、 24 及び我が同勞者マルコ、アリストタルコ、デマス、ルカ皆なんぢに安否を問ふ。 25 願はくは主イエス・キリストの恩恵、なんぢらの靈と偕にあらんことを。

ヘブル人への手紙

1 神むかしは預言者等により、多くに分ち、多くの方法をもて先祖たちに語り給ひしが、 **2** この末の世には御子によりて、我らに語り給へり。神は曾て御子を立てて萬の物の世嗣となし、また御子によりて諸般の世界を造り給へり。 (aiōn g165) **3** 御子は神の榮光のかがやき、神の本質の像にして、己が權能の言をもて萬の物を保ちたまふ。また罪の潔をなして、高き處にある稜威の右に坐し給へり。 **4** その受け給ひし名の御使の名に勝れるごとく、御使よりは更に勝る者となり給へり。 **5** 神は孰の御使に曾て斯くは言ひ給ひしぞ『なんぢは我が子なり、われ今日なんぢを生めり』と。また『われ彼の父となり、彼わが子とならん』と。 **6** また初子を再び世に入れ給ふとき『神の凡ての使は之を拜すべし』と言ひ給ふ。 **7** また御使たちに就きては『神は、その使たちを風となし、その事ふる者を焰となす』と言ひ給ふ。 **8** されど御子に就きては『神よ、なんじの御座は世々限りなく、汝の國の杖は正しき杖なり。 (aiōn g165) **9** なんぢは義を愛し、不法をにくむ。この故に神なんぢの神は歡喜の油を、汝の友に勝りて汝にそそぎ給へり』と。 **10** また『主よ、なんぢ太初に地の基を置きたまへり、天も御手の業なり。 **11** これらは滅びん、されど汝は常に存へたまはん。これらはみな衣のごとく舊びん。 **12** 而して汝これらを袍のごとく疊み給はん、これらは衣のごとく變らん。されど汝はかはり給ふことなく汝の齡は終らざるなり』と言ひたまふ。 **13** 又いづれの御使に曾て斯くは言ひ給ひしぞ『われ汝の仇を汝の足臺となすまでは、我が右に坐せ

よ』と。14 御使はみな事へまつる靈にして、救を嗣がんとする者のために職を執るべく遣されたる者にあらずや。

2 この故に我ら聞きし所をいよいよ篤く慎むべし、恐らくは流れ過ぐる事あらん。2 若し御使によりて語り給ひし言すら堅くせられて、咎と不従順とみな正しき報を受けたらんには、3 我ら斯くのごとき大なる救を等閑にして争でか遁るることを得ん。この救は初め主によりて語り給ひしものにして、聞きし者ども之を我らに確うし、4 神また徴と不思議とさまざまの能力ある業と、御旨のままに分ち與ふる聖靈とをもて證を加へたまへり。5 それ神は我らの語るところの來らんとする世界を、御使たちには服はせ給はざりき。6 或篇に人證して言ふ『人は如何なる者なれば、之を御心にとめ給ふか。人の子は如何なる者なれば、之を顧み給ふか。7 汝これを御使よりも少しく卑うし、光榮と尊貴とを冠らせ、8 萬の物をその足の下の服はせ給へり』と。既に萬の物を之に服はせ給ひたれば、服はぬものは一つだに残さるる事なし。されど今もなほ我らは萬の物の之に服ひたるを見ず。9 ただ御使よりも少しく卑くせられしイエスの、死の苦難を受くるによりて榮光と尊貴とを冠らせられ給へるを見る。これ神の恩恵によりて萬民のために死を味ひ給はんとてなり。10 それ多くの子を光榮に導くに、その救の君を苦難によりて全うし給ふは、萬の物の歸するところ、萬の物を造りたまふ所に者に相應しき事なり。11 潔めたまふ者も、潔めらるる者も、皆ただ一つより出づ。この故に彼らを兄弟と稱ふるを恥とせずして言ひ給ふ、12

『われ御名を我が兄弟たちに告げ、集會の中にて汝を讃め歌はん』 13 また『われ彼に依頼まん』又『視よ、我と神の我に賜ひし子等とは……』と。 14 子等はともに血肉を具ふれば、主もまた同じく之を具へ給ひしなり。これは死の權力を有つもの、即ち悪魔を死によりて亡し、 15 かつ死の懼によりて生涯、奴隸となりし者どもを解放し給はんためなり。 16 實に主は御使を扶けずしてアブラハムの裔を扶けたまふ。 17 この故に神の事につきて憐憫ある忠實なる大祭司となりて、民の罪を贖はんために、凡ての事において兄弟の如くなり給ひしは宜なり。 18 主は自ら試みられて苦しみ給ひたれば、試みられるる者を助け得るなり。

3 されば共に天の召を蒙れる聖なる兄弟よ、我らが言ひあらはす信仰の使徒たり大祭司たるイエスを思ひ見よ。 2 彼の己を立て給ひし者に忠實なるは、モーセが神の全家に忠實なりしが如し。 3 家を造る者の家より勝りて尊ばるる如く、彼もモーセに勝りて大なる榮光を受くるに相應しき者とせられ給へり。 4 家は凡て之を造る者あり、萬の物を造り給ひし者は神なり。 5 モーセは後に語り傳へられんと爲ることの證をせんために、僕として神の全家に忠實なりしが、 6 キリストは子として神の家を忠實に掌どり給へり。我等もし確信と希望の誇とを終まで堅く保たば、神の家なり。 7 この故に聖靈の言ひ給ふごとく『今日なんぢら神の聲を聞かば、 8 その怒を惹きし時のごとく、荒野の嘗試の日のごとく、こころを頑固にするなかれ。 9 彼處にて汝らの先祖たちは我をこころみて驗し、かつ四十年の間わが業を見たり。

10 この故に我この代の人を憤ほりて云へり、「彼らは常に心まよい、わが途を知らざりき」と。11 われ怒をもて「彼らは、我が休に入るべからず」と誓へり』 12 兄弟よ、心せよ、恐らくは汝等のうち活ける神を離れんとする不信仰の悪しき心を懐く者あらん。13 汝等のうち誰も罪の誘惑によりて頑固にならぬやう、今日と稱ふる間に日々互に相勧めよ。14 もし始の確信を終まで堅く保たば、我らはキリストに與る者となるなり。15 それ『今日なんじら神の聲を聞かば、その怒を惹きし時のごとく、こころを頑固にするなかれ』と云へ。16 然れば聞きてなほ怒を惹きし者は誰なるか、モーセによりてエジプトを出でし凡ての人にあらずや。17 また四十年のあひだ、神は誰に對して憤ほり給ひしか、罪を犯してその死屍を荒野に横たへし人々にあらずや。18 又かれらは我が安息に入るべからずとは、誰に對して誓ひ給ひしか、不従順なる者にあらずや。19 之によりて見れば、彼らの入ること能はざりしは、不信仰によりてなり。

4 然れば我ら懼るべし、その安息に入るべき約束はなほ遺れども、恐らくは汝らの中これに達せざる者あらん。2 それは彼らのごとく我らも善き音信を傳へられたり、然れど彼らには聞きし所の言益なかりき。聞くもの之に信仰をまじへざりしに因る。3 われら信じたる者は、かの休に入ることを得るなり。『われ怒をもて「彼らは、わが休に入るべからず」と誓へり』と云ひ給ひしが如し。されど世の創より御業は既に成れるなり。4 或篇に七日めに就きて斯く云へり『七日めに神その凡ての業を休みたまへり

』と。5 また茲に『かれらは、我が休に入るべからず』と云へり。6 然れば之に入るべき者なほ在り、曩に善き音信を傳へられし者らは、不從順によりて入ることを得ざりしなれば、7 久しきを経てのち復、日を定めダビデによりて『今日』と言ひ給ふ。曩に記したるが如し。曰く『今日なんじら神の聲を聞かば、こころを頑固にするなかれ』8 若しヨシュア既に休を彼らに得しめしならば、神はその後、ほかの日につきて語り給はざりしならん。9 然れば神の民の爲になほ安息は遣れり。10 既に神の休に入りたる者は、神のその業を休み給ひしごとく、己が業を休めり。11 されば我等はこの休に入らんことを務むべし、是かの不從順の例にならひて誰も墮つることなからん爲なり。12 神の言は生命あり、能力あり、兩刃の劍よりも利くして、精神と靈魂、關節と骨髓を透して之を割ち、心の念と志望とを驗すなり。13 また造られたる物の一つとして神の前に顯れぬはなし、萬の物は我らが係れる神の目のまへに裸にて露るるなり。14 我等には、もろもろの天を通り給ひし偉なる大祭司、神の子イエスあり。然れば我らが言ひあらはず信仰を堅く保つべし。15 我らの大祭司は我らの弱を思ひ遣ること能はぬ者にあらず、罪を外にして凡ての事、われらと等しく試みられ給へり。16 この故に我らは憐憫を受けんが爲、また機に合ふ助となる恵を得んがために、憚らずして恵の御座に来るべし。

5 凡そ大祭司は人の中より選ばれ、罪のために供物と犠牲とを献げんとて、人にかはりて神に事ふることを任せらる。2 彼は自らも弱に纏はるるが故に、

無知なるもの、迷へる者を思ひ遣ることを得るなり。
3 之によりて民のために爲すごとく、また己のためにも罪に就きて献物をなさざるべからず。4 又この貴き位はアロンのごとく神に召さるるにあらずば、誰も自ら之を取る者なし。5 斯くの如くキリストも己を崇めて自ら大祭司となり給はず。之に向ひて『なんじは我が子なり、われ今日なんじを生めり』と語り給ひし者、これを立てたり。6 また他の篇に『なんじは永遠にメルキゼデクの位に等しき祭司たり』と言ひ給へるが如し。(aiōn g165) 7 キリストは肉體にて在ししとき、大なる叫と涙とをもて、己を死より救ひ得る者に祈と願とを献げ、その恭敬によりて聽かれ給へり。8 彼は御子なれど、受けし所の苦難によりて従順を學び、9 かつ全うせられたれば、凡て己に順ふ者のために永遠の救の原となりて、(aiōnios g166) 10 神よりメルキゼデクの位に等しき大祭司と稱へられ給へり。11 之に就きて我ら多くの言ふべき事あれど、汝ら聞くに鈍くなりたれば釋き難し。12 なんじら時を経ること久しければ、教師となるべき者なるに、今また神の言の初歩を人より教へられざるを得ず、汝らは堅き食物ならで乳を要する者となれり。13 おほよそ乳を用ふる者は幼兒なれば、未だ義の言に熟せず、14 堅き食物は智力を練習して善惡を辨ふる成人の用ふるものなり。

6 この故に我らはキリストの教の初歩に止ることなく、再び死にたる行爲の悔改と神に對する信仰との基、2 また各様のバプテスマと按手と、死人の復活と永遠の審判との教の基を置かずして完全に進むべし。(aiōnios g166) 3 神もし許し給はば、我ら之をなさ

ん。 4一たび照されて天よりの賜物を味ひ、聖靈に與る者となり、 5 神の善き言と來世の能力とを味ひて後、 (aiōn g165) 6 墮落する者は更にまた自ら神の子を十字架に釘けて肆し者とする故に、再びこれを悔改に立返らすること能はざるなり。 7 それ地しばしば其の上に降る雨を吸ひ入れて耕す者の益となるべき作物を生ぜば、神より祝福を受く。 8 されど茨と薊とを生ぜば、棄てられ、かつ詛に近く、その果ては焚かるるなり。 9 愛する者よ、われら斯くは語れど、汝らには更に善きこと、即ち救にかかはる事あるを深く信ず。 10 神は不義に在さねば、汝らの勤勞と、前に聖徒につかへ、今もなほ之に事へて御名のために顯したる愛とを忘れ給ふことなし。 11 我らは汝等がおのおの終まで前と同じ勵をあらはして全き望を保ち、 12 怠ることなく、信仰と耐忍とをもて約束を嗣ぐ人々に效はんことを求む。 13 それ神はアブラハムに約し給ふとき、指して誓ふべき己より大なる者なき故に、己を指して誓ひて言ひ給へり、 14 『われ必ず、なんぢを恵み恵まん、なんぢを殖し殖さん』と、 15 斯くの如くアブラハムは耐へ忍びて約束のものを得たり。 16 おほよそ人は己より大なる者を指して誓ふ、その誓はすべての爭論を罷むる保證たり。 17 この故に神は約束を嗣ぐ者に御旨の變らぬことを十分に示さんと欲して誓を加へ給へり。 18 これ神の謊ること能はぬ二つの變らぬものによりて、己の前に置かれたる希望を捉へんとて遁れたる我らに強き獎勵を與へん爲なり。 19 この希望は我らの靈魂の錨のごとく安全にして動かず、かつ幔の内に入る。 20 イエス我等のために前驅し、永遠にメルキゼデ

クの位に等しき大祭司となりて、その處に入り給へり。(aiōn g165)

7 此のメルキゼデクはサレムの王にて至高き神の祭司たりしが、王たちを破りて還るアブラハムを迎へて祝福せり。**2** アブラハムは彼に凡ての物の十分の一を分け與へたり。その名を釋けば第一に義の王、次にサレムの王、すなはち平和の王なり。**3** 父なく、母なく、系圖なく、齡の始なく、生命の終なく、神の子の如くにして限りなく祭司たり。**4** 先祖アブラハム分捕物のうち十分の一、最も善き物を之に與へたれば、その人の如何に尊きかを思ふべし。**5** レビの子等のうち祭司の職を受くる者は、律法によりて、民すなはちアブラハムの腰より出でたる己が兄弟より、十分の一を取ること命ぜらる。**6** されど此の血脈にあらぬ彼は、アブラハムより十分の一を取りて約束を受けし者を祝福せり。**7** それ小なる者の大なる者に祝福せらるるは論なき事なり。**8** かつ此所にては死ぬべき者十分の一を受くれども、彼處にては『活くるなり』と證せられた者これを受く。**9** また十分の一を受くるレビすら、アブラハムに由りて十分の一を納めたりと云ふも可なり。**10** そはメルキゼデクのアブラハムを迎へし時に、レビはなほ父の腰に在りたればなり。**11** もしレビの系なる祭司によりて全うせらるる事ありしならば(民は之によりて律法を受けたり)何ぞなほ他にアロンの位に等しからぬメルキゼデクの位に等しき祭司の起る必要あらんや。**12** 祭司の易る時には律法も亦必ず易るべきなり。**13** 此等のことは曾て祭壇に事へたることなき他の族に屬する者をさして云へるなり。**14** それ

我らの主のユダより出で給へるは明かにして、此の族につき、モーセは聊かも祭司に係ることを云はざりき。 **15** 又メルキゼデクのごとき他の祭司おこり、肉の誠命の法に由らず、朽ちざる生命の能力によりて立てられたれば、我が言ふ所いよいよ明かなり。 **16** 又メルキゼデクのごとき他の祭司おこり、肉の誠命の法に由らず、朽ちざる生命の能力によりて立てられたれば、我が言ふ所いよいよ明かなり。 **17** そは『なんぢは永遠にメルキゼデクの位に等しき祭司たり』と證せられ給へばなり。 (aiōn g165) **18** 前の誠命は弱く、かつ益なき故に廢せられ、 **19** (律法は何をも全うせざりしなり) 更に優れたる希望を置かれたり、この希望によりて我らは神に近づくなり。 **20** かの人々は誓なくして祭司とせられたれども、 **21** 彼は誓なくしては爲られず、誓をもて祭司とせられ給へり。即ち彼に就きて『主ちかひて悔い給はず、「なんぢは永遠に祭司たり」』と言ひ給ひしが如し。 (aiōn g165) **22** イエスは斯くも優れたる契約の保證となり給へり。 **23** かの人々は死によりて永くその職に留ることを得ざる故に、祭司となりし者の數多かりき。 **24** されど彼は永遠に在せば易ることなき祭司の職を保ちたまふ。 (aiōn g165) **25** この故に彼は己に頼りて神にきたる者のために執成をなさんとて常に生くれば、之を全く救ふこと得給ふなり。 **26** 斯くのごとき大祭司こそ我らに相應しき者なれ、即ち聖にして悪なく、穢なく、罪人より遠ざかり、諸般の天よりも高くせられ給へり。 **27** 他の大祭司のごとく先づ己の罪のため、次に民の罪のために日々 犠牲を献ぐるを要し給はず、その一たび己を献げて之を成し給ひた

ればなり。 **28** 律法は弱みある人々を立てて大祭司とすれども、律法の後なる誓の御言は、永遠に全うせられ給へる御子を大祭司となせり。 (aiōn g165)

8 今いふ所の要點は斯くのごとき大祭司の我らにある事なり。彼は天にては稜威の御座の右に坐し、 **2** 聖所および眞の幕屋に事へたまふ。この幕屋は人の設くるものにあらず、主の設けたまふ所なり。 **3** おおよそ大祭司の立てらるるは供物と犠牲とを献げん爲なり、この故に彼もまた献ぐべき物あるべきなり。 **4** 然るに若し地に在さば、既に律法に循ひて供物を献ぐる祭司等あるによりて祭司とはなり給はざるべし。 **5** 彼らの事ふるは、天にある物の型と影となり。モーセが幕屋を建てんとする時に『愼め、山にて汝が示されたる式に效ひて凡ての物を造れ』との御告を受けしが如し。 **6** されどキリストは更に勝れる約束に基きて立てられし勝れる契約の中保となりたれば、更に勝る職を受け給へり。 **7** かつ初の契約もし虧くる所なくば、第二の契約を求むる事なかりしならん。 **8** 然るに彼らを咎めて言ひ給ふ『主いひ給ふ「視よ、我イスラエルの家とユダの家とに、新しき契約を設くる日來らん。 **9** この契約は我かれらの先祖の手を執りて、エジプトの地より導き出しし時に立てし所の如きにあらず、彼らは我が契約にとどまらず、我も彼らを顧みざりしなり」と主いひ給ふ。 **10** 「されば、かの日の後に我がイスラエルの家と立つる契約は是なり」と主いひ給ふ。「われ我が律法を彼らの念に置き、そのところに之を記さん、また我かれらの神となり、彼らは我が民とならん。 **11** 彼らはまた各人その國人に、その兄弟に教へて、

なんじ主を知れと言はざるべし。そは小より大に至るまで、皆われを知らん。12 我もその不義を憐み、この後また其の罪を思ひ出でざるべし』と。13 既に『新し』と言ひ給へば、初のを舊しとし給へるなり、舊びて衰ふるものは、消失せんとするなり。

9 初の契約には禮拜の定と世に屬する聖所とありき。2 設けられたる幕屋あり、前なるを聖所と稱へ、その中に燈臺と案と供のパンとあり。3 また第二の幕の後に至 聖所と稱ふる幕屋あり。4 その中に金の香壇と金にて徧く覆ひたる契約の櫃とあり、この中にマナを納れたる金の壺と芽したるアロンの杖と契約の石碑とあり、5 櫃の上に榮光のケルビムありて贖罪所を覆ふ。これらの物に就きては、今一々言ふこと能はず、6 此等のもの斯く備りたれば、祭司たちは常に前なる幕屋に入りて禮拜をおこなふ。7 されど奥なる幕屋には、大祭司のみ年に一度おのれと民との過失のために献ぐる血を携へて入るなり。8 之によりて聖靈は前なる幕屋のなほ存するあひだ、至聖所に入る道の未だ顯れざるを示し給ふ。9 この幕屋はその時のために設けられたる比喻なり、之に循ひて献げたる供物と犠牲とは、禮拜をなす者の良心を全うすること能はざりき。10 此等はただ食物・飲物さまざまの濯事などに係り、肉に屬する定にして、改革の時まで負せられたるのみ。11 然れどキリストは來んとする善き事の大祭司として來り、手にて造らぬ此の世に屬せぬ更に大なる全き幕屋を経て、12 山羊と犢との血を用はず、己が血をもて只一たび至聖所に入りて、永遠の贖罪を終へたまへり。(aiōnios g166) 13 もし山羊および牡牛の血、牝牛の灰

などを穢れし者にそそぎて其の肉體を潔むることを得ば、**14** まして永遠の御靈により瑕なくして己を神に獻げ給ひしキリストの血は、我らの良心を死にたる行爲より潔めて活ける神に事へしめざらんや。

(aiōnios g166) 15 この故に彼は新しき契約の中保なり。これ初の契約の下に犯したる咎を贖ふべき死あるによりて、召されたる者に約束の永遠の嗣業を受けさせん爲なり。**(aiōnios g166) 16** それ遺言は必ず遺言者の死を要す。**17** 遺言は遺言者死にてのち始めて效あり、遺言者の生くる間は效なきなり。**18** この故に初の契約も血なくして立てしにあらざ。**19** モーセ律法に循ひて諸般の誡命をすべての民に告げてのち、犢と山羊との血また水と緋色の毛とヒソプとをとりて、書および凡ての民にそそぎて言ふ、**20** 『これ神の汝らに命じたまふ契約の血なり』と。**21** また同じく幕屋と祭のすべての器とに血をそそげり。**22** おほよそ律法によれば、萬のもの血をもて潔めらる。もし血を流すことなくば、赦さるることなし。**23** この故に天に在るものに象りたる物は此等にて潔められ、天にある物は此等に勝りたる犠牲をもて潔めらるべきなり。**24** キリストは眞のものに象れる、手にて造りたる聖所に入らず、眞の天に入りて今より我等のために神の前にあらはれ給ふ。**25** これ大祭司が年ごとに他の物の血をもて聖所に入るとく、屢次おのれを獻ぐる爲にあらざ。**26** もし然らずば世の創より以來しばしば苦難を受け給ふべきなり。然れど今、世の季にいたり己を犠牲となして罪を除かんために一たび現れたまへり。**(aiōn g165) 27** 一たび死ぬることと死にてのち審判を受くることとの人に定りた

る如く、**28** キリストも亦おほくの人の罪を負はんが爲に一たび献げられ、復罪を負ふことなく、己を待望む者に再び現れて救を得させ給ふべし。

10 それ律法は來らんとする善き事の影にして眞の形にあらねば、年毎にたえず献ぐる同じ犠牲にて、神にきたる者を何時までも全うすることを得ざるなり。**2** もし之を得ば、禮拜をなす者、一たび潔められて復心に罪を憶えねば、献ぐることを止めしならん。**3** 然れど犠牲によりて、年ごとに罪を憶ゆるなり。**4** これ牡牛と山羊との血は罪を除くこと能はざるに因る。**5** この故にキリスト世に來るとき言ひ給ふ『なんぢ犠牲と供物とを欲せず、唯わが爲に體を備へたまへり。**6** なんぢ燔祭と罪祭とを悦び給はず、**7** その時われ言ふ「神よ、我なんぢの御意を行はんとて來る」我につきて書の卷に録されたるが如し』と。**8** 先には『汝いけにへと供物と燔祭と罪祭と（即ち律法に循ひて献ぐる物）を欲せず、また悦ばず』と言ひ、**9** 後に『視よ、我なんぢの御意を行はんとて來る』と言ひ給へり。その後なる者を立てん爲に、その先なる者を除き給ふなり。**10** この御意に適ひてイエス・キリストの體の一たび献げられしに由りて我らは潔められたり。**11** すべての祭司は日毎に立ちて事へ、いつまでも罪を除くこと能はぬ同じ犠牲をしばしば献ぐ。**12** 然れどキリストは罪のために一つの犠牲を献げて限りなく神の右に坐し、**13** 斯くて己が仇の己が足臺とせられん時を待ちたまふ。**14** そは潔めらるる者を一つの供物にて限りなく全うし給ふなり。**15** 聖靈も亦われらに之を證して **16** 『「この日の後、われ彼らと立つる契約は是なり」と

主いひ給ふ。また「わが律法をその心に置き、その念に銘さん」と言ひ給ひて、**17**『この後また彼らの罪と不法とを思ひ出でざるべし』と言ひたまふ。**18**かかる赦ある上は、もはや罪のために献物をなす要なし。**19**然れば兄弟よ、我らイエスの血により、**20**その肉體たる幔を経て我らに開き給へる新しき活ける路より憚らずして至聖所に入ることを得、**21**かつ神の家を治むる大なる祭司を得たれば、**22**心は濯がれて良心の咎をさり、身は清き水にて洗はれ、眞の心と全き信仰とをもて神に近づくべし。**23**また約束し給ひし者は忠實なれば、我ら言ひあらはす所の望を動かさずして堅く守り、**24**互に相顧み、愛と善き業とを勵まし、**25**集會をやむる或人の習慣の如くせず、互に勧め合ひ、かの日のいよいよ近づくを見て、ますます斯くの如くすべし。**26**我等もし眞理を知る知識をうけたる後、ことさらに罪を犯して止めずば、罪のために犠牲、もはや無し。**27**ただ畏れつつ審判を待つことと、逆ふ者を焚きつくす烈しき火とのみ遺るなり。**28**モーセの律法を蔑する者は慈悲を受くることなく、二三人の證人によりて死に至る。**29**まして神の子を蹈みつけ、己が潔められし契約の血を潔からずとなし、恩恵の御靈を侮る者の受くべき罰の重きこと如何許とおもふか。**30**『仇を復すは我に在り、われ之を報いん』と言ひ、また『主その民を審かん』と言ひ給ひし者を我らは知るなり。**31**活ける神の御手に陥るは畏るべきかな。**32**なんぢら御光を受けしのち苦難の大なる戦闘に耐へし前の日を思ひ出でよ。**33**或は誹謗と患難とに遭ひて觀物にせられ、或は斯かることに遭ふ人の友とな

れり。34 また囚人となれる者を思ひやり、永く存する尤も勝れる所有の己にあるを知りて、我が所有を奪はるるをも喜びて忍びたり。35 されば大なる報を受くべき汝らの確信を投げすつな。36 なんぢら神の御意を行ひて約束のものを受けん爲に必要なは忍耐なり。37 『いま暫くせば、來るべき者きたらん、遅からじ。38 我に屬ける義人は、信仰によりて活くべし。もし退かば、わが心これを喜ばじ』 39 然れど我らは退きて滅亡に至る者にあらず、靈魂を得るに至る信仰を保つ者なり。

11 それ信仰は望むところを確信し、見ぬ物を眞實とするなり。2 古への人は之によりて證せられたり。3 信仰によりて我等は、もろもろの世界の神の言にて造られ、見ゆる物の顯る物より成らざるを悟る。(aiōn g165) 4 信仰に由りてアベルはカインよりも勝れる犠牲を神に獻げ、之によりて正しと證せられたり。神その供物につきて證し給へばなり。彼は死ぬれども、信仰によりて今なほ語る。5 信仰に由りてエノクは死を見ぬように移されたり。神これを移し給ひたれば見出されざりき。その移さるる前に神に喜ばるることを證せられたり。6 信仰なくしては神に悦ばるること能はず、そは神に來る者は、神の在すことと神の己を求むる者に報い給ふこととを、必ず信ずべければなり。7 信仰に由りてノアは、未だ見ざる事につきて御告を蒙り、畏みてその家の者を救はん爲に方舟を造り、かつ之によりて世の罪を定め、また信仰に由る義の世嗣となれり。8 信仰に由りてアブラハムは召されしとき嗣業として受くべき地に出で往けとの命に遵ひ、その往く所を知らず

して出で往けり。 9 信仰により異國に在るごとく約束の地に寓り、同じ約束を嗣ぐべきイサクとヤコブと共に幕屋に住めり、 10 これ神の營み造りたまふ基礎ある都を望めばなり。 11 信仰に由りてサラも約束したまふ者の忠實なるを思ひし故に、年邁ぎたれど胤をやどす力を受けたり。 12 この故に死にたる者のごとき一人より天の星のごとく、また海邊の數へがたき砂のごとく夥多しく生れ出でたり。 13 彼等はみな信仰を懷きて死にたり、未だ約束の物を受けざりしが、遙にこれを見て迎へ、地にては旅人また寓れる者なるを言ひあらはせり。 14 斯く言ふは、己が故郷を求むることを表すなり。 15 若しその出でし處を念はば、歸るべき機ありしなるべし。 16 されど彼らの慕ふ所は天にある更に勝りたる所なり。この故に神は彼らの神と稱へらるるを恥とし給はず、そは彼等のために都を備へ給へばなり。 17 信仰に由りてアブラハムは試みられし時イサクを献げたり、彼は約束を喜び受けし者なるに、その獨子を献げたり。 18 彼に對しては『イサクより出づる者なんぢの裔と稱へらるべし』と云ひ給ひしなり。 19 かれ思へらく、神は死人の中より之を甦へらすることを得給ふと、乃ち死より之を受けしが如くなりき。 20 信仰に由りてイサクは來らんとする事につきヤコブとエサウとを祝福せり。 21 信仰に由りてヤコブは死ぬる時ヨセフの子等をおのおの祝福し、その杖の頭によりて禮拜せり。 22 信仰に由りてヨセフは生命の終らんとする時、イスラエルの子らの出で立つことに就きて語り、又おのが骨のことを命じたり。 23 信仰に由りて兩親はモーセの生れたる時、その美しき子なる

を見て、王の命をも畏れずして三月の間これを匿したり。**24** 信仰に由りてモーセは人と成りしときパロの女の子と稱へらるるを否み、**25** 罪のはかなき歡樂を受けんよりは、寧ろ神の民とともに苦しむことを善しとし、**26** キリストに因る謗はエジプトの財寶にまさる大なる富と思へり、これ報を望めばなり。**27** 信仰に由りて彼は王の憤恚を畏れずしてエジプトを去れり。これ見えざる者を見るがごとく耐ふる事をすればなり。**28** 信仰に由りて彼は過越と血を灑ぐこととを行へり、これ初子を滅す者の彼らに觸れざらん爲なり。**29** 信仰に由りてイスラエル人は紅海を乾ける地のごとく渡りしが、エジプト人は然せんと試みて溺れ死にたり。**30** 信仰に由りて七日のあいだ廻りたればエリコの石垣は崩れたり。**31** 信仰に由りて遊女ラハブは平和をもて聞者を接けたれば、不従順の者とともに亡びざりき。**32** この外なにを言ふべきか、ギデオン、バラク、サムソン、エフタ、またダビデ、サムエル及び預言者たちに就きて語らば、時足らざるべし。**33** 彼らは信仰によりて國々を服へ、義をおこなひ、約束のものを得、獅子の口をふさぎ、**34** 火の勢力を消し、劍の刃をのがれ、弱よりして強くせられ、戦争に勇ましくなり、異國人の軍勢を退かせたり。**35** 女は死にたる者の復活を得、ある人は更に勝りたる復活を得んために、免さるることを願はずして極刑を甘んじたり。**36** その他の者は嘲笑と鞭と、また縲綈と牢獄との試練を受け、**37** 或者は石にて撃たれ、試みられ、鐵鋸にて挽かれ、劍にて殺され、羊・山羊の皮を纏ひて經あるき、乏しくなり、惱され、苦しめられ、**38** (世は彼らを置く

に堪へず) 荒野と山と洞と地の穴とに徨へり。 39 彼等はみな信仰に由りて證せられたれども約束のものを得ざりき。 40 これ神は我らの爲に勝りたるものを備へ給ひし故に、彼らも我らと偕ならざれば、全うせらるる事なきなり。

12 この故に我らは斯く多くの證人に雲のごとく圍まれたれば、凡ての重荷と纏へる罪とを除け、忍耐をもて我らの前に置かれたる馳場をはしり、 2 信仰の導師また之を全うする者なるイエスを仰ぎ見るべし。彼はその前に置かれたる歡喜のために、恥をも厭はずして十字架をしのび、遂に神の御座の右に坐し給へり。 3 なんじら倦み疲れて心を喪ふこと莫らんために、罪人らの斯く己に逆ひしことを忍び給へる者をおもへ。 4 汝らは罪と闘ひて未だ血を流すまで抵抗しことなし。 5 また子に告ぐるごとく汝らに告げ給ひし勸言を忘れてたり。曰く『わが子よ、主の懲戒を輕んずるなかれ、主に戒めらるるとき倦むなかれ。 6 そは主、その愛する者を懲しめ、凡てその受け給ふ子を鞭うち給へばなり』と。 7 汝らの忍ぶは懲戒の爲なり、神は汝らの子のごとく待ひたまふ、誰か父の懲しめぬ子あらんや。 8 凡ての人の受くる懲戒、もし汝らに無くば、それは私生兒にして眞の子にあらず、 9 また我らの肉體の父は、我らを懲しめし者なるに尚これを敬へり、況して靈魂の父に服ひて生くることを爲ざらんや。 10 そは肉體の父は暫くの間その心のままに懲しむることを爲しが、靈魂の父は我らを益するために、その聖潔に與らせんとて懲しめ給へばなり。 11 凡ての懲戒、今は喜ばしと見えず、反つて悲しと見ゆ、されど後これに由り

て練習する者に、義の平安なる果を結ばしむ。 **12** されば衰へたる手、弱りたる膝を強くし、 **13** 足蹇へたる者の履み外すことなく、反つて醫されんために汝らの足に直なる途を備へよ。 **14** 力めて凡ての人と和ぎ、自ら潔からんことを求めよ。もし潔からずば、主を見ること能はず。 **15** なんじら愼め、恐らくは神の恩恵に至らぬ者あらん。恐らくは苦き根はえいでて汝らを惱し、多くの人これに由りて汚されん。 **16** 恐らくは淫行のもの、或は一飯のために長子の特権を賣りしエサウの如き妄なるもの起らん。 **17** 汝らの知るごとく、彼はそののち祝福を受けんと欲したれども棄てられ、涙を流して之を求めたれど回復の機を得ざりき。 **18** 汝らの近づきたるは、火の燃ゆる觸り得べき山・黒雲・黒闇・嵐、 **19** ラッパの音、言の聲にあらず、この聲を聞きし者は此の上に言の加へられざらんことを願へり。 **20** これ『獸すら山に觸れなば、石にて撃るべし』と命ぜられしを、彼らは忍ぶこと能はざりし故なり。 **21** その現れしところ極めて怖しかりしかば、モーセは『われ甚く怖れ戦けり』と云へり。 **22** されど汝らの近づきたるはシオンの山、活ける神の都なる天のエルサレム、千萬の御使の集會、 **23** 天に録されたる長子ども教會、萬民の審判主なる神、全うせられたる義人の靈魂、 **24** 新約の仲保なるイエス及びアベルの血に勝りて物言ふ灑の血なり、 **25** なんじら心して語りたまふ者を拒むな、もし地にて示し給ひし時これを拒みし者ども遁るる事なかりしならば、況して天より示し給ふとき、我ら之を退けて遁るることを得んや。 **26** その時、その聲、地を震へり、されど今は誓ひて言ひたま

ふ『我なほ一たび地のみならず、天をも震はん』と。
27 此の『なほ一度』とは震はれぬ物の存らんために、震はる物すなはち造られたる物の取り除かることを表すなり。28 この故に我らは震はれぬ國を受けたれば、感謝して恭敬と畏懼とをもて御心になふ奉仕を神になすべし。29 我らの神は焼き盡す火なればなり。

13 兄弟の愛を常に保つべし。2 旅人の接待を忘るな、或人これに由り、知らずして御使を舍したり。3 己も共に繋がるごとく囚人を思へ、また己も肉體に在れば、苦しむ者を思へ。4 凡ての人、婚姻のことを貴べ、また寢床を汚すな。神は淫行のもの、姦淫の者を審き給ふべければなり。5 金を愛することなく、有てるものを以て足れりとせよ。主みづから『われ更に汝を去らず、汝を捨てじ』と言ひ給ひたればなり。6 然れば我ら心を強くして斯く言はん『主わが助主なり、我おそれじ。人われに何をなさん』と。7 神の言を汝らに語りて汝らを導きし者どもを思へ、その行状の終を見てその信仰に效へ。8 イエス・キリストは昨日も今日も永遠までも變り給ふことなし。(aiōn g165) 9 各様の異なる教のために惑さるな。飲食によらず、恩恵によりて心を堅うするは善し、飲食によりて歩みたる者は益を得ざりき。10 我らに祭壇あり、幕屋に事ふる者は之より食する權を有たず。11 大祭司、罪のために活物の血を携へて至聖所に入り、その活物の體は陣營の外にて焼かるるなり。12 この故にイエスも己が血をもて民を潔めんが爲に、門の外にて苦難を受け給へり。13 されば我らは彼の恥を負ひ、陣營より出でてその御許に往

くべし。14 われら此處には永遠の都なくして、ただ來らんとする者を求むればなり。15 此の故に我らイエスによりて常に讚美の供物を神に献ぐべし、乃ちその御名を頌むる口唇の果なり。16 かつ仁慈と施濟とを忘るな、神は斯くのごとき供物を喜びたまふ。17 汝らを導く者に順ひ之に服せよ。彼らは己が事を神に陳ぶべき者なれば、汝らの靈魂のために目を覺しをるなり。彼らを歎かせず、喜びて斯く爲さしめよ、然らずば汝らに益なかるべし。18 我らの爲に祈れ、我らは善き良心ありて凡てのこと正しく行はんと欲するを信ずるなり。19 われ速かに汝らに歸ることを得んために、汝らの祈らんことを殊に求む。20 願はくは永遠の契約の血によりて、羊の大牧者となれる我らの主イエスを、死人の中より引上げ給ひし平和の神、(aiōnios g166) 21 その悦びたまふ所を、イエス・キリストに由りて我らの衷に行ひ、御意を行はしめん爲に凡ての善き事につきて、汝らを全うし給はんことを。世々 限りなく榮光、かれに在れ、アァメン。(aiōn g165) 22 兄弟よ、請ふ我が勸の言を容れよ、我なんじらに手短く書き贈りたるなり。23 なんじら知れ、我らの兄弟テモテは釋されたり。彼もし速かに來らば、我かれと偕に汝らを見ん。24 汝らの凡ての導く者、および凡ての聖徒に安否を問へ。イタリヤの人々、なんぢらに安否を問ふ。25 願はくは恩恵なんぢら衆と偕に在らんことを。

ヤコブの手紙

1 神および主イエス・キリストの僕ヤコブ、散り居る十二の族の平安を祈る。**2** わが兄弟よ、なんぢら各様の試練に遭ふとき、只管これを歡喜とせよ。**3** そは汝らの信仰の驗は、忍耐を生ずるを知ればなり。**4** 忍耐をして全き活動をなさしめよ。これ汝らが全くかつ備りて、缺くる所なからん爲なり。**5** 汝らの中もし智慧の缺くる者あらば、咎むることなくまた惜む事なく、凡ての人に與ふる神に求むべし、さらば與へられん。**6** 但し疑ふことなく、信仰をもて求むべし。疑ふ者は、風に動かされて翻へる海の波のごときなり。**7** かかる人は主より何物をも受くと思ふな。**8** 斯かる人は二心にして、凡てその歩むところの途 定りなし。**9** 卑き兄弟は、おのが高くせられたるを喜べ。**10** 富める者は、おのが卑くせられたるを喜べ。そは草の花のごとく過ぎゆくべければなり。**11** 日出で熱き風吹きて草を枯らせば、花落ちてその麗しき姿ほろぶ。富める者もまた斯くのごとく、その途の半にして己まづ消え失せん。**12** 試練に耐ふる者は幸福なり、之を善しとせらるる時は、主のおのれを愛する者に、約束し給ひし生命の冠冕を受くべければなり。**13** 人誘はるるとき『神われを誘ひたまふ』と言ふな、神は惡に誘はれ給はず、又みづから人を誘ひ給ふことなし。**14** 人の誘はるるは己の慾に引かれて惑さるるなり。**15** 慾 孕みて罪を生み、罪成りて死を生む。**16** わが愛する兄弟よ、自ら欺くな。**17** 凡ての善き賜物と凡ての全き賜物とは、上より、もろもろの光の父より降るなり。父は變ることなく、また回轉の影もなき者なり。**18** その造

り給へる物の中にて我らを初穂のごとき者たらしめんとて、御旨のままに眞理の言をもて、我らを生み給へり。 **19** わが愛する兄弟よ、汝らは之を知る。されば、おのおの聴くことを速かにし、語ることを遅くし、怒ることを遅くせよ。 **20** 人の怒は神の義を行はざればなり。 **21** されば凡ての穢と溢るる惡とを捨て、柔和をもて其の植ゑられたる所の靈魂を救ひ得る言を受けよ。 **22** ただ御言を聞くのみにして、己を欺く者とならず、之を行ふ者となれ。 **23** それ御言を聞くのみにして之を行はぬ者は、鏡にて己が生來の顔を見る人に似たり。 **24** 己をうつし見て立ち去れば、直ちにその如何なる姿なりしかを忘る。 **25** されど全き律法、すなはち自由の律法を懇ろに見て離れぬ者は、業を行ふ者にして、聞きて忘るる者にあらず、その行爲によりて幸福ならん。 **26** 人もし自ら信心ふかき者と思ひて、その舌に轡を著けず、己が心を欺かば、その信心は空しきなり。 **27** 父なる神の前に潔くして穢なき信心は、孤兒と寡婦とをその患難の時に見舞ひ、また自ら守りて世に汚されぬ是なり。

2 わが兄弟よ、榮光の主なる我らの主イエス・キリストに對する信仰を保たんには、人を偏り視るな。
2 金の指輪をはめ華美なる衣を著たる人、なんぢらの會堂に入りきたり、また粗末なる衣を著たる貧しき者いり來らん、 **3** 汝等その華美なる衣を著たる人を重んじ視て『なんぢ此の善き處に坐せよ』と言ひ、また貧しき者に『なんぢ彼處に立つか、又はわが足下に坐せよ』と言はば、 **4** 汝らの中にて區別をなし、また惡しき思をもてる審判人となるに非ずや。
5 わが愛する兄弟よ、聴け、神は世の貧しき者を選び

て信仰に富ませ、神を愛する者に約束し給ひし國の世繼たらしめ給ひしに非ずや。 6 然るに汝らは貧しき者を輕んじたり、汝らを虐げ、また裁判所に曳くものは、富める者にあらずや。 7 彼らは汝らの上に稱へらるる尊き名を汚すものに非ずや。 8 汝等もし聖書にある『おのれの如く汝の隣を愛すべし』との尊き律法を全うせば、その爲すところ善し。 9 されど若し人を偏り視れば、これ罪を行ふなり。律法、なんぢらを犯罪者と定めん。 10 人、律法全體を守るとも、その一つに躓かば是すべてを犯すなり。 11 それ『姦淫する勿れ』と宣ひし者、また『殺す勿れ』と宣ひたれば、なんぢ姦淫せずとも、若し人を殺さば律法を破る者となるなり、 12 なんぢら自由の律法によりて審かれんとする者のごとく語り、かつ行ふべし。 13 憐憫を行はぬ者は憐憫なき審判を受けん、憐憫は審判にむかひて勝ち誇るなり。 14 わが兄弟よ、人みづから信仰ありと言ひて、もし行爲なくば何の益かあらん、かかる信仰は彼を救ひ得んや。 15 もし兄弟 或は姉妹、裸體にて日用の食物に乏しからんとき、 16 汝等のうち、或人これに『安らかにして往け、温かなれ、飽くことを得よ』といひて體に無くてならぬ物を與へずば、何の益かあらん。 17 斯くのごとく信仰もし行爲なくば、死にたる者なり。 18 人もまた言はん『なんぢ信仰あり、われ行爲あり、汝の行爲なき信仰を我に示せ、我わが行爲によりて信仰を汝に示さん』と。 19 なんぢ神は唯一なりと信ずるか、かく信ずるは善し、惡鬼も亦 信じて慄けり。 20 ああ虚しき人よ、なんぢ行爲なき信仰の徒然なるを知らんと欲するか。 21 我らの父アブラハムは

その子イサクを祭壇に献げしとき、行爲によりて義とせられたるに非ずや。 22 なんぢ見るべし、その信仰、行爲と共にはたらき、行爲によりて全うせられたるを。 23 またアブラハム神を信じ、その信仰を義と認められたりと云へる聖書は成就し、かつ彼は神の友と稱へられたり。 24 かく人の義とせらるるは、ただ信仰のみに由らずして行爲に由ることは、汝らの見る所なり。 25 また遊女ラハブも使者を受け、これを他の途より去らせたるとき、行爲によりて義とせられたるに非ずや。 26 靈魂なき體の死にたる者なるが如く、行爲なき信仰も死にたるものなり。

3 わが兄弟よ、なんぢら多く教師となるな。教師たる我らの更に厳しき審判を受くることを、汝ら知ればなり。 2 我らは皆しばしば躓く者なり、人もし言に蹉跌なくば、これ全き人にして全身に轡を著け得るなり。 3 われら馬を己に馴はせんために轡をその口に置くときは、その全身を馭し得るなり。 4 また船を見よ、その形は大きく、かつ激しき風に追はるるとも、最小き舵にて舵人の欲するままに運すなり。 5 斯くのごとく舌もまた小きものなれど、その誇るところ大なり。視よ、いかに小き火の、いかに大なる林を燃すかを。 6 舌は火なり、不義の世界なり、舌は我らの肢體の中にて、全身を汚し、また地獄より燃え出でて一生の車輪を燃すものなり。 (Geenna g1067)

7 獸・鳥・匍ふもの・海にあるもの等、さまざまの種類みな制せらる、既に人に制せられたり。 8 されど誰も舌を制すること能はず、舌は動きて止まぬ惡にして死の毒の満つるものなり。 9 われら之をもて主たる父を讃め、また之をもて神に象りて造られたる

人を詛ふ。10 讚美と呪詛と同じ口より出づ。わが兄弟よ、かかる事はあるべきにあらず。11 泉は同じ穴より甘き水と苦き水とを出さんや。12 わが兄弟よ、無花果の樹オリブの實を結び、葡萄の樹、無花果の實を結ぶことを得んや。斯くのごとく鹽 水は甘き水を出すこと能はず。13 汝等のうち智くして慧き者は誰なるか、その人は善き行状により柔和なる智慧をもて行爲を顯すべし。14 されど汝等もし心のうちに苦き妬と黨派心とを懷かば、誇るな、眞理に悖りて偽るな。15 かかる智慧は上より下るにあらず、地に屬し、情慾に屬し、惡鬼に屬するものなり。16 妬と黨派心とある所には亂と各様の惡しき業とあればなり。17 されど上よりの智慧は第一に潔よく、次に平和・寛容・温順また憐憫と善き果とに満ち、人を偏り視ず、虚偽なきものなり。18 義の果は平和をおこなふ者の平和をもて播くに因るなり。

4 汝等のうちの戦争は何處よりか、分争は何處よりか、汝らの肢體のうちに戦ふ慾より來るにあらずや。2 汝ら貪れども得ず、殺すことをなし、妬むことを爲れども得ること能はず、汝らは争ひまた戦す。汝らの得ざるは求めざるに因りてなり。3 汝ら求めてなほ受けざるは慾のために費さんとして妄に求むるが故なり。4 姦淫をおこなふ者よ、世の友となるは、神に敵するなるを知らぬか、誰にても世の友とならんと欲する者は、己を神の敵とするなり。5 聖書に『神は我らの衷に住ませ給ひし靈を、妬むほどに慕ひたまふ』と云へるを虚しきことと汝ら思ふか。6 神は更に大なる恩恵を賜ふ。されば言ふ『神は高ぶる者を拒ぎ、へりくだる者に恩恵を與へ給ふ』と。

7 この故に汝ら神に服へ、悪魔に立ち向へ、さらば彼なんぢらを逃げ去らん。 8 神に近づけ、さらば神なんぢらに近づき給はん。罪人よ、手を淨めよ、二心の者よ、心を潔よくせよ。 9 なんぢら惱め、悲しめ、泣け、なんぢらの笑を悲歎に、なんぢらの歡喜を憂に易へよ。 10 主の前に己を卑うせよ、然らば主なんぢらを高うし給はん。 11 兄弟よ、互に誇るな。兄弟を誇る者、兄弟を審く者は、これ律法を誹り、律法を審くなり。汝もし律法を審かば、律法をおこなふ者にあらずして審判人なり。 12 立法者また審判者は唯一人にして、救ふことをも滅ぼすことをも爲し得るなり。なんぢ誰なれば隣を審くか。 13 聽け『われら今日もしくは明日それがしの町に往きて、一年の間かしこに留り、賣買して利を得ん』と言ふ者よ、 14 汝らは明日のことを知らず、汝らの生命は何ぞ、暫く現れて遂に消ゆる霧なり。 15 汝等その言ふところに易へて『主の御意ならば、我ら生きて此のこと、或は彼のことを爲さん』と言ふべきなり。 16 されど今なんぢらは高ぶりて誇る、斯くのごとき誇はみな悪しきなり。 17 人善を行ふことを知りて、之を行はぬは罪なり。

5 聽け、富める者よ、なんぢらの上に来らんとする艱難のために泣きさけべ。 2 汝らの財は朽ち、汝らの衣は蠹み、 3 汝らの金銀は錆びたり。この錆なんぢらに對ひて證をなし、かつ火のごとく汝らの肉を蝕はん。汝等この末の世に在りてなほ財を蓄へたり。 4 視よ、汝等がその畑を刈り入れたる労働人に拂はざりし値は叫び、その刈りし者の呼聲は萬軍の主の耳に入れり。 5 汝らは地にて奢り楽しみ、屠らる

る日に在りて尚おのが心を飽かせり。 6 汝らは正しき者を罪に定め、且これを殺せり、彼は汝らに抵抗することなし。 7 兄弟よ、主の來り給ふまで耐へ忍べ。視よ、農夫は地の貴き實を、前と後との雨を得るまで耐へ忍びて待つなり。 8 汝らも耐へ忍べ、なんぢらの心を堅うせよ。主の來り給ふこと近づきたればなり。 9 兄弟よ、互に怨言をいふな、恐らくは審かれん。視よ、審判主、門の前に立ちたまふ。 10 兄弟よ、主の名によりて語りし預言者たちを苦難と耐忍との模範とせよ。 11 視よ、我らは忍ぶ者を幸福なりと思ふ。なんぢらヨブの忍耐を聞けり、主の彼に成し給ひし果を見たり、即ち主は慈悲ふかく、かつ憐憫あるものなり。 12 わが兄弟よ、何事よりも先づ誓ふな、或は天、あるひは地、あるひは其の他のものを指して誓ふな。只なんぢら然りは然り否は否とせよ、罪に定めらるる事なからん爲なり。 13 汝等のうち苦しむ者あるか、その人、祈せよ。喜ぶ者あるか、その人、讚美せよ。 14 汝等のうち病める者あるか、その人、教會の長老たちを招け。彼らは主の名により其の人に油をぬりて祈るべし。 15 さらば信仰の祈は病める者を救はん、主かれを起し給はん、もし罪を犯しし事あらば赦されん。 16 この故に互に罪を言ひ表し、かつ癒されんために相互に祈れ、正しき人の祈ははたらきて大なる力あり。 17 エリヤは我らと同じ情をもてる人なるに、雨降らざること切に祈りしかば、三年 六个月的あひだ地に雨降らざりき。 18 かくて再び祈りたれば、天雨を降らし、地その果を生ぜり。 19 わが兄弟よ、汝等のうち眞理より迷ふ者あらんに、誰か之を引回さば、 20 そ

の人は知れ、罪人をその迷へる道より引回す者は、
かれの靈魂を死より救ひ、多くの罪を掩ふことを。

ペテロの手紙第一

1 イエス・キリストの使徒ペテロ、書をポント、ガラテヤ、カパドキヤ、アジヤ、ピテニヤに散りて宿れる者、**2** 即ち父なる神の預じめ知り給ふところに随ひて、御靈の潔により柔順ならんため、イエス・キリストの血の灑を受けんために選ばれたる者に贈る。願はくは恩恵と平安と汝らに増さんことを。**3** 讃むべきかな、我らの主イエス・キリストの父なる神、その大なる憐憫に随ひ、イエス・キリストの死人の中より甦へり給へることに由り、我らを新に生れしめて生ける望を懐かせ、**4** 汝らの爲に天に蓄へある、朽ちず汚れず萎まざる嗣業を繼がしめ給へり。**5** 汝らは終のときに顯れんとて備りたる救を得んために、信仰によりて神の力に護らるるなり。**6** この故に汝ら今しばしの程さまざまの試煉によりて憂へざるを得ずとも、なほ大に喜べり。**7** 汝らの信仰の驗は、壞つる金の火にためさるるよりも貴くして、イエス・キリストの現れ給ふとき譽と光榮と尊貴とを得べきなり。**8** 汝らイエスを見しことなけれど之を愛し、今見ざれども之を信じて、言ひがたく、かつ光榮ある喜悅をもて喜ぶ。**9** これ信仰の極、すなはち靈魂の救を受くるに因る。**10** 汝らの受くべき恩恵を預言したる預言者たちは、この救につきて具に尋ね査べたり。**11** 即ち彼らは己が中に在すキリストの靈の、キリストの受くべき苦難および其の後の榮光を預じめ證して、何時のころ如何なる時を示し給ひしかを査べたり。**12** 彼等はその勤むるところ己のためにあらず、汝らの爲なることを黙示によりて知れり。即ち天より遣され給へる聖靈によりて福

音を宣ぶる者どもの、汝らに傳へたる所にして、御使たちも之を懇ろに視んと欲するなり。13 この故に、なんぢら心の腰に帶し、慎みてイエス・キリストの現れ給ふときに、與へられんとする恩恵を疑はずして望め。14 従順なる子等の如くして、前の無知なりし時の愆に效はず、15 汝らを召し給ひし聖者に效ひて、自ら凡ての行状に潔かれ。16 録して『われ聖なれば、汝らも聖なるべし』とあればなり。17 また偏ることなく各人の業に隨ひて審きたまふ者を父と呼ばば、畏をもて世に寓る時を過せ。18 なんぢらが先祖たちより傳はりたる虚しき行状より贖はれしは、銀や金のごとき朽つる物に由るにあらず、19 瑕なく汚點なき羔羊の如きキリストの貴き血に由ることを知ればなり。20 彼は世の創の前より預じめ知られたまひしが、この末の世に現れ給へり。21 これは彼を死人の中より甦へらせて之に榮光を與へ給ひし神を、彼によりて信ずる汝らの爲なり、この故に汝らの信仰と希望とは神に由れり。22 なんぢら眞理に従ふによりて靈魂をきよめ、偽りなく兄弟を愛するに至りたれば、心より熱く相愛せよ。23 汝らは朽つる種に由らで、朽つることなき種、すなはち神の活ける限りなく保つ言に由りて新に生れたればなり。(aiōn g165) 24 『人はみな草のごとく、その光榮はみな草の花の如し、草は枯れ、花は落つ。25 されど主の御言は永遠に保つなり』汝らに宣傳へたる福音の言は即ちこれなり。(aiōn g165)

2 されば凡ての悪意、すべての詭計・偽善・嫉妬および凡ての謗を棄てて、**2** いま生れし嬰兒のごとく靈の眞の乳を慕へ、之により育ちて救に至らん爲な

り。 3 なんぢら既に主の仁慈あることを味ひ知りたらんには、然すべきなり。 4 主は人に棄てられ給へど、神に選ばれたる貴き活ける石なり。 5 なんぢら彼にきたり、活ける石のごとく建てられて靈の家となれ。これ潔き祭司となり、イエス・キリストに由りて神に喜ばるる靈の犠牲を献げん爲なり。 6 聖書に『視よ、選ばれたる貴き隅の首石を我シオンに置く。之に依頼む者は辱しめられじ』とあるなり。 7 されば信ずる汝らには尊きなれど、信ぜぬ者には『造家者らの棄てたる石は、隅の首石となれる』にて、 8 『つまづく石、礙ぐる岩』となるなり。彼らは服はぬに因りて御言に躓く。これは斯く定められたるなり。 9 されど汝らは選ばれたる族、王なる祭司・潔き國人・神に屬ける民なり、これ汝らを暗黒より召して、己の妙なる光に入れ給ひし者の譽を顯させん爲なり。 10 なんぢら前には民にあらざりしが、今は神の民なり。前には憐憫を蒙らざりしが、今は憐憫を蒙れり。 11 愛する者よ、われ汝らに勸む。汝らは旅人また宿れる者なれば、靈魂に逆ひて戦ふ肉の慾を避け、 12 異邦人の中にありて行状を美しく爲よ、これ汝らを謗りて悪をおこなふ者と云へる人々の、汝らの善き行爲を見て、反つて眷顧の日に神を崇めん爲なり。 13 なんぢら主のために凡て人の立てたる制度に服へ。或は上に在る王、 14 或は悪をおこなふ者を罰し、善をおこなふ者を賞せんために王より遣されたる司に服へ。 15 善を行ひて愚なる人の無知の言を止むるは、神の御意なればなり。 16 なんぢら自由なる者のごとくすとも、その自由をもて惡の覆となさず、神の僕のごとくせよ。 17 なんぢら凡て

の人を敬ひ、兄弟を愛し、神を畏れ、王を尊べ。 **18** 僕たる者よ、大なる畏をもて主人に服へ、畜に善きもの、寛容なる者にのみならず、情なき者にも服へ、 **19** 人もし受くべからざる苦難を受け、神を認むるに因りて憂に堪ふる事をせば、これ譽むべきなり。 **20** もし罪を犯して撻たるるとき、之を忍ぶとも何の功かある。されど若し善を行ひてなほ苦しめらるる時これを忍ばば、これ神の譽めたまふ所なり。 **21** 汝らは之がために召されたり、キリストも汝らの爲に苦難をうけ、汝らを其の足跡に隨はしめんとして模範を遺し給へるなり。 **22** 彼は罪を犯さず、その口に虚偽なく、 **23** また罵られて罵らず、苦しめられて脅かさず、正しく審きたまふ者に己を委ね、 **24** 木の上に懸りて、みづから我らの罪を己が身に負ひ給へり。これ我らが罪に就きて死に、義に就きて生きん爲なり。汝らは彼の傷によりて癒されたり。 **25** なんぢら前には羊のごとく迷ひたりしが、今は汝らの靈魂の牧者たる監督に歸りたり。

3 妻たる者よ、汝らもその夫に服へ。たとひ御言に遵はぬ夫ありとも、汝らの潔く、かつ恭敬しき行状を見て、言によらず妻の行状によりて救に入らん爲なり。 **2** 妻たる者よ、汝らもその夫に服へ。たとひ御言に遵はぬ夫ありとも、汝らの潔く、かつ恭敬しき行状を見て、言によらず妻の行状によりて救に入らん爲なり。 **3** 汝らは髪を辯み、金をかけ、衣服を装ふごとき表面のものを飾とせず、 **4** 心のうちの隠れたる人、すなはち柔和、恬靜なる靈の朽ちぬ物を飾とすべし、是こそは神の前にて價 貴きものなれ。 **5** むかし神に望を置きたる潔き女たちも、かくの如く

その夫に服ひて己を飾りたり。 6 即ちサラがアブラハムを主と呼びて之に服ひし如し。汝らも善を行ひて何事にも戦き懼れずばサラの子たるなり。 7 夫たる者よ、汝らその妻を己より弱き器の如くし、知識にしたがひて偕に棲み、生命の恩恵を共に嗣ぐ者として之を貴べ、これ汝らの祈に妨害なからん爲なり。 8 終に言ふ、汝らみな心を同じうし、互に思ひ遣り、兄弟を愛し、憐み、へりくだり、 9 悪をもて悪に、謗をもて謗に報ゆることなく、反つて之を祝福せよ。汝らの召されたるは祝福を嗣がん爲なればなり。 10 『生命を愛し、善き日を送らんとする者は、舌を抑へて悪を避け、口唇を抑へて虚偽を語らず、 11 悪より遠ざかりて善をおこなひ、平和を求めて之を追ふべし。 12 それ主の目は義人の上にとどまり、その耳は彼らの祈にかたむく。されど主の御顔は悪をおこなふ者に向ふ』 13 汝等もし善に熱心ならば、誰か汝らを害はん。 14 たとひ義のために苦しめらるる事ありとも、汝ら幸福なり『彼等の威嚇を懼るな、また心を騒がすな』 15 心の中にキリストを主と崇めよ、また汝らの衷にある望の理由を問ふ人には、柔和と畏懼とをもて常に辯明すべき準備をなし、 16 かつ善き良心を保て。これ汝等のキリストに在りて行ふ善き行状を罵る者の、その謗ることに就きて自ら愧ぢん爲なり。 17 もし善をおこなひて苦難を受くること神の御意ならば、悪を行ひて苦難を受くるに勝るなり。 18 キリストも汝らを神に近づかせんとて、正しきもの正しからぬ者に代りて、一たび罪のために死に給へり、彼は肉體にて殺され、靈にて生かさ給へるなり。 19 また靈にて行き、獄にある靈

に宣傳へたまへり。 20 これらの靈は、昔ノアの時代に方舟の備へらるるあひだ寛容をもて神の待ち給へるとき、服はざりし者どもなり、その方舟に入り水を経て救はれし者は、僅にしてただ八人なりき。 21 その水に象れるバプテスマは肉の汚穢を除くにあらざ、善き良心の神に對する要求にして、イエス・キリストの復活によりて今なんぢらを救ふ。 22 彼は天に昇りて神の右に在す。御使たち及びもろもろの權威と能力とは彼に服ふなり。

4 キリスト肉體にて苦難を受け給ひたれば、汝らも亦おなじ心をもて自ら鎧へ。——肉體にて苦難を受くる者は罪を止むるなり—— 2 これ今よりのち、人の慾に従はず、神の御意に従ひて、肉體に寓れる殘の時を過さん爲なり。 3 なんぢら過ぎにし日は、異邦人の好む所をおこなひ、好色・慾情・酩酊・宴樂・暴飲・律法にかなはぬ偶像崇拜に歩みて、もはや足れり。 4 彼らは汝らの己とともに放蕩の極に走らぬを怪しみて譏るなり。 5 彼らは生ける者と死にたる者とを審く準備をなし給へる者に己のことを陳ぶべし。 6 福音の死にたる者に宣傳へられしは、彼らが肉體にて人のごとく審かれ、靈にて神のごとく生きん爲なり。 7 萬の物のをはり近づけり、然れば汝ら心を慥にし、慎みて祈せよ。 8 何事よりも先づ互に熱く相愛せよ。愛は多くの罪を掩へばなり。 9 また吝むことなく互に懇ろに待せ。 10 神のさまさまの恩恵を掌どる善き家司のごとく、各人その受けし賜物をもて互に事へよ。 11 もし語るならば、神の言をかたる者のごとく語り、事ふるならば、神の與へたまふ能力を受けたる者のごとく事へよ。是イエス・

キリストによりて事々に神の崇められ給はん爲なり。
。榮光と權力とは世々限りなく彼に歸するなり、ア
メン。(aiōn g165) **12** 愛する者よ、汝らを試みんとて
來れる火のごとき試煉を異なる事として怪しまず、
13 反つてキリストの苦難に與れば、與るほど喜べ、
なんぢら彼の榮光の顯れん時にも喜び樂しまん爲な
り。 **14** もし汝等キリストの名のために謗られなば
幸福なり。榮光の御靈すなはち神の御靈なんじら
の上に留り給へばなり。 **15** 汝等のうち誰にても或は
殺人、あるひは盗人、あるひは惡を行ふ者、あるひ
は妄に他人の事に干渉する者となりて苦難に遭ふな
。 **16** されど若しキリステアンたるをもて苦難を受け
なば、之を恥づることなく、反つて此の名によりて
神を崇めよ。 **17** 既に時いたれり、審判は神の家より
始るべし。まづ我等より始るとせば、神の福音に従
はざる者のその結局は如何にぞや。 **18** 義人もし辛う
じて救はるるならば、不敬虔なるもの、罪ある者は
何處にか立たん。 **19** されば神の御意に従ひて苦難を
受くる者は、善を行ひて己が靈魂を眞實なる造物主
にゆだね奉るべし。

5 われ汝らの中なる長老たちに勸む（我は汝らと同
じく長老たる者、またキリストの苦難の證人、顯れ
んとする榮光に與る者なり） **2** 汝らの中にある神の
群羊を牧へ。止むを得ずして爲さず、神に従ひて心
より爲し、利を貪るために爲さず、悦びてなし、 **3**
委ねられたる者の主とならず、群羊の模範となれ。
4 さらば大牧者の現れ給ふとき、萎まざる光榮の冠冕
を受けん。 **5** 若き者よ、なんぢら長老たちに服へ、
かつ皆たがひに謙遜をまとへ『神は高ぶる者を拒ぎ

、へりくだる者に恩恵を與へ給ふ』 6 この故に神の能力ある御手の下に己を卑うせよ、さらば時に及びて神なんぢらを高くし給はん。 7 又もろもろの心勞を神に委ねよ、神なんぢらの爲に慮ばかり給へばなり。 8 慎みて目を覺しをれ、汝らの仇なる悪魔、ほゆる獅子のごとく歴廻りて呑むべきものを尋ぬ。 9 なんぢら信仰を堅うして彼を禦げ、なんぢらは世にある兄弟たちの同じ苦難に遭ふを知ればなり。 10 もろもろの恩恵の神、すなはち永遠の榮光を受けしめんとて、キリストによりて汝らを召し給へる神は、汝らが暫く苦難をうくる後、なんぢらを全うし、堅うし、強くして、その基を定め給はん。(aiōnios g166) 11 願はくは權力世々限りなく神にあれ、アアメン。(aiōn g165) 12 われ忠實なる兄弟なりと思ふシルワノに由りて、簡単に書き贈りて汝らに勧め、かつ此は神の眞の恩恵なることを證す、汝等この恩恵に立て。 13 汝らと共に選ばれてバビロンに在る教會、なんぢらに安否を問ふ、わが子マルコも安否を問ふ。 14 なんぢら愛の接吻をもて互に安否を問へ。願はくはキリストに在る汝ら衆に平安あらんことを。

ペテロの手紙第二

1 イエス・キリストの僕また使徒なるシメオン・ペテロ、書を我らの神および救主イエス・キリストの義によりて、我らと同じ貴き信仰を受けたる者に贈る。**2** 願はくは神および我らの主イエスを知るによりて、恩恵と平安と汝らに増さんことを。**3** キリストの神たる能力は、生命と敬虔とに係る凡てのものを我らに賜へり。是おのれの榮光と徳とをもて召し給へる者を我ら知るに困りてなり。**4** その榮光と徳とによりて我らに貴き大なる約束を賜へり、これは汝らが世に在る愆の滅亡をのがれ、神の性質に與る者とならん爲なり。**5** この故に勵み勉めて汝らの信仰に徳を加へ、徳に知識を、**6** 知識に節制を、節制に忍耐を、忍耐に敬虔を、**7** 敬虔に兄弟の愛を、兄弟の愛に博愛を加へよ。**8** 此等のもの汝らの衷にありて彌増すときは、汝等われらの主イエス・キリストを知るに怠ることなく、實を結ばぬこと無きに至らん。**9** 此等のものの無きは盲人にして遠く見ること能はず、己が舊き罪を潔められしことを忘れたるなり。**10** この故に兄弟よ、ますます勵みて汝らの召されたること、選ばれたることを堅うせよ。若し此等のことを行はば躓くことなからん。**11** かくて汝らは我らの主なる救主イエス・キリストの永遠の國に入る恩恵を豊に與へられん。(aiōnios g166) **12** されば汝らは此等のことを知り、既に受けたる眞理に堅うせられたれど、我つねに此等のことを思ひ出させんとするなり。**13** 我は尚この幕屋に居るあいだ、汝らに思ひ出させて勵ますを正當なりと思ふ。**14** そは我らの主イエス・キリストの我に示し給へるごとく、我

わが幕屋を脱ぎ去ることの速かなるを知ればなり。
15 我また汝等をして我が世を去らん後にも、常に此等のことを思ひ出させんと勉むべし。 16 我らは我らの主イエス・キリストの能力と來りたまふ事とを汝らに告ぐるに、巧なる作話を用ひざりき、我らは親しくその稜威を見し者なり。 17 いとも貴き榮光の中より聲出でて『こは我が愛しむ子なり、我これを悦ぶ』と言ひ給へるとき、主は父なる神より尊貴と榮光とを受け給へり。 18 我らも彼と偕に聖なる山に在りしとき、天より出づる此の聲をきけり。 19 かくて我らが有てる預言の言は堅うせられたり。汝等この言を暗き處にかがやく燈火として、夜明け、明星の汝らの心の中にいづるまで顧みるは善し。 20 なんじら先づ知れ、聖書の預言は、すべて己がままたに釋くべきものにあらぬを。 21 預言は人の心より出でしにあらず、人々 聖靈に動かされ、神によりて語れるものなればなり。

2 されど民のうちに偽預言者おこりき、その如く汝らの中にも偽教師あらん。彼らは滅亡にいたる異端を持ち入れ、己らを買ひ給ひし主をさへ否みて、速かなる滅亡を自ら招くなり。 **2** また多くの人かれらの好色に隨はん、之によりて眞の道を譏らるべし。
3 彼らは貪慾によりて飾言を設け、汝等より利をとらん。彼らの審判は古へより定められたれば遅からず、その滅亡は寝ねず。 **4** 神は罪を犯しし御使たちを赦さずして地獄に投げいれ、之を黒闇の穴におきて審判の時まで看守し、(Tartaroō g5020) **5** また古き世を容さずして、ただ義の宣傳者なるノアと他の七人とをのみ護り、敬虔ならぬ者の世に洪水を來らせ、 **6**

またソドムとゴモラとの町を滅亡に定めて灰となし、後の不敬度をおこなふ者の鑑とし、7ただ無法の者どもの好色の擧動を憂ひし正しきロトのみを救ひ給へり。8（この正しき人は彼らの中に住みて、日々その不法の行爲を見聞して、己が正しき心を傷めたり）9かく主は敬虔なる者を試煉の中より救ひ、また正しからぬ者を審判の日まで看守して之を罰し、10別けて、肉に随ひて、汚れたる情慾のうちを歩み、權ある者を輕んずる者を罰することを知り給ふ。この曹輩は膽太く放縱にして、尊き者どもを譏りて畏れぬなり。11御使たちはかの尊き者どもに勝りて、大なる權勢と能力とあれど、彼らを主の御前に譏り訴ふることをせず。12然れど、かの曹輩は恰も捕へられ屠らるるために生れたる辯別なき生物のごとし、知らぬことを譏り、不義の價をえて必ず亡さるべし。13彼らは晝もなほ酒食を快樂とし誘惑を樂しみ、汝らと共に宴席に與りて、汚點となり瑕となる。14その目は淫婦にて滿ち罪に飽くことなし、彼らは靈魂の定らぬ者を惑し、その心は貪欲に慣れて呪詛の子たり。15彼らは正しき道を離れて迷ひいで、ベオルの子バラムの道に隨へり。バラムは不義の報を愛して、16その不法を咎められたり。物言はぬ驢馬、人の聲して語り、かの預言者の狂を止めたればなり。17この曹輩は水なき井なり、颶風に逐はるる雲霧なり、黒き闇かれらの爲に備へられたり。18彼らは虚しき誇をかたり、迷の中にある者どもより辛うじて遁れたる者を、肉の慾と好色とをもて惑し、19之に自由を與ふることを約すれど、自己は滅亡の奴隸たり、敗くる者は勝つ者に奴隸とせらる

ればなり。20 彼等もし主なる救主イエス・キリストを知るによりて、世の汚穢をのがれしのち、復これに纏はれて敗くる時は、その後の状は前よりもなほ悪くなるなり。21 義の道を知りて、その傳へられたる聖なる誠命を去り往かんよりは寧ろ義の道を知らぬを勝れりとす。22 俚諺に『犬おのが吐きたる物に歸り來り、豚 身を洗ひてまた泥の中に轉ぶ』と云へるは眞にして、能く彼らに當れり。

3 愛する者よ、われ今この第二の書を汝らに書き贈り、第一なると之とをもて汝らに思ひ出させ、その潔よき心を勵まし、2 聖なる預言者たちの預じめ云ひし言、および汝らの使徒たちの傳へし主なる救主の誠命を憶えさせんとす。3 汝等まづ知れ、末の世には嘲る者 嘲笑をもて來り、おのが慾に隨ひて歩み、4 かつ言はん『主の來りたまふ約束は何處にありや、先祖たちの眠りしのち、萬のもの開闢の初と等しくして變らざるなり』と。5 彼らは殊更に次の事を知らざるなり、即ち古へ神の言によりて天あり、地は水より出で水によりて成立ちしが、6 その時の世は之により水に淹はれて滅びたり。7 されど同じ御言によりて今の天と地とは蓄へられ、火にて焼かれん爲に、敬虔ならぬ人々の審判と滅亡との日まで保たるるなり。8 愛する者よ、なんぢら此の一事を忘るな。主の御前には一日は千年のごとく、千年は一日のごとし。9 主その約束を果すに遅きは、或人の遅しと思ふが如きにあらず、ただ一人の亡ぶるをも望み給はず、凡ての人の悔改に至らんことを望みて汝らを永く忍び給ふなり。10 されど主の日は盜人のごとく來らん、その日には天とどろきて去り、も

ろもろの天體は焼け崩れ、地とそこにある工とは焼け盡きん。 **11** かく此等のものはみな崩るべければ、汝等いかに潔き行状と敬虔とをもて、 **12** 神の日の來るを待ち之を速かにせんことを勉むべきにあらずや、その日には天燃え崩れ、もろもろの天體焼け溶けん。 **13** されど我らは神の約束によりて、義の住むところの新しき天と新しき地とを待つ。 **14** この故に愛する者よ、汝等これを待てば、神の前に汚點なく瑕なく安然に在らんことを勉めよ。 **15** 且われらの主の寛容を救なりと思へ、これは我らの愛する兄弟パウロも、その與へられたる智慧にしたがひ曾て汝らに書き贈りし如し。 **16** 彼はその凡ての書にも此等のことに就きて語る、その中には悟りがたき所あり、無學のもの心の定らぬ者は、他の聖書のごとく之をも強ひ釋きて自ら滅亡を招くなり。 **17** されば愛する者よ、なんぢら預じめ之を知れば、慎みて無法の者の迷にさそはれて己が堅き心を失はず、 **18** ますます我らの主なる救主イエス・キリストの恩寵と主を知る知識とに進め。願はくは今および永遠の日までも榮光かれに在らんことを。 (aiōn g165)

ヨハネの手紙第一

1 太初より有りし所のもの、我等が聞きしところ、目にて見し所、つらつら視て手觸りし所のもの、即ち生命の言につきて、 **2** ——この生命すでに顯れ、われら之を見て證をなし、その曾て父と偕に在して、今われらに顯れ給へる永遠の生命を汝らに告ぐ —— (aiōnios g166) **3** 我らの見しところ聞きし所を汝らに告ぐ、これ汝等をも我らの交際に與らしめん爲なり。我らは父および其の子イエス・キリストの交際に與るなり。 **4** 此等のことを書き贈るは、我らの喜悦の満ちん爲なり。 **5** 我らが彼より聞きて、また汝らに告ぐる音信は是なり、即ち神は光にして少しの暗き所なし。 **6** もし神と交際ありと言ひて暗きうちを歩まば、我ら偽りて眞理を行はざるなり。 **7** もし神の光のうちに在すごとく光のうちを歩まば、我ら互に交際を得、また其の子イエスの血、すべての罪より我らを潔む。 **8** もし罪なしと言はば、是みづから欺けるにて眞理われらの中になし。 **9** もし己の罪を言ひあらはさば、神は眞實にして正しければ、我らの罪を赦し、凡ての不義より我らを潔め給はん。 **10** もし罪を犯したる事なしといはば、これ神を偽者とするなり、神の言われらの中になし。

2 わが若子よ、これらの事を書き贈るは、汝らが罪を犯さざらん爲なり。人もし罪を犯さば、我等のために父の前に助主あり、即ち義なるイエス・キリストなり。 **2** 彼は我らの罪のために宥の供物たり、啻に我らの爲のみならず、また全世界の爲なり。 **3** 我らその誠命を守らば、之によりて彼を知ることを自ら悟る。 **4** 『われ彼を知る』と言ひて其の誠命を守

らぬ者は偽者にして眞理その衷になし。 5 その御言を守る者は誠に神の愛、その衷に全うせらる。之によりて我ら彼に在ることを悟る。 6 彼に居ると言ふ者は、彼の歩み給ひしごとく自ら歩むべきなり。 7 愛する者よ、わが汝らに書き贈るは、新しき誠命にあらず、汝らが初より有てる舊き誠命なり。この舊き誠命は汝らが聞きし所の言なり。 8 然れど我が汝らに書き贈るところは、また新しき誠命にして、主にも汝らにも眞なり、その故は眞の光すでに照りて、暗黒はややに過ぎ去ればなり。 9 光に在りと言ひて其の兄弟を憎むものは、今もなほ暗黒にあるなり。 10 その兄弟を愛する者は、光に居りて顛躓その衷になし。 11 その兄弟を憎む者は暗黒にあり、暗きうちを歩みて己が往くところを知らず、これ暗黒はその眼を矇したればなり。 12 若子よ、我この書を汝らに贈るは、なんぢら主の御名によりて罪を赦されたるに因る。 13 父たちよ、我この書を汝らに贈るは、汝ら太初より在す者を知りたるに因る。若き者よ、我この書を汝らに贈るは、なんぢら悪しき者に勝ちたるに因る。子供よ、我この書を汝らに贈りたるは、汝ら御父を知りたるに因る。 14 父たちよ、我この書を汝らに贈りたるは、汝ら太初より在す者を知りたるに因る。若き者よ、我この書を汝らに贈りたるは、汝ら強くかつ神の言その衷に留り、また悪しき者に勝ちたるに因る。 15 なんぢら世をも世にある物をも愛すな。人もし世を愛せば、御父を愛する愛その衷になし。 16 おほよそ世にあるもの、即ち肉の慾、眼の慾、所有の誇などは、御父より出づるにあらず、世より出づるなり。 17 世と世の慾とは過ぎ往く

、されど神の御意をおこなふ者は永遠に在るなり。

(aiōn g165) 18 子供よ、今は末の時なり、汝らが非キリスト來らんと聞きしごとく、今や非キリスト多く起れり、之によりて我等その末の時なるを知る。 19 彼らは我等より出でゆきたれど、固より我等のものに非ざりき。我らの屬ならば、我らと共に留りしならん。されどその出でゆきしは、皆われらの屬ならぬことの顯れん爲なり。 20 汝らは聖なる者より油を注がれたれば、凡ての事を知る。 21 我この書を汝らに贈るは、汝ら眞理を知らぬ故にあらず、眞理を知り、かつ凡ての虚偽の眞理より出でぬことを知るに因る。 22 偽者は誰なるか、イエスのキリストなるを否む者にあらずや。御父と御子とを否む者は非キリストなり。 23 凡そ御子を否む者は御父をも有たず、御子を言ひあらはす者は御父をも有つなり。 24 初より聞きし所を汝らの衷に居らしめよ。初より聞きしところ汝らの衷に居らば、汝らも御子と御父とに居らん。 25 我らに約し給ひし約束は是なり、即ち永遠の生命なり。 **(aiōnios g166)** 26 汝らを惑す者どもに就きて我これらの事を書き贈る。 27 なんぢらの衷には、主より注がれたる油とどまる故に、人の汝らに物を教ふる要なし。此の油は汝らに凡ての事を教へ、かつ眞にして虚偽なし、汝等はその教へしごとく主に居るなり。 28 されば若子よ、主に居れ。これ主の現れ給ふときに臆することなく、其の來り給ふときに恥づることなからん爲なり。 29 なんぢら主を正しと知らば、凡て正義をおこなふ者の主より生れたることを知らん。

3 視よ、父の我らに賜ひし愛の如何に大なるかを。我ら神の子と稱へらる。既に神の子たり、世の我らを知らぬは、父を知らぬによりてなり。 **2** 愛する者よ、我等いま神の子たり、後いかん、未だ顯れず、主の現れたまふ時われら之に肖んことを知る。我らその眞の状を見るべければなり。 **3** 凡て主による此の希望を懐く者は、その清きがごとく己を潔くす。 **4** すべて罪をおこなふ者は不法を行ふなり、罪は即ち不法なり。 **5** 汝らは知る、主の現れ給ひしは罪を除かん爲なるを。主には罪あることなし。 **6** おほよそ主に居る者は罪を犯さず、おほよそ罪を犯す者は未だ主を見ず、主を知らぬなり。 **7** 若子よ、人に惑さるな、義をおこなふ者は義人なり、即ち主の義なるがごとし。 **8** 罪を行ふものは悪魔より出づ、悪魔は初より罪を犯せばなり。神の子の現れ給ひしは、悪魔の業を毀たん爲なり。 **9** 凡て神より生るる者は罪を行はず、神の種、その衷に止るに由る。彼は神より生るる故に罪を犯すこと能はず。 **10** 之に由りて神の子と悪魔の子とは明かなり。おほよそ義を行はぬ者および己が兄弟を愛せぬ者は神より出づるにあらず。 **11** われら互に相愛すべきは汝らが初より聞きし音信なり。 **12** カインに效ふな、彼は悪しき者より出でて己が兄弟を殺せり。何故ころしたるか、己が行爲は悪しく、その兄弟の行爲は正しかりしに因る。 **13** 兄弟よ、世は汝らを憎むとも怪しむな。 **14** われら兄弟を愛するによりて、死より生命に移りしを知る、愛せぬ者は死のうちに居る。 **15** おほよそ兄弟を憎む者は即ち人を殺す者なり、凡そ人を殺す者の、その内に永遠の生命なきを汝らは知る。 (aiōnios g166) **16**

主は我らの爲に生命を捨てたまへり、之によりて愛といふことを知りたり、我等もまた兄弟のために生命を捨つべきなり。17 世の財寶をもちて兄弟の窮乏を見、反つて憐憫の心を閉づる者は、いかで神の愛その衷にあらんや。18 若子よ、われら言と舌とをもて相愛することなく、行爲と眞實とを以てすべし。19 之に由りて我ら眞理より出でしを知り、且われらの心われらを責むとも神の前に心を安んずべし。20 神は我らの心よりも大にして一切のことを知り給へばなり。21 愛する者よ、我らが心みづから責むる所なくば、神に向ひて懼なし。22 且すべて求むる所を神より受くべし。是の誠命を守りて御心にかなふ所を行へばなり。23 その誠命はこれなり、即ち我ら神の子イエス・キリストの名を信じ、その命じ給ひしごとく互に相愛すべきことなり。24 神の誠命を守る者は神に居り、神もまた彼に居給ふ。我らその賜ふところの御靈に由りて其の我らに居給ふことを知るなり。

4 愛する者よ、凡ての靈を信ずな、その靈の神より出づるか否かを試みよ。多くの偽預言者世に出でたればなり。2 凡そイエス・キリストの肉體にて來り給ひしことを言ひあらはず靈は神より出づ、なんぢら之によりて神の御靈を知るべし。3 凡そイエスを言ひ表さぬ靈は神より出でしにあらず、これは非キリストの靈なり。その來ることは汝ら聞けり、この靈いま既に世にあり。4 若子よ、汝らは神より出でし者にして既に彼らに勝てり。汝らに居給ふ者は世に居る者よりも大なればなり。5 彼らは世より出でし者なり、之によりて世の事のかたり、世も亦かれ

らに聴く。 6 我らは神より出でし者なり。神を知る者は我らに聴き、神より出でぬ者は我らに聴かず。之によりて眞理の靈と迷謬の靈とを知る。 7 愛する者よ、われら互に相愛すべし。愛は神より出づ、おほよそ愛ある者は、神より生れ神を知るなり。 8 愛なき者は、神を知らず、神は愛なればなり。 9 神の愛われらに顯れたり。神はその生み給へる獨子を世に遣し、我等をして彼によりて生命を得しめ給ふに因る。 10 愛といふは、我ら神を愛せしにあらざ、神われらを愛し、その子を遣して我らの罪のために宥の供物となし給ひし是なり。 11 愛する者よ、斯くのごとく神われらを愛し給ひたれば、我らも亦たがひに相愛すべし。 12 未だ神を見し者あらず、我等もし互に相愛せば、神われらに在し、その愛も亦われらに全うせらる。 13 神、御靈を賜ひしに因りて、我ら神に居り神われらに居給ふことを知る。 14 又われら父のその子を遣して世の救主となし給ひしを見て、その證をなすなり。 15 凡そイエスを神の子と言ひあらはす者は、神かれに居り、かれ神に居る。 16 我らに對する神の愛を我ら既に知り、かつ信ず。神は愛なり、愛に居る者は神に居り、神も亦かれに居給ふ。 17 かく我らの愛完全をえて、審判の日に懼なからしむ。我等この世にありて主の如くなるに因る。 18 愛には懼なし、全き愛は懼を除く、懼には苦難あればなり。懼るる者は、愛いまだ全からず。 19 我らの愛するは、神まづ我らを愛し給ふによる。 20 人もし『われ神を愛す』と言ひて、その兄弟を憎まば、これ偽者なり。既に見るところの兄弟を愛せぬ者は、未だ見ぬ神を愛すること能はず。 21 神を愛する

者は亦その兄弟をも愛すべし。我等この誠命を神より受けたり。

5 凡そイエスをキリストと信ずる者は、神より生れたるなり。おほよそ之を生み給ひし神を愛する者は、神より生れたる者をも愛す。 **2** 我等もし神を愛して、その誠命を行はば、之によりて神の子供を愛することを知る。 **3** 神の誠命を守るは即ち神を愛するなり、而してその誠命は難からず。 **4** おほよそ神より生るる者は世に勝つ、世に勝つ勝利は我らの信仰なり。 **5** 世に勝つものは誰ぞ、イエスを神の子と信ずる者にあらずや。 **6** これ水と血とに由りて來り給ひし者、即ちイエス・キリストなり。啻に水のみならず、水と血とをもて來り給ひしなり。 **7** 證する者は御靈なり。御靈は眞理なればなり。 **8** 證する者は三つ、御靈と水と血となり。この三つ合ひて一つとなる。 **9** 我等もし人の證を受けんには、神の證は更に大なり。神の證はその子につきて證し給ひし是なり。 **10** 神の子を信ずる者はその衷にこの證をもち、神を信ぜぬ者は神を偽者とす。これ神その子につきて證せし證を信ぜぬが故なり。 **11** その證はこれなり、神は永遠の生命を我らに賜へり、この生命はその子にあり。 (aiōnios g166) **12** 御子をもつ者は生命をもち、神の子をもたぬ者は生命をもたず。 **13** われ神の子の名を信ずる汝らに此等のことを書き贈るは、汝らに自ら永遠の生命を有つことを知らしめん爲なり。 (aiōnios g166) **14** 我らが神に向ひて確信する所は是なり、即ち御意にかなふ事を求めば、必ず聽き給ふ。 **15** かく求むるところ、何事にても聽き給ふと知れば、求めし願を得たる事をも知るなり。 **16** 人もし其の兄

弟の死に至らぬ罪を犯すを見ば、神に求むべし。さらば彼に、死に至らぬ罪を犯す人々に生命を與へ給はん。死に至る罪あり、我これに就きて請ふべしと言はず。 **17** 凡ての不義は罪なり、されど死に至らぬ罪あり。 **18** 凡て神より生れたる者の罪を犯さぬことを我らは知る。神より生れ給ひし者、これを守りたまふ故に、悪しきもの觸る事をせざるなり。 **19** 我らは神より出で、全世界は悪しき者に屬するを我らは知る。 **20** また神の子すでに來りて我らに眞の者を知る知識を賜ひしを我らは知る。而して我らは眞の者に居り、その子イエス・キリストに居るなり、彼は眞の神にして永遠の生命なり。 (aiōnios g166) **21** 若子よ、自ら守りて偶像に遠ざかれ。

ヨハネの手紙第二

1長老、書を選ばれたる婦人および其の子供に贈る。われ眞をもて汝らを愛す。啻に我のみならず、凡て眞理を知る者はみな汝らを愛す。 **2**これは我らの衷に止りて永遠に偕にあらんとする眞理に因りてなり。 (aiōn g165) **3**父なる神および父の子イエス・キリストより賜ふ恩恵と憐憫と平安とは、眞と愛との中にて我らと偕にあらん。 **4**われ汝の子供のうちに、我らが父より誠命を受けし如く、眞理に循ひて歩む者あるを見て甚だ喜べり。 **5**婦人よ、われ今なんぢに願ふは、我らが互に相愛すべき事なり。これは新しき誠命を書き贈るにあらず、我らが初より有てる誠命なり。 **6**彼の誠命に循ひて歩むは即ち愛なり、汝らが初より聞きしごとく、愛に歩むは即ち誠命なり。 **7**人を惑すもの多く世にいで、イエス・キリストの肉體にて來り給ひしことを言ひ表さず、かかる者は人を惑す者にして、非キリストなり。 **8**なんぢら我らが働かし所を空しくせず、満ち足れる報を得んために自ら心せよ。 **9**凡そキリストの教に居らずして、之を越えゆく者は神を有たず、キリストの教にをる者は父と子とを有つなり。 **10**人もし此の教を有たずして汝らに來らば、之を家に入るな、安かれと言ふな。 **11**之に安かれと言ふ者は、その惡しき行爲に與するなり。 **12**我なほ汝らに書き贈ること多くあれど、紙と墨とにてするを好まず、我らの歡喜を充さんために汝等にいたり、顔をあわせて語らんことを望む。 **13**選ばれたる汝の姉妹の子供、なんぢに安否を問ふ。

ヨハネの手紙第三

1長老、書を愛するガイオ、わが眞をもて愛する者に贈る。**2**愛する者よ、我なんぢが靈魂の榮ゆるごとく汝すべての事に榮え、かつ健かならんことを祈る。**3**兄弟たち來りて汝が眞理を保つこと、即ち眞理に循ひて歩むことを證したれば、われ甚だ喜べり。**4**我には我が子供の、眞理に循ひて歩むことを聞くより大なる喜悅はなし。**5**愛する者よ、なんぢ旅人なる兄弟たちにまで行ふ所みな忠實をもて爲せり。**6**かれら教會の前にて汝の愛につきて證せり。なんぢ神の御意に適ふやうに彼らを見送らば、その行ふところ善からん。**7**彼らは異邦人より何をも受けずして御名のために旅立せり。**8**されば斯かる人を助くべきなり、我らも彼らと共に眞理のために働く者とならん爲なり。**9**われ曩に聊か教會に書きおくれり。然れど彼らの中に長たらんと欲するデオテレペス我らを受けず。**10**この故に我もし往かば、その行へる業を思ひ出させん。彼は惡しき言をもて我らを罵り、なほ足れりとせずして自ら兄弟たちを接せず、之を接けんとする者をも拒みて教會より逐ひ出す。**11**愛する者よ、惡に效ふな、善にならへ。善をおこなふ者は神より出で、惡をおこなふ者は未だ神を見ざるなり。**12**デメテリオは凡ての人にも眞理にも證せらる。我等もまた證す、なんぢ我らの證の眞なるを知る。**13**我なほ汝に書き贈ること多くあれど、墨と筆とにてするを欲せず、**14**速かに汝を見、たがひに顔をあはせて語らんことを望む。汝に平安あれ、朋友たち安否を問ふ。なんぢ名をさして友たちに安否を問へ。

ユダの手紙

1 イエス・キリストの僕にしてヤコブの兄弟なるユダ、書を召されたる者、すなはち父なる神に愛せられ、イエス・キリストの爲に守らるる者に贈る。 **2** 願はくは憐憫と平安と愛と、なんぢらに増さんことを。 **3** 愛する者よ、われ我らが共に與る救につき勵みて汝らに書き贈らんとせしが、聖徒の一たび傳へられたる信仰のために戦はんことを勸むる書を、汝らに贈るを必要と思へり。 **4** そは敬虔ならずして我らの神の恩恵を好色に易へ、唯一の主なる我らの主イエス・キリストを否むものども潜り入りたればなり。彼らが此の審判を受くべきことは昔より預じめ録されたり。 **5** 汝らは固より凡ての事を知れど、我さらに汝等をして思ひ出さしめんとする事あり、即ち主エジプトの地より民を救ひ出して、後に信ぜぬ者を亡し給へり。 **6** 又おのが位を保たずして己が居所を離れたる御使を、大なる日の審判まで、闇黒のうちに長久の繩目をもて看守し給へり。 (aīdios g126) **7** ソドム、ゴモラ及びその周圍の町々も亦これと同じく、淫行に耽り、背倫の肉慾に走り、永遠の火の刑罰をうけて鑑とせられたり。 (aīōnios g166) **8** かくの如くかの夢見る者どもも肉を汚し、權威ある者を輕んじ、尊き者を罵る。 **9** 御使の長ミカエル悪魔と論じてモーセの屍體を争ひし時に、敢へて罵りて審かず、唯『ねがはくは主なんぢを戒め給はんことを』と云へり。 **10** されど此の人々は知らぬことを罵り、無知の獸のごとく、自然に知る所によりて亡ぶるなり。 **11** 禍害なるかな、彼らはカインの道にゆき、利のためにバラムの迷に走り、またコラの如き謀反によ

りて亡びたり。 12 彼らは汝らと共に宴席に與り、その愛餐の暗礁たり、憚らずして自己をやしなふ牧者、風に逐はるる水なき雲、枯れて又かれ、根より抜かれたる果なき秋の木、 13 おのが恥を湧き出す海のあらき波、さまよふ星なり。彼らの爲に暗き闇、とこしへに蓄へ置かれたり。 (aiōn g165) 14 アダムより七代に當るエノク彼らに就きて預言せり。曰く『視よ、主はその聖なる千萬の衆を率ゐて來りたまへり。 15 これ凡ての人の審判をなし、すべて敬虔ならぬ者の不敬虔を行ひたる不敬虔の凡ての業と、敬虔ならぬ罪人の、主に逆ひて語りたる凡ての甚だしき言とを責め給はんとてなり』 16 彼らは眩くもの、不満をならず者にして、おのが慾に隨ひて歩み、口に誇をかたり、利のために人に諂ふなり。 17 愛する者よ、汝らは我らの主イエス・キリストの使徒たちの預じめ言ひし言を憶えよ。 18 即ち汝らに曰らく『末の時に嘲る者おこり、己が不敬虔なる慾に隨ひて歩まん』と。 19 彼らは分裂をなし、情慾に屬し、御靈を有たぬ者なり。 20 されど愛する者よ、なんぢらは己がいと潔き信仰の上に徳を建て、聖靈によりて祈り、 21 神の愛のうちに己をまもり、永遠の生命を得るまで我らの主イエス・キリストの憐憫を待て。 (aiōnios g166) 22 また彼らの中なる疑ふ者をあはれみ、 23 或者を火より取出して救ひ、或者をその肉に汚れたる下衣をも厭ひ、かつ懼れつつ憐め。 24 願はくは汝らを守りて躓かしめず、瑕なくして榮光の御前に歡喜をもて立つことを得しめ給ふ者、 25 即ち我らの救主なる唯一の神に、榮光・稜威・權力・權威、わ

れらの主イエス・キリストに由りて、萬世の前にも
今も萬世までも在らんことを、アアメン (aiōn g165)

ヨハネの黙示録

1 これイエス・キリストの黙示なり。即ち、かならず速かに起るべき事を、その僕どもに顯させんとて、神の彼に與へしものなるを、彼その使を僕ヨハネに遣して示し給へるなり。 **2** ヨハネは神の言とイエス・キリストの證とに就きて、その見しところを悉とく證せり。 **3** 此の預言の言を読む者と之を聽きて其の中に録されたることを守る者どもとは幸福なり、時近ければなり。 **4** ヨハネ書をアジヤに在る七つの教會に贈る。願はくは今在し、昔在し、後來りたまふ者、および其の御座の前にある七つの靈、 **5** また忠實なる證人、死人の中より最先に生れ給ひしもの、地の諸王の君なるイエス・キリストより賜ふ恩恵と平安と汝らに在らんことを。願はくは我らを愛し、その血をもて我らを罪より解放ち、 **6** われらを其の父なる神のために國民となし祭司となし給へる者に、世々限りなく榮光と權力とあらんことを、
アアメン。 (aiōn g165) **7** 視よ、彼は雲の中において來りたまふ、諸衆の目、殊に彼を刺したる者これを見ん、かつ地上の諸族みな彼の故に歎かん、然り、アアメン。 **8** 今いまし、昔いまし、後きたり給ふ主なる全能の神いひ給ふ『我はアルパなり、オメガなり』 **9** 汝らの兄弟にして汝らと共にイエスの艱難と國と忍耐とに與る我ヨハネ、神の言とイエスの證との爲にパトモスといふ島に在りき。 **10** われ主日に御靈に感じたるに、我が後にラッパのごとき大なる聲を聞けり。 **11** 曰く『なんぢの見る所のことを書に録して、エペソ、スミルナ、ペルガモ、テアテラ、サルデス、ヒラデルヒヤ、ラオデキヤに在る七つの教

會に贈れ』 12 われ振反りて我に語る聲を見んとし、
振反り見れば七つの金の燈臺あり。 13 また燈臺の間に
人の子のごとき者ありて、足まで垂るる衣を著、
胸に金の帯を束ね、 14 その頭と頭髮とは白き毛のご
とく雪のごとく白く、その目は焰のごとく、 15 その
足は爐にて焼きたる輝ける眞鍮のごとく、その聲は
衆の水の聲のごとし。 16 その右の手に七つの星を持
ち、その口より兩刃の利き劍いで、その顔は烈しく
照る日のごとし。 17 我これを見しとき其の足下に倒
れて死にたる者の如くなれり。彼その右の手を我に
按きて言ひたまふ『懼るな、我は最先なり、最後な
り、 18 活ける者なり、われ曾て死にたりしが、視よ
、世々 限りなく生く。また死と陰府との鍵を有てり
。 (aiōn g165, Hadēs g86) 19 されば汝が見しことと今ある
ことと、後に成らんとする事とを録せ、 20 即ち汝が
見しところの我が右の手にある七つの星と七つの金
の燈臺との奥義なり。七つの星は七つの教會の使に
して、七つの燈臺は七つの教會なり。

2 エペソに在る教會の使に書きおくれ。「右の手に
七つの星を持つ者、七つの金の燈臺の間に歩むもの
斯く言ふ、 2 われ汝の行爲と勞と忍耐とを知る。ま
た汝が悪しき者を忍び得ざることと、自ら使徒と稱
へて使徒にあらぬ者どもを試みて、その虚偽なるを
見あらはししこととを知る。 3 なんぢは忍耐を保ち
、我が名のために忍びて倦まざりき。 4 されど我な
んぢに責むべき所あり、なんぢは初の愛を離れたり
。 5 さればなんぢ何處より墜ちしかを思へ、悔改め
て初の行爲をなせ、然らずして若し悔改めずば、我
なんぢに到り汝の燈臺を、その處より取除かん。 6

されど汝に取るべき所あり、汝はニコライ宗の行爲を憎む、我も之を憎むなり。 7 耳ある者は御靈の諸教會に言ひ給ふことを聽くべし、勝を得る者には、われ神のパラダイスに在る生命の樹の實を食ふことを許さん」 8 スミルナに在る教會の使に書きおくれ。「最先にして最後なる者、死人となりて復 生きし者かく言ふ。 9 われ汝の艱難と貧窮とを知る――されど汝は富める者なり。我はまた自らユダヤ人と稱へてユダヤ人にあらず、サタンの會に屬く者より汝が譏を受くるを知る。 10 なんぢ受けんとする苦難を懼るな、視よ、惡魔なんぢらを試みんとて、汝らの中の或 者を獄に入れんとす。汝ら十日のあひだ患難を受けん、なんぢ死に至るまで忠實なれ、然らば我なんぢに生命の冠冕を與へん。 11 耳ある者は御靈の諸教會に言ひ給ふことを聽くべし。勝を得るものは第二の死に害はるることなし」 12 ペルガモに在る教會の使に書きおくれ。「兩刃の利き劍を持つもの斯く言ふ、 13 われ汝の住むところを知る、彼處にはサタンの座位あり、汝わが名を保ち、わが忠實なる證人アンテパスが、汝等のうち即ちサタンの住む所にて殺されし時も、なほ我を信ずる信仰を棄てざりき。 14 されど我なんぢに責むべき一二の事あり、汝の中にバラムの教を保つ者どもあり、バラムはバラクに教へ、彼をしてイスラエルの子孫の前に躓物を置かしめ、偶像に獻げし物を食はせ、かつ淫行をなさしめたり。 15 斯くのごとく汝らの中にもニコライ宗の教を保つ者あり。 16 さらば悔改めよ、然らずば我すみやかに汝に到り、わが口の劍にて彼らと戦はん。 17 耳ある者は御靈の諸教會に言ひ給ふことを聽

くべし、勝を得る者には我かくれたるマナを與へん、また受くる者の外たれも知らざる新しき名を録したる白き石を與へん」 18 テアテラに在る教會の使に書きおくれ。「目は焰のごとく、足は輝ける眞鍮の如くなる神の子かく言ふ、 19 われ汝の行爲および汝の愛と信仰と職と忍耐とを知る、又なんぢの初の行爲よりは後の行爲の多きことを知る。 20 されど我なんぢに責むべき所あり、汝はかの自ら預言者と稱へて我が僕を教へ惑し、淫行をなさしめ、偶像に献げし物を食はしむる女イゼベルを容れおけり。 21 我かれに悔改むる機を與ふれど、その淫行を悔改むることを欲せず。 22 視よ、我かれを牀に投げ入れん、又かれと共に姦淫を行ふ者も、その行爲を悔改めずば、大なる患難に投げ入れん。 23 又かれの子供を打ち殺さん、斯くてもろもろの教會は、わが人の腎と心とを究むる者なるを知るべし、我は汝等おのおのの行爲に隨ひて報いん。 24 我この他のテアテラの人にして未だかの教を受けず、所謂サタンの深きところを知らぬ汝らに斯くいふ、我ほかの重を汝らに負はせじ。 25 ただ汝等はその有つところを我が到らん時まで保て。 26 勝を得て終に至るまで我が命ぜしことを守る者には、諸國の民を治むる權威を與へん。 27 彼は鐵の杖をもて之を治め、土の器を碎くが如くならん、我が父より我が受けたる權威のごとし。 28 我また彼に曙の明星を與へん。 29 耳ある者は御靈の諸教會に言ひ給ふことを聽くべし」

3 サルデスに在る教會の使に書きおくれ。「神の七つの靈と七つの星とを持つ者かく言ふ、われ汝の行爲を知る、汝は生くる名あれど死にたる者なり。 2

なんぢ目を覺し、殆ど死なんとする殘のものを堅う
せよ、我なんぢの行爲のわが神の前に全からぬを見
とめたり。 3 されば汝の如何に受けしか、如何に聽
きしかを思ひいで、之を守りて悔改めよ。もし目を
覺さずば、盜人のごとく我きたらん、汝わが何れの
時きたるか知らざるべし。 4 されどサルデスにて
衣を汚さぬもの數名あり、彼らは白き衣を著て我と
ともに歩まん、斯くするに相應しき者なればなり。
5 勝を得る者は斯くのごとく白き衣を著せられん、我
その名を生命の書より消し落さず、我が父のまへと
御使の前にてその名を言ひあらはさん。 6 耳ある
者は御靈の諸教會に言ひ給ふことを聽くべし」 7 ヒ
ラデルヒヤにある教會の使に書きおくれ。「聖なる
もの眞なる者、ダビデの鍵を持ちて、開けば閉づる
者なく、閉づれば開く者なき者かく言ふ、 8 われ汝
の行爲を知る、視よ、我なんぢの前に開けたる門を
置く、これを閉ぢ得る者なし。汝すこしの力ありて
、我が言を守り、我が名を否まざりき。 9 視よ、我
サタンの會、すなはち自らユダヤ人と稱へてユダヤ
人にあらず、ただ虚偽をいふ者の中より、或者をして
汝の足下に來り拜せしめ、わが汝を愛せしことを
知らしめん。 10 汝わが忍耐の言を守りし故に、我な
んぢを守りて、地に住む者どもを試むるために全世界
に來らんとする試鍊のときに免れしめん。 11 われ
速かに來らん、汝の有つものを守りて、汝の冠冕を
人に奪はれざれ。 12 われ勝を得る者を我が神の聖所
の柱とせん、彼は再び外に出でざるべし、又かれの
上に、わが神の名および我が神の都、すなはち天よ
り我が神より降る新しきエルサレムの名と、我が新

しき名とを書き記さん。 13 耳ある者は御靈の諸教會に言ひ給ふことを聽くべし」 14 ラオデキヤに在る教會の使に書きおくれ。「アアメンたる者、忠實なる眞なる證人、神の造り給ふものの本源たる者かく言ふ、 15 われ汝の行爲を知る、なんぢは冷かにもあらず熱きにもあらず、我はむしろ汝が冷かならんか、熱からんかを願ふ。 16 かく熱きにもあらず、冷かにもあらず、ただ微温きが故に、我なんぢを我が口より吐き出さん。 17 なんぢ、我は富めり、豊なり、乏しき所なしと言ひて、己が惱める者・憐むべき者・貧しき者・盲目なる者・裸なる者たるを知らざれば、 18 我なんぢに勸む、なんぢ我より火にて煉りたる金を買ひて富め、白き衣を買ひて身に纏ひ、なんぢの裸體の恥を露さざれ、眼藥を買ひて汝の目に塗り、見ることを得よ。 19 凡てわが愛する者は、我これを戒め之を懲す。この故に、なんぢ勵みて悔改めよ。 20 視よ、われ戸の外に立ちて叩く、人もし我が聲を聞きて戸を開かば、我その内に入りて彼とともに食し、彼もまた我とともに食せん。 21 勝を得る者には我とともに我が座位に坐することを許さん、我の勝を得しとき、我が父とともに其の御座に坐したるが如し。 22 耳ある者は御靈の諸教會に言ひ給ふことを聽くべし」』

4 この後われ見しに、視よ、天に開けたる門あり。初に我に語るを聞きしラッパのごとき聲いふ『ここに登れ、我この後おこるべき事を汝に示さん』 2 直ちに、われ御靈に感ぜしが、視よ、天に御座 設けあり。 3 その御座に坐したまふ者あり、その坐し給ふものの状は碧玉・赤瑪瑙のごとく、かつ御座の周圍

には緑玉のごとき虹ありき。4 また御座のまはりに二十四の座位ありて、二十四人の長老、白き衣を纏ひ、首に金の冠冕を戴きて、その座位に坐せり。5 御座より數多の電光と聲と雷霆と出づ。また御座の前に燃えたる七つの燈火あり、これ神の七つの靈なり。6 御座のまへに水晶に似たる玻璃の海あり。御座の中央と御座の周圍とに四つの活物ありて、前も後も數々の目にて満ちたり。7 第一の活物は獅子のごとく、第二の活物は牛のごとく、第三の活物は面のかたち人のごとく、第四の活物は飛ぶ鷲のごとし。8 この四つの活物おのおの六つの翼あり、翼の内も外も數々の目にて満ちたり、日も夜も絶間なく言ふ、『聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、昔いまし、今いまし、のち來りたまふ主たる全能の神』

9 この活物ら御座に坐し、世々限りなく活きたまふ者に榮光と尊崇とを歸し、感謝する時、(aiōn g165) 10 二十四人の長老、御座に坐したまふ者のまへに伏し、世々限りなく活きたまふ者を拜し、おのれの冠冕を御座のまへに投げ出して言ふ、(aiōn g165) 11 『我らの主なる神よ、榮光と尊崇と能力とを受け給ふは宜なり。汝は萬物を造りたまひ、萬物は御意によりて存し、かつ造られたり』

5 我また御座に坐し給ふ者の右の手に、卷物のあるを見たり、その裏表に文字あり、七つの印をもて封ぜらる。2 また大聲に『卷物を開きてその封印を解くに相應しき者は誰ぞ』と呼はる強き御使を見たり。3 然るに天にも地にも、地の下にも、卷物を開きて之を見得る者なかりき。4 卷物を開き、これを見るに相應しき者の見えざりしに因りて、我いたく泣

きるたりしに、**5**長老の一人われに言ふ『泣くな、視よ、ユダの族の獅子・ダビデの萌蘖、すでに勝を得て巻物とその七つの封印とを開き得るなり』**6**我また御座および四つの活物と長老たちとの間に、屠られたるが如き羔羊の立てるを見たり、之に七つの角と七つの目とあり、この目は全世界に遣されたる神の七つの霊なり。**7**かれ來りて御座に坐したまふ者の右の手より巻物を受けたり。**8**巻物を受けたる時、四つの活物および二十四人の長老、おのおの立琴と香の満ちたる金の鉢とをもちて、羔羊の前に平伏せり、此の香は聖徒の祈祷なり。**9**かくて新しき歌を謳ひて言ふ『なんぢは巻物を受け、その封印を解くに相應しきなり、汝は屠られ、その血をもて諸種の族・國語・民・國の中より人々を神のために買ひ、**10**之を我らの神のために國民となし、祭司となし給へばなり。彼らは地の上に王となるべし』**11**我また見しに、御座と活物と長老たちとの周圍にをる多くの御使の聲を聞けり。その數、千々萬々にして、**12**大聲にいふ『屠られ給ひし羔羊こそ、能力と富と知慧と、勢威と尊崇と、榮光と讚美とを受くるに相應しけれ』**13**我また天に、地に、地の下に、海にある萬の造られたる物、また凡てその中にある物の云へるを聞けり。曰く『願はくは御座に坐し給ふものと羔羊とに、讚美と尊崇と榮光と權力と世々限りなくあらん事を』 (aiōn g165) **14**四つの活物はアアメンと言ひ、長老たちは平伏して拜せり。

6羔羊その七つの封印の一つを解き給ひし時、われ見しに、四つの活物の一つが雷霆のごとき聲して『來れ』と言ふを聞けり。**2**また見しに、視よ、白き

馬あり、之に乗るもの弓を持ち、かつ冠冕を與へられ、勝ちて復勝たんとて出でゆけり。 3 第二の封印を解き給ひたれば、第二の活物の『來れ』と言ふを聞けり。 4 かくて赤き馬いで來り、これに乗るもの地より平和を奪ひ取るごとと、人をして互に殺さしむる事とを許され、また大なる劍を與へられたり。 5 第三の封印を解き給ひたれば、第三の活物の『來れ』と言ふを聞けり。われ見しに、視よ、黒き馬あり、之に乗るもの手に權衡を持てり。 6 かくてわれ四つの活物の間より出づるとき聲を聞けり。曰く『小麥五合は一デナリ、大麥一升五合は一デナリなり、油と葡萄酒とを害ふな』 7 第四の封印を解き給ひたれば、第四の活物の『來れ』と言ふを聞けり。 8 われ見しに、視よ、青ざめたる馬あり、之に乗る者の名を死といひ、陰府これに隨ふ。かれらは地の四分の一を支配し、劍と饑饉と死と地の獸とをもて人を殺すことを許されたり。 (Hadēs g86) 9 第五の封印を解き給ひたれば、曾て神の言のため、又その立てし證のために殺されし者の靈魂の祭壇の下に在るを見たり。 10 彼ら大聲に呼はりて言ふ『聖にして眞なる主よ、何時まで審かずして地に住む者に我らの血の復讐をなし給はぬか』 11 ここにおのおの白き衣を與へられ、かつ己等のごとく殺されんとする同じ僕たる者と兄弟との數の滿つるまで、なほ暫く安んじて待つべきを言ひ聞けられたり。 12 第六の封印を解き給ひし時、われ見しに、大なる地震ありて日は荒き毛布のごとく黒く、月は全面血の如くなり、 13 天の星は無花果の樹の大風に搖られて、生り後の果の落つのごとく地におち、 14 天は卷物を卷くごとく

去りゆき、山と島とは悉とくその處を移されたり。

15 地の王たち・大臣・將校・富める者・強き者・奴隷・自主の人、みな洞と山の巖間とに匿れ、 16 山と巖とに對ひて言ふ『請ふ、我らの上に墜ちて御座に坐したまふ者の御顔より、羔羊の怒より、我らを隠せ。 17 そは御怒の大なる日 既に來ればなり。誰か立つことを得ん』

7 この後、われ四人の御使の地の四隅に立つを見たり、彼らは地の四方の風を引止めて、地にも海にも諸種の樹にも風を吹かせざりき。 2 また他の一人の御使の、活ける神の印を持ちて日の出づる方より登るを見たり、かれ地と海とを害ふ權を與へられたる四人の御使にむかひ、大聲に呼はりて言ふ、 3 『われらが我らの神の僕の額に印するまでは、地をも海をも樹をも害ふな』 4 われ印せられたる者の數を聽きしに、イスラエルの子等のもろもろの族の中にて印せられたるもの合せて十四萬 四千あり。 5 ユダの族の中にて一萬 二千 印せられ、ルベンの族の中にて一萬 二千、ガドの族の中にて一萬 二千、 6 アセルの族の中にて一萬 二千、ナフタリの族の中にて一萬 二千、マナセの族の中にて一萬 二千、 7 シメオンの族の中にて一萬 二千、レビの族の中にて一萬 二千、イサカルの族の中にて一萬 二千、 8 ゼブルンの族の中にて一萬 二千、ヨセフの族の中にて一萬 二千、ベニヤミンの族の中にて一萬 二千 印せられたり。 9 この後われ見しに、視よ、もろもろの國・族・民・國語の中より、誰も數へつくすこと能はぬ大なる群衆、しろき衣を纏ひて手に棕櫚の葉をもち、御座と羔羊との前に立ち、 10 大聲に呼はりて言ふ『救は御座に

坐したまふ我らの神と羔羊とにこそ在れ』 11 御使みな御座および長老たちと四つの活物との周圍に立ち、御座の前に平伏し神を拜して言ふ、 12 『アアメン、讚美・榮光・知慧・感謝・尊貴・能力・勢威、世々限りなく我らの神にあれ、アアメン』 (aiōn g165)

13 長老たちの一人われに向ひて言ふ『この白き衣を著たるは如何なる者にして何處より來りしか』 14 我いふ『わが主よ、なんぢ知れり』 かれ言ふ『かれらは大なる患難より出できたり、羔羊の血に己が衣を洗ひて白くしたる者なり。 15 この故に神の御座の前にありて、晝も夜もその聖所にて神に事ふ。御座に坐したまふ者は彼らの上に幕屋を張り給ふべし。 16 彼らは重ねて飢ゑず、重ねて渴かず、日も熱も彼らを侵すことなし。 17 御座の前にいます羔羊は、彼らを牧して生命の水の泉にみちびき、神は彼らの目より凡ての涙を拭ひ給ふべければなり』

8 第七の封印を解き給ひたれば、凡そ半時のあひだ天静なりき。 2 われ神の前に立てる七人の御使を見たり、彼らは七つのラッパを與へられたり。 3 また他の一人の御使、金の香爐を持ちきたりて祭壇の前に立ち、多くの香を與へられたり。これは凡ての聖徒の祈に加へて、御座の前なる金の香壇の上に獻げんためなり。 4 而して香の煙、御使の手より聖徒たちの祈とともに神の前に上れり。 5 御使その香爐をとり、之に祭壇の火を盛りて地に投げたれば、數多の雷霆と聲と電光と、また地震おこれり。 6 ここに七つのラッパをもてる七人の御使これを吹く備をなせり。 7 第一の御使ラッパを吹きしに、血の混りたる雹と火とありて、地にふりくだり、地の三分の一

焼け失せ、樹の三分の一 焼け失せ、もろもろの青 草
焼け失せたり。 **8** 第二の御使ラッパを吹きしに、火
にて燃ゆる大なる山の如きもの海に投げ入れられ、
海の三分の一 血に變じ、 **9** 海の中の造られたる生命
あるものの三分の一 死に、船の三分の一 滅びたり。
10 第三の御使ラッパを吹きしに、燈火のごとく燃ゆ
る大なる星、天より隕ちきたり、川の三分の一と水
の源泉との上におちたり。 **11** この星の名は苦艾とい
ふ。水の三分の一は苦艾となり、水の苦くなりしに
困りて多くの人 死にたり。 **12** 第四の御使ラッパを
吹きしに、日の三分の一と月の三分の一と星の三分
の一と撃たれて、その三分の一は暗くなり、晝も三
分の一は光なく、夜も亦おなじ。 **13** また見しに、一
つの鷲の中空を飛び、大なる聲して言ふを聞けり。
曰く『地に住める者どもは禍害なるかな、禍害なる
かな、禍害なるかな、尚ほかに三人の御使の吹かん
とするラッパの聲あるに困りてなり』

9 第五の御使ラッパを吹きしに、われ一つの星の天
より地に隕ちたるを見たり。この星は底なき坑の鍵
を與へられたり。 **(Abyssos g12)** **2** かくて底なき坑を開
きたれば、大なる爐の煙のごとき煙、坑より立ちの
ぼり、日も空も坑の煙にて暗くなれり。 **(Abyssos g12)**
3 煙の中より蝗 地上に出でて、地の蝸のもてる力
のごとき力を與へられ、 **4** 地の草すべての青きもの又
すべての樹を害ふことなく、ただ額に神の印なき人
をのみ害ふことを命ぜられたり。 **5** されど彼らを殺
すことを許されず、五月のあひだ苦しむることを許
さる、その苦痛は、蝸に刺されたる苦痛のごとし。
6 このとき人々、死を求むとも見出さず、死なんと欲

すとも死は逃げ去るべし。7かの蝗の形は戦争の爲に具へたる馬のごとく、頭には金に似たる冠冕の如きものあり、顔は人の顔のごとく、8之に女の頭髪のごとき頭髪あり、齒は獅子の齒のごとし。9また鐵の胸當のごとき胸當あり、その翼の音は軍車の轟くごとく、多くの馬の戦闘に馳せゆくが如し。10また蝎のごとき尾ありて之に刺あり、この尾に五月のあひだ人を害ふ力あり。11この蝗に王あり。底なき所の使にして、名をヘブル語にてアバドンと云ひ、ギリシャ語にてアポロンと云ふ。(Abyssos g12) 12第一の禍害すぎ去れり、視よ、此の後なほ二つの禍害きたらん。13第六の御使ラッパを吹きしに、神の前なる金の香壇の四つの角より聲ありて、14ラッパを持てる第六の御使に『大なるユウフラテ川の邊に繋がれをる四人の御使を解放て』と言ふを聞けり。15かくてその時その日その月その年に至りて、人の三分の一を殺さん爲に備へられたる四人の御使は解放たれたり。16騎兵の數は二億なり、我その數を聞けり。17われ幻影にてその馬と之に乗る者とを見しに、彼らは火・煙・硫黄の色したる胸當を著く。馬の頭は獅子の頭のごとくにて、その口よりは火と煙と硫黄と出づ。18この三つの苦痛、すなはち其の口より出づる火と煙と硫黄とに因りて、人の三分の一殺されたり。19馬の力はその口とその尾とにあり、その尾は蛇の如くにして頭あり、之をもて人を害ふなり。20これらの苦痛にて殺されざりし残の人々は、おのが手の業を悔改めずして、なほ惡鬼を拜し、見ること聞くこと歩むこと能はぬ、金・銀・銅・石・

木の偶像を拜せり、**21**又その殺人・呪術・淫行・竊盗を悔改めざりき。

10我また一人の強き御使の、雲を著て天より降るを見たり。その頭の上に虹あり、その顔は日の如く、その足は火の柱のごとし。**2**その手には展きたる小き巻物をもち、右の足を海の上におき、左の足を地の上におき、**3**獅子の吼ゆる如く大聲に呼はれり、呼はりたる時七つの雷霆おのおの聲を出せり。**4**七つの雷霆の語りし時、われ書き記さんとせしに、天より聲ありて『七つの雷霆の語りしことは封じて書き記すな』といふを聞けり。**5**かくて我が見しところの海と地とに跨り立てる御使は、天にむかひて右の手を擧げ、**6**天および其の中に在るもの、地および其の中にあるもの、海および其の中にある物を造り給ひし、世々限りなく生きたまふ者を指し、誓ひて言ふ『この後、時は延ぶることなし。(aiōn g165) **7**第七の御使の吹かんとするラッパの聲の出づる時に至りて、神の僕なる預言者たちに示し給ひし如く、その奥義は成就せらるべし』**8**かくて我が前に天より聞きし聲のまた我に語りて『なんぢ往きて、海と地とに跨り立てる御使の手にある展きたる巻物を取れ』と言ふを聞けり。**9**われ御使のもとに往きて、小き巻物を我に與へんことを請ひたれば、彼いふ『これを取りて食ひ盡せ、さらば汝の腹苦くならん、然れど其の口には蜜のごとく甘からん』**10**われ御使の手より小き巻物を取りて食ひ盡したれば、口には蜜のごとく甘かりしが、食ひし後わが腹は苦くなれり。**11**また或物われに言ふ『なんぢ再び多くの民・國・國語・王たちに就きて預言すべし』

11 ここにわれ杖のごとき間竿を與へられたり、かくて或者いふ『立ちて神の聖所と香壇と其處に拜する者どもとを度れ、**2** 聖所の外の庭は差措きて度るな、これは異邦人に委ねられたり、彼らは四十 二个月のあひだ聖なる都を蹂躪らん。**3** 我わが二人の證人に權を與へん、彼らは荒布を著て千二百 六十日のあひだ預言すべし。**4** 彼らは地の主の御前に立てる二つのオリブの樹、二つの燈臺なり。**5** もし彼らを害はんとする者あらば、火その口より出でてその敵を焚き盡さん。もし彼らを害はんとする者あらば、必ず斯くのごとく殺さるべし。**6** 彼らは預言するあひだ雨を降らせぬやうに天を閉づる權力あり、また水を血に變らせ、思ふままに幾度にても諸種の苦難をもて地を撃つ權力あり。**7** 彼等がその證を終へんとき、底なき所より上る獸ありて之と戦闘をなし、勝ちて之を殺さん。(Abyssos g12) **8** その屍體は大なる都の衢に遺らん。この都を譬へてソドムと云ひ、エジプトの云ふ、即ち彼らの主もまた十字架に釘けられ給ひし所なり。**9** もろもろの民・族・國語・國のもの、三日半の間その屍體を見、かつ其の屍體を墓に葬ることを許さざるべし。**10** 地に住む者どもは彼らに就きて喜び楽しみ互に禮物を贈らん、此の二人の預言者は地に住む者を苦しめたればなり』 **11** 三日半ののち生命の息、神より出でて彼らに入り、かれら足にて起ちたれば、之を見るもの大に懼れたり。**12** 天より大なる聲して『ここに昇れ』と言ふを彼ら聞きたれば、雲に乗りて天に昇れり、その敵も之を見たり、**13** このとき大なる地震ありて、都の十分の一は倒れ、地震のために死にしもの七千人にして、

遣れる者は懼をいだき天の神に榮光を歸したり。 14 第二の禍害すぎ去れり、視よ、第三の禍害すみやかに來るなり。 15 第七の御使ラッパを吹きしに、天に數多の大なる聲ありて『この世の國は我らの主および其のキリストの國となれり。彼は世々限りなく王たらん』と言ふ。(aiōn g165) 16 かくて神の前にて座位に坐する二十四人の長老ひれふし神を拜して言ふ、 17 『今いまし、昔います主たる全能の神よ、なんぢの大なる能力を執りて王と成り給ひしことを感謝す。 18 諸國の民怒をいだけり、なんぢの怒も亦いたれり、死にたる者を審き、なんぢの僕なる預言者および聖徒、また小なるも大なるも汝の名を畏るる者に報賞をあたへ、地を亡す者を亡したまふ時いたれり』 19 斯くて天にある神の聖所ひらけ、聖所のうちに契約の櫃見え、數多の電光と聲と雷霆と、また地震と大なる雹とありき。

12 また天に大なる徴見えたり。日を著たる女ありて、其の足の下に月あり、其の頭に十二の星の冠冕あり。 2 かれは孕りをりしが、子を産まんとして産みの苦痛と惱とのために叫べり、 3 また天に他の徴見えたり。視よ、大なる赤き龍あり、これに七つの頭と十の角とありて、頭には七つの冠冕あり。 4 その尾は天の星の三分の一を引きて之を地に落せり。龍は子を産まんとする女の前に立ち、産むを待ちて其の子を食ひ盡さんと構へたり。 5 女は男子を産めり、この子は鐵の杖もて諸種の國人を治めん。かれは神の許に、その御座の下に擧げられたり。 6 女は荒野に逃げゆけり。彼處に千二百六十日の間かれが養はるる爲に神の備へ給へる所あり。 7 かくて天に

戦争おこれり、ミカエル及びその使たち龍とたたかふ。龍もその使たちも之と戦ひしが、**8** 勝つこと能はず、天には、はや其の居る所なかりき。**9** かの大なる龍、すなわち悪魔と呼ばれ、サタンと呼ばれたる全世界をまどはず古き蛇は落され、地に落され、その使たちも共に落されたり。**10** 我また天に大なる聲ありて『われらの神の救と能力と國と神のキリストの權威とは、今すでに來れり。我らの兄弟を訴へ夜晝われらの神の前に訴ふるもの落されたり。**11** 而して兄弟たちは羔羊の血と己が證の言とによりて勝ち、死に至るまで己が生命を惜まざりき。**12** この故に天および天に住める者よ、よろこべ、地と海とは禍害なるかな、悪魔おのが時の暫時なるを知り、大なる憤恚をいだきて汝等のもとに下りたればなり』と云ふを聞けり。**13** かくて龍はおのが地に落されしを見て、男子を生みし女を責めたりしが、**14** 女は荒野なる己が處に飛ぶために、大なる鷲の兩の翼を與へられたれば、其處にいたり、一年、二年、また半年のあひだ蛇のまへを離れて養はれたり。**15** 蛇はその口より水を川のごとく、女の背後に吐きて之を流さんとしたれど、**16** 地は女を助け、その口を開きて龍の口より吐きたる川を呑み盡せり。**17** 龍は女を怒りてその裔の残れるもの、即ち神の誠命を守りイエスの證を有てる者に、戦闘を挑まんとて出でゆき、海邊の砂の上に立てり。

13 我また一つの獸の海より上るを見たり。之に十の角と七つの頭とあり、その角に十の冠冕あり、頭の上には神を洩す名あり。**2** わが見し獸は豹に似て、その足は熊のごとく、その口は獅子の口のごとし

。龍はこれに己が能力と己が座位と大なる權威とを與へたり。 3 我その頭の一つ傷つけられて死ぬばかりなるを見しが、その死ぬべき傷いやされたれば、全地の者これを怪しみて獸に従へり。 4 また龍おのが權威を獸に與へしによりて、彼ら龍を拜し、且その獸を拜して言ふ『たれか此の獸に等しき者あらん、誰か之と戦ふことを得ん』 5 獸また大言と流言とを語る口を與へられ、四十 二个月のあひだ働く權威を與へらる。 6 彼は口をひらきて神を流し、又その御名とその幕屋すなはち天に住む者どもとを流し、 7 また聖徒に戦闘を挑みて、之に勝つことを許され、且もろもろの族・民・國語・國を掌どる權威を與へらる。 8 凡て地に住む者にて、其の名を屠られ給ひし羔羊の生命の書に、世の創より記されざる者は、これを拜せん。 9 人もし耳あらば聽くべし。 10 虜にせらるべき者は虜にせられん、劍にて殺す者はおのれも劍にて殺さるべし、聖徒たちの忍耐と信仰とは茲にあり。 11 我また他の獸の地より上るを見たり。これに羔羊のごとき角 二つありて龍のごとく語り、 12 先の獸の凡ての權威を彼の前にて行ひ、地と地に住む者とをして死ぬべき傷の醫されたる先の獸を拜せしむ。 13 また大なる徴をおこなひ、人々の前にて火を天より地に降らせ、 14 かの獸の前にて行ふことを許されし徴をもて地に住む者どもを惑し、劍にうたれてなほ生ける獸の像を造ることを地に住む者どもに命じたり。 15 而してその獸の像に息を與へて物言はしめ、且その獸の像を拜せぬ者をことごとく殺さしむる事を許され、 16 また凡ての人をして、大小・貧富・自主・奴隸の別なく、或はその右の手、あ

るいは其の額に徽章を受けしむ。 17 この徽章を有たぬ凡ての者に賣買することを得ざらしめたり。その徽章は獸の名、もしくは其の名の數字なり。 18 智慧は茲にあり、心ある者は獸の數字を算へよ。獸の數字は人の數字にして、その數字は六百六十六なり。

14 われ見しに、視よ、羔羊シオンの山に立ちたまふ。十四萬 四千の人これと偕に居り、その額には羔羊の名および羔羊の父の名記しあり。 2 われ天よりの聲を聞けり、多くの水の音のごとく、大なる雷霆の聲のごとし。わが聞きし此の聲は彈琴者の立琴を弾く音のごとし。 3 かれら新しき歌を御座の前および四つの活物と長老たちとの前にて歌ふ。この歌は地より贖はれたる十四萬 四千 人の他は誰も學びうる者なかりき。 4 彼らは女に汚されぬ者なり、潔き者なり、何處にまれ羔羊の往き給ふところに隨ふ。彼らは人の中より贖はれて神と羔羊とのために初穂となれり。 5 その口に虚偽なし、彼らは瑕なき者なり。 6 我また他の御使の中空を飛ぶを見たり。かれは地に住むもの、即ちもろもろの國・族・國語・民に宣傳へんとて、永遠の福音を携へ、 (aiōnios g166) 7 大聲にて言ふ『なんぢら神を畏れ、神に榮光を歸せよ。その審判のとき既に至りたればなり。汝ら天と地と海と水の源泉とを造り給ひし者を拜せよ』 8 ほかの第二の御使、かれに従ひて言ふ『倒れたり、倒れたり。大なるバビロン、己が淫行より出づる憤恚の葡萄酒をもろもろの國人に飲ませし者』 9 ほかの第三の御使、かれらに従ひ大聲にて言ふ『もし獸とその像とを拜し、且その額あるいは手に徽章を受くる

者あらば、**10** 必ず神の怒の酒杯に盛りたる混りなき憤恚の葡萄酒を飲み、かつ聖なる御使たち及び羔羊の前にて、火と硫黄とにて苦しめらるべし。**11** その苦痛の煙は世々限りなく立ち昇りて、獣とその像とを拜する者、また其の名の徽章を受けし者は、夜も晝も休息を得ざらん。(aiōn g165) **12** 神の誠命とイエスを信ずる信仰とを守る聖徒の忍耐は茲にあり』 **13** 我また天より聲ありて『書き記せ「今よりのち主にありて死ぬる死人は幸福なり」御靈も言ひたまふ「然り、彼等はその勞役を止めて息まん。その業これに随ふなり」』と言ふを聞けり。**14** また見しに、視よ、白き雲あり、その雲の上に人の子の如きもの坐して、首には金の冠冕をいただき、手には利き鎌を持ちたまふ。**15** 又ほかの御使、聖所より出で、雲のうへに坐したまふ者にむかひ、大聲に呼はりて『なんぢの鎌を入れて刈れ、地の穀物は全く熟し、既に刈り取るべき時至ればなり』と言ふ。**16** かくて雲の上に坐したまふ者その鎌を地に入れたれば、地の穀物は刈り取られたり。**17** 又ほかの御使、天の聖所より出で、同じく利き鎌を持てり。**18** 又ほかの火を掌どる御使、祭壇より出で、利き鎌を持つ者にむかひ大聲に呼はりて『なんぢの利き鎌を入れて地の葡萄の樹の房を刈り收めよ、葡萄は既に熟したり』と言ふ。**19** 御使その鎌を地に入れて地の葡萄を刈りをさめ、神の憤恚の大なる酒槽に投げ入れたり。**20** かくて都の外にて酒槽を踐みしに、血酒槽より流れ出でて馬の轡に達くほどになり、一千六百町に廣がれり。

15 我また天に他の大なる怪しむべき徴を見たり。即ち七人の御使ありて最後の七つの苦難を持てり、神の憤恚は之にて全うせらるるなり。 **2** 我また火の混りたる玻璃の海を見しに、獸とその像とその名の數字とに勝ちたる者ども、神の立琴を持ちて玻璃の海の邊に立てり。 **3** 彼ら神の僕モーセの歌と羔羊の歌とを歌ひて言ふ『主なる全能の神よ、なんぢの御業は大なるかな、妙なるかな、萬國の王よ、なんぢの道は義なるかな、眞なるかな。 **4** 主よ、たれか汝を畏れざる、誰か御名を尊ばざる、汝のみ聖なり、諸種の國人きたりて御前に拜せん。なんぢの審判は既に現れたればなり』 **5** この後われ見しに、天にある證の幕屋の聖所ひらけて、 **6** かの七つの苦難を持てる七人の御使、きよき輝ける亞麻 布を著、金の帯を胸に束ねて聖所より出づ。 **7** 四つの活物の一つ、その七人の御使に、世々 限りなく生きたまふ神の憤恚の満ちたる七つの金の鉢を與へしかば、 **(aiōn g165)** **8** 聖所は神の榮光とその權力とより出づる煙にて満ち、七人の御使の七つの苦難の終るまでは、誰も聖所に入るに能はざりき。

16 我また聖所より大なる聲ありて、七人の御使に『往きて神の憤恚の七つの鉢を地の上に傾けよ』と言ふを聞けり。 **2** かくて第一の者ゆきて其の鉢を地の上に傾けたれば、獸の徽章を有てる人々とその像を拜する人々との身に、悪しき苦しき腫物 生じたり。 **3** 第二の者その鉢を海の上に傾けたれば、海は死人の血の如くなりて、海にある生物ことごとく死にたり。 **4** 第三の者その鉢をもろもろの河と、もろもろの水の源泉との上に傾けたれば、みな血となれり

。 5 われ水を掌どる御使の『いま在し昔います聖なる者よ、なんぢの斯く定め給ひしは正しき事なり。 6 彼らは聖徒と預言者との血を流したれば、之に血を飲ませ給ひしは相應しきなり』と云へるを聞けり。 7 我また祭壇の物言ふを聞けり『然り、主なる全能の神よ、なんぢの審判は眞なるかな、義なるかな』と。 8 第四の者その鉢を太陽の上に傾けたれば、太陽は火をもて人を焼くことを許さる。 9 かくて人々烈しき熱に焼かれて、此等の苦難を掌どる權威を有たちまふ神の名を流し、かつ悔改めずして神に榮光を歸せざりき。 10 第五の者その鉢を獸の座位の上に傾けたれば、獸の國暗くなり、その國人痛によりて己の舌を齧み、 11 その痛と腫物とによりて天の神を流し、かつ己が行爲を悔改めざりき。 12 第六の者その鉢を大なる河ユウフラテの上に傾けたれば、河の水涸れたり。これ日の出づる方より來る王たちの途を備へん爲なり。 13 我また龍の口より、獸の口より、偽預言者の口より、蛙のごとき三つの穢れし靈の出づるを見たり。 14 これは徴をおこなふ惡鬼の靈にして、全能の神の大なる日の戰鬪のために全世界の王たちを集めんとて、その許に出でゆくなり。 15 (視よ、われ盜人のごとく來らん、裸にて歩み羞所を見らることなからん爲に、目を覺してその衣を守る者は幸福なり) 16 かの三つの靈、王たちをヘブル語にてハルマゲドンと稱ふる處に集めたり。 17 第七の者その鉢を空中に傾けたれば、聖所より御座より大なる聲いでて『事すでに成れり』と言ふ。 18 かくて數多の電光と聲と雷霆とあり、また大なる地震おこれり、人の地の上に在りし以來かかる大なる地震

なかりき。19 大なる都は三つに裂かれ、諸國の町々は倒れ、大なるバビロンは神の前におもひ出されて、劇しき御怒の葡萄酒を盛りたる酒杯を與へられたり。20 凡ての島は逃げさり、山は見えずなれり。21 また天より百斤ほどの大なる雹、人々の上に降りしかば、人々 雹の苦難によりて神を洗せり。是の苦難 甚だしく大なればなり。

17 七つの鉢を持てる七人の御使の一人きたり、我に語りて言ふ『來れ、われ多くの水の上に坐する大淫婦の審判を汝に示さん。2 地の王たちは之と淫をおこなひ、地に住む者らは其の淫行の葡萄酒に酔ひたり』3 かくてわれ御靈に感じ、御使に携へられて荒野にゆき、緋色の獸に乗れる女を見たり、この獸の體は神を洗す名にて覆はれ、また七つの頭と十の角とあり。4 女は紫色と緋とを著、金・寶石・眞珠にて身を飾り、手には憎むべきものと己が淫行の汚とにて満ちたる金の酒杯を持ち、5 額には記されたる名あり。曰く『奥義 大なるバビロン、地の淫婦らと憎むべき者との母』6 我この女を見るに、聖徒の血とイエスの證人の血とに酔ひたり。我これを見て大に怪しみたれば、7 御使われに言ふ『なにゆゑ怪しむか、我この女と之を乗せたる七つの頭、十の角ある獸との奥義を汝に告げん。8 なんぢの見し獸は前に有りしも今あらず、後に底なき所より上りて滅亡に往かん、地に住む者にて世の創より其の名を生命の書に記されざる者は、獸の前にありて今あらず、後に來るを見て怪しまん。(Abyssos g12) 9 智慧の心は茲にあり。七つの頭は女の坐する七つの山なり、また七人の王なり。10 五人は既に倒れて一人は今

あり、他の一人は未だ來らず、來らば暫時のほど止るべきなり。 11 前にありて今あらぬ獸は第八なり、前の七人より出でたる者にして滅亡に往くなり。 12 汝の見し十の角は十人の王にして未だ國を受けざれども、一時のあひだ獸と共に王のごとき權威を受くべし。 13 彼らは心を一つにして己が能力と權威とを獸にあたふ。 14 彼らは羔羊と戦はん。而して羔羊かれらに勝ち給ふべし、彼は主の主、王の王なればなり。これと偕なる召されたるもの、選ばれたるもの、忠實なる者も勝を得べし』 15 御使また我に言ふ『なんぢの見し水、すなわち淫婦の坐する處は、もろもろの民・群衆・國・國語なり。 16 なんぢの見し十の角と獸とは、かの淫婦を憎み、之をして荒涼ばしめ、裸ならしめ、且その肉を喰ひ、火をもて之を焼き盡さん。 17 神は彼らに御旨を行ふことと、心を一つにすることと、神の御言の成就するまで國を獸に與ふることとを思はしめ給ひたればなり。 18 なんぢの見し女は地の王たちを宰どる大なる都なり』

18 この後また他の一人の御使の大なる權威を有ちて天より降るを見しに、地はその榮光によりて照されたり。 2 かれ強き聲にて呼はりて言ふ『大なるバビロンは倒れたり、倒れたり、かつ惡魔の住家、もろもろの穢れたる靈の檻、もろもろの穢れたる憎むべき鳥の檻となれり。 3 もろもろの國人はその淫行の憤恚の葡萄酒を飲み、地の王たちは彼と淫をおこなひ、地の商人らは彼の奢の勢力によりて富みたればなり』 4 また天より他の聲あるを聞けり。曰く『わが民よ、かれの罪に干らず、彼の苦難を共に受けざらんため、その中を出でよ。 5 かれの罪は積りて

天にいたり、神その不義を憶え給ひたればなり。 6
彼が爲しし如く彼に爲し、その行爲に應じ倍して之
を報い、かれが酌み與へし酒杯に倍して之に酌み與
へよ。 7かれが自ら尊びみづから奢りしと同じほど
の苦難と悲歎とを之に與へよ。彼は心のうちに「わ
れは女王の位に坐する者にして寡婦にあらず、決して
悲歎を見ざるべし」と言ふ。 8この故に、さまざま
の苦難、一日のうちに彼の身にきたらん、即ち死
と悲歎と饑饉となり。彼また火にて焼き盡されん、
彼を審きたまふ主なる神は強ければなり。 9彼と淫
をおこなひ、彼とともに奢りたる地の王たちは、其
の焼かるる煙を見て泣きかつ歎き、 10その苦難を懼
れ、遙に立ちて「禍害なるかな、禍害なるかな、大
なる都、堅固なる都バビロンよ、汝の審判は時の間
に來れり」と言はん。 11地の商人かれが爲に泣き悲
しまん。今より後その商品を買ふ者なければなり。
12その商品は金・銀・寶石・眞珠・細布・紫色・絹
・緋色および各様の香木、また象牙のさまざまの器
、價貴き木、眞鍮・鐵・蠟石などの各様の器、 13
また肉桂・香料・香・香油・乳香・葡萄酒・オリブ
油・麥粉・麥・牛・羊・馬・車・奴隸および人の靈
魂なり。 14なんぢの靈魂の嗜みたる果物は汝を去り
、すべての美味、華美なる物は亡びて汝を離れん、
今より後これを見ること無かるべし。 15これらの物
を商ひ、バビロンに由りて富を得たる商人らは、其
の苦難を懼れて遙に立ち、泣き悲しみて言はん、 16
「禍害なるかな、禍害なるかな、細布と紫色と緋と
を著、金・寶石・眞珠をもて身を飾りたる大なる都
、 17斯ばかり大なる富の時の間に荒涼ばんとは」而

して凡ての船長、すべて海をわたる人々、舟子および海によりて生活を爲すもの遙かに立ち、**18** バビロンの焼かるる煙を見て叫び「いづれの都か、この大なる都に比ぶべき」と言はん。**19** 彼等また塵をおのが首に被りて泣き悲しみ叫びて「禍害なるかな、禍害なるかな、此の大なる都、その奢によりて海に船を有てる人々の富を得たる都、かく時の間に荒涼ばんとは」と言はん。**20** 天よ、聖徒・使徒・預言者よ、この都につきて喜べ、神なんぢらの爲に之を審き給ひたればなり』**21** ここに一人の強き御使、大なる碾臼のごとき石を擡げ海に投げて言ふ『おほいなる都バビロンは斯くのごとく烈しく撃ち倒されて、今より後見えざるべし。**22** 今よりのち立琴を弾くもの、樂を奏するもの、笛を吹く者、ラッパを鳴す者の聲なんぢの中に聞えず、今より後さまぎまの細工をなす細工人なんぢの中に見えず、碾臼の音なんぢの中に聞えず、**23** 今よりのち燈火の光なんぢの中に輝かず、今よりのち新郎・新婦の聲なんぢの中に聞えざるべし。そは汝の商人は地の大臣となり、諸種の國人はなんぢの呪術に惑され、**24** また預言者・聖徒および凡て地の上に殺されし者の血は、この都の中に見出されたればなり』

19 この後われ天に大なる群衆の大聲のごとき者ありて、かく言ふを聞けり。曰く『ハレルヤ、救と榮光と權力とは、我らの神のものなり。**2** その御審は眞にして義なるなり、己が淫行をもて地を汚したる大淫婦を審き、神の僕らの血の復讐を彼になし給ひしなり』**3** また再び言ふ『ハレルヤ、彼の焼かるる煙は世々限りなく立ち昇るなり』 (aiōn g165) **4** ここに

二十四人の長老と四つの活物と平伏して御座に坐したまふ神を拜し『アアメン、ハレルヤ』と言へり。

5 また御座より聲出でて言ふ『すべて神の僕たるもの、神を畏るる者よ、小なるも大なるも、我らの神を讃め奉れ』 6 われ大なる群衆の聲おほくの水のごとく、烈しき雷霆の聲の如きものを聞けり。曰く『ハレルヤ全能の主、われらの神は統治らすなり。 7 われら喜び楽しみて之に榮光を歸し奉らん。そは羔羊の婚姻の時いたり、既にその新婦みづから準備したればなり。 8 彼は輝ける潔き細布を著ることを許されたり、此の細布は聖徒たちの正しき行爲なり』 9 御使また我に言ふ『なんぢ書き記せ、羔羊の婚姻の宴席に招かれたる者は幸福なり』と。また我に言ふ『これ神の眞の言なり』 10 我その足下に平伏して拜せんとしたれば、彼われに言ふ『慎みて然すな、我は汝およびイエスの證を保つ汝の兄弟とともに僕たるなり。なんぢ神を拜せよ、イエスの證は即ち預言の靈なり』 11 我また天の開けたるを見しに、視よ、白き馬あり、之に乗りたまふ者は「忠實また眞」と稱へられ、義をもて審きかつ戦ひたまふ。 12 彼の目は焰のごとく、その頭には多くの冠冕あり、また記せる名あり、之を知る者は彼の他になし。 13 彼は血に染みたる衣を纏へり、その名は「神の言」と稱ふ。 14 天に在る軍勢は白く潔き細布を著、白き馬に乗りて彼にしたがふ。 15 彼の口より利き劍いづ、之をもて諸國の民をうち、鐵の杖をもて之を治め給はん。また自ら全能の神の烈しき怒の酒槽を踐みたまふ。 16 その衣と股とに『王の王、主の主』と記せる名あり。 17 我また一人の御使の太陽のなかに立

てるを見たり。大聲に呼はりて、中空を飛ぶ凡ての鳥に言ふ『いざ、神の大なる宴席に集ひきたりて、
18 王たちの肉、將校の肉、強き者の肉、馬と之に乗る者との肉、すべての自主および奴隸、小なるもの大なる者の肉を食へ』 **19** 我また獸と地の王たちと彼らの軍勢とが相集りて、馬に乗りたまふ者および其の軍勢に對ひて戰鬥を挑むを見たり。 **20** かくて獸は捕へられ、又その前に不思議を行ひて獸の徽章を受けたる者と、その像を拜する者とを感したる偽預言者も、之とともに捕へられ、二つながら生きたるまま硫黄の燃ゆる火の池に投げ入れられたり。 (Limnē Pyr g3041 g4442) **21** その他の者は馬に乗りたまふ者の口より出づる劍にて殺され、凡ての鳥その肉を食ひて飽きたり。

20 我また一人の御使の底なき所の鍵と大なる鎖とを手を持ちて、天より降るを見たり。 (Abyssos g12) **2** 彼は龍、すなわち悪魔たりサタンたる古き蛇を捕へて、之を千年のあひだ繋ぎおき、 **3** 底なき所に投げ入れ閉ぢ込めて、その上に封印し、千年の終るまでは諸國の民を惑すことなからしむ。その後、暫時のあひだ解放さるべし。 (Abyssos g12) **4** 我また多くの座位を見しに、之に座する者あり、審判する權威を與へられたり。我またイエスの證および神の御言のために誅られし者の靈魂、また獸をもその像をも拜せず、己が額あるいは手にその徽章を受けざりし者どもを見たり。彼らは生きかへりて千年の間キリストと共に王となれり。 **5** (その他の死人は千年の終るまで生きかへらざりき) これは第一の復活なり。 **6** 幸福なるかな、聖なるかな、第一の復活に干る人。

この人々に對して第二の死は權威を有たず、彼らは神とキリストとの祭司となり、キリストと共に千年のあひだ王たるべし。7 千年終りて後サタンは其の檻より解放たれ、8 出でて地の四方の國の民、ゴグとマゴグとを感し戰鬪のために之を集めん、その數は海の砂のごとし。9 かくて彼らは地の全面に上りて、聖徒たちの陣營と愛せられたる都とを圍みしが、天より火くだりて彼等を焼き盡し、10 彼らを感したる悪魔は、火と硫黄との池に投げ入れられたり。ここは獸も偽預言者もまた居る所にして、彼らは世々限りなく晝も夜も苦しめらるべし。(aiōn g165, Limnē Pyr g3041 g4442) 11 我また大なる白き御座および之に座し給ふものを見たり。天も地もその御顔の前を遁れて跡だに見えずなりき。12 我また死にたる者の大なるも小なるも御座の前に立てるを見たり。而して數々の書展かれ、他にまた一つの書ありて展かる、即ち生命の書なり、死人は此等の書に記されたる所の、その行爲に隨ひて審かれたり。13 海はその中にある死人を出し、死も陰府もその中にある死人を出したれば、各自その行爲に隨ひて審かれたり。(Hadēs g86) 14 かくて死も陰府も火の池に投げ入れられたり、此の火の池は第二の死なり。(Hadēs g86, Limnē Pyr g3041 g4442) 15 すべて生命の書に記されぬ者はみな火の池に投げ入れられたり。(Limnē Pyr g3041 g4442)

21 我また新しき天と新しき地とを見たり。これ前の天と前の地とは過ぎ去り、海も亦なきなり。2 我また聖なる都、新しきエルサレムの、夫のために飾りたる新婦のごとく準備して、神の許をいで、天より降るを見たり。3 また大なる聲の御座より出づる

を聞けり。曰く『視よ、神の幕屋、人と偕にあり、神、人と偕に住み、人、神の民となり、神みづから人と偕に在して、**4**かれらの目の涙をことごとく拭ひ去り給はん。今よりのち死もなく、悲歎も號叫も苦痛もなかるべし。前のもの既に過ぎ去りたればなり』**5**かくて御座に坐し給ふもの言ひたまふ『視よ、われ一切のものを新にするなり』また言ひたまふ『書き記せ、これらの言は信ずべきなり、眞なり』**6**また我に言ひたまふ『事すでに成れり、我はアルパなり、オメガなり、始なり、終なり、渴く者には價なくして生命の水の泉より飲むことを許さん。**7**勝を得る者は此等のものを嗣がん、我はその神となり、彼は我が子とならん。**8**されど臆するもの、信ぜぬもの、憎むべきもの、人を殺すもの、淫行のもの、呪術をなすもの、偶像を拜する者および凡て偽る者は、火と硫黄との燃ゆる池にて其の報を受くべし、これ第二の死なり』 (Limnē Pyr g3041 g4442) **9**最後の七つの苦難の満ちたる七つの鉢を持てる七人の御使の一人きたり、我に語りて言ふ『來れ、われ羔羊の妻なる新婦を汝に見せん』**10**御使、御靈に感じたる我を携へて大なる高き山にゆき、聖なる都エルサレムの、神の榮光をもて神の許を出でて天より降るを見せたり。**11**その都の光輝はいと貴き玉のごとく、透徹る碧玉のごとし。**12**此處に大なる高き石垣ありて十二の門あり、門の側らに一人づつ十二の御使あり、門の上の一つづつイスラエルの子孫の十二の族の名を記せり。**13**東に三つの門、北に三つの門、南に三つの門、西に三つの門あり。**14**都の石垣には十二の基あり、これに羔羊の十二の使徒の十二の名を記

せり。15 我と語る者は都と門と石垣とを測らん爲に金の間竿を持てり。16 都は方形にして、その長さ廣さ相均し。彼は間竿にて都を測りしに一千二百町あり、長さ廣さ高さみな相均し。17 また石垣を測りしに、人の度すなはち御使の度に據れば百四十四尺あり。18 石垣は碧玉にて築き、都は清らかなる玻璃のごとき純金にて造れり。19 都の石垣の基はさまざまの寶石にて飾れり。第一の基は碧玉、第二は瑠璃、第三は玉髓、第四は緑玉、20 第五は紅縞瑪瑙、第六は赤瑪瑙、第七は貴橄欖石、第八は緑柱石、第九は黄玉石、第十は緑玉髓、第十一は青玉、第十二は紫水晶なり。21 十二の門は十二の眞珠なり、おのおのの門は一つの眞珠より成り、都の大路は透徹る玻璃のごとき純金なり。22 われ都の内にて宮を見ざりき、主なる全能の神および羔羊はその宮なり。23 都は日月の照すを要せず、神の榮光これを照し、羔羊はその燈火なり。24 諸國の民は都の光のなかを歩み、地の王たちは己が光榮を此處にたづさへきたる。25 都の門は終日閉ぢず（此處に夜あることなし）26 人々は諸國の民の光榮と尊貴とを此處にたづさえ來らん。27 凡て穢れたる者また憎むべき事と虚偽とを行ふ者は、此處に入らず、羔羊の生命の書に記されたる者のみ此處に入るなり。

22 御使また水晶のごとく透徹れる生命の水の河を我に見せたり。この河は神と羔羊との御座より出でて都の大路の眞中を流る。2 河の左右に生命の樹ありて十二種の實を結び、その實は月毎に生じ、その樹の葉は諸國の民を醫すなり。3 今よりのち誼はるべき者は一つもなかるべし。神と羔羊との御座は都

の中にあり。その僕らは之に事へ、**4** 且その御顔を見ん、その御名は彼らの額にあるべし。**5** 今よりのち夜ある事なし、燈火の光をも日の光をも要せず、主なる神かれらを照し給へばなり。彼らは世々限りなく王たるべし。**(aiōn g165)** **6** 彼また我に言ふ『これらの言は信ずべきなり、眞なり、預言者たちの靈魂の神たる主は、速かに起るべき事をその僕どもに示さんとて、御使を遣し給へるなり。**7** 視よ、われ速かに到らん、この書の預言の言を守る者は幸福なり』**8** これらの事を聞き、かつ見し者は我ヨハネなり。かくて見聞せしとき我これらの事を示したる御使の足下に平伏して拜せんとせしに、**9** かれ言ふ『つつしみて然すな、われは汝および汝の兄弟たる預言者、また此の書の言を守る者と等しく僕たるなり、なんじ神を拜せよ』**10** また我に言ふ『この書の預言の言を封ずな、時近ければなり。**11** 不義をなす者はいよいよ不義をなし不淨なる者はいよいよ不淨をなし、義なる者はいよいよ義をおこなひ、清き者はいよいよ清くすべし。**12** 視よ、われ報をもて速かに到らん、各人の行爲に隨ひて之を與ふべし。**13** 我はアルパなり、オメガなり、最先なり、最後なり、始なり、終なり、**14** おのが衣を洗ふ者は幸福なり、彼らは生命の樹にゆく權威を與へられ、門を通りて都に入ることを得るなり。**15** 犬および呪術をなすもの、淫行のもの、人を殺すもの、偶像を拜する者、また凡て虚偽を愛して之を行ふ者は外にあり。**16** われイエスは我が使を遣して諸教會のために此等のことを汝らに證せり。我はダビデの萌蘗また其の裔なり、輝ける曙の明星なり』**17** 御靈も新婦もいふ『來りた

まへ』聞く者も言へ『きたり給へ』と、渴く者はきたれ、望む者は價なくして生命の水を受けよ。 **18** われ凡てこの書の預言の言を聞く者に證す。もし之に加ふる者あらば、神はこの書に記されたる苦難を彼に加へ給はん。 **19** 若しこの預言の書の言を省く者あらば、神はこの書に記されたる生命の樹、また聖なる都より彼の受くべき分を省き給はん。 **20** これらの事を證する者いひ給ふ『然り、われ速かに到らん』アアメン、主イエスよ、來りたまへ。 **21** 願はくは主イエスの恩恵なんぢら凡ての者と偕に在らんことを。



我また聖なる都、新しきエルサレムの、夫のために飾りたる新婦のごとく準備して、
神の許をいで、天より降るを見たり。また大なる聲の御座より出づるを聞けり。曰く
『視よ、神の幕屋、人と偕にあり、神、人と偕に住み、人、
神の民となり、神みづから人と偕に在して、
ヨハネの黙示録 21:2-3

読者ガイド

日本語 at AionianBible.org/Readers-Guide

The Aionian Bible republishes public domain and Creative Common Bible texts that are 100% free to copy and print. The original translation is unaltered and notes are added to help your study. The notes show the location of eleven special Greek and Hebrew Aionian Glossary words to help us better understand God's love for individuals and for all mankind, and the nature of afterlife destinies.

Who has the authority to interpret the Bible and examine the underlying Hebrew and Greek words? That is a good question! We read in 1 John 2:27, *"As for you, the anointing which you received from him remains in you, and you do not need for anyone to teach you. But as his anointing teaches you concerning all things, and is true, and is no lie, and even as it taught you, you remain in him."* Every Christian is qualified to interpret the Bible! Now that does not mean we will all agree. Each of us is still growing in our understanding of the truth. However, it does mean that there is no infallible human or tradition to answer all our questions. Instead the Holy Spirit helps each of us to know the truth and grow closer to God and each other.

The Bible is a library with 66 books in the Protestant Canon. The best way to learn God's word is to read entire books. Read the book of Genesis. Read the book of John. Read the entire Bible library. Topical studies and cross-referencing can be good. However, the safest way to understand context and meaning is to read whole Bible books. Chapter and verse numbers were added for convenience in the 16th century, but unfortunately they can cause the Bible to seem like an encyclopedia. The Aionian Bible is formatted with simple verse numbering, minimal notes, and no cross-referencing in order to encourage the reading of Bible books.

Bible reading must also begin with prayer. Any Christian is qualified to interpret the Bible with God's help. However, this freedom is also a responsibility because without the Holy Spirit we cannot interpret accurately. We read in 1 Corinthians 2:13-14, *"And we speak of these things, not with words taught by human wisdom, but with those taught by the Spirit, comparing spiritual things with spiritual things. Now the natural person does not receive the things of the Spirit of God, for they are foolishness to him, and he cannot understand them, because they are spiritually discerned."* So we cannot understand in our natural self, but we can with God's help through prayer.

The Holy Spirit is the best writer and he uses literary devices such as introductions, conclusions, paragraphs, and metaphors. He also writes various genres including historical narrative, prose, and poetry. So Bible study must spiritually discern and understand literature. Pray, read, observe, interpret, and apply. Finally, *"Do your best to present yourself approved by God, a worker who does not need to be ashamed, properly handling the word of truth."* 2 Timothy 2:15. *"God has granted to us his precious and exceedingly great promises; that through these you may become partakers of the divine nature, having escaped from the corruption that is in the world by lust. Yes, and for this very cause adding on your part all diligence, in your faith supply moral excellence; and in moral excellence, knowledge; and in knowledge, self-control; and in self-control patience; and in patience godliness; and in godliness brotherly affection; and in brotherly affection, love. For if these things are yours and abound, they make you to be not idle nor unfruitful to the knowledge of our Lord Jesus Christ,"* 2 Peter 1:4-8.

用語集

日本語 at AionianBible.org/Glossary

The Aionian Bible un-translates and instead transliterates eleven special words to help us better understand the extent of God's love for individuals and all mankind, and the nature of afterlife destinies. The original translation is unaltered and a note is added to 64 Old Testament and 200 New Testament verses. Compare the meanings below to the Strong's Concordance and Glossary definitions.

Abyssos g12

Greek: proper noun, place

Usage: 9 times in 3 books, 6 chapters, and 9 verses

Meaning:

Temporary prison for special fallen angels such as Apollyon, the Beast, and Satan.

aidios g126

Greek: adjective

Usage: 2 times in Romans 1:20 and Jude 6

Meaning:

Lasting, enduring forever, eternal.

aiōn g165

Greek: noun

Usage: 127 times in 22 books, 75 chapters, and 102 verses

Meaning:

A lifetime or time period with a beginning and end, an era, an age, the completion of which is beyond human perception, but known only to God the creator of the aiōns, Hebrews 1:2. Never meaning simple endless or infinite chronological time in Greek usage. Read Dr. Heleen Keizer and Ramelli and Konstan for proofs.

aiōnios g166

Greek: adjective

Usage: 71 times in 19 books, 44 chapters, and 69 verses

Meaning:

From start to finish, pertaining to the age, lifetime, entirety, complete, or even consummate. Never meaning simple endless or infinite chronological time in Koine Greek usage. Read Dr. Heleen Keizer and Ramelli and Konstan for proofs.

eleēsē g1653

Greek: verb, aorist tense, active voice, subjunctive mood, 3rd person singular

Usage: 1 time in this conjugation, Romans 11:32

Meaning:

To have pity on, to show mercy. Typically, the subjunctive mood indicates possibility, not certainty. However, a subjunctive in a purpose clause is a resulting action as certain as the causal action. The subjunctive in a purpose clause functions as an indicative, not an optative. Thus, the grand conclusion of grace theology in Romans 11:32 must be clarified. God's mercy on all is not a possibility, but a certainty. See ntgreek.org.

Geenna g1067

Greek: proper noun, place

Usage: 12 times in 4 books, 7 chapters, and 12 verses

Meaning:

Valley of Hinnom, Jerusalem's trash dump, a place of ruin, destruction, and judgment in this life, or the next, though not eternal to Jesus' audience.

Hadēs g86

Greek: proper noun, place

Usage: 11 times in 5 books, 9 chapters, and 11 verses

Meaning:

Synonymous with Sheol, though in New Testament usage Hades is the temporal place of punishment for deceased unbelieving mankind, distinct from Paradise for deceased believers.

Limnē Pyr g3041 g4442

Greek: proper noun, place

Usage: Phrase 5 times in the New Testament

Meaning:

Lake of Fire, final punishment for those not named in the Book of Life, prepared for the Devil and his angels, Matthew 25:41.

Sheol h7585

Hebrew: proper noun, place

Usage: 66 times in 17 books, 50 chapters, and 64 verses

Meaning:

The grave or temporal afterlife world of both the righteous and unrighteous, believing and unbelieving, until the general resurrection.

Tartaroō g5020

Greek: proper noun, place

Usage: 1 time in 2 Peter 2:4

Meaning:

Temporary prison for particular fallen angels awaiting final judgment.

用語集 +

AionianBible.org/Bibles/Japanese---Japanese-Bungo-yaku/Noted

Glossary references are below. Strong's Hebrew and Greek number notes are added to 64 Old Testament and 200 New Testament verses. Questioned verse translations do not contain Aionian Glossary words and may wrongly imply *eternal* or *Hell*. * The note placement is skipped or adjusted for verses with non-standard numbering.

Abyssos

ルカの福音書 8:31
ローマ人への手紙 10:7
ヨハネの黙示録 9:1
ヨハネの黙示録 9:2
ヨハネの黙示録 9:11
ヨハネの黙示録 11:7
ヨハネの黙示録 17:8
ヨハネの黙示録 20:1
ヨハネの黙示録 20:3

aidios

ローマ人への手紙 1:20
ユダの手紙 1:6

aiōn

マタイの福音書 12:32
マタイの福音書 13:22
マタイの福音書 13:39
マタイの福音書 13:40
マタイの福音書 13:49
マタイの福音書 21:19
マタイの福音書 24:3
マタイの福音書 28:20
マルコの福音書 3:29
マルコの福音書 4:19
マルコの福音書 10:30
マルコの福音書 11:14
ルカの福音書 1:33
ルカの福音書 1:55
ルカの福音書 1:70
ルカの福音書 16:8
ルカの福音書 18:30
ルカの福音書 20:34
ルカの福音書 20:35
ヨハネの福音書 4:14
ヨハネの福音書 6:51
ヨハネの福音書 6:58
ヨハネの福音書 8:35
ヨハネの福音書 8:51
ヨハネの福音書 8:52
ヨハネの福音書 9:32
ヨハネの福音書 10:28
ヨハネの福音書 11:26
ヨハネの福音書 12:34
ヨハネの福音書 13:8
ヨハネの福音書 14:16

使徒の働き 3:21
使徒の働き 15:18
ローマ人への手紙 1:25
ローマ人への手紙 9:5
ローマ人への手紙 11:36
ローマ人への手紙 12:2
ローマ人への手紙 16:27
コリント人への手紙第一 1:20
コリント人への手紙第一 2:6
コリント人への手紙第一 2:7
コリント人への手紙第一 2:8
コリント人への手紙第一 3:18
コリント人への手紙第一 8:13
コリント人への手紙第一 10:11
コリント人への手紙第二 4:4
コリント人への手紙第二 9:9
コリント人への手紙第二 11:31
ガラテヤ人への手紙 1:4
ガラテヤ人への手紙 1:5
エペソ人への手紙 1:21
エペソ人への手紙 2:2
エペソ人への手紙 2:7
エペソ人への手紙 3:9
エペソ人への手紙 3:11
エペソ人への手紙 3:21
エペソ人への手紙 6:12
ピリピ人への手紙 4:20
コロサイ人への手紙 1:26
テモテへの手紙第一 1:17
テモテへの手紙第一 6:17
テモテへの手紙第二 4:10
テモテへの手紙第二 4:18
テトスへの手紙 2:12
ヘブル人への手紙 1:2
ヘブル人への手紙 1:8
ヘブル人への手紙 5:6
ヘブル人への手紙 6:5
ヘブル人への手紙 6:20
ヘブル人への手紙 7:17
ヘブル人への手紙 7:21
ヘブル人への手紙 7:24
ヘブル人への手紙 7:28
ヘブル人への手紙 9:26
ヘブル人への手紙 11:3
ヘブル人への手紙 13:8
ヘブル人への手紙 13:21
ペテロの手紙第一 1:23

ペテロの手紙第一 1:25
ペテロの手紙第一 4:11
ペテロの手紙第一 5:11
ペテロの手紙第二 3:18
ヨハネの手紙第一 2:17
ヨハネの手紙第二 1:2
ユダの手紙 1:13
ユダの手紙 1:25
ヨハネの黙示録 1:6
ヨハネの黙示録 1:18
ヨハネの黙示録 4:9
ヨハネの黙示録 4:10
ヨハネの黙示録 5:13
ヨハネの黙示録 7:12
ヨハネの黙示録 10:6
ヨハネの黙示録 11:15
ヨハネの黙示録 14:11
ヨハネの黙示録 15:7
ヨハネの黙示録 19:3
ヨハネの黙示録 20:10
ヨハネの黙示録 22:5

aiōnios

マタイの福音書 18:8
マタイの福音書 19:16
マタイの福音書 19:29
マタイの福音書 25:41
マタイの福音書 25:46
マルコの福音書 3:29
マルコの福音書 10:17
マルコの福音書 10:30
ルカの福音書 10:25
ルカの福音書 16:9
ルカの福音書 18:18
ルカの福音書 18:30
ヨハネの福音書 3:15
ヨハネの福音書 3:16
ヨハネの福音書 3:36
ヨハネの福音書 4:14
ヨハネの福音書 4:36
ヨハネの福音書 5:24
ヨハネの福音書 5:39
ヨハネの福音書 6:27
ヨハネの福音書 6:40
ヨハネの福音書 6:47
ヨハネの福音書 6:54
ヨハネの福音書 6:68

ヨハネの福音書 10:28
ヨハネの福音書 12:25
ヨハネの福音書 12:50
ヨハネの福音書 17:2
ヨハネの福音書 17:3
使徒の働き 13:46
使徒の働き 13:48
ローマ人への手紙 2:7
ローマ人への手紙 5:21
ローマ人への手紙 6:22
ローマ人への手紙 6:23
ローマ人への手紙 16:25
ローマ人への手紙 16:26
コリント人への手紙第二 4:17
コリント人への手紙第二 4:18
コリント人への手紙第二 5:1
ガラテヤ人への手紙 6:8
テサロニケ人への手紙第二 1:9
テサロニケ人への手紙第二 2:16
テモテへの手紙第一 1:16
テモテへの手紙第一 6:12
テモテへの手紙第一 6:16
テモテへの手紙第二 1:9
テモテへの手紙第二 2:10
テトスへの手紙 1:2
テトスへの手紙 3:7
ピレモンへの手紙 1:15
ヘブル人への手紙 5:9
ヘブル人への手紙 6:2
ヘブル人への手紙 9:12
ヘブル人への手紙 9:14
ヘブル人への手紙 9:15
ヘブル人への手紙 13:20
ペテロの手紙第一 5:10
ペテロの手紙第二 1:11
ヨハネの手紙第一 1:2
ヨハネの手紙第一 2:25
ヨハネの手紙第一 3:15
ヨハネの手紙第一 5:11
ヨハネの手紙第一 5:13
ヨハネの手紙第一 5:20
ユダの手紙 1:7
ユダの手紙 1:21
ヨハネの黙示録 14:6

eleēsē

ローマ人への手紙 11:32

Geenna

マタイの福音書 5:22
マタイの福音書 5:29
マタイの福音書 5:30
マタイの福音書 10:28
マタイの福音書 18:9
マタイの福音書 23:15
マタイの福音書 23:33
マルコの福音書 9:43

マルコの福音書 9:45
マルコの福音書 9:47
ルカの福音書 12:5
ヤコブの手紙 3:6

Hadēs

マタイの福音書 11:23
マタイの福音書 16:18
ルカの福音書 10:15
ルカの福音書 16:23
使徒の働き 2:27
使徒の働き 2:31
コリント人への手紙第一 15:55
ヨハネの黙示録 1:18
ヨハネの黙示録 6:8
ヨハネの黙示録 20:13
ヨハネの黙示録 20:14

Limnē Pyr

ヨハネの黙示録 19:20
ヨハネの黙示録 20:10
ヨハネの黙示録 20:14
ヨハネの黙示録 20:15
ヨハネの黙示録 21:8

Sheol

創世記 37:35
創世記 42:38
創世記 44:29
創世記 44:31
民数記 16:30
民数記 16:33
申命記 32:22
サムエル記Ⅰ 2:6
サムエル記Ⅱ 22:6
列王記Ⅰ 2:6
列王記Ⅰ 2:9
ヨブ記 7:9
ヨブ記 11:8
ヨブ記 14:13
ヨブ記 17:13
ヨブ記 17:16
ヨブ記 21:13
ヨブ記 24:19
ヨブ記 26:6
詩篇 6:5
詩篇 9:17
詩篇 16:10
詩篇 18:5
詩篇 30:3
詩篇 31:17
詩篇 49:14
詩篇 49:15
詩篇 55:15
詩篇 86:13
詩篇 88:3
詩篇 89:48

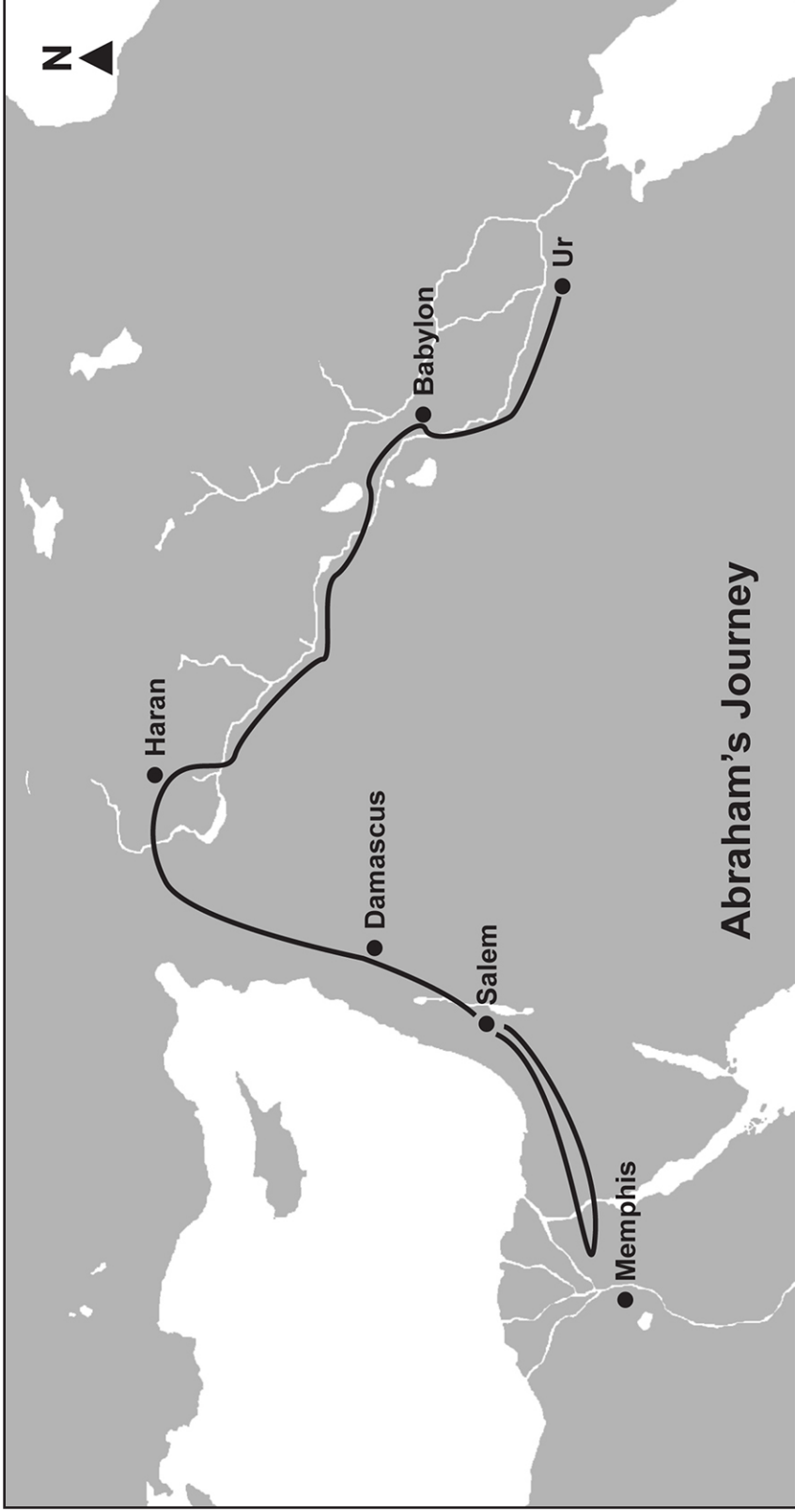
詩篇 116:3
詩篇 139:8
詩篇 141:7
箴言 知恵の泉 1:12
箴言 知恵の泉 5:5
箴言 知恵の泉 7:27
箴言 知恵の泉 9:18
箴言 知恵の泉 15:11
箴言 知恵の泉 15:24
箴言 知恵の泉 23:14
箴言 知恵の泉 27:20
箴言 知恵の泉 30:16
伝道者の書 9:10
雅歌 8:6
イザヤ書 5:14
イザヤ書 7:11
イザヤ書 14:9
イザヤ書 14:11
イザヤ書 14:15
イザヤ書 28:15
イザヤ書 28:18
イザヤ書 38:10
イザヤ書 38:18
イザヤ書 57:9
エゼキエル書 31:15
エゼキエル書 31:16
エゼキエル書 31:17
エゼキエル書 32:21
エゼキエル書 32:27
ホセア書 13:14
アモス書 9:2
ヨナ書 2:2
ハバクク書 2:5

Tartaroō

ペテロの手紙第二 2:4

Questioned

None yet noted

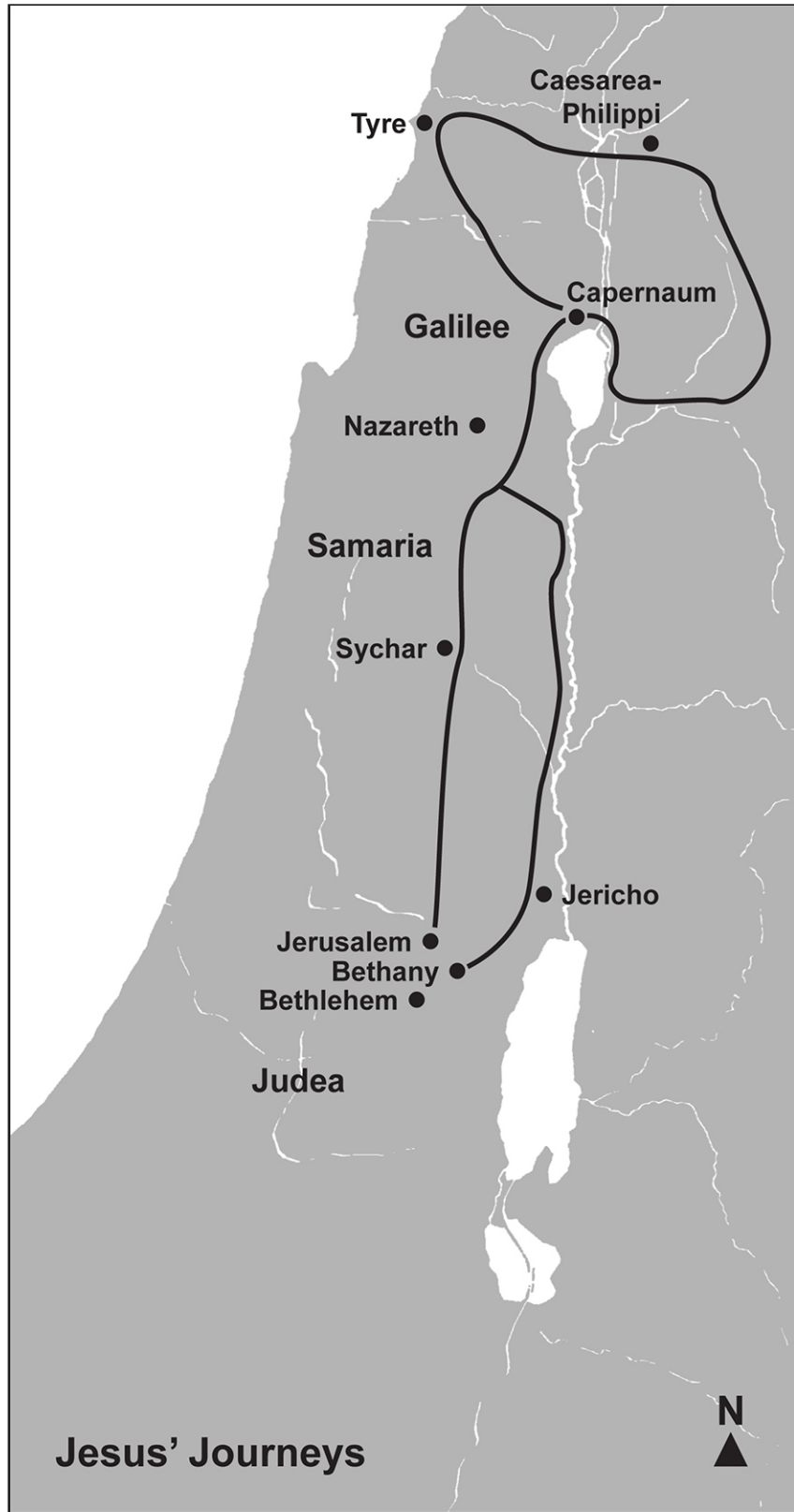


信仰に由りてアブラハムは召されしとき嗣業として受くべき地に出で往けとの命に遵ひ、その往く所を知らずして出で往けり。

・ヘブル人への手紙 11:8



諸パロ民をさらしめし時ペリシテ人の地は近かりけれども神彼等をみちびきて其地を通りたまはざりき其は民戦争を見ば悔てエジプトに歸るならんと神おもひたまはれはなり・出エジプト記 13:17



人の子の來れるも、事へらるる爲にあらず、反つて事ふることをなし、又おほくの人の贖償として己が生命を與へん爲なり

- マルコの福音書 10:45



キリスト・イエスの僕、召されて使徒となり、神の福音のために選ばれたるパウロ
 ・ローマ人への手紙 1:1

Creation 4004 B.C.



Adam and Eve created	4004
Tubal-cain forges metal	3300
Enoch walks with God	3017
Methuselah dies at age 969	2349
God floods the Earth	2349
Tower of Babel thwarted	2247
Abraham sojourns to Canaan	1922
Jacob moves to Egypt	1706
Moses leads Exodus from Egypt	1491
Gideon judges Israel	1245
Ruth embraces the God of Israel	1168
David installed as King	1055
King Solomon builds the Temple	1018
Elijah defeats Baal's prophets	896
Jonah preaches to Nineveh	800
Assyrians conquer Israelites	721
King Josiah reforms Judah	630
Babylonians capture Judah	605
Persians conquer Babylonians	539
Cyrus frees Jews, rebuilds Temple	537
Nehemiah rebuilds the wall	454
Malachi prophesies the Messiah	416
Greeks conquer Persians	331
Seleucids conquer Greeks	312
Hebrew Bible translated to Greek	250
Maccabees defeat Seleucids	165
Romans subject Judea	63
Herod the Great rules Judea	37

(The Annals of the World, James Usher)

Jesus Christ born 4 B.C.

New Heavens and Earth



Christ returns for his people	1956
Jim Elliot martyrdom in Ecuador	1830
John Williams reaches Polynesia	1731
Zinzendorf leads Moravian mission	1614
Japanese kill 40,000 Christians	1572
Jesuits reach Mexico	1517
Martin Luther leads Reformation	1455
Gutenberg prints first Bible	1323
Franciscans reach Sumatra	1276
Ramon Llull trains missionaries	1100
Crusades tarnish the church	1054
The Great Schism	997
Adalbert martyrdom in Prussia	864
Bulgarian Prince Boris converts	716
Boniface reaches Germany	635
Alopen reaches China	569
Longinus reaches Alodia / Sudan	432
Saint Patrick reaches Ireland	397
Carthage ratifies Bible Canon	341
Ulfilas reaches Goth / Romania	325
Niceae proclaims God is Trinity	250
Denis reaches Paris, France	197
Tertullian writes Christian literature	70
Titus destroys the Jewish Temple	61
Paul imprisoned in Rome, Italy	52
Thomas reaches Malabar, India	39
Peter reaches Gentile Cornelius	33
Holy Spirit empowers the Church	33

(Wikipedia, Timeline of Christian missions)

Resurrected 33 A.D.

What are we? ▲	Genesis 1:26 - 2:3					Mankind is created in God's image, male and female He created us				
How are we sinful? ▲	Romans 5:12-19					Sin entered the world through Adam and then death through sin				
When are we? ▼										
Where are we?	Innocence		Fallen			Glory				
	Eternity Past	Creation 4004 B.C.	Fall to sin No Law	Moses' Law 1500 B.C.	Christ 33 A.D.	Church Age Kingdom Age	New Heavens and Earth			
	John 10:30	Genesis 1:31 God's perfect fellowship with Adam in The Garden of Eden	1 Timothy 6:16 Living in unapproachable light				Acts 3:21 Philippians 2:11 Revelation 20:3	God's perfectly restored fellowship with all Mankind praising Christ as Lord in the Holy City		
	God's perfect fellowship		John 8:58 Pre-incarnate	John 1:14 Incarnate	Luke 23:43 Paradise					
	Holy Spirit		Psalms 139:7 Everywhere	John 14:17 Living in believers						
	Living	Ephesians 2:1-5 Serving the Savior or Satan on Earth	Luke 16:22 Blessed in Paradise				Matthew 25:41 Revelation 20:10	Lake of Fire prepared for the Devil and his Angels		
	Deceased believing		Luke 16:23, Revelation 20:5,13 Punished in Hades until the final judgment							
	Deceased unbelieving	Hebrews 1:14 Serving mankind at God's command	2 Peter 2:4, Jude 6 Imprisoned in Tartarus				Revelation 20:13 Thalaasa	Revelation 19:20 Lake of Fire		
	Holy		Genesis 1:1							
	Imprisoned	Genesis 1:31 No Fall No unholy Angels	1 Peter 5:8, Revelation 12:10 Rebelling against Christ Accusing mankind				Revelation 20:2 Abyss			
Fugitive										
First Beast										
False Prophet										
Satan										
Who are we?	Romans 11:25-36, Ephesian 2:7					For God has bound all over to disobedience in order to show mercy to all				
Why are we? ▲										

運命

日本語 at AionianBible.org/Destiny

The Aionian Bible shows the location of eleven special Greek and Hebrew Aionian Glossary words to help us better understand God's love for individuals and for all mankind, and the nature of after-life destinies. The underlying Hebrew and Greek words typically translated as *Hell* show us that there are not just two after-life destinies, Heaven or Hell. Instead, there are a number of different locations, each with different purposes, different durations, and different inhabitants. Locations include 1) Old Testament *Sheol* and New Testament *Hadēs*, 2) *Geenna*, 3) *Tartarō*, 4) *Abyssos*, 5) *Limnē Pyr*, 6) *Paradise*, 7) *The New Heaven*, and 8) *The New Earth*. So there is reason to review our conclusions about the destinies of redeemed mankind and fallen angels.

The key observation is that fallen angels will be present at the final judgment, 2 Peter 2:4 and Jude 6. Traditionally, we understand the separation of the Sheep and the Goats at the final judgment to divide believing from unbelieving mankind, Matthew 25:31-46 and Revelation 20:11-15. However, the presence of fallen angels alternatively suggests that Jesus is separating redeemed mankind from the fallen angels. We do know that Jesus is the helper of mankind and not the helper of the Devil, Hebrews 2. We also know that Jesus has atoned for the sins of all mankind, both believer and unbeliever alike, 1 John 2:1-2. Deceased believers are rewarded in Paradise, Luke 23:43, while unbelievers are punished in Hades as the story of Lazarus makes plain, Luke 16:19-31. Yet less commonly known, the punishment of this selfish man and all unbelievers is before the final judgment, is temporal, and is punctuated when Hades is evacuated, Revelation 20:13. So is there hope beyond Hades for unbelieving mankind? Jesus promised, "*the gates of Hades will not prevail*," Matthew 16:18. Paul asks, "*Hades where is your victory?*" 1 Corinthians 15:55. John wrote, "*Hades gives up*," Revelation 20:13.

Jesus comforts us saying, "*Do not be afraid*," because he holds the keys to *unlock* death and Hades, Revelation 1:18. Yet too often our *Good News* sounds like a warning to "*be afraid*" because Jesus holds the keys to *lock* Hades! Wow, we have it backwards! Hades will be evacuated! And to guarantee hope, once emptied, Hades is thrown into the Lake of Fire, never needed again, Revelation 20:14.

Finally, we read that anyone whose name is not written in the Book of Life is thrown into the Lake of Fire, the second death, with no exit ever mentioned or promised, Revelation 21:1-8. So are those evacuated from Hades then, "*out of the frying pan, into the fire?*" Certainly, the Lake of Fire is the destiny of the Goats. But, do not be afraid. Instead, read the Bible's explicit mention of the purpose of the Lake of Fire and the identity of the Goats, "*Then he will say also to those on the left hand, 'Depart from me, you cursed, into the consummate fire which is prepared for... the devil and his angels,'"* Matthew 25:41. Bad news for the Devil. Good news for all mankind!

Faith is not a pen to write your own name in the Book of Life. Instead, faith is the glasses to see that the love of Christ for all mankind has already written our names in Heaven. Jesus said, "*You did not choose me, but I chose you*," John 15:16. Though unbelievers will suffer regrettable punishment in Hades, redeemed mankind will never enter the Lake of Fire, prepared for the devil and his angels. And as God promised, all mankind will worship Christ together forever, Philippians 2:9-11.



World Nations

されば汝ら往きて、もろもろの國人を弟子となし、父と子と聖靈との名によりてバプテスマを施し、
- マタイの福音書 28:19